(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)公開番号
特開2023-80203
(P2023-80203A)
(43)公開日　令和5年6月8日(2023.6.8)

(51)国際特許分類　F I
A63F 7/02 (2006.01)　A63F 7/02 304D
A63F 7/02 326Z

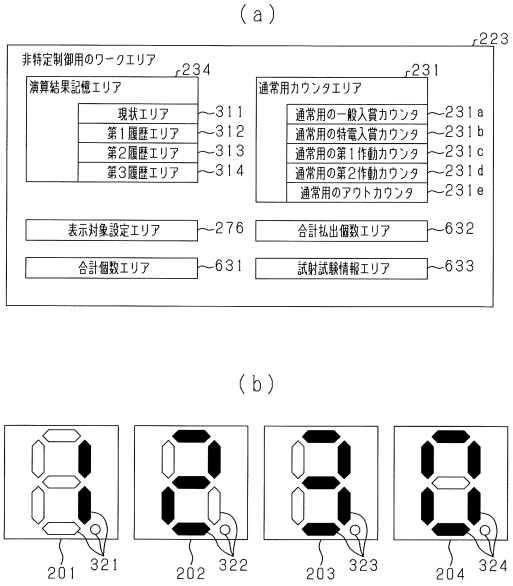
審査請求　有　請求項の数　1　OL　（全1359頁）

(21)出願番号　特願2023-64555(P2023-64555)
(22)出願日　令和5年4月12日(2023.4.12)
(62)分割の表示　特願2021-205667(P2021-205667)の分割
原出願日　平成31年1月15日(2019.1.15)

(71)出願人　000144522
株式会社三洋物産
愛知県名古屋市千種区今池３丁目９番２１号
(74)代理人　100143063
弁理士　安藤 悟
(72)発明者　倉田 豪
愛知県名古屋市千種区今池三丁目９番２１号 株式会社三洋物産内

(54)【発明の名称】　遊技機

(57)【要約】
【課題】遊技機の管理を好適に行うことが可能な遊技機を提供する。
【解決手段】遊技が行われることで一般入賞口、特電入賞装置、第１作動口、又は第２作動口への遊技球の入球が発生したことに基づいて、遊技球の入球が発生した入球部の種類に対応する数の遊技球が払い出される。主側ＣＰＵは、遊技領域から排出された遊技球の合計個数に対応する情報を算出する。また、主側ＣＰＵは、遊技領域から排出された遊技球の合計個数に対する合計払出個数の割合に対応する情報としてベース値を算出する。主制御基板には第１～第４報知用表示装置が設けられている。主側ＣＰＵは、第１～第４報知用表示装置にて遊技領域から排出された遊技球の合計個数に対応する情報の報知が行われるようにするとともに、当該第１～第４報知用表示装置にてベース値の報知が行われるようにする。
【選択図】　図３３６



【特許請求の範囲】
【請求項１】
遊技が行われることで所定利益付与対象事象が発生したことに基づいて所定利益を付与する所定利益付与手段と、
遊技が実行されることにより特定事象が発生した回数に対応する特定事象情報を算出する第１算出手段と、
前記特定事象情報に対する前記所定利益の合計量の割合に対応する所定割合情報を算出する第２算出手段と、
当該第２算出手段により算出された前記所定割合情報を報知する所定報知手段と、
前記第１算出手段により算出された前記特定事象情報を報知する特定報知手段と、
を備えていることを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、遊技機に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される（例えば特許文献１参照）。
【０００３】
また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２０１３－１０６７７２号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の管理が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。
【０００６】
本発明は、上記例示した事情等に鑑みてなされたものであり、遊技機の管理を好適に行うことが可能な遊技機を提供することを目的とするものである。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
上記課題を解決すべく請求項１記載の発明は、遊技が行われることで所定利益付与対象事象が発生したことに基づいて所定利益を付与する所定利益付与手段と、
遊技が実行されることにより特定事象が発生した回数に対応する特定事象情報を算出す

る第１算出手段と、
　前記特定事象情報に対する前記所定利益の合計量の割合に対応する所定割合情報を算出する第２算出手段と、
　当該第２算出手段により算出された前記所定割合情報を報知する所定報知手段と、
　前記第１算出手段により算出された前記特定事象情報を報知する特定報知手段と、
を備えていることを特徴とする。
【発明の効果】
【０００８】
　本発明によれば、遊技機の管理を好適に行うことが可能となる。
【図面の簡単な説明】
【０００９】
【図１】第１の実施形態におけるパチンコ機を示す斜視図である。
【図２】パチンコ機の主要な構成を分解して示す斜視図である。
【図３】遊技盤の構成を示す正面図である。
【図４】遊技領域を流下した遊技球の排出に関する構成を説明するための説明図である。
【図５】主制御装置の正面図である。
【図６】パチンコ機の電気的構成を示すブロック図である。
【図７】当否抽選などに用いられる各種カウンタの内容を説明するための説明図である。
【図８】主側ＲＯＭに記憶されている各種テーブルを説明するための説明図である。
【図９】主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１０】主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図１１】主側ＣＰＵにて実行されるタイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図１２】主側ＣＰＵにて実行される特図特電制御処理を示すフローチャートである。
【図１３】主側ＣＰＵにて実行される特図変動開始処理を示すフローチャートである。
【図１４】主側ＣＰＵに入球検知センサの検知結果が入力されるようにする構成を説明するための説明図である。
【図１５】主側ＣＰＵにて実行される入球検知処理を示すフローチャートである。
【図１６】払出制御装置及び当該払出制御装置との間で通信を行う各種装置の電気的構成を説明するためのブロック図である。
【図１７】払出側ＣＰＵにて実行されるタイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図１８】管理用ＩＣの電気的構成を説明するためのブロック図である。
【図１９】管理側Ｉ／Ｆの入力ポートの構成を説明するための説明図である。
【図２０】対応関係用メモリの構成を説明するための説明図である。
【図２１】履歴用メモリの構成を説明するための説明図である。
【図２２】主側ＣＰＵにて実行される認識用処理を示すフローチャートである。
【図２３】管理側ＣＰＵにて実行される管理処理を示すフローチャートである。
【図２４】（ａ）～（ｄ）第１～第１５バッファと信号の種類との対応関係の情報が対応関係用メモリに格納される様子を示すタイムチャートである。
【図２５】主側ＣＰＵにて実行される管理用出力処理を示すフローチャートである。
【図２６】管理側ＣＰＵにて実行される履歴設定処理を示すフローチャートである。
【図２７】（ａ）～（ｅ）履歴用メモリに履歴情報が格納されていく様子を示すタイムチャートである。
【図２８】主側ＣＰＵにて実行される設定値更新信号の出力処理を示すフローチャートである。
【図２９】管理側ＣＰＵにて実行される設定更新認識用処理を示すフローチャートである。
【図３０】管理側ＣＰＵにて実行される表示出力処理を示すフローチャートである。
【図３１】管理側ＣＰＵにて実行される表示用処理を示すフローチャートである。
【図３２】（ａ）主側ＣＰＵにて実行されるデータ出力用処理を示すフローチャートであり、（ｂ）管理側ＣＰＵにて実行される外部出力用処理を示すフローチャートである。

【図３３】第２の実施形態における主側ＲＯＭに記憶されている各種テーブルを説明するための説明図である。
【図３４】第３の実施形態における別保存用メモリの構成を説明するための説明図である。
【図３５】管理側ＣＰＵにて実行される設定更新認識用処理を示すフローチャートである。
【図３６】管理側ＣＰＵにて実行される繰り返し変更の監視処理を示すフローチャートである。
【図３７】第４の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される繰り返し変更の監視処理を示すフローチャートである。
【図３８】第５の実施形態における管理側ＣＰＵにて実行される設定更新認識用処理を示すフローチャートである。
【図３９】第６の実施形態における履歴用メモリの構成を説明するための説明図である。
【図４０】管理側ＣＰＵにて実行される履歴設定処理を示すフローチャートである。
【図４１】管理側ＣＰＵにて実行される設定更新認識用処理を示すフローチャートである。
【図４２】第７の実施形態における履歴用メモリの構成を説明するための説明図である。
【図４３】管理側ＣＰＵにて実行される設定更新認識用処理を示すフローチャートである。
【図４４】第８の実施形態における履歴用メモリの構成を説明するための説明図である。
【図４５】管理側ＣＰＵにて実行される設定更新認識用処理を示すフローチャートである。
【図４６】管理側ＣＰＵにて実行される履歴設定処理を示すフローチャートである。
【図４７】管理側ＣＰＵにて実行される表示出力処理を示すフローチャートである。
【図４８】第９の実施形態における管理側Ｉ／Ｆの入力ポートの構成を説明するための説明図である。
【図４９】主側ＣＰＵにて実行される認識用処理を示すフローチャートである。
【図５０】管理側ＣＰＵにて実行される管理処理を示すフローチャートである。
【図５１】（ａ）～（ｈ）第１～第１２バッファと信号の種類との対応関係の情報が対応関係用メモリに格納される様子を示すタイムチャートである。
【図５２】第１０の実施形態における各入球検知センサの検知結果を主側ＣＰＵ及び管理用ＩＣに送信する信号経路の構成を説明するためのブロック図である。
【図５３】第１１の実施形態における主制御装置の正面図である。
【図５４】ＭＰＵの制御に基づき第１～第４報知用表示装置において各種表示を行うための電気的な構成を説明するためのブロック図である。
【図５５】管理側ＣＰＵにて実行される表示用処理を示すフローチャートである。
【図５６】主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図５７】（ａ）遊技履歴の管理結果が表示される場合における第１～第４報知用表示装置の表示態様を説明するための説明図であり、（ｂ）パチンコ機の設定状態が変更される場合における第１～第４報知用表示装置の表示態様を説明するための説明図である。
【図５８】（ａ）～（ｈ）第１～第４報知用表示装置が表示状態となる様子を示すタイムチャートである。
【図５９】（ａ）第１２の実施形態における第１報知用表示装置の構成を説明するための説明図であり、（ｂ）第２報知用表示装置の構成を説明するための説明図である。
【図６０】第１～第４報知用表示装置にて遊技履歴の管理結果を表示する場合及びパチンコ機の設定状態を変更することが可能な変更可能状態であることを表示する場合における第１報知用表示装置及び第２報知用表示装置の表示内容を説明するための説明図である。
【図６１】主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図６２】第１３の実施形態における異常表示エリアの構成を説明するための説明図である。

【図６３】主側ＣＰＵにて実行される異常設定処理を示すフローチャートである。
【図６４】主側ＣＰＵにて実行される異常表示用処理を示すフローチャートである。
【図６５】第１４の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される管理用出力処理を示すフローチャートである。
【図６６】別形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図６７】第１５の実施形態における主側ＲＯＭのプログラム及びデータの設定態様を説明するための説明図である。
【図６８】主側ＲＡＭにおける各エリアの設定態様を説明するための説明図である。
【図６９】主側ＣＰＵにて実行されるタイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図７０】主側ＣＰＵにて実行される管理用処理を示すフローチャートである。
【図７１】主側ＣＰＵにて実行される管理実行処理を示すフローチャートである。
【図７２】遊技履歴を管理するために使用される非特定制御用のワークエリアの各種エリアを説明するための説明図である。
【図７３】主側ＣＰＵにて実行されるチェック処理を示すフローチャートである。
【図７４】主側ＣＰＵにて実行される通常の入球管理処理を示すフローチャートである。
【図７５】主側ＣＰＵにて実行される結果演算処理を示すフローチャートである。
【図７６】主側ＣＰＵにて実行される表示用処理を示すフローチャートである。
【図７７】第１６の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される管理用処理を示すフローチャートである。
【図７８】第１７の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される管理実行処理を示すフローチャートである。
【図７９】第１８の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される管理実行処理を示すフローチャートである。
【図８０】第１９の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される管理実行処理を示すフローチャートである。
【図８１】第２０の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される管理用処理を示すフローチャートである。
【図８２】主側ＣＰＵにて実行される管理実行処理を示すフローチャートである。
【図８３】第２１の実施形態における電気的構成を説明するための説明図である。
【図８４】第２２の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図８５】主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図８６】主側ＣＰＵにて実行されるタイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図８７】主側ＣＰＵにて実行される設定確認用処理を示すフローチャートである。
【図８８】主側ＣＰＵにて実行されるＲＡＭ監視処理を示すフローチャートである。
【図８９】別形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図９０】別形態における主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図９１】第２３の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図９２】第２４の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるＲＡＭ監視処理を示すフローチャートである。
【図９３】第２５の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるＲＡＭ監視処理を示すフローチャートである。
【図９４】主側ＣＰＵにて実行される管理実行処理を示すフローチャートである。
【図９５】主側ＣＰＵにて実行される別監視処理を示すフローチャートである。
【図９６】第２６の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される管理用処理を示すフローチャートである。

【図９７】第２７の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される管理用処理を示すフローチャートである。
【図９８】第２８の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される管理用処理を示すフローチャートである。
【図９９】第２９の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される管理用処理を示すフローチャートである。
【図１００】第３０の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１０１】主側ＣＰＵにて実行される停電情報記憶処理を示すフローチャートである。
【図１０２】（ａ）ＭＰＵの構成を説明するためのブロック図であり、（ｂ）リセット信号出力部によるリセット信号の出力の様子を示すタイムチャートである。
【図１０３】主側ＣＰＵにて実行されるタイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図１０４】主側ＣＰＵにて実行される設定監視処理を示すフローチャートである。
【図１０５】主側ＣＰＵにて実行される管理用処理を示すフローチャートである。
【図１０６】主側ＣＰＵにて実行される管理実行処理を示すフローチャートである。
【図１０７】主側ＣＰＵにて実行される別監視処理を示すフローチャートである。
【図１０８】第３１の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１０９】主側ＣＰＵにて実行される異常時のクリア処理を示すフローチャートである。
【図１１０】主側ＣＰＵにて実行される非特定制御用のクリア処理を示すフローチャートである。
【図１１１】第３２の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される停電情報記憶処理を示すフローチャートである。
【図１１２】主側ＣＰＵにて実行されるチェックサムの監視処理を示すフローチャートである。
【図１１３】主側ＣＰＵにて実行される非特定制御用のクリア処理を示すフローチャートである。
【図１１４】第３３の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１１５】主側ＣＰＵにて実行される設定確認用処理を示すフローチャートである。
【図１１６】主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図１１７】主側ＣＰＵにて実行される第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図１１８】主側ＣＰＵにて実行される設定監視処理を示すフローチャートである。
【図１１９】主側ＣＰＵにて各種表示回路を表示制御するための構成を説明するためのブロック図である。
【図１２０】（ａ）特定制御用のワークエリアに設けられた各種バッファを説明するための説明図であり、（ｂ）非特定制御用のワークエリアに設けられた各種記憶エリアを説明するための説明図である。
【図１２１】表示ＩＣの電気的な構成を説明するための説明図である。
【図１２２】（ａ）～（ｇ）主側ＣＰＵから表示ＩＣに種別データ及び表示データが送信されるとともに表示ＩＣから送信された表示データが第１表示回路又は第２表示回路にて受信される様子を示すタイムチャートである。
【図１２３】主側ＣＰＵにて実行される第２タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図１２４】（ａ）設定値が更新される状況における第１～第４報知用表示装置の表示内容を説明するための説明図であり、（ｂ）設定値が確認される状況における第１～第４報知用表示装置の表示内容を説明するための説明図である。
【図１２５】第３４の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示す

フローチャートである。
【図１２６】第３５の実施形態における演算結果記憶エリアの電気的構成を説明するための説明図である。
【図１２７】（ａ）～（ｄ）第１～第４報知用表示装置の表示内容を説明するための説明図である。
【図１２８】（ａ）～（ｃ）第１～第４報知用表示装置の表示内容を説明するための説明図である。
【図１２９】（ａ）～（ｅ）第１～第４報知用表示装置にて各種エリアのベース値が報知される様子を示すタイムチャートである。
【図１３０】主側ＣＰＵにて実行される結果演算処理を示すフローチャートである。
【図１３１】主側ＣＰＵにて実行される表示用処理を示すフローチャートである。
【図１３２】主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１３３】主側ＣＰＵにて実行される第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図１３４】主側ＣＰＵにて実行される第２タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図１３５】主側ＣＰＵにて実行される通常時の設定処理を示すフローチャートである。
【図１３６】主側ＣＰＵにて実行される設定確認用処理を示すフローチャートである。
【図１３７】主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図１３８】（ａ）～（ｆ）主側ＣＰＵへの動作電力の供給が開始された場合における第１～第４報知用表示装置の表示内容を説明するためのタイムチャートである。
【図１３９】第３６の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１４０】第３７の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１４１】第３８の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される通常時の設定処理を示すフローチャートである。
【図１４２】（ａ）～（ｄ）第３９の実施形態における主側ＲＯＭに設けられた設定対応記憶エリアを説明するための説明図である。
【図１４３】主側ＣＰＵにて実行される当否テーブルの読み出し処理を示すフローチャートである。
【図１４４】主側ＣＰＵにて実行される設定更新中における第５表示データバッファへの設定処理を示すフローチャートである。
【図１４５】（ａ）～（ｃ）第４０の実施形態における主側ＲＯＭに設けられた設定対応記憶エリアを説明するための説明図である。
【図１４６】（ａ）第４１の実施形態における窓パネルを通じてパチンコ機前方から視認可能となる領域に設けられた各種表示部を説明するための説明図であり、（ｂ）ラウンド表示部の表示内容を説明するための説明図である。
【図１４７】第４２の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１４８】主側ＣＰＵにて実行される第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図１４９】第４３の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される結果演算処理を示すフローチャートである。
【図１５０】主側ＣＰＵにて実行される表示用処理を示すフローチャートである。
【図１５１】（ａ）～（ｇ）第１～第４報知用表示装置にて各種エリアのベース値が報知される様子を示すタイムチャートである。
【図１５２】（ａ）～（ｇ）第４４の実施形態における第１～第４報知用表示装置にて各種エリアのベース値が報知される様子を示すタイムチャートである。
【図１５３】第４５の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフロ

ーチャートである。
【図１５４】特定制御用のワークエリアに設けられた設定値に関する記憶エリアの内容を説明するための説明図である。
【図１５５】主側ＣＰＵにて実行される設定確認用処理を示すフローチャートである。
【図１５６】主側ＣＰＵにて実行される設定確認中における第５表示データバッファへの設定処理を示すフローチャートである。
【図１５７】主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図１５８】主側ＣＰＵにて実行される設定更新中における第５表示データバッファへの設定処理を示すフローチャートである。
【図１５９】設定値更新処理又は設定確認用処理が実行されている状況において停電時処理が実行された場合にその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理にて実行される処理の内容を説明するための説明図である。
【図１６０】（ａ）～（ｅ）設定値更新処理及び設定確認用処理の設定キー挿入部の操作状態との関係での終了タイミングを示すタイムチャートである。
【図１６１】第４６の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１６２】設定値更新処理又は設定確認用処理が実行されている状況において停電時処理が実行された場合にその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理にて実行される処理の内容を説明するための説明図である。
【図１６３】第４７の実施形態における設定値更新処理又は設定確認用処理が実行されている状況において停電時処理が実行された場合にその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理にて実行される処理の内容を説明するための説明図である。
【図１６４】第４８の実施形態における設定値更新処理又は設定確認用処理が実行されている状況において停電時処理が実行された場合にその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理にて実行される処理の内容を説明するための説明図である。
【図１６５】第４９の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１６６】主側ＣＰＵにて実行される設定確認用処理を示すフローチャートである。
【図１６７】主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図１６８】（ａ）～（ｈ）動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の割込みが許可される様子を示すタイムチャートである。
【図１６９】（ａ）～（ｇ）停電フラグ、チェックサム又は設定値に関する異常が発生した場合における処理の進行態様を示すタイムチャートである。
【図１７０】（ａ）～（ｇ）主側ＣＰＵへの動作電力の供給が開始された場合における第１～第４報知用表示装置の表示内容を示すタイムチャートである。
【図１７１】設定値更新処理又は設定確認用処理が実行されている状況において停電時処理が実行された場合にその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理にて実行される処理の内容を説明するための説明図である。
【図１７２】音声発光制御装置の電気的構成を説明するための説明図である。
【図１７３】音光側ＣＰＵにて実行される演出制御処理を示すフローチャートである。
【図１７４】主側ＣＰＵにおける動作電力の供給開始時の処理にて実行された処理の内容に対応する作用を説明するための説明図である。
【図１７５】第５０の実施形態における音光側ＣＰＵにて実行される演出制御処理を示すフローチャートである。
【図１７６】主側ＣＰＵにおける動作電力の供給開始時の処理にて実行された処理の内容に対応する作用を説明するための説明図である。
【図１７７】第５１の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１７８】第５２の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフロ

ーチャートである。
【図１７９】第５３の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１８０】（ａ）～（ｇ）設定値更新処理が実行されている状況において主側ＣＰＵへの動作電力の供給が停止された場合におけるその後の処理の様子を示すタイムチャートである。
【図１８１】主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図１８２】特定制御用のワークエリアに設けられた記憶エリアの内容を説明するための説明図である。
【図１８３】（ａ）～（ｆ）更新対象の設定値が更新される様子を示すタイムチャートである。
【図１８４】第５４の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１８５】第５５の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図１８６】特定制御用のワークエリアに設けられたクリア対象エリア及びクリア対象外エリアを説明するための説明図である。
【図１８７】主側ＣＰＵにて実行される表示開始処理を示すフローチャートである。
【図１８８】主側ＣＰＵにて実行される第２タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図１８９】動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部及び普図表示部の表示内容を説明するための説明図である。
【図１９０】第５６の実施形態における特定制御用のワークエリアのクリア対象エリアに設けられた各エリアを説明するための説明図である。
【図１９１】主側ＣＰＵにて実行される表示開始処理を示すフローチャートである。
【図１９２】動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部及び普図表示部の表示内容を説明するための説明図である。
【図１９３】第５７の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される表示開始処理を示すフローチャートである。
【図１９４】動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部及び普図表示部の表示内容を説明するための説明図である。
【図１９５】第５８の実施形態における特定制御用のワークエリアのクリア対象エリア及びクリア対象外エリアに設けられた各エリアを説明するための説明図である。
【図１９６】主側ＣＰＵにて実行される第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図１９７】主側ＣＰＵにて実行される表示開始処理を示すフローチャートである。
【図１９８】（ａ）特図用の外れ表示抽選テーブルを説明するための説明図であり、（ｂ）普図用の外れ表示抽選テーブルを説明するための説明図である。
【図１９９】第５９の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される表示開始処理を示すフローチャートである。
【図２００】（ａ）特図用の初期表示抽選テーブルを説明するための説明図であり、（ｂ）普図用の初期表示抽選テーブルを説明するための説明図である。
【図２０１】動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部及び普図表示部の表示内容を説明するための説明図である。
【図２０２】第６０の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される表示開始処理を示すフローチャートである。
【図２０３】動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部及び普図表示部の表示内容を説明するための説明図である。
【図２０４】第６１の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される表示開始処理を示すフローチャートである。

【図２０５】第６２の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図２０６】主側ＣＰＵにて実行される表示開始処理を示すフローチャートである。
【図２０７】（ａ）特図用の第１表示振分テーブルを説明するための説明図であり、（ｂ）特図用の第２表示振分テーブルを説明するための説明図であり、（ｃ）普図用の第１表示振分テーブルを説明するための説明図であり、（ｄ）普図用の第２表示振分テーブルを説明するための説明図である。
【図２０８】第６３の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される表示開始処理を示すフローチャートである。
【図２０９】第６４の実施形態における遊技盤の正面図である。
【図２１０】（ａ）非誘導状態である場合における第２作動部の縦断面図であり、（ｂ）誘導状態である場合における第２作動部の縦断面図である。
【図２１１】（ａ），（ｂ）遊技回が実行される場合における図柄表示装置の表示内容を説明するための説明図である。
【図２１２】（ａ）～（ｊ）各図柄列にて変動表示される主図柄及び副図柄を説明するための説明図である。
【図２１３】振分入賞装置の内部構成を説明するための縦断面図である。
【図２１４】主側ＣＰＵにて各種抽選を行うための電気的な構成を説明するための説明図である。
【図２１５】（ａ）第１特図の当否テーブルを説明するための説明図であり、（ｂ）第２特図の当否テーブルを説明するための説明図である。
【図２１６】（ａ）大当たり用の種別テーブルを説明するための説明図であり、（ｂ）複数種類の大当たり結果のそれぞれの内容を説明するための説明図であり、（ｃ）小当たり用の種別テーブルを説明するための説明図であり、（ｄ）複数種類の小当たり結果のそれぞれの内容を説明するための説明図である。
【図２１７】主側ＣＰＵにて実行される普図普電制御処理を示すフローチャートである。
【図２１８】主側ＣＰＵにて実行される特図特電制御処理を示すフローチャートである。
【図２１９】主側ＣＰＵにて実行される特図変動開始処理を示すフローチャートである。
【図２２０】主側ＣＰＵにて実行される特図確定中処理を示すフローチャートである。
【図２２１】主側ＣＰＵにて実行される振分用処理を示すフローチャートである。
【図２２２】主側ＣＰＵにて実行される特電終了処理を示すフローチャートである。
【図２２３】特定制御用のワークエリアのクリア対象エリアに設けられた各エリアを説明するための説明図である。
【図２２４】主側ＣＰＵにて実行される第２タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図２２５】（ａ）主側ＣＰＵにて実行される設定更新中における第１表示データバッファへの設定処理を示すフローチャートであり、（ｂ）主側ＣＰＵにて実行される設定確認中における第６表示データバッファへの設定処理を示すフローチャートである。
【図２２６】（ａ）～（ｇ）パチンコ機の状態に応じて第１特図表示部、第２特図表示部及び特別表示部の表示内容が変化する様子を示すタイムチャートである。
【図２２７】第６５の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される第２タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図２２８】第６６の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される第２タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図２２９】主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図２３０】第６７の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される第２タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図２３１】（ａ）第６８の実施形態における特別表示部の構成を説明するための説明図であり、（ｂ）設定値更新処理又は設定確認用処理が実行されている状況における１５Ｒ表示部、６Ｒ表示部及び小当たり表示部の表示内容を示すタイムチャートである。

【図２３２】第６９の実施形態における遊技盤の正面図である。
【図２３３】主側ＣＰＵにて各種抽選を行うための電気的な構成を説明するための説明図である。
【図２３４】（ａ）低確率時の第１当否テーブルを説明するための説明図であり、（ｂ）高確率時の第１当否テーブルを説明するための説明図であり、（ｃ）低確率時の第２当否テーブルを説明するための説明図であり、（ｄ）高確率時の第２当否テーブルを説明するための説明図である。
【図２３５】（ａ）種別テーブルを説明するための説明図であり、（ｂ）複数種類の大当たり結果のそれぞれの内容及び１種類の小当たり結果の内容を説明するための説明図であり、（ｃ）サポートモードの内容を説明するための説明図である。
【図２３６】遊技回の表示継続期間の設定態様を説明するための説明図である。
【図２３７】主側ＣＰＵにて実行される第１特図特電制御処理を示すフローチャートである。
【図２３８】主側ＣＰＵにて実行される第２特図特電制御処理を示すフローチャートである。
【図２３９】主側ＣＰＵにて実行される特図変動開始処理を示すフローチャートである。
【図２４０】主側ＣＰＵにて実行される特図確定中処理を示すフローチャートである。
【図２４１】（ａ）第７０の実施形態における低確率時の第１当否テーブルを説明するための説明図であり、（ｂ）高確率時の第１当否テーブルを説明するための説明図であり、（ｃ）低確率時の第２当否テーブルを説明するための説明図であり、（ｄ）高確率時の第２当否テーブルを説明するための説明図である。
【図２４２】（ａ）第７１の実施形態における低確率時の第１当否テーブルを説明するための説明図であり、（ｂ）高確率時の第１当否テーブルを説明するための説明図であり、（ｃ）低確率時の第２当否テーブルを説明するための説明図であり、（ｄ）高確率時の第２当否テーブルを説明するための説明図である。
【図２４３】第７２の実施形態における遊技盤の正面図である。
【図２４４】主制御装置及び音声発光制御装置の電気的構成を説明するための説明図である。
【図２４５】主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図２４６】主側ＣＰＵにて実行される設定確認用処理を示すフローチャートである。
【図２４７】主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図２４８】主側ＲＡＭにおける各エリアの設定態様を説明するための説明図である。
【図２４９】（ａ）アドレスカウンタの内容を説明するための説明図であり、（ｂ）～（ｅ）対象アドレスが更新された結果、キャリーフラグに「１」が設定される様子を説明するための説明図である。
【図２５０】主側ＣＰＵにて実行されるＲＡＭクリア処理を示すフローチャートである。
【図２５１】主側ＣＰＵにて実行される対象アドレスの加算処理を示すフローチャートである。
【図２５２】主側ＣＰＵにて実行される非特定制御用のクリア処理を示すフローチャートである。
【図２５３】主側ＣＰＵにて実行されるチェックサムの算出処理を示すフローチャートである。
【図２５４】音光側ＣＰＵにて実行される演出制御処理を示すフローチャートである。
【図２５５】（ａ）～（ｆ）主側ＣＰＵ及び音光側ＣＰＵへの動作電力の供給が開始された場合に第１～第４報知用表示装置にてチェック用表示が実行されるとともに可動体にて初期動作が実行される様子を示すタイムチャートである。
【図２５６】第７３の実施形態における音光側ＣＰＵにて実行される演出制御処理を示すフローチャートである。
【図２５７】第７４の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。

【図２５８】主側ＣＰＵにて実行される設定確認用処理を示すフローチャートである。
【図２５９】主側ＣＰＵにて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。
【図２６０】主側ＣＰＵにて実行されるＲＡＭクリア処理を示すフローチャートである。
【図２６１】主側ＣＰＵにて実行される開閉監視処理を示すフローチャートである。
【図２６２】音声発光制御装置の電気的構成を説明するための説明図である。
【図２６３】確認後報知用テーブルの内容を説明するための説明図である。
【図２６４】各種報知用テーブルと読み出し対象となる実行エリアの種類との関係を説明するための説明図である。
【図２６５】（ａ）～（ｈ）確認後報知と本体閉鎖報知との関係、及びクリア後報知と本体閉鎖報知との関係を示すタイムチャートである。
【図２６６】音光側ＣＰＵにて実行される演出制御処理を示すフローチャートである。
【図２６７】音光側ＣＰＵにて実行されるタスク処理を示すフローチャートである。
【図２６８】第７５の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図２６９】主側ＣＰＵにて実行されるチェック処理を示すフローチャートである。
【図２７０】主側ＣＰＵにて実行される結果演算処理を示すフローチャートである。
【図２７１】主側ＣＰＵにて実行される特図特電制御処理を示すフローチャートである。
【図２７２】主側ＣＰＵにて実行される特電開放中処理を示すフローチャートである。
【図２７３】主側ＣＰＵにて実行されるエンディング用処理を示すフローチャートである。
【図２７４】（ａ），（ｂ）図柄表示装置にて実行されるエンディング演出の一例を説明するための説明図である。
【図２７５】主側ＲＯＭのデータ構成を説明するための説明図である。
【図２７６】各種テーブルのそれぞれが選択された場合における第１～第５示唆演出情報の選択確率を説明するための説明図である。
【図２７７】音声発光制御装置にて実行されるエンディング演出制御処理を示すフローチャートである。
【図２７８】第７６の実施形態における主側ＣＰＵにて実行されるエンディング用処理を示すフローチャートである。
【図２７９】第７７の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図２８０】（ａ）不正を監視するためのセンサを説明するための説明図であり、（ｂ）主側ＣＰＵにて実行される不正検知処理を示すフローチャートである。
【図２８１】主側ＣＰＵにて実行される第２タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図２８２】音光側ＲＡＭにおける記憶エリアを説明するための説明図である。
【図２８３】音光側ＣＰＵにて実行される音光側立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【図２８４】音光側ＣＰＵにて実行される音光側タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図２８５】音光側ＣＰＵにて実行される開始待ち演出用処理を示すフローチャートである。
【図２８６】（ａ）～（ｉ）パチンコ機への動作電力の供給開始後にデモ演出が実行される様子を示すタイムチャートである。
【図２８７】（ａ）～（ｅ）開閉実行モード用の演出及び遊技回用演出のいずれもが実行されていない状態が予め設定された期間となった後にデモ演出が開始される様子を示すタイムチャートである。
【図２８８】第７８の実施形態における音光側ＣＰＵにて実行される音光側立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【図２８９】音光側ＣＰＵにて実行される開始待ち演出用処理を示すフローチャートであ

る。
【図２９０】（ａ）第７９の実施形態における特定制御用のワークエリアに設けられた記憶エリアを説明するための説明図であり、（ｂ）音光側ＲＡＭにおける初期化対象外エリア及び初期化対象エリアを説明するための説明図である。
【図２９１】音光側ＣＰＵにて実行される音光側立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【図２９２】（ａ）音光側ＣＰＵにて実行されるタイミング変更抽選用処理を示すフローチャートであり、（ｂ）タイミング変更抽選テーブルを説明するための説明図である。
【図２９３】（ａ）第８０の実施形態における音光側ＣＰＵにて実行されるタイミング変更抽選用処理を示すフローチャートであり、（ｂ）タイミング変更抽選テーブルを説明するための説明図である。
【図２９４】第８１の実施形態における音光側ＲＡＭの構成を説明するための説明図である。
【図２９５】（ａ）第８２の実施形態における代表値データの外部出力を行うための構成を説明する説明図であり、（ｂ）特定制御用のワークエリアにおける代表値データの外部出力用の記憶エリアを説明するための説明図である。
【図２９６】主側ＣＰＵにて実行される外部情報設定処理を示すフローチャートである。
【図２９７】データ表示器に外部出力される代表値データに基づいてベース値の異常が把握可能となる様子を示すタイムチャートである。
【図２９８】（ａ）第８３の実施形態における加工代表値データを外部出力するための構成を説明するためのブロック図であり、（ｂ）特定制御用のワークエリアに設けられた加工代表値データの外部出力用の記憶エリアを説明するための説明図である。
【図２９９】主側ＣＰＵにて実行される外部情報設定処理を示すフローチャートである。
【図３００】（ａ）第８４の実施形態におけるベース値異常信号を外部出力するための構成を説明するためのブロック図であり、（ｂ）特定制御用のワークエリアに設けられたベース値異常信号の外部出力用の記憶エリアを説明するための説明図であり、（ｃ）閾値テーブルの内容を説明するための説明図である。
【図３０１】主側ＣＰＵにて実行される外部情報設定処理を示すフローチャートである。
【図３０２】主側ＣＰＵにて実行されるメイン処理を示すフローチャートである。
【図３０３】主側ＣＰＵにて実行されるベース値初期出力用処理を示すフローチャートである。
【図３０４】現状エリアにおけるベース値の異常に基づいてベース値異常信号が異常報知器に外部出力される様子を示すタイムチャートである。
【図３０５】第１履歴エリア～第３履歴エリアにおけるベース値の異常に基づいてベース値異常信号が異常報知器に外部出力される様子を示すタイムチャートである。
【図３０６】（ａ）第８５の実施形態における上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号を外部出力するための構成を説明するためのブロック図であり、（ｂ）特定制御用のワークエリアに設けられた上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号の外部出力用の記憶エリアを説明するための説明図である。
【図３０７】主側ＣＰＵにて実行される外部情報設定処理を示すフローチャートである。
【図３０８】主側ＣＰＵにて実行される異常フラグ設定用処理を示すフローチャートである。
【図３０９】主側ＣＰＵにて実行される異常信号出力用処理を示すフローチャートである。
【図３１０】主側ＣＰＵにて実行されるベース値初期出力用処理を示すフローチャートである。
【図３１１】（ａ）第８６の実施形態における特定制御用のワークエリアに設けられた上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号の外部出力用の記憶エリアを説明するための説明図であり、（ｂ）閾値テーブルの内容を説明するための説明図であり、（ｃ）上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側

第２ベース値異常信号を外部出力するための構成を説明するための説明図である。
【図３１２】ベース値異常信号が外部出力される様子を示すタイムチャートである。
【図３１３】主側ＣＰＵにて実行される異常フラグ設定用処理を示すフローチャートである。
【図３１４】主側ＣＰＵにて実行される異常信号出力用処理を示すフローチャートである。
【図３１５】（ａ），（ｂ）第８７の実施形態における共通ベース値異常信号、上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号を外部出力するための構成を説明するためのブロック図である。
【図３１６】主側ＣＰＵにて実行される異常信号出力用処理を示すフローチャートである。
【図３１７】第８８の実施形態における音声発光制御基板の電気的構成を説明するための説明図である。
【図３１８】音光側ＣＰＵにて実行される音光側立ち上げ処理を示すフローチャートである。
【図３１９】（ａ）音光側ＣＰＵにて実行される最大値設定処理を示すフローチャートであり、（ｂ）最大値抽選テーブルを説明するための説明図である。
【図３２０】音光側ＣＰＵにて実行されるデモ開始用タイマカウンタの更新処理を示すフローチャートである。
【図３２１】第８９の実施形態における主制御装置の正面図である。
【図３２２】遊技履歴を管理するために使用される非特定制御用のワークエリアの各種エリアを説明するための説明図である。
【図３２３】（ａ）～（ｇ）第１単位更新エリア、第１算出期間の直近エリア、第２単位更新エリア、及び第２算出期間の直近エリアが更新される様子を示すタイムチャートである。
【図３２４】（ａ）～（ｄ）第１～第５報知用表示装置の表示内容を説明するための説明図である。
【図３２５】主側ＣＰＵにて実行されるチェック処理を示すフローチャートである。
【図３２６】主側ＣＰＵにて実行される出玉率記憶処理を示すフローチャートである。
【図３２７】主側ＣＰＵにて実行される表示用処理を示すフローチャートである。
【図３２８】主側ＣＰＵにて実行される通常時の設定処理を示すフローチャートである。
【図３２９】（ａ）～（ｋ）第１報知開始フラグ及び第２報知開始フラグに「１」がセットされる様子を示すタイムチャートである。
【図３３０】第９０の実施形態における遊技履歴を管理するために使用される非特定制御用のワークエリアの各種エリアを説明するための説明図である。
【図３３１】主側ＣＰＵにて実行される出玉率記憶処理を示すフローチャートである。
【図３３２】主側ＣＰＵにて実行される第１出玉率演算処理を示すフローチャートである。
【図３３３】第９１の実施形態における遊技履歴を管理するために使用される非特定制御用のワークエリアの各種エリアを説明するための説明図である。
【図３３４】主側ＣＰＵにて実行される出玉率記憶処理を示すフローチャートである。
【図３３５】（ａ），（ｂ）第９２の実施形態における第１，第３～第５報知用表示装置の表示内容を説明するための説明図である。
【図３３６】（ａ）第９３の実施形態における非特定制御用のワークエリアの各種エリアを説明するための説明図であり、（ｂ）合計個数情報の表示が行われている状況における第１～第４報知用表示装置の表示内容を説明するための説明図である。
【図３３７】（ａ）～（ｅ）第１～第４報知用表示装置にて合計個数情報の表示が行われる様子を示すタイムチャートである。
【図３３８】主側ＣＰＵにて実行される第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。

【図３３９】主側ＣＰＵにて実行される試射試験実行処理を示すフローチャートである。
【図３４０】主側ＣＰＵにて実行される管理実行処理を示すフローチャートである。
【図３４１】主側ＣＰＵにて実行されるチェック処理を示すフローチャートである。
【図３４２】主側ＣＰＵにて実行される結果演算処理を示すフローチャートである。
【図３４３】主側ＣＰＵにて実行される合計個数表示用設定処理を示すフローチャートである。
【図３４４】主側ＣＰＵにて実行される表示用処理を示すフローチャートである。
【図３４５】主側ＣＰＵにて実行される合計個数表示用処理を示すフローチャートである。
【図３４６】主側ＣＰＵにて実行される第２タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図３４７】主側ＣＰＵにて実行される残余処理を示すフローチャートである。
【図３４８】主側ＣＰＵにて実行される集計除算実行処理を示すフローチャートである。
【図３４９】主側ＣＰＵにて実行される集計除算処理を示すフローチャートである。
【図３５０】第９４の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図３５１】主側ＣＰＵにて実行される試射試験実行処理を示すフローチャートである。
【図３５２】主側ＣＰＵにて実行される管理実行処理を示すフローチャートである。
【図３５３】第９５の実施形態における主側ＣＰＵにて実行される第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。
【図３５４】主側ＣＰＵにて実行される管理実行処理を示すフローチャートである。
【図３５５】（ａ）第９６の実施形態における遊技盤の正面図であり、（ｂ）合計個数表示が行われている状況における特図表示部及び普図表示部の状態を説明するための説明図である。
【図３５６】主側ＣＰＵにて実行される表示制御処理を示すフローチャートである。
【発明を実施するための形態】
【００１０】
＜第１の実施形態＞
以下、遊技機の一種であるパチンコ機１０の第１の実施形態を、図面に基づいて詳細に説明する。図１はパチンコ機１０の斜視図、図２はパチンコ機１０の主要な構成を分解して示す斜視図である。なお、図２では便宜上パチンコ機１０の遊技領域ＰＡ内の構成を省略している。
【００１１】
パチンコ機１０は、図１に示すように、当該パチンコ機１０の外殻を形成する外枠１１と、この外枠１１に対して前方に回動可能に取り付けられた遊技機本体１２と、を有する。外枠１１は木製の板材を四辺に連結し構成されるものであって矩形枠状をなしている。パチンコ機１０は、外枠１１を島設備に取り付け固定することにより、遊技ホールに設置される。なお、パチンコ機１０において外枠１１は必須の構成ではなく、遊技ホールの島設備に外枠１１が備え付けられた構成としてもよい。
【００１２】
遊技機本体１２は図２に示すように、内枠１３と、その内枠１３の前方に配置される前扉枠１４と、内枠１３の後方に配置される裏パックユニット１５と、を備えている。遊技機本体１２のうち内枠１３が外枠１１に回動可能に支持されている。詳細には、正面視で左側を回動基端側とし右側を回動先端側として内枠１３が前方へ回動可能とされている。
【００１３】
内枠１３には、前扉枠１４が回動可能に支持されており、正面視で左側を回動基端側とし右側を回動先端側として前方へ回動可能とされている。また、内枠１３には、裏パックユニット１５が回動可能に支持されており、正面視で左側を回動基端側とし右側を回動先端側として後方へ回動可能とされている。
【００１４】

なお、遊技機本体１２には、その回動先端部に施錠装置が設けられており、遊技機本体１２を外枠１１に対して開放不能に施錠状態とする機能を有しているとともに、前扉枠１４を内枠１３に対して開放不能に施錠状態とする機能を有している。これらの各施錠状態は、パチンコ機１０前面にて露出させて設けられたシリンダ錠１７に解錠キーを用いて解錠操作を行うことにより、それぞれ解除される。

【００１５】

次に、遊技機本体１２の前面側の構成について説明する。

【００１６】

内枠１３は、外形が外枠１１とほぼ同一形状をなす樹脂ベース２１を主体に構成されている。樹脂ベース２１の中央部には略楕円形状の窓孔２３が形成されている。樹脂ベース２１には遊技盤２４が着脱可能に取り付けられている。遊技盤２４は合板よりなり、遊技盤２４の前面に形成された遊技領域ＰＡが樹脂ベース２１の窓孔２３を通じて内枠１３の前面側に露出した状態となっている。

【００１７】

ここで、遊技盤２４の構成を図３に基づいて説明する。図３は遊技盤２４の正面図である。

【００１８】

遊技盤２４には、遊技領域ＰＡの外縁の一部を区画するようにして内レール部２５と外レール部２６とが取り付けられており、これら内レール部２５と外レール部２６とにより誘導手段としての誘導レールが構成されている。樹脂ベース２１において窓孔２３の下方に取り付けられた遊技球発射機構２７（図２参照）から発射された遊技球は誘導レールにより遊技領域ＰＡの上部に案内されるようになっている。

【００１９】

ちなみに、遊技球発射機構２７は、誘導レールに向けて延びる発射レール２７ａと、後述する上皿５５ａに貯留されている遊技球を発射レール２７ａ上に供給する球送り装置２７ｂと、発射レール２７ａ上に供給された遊技球を誘導レールに向けて発射させる電動アクチュエータであるソレノイド２７ｃと、を備えている。前扉枠１４に設けられた発射操作装置（又は操作ハンドル）２８が回動操作されることによりソレノイド２７ｃが駆動制御され、遊技球が発射される。

【００２０】

遊技盤２４には、前後方向に貫通する大小複数の開口部が形成されている。各開口部には一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４、スルーゲート３５、可変表示ユニット３６、特図ユニット３７及び普図ユニット３８等がそれぞれ設けられている。一般入賞口３１は合計で４個設けられており、それ以外はそれぞれ１個ずつ設けられている。

【００２１】

スルーゲート３５への入球が発生したとしても遊技球の払い出しは実行されない。一方、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４への入球が発生すると、所定数の遊技球の払い出しが実行される。当該賞球個数について具体的には、第１作動口３３への１個の遊技球の入球が発生した場合又は第２作動口３４への１個の遊技球の入球が発生した場合には、１個の賞球の払い出しが実行され、一般入賞口３１への１個の遊技球の入球が発生した場合には、１０個の賞球の払い出しが実行され、特電入賞装置３２への１個の遊技球の入球が発生した場合には、１５個の賞球の払い出しが実行される。

【００２２】

なお、上記賞球個数は任意であり、例えば、第２作動口３４の方が第１作動口３３よりも賞球個数が少ない構成としてもよく、第２作動口３４の方が第１作動口３３よりも賞球個数が多い構成としてもよい。

【００２３】

その他に、遊技盤２４の最下部にはアウト口２４ａが設けられており、各種入賞口等に

入らなかった遊技球はアウト口２４ａを通って遊技領域ＰＡから排出される。また、遊技盤２４には、遊技球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘２４ｂが植設されているとともに、風車等の各種部材が配設されている。

【００２４】

ここで、入球とは所定の開口部を遊技球が通過することを意味し、開口部を通過した後に遊技領域ＰＡから排出される態様だけではなく、開口部を通過した後に遊技領域ＰＡから排出されることなく遊技領域ＰＡの流下を継続する態様も含まれる。但し、以下の説明では、アウト口２４ａへの遊技球の入球と明確に区別するために、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４及びスルーゲート３５への遊技球の入球を、入賞とも表現する。

【００２５】

第１作動口３３及び第２作動口３４は、作動口装置としてユニット化されて遊技盤２４に設置されている。第１作動口３３及び第２作動口３４は共に上向きに開放されている。また、第１作動口３３が上方となるようにして両作動口３３，３４は鉛直方向に並んでいる。第２作動口３４には、左右一対の可動片よりなるガイド片としての普電役物３４ａが設けられている。普電役物３４ａの閉鎖状態では遊技球が第２作動口３４に入賞できず、普電役物３４ａが開放状態となることで第２作動口３４への入賞が可能となる。

【００２６】

第２作動口３４よりも遊技球の流下方向の上流側に、スルーゲート３５が設けられている。スルーゲート３５は縦方向に貫通した図示しない貫通孔を有しており、スルーゲート３５に入賞した遊技球は入賞後に遊技領域ＰＡを流下する。これにより、スルーゲート３５に入賞した遊技球が第２作動口３４へ入賞することが可能となっている。

【００２７】

スルーゲート３５への入賞に基づき第２作動口３４の普電役物３４ａが閉鎖状態から開放状態に切り換えられる。具体的には、スルーゲート３５への入賞をトリガとして内部抽選が行われるとともに、遊技領域ＰＡにおいて遊技球が通過しない領域である右下の隅部に設けられた普図ユニット３８の普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示が行われる。そして、内部抽選の結果が電役開放当選であり当該結果に対応した停止結果が表示されて普図表示部３８ａの変動表示が終了された場合に普電開放状態へ移行する。普電開放状態では、普電役物３４ａが所定の態様で開放状態となる。

【００２８】

なお、普図表示部３８ａは、ＬＥＤによる複数の表示用セグメントが所定の態様で配列されてなるセグメント表示器により構成されているが、これに限定されることはなく、液晶表示装置、有機ＥＬ表示装置、ＣＲＴ又はドットマトリックス表示器等その他のタイプの表示装置によって構成されていてもよい。また、普図表示部３８ａにて変動表示される絵柄としては、複数種の文字が変動表示される構成、複数種の記号が変動表示される構成、複数種のキャラクタが変動表示される構成又は複数種の色が切り換え表示される構成などが考えられる。

【００２９】

普図ユニット３８において、普図表示部３８ａに隣接した位置には、普図保留表示部３８ｂが設けられている。遊技球がスルーゲート３５に入賞した個数は最大４個まで保留され、普図保留表示部３８ｂの点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。

【００３０】

第１作動口３３又は第２作動口３４への入賞をトリガとして当たり抽選が行われる。そして、当該抽選結果は特図ユニット３７及び可変表示ユニット３６の図柄表示装置４１における表示演出を通じて明示される。

【００３１】

特図ユニット３７について詳細には、特図ユニット３７には特図表示部３７ａが設けられている。特図表示部３７ａの表示領域は図柄表示装置４１の表示面４１ａよりも狭い。特図表示部３７ａでは、第１作動口３３への入賞又は第２作動口３４への入賞をトリガと

して当たり抽選が行われることで絵柄の変動表示又は所定の表示が行われる。そして、抽選結果に対応した結果が表示される。なお、特図表示部３７ａは、ＬＥＤによる複数の表示用セグメントが所定の態様で配列されてなるセグメント表示器により構成されているが、これに限定されることはなく、液晶表示装置、有機ＥＬ表示装置、ＣＲＴ又はドットマトリックス表示器等その他のタイプの表示装置によって構成されていてもよい。また、特図表示部３７ａにて表示される絵柄としては、複数種の文字が表示される構成、複数種の記号が表示される構成、複数種のキャラクタが表示される構成又は複数種の色が表示される構成などが考えられる。

【００３２】

特図ユニット３７において、特図表示部３７ａに隣接した位置には、特図保留表示部３７ｂが設けられている。遊技球が第１作動口３３又は第２作動口３４に入賞した個数は最大４個まで保留され、特図保留表示部３７ｂの点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。

【００３３】

図柄表示装置４１について詳細には、図柄表示装置４１は、液晶ディスプレイを備えた液晶表示装置として構成されており、後述する表示制御装置により表示内容が制御される。なお、図柄表示装置４１は、液晶表示装置に限定されることはなく、プラズマディスプレイ装置、有機ＥＬ表示装置又はＣＲＴといった表示画面を有する他の表示装置であってもよく、ドットマトリクス表示器であってもよい。

【００３４】

図柄表示装置４１では、第１作動口３３への入賞又は第２作動口３４への入賞に基づき特図表示部３７ａにて絵柄の変動表示又は所定の表示が行われる場合にそれに合わせて図柄の変動表示又は所定の表示が行われる。例えば、図柄表示装置４１の表示面４１ａには、複数の表示領域として上段・中段・下段の３つの図柄列が設定され、各図柄列において「１」～「９」の数字が付された主図柄が昇順又は降順で配列された状態でスクロール表示される。このスクロール表示においては、最初に全図柄列におけるスクロール表示が開始され、上図柄列→下図柄列→中図柄列の順にスクロール表示から待機表示に切り換えられ、最終的に各図柄列にて所定の図柄を静止表示した状態で終了される。そして、遊技結果が大当たり結果となる遊技回では、図柄表示装置４１の表示面４１ａにおいて予め設定されている有効ライン上に所定の図柄の組み合わせが停止表示される。具体的には、後述する最有利大当たり結果となる場合には同一の奇数図柄の組み合わせが停止表示され、後述する低確大当たり結果となる場合には同一の偶数図柄の組み合わせが停止表示され、後述する低入賞高確大当たり結果となる場合には同一の図柄の組み合わせではないものの低入賞高確大当たり結果ではない場合には停止表示されない図柄の組み合わせが停止表示される。

【００３５】

なお、図柄表示装置４１では、第１作動口３３又は第２作動口３４への入賞をトリガとした表示演出だけではなく、当たり当選となった後に移行する開閉実行モード中の表示演出などが行われる。また、いずれかの作動口３３，３４への入賞に基づいて、特図表示部３７ａ及び図柄表示装置４１にて表示が開始され、所定の結果を表示して終了されるまでが遊技回の１回に相当する。また、図柄表示装置４１における図柄の変動表示の態様は上記のものに限定されることはなく任意であり、図柄列の数、図柄列における図柄の変動表示の方向、各図柄列の図柄数などは適宜変更可能である。また、図柄表示装置４１にて変動表示される絵柄は上記のような図柄に限定されることはなく、例えば絵柄として数字のみが変動表示される構成としてもよい。

【００３６】

第１作動口３３への入賞又は第２作動口３４への入賞に基づく当たり抽選にて大当たり当選となった場合には、特電入賞装置３２への入賞が可能となる開閉実行モードへ移行する。特電入賞装置３２は、遊技盤２４の背面側へと通じる図示しない大入賞口を備えているとともに、当該大入賞口を開閉する開閉扉３２ａを備えている。開閉扉３２ａは、閉鎖

状態及び開放状態のいずれかに配置される。具体的には、開閉扉３２ａは、通常は遊技球が入賞できない閉鎖状態になっており、内部抽選において開閉実行モードへの移行に当選した場合に遊技球が入賞可能な開放状態に切り換えられるようになっている。ちなみに、開閉実行モードとは、当たり結果となった場合に移行することとなるモードである。なお、閉鎖状態では入賞が不可ではないが開放状態よりも入賞が発生しづらい状態となる構成としてもよい。

【００３７】

図４は、遊技領域ＰＡを流下した遊技球の排出に関する構成を説明するための説明図である。

【００３８】

既に説明したとおり、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４及びアウト口２４ａのいずれかに入球した遊技球は遊技領域ＰＡから排出される。換言すれば、遊技球発射機構２７から発射されて遊技領域ＰＡに流入した遊技球は一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４及びアウト口２４ａのいずれかに入球することにより遊技領域ＰＡから排出されることとなる。一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４及びアウト口２４ａのいずれかに入球した遊技球は遊技盤２４の背面側に導かれる。

【００３９】

遊技盤２４の背面には、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４及びアウト口２４ａのそれぞれに対応させて排出通路部４２～４８が形成されている。排出通路部４２～４８に流入した遊技球はその流入した排出通路部４２～４８を流下することにより、遊技盤２４の背面側において遊技盤２４の下端部に導かれ図示しない排出球回収部にて回収される。そして、排出球回収部にて回収された遊技球は、遊技ホールにおいてパチンコ機１０が設置された島設備の球循環装置に排出される。

【００４０】

各排出通路部４２～４８には遊技球を検知するための各種検知センサ４２ａ～４８ａが設けられている。これら排出通路部４２～４８及び検知センサ４２ａ～４８ａについて以下に説明する。一般入賞口３１は既に説明したとおり４個設けられているため、それら４個のそれぞれに対応させて排出通路部４２～４４が存在している。この場合、最も左の一般入賞口３１に対応する第１排出通路部４２及びその右隣りの一般入賞口３１に対応する第２排出通路部４３のそれぞれに対しては１個ずつ検知センサ４２ａ，４３ａが設けられている。具体的には、第１排出通路部４２の途中位置に検知範囲が存在するようにして第１入賞口検知センサ４２ａが設けられているとともに、第２排出通路部４３の途中位置に検知範囲が存在するように第２入賞口検知センサ４３ａが設けられている。最も左の一般入賞口３１に入球した遊技球は第１排出通路部４２を通過する途中で第１入賞口検知センサ４２ａにて検知され、その右隣りの一般入賞口３１に入球した遊技球は第２排出通路部４３を通過する途中で第２入賞口検知センサ４３ａにて検知される。また、右側２個の一般入賞口３１に対しては途中位置で合流するように形成された第３排出通路部４４が設けられている。当該第３排出通路部４４は、２個の一般入賞口３１のそれぞれに対応する入口側領域を有しているとともに、それら入口側領域が途中で合流することで１個の出口側領域を有している。第３排出通路部４４における出口側領域の途中位置に検知範囲が存在するように第３入賞口検知センサ４４ａが設けられている。右側２個のいずれかの一般入賞口３１に入球した遊技球は第３排出通路部４４を通過する途中で第３入賞口検知センサ４４ａにて検知される。

【００４１】

特電入賞装置３２に対応させて第４排出通路部４５が存在している。第４排出通路部４５の途中位置に検知範囲が存在するようにして特電検知センサ４５ａが設けられており、特電入賞装置３２に入球した遊技球は第４排出通路部４５を通過する途中で特電検知センサ４５ａにて検知される。第１作動口３３に対応させて第５排出通路部４６が存在している。第５排出通路部４６の途中位置に検知範囲が存在するようにして第１作動口検知セン

サ４６ａが設けられており、第１作動口３３に入球した遊技球は第５排出通路部４６を通過する途中で第１作動口検知センサ４６ａにて検知される。第２作動口３４に対応させて第６排出通路部４７が存在している。第６排出通路部４７の途中位置に検知範囲が存在するようにして第２作動口検知センサ４７ａが設けられており、第２作動口３４に入球した遊技球は第６排出通路部４７を通過する途中で第２作動口検知センサ４７ａにて検知される。アウト口２４ａに対応させて第７排出通路部４８が存在している。第７排出通路部４８の途中位置に検知範囲が存在するようにしてアウト口検知センサ４８ａが設けられており、アウト口２４ａに入球した遊技球は第７排出通路部４８を通過する途中でアウト口検知センサ４８ａにて検知される。

【００４２】

なお、各種検知センサ４２ａ～４８ａのうちいずれか１個の検知センサ４２ａ～４８ａにて検知対象となった遊技球は他の検知センサ４２ａ～４８ａの検知対象となることはない。また、スルーゲート３５に対してもゲート検知センサ４９ａが設けられており、遊技領域ＰＡを流下する途中でスルーゲート３５を通過する遊技球はゲート検知センサ４９ａにて検知される。

【００４３】

各種検知センサ４２ａ～４９ａとしては、いずれも電磁誘導型の近接センサが用いられているが、遊技球を個別に検知できるのであれば使用するセンサは任意である。また、各種検知センサ４２ａ～４９ａは後述する主制御装置６０と電気的に接続されており、各種検知センサ４２ａ～４９ａの検知結果は主制御装置６０に出力される。具体的には、各種検知センサ４２ａ～４９ａは、遊技球を検知していない状況ではＬＯＷレベル信号を出力し、遊技球を検知している状況ではＨＩレベル信号を出力する。なお、これに限定されることはなくＨＩ及びＬＯＷの関係が逆であってもよい。

【００４４】

図２に示すように、上記構成の遊技盤２４が樹脂ベース２１に取り付けられてなる内枠１３の前面側全体を覆うようにして前扉枠１４が設けられている。前扉枠１４には、図１に示すように、遊技領域ＰＡのほぼ全域を前方から視認することができるようにした窓部５１が形成されている。窓部５１は、略楕円形状をなし、窓パネル５２が嵌め込まれている。窓パネル５２は、ガラスによって無色透明に形成されているが、これに限定されることはなく合成樹脂によって無色透明に形成されていてもよく、パチンコ機１０前方から窓パネル５２を通じて遊技領域ＰＡを視認可能であれば有色透明に形成されていてもよい。

【００４５】

窓部５１の上方には表示発光部５３が設けられている。また、遊技状態に応じた効果音などが出力される左右一対のスピーカ部５４が設けられている。また、窓部５１の下方には、手前側へ膨出した上側膨出部５５と下側膨出部５６とが上下に並設されている。上側膨出部５５内側には上方に開口した上皿５５ａが設けられており、下側膨出部５６内側には同じく上方に開口した下皿５６ａが設けられている。上皿５５ａは、後述する払出装置より払い出された遊技球を一旦貯留し、一列に整列させながら遊技球発射機構２７側へ導くための機能を有する。また、下皿５６ａは、上皿５５ａ内にて余剰となった遊技球を貯留する機能を有する。

【００４６】

次に、遊技機本体１２の背面側の構成について説明する。

【００４７】

図２に示すように、内枠１３（具体的には、遊技盤２４）の背面には、遊技の主たる制御を司る主制御装置６０が搭載されている。図５は主制御装置６０の正面図である。

【００４８】

主制御装置６０は、図５に示すように、主制御基板６１が基板ボックス６０ａに収容されてなる。主制御基板６１の一方の板面である素子搭載面には、ＭＰＵ６２が搭載されている。基板ボックス６０ａは当該基板ボックス６０ａの外部から当該基板ボックス６０ａ内に収容されたＭＰＵ６２を目視することが可能となるように透明に形成されている。な

お、基板ボックス６０ａは無色透明に形成されているが、基板ボックス６０ａの外部から当該基板ボックス６０ａ内に収容されたＭＰＵ６２を目視することが可能であれば有色透明に形成されていてもよい。主制御装置６０は基板ボックス６０ａにおいて主制御基板６１の素子搭載面と対向する対向壁部６０ｂがパチンコ機１０後方を向くようにして樹脂ベース２１の背面に搭載されている。したがって、遊技機本体１２を外枠１１に対してパチンコ機１０前方に開放させて樹脂ベース２１の背面を露出させることにより、基板ボックス６０ａの対向壁部６０ｂを目視することが可能となるとともに当該対向壁部６０ｂを通じてＭＰＵ６２を目視することが可能となる。

【００４９】

基板ボックス６０ａは複数のケース体６０ｃを前後に組合せることにより形成されているが、これら複数のケース体６０ｃには、これらケース体６０ｃの分離を阻止するとともにこれらケース体６０ｃの分離に際してその痕跡を残すための結合部６０ｅが設けられている。結合部６０ｅは、略直方体形状の基板ボックス６０ａにおける一辺に複数並設されている。これにより、一部の結合部６０ｅを利用してケース体６０ｃの分離を阻止している状態において当該一部の結合部６０ｅを破壊してケース体６０ｃを分離したとしても、その後に別の結合部６０ｅを結合状態とすることでケース体６０ｃの分離を再度阻止することが可能となる。また、ケース体６０ｃの分離に際して結合部６０ｅが破壊されてその痕跡が残ることにより、結合部６０ｅを目視確認することでケース体６０ｃの分離が不正に行われているか否かを把握することが可能となる。また、基板ボックス６０ａにおいて結合部６０ｅが並設された一辺とは逆の一辺にはケース体６０ｃ間の境界を跨ぐようにして封印シール６０ｆが貼り付けられている。封印シール６０ｆはその引き剥がしに際して粘着層がケース体６０ｃに残る。これにより、ケース体６０ｃの分離に際して封印シール６０ｆが剥がされた場合にはその痕跡を残すことが可能となる。

【００５０】

上記構成の主制御装置６０において主制御基板６１には、パチンコ機１０の設定状態を「設定１」から「設定６」の範囲で変更する契機を生じさせるために遊技ホールの管理者が所有する設定キーが挿入されてＯＮ操作される設定キー挿入部６８ａと、設定キー挿入部６８ａに対するＯＮ操作後においてパチンコ機１０の設定状態を順次変更させるために操作される更新ボタン６８ｂと、主制御装置６０のＭＰＵ６２に設けられた後述する主側ＲＡＭ６５のデータをクリアするために操作されるリセットボタン６８ｃと、遊技履歴の管理結果を報知するための第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃと、が設けられている。また、主制御基板６１に搭載されたＭＰＵ６２には、遊技履歴の管理結果又は主側ＲＯＭ６４に記憶された情報（プログラム及びデータ）を外部装置にて読み取るために当該外部装置の接続端子を接続するための読み取り用端子６８ｄが設けられている。なお、パチンコ機１０の設定状態は「設定１」～「設定６」の６段階に限定されることはなく複数段階であれば任意である。

【００５１】

これら設定キー挿入部６８ａ、更新ボタン６８ｂ、リセットボタン６８ｃ、読み取り用端子６８ｄ（すなわちＭＰＵ６２）及び第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃはいずれも主制御基板６１の素子搭載面に設けられている。また、主制御基板６１の素子搭載面は既に説明したとおり基板ボックス６０ａの対向壁部６０ｂと対向しているが、設定キー挿入部６８ａ、更新ボタン６８ｂ、リセットボタン６８ｃ及び読み取り用端子６８ｄは対向壁部６０ｂにより覆われていない。つまり、対向壁部６０ｂには設定キー挿入部６８ａ、更新ボタン６８ｂ、リセットボタン６８ｃ及び読み取り用端子６８ｄのそれぞれと対向する領域が個別の開口部とされている。これにより、基板ボックス６０ａの開放を要することなく、設定キー挿入部６８ａに設定キーを挿入することが可能であり、更新ボタン６８ｂを押圧操作することが可能であり、リセットボタン６８ｃを押圧操作することが可能であり、読み取り用端子６８ｄに外部装置の接続端子を接続することが可能である。

【００５２】

設定キー挿入部６８ａに設定キーを挿入して所定方向に回転操作することにより設定キ

ー挿入部６８ａがＯＮ操作された状態となる。その状態でパチンコ機１０への動作電力の供給を開始させることで（すなわち主制御装置６０のＭＰＵ６２への動作電力の供給を開始させることで）、パチンコ機１０の設定状態を変更することが可能な変更可能状態となる。そして、この状態において更新ボタン６８ｂを１回押圧操作する度にパチンコ機１０の設定状態が「設定１」～「設定６」の範囲において昇順で１段階ずつ変更される。なお、「設定６」の状態で更新ボタン６８ｂが操作された場合には「設定１」に更新される。また、設定キー挿入部６８ａに挿入している設定キーをＯＮ操作の位置から所定方向とは反対方向に回転操作して初期位置に復帰させることにより設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作された状態となる。設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作された状態となることで上記変更可能状態が終了し、その時点における設定値の状態で遊技を行うことが可能な状態となる。つまり、変更可能状態が終了した後に更新ボタン６８ｂを操作しても設定値を変更することはできない。

【００５３】

設定キー挿入部６８ａに対するＯＮ操作はパチンコ機１０への動作電力の供給開始時（すなわち主制御装置６０のＭＰＵ６２への動作電力の供給開始時）のみ有効とされる。したがって、主制御装置６０のＭＰＵ６２において動作電力の供給開始時の処理が終了した後に設定キー挿入部６８ａに対するＯＮ操作を行ったとしても設定値を変更することはできない。

【００５４】

パチンコ機１０の設定状態は当該パチンコ機１０における単位時間当たりの有利度を定めるものであり、「設定ｎ」（ｎは「１」～「６」の整数）のｎが大きい値ほど（すなわち設定値が高いほど）有利度が高くなる。詳細は後述するが大当たり結果の当選確率を決定する当否抽選モードとして相対的に当選確率が低くなる低確率モードと相対的に当選確率が高くなる高確率モードとが存在しており、設定値が高いほど低確率モードにおける大当たり結果の当選確率が高くなるように設定されている。一方、いずれの設定値であっても高確率モードにおける大当たり結果の当選確率は一定となっている。

【００５５】

リセットボタン６８ｃは上記のとおり主側ＲＡＭ６５のデータをクリアするために操作されるが、当該データのクリアを発生させるためにはリセットボタン６８ｃを押圧操作した状態でパチンコ機１０への動作電力の供給を開始させる必要がある（すなわち主制御装置６０のＭＰＵ６２への動作電力の供給を開始させる必要がある）。リセットボタン６８ｃに対するＯＮ操作はパチンコ機１０への動作電力の供給開始時（すなわち主制御装置６０のＭＰＵ６２への動作電力の供給開始時）のみ有効とされる。したがって、主制御装置６０のＭＰＵ６２において動作電力の供給開始時の処理が終了した後にリセットボタン６８ｃを押圧操作したとしても主側ＲＡＭ６５のデータのクリアを行うことはできない。

【００５６】

読み取り用端子６８ｄは既に説明したとおり遊技履歴の管理結果又は主側ＲＯＭ６４に記憶された情報（プログラム及びデータ）を外部装置にて読み取るために当該外部装置の接続端子が接続されるが、外部装置への外部出力を行うためには読み取り用端子６８ｄに外部装置の接続端子を接続した状態でパチンコ機１０への動作電力の供給を開始させる必要がある（すなわち主制御装置６０のＭＰＵ６２への動作電力の供給を開始させる必要がある）。読み取り用端子６８ｄに対する外部装置の接続はパチンコ機１０への動作電力の供給開始時（すなわち主制御装置６０のＭＰＵ６２への動作電力の供給開始時）のみ有効とされる。したがって、主制御装置６０のＭＰＵ６２において動作電力の供給開始時の処理が終了した後に読み取り用端子６８ｄに外部装置を接続したとしても当該外部装置への外部出力は行われない。

【００５７】

第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃはいずれも、ＬＥＤによる表示用セグメントが７個配列されたセグメント表示器であるが、これに限定されることはなく多色発光タイプの単一の発光体であってもよく、液晶表示装置であってもよく、有機ＥＬディスプレイ

であってもよい。第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃはいずれもその表示面が主制御基板６１の素子搭載面が向く方向を向くようにして設置されているとともに、基板ボックス６０ａの対向壁部６０ｂにより覆われている。この場合に、基板ボックス６０ａが透明に形成されていることにより、基板ボックス６０ａの外部から当該基板ボックス６０ａ内に収容された第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの表示面を目視することが可能となる。また、既に説明したとおり主制御装置６０は基板ボックス６０ａにおいて主制御基板６１の素子搭載面と対向する対向壁部６０ｂがパチンコ機１０後方を向くようにして樹脂ベース２１の背面に搭載されているため、遊技機本体１２を外枠１１に対してパチンコ機１０前方に開放させて樹脂ベース２１の背面をパチンコ機１０前方に露出させた場合には、対向壁部６０ｂを通じて第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの表示面を目視することが可能となる。

【００５８】

第１報知用表示装置６９ａの表示面においては「０」～「９」の数字だけではなく、アルファベット文字を含めた各種文字が表示される。一方、第２報知用表示装置６９ｂ及び第３報知用表示装置６９ｃにおいては「０」～「９」の数字が表示される。第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃを利用して遊技履歴の管理結果が報知されるが、この報知内容については後に詳細に説明する。また、パチンコ機１０の設定状態を変更することが可能な変更可能状態においては現状の設定値に対応する値が第３報知用表示装置６９ｃにて表示される。なお、当該設定値に対応する値が第１報知用表示装置６９ａにて表示される構成としてもよく、第２報知用表示装置６９ｂにて表示される構成としてもよい。また、変更可能状態となる前における設定値が第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃのうちの一の報知用表示装置にて表示されるとともに現状の設定値が第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃのうちの他の一の報知用表示装置にて表示される構成としてもよい。

【００５９】

図２に示すように、主制御装置６０を含めて内枠１３の背面側を覆うようにして裏パックユニット１５が設置されている。裏パックユニット１５は、透明性を有する合成樹脂により形成された裏パック７２を備えており、当該裏パック７２に払出機構部７３及び制御装置集合ユニット７４が取り付けられている。

【００６０】

払出機構部７３は、遊技ホールの島設備から供給される遊技球が逐次補給されるタンク７５と、当該タンク７５に貯留された遊技球を払い出すための払出装置７６と、を備えている。払出装置７６より払い出された遊技球は、当該払出装置７６の下流側に設けられた払出通路を通じて、上皿５５ａ又は下皿５６ａに排出される。なお、払出機構部７３には、例えば交流２４ボルトの主電源が供給されるとともに、電源のＯＮ操作及びＯＦＦ操作を行うための電源スイッチを有する裏パック基板が搭載されている。

【００６１】

制御装置集合ユニット７４は、払出装置７６を制御する機能を有する払出制御装置７７と、各種制御装置等で要する所定の電力が生成されて出力されるとともに遊技者による発射操作装置２８の操作に伴う遊技球の打ち出しの制御が行われる電源・発射制御装置７８と、を備えている。これら払出制御装置７７と電源・発射制御装置７８とは、払出制御装置７７がパチンコ機１０後方となるように前後に重ねて配置されている。

【００６２】

＜パチンコ機１０の電気的構成＞

図６は、パチンコ機１０の電気的構成を示すブロック図である。

【００６３】

主制御装置６０は、遊技の主たる制御を司る主制御基板６１と、電源を監視する停電監視基板６７と、を具備している。主制御基板６１には、ＭＰＵ６２が搭載されている。ＭＰＵ６２には、制御部及び演算部を含む演算処理装置である主側ＣＰＵ６３の他に、主側ＲＯＭ６４、主側ＲＡＭ６５及び管理用ＩＣ６６が内蔵されている。なお、ＭＰＵ６２には、上記素子以外に、割込回路、タイマ回路、データ入出力回路、乱数発生器としての各

種カウンタ回路などが内蔵されている。
【００６４】
主側ＲＯＭ６４は、ＮＯＲ型フラッシュメモリ及びＮＡＮＤ型フラッシュメモリなどの記憶保持に外部からの電力供給が不要なメモリ（すなわち、不揮発性記憶手段）であり、読み出し専用として利用される。主側ＲＯＭ６４は、主側ＣＰＵ６３により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶している。
【００６５】
主側ＲＡＭ６５は、ＳＲＡＭ及びＤＲＡＭなどの記憶保持に外部からの電力供給が必要なメモリ（すなわち、揮発性記憶手段）であり、読み書き両用として利用される。主側ＲＡＭ６５は、ランダムアクセスが可能であるとともに、同一のデータ容量で比較した場合に主側ＲＯＭ６４よりも読み出しに要する時間が早いものとなっている。主側ＲＡＭ６５は、主側ＲＯＭ６４内に記憶されている制御プログラムの実行に対して各種のデータなどを一時的に記憶する。
【００６６】
管理用ＩＣ６６は、主側ＣＰＵ６３から供給された情報に基づいて遊技履歴を管理する管理装置である。詳細は後述するが、管理用ＩＣ６６にて一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４及びアウト口２４ａへの遊技球の入球履歴が把握されるとともに、その把握された入球履歴に応じて一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４への入球頻度が把握される。また、管理用ＩＣ６６にて後述する開閉実行モード及び高頻度サポートモードの発生頻度が把握される。
【００６７】
ＭＰＵ６２には、入力ポート及び出力ポートがそれぞれ設けられている。ＭＰＵ６２の入力側には主制御装置６０に設けられた停電監視基板６７及び払出制御装置７７が接続されている。停電監視基板６７には動作電力を供給する機能を有する電源・発射制御装置７８が接続されており、ＭＰＵ６２には停電監視基板６７を介して動作電力が供給される。
【００６８】
ＭＰＵ６２の入力側には、各入球検知センサ４２ａ～４９ａといった各種センサが接続されている。各入球検知センサ４２ａ～４９ａには、既に説明したとおり、第１入賞口検知センサ４２ａ、第２入賞口検知センサ４３ａ、第３入賞口検知センサ４４ａ、特電検知センサ４５ａ、第１作動口検知センサ４６ａ、第２作動口検知センサ４７ａ、アウト口検知センサ４８ａ及びゲート検知センサ４９ａが含まれる。これら入球検知センサ４２ａ～４９ａの検知結果に基づいて、主側ＣＰＵ６３にて各入球部への入球判定が行われる。また、主側ＣＰＵ６３では第１作動口３３への入賞に基づいて各種抽選が実行されるとともに第２作動口３４への入賞に基づいて各種抽選が実行される。
【００６９】
ＭＰＵ６２の入力側には、主制御基板６１に設けられた設定キー挿入部６８ａ、更新ボタン６８ｂ及びリセットボタン６８ｃが設けられている。設定キー挿入部６８ａには図示しないセンサが設けられており、当該センサにより当該設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作の位置及びＯＦＦ操作の位置のいずれに配置されているのかが検知される。そして、主側ＣＰＵ６３はそのセンサからの検知結果に基づいて設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作の位置及びＯＦＦ操作の位置のいずれに配置されているのかを特定する。更新ボタン６８ｂには図示しないセンサが設けられており、当該センサにより更新ボタン６８ｂが押圧操作されているか否かが検知される。そして、主側ＣＰＵ６３はそのセンサからの検知結果に基づいて更新ボタン６８ｂが押圧操作されているか否かを特定する。リセットボタン６８ｃには図示しないセンサが設けられており、当該センサによりリセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かが検知される。そして、主側ＣＰＵ６３はそのセンサからの検知結果に基づいてリセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを特定する。
【００７０】
ＭＰＵ６２の出力側には、停電監視基板６７、払出制御装置７７及び音声発光制御装置８１が接続されている。払出制御装置７７には、例えば、上記入球部のうち入球の発生が

遊技球の払い出しに対応する賞球対応入球部に遊技球が入球したことに基づいて賞球コマンドが出力される。音声発光制御装置８１には、変動用コマンド、種別コマンド及びオープニングコマンドなどの各種コマンドが出力される。

【００７１】

ＭＰＵ６２の出力側には、特電入賞装置３２の開閉扉３２ａを開閉動作させる特電用の駆動部３２ｂ、第２作動口３４の普電役物３４ａを開閉動作させる普電用の駆動部３４ｂ、特図ユニット３７及び普図ユニット３８が接続されている。ちなみに、特図ユニット３７には、特図表示部３７ａ及び特図保留表示部３７ｂが設けられているが、これらの全てがＭＰＵ６２の出力側に接続されている。同様に、普図ユニット３８には、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂが設けられているが、これらの全てがＭＰＵ６２の出力側に接続されている。主制御基板６１には各種ドライバ回路が設けられており、当該ドライバ回路を通じてＭＰＵ６２は各種駆動部及び各種表示部の駆動制御を実行する。

【００７２】

つまり、開閉実行モードにおいては特電入賞装置３２が開閉されるように、主側ＣＰＵ６３において特電用の駆動部３２ｂの駆動制御が実行される。また、普電役物３４ａの開放状態当選となった場合には、普電役物３４ａが開閉されるように、主側ＣＰＵ６３において普電用の駆動部３４ｂの駆動制御が実行される。また、各遊技回に際しては、主側ＣＰＵ６３において特図表示部３７ａの表示制御が実行される。また、普電役物３４ａを開放状態とするか否かの抽選結果を明示する場合に、主側ＣＰＵ６３において普図表示部３８ａの表示制御が実行される。また、第１作動口３３若しくは第２作動口３４への入賞が発生した場合、又は特図表示部３７ａにおいて変動表示が開始される場合に、主側ＣＰＵ６３において特図保留表示部３７ｂの表示制御が実行され、スルーゲート３５への入賞が発生した場合、又は普図表示部３８ａにおいて変動表示が開始される場合に、主側ＣＰＵ６３において普図保留表示部３８ｂの表示制御が実行される。

【００７３】

ＭＰＵ６２の出力側には第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃが接続されている。また、管理用ＩＣ６６における遊技履歴の管理結果が第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおける表示を通じて報知される。また、パチンコ機１０の設定状態の変更に際しては第３報知用表示装置６９ｃにて現状の設定値が表示される。この場合、第１報知用表示装置６９ａ及び第２報知用表示装置６９ｂは管理用ＩＣ６６により表示制御され主側ＣＰＵ６３により表示制御されないのに対して、第３報知用表示装置６９ｃは主側ＣＰＵ６３により表示制御されるとともに管理用ＩＣ６６により表示制御される。第３報知用表示装置６９ｃの表示は管理用ＩＣ６６による表示制御よりも主側ＣＰＵ６３による表示制御が優先される。

【００７４】

但し、これに限定されることはなく第３報知用表示装置６９ｃについても管理用ＩＣ６６により表示制御され主側ＣＰＵ６３により表示制御されない構成としてもよい。この場合、パチンコ機１０の設定状態の変更に際して第３報知用表示装置６９ｃにて現状の設定値を表示する場合には主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に設定値の表示指示が行われる構成とするとよい。

【００７５】

ＭＰＵ６２には読み取り用端子６８ｄが設けられている。読み取り用端子６８ｄには図示しないセンサが設けられており、当該センサにより読み取り用端子６８ｄに外部装置の接続端子が接続されているか否かが検知される。そして、主側ＣＰＵ６３はそのセンサからの検知結果に基づいて読み取り用端子６８ｄに外部装置の接続端子が接続されているか否かを特定する。また、読み取り用端子６８ｄに外部装置が接続されている場合、管理用ＩＣ６６における遊技履歴の管理結果又は主側ＲＯＭ６４に記憶された情報（プログラム及びデータ）が当該外部装置に外部出力される。

【００７６】

停電監視基板６７は、主制御基板６１と電源・発射制御装置７８とを中継し、電源・発

射制御装置７８から出力される最大電圧である直流安定２４ボルトの電圧を監視する。払出制御装置７７は、主制御装置６０から受信した賞球コマンドに基づいて、払出装置７６により賞球や貸し球の払出制御を行うものである。

【００７７】

電源・発射制御装置７８は、例えば、遊技ホール等における商用電源（外部電源）に接続されている。そして、その商用電源から供給される外部電力に基づいて主制御基板６１や払出制御装置７７等に対して各々に必要な動作電力を生成するとともに、その生成した動作電力を供給する。ちなみに、電源・発射制御装置７８にはバックアップ用コンデンサなどの電断時用電源部が設けられており、パチンコ機１０の電源がＯＦＦ状態の場合であっても当該電断時用電源部から主制御装置６０の主側ＲＡＭ６５及び払出制御装置７７に記憶保持用の電力が供給される。また、電源・発射制御装置７８は遊技球発射機構２７の発射制御を担うものであり、遊技球発射機構２７は所定の発射条件が整っている場合に駆動される。また、払出機構部７３には既に説明したとおり電源スイッチが設けられており、電源スイッチがＯＮ操作されることによりパチンコ機１０への動作電力の供給が開始され、電源スイッチがＯＦＦ操作されることによりパチンコ機１０への動作電力の供給が停止される。

【００７８】

音声発光制御装置８１は、主制御装置６０から受信した各種コマンドに基づいて、前扉枠１４に設けられた表示発光部５３及びスピーカ部５４を駆動制御するとともに、表示制御装置８２を制御するものである。表示制御装置８２は、音声発光制御装置８１から受信したコマンドに基づいて、図柄表示装置４１の表示制御を実行する。

【００７９】

＜主側ＣＰＵ６３にて各種抽選を行うための電気的構成＞

次に、主側ＣＰＵ６３にて各種抽選を行うための電気的な構成について図７を用いて説明する。

【００８０】

主側ＣＰＵ６３は遊技に際し各種カウンタ情報を用いて、大当たり発生抽選、特図表示部３７ａの表示の設定、図柄表示装置４１の図柄表示の設定、普図表示部３８ａの表示の設定などを行うこととしており、具体的には、図７に示すように、当たり発生の抽選に使用する当たり乱数カウンタＣ１と、大当たり種別を判定する際に使用する大当たり種別カウンタＣ２と、図柄表示装置４１が外れ変動する際のリーチ発生抽選に使用するリーチ乱数カウンタＣ３と、当たり乱数カウンタＣ１の初期値設定に使用する乱数初期値カウンタＣＩＮＩと、特図表示部３７ａ及び図柄表示装置４１における表示継続時間を決定する変動種別カウンタＣＳと、を用いることとしている。さらに、第２作動口３４の普電役物３４ａを普電開放状態とするか否かの抽選に使用する普電役物開放カウンタＣ４を用いることとしている。なお、上記各カウンタＣ１～Ｃ３，ＣＩＮＩ，ＣＳ，Ｃ４は、主側ＲＡＭ６５の各種カウンタエリア６５ｂに設けられている。

【００８１】

各カウンタＣ１～Ｃ３，ＣＩＮＩ，ＣＳ，Ｃ４は、その更新の都度前回値に１が加算され、最大値に達した後に「０」に戻るループカウンタとなっている。各カウンタは短時間間隔で更新される。当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２及びリーチ乱数カウンタＣ３に対応した情報は、第１作動口３３又は第２作動口３４への入賞が発生した場合に、主側ＲＡＭ６５に取得情報記憶手段として設けられた保留格納エリア６５ａに格納される。

【００８２】

保留格納エリア６５ａは、保留用エリアＲＥと、実行エリアＡＥとを備えている。保留用エリアＲＥは、第１保留エリアＲＥ１、第２保留エリアＲＥ２、第３保留エリアＲＥ３及び第４保留エリアＲＥ４を備えており、第１作動口３３又は第２作動口３４への入賞履歴に合わせて、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２及びリーチ乱数カウンタＣ３の各数値情報の組合せが保留情報として、いずれかの保留エリアＲＥ１～ＲＥ４

に格納される。
【００８３】
この場合、第１保留エリアＲＥ１～第４保留エリアＲＥ４には、第１作動口３３又は第２作動口３４への入賞が複数回連続して発生した場合に、第１保留エリアＲＥ１→第２保留エリアＲＥ２→第３保留エリアＲＥ３→第４保留エリアＲＥ４の順に各数値情報が時系列的に格納されていく。このように４つの保留エリアＲＥ１～ＲＥ４が設けられていることにより、第１作動口３３又は第２作動口３４への遊技球の入賞履歴が最大４個まで保留記憶されるようになっている。
【００８４】
なお、保留記憶可能な数は、４個に限定されることはなく任意であり、２個、３個又は５個以上といったように他の複数であってもよく、単数であってもよい。
【００８５】
実行エリアＡＥは、特図表示部３７ａの変動表示を開始する際に、保留用エリアＲＥの第１保留エリアＲＥ１に格納された各数値情報を移動させるためのエリアであり、１遊技回の開始に際しては実行エリアＡＥに記憶されている各種数値情報に基づいて、当否判定などが行われる。
【００８６】
上記各カウンタについて詳細に説明する。
【００８７】
まず、普電役物開放カウンタＣ４について説明する。普電役物開放カウンタＣ４は、例えば、０～２５０の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻る構成となっている。普電役物開放カウンタＣ４は定期的に更新され、スルーゲート３５に遊技球が入賞したタイミングで主側ＲＡＭ６５の普電保留エリア６５ｃに格納される。そして、所定のタイミングにおいて、その格納された普電役物開放カウンタＣ４の値によって普電役物３４ａを開放状態に制御するか否かの抽選が行われる。
【００８８】
本パチンコ機１０では、普電役物３４ａによるサポートの態様が相互に異なるように複数種類のサポートモードが設定されている。詳細には、サポートモードには、遊技領域ＰＡに同様の態様で遊技球の発射が継続されている状況で比較した場合に、第２作動口３４の普電役物３４ａが単位時間当たりに開放状態となる頻度が相対的に高低となるように、高頻度サポートモードと低頻度サポートモードとが設定されている。
【００８９】
高頻度サポートモードと低頻度サポートモードとでは、普電役物開放カウンタＣ４を用いた普電開放抽選における普電開放状態当選となる確率は同一（例えば、共に４／５）となっているが、高頻度サポートモードでは低頻度サポートモードよりも、普電開放状態当選となった際に普電役物３４ａが開放状態となる回数が多く設定されており、さらに１回の開放時間が長く設定されている。この場合、高頻度サポートモードにおいて普電開放状態当選となり普電役物３４ａの開放状態が複数回発生する場合において、１回の開放状態が終了してから次の開放状態が開始されるまでの閉鎖時間は、１回の開放時間よりも短く設定されている。さらにまた、高頻度サポートモードでは低頻度サポートモードよりも、１回の普電開放抽選が行われてから次の普電開放抽選が行われる上で最低限確保される確保時間（すなわち、普図表示部３８ａにおける１回の表示継続時間）が短く設定されている。
【００９０】
上記のとおり、高頻度サポートモードでは、低頻度サポートモードよりも第２作動口３４への入賞が発生する確率が高くなる。換言すれば、低頻度サポートモードでは、第２作動口３４よりも第１作動口３３への入賞が発生する確率が高くなるが、高頻度サポートモードでは、第１作動口３３よりも第２作動口３４への入賞が発生する確率が高くなる。そして、第２作動口３４への入賞が発生した場合には、所定個数の遊技球の払出が実行されるため、高頻度サポートモードでは、遊技者は持ち球をあまり減らさないようにしながら

遊技を行うことができる。

【００９１】

なお、高頻度サポートモードを低頻度サポートモードよりも単位時間当たりに普電開放状態となる頻度を高くする上での構成は、上記のものに限定されることはなく、例えば普電開放抽選における普電開放状態当選となる確率を高くする構成としてもよい。また、１回の普電開放抽選が行われてから次の普電開放抽選が行われる上で確保される確保時間（例えば、スルーゲート３５への入賞に基づき普図表示部３８ａにて実行される変動表示の時間）が複数種類用意されている構成においては、高頻度サポートモードでは低頻度サポートモードよりも、短い確保時間が選択され易い又は平均の確保時間が短くなるように設定されていてもよい。さらには、開放回数を多くする、開放時間を長くする、１回の普電開放抽選が行われてから次の普電開放抽選が行われる上で確保される確保時間を短くする、係る確保時間の平均時間を短くする及び当選確率を高くするのうち、いずれか１条件又は任意の組合せの条件を適用することで、低頻度サポートモードに対する高頻度サポートモードの有利性を高めてもよい。

【００９２】

ここで、既に説明したとおりパチンコ機１０には「設定１」～「設定６」の設定状態が存在しているが、低頻度サポートモードにおける普電役物３４ａの開放頻度及び開放態様はいずれの設定値であっても同一であるとともに、高頻度サポートモードにおける普電役物３４ａの開放頻度及び開放態様もいずれの設定値であっても同一となっている。但し、これに限定されることはなく、低頻度サポートモード及び高頻度サポートモードの少なくとも一方について普電役物３４ａの開放頻度及び開放態様の少なくとも一方がパチンコ機１０の設定状態に応じて変動する構成としてもよい。例えば設定値が高いほど、低頻度サポートモードにおいて普電役物３４ａの開放頻度が高くなる構成としてもよく、低頻度サポートモードにおいて普電役物３４ａが１回開放状態となる場合における第２作動口３４への遊技球の入球確率が高くなる構成としてもよい。また、設定値が高いほど、高頻度サポートモードにおいて普電役物３４ａの開放頻度が高くなる構成としてもよく、高頻度サポートモードにおいて普電役物３４ａが１回開放状態となる場合における第２作動口３４への遊技球の入球確率が高くなる構成としてもよい。

【００９３】

次に、当たり乱数カウンタＣ１について説明する。当たり乱数カウンタＣ１は、例えば０～５９９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻る構成となっている。特に当たり乱数カウンタＣ１が１周した場合、その時点の乱数初期値カウンタＣＩＮＩの値が当該当たり乱数カウンタＣ１の初期値として読み込まれる。なお、乱数初期値カウンタＣＩＮＩは、当たり乱数カウンタＣ１と同様のループカウンタである（値＝０～５９９）。当たり乱数カウンタＣ１は定期的に更新され、遊技球が第１作動口３３又は第２作動口３４に入賞したタイミングで主側ＲＡＭ６５の保留格納エリア６５ａに格納される。

【００９４】

大当たり当選となる乱数の値は、主側ＲＯＭ６４に当否テーブルとして記憶されている。図８は主側ＲＯＭ６４に記憶されている各種テーブルを説明するための説明図である。当否テーブルとして、低確率モード用の低確当否テーブル６４ａ～６４ｆと、高確率モード用の高確当否テーブル６４ｇとが記憶されている。

【００９５】

低確当否テーブル６４ａ～６４ｆは、「設定１」～「設定６」の設定状態に１対１で対応させて設けられている。つまり、パチンコ機１０の設定状態が「設定１」である場合に参照される設定１用の低確当否テーブル６４ａと、パチンコ機１０の設定状態が「設定２」である場合に参照される設定２用の低確当否テーブル６４ｂと、パチンコ機１０の設定状態が「設定３」である場合に参照される設定３用の低確当否テーブル６４ｃと、パチンコ機１０の設定状態が「設定４」である場合に参照される設定４用の低確当否テーブル６４ｄと、パチンコ機１０の設定状態が「設定５」である場合に参照される設定５用の低確

当否テーブル６４ｅと、パチンコ機１０の設定状態が「設定６」である場合に参照される設定６用の低確当否テーブル６４ｆと、が存在している。

【００９６】

これら低確当否テーブル６４ａ～６４ｆは高い設定値ほど大当たり結果の当選確率が高くなるように設定されている。具体的には、設定１用の低確当否テーブル６４ａが参照された場合には約１／３２０で大当たり結果となり、設定２用の低確当否テーブル６４ｂが参照された場合には約１／３１０で大当たり結果となり、設定３用の低確当否テーブル６４ｃが参照された場合には約１／３００で大当たり結果となり、設定４用の低確当否テーブル６４ｄが参照された場合には約１／２９０で大当たり結果となり、設定５用の低確当否テーブル６４ｅが参照された場合には約１／２８０で大当たり結果となり、設定６用の低確当否テーブル６４ｆが参照された場合には約１／２７０で大当たり結果となる。これにより、パチンコ機１０の設定状態が高い設定値である方が低確率モードにおいて大当たり結果が発生し易くなり、遊技者にとって有利となる。

【００９７】

一方、高確当否テーブル６４ｇは、「設定１」～「設定６」のいずれの設定状態であっても共通となるように１種類のみ設けられている。高確当否テーブル６４ｇは「設定１」～「設定６」のいずれの設定状態であっても低確当否テーブル６４ａ～６４ｆよりも大当たり結果の当選確率が高くなるように設定されている。具体的には、高確当否テーブル６４ｇが参照された場合には約１／３０で大当たり結果となる。これにより、パチンコ機１０の設定状態に関係なく高確率モードを低確率モードよりも有利な状態とすることが可能となる。また、最も低い設定状態である「設定１」であっても高確率モードとなることで最も高い設定状態である「設定６」の低確率モードよりも大当たり結果となる確率を高くすることが可能となる。また、高確率モードについてはパチンコ機１０の設定状態による有利又は不利が生じないようにすることが可能となるとともに、高確当否テーブル６４ｇを主側ＲＯＭ６４にて予め記憶するための記憶容量を抑えることが可能となる。

【００９８】

大当たり種別カウンタＣ２は、０～２９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻る構成となっている。大当たり種別カウンタＣ２は定期的に更新され、遊技球が第１作動口３３又は第２作動口３４に入賞したタイミングで保留格納エリア６５ａに格納される。

【００９９】

本パチンコ機１０では、複数の大当たり結果が設定されている。これら複数の大当たり結果は、（１）開閉実行モードにおける特電入賞装置３２の開閉制御の態様、（２）開閉実行モード終了後の当否抽選手段における抽選モード、（３）開閉実行モード終了後の第２作動口３４の普電役物３４ａにおけるサポートモード、という３つの条件に差異を設けることにより、複数の大当たり結果が設定されている。

【０１００】

開閉実行モードにおける特電入賞装置３２の開閉制御の態様としては、開閉実行モードが開始されてから終了するまでの間における特電入賞装置３２への入賞の発生頻度が相対的に高低となるように高頻度入賞モードと低頻度入賞モードとが設定されている。具体的には、高頻度入賞モード及び低頻度入賞モードのいずれであっても、予め定められた回数のラウンド遊技を上限として実行される。

【０１０１】

ラウンド遊技とは、予め定められた上限継続期間が経過すること、及び予め定められた上限個数の遊技球が特電入賞装置３２に入賞することのいずれか一方の条件が満たされるまで継続する遊技のことである。また、大当たり結果が契機となった開閉実行モードにおけるラウンド遊技の回数は、その移行の契機となった大当たり結果の種類がいずれであっても固定ラウンド回数で同一となっている。具体的には、いずれの大当たり結果となった場合であっても、ラウンド遊技の上限回数は１５ラウンドに設定されている。

【０１０２】

また、本パチンコ機１０では、特電入賞装置３２の１回の開放態様が、特電入賞装置３２が開放されてから閉鎖されるまでの開放継続時間を相違させて、複数種類設定されている。詳細には、開放継続時間が長時間である２９秒に設定された長時間態様と、開放継続時間が上記長時間よりも短い短時間である０．０６秒に設定された短時間態様と、が設定されている。

【０１０３】

本パチンコ機１０では、発射操作装置２８が遊技者により操作されている状況では、０．６秒に１個の遊技球が遊技領域ＰＡに向けて発射されるように遊技球発射機構２７が駆動制御される。また、ラウンド遊技は終了条件の上限個数が９個に設定されている。そうすると、上記開放態様のうち長時間態様では、遊技球の発射周期と１回のラウンド遊技との積よりも長い時間の開放継続時間が設定されていることとなる。一方、短時間態様では、遊技球の発射周期と１回のラウンド遊技との積よりも短い時間、より詳細には、遊技球の発射周期よりも短い時間の開放継続時間が設定されている。したがって、長時間態様で１回の開放が行われた場合には、特電入賞装置３２に対して、１回のラウンド遊技における上限個数分の入賞が発生することが期待され、短時間態様で１回の開放が行われた場合には、特電入賞装置３２への入賞が発生しないこと又は入賞が発生するとしても１個程度となることが期待される。

【０１０４】

高頻度入賞モードでは、各ラウンド遊技において長時間態様による特電入賞装置３２の開放が１回行われる。一方、低頻度入賞モードでは、各ラウンド遊技において短時間態様による特電入賞装置３２の開放が１回行われる。

【０１０５】

なお、高頻度入賞モード及び低頻度入賞モードにおける特電入賞装置３２の開閉回数、ラウンド遊技の回数、１回の開放に対する開放継続時間及び１回のラウンド遊技における上限個数は、高頻度入賞モードの方が低頻度入賞モードよりも、開閉実行モードが開始されてから終了するまでの間における特電入賞装置３２への入賞の発生頻度が高くなるのであれば、上記の値に限定されることはなく任意である。

【０１０６】

大当たり種別カウンタＣ２に対する大当たり結果の振分先は、図８に示すように主側ＲＯＭ６４に振分テーブル６４ｈとして記憶されている。そして、振分テーブル６４ｈにおいては大当たり結果となった場合における大当たり結果の振分先として、低確大当たり結果と、低入賞高確大当たり結果と、最有利大当たり結果とが設定されている。

【０１０７】

低確大当たり結果は、開閉実行モードが高頻度入賞モードとなり、さらに開閉実行モードの終了後には、当否抽選モードが低確率モードとなるとともに、サポートモードが高頻度サポートモードとなる大当たり結果である。但し、この高頻度サポートモードは、移行後において遊技回数が終了基準回数（具体的には、１００回）に達した場合に低頻度サポートモードに移行する。

【０１０８】

低入賞高確大当たり結果は、開閉実行モードが低頻度入賞モードとなり、さらに開閉実行モードの終了後には、当否抽選モードが高確率モードとなるとともに、サポートモードが高頻度サポートモードとなる大当たり結果である。これら高確率モード及び高頻度サポートモードは、当否抽選における抽選結果が大当たり状態当選となり、それによる大当たり状態に移行するまで継続する。

【０１０９】

最有利大当たり結果は、開閉実行モードが高頻度入賞モードとなり、さらに開閉実行モードの終了後には、当否抽選モードが高確率モードとなるとともに、サポートモードが高頻度サポートモードとなる大当たり結果である。これら高確率モード及び高頻度サポートモードは、当否抽選における抽選結果が大当たり状態当選となり、それによる大当たり状態に移行するまで継続する。

【０１１０】
なお、上記各遊技状態との関係で通常遊技状態とは、開閉実行モードではなく、さらに当否抽選モードが低確率モードであり、サポートモードが低頻度サポートモードである状態をいう。また、遊技結果として、低入賞高確大当たり結果が設定されていない構成としてもよい。また、低入賞高確大当たり結果における開閉実行モードでは、ラウンド遊技の回数が低確大当たり結果及び最有利大当たり結果の場合よりも少ない回数である構成としてもよい。
【０１１１】
振分テーブル６４ｈでは、「０～２９」の大当たり種別カウンタＣ２の値のうち、「０～９」が低確大当たり結果に対応しており、「１０～１４」が低入賞高確大当たり結果に対応しており、「１５～２９」が最有利大当たり結果に対応している。
【０１１２】
振分テーブル６４ｈは、「設定１」～「設定６」のいずれの設定状態であっても共通となるように１種類のみ設けられている。これにより、大当たり結果の振分態様についてパチンコ機１０の設定状態による有利又は不利が生じないようにすることが可能となるとともに、振分テーブル６４ｈを主側ＲＯＭ６４にて予め記憶するための記憶容量を抑えることが可能となる。
【０１１３】
なお、パチンコ機１０の設定状態に応じて大当たり結果の振分態様が相違する構成としてもよい。例えば、高い設定値ほど最有利大当たり結果に振り分けられる確率を高くする構成としてもよく、高い設定値ほど最有利大当たり結果又は低入賞高確大当たり結果に振り分けられる確率を高くする構成としてもよい。この場合、高い設定値ほど大当たり結果となった後に高確率モードとなる確率を高くすることが可能となる。また、高い設定値ほど低入賞高確大当たり結果に振り分けられる確率を低くする構成としてもよく、高い設定値では低入賞高確大当たり結果に振り分けられないのに対して低い設定値では低入賞高確大当たり結果に振り分けられ得る構成としてもよい。この場合、高い設定値ほど高頻度入賞モードの開閉実行モードが発生する確率を高くすることが可能となる。
【０１１４】
次に、リーチ乱数カウンタＣ３について説明する。リーチ乱数カウンタＣ３は、例えば０～２３８の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻る構成となっている。本パチンコ機１０には、図柄表示装置４１における表示演出の一種として期待演出が設定されている。期待演出とは、図柄の変動表示を行うことが可能な図柄表示装置４１を備え、所定の大当たり結果となる遊技回では最終的な停止結果が付与対応結果となる遊技機において、図柄表示装置４１における図柄の変動表示が開始されてから停止結果が導出表示される前段階で、前記付与対応結果となり易い変動表示状態であると遊技者に思わせるための表示状態をいう。なお、付与対応結果について具体的には、いずれかの有効ライン上に同一の数字が付された図柄の組合せが停止表示される。
【０１１５】
期待演出には、リーチ表示と、リーチ表示が発生する前段階などにおいてリーチ表示の発生や付与対応結果の発生を期待させるための予告表示との２種類が設定されている。
【０１１６】
リーチ表示には、図柄表示装置４１の表示面４１ａに表示される複数の図柄列のうち一部の図柄列について図柄を停止表示させることで、リーチ図柄の組合せを表示し、その状態で残りの図柄列において図柄の変動表示を行う表示状態が含まれる。また、上記のようにリーチ図柄の組合せを表示した状態で、残りの図柄列において図柄の変動表示を行うとともに、その背景画面において所定のキャラクタなどを動画として表示することによりリーチ演出を行うものや、リーチ図柄の組合せを縮小表示させる又は非表示とした上で、表示面４１ａの略全体において所定のキャラクタなどを動画として表示することによりリーチ演出を行うものが含まれる。
【０１１７】

予告表示には、図柄表示装置４１の表示面４１ａにおいて図柄の変動表示が開始されてから、全ての図柄列にて図柄が変動表示されている状況において、又は一部の図柄列であって複数の図柄列にて図柄が変動表示されている状況において、図柄列上の図柄とは別にキャラクタを表示させる態様が含まれる。また、背景画面をそれまでの態様とは異なる所定の態様とするものや、図柄列上の図柄をそれまでの態様とは異なる所定の態様とするものも含まれる。かかる予告表示は、リーチ表示が行われる場合及びリーチ表示が行われない場合のいずれの遊技回においても発生し得るが、リーチ表示が行われる場合の方がリーチ表示が行われない場合よりも高確率で発生するように設定されている。

【０１１８】

リーチ表示は、最終的に同一の図柄の組合せが停止表示される遊技回では、リーチ乱数カウンタＣ３の値に関係なく実行される。また、同一の図柄の組合せが停止表示されない大当たり結果に対応した遊技回では、リーチ乱数カウンタＣ３の値に関係なく実行されない。また、外れ結果に対応した遊技回では、主側ＲＯＭ６４に記憶されたリーチ用テーブルを参照して所定のタイミングで取得したリーチ乱数カウンタＣ３がリーチ表示の発生に対応している場合に実行される。

【０１１９】

一方、予告表示を行うか否かの決定は、主制御装置６０において行うのではなく、音声発光制御装置８１において行われる。この場合、音声発光制御装置８１は、いずれかの大当たり結果に対応した遊技回の方が、外れ結果に対応した遊技回に比べ、予告表示が発生し易いこと、及び出現率の低い予告表示が発生し易いことの少なくとも一方の条件を満たすように、予告表示用の抽選処理を実行する。ちなみに、この抽選結果は、図柄表示装置４１にて遊技回用の演出が実行される場合に反映される。

【０１２０】

ここで、外れ結果となる遊技回においてリーチ表示の発生となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれの設定状態であっても同一である。これにより、外れ結果となる遊技回においてリーチ表示が発生する確率に関してパチンコ機１０の設定状態による有利又は不利が生じないようにすることが可能となる。但し、これに限定されることはなく、高い設定値ほど外れ結果となる遊技回においてリーチ表示が発生する確率が高くなる構成としてもよい。

【０１２１】

次に、変動種別カウンタＣＳについて説明する。変動種別カウンタＣＳは、例えば０～１９８の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻る構成となっている。変動種別カウンタＣＳは、特図表示部３７ａにおける表示継続時間と、図柄表示装置４１における図柄の表示継続時間とを主側ＣＰＵ６３において決定する上で用いられる。変動種別カウンタＣＳは、後述するタイマ割込み処理が１回実行される毎に１回更新され、次回のタイマ割込み処理が実行されるまでの残余時間内でも繰り返し更新される。そして、特図表示部３７ａにおける変動表示の開始時及び図柄表示装置４１による図柄の変動開始時における変動パターン決定に際して変動種別カウンタＣＳのバッファ値が取得される。

【０１２２】

＜主側ＣＰＵ６３の処理構成について＞

次に、主側ＣＰＵ６３にて遊技を進行させるために実行される各処理を説明する。かかる主側ＣＰＵ６３の処理としては大別して、電源投入に伴い起動されるメイン処理と、定期的に（本実施の形態では４ミリ秒周期で）起動されるタイマ割込み処理とがある。

【０１２３】

＜メイン処理＞

まず、図９のフローチャートを参照しながらメイン処理を説明する。

【０１２４】

まず電源投入ウエイト処理を実行する（ステップＳ１０１）。当該電源投入ウエイト処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）が

経過するまで次の処理に進行することなく待機する。かかる電源投入ウエイト処理の実行期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。その後、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する（ステップＳ１０２）。

【０１２５】

その後、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されているか否かを判定する（ステップＳ１０３）。設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていない場合（ステップＳ１０３：ＮＯ）、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳ１０４）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合（ステップＳ１０４：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリアを除いて、主側ＲＡＭ６５の各エリアを「０」クリアするとともにその「０」クリアしたエリアに対して初期設定を行う（ステップＳ１０５）。つまり、設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作を伴わずにリセットボタン６８ｃを押圧操作しながらパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には設定値の情報についてはパチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前の状態に維持したまま主側ＲＡＭ６５のクリア処理が実行されるとともにそのクリア処理が実行された記憶エリアに対して初期設定が行われる。これにより、設定値の変更を要することなく主側ＲＡＭ６５の他のエリアを初期化させることが可能となる。なお、ステップＳ１０５では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を行う。

【０１２６】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳ１０４：ＮＯ）、停電フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ１０６）。停電フラグは主側ＲＡＭ６５に設けられており、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される場合において予め定められた停電時処理が正常に実行された場合には当該停電フラグに「１」がセットされることとなる。停電フラグに「１」がセットされている場合には、チェックサムの算出結果が電源遮断時に保存したチェックサムと一致するか否かすなわち記憶保持されたデータの有効性を判定する（ステップＳ１０７）。ステップＳ１０５の処理を実行した場合、又はステップＳ１０７にて肯定判定をした場合、主側ＲＡＭ６５を確認することでパチンコ機１０の設定値が正常か否かを判定する（ステップＳ１０８）。具体的には、設定値が「設定１」～「設定６」のいずれかである場合に正常であると判定し、「０」又は７以上である場合に異常であると判定する。

【０１２７】

ステップＳ１０６～ステップＳ１０８のいずれかで否定判定をした場合には動作禁止処理を実行する。動作禁止処理では、ホール管理者等にエラーの発生を報知するためのエラー報知処理を実行した後に（ステップＳ１０９）、無限ループとなる。当該動作禁止処理は、後述する全部クリア処理（ステップＳ１１７）が実行されることにより解除される。

【０１２８】

ステップＳ１０６～ステップＳ１０８の全てにおいて肯定判定をした場合には電源投入設定処理を実行する（ステップＳ１１０）。電源投入設定処理では、停電フラグの初期化といった主側ＲＡＭ６５の所定のエリアを初期値に設定するとともに、現状の遊技状態に対応したコマンドを音声発光制御装置８１に送信する。また、ステップＳ１１０の処理を実行した後は、管理用ＩＣ６６に各種情報を認識させるための認識用処理（ステップＳ１１１）、及びＭＰＵ６２の読み取り用端子６８ｄに接続された外部装置に各種データを出力するためのデータ出力用処理を実行する（ステップＳ１１２）。これら認識用処理及びデータ出力用処理の詳細については後に説明する。

【０１２９】

なお、主側ＣＰＵ６３はタイマ割込み処理を定期的に実行する構成であるが、メイン処理が開始された段階においてはタイマ割込み処理の発生が禁止されている。このタイマ割込み処理の発生が禁止された状態はステップＳ１１２の処理が完了してステップＳ１１３の処理が実行される前のタイミングで解除され、タイマ割込み処理の実行が許可される。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合にはステップＳ１１２

のデータ出力用処理が終了して、ステップＳ１１３の処理が開始される前の段階までタイマ割込み処理は実行されない。よって、当該状況となるまでは主側ＣＰＵ６３にて遊技を進行させるための処理が開始されないこととなる。

【０１３０】

その後、ステップＳ１１３～ステップＳ１１６の残余処理に進む。つまり、主側ＣＰＵ６３はタイマ割込み処理を定期的に実行する構成であるが、１のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は各タイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップＳ１１３～ステップＳ１１６の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップＳ１１３～ステップＳ１１６の残余処理は非定期的に実行される非定期処理であると言える。

【０１３１】

残余処理では、まずステップＳ１１３にて、タイマ割込み処理の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う。続くステップＳ１１４では、乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新を行う乱数初期値更新処理を実行するとともに、ステップＳ１１５にて変動種別カウンタＣＳの更新を行う変動用カウンタ更新処理を実行する。これらの更新処理では、主側ＲＡＭ６５の対応するカウンタから現状の数値情報を読み出し、その読み出した数値情報を１加算する処理を実行した後に、読み出し元のカウンタに上書きする処理を実行する。この場合、カウンタ値が最大値を超えた際にそれぞれ「０」にクリアする。その後、ステップＳ１１６にて、タイマ割込み処理の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換える割込み許可の設定を行う。ステップＳ１１６の処理を実行した場合、ステップＳ１１３に戻り、ステップＳ１１３～ステップＳ１１６の処理を繰り返す。

【０１３２】

一方、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている場合（ステップＳ１０３：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリアも含めて、主側ＲＡＭ６５の全てのエリアを「０」クリアするとともにその「０」クリアしたエリアに対して初期設定を行う（ステップＳ１１７）。つまり、パチンコ機１０の設定状態を変更するための操作が行われている場合にはリセットボタン６８ｃが押圧操作されていなくても主側ＲＡＭ６５の全てのエリアが「０」クリアされるとともにそのクリア処理が実行された記憶エリアに対して初期設定が行われる。また、ステップＳ１１７では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を行う。なお、これに限定されることはなく、パチンコ機１０の設定状態を変更するための操作が行われている場合であってもリセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合には主側ＲＡＭ６５の全部クリア処理が実行されずに、パチンコ機１０の設定状態を変更するための操作が行われているとともにリセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合に全部クリア処理が実行される構成としてもよい。

【０１３３】

その後、ステップＳ１１８にて設定値更新処理を実行し、ステップＳ１１９にて設定値更新信号の出力処理を実行した後に、ステップＳ１１０の処理に移行する。以下、設定値更新処理について説明する。なお、設定値更新信号の出力処理については後に詳細に説明する。図１０は設定値更新処理を示すフローチャートである。

【０１３４】

まず主側ＲＡＭ６５に設けられた設定値カウンタに「１」をセットする（ステップＳ２０１）。設定値カウンタはパチンコ機１０の設定状態がいずれの設定値であるのかを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。設定値カウンタに「１」がセットされることにより、設定値更新処理が実行される場合にはそれまでの設定値に関係なく設定値が「設定１」となる。

【０１３５】

その後、設定値の表示開始処理を実行する（ステップＳ２０２）。設定値の表示開始処理では、「設定１」に対応する「１」の数字が表示されるように第３報知用表示装置６９

ｃを表示制御する。遊技ホールの管理者は設定値の変更に際しては第３報知用表示装置６９ｃを確認することでパチンコ機１０の現状の設定状態を把握することが可能となる。

【０１３６】

その後、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されていないことを条件として（ステップＳ２０３：ＮＯ）、更新ボタン６８ｂが１回押圧操作されたか否かを判定する（ステップＳ２０４）。具体的には更新ボタン６８ｂの押圧操作を検知するセンサからの信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったか否かを判定する。ステップＳ２０４にて否定判定をした場合、ステップＳ２０３の処理に戻り、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されているか否かを判定する。

【０１３７】

更新ボタン６８ｂが１回押圧操作されている場合（ステップＳ２０４：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５の設定値カウンタの値を１加算する（ステップＳ２０５）。また、１加算後における設定値カウンタの値が「６」を超えた場合（ステップＳ２０６：ＹＥＳ）、設定値カウンタに「１」をセットする（ステップＳ２０７）。これにより、更新ボタン６８ｂが１回押圧操作される度に１段階上の設定値に更新され、「設定６」の状況で更新ボタン６８ｂが１回押圧操作された場合には「設定１」に戻ることになる。

【０１３８】

ステップＳ２０６にて否定判定をした場合、又はステップＳ２０７の処理を実行した場合、設定値の表示更新処理を実行する（ステップＳ２０８）。設定値の表示更新処理では、主側ＲＡＭ６５の設定値カウンタの値に対応する数字が表示されるように第３報知用表示装置６９ｃを表示制御する。遊技ホールの管理者は第３報知用表示装置６９ｃを確認することで更新ボタン６８ｂを押圧操作した後のパチンコ機１０の設定状態を把握することが可能となる。

【０１３９】

ステップＳ２０８の処理を実行した後はステップＳ２０３に戻り、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されているか否かを判定する。ＯＦＦ操作されていない場合（ステップＳ２０３：ＮＯ）、ステップＳ２０４以降の処理を再度実行する。ＯＦＦ操作されている場合（ステップＳ２０３：ＹＥＳ）、設定値の表示終了処理を実行する（ステップＳ２０９）。設定値の表示終了処理では、第３報知用表示装置６９ｃにおける設定値の表示を終了させる。

【０１４０】

＜タイマ割込み処理＞

次に、図１１のフローチャートを参照しながらタイマ割込み処理を説明する。タイマ割込み処理は定期的（例えば４ミリ秒周期）に実行される。

【０１４１】

まず停電情報記憶処理を実行する（ステップＳ３０１）。停電情報記憶処理では、停電監視基板６７から電源遮断の発生に対応した停電信号を受信しているか否かを監視し、停電の発生を特定した場合には停電時処理を実行した後に無限ループとなる。停電時処理では、主側ＲＡＭ６５の停電フラグに「１」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを保存する。

【０１４２】

その後、抽選用乱数更新処理を実行する（ステップＳ３０２）。抽選用乱数更新処理では、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び普電役物開放カウンタＣ４の更新を実行する。具体的には、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び普電役物開放カウンタＣ４から現状の数値情報を順次読み出し、それら読み出した数値情報をそれぞれ１加算する処理を実行した後に、読み出し元のカウンタに上書きする処理を実行する。この場合、カウンタ値が最大値を超えた際にそれぞれ「０」にクリアする。その後、ステップＳ３０３ではステップＳ１１４と同様に乱数初期値更新処理を実行するとともに、ステップＳ３０４にてステップＳ１１５と同様に変動用カウンタ更新処理を実行する。

【０１４３】
その後、不正用の監視対象として設定されている所定の事象が発生しているか否かを監視する不正検知処理を実行する（ステップＳ３０５）。当該不正検知処理では、複数種類の事象の発生を監視し、所定の事象が発生していることを確認することで、主側ＲＡＭ６５に設けられた遊技停止フラグに「１」をセットする。続くステップＳ３０６では、上記遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定することで、遊技の進行を停止している状態であるか否かを判定する。ステップＳ３０６にて否定判定をした場合に、ステップＳ３０７以降の処理を実行する。
【０１４４】
ステップＳ３０７では、ポート出力処理を実行する。ポート出力処理では、前回のタイマ割込み処理において出力情報の設定が行われている場合に、その出力情報に対応した出力を各種駆動部３２ｂ，３４ｂに行うための処理を実行する。例えば、特電入賞装置３２を開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には特電用の駆動部３２ｂへの駆動信号の出力を開始させ、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には当該駆動信号の出力を停止させる。また、第２作動口３４の普電役物３４ａを開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には普電用の駆動部３４ｂへの駆動信号の出力を開始させ、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には当該駆動信号の出力を停止させる。
【０１４５】
その後、読み込み処理を実行する（ステップＳ３０８）。読み込み処理では、停電信号及び入賞信号以外の信号の読み込みを実行し、その読み込んだ情報を今後の処理にて利用するために記憶する。
【０１４６】
その後、入球検知処理を実行する（ステップＳ３０９）。当該入球検知処理では、各入球検知センサ４２ａ～４９ａから受信している信号を読み込み、その読み込み結果に基づいて、アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４及びスルーゲート３５への入球の有無を特定する。なお、入球検知処理の詳細については後に説明する。
【０１４７】
その後、主側ＲＡＭ６５に設けられている複数種類のタイマカウンタの数値情報をまとめて更新するためのタイマ更新処理を実行する（ステップＳ３１０）。この場合、記憶されている数値情報が減算されて更新されるタイマカウンタを集約して扱う構成であるが、減算式のタイマカウンタの更新及び加算式のタイマカウンタの更新の両方を集約して行う構成としてもよい。
【０１４８】
その後、遊技球の発射制御を行うための発射制御処理を実行する（ステップＳ３１１）。発射操作装置２８への発射操作が継続されている状況では、所定の発射周期である０．６秒に１個の遊技球が発射される。続くステップＳ３１２では、入力状態監視処理として、ステップＳ３０８の読み込み処理にて読み込んだ情報に基づいて、各入球検知センサ４２ａ～４９ａの断線確認や、遊技機本体１２や前扉枠１４の開放確認を行う。
【０１４９】
その後、遊技回の実行制御及び開閉実行モードの実行制御を行うための特図特電制御処理を実行する（ステップＳ３１３）。特図特電制御処理については後に詳細に説明する。
【０１５０】
その後、普図普電制御処理を実行する（ステップＳ３１４）。普図普電制御処理では、スルーゲート３５への入賞が発生している場合に普図側の保留情報を取得するための処理を実行するとともに、普図側の保留情報が記憶されている場合にその保留情報について開放判定を行い、さらにその開放判定を契機として普図用の演出を行うための処理を実行する。また、開放判定の結果に基づいて、第２作動口３４の普電役物３４ａを開閉させる処理を実行する。この場合、サポートモードが低頻度サポートモードであればそれに対応す

る処理が実行され、サポートモードが高頻度サポートモードであればそれに対応する処理が実行される。また、開閉実行モードである場合にはその直前のサポートモードが高頻度サポートモードであったとしても低頻度サポートモードとなる。

【０１５１】

続くステップＳ３１５では、直前のステップＳ３１３及びステップＳ３１４の処理結果に基づいて、特図表示部３７ａに係る保留情報の増減個数を特図保留表示部３７ｂに反映させるための出力情報の設定を行うとともに、普図表示部３８ａに係る保留情報の増減個数を普図保留表示部３８ｂに反映させるための出力情報の設定を行う。また、ステップＳ３１５では、直前のステップＳ３１３及びステップＳ３１４の処理結果に基づいて、特図表示部３７ａの表示内容を更新させるための出力情報の設定を行うとともに、普図表示部３８ａの表示内容を更新させるための出力情報の設定を行う。

【０１５２】

その後、払出制御装置７７から受信したコマンド及び信号の内容を確認し、その確認結果に対応した処理を行うための払出状態受信処理を実行する（ステップＳ３１６）。また、賞球コマンドを出力対象として設定するための払出出力処理を実行する（ステップＳ３１７）。また、今回のタイマ割込み処理にて実行された各種処理の処理結果に応じた外部信号の出力の開始及び終了を制御するための外部情報設定処理を実行する（ステップＳ３１８）。その後、遊技領域ＰＡにおける遊技球の入球結果に対応する情報を管理用ＩＣ６６に出力するための管理用出力処理を実行する（ステップＳ３１９）。管理用出力処理の詳細については後に説明する。

【０１５３】

次に、ステップＳ３１３の特図特電制御処理について、図１２のフローチャートを参照しながら説明する。

【０１５４】

まず保留情報の取得処理を実行する（ステップＳ４０１）。保留情報の取得処理では、第１作動口３３又は第２作動口３４への入賞が発生しているか否かを判定し、入賞が発生している場合には保留格納エリア６５ａにおける保留数が上限値（本実施の形態では「４」）未満であるか否かを判定する。保留数が上限値未満である場合には、保留数を１加算するとともに、前回のステップＳ３０２にて更新した当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２及びリーチ乱数カウンタＣ３の各数値情報を、保留用エリアＲＥの空き保留エリアＲＥ１～ＲＥ４のうち最初の保留エリアに格納する。なお、第１作動口３３及び第２作動口３４への入賞が同時に発生している場合には、保留情報の取得処理を１回実行する範囲内において、上記保留情報を取得するための処理を複数回実行する。また、保留情報の新たな取得が行われた場合にはそれに対応する取得時コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１は当該コマンドを受信した場合、図柄表示装置４１における保留情報の個数を示す画像の表示を保留情報の増加に対応する表示内容に更新させる。

【０１５５】

その後、主側ＲＡＭ６５に設けられた特図特電カウンタの情報を読み出すとともに（ステップＳ４０２）、主側ＲＯＭ６４に設けられた特図特電アドレステーブルを読み出す（ステップＳ４０３）。そして、特図特電アドレステーブルから特図特電カウンタの情報に対応した開始アドレスを取得し（ステップＳ４０４）、ステップＳ４０６～ステップＳ４１２の処理のうちその取得した開始アドレスが示す処理にジャンプする（ステップＳ４０５）。特図特電カウンタは、ステップＳ４０６～ステップＳ４１２の各種処理のうちいずれを実行すべきであるかを主側ＣＰＵ６３にて把握するためのカウンタであり、特図特電アドレステーブルは、特図特電カウンタの数値情報に対応させて、ステップＳ４０６～ステップＳ４１２の処理を実行するためのプログラムの開始アドレスが設定されている。

【０１５６】

ステップＳ４０６では特図変動開始処理を実行する。図１３は特図変動開始処理を示すフローチャートである。

【０１５７】
特図変動開始処理では保留用エリアＲＥに格納されている保留情報の個数が１以上であることを条件として（ステップＳ５０１：ＹＥＳ）、データ設定処理を実行する（ステップＳ５０２）。データ設定処理では、まず保留数を１減算するとともに、保留用エリアＲＥの第１保留エリアＲＥ１に格納されたデータを実行エリアＡＥに移動する。その後、保留用エリアＲＥの各保留エリアＲＥ１～ＲＥ４に格納されたデータをシフトさせる処理を実行する。このデータシフト処理は、第１保留エリアＲＥ１～第４保留エリアＲＥ４に格納されているデータを下位エリア側に順にシフトさせる処理であり、詳細には、第２保留エリアＲＥ２→第１保留エリアＲＥ１、第３保留エリアＲＥ３→第２保留エリアＲＥ２、第４保留エリアＲＥ４→第３保留エリアＲＥ３といった具合に各エリア内のデータをシフトさせた後に第４保留エリアＲＥ４を「０」クリアする。この際、保留エリアのデータのシフトが行われたことを認識させるためのシフト時コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１は当該コマンドを受信した場合、図柄表示装置４１における保留情報の個数を示す画像の表示を保留情報の減少に対応する表示内容に更新させる。

【０１５８】
データ設定処理を実行した後は当否テーブルを主側ＲＯＭ６４から読み出す（ステップＳ５０３）。具体的には、まず主側ＲＡＭ６５の当否抽選モードを示す情報を読み出すことにより現状の当否抽選モードを把握する。高確率モードである場合には主側ＲＯＭ６４から高確当否テーブル６４ｇを読み出す。一方、低確率モードである場合には主側ＲＡＭ６５の設定値カウンタの値を読み出すことによりパチンコ機１０の設定状態を把握する。そして、その把握した設定値に対応する低確当否テーブル６４ａ～６４ｆを主側ＲＯＭ６４から読み出す。

【０１５９】
その後、ステップＳ５０３にて読み出した当否テーブル６４ａ～６４ｇを参照して当否判定処理を実行する（ステップＳ５０４）。当否判定処理では、実行エリアＡＥに格納された情報のうち当否判定用の情報、すなわち当たり乱数カウンタＣ１に係る数値情報が、ステップＳ５０３にて読み出した当否テーブル６４ａ～６４ｇに設定された大当たり数値情報と一致しているか否かを判定する。

【０１６０】
当否判定処理の結果が大当たり当選結果である場合には（ステップＳ５０５：ＹＥＳ）、振分判定処理を実行する（ステップＳ５０６）。振分判定処理では、実行エリアＡＥに格納された情報のうち振分判定用の情報、すなわち大当たり種別カウンタＣ２に係る数値情報を読み出す。そして、主側ＲＯＭ６４に設けられた振分テーブル６４ｈを参照して、上記読み出した大当たり種別カウンタＣ２に係る数値情報がいずれの大当たり結果に対応しているのかを特定する。具体的には、低確大当たり結果、低入賞高確大当たり結果及び最有利大当たり結果のうちいずれの大当たり結果に対応しているのかを特定する。

【０１６１】
その後、大当たり結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップＳ５０７）。具体的には、今回の変動開始に係る遊技回において特図表示部３７ａに最終的に停止表示させる絵柄の態様の情報を、主側ＲＯＭ６４に予め記憶されている大当たり結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側ＲＡＭ６５に書き込む。この大当たり結果用の停止結果テーブルには、特図表示部３７ａに停止表示される絵柄の態様の情報が、大当たり結果の種類毎に相違させて設定されている。

【０１６２】
その後、振分判定結果に対応したフラグセット処理を実行する（ステップＳ５０８）。具体的には、主側ＲＡＭ６５には各大当たり結果の種類に対応したフラグが設けられており、ステップＳ５０８では、それら各大当たり結果の種類に対応したフラグのうち、ステップＳ５０６の振分判定処理の結果に対応したフラグに「１」をセットする。

【０１６３】
一方、ステップＳ５０５にて大当たり当選結果ではないと判定した場合には、外れ結果

用の停止結果設定処理を実行する（ステップＳ５０９）。具体的には、今回の変動開始に係る遊技回において特図表示部３７ａに最終的に停止表示させる絵柄の態様の情報を、主側ＲＯＭ６４に予め記憶されている外れ結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側ＲＡＭ６５に書き込む。この場合に選択される絵柄の態様の情報は、大当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっている。

【０１６４】

ステップＳ５０８及びステップＳ５０９のいずれかの処理を実行した後は、遊技回の継続期間の把握処理を実行する（ステップＳ５１０）。かかる処理では、変動種別カウンタＣＳの数値情報を取得する。また、今回の遊技回において図柄表示装置４１にてリーチ表示が発生するか否かを判定する。具体的には、今回の変動開始に係る遊技回が低確大当たり結果又は最有利大当たり結果である場合には、リーチ表示が発生すると判定する。また、いずれの大当たり結果でもなく、さらに実行エリアＡＥに格納されているリーチ乱数カウンタＣ３に係る数値情報がリーチ発生に対応した数値情報である場合には、リーチ表示が発生すると判定する。

【０１６５】

リーチ表示が発生すると判定した場合には、主側ＲＯＭ６４に記憶されているリーチ発生用継続期間テーブルを参照して、今回の変動種別カウンタＣＳの数値情報に対応した遊技回の継続期間を取得する。一方、リーチ表示が発生しないと判定した場合には、主側ＲＯＭ６４に記憶されているリーチ非発生用継続期間テーブルを参照して、今回の変動種別カウンタＣＳの数値情報に対応した遊技回の継続期間を取得する。ちなみに、リーチ非発生用継続期間テーブルを参照して取得され得る遊技回の継続期間は、リーチ発生用継続期間テーブルを参照して取得され得る遊技回の継続期間と異なっている。

【０１６６】

なお、リーチ非発生時における遊技回の継続期間は、保留用エリアＲＥに格納されている保留情報の数が多いほど遊技回の継続期間が短くなるように設定されている。また、サポートモードが高頻度サポートモードである状況においては低頻度サポートモードである状況よりも、保留情報の数が同一である場合で比較して、短い遊技回の継続期間が選択されるようにリーチ非発生用継続期間テーブルが設定されている。但し、これに限定されることはなく、保留情報の数やサポートモードに応じて遊技回の継続期間が変動しない構成としてもよく、上記の関係とは逆であってもよい。さらには、リーチ発生時における遊技回の継続期間に対して、上記構成を適用してもよい。また、各種大当たり結果の場合、外れリーチ時の場合及びリーチ非発生の外れ結果の場合のそれぞれに対して個別に継続期間テーブルが設定されていてもよい。この場合、各遊技結果に応じた遊技回の継続期間の振分が行われることとなる。

【０１６７】

その後、ステップＳ５１０にて取得した遊技回の継続期間の情報を、主側ＲＡＭ６５に設けられた特図特電タイマカウンタにセットする（ステップＳ５１１）。特図特電タイマカウンタにセットされた数値情報の更新は、タイマ更新処理（ステップＳ３１０）にて実行される。ちなみに、遊技回用の演出として、特図表示部３７ａにおける絵柄の変動表示と図柄表示装置４１における図柄の変動表示とが行われるが、これらの各変動表示が終了される場合にはその遊技回の停止結果が表示された状態（図柄表示装置４１では有効ライン上に所定の図柄の組合せが待機された状態）で最終停止期間（例えば０．５秒）に亘って最終停止表示される。この場合に、ステップＳ５１０にて取得される遊技回の継続期間は１遊技回分のトータル時間となっている。

【０１６８】

その後、変動用コマンド及び種別コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ５１２）。変動用コマンドには、遊技回の継続期間の情報が含まれる。ここで、上記のとおりリーチ非発生用継続期間テーブルを参照して取得される遊技回の継続期間は、リーチ発生用継続期間テーブルを参照して取得される遊技回の継続期間と異なっているため、変動用コマンドにリーチ発生の有無の情報が含まれていなかったとしても、音声発光制

御装置８１では遊技回の継続期間の情報からリーチ発生の有無を特定することは可能である。この点、変動用コマンドには、リーチ発生の有無を示す情報が含まれているとも言える。なお、変動用コマンドにリーチ発生の有無を直接示す情報が含まれていてもよい。また、種別コマンドには、遊技結果の情報が含まれる。

【０１６９】

音声発光制御装置８１は変動用コマンド及び種別コマンドを主側ＣＰＵ６３から受信した場合、表示発光部５３、スピーカ部５４及び図柄表示装置４１において遊技回用の演出が実行されるようにする。この場合、当該遊技回用の演出は変動用コマンド及び種別コマンドの内容に対応する態様で行われる。また、図柄表示装置４１では遊技回用の演出として図柄の変動表示が行われ、当該遊技回用の演出が終了する場合には当否判定処理及び振分判定処理の結果に対応する図柄の組み合わせが停止表示される。

【０１７０】

その後、特図表示部３７ａにおける絵柄の変動表示を開始させる（ステップＳ５１３）。そして、特図特電カウンタを１加算する（ステップＳ５１４）。この場合、特図変動開始処理が実行される場合における特図特電カウンタの数値情報は「０」であるため特図特電カウンタの数値情報は「１」となる。その後、主側ＲＡＭ６５に設けられた第１１出力フラグに「１」をセットする（ステップＳ５１５）。第１１出力フラグは、遊技回が開始されたことを示す情報出力を管理用ＩＣ６６に対して実行すべきことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【０１７１】

特図特電制御処理（図５２）の説明に戻り、ステップＳ４０７では特図変動中処理を実行する。特図変動中処理では、遊技回の継続時間中であって最終停止表示前のタイミングであるか否かを判定し、最終停止表示前であれば特図表示部３７ａにおける絵柄の表示態様を規則的に変化させるための処理を実行する。最終停止表示させるタイミングとなった場合には、特図特電カウンタの数値情報を１加算することで、当該カウンタの数値情報を特図変動中処理に対応したものから特図確定中処理に対応したものに更新する。なお、本実施形態においては主側ＣＰＵ６３から音声発光制御装置８１に最終停止コマンドは送信されない。

【０１７２】

ステップＳ４０８では特図確定中処理を実行する。特図確定中処理では、特図表示部３７ａにおける絵柄の表示態様を今回の遊技回の抽選結果に対応した表示態様とする。また、特図確定中処理では、最終停止期間が経過したか否かを判定し、当該期間が経過している場合には開閉実行モードへの移行が発生するか否かの判定を行う。開閉実行モードへの移行が発生しない場合には特図特電カウンタの数値情報を「０」クリアする。開閉実行モードへの移行が発生する場合には特図特電カウンタの数値情報を１加算することで、当該カウンタの数値情報を特図確定中処理に対応したものから特電開始処理に対応したものに更新する。

【０１７３】

ステップＳ４０９では特電開始処理を実行する。特電開始処理では今回の開閉実行モードにおけるオープニング期間を開始させるための処理を未だ実行していない場合、オープニング期間のセット処理を実行する。また、オープニングコマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１はオープニングコマンドを受信することにより、表示発光部５３、スピーカ部５４及び図柄表示装置４１にてオープニング演出が実行されるようにする。オープニング期間が経過している場合、最初のラウンド遊技を開始させるための開始用処理を実行する。当該開始用処理では、特電入賞装置３２を開放状態とするとともにラウンド遊技の終了条件を設定する。この終了条件の設定に際しては、今回の最初のラウンド遊技において特電入賞装置３２を開放状態に継続させる場合の上限継続期間をセットするとともに、今回の最初のラウンド遊技において特電入賞装置３２に入賞可能な遊技球の上限個数を主側ＲＡＭ６５に設けられた入賞個数カウンタにセットする。

【０１７４】

ステップＳ４１０では特電開放中処理を実行する。特電開放中処理ではラウンド遊技の終了条件が成立したか否かを判定する。終了条件が成立している場合には特電入賞装置３２を閉鎖状態とする。そして、今回終了したラウンド遊技が最後の実行回のラウンド遊技でなければ特図特電カウンタの数値情報を１加算することで当該カウンタの数値情報を特電開放中処理に対応したものから特電閉鎖中処理に対応したものに更新し、今回終了したラウンド遊技が最後の実行回のラウンド遊技であれば特図特電カウンタの数値情報を２加算することで当該カウンタの数値情報を特電開放中処理に対応したものから特電終了処理に対応したものに更新する。

【０１７５】

ステップＳ４１１では特電閉鎖中処理を実行する。特電閉鎖中処理では、ラウンド遊技間のインターバル期間が経過したか否かを判定する。インターバル期間は前回のラウンド遊技が終了する場合に設定される。インターバル期間が経過した場合には、特電入賞装置３２を開放状態とするとともにラウンド遊技の終了条件を設定する。そして、特図特電カウンタの数値情報を１減算することで、当該カウンタの数値情報を特電閉鎖中処理に対応したものから特電開放中処理に対応したものに更新する。

【０１７６】

ステップＳ４１２では特電終了処理を実行する。特電終了処理では、今回の開閉実行モードにおけるエンディング期間を開始させるための処理を未だ実行していない場合、エンディング期間（例えば５秒）をセットするとともに、エンディングコマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１はエンディングコマンドを受信することにより、表示発光部５３、スピーカ部５４及び図柄表示装置４１にてエンディング演出が実行されるようにする。エンディング期間が経過した場合には、開閉実行モードの終了後における当否抽選モード及びサポートモードのそれぞれを、今回の開閉実行モードの開始契機となった大当たり結果に対応するモードに設定する。

【０１７７】

次に、主側ＣＰＵ６３にて、各入球検知センサ４２ａ～４９ａの検知結果に基づき、アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４及びスルーゲート３５への遊技球の入球の有無を特定するための構成について説明する。図１４は主側ＣＰＵ６３に入球検知センサ４２ａ～４９ａの検知結果が入力されるようにする構成を説明するための説明図である。

【０１７８】

主側ＣＰＵ６３には入力ポート６３ａが設けられている。入力ポート６３ａは、８種類の信号を同時に扱うことができるように８ビットのパラレルインターフェースとして構成されている。そして、各信号の電圧に応じて「０」又は「１」の情報が格納されるエリアが、各端子に１対１で対応させて設けられている。つまり、当該エリアとして、第０ビットＤ０～第７ビットＤ７を備えている。また、入力ポート６３ａには８種類を超える信号が入力されることとなるが、同時に入力される対象を８種類に制限するために、入力ポート６３ａへの入力対象となる信号群はドライバＩＣによる切換制御を通じて切り換えられる。

【０１７９】

タイマ割込み処理（図１１）の入球検知処理（ステップＳ３０９）では、入力ポート６３ａへの入力対象となる信号群が各入球検知センサ４２ａ～４９ａからの信号群に設定される。かかる設定がなされた状況では、第０ビットＤ０は第１入賞口検知センサ４２ａからの検知信号に対応した情報が格納され、第１ビットＤ１は第２入賞口検知センサ４３ａからの検知信号に対応した情報が格納され、第２ビットＤ２は第３入賞口検知センサ４４ａからの検知信号に対応した情報が格納され、第３ビットＤ３は特電検知センサ４５ａからの検知信号に対応した情報が格納され、第４ビットＤ４は第１作動口検知センサ４６ａからの検知信号に対応した情報が格納され、第５ビットＤ５は第２作動口検知センサ４７ａからの検知信号に対応した情報が格納され、第６ビットＤ６はアウト口検知センサ４８ａからの検知信号に対応した情報が格納され、第７ビットＤ７はゲート検知センサ４９ａ

からの検知信号に対応した情報が格納される。
【０１８０】
上記各入球検知センサ４２ａ～４９ａは、遊技球の通過を検知していない場合には検知信号として非検知中であることを示すＬＯＷレベル信号を出力し、遊技球の通過を検知している場合には検知信号として検知中であることを示すＨＩレベル信号を出力する。そして、入力ポート６３ａではＬＯＷレベル信号を受信している場合に該当するビットに対して「０」の情報を格納し、ＨＩレベル信号を受信している場合に該当するビットに対して「１」の情報を格納する。つまり、入球検知センサ４２ａ～４９ａにおいて遊技球の通過が検知されていない状況では該当するビットに対して非検知中を示す情報に対応した「０」の情報が格納され、遊技球の通過が検知されている状況では該当するビットに対して検知中を示す情報に対応した「１」の情報が格納される。
【０１８１】
図１５はタイマ割込み処理（図１１）のステップＳ３０９にて実行される入球検知処理を示すフローチャートである。
【０１８２】
第０ビットＤ０に「０」の情報が格納されている状況から「１」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第１入賞口検知センサ４２ａにて１個の遊技球が検知されたと判定する（ステップＳ６０１：ＹＥＳ）。この場合、主側ＲＡＭ６５に設けられた第１出力フラグに「１」をセットするとともに（ステップＳ６０２）、主側ＲＡＭ６５に設けられた１０個賞球用カウンタの値を１加算する（ステップＳ６０３）。第１出力フラグは、第１入賞口検知センサ４２ａにて１個の遊技球が検知されたことを示す情報出力を管理用ＩＣ６６に対して実行すべきことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。１０個賞球用カウンタは、１０個の遊技球の払い出しを実行すべき回数を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。１０個賞球用カウンタの値が１以上である場合、タイマ割込み処理（図１１）におけるステップＳ３１７の払出出力処理にて１０個賞球コマンドを払出制御装置７７に出力するとともに、１０個賞球コマンドを１回出力した場合には１０個賞球用カウンタの値を１減算する。払出制御装置７７は１０個賞球コマンドを受信した場合、１０個の遊技球が払い出されるように払出装置７６を駆動制御する。
【０１８３】
第１ビットＤ１に「０」の情報が格納されている状況から「１」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第２入賞口検知センサ４３ａにて１個の遊技球が検知されたと判定する（ステップＳ６０４：ＹＥＳ）。この場合、主側ＲＡＭ６５に設けられた第２出力フラグに「１」をセットするとともに（ステップＳ６０５）、主側ＲＡＭ６５に設けられた１０個賞球用カウンタの値を１加算する（ステップＳ６０６）。第２出力フラグは、第２入賞口検知センサ４３ａにて１個の遊技球が検知されたことを示す情報出力を管理用ＩＣ６６に対して実行すべきことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。
【０１８４】
第２ビットＤ２に「０」の情報が格納されている状況から「１」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第３入賞口検知センサ４４ａにて１個の遊技球が検知されたと判定する（ステップＳ６０７：ＹＥＳ）。この場合、主側ＲＡＭ６５に設けられた第３出力フラグに「１」をセットするとともに（ステップＳ６０８）、主側ＲＡＭ６５に設けられた１０個賞球用カウンタの値を１加算する（ステップＳ６０９）。第３出力フラグは、第３入賞口検知センサ４４ａにて１個の遊技球が検知されたことを示す情報出力を管理用ＩＣ６６に対して実行すべきことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。
【０１８５】
第３ビットＤ３に「０」の情報が格納されている状況から「１」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、特電検知センサ４５ａにて１個の遊技球が検

知されたと判定する（ステップＳ６１０：ＹＥＳ）。この場合、主側ＲＡＭ６５に設けられた特電入賞フラグに「１」をセットするとともに（ステップＳ６１１）、主側ＲＡＭ６５に設けられた第４出力フラグに「１」をセットし（ステップＳ６１２）、さらに主側ＲＡＭ６５に設けられた１５個賞球用カウンタの値を１加算する（ステップＳ６１３）。特電入賞フラグは開閉実行モードのラウンド遊技において特電入賞装置３２に１個の遊技球が入球したことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。タイマ割込み処理（図１１）の特図特電制御処理（ステップＳ３１３）では特電入賞フラグに「１」がセットされていることを確認することで、特電入賞装置３２への１個の遊技球の入球が発生したことを特定し、ラウンド遊技における特電入賞装置３２への残りの入球可能個数を１減算する。かかる入球可能個数を１減算する処理を実行した場合に特電入賞フラグを「０」クリアする。第４出力フラグは、特電検知センサ４５ａにて１個の遊技球が検知されたことを示す情報出力を管理用ＩＣ６６に対して実行すべきことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。１５個賞球用カウンタは、１５個の遊技球の払い出しを実行すべき回数を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。１５個賞球用カウンタの値が１以上である場合、タイマ割込み処理（図１１）におけるステップＳ３１７の払出出力処理にて１５個賞球コマンドを払出制御装置７７に出力するとともに、１５個賞球コマンドを１回出力した場合には１５個賞球用カウンタの値を１減算する。払出制御装置７７は１５個賞球コマンドを受信した場合、１５個の遊技球が払い出されるように払出装置７６を駆動制御する。

【０１８６】

第４ビットＤ４に「０」の情報が格納されている状況から「１」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第１作動口検知センサ４６ａにて１個の遊技球が検知されたと判定する（ステップＳ６１４：ＹＥＳ）。この場合、主側ＲＡＭ６５に設けられた第１作動入賞フラグに「１」をセットするとともに（ステップＳ６１５）、主側ＲＡＭ６５に設けられた第５出力フラグに「１」をセットし（ステップＳ６１６）、さらに主側ＲＡＭ６５に設けられた１個賞球用カウンタの値を１加算する（ステップＳ６１７）。第１作動入賞フラグは第１作動口３３に１個の遊技球が入球したことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。タイマ割込み処理（図１１）の特図特電制御処理（ステップＳ３１３）では第１作動入賞フラグに「１」がセットされていることを確認することで、保留格納エリア６５ａの保留用エリアＲＥに格納されている保留情報の個数が上限数である４個未満であることを条件として、保留情報を新たに格納する処理を実行する。特電特電制御処理（ステップＳ３１３）にて第１作動入賞フラグに「１」がセットされていることを確認し、その確認に対応する処理を実行した場合に第１作動入賞フラグを「０」クリアする。第５出力フラグは、第１作動口検知センサ４６ａにて１個の遊技球が検知されたことを示す情報出力を管理用ＩＣ６６に対して実行すべきことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。１個賞球用カウンタは、１個の遊技球の払い出しを実行すべき回数を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。１個賞球用カウンタの値が１以上である場合、タイマ割込み処理（図１１）におけるステップＳ３１７の払出出力処理にて１個賞球コマンドを払出制御装置７７に出力するとともに、１個賞球コマンドを１回出力した場合には１個賞球用カウンタの値を１減算する。払出制御装置７７は１個賞球コマンドを受信した場合、１個の遊技球が払い出されるように払出装置７６を駆動制御する。

【０１８７】

第５ビットＤ５に「０」の情報が格納されている状況から「１」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、第２作動口検知センサ４７ａにて１個の遊技球が検知されたと判定する（ステップＳ６１８：ＹＥＳ）。この場合、主側ＲＡＭ６５に設けられた第２作動入賞フラグに「１」をセットするとともに（ステップＳ６１９）、主側ＲＡＭ６５に設けられた第６出力フラグに「１」をセットし（ステップＳ６２０）、さらに主側ＲＡＭ６５に設けられた１個賞球用カウンタの値を１加算する（ステップＳ６２１）。第２作動入賞フラグは第２作動口３４に１個の遊技球が入球したことを主側ＣＰＵ

６３にて特定するためのフラグである。タイマ割込み処理（図１１）の特図特電制御処理（ステップＳ３１３）では第２作動入賞フラグに「１」がセットされていることを確認することで、保留格納エリア６５ａの保留用エリアＲＥに格納されている保留情報の個数が上限数である４個未満であることを条件として、保留情報を新たに格納する処理を実行する。特電特電制御処理（ステップＳ３１３）にて第２作動入賞フラグに「１」がセットされていることを確認し、その確認に対応する処理を実行した場合に第２作動入賞フラグを「０」クリアする。第６出力フラグは、第２作動口検知センサ４７ａにて１個の遊技球が検知されたことを示す情報出力を管理用ＩＣ６６に対して実行すべきことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【０１８８】

第６ビットＤ６に「０」の情報が格納されている状況から「１」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、アウト口検知センサ４８ａにて１個の遊技球が検知されたと判定する（ステップＳ６２２：ＹＥＳ）。この場合、主側ＲＡＭ６５に設けられた第７出力フラグに「１」をセットする（ステップＳ６２３）。第７出力フラグは、アウト口検知センサ４８ａにて１個の遊技球が検知されたことを示す情報出力を管理用ＩＣ６６に対して実行すべきことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【０１８９】

第７ビットＤ７に「０」の情報が格納されている状況から「１」の情報が格納されている状況に切り換わったことを確認した場合、ゲート検知センサ４９ａにて１個の遊技球が検知されたと判定する（ステップＳ６２４：ＹＥＳ）。この場合、主側ＲＡＭ６５に設けられたゲート入賞フラグに「１」をセットする（ステップＳ６２５）。ゲート入賞フラグはスルーゲート３５に１個の遊技球が入球したことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。タイマ割込み処理（図１１）の普図普電制御処理（ステップＳ３１４）ではゲート入賞フラグに「１」がセットされていることを確認することで、普電保留エリア６５ｃに格納されている普図側の保留情報の個数が上限数である４個未満であることを条件として、現状の普電役物開放カウンタＣ４の数値情報を普図側の保留情報として普電保留エリア６５ｃに格納する処理を実行する。普図普電制御処理（ステップＳ３１４）にてゲート入賞フラグに「１」がセットされていることを確認し、その確認に対応する処理を実行した場合にゲート入賞フラグを「０」クリアする。

【０１９０】

なお、タイマ割込み処理（図１１）は既に説明したとおり４ミリ秒周期で起動されるため、１個の入球検知センサ４２ａ～４９ａにて１個の遊技球の検知が開始された場合、当該入球検知センサ４２ａ～４９ａにてその１個の遊技球の検知を継続している状況において当該入球検知センサ４２ａ～４９ａにて１個の遊技球が検知されたことの特定が主側ＣＰＵ６３にて行われる。したがって、第１～第７出力フラグはそれぞれ１個ずつ設けられていれば十分である。

【０１９１】

次に、払出制御装置７７にて実行される処理内容について説明する。まず払出制御装置７７及び当該払出制御装置７７との間で通信を行う各種装置の電気的構成について、図１６のブロック図を参照しながら説明する。

【０１９２】

払出制御装置７７はＭＰＵ９１を備えている。ＭＰＵ９１には、制御部及び演算部を含む演算処理装置である払出側ＣＰＵ９２の他に、払出側ＲＯＭ９３、払出側ＲＡＭ９４、割込回路、タイマ回路、データ入出力回路などが内蔵されている。

【０１９３】

払出側ＲＯＭ９３は、ＮＯＲ型フラッシュメモリ及びＮＡＮＤ型フラッシュメモリなどの記憶保持に外部からの電力供給が不要なメモリ（すなわち、不揮発性記憶手段）であり、読み出し専用として利用される。払出側ＲＯＭ９３は、払出側ＣＰＵ９２により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶している。

【０１９４】

払出側ＲＡＭ９４は、ＳＲＡＭ及びＤＲＡＭなどの記憶保持に外部からの電力供給が必要なメモリ（すなわち、揮発性記憶手段）であり、読み書き両用として利用される。払出側ＲＡＭ９４は、ランダムアクセスが可能であるとともに、同一のデータ容量で比較した場合に払出側ＲＯＭ９３よりも読み出しに要する時間が早いものとなっている。払出側ＲＡＭ９４は、払出側ＲＯＭ９３内に記憶されている制御プログラムの実行に対して各種のデータなどを一時的に記憶する。

【０１９５】

払出側ＣＰＵ９２は、主側ＣＰＵ６３と双方向通信を行うことが可能となっている。払出側ＣＰＵ９２は主側ＣＰＵ６３から賞球コマンドを受信することにより、その賞球コマンドに対応する個数の遊技球が払い出されるように払出装置７６を駆動制御する。また、払出側ＣＰＵ９２は、遊技球の払い出しを正常に行うことが可能な状態であるか否かを監視し、正常に行うことが可能ではない状態であると特定した場合には払出側ＲＡＭ９４に未払出の賞球個数情報が記憶されている状況であっても払出装置７６を停止させる。また、払出側ＣＰＵ９２は、このように正常に払い出しを行うことが可能ではない状態であることを示す払出制限コマンドを主側ＣＰＵ６３に送信する。主側ＣＰＵ６３は当該払出制限コマンドを受信した場合、遊技球の払い出しを正常に行うことが可能ではない状態であることを示す報知が図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて実行されるように音声発光制御装置８１に報知用コマンドを送信する。遊技球の払い出しを正常に行うことが可能ではない状態として、下皿５６ａが遊技球で満タンとなる満タン状態と、タンク７５に遊技球が補充されていない球無状態と、払出装置７６が正常に動作しない払出異常状態と、遊技機本体１２が外枠１１から開放された本体開放状態と、前扉枠１４が内枠１３から開放された前扉開放状態と、が存在している。

【０１９６】

払出装置７６から下皿５６ａへと通じる遊技球通路の途中位置には図示しない満タン検知センサが設けられており、当該満タン検知センサの検知結果は払出側ＣＰＵ９２に入力される。払出側ＣＰＵ９２は、満タン検知センサにおいて遊技球が継続して検知された場合に満タン状態であると特定し、満タン検知センサにて遊技球が継続して検知される状態が解除された場合に満タン状態が解除されたと特定する。

【０１９７】

タンク７５から払出装置７６へと通じる遊技球通路の途中位置に図示しない球無検知センサが設けられており、当該球無検知センサの検知結果は払出側ＣＰＵ９２に入力される。払出側ＣＰＵ９２は、球無検知センサにおいて遊技球が継続して検知されない場合に球無状態であると特定し、球無検知センサにて遊技球が継続して検知されない状態が解除された場合に球無状態が解除されたと特定する。

【０１９８】

払出装置７６には当該払出装置７６から払い出される遊技球を検知するための図示しない払出検知センサが設けられており、当該払出検知センサの検知結果は払出側ＣＰＵ９２に入力される。払出側ＣＰＵ９２は、払出検知センサにて遊技球が検知された場合に払出装置７６から１個の遊技球が払い出されたと特定する。また、払出側ＣＰＵ９２は、遊技球が払い出されるように払出装置７６を駆動制御しているにも関わらず払出検知センサにて遊技球が継続して検知されない場合に払出異常状態であると特定し、払出検知センサにて遊技球が継続して検知されない状態が解除された場合に払出異常状態が解除されたと特定する。

【０１９９】

内枠１３の前面部には前扉開放センサ９５が設けられており（図２参照）、当該前扉開放センサ９５の検知結果は払出側ＣＰＵ９２に入力される。この場合、内枠１３に対して前扉枠１４が閉鎖状態である場合に前扉開放センサ９５は閉鎖検知信号を払出側ＣＰＵ９２に送信し、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態である場合に前扉開放センサ９５は開放検知信号を払出側ＣＰＵ９２に送信する。払出側ＣＰＵ９２は、前扉開放センサ９５から閉鎖検知信号を受信している場合に前扉枠１４が閉鎖状態であると特定し、前扉開放

センサ９５から開放検知信号を受信している場合に前扉枠１４が開放状態であると特定する。また、払出側ＣＰＵ９２は、前扉枠１４が閉鎖状態から開放状態となったと特定したタイミングで主側ＣＰＵ６３に前扉開放コマンドを送信し、前扉枠１４が開放状態から閉鎖状態となったと特定したタイミングで主側ＣＰＵ６３に前扉閉鎖コマンドを送信する。主側ＣＰＵ６３は、前扉開放コマンドを受信した場合に前扉枠１４が開放状態となったと特定し、前扉閉鎖コマンドを受信した場合に前扉枠１４が閉鎖状態となったと特定する。

【０２００】

裏パックユニット１５の前面部には本体開放センサ９６が設けられており（図２参照）、当該本体開放センサ９６の検知結果は払出側ＣＰＵ９２に入力される。この場合、外枠１１に対して遊技機本体１２が閉鎖状態である場合に本体開放センサ９６は閉鎖検知信号を払出側ＣＰＵ９２に送信し、外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態である場合に本体開放センサ９６は開放検知信号を払出側ＣＰＵ９２に送信する。払出側ＣＰＵ９２は、本体開放センサ９６から閉鎖検知信号を受信している場合に遊技機本体１２が閉鎖状態であると特定し、本体開放センサ９６から開放検知信号を受信している場合に遊技機本体１２が開放状態であると特定する。また、払出側ＣＰＵ９２は、遊技機本体１２が閉鎖状態から開放状態となったと特定したタイミングで主側ＣＰＵ６３に本体開放コマンドを送信し、遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態となったと特定したタイミングで主側ＣＰＵ６３に本体閉鎖コマンドを送信する。主側ＣＰＵ６３は、本体開放コマンドを受信した場合に遊技機本体１２が開放状態となったと特定し、本体閉鎖コマンドを受信した場合に遊技機本体１２が閉鎖状態となったと特定する。

【０２０１】

図１７のフローチャートを参照しながら、払出側ＣＰＵ９２にて実行されるタイマ割込み処理について説明する。タイマ割込み処理は、予め定められた周期（例えば２ミリ秒）で繰り返し起動されるものである。

【０２０２】

まず満タン用処理を実行する（ステップＳ７０１）。満タン用処理では、既に説明したとおり満タン検知センサの検知結果に基づいて満タン状態であるか否かを特定し、満タン状態である場合には遊技球の払い出しを停止させるための処理を実行するとともに、満タン状態であることを示すコマンドを主側ＣＰＵ６３に送信する。また、満タン状態が解除された場合には遊技球の払い出しを可能とさせるための処理を実行するとともに、満タン状態が解除されたことを示すコマンドを主側ＣＰＵ６３に送信する。

【０２０３】

その後、球無用処理を実行する（ステップＳ７０２）。球無用処理では、既に説明したとおり球無検知センサの検知結果に基づいて球無状態であるか否かを特定し、球無状態である場合には遊技球の払い出しを停止させるための処理を実行するとともに、球無状態であることを示すコマンドを主側ＣＰＵ６３に送信する。また、球無状態が解除された場合には遊技球の払い出しを可能とさせるための処理を実行するとともに、球無状態が解除されたことを示すコマンドを主側ＣＰＵ６３に送信する。

【０２０４】

その後、払出異常監視処理を実行する（ステップＳ７０３）。払出異常監視処理では、既に説明したとおり払出検知センサの検知結果に基づいて払出異常状態であるか否かを特定し、払出異常状態である場合には遊技球の払い出しを停止させる処理を実行するとともに、払出異常状態であることを示すコマンドを主側ＣＰＵ６３に送信する。また、払出異常状態が解除された場合には遊技球の払い出しを可能とさせる処理を実行するとともに、払出異常状態が解除されたことを示すコマンドを主側ＣＰＵ６３に送信する。

【０２０５】

その後、前扉開放監視処理を実行する（ステップＳ７０４）。前扉開放監視処理では、既に説明したとおり前扉開放センサ９５の検知結果に基づいて前扉枠１４が開放状態であるか否かを特定し、前扉枠１４が開放状態である場合には遊技球の払い出しを停止させる処理を実行するとともに、前扉開放コマンドを主側ＣＰＵ６３に送信する。また、前扉枠

１４が閉鎖された場合には遊技球の払い出しを可能とさせる処理を実行するとともに、前扉閉鎖コマンドを主側ＣＰＵ６３に送信する。

【０２０６】

その後、本体開放監視処理を実行する（ステップＳ７０５）。本体開放監視処理では、既に説明したとおり本体開放センサ９６の検知結果に基づいて遊技機本体１２が開放状態であるか否かを特定し、遊技機本体１２が開放状態である場合には遊技球の払い出しを停止させる処理を実行するとともに、本体開放コマンドを主側ＣＰＵ６３に送信する。また、遊技機本体１２が閉鎖された場合には遊技球の払い出しを可能とさせる処理を実行するとともに、本体閉鎖コマンドを主側ＣＰＵ６３に送信する。

【０２０７】

その後、コマンド読込処理を実行する（ステップＳ７０６）。当該コマンド読込処理では、主側ＣＰＵ６３が送信した賞球コマンドを読み込む処理を実行し、その賞球コマンドを払出側ＲＡＭ９４に格納する。そして、その受信した賞球コマンドに対応する個数を払出側ＲＡＭ９４における未払出の賞球個数情報に加算するための賞球設定処理を実行した後に（ステップＳ７０７）、払出装置７６による遊技球の払い出しの実行制御を行うための払出制御処理を実行する（ステップＳ７０８）。払出制御処理では、払出側ＲＡＭ９４に記憶されている未払出の賞球個数情報が１以上の値である場合に払出装置７６の駆動制御を行い、払出検知センサにて１個の遊技球を検知した場合に賞球個数情報の値を１減算する。そして、賞球個数情報の値が「０」となった場合には払出装置７６の駆動制御を停止する。その後、今回のタイマ割込み処理にて実行された各種処理の処理結果に応じた外部信号の出力の開始及び終了を制御するための外部情報設定処理を実行する（ステップＳ７０９）。

【０２０８】

次に、遊技ホールに設けられたホールコンピュータＨＣにパチンコ機１０から情報を外部出力するための構成について説明する。

【０２０９】

図２に示すように、裏パックユニット１５には外部端子板９７が設けられている。外部端子板９７には多数の外部端子が設けられており、一部の外部端子であって複数の外部端子が主側ＣＰＵ６３と電気的に接続されているとともに、一部の外部端子であって複数の外部端子が払出側ＣＰＵ９２と電気的に接続されている。このように主側ＣＰＵ６３及び払出側ＣＰＵ９２のそれぞれが外部端子板９７と電気的に接続されていることにより、図１６に示すように、主側ＣＰＵ６３及び払出側ＣＰＵ９２はホールコンピュータＨＣに情報を外部出力することが可能である。

【０２１０】

外部端子板９７の１個の外部端子は前扉開放センサ９５と電気的に接続されているとともに、外部端子板９７の１個の外部端子は本体開放センサ９６と電気的に接続されている。この電気的な接続の構成について詳細には、前扉開放センサ９５から払出側ＣＰＵ９２に向けた信号経路の途中位置には信号中継基板９８が設けられている。当該信号中継基板９８には、前扉開放センサ９５から払出側ＣＰＵ９２に向けた信号経路ＳＬ１から分岐させて分岐経路ＳＬ２が設けられている。そして、当該分岐経路ＳＬ２は外部端子板９７における前扉開放用の外部端子に接続されている。したがって、前扉開放センサ９５における検知結果に対応した電気信号は、払出側ＣＰＵ９２に入力されるだけでなく、外部端子板９７における前扉開放用の外部端子にも入力される。これにより、払出側ＣＰＵ９２による制御を介することなく、前扉枠１４が開放状態であるか否かを示す信号をホールコンピュータＨＣに外部出力することが可能となる。

【０２１１】

本体開放センサ９６について詳細には、信号中継基板９８には、本体開放センサ９６から払出側ＣＰＵ９２に向けた信号経路ＳＬ３から分岐させて分岐経路ＳＬ４が設けられている。そして、当該分岐経路ＳＬ４は外部端子板９７における本体開放用の外部端子に接続されている。したがって、本体開放センサ９６における検知結果に対応した電気信号は

、払出側ＣＰＵ９２に入力されるだけでなく、外部端子板９７における本体開放用の外部端子にも入力される。これにより、払出側ＣＰＵ９２による制御を介することなく、遊技機本体１２が開放状態であるか否かを示す信号をホールコンピュータＨＣに外部出力することが可能となる。

【０２１２】

次に、主側ＣＰＵ６３及び払出側ＣＰＵ９２からホールコンピュータＨＣに外部出力される情報の内容について説明する。まず主側ＣＰＵ６３からホールコンピュータＨＣに外部出力される情報の内容について説明する。

【０２１３】

主側ＣＰＵ６３はタイマ割込み処理（図１１）における外部情報設定処理（ステップＳ３１８）にて、外部端子板９７において主側ＣＰＵ６３に割り当てられている各外部端子への情報の出力設定を行う。主側ＣＰＵ６３から外部端子板９７に出力される情報として、開閉実行モード中であることを示す情報と、サポートモードが高頻度サポートモード中であることを示す情報と、一の遊技回が終了したことを示す情報と、所定個数（例えば１００個）の遊技球がアウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれかを通じて遊技領域ＰＡから排出されたことを示す情報と、第１作動口３３に遊技球が入球したことを示す情報と、第２作動口３４に遊技球が入球したことを示す情報と、が含まれている。

【０２１４】

払出側ＣＰＵ９２はタイマ割込み処理（図１７）における外部情報設定処理（ステップＳ７０９）にて、外部端子板９７において払出側ＣＰＵ９２に割り当てられている各外部端子への情報の出力設定を行う。払出側ＣＰＵ９２から外部端子板９７に出力される情報として、１０個の遊技球の払い出しが行われたことを示す情報が含まれている。

【０２１５】

ホールコンピュータＨＣでは外部端子板９７を通じてパチンコ機１０から受信する各種情報に応じて、当該パチンコ機１０における遊技球の払い出しの実行態様などを把握することが可能である。例えば、

・パチンコ機１０の遊技領域ＰＡから１００個の遊技球が排出されるまでに発生した遊技球の払出個数の割合である出玉率

・開閉実行モード及び高頻度サポートモードではない通常遊技状態における出玉率（以下、この出玉率を「Ｂ」とする）

・開閉実行モードにおける出玉率

・高頻度サポートモードにおける出玉率

・パチンコ機１０の遊技領域ＰＡから１００個の遊技球が排出されるまでに実行された遊技回の回数（以下、この割合を「Ｓ」とする）

・Ｂ－Ｓ×「第１作動口３３及び第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」

・パチンコ機１０の遊技領域ＰＡから１００個の遊技球が排出されるまでに発生した第１作動口３３への遊技球の入球個数（以下、この割合を「Ｓ１」とする）

・パチンコ機１０の遊技領域ＰＡから１００個の遊技球が排出されるまでに発生した第２作動口３４への遊技球の入球個数（以下、この割合を「Ｓ２」とする）

・Ｂ－（Ｓ１×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｓ２×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）

・単位遊技回当たりにおける開閉実行モードの発生確率

・単位遊技回当たりにおける高頻度サポートモードの発生確率

などが算出される。これにより、ホールコンピュータＨＣにおいてパチンコ機１０の遊技領域ＰＡにおける遊技球の入球態様を管理することが可能となる。なお、賞球個数とは対応する入球部に１個の遊技球が入球した場合に払い出される遊技球の個数のことである。

【０２１６】

＜遊技球の入賞態様を管理するための構成＞

次に、管理用ＩＣ６６を利用して遊技履歴を管理するための構成について説明する。ま

ず図１８のブロック図を参照しながら、管理用ＩＣ６６の電気的構成について説明する。
【０２１７】
既に説明したとおり主制御装置６０のＭＰＵ６２は、主側ＣＰＵ６３、主側ＲＯＭ６４、主側ＲＡＭ６５、及び管理用ＩＣ６６を備えている。また、ＭＰＵ６２は、これら以外にもＩ／Ｆ１０１を備えているとともに、既に説明した読み取り用端子６８ｄを備えている。
【０２１８】
Ｉ／Ｆ１０１は、ＭＰＵ６２の外部の機器との間で信号を送受信するためのインターフェースである。Ｉ／Ｆ１０１は、内部バス１０３を介して主側ＣＰＵ６３と電気的に接続されている。Ｉ／Ｆ１０１の入力ポートを通じて各入球検知センサ４２ａ～４９ａなどのセンサからの検知結果、及び払出側ＣＰＵ９２からのコマンドなどがＭＰＵ６２に入力され、その入力された検知結果及びコマンドの内容に基づいて既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３にて各種処理が実行される。また、主側ＣＰＵ６３にて各種処理が実行された結果、特電用の駆動部３２ｂなどの機器へ信号出力が行われる場合には当該信号出力はＩ／Ｆ１０１の出力ポートを通じて行われるとともに、主側ＣＰＵ６３にて各種処理が実行された結果、払出側ＣＰＵ９２及び音声発光制御装置８１へコマンド出力が行われる場合には当該コマンド出力はＩ／Ｆ１０１の出力ポートを通じて行われる。
【０２１９】
管理用ＩＣ６６は、管理側Ｉ／Ｆ１１１と、管理側ＣＰＵ１１２と、管理側ＲＯＭ１１３と、管理側ＲＡＭ１１４と、ＲＴＣ１１５と、対応関係用メモリ１１６と、履歴用メモリ１１７と、演算結果用メモリ１３１と、を備えている。これら各装置は管理用ＩＣ６６に設けられた内部バス６６ａを通じて双方向通信可能に接続されている。
【０２２０】
管理側Ｉ／Ｆ１１１は、ＭＰＵ６２に内蔵された単方向通信用の信号経路群１１８を介して主側ＣＰＵ６３から各種信号を受信するとともに、ＭＰＵ６２に内蔵された単方向通信用の信号経路群１１９を介して読み取り用端子６８ｄに各種信号を送信するためのインターフェースである。主側ＣＰＵ６３からの各種信号は管理側Ｉ／Ｆ１１１の入力ポートに入力され、読み取り用端子６８ｄへの各種信号は管理側Ｉ／Ｆ１１１の出力ポートから出力される。なお、主側ＣＰＵ６３はＭＰＵ６２に内蔵された双方向通信用の信号経路群１２０を介して読み取り用端子６８ｄと電気的に接続されている。
【０２２１】
管理側ＣＰＵ１１２は、制御部及び演算部を含む演算処理装置である。管理側ＲＯＭ１１３は、ＮＯＲ型フラッシュメモリ及びＮＡＮＤ型フラッシュメモリなどの記憶保持に外部からの電力供給が不要なメモリ（すなわち、不揮発性記憶手段）であり、読み出し専用として利用される。管理側ＲＯＭ１１３は、管理側ＣＰＵ１１２により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶している。管理側ＲＡＭ１１４は、ＳＲＡＭ及びＤＲＡＭなどの記憶保持に外部からの電力供給が必要なメモリ（すなわち、揮発性記憶手段）であり、読み書き両用として利用される。管理側ＲＡＭ１１４は、ランダムアクセスが可能であるとともに、同一のデータ容量で比較した場合に管理側ＲＯＭ１１３よりも読み出しに要する時間が早いものとなっている。管理側ＲＡＭ１１４は管理側ＲＯＭ１１３内に記憶されている制御プログラムの実行に対して各種のデータなどを一時的に記憶する。
【０２２２】
ＲＴＣ１１５はリアルタイムクロックであり、年月日情報及び時刻情報を常時計測し、管理側ＣＰＵ１１２からの指示に従い、その計測している年月日情報及び時刻情報（以下、日時情報ともいう）を出力することが可能な構成である。なお、ＲＴＣ１１５にはバックアップ電源が設けられており、パチンコ機１０の電源遮断中においても年月日情報及び時刻情報を計測することが可能となっている。
【０２２３】
対応関係用メモリ１１６は、ＳＲＡＭ及びＤＲＡＭなどの記憶保持に外部からの電力供給が必要なメモリ（すなわち、揮発性記憶手段）であり、読み書き両用として利用される

。対応関係用メモリ１１６は、管理側Ｉ／Ｆ１１１の入力ポート１２１に設けられた各バッファ１２２ａ～１２２ｐとそれらバッファ１２２ａ～１２２ｐに入力される信号の種類との対応関係の情報を記憶しておくために利用される。対応関係用メモリ１１６の内容の詳細については後に説明する。

【０２２４】

履歴用メモリ１１７は、ＮＯＲ型フラッシュメモリ及びＮＡＮＤ型フラッシュメモリなどの記憶保持に外部からの電力供給が不要なメモリ（すなわち、不揮発性記憶手段）であり、読み書き両用として利用される。履歴用メモリ１１７は、管理側Ｉ／Ｆ１１１を通じて主側ＣＰＵ６３から受信した遊技履歴に関する情報を記憶しておくために利用される。履歴用メモリ１１７の内容の詳細については後に説明する。

【０２２５】

演算結果用メモリ１３１は、ＮＯＲ型フラッシュメモリ及びＮＡＮＤ型フラッシュメモリなどの記憶保持に外部からの電力供給が不要なメモリ（すなわち、不揮発性記憶手段）であり、読み書き両用として利用される。演算結果用メモリ１３１は、履歴用メモリ１１７に格納されている履歴情報を利用して管理側ＣＰＵ１１２にて演算された各種パラメータを順次記憶するために利用される。演算結果用メモリ１３１に記憶された各種パラメータの内容は、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにて順次表示されるとともに、読み取り用端子６８ｄに接続された外部装置に出力される。

【０２２６】

次に、管理側Ｉ／Ｆ１１１に設けられた入力ポート１２１の構成について説明する。図１９は管理側Ｉ／Ｆ１１１の入力ポート１２１の構成を説明するための説明図である。

【０２２７】

入力ポート１２１には複数のバッファ１２２ａ～１２２ｐが設けられている。具体的には第１～第１６バッファ１２２ａ～１２２ｐが設けられている。第１～第１６バッファ１２２ａ～１２２ｐのそれぞれには信号経路１１８ａ～１１８ｐを通じて１種類の信号を入力可能となっており、第１～第１６バッファ１２２ａ～１２２ｐのそれぞれは入力対象となっている信号がＬＯＷレベルである場合に第１データとして「０」の情報が格納され、入力対象となっている信号がＨＩレベルである場合に第２データとして「１」の情報が格納される。なお、これらＬＯＷ及びＨＩと第１データ及び第２データとの関係が逆であってもよい。

【０２２８】

第１バッファ１２２ａには第１入賞口検知センサ４２ａの検知結果に対応する第１信号が入力される。この場合、主側ＣＰＵ６３は第１入賞口検知センサ４２ａにて新たな遊技球が検知されていない状況ではＬＯＷレベルの第１信号を出力し、第１入賞口検知センサ４２ａにて１個の遊技球が検知された場合に特定期間に亘ってＨＩレベルの第１信号を出力する。この特定期間は、第１バッファ１２２ａにＨＩレベルの第１信号が入力されていることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するのに十分な期間となっている。

【０２２９】

第２バッファ１２２ｂには第２入賞口検知センサ４３ａの検知結果に対応する第２信号が入力される。この場合、主側ＣＰＵ６３は第２入賞口検知センサ４３ａにて新たな遊技球が検知されていない状況ではＬＯＷレベルの第２信号を出力し、第２入賞口検知センサ４３ａにて１個の遊技球が検知された場合に特定期間に亘ってＨＩレベルの第２信号を出力する。この特定期間は、第２バッファ１２２ｂにＨＩレベルの第２信号が入力されていることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するのに十分な期間となっている。

【０２３０】

第３バッファ１２２ｃには第３入賞口検知センサ４４ａの検知結果に対応する第３信号が入力される。この場合、主側ＣＰＵ６３は第３入賞口検知センサ４４ａにて新たな遊技球が検知されていない状況ではＬＯＷレベルの第３信号を出力し、第３入賞口検知センサ４４ａにて１個の遊技球が検知された場合に特定期間に亘ってＨＩレベルの第３信号を出力する。この特定期間は、第３バッファ１２２ｃにＨＩレベルの第３信号が入力されてい

ることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するのに十分な期間となっている。
【０２３１】
第４バッファ１２２ｄには特電検知センサ４５ａの検知結果に対応する第４信号が入力される。この場合、主側ＣＰＵ６３は特電検知センサ４５ａにて新たな遊技球が検知されていない状況ではＬＯＷレベルの第４信号を出力し、特電検知センサ４５ａにて１個の遊技球が検知された場合に特定期間に亘ってＨＩレベルの第４信号を出力する。この特定期間は、第４バッファ１２２ｄにＨＩレベルの第４信号が入力されていることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するのに十分な期間となっている。
【０２３２】
第５バッファ１２２ｅには第１作動口検知センサ４６ａの検知結果に対応する第５信号が入力される。この場合、主側ＣＰＵ６３は第１作動口検知センサ４６ａにて新たな遊技球が検知されていない状況ではＬＯＷレベルの第５信号を出力し、第１作動口検知センサ４６ａにて１個の遊技球が検知された場合に特定期間に亘ってＨＩレベルの第５信号を出力する。この特定期間は、第５バッファ１２２ｅにＨＩレベルの第５信号が入力されていることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するのに十分な期間となっている。
【０２３３】
第６バッファ１２２ｆには第２作動口検知センサ４７ａの検知結果に対応する第６信号が入力される。この場合、主側ＣＰＵ６３は第２作動口検知センサ４７ａにて新たな遊技球が検知されていない状況ではＬＯＷレベルの第６信号を出力し、第２作動口検知センサ４７ａにて１個の遊技球が検知された場合に特定期間に亘ってＨＩレベルの第６信号を出力する。この特定期間は、第６バッファ１２２ｆにＨＩレベルの第６信号が入力されていることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するのに十分な期間となっている。
【０２３４】
第７バッファ１２２ｇにはアウト口検知センサ４８ａの検知結果に対応する第７信号が入力される。この場合、主側ＣＰＵ６３はアウト口検知センサ４８ａにて新たな遊技球が検知されていない状況ではＬＯＷレベルの第７信号を出力し、アウト口検知センサ４８ａにて１個の遊技球が検知された場合に特定期間に亘ってＨＩレベルの第７信号を出力する。この特定期間は、第７バッファ１２２ｇにＨＩレベルの第７信号が入力されていることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するのに十分な期間となっている。
【０２３５】
第８バッファ１２２ｈには開閉実行モードの期間中であるか否かに対応する第８信号が入力される。この場合、主側ＣＰＵ６３は開閉実行モードではない状況ではＬＯＷレベルの第８信号を継続して出力し、開閉実行モードである状況ではＨＩレベルの第８信号を継続して出力する。
【０２３６】
第９バッファ１２２ｉには高頻度サポートモードの期間中であるか否かに対応する第９信号が入力される。この場合、主側ＣＰＵ６３は高頻度サポートモードではない状況ではＬＯＷレベルの第９信号を継続して出力し、高頻度サポートモードである状況ではＨＩレベルの第９信号を継続して出力する。
【０２３７】
第１０バッファ１２２ｊには前扉枠１４が開放されている期間中であるか否かに対応する第１０信号が入力される。この場合、主側ＣＰＵ６３は前扉枠１４が閉鎖状態である状況ではＬＯＷレベルの第１０信号を継続して出力し、前扉枠１４が開放状態である状況ではＨＩレベルの第１０信号を継続して出力する。
【０２３８】
第１１バッファ１２２ｋには遊技回が開始されたか否かに対応する第１１信号が入力される。この場合、主側ＣＰＵ６３は遊技回が開始される前まではＬＯＷレベルの第１１信号を継続して出力し、遊技回が開始された場合に特定期間に亘ってＨＩレベルの第１１信号を出力する。この特定期間は、第１１バッファ１２２ｋにＨＩレベルの第１１信号が入力されていることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するのに十分な期間となっている。

【０２３９】
第１５バッファ１２２ｏには主側ＣＰＵ６３にてパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたことを管理側ＣＰＵ１１２に認識させるための設定値更新信号が入力される。この場合、主側ＣＰＵ６３はパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われていない状況ではＬＯＷレベルの設定値更新信号を出力し、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合にＨＩレベルの設定値更新信号が特定期間に亘って維持されるパルス信号をその新たに設定された設定値に対応する数分出力する。この特定期間は、第１５バッファ１２２ｏにＨＩレベルの設定値更新信号が入力されていることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するのに十分な期間となっている。
【０２４０】
第１６バッファ１２２ｐには履歴用メモリ１１７に格納された履歴情報及び演算結果用メモリ１３１に記憶された各種パラメータを読み取り用端子６８ｄに出力する契機を管理側ＣＰＵ１１２に認識させるための出力指示信号が入力される。この場合、主側ＣＰＵ６３は履歴情報を出力する必要がない状況ではＬＯＷレベルの出力指示信号を出力し、履歴情報を出力する必要がある場合に特定期間に亘ってＨＩレベルの出力指示信号を出力する。この特定期間は、第１６バッファ１２２ｐにＨＩレベルの出力指示信号が入力されていることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するのに十分な期間となっている。
【０２４１】
第１２バッファ１２２ｌ、第１３バッファ１２２ｍ及び第１４バッファ１２２ｎは、主側ＣＰＵ６３からの信号を入力可能ではあるものの、本パチンコ機１０では通常の信号が入力されないブランクとなっている。このように管理側Ｉ／Ｆ１１１の入力ポート１２１として本パチンコ機１０において主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に出力される信号の種類よりも多くの数のバッファ１２２ａ～１２２ｐが設けられていることにより、管理用ＩＣ６６を本パチンコ機１０とは異なる機種にも流用することが可能となる。これにより、管理用ＩＣ６６の汎用性を高めることが可能となる。ちなみに、主側ＣＰＵ６３と第１～第１６バッファ１２２ａ～１２２ｐのそれぞれとの間には第１～第１６バッファ１２２ａ～１２２ｐに１対１で対応するように信号経路１１８ａ～１１８ｐが形成されているが、これに限定されることはなく、ブランク対象となるバッファ１２２ｌ～１２２ｎとの間には信号経路１１８ｌ～１１８ｎが形成されていない構成としてもよい。
【０２４２】
第１５バッファ１２２ｏに設定値更新信号が入力されること及び第１６バッファ１２２ｐに出力指示信号が入力されることは管理用ＩＣ６６の設計段階において決定されており、主側ＣＰＵ６３からの指示を受けることなく、管理側ＣＰＵ１１２は第１５バッファ１２２ｏに設定値更新信号が入力されることび第１６バッファ１２２ｐに出力指示信号が入力されることを特定可能となっている。一方、第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎにどのような種類の信号が入力されるのかは管理用ＩＣ６６の設計段階において決定されておらず、これら信号の種類は主側ＣＰＵ６３からの指示を受けることで管理側ＣＰＵ１１２にて特定される。管理側ＣＰＵ１１２におけるこれら信号の種類の特定は、詳細は後述するが、ＭＰＵ６２への動作電力の供給開始に伴い主側ＣＰＵ６３及び管理側ＣＰＵ１１２において制御が開始された場合に主側ＣＰＵ６３から管理側ＣＰＵ１１２に種類識別コマンドが送信されることにより行われる。この場合、種類識別コマンドにより提供された各種信号の種類の情報は対応関係用メモリ１１６に記憶され、動作電力が供給されている状況において各種信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定する場合には対応関係用メモリ１１６に記憶された情報が参照される。
【０２４３】
図２０は対応関係用メモリ１１６の構成を説明するための説明図である。対応関係用メモリ１１６には、管理側Ｉ／Ｆ１１１の入力ポート１２１に設けられた第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎに１対１で対応させて第１～第１４対応関係エリア１２３ａ～１２３ｎが設けられている。
【０２４４】

第１対応関係エリア１２３ａには第１バッファ１２２ａに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、一般入賞口３１であることを示す情報が格納される。また、第１対応関係エリア１２３ａには一般入賞口３１であることを示す情報とともに一般入賞口３１に１個の遊技球が入球した場合に払い出される遊技球の個数の情報（１０個）も格納される。第２対応関係エリア１２３ｂには第２バッファ１２２ｂに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、一般入賞口３１であることを示す情報が格納される。また、第２対応関係エリア１２３ｂには一般入賞口３１であることを示す情報とともに一般入賞口３１に１個の遊技球が入球した場合に払い出される遊技球の個数の情報（１０個）も格納される。第３対応関係エリア１２３ｃには第３バッファ１２２ｃに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、一般入賞口３１であることを示す情報が格納される。また、第３対応関係エリア１２３ｃには一般入賞口３１であることを示す情報とともに一般入賞口３１に１個の遊技球が入球した場合に払い出される遊技球の個数の情報（１０個）も格納される。

【０２４５】

第４対応関係エリア１２３ｄには第４バッファ１２２ｄに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、特電入賞装置３２であることを示す情報が格納される。また、第４対応関係エリア１２３ｄには特電入賞装置３２であることを示す情報とともに特電入賞装置３２に１個の遊技球が入球した場合に払い出される遊技球の個数の情報（１５個）も格納される。第５対応関係エリア１２３ｅには第５バッファ１２２ｅに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、第１作動口３３であることを示す情報が格納される。また、第５対応関係エリア１２３ｅには第１作動口３３であることを示す情報とともに第１作動口３３に１個の遊技球が入球した場合に払い出される遊技球の個数の情報（１個）も格納される。第６対応関係エリア１２３ｆには第６バッファ１２２ｆに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、第２作動口３４であることを示す情報が格納される。また、第６対応関係エリア１２３ｆには第２作動口３４であることを示す情報とともに第２作動口３４に１個の遊技球が入球した場合に払い出される遊技球の個数の情報（１個）も格納される。第７対応関係エリア１２３ｇには第７バッファ１２２ｇに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、アウト口２４ａであることを示す情報が格納される。

【０２４６】

第８対応関係エリア１２３ｈには第８バッファ１２２ｈに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、開閉実行モードであることを示す情報が格納される。第９対応関係エリア１２３ｉには第９バッファ１２２ｉに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、高頻度サポートモードであることを示す情報が格納される。第１０対応関係エリア１２３ｊには第１０バッファ１２２ｊに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、前扉枠１４であることを示す情報が格納される。第１１対応関係エリア１２３ｋには第１１バッファ１２２ｋに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、遊技回の開始であることを示す情報が格納される。

【０２４７】

第１２対応関係エリア１２３ｌには第１２バッファ１２２ｌに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、いずれにも対応しないブランクであることを示す情報が格納される。第１３対応関係エリア１２３ｍには第１３バッファ１２２ｍに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、いずれにも対応しないブランクであることを示す情報が格納される。第１４対応関係エリア１２３ｎには第１４バッファ１２２ｎに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報として、いずれにも対応しないブランクであることを示す情報が格納される。

【０２４８】

上記のように第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎにどのような種類の信号が入力されるのかが、主側ＣＰＵ６３からの指示を受けることで管理側ＣＰＵ１１２にて特定される構成とすることで、管理用ＩＣ６６を本パチンコ機１０とは異なる機種にも流用することが可能となる。これにより、管理用ＩＣ６６の汎用性を高めることが可能となる。

【０２４９】

また、第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎに履歴情報の記憶に対応する信号出力を行う度にその信号の種類を認識させるための情報を出力するのではなく、事前に信号の種類を認識させるための情報を出力するとともにその出力された情報に基づき第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報が対応関係用メモリ１１６に格納される構成である。これにより、第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎに履歴情報の記憶に対応する信号出力を行う度にその信号の種類を認識させるための情報が出力される構成に比べ、都度の信号出力に際して主側ＣＰＵ６３から管理側ＣＰＵ１１２に出力される情報量を抑えることが可能となる。

【０２５０】

また、第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報の出力は、動作電力の供給開始時に行われる。これにより、本パチンコ機１０にて遊技が開始される状況においては、第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定することが可能となる。

【０２５１】

また、第１５バッファ１２２ｏに設定値更新信号が入力されることの情報設定及び第１６バッファ１２２ｐに出力指示信号が入力されることの情報設定が管理用ＩＣ６６の設計段階において行われている。これにより、本パチンコ機１０に限らず管理用ＩＣ６６を利用する他の機種のパチンコ機であっても確実に使用する設定値更新信号及び出力指示信号については、第１５バッファ１２２ｏ及び第１６バッファ１２２ｐに入力される信号の種類を特定するための処理を省略することが可能となる。よって、かかる信号の種類を特定するための処理の処理負荷を抑えることが可能となる。

【０２５２】

次に、管理用ＩＣ６６の履歴用メモリ１１７について説明する。図２１は履歴用メモリ１１７の構成を説明するための説明図である。

【０２５３】

履歴用メモリ１１７には、履歴情報を順次記憶するための履歴用エリア１２４が設けられている。履歴用エリア１２４には、複数のポインタ情報が連番で設定されているとともに、各ポインタ情報に１対１で対応させて履歴情報格納エリア１２５が設定されている。履歴情報格納エリア１２５には、ＲＴＣ情報と対応関係情報との組合せを格納可能となっている。この場合、各履歴情報格納エリア１２５は２バイトのデータ容量となっており、ＲＴＣ情報を格納するためのエリアとして１バイトのデータ容量が割り当てられており、対応関係情報を格納するためのエリアとして１バイトのデータ容量が割り当てられている。第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎ（本パチンコ機１０の場合は実際には第１～第１１バッファ１２２ａ～１２２ｋ）に入力されている信号に応じて対応関係情報を格納する必要が生じた場合には、まず現状の書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５のＲＴＣ情報を格納するためのエリアに、現状のＲＴＣ１１５において計測されている日時情報を格納する。その後、今回の情報格納契機となったバッファ１２２ａ～１２２ｎに対応する対応関係情報を対応関係用メモリ１１６における当該バッファ１２２ａ～１２２ｎに対応する対応関係エリア１２３ａ～１２３ｎから読み出し、その読み出した対応関係情報を現状の書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５の対応関係情報を格納するためのエリアに格納する。

【０２５４】

履歴情報格納エリア１２５に格納される対応関係情報について具体的には、第１～第７バッファ１２２ａ～１２２ｇは既に説明したとおり入球検知センサ４２ａ～４８ａの検知

結果に対応する信号が入力されるため、対応関係用メモリ１１６における第１～第７対応関係エリア１２３ａ～１２３ｇには入球検知センサ４２ａ～４８ａの種類に対応する情報が格納されている。より詳細には、入球検知センサ４２ａ～４８ａのそれぞれに対応する入球部の種類に対応する情報が、第１～第７対応関係エリア１２３ａ～１２３ｇに格納されている。本パチンコ機１０では既に説明したとおり第１～第３入賞口検知センサ４２ａ～４４ａはいずれも一般入賞口３１に入球した遊技球を検知するものであるため、これら第１～第３入賞口検知センサ４２ａ～４４ａに対応する第１～第３対応関係エリア１２３ａ～１２３ｃにはいずれも一般入賞口３１であることを示す情報が格納されている。また、第４対応関係エリア１２３ｄには特電入賞装置３２であることを示す情報が格納されており、第５対応関係エリア１２３ｅには第１作動口３３であることを示す情報が格納されており、第６対応関係エリア１２３ｆには第２作動口３４であることを示す情報が格納されており、第７対応関係エリア１２３ｇにはアウト口２４ａであることを示す情報が格納されている。今回の情報格納契機となったバッファ１２２ａ～１２２ｎが第１～第７バッファ１２２ａ～１２２ｇのいずれかである場合には、そのバッファ１２２ａ～１２２ｇに対応する入球部の種類の情報が第１～第７対応関係エリア１２３ａ～１２３ｇのいずれかから読み出され、その読み出された入球部の種類の情報が履歴情報格納エリア１２５の対応関係情報を格納するためのエリアにそのまま格納される。

【０２５５】

一方、第８バッファ１２２ｈは開閉実行モード中であるか否かを示す信号が入力され、第９バッファ１２２ｉは高頻度サポートモード中であるか否かを示す信号が入力され、第１０バッファ１２２ｊは前扉枠１４が開放中であるか否かを示す信号が入力され、第１１バッファ１２２ｋは遊技回が開始されたか否かを示す信号が入力される。したがって、第８対応関係エリア１２３ｈには開閉実行モードであることを示す情報が格納され、第９対応関係エリア１２３ｉには高頻度サポートモードであることを示す情報が格納され、第１０対応関係エリア１２３ｊには前扉枠１４であることを示す情報が格納され、第１１対応関係エリア１２３ｋには遊技回であることを示す情報が格納される。

【０２５６】

主側ＣＰＵ６３は既に説明したとおり開閉実行モードではない状況ではＬＯＷレベルの第８信号を継続して出力し、開閉実行モードである状況ではＨＩレベルの第８信号を継続して出力するため、管理側ＣＰＵ１１２は第８信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変化した場合に開閉実行モードが開始されたと特定し、第８信号がＨＩレベルからＬＯＷレベルに変化した場合に開閉実行モードが終了したと特定することが可能となる。そして、第８信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変化した場合、及びＨＩレベルからＬＯＷレベルに変化した場合のいずれにおいても、管理側ＣＰＵ１１２は履歴情報格納エリア１２５への対応関係情報の格納契機が発生したと特定する。つまり、第８信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変化した場合には、第８対応関係エリア１２３ｈから読み出した開閉実行モードであることを示す情報だけではなく開始情報も一緒に、履歴情報格納エリア１２５の対応関係情報を格納するためのエリアに格納する。また、第８信号がＨＩレベルからＬＯＷレベルに変化した場合には、第８対応関係エリア１２３ｈから読み出した開閉実行モードであることを示す情報だけではなく終了情報も一緒に、履歴情報格納エリア１２５の対応関係情報を格納するためのエリアに格納する。

【０２５７】

主側ＣＰＵ６３は既に説明したとおり高頻度サポートモードではない状況ではＬＯＷレベルの第９信号を継続して出力し、高頻度サポートモードである状況ではＨＩレベルの第９信号を継続して出力するため、管理側ＣＰＵ１１２は第９信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変化した場合に高頻度サポートモードが開始されたと特定し、第９信号がＨＩレベルからＬＯＷレベルに変化した場合に高頻度サポートモードが終了したと特定することが可能となる。そして、第９信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変化した場合、及びＨＩレベルからＬＯＷレベルに変化した場合のいずれにおいても、管理側ＣＰＵ１１２は履歴情報格納エリア１２５への対応関係情報の格納契機が発生したと特定する。つまり、第

９信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変化した場合には、第９対応関係エリア１２３ｉから読み出した高頻度サポートモードであることを示す情報だけではなく開始情報も一緒に、履歴情報格納エリア１２５の対応関係情報を格納するためのエリアに格納する。また、第９信号がＨＩレベルからＬＯＷレベルに変化した場合には、第９対応関係エリア１２３ｉから読み出した高頻度サポートモードであることを示す情報だけではなく終了情報も一緒に、履歴情報格納エリア１２５の対応関係情報を格納するためのエリアに格納する。

【０２５８】

主側ＣＰＵ６３は既に説明したとおり前扉枠１４が閉鎖状態である状況ではＬＯＷレベルの第１０信号を継続して出力し、前扉枠１４が開放状態である状況ではＨＩレベルの第１０信号を継続して出力するため、管理側ＣＰＵ１１２は第１０信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変化した場合に前扉枠１４が開放されたと特定し、第１０信号がＨＩレベルからＬＯＷレベルに変化した場合にが前扉枠１４が閉鎖されたと特定することが可能となる。そして、第１０信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変化した場合、及びＨＩレベルからＬＯＷレベルに変化した場合のいずれにおいても、管理側ＣＰＵ１１２は履歴情報格納エリア１２５への対応関係情報の格納契機が発生したと特定する。つまり、第１０信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変化した場合には、第１０対応関係エリア１２３ｊから読み出した前扉枠１４であることを示す情報だけではなく開放開始情報も一緒に、履歴情報格納エリア１２５の対応関係情報を格納するためのエリアに格納する。また、第１０信号がＨＩレベルからＬＯＷレベルに変化した場合には、第１０対応関係エリア１２３ｊから読み出した前扉枠１４であることを示す情報だけではなく開放終了情報も一緒に、履歴情報格納エリア１２５の対応関係情報を格納するためのエリアに格納する。

【０２５９】

主側ＣＰＵ６３は既に説明したとおり遊技回の開始タイミングとなるまではＬＯＷレベルの第１１信号を継続して出力し、遊技回の開始タイミングとなった場合に特定期間に亘ってＨＩレベルの第１１信号を出力する。したがって、管理側ＣＰＵ１１２は第１１信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変化した場合に遊技回が開始されたと特定する。つまり、第１１信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変化した場合には、第１１対応関係エリア１２３ｋから読み出した遊技回であることを示す情報を、履歴情報格納エリア１２５の対応関係情報を格納するためのエリアに格納する。

【０２６０】

履歴情報格納エリア１２５は、仮に開店から閉店まで本パチンコ機１０における遊技球の発射が継続される営業日が１０日間連続したとしてもその間に発生した各履歴情報を全て記憶しておくことを可能とする数分設けられている。例えば１日に履歴情報が６０００回発生するとした場合、６０００００個以上の履歴情報格納エリア１２５が設けられている。これにより、少なくとも１０日間は全ての履歴情報を履歴用メモリ１１７において記憶保持することが可能である。

【０２６１】

履歴用メモリ１１７には履歴用エリア１２４とは別にポインタ用エリア１２６が設けられている。ポインタ用エリア１２６には、履歴用メモリ１１７において現状の書き込み対象となっているポインタ情報を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するための情報が格納されている。具体的には、パチンコ機１０の出荷段階ではポインタ用エリア１２６には「０」のポインタ情報を書き込み対象に指定する情報が設定されている。そして、１個の履歴情報が履歴情報格納エリア１２５に新たに格納される度に、書き込み対象となるポインタ情報の値が１加算されるようにポインタ用エリア１２６の情報が更新される。最後の順番のポインタ情報が書き込み対象となり当該最後の順番のポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に履歴情報が格納された場合には、「０」のポインタ情報が書き込み対象となるようにポインタ用エリア１２６の情報が更新される。これにより、格納可能な履歴情報の個数を超えて履歴情報の格納契機が発生した場合には、古い履歴情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５から順に新しい履歴情報に上書きされていくこととなる。

【０２６２】

また、外部装置による履歴用メモリ１１７からの履歴情報の読み取りが発生した場合には、履歴情報格納エリア１２５が全て「０」クリアされるとともに、「０」のポインタ情報が書き込み対象となるようにポインタ用エリア１２６の情報が更新される。これにより、一旦読み取り対象となった履歴情報が再度読み取り対象となってしまうことを阻止することが可能となる。

【０２６３】

次に、管理用ＩＣ６６を利用して遊技履歴を管理するための具体的な処理構成について説明する。まず管理側Ｉ／Ｆ１１１の入力ポート１２１に設けられた第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎと信号の種類との対応関係の情報を対応関係用メモリ１１６に格納するための処理構成について説明する。図２２は主側ＣＰＵ６３にて実行される認識用処理を示すフローチャートである。なお、認識用処理はメイン処理（図９）におけるステップＳ１１１にて実行される。

【０２６４】

まず主側ＲＡＭ６５に設けられた認識用出力カウンタに「１４」をセットする（ステップＳ８０１）。認識用出力カウンタは、管理側Ｉ／Ｆ１１１における入力ポート１２１の第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎがいずれの種類の信号に対応しているのかを管理側ＣＰＵ１１２に認識させるための情報出力の残りの必要回数を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。既に説明したとおり第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎの１４個が信号の種類の認識対象となるため、認識用出力カウンタには「１４」をセットする。

【０２６５】

その後、識別開始コマンドの出力処理を実行する（ステップＳ８０２）。主側ＣＰＵ６３は、第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎがいずれの種類の信号に対応しているのかを管理側ＣＰＵ１１２に認識させるために当該管理側ＣＰＵ１１２に各種コマンドを出力する。このコマンド出力に際しては第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈに入力される第１～第８信号が利用される。つまり、履歴情報の格納契機を管理側ＣＰＵ１１２に指示するために利用される第１～第８信号（すなわち第１～第８信号経路１１８ａ～１１８ｈ）を利用して、第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎがいずれの種類の信号に対応しているのかを管理側ＣＰＵ１１２に認識させるためのコマンド出力が行われる。これにより、当該コマンド出力を行うための信号経路を、第１～第１６バッファ１２２ａ～１２２ｐに信号出力するための信号経路１１８ａ～１１８ｐとは別に設ける構成に比べて、信号経路の数を減らすことが可能となり構成を簡素化させることが可能となる。識別開始コマンドは８ビットのデータ容量となっており各ビットのデータがそれぞれ第１～第８信号として第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈに入力される。また、識別開始コマンドの出力処理では、新たなコマンドを送信したことを管理側ＣＰＵ１１２に認識させるために、識別開始コマンドの出力を開始するタイミングで第９信号の出力状態をＨＩレベルに切り換える。また、識別開始コマンドの出力期間及び第９信号の出力状態をＨＩレベルに維持する期間は、これら識別開始コマンド及び第９信号の出力状態を管理側ＣＰＵ１１２にて認識するのに十分な期間に設定されている。識別開始コマンドを受信することにより、管理側ＣＰＵ１１２は第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎと信号の種類との対応関係の情報を対応関係用メモリ１１６に格納するための処理を開始すべきことを特定する。

【０２６６】

その後、主側ＲＡＭ６５の認識用出力カウンタの現状の値に対応する種類識別コマンドを主側ＲＯＭ６４から読み出す（ステップＳ８０３）。この場合、第１バッファ１２２ａが最初に信号種類の設定対象となり、その後は第ｎバッファの次に第ｎ＋１バッファが信号種類の設定対象となるように、第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎに対応する信号種類の認識設定が行われる。したがって、認識用出力カウンタが「１４」～「１２」であれば一般入賞口３１であること及びその賞球個数を示す種類識別コマンドを読み出し、認識用出力カウンタが「１１」であれば特電入賞装置３２であること及びその賞球個数を示す種類識別コマンドを読み出し、認識用出力カウンタが「１０」であれば第１作動口３

３であること及びその賞球個数を示す種類識別コマンドを読み出し、認識用出力カウンタが「９」であれば第２作動口３４であること及びその賞球個数を示す種類識別コマンドを読み出し、認識用出力カウンタが「８」であればアウト口２４ａであることを示す種類識別コマンドを読み出し、認識用出力カウンタが「７」であれば開閉実行モードであることを示す種類識別コマンドを読み出し、認識用出力カウンタが「６」であれば高頻度サポートモードであることを示す種類識別コマンドを読み出し、認識用出力カウンタが「５」であれば前扉枠１４であることを示す種類識別コマンドを読み出し、認識用出力カウンタが「４」であれば遊技回であることを示す種類識別コマンドを読み出し、認識用出力カウンタが「３」～「１」であればブランクであることを示す種類識別コマンドを読み出す。

【０２６７】

その後、読み出した種類識別コマンドの出力処理を実行する（ステップＳ８０４）。種類識別コマンドは、識別開始コマンドと同様に８ビットのデータ容量となっており、各ビットのデータがそれぞれ第１～第８信号として第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈに入力される。また、識別種類コマンドの出力処理では、新たなコマンドを送信したことを管理側ＣＰＵ１１２に認識させるために、識別種類コマンドの出力を開始するタイミングで第９信号の出力状態をＨＩレベルに切り換える。また、識別種類コマンドの出力期間及び第９信号の出力状態をＨＩレベルに維持する期間は、これら識別種類コマンド及び第９信号の出力状態を管理側ＣＰＵ１１２にて認識するのに十分な期間に設定されている。識別種類コマンドを受信することにより、管理側ＣＰＵ１１２は第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎのうち今回の設定対象となっているバッファに対応する対応関係エリア１２３ａ～１２３ｎに、その識別種類コマンドに対応する情報を格納する。

【０２６８】

その後、主側ＲＡＭ６５の認識用出力カウンタの値を１減算し（ステップＳ８０５）、その１減算後における認識用出力カウンタの値が「０」であるか否かを判定する（ステップＳ８０６）。認識用出力カウンタの値が１以上である場合には（ステップＳ８０６：ＮＯ）、１減算後における認識用出力カウンタの値に対応する種類識別コマンドを出力するための処理を実行する（ステップＳ８０３及びステップＳ８０４）。

【０２６９】

一方、認識用出力カウンタの値が「０」である場合には（ステップＳ８０６：ＹＥＳ）、識別終了コマンドの出力処理を実行する（ステップＳ８０７）。識別終了コマンドは８ビットのデータ容量となっており、各ビットのデータがそれぞれ第１～第８信号として第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈに入力される。また、識別終了コマンドの出力処理では、新たなコマンドを送信したことを管理側ＣＰＵ１１２に認識させるために、識別終了コマンドの出力を開始するタイミングで第９信号の出力状態をＨＩレベルに切り換える。また、識別終了コマンドの出力期間及び第９信号の出力状態をＨＩレベルに維持する期間は、これら識別終了コマンド及び第９信号の出力状態を管理側ＣＰＵ１１２にて認識するのに十分な期間に設定されている。識別終了コマンドを受信することにより、管理側ＣＰＵ１１２は第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎと信号の種類との対応関係の情報を対応関係用メモリ１１６に格納するための処理が完了したことを特定する。

【０２７０】

次に、管理側ＣＰＵ１１２にて実行される管理処理について、図２３のフローチャートを参照しながら説明する。管理処理は、管理側ＣＰＵ１１２への動作電力の供給が開始された場合に開始される。なお、管理側ＣＰＵ１１２の処理速度は主側ＣＰＵ６３の処理速度よりも速い構成であり、主側ＣＰＵ６３において１回のタイマ割込み処理（図１１）が開始されてから次回のタイマ割込み処理（図１１）が開始されるまでに、管理処理におけるステップＳ９０８以降の処理の組合せが１６回以上実行される。

【０２７１】

まず主側ＣＰＵ６３から識別開始コマンドを受信したか否かを判定する（ステップＳ９０１）。識別開始コマンドを受信していない場合（ステップＳ９０１：ＮＯ）、設定更新認識用処理を実行した後に（ステップＳ９０２）、ステップＳ９０１に戻る。設定更新認

識用処理では、詳細は後述するが主側ＣＰＵ６３にてパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合にそれに対応する処理を実行する。

【０２７２】

主側ＣＰＵ６３から識別開始コマンドを受信した場合（ステップＳ９０１：ＹＥＳ）、管理側ＲＡＭ１１４に設けられた設定対象カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳ９０３）。設定対象カウンタは、信号の種類の設定対象となっているバッファ１２２ａ～１２２ｎの種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのカウンタである。第１バッファ１２２ａが最初に信号種類の設定対象となり、その後は第ｎバッファの次に第ｎ＋１バッファが信号種類の設定対象となる。

【０２７３】

その後、主側ＣＰＵ６３から種類識別コマンドを受信していることを条件として（ステップＳ９０４：ＹＥＳ）、対応関係設定処理を実行する（ステップＳ９０５）。対応関係設定処理では、対応関係用メモリ１１６の第１～第１４対応関係エリア１２３ａ～１２３ｎのうち、管理側ＲＡＭ１１４の設定対象カウンタにおける現状の値に対応する対応関係エリアに、今回受信した種類識別コマンドに設定されている信号種類の情報を格納する。その後、管理側ＲＡＭ１１４の設定対象カウンタの値を１加算する（ステップＳ９０６）。

【０２７４】

ステップＳ９０４にて否定判定をした場合、又はステップＳ９０６の処理を実行した場合、主側ＣＰＵ６３から識別終了コマンドを受信したか否かを判定する（ステップＳ９０７）。識別終了コマンドを受信していない場合（ステップＳ９０７：ＮＯ）、ステップＳ９０４に戻り、主側ＣＰＵ６３から種類識別コマンドを新たに受信することを条件として（ステップＳ９０４：ＹＥＳ）、ステップＳ９０５及びステップＳ９０６の処理を再度実行する。

【０２７５】

主側ＣＰＵ６３から識別終了コマンドを受信している場合（ステップＳ９０７：ＹＥＳ）、ステップＳ９０８～ステップＳ９１０の処理を繰り返し実行する。ステップＳ９０８では詳細は後述するが、主側ＣＰＵ６３から受信した信号の種類に対応する履歴情報を履歴用メモリ１１７に格納するための履歴設定処理を実行する。ステップＳ９０９では、詳細は後述するが、履歴用メモリ１１７に格納された履歴情報を利用して各種パラメータを演算するとともにその演算結果を第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにて報知するための表示出力処理を実行する。ステップＳ９１０では、詳細は後述するが、履歴用メモリ１１７に格納された履歴情報及び演算結果用メモリ１３１に記憶された各種パラメータを読み取り用端子６８ｄに出力するための外部出力用処理を実行する。

【０２７６】

図２４は第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎとこれらバッファ１２２ａ～１２２ｎに入力される信号の種類との対応関係の情報が対応関係用メモリ１１６に格納される様子を示すタイムチャートである。図２４（ａ）は第１～第８信号（すなわち第１～第８信号経路１１８ａ～１１８ｈ）を利用して主側ＣＰＵ６３から管理側ＣＰＵ１１２にコマンドが出力されている期間を示し、図２４（ｂ）は第９信号の出力状態がＨＩレベルとなっている期間を示し、図２４（ｃ）は第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎとこれらバッファ１２２ａ～１２２ｎに入力される信号の種類との対応関係を識別するための処理が実行される識別状態の実行期間を示し、図２４（ｄ）は管理側ＣＰＵ１１２にて対応関係設定処理（ステップＳ９０５）が実行されるタイミングを示す。

【０２７７】

主側ＣＰＵ６３及び管理側ＣＰＵ１１２への動作電力の供給が開始されることで、ｔ１のタイミングで図２４（ａ）に示すように第１～第８信号を利用した識別開始コマンドの出力が開始される。また、当該ｔ１のタイミングで図２４（ｂ）に示すように第９信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更される。その後、識別開始コマンドの出力が継続されている状況であるｔ２のタイミングで、図２４（ｂ）に示すように第９信号の

出力状態がＨＩレベルからＬＯＷレベルに変更される。管理側ＣＰＵ１１２は第９信号の出力状態がＨＩレベルからＬＯＷレベルに変更されたことを確認することで主側ＣＰＵ６３からコマンドが送信されていることを特定し、第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈの情報を確認することで主側ＣＰＵ６３から受信しているコマンドの内容を把握する。この場合、識別開始コマンドを受信しているため、管理側ＣＰＵ１１２は管理処理（図２３）のステップＳ９０１にて肯定判定をすることで識別状態となる。その後、ｔ３のタイミングで図２４（ａ）に示すように識別開始コマンドの出力が停止される。

【０２７８】

その後、ｔ４のタイミングで図２４（ａ）に示すように第１～第８信号を利用した１個目の種類識別コマンドの出力が開始される。また、当該ｔ４のタイミングで図２４（ｂ）に示すように第９信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更される。その後、種類識別コマンドの出力が継続されている状況であるｔ５のタイミングで、図２４（ｂ）に示すように第９信号の出力状態がＨＩレベルからＬＯＷレベルに変更される。管理側ＣＰＵ１１２は第９信号の出力状態がＨＩレベルからＬＯＷレベルに変更されたことを確認することで主側ＣＰＵ６３からコマンドが送信されたことを特定し、第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈの情報を確認することで主側ＣＰＵ６３から受信しているコマンドの内容を把握する。この場合、１個目の種類識別コマンドを受信しているため、管理側ＣＰＵ１１２はｔ５のタイミングで図２４（ｄ）に示すように対応関係設定処理を実行する。当該対応関係設定処理では、対応関係用メモリ１１６の第１対応関係エリア１２３ａに一般入賞口３１であることを示す情報及びその賞球個数の情報を格納する。その後、ｔ６のタイミングで図２４（ａ）に示すように種類識別コマンドの出力が停止される。

【０２７９】

その後、ｔ７のタイミング～ｔ９のタイミング、ｔ１０のタイミング～ｔ１２のタイミング、ｔ１３のタイミング～ｔ１５のタイミング、及びｔ１６のタイミング～ｔ１８のタイミングのそれぞれにおいて、ｔ４のタイミング～ｔ６のタイミングと同様に、主側ＣＰＵ６３から出力された種類識別コマンドに対応する対応関係設定処理が管理側ＣＰＵ１１２にて実行される。この場合、ｔ１６のタイミング～ｔ１８のタイミングにおいて１４個目の種類識別コマンドに対応する対応関係設定処理が完了する。

【０２８０】

その後、ｔ１９のタイミングで図２４（ａ）に示すように第１～第８信号を利用した識別終了コマンドの出力が開始される。また、当該ｔ１９のタイミングで図２４（ｂ）に示すように第９信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更される。その後、識別終了コマンドの出力が継続されている状況であるｔ２０のタイミングで、図２４（ｂ）に示すように第９信号の出力状態がＨＩレベルからＬＯＷレベルに変更される。管理側ＣＰＵ１１２は第９信号の出力状態がＨＩレベルからＬＯＷレベルに変更されたことを確認することで主側ＣＰＵ６３からコマンドが送信されたことを特定し、第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈの情報を確認することで主側ＣＰＵ６３から受信しているコマンドの内容を把握する。この場合、識別終了コマンドを受信しているため、ｔ２０のタイミングで図２４（ｃ）に示すように管理側ＣＰＵ１１２の識別状態が終了する。その後、ｔ２１のタイミングで図２４（ａ）に示すように識別終了コマンドの出力が停止される。

【０２８１】

上記のように第９信号を利用してコマンドが出力されている状況であるか否かを管理側ＣＰＵ１１２に認識させる構成であることにより、履歴情報の格納契機を管理側ＣＰＵ１１２に指示するために利用される第１～第８信号（すなわち第１～第８信号経路）を利用してコマンド出力が行われる構成であってもコマンドが出力されている状況であることを管理側ＣＰＵ１１２に明確に認識させることが可能となる。

【０２８２】

次に、履歴情報を履歴用メモリ１１７に格納させるための処理構成について説明する。図２５は主側ＣＰＵ６３にて実行される管理用出力処理を示すフローチャートである。なお、管理用出力処理はタイマ割込み処理（図１１）におけるステップＳ３１９にて実行さ

れる。
【０２８３】
まず主側ＲＡＭ６５に設けられた管理対象カウンタに「１１」をセットする（ステップＳ１００１）。管理対象カウンタは、今回の管理用出力処理において管理側ＣＰＵ１１２への信号出力状態を変更すべきか否かの特定対象となっていない管理対象が存在しているか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するとともに、いずれの管理対象について管理側ＣＰＵ１１２への信号出力状態を変更すべきか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。１回の管理用出力処理にて、管理側ＣＰＵ１１２への信号出力状態を変更すべきか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定する対象となる管理対象は、７個の入球検知センサ４２ａ～４８ａ、開閉実行モードの実行の有無、高頻度サポートモードの実行の有無、前扉枠１４の開閉の有無、及び遊技回の開始の有無の合計１１個である。したがって、最初に管理対象カウンタに「１１」をセットする。
【０２８４】
その後、現状の管理対象カウンタの値に対応する管理対象についての管理側ＣＰＵ１１２への信号の出力状態がＨＩレベルであるか否かを判定する（ステップＳ１００２）。ＨＩレベルではない場合（ステップＳ１００２：ＮＯ）、管理対象カウンタの値が５以上であるか否かを判定することで、管理対象カウンタの値に対応する管理対象が７個の入球検知センサ４２ａ～４８ａのいずれかであるかを特定する（ステップＳ１００３）。
【０２８５】
ステップＳ１００３にて肯定判定をした場合、管理対象カウンタの値に対応する主側ＲＡＭ６５の出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ１００４）。具体的には、管理対象カウンタの値が「１１」であり第１入賞口検知センサ４２ａに対応している場合には第１出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定し、管理対象カウンタの値が「１０」であり第２入賞口検知センサ４３ａに対応している場合には第２出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定し、管理対象カウンタの値が「９」であり第３入賞口検知センサ４４ａに対応している場合には第３出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定し、管理対象カウンタの値が「８」であり特電検知センサ４５ａに対応している場合には第４出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定し、管理対象カウンタの値が「７」であり第１作動口検知センサ４６ａに対応している場合には第５出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定し、管理対象カウンタの値が「６」であり第２作動口検知センサ４７ａに対応している場合には第６出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定し、管理対象カウンタの値が「５」でありアウト口２４ａに対応している場合には第７出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定する。なお、これら第１～第７出力フラグには既に説明したとおり、入球検知処理（図１５）にて「１」がセットされる。
【０２８６】
管理対象カウンタの値に対応する出力フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳ１００４：ＹＥＳ）、第１～第７信号のうち管理対象カウンタの値に対応する信号の出力状態をＨＩレベルに設定する（ステップＳ１００５）。その後、管理対象カウンタの値に対応する出力フラグを「０」クリアする（ステップＳ１００６）。
【０２８７】
ステップＳ１００３にて否定判定をした場合、管理対象カウンタの値に対応する信号の出力状態をＨＩレベルに切り換える契機が発生したか否かを判定する（ステップＳ１００７）。具体的には、管理対象カウンタの値が「４」である場合には開閉実行モードへの移行が発生したか否かを判定し、管理対象カウンタの値が「３」である場合には高頻度サポートモードへの移行が発生したか否かを判定し、管理対象カウンタの値が「２」である場合には前扉枠１４が開放状態となったか否かを判定し、管理対象カウンタの値が「１」である場合には第１１出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定することで遊技回が開始されたか否かを判定する。ステップＳ１００７にて肯定判定をした場合には、管理対象カウンタの値に対応する信号の出力状態をＨＩレベルに設定する（ステップＳ１０

０８）。なお、管理対象カウンタの値が「１」である場合にステップＳ１００８の処理を実行した場合、第１１出力フラグを「０」クリアする。

【０２８８】

ステップＳ１００２にて肯定判定をした場合、管理対象カウンタの値に対応する信号の出力状態をＬＯＷレベルに切り換える契機が発生したか否かを判定する（ステップＳ１００９）。具体的には管理対象カウンタの値が５以上又は「１」であり現状の管理対象がいずれかの入球検知センサ４２ａ～４８ａ又は遊技回の開始である場合には、第１～第７信号及び第１１信号のうち管理対象カウンタの値に対応する信号の出力状態をＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換えてからＨＩ出力継続期間（具体的には１０ミリ秒）が経過したか否かを判定する。このＨＩ出力継続期間は管理側ＣＰＵ１１２において管理処理（図２３）の履歴設定処理（ステップＳ９０８）の最長処理間隔よりも長い期間に設定されており、ＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わった信号の出力状態を管理側ＣＰＵ１１２にて確実に特定することが可能な期間となっている。また、管理対象カウンタの値が「４」であり現状の管理対象が開閉実行モードである場合には開閉実行モードが終了したか否かを判定し、管理対象カウンタの値が「３」であり現状の管理対象が高頻度サポートモードである場合には高頻度サポートモードが終了したか否かを判定し、管理対象カウンタの値が「２」であり現状の管理対象が前扉枠１４である場合には前扉枠１４が閉鎖状態であるか否かを判定する。管理対象カウンタの値に対応する信号の出力状態をＬＯＷレベルに切り換える契機が発生している場合（ステップＳ１００９：ＹＥＳ）、管理対象カウンタの値に対応する信号の出力状態をＬＯＷレベルに設定する（ステップＳ１０１０）。

【０２８９】

ステップＳ１００４にて否定判定をした場合、ステップＳ１００６の処理を実行した場合、ステップＳ１００７にて否定判定をした場合、ステップＳ１００８の処理を実行した場合、ステップＳ１００９にて否定判定をした場合、又はステップＳ１０１０の処理を実行した場合、主側ＲＡＭ６５の管理対象カウンタの値を１減算する（ステップＳ１０１１）。そして、その１減算後における管理対象カウンタの値が「０」であるか否かを判定する（ステップＳ１０１２）。管理対象カウンタの値が１以上である場合には（ステップＳ１０１２：ＮＯ）、新たな管理対象カウンタの値に対応する管理対象について、ステップＳ１００２以降の処理を実行する。

【０２９０】

次に、管理側ＣＰＵ１１２にて実行される履歴設定処理について図２６のフローチャートを参照しながら説明する。履歴設定処理は、管理処理（図２３）のステップＳ９０８にて実行される。

【０２９１】

まず管理側ＲＡＭ１１４に設けられた確認対象カウンタに、第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎのうち管理側ＣＰＵ１１２において確認対象となるバッファの数をセットする（ステップＳ１１０１）。具体的には、対応関係用メモリ１１６における第１～第１４対応関係エリア１２３ａ～１２３ｎのうちブランクであることを示す情報以外の情報が格納されている対応関係エリアの数を特定し、その特定した数の情報を確認対象カウンタにセットする。本パチンコ機１０では既に説明したとおり第１～第１１対応関係エリア１２３ａ～１２３ｋにブランクであることを示す情報以外の情報が格納されているため、ステップＳ１１０１では確認対象カウンタに「１１」をセットする。

【０２９２】

その後、第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎのうち現状の確認対象カウンタの値に対応するバッファに格納されている数値情報が、「０」から「１」に変更されたか否かを確認することで、当該バッファへの主側ＣＰＵ６３からの入力信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換えられたか否かを判定する（ステップＳ１１０２）。なお、確認対象カウンタの値が「ｎ」である場合には第ｎバッファ１２２ａ～１２２ｎが数値情報の確認対象となる。例えば、確認対象カウンタの値が「１１」であれば第１１バッファ１２２ｋが数値情報の確認対象となり、確認対象カウンタの値が「５」であれば第５バ

ッファ１２２ｅが数値情報の確認対象となる。
【０２９３】
ステップＳ１１０２にて肯定判定をした場合には、ＲＴＣ１１５から年月日情報及び時刻情報であるＲＴＣ情報を読み出す（ステップＳ１１０３）。そして、履歴用メモリ１１７への書き込み処理を実行する（ステップＳ１１０４）。当該書き込み処理では、履歴用メモリ１１７のポインタ用エリア１２６を参照することで現状の書き込み対象となっている履歴用エリア１２４のポインタ情報を特定し、その書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴用エリア１２４の履歴情報格納エリア１２５に、ステップＳ１１０３にて読み出したＲＴＣ情報を書き込む。また、現状の確認対象カウンタの値に対応する対応関係エリア１２３ａ～１２３ｎから対応関係情報を読み出し、その対応関係情報を上記書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に書き込む。また、対応関係情報が、開閉実行モードであることを示す情報、高頻度サポートモードであることを示す情報、及び前扉枠１４であることを示す情報のうちいずれかである場合には、上記書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に対応関係情報だけではなく開始情報を書き込む。なお、確認対象カウンタの値が「ｎ」である場合には第ｎ対応関係エリア１２３ａ～１２３ｎが対応関係情報の読み出し対象となる。例えば、確認対象カウンタの値が「１１」であれば第１１対応関係エリア１２３ｋが対応関係情報の読み出し対象となり、確認対象カウンタの値が「５」であれば第５対応関係エリア１２３ｅが対応関係情報の読み出し対象となる。
【０２９４】
上記のように書き込み処理が実行されることにより、確認対象カウンタの値がアウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４及び遊技回のいずれかである場合には、書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に、ＲＴＣ情報と、アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４及び遊技回のいずれかであることを示す対応関係情報と、の組合せが履歴情報として記憶された状態となる。また、確認対象カウンタの値が開閉実行モード、高頻度サポートモード及び前扉枠１４のいずれかである場合には、書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に、ＲＴＣ情報と、開閉実行モード、高頻度サポートモード及び前扉枠１４のうちいずれかであることを示す対応関係情報と、開始情報と、の組合せが履歴情報として記憶された状態となる。
【０２９５】
その後、対象ポインタの更新処理を実行する（ステップＳ１１０５）。当該更新処理では、履歴用メモリ１１７のポインタ用エリア１２６に格納されている数値情報を読み出し１加算する。その１加算後におけるポインタ情報が履歴用エリア１２４におけるポインタ情報の最大値を超えたか否かを判定する。最大値を超えていない場合には１加算後におけるポインタ情報を新たな書き込み対象のポインタ情報としてポインタ用エリア１２６に上書きする。最大値を超えている場合には書き込み対象のポインタ情報が最初のポインタ情報となるようにポインタ用エリア１２６を「０」クリアする。
【０２９６】
ステップＳ１１０２にて否定判定をした場合、又はステップＳ１１０５の処理を実行した場合、現状の確認対象カウンタの値に対応する対応関係エリア１２３ａ～１２３ｎに、信号出力がＬＯＷレベルに切り換えられたか否かを確認すべき対象となる対応関係情報が格納されているか否かを判定する（ステップＳ１１０６）。具体的には、現状の確認対象カウンタの値が「８」～「１０」である場合には対応する対応関係エリア１２３ｈ～１２３ｊに、開閉実行モードであることを示す情報、高頻度サポートモードであることを示す情報、及び前扉枠１４であることを示す情報のいずれかが格納されているため、ステップＳ１１０６にて肯定判定をする。
【０２９７】
ステップＳ１１０６にて肯定判定をした場合、第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎのうち現状の確認対象カウンタの値に対応するバッファに格納されている数値情報が「

１」から「０」に変更されたか否かを確認することで、当該バッファへの主側ＣＰＵ６３からの入力信号の出力状態がＨＩレベルからＬＯＷレベルに切り換えられたか否かを判定する（ステップＳ１１０７）。ステップＳ１１０７にて肯定判定をした場合には、ステップＳ１１０３と同様にＲＴＣ情報を読み出し（ステップＳ１１０８）、さらに履歴用メモリ１１７への書き込み処理を実行する（ステップＳ１１０９）。当該書き込み処理では、書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴用エリア１２４の履歴情報格納エリア１２５に、ステップＳ１１０８にて読み出したＲＴＣ情報を書き込む。また、現状の確認対象カウンタの値に対応する対応関係エリア１２３ａ～１２３ｎから対応関係情報を読み出し、その対応関係情報を上記書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に書き込む。また、上記書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に対応関係情報だけではなく終了情報を書き込む。このように書き込み処理が実行されることにより、確認対象カウンタの値が開閉実行モード、高頻度サポートモード及び前扉枠１４のいずれかである場合には、書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に、ＲＴＣ情報と、開閉実行モード、高頻度サポートモード及び前扉枠１４のうちいずれかであることを示す対応関係情報と、終了情報と、の組合せが履歴情報として記憶された状態となる。その後、ステップＳ１１０５と同様に対象ポインタの更新処理を実行する（ステップＳ１１１０）。

【０２９８】

ステップＳ１１０６にて否定判定をした場合、ステップＳ１１０７にて否定判定をした場合、又はステップＳ１１１０の処理を実行した場合、管理側ＲＡＭ１１４の確認対象カウンタの値を１減算する（ステップＳ１１１１）。そして、その１減算後における確認対象カウンタの値が「０」であるか否かを判定する（ステップＳ１１１２）。確認対象カウンタの値が１以上である場合には（ステップＳ１１１２：ＮＯ）、新たな確認対象カウンタの値に対応する確認対象について、ステップＳ１１０２以降の処理を実行する。

【０２９９】

次に、履歴用メモリ１１７に履歴情報が格納されていく様子について、図２７のタイムチャートを参照しながら説明する。図２７（ａ）は第１～第７，第１１バッファ１２２ａ～１２２ｇ，１２２ｋのいずれかにＨＩレベルの信号が入力されている期間を示し、図２７（ｂ）は第８バッファ１２２ｈにＨＩレベルの信号が入力されている期間を示し、図２７（ｃ）は第９バッファ１２２ｉにＨＩレベルの信号が入力されている期間を示し、図２７（ｄ）は第１０バッファ１２２ｊにＨＩレベルの信号が入力されている期間を示し、図２７（ｅ）は履歴用メモリ１１７への履歴情報の書き込みタイミングを示す。

【０３００】

ｔ１のタイミングで、図２７（ａ）に示すように第１～第７，第１１バッファ１２２ａ～１２２ｇ，１２２ｋのいずれかに入力されている信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換えられる。したがって、当該ｔ１のタイミングで図２７（ｅ）に示すように履歴用メモリ１１７に履歴情報が書き込まれる。その後、ｔ２のタイミングで、図２７（ａ）に示すようにｔ１のタイミングでＨＩレベルに切り換えられた信号がＬＯＷレベルに切り換えられる。しかしながら、当該信号は第１～第７，第１１バッファ１２２ａ～１２２ｇ，１２２ｋのいずれかに入力されている信号であり、ＬＯＷレベルの切り換えが履歴情報の格納対象となっていないため、当該ｔ２のタイミングでは図２７（ｅ）に示すように履歴情報の書き込みは実行されない。

【０３０１】

その後、ｔ３のタイミング、ｔ５のタイミング、ｔ６のタイミング、ｔ９のタイミング、ｔ１０のタイミング、ｔ１３のタイミング及びｔ１４のタイミングのそれぞれにおいて、図２７（ａ）に示すように、第１～第７，第１１バッファ１２２ａ～１２２ｇ，１２２ｋのいずれかに入力されている信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換えられる。したがって、これら各タイミングにおいて図２７（ｅ）に示すように履歴情報が書き込まれる。

【０３０２】

図２７（ｂ）に示すようにｔ４のタイミング～ｔ７のタイミングに亘って、第８バッファ１２２ｈに入力されている信号の出力状態がＨＩレベルとなる。この第８バッファ１２２ｈは開閉実行モードの発生の有無に対応している。したがって、図２７（ｅ）に示すように第８バッファ１２２ｈに入力されている信号の出力状態がＨＩレベルに切り換わるタイミングであるｔ４のタイミング、及び当該信号の出力状態がＬＯＷレベルに切り換わるタイミングであるｔ７のタイミングのそれぞれにおいて、履歴情報が書き込まれる。この場合、ｔ４のタイミングで書き込まれる履歴情報には開始情報が含まれ、ｔ７のタイミングで書き込まれる履歴情報には終了情報が含まれる。これにより、履歴用メモリ１１７の履歴情報を確認することで開閉実行モードの実行期間を把握することが可能となる。

【０３０３】

また、履歴用メモリ１１７には履歴情報が時間の経過の順に従って書き込まれる。したがって、アウトロ２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれかへの入球が発生したことを示す履歴情報が開閉実行モード中のものか否かを区別することが可能となる。また、履歴情報にはＲＴＣ情報が含まれるため、当該ＲＴＣ情報を対比することによっても、アウトロ２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれかへの入球が発生したことを示す履歴情報が開閉実行モード中のものか否かを区別することが可能となる。

【０３０４】

図２７（ｃ）に示すようにｔ８のタイミング～ｔ１１のタイミングに亘って、第９バッファ１２２ｉに入力されている信号の出力状態がＨＩレベルとなる。この第９バッファ１２２ｉは高頻度サポートモードの発生の有無に対応している。したがって、図２７（ｅ）に示すように第９バッファ１２２ｉに入力されている信号の出力状態がＨＩレベルに切り換わるタイミングであるｔ８のタイミング、及び当該信号の出力状態がＬＯＷレベルに切り換わるタイミングであるｔ１１のタイミングのそれぞれにおいて、履歴情報が書き込まれる。この場合、ｔ８のタイミングで書き込まれる履歴情報には開始情報が含まれ、ｔ１１のタイミングで書き込まれる履歴情報には終了情報が含まれる。これにより、履歴用メモリ１１７の履歴情報を確認することで高頻度サポートモードの実行期間を把握することが可能となる。

【０３０５】

また、履歴用メモリ１１７には履歴情報が時間の経過の順に従って書き込まれる。したがって、アウトロ２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれかへの入球が発生したことを示す履歴情報が高頻度サポートモード中のものか否かを区別することが可能となる。また、履歴情報にはＲＴＣ情報が含まれるため、当該ＲＴＣ情報を対比することによっても、アウトロ２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれかへの入球が発生したことを示す履歴情報が高頻度サポートモード中のものか否かを区別することが可能となる。

【０３０６】

図２７（ｄ）に示すようにｔ１２のタイミング～ｔ１５のタイミングに亘って、第１０バッファ１２２ｊに入力されている信号の出力状態がＨＩレベルとなる。この第１０バッファ１２２ｊは前扉枠１４の開放の有無に対応している。したがって、図２７（ｅ）に示すように第１０バッファ１２２ｊに入力されている信号の出力状態がＨＩレベルに切り換わるタイミングであるｔ１２のタイミング、及び当該信号の出力状態がＬＯＷレベルに切り換わるタイミングであるｔ１５のタイミングのそれぞれにおいて、履歴情報が書き込まれる。この場合、ｔ１２のタイミングで書き込まれる履歴情報には開始情報が含まれ、ｔ１５のタイミングで書き込まれる履歴情報には終了情報が含まれる。これにより、履歴用メモリ１１７の履歴情報を確認することで前扉枠１４が開放状態となっている期間を把握することが可能となる。

【０３０７】

また、履歴用メモリ１１７には履歴情報が時間の経過の順に従って書き込まれる。したがって、アウトロ２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２

作動口３４のいずれかへの入球が発生したことを示す履歴情報が前扉枠１４の開放中のものか否かを区別することが可能となる。また、履歴情報にはＲＴＣ情報が含まれるため、当該ＲＴＣ情報を対比することによっても、アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれかへの入球が発生したことを示す履歴情報が前扉枠１４の開放中のものか否かを区別することが可能となる。

【０３０８】

次に、主側ＣＰＵ６３にてパチンコ機１０の設定状態の設定が行われた場合に実行される設定値更新信号の出力処理について説明する。図２８は主側ＣＰＵ６３にて実行される設定値更新信号の出力処理を示すフローチャートである。なお、設定値更新信号の出力処理はメイン処理（図９）におけるステップＳ１１９にて実行される。

【０３０９】

主側ＲＡＭ６５に設けられたパルス個数カウンタに今回設定されたパチンコ機１０の設定値に対応する値を設定する（ステップＳ１２０１）。具体的には、主側ＲＡＭ６５の設定値カウンタの値をパルス個数カウンタに設定する。その後、管理側ＣＰＵ１１２に向けた設定値更新信号がＨＩレベルとなっているか否かを判定する（ステップＳ１２０２）。既に説明したとおり、設定値更新信号は管理用ＩＣ６６における入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏに入力されている。ここで、設定値更新信号の出力処理は、メイン処理（図９）において入力ポート１２１の第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２に特定させるための処理である認識用処理よりも前のタイミングで実行される。これに対して、第１５バッファ１２２ｏに設定値更新信号が入力されることはパチンコ機１０の設計段階において管理用ＩＣ６６に設定されているため、認識用処理よりも前に設定値更新信号の出力処理が実行されたとしても、管理側ＣＰＵ１１２において第１５バッファ１２２ｏに入力されている信号が設定値更新信号であることを特定することが可能となる。

【０３１０】

ステップＳ１２０２にて否定判定をした場合、主側ＲＡＭ６５に設けられたＬＯＷレベルカウンタの値を１減算し（ステップＳ１２０３）、その１減算後におけるＬＯＷレベルカウンタの値が「０」となっているか否かを判定する（ステップＳ１２０４）。ＬＯＷレベルカウンタは設定値更新信号がＨＩレベルとなるパルスを複数出力する間において当該設定値更新信号をＬＯＷレベルに所定期間に亘って維持したか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。ＬＯＷレベルカウンタの値が「０」となっている場合（ステップＳ１２０４：ＹＥＳ）、設定値更新信号をＨＩレベルに設定するタイミングとなっていることを意味するため、設定値更新信号をＨＩレベルに設定する（ステップＳ１２０５）。

【０３１１】

その後、主側ＲＡＭ６５に設けられたＨＩレベルカウンタに「２０」を設定する（ステップＳ１２０６）。ＨＩレベルカウンタは設定値更新信号をＨＩレベルに維持する期間を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。ＨＩレベルカウンタに設定された値は約１０マイクロ秒周期で１減算されるため、１パルスの出力に際して設定値更新信号は２００マイクロ秒に亘ってＨＩレベルに維持される。このＨＩレベルの維持期間は管理側ＣＰＵ１１２において設定値更新信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更されたことを特定するのに十分な期間となっている。

【０３１２】

設定値更新信号がＨＩレベルである場合（ステップＳ１２０２：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５のＨＩレベルカウンタの値を１減算し（ステップＳ１２０７）、その１減算後におけるＨＩレベルカウンタの値が「０」となっているか否かを判定する（ステップＳ１２０８）。ＨＩレベルカウンタの値が「０」となっている場合（ステップＳ１２０８：ＹＥＳ）、設定値更新信号をＬＯＷレベルに設定するタイミングとなっていることを意味するため、設定値更新信号をＬＯＷレベルに設定する（ステップＳ１２０９）。

【０３１３】

その後、主側ＲＡＭ６５のパルス個数カウンタの値を１減算し（ステップＳ１２１０）、その１減算後におけるパルス個数カウンタの値が「０」となっているか否かを判定する（ステップＳ１２１１）。パルス個数カウンタの値が「０」となっていない場合（ステップＳ１２１１：ＮＯ）、今回設定されたパチンコ機１０の設定値に対応する数分の設定値更新信号によるパルス信号の出力が完了していないことを意味するため、主側ＲＡＭ６５のＬＯＷレベルカウンタに「２０」を設定する（ステップＳ１２１２）。ＬＯＷレベルカウンタに設定された値は約１０マイクロ秒周期で１減算されるため、設定値更新信号による複数のパルス出力間において２００マイクロ秒に亘ってＬＯＷレベルに維持される。このＬＯＷレベルの維持期間は管理側ＣＰＵ１１２において設定値更新信号がＨＩレベルからＬＯＷレベルに変更されたことを特定するのに十分な期間となっている。

【０３１４】

パルス個数カウンタの値が「０」となっている場合（ステップＳ１２１１：ＹＥＳ）、今回設定されたパチンコ機１０の設定値に対応する数分の設定値更新信号によるパルス信号の出力が完了したことを意味するため、設定値識別終了コマンドの出力処理を実行する（ステップＳ１２１３）。設定値識別終了コマンドは、今回設定されたパチンコ機１０の設定値を管理側ＣＰＵ１１２に認識させるための設定値更新信号の出力が完了したことを管理側ＣＰＵ１１２に認識させるためのコマンドである。設定値識別終了コマンドの出力に際しては識別開始コマンド、種類識別コマンド及び識別終了コマンドと同様に第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈに入力される第１～第８信号が利用される。但し、設定値識別終了コマンドの信号パターンは識別開始コマンド、種類識別コマンド及び識別終了コマンドとは異なっている。

【０３１５】

上記のとおり設定値更新信号の出力処理では、今回の動作電力の供給開始時に設定されたパチンコ機１０の設定値の値に対応する数分の設定値更新信号によるパルス信号を管理用ＩＣ６６に出力する。管理側ＣＰＵ１１２は設定更新認識用処理を実行することにより、当該設定値更新信号によるパルス信号の数を把握して、それに基づき今回設定されたパチンコ機１０の設定値を把握する。

【０３１６】

図２９は管理側ＣＰＵ１１２にて実行される設定更新認識用処理を示すフローチャートである。なお、設定更新認識用処理は、管理処理（図２３）のステップＳ９０２にて実行される。

【０３１７】

入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏに入力されている設定値更新信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったか否かを判定する（ステップＳ１３０１）。ステップＳ１３０１にて肯定判定をした場合、管理側ＲＡＭ１１４に設けられた設定値把握カウンタの値を「１」に設定する（ステップＳ１３０２）。設定値把握カウンタはパチンコ機１０の設定値を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのカウンタであり、例えば設定値把握カウンタの値が「１」であれば「設定１」であることを意味し、設定値把握カウンタの値が「６」であれば「設定６」であることを意味する。

【０３１８】

その後、入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏに入力されている設定値更新信号が再度ＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったか否かを判定する（ステップＳ１３０３）。ステップＳ１３０３にて肯定判定をした場合、管理側ＲＡＭ１１４の設定値把握カウンタの値を１加算する（ステップＳ１３０４）。これにより、管理側ＣＰＵ１１２において特定しているパチンコ機１０の設定値が１段階上昇することとなる。

【０３１９】

ステップＳ１３０３にて否定判定をした場合、又はステップＳ１３０４の処理を実行した場合、入力ポート１２１の第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈに入力されている第１～第８信号の入力状態に基づいて、主側ＣＰＵ６３から設定値識別終了コマンドを受信したか否かを判定する（ステップＳ１３０５）。ステップＳ１３０５にて否定判定をした

場合、ステップＳ１３０３の処理に戻る。
【０３２０】
ステップＳ１３０５にて肯定判定をした場合、ＲＴＣ１１５から年月日情報及び時刻情報であるＲＴＣ情報を読み出す（ステップＳ１３０６）。そして、履歴用メモリ１１７への書き込み処理を実行する（ステップＳ１３０７）。当該書き込み処理では、履歴用メモリ１１７のポインタ用エリア１２６を参照することで現状の書き込み対象となっている履歴用エリア１２４のポインタ情報を特定し、その書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴用エリア１２４の履歴情報格納エリア１２５に、ステップＳ１３０６にて読み出したＲＴＣ情報を書き込む。また、設定値であることを識別するための情報及び設定値把握カウンタの値の情報の両方を上記書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に書き込む。これにより、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定されたことを示す情報と、当該設定が行われた日時に対応するＲＴＣ情報と、当該設定が行われた場合の設定値の情報と、の組合せが履歴情報として記憶された状態となる。
【０３２１】
その後、対象ポインタの更新処理を実行する（ステップＳ１３０８）。当該更新処理では、履歴用メモリ１１７のポインタ用エリア１２６に格納されている数値情報を読み出し１加算する。その１加算後におけるポインタ情報が履歴用エリア１２４におけるポインタ情報の最大値を超えたか否かを判定する。最大値を超えていない場合には１加算後におけるポインタ情報を新たな書き込み対象のポインタ情報としてポインタ用エリア１２６に上書きする。最大値を超えている場合には書き込み対象のポインタ情報が最初のポインタ情報となるようにポインタ用エリア１２６を「０」クリアする。
【０３２２】
上記のように設定更新認識用処理が実行されることにより、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定された場合には、当該設定が行われたこと、当該設定が行われた日時、及び当該設定が行われた場合の設定値の組合せが履歴情報として履歴用エリア１２４に格納される。これにより、読み取り用端子６８ｄに接続した外部装置を利用して履歴用メモリ１１７に格納された情報を読み出して解析することにより、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定された日時及び当該設定が行われた場合の設定値の内容を把握することが可能となる。
【０３２３】
ここで、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定されたとしても履歴用メモリ１１７に記憶されている情報はそのまま維持される。これにより、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定されたとしても履歴用メモリ１１７の履歴情報が消去されないようにすることが可能となるとともに後述する各種パラメータはパチンコ機１０の設定状態の変更タイミングの前後を跨いで存在する履歴情報を利用して算出される。この場合に、上記のとおりパチンコ機１０の設定状態が新たに設定された日時は履歴用メモリ１１７に記憶されるため、読み取り用端子６８ｄに外部装置を接続して履歴用メモリ１１７に格納された情報を読み取ることで、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定されたタイミング以後であって当該設定状態が維持されている期間における各種パラメータを演算することが可能となる。
【０３２４】
次に、管理側ＣＰＵ１１２にて実行される表示出力処理について、図３０のフローチャートを参照しながら説明する。なお、表示出力処理は、管理処理（図２３）のステップＳ９０９にて実行される。
【０３２５】
まず演算タイミングであるか否かを判定する（ステップＳ１４０１）。管理側ＣＰＵ１１２への動作電力の供給が開始されてから５１秒が経過した場合、又は前回ステップＳ１４０１にて肯定判定をしてから５１秒が経過した場合、ステップＳ１４０１にて肯定判定をする。ステップＳ１４０１にて肯定判定をした場合、通常時の各種入球個数を演算する（ステップＳ１４０２）。具体的には、まず履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４に

おいてアウト口２４ａであることを示す対応関係情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の数をカウントすることで、アウト口２４ａへの入球個数を演算する。また、履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において一般入賞口３１であることを示す対応関係情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の数をカウントすることで、一般入賞口３１への入球個数を演算する。また、履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において特電入賞装置３２であることを示す対応関係情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の数をカウントすることで、特電入賞装置３２への入球個数を演算する。また、履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において第１作動口３３であることを示す対応関係情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の数をカウントすることで、第１作動口３３への入球個数を演算する。また、履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において第２作動口３４であることを示す対応関係情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の数をカウントすることで、第２作動口３４への入球個数を演算する。

【０３２６】

その後、履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において前扉枠１４であることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５と、前扉枠１４であることを示す対応関係情報及び終了情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５との間の期間に存在している履歴情報格納エリア１２５を参照することで、前扉枠１４が開放状態である状況で発生したアウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のそれぞれへの入球個数を演算する（ステップＳ１４０３）。履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において前扉枠１４であることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５と、前扉枠１４であることを示す対応関係情報及び終了情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５との間の期間は、これら履歴情報格納エリア１２５に格納されているＲＴＣ情報から算出される。また、連番となるポインタ情報の全体において、前扉枠１４であることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５と、前扉枠１４であることを示す対応関係情報及び終了情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５との区間が複数存在している場合にはその区間の合計分の各入球個数を演算する。また、前扉枠１４であることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５が存在しているものの、当該履歴情報格納エリア１２５よりも後の時間に対応するＲＴＣ情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５に前扉枠１４であることを示す対応関係情報及び終了情報が格納されていない場合、前扉枠１４であることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５よりも後の時間に対応するＲＴＣ情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の履歴情報はいずれも前扉枠１４が開放状態におけるものとして扱う。

【０３２７】

その後、ステップＳ１４０２及びステップＳ１４０３の演算結果を利用して各種パラメータを演算する（ステップＳ１４０４）。具体的には、まずステップＳ１４０２で算出した各入球個数から、ステップＳ１４０３にて算出した前扉枠１４が開放中に発生した各入球個数を減算する。そして、その減算後における各入球個数を利用して以下の第１～第８パラメータを演算する。なお、ステップＳ１４０２にて算出したアウト口２４ａの入球個数に対するステップＳ１４０３にて算出したアウト口２４ａの入球個数の差を入球個数Ｋ１とし、ステップＳ１４０２にて算出した一般入賞口３１の入球個数に対するステップＳ１４０３にて算出した一般入賞口３１の入球個数の差を入球個数Ｋ２とし、ステップＳ１４０２にて算出した特電入賞装置３２の入球個数に対するステップＳ１４０３にて算出した特電入賞装置３２の入球個数の差を入球個数Ｋ３とし、ステップＳ１４０２にて算出した第１作動口３３の入球個数に対するステップＳ１４０３にて算出した第１作動口３３の入球個数の差を入球個数Ｋ４とし、ステップＳ１４０２にて算出した第２作動口３４の入球個数に対するステップＳ１４０３にて算出した第２作動口３４の入球個数の差を入球個数Ｋ５とする。

・第１パラメータ：遊技球の合計払出個数（Ｋ２×「一般入賞口３１への入賞に対する賞

球個数」＋Ｋ３×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ４×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ５×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１＋Ｋ２＋Ｋ３＋Ｋ４＋Ｋ５）の割合（以下、この割合を「Ｄ１」とする）
・第２パラメータ：一般入賞口３１への遊技球の合計入球個数Ｋ２／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１＋Ｋ２＋Ｋ３＋Ｋ４＋Ｋ５）の割合
・第３パラメータ：特電入賞装置３２への遊技球の合計入球個数Ｋ３／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１＋Ｋ２＋Ｋ３＋Ｋ４＋Ｋ５）の割合
・第４パラメータ：第１作動口３３への遊技球の合計入球個数Ｋ４／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１＋Ｋ２＋Ｋ３＋Ｋ４＋Ｋ５）の割合（以下、この割合を「Ｄ２」とする）
・第５パラメータ：第２作動口３４への遊技球の合計入球個数Ｋ５／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１＋Ｋ２＋Ｋ３＋Ｋ４＋Ｋ５）の割合（以下、この割合を「Ｄ３」とする）
・第６パラメータ：Ｄ１－（Ｄ２×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｄ３×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）
・第７パラメータ：（Ｋ３×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ５×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／遊技球の合計払出個数（Ｋ２×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ３×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ４×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ５×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）の割合
・第８パラメータ：Ｋ３×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」／遊技球の合計払出個数（Ｋ２×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ３×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ４×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ５×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）の割合
　ステップＳ１４０４では演算結果である上記第１～第８パラメータを演算結果用メモリ１３１における通常時用記憶エリアに記憶させる。当該通常時用記憶エリアに記憶された上記第１～第８パラメータは次回のステップＳ１４０４が実行されるまで記憶保持される。つまり、次回のステップＳ１４０４が実行されて上記第１～第８パラメータが演算された場合、その新たに演算された上記第１～第８パラメータが通常時用記憶エリアに記憶されることで、それまで通常時用記憶エリアに記憶されていた前回の第１～第８パラメータの演算結果が上書きされる。

【０３２８】

　その後、履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において開閉実行モードであることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５と、開閉実行モードであることを示す対応関係情報及び終了情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５との間の期間に存在している履歴情報格納エリア１２５を参照することで、開閉実行モードである状況で発生したアウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のそれぞれへの入球個数を演算する（ステップＳ１４０５）。履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において開閉実行モードであることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５と、開閉実行モードであることを示す対応関係情報及び終了情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５との間の期間は、これら履歴情報格納エリア１２５に格納されているＲＴＣ情報から算出される。また、連番となるポインタ情報の全体において、開閉実行モードであることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５と、開閉実行モードであることを示す対応関係情報及び終了情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５との区間が複数存在している場合にはその区間の合計分の各入球個数を演算する。また、開閉実行モードであることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５が存在しているものの、当該履歴情報格納エリア１２５よりも後の時間に対応するＲＴＣ情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５に開閉実行モ

ードであることを示す対応関係情報及び終了情報が格納されていない場合、開閉実行モードであることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５よりも後の時間に対応するＲＴＣ情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の履歴情報はいずれも開閉実行モードにおけるものとして扱う。

【０３２９】

その後、ステップＳ１４０５にて特定した開閉実行モードである期間のうち、前扉枠１４が開放状態である状況で発生したアウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のそれぞれへの入球個数を演算する（ステップＳ１４０６）。これら入球個数の演算の方法は、ステップＳ１４０５にて特定した開閉実行モードである期間を前提とする点を除き、ステップＳ１４０３の場合と同様である。

【０３３０】

その後、ステップＳ１４０５及びステップＳ１４０６の演算結果を利用して各種パラメータを演算する（ステップＳ１４０７）。具体的には、まずステップＳ１４０５にて算出した各入球個数から、ステップＳ１４０６にて算出した前扉枠１４が開放中に発生した各入球個数を減算する。そして、その減算後における各入球個数を利用して以下の第１１～第１８パラメータを演算する。なお、ステップＳ１４０５にて算出したアウト口２４ａの入球個数に対するステップＳ１４０６にて算出したアウト口２４ａの入球個数の差を入球個数Ｋ１１とし、ステップＳ１４０５にて算出した一般入賞口３１の入球個数に対するステップＳ１４０６にて算出した一般入賞口３１の入球個数の差を入球個数Ｋ１２とし、ステップＳ１４０５にて算出した特電入賞装置３２の入球個数に対するステップＳ１４０６にて算出した特電入賞装置３２の入球個数の差を入球個数Ｋ１３とし、ステップＳ１４０５にて算出した第１作動口３３の入球個数に対するステップＳ１４０６にて算出した第１作動口３３の入球個数の差を入球個数Ｋ１４とし、ステップＳ１４０５にて算出した第２作動口３４の入球個数に対するステップＳ１４０６にて算出した第２作動口３４の入球個数の差を入球個数Ｋ１５とする。

・第１１パラメータ：遊技球の合計払出個数（Ｋ１２×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１３×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１４×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１５×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１１＋Ｋ１２＋Ｋ１３＋Ｋ１４＋Ｋ１５）の割合（以下、この割合を「Ｄ１１」とする）

・第１２パラメータ：一般入賞口３１への遊技球の合計入球個数Ｋ１２／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１１＋Ｋ１２＋Ｋ１３＋Ｋ１４＋Ｋ１５）の割合

・第１３パラメータ：特電入賞装置３２への遊技球の合計入球個数Ｋ１３／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１１＋Ｋ１２＋Ｋ１３＋Ｋ１４＋Ｋ１５）の割合

・第１４パラメータ：第１作動口３３への遊技球の合計入球個数Ｋ１４／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１１＋Ｋ１２＋Ｋ１３＋Ｋ１４＋Ｋ１５）の割合（以下、この割合を「Ｄ１２」とする）

・第１５パラメータ：第２作動口３４への遊技球の合計入球個数Ｋ１５／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１１＋Ｋ１２＋Ｋ１３＋Ｋ１４＋Ｋ１５）の割合（以下、この割合を「Ｄ１３」とする）

・第１６パラメータ：Ｄ１１－（Ｄ１２×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｄ１３×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）

・第１７パラメータ：（Ｋ１３×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１５×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／遊技球の合計払出個数（Ｋ１２×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１３×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１４×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１５×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）の割合

・第１８パラメータ：Ｋ１３×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」／遊技球の合計払出個数（Ｋ１２×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１３×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１４×「第１作動口３３への入賞に対す

る賞球個数」＋Ｋ１５×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）の割合
　ステップＳ１４０７では演算結果である上記第１１～第１８パラメータを演算結果用メモリ１３１における開閉実行モード時用記憶エリアに記憶させる。当該開閉実行モード時用記憶エリアに記憶された上記第１１～第１８パラメータは次回のステップＳ１４０７が実行されるまで記憶保持される。つまり、次回のステップＳ１４０７が実行されて上記第１１～第１８パラメータが演算された場合、その新たに演算された上記第１１～第１８パラメータが開閉実行モード時用記憶エリアに記憶されることで、それまで開閉実行モード時用記憶エリアに記憶されていた前回の第１１～第１８パラメータの演算結果が上書きされる。
【０３３１】
　その後、履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において高頻度サポートモードであることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５と、高頻度サポートモードであることを示す対応関係情報及び終了情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５との間の期間に存在している履歴情報格納エリア１２５を参照することで、高頻度サポートモードである状況で発生したアウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のそれぞれへの入球個数を演算する（ステップＳ１４０８）。履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において高頻度サポートモードであることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５と、高頻度サポートモードであることを示す対応関係情報及び終了情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５との間の期間は、これら履歴情報格納エリア１２５に格納されているＲＴＣ情報から算出される。また、連番となるポインタ情報の全体において、高頻度サポートモードであることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５と、高頻度サポートモードであることを示す対応関係情報及び終了情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５との区間が複数存在している場合にはその区間の合計分の各入球個数を演算する。また、高頻度サポートモードであることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５が存在しているものの、当該履歴情報格納エリア１２５よりも後の時間に対応するＲＴＣ情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５に高頻度サポートモードであることを示す対応関係情報及び終了情報が格納されていない場合、高頻度サポートモードであることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５よりも後の時間に対応するＲＴＣ情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の履歴情報はいずれも高頻度サポートモードにおけるものとして扱う。
【０３３２】
　その後、ステップＳ１４０８にて特定した高頻度サポートモードである期間のうち、前扉枠１４が開放状態である状況で発生したアウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のそれぞれへの入球個数を演算する（ステップＳ１４０９）。これら入球個数の演算の方法は、ステップＳ１４０８にて特定した高頻度サポートモードである期間を前提とする点を除き、ステップＳ１４０３の場合と同様である。
【０３３３】
　その後、ステップＳ１４０８及びステップＳ１４０９の演算結果を利用して各種パラメータを演算する（ステップＳ１４１０）。具体的には、まずステップＳ１４０８にて算出した各入球個数から、ステップＳ１４０９にて算出した前扉枠１４が開放中に発生した各入球個数を減算する。そして、その減算後における各入球個数を利用して以下の第２１～第２６パラメータを演算する。なお、ステップＳ１４０８にて算出したアウト口２４ａの入球個数に対するステップＳ１４０９にて算出したアウト口２４ａの入球個数の差を入球個数Ｋ２１とし、ステップＳ１４０８にて算出した一般入賞口３１の入球個数に対するステップＳ１４０９にて算出した一般入賞口３１の入球個数の差を入球個数Ｋ２２とし、ステップＳ１４０８にて算出した特電入賞装置３２の入球個数に対するステップＳ１４０９にて算出した特電入賞装置３２の入球個数の差を入球個数Ｋ２３とし、ステップＳ１４０

８にて算出した第１作動口３３の入球個数に対するステップＳ１４０９にて算出した第１作動口３３の入球個数の差を入球個数Ｋ２４とし、ステップＳ１４０８にて算出した第２作動口３４の入球個数に対するステップＳ１４０９にて算出した第２作動口３４の入球個数の差を入球個数Ｋ２５とする。

・第２１パラメータ：遊技球の合計払出個数（Ｋ２２×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ２３×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ２４×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ２５×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ２１＋Ｋ２２＋Ｋ２３＋Ｋ２４＋Ｋ２５）の割合（以下、この割合を「Ｄ１１」とする）

・第２２パラメータ：一般入賞口３１への遊技球の合計入球個数Ｋ２２／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ２１＋Ｋ２２＋Ｋ２３＋Ｋ２４＋Ｋ２５）の割合

・第２３パラメータ：特電入賞装置３２への遊技球の合計入球個数Ｋ２３／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ２１＋Ｋ２２＋Ｋ２３＋Ｋ２４＋Ｋ２５）の割合

・第２４パラメータ：第１作動口３３への遊技球の合計入球個数Ｋ２４／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ２１＋Ｋ２２＋Ｋ２３＋Ｋ２４＋Ｋ２５）の割合（以下、この割合を「Ｄ２２」とする）

・第２５パラメータ：第２作動口３４への遊技球の合計入球個数Ｋ２５／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ２１＋Ｋ２２＋Ｋ２３＋Ｋ２４＋Ｋ２５）の割合（以下、この割合を「Ｄ２３」とする）

・第２６パラメータ：Ｄ２１－（Ｄ２２×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｄ２３×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）

ステップＳ１４１０では演算結果である上記第２１～第２６パラメータを演算結果用メモリ１３１における高頻度サポートモード時用記憶エリアに記憶させる。当該高頻度サポートモード時用記憶エリアに記憶された上記第２１～第２６パラメータは次回のステップＳ１４１０が実行されるまで記憶保持される。つまり、次回のステップＳ１４１０が実行されて上記第２１～第２６パラメータが演算された場合、その新たに演算された上記第２１～第２６パラメータが高頻度サポートモード時用記憶エリアに記憶されることで、それまで高頻度サポートモード時用記憶エリアに記憶されていた前回の第２１～第２６パラメータの演算結果が上書きされる。

【０３３４】

その後、開閉実行モードの発生頻度を演算して記憶する（ステップＳ１４１１）。具体的には、履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において開閉実行モードであることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の数をカウントすることで、開閉実行モードの発生回数を演算する。また、履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において遊技回の開始であることを示す対応関係情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の数をカウントすることで、遊技回の発生回数を演算する。そして、単位遊技回当たりの開閉実行モードの発生回数を演算する。なお、開閉実行モードの発生回数を発生回数Ｋ３１とし、遊技回の発生回数を発生回数Ｋ３２とする。

・第３１パラメータ：Ｋ３１／Ｋ３２

ステップＳ１４１１では演算結果である上記第３１パラメータを演算結果用メモリ１３１における開閉実行モード頻度用記憶エリアに記憶させる。当該開閉実行モード頻度用記憶エリアに記憶された上記第３１パラメータは次回のステップＳ１４１１が実行されるまで記憶保持される。つまり、次回のステップＳ１４１１が実行されて上記第３１パラメータが演算された場合、その新たに演算された上記第３１パラメータが開閉実行モード頻度用記憶エリアに記憶されることで、それまで開閉実行モード頻度用記憶エリアに記憶されていた前回の第３１パラメータの演算結果が上書きされる。

【０３３５】

その後、高頻度サポートモードの発生頻度を演算して記憶する（ステップＳ１４１２）。具体的には、履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において高頻度サポートモードであることを示す対応関係情報及び開始情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５

の数をカウントすることで、高頻度サポートモードの発生回数を演算する。また、履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において遊技回の開始であることを示す対応関係情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の数をカウントすることで、遊技回の発生回数を演算する。そして、単位遊技回当たりの高頻度サポートモードの発生回数、及び開閉実行モードの発生回数に対する高頻度サポートモードの発生回数の割合を演算する。なお、高頻度サポートモードの発生回数を発生回数Ｋ４１とし、遊技回の発生回数を発生回数Ｋ４２とし、ステップＳ１４１１にて演算された開閉実行モードの発生回数を発生回数Ｋ４３とする。

・第４１パラメータ：Ｋ４１／Ｋ４２
・第４２パラメータ：Ｋ４１／Ｋ４３

ステップＳ１４１２では演算結果である上記第４１～第４２パラメータを演算結果用メモリ１３１における高頻度サポートモード頻度用記憶エリアに記憶させる。当該高頻度サポートモード頻度用記憶エリアに記憶された上記第４１～第４２パラメータは次回のステップＳ１４１２が実行されるまで記憶保持される。つまり、次回のステップＳ１４１２が実行されて上記第４１～第４２パラメータが演算された場合、その新たに演算された上記第４１～第４２パラメータが高頻度サポートモード頻度用記憶エリアに記憶されることで、それまで高頻度サポートモード頻度用記憶エリアに記憶されていた前回の第４１～第４２パラメータの演算結果が上書きされる。

【０３３６】

ステップＳ１４０１にて否定判定をした場合、又はステップＳ１４１２の処理を実行した場合、表示用処理を実行する（ステップＳ１４１３）。図３１は表示用処理を示すフローチャートである。

【０３３７】

まず管理側ＲＡＭ１１４に設けられた更新タイミングカウンタの値を１減算する（ステップＳ１５０１）。更新タイミングカウンタは第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおける遊技履歴の管理結果の表示内容を更新するタイミングであることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのカウンタである。管理側ＣＰＵ１１２は第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃを表示制御することにより、上記第１～第８パラメータ、上記第１１～第１８パラメータ、上記第２１～第２６パラメータ、上記第３１パラメータ及び上記第４１～第４２パラメータの演算結果を報知する。この場合、第１報知用表示装置６９ａでは報知対象となっているパラメータの種類に対応する情報が表示される。また、報知対象となっているパラメータを１００倍した値のうち、１０の位に対応する数字が第２報知用表示装置６９ｂにて表示され、１の位に対応する数字が第３報知用表示装置６９ｃにて表示される。そして、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおいては、上記第１～第８パラメータ、上記第１１～第１８パラメータ、上記第２１～第２６パラメータ、上記第３１パラメータ及び上記第４１～第４２パラメータの演算結果に対応する表示が予め定められた順序に従って順次切り換えられ、最後の順番の表示対象である第４２パラメータの演算結果が表示された後は最初の順番の表示対象である第１パラメータの演算結果が表示される。この場合、一のパラメータの演算結果が継続して表示される期間は２秒となっている。

【０３３８】

ここで、管理側ＣＰＵ１１２における上記各種パラメータの演算周期は５１秒となっている。これに対して、各種パラメータの数は２５個となっているとともに、一のパラメータの演算結果が継続して表示される期間は２秒となっている。したがって、管理側ＣＰＵ１１２にて演算された各種パラメータは少なくとも１回は第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおける表示対象となる。

【０３３９】

ステップＳ１５０１の処理を実行した場合、１減算後における更新タイミングカウンタの値が「０」となっているか否かを判定することで第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの表示内容を更新するタイミングとなったか否かを判定する（ステップＳ１５０２）

。ステップＳ１５０２にて肯定判定をした場合、管理側ＲＡＭ１１４に設けられている表示対象カウンタの値を１加算する（ステップＳ１５０３）。そして、１加算後における表示対象カウンタの値が最大値である「２４」を超えた場合（ステップＳ１５０４：ＹＥＳ）、表示対象カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳ１５０５）。

【０３４０】

表示対象カウンタは第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおける表示対象となっているパラメータの種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのカウンタである。上記第１～第８パラメータ、上記第１１～第１８パラメータ、上記第２１～第２６パラメータ、上記第３１パラメータ及び上記第４１～第４２パラメータと、「０」～「２４」の表示対象カウンタの取り得る値とは１対１で対応している。例えば表示対象カウンタの値が「０」である場合、最初の表示対象である第１パラメータが第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの表示対象となり、表示対象カウンタの値が「２４」である場合、最後の表示対象である第４２パラメータが第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの表示対象となる。

【０３４１】

ステップＳ１５０４にて否定判定をした場合、又はステップＳ１５０５の処理を実行した場合、表示対象カウンタの値に対応するパラメータの種類に対応する情報が表示されるように第１報知用表示装置６９ａを表示制御する（ステップＳ１５０６）。また、表示対象カウンタの値に対応するパラメータを演算結果用メモリ１３１から読み出すとともに、その読み出したパラメータを１００倍し、１０の位に対応する数字が第２報知用表示装置６９ｂにて表示され、１の位に対応する数字が第３報知用表示装置６９ｃにて表示されるようにする（ステップＳ１５０７）。ステップＳ１５０６及びステップＳ１５０７により第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにて表示された内容は次回の更新タイミングとなるまで、又は管理側ＣＰＵ１１２への動作電力の供給が停止されるまで継続される。その後、管理側ＲＡＭ１１４の更新タイミングカウンタに次回の更新タイミングに対応する値として２秒に対応する値を設定する（ステップＳ１５０８）。

【０３４２】

上記のように表示用処理が実行されることにより、管理側ＣＰＵ１１２に動作電力の供給が開始されている場合、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにて遊技履歴の管理結果が表示される。当該遊技履歴の管理結果の表示は遊技が継続されているか否かに関係なく行われるとともに、遊技機本体１２が外枠１１に対して開放操作されて主制御装置６０がパチンコ機１０の前方から視認可能となっているか否かに関係なく行われる。このように遊技の状況やパチンコ機１０の状態に関係なく第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの表示制御が実行されるようにすることにより、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃを表示制御するための処理構成を簡素化することが可能となる。

【０３４３】

第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおける遊技履歴の管理結果の表示は管理側ＣＰＵ１１２への動作電力の供給が開始された後であって主側ＣＰＵ６３から識別終了コマンドを受信した後に開始される。この場合、演算結果用メモリ１３１に記憶されている情報は履歴用メモリ１１７に記憶されている情報と同様に、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されている場合であっても記憶保持されるため、管理側ＣＰＵ１１２への動作電力の供給が開始された場合には当該管理側ＣＰＵ１１２への動作電力の供給が停止される前に算出された遊技履歴の管理結果が表示される。

【０３４４】

主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合にパチンコ機１０の設定状態の設定が行われる場合、変更途中の設定値に対応する情報が第３報知用表示装置６９ｃにて表示されることとなるが、当該設定値に対応する情報の表示は主側ＣＰＵ６３から識別終了コマンドが送信される前に行われるのに対して、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおける遊技履歴の管理結果の表示は主側ＣＰＵ６３から識別終了コマンドが送信された後に開始される。これにより、第３報知用表示装置６９ｃが設定値に対応する情報の表

示と遊技履歴の管理結果の表示とを行うための表示装置として兼用されている構成であっても、これらの表示の表示期間が重複してしまわないようにすることが可能となる。

【０３４５】

また、設定値に対応する情報の表示が行われる場合には第１報知用表示装置６９ａ及び第２報知用表示装置６９ｂが非表示とされる。これに対して、遊技履歴の管理結果の表示が行われている場合、第１報知用表示装置６９ａ及び第２報知用表示装置６９ｂが非表示とならない。これにより、第３報知用表示装置６９ｃにおいて設定値に対応する情報の表示及び遊技履歴の管理結果の表示のうちいずれが行われているのかを識別することが可能となる。

【０３４６】

次に、ＭＰＵ６２の読み取り用端子６８ｄに電気的に接続された外部装置に、履歴用メモリ１１７に記憶された履歴情報及び演算結果用メモリ１３１に記憶された各種パラメータを出力するための処理構成について説明する。図３２（ａ）は主側ＣＰＵ６３にて実行されるデータ出力用処理を示すフローチャートである。なお、データ出力用処理はメイン処理（図９）におけるステップＳ１１２にて実行される。

【０３４７】

データ出力用処理では、まず読み取り用端子６８ｄに外部装置が電気的に接続されていることを示す接続信号を、読み取り用端子６８ｄから受信しているか否かを判定する（ステップＳ１６０１）。ステップＳ１６０１にて否定判定をした場合にはそのまま本データ出力用処理を終了する。この場合、データ出力用処理が実行されるようにするためには主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再度開始されるようにする必要がある。これにより、履歴情報及び各種パラメータの外部出力が行われるようにするためには、読み取り用端子６８ｄに外部装置を電気的に接続した状態で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されるようにする必要がある。主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給の停止操作及び開始操作を行うための電源スイッチは裏パックユニット１５の背面に搭載された払出機構部７３に設けられているため、これら停止操作及び開始操作を行うためには外枠１１に対して遊技機本体１２を開放させて裏パックユニット１５の背面を露出させる必要がある。このような事情において、履歴情報及び各種パラメータの外部出力が行われるようにするためには読み取り用端子６８ｄに外部装置を電気的に接続した状態で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されるようにする必要がある構成とすることで、履歴情報及び各種パラメータを読み取る操作を遊技ホールの管理者以外が行おうとしても、それを行いづらくさせることが可能となる。

【０３４８】

ステップＳ１６０１にて肯定判定をした場合、読み取り用端子６８ｄから制御情報確認用の信号を受信しているか否かを判定することで、読み取り用端子６８ｄへの外部装置の今回の接続が主側ＲＯＭ６４の制御情報（プログラム及びデータ）の確認に対応しているか否かを判定する（ステップＳ１６０２）。外部装置は制御情報の確認と、履歴情報及び各種パラメータの確認との両方を行うことが可能な構成であり、外部装置に対する手動操作により制御情報の確認が選択されている場合には外部装置から制御情報確認用の信号が送信され、外部装置に対する手動操作により履歴情報及び各種パラメータの確認が選択されている場合には外部装置から履歴確認用の信号が送信される。なお、これに限定されることはなく、制御情報確認用の外部装置と履歴確認用の外部装置とが別である構成としてもよい。この場合、読み取り用端子６８ｄに制御情報確認用の外部装置が電気的に接続されている場合には当該外部装置から制御情報確認用の信号が送信され、読み取り用端子６８ｄに履歴確認用の外部装置が電気的に接続されている場合には当該外部装置から履歴確認用の信号が送信される。

【０３４９】

ステップＳ１６０２にて肯定判定をした場合には、制御情報確認用の出力処理を実行する（ステップＳ１６０３）。当該出力処理では、主側ＲＯＭ６４から制御情報としてプログラム及びデータを読み出し、その読み出した制御情報を読み取り用端子６８ｄに出力す

る。これにより、当該読み取り用端子６８ｄに電気的に接続されている外部装置において制御情報を読み取ることが可能となり、制御情報が正規のものであるか否か又は正常なものであるか否かの確認を行うことが可能となる。

【０３５０】

ステップＳ１６０２にて否定判定をした場合には、管理側ＣＰＵ１１２に出力指示信号を送信する（ステップＳ１６０４）。具体的には、出力指示信号の出力状態をＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換える。このＨＩレベルの出力状態は特定期間に亘って継続される。この特定期間は、第１６バッファ１２２ｐにＨＩレベルの出力指示信号が入力されていることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するのに十分な期間となっている。出力指示信号の出力状態がＨＩレベルに切り換えられることにより、管理側ＣＰＵ１１２において履歴情報を出力するための処理が実行される。

【０３５１】

具体的には、図３２（ｂ）のフローチャートに示すように管理側ＣＰＵ１１２は入力ポート１２１の第１６バッファ１２２ｐに入力されている出力指示信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わった場合（ステップＳ１７０１：ＹＥＳ）、履歴用メモリ１１７に記憶されている履歴情報及び演算結果用メモリ１３１に記憶されている各種パラメータを読み出し、その読み出した履歴情報及び各種パラメータを読み取り用端子６８ｄに出力する（ステップＳ１７０２）。これにより、当該読み取り用端子６８ｄに電気的に接続されている外部装置において履歴情報及び各種パラメータを読み取ることが可能となり、遊技履歴の管理結果の情報を解析することが可能となる。また、管理側ＣＰＵ１１２は履歴情報を読み取り用端子６８ｄに出力した場合、履歴用メモリ１１７を「０」クリアする（ステップＳ１７０３）。履歴用メモリ１１７の履歴情報は外部装置にて履歴情報の読み取りが行われた場合にのみ消去される。

【０３５２】

データ出力用処理（図３２（ａ））の説明に戻り、ステップＳ１６０３の処理を実行した場合、又はステップＳ１６０４の処理を実行した場合、読み取り用端子６８ｄへの外部装置の電気的な接続が継続されているか否かを判定する（ステップＳ１６０５）。継続されている場合には（ステップＳ１６０５：ＹＥＳ）、そのままステップＳ１６０５にて待機する。これにより、読み取り用端子６８ｄに対する外部装置の接続が解除されるまでは、データ出力用処理よりも後の実行順序に設定されている処理が実行されないようにすることが可能となる。読み取り用端子６８ｄへの外部装置の接続が解除された場合（ステップＳ１６０５：ＮＯ）、本データ出力用処理を終了する。

【０３５３】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【０３５４】

一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれかに遊技球が入球した場合に遊技球が払い出されるため、遊技者はこれら入球部のいずれかに遊技球が入球することを期待しながら遊技を行うこととなる。当該構成において、アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４（以下、履歴対象入球部ともいう）のいずれかへの遊技球の入球が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が管理用ＩＣ６６の履歴用メモリ１１７にて記憶されることとなる。これにより、各履歴対象入球部への遊技球の入球個数又は入球頻度を管理するための情報をパチンコ機１０にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで各履歴対象入球部への遊技球の入球態様の管理を適切に行うことが可能となる。また、履歴情報がパチンコ機１０自身にて記憶保持されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することが可能となる。

【０３５５】

遊技領域ＰＡから遊技球を排出させる全ての入球部が、履歴情報の記憶処理の実行対象となるとともに履歴情報を利用した管理の対象となる。これにより、任意の履歴対象入球部についての入球頻度を、履歴情報を利用して管理することが可能となる。また、遊技領

域ＰＡから排出される遊技球の個数に対する各履歴対象入球部への遊技球の入球個数の割合を、履歴情報を利用して管理することが可能となる。

【０３５６】

履歴情報には当該履歴情報を記憶させる契機となった履歴対象入球部に遊技球が入球したタイミングに対応する情報であるＲＴＣ情報が含まれている。これにより、履歴情報を利用することで、履歴対象入球部への遊技球の入球履歴を詳細に把握することが可能となる。

【０３５７】

履歴用メモリ１１７には、履歴対象入球部に遊技球が入球したことに対応する履歴情報だけではなく、開閉実行モード中であるか否かを示す履歴情報、高頻度サポートモード中であるか否かを示す履歴情報、及び前扉枠１４が開放中であるか否かを示す履歴情報が記憶される。これにより、これら各状況であるか否かを区別して、履歴対象入球部への遊技球の入球態様を管理することが可能となる。

【０３５８】

履歴用メモリ１１７に格納された履歴情報を、パチンコ機１０外部の装置である外部装置に出力することが可能である。これにより、外部装置にて履歴情報を読み取り、その読み取った履歴情報を利用して履歴対象入球部への遊技球の入球態様を分析することが可能となる。

【０３５９】

ＭＰＵ６２には読み取り用端子６８ｄが設けられており、当該読み取り用端子６８ｄに電気的に接続された外部装置により主側ＲＯＭ６４からプログラムを読み出すことが可能である。これにより、プログラムが正常なものであるか否かを確認することが可能となる。当該構成において、プログラムを外部出力するための読み取り用端子６８ｄを利用して、履歴用メモリ１１７に記憶された履歴情報が外部出力される。これにより、構成が複雑化してしまうことを阻止しながら、履歴情報を外部出力することが可能となる。

【０３６０】

読み取り用端子６８ｄから出力すべき情報がプログラム及び履歴情報のうちいずれであるかを特定し、その特定結果に対応する側の情報が読み取り用端子６８ｄを通じて外部出力される。これにより、プログラムを外部出力するための読み取り用端子６８ｄを利用して履歴情報が外部出力される構成において、外部出力の対象となる情報がプログラム及び履歴情報のうちいずれであるのかがパチンコ機１０側にて特定され、その特定された情報が外部出力される。よって、読み取り用端子６８ｄが兼用される構成であっても必要な情報のみを読み出すことが可能となる。

【０３６１】

読み取り用端子６８ｄに電気的に接続された外部装置から受信する情報に基づき、当該読み取り用端子６８ｄから出力すべき情報がプログラム及び履歴情報のうちいずれの情報であるのかが特定される。これにより、外部出力の対象となる情報の選択に関する構成が複雑化してしまわないようにすることが可能となる。

【０３６２】

プログラムを予め記憶する主側ＲＯＭ６４を有するＭＰＵ６２が、管理用ＩＣ６６及び読み取り用端子６８ｄを有する。これにより、読み取り用端子６８ｄに対する信号経路をＭＰＵ６２内に集約することが可能となる。よって、読み取り用端子６８ｄへの信号経路に対する不正なアクセスを行いづらくさせながら、既に説明したような優れた効果を奏することが可能となる。

【０３６３】

一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれかへの遊技球の入球に基づき遊技球が払い出されるようにするための処理を実行する主側ＣＰＵ６３とは別に管理側ＣＰＵ１１２が設けられており、当該管理側ＣＰＵ１１２にて履歴用メモリ１１７に履歴情報が記憶されるようにするための処理が実行される。これにより、主側ＣＰＵ６３の処理負荷が極端に増加してしまわないようにしながら、各履歴対象入

球部への遊技球の入球態様を管理することが可能となる。
【０３６４】
主側ＣＰＵ６３と管理側ＣＰＵ１１２とがＭＰＵ６２として同一のチップに設けられている。これにより、これら主側ＣＰＵ６３と管理側ＣＰＵ１１２との間の通信経路への不正なアクセスを阻止することが可能となる。
【０３６５】
主側ＣＰＵ６３は各入球検知センサ４２ａ～４８ａの検知結果に対応する情報を、入球検知センサ４２ａ～４８ａのそれぞれに対応する信号経路を利用して、管理用ＩＣ６６の入力ポート１２１の各バッファ１２２ａ～１２２ｇに送信する。これにより、主側ＣＰＵ６３から送信される情報の種類と各バッファ１２２ａ～１２２ｇ（すなわち各信号経路）とが対応することとなり、管理側ＣＰＵ１１２にて各情報の種類を区別するための構成を簡素化することが可能となる。
【０３６６】
主側ＣＰＵ６３は開閉実行モード中であるか否かに対応する情報、高頻度サポートモード中であるか否かに対応する情報、前扉枠１４が開放中であるか否かに対応する情報、及び遊技回が開始されたことに対応する情報を、これら各状況のそれぞれに対応する信号経路を利用して、管理用ＩＣ６６の入力ポート１２１の各バッファ１２２ｈ～１２２ｋに送信する。これにより、これら各状況に対応する情報の種類と各バッファ１２２ｈ～１２２ｋ（すなわち各信号経路）とが対応することとなり、管理側ＣＰＵ１１２にて各情報の種類を区別するための構成を簡素化することが可能となる。
【０３６７】
主側ＣＰＵ６３は、各バッファ１２２ａ～１２２ｋ（すなわち各信号経路１１８ａ～１１８ｋ）がいずれの種類の情報に対応しているのかを示す対応関係情報を管理側ＣＰＵ１１２に送信する。これにより、当該対応関係情報を管理用ＩＣ６６において予め記憶しておく必要が生じない。よって、管理用ＩＣ６６の汎用性を高めることが可能となる。
【０３６８】
主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に当該主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に対応関係情報が送信される。これにより、履歴対象入球部への遊技球の入球が発生し得る状況においては、主側ＣＰＵ６３から送信される情報と履歴対象入球部との対応関係を管理用ＩＣ６６にて特定可能となるようにすることが可能となる。
【０３６９】
履歴対象入球部への遊技球の入球の有無を示す情報を送信するための信号経路１１８ａ～１１８ｇを利用して、対応関係情報が主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に送信される。これにより、対応関係情報を送信するための専用の信号経路を設ける構成に比べて通信に関する構成を簡素化することが可能となる。
【０３７０】
管理用ＩＣ６６には対応関係用メモリ１１６が設けられており、主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に送信された対応関係情報は対応関係用メモリ１１６にて記憶される。これにより、送信対象の情報に対応する履歴対象入球部を管理用ＩＣ６６にて特定可能とする情報を、主側ＣＰＵ６３から各入球検知センサ４２ａ～４８ａの検知結果の情報を送信する度に提供する必要がなくなる。よって、主側ＣＰＵ６３から送信される各入球検知センサ４２ａ～４８ａの検知結果の情報の情報量を抑えることが可能となる。
【０３７１】
主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に出力されている出力指示信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わることにより、管理用ＩＣ６６から読み取り用端子６８ｄへの情報出力が行われる。この場合に、第１６バッファ１２２ｐに対応する信号経路が出力指示信号に対応していることは、主側ＣＰＵ６３からの対応関係情報を受信しなくても管理側ＣＰＵ１１２にて特定可能となっている。これにより、対応関係情報の送信に関する構成が極端に複雑化してしまわないようにすることが可能となる。
【０３７２】

管理用ＩＣ６６には、主側ＣＰＵ６３からの情報を受信することが可能なバッファ１２２ａ～１２２ｐとして、主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に送信する必要がある情報の種類数よりも多い数のバッファが設けられている。これにより、パチンコ機１０の機種に応じて当該情報の種類数が増減する場合であってもバッファ１２２ａ～１２２ｐに関する構成を変更することなく対応することが可能となる。よって、管理用ＩＣ６６の汎用性を高めることが可能となる。

【０３７３】

管理用ＩＣ６６から履歴情報が読み取り用端子６８ｄに送信される場合、当該履歴情報に対応する履歴対象入球部の種類を示す対応関係情報が各履歴情報に含まれている。これにより、読み取った履歴情報を利用して、各履歴対象入球部への遊技球の入球態様を特定することが可能となる。

【０３７４】

管理用ＩＣ６６において、履歴用メモリ１１７に記憶された履歴情報を利用することにより、所定の期間における遊技領域ＰＡの遊技球の入球態様に対応する各種パラメータ（第１～第８パラメータ、第１１～第１８パラメータ、第２１～第２６パラメータ、第３１パラメータ、第４１～第４２パラメータ）が演算される。そして、これら演算された結果の各種パラメータが第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにて順次表示される。これにより、履歴情報を利用して演算した結果である各種パラメータをパチンコ機１０にて報知することが可能となる。

【０３７５】

前扉枠１４が開放中である状況に対応する履歴情報を除外した状態で各種パラメータが演算される。これにより、前扉枠１４が閉鎖状態である正常な状況における各種パラメータを導き出すことが可能となる。また、開閉実行モードである状況及び高頻度サポートモードである状況のそれぞれに対応した各種パラメータが演算される。これにより、各状況に応じた遊技球の入球態様を遊技ホールの管理者などが把握することが可能となる。

【０３７６】

履歴用メモリ１１７の履歴情報が外部装置に出力された場合、履歴用メモリ１１７のクリア処理が実行されることにより当該履歴用メモリ１１７が初期化される。これにより、履歴用メモリ１１７の記憶容量を超えてしまうほどの履歴情報が履歴用メモリ１１７への記憶対象となってしまい、本来なら記憶保持されるべき履歴情報が上書きによって消去されてしまうという事象を発生しづらくさせることが可能となる。

【０３７７】

第１作動口３３や第２作動口３４への遊技球の入球が発生した場合にそれに対応する外部出力が外部端子板９７を通じて行われる構成において、履歴情報が履歴用メモリ１１７に記憶される。これにより、外部端子板９７を通じて外部出力される情報を利用することで第１作動口３３や第２作動口３４への遊技球の入球個数及び入球頻度を簡易的に把握しながら、履歴用メモリ１１７に記憶された履歴情報を利用することで履歴対象入球部への遊技球の入球個数及び入球頻度を正確に把握することが可能となる。

【０３７８】

低確率モードにおいて大当たり結果となる確率が「設定１」～「設定６」のパチンコ機１０の設定状態に応じて変動する。これにより、単一のパチンコ機１０であっても低確率モードにおいて大当たり結果となる確率について有利又は不利となる状況を生じさせることが可能となる。よって、遊技の興趣向上を図ることが可能となる。

【０３７９】

低確率モードにおいて大当たり結果となる確率については「設定１」～「設定６」のパチンコ機１０の設定状態に応じて変動する一方、高確率モードにおいて大当たり結果となる確率についてはパチンコ機１０の設定状態に応じて変動しない。これにより、大当たり結果となる確率に対するパチンコ機１０の設定状態の影響を低確率モードにおける状況に制限することが可能となる。また、高確率モードにおいて参照される高確当否テーブル６４ｇをパチンコ機１０の設定状態のいずれであっても共通のものとすることが可能となる

ため、主側ＲＯＭ６４において当否テーブル６４ａ～６４ｇを予め記憶するための記憶容量の増大化を抑制することが可能となる。

【０３８０】

低確率モードにおいて大当たり結果となる確率については「設定１」～「設定６」のパチンコ機１０の設定状態に応じて変動する一方、大当たり結果の種類の振分態様はパチンコ機１０の設定状態に応じて変動しない。これにより、パチンコ機１０の設定状態の影響を低確率モードにおける状況に制限することが可能となる。また、大当たり結果の種類を振り分ける場合に参照される振分テーブル６４ｈをパチンコ機１０の設定状態のいずれであっても共通のものとすることが可能となるため、主側ＲＯＭ６４において振分テーブル６４ｈを予め記憶するための記憶容量の増大化を抑制することが可能となる。

【０３８１】

パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたとしても履歴用メモリ１１７に記憶されている履歴情報が消去されずに記憶保持される。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたとしてもそれまでの履歴情報を履歴用メモリ１１７に継続して記憶させておくことが可能となり、長期間に亘って履歴用メモリ１１７に累積された履歴情報を利用して遊技履歴の管理結果を特定することが可能となる。

【０３８２】

パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたとしても履歴用メモリ１１７に記憶されている履歴情報が消去されずに記憶保持されている構成において、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合にはそれに対応する履歴情報が履歴用メモリ１１７に記憶される。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われる前の履歴情報と行われた後の履歴情報とを区別することが可能となる。

【０３８３】

パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われることで履歴用メモリ１１７にそれに対応する履歴情報が記憶される場合、その設定値に対応する情報が当該履歴情報に含まれる。これにより、履歴情報を参照することにより過去に設定された設定値の内容を特定することが可能となる。

【０３８４】

設定値更新処理（図１０）が開始された場合、予め定められた開始対応の設定値から設定値の変更が行われる。これにより、設定値更新処理（図１０）が開始される前における使用対象の設定値に関係なく、設定値更新処理（図１０）においては一定の開始対応の設定値から当該設定値の変更操作を行うことが可能となる。よって、設定値の変更操作の作業内容が作業者にとって分かり易いものとなる。

【０３８５】

上記開始対応の設定値は具体的には有利度が最も低い「設定１」となっている。したがって、設定値更新処理（図１０）が開始された場合には有利度が最も低い「設定１」から設定値の変更が行われる。これにより、遊技ホールの管理者が設定値更新処理（図１０）の開始直後に意図せずに当該設定値更新処理（図１０）を終了させてしまったとしても有利度が最も低い設定値となるため、このような状況において遊技ホールに意図しない不利益が生じてしまわないようにすることが可能となる。

【０３８６】

なお、演算タイミングとなることで各種パラメータを演算する場合、履歴用メモリ１１７においてパチンコ機１０の設定状態の新たな設定に対応する履歴情報を基準として、それよりも後に記憶された履歴情報を利用して各種パラメータを演算する構成としてもよい。この場合、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた後のタイミングにおける遊技履歴の管理結果を各種パラメータとして導出することが可能となる。

【０３８７】

また、演算タイミングとなることで各種パラメータを演算する場合、履歴用メモリ１１７においてパチンコ機１０の設定状態の新たな設定に対応する履歴情報であって設定値の変更に対応する履歴情報を基準として、それよりも後に記憶された履歴情報を利用して各

種パラメータを演算する構成としてもよい。この場合、パチンコ機１０の設定状態が変更された後のタイミングにおける遊技履歴の管理結果を各種パラメータとして導出することが可能となる。

【０３８８】

また、主制御装置６０の基板ボックス６０ａに読み取り用端子６８ｄを露出させるための開口部が設けられている構成としたが、当該開口部が設けられておらず読み取り用端子６９ｄが対向壁部６０ｂにより覆われている構成としてもよい。この場合、読み取り用端子６８ｄに外部装置を接続するためには基板ボックス６０ａを開放させる必要が生じる。

【０３８９】

＜第２の実施形態＞

本実施形態ではパチンコ機１０の設定状態に対応する当否テーブルの内容が上記第１の実施形態と相違している。以下、上記第１の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０３９０】

図３３は本実施形態における主側ＲＯＭ６４に記憶されている各種テーブルを説明するための説明図である。

【０３９１】

図３３に示すように主側ＲＯＭ６４には設定１用エリア１６１と、設定２用エリア１６２と、設定３用エリア１６３と、設定４用エリア１６４と、設定５用エリア１６５と、設定６用エリア１６６と、が設けられている。設定１用エリア１６１には、パチンコ機１０の設定状態が「設定１」であって当否抽選モードが低確率モードである場合に参照される設定１用の低確当否テーブル１６１ａと、パチンコ機１０の設定状態が「設定１」であって当否抽選モードが高確率モードである場合に参照される設定１用の高確当否テーブル１６１ｂと、が記憶されている。設定２用エリア１６２には、パチンコ機１０の設定状態が「設定２」であって当否抽選モードが低確率モードである場合に参照される設定２用の低確当否テーブル１６２ａと、パチンコ機１０の設定状態が「設定２」であって当否抽選モードが高確率モードである場合に参照される設定２用の高確当否テーブル１６２ｂと、が記憶されている。設定３用エリア１６３には、パチンコ機１０の設定状態が「設定３」であって当否抽選モードが低確率モードである場合に参照される設定３用の低確当否テーブル１６３ａと、パチンコ機１０の設定状態が「設定３」であって当否抽選モードが高確率モードである場合に参照される設定３用の高確当否テーブル１６３ｂと、が記憶されている。

【０３９２】

設定４用エリア１６４には、パチンコ機１０の設定状態が「設定４」であって当否抽選モードが低確率モードである場合に参照される設定４用の低確当否テーブル１６４ａと、パチンコ機１０の設定状態が「設定４」であって当否抽選モードが高確率モードである場合に参照される設定４用の高確当否テーブル１６４ｂと、が記憶されている。設定５用エリア１６５には、パチンコ機１０の設定状態が「設定５」であって当否抽選モードが低確率モードである場合に参照される設定５用の低確当否テーブル１６５ａと、パチンコ機１０の設定状態が「設定５」であって当否抽選モードが高確率モードである場合に参照される設定５用の高確当否テーブル１６５ｂと、が記憶されている。設定６用エリア１６６には、パチンコ機１０の設定状態が「設定６」であって当否抽選モードが低確率モードである場合に参照される設定６用の低確当否テーブル１６６ａと、パチンコ機１０の設定状態が「設定６」であって当否抽選モードが高確率モードである場合に参照される設定６用の高確当否テーブル１６６ｂと、が記憶されている。

【０３９３】

低確当否テーブル１６１ａ～１６６ａのそれぞれに設定されている大当たり結果の当選確率は相互に異なっている。具体的には、設定１用の低確当否テーブル１６１ａが参照された場合には約１／３２０で大当たり結果となり、設定２用の低確当否テーブル１６２ａが参照された場合には約１／３１０で大当たり結果となり、設定３用の低確当否テーブル

１６３ａが参照された場合には約１／３００で大当たり結果となり、設定４用の低確当否テーブル１６４ａが参照された場合には約１／２９０で大当たり結果となり、設定５用の低確当否テーブル１６５ａが参照された場合には約１／２８０で大当たり結果となり、設定６用の低確当否テーブル１６６ａが参照された場合には約１／２７０で大当たり結果となる。これにより、パチンコ機１０の設定状態が高い設定値である方が低確率モードにおいて大当たり結果が発生し易くなり、遊技者にとって有利となる。

【０３９４】

高確当否テーブル１６１ｂ～１６６ｂのそれぞれに設定されている大当たり結果の当選確率は相互に異なっている。具体的には、設定１用の高確当否テーブル１６１ｂが参照された場合には約１／４５で大当たり結果となり、設定２用の高確当否テーブル１６２ｂが参照された場合には約１／４０で大当たり結果となり、設定３用の高確当否テーブル１６３ｂが参照された場合には約１／３５で大当たり結果となり、設定４用の高確当否テーブル１６４ｂが参照された場合には約１／３０で大当たり結果となり、設定５用の高確当否テーブル１６５ｂが参照された場合には約１／２５で大当たり結果となり、設定６用の高確当否テーブル１６６ｂが参照された場合には約１／２０で大当たり結果となる。これにより、パチンコ機１０の設定状態が高い設定値である方が高確率モードにおいて大当たり結果が発生し易くなり、遊技者にとって有利となる。

【０３９５】

つまり、上記第１の実施形態では低確率モードにおける大当たり結果の当選確率はパチンコ機１０の設定状態が高い設定値であるほど高くなる一方、高確率モードにおける大当たり結果の当選確率は「設定１」～「設定６」のいずれの設定状態であっても共通となる構成としたが、本実施形態では低確率モードにおける大当たり結果の当選確率及び高確率モードにおける大当たり結果の当選確率の両方が、パチンコ機１０の設定状態が高い設定値であるほど高くなる構成となっている。これにより、高い設定値が設定されていることに対する遊技者の有利度を高めることが可能となる。

【０３９６】

また、最も高い設定状態である「設定６」の場合における低確率モードの大当たり結果の当選確率であっても、最も低い設定状態である「設定１」の場合における高確率モードの大当たり結果の当選確率よりも低く設定されている。これにより、パチンコ機１０の設定状態が「設定１」である場合の遊技者の有利度が極端に低くなってしまわないようにすることが可能となるとともに、パチンコ機１０の設定状態が「設定６」である場合の遊技者の有利度が極端に高くなってしまわないようにすることが可能となる。

【０３９７】

一方、振分テーブル６４ｈは上記第１の実施形態と同様に、「設定１」～「設定６」のいずれの設定状態であっても共通となるように１種類のみ設けられている。これにより、大当たり結果の振分態様についてパチンコ機１０の設定状態による有利又は不利が生じないようにすることが可能となるとともに、振分テーブル６４ｈを主側ＲＯＭ６４にて予め記憶するための記憶容量を抑えることが可能となる。

【０３９８】

なお、低確率モードにおける大当たり結果の当選確率についてはパチンコ機１０の設定状態が高い設定値である方が高くなる一方、高確率モードにおける大当たり結果の当選確率についてはパチンコ機１０の設定状態が高い設定値である方が低くなる構成としてもよい。この場合、低確率モードにおいてはパチンコ機１０の設定状態が高い設定値ほど遊技者にとって有利となり、高確率モードにおいてはパチンコ機１０の設定状態が低い設定値ほど遊技者にとって有利となるようにすることが可能となる。

【０３９９】

また、高確率モードにおける大当たり結果の当選確率についてはパチンコ機１０の設定状態が高い設定値である方が高くなる一方、低確率モードにおける大当たり結果の当選確率については「設定１」～「設定６」の設定状態において一定である構成としてもよい。この場合、高確率モードにおいてはパチンコ機１０の設定状態が高い設定値ほど遊技者に

とって有利となり、低確率モードにおいてはパチンコ機１０の設定状態による有利又は不利が生じないようにすることが可能となる。

【０４００】

＜第３の実施形態＞

本実施形態ではパチンコ機１０の設定状態が新たに設定された場合における遊技履歴の管理結果の扱いが上記第１の実施形態と相違している。以下、上記第１の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０４０１】

管理用ＩＣ６６には情報を記憶するためのメモリとして上記第１の実施形態における各メモリに加えて別保存用メモリ１７１が設けられている。図３４は別保存用メモリ１７１を説明するための説明図である。別保存用メモリ１７１は、ＮＯＲ型フラッシュメモリ及びＮＡＮＤ型フラッシュメモリなどの記憶保持に外部からの電力供給が不要なメモリ（すなわち、不揮発性記憶手段）であり、読み書き両用として利用される。

【０４０２】

別保存用メモリ１７１には第１別保存エリア１７２、第２別保存エリア１７３、第３別保存エリア１７４、第４別保存エリア１７５及び第５別保存エリア１７６が設けられている。これら第１～第５別保存エリア１７２～１７６にはパチンコ機１０の設定状態が新たに設定された場合に算出された遊技履歴の管理結果の情報、より具体的には上記第１の実施形態で説明した各種パラメータ（第１～第８パラメータ、第１１～第１８パラメータ、第２１～第２６パラメータ、第３１パラメータ、第４１～第４２パラメータ）が順次記憶される。この場合、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定された場合、まず第１別保存エリア１７２に各種パラメータが記憶され、その後はパチンコ機１０の設定状態が新たに設定される毎に第ｎ別保存エリア１７２～１７６→第ｎ＋１別保存エリア１７２～１７６となるように記憶対象となるエリアが切り換えられる。そして、第５別保存エリア１７６に各種パラメータが記憶された後にパチンコ機１０の設定状態が新たに設定された場合には第１別保存エリア１７２に各種パラメータが再度記憶される。この際、既に第１別保存エリア１７２に記憶されていた各種パラメータは消去される。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が５回実行されるまでにおける各種パラメータが別保存用メモリ１７１に記憶されることとなり、５回を超える分については最も古い各種パラメータを消去することで記憶される。

【０４０３】

第１～第５別保存エリア１７２～１７６に記憶された各種パラメータは、読み取り用端子６８ｄに外部装置を接続することにより当該外部装置にて読み取ることが可能である。これにより、パチンコ機１０において設定状態の新たな設定が行われる前における遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【０４０４】

次に、管理側ＣＰＵ１１２にて実行される本実施形態における設定更新認識用処理について図３５のフローチャートを参照しながら説明する。

【０４０５】

入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏに入力されている設定値更新信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わった場合（ステップＳ１８０１：ＹＥＳ）、管理側ＲＡＭ１１４の設定値把握カウンタの値を「１」に設定する（ステップＳ１８０２）。設定値把握カウンタはパチンコ機１０の設定値を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのカウンタであり、例えば設定値把握カウンタの値が「１」であれば「設定１」であることを意味し、設定値把握カウンタの値が「６」であれば「設定６」であることを意味する。

【０４０６】

その後、入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏに入力されている設定値更新信号が再度ＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったか否かを判定する（ステップＳ１８０３）。ステップＳ１８０３にて肯定判定をした場合、管理側ＲＡＭ１１４の設定値把握カ

ウンタの値を１加算する（ステップＳ１８０４）。これにより、管理側ＣＰＵ１１２において特定しているパチンコ機１０の設定値が１段階上昇することとなる。

【０４０７】

ステップＳ１８０３にて否定判定をした場合、又はステップＳ１８０４の処理を実行した場合、入力ポート１２１の第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈに入力されている第１～第８信号の入力状態に基づいて、主側ＣＰＵ６３から設定値識別終了コマンドを受信したか否かを判定する（ステップＳ１８０５）。ステップＳ１８０５にて否定判定をした場合、ステップＳ１８０３の処理に戻る。

【０４０８】

ステップＳ１８０５にて肯定判定をした場合、繰り返し変更の監視処理を実行する（ステップＳ１８０６）。繰り返し変更の監視処理では詳細は後述するが、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し発生した場合にそれを報知するための処理を実行する。パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われる度に各種パラメータが別保存用メモリ１７１に記憶される構成においては、所定期間に亘って遊技が行われた場合における遊技履歴の管理結果を意図的に消去させるべくパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われることが想定される。これに対して、繰り返し変更の監視処理が実行されることで、このような行為が行われた場合にはそれに対応する報知が実行されることとなる。

【０４０９】

その後、各種演算処理を実行する（ステップＳ１８０７）。各種演算処理では上記第１の実施形態における表示出力処理（図３０）のステップＳ１４０２～ステップＳ１４１２の処理を実行する。これにより、その時点における履歴用メモリ１１７に記憶された履歴情報を利用して各種パラメータ（第１～第８パラメータ、第１１～第１８パラメータ、第２１～第２６パラメータ、第３１パラメータ及び第４１～第４２パラメータ）が算出される。

【０４１０】

その後、ステップＳ１８０７にて算出した各種パラメータを別保存用メモリ１７１の第１～第５別保存エリア１７２～１７６のうち今回の記憶対象となっているエリアに記憶させる（ステップＳ１８０８）。別保存用メモリ１７１には第１～第５別保存エリア１７２～１７６のうち記憶対象となるエリアを管理側ＣＰＵ１１２にて特定可能とするためのポインタ情報エリアが設定されている。当該ポインタ情報エリアの情報は、第１～第５別保存エリア１７２～１７６のうち記憶対象となっているエリアに各種パラメータが記憶された場合に次の順番のエリアに記憶対象が変更されるように更新される。ステップＳ１８０８の処理が実行されることにより、今回のパチンコ機１０の設定状態の新たな設定に対してその時点における各種パラメータが別保存用メモリ１７１に記憶されることとなる。

【０４１１】

その後、履歴用メモリ１１７を「０」クリアする（ステップＳ１８０９）。つまり、本実施形態では読み取り用端子６８ｄに接続された外部装置にて履歴情報の読み取りが行われた場合だけではなく、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定された場合にも、履歴用メモリ１１７の履歴情報が消去される。

【０４１２】

その後、ＲＴＣ１１５から年月日情報及び時刻情報であるＲＴＣ情報を読み出す（ステップＳ１８１０）。そして、履歴用メモリ１１７への書き込み処理を実行する（ステップＳ１８１１）。当該書き込み処理では、履歴用メモリ１１７のポインタ用エリア１２６を参照することで現状の書き込み対象となっている履歴用エリア１２４のポインタ情報を特定し、その書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴用エリア１２４の履歴情報格納エリア１２５に、ステップＳ１８１０にて読み出したＲＴＣ情報を書き込む。また、設定値であることを識別するための情報及び設定値把握カウンタの値の情報の両方を上記書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に書き込む。これにより、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定されたことを示す情報と、当

該設定が行われた日時に対応するＲＴＣ情報と、当該設定が行われた場合の設定値の情報と、の組合せが履歴情報として記憶された状態となる。

【０４１３】

その後、対象ポインタの更新処理を実行する（ステップＳ１８１２）。当該更新処理では、履歴用メモリ１１７のポインタ用エリア１２６に格納されている数値情報を読み出し１加算する。その１加算後におけるポインタ情報が履歴用エリア１２４におけるポインタ情報の最大値を超えたか否かを判定する。最大値を超えていない場合には１加算後におけるポインタ情報を新たな書き込み対象のポインタ情報としてポインタ用エリア１２６に上書きする。最大値を超えている場合には書き込み対象のポインタ情報が最初のポインタ情報となるようにポインタ用エリア１２６を「０」クリアする。

【０４１４】

次に、ステップＳ１８０６にて実行される繰り返し変更の監視処理について、図３６のフローチャートを参照しながら説明する。

【０４１５】

まずパチンコ機１０の設定状態が前回設定されてから実行された遊技回の回数が基準回数（具体的には１００回）以内であるか否かを判定する（ステップＳ１９０１）。具体的には、履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において遊技回の開始であることを示す対応関係情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の数をカウントすることで、パチンコ機１０の設定状態が前回設定されてから実行された遊技回の回数を把握し、さらにその把握した遊技回の回数が基準回数（具体的には１００回）以内であるか否かを判定する。

【０４１６】

ステップＳ１９０１にて肯定判定をした場合、別保存用メモリ１７１に設けられた繰り返し変更カウンタの値を１加算する（ステップＳ１９０２）。別保存用メモリ１７１は既に説明したとおり記憶保持に外部からの電力供給が不要なメモリであるため、繰り返し変更カウンタの値についても記憶保持に外部からの電力供給が不要となっている。

【０４１７】

その後、１加算後における繰り返し変更カウンタの値が報知基準値である「５」を超えているか否かを判定する（ステップＳ１９０３）。報知基準値は別保存用メモリ１７１に設けられた第１～第５別保存エリア１７２～１７６の数に対応している。したがって、ステップＳ１９０３では、基準回数を超える遊技回の実行を間に挟むことなくパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が繰り返された回数が第１～第５別保存エリア１７２～１７６の数を超えたか否かを判定している。

【０４１８】

ステップＳ１９０３にて肯定判定をした場合、繰り返し変更の表示処理を実行する（ステップＳ１９０４）。繰り返し変更の表示処理では第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの表示内容を、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間において報知基準値を超える回数繰り返されたことに対応する繰り返し変更の表示内容とする。当該繰り返し変更の表示内容は、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの全てにおいて「Ｅ」を表示する表示内容となっており、この表示内容は他の状況においては発生しない。また、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおいて繰り返し変更の表示内容が表示された状態は、別保存用メモリ１７１に設けられた繰り返し変更フラグが「０」クリアされるまで継続される。繰り返し変更フラグは第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおいて繰り返し変更の表示内容を表示させるべき状況であることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのフラグである。また、繰り返し変更フラグに「１」がセットされており第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにて繰り返し変更の表示内容が表示されている場合、上記第１の実施形態における表示用処理（図３１）は実行されない。その後、別保存用メモリ１７１の繰り返し変更フラグに「１」をセットする（ステップＳ１９０５）。

【０４１９】

ステップＳ１９０１にて否定判定をした場合、別保存用メモリ１７１の繰り返し変更カ

ウンタの値を「０」クリアする（ステップＳ１９０６）。その後、別保存用メモリ１７１の繰り返し変更フラグに「１」がセットされていることを条件として（ステップＳ１９０７：ＹＥＳ）、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおける繰り返し変更の表示内容の表示を終了させ（ステップＳ１９０８）、繰り返し変更フラグを「０」クリアする（ステップＳ１９０９）。

【０４２０】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【０４２１】

パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合には履歴用メモリ１１７に記憶されている履歴情報が消去される。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた後に実行された遊技による履歴情報を履歴用メモリ１１７に残すことが可能となる。

【０４２２】

パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合にはその時点における履歴用メモリ１１７の履歴情報を利用して遊技履歴の管理結果として各種パラメータが算出される。これにより、パチンコ機１０において設定状態の新たな設定が行われる前の状況における遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合に履歴用メモリ１１７の履歴情報が消去されるとしても、当該消去対象となる履歴情報による遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【０４２３】

パチンコ機１０において設定状態の新たな設定が行われた場合にその時点における履歴用メモリ１１７の履歴情報を利用して各種パラメータが算出される構成において、この算出された各種パラメータは別保存用メモリ１７１に記憶される。これにより、パチンコ機１０において設定状態の新たな設定が行われたとしても、その後の任意のタイミングで当該設定が行われる前の状況における遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【０４２４】

別保存用メモリ１７１に複数の別保存エリア１７２～１７６が設けられていることにより、複数回分の設定状態の設定タイミングに対応する各種パラメータを記憶することが可能となる。これにより、設定状態の新たな設定が行われたタイミングを基準として、複数の期間における遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、遊技が行われない状況下においてパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が繰り返されたとしても、実質的に遊技が行われている状況の履歴情報を利用して算出された各種パラメータが別保存用メモリ１７１に残っている可能性を高めることが可能となる。

【０４２５】

第１～第５別保存エリア１７２～１７６に記憶された各種パラメータは、読み取り用端子６８ｄに外部装置を接続することにより当該外部装置にて読み取ることが可能である。これにより、パチンコ機１０において設定状態の新たな設定が行われる前における遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【０４２６】

パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われる度に各種パラメータが別保存用メモリ１７１に記憶される構成においては、所定期間に亘って遊技が行われた場合における遊技履歴の管理結果を意図的に消去させるべくパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われることが想定される。これに対して、繰り返し変更の監視処理が実行されることで、このような行為が行われた場合にはそれに対応する報知が実行されることとなる。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われたことを管理者などに報知することが可能となる。

【０４２７】

パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われたことの報知は第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにて行われる。これにより、遊技履歴の管理結果を報知するための第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃを利用して、パチンコ機１０の

設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われたことの報知を行うことが可能となる。
【０４２８】
パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われたことの報知を行うべき状況においては、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃでは繰り返し変更の表示内容が表示され続け、通常時の遊技履歴の管理結果の報知は第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにて行われない。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われたことの報知を強調することが可能となる。
【０４２９】
なお、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから実行された遊技回の回数が基準回数以内である状況で当該新たな設定が行われる事象が報知基準値を超えて連続した場合にそれに対応する報知が実行される構成としたが、これに限定されることはなく、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから遊技領域ＰＡから排出された遊技球の総排出個数が基準個数以内である状況で当該新たな設定が行われる事象が報知基準値を超えて連続した場合にそれに対応する報知が実行される構成としてもよい。また、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから所定の入球部（例えばアウト口２４ａ、一般入賞口３１、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれか又は所定の組合せ）に入球した遊技球の総排出個数が基準個数以内である状況で当該新たな設定が行われる事象が報知基準値を超えて連続した場合にそれに対応する報知が実行される構成としてもよい。また、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから履歴用メモリ１１７に新たに記憶された履歴情報の合計個数が基準個数以内である状況で当該新たな設定が行われる事象が報知基準値を超えて連続した場合にそれに対応する報知が実行される構成としてもよい。
【０４３０】
また、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が監視基準期間（例えば６００秒）内に報知基準値を超えて実行された場合に、それに対応する報知が実行される構成としてもよい。
【０４３１】
また、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから実行された遊技回の回数が基準回数以内である状況で当該新たな設定が行われる事象が報知基準値を超えて連続した場合にそれに対応する報知が実行される構成としたが、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから実行された遊技回の回数が基準回数以内である状況で設定値が変更された事象が報知基準値を超えて連続した場合にそれに対応する報知が実行される構成としてもよい。
【０４３２】
また、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから実行された遊技回の回数が基準回数以内である状況で当該新たな設定が行われる事象が報知基準値を超えて連続した場合にそれに対応する報知が実行される構成としたが、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから実行された遊技回の回数が基準回数以内である状況で当該新たな設定を契機とした各種パラメータが演算される事象が報知基準値を超えて連続した場合にそれに対応する報知が実行される構成としてもよい。
【０４３３】
また、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから実行された遊技回の回数が基準回数以内である状況で当該新たな設定が行われる事象が報知基準値を超えて連続した場合にそれに対応する報知が実行される構成としたが、それに加えて又は代えて、遊技の進行が所定期間（例えば１時間）に亘って制限される構成としてもよい。
【０４３４】
＜第４の実施形態＞
本実施形態では繰り返し変更の監視処理が主側ＣＰＵ６３にて実行される点で上記第３の実施形態と相違している。以下、上記第３の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０４３５】
図３７は主側ＣＰＵ６３にて実行される繰り返し変更の監視処理を示すフローチャートである。なお、繰り返し変更の監視処理はメイン処理（図９）において設定値更新処理（ステップＳ１１８）が実行された場合に実行される。つまり、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定された場合に繰り返し変更の監視処理が実行される。但し、これに限定されることはなく設定値が変更された場合に繰り返し変更の監視処理が実行される構成としてもよい。
【０４３６】
まずパチンコ機１０の設定状態が前回設定されてから実行された遊技回の回数が基準回数（具体的には１００回）以内であるか否かを判定する（ステップＳ２００１）。主側ＲＡＭ６５にはパチンコ機１０の設定状態が新たに設定されてから実行された遊技回の回数を計測するための遊技回数カウンタが設けられており、主側ＣＰＵ６３は遊技回が新たに実行される度に遊技回数カウンタの値を１加算する。当該遊技回数カウンタは主側ＲＡＭ６５のクリア処理（ステップＳ１０５、ステップＳ１１７）が実行される場合であっても「０」クリアの対象から除外されている。
【０４３７】
ステップＳ２００１にて肯定判定をした場合、主側ＲＡＭ６５に設けられた繰り返し変更カウンタの値を１加算する（ステップＳ２００２）。当該繰り返し変更カウンタは主側ＲＡＭ６５のクリア処理（ステップＳ１０５、ステップＳ１１７）が実行される場合であっても「０」クリアの対象から除外されている。
【０４３８】
その後、１加算後における繰り返し変更カウンタの値が報知基準値である「５」を超えているか否かを判定する（ステップＳ２００３）。報知基準値は別保存用メモリ１７１に設けられた第１～第５別保存エリア１７２～１７６の数に対応している。したがって、ステップＳ２００３では、基準回数を超える遊技回の実行を間に挟むことなくパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が繰り返された回数が第１～第５別保存エリア１７２～１７６の数を超えたか否かを判定している。
【０４３９】
ステップＳ２００３にて肯定判定をした場合、主側ＲＡＭ６５に設けられた繰り返し変更フラグに「１」をセットする（ステップＳ２００４）。繰り返し変更フラグは繰り返し変更の報知を行うべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。当該繰り返し変更フラグは主側ＲＡＭ６５のクリア処理（ステップＳ１０５、ステップＳ１１７）が実行される場合であっても「０」クリアの対象から除外されている。
【０４４０】
ステップＳ２００１にて否定判定をした場合、主側ＲＡＭ６５の繰り返し変更カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳ２００５）。その後、主側ＲＡＭ６５の繰り返し変更フラグに「１」がセットされていることを条件として（ステップＳ２００６：ＹＥＳ）、繰り返し変更フラグを「０」クリアする（ステップＳ２００７）。
【０４４１】
繰り返し変更の監視処理では、主側ＲＡＭ６５の繰り返し変更フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳ２００８：ＹＥＳ）、繰り返し変更の報知コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ２００９）。音声発光制御装置８１は繰り返し変更の報知コマンドを受信した場合、図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４において繰り返し変更の報知が行われるようにする。当該繰り返し変更の報知は音声発光制御装置８１への動作電力の供給が停止されるまで継続される。
【０４４２】
上記構成によれば、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われたことの報知を主側ＣＰＵ６３による制御に基づき行うことが可能となる。また、当該報知が図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて行われるため、外枠１１に対して遊技機本体１２を前方に開放させなくても、パチンコ機１０の設定状態の新たな

設定が短期間で繰り返し行われたことを管理者に認識させることが可能となる。
【０４４３】
なお、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われた場合には繰り返し変更の報知コマンドが主側ＣＰＵ６３から音声発光制御装置８１に送信される構成に加えて又は代えて、それに対応する外部出力が行われる構成としてもよい。
【０４４４】
また、主側ＣＰＵ６３において本実施形態における繰り返し変更の監視処理が実行されるとともに、管理側ＣＰＵ１１２において上記第３の実施形態における繰り返し変更の監視処理が実行される構成としてもよい。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われるか否かの監視を厳重に行うことが可能となる。
【０４４５】
＜第５の実施形態＞
本実施形態では管理側ＣＰＵ１１２における設定更新認識用処理の処理構成が上記第３の実施形態と相違している。以下、上記第３の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【０４４６】
図３８は管理側ＣＰＵ１１２にて実行される本実施形態における設定更新認識用処理を示すフローチャートである。
【０４４７】
入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏに入力されている設定値更新信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わった場合（ステップＳ２１０１：ＹＥＳ）、管理側ＲＡＭ１１４の設定値把握カウンタの値を「１」に設定する（ステップＳ２１０２）。設定値把握カウンタはパチンコ機１０の設定値を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのカウンタであり、例えば設定値把握カウンタの値が「１」であれば「設定１」であることを意味し、設定値把握カウンタの値が「６」であれば「設定６」であることを意味する。
【０４４８】
その後、入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏに入力されている設定値更新信号が再度ＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったか否かを判定する（ステップＳ２１０３）。ステップＳ２１０３にて肯定判定をした場合、管理側ＲＡＭ１１４の設定値把握カウンタの値を１加算する（ステップＳ２１０４）。これにより、管理側ＣＰＵ１１２において特定しているパチンコ機１０の設定値が１段階上昇することとなる。
【０４４９】
ステップＳ２１０３にて否定判定をした場合、又はステップＳ２１０４の処理を実行した場合、入力ポート１２１の第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈに入力されている第１～第８信号の入力状態に基づいて、主側ＣＰＵ６３から設定値識別終了コマンドを受信したか否かを判定する（ステップＳ２１０５）。ステップＳ２１０５にて否定判定をした場合、ステップＳ２１０３の処理に戻る。
【０４５０】
ステップＳ２１０５にて肯定判定をした場合、履歴用メモリ１１７に所定数以上の所定の履歴情報が存在しているか否かを判定する（ステップＳ２１０６）。具体的には、履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４において遊技回の開始であることを示す対応関係情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の数をカウントすることで、パチンコ機１０の設定状態が前回設定されてから実行された遊技回の回数を把握し、さらにその把握した遊技回の回数が基準回数（具体的には１００回）を超えているか否かを判定する。但し、これに限定されることはなく、遊技領域ＰＡから遊技球が排出されたことを示す対応関係情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の数が基準数（具体的には１０００個）を超えているか否かをステップＳ２１０６にて判定する構成としてもよい。また、所定の入球部（例えばアウト口２４ａ、一般入賞口３１、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれか又は所定の組合せ）に遊技球が入球したことを示す対応関係情報が格納されている履歴情報格納エリア１２５の数が基準数（具体的には１０００個）を超えているか否

かをステップＳ２１０６にて判定する構成としてもよい。また、履歴用メモリ１１７に記憶されている履歴情報の総数基準数（具体的には１０００個）を超えているか否かをステップＳ２１０６にて判定する構成としてもよい。

【０４５１】

なお、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから実行された遊技回の回数が基準回数以内である状況で当該新たな設定が行われる事象が報知基準値を超えて連続した場合にそれに対応する報知が実行される構成としたが、これに限定されることはなく、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから遊技領域ＰＡから排出された遊技球の総排出個数が基準個数以内である状況で当該新たな設定が行われる事象が報知基準値を超えて連続した場合にそれに対応する報知が実行される構成としてもよい。また、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから所定の入球部（例えばアウト口２４ａ、一般入賞口３１、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれか又は所定の組合せ）に入球した遊技球の総排出個数が基準個数以内である状況で当該新たな設定が行われる事象が報知基準値を超えて連続した場合にそれに対応する報知が実行される構成としてもよい。また、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから履歴用メモリ１１７に新たに記憶された履歴情報の合計個数が基準個数以内である状況で当該新たな設定が行われる事象が報知基準値を超えて連続した場合にそれに対応する報知が実行される構成としてもよい。

【０４５２】

ステップＳ２１０６にて肯定判定をした場合、各種演算処理を実行する（ステップＳ２１０７）。各種演算処理では上記第１の実施形態における表示出力処理（図３０）のステップＳ１４０２～ステップＳ１４１２の処理を実行する。これにより、その時点における履歴用メモリ１１７に記憶された履歴情報を利用して各種パラメータ（第１～第８パラメータ、第１１～第１８パラメータ、第２１～第２６パラメータ、第３１パラメータ及び第４１～第４２パラメータ）が算出される。

【０４５３】

その後、ステップＳ２１０７にて算出した各種パラメータを別保存用メモリ１７１の第１～第５別保存エリア１７２～１７６のうち今回の記憶対象となっているエリアに記憶させる（ステップＳ２１０８）。別保存用メモリ１７１には第１～第５別保存エリア１７２～１７６のうち記憶対象となるエリアを管理側ＣＰＵ１１２にて特定可能とするためのポインタ情報エリアが設定されている。当該ポインタ情報エリアの情報は、第１～第５別保存エリア１７２～１７６のうち記憶対象となっているエリアに各種パラメータが記憶された場合に次の順番のエリアに記憶対象が変更されるように更新される。ステップＳ２１０８の処理が実行されることにより、今回のパチンコ機１０の設定状態の新たな設定に対してその時点における各種パラメータが別保存用メモリ１７１に記憶されることとなる。

【０４５４】

ステップＳ２１０６にて否定判定をした場合、又はステップＳ２１０８の処理を実行した場合、履歴用メモリ１１７を「０」クリアする（ステップＳ２１０９）。つまり、本実施形態では読み取り用端子６８ｄに接続された外部装置にて履歴情報の読み取りが行われた場合だけではなく、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定された場合にも、履歴用メモリ１１７の履歴情報が消去される。

【０４５５】

その後、ＲＴＣ１１５から年月日情報及び時刻情報であるＲＴＣ情報を読み出す（ステップＳ２１１０）。そして、履歴用メモリ１１７への書き込み処理を実行する（ステップＳ２１１１）。当該書き込み処理では、履歴用メモリ１１７のポインタ用エリア１２６を参照することで現状の書き込み対象となっている履歴用エリア１２４のポインタ情報を特定し、その書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴用エリア１２４の履歴情報格納エリア１２５に、ステップＳ２１１０にて読み出したＲＴＣ情報を書き込む。また、設定値であることを識別するための情報及び設定値把握カウンタの値の情報の両方を上記書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に書き

込む。これにより、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定されたことを示す情報と、当該設定が行われた日時に対応するＲＴＣ情報と、当該設定が行われた場合の設定値の情報と、の組合せが履歴情報として記憶された状態となる。

【０４５６】

その後、対象ポインタの更新処理を実行する（ステップＳ２１１２）。当該更新処理では、履歴用メモリ１１７のポインタ用エリア１２６に格納されている数値情報を読み出し１加算する。その１加算後におけるポインタ情報が履歴用エリア１２４におけるポインタ情報の最大値を超えたか否かを判定する。最大値を超えていない場合には１加算後におけるポインタ情報を新たな書き込み対象のポインタ情報としてポインタ用エリア１２６に上書きする。最大値を超えている場合には書き込み対象のポインタ情報が最初のポインタ情報となるようにポインタ用エリア１２６を「０」クリアする。

【０４５７】

上記構成によれば、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定された場合、履歴用メモリ１１７に所定数以上の履歴情報が記憶されていることを条件として、当該履歴用メモリ１１７に記憶された履歴情報を利用して各種パラメータが算出されるとともに当該各種パラメータが別保存用メモリ１７１に記憶される。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われたとしても、別保存用メモリ１７１には実質的に遊技が行われた結果としての遊技履歴の管理結果の情報が格納されるようにすることが可能となる。

【０４５８】

なお、ステップＳ２１０９の処理がステップＳ２１０７及びステップＳ２１０８の処理が実行されたことを条件として実行される構成としてもよい。つまり、履歴用メモリ１１７に所定数以上の履歴情報が記憶されていることを条件として、履歴用メモリ１１７に記憶された履歴情報が消去される。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われたとしても、履歴用メモリ１１７の履歴情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。

【０４５９】

＜第６の実施形態＞

本実施形態では履歴用メモリ１１７の構成が上記第１の実施形態と相違している。以下、上記第１の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０４６０】

図３９は本実施形態における履歴用メモリ１１７の構成を説明するための説明図である。

【０４６１】

履歴用メモリ１１７には、合計用エリア１４１と、第１状態用エリア１４２と、第２状態用エリア１４３と、第３状態用エリア１４４と、が設けられている。これら各エリア１４１～１４４のそれぞれには、第１～第１４カウンタ１４１ａ～１４１ｎ，１４２ａ～１４２ｎ，１４３ａ～１４３ｎ，１４４ａ～１４４ｎが設けられている。各エリア１４１～１４４の第１カウンタ１４１ａ～１４４ａには第１バッファ１２２ａに入力される第１信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。各エリア１４１～１４４の第２カウンタ１４１ｂ～１４４ｂには第２バッファ１２２ｂに入力される第２信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。各エリア１４１～１４４の第３カウンタ１４１ｃ～１４４ｃには第３バッファ１２２ｃに入力される第３信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。各エリア１４１～１４４の第４カウンタ１４１ｄ～１４４ｄには第４バッファ１２２ｄに入力される第４信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。各エリア１４１～１４４の第５カウンタ１４１ｅ～１４４ｅには第５バッファ１２２ｅに入力される第５信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。各エリア１４１～１４４の第６カウンタ

１４１ｆ～１４４ｆには第６バッファ１２２ｆに入力される第６信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。各エリア１４１～１４４の第７カウンタ１４１ｇ～１４４ｇには第７バッファ１２２ｇに入力される第７信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。各エリア１４１～１４４の第８カウンタ１４１ｈ～１４４ｈには第８バッファ１２２ｈに入力される第８信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。各エリア１４１～１４４の第９カウンタ１４１ｉ～１４４ｉには第９バッファ１２２ｉに入力される第９信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。各エリア１４１～１４４の第１０カウンタ１４１ｊ～１４４ｊには第１０バッファ１２２ｊに入力される第１０信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。各エリア１４１～１４４の第１１カウンタ１４１ｋ～１４４ｋには第１１バッファ１２２ｋに入力される第１１信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。各エリア１４１～１４４の第１２カウンタ１４１ｌ～１４４ｌには第１２バッファ１２２ｌに入力される第１２信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。各エリア１４１～１４４の第１３カウンタ１４１ｍ～１４４ｍには第１３バッファ１２２ｍに入力される第１３信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。各エリア１４１～１４４の第１４カウンタ１４１ｎ～１４４ｎには第１４バッファ１２２ｎに入力される第１４信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更された回数の情報が記憶される。

【０４６２】

図４０は管理側ＣＰＵ１１２にて実行される本実施形態における履歴設定処理を示すフローチャートである。

【０４６３】

まず管理側ＲＡＭ１１４の確認対象カウンタに、第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎのうち管理側ＣＰＵ１１２において確認対象となるバッファの数をセットする（ステップＳ２２０１）。具体的には、対応関係用メモリ１１６における第１～第１４対応関係エリア１２３ａ～１２３ｎのうちブランクであることを示す情報以外の情報が格納されている対応関係エリアの数を特定し、その特定した数の情報を確認対象カウンタにセットする。本パチンコ機１０では第１～第１１対応関係エリア１２３ａ～１２３ｋにブランクであることを示す情報以外の情報が格納されているため、ステップＳ２２０１では確認対象カウンタに「１１」をセットする。

【０４６４】

その後、現状の確認対象カウンタに対応するバッファ１２２ａ～１２２ｎが状態情報の信号が入力されるバッファであるか否かを判定する（ステップＳ２２０２）。具体的には、現状の確認対象カウンタの値に対応する対応関係エリア１２３ａ～１２３ｎに、対応関係情報として、開閉実行モードであることを示す情報、高頻度サポートモードであることを示す情報、及び前扉枠１４であることを示す情報のいずれかが格納されているか否かを判定する。

【０４６５】

ステップＳ２２０２にて肯定判定をした場合、状態情報の設定処理を実行する（ステップＳ２２０３）。当該設定処理では、開閉実行モード中か否かを示す第８信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わった場合には開閉実行モード中であることを示す第１状態の情報を管理側ＲＡＭ１１４に記憶し、当該第８信号の出力状態がＨＩレベルからＬＯＷレベルに切り換わった場合には第１状態の情報を管理側ＲＡＭ１１４から消去する。また、高頻度サポートモード中か否かを示す第９信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わった場合には高頻度サポートモード中であることを示す第２状態の情報を管理側ＲＡＭ１１４に記憶し、当該第９信号の出力状態がＨＩレベルからＬＯＷレベルに切り換わった場合には第２状態の情報を管理側ＲＡＭ１１４から消去する。また、前扉枠１４が開放中か否かを示す第１０信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベル

に切り換わった場合には前扉枠１４が開放中であることを示す第３状態の情報を管理側ＲＡＭ１１４に記憶し、当該第１０信号の出力状態がＨＩレベルからＬＯＷレベルに切り換わった場合には第３状態の情報を管理側ＲＡＭ１１４から消去する。

【０４６６】

ステップＳ２２０２にて否定判定をした場合、又はステップＳ２２０３の処理を実行した場合、第１～第１４バッファ１２２ａ～１２２ｎのうち現状の確認対象カウンタの値に対応するバッファに格納されている数値情報が、「０」から「１」に変更されたか否かを確認することで、当該バッファへの主側ＣＰＵ６３からの入力信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換えられたか否かを判定する（ステップＳ２２０４）。なお、現状の確認対象カウンタの値が第８バッファ１２２ｈに対応する値である状況において第８バッファ１２２ｈに格納されている数値情報が「０」から「１」に変更された場合、ステップＳ２２０３にて第１状態の情報が管理側ＲＡＭ１１４に記憶されるとともに、ステップＳ２２０４にて肯定判定をする。また、現状の確認対象カウンタの値が第９バッファ１２２ｉに対応する値である状況において第９バッファ１２２ｉに格納されている数値情報が「０」から「１」に変更された場合、ステップＳ２２０３にて第２状態の情報が管理側ＲＡＭ１１４に記憶されるとともに、ステップＳ２２０４にて肯定判定をする。また、現状の確認対象カウンタの値が第１０バッファ１２２ｊに対応する値である状況において第１０バッファ１２２ｊに格納されている数値情報が「０」から「１」に変更された場合、ステップＳ２２０３にて第３状態の情報が管理側ＲＡＭ１１４に記憶されるとともに、ステップＳ２２０４にて肯定判定をする。

【０４６７】

ステップＳ２２０４にて肯定判定をした場合、対応する合計用のカウンタの加算処理を実行する（ステップＳ２２０５）。当該加算処理では、履歴用メモリ１１７の合計用エリア１４１における合計用の第１～第１４カウンタ１４１ａ～１４１ｎのうち現状の確認対象カウンタの値に対応するカウンタの値を１加算する。例えば、確認対象カウンタの値が「１１」であれば合計用の第１１カウンタ１４１ｋが加算対象となり、確認対象カウンタの値が「５」であれば合計用の第５カウンタ１４１ｅが加算対象となり、確認対象カウンタの値が「１」であれば合計用の第１カウンタ１４１ａが加算対象となる。

【０４６８】

その後、管理側ＲＡＭ１１４の状態情報を参照することで第１状態であるか否か、すなわち開閉実行モード中であるか否かを判定する（ステップＳ２２０６）。第１状態である場合には（ステップＳ２２０６：ＹＥＳ）、対応する第１状態用のカウンタの加算処理を実行する（ステップＳ２２０７）。当該加算処理では、履歴用メモリ１１７の第１状態用エリア１４２における第１状態用の第１～第１４カウンタ１４２ａ～１４２ｎのうち現状の確認対象カウンタの値に対応するカウンタの値を１加算する。例えば、確認対象カウンタの値が「１１」であれば第１状態用の第１１カウンタ１４２ｋが加算対象となり、確認対象カウンタの値が「５」であれば第１状態用の第５カウンタ１４２ｅが加算対象となり、確認対象カウンタの値が「１」であれば第１状態用の第１カウンタ１４２ａが加算対象となる。

【０４６９】

その後、管理側ＲＡＭ１１４の状態情報を参照することで第２状態であるか否か、すなわち高頻度サポートモード中であるか否かを判定する（ステップＳ２２０８）。第２状態である場合には（ステップＳ２２０８：ＹＥＳ）、対応する第２状態用のカウンタの加算処理を実行する（ステップＳ２２０９）。当該加算処理では、履歴用メモリ１１７の第２状態用エリア１４３における第２状態用の第１～第１４カウンタ１４３ａ～１４３ｎのうち現状の確認対象カウンタの値に対応するカウンタの値を１加算する。例えば、確認対象カウンタの値が「１１」であれば第２状態用の第１１カウンタ１４３ｋが加算対象となり、確認対象カウンタの値が「５」であれば第２状態用の第５カウンタ１４３ｅが加算対象となり、確認対象カウンタの値が「１」であれば第２状態用の第１カウンタ１４３ａが加算対象となる。

【０４７０】
その後、管理側ＲＡＭ１１４の状態情報を参照することで第３状態であるか否か、すなわち前扉枠１４が開放中であるか否かを判定する（ステップＳ２２１０）。第３状態である場合には（ステップＳ２２１０：ＹＥＳ）、対応する第３状態用のカウンタの加算処理を実行する（ステップＳ２２１１）。当該加算処理では、履歴用メモリ１１７の第３状態用エリア１４４における第３状態用の第１～第１４カウンタ１４４ａ～１４４ｎのうち現状の確認対象カウンタの値に対応するカウンタの値を１加算する。例えば、確認対象カウンタの値が「１１」であれば第３状態用の第１１カウンタ１４４ｋが加算対象となり、確認対象カウンタの値が「５」であれば第３状態用の第５カウンタ１４４ｅが加算対象となり、確認対象カウンタの値が「１」であれば第３状態用の第１カウンタ１４４ａが加算対象となる。
【０４７１】
ステップＳ２２０４にて否定判定をした場合、ステップＳ２２１０にて否定判定をした場合、又はステップＳ２２１１の処理を実行した場合、管理側ＲＡＭ１１４の確認対象カウンタの値を１減算する（ステップＳ２２１２）。そして、その１減算後における確認対象カウンタの値が「０」であるか否かを判定する（ステップＳ２２１３）。確認対象カウンタの値が１以上である場合には（ステップＳ２２１３：ＮＯ）、新たな確認対象カウンタの値に対応する確認対象について、ステップＳ２２０２以降の処理を実行する。
【０４７２】
上記のように履歴設定処理が実行されることにより、アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４への遊技球の入球回数、開閉実行モードの発生回数、高頻度サポートモードの発生回数、及び遊技回の発生回数が、上記第１の実施形態のような履歴情報として記憶されるのではなく回数情報として記憶される。これにより、各履歴情報を個別に記憶していく構成に比べて、履歴用メモリ１１７において必要な記憶容量を抑えることが可能となる。
【０４７３】
このように履歴情報ではなく回数情報として記憶される構成であることにより、各種パラメータの演算に際して履歴情報から回数情報を導出する処理を実行する必要が生じない。これにより、各種パラメータを演算するための処理負荷を軽減することが可能となる。
【０４７４】
次に、管理側ＣＰＵ１１２にて実行される本実施形態における設定更新認識用処理について、図４１のフローチャートを参照しながら説明する。
【０４７５】
入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏに入力されている設定値更新信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わった場合（ステップＳ２３０１：ＹＥＳ）、管理側ＲＡＭ１１４の設定値把握カウンタの値を「１」に設定する（ステップＳ２３０２）。設定値把握カウンタはパチンコ機１０の設定値を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのカウンタであり、例えば設定値把握カウンタの値が「１」であれば「設定１」であることを意味し、設定値把握カウンタの値が「６」であれば「設定６」であることを意味する。
【０４７６】
その後、入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏに入力されている設定値更新信号が再度ＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったか否かを判定する（ステップＳ２３０３）。ステップＳ２３０３にて肯定判定をした場合、管理側ＲＡＭ１１４の設定値把握カウンタの値を１加算する（ステップＳ２３０４）。これにより、管理側ＣＰＵ１１２において特定しているパチンコ機１０の設定値が１段階上昇することとなる。
【０４７７】
ステップＳ２３０３にて否定判定をした場合、又はステップＳ２３０４の処理を実行した場合、入力ポート１２１の第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈに入力されている第１～第８信号の入力状態に基づいて、主側ＣＰＵ６３から設定値識別終了コマンドを受信したか否かを判定する（ステップＳ２３０５）。ステップＳ２３０５にて否定判定をした

場合、ステップＳ２３０３の処理に戻る。
【０４７８】
ステップＳ２３０５にて肯定判定をした場合、履歴用メモリ１１７における合計用エリア１４１において遊技回の実行回数を計測している合計用の第１１カウンタ１４１ｋ、履歴用メモリ１１７における合計用エリア１４１において開閉実行モードの発生回数を計測している合計用の第８カウンタ１４１ｈ、及び履歴用メモリ１１７における合計用エリア１４１において高頻度サポートモードの発生回数を計測している合計用の第９カウンタ１４１ｉのそれぞれを「０」クリアする（ステップＳ２３０６～ステップＳ２３０８）。これにより、遊技回の実行回数、開閉実行モードの発生回数及び高頻度サポートモードの発生回数の各回数情報はパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたことを契機として「０」クリアされる。したがって、単位遊技回当たりの開閉実行モードの発生回数を示す第３１パラメータ、単位遊技回当たりの高頻度サポートモードの発生回数を示す第４１パラメータ、及び開閉実行モードの発生回数に対する高頻度サポートモードの発生回数の割合を示す第４２パラメータの演算結果は、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた後の遊技内容に対応したものとなる。パチンコ機１０の設定値が変更された場合には大当たり結果の当選確率が変更される構成において、上記のように第３１パラメータ、第４１パラメータ及び第４２パラメータの演算結果がパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた後の遊技内容に対応したものとなるようにすることで、現状の設定値を基準としてそれら第３１パラメータ、第４１パラメータ及び第４２パラメータの演算結果が適切であるか否かを判断することが可能となる。
【０４７９】
その一方、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたとしても、履歴用メモリ１１７において合計用の第８カウンタ１４１ｈ、合計用の第９カウンタ１４１ｉ及び第１１カウンタ１４１ｋ以外のカウンタは「０」クリアされない。これにより、各履歴対象入球部への遊技球の入球個数又は入球頻度の管理については、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定に影響されることなく長期の遊技履歴に基づいて行うことが可能となる。
【０４８０】
上記構成によれば、アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４への遊技球の入球回数、開閉実行モードの発生回数、高頻度サポートモードの発生回数、及び遊技回の発生回数が、上記第１の実施形態のような履歴情報として記憶されるのではなく回数情報として記憶される。これにより、各履歴情報を個別に記憶していく構成に比べて、履歴用メモリ１１７において必要な記憶容量を抑えることが可能となる。
【０４８１】
また、このように履歴情報ではなく回数情報として記憶される構成であることにより、各種パラメータの演算に際して履歴情報から回数情報を導出する処理を実行する必要が生じない。これにより、各種パラメータを演算するための処理負荷を軽減することが可能となる。
【０４８２】
遊技回の実行回数、開閉実行モードの発生回数及び高頻度サポートモードの発生回数の各回数情報はパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたことを契機として「０」クリアされる。したがって、単位遊技回当たりの開閉実行モードの発生回数を示す第３１パラメータ、単位遊技回当たりの高頻度サポートモードの発生回数を示す第４１パラメータ、及び開閉実行モードの発生回数に対する高頻度サポートモードの発生回数の割合を示す第４２パラメータの演算結果は、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた後の遊技内容に対応したものとなる。パチンコ機１０の設定値が変更された場合には大当たり結果の当選確率が変更される構成において、上記のように第３１パラメータ、第４１パラメータ及び第４２パラメータの演算結果がパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた後の遊技内容に対応したものとなるようにすることで、現状の設定値を基準としてそれら第３１パラメータ、第４１パラメータ及び第４２パラメータの演算結果が適切であ

るか否かを判断することが可能となる。
【０４８３】
その一方、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたとしても、履歴用メモリ１１７において合計用の第８カウンタ１４１ｈ、合計用の第９カウンタ１４１ｉ及び第１１カウンタ１４１ｋ以外のカウンタは「０」クリアされない。これにより、各履歴対象入球部への遊技球の入球個数又は入球頻度の管理については、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定に影響されることなく長期の遊技履歴に基づいて行うことが可能となる。
【０４８４】
なお、本実施形態のような履歴用メモリ１１７の構成を上記第１～第５の実施形態や本実施形態以降に記載されている実施形態に対して適用してもよい。例えば上記第１の実施形態に適用した場合、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたとしても履歴用メモリ１１７の情報はそのまま維持される。また、第３の実施形態に適用した場合、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合には履歴用メモリ１１７の全体が「０」クリアされる。
【０４８５】
また、パチンコ機１０の設定値が変更された場合に設定更新認識用処理（図４１）においてステップＳ２３０６～ステップＳ２３０８の処理が実行される構成としてもよい。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたとしてもその前後で設定値が変更されない場合には遊技回の実行回数の情報、開閉実行モードの発生回数の情報及び高頻度サポートモードの発生回数の情報が「０」クリアされることはなく、パチンコ機１０の設定値が変更された場合に遊技回の実行回数の情報、開閉実行モードの発生回数の情報及び高頻度サポートモードの発生回数の情報が「０」クリアされるようにすることが可能となる。
【０４８６】
また、設定更新認識用処理（図４１）においてステップＳ２３０６～ステップＳ２３０８の処理が実行される前に履歴用メモリ１１７の各カウンタ１４１～１４４を利用して各種パラメータが演算されるとともにその演算された各種パラメータが演算結果用メモリ１３１に記憶される構成としてもよい。
【０４８７】
＜第７の実施形態＞
本実施形態では履歴用メモリ１１７の構成が上記第１の実施形態と相違している。以下、上記第１の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【０４８８】
図４２は本実施形態における履歴用メモリ１１７の構成を説明するための説明図である。
【０４８９】
履歴用メモリ１１７として、パチンコ機１０の設定状態である「設定１」～「設定６」のそれぞれに対応する履歴用メモリ１８１～１８６が設けられている。具体的には、「設定１」に対応させて設定１用の履歴用メモリ１８１が設けられており、「設定２」に対応させて設定２用の履歴用メモリ１８２が設けられており、「設定３」に対応させて設定３用の履歴用メモリ１８３が設けられており、「設定４」に対応させて設定４用の履歴用メモリ１８４が設けられており、「設定５」に対応させて設定５用の履歴用メモリ１８５が設けられており、「設定６」に対応させて設定６用の履歴用メモリ１８６が設けられている。
【０４９０】
設定１～６用の履歴用メモリ１８１～１８６のそれぞれには、上記第１の実施形態における履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４及びポインタ用エリア１２６の組わせが設けられている。これにより、「設定１」～「設定６」のパチンコ機１０の設定状態のそれぞれに対応させて履歴情報を記憶していくことが可能となる。この場合、パチンコ機１０

の設定状態の新たな設定が行われた場合には、その新たな設定が行われた設定値に対応する履歴用メモリ１８１～１８６が履歴情報の記憶対象とされるため、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定に際して履歴情報の消去を行わなくても設定値ごとに区別して履歴情報を記憶することが可能となる。また、現状設定されているパチンコ機１０の設定状態に対応する履歴情報を利用して各種パラメータが算出されるため、各設定値に対応する各種パラメータを適切に導出することが可能となる。

【０４９１】

なお、設定１～６用の履歴用メモリ１８１～１８６のそれぞれに、上記第６の実施形態における合計用エリア１４１、第１状態用エリア１４２、第２状態用エリア１４３及び第３状態用エリア１４４の組合せが設定されている構成としてもよい。

【０４９２】

次に、管理側ＣＰＵ１１２にて実行される本実施形態における設定更新認識用処理について、図４３のフローチャートを参照しながら説明する。

【０４９３】

入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏに入力されている設定値更新信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わった場合（ステップＳ２４０１：ＹＥＳ）、演算結果用メモリ１３１に設けられた設定値把握カウンタの値を「１」に設定する（ステップＳ２４０２）。設定値把握カウンタはパチンコ機１０の設定値を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのカウンタであり、例えば設定値把握カウンタの値が「１」であれば「設定１」であることを意味し、設定値把握カウンタの値が「６」であれば「設定６」であることを意味する。また、本実施形態では記憶保持に外部からの電力供給が不要なメモリである演算結果用メモリ１３１に設定値把握カウンタが設けられているため管理用ＩＣ６６への動作電力の供給が停止されたとしても設定値把握カウンタに記憶された値は記憶保持される。

【０４９４】

その後、入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏに入力されている設定値更新信号が再度ＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったか否かを判定する（ステップＳ２４０３）。ステップＳ２４０３にて肯定判定をした場合、演算結果用メモリ１３１の設定値把握カウンタの値を１加算する（ステップＳ２４０４）。これにより、管理側ＣＰＵ１１２において特定しているパチンコ機１０の設定値が１段階上昇することとなる。

【０４９５】

ステップＳ２４０３にて否定判定をした場合、又はステップＳ２４０４の処理を実行した場合、入力ポート１２１の第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈに入力されている第１～第８信号の入力状態に基づいて、主側ＣＰＵ６３から設定値識別終了コマンドを受信したか否かを判定する（ステップＳ２４０５）。ステップＳ２４０５にて否定判定をした場合、ステップＳ２４０３の処理に戻る。

【０４９６】

ステップＳ２４０５にて肯定判定をした場合、演算結果用メモリ１３１の設定値把握カウンタの値に対応する履歴用メモリ１８１～１８６を履歴情報の記憶対象及び各種パラメータの演算時における参照対象として設定する（ステップＳ２４０６）。具体的には、設定値把握カウンタの値が「１」であれば「設定１」に設定されたことを意味するため、設定１用の履歴用メモリ１８１を履歴情報の記憶対象及び各種パラメータの演算時における参照対象として設定する。また、設定値把握カウンタの値が「２」であれば「設定２」に設定されたことを意味するため、設定２用の履歴用メモリ１８２を履歴情報の記憶対象及び各種パラメータの演算時における参照対象として設定する。また、設定値把握カウンタの値が「３」であれば「設定３」に設定されたことを意味するため、設定３用の履歴用メモリ１８３を履歴情報の記憶対象及び各種パラメータの演算時における参照対象として設定する。また、設定値把握カウンタの値が「４」であれば「設定４」に設定されたことを意味するため、設定４用の履歴用メモリ１８４を履歴情報の記憶対象及び各種パラメータの演算時における参照対象として設定する。また、設定値把握カウンタの値が「５」であれば「設定５」に設定されたことを意味するため、設定５用の履歴用メモリ１８５を履歴

情報の記憶対象及び各種パラメータの演算時における参照対象として設定する。また、設定値把握カウンタの値が「６」であれば「設定６」に設定されたことを意味するため、設定６用の履歴用メモリ１８６を履歴情報の記憶対象及び各種パラメータの演算時における参照対象として設定する。

【０４９７】

その後、ＲＴＣ１１５から年月日情報及び時刻情報であるＲＴＣ情報を読み出す（ステップＳ２４０７）。そして、履歴用メモリ１１７への書き込み処理を実行する（ステップＳ２４０８）。当該書き込み処理では、設定１～６用の履歴用メモリ１８１～１８６のうちステップＳ２４０６にて履歴情報の記憶対象として設定された履歴用メモリ１８１～１８６を選択する。そして、その記憶対象となっている履歴用メモリ１８１～１８６においてポインタ用エリア１２６を参照することで現状の書き込み対象となっている履歴用エリア１２４のポインタ情報を特定し、その書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴用エリア１２４の履歴情報格納エリア１２５に、ステップＳ２４０７にて読み出したＲＴＣ情報を書き込む。また、設定値であることを識別するための情報を上記書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に書き込む。これにより、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定されたことを示す情報と、当該設定が行われた日時に対応するＲＴＣ情報と、の組合せが履歴情報として記憶された状態となる。

【０４９８】

その後、対象ポインタの更新処理を実行する（ステップＳ２４０９）。当該更新処理では、設定１～６用の履歴用メモリ１８１～１８６のうちステップＳ２４０６にて履歴情報の記憶対象として設定された履歴用メモリ１８１～１８６を選択し、その履歴用メモリ１８１～１８６のポインタ用エリア１２６に格納されている数値情報を読み出し１加算する。その１加算後におけるポインタ情報が履歴用エリア１２４におけるポインタ情報の最大値を超えたか否かを判定する。最大値を超えていない場合には１加算後におけるポインタ情報を新たな書き込み対象のポインタ情報としてポインタ用エリア１２６に上書きする。最大値を超えている場合には書き込み対象のポインタ情報が最初のポインタ情報となるようにポインタ用エリア１２６を「０」クリアする。

【０４９９】

上記構成によれば、履歴用メモリ１１７として、「設定１」～「設定６」のそれぞれに対応するように設定１～６用の履歴用メモリ１８１～１８６が設けられている。これにより、「設定１」～「設定６」のパチンコ機１０の設定状態のそれぞれに対応させて遊技履歴を記憶していくことが可能となる。この場合、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合には、その新たな設定が行われた設定値に対応する履歴用メモリ１８１～１８６が履歴情報の記憶対象とされるため、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定に際して履歴情報の消去を行わなくても設定値ごとに区別して履歴情報を記憶することが可能となる。また、現状設定されているパチンコ機１０の設定状態に対応する履歴情報を利用して各種パラメータが算出されるため、各設定値に対応する各種パラメータを適切に導出することが可能となる。

【０５００】

なお、履歴用メモリ１１７として、設定１～６用の履歴用メモリ１８１～１８６の６個のメモリが設けられている構成に限定されることはなく、１個のメモリに対して、設定１用の履歴用メモリ１８１に対応するエリアと、設定２用の履歴用メモリ１８２に対応するエリアと、設定３用の履歴用メモリ１８３に対応するエリアと、設定４用の履歴用メモリ１８４に対応するエリアと、設定５用の履歴用メモリ１８５に対応するエリアと、設定６用の履歴用メモリ１８６に対応するエリアとが設定されている構成としてもよい。

【０５０１】

＜第８の実施形態＞

本実施形態では履歴用メモリ１１７の構成が上記第１の実施形態と相違している。以下、上記第１の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０５０２】
図４４は本実施形態における履歴用メモリ１１７の構成を説明するための説明図である。
【０５０３】
履歴用メモリ１１７として、第１履歴用メモリ１９１と第２履歴用メモリ１９２とが設けられている。第１履歴用メモリ１９１及び第２履歴用メモリ１９２のそれぞれには、上記第１の実施形態における履歴用メモリ１１７の履歴用エリア１２４及びポインタ用エリア１２６の組合せが設けられている。この場合、第１履歴用メモリ１９１及び第２履歴用メモリ１９２のうち一方の履歴用メモリ１９１，１９２を利用して履歴情報の記憶を行っている状況においてパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合には、その後に所定数以上の履歴情報が他方の履歴用メモリ１９１，１９２に記憶されるまでは上記一方の履歴用メモリ１９１，１９２の履歴情報を消去することなく残すことが可能となるとともに、上記他方の履歴用メモリ１９１，１９２に所定数以上の履歴情報が記憶されるまでは両方の履歴用メモリ１９１，１９２において履歴情報を新たに記憶しておくことが可能となる。
【０５０４】
次に、管理側ＣＰＵ１１２にて実行される本実施形態における設定更新認識用処理について、図４５のフローチャートを参照しながら説明する。
【０５０５】
入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏに入力されている設定値更新信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わった場合（ステップＳ２５０１：ＹＥＳ）、管理側ＲＡＭ１１４に設けられた設定値把握カウンタの値を「１」に設定する（ステップＳ２５０２）。設定値把握カウンタはパチンコ機１０の設定値を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのカウンタであり、例えば設定値把握カウンタの値が「１」であれば「設定１」であることを意味し、設定値把握カウンタの値が「６」であれば「設定６」であることを意味する。
【０５０６】
その後、入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏに入力されている設定値更新信号が再度ＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったか否かを判定する（ステップＳ２５０３）。ステップＳ２５０３にて肯定判定をした場合、管理側ＲＡＭ１１４の設定値把握カウンタの値を１加算する（ステップＳ２５０４）。これにより、管理側ＣＰＵ１１２において特定しているパチンコ機１０の設定値が１段階上昇することとなる。
【０５０７】
ステップＳ２５０３にて否定判定をした場合、又はステップＳ２５０４の処理を実行した場合、入力ポート１２１の第１～第８バッファ１２２ａ～１２２ｈに入力されている第１～第８信号の入力状態に基づいて、主側ＣＰＵ６３から設定値識別終了コマンドを受信したか否かを判定する（ステップＳ２５０５）。ステップＳ２５０５にて否定判定をした場合、ステップＳ２５０３の処理に戻る。
【０５０８】
ステップＳ２５０５にて肯定判定をした場合、演算結果用メモリ１３１に設けられた設定変更発生フラグに「１」をセットする（ステップＳ２５０６）。設定変更発生フラグは、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた後において、第１履歴用メモリ１９１及び第２履歴用メモリ１９２のうちそれまで履歴情報の記憶対象と設定されていた履歴用メモリ１９１，１９２だけではなくもう一方の履歴用メモリ１９１，１９２も履歴情報の記憶対象とする状況であるか否かを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのフラグである。また、記憶保持に外部からの電力供給が不要なメモリである演算結果用メモリ１３１に設定変更発生フラグが設けられているため管理用ＩＣ６６への動作電力の供給が停止されたとしても設定変更発生フラグに記憶された値は記憶保持される。
【０５０９】
その後、ＲＴＣ１１５から年月日情報及び時刻情報であるＲＴＣ情報を読み出す（ステ

ップＳ２５０７）。そして、各履歴用メモリ１９１，１９２への書き込み処理を実行する（ステップＳ２５０８）。当該書き込み処理では、まず第１履歴用メモリ１９１のポインタ用エリア１２６を参照することで現状の書き込み対象となっている履歴用エリア１２４のポインタ情報を特定し、その書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴用エリア１２４の履歴情報格納エリア１２５に、ステップＳ２５０７にて読み出したＲＴＣ情報を書き込む。また、設定値であることを識別するための情報及び設定値把握カウンタの値の情報の両方を上記書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に書き込む。これにより、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定されたことを示す情報と、当該設定が行われた日時に対応するＲＴＣ情報と、当該設定が行われた場合の設定値の情報と、の組合せが履歴情報として第１履歴用メモリ１９１に記憶された状態となる。また、当該書き込み処理では、第２履歴用メモリ１９２のポインタ用エリア１２６を参照することで現状の書き込み対象となっている履歴用エリア１２４のポインタ情報を特定し、その書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴用エリア１２４の履歴情報格納エリア１２５に、ステップＳ２５０７にて読み出したＲＴＣ情報を書き込む。また、設定値であることを識別するための情報及び設定値把握カウンタの値の情報の両方を上記書き込み対象となっているポインタ情報に対応する履歴情報格納エリア１２５に書き込む。これにより、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定されたことを示す情報と、当該設定が行われた日時に対応するＲＴＣ情報と、当該設定が行われた場合の設定値の情報と、の組合せが履歴情報として第２履歴用メモリ１９２に記憶された状態となる。

【０５１０】

その後、各対象ポインタの更新処理を実行する（ステップＳ２５０９）。当該更新処理では、まず第１履歴用メモリ１９１のポインタ用エリア１２６に格納されている数値情報を読み出し１加算する。その１加算後におけるポインタ情報が履歴用エリア１２４におけるポインタ情報の最大値を超えたか否かを判定する。最大値を超えていない場合には１加算後におけるポインタ情報を新たな書き込み対象のポインタ情報としてポインタ用エリア１２６に上書きする。最大値を超えている場合には書き込み対象のポインタ情報が最初のポインタ情報となるようにポインタ用エリア１２６を「０」クリアする。また、当該更新処理では、第２履歴用メモリ１９２のポインタ用エリア１２６に格納されている数値情報を読み出し１加算する。その１加算後におけるポインタ情報が履歴用エリア１２４におけるポインタ情報の最大値を超えたか否かを判定する。最大値を超えていない場合には１加算後におけるポインタ情報を新たな書き込み対象のポインタ情報としてポインタ用エリア１２６に上書きする。最大値を超えている場合には書き込み対象のポインタ情報が最初のポインタ情報となるようにポインタ用エリア１２６を「０」クリアする。

【０５１１】

次に、管理側ＣＰＵ１１２にて実行される本実施形態における履歴設定処理について、図４６のフローチャートを参照しながら説明する。

【０５１２】

演算結果用メモリ１３１の設定変更発生フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳ２６０１：ＮＯ）、第１履歴用メモリ１９１及び第２履歴用メモリ１９２のうち記憶対象となっている側にのみ履歴情報を記憶させるべき状況であることを意味する。この場合、まず現状の記憶対象となっている履歴用メモリ１９１，１９２を把握する（ステップＳ２６０２）。演算結果用メモリ１３１には記憶対象フラグが設けられており、記憶対象フラグの値が「０」である場合には第１履歴用メモリ１９１が記憶対象となり、記憶対象フラグの値が「１」である場合には第２履歴用メモリ１９２が記憶対象となる。なお、記憶対象フラグは記憶保持に外部からの電力供給が不要なメモリである演算結果用メモリ１３１に設けられているため、管理用ＩＣ６６への動作電力の供給が停止されたとしても記憶対象フラグの値は記憶保持される。

【０５１３】

その後、記憶対象となっている履歴用メモリ１９１，１９２に対して履歴設定の実行処

理を実行する（ステップＳ２６０３）。具体的には、記憶対象となっている一方の履歴用メモリ１９１，１９２に対して上記第１の実施形態における履歴設定処理（図２６）のステップＳ１１０１～ステップＳ１１１２の処理を実行する。これにより、記憶対象となっている一方の履歴用メモリ１９１，１９２に履歴情報が記憶される。

【０５１４】

一方、演算結果用メモリ１３１の設定変更発生フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳ２６０１：ＹＥＳ）、第１履歴用メモリ１９１及び第２履歴用メモリ１９２のうち記憶対象となっている側だけではなく他方にも履歴情報を記憶させるべき状況であることを意味する。この場合、両方の履歴用メモリ１９１，１９２に対して履歴設定の実行処理を実行する（ステップＳ２６０４）。具体的には、まず第１履歴用メモリ１９１に対して上記第１の実施形態における履歴設定処理（図２６）のステップＳ１１０１～ステップＳ１１１２の処理を実行する。これにより、第１履歴用メモリ１９１に履歴情報が記憶される。その後に、第２履歴用メモリ１９２に対して上記第１の実施形態における履歴設定処理（図２６）のステップＳ１１０１～ステップＳ１１１２の処理を実行する。これにより、第２履歴用メモリ１９２に履歴情報が記憶される。

【０５１５】

ステップＳ２６０３の処理を実行した場合、又はステップＳ２６０４の処理を実行した場合、演算結果用メモリ１３１の設定変更発生フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ２６０５）。ステップＳ２６０５にて肯定判定をした場合、非記憶対象の履歴用メモリ１９１，１９２において所定数以上の球排出履歴が存在しているか否かを判定する（ステップＳ２６０６）。具体的には、演算結果用メモリ１３１の記憶対象フラグの値が「０」である場合には第１履歴用メモリ１９１が記憶対象となっているため、第２履歴用メモリ１９２に遊技領域ＰＡから遊技球が排出されたことを示す履歴情報が所定数（具体的には「１０００」）以上記憶されているか否かを判定する。また、演算結果用メモリ１３１の記憶対象フラグの値が「１」である場合には第２履歴用メモリ１９２が記憶対象となっているため、第１履歴用メモリ１９１に遊技領域ＰＡから遊技球が排出されたことを示す履歴情報が所定数（具体的には「１０００」）以上記憶されているか否かを判定する。なお、遊技領域ＰＡから遊技球が排出されたことを示す履歴情報が所定数（具体的には「１０００」）以上記憶されているか否かを判定するのではなく、遊技回が実行されたことを示す履歴情報が所定数（具体的には「１００」）以上記憶されているか否かを判定する構成としてもよい。

【０５１６】

ステップＳ２６０６にて肯定判定をした場合、記憶対象の変更処理を実行する（ステップＳ２６０７）。記憶対象の変更処理では、演算結果用メモリ１３１の記憶対象フラグの値を２値の間で現状の値とは異なる値に設定することで第１履歴用メモリ１９１及び第２履歴用メモリ１９２のうち記憶対象となる側を変更する。具体的には、記憶対象フラグの値が「０」であれば記憶対象フラグに「１」をセットすることで記憶対象を第１履歴用メモリ１９１から第２履歴用メモリ１９２に変更する。また、記憶対象フラグの値が「１」であれば記憶対象フラグを「０」クリアすることで記憶対象を第２履歴用メモリ１９２から第１履歴用メモリ１９１に変更する。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた後において実行された遊技による履歴情報のみが記憶された履歴用メモリ１９１，１９２が記憶対象として設定される。そして、この新たに記憶対象となった履歴用メモリ１９１，１９２の履歴情報を利用して各種パラメータが算出されることにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた後において実行された遊技による各種パラメータを導出することが可能となる。

【０５１７】

その後、第１履歴用メモリ１９１及び第２履歴用メモリ１９２のうちそれまで記憶対象となっていた側のクリア処理を実行する（ステップＳ２６０８）。具体的には、記憶対象フラグの値が「０」であれば第２履歴用メモリ１９２を「０」クリアし、記憶対象フラグの値が「１」であれば第１履歴用メモリ１９１を「０」クリアする。その後、演算結果用

メモリ１３１の設定変更発生フラグを「０」クリアする（ステップＳ２６０９）。
【０５１８】
次に、管理側ＣＰＵ１１２にて実行される本実施形態における表示出力処理について、図４７のフローチャートを参照しながら説明する。
【０５１９】
演算タイミングである場合（ステップＳ２７０１：ＹＥＳ）、第１履歴用メモリ１９１及び第２履歴用メモリ１９２のうち記憶対象となっている側を把握する（ステップＳ２７０２）。具体的には、演算結果用メモリ１３１の記憶対象フラグの値が「０」であれば第１履歴用メモリ１９１を記憶対象として把握し、記憶対象フラグの値が「１」であれば第２履歴用メモリ１９２を記憶対象として把握する。その後、ステップＳ２７０２にて把握した記憶対象の履歴用メモリ１９１，１９２に記憶された履歴情報を利用して上記第１の実施形態における表示出力処理（図３０）のステップＳ１４０２～ステップＳ１４１２を実行することで、各種パラメータ（第１～第８パラメータ、第１１～第１８パラメータ、第２１～第２６パラメータ、第３１パラメータ、第４１～第４２パラメータ）を算出するとともに、その算出した各種パラメータを演算結果用メモリ１３１に記憶させる（ステップＳ２７０３）。この場合、演算結果用メモリ１３１の設定変更発生フラグに「１」がセットされていることにより第１履歴用メモリ１９１及び第２履歴用メモリ１９２の両方に対して履歴情報が記憶される状況であったとしても、記憶対象となっている一方の履歴用メモリ１９１，１９２を利用して各種パラメータが算出される。
【０５２０】
ステップＳ２７０１にて否定判定をした場合、又はステップＳ２７０３の処理を実行した場合、表示用処理を実行する（ステップＳ２７０４）。表示用処理の処理内容は上記第１の実施形態における表示用処理（図３１）と同一である。
【０５２１】
上記構成によれば、履歴用メモリ１１７として第１履歴用メモリ１９１と第２履歴用メモリ１９２とが設けられており、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合にはそれまで記憶対象となっていた履歴用メモリ１９１，１９２がそのまま記憶対象とされながら、記憶対象となっていない側の履歴用メモリ１９１，１９２にも履歴情報が記憶される。そして、記憶対象となっていない側の履歴用メモリ１９１，１９２に遊技領域ＰＡから遊技球が排出されたことに対応する履歴情報が所定数以上記憶された場合に、その記憶対象となっていない側の履歴用メモリ１９１，１９２がそのまま記憶対象とされ、それまで記憶対象となっていた側の履歴用メモリ１９１，１９２は「０」クリアされる。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合にはその新たに設定された設定値において行われた遊技の履歴情報のみを利用して各種パラメータを算出することが可能となる。
【０５２２】
その一方、上記構成によれば、各種パラメータの算出を適切に行わせないようにすべくパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われたとしても、記憶対象となる履歴用メモリ１９１，１９２は変更されることなく維持される。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が短期間で繰り返し行われたとしても、それまでの遊技履歴の管理結果を適切に導出することが可能となる。
【０５２３】
なお、履歴用メモリ１１７として、第１履歴用メモリ１９１及び第２履歴用メモリ１９２の２個のメモリが設けられている構成に限定されることはなく、１個のメモリに対して第１履歴用メモリ１９１に対応する第１履歴用エリアと第２履歴用メモリ１９２に対応する第２履歴用エリアとが設定されている構成としてもよい。
【０５２４】
また、１個の履歴用メモリ１１７のみが設けられた構成としてもよい。この場合、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから遊技領域ＰＡからの遊技球の総排出個数が所定個数以上となった場合にパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたタイ

ミングよりも前の履歴情報が消去され、当該設定が行われたタイミング以降の履歴情報は消去されることなく記憶保持される構成としてもよい。これにより、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから所定数以上の履歴情報が貯まったタイミングで、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたタイミングよりも前の履歴情報が消去されるようにすることが可能となる。また、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたタイミングでそれに対応する履歴情報が履歴用メモリ１１７に記憶されるようにすることで、履歴用メモリ１１７において上記設定状態の新たな設定が行われたタイミングよりも前の履歴情報と後の履歴情報とを区別することが可能となる。

【０５２５】

また、履歴情報を消去するタイミングは、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから遊技領域ＰＡからの遊技球の総排出個数が所定個数以上となった場合に限定されることはなく、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われてから実行された遊技回の回数が所定回数以上となった場合としてもよい。

【０５２６】

また、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたとしてもその前後で設定値が変更されていない場合には上記のような記憶対象の履歴用メモリ１９１，１９２の変更及び履歴情報の消去は行われないようにし、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合であってその前後で設定値が変更された場合に上記のような記憶対象の履歴用メモリ１９１，１９２の変更及び履歴情報の消去が行われる構成としてもよい。

【０５２７】

＜第９の実施形態＞

本実施形態では、管理側Ｉ／Ｆ１１１における入力ポート１２１の第１～第１６バッファ１２２ａ～１２２ｐのうち、入力される信号の種類が管理用ＩＣ６６の設計段階において決定されているバッファの種類が上記第１の実施形態と相違している。また、入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２に特定させるために主側ＣＰＵ６３にて実行される処理構成が上記第１の実施形態と相違している。以下、上記第１の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０５２８】

図４８は本実施形態における管理側Ｉ／Ｆ１１１の入力ポート１２１の構成を説明するための説明図である。

【０５２９】

第１～第７バッファ１２２ａ～１２２ｇ及び第１６バッファ１２２ｐには、上記第１の実施形態と同一の種類の信号が入力される。詳細には、第１バッファ１２２ａには第１入賞口検知センサ４２ａの検知結果に対応する第１信号が入力され、第２バッファ１２２ｂには第２入賞口検知センサ４３ａの検知結果に対応する第２信号が入力され、第３バッファ１２２ｃには第３入賞口検知センサ４４ａの検知結果に対応する第３信号が入力され、第４バッファ１２２ｄには特電検知センサ４５ａの検知結果に対応する第４信号が入力され、第５バッファ１２２ｅには第１作動口検知センサ４６ａの検知結果に対応する第５信号が入力され、第６バッファ１２２ｆには第２作動口検知センサ４７ａの検知結果に対応する第６信号が入力され、第７バッファ１２２ｇにはアウト口検知センサ４８ａの検知結果に対応する第７信号が入力され、第１６バッファ１２２ｐには出力指示信号が入力される。

【０５３０】

一方、上記第１の実施形態では開閉実行モードに対応する信号が第８信号として第８バッファ１２２ｈに入力され、高頻度サポートモードに対応する信号が第９信号として第９バッファ１２２ｉに入力され、前扉枠１４に対応する信号が第１０信号として第１０バッファ１２２ｊに入力され、遊技回の開始に対応する信号が第１１信号として第１１バッファ１２２ｋに入力され、設定値更新信号が第１５バッファ１２２ｏに入力される構成としたが、本実施形態ではこれら信号の入力対象となるバッファが異なっている。具体的には

遊技回の開始に対応する信号は遊技回信号として第１１バッファ１２２ｋに入力され、設定値更新信号は第１２バッファ１２２ｌに入力され、開閉実行モードに対応する信号は開閉実行モード中信号として第１３バッファ１２２ｍに入力され、高頻度サポートモードに対応する信号は高頻度サポートモード中信号として第１４バッファ１２２ｎに入力され、前扉枠１４に対応する信号は扉開放中信号として第１５バッファ１２２ｏに入力される。

【０５３１】

第１１バッファ１２２ｋに遊技回信号が入力されること、第１２バッファ１２２ｌに設定値更新信号が入力されること、第１３バッファ１２２ｍに開閉実行モード中信号が入力されること、第１４バッファ１２２ｎに高頻度サポートモード中信号が入力されること、第１５バッファ１２２ｏに扉開放中信号が入力されること、及び第１６バッファ１２２ｐに出力指示信号が入力されることは管理用ＩＣ６６の設計段階において決定されており、主側ＣＰＵ６３からの指示を受けることなく、管理側ＣＰＵ１１２はこれら第１１～第１６バッファ１２２ｋ～１２２ｐにそれぞれに対応する上記各信号が入力されることを特定可能となっている。一方、第１～第１０バッファ１２２ａ～１２２ｊにどのような種類の信号が入力されるのかは管理用ＩＣ６６の設計段階において決定されておらず、これら信号の種類は主側ＣＰＵ６３からの指示を受けることで管理側ＣＰＵ１１２にて特定される。この信号の種類を特定するための処理は、上記第１の実施形態と同様に、主側ＣＰＵ６３及び管理側ＣＰＵ１１２に動作電力の供給が開始された場合に実行される。

【０５３２】

図４９は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態の認識用処理を示すフローチャートである。なお、認識用処理は上記第１の実施形態と同様にメイン処理（図９）におけるステップＳ１１１にて実行される。

【０５３３】

まず主側ＲＡＭ６５の認識用出力カウンタに、信号の種類の認識対象となる第１～第１０バッファ１２２ａ～１２２ｊの数である「１０」をセットする（ステップＳ２８０１）。その後、識別開始信号の出力処理を実行する（ステップＳ２８０２）。当該出力処理では、第１バッファ１２２ａに入力される第１信号、第１３バッファ１２２ｍに入力される開閉実行モード中信号、第１４バッファ１２２ｎに入力される高頻度サポートモード中信号のそれぞれの出力状態をＨＩレベルに設定することで、識別開始信号の出力を開始する。これら信号をＨＩレベルに維持する期間は、これら信号の出力状態を管理側ＣＰＵ１１２にて認識するのに十分な期間に設定されている。

【０５３４】

その後、主側ＲＡＭ６５の認識用出力カウンタの現状の値に対応する出力回数の情報を主側ＲＯＭ６４から読み出し、その読み出した出力回数の情報を主側ＲＡＭ６５に設けられた出力回数カウンタにセットする（ステップＳ２８０３）。出力回数カウンタは、種類識別用信号の出力回数を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。

【０５３５】

本実施形態では、第１バッファ１２２ａ～第１０バッファ１２２ｊに入力される信号の種類を管理側ＣＰＵ１１２に認識させる場合、その信号の種類に対応する入球部に対して設定されている賞球個数と同一回数、種類識別用信号を出力する。管理側ＣＰＵ１１２は第１バッファ１２２ａ～第１０バッファ１２２ｊのそれぞれについて種類識別用信号を受信した回数に対応する情報を、対応関係用メモリ１１６の第１～第１０対応関係エリア１２３ａ～１２３ｊに格納する。つまり、第１バッファ１２２ａ～第１０バッファ１２２ｊに入力される信号の種類が、その信号の種類に対応する入球部に対して設定されている賞球個数として把握される。

【０５３６】

ステップＳ２８０３では、認識用出力カウンタの値が「１０」、「９」及び「８」のいずれかである場合、一般入賞口３１の賞球個数に対応する「１０」を出力回数カウンタにセットする。また、認識用出力カウンタの値が「７」である場合、特電入賞装置３２の賞球個数に対応する「１５」を出力回数カウンタにセットする。また、認識用出力カウンタ

の値が「６」である場合、第１作動口３３の賞球個数に対応する「１」を出力回数カウンタにセットする。また、認識用出力カウンタの値が「５」である場合、第２作動口３４の賞球個数に対応する「１」を出力回数カウンタにセットする。また、認識用出力カウンタの値が「４」である場合、アウト口２４ａに対応しているものの当該アウト口２４ａに遊技球が入球したとしても遊技球の払い出しは実行されないため、出力回数カウンタに「０」をセットする。また、認識用出力カウンタの値が「３」～「１」のいずれかである場合、対応する入球部が存在しておらずブランクであるため、出力回数カウンタに「０」をセットする。

【０５３７】

その後、開始契機信号の出力処理を実行する（ステップＳ２８０４）。当該出力処理では、第１バッファ１２２ａに入力される第１信号の出力状態をＨＩレベルに設定することで、開始契機信号の出力を開始する。第１信号をＨＩレベルに維持する期間は、第１信号の出力状態を管理側ＣＰＵ１１２にて認識するのに十分な期間に設定されている。

【０５３８】

その後、主側ＲＡＭ６５の出力回数カウンタの値が「０」ではないことを条件として（ステップＳ２８０５：ＹＥＳ）、すなわちステップＳ２８０３にて１以上の値が出力回数カウンタにセットされたことを条件として、ステップＳ２８０６に進む。ステップＳ２８０６では、種類識別用信号の出力処理を実行する。当該出力処理では、第２バッファ１２２ｂに入力される第２信号の出力状態をＨＩレベルに設定することで、種類識別信号の出力を開始する。第２信号をＨＩレベルに維持する期間は、第２信号の出力状態を管理側ＣＰＵ１１２にて認識するのに十分な期間に設定されている。

【０５３９】

その後、主側ＲＡＭ６５の出力回数カウンタの値を１減算し（ステップＳ２８０７）、その１減算後における出力回数カウンタの値が「０」であるか否かを判定する（ステップＳ２８０８）。出力回数カウンタの値が１以上である場合には（ステップＳ２８０８：ＮＯ）、ステップＳ２８０６に戻る。

【０５４０】

ステップＳ２８０５にて肯定判定をした場合、又はステップＳ２８０８にて肯定判定をした場合、終了契機信号の出力処理を実行する（ステップＳ２８０９）。当該出力処理では、第３バッファ１２２ｃに入力される第３信号の出力状態をＨＩレベルに設定することで、終了契機信号の出力を開始する。第３信号をＨＩレベルに維持する期間は、第３信号の出力状態を管理側ＣＰＵ１１２にて認識するのに十分な期間に設定されている。

【０５４１】

その後、主側ＲＡＭ６５の認識用出力カウンタの値を１減算し（ステップＳ２８１０）、その１減算後における認識用出力カウンタの値が「０」であるか否かを判定する（ステップＳ２８１１）。認識用出力カウンタの値が１以上である場合には（ステップＳ２８１１：ＮＯ）、ステップＳ２８０３に戻り、１減算後における認識用出力カウンタの値に対応する信号の種類を認識させるための処理を実行する。

【０５４２】

一方、認識用出力カウンタの値が「０」である場合には（ステップＳ２８１１：ＹＥＳ）、識別終了信号の出力処理を実行する（ステップＳ２８１２）。当該出力処理では、第３バッファ１２２ｃに入力される第３信号、第１３バッファ１２２ｍに入力される開閉実行モード中信号、第１４バッファ１２２ｎに入力される高頻度サポートモード中信号のそれぞれの出力状態をＨＩレベルに設定することで、識別終了信号の出力を開始する。これら信号をＨＩレベルに維持する期間は、これら信号の出力状態を管理側ＣＰＵ１１２にて認識するのに十分な期間に設定されている。

【０５４３】

次に、管理側ＣＰＵ１１２にて実行される本実施形態における管理処理について、図５０のフローチャートを参照しながら説明する。管理処理は、上記第１の実施形態と同様に管理側ＣＰＵ１１２への動作電力の供給が開始された場合に開始される。

【０５４４】
まず主側ＣＰＵ６３からの識別開始信号の受信を終了したか否かを判定する（ステップＳ２９０１）。識別開始信号を受信していない場合、ステップＳ２９０２にて設定更新認識用処理を実行した後にステップＳ２９０１の処理を再度実行する。設定更新認識用処理の処理内容は上記第１の実施形態と同一である。
【０５４５】
主側ＣＰＵ６３からの識別開始信号の受信が終了した場合（ステップＳ２９０１：ＹＥＳ）、管理側ＲＡＭ１１４の設定対象カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳ２９０３）。その後、主側ＣＰＵ６３から開始契機信号を受信していることを条件として（ステップＳ２９０４：ＹＥＳ）、ステップＳ２９０５に進む。ステップＳ２９０５では、主側ＣＰＵ６３から種類識別用信号を受信しているか否かを判定する。種類識別用信号を受信している場合（ステップＳ２９０５：ＹＥＳ）、管理側ＲＡＭ１１４に設けられた受信回数カウンタの値を１加算する（ステップＳ２９０６）。受信回数カウンタは、主側ＣＰＵ６３から種類識別用信号を受信した回数を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのカウンタである。なお、受信回数カウンタの値はステップＳ２９０４にて肯定判定をした場合に「０」クリアされる。
【０５４６】
ステップＳ２９０５にて否定判定をした場合、又はステップＳ２９０６の処理を実行した場合、主側ＣＰＵ６３から終了契機信号を受信しているか否かを判定する（ステップＳ２９０７）。終了契機信号を受信していない場合（ステップＳ２９０７：ＮＯ）、ステップＳ２９０５に戻り、終了契機信号を受信している場合（ステップＳ２９０７：ＹＥＳ）、対応関係設定処理を実行する（ステップＳ２９０８）。対応関係設定処理では、対応関係用メモリ１１６の第１～第１０対応関係エリア１２３ａ～１２３ｊのうち、管理側ＲＡＭ１１４の設定対象カウンタにおける現状の値に対応する対応関係エリアに、受信回数カウンタにセットされている値を格納する。この場合、第１対応関係エリア１２３ａ、第２対応関係エリア１２３ｂ及び第３対応関係エリア１２３ｃには一般入賞口３１の賞球個数に対応する「１０」がセットされ、第４対応関係エリア１２３ｄには特電入賞装置３２の賞球個数に対応する「１５」がセットされ、第５対応関係エリア１２３ｅには第１作動口３３の賞球個数に対応する「１」がセットされ、第６対応関係エリア１２３ｆには第２作動口３４の賞球個数に対応する「１」がセットされる。また、第７～第１２対応関係エリア１２３ｇ～１２３ｌには「０」がセットされる。その後、管理側ＲＡＭ１１４の設定対象カウンタの値を１加算する（ステップＳ２９０９）。
【０５４７】
ステップＳ２９０４にて否定判定をした場合、又はステップＳ２９０９の処理を実行した場合、主側ＣＰＵ６３からの識別終了信号の受信が終了したか否かを判定する（ステップＳ２９１０）。識別終了信号の受信が終了していない場合（ステップＳ２９１０：ＮＯ）、ステップＳ２９０４に戻り、主側ＣＰＵ６３から開始契機信号を受信することを条件として（ステップＳ２９０４：ＹＥＳ）、ステップＳ２９０５以降の処理を実行する。主側ＣＰＵ６３からの識別終了信号の受信が終了している場合（ステップＳ２９１０：ＹＥＳ）、ステップＳ２９１１の履歴設定処理、ステップＳ２９１２の表示出力処理及びステップＳ２９１３の外部出力用処理を繰り返し実行する。
【０５４８】
図５１は第１～第１０バッファ１２２ａ～１２２ｊとこれらバッファ１２２ａ～１２２ｊに入力される信号の種類との対応関係の情報が対応関係用メモリ１１６に格納される様子を示すタイムチャートである。図５１（ａ）は第１信号の出力状態がＨＩレベルとなっている期間を示し、図５１（ｂ）は第２信号の出力状態がＨＩレベルとなっている期間を示し、図５１（ｃ）は第３信号の出力状態がＨＩレベルとなっている期間を示し、図５１（ｄ）は開閉実行モード中信号の出力状態がＨＩレベルとなっている期間を示し、図５１（ｅ）は高頻度サポートモード中信号の出力状態がＨＩレベルとなっている期間を示し、図５１（ｆ）は第１～第１０バッファ１２２ａ～１２２ｊとこれらバッファ１２２ａ～１

２２ｊに入力される信号の種類との対応関係を識別するための処理が実行される識別状態の実行期間を示し、図５１（ｇ）は管理側ＲＡＭ１１４の受信回数カウンタの値が１加算されるタイミングを示し、図５１（ｈ）は管理側ＣＰＵ１１２にて対応関係設定処理（ステップＳ２９０８）が実行されるタイミングを示す。

【０５４９】

主側ＣＰＵ６３及び管理側ＣＰＵ１１２への動作電力の供給が開始されることで、ｔ１のタイミングで、図５１（ａ）、図５１（ｄ）及び図５１（ｅ）に示すように、第１信号、開閉実行モード中信号及び高頻度サポートモード中信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更される。これにより、主側ＣＰＵ６３から管理側ＣＰＵ１１２への識別開始信号の出力が開始される。その後、ｔ２のタイミングで、第１信号、開閉実行モード中信号及び高頻度サポートモード中信号の出力状態がＨＩレベルからＬＯＷベルに変更される。これにより、主側ＣＰＵ６３から管理側ＣＰＵ１１２への識別開始信号の出力が停止される。当該ｔ２のタイミングで、管理側ＣＰＵ１１２は管理処理（図５０）のステップＳ２９０１にて肯定判定をすることで、図５１（ｆ）に示すように識別状態となる。

【０５５０】

その後、ｔ３のタイミング～ｔ４のタイミングに亘って図５１（ａ）に示すように第１信号の出力状態がＨＩレベルに維持される。これにより、管理側ＣＰＵ１１２に開始契機信号が出力された状態となる。そして、ｔ５のタイミング～ｔ７のタイミングに亘って図５１（ｂ）に示すように第２信号の出力状態がＨＩレベルに維持される。これにより、管理側ＣＰＵ１１２に種類識別用信号が１回出力された状態となる。この場合、ｔ６のタイミングで、図５１（ｇ）に示すように管理側ＲＡＭ１１４の受信回数カウンタの値が１加算される。

【０５５１】

その後、ｔ８のタイミング～ｔ１０のタイミングに亘って図５１（ｃ）に示すように第３信号の出力状態がＨＩレベルに維持される。これにより、管理側ＣＰＵ１１２に終了契機信号が出力された状態となる。この場合、ｔ９のタイミングで、図５１（ｈ）に示すように管理側ＣＰＵ１１２にて対応関係設定処理が実行される。当該対応関係設定処理が実行されるタイミングでは受信回数カウンタの値が「１」となっているため、対応関係用メモリ１１６における今回の設定対象の対応関係エリア１２３ａ～１２３ｊに対応関係情報として「１」の情報を格納する。

【０５５２】

その後、ｔ１１のタイミング～ｔ１２のタイミングに亘って図５１（ａ）に示すように第１信号の出力状態がＨＩレベルに維持される。これにより、管理側ＣＰＵ１１２に開始契機信号が出力された状態となる。そして、ｔ１３のタイミング～ｔ１５のタイミング、ｔ１６のタイミング～ｔ１８のタイミング、ｔ１９のタイミング～ｔ２１のタイミング、及びｔ２２のタイミング～ｔ２４のタイミングのそれぞれに亘って図５１（ｂ）に示すように第２信号の出力状態がＨＩレベルに維持される。これにより、管理側ＣＰＵ１１２に種類識別用信号がそれぞれ１回出力された状態となる。この場合、ｔ１４のタイミング、ｔ１７のタイミング、ｔ２０のタイミング、ｔ２３のタイミングのそれぞれで、図５１（ｇ）に示すように管理側ＲＡＭ１１４の受信回数カウンタの値が１加算される。

【０５５３】

その後、ｔ２５のタイミング～ｔ２７のタイミングに亘って図５１（ｃ）に示すように第３信号の出力状態がＨＩレベルに維持される。これにより、管理側ＣＰＵ１１２に終了契機信号が出力された状態となる。この場合、ｔ２６のタイミングで、図５１（ｈ）に示すように管理側ＣＰＵ１１２にて対応関係設定処理が実行される。当該対応関係設定処理が実行されるタイミングでは受信回数カウンタの値が「１０」となっているため、対応関係用メモリ１１６における今回の設定対象の対応関係エリア１２３ａ～１２３ｊに対応関係情報として「１０」の情報を格納する。

【０５５４】

その後、ｔ２８のタイミングで、図５１（ｃ）、図５１（ｄ）及び図５１（ｅ）に示す

ように、第３信号、開閉実行モード中信号及び高頻度サポートモード中信号の出力状態がＬＯＷレベルからＨＩレベルに変更される。これにより、主側ＣＰＵ６３から管理側ＣＰＵ１１２への識別終了信号の出力が開始される。その後、ｔ２９のタイミングで、第３信号、開閉実行モード中信号及び高頻度サポートモード中信号の出力状態がＨＩレベルからＬＯＷベルに変更される。これにより、主側ＣＰＵ６３から管理側ＣＰＵ１１２への識別終了信号の出力が停止される。当該ｔ２９のタイミングで、管理側ＣＰＵ１１２は管理処理（図５０）のステップＳ２９１０にて肯定判定をすることで、図５１（ｆ）に示すように識別状態が解除される。

【０５５５】

なお、本実施形態では対応関係情報として賞球個数の情報が格納されるため、履歴用メモリ１１７に格納される履歴情報にはその履歴情報の格納契機となった入球部に対応する賞球個数の情報が対応関係情報として含まれる。当該構成においては、賞球個数が同一である入球部が複数種類存在している場合、履歴情報においてそれら入球部を区別することができない。具体的には、第１作動口３３と第２作動口３４とは賞球個数がいずれも１個であるため、履歴情報において第１作動口３３と第２作動口３４とを区別することができない。このような事情において第１作動口３３と第２作動口３４との賞球個数を異ならせてもよい。これにより、本実施形態のような履歴情報が格納される構成であっても、履歴情報において第１作動口３３と第２作動口３４とを区別することが可能となる。

【０５５６】

以上詳述した本実施形態によれば、設定値更新信号及び出力指示信号だけではなく、遊技回が開始されたか否かに対応する情報、開閉実行モード中であるか否かに対応する情報、高頻度サポートモード中であるか否かに対応する情報、及び前扉枠１４が開放中であるか否かに対応する情報についても、これら情報に対応する信号経路であることを主側ＣＰＵ６３からの対応関係情報を受信しなくても管理側ＣＰＵ１１２にて特定可能となっている。この場合、各入球検知センサ４２ａ～４８ａの検知結果に対応する情報のみが、各情報と各信号経路１１８ａ～１１８ｊとの対応関係を主側ＣＰＵ６３から管理側ＣＰＵ１１２に認識させる必要がある情報となる。そして、対応関係情報を管理側ＣＰＵ１１２に認識させる場合、各入球検知センサ４２ａ～４８ａに対応する賞球個数と同一の数のパルス信号が第２信号を利用して主側ＣＰＵ６３から管理側ＣＰＵ１１２に出力される。これにより、対応関係情報の送信に関する構成を簡素化することが可能となる。

【０５５７】

＜第１０の実施形態＞

本実施形態では、各入球結果の情報を管理用ＩＣ６６に提供するための構成が上記第１の実施形態と相違している。以下、上記第１の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０５５８】

図５２は各入球検知センサ４２ａ～４８ａの検知結果が主側ＣＰＵ６３及び管理用ＩＣ６６に入力されるようにするための信号経路の構成を説明するための説明図である。

【０５５９】

第１入賞口検知センサ４２ａの検知結果は第１信号経路ＳＬ１１を通じて主側ＣＰＵ６３に入力される。また、第２入賞口検知センサ４３ａの検知結果は第２信号経路ＳＬ１２を通じて主側ＣＰＵ６３に入力される。また、第３入賞口検知センサ４４ａの検知結果は第３信号経路ＳＬ１３を通じて主側ＣＰＵ６３に入力される。また、特電検知センサ４５ａの検知結果は第４信号経路ＳＬ１４を通じて主側ＣＰＵ６３に入力される。また、第１作動口検知センサ４６ａの検知結果は第５信号経路ＳＬ１５を通じて主側ＣＰＵ６３に入力される。また、第２作動口検知センサ４７ａの検知結果は第６信号経路ＳＬ１６を通じて主側ＣＰＵ６３に入力される。また、アウト口検知センサ４８ａの検知結果は第７信号経路ＳＬ１７を通じて主側ＣＰＵ６３に入力される。

【０５６０】

第１信号経路ＳＬ１１の途中位置から分岐させるようにして第１分岐経路ＳＬ２１が形

成されており、当該第１分岐経路ＳＬ２１は管理用ＩＣ６６と電気的に接続されている。また、第２信号経路ＳＬ１２の途中位置から分岐させるようにして第２分岐経路ＳＬ２２が形成されており、当該第２分岐経路ＳＬ２２は管理用ＩＣ６６と電気的に接続されている。また、第３信号経路ＳＬ１３の途中位置から分岐させるようにして第３分岐経路ＳＬ２３が形成されており、当該第３分岐経路ＳＬ２３は管理用ＩＣ６６と電気的に接続されている。また、第４信号経路ＳＬ１４の途中位置から分岐させるようにして第４分岐経路ＳＬ２４が形成されており、当該第４分岐経路ＳＬ２４は管理用ＩＣ６６と電気的に接続されている。また、第５信号経路ＳＬ１５の途中位置から分岐させるようにして第５分岐経路ＳＬ２５が形成されており、当該第５分岐経路ＳＬ２５は管理用ＩＣ６６と電気的に接続されている。また、第６信号経路ＳＬ１６の途中位置から分岐させるようにして第６分岐経路ＳＬ２６が形成されており、当該第６分岐経路ＳＬ２６は管理用ＩＣ６６と電気的に接続されている。また、第７信号経路ＳＬ１７の途中位置から分岐させるようにして第７分岐経路ＳＬ２７が形成されており、当該第７分岐経路ＳＬ２７は管理用ＩＣ６６と電気的に接続されている。

【０５６１】

上記構成であることにより、各入球検知センサ４２ａ～４８ａの検知結果は主側ＣＰＵ６３による処理を介在させることなく管理用ＩＣ６６に入力される。これにより、アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４の各入球結果を管理側ＣＰＵ１１２に認識させるための処理を主側ＣＰＵ６３にて実行する必要がなくなるため、主側ＣＰＵ６３の処理負荷の軽減を図ることが可能となる。

【０５６２】

また、各信号経路ＳＬ１１～ＳＬ１７からの各分岐経路ＳＬ２１～ＳＬ２７の分岐箇所はＭＰＵ６２内に存在している。これにより、当該分岐箇所及び各分岐経路ＳＬ２１～ＳＬ２７に対する外部からのアクセスを行いづらくさせることが可能となり、管理用ＩＣ６６にのみ異常な入球結果を入力させる不正行為を阻止することが可能となる。

【０５６３】

＜第１１の実施形態＞

本実施形態では遊技履歴の管理結果を表示するための表示装置の構成が上記第１の実施形態と相違している。以下、上記第１の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０５６４】

図５３は本実施形態における主制御装置６０の正面図である。

【０５６５】

上記第１の実施形態では主制御装置６０に第１報知用表示装置６９ａ、第２報知用表示装置６９ｂ及び第３報知用表示装置６９ｃが設けられていたが、本実施形態では第１報知用表示装置２０１、第２報知用表示装置２０２、第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４が設けられている。これら第１～第４報知用表示装置２０１～２０４は主制御基板６１の素子搭載面において横並びで設けられている。

【０５６６】

第１～第４報知用表示装置２０１～２０４はいずれも、ＬＥＤによる表示用セグメントが７個配列されたセグメント表示器であるが、これに限定されることはなく多色発光タイプの単一の発光体であってもよく、液晶表示装置であってもよく、有機ＥＬディスプレイであってもよい。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４はいずれもその表示面が主制御基板６１の素子搭載面が向く方向を向くようにして設置されているとともに、基板ボックス６０ａの対向壁部６０ｂにより覆われている。この場合に、基板ボックス６０ａが透明に形成されていることにより、基板ボックス６０ａの外部から当該基板ボックス６０ａ内に収容された第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示面を目視することが可能となる。また、主制御装置６０は基板ボックス６０ａにおいて主制御基板６１の素子搭載面と対向する対向壁部６０ｂがパチンコ機１０後方を向くようにして樹脂ベース２１の背面に搭載されているため、遊技機本体１２を外枠１１に対してパチンコ機１０前方に開放

させて樹脂ベース２１の背面をパチンコ機１０前方に露出させた場合には、対向壁部６０ｂを通じて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示面を目視することが可能となる。

【０５６７】

第１報知用表示装置２０１の表示面においては「Ａ」、「Ｅ」、「Ｈ」、「Ｌ」、「Ｏ」といったアルファベットが表示される。一方、第２報知用表示装置２０２、第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４においては「０」～「９」の範囲で数字が表示される。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用して遊技履歴の管理結果が報知される。この場合、第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２では報知対象となっている遊技履歴の管理結果（上記第１の実施形態における第１～第８パラメータ、第１１～第１８パラメータ、第２１～第２６パラメータ、第３１パラメータ、第４１～第４２パラメータ）の種類に対応する表示が行われ、第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４では報知対象となっている種類の遊技履歴の管理結果の内容に対応する表示が行われる。

【０５６８】

詳細には、遊技履歴の管理結果の種類として上記第１の実施形態における第１～第８パラメータ、第１１～第１８パラメータ、第２１～第２６パラメータ、第３１パラメータ及び第４１～第４２パラメータが存在している。第１報知用表示装置２０１では報知対象となっているパラメータ群の種類に対応する表示が行われる。具体的には、第１～第８パラメータのいずれかが報知対象となっている場合には第１報知用表示装置２０１にて「Ａ」が表示され、第１１～第１８パラメータのいずれかが報知対象となっている場合には第１報知用表示装置２０１にて「Ｅ」が表示され、第２１～第２６パラメータのいずれかが報知対象となっている場合には第１報知用表示装置２０１にて「Ｈ」が表示され、第３１パラメータのいずれかが報知対象となっている場合には第１報知用表示装置２０１にて「Ｌ」が表示され、第４１～第４２パラメータが報知対象となっている場合には第１報知用表示装置２０１にて「Ｏ」が表示される。

【０５６９】

第２報知用表示装置２０２では報知対象となっているパラメータ群における遊技履歴の管理結果の配列順序のうち報知対象となっている遊技履歴の管理結果の種類に対応する順序の表示が行われる。第１～第８パラメータのパラメータ群を例に挙げて説明すると、第１パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「１」が表示され、第２パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「２」が表示され、第３パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「３」が表示され、第４パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「４」が表示され、第５パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「５」が表示され、第６パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「６」が表示され、第７パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「７」が表示され、第８パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「８」が表示される。また、第２１～第２６パラメータのパラメータ群を例に挙げて説明すると、第２１パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「１」が表示され、第２２パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「２」が表示され、第２３パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「３」が表示され、第２４パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「４」が表示され、第２５パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「５」が表示され、第２６パラメータが報知対象となっている場合には第２報知用表示装置２０２にて「６」が表示される。

【０５７０】

第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４の表示内容について詳細には、報知対象となっているパラメータを１００倍した値のうち、１０の位に対応する数字が

第３報知用表示装置２０３にて表示され、１の位に対応する数字が第４報知用表示装置２０４にて表示される。

【０５７１】

第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においては、上記第１～第８パラメータ、上記第１１～第１８パラメータ、上記第２１～第２６パラメータ、上記第３１パラメータ及び上記第４１～第４２パラメータの演算結果に対応する表示が予め定められた順序に従って順次切り換えられ、最後の順番の表示対象である第４２パラメータの演算結果が表示された後は最初の順番の表示対象である第１パラメータの演算結果が表示される。この場合、一のパラメータの演算結果が継続して表示される期間は２秒となっている。これに対して、管理側ＣＰＵ１１２における上記各種パラメータの演算周期は５１秒となっているとともに、各種パラメータの数は２５個となっている。したがって、管理側ＣＰＵ１１２にて演算された各種パラメータは少なくとも１回は第１～第４報知用表示装置２０１～２０２における報知対象となる。

【０５７２】

第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においては上記第１の実施形態と同様に遊技履歴の管理結果の報知だけではなく、パチンコ機１０の設定状態を変更することが可能な変更可能状態においては現状の設定値に対応する値が表示される。具体的には、当該変更可能状態においては第１～第３報知用表示装置２０１～２０３が消灯状態とされるのに対して、横並びの第１～第４報知用表示装置２０４において右端に存在している第４報知用表示装置２０４にて現状の設定値に対応する値が表示される。つまり、変更可能状態において「設定１」が選択されている場合には第４報知用表示装置２０４にて「１」が表示され、変更可能状態において「設定２」が選択されている場合には第４報知用表示装置２０４にて「２」が表示され、変更可能状態において「設定３」が選択されている場合には第４報知用表示装置２０４にて「３」が表示され、変更可能状態において「設定４」が選択されている場合には第４報知用表示装置２０４にて「４」が表示され、変更可能状態において「設定５」が選択されている場合には第４報知用表示装置２０４にて「５」が表示され、変更可能状態において「設定６」が選択されている場合には第４報知用表示装置２０４にて「６」が表示される。

【０５７３】

次に、ＭＰＵ６２の制御に基づき第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において各種表示を行うための電気的な構成について説明する。図５４はＭＰＵ６２の制御に基づき第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において各種表示を行うための電気的な構成を説明するためのブロック図である。

【０５７４】

既に説明したとおり主制御基板６１にはＭＰＵ６２及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が設けられている。また、主制御基板６１には第１表示ＩＣ２０５、第２表示ＩＣ２０６、第３表示ＩＣ２０７及び第４表示ＩＣ２０８が設けられている。

【０５７５】

第１表示ＩＣ２０５は第１報知用表示装置２０１に対応させて設けられており、信号経路ＳＬ３１によりＭＰＵ６２と電気的に接続されているとともに信号経路ＳＬ３２により第１報知用表示装置２０１と電気的に接続されている。第１表示ＩＣ２０５にはＭＰＵ６２から受信した表示データを記憶するための記憶バッファが設けられており、当該記憶バッファに記憶されている表示データに従って第１報知用表示装置２０１の表示制御、すなわち各表示用セグメントの発光制御を行う。第１表示ＩＣ２０５は動作電力が供給されている場合には記憶バッファに記憶された表示データを記憶保持可能であり、その記憶保持している表示データに対応する表示内容を第１報知用表示装置２０１に継続して表示させる。そして、表示データがＭＰＵ６２により変更されることにより、その変更された表示データに対応する表示内容に第１報知用表示装置２０１の表示が変更される。また、第１表示ＩＣ２０５への動作電力の供給が開始された後であってＭＰＵ６２による表示データの設定が行われていない状況においては表示データがオール「０」のデータとなるが、こ

の場合には第１報知用表示装置２０１は非表示状態、すなわち消灯状態となる。
【０５７６】
但し、当該構成に限定されることはなく第１表示ＩＣ２０５にバックアップ電力が供給されることでパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されている状況であっても第１表示ＩＣ２０５にて表示データを記憶保持可能な構成としてもよい。この場合、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には、パチンコ機１０の動作電力の供給が停止される直前に第１報知用表示装置２０１にて行われていた表示が当該第１報知用表示装置２０１にて開始されることとなる。
【０５７７】
第２表示ＩＣ２０６は第２報知用表示装置２０２に対応させて設けられており、信号経路ＳＬ３３によりＭＰＵ６２と電気的に接続されているとともに信号経路ＳＬ３４により第２報知用表示装置２０２と電気的に接続されている。第２表示ＩＣ２０６にはＭＰＵ６２から受信した表示データを記憶するための記憶バッファが設けられており、当該記憶バッファに記憶されている表示データに従って第２報知用表示装置２０２の表示制御、すなわち各表示用セグメントの発光制御を行う。第２表示ＩＣ２０６は動作電力が供給されている場合には記憶バッファに記憶された表示データを記憶保持可能であり、その記憶保持している表示データに対応する表示内容を第２報知用表示装置２０２に継続して表示させる。そして、表示データがＭＰＵ６２により変更されることにより、その変更された表示データに対応する表示内容に第２報知用表示装置２０２の表示が変更される。また、第２表示ＩＣ２０６への動作電力の供給が開始された後であってＭＰＵ６２による表示データの設定が行われていない状況においては表示データがオール「０」のデータとなるが、この場合には第２報知用表示装置２０２は非表示状態、すなわち消灯状態となる。
【０５７８】
但し、当該構成に限定されることはなく第２表示ＩＣ２０６にバックアップ電力が供給されることでパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されている状況であっても第２表示ＩＣ２０６にて表示データを記憶保持可能な構成としてもよい。この場合、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には、パチンコ機１０の動作電力の供給が停止される直前に第２報知用表示装置２０２にて行われていた表示が当該第２報知用表示装置２０２にて開始されることとなる。
【０５７９】
第３表示ＩＣ２０７は第３報知用表示装置２０３に対応させて設けられており、信号経路ＳＬ３５によりＭＰＵ６２と電気的に接続されているとともに信号経路ＳＬ３６により第３報知用表示装置２０３と電気的に接続されている。第３表示ＩＣ２０７にはＭＰＵ６２から受信した表示データを記憶するための記憶バッファが設けられており、当該記憶バッファに記憶されている表示データに従って第３報知用表示装置２０３の表示制御、すなわち各表示用セグメントの発光制御を行う。第３表示ＩＣ２０７は動作電力が供給されている場合には記憶バッファに記憶された表示データを記憶保持可能であり、その記憶保持している表示データに対応する表示内容を第３報知用表示装置２０３に継続して表示させる。そして、表示データがＭＰＵ６２により変更されることにより、その変更された表示データに対応する表示内容に第３報知用表示装置２０３の表示が変更される。また、第３表示ＩＣ２０７への動作電力の供給が開始された後であってＭＰＵ６２による表示データの設定が行われていない状況においては表示データがオール「０」のデータとなるが、この場合には第３報知用表示装置２０３は非表示状態、すなわち消灯状態となる。
【０５８０】
但し、当該構成に限定されることはなく第３表示ＩＣ２０７にバックアップ電力が供給されることでパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されている状況であっても第３表示ＩＣ２０７にて表示データを記憶保持可能な構成としてもよい。この場合、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には、パチンコ機１０の動作電力の供給が停止される直前に第３報知用表示装置２０３にて行われていた表示が当該第３報知用表示装置２０３にて開始されることとなる。

【０５８１】
第４表示ＩＣ２０８は第４報知用表示装置２０４に対応させて設けられており、信号経路ＳＬ３７によりＭＰＵ６２と電気的に接続されているとともに信号経路ＳＬ３８により第４報知用表示装置２０４と電気的に接続されている。第４表示ＩＣ２０８にはＭＰＵ６２から受信した表示データを記憶するための記憶バッファが設けられており、当該記憶バッファに記憶されている表示データに従って第４報知用表示装置２０４の表示制御、すなわち各表示用セグメントの発光制御を行う。第４表示ＩＣ２０８は動作電力が供給されている場合には記憶バッファに記憶された表示データを記憶保持可能であり、その記憶保持している表示データに対応する表示内容を第４報知用表示装置２０４に継続して表示させる。そして、表示データがＭＰＵ６２により変更されることにより、その変更された表示データに対応する表示内容に第４報知用表示装置２０４の表示が変更される。また、第４表示ＩＣ２０８への動作電力の供給が開始された後であってＭＰＵ６２による表示データの設定が行われていない状況においては表示データがオール「０」のデータとなるが、この場合には第４報知用表示装置２０４は非表示状態、すなわち消灯状態となる。
【０５８２】
但し、当該構成に限定されることはなく第４表示ＩＣ２０８にバックアップ電力が供給されることでパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されている状況であっても第４表示ＩＣ２０８にて表示データを記憶保持可能な構成としてもよい。この場合、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には、パチンコ機１０の動作電力の供給が停止される直前に第４報知用表示装置２０４にて行われていた表示が当該第４報知用表示装置２０４にて開始されることとなる。
【０５８３】
第１～第４表示ＩＣ２０５～２０８への表示データの出力はＭＰＵ６２により行われるが、当該表示データの出力設定は主側ＣＰＵ６３及び管理側ＣＰＵ１１２のそれぞれにて行われる。つまり、主側ＣＰＵ６３において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御が実行されるとともに管理側ＣＰＵ１１２において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御が実行される。この場合、主側ＣＰＵ６３及び管理側ＣＰＵ１１２において同時期に表示データの出力設定が行われないように、それぞれにおいて表示データの出力設定が行われる期間が調整されている。具体的には、ＭＰＵ６２への動作電力の供給が開始された後においてパチンコ機１０の設定状態を変更することが可能である変更可能状態においては主側ＣＰＵ６３による表示データの出力設定が行われるのに対して管理側ＣＰＵ１１２による表示データの出力設定は行われない。一方、設定値の変更可能状態ではない状態においては管理側ＣＰＵ１１２による表示データの出力設定が行われるのに対して主側ＣＰＵ６３による表示データの出力設定は行われない。
【０５８４】
なお、仮に主側ＣＰＵ６３による表示データの出力設定と管理側ＣＰＵ１１２による表示データの出力設定とが同期時に行われた場合には主側ＣＰＵ６３による表示データの出力設定が優先される。但し、これに限定されることはなく管理側ＣＰＵ１１２による表示データの出力設定が優先される構成としてもよい。
【０５８５】
次に、管理側ＣＰＵ１１２にて実行される本実施形態における表示用処理について、図５５のフローチャートを参照しながら説明する。
【０５８６】
まず管理側ＲＡＭ１１４の更新タイミングカウンタの値を１減算する（ステップＳ３００１）。更新タイミングカウンタは第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における遊技履歴の管理結果の表示内容を更新するタイミングであることを管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのカウンタである。その後、１減算後における更新タイミングカウンタの値が「０」となっているか否かを判定することで第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容を更新するタイミングとなったか否かを判定する（ステップＳ３００２）。
【０５８７】

ステップＳ３００２にて肯定判定をした場合、管理側ＲＡＭ１１４の表示対象カウンタの値を１加算する（ステップＳ３００３）。そして、１加算後における表示対象カウンタの値が最大値である「２４」を超えた場合（ステップＳ３００４：ＹＥＳ）、表示対象カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳ３００５）。表示対象カウンタは第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における表示対象となっているパラメータの種類を管理側ＣＰＵ１１２にて特定するためのカウンタである。上記第１～第８パラメータ、上記第１１～第１８パラメータ、上記第２１～第２６パラメータ、上記第３１パラメータ及び上記第４１～第４２パラメータと、「０」～「２４」の表示対象カウンタの取り得る値とは１対１で対応している。例えば表示対象カウンタの値が「０」である場合、最初の表示対象である第１パラメータが第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示対象となり、表示対象カウンタの値が「２４」である場合、最後の表示対象である第４２パラメータが第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示対象となる。

【０５８８】

ステップＳ３００４にて否定判定をした場合、又はステップＳ３００５の処理を実行した場合、表示対象カウンタの値に対応するパラメータの種類に対応する表示データを管理側ＲＯＭ１１３から読み出す（ステップＳ３００６）。そして、第１報知用表示装置２０１に対応する表示データの設定処理を実行するとともに（ステップＳ３００７）、第２報知用表示装置２０２に対応する表示データの設定処理を実行する（ステップＳ３００８）。例えば表示対象カウンタの値が「０」であり第１パラメータが表示対象となっているのであれば、第１報知用表示装置２０１に「Ａ」を表示するための表示データを第１表示ＩＣ２０５に出力するとともに、第２報知用表示装置２０２に「１」を表示するための表示データを第２表示ＩＣ２０６に出力する。また、例えば表示対象カウンタの値が「２４」であり第４２パラメータが表示対象となっているのであれば、第１報知用表示装置２０１に「Ｏ」を表示するための表示データを第１表示ＩＣ２０５に出力するとともに、第２報知用表示装置２０２に「２」を表示するための表示データを第２表示ＩＣ２０６に出力する。

【０５８９】

その後、表示対象カウンタの値に対応するパラメータを演算結果用メモリ１３１から読み出すとともに、その読み出したパラメータを１００倍した結果の１０の位に対応する表示データと１の位に対応する表示データとを管理側ＲＯＭ１１３から読み出す（ステップＳ３００９）。そして、その結果の１０の位に対応する数字が表示されるように第３報知用表示装置２０３を表示制御するとともに（ステップＳ３０１０）、１の位に対応する数字が表示されるように第４報知用表示装置２０４を表示制御する（ステップＳ３０１１）。例えば１００倍した結果が「５３」である場合には第３報知用表示装置２０３に「５」を表示するための表示データを第３表示ＩＣ２０７に出力するとともに、第４報知用表示装置２０４に「３」を表示するための表示データを第４表示ＩＣ２０８に出力する。

【０５９０】

その後、管理側ＲＡＭ１１４の更新タイミングカウンタに次回の更新タイミングに対応する値として２秒に対応する値を設定する（ステップＳ３０１２）。

【０５９１】

上記のように表示用処理が実行されることにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて遊技履歴の管理結果が表示される。当該遊技履歴の管理結果の表示は遊技が継続されているか否かに関係なく行われるとともに、遊技機本体１２が外枠１１に対して開放操作されて主制御装置６０がパチンコ機１０の前方から視認可能となっているか否かに関係なく行われる。このように遊技の状況やパチンコ機１０の状態に関係なく第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御が実行されるようにすることにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を表示制御するための処理構成を簡素化することが可能となる。

【０５９２】

第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における遊技履歴の管理結果の表示は管理側

ＣＰＵ１１２への動作電力の供給が開始された後であって主側ＣＰＵ６３から識別終了コマンドを受信した後に開始される。この場合、演算結果用メモリ１３１に記憶されている情報は履歴用メモリ１１７に記憶されている情報と同様に、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されている場合であっても記憶保持されるため、管理側ＣＰＵ１１２への動作電力の供給が開始された場合には当該管理側ＣＰＵ１１２への動作電力の供給が停止される前に算出された遊技履歴の管理結果が表示される。

【０５９３】

第１～第４表示ＩＣ２０５～２０８は動作電力が供給されている間はＭＰＵ６２から出力された表示データを記憶保持するとともに、その表示データに従って対応する第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を表示制御する。したがって、遊技履歴の管理結果の表示が開始された後は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４は消灯状態（すなわち非表示状態）となることはなく、何らかの表示に対応する点灯状態（すなわち表示状態）となっている。

【０５９４】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における設定値更新処理について、図５６のフローチャートを参照しながら説明する。

【０５９５】

まず第１～第３報知用表示装置２０１～２０３の消灯処理を実行する（ステップＳ３１０１）。具体的には、第１～第３表示ＩＣ２０５～２０７に対してオール「０」となる表示データを出力する。これにより、第１～第３報知用表示装置２０１～２０３の表示用セグメントは全て消灯状態となり、第１～第３報知用表示装置２０１～２０３は非表示状態となる。なお、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された直後においては第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントは全て消灯状態であり第１～第４報知用表示装置２０１～２０４は非表示状態である。したがって、ステップＳ３１０１は、第１～第３報知用表示装置２０１～２０３を非表示状態に維持させる処理であるとともに、仮に何らかの影響で第１～第３報知用表示装置２０１～２０３のいずれかが表示状態となっていた場合にはそれを非表示状態とする処理である。

【０５９６】

その後、主側ＲＡＭ６５の設定値カウンタに「１」をセットする（ステップＳ３１０２）。設定値カウンタはパチンコ機１０の設定状態がいずれの設定値であるのかを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。設定値カウンタに「１」がセットされることにより、設定値更新処理が実行される場合にはそれまでの設定値に関係なく設定値が「設定１」となる。

【０５９７】

その後、第４報知用表示装置２０４における設定値の表示開始処理を実行する（ステップＳ３１０３）。設定値の表示開始処理では、「１」を表示するための表示データを第４表示ＩＣ２０８に出力する。これにより、「設定１」に対応する「１」の数字が第４報知用表示装置２０４にて表示される。

【０５９８】

その後、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されていないことを条件として（ステップＳ３１０４：ＮＯ）、更新ボタン６８ｂが１回押圧操作されたか否かを判定する（ステップＳ３１０５）。具体的には更新ボタン６８ｂの押圧操作を検知するセンサからの信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったか否かを判定する。ステップＳ３１０５にて否定判定をした場合、ステップＳ３１０４の処理に戻り、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されているか否かを判定する。

【０５９９】

更新ボタン６８ｂが１回押圧操作されている場合（ステップＳ３１０５：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５の設定値カウンタの値を１加算する（ステップＳ３１０６）。また、１加算後における設定値カウンタの値が「６」を超えた場合（ステップＳ３１０７：ＹＥＳ）、設定値カウンタに「１」をセットする（ステップＳ３１０８）。これにより、更新ボタン

６８ｂが１回押圧操作される度に１段階上の設定値に更新され、「設定６」の状況で更新ボタン６８ｂが１回押圧操作された場合には「設定１」に戻ることになる。

【０６００】

ステップＳ３１０７にて否定判定をした場合、又はステップＳ３１０８の処理を実行した場合、第４報知用表示装置２０４における設定値の表示更新処理を実行する（ステップＳ３１０９）。設定値の表示更新処理では、主側ＲＡＭ６５の設定値カウンタの値に対応する数字を表示するための表示データを第４表示ＩＣ２０８に出力する。これにより、現状の設定値に対応する数字が第４報知用表示装置２０４にて表示される。遊技ホールの管理者は第４報知用表示装置２０４を確認することで更新ボタン６８ｂを押圧操作した後のパチンコ機１０の設定状態を把握することが可能となる。

【０６０１】

ステップＳ３１０９の処理を実行した後はステップＳ３１０４に戻り、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されているか否かを判定する。ＯＦＦ操作されていない場合（ステップＳ３１０４：ＮＯ）、ステップＳ３１０５以降の処理を再度実行する。ＯＦＦ操作されている場合（ステップＳ３１０４：ＹＥＳ）、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における管理結果の表示開始処理を実行する（ステップＳ３１１０）。

【０６０２】

当該表示開始処理では主側ＣＰＵ６３から管理側ＣＰＵ１１２に管理結果の表示開始コマンドが送信される。当該管理結果の表示開始コマンドを受信した管理側ＣＰＵ１１２は演算結果用メモリ１３１に記憶されている各種パラメータのうち第１パラメータを表示するための処理を実行する。この場合の処理内容は表示用処理（図５５）におけるステップＳ３００６～ステップＳ３０１２と同様である。これにより、パチンコ機１０の動作電力が前回停止される直前に演算された第１パラメータに対応する表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。

【０６０３】

次に、遊技履歴の管理結果が表示される場合及びパチンコ機１０の設定状態が更新される場合のそれぞれにおける第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示態様について説明する。図５７（ａ）は遊技履歴の管理結果が表示される場合における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示態様を説明するための説明図であり、図５７（ｂ）はパチンコ機１０の設定状態が変更される場合における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示態様を説明するための説明図である。

【０６０４】

遊技履歴の管理結果が表示される場合、図５７（ａ）に示すように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて少なくとも１個の表示用セグメントが発光状態となる。つまり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれが表示状態となる。そして、これは第１～第８パラメータ、第１１～第１８パラメータ、第２１～第２６パラメータ、第３１パラメータ及び第４１～第４２パラメータのいずれが報知対象となる場合であっても同様である。これにより、遊技ホールの管理者は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全てが表示状態となっていることを目視することで、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において遊技履歴の管理結果が表示されていることを把握することが可能となる。

【０６０５】

一方、パチンコ機１０の設定状態が変更される場合、図５７（ｂ）に示すように第１～第３報知用表示装置２０１～２０３のそれぞれにおいて全ての表示用セグメントが消灯状態となる。つまり、第１～第３報知用表示装置２０１～２０３のそれぞれが非表示状態となる。また、第４報知用表示装置２０４において「１」～「６」のいずれかの表示が行われる。このように第４報知用表示装置２０４において「１」～「６」のいずれかの表示が行われるとともに第１～第３報知用表示装置２０１～２０３のそれぞれが非表示状態となることにより、遊技ホールの管理者は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において設定値に対応する表示が行われていることを把握することが可能となるとともに、現状の

設定値を明確に把握することが可能となる。

【０６０６】

次に、図５８（ａ）～図５８（ｈ）のタイムチャートを参照しながら第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が表示状態となる様子について説明する。図５８（ａ）はパチンコ機１０の設定状態を変更することが可能な変更可能状態の期間を示し、図５８（ｂ）は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における設定表示の更新タイミングを示し、図５８（ｃ）は遊技履歴の管理結果を第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示する期間を示し、図５８（ｄ）は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における遊技履歴の管理結果に対応する表示の更新タイミングを示し、図５８（ｅ）は第１報知用表示装置２０１が表示状態となっている期間を示し、図５８（ｆ）は第２報知用表示装置２０２が表示状態となっている期間を示し、図５８（ｇ）は第３報知用表示装置２０３が表示状態となっている期間を示し、図５８（ｈ）は第４報知用表示装置２０４が表示状態となっている期間を示す。

【０６０７】

設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作された状態でパチンコ機１０への動作電力の供給が開始されることで図５８（ａ）に示すようにｔ１のタイミングでパチンコ機１０の設定状態を変更することが可能な変更可能状態となる。当該ｔ１のタイミングで図５８（ｂ）に示すように設定表示の更新タイミングとなり図５８（ｈ）に示すように第４報知用表示装置２０４が表示状態となりその表示状態が継続される。この場合、「設定１」が選択されているため、第４報知用表示装置２０４では「１」が表示される。一方、ｔ１のタイミングでは図５８（ｅ）～図５８（ｇ）に示すように第１～第３報知用表示装置２０１～２０３は非表示状態、すなわち全ての表示用セグメントが消灯された状態に維持される。

【０６０８】

その後、ｔ２のタイミング、ｔ３のタイミング、ｔ４のタイミング及びｔ５のタイミングのそれぞれで更新ボタン６８ｂの操作により設定値を変更する操作が行われることにより、図５８（ｂ）に示すようにこれら各タイミングで設定値表示の更新タイミングとなる。この場合、図５８（ｈ）に示すように第４報知用表示装置２０４ではそれら各タイミングにおいて、変更後における設定値に対応する数字に表示内容が切り換えられることとなるが、この表示内容の切り換えが行われる各タイミングを含めて第４報知用表示装置２０４は表示状態に維持される。一方、図５８（ｅ）～図５８（ｇ）に示すようにこれら設定値表示の更新タイミングのそれぞれにおいても第１～第３報知用表示装置２０１～２０３は非表示状態、すなわち全ての表示用セグメントが消灯された状態に維持される。

【０６０９】

その後、ｔ６のタイミングで設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されることで図５８（ａ）に示すように変更可能状態が終了される。この場合、当該ｔ６のタイミングで図５８（ｃ）に示すように遊技履歴の管理結果の表示期間が開始される。具体的には、演算結果用メモリ１３１に記憶されている第１パラメータの表示が開始される。したがって、当該ｔ６のタイミングで図５８（ｅ）～図５８（ｇ）に示すように第１～第３報知用表示装置２０１～２０３が非表示状態から表示状態に切り換えられるとともに第４報知用表示装置２０４が表示内容は変更されるものの表示状態に維持される。

【０６１０】

その後、ｔ７のタイミング、ｔ８のタイミング、ｔ９のタイミング、ｔ１０のタイミング、ｔ１１のタイミング及びｔ１２のタイミングのそれぞれで図５８（ｄ）に示すように遊技履歴の管理結果の表示の更新タイミングとなる。この場合、図５８（ｅ）～図５８（ｈ）に示すように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４ではそれら各タイミングにおいて、更新後における遊技履歴の管理結果に対応する表示内容に切り換えられることとなるが、この表示内容の切り換えが行われる各タイミングを含めて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４はいずれも表示状態に維持される。

【０６１１】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【０６１２】
遊技履歴の管理結果が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて表示される構成において、パチンコ機１０の設定状態を変更することが可能である変更可能状態においてはそれに対応する表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を遊技履歴の管理結果を表示するためだけではなく変更可能状態においてそれに対応する表示を行うための表示装置として兼用することが可能となる。
【０６１３】
第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において遊技履歴の管理結果が表示される期間と、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において設定値の変更可能状態であることに対応する表示が行われる期間とは区別されている。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において表示が行われている状況を把握することで、当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においていずれの表示が行われているのかを特定することが可能となる。
【０６１４】
設定値の変更可能状態に対応する表示が行われる場合、遊技履歴の管理結果が表示される場合における表示態様とは異なる表示態様となるように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が表示制御される。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示態様を把握することで、当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においていずれの表示が行われているのかを特定することが可能となる。
【０６１５】
複数の報知用表示装置２０１～２０４が設けられている。これにより、遊技履歴の管理結果に対応する表示として多種多様な表示を行うことが可能となる。また、複数の報知用表示装置２０１～２０４が存在していることにより、遊技履歴の管理結果が表示される場合と設定値の変更可能状態に対応する表示が行われる場合とで表示態様を大きく相違させることが可能となる。
【０６１６】
設定値の変更可能状態に対応する表示が行われる場合、遊技履歴の管理結果を表示する場合に非表示状態とならない第１～第３報知用表示装置２０１～２０３が非表示状態となる。これにより、第１～第３報知用表示装置２０１～２０３が非表示状態となっているか否かを確認するだけで、遊技履歴の管理結果の表示及び設定値の変更可能状態に対応する表示のうちいずれが第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われているのかを明確に特定することが可能となる。
【０６１７】
設定値の変更可能状態に対応する表示が行われる場合、第４報知用表示装置２０４が表示状態となるとともに、その表示内容は遊技履歴の管理結果を表示する場合において第４報知用表示装置２０４にて表示され得る表示内容である。このように第４報知用表示装置２０４における表示内容が重複し得るようにすることにより、遊技履歴の管理結果が表示される場合及び設定値の変更可能状態に対応する表示が行われる場合のそれぞれの表示内容に制約を与えないようにすることが可能となる。また、このように第４報知用表示装置２０４における表示内容が重複し得る構成であっても、設定値の変更可能状態に対応する表示が行われる場合には第１～第３報知用表示装置２０１～２０３が非表示状態とされるため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においていずれの表示が行われているのかを特定することができる。
【０６１８】
遊技履歴の管理結果が表示される場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれが表示状態となる。これにより、遊技履歴の管理結果が表示される場合と設定値の変更可能状態に対応する表示が行われる場合とで第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示態様を明確に相違させることが可能となる。
【０６１９】

遊技履歴の管理結果が表示される場合、表示対象となる遊技履歴の管理結果の種類が変更される場合であっても第１～第４報知用表示装置２０１～２０４は非表示状態に維持されない。これにより、遊技履歴の管理結果が表示されている状況における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を確認したタイミングに関係なく、遊技履歴の管理結果を特定することが可能となる。また、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を確認したタイミングに関係なく、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において遊技履歴の管理結果の表示及び設定値の変更可能状態に対応する表示のうちいずれが行われているのかを特定することが可能となる。

【０６２０】

設定値の変更可能状態に対応する表示が行われる場合、第４報知用表示装置２０４の１個のみが表示状態となる。これにより、設定値の変更可能状態に対応する表示が行われているか否かを把握し易くなる。

【０６２１】

第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が横方向に配列されている構成において右端に配置された第４報知用表示装置２０４のみを利用して設定値の変更可能状態に対応する表示が行われる。これにより、設定値の変更可能状態に対応する表示が行われているか否かを把握し易くなる。

【０６２２】

遊技履歴の管理結果が表示される場合には第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２を利用して表示対象となる遊技履歴の管理結果の種類に対応する表示が行われるとともに第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４を利用して遊技履歴の管理結果の内容に対応する表示が行われる。これにより、遊技履歴の管理結果を把握し易くなる。この場合に、設定値の変更可能状態においては遊技履歴の管理結果の種類が表示される第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２がいずれも非表示状態となる。これにより、種類を表示するための第１，第２報知用表示装置２０１，２０２が非表示の状態が設定値の変更可能状態に対応していることとなり、設定値の変更可能状態に対応する表示が行われていることを把握し易くなる。

【０６２３】

また、設定値の変更可能状態に対応する表示が行われる場合には、遊技履歴の管理結果の種類が表示される第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２だけではなく、遊技履歴の管理結果の内容が表示される第３報知用表示装置２０３も非表示状態となる。これにより、設定値の変更可能状態に対応する表示が行われていることを把握し易くなる。

【０６２４】

ＭＰＵ６２から第１～第４表示ＩＣ２０５～２０８に表示データが出力され、第１～第４表示ＩＣ２０５～２０８はその表示データに従って第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に所定の表示を行わせる構成において、第１～第４表示ＩＣ２０５～２０８にて表示データが記憶保持される。これにより、例えば電波検知異常や振動検知異常が発生したことで主側ＣＰＵ６３において遊技を進行させるための処理の実行が停止された場合であっても（ステップＳ３０６にて肯定判定をする場合）、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における遊技履歴の管理結果の表示を維持させることが可能となる。

【０６２５】

なお、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のうちパチンコ機１０の設定状態を変更することが可能である変更可能状態において非表示状態（全消灯状態）となる対象は、第１～第３報知用表示装置２０１～２０３に限定されることはなく第１，第２報知用表示装置２０１，２０２としてもよい。この場合、第３報知用表示装置２０３にて現状の設定値の内容とは異なる所定の表示（例えば「５」の表示）が行われるとともに、第４報知用表示装置２０４にて現状の設定値に対応する数字が表示される構成としてもよく、第４報知用表示装置２０４にて現状の設定値の内容とは異なる所定の表示（例えば「５」の表示）が行われるとともに、第３報知用表示装置２０３にて現状の設定値に対応する数字が表

示される構成としてもよい。また、第１報知用表示装置２０１と第３報知用表示装置２０３とが非表示状態（全消灯状態）となり第２報知用表示装置２０２と第４報知用表示装置２０４とが表示状態となる構成としてもよく、第１報知用表示装置２０１と第４報知用表示装置２０４とが非表示状態（全消灯状態）となり第２報知用表示装置２０２と第３報知用表示装置２０３とが表示状態となる構成としてもよく、第２報知用表示装置２０２と第３報知用表示装置２０３とが非表示状態（全消灯状態）となり第１報知用表示装置２０１と第４報知用表示装置２０４とが表示状態となる構成としてもよく、第２報知用表示装置２０２と第４報知用表示装置２０４とが非表示状態（全消灯状態）となり第１報知用表示装置２０１と第３報知用表示装置２０３とが表示状態となる構成としてもよい。

【０６２６】

また、パチンコ機１０の設定状態を変更することが可能である変更可能状態においては、第１報知用表示装置２０１のみが非表示状態（全消灯状態）となる構成としてもよく、第２報知用表示装置２０２のみが非表示状態（全消灯状態）となる構成としてもよく、第３報知用表示装置２０３のみが非表示状態（全消灯状態）となる構成としてもよく、第４報知用表示装置２０４のみが非表示状態（全消灯状態）となる構成としてもよい。

【０６２７】

また、パチンコ機１０の設定状態を変更することが可能である変更可能状態においては、第１報知用表示装置２０１のみが表示状態となる構成としてもよく、第２報知用表示装置２０２のみが表示状態となる構成としてもよく、第３報知用表示装置２０３のみが表示状態となる構成としてもよい。

【０６２８】

＜第１２の実施形態＞

本実施形態では、設定値の変更可能状態における第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２の表示内容が上記第１１の実施形態と相違している。以下、上記第１１の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１１の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０６２９】

図５９（ａ）は第１報知用表示装置２０１の構成を説明するための説明図であり、図５９（ｂ）は第２報知用表示装置２０２の構成を説明するための説明図である。

【０６３０】

図５９（ａ）に示すように第１報知用表示装置２０１は７個の第１～第７表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇを備えている。第１～第７表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇはいずれも棒状に形成されており、内部にＬＥＤなどの発光体を有している。これら７個の第１～第７表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇは第１報知用表示装置２０１が所謂７セグメントディスプレイとなるように配列されている。

【０６３１】

図５９（ｂ）に示すように第２報知用表示装置２０２は７個の第１～第７表示用セグメント２０２ａ～２０２ｇを備えている。第１～第７表示用セグメント２０２ａ～２０２ｇはいずれも棒状に形成されており、内部にＬＥＤなどの発光体を有している。これら７個の第１～第７表示用セグメント２０２ａ～２０２ｇは第２報知用表示装置２０２が所謂７セグメントディスプレイとなるように配列されている。

【０６３２】

図６０は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて遊技履歴の管理結果を表示する場合及びパチンコ機１０の設定状態を変更することが可能な変更可能状態であることを表示する場合における第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２の表示内容を説明するための説明図である。

【０６３３】

遊技履歴の管理結果を表示する場合における第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２の表示内容は上記第１１の実施形態と同様である。したがって、第１報知用表示装置２０１では「Ａ」、「Ｅ」、「Ｈ」、「Ｌ」、「Ｏ」のいずれかが表示され、

第２報知用表示装置２０２では「１」～「８」のいずれかが表示される。
【０６３４】
この場合、第１報知用表示装置２０１の第１～第７表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇのそれぞれは、第１報知用表示装置２０１における「Ａ」、「Ｅ」、「Ｈ」、「Ｌ」、「Ｏ」の表示のうち少なくとも１種類の表示において発光対象となる。つまり、第１報知用表示装置２０１において「Ａ」、「Ｅ」、「Ｈ」、「Ｌ」、「Ｏ」のいずれを表示する場合であっても発光対象とならない表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇは存在していない。
【０６３５】
第２報知用表示装置２０２についても同様に、第２報知用表示装置２０２の第１～第７表示用セグメント２０２ａ～２０２ｇのそれぞれは、第２報知用表示装置２０２における「１」～「８」の表示のうち少なくとも１種類の表示において発光対象となる。つまり、第２報知用表示装置２０２において「１」～「８」のいずれを表示する場合であっても発光対象とならない表示用セグメント２０２ａ～２０２ｇは存在していない。
【０６３６】
パチンコ機１０の設定状態を変更することが可能な変更可能状態においては第１報知用表示装置２０１では第２表示用セグメント２０１ｂと第５表示用セグメント２０１ｅとが発光状態となる。これら第２表示用セグメント２０１ｂ及び第５表示用セグメント２０１ｅは既に説明したとおり第１報知用表示装置２０１にて遊技履歴の管理結果を表示する場合において発光状態となり得る。さらに言うと第１報知用表示装置２０１にて遊技履歴の管理結果を表示する場合のいずれにおいても第２表示用セグメント２０１ｂ及び第５表示用セグメント２０１ｅは発光状態となる。その一方、第１～第７表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇのうち第２表示用セグメント２０１ｂ及び第５表示用セグメント２０１ｅのみが発光状態となる第１報知用表示装置２０１の表示内容は遊技履歴の管理結果を表示する場合において存在していない。これにより、設定値の変更可能状態において、遊技履歴の管理結果を表示する場合に発光状態となり得る表示用セグメント２０１ｂ，２０１ｅを利用しながら、遊技履歴の管理結果を表示する場合には表示されない表示態様を第１報知用表示装置２０１に表示させることが可能となる。よって、遊技履歴の管理結果を表示する場合に利用される表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇを兼用しながら、設定値の変更可能状態に対応する表示を第１報知用表示装置２０１にて行わせることが可能となる。
【０６３７】
設定値の変更可能状態においては第２報知用表示装置２０２では第３表示用セグメント２０２ｃが発光状態となる。第３表示用セグメント２０２ｃは既に説明したとおり第２報知用表示装置２０２にて遊技履歴の管理結果を表示する場合において発光状態となり得る。その一方、第１～第７表示用セグメント２０２ａ～２０２ｇのうち第３表示用セグメント２０２ｃのみが発光状態となる第２報知用表示装置２０２の表示内容は遊技履歴の管理結果を表示する場合において存在していない。これにより、設定値の変更可能状態において、遊技履歴の管理結果を表示する場合に発光状態となり得る表示用セグメント２０２ｃを利用しながら、遊技履歴の管理結果を表示する場合には表示されない表示態様を第２報知用表示装置２０２に表示させることが可能となる。よって、遊技履歴の管理結果を表示する場合に利用される表示用セグメント２０２ａ～２０２ｇを兼用しながら、設定値の変更可能状態に対応する表示を第２報知用表示装置２０２にて行わせることが可能となる。
【０６３８】
次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における設定値更新処理について、図６１のフローチャートを参照しながら説明する。
【０６３９】
まず第１～第２報知用表示装置２０１，２０２における設定値表示の開始処理を実行する（ステップＳ３２０１）。具体的には、第１報知用表示装置２０１については第２表示用セグメント２０１ｂ及び第５表示用セグメント２０１ｅが発光状態となりそれ以外の表示用セグメント２０１ａ，２０１ｃ，２０１ｄ，２０１ｆ，２０１ｇが消灯状態となる表

示データを第１表示ＩＣ２０５に出力する。また、第２報知用表示装置２０２については第３表示用セグメント２０２ｃが発光状態となりそれ以外の表示用セグメント２０２ａ，２０２ｂ，２０２ｄ～２０２ｇが消灯状態となる表示データを第２表示ＩＣ２０６に出力する。これにより、パチンコ機１０の設定状態を変更することが可能な変更可能状態であることを報知するための表示が第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２にて開始される。

【０６４０】

その後、第３報知用表示装置２０３の消灯処理を実行する（ステップＳ３２０２）。具体的には、第３表示ＩＣ２０７に対してオール「０」となる表示データを出力する。これにより、第３報知用表示装置２０３は全ての表示用セグメントが消灯状態となり、第３報知用表示装置２０３は非表示の状態となる。

【０６４１】

その後、主側ＲＡＭ６５の設定値カウンタに「１」をセットする（ステップＳ３２０３）。設定値カウンタはパチンコ機１０の設定状態がいずれの設定値であるのかを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。設定値カウンタに「１」がセットされることにより、設定値更新処理が実行される場合にはそれまでの設定値に関係なく設定値が「設定１」となる。

【０６４２】

その後、第４報知用表示装置２０４における設定値の表示開始処理を実行する（ステップＳ３２０４）。設定値の表示開始処理では、「１」を表示するための表示データを第４表示ＩＣ２０８に出力する。これにより、「設定１」に対応する「１」の数字が第４報知用表示装置２０４にて表示される。

【０６４３】

その後、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されていないことを条件として（ステップＳ３２０５：ＮＯ）、更新ボタン６８ｂが１回押圧操作されたか否かを判定する（ステップＳ３２０６）。具体的には更新ボタン６８ｂの押圧操作を検知するセンサからの信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったか否かを判定する。ステップＳ３２０６にて否定判定をした場合、ステップＳ３２０５の処理に戻り、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されているか否かを判定する。

【０６４４】

更新ボタン６８ｂが１回押圧操作されている場合（ステップＳ３２０６：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５の設定値カウンタの値を１加算する（ステップＳ３２０７）。また、１加算後における設定値カウンタの値が「６」を超えた場合（ステップＳ３２０８：ＹＥＳ）、設定値カウンタに「１」をセットする（ステップＳ３２０９）。これにより、更新ボタン６８ｂが１回押圧操作される度に１段階上の設定値に更新され、「設定６」の状況で更新ボタン６８ｂが１回押圧操作された場合には「設定１」に戻ることになる。

【０６４５】

ステップＳ３２０８にて否定判定をした場合、又はステップＳ３２０９の処理を実行した場合、第４報知用表示装置２０４における設定値の表示更新処理を実行する（ステップＳ３２１０）。設定値の表示更新処理では、主側ＲＡＭ６５の設定値カウンタの値に対応する数字を表示するための表示データを第４表示ＩＣ２０８に出力する。これにより、現状の設定値に対応する数字が第４報知用表示装置２０４にて表示される。遊技ホールの管理者は第４報知用表示装置２０４を確認することで更新ボタン６８ｂを押圧操作した後のパチンコ機１０の設定状態を把握することが可能となる。

【０６４６】

ステップＳ３２１０の処理を実行した後はステップＳ３２０５に戻り、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されているか否かを判定する。ＯＦＦ操作されていない場合（ステップＳ３２０５：ＮＯ）、ステップＳ３２０６以降の処理を再度実行する。ＯＦＦ操作されている場合（ステップＳ３２０５：ＹＥＳ）、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における管理結果の表示開始処理を実行する（ステップＳ３２１１）。

【０６４７】
当該表示開始処理では主側ＣＰＵ６３から管理側ＣＰＵ１１２に管理結果の表示開始コマンドが送信される。当該管理結果の表示開始コマンドを受信した管理側ＣＰＵ１１２は演算結果用メモリ１３１に記憶されている各種パラメータのうち第１パラメータを表示するための処理を実行する。この場合の処理内容は表示用処理（図５５）におけるステップＳ３００６～ステップＳ３０１２と同様である。これにより、パチンコ機１０の動作電力が前回停止される直前に演算された第１パラメータに対応する表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。
【０６４８】
以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。
【０６４９】
遊技履歴の管理結果が表示される場合に発光状態となり得る第１，第２報知用表示装置２０１，２０２の表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇ，２０２ａ～２０２ｇを発光状態とすることにより設定値の変更可能状態に対応する表示が行われる。これにより、遊技履歴の管理結果の表示の多様化を図る上で遊技履歴の管理結果に対応する表示の内容に極力制約を与えないようにすることが可能となる。その一方、第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２のそれぞれについて、設定値の変更可能状態に対応する表示が行われる場合に発光状態となる表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇ，２０２ａ～２０２ｇの組合せが、遊技履歴の管理結果が表示される場合には存在しない組合せとなっている。これにより、第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２のそれぞれについて発光状態となる表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇ，２０２ａ～２０２ｇの組合せを把握することにより、遊技履歴の管理結果の表示及び設定値の変更可能状態に対応する表示のうちいずれが行われているのかを把握することが可能となる。
【０６５０】
第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２のそれぞれについて、遊技履歴の管理結果の表示が全パターン行われたとしても発光状態とならない表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇ，２０２ａ～２０２ｇは存在していない。これにより、遊技履歴の管理結果に対応する表示の多様化を図る上で遊技履歴の管理結果の表示内容に極力制約を与えないようにすることが可能となる。
【０６５１】
設定値の変更可能状態に対応する表示が行われる場合、遊技履歴の管理結果を表示する場合に非表示状態とならない第３報知用表示装置２０３が非表示状態となる。これにより、第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２の表示内容だけではなく、第３報知用表示装置２０３が非表示状態となっているか否かを確認することで、遊技履歴の管理結果の表示及び設定値の変更可能状態に対応する表示のうちいずれが第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われているのかを明確に特定することが可能となる。
【０６５２】
なお、第１，第２報知用表示装置２０１，２０２におけるパチンコ機１０の設定状態を変更することが可能である変更可能状態に対応する表示内容の種類が１種類のみ設定されている構成に限定されることはなく、複数種類設定されている構成としてもよい。この場合、当該複数種類の表示内容は表示順序が予め定められており、変更可能状態が新たに実行される度にその表示順序に従って表示対象となる表示内容が変更される構成としてもよい。このように設定値の変更可能状態に対応する表示内容が複数種類存在している場合であっても、それら表示内容は、遊技履歴の管理結果を表示する場合に発光状態となる表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇ，２０２ａ～２０２ｇを利用して表示されるとともに、遊技履歴の管理結果を表示する場合には表示されない表示内容となっている。
【０６５３】
また、遊技履歴の管理結果を表示する場合及びパチンコ機１０の設定状態を変更することが可能である変更可能状態に対応する表示を行う場合のうち一方においては第１，第２報知用表示装置２０１，２０２において点滅表示が行われ、他方においては点灯を維持す

る表示が行われる構成としてもよい。この場合、点滅表示及び点灯表示のいずれであるかによって遊技履歴の管理結果の表示及び変更可能状態に対応する表示のうちいずれであるかを遊技ホールの管理者が特定することができるため、変更可能状態に対応する表示において発光状態とされる表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇ，２０２ａ～２０２ｇの組合せが、遊技履歴の管理結果を表示する場合に利用される組合せであってもよく、遊技履歴の管理結果を表示する場合に利用されない組合せであってもよい。また、点滅表示における点灯期間と消灯期間とが、第１報知用表示装置２０１と第２報知用表示装置２０２とで相互に一致している構成としてもよく、完全にずれている構成としてもよく、一部だけ重複する構成としてもよい。

【０６５４】

＜第１３の実施形態＞

本実施形態ではパチンコ機１０に異常状態が発生した場合にそれに対応する表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用して行われることが上記第１１の実施形態と相違している。以下、上記第１１の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１１の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０６５５】

図６２は主側ＲＡＭ６５に設けられた異常表示エリア２１１の構成を説明するための説明図である。

【０６５６】

異常表示エリア２１１は、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて表示すべき異常状態の情報を記憶するためのエリアである。異常表示エリア２１１には、複数の単位エリア２１１ａ～２１１ｄが設けられている。具体的には、第１単位エリア２１１ａ、第２単位エリア２１１ｂ、第３単位エリア２１１ｃ及び第４単位エリア２１１ｄが設けられている。これら第１～第４単位エリア２１１ａ～２１１ｄのそれぞれには１個ずつパチンコ機１０の異常状態の情報を格納することが可能である。つまり、異常表示エリア２１１においてはパチンコ機１０の異常状態の情報を最大で４個記憶保持可能である。

【０６５７】

ここで、本実施形態ではパチンコ機１０において発生する異常状態の全ての情報が主側ＣＰＵ６３にて特定される。例えば、遊技球の払い出しに関する異常（例えば、下皿５６ａの満タン、タンク７５の球無し、払出装置７６による払出異常）が発生した場合には、その発生した異常に対応するコマンドが払出側ＣＰＵ９２から主側ＣＰＵ６３に送信される。また、パチンコ機１０には図示しない電波検知センサ及び振動検知センサが設けられており、不正な電波を電波検知センサが検知した場合にはそれに対応する異常信号が主側ＣＰＵ６３に送信され、異常な振動を振動検知センサが検知した場合にはそれに対応する異常信号が主側ＣＰＵ６３に送信される。また、各入球検知センサ４２ａ～４９ａから正常な信号の送信が行われなくなることを特定することに基づいて、これら入球検知センサ４２ａ～４９ａの断線異常の発生を特定する。

【０６５８】

主側ＣＰＵ６３にて特定される異常状態の種類は、異常表示エリア２１１において記憶可能な異常状態の情報の最大数よりも多い数となっている。そうすると、多数の異常状態が同時に発生した場合には異常表示エリア２１１に既に最大数の異常状態の情報が記憶されているにも関わらず新たな異常情報が発生することが想定される。これに対して、異常状態の情報に対してはパチンコ機１０の設定段階において記憶優先度が設定されており、異常表示エリア２１１に既に最大数の異常状態の情報が記憶されている状況において新たに異常状態が発生した場合には記憶優先度が高い異常状態の情報が異常表示エリア２１１に残されることとなる。これにより、記憶優先度が高い異常状態の報知を優先して実行することが可能となる。

【０６５９】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される異常設定処理について、図６３のフローチャートを参照しながら説明する。なお、異常設定処理はタイマ割込み処理（図１１）の最初の処

理として実行される。
【０６６０】
まず異常表示対象が発生しているか否かを判定する（ステップＳ３３０１）。異常表示対象の種類は、下皿５６ａの満タン、タンク７５の球無し、払出装置７６による払出異常、電波検知異常、振動検知異常、各入球検知センサ４２ａ～４９ａの断線異常が含まれる。この異常表示対象の種類の数は異常表示エリア２１１に設けられた第１～第４単位エリア２１１ａ～２１１ｄの数よりも多い数となっている。
【０６６１】
ステップＳ３３０１にて肯定判定をした場合、今回発生した異常表示対象に対応する異常状態の情報が異常表示エリア２１１の第１～第４単位エリア２１１ａ～２１１ｄのいずれかに既に記憶されているか否かを判定する（ステップＳ３３０２）。既に記憶されている場合には今回発生した異常表示対象に対応する異常状態の情報は異常表示エリア２１１に記憶されない。これにより、同一種類の異常状態の情報が異常表示エリア２１１に重複して記憶されてしまわないようにすることが可能となる。
【０６６２】
ステップＳ３３０２にて否定判定をした場合、主側ＲＡＭ６５に設けられた異常対象カウンタの値が最大値（具体的には「４」）であるか否かを判定する（ステップＳ３３０３）。異常対象カウンタは、異常表示エリア２１１における第１～第４単位エリア２１１ａ～２１１ｄのうち異常状態の情報が格納されているエリアの数を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。
【０６６３】
異常対象カウンタの値が最大値である場合（ステップＳ３３０３：ＹＥＳ）、優先度の比較処理を実行する（ステップＳ３３０４）。優先度の比較処理では、まず異常表示エリア２１１の第１～第４単位エリア２１１ａ～２１１ｄに記憶されている異常状態の情報のうち最も記憶優先度が低い異常状態の情報を特定する。記憶優先度はパチンコ機１０の設計段階において予め定められており、具体的には下皿５６ａの満タン→タンク７５の球無し→振動検知異常→払出装置７６による払出異常→入球検知センサ４２ａ～４９ａの断線異常→電波検知異常の順序で記憶優先度が高くなる。優先度の比較処理では、第１～第４単位エリア２１１ａ～２１１ｄに記憶されている最も記憶優先度が低い異常状態の情報と、今回発生した異常表示対象とのうちいずれの記憶優先度が高いのかを比較判定する。
【０６６４】
今回発生した異常表示対象の記憶優先度の方が低い場合には（ステップＳ３３０５：ＮＯ）、今回発生した異常表示対象に対応する異常状態の情報を異常表示エリア２１１に記憶しない。これにより、異常表示対象の種類の数が異常表示エリア２１１に設けられた第１～第４単位エリア２１１ａ～２１１ｄの数よりも多い数である構成において、記憶優先度が高い異常状態の情報を異常表示エリア２１１に残すことが可能となる。
【０６６５】
今回発生した異常表示対象の記憶優先度の方が高い場合には（ステップＳ３３０５：ＹＥＳ）、異常表示エリア２１１の設定処理を実行する（ステップＳ３３０６）。ステップＳ３３０５にて肯定判定をした場合に実行される異常表示エリア２１１の設定処理では、記憶優先度が最も低い異常状態の情報が記憶されていると特定された単位エリア２１１ａ～２１１ｄに、今回発生した異常表示対象に対応する異常状態の情報を上書きする。
【０６６６】
一方、主側ＲＡＭ６５の異常対象カウンタの値が最大値に達していない場合には（ステップＳ３３０３：ＮＯ）、異常対象カウンタの値を１加算した後に（ステップＳ３３０７）、異常表示エリア２１１の設定処理を実行する（ステップＳ３３０６）。当該設定処理では、異常表示エリア２１１において異常状態の情報が格納されていない単位エリア２１１ａ～２１１ｄの中から一のエリアを選択し、その選択したエリアに今回発生した異常表示対象に対応する異常状態の情報を格納する。
【０６６７】

なお、ステップＳ３３０６では、異常表示エリア２１１に記憶されている異常状態の情報が１個のみである場合にはその異常状態の情報は第１単位エリア２１１ａに格納されるようにし、異常表示エリア２１１に記憶されている異常状態の情報が複数個である場合には第ｎ単位エリア２１１ａ～２１１ｂの「ｎ」の値が小さいエリアから順に異常状態の情報が格納されるようにする。

【０６６８】

異常設定処理では、異常表示対象の解除事象が発生したか否かを判定する（ステップＳ３３０８）。例えば下皿５６ａの満タンが解除されたこと、タンク７５の球無しが解除されたこと、又は払出装置７６による払出異常が解除されたことを示すコマンドを払出側ＣＰＵ９２から受信したか否かを判定する。また、電波検知異常の発生に対する異常解除操作が行われたか否か、振動検知異常の発生に対する異常解除操作が行われたか否か、又は断線異常の発生に対する異常解除操作が行われたか否かを判定する。

【０６６９】

ステップＳ３３０８にて肯定判定をした場合、異常表示エリア２１１の消去処理を実行する（ステップＳ３３０９）。当該消去処理では、今回解除対象となった異常表示対象に対応する異常状態の情報が異常表示エリア２１１の第１～第４単位エリア２１１ａ～２１１ｄのいずれかに格納されているか否かを特定し、格納されている場合にはその格納されているエリアを「０」クリアすることでその異常状態の情報を消去する。この場合、消去後において異常表示エリア２１１に記憶されている異常状態の情報が１個のみである場合にはその異常状態の情報は第１単位エリア２１１ａに格納されるようにし、消去後において異常表示エリア２１１に記憶されている異常状態の情報が複数個である場合には第ｎ単位エリア２１１ａ～２１１ｂの「ｎ」の値が小さいエリアから順に異常状態の情報が格納されるようにする。また、主側ＲＡＭ６５の異常対象カウンタの値を１減算する（ステップＳ３３１０）。

【０６７０】

異常設定処理では、異常表示の開始操作が発生したか否かを判定する（ステップＳ３３１１）。異常表示の開始操作は、パチンコ機１０の設定状態を変更することが可能な変更可能状態ではない状況において外枠１１に対して遊技機本体１２を前方に開放させた状態で更新ボタン６８ｂを押圧操作することにより行われる。

【０６７１】

ステップＳ３３１１にて肯定判定をした場合、異常表示エリア２１１に１個以上の異常状態の情報が記憶されているか否かを判定する（ステップＳ３３１２）。異常状態の情報が記憶されていない場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における異常表示が開始されない。これにより、報知すべき異常状態の情報が存在していないにも関わらず異常表示が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【０６７２】

ステップＳ３３１２にて肯定判定をした場合、主側ＲＡＭ６５に設けられた異常表示中フラグに「１」をセットする（ステップＳ３３１３）。異常表示中フラグは、遊技履歴の管理結果に対応する表示を中止して、異常表示エリア２１１に格納されている異常状態の情報に対応する表示を第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行うべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。なお、既に異常表示中フラグに「１」がセットされている状況で異常表示の開始操作が行われたとしてもステップＳ３３１１にて否定判定をする。

【０６７３】

その後、管理結果の表示の中止設定処理を実行する（ステップＳ３３１４）。当該中止設定処理では、管理側ＣＰＵ１１２に対して表示中止コマンドを送信することで、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における遊技履歴の管理結果の表示の更新を一旦中止させる。管理側ＣＰＵ１１２は当該表示中止コマンドを受信することで、表示用処理（図５５）の実行を中止する。但し、管理側ＣＰＵ１１２は表示中止コマンドを受信したとしても第１～第４表示ＩＣ２０５～２０８にオール「０」のデータとなる表示データを設定

しない。したがって、主側ＣＰＵ６３から第１～第４表示ＩＣ２０５～２０８に表示データが送信されるまではその時点における遊技履歴の管理結果の表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において継続される。

【０６７４】

異常設定処理では、異常表示の終了操作が発生したか否かを判定する（ステップＳ３３１５）。異常表示の終了操作は、パチンコ機１０の設定状態を変更することが可能な変更可能状態ではない状況において外枠１１に対して遊技機本体１２を前方に開放させた状態でリセットボタン６８ｃを押圧操作することにより行われる。ステップＳ３３１５にて肯定判定をした場合、主側ＲＡＭ６５の異常表示中フラグを「０」クリアする（ステップＳ３３１６）。なお、既に異常表示中フラグの値が「０」である状況で異常表示の終了操作が行われたとしてもステップＳ３３１５にて否定判定をする。

【０６７５】

その後、管理結果の表示の中止解除処理を実行する（ステップＳ３３１７）。当該中止解除処理では、管理側ＣＰＵ１１２に対して中止解除コマンドを送信することで、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における遊技履歴の管理結果の表示の更新が中止されている状態を解除する。管理側ＣＰＵ１１２は当該中止解除コマンドを受信することで、表示用処理（図５５）の実行を再開する。但し、管理側ＣＰＵ１１２は中止解除コマンドを受信したとしても第１～第４表示ＩＣ２０５～２０８にオール「０」のデータとなる表示データを設定しない。したがって、管理側ＣＰＵ１１２から第１～第４表示ＩＣ２０５～２０８に表示データが送信されるまではその時点における異常表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において継続される。また、管理側ＣＰＵ１１２は遊技履歴の管理結果の表示の更新が中止されている状況であっても履歴情報の記憶及び各種パラメータの演算を継続しており、各種パラメータの演算を行った結果は演算結果用メモリ１３１に記憶されている。したがって、遊技履歴の管理結果の表示の更新が中止された状態が解除された場合には、直近の遊技履歴の管理結果についての表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において即座に再開されることとなる。

【０６７６】

異常設定処理では、主側ＲＡＭ６５の異常表示中フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳ３３１８：ＹＥＳ）、異常表示用処理を実行する（ステップＳ３３１９）。図６４は異常表示用処理を示すフローチャートである。

【０６７７】

まず第１，第２報知用表示装置２０１，２０２の消灯処理を実行する（ステップＳ３４０１）。具体的には、第１，第２表示ＩＣ２０５，２０６に対してオール「０」となる表示データを出力する。これにより、第１，第２報知用表示装置２０１，２０２はいずれも全ての表示用セグメントが消灯状態となり、第１，第２報知用表示装置２０１，２０２は非表示の状態となる。

【０６７８】

その後、主側ＲＡＭ６５に設けられた更新タイミングカウンタの値を１減算する（ステップＳ３４０２）。更新タイミングカウンタは第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における異常表示の表示内容を更新するタイミングであることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。なお、既に更新タイミングカウンタの値が「０」となっている場合にはその状態を維持する。その後、更新タイミングカウンタの値が「０」となっているか否かを判定することで第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容を更新するタイミングとなったか否かを判定する（ステップＳ３４０３）。

【０６７９】

ステップＳ３４０３にて肯定判定をした場合、主側ＲＡＭ６５に設けられた表示対象カウンタの更新処理を実行する（ステップＳ３４０４）。当該更新処理では、今回が主側ＲＡＭ６５の異常表示中フラグに「１」がセットされてから最初の異常表示処理の処理回である場合には表示対象カウンタに「０」をセットする。表示対象カウンタの値は異常表示エリア２１１の第１～第４単位エリア２１１ａ～２１１ｄに対応しており、具体的には表

示対象カウンタの「０」の値は第１単位エリア２１１ａに対応しており、表示対象カウンタの「１」の値は第２単位エリア２１１ｂに対応しており、表示対象カウンタの「２」の値は第３単位エリア２１１ｃに対応しており、表示対象カウンタの「３」の値は第４単位エリア２１１ｄに対応している。更新処理では、今回が主側ＲＡＭ６５の異常表示中フラグに「１」がセットされてから最初の異常表示処理の処理回ではない場合には表示対象カウンタの値を１加算する。

【０６８０】

その後、第１～第４単位エリア２１１ａ～２１１ｄのうち表示対象カウンタの現状の値に対応するエリアに異常状態の情報が格納されているか否かを判定する（ステップＳ３４０５）。ここで、既に説明したとおり異常状態の情報が１個のみ記憶されている場合にはその異常状態の情報は第１単位エリア２１１ａに記憶されており、異常状態の情報が複数個記憶されている場合には第ｎ単位エリア２１１ａ～２１１ｂの「ｎ」の値が小さいエリアから順に異常状態の情報が格納されている。したがって、表示対象カウンタの現状の値に対応するエリアに異常状態の情報が格納されていない場合には当該表示対象カウンタの値よりも大きい値に対応するエリアにも異常状態の情報が格納されていないことになる。また、１加算後における表示対象カウンタの値が最大値である「３」を超えている場合にはそもそも対応するエリアが存在していないため、異常状態の情報は格納されていないものとして扱われる。

【０６８１】

ステップＳ３４０５にて肯定判定をした場合、主側ＲＡＭ６５の表示対象カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳ３４０６）。ここで、異常表示が行われている状況において異常表示の対象となっている異常状態の全てが解除されることが想定される。この場合、異常表示用処理が実行される状況であっても異常表示エリア２１１に異常状態の情報が記憶されていない状況となる。このような状況においては、第３，第４報知用表示装置２０３，２０４にて異常状態の情報が記憶されていないことを示す表示が行われる。

【０６８２】

ステップＳ３４０５にて否定判定をした場合、又はステップＳ３４０６の処理を実行した場合、主側ＲＡＭ６５の表示対象カウンタの値に対応する表示対象の表示データを主側ＲＯＭ６４から読み出す（ステップＳ３４０７）。具体的には、異常表示エリア２１１の第１～第４単位エリア２１１ａ～２１１ｄのうち主側ＲＡＭ６５の表示対象カウンタの値に対応するエリアに記憶されている情報を読み出す。そして、その情報に対応する表示データを主側ＲＯＭ６４から読み出す。表示データは異常状態の情報に対して１対１で対応させて設定されており、その表示データによる第３，第４報知用表示装置２０３，２０４の表示内容は異常状態の情報の種類毎に相違している。また、異常状態の情報が存在していないことに対応する表示データも存在しており、この表示データは異常状態の情報に対応する表示データと相違している。したがって、異常状態の情報が存在していない場合には、第３，第４報知用表示装置２０３，２０４の表示内容は異常状態の情報が存在している場合とは異なる表示内容となる。

【０６８３】

一方、第３，第４報知用表示装置２０３，２０４における異常状態の情報に対応する表示の表示内容及び異常状態の情報が存在していないことに対応する表示の表示内容は、第３，第４報知用表示装置２０３，２０４にて遊技履歴の管理結果を表示する場合の表示内容及び第４報知用表示装置２０４における設定値の表示内容と重複している。これに対して、遊技履歴の管理結果を表示する場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全てが表示状態となり、パチンコ機１０の設定状態を変更することが可能な変更可能状態においては第１～第３報知用表示装置２０１～２０３が非表示状態となるとともに第４報知用表示装置２０４が表示状態となり、異常表示を行う場合には第１，第２報知用表示装置２０１，２０２が非表示状態となるとともに第３，第４報知用表示装置２０３，２０４が表示状態となるため、上記のように表示内容が重複しているとしてもいずれの状況に対応している表示であるのかを遊技ホールの管理者が把握することが可能となる。

【０６８４】
その後、ステップＳ３４０７にて読み出した表示データに従って第３報知用表示装置２０３を表示制御するとともに（ステップＳ３４０８）、第４報知用表示装置２０４を表示制御する（ステップＳ３４０９）。この場合、異常状態の情報に対応する表示を行う場合及び異常状態の情報が存在していないことに対応する表示を行う場合のいずれであっても第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４はいずれも非表示状態となることはなく（すなわち全消灯状態となることはなく）、何らかの表示状態となっている。
【０６８５】
その後、主側ＲＡＭ６５の更新タイミングカウンタに次回の更新タイミングに対応する値として２秒に対応する値を設定する（ステップＳ３４１０）。
【０６８６】
以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。
【０６８７】
遊技履歴の管理結果が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて表示される構成において、パチンコ機１０の異常状態に対応する表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を遊技履歴の管理結果を表示するためだけではなく異常状態に対応する表示を行うための表示装置として兼用することが可能となる。
【０６８８】
パチンコ機１０に異常状態が発生していない場合において異常状態に対応する表示を第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に行わせる場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では異常状態が発生していないことに対応する表示が行われる。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を確認することでパチンコ機１０に異常状態が発生しているか否かを明確に特定することが可能となる。
【０６８９】
第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において遊技履歴の管理結果が表示される期間と、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてパチンコ機１０の異常状態に対応する表示が行われる期間とは区別されている。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において表示が行われている状況を把握することで、当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においていずれの表示が行われているのかを特定することが可能となる。
【０６９０】
パチンコ機１０の異常状態に対応する表示が行われる場合、遊技履歴の管理結果が表示される場合における表示態様とは異なる表示態様となるように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が表示制御される。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示態様を把握することで、当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においていずれの表示が行われているのかを特定することが可能となる。
【０６９１】
複数の報知用表示装置２０１～２０４が設けられている。これにより、遊技履歴の管理結果に対応する表示として多種多様な表示を行うことが可能となる。また、複数の報知用表示装置２０１～２０４が存在していることにより、遊技履歴の管理結果が表示される場合とパチンコ機１０の異常状態に対応する表示が行われる場合とで表示態様を大きく相違させることが可能となる。
【０６９２】
パチンコ機１０の異常状態に対応する表示が行われる場合、遊技履歴の管理結果を表示する場合に非表示状態とならない第１，第２報知用表示装置２０１，２０２が非表示状態となる。これにより、第１，第２報知用表示装置２０１，２０２が非表示状態となっているか否かを確認するだけで、遊技履歴の管理結果の表示及びパチンコ機１０の異常状態に対応する表示のうちいずれが第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われているのかを明確に特定することが可能となる。

【０６９３】
パチンコ機１０の異常状態に対応する表示が行われる場合、第３，第４報知用表示装置２０３，２０４が表示状態となるとともに、その表示内容は遊技履歴の管理結果を表示する場合において第３，第４報知用表示装置２０３，２０４にて表示され得る表示内容である。このように第３，第４報知用表示装置２０３，２０４における表示内容が重複し得るようにすることにより、遊技履歴の管理結果が表示される場合及びパチンコ機１０の異常状態に対応する表示が行われる場合のそれぞれの表示内容に制約を与えないようにすることが可能となる。また、このように第３，第４報知用表示装置２０３，２０４における表示内容が重複し得る構成であっても、パチンコ機１０の異常状態に対応する表示が行われる場合には第１，第２報知用表示装置２０１，２０２が非表示状態とされるため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においていずれの表示が行われているのかを特定することができる。

【０６９４】
なお、異常表示エリア２１１に異常状態の情報が記憶されていない状況において異常表示の開始操作が行われた場合、その時点で第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて異常状態の情報が記憶されていないことに対応する表示が行われる構成としてもよい。

【０６９５】
＜第１４の実施形態＞
本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行される管理用出力処理の処理構成が上記第１の実施形態と相違している。以下、上記第１の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０６９６】
図６５は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理用出力処理を示すフローチャートである。

【０６９７】
まず主側ＲＡＭ６５に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ３５０１）。管理開始フラグは、履歴用メモリ１１７に履歴情報を記憶させるべき状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。本実施形態ではパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後（すなわちＭＰＵ６２への動作電力の供給が開始された後）において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値に対応する個数以上となるまでは履歴用メモリ１１７に履歴情報を記憶させることなく、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値に対応する個数以上となった場合に履歴用メモリ１１７への履歴情報の記憶を開始させる。パチンコ機１０の出荷段階などにおいては出荷前にパチンコ機１０の動作チェックが行われることがあり、その際には各入球部に遊技球を手入れしてその後の動作がチェックされる。これに対して、パチンコ機１０への動作電力の供給開始後において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値以上となるまでは履歴用メモリ１１７に履歴情報を記憶させないようにすることにより、上記のような動作チェック時における入球結果などが履歴情報として記憶されてしまわないようにすることが可能となる。

【０６９８】
ステップＳ３５０１にて否定判定をした場合、主側ＲＡＭ６５に設けられた開始時管理カウンタに「７」をセットする（ステップＳ３５０２）。開始時管理カウンタは、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況において７個の入球検知センサ４２ａ～４８ａのうちいずれのセンサについて遊技球の検知状態の特定を行う状況であるのかを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。

【０６９９】
その後、開始時管理カウンタの値に対応する主側ＲＡＭ６５の出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ３５０３）。具体的には、開始時管理カウンタの値が「７」であり第１入賞口検知センサ４２ａに対応している場合には第１出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定し、開始時管理カウンタの値が「６」であ

り第２入賞口検知センサ４３ａに対応している場合には第２出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定し、開始時管理カウンタの値が「５」であり第３入賞口検知センサ４４ａに対応している場合には第３出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定し、開始時管理カウンタの値が「４」であり特電検知センサ４５ａに対応している場合には第４出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定し、開始時管理カウンタの値が「３」であり第１作動口検知センサ４６ａに対応している場合には第５出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定し、開始時管理カウンタの値が「２」であり第２作動口検知センサ４７ａに対応している場合には第６出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定し、開始時管理カウンタの値が「１」でありアウト口２４ａに対応している場合には第７出力フラグに「１」がセットされているか否かを判定する。なお、これら第１～第７出力フラグには既に説明したとおり、入球検知処理（図１５）にて「１」がセットされる。

【０７００】

ステップＳ３５０３にて肯定判定をした場合、開始時管理カウンタの値に対応する出力フラグを「０」クリアする（ステップＳ３５０４）。その後、主側ＲＡＭ６５に設けられた排出個数カウンタの値を１加算する（ステップＳ３５０５）。排出個数カウンタは、主側ＲＡＭ６５の管理開始フラグに「１」がセットされていない状況において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。

【０７０１】

その後、排出個数カウンタの値が管理開始基準値以上となっているか否かを判定する（ステップＳ３５０６）。管理開始基準値は「３００」に設定されているが、これに限定されることはなく「３００」よりも少ない数である構成としてもよく、「３００」よりも多い数である構成としてもよい。

【０７０２】

ステップＳ３５０３にて否定判定をした場合、又はステップＳ３５０６にて否定判定をした場合、主側ＲＡＭ６５の開始時管理カウンタの値を１減算する（ステップＳ３５０７）。そして、その１減算後における開始時管理カウンタの値が「０」であるか否かを判定する（ステップＳ３５０８）。ステップＳ３５０８にて否定判定をした場合にはステップＳ３５０３に戻り、ステップＳ３５０８にて肯定判定をした場合にはそのまま本管理用出力処理を終了する。

【０７０３】

一方、主側ＲＡＭ６５の排出個数カウンタの値が管理開始基準値以上である場合（ステップＳ３５０６：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５の管理開始フラグに「１」をセットする（ステップＳ３５０９）。その後、管理用処理を実行する（ステップＳ３５１０）。また、管理開始フラグに「１」がセットされておりステップＳ３５０１にて肯定判定をした場合にも管理用処理を実行する（ステップＳ３５１０）。管理用処理の処理内容は上記第１の実施形態における管理用出力処理（図２５）のステップＳ１００１～ステップＳ１０１２と同一である。

【０７０４】

上記構成によれば、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後（すなわちＭＰＵ６２への動作電力の供給が開始された後）において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値に対応する個数以上となるまでは履歴用メモリ１１７に履歴情報を記憶させることなく、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値に対応する個数以上となった場合に履歴用メモリ１１７への履歴情報の記憶を開始させる。パチンコ機１０の出荷段階などにおいては出荷前にパチンコ機１０の動作チェックが行われることがあり、その際には各入球部に遊技球を手入れしてその後の動作がチェックされる。これに対して、パチンコ機１０への動作電力の供給開始後において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値以上となるまでは履歴用メモリ１１７に履歴情報を記憶させないようにすることにより、上記のような動作チェック時における入球結果などが履歴情報として記憶されてしまわないようにすることが可能となる。

【０７０５】
ここで、上記のようにパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値に対応する個数以上となるまでは履歴用メモリ１１７に履歴情報が記憶されない構成においては、その間の遊技履歴の管理結果を算出することができない。そこでこのような状況においては第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において当該状況に対応する表示が行われる構成としてもよい。例えば第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて全ての表示用セグメントを発光状態とする構成としてもよい。当該表示内容は、遊技履歴の管理結果を表示する場合及びパチンコ機１０の設定状態を変更することが可能である変更可能状態であることを表示する場合のいずれであっても表示されないため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を確認することで上記のように履歴情報が記憶されない状況であるか否かを特定することが可能となる。

【０７０６】
なお、パチンコ機１０への動作電力の供給開始後においてパチンコ機１０の設定状態を変更することが可能な変更可能状態となったか否かにより主側ＲＡＭ６５の管理開始フラグの情報の設定態様が相違する構成としてもよい。図６６は主側ＣＰＵ６３にて実行される当該別形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。ステップＳ３６０１～ステップＳ３６０９では上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のステップＳ１０１～ステップＳ１０９と同一の処理を実行し、ステップＳ３６１１～ステップＳ３６２０では上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のステップＳ１１０～ステップＳ１１９と同一の処理を実行する。一方、本別形態ではステップＳ３６０８にて肯定判定をした場合には主側ＲＡＭ６５の管理開始フラグを「０」クリアし（ステップＳ３６１０）、ステップＳ３６２０の処理を実行した後に主側ＲＡＭ６５の管理開始フラグに「１」をセットする（ステップＳ３６２１）。当該構成によれば、パチンコ機１０の設定状態を新たに設定するための処理が実行されない場合にはパチンコ機１０への動作電力の供給開始後において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値以上となるまでは履歴用メモリ１１７に履歴情報を記憶させないようにされ、パチンコ機１０の設定状態を新たに設定するための処理が実行された場合にはパチンコ機１０への動作電力の供給開始後における遊技球の排出個数に関係なく履歴用メモリ１１７に履歴情報が記憶される。これにより、パチンコ機１０の出荷段階における動作チェックに該当しない可能性が高い状況においてはパチンコ機１０への動作電力の供給開始直後から遊技履歴の管理を行うことが可能となる。

【０７０７】
また、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されてから遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値以上となるまで履歴用メモリ１１７への履歴情報の格納が行われない構成に代えて、履歴用メモリ１１７とは別に、遊技球の合計個数が管理開始基準値以上となるまで履歴情報を格納するためのエリアを設ける構成としてもよい。これにより、当該状況における遊技履歴の管理結果を特定することが可能となる。

【０７０８】
また、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されてから遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値以上となるまで履歴用メモリ１１７への履歴情報の格納が行われない状況が発生する条件として、履歴用メモリ１１７に履歴情報が格納されていない状況においてパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合という条件が追加されている構成としてもよい。この場合、履歴用メモリ１１７に履歴情報が既に格納されている状況においてパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値以上となるか否かに関係なく当初から履歴用メモリ１１７への履歴情報の格納が行われることとなる。

【０７０９】
また、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されてから遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値以上となるまで履歴用メモリ１１７への履歴情報の

格納が行われない構成に加えて又は代えて、電波検知異常や振動検知異常といった異常状態となった場合には当該異常状態が解除されるまで履歴用メモリ１１７に履歴情報が格納されないようにしてもよい。これにより、異常状態である状況において発生した事象に対して履歴情報が格納されてしまわないようにすることが可能となる。

【０７１０】

また、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されてから遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値以上となるまで履歴用メモリ１１７への履歴情報の格納が行われない構成に加えて又は代えて、遊技機本体１２又は前扉枠１４が開放されている状況においては履歴用メモリ１１７に履歴情報が格納されないようにしてもよい。これにより、遊技機本体１２又は前扉枠１４が開放されている状況において発生した事象に対して履歴情報が格納されてしまわないようにすることが可能となる。

【０７１１】

＜第１５の実施形態＞

本実施形態では遊技履歴を管理する処理の実行主体が上記第１の実施形態と相違している。以下、上記第１の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０７１２】

上記第１の実施形態ではＭＰＵ６２に管理用ＩＣ６６が設けられている構成としたが、本実施形態ではＭＰＵ６２に管理用ＩＣ６６が設けられていない。管理用ＩＣ６６が設けられていない代わりに、本実施形態では遊技履歴を管理するための処理が主側ＣＰＵ６３にて実行される。また、本実施形態では主側ＣＰＵ６３は特定制御と非特定制御とに区別して各種制御を実行する。具体的には、遊技履歴の管理に関する制御が非特定制御とされ、遊技者による遊技操作に基づき遊技を進行させるための制御を含めて非特定制御以外の制御が特定制御とされている。

【０７１３】

特定制御について詳細には、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に実行されるメイン処理（図９）による制御は全て特定制御に含まれている。なお、本実施形態では上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のうち認識用処理（ステップＳ１１１）、データ出力用処理（ステップＳ１１２）及び設定値更新信号の出力処理（ステップＳ１１９）は実行されない。また、本実施形態であってもメイン処理（図９）におけるステップＳ１１３～ステップＳ１１６の処理に割り込むようにしてタイマ割込み処理が定期的に実行されることとなるが、当該タイマ割込み処理の各種処理のうち後述する管理用処理以外の処理はいずれも特定制御に含まれる。また、管理用処理についても一部は特定制御に含まれる。

【０７１４】

図６７は主側ＲＯＭ６４におけるプログラム及びデータの設定態様を説明するための説明図である。主側ＣＰＵ６３にて実行される制御が特定制御と非特定制御とで区別されていることに対応させて、図６７に示すように、主側ＲＯＭ６４においても特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータと、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータとが記憶されているエリアのアドレスが明確に区別されている。

【０７１５】

具体的には、アドレスＸ（１）～Ｘ（ｋ＋２）の範囲内における連続する各アドレスのエリアに特定制御用のプログラムが集約して記憶されている。また、アドレスＸ（１）～Ｘ（ｋ＋２）に連続するアドレスＸ（ｋ＋３）～Ｘ（ｋ＋５）はデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレスとなっており、その後に続けてアドレスＸ（ｋ＋６）～Ｘ（ｍ＋２）の範囲内における連続する各アドレスのエリアに特定制御用のデータが集約して記憶されている。また、アドレスＸ（ｋ＋６）～Ｘ（ｍ＋２）に連続するアドレスＸ（ｍ＋３）～Ｘ（ｍ＋５）はデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレスとなっており、その後に続けてアドレスＸ（ｍ＋６）～Ｘ（ｎ＋２）の範囲内における連続する各アドレスのエリアに非特定制御用のプログラムが集約して記憶されている。また、アドレス

Ｘ（ｍ＋６）～Ｘ（ｎ＋２）に連続するアドレスＸ（ｎ＋３）～Ｘ（ｎ＋５）はデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレスとなっており、その後に続けてアドレスＸ（ｎ＋６）～Ｘ（ｐ＋２）の範囲内における連続する各アドレスのエリアに非特定制御用のデータが集約して記憶されている。なお、上記のようなプログラム及びデータとアドレスとの関係は、主側ＲＯＭ６４における物理アドレス及び主側ＣＰＵ６３において認識されるメモリマップ上の論理アドレスの両方において設定されている。

【０７１６】

上記のように特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータと、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータとが、対応する制御を実行するための処理の実行順序とは関係なく、異なる範囲のアドレスのエリアに記憶されていることにより、例えば特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータのみをチェックする場合にはこれら特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータが記憶されたアドレス範囲のエリアのみをチェックすればよく、例えば非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータのみをチェックする場合にはこれら非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータが記憶されたアドレス範囲のエリアのみをチェックすればよい。よって、プログラム及びデータを特定制御と非特定制御とで区別してチェックする場合の作業を効率的に行うことが可能となる。また、それに伴ってプログラム及びデータを特定制御と非特定制御とで区別して修正する場合の作業を効率的に行うことが可能となる。

【０７１７】

特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータが記憶されたエリアのアドレス範囲と、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータが記憶されたエリアのアドレス範囲との間に何らデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレス範囲が設定されていることにより、特定制御用のアドレス範囲と非特定制御用のアドレス範囲との境界をチェック作業に際して把握し易くなる。

【０７１８】

特定制御用のアドレス範囲及び非特定制御用のアドレス範囲のそれぞれにおいて、プログラムとデータとが、対応する制御を実行するための処理の実行順序とは関係なく、異なる範囲のアドレスのエリアに記憶されていることにより、プログラムとデータとで区別してチェックする場合の作業を効率的に行うことが可能となる。また、プログラムが記憶されたエリアのアドレス範囲と、データが記憶されたエリアのアドレス範囲との間に何らデータが記憶されていない未使用のエリアのアドレス範囲が設定されていることにより、プログラムのアドレス範囲とデータのアドレス範囲との境界をチェック作業に際して把握し易くなる。

【０７１９】

図６８は主側ＲＡＭ６５における各エリアの設定態様を説明するための説明図である。主側ＣＰＵ６３にて実行される制御が特定制御と非特定制御とで区別されていることに対応させて、図６８に示すように、主側ＲＡＭ６５においても特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２のアドレス範囲と、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４のアドレス範囲とが明確に区別されている。

【０７２０】

具体的には、アドレスＹ（１）～Ｙ（ｒ＋２）の範囲内における連続する各アドレスのエリアが特定制御用のワークエリア２２１として設定されている。また、アドレスＹ（１）～Ｙ（ｒ＋２）に連続するアドレスＹ（ｒ＋３）～Ｙ（ｒ＋５）は未使用のエリアのアドレスとなっており、その後に続けてアドレスＹ（ｒ＋６）～Ｙ（ｓ＋２）の範囲内における連続する各アドレスのエリアが特定制御用のスタックエリア２２２として設定されている。また、アドレスＹ（ｒ＋６）～Ｙ（ｓ＋２）に連続するアドレスＹ（ｓ＋３）～Ｙ（ｓ＋５）は未使用のエリアのアドレスとなっており、その後に続けてアドレスＹ（ｓ＋６）～Ｙ（ｔ＋２）の範囲内における連続する各アドレスのエリアが非特定制御用のワークエリア２２３として設定されている。また、アドレスＹ（ｓ＋６）～Ｙ（ｔ＋２）に連

続するアドレスＹ（ｔ＋３）～Ｙ（ｔ＋５）は未使用のエリアのアドレスとなっており、その後に続けてアドレスＹ（ｔ＋６）～Ｙ（ｕ＋２）の範囲内における連続する各アドレスのエリアが非特定制御用のスタックエリア２２４として設定されている。なお、上記のような各エリアとアドレスとの関係は、主側ＲＡＭ６５における物理アドレス及び主側ＣＰＵ６３において認識されるメモリマップ上の論理アドレスの両方において設定されている。

【０７２１】

上記のように特定制御用のワークエリア２２１と、非特定制御用のワークエリア２２３とが区別して設定されていることにより、主側ＣＰＵ６３において特定制御を実行する場合と非特定制御を実行する場合とで、各種演算などを実行する場合において主側ＲＡＭ６５の異なるエリアが使用されることとなる。これにより、特定制御及び非特定制御のうち一方を実行する場合に他方において必要な主側ＲＡＭ６５の情報が消去されてしまうといった事象を発生しづらくさせることが可能となる。ちなみに、各ワークエリア２２１，２２３への情報の書き込み及び各ワークエリア２２１，２２３からの情報の読み出しに際しては主側ＣＰＵ６３にてロード命令が行われる。

【０７２２】

特定制御用のスタックエリア２２２と、非特定制御用のスタックエリア２２４とが区別して設定されていることにより、主側ＣＰＵ６３において特定制御を実行する場合と非特定制御を実行する場合とで、主側ＣＰＵ６３のレジスタに記憶された情報を退避する場合及びプログラム上の戻り番地の情報を記憶する場合において主側ＲＡＭ６５の異なるエリアが使用されることとなる。これにより、特定制御及び非特定制御のうち一方を実行している状況において主側ＣＰＵ６３のレジスタに記憶された情報を退避する場合及びプログラム上の戻り番地の情報を記憶する場合に、他方において使用される情報が消去されてしまうといった事象を発生しづらくさせることが可能となる。ちなみに、各スタックエリア２２２，２２４への情報の書き込みに際しては主側ＣＰＵ６３にてプッシュ命令が行われ、各スタックエリア２２２，２２４からの情報の読み出しに際しては主側ＣＰＵ６３にてポップ命令が行われる。また、各スタックエリア２２２，２２４からの情報の読み出しに際しては当該スタックエリア２２２，２２４への書き込み順序が後の情報から先に読み出し対象となる。

【０７２３】

ここで、主側ＣＰＵ６３において特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側ＣＰＵ６３は特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２への情報の書き込みが可能であるとともに、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２からの情報の読み出しが可能である。一方、主側ＣＰＵ６３において特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側ＣＰＵ６３は非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４からの情報の読み出しは可能であるものの、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４への情報の書き込みは不可である。これにより、特定制御に対応する処理が実行されている状況において、非特定制御に対応する処理にて利用される情報を誤って消去してしまわないようにすることが可能となる。

【０７２４】

また、主側ＣＰＵ６３において非特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側ＣＰＵ６３は非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４への情報の書き込みが可能であるとともに、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４からの情報の読み出しが可能である。一方、主側ＣＰＵ６３において非特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側ＣＰＵ６３は特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２からの情報の読み出しは可能であるものの、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２への情報の書き込みは不可である。これにより、非特定制御に対応する処理が実行されている状況において、特定制御に対応する処理にて利用される情報を誤って消去してし

まわないようにすることが可能となる。
【０７２５】
なお、主側ＲＡＭ６５にはパチンコ機１０の電源遮断後においてもバックアップ電力が供給されることとなるが、当該バックアップ電力は特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４の全てに供給される。これにより、これら特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４に記憶された情報は、パチンコ機１０の電源遮断後においてもバックアップ電力が供給されている間は記憶保持される。
【０７２６】
次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるタイマ割込み処理について、図６９のフローチャートを参照しながら説明する。タイマ割込み処理は、上記第１の実施形態と同様にメイン処理（図９）においてステップＳ１１３～ステップＳ１１６の処理が実行されている状況で定期的（例えば４ミリ秒周期）に実行される。なお、タイマ割込み処理に対応するプログラムは特定制御用のプログラムに設定されている。
【０７２７】
ステップＳ３７０１～ステップＳ３７１８では上記第１の実施形態におけるタイマ割込み処理（図１１）のステップＳ３０１～ステップＳ３１８と同一の処理を実行する。これらの処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。タイマ割込み処理におけるステップＳ３７１９では管理用処理を実行する。管理用処理の実行に際しては、特定制御用のプログラムに設定されている管理用処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては管理用処理の実行後におけるタイマ割込み処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、管理用処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すタイマ割込み処理のプログラムに復帰する。
【０７２８】
図７０は管理用処理を示すフローチャートである。なお、管理用処理におけるステップＳ３８０１～ステップＳ３８０５の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【０７２９】
まずタイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う（ステップＳ３８０１）。これにより、非特定制御に対応する処理である後述する管理実行処理の途中の状況において、特定制御に対応する処理であるタイマ割込み処理（図６９）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。
【０７３０】
その後、「ＰＵＳＨ　ＰＳＷ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させる（ステップＳ３８０２）。フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、Ｐ／Ｖフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。このようなフラグレジスタの情報を管理実行処理に対応するサブルーチンのプログラムが開始される前に退避させることにより、当該サブルーチンのコールや当該サブルーチンの開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。なお、フラグレジスタの情報量は１バイトとなっている。
【０７３１】
その後、非特定制御用のプログラムに設定されている管理実行処理に対応するサブルーチンのプログラムを読み出すことにより、当該管理実行処理を開始する（ステップＳ３８０３）。この場合、当該管理実行処理の実行後における管理用処理の戻り番地を特定する

ための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、管理実行処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理用処理のプログラムに復帰する。

【０７３２】

管理実行処理の実行後において管理用処理のプログラムに復帰した場合、「ＰＯＰ　ＰＳＷ」として、ポップ命令により、ステップＳ３８０２にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる（ステップＳ３８０４）。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が、ステップＳ３８０２が実行された時点の情報に復帰することとなる。つまり、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰することとなる。

【０７３３】

その後、タイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるために割込み許可の設定を行う（ステップＳ３８０５）。これにより、タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【０７３４】

図７１は管理実行処理を示すフローチャートである。なお、管理実行処理におけるステップＳ３９０１～ステップＳ３９１５の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【０７３５】

まず「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｕ＋２）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとしてＹ（ｕ＋２）を設定する（ステップＳ３９０１）。スタックポインタは、スタックエリア２２２，２２４においてプッシュ命令による情報の書き込み対象となる記憶エリアを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのアドレスの情報が設定されるエリアである。プッシュ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新され、ポップ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、前の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新される。また、非特定制御用のスタックエリア２２４を使用する場合、記憶対象となる情報は非特定制御用のスタックエリア２２４における最後のアドレスの記憶エリアから記憶され、記憶対象となる情報が追加される度に非特定制御用のスタックエリア２２４における最初のアドレス側に向けて記憶先の記憶エリアが変更される。したがって、ステップＳ３９０１では、非特定制御用のスタックエリア２２４における最後のアドレスの情報をスタックポインタに設定する。このように最後のアドレスの記憶エリアから最初のアドレスの記憶エリアに向けて情報が記憶されることは、特定制御用のスタックエリア２２２についても同様である。

【０７３６】

ちなみに、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のスタックエリア２２４のいずれについても、全ての記憶エリアに情報が設定されているにも関わらず追加でプッシュ命令が実行された場合には、記憶処理に関して異常が発生したものとして主側ＲＡＭ６５の全エリアが「０」クリアされる。これにより、記憶処理に関して異常が発生しているにも関わらずそのまま遊技が進行してしまわないようにすることが可能となる。

【０７３７】

その後、「ＬＤ　（＿ＷＡＢＵＦ），ＷＡ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＷＡバッファに退避させる（ステップＳ３９０２）。また、「ＬＤ　（＿ＢＣＢＵＦ），ＢＣ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＢＣバッファに退避させる（ステップＳ３９０３）。また、「ＬＤ　（＿ＤＥＢＵＦ），ＤＥ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＤＥバッファに退避させる（ステップＳ３９０４）。また、「ＬＤ　（＿ＨＬＢＵＦ），ＨＬ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定さ

れたＨＬバッファに退避させる（ステップＳ３９０５）。また、「ＬＤ　（＿ＩＸＢＵＦ），ＩＸ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＩＸバッファに退避させる（ステップＳ３９０６）。また、「ＬＤ　（＿ＩＹＢＵＦ），ＩＹ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＩＹバッファに退避させる（ステップＳ３９０７）。

【０７３８】

主側ＣＰＵ６３のレジスタには、既に説明したフラグレジスタ以外にも、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタが存在している。この場合に、ステップＳ３９０２～ステップＳ３９０７では、これら各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタであるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御用のワークエリア２２３における対応するバッファに退避させている。なお、ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの情報量はいずれも２バイトとなっている。

【０７３９】

これらＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタは非特定制御に対応する処理であるチェック処理（ステップＳ３９０８）にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタに設定されている情報をチェック処理（ステップＳ３９０８）の実行に先立ち非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、特定制御に際して利用されていたこれらレジスタの情報を非特定制御が開始される前に退避させることが可能となる。よって、非特定制御に際してこれらレジスタが上書きされたとしても、非特定制御を終了する場合には非特定制御用のワークエリア２２３に退避させた情報をこれらレジスタに復帰させることで、これらレジスタの状態を非特定制御が実行される前における特定制御に対応する状態に復帰させることが可能となる。

【０７４０】

また、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタの全ての情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させるのではなく、非特定制御に対応する処理であるチェック処理にて利用対象となるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの情報を選択的に非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、非特定制御用のワークエリア２２３においてレジスタの情報を退避させるために確保する容量を抑えることが可能となる。よって、チェック処理に際して利用可能となる非特定制御用のワークエリア２２３の容量を大きく確保しながら、上記のようなレジスタの情報の退避を行うことが可能となる。なお、当然のことながら主側ＣＰＵ６３における各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうちＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ以外のレジスタについては、非特定制御に対応する処理が開始される前に設定された情報が当該非特定制御に対応する処理が終了して特定制御に対応する処理が再開されるまで記憶保持される。

【０７４１】

また、レジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させるのではなく非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、それだけ非特定制御用のスタックエリア２２４の容量を小さく抑えることが可能となる。また、非特定制御用のスタックエリア２２４を利用する場合、既に説明したとおり情報の書き込み順序が後の情報から先に読み出されることとなるため、仮に何らかのノイズなどの原因で情報の読み出し順序がずれてしまうとそれ以降の読み出し順序の情報が全て異なるレジスタに復帰されることとなってしまう。このような事象の発生確率は非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させる情報量が多くなるほど高くなってしまう。これに対して、レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより退避対象となる情報が多い場合であっても上記のような事象が発生しないようにすることが可能となる。

【０７４２】
ステップＳ３９０２～ステップＳ３９０７の処理を実行した後は、チェック処理を実行する（ステップＳ３９０８）。チェック処理の実行に際しては、非特定制御用のプログラムに設定されているチェック処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際してはチェック処理の実行後における管理実行処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により非特定制御用のスタックエリア２２４に書き込まれる。そして、チェック処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理実行処理のプログラムに復帰する。チェック処理の詳細については後に説明する。
【０７４３】
チェック処理を実行した後は、「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｒ＋α）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに特定制御への復帰時における固定アドレスとしてＹ（ｒ＋α）を設定する（ステップＳ３９０９）。Ｙ（ｒ＋α）のアドレスは、特定制御用のスタックエリア２２２におけるＹ（ｒ＋８）とＹ（ｓ）との間のアドレスとして設定されている。
【０７４４】
管理用処理（図７０）のステップＳ３８０３にて管理実行処理のサブルーチンが実行される直前において特定制御用のスタックエリア２２２に記憶されている情報量は常に一定であり、それに伴って当該タイミングにおける主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報（すなわちスタックポインタの値）は一定である。この場合に特定制御用のスタックエリア２２２に記憶されている情報としては、例えば管理実行処理（図７１）が終了した後における管理用処理（図７０）の戻り番地の情報、及び管理用処理（図７０）が終了した後におけるタイマ割込み処理（図６９）の戻り番地の情報が挙げられる。スタックポインタの上記一定の情報がＹ（ｒ＋α）となっている。したがって、非特定制御に対応する処理であるチェック処理が終了して特定制御に対応する処理に復帰する場合には、その一定の情報であるＹ（ｒ＋α）を主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに設定することで、当該スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させることが可能となる。このように固定の情報をスタックポインタに設定することによって当該スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させる構成とすることで、非特定制御に対応する処理を開始する前に特定制御に対応する主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を主側ＲＡＭ６５に退避させる必要がなくなる。よって、処理負荷を軽減させることが可能となるとともに当該退避させるための領域を主側ＲＡＭ６５において確保する必要がなくなる。
【０７４５】
その後、「ＬＤ　ＷＡ，（＿ＷＡＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＷＡバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタに上書きする（ステップＳ３９１０）。また「ＬＤ　ＢＣ，（＿ＢＣＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＢＣバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタに上書きする（ステップＳ３９１１）。また「ＬＤ　ＤＥ，（＿ＤＥＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＤＥバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタに上書きする（ステップＳ３９１２）。また「ＬＤ　ＨＬ，（＿ＨＬＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＨＬバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに上書きする（ステップＳ３９１３）。また「ＬＤ　ＩＸ，（＿ＩＸＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＩＸバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタに上書きする（ステップＳ３９１４）。また「ＬＤ　ＩＹ，（＿ＩＹＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＩＹバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタに上書きする（ステップＳ３９１５）。ステップＳ３９１０～ステップＳ３９１５の処理が実行されることにより、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジ

スタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【０７４６】

ここで、非特定制御に対応する処理が実行された場合に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報は、特定制御に対応する処理が再開される場合に主側ＲＡＭ６５に退避されない。これにより、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２において上記情報を退避させるための記憶エリアを確保する必要が生じない。

【０７４７】

また、非特定制御に対応する処理が実行された場合に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報は、特定制御に対応する処理への復帰後において非特定制御に対応する処理が再度開始された場合に利用されない情報である。つまり、特定制御に対応する処理を間に挟んで実行される非特定制御に対応する処理の複数回の処理回において必要な情報は非特定制御用のワークエリア２２３又は非特定制御用のスタックエリア２２４に記憶されており、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタ及び各種レジスタには記憶されていない。したがって、非特定制御に対応する処理が実行された場合に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報が主側ＲＡＭ６５に退避されないとしても、非特定制御に対応する処理を実行する上で問題が生じない。

【０７４８】

次に、ステップＳ３９０８にてサブルーチンのプログラムが呼び出されることにより実行されるチェック処理について説明する。当該チェック処理では遊技履歴の情報を収集するための処理、遊技履歴の管理結果を導出するための処理及びその管理結果を報知するための処理を実行する。つまり、遊技履歴の情報を収集するための処理、遊技履歴の管理結果を導出するための処理及びその管理結果を報知するための処理は、非特定制御に対応する処理として実行される。

【０７４９】

チェック処理の説明に先立ち、遊技履歴を管理するために使用される非特定制御用のワークエリア２２３の各種エリア２３１～２３４の内容について説明する。図７２は遊技履歴を管理するために使用される非特定制御用のワークエリア２２３の各種エリア２３１～２３４を説明するための説明図である。

【０７５０】

非特定制御用のワークエリア２２３には、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３が設けられている。これら各エリア２３１～２３３のそれぞれには、一般入賞カウンタ２３１ａ，２３２ａ，２３３ａ、特電入賞カウンタ２３１ｂ，２３２ｂ，２３３ｂ、第１作動カウンタ２３１ｃ，２３２ｃ，２３３ｃ、第２作動カウンタ２３１ｄ，２３２ｄ，２３３ｄ、及びアウトカウンタ２３１ｅ，２３２ｅ，２３３ｅが設けられている。一般入賞カウンタ２３１ａ，２３２ａ，２３３ａは所定の計測開始契機からの一般入賞口３１への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。特電入賞カウンタ２３１ｂ，２３２ｂ，２３３ｂは所定の計測開始契機からの特電入賞装置３２への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。第１作動カウンタ２３１ｃ，２３２ｃ，２３３ｃは所定の計測開始契機からの第１作動口３３への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。第２作動カウンタ２３１ｄ，２３２ｄ，２３３ｄは所定の計測開始契機からの第２作動口３４への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。アウトカウンタ２３１ｅ，２３２ｅ，２３３ｅは所定の計測開始契機からのアウト口２４ａへの遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。

【０７５１】

通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅは、前扉枠１４が閉鎖状態となっている状況であって開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において対象となる入球部２４ａ，３１～３４に入球した遊技球の個数を計測するた

めに利用される。開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅは、前扉枠１４が閉鎖状態となっている状況であって開閉実行モードである状況において対象となる入球部２４ａ，３１～３４に入球した遊技球の個数を計測するために利用される。高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅは、前扉枠１４が閉鎖状態となっている状況であって高頻度サポートモードである状況において対象となる入球部２４ａ，３１～３４に入球した遊技球の個数を計測するために利用される。

【０７５２】

なお、前扉枠１４が開放状態となっている状況が計測対象外となっているのは、前扉枠１４を開放した状態で入球部２４ａ，３１～３４に手入れで遊技球が入球された場合の入球個数を計測対象から除外するためである。但し、これに限定されることはなく前扉枠１４が開放状態となっている状況も前扉枠１４が閉鎖状態となっている状況と同様に計測対象とする構成としてもよい。

【０７５３】

非特定制御用のワークエリア２２３には、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３以外にも演算結果記憶エリア２３４が設けられている。演算結果記憶エリア２３４は、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３を利用して算出した遊技履歴の管理結果の情報を記憶するためのエリアである。演算結果記憶エリア２３４に記憶された遊技履歴の管理結果の情報は、遊技履歴の管理結果の情報が新たに算出されることで当該新たに算出された情報が上書きされるまで記憶保持される。

【０７５４】

図７３はステップＳ３９０８にてサブルーチンのプログラムが呼び出されることにより実行されるチェック処理を示すフローチャートである。なお、チェック処理におけるステップＳ４００１～ステップＳ４００８の処理はサブルーチンの処理も含めて、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。また、サブルーチンの処理を実行する場合には当該サブルーチンの処理の実行後における戻り番地の情報を非特定制御用のスタックエリア２２４において主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの値に対応する記憶エリアに書き込むとともに、当該スタックポインタの値を次の順番の記憶対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。また、サブルーチンの処理が完了した場合には主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの値に対して手前の順番の値に対応する記憶エリアから戻り番地の情報を読み出してその戻り番地の情報に対応するプログラムに復帰するとともに、当該スタックポインタの値をその戻り番地の情報の読み出し元となった記憶エリアのアドレスの情報に更新する。

【０７５５】

チェック処理では、前扉枠１４が開放状態である場合には（ステップＳ４００１：ＹＥＳ）、通常の入球管理処理（ステップＳ４００４）、開閉実行モード中の入球管理処理（ステップＳ４００５）及び高頻度サポートモード中の入球管理処理（ステップＳ４００６）のいずれも実行することなく、後述する結果演算処理（ステップＳ４００７）及び表示用処理（ステップＳ４００８）を実行する。前扉枠１４に設けられた窓パネル５２の裏面と遊技盤２４の前面によって前後に区画された空間によって遊技領域ＰＡが形成されているため、前扉枠１４が開放状態となった場合には遊技領域ＰＡが前方に向けて開放された状態となりその状況で遊技領域ＰＡに向けて遊技球が発射されたとしてもその遊技球は遊技領域ＰＡを正常に流下することはできない。また、前扉枠１４が開放状態である状況で入球部２４ａ，３１～３４への遊技球の入球が発生する場合というのは、メンテナンスや不具合の解消のために遊技ホールの管理者により前扉枠１４が開放状態とされて手入れなどにより遊技球の入球が発生する場合である。このような遊技球の入球は正規の遊技の実行状況における遊技球の入球ではないため、そのような遊技球の入球を管理対象とする必要がない。したがって、チェック処理では上記のとおり前扉枠１４が開放状態である場合

にはステップＳ４００４～ステップＳ４００６のいずれの処理も実行しない。
【０７５６】
前扉枠１４が閉鎖状態であって開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない場合（ステップＳ４００１～ステップＳ４００３：ＮＯ）、通常の入球管理処理を実行する（ステップＳ４００４）。また、前扉枠１４が閉鎖状態であって開閉実行モードである場合（ステップＳ４００１：ＮＯ、ステップＳ４００２：ＹＥＳ）、開閉実行モード中の入球管理処理を実行する（ステップＳ４００５）。また、前扉枠１４が閉鎖状態であって高頻度サポートモードである場合（ステップＳ４００１：ＮＯ、ステップＳ４００３：ＹＥＳ）、高頻度サポートモード中の入球管理処理を実行する（ステップＳ４００６）。
【０７５７】
図７４は、ステップＳ４００４における通常の入球管理処理を示すフローチャートである。
【０７５８】
第１入賞口検知センサ４２ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１０１：ＹＥＳ）、すなわち第１入賞口検知センサ４２ａから受信している信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったことを確認した場合、第２入賞口検知センサ４３ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１０３：ＹＥＳ）、すなわち第２入賞口検知センサ４３ａから受信している信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったことを確認した場合、又は第３入賞口検知センサ４４ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１０５：ＹＥＳ）、すなわち第３入賞口検知センサ４４ａから受信している信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったことを確認した場合、通常用の一般入賞カウンタ２３１ａの値を１加算する（ステップＳ４１０２、ステップＳ４１０４、ステップＳ４１０６）。
【０７５９】
なお、開閉実行モード中の入球管理処理であればステップＳ４１０２、ステップＳ４１０４及びステップＳ４１０６に対応する処理として開閉実行モード用の一般入賞カウンタ２３２ａの値を１加算し、高頻度サポートモード中の入球管理処理であればステップＳ４１０２、ステップＳ４１０４及びステップＳ４１０６に対応する処理として高頻度サポートモード用の一般入賞カウンタ２３３ａの値を１加算する。また、特定制御に対応する処理として実行されるタイマ割込み処理（図６９）の入球検知処理（ステップＳ３７０９）においても第１～第３入賞口検知センサ４２ａ～４４ａの検知結果が監視され、第１～第３入賞口検知センサ４２ａ～４４ａのいずれかにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合には一般入賞口３１に対応する個数の遊技球が払い出されるようにするための処理を実行する。
【０７６０】
特電検知センサ４５ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１０７：ＹＥＳ）、すなわち特電検知センサ４５ａから受信している信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったことを確認した場合、通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂの値を１加算する（ステップＳ４１０８）。
【０７６１】
なお、開閉実行モード中の入球管理処理であればステップＳ４１０８に対応する処理として開閉実行モード用の特電入賞カウンタ２３２ｂの値を１加算し、高頻度サポートモード中の入球管理処理であればステップＳ４１０８に対応する処理として高頻度サポートモード用の特電入賞カウンタ２３３ｂの値を１加算する。また、特定制御に対応する処理として実行されるタイマ割込み処理（図６９）の入球検知処理（ステップＳ３７０９）においても特電検知センサ４５ａの検知結果が監視され、特電検知センサ４５ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合には特電入賞装置３２に対応する個数の遊技球が払い出されるようにするための処理を実行するとともにラウンド遊技の終了契機を特定するための処理を実行する。

【０７６２】
第１作動口検知センサ４６ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１０９：ＹＥＳ）、すなわち第１作動口検知センサ４６ａから受信している信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったことを確認した場合、通常用の第１作動カウンタ２３１ｃの値を１加算する（ステップＳ４１１０）。
【０７６３】
なお、開閉実行モード中の入球管理処理であればステップＳ４１１０に対応する処理として開閉実行モード用の第１作動カウンタ２３２ｃの値を１加算し、高頻度サポートモード中の入球管理処理であればステップＳ４１１０に対応する処理として高頻度サポートモード用の第１作動カウンタ２３３ｃの値を１加算する。また、特定制御に対応する処理として実行されるタイマ割込み処理（図６９）の入球検知処理（ステップＳ３７０９）においても第１作動口検知センサ４６ａの検知結果が監視され、第１作動口検知センサ４６ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合には第１作動口３３に対応する個数の遊技球が払い出されるようにするための処理を実行するとともに特図用の保留情報の取得契機を特定するための処理を実行する。
【０７６４】
第２作動口検知センサ４７ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１１１：ＹＥＳ）、すなわち第２作動口検知センサ４７ａから受信している信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったことを確認した場合、通常用の第２作動カウンタ２３１ｄの値を１加算する（ステップＳ４１１２）。
【０７６５】
なお、開閉実行モード中の入球管理処理であればステップＳ４１１２に対応する処理として開閉実行モード用の第２作動カウンタ２３２ｄの値を１加算し、高頻度サポートモード中の入球管理処理であればステップＳ４１１２に対応する処理として高頻度サポートモード用の第２作動カウンタ２３３ｄの値を１加算する。また、特定制御に対応する処理として実行されるタイマ割込み処理（図６９）の入球検知処理（ステップＳ３７０９）においても第２作動口検知センサ４７ａの検知結果が監視され、第２作動口検知センサ４７ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合には第２作動口３４に対応する個数の遊技球が払い出されるようにするための処理を実行するとともに特図用の保留情報の取得契機を特定するための処理を実行する。
【０７６６】
アウト口検知センサ４８ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１１３：ＹＥＳ）、すなわちアウト口検知センサ４８ａから受信している信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったことを確認した場合、通常用のアウトカウンタ２３１ｅの値を１加算する（ステップＳ４１１４）。
【０７６７】
なお、開閉実行モード中の入球管理処理であればステップＳ４１１４に対応する処理として開閉実行モード用のアウトカウンタ２３２ｅの値を１加算し、高頻度サポートモード中の入球管理処理であればステップＳ４１１４に対応する処理として高頻度サポートモード用のアウトカウンタ２３３ｅの値を１加算する。また、特定制御に対応する処理として実行されるタイマ割込み処理（図６９）の入球検知処理（ステップＳ３７０９）においてはアウト口検知センサ４８ａの検知結果は監視されない。
【０７６８】
以上のようにステップＳ４００４～ステップＳ４００６の処理が実行されることにより、一般入賞口３１への遊技球の入球個数が一般入賞カウンタ２３１ａ，２３２ａ，２３３ａを利用して計測され、特電入賞装置３２への遊技球の入球個数が特電入賞カウンタ２３１ｂ，２３２ｂ，２３３ｂを利用して計測され、第１作動口３３への遊技球の入球個数が第１作動カウンタ２３１ｃ，２３２ｃ，２３３ｃを利用して計測され、第２作動口３４への遊技球の入球個数が第２作動カウンタ２３１ｄ，２３２ｄ，２３３ｄを利用して計測され、アウト口２４ａへの遊技球の入球個数がアウトカウンタ２３１ｅ，２３２ｅ，２３３

ｅを利用して計測される。これにより、各入球部２４ａ，３１～３４への入球履歴を主側ＣＰＵ６３にて把握することが可能となる。また、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３のそれぞれが区別して設けられていることにより、開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況と、開閉実行モードである状況と、高頻度サポートモードである状況とのそれぞれを区別して各入球部２４ａ，３１～３４への入球履歴を主側ＣＰＵ６３にて把握することが可能となる。

【０７６９】

チェック処理（図７３）の説明に戻り、ステップＳ４００１にて肯定判定をした場合、ステップＳ４００４の処理を実行した場合、ステップＳ４００５の処理を実行した場合、又はステップＳ４００６の処理を実行した場合、ステップＳ４００７にて結果演算処理を実行し、ステップＳ４００８にて表示用処理を実行する。

【０７７０】

図７５はステップＳ４００７の結果演算処理を示すフローチャートである。

【０７７１】

まず非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ４２０１）。管理開始フラグは、遊技履歴の管理結果を算出するための遊技履歴の収集を実行すべき状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。本実施形態ではパチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合（すなわちＭＰＵ６２への動作電力の供給が開始された場合）、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値に対応する個数以上となるまでは遊技履歴の管理結果を算出するための遊技履歴の収集を実行することなく、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値に対応する個数以上となった場合に遊技履歴の管理結果を算出するための遊技履歴の収集を実行する。パチンコ機１０の出荷段階などにおいては出荷前にパチンコ機１０の動作チェックが行われることがあり、その際には各入球部に遊技球を手入れしてその後の動作がチェックされる。これに対して、パチンコ機１０への動作電力の供給開始後において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値以上となるまでは遊技履歴の管理結果を算出するための遊技履歴の収集を実行させないようにすることにより、上記のような動作チェック時における入球結果などが遊技履歴の管理結果を算出するための遊技履歴として収集されてしまわないようにすることが可能となる。

【０７７２】

ここで、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合（すなわちＭＰＵ６２への動作電力の供給が開始された場合）、管理開始フラグの値は「０」となっている。この場合、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅの値、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅの値も「０」となっている。一方、管理開始フラグの値が「１」である状況においてパチンコ機１０への動作電力の供給が停止され、その後に主側ＲＡＭ６５にバックアップ電力が供給されている状況においてパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には管理開始フラグの値が「１」のままとなる。この場合、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅの値、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅの値もパチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前の状態に維持される。上記構成であることにより管理開始フラグの値が「０」である場合には通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅの値、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅの値も「０」となる。

【０７７３】

ちなみに、メイン処理（図９）におけるステップＳ１０５又はステップＳ１１７にて主

側ＲＡＭ６５のクリア処理が実行される場合、そのクリア処理の対象となるのは特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２であり、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４はクリア処理の対象から除外される。これにより、遊技ホールの管理者が意図的に非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアすることができない構成となっている。

【０７７４】

また、主側ＣＰＵ６３は後述するタイマ割込み処理（図６９）において非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４に異常が発生していないか否かを確認し、異常の発生を確認した場合には非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされる構成としてもよい。これにより、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４に異常が発生した場合には初期化することが可能となる。また、当該構成において非特定制御用のワークエリア２２３に異常が発生した場合には非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアすることなく非特定制御用のワークエリア２２３を「０」クリアし、非特定制御用のスタックエリア２２４に異常が発生した場合には非特定制御用のワークエリア２２３を「０」クリアすることなく非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアする構成としてもよい。また、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４に異常が発生したとしても演算結果記憶エリア２３４は「０」クリアの対象から除外される構成としてもよい。

【０７７５】

ステップＳ４２０１にて否定判定をした場合、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅの値、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅの値を全て合計することで合計個数を算出する（ステップＳ４２０２）。そして、その算出した合計個数が管理開始基準値である「３００」よりも多い個数となっているか否かを判定する（ステップＳ４２０３）。

【０７７６】

ステップＳ４２０３にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３の管理開始フラグに「１」をセットする（ステップＳ４２０４）。また、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅ、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅ、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅを全て「０」クリアする（ステップＳ４２０５）。これにより、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後（すなわちＭＰＵ６２への動作電力の供給が開始された後）において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値に対応する個数以上となるまでに収集された遊技履歴の情報が全て消去されることとなる。よって、パチンコ機１０への動作電力の供給開始後において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値以上となるまでは遊技履歴の管理結果を算出するための遊技履歴の収集を実行させないようにすることが可能となる。

【０７７７】

ステップＳ４２０１にて肯定判定をした場合、ステップＳ４２０２と同様に合計個数の演算処理を実行する（ステップＳ４２０６）。つまり、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅの値、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅの値を全て合計することで合計個数を算出する。そして、その算出した合計個数が演算基準個数である「６０００」以上の個数となっているか否かを判定する（ステップＳ４２０７）。

【０７７８】

ステップＳ４２０７にて肯定判定をした場合、各種パラメータの演算処理を実行する（ステップＳ４２０８）。具体的には、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１

ａ～２３１ｅの値をＫ６１～Ｋ６５とし、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各種カウンタ２３２ａ～２３２ｅの値をＫ７１～Ｋ７５とし、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各種カウンタ２３３ａ～２３３ｅの値をＫ８１～Ｋ８５とした場合において以下の第６１パラメータ～第６８パラメータを算出する。

・第６１パラメータ：遊技球の合計払出個数（「Ｋ６１＋Ｋ７１＋Ｋ８１」×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６２＋Ｋ７２＋Ｋ８２」×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６３＋Ｋ７３＋Ｋ８３」×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６４＋Ｋ７４＋Ｋ８４」×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ６１＋Ｋ６２＋Ｋ６３＋Ｋ６４＋Ｋ６５＋Ｋ７１＋Ｋ７２＋Ｋ７３＋Ｋ７４＋Ｋ７５＋Ｋ８１＋Ｋ８２＋Ｋ８３＋Ｋ８４＋Ｋ８５）の割合

・第６２パラメータ：通常時における遊技球の合計払出個数（Ｋ６１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ６２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ６３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ６４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／通常時における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ６１＋Ｋ６２＋Ｋ６３＋Ｋ６４＋Ｋ６５）の割合

・第６３パラメータ：開閉実行モード時における遊技球の合計払出個数（Ｋ７１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ７２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ７３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ７４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／開閉実行モード時における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ７１＋Ｋ７２＋Ｋ７３＋Ｋ７４＋Ｋ７５）の割合

・第６４パラメータ：高頻度サポートモード時における遊技球の合計払出個数（Ｋ８１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ８２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ８３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ８４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／高頻度サポートモード時における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ８１＋Ｋ８２＋Ｋ８３＋Ｋ８４＋Ｋ８５）の割合

・第６５パラメータ：一般入賞口３１への遊技球の合計入球個数（Ｋ６１＋Ｋ７１＋Ｋ８１）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ６１＋Ｋ６２＋Ｋ６３＋Ｋ６４＋Ｋ６５＋Ｋ７１＋Ｋ７２＋Ｋ７３＋Ｋ７４＋Ｋ７５＋Ｋ８１＋Ｋ８２＋Ｋ８３＋Ｋ８４＋Ｋ８５）の割合

・第６６パラメータ：第１作動口３３への遊技球の合計入球個数（Ｋ６３＋Ｋ７３＋Ｋ８３）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ６１＋Ｋ６２＋Ｋ６３＋Ｋ６４＋Ｋ６５＋Ｋ７１＋Ｋ７２＋Ｋ７３＋Ｋ７４＋Ｋ７５＋Ｋ８１＋Ｋ８２＋Ｋ８３＋Ｋ８４＋Ｋ８５）の割合

・第６７パラメータ：（「Ｋ６２＋Ｋ７２＋Ｋ８２」×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６４＋Ｋ７４＋Ｋ８４」×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／遊技球の合計払出個数（「Ｋ６１＋Ｋ７１＋Ｋ８１」×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６２＋Ｋ７２＋Ｋ８２」×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６３＋Ｋ７３＋Ｋ８３」×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６４＋Ｋ７４＋Ｋ８４」×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）の割合

・第６８パラメータ：「Ｋ６２＋Ｋ７２＋Ｋ８２」×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」／遊技球の合計払出個数（「Ｋ６１＋Ｋ７１＋Ｋ８１」×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６２＋Ｋ７２＋Ｋ８２」×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６３＋Ｋ７３＋Ｋ８３」×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６４＋Ｋ７４＋Ｋ８４」×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）の割合

その後、ステップＳ４２０８にて算出した第６１～第６８パラメータを演算結果記憶エリア２３４に上書きする（ステップＳ４２０９）。この場合、演算結果記憶エリア２３４

に既に記憶されていた前回の処理回における演算結果の第６１～第６８パラメータは消去される。なお、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されている状況であっても主側ＲＡＭ６５にはバックアップ電力が供給されるため、当該バックアップ電力が供給されている状況であればパチンコ機１０への動作電力の供給開始直後であっても演算結果記憶エリア２３４にはパチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前に算出された第６１～第６８パラメータの情報が記憶されている。

【０７７９】

その後、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅ、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅ、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅを全て「０」クリアする（ステップＳ４２１０）。これにより、第６１～第６８パラメータが演算されたことを契機として、その時点で遊技履歴の情報を一旦消去することが可能となる。

【０７８０】

なお、管理開始フラグに「１」がセットされた直後においては遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が演算基準個数から管理開始基準値を減算した値以上となった場合にステップＳ４２０８～ステップＳ４２１０の処理を実行し、その後は遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が演算基準個数以上となった場合にステップＳ４２０８～ステップＳ４２１０の処理を実行する構成としてもよい。

【０７８１】

図７６はチェック処理（図７３）におけるステップＳ４００８の表示用処理を示すフローチャートである。

【０７８２】

まず非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた更新タイミングカウンタの値を１減算する（ステップＳ４３０１）。更新タイミングカウンタは第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおける遊技履歴の管理結果の表示内容を更新するタイミングであることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。主側ＣＰＵ６３は第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃを表示制御することにより、上記第６１～第６８パラメータの演算結果を報知する。この場合、第１報知用表示装置６９ａでは報知対象となっているパラメータの種類に対応する情報が表示される。また、報知対象となっているパラメータを１００倍した値のうち、１０の位に対応する数字が第２報知用表示装置６９ｂにて表示され、１の位に対応する数字が第３報知用表示装置６９ｃにて表示される。そして、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおいては、上記第６１～第６８パラメータの演算結果に対応する表示が予め定められた順序に従って順次切り換えられ、最後の順番の表示対象である第６８パラメータの演算結果が表示された後は最初の順番の表示対象である第６１パラメータの演算結果が表示される。この場合、一のパラメータの演算結果が継続して表示される期間は１０秒となっている。

【０７８３】

ここで、主側ＣＰＵ６３における上記第６１～第６８パラメータの演算周期は最短で６０分となっている。これに対して、第６１～第６８パラメータの数は８個となっているとともに、一のパラメータの演算結果が継続して表示される期間は１０秒となっている。したがって、主側ＣＰＵ６３にて演算された第６１～第６８パラメータは少なくとも１回は第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおける表示対象となる。

【０７８４】

ステップＳ４３０１の処理を実行した場合、１減算後における更新タイミングカウンタの値が「０」となっているか否かを判定することで第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの表示内容を更新するタイミングとなったか否かを判定する（ステップＳ４３０２）。ステップＳ４３０２にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた表示対象カウンタの値を１加算する（ステップＳ４３０３）。そして、１加算後における表示対象カウンタの値が最大値である「７」を超えた場合（ステップＳ４３０４：ＹＥＳ）、表示対象カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳ４３０５）。

【０７８５】
表示対象カウンタは第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにおける表示対象となっているパラメータの種類を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。上記第６１～第６８パラメータと、「０」～「７」の表示対象カウンタの取り得る値とは１対１で対応している。例えば表示対象カウンタの値が「０」である場合、最初の表示対象である第６１パラメータが第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの表示対象となり、表示対象カウンタの値が「７」である場合、最後の表示対象である第６８パラメータが第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの表示対象となる。
【０７８６】
ステップＳ４３０４にて否定判定をした場合、又はステップＳ４３０５の処理を実行した場合、表示対象カウンタの値に対応するパラメータの種類に対応する情報が表示されるように第１報知用表示装置６９ａを表示制御する（ステップＳ４３０６）。また、表示対象カウンタの値に対応するパラメータを演算結果記憶エリア２３４から読み出すとともに、その読み出したパラメータを１００倍し、１０の位に対応する数字が第２報知用表示装置６９ｂにて表示され、１の位に対応する数字が第３報知用表示装置６９ｃにて表示されるようにする（ステップＳ４３０７）。
【０７８７】
ここで、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃのそれぞれに対応させて表示ＩＣが設けられている。ステップＳ４３０６では主側ＣＰＵ６３は第１報知用表示装置６９ａに対応する表示ＩＣに表示データを出力し、ステップＳ４３０７では主側ＣＰＵ６３は第２報知用表示装置６９ｂに対応する表示ＩＣ、及び第３報知用表示装置６９ｃに対応する表示ＩＣのそれぞれに表示データを出力する。これら表示ＩＣは動作電力が供給されている場合には表示データを記憶保持可能であり、その記憶保持している表示データに対応する表示内容を対応する報知用表示装置６９ａ～６９ｃに継続して表示させる。そして、表示データが主側ＣＰＵ６３により変更されることにより、その変更された表示データに対応する表示内容に報知用表示装置６９ａ～６９ｃの表示が変更される。これにより、非特定制御に対応する処理である管理実行処理（図７１）が終了して特定制御に対応する処理に復帰した後においても、非特定制御に対応する処理の実行状況において設定された表示データに対応する表示が第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにて継続されることとなる。
【０７８８】
その後、非特定制御用のワークエリア２２３の更新タイミングカウンタに次回の更新タイミングに対応する値として１０秒に対応する値を設定する（ステップＳ４３０８）。
【０７８９】
上記のように表示用処理が実行されることにより、主側ＣＰＵ６３に動作電力の供給が開始されている場合、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにて遊技履歴の管理結果が表示される。当該遊技履歴の管理結果の表示は遊技が継続されているか否かに関係なく行われるとともに、遊技機本体１２が外枠１１に対して開放操作されて主制御装置６０がパチンコ機１０の前方から視認可能となっているか否かに関係なく行われる。このように遊技の状況やパチンコ機１０の状態に関係なく第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの表示制御が実行されるようにすることにより、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃを表示制御するための処理構成を簡素化することが可能となる。
【０７９０】
以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。
【０７９１】
主側ＲＡＭ６５には、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２と、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４とが設けられている。そして、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２は、特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して特定制御に対応する処理が主側ＣＰＵ６３にて実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出し

が可能であるのに対して、非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して非特定制御に対応する処理が主側ＣＰＵ６３にて実行される場合には情報の読み出しは可能ではあるものの情報の記憶が不可である。また、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４は、非特定制御に対応する処理が主側ＣＰＵ６３にて実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であるのに対して、特定制御に対応する処理が主側ＣＰＵ６３にて実行される場合には情報の読み出しは可能ではあるものの情報の記憶が不可である。これにより、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２を特定制御に対応する処理の専用の記憶領域として扱うとともに、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を非特定制御に対応する処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となる。したがって、特定制御に対応する処理と非特定制御に対応する処理とで主側ＲＡＭ６５における情報の記憶先を明確に相違させることが可能となる。よって、特定制御に対応する処理及び非特定制御に対応する処理のうち一方の処理の実行に際して他方の処理において利用される情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。

【０７９２】

特定制御に対応する処理には遊技の進行を制御するための処理が含まれ、非特定制御に対応する処理には遊技履歴を管理するための処理が含まれる。そして、上記のとおり特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２は特定制御に対応する処理の専用の記憶領域として扱われるとともに、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４は非特定制御に対応する処理の専用の記憶領域として扱われる。これにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して、遊技履歴を管理するための処理にて利用される情報、例えば通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３及び演算結果記憶エリア２３４に記憶された情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。

【０７９３】

遊技履歴を管理するための情報が記憶される通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３及び演算結果記憶エリア２３４が主側ＲＡＭ６５に設けられている。これにより、主側ＣＰＵ６３にて遊技履歴を管理するための処理を完結することが可能となる。また、遊技履歴の情報及び当該遊技履歴の情報を利用して算出された各種パラメータの情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。

【０７９４】

特定制御に対応する処理を実行している状況から非特定制御に対応する処理を実行する状況となる場合又は非特定制御に対応する処理を実行する状況となった場合には主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報が主側ＲＡＭ６５に退避される。これにより、非特定制御に対応する処理が実行される場合に、特定制御に対応する処理の実行に際して主側ＣＰＵ６３の各種レジスタに記憶された情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。また、非特定制御に対応する処理を終了する場合又は終了した後に、主側ＲＡＭ６５に退避された情報が主側ＣＰＵ６３の各種レジスタに復帰される。これにより、非特定制御に対応する処理が終了した場合には当該非特定制御に対応する処理の実行前における主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの状態から特定制御に対応する処理を実行することが可能となる。

【０７９５】

特定制御に対応する処理を実行している状況から非特定制御に対応する処理を実行する状況となる場合又は非特定制御に対応する処理を実行する状況となった場合、主側ＣＰＵ６３の各種レジスタのうち一部のレジスタの情報が主側ＲＡＭ６５に退避される。これにより、主側ＲＡＭ６５において主側ＣＰＵ６３のレジスタの情報を退避させるために必要な記憶容量を抑えることが可能となる。

【０７９６】

特定制御に対応する処理を実行している状況から非特定制御に対応する処理を実行する状況となる場合又は非特定制御に対応する処理を実行する状況となった場合、主側ＣＰＵ６３の各種レジスタのうち非特定制御に対応する処理にて情報の記憶対象となるレジスタの情報が主側ＲＡＭ６５に退避される。これにより、非特定制御に対応する処理が終了した場合には当該非特定制御に対応する処理の実行前における主側ＣＰＵ６３のレジスタの状態から特定制御に対応する処理を再開することを可能としながら、主側ＲＡＭ６５において主側ＣＰＵ６３のレジスタの情報を退避させるために必要な記憶容量を抑えることが可能となる。

【０７９７】

非特定制御に対応する処理が開始される場合、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御に対応する処理において特定制御用のスタックエリア２２２に退避され、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報が非特定制御に対応する処理において非特定制御用のワークエリア２２３に退避される。これにより、主側ＣＰＵ６３の各種レジスタに記憶された各情報にとって好ましいタイミングで退避を行うことが可能となるとともに、情報を退避させるための処理を特定制御に対応する処理と非特定制御に対応する処理とで分散させて実行することが可能となる。

【０７９８】

フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、Ｐ／Ｖフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。この場合に、フラグレジスタの情報は非特定制御に対応する処理が開始される前において特定制御に対応する処理にて、特定制御用のスタックエリア２２２に退避される。これにより、非特定制御に対応するサブルーチンのコールや当該サブルーチンの開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。

【０７９９】

ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させるのではなく非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、それだけ非特定制御用のスタックエリア２２４の容量を小さく抑えることが可能となる。また、非特定制御用のスタックエリア２２４を利用する場合、情報の書き込み順序が後の情報から先に読み出されることとなるため、仮に何らかのノイズなどの原因で情報の読み出し順序がずれてしまうとそれ以降の読み出し順序の情報が全て異なるレジスタに復帰されることとなってしまう。このような事象の発生確率は非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させる情報量が多くなるほど高くなってしまう。これに対して、レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより退避対象となる情報が多い場合であっても上記のような事象が発生しないようにすることが可能となる。

【０８００】

特定制御に対応する処理を実行している状況から非特定制御に対応する処理を実行する状況となる場合又は非特定制御に対応する処理を実行する状況となった場合に主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は固定の情報となる構成であり、当該スタックポインタの情報は非特定制御に対応する処理の開始に際して主側ＲＡＭ６５に退避されない。これにより、主側ＲＡＭ６５においてスタックポインタの情報を退避させるための容量を確保する必要がないため、主側ＲＡＭ６５の記憶容量をそれだけ抑えることが可能となる。また、このようにスタックポインタの情報が退避されない構成であっても、特定制御に対応する処理を実行している状況から非特定制御に対応する処理を実行する状況となる場合又は非特定制御に対応する処理を実行する状況となった場合において主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は固定の情報となるため、上記のようにスタックポインタの情報を退避させなくても非特定制御に対応する処理が終了した場合には当該非特定制御に対応する処理が開始される前におけるスタックポインタの情報に復帰させることが可能である。

【０８０１】
なお、非特定制御に対応する処理が実行される場合に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御に対応する処理において主側ＲＡＭ６５に退避される構成としたが、これに限定されることはなく、当該フラグレジスタの情報が非特定制御に対応する処理において主側ＲＡＭ６５に退避される構成としてもよい。また、非特定制御に対応する処理が終了した後において主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタへの情報の復帰が特定制御に対応する処理において行われる構成としたが、これに限定されることはなく、当該フラグレジスタへの情報の復帰が非特定制御に対応する処理において行われる構成としてもよい。
【０８０２】
また、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの情報が非特定制御に対応する処理が開始された後において当該非特定制御に対応する処理にて主側ＲＡＭ６５に退避される構成としたが、これに限定されることはなく、これらレジスタの情報が特定制御に対応する処理において主側ＲＡＭ６５に退避される構成としてもよい。また、非特定制御に対応する処理が終了する場合において上記各レジスタへの情報の復帰が非特定制御に対応する処理にて行われる構成としたが、これに限定されることはなく、上記各レジスタへの情報の復帰が非特定制御に対応する処理が終了した後における特定制御に対応する処理にて行われる構成としてもよい。
【０８０３】
＜第１６の実施形態＞
本実施形態では管理用処理の処理構成が上記第１５の実施形態と相違している。以下、上記第１５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【０８０４】
図７７は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理用処理を示すフローチャートである。なお、管理用処理におけるステップＳ４４０１～ステップＳ４４０５の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【０８０５】
まずタイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う（ステップＳ４４０１）。これにより、非特定制御に対応する処理である後述する管理実行処理の途中の状況において、特定制御に対応する処理であるタイマ割込み処理（図６９）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。
【０８０６】
その後、「ＬＤ　（＿ＰＳＷＢＵＦ），ＰＳＷ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のワークエリア２２１に設定されたＰＳＷバッファに退避させる（ステップＳ４４０２）。フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、Ｐ／Ｖフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。このようなフラグレジスタの情報を管理実行処理に対応するサブルーチンのプログラムが開始される前に退避させることにより、当該サブルーチンのコールや当該サブルーチンの開始後において変化してしまう前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のワークエリア２２１に退避させておくことが可能となる。
【０８０７】
その後、非特定制御用のプログラムに設定されている管理実行処理に対応するサブルーチンのプログラムを読み出すことにより、当該管理実行処理を開始する（ステップＳ４４０３）。この場合、当該管理実行処理の実行後における管理用処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、管理実行処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理用処理のプログラムに復帰する。

【０８０８】
管理実行処理の実行後において管理用処理のプログラムに復帰した場合には、「ＬＤ　ＰＳＷ，（＿ＰＳＷＢＵＦ）」として、ロード命令により、ステップＳ４４０２にて特定制御用のワークエリア２２１におけるＰＳＷバッファに退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる（ステップＳ４４０４）。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が、ステップＳ４４０２が前回実行された時点の情報に復帰することとなる。つまり、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰することとなる。
【０８０９】
その後、タイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるために割込み許可の設定を行う（ステップＳ４４０５）。これにより、タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。
【０８１０】
上記構成によれば特定制御から非特定制御に切り換わる直前における主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２ではなく特定制御用のワークエリア２２１に退避される。これにより、特定制御用のスタックエリア２２２の容量を抑えながらフラグレジスタの情報を退避させることが可能となる。
【０８１１】
なお、特定制御用のワークエリア２２１におけるＰＳＷバッファは専用エリアとして確保されているがこれに限定されることはなく、他の情報も書き込まれ得る兼用エリアである構成としてもよい。つまり、管理用処理が実行されない状況においては特定制御に対応する主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を退避させる必要がないため、管理用処理が実行されない状況における特定制御に対応する処理にて所定の演算処理を実行する場合などにＰＳＷバッファとしても利用される兼用エリアを利用する構成としてもよい。この場合、当該兼用エリアは管理用処理の実行に際してフラグレジスタの情報を退避させるために確実に利用されることとなるため、フラグレジスタの情報以外の情報として、管理用処理が実行される前に不要となる情報が兼用エリアに書き込まれる構成とする必要がある。
【０８１２】
＜第１７の実施形態＞
本実施形態では管理実行処理の処理構成が上記第１５の実施形態と相違している。以下、上記第１５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【０８１３】
図７８は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理実行処理を示すフローチャートである。なお、管理実行処理におけるステップＳ４５０１～ステップＳ４５１５の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。
【０８１４】
まず、上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９０１と同様に「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｕ＋２）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとしてＹ（ｕ＋２）を設定する（ステップＳ４５０１）。
【０８１５】
その後、「ＰＵＳＨ　ＷＡ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに退避させる（ステップＳ４５０２）。この場合、ステップＳ４５０１にて主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに設定した固定アドレスに対応する記憶エリアにＷＡレジスタの情報を退避させる。また、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。

【０８１６】
その後、「ＰＵＳＨ　ＢＣ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに退避させる（ステップＳ４５０３）。また、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。
【０８１７】
その後、「ＰＵＳＨ　ＤＥ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに退避させる（ステップＳ４５０４）。また、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。
【０８１８】
その後、「ＰＵＳＨ　ＨＬ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに退避させる（ステップＳ４５０５）。また、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。
【０８１９】
その後、「ＰＵＳＨ　ＩＸ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに退避させる（ステップＳ４５０６）。また、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。
【０８２０】
その後、「ＰＵＳＨ　ＩＹ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに退避させる（ステップＳ４５０７）。また、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。
【０８２１】
ステップＳ４５０２～ステップＳ４５０７の処理を実行した後は、チェック処理を実行する（ステップＳ４５０８）。チェック処理の実行に際しては、非特定制御用のプログラムに設定されているチェック処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなる。当該サブルーチンのプログラムの実行に際してはチェック処理の実行後における管理実行処理の戻り番地を特定するための情報を、プッシュ命令により、非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに書き込む。そして、チェック処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報を読み出し、当該戻り番地が示す管理実行処理のプログラムに復帰する。チェック処理の内容は上記第１５の実施形態と同一である。
【０８２２】
その後、上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９０９と同様に「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｒ＋α）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに特定制御への復帰時における固定アドレスとしてＹ（ｒ＋α）を設定する（ステップＳ４５０９）。Ｙ（ｒ＋α）のアドレスは、特定制御用のスタックエリア２２２におけるＹ（ｒ＋８）とＹ（ｓ）との間のアドレスとして設定されている。
【０８２３】
その後、「ＰＯＰ　ＩＹ」として、ポップ命令により、非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対して前の順番の情報に対応する記憶エリアに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタに上書きする（

ステップＳ４５１０）。また、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を前の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。

【０８２４】

その後、「ＰＯＰ　ＩＸ」として、ポップ命令により、非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対して前の順番の情報に対応する記憶エリアに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタに上書きする（ステップＳ４５１１）。また、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を前の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。

【０８２５】

その後、「ＰＯＰ　ＨＬ」として、ポップ命令により、非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対して前の順番の情報に対応する記憶エリアに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに上書きする（ステップＳ４５１２）。また、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を前の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。

【０８２６】

その後、「ＰＯＰ　ＤＥ」として、ポップ命令により、非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対して前の順番の情報に対応する記憶エリアに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタに上書きする（ステップＳ４５１３）。また、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を前の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。

【０８２７】

その後、「ＰＯＰ　ＢＣ」として、ポップ命令により、非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対して前の順番の情報に対応する記憶エリアに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタに上書きする（ステップＳ４５１４）。また、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を前の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。

【０８２８】

その後、「ＰＯＰ　ＷＡ」として、ポップ命令により、非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対して前の順番の情報に対応する記憶エリアに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタに上書きする（ステップＳ４５１５）。また、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を前の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。

【０８２９】

ステップＳ４５１０～ステップＳ４５１５の処理が実行されることにより、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【０８３０】

主側ＣＰＵ６３のレジスタには、フラグレジスタ以外にも、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタが存在している。この場合に、ステップＳ４５０２～ステップＳ４５０７では、これら各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタであるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させている。これらＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタは非特定制御に対応する処理であるチェック処理（ステップＳ４５０８）にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタに設定されている情報をチェック処理（ステップＳ４５０８）の実行に先立ち非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させることにより、特定制御に際して利用されていたこれらレジスタの情報を非特定制御が開始される前に退避させることが可能となる。よって、非特定制御に際してこれらレジスタが上書きされたとしても、非特定制御を終了する場合には非特定制御

用のスタックエリア２２４に退避させた情報をこれらレジスタに復帰させることで、これらレジスタの状態を非特定制御が実行される前における特定制御に対応する状態に復帰させることが可能となる。

【０８３１】

また、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタの全ての情報を非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させるのではなく、非特定制御に対応する処理であるチェック処理にて利用対象となるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの情報を選択的に非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させることにより、非特定制御用のスタックエリア２２４においてレジスタの情報を退避させるために確保する容量を抑えることが可能となる。よって、チェック処理に際して利用可能となる非特定制御用のスタックエリア２２４の容量を大きく確保しながら、上記のようなレジスタの情報の退避を行うことが可能となる。

【０８３２】

＜第１８の実施形態＞

本実施形態では管理実行処理の処理構成が上記第１５の実施形態と相違している。以下、上記第１５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０８３３】

図７９は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理実行処理を示すフローチャートである。なお、管理実行処理におけるステップＳ４６０１～ステップＳ４６０５の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【０８３４】

まず、上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９０１と同様に「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｕ＋２）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとしてＹ（ｕ＋２）を設定する（ステップＳ４６０１）。

【０８３５】

その後、「ＬＤ　（＿ＡＬＬＢＵＦ），ＡＬＬ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３の全レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＡＬＬバッファに退避させる（ステップＳ４６０２）。これにより、非特定制御に対応する処理であるチェック処理にて利用されるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタだけではなく、それ以外のレジスタも含めて、全てのレジスタの情報がまとめて非特定制御用のワークエリア２２３のＡＬＬバッファに退避されることとなる。このように主側ＣＰＵ６３の全レジスタを非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、主側ＣＰＵ６３のレジスタの情報を選択的に退避させる必要が生じない。

【０８３６】

ここで、退避対象となるレジスタにはフラグレジスタも含まれる。フラグレジスタの情報は管理用処理（図７０）のステップＳ３８０２にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避されているが、ステップＳ４６０２においてはフラグレジスタの情報が非特定制御用のワークエリア２２３に退避される。これにより、フラグレジスタの情報も含めて、主側ＣＰＵ６３のレジスタの情報の選択的な退避を行う必要が生じない。また、このようにフラグレジスタの情報が重複させて退避されるとしても、当該管理実行処理の終了後において管理用処理（図７０）のステップＳ３８０４にて特制御用のスタックエリア２２２から主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタへの情報の復帰が行われるため、特定制御に対応する処理に復帰する場合には主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を管理実行処理が実行される直前の状態に復帰させることが可能となる。

【０８３７】

その後、チェック処理を実行する（ステップＳ４６０３）。チェック処理の実行に際し

ては、非特定制御用のプログラムに設定されているチェック処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなる。当該サブルーチンのプログラムの実行に際してはチェック処理の実行後における管理実行処理の戻り番地を特定するための情報を、プッシュ命令により、非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに書き込む。そして、チェック処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報を読み出し、当該戻り番地が示す管理実行処理のプログラムに復帰する。チェック処理の内容は上記第１５の実施形態と同一である。

【０８３８】

その後、上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９０９と同様に「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｒ＋α）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに特定制御への復帰時における固定アドレスとしてＹ（ｒ＋α）を設定する（ステップＳ４６０４）。Ｙ（ｒ＋α）のアドレスは、特定制御用のスタックエリア２２２におけるＹ（ｒ＋８）とＹ（ｓ）との間のアドレスとして設定されている。

【０８３９】

その後、「ＬＤ　ＡＬＬ，（＿ＡＬＬＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＡＬＬバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のそれぞれに対応するレジスタに上書きする（ステップＳ４６０５）。これにより、主側ＣＰＵ６３の全レジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【０８４０】

上記構成によれば、主側ＣＰＵ６３のレジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させるのではなく非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、それだけ非特定制御用のスタックエリア２２４の容量を小さく抑えることが可能となる。また、非特定制御用のスタックエリア２２４を利用する場合、情報の書き込み順序が後の情報から先に読み出されることとなるため、仮に何らかのノイズなどの原因で情報の読み出し順序がずれてしまうとそれ以降の読み出し順序の情報が全て異なるレジスタに復帰されることとなってしまう。このような事象の発生確率は非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させる情報量が多くなるほど高くなってしまう。これに対して、レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより退避対象となる情報が多い場合であっても上記のような事象が発生しないようにすることが可能となる。

【０８４１】

また、主側ＣＰＵ６３のレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させる場合、非特定制御に対応する処理であるチェック処理にて利用されるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタだけではなく、それ以外のレジスタも含めて、全てのレジスタの情報がまとめて非特定制御用のワークエリア２２３のＡＬＬバッファに退避されることとなる。このように主側ＣＰＵ６３の全レジスタを非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、主側ＣＰＵ６３のレジスタの情報を選択的に退避させる必要が生じない。

【０８４２】

なお、主側ＣＰＵ６３の全レジスタの情報が非特定制御に対応する処理が開始された後において当該非特定制御に対応する処理にて主側ＲＡＭ６５に退避される構成としたが、これに限定されることはなく、全レジスタの情報が特定制御に対応する処理において主側ＲＡＭ６５に退避される構成としてもよい。また、非特定制御に対応する処理が終了する場合において全レジスタへの情報の復帰が非特定制御に対応する処理にて行われる構成としたが、これに限定されることはなく、全レジスタへの情報の復帰が非特定制御に対応する処理が終了した後における特定制御に対応する処理にて行われる構成としてもよい。

【０８４３】

＜第１９の実施形態＞

本実施形態では管理実行処理の処理構成が上記第１５の実施形態と相違している。以下

、上記第１５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０８４４】

図８０は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理実行処理を示すフローチャートである。なお、管理実行処理におけるステップＳ４７０１～ステップＳ４７０６の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【０８４５】

まず「ＬＤ　（＿ＳＰＢＵＦ），ＳＰ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＳＰバッファに退避させる（ステップＳ４７０１）。これにより、非特定制御に対応する処理が開始される直前の特定制御に対応するスタックポインタの情報が非特定制御用のワークエリア２２３に退避されることとなる。

【０８４６】

その後、上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９０１と同様に「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｕ＋２）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとしてＹ（ｕ＋２）を設定する（ステップＳ４７０２）。

【０８４７】

その後、「ＰＵＳＨ　ＡＬＬ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３の全レジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリア及び当該記憶エリアから連続する記憶エリアに退避させる（ステップＳ４７０３）。この場合、主側ＣＰＵ６３の全レジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４における一の記憶エリアに記憶させることができないため、上記のとおり非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリア及び当該記憶エリアから連続する記憶エリアをレジスタの情報の退避先とする。また、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を全レジスタの情報の退避に際して最後の情報を記憶させた記憶エリアに対して次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。

【０８４８】

その後、チェック処理を実行する（ステップＳ４７０４）。チェック処理の実行に際しては、非特定制御用のプログラムに設定されているチェック処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなる。当該サブルーチンのプログラムの実行に際してはチェック処理の実行後における管理実行処理の戻り番地を特定するための情報を、プッシュ命令により、非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに書き込む。そして、チェック処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報を読み出し、当該戻り番地が示す管理実行処理のプログラムに復帰する。チェック処理の内容は上記第１５の実施形態と同一である。

【０８４９】

その後、「ＰＯＰ　ＡＬＬ」として、ポップ命令により、非特定制御用のスタックエリア２２４における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリア及び当該記憶エリアから連続する記憶エリアに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のそれぞれに対応するレジスタに上書きする（ステップＳ４７０５）。これにより、主側ＣＰＵ６３の全レジスタの情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【０８５０】

その後、「ＬＤ　ＳＰ，（＿ＳＰＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＳＰバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに上書きする（ステップＳ４７０６）。これにより、主側ＣＰＵ６３のスタックポイ

ンタの情報が非特定制御に対応する処理が開始される直前の特定制御に対応する情報に復帰することとなる。

【０８５１】

上記構成によれば、主側ＣＰＵ６３のレジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させる場合、非特定制御に対応する処理であるチェック処理にて利用されるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタだけではなく、それ以外のレジスタも含めて、全てのレジスタの情報がまとめて非特定制御用のスタックエリア２２４に退避されることとなる。このように主側ＣＰＵ６３の全レジスタを非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させることにより、主側ＣＰＵ６３のレジスタの情報を選択的に退避させる必要が生じない。

【０８５２】

非特定制御に対応する処理が開始される直前の特定制御に対応するスタックポインタの情報が非特定制御用のワークエリア２２３に退避される。これにより、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応するスタックポインタの情報が変動し得る構成であったとしても、非特定制御に対応する処理が終了して特定制御に対応する処理に復帰する場合には、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【０８５３】

なお、主側ＣＰＵ６３の全レジスタの情報が非特定制御に対応する処理が開始された後において当該非特定制御に対応する処理にて主側ＲＡＭ６５に退避される構成としたが、これに限定されることはなく、全レジスタの情報が特定制御に対応する処理において主側ＲＡＭ６５に退避される構成としてもよい。また、非特定制御に対応する処理が終了する場合において全レジスタへの情報の復帰が非特定制御に対応する処理にて行われる構成としたが、これに限定されることはなく、全レジスタへの情報の復帰が非特定制御に対応する処理が終了した後における特定制御に対応する処理にて行われる構成としてもよい。

【０８５４】

＜第２０の実施形態＞

本実施形態では管理用処理及び管理実行処理の処理構成が上記第１５の実施形態と相違している。以下、上記第１５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０８５５】

図８１は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理用処理を示すフローチャートである。なお、管理用処理におけるステップＳ４８０１～ステップＳ４８１１の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【０８５６】

まずタイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う（ステップＳ４８０１）。これにより、非特定制御に対応する処理である後述する管理実行処理の途中の状況において、特定制御に対応する処理であるタイマ割込み処理（図６９）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【０８５７】

その後、「ＰＵＳＨ　ＰＳＷ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させる（ステップＳ４８０２）。フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、Ｐ／Ｖフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。このようなフラグレジスタの情報を管理実行処理に対応するサブルーチンのプログラムが開始される前に退避させることにより、当該サブルーチンのコールや当該サブルーチンの開始後において変化してしまう前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。

【０８５８】
その後、「ＬＤ　ＷＡ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタを「０」クリアする（ステップＳ４８０３）。また、「ＬＤ　ＢＣ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタを「０」クリアする（ステップＳ４８０４）。また、「ＬＤ　ＤＥ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタを「０」クリアする（ステップＳ４８０５）。また、「ＬＤ　ＨＬ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタを「０」クリアする（ステップＳ４８０６）。また、「ＬＤ　ＩＸ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタを「０」クリアする（ステップＳ４８０７）。また、「ＬＤ　ＩＹ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタを「０」クリアする（ステップＳ４８０８）。

【０８５９】
主側ＣＰＵ６３のレジスタには、フラグレジスタ以外にも、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタが存在している。この場合に、ステップＳ４８０３～ステップＳ４８０８では、これら各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタであるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタのそれぞれを「０」クリアする。これらＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタは非特定制御に対応する処理であるチェック処理（ステップＳ４９０２）にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタを非特定制御に対応する処理である管理実行処理（ステップＳ４８０９）の実行に先立ち「０」クリアすることにより、これらレジスタの状態を非特定制御に対応する処理が開始される前に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後の状態とすることが可能となる。

【０８６０】
また、非特定制御に対応する処理が開始される前におけるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報は、当該非特定制御に対応する処理が終了した後における特定制御に対応する処理において不要な情報である。よって、これらレジスタの情報が退避されることなく「０」クリアされたとしても、非特定制御に対応する処理が終了した後に復帰した特定制御に対応する処理において問題が生じない。

【０８６１】
ステップＳ４８０３～ステップＳ４８０８の処理を実行した後は、非特定制御用のプログラムに設定されている管理実行処理に対応するサブルーチンのプログラムを読み出すことにより、当該管理実行処理を開始する（ステップＳ４８０９）。この場合、当該管理実行処理の実行後における管理用処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、管理実行処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理用処理のプログラムに復帰する。

【０８６２】
管理実行処理の実行後において管理用処理のプログラムに復帰した場合、「ＰＯＰ　ＰＳＷ」として、ポップ命令により、ステップＳ４８０２にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる（ステップＳ４８１０）。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が、ステップＳ４８０２が前回実行された時点の情報に復帰することとなる。つまり、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰することとなる。

【０８６３】
その後、タイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるために割込み許可の設定を行う（ステップＳ４８１１）。これにより、タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【０８６４】

図８２は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理実行処理を示すフローチャートである。なお、管理実行処理におけるステップＳ４９０１～ステップＳ４９０９の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【０８６５】

まず上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９０１と同様に「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｕ＋２）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとしてＹ（ｕ＋２）を設定する（ステップＳ４９０１）。

【０８６６】

その後、チェック処理を実行する（ステップＳ４９０２）。チェック処理の実行に際しては、非特定制御用のプログラムに設定されているチェック処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際してはチェック処理の実行後における管理実行処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により非特定制御用のスタックエリア２２４に書き込まれる。そして、チェック処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理実行処理のプログラムに復帰する。チェック処理の内容は上記第１５の実施形態と同一である。

【０８６７】

その後、「ＬＤ　ＷＡ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタを「０」クリアする（ステップＳ４９０３）。また、「ＬＤ　ＢＣ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタを「０」クリアする（ステップＳ４９０４）。また、「ＬＤ　ＤＥ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタを「０」クリアする（ステップＳ４９０５）。また、「ＬＤ　ＨＬ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタを「０」クリアする（ステップＳ４９０６）。また、「ＬＤ　ＩＸ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタを「０」クリアする（ステップＳ４９０７）。また、「ＬＤ　ＩＹ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタを「０」クリアする（ステップＳ４９０８）。

【０８６８】

これらＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタは既に説明したとおり非特定制御に対応する処理であるチェック処理（ステップＳ４９０２）にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタを非特定制御に対応する処理から特定制御に対応する処理への復帰に先立ち「０」クリアすることにより、これらレジスタの状態を特定制御に対応する処理への復帰前に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後の状態とすることが可能となる。

【０８６９】

また、特定制御に対応する処理が開始される前におけるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報は、当該特定制御に対応する処理が終了した後における非特定制御に対応する処理において不要な情報である。よって、これらレジスタの情報が退避されることなく「０」クリアされたとしても、特定制御に対応する処理が終了した後に復帰した非特定制御に対応する処理において問題が生じない。

【０８７０】

その後、上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９０９と同様に「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｒ＋α）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに特定制御への復帰時における固定アドレスとしてＹ（ｒ＋α）を設定する（ステップＳ４９０９）。Ｙ（ｒ＋α）のアドレスは、特定制御用のスタックエリア２２２におけるＹ（ｒ＋８）とＹ（ｓ）との間のアドレスとして設定されている。

【０８７１】

上記構成によれば、特定制御に対応する処理が実行されている状況から非特定制御に対応する処理が開始される場合に主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタを「０」クリアする構成である。これにより、れら各レジスタの情報を主側ＲＡＭ６５に退避させる必要が生じない。よって、これら各情報を退避させるための容量を確保する必要が生じない。

【０８７２】

また、非特定制御に対応する処理が実行されている状況から特定制御に対応する処理に復帰させる場合にも主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタを「０」クリアする構成である。これにより、特定制御に対応する処理に復帰させる場合には、これら各レジスタの状態を非特定制御に対応する処理が開始される直前の状態に復帰させることが可能となる。

【０８７３】

上記各レジスタが「０」クリアされた状態は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合の状態である。これにより、非特定制御に対応する処理を開始する場合及び特定制御に対応する処理に復帰する場合において上記各レジスタを所定状態に設定するための処理構成を簡素なものとすることが可能となる。

【０８７４】

非特定制御に対応する処理を開始する場合及び特定制御に対応する処理に復帰する場合において「０」クリアの実行対象となるレジスタは主側ＣＰＵ６３の各種レジスタのうち一部のレジスタである。これにより、非特定制御に対応する処理を開始する場合及び特定制御に対応する処理に復帰する場合において上記各レジスタを所定状態に設定するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【０８７５】

非特定制御に対応する処理を開始する場合及び特定制御に対応する処理に復帰する場合にＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタを「０」クリアする構成において、それ以外のレジスタは「０」クリアしない。これにより、特定制御に対応する処理において必要な情報を非特定制御に対応する処理の開始に際して消去してしまわないようにすることが可能となる。

【０８７６】

また、ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ以外のレジスタの情報は非特定制御に対応する処理の開始に際して主側ＲＡＭ６５に退避されない。これにより、これら情報を退避させるための領域を主側ＲＡＭ６５において確保する必要が生じない。

【０８７７】

非特定制御に対応する処理が開始される前における主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの情報は、非特定制御に対応する処理が終了した後における特定制御に対応する処理にて利用されない情報である。これにより、非特定制御に対応する処理が開始される場合に上記各レジスタが「０」クリアされる構成であったとしても、非特定制御に対応する処理が終了した後における特定制御に対応する処理に影響を与えないようにすることが可能となる。

【０８７８】

なお、管理用処理（図８１）におけるステップＳ４８０３～ステップＳ４８０８にて主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタを「０」クリアする構成に代えて、これらレジスタを初期化する構成としてもよい。つまり、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、これら主側ＣＰＵ６３の各レジスタは一旦「０」クリアされた後に、初期状態となるように各レジスタの情報設定が行われるが、ステップＳ４８０３～ステップＳ４８０８ではこの初期状態となるように各レジスタの設定を行う構成としてもよい。この場合、ステップＳ４９０３～ステップＳ４９０８においても上記初期状態となるように各レジスタの設定が行われる構成とすることで、特定制御に対応する処理に復帰させる場合にはこれら各レジスタの

状態を非特定制御に対応する処理が開始される直前の状態に復帰させることが可能となる。

【０８７９】

また、管理用処理（図８１）におけるステップＳ４８０３～ステップＳ４８０８にて主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタを「０」クリアする構成に代えて、これらレジスタの全てに「１」を設定する構成としてもよい。この場合、ステップＳ４９０３～ステップＳ４９０８においても上記各レジスタの全てに「１」を設定することで、特定制御に対応する処理に復帰させる場合にはこれら各レジスタの状態を非特定制御に対応する処理が開始される直前の状態に復帰させることが可能となる。

【０８８０】

また、非特定制御に対応する処理が実行される場合に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御に対応する処理において主側ＲＡＭ６５に退避される構成としたが、これに限定されることはなく、当該フラグレジスタの情報が非特定制御に対応する処理において主側ＲＡＭ６５に退避される構成としてもよい。また、非特定制御に対応する処理が終了した後において主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタへの情報の復帰が特定制御に対応する処理において行われる構成としたが、これに限定されることはなく、当該フラグレジスタへの情報の復帰が非特定制御に対応する処理において行われる構成としてもよい。

【０８８１】

また、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタを「０」クリアする処理が非特定制御に対応する処理が開始される前において特定制御に対応する処理にて実行される構成としたが、これに限定されることはなく、これらレジスタを「０」クリアする処理が非特定制御に対応する処理にて実行される構成としてもよい。また、非特定制御に対応する処理が終了する場合において上記各レジスタを「０」クリアする処理が非特定制御に対応する処理にて行われる構成としたが、これに限定されることはなく、上記各レジスタを「０」クリアする処理が非特定制御に対応する処理が終了した後における特定制御に対応する処理にて行われる構成としてもよい。

【０８８２】

また、管理用処理（図８１）においてステップＳ４８０２における「ＰＵＳＨ　ＰＳＷ」の処理がステップＳ４８０３～ステップＳ４８０８にて各レジスタに「０」を設定する前に実行される構成としたが、これに代えて、ステップＳ４８０２における「ＰＵＳＨ　ＰＳＷ」の処理がステップＳ４８０３～ステップＳ４８０８にて各レジスタに「０」を設定した後であってステップＳ４８０９にて管理実行処理に対応するサブルーチンのプログラムが読み出される前に実行される構成としてもよい。これにより、ステップＳ４８０３～ステップＳ４８０８のロード命令により変化した後におけるフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させることが可能となる。

【０８８３】

＜第２１の実施形態＞

本実施形態では遊技履歴の情報を収集するための構成が上記第１５の実施形態と相違している。以下、上記第１５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０８８４】

図８３は本実施形態における電気的構成を説明するための説明図である。

【０８８５】

ＭＰＵ６２には上記第１５の実施形態と同様に主側ＣＰＵ６３、主側ＲＯＭ６４及び主側ＲＡＭ６５が設けられている。また、ＭＰＵ６２には上記第１５の実施形態と異なり、ＭＰＵ６２に管理用ＲＡＭ２４１が電気的に接続されている。つまり、ＭＰＵ６２に内蔵されている主側ＲＡＭ６５とは別に管理用ＲＡＭ２４１が設けられており、当該管理用ＲＡＭ２４１はＭＰＵ６２に外付けされている。

【０８８６】
主側ＲＡＭ６５には上記第１５の実施形態と同様に特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が設けられている。したがって、主側ＣＰＵ６３にて主側ＲＯＭ６４における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して特定制御に対応する処理を実行する場合には主側ＲＡＭ６５における特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２を利用し、主側ＣＰＵ６３にて主側ＲＯＭ６４における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して非特定制御に対応する処理を実行する場合には主側ＲＡＭ６５における非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を利用する。

【０８８７】
管理用ＲＡＭ２４１には通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３及び演算結果記憶エリア２３４が設けられている。これら各エリア２３１～２３４の内容は上記第１５の実施形態と同一である。本実施形態においても主側ＣＰＵ６３における非特定制御に対応する処理としてチェック処理を含む管理実行処理が実行される。そして、当該チェック処理において上記第１５の実施形態と同様に通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の更新を通じて遊技履歴の収集が行われるとともに、その収集された遊技履歴を利用して算出された第６１～第６８パラメータは演算結果記憶エリア２３４に書き込まれる。つまり、管理用ＲＡＭ２４１は主側ＣＰＵ６３において非特定制御に対応する処理を実行する場合に利用されることとなるため、管理用ＲＡＭ２４１は非特定制御用のワークエリアとして利用されることとなる。

【０８８８】
また、遊技履歴の収集やその収集された履歴情報を利用して第６１～第６８パラメータを算出する場合に主側ＲＡＭ６５の非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が適宜利用される。

【０８８９】
上記構成によれば、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３及び演算結果記憶エリア２３４がＭＰＵ６２に外付けされた管理用ＲＡＭ２４１に設けられている。これにより、主側ＲＡＭ６５における非特定制御用のワークエリア２２３において必要な記憶容量を増加させないようにしながら、収集した遊技履歴の情報を記憶することが可能となるとともに、当該遊技履歴を利用して算出された第６１～第６８パラメータを記憶することが可能となる。また、汎用的なＭＰＵ６２を利用しながら、遊技履歴の情報を記憶するための記憶容量を増大化させることが可能となる。

【０８９０】
遊技履歴の収集やその収集された履歴情報を利用して第６１～第６８パラメータを算出する場合に主側ＲＡＭ６５の非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が適宜利用される。これにより、履歴情報に関する処理を実行する場合における処理速度が極端に低下してしまわないようにすることが可能となる。

【０８９１】
なお、管理用ＲＡＭ２４１に通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３及び演算結果記憶エリア２３４が設けられる構成に加えて又は代えて、上記第１の実施形態などにおける履歴用メモリ１１７に対応する記憶エリアが設定されている構成としてもよい。この場合、履歴情報を記憶するために必要な記憶容量を増大化させる必要があるが、ＭＰＵ６２に外付けされた管理用ＲＡＭ２４１が当該履歴情報を記憶するための記憶手段として利用される構成であるため、記憶容量の増大化に柔軟に対応することが可能となる。

【０８９２】
＜第２２の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行される処理構成が上記第１５の実施形態と相違している。以下、上記第１５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０８９３】

図８４は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳ５００１～ステップＳ５０１９の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【０８９４】

まず電源投入ウエイト処理を実行する（ステップＳ５００１）。当該電源投入ウエイト処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。かかる電源投入ウエイト処理の実行期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。その後、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する（ステップＳ５００２）。

【０８９５】

その後、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定し（ステップＳ５００３）、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定し（ステップＳ５００４）、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるか否かを判定し（ステップＳ５００５）、外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態であるか否かを判定する（ステップＳ５００６）。

【０８９６】

本実施形態では内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態となっているか否かを検知するための前扉開放センサ９５が主側ＣＰＵ６３と電気的に接続されており、前扉開放センサ９５の検知結果は主側ＣＰＵ６３に入力される。この場合、内枠１３に対して前扉枠１４が閉鎖状態である場合に前扉開放センサ９５は閉鎖検知信号を主側ＣＰＵ６３に送信し、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態である場合に前扉開放センサ９５は開放検知信号を主側ＣＰＵ６３に送信する。主側ＣＰＵ６３は、前扉開放センサ９５から閉鎖検知信号を受信している場合に前扉枠１４が閉鎖状態であると特定し、前扉開放センサ９５から開放検知信号を受信している場合に前扉枠１４が開放状態であると特定する。

【０８９７】

また、本実施形態では外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態となっているか否かを検知するための本体開放センサ９６が主側ＣＰＵ６３と電気的に接続されており、本体開放センサ９６の検知結果は主側ＣＰＵ６３に入力される。この場合、外枠１１に対して遊技機本体１２が閉鎖状態である場合に本体開放センサ９６は閉鎖検知信号を主側ＣＰＵ６３に送信し、外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態である場合に本体開放センサ９６は開放検知信号を主側ＣＰＵ６３に送信する。主側ＣＰＵ６３は、本体開放センサ９６から閉鎖検知信号を受信している場合に遊技機本体１２が閉鎖状態であると特定し、本体開放センサ９６から開放検知信号を受信している場合に遊技機本体１２が開放状態であると特定する。

【０８９８】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合であって（ステップＳ５００３：ＹＥＳ）、ステップＳ５００４～ステップＳ５００６のいずれかにて否定判定をした場合、非設定更新時のクリア処理を実行する（ステップＳ５００７）。非設定更新時のクリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（具体的には設定値カウンタ）を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともにその「０」クリアしたエリアに対して初期設定を行う。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「０」クリアされるため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図

表示部３８ａが変動表示されていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。また、非設定更新時のクリア処理では特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアする。また、非設定更新時のクリア処理では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を行う。

【０８９９】

非設定更新時のクリア処理では非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアしない。これにより、リセットボタン６８ｃを押圧操作した状態でパチンコ機１０への動作電力の供給を開始したとしても、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされないようにすることが可能となる。

【０９００】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳ５００３：ＮＯ）、停電フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ５００８）。停電フラグは特定制御用のワークエリア２２１に設けられており、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される場合において予め定められた停電時処理が正常に実行された場合には当該停電フラグに「１」がセットされることとなる。停電フラグに「１」がセットされている場合には、チェックサムの算出結果が電源遮断時に保存したチェックサムと一致するか否かすなわち記憶保持されたデータの有効性を判定する（ステップＳ５００９）。ステップＳ５００７にて非設定更新時のクリア処理を実行した場合、又はステップＳ５００９にて肯定判定をした場合、特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値を確認することでパチンコ機１０の設定値が正常か否かを判定する（ステップＳ５０１０）。具体的には、設定値カウンタに設定された設定値が「設定１」～「設定６」のいずれかである場合に正常であると判定し、「０」又は７以上である場合に異常であると判定する。

【０９０１】

ステップＳ５００８～ステップＳ５０１０のいずれかで否定判定をした場合には動作禁止処理を実行する。動作禁止処理では、ホール管理者等にエラーの発生を報知するためのエラー報知処理を実行した後に（ステップＳ５０１１）、無限ループとなる。当該動作禁止処理は、後述する設定更新時のクリア処理（ステップＳ５０１８）が実行されることにより解除される。

【０９０２】

ステップＳ５００８～ステップＳ５０１０の全てにおいて肯定判定をした場合には電源投入設定処理を実行する（ステップＳ５０１２）。電源投入設定処理では、停電フラグの初期化といった特定制御用のワークエリア２２１の所定のエリアを初期値に設定するとともに、現状の遊技状態に対応したコマンドを音声発光制御装置８１に送信する。

【０９０３】

なお、主側ＣＰＵ６３はタイマ割込み処理を定期的に実行する構成であるが、メイン処理が開始された段階においてはタイマ割込み処理の発生が禁止されている。このタイマ割込み処理の発生が禁止された状態はステップＳ５０１２の処理が完了してステップＳ５０１３の処理が実行される前のタイミングで解除され、タイマ割込み処理の実行が許可される。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合にはステップＳ５０１２の電源投入設定処理が終了して、ステップＳ５０１３の処理が開始される前の段階までタイマ割込み処理は実行されない。よって、当該状況となるまでは主側ＣＰＵ６３にて遊技を進行させるための処理が開始されないこととなる。

【０９０４】

その後、ステップＳ５０１３～ステップＳ５０１６の残余処理に進む。つまり、主側ＣＰＵ６３はタイマ割込み処理を定期的に実行する構成であるが、１のタイマ割込み処理と

次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は各タイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップＳ５０１３～ステップＳ５０１６の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップＳ５０１３～ステップＳ５０１６の残余処理は非定期的に実行される非定期処理であると言える。ステップＳ５０１３～ステップＳ５０１６では、上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のステップＳ１１３～ステップＳ１１６と同一の処理を実行する。

【０９０５】

一方、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合であって（ステップＳ５００３：ＹＥＳ）、ステップＳ５００４～ステップＳ５００６の全てで肯定判定をした場合、設定値を更新するための処理を実行する。具体的には、まず設定値のコピー処理を実行する（ステップＳ５０１７）。当該コピー処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定値を特定するために利用される設定値カウンタの情報を、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたコピー領域に記憶させる。これにより、この後に実行される設定更新時のクリア処理（ステップＳ５０１８）にて設定値カウンタの情報が「０」クリアされたとしても、当該設定値更新時のクリア処理が実行される前における本パチンコ機１０の設定値（すなわちパチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前における当該パチンコ機１０の設定値）を把握することが可能となる。

【０９０６】

その後、設定更新時のクリア処理を実行する（ステップＳ５０１８）。設定更新時のクリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１における当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリア及び上記コピー領域を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともにその「０」クリアしたエリアに対して初期設定を行う。これにより、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示されていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。また、設定更新時のクリア処理では特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともにその「０」クリアしたエリアに対して初期設定を行う。また、設定更新時のクリア処理ではパチンコ機１０の設定値を特定するために利用される設定値カウンタを「０」クリアする。また、設定更新時のクリア処理では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を行う。

【０９０７】

その一方、設定更新時のクリア処理では当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアを「０」クリアしないため、設定値更新処理（ステップＳ５０１９）が実行されたとしても当否抽選モードをパチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前におけるモードに維持させることが可能となる。また、設定更新時のクリア処理ではコピー領域を「０」クリアしないため、設定更新時のクリア処理が実行される前に設定されていた設定値をその後に特定することが可能となる。

【０９０８】

設定更新時のクリア処理では非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアしない。これにより、パチンコ機１０の設定値を変更することが可能な設定値更新処理が実行されたとしても、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされないようにすることが可能となる。

【０９０９】

その後、ステップＳ５０１９にて設定値更新処理を実行した後に、ステップＳ５０１２の処理に移行する。以下、設定値更新処理について説明する。図８５は設定値更新処理を示すフローチャートである。なお、設定値更新処理におけるステップＳ５１０１～ステッ

プＳ５１１４の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【０９１０】

まず特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定値カウンタに「１」をセットする（ステップＳ５１０１）。設定値カウンタはパチンコ機１０の設定状態がいずれの設定値であるのかを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。設定値カウンタに「１」がセットされることにより、設定値更新処理が実行される場合にはそれまでの設定値に関係なく設定値が「設定１」となる。

【０９１１】

その後、設定値の表示開始処理を実行する（ステップＳ５１０２）。設定値の表示開始処理では、「設定１」に対応する「１」の数字が表示されるように第３報知用表示装置６９ｃを表示制御する。遊技ホールの管理者は設定値の変更に際しては第３報知用表示装置６９ｃを確認することでパチンコ機１０の現状の設定状態を把握することが可能となる。

【０９１２】

その後、アウト口検知センサ４８ａにて１個の遊技球が検知されたか否かを判定する（ステップＳ５１０３）。具体的にはアウト口検知センサ４８ａから受信している信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったか否かを判定する。ステップＳ５１０３にて否定判定をした場合、更新ボタン６８ｂが１回押圧操作されたか否かを判定する（ステップＳ５１０４）。具体的には更新ボタン６８ｂの押圧操作を検知するセンサからの信号がＬＯＷレベルからＨＩレベルに切り換わったか否かを判定する。ステップＳ５１０４にて否定判定をした場合、ステップＳ５１０３の処理に戻り、アウト口検知センサ４８ａにて１個の遊技球を検知したか否かを判定する。

【０９１３】

更新ボタン６８ｂが１回押圧操作されている場合（ステップＳ５１０４：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値を１加算する（ステップＳ５１０５）。また、１加算後における設定値カウンタの値が「６」を超えた場合（ステップＳ５１０６：ＹＥＳ）、設定値カウンタに「１」をセットする（ステップＳ５１０７）。これにより、更新ボタン６８ｂが１回押圧操作される度に１段階上の設定値に更新され、「設定６」の状況で更新ボタン６８ｂが１回押圧操作された場合には「設定１」に戻ることになる。

【０９１４】

ステップＳ５１０６にて否定判定をした場合、又はステップＳ５１０７の処理を実行した場合、設定値の表示更新処理を実行する（ステップＳ５１０８）。設定値の表示更新処理では、特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値に対応する数字が表示されるように第３報知用表示装置６９ｃを表示制御する。遊技ホールの管理者は第３報知用表示装置６９ｃを確認することで更新ボタン６８ｂを押圧操作した後のパチンコ機１０の設定状態を把握することが可能となる。

【０９１５】

ステップＳ５１０８の処理を実行した後はステップＳ５１０３に戻り、アウト口検知センサ４８ａにて１個の遊技球が検知されたか否かを判定する。アウト口検知センサ４８ａにて１個の遊技球を検知していない場合（ステップＳ５１０３：ＮＯ）、ステップＳ５１０４以降の処理を再度実行する。アウト口検知センサ４８ａにて１個の遊技球を検知している場合（ステップＳ５１０３：ＹＥＳ）、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する（ステップＳ５１０９）。この場合、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態であるか否かが特定されるのではなく、ＯＮ状態からＯＦＦ状態への切り換わりが発生したか否かが特定され、当該切り換わりが発生したと特定された場合にステップＳ５１０９にて肯定判定をする。

【０９１６】

ＯＦＦ状態に切り換わっていない場合（ステップＳ５１０９：ＮＯ）、ステップＳ５１０９の処理を再度実行する。これにより、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されるまで

処理の進行を待機することとなる。ＯＦＦ状態に切り換わった場合（ステップＳ５１０９：ＹＥＳ）、設定値の表示終了処理を実行する（ステップＳ５１１０）。設定値の表示終了処理では、第３報知用表示装置６９ｃにおける設定値の表示を終了させる。この場合、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた演算結果記憶エリア２３４に記憶された各種パラメータの情報の表示が第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃにて開始される。

【０９１７】

その後、設定値の比較処理を実行する（ステップＳ５１１１）。設定値の比較処理では特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの情報が、特定制御用のワークエリア２２１におけるコピー領域に記憶された情報と一致しているか否かを判定する。つまり、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前に設定されていた設定値と、今回の設定値更新処理にて設定された設定値とが同一であるか否かを判定する。

【０９１８】

パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前に設定されていた設定値と、今回の設定値更新処理にて設定された設定値とが同一である場合（ステップＳ５１１２：ＮＯ）、非変更時の報知用処理を実行する（ステップＳ５１１３）。非変更時の報知用処理では設定値が変更されなかったことを示す設定維持コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１は当該設定維持コマンドを受信することにより、表示発光部５３を設定維持に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定維持です。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定維持です。」という文字画像が表示されるようにする。

【０９１９】

これら報知は設定維持コマンドが送信されてから報知実行期間（例えば１０秒）が経過するまでは維持され、報知実行期間が経過した場合に終了される。但し、これに限定されることはなく報知終了操作が遊技ホールの管理者により行われた場合に上記報知が終了される構成としてもよい。報知終了操作としては例えば更新ボタン６８ｂが押圧操作されることとしてもよく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されることとしてもよい。上記報知を確認することにより遊技ホールの管理者は設定値が維持されたことを把握することが可能となる。なお、非変更時の報知用処理では、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの少なくとも一の表示装置における表示内容を設定維持に対応する表示内容とすることで設定値が維持されたことを報知する構成としてもよく、設定値が維持されたことを示す外部出力を行う構成としてもよい。

【０９２０】

パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前に設定されていた設定値と、今回の設定値更新処理にて設定された設定値とが同一ではない場合（ステップＳ５１１２：ＹＥＳ）、変更時の報知用処理を実行する（ステップＳ５１１４）。変更時の報知用処理では設定値が変更されたことを示す設定変更コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１は当該設定変更コマンドを受信することにより、表示発光部５３を設定変更に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定変更です。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定変更です。」という文字画像が表示されるようにする。

【０９２１】

これら報知は設定変更コマンドが送信されてから報知実行期間（例えば１０秒）が経過するまでは維持され、報知実行期間が経過した場合に終了される。但し、これに限定されることはなく報知終了操作が遊技ホールの管理者により行われた場合に上記報知が終了される構成としてもよい。報知終了操作としては例えば更新ボタン６８ｂが押圧操作されることとしてもよく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されることとしてもよい。上記報知を確認することにより遊技ホールの管理者は設定値が変更されたことを把握することが可能となる。なお、変更時の報知用処理では、第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃの少なくとも一の表示装置における表示内容を設定変更に対応する表示内容とすることで設

定値が変更されたことを報知する構成としてもよく、設定値が変更されたことを示す外部出力を行う構成としてもよい。

【０９２２】

上記のとおり本実施形態では設定値更新処理が実行されるためには、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されるだけではなく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されており、前扉枠１４が開放状態とされており、遊技機本体１２が開放状態とされている必要がある。これにより、設定値更新処理を不正に実行させようとしてもそれを行いづらくさせることが可能となる。

【０９２３】

また、設定値更新処理が実行されるためには前扉枠１４及び遊技機本体１２が開放状態である必要がある。これにより、設定値更新処理を不正に実行させようとしたとしても、前扉枠１４及び遊技機本体１２が開放状態となっているため当該不正行為が目立つこととなり、遊技ホールの管理者は当該不正行為を発見し易くなる。

【０９２４】

特に、設定値更新処理が実行されるためには、主制御装置６０を露出させるために必要な遊技機本体１２の開放操作だけではなく、前扉枠１４の開放操作も必要とすることにより、上記不正行為の作業を煩雑なものとすることが可能となるとともに、上記不正行為を目立たせることが可能となる。

【０９２５】

また、設定値更新処理が完了しない場合には遊技を進行させるための処理に復帰しない構成において、設定値更新処理において選択した設定値を確定させて当該設定値更新処理を終了させるためには、アウト口２４ａに遊技球を入球させてアウト口検知センサ４８ａに遊技球を検知させ、その後に設定キー挿入部６８ａをＯＦＦ操作する必要がある。これにより、設定値更新処理を不正に実行させたとしても、その後に設定値更新処理を終了させて遊技を進行させるための処理に復帰させるための操作を行いづらくさせることが可能となる。

【０９２６】

また、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前に設定されていた設定値と、設定値更新処理にて選択された設定値とが比較され、両設定値が同一であるか否かに対応する報知が実行される。これにより、遊技ホールの管理者は設定値更新処理によって設定値を変更させることができたか否かを容易に把握することが可能となる。

【０９２７】

図８６は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるタイマ割込み処理を示すフローチャートである。タイマ割込み処理は、メイン処理（図８４）においてステップＳ５０１３～ステップＳ５０１６の処理が実行されている状況で定期的（例えば４ミリ秒周期）に実行される。なお、タイマ割込み処理に対応するプログラムは特定制御用のプログラムに設定されている。

【０９２８】

ステップＳ５２０１～ステップＳ５２０５では上記第１の実施形態におけるタイマ割込み処理（図１１）のステップＳ３０１～ステップＳ３０５と同一の処理を実行する。これらの処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【０９２９】

その後、設定確認用処理を実行する（ステップＳ５２０６）。設定確認用処理の実行に際しては、特定制御用のプログラムに設定されている設定確認用処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては設定確認用処理の実行後におけるタイマ割込み処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、設定確認用処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すタイマ割込み処理のプログラムに復帰する。

【０９３０】
図８７は設定確認用処理を示すフローチャートである。なお、設定確認用処理におけるステップＳ５３０１～ステップＳ５３１２の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【０９３１】
まず第３報知用表示装置６９ｃにて特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの情報に対応する設定値の表示が行われているか否かを判定する（ステップＳ５３０１）。ステップＳ５３０１にて否定判定をした場合、遊技回及び開閉実行モードのいずれでもないか否かを判定し（ステップＳ５３０２）、普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示回及び普電役物３４ａが開放状態となり得る普電開放状態のいずれでもないか否かを判定し（ステップＳ５３０３）、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるか否かを判定し（ステップＳ５３０４）、外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態であるか否かを判定し（ステップＳ５３０５）、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されているか否かを判定する（ステップＳ５３０６）。前扉枠１４が開放状態であるか否かの判定はメイン処理（図８４）におけるステップＳ５００５と同様に前扉開放センサ９５の検知結果に基づき行い、遊技機本体１２が開放状態であるか否かの判定はメイン処理（図８４）におけるステップＳ５００６と同様に本体開放センサ９６の検知結果に基づき行う。
【０９３２】
ステップＳ５３０２～ステップＳ５３０６のいずれかにて否定判定をした場合、ステップＳ５３０７～ステップＳ５３０９の処理を実行することなく本設定確認用処理を終了する。ステップＳ５３０２～ステップＳ５３０６の全てにて肯定判定をした場合、設定値の表示開始処理を実行する（ステップＳ５３０７）。設定値の表示開始処理では、特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの情報に対応する設定値の数字が表示されるように第３報知用表示装置６９ｃを表示制御する。遊技ホールの管理者は設定値の確認に際しては第３報知用表示装置６９ｃを目視することでパチンコ機１０の現状の設定状態を把握することが可能となる。
【０９３３】
その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグに「１」をセットする（ステップＳ５３０８）。遊技停止フラグは、タイマ割込み処理（図８６）においてステップＳ５２０７にて肯定判定をしてステップＳ５２０８～ステップＳ５２２１の処理を実行しない状況、すなわち遊技を進行させるための処理の実行を停止すべき状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、タイマ割込み処理（図８６）のステップＳ５２０７にて肯定判定をすることでステップＳ５２０８～ステップＳ５２２１の処理が実行されない状況となる。これにより、遊技を進行させるための処理の実行が停止されている状況において設定値の確認が行われることとなる。但し、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況であってもタイマ割込み処理（図８６）におけるステップＳ５２０１～ステップＳ５２０５の処理が実行されるため、設定値の確認が行われている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。
【０９３４】
その後、確認報知開始コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ５３０９）。音声発光制御装置８１は当該確認報知開始コマンドを受信することにより、表示発光部５３を設定確認中に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定確認中です。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定確認中です。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知は主側ＣＰＵ６３から確認報知終了コマンドを受信するまで継続される。なお、設定値の確認中であることを示す外部出力を行う構成としてもよい。
【０９３５】

上記のとおり遊技回及び開閉実行モードのいずれでもなく、さらに普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示回及び普電役物３４ａが開放状態となり得る普電開放状態のいずれでもないことを条件として、設定値を確認するための表示が第３報知用表示装置６９ｃにて行われるようにすることにより、遊技が行われている状況において設定値の確認作業が行われてしまわないようにすることが可能となる。

【０９３６】

また、設定値を確認するための表示が第３報知用表示装置６９ｃにて行われるようにするためには、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されるだけではなく、前扉枠１４が開放状態とされており、遊技機本体１２が開放状態とされている必要がある。これにより、設定値の確認用の表示を不正に行わせようとしてもそれを行いづらくさせることが可能となる。

【０９３７】

また、設定値を確認するための表示が第３報知用表示装置６９ｃにて行われるようにするためには、前扉枠１４及び遊技機本体１２が開放状態である必要がある。これにより、設定値の確認用の表示を不正に行わせようとしたとしても、前扉枠１４及び遊技機本体１２が開放状態となっているため当該不正行為が目立つこととなり、遊技ホールの管理者は当該不正行為を発見し易くなる。

【０９３８】

特に、設定値を確認するための表示が第３報知用表示装置６９ｃにて行われるようにするためには、主制御装置６０を露出させるために必要な遊技機本体１２の開放操作だけではなく、前扉枠１４の開放操作も必要とすることにより、上記不正行為の作業を煩雑なものとすることが可能となるとともに、上記不正行為を目立たせることが可能となる。

【０９３９】

ステップＳ５３０１にて肯定判定をした場合、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されているか否かを判定する（ステップＳ５３１０）。ＯＦＦ操作されている場合（ステップＳ５３１０：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグを「０」クリアする（ステップＳ５３１１）。これにより、タイマ割込み処理（図８６）のステップＳ５２０７にて否定判定をすることでステップＳ５２０８～ステップＳ５２２１の処理が実行される状況となる。これにより、遊技を進行させるための処理の実行が停止されている状態が解除される。

【０９４０】

その後、確認報知終了コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ５３１２）。音声発光制御装置８１は当該確認報知終了コマンドを受信することにより、図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４における設定値の確認中であることを示す報知を終了させる。

【０９４１】

タイマ割込み処理（図８６）の説明に戻り、ステップＳ５２０６の設定確認用処理を終了した後は、遊技停止中か否かを判定する（ステップＳ５２０７）。この場合、ステップＳ５２０６の設定確認用処理にて特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされている場合にはステップＳ５２０７にて肯定判定をしてステップＳ５２０８～ステップＳ５２２１の処理を実行しない。また、ステップＳ５２０５の不正検知処理にて不正の発生を検知している場合にもステップＳ５２０７にて肯定判定をしてステップＳ５２０８～ステップＳ５２２１の処理を実行しない。

【０９４２】

ステップＳ５２０８～ステップＳ５２１９では上記第１の実施形態におけるタイマ割込み処理（図１１）のステップＳ３０７～ステップＳ３１８と同一の処理を実行する。これらの処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。また、ステップＳ５２２１では上記第１５の実施形態におけるタイマ割込み処理（図６９）のステップＳ３７１９と同一の処理を実行する。

【０９４３】

一方、ステップＳ５２２０ではＲＡＭ監視処理を実行する。ＲＡＭ監視処理の実行に際しては、特定制御用のプログラムに設定されているＲＡＭ監視処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際してはＲＡＭ監視処理の実行後におけるタイマ割込み処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、ＲＡＭ監視処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すタイマ割込み処理のプログラムに復帰する。

【０９４４】

図８８はＲＡＭ監視処理を示すフローチャートである。なお、ＲＡＭ監視処理におけるステップＳ５４０１～ステップＳ５４１２の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【０９４５】

まず特定制御用のワークエリア２２１の監視処理を実行する（ステップＳ５４０１）。当該監視処理ではノイズなどの原因で特定制御用のワークエリア２２１に記憶されている情報に異常が発生しているか否かを監視する。この監視方法は任意であるが、例えば特定制御用のワークエリア２２１において主側ＣＰＵ６３における各種制御にて情報の書き込みが行われない記憶エリアの状態が初期状態とは異なる状態となっているか否かを監視し、初期状態とは異なる状態となっている場合に異常発生と判定する方法が挙げられる。この場合、記憶エリアの初期状態が「０」の値である状態とした場合には当該記憶エリアに「１」が記憶されている場合に異常発生と判定し、記憶エリアの初期状態が「１」の値である状態とした場合には当該記憶エリアが「０」の値となっている場合に異常発生と判定する。また、上記監視方法以外にも所定のバイトの値が正常な状態において設定され得る値とは異なる値となっている場合に異常発生と判定する構成としてもよい。

【０９４６】

ステップＳ５４０１にて異常有りと判定した場合（ステップＳ５４０２：ＹＥＳ）、ステップＳ５４０９～ステップＳ５４１２の処理を実行する。ステップＳ５４０１にて異常有りと判定しなかった場合（ステップＳ５４０２：ＮＯ）、ステップＳ５４０３に進む。

【０９４７】

ステップＳ５４０３では、特定制御用のスタックエリア２２２の監視処理を実行する。当該監視処理ではノイズなどの原因で特定制御用のスタックエリア２２２に記憶されている情報に異常が発生しているか否かを監視する。この監視方法は任意であるが、例えば特定制御用のスタックエリア２２２において主側ＣＰＵ６３における各種制御にて情報の書き込みが行われない記憶エリアの状態が初期状態とは異なる状態となっているか否かを監視し、初期状態とは異なる状態となっている場合に異常発生と判定する方法が挙げられる。この場合、記憶エリアの初期状態が「０」の値である状態とした場合には当該記憶エリアに「１」が記憶されている場合に異常発生と判定し、記憶エリアの初期状態が「１」の値である状態とした場合には当該記憶エリアが「０」の値となっている場合に異常発生と判定する。また、上記監視方法以外にも所定のバイトの値が正常な状態において設定され得る値とは異なる値となっている場合に異常発生と判定する構成としてもよい。

【０９４８】

ステップＳ５４０３にて異常有りと判定した場合（ステップＳ５４０４：ＹＥＳ）、ステップＳ５４０９～ステップＳ５４１２の処理を実行する。ステップＳ５４０３にて異常有りと判定しなかった場合（ステップＳ５４０４：ＮＯ）、ステップＳ５４０５に進む。

【０９４９】

ステップＳ５４０５では、非特定制御用のワークエリア２２３の監視処理を実行する。当該監視処理ではノイズなどの原因で非特定制御用のワークエリア２２３に記憶されている情報に異常が発生しているか否かを監視する。この監視方法は任意であるが、例えば非特定制御用のワークエリア２２３において主側ＣＰＵ６３における各種制御にて情報の書き込みが行われない記憶エリアの状態が初期状態とは異なる状態となっているか否かを監視し、初期状態とは異なる状態となっている場合に異常発生と判定する方法が挙げられる

。この場合、記憶エリアの初期状態が「０」の値である状態とした場合には当該記憶エリアに「１」が記憶されている場合に異常発生と判定し、記憶エリアの初期状態が「１」の値である状態とした場合には当該記憶エリアが「０」の値となっている場合に異常発生と判定する。また、上記監視方法以外にも所定のバイトの値が正常な状態において設定され得る値とは異なる値となっている場合に異常発生と判定する構成としてもよい。

【０９５０】

ステップＳ５４０５にて異常有りと判定した場合（ステップＳ５４０６：ＹＥＳ）、ステップＳ５４０９～ステップＳ５４１２の処理を実行する。ステップＳ５４０５にて異常有りと判定しなかった場合（ステップＳ５４０６：ＮＯ）、ステップＳ５４０７に進む。

【０９５１】

ステップＳ５４０７では、非特定制御用のスタックエリア２２４の監視処理を実行する。当該監視処理ではノイズなどの原因で非特定制御用のスタックエリア２２４に記憶されている情報に異常が発生しているか否かを監視する。この監視方法は任意であるが、例えば非特定制御用のスタックエリア２２４において主側ＣＰＵ６３における各種制御にて情報の書き込みが行われない記憶エリアの状態が初期状態とは異なる状態となっているか否かを監視し、初期状態とは異なる状態となっている場合に異常発生と判定する方法が挙げられる。この場合、記憶エリアの初期状態が「０」の値である状態とした場合には当該記憶エリアに「１」が記憶されている場合に異常発生と判定し、記憶エリアの初期状態が「１」の値である状態とした場合には当該記憶エリアが「０」の値となっている場合に異常発生と判定する。また、上記監視方法以外にも所定のバイトの値が正常な状態において設定され得る値とは異なる値となっている場合に異常発生と判定する構成としてもよい。

【０９５２】

ステップＳ５４０７にて異常有りと判定した場合（ステップＳ５４０８：ＹＥＳ）、ステップＳ５４０９～ステップＳ５４１２の処理を実行する。具体的には、まず設定値のコピー処理を実行する（ステップＳ５４０９）。当該コピー処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定値を特定するために利用される設定値カウンタの情報を、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたコピー領域に記憶させる。これにより、この後に実行される異常時のクリア処理（ステップＳ５４１０）にて設定値カウンタの情報が「０」クリアされたとしても、当該異常時のクリア処理が実行される前における本パチンコ機１０の設定値を把握することが可能となる。

【０９５３】

その後、異常時のクリア処理を実行する（ステップＳ５４１０）。異常時のクリア処理では、コピー領域を除いて特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアする。また、「０」クリアした後に初期設定を行う。つまり、ＲＡＭ監視処理では、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４のいずれか１つでも異常が発生していると特定した場合には、コピー領域を除いて特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアする。これにより、主側ＲＡＭ６５において何らかの情報異常が発生している可能性がある場合には、そのままの状態で特定制御に対応する処理及び非特定制御に対応する処理のいずれもが実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【０９５４】

なお、特定制御用のスタックエリア２２２が「０」クリアされた場合、ＲＡＭ監視処理の実行後における戻り番地の情報も消去されてしまう。そこで、特定制御用のスタックエリア２２２が「０」クリアされた場合にはステップＳ５４１２の処理を終了した後に、所定のプログラムに一義的に復帰する。具体的には、メイン処理（図２２）におけるステップＳ５０１３の処理に一義的に復帰する構成とする。但し、一義的に復帰するプログラムはステップＳ５０１３に限定されることはなく、タイマ割込み処理（図８６）におけるス

テップＳ５２２１であってもよい。また、特定制御用のスタックエリア２２２が「０」クリアされた場合には主側ＣＰＵ６３のスタックポインタも特定制御用のスタックエリア２２２における記憶順序が最初の記憶エリアのアドレスに設定される。

【０９５５】

その後、異常時のクリア処理が発生したことを示す異常コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ５４１１）。音声発光制御装置８１は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を強制クリアに対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「強制クリアされました。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「強制クリアされました。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、これに限定されることはなく報知終了操作が遊技ホールの管理者により行われた場合に上記報知が終了される構成としてもよい。報知終了操作としては例えば更新ボタン６８ｂが押圧操作されることとしてもよく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されることとしてもよい。上記報知を確認することにより遊技ホールの管理者は主側ＲＡＭ６５が強制クリアされたことを把握することが可能となる。

【０９５６】

その後、設定値更新処理を実行する（ステップＳ５４１２）。つまり、異常時のクリア処理が発生した場合には特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタを含めて「０」クリアが実行されることとなるため、パチンコ機１０の設定値の再設定を行うために設定値更新処理を実行する。設定値更新処理の処理内容はメイン処理（図８４）のステップＳ５０１９と同一である。したがって、更新ボタン６８ｂが１回押圧操作される度に設定値が１段階ずつ更新され、アウト口検知センサ４８ａにて遊技球を検知することで選択中の設定値が確定される。更新途中の設定値及び確定した設定値は第３報知用表示装置６９ｃにて表示される。その後、設定キー挿入部６８ａのＯＮ状態からＯＦＦ状態への切り換わりが発生した場合に設定値更新処理の終了条件が成立したと判定する。

【０９５７】

ここで、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態となっているだけでは終了条件が成立したと判定されることはなく、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わった場合に終了条件が成立したと判定する。ＲＡＭ監視処理（図８８）にて設定値更新処理が実行される場合、当該設定値更新処理の開始時には設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態となっているため、当該設定値更新処理の終了条件を成立させるためには設定キー挿入部６８ａに設定キーを挿入して一旦ＯＮ操作を行った後にＯＦＦ操作を行う必要がある。これにより、遊技ホールの管理者による正規の操作が行われていないにも関わらず設定値更新処理が終了してしまわないようにすることが可能となる。

【０９５８】

設定キー挿入部６８ａのＯＮ状態からＯＦＦ状態への切り換わりが発生して設定値更新処理の終了条件が成立した場合には、設定値更新処理（図８５）におけるステップＳ５１１１を実行することで、特定制御用のワークエリア２２１におけるコピー領域に記憶された設定値と、特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタに今回設定された設定値とが同一であるか否かを比較する。つまり、異常時のクリア処理（ステップＳ５４１０）が実行される前に設定されていた設定値と、今回の設定値更新処理にて設定された設定値とが同一であるか否かを判定する。両設定値が同一である場合（ステップＳ５１１２：ＮＯ）、非変更時の報知用処理（ステップＳ５１１３）を実行することで、既に説明した設定維持報知が行われるようにする。一方、両設定値が異なる場合（ステップＳ５１１２：ＹＥＳ）、変更時の報知用処理（ステップＳ５１１４）を実行することで、既に説明した設定変更報知が行われるようにする。

【０９５９】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【０９６０】

パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に設定値更新処理が実行されるためには、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されるだけではなく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されており、前扉枠１４が開放状態とされており、遊技機本体１２が開放状態とされている必要がある。これにより、設定値更新処理を不正に実行させようとしてもそれを行いづらくさせることが可能となる。

【０９６１】

設定値更新処理が実行されるためには前扉枠１４及び遊技機本体１２が開放状態である必要がある。これにより、設定値更新処理を不正に実行させようとしたとしても、前扉枠１４及び遊技機本体１２が開放状態となっているため当該不正行為が目立つこととなり、遊技ホールの管理者は当該不正行為を発見し易くなる。

【０９６２】

特に、設定値更新処理が実行されるためには、主制御装置６０を露出させるために必要な遊技機本体１２の開放操作だけではなく、前扉枠１４の開放操作も必要とすることにより、上記不正行為の作業を煩雑なものとすることが可能となるとともに、上記不正行為を目立たせることが可能となる。

【０９６３】

設定値更新処理が完了しない場合には遊技を進行させるための処理に復帰しない構成において、設定値更新処理において選択した設定値を確定させて当該設定値更新処理を終了させるためには、アウト口２４ａに遊技球を入球させてアウト口検知センサ４８ａに遊技球を検知させ、その後に設定キー挿入部６８ａをＯＦＦ操作する必要がある。これにより、設定値更新処理を不正に実行させたとしても、その後に設定値更新処理を終了させて遊技を進行させるための処理に復帰させるための操作を行いづらくさせることが可能となる。

【０９６４】

パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前に設定されていた設定値と、設定値更新処理にて選択された設定値とが比較され、両設定値が同一であるか否かに対応する報知が実行される。これにより、遊技ホールの管理者は設定値更新処理によって設定値を変更させることができたか否かを容易に把握することが可能となる。

【０９６５】

遊技回及び開閉実行モードのいずれでもなく、さらに普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示回及び普電役物３４ａが開放状態となり得る普電開放状態のいずれでもないことを条件として、設定値を確認するための表示が第３報知用表示装置６９ｃにて行われるようにすることにより、遊技が行われている状況において設定値の確認作業が行われてしまわないようにすることが可能となる。

【０９６６】

設定値を確認するための表示が第３報知用表示装置６９ｃにて行われるようにするためには、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されるだけではなく、前扉枠１４が開放状態とされており、遊技機本体１２が開放状態とされている必要がある。これにより、設定値の確認用の表示を不正に行わせようとしてもそれを行いづらくさせることが可能となる。

【０９６７】

設定値を確認するための表示が第３報知用表示装置６９ｃにて行われるようにするためには、前扉枠１４及び遊技機本体１２が開放状態である必要がある。これにより、設定値の確認用の表示を不正に行わせようとしたとしても、前扉枠１４及び遊技機本体１２が開放状態となっているため当該不正行為が目立つこととなり、遊技ホールの管理者は当該不正行為を発見し易くなる。

【０９６８】

特に、設定値を確認するための表示が第３報知用表示装置６９ｃにて行われるようにするためには、主制御装置６０を露出させるために必要な遊技機本体１２の開放操作だけではなく、前扉枠１４の開放操作も必要とすることにより、上記不正行為の作業を煩雑なものとすることが可能となるとともに、上記不正行為を目立たせることが可能となる。

【０９６９】
特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４のいずれか１つでも異常が発生していると特定した場合には、コピー領域を除いて特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアする。これにより、主側ＲＡＭ６５に対して何らかの情報異常が発生している可能性がある場合には、そのままの状態で特定制御に対応する処理及び非特定制御に対応する処理のいずれもが実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【０９７０】
特定制御に対応する処理にて、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２だけではなく、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４に情報異常が発生しているか否かが監視される。これにより、特定制御に対応する処理と非特定制御に対応する処理とで分けて情報異常が発生しているか否かを監視する構成に比べて処理構成を簡素化させることが可能となる。

【０９７１】
特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４のいずれか１つでも異常が発生していると特定した場合には、特定制御に対応する処理にて、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２だけではなく、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされる。これにより、特定制御に対応する処理と非特定制御に対応する処理とで分けて「０」クリアを行う構成に比べて処理構成を簡素化させることが可能となる。

【０９７２】
情報異常が発生していることにより異常時のクリア処理が実行された場合には設定値更新処理が実行される。これにより、設定値が設定されていないにも関わらず遊技が進行してしまわないようにすることが可能となる。この場合に、異常時のクリア処理が実行される前に設定されていた設定値と、異常時のクリア処理の実行後における設定値更新処理にて設定された設定値とが同一である場合には設定維持報知が行われる。これにより、異常時のクリア処理が実行されたとしてもその前の状況において設定されていた設定値を再設定することで設定維持報知が行われることとなり、異常時のクリア処理が実行されたとしても設定値が変化していないことを遊技者に明示することが可能となる。ちなみに、遊技ホールにおいては設置された各パチンコ機１０の設定値を記録するのが一般的であるため、その記録された設定値となるように異常時のクリア処理の実行後における設定値更新処理を実行することが可能である。

【０９７３】
なお、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に設定値更新処理が実行されるための条件を上記実施形態とは異なる条件としてもよい。図８９は別形態となるメイン処理を示すフローチャートである。当該メイン処理ではステップＳ５５０１～ステップＳ５５０６及びステップＳ５５０８～ステップＳ５５２０にて上記実施形態におけるメイン処理（図８４）のステップＳ５００１～ステップＳ５０１９と同一の処理を実行する。一方、当該メイン処理ではステップＳ５５０７にて遊技領域ＰＡに遊技球を発射させるために操作される発射操作装置２８の操作ハンドルが初期回転位置から回動操作されているか否かを判定する。そして、リセットボタン６８ｃが押圧操作されており（ステップＳ５５０３：ＹＥＳ）、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されており（ステップＳ５５０４：ＹＥＳ）、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態とされており（ステップＳ５５０５：ＹＥＳ）、外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態とされており（ステップＳ５５０６：ＹＥＳ）、発射操作装置２８の操作ハンドルが初期回転位置から回動操作されている場合に（ステップＳ５５０７：ＹＥＳ）、設定値更新処理（ステップＳ５５２０）が実行される。これにより、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に設定値更新

処理が実行されるためには設定キー挿入部６８ａに設定キーを挿入してＯＮ操作を行うだけではなく、発射操作装置２８の操作ハンドルを回動操作した状態でパチンコ機１０への動作電力の供給が開始されるようにする必要が生じる。よって、設定値を不正に変更しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。なお、ステップＳ５５０７にて発射操作装置２８の操作ハンドルが初期回転位置から回動操作されているか否かを判定するのではなく、発射操作装置２８が遊技者により触れられているか否かを判定する構成としてもよい。

【０９７４】

また、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に設定値更新処理が実行されるための条件として、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態となっていること及び外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態となっているという両方の条件が設定されている構成としたが、これら条件のうち一方のみが設定されている構成としてもよい。

【０９７５】

また、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に設定値更新処理が実行されるための条件として、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているという条件が設定されている構成としたが、当該条件が設定されていない構成としてもよい。

【０９７６】

また、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に設定値更新処理が実行されるための条件として、ゲート検知センサ４９ａにおいて遊技球が検知されている状況でパチンコ機１０への動作電力の供給が開始されたことという条件が設定されている構成としてもい。これにより、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に設定値更新処理が実行されるためには設定キー挿入部６８ａに設定キーを挿入してＯＮ操作を行うだけではなく、スルーゲート３５に遊技球を滞留させた状態でパチンコ機１０への動作電力の供給が開始されるようにする必要が生じる。よって、設定値を不正に変更しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。

【０９７７】

また、設定値更新処理において設定値を確定させるための操作の内容を上記実施形態とは異なる内容としてもよい。図９０は別形態となる設定値更新処理を示すフローチャートである。当該設定値更新処理ではステップＳ５６０１～ステップＳ５６０２及びステップＳ５６０４～ステップＳ５６１４にて上記実施形態における設定値更新処理（図８５）のステップＳ５１０１～ステップＳ５１０２及びステップＳ５１０４～ステップＳ５１１４と同一の処理を実行する。一方、当該設定値更新処理ではステップＳ５６０３にて、アウト口検知センサ４８ａにて遊技球を検知したか否かを判定するのではなく、ゲート検知センサ４９ａからＯＮ信号が継続して出力されているＯＮ継続期間が終了基準期間（具体的には５秒）以上となっているか否かを判定する。そして、ステップＳ５６０３にて肯定判定をした場合に選択中の設定値を確定させてステップＳ５６０９に進む。当該構成によれば、選択中の設定値を確定させるためにはスルーゲート３５に遊技球を終了基準期間以上に亘って意図的に滞留させる必要がある。スルーゲート３５に遊技球が終了基準期間以上に亘って滞留することは通常の遊技が行われている状況においては発生しない。これにより、選択中の設定値を確定させるための条件が通常の遊技が行われている状況においては成立しない又は成立しづらくなるようにすることが可能となる。また、不正により設定値更新処理が開始されたとしても、当該設定値更新処理にて選択中の設定値を確定させるための操作を行いづらくさせることが可能となる。

【０９７８】

また、設定値更新処理において、発射操作装置２８の操作ハンドルが初期回転位置から回動操作された場合に選択中の設定値が確定される構成としてもよく、発射操作装置２８が遊技者により触れられた場合に選択中の設定値が確定される構成としてもよい。

【０９７９】

また、設定値更新処理において、開閉部材が設けられた特電入賞装置３２に遊技球が入球したことが特電検知センサ４５ａにて検知された場合に選択中の設定値が確定される構

成としてもよく、開閉部材が設けられた第２作動口３４に遊技球が入球したことが第２作動口検知センサ４７ａにて検知された場合に選択中の設定値が確定される構成としてもよい。この場合、選択中の設定値を確定させるためには対象となる入球部を手動で開放状態とした後に遊技球を手入れする必要が生じるため、不正に設定値を変更する行為を行いづらくさせることが可能となる。

【０９８０】

また、設定値更新処理において、第１の入球部に遊技球が入球したことが検知された後に第２の入球部に遊技球が入球したことが検知されたことに基づいて選択中の設定値が確定される構成としてもよい。この場合、選択中の設定値を確定させるためには所定の順序に従って複数の入球部に手入れにより遊技球を入球させる必要が生じるため、不正に設定値を変更する行為を行いづらくさせることが可能となる。この場合、第１の入球部及び第２の入球部をいずれも開閉部材が設けられていない入球部とすることで、正規の作業の作業性が極端に低下してしまわないようにすることが可能となる。

【０９８１】

また、設定値更新処理では設定キー挿入部６８ａをＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換えることで、選択中の設定値が確定されるとともに設定値更新処理の終了条件が成立する構成としてもよい。

【０９８２】

また、設定値更新処理において設定値を１段階更新させるための操作が更新ボタン６８ｂの押圧操作である構成に限定されることはなく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されることで設定値が１段階更新される構成としてもよい。

【０９８３】

また、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている状況であって設定キー挿入部６８ａが設定キーによりＯＮ操作されている状況においてパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合であって、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態ではない場合又は外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態ではない場合、非設定更新時のクリア処理（ステップＳ５００７）が実行される構成に限定されることはなく、非設定更新時のクリア処理が実行されない構成としてもよい。これにより、遊技ホールの管理者の意思に反して非設定更新時のクリア処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【０９８４】

また、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている状況であって設定キー挿入部６８ａが設定キーによりＯＮ操作されていない状況においてパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合であって、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態ではない場合又は外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態ではない場合、非設定更新時のクリア処理（ステップＳ５００７）が実行される構成に限定されることはなく、非設定更新時のクリア処理が実行されない構成としてもよい。これにより、不正に非設定更新時のクリア処理を実行させようとしてもそれを行いづらくさせることが可能となる。

【０９８５】

＜第２３の実施形態＞

本実施形態ではメイン処理の処理構成が上記第２２の実施形態と相違している。以下、上記第２２の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第２２の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【０９８６】

図９１は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳ５７０１～ステップＳ５７２０の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【０９８７】

まず電源投入ウエイト処理を実行する（ステップＳ５７０１）。当該電源投入ウエイト処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）

が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。かかる電源投入ウエイト処理の実行期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。その後、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する（ステップＳ５７０２）。

【０９８８】

その後、前扉開放センサ９５の検知結果に基づき内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるか否かを判定し（ステップＳ５７０３）、本体開放センサ９６の検知結果に基づき外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態であるか否かを判定し（ステップＳ５７０４）、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳ５７０５）。ステップＳ５７０３～ステップＳ５７０５のいずれかにて否定判定をした場合、ステップＳ５７０６～ステップＳ５７１４の処理を実行する。これらステップＳ５７０６～ステップＳ５７１４の処理は上記第２２の実施形態におけるメイン処理（図８４）のステップＳ５００８～ステップＳ５０１６と同一である。

【０９８９】

ステップＳ５７０３～ステップＳ５７０５の全てにて肯定判定をした場合、選択用処理を実行する（ステップＳ５７１５）。選択用処理では、非設定更新時のクリア処理を実行し設定値更新処理を実行しない状況、及び設定更新時のクリア処理を実行するとともに設定値更新処理を実行する状況のうちいずれの状況とするのかを遊技ホールの管理者による選択操作に基づき決定する処理を実行する。具体的には、更新ボタン６８ｂが１回押圧操作される度に上記各状況のうち一方の状況が選択されている状態から他方の状況が選択されている状態に切り換わるようにする。なお、当該選択操作がリセットボタン６８ｃの操作により行われる構成としてもよく、他の操作部の操作により行われる構成としてもよい。また、非設定更新時のクリア処理を実行し設定値更新処理を実行しない状況を選択している場合には第１報知用表示装置６９ａにおいて「Ｏ」を表示するとともに第２報知用表示装置６９ｂ及び第３報知用表示装置６９ｃを消灯状態とし、設定更新時のクリア処理を実行するとともに設定値更新処理を実行する状況を選択している場合には第２報知用表示装置６９ｂにおいて「Ｏ」を表示するとともに第１報知用表示装置６９ａ及び第３報知用表示装置６９ｃを消灯状態とする。また、リセットボタン６８ｃが確定選択期間（具体的には１０秒）以上に亘って継続して押圧操作された場合に、上記各状況のうち選択されている側の状況を今回の選択対象として確定する。

【０９９０】

なお、更新ボタン６８ｂが確定選択期間（具体的には１０秒）以上に亘って継続して押圧操作された場合に上記各状況のうち選択されている側の状況を今回の選択対象として確定する構成としてもよく、他の操作部が確定選択期間（具体的には１０秒）以上に亘って継続して押圧操作された場合に上記各状況のうち選択されている側の状況を今回の選択対象として確定する構成としてもよい。また、発射操作装置２８の操作ハンドルが回動操作されることにより上記各状況のうち選択されている側の状況を今回の選択対象として確定する構成としてもよい。

【０９９１】

選択用処理において、非設定更新時のクリア処理を実行し設定値更新処理を実行しない状況が今回の選択対象として確定された場合（ステップＳ５７１６：ＮＯ）、非設定更新時のクリア処理を実行する（ステップＳ５７１７）。非設定更新時のクリア処理の処理内容は、上記第２２の実施形態におけるメイン処理（図８４）のステップＳ５００７と同一である。

【０９９２】

選択用処理において、設定更新時のクリア処理を実行するとともに設定値更新処理を実行する状況が今回の選択対象として確定された場合（ステップＳ５７１６：ＹＥＳ）、設定値のコピー処理を実行し（ステップＳ５７１８）、設定更新時のクリア処理を実行し（ステップＳ５７１９）、設定値更新処理を実行する（ステップＳ５７２０）。これらステップＳ５７１８～ステップＳ５７２０の処理内容は上記第２２の実施形態におけるメイン処理（図８４）のステップＳ５０１７～ステップＳ５０１９と同一である。

【０９９３】
上記構成によれば、設定キー挿入部６８ａが設けられていない構成であっても、非設定更新時のクリア処理を実行し設定値更新処理を実行しない状況、及び設定更新時のクリア処理を実行するとともに設定値更新処理を実行する状況のうちいずれの状況とするのかを遊技ホールの管理者が選択することが可能となる。
【０９９４】
また、設定値更新処理を実行する場合だけではなく非設定更新時のクリア処理を実行する場合であっても、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている状況でパチンコ機１０への動作電力の供給を開始するだけではなく、内枠１３に対して前扉枠１４を開放状態とするとともに外枠１１に対して遊技機本体１２を開放状態とする必要がある。これにより、不正に非設定更新時のクリア処理を実行させようとしてもそれを行いづらくさせることが可能となる。
【０９９５】
なお、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に選択用処理が実行されるための条件として、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態となっていること及び外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態となっていることの両方の条件が設定されている構成としたが、これら条件のうち一方のみが設定されている構成としてもよい。
【０９９６】
また、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に選択用処理が実行されるための条件として、発射操作装置２８の発射ハンドルが回動操作されていることという条件が追加されている構成としてもよく、発射操作装置２８が触れられていることという条件が追加されている構成としてもよく、ゲート検知センサ４９ａにおいて遊技球を検知していることという条件が追加されている構成としてもよい。
【０９９７】
＜第２４の実施形態＞
本実施形態ではＲＡＭ監視処理の処理構成が上記第２２の実施形態と相違している。以下、上記第２２の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第２２の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【０９９８】
図９２は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるＲＡＭ監視処理を示すフローチャートである。なお、ＲＡＭ監視処理におけるステップＳ５８０１～ステップＳ５８１４の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【０９９９】
まず特定制御用のワークエリア２２１の監視処理を実行する（ステップＳ５８０１）。当該監視処理の内容は上記第２２の実施形態におけるＲＡＭ監視処理（図８８）のステップＳ５４０１と同一である。ステップＳ５８０１にて異常有りと判定した場合（ステップＳ５８０２：ＹＥＳ）、ステップＳ５８０５～ステップＳ５８０８の処理を実行する。
【１０００】
ステップＳ５８０１にて異常有りと判定しなかった場合（ステップＳ５８０２：ＮＯ）、特定制御用のスタックエリア２２２の監視処理を実行する（ステップＳ５８０３）。当該監視処理の内容は上記第２２の実施形態におけるＲＡＭ監視処理（図８８）のステップＳ５４０３と同一である。ステップＳ５８０３にて異常有りと判定した場合（ステップＳ５８０４：ＹＥＳ）、ステップＳ５８０５～ステップＳ５８０８の処理を実行する。
【１００１】
ステップＳ５８０５～ステップＳ５８０８の処理について詳細には、まず設定値のコピー処理を実行する（ステップＳ５８０５）。当該コピー処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定値を特定するために利用される設定値カウンタの情報を、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたコピー領域に記憶させる。これにより、この後に実行される異常時のクリア処理（ステップＳ５８０６）にて設定値カウ

ンタの情報が「０」クリアされたとしても、当該異常時のクリア処理が実行される前における本パチンコ機１０の設定値を把握することが可能となる。

【１００２】

その後、異常時のクリア処理を実行する（ステップＳ５８０６）。異常時のクリア処理では、コピー領域を除いて特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに、特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアする。また、「０」クリアした後に初期設定を行う。一方、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４の「０」クリアは実行しない。つまり、本実施形態におけるＲＡＭ監視処理では、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２のいずれかで異常が発生していると特定した場合には、コピー領域を除いて特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに、特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアする。これにより、特定制御用のワークエリア２２１又は特定制御用のスタックエリア２２２に対して何らかの情報異常が発生している可能性がある場合には、そのままの状態で特定制御に対応する処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。また、特定制御用のワークエリア２２１又は特定制御用のスタックエリア２２２に情報異常が発生していたとしても、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４は「０」クリアされないことにより、特定制御用のワークエリア２２１又は特定制御用のスタックエリア２２２における情報異常を契機として非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされてしまわないようにすることが可能となる。

【１００３】

なお、特定制御用のスタックエリア２２２が「０」クリアされた場合、ＲＡＭ監視処理の実行後における戻り番地の情報も消去されてしまう。そこで、特定制御用のスタックエリア２２２が「０」クリアされた場合にはステップＳ５８０８の処理を終了した後に、所定のプログラムに一義的に復帰する。具体的には、メイン処理（図２２）におけるステップＳ５０１３の処理に一義的に復帰する構成とする。但し、一義的に復帰するプログラムはステップＳ５０１３に限定されることはなく、タイマ割込み処理（図８６）におけるステップＳ５２２１であってもよい。また、特定制御用のスタックエリア２２２が「０」クリアされた場合には主側ＣＰＵ６３のスタックポインタも特定制御用のスタックエリア２２２における記憶順序が最初の記憶エリアのアドレスに設定される。

【１００４】

その後、異常時のクリア処理が発生したことを示す異常コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ５８０７）。音声発光制御装置８１は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を強制クリアに対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「強制クリアされました。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「強制クリアされました。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、これに限定されることはなく報知終了操作が遊技ホールの管理者により行われた場合に上記報知が終了される構成としてもよい。報知終了操作としては例えば更新ボタン６８ｂが押圧操作されることとしてもよく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されることとしてもよい。上記報知を確認することにより遊技ホールの管理者は特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２が強制クリアされたことを把握することが可能となる。

【１００５】

その後、設定値更新処理を実行する（ステップＳ５８０８）。設定値更新処理の処理内容は上記第２２の実施形態におけるＲＡＭ監視処理（図８８）におけるステップＳ５４１２と同一である。

【１００６】

ステップＳ５８０１及びステップＳ５８０３の両方にて異常有りと判定しなかった場合（ステップＳ５８０２及びステップＳ５８０４：ＮＯ）、非特定制御用のワークエリア２

２３の監視処理を実行する（ステップＳ５８０９）。当該監視処理の内容は上記第２２の実施形態におけるＲＡＭ監視処理（図８８）のステップＳ５４０５と同一である。ステップＳ５８０９にて異常有りと判定した場合（ステップＳ５８１０：ＹＥＳ）、非特定制御用のワークエリア２２３を「０」クリアするとともに初期設定を行う（ステップＳ５８１１）。この場合、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３、演算結果記憶エリア２３４及び管理開始フラグの全てが「０」クリアされる。これにより、非特定制御用のワークエリア２２３における情報異常を解消することが可能となる。

【１００７】

その一方、ステップＳ５８１１では、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のスタックエリア２２４は「０」クリアされない。これにより、非特定制御用のワークエリア２２３に情報異常が発生したとしても、それを理由に特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされないようにすることが可能となる。

【１００８】

なお、ステップＳ５８１１では、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３及び演算結果記憶エリア２３４を「０」クリアするものの管理開始フラグは「０」クリアしない構成としてもよい。また、ステップＳ５８１１では、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３及び管理開始フラグを「０」クリアするものの演算結果記憶エリア２３４は「０」クリアしない構成としてもよい。また、ステップＳ５８１１では、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３を「０」クリアするものの演算結果記憶エリア２３４及び管理開始フラグは「０」クリアしない構成としてもよい。

【１００９】

ステップＳ５８１０にて否定判定をした場合又はステップＳ５８１１の処理を実行した場合、非特定制御用のスタックエリア２２４の監視処理を実行する（ステップＳ５８１２）。当該監視処理の内容は上記第２２の実施形態におけるＲＡＭ監視処理（図８８）のステップＳ５４０７と同一である。ステップＳ５８１２にて異常有りと判定した場合（ステップＳ５８１３：ＹＥＳ）、非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアするとともに初期設定を行う（ステップＳ５８１４）。これにより、非特定制御用のスタックエリア２２４における情報異常を解消することが可能となる。

【１０１０】

その一方、ステップＳ５８１４では、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のワークエリア２２３は「０」クリアされない。これにより、非特定制御用のスタックエリア２２４に情報異常が発生したとしても、それを理由に特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のワークエリア２２３が「０」クリアされないようにすることが可能となる。

【１０１１】

上記構成によれば、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２のいずれかで異常が発生していると特定した場合には、コピー領域を除いて特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに、特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアする。これにより、特定制御用のワークエリア２２１又は特定制御用のスタックエリア２２２に対して何らかの情報異常が発生している可能性がある場合には、そのままの状態で特定制御に対応する処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【１０１２】

特定制御用のワークエリア２２１又は特定制御用のスタックエリア２２２に情報異常が発生していたとしても、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタック

エリア２２４は「０」クリアされない。これにより、特定制御用のワークエリア２２１又は特定制御用のスタックエリア２２２における情報異常を契機として非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされてしまわないようにすることが可能となる。

【１０１３】

非特定制御用のワークエリア２２３に情報異常が発生していたとしても、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のスタックエリア２２４は「０」クリアされない。これにより、非特定制御用のワークエリア２２３における情報異常を契機として特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされないようにすることが可能となる。

【１０１４】

非特定制御用のスタックエリア２２４に情報異常が発生していたとしても、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のワークエリア２２３は「０」クリアされない。これにより、非特定制御用のスタックエリア２２４における情報異常を契機として特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のワークエリア２２３が「０」クリアされないようにすることが可能となる。

【１０１５】

なお、特定制御用のワークエリア２２１に情報異常が発生していた場合にはコピー領域を除いて特定制御用のワークエリア２２１が「０」クリアされる一方、特定制御用のスタックエリア２２２が「０」クリアされない構成としてもよい。

【１０１６】

また、特定制御用のスタックエリア２２２に情報異常が発生している場合には特定制御用のスタックエリア２２２が「０」クリアされる一方、特定制御用のワークエリア２２１が「０」クリアされない構成としてもよい。この場合、特定制御用のスタックエリア２２２が「０」クリアされたとしてもステップＳ５８０５～ステップＳ５８０８の処理を実行しない構成としてもよい。

【１０１７】

＜第２５の実施形態＞

本実施形態では主側ＲＡＭ６５の各エリア２２１～２２４に情報異常が発生しているか否かを監視するための処理構成が上記第２２の実施形態と相違している。以下、上記第２２の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第２２の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【１０１８】

図９３は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるＲＡＭ監視処理を示すフローチャートである。なお、ＲＡＭ監視処理におけるステップＳ５９０１～ステップＳ５９０８の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１０１９】

まず特定制御用のワークエリア２２１の監視処理を実行する（ステップＳ５９０１）。当該監視処理の内容は上記第２２の実施形態におけるＲＡＭ監視処理（図８８）のステップＳ５４０１と同一である。ステップＳ５９０１にて異常有りと判定した場合（ステップＳ５９０２：ＹＥＳ）、ステップＳ５９０５～ステップＳ５９０８の処理を実行する。

【１０２０】

ステップＳ５９０１にて異常有りと判定しなかった場合（ステップＳ５９０２：ＮＯ）、特定制御用のスタックエリア２２２の監視処理を実行する（ステップＳ５９０３）。当該監視処理の内容は上記第２２の実施形態におけるＲＡＭ監視処理（図８８）のステップＳ５４０３と同一である。ステップＳ５９０３にて異常有りと判定した場合（ステップＳ５９０４：ＹＥＳ）、ステップＳ５９０５～ステップＳ５９０８の処理を実行する。

【１０２１】
ステップＳ５９０５～ステップＳ５９０８の処理について詳細には、まず設定値のコピー処理を実行する（ステップＳ５９０５）。当該コピー処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定値を特定するために利用される設定値カウンタの情報を、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたコピー領域に記憶させる。これにより、この後に実行される異常時のクリア処理（ステップＳ５９０６）にて設定値カウンタの情報が「０」クリアされたとしても、当該異常時のクリア処理が実行される前における本パチンコ機１０の設定値を把握することが可能となる。
【１０２２】
その後、異常時のクリア処理を実行する（ステップＳ５９０６）。異常時のクリア処理では、コピー領域を除いて特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに、特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアする。また、「０」クリアした後に初期設定を行う。一方、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４の「０」クリアは実行しない。つまり、本実施形態におけるＲＡＭ監視処理では、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２のいずれかで異常が発生していると特定した場合には、コピー領域を除いて特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに、特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアする。これにより、特定制御用のワークエリア２２１又は特定制御用のスタックエリア２２２に対して何らかの情報異常が発生している可能性がある場合には、そのままの状態で特定制御に対応する処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。また、特定制御用のワークエリア２２１又は特定制御用のスタックエリア２２２に情報異常が発生していたとしても、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４は「０」クリアされないことにより、特定制御用のワークエリア２２１又は特定制御用のスタックエリア２２２における情報異常を契機として非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされてしまわないようにすることが可能となる。
【１０２３】
その後、異常時のクリア処理が発生したことを示す異常コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ５９０７）。音声発光制御装置８１は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の強制クリアに対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「特定制御に関して強制クリアが実行されました。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「特定制御に関して強制クリアが実行されました。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、これに限定されることはなく報知終了操作が遊技ホールの管理者により行われた場合に上記報知が終了される構成としてもよい。報知終了操作としては例えば更新ボタン６８ｂが押圧操作されることとしてもよく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されることとしてもよい。上記報知を確認することにより遊技ホールの管理者は特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２が強制クリアされたことを把握することが可能となる。
【１０２４】
その後、設定値更新処理を実行する（ステップＳ５９０８）。設定値更新処理の処理内容は上記第２２の実施形態におけるＲＡＭ監視処理（図８８）におけるステップＳ５４１２と同一である。
【１０２５】
上記のとおり特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行されるＲＡＭ監視処理では、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２について情報異常の監視が実行されるものの、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４について情報異常の監視は実行されない。これら

非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４についての情報異常の監視は非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータが利用される非特定制御に対応する処理にて実行される。

【１０２６】

図９４は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理実行処理を示すフローチャートである。なお、管理実行処理は上記第１５の実施形態と同様に管理用処理（図７０）にてサブルーチンのプログラムが読み出されることにより実行される。また、管理実行処理におけるステップＳ６００１～ステップＳ６０１６の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【１０２７】

ステップＳ６００１～ステップＳ６００８及びステップＳ６０１０～ステップＳ６０１６では上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９０１～ステップＳ３９１５と同一の処理を実行する。また、ステップＳ６００９では別監視処理を実行する。別監視処理の実行に際しては、非特定制御用のプログラムに設定されている別監視処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては別監視処理の実行後における管理実行処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により非特定制御用のスタックエリア２２４に書き込まれる。そして、別監視処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理実行処理のプログラムに復帰する。

【１０２８】

図９５は別監視処理を示すフローチャートである。なお、別監視処理におけるステップＳ６１０１～ステップＳ６１０８の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【１０２９】

まず非特定制御用のワークエリア２２３の監視処理を実行する（ステップＳ６１０１）。当該監視処理の内容は上記第２２の実施形態におけるＲＡＭ監視処理（図８８）のステップＳ５４０５と同一である。ステップＳ６１０１にて異常有りと判定した場合（ステップＳ６１０２：ＹＥＳ）、非特定制御用のワークエリア２２３を「０」クリアするとともに初期設定を行う（ステップＳ６１０３）。この場合、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３、演算結果記憶エリア２３４及び管理開始フラグの全てが「０」クリアされる。これにより、非特定制御用のワークエリア２２３における情報異常を解消することが可能となる。

【１０３０】

その一方、ステップＳ６１０３では、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のスタックエリア２２４は「０」クリアされない。これにより、非特定制御用のワークエリア２２３に情報異常が発生したとしても、それを理由に特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされないようにすることが可能となる。

【１０３１】

なお、ステップＳ６１０３では、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３及び演算結果記憶エリア２３４を「０」クリアするものの管理開始フラグは「０」クリアしない構成としてもよい。また、ステップＳ６１０３では、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３及び管理開始フラグを「０」クリアするものの演算結果記憶エリア２３４は「０」クリアしない構成としてもよい。また、ステップＳ６１０３では、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３を「０」クリアするものの演算結果記憶エリア２３４及び管理開始フラグは「０」クリアしない構成としてもよい。

【１０３２】
その後、クリア報知処理を実行する（ステップＳ６１０４）。クリア報知処理では非特定制御用のワークエリア２２３が「０」クリアされたことを示すコマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１は当該コマンドを受信することにより、表示発光部５３を非特定制御用のワークエリア２２３の強制クリアに対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「履歴情報が強制クリアされました。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「履歴情報が強制クリアされました。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、これに限定されることはなく報知終了操作が遊技ホールの管理者により行われた場合に上記報知が終了される構成としてもよい。報知終了操作としては例えば更新ボタン６８ｂが押圧操作されることとしてもよく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されることとしてもよい。上記報知を確認することにより遊技ホールの管理者は非特定制御用のワークエリア２２３が強制クリアされたことを把握することが可能となる。
【１０３３】
ステップＳ６１０２にて否定判定をした場合又はステップＳ６１０４の処理を実行した場合、非特定制御用のスタックエリア２２４の監視処理を実行する（ステップＳ６１０５）。当該監視処理の内容は上記第２２の実施形態におけるＲＡＭ監視処理（図８８）のステップＳ５４０７と同一である。ステップＳ６１０５にて異常有りと判定した場合（ステップＳ６１０６：ＹＥＳ）、非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアするとともに初期設定を行う（ステップＳ６１０７）。これにより、非特定制御用のスタックエリア２２４における情報異常を解消することが可能となる。
【１０３４】
その一方、ステップＳ６１０７では、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のワークエリア２２３は「０」クリアされない。これにより、非特定制御用のスタックエリア２２４に情報異常が発生したとしても、それを理由に特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のワークエリア２２３が「０」クリアされないようにすることが可能となる。
【１０３５】
その後、クリア報知処理を実行する（ステップＳ６１０８）。クリア報知処理では非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされたことを示すコマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１は当該コマンドを受信することにより、表示発光部５３を非特定制御用のスタックエリア２２４の強制クリアに対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「非特定制御のスタックが強制クリアされました。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「非特定制御のスタックが強制クリアされました。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、これに限定されることはなく報知終了操作が遊技ホールの管理者により行われた場合に上記報知が終了される構成としてもよい。報知終了操作としては例えば更新ボタン６８ｂが押圧操作されることとしてもよく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されることとしてもよい。上記報知を確認することにより遊技ホールの管理者は非特定制御用のスタックエリア２２４が強制クリアされたことを把握することが可能となる。
【１０３６】
なお、非特定制御用のスタックエリア２２４が強制クリアされた場合、別監視処理の実行後における戻り番地の情報として管理実行処理（図９４）におけるステップＳ６０１０のプログラムのアドレスが一義的に設定される。これにより、非特定制御用のスタックエリア２２４が強制クリアされたとしても、管理実行処理において本来復帰すべきプログラムに復帰することが可能となる。また、非特定制御用のスタックエリア２２４が強制クリアされた場合には主側ＣＰＵ６３のスタックポインタも非特定制御用のスタックエリア２

２４における記憶順序が最初の記憶エリアのアドレスに設定される。
【１０３７】
上記構成によれば、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２に情報異常が発生しているか否かの監視が主側ＣＰＵ６３における特定制御に対応する処理にて実行され、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４に情報異常が発生しているか否かの監視が主側ＣＰＵ６３における非特定制御に対応する処理にて実行される。これにより、特定制御に対応する処理と非特定制御に対応する処理とで、利用対象となる主側ＲＡＭ６５のエリア２２１～２２４を明確に区別するだけではなく、監視対象となる主側ＲＡＭ６５のエリア２２１～２２４も明確に区別することが可能となる。
【１０３８】
なお、非特定制御用のワークエリア２２３が「０」クリアされた場合、特定制御に対応する処理にて利用される主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報であって非特定制御用のワークエリア２２３に退避された情報も「０」クリアされる。この場合、非特定制御に対応する処理が終了して特定制御に対応する処理に復帰したとしても非特定制御に対応する処理が開始される前の状態に復帰することができないおそれがある。したがって、非特定制御用のワークエリア２２３が「０」クリアされた場合には特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２も「０」クリアされる構成としてもよい。また、当該構成においては特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタも「０」クリアされてしまうため、非特定制御に対応する処理から特定制御に対応する処理に復帰した場合には特定制御に対応する処理として設定値更新処理が最初に実行される構成としてもよい。
【１０３９】
＜第２６の実施形態＞
本実施形態では管理用処理の処理構成が上記第２０の実施形態と相違している。以下、上記第２０の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第２０の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【１０４０】
図９６は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理用処理を示すフローチャートである。なお、管理用処理におけるステップＳ６２０１～ステップＳ６２１９の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【１０４１】
まずタイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う（ステップＳ６２０１）。これにより、非特定制御に対応する処理である後述する管理実行処理の途中の状況において、特定制御に対応する処理であるタイマ割込み処理（図６９）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。
【１０４２】
その後、「ＬＤ　ＨＬ，ＳＰ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに上書きする（ステップＳ６２０２）。この場合、スタックポインタの情報量は１６ビットとなっているとともにＨレジスタ及びＬレジスタのそれぞれの情報量は８ビットとなっているため、スタックポインタの上位側から連続する８ビットの情報がＨレジスタに上書きされ、スタックポインタの下位側から連続する８ビットの情報がＬレジスタに上書きされる。
【１０４３】
その後、「ＬＤ　（ＨＬ），０」として、ロード命令により、特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに記憶されたスタックポインタの情報に対応する１バイトの記憶エリアを「０」クリアする（ステップＳ６２０３）。なお、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタにはステップＳ６２０２にて主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報が上書きされているとともに、ステップＳ６２０３の処理が実行されるまでに

主側ＣＰＵ６３のスタックポインタは情報の更新が行われていないため、ステップＳ６２０３では特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報に対応する１バイトの記憶エリアを「０」クリアしたことになる。

【１０４４】

その後、「ＬＤ　ＳＰ，ＳＰ－１」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２における次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する（ステップＳ６２０４）。特定制御用のスタックエリア２２２を使用する場合、記憶対象となる情報は特定制御用のスタックエリア２２２における最後のアドレスの記憶エリアから記憶され、記憶対象となる情報が追加される度に特定制御用のスタックエリア２２２における最初のアドレス側に向けて記憶先の記憶エリアが変更される。したがって、ステップＳ６２０４では、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２における１個分アドレスが小さい側の記憶エリアに対応するアドレスの情報に更新している。ステップＳ６２０４の処理を実行することにより、ステップＳ６２０３にて「０」クリアした記憶エリアに対して次の順番の記憶エリアが次回のプッシュ命令による情報の記憶対象として設定されるとともに、ステップＳ６２０３にて「０」クリアした記憶エリアが次回のポップ命令による情報の読み出し対象として設定される。

【１０４５】

その後、「ＬＤ　ＷＡ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタを「０」クリアする（ステップＳ６２０５）。また、「ＬＤ　ＢＣ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタを「０」クリアする（ステップＳ６２０６）。また、「ＬＤ　ＤＥ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタを「０」クリアする（ステップＳ６２０７）。また、「ＬＤ　ＨＬ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタを「０」クリアする（ステップＳ６２０８）。また、「ＬＤ　ＩＸ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタを「０」クリアする（ステップＳ６２０９）。また、「ＬＤ　ＩＹ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタを「０」クリアする（ステップＳ６２１０）。

【１０４６】

主側ＣＰＵ６３のレジスタには、フラグレジスタ以外にも、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタが存在している。この場合に、ステップＳ６２０５～ステップＳ６２１０では、これら各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタであるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタのそれぞれを「０」クリアする。これらＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタは非特定制御に対応する処理である管理実行処理（ステップＳ６２１２）にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタを非特定制御に対応する処理である管理実行処理（ステップＳ６２１２）の実行に先立ち「０」クリアすることにより、これらレジスタの状態を非特定制御に対応する処理が開始される前に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後の状態とすることが可能となる。

【１０４７】

また、非特定制御に対応する処理が開始される前におけるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報は、当該非特定制御に対応する処理が終了した後における特定制御に対応する処理において不要な情報である。よって、これらレジスタの情報が退避されることなく「０」クリアされたとしても、非特定制御に対応する処理が終了した後に復帰した特定制御に対応する処理において問題が生じない。

【１０４８】

その後、「ＰＯＰ　ＰＳＷ」として、ポップ命令により、特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに対して

１個前の書き込み順序の記憶エリアから情報を読み出し、その読み出した情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに上書きする（ステップＳ６２１１）。ステップＳ６２１１のポップ命令が実行される直前における主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は、ステップＳ６２０３にて「０」クリアした特定制御用のスタックエリア２２２における記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアに対応する情報となっている。したがって、特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに対して１個前の書き込み順序の記憶エリアは、ステップＳ６２０３にて「０」クリアした記憶エリアとなる。そして、この記憶エリアから読み出した情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに上書きすることにより、当該フラグレジスタが「０」クリアされた状態となる。なお、特定制御用のスタックエリア２２２における１個の記憶エリアは８ビット（１バイト）の情報量となっているとともに主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタも８ビット（１バイト）の情報量となっている。フラグレジスタを非特定制御に対応する処理である管理実行処理（ステップＳ６２１２）の実行に先立ち「０」クリアすることにより、フラグレジスタの状態を非特定制御に対応する処理が開始される前に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後の状態とすることが可能となる。

【１０４９】

その後、非特定制御用のプログラムに設定されている管理実行処理に対応するサブルーチンのプログラムを読み出すことにより、当該管理実行処理を開始する（ステップＳ６２１２）。この場合、当該管理実行処理の実行後における管理用処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、管理実行処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理用処理のプログラムに復帰する。

【１０５０】

なお、管理実行処理の処理内容は上記第２０の実施形態における管理実行処理（図８２）と同一である。したがって、管理実行処理においてチェック処理が終了した後は、ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタは「０」クリアされる。これにより、非特定制御に対応する処理から特定制御に対応する処理への復帰に先立ちこれらレジスタが「０」クリアされることとなり、これらレジスタの状態を特定制御に対応する処理への復帰前に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後の状態とすることが可能となる。

【１０５１】

管理実行処理の実行後において管理用処理のプログラムに復帰した場合、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタを「０」クリアするための処理を実行する。詳細には、まず「ＰＵＳＨ　ＨＬ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させる（ステップＳ６２１３）。当該プッシュ命令の実行後には主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は、特定制御用のスタックエリア２２２においてＨＬレジスタの情報が退避された記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアに対応する情報となる。

【１０５２】

その後、「ＬＤ　ＨＬ，ＳＰ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに上書きする（ステップＳ６２１４）。この場合、スタックポインタの情報量は１６ビットとなっているとともにＨレジスタ及びＬレジスタのそれぞれの情報量は８ビットとなっているため、スタックポインタの上位側から連続する８ビットの情報がＨレジスタに上書きされ、スタックポインタの下位側から連続する８ビットの情報がＬレジスタに上書きされる。

【１０５３】

その後、「ＬＤ　（ＨＬ），０」として、ロード命令により、特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに記憶されたスタックポインタの情報に対応する１バイトの記憶エリアを「０」クリアする（ステップＳ６２１５）。なお、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタにはステップＳ６２１４にて主側ＣＰＵ６３のスタックポイ

ンタの情報が上書きされているとともに、ステップＳ６２１５の処理が実行されるまでに主側ＣＰＵ６３のスタックポインタは情報の更新が行われていないため、ステップＳ６２１５では特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報に対応する１バイトの記憶エリアを「０」クリアしたことになる。

【１０５４】

その後、「ＬＤ　ＳＰ，ＳＰ－１」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２における次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する（ステップＳ６２１６）。特定制御用のスタックエリア２２２を使用する場合、記憶対象となる情報は特定制御用のスタックエリア２２２における最後のアドレスの記憶エリアから記憶され、記憶対象となる情報が追加される度に特定制御用のスタックエリア２２２における最初のアドレス側に向けて記憶先の記憶エリアが変更される。したがって、ステップＳ６２１６では、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２における１個分アドレスが小さい側の記憶エリアに対応するアドレスの情報に更新している。ステップＳ６２１６の処理を実行することにより、ステップＳ６２１５にて「０」クリアした記憶エリアに対して次の順番の記憶エリアが次回のプッシュ命令による情報の記憶対象として設定されるとともに、ステップＳ６２１５にて「０」クリアした記憶エリアが次回のポップ命令による情報の読み出し対象として設定される。

【１０５５】

その後、「ＰＯＰ　ＰＳＷ」として、ポップ命令により、特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに対して１個前の書き込み順序の記憶エリアから情報を読み出し、その読み出した情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに上書きする（ステップＳ６２１７）。ステップＳ６２１７のポップ命令が実行される直前における主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は、ステップＳ６２１５にて「０」クリアした特定制御用のスタックエリア２２２における記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアに対応する情報となっている。したがって、特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに対して１個前の書き込み順序の記憶エリアは、ステップＳ６２１５にて「０」クリアした特定制御用のスタックエリア２２２における記憶エリアとなる。そして、この記憶エリアから読み出した情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに上書きすることにより、当該フラグレジスタが「０」クリアされた状態となる。なお、特定制御用のスタックエリア２２２における１個の記憶エリアは８ビット（１バイト）の情報量となっているとともに主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタも８ビット（１バイト）の情報量となっている。フラグレジスタを非特定制御に対応する処理である管理実行処理（ステップＳ６２１２）の実行後に「０」クリアすることにより、フラグレジスタの状態を非特定制御に対応する処理が終了した後に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後の状態とすることが可能となる。また、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が１個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１０５６】

その後、「ＰＯＰ　ＨＬ」として、ポップ命令により、ステップＳ６２１３にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＨＬレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに復帰させる（ステップＳ６２１８）。なお、ＨＬレジスタは管理実行処理（ステップＳ６２１２）が終了する直前において「０」クリアされているため、ステップＳ６２１３ではその「０」クリアされた情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されているとともに、ステップＳ６２１８ではその「０」クリアされた情報が主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに復帰されるため、結果的に主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタが「０」クリアされた状態となる。また、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１０５７】
その後、タイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるために割込み許可の設定を行う（ステップＳ６２１９）。これにより、タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。
【１０５８】
上記構成によれば上記第２０の実施形態にて説明した効果に加え以下の効果を奏することが可能である。
【１０５９】
特定制御に対応する処理が実行されている状況から非特定制御に対応する処理が開始される場合に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタを「０」クリアする構成である。これにより、非特定制御に対応する処理が実行されている状況において特定制御に対応する処理にて利用されるフラグレジスタの情報を主側ＲＡＭ６５に退避させておく必要が生じない。よって、当該情報を退避させるための容量を確保する必要が生じない。
【１０６０】
また、非特定制御に対応する処理が実行されている状況から特定制御に対応する処理に復帰させた場合にも主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタを「０」クリアする構成である。これにより、特定制御に対応する処理に復帰させる場合には、フラグレジスタの状態を非特定制御に対応する処理が開始される直前の状態に復帰させることが可能となる。
【１０６１】
フラグレジスタが「０」クリアされた状態は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合の状態である。これにより、非特定制御に対応する処理を開始する場合及び特定制御に対応する処理に復帰する場合においてフラグレジスタを所定状態に設定するための処理構成を簡素なものとすることが可能となる。
【１０６２】
非特定制御に対応する処理が開始される前における主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報は、非特定制御に対応する処理が終了した後における特定制御に対応する処理にて利用されない情報である。これにより、非特定制御に対応する処理が開始される場合にフラグレジスタが「０」クリアされる構成であったとしても非特定制御に対応する処理が終了した後における特定制御に対応する処理に影響を与えないようにすることが可能となる。
【１０６３】
特定制御用のスタックエリア２２２の所定の記憶エリアを「０」クリアし、その「０」クリアした記憶エリアの情報をポップ命令によりフラグレジスタに上書きすることにより、当該フラグレジスタを「０」クリアする構成である。これにより、フラグレジスタに対する「０」クリアをロード命令により直接的に行うことが規制されている構成であっても、当該フラグレジスタを「０」クリアすることが可能となる。
【１０６４】
なお、フラグレジスタを「０」クリアする構成に代えて、フラグレジスタを初期化する構成としてもよい。つまり、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタは一旦「０」クリアされた後に、初期状態となるように情報設定が行われるが、ステップＳ６２０２～ステップＳ６２０４及びステップＳ６２１１ではこの初期状態となるようにフラグレジスタの設定を行う構成としてもよい。この場合、ステップＳ６２１３～ステップＳ６２１８においても上記初期状態となるようにフラグレジスタの設定が行われる構成とすることで、特定制御に対応する処理に復帰させる場合にはフラグレジスタの状態を非特定制御に対応する処理が開始される直前の状態に復帰させることが可能となる。
【１０６５】
また、ステップＳ６２０２～ステップＳ６２０４及びステップＳ６２１１では主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタを「０」クリアする構成に代えて、フラグレジスタの全てに「１」を設定する構成としてもよい。この場合、ステップＳ６２１３～ステップＳ６２１８においてもフラグレジスタの全てに「１」を設定することで、特定制御に対応する処理に復

帰させる場合にはフラグレジスタの状態を非特定制御に対応する処理が開始される直前の状態に復帰させることが可能となる。

【１０６６】

また、ステップＳ６２０２～ステップＳ６２０４及びステップＳ６２１１の処理に代えて、「ＬＤ　ＰＳＷ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタを直接的に「０」クリアする構成としてもよい。また、ステップＳ６２１３～ステップＳ６２１８の処理に代えて、「ＬＤ　ＰＳＷ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタを直接的に「０」クリアする構成としてもよい。

【１０６７】

また、ステップＳ６２１３及びステップＳ６２１８の処理を実行する構成に代えて、「ＬＤ　ＨＬ，０」としてロード命令によりＨＬレジスタを「０」クリアする構成としてもよい。この場合であっても、ＨＬレジスタの状態を非特定制御に対応する処理である管理実行処理が実行される直前の状態に復帰させることが可能となる。

【１０６８】

また、フラグレジスタを「０」クリアする処理が特定制御に対応する処理にて実行される構成に代えて、非特定制御に対応する処理にて実行される構成としてもよい。

【１０６９】

＜第２７の実施形態＞

本実施形態では管理用処理の処理構成が上記第２０の実施形態と相違している。以下、上記第２０の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第２０の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【１０７０】

図９７は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理用処理を示すフローチャートである。なお、管理用処理におけるステップＳ６３０１～ステップＳ６３２３の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１０７１】

まずタイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う（ステップＳ６３０１）。これにより、非特定制御に対応する処理である後述する管理実行処理の途中の状況において、特定制御に対応する処理であるタイマ割込み処理（図６９）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【１０７２】

その後、「ＰＵＳＨ　ＡＦ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタの情報及びフラグレジスタの情報のそれぞれを特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリア及び当該記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアのそれぞれに退避させる（ステップＳ６３０２）。主側ＣＰＵ６３のＡレジスタ及びフラグレジスタはそれぞれ８ビット（１バイト）の情報量となっているため、Ａレジスタの情報及びフラグレジスタの情報はアドレスが連続する２個の記憶エリアに対して個別に退避される。なお、上記プッシュ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個後の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１０７３】

その後、「ＰＯＰ　ＨＬ」として、ポップ命令により、ステップＳ６３０２にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＡレジスタの情報及びフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに上書きする（ステップＳ６３０３）。この場合、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＡレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のＨレジスタに上書きされ、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のＬレジスタに上書きされる。主側ＣＰＵ６３のＨレジスタ及びＬレジスタはそれぞれ８ビット（１バイト）の情報量となっている。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア

２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。
【１０７４】
その後、「ＬＤ　Ａ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタを「０」クリアする（ステップＳ６３０４）。そして、「ＬＤ　Ｌ，Ａ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＬレジスタに上書きするとともに（ステップＳ６３０５）、「ＬＤ　Ｈ，Ａ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨレジスタに上書きする（ステップＳ６３０６）。Ａレジスタはステップ６３０４にて「０」クリアされているため、そのＡレジスタの情報をＬレジスタ及びＨレジスタのそれぞれに上書きすることでこれらＬレジスタ及びＨレジスタのそれぞれが「０」クリアされた状態となる。
【１０７５】
その後、「ＰＵＳＨ　ＨＬ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタ（すなわちＨレジスタ及びＬレジスタ）の情報を特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリア及び当該記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアのそれぞれに退避させる（ステップＳ６３０７）。主側ＣＰＵ６３のＨレジスタ及びＬレジスタはそれぞれ８ビット（１バイト）の情報量となっているため、Ｈレジスタの情報及びＬレジスタの情報はアドレスが連続する２個の記憶エリアに対して個別に退避される。なお、上記プッシュ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個後の記憶エリアに対応する情報に更新される。
【１０７６】
その後、「ＬＤ　ＢＣ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタを「０」クリアする（ステップＳ６３０８）。また、「ＬＤ　ＤＥ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタを「０」クリアする（ステップＳ６３０９）。また、「ＬＤ　ＩＸ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタを「０」クリアする（ステップＳ６３１０）。また、「ＬＤ　ＩＹ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタを「０」クリアする（ステップＳ６３１１）。
【１０７７】
主側ＣＰＵ６３のレジスタには、フラグレジスタ以外にも、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタが存在している。この場合に、ステップＳ６３０８～ステップＳ６３１１では、これら各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタであるＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタのそれぞれを「０」クリアする。また、ステップＳ６３０５及びステップＳ６３０６にてＨＬレジスタが「０」クリアされている。これらＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタは非特定制御に対応する処理である管理実行処理（ステップＳ６３１３）にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタを非特定制御に対応する処理である管理実行処理（ステップＳ６３１３）の実行に先立ち「０」クリアすることにより、これらレジスタの状態を非特定制御に対応する処理が開始される前に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後の状態とすることが可能となる。
【１０７８】
また、非特定制御に対応する処理が開始される前におけるＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報は、当該非特定制御に対応する処理が終了した後における特定制御に対応する処理において不要な情報である。よって、これらレジスタの情報が退避されることなく「０」クリアされたとしても、非特定制御に対応する処理が終了した後に復帰した特定制御に対応する処理において問題が生じない。
【１０７９】
その後、「ＰＯＰ　ＡＦ」として、ポップ命令により、ステップＳ６３０７にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＨレジスタの情報及びＬレジスタの情報を主側

ＣＰＵ６３のＡレジスタ及びフラグレジスタに上書きする（ステップＳ６３１２）。この場合、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＨレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のＡレジスタに上書きされ、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＬレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに上書きされる。特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＨレジスタの情報及びＬレジスタの情報はいずれもオール「０」の情報であるため、ステップＳ６３１２の処理が実行されることにより主側ＣＰＵ６３のＡレジスタが「０」クリアされた状態となるとともに主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタが「０」クリアされた状態となる。これにより、フラグレジスタの状態を非特定制御に対応する処理が開始される前に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後の状態とすることが可能となる。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１０８０】

その後、非特定制御用のプログラムに設定されている管理実行処理に対応するサブルーチンのプログラムを読み出すことにより、当該管理実行処理を開始する（ステップＳ６３１３）。この場合、当該管理実行処理の実行後における管理用処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、管理実行処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理用処理のプログラムに復帰する。

【１０８１】

なお、管理実行処理においてチェック処理が終了した後は、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタは「０」クリアされる。これにより、非特定制御に対応する処理から特定制御に対応する処理への復帰に先立ちこれらレジスタが「０」クリアされることとなり、これらレジスタの状態を特定制御に対応する処理への復帰前に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後の状態とすることが可能となる。

【１０８２】

管理実行処理の実行後において管理用処理のプログラムに復帰した場合、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタを「０」クリアするための処理を実行する。詳細には、まず「ＰＵＳＨ　ＨＬ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させる（ステップＳ６３１４）。当該プッシュ命令の実行後には主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は、特定制御用のスタックエリア２２２においてＨＬレジスタの情報が退避された記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアに対応する情報となる。

【１０８３】

その後、「ＰＵＳＨ　ＡＦ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタの情報及びフラグレジスタの情報のそれぞれを特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリア及び当該記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアのそれぞれに退避させる（ステップＳ６３１５）。主側ＣＰＵ６３のＡレジスタ及びフラグレジスタはそれぞれ８ビット（１バイト）の情報量となっているため、Ａレジスタの情報及びフラグレジスタの情報はアドレスが連続する２個の記憶エリアに対して個別に退避される。なお、上記プッシュ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個後の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１０８４】

その後、「ＰＯＰ　ＨＬ」として、ポップ命令により、ステップＳ６３１５にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＡレジスタの情報及びフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに上書きする（ステップＳ６３１６）。この場合、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＡレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のＨレジスタに上書きされ、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたフラグレジスタの情報

が主側ＣＰＵ６３のＬレジスタに上書きされる。主側ＣＰＵ６３のＨレジスタ及びＬレジスタはそれぞれ８ビット（１バイト）の情報量となっている。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１０８５】

その後、「ＬＤ　Ａ，０」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタを「０」クリアする（ステップＳ６３１７）。そして、「ＬＤ　Ｌ，Ａ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＬレジスタに上書きするとともに（ステップＳ６３１８）、「ＬＤ　Ｈ，Ａ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨレジスタに上書きする（ステップＳ６３１９）。Ａレジスタはステップ６３１７にて「０」クリアされているため、そのＡレジスタの情報をＬレジスタ及びＨレジスタのそれぞれに上書きすることでこれらＬレジスタ及びＨレジスタのそれぞれが「０」クリアされた状態となる。

【１０８６】

その後、「ＰＵＳＨ　ＨＬ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタ（すなわちＨレジスタ及びＬレジスタ）の情報を特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリア及び当該記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアのそれぞれに退避させる（ステップＳ６３２０）。主側ＣＰＵ６３のＨレジスタ及びＬレジスタはそれぞれ８ビット（１バイト）の情報量となっているため、Ｈレジスタの情報及びＬレジスタの情報はアドレスが連続する２個の記憶エリアに対して個別に退避される。なお、上記プッシュ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個後の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１０８７】

その後、「ＰＯＰ　ＡＦ」として、ポップ命令により、ステップＳ６３２０にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＨレジスタの情報及びＬレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＡレジスタ及びフラグレジスタに上書きする（ステップＳ６３２１）。この場合、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＨレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のＡレジスタに上書きされ、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＬレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに上書きされる。特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＨレジスタの情報及びＬレジスタの情報はいずれもオール「０」の情報であるため、ステップＳ６３２１の処理が実行されることにより主側ＣＰＵ６３のＡレジスタが「０」クリアされた状態となるとともに主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタが「０」クリアされた状態となる。フラグレジスタを非特定制御に対応する処理である管理実行処理（ステップＳ６３１３）の実行後に「０」クリアすることにより、フラグレジスタの状態を非特定制御に対応する処理が終了した後に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後の状態とすることが可能となる。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１０８８】

その後、「ＰＯＰ　ＨＬ」として、ポップ命令により、ステップＳ６３１４にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＨＬレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに復帰させる（ステップＳ６３２２）。なお、ＨＬレジスタは管理実行処理（ステップＳ６３１３）が終了する直前において「０」クリアされているため、ステップＳ６３１４ではその「０」クリアされた情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されているとともに、ステップＳ６３２２ではその「０」クリアされた情報が主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに復帰されるため、結果的に主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタが「０」クリアされた状態となる。また、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１０８９】
その後、タイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるために割込み許可の設定を行う（ステップＳ６３２３）。これにより、タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。
【１０９０】
上記構成によれば、特定制御用のスタックエリア２２２における所定の記憶エリアをロード命令により「０」クリアするという処理を実行することなく、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタを「０」クリアすることが可能となる。これにより、特定制御用のスタックエリア２２２における所定の記憶エリアに対する「０」クリアをロード命令により行うことが規制されている構成であっても、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタを「０」クリアすることが可能となる。
【１０９１】
なお、フラグレジスタを「０」クリアする構成に代えて、フラグレジスタを初期化する構成としてもよい。つまり、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタは一旦「０」クリアされた後に、初期状態となるように情報設定が行われるが、ステップＳ６３０２～ステップＳ６３０７及びステップＳ６３１２ではこの初期状態となるようにフラグレジスタの設定を行う構成としてもよい。この場合、ステップＳ６３１４～ステップＳ６３２２においても上記初期状態となるようにフラグレジスタの設定が行われる構成とすることで、特定制御に対応する処理に復帰させる場合にはフラグレジスタの状態を非特定制御に対応する処理が開始される直前の状態に復帰させることが可能となる。
【１０９２】
また、ステップＳ６３０２～ステップＳ６３０７及びステップＳ６３１２では主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタを「０」クリアする構成に代えて、フラグレジスタの全てに「１」を設定する構成としてもよい。この場合、ステップＳ６３１４～ステップＳ６３２２においてもフラグレジスタの全てに「１」を設定することで、特定制御に対応する処理に復帰させる場合にはフラグレジスタの状態を非特定制御に対応する処理が開始される直前の状態に復帰させることが可能となる。
【１０９３】
また、ステップＳ６３０２及びステップＳ６３０３の処理が実行されない構成としてもよい。この場合、処理構成を簡素化することが可能となる。
【１０９４】
また、ステップＳ６３１５及びステップＳ６３１６の処理が実行されない構成としてもよい。この場合、処理構成を簡素化することが可能となる。
【１０９５】
また、ステップＳ６３０２～ステップＳ６３０６の処理を実行する構成に代えて、「ＬＤ　ＨＬ，０」として、ロード命令により、ＨＬレジスタを「０」クリアした後に、その「０」クリアしたＨＬレジスタをプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に退避させた後にポップ命令によりその退避させた情報をＡＦレジスタに復帰させることで、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタを「０」クリアする構成としてもよい。
【１０９６】
また、フラグレジスタを「０」クリアする処理が特定制御に対応する処理にて実行される構成に代えて、非特定制御に対応する処理にて実行される構成としてもよい。
【１０９７】
＜第２８の実施形態＞
本実施形態では管理用処理の処理構成が上記第１５の実施形態と相違している。以下、上記第１５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【１０９８】
図９８は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理用処理を示すフローチ

ャートである。なお、管理用処理におけるステップＳ６４０１～ステップＳ６４１６の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１０９９】

まずタイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う（ステップＳ６４０１）。これにより、非特定制御に対応する処理である後述する管理実行処理の途中の状況において、特定制御に対応する処理であるタイマ割込み処理（図６９）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【１１００】

その後、「ＰＵＳＨ　ＷＡ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ（すなわちＷレジスタ及びＡレジスタ）の情報を特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリア及び当該記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアのそれぞれに退避させる（ステップＳ６４０２）。主側ＣＰＵ６３のＷレジスタ及びＡレジスタはそれぞれ８ビット（１バイト）の情報量となっているため、Ｗレジスタ及びＡレジスタの情報はアドレスが連続する２個の記憶エリアに対して個別に退避される。なお、上記プッシュ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個後の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１０１】

その後、「ＬＤ　Ａ，ＰＳＷ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＡレジスタに上書きする（ステップＳ６４０３）。この場合、フラグレジスタ及びＡレジスタはいずれも情報量が８ビット（１バイト）となっている。そして、「ＬＤ　（＿ＦＧＢＵＦ），Ａ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタの情報を特定制御用のワークエリア２２１に設定されたＦＧバッファに退避させる（ステップＳ６４０４）。Ａレジスタにはステップ６４０３にてフラグレジスタの情報が上書きされているため、ステップＳ６４０４が実行されることによりフラグレジスタの情報が特定制御用のワークエリア２２１に退避された状態となる。

【１１０２】

その後、「ＰＯＰ　ＷＡ」として、ポップ命令により、ステップＳ６４０２にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＷＡレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタに復帰させる（ステップＳ６４０５）。これにより、フラグレジスタの情報を特定制御用のワークエリア２２１に退避させるためにＡレジスタが利用されたとしても、当該Ａレジスタの状態を当該退避が行われる前の状態に復帰させることが可能となる。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１０３】

その後、非特定制御用のプログラムに設定されている管理実行処理に対応するサブルーチンのプログラムを読み出すことにより、当該管理実行処理を開始する（ステップＳ６４０６）。この場合、当該管理実行処理の実行後における管理用処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、管理実行処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理用処理のプログラムに復帰する。

【１１０４】

なお、管理実行処理の処理内容は上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）と同一である。したがって、管理実行処理においてチェック処理が開始される前に主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報が非特定制御用のワークエリア２２３に退避されるとともに、管理実行処理においてチェック処理が終了した後にその非特定制御用のワークエリア２２３に退避された各情報が主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、

ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタに復帰される。これにより、チェック処理の前後で主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの状態を同一の状態とすることが可能となる。

【１１０５】

但し、これに限定されることはなく管理実行処理の処理内容が上記第１７の実施形態における管理実行処理（図７８）と同一である構成としてもよく、上記第１８の実施形態における管理実行処理（図７９）と同一である構成としてもよく、上記第１９の実施形態における管理実行処理（図８０）と同一である構成としてもよい。

【１１０６】

管理実行処理の実行後において管理用処理のプログラムに復帰した場合、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を管理実行処理が実行される前の状態に復帰させるための処理を実行する。詳細にはまず「ＰＵＳＨ　ＨＬ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させる（ステップＳ６４０７）。当該プッシュ命令の実行後には主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は、特定制御用のスタックエリア２２２においてＨＬレジスタの情報が退避された記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアに対応する情報となる。

【１１０７】

その後、「ＰＵＳＨ　ＷＡ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させる（ステップＳ６４０８）。当該プッシュ命令の実行後には主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は、特定制御用のスタックエリア２２２においてＷＡレジスタの情報が退避された記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアに対応する情報となる。

【１１０８】

その後、「ＬＤ　ＨＬ，ＳＰ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに上書きする（ステップＳ６４０９）。この場合、スタックポインタの情報量は１６ビットとなっているとともにＨレジスタ及びＬレジスタのそれぞれの情報量は８ビットとなっているため、スタックポインタの上位側から連続する８ビットの情報がＨレジスタに上書きされ、スタックポインタの下位側から連続する８ビットの情報がＬレジスタに上書きされる。

【１１０９】

その後、「ＬＤ　Ａ，（＿ＦＧＢＵＦ）」として、ロード命令により、ステップＳ６４０６にて特定制御用のワークエリア２２１におけるＦＧバッファに退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＡレジスタに上書きする（ステップＳ６４１０）。そして、「ＬＤ　（ＨＬ），Ａ」として、ロード命令により、特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに記憶されたスタックポインタの情報に対応する１バイトの記憶エリアに、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタの情報を記憶させる（ステップＳ６４１１）。これにより、ステップＳ６４０４にて特定制御用のワークエリア２２１におけるＦＧバッファに退避させたフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避された状態となる。

【１１１０】

その後、「ＬＤ　ＳＰ，ＳＰ－１」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２における次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する（ステップＳ６４１２）。特定制御用のスタックエリア２２２を使用する場合、記憶対象となる情報は特定制御用のスタックエリア２２２における最後のアドレスの記憶エリアから記憶され、記憶対象となる情報が追加される度に特定制御用のスタックエリア２２２における最初のアドレス側に向けて記憶先の記憶エリアが変更される。したがって、ステップＳ６４１２では、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２における１個分アドレスが小さい側の記憶エリアに対応するアドレスの情報に更新している。ステップＳ６４１２の処理を実行することにより、ステップＳ６４１１にてＡレジスタの情報を退避させた記憶エ

リアに対して次の順番の記憶エリアが次回のプッシュ命令による情報の記憶対象として設定されるとともに、ステップＳ６４１１にてＡレジスタの情報を退避させた記憶エリアが次回のポップ命令による情報の読み出し対象として設定される。

【１１１１】

その後、「ＰＯＰ　ＰＳＷ」として、ポップ命令により、特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに対して１個前の書き込み順序の記憶エリアから情報を読み出し、その読み出した情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに上書きする（ステップＳ６４１３）。ステップＳ６４１３のポップ命令が実行される直前における主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は、ステップＳ６４１１にてＡレジスタの情報を退避させた記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアに対応する情報となっている。したがって、特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報に対応する記憶エリアに対して１個前の書き込み順序の記憶エリアは、ステップＳ６４１１にてＡレジスタの情報を退避させた記憶エリアとなる。そして、この記憶エリアから読み出した情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに上書きすることにより、ステップＳ６４０４にて特定制御用のワークエリア２２１におけるＦＧバッファに退避させたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰されることとなる。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が１個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１１２】

その後、「ＰＯＰ　ＷＡ」として、ポップ命令により、ステップＳ６４０８にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＷＡレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタに復帰させる（ステップＳ６４１４）。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。また、「ＰＯＰ　ＨＬ」として、ポップ命令により、ステップＳ６４０７にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＨＬレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに復帰させる（ステップＳ６４１５）。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１１３】

その後、タイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるために割込み許可の設定を行う（ステップＳ６４１６）。これにより、タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【１１１４】

上記構成によれば、特定制御に対応する処理が実行されている状況から非特定制御に対応する処理が開始される場合に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２ではなく特定制御用のワークエリア２２１に退避させることが可能となる。そして、非特定制御に対応する処理が実行されている状況から特定制御に対応する処理に復帰させた場合には特定制御用のワークエリア２２１に退避されたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰される。これにより、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を参照することなくプログラム上において指定された特定制御用のワークエリア２２１の記憶エリアから主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに情報を復帰させればよいため、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報がノイズなどの原因で書き換えられてしまった場合であっても主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに情報を復帰させることが可能となる。

【１１１５】

また、フラグレジスタの情報を主側ＲＡＭ６５に退避させる処理が特定制御に対応する処理にて実行される構成に代えて、非特定制御に対応する処理にて実行される構成としてもよい。また、主側ＲＡＭ６５に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフ

ラグレジスタに復帰させる処理が特定制御に対応する処理にて実行される構成に代えて、非特定制御に対応する処理にて実行される構成としてもよい。

【１１１６】

＜第２９の実施形態＞

本実施形態では管理用処理の処理構成が上記第１５の実施形態と相違している。以下、上記第１５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【１１１７】

図９９は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理用処理を示すフローチャートである。なお、管理用処理におけるステップＳ６５０１～ステップＳ６５１９の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１１１８】

まずタイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う（ステップＳ６５０１）。これにより、非特定制御に対応する処理である後述する管理実行処理の途中の状況において、特定制御に対応する処理であるタイマ割込み処理（図６９）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【１１１９】

その後、「ＰＵＳＨ　ＨＬ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタ（すなわちＨレジスタ及びＬレジスタ）の情報を特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリア及び当該記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアのそれぞれに退避させる（ステップＳ６５０２）。主側ＣＰＵ６３のＨレジスタ及びＬレジスタはそれぞれ８ビット（１バイト）の情報量となっているため、Ｈレジスタ及びＬレジスタの情報はアドレスが連続する２個の記憶エリアに対して個別に退避される。なお、上記プッシュ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個後の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１２０】

その後、「ＰＵＳＨ　ＡＦ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタの情報及びフラグレジスタの情報のそれぞれを特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリア及び当該記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアのそれぞれに退避させる（ステップＳ６５０３）。主側ＣＰＵ６３のＡレジスタ及びフラグレジスタはそれぞれ８ビット（１バイト）の情報量となっているため、Ａレジスタの情報及びフラグレジスタの情報はアドレスが連続する２個の記憶エリアに対して個別に退避される。なお、上記プッシュ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個後の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１２１】

その後、「ＰＯＰ　ＨＬ」として、ポップ命令により、ステップＳ６５０３にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＡレジスタの情報及びフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに上書きする（ステップＳ６５０４）。この場合、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＡレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のＨレジスタに上書きされ、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のＬレジスタに上書きされる。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１２２】

その後、「ＬＤ　Ａ，Ｌ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＬレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＡレジスタに上書きする（ステップＳ６５０５）。Ｌレジスタにはステップ６５０４にて主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が上書きされているた

め、そのＬレジスタの情報をＡレジスタに上書きすることで当該Ａレジスタにフラグレジスタの情報が上書きされた状態となる。そして、「ＬＤ　（＿ＦＧＢＵＦ），Ａ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタの情報を特定制御用のワークエリア２２１に設定されたＦＧバッファに退避させる（ステップＳ６５０６）。ＡレジスタにはステップＳ６５０５にてフラグレジスタの情報が上書きされているため、ステップＳ６５０６が実行されることによりフラグレジスタの情報が特定制御用のワークエリア２２１に退避された状態となる。

【１１２３】

その後、「ＰＵＳＨ　ＨＬ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタ（すなわちＨレジスタ及びＬレジスタ）の情報を特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリア及び当該記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアのそれぞれに退避させる（ステップＳ６５０７）。この場合、ＨＬレジスタにはステップＳ６５０４にてＡレジスタの情報及びフラグレジスタの情報が上書きされているため、ステップＳ６５０７ではそのＡレジスタの情報及びフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたことになる。なお、上記プッシュ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個後の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１２４】

その後、「ＰＯＰ　ＡＦ」として、ポップ命令により、ステップＳ６５０７にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＨレジスタの情報及びＬレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＡレジスタ及びフラグレジスタに上書きする（ステップＳ６５０８）。この場合、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＨレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のＡレジスタに上書きされ、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＬレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに上書きされる。特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＨレジスタの情報はステップＳ６５０３の時点におけるＡレジスタの情報であり、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＬレジスタの情報はステップＳ６５０３の時点におけるフラグレジスタの情報である。したがって、ステップＳ６５０８の処理が実行されることにより、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタ及びフラグレジスタの状態がステップＳ６５０３の時点における状態に復帰することとなる。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１２５】

その後、「ＰＯＰ　ＨＬ」として、ポップ命令により、ステップＳ６５０２にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＨＬレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに復帰させる（ステップＳ６５０９）。これにより、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタの状態がステップＳ６５０２の時点における状態に復帰することとなる。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１２６】

その後、非特定制御用のプログラムに設定されている管理実行処理に対応するサブルーチンのプログラムを読み出すことにより、当該管理実行処理を開始する（ステップＳ６５１０）。この場合、当該管理実行処理の実行後における管理用処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、管理実行処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理用処理のプログラムに復帰する。

【１１２７】

なお、管理実行処理ではチェック処理が開始される前に主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタ

、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報が非特定制御用のワークエリア２２３に退避されるとともに、管理実行処理においてチェック処理が終了した後にその非特定制御用のワークエリア２２３に退避された各情報が主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタに復帰される。これにより、チェック処理の前後で主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの状態を同一の状態とすることが可能となる。

【１１２８】

但し、これに限定されることはなく管理実行処理の処理内容が上記第１７の実施形態における管理実行処理（図７８）と同一である構成としてもよく、上記第１８の実施形態における管理実行処理（図７９）と同一である構成としてもよく、上記第１９の実施形態における管理実行処理（図８０）と同一である構成としてもよい。

【１１２９】

管理実行処理の実行後において管理用処理のプログラムに復帰した場合、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を管理実行処理が実行される前の状態に復帰させるための処理を実行する。詳細にはまず「ＰＵＳＨ　ＨＬ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させる（ステップＳ６５１１）。当該プッシュ命令の実行後には主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は、特定制御用のスタックエリア２２２においてＨＬレジスタの情報が退避された記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアに対応する情報となる。

【１１３０】

その後、「ＰＵＳＨ　ＡＦ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタの情報及びフラグレジスタの情報のそれぞれを特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリア及び当該記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアのそれぞれに退避させる（ステップＳ６５１２）。主側ＣＰＵ６３のＡレジスタ及びフラグレジスタはそれぞれ８ビット（１バイト）の情報量となっているため、Ａレジスタの情報及びフラグレジスタの情報はアドレスが連続する２個の記憶エリアに対して個別に退避される。なお、上記プッシュ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個後の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１３１】

その後、「ＰＯＰ　ＨＬ」として、ポップ命令により、ステップＳ６５１２にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＡレジスタの情報及びフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに上書きする（ステップＳ６５１３）。この場合、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＡレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のＨレジスタに上書きされ、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のＬレジスタに上書きされる。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１３２】

その後、「ＬＤ　Ａ，（＿ＦＧＢＵＦ）」として、ロード命令により、ステップＳ６５０６にて特定制御用のワークエリア２２１におけるＦＧバッファに退避させたステップＳ６５０３の時点におけるフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＡレジスタに上書きする（ステップＳ６５１４）。そして、「ＬＤ　Ｌ，Ａ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＬレジスタに上書きする（ステップＳ６５１５）。Ａレジスタにはステップ６５１４にてステップＳ６５０３の時点における主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が復帰されているため、そのＡレジスタの情報をＬレジスタに上書きすることで当該Ｌレジスタにステップ６５０３の時点におけるフラグレジスタの情報が上書きされた状態となる。

【１１３３】

その後、「ＰＵＳＨ　ＨＬ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタ（すなわちＨレジスタ及びＬレジスタ）の情報を特定制御用のスタックエリア２２２における主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの情報に対応する記憶エリア及び当該記憶エリアに対して次の書き込み順序の記憶エリアのそれぞれに退避させる（ステップＳ６５１６）。この場合、ＨレジスタにはステップＳ６５１３にて当該ステップＳ６５１２の時点におけるＡレジスタの情報が上書きされているため、ステップＳ６５１６ではそのＡレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたことになる。また、Ｌレジスタにはステップ６５１５にてステップＳ６５０３の時点におけるフラグレジスタの情報が上書きされているため、ステップＳ６５１６ではそのフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたことになる。

【１１３４】

その後、「ＰＯＰ　ＡＦ」として、ポップ命令により、ステップＳ６５１６にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＨレジスタの情報及びＬレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＡレジスタ及びフラグレジスタに上書きする（ステップＳ６５１７）。この場合、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＨレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のＡレジスタに上書きされ、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＬレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに上書きされる。特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＨレジスタの情報はステップＳ６５１２の時点におけるＡレジスタの情報であり、特定制御用のスタックエリア２２２に退避されたＬレジスタの情報はステップＳ６５０３の時点におけるフラグレジスタの情報である。したがって、ステップＳ６５１７の処理が実行されることにより、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタの状態がステップＳ６５１２の状態に復帰するとともに、フラグレジスタの状態がステップＳ６５０３の時点における状態に復帰することとなる。

【１１３５】

ちなみに、管理実行処理においては主側ＣＰＵ６３のＡレジスタは利用されない。したがって、ステップＳ６５１２の時点におけるＡレジスタの状態はステップＳ６５０８の時点におけるＡレジスタの状態であり、ステップＳ６５０８の時点におけるＡレジスタの状態はステップＳ６５０３の時点におけるＡレジスタの状態である。したがって、ステップＳ６５１７の処理が実行されることにより、主側ＣＰＵ６３のＡレジスタ及びフラグレジスタの状態がステップＳ６５０３の時点における状態に復帰することとなる。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１３６】

その後、「ＰＯＰ　ＨＬ」として、ポップ命令により、ステップＳ６５１１にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたＨＬレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに復帰させる（ステップＳ６５１８）。これにより、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタの状態がステップＳ６５１１の時点における状態に復帰することとなる。なお、上記ポップ命令が実行された場合、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報は特定制御用のスタックエリア２２２における書き込み順序が２個前の記憶エリアに対応する情報に更新される。

【１１３７】

その後、タイマ割込み処理（図６９）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるために割込み許可の設定を行う（ステップＳ６５１９）。これにより、タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【１１３８】

上記構成によれば、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタから当該主側ＣＰＵ６３の他のレジスタに当該フラグレジスタの情報を直接上書きする処理を実行することなく、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のワークエリア２２１に退避させることが可能となる。

【１１３９】
なお、ステップＳ６５０５～ステップＳ６５０８の処理を実行することなく、その代わりに、ステップＳ６５０４の処理を実行した後に、「ＬＤ　（＿ＦＧＢＵＦ），Ｌ」として、ロード命令により、フラグレジスタの情報が上書きされたＬレジスタの情報をＦＧバッファに退避させることにより、フラグレジスタの情報を特定制御用のワークエリア２２１に退避させる構成としてもよい。
【１１４０】
また、ステップＳステップＳ６５１４及びステップＳ６５１５の処理を実行することなく、その代わりに、ステップＳ６５１３の処理を実行した後に、「ＬＤ　Ｌ，（＿ＦＧＢＵＦ）」として、ロード命令により、特定制御用のワークエリア２２１に退避されたフラグレジスタの情報をＬレジスタに上書きする構成としてもよい。
【１１４１】
また、フラグレジスタの情報を主側ＲＡＭ６５に退避させる処理が特定制御に対応する処理にて実行される構成に代えて、非特定制御に対応する処理にて実行される構成としてもよい。また、主側ＲＡＭ６５に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる処理が特定制御に対応する処理にて実行される構成に代えて、非特定制御に対応する処理にて実行される構成としてもよい。
【１１４２】
＜第３０の実施形態＞
本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行される処理構成が上記第１５の実施形態と相違している。以下、上記第１５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【１１４３】
図１００は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳ６６０１～ステップＳ６６２１の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【１１４４】
まず電源投入ウエイト処理を実行する（ステップＳ６６０１）。当該電源投入ウエイト処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。かかる電源投入ウエイト処理の実行期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。その後、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する（ステップＳ６６０２）。
【１１４５】
その後、主側ＲＡＭ６５における特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ６６０３）。停電フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳ６６０３：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてチェックサムを算出する（ステップＳ６６０４）。
【１１４６】
チェックサムの算出方法は任意であるが、例えばチェックサムの演算対象となる記憶エリアの全ての数値を加算する算出方法が挙げられる。このチェックサムの算出方法は後述する停電時処理におけるチェックサムの算出方法と同一の算出方法となっている。後述する停電時処理において算出されたチェックサムは特定制御用のワークエリア２２１に記憶されることとなるが、このチェックサムが記憶される特定制御用のワークエリア２２１の記憶エリアはチェックサムの算出に際して演算対象となる記憶エリアから除外される。
【１１４７】
つまり、チェックサムの算出に際しては特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２において一部の記憶エリアが演算対象となる。この演算対象となる記憶エリアは、ＭＰＵ６２への動作電力の供給が停止される場合における停電時処理

においてチェックサムを算出してからＭＰＵ６２への動作電力の供給が再開されてステップＳ６６０４の処理が実行されるまで、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２へのバックアップ電力といった電力供給が継続された場合には基本的には情報の書き換えが行われない記憶エリアである。したがって、ＭＰＵ６２への動作電力の供給が停止されてから当該ＭＰＵ６２への動作電力の供給が再開されるまでに特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の情報が変更されていない場合には、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムはＭＰＵ６２への動作電力の供給が停止される直前と同一である。なお、このチェックサムの算出に際して演算対象となる記憶エリアには、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（具体的には設定値カウンタ）が含まれている。

【１１４８】

その後、ＭＰＵ６２への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理において算出されて特定制御用のワークエリア２２１に保存された特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１から読み出すとともに、その読み出したチェックサムを、ステップＳ６６０４にて算出したチェックサムと比較する（ステップＳ６６０５）。そして、それらチェックサムが一致しているか否かを判定する（ステップＳ６６０６）。

【１１４９】

ここで、図１０１のフローチャートを参照しながら主側ＣＰＵ６３にて実行される停電情報記憶処理について説明する。なお、停電情報記憶処理は後述するタイマ割込み処理（図１０３）におけるステップＳ６８０１にて実行される。

【１１５０】

停電情報記憶処理では、まず特定制御用のワークエリア２２１に設けられた繰り返しカウンタに停電信号用の繰り返し回数情報である「１０」の情報をセットするとともに（ステップＳ６７０１）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電検知カウンタを「０」クリアする（ステップＳ６７０２）。

【１１５１】

その後、ＭＰＵ６２の入力ポートに受信している停電信号の情報を読み込む処理を実行する（ステップＳ６７０３）。この場合、電源遮断が発生していないことに対応した停電信号（ＬＯＷレベルの停電信号）を受信している場合には入力ポートに非電断情報として「０」の情報が格納されており、電源遮断が発生していることに対応した停電信号（ＨＩレベルの停電信号）を受信している場合には入力ポートに電断発生情報として「１」の情報が格納されている。ステップＳ６７０３では、かかる停電信号の情報を主側ＣＰＵ６３のレジスタに読み込む処理を実行する。

【１１５２】

ステップＳ６７０３にて読み込んだ停電信号の情報が停電の発生（電断の発生）に対応したものである場合（ステップＳ６７０４：ＹＥＳ）、停電検知カウンタの数値情報を１加算する（ステップＳ６７０５）。ステップＳ６７０４にて否定判定をした場合又はステップＳ６７０５の処理を実行した場合、繰り返しカウンタの数値情報を１減算する（ステップＳ６７０６）。そして、その１減算後における繰り返しカウンタの数値情報が「０」であるか否かを判定する（ステップＳ６７０７）。ステップＳ６７０７にて否定判定をした場合には、ステップＳ６７０３に戻りステップＳ６７０３～ステップＳ６７０６の処理を繰り返す。一方、ステップＳ６７０７にて肯定判定をした場合には、ステップＳ６７０８に進む。

【１１５３】

ステップＳ６７０８では、停電検知カウンタの現状の数値情報が、停電発生に対応した契機基準回数以上となっているか否かを判定する。契機基準回数未満である場合には、そのまま本停電情報記憶処理を終了する。一方、契機基準回数以上である場合には、ステップＳ６７０９～ステップＳ６７１２の停電時処理を実行する。

【１１５４】
具体的には、まず特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」をセットする（ステップＳ６７０９）。これにより、正常に停電時処理が実行されるとともに主側ＲＡＭ６５における情報の記憶保持が正常に行われた場合には、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再度開始された場合に特定制御用のワークエリア２２１の停電フラグに「１」がセットされていることとなる。
【１１５５】
その後、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてチェックサムを算出する（ステップＳ６７１０）。この場合、チェックサムの算出に際して演算対象となる特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２における記憶エリアは、メイン処理（図１００）のステップＳ６６０４にてチェックサムの演算対象となる特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２における記憶エリアと同一である。また、このチェックサムの算出に際して演算対象となる記憶エリアには、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（具体的には設定値カウンタ）が含まれている。そして、その算出したチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１における当該チェックサムを記憶するための記憶エリアであってチェックサムの算出対象から除外されている記憶エリアに記憶させる。
【１１５６】
その後、主側ＣＰＵ６３のレジスタにおける出力ポートの情報を全て「０」にセットするとともに（ステップＳ６７１１）、主側ＲＡＭ６５へのアクセスを禁止する（ステップＳ６７１２）。そして、電源が完全に遮断して処理が実行できなくなるまで無限ループを継続する。
【１１５７】
なお、タイマ割込み処理の最初の処理として停電情報記憶処理を実行するようにしたことにより、復電後にタイマ割込み処理の途中から実行する必要がなくなる。これにより、停電発生時に実行していた処理のアドレスをスタック情報として主側ＲＡＭ６５に記憶する必要がなくなり、停電発生時の処理の処理負荷を軽減することが可能となる。
【１１５８】
メイン処理（図１００）の説明に戻り、ステップＳ６６０３又はステップＳ６６０６にて否定判定をした場合、非設定更新時のクリア処理を実行する（ステップＳ６６０７）。非設定更新時のクリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（具体的には設定値カウンタ）を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「０」クリアされるため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示されていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。また、非設定更新時のクリア処理では特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。また、非設定更新時のクリア処理では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を実行する。
【１１５９】
一方、非設定更新時のクリア処理では非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアしない。これにより、停電時処理が正常に実行されなかったことで停電フラグに「１」がセットされていなかったとしても非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされな

いようにすることが可能となる。また、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムに関して異常が発生したとしても非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされないようにすることが可能となる。

【１１６０】

ステップＳ６６０３又はステップＳ６６０６にて否定判定をした場合においてステップＳ６６０７にて非設定更新時のクリア処理を実行した後は、特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値を確認することでパチンコ機１０の設定値が正常か否かを判定する（ステップＳ６６０８）。具体的には、設定値カウンタに設定された設定値が「設定１」～「設定６」のいずれかである場合に正常であると判定し、「０」又は７以上である場合に異常であると判定する。設定値が異常である場合（ステップＳ６６０８：ＮＯ）、後述する設定値を新たに設定するための処理（ステップＳ６６１９～ステップＳ６６２１）を実行する。これにより、ステップＳ６６０３又はステップＳ６６０６にて否定判定をして非設定更新時のクリア処理（ステップＳ６６０７）が実行される場合であっても設定値が正常であるか否かを監視することが可能となるとともに、設定値が異常である場合には設定値の再設定を行うようにすることが可能となる。

【１１６１】

設定値が正常である場合（ステップＳ６６０８：ＹＥＳ）、電源投入設定処理を実行する（ステップＳ６６０９）。電源投入設定処理では、停電フラグの初期化といった特定制御用のワークエリア２２１の所定のエリアを初期値に設定するとともに、現状の遊技状態に対応したコマンドを音声発光制御装置８１に送信する。

【１１６２】

なお、主側ＣＰＵ６３はタイマ割込み処理を定期的に実行する構成であるが、メイン処理が開始された段階においてはタイマ割込み処理の発生が禁止されている。このタイマ割込み処理の発生が禁止された状態はステップＳ６６０９の処理が完了してステップＳ６６１０の処理が実行される前のタイミングで解除され、タイマ割込み処理の実行が許可される。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合にはステップＳ６６０９の電源投入設定処理が終了して、ステップＳ６６１０の処理が開始される前の段階までタイマ割込み処理は実行されない。よって、当該状況となるまでは主側ＣＰＵ６３にて遊技を進行させるための処理が開始されないこととなる。

【１１６３】

その後、ステップＳ６６１０～ステップＳ６６１３の残余処理に進む。つまり、主側ＣＰＵ６３はタイマ割込み処理を定期的に実行する構成であるが、１のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は各タイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップＳ６６１０～ステップＳ６６１３の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップＳ６６１０～ステップＳ６６１３の残余処理は非定期的に実行される非定期処理であると言える。ステップＳ６６１０～ステップＳ６６１３では、上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のステップＳ１１３～ステップＳ１１６と同一の処理を実行する。

【１１６４】

上記のとおり本実施形態では主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合において、特定制御用のワークエリア２２１の停電フラグに「１」がセットされていない場合、又はチェックサムが一致しない場合、非設定更新時のクリア処理を実行した後に、設定値が正常であれば（ステップＳ６６０８：ＹＥＳ）、遊技を進行させるための処理に移行する。これにより、停電時処理が正常に実行されなかったことで停電フラグに「１」がセットされていなかったとしても、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された後に再度の電源のＯＮ・ＯＦＦ操作をする必要がない。また、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムに関して異常が発生したとしても、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された後に再度の電源のＯＮ・ＯＦ

Ｆ操作をする必要がない。
【１１６５】
　ステップＳ６６０３及びステップＳ６６０６の両方にて肯定判定をした場合、特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値を確認することでパチンコ機１０の設定値が正常か否かを判定する（ステップＳ６６１４）。具体的には、設定値カウンタに設定された設定値が「設定１」～「設定６」のいずれかである場合に正常であると判定し、「０」又は７以上である場合に異常であると判定する。設定値が異常である場合（ステップＳ６６１４：ＮＯ）、後述する設定値を新たに設定するための処理（ステップＳ６６１９～ステップＳ６６２１）を実行する。
【１１６６】
　設定値が正常である場合（ステップＳ６６１４：ＹＥＳ）、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定し（ステップＳ６６１５）、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定し（ステップＳ６６１６）、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるか否かを判定し（ステップＳ６６１７）、外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態であるか否かを判定する（ステップＳ６６１８）。
【１１６７】
　本実施形態では内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態となっているか否かを検知するための前扉開放センサ９５が主側ＣＰＵ６３と電気的に接続されており、前扉開放センサ９５の検知結果は主側ＣＰＵ６３に入力される。この場合、内枠１３に対して前扉枠１４が閉鎖状態である場合に前扉開放センサ９５は閉鎖検知信号を主側ＣＰＵ６３に送信し、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態である場合に前扉開放センサ９５は開放検知信号を主側ＣＰＵ６３に送信する。主側ＣＰＵ６３は、前扉開放センサ９５から閉鎖検知信号を受信している場合に前扉枠１４が閉鎖状態であると特定し、前扉開放センサ９５から開放検知信号を受信している場合に前扉枠１４が開放状態であると特定する。
【１１６８】
　また、本実施形態では外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態となっているか否かを検知するための本体開放センサ９６が主側ＣＰＵ６３と電気的に接続されており、本体開放センサ９６の検知結果は主側ＣＰＵ６３に入力される。この場合、外枠１１に対して遊技機本体１２が閉鎖状態である場合に本体開放センサ９６は閉鎖検知信号を主側ＣＰＵ６３に送信し、外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態である場合に本体開放センサ９６は開放検知信号を主側ＣＰＵ６３に送信する。主側ＣＰＵ６３は、本体開放センサ９６から閉鎖検知信号を受信している場合に遊技機本体１２が閉鎖状態であると特定し、本体開放センサ９６から開放検知信号を受信している場合に遊技機本体１２が開放状態であると特定する。
【１１６９】
　リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳ６６１５：ＮＯ）、ステップＳ６６０９にて電源投入設定処理を実行した後に、ステップＳ６６１０～ステップＳ６６１３の残余処理を繰り返す。つまり、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合には特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２のクリア処理を実行することなく、遊技の進行を制御するための処理に移行する。
【１１７０】
　リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合であって（ステップＳ６６１５：ＹＥＳ）、ステップＳ６６１６～ステップＳ６６１８のいずれかにて否定判定をした場合、非設定更新時のクリア処理を実行した後に（ステップＳ６６０７）、設定値が正常であることを条件として（ステップＳ６６０８：ＹＥＳ）、ステップＳ６６０９以降における遊技の進行を制御するための処理に移行する。非設定更新時のクリア処理の処理内容は既に説明したとおりである。
【１１７１】
　リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合であって（ステップＳ６６１５：ＹＥＳ）、ステップＳ６６１６～ステップＳ６６１８の全てで肯定判定をした場合、設定値を

更新するための処理を実行する。また、ステップＳ６６０８又はステップＳ６６１４にて設定値が異常であると判定した場合にも、設定値を更新するための処理を実行する。

【１１７２】

具体的には、まず設定値のコピー処理を実行する（ステップＳ６６１９）。当該コピー処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定値を特定するために利用される設定値カウンタの情報を、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたコピー領域に記憶させる。これにより、この後に実行される設定更新時のクリア処理（ステップＳ６６２０）にて設定値カウンタの情報が「０」クリアされたとしても、当該設定値更新時のクリア処理が実行される前における本パチンコ機１０の設定値（すなわちパチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前における当該パチンコ機１０の設定値）を把握することが可能となる。

【１１７３】

その後、設定更新時のクリア処理を実行する（ステップＳ６６２０）。設定更新時のクリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１における当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリア及び上記コピー領域を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示されていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。また、設定更新時のクリア処理では特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。また、設定更新時のクリア処理ではパチンコ機１０の設定値を特定するために利用される設定値カウンタを「０」クリアする。また、設定更新時のクリア処理では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を実行する。

【１１７４】

その一方、設定更新時のクリア処理では当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアを「０」クリアしないため、設定値更新処理（ステップＳ６６２１）が実行されたとしても当否抽選モードをパチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前におけるモードに維持させることが可能となる。また、設定更新時のクリア処理ではコピー領域を「０」クリアしないため、設定更新時のクリア処理が実行される前に設定されていた設定値をその後に特定することが可能となる。なお、上記構成に限定されることはなく設定更新時のクリア処理ではパチンコ機１０の設定値を特定するために利用される設定値カウンタを「０」クリアしない構成としてもよく、設定更新時のクリア処理では当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアを「０」クリアする構成としてもよい。

【１１７５】

設定更新時のクリア処理では非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアしない。これにより、パチンコ機１０の設定値を変更することが可能な設定値更新処理が実行されたとしても、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされないようにすることが可能となる。

【１１７６】

その後、ステップＳ６６２１にて設定値更新処理を実行する。設定値更新処理の処理内容は上記第２２の実施形態における設定値更新処理（図８５）と同一である。設定値更新処理を実行した後は、ステップＳ６６０９以降の遊技の進行を制御するための処理に移行する。

【１１７７】

上記構成によれば設定値が異常であった場合、遊技ホールの管理者による特別な操作を要することなく設定値更新処理が開始される。そして、設定値更新処理が完了した場合には遊技の進行を制御するための処理に移行する。これにより、正常な設定値に設定された

状況において遊技が行われるようにすることが可能となる。その一方、設定値更新処理を完了させるためには設定キー挿入部６８ａに対する設定キーによるＯＦＦ操作などを要するため、遊技ホールの管理者以外の者により設定値が勝手に設定されて遊技が開始されてしまうという事象の発生を阻止することが可能となる。

【１１７８】

次に、主側ＣＰＵ６３にて各種処理を正常に行うことができない状況となった場合に遊技の進行を強制的に停止させるための構成について説明する。図１０２（ａ）はＭＰＵ６２の構成を説明するためのブロック図である。

【１１７９】

図１０２（ａ）に示すようにＭＰＵ６２には主側ＣＰＵ６３、主側ＲＯＭ６４及び主側ＲＡＭ６５が設けられているとともに、リセット信号出力部２５１及びプログラム監視部２５２が設けられている。リセット信号出力部２５１は主側ＣＰＵ６３にリセット信号を出力する機能を有している。具体的には、リセット信号出力部２５１は、電源・発射制御装置７８から動作電力が供給されている場合であって出力不可条件が成立していない場合にＨＩレベルの信号としてリセット信号を主側ＣＰＵ６３に出力し、電源・発射制御装置７８から動作電力が供給されていない場合又は動作電力が供給されている場合であっても出力不可条件が成立している場合にはリセット信号を主側ＣＰＵ６３に出力しない。主側ＣＰＵ６３は電源・発射制御装置７８から動作電力が供給されている場合であってリセット信号出力部２５１からリセット信号を受信している場合に各種処理を実行し、電源・発射制御装置７８から動作電力が供給されている場合であってもリセット信号出力部２５１からリセット信号を受信していない場合には各種処理を実行しない。また、主側ＣＰＵ６３は電源・発射制御装置７８から動作電力が供給されている場合においてリセット信号出力部２５１からリセット信号を受信していない状況からリセット信号を受信している状況に切り換わった場合にメイン処理（図１００）を開始する。

【１１８０】

プログラム監視部２５２は主側ＣＰＵ６３にて各種処理を正常に行うことができる状況であるか否かを監視する機能を有している。具体的には、プログラム監視部２５２は、主側ＣＰＵ６３に設けられたプログラムカウンタの値が異常な値であるか否かを監視する。プログラムカウンタは主側ＣＰＵ６３において実行すべき命令が格納されているアドレスを記憶するためのものである。プログラムカウンタは取り得る値が定められており、プログラム監視部２５２はプログラムカウンタの値が取り得る値以外の値となっているか否かを監視する。また、プログラム監視部２５２は、ロード命令により情報を特定制御用のワークエリア２２１に書き込む場合にその書き込み先のエリアとして指定されたアドレスが異常なアドレスか否かを監視する。なお、プログラム監視部２５２は、ロード命令により情報を特定制御用のワークエリア２２１から読み出す場合にその読み出し対象のエリアとして指定されたアドレスが異常なアドレスか否かを監視する構成としてもよい。

【１１８１】

プログラム監視部２５２は、プログラムカウンタの値が異常な値であると判断した場合、又はロード命令により情報を書き込む場合に指定されたアドレスが異常なアドレスであると判断した場合、リセット信号出力部２５１に監視異常信号を出力する。リセット信号出力部２５１はプログラム監視部２５２から監視異常信号を受信した場合には電源・発射制御装置７８から動作電力が供給されている場合であってもリセット信号の出力を一旦停止させ、停止継続期間に亘ってリセット信号の出力を停止させた後にリセット信号の出力を再開させる。停止継続期間はリセット信号の出力が停止されていることを主側ＣＰＵ６３にて特定するのに十分な期間となっている。これにより、プログラムカウンタの値が異常な値となった場合、又はロード命令により情報を書き込む場合に指定されたアドレスが異常なアドレスとなった場合には、リセット信号のＯＦＦ・ＯＮを通じて主側ＣＰＵ６３にてメイン処理が実行されることとなる。

【１１８２】

図１０２（ｂ）はリセット信号出力部２５１によるリセット信号の出力の様子を示すタ

イムチャートである。図１０２（ｂ１）は電源・発射制御装置７８から動作電力が供給されている期間を示し、図１０２（ｂ２）はリセット信号出力部２５１からリセット信号が出力されている期間を示し、図１０２（ｂ３）はプログラム監視部２５２から監視異常信号が出力されるタイミングを示す。

【１１８３】

まずプログラム監視部２５２から監視異常信号が出力されない場合について説明すると、ｔ１のタイミングで図１０２（ｂ１）に示すように電源・発射制御装置７８からＭＰＵ６２への動作電力の供給が開始されることで、ｔ２のタイミングで図１０２（ｂ）に示すようにリセット信号出力部２５１からのリセット信号の出力が開始される。その後、ｔ３のタイミングで図１０２（ｂ１）に示すように電源・発射制御装置７８からＭＰＵ６２への動作電力の供給が停止されることで、ｔ４のタイミングで図１０２（ｂ２）に示すようにリセット信号出力部２５１からのリセット信号の出力が停止される。

【１１８４】

次にプログラム監視部２５２から監視異常信号が出力される場合について説明すると、ｔ５のタイミングで図１０２（ｂ１）に示すように電源・発射制御装置７８からＭＰＵ６２への動作電力の供給が開始されることで、ｔ６のタイミングで図１０２（ｂ）に示すようにリセット信号出力部２５１からのリセット信号の出力が開始される。その後、ｔ７のタイミングで、プログラムカウンタの値が異常な値となる又はロード命令により情報を書き込む場合に指定されたアドレスが異常なアドレスとなることにより、図１０２（ｂ３）に示すようにプログラム監視部２５２からリセット信号出力部２５１に監視異常信号が出力される。これにより、図１０２（ｂ２）に示すようにリセット信号出力部２５１からのリセット信号の出力がｔ７のタイミングで一旦停止され、その後のｔ８のタイミングで再開される。

【１１８５】

この場合、主側ＣＰＵ６３はｔ７のタイミングで各種処理の実行を停止し、リセット信号の立ち上がりを確認したタイミングであるｔ８のタイミングでメイン処理（図１００）を開始する。但し、主側ＣＰＵ６３の各種処理の実行の停止に際して停電時処理は実行されていないため、特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグに「１」がセットされていない状況でメイン処理（図１００）が開始されるとともに、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムが保存されることなくメイン処理（図１００）が開始される。したがって、メイン処理（図１００）ではステップＳ６６０３又はステップＳ６６０６にて否定判定をすることとなり、非設定更新時のクリア処理（ステップＳ６６０７）を実行する。これにより、プログラムカウンタの値が異常な値となる又はロード命令により情報を書き込む場合に指定されたアドレスが異常なアドレスとなることによりプログラム監視部２５２から監視異常信号が出力された場合には、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２のうち所定の記憶エリアが「０」クリアされることとなる非設定更新時のクリア処理が実行されるようにすることが可能となる。

【１１８６】

但し、非設定更新時のクリア処理では非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアしない。これにより、プログラムカウンタの値が異常な値となる又はロード命令により情報を書き込む場合に指定されたアドレスが異常なアドレスとなることによりプログラム監視部２５２から監視異常信号が出力されたとしても、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされないようにすることが可能となる。

【１１８７】

図１０２（ｂ）の説明に戻り、その後、ｔ９のタイミングで図１０２（ｂ１）に示すように電源・発射制御装置７８からＭＰＵ６２への動作電力の供給が停止されることで、ｔ１０のタイミングで図１０２（ｂ２）に示すようにリセット信号出力部２５１からのリセット信号の出力が停止される。

【１１８８】
次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるタイマ割込み処理について、図１０３のフローチャートを参照しながら説明する。タイマ割込み処理は、メイン処理（図１００）においてステップＳ６６１０～ステップＳ６６１３の処理が実行されている状況で定期的（例えば４ミリ秒周期）に実行される。なお、タイマ割込み処理に対応するプログラムは特定制御用のプログラムに設定されている。
【１１８９】
ステップＳ６８０１～ステップＳ６８１９では上記第２２の実施形態におけるタイマ割込み処理（図８６）のステップＳ５２０１～ステップＳ５２１９と同一の処理を実行する。これらの処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。その後、設定監視処理を実行する（ステップＳ６８２０）。図１０４は設定監視処理を示すフローチャートである。
【１１９０】
特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値を確認することでパチンコ機１０の設定値が正常か否かを判定する（ステップＳ６９０１）。具体的には、設定値カウンタに設定された設定値が「設定１」～「設定６」のいずれかである場合に正常であると判定し、「０」又は７以上である場合に異常であると判定する。
【１１９１】
設定値が異常である場合（ステップＳ６９０１：ＮＯ）、まず設定値のコピー処理を実行する（ステップＳ６９０２）。当該コピー処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定値を特定するために利用される設定値カウンタの情報を、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたコピー領域に記憶させる。これにより、この後に実行される設定値更新処理の実行前における本パチンコ機１０の設定値を把握することが可能となる。
【１１９２】
その後、設定値の異常が発生したことを示す異常コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ６９０３）。音声発光制御装置８１は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を設定値異常に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定値の異常を検出しました。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定値の異常を検出しました。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、これに限定されることはなく報知終了操作が遊技ホールの管理者により行われた場合に上記報知が終了される構成としてもよい。報知終了操作としては例えば更新ボタン６８ｂが押圧操作されることとしてもよく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されることとしてもよい。上記報知を確認することにより遊技ホールの管理者は設定値異常が発生したことを把握することが可能となる。
【１１９３】
その後、設定値更新処理を実行する（ステップＳ６９０４）。つまり、タイマ割込み処理（図１０３）が実行される度に設定値に異常が発生しているか否かが監視され、設定値異常の発生を特定した場合にはパチンコ機１０の設定値の再設定を行うために設定値更新処理を実行する。設定値更新処理の処理内容は上記第２２の実施形態における設定値更新処理（図８５）と同一である。したがって、更新ボタン６８ｂが１回押圧操作される度に設定値が１段階ずつ更新され、アウト口検知センサ４８ａにて遊技球を検知することで選択中の設定値が確定される。更新途中の設定値及び確定した設定値は第３報知用表示装置６９ｃにて表示される。その後、設定キー挿入部６８ａのＯＮ状態からＯＦＦ状態への切り換わりが発生した場合に設定値更新処理の終了条件が成立したと判定する。設定値更新処理を実行した後は、タイマ割込み処理（図１０３）に復帰する。
【１１９４】
ここで、設定値更新処理では、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態となっているだけで

は終了条件が成立したと判定されることはなく、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わった場合に終了条件が成立したと判定する。設定監視処理にて設定値更新処理が実行される場合、当該設定値更新処理の開始時には設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態となっているため、当該設定値更新処理の終了条件を成立させるためには設定キー挿入部６８ａに設定キーを挿入して一旦ＯＮ操作を行った後にＯＦＦ操作を行う必要がある。これにより、遊技ホールの管理者による正規の操作が行われていないにも関わらず設定値更新処理が終了してしまわないようにすることが可能となる。

【１１９５】

設定キー挿入部６８ａのＯＮ状態からＯＦＦ状態への切り換わりが発生して設定値更新処理の終了条件が成立した場合には、設定値更新処理（図８５）におけるステップＳ５１１１を実行することで、特定制御用のワークエリア２２１におけるコピー領域に記憶された設定値と、特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタに今回設定された設定値とが同一であるか否かを比較する。つまり、設定値更新処理（ステップＳ６９０４）が実行される前に設定されていた設定値と、今回の設定値更新処理にて設定された設定値とが同一であるか否かを判定する。両設定値が同一である場合（ステップＳ５１１２：ＮＯ）、非変更時の報知用処理（ステップＳ５１１３）を実行することで、既に説明した設定維持報知が行われるようにする。一方、両設定値が異なる場合（ステップＳ５１１２：ＹＥＳ）、変更時の報知用処理（ステップＳ５１１４）を実行することで、既に説明した設定変更報知が行われるようにする。

【１１９６】

設定値異常が発生している場合には設定値更新処理が実行される構成において、当該設定値更新処理が実行される前に設定されていた設定値と、当該設定値更新処理にて設定された設定値とが同一である場合には設定維持報知が行われる。これにより、設定値異常により設定値更新処理が実行されたとしてもその前の状況において設定されていた設定値を再設定することで設定維持報知が行われることとなり、設定値異常による設定値更新処理が実行されたとしても設定値が変化していないことを遊技者に明示することが可能となる。ちなみに、遊技ホールにおいては設置された各パチンコ機１０の設定値を記録するのが一般的であるため、その記録された設定値となるように設定値異常による設定値更新処理を実行することが可能である。

【１１９７】

タイマ割込み処理（図１０３）の説明に戻り、ステップＳ６８２０にて設定監視処理を実行した後は、ステップＳ６８２１にて管理用処理を実行する。管理用処理の実行に際しては、特定制御用のプログラムに設定されている管理用処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては管理用処理の実行後におけるタイマ割込み処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、管理用処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すタイマ割込み処理のプログラムに復帰する。

【１１９８】

図１０５は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理用処理を示すフローチャートである。なお、管理用処理におけるステップＳ７００１～ステップＳ７００５の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１１９９】

まずタイマ割込み処理（図１０３）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う（ステップＳ７００１）。これにより、非特定制御に対応する処理である後述する管理実行処理の途中の状況において、特定制御に対応する処理であるタイマ割込み処理（図１０３）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【１２００】

その後、「ＬＤ　（＿ＰＳＷＢＵＦ），ＰＳＷ」として、ロード命令により、主側ＣＰ

Ｕ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のワークエリア２２１に設定されたＰＳＷバッファに退避させる（ステップＳ７００２）。フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、Ｐ／Ｖフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。このようなフラグレジスタの情報を管理実行処理に対応するサブルーチンのプログラムが開始される前に退避させることにより、当該サブルーチンのコールや当該サブルーチンの開始後において変化してしまう前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のワークエリア２２１に退避させておくことが可能となる。

【１２０１】

その後、非特定制御用のプログラムに設定されている管理実行処理に対応するサブルーチンのプログラムを読み出すことにより、当該管理実行処理を開始する（ステップＳ７００３）。この場合、当該管理実行処理の実行後における管理用処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、管理実行処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理用処理のプログラムに復帰する。

【１２０２】

管理実行処理の実行後において管理用処理のプログラムに復帰した場合には「ＬＤ　ＰＳＷ，（＿ＰＳＷＢＵＦ）」として、ロード命令により、ステップＳ７００２にて特定制御用のワークエリア２２１におけるＰＳＷバッファに退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる（ステップＳ７００４）。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が、ステップＳ７００２が前回実行された時点の情報に復帰することとなる。つまり、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰することとなる。

【１２０３】

その後、タイマ割込み処理（図１０３）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるために割込み許可の設定を行う（ステップＳ７００５）。これにより、タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【１２０４】

図１０６は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における管理実行処理を示すフローチャートである。なお、管理実行処理におけるステップＳ７１０１～ステップＳ７１１６の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【１２０５】

ステップＳ７１０１～ステップＳ７１０８及びステップＳ７１１０～ステップＳ７１１６では上記第１７の実施形態における管理実行処理（図７８）のステップＳ４５０１～ステップＳ４５１５と同一の処理を実行する。また、ステップＳ７１０９では別監視処理を実行する。別監視処理の実行に際しては非特定制御用のプログラムに設定されている別監視処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては別監視処理の実行後における管理実行処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により非特定制御用のスタックエリア２２４に書き込まれる。そして、別監視処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理実行処理のプログラムに復帰する。

【１２０６】

図１０７は別監視処理を示すフローチャートである。なお、別監視処理におけるステップＳ７２０１～ステップＳ７２０６の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【１２０７】

別監視処理では、非特定制御用のプログラムにおいて実行している処理の処理位置を示すポインタの値が正常な数値範囲を超えた値となっているか否かを判定する（ステップＳ７２０１）。また、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた通常用カウンタエリ

ア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３に記憶されている情報が明らかに異常な情報となっているか否かを判定する（ステップＳ７２０２）。例えば通常用カウンタエリア２３１において通常用のアウトカウンタ２３１ｅの値が「０」であるにも関わらず通常用の一般入賞カウンタ２３１ａの値が１０００以上となっている場合には異常と判定する。また、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた演算結果記憶エリア２３４に記憶されている情報が明らかに異常な情報となっているか否かを判定する（ステップＳ７２０３）。例えば第６１パラメータが「０」であるにも関わらず第６２～第６４パラメータのいずれかが「０」ではない場合には異常と判定する。

【１２０８】

ステップＳ７２０１～ステップＳ７２０３のいずれかにて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３について情報異常が発生しているとして、非特定制御用のワークエリア２２３の一部クリア処理を実行する（ステップＳ７２０４）。当該一部クリア処理では非特定制御用のワークエリア２２３において管理開始フラグ以外の記憶エリアを「０」クリアする。この場合、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３及び演算結果記憶エリア２３４の全てが「０」クリアされる。これにより、非特定制御用のワークエリア２２３における情報異常を解消することが可能となる。

【１２０９】

また、管理開始フラグを「０」クリアしないようにすることにより管理開始フラグに既に「１」がセットされている状態を維持させることが可能となり、既にパチンコ機１０が遊技ホールにて継続して使用されているにも関わらず履歴情報の収集に関してパチンコ機１０の出荷段階の規制を生じさせてしまわないようにすることが可能となる。但し、これに限定されることはなくステップＳ７２０４では管理開始フラグを含めて非特定制御用のワークエリア２２３の全体を「０」クリアする構成としてもよい。

【１２１０】

また、ステップＳ７２０４では非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアしない。非特定制御用のスタックエリア２２４には管理実行処理（図１０６）におけるステップＳ７１０２～ステップＳ７１０７にて特定制御に対応する処理にて利用される各種レジスタの情報が退避されている。この場合に、非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアしないようにすることにより、この特定制御に対応する処理にて利用される各種レジスタの情報であって非特定制御用のスタックエリア２２４に退避されている情報を消去してしまわないようにすることが可能となる。また、非特定制御用のスタックエリア２２４には別監視処理が終了した後における管理実行処理（図１０６）の戻り番地の情報が格納されているが、非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアしないようにすることにより、この戻り番地の情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。

【１２１１】

その後、初期設定処理を実行する（ステップＳ７２０５）。初期設定処理では、非特定制御用のワークエリア２２３においてステップＳ７２０４にて「０」クリアの対象となった記憶エリアに対して初期設定を行う。

【１２１２】

その後、クリア報知処理を実行する（ステップＳ７２０６）。クリア報知処理では非特定制御用のワークエリア２２３が「０」クリアされたことを示すコマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１は当該コマンドを受信することにより、表示発光部５３を非特定制御用のワークエリア２２３の強制クリアに対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「履歴情報が強制クリアされました。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「履歴情報が強制クリアされました。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了され

る。但し、これに限定されることはなく報知終了操作が遊技ホールの管理者により行われた場合に上記報知が終了される構成としてもよい。報知終了操作としては例えば更新ボタン６８ｂが押圧操作されることとしてもよく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されることとしてもよい。上記報知を確認することにより遊技ホールの管理者は非特定制御用のワークエリア２２３が強制クリアされたことを把握することが可能となる。

【１２１３】

ステップＳ７２０１～ステップＳ７２０３の全てにて否定判定をした場合、又はステップＳ７２０６の処理を実行した場合、別監視処理を終了して監視実行処理（図１０６）に復帰する。

【１２１４】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【１２１５】

プログラム監視部２５２においてロード命令により情報を書き込む場合に指定されたアドレスが異常なアドレスであることが特定された場合、リセット信号出力部２５１によりリセット信号のＯＦＦ→ＯＮが行われることにより主側ＣＰＵ６３では動作電力の供給が新たに開始された場合と同様にメイン処理（図１００）が実行される。そして、リセット信号のＯＦＦ→ＯＮが行われた場合には特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグに「１」がセットされていないとともに停電時におけるチェックサムが特定制御用のワークエリア２２１に記憶されていないため、強制的に非設定更新時のクリア処理（ステップＳ６６０７）が実行される。非設定更新時のクリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定値が記憶された記憶エリア以外の記憶エリアが「０」クリアされるとともに特定制御用のスタックエリア２２２が「０」クリアされ、さらにこれらエリアの初期設定処理が実行される。これにより、特定制御用のワークエリア２２１又は特定制御用のスタックエリア２２２に関して情報異常が発生している可能性がある場合には、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２に対して「０」クリア処理と初期設定処理とを実行することで当該情報異常が解消されるようにすることが可能となる。

【１２１６】

プログラム監視部２５２において主側ＣＰＵ６３のプログラムカウンタの値が異常な値であることが特定された場合、リセット信号出力部２５１によりリセット信号のＯＦＦ→ＯＮが行われることにより主側ＣＰＵ６３では動作電力の供給が新たに開始された場合と同様にメイン処理（図１００）が実行される。そして、リセット信号のＯＦＦ→ＯＮが行われた場合には特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグに「１」がセットされていないとともに停電時におけるチェックサムが特定制御用のワークエリア２２１に記憶されていないため、強制的に非設定更新時のクリア処理（ステップＳ６６０７）が実行される。非設定更新時のクリア処理では、各種レジスタを含めた主側ＣＰＵ６３の内部記憶エリアが「０」クリアされるとともに初期設定処理が実行される。これにより、主側ＣＰＵ６３の内部記憶エリアに関して情報異常が発生している可能性がある場合には、主側ＣＰＵ６３の内部記憶エリアに対して「０」クリア及び初期設定処理を実行することで当該情報異常が解消されるようにすることが可能となる。

【１２１７】

一方、非設定更新時のクリア処理では非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアしない。これにより、上記のようにプログラム監視部２５２において情報異常が特定されたことで主側ＣＰＵ６３の内部記憶エリア、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２に対して「０」クリアと初期設定処理とが実行される場合であっても、遊技履歴の情報が消去されてしまわないようにすることが可能となるとともに、遊技履歴の管理結果の情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。

【１２１８】

主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合のメイン処理（図１００）にて停

電フラグに「１」がセットされていない場合又はチェックサムが一致しない場合には非設定更新時のクリア処理（ステップＳ６６０７）が実行される構成において、プログラム監視部２５２にて情報異常の発生が特定された場合にはリセット信号のＯＦＦ→ＯＮを行うことで停電フラグに「１」がセットされていないとともにチェックサムが記憶されていない状況にてメイン処理（図１００）が実行されるようにする。これにより、動作電力の供給開始時において情報異常を解消するための構成を利用して、プログラム監視部２５２にて特定された情報異常を解消することが可能となる。

【１２１９】

主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合のメイン処理（図１００）にてチェックサムが正常であるか否かが監視される構成において、当該チェックサムの算出対象には特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２が含まれ、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４は含まれない。これにより、主側ＲＡＭ６５において特定制御に対応する記憶エリアのみについて情報異常が発生しているか否かを特定することが可能となる。

【１２２０】

主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合のメイン処理（図１００）にてチェックサムが異常であることが特定された場合には非設定更新時のクリア処理（ステップＳ６６０７）が実行されることとなるが、当該非設定更新時のクリア処理では特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２には「０」クリアする処理と初期設定処理とが実行されるのに対して、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４には「０」クリアする処理が実行されない。これにより、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２に情報異常が発生しているにも関わらずそのままの状態で特定制御に対応する処理が継続して実行されてしまわないようにすることが可能となるとともに、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の情報異常を契機として主側ＲＡＭ６５の非特定制御に対応する記憶エリアまで「０」クリアされてしまわないようにすることが可能となる。

【１２２１】

停電情報記憶処理（図１０１）の停電時処理（ステップＳ６７０９～ステップＳ６７１２）では特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてチェックサムが算出されるのに対して、主側ＲＡＭ６５の非特定制御に対応する記憶エリアについてはチェックサムが算出されない。これにより、停電時処理を完了するまでに要する処理期間が過剰に長くなってしまわないようにすることが可能となる。

【１２２２】

非特定制御に対応する処理にて実行される別監視処理（図１０７）にて非特定制御用のワークエリア２２３に記憶された情報について異常の発生を特定した場合には、非特定制御に対応する処理である当該別監視処理（図１０７）にて非特定制御用のワークエリア２２３を「０」クリアするとともに初期設定処理を実行する。これにより、非特定制御用のワークエリア２２３に何らかの異常が発生しているにも関わらず非特定制御用のワークエリア２２３の情報がそのまま保持された状態で非特定制御に対応する処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。また、非特定制御用のワークエリア２２３を「０」クリアする処理及び初期設定する処理は非特定制御に対応する処理にて実行されるため、非特定制御用のワークエリア２２３の情報の更新に関して特定制御に対応する処理が介在してしまわないようにすることが可能となる。

【１２２３】

非特定制御に対応する処理である別監視処理（図１０７）において非特定制御用のワークエリア２２３に異常が発生しているか否かの監視が実行されるとともに、異常が発生している場合には当該非特定制御用のワークエリア２２３を「０」クリアする処理と初期設定する処理とが実行される。これにより、非特定制御用のワークエリア２２３に異常が発生しているか否かの監視と当該非特定制御用のワークエリア２２３の初期化の実行とを非

特定制御に対応する処理における一連の処理として実行することが可能となる。

【１２２４】

非特定制御に対応する処理にて実行される別監視処理（図１０７）にて非特定制御用のワークエリア２２３に記憶された情報について異常の発生を特定した場合には、非特定制御用のワークエリア２２３に対して「０」クリアする処理及び初期設定する処理を実行するものの、非特定制御用のスタックエリア２２４に対しては「０」クリアする処理及び初期設定する処理を実行しない。これにより、非特定制御用のワークエリア２２３における情報異常を解消可能としながら、非特定制御用のスタックエリア２２４に退避された特定制御に対応する処理にて利用される各種レジスタの情報及び別管理処理が終了した後における戻り番地の情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。

【１２２５】

特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともに初期設定する処理は特定制御に対応する処理にて実行され、非特定制御用のワークエリア２２３を「０」クリアするとともに初期設定する処理は非特定制御に対応する処理にて実行される。これにより、このような初期化の処理に関しても、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２が特定制御に対応する処理の専用の記憶エリアとして扱われるとともに、非特定制御用のワークエリア２２３が非特定制御に対応する処理の専用の記憶エリアとして扱われるようにすることが可能となる。

【１２２６】

なお、メイン処理（図１００）ではステップＳ６６０８及びステップＳ６６１４にて設定値が正常であるか否かの監視を実行する構成としたが、これら設定値が正常であるか否かを監視する処理が実行されない構成としてもよい。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に実行される動作電力の供給開始時の処理の処理負荷を軽減することが可能となる。また、このように動作電力の供給開始時の処理では設定値が正常であるか否かの監視が行われないとしても、当該動作電力の供給開始時の処理が終了した後に実行されるタイマ割込み処理（図１０３）の設定監視処理（ステップＳ６８２０）にて設定値が正常であるか否かの監視が行われるため、設定値が異常である場合にはそれに対処することが可能となる。

【１２２７】

また、設定監視処理（ステップＳ６８２０）がタイマ割込み処理（図１０３）が起動される度に実行される構成に限定されることはなく、例えばタイマ割込み処理（図１０３）が複数として定められた契機回数（例えば１００００回）実行される度に設定監視処理（ステップＳ６８２０）が実行される構成としてもよい。この場合、設定値が正常であるか否かの監視を定期的に行うようにしながらも、当該監視の実行頻度を抑えることが可能となる。

【１２２８】

また、設定監視処理（ステップＳ６８２０）がメイン処理（図１００）における残余処理（ステップＳ６６１０～ステップＳ６６１３）にて実行される構成としてもよい。この場合、タイマ割込み処理が実行されていない状況における空き時間を利用して設定値が正常であるか否かの監視を行うことが可能となる。

【１２２９】

また、遊技回が新たに開始される場合に設定監視処理（ステップＳ６８２０）が実行される構成としてもよい。より具体的には遊技回が新たに開始される場合において当否判定処理が実行される前に設定監視処理（ステップＳ６８２０）が実行される構成としてもよい。これにより、設定値が異常な状況で当否判定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【１２３０】

また、設定監視処理（ステップＳ６８２０）において設定値が異常であることを特定した場合には、設定値更新処理（ステップＳ６９０４）に移行する構成に代えて、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグに「１」をセットする構成としても

よい。この場合、タイマ割込み処理（図１０３）においてステップＳ６８０７にて肯定判定をすることでステップＳ６８０８～ステップＳ６８２１の処理が実行されないため、設定値が異常である場合には遊技の進行が停止されることとなる。但し、ステップＳ６８０１～ステップＳ６８０６の処理は実行されるため、停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。また、遊技停止フラグに「１」をセットした場合には設定値を更新すべきことを示す報知が実行されるようにすることで、設定値更新処理の実行を促すようにしてもよい。この場合、当該報知を確認した遊技ホールの管理者が、電源ＯＦＦ操作を行った後に、設定値更新処理が実行される態様で電源のＯＮ操作を行うことで、遊技停止フラグが「０」クリアされて遊技の進行が停止された状態が解除されるとともに、設定値更新処理が実行されて正常な設定値が設定されることとなる。

【１２３１】

また、設定監視処理（ステップＳ６８２０）において設定値が異常であることを特定した場合には、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定異常フラグに「１」をセットした状態でメイン処理（図１００）を開始する構成としてもよく、当該設定異常フラグに「１」をセットした状態で遊技の進行を停止させるとともに当該遊技の進行が停止された状態を解除するためには電源のＯＦＦ→ＯＮが必要である構成としてもよい。この場合、メイン処理（図１００）では設定値更新処理が実行されるようにするための操作が行われないとしても、設定異常フラグに「１」がセットされている場合には強制的に設定値更新処理が実行されるようにすることで、メイン処理（図１００）に設定された設定値更新処理を利用して設定値の新たな設定を強制的に行わせることが可能となる。

【１２３２】

また、プログラム監視部２５２にて情報異常の発生が特定されてリセット信号が強制的にＯＦＦ→ＯＮされた場合には、特定制御用のワークエリア２２１に対して初期化処理が実行されることで、パチンコ機１０の設定値が「設定１」となる構成としてもよい。また、プログラム監視部２５２にて情報異常の発生が特定されてリセット信号が強制的にＯＦＦ→ＯＮされた場合には、特定制御用のワークエリア２２１に対して初期化処理が実行された後に設定値更新処理が実行される構成としてもよい。

【１２３３】

また、プログラム監視部２５２にて情報異常の発生が特定された場合にはリセット信号が強制的にＯＦＦ→ＯＮされることなく、非設定更新時のクリア処理（ステップＳ６６０７）が実行される構成としてもよく、設定更新時のクリア処理（ステップＳ６６２０）及び設定値更新処理（ステップＳ６６２１）が実行される構成としてもよい。

【１２３４】

また、非設定更新時のクリア処理（ステップＳ６６０７）では特定制御用のワークエリア２２１において設定値の情報を記憶する記憶エリアを初期化することでパチンコ機１０の設定値が「設定１」となる構成としてもよく、「設定１」以外の予め定められた設定値となる構成としてもよい。これにより、非設定更新時のクリア処理が実行された場合には予め定められた設定値とすることが可能となる。

【１２３５】

また、非設定更新時のクリア処理（ステップＳ６６０７）では非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされない構成としたが「０」クリアされる構成としてもよい。

【１２３６】

また、別監視処理（図１０７）におけるステップＳ７２０４では管理開始フラグを「０」クリアしない構成としたが、管理開始フラグを「０」クリアする構成としてもよい。また、別監視処理（図１０７）におけるステップＳ７２０４では通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３を「０」クリアしない構成としてもよく、演算結果記憶エリア２３４を「０」クリ

アしない構成としてもよい。
【１２３７】
　また、別監視処理（図１０７）におけるステップＳ７２０４では非特定制御用のワークエリア２２３だけではなく非特定制御用のスタックエリア２２４に対しても「０」クリアの処理と初期設定処理とを実行する構成としてもよい。この場合、非特定制御用のスタックエリア２２４において別監視処理の終了後における管理実行処理の戻り番地の情報及び非特定制御用のスタックエリア２２４に退避された特定制御に対応する処理にて利用される各種レジスタの情報は消去しないようにすることが好ましい。
【１２３８】
　また、別監視処理（図１０７）では非特定制御用のスタックエリア２２４に異常が発生しているか否かを監視し、異常が発生していることが特定された場合には非特定制御用のスタックエリア２２４に対して「０」クリアの処理と初期設定処理とを実行する構成としてもよい。この場合、非特定制御用のスタックエリア２２４において別監視処理の終了後における管理実行処理の戻り番地の情報は消去しないようにすることが好ましい。
【１２３９】
　また、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の両方がチェックサムの算出対象である構成に限定されることはなく、特定制御用のワークエリア２２１のみがチェックサムの算出対象である構成としてもよく、特定制御用のスタックエリア２２２のみがチェックサムの算出対象である構成としてもよい。
【１２４０】
　＜第３１の実施形態＞
　本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行されるメイン処理の処理構成が上記第３０の実施形態と相違している。以下、上記第３０の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３０の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【１２４１】
　図１０８は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳ７３０１～ステップＳ７３２２の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【１２４２】
　まず電源投入ウエイト処理を実行する（ステップＳ７３０１）。当該電源投入ウエイト処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。かかる電源投入ウエイト処理の実行期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。その後、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する（ステップＳ７３０２）。
【１２４３】
　その後、主側ＲＡＭ６５における特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ７３０３）。停電フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳ７３０３：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてチェックサムを算出する（ステップＳ７３０４）。チェックサムの算出方法は上記第３０の実施形態におけるメイン処理（図１００）のステップＳ６６０４と同一である。
【１２４４】
　その後、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理において算出されて特定制御用のワークエリア２２１に保存された特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１から読み出すとともに、その読み出したチェックサムを、ステップＳ７３０４にて算出したチェックサムと比較する（ステップＳ７３０５）。そして、それらチェックサムが一致しているか否かを判定する（ステップＳ７３０６）。
【１２４５】

ステップＳ７３０６にて肯定判定をした場合、ステップＳ７３０７～ステップＳ７３２０の処理を実行する。この場合、ステップＳ７３０７～ステップＳ７３１４の処理内容は上記第３０の実施形態におけるメイン処理（図１００）のステップＳ６６１４～ステップＳ６６２１と同一であり、ステップＳ７３１６～ステップＳ７３２０は上記第３０の実施形態におけるメイン処理（図１００）のステップＳ６６０９～ステップＳ６６１３と同一である。

【１２４６】

また、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているのに対して（ステップＳ７３０８：ＹＥＳ）、ステップＳ７３０９～ステップＳ７３１１のいずれかにて否定判定をした場合、非設定更新時のクリア処理を実行する（ステップＳ７３１５）。非設定更新時のクリア処理の処理内容は上記第３０の実施形態におけるメイン処理（図１００）のステップＳ６６０７と同一である。但し、本実施形態では非設定更新時のクリア処理を実行した後は設定値が正常であるか否かの判定を行うことなくステップＳ７３１６～ステップＳ７３２０の処理に進む。ステップＳ７３０９～ステップＳ７３１１のいずれかにて否定判定をした場合にのみ非設定更新時のクリア処理（ステップＳ７３１５）が実行されることとなるが、ステップＳ７３０９～ステップＳ７３１１の処理が実行される前にステップＳ７３０７にて設定値が正常であるか否かの判定を行っているため、非設定更新時のクリア処理を実行した後に設定値が正常であるか否かの判定を行う必要がない。

【１２４７】

ステップＳ７３０３又はステップＳ７３０６にて否定判定をした場合、すなわち特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグに「１」がセットされていない場合又はチェックサム異常が発生した場合、異常時のクリア処理を実行する（ステップＳ７３２１）。図１０９は異常時のクリア処理を示すフローチャートである。なお、異常時のクリア処理におけるステップＳ７４０１～ステップＳ７４０５の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１２４８】

まず特定制御用のワークエリア２２１のクリア処理を実行する（ステップＳ７４０１）。当該クリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（具体的には設定値カウンタ）を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともにその「０」クリアしたエリアに対して初期設定を行う。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「０」クリアされるため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示されていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。

【１２４９】

その後、特定制御用のスタックエリア２２２のクリア処理を実行する（ステップＳ７４０２）。当該クリア処理では、特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともに初期設定を行う。

【１２５０】

その後、「ＰＵＳＨ　ＰＳＷ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させる（ステップＳ７４０３）。フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、Ｐ／Ｖフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。このようなフラグレジスタの情報を非特定制御用のクリア処理に対応するサブルーチンのプログラムが開始される前に退避させることにより、当該サブルーチンのコールや当該サブルーチンの開始後において変化

する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。なお、フラグレジスタの情報量は１バイトとなっている。

【１２５１】

その後、非特定制御用のプログラムに設定されている非特定制御用のクリア処理に対応するサブルーチンのプログラムを読み出すことにより、当該非特定制御用のクリア処理を開始する（ステップＳ７４０４）。この場合、当該非特定制御用のクリア処理の実行後における異常時のクリア処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、非特定制御用のクリア処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す異常時のクリア処理のプログラムに復帰する。

【１２５２】

非特定制御用のクリア処理の実行後において異常時のクリア処理のプログラムに復帰した場合、「ＰＯＰ　ＰＳＷ」として、ポップ命令により、ステップＳ７４０２にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる（ステップＳ７４０５）。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が、ステップＳ７４０２が実行された時点の情報に復帰することとなる。つまり、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰することとなる。

【１２５３】

図１１０は非特定制御用のクリア処理を示すフローチャートである。なお、非特定制御用のクリア処理におけるステップＳ７５０１～ステップＳ７５１６の処理は主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【１２５４】

まず「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｕ＋２）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとしてＹ（ｕ＋２）を設定する（ステップＳ７５０１）。この場合、上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９０１と同様に、非特定制御用のスタックエリア２２４における最後のアドレスの情報をスタックポインタに設定する。

【１２５５】

その後、「ＬＤ　（＿ＷＡＢＵＦ），ＷＡ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＷＡバッファに退避させる（ステップＳ７５０２）。また、「ＬＤ　（＿ＢＣＢＵＦ），ＢＣ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＢＣバッファに退避させる（ステップＳ７５０３）。また、「ＬＤ　（＿ＤＥＢＵＦ），ＤＥ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＤＥバッファに退避させる（ステップＳ７５０４）。また、「ＬＤ　（＿ＨＬＢＵＦ），ＨＬ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＨＬバッファに退避させる（ステップＳ７５０５）。また、「ＬＤ　（＿ＩＸＢＵＦ），ＩＸ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＩＸバッファに退避させる（ステップＳ７５０６）。また、「ＬＤ　（＿ＩＹＢＵＦ），ＩＹ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＩＹバッファに退避させる（ステップＳ７５０７）。

【１２５６】

主側ＣＰＵ６３のレジスタには、既に説明したフラグレジスタ以外にも、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタが存在している。この場合に、ステップＳ７５０２～ステップＳ７５０７では、これら各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタであるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御用のワーク

エリア２２３における対応するバッファに退避させている。なお、ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの情報量はいずれも２バイトとなっている。

【１２５７】

これらＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタは非特定制御に対応する処理である非特定制御用のワークエリア２２３の一部クリア処理（ステップＳ７５０８）及び初期設定処理（ステップＳ７５０９）にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタに設定されている情報を非特定制御用のワークエリア２２３の一部クリア処理（ステップＳ７５０８）及び初期設定処理（ステップＳ７５０９）の実行に先立ち非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、特定制御に際して利用されていたこれらレジスタの情報を非特定制御が開始される前に退避させることが可能となる。よって、非特定制御に際してこれらレジスタが上書きされたとしても、非特定制御を終了する場合には非特定制御用のワークエリア２２３に退避させた情報をこれらレジスタに復帰させることで、これらレジスタの状態を非特定制御が実行される前における特定制御に対応する状態に復帰させることが可能となる。

【１２５８】

また、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタの全ての情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させるのではなく、非特定制御に対応する処理である非特定制御用のワークエリア２２３の一部クリア処理（ステップＳ７５０８）及び初期設定処理（ステップＳ７５０９）にて利用対象となるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの情報を選択的に非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、非特定制御用のワークエリア２２３においてレジスタの情報を退避させるために確保する容量を抑えることが可能となる。よって、非特定制御用のワークエリア２２３の一部クリア処理（ステップＳ７５０８）及び初期設定処理（ステップＳ７５０９）に際して利用可能となる非特定制御用のワークエリア２２３の容量を大きく確保しながら、上記のようなレジスタの情報の退避を行うことが可能となる。なお、当然のことながら主側ＣＰＵ６３における各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうちＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ以外のレジスタについては、非特定制御に対応する処理が開始される前に設定された情報が当該非特定制御に対応する処理が終了して特定制御に対応する処理が再開されるまで記憶保持される。

【１２５９】

また、レジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させるのではなく非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、それだけ非特定制御用のスタックエリア２２４の容量を小さく抑えることが可能となる。また、非特定制御用のスタックエリア２２４を利用する場合、既に説明したとおり情報の書き込み順序が後の情報から先に読み出されることとなるため、仮に何らかのノイズなどの原因で情報の読み出し順序がずれてしまうとそれ以降の読み出し順序の情報が全て異なるレジスタに復帰されることとなってしまう。このような事象の発生確率は非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させる情報量が多くなるほど高くなってしまう。これに対して、レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより退避対象となる情報が多い場合であっても上記のような事象が発生しないようにすることが可能となる。

【１２６０】

ステップＳ７５０２～ステップＳ７５０７の処理を実行した後は、非特定制御用のワークエリア２２３の一部クリア処理を実行する（ステップＳ７５０８）。当該一部クリア処理では非特定制御用のワークエリア２２３の各記憶エリアのうち、特定制御に対応する処理にて利用される主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報が退避された記憶エリア以外の記憶エリアを「０」クリアする。具体的には、非特定制御用のワークエリア２２３の各記憶エリアのうちＷＡバッファ、ＢＣバッファ、ＤＥバッファ、ＨＬバッファ、ＩＸバッファ及びＩＹバッファは「０」クリアしない一方、これら各種バッファ以外の記憶エリアを「

０」クリアする。
【１２６１】
この場合、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３、演算結果記憶エリア２３４及び管理開始フラグの全てが「０」クリアされる。これにより、非特定制御用のワークエリア２２３における情報異常を解消することが可能となる。また、特定制御に対応する処理にて利用される主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報が退避された記憶エリアを「０」クリアしないようにすることにより、非特定制御に対応する処理が終了して特定制御に対応する処理に復帰する場合には主側ＣＰＵ６３の各種レジスタに特定制御に対応する処理にて利用される情報を復帰させることが可能となる。
【１２６２】
また、ステップＳ７５０８では非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアしない。非特定制御用のスタックエリア２２４には非特定制御用のクリア処理が終了した後における異常時のクリア処理（図１０９）の戻り番地の情報が格納されているが、非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアしないようにすることにより、この戻り番地の情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。
【１２６３】
その後、初期設定処理を実行する（ステップＳ７５０９）。初期設定処理では、非特定制御用のワークエリア２２３においてステップＳ７５０８にて「０」クリアの対象となった記憶エリアに対して初期設定を行う。
【１２６４】
その後、「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｒ＋α）」として、ロード命令により、上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９０９と同様に、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに特定制御への復帰時における固定アドレスとしてＹ（ｒ＋α）を設定する（ステップＳ７５１０）。Ｙ（ｒ＋α）のアドレスは、特定制御用のスタックエリア２２２におけるＹ（ｒ＋８）とＹ（ｓ）との間のアドレスとして設定されている。
【１２６５】
その後、「ＬＤ　ＷＡ，（＿ＷＡＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＷＡバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタに上書きする（ステップＳ７５１１）。また「ＬＤ　ＢＣ，（＿ＢＣＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＢＣバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタに上書きする（ステップＳ７５１２）。また「ＬＤ　ＤＥ，（＿ＤＥＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＤＥバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタに上書きする（ステップＳ７５１３）。また「ＬＤ　ＨＬ，（＿ＨＬＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＨＬバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに上書きする（ステップＳ７５１４）。また「ＬＤ　ＩＸ，（＿ＩＸＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＩＸバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタに上書きする（ステップＳ７５１５）。また「ＬＤ　ＩＹ，（＿ＩＹＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＩＹバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタに上書きする（ステップＳ７５１６）。ステップＳ７５１１～ステップＳ７５１６の処理が実行されることにより、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。
【１２６６】
上記構成によれば、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に実行されるメイン処理（図１０８）にて停電フラグに「１」がセットされていない場合又はチェックサムが異常である場合には、異常時のクリア処理（ステップＳ７３２１）が実行されることにより、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２だけ

ではなく非特定制御用のワークエリア２２３も「０」クリアされるとともに初期設定される。特定制御用のワークエリア２２１について情報異常が発生している場合には非特定制御用のワークエリア２２３も情報異常が発生している可能性があるが、異常時のクリア処理において非特定制御用のワークエリア２２３も初期化されることにより非特定制御用のワークエリア２２３に情報異常が発生しているにも関わらずそのままの状態で非特定制御に対応する処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【１２６７】

異常時のクリア処理（ステップＳ７３２１）において非特定制御用のワークエリア２２３に対して「０」クリアする処理及び初期設定する処理が実行される場合であっても、当該非特定制御用のワークエリア２２３に退避された特定制御に対応する処理にて利用される各種レジスタの情報は「０」クリアされない。これにより、非特定制御に対応する処理が終了した後に特定制御に対応する処理にて利用される情報を消去しないようにしながら、非特定制御用のワークエリア２２３に対して「０」クリアする処理及び初期設定する処理を実行することが可能となる。

【１２６８】

異常時のクリア処理（ステップＳ７３２１）において非特定制御用のワークエリア２２３に対して「０」クリアする処理及び初期設定する処理が実行される場合であっても、非特定制御用のスタックエリア２２４に対しては「０」クリアする処理及び初期設定する処理は実行されない。これにより、非特定制御用のクリア処理（図１１０）が終了した後における戻り番地の情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。

【１２６９】

特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアする処理と初期設定する処理とは特定制御に対応する処理にて実行され、非特定制御用のワークエリア２２３を「０」クリアする処理と初期設定する処理とは非特定制御に対応する処理にて実行される。これにより、「０」クリアする処理及び初期設定する処理に関しても、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２が特定制御に対応する処理の専用の記憶エリアとして扱われるとともに、非特定制御用のワークエリア２２３が非特定制御に対応する処理の専用の記憶エリアとして扱われるようにすることが可能となる。

【１２７０】

なお、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の両方がチェックサムの算出対象である構成に限定されることはなく、特定制御用のワークエリア２２１のみがチェックサムの算出対象である構成としてもよく、特定制御用のスタックエリア２２２のみがチェックサムの算出対象である構成としてもよい。

【１２７１】

また、非特定制御用のワークエリア２２３がチェックサムの算出対象である構成としてもよい。この場合、特定制御用のワークエリア２２１及び非特定制御用のワークエリア２２３がチェックサムの算出対象である構成としてもよく、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のワークエリア２２３がチェックサムの算出対象である構成としてもよく、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のワークエリア２２３がチェックサムの算出対象である構成としてもよい。

【１２７２】

また、非特定制御用のスタックエリア２２４がチェックサムの算出対象である構成としてもよい。この場合、特定制御用のワークエリア２２１及び非特定制御用のスタックエリア２２４がチェックサムの算出対象である構成としてもよく、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のスタックエリア２２４がチェックサムの算出対象である構成としてもよく、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のスタックエリア２２４がチェックサムの算出対象である構成としてもよい。

【１２７３】

また、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４がチェックサムの算出対象である構成としてもよい。この場合、特定制御用のワークエリア２２１、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４がチェックサムの算出対象である構成としてもよく、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４がチェックサムの算出対象である構成としてもよく、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４がチェックサムの算出対象である構成としてもよい。

【１２７４】

また、非特定制御用のクリア処理（図１１０）におけるステップＳ７５０８及びステップＳ７５０９では非特定制御用のワークエリア２２３だけではなく非特定制御用のスタックエリア２２４に対しても「０」クリアの処理と初期設定処理とを実行する構成としてもよい。この場合、非特定制御用のクリア処理の終了後における異常時のクリア処理の戻り番地の情報は消去しないようにすることが好ましい。

【１２７５】

また、非特定制御用のクリア処理（図１１０）におけるステップＳ７５０８では管理開始フラグを「０」クリアする構成としたが、管理開始フラグを「０」クリアしない構成としてもよい。また、非特定制御用のクリア処理（図１１０）におけるステップＳ７５０８では通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３を「０」クリアしない構成としてもよく、演算結果記憶エリア２３４を「０」クリアしない構成としてもよい。

【１２７６】

＜第３２の実施形態＞

本実施形態ではチェックサムを利用した主側ＲＡＭ６５の情報異常の監視に関する処理構成が上記第３０の実施形態と相違している。以下、上記第３０の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３０の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【１２７７】

図１１１は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における停電情報記憶処理を示すフローチャートである。なお、停電情報記憶処理はタイマ割込み処理（図１０３）におけるステップＳ６８０１にて実行される。また、停電情報記憶処理におけるステップＳ７６０１～ステップＳ７６１３の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１２７８】

停電情報記憶処理におけるステップＳ７６０１～ステップＳ７６０８では上記第３０の実施形態における停電情報記憶処理（図１０１）のステップＳ６７０１～ステップＳ６７０８と同一の処理を実行する。停電の発生を特定した場合、ステップＳ７６０８にて肯定判定をしてステップＳ７６０９～ステップＳ７６１３の停電時処理を実行する。

【１２７９】

具体的には、まず特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」をセットする（ステップＳ７６０９）。これにより、正常に停電時処理が実行されるとともに主側ＲＡＭ６５における情報の記憶保持が正常に行われた場合には、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再度開始された場合に特定制御用のワークエリア２２１の停電フラグに「１」がセットされていることとなる。

【１２８０】

その後、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてチェックサムを算出する（ステップＳ７６１０）。この場合、特定制御用のチェックサムの算出に際して演算対象となる特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２における記憶エリアは、後述するチェックサムの監視処理（図１１２）のステップＳ７７０１にて特定制御用のチェックサムの演算対象となる特定制御用のワ

ークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２における記憶エリアと同一である。また、この特定制御用のチェックサムの算出に際して演算対象となる記憶エリアには、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（具体的には設定値カウンタ）が含まれている。そして、その算出した特定制御用のチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１における当該特定制御用のチェックサムを記憶するための記憶エリアであって特定制御用のチェックサムの算出対象から除外されている記憶エリアに記憶させる。

【１２８１】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４についてチェックサムを算出する（ステップＳ７６１１）。この場合、非特定制御用のチェックサムの算出に際して演算対象となる非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４における記憶エリアは、後述するチェックサムの監視処理（図１１２）のステップＳ７７０６にて非特定制御用のチェックサムの演算対象となる非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４における記憶エリアと同一である。そして、その算出した非特定制御用のチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１における当該非特定制御用のチェックサムを記憶するための記憶エリアであって特定制御用のチェックサムの算出対象から除外されている記憶エリアに記憶させる。

【１２８２】

その後、主側ＣＰＵ６３のレジスタにおける出力ポートの情報を全て「０」にセットするとともに（ステップＳ７６１２）、主側ＲＡＭ６５へのアクセスを禁止する（ステップＳ７６１３）。そして、電源が完全に遮断して処理が実行できなくなるまで無限ループを継続する。

【１２８３】

次に、図１１２のフローチャートを参照しながら主側ＣＰＵ６３にて実行されるチェックサムの監視処理について説明する。なお、チェックサムの監視処理はメイン処理（図１００）においてステップＳ６６０４～ステップＳ６６０６の代わりに実行される。また、チェックサムの監視処理におけるステップＳ７７０１～ステップＳ７７１１の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１２８４】

まず特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２について特定制御用のチェックサムを算出する（ステップＳ７７０１）。当該特定制御用のチェックサムの算出方法は停電情報記憶処理（図１１１）におけるステップＳ７６１０と同一である。その後、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理のステップＳ７６１０にて算出されて特定制御用のワークエリア２２１に保存された特定制御用のチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１から読み出すとともに、その読み出した特定制御用のチェックサムを、ステップＳ７７０１にて算出した特定制御用のチェックサムと比較する（ステップＳ７７０２）。そして、それら特定制御用のチェックサムが一致しているか否かを判定する（ステップＳ７７０３）。

【１２８５】

特定制御用のチェックサムが一致していない場合（ステップＳ７７０３：ＮＯ）。特定制御用のワークエリア２２１のクリア処理を実行する（ステップＳ７７０４）。当該クリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（具体的には設定値カウンタ）を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「０」クリアされるため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示さ

れていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。また、当該クリア処理では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を実行する。また、特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともに初期設定を実行する（ステップＳ７７０５）。

【１２８６】

ステップＳ７７０３にて肯定判定をした場合、又はステップＳ７７０５の処理を実行した場合、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４について非特定制御用のチェックサムを算出する（ステップＳ７７０６）。当該非特定制御用のチェックサムの算出方法は停電情報記憶処理（図１１１）におけるステップＳ７６１１と同一である。その後、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理のステップＳ７６１１にて算出されて特定制御用のワークエリア２２１に保存された非特定制御用のチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１から読み出すとともに、その読み出した非特定制御用のチェックサムを、ステップＳ７７０６にて算出した非特定制御用のチェックサムと比較する（ステップＳ７７０７）。そして、それら非特定制御用のチェックサムが一致しているか否かを判定する（ステップＳ７７０８）。

【１２８７】

非特定制御用のチェックサムが一致していない場合（ステップＳ７７０８：ＮＯ）、「ＰＵＳＨ　ＰＳＷ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させる（ステップＳ７７０９）。フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、Ｐ／Ｖフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。このようなフラグレジスタの情報を非特定制御用のクリア処理に対応するサブルーチンのプログラムが開始される前に退避させることにより、当該サブルーチンのコールや当該サブルーチンの開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。なお、フラグレジスタの情報量は１バイトとなっている。

【１２８８】

その後、非特定制御用のプログラムに設定されている非特定制御用のクリア処理に対応するサブルーチンのプログラムを読み出すことにより、当該非特定制御用のクリア処理を開始する（ステップＳ７７１０）。この場合、当該非特定制御用のクリア処理の実行後におけるチェックサムの監視処理の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により特定制御用のスタックエリア２２２に書き込まれる。そして、非特定制御用のクリア処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示すチェックサムの監視処理のプログラムに復帰する。

【１２８９】

非特定制御用のクリア処理の実行後において異常時のクリア処理のプログラムに復帰した場合、「ＰＯＰ　ＰＳＷ」として、ポップ命令により、ステップＳ７７０９にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる（ステップＳ７７１１）。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が、ステップＳ７７０９が実行された時点の情報に復帰することとなる。つまり、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰することとなる。

【１２９０】

図１１３は非特定制御用のクリア処理を示すフローチャートである。なお、非特定制御用のクリア処理におけるステップＳ７８０１～ステップＳ７８１８の処理は主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【１２９１】

非特定制御用のクリア処理におけるステップＳ７８０１～ステップＳ７８０７では上記

第３１の実施形態における非特定制御用のクリア処理（図１１０）におけるステップＳ７５０１～ステップＳ７５０７と同一の処理を実行する。

【１２９２】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３の一部クリア処理を実行する（ステップＳ７８０８）。当該一部クリア処理では非特定制御用のワークエリア２２３の各記憶エリアのうち、特定制御に対応する処理にて利用される主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報が退避された記憶エリア以外の記憶エリアを「０」クリアする。具体的には、非特定制御用のワークエリア２２３の各記憶エリアのうちＷＡバッファ、ＢＣバッファ、ＤＥバッファ、ＨＬバッファ、ＩＸバッファ及びＩＹバッファは「０」クリアしない一方、これら各種バッファ以外の記憶エリアを「０」クリアする。

【１２９３】

この場合、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３、演算結果記憶エリア２３４及び管理開始フラグの全てが「０」クリアされる。これにより、非特定制御用のワークエリア２２３における情報異常を解消することが可能となる。また、特定制御に対応する処理にて利用される主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報が退避された記憶エリアを「０」クリアしないようにすることにより、非特定制御に対応する処理が終了して特定制御に対応する処理に復帰する場合には主側ＣＰＵ６３の各種レジスタに特定制御に対応する処理にて利用される情報を復帰させることが可能となる。

【１２９４】

その後、初期設定処理を実行する（ステップＳ７８０９）。初期設定処理では、非特定制御用のワークエリア２２３においてステップＳ７８０８にて「０」クリアの対象となった記憶エリアに対して初期設定を行う。

【１２９５】

その後、非特定制御用のスタックエリア２２４の一部クリア処理を実行する（ステップＳ７８１０）。当該一部クリア処理では非特定制御用のスタックエリア２２４の各記憶エリアのうち、非特定制御用のクリア処理が終了した後におけるチェックサムの監視処理（図１１２）の戻り番地の情報が格納された記憶エリア以外の記憶エリアを「０」クリアする。これにより、非特定制御用のクリア処理が終了した後におけるチェックサムの監視処理（図１１２）の戻り番地の情報が消去されてしまわないようにしながら、非特定制御用のスタックエリア２２４の情報異常を解消することが可能となる。

【１２９６】

その後、初期設定処理を実行する（ステップＳ７８１１）。初期設定処理では、非特定制御用のスタックエリア２２４においてステップＳ７８１０にて「０」クリアの対象となった記憶エリアに対して初期設定を行う。

【１２９７】

その後、ステップＳ７８１２～ステップＳ７８１８の処理を実行する。これらステップＳ７８１２～ステップＳ７８１８の処理は上記第３１の実施形態における非特定制御用のクリア処理（図１１０）におけるステップＳ７５１０～ステップＳ７５１６と同一の処理を実行する。

【１２９８】

上記構成によれば、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムと、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４についてのチェックサムとが個別に算出される。これにより、主側ＲＡＭ６５における特定制御に対応する記憶エリアと、主側ＲＡＭ６５における非特定制御に対応する記憶エリアとのそれぞれについて個別に情報異常を特定することが可能となる。

【１２９９】

特定制御用のチェックサムに異常がある場合には特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２に対して「０」クリアの処理と初期設定処理とを実行

し、非特定制御用のチェックサムに異常がある場合には非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４に対して「０」クリアの処理と初期設定処理とを実行する。これにより、「０」クリアの処理及び初期設定処理を実行する対象を、チェックサムの異常が特定されたエリアに絞ることが可能となる。

【１３００】

特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアする処理と初期設定する処理とは特定制御に対応する処理にて実行され、非特定制御用のワークエリア２２３を「０」クリアする処理と初期設定する処理とは非特定制御に対応する処理にて実行される。これにより、「０」クリアする処理及び初期設定処理に関しても、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２が特定制御に対応する処理の専用の記憶エリアとして扱われるとともに、非特定制御用のワークエリア２２３が非特定制御に対応する処理の専用の記憶エリアとして扱われるようにすることが可能となる。

【１３０１】

なお、非特定制御用のクリア処理（図１１３）におけるステップＳ７８０８では管理開始フラグを「０」クリアする構成としたが、管理開始フラグを「０」クリアしない構成としてもよい。また、非特定制御用のクリア処理（図１１３）におけるステップＳ７８０８では通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３を「０」クリアしない構成としてもよく、演算結果記憶エリア２３４を「０」クリアしない構成としてもよい。

【１３０２】

＜第３３の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行される処理構成が上記第１５の実施形態と相違している。以下、上記第１５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第１５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【１３０３】

図１１４は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳ７９０１～ステップＳ７９２４の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１３０４】

まず電源投入初期設定処理を実行する（ステップＳ７９０１）。電源投入初期設定処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。このウエイト用の所定期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。また、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する。

【１３０５】

その後、内部機能レジスタ設定処理を実行する（ステップＳ７９０２）。内部機能レジスタ設定処理では、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第１タイマ割込み処理（図１１７）の割込み周期を第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）に設定するとともに、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第２タイマ割込み処理（図１２３）の割込み周期を上記第１割込み周期よりも短い周期である第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）に設定する。

【１３０６】

つまり、本実施形態ではタイマ割込み処理として割込み周期が相対的に長短となるように第１タイマ割込み処理と第２タイマ割込み処理とが存在している。第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理はいずれもメイン処理に対して割り込んで起動される。また、第２タイマ割込み処理は第１タイマ割込み処理に対して割り込んで起動される。一方、第１タイマ割込み処理は第２タイマ割込み処理に対して割り込んで起動されない。また、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の両方が実行されていない状況において

第１割込み周期及び第２割込み周期の両方が経過している場合、それら周期の経過順序に関係なく第２タイマ割込み処理から先に起動される。この点、第２タイマ割込み処理は第１タイマ割込み処理よりも優先して起動される処理であると言える。

【１３０７】

内部機能レジスタ設定処理では、第１タイマ割込み処理の第１割込み周期を主側ＣＰＵ６３の所定のレジスタに設定するとともに、第２タイマ割込み処理の第２割込み周期を主側ＣＰＵ６３の特定のレジスタに設定する。また、内部機能レジスタ設定処理では上記第１，第２割込み周期の設定以外にも例えば当たり乱数カウンタＣ１の数値範囲といった各種カウンタの数値範囲の設定処理などを実行する。

【１３０８】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた立ち上げ処理中フラグに「１」をセットする（ステップＳ７９０３）。立ち上げ処理中フラグは、第１タイマ割込み処理が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理に設定されている各種処理を実行することなく当該第１タイマ割込み処理を終了すべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理に設定されている各種処理は実行されることはなく当該第１タイマ割込み処理が終了されることとなる。

【１３０９】

その後、割込み許可の設定を行う（ステップＳ７９０４）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１１７）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１２３）が第２割込み周期で割り込んで起動される。但し、ステップＳ７９０３にて立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理に設定されている各種処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理が終了される。

【１３１０】

その後、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳ７９０５）。つまり、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている状態においてパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われて主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたか否かを判定する。ここで、本実施形態では主制御装置６０に設定キー挿入部６８ａ及びリセットボタン６８ｃが設けられているものの更新ボタン６８ｂは設けられていない。また、主制御装置６０には第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃではなく第１１の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が設けられている。

【１３１１】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳ７９０５：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ７９０６）。後述する第１タイマ割込み処理（図１１７）の停電情報記憶処理（ステップＳ８２０２）にて停電時処理が実行された場合に停電フラグに「１」がセットされる。停電フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われたか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【１３１２】

停電フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳ７９０６：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてチェックサムを算出する（ステップＳ７９０７）。チェックサムの算出方法は任意であるが、後述する第１タイマ割込み処理（図１１７）の停電情報記憶処理（ステップＳ８２０２）における停電時処理においてチェックサムが算出される場合の算出方法と同一の算出方法となっている。当該停電時処理において算出されたチェックサムは特定制御用のワークエリア２２１に記憶されることとなるが、このチェックサムが記憶される特定制御用のワークエリア２２１の記憶エリアはチェックサムの算出に際して演算対象となる記憶エリアから除外される。

【１３１３】

つまり、チェックサムの算出に際しては特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２において一部の記憶エリアである演算対象となる記憶エリアが演算対象となる。この演算対象となる記憶エリアは、ＭＰＵ６２への動作電力の供給が停止される場合における停電時処理においてチェックサムを算出してからＭＰＵ６２への動作電力の供給が再開されてステップＳ７９０７の処理が実行されるまで、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２へのバックアップ電力といった電力供給が継続された場合には基本的には情報の書き換えが行われない記憶エリアである。したがって、ＭＰＵ６２への動作電力の供給が停止されてから当該ＭＰＵ６２への動作電力の供給が再開されるまでに特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の情報が変更されていない場合には、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムはＭＰＵ６２への動作電力の供給が停止される直前と同一である。また、このチェックサムの算出に際して演算対象となる記憶エリアには、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（具体的には設定値カウンタ）が含まれている。なお、上記チェックサムの演算対象には非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４は含まれていない。

【１３１４】

その後、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理において算出されて特定制御用のワークエリア２２１に保存された特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１から読み出すとともに、その読み出したチェックサムを、ステップＳ７９０７にて算出したチェックサムと比較する（ステップＳ７９０８）。そして、それらチェックサムが一致しているか否かを判定する（ステップＳ７９０９）。

【１３１５】

ステップＳ７９０６又はステップＳ７９０９にて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「１」がセットされていない場合又はチェックサムが一致しなかった場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグに「１」をセットする（ステップＳ７９１０）。遊技停止フラグは、後述する第１タイマ割込み処理（図１１７）においてステップＳ８２０７にて肯定判定をしてステップＳ８２０８～ステップＳ８２２１の処理を実行しない状況、すなわち遊技を進行させるための処理の実行を停止すべき状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、後述する第１タイマ割込み処理（図１１７）のステップＳ８２０７にて肯定判定をすることでステップＳ８２０８～ステップＳ８２２１の処理が実行されない状況となる。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合には遊技の進行が停止された状態となるとともに、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合には遊技の進行が停止された状態となる。

【１３１６】

この場合に、チェックサムの算出に際して演算対象となる記憶エリアには上記のとおり特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（具体的には設定値カウンタ）が含まれている。したがって、前回の電源遮断時の後において設定値異常が発生している場合にはチェックサムが一致しないこととなり、遊技の進行が停止された状態となる。

【１３１７】

その一方、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況であっても第１タイマ割込み処理（図１１７）におけるステップＳ８２０２～ステップＳ８２０６の処理が実行される。したがって、遊技の進行が停止されている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。

【１３１８】
その後、動作電力の供給開始時において停電フラグ又はチェックサムに関して異常が発生したことを示す異常コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ７９１１）。音声発光制御装置８１は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を動作電力の供給開始時における情報異常に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定変更をして下さい。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機１０への動作電力の供給が一旦停止されたとしても設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されるまではパチンコ機１０への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が継続される構成としてもよい。
【１３１９】
遊技の進行が停止されている状況において上記報知を確認した遊技ホールの管理者は、パチンコ機１０への動作電力の供給を一旦停止させて、その後にパチンコ機１０への動作電力の供給を再開させる場合に設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されるようにするための操作を行うこととなる。これにより、動作電力の供給開始時において停電フラグ又はチェックサムに関して異常が発生した場合には設定値更新処理（ステップＳ７９１８）にて設定値の新たな設定が行われるようにすることが可能となる。
【１３２０】
特に、チェックサムの算出に際して演算対象となる記憶エリアには上記のとおり特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（具体的には設定値カウンタ）が含まれているため、チェックサムに異常が発生している場合には設定値に異常が発生している可能性がある。これに対して、上記のようにチェックサムに関して異常が発生した場合には設定値更新処理（ステップＳ７９１８）の実行が促されることにより、異常な設定値のまま遊技が行われてしまわないようにすることが可能となる。
【１３２１】
停電フラグに「１」がセットされているとともにチェックサムが正常である場合（ステップＳ７９０６及びステップＳ７９０９：ＹＥＳ）、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定し（ステップＳ７９１２）、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるとともに外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態であるか否かを判定する（ステップＳ７９１３）。内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるか否かの検知は上記第３０の実施形態と同様に前扉開放センサ９５が利用され、外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態であるか否かの検知は上記第３０の実施形態と同様に本体開放センサ９６が利用される。設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されており（ステップＳ７９１２：ＹＥＳ）、さらに内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるとともに外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態である場合（ステップＳ７９１３：ＹＥＳ）、設定確認用処理を実行する（ステップＳ７９１４）。設定確認用処理では、遊技履歴の管理結果である各種パラメータを表示するために利用される第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示を行うための処理を実行する。
【１３２２】
図１１５は設定確認用処理を示すフローチャートである。なお、設定確認用処理におけるステップＳ８００１～ステップＳ８００３の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【１３２３】
まず特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定確認表示フラグに「１」をセットする（ステップＳ８００１）。設定確認表示フラグは、パチンコ機１０の現状の設定値

を確認している状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。設定確認表示フラグに「１」がセットされることにより、後述する第２タイマ割込み処理（図１２３）にてそれに対応する表示制御が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に対して行われる。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われる。

【１３２４】

その後、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＦＦ操作されているか否かを判定する（ステップＳ８００２）。この場合、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する構成としてもよく、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態であるか否かを判定する構成としてもよい。設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されていない場合（ステップＳ８００２：ＮＯ）、そのままステップＳ８００２の処理を繰り返す。

【１３２５】

設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されている場合（ステップＳ８００２：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグを「０」クリアする（ステップＳ８００３）。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。この場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では遊技履歴の管理結果を示す表示が開始されることとなる。

【１３２６】

上記のとおり本実施形態ではリセットボタン６８ｃを押圧操作することなく設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作した状態でパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われることにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されてメイン処理が開始された状況においてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていないとともに設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作された状態となり、メイン処理にて遊技の進行を可能とする処理が実行される前の状況である動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において設定確認用処理が実行される。これにより、遊技が行われていない状況下において設定値の確認を行うことが可能となる。

【１３２７】

遊技の進行が継続される状況において設定値の確認が行われる場合を想定すると、例えば遊技回の実行途中において設定値の確認が行われた場合には、設定値の確認が行われている途中で開閉実行モードへの移行が発生してしまうおそれがある。この場合、開閉実行モードが開始されているにも関わらず特電入賞装置３２に向けて遊技球を発射することができないおそれがある。また、開閉実行モードの実行途中において設定値の確認が行われた場合、設定値の確認が行われている状況下において開閉実行モードが進行することとなるため、この場合にも特電入賞装置３２に向けて遊技球を発射することができないおそれがある。

【１３２８】

設定値の確認が行われる場合には遊技の進行が停止される場合を想定すると、遊技が行われている状況において設定値の確認が開始された場合には、遊技の進行を途中で停止させるための処理が複雑化してしまうおそれがある。例えば遊技回の実行途中において設定値の確認が開始されて遊技の進行を途中で停止させようとすると、遊技回を途中で停止させるための処理が必要となる。この場合、設定値の確認が開始された場合に図柄表示装置４１における図柄の変動表示を途中で停止させて、設定値の確認が終了した場合に図柄表示装置４１における図柄の変動表示を再開させようとすると、それだけ複雑な処理を要することとなる。また、例えば開閉実行モードの実行途中において設定値の確認が開始されて遊技の進行を途中で停止させようとすると、開閉実行モードを途中で停止させるための処理が必要となる。また、普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行途中において設定値の確認が開始されて遊技の進行を途中で停止させようとすると、当該絵柄の変動表

示を途中で停止させるための処理が必要となる。また、普電役物３４ａの開放実行状態の実行途中において設定値の確認が開始されて遊技の進行を途中で停止させようとすると、当該開放実行状態を途中で停止させるための処理が必要となる。その一方、全ての遊技が終了するまで待って設定値の確認が行われる構成も考えられるが、この場合、遊技回、開閉実行モード、普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示、及び普電役物３４ａの開放実行状態のいずれもが実行されない状況まで待つ必要が生じ、設定値の確認を開始させるまでの待ち時間が長くなってしまうおそれがある。

【１３２９】

これに対して、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に実行されるメイン処理において遊技の進行を可能とする処理が実行される前の状況である動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況で設定確認用処理が実行されるため、遊技の進行が既に停止されている状況において設定値の確認が行われることとなる。これにより、遊技が進行している状況で設定値の確認が行われないようにすることが可能となるとともに、設定値の確認に際して遊技の進行を途中で停止させたり、遊技の進行が停止されるまで設定値の確認を待つ必要が生じない。よって、設定値の確認を適切に行うことが可能となる。

【１３３０】

メイン処理（図１１４）の説明に戻り、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合（ステップＳ７９０５：ＹＥＳ）、ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳ７９１５）。ＲＡＭクリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（具体的には設定値カウンタ）を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「０」クリアされるため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示されていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。また、ＲＡＭクリア処理では特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。また、ＲＡＭクリア処理では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を実行する。この初期設定ではステップＳ７９０２の内部機能レジスタ設定処理（ステップＳ７９０２）と同様の処理を実行する。

【１３３１】

一方、ＲＡＭクリア処理では非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアしない。これにより、遊技ホールの管理者によるクリア操作によっては非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされないようにすることが可能となる。

【１３３２】

その後、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定し（ステップＳ７９１６）、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるとともに外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態であるか否かを判定する（ステップＳ７９１７）。内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるか否かの検知は上記第３０の実施形態と同様に前扉開放センサ９５が利用され、外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態であるか否かの検知は上記第３０の実施形態と同様に本体開放センサ９６が利用される。設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されており（ステップＳ７９１６：ＹＥＳ）、さらに内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるとともに外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態である場合（ステップＳ７９１７：ＹＥＳ）、設定値更新処理を実行する（ステップＳ７９１８）。

【１３３３】

図１１６は設定値更新処理を示すフローチャートである。なお、設定値更新処理におけるステップＳ８１０１～ステップＳ８１０７の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１３３４】

まず特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」をセットする（ステップＳ８１０１）。設定更新表示フラグは、パチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。設定更新表示フラグに「１」がセットされることにより、後述する第２タイマ割込み処理（図１２３）にてそれに対応する表示制御が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に対して行われる。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、パチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われる。

【１３３５】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定値カウンタの値が「設定１」に対応する１以上であって「設定６」に対応する６以下であるか否かを判定する（ステップＳ８１０２）。設定値カウンタの値が「０」である場合又は７以上である場合、ステップＳ８１０２にて否定判定をして、設定値カウンタに「１」をセットする（ステップＳ８１０３）。これにより、パチンコ機１０の設定値が「設定１」となる。

【１３３６】

ステップＳ８１０２にて肯定判定をした場合又はステップＳ８１０３の処理を実行した場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＦＦ操作されているか否かを判定する（ステップＳ８１０４）。この場合、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する構成としてもよく、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態であるか否かを判定する構成としてもよい。

【１３３７】

設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されていない場合（ステップＳ８１０４：ＮＯ）、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていることを条件として（ステップＳ８１０５：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値を１加算する（ステップＳ８１０６）。これにより、リセットボタン６８ｃが１回押圧操作される度に１段階上の設定値に更新される。また、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳ８１０５：ＮＯ）又は設定値カウンタの値を１加算した場合にはステップＳ８１０２の処理に戻ることとなるが、ステップＳ８１０２にて設定値カウンタの値が７以上であると判定されると、ステップＳ８１０３にて設定値カウンタに「１」がセットされる。これにより、「設定６」の状況でリセットボタン６８ｃが１回押圧操作された場合には「設定１」に戻ることになる。

【１３３８】

設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されている場合（ステップＳ８１０４：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグを「０」クリアする（ステップＳ８１０７）。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、パチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。この場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では遊技履歴の管理結果を示す表示が開始されることとなる。

【１３３９】

上記のとおり本実施形態ではリセットボタン６８ｃを押圧操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われることにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されてメイン処理が開始された状況においてリセットボタン６８ｃが押圧操作された状態となり、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されているか否かに関係なくＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）が実行される。これにより、リセットボタン６８ｃを押圧操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うという操作内容が、ＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）の実行に一義的に結びつくこととなり、ＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１

５）を発生させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。

【１３４０】

ＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）が実行されたとしても特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタは「０」クリアされないとともに設定値カウンタの情報は変更されない。これにより、ＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）が実行されたとしても設定値が変更されてしまわないようにすることが可能となる。

【１３４１】

リセットボタン６８ｃを押圧操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うだけではなくさらに設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うことに基づき、ＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）だけではなく設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行される。また、既に説明したとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作することなく設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うことに基づき、設定確認用処理（ステップＳ７９１４）が実行される。これにより、設定値に関する処理が実行されるための操作として、設定キー挿入部６８ａに対するＯＮ操作を共通させることが可能となる。よって、設定値に関する処理を発生させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。

【１３４２】

また、設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行う場合であって、リセットボタン６８ｃの押圧操作を付加しない場合には設定確認用処理が実行され、リセットボタン６８ｃの押圧操作を付加する場合には設定値更新処理が実行される。これにより、リセットボタン６８ｃの押圧操作の有無によって設定確認用処理及び設定値更新処理のうち実行対象の処理を相違させることが可能となる。よって、設定確認用処理及び設定値更新処理のうち所望の処理を実行させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。また、設定確認用処理よりも設定値更新処理を実行させるための操作内容を多くすることにより、設定値更新処理を不正に行わせる行為を特に行いづらくさせることが可能となる。

【１３４３】

メイン処理（図１１４）の説明に戻り、ステップＳ７９１１の処理を実行した場合、ステップＳ７９１２若しくはステップＳ７９１３にて否定判定をした場合、ステップＳ７９１４の処理を実行した場合、ステップＳ７９１６若しくはステップＳ７９１７にて否定判定をした場合、又はステップＳ７９１８の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグを「０」クリアする（ステップＳ７９１９）。立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされることにより、第１タイマ割込み処理が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理に設定されている各種処理が実行されない状態が解除される。なお、ステップＳ７９１９では特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグも「０」クリアする。

【１３４４】

その後、復帰コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ７９２０）。復帰コマンドには、特図表示部３７ａ用の保留情報の数を示す情報、現状の当否抽選モードを示す情報、現状のサポートモードを示す情報、開閉実行モードの実行途中であるか否かを示す情報、及び遊技回の実行途中であるか否かを示す情報が含まれている。これら情報は特定制御用のワークエリア２２１に記憶された情報に基づき設定される。音声発光制御装置８１は復帰コマンドを受信することにより、図柄表示装置４１の表示内容、表示発光部５３の発光内容及びスピーカ部５４の音出力内容を、復帰コマンドに設定されている各種情報に対応する内容とする。

【１３４５】

ここで、パチンコ機１０の設定値の確認を行う場合、設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行う必要がある。そうすると、

例えば遊技回の実行途中に設定値を確認する必要が生じた場合には、遊技回の実行途中でパチンコ機１０の電源ＯＦＦ操作が行われ、その後に設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われることとなる。この場合に、音声発光制御装置８１に設けられたＲＡＭにはバックアップ電力が供給されないため、パチンコ機１０の電源ＯＦＦ操作が行われた段階で、音声発光制御装置８１のＲＡＭにおける遊技回用の演出を制御するための情報は消去されてしまう。これに対して、主側ＲＡＭ６５にはバックアップ電力が供給されるとともに設定値の確認に際しては主側ＲＡＭ６５のクリア処理は実行されないため、遊技回の実行途中でパチンコ機１０の電源ＯＦＦ操作が行われ、その後に設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われた場合には、設定確認用処理の実行後には特図表示部３７ａにて絵柄の変動表示が再開されることとなる。そうすると特図表示部３７ａでは絵柄の変動表示が行われているにも関わらず、図柄表示装置４１では図柄の変動表示が行われない状況が発生してしまう。

【１３４６】

これに対して、設定確認用処理が終了した後に復帰コマンドが音声発光制御装置８１に送信されるとともに当該復帰コマンドには遊技回の実行途中であるか否かを示す情報が含まれている。そして、音声発光制御装置８１は復帰コマンドを受信した場合には図柄表示装置４１において図柄の変動表示を開始させる。これにより、特図表示部３７ａでは絵柄の変動表示が行われているにも関わらず図柄表示装置４１では図柄の変動表示が行われない状況が発生してしまわないようにすることが可能となる。この図柄の変動表示は変動表示中の各図柄が遊技者にとって識別不可又は識別しづらくなるように相対的に速い速度で行われる。また、復帰コマンドには再開対象となる遊技回の当否判定処理の結果及び振分判定処理の結果が含まれていないとともに再開対象となる遊技回の終了タイミングを示す情報も含まれていない。したがって、音声発光制御装置８１は復帰コマンドに基づき図柄表示装置４１における図柄の変動表示を開始させた場合、再開対象の遊技回が外れ結果に対応しているのであれば次の遊技回の開始を示すコマンド又はデモ表示を図柄表示装置４１にて開始すべきコマンドを受信した場合に復帰コマンドに基づく図柄の変動表示を終了させてその新たに受信したコマンドに対応する表示を開始させ、再開対象の遊技回が大当たり結果に対応しているのであれば開閉実行モードの開始を示すオープニングコマンドを受信した場合に復帰コマンドに基づく図柄の変動表示を終了させてオープニング演出を開始させる。

【１３４７】

また、復帰コマンドに開閉実行モードの実行途中であることを示す情報が含まれている場合には、音声発光制御装置８１は開閉実行モードであることを示す表示演出が図柄表示装置４１にて開始されるようにする。これにより、開閉実行モードが実行されていることを遊技者に認識させることが可能となる。

【１３４８】

その後、ステップＳ７９２１～ステップＳ７９２４の残余処理に進む。つまり、主側ＣＰＵ６３は第１タイマ割込み処理（図１１７）及び第２タイマ割込み処理（図１２３）を定期的に実行する構成であるが、１のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は各タイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップＳ７９２１～ステップＳ７９２４の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップＳ７９２１～ステップＳ７９２４の残余処理は非定期的に実行される非定期処理であると言える。ステップＳ７９２１～ステップＳ７９２４では、上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のステップＳ１１３～ステップＳ１１６と同一の処理を実行する。

【１３４９】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される第１タイマ割込み処理について、図１１７のフローチャートを参照しながら説明する。なお、第１タイマ割込み処理は既に説明したとおり第１割込み周期である４ミリ秒周期で定期的に起動される。また、第１タイマ割込み処理

に対応するプログラムは特定制御用のプログラムに設定されている。
【１３５０】
まず特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ８２０１）。既に説明したとおり立ち上げ処理中フラグにはメイン処理（図１１４）のステップＳ７９０３にて「１」がセットされる。そして、立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳ８２０１：ＹＥＳ）、ステップＳ８２０２～ステップＳ８２２１の各種処理を実行することなく第１タイマ割込み処理を終了する。これにより、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されてメイン処理（図１１４）が開始された場合には早期に第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の実行が許可される構成であっても、動作電力の供給開始時の処理が終了して遊技の進行を制御するための処理の実行が許可されるまでは第１タイマ割込み処理において遊技の進行を制御するための各種処理が実行されないようにすることが可能となる。
【１３５１】
既に説明したとおり立ち上げ処理中フラグは、メイン処理（図１１４）において動作電力の供給開始時の処理が終了した場合にステップＳ７９１９にて「０」クリアされる。第１タイマ割込み処理では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳ８２０１：ＮＯ）、ステップＳ８２０２以降の処理を実行する。
【１３５２】
ステップＳ８２０２～ステップＳ８２１９及びステップＳ８２２１では上記第１５の実施形態におけるタイマ割込み処理（図６９）のステップＳ３７０１～ステップＳ３７１９と同一の処理を実行する。これらの処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。この場合に、既に説明したとおりメイン処理（図１１４）において停電フラグに「１」がセットされていないと判定した場合（ステップＳ７９０６：ＮＯ）又はチェックサムが一致していないと判定した場合（ステップＳ７９０９：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」をセットする（ステップＳ７９１０）。遊技停止フラグに「１」がセットされている場合、第１タイマ割込み処理ではステップＳ８２０１～ステップＳ８２０６の処理は実行するものの、ステップＳ８２０７にて肯定判定をすることでステップＳ８２０８～ステップＳ８２２１の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合には遊技の進行が停止された状態となるとともに、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合には遊技の進行が停止された状態となる。例えばステップＳ８２１２の処理が実行されないことで遊技球の発射が禁止される。また、ステップＳ８２１４の処理が実行されないことで遊技回及び開閉実行モードの実行が禁止される。また、ステップＳ８２１８の処理が実行されないことで遊技球の払い出しが禁止される。
【１３５３】
その一方、このように遊技の進行が停止されている状況であってもステップＳ８２０２による停電監視が実行されるとともに、ステップＳ８２０３及びステップＳ８２０４による当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらにステップＳ８２０６による不正の検知が実行される。
【１３５４】
第１タイマ割込み処理ではステップＳ８２２０にて設定監視処理を実行する。図１１８は設定監視処理を示すフローチャートである。なお、設定監視処理におけるステップＳ８３０１～ステップＳ８３０３の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【１３５５】

特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値を確認することでパチンコ機１０の設定値が正常か否かを判定する（ステップＳ８３０１）。具体的には、設定値カウンタに設定された設定値が「設定１」～「設定６」のいずれかである場合に正常であると判定し、「０」又は７以上である場合に異常であると判定する。

【１３５６】

設定値が異常である場合（ステップＳ８３０１：ＮＯ）、メイン処理（図１１４）におけるステップＳ７９１０と同様に、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」をセットする（ステップＳ８３０２）。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１１７）のステップＳ８２０７にて肯定判定をすることでステップＳ８２０８～ステップＳ８２２１の処理が実行されない状況となる。これにより、設定値が異常であることが特定された場合には遊技の進行が停止された状態となる。その一方、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況であっても第１タイマ割込み処理（図１１７）におけるステップＳ８２０２～ステップＳ８２０６の処理が実行されるため、遊技の進行が停止されている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。

【１３５７】

その後、設定値が異常であることを示す異常コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ８３０３）。音声発光制御装置８１は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を設定値異常に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定変更をして下さい。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機１０への動作電力の供給が一旦停止されたとしてもメイン処理（図１１４）の設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されるまではパチンコ機１０への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が継続される構成としてもよい。

【１３５８】

遊技の進行が停止されている状況において上記報知を確認した遊技ホールの管理者は、パチンコ機１０への動作電力の供給を一旦停止させて、その後にパチンコ機１０への動作電力の供給を再開させる場合に設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されるようにするための操作を行うこととなる。これにより、設定値異常が発生した場合には設定値更新処理（ステップＳ７９１８）にて設定値の新たな設定が行われるようにすることが可能となる。

【１３５９】

ここで、設定値が異常であるか否かの監視処理が定期的に起動される第１タイマ割込み処理（図１１７）にて実行される。これにより、設定値が異常であるか否かの監視を遊技が行われている状況であっても行うことが可能となる。よって、設定値が異常であるにも関わらず遊技が継続されてしまわないようにすることが可能となる。また、設定値が異常であるか否かの監視は監視契機が発生する度に実行される。これにより、設定値が異常であるか否かを監視する頻度を高めることが可能となる。

【１３６０】

メイン処理（図１１４）には設定値が正常であるか否かを監視するための処理は設定されていない。メイン処理（図１１４）における動作電力の供給開始時の処理において設定値が正常であるか否かを監視するための処理が設定されていると、動作電力の供給開始時において停電フラグ及びチェックサムの監視を行うだけではなく設定値が正常であるか否かの監視を行う必要が生じ、監視負荷が高くなってしまう。さらに動作電力の供給開始時において設定値が異常であることを特定した場合にはＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）及び設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されるようにしようとすると、それだけ処理構成が複雑化してしまう。これに対して、メイン処理（図１１４）には設定

値が正常であるか否かを監視するための処理が設定されていないことにより、動作電力の供給開始時の処理の処理構成を好適なものとすることが可能となる。また、このように動作電力の供給開始時の処理において設定値が正常であるか否かを監視するための処理が設定されていないとしても、上記のとおり第１タイマ割込み処理（図１１７）にて設定監視処理（ステップＳ８２２０）を実行する構成であるため、設定値が異常である場合にはそれに対処することが可能となる。

【１３６１】

第１タイマ割込み処理が上記のように実行される構成において、本実施形態では既に説明したとおりタイマ割込み処理として第１タイマ割込み処理（図１１７）とは別に第２タイマ割込み処理（図１２３）が存在しているとともに、当該第２タイマ割込み処理は第１タイマ割込み処理の実行途中であっても当該第１タイマ割込み処理に対して割り込んで起動される。この場合に、第１タイマ割込み処理では図示は省略するが、ステップＳ８２０１～ステップＳ８２２１の各処理の前後においてタイマ割込み処理の禁止とタイマ割込み処理の許可とを行っている。例えば、抽選用乱数更新処理（ステップＳ８２０３）を実行する前にタイマ割込み処理を禁止し、抽選用乱数更新処理（ステップＳ８２０３）を実行した後にタイマ割込み処理を許可する。これにより、抽選用乱数更新処理が実行されている途中で第２タイマ割込み処理が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。また、特図特電制御処理（ステップＳ８２１４）を実行する前にタイマ割込み処理を禁止し、特図特電制御処理（ステップＳ８２１４）を実行した後にタイマ割込み処理を許可する。これにより、特図特電制御処理が実行されている途中で第２タイマ割込み処理が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【１３６２】

次に、主側ＣＰＵ６３にて各種表示部を表示制御するための構成について説明する。図１１９は主側ＣＰＵ６３にて各種表示部を表示制御するための構成を説明するためのブロック図である。

【１３６３】

主側ＣＰＵ６３にて表示制御が行われる対象として、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が存在している。これらはいずれもＬＥＤによる表示用セグメントが複数配列されたセグメント表示部として設けられている。これらセグメント表示部は、発光状態に対応するデータ（例えば２値データのうち一方である「１」のデータ）が設定されることにより発光状態となり、消灯状態に対応するデータ（例えば２値データのうち他方である「０」のデータ）が設定されることにより消灯状態となる。

【１３６４】

主制御基板６１には、特図表示部３７ａに対応させて第１表示回路２６１が設けられており、特図保留表示部３７ｂに対応させて第２表示回路２６２が設けられており、普図表示部３８ａに対応させて第３表示回路２６３が設けられており、普図保留表示部３８ｂに対応させて第４表示回路２６４が設けられており、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に対応させて第５表示回路２６５が設けられている。なお、上記第１１の実施形態では主制御基板６１に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に１対１で対応させて第１～第４表示ＩＣ２０５～２０８が設けられている構成としたが、本実施形態ではこれら第１～第４表示ＩＣ２０５～２０８は設けられていない。

【１３６５】

第１表示回路２６１は供給された表示データに対応するデータを特図表示部３７ａの複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する。これにより、第１表示回路２６１に提供された表示データに対応する態様で特図表示部３７ａの各表示用セグメントが発光状態又は消灯状態となる。この場合に、第１表示回路２６１は提供された表示データを所定期間（例えば１６ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「０」の状態に近付くこととなる。したがって、第１表示回路２６１に提供された表示データによって発光状態となっている特図表示部３７ａの表示用

セグメントは新たな表示データが第１表示回路２６１に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより特図表示部３７ａの表示内容が変更される場合だけではなく特図表示部３７ａの表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第１表示回路２６１に供給される。

【１３６６】

特図表示部３７ａに設けられた表示用セグメントの数は８個である。したがって、特図表示部３７ａを表示制御するための表示データとして８ビットのデータが第１表示回路２６１に提供される。

【１３６７】

第２表示回路２６２は供給された表示データに対応するデータを特図保留表示部３７ｂの複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する。これにより、第２表示回路２６２に提供された表示データに対応する態様で特図保留表示部３７ｂの各表示用セグメントが発光状態又は消灯状態となる。この場合に、第２表示回路２６２は提供された表示データを所定期間（例えば１６ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「０」の状態に近付くこととなる。したがって、第２表示回路２６２に提供された表示データによって発光状態となっている特図保留表示部３７ｂの表示用セグメントは新たな表示データが第２表示回路２６２に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより特図保留表示部３７ｂの表示内容が変更される場合だけではなく特図保留表示部３７ｂの表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第２表示回路２６２に供給される。

【１３６８】

特図保留表示部３７ｂに設けられた表示用セグメントの数は４個である。したがって、特図保留表示部３７ｂを表示制御するための表示データとして４ビットのデータが第２表示回路２６２に提供される。但し、表示データの提供は８ビット単位で行われるため、第２表示回路２６２に表示データが提供される場合にも８ビットのデータが提供されるが、そのうちの４ビットが特図保留表示部３７ｂを表示制御するための表示データとして利用される。

【１３６９】

第３表示回路２６３は供給された表示データに対応するデータを普図表示部３８ａの複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する。これにより、第３表示回路２６３に提供された表示データに対応する態様で普図表示部３８ａの各表示用セグメントが発光状態又は消灯状態となる。この場合に、第３表示回路２６３は提供された表示データを所定期間（例えば１６ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「０」の状態に近付くこととなる。したがって、第３表示回路２６３に提供された表示データによって発光状態となっている普図表示部３８ａの表示用セグメントは新たな表示データが第３表示回路２６３に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより普図表示部３８ａの表示内容が変更される場合だけではなく普図表示部３８ａの表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第３表示回路２６３に供給される。

【１３７０】

普図表示部３８ａに設けられた表示用セグメントの数は８個である。したがって、普図表示部３８ａを表示制御するための表示データとして８ビットのデータが第３表示回路２６３に提供される。

【１３７１】

第４表示回路２６４は供給された表示データに対応するデータを普図保留表示部３８ｂの複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する。これにより、第４表示回路２６４に提供された表示データに対応する態様で普図保留表示部３８ｂの各表示用セグメントが発光

状態又は消灯状態となる。この場合に、第４表示回路２６４は提供された表示データを所定期間（例えば１６ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「０」の状態に近付くこととなる。したがって、第４表示回路２６４に提供された表示データによって発光状態となっている普図保留表示部３８ｂの表示用セグメントは新たな表示データが第４表示回路２６４に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより普図保留表示部３８ｂの表示内容が変更される場合だけではなく普図保留表示部３８ｂの表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第４表示回路２６４に供給される。

【１３７２】

普図保留表示部３８ｂに設けられた表示用セグメントの数は４個である。したがって、普図保留表示部３８ｂを表示制御するための表示データとして４ビットのデータが第４表示回路２６４に提供される。但し、表示データの提供は８ビット単位で行われるため、第４表示回路２６４に表示データが提供される場合にも８ビットのデータが提供されるが、そのうちの４ビットが普図保留表示部３８ｂを表示制御するための表示データとして利用される。

【１３７３】

第５表示回路２６５は供給された表示データに対応するデータを第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれに設けられた複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する。これにより、第５表示回路２６５に提供された表示データに対応する態様で第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の各表示用セグメントが発光状態又は消灯状態となる。この場合に、第５表示回路２６５は提供された表示データを所定期間（例えば１６ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「０」の状態に近付くこととなる。したがって、第５表示回路２６５に提供された表示データによって発光状態となっている第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントは新たな表示データが第５表示回路２６５に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容が変更される場合だけではなく第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第５表示回路２６５に供給される。

【１３７４】

第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれには表示用セグメントが７個設けられている。これに対して、表示データの提供は８ビット単位で行われる。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示データが第５表示回路２６５に提供される場合、第１報知用表示装置２０１に対応する７ビットの表示データが８ビット単位のデータとして提供され、その後に第２報知用表示装置２０２に対応する７ビットの表示データが８ビット単位のデータとして提供され、その後に第３報知用表示装置２０３に対応する７ビットの表示データが８ビット単位のデータとして提供され、最後に第４報知用表示装置２０４に対応する７ビットの表示データが８ビット単位のデータとして提供される。

【１３７５】

上記のように第１～第５表示回路２６１～２６５が設けられた構成において、主側ＣＰＵ６３は表示ＩＣ２６６に対して表示データを供給する。つまり、第１～第５表示回路２６１～２６５に１対１で表示ＩＣ２６６が設けられているのではなく、第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに対して共通となるように１個の表示ＩＣ２６６が設けられている。そして、主側ＣＰＵ６３は表示ＩＣ２６６に表示データを供給する場合、その表示データが第１～第５表示回路２６１～２６５のいずれに対応しているのかを示す種別データも表示ＩＣ２６６に供給する。

【１３７６】

主側ＣＰＵ６３と表示ＩＣ２６６との電気的な接続について詳細には、主側ＣＰＵ６３と表示ＩＣ２６６とは、種別データ信号線ＬＮ１と、種別クロック信号線ＬＮ２と、表示

データ信号線ＬＮ３と、表示クロック信号線ＬＮ４とを利用して電気的に接続されている。これら信号線ＬＮ１～ＬＮ４はいずれも主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６に一方向通信で信号を送信するための信号線である。

【１３７７】

種別データ信号線ＬＮ１を利用して主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６に種別データがシリアル通信で送信される。この場合、シリアル通信による種別データの各１ビットの区切りが、種別クロック信号線ＬＮ２を利用して主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６に送信される種別クロック信号により示される。種別データは送信対象となっている表示データが第１～第５表示回路２６１～２６５のいずれに対応しているのかを示すデータである。種別データは第１ビット～第５ビットによる５ビットのデータとして送信される。表示データが第１表示回路２６１に対応している場合には第１ビットがＨＩレベルとなるとともに他のビットはＬＯＷレベルとなる。表示データが第２表示回路２６２に対応している場合には第２ビットがＨＩレベルとなるとともに他のビットはＬＯＷレベルとなる。表示データが第３表示回路２６３に対応している場合には第３ビットがＨＩレベルとなるとともに他のビットはＬＯＷレベルとなる。表示データが第４表示回路２６４に対応している場合には第４ビットがＨＩレベルとなるとともに他のビットはＬＯＷレベルとなる。表示データが第５表示回路２６５に対応している場合には第５ビットがＨＩレベルとなるとともに他のビットはＬＯＷレベルとなる。

【１３７８】

表示データ信号線ＬＮ３を利用して主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６に表示データがシリアル通信で送信される。この場合、シリアル通信による表示データの各１ビットの区切りが、表示クロック信号線ＬＮ４を利用して主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６に送信される表示クロック信号により示される。表示データは第１～第８ビットによる８ビット単位で送信される。

【１３７９】

主側ＣＰＵ６３は後述する第２タイマ割込み処理（図１２３）にて、第１～第５表示回路２６１～２６５のそれぞれに対応する表示データを表示ＩＣ２６６に送信する。この場合、第２タイマ割込み処理の１回の処理回では第１～第５表示回路２６１～２６５のうち１個の表示回路に対して表示データを送信するとともに、第ｎ表示回路→第ｎ＋１表示回路となる順序に従って第２タイマ割込み処理の新たな処理回が発生する度に表示データの送信対象となる表示回路２６１～２６５が１個ずつ変更される。また、当該順序において最後の順番となる第５表示回路２６５に対応する表示データを送信した処理回の次の処理回における第２タイマ割込み処理では上記順序において最初の順番となる第１表示回路２６１に対応する表示データを送信する。なお、第１～第４表示回路２６１～２６４のいずれかに表示データを送信する第２タイマ割込み処理の処理回では８ビット単位の表示データが１個のみ送信されるが、第５表示回路２６５に表示データを送信する第２タイマ割込み処理の処理回では８ビット単位の表示データが第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の数に対応させて４個送信される。

【１３８０】

上記のように主側ＣＰＵ６３が表示データを送信する構成において特定制御用のワークエリア２２１及び非特定制御用のワークエリア２２３には表示データを送信するために主側ＣＰＵ６３により参照される各種記憶エリアが設定されている。図１２０（ａ）は特定制御用のワークエリア２２１に設けられた各種バッファ２７１～２７５を説明するための説明図であり、図１２０（ｂ）は非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた各種記憶エリア２３４，２７６を説明するための説明図である。

【１３８１】

図１２０（ａ）に示すように特定制御用のワークエリア２２１には第１表示データバッファ２７１と、第２表示データバッファ２７２と、第３表示データバッファ２７３と、第４表示データバッファ２７４と、第５表示データバッファ２７５とが設けられている。

【１３８２】

第１表示データバッファ２７１には第１表示回路２６１に供給するための表示データが格納される。第１表示回路２６１は既に説明したとおり特図表示部３７ａに対応させて設けられているため、第１表示データバッファ２７１には特図表示部３７ａに所定の表示を行わせるための表示データが格納されることになる。この場合、第１表示データバッファ２７１に対する表示データの格納は第１タイマ割込み処理（図１１７）における特図特電制御処理（ステップＳ８２１４）の内容を踏まえて表示制御処理（ステップＳ８２１６）にて行われる。また、第１表示回路２６１に表示データを送信する第２タイマ割込み処理（図１２３）の処理回となった場合には、第１表示データバッファ２７１に格納された表示データが変更された場合だけではなく、当該表示データが変更されていない場合であっても、第１表示データバッファ２７１に格納された表示データが表示ＩＣ２６６に送信される。

【１３８３】

第２表示データバッファ２７２には第２表示回路２６２に供給するための表示データが格納される。第２表示回路２６２は既に説明したとおり特図保留表示部３７ｂに対応させて設けられているため、第２表示データバッファ２７２には特図保留表示部３７ｂに所定の表示を行わせるための表示データが格納されることになる。この場合、第２表示データバッファ２７２に対する表示データの格納は第１タイマ割込み処理（図１１７）における特図特電制御処理（ステップＳ８２１４）の内容を踏まえて表示制御処理（ステップＳ８２１６）にて行われる。また、第２表示回路２６２に表示データを送信する第２タイマ割込み処理（図１２３）の処理回となった場合には、第２表示データバッファ２７２に格納された表示データが変更された場合だけではなく、当該表示データが変更されていない場合であっても、第２表示データバッファ２７２に格納された表示データが表示ＩＣ２６６に送信される。

【１３８４】

第３表示データバッファ２７３には第３表示回路２６３に供給するための表示データが格納される。第３表示回路２６３は既に説明したとおり普図表示部３８ａに対応させて設けられているため、第３表示データバッファ２７３には普図表示部３８ａに所定の表示を行わせるための表示データが格納されることになる。この場合、第３表示データバッファ２７３に対する表示データの格納は第１タイマ割込み処理（図１１７）における普図普電制御処理（ステップＳ８２１５）の内容を踏まえて表示制御処理（ステップＳ８２１６）にて行われる。また、第３表示回路２６３に表示データを送信する第２タイマ割込み処理（図１２３）の処理回となった場合には、第３表示データバッファ２７３に格納された表示データが変更された場合だけではなく、当該表示データが変更されていない場合であっても、第３表示データバッファ２７３に格納された表示データが表示ＩＣ２６６に送信される。

【１３８５】

第４表示データバッファ２７４には第４表示回路２６４に供給するための表示データが格納される。第４表示回路２６４は既に説明したとおり普図保留表示部３８ｂに対応させて設けられているため、第４表示データバッファ２７４には普図保留表示部３８ｂに所定の表示を行わせるための表示データが格納されることになる。この場合、第４表示データバッファ２７４に対する表示データの格納は第１タイマ割込み処理（図１１７）における普図普電制御処理（ステップＳ８２１５）の内容を踏まえて表示制御処理（ステップＳ８２１６）にて行われる。また、第４表示回路２６４に表示データを送信する第２タイマ割込み処理（図１２３）の処理回となった場合には、第４表示データバッファ２７４に格納された表示データが変更された場合だけではなく、当該表示データが変更されていない場合であっても、第４表示データバッファ２７４に格納された表示データが表示ＩＣ２６６に送信される。

【１３８６】

第５表示データバッファ２７５には第５表示回路２６５に供給するための表示データが格納される。第５表示回路２６５は既に説明したとおり第１～第４報知用表示装置２０１

～２０４に対応させて設けられているため、第５表示データバッファ２７５には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に所定の表示を行わせるための表示データが格納されることになる。第５表示回路２６５に表示データを送信する第２タイマ割込み処理の処理回となった場合には、第５表示データバッファ２７５に格納された表示データが変更された場合だけではなく、当該表示データが変更されていない場合であっても、第５表示データバッファ２７５に格納された表示データが表示ＩＣ２６６に送信される。

【１３８７】

ここで、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では遊技履歴の管理結果に対応する表示が行われるとともに、設定確認用処理（図１１５）又は設定値更新処理（図１１６）が実行される場合には現状の設定値に対応する表示が行われる。この場合に、第５表示データバッファ２７５は特定制御用のワークエリア２２１に設けられているため、第５表示データバッファ２７５に表示データを格納する処理は特定制御に対応する処理として行われる。一方、遊技履歴の管理結果を導出するための処理は非特定制御に対応する処理として行われるとともに、遊技履歴の管理結果である第６１パラメータ～第６８パラメータは第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において順次表示対象となる。

【１３８８】

そこで、図１２０（ｂ）に示すように非特定制御用のワークエリア２２３には第６１パラメータ～第６８パラメータを格納するための演算結果記憶エリア２３４だけではなく、それら第６１パラメータ～第６８パラメータのうち第１～第４報知用表示装置２０１～２０４への表示対象となるパラメータを格納するための表示対象設定エリア２７６が設けられている。本実施形態であっても上記第１５の実施形態と同様に一のパラメータの演算結果が継続して表示される期間は１０秒となっているため、非特定制御に対応する処理にて、１０秒が経過する毎に予め定められた表示順序に従って表示対象となるパラメータの演算結果が演算結果記憶エリア２３４から読み出され、その読み出されたパラメータの演算結果が表示対象設定エリア２７６に格納される。そして、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて遊技履歴の管理結果を表示する状況である場合には、特定制御に対応する処理である第２タイマ割込み処理（図１２３）にて、表示対象設定エリア２７６に格納された表示データが読み出され、その読み出された表示データが第５表示データバッファ２７５に格納される。

【１３８９】

一方、設定確認用処理（図１１５）が実行されている状況である場合には、特定制御に対応する処理である第２タイマ割込み処理（図１２３）にて、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてパチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われるようにするための表示データが第５表示データバッファ２７５に格納される。また、設定値更新処理（図１１６）が実行されている状況である場合には、特定制御に対応する処理である第２タイマ割込み処理（図１２３）にて、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてパチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われるようにするための表示データが第５表示データバッファ２７５に格納される。

【１３９０】

上記のように第１～第５表示データバッファ２７１～２７５が設けられた構成において、主側ＣＰＵ６３は第２タイマ割込み処理（図１２３）の各処理回にて、その処理回に対応する表示データバッファ２７１～２７５から表示データを読み出し、その読み出した表示データを表示ＩＣ２６６に送信するとともに、その表示データが第１～第５表示回路２６１～２６５のいずれに対応しているのかを示す種別データを表示ＩＣ２６６に送信する。図１２１は表示ＩＣ２６６の電気的な構成を説明するための説明図である。

【１３９１】

表示ＩＣ２６６は図１２１に示すように、種別データバッファ２８１と、選択信号出力部２８２と、表示データバッファ２８３と、表示データ出力部２８４と、を備えている。

表示データバッファ２８３には主側ＣＰＵ６３から受信した表示データが格納される。表示データ出力部２８４は表示データバッファ２８３に格納された表示データを第１～第５表示回路２６１～２６５に送信する。種別データバッファ２８１には主側ＣＰＵ６３から受信した種別データが格納される。選択信号出力部２８２は第１～第５表示回路２６１～２６５のうち種別データバッファ２８１に格納されている種別データに対応する表示回路２６１～２６５を表示データの受信先として指定するための選択信号を出力する。

【１３９２】

詳細には図１１９に示すように、表示ＩＣ２６６と第１表示回路２６１とは表示用信号群２９１を利用して電気的に接続されている。表示用信号群２９１は８ビットの表示データを一度に送信することを可能とするように設けられており、８ビット単位の表示データはパラレル通信で表示ＩＣ２６６から送信される。また、表示用信号群２９１から分岐させて分岐信号群２９２が設けられており、当該分岐信号群２９２は第２表示回路２６２、第３表示回路２６３、第４表示回路２６４及び第５表示回路２６５のそれぞれと電気的に接続されている。分岐信号群２９２は表示用信号群２９１と同様に８ビットの表示データを一度に送信することを可能とするように設けられており、８ビット単位の表示データはパラレル通信で表示ＩＣ２６６から送信される。

【１３９３】

上記のように表示用信号群２９１及び分岐信号群２９２が設けられていることにより、表示データバッファ２８３に格納された表示データが表示データ出力部２８４により送信された場合、その表示データは第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに供給される。この場合に、その供給された表示データを受信して利用すべき表示回路２６１～２６５を指定するために第１～第５選択信号線３０１～３０５が設けられている。

【１３９４】

第１選択信号線３０１は表示ＩＣ２６６と第１表示回路２６１とを電気的に接続するように設けられている。種別データバッファ２８１に第１表示回路２６１に対応する種別データが格納されている場合には、表示データ出力部２８４から供給している表示データを第１表示回路２６１に受信させて利用させるために、表示ＩＣ２６６の選択信号出力部２８２は第１選択信号線３０１を通じて第１表示回路２６１に第１選択信号を送信する。これにより、表示用信号群２９１及び分岐信号群２９２を通じて第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに供給されている表示データが、第１表示回路２６１のみにおいて受信されて利用される。

【１３９５】

第２選択信号線３０２は表示ＩＣ２６６と第２表示回路２６２とを電気的に接続するように設けられている。種別データバッファ２８１に第２表示回路２６２に対応する種別データが格納されている場合には、表示データ出力部２８４から供給している表示データを第２表示回路２６２に受信させて利用させるために、表示ＩＣ２６６の選択信号出力部２８２は第２選択信号線３０２を通じて第２表示回路２６２に第２選択信号を送信する。これにより、表示用信号群２９１及び分岐信号群２９２を通じて第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに供給されている表示データが、第２表示回路２６２のみにおいて受信されて利用される。

【１３９６】

第３選択信号線３０３は表示ＩＣ２６６と第３表示回路２６３とを電気的に接続するように設けられている。種別データバッファ２８１に第３表示回路２６３に対応する種別データが格納されている場合には、表示データ出力部２８４から供給している表示データを第３表示回路２６３に受信させて利用させるために、表示ＩＣ２６６の選択信号出力部２８２は第３選択信号線３０３を通じて第３表示回路２６３に第３選択信号を送信する。これにより、表示用信号群２９１及び分岐信号群２９２を通じて第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに供給されている表示データが、第３表示回路２６３のみにおいて受信されて利用される。

【１３９７】

第４選択信号線３０４は表示ＩＣ２６６と第４表示回路２６４とを電気的に接続するように設けられている。種別データバッファ２８１に第４表示回路２６４に対応する種別データが格納されている場合には、表示データ出力部２８４から供給している表示データを第４表示回路２６４に受信させて利用させるために、表示ＩＣ２６６の選択信号出力部２８２は第４選択信号線３０４を通じて第４表示回路２６４に第４選択信号を送信する。これにより、表示用信号群２９１及び分岐信号群２９２を通じて第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに供給されている表示データが、第４表示回路２６４のみにおいて受信されて利用される。

【１３９８】

第５選択信号線３０５は表示ＩＣ２６６と第５表示回路２６５とを電気的に接続するように設けられている。種別データバッファ２８１に第５表示回路２６５に対応する種別データが格納されている場合には、表示データ出力部２８４から供給している表示データを第５表示回路２６５に受信させて利用させるために、表示ＩＣ２６６の選択信号出力部２８２は第５選択信号線３０５を通じて第５表示回路２６５に第５選択信号を送信する。これにより、表示用信号群２９１及び分岐信号群２９２を通じて第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに供給されている表示データが、第５表示回路２６５のみにおいて受信されて利用される。

【１３９９】

図１２２は、主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６に種別データ及び表示データが送信されるとともに、表示ＩＣ２６６から送信された表示データが第１表示回路２６１又は第２表示回路２６２にて受信される様子を示すタイムチャートである。図１２２（ａ）は主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６への種別データ信号の送信期間を示し、図１２２（ｂ）は主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６への種別クロック信号の送信期間を示し、図１２２（ｃ）は主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６への表示データ信号の送信期間を示し、図１２２（ｄ）は主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６への表示クロック信号の送信期間を示し、図１２２（ｅ）は表示ＩＣ２６６から第１表示回路２６１への第１選択信号の送信期間を示し、図１２２（ｆ）は表示ＩＣ２６６から第２表示回路２６２への第２選択信号の送信期間を示し、図１２２（ｇ）は表示ＩＣ２６６から第１～第５表示回路２６１～２６５への表示データの送信期間を示す。なお、第３～第５表示回路２６３～２６５において表示データが受信される場合についても同様である。

【１４００】

主側ＣＰＵ６３、表示ＩＣ２６６及び第１～第５表示回路２６１～２６５を含めてパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後におけるｔ１のタイミングで、主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６への種別データ及び表示データの送信が開始される。具体的には、図１２２（ｂ）に示すようにｔ１のタイミング、ｔ２のタイミング、ｔ３のタイミング、ｔ４のタイミング及びｔ５のタイミングのそれぞれでパルス状の種別クロック信号が送信されるとともに、図１２２（ａ）に示すようにｔ１のタイミングにおけるパルス状の種別クロック信号の送信に対応させてパルス状の種別データ信号が送信される。これにより、表示ＩＣ２６６の種別データバッファ２８１には第１表示回路２６１に対応する情報が格納される。

【１４０１】

また、図１２２（ｄ）に示すようにｔ１のタイミング、ｔ２のタイミング、ｔ３のタイミング、ｔ４のタイミング、ｔ５のタイミング、ｔ６のタイミング、ｔ７のタイミング及びｔ８のタイミングのそれぞれでパルス状の表示クロック信号が送信されるとともに、図１２２（ｃ）に示すようにｔ２のタイミング、ｔ３のタイミング、ｔ５のタイミング及びｔ７のタイミングにおけるパルス状の表示クロック信号の送信に対応させてパルス状の表示データ信号が送信される。これにより、表示ＩＣ２６６の表示データバッファ２８３には上記情報形態に対応する表示データが格納される。

【１４０２】

そして、ｔ９のタイミングで図１２２（ｄ）に示すように８ビット目の表示クロック信

号の送信が完了することで、当該ｔ９のタイミングで図１２２（ｅ）に示すように、種別データバッファ２８１に格納された種別データに対応する第１表示回路２６１に向けて表示ＩＣ２６６の選択信号出力部２８２により第１選択信号の送信が開始されるとともに、当該ｔ９のタイミングで図１２２（ｇ）に示すように表示ＩＣ２６６の表示データ出力部２８４により表示データバッファ２８３に格納された表示データの送信が開始される。これにより、第１表示回路２６１にて表示データが受信されて利用される。

【１４０３】

その後、ｔ１０のタイミングで、図１２２（ａ）～図１２２（ｄ）に示すように、主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６への種別データ及び表示データの送信が新たに開始される。この場合、当該ｔ１０のタイミングで、図１２２（ｅ）及び図１２２（ｇ）に示すように表示ＩＣ２６６から第１表示回路２６１に向けた第１選択信号の送信が停止されるとともに、表示ＩＣ２６６から第１～第５表示回路２６１～２６５に向けた表示データの送信が停止される。

【１４０４】

種別データ及び表示データの新たな送信について詳細には、図１２２（ｂ）に示すようにｔ１０のタイミング、ｔ１１のタイミング、ｔ１２のタイミング、ｔ１３のタイミング及びｔ１４のタイミングのそれぞれでパルス状の種別クロック信号が送信されるとともに、図１２２（ａ）に示すようにｔ１１のタイミングにおけるパルス状の種別クロック信号の送信に対応させてパルス状の種別データ信号が送信される。これにより、表示ＩＣ２６６の種別データバッファ２８１には第２表示回路２６２に対応する情報が格納される。

【１４０５】

また、図１２２（ｄ）に示すようにｔ１０のタイミング、ｔ１１のタイミング、ｔ１２のタイミング、ｔ１３のタイミング、ｔ１４のタイミング、ｔ１５のタイミング、ｔ１６のタイミング及びｔ１７のタイミングのそれぞれでパルス状の表示クロック信号が送信されるとともに、図１２２（ｃ）に示すようにｔ１０のタイミング、ｔ１１のタイミング、ｔ１２のタイミング、ｔ１５のタイミング、ｔ１６のタイミング及びｔ１７のタイミングにおけるパルス状の表示クロック信号の送信に対応させてパルス状の表示データ信号が送信される。これにより、表示ＩＣ２６６の表示データバッファ２８３には上記情報形態に対応する表示データが格納される。

【１４０６】

そして、ｔ１８のタイミングで図１２２（ｄ）に示すように８ビット目の表示クロック信号の送信が完了することで、当該ｔ１８のタイミングで図１２２（ｆ）に示すように種別データバッファ２８１に格納された種別データに対応する第２表示回路２６２に向けて表示ＩＣ２６６の選択信号出力部２８２により第２選択信号の送信が開始されるとともに、当該ｔ１８のタイミングで図１２２（ｇ）に示すように表示ＩＣ２６６の表示データ出力部２８４により表示データバッファ２８３に格納された表示データの送信が開始される。これにより、第２表示回路２６２にて表示データが受信されて利用される。

【１４０７】

なお、第１～第４表示回路２６１～２６４については表示データの送信対象となる第２タイマ割込み処理（図１２３）において１個の表示データのみが送信されるが、第５表示回路２６５については表示データの送信対象となる第２タイマ割込み処理（図１２３）において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の数に対応させて４個の表示データが送信される。第２タイマ割込み処理（図１２３）は既に説明したとおり第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）で起動されることとなるが、４個の表示データを送信する処理回であっても第２割込み周期未満で１処理回が終了するように各処理時間が設定されている。

【１４０８】

上記構成であることにより１個の表示ＩＣ２６６を利用して複数の表示回路２６１～２６５に表示データを送信することが可能となる。ここで、既に説明したとおり第１～第５表示回路２６１～２６５のそれぞれは提供された表示データを所定期間（例えば１６ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐

々にオール「０」の状態に近付くこととなる。この場合において各表示回路２６１～２６５における表示データの受信が所定期間を超えてしまうと、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において表示内容が変更されていない状況であっても発光状態である表示用セグメントが一時的に消灯状態に近付くこととなり、結果的に表示用セグメントにおける光の点滅が生じてしまうおそれがある。これに対して、本実施形態では第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）で起動される第１タイマ割込み処理（図１１７）とは別に、当該第１割込み周期よりも短い第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）で起動される第２タイマ割込み処理（図１２３）が設定されており、当該第２タイマ割込み処理において表示ＩＣ２６６への表示データの送信が集約して行われる。

【１４０９】

以下、第２タイマ割込み処理について図１２３のフローチャートを参照しながら説明する。なお、第２タイマ割込み処理におけるステップＳ８４０１～ステップＳ８４１３の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１４１０】

まず第１タイマ割込み処理（図１１７）及び第２タイマ割込み処理（図１２３）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う（ステップＳ８４０１）。第１タイマ割込み処理（図１１７）の発生が禁止されることにより、第１割込み周期が経過したとしても第２タイマ割込み処理（図１２３）に対して第１タイマ割込み処理（図１１７）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。また、第２タイマ割込み処理（図１２３）の発生が禁止されることにより、第２タイマ割込み処理（図１２３）の実行途中において仮に第２割込み周期が経過してしまったとしても第２タイマ割込み処理（図１２３）が重複して起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【１４１１】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ８４０２）。設定更新表示フラグは主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１１６）を実行している状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。既に説明したとおり設定値更新処理（図１１６）は主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合におけるメイン処理（図１１４）において動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況で実行されることとなるが、第２タイマ割込み処理（図１２３）は当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても割り込んで起動されるため、主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１１６）が実行されている状況であっても第２タイマ割込み処理（図１２３）は割り込んで起動される。

【１４１２】

設定更新表示フラグに「１」がセットされている状況とは、第２タイマ割込み処理（図１２３）の今回の処理回が主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１１６）が実行されている状況で割り込んで起動された処理回であることを意味する。ステップＳ８４０２にて肯定判定をした場合、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳ８４０３）。当該設定処理では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてパチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示を行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に格納する。

【１４１３】

第５表示データバッファ２７５に格納された当該表示データが表示ＩＣ２６６を介して第５表示回路２６５に送信された場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では図１２４（ａ）の説明図に示す表示が行われる。具体的には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において設定値を更新している状況であることを示す表示が行われる場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて少なくとも１個の表示用セ

グメントが発光状態となる。つまり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれが表示状態となる。これにより、設定値を更新している状況であることを示す表示が行われている場合であっても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が故障していないことを遊技ホールの管理者は把握することが可能となる。なお、遊技履歴の管理結果が表示される場合であっても第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて少なくとも１個の表示用セグメントが発光状態となり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれが表示状態となる。

【１４１４】

第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれの表示内容について詳細には、第１報知用表示装置２０１では中央の１個の表示用セグメントが発光状態となり残りの表示用セグメントが消灯状態となる。遊技履歴の管理結果が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において表示される場合であっても第１報知用表示装置２０１における中央の１個の表示用セグメントが発光状態となり得るが、遊技履歴の管理結果が表示される場合における第１報知用表示装置２０１の表示内容には中央の１個の表示用セグメントが発光状態となり残りの表示用セグメントが消灯状態となる表示内容は含まれていない。これにより、遊技履歴の管理結果が表示される場合にも発光状態となり得る表示用セグメントを利用しながらも、設定値を更新している状況における第１報知用表示装置２０１の表示内容を遊技履歴の管理結果において表示されない表示内容とすることが可能となる。

【１４１５】

第２報知用表示装置２０２では第１報知用表示装置２０１と同様に、中央の１個の表示用セグメントが発光状態となり残りの表示用セグメントが消灯状態となる。遊技履歴の管理結果が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において表示される場合であっても第２報知用表示装置２０２における中央の１個の表示用セグメントが発光状態となり得るが、遊技履歴の管理結果が表示される場合における第２報知用表示装置２０２の表示内容には中央の１個の表示用セグメントが発光状態となり残りの表示用セグメントが消灯状態となる表示内容は含まれていない。これにより、遊技履歴の管理結果が表示される場合にも発光状態となり得る表示用セグメントを利用しながらも、設定値を更新している状況における第２報知用表示装置２０２の表示内容を遊技履歴の管理結果において表示されない表示内容とすることが可能となる。

【１４１６】

第３報知用表示装置２０３では「Ｈ」の文字が表示されるように一部の表示用セグメントが発光状態となり残りの表示用セグメントが消灯状態となる。この場合に発光状態となる表示用セグメントは遊技履歴の管理結果が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において表示される場合であっても発光状態となり得るが、遊技履歴の管理結果が表示される場合における第３報知用表示装置２０３の表示内容には「Ｈ」の文字が表示される表示内容は含まれていない。これにより、遊技履歴の管理結果が表示される場合にも発光状態となり得る表示用セグメントを利用しながらも、設定値を更新している状況における第３報知用表示装置２０３の表示内容を遊技履歴の管理結果において表示されない表示内容とすることが可能となる。また、設定値を確認している状況における第３報知用表示装置２０３の表示内容にも「Ｈ」の文字が表示される表示内容は含まれていない。これにより、第３報知用表示装置２０３において「Ｈ」を表示することにより、設定値を更新している状況であることを遊技ホールの管理者に報知することが可能となる。

【１４１７】

第４報知用表示装置２０４では現状の設定値に対応する表示が行われるように一部の表示用セグメントが発光状態となり残りの表示用セグメントが消灯状態となる。図１２４（ａ）の場合においては現状の設定値が「設定２」であるため、第４報知用表示装置２０４においては「設定２」に対応する「２」が表示されている。第４報知用表示装置２０４を確認することで、遊技ホールの管理者は現状の設定値を把握することが可能となる。なお、設定値を更新している状況における第４報知用表示装置２０４の表示内容は遊技履歴の管理結果が表示される状況及び設定値を確認している状況のいずれにおいても表示され得

る。
【１４１８】
　第２タイマ割込み処理（図１２３）の説明に戻り、ステップＳ８４０２にて否定判定をした場合、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ８４０４）。設定確認表示フラグは主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１１５）を実行している状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。既に説明したとおり設定確認用処理（図１１５）は主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合におけるメイン処理（図１１４）において動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況で実行されることとなるが、第２タイマ割込み処理（図１２３）は当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても割り込んで起動されるため、主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１１５）が実行されている状況であっても第２タイマ割込み処理（図１２３）は割り込んで起動される。
【１４１９】
　設定確認表示フラグに「１」がセットされている状況とは、第２タイマ割込み処理（図１２３）の今回の処理回が主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１１５）が実行されている状況で割り込んで起動された処理回であることを意味する。ステップＳ８４０４にて肯定判定をした場合、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳ８４０５）。当該設定処理では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてパチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示を行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に格納する。
【１４２０】
　第５表示データバッファ２７５に格納された当該表示データが表示ＩＣ２６６を介して第５表示回路２６５に送信された場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では図１２４（ｂ）の説明図に示す表示が行われる。具体的には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において設定値を更新している状況であることを示す表示が行われる場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて少なくとも１個の表示用セグメントが発光状態となる。つまり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれが表示状態となる。これにより、設定値を確認している状況であることを示す表示が行われている場合であっても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が故障していないことを遊技ホールの管理者は把握することが可能となる。
【１４２１】
　第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれの表示内容について詳細には、第１報知用表示装置２０１では中央の１個の表示用セグメントが発光状態となり残りの表示用セグメントが消灯状態となる。遊技履歴の管理結果が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において表示される場合であっても第１報知用表示装置２０１における中央の１個の表示用セグメントが発光状態となり得るが、遊技履歴の管理結果が表示される場合における第１報知用表示装置２０１の表示内容には中央の１個の表示用セグメントが発光状態となり残りの表示用セグメントが消灯状態となる表示内容は含まれていない。これにより、遊技履歴の管理結果が表示される場合にも発光状態となり得る表示用セグメントを利用しながらも、設定値を確認している状況における第１報知用表示装置２０１の表示内容を遊技履歴の管理結果において表示されない表示内容とすることが可能となる。
【１４２２】
　第２報知用表示装置２０２では第１報知用表示装置２０１と同様に、中央の１個の表示用セグメントが発光状態となり残りの表示用セグメントが消灯状態となる。遊技履歴の管理結果が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において表示される場合であっても第２報知用表示装置２０２における中央の１個の表示用セグメントが発光状態となり得るが、遊技履歴の管理結果が表示される場合における第２報知用表示装置２０２の表示内容には中央の１個の表示用セグメントが発光状態となり残りの表示用セグメントが消灯状態と

なる表示内容は含まれていない。これにより、遊技履歴の管理結果が表示される場合にも発光状態となり得る表示用セグメントを利用しながらも、設定値を確認している状況における第２報知用表示装置２０２の表示内容を遊技履歴の管理結果において表示されない表示内容とすることが可能となる。

【１４２３】

ここで、第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２における表示内容は設定値を更新している状況及び設定値を確認している状況のいずれであっても同一となる。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における表示対象が遊技履歴の管理結果ではなく設定値に関するものであることを、第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２の表示により遊技ホールの管理者に明確に報知することが可能となる。

【１４２４】

第３報知用表示装置２０３では「ｋ」の文字が表示されるように一部の表示用セグメントが発光状態となり残りの表示用セグメントが消灯状態となる。この場合に発光状態となる表示用セグメントは遊技履歴の管理結果が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において表示される場合であっても発光状態となり得るが、遊技履歴の管理結果が表示される場合における第３報知用表示装置２０３の表示内容には「ｋ」の文字が表示される表示内容は含まれていない。これにより、遊技履歴の管理結果が表示される場合にも発光状態となり得る表示用セグメントを利用しながらも、設定値を確認している状況における第３報知用表示装置２０３の表示内容を遊技履歴の管理結果において表示されない表示内容とすることが可能となる。また、設定値を更新している状況では第３報知用表示装置２０３に「Ｈ」が表示されるのに対して、設定値を確認している状況では第３報知用表示装置２０３に「ｋ」が表示される。これにより、第３報知用表示装置２０３の表示内容を確認することにより、設定値を更新している状況及び設定値を確認している状況のいずれであるのかを遊技ホールの管理者に報知することが可能となる。

【１４２５】

第４報知用表示装置２０４では現状の設定値に対応する表示が行われるように一部の表示用セグメントが発光状態となり残りの表示用セグメントが消灯状態となる。図１２４（ｂ）の場合においては現状の設定値が「設定２」であるため、第４報知用表示装置２０４においては「設定２」に対応する「２」が表示されている。第４報知用表示装置２０４を確認することで、遊技ホールの管理者は現状の設定値を把握することが可能となる。なお、設定値を確認している状況における第４報知用表示装置２０４の表示内容は遊技履歴の管理結果が表示される状況及び設定値を更新している状況のいずれにおいても表示され得る。

【１４２６】

第２タイマ割込み処理（図１２３）の説明に戻り、ステップＳ８４０４にて否定判定をした場合、通常時における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳ８４０６）。この場合、非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象設定エリア２７６から情報を読み出し、その読み出した情報に対応するパラメータの表示を第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に格納する。当該表示データが表示ＩＣ２６６を介して第５表示回路２６５に送信されることで、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では第６１～第６８パラメータのうち現状の表示対象のパラメータの演算結果が表示される。

【１４２７】

ステップＳ８４０３、ステップＳ８４０５又はステップＳ８４０６の処理を実行した場合、種別データ信号線ＬＮ１及び種別クロック信号線ＬＮ２を通じた信号の送信状態をＯＦＦ状態とするとともに（ステップＳ８４０７）、表示データ信号線ＬＮ３及び表示クロック信号線ＬＮ４を通じた信号の送信状態をＯＦＦ状態とする（ステップＳ８４０８）。その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた種別カウンタの更新処理を実行する（ステップＳ８４０９）。

【１４２８】
種別カウンタは、第２タイマ割込み処理の今回の処理回において第１～第５表示データバッファ２７１～２７５のうち表示データの送信対象を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。種別カウンタの値が「１」である場合、第１表示データバッファ２７１の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「２」である場合、第２表示データバッファ２７２の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「３」である場合、第３表示データバッファ２７３の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「４」である場合、第４表示データバッファ２７４の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「５」である場合、第５表示データバッファ２７５の表示データが送信対象となる。種別カウンタの更新処理では種別カウンタの値を１加算するとともに、その１加算後における種別カウンタの値が上限値である「５」を超えた場合には種別カウンタの値を「１」に設定する。これにより、第２タイマ割込み処理の各処理回ごとに第１～第５表示データバッファ２７１～２７５において表示データの送信対象が順次変更される。
【１４２９】
その後、種別カウンタの値に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出す（ステップＳ８４１０）。具体的には、種別カウンタの値が「１」である場合には第１表示回路２６１に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「２」である場合には第２表示回路２６２に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「３」である場合には第３表示回路２６３に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「４」である場合には第４表示回路２６４に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「５」である場合には第５表示回路２６５に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出す。
【１４３０】
その後、種別カウンタの値に対応する表示データバッファ２７１～２７５から表示データを読み出す（ステップＳ８４１１）。具体的には、種別カウンタの値が「１」である場合には第１表示データバッファ２７１から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「２」である場合には第２表示データバッファ２７２から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「３」である場合には第３表示データバッファ２７３から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「４」である場合には第４表示データバッファ２７４から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「５」である場合には第５表示データバッファ２７５から表示データを読み出す。
【１４３１】
その後、各種信号の送信処理を実行する（ステップＳ８４１２）。当該送信処理では、ステップＳ８４１０にて読み出した種別データが表示ＩＣ２６６に送信されるように、種別データ信号線ＬＮ１及び種別クロック信号線ＬＮ２に対する信号出力を行う。また、当該送信処理では、ステップＳ８４１１にて読み出した表示データが表示ＩＣ２６６に送信されるように、表示データ信号線ＬＮ３及び表示クロック信号線ＬＮ４に対する信号出力を行う。
【１４３２】
その後、第１タイマ割込み処理（図１１７）及び第２タイマ割込み処理（図１２３）の発生を許可するために割込み許可の設定を行う（ステップＳ８４１３）。
【１４３３】
以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。
【１４３４】
リセットボタン６８ｃを押圧操作することなく設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作した状態でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われることにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されてメイン処理（図１１４）が開始された状況においてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていないとともに設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作された状態となり、メイン処理にて遊技の進行を可能とする処理が実行される前の状況である動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において設定確認用処理が実行さ

れる。これにより、設定値を不正に確認しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。

【１４３５】

遊技の進行が継続される状況において設定値の確認が行われる場合を想定すると、例えば遊技回の実行途中において設定値の確認が行われた場合には、設定値の確認が行われている途中で開閉実行モードへの移行が発生してしまうおそれがある。この場合、開閉実行モードが開始されているにも関わらず特電入賞装置３２に向けて遊技球を発射することができないおそれがある。また、開閉実行モードの実行途中において設定値の確認が行われた場合、設定値の確認が行われている状況下において開閉実行モードが進行することとなるため、この場合にも特電入賞装置３２に向けて遊技球を発射することができないおそれがある。

【１４３６】

設定値の確認が行われる場合には遊技の進行が停止される場合を想定すると、遊技が行われている状況において設定値の確認が開始された場合には、遊技の進行を途中で停止させるための処理が複雑化してしまうおそれがある。例えば遊技回の実行途中において設定値の確認が開始されて遊技の進行を途中で停止させようとすると、遊技回を途中で停止させるための処理が必要となる。この場合、設定値の確認が開始された場合に図柄表示装置４１における図柄の変動表示を途中で停止させて、設定値の確認が終了した場合に図柄表示装置４１における図柄の変動表示を再開させようとすると、それだけ複雑な処理を要することとなる。また、例えば開閉実行モードの実行途中において設定値の確認が開始されて遊技の進行を途中で停止させようとすると、開閉実行モードを途中で停止させるための処理が必要となる。また、普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行途中において設定値の確認が開始されて遊技の進行を途中で停止させようとすると、当該絵柄の変動表示を途中で停止させるための処理が必要となる。また、普電役物３４ａの開放実行状態の実行途中において設定値の確認が開始されて遊技の進行を途中で停止させようとすると、当該開放実行状態を途中で停止させるための処理が必要となる。その一方、全ての遊技が終了するまで待って設定値の確認が行われる構成も考えられるが、この場合、遊技回、開閉実行モード、普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示、及び普電役物３４ａの開放実行状態のいずれもが実行されない状況まで待つ必要が生じ、設定値の確認を開始させるまでの待ち時間が長くなってしまうおそれがある。

【１４３７】

これに対して、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に実行されるメイン処理において遊技の進行を可能とする処理が実行される前の状況である動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況で設定確認用処理が実行されるため、遊技の進行が既に停止されている状況において設定値の確認が行われることとなる。これにより、遊技が進行している状況で設定値の確認が行われないようにすることが可能となるとともに、設定値の確認に際して遊技の進行を途中で停止させたり、遊技の進行が停止されるまで設定値の確認を待つ必要が生じない。よって、設定値の確認を適切に行うことが可能となる。

【１４３８】

リセットボタン６８ｃを押圧操作しながらパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われることにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されてメイン処理（図１１４）が開始された状況においてリセットボタン６８ｃが押圧操作された状態となり、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されているか否かに関係なくＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）が実行される。これにより、リセットボタン６８ｃを押圧操作しながらパチンコ機１０の電源のＯＮ操作を行うという操作内容が、ＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）の実行に一義的に結びつくこととなり、ＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）を発生させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。

【１４３９】

ＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）が実行されたとしても特定制御用のワークエ

リア２２１における設定値カウンタは「０」クリアされないとともに設定値カウンタの情報は変更されない。これにより、ＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）が実行されたとしても設定値が変更されてしまわないようにすることが可能となる。

【１４４０】

リセットボタン６８ｃを押圧操作しながらパチンコ機１０の電源のＯＮ操作を行うだけではなくさらに設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源のＯＮ操作を行うことに基づき、ＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）だけではなく設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行される。また、既に説明したとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作することなく設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源のＯＮ操作を行うことに基づき、設定確認用処理（ステップＳ７９１４）が実行される。これにより、設定値に関する処理が実行されるための操作として、設定キー挿入部６８ａに対するＯＮ操作を共通させることが可能となる。よって、設定値に関する処理を発生させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。

【１４４１】

設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源のＯＮ操作を行う場合であって、リセットボタン６８ｃの押圧操作を付加しない場合には設定確認用処理が実行され、リセットボタン６８ｃの押圧操作を付加する場合には設定値更新処理が実行される。これにより、リセットボタン６８ｃの押圧操作の有無によって設定確認用処理及び設定値更新処理のうち実行対象の処理を相違させることが可能となる。よって、設定確認用処理及び設定値更新処理のうち所望の処理を実行させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。また、設定確認用処理よりも設定値更新処理を実行させるための操作内容を多くすることにより、設定値更新処理を不正に行わせる行為を特に行いづらくさせることが可能となる。

【１４４２】

設定値が異常であるか否かの監視処理が定期的に起動される第１タイマ割込み処理（図１１７）にて実行される。これにより、設定値が異常であるか否かの監視を遊技が行われている状況であっても行うことが可能となる。よって、設定値が異常であるにも関わらず遊技が継続されてしまわないようにすることが可能となる。

【１４４３】

設定値が異常であるか否かの監視は監視契機が発生する度に実行される。より詳細には第１タイマ割込み処理（図１１７）が起動される度に実行される。これにより、設定値が異常であるか否かを監視する頻度を高めることが可能となる。

【１４４４】

メイン処理（図１１４）には設定値が正常であるか否かを監視するための処理は設定されていない。メイン処理（図１１４）における動作電力の供給開始時の処理において設定値が正常であるか否かを監視するための処理が設定されていると、動作電力の供給開始時において停電フラグ及びチェックサムの監視を行うだけではなく設定値が正常であるか否かの監視を行う必要が生じ、監視負荷が高くなってしまう。さらに動作電力の供給開始時において設定値が異常であることを特定した場合にはＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）及び設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されるようにしようとすると、それだけ処理構成が複雑化してしまう。これに対して、メイン処理（図１１４）には設定値が正常であるか否かを監視するための処理が設定されていないことにより、動作電力の供給開始時の処理の処理構成を好適なものとすることが可能となる。また、このように動作電力の供給開始時の処理において設定値が正常であるか否かを監視するための処理が設定されていないとしても、第１タイマ割込み処理（図１１７）にて設定監視処理（ステップＳ８２２０）を実行する構成であるため、設定値が異常である場合にはそれに対処することが可能となる。

【１４４５】

主側ＣＰＵ６３から送信された表示データに従って表示ＩＣ２６６にて第１～第５表示

回路２６１～２６５に対する表示設定が行われることで、当該表示データに対応する表示内容となるように特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が表示制御される。これにより、主側ＣＰＵ６３の処理負荷を軽減することが可能となる。この場合に、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４といったように複数の表示部が設けられた構成においてそれら複数の表示部に１対１で対応させて表示ＩＣ２６６が設けられているのではなく、複数の表示部に対して１個の表示ＩＣ２６６が兼用されている。これにより、表示ＩＣ２６６の数の増加を抑えながら表示制御対象となる表示部の数を増加させることが可能となる。また、主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６への表示データの送信間隔は、各表示部において表示データに対応する表示を維持することができなくなる前に、各表示部に対応する表示回路２６１～２６５に対して表示ＩＣ２６６による表示設定が行われることとなる送信間隔に設定されている。これにより、複数の表示部に対して１個の表示ＩＣ２６６が兼用される構成であっても、各表示部において表示データに対応する表示を適切に行わせることが可能となる。

【１４４６】

主側ＣＰＵ６３は表示データを表示ＩＣ２６６に送信する場合、その表示データの設定対象となる表示回路２６１～２６５の種類を特定可能とする種別データを表示ＩＣ２６６に送信する。これにより、表示ＩＣ２６６は、主側ＣＰＵ６３から表示データが送信された場合には主側ＣＰＵ６３から送信されている種別データに対応する表示回路２６１～２６５に対してその表示データを設定すればよい。よって、複数の表示部に対して１個の表示ＩＣ２６６が兼用される構成であっても、表示ＩＣ２６６の構成を簡素なものとすることが可能となる。

【１４４７】

主側ＣＰＵ６３は、複数の表示部が予め定められた順序で１回ずつ表示データの設定対象となることを更新周回の１回とした場合に、当該更新周回が繰り返されるように表示データの送信を行う。これにより、主側ＣＰＵ６３は予め定められた順序に従って表示データの送信対象となる表示部を変更すればよいため、主側ＣＰＵ６３の処理構成を簡素なものとすることが可能となる。

【１４４８】

主側ＣＰＵ６３は、一の表示部に対する表示データの内容が当該表示部を送信対象として前回送信した場合における表示データの内容と同一であったとしても、当該表示部が送信対象となった場合にはその表示データを送信する。これにより、複数の表示部に対して１個の表示ＩＣ２６６が兼用される構成であっても、所定の表示部にて同一の表示を継続させることが可能となる。

【１４４９】

主側ＣＰＵ６３は第２割込み周期となった場合に他の処理に割り込んで起動される第２タイマ割込み処理（図１２３）にて表示ＩＣ２６６に表示データを送信するための処理を実行する。これにより、各表示部に表示データが設定される周期を所定の周期とすることが可能となる。よって、複数の表示部に対して１個の表示ＩＣ２６６が兼用される構成であっても、各表示部において表示データに対応する表示を維持することができなくなる前に、各表示部に対して表示ＩＣ２６６による表示データの設定が行われるようにすることが可能となる。

【１４５０】

表示ＩＣ２６６により表示設定の対象となる第１～第５表示回路２６１～２６５に対して表示データを送信するための処理は、第２タイマ割込み処理（図１２３）に集約されている。これにより、第１～第５表示回路２６１～２６５に表示データが設定される周期を同一の周期とすることが可能となる。

【１４５１】

主側ＣＰＵ６３は第１割込み周期となった場合に他の処理に割り込んで第１タイマ割込

み処理（図１１７）を実行する。この場合に、第２タイマ割込み処理（図１２３）の第２割込み周期は第１タイマ割込み処理（図１１７）の第１割込み周期よりも短い周期に設定されている。これにより、第１タイマ割込み処理（図１１７）にて表示ＩＣ２６６に表示データを送信する処理が実行される構成に比べて短い周期で表示データを送信することが可能となる。

【１４５２】

また、遊技を進行させるための処理が設定されている第１タイマ割込み処理（図１１７）よりも割込み周期が短い第２タイマ割込み処理（図１２３）に表示ＩＣ２６６に表示データを送信する処理が設定されている。これにより、遊技を進行させるための処理を実行する上で適切な周期で第１タイマ割込み処理（図１１７）が起動されるようにしながら、既に説明したような優れた効果を奏することが可能となる。

【１４５３】

第２タイマ割込み処理（図１２３）は第１タイマ割込み処理（図１１７）が実行されている状況であっても割り込んで起動される。これにより、表示データの送信周期を所定の周期とすることが可能となる。

【１４５４】

第２タイマ割込み処理（図１２３）が開始される場合に第１タイマ割込み処理（図１１７）の割込みが禁止され、第２タイマ割込み処理（図１２３）が終了される場合に第１タイマ割込み処理（図１１７）の割込みが許可される。これにより、第２タイマ割込み処理（図１２３）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１１７）が割り込んで実行されてしまわないようにすることが可能となる。よって、表示データを送信するための処理を優先させることが可能となる。

【１４５５】

第２タイマ割込み処理（図１２３）はメイン処理（図１１４）において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳ７９０１～ステップＳ７９１８）が実行されている状況であっても割り込んで起動される。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても複数の表示部を表示制御することが可能となる。また、動作電力の供給開始時の処理に対して第２タイマ割込み処理（図１２３）が割り込んで起動される構成であるため、動作電力の供給開始時の処理の処理構成を複雑化させなくても、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において複数の表示部を表示制御することが可能となる。

【１４５６】

メイン処理（図１１４）にて設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されている状況においても第２タイマ割込み処理（図１２３）が割り込んで起動されるとともに、当該状況においては第２タイマ割込み処理（図１２３）にて現状の設定値を第４報知用表示装置２０４に表示させるための表示データが送信される。これにより、メイン処理（図１１４）の処理構成を複雑化させなくても、設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されている状況において現状の設定値が第４報知用表示装置２０４にて表示されるようにすることが可能となる。

【１４５７】

メイン処理（図１１４）にて動作電力の供給開始時の処理が実行された後であっても第２割込み周期が経過する度に第２タイマ割込み処理（図１２３）が割り込んで起動される。これにより、第２タイマ割込み処理（図１２３）を利用することで、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況及び当該動作電力の供給開始時の処理が終了した後の状況のいずれにおいても複数の表示部を表示制御することが可能となる。

【１４５８】

なお、上記第１の実施形態と同様に更新ボタン６８ｂが設けられており、設定値更新処理（図１１６）においてはリセットボタン６８ｃが押圧操作される度に設定値が１段階更新されるのではなく更新ボタン６８ｂが押圧操作される度に設定値が１段階更新される構成としてもよい。また、設定キー挿入部６８ａに設定キーを挿入して回動操作をした場合

における回動操作位置として「設定１」～「設定６」のそれぞれに対応する位置が設定されており、設定キー挿入部６８ａの回動操作位置に対応する設定値が設定される構成としてもよい。また、設定キー挿入部６８ａをＯＮ位置よりもさらに回動操作することが可能な構成とし、ＯＮ位置を超えた回動操作が行われる度に更新途中の設定値が次の順番の設定値に更新される構成としてもよい。

【１４５９】

また、設定値更新処理（図１１６）では設定キー挿入部６８ａをＯＦＦ操作することで選択中の設定値が確定されるとともに、さらにリセットボタン６８ｃが押圧操作されることにより設定値更新処理が終了される構成としてもよい。また、更新ボタン６８ｂが設けられた構成においては、設定値更新処理（図１１６）では設定キー挿入部６８ａをＯＦＦ操作することで選択中の設定値が確定されるとともに、さらに更新ボタン６８ｂが押圧操作されることにより設定値更新処理が終了される構成としてもよい。

【１４６０】

また、設定値更新処理（図１１６）が実行されるための条件として、遊技機本体１２が開放状態であることという条件が設定されていない構成としてもよく、前扉枠１４が開放状態であることという条件が設定されていない構成としてもよく、遊技機本体１２が開放状態であることという条件及び前扉枠１４が開放状態であることという条件の両方が設定されていない構成としてもよい。

【１４６１】

また、設定確認用処理（図１１５）が実行されるための条件として、遊技機本体１２が開放状態であることという条件が設定されていない構成としてもよく、前扉枠１４が開放状態であることという条件が設定されていない構成としてもよく、遊技機本体１２が開放状態であることという条件及び前扉枠１４が開放状態であることという条件の両方が設定されていない構成としてもよい。

【１４６２】

また、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に実行されるメイン処理（図１１４）において停電フラグに「１」がセットされていないこと又はチェックサムが異常であることが特定された場合には、ＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）が実行される構成としてもよい。この場合、ＲＡＭクリア処理（ステップＳ７９１５）が実行された後は、設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行される構成としてもよく、設定値更新処理（ステップＳ７９１８）を実行すべきことを示す報知を実行するとともに遊技の進行を停止させる構成としてもよく、遊技の進行を制御するための処理が開始される構成としてもよい。

【１４６３】

また、メイン処理（図１１４）において設定確認用処理（ステップＳ７９１４）が停電フラグに「１」がセットされているか否かの判定処理及びチェックサムの比較処理よりも後に実行される構成に代えて、これら処理よりも前に実行される構成としてもよい。この場合、設定値を確認させるための処理を優先させることが可能となる。

【１４６４】

また、設定監視処理（ステップＳ８２２０）が第１タイマ割込み処理（図１１７）が起動される度に実行される構成に限定されることはなく、例えば第１タイマ割込み処理（図１１７）が複数として定められた契機回数（例えば１００００回）実行される度に設定監視処理（ステップＳ８２２０）が実行される構成としてもよい。この場合、設定値が正常であるか否かの監視を定期的に行うようにしながらも、当該監視の実行頻度を抑えることが可能となる。

【１４６５】

また、設定監視処理（ステップＳ８２２０）がメイン処理（図１１４）における残余処理（ステップＳ７９２１～ステップＳ７９２４）にて実行される構成としてもよい。この場合、第１タイマ割込み処理（図１１７）及び第２タイマ割込み処理（図１２３）が実行されていない状況における空き時間を利用して設定値が正常であるか否かの監視を行うこ

とが可能となる。
【１４６６】
　また、遊技回が新たに開始される場合に設定監視処理（ステップＳ８２２０）が実行される構成としてもよい。より具体的には遊技回が新たに開始される場合において当否判定処理が実行される前に設定監視処理（ステップＳ８２２０）が実行される構成としてもよい。これにより、設定値が異常な状況で当否判定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。
【１４６７】
　また、設定監視処理（ステップＳ８２２０）において設定値が異常であることを特定した場合には、設定値更新処理（ステップＳ７９１８）に移行する構成としてもよい。
【１４６８】
　また、設定監視処理（ステップＳ８２２０）において設定値が異常であることを特定した場合には、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定異常フラグに「１」をセットした状態でメイン処理（図１１４）を開始する構成としてもよく、当該設定異常フラグに「１」をセットした状態で遊技の進行を停止させるとともに当該遊技の進行が停止された状態を解除するためには電源のＯＦＦ→ＯＮが必要である構成としてもよい。この場合、メイン処理（図１１４）では設定値更新処理が実行されるようにするための操作が行われないとしても、設定異常フラグに「１」がセットされている場合には強制的に設定値更新処理が実行されるようにすることで、メイン処理（図１１４）に設定された設定値更新処理を利用して設定値の新たな設定を強制的に行わせることが可能となる。
【１４６９】
　また、第１作動口３３に遊技球が入球した場合に取得される保留情報と第２作動口３４に遊技球が入球した場合に取得される保留情報とが区別して記憶されるとともに、特図表示部３７ａとしてそれら保留情報に対応させて第１特図表示部と第２特図表示部とが設けられている構成としてもよい。この場合、第１特図表示部における絵柄の変動表示と第２特図表示部における絵柄の変動表示とが重複して実行され得るとともに、所定の遊技状態となった場合にはいずれか一方の特図表示部における絵柄の変動表示の継続期間が極端に長くなる構成としてもよい。当該構成においては遊技が行われていない状況となるまで設定値の確認を待機しようとすると、その待機時間が長くなってしまう。これに対して、主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理にて設定確認用処理（ステップＳ７９１４）が実行されるようにすることで、上記のような待機時間を生じさせることなく設定値を確認することが可能となる。
【１４７０】
　また、低頻度サポートモードにおいては普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の継続期間が極端に長くなる構成としてもよい。当該構成においては遊技が行われていない状況となるまで設定値の確認を待機しようとすると、その待機時間が長くなってしまう。これに対して、主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理にて設定確認用処理（ステップＳ７９１４）が実行されるようにすることで、上記のような待機時間を生じさせることなく設定値を確認することが可能となる。
【１４７１】
　また、設定確認用処理（図１１５）が実行される場合における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容は上記実施形態における表示内容に限定されることはなく、例えば第３報知用表示装置２０３において「ｋ」の文字が表示されるのではなく第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２と同様に中央の表示用セグメントのみが発光状態となる構成としてもよい。また、第１～第３報知用表示装置２０１～２０３は消灯状態となり第４報知用表示装置２０４において現状の設定値に対応する表示が行われる構成としてもよい。
【１４７２】
　また、設定値更新処理（図１１６）が実行される場合における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容は上記実施形態における表示内容に限定されることはなく、

例えば第３報知用表示装置２０３において「Ｈ」の文字が表示されるのではなく第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２と同様に中央の表示用セグメントのみが発光状態となる構成としてもよい。また、第１～第３報知用表示装置２０１～２０３は消灯状態となり第４報知用表示装置２０４において現状の設定値に対応する表示が行われる構成としてもよい。

【１４７３】

また、主側ＣＰＵ６３は表示ＩＣ２６６に対して種別データと表示データとを同時に送信する構成に代えて、種別データの送信を開始した後に表示データの送信を開始する構成としてもよい。この場合、種別データの送信途中において表示データの送信が開始される構成としてもよく、種別データの送信が完了した後に表示データの送信が開始される構成としてもよい。また、表示データの送信を開始した後に種別データの送信を開始する構成としてもよい。この場合、表示データの送信途中において種別データの送信が開始される構成としてもよく、表示データの送信が完了した後に種別データの送信が開始される構成としてもよい。

【１４７４】

また、表示ＩＣ２６６は第１～第５表示回路２６１～２６５に対して共通となるように１個のみ設けられている構成に限定されることはなく、第１～第５表示回路２６１～２６５のそれぞれに１対１で対応させて設けられている構成としてもよい。当該構成において、第１～第５表示回路２６１～２６５に１対１で対応させて設けられた各表示ＩＣにて表示データを記憶保持する期間が短い場合には各表示ＩＣへの表示データの提供周期によっては各表示部にて意図しない点滅が発生してしまうおそれがある。これに対して、上記実施形態と同様に相対的に割込み周期が短い第２タイマ割込み処理（図１２３）に表示データを送信するための処理を集約させることにより、各表示ＩＣへの表示データの提供周期を短くすることが可能となり、各表示部にて意図しない点滅が発生してしまわないようにすることが可能となる。

【１４７５】

また、当たり乱数カウンタＣ１が主側ＲＡＭ６５に設けられている構成に代えて、当否判定処理にて取得される乱数を更新するための乱数回路が設けられている構成としてもよい。この場合、メイン処理（図１１４）における内部機能レジスタ設定処理において当該乱数回路の乱数を当否判定処理にて取得される乱数として対応付けるための設定が行われることとなる。

【１４７６】

また、第１タイマ割込み処理（図１１７）ではステップＳ８２０１～ステップＳ８２２１の各処理の前後においてタイマ割込み処理の禁止とタイマ割込み処理の許可とを行う構成としたがこれを変更してもよい。例えば、第１タイマ割込み処理（図１１７）の一部の処理についてはその前後においてタイマ割込み処理の禁止とタイマ割込み処理の許可とを行う一方、第１タイマ割込み処理（図１１７）のその他の処理についてはその前後においてタイマ割込み処理の禁止とタイマ割込み処理の許可とを行わない構成としてもよい。また、第１タイマ割込み処理（図１１７）に含まれる複数の処理を間に挟むようにして、タイマ割込み処理の禁止とタイマ割込み処理の許可とが設定されている構成としてもよい。

【１４７７】

また、第１タイマ割込み処理（図１１７）では第２タイマ割込み処理（図１２３）の割込みを禁止する設定が行われない構成としてもよい。この場合、第１タイマ割込み処理（図１１７）よりも第２タイマ割込み処理（図１２３）が優先して実行されることとなるため、複数の表示部の表示制御を優先させることが可能となる。また、当該構成において第１タイマ割込み処理（図１１７）では第１タイマ割込み処理（図１１７）が重複して起動されることを阻止するために第１タイマ割込み処理（図１１７）の割込みは禁止される一方、第２タイマ割込み処理（図１２３）の割込みは禁止されない構成としてもよい。

【１４７８】

また、第１タイマ割込み処理（図１１７）及び第２タイマ割込み処理（図１２３）の両

方の割込み契機が発生した場合、第２タイマ割込み処理（図１２３）の実行が第１タイマ割込み処理（図１１７）の実行よりも優先される構成に代えて、第１タイマ割込み処理（図１１７）の実行が第２タイマ割込み処理（図１２３）の実行よりも優先される構成としてもよく、割込み契機が発生した順序が早い方のタイマ割込み処理から先に開始される構成としてもよい。

【１４７９】

また、第２タイマ割込み処理（図１２３）が実行されている状況においては第１タイマ割込み処理（図１１７）の実行が禁止される構成に代えて、第２タイマ割込み処理（図１２３）が実行されている状況であっても第１タイマ割込み処理（図１１７）が割り込んで起動される構成としてもよい。これにより、複数の表示部の表示制御よりも遊技を進行させるための処理の実行を優先させることが可能となる。

【１４８０】

また、第２タイマ割込み処理（図１２３）が設定されておらず、当該第２タイマ割込み処理（図１２３）の各種処理がメイン処理（図１１４）及び第１タイマ割込み処理（図１１７）のそれぞれにおいて分散して実行される構成としてもよい。例えば、メイン処理（図１１４）における設定確認用処理（ステップＳ７９１４）に、設定確認中であることを示す表示及び現状の設定値に対応する表示を第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行わせるための処理が設定されている構成としてもよい。また、メイン処理（図１１４）における設定値更新処理（ステップＳ７９１８）に、設定更新中であることを示す表示及び現状の設定値に対応する表示を第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行わせるための処理が設定されている構成としてもよい。また、第１タイマ割込み処理（図１１７）に、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を表示制御するための処理が設定されている構成としてもよい。

【１４８１】

また、第２タイマ割込み処理（図１２３）では複数の表示部を表示制御するための処理のみが実行される構成に限定されることはなく、複数の表示部を表示制御するための処理に加えて又は代えて、複数の表示部を表示制御するための処理とは異なる処理が実行される構成としてもよい。例えば、遊技を進行させるための処理の一部が第１タイマ割込み処理（図１１７）にて実行され、残りが第２タイマ割込み処理（図１２３）にて実行される構成としてもよい。この場合、実行周期が相対的に短い方が好ましい処理を割込み周期が相対的に短い第２タイマ割込み処理（図１２３）にて実行し、実行周期が相対的に長くても問題が生じない処理を割込み周期が相対的に長い第１タイマ割込み処理（図１１７）にて実行する構成とすることが好ましい。また、上記実施形態の第１タイマ割込み処理（図１１７）におけるステップＳ８２０２～ステップＳ８２２１の処理のうち、停電情報記憶処理（ステップＳ８２０２）が第２タイマ割込み処理（図１２３）にて実行され、それ以外の処理が第１タイマ割込み処理（図１１７）にて実行される構成としてもよい。この場合、停電監視を相対的に短い周期で繰り返し実行することが可能となる。また、当該構成に加えて又は代えて、不正検知処理（ステップＳ８２０６）が第２タイマ割込み処理（図１２３）にて実行され、それ以外の処理が第１タイマ割込み処理（図１１７）にて実行される構成としてもよい。この場合、不正監視を相対的に短い周期で繰り返し実行することが可能となる。

【１４８２】

また、表示ＩＣ２６６により表示データの表示設定が行われる対象となる表示回路２６１～２６５の数は５個に限定されることはなく、２個、３個、４個又は６個以上である構成としてもよい。また、第５表示回路２６５に対して第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が対応付けられている構成に限定されることはなく、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に１対１で対応させて表示回路が設けられている構成としてもよい。

【１４８３】

＜第３４の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行される設定値更新処理の処理構成が上記第３３の実施形態と相違している。以下、上記第３３の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３３の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。また、本実施形態では主制御基板６１に上記第１の実施形態と同様に更新ボタン６８ｂが設けられている。

【１４８４】

図１２５は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における設定値更新処理を示すフローチャートである。なお、設定値更新処理におけるステップＳ８５０１～ステップＳ８５０８の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１４８５】

まず特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」をセットする（ステップＳ８５０１）。その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定値カウンタの値が「設定１」に対応する１以上であって「設定６」に対応する６以下であるか否かを判定する（ステップＳ８５０２）。設定値カウンタの値が「０」である場合又は７以上である場合、ステップＳ８５０２にて否定判定をして、設定値カウンタに「１」をセットする（ステップＳ８５０３）。これにより、パチンコ機１０の設定値が「設定１」となる。

【１４８６】

ステップＳ８５０２にて肯定判定をした場合又はステップＳ８５０３の処理を実行した場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳ８５０４）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳ８５０４：ＮＯ）、更新ボタン６８ｂが押圧操作されていることを条件として（ステップＳ８５０５：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値を１加算する（ステップＳ８５０６）。これにより、更新ボタン６８ｂが１回押圧操作される度に１段階上の設定値に更新される。また、更新ボタン６８ｂが押圧操作されていない場合（ステップＳ８５０５：ＮＯ）又は設定値カウンタの値を１加算した場合にはステップＳ８５０２の処理に戻ることとなるが、ステップＳ８５０２にて設定値カウンタの値が７以上であると判定されると、ステップＳ８５０３にて設定値カウンタに「１」がセットされる。これにより、「設定６」の状況で更新ボタン６８ｂが１回押圧操作された場合には「設定１」に戻ることになる。

【１４８７】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合（ステップＳ８５０４：ＹＥＳ）、現状の設定値を確定させてステップＳ８５０７に進む。ステップＳ８５０７では、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＦＦ操作されているか否かを判定する。この場合、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する構成としてもよく、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態であるか否かを判定する構成としてもよい。設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されていない場合（ステップＳ８５０７：ＮＯ）、ステップＳ８５０７の処理を再度実行する。

【１４８８】

設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されている場合（ステップＳ８５０７：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグを「０」クリアする（ステップＳ８５０８）。

【１４８９】

上記構成によれば、更新ボタン６８ｂが押圧操作されることにより設定値が更新される構成においてリセットボタン６８ｃが押圧操作されることにより設定値が確定され、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されることにより設定値更新処理が終了される。つまり、設定値更新処理において設定値を更新させた後に当該設定値更新処理を終了させるためには、設定キー挿入部６８ａをＯＦＦ操作するだけではなくリセットボタン６８ｃを押圧操作する必要がある。これにより、不正に設定値を更新させた後にその設定値にて遊技を行

おうとする行為を行いづらくさせることが可能となる。
【１４９０】
＜第３５の実施形態＞
本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行される第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御に関する処理構成が上記第３３の実施形態と相違している。以下、上記第３３の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３３の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【１４９１】
図１２６は非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた演算結果記憶エリア２３４の電気的構成を説明するための説明図である。
【１４９２】
演算結果記憶エリア２３４には、主側ＣＰＵ６３により算出されるベース値の情報が記憶される。ベース値とは、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）に対する遊技球の合計払出個数の割合のことである。
【１４９３】
ベース値の算出に関して詳細には、本実施形態では非特定制御用のワークエリア２２３に通常用カウンタエリア２３１は設けられているものの、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３は設けられていない。通常用カウンタエリア２３１には上記第１５の実施形態と同様に通常用の一般入賞カウンタ２３１ａ、通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂ、通常用の第１作動カウンタ２３１ｃ、通常用の第２作動カウンタ２３１ｄ及び通常用のアウトカウンタ２３１ｅが設けられている。大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において、一般入賞口３１に１個の遊技球が入球した場合には通常用の一般入賞カウンタ２３１ａの値が１加算され、特電入賞装置３２に１個の遊技球が入球した場合には通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂの値が１加算され、第１作動口３３に１個の遊技球が入球した場合には通常用の第１作動カウンタ２３１ｃの値が１加算され、第２作動口３４に１個の遊技球が入球した場合には通常用の第２作動カウンタ２３１ｄの値が１加算され、アウト口２４ａに１個の遊技球が入球した場合には通常用のアウトカウンタ２３１ｅの値が１加算される。そして、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値をＫ９１～Ｋ９５とした場合にベース値は以下のものとなる。
・ベース値：遊技球の合計払出個数（Ｋ９１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ９１＋Ｋ９２＋Ｋ９３＋Ｋ９４＋Ｋ９５）の割合。
【１４９４】
ベース値の算出は、後述する第１タイマ割込み処理（図１３３）の管理用処理（ステップＳ８９２０）にて後述する結果演算処理（図１３０）が実行される度に行われるが、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値は、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされていない状況であって大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が管理開始基準個数となることで「０」クリアされるとともに、管理開始フラグに「１」がセットされている状況であって大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数となることで「０」クリアされる。

【１４９５】
管理開始基準個数は、上記第１５の実施形態と同様にシフト基準個数よりも少ない個数である３００個に設定されている。パチンコ機１０の出荷段階などにおいては出荷前にパチンコ機１０の動作チェックが行われることがあり、その際には各入球部に遊技球を手入れしてその後の動作がチェックされる。このような状況下におけるベース値は通常の遊技が行われる状況とは異なる値となり得る。したがって、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況であって大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数よりも少ない個数である管理開始基準個数となった段階で一旦、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅを「０」クリアすることで、パチンコ機１０の出荷後において通常の遊技が行われている状況におけるベース値に対する上記動作チェックの影響を低減することが可能となる。なお、管理開始基準個数は３００個に限定されることはなく複数個数であれば任意であり、３００個よりも少ない個数に設定されていてもよく、３００個よりも多い個数に設定されていてもよい。

【１４９６】
シフト基準個数は、６００００個に設定されている。パチンコ機１０では１分間に最大で１００個の遊技球の発射が行われるため、６００００個は１０時間における最大の発射個数となる。この場合に遊技ホールにおける一般的な営業時間は１３時間程度であり、そのうち大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技が行われる時間は１０時間程度となる。したがって、シフト基準個数は概ね１営業日における遊技球の最大発射個数を想定して設定されている。シフト基準個数となる度に通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅを「０」クリアすることで、シフト基準個数の範囲においてベース値を算出することが可能となる。なお、シフト基準個数は６００００個に限定されることはなく複数個数であれば任意であり、６００００個よりも少ない個数に設定されていてもよく、６００００個よりも多い個数に設定されていてもよい。

【１４９７】
演算結果記憶エリア２３４には上記ベース値の情報を格納するための記憶エリアとして、現状エリア３１１と、第１履歴エリア３１２と、第２履歴エリア３１３と、第３履歴エリア３１４とが設けられている。これら各種エリア３１１～３１４はいずれも同一の記憶容量となっており、具体的にはベース値の情報を格納可能とするように１バイトの容量となっている。

【１４９８】
現状エリア３１１には直近の結果演算処理（図１３０）にて算出されたベース値が格納される。つまり、現状エリア３１１には直近のベース値が格納されることとなる。

【１４９９】
第１履歴エリア３１２には１回前の算出期間における最終的なベース値が格納される。この場合、１回前の算出期間が管理開始フラグに「１」がセットされた後である状況であれば、第１履歴エリア３１２には、１回前の算出期間において大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数となったタイミングにおけるベース値が格納される。また、１回前の算出期間が経過することで管理開始フラグに「１」がセットされたのであれば、第１履歴エリア３１２には、１回前の算出期間において大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が管理開始基準個数となったタイミングにおけるベース値が格納される。

【１５００】
第２履歴エリア３１３には２回前の算出期間における最終的なベース値が格納される。

この場合、２回前の算出期間が管理開始フラグに「１」がセットされた後である状況であれば、第２履歴エリア３１３には、２回前の算出期間において大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数となったタイミングにおけるベース値が格納される。また、２回前の算出期間が経過することで管理開始フラグに「１」がセットされたのであれば、第２履歴エリア３１３には、２回前の算出期間において大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が管理開始基準個数となったタイミングにおけるベース値が格納される。

【１５０１】

第３履歴エリア３１４には３回前の算出期間における最終的なベース値が格納される。この場合、３回前の算出期間が管理開始フラグに「１」がセットされた後である状況であれば、第３履歴エリア３１４には、３回前の算出期間において大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数となったタイミングにおけるベース値が格納される。また、３回前の算出期間が経過することで管理開始フラグに「１」がセットされたのであれば、第３履歴エリア３１４には、３回前の算出期間において大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が管理開始基準個数となったタイミングにおけるベース値が格納される。

【１５０２】

現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に格納されたベース値は、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて順次報知される。具体的には、表示継続期間（具体的には５秒）が経過する度に、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４という予め定められた順序で報知対象となるベース値が切り換えられるとともに、当該予め定められた順序による報知対象となるベース値の切り換えが繰り返される。

【１５０３】

図１２７（ａ）～図１２７（ｄ）は管理開始フラグに「１」がセットされている状況において各種エリア３１１～３１４に格納されたベース値が報知される場合における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容を説明するための説明図である。図１２７（ａ）は現状エリア３１１に格納されたベース値が報知される場合における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容の一例を示し、図１２７（ｂ）は第１履歴エリア３１２に格納されたベース値が報知される場合における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容の一例を示し、図１２７（ｃ）は第２履歴エリア３１３に格納されたベース値が報知される場合における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容の一例を示し、図１２７（ｄ）は第３履歴エリア３１４に格納されたベース値が報知される場合における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容の一例を示す。

【１５０４】

図１２７（ａ）～図１２７（ｄ）に示すように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４はいずれも８個の表示用セグメント３２１～３２４を有している。８個の表示用セグメント３２１～３２４のうち７個の表示用セグメント３２１～３２４はいずれも同一形状及び同一サイズとなる棒状の発光領域となっており、「８」の字を生じさせるように配列されている。一方、１個の表示用セグメント３２１～３２４は円形状の発光領域となっており、「８」の字状に配列されている７個の表示用セグメント３２１～３２４に対して右下の位置に設けられている。各種エリア３１１～３１４のいずれのベース値を報知する場合であっても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて少なくとも１個の表示用セグメント３２１～３２４が発光状態となる。

【１５０５】
第１報知用表示装置２０１では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてベース値を報知している状況であることを示す表示が行われる。具体的には、各種エリア３１１～３１４のいずれのベース値を報知する場合であっても第１報知用表示装置２０１には「ｂ」の文字が表示される。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてベース値以外の情報が報知される場合には第１報知用表示装置２０１にて「ｂ」の文字が表示されることはない。これにより、第１報知用表示装置２０１にて「ｂ」の文字が表示されていることを確認することで、遊技ホールの管理者は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値が報知されていることを把握することが可能となる。
【１５０６】
第２報知用表示装置２０２では、各種エリア３１１～３１４のうちいずれのベース値を報知している状況であるのかを示す表示が行われる。具体的には、現状エリア３１１のベース値が報知されている状況においては図１２７（ａ）に示すように第２報知用表示装置２０２にて「Ｌ．」の文字が表示される。第１履歴エリア３１２のベース値が報知されている状況においては図１２７（ｂ）に示すように第２報知用表示装置２０２にて「１．」の文字が表示される。第２履歴エリア３１３のベース値が報知されている状況においては図１２７（ｃ）に示すように第２報知用表示装置２０２にて「２．」の文字が表示される。第３履歴エリア３１４のベース値が報知されている状況においては図１２７（ｄ）に示すように第２報知用表示装置２０２にて「３．」の文字が表示される。これにより、第２報知用表示装置２０２に表示されている文字を確認することで、遊技ホールの管理者は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知されているベース値がいずれの算出期間におけるものであるのかを把握することが可能となる。
【１５０７】
第２報知用表示装置２０２では各種エリア３１１～３１４のうちいずれのベース値を報知している状況であっても円形状の表示用セグメント３２１～３２４が発光状態となる。後述するように第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４ではベース値に対応する表示として「０」～「９」のいずれかの数字が表示されることとなる。この場合に、第２報知用表示装置２０２にて「１」～「３」のいずれかの数字が表示されると、第２～第４報知用表示装置２０２～２０４にて３個の数字が並ぶこととなり、ベース値を把握しづらくなってしまう。これに対して、第２報知用表示装置２０２の右下に設けられた円形状の表示用セグメント３２１～３２４が発光状態となることにより、第２報知用表示装置２０２にて「１」～「３」のいずれかの数字が表示される場合であっても、その第２報知用表示装置２０２に表示される数字と第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４に表示される数字とを区別して把握することが可能となる。
【１５０８】
第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４では、報知対象となっているベース値の数字が表示される。ベース値は小数点第２位までの少数として算出されることとなるが、当該ベース値のうち小数点第１位の数字が第３報知用表示装置２０３にて表示され、当該ベース値のうち小数点第２位の数字が第４報知用表示装置２０４にて表示される。ここで、ベース値が「１．００」の場合には第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４のそれぞれにて「０」の数字が表示される。一方、報知対象となっているエリア３１１～３１４にベース値が未だ格納されていない場合には、図１２８（ａ）の説明図に示すように第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４のそれぞれにて「－」の文字が表示される。これにより、第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４の２個の表示装置にて小数点第２位までの少数として算出されるベース値を報知する場合であっても、ベース値が「１．００」の場合と、報知対象となっているエリア３１１～３１４にベース値が未だ格納されていない場合とで表示内容を区別することが可能となる。
【１５０９】
なお、ベース値が「１．００」の場合とベース値が「０．００」の場合とでは第３報知

用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４の組合せの表示内容が同一となる。これに対して、両者を区別するために前者及び後者のうち一方では「００」の表示の発光状態が維持され、他方では「００」の表示が点滅状態とされる構成としてもよい。

【１５１０】

次に、図１２９のタイムチャートを参照しながら管理開始フラグに「１」がセットされている状況において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて各種エリア３１１～３１４のベース値が報知される様子を説明する。図１２９（ａ）は現状エリア３１１に格納されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知される期間を示し、図１２９（ｂ）は第１履歴エリア３１２に格納されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知される期間を示し、図１２９（ｃ）は第２履歴エリア３１３に格納されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知される期間を示し、図１２９（ｄ）は第３履歴エリア３１４に格納されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知される期間を示し、図１２９（ｅ）はベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達するまでの期間を示す。

【１５１１】

ｔ１のタイミングで図１２９（ａ）に示すように現状エリア３１１に格納されたベース値の報知が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。この報知に際しては図１２７（ａ）に示すように第１報知用表示装置２０１ではベース値が報知対象であることを示す表示が行われ、第２報知用表示装置２０２では現状エリア３１１に格納されたベース値が報知対象であることを示す表示が行われ、第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４では現状エリア３１１に格納されたベース値に対応する表示が行われる。

【１５１２】

ここで、図１２９（ｅ）に示すようにｔ１のタイミング～ｔ２のタイミングに亘って演算初期表示が行われる。具体的には、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達するまでの期間において、第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２において表示対象となる文字の点灯を継続させるのではなく、演算初期表示として当該表示対象となる文字が点滅表示される。算出期間が開始された直後においてはベース値を算出するための遊技履歴の情報が少ないため、ベース値の実測値がベース値の理論値範囲から大きく外れた値となり得る。これに対して、このように算出期間が開始された直後においては演算初期表示を行わせることで、算出期間が開始された直後であることを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。

【１５１３】

また、演算初期表示ではベース値に対応する数字が表示される第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４では当該数字の点灯を継続させるのに対して、第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２において表示対象となる文字が点滅表示される。これにより、ベース値の視認性を低下させないようにしながら、算出期間が開始された直後であることを報知することが可能となる。なお、これに限定されることはなく演算初期表示であっても第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４の少なくとも一方において点滅表示が行われる構成としてもよく、これら両方において点滅表示が行われる構成としてもよく、第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２の一方のみにおいて点滅表示が行われる構成としてもよい。また、初期基準個数は６０００個に限定されることはなく複数個数であれば任意であり、６０００個よりも少ない個数に設定されていてもよく、６０００個よりも多い個数に設定されていてもよい。

【１５１４】
ｔ２のタイミングで、ｔ１のタイミングから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達することで、図１２９（ｅ）に示すように演算初期表示が終了される。これにより、第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４だけではなく第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２においても点灯表示が開始される。
【１５１５】
その後、ｔ３のタイミングでｔ１のタイミングから表示継続期間が経過することで、図１２９（ａ）に示すように現状エリア３１１に格納されたベース値の報知が終了されて、図１２９（ｂ）に示すように第１履歴エリア３１２に格納されたベース値の報知が開始される。この場合、第１履歴エリア３１２に格納されたベース値は１回前の算出期間における最終的なベース値の算出結果であるため演算初期表示は行われない。
【１５１６】
その後、ｔ４のタイミングでｔ３のタイミングから表示継続期間が経過することで、図１２９（ｂ）に示すように第１履歴エリア３１２に格納されたベース値の報知が終了されて、図１２９（ｃ）に示すように第２履歴エリア３１３に格納されたベース値の報知が開始される。この場合、第２履歴エリア３１３に格納されたベース値は２回前の算出期間における最終的なベース値の算出結果であるため演算初期表示は行われない。
【１５１７】
その後、ｔ５のタイミングでｔ４のタイミングから表示継続期間が経過することで、図１２９（ｃ）に示すように第２履歴エリア３１３に格納されたベース値の報知が終了されて、図１２９（ｄ）に示すように第３履歴エリア３１４に格納されたベース値の報知が開始される。この場合、第３履歴エリア３１４に格納されたベース値は３回前の算出期間における最終的なベース値の算出結果であるため演算初期表示は行われない。
【１５１８】
その後、ｔ６のタイミングでｔ５のタイミングから表示継続期間が経過することで、図１２９（ｄ）に示すように第３履歴エリア３１４に格納されたベース値の報知が終了されて、図１２９（ａ）に示すように現状エリア３１１に格納されたベース値の報知が開始される。この場合、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達するまでの期間であることを報知するために、ｔ６のタイミング～ｔ７のタイミングに亘って図１２９（ｅ）に示すように演算初期表示が行われる。
【１５１９】
その後、ｔ８のタイミングでｔ６のタイミングから表示継続期間が経過することで、図１２９（ａ）に示すように現状エリア３１１に格納されたベース値の報知が終了されて、図１２９（ｂ）に示すように第１履歴エリア３１２に格納されたベース値の報知が開始される。この場合、第１履歴エリア３１２に格納されたベース値は１回前の算出期間における最終的なベース値の算出結果であるため演算初期表示は行われない。
【１５２０】
次に、上記のようなベース値の報知を可能とするための処理構成について説明する。
【１５２１】
後述する第１タイマ割込み処理（図１３３）における管理用処理（ステップＳ８９２０）では上記第１５の実施形態における管理用処理（図７０）と同様にステップＳ３８０３にて非特定制御に対応する処理である管理実行処理のプログラムを読み出す。そして、この管理実行処理（図７１）では上記第１５の実施形態と同様にステップＳ３９０８にてチェック処理を実行する。
【１５２２】

チェック処理では、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において、一般入賞口３１への１個の遊技球の入球を特定した場合には通常用の一般入賞カウンタ２３１ａの値を１加算し、特電入賞装置３２への１個の遊技球の入球を特定した場合には通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂの値を１加算し、第１作動口３３への１個の遊技球の入球を特定した場合には通常用の第１作動カウンタ２３１ｃの値を１加算し、第２作動口３４への１個の遊技球の入球を特定した場合には通常用の第２作動カウンタ２３１ｄの値を１加算し、アウト口２４ａへの１個の遊技球の入球を特定した場合には通常用のアウトカウンタ２３１ｅの値を１加算する。また、チェック用処理では、結果演算処理及び表示用処理を実行する。

【１５２３】

図１３０は結果演算処理を示すフローチャートである。なお、結果演算処理におけるステップＳ８６０１～ステップＳ８６１５の処理は、主側ＣＰＵ６３における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【１５２４】

まずベース値の演算処理を実行する（ステップＳ８６０１）。当該演算処理では、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値を利用してベース値を算出する。ベース値の演算方法は既に説明したとおりである。そして、その算出したベース値を現状エリア３１１に上書きする（ステップＳ８６０２）。

【１５２５】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ８６０３）。管理開始フラグは、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合において「０」の値となっている。また、非特定制御用のワークエリア２２３が管理開始フラグを含めて「０」クリアされて初期化された場合にも管理開始フラグの値は「０」となる。管理開始フラグが「０」の値である状況であって大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が管理開始基準個数となることで管理開始フラグに「１」がセットされる。また、管理開始フラグに「１」がセットされる場合に、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値が「０」クリアされて新たな算出期間が開始される。これにより、パチンコ機１０の出荷段階における動作チェックの影響が、パチンコ機１０の出荷後において通常の遊技が行われている状況におけるベース値に対して及びづらくさせることが可能となる。

【１５２６】

ステップＳ８６０３にて否定判定をした場合、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値を全て合計することで合計個数を算出する（ステップＳ８６０４）。そして、その算出した合計個数が管理開始基準個数である３００個よりも多い個数であるか否かを判定する（ステップＳ８６０５）。

【１５２７】

ステップＳ８６０５にて肯定判定をした場合、管理開始フラグに「１」をセットする（ステップＳ８６０６）。その後、データシフト処理を実行する（ステップＳ８６０７）。データシフト処理では、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に記憶された情報を、第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４、第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２の順序でシフトする。これにより、２回前の算出期間における最終的なベース値が３回前の算出期間における最終的なベース値として第３履歴エリア３１４に記憶され、１回前の算出期間における最終的なベース値が２回前の算出期間における最終的なベース値として第２履歴エリア３１３に記憶され、現状の算出期間において最後に算出されたベース値が１回前の算出期間における最終的なベース値として第１履歴エリア３１２に記憶される。データシフト処理では、上記のような情報のシフトを行う場合、ＬＤＩＲ命令を利用する。ＬＤＩＲ命令では、情報の記憶元のエ

リアのアドレスと情報の記憶先のエリアのアドレスとを指定することで、記憶元のエリアに記憶された情報が記憶先のエリアにシフト（コピー）されることとなる。

【１５２８】

但し、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況においては基本的に第１～第３履歴エリア３１２～３１４にベース値の情報が記憶されていないため、ステップＳ８６０７では実質的に、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況における算出期間の最終的なベース値の第１履歴エリア３１２へのシフトのみが行われる。その後、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅを全て「０」クリアする（ステップＳ８６０８）。

【１５２９】

ステップＳ８６０３にて肯定判定をした場合、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値を全て合計することで合計個数を算出する（ステップＳ８６０９）。そして、その算出した合計個数が初期基準個数である６０００個よりも多い個数であるか否かを判定する（ステップＳ８６１０）。ステップＳ８６１０にて否定判定をした場合には非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた演算初期フラグに「１」をセットし（ステップＳ８６１１）、ステップＳ８６１０にて肯定判定をした場合には当該演算初期フラグを「０」クリアする（ステップＳ８６１２）。演算初期フラグは、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数に達しているか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【１５３０】

ステップＳ８６１１又はステップＳ８６１２の処理を実行した場合、ステップＳ８６０９にて算出した合計個数がシフト基準個数である６００００個以上であるか否かを判定する（ステップＳ８６１３）。ステップＳ８６１３にて肯定判定をした場合、データシフト処理を実行する（ステップＳ８６１４）。データシフト処理ではステップＳ８６０７と同様に演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に記憶された情報を、第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４、第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２の順序でシフトする。これにより、２回前の算出期間における最終的なベース値が３回前の算出期間における最終的なベース値として第３履歴エリア３１４に記憶され、１回前の算出期間における最終的なベース値が２回前の算出期間における最終的なベース値として第２履歴エリア３１３に記憶され、現状の算出期間において最後に算出されたベース値が１回前の算出期間における最終的なベース値として第１履歴エリア３１２に記憶される。データシフト処理では、上記のような情報のシフトを行う場合、ＬＤＩＲ命令を利用する。ＬＤＩＲ命令では、情報の記憶元のエリアのアドレスと情報の記憶先のエリアのアドレスとを指定することで、記憶元のエリアに記憶された情報が記憶先のエリアにシフト（コピー）されることとなる。その後、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅを全て「０」クリアする（ステップＳ８６１５）。

【１５３１】

図１３１は表示用処理を示すフローチャートである。なお、表示用処理におけるステップＳ８７０１～ステップＳ８７１４の処理は、主側ＣＰＵ６３における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【１５３２】

まず非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ８７０１）。ステップＳ８７０１にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた切換タイミングカウンタの値を１減算する（ステップＳ８７０２）。切換タイミングカウンタは、演算結果記憶エリア２３４の現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のそれぞれに記憶されたベース値のうち第１～第４報知用表示装置２０１

～２０４における報知対象となるベース値を切り換えるタイミングであることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。既に説明したとおり表示継続期間（具体的には５秒）が経過する度に、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４という予め定められた順序で報知対象となるベース値が切り換えられるとともに、当該予め定められた順序による報知対象となるベース値の切り換えが繰り返される。

【１５３３】

ステップＳ８７０２の処理を実行した場合、１減算後における切換タイミングカウンタの値が「０」となっているか否かを判定することで、現状の報知対象となっているベース値が報知対象となってから表示継続期間が経過したか否かを判定する（ステップＳ８７０３）。ステップＳ８７０３にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた表示対象カウンタの値を１加算する（ステップＳ８７０４）。そして、１加算後における表示対象カウンタの値が最大値である「３」を超えた場合（ステップＳ８７０５：ＹＥＳ）、表示対象カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳ８７０６）。

【１５３４】

表示対象カウンタは、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のそれぞれに記憶されたベース値のうち第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における報知対象となるベース値を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。具体的には表示対象カウンタの値が「０」である場合には現状エリア３１１に記憶されたベース値が報知対象となり、表示対象カウンタの値が「１」である場合には第１履歴エリア３１２に記憶されたベース値が報知対象となり、表示対象カウンタの値が「２」である場合には第２履歴エリア３１３に記憶されたベース値が報知対象となり、表示対象カウンタの値が「３」である場合には第３履歴エリア３１４に記憶されたベース値が報知対象となる。

【１５３５】

ステップＳ８７０５にて否定判定をした場合、又はステップＳ８７０６の処理を実行した場合、非特定制御用のワークエリア２２３の切換タイミングカウンタに次回の報知対象の切換タイミングに対応する値として表示継続期間（具体的には５秒）に対応する値を設定する（ステップＳ８７０７）。

【１５３６】

ステップＳ８７０３にて否定判定をした場合、又はステップＳ８７０７の処理を実行した場合、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた表示対象設定エリア２７６に今回の報知対象となっているベース値に対応する表示データを設定するための処理を実行する。具体的には、まず表示対象カウンタの値に対応する表示種別データを表示対象設定エリア２７６に設定する（ステップＳ８７０８）。表示種別データは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の報知対象がベース値であることを示す表示を第１報知用表示装置２０１に行わせるための表示データと、報知対象のベース値が演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のうちいずれに対応しているのかを示す表示を第２報知用表示装置２０２に行わせるための表示データとを含む。

【１５３７】

その後、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のうち表示対象カウンタの値に対応するエリアからベース値を読み出し、その読み出したベース値における少数点第１位の数字及び少数点第２位の数字に対応する演算結果データを表示対象設定エリア２７６に設定する（ステップＳ８７０９）。演算結果データは、報知対象のベース値における小数点第１位の数字に対応する表示を第３報知用表示装置２０３に行わせるための表示データと、報知対象のベース値における小数点第２位の数字に対応する表示を第４報知用表示装置２０４に行わせるための表示データとを含む。

【１５３８】

上記のように表示対象設定エリア２７６に表示種別データと演算結果データとからなる表示データが設定される。後述する第２タイマ割込み処理（図１３４）にて当該表示データが表示ＩＣ２６６に送信されることにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて当該表示データに対応する表示が行われる。

【１５３９】

また、ステップＳ８７０９の処理は報知対象のベース値の切換タイミングとは関係なく表示用処理（図１３１）が実行される度に実行される。既に説明したとおり演算結果記憶処理（図１３０）が実行される度に通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅにおける現状の値を利用してベース値が算出され、その算出されたベース値が演算結果記憶エリア２３４の現状エリア３１１に記憶される。この場合に、上記のとおり演算結果データを表示対象設定エリア２７６に設定するためのステップＳ８７０９の処理が報知対象のベース値の切換タイミングとは関係なく表示用処理（図１３１）が実行される度に実行されることにより、現状エリア３１１のベース値が報知対象となっている状況において当該ベース値が変更された場合にはその変更されたベース値を報知することが可能となる。

【１５４０】

その後、表示対象カウンタの値に基づき現状エリア３１１のベース値が報知対象となっているか否かを判定するとともに（ステップＳ８７１０）、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた演算初期フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ８７１１）。演算初期フラグは既に説明した通り、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数に達しているか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。ステップＳ８７１０及びステップＳ８７１１の両方にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた初期表示フラグに「１」をセットし（ステップＳ８７１２）、ステップＳ８７１０及びステップＳ８７１１のいずれかにて否定判定をした場合、初期表示フラグを「０」クリアする（ステップＳ８７１３）。

【１５４１】

初期表示フラグは、現状エリア３１１のベース値が報知対象となっている状況において当該ベース値が算出期間の開始後における演算初期のベース値であることを報知するために第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２を点滅表示させるべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。後述する第２タイマ割込み処理（図１３４）にて初期表示フラグに「１」がセットされていることを特定した場合、表示対象設定エリア２７６に記憶された表示データを表示ＩＣ２６６に送信するだけではなく、当該表示データに対応する表示を第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行わせる場合に第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２を点滅表示させるとともに第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４を点灯表示させる。なお、後述する第２タイマ割込み処理（図１３４）にて初期表示フラグに「１」がセットされていないことを特定した場合、表示対象設定エリア２７６に記憶された表示データに対応する表示を第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行わせる場合に第１～４報知用表示装置２０１～２０４の全てを点灯表示させる。

【１５４２】

一方、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされておらずステップＳ８７０１にて否定判定をした場合、表示対象カウンタの値に関係なく、現状エリア３１１からベース値を読み出し、その読み出したベース値における小数点第１位の数字及び小数点第２位の数字に対応する演算結果データを表示対象設定エリア２７６に設定する（ステップＳ８７１４）。当該演算結果データに対応する表示データが表示ＩＣ２６６に送信されることにより、現状エリア３１１のベース値における小数点第１位の数字が第３報知用表示装置２０３にて表示され、現状エリア３１１のベース値に

おける小数点第２位の数字が第４報知用表示装置２０４にて表示される。上記構成であることにより、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況においては過去の算出期間におけるベース値は報知されることなく、現状の算出期間において算出されているベース値のみが報知される。

【１５４３】

管理開始フラグに「１」がセットされていない状況においては表示対象設定エリア２７６に演算結果データは設定されるものの表示種別データは設定されない。詳細は後述するが管理開始フラグに「１」がセットされていない状況においてベース値の報知が行われる場合には第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２の表示内容が、管理開始フラグに「１」がセットされている状況においてベース値の報知が行われる場合とは異なる表示内容となる。

【１５４４】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理について、図１３２のフローチャートを参照しながら説明する。なお、メイン処理におけるステップＳ８８０１～ステップＳ８８２５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１５４５】

まず電源投入初期設定処理を実行する（ステップＳ８８０１）。電源投入初期設定処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。このウエイト用の所定期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。また、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する。

【１５４６】

その後、内部機能レジスタ設定処理を実行する（ステップＳ８８０２）。内部機能レジスタ設定処理では、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第１タイマ割込み処理（図１３３）の割込み周期を第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）に設定するとともに、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込み周期を上記第１割込み周期よりも短い周期である第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）に設定する。

【１５４７】

つまり、本実施形態では上記第３３の実施形態と同様に、タイマ割込み処理として割込み周期が相対的に長短となるように第１タイマ割込み処理と第２タイマ割込み処理とが存在している。第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理はいずれもメイン処理に対して割り込んで起動される。また、第２タイマ割込み処理は第１タイマ割込み処理に対して割り込んで起動される。一方、第１タイマ割込み処理は第２タイマ割込み処理に対して割り込んで起動されない。また、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の両方が実行されていない状況において第１割込み周期及び第２割込み周期の両方が経過している場合、それら周期の経過順序に関係なく第２タイマ割込み処理から先に起動される。この点、第２タイマ割込み処理は第１タイマ割込み処理よりも優先して起動される処理であると言える。但し、これに限定されることはなく第１タイマ割込み処理が第２タイマ割込み処理よりも優先して起動される構成としてもよい。

【１５４８】

内部機能レジスタ設定処理では、第１タイマ割込み処理の第１割込み周期を主側ＣＰＵ６３の所定のレジスタに設定するとともに、第２タイマ割込み処理の第２割込み周期を主側ＣＰＵ６３の特定のレジスタに設定する。また、内部機能レジスタ設定処理では上記第１，第２割込み周期の設定以外にも例えば当たり乱数カウンタＣ１の数値範囲といった各種カウンタの数値範囲の設定処理などを実行する。

【１５４９】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた立ち上げ処理中フラグに「１」をセットする（ステップＳ８８０３）。立ち上げ処理中フラグは、第１タイマ割込み処理

が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理に設定されている各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行する一方、遊技を進行させるための処理を実行することなく当該第１タイマ割込み処理を終了すべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【１５５０】

図１３３は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。なお、第１タイマ割込み処理は既に説明したとおり第１割込み周期である４ミリ秒周期で定期的に起動される。また、第１タイマ割込み処理に対応するプログラムは特定制御用のプログラムに設定されている。

【１５５１】

ステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５では上記第１の実施形態におけるタイマ割込み処理（図１１）のステップＳ３０１～ステップＳ３０５と同一の処理を実行する。すなわち、ステップＳ８９０１にて停電情報記憶処理を実行することで停電監視を実行する。具体的には、上記第３０の実施形態における停電情報記憶処理（図１０１）と同様に、停電監視基板６７から電源遮断の発生に対応した停電信号を受信しているか否かを監視し、停電の発生を特定した場合には停電時処理を実行した後に無限ループとなる。停電時処理では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１に保存する。また、ステップＳ８９０２にて抽選用乱数更新処理を実行することで当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び普電役物開放カウンタＣ４の各数値情報を更新し、ステップＳ８９０３にて乱数初期値更新処理を実行することで乱数初期値カウンタＣＩＮＩの数値情報を更新し、ステップＳ８９０４にて変動用カウンタ更新処理を実行することで変動種別カウンタＣＳの数値情報を更新する。また、ステップＳ８９０５にて不正検知処理を実行することで不正用の監視対象として設定されている事象が発生しているか否かを監視する。当該不正検知処理では、複数種類の事象の発生を監視し、これら複数種類の事象のうちいずれかが発生していることを確認することで、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグに「１」をセットする。

【１５５２】

ステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行した後は、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ８９０６）。遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれにも「１」がセットされていない場合（ステップＳ８９０６：ＮＯ）、ステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行する。ステップＳ８９０７～ステップＳ８９１９では上記第３３の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１１７）のステップＳ８２０８～ステップＳ８２２０と同一の処理を実行する。また、ステップＳ８９２０では上記第３３の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１１７）のステップＳ８２２１と同様に管理用処理を実行するものの、当該管理用処理において呼び出される管理実行処理のチェック処理の内容は既に説明した内容となっている。当該チェック処理にて通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅの更新処理が実行されるとともに、結果演算処理（図１３０）及び表示用処理（図１３１）が実行される。

【１５５３】

一方、遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグの少なくとも一方に「１」がセットされている場合（ステップＳ８９０６：ＹＥＳ）、ステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行することなく本第１タイマ割込み処理を終了する。つまり、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況だけではなく立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合にも、第１タイマ割込み処理においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。

【１５５４】
立ち上げ処理中フラグは、上記第３３の実施形態と同様にメイン処理（図１３２）において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳ８８０１～ステップＳ８８１９）が開始されて割込許可（ステップＳ８８０５）を行う前に「１」がセットされ、動作電力の供給開始時の処理が終了して残余処理（ステップＳ８８２２～ステップＳ８８２５）が開始される前に「０」クリアされる。この場合に、上記のとおり第１タイマ割込み処理では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合にはステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しないようにすることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳ８８０１～ステップＳ８８１９）が実行されている状況において遊技を進行させるための処理が実行されないようにすることが可能となる。その一方、上記のとおり第１タイマ割込み処理では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合であってもステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行することで、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳ８８０１～ステップＳ８８１９）が実行されている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。

【１５５５】
特に、立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている状況であっても停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）が実行されることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳ８８０１～ステップＳ８８１９）が実行されている状況において停電が発生したとしてもそれに対して停電時処理を実行することが可能となる。停電時処理では既に説明したとおり、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１に保存するため、動作電力の供給が再度開始された場合には主側ＲＡＭ６５の異常発生と特定されないようにすることが可能となる。これにより、設定値更新処理（ステップＳ８８１９）の途中で停電が発生した場合であってもその時点で選択されている設定値を現状のパチンコ機１０の設定値として記憶保持することが可能となる。よって、設定値更新処理の実行途中で停電が発生したとしても、動作電力の供給が再度開始された場合に設定値更新処理を再度実行する必要がなくなる。

【１５５６】
ちなみに、設定値更新処理が実行されている状況では、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）のいずれについても割込みが禁止されることはなく任意のタイミングで割込み可能となっている。この場合、設定値更新処理を含めてメイン処理（図１３２）において第１タイマ割込み処理（図１３３）又は第２タイマ割込み処理（図１３４）が割り込んで起動される場合には、その起動対象となったタイマ割込み処理が終了した後に復帰するためのメイン処理（図１３２）の戻り番地の情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されるとともに、当該タイマ割込み処理が起動される直前における主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避される。そして、起動対象となったタイマ割込み処理が終了した場合には特定制御用のスタックエリア２２２に退避された戻り番地の情報に対応するメイン処理（図１３２）の処理に復帰することとなるとともに、特定制御用のスタックエリア２２２に退避された情報が主側ＣＰＵ６３の各種レジスタに復帰される。

【１５５７】
メイン処理（図１３２）の説明に戻り、ステップＳ８８０３にて立ち上げ処理中フラグに「１」をセットした後は、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する値をセットする（ステップＳ８８０４）。本実施形態では主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に設けられた各表示用セグメント３２１～３２４が正常に発光状態となり得るかどうかを遊技ホールの管理者に確認させるために、ステップＳ８８０４の処理が開始されてから初期チェック期間が経過するまで、第１～第４報知用表

示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる。当該チェック用表示として具体的には、図１２８（ｂ）の説明図に示すように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全ての表示用セグメント３２１～３２４が発光状態に維持される。ステップＳ８８０４では、この初期チェック期間に対応する情報をチェック中カウンタに設定する。

【１５５８】

なお、初期チェック期間は、メイン処理において後述するステップＳ８８１１、ステップＳ８８１２、ステップＳ８８１５及びステップＳ８８１９のいずれの処理も実行されなかった場合に遊技の進行を制御するための処理が開始されるまでに要する最長時間よりも長い時間に設定されている。したがって、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われている状況において遊技が開始されることがある。

【１５５９】

その後、割込み許可の設定を行う（ステップＳ８８０５）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）が第２割込み周期で割り込んで起動される。但し、ステップＳ８８０３にて立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理が終了される。

【１５６０】

その後、ステップＳ８８０６～ステップＳ８８２５では上記第３３の実施形態におけるメイン処理（図１１４）のステップＳ７９０５～ステップＳ７９２４と同様の処理を実行する。具体的には、ステップＳ８８０６にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する。つまり、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている状態においてパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われて主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたか否かを判定する。ここで、本実施形態では上記第３３の実施形態と同様に、主制御装置６０に設定キー挿入部６８ａ及びリセットボタン６８ｃが設けられているものの更新ボタン６８ｂは設けられていない。また、主制御装置６０には第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃではなく第１１の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が設けられている。

【１５６１】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳ８８０６：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ８８０７）。第１タイマ割込み処理（図１３３）の停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）にて停電時処理が実行された場合に停電フラグに「１」がセットされる。停電フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われたか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【１５６２】

停電フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳ８８０７：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてチェックサムを算出する（ステップＳ８８０８）。チェックサムの算出方法は上記第３３の実施形態と同一である。その後、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理において算出されて特定制御用のワークエリア２２１に保存された特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１から読み出すとともに、その読み出したチェックサムを、ステップＳ８８０８にて算出したチェックサムと比較する（ステップＳ８８０９）。そして、それらチェックサムが一致しているか否かを判定する（ステップＳ８８１０）。

【１５６３】

ステップＳ８８０７又はステップＳ８８１０にて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「１」がセットされていない場合又はチェックサムが一致しなかった場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグに「１」をセットする（ステップ

Ｓ８８１１）。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合、又は特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【１５６４】

その後、動作電力の供給開始時において停電フラグ又はチェックサムに関して異常が発生したことを示す異常コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ８８１２）。音声発光制御装置８１は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を動作電力の供給開始時における情報異常に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定変更をして下さい。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機１０への動作電力の供給が一旦停止されたとしても設定値更新処理（ステップＳ８８１９）が実行されるまではパチンコ機１０への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が継続される構成としてもよい。

【１５６５】

停電フラグに「１」がセットされているとともにチェックサムが正常である場合（ステップＳ８８０７及びステップＳ８８１０：ＹＥＳ）、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定し（ステップＳ８８１３）、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるとともに外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態であるか否かを判定する（ステップＳ８８１４）。内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるか否かの検知は上記第３０の実施形態と同様に前扉開放センサ９５が利用され、外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態であるか否かの検知は上記第３０の実施形態と同様に本体開放センサ９６が利用される。設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されており（ステップＳ８８１３：ＹＥＳ）、さらに内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるとともに外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態である場合（ステップＳ８８１４：ＹＥＳ）、設定確認用処理を実行する（ステップＳ８８１５）。設定確認用処理の詳細については後に説明する。

【１５６６】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合（ステップＳ８８０６：ＹＥＳ）、ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳ８８１６）。ＲＡＭクリア処理の内容は上記第３３の実施形態におけるメイン処理（図１１４）のステップＳ７９１５と同一である。その後、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されており（ステップＳ８８１７：ＹＥＳ）、さらに内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態であるとともに外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態である場合（ステップＳ８８１８：ＹＥＳ）、設定値更新処理を実行する（ステップＳ８８１９）。設定値更新処理の詳細については後に説明する。

【１５６７】

ステップＳ８８１２の処理を実行した場合、ステップＳ８８１３若しくはステップＳ８８１４にて否定判定をした場合、ステップＳ８８１５の処理を実行した場合、ステップＳ８８１７若しくはステップＳ８８１８にて否定判定をした場合、又はステップＳ８８１９の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグを「０」クリアする（ステップＳ８８２０）。立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされることにより、第１タイマ割込み処理が起動されたとしても遊技を進行させるための処理

が実行されない状態が解除される。なお、ステップＳ８８２０では特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグも「０」クリアする。

【１５６８】

その後、復帰コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ８８２１）。復帰コマンドに含まれている情報の内容及び復帰コマンドを受信した場合における音声発光制御装置８１の処理内容は、上記第３３の実施形態におけるメイン処理（図１１４）のステップＳ７９２０の場合と同一である。

【１５６９】

その後、ステップＳ８８２２～ステップＳ８８２５の残余処理に進む。つまり、主側ＣＰＵ６３は第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）を定期的に実行する構成であるが、１のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は各タイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップＳ８８２２～ステップＳ８８２５の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップＳ８８２２～ステップＳ８８２５の残余処理は非定期的に実行される非定期処理であると言える。ステップＳ８８２２～ステップＳ８８２５では、上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のステップＳ１１３～ステップＳ１１６と同一の処理を実行する。

【１５７０】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における第２タイマ割込み処理について、図１３４のフローチャートを参照しながら説明する。なお、第２タイマ割込み処理におけるステップＳ９００１～ステップＳ９０１４の処理は主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１５７１】

まず第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う（ステップＳ９００１）。第１タイマ割込み処理（図１３３）の発生が禁止されることにより、第１割込み周期が経過したとしても第２タイマ割込み処理（図１３４）に対して第１タイマ割込み処理（図１３３）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。また、第２タイマ割込み処理（図１３４）の発生が禁止されることにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行途中において仮に第２割込み周期が経過してしまったとしても第２タイマ割込み処理（図１３４）が重複して起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【１５７２】

その後、チェック中カウンタの更新処理を実行する（ステップＳ９００２）。チェック中カウンタの更新処理では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタの値が１以上である場合に当該チェック中カウンタの値を１減算する。これにより、チェック中カウンタを利用して初期チェック期間を計測している状況である場合、当該チェック中カウンタの値が第２タイマ割込み処理（図１３４）が起動される度に定期的に減算されることとなる。

【１５７３】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ９００３）。設定更新表示フラグは主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１３７）を実行している状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。既に説明したとおり設定値更新処理（図１３７）は主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合におけるメイン処理（図１３２）において動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況で実行されることとなるが、第２タイマ割込み処理（図１３４）は当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても割り込んで起動されるため、主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１３７）が実行されている状況であっても第２タイマ割込み処理（図１３４）は割り込んで起動される。

【１５７４】

設定更新表示フラグに「１」がセットされている状況とは、第２タイマ割込み処理（図１３４）の今回の処理回が主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１３７）が実行されている状況で割り込んで起動された処理回であることを意味する。ステップＳ９００３にて肯定判定をした場合、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳ９００４）。当該設定処理では、上記第３３の実施形態における第２タイマ割込み処理（図１２３）のステップＳ８４０３と同様に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてパチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示を行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に格納する。これにより、上記第３３の実施形態と同様に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を更新している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。

【１５７５】

ステップＳ９００３にて否定判定をした場合、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ９００５）。設定確認表示フラグは主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１３６）を実行している状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。既に説明したとおり設定確認用処理（図１３６）は主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合におけるメイン処理（図１３２）において動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況で実行されることとなるが、第２タイマ割込み処理（図１３４）は当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても割り込んで起動されるため、主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１３６）が実行されている状況であっても第２タイマ割込み処理（図１３４）は割り込んで起動される。

【１５７６】

設定確認表示フラグに「１」がセットされている状況とは、第２タイマ割込み処理（図１３４）の今回の処理回が主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１３７）が実行されている状況で割り込んで起動された処理回であることを意味する。ステップＳ９００５にて肯定判定をした場合、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳ９００６）。当該設定処理では、上記第３３の実施形態における第２タイマ割込み処理（図１２３）のステップＳ８４０５と同様に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてパチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示を行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に格納する。これにより、上記第３３の実施形態と同様に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。

【１５７７】

ステップＳ９００５にて否定判定をした場合、通常時の設定処理を実行する（ステップＳ９００７）。通常時の設定処理については後に詳細に説明する。

【１５７８】

ステップＳ９００４、ステップＳ９００６又はステップＳ９００７の処理を実行した場合、ステップＳ９００８～ステップＳ９０１４の処理を実行する。これらステップＳ９００８～ステップＳ９０１４の処理内容は上記第３３の実施形態における第２タイマ割込み処理（図１２３）のステップＳ８４０７～ステップＳ８４１３と同一である。

【１５７９】

具体的には、まず種別データ信号線ＬＮ１及び種別クロック信号線ＬＮ２を通じた信号の送信状態をＯＦＦ状態とするとともに（ステップＳ９００８）、表示データ信号線ＬＮ３及び表示クロック信号線ＬＮ４を通じた信号の送信状態をＯＦＦ状態とする（ステップＳ９００９）。その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた種別カウンタの更新処理を実行する（ステップＳ９０１０）。

【１５８０】

種別カウンタは、第２タイマ割込み処理の今回の処理回において第１～第５表示データ

バッファ２７１～２７５のうち表示データの送信対象を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。種別カウンタの値が「１」である場合、第１表示データバッファ２７１の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「２」である場合、第２表示データバッファ２７２の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「３」である場合、第３表示データバッファ２７３の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「４」である場合、第４表示データバッファ２７４の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「５」である場合、第５表示データバッファ２７５の表示データが送信対象となる。種別カウンタの更新処理では種別カウンタの値を１加算するとともに、その１加算後における種別カウンタの値が上限値である「５」を超えた場合には種別カウンタの値を「１」に設定する。これにより、第２タイマ割込み処理の各処理回ごとに第１～第５表示データバッファ２７１～２７５において表示データの送信対象が順次変更される。

【１５８１】

その後、種別カウンタの値に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出す（ステップＳ９０１１）。具体的には、種別カウンタの値が「１」である場合には第１表示回路２６１に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「２」である場合には第２表示回路２６２に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「３」である場合には第３表示回路２６３に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「４」である場合には第４表示回路２６４に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「５」である場合には第５表示回路２６５に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出す。

【１５８２】

その後、種別カウンタの値に対応する表示データバッファ２７１～２７５から表示データを読み出す（ステップＳ９０１２）。具体的には、種別カウンタの値が「１」である場合には第１表示データバッファ２７１から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「２」である場合には第２表示データバッファ２７２から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「３」である場合には第３表示データバッファ２７３から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「４」である場合には第４表示データバッファ２７４から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「５」である場合には第５表示データバッファ２７５から表示データを読み出す。

【１５８３】

その後、各種信号の送信処理を実行する（ステップＳ９０１３）。当該送信処理では、ステップＳ９０１１にて読み出した種別データが表示ＩＣ２６６に送信されるように、種別データ信号線ＬＮ１及び種別クロック信号線ＬＮ２に対する信号出力を行う。また、当該送信処理では、ステップＳ９０１２にて読み出した表示データが表示ＩＣ２６６に送信されるように、表示データ信号線ＬＮ３及び表示クロック信号線ＬＮ４に対する信号出力を行う。

【１５８４】

その後、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の発生を許可するために割込み許可の設定を行う（ステップＳ９０１４）。

【１５８５】

図１３５は第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００７における通常時の設定処理を示すフローチャートである。なお、通常時の設定処理におけるステップＳ９１０１～ステップＳ９１０９の処理は主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１５８６】

まず特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタの値が１以上であるか否かを判定する（ステップＳ９１０１）。チェック中カウンタの値が１以上である場合（ステップＳ９１０１：ＹＥＳ）、初期チェック期間であることを意味する。この場合、チェック用表示のデータを特定制御用のワークエリア２２１における第５表示データバッファ２７５に設定する（ステップＳ９１０２）。第５表示データバッファ２７５に設

定された表示データは既に説明したとおり第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を表示制御するための表示データである。また、チェック用表示のデータは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示を行わせるための表示データ、すなわち第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント３２１～３２４を発光状態とするための表示データである。当該チェック用表示のデータが表示ＩＣ２６６に供給されることにより、図１２８（ｂ）の説明図に示すように、チェック用表示として、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント３２１～３２４が発光状態となる。これにより、遊技ホールの管理者は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の各表示用セグメント３２１～３２４が正常に発光状態となり得るか否かを把握することが可能となる。

【１５８７】

ここで、初期チェック期間は設定確認又は設定値更新に際してキャンセル可能な構成となっている。かかるキャンセル可能な構成について説明する。図１３６はメイン処理（図１３２）のステップＳ８８１５にて実行される設定確認用処理を示すフローチャートである。なお、設定確認用処理におけるステップＳ９２０１～ステップＳ９２０６の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１５８８】

まず操作指示コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ９２０１）。音声発光制御装置８１は当該操作指示コマンドを受信することにより、スピーカ部５４から「リセットボタン６８ｃを操作して下さい。」という音声を出力させる。当該報知はリセットボタン６８ｃが押圧操作されるまで継続される。

【１５８９】

その後、リセットボタン６８ｃが押圧操作されたか否かを判定する（ステップＳ９２０２）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合にはステップＳ９２０２にて待機する。リセットボタン６８ｃが押圧操作された場合（ステップＳ９２０２：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタを「０」クリアする（ステップＳ９２０３）。これにより、初期チェック期間がキャンセルされる。

【１５９０】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定確認表示フラグに「１」をセットする（ステップＳ９２０４）。設定確認表示フラグに「１」がセットされることで、第２タイマ割込み処理（図１３４）では既に説明したとおりステップＳ９００５にて肯定判定をして、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてパチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示を行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に格納する（ステップＳ９００６）。これにより、上記第３３の実施形態と同様に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。

【１５９１】

その後、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されていることを条件として（ステップＳ９２０５：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグを「０」クリアする（ステップＳ９２０６）。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。この場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４ではベース値を示す表示が開始されることとなる。

【１５９２】

上記のとおり設定確認用処理が開始された場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されたことを条件として、初期チェック期間が途中で解除されて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて現状の設定値が報知される。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力

の供給が開始されて当該主側ＣＰＵ６３にてメイン処理（図１３２）が開始された場合には、当該メイン処理における動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において初期チェック期間が開始されて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる構成であったとしても、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において設定値を確認する場合には初期チェック期間をキャンセルして第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に現状の設定値を表示させることが可能となる。よって、初期チェック期間が経過するのを待つことなく設定値を確認することが可能となる。

【１５９３】

また、メイン処理（図１３２）において設定確認用処理（図１３６）が実行される場合であっても初期チェック期間が先に開始されるため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおける各表示用セグメント３２１～３２４が正常に発光状態となり得るかどうかを確認した後に設定値を確認することが可能となる。これにより、設定値の確認を正確に行うことが可能となる。

【１５９４】

図１３７はメイン処理（図１３２）のステップＳ８８１９にて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。なお、設定値更新処理におけるステップＳ９３０１～ステップＳ９３１０の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１５９５】

まず更新開始コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳ９３０１）。音声発光制御装置８１は当該更新開始コマンドを受信することにより、スピーカ部５４から「設定変更中です。」という音声を出力させる。当該報知は本設定値更新処理が終了されるまで継続される。

【１５９６】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定値カウンタの値が「設定１」に対応する１以上であって「設定６」に対応する６以下であるか否かを判定する（ステップＳ９３０２）。設定値カウンタの値が「０」である場合又は７以上である場合、ステップＳ９３０２にて否定判定をして、設定値カウンタに「１」をセットする（ステップＳ９３０３）。これにより、パチンコ機１０の設定値が「設定１」となる。

【１５９７】

ステップＳ９３０２にて肯定判定をした場合又はステップＳ９３０３の処理を実行した場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＦＦ操作されているか否かを判定する（ステップＳ９３０４）。この場合、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する構成としてもよく、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態であるか否かを判定する構成としてもよい。

【１５９８】

設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されていない場合（ステップＳ９３０４：ＮＯ）、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳ９３０５）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合（ステップＳ９３０５：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」がセットされていないことを条件として（ステップＳ９３０６：ＮＯ）、当該設定更新表示フラグに「１」をセットするとともに（ステップＳ９３０７）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタを「０」クリアする（ステップＳ９３０８）。

【１５９９】

チェック中カウンタが「０」クリアされることで、初期チェック期間がキャンセルされる。また、設定更新表示フラグに「１」がセットされることで、第２タイマ割込み処理（図１３４）では既に説明したとおりステップＳ９００３にて肯定判定をして、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてパチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示を行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に格納する（ステップＳ９００４）。これにより、上記

第３３の実施形態と同様に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を更新している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。

【１６００】

ステップＳ９３０６にて肯定判定をした場合、又はステップＳ９３０８の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値を１加算する（ステップＳ９３０９）。これにより、リセットボタン６８ｃが１回押圧操作される度に１段階上の設定値に更新される。また、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳ９３０５：ＮＯ）又は設定値カウンタの値を１加算した場合にはステップＳ９３０２の処理に戻ることとなるが、ステップＳ９３０２にて設定値カウンタの値が７以上であると判定されると、ステップＳ９３０３にて設定値カウンタに「１」がセットされる。これにより、「設定６」の状況でリセットボタン６８ｃが１回押圧操作された場合には「設定１」に戻ることになる。

【１６０１】

設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されている場合（ステップ９３０４：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグを「０」クリアする（ステップＳ９３１０）。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、パチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。この場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４ではベース値を示す表示が開始されることとなる。

【１６０２】

上記のとおり設定値更新処理が実行された場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されたことを条件として、初期チェック期間が途中で解除されて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて現状の設定値が報知される。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されて当該主側ＣＰＵ６３にてメイン処理（図１３２）が開始された場合には、当該メイン処理における動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において初期チェック期間が開始されて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる構成であったとしても、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において設定値を更新する場合には初期チェック期間をキャンセルして第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に現状の設定値を表示させることが可能となる。よって、初期チェック期間が経過するのを待つことなく、現状の設定値を確認しながら設定値を更新することが可能となる。

【１６０３】

また、メイン処理（図１３２）において設定値更新処理（図１３７）が実行される場合であっても初期チェック期間が先に開始されるため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおける各表示用セグメント３２１～３２４が正常に発光状態となり得るかどうかを確認した後に設定値を更新することが可能となる。これにより、設定値の更新を正確に行うことが可能となる。

【１６０４】

また、設定値更新処理（図１３７）において設定値を更新させるためにリセットボタン６８ｃが押圧操作された場合に初期チェック期間がキャンセルされる。これにより、設定値を更新するためにリセットボタン６８ｃを押圧操作した場合にはそれに伴って初期チェック期間がキャンセルされることとなり、初期チェック期間をキャンセルするための操作性を向上させることが可能となる。

【１６０５】

通常時の設定処理（図１３５）の説明に戻り、チェック中カウンタの値が「０」であり初期チェック期間ではない場合（ステップＳ９１０１：ＮＯ）、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ９１０３）。管理開始フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳ９１０３：ＮＯ）、第１，第２報知用表示装置２０１，２０２について管理開始前表示の設定処理を実行する（ステップＳ９１０４）。当該設定処理では、第１，第２報知用表示

装置２０１，２０２のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント３２１，３２２を発光状態とするための表示データを第５表示データバッファ２７５に設定する。なお、第１，第２報知用表示装置２０１，２０２のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント３２１，３２２を発光状態とする構成に限定されることはなく、第１，第２報知用表示装置２０１，２０２のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント３２１，３２２にて点滅表示が行われるようにする構成としてもよい。

【１６０６】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象設定エリア２７６に設定された演算結果データを読み出し（ステップＳ９１０５）、その読み出した演算結果データを第３，第４報知用表示装置２０３，２０４に適用する表示データとして第５表示データバッファ２７５に設定する（ステップＳ９１０６）。既に説明したとおり表示用処理（図１３１）では管理開始フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳ８７０１：ＮＯ）、現状エリア３１１からベース値を読み出し、その読み出したベース値における小数点第１位の数字及び小数点第２位の数字に対応する演算結果データを表示対象設定エリア２７６に設定する（ステップＳ８７１４）。ステップＳ９１０６ではこの演算結果データを第３，第４報知用表示装置２０３，２０４に適用する表示データとして第５表示データバッファ２７５に設定する。

【１６０７】

ステップＳ９１０４及びステップＳ９１０６にて第５表示データバッファ２７５に設定された表示データが表示ＩＣ２６６に供給されることにより、図１２８（ｃ）の説明図に示すように、第１，第２報知用表示装置２０１，２０２のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント３２１，３２２が発光状態となっている状況において、第３報知用表示装置２０３にて現状の算出期間において算出されているベース値の小数点第１位の数字が表示されるとともに、第４報知用表示装置２０４にて現状の算出期間において算出されているベース値の小数点第２位の数字が表示される。第１，第２報知用表示装置２０１，２０２のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント３２１，３２２を発光状態としながら第３，第４報知用表示装置２０３，２０４にてベース値に対応する数字を表示することにより、現状報知されているベース値が管理開始フラグに「１」がセットされていない状況におけるベース値であることを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。

【１６０８】

また、管理開始フラグに「１」がセットされている状況においては、既に説明したとおり表示継続期間（具体的には５秒）が経過する度に、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４という予め定められた順序で第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知対象となるベース値が切り換えられるのに対して、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況においては現状エリア３１１のベース値が報知対象として維持される。これにより、パチンコ機１０の出荷段階においてパチンコ機１０の動作チェックが行われる場合には、現状のベース値を任意のタイミングで確認することが可能となる。

【１６０９】

管理開始フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳ９１０３：ＹＥＳ）、非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象設定エリア２７６に設定された表示データを読み出し、その読み出した表示データを第５表示データバッファ２７５に設定する（ステップＳ９１０７）。当該表示データが表示ＩＣ２６６に供給されることにより、現状エリア３１１のベース値が報知対象となっているのであれば図１２７（ａ）の説明図に示すような表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われ、第１履歴エリア３１２のベース値が報知対象となっているのであれば図１２７（ｂ）の説明図に示すような表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われ、第２履歴エリア３１３のベース値が報知対象となっているのであれば図１２７（ｃ）の説明図に示すような表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われ、第３履歴エリア３１４のベース値が報知対象となっているのであれば図１２７（ｄ）の説明図に示すような表示が第１～第

４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。
【１６１０】
その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた初期表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ９１０８）。初期表示フラグは、既に説明したとおり現状エリア３１１のベース値が報知対象となっている状況において当該ベース値が算出期間の開始後における演算初期のベース値であることを報知するために第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２を点滅表示させるべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。初期表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳ９１０８：ＹＥＳ）、第１，第２報知用表示装置２０１，２０２について点滅設定処理を実行する（ステップＳ９１０９）。
【１６１１】
当該点滅設定処理では、第５表示データバッファ２７５に現状設定されている表示データに対応する表示が第１，第２報知用表示装置２０１，２０２にて行われる場合に、当該表示が点滅表示されるようにするための設定を行う。点滅表示されるようにするための設定として、具体的には第１，第２報知用表示装置２０１，２０２に対する表示データの送信については第５表示データバッファ２７５に現状設定されている表示データに対応するデータを所定点灯期間（例えば０．５秒）が経過するまでは表示ＩＣ２６６に送信し、その後に第１，第２報知用表示装置２０１，２０２の全ての表示用セグメント３２１，３２２を消灯状態とするデータを所定消灯期間（例えば０．５秒）が経過するまでは表示ＩＣ２６６に送信し、その後はこれら所定点灯期間と所定消灯期間とが交互に繰り返されるようにする。これにより、ベース値の新たな算出期間が開始された直後において現状エリア３１１のベース値が報知対象となった場合には第１，第２報知用表示装置２０１，２０２にて演算初期表示が行われることとなり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知されている現状のベース値が新たな算出期間の開始直後のものであることを遊技ホールの管理者に把握させることが可能となる。
【１６１２】
次に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容について、図１３８のタイムチャートを参照しながら説明する。図１３８（ａ）は初期チェック期間を示し、図１３８（ｂ）は管理開始フラグに「１」がセットされていない状況において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値が報知される管理開始前表示期間を示し、図１３８（ｃ）は演算結果記憶エリア２３４の各種エリア３１１～３１４に記憶されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて順次報知される通常表示期間を示し、図１３８（ｄ）はパチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる設定更新中表示期間を示し、図１３８（ｅ）はパチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる設定確認中表示期間を示し、図１３８（ｆ）はリセットボタン６８ｃが押圧操作されたタイミングを示す。
【１６１３】
まず管理開始フラグに「１」がセットされていない状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合であって動作電力の供給開始時の処理において設定確認用処理（図１３６）及び設定値更新処理（図１３７）が実行されない場合について説明する。
【１６１４】
ｔ１のタイミングで図１３８（ａ）に示すように初期チェック期間が開始される。これにより、図１２８（ｂ）の説明図に示すように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始される。
【１６１５】
その後、ｔ２のタイミングで図１３８（ａ）に示すように初期チェック期間が途中でキャンセルされることなく終了する。この場合、当該ｔ２のタイミングで図１３８（ｂ）に

示すように管理開始前表示期間が開始される。管理開始前表示期間では、図１２８（ｃ）の説明図に示すように第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２においては全ての表示用セグメント３２１，３２２が発光状態となり、第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４においては現状のベース値に対応する数字が表示される。

【１６１６】

その後、ｔ３のタイミングで、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況であって大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数よりも少ない個数である管理開始基準個数に達する。これにより、管理開始フラグに「１」がセットされることで、図１３８（ｂ）に示すように管理開始前表示期間が終了する。この場合、当該ｔ３のタイミングで図１３８（ｃ）に示すように通常表示期間が開始される。通常表示期間では、図１２７（ａ）～図１２７（ｄ）に示すように演算結果記憶エリア２３４における各種エリア３１１～３１４に記憶されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて順次報知される。

【１６１７】

次に、管理開始フラグに「１」がセットされている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合であって動作電力の供給開始時の処理において設定確認用処理（図１３６）及び設定値更新処理（図１３７）が実行されない場合について説明する。

【１６１８】

ｔ４のタイミングで図１３８（ａ）に示すように初期チェック期間が開始される。これにより、図１２８（ｂ）の説明図に示すように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始される。

【１６１９】

その後、ｔ５のタイミングで図１３８（ａ）に示すように初期チェック期間が途中でキャンセルされることなく終了する。この場合、当該ｔ５のタイミングで図１３８（ｃ）に示すように通常表示期間が開始される。通常表示期間では、図１２７（ａ）～図１２７（ｄ）に示すように演算結果記憶エリア２３４における各種エリア３１１～３１４に記憶されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて順次報知される。

【１６２０】

次に、管理開始フラグに「１」がセットされている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合であって動作電力の供給開始時の処理において設定値更新処理（図１３７）が実行される場合について説明する。

【１６２１】

ｔ６のタイミングで図１３８（ａ）に示すように初期チェック期間が開始される。これにより、図１２８（ｂ）の説明図に示すように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始される。

【１６２２】

その後、初期チェック期間の途中において設定値更新処理（図１３７）が開始されて、ｔ７のタイミングで図１３８（ｆ）に示すようにリセットボタン６８ｃが押圧操作される。これにより、当該ｔ７のタイミングで図１３８（ａ）に示すように初期チェック期間が途中で終了されるとともに、当該ｔ７のタイミングで図１３８（ｄ）に示すように設定更新中表示期間が開始される。

【１６２３】

その後、ｔ８のタイミングで図１３８（ｄ）に示すように設定更新中表示期間が終了する。この場合、当該ｔ８のタイミングで図１３８（ｃ）に示すように通常表示期間が開始される。通常表示期間では、図１２７（ａ）～図１２７（ｄ）に示すように演算結果記憶エリア２３４における各種エリア３１１～３１４に記憶されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて順次報知される。

【１６２４】

次に、管理開始フラグに「１」がセットされている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合であって動作電力の供給開始時の処理において設定確認用処理（図１３６）が実行される場合について説明する。

【１６２５】

ｔ９のタイミングで図１３８（ａ）に示すように初期チェック期間が開始される。これにより、図１２８（ｂ）の説明図に示すように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始される。

【１６２６】

その後、初期チェック期間の途中において設定確認用処理（図１３６）が開始されて、ｔ１０のタイミングで図１３８（ｆ）に示すようにリセットボタン６８ｃが押圧操作される。これにより、当該ｔ１０のタイミングで図１３８（ａ）に示すように初期チェック期間が途中で終了されるとともに、当該ｔ１０のタイミングで図１３８（ｅ）に示すように設定確認中表示期間が開始される。

【１６２７】

その後、ｔ１１のタイミングで図１３８（ｅ）に示すように設定確認中表示期間が終了する。この場合、当該ｔ１１のタイミングで図１３８（ｃ）に示すように通常表示期間が開始される。通常表示期間では、図１２７（ａ）～図１２７（ｄ）に示すように演算結果記憶エリア２３４における各種エリア３１１～３１４に記憶されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて順次報知される。

【１６２８】

なお、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合であって動作電力の供給開始時の処理において設定確認用処理（図１３６）又は設定値更新処理（図１３７）が実行されて初期チェック期間が途中でキャンセルされた場合、設定更新中表示期間又は設定確認中表示期間が終了された後に、管理開始前表示期間が開始されることとなる。

【１６２９】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【１６３０】

チェック用表示として第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおける各表示用セグメント３２１～３２４が発光状態となる初期チェック期間が発生し得る。これにより、各表示用セグメント３２１～３２４のそれぞれについて発光状態となるか否かの確認を行うことが可能となり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かを確認することが可能となる。

【１６３１】

主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の初期チェック期間が開始される。これにより、動作電力の供給が開始された場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かの確認を早期に行うことが可能となる。

【１６３２】

主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始される度に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の初期チェック期間が開始される。これにより、動作電力の供給が開始される度に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かを確認することが可能となる。

【１６３３】

主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、特別な操作を要することなく第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の初期チェック期間が開始される。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かの確認作業を容易なものとすることが可能となる。

【１６３４】

初期チェック期間が経過していなくてもキャンセル契機が発生した場合に、第１～第４

報知用表示装置２０１～２０４における上記チェック用表示が途中で終了される。これにより、初期チェック期間の途中であっても上記チェック用表示を終了させて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて他の表示を行わせることが可能となる。

【１６３５】

主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合であって遊技の進行を制御するための処理が実行される前に初期チェック期間が開始されて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて上記チェック用表示が開始される。これにより、遊技が開始される前に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かの確認を行うことが可能となる。

【１６３６】

動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において設定確認用処理（図１３６）及び設定値更新処理（図１３７）といった所定の設定関連処理が実行される構成において、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において初期チェック期間が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理に対して、所定の設定関連処理だけではなく初期チェック期間を開始させるための処理を集約させることが可能となる。

【１６３７】

設定確認用処理（図１３６）及び設定値更新処理（図１３７）では第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて現状の設定値に対応する表示が行われる構成において、これら所定の設定関連処理が実行される前に初期チェック期間が開始されて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて上記チェック用表示が開始される。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かを確認した後に、当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用して現状の設定値を確認することが可能となる。よって、設定値の確認を正確に行うことが可能となる。

【１６３８】

初期チェック期間である状況において設定確認用処理（図１３６）又は設定値更新処理（図１３７）が実行されたことに基づいて当該初期チェック期間が経過していなくても第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における上記チェック用表示が途中で終了される。これにより、設定確認用処理（図１３６）又は設定値更新処理（図１３７）が実行された場合には初期チェック期間が経過することを待たなくても第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における上記チェック用処理を終了させて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて現状の設定値を表示させることが可能となる。よって、現状の設定値の確認を早期に行うことが可能となる。

【１６３９】

初期チェック期間である状況において設定確認用処理（図１３６）又は設定値更新処理（図１３７）が実行された場合であってリセットボタン６８ｃが押圧操作された場合に当該初期チェック期間が経過していなくても第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における上記チェック用表示が途中で終了される。これにより、設定確認用処理（図１３６）又は設定値更新処理（図１３７）が開始された後の任意のタイミングで初期チェック期間を終了させることが可能となる。例えば設定確認用処理（図１３６）又は設定値更新処理（図１３７）が開始された場合に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であることを遊技ホールの管理者が十分に確認した後に、当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において上記チェック用表示を終了させて現状の設定値の表示を開始させることが可能となる。

【１６４０】

また、設定値更新処理（図１３７）においてはリセットボタン６８ｃが押圧操作されることで選択対象の設定値が更新される。この場合に、上記のとおりリセットボタン６８ｃが押圧操作された場合に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて上記チェック用表示が終了されて現状の設定値の表示が開始されるようにすることで、チェック用表示を終了させて現状の設定値の表示を開始させるための専用の操作が必要なくなる。よって、設定値を更新するための作業の作業性を向上させることが可能となる。

【１６４１】
演算結果記憶エリア２３４には、異なる期間における通常用カウンタエリア２３１の情報を利用して導出された複数のベース値が記憶される。これにより、複数の期間におけるベース値を把握することが可能となるため、遊技領域ＰＡに供給された遊技球の個数に対する賞球個数の割合を正確に把握することが可能となる。
【１６４２】
演算結果記憶エリア２３４には、直近のベース値が記憶される現状エリア３１１と、それよりも前に導出されたベース値が記憶される第１～第３履歴エリア３１２～３１４とが設けられている。これにより、遊技領域ＰＡに供給された遊技球の個数に対する賞球個数の割合を直近のものだけではなく過去のものも把握することが可能となる。
【１６４３】
一の算出期間が経過する前において比較的短い周期で繰り返し算出されるベース値は現状エリア３１１に記憶されるとともに、一の算出期間が経過した場合に算出されたベース値が第１～第３履歴エリア３１２～３１４に記憶される。これにより、遊技領域ＰＡに供給された遊技球の個数に対する賞球個数の割合について直近のものを把握することが可能となるとともに、一の算出期間の単位での過去の上記割合を把握することが可能となる。また、第１～第３履歴エリア３１２～３１４には一の算出期間の単位でのベース値が記憶されるため、第１～第３履歴エリア３１２～３１４に記憶されるベース値の数を抑えることが可能となる。
【１６４４】
一の算出期間が経過したことに基づいて通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅが「０」クリアされる。これにより、通常用カウンタエリア２３１において必要な記憶容量を抑えることが可能となる。また、このように通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅが「０」クリアされる構成であったとしても、一の算出期間が経過した場合に算出されたベース値が第１～第３履歴エリア３１２～３１４に記憶されるため、過去の算出期間における遊技領域ＰＡに供給された遊技球の個数に対する賞球個数の割合を後から把握することが可能となる。
【１６４５】
過去のベース値を記憶するためのエリアとして複数の履歴エリア３１２～３１４が設けられている。これにより、過去の複数の算出期間におけるベース値を比較することが可能となる。
【１６４６】
現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のそれぞれに記憶されたベース値は、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて順次表示される。これにより、報知用表示装置２０１～２０４の数を抑えながら、複数の算出期間におけるベース値を個別に把握することが可能となる。
【１６４７】
動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）が実行されることで停電の発生が監視されるとともに停電の発生が特定された場合には停電時処理が実行される。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において停電が発生した場合にはそれに対して適切に対処することが可能となる。
【１６４８】
第１タイマ割込み処理（図１３３）に停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）が含まれている構成において、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても第１タイマ割込み処理が割り込んで起動される。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても停電の発生の監視を定期的に行うことが可能となる。
【１６４９】
第１タイマ割込み処理（図１３３）は動作電力の供給開始時の処理が終了した後において残余処理が実行されている状況であっても割り込んで起動される。これにより、残余処

理に割り込んで起動される第１タイマ割込み処理を利用して、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において停電の発生の監視を定期的に行うことが可能となる。

【１６５０】

動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）が割り込んで起動された場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされていることで遊技を進行させるための処理は実行されない。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても第１タイマ割込み処理が割り込んで起動されることで停電の発生の監視を定期的に行う構成において、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において遊技を進行させるための処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【１６５１】

動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において設定値更新処理（図１３７）が実行される構成において、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）が実行される。これにより、使用対象となる設定値の設定を行っている途中で停電が発生したとしてもそれに対して適切に対処することが可能となる。

【１６５２】

なお、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が、初期チェック期間が経過した場合に終了される構成に限定されることはなく、当該チェック用表示を終了させるための操作が行われるまでは当該チェック用表示が継続される構成としてもよい。当該終了させるための操作としては、例えば設定確認用処理（図１３６）及び設定値更新処理（図１３７）のいずれかが実行されているか否かに関係なくリセットボタン６８ｃが操作されることとしてもよく、リセットボタン６８ｃ以外の操作部が操作されることとしてもよい。この場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値又は設定値を確認するタイミングとなるまで第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてチェック用表示が継続されることとなるため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かを確認した後にベース値又は設定値を確認することが可能となる。また、操作部の操作に基づきチェック用表示が終了されるため、所望のタイミングでチェック用表示を終了させることが可能となる。

【１６５３】

また、動作電力の供給が開始された場合かどうかに関係なく更新ボタン６８ｂやリセットボタン６８ｃといった所定の操作部が操作された場合に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が開始される構成としてもよい。この場合、ベース値又は設定値を確認する場合における所望のタイミングでチェック用表示を開始させることが可能となる。また、当該構成において所定期間（例えば５秒）が経過した場合にチェック用表示が終了される構成としてもよく、チェック用表示を開始させるために操作された上記所定の操作部又はそれとは別の操作部が操作された場合にチェック用表示が終了される構成としてもよい。

【１６５４】

また、更新ボタン６８ｂといったリセットボタン６８ｃ以外の特定の操作部が操作された状態で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が開始され、当該特定の操作部が操作されることなく主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合にはチェック用表示が開始されない構成としてもよい。この場合、動作電力の供給が開始されたことを契機としてチェック用表示が行われる構成において、遊技ホールの管理者の操作によりチェック用表示を開始させるか否かを選択することが可能となる。

【１６５５】

また、遊技機本体１２が開放状態であるか否かに関係なく第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値が表示される構成に限定されることはなく、遊技機本体１２が開放状態となっていることが本体開放センサ９６の検知結果に基づき特定されている場合

に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値が表示される構成としてもよい。この場合、遊技機本体１２が開放状態となった場合にはまず第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が開始され、その後に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値が表示される構成としてもよい。これにより、ベース値を確認する場合にはその前に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かを確認することが可能となる。また、当該構成において所定期間（例えば５秒）が経過した場合にチェック用表示が終了される構成としてもよく、チェック用表示を開始させるために操作された上記所定の操作部又はそれとは別の操作部が操作された場合にチェック用表示が終了される構成としてもよい。

【１６５６】

また、設定確認用処理（図１３６）が実行される条件を満たした状態でメイン処理（図１３２）が開始された場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が開始されずに、設定確認用処理が実行される条件を満たさない状態でメイン処理が開始された場合にはチェック用表示が開始される構成としてもよい。この場合、設定値の確認が行われることが確定している場合にはチェック用表示が行われないようにすることが可能となる。

【１６５７】

また、設定値更新処理（図１３７）が実行される条件を満たした状態でメイン処理（図１３２）が開始された場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が開始されずに、設定値更新処理が実行される条件を満たさない状態でメイン処理が開始された場合にはチェック用表示が開始される構成としてもよい。この場合、設定値の更新が行われることが確定している場合にはチェック用表示が行われないようにすることが可能となる。

【１６５８】

また、設定確認用処理（図１３６）が実行される条件及び設定値更新処理（図１３７）が実行される条件のいずれかを満たした状態でメイン処理（図１３２）が開始された場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が開始されずに、設定確認用処理が実行される条件及び設定値更新処理が実行される条件の両方を満たさない状態でメイン処理が開始された場合にはチェック用表示が開始される構成としてもよい。この場合、設定値の確認又は設定値の更新が行われることが確定している場合にはチェック用表示が行われないようにすることが可能となる。

【１６５９】

また、チェック用表示では第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおける各表示用セグメント３２１～３２４が発光状態に維持される構成に限定されることはなく、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおける各表示用セグメント３２１～３２４が点滅状態とされる構成としてもよい。また、チェック用表示では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて各表示用セグメント３２１～３２４が１個ずつ又は一部の複数個ずつ順次発光状態となり、初期チェック期間の範囲内で各表示用セグメント３２１～３２４が少なくとも１回は発光状態となる構成としてもよい。

【１６６０】

また、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示を行わせる処理が特定制御に対応する処理として実行される構成に限定されることはなく、非特定制御に対応する処理として実行される構成としてもよい。

【１６６１】

また、演算結果記憶エリア２３４の第１～第３履歴エリア３１２～３１４のいずれかにベース値が記憶されていない場合には、その履歴エリア３１２～３１４は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知対象とならない構成としてもよい。この場合、例えば現状エリア３１１及び第１履歴エリア３１２にベース値が記憶されている一方、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４にはベース値が記憶されていない場合には、表示継続期間が経過する度に、現状エリア３１１と第１履歴エリア３１２との間で第１～第４

報知用表示装置２０１～２０４における報知対象が切り換えられ、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４は報知対象とならないことになる。

【１６６２】

また、演算結果記憶エリア２３４の現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４には、少数点第２位までの少数として表されるベース値が記憶される構成としたが、これに限定されることはなく、当該ベース値のうち小数点第１位の数字と少数点第２位の数字との組合せの情報が記憶される構成としてもよく、ベース値を算出することを可能とするための遊技球の合計払出個数（Ｋ９１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）と、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ９１＋Ｋ９２＋Ｋ９３＋Ｋ９４＋Ｋ９５）との組合せの情報が記憶される構成としてもよい。前者の場合には各種エリア３１１～３１４の情報をそのまま表示対象設定エリア２７６に設定することが可能となり、後者の場合には各種エリア３１１～３１４の情報を利用してベース値を算出した後に当該ベース値から抽出した小数点第１位の数字と小数点第２位の数字との情報を表示対象設定エリア２７６に設定することとなる。

【１６６３】

また、演算結果記憶エリア２３４にはベース値を記憶するためのエリアとして、現状エリア３１１及び第１履歴エリア３１２のみが設けられている構成としてもよく、現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２及び第２履歴エリア３１３のみが設けられている構成としてもよい。また、過去のベース値の情報を記憶するための履歴エリアとして４個以上のエリアが設けられている構成としてもよい。

【１６６４】

また、演算結果記憶エリア２３４は各種エリア３１１～３１４がアドレス上固定されており、必要に応じてベース値がそれら各種エリア３１１～３１４においてシフトされる構成に限定されることはなく、各種エリア３１１～３１４がリングバッファとして設けられている構成としてもよい。

【１６６５】

また、態様情報としてベース値が算出される構成に代えて、上記第１５の実施形態のように第６１パラメータ～第６８パラメータが算出される構成としてもよい。この場合、演算結果記憶エリア２３４の現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のそれぞれには第６１～第６８パラメータの全てが記憶される構成としてもよく、現状エリア３１１には第６１～第６８パラメータが記憶されるものの第１～第３履歴エリア３１２～３１４には第６１パラメータのみといったように一部のパラメータが記憶される構成としてもよい。

【１６６６】

また、態様情報としてベース値に加えて又は代えて、大当たり結果の発生確率が算出されて記憶される構成としてもよく、高頻度サポートモードの発生確率が算出されて記憶される構成としてもよい。

【１６６７】

また、演算結果記憶エリア２３４における各種エリア３１１～３１４においてベース値のシフトが行われる契機は、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数がシフト基準個数以上となった場合に限定されることはなく、所定期間（例えば８時間）が経過した場合にシフトが行われる構成としてもよく、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される場合にシフトが行われる構成としてもよく、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合にシフトが行われる構成としてもよく、パチンコ機１０の設定値が変更された場合にシフトが行われる構成としてもよい。またシフトが行われる契機が複数種類存在している構成としてもよい。

【１６６８】

また、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセッ

トされるまでは、第１，第２報知用表示装置２０２のそれぞれにおける表示用セグメント３２１，３２２が発光状態に維持される構成に限定されることはなく、第１，第２報知用表示装置２０２のそれぞれにおける表示用セグメント３２１，３２２が点滅状態とされる構成としてもよい。また、管理開始フラグに「１」がセットされるまでは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において「ｂＬ．－－」→「ｂ１．－－」→「ｂ２．－－」→「ｂ３．－－」という表示が繰り返される構成としてもよい。

【１６６９】

また、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされるまでは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおける表示用セグメント３２１～３２４が発光状態となるチェック用表示が行われずに、第１，第２報知用表示装置２０１，２０２のそれぞれにおける各表示用セグメント３２１，３２２が発光状態又は点滅状態となるとともに、第３，第４報知用表示装置２０３，２０４にて現状のベース値に対応する表示が行われるといったように、管理開始フラグに「１」がセットされていないことに対応する表示が行われる構成としてもよい。

【１６７０】

また、停電フラグに「１」がセットされていない又はチェックサムが一致しないことにより遊技停止フラグに「１」がセットされて遊技の進行が停止される場合には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてチェック用表示と同様に各表示用セグメント３２１～３２４が発光状態となる構成としてもよく、各表示用セグメント３２１～３２４が点滅状態となる構成としてもよい。

【１６７１】

また、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御が主側ＣＰＵ６３により行われる構成に限定されることはなく、専用の制御手段により行われる構成としてもよく、音声発光制御装置８１により行われる構成としてもよく、表示制御装置８２により行われる構成としてもよい。この場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてベース値を表示する場合には報知対象となるベース値が主側ＣＰＵ６３から制御主体となる制御手段に送信されることとなり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において設定値を表示する場合には報知対象となる設定値が主側ＣＰＵ６３から制御主体となる制御手段に送信されることとなる。また、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理が実行される場合には当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始されるように、チェック用表示の開始に対応する情報が主側ＣＰＵ６３から制御主体となる制御手段に送信されることとなる。

【１６７２】

＜第３６の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行されるメイン処理の処理構成が上記第３５の実施形態と相違している。以下、上記第３５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【１６７３】

図１３９は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳ９４０１～ステップＳ９４２６の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１６７４】

ステップＳ９４０１～ステップＳ９４０３では上記第３５の実施形態におけるメイン処理（図１３２）のステップＳ８８０１～ステップＳ８８０３と同一の処理を実行する。その後、割込み許可の設定を行う（ステップＳ９４０４）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）が第２割込み周期で割り込んで起動される。但し、ステップＳ９４０３にて立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理が起

動されたとしても当該第１タイマ割込み処理の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理が終了される。

【１６７５】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する情報をセットする（ステップＳ９４０５）。チェック中カウンタにセットされた値は上記第３５の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図１３４）が起動される度に１減算される。チェック中カウンタに１以上の値が設定されている場合、上記第３５の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる。

【１６７６】

その後、チェック中カウンタの値が「０」となっているか否かを判定する（ステップＳ９４０６）。そして、チェック中カウンタの値が「０」となるまで、ステップＳ９４０６にて待機する。これにより、ステップＳ９４０５にてセットされた初期チェック期間が経過するまでは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるチェック用表示が継続される。

【１６７７】

その後、ステップＳ９４０７～ステップＳ９４２６の処理を実行する。これらステップＳ９４０７～ステップＳ９４２６の処理内容は、上記第３５の実施形態におけるメイン処理（図１３２）のステップＳ８８０６～ステップＳ８８２５と同一である。

【１６７８】

上記構成によれば主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されて当該主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理が開始された場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われるとともにその状況で初期チェック期間が経過するまで動作電力の供給開始時の処理の進行が停止される。これにより、初期チェック期間の途中で設定確認及び設定値更新が実行されないようにすることが可能となり、処理負荷の増加を抑えることが可能となる。また、初期チェック期間の途中で遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【１６７９】

＜第３７の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行されるメイン処理の処理構成が上記第３５の実施形態と相違している。以下、上記第３５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【１６８０】

図１４０は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳ９５０１～ステップＳ９５２５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１６８１】

ステップＳ９５０１～ステップＳ９５１８では上記第３３の実施形態におけるメイン処理（図１１４）のステップＳ７９０１～ステップＳ７９１８と同一の処理を実行する。その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する情報をセットする（ステップＳ９５１９）。チェック中カウンタにセットされた値は上記第３５の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図１３４）が起動される度に１減算される。チェック中カウンタに１以上の値が設定されている場合、上記第３５の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。

【１６８２】

その後、ステップＳ９５２０以降の処理を実行する。ステップＳ９５２０～ステップＳ９５２５の処理内容は上記第３３の実施形態におけるメイン処理（図１１４）のステップ

Ｓ７９１９～ステップＳ７９２４と同一である。
【１６８３】
上記構成によれば主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、当該主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳ９５０１～ステップＳ９５１８）が終了した後であって残余処理（ステップＳ９５２２～ステップＳ９５２５）が開始される前に、初期チェック期間が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において初期チェック期間を制御する必要がないため、当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況における処理負荷を軽減することが可能となる。
【１６８４】
設定確認用処理（ステップＳ９５１４）及び設定値更新処理（ステップＳ９５１８）は動作電力の供給開始時の処理として実行されるのに対して、初期チェック期間は動作電力の供給開始時の処理が終了した後に開始される。これにより、初期チェック期間において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われるとしても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用した設定値の表示に影響を与えないようにすることが可能となる。
【１６８５】
主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合には、設定確認用処理（ステップＳ９５１４）及び設定値更新処理（ステップＳ９５１８）のいずれかが実行される場合、並びに設定確認用処理（ステップＳ９５１４）及び設定値更新処理（ステップＳ９５１８）のいずれもが実行されない場合のいずれであっても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合における状況に関係なく第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かを確認することが可能となる。
【１６８６】
主側ＣＰＵ６３のメイン処理（図１４０）には、設定確認用処理（ステップＳ９５１４）及び設定値更新処理（ステップＳ９５１８）のいずれかが実行される場合、並びに設定確認用処理（ステップＳ９５１４）及び設定値更新処理（ステップＳ９５１８）のいずれもが実行されない場合のいずれであっても共通して実行される処理であって、設定確認用処理（ステップＳ９５１４）及び設定値更新処理（ステップＳ９５１８）のいずれかが実行される場合にはこれら設定確認用処理（ステップＳ９５１４）及び設定値更新処理（ステップＳ９５１８）よりも実行順序が後の処理として、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にチェック用表示を開始させる処理が設定されている。このように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にチェック用表示を開始させるための処理が共通処理として設定されていることにより、処理構成の簡素化を図りながら既に説明したような優れた効果を奏することが可能となる。
【１６８７】
第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が実行されている状況であっても主側ＣＰＵ６３にて遊技を進行させるための処理が開始され得る。これにより、設定確認用処理（ステップＳ９５１４）又は設定値更新処理（ステップＳ９５１８）の実行後に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる構成であっても遊技を進行させるための処理の開始タイミングが遅れてしまわないようにすることが可能となる。
【１６８８】
なお、初期チェック期間が経過するまでステップＳ９５２０以降の処理が開始されない構成としてもよい。この場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われている状況で遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。
【１６８９】
＜第３８の実施形態＞
本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行される通常時の設定処理の処理構成が上記第３５の実施形態と相違している。以下、上記第３５の実施形態と相違している構成について

説明する。なお、上記第３５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【１６９０】

図１４１は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における通常時の設定処理を示すフローチャートである。なお、通常時の設定処理におけるステップＳ９６０１～ステップＳ９６０５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１６９１】

まず非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ９６０１）。管理開始フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳ９６０１：ＮＯ）、チェック用表示のデータを特定制御用のワークエリア２２１における第５表示データバッファ２７５に設定する（ステップＳ９６０２）。当該チェック用表示のデータが表示ＩＣ２６６に供給されることにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始される。具体的には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント３２１～３２４が発光状態となる。これにより、遊技ホールの管理者は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の各表示用セグメント３２１～３２４が正常に発光状態となり得るか否かを把握することが可能となる。

【１６９２】

管理開始フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳ９６０１：ＹＥＳ）、ステップＳ９６０３～ステップＳ９６０５の処理を実行する。ステップＳ９６０３～ステップＳ９６０５の処理内容は上記第３５の実施形態における通常時の設定処理（図１３５）におけるステップＳ９１０７～ステップＳ９１０９と同一である。ステップＳ９６０３～ステップＳ９６０５の処理が実行されることにより、演算結果記憶エリア２３４の各種エリア３１１～３１４に記憶されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて順次報知されるとともに、新たな算出期間の開始直後において現状エリア３１１のベース値が報知される場合には第１，第２報知用表示装置２０１，２０２にて演算初期表示が行われる。

【１６９３】

上記構成によれば管理開始フラグに「１」がセットされていない場合に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる初期チェック期間となる。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に初期チェック期間となる状況をパチンコ機１０の出荷段階などにおいて管理開始フラグに「１」がセットされていない状況に制限することが可能となる。

【１６９４】

＜第３９の実施形態＞

本実施形態では設定値に関する構成が上記第３３の実施形態と相違している。以下、上記第３３の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３３の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【１６９５】

図１４２（ａ）～図１４２（ｄ）は主側ＲＯＭ６４に設けられた設定対応記憶エリア３２５を説明するための説明図である。

【１６９６】

設定対応記憶エリア３２５には、パチンコ機１０の設定値に対応させて低確率モードの当否テーブル、高確率モードの当否テーブル、並びに設定確認用処理（図１１５）及び設定値更新処理（図１１６）において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に現状の設定値を表示させるために利用される設定値の表示データが設定されている。より詳細には、設定対応記憶エリア３２５には第１設定情報記憶エリア３２５ａ、第２設定情報記憶エリア３２５ｂ、第３設定情報記憶エリア３２５ｃ、第４設定情報記憶エリア３２５ｄ、第５設定情報記憶エリア３２５ｅ及び第６設定情報記憶エリア３２５ｆが設けられている。

【１６９７】
第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆのそれぞれには、当否抽選モードが低確率モードである場合に参照される低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアと、当否抽選モードが高確率モードである場合に参照される高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアと、設定確認用処理（図１１５）及び設定値更新処理（図１１６）において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に現状の設定値を表示させるために利用される設定値の表示データを記憶するための記憶エリアとが設けられている。第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆのそれぞれにおいて、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアとして所定の複数バイトのエリアが確保されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアとして所定の複数バイトのエリアが確保されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアとして１バイトのエリアが確保されている。したがって、第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆのそれぞれは複数バイトの記憶容量となっている。この場合、第１設定情報記憶エリア３２５ａの開始アドレスはＡ（１）となっており、第２設定情報記憶エリア３２５ｂの開始アドレスはＡ（２）となっており、第３設定情報記憶エリア３２５ｃの開始アドレスはＡ（３）となっており、第４設定情報記憶エリア３２５ｄの開始アドレスはＡ（４）となっており、第５設定情報記憶エリア３２５ｅの開始アドレスはＡ（５）となっており、第６設定情報記憶エリア３２５ｆの開始アドレスはＡ（６）となっている。
【１６９８】
上記構成において本実施形態における第１形態のパチンコ機１０では、当該パチンコ機１０の設定値として上記３３の実施形態と同様に「設定１」～「設定６」の６段階の設定値が設定されている。この場合、「設定１」～「設定６」のそれぞれで低確率モードにおいて大当たり結果となる確率は相違する一方、高確率モードにおいて大当たり結果となる確率は相互に同一となっている。したがって、図１４２（ａ）に示すように第１設定情報記憶エリア３２５ａには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」に対応する第１低確当否テーブルＬＴ（１）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」～「設定６」で共通となる共通高確当否テーブルＨＴが記憶されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアに「１」を表示するための表示データが記憶されている。第２設定情報記憶エリア３２５ｂには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定２」に対応する第２低確当否テーブルＬＴ（２）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」～「設定６」で共通となる共通高確当否テーブルＨＴが記憶されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアに「２」を表示するための表示データが記憶されている。
【１６９９】
第３設定情報記憶エリア３２５ｃには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定３」に対応する第３低確当否テーブルＬＴ（３）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」～「設定６」で共通となる共通高確当否テーブルＨＴが記憶されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアに「３」を表示するための表示データが記憶されている。第４設定情報記憶エリア３２５ｄには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定４」に対応する第４低確当否テーブルＬＴ（４）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」～「設定６」で共通となる共通高確当否テーブルＨＴが記憶されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアに「４」を表示するための表示データが記憶されている。
【１７００】
第５設定情報記憶エリア３２５ｅには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定５」に対応する第５低確当否テーブルＬＴ（５）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」～「設定６」で共通となる共通高確当否テーブルＨＴが記憶されており、設定値の表示データを記憶するた

めの記憶エリアに「５」を表示するための表示データが記憶されている。第６設定情報記憶エリア３２５ｆには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定６」に対応する第６低確当否テーブルＬＴ（６）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」～「設定６」で共通となる共通高確当否テーブルＨＴが記憶されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアに「６」を表示するための表示データが記憶されている。

【１７０１】

上記第１形態の構成の場合、低確率モードにおいて大当たり結果となる確率は大きい設定値ほど高くなる。その一方、高確率モードにおいて大当たり結果となる確率はいずれの設定値であっても同一となる。なお、高確率モードにおいて大当たり結果となる確率は１／３０であるため、「設定１」であっても高確率モードにおいて大当たり結果となる確率は「設定６」における低確率モードの大当たり確率よりも高い確率となる。

【１７０２】

設定値として「設定１」～「設定６」が設定された第１形態において、特図変動開始処理（図１３）のステップＳ５０４にて当否判定処理を実行するために、ステップＳ５０３にて実行される当否テーブルの読み出し処理について説明する。図１４３は当否テーブルの読み出し処理を示すフローチャートである。なお、当否テーブルの読み出し処理におけるステップＳ９７０１～ステップＳ９７０５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１７０３】

まず主側ＲＡＭ６５における特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定値カウンタの値を読み出す（ステップＳ９７０１）。設定値カウンタは、当否テーブルを読み出す場合及び設定値の表示データを読み出す場合のそれぞれにおいて設定対応記憶エリア３２５における第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆのうちいずれを参照すべきであるのかを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。

【１７０４】

その後、設定対応記憶エリア３２５における第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆのうち、ステップＳ９７０１にて読み出した設定値カウンタの値に対応する記憶エリアを選択する（ステップＳ９７０２）。設定値カウンタは上記第３３の実施形態と同様に「１」～「６」のいずれかの値を取るように構成されており、設定値カウンタの値が「１」である場合には第１設定情報記憶エリア３２５ａを選択し、設定値カウンタの値が「２」である場合には第２設定情報記憶エリア３２５ｂを選択し、設定値カウンタの値が「３」である場合には第３設定情報記憶エリア３２５ｃを選択し、設定値カウンタの値が「４」である場合には第４設定情報記憶エリア３２５ｄを選択し、設定値カウンタの値が「５」である場合には第５設定情報記憶エリア３２５ｅを選択し、設定値カウンタの値が「６」である場合には第６設定情報記憶エリア３２５ｆを選択する。

【１７０５】

この選択に際しては主側ＲＯＭ６４に予め記憶された対応テーブルが参照される。当該対応テーブルには設定値カウンタの値と第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆの開始アドレスとの対応関係が定められている。詳細には、設定値カウンタの「１」の値に対応させて第１設定情報記憶エリア３２５ａの開始アドレスであるＡ（１）が設定されており、設定値カウンタの「２」の値に対応させて第２設定情報記憶エリア３２５ｂの開始アドレスであるＡ（２）が設定されており、設定値カウンタの「３」の値に対応させて第３設定情報記憶エリア３２５ｃの開始アドレスであるＡ（３）が設定されており、設定値カウンタの「４」の値に対応させて第４設定情報記憶エリア３２５ｄの開始アドレスであるＡ（４）が設定されており、設定値カウンタの「５」の値に対応させて第５設定情報記憶エリア３２５ｅの開始アドレスであるＡ（５）が設定されており、設定値カウンタの「６」の値に対応させて第６設定情報記憶エリア３２５ｆの開始アドレスであるＡ（６）が設定されている。

【１７０６】

その後、現状の当否抽選モードが低確率モードであれば（ステップＳ９７０３：ＮＯ）、ステップＳ９７０２にて選択した設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆから低確率モードの当否テーブルを読み出す（ステップＳ９７０４）。一方、現状の当否抽選モードが高確率モードであれば（ステップＳ９７０３：ＹＥＳ）、ステップＳ９７０２にて選択した設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆから高確率モードの当否テーブルを読み出す（ステップＳ９７０５）。

【１７０７】

上記のように当否テーブルの読み出し処理が実行されることにより、設定値カウンタの値に対応する設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆから、現状の当否抽選モードに対応する当否テーブルが読み出される。そして、特図変動開始処理（図１３）の当否判定処理（ステップＳ５０４）では、その読み出した当否テーブルを利用して、今回の遊技回が大当たり結果に対応しているか否かを判定する。

【１７０８】

次に、主側ＣＰＵ６３におけるメイン処理（図１１４）にて設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されている状況で第２タイマ割込み処理（図１２３）が割り込んで起動された場合における処理について説明する。この場合、第２タイマ割込み処理（図１２３）では設定値更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳ８４０３）。図１４４は設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を示すフローチャートである。なお、当該設定処理におけるステップＳ９８０１～ステップＳ９８０５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１７０９】

まず主側ＲＡＭ６５における特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定値カウンタの値を読み出す（ステップＳ９８０１）。その後、設定対応記憶エリア３２５における第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆのうち、ステップＳ９８０１にて読み出した設定値カウンタの値に対応する記憶エリアを選択する（ステップＳ９８０２）。設定値カウンタは上記第３３の実施形態と同様に「１」～「６」のいずれかの値を取るように構成されており、設定値カウンタの値が「１」である場合には第１設定情報記憶エリア３２５ａを選択し、設定値カウンタの値が「２」である場合には第２設定情報記憶エリア３２５ｂを選択し、設定値カウンタの値が「３」である場合には第３設定情報記憶エリア３２５ｃを選択し、設定値カウンタの値が「４」である場合には第４設定情報記憶エリア３２５ｄを選択し、設定値カウンタの値が「５」である場合には第５設定情報記憶エリア３２５ｅを選択し、設定値カウンタの値が「６」である場合には第６設定情報記憶エリア３２５ｆを選択する。この選択に際しては当否テーブルの読み出し処理（図１４３）と同様に主側ＲＯＭ６４に予め記憶された対応テーブルが参照される。

【１７１０】

その後、ステップＳ９８０２にて選択した設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆから設定値の表示データを読み出す（ステップＳ９８０３）。そして、その読み出した設定値の表示データを第４報知用表示装置２０４に適用するための表示データとして特定制御用のワークエリア２２１における第５表示データバッファ２７５に設定する（ステップＳ９８０４）。また、パチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示を第１～第３報知用表示装置２０１～２０３に表示させるための表示データを第５表示データバッファ２７５に設定する（ステップＳ９８０５）。

【１７１１】

上記のように設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理が実行されることにより、ステップＳ９８０５にて第５表示データバッファ２７５に設定された表示データに対応する表示が第１～第３報知用表示装置２０１～２０３にて行われるとともに、ステップＳ９８０４にて第５表示データバッファ２７５に設定された表示データに対応する表示が第４報知用表示装置２０４にて行われる。これにより、例えば図１２４（ａ）の説明図に示すように、パチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す

表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。

【１７１２】

なお、主側ＣＰＵ６３におけるメイン処理（図１１４）にて設定確認用処理（ステップＳ７９１４）が実行されている状況で第２タイマ割込み処理（図１２３）が割り込んで起動された場合に実行される設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ８４０５）においても、設定値の表示データの設定に関して、上記設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（図１４４）と同様の処理が実行される。

【１７１３】

ここで、第１形態のパチンコ機１０においては当該パチンコ機１０の設定値として「設定１」～「設定６」の６段階の設定値が設定されていたが、パチンコ機１０の機種や型式によっては６段階よりも少ない設定値が利用される場合がある。具体的には、図１４２（ｂ）の説明図に示す第２形態のパチンコ機１０では「設定１」、「設定３」及び「設定６」の３段階の設定値が設定されており、図１４２（ｃ）の説明図に示す第３形態のパチンコ機１０では「設定１」、「設定２」、「設定３」及び「設定４」の４段階の設定値が設定されており、図１４２（ｄ）の説明図に示す第４形態のパチンコ機１０では「設定１」の１段階の設定値のみが設定されている。この場合に、第２～第４形態のいずれのパチンコ機１０であっても第１形態のパチンコ機１０と同様に、６段階の設定値の設定を可能とする第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆを有する設定対応記憶エリア３２５が利用される。

【１７１４】

第２形態のパチンコ機１０において設定対応記憶エリア３２５が利用される場合について詳細には、図１４２（ｂ）の説明図に示すように、第１設定情報記憶エリア３２５ａ及び第４設定情報記憶エリア３２５ｄには「設定１」に対応する各種情報が記憶されている。つまり、第１設定情報記憶エリア３２５ａ及び第４設定情報記憶エリア３２５ｄには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」に対応する第１低確当否テーブルＬＴ（１）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」に対応する第１高確当否テーブルＨＴ（１）が記憶されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアに「１」を表示するための表示データが記憶されている。

【１７１５】

第２設定情報記憶エリア３２５ｂ及び第５設定情報記憶エリア３２５ｅには「設定３」に対応する各種情報が記憶されている。つまり、第２設定情報記憶エリア３２５ｂ及び第５設定情報記憶エリア３２５ｅには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定３」に対応する第３低確当否テーブルＬＴ（３）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定３」に対応する第３高確当否テーブルＨＴ（３）が記憶されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアに「３」を表示するための表示データが記憶されている。

【１７１６】

第３設定情報記憶エリア３２５ｃ及び第６設定情報記憶エリア３２５ｆには「設定６」に対応する各種情報が記憶されている。つまり、第３設定情報記憶エリア３２５ｃ及び第６設定情報記憶エリア３２５ｆには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定６」に対応する第６低確当否テーブルＬＴ（６）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定６」に対応する第６高確当否テーブルＨＴ（６）が記憶されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアに「６」を表示するための表示データが記憶されている。

【１７１７】

上記第２形態の構成の場合、第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆを有する設定対応記憶エリア３２５が利用される構成であっても、これら第１～６設定情報記憶

エリア３２５ａ～３２５ｆの数である６個よりも少ない段階数の設定値が設定されている。そして、低確率モードにおいて大当たり結果となる確率は大きい設定値ほど高くなり、高確率モードにおいて大当たり結果となる確率も大きい設定値ほど高くなる。なお、「設定１」における高確率モードの大当たり確率は、「設定６」における低確率モードの大当たり確率よりも高い確率である。

【１７１８】

上記第２形態の構成の場合、当否テーブルの読み出し処理（図１４３）では、設定値カウンタの値が「１」の場合及び「４」の場合のいずれであっても「設定１」に対応する当否テーブルが読み出され、設定値カウンタの値が「２」の場合及び「５」の場合のいずれであっても「設定３」に対応する当否テーブルが読み出され、設定値カウンタの値が「３」の場合及び「６」の場合のいずれであっても「設定６」に対応する当否テーブルが読み出される。

【１７１９】

当否テーブルの読み出し処理（図１４３）では、設定値の段階数がいずれであったとしても設定値カウンタの値に対応する設定情報記憶エリア３２５から当否テーブルを読み出す構成である。これにより、３段階の設定値が設定されている場合であっても、当否テーブルの読み出し処理（図１４３）の処理構成を６段階の設定値が設定されている場合と同一の処理構成とすることが可能となる。

【１７２０】

上記第２形態の構成の場合、６段階の設定値を設定可能である設定対応記憶エリア３２５が利用される場合において３段階の設定値が設定されているため、設定対応記憶エリア３２５において設定可能な設定値の段階数を、使用対象となる設定値の段階数で割り切ることが可能である。つまり、使用対象となる設定値の段階数は、設定対応記憶エリア３２５において設定可能な設定値の最大の段階数の約数であって、当該最大の段階数とは異なる数となっている。この場合に、使用対象となる設定値のそれぞれに対して同一数の設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆが割り当てられているとともに、３段階の設定値が昇順で１個ずつ配列された態様を１グループとした場合にそのグループが繰り返されるように第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆに対する設定値の割り当てが行われている。これにより、設定値更新処理（図１１６）において設定値カウンタの値が「１」である状況からリセットボタン６８ｃが繰り返し操作された場合には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて表示される設定値は、「１」→「３」→「６」→「１」→「３」→「６」→「１」→・・・の順で変更されることとなる。つまり、リセットボタン６８ｃの１回の操作に対して異なる設定値の表示に変更されるとともに、設定可能な設定値が１回ずつ表示される場合を１表示周回とした場合に一定の態様の表示周回が繰り返されることとなる。よって、設定値の更新操作を行い易くなる。

【１７２１】

設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（図１４４）では、設定値の段階数がいずれであったとしても設定値カウンタの値に対応する設定情報記憶エリア３２５から設定値の表示データを読み出す構成である。これにより、３段階の設定値が設定されている場合であっても、当該設定処理（図１４４）の処理構成を６段階の設定値が設定されている場合と同一の処理構成とすることが可能となる。

【１７２２】

なお、第２形態のパチンコ機１０において第１設定情報記憶エリア３２５ａ及び第２設定情報記憶エリア３２５ｂに「設定１」に対応する各種情報が記憶されており、第３設定情報記憶エリア３２５ｃ及び第４設定情報記憶エリア３２５ｄに「設定３」に対応する各種情報が記憶されており、第５設定情報記憶エリア３２５ｅ及び第６設定情報記憶エリア３２５ｆに「設定６」に対応する各種情報が記憶されている構成としてもよい。つまり、使用対象となる設定値のそれぞれに対して同一数の設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆが割り当てられているとともに、同一の設定値が設定値カウンタの値との関係で連続する設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆに設定されている構成としてもよい。この場合

、設定値更新処理（図１１６）において設定値カウンタの値が「１」である状況からリセットボタン６８ｃが繰り返し操作された場合には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて表示される設定値は、「１」→「１」→「３」→「３」→「６」→「６」→「１」→・・・の順で変更されることとなる。

【１７２３】

第３形態のパチンコ機１０において設定対応記憶エリア３２５が利用される場合について詳細には、図１４２（ｃ）の説明図に示すように、第１設定情報記憶エリア３２５ａ及び第２設定情報記憶エリア３２５ｂには「設定１」に対応する各種情報が記憶されている。つまり、第１設定情報記憶エリア３２５ａ及び第２設定情報記憶エリア３２５ｂには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」に対応する第１低確当否テーブルＬＴ（１）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」～「設定６」で共通となる共通高確当否テーブルＨＴが記憶されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアに「１」を表示するための表示データが記憶されている。

【１７２４】

第３設定情報記憶エリア３２５ｃ及び第４設定情報記憶エリア３２５ｄには「設定２」に対応する各種情報が記憶されている。つまり、第３設定情報記憶エリア３２５ｃ及び第４設定情報記憶エリア３２５ｄには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定２」に対応する第２低確当否テーブルＬＴ（２）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」～「設定６」で共通となる共通高確当否テーブルＨＴが記憶されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアに「２」を表示するための表示データが記憶されている。

【１７２５】

第５設定情報記憶エリア３２５ｅには「設定３」に対応する各種情報が記憶されている。つまり、第５設定情報記憶エリア３２５ｅには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定３」に対応する第３低確当否テーブルＬＴ（３）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」～「設定６」で共通となる共通高確当否テーブルＨＴが記憶されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアに「３」を表示するための表示データが記憶されている。

【１７２６】

第６設定情報記憶エリア３２５ｆには「設定４」に対応する各種情報が記憶されている。つまり、第６設定情報記憶エリア３２５ｆには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定４」に対応する第４低確当否テーブルＬＴ（４）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」～「設定６」で共通となる共通高確当否テーブルＨＴが記憶されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアに「４」を表示するための表示データが記憶されている。

【１７２７】

上記第３形態の構成の場合、第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆを有する設定対応記憶エリア３２５が利用される構成であっても、これら第１～６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆの数である６個よりも少ない段階数の設定値が設定されている。そして、低確率モードにおいて大当たり結果となる確率は大きい設定値ほど高くなり、高確率モードにおいて大当たり結果となる確率はいずれの設定値であっても同一となる。なお、高確率モードにおいて大当たり結果となる確率は１／３０であるため、「設定１」であっても高確率モードにおいて大当たり結果となる確率は「設定４」における低確率モードの大当たり確率よりも高い確率となる。

【１７２８】

上記第３形態の構成の場合、当否テーブルの読み出し処理（図１４３）では、設定値カウンタの値が「１」の場合及び「２」の場合のいずれであっても「設定１」に対応する当否テーブルが読み出され、設定値カウンタの値が「３」の場合及び「４」の場合のいずれであっても「設定２」に対応する当否テーブルが読み出され、設定値カウンタの値が「５

」の場合には「設定３」に対応する当否テーブルが読み出され、設定値カウンタの値が「６」の場合には「設定４」に対応する当否テーブルが読み出される。

【１７２９】

当否テーブルの読み出し処理（図１４３）では、設定値の段階数がいずれであったとしても設定値カウンタの値に対応する設定情報記憶エリア３２５から当否テーブルを読み出す構成である。これにより、４段階の設定値が設定されている場合であっても、当否テーブルの読み出し処理（図１４３）の処理構成を６段階の設定値が設定されている場合と同一の処理構成とすることが可能となる。

【１７３０】

上記第３形態の構成の場合、６段階の設定値を設定可能である設定対応記憶エリア３２５が利用される場合において４段階の設定値が設定されているため、設定対応記憶エリア３２５において設定可能な設定値の段階数を、使用対象となる設定値の段階数で割り切ることができない。この場合に、「設定１」及び「設定２」のそれぞれについては設定値カウンタの値との関係で連続する２個の設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｄが割り当てられているとともに、「設定３」及び「設定４」のそれぞれについては１個の設定情報記憶エリア３２５ｅ，３２５ｆが割り当てられている。これにより、設定値更新処理（図１１６）において設定値カウンタの値が「１」である状況からリセットボタン６８ｃが繰り返し操作された場合には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて表示される設定値は、「１」→「１」→「２」→「２」→「３」→「４」→「１」→・・・の順で変更されることとなる。

【１７３１】

設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（図１４４）では、設定値の段階数がいずれであったとしても設定値カウンタの値に対応する設定情報記憶エリア３２５から設定値の表示データを読み出す構成である。これにより、４段階の設定値が設定されている場合であっても、当該設定処理（図１４４）の処理構成を６段階の設定値が設定されている場合と同一の処理構成とすることが可能となる。

【１７３２】

なお、設定値更新処理（図１１６）においてリセットボタン６８ｃの１回の操作に対して、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における設定値の表示が変更されるようにする上では、設定値カウンタの値との関係で連続する設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆに同一の設定値に対応する各種情報が設定されてないようにすることが好ましい。例えば、第１設定情報記憶エリア３２５ａに「設定１」に対応する各種情報を設定し、第２設定情報記憶エリア３２５ｂに「設定２」に対応する各種情報を設定し、第３設定情報記憶エリア３２５ｃに「設定３」に対応する各種情報を設定し、第４設定情報記憶エリア３２５ｄに「設定４」に対応する各種情報を設定し、第５設定情報記憶エリア３２５ｅに「設定１」に対応する各種情報を設定し、第６設定情報記憶エリア３２５ｆに「設定２」に対応する各種情報を設定する構成が考えられる。この場合、設定値更新処理（図１１６）において設定値カウンタの値が「１」である状況からリセットボタン６８ｃが繰り返し操作された場合には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて表示される設定値は、「１」→「２」→「３」→「４」→「１」→「２」→「１」→・・・の順で変更されることとなる。

【１７３３】

第４形態のパチンコ機１０において設定対応記憶エリア３２５が利用される場合について詳細には、図１４２（ｄ）の説明図に示すように、第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆの全てに「設定１」に対応する各種情報が記憶されている。つまり、第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆには、低確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」に対応する第１低確当否テーブルＬＴ（１）が記憶されており、高確率モードの当否テーブルを記憶するための記憶エリアに「設定１」～「設定６」で共通となる共通高確当否テーブルＨＴが記憶されており、設定値の表示データを記憶するための記憶エリアに「１」を表示するための表示データが記憶されている。

【１７３４】
上記第４形態の構成の場合、第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆを有する設定対応記憶エリア３２５が利用される構成であっても、１種類の設定値のみが設定されている。このように１種類の設定値のみが設定されている構成であっても、当否テーブルの読み出し処理（図１４３）では設定値カウンタの値に対応する設定情報記憶エリア３２５から当否テーブルを読み出す構成である。これにより、１種類の設定値のみが設定されている場合であっても、当否テーブルの読み出し処理（図１４３）の処理構成を６段階の設定値が設定されている場合と同一の処理構成とすることが可能となる。
【１７３５】
上記第４形態の構成の場合、設定値を設定する必要がないため基本的には設定値更新処理（図１１６）を実行する必要がないが、設定値の異常が発生した場合には設定値更新処理（図１１６）が実行され得る。この場合、第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆの全てに対して「設定１」が割り当てられている。したがって、設定値更新処理（図１１６）において設定値カウンタの値が「１」である状況からリセットボタン６８ｃが繰り返し操作された場合には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて表示される設定値は、「１」→「１」→「１」→「１」→「１」→「１」→「１」→・・・というように「１」の表示が継続されることとなる。
【１７３６】
設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（図１４４）では、設定値の段階数がいずれであったとしても設定値カウンタの値に対応する設定情報記憶エリア３２５から設定値の表示データを読み出す構成である。これにより、１種類の設定値のみが設定されている場合であっても、当該設定処理（図１４４）の処理構成を６段階の設定値が設定されている場合と同一の処理構成とすることが可能となる。
【１７３７】
以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。
【１７３８】
遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、第２形態～第４形態のパチンコ機１０では、設定値に対応する当否テーブルを記憶するための設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆが第１所定数（具体的には６個）設けられている構成において使用対象となる設定値の種類数は第１所定数よりも少ない数となっている。これにより、使用対象となる設定値の種類数が第１所定数である第１形態のパチンコ機１０と設定対応記憶エリア３２５に関する構成を共通化させることが可能となり、設定値の種類数を変更する場合におけるパチンコ機１０の設計作業を簡易的に行うことが可能となる。
【１７３９】
設定値更新処理（ステップＳ７９１８）ではリセットボタン６８ｃが操作される度に特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定値カウンタの数値情報が変更されることで使用対象となる設定値が変更され、その変更された数値情報に対応する設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆの当否テーブルが当否判定処理にて利用されることで使用対象の設定値に対応する態様で当否判定処理が実行されることとなる。この場合に、設定され得る設定値の各当否テーブルは少なくとも１個の設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆに記憶されている構成であって、第１所定数の一部であって複数の設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆには同一の当否テーブルが記憶されている構成であることにより、第１所定数の設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆの全てに当否テーブルが記憶されている。これにより、第１所定数の設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆをそのまま利用するとともに設定値カウンタを利用して使用対象となる設定値を決定する構成をそのまま利用しながら、使用対象となる設定値の種類数を第１所定数よりも少ない数とすることが可能となる。
【１７４０】

設定値カウンタの数値情報に対応する設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆから当否テーブルを読み出し、その読み出した当否テーブルを利用して当否判定処理を実行する構成である。これにより、使用対象となる設定値の種類数が第１所定数よりも少ない数である構成であったとしても、当否判定処理の実行に際して当否テーブルを読み出す構成をそのまま利用することが可能となる。

【１７４１】

設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行される状況においては、設定値カウンタの数値情報に対応する設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆから設定値の表示データを読み出し、その読み出した設定値の表示データに対応する表示を第４報知用表示装置２０４にて行わせる構成である。これにより、使用対象となる設定値の種類数が第１所定数よりも少ない数である構成であったとしても、設定値に対応する表示の実行に際して設定値の表示データを読み出す構成をそのまま利用することが可能となる。

【１７４２】

使用対象となる設定値の段階数は、設定対応記憶エリア３２５において設定可能な設定値の最大の段階数の約数であって、当該最大の段階数とは異なる数となっている。この場合に、使用対象となる設定値のそれぞれに対して同一数の設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆが割り当てられているとともに、３段階の設定値が昇順で１個ずつ配列された態様を１グループとした場合にそのグループが繰り返されるように第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆに対する設定値の割り当てが行われている。これにより、設定値更新処理（図１１６）において設定値カウンタの値が「１」である状況からリセットボタン６８ｃが繰り返し操作された場合には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて表示される設定値は、「１」→「３」→「６」→「１」→「３」→「６」→「１」→・・・の順で変更されることとなる。つまり、リセットボタン６８ｃの１回の操作に対して異なる設定値の表示に変更されるとともに、設定可能な設定値が１回ずつ表示される場合を１表示周回とした場合に一定の態様の表示周回が繰り返されることとなる。よって、設定値の更新操作を行い易くなる。

【１７４３】

なお、高確率モードの当否テーブルが設定値に応じて変化しない構成においては、高確率モードの当否テーブルが、設定対応記憶エリア３２５の第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆに記憶されているのではなく、主側ＲＯＭ６４における設定対応記憶エリア３２５とは異なる記憶エリアに記憶されている構成としてもよい。

【１７４４】

また、使用対象となる設定値が１個のみである場合にはその設定値に対応する当否テーブルが１個の設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆのみに設定されるとともに残りの設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆには当否テーブルが設定されない構成としてもよい。また、使用対象となる設定値が複数段階ではあるもののその段階数が第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆの数よりも少ない場合には、それら各設定値に対応する当否テーブルはそれぞれ対応する１個の設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆのみに設定されるとともに残りの設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆには当否テーブルが設定されない構成としてもよい。当該構成においては当否テーブルが設定されていない設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆに対応する数値情報が設定値カウンタにおいて選択され得ない数値情報とすることで、当否テーブルが設定されていない設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆが、当否テーブルの読み出しや設定値の表示データの読み出しに際して選択されてしまわないようにすることが可能となる。

【１７４５】

＜第４０の実施形態＞

上記第３９の実施形態では６段階の設定値を設定することが可能な設定対応記憶エリア３２５を利用する構成としたが、本実施形態では３段階の設定値を設定することが可能な設定対応記憶エリア３２６を利用する。

【１７４６】

図１４５（ａ）～図１４５（ｃ）は主側ＲＯＭ６４に予め記憶されている設定対応記憶エリア３２６を説明するための説明図である。

【１７４７】

設定対応記憶エリア３２６には、第１設定情報記憶エリア３２６ａ、第２設定情報記憶エリア３２６ｂ及び第３設定情報記憶エリア３２６ｃが設けられている。図１４５（ａ）に示す第１形態のパチンコ機１０では第１設定情報記憶エリア３２６ａに「設定１」に対応する各種情報が設定されており、第２設定情報記憶エリア３２６ｂに「設定２」に対応する各種情報が設定されており、第３設定情報記憶エリア３２６ｃに「設定３」に対応する各種情報が設定されている。つまり、第１形態のパチンコ機１０では設定対応記憶エリア３２６において設定可能な最大数分の設定値が設定されている。

【１７４８】

図１４５（ｂ）に示す第２形態のパチンコ機１０では第１～第３設定情報記憶エリア３２６ａ～３２６ｃの全てに「設定１」に対応する各種情報が設定されている。つまり、第２形態のパチンコ機１０では３段階の設定値を設定可能な設定対応記憶エリア３２６を利用して、１種類の設定値のみが設定されている。

【１７４９】

図１４５（ｃ）に示す第３形態のパチンコ機１０では、第１設定情報記憶エリア３２６ａ及び第２設定情報記憶エリア３２６ｂに「設定１」に対応する各種情報が設定されており、第３設定情報記憶エリア３２６ｃに「設定３」に対応する各種情報が設定されている。つまり、第３形態のパチンコ機１０では３段階の設定値を設定可能な設定対応記憶エリア３２６を利用して、２段階の設定値が設定されている。

【１７５０】

上記構成によれば３段階の設定値を設定することが可能な設定対応記憶エリア３２６を、３段階の設定値よりも少ない段階数の設定値が使用対象となる第２形態及び第３形態のパチンコ機１０に対してそのまま流用することが可能となる。また、上記第３９の実施形態と同様に、当否テーブルの読み出し処理（図１４３）の処理構成及び設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（図１４４）の処理構成を、第１～第３形態のパチンコ機１０において共通して利用することが可能となる。

【１７５１】

＜第４１の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるメイン処理（図１１４）にて設定確認用処理（ステップＳ７９１４）又は設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されている場合に、パチンコ機１０の前面側から視認可能となる表示部にて所定の報知が実行される点で上記第３３の実施形態と相違している。以下、上記第３３の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３３の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【１７５２】

図１４６（ａ）は、パチンコ機１０の前面を生じさせる窓パネル５２を通じてパチンコ機１０前方から視認可能となる領域に設けられた各種表示部を説明するための説明図である。

【１７５３】

各種表示部として、特図表示部３７ａと、特図保留表示部３７ｂと、普図表示部３８ａと、普図保留表示部３８ｂとが設けられている。これらの機能は上記第１の実施形態と同一である。特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａは横並びとなるように設けられているが、これら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａに対して横並びとなるようにしてラウンド表示部３３０が設けられている。

【１７５４】

ラウンド表示部３３０は、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａと同様に、７個の表示用セグメント３３１～３３７を有している。７個の表示用セグメント３３１～３３７はいずれも同一形状及び同一サイズとなる棒状の発光領域となっており、「８」の字を生じ

させるように配列されている。７個の表示用セグメント３３１～３３７は個別に発光制御される。

【１７５５】

ラウンド表示部３３０では、大当たり結果となったことを契機とした開閉実行モードにて発生するラウンド遊技の回数が報知される。本実施形態では当否判定処理にて大当たり当選となった場合に選択され得る大当たり結果として、ラウンド遊技の実行回数が相対的に少ない開閉実行モードへの移行契機となる第１大当たり結果と、ラウンド遊技の実行回数が相対的に多い開閉実行モードへの移行契機となる第２大当たり結果とが存在している。具体的には、第１大当たり結果を契機とした開閉実行モードではラウンド遊技が２回実行され、第２大当たり結果を契機とした開閉実行モードではラウンド遊技が１６回実行される。

【１７５６】

なお、第１大当たり結果には、開閉実行モードの終了後に当否抽選モードが低確率モードとなるとともにサポートモードが低頻度サポートモードとなる大当たり結果と、開閉実行モードの終了後に当否抽選モードが高確率モードとなるとともにサポートモードが高頻度サポートモードとなる大当たり結果とが存在している。また、第２大当たり結果には、開閉実行モードの終了後に当否抽選モードが低確率モードとなるとともにサポートモードが低頻度サポートモードとなる大当たり結果と、開閉実行モードの終了後に当否抽選モードが高確率モードとなるとともにサポートモードが高頻度サポートモードとなる大当たり結果とが存在している。

【１７５７】

図１４６（ｂ）はラウンド表示部３３０の表示内容を説明するための説明図である。

【１７５８】

ラウンド表示部３３０は、いずれかの大当たり結果を契機とした開閉実行モードが開始される場合に、全ての表示用セグメント３３１～３３７が消灯状態となった非表示状態から、少なくとも一部の表示用セグメント３３１～３３７が発光状態となる表示状態となる。開閉実行モードが継続している状況においては当該開閉実行モードの開始時にラウンド表示部３３０に表示された表示内容が維持される。そして、開閉実行モードが終了する場合にラウンド表示部３３０が表示状態から非表示状態となる。

【１７５９】

２回のラウンド遊技が実行されることとなる開閉実行モードにおいては図１４６（ｂ）に示すように、ラウンド表示部３３０の第１～第４表示用セグメント３３１～３３４が消灯状態となり、第５～第７表示用セグメント３３５～３３７が点灯状態となる。１６回のラウンド遊技が実行されることとなる開閉実行モードにおいては図１４６（ｂ）に示すように、ラウンド表示部３３０の第１～第４表示用セグメント３３１～３３４が点灯状態となり、第５～第７表示用セグメント３３５～３３７が消灯状態となる。これにより、遊技ホールの管理者はパチンコ機１０にて開閉実行モードが実行されている場合にはラウンド表示部３３０を確認することで、その開閉実行モードがいずれの種類の開閉実行モードに対応しているのかを把握することが可能となる。

【１７６０】

主側ＣＰＵ６３におけるメイン処理（図１１４）にて設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されている場合にはラウンド表示部３３０にてそれに対応する表示が行われる。具体的には、設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されている場合には図１４６（ｂ）に示すように、ラウンド表示部３３０の第１表示用セグメント３３１、第３表示用セグメント３３３、第５表示用セグメント３３５及び第７表示用セグメント３３７が消灯状態となり、第２表示用セグメント３３２、第４表示用セグメント３３４及び第６表示用セグメント３３６が点灯状態となる。

【１７６１】

設定値更新処理（ステップＳ７９１８）に対応するラウンド表示部３３０における表示は、設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が開始された場合に開始され、設定値更新処

理（ステップＳ７９１８）が終了された場合に終了される。この表示内容は、開閉実行モードが実行される場合にラウンド表示部３３０に表示される表示内容とは異なっており、さらに後述する設定確認用処理（ステップＳ７９１４）が実行される場合にラウンド表示部３３０に表示される表示内容とも異なっている。これにより、遊技ホールの管理者はラウンド表示部３３０を確認することで設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されている状況であるか否かを容易に把握することが可能となる。また、このような把握を、ラウンド表示部３３０を利用して行うことが可能となる。

【１７６２】

主側ＣＰＵ６３におけるメイン処理（図１１４）にて設定確認用処理（ステップＳ７９１４）が実行されている場合にはラウンド表示部３３０にてそれに対応する表示が行われる。具体的には、設定確認用処理（ステップＳ７９１４）が実行されている場合には図１４６（ｂ）に示すように、ラウンド表示部３３０の第１表示用セグメント３３１、第３表示用セグメント３３３、第５表示用セグメント３３５及び第７表示用セグメント３３７が点灯状態となり、第２表示用セグメント３３２、第４表示用セグメント３３４及び第６表示用セグメント３３６が消灯状態となる。

【１７６３】

設定確認用処理（ステップＳ７９１４）に対応するラウンド表示部３３０における表示は、設定確認用処理（ステップＳ７９１４）が開始された場合に開始され、設定確認用処理（ステップＳ７９１４）が終了された場合に終了される。この表示内容は、開閉実行モードが実行される場合にラウンド表示部３３０に表示される表示内容とは異なっており、さらに設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行される場合にラウンド表示部３３０に表示される表示内容とも異なっている。これにより、遊技ホールの管理者はラウンド表示部３３０を確認することで設定確認用処理（ステップＳ７９１４）が実行されている状況であるか否かを容易に把握することが可能となる。また、このような把握を、ラウンド表示部３３０を利用して行うことが可能となる。

【１７６４】

メイン処理（図１１４）において設定確認用処理（ステップＳ７９１４）及び設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行される状況では、遊技を進行させるための処理は実行されない。したがって、開閉実行モードが実行されている状況において設定確認用処理（ステップＳ７９１４）及び設定値更新処理（ステップＳ７９１８）が実行されることはない。また、設定確認用処理（ステップＳ７９１４）及び設定値更新処理（ステップＳ７９１８）のうち一方が実行されている状況において他方が実行されることもない。したがって、ラウンド表示部３３０をそれぞれの表示を行うための表示部として兼用したとしても、各表示を行うべき状況が重複して発生してしまうことはない。

【１７６５】

なお、ラウンド表示部３３０の表示内容は上記の表示内容に限定されることはなく、それぞれの状況であることをラウンド表示部３３０の表示内容から区別することが可能であれば任意であり、例えば設定確認用処理（ステップＳ７９１４）に対応する表示及び設定値更新処理（ステップＳ７９１８）のうち一方は第１～第７表示用セグメント３３１～３３７の全てが点灯状態となる構成としてもよい。また、設定確認用処理（ステップＳ７９１４）に対応する表示及び設定値更新処理（ステップＳ７９１８）のうち一方は第１～第７表示用セグメント３３１～３３７の全てが点灯状態となるとともにその状態が維持され、他方は第１～第７表示用セグメント３３１～３３７の全てが点滅状態となる構成としてもよい。

【１７６６】

また、ラウンド表示部３３０にて設定確認用処理に対応する表示及び設定値更新処理に対応する表示が行われる構成に代えて、特図表示部３７ａにてこれら表示が行われる構成としてもよく、普図表示部３８ａにてこれら表示が行われる構成としてもよい。また、特図表示部３７ａ、普図表示部３８ａ及びラウンド表示部３３０のいずれか１個の表示部にて設定確認用処理に対応する表示が行われ、他の１個の表示部にて設定値更新処理に対応

する表示が行われる構成としてもよい。
【１７６７】
　また、第１作動口３３への遊技球の入球に基づき取得された保留情報と第２作動口３４への遊技球の入球に基づき取得された保留情報とが区別して記憶されるとともに、特図表示部３７ａとして、第１作動口３３に対応する保留情報を契機とした遊技回が実行される第１特図表示部と、第２作動口３４に対応する保留情報を契機とした遊技回が実行される第２特図表示部とが設けられた構成においては、第１特図表示部にて設定確認用処理に対応する表示及び設定値更新処理に対応する表示が行われる構成としてもよく、第２特図表示部にて設定確認用処理に対応する表示及び設定値更新処理に対応する表示が行われる構成としてもよく、第１特図表示部にて設定確認用処理に対応する表示が行われるとともに第２特図表示部にて設定値更新処理に対応する表示が行われる構成としてもよい。
【１７６８】
　また、設定確認用処理が実行されている状況であることを表示するための専用の表示部が設けられている構成としてもよく、設定値更新処理が実行されている状況であることを表示するための専用の表示部が設けられている構成としてもよく、設定確認用処理が実行されている状況であること又は設定値更新処理が実行されている状況であることを表示するための専用の表示部が設けられている構成としてもよい。この場合、当該専用の表示部が主側ＣＰＵ６３により表示制御される構成としてもよく、音声発光制御装置８１又は表示制御装置８２により表示制御される構成としてもよい。
【１７６９】
　＜第４２の実施形態＞
　本実施形態ではメイン処理及び第１タイマ割込み処理の処理構成が上記第３３の実施形態と相違している。以下、上記第３３の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３３の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【１７７０】
　図１４７は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳ９９０１～ステップＳ９９２３の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【１７７１】
　まず電源投入初期設定処理を実行する（ステップＳ９９０１）。電源投入初期設定処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。このウエイト用の所定期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。また、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する。
【１７７２】
　その後、内部機能レジスタ設定処理を実行する（ステップＳ９９０２）。内部機能レジスタ設定処理では、上記第３３の実施形態におけるメイン処理（図１１４）のステップＳ７９０２と同様に、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第１タイマ割込み処理（図１４８）の割込み周期を第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）に設定するとともに、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第２タイマ割込み処理（図１２３）の割込み周期を上記第１割込み周期よりも短い周期である第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）に設定する。
【１７７３】
　その後、第２タイマ割込み処理（図１２３）について割込み許可の設定を行う（ステップＳ９９０３）。これにより、第２タイマ割込み処理（図１２３）が第２割込み周期で割り込んで起動される。一方、第１タイマ割込み処理（図１４８）については割込み許可の設定が行われない。これにより、第１タイマ割込み処理（図１４８）は依然として割込みが禁止された状態に維持される。
【１７７４】

その後、ステップＳ９９０４～ステップＳ９９１７の処理を実行する。これらステップＳ９９０４～ステップＳ９９１７の処理内容は上記第３３の実施形態におけるメイン処理（図１１４）のステップＳ７９０５～ステップＳ７９１８と同一である。

【１７７５】

ステップＳ９９０４～ステップＳ９９１７の処理を終了した後は、第１タイマ割込み処理（図１４８）について割込み許可の設定を行う（ステップＳ９９１８）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１４８）が第１割込み周期で割り込んで起動される。つまり、第１タイマ割込み処理（図１１７）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１２３）が第２割込み周期で割り込んで起動される。その後、ステップＳ９９１９～ステップＳ９９２３では上記第３３の実施形態におけるメイン処理（図１１４）のステップＳ７９２０～ステップＳ７９２４と同一の処理を実行する。

【１７７６】

図１４８は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。なお、第１タイマ割込み処理は既に説明したとおり第１割込み周期である４ミリ秒周期で定期的に起動される。また、第１タイマ割込み処理に対応するプログラムは特定制御用のプログラムに設定されている。

【１７７７】

まず第１タイマ割込み処理（図１４８）及び第２タイマ割込み処理（図１２３）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う（ステップＳＡ１０１）。第１タイマ割込み処理（図１４８）の発生が禁止されることにより、第１タイマ割込み処理（図１４８）の発生が禁止されることにより、第１タイマ割込み処理（図１４８）の実行途中において仮に第１割込み周期が経過してしまったとしても第１タイマ割込み処理（図１４８）が重複して起動されてしまわないようにすることが可能となる。また、第２タイマ割込み処理（図１２３）の発生が禁止されることにより、第２割込み周期が経過したとしても第１タイマ割込み処理（図１４８）に対して第２タイマ割込み処理（図１２３）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【１７７８】

その後、ステップＳＡ１０２～ステップＳＡ１２１では上記第３３の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１１７）のステップＳ８２０２～ステップＳ８２２１と同一の処理を実行する。ステップＳＡ１０７にて肯定判定をした場合、又はステップＳＡ１２１の処理を実行した場合、第１タイマ割込み処理（図１４８）及び第２タイマ割込み処理（図１２３）の発生を許可するために割込み許可の設定を行う（ステップＳＡ１２２）。

【１７７９】

上記構成によればメイン処理（図１４７）において動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況においては第２タイマ割込み処理（図１２３）の割込みは許可される一方、第１タイマ割込み処理（図１４８）の割込みは許可されない。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても第２タイマ割込み処理（図１２３）による第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御の実行は可能とする一方、第１タイマ割込み処理（図１４８）による遊技の進行を制御するための処理は実行されないようにすることが可能となる。

【１７８０】

また、第１タイマ割込み処理（図１４８）は第２タイマ割込み処理（図１２３）に対して割り込んで起動されないとともに、第２タイマ割込み処理（図１２３）は第１タイマ割込み処理（図１４８）に対して割り込んで起動されない。これにより、タイマ割込み処理が重複して起動されないようにすることが可能となる。

【１７８１】

＜第４３の実施形態＞

本実施形態では第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値を表示するための構成が上記第３５の実施形態と相違している。以下、上記第３５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３５の実施形態と同一の構成については基本的

にその説明を省略する。
【１７８２】
本実施形態であっても上記第３５の実施形態と同様に、非特定制御用のワークエリア２２３には通常用カウンタエリア２３１が設けられている。通常用カウンタエリア２３１には上記第１５の実施形態と同様に通常用の一般入賞カウンタ２３１ａ、通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂ、通常用の第１作動カウンタ２３１ｃ、通常用の第２作動カウンタ２３１ｄ及び通常用のアウトカウンタ２３１ｅが設けられている。大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において、一般入賞口３１に１個の遊技球が入球した場合には通常用の一般入賞カウンタ２３１ａの値が１加算され、特電入賞装置３２に１個の遊技球が入球した場合には通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂの値が１加算され、第１作動口３３に１個の遊技球が入球した場合には通常用の第１作動カウンタ２３１ｃの値が１加算され、第２作動口３４に１個の遊技球が入球した場合には通常用の第２作動カウンタ２３１ｄの値が１加算され、アウト口２４ａに１個の遊技球が入球した場合には通常用のアウトカウンタ２３１ｅの値が１加算される。そして、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値をＫ９１～Ｋ９５とした場合にベース値は以下のものとなる。
・ベース値：遊技球の合計払出個数（Ｋ９１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ９１＋Ｋ９２＋Ｋ９３＋Ｋ９４＋Ｋ９５）の割合。
【１７８３】
非特定制御用のワークエリア２２３には通常用カウンタエリア２３１以外にも演算結果記憶エリア２３４が設けられている。演算結果記憶エリア２３４には上記第３５の実施形態と同様に、ベース値の情報を格納するための記憶エリアとして、現状エリア３１１と、第１履歴エリア３１２と、第２履歴エリア３１３と、第３履歴エリア３１４とが設けられている（図１２６参照）。現状エリア３１１には結果演算処理（図１４９）にて算出された直近のベース値が格納される。第１履歴エリア３１２には１回前の算出期間における最終的なベース値が格納される。第２履歴エリア３１３には２回前の算出期間における最終的なベース値が格納される。第３履歴エリア３１４には３回前の算出期間における最終的なベース値が格納される。
【１７８４】
図１４９は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における結果演算処理を示すフローチャートである。なお、第１タイマ割込み処理（図１３３）における管理用処理（ステップＳ８９２０）では上記第１５の実施形態における管理用処理（図７０）と同様にステップＳ３８０３にて非特定制御に対応する処理である管理実行処理のプログラムを読み出す。そして、この管理実行処理（図７１）では上記第１５の実施形態と同様にステップＳ３９０８にてチェック処理を実行する。このチェック処理において結果演算処理を実行するとともに後述する表示用処理（図１５０）を実行する。また、結果演算処理におけるステップＳＡ２０１～ステップＳＡ２１７の処理は、主側ＣＰＵ６３における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。
【１７８５】
まずベース値の演算処理を実行する（ステップＳＡ２０１）。当該演算処理では、上記第３５の実施形態と同様に通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値を利用してベース値を算出する。ここで、本実施形態ではベース値の演算が結果演算処理の１回の処理回で完了するのではなく、結果演算処理の処理回が所定の複数回実行されることにより完了する。
【１７８６】
具体的には、新たにベース値の演算が開始されることとなる結果演算処理の所定の処理

回ではステップＳＡ２０１にて、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値をＫ９１～Ｋ９５とした場合に、Ｋ９１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」と、Ｋ９２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」と、Ｋ９３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」と、Ｋ９４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」と、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ９１＋Ｋ９２＋Ｋ９３＋Ｋ９４＋Ｋ９５）と、を演算して、それら各演算結果を非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた演算中記憶エリアに記憶させる。その後、上記所定の処理回に対して１回後の処理回の結果演算処理のステップＳＡ２０１において、上記演算中記憶エリアに記憶された各種情報を利用して、遊技球の合計払出個数（Ｋ９１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）を演算して、その演算結果を上記演算中記憶エリアに記憶させる。その後、上記所定の処理回に対して２回後の処理回の結果演算処理のステップＳＡ２０１において、上記演算中記憶エリアに記憶された各種情報を利用して、上記ベース値を演算する。

【１７８７】

つまり、本実施形態では一のベース値を算出するために結果演算処理を３回実行する必要がある。この場合に、結果演算処理は第１タイマ割込み処理（図１３３）にて呼び出されて実行されるため、第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）が経過する度に実行されることとなる。したがって、一のベース値は約１２ミリ秒周期で算出されることとなる。但し、これに限定されることはなく一のベース値が算出される周期は１２ミリ秒周期よりも短い周期としてもよく、１２ミリ秒周期よりも長い周期としてもよい。

【１７８８】

上記のように結果演算処理の処理回を複数回実行することで一のベース値を算出する構成とすることにより、ベース値を算出するための処理負荷を軽減することが可能となる。特に、結果演算処理は非特定制御に対応する処理として実行されるため、結果演算処理を実行するためには非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを読み出す処理だけではなく、特定制御に対応する処理において利用された主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報を退避させる必要がある。この場合に、ベース値を算出するための処理負荷を軽減することで、結果演算処理の処理負荷を軽減することが可能となり、結果的に非特定制御に対応する処理を実行するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【１７８９】

一のベース値を算出するために結果演算処理の処理回が複数回実行される構成であっても、結果演算処理の各処理回におけるベース値の算出途中の各情報は非特定制御用のワークエリア２２３に書き込まれる。これにより、結果演算処理の一の処理回と次の処理回との間で特定制御に対応する処理が実行されることに伴って、非特定制御に対応する処理において利用された主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報が消去されるとしても、ベース値の算出途中の各情報を記憶保持することが可能となる。

【１７９０】

一のベース値を算出するために結果演算処理の処理回が複数回実行される構成であっても、新たなベース値を算出するための結果演算処理の最初の処理回において通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値が全て抽出され、その抽出された値を利用してその算出回のベース値が算出される。これにより、一のベース値を算出している途中で通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値が変更されたとしても、その値の変更の影響を受けないようにしながら一のベース値を算出することが可能となる。

【１７９１】

ステップＳＡ２０１にてベース値の演算処理を実行した後は、今回の処理回の結果演算処理にて一のベース値の算出が完了したか否かを判定する（ステップＳＡ２０２）。一のベース値の算出が完了していない場合（ステップＳＡ２０２：ＮＯ）、ステップＳＡ２０

３～ＳＡ２０５の処理を実行しないことにより演算結果記憶エリア２３４の現状エリア３１１へのベース値の上書きを実行しない。

【１７９２】

一のベース値の算出が完了している場合（ステップＳＡ２０２：ＹＥＳ）、その算出が完了したベース値を現状エリア３１１に上書きする（ステップＳＡ２０３）。その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられたシフト契機フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＡ２０４）。本実施形態では、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６００００個）となった後に新たなベース値の算出が完了した場合に、演算結果記憶エリア２３４におけるデータシフト処理（ステップＳＡ２１６）が実行される。このデータシフト処理では、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に記憶された情報を、第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４、第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２の順序でシフトした後に、現状エリア３１１を「０」クリアする。シフト契機フラグは、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した後であってデータシフト処理を実行する前の状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【１７９３】

シフト契機フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＡ２０４：ＹＥＳ）、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられたシフト時の演算完了フラグに「１」をセットする（ステップＳＡ２０５）。シフト時の演算完了フラグは、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した後において一のベース値の算出が完了したことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【１７９４】

ステップＳＡ２０２にて否定判定をした場合、ステップＳＡ２０４にて否定判定をした場合、又はステップＳＡ２０５の処理を実行した場合、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＡ２０６）。管理開始フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＡ２０６：ＮＯ）、管理開始前用処理を実行する（ステップＳＡ２０７）。管理開始前用処理では、上記第３５の実施形態における結果演算処理（図１３０）のステップＳ８６０４～ステップＳ８６０８の処理を実行する。

【１７９５】

管理開始フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＡ２０６：ＹＥＳ）、非特定制御用のワークエリア２２３におけるシフト契機フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＡ２０８）。シフト契機フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＡ２０８：ＮＯ）、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値を全て合計することで合計個数を算出する（ステップＳＡ２０９）。そして、その算出した合計個数がシフト基準個数である６００００個以上であるか否かを判定する（ステップＳＡ２１０）。

【１７９６】

ステップＳＡ２１０にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３におけるシフト契機フラグに「１」をセットする（ステップＳＡ２１１）。また、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられたシフト前表示フラグに「１」をセットする（ステップＳＡ２１２）。シフト前表示フラグは、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達したことに対応するシフト前表示を第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始すべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【１７９７】

シフト契機フラグに「１」がセットされておりステップＳＡ２０８にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３におけるシフト時の演算完了フラグに「１」が

セットされているか否かを判定する（ステップＳＡ２１３）。シフト時の演算完了フラグは、既に説明したとおり上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した後において一のベース値の算出が完了した場合に「１」がセットされる。ステップＳＡ２１３にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３におけるシフト契機フラグを「０」クリアする（ステップＳＡ２１４）。また、非特定制御用のワークエリア２２３におけるシフト時の演算完了フラグを「０」クリアする（ステップＳＡ２１５）。

【１７９８】

その後、データシフト処理を実行する（ステップＳＡ２１６）。データシフト処理では、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に記憶された情報を、第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４、第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２の順序でシフトした後に、現状エリア３１１を「０」クリアする。これにより、２回前の算出期間における最終的なベース値が３回前の算出期間における最終的なベース値として第３履歴エリア３１４に記憶され、１回前の算出期間における最終的なベース値が２回前の算出期間における最終的なベース値として第２履歴エリア３１３に記憶され、現状の算出期間において上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した後に算出されたベース値が１回前の算出期間における最終的なベース値として第１履歴エリア３１２に記憶される。また、現状エリア３１１はベース値が何ら記憶されていない状態となる。なお、データシフト処理では上記のような情報のシフトを行う場合、ＬＤＩＲ命令を利用する。ＬＤＩＲ命令では、情報の記憶元のエリアのアドレスと情報の記憶先のエリアのアドレスとを指定することで、記憶元のエリアに記憶された情報が記憶先のエリアにシフト（コピー）されることとなる。その後、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅを全て「０」クリアする（ステップＳＡ２１７）。

【１７９９】

図１５０は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における表示用処理を示すフローチャートである。なお、表示用処理におけるステップＳＡ３０１～ステップＳＡ３２０の処理は、主側ＣＰＵ６３における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【１８００】

まず非特定制御用のワークエリア２２３における管理開始フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＡ３０１）。ステップＳＡ３０１にて否定判定をした場合、上記第３５の実施形態における表示用処理（図１３１）のステップＳ８７１４と同様に、現状エリア３１１からベース値を読み出し、その読み出したベース値における小数点第１位の数字及び小数点第２位の数字に対応する演算結果データを表示対象設定エリア２７６に設定する（ステップＳＡ３０２）。当該演算結果データに対応する表示データが表示ＩＣ２６６に送信されることにより、現状エリア３１１のベース値における小数点第１位の数字が第３報知用表示装置２０３にて表示され、現状エリア３１１のベース値における小数点第２位の数字が第４報知用表示装置２０４にて表示される。上記構成であることにより、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況においては過去の算出期間におけるベース値は報知されることなく、現状の算出期間において算出されているベース値のみが報知される。なお、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況においてベース値が報知される場合における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容は上記第３５の実施形態と同様である。

【１８０１】

ステップＳＡ３０１にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた切換タイミングカウンタの値を１減算する（ステップＳＡ３０３）。切換タイミングカウンタは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値に関する表示を行う状況において当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容を切り換えるタイミングを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。

【１８０２】

本実施形態では、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数に達していない状況においては、現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のそれぞれに記憶されたベース値の報知が表示継続期間（具体的には５秒）に亘って実行されるとともに、それらベース値の報知の間において報知対象となるベース値の切り換えが発生することを報知するためにインターバル用非表示がインターバル期間（具体的には１秒）に亘って実行される。インターバル用非表示として具体的に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント３２１～３２４が消灯状態となることで第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が非表示状態となる。現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４という予め定められた順序で報知対象となるベース値が切り換えられる前にインターバル用非表示が行われることにより、報知対象となるベース値が切り換えられることを遊技ホールの管理者に明確に認識させることが可能となる。

【１８０３】

上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した状況においては第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてそれに対応するシフト前表示が行われる。シフト前表示として具体的には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて「Ａ．」の表示が行われる。「Ａ．」の表示内容はベース値に対応する表示の表示継続期間及びインターバル用非表示となるインターバル期間のいずれにおいても第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて表示されない表示内容である。これにより、シフト前表示が行われる状況における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全体の表示内容を、ベース値に対応する表示の表示継続期間及びインターバル用非表示となるインターバル期間とは異なる表示内容とすることが可能となる。よって、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてシフト前表示が行われていることを遊技ホールの管理者が確認することで、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達したことでベース値のシフトが行われる状況であることを把握することが可能となる。

【１８０４】

シフト前表示の表示内容は、チェック用表示が行われている状況における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容、管理開始前フラグに「１」がセットされていない状況における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容、設定確認用処理（図１３６）が実行されている状況における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容、及び設定値更新処理（図１３７）が実行されている状況における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容とも異なっている。この点からも、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてシフト前表示が行われていることを遊技ホールの管理者が確認することで、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達したことでベース値のシフトが行われる状況であることを把握することが可能となる。

【１８０５】

シフト前表示の実行期間はインターバル用非表示が行われるインターバル期間（具体的には１秒）よりも長い期間に設定されている。また、シフト前表示の実行期間はベース値に対応する表示の表示継続期間（具体的には５秒）よりも長い期間に設定されている。具体的には、シフト前表示の実行期間は８秒に設定されている。なお、これに限定されることはなくシフト前表示の実行期間が、インターバル期間よりも長くベース値に対応する表示の表示継続期間以下である構成としてもよく、インターバル期間以下である構成としてもよい。但し、シフト前表示が行われていることを遊技ホールの管理者に明確に認識させるためには、シフト前表示の実行期間がインターバル期間よりも長い期間に設定されていることが好ましい。

【１８０６】

既に説明したとおり一のベース値の算出が完了するためには結果演算処理（図１４９）の処理回が複数回実行される必要があり、具体的には一のベース値が算出される周期は１

２ミリ秒周期となっている。また、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達することで演算結果記憶エリア２３４の各種エリア３１１～３１４間でベース値の情報がシフトされるデータシフト処理（ステップＳＡ２１６）は、シフト基準個数に達した後において一のベース値が新たに算出された後に実行される。この場合に、シフト前表示の実行期間は、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達したことを契機としてデータシフト処理（ステップＳＡ２１６）が完了するまでに要する最長の期間よりも長い期間に設定されている。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてシフト前表示が行われている状況において一のベース値の新たな算出及びベース値のデータシフト処理（ステップＳＡ２１６）を完了させることが可能となる。

【１８０７】

表示用処理（図１５０）の説明に戻り、ステップＳＡ３０３の処理を実行した場合、１減算後における切換タイミングカウンタの値が「０」となっているか否かを判定することで、ベース値の表示継続期間、インターバル用非表示が行われるインターバル期間及びシフト前表示の実行期間のうち現状の計測対象の期間が経過したか否かを判定する（ステップＳＡ３０４）。ステップＳＡ３０４にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３におけるシフト前表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定することで、シフト前表示を開始すべき状況であるか否かを判定する（ステップＳＡ３０５）。ステップＳＡ３０５にて否定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられたインターバルフラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＡ３０６）。インターバルフラグはインターバル用非表示を開始すべき状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【１８０８】

ステップＳＡ３０６にて否定判定をした場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて今回の切換タイミングを契機として報知を開始すべき対象がベース値であることを意味する。この場合、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた表示対象カウンタの値を１加算する（ステップＳＡ３０７）。そして、１加算後における表示対象カウンタの値が最大値である「３」を超えた場合（ステップＳＡ３０８：ＹＥＳ）、表示対象カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳＡ３０９）。

【１８０９】

表示対象カウンタは、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のそれぞれに記憶されたベース値のうち第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における報知対象となるベース値を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。具体的には表示対象カウンタの値が「０」である場合には現状エリア３１１に記憶されたベース値が報知対象となり、表示対象カウンタの値が「１」である場合には第１履歴エリア３１２に記憶されたベース値が報知対象となり、表示対象カウンタの値が「２」である場合には第２履歴エリア３１３に記憶されたベース値が報知対象となり、表示対象カウンタの値が「３」である場合には第３履歴エリア３１４に記憶されたベース値が報知対象となる。

【１８１０】

ステップＳＡ３０８にて否定判定をした場合、又はステップＳＡ３０９の処理を実行した場合、非特定制御用のワークエリア２２３の切換タイミングカウンタに次回の切換タイミングに対応する値として、ベース値を表示するための表示継続期間（具体的には５秒）に対応する値を設定する（ステップＳＡ３１０）。その後、非特定制御用のワークエリア２２３におけるインターバルフラグに「１」をセットする（ステップＳＡ３１１）。これにより、次回の切換タイミングとなるまでに非特定制御用のワークエリア２２３におけるシフト前表示フラグに「１」がセットされていない場合には、次回の切換タイミングとなった場合にはインターバル用非表示が行われることとなる。

【１８１１】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた表示対象設定エリア２７６に今回の報知対象となっているベース値に対応する表示データを設定するための処理を実行

する。具体的には、上記第３５の実施形態における表示用処理（図１３１）のステップＳ８７０８と同様に、表示対象カウンタの値に対応する表示種別データを表示対象設定エリア２７６に設定する（ステップＳＡ３１２）。表示種別データは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の報知対象がベース値であることを示す表示を第１報知用表示装置２０１に行わせるための表示データと、報知対象のベース値が演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のうちいずれに対応しているのかを示す表示を第２報知用表示装置２０２に行わせるための表示データとを含む。

【１８１２】

その後、上記第３５の実施形態における表示用処理（図１３１）のステップＳ８７０９と同様に、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のうち表示対象カウンタの値に対応するエリアからベース値を読み出し、その読み出したベース値における少数点第１位の数字及び少数点第２位の数字に対応する演算結果データを表示対象設定エリア２７６に設定する（ステップＳＡ３１３）。演算結果データは、報知対象のベース値における小数点第１位の数字に対応する表示を第３報知用表示装置２０３に行わせるための表示データと、報知対象のベース値における小数点第２位の数字に対応する表示を第４報知用表示装置２０４に行わせるための表示データとを含む。

【１８１３】

表示種別データ及び演算結果データからなる表示データが表示対象設定エリア２７６に設定されることにより、上記第３５の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図１３４）にて当該表示データが表示ＩＣ２６６に送信され、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて当該表示データに対応する表示が行われる。つまり、現状エリア３１１のベース値が報知対象となっている場合には一例として図１２７（ａ）に示すような表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われ、第１履歴エリア３１２のベース値が報知対象となっている場合には一例として図１２７（ｂ）に示すような表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われ、第２履歴エリア３１３のベース値が報知対象となっている場合には一例として図１２７（ｃ）に示すような表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われ、第３履歴エリア３１４のベース値が報知対象となっている場合には一例として図１２７（ｄ）に示すような表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。

【１８１４】

非特定制御用のワークエリア２２３におけるインターバルフラグに「１」がセットされていることでステップＳＡ３０６にて肯定判定をした場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて今回の切換タイミングを契機として報知を開始すべき対象がインターバル用非表示であることを意味する。この場合、インターバルの設定処理を実行する（ステップＳＡ３１４）。当該設定処理では、非特定制御用のワークエリア２２３の切換タイミングカウンタに次回の切換タイミングに対応する値として、インターバル期間（具体的には１秒）に対応する値を設定する。その後、非特定制御用のワークエリア２２３におけるインターバルフラグを「０」クリアする（ステップＳＡ３１５）。これにより、次回の切換タイミングとなるまでに非特定制御用のワークエリア２２３におけるシフト前表示フラグに「１」がセットされていない場合には、次回の切換タイミングとなった場合にはベース値の表示が行われることとなる。

【１８１５】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた表示対象設定エリア２７６にインターバルデータを設定する（ステップＳＡ３１６）。インターバルデータは第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にインターバル用非表示を行わせるためのデータであり、具体的には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント３２１～３２４を消灯状態とするためのデータである。表示データとしてインターバルデータが表示対象設定エリア２７６に設定されることにより、第２タイマ割込み

処理（図１３４）にて当該インターバルデータが表示ＩＣ２６６に送信され、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４はいずれも非表示状態となる。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が非表示状態となっていることを確認した遊技ホールの管理者は、インターバル期間であることを把握することが可能となる。

【１８１６】

非特定制御用のワークエリア２２３におけるシフト前表示フラグに「１」がセットされていることでステップＳＡ３０５にて肯定判定をした場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて今回の切換タイミングを契機として報知を開始すべき対象がシフト前表示であることを意味する。この場合、シフト前表示期間の設定処理を実行する（ステップＳＡ３１７）。当該設定処理では、非特定制御用のワークエリア２２３の切換タイミングカウンタに次回の切換タイミングに対応する値として、シフト前表示の実行期間（具体的には８秒）に対応する値を設定する。

【１８１７】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３におけるインターバルフラグを「０」クリアするとともに非特定制御用のワークエリア２２３におけるシフト前表示フラグを「０」クリアし（ステップＳＡ３１８）、さらに非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象カウンタに最大値である「３」をセットする（ステップＳＡ３１９）。インターバルフラグを「０」クリアすることでシフト前表示の実行期間が経過した場合には次の報知対象がベース値となる。そして、表示対象カウンタに最大値をセットすることで、ベース値を報知すべくステップＳＡ３０６にて否定判定をした場合にはステップＳＡ３０７にて表示対象カウンタの値を１加算した後における当該表示対象カウンタの値が最大値を超えることとなり、ステップＳＡ３０８にて肯定判定をして表示対象カウンタの値を「０」クリアする。これにより、シフト前表示の実行期間が経過した場合には次の報知対象がベース値となるとともに、そのベース値は演算結果記憶エリア２３４の現状エリア３１１のベース値となる。

【１８１８】

つまり、シフト前表示が行われた場合には、そのシフト前表示が行われる前における報知対象がベース値及びインターバル用非表示のいずれであたっとしてもベース値の報知から開始される。これにより、シフト前表示が終了した場合にはインターバル期間の経過を待たずにベース値の確認を行うことが可能となる。また、シフト前表示が行われる前において最後に報知対象となったベース値が演算結果記憶エリア２３４の現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のいずれであったとしても、シフト前表示が終了した場合には現状エリア３１１のベース値から報知が開始される。これにより、現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４におけるベース値の報知順序を最初の報知順序に戻すことが可能となり、ベース値のシフトが発生した直後であることを遊技ホールの管理者に認識させ易くすることが可能となる。

【１８１９】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた表示対象設定エリア２７６にシフト前表示データを設定する（ステップＳＡ３２０）。シフト前表示データは第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にシフト前表示を行わせるためのデータであり、具体的には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて「Ａ．」の表示を行わせるためのデータである。表示データとしてシフト前表示データが表示対象設定エリア２７６に設定されることにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）にて当該シフト前表示データが表示ＩＣ２６６に送信され、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて「Ａ．」が表示される。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてシフト前表示が行われていることを確認した遊技ホールの管理者は、シフト前表示の実行期間であることを把握することが可能となる。

【１８２０】

次に、図１５１のタイムチャートを参照しながら管理開始フラグに「１」がセットされ

ている状況において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて各種エリア３１１～３１４のベース値が報知される様子を説明する。図１５１（ａ）は現状エリア３１１に格納されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知される期間を示し、図１５１（ｂ）は第１履歴エリア３１２に格納されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知される期間を示し、図１５１（ｃ）は第２履歴エリア３１３に格納されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知される期間を示し、図１５１（ｄ）は第３履歴エリア３１４に格納されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知される期間を示し、図１５１（ｅ）は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてインターバル用非表示が行われる期間を示し、図１５１（ｆ）は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてシフト前表示が行われる期間を示し、図１５１（ｇ）はベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達したタイミングを示す。

【１８２１】

ｔ１のタイミングで図１５１（ａ）に示すように現状エリア３１１に格納されたベース値の報知が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。この報知に際しては図１２７（ａ）に示すように第１報知用表示装置２０１ではベース値が報知対象であることを示す表示が行われ、第２報知用表示装置２０２では現状エリア３１１に格納されたベース値が報知対象であることを示す表示が行われ、第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４では現状エリア３１１に格納されたベース値に対応する表示が行われる。

【１８２２】

その後、ｔ２のタイミングでｔ１のタイミングから表示継続期間が経過することで、図１５１（ａ）に示すように現状エリア３１１に格納されたベース値の報知が終了され、図１５１（ｅ）に示すようにインターバル用非表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。このインターバル用非表示はｔ２のタイミングからインターバル期間が経過したタイミングであるｔ３のタイミングで図１５１（ｅ）に示すように終了される。

【１８２３】

ｔ３のタイミングで図１５１（ｂ）に示すように第１履歴エリア３１２に格納されたベース値の報知が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。この報知に際しては図１２７（ｂ）に示すように第１報知用表示装置２０１ではベース値が報知対象であることを示す表示が行われ、第２報知用表示装置２０２では第１履歴エリア３１２に格納されたベース値が報知対象であることを示す表示が行われ、第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４では第１履歴エリア３１２に格納されたベース値に対応する表示が行われる。

【１８２４】

その後、ｔ４のタイミングでｔ３のタイミングから表示継続期間が経過することで、図１５１（ｂ）に示すように第１履歴エリア３１２に格納されたベース値の報知が終了され、図１５１（ｅ）に示すようにインターバル用非表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。このインターバル用非表示はｔ４のタイミングからインターバル期間が経過したタイミングであるｔ５のタイミングで図１５１（ｅ）に示すように終了される。

【１８２５】

ｔ５のタイミングで図１５１（ｃ）に示すように第２履歴エリア３１３に格納されたベース値の報知が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。この報知に際しては図１２７（ｃ）に示すように第１報知用表示装置２０１ではベース値が報知対象であることを示す表示が行われ、第２報知用表示装置２０２では第２履歴エリア３１３に格納されたベース値が報知対象であることを示す表示が行われ、第３報知用表示装置２０３

及び第４報知用表示装置２０４では第２履歴エリア３１３に格納されたベース値に対応する表示が行われる。

【１８２６】

その後、ｔ６のタイミングでｔ５のタイミングから表示継続期間が経過することで、図１５１（ｃ）に示すように第２履歴エリア３１３に格納されたベース値の報知が終了され、図１５１（ｅ）に示すようにインターバル用非表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。このインターバル用非表示はｔ６のタイミングからインターバル期間が経過したタイミングであるｔ７のタイミングで図１５１（ｅ）に示すように終了される。

【１８２７】

ｔ７のタイミングで図１５１（ｄ）に示すように第３履歴エリア３１４に格納されたベース値の報知が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。この報知に際しては図１２７（ｄ）に示すように第１報知用表示装置２０１ではベース値が報知対象であることを示す表示が行われ、第２報知用表示装置２０２では第３履歴エリア３１４に格納されたベース値が報知対象であることを示す表示が行われ、第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４では第３履歴エリア３１４に格納されたベース値に対応する表示が行われる。

【１８２８】

その後、ｔ８のタイミングでｔ７のタイミングから表示継続期間が経過することで、図１５１（ｄ）に示すように第３履歴エリア３１４に格納されたベース値の報知が終了され、図１５１（ｅ）に示すようにインターバル用非表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。このインターバル用非表示はｔ８のタイミングからインターバル期間が経過したタイミングであるｔ９のタイミングで図１５１（ｅ）に示すように終了される。

【１８２９】

その後、ｔ９のタイミング～ｔ１０のタイミングに亘ってｔ１のタイミング～ｔ２のタイミングと同様に、図１５１（ａ）に示すように現状エリア３１１に格納されたベース値に対応する表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われ、さらにｔ１０のタイミング～ｔ１１のタイミングに亘ってｔ２のタイミング～ｔ３のタイミングと同様に、図１５１（ｅ）に示すようにインターバル用非表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。そして、ｔ１１のタイミングでｔ３のタイミングと同様に、図１５１（ｂ）に示すように第１履歴エリア３１２に格納されたベース値に対応する表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。

【１８３０】

その後、第１履歴エリア３１２に格納されたベース値に対応する表示が行われている途中のタイミングであるｔ１２のタイミングで、図１５１（ｇ）に示すように、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達する。但し、当該ｔ１２のタイミングでは、ｔ１１のタイミングにて第１履歴エリア３１２のベース値に対応する表示が開始されてから表示継続期間が経過していないため、図１５１（ｂ）に示すように第１履歴エリア３１２のベース値に対応する表示が継続される。これにより、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達するタイミングが任意である構成であったとしても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における現状の報知対象の表示を予定通りの期間に亘って行った後に当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてシフト前表示を開始することが可能となる。

【１８３１】

その後、ｔ１３のタイミングでｔ１１のタイミングから表示継続期間が経過することで、図１５１（ｂ）に示すように第１履歴エリア３１２に格納されたベース値の報知が終了され、図１５１（ｆ）に示すようにシフト前表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２

０４にて開始される。なお、他のベース値の報知が行われている途中で上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した場合であってもそのベース値の報知についての表示継続継続が経過した場合にシフト前表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。また、インターバル用非表示が行われている途中で上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した場合であってもそのインターバル用非表示についてのインターバル期間が経過した場合にシフト前表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。

【１８３２】

その後、ｔ１４のタイミングでｔ１３のタイミングからシフト前表示の実行期間が経過することで、図１５１（ｆ）に示すようにシフト前表示が終了され、図１５１（ａ）に示すように現状エリア３１１に格納されたベース値の報知が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。つまり、シフト前表示が開始される場合における報知対象が第１履歴エリア３１２のベース値であったとしても、シフト前表示が終了した場合にはベース値の報知順序における最初の報知順序に対応する現状エリア３１１のベース値から報知が開始される。

【１８３３】

その後、ｔ１５のタイミングでｔ１４のタイミングから表示継続期間が経過することで、図１５１（ａ）に示すように現状エリア３１１に格納されたベース値の報知が終了され、図１５１（ｅ）に示すようにインターバル用非表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。このインターバル用非表示はｔ１５のタイミングからインターバル期間が経過したタイミングであるｔ１６のタイミングで図１５１（ｅ）に示すように終了され、図１５１（ｂ）に示すように第１履歴エリア３１２のベース値に対応する表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。

【１８３４】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【１８３５】

演算結果記憶エリア２３４の現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に記憶されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて順次表示される。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の数を抑えながらも、異なる期間に対応するそれぞれのベース値を個別に報知することが可能となる。また、予め定められた順序に従って各ベース値が表示されるため、表示対象となっているベース値の種類を遊技ホールの管理者が把握し易くなる。

【１８３６】

演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のそれぞれに対応付けてベース値の表示順序が定められている。これにより、ベース値の表示を新たに開始する場合において表示対象となるベース値の種類を特定するための処理構成を簡素なものとすることが可能となる。

【１８３７】

一のベース値が表示されている状況から次のベース値が表示される状況となる前に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４はインターバル用非表示の状態となる。これにより、表示対象となっているベース値の種類が切り換わったことを遊技ホールの管理者が明確に把握することが可能となる。

【１８３８】

第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値が順次表示される構成において、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達した場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてシフト前表示が行われる。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用して、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達したことを報知することが可能となる。

【１８３９】
上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した場合には演算結果記憶エリア２３４において現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に記憶されているベース値が記憶順序の後側の記憶エリアにシフトされるとともに、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅが「０」クリアされて新たな算出期間のベース値の算出が開始される。したがって、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達したことを契機として第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるベース値の報知内容が変更されることとなる。この場合に、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した場合にはシフト前表示が行われた後にベース値の報知が再開されるため、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達したことを契機としてベース値の報知内容が変更されることを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。
【１８４０】
ベース値が表示されている途中で上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した場合、そのベース値の表示の表示継続期間が経過した後にシフト前表示が開始される。これにより、既に行われているベース値の表示を邪魔しないようにしながら、シフト前表示を開始することが可能となる。
【１８４１】
演算結果記憶エリア２３４に記憶された複数のベース値が所定表示順序に従って順次表示される構成において、シフト前表示が行われた後は、所定表示順序における最初の順番のベース値から表示される。これにより、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した場合には、所定表示順序における最初の順番のベース値から改めて確認することが可能となる。
【１８４２】
結果演算処理（図１４９）にてベース値を算出する構成において、一のベース値の算出を開始してから当該ベース値の算出が完了するまでに結果演算処理が複数回実行される。これにより、１回の結果演算処理にてベース値の算出を完了させる構成に比べて、結果演算処理を実行するための処理負荷を軽減することが可能となる。
【１８４３】
上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した場合には当該シフト基準個数に達したタイミングにおいてベース値が新たに導出された後にベース値のデータシフト処理（ステップＳＡ２１６）が実行される構成において、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてシフト前表示が行われる。これにより、ベース値が新たに導出されてベース値のデータシフト処理が行われている状況においては第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてシフト前表示を行うことが可能となり、シフト基準個数に達したにも関わらずそれ以前のベース値の表示がそのまま継続されてしまわないようにすることが可能となる。
【１８４４】
なお、ベース値の算出期間が開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達するまでは上記第３５の実施形態と同様に、現状エリア３１１のベース値が表示される場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて演算初期表示が行われる構成としてもよい。
【１８４５】
また、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４がインターバル用非表示である状態において上記遊技球の合計個数がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達した場合には即座にシフト前表示が開始され、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値が表示されている状況において上記遊技球の合計個数がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達した場合にはそのベース値の表示の表示継続期間が経過した場合にシフト前表示が開始される構成としてもよい。これにより、既に行われているベース値の表

示が途中で終了されてしまわないようにしながら、シフト前表示を早期に開始させることが可能となる。

【１８４６】

また、シフト前表示の表示内容は上記のものに限定されることはなく、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の少なくとも一部における表示内容は他の状況においても表示され得る表示内容ではあるものの、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全体の表示内容は他の状況においては表示されない表示内容である構成としてもよい。また、シフト前表示が行われる場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて少なくとも１個の表示用セグメント３２１～３２４が点灯状態となる構成としたが、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の一部については全ての表示用セグメント３２１～３２４が消灯状態となる構成としてもよい。また、シフト前表示が行われる場合には当該シフト前表示の表示内容がシフト前表示の実行期間に亘って維持される構成に限定されることはなく、シフト前表示の表示内容がシフト前表示の実行期間に亘って点滅される構成としてもよい。

【１８４７】

また、シフト前表示の実行期間が固定である構成に限定されることはなく、例えば上記遊技球の合計個数がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達してから新たなベース値が算出されてベース値のデータシフト処理が完了するまでに要した期間に応じて、シフト前表示の実行期間が変動する構成としてもよい。

【１８４８】

また、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した場合には、その時点で第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われている各ベース値の表示周回のうち最後の順番のベース値（すなわち第３履歴エリア３１４に格納されたベース値）の表示が完了した後にシフト前表示が開始される構成としてもよい。これにより、各ベース値の表示周回が完了した後にシフト前表示を経由して新たな各ベース値の表示周回を開始させることが可能となる。

【１８４９】

また、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した場合にはその時点における通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅを利用してベース値の算出が開始され、そのベース値の算出が完了した場合にデータシフト処理（ステップＳＡ２１６）が行われる構成としてもよい。この場合、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達したタイミングにおけるベース値を正確に算出することが可能となる。

【１８５０】

また、インターバル期間においてはインターバル用非表示が行われることに代えて、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の少なくとも一部では所定の表示が行われるとともに第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全体の表示としてはベース値が報知される状況において発生し得る表示内容とは異なる表示内容となるインターバル用表示が行われる構成としてもよい。例えば、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて中央の表示用セグメント３２１～３２４のみが点灯状態となることで「－」の表示が行われる構成としてもよく、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の一部の表示装置において「－」の表示が行われるとともに残りの表示装置は非表示状態となる構成としてもよい。

【１８５１】

また、インターバル期間が設定されていない構成としてもよい。この場合、一のベース値について表示継続期間が経過した場合には、次の順番の表示対象となるベース値の表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始されることとなる。

【１８５２】

＜第４４の実施形態＞

本実施形態ではシフト前表示の開始タイミングが上記第４３の実施形態と相違している。以下、上記第４３の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第４３

の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【１８５３】

本実施形態におけるシフト前表示の開始タイミングについて図１５２のタイムチャートを参照しながら説明する。図１５２（ａ）は現状エリア３１１に格納されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知される期間を示し、図１５２（ｂ）は第１履歴エリア３１２に格納されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知される期間を示し、図１５２（ｃ）は第２履歴エリア３１３に格納されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知される期間を示し、図１５２（ｄ）は第３履歴エリア３１４に格納されたベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知される期間を示し、図１５２（ｅ）は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてインターバル用非表示が行われる期間を示し、図１５２（ｆ）は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてシフト前表示が行われる期間を示し、図１５２（ｇ）はベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６０００個）に達したタイミングを示す。

【１８５４】

ｔ１～ｔ１１のタイミングでは、上記第４３の実施形態における図１５１（ａ）～図１５１（ｇ）のタイムチャートと同様に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、表示継続期間に亘るベース値に対応する表示と、インターバル期間におけるインターバル用非表示の実行とが繰り返されるとともに、ベース値に対応する表示は演算結果記憶エリア２３４の現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４の順序で繰り返される。そして、ｔ１１のタイミングで図１５２（ｂ）に示すように第１履歴エリア３１２に格納されたベース値に対応する表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。

【１８５５】

その後、第１履歴エリア３１２に格納されたベース値に対応する表示が行われている途中のタイミングであるｔ１２のタイミングで、図１５２（ｇ）に示すように、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達する。この場合、当該ｔ１２のタイミングでは、ｔ１１のタイミングにて第１履歴エリア３１２のベース値に対応する表示が開始されてから表示継続期間が経過していないものの、図１５２（ｂ）に示すように第１履歴エリア３１２に格納されたベース値の報知が終了され、図１５２（ｆ）に示すようにシフト前表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。

【１８５６】

なお、他のベース値の報知が行われている途中で上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した場合であってもそのタイミングでシフト前表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。また、インターバル用非表示が行われている途中で上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達した場合であってもそのタイミングでシフト前表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。

【１８５７】

その後、ｔ１３のタイミングでｔ１２のタイミングからシフト前表示の実行期間が経過することで、図１５２（ｆ）に示すようにシフト前表示が終了され、図１５２（ａ）に示すように現状エリア３１１に格納されたベース値の報知が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。つまり、シフト前表示が開始される場合における報知対象が第１履歴エリア３１２のベース値であったとしても、シフト前表示が終了した場合にはベース値の報知順序における最初の報知順序に対応する現状エリア３１１のベース値から報知が開始される。

【１８５８】
その後、ｔ１４のタイミングでｔ１３のタイミングから表示継続期間が経過することで、図１５２（ａ）に示すように現状エリア３１１に格納されたベース値の報知が終了され、図１５２（ｅ）に示すようにインターバル用非表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。このインターバル用非表示はｔ１４のタイミングからインターバル期間が経過したタイミングであるｔ１５のタイミングで図１５２（ｅ）に示すように終了され、図１５２（ｂ）に示すように第１履歴エリア３１２のベース値に対応する表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される。
【１８５９】
上記構成によれば、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達した場合には、そのタイミングで第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてシフト前表示が開始される。これにより、シフト前表示を早期に開始することが可能となり、上記遊技球の合計個数がシフト基準個数に達したことを早期に報知することが可能となる。
【１８６０】
＜第４５の実施形態＞
本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行されるメイン処理の処理構成が上記第３５の実施形態と相違している。以下、上記第３５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【１８６１】
図１５３は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳＡ４０１～ステップＳＡ４２５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【１８６２】
まず電源投入初期設定処理を実行する（ステップＳＡ４０１）。電源投入初期設定処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。このウエイト用の所定期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。また、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する。
【１８６３】
その後、内部機能レジスタ設定処理を実行する（ステップＳＡ４０２）。内部機能レジスタ設定処理では上記第３５の実施形態と同様に、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第１タイマ割込み処理（図１３３）の割込み周期を第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）に設定するとともに、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込み周期を上記第１割込み周期よりも短い周期である第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）に設定する。
【１８６４】
つまり、本実施形態では上記第３５の実施形態と同様に、タイマ割込み処理として割込み周期が相対的に長短となるように第１タイマ割込み処理（図１３３）と第２タイマ割込み処理（図１３４）とが存在している。第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）はいずれもメイン処理に対して割り込んで起動される。また、第２タイマ割込み処理（図１３４）は第１タイマ割込み処理（図１３３）に対して割り込んで起動される。一方、第１タイマ割込み処理（図１３３）は第２タイマ割込み処理（図１３４）に対して割り込んで起動されない。また、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の両方が実行されていない状況において第１割込み周期及び第２割込み周期の両方が経過している場合、それら周期の経過順序に関係なく第２タイマ割込み処理（図１３４）から先に起動される。この点、第２タイマ割込み処理（

図１３４）は第１タイマ割込み処理（図１３３）よりも優先して起動される処理であると言える。但し、これに限定されることはなく第１タイマ割込み処理（図１３３）が第２タイマ割込み処理（図１３４）よりも優先して起動される構成としてもよい。

【１８６５】

内部機能レジスタ設定処理では、第１タイマ割込み処理（図１３３）の第１割込み周期を主側ＣＰＵ６３の所定のレジスタに設定するとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）の第２割込み周期を主側ＣＰＵ６３の特定のレジスタに設定する。また、内部機能レジスタ設定処理では上記第１，第２割込み周期の設定以外にも例えば当たり乱数カウンタＣ１の数値範囲といった各種カウンタの数値範囲の設定処理などを実行する。

【１８６６】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた立ち上げ処理中フラグに「１」をセットする（ステップＳＡ４０３）。立ち上げ処理中フラグは上記第３５の実施形態と同様に、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）に設定されている各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行する一方、遊技を進行させるための処理を実行することなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）を終了すべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【１８６７】

立ち上げ処理中フラグは、上記第３５の実施形態と同様にメイン処理（図１５３）において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＡ４０１～ステップＳＡ４１８）が開始されて割込許可（ステップＳＡ４０４）を行う前に「１」がセットされ、動作電力の供給開始時の処理が終了して残余処理（ステップＳＡ４２２～ステップＳＡ４２５）が開始される前に「０」クリアされる。この場合に、上記第３５の実施形態と同様に第１タイマ割込み処理（図１３３）では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合にはステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しないようにすることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＡ４０１～ステップＳＡ４１８）が実行されている状況において遊技を進行させるための処理が実行されないようにすることが可能となる。その一方、上記のとおり第１タイマ割込み処理（図１３３）では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合であってもステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行することで、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＡ４０１～ステップＳＡ４１８）が実行されている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。

【１８６８】

特に、立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている状況であっても停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）が実行されることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＡ４０１～ステップＳＡ４１８）が実行されている状況において停電が発生したとしてもそれに対して停電時処理を実行することが可能となる。停電時処理では上記第３５の実施形態と同様に、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１に保存するため、動作電力の供給が再度開始された場合には主側ＲＡＭ６５の異常発生と特定されないようにすることが可能となる。これにより、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）又は設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）の途中で停電が発生した場合には、これら設定関連処理の途中で停電が発生したことを次回の動作電力の供給開始時に特定することが可能となる。

【１８６９】

ちなみに、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）又は設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行されている状況では、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）のいずれについても割込みが禁止されることはなく任意のタイミングで割込み可能となっている。この場合、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）及び

設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）を含めてメイン処理（図１５３）において第１タイマ割込み処理（図１３３）又は第２タイマ割込み処理（図１３４）が割り込んで起動される場合には、その起動対象となったタイマ割込み処理が終了した後に復帰するためのメイン処理（図１５３）の戻り番地の情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されるとともに、当該タイマ割込み処理が起動される直前における主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避される。そして、起動対象となったタイマ割込み処理が終了した場合には特定制御用のスタックエリア２２２に退避された戻り番地の情報に対応するメイン処理（図１５３）の処理に復帰することとなるとともに、特定制御用のスタックエリア２２２に退避された情報が主側ＣＰＵ６３の各種レジスタに復帰される。

【１８７０】

ステップＳＡ４０３にて立ち上げ処理中フラグに「１」をセットした後は、割込み許可の設定を行う（ステップＳＡ４０４）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）が第２割込み周期で割り込んで起動される。但し、ステップＳＡ４０３にて立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了される。

【１８７１】

その後、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＡ４０５）。つまり、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている状態においてパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われて主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたか否かを判定する。ここで、本実施形態では上記第３５の実施形態と同様に、主制御装置６０に設定キー挿入部６８ａ及びリセットボタン６８ｃが設けられているものの更新ボタン６８ｂは設けられていない。また、主制御装置６０には第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃではなく第１１の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が設けられている。

【１８７２】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＡ４０５：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＡ４０６）。第１タイマ割込み処理（図１３３）の停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）にて停電時処理が実行された場合に停電フラグに「１」がセットされる。停電フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われたか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【１８７３】

停電フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＡ４０６：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてチェックサムを算出する（ステップＳＡ４０７）。チェックサムの算出方法は上記第３３の実施形態と同一である。その後、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理において算出されて特定制御用のワークエリア２２１に保存された特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムを読み出すとともに、その読み出したチェックサムを、ステップＳＡ４０７にて算出したチェックサムと比較する（ステップＳＡ４０８）。そして、それらチェックサムが一致しているか否かを判定する（ステップＳＡ４０９）。

【１８７４】

ステップＳＡ４０６又はステップＳＡ４０９にて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「１」がセットされていない場合又はチェックサムが一致しなかった場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグに「１」をセットする（ステップＳＡ４１０）。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処

理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合、又は特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【１８７５】

その後、動作電力の供給開始時において停電フラグ又はチェックサムに関して異常が発生したことを示す異常コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＡ４１１）。音声発光制御装置８１は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を動作電力の供給開始時における情報異常に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定変更をして下さい。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機１０への動作電力の供給が一旦停止されたとしても設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行されるまではパチンコ機１０への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が継続される構成としてもよい。

【１８７６】

停電フラグに「１」がセットされているとともにチェックサムが正常である場合（ステップＳＡ４０６及びステップＳＡ４０９：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＡ４１２）。設定更新表示フラグは上記第３５の実施形態と同様に設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行されていることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグであり、設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を更新している状況であることを示す表示及び更新途中の設定値を示す表示が行われる。設定更新表示フラグは、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が開始された場合に「１」がセットされ設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が終了される場合に「０」クリアされるフラグであるため、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行されていない状況においては基本的に設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合において設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態となる。この設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態はＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されるか、又は設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）において設定更新表示フラグを「０」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【１８７７】

設定更新表示フラグに「１」がセットされていないことでステップＳＡ４１２にて否定判定をした場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定する（ステップＳＡ４１３）。設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されている場合（ステップＳＡ４１３：ＹＥＳ）、設定確認用処理を実行する（ステップＳＡ４１５）。また、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていない場合であっても（ステップＳＡ４１３：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＡ４１４：ＹＥＳ）、設定確認用処理を実行する（ステップＳＡ４１５）。設定確認用処理については後に説明する。

【１８７８】

設定確認表示フラグは上記第３５の実施形態と同様に設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）が実行されていることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグであり、設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状設定されている設定値を示す表示が行われる。設定確認表示フラグは、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）が開始された場合に「１」がセットされ設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）が終了される場合に「０」クリアされるフラグであるため、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）が実行されていない状況においては基本的に設定確認表示フラグに「１」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合において設定確認表示フラグに「１」がセットされた状態となる。この設定確認表示フラグに「１」がセットされた状態はＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されるか、又は設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）において設定確認表示フラグを「０」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【１８７９】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合（ステップＳＡ４０５：ＹＥＳ）、ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＡ４１６）。ＲＡＭクリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（具体的には後述する設定参照用エリア３４１）を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「０」クリアされるため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示されていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグ及び設定確認表示フラグを「０」クリアする。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた後述する設定更新用エリア３４２を「０」クリアする。また、ＲＡＭクリア処理では特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。また、ＲＡＭクリア処理では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を実行する。この初期設定ではステップＳＡ４０２の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。なお、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４については「０」クリアするための処理及び初期設定を行うための処理は実行しない。

【１８８０】

その後、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定する（ステップＳＡ４１７）。ＯＮ操作されている場合（ステップＳＡ４１７：ＹＥＳ）、設定値更新処理を実行する（ステップＳＡ４１８）。設定値更新処理については後に説明する。

【１８８１】

ステップＳＡ４１１の処理を実行した場合、ステップＳＡ４１４にて否定判定をした場合、ステップＳＡ４１５の処理を実行した場合、ステップＳＡ４１７にて否定判定をした場合、又はステップＳＡ４１８の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する情報をセットする（ステップＳＡ４１９）。チェック中カウンタにセットされた値は上記第３５の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図１３４）が起動される度に１減算される。チェック中カウンタに１以上の値が設定されている場合、上記第３５の実施形態と同様

に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。
【１８８２】
上記構成によれば主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、当該主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＡ４０１～ステップＳＡ４１８）が終了した後であって残余処理（ステップＳＡ４２２～ステップＳＡ４２５）が開始される前に、初期チェック期間が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において初期チェック期間を制御する必要がないため、当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況における処理負荷を軽減することが可能となる。
【１８８３】
また、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）及び設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）は動作電力の供給開始時の処理として実行されるのに対して、初期チェック期間は動作電力の供給開始時の処理が終了した後に開始される。これにより、初期チェック期間において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われるとしても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用した設定値の表示に影響を与えないようにすることが可能となる。
【１８８４】
その後、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグを「０」クリアする（ステップＳＡ４２０）。立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動された場合にステップＳ８９０６にて否定判定をすることでステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理だけではなくステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行することとなり、遊技を進行させるための処理が実行されない状態が解除される。なお、ステップＳＡ４２０では特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグも「０」クリアする。
【１８８５】
その後、復帰コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＡ４２１）。復帰コマンドに含まれている情報の内容及び復帰コマンドを受信した場合における音声発光制御装置８１の処理内容は、上記第３３の実施形態におけるメイン処理（図１１４）のステップＳ７９２０の場合と同一である。
【１８８６】
その後、ステップＳＡ４２２～ステップＳＡ４２５の残余処理に進む。つまり、主側ＣＰＵ６３は第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）を定期的に実行する構成であるが、１のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は各タイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップＳＡ４２２～ステップＳＡ４２５の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップＳＡ４２２～ステップＳＡ４２５の残余処理は非定期的に実行される非定期処理であると言える。ステップＳＡ４２２～ステップＳＡ４２５では、上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のステップＳ１１３～ステップＳ１１６と同一の処理を実行する。
【１８８７】
次に、本実施形態における設定値に関する構成について説明する。図１５４は特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定値に関する記憶エリアの内容を説明するための説明図である。
【１８８８】
図１５４に示すように特定制御用のワークエリア２２１には設定参照用エリア３４１と設定更新用エリア３４２とが設けられている。設定参照用エリア３４１は現状のパチンコ機１０の設定値を主側ＣＰＵ６３にて特定するための情報が格納される記憶エリアである。特図変動開始処理（図１３）におけるステップＳ５０３では設定参照用エリア３４１に格納されている情報によりパチンコ機１０の現状の設定値を特定し、その特定した設定値に対応する当否テーブルを読み出す。そして、ステップＳ５０４ではその読み出した当否テーブルを利用して当否判定処理を実行する。また、特定制御用のワークエリア２２１に

おける設定確認表示フラグに「１」がセットされている状況においては設定参照用エリア３４１に格納されている情報に対応する設定値の表示が第４報知用表示装置２０４にて行われる。

【１８８９】

設定参照用エリア３４１には設定値の情報として数値情報が格納される。具体的には、設定参照用エリア３４１に「１」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定１」となる。設定参照用エリア３４１に「２」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定２」となる。設定参照用エリア３４１に「３」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定３」となる。設定参照用エリア３４１に「４」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定４」となる。設定参照用エリア３４１に「５」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定５」となる。設定参照用エリア３４１に「６」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定６」となる。

【１８９０】

設定更新用エリア３４２は設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）において更新途中の設定値の情報が格納される。つまり、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）ではリセットボタン６８ｃが押圧操作される度に選択対象の設定値の情報を更新することとなるが、この更新に際しては設定参照用エリア３４１に格納された設定値の情報は変更されることなく、設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報が変更される。これにより、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が開始される前に設定されていた設定値の情報を記憶保持しながら、設定値の更新を行うことが可能となる。設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が終了される場合にその時点における設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報が設定参照用エリア３４１に上書きされる。これにより、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）にて更新された結果の設定値が、現状のパチンコ機１０の設定値として設定されることとなる。また、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされている状況においては設定更新用エリア３４２に格納されている情報に対応する設定値の表示が第４報知用表示装置２０４にて行われる。

【１８９１】

設定更新用エリア３４２には設定値の情報として数値情報が格納される。具体的には、設定更新用エリア３４２に「１」の数値情報が格納されている場合には更新対象（選択対象又は変更対象）の設定値は「設定１」となる。設定更新用エリア３４２に「２」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定２」となる。設定更新用エリア３４２に「３」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定３」となる。設定更新用エリア３４２に「４」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定４」となる。設定更新用エリア３４２に「５」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定５」となる。設定更新用エリア３４２に「６」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定６」となる。

【１８９２】

図１５５はメイン処理（図１５３）のステップＳＡ４１５にて実行される設定確認用処理を示すフローチャートである。なお、設定確認用処理におけるステップＳＡ５０１～ステップＳＡ５０４の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【１８９３】

特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定確認表示フラグに「１」がセットされていないことを条件として（ステップＳＡ５０１：ＮＯ）、設定確認表示フラグに「１」をセットする（ステップＳＡ５０２）。設定確認表示フラグに「１」がセットされることにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００５にて肯定判定をすることで、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００６）を実行する。

【１８９４】
図１５６は設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を示すフローチャートである。なお、当該設定処理におけるステップＳＡ６０１～ステップＳＡ６０３の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【１８９５】
まず特定制御用のワークエリア２２１の設定参照用エリア３４１に格納された設定値の情報に対応する設定値の表示データを読み出す（ステップＳＡ６０１）。そして、その読み出した設定値の表示データを第４報知用表示装置２０４に適用するための表示データとして特定制御用のワークエリア２２１における第５表示データバッファ２７５に設定する（ステップＳＡ６０２）。また、パチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示を第１～第３報知用表示装置２０１～２０３に行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に設定する（ステップＳＡ６０３）。
【１８９６】
上記のように設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理が実行されることにより、ステップＳＡ６０３にて第５表示データバッファ２７５に設定された表示データに対応する表示が第１～第３報知用表示装置２０１～２０３にて行われるとともに、ステップＳＡ６０２にて第５表示データバッファ２７５に設定された表示データに対応する表示が第４報知用表示装置２０４にて行われる。これにより、例えば図１２４（ｂ）の説明図に示すように、パチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。
【１８９７】
設定確認用処理（図１５５）の説明に戻り、ステップＳＡ５０１にて肯定判定をした場合又はステップＳＡ５０２の処理を実行した場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する（ステップＳＡ５０３）。具体的には、設定キー挿入部６８ａの状態を検知する検知センサから受信している信号の受信状態が、ＯＮ状態に対応する受信状態からＯＦＦ状態に対応する受信状態となったか否かを判定する。したがって、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態に維持されている場合だけではなく、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態である状況で設定確認用処理が開始された場合においてそのＯＦＦ状態が維持されている場合にもステップＳＡ５０３にて否定判定をする。設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定していない場合（ステップＳＡ５０３：ＮＯ）、ステップＳＡ５０３の処理を繰り返す。
【１８９８】
設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定した場合（ステップＳＡ５０３：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグを「０」クリアする（ステップＳＡ５０４）。これにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００５にて否定判定をすることで、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００６）が実行されない状況となる。したがって、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。
【１８９９】
上記のとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作することなく設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作した状態でパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われることにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されてメイン処理（図１５３）が開始された状況においてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていないとともに設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作された状態となり、メイン処理（図１５３）にて遊技の進行を可能とする処理が実行される前の状況である動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において設定確認用処理（図１５５）が実行される。これにより、遊技が行われていない状況下に

おいて設定値の確認を行うことが可能となる。
【１９００】
図１５７はメイン処理（図１５３）のステップＳＡ４１８にて実行される設定値更新処理を示すフローチャートである。なお、設定値更新処理におけるステップＳＡ７０１～ステップＳＡ７１０の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【１９０１】
まず特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＡ７０１）。設定更新表示フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＡ７０１：ＮＯ）、設定更新表示フラグに「１」をセットする（ステップＳＡ７０２）。その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定参照用エリア３４１に格納された設定値の情報を特定制御用のワークエリア２２１における設定更新用エリア３４２に上書きする（ステップＳＡ７０３）。これにより、動作電力の供給が前回停止された場合に設定されていた設定値の情報が設定更新用エリア３４２に設定された状態となる。
【１９０２】
一方、設定値更新処理が実行されている途中で動作電力の供給が停止された後において動作電力の供給が再開されてメイン処理（図１５３）のＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されることなく設定値更新処理が開始されたことにより設定更新表示フラグに既に「１」がセットされている場合（ステップＳＡ７０１：ＹＥＳ）、ステップＳＡ７０３の処理は実行されない。この場合、動作電力の供給が停止される前における設定値更新処理において設定更新用エリア３４２に設定されていた設定値の情報がそのまま維持された状態で、ステップＳＡ７０４以降の処理を実行することとなる。
【１９０３】
設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００３にて肯定判定をすることで、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００４）を実行する。
【１９０４】
図１５８は設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を示すフローチャートである。なお、当該設定処理におけるステップＳＡ８０１～ステップＳＡ８０３の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【１９０５】
まず特定制御用のワークエリア２２１の設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報に対応する設定値の表示データを読み出す（ステップＳＡ８０１）。そして、その読み出した設定値の表示データを第４報知用表示装置２０４に適用するための表示データとして特定制御用のワークエリア２２１における第５表示データバッファ２７５に設定する（ステップＳＡ８０２）。また、パチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示を第１～第３報知用表示装置２０１～２０３に行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に設定する（ステップＳＡ８０３）。
【１９０６】
上記のように設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理が実行されることにより、ステップＳＡ８０３にて第５表示データバッファ２７５に設定された表示データに対応する表示が第１～第３報知用表示装置２０１～２０３にて行われるとともに、ステップＳＡ８０２にて第５表示データバッファ２７５に設定された表示データに対応する表示が第４報知用表示装置２０４にて行われる。これにより、例えば図１２４（ａ）の説明図に示すように、パチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の更新対象として選択されている設定値の表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。
【１９０７】

設定値更新処理（図１５７）の説明に戻り、ステップＳＡ７０１にて肯定判定をした場合又はステップＳＡ７０３の処理を実行した場合、設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報が「１」～「６」のいずれかであるか否かを判定する（ステップＳＡ７０４）。「１」～「６」のいずれかではない場合（ステップＳＡ７０４：ＮＯ）、設定更新用エリア３４２に「１」を設定する（ステップＳＡ７０５）。これにより、更新対象の設定値が「設定１」となる。

【１９０８】

ステップＳＡ７０４にて肯定判定をした場合又はステップＳＡ７０５の処理を実行した場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する（ステップＳＡ７０６）。具体的には、設定キー挿入部６８ａの状態を検知する検知センサから受信している信号の受信状態が、ＯＮ状態に対応する受信状態からＯＦＦ状態に対応する受信状態となったか否かを判定する。したがって、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態に維持されている場合だけではなく、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態である状況で設定値更新処理が開始された場合においてそのＯＦＦ状態が維持されている場合にもステップＳＡ７０６にて否定判定をする。

【１９０９】

ステップＳＡ７０６にて否定判定をした場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていることを条件として（ステップＳＡ７０７：ＹＥＳ）、設定更新用エリア３４２の値を１加算する（ステップＳＡ７０８）。これにより、リセットボタン６８ｃが１回押圧操作される度に１段階上の設定値に更新される。また、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＡ７０７：ＮＯ）又は設定更新用エリア３４２の値を１加算した場合にはステップＳＡ７０４の処理に戻ることとなるが、ステップＳＡ７０４にて設定更新用エリア３４２の値が７以上であると判定されると、ステップＳＡ７０５にて設定更新用エリア３４２に「１」がセットされる。これにより、「設定６」の状況でリセットボタン６８ｃが１回押圧操作された場合には「設定１」に戻ることになる。

【１９１０】

設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定した場合（ステップＳＡ７０６：ＹＥＳ）、設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報を設定参照用エリア３４１に上書きする（ステップＳＡ７０９）。これにより、今回の設定値更新処理にて更新された結果の設定値の情報が設定参照用エリア３４１に設定された状態となり、その設定された情報に対応する設定値が現状のパチンコ機１０の設定値となる。

【１９１１】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグを「０」クリアする（ステップＳＡ７１０）。これにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００３にて否定判定をすることで、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００４）が実行されない状況となる。したがって、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、パチンコ機１０の現状の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の更新対象として選択されている設定値の表示が行われる状態が解除される。

【１９１２】

上記のとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うだけではなくさらに設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うことに基づき、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）だけではなく設定値更新処理（図１５７）が実行される。また、既に説明したとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作することなく設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うことに基づき、設定確認用処理（図１５５）が実行される。これにより、設定値に関する設定関連処理が実行されるための操作として、設定キー挿入部６８ａに対するＯＮ操作を共通させることが可能となる。よって、設定関連処理を発生させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。

【１９１３】
　また、設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行う場合であって、リセットボタン６８ｃの押圧操作を付加しない場合には設定確認用処理が実行され、リセットボタン６８ｃの押圧操作を付加する場合には設定値更新処理が実行される。これにより、リセットボタン６８ｃの押圧操作の有無によって設定確認用処理及び設定値更新処理のうち実行対象の処理を相違させることが可能となる。よって、設定確認用処理及び設定値更新処理のうち所望の処理を実行させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。また、設定確認用処理よりも設定値更新処理を実行させるための操作内容を多くすることにより、設定値更新処理を不正に行わせる行為を特に行いづらくさせることが可能となる。
【１９１４】
　次に、設定値更新処理（図１５７）又は設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１５３）にて実行される処理の内容について図１５９の説明図を参照しながら説明する。
【１９１５】
　まず設定値更新処理（図１５７）及び設定確認用処理（図１５５）のいずれもが実行されていない状況において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１５３）にて実行される処理の内容について説明する。
【１９１６】
　設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されることなくさらにリセットボタン６８ｃが押圧操作されることなく動作電力の供給が再開された場合（すなわち「操作無し」の場合）、メイン処理（図１５３）ではＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）及び設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）のいずれも実行されない。設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されないのに対してリセットボタン６８ｃが押圧操作されながら動作電力の供給が再開された場合（すなわち「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合）、メイン処理（図１５３）ではＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行される一方、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）及び設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）は実行されない。設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されるとともにリセットボタン６８ｃが押圧操作されながら動作電力の供給が再開された場合（すなわち「設定変更操作」が行われた場合）、メイン処理（図１５３）ではＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されるとともに設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行される一方、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）は実行されない。設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されるもののリセットボタン６８ｃが押圧操作されることなく動作電力の供給が再開された場合（すなわち「設定確認操作」が行われた場合）、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）が実行される一方、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）及び設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）は実行されない。
【１９１７】
　次に、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行されている状況（すなわち設定更新表示フラグに「１」がセットされた状況）において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１５３）にて実行される処理の内容について説明する。
【１９１８】
　「ＲＡＭクリア操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図１５３）ではＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行される一方、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）及び設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）は実行されない。つまり、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行されている状況において停電時処理が実行されたとしても、その後の動作電力の供給の再開に際して「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合には設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）の再開及び新たな実行を行うことなく、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）を実行する。これにより、「Ｒ

ＡＭクリア操作」に対するＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）のみの実行を優先させることが可能となる。この場合、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）においてステップＳＡ７０９の処理が実行される前に停電時処理が実行されたのであれば、当該設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）において更新された設定値（すなわち変更された設定値）の情報は設定参照用エリア３４１に設定されていないため、当該設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が開始される前に設定されていた設定値が、動作電力の供給の再開後においても使用対象となる。なお、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されることで設定更新表示フラグは「０」クリアされる。

【１９１９】

「設定変更操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図１５３）ではＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されるとともに設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行される一方、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）は実行されない。つまり、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行されている状況において停電時処理が実行されたとしても、その後の動作電力の供給の再開に際して「設定変更操作」が行われた場合にはＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行された後に設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が新たに開始される。

【１９２０】

ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行された場合には既に説明したとおり特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグが「０」クリアされるため、設定値更新処理（図１５７）ではステップＳＡ７０１にて否定判定をすることで、設定参照用エリア３４１に格納された設定値の情報を設定更新用エリア３４２に上書きする。したがって、動作電力の供給が停止される前における設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）においてステップＳＡ７０９の処理が実行される前に停電時処理が実行されたのであれば、当該設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）において更新された設定値の情報は設定参照用エリア３４１に設定されていないため無効化される。この場合、動作電力の供給の再開後における設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）では、動作電力の供給が停止される前における設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が開始される前に設定されていた設定値から当該設定値の更新が行われることとなる。

【１９２１】

「操作無し」の状況で動作電力の供給が再開された場合、又は「設定確認操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図１５３）では停電フラグ及びチェックサムに関して異常が発生していないことを条件としてステップＳＡ４１２にて肯定判定をすることで、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されることなく設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行される。ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されない場合には特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態が維持されるため、設定値更新処理（図１５７）ではステップＳＡ７０１にて肯定判定をすることで設定更新用エリア３４２の設定値の情報がそのまま維持される。したがって、動作電力の供給が停止される前における設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）にて更新途中となっている設定値から当該設定値の更新が再開されることとなる。これにより、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）の途中で停電時処理が実行された場合であってその後の動作電力の供給の再開に際して「ＲＡＭクリア操作」が行われなかった場合には、「設定変更操作」が行われなかったとしても設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）を再開させることが可能となる。

【１９２２】

特に、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）を実行している途中において間違ってパチンコ機１０の電源のＯＦＦ操作を行ってしまうことが想定され、この場合には即座にパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われることが考えられる。この場合、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作された状態のままリセットボタン６８ｃを押圧操作することなくパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われることが想定され、そうすると「設定確認操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開されることとなる。このような状況において上記のと

おり設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行されるとともに、当該設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）において動作電力の供給が停止される前における設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）にて更新途中となっている設定値から当該設定値の更新が再開される。これにより、上記のような事象が発生したとしても、問題なく設定値の更新を再開させることが可能となる。

【１９２３】

次に、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）が実行されている状況（すなわち設定確認表示フラグに「１」がセットされた状況）において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１５３）にて実行される処理の内容について説明する。

【１９２４】

「ＲＡＭクリア操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図１５３）ではＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行される一方、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）及び設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）は実行されない。つまり、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）が実行されている状況において停電時処理が実行されたとしても、その後の動作電力の供給の再開に際して「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合には設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）を新たに実行することなく、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）を実行する。これにより、「ＲＡＭクリア操作」に対するＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）のみの実行を優先させることが可能となる。なお、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されることで設定確認表示フラグは「０」クリアされる。

【１９２５】

「設定変更操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図１５３）ではＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されるとともに設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行される一方、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）は実行されない。つまり、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）が実行されている状況において停電時処理が実行されたとしても、その後の動作電力の供給の再開に際して「設定変更操作」が行われた場合には設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）を新たに実行することなく、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）の実行後に設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）を実行する。これにより、「設定変更操作」に対するＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）及び設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）の実行を優先させることが可能となる。また、このように設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）が実行されなかったとしても、設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）が実行されることで更新対象の設定値が第４報知用表示装置２０４にて表示されるとともに設定値更新処理（ステップＳＡ４１８）の終了に際してその時点で更新対象となっている設定値の情報が設定参照用エリア３４１に設定されるため、遊技ホールの管理者は現状のパチンコ機１０の設定値を確認することができる。なお、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されることで設定確認表示フラグは「０」クリアされる。

【１９２６】

「設定確認操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図１５３）では停電フラグ及びチェックサムに関して異常が発生していないことを条件として設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）を実行する。これにより、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）の途中で停電時処理が実行されたとしても、動作電力の供給の再開に際して「設定確認操作」を行うことで設定値の確認を再開することが可能となる。

【１９２７】

「操作無し」の状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図１５３）では停電フラグ及びチェックサムに関して異常が発生していないことを条件としてステップＳＡ４１４にて肯定判定をすることで、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていなくても設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）が実行される。これにより、設定確認用処理（ステップＳＡ４１５）の途中で停電時処理が実行された場合であってその後の動作電力の供

給の再開に際して「操作無し」の状況であったとしても設定値の確認を再開させることが可能となる。

【１９２８】

次に、設定値更新処理（図１５７）及び設定確認用処理（図１５５）の設定キー挿入部６８ａの操作状態との関係での終了タイミングについて、図１６０のタイムチャートを参照しながら説明する。図１６０（ａ）はパチンコ機１０の電源がＯＮ状態となっている期間を示し、図１６０（ｂ）は設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている期間を示し、図１６０（ｃ）は設定値更新処理（図１５７）が実行されている期間を示し、図１６０（ｄ）は設定確認用処理（図１５５）が実行されている期間を示し、図１６０（ｅ）は停電時処理が実行されている期間を示す。

【１９２９】

まず通常の流れで設定値更新処理（図１５７）及び設定確認用処理（図１５５）のそれぞれが実行される場合について説明する。

【１９３０】

ｔ１のタイミングで図１６０（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａが設定キーを用いてＯＮ操作され、その後のｔ２のタイミングで図１６０（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われる。この場合、リセットボタン６８ｃの押圧操作も行われている。したがって、ｔ３のタイミングで図１６０（ｃ）に示すように設定値更新処理（図１５７）が開始される。その後に、ｔ４のタイミングで図１６０（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている状態からＯＦＦ操作された状態となる。これにより、図１６０（ｃ）に示すように設定値更新処理（図１５７）が終了する。

【１９３１】

また、ｔ５のタイミングで図１６０（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａが設定キーを用いてＯＮ操作され、その後のｔ６のタイミングで図１６０（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われる。この場合、リセットボタン６８ｃの押圧操作が行われていない。したがって、ｔ７のタイミングで図１６０（ｄ）に示すように設定確認用処理（図１５５）が開始される。その後に、ｔ８のタイミングで図１６０（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている状態からＯＦＦ操作された状態となる。これにより、図１６０（ｄ）に示すように設定確認用処理（図１５５）が終了する。

【１９３２】

次に、設定値更新処理（図１５７）の実行途中で停電時処理が実行された場合であってその後の動作電力の供給の再開時に「操作無し」の状況であった場合について説明する。

【１９３３】

ｔ９のタイミングで図１６０（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａが設定キーを用いてＯＮ操作され、その後のｔ１０のタイミングで図１６０（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われる。この場合、リセットボタン６８ｃの押圧操作も行われている。したがって、ｔ１１のタイミングで図１６０（ｃ）に示すように設定値更新処理（図１５７）が開始される。そして、当該設定値更新処理（図１５７）の実行途中であるｔ１２のタイミングでパチンコ機１０の電源ＯＦＦ操作又は商用電源の突然の停電の発生などにより図１６０（ａ）に示すように電源がＯＦＦ状態となることで、図１６０（ｅ）に示すように停電時処理が開始される。この場合、当該ｔ１２のタイミングで図１６０（ｃ）に示すように設定値更新処理（図１５７）が終了し、ｔ１３のタイミングで図１６０（ｅ）に示すように停電時処理が終了する。

【１９３４】

その後、ｔ１４のタイミングで図１６０（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作された状態となり、その状態でｔ１５のタイミングで図１６０（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われる。この場合、リセットボタン６８ｃの押圧操作は行われていない。つまり、「操作無し」の状況でパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われている。但し、前回のパチンコ機１０の電源ＯＦＦ時には設定値更新処理（図１５７）の途中で停電時処理が実行されている。したがって、ｔ１６のタイミングで図１６０

（ｃ）に示すように設定値更新処理（図１５７）が開始される。この場合、設定値更新処理（図１５７）は設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作された状態からＯＦＦ操作された状態に切り換わったことを特定した場合に終了されるため、設定値更新処理（図１５７）の開始タイミングから設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作された状態に維持されているとしても設定値更新処理（図１５７）の終了条件が成立したことにならない。

【１９３５】

その後、設定値更新処理（図１５７）が実行されている途中であるｔ１７のタイミングで図１６０（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａが設定キーを用いてＯＮ操作され、その後のｔ１８のタイミングで図１６０（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている状態からＯＦＦ操作された状態となる。これにより、図１６０（ｃ）に示すように設定値更新処理（図１５７）が終了する。

【１９３６】

次に、設定確認用処理（図１５５）の実行途中で停電時処理が実行された場合であってその後の動作電力の供給の再開時に「操作無し」の状況であった場合について説明する。

【１９３７】

ｔ１９のタイミングで図１６０（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａが設定キーを用いてＯＮ操作され、その後のｔ２０のタイミングで図１６０（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われる。この場合、リセットボタン６８ｃの押圧操作は行われていない。したがって、ｔ２１のタイミングで図１６０（ｄ）に示すように設定確認用処理（図１５５）が開始される。そして、当該設定確認用処理（図１５５）の実行途中であるｔ２２のタイミングでパチンコ機１０の電源ＯＦＦ操作又は商用電源の突然の停電の発生などにより図１６０（ａ）に示すように電源がＯＦＦ状態となることで、図１６０（ｅ）に示すように停電時処理が開始される。この場合、当該ｔ２２のタイミングで図１６０（ｄ）に示すように設定確認用処理（図１５５）が終了し、ｔ２３のタイミングで図１６０（ｅ）に示すように停電時処理が終了する。

【１９３８】

その後、ｔ２４のタイミングで図１６０（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作された状態となり、その状態でｔ２５のタイミングで図１６０（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われる。この場合、リセットボタン６８ｃの押圧操作は行われていない。つまり、「操作無し」の状況でパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われている。但し、前回のパチンコ機１０の電源ＯＦＦ時には設定確認用処理（図１５５）の途中で停電時処理が実行されている。したがって、ｔ２６のタイミングで図１６０（ｄ）に示すように設定確認用処理（図１５５）が開始される。この場合、設定確認用処理（図１５５）は設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作された状態からＯＦＦ操作された状態に切り換わったことを特定した場合に終了されるため、設定確認用処理（図１５５）の開始タイミングから設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作された状態に維持されているとしても設定確認用処理（図１５５）の終了条件が成立したことにならない。

【１９３９】

その後、設定確認用処理（図１５５）が実行されている途中であるｔ２７のタイミングで図１６０（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａが設定キーを用いてＯＮ操作され、その後のｔ２８のタイミングで図１６０（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている状態からＯＦＦ操作された状態となる。これにより、図１６０（ｄ）に示すように設定確認用処理（図１５５）が終了する。

【１９４０】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【１９４１】

設定値更新処理（図１５７）が実行されるようにするためには動作電力の供給が開始される場合に、設定キー挿入部６８ａをＯＮ操作するとともにリセットボタン６８ｃを押圧操作することで「設定変更操作」を行う必要がある。これにより、設定値を不正に変更しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。この場合に、設定値更新処理（図

１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合には動作電力の供給が再開される場合に「設定変更操作」が行われていなくても設定値更新処理（図１５７）が実行され得る。これにより、設定値更新処理（図１５７）の実行を優先させることが可能となる。

【１９４２】

設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開される場合に設定値を確認するための「設定確認操作」が行われた場合、設定確認用処理（図１５５）が実行されるのではなく設定値更新処理（図１５７）が実行される。これにより、設定値の確認よりも設定値の変更を優先させることが可能となり、使用対象の設定値の変更が実際には完了していないにも関わらず遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【１９４３】

設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況においては第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて更新対象として選択されている設定値が表示される。これにより、更新対象として選択されている設定値を把握しながら設定値の変更作業を行うことが可能となる。また、このように更新対象として選択されている設定値が表示されることにより、動作電力の供給が再開される場合に「設定確認操作」が行われたにも関わらず設定値更新処理（図１５７）が優先される構成であっても、実質的に設定値の確認も行うことが可能となる。

【１９４４】

設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況においては第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて更新対象として選択されている設定値に対応する表示だけではなく設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況に対応する表示も行われる。これにより、動作電力の供給が再開される場合に「設定確認操作」を行ったにも関わらず設定値更新処理（図１５７）が開始されたとしても、当該設定値更新処理（図１５７）が開始されたことを遊技ホールの管理者が把握し易くなる。

【１９４５】

設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が再開される場合に「操作無し」であった場合又は「設定確認操作」が行われた場合、動作電力の供給が停止される前に選択されていた設定値から当該設定値の変更が行われる。これにより、動作電力の供給が停止される前に選択されていた設定値から当該設定値の変更を継続することが可能となる。

【１９４６】

設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が再開される場合に「設定変更操作」が行われた場合、現状の使用対象となっている設定値から当該設定値の変更が行われる。これにより、設定値の変更を開始する場合における初期の設定値を、動作電力の供給が再開される場合における操作内容に応じて異ならせることが可能となる。

【１９４７】

設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合であっても動作電力の供給が再開される場合に「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合には設定値更新処理（図１５７）が実行されない。これにより、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合であってもその後に設定値更新処理（図１５７）を実行する必要がない場合には、動作電力の供給が開始される場合に「ＲＡＭクリア操作」を行うことで設定値更新処理（図１５７）が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【１９４８】

設定確認用処理（図１５５）が実行されるようにするためには動作電力の供給が開始される場合に、設定キー挿入部６８ａをＯＮ操作することで「設定確認操作」を行う必要がある。これにより、設定値を不正に確認しようとする行為を行いづらくさせることが可能

となる。この場合に、設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合には動作電力の供給が再開される場合に「設定確認操作」が行われていなくても設定確認用処理（図１５５）が実行され得る。これにより、設定確認用処理（図１５５）の実行を優先させることが可能となる。

【１９４９】

設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合であっても動作電力の供給が再開される場合に「設定変更操作」が行われた場合には設定確認用処理（図１５５）が実行されることなく設定値更新処理（図１５７）が実行される。これにより設定値の確認作業よりも設定値の変更作業を優先させることが可能となる。

【１９５０】

特定制御用のワークエリア２２１には設定参照用エリア３４１と設定更新用エリア３４２とが設けられており、使用対象の設定値に対応する情報は設定参照用エリア３４１に記憶され、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況における変更途中の設定値に対応する情報は設定更新用エリア３４２に記憶される。これにより、設定値更新処理（図１５７）が開始される前に設定されていた設定値の情報を設定参照用エリア３４１にて記憶保持しながら、設定値更新処理（図１５７）において更新対象の設定値を変更することが可能となる。

【１９５１】

設定値更新処理（図１５７）が実行されている途中で動作電力の供給が停止された場合、その後の動作電力の供給の再開に際して「操作無し」の場合又は「設定確認操作」が行われた場合には設定更新用エリア３４２に記憶されている情報に対応する設定値から当該設定値の変更を開始させ、その後の動作電力の供給の再開に際して「設定変更操作」が行われた場合には設定参照用エリア３４１に記憶されている情報に対応する設定値から当該設定値の変更を開始させればよい。これにより、これら各状況を適切に生じさせることが可能となる。

【１９５２】

設定値更新処理（図１５７）を開始させるためには設定キーを利用して設定キー挿入部６８ａをＯＮ操作する必要があるため、設定値更新処理（図１５７）を不正に開始させようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。この場合に、設定値更新処理（図１５７）は設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されているだけでは終了されることはなく設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている状態からＯＦＦ操作された場合に終了される。これにより、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合であってその後の動作電力の供給の再開に際して「操作無し」であることにより設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態である状況で設定値更新処理（図１５７）が開始されたとしても、即座に設定値更新処理（図１５７）が終了されることはなく、設定キー挿入部６８ａを一旦ＯＮ操作した後に更にＯＦＦ操作することで設定値更新処理（図１５７）が終了されるため、遊技ホールの管理者にとって好ましいタイミングで設定値更新処理（図１５７）を終了させることが可能となる。

【１９５３】

設定確認用処理（図１５５）を開始させるためには設定キーを利用して設定キー挿入部６８ａをＯＮ操作する必要があるため、設定確認用処理（図１５５）を不正に開始させようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。この場合に、設定確認用処理（図１５５）は設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されているだけでは終了されることはなく設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている状態からＯＦＦ操作された場合に終了される。これにより、設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合であってその後の動作電力の供給の再開に際して「操作無し」であることにより設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態である状況で設定確認用処理（図１５５）が開始されたとしても、即座に設定確認用処理（図１５５）が終了されることはなく、設定キー挿入部６８ａを一旦ＯＮ操作した後に更にＯＦＦ操作することで設定確認用処理（図１５５）が終了されるため、遊技ホールの管理者にとって好ましいタイミングで設定確認用処理

（図１５５）を終了させることが可能となる。
【１９５４】
主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、当該主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＡ４０１～ステップＳＡ４１８）が終了した後であって残余処理（ステップＳＡ４２２～ステップＳＡ４２５）が開始される前に、初期チェック期間が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において初期チェック期間を制御する必要がないため、当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況における処理負荷を軽減することが可能となる。
【１９５５】
設定確認用処理（図１５５）及び設定値更新処理（図１５７）は動作電力の供給開始時の処理として実行されるのに対して、初期チェック期間は動作電力の供給開始時の処理が終了した後に開始される。これにより、初期チェック期間において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われるとしても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用した設定値の表示に影響を与えないようにすることが可能となる。
【１９５６】
主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合には、設定確認用処理（図１５５）及び設定値更新処理（図１５７）のいずれかが実行される場合、並びに設定確認用処理（図１５５）及び設定値更新処理（図１５７）のいずれもが実行されない場合のいずれであっても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合における状況に関係なく第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かを確認することが可能となる。
【１９５７】
主側ＣＰＵ６３のメイン処理（図１５３）には、設定確認用処理（図１５５）及び設定値更新処理（図１５７）のいずれかが実行される場合、並びに設定確認用処理（図１５５）及び設定値更新処理（図１５７）のいずれもが実行されない場合のいずれであっても共通して実行される処理であって、設定確認用処理（図１５５）及び設定値更新処理（図１５７）のいずれかが実行される場合にはこれら設定確認用処理（図１５５）及び設定値更新処理（図１５７）よりも実行順序が後の処理として、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にチェック用表示を開始させる処理が設定されている。このように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にチェック用表示を開始させるための処理が共通処理として設定されていることにより、処理構成の簡素化を図りながら既に説明したような優れた効果を奏することが可能となる。
【１９５８】
第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が実行されている状況であっても主側ＣＰＵ６３にて遊技を進行させるための処理が開始され得る。これにより、設定確認用処理（図１５５）又は設定値更新処理（図１５７）の実行後に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる構成であっても遊技を進行させるための処理の開始タイミングが遅れてしまわないようにすることが可能となる。
【１９５９】
なお、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「操作無し」の場合には、設定値更新処理（図１５７）が動作電力の供給が停止される前における変更途中の設定値から開始される構成に限定されることはなく設定参照用エリア３４１に記憶されている現状の使用対象の設定値から開始される構成としてもよい。また、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「操作無し」の場合には、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行された後に設定値更新処理（図１５７）が実行される構成としてもよく、設定値更新処理（図１５７）が実行された後にＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行される構成としてもよい。

【１９６０】
　また、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「操作無し」の場合には設定値更新処理（図１５７）が実行されない構成としてもよい。この場合、次回の設定値更新処理（図１５７）の開始に際して設定参照用エリア３４１に記憶されている設定値の情報が設定更新用エリア３４２に上書きされる構成としてもよい。
【１９６１】
　また、設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「操作無し」の場合には設定確認用処理（図１５５）が実行されない構成としてもよい。
【１９６２】
　また、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合には、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行された後に設定値更新処理（図１５７）が実行される構成としてもよい。この場合、設定値更新処理（図１５７）が動作電力の供給が停止される前における変更途中の設定値から開始される構成としてもよく、設定参照用エリア３４１に記憶されている現状の使用対象の設定値から開始される構成としてもよい。
【１９６３】
　また、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合には、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されることなく設定値更新処理（図１５７）が実行される構成としてもよく、設定値更新処理（図１５７）が実行された後にＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行される構成としてもよい。この場合、設定値更新処理（図１５７）が動作電力の供給が停止される前における変更途中の設定値から開始される構成としてもよく、設定参照用エリア３４１に記憶されている現状の使用対象の設定値から開始される構成としてもよい。
【１９６４】
　また、設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合には、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行された後に設定確認用処理（図１５５）が実行される構成としてもよく、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されることなく設定確認用処理（図１５５）が実行される構成としてもよく、設定確認用処理（図１５５）が実行された後にＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行される構成としてもよい。
【１９６５】
　また、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「設定変更操作」が行われた場合には、設定値更新処理（図１５７）が設定参照用エリア３４１に記憶されている現状の使用対象の設定値から開始される構成としたが、設定値更新処理（図１５７）が動作電力の供給が停止される前における変更途中の設定値から開始される構成としてもよい。
【１９６６】
　また、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「設定変更操作」が行われた場合には、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されることなく設定値更新処理（図１５７）が実行される構成としてもよく、設定値更新処理（図１５７）が実行された後にＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行される構成としてもよい。この場合、設定値更新処理（図１５７）が動作電力の供給が停止される前における変更途中の設定値から開始される構成としてもよく、設定参照用エリア３４１に記憶されている現状の使用対象の設定値から開始される構成としてもよい。

【１９６７】
　また、設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「設定変更操作」が行われた場合には、設定値更新処理（図１５７）が設定参照用エリア３４１に記憶されている現状の使用対象の設定値から開始される構成としたが、設定値更新処理（図１５７）が動作電力の供給が停止される前における変更途中の設定値から開始される構成としてもよい。
【１９６８】
　また、設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「設定変更操作」が行われた場合には、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されることなく設定値更新処理（図１５７）が実行される構成としてもよく、設定値更新処理（図１５７）が実行された後にＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行される構成としてもよい。
【１９６９】
　また、設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「設定変更操作」が行われた場合には、設定確認用処理（図１５５）が実行されて設定値更新処理（図１５７）が実行されない構成としてもよく、設定確認用処理（図１５５）が実行された後に設定値更新処理（図１５７）が実行される構成としてもよく、設定値更新処理（図１５７）が実行された後に設定確認用処理（図１５５）が実行される構成としてもよい。また、設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「設定変更操作」が行われた場合には、設定確認用処理（図１５５）及び設定値更新処理（図１５７）の両方が実行されない構成としてもよい。
【１９７０】
　また、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「設定確認操作」が行われた場合には、設定値更新処理（図１５７）が動作電力の供給が停止される前における変更途中の設定値から開始される構成に限定されることはなく、設定値更新処理（図１５７）が設定参照用エリア３４１に記憶されている現状の使用対象の設定値から開始される構成としてもよい。
【１９７１】
　また、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「設定確認操作」が行われた場合には、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行された後に設定値更新処理（図１５７）が実行される構成としてもよく、設定値更新処理（図１５７）が実行された後にＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行される構成としてもよい。
【１９７２】
　また、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「設定確認操作」が行われた場合には設定値更新処理（図１５７）が実行されることなく設定確認用処理（図１５５）が実行される構成としてもよい。この場合、次回の設定値更新処理（図１５７）の開始に際して設定参照用エリア３４１に記憶されている設定値の情報が設定更新用エリア３４２に上書きされる構成としてもよい。
【１９７３】
　また、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「設定確認操作」が行われた場合には、設定確認用処理（図１５５）が実行された後に設定値更新処理（図１５７）が実行される構成としてもよく、設定値更新処理（図１５７）が実行された後に設定確認用処理（図１５５）が実行される構成としてもよい。また、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開された場合に「設定確認操作」が行われた場合には、設定確認用処理（図１５５）及び設定値更新処

理（図１５７）の両方が実行されない構成としてもよい。

【１９７４】

また、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされている状況で動作電力の供給が開始された場合には電源投入初期設定処理（ステップＳＡ４０１）にてウエイト用の所定時間が経過した後において第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが許可されることで、設定値を更新している状況であることを示す表示及び設定更新用エリア３４２に記憶されている情報に対応する設定値を示す表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される構成に限定されることはなく、上記ウエイト用の所定時間の経過を待つことなくこれらの表示が開始される構成としてもよい。また、設定更新表示フラグに「１」がセットされていたとしても設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況であることを条件として、設定値を更新している状況であることを示す表示及び設定更新用エリア３４２に記憶されている情報に対応する設定値を示す表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる構成としてもよい。この場合、設定値更新処理（図１５７）が実行されていない状況においてこれらの表示が行われてしまわないようにすることが可能となる。

【１９７５】

また、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグに「１」がセットされている状況で動作電力の供給が開始された場合には電源投入初期設定処理（ステップＳＡ４０１）にてウエイト用の所定時間が経過した後において第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが許可されることで、設定値を確認している状況であることを示す表示及び設定参照用エリア３４１に記憶されている情報に対応する設定値を示す表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて開始される構成に限定されることはなく、上記ウエイト用の所定時間の経過を待つことなくこれらの表示が開始される構成としてもよい。また、設定確認表示フラグに「１」がセットされていたとしても設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況であることを条件として、設定値を確認している状況であることを示す表示及び設定更新用エリア３４２に記憶されている情報に対応する設定値を示す表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる構成としてもよい。この場合、設定確認用処理（図１５５）が実行されていない状況においてこれらの表示が行われてしまわないようにすることが可能となる。

【１９７６】

また、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況においては、図柄表示装置４１にて設定値を更新している状況であることを示す画像が表示される構成としてもよく、当該表示に加えて又は代えて、設定値を更新するための操作手順を示す画像が表示される構成としてもよく、表示発光部５３又はスピーカ部５４にて設定値を更新している状況であることを示す報知が行われる構成としてもよい。この場合、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に明確に認識させることが可能となる。

【１９７７】

また、設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況においては、図柄表示装置４１にて設定値を確認している状況であることを示す画像が表示される構成としてもよく、当該表示に加えて又は代えて、設定値を確認するための操作手順を示す画像が表示される構成としてもよく、表示発光部５３又はスピーカ部５４にて設定値を確認している状況であることを示す報知が行われる構成としてもよい。この場合、設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に明確に認識させることが可能となる。

【１９７８】

また、設定値更新処理（図１５７）にて設定値を更新させるために操作される操作部はリセットボタン６８ｃに限定されることはなく、更新ボタン６８ｂといった専用の操作部であってもよく、異常状態を解除するために主制御装置６０に設けられた操作部であってもよい。また、設定キー挿入部６８ａに設定キーを挿入して回動操作をした場合における

回動操作位置として「設定１」～「設定６」のそれぞれに対応する位置が設定されており、設定キー挿入部６８ａの回動操作位置に対応する設定値が設定される構成としてもよい。また、設定キー挿入部６８ａをＯＮ位置よりもさらに回動操作することが可能な構成とし、ＯＮ位置を超えた回動操作が行われる度に更新途中の設定値が次の順番の設定値に更新される構成としてもよい。

【１９７９】

また、設定値更新処理（図１５７）が実行される場合にはパチンコ機１０から遊技ホールの管理コンピュータにそれに対応する信号が外部出力される構成としてもよい。この場合、当該信号出力が予め定められた所定期間（例えば１００ミリ秒）に亘って行われる構成としてもよく、設定値更新処理（図１５７）が実行されている間は当該信号出力が継続される構成としてもい。これにより、パチンコ機１０にて設定値更新処理（図１５７）が実行されたことを遊技ホールの管理コンピュータにて把握することが可能となる。

【１９８０】

また、設定確認用処理（図１５５）が実行される場合にはパチンコ機１０から遊技ホールの管理コンピュータにそれに対応する信号が外部出力される構成としてもよい。この場合、当該信号出力が予め定められた所定期間（例えば１００ミリ秒）に亘って行われる構成としてもよく、設定確認用処理（図１５５）が実行されている間は当該信号出力が継続される構成としてもい。これにより、パチンコ機１０にて設定確認用処理（図１５５）が実行されたことを遊技ホールの管理コンピュータにて把握することが可能となる。

【１９８１】

また、キー挿入部がＯＮ状態からＯＦＦ状態に変更されたことを契機として処理を終了させる構成を、設定確認用処理（図１５５）及び設定値更新処理（図１５７）以外の処理に適用してもよい。例えば、ベース値を第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示させるためには所定のキー挿入部がＯＮ位置に操作される必要がある構成とするとともに、所定のキー挿入部がＯＮ状態からＯＦＦ状態に変更されたことを特定した場合に当該表示が終了される構成としてもよい。

【１９８２】

また、設定値更新処理（図１５７）が開始される条件として遊技機本体１２及び前扉枠１４のうち少なくとも一方である開放対象が開放操作されているという条件が設定されている構成としてもよい。当該構成においては、設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況において動作電力の供給が停止された場合であって動作電力の供給の再開に際して「操作無し」の場合又は「設定確認操作」が行われた場合には、上記開放対象が開放操作されていなくても設定値更新処理（図１５７）が開始される構成としてもよい。

【１９８３】

また、設定確認用処理（図１５５）が開始される条件として遊技機本体１２及び前扉枠１４のうち少なくとも一方である開放対象が開放操作されているという条件が設定されている構成としてもよい。当該構成においては、設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況において動作電力の供給が停止された場合であって動作電力の供給の再開に際して「操作無し」の場合には、上記開放対象が開放操作されていなくても設定確認用処理（図１５５）が開始される構成としてもよい。

【１９８４】

また、設定値更新処理（図１５７）が実行される前に実行されるＲＡＭクリア処理と、設定値更新処理が実行されることなく実行されるＲＡＭクリア処理とで、主側ＲＡＭ６５において初期化の対象となるエリアが異なっている構成としてもよい。

【１９８５】

また、設定更新表示フラグに「１」がセットされていない状況で設定値更新処理（図１５７）が開始された場合には、設定参照用エリア３４１に記憶されている情報に対応する設定値から当該設定値の変更が行われるようにする構成に限定されることはなく、予め定められた初期値の設定値から当該設定値の変更が行われるようにする構成としてもよい。当該初期値としては例えば「設定１」としてもよく、「設定６」としてもよく、これら以

外の設定値としてもよい。
【１９８６】
　また、設定値更新処理（図１５７）が動作電力の供給開始時の処理として実行される構成に加えて又は代えて、動作電力の供給開始時の処理が終了した後の状況において「設定変更操作」が行われたことに基づいて設定値更新処理（図１５７）が実行される構成としてもよい。当該構成であっても通常の終了契機が発生する前に設定値更新処理（図１５７）が終了した場合には「設定変更操作」が行われていなくても設定値更新処理（図１５７）が実行される構成とすることで設定値の変更作業を優先させることが可能となる。
【１９８７】
　また、設定確認用処理（図１５５）が動作電力の供給開始時の処理として実行される構成に加えて又は代えて、動作電力の供給開始時の処理が終了した後の状況において「設定確認操作」が行われたことに基づいて設定確認用処理（図１５５）が実行される構成としてもよい。当該構成であっても通常の終了契機が発生する前に設定確認用処理（図１５５）が終了した場合には「設定確認操作」が行われていなくても設定確認用処理（図１５５）が実行される構成とすることで設定値の確認作業を優先させることが可能となる。
【１９８８】
　＜第４６の実施形態＞
　本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行されるメイン処理の処理構成が上記第４５の実施形態と相違している。以下、上記第４５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第４５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【１９８９】
　図１６１は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳＡ９０１～ステップＳＡ９２５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【１９９０】
　ステップＳＡ９０１～ステップＳＡ９０４では上記第４５の実施形態におけるメイン処理（図１５３）のステップＳＡ４０１～ステップＳＡ４０４と同一の処理を実行する。その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＡ９０５）。設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）を実行している状況において動作電力の供給が停止された後に動作電力の供給が再開された場合には、設定更新表示フラグに「１」がセットされている状況においてメイン処理が開始されることとなる。
【１９９１】
　ステップＳＡ９０５にて否定判定をした場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＡ９０６）。つまり、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている状態においてパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われて主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたか否かを判定する。
【１９９２】
　リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＡ９０６：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＡ９０７）。第１タイマ割込み処理（図１３３）の停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）にて停電時処理が実行された場合に停電フラグに「１」がセットされる。停電フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われたか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。
【１９９３】
　停電フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＡ９０７：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてチェックサムを算出する（ステップＳＡ９０８）。チェックサムの算出方法は上記第３３の実施形態と同一である。その後、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される直前に実行された

停電時処理において算出されて特定制御用のワークエリア２２１に保存された特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムを読み出すとともに、その読み出したチェックサムを、ステップＳＡ９０８にて算出したチェックサムと比較する（ステップＳＡ９０９）。そして、それらチェックサムが一致しているか否かを判定する（ステップＳＡ９１０）。

【１９９４】

ステップＳＡ９０７又はステップＳＡ９１０にて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「１」がセットされていない場合又はチェックサムが一致しなかった場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグに「１」をセットする（ステップＳＡ９１１）。また、動作電力の供給開始時において停電フラグ又はチェックサムに関して異常が発生したことを示す異常コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＡ９１２）。これらステップＳＡ９１１及びステップＳＡ９１２の処理内容は上記第４５の実施形態におけるメイン処理（図１５３）のステップＳＡ４１０及びステップＳＡ４１１と同一である。

【１９９５】

停電フラグに「１」がセットされているとともにチェックサムが正常である場合（ステップＳＡ９０７及びステップＳＡ９１０：ＹＥＳ）、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定する（ステップＳＡ９１３）。設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されている場合（ステップＳＡ９１３：ＹＥＳ）、設定確認用処理を実行する（ステップＳＡ９１４）。設定確認用処理の処理内容は上記第４５の実施形態と同一である。つまり、本実施形態では特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定確認表示フラグに「１」がセットされていたとしても設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていない限り設定確認用処理は実行されない。したがって、設定確認用処理が実行されている状況で動作電力の供給が停止されたとしても、「設定確認操作」を行った状況で動作電力の供給が再開されない限り設定確認用処理は実行されない。

【１９９６】

設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＡ９０５：ＹＥＳ）、又はリセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合（ステップＳＡ９０６：ＹＥＳ）、ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＡ９１５）。ＲＡＭクリア処理の処理内容は上記第４５の実施形態におけるメイン処理（図１５３）のＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）と同一である。

【１９９７】

その後、設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合には（ステップＳＡ９１６：ＹＥＳ）、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されているか否かに関係なく設定値更新処理を実行する（ステップＳＡ９１８）。一方、設定更新表示フラグに「１」がセットされていない場合には（ステップＳＡ９１６：ＮＯ）、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていることを条件として（ステップＳＡ９１７：ＹＥＳ）、設定値更新処理を実行する（ステップＳＡ９１８）。つまり、設定値更新処理が実行されている状況で動作電力の供給が停止された場合には、その後の動作電力の供給の再開に際しての操作内容がいずれであったとしても、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ９１５）が実行された後に設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）が新たに開始される。

【１９９８】

ステップＳＡ９１２の処理を実行した場合、ステップＳＡ９１３にて否定判定をした場合、ステップＳＡ９１４の処理を実行した場合、ステップＳＡ９１７にて否定判定をした場合、又はステップＳＡ９１８の処理を実行した場合、ステップＳＡ９１９～ステップＳＡ９２５の処理を実行する。ステップＳＡ９１９～ステップＳＡ９２５の処理内容は上記第４５の実施形態におけるメイン処理（図１５３）のステップＳＡ４１９～ステップＳＡ４２５と同一である。

【１９９９】

図１６２は、設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）又は設定確認用処理（ステップＳ

Ａ９１４）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１６１）にて実行される処理の内容を説明するための説明図である。

【２０００】

設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）及び設定確認用処理（ステップＳＡ９１４）のいずれもが実行されていない状況において停電時処理が実行された場合においてその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１６１）にて実行される処理の内容は上記第４５の実施形態と同様である。つまり、「操作無し」の状況で動作電力の供給が再開された場合にはメイン処理（図１６１）ではＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ９１５）、設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）及び設定確認用処理（ステップＳＡ９１４）のいずれも実行されない。また、「ＲＡＭクリア操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合にはメイン処理（図１６１）ではＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ９１５）が実行される一方、設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）及び設定確認用処理（ステップＳＡ９１４）は実行されない。「設定変更操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合にはメイン処理（図１６１）ではＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ９１５）が実行されるとともに設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）が実行される一方、設定確認用処理（ステップＳＡ９１４）は実行されない。「設定確認操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合にはメイン処理（図１６１）では設定確認用処理（ステップＳＡ９１４）が実行される一方、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ９１５）及び設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）は実行されない。

【２００１】

次に、設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）が実行されている状況（すなわち設定更新表示フラグに「１」がセットされた状況）において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１６１）にて実行される処理の内容について説明する。

【２００２】

「操作無し」の状況で動作電力の供給が再開された場合、「ＲＡＭクリア操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、「設定変更操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、及び「設定確認操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合のいずれであっても、メイン処理（図１６１）ではＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ９１５）が実行されるとともに設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）が実行される一方、設定確認用処理（ステップＳＡ９１４）は実行されない。つまり、設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の再開に際しての操作内容がいずれであったとしても、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ９１５）が実行された後に設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）が新たに開始される。

【２００３】

上記構成であることにより、設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）の途中で動作電力の供給が停止された場合には動作電力の供給の再開に際しては、パチンコ機１０の電源ＯＮ時における設定キー挿入部６８ａ及びリセットボタン６８ｃへの操作内容に関係なく、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ９１５）が実行された後に設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）が新たに開始されるようにすることが可能となる。これにより、設定値の更新途中で動作電力の供給が停止された場合には、その後に動作電力の供給が再開された場合には設定値の更新を行った後に完了させる機会を確実に生じさせることが可能となる。よって、設定値の更新途中で動作電力の供給が停止されたにも関わらず、その後に動作電力の供給が再開された場合に前回の設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）が開始される前における設定値のまま遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【２００４】

また、設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）の途中で動作電力の供給が停止された場合には動作電力の供給の再開に際しての操作内容に関係なく一義的に、ＲＡＭクリア処理

（ステップＳＡ９１５）が実行された後に設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）が実行されるようにすることで、各操作内容に応じて実行される処理内容を変更させる構成に比べて処理構成を簡素化しながら上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【２００５】

次に、設定確認用処理（ステップＳＡ９１４）が実行されている状況（すなわち設定確認表示フラグに「１」がセットされた状況）において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１６１）にて実行される処理の内容について説明する。

【２００６】

設定確認用処理（ステップＳＡ９１４）が実行されている状況（すなわち設定確認表示フラグに「１」がセットされた状況）において停電時処理が実行された場合にその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１６１）にて実行される処理の内容は、設定値更新処理（図１５７）及び設定確認用処理（図１５５）のいずれもが実行されていない状況において停電時処理が実行された場合においてその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１６１）にて実行される処理の内容と同一である。つまり、設定確認用処理（ステップＳＡ９１４）が実行されている状況において動作電力の供給が停止されたとしても、その後に動作電力の供給が再開された場合にはパチンコ機１０の電源ＯＮ操作に際しての操作内容に対応する処理が実行される。

【２００７】

設定値の確認は設定値の変更と異なり、途中で終了されてそのまま再開されなかったとしても遊技への影響はない。したがって、設定値の確認の実行途中で動作電力の供給が停止されたとしてもパチンコ機１０の電源ＯＮ操作に際しての操作内容に対応する処理が実行されるようにすることで、遊技ホールの管理者による電源ＯＮ操作に際しての操作内容を優先させることが可能となる。

【２００８】

＜第４７の実施形態＞

本実施形態では、設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）又は設定確認用処理（ステップＳＡ９１４）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合にその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１６１）にて実行される処理の内容が上記第４５の実施形態と相違している。以下、上記第４５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第４５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２００９】

図１６３は、設定値更新処理（図１５７）又は設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１５３）にて実行される処理の内容を説明するための説明図である。

【２０１０】

設定値更新処理（図１５７）及び設定確認用処理（図１５５）のいずれもが実行されていない状況において停電時処理が実行された場合においてその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１５３）にて実行される処理の内容は上記第４５の実施形態と同様である。また、設定確認用処理（ステップ図１５５）が実行されている状況（すなわち設定確認表示フラグに「１」がセットされた状況）において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１５３）にて実行される処理の内容は上記第４６の実施形態と同様である。

【２０１１】

設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況（すなわち設定更新表示フラグに「１」がセットされた状況）において停電時処理が実行された場合にその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１５３）にて実行される処理の内容は、「操作無し」の場合及び「設定確認操作」の場合は上記第４５の実施形態と同様に、設定値更新処理（図１５７）の再開である。また、「ＲＡＭクリア操作」及び「設定変更操作」の場合は、Ｒ

ＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行された後に、設定値更新処理（図１５７）の再開である。この場合、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）では特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定参照用エリア３４１だけではなく、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグ及び設定更新用エリア３４２が初期化の対象から除外されている。したがって、設定更新表示フラグに「１」がセットされている状況でＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されたとしても、その後の設定値更新処理（図１５７）の開始に際しては設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態となり、設定更新用エリア３４２にその時点で記憶されている設定値の情報から設定値の更新が開始される。

【２０１２】

上記構成であることにより、設定値の更新途中で動作電力の供給が停止された場合にはその後の動作電力の供給の再開に際して設定値更新処理（図１５７）が確実に実行されるだけではなく、動作電力の供給が停止される直前における更新途中の設定値から当該設定値の更新を再開させることが可能となる。これにより、設定値の変更作業をそのまま継続させることが可能となる。

【２０１３】

＜第４８の実施形態＞

本実施形態では、設定値更新処理（ステップＳＡ９１８）又は設定確認用処理（ステップＳＡ９１４）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合にその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１６１）にて実行される処理の内容が上記第４５の実施形態と相違している。以下、上記第４５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第４５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２０１４】

図１６４は、設定値更新処理（図１５７）又は設定確認用処理（図１５５）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１５３）にて実行される処理の内容を説明するための説明図である。

【２０１５】

設定値更新処理（図１５７）及び設定確認用処理（図１５５）のいずれもが実行されていない状況において停電時処理が実行された場合においてその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１５３）にて実行される処理の内容は上記第４５の実施形態と同様である。また、設定確認用処理（ステップ図１５５）が実行されている状況（すなわち設定確認表示フラグに「１」がセットされた状況）において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１５３）にて実行される処理の内容は上記第４６の実施形態と同様である。

【２０１６】

設定値更新処理（図１５７）が実行されている状況（すなわち設定更新表示フラグに「１」がセットされた状況）において停電時処理が実行された場合にその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１５３）にて実行される処理の内容は、「操作無し」の場合、「ＲＡＭクリア操作」の場合及び「設定確認操作」の場合には設定値更新処理（図１５７）及び設定確認用処理（図１５５）のいずれもが実行されていない状況において停電時処理が実行された場合においてその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１５３）にて実行される処理の内容と同一である。つまり、「操作無し」の場合にはＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）、設定値更新処理（図１５７）及び設定確認用処理（図１５５）はいずれも実行されることはなく、「ＲＡＭクリア操作」の場合にはＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されるものの設定値更新処理（図１５７）及び設定確認用処理（図１５５）は実行されることはなく、「設定確認操作」の場合には設定確認用処理（図１５５）が実行されるもののＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）及び設定値更新処理（図１５７）は実行されない。

【２０１７】

これに対して、「設定変更操作」の場合にはＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行された後に設定値更新処理（図１５７）が再開される。この場合、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）では特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定参照用エリア３４１だけではなく、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグ及び設定更新用エリア３４２が初期化の対象から除外されている。したがって、設定更新表示フラグに「１」がセットされている状況でＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）が実行されたとしても、その後の設定値更新処理（図１５７）の開始に際しては設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態となり、設定更新用エリア３４２にその時点で記憶されている設定値の情報から設定値の更新が開始される。

【２０１８】

上記構成であることにより、設定値の更新が行われている途中で動作電力の供給が停止されたとしても、その後の動作電力の供給の再開に際しての遊技ホールの管理者による操作内容に対応する処理の実行を優先させることが可能となる。

【２０１９】

また、設定値の更新が行われている途中で動作電力の供給が停止された場合において「設定変更操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合には、動作電力の供給が停止される直前における更新途中の設定値から当該設定値の更新を再開させることが可能となる。これにより、設定値の変更作業をそのまま継続させることが可能となる。

【２０２０】

＜第４９の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行されるメイン処理の処理構成が上記第４５の実施形態と相違している。以下、上記第４５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第４５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２０２１】

図１６５は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２８の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２０２２】

まず電源投入初期設定処理を実行する（ステップＳＢ１０１）。電源投入初期設定処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。このウエイト用の所定期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。また、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する。

【２０２３】

その後、内部機能レジスタ設定処理を実行する（ステップＳＢ１０２）。内部機能レジスタ設定処理では上記第３５の実施形態と同様に、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第１タイマ割込み処理（図１３３）の割込み周期を第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）に設定するとともに、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込み周期を上記第１割込み周期よりも短い周期である第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）に設定する。

【２０２４】

つまり、本実施形態では上記第３５の実施形態と同様に、タイマ割込み処理として割込み周期が相対的に長短となるように第１タイマ割込み処理（図１３３）と第２タイマ割込み処理（図１３４）とが存在している。第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）はいずれもメイン処理に対して割り込んで起動される。また、第２タイマ割込み処理（図１３４）は第１タイマ割込み処理（図１３３）に対して割り込んで起動される。一方、第１タイマ割込み処理（図１３３）は第２タイマ割込み処理（図１３４）に対して割り込んで起動されない。また、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の両方が実行されていない状況において第１割込み

周期及び第２割込み周期の両方が経過している場合、それら周期の経過順序に関係なく第２タイマ割込み処理（図１３４）から先に起動される。この点、第２タイマ割込み処理（図１３４）は第１タイマ割込み処理（図１３３）よりも優先して起動される処理であると言える。但し、これに限定されることはなく第１タイマ割込み処理（図１３３）が第２タイマ割込み処理（図１３４）よりも優先して起動される構成としてもよい。

【２０２５】

内部機能レジスタ設定処理では、第１タイマ割込み処理（図１３３）の第１割込み周期を主側ＣＰＵ６３の所定のレジスタに設定するとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）の第２割込み周期を主側ＣＰＵ６３の特定のレジスタに設定する。また、内部機能レジスタ設定処理では上記第１，第２割込み周期の設定以外にも例えば当たり乱数カウンタＣ１の数値範囲といった各種カウンタの数値範囲の設定処理などを実行する。

【２０２６】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた立ち上げ処理中フラグに「１」をセットする（ステップＳＢ１０３）。立ち上げ処理中フラグは上記第３５の実施形態と同様に、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）に設定されている各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行する一方、遊技を進行させるための処理を実行することなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）を終了すべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【２０２７】

立ち上げ処理中フラグは、メイン処理（図１６５）において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が開始された場合に「１」がセットされ、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了して残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が開始される前に「０」クリアされる。上記第３５の実施形態と同様に第１タイマ割込み処理（図１３３）では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合にはステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しないようにすることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）のうち後述する設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況において遊技を進行させるための処理が実行されないようにすることが可能となる。その一方、上記のとおり第１タイマ割込み処理（図１３３）では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合であってもステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行することで、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）のうち後述する設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。

【２０２８】

特に、立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている状況であっても停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）が実行されることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）のうち後述する設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況において停電が発生したとしてもそれに対して停電時処理を実行することが可能となる。停電時処理では上記第３５の実施形態と同様に、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１に保存するため、動作電力の供給が再度開始された場合には主側ＲＡＭ６５の異常発生と特定されないようにすることが可能となる。これにより、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）の途中で停電が発生した場合には、これら設定関連処理の途中で停電が発生したことを次回の動作電力の供給開始時に特定することが可能となる。

【２０２９】
ちなみに、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況では、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）のいずれについても割込みが禁止されることはなく任意のタイミングで割込み可能となっている。この場合、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）において第１タイマ割込み処理（図１３３）又は第２タイマ割込み処理（図１３４）が割り込んで起動される場合には、その起動対象となったタイマ割込み処理が終了した後に復帰するためのメイン処理（図１６５）の戻り番地の情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されるとともに、当該タイマ割込み処理が起動される直前における主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避される。そして、起動対象となったタイマ割込み処理が終了した場合には特定制御用のスタックエリア２２２に退避された戻り番地の情報に対応するメイン処理（図１６５）の処理に復帰することとなるとともに、特定制御用のスタックエリア２２２に退避された情報が主側ＣＰＵ６３の各種レジスタに復帰される。
【２０３０】
ステップＳＢ１０３にて立ち上げ処理中フラグに「１」をセットした後は、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＢ１０４）。第１タイマ割込み処理（図１３３）の停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）にて停電時処理が実行された場合に停電フラグに「１」がセットされる。停電フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われたか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。
【２０３１】
停電フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＢ１０４：ＹＥＳ）、チェックサムが正常であるか否かを判定する（ステップＳＢ１０５）。具体的には、まず特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてチェックサムを算出する。チェックサムの算出方法は上記第３３の実施形態と同一である。その後、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理において算出されて特定制御用のワークエリア２２１に保存された特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムを読み出すとともに、その読み出したチェックサムを、今回のメイン処理にて上記のように算出したチェックサムと比較する。そして、それらチェックサムが一致しているか否かを判定する。
【２０３２】
チェックサムが一致している場合（ステップＳＢ１０５：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定参照用エリア３４１（図１５４参照）に格納された情報に対応する設定値が正常な範囲であるか否かを判定する（ステップＳＢ１０６）。設定参照用エリア３４１は上記第４５の実施形態と同様に現状のパチンコ機１０の設定値を主側ＣＰＵ６３にて特定するための情報が格納される記憶エリアである。設定参照用エリア３４１に「１」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定１」となる。設定参照用エリア３４１に「２」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定２」となる。設定参照用エリア３４１に「３」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定３」となる。設定参照用エリア３４１に「４」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定４」となる。設定参照用エリア３４１に「５」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定５」となる。設定参照用エリア３４１に「６」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定６」となる。ステップＳＢ１０６では設定参照用エリア３４１に格納された設定値の情報が「１」～「６」のいずれかであるか否かを判定する。
【２０３３】
ステップＳＢ１０４～ステップＳＢ１０６の全てで肯定判定をした場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否か

を判定する（ステップＳＢ１０７）。設定更新表示フラグは上記第３５の実施形態と同様に設定値更新処理（図１６７）が実行されていることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグであり、設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を更新している状況であることを示す表示及び更新途中の設定値を示す表示が行われる。設定更新表示フラグは、設定値更新処理（図１６７）が開始された場合に「１」がセットされ設定値更新処理（図１６７）が終了される場合に「０」クリアされるフラグであるため、設定値更新処理（図１６７）が実行されていない状況においては基本的に設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合において設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態となる。この設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態は設定値更新処理（図１６７）において設定更新表示フラグを「０」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【２０３４】

設定更新表示フラグに「１」がセットされていないことでステップＳＢ１０７にて否定判定をした場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＢ１０８）。つまり、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている状態においてパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われて主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたか否かを判定する。ここで、本実施形態では上記第３５の実施形態と同様に、主制御装置６０に設定キー挿入部６８ａ及びリセットボタン６８ｃが設けられているものの更新ボタン６８ｂは設けられていない。また、主制御装置６０には第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃではなく第１１の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が設けられている。

【２０３５】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＢ１０８：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＢ１０９）。遊技停止フラグは、停電フラグに「１」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合に「１」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。ステップＳＢ１０９にて肯定判定をした場合、後述するステップＳＢ１２１及びステップＳＢ１２２の処理を実行する。

【２０３６】

ステップＳＢ１０９にて否定判定をした場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定する（ステップＳＢ１１０）。設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されている場合（ステップＳＢ１１０：ＹＥＳ）、設定確認用処理を実行する（ステップＳＢ１１２）。また、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていない場合であっても（ステップＳＢ１１０：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＢ１１１：ＹＥＳ）、設定確認用処理を実行する（ステップＳＢ１１２）。

【２０３７】

設定確認表示フラグは上記第３５の実施形態と同様に設定確認用処理（図１６６）が実

行されていることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグであり、設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状設定されている設定値を示す表示が行われる。設定確認表示フラグは、設定確認用処理（図１６６）が開始された場合に「１」がセットされ設定確認用処理（図１６６）が終了される場合に「０」クリアされるフラグであるため、設定確認用処理（図１６６）が実行されていない状況においては基本的に設定確認表示フラグに「１」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定確認用処理（図１６６）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合において設定確認表示フラグに「１」がセットされた状態となる。この設定確認表示フラグに「１」がセットされた状態は後述する第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行されるか、後述する設定値更新処理（図１６７）が実行されるか、又は設定確認用処理（図１６６）において設定確認表示フラグを「０」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【２０３８】

上記のようにリセットボタン６８ｃが押圧操作されていない状況であって設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている場合（すなわち「設定確認操作」が行われた場合）だけではなく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない状況であって設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合にも設定確認用処理（図１６６）が実行されることにより、設定確認用処理（図１６６）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の再開に際して「設定確認操作」が行われなかったとしても設定確認用処理（図１６６）が実行される。これにより、パチンコ機１０の現状の設定値の確認を引き続き行わせることが可能となる。一方、設定確認用処理（図１６６）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合であってもその後の動作電力の供給の再開に際してリセットボタン６８ｃが押圧操作された場合には、設定確認用処理（図１６６）が実行されることなく第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）及び設定値更新処理（図１６７）のうち動作電力の供給の再開に際して行われた操作に対応する処理が実行される。これにより、設定確認用処理（図１６６）よりも第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）又は設定値更新処理（図１６７）の実行を優先させることが可能となる。

【２０３９】

ここで、ステップＳＢ１１２にて実行される設定確認用処理について説明する。図１６６は設定確認用処理を示すフローチャートである。なお、設定確認用処理におけるステップＳＢ２０１～ステップＳＢ２０７の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２０４０】

まず割込み許可の設定を行う（ステップＳＢ２０１）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）が第２割込み周期で割り込んで起動される。

【２０４１】

本実施形態においては動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）では基本的に第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止されており、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）において割込みが許可される。したがって、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）において設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）が実行されていない状況においては第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が禁止され、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が許可される。但し、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況にお

いては立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了される。

【２０４２】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定確認表示フラグに「１」がセットされていないことを条件として、設定確認表示フラグに「１」をセットする（ステップＳＢ２０２）。設定確認表示フラグに「１」がセットされることにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００５にて肯定判定をすることで、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００６）を実行する。当該設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理の処理内容は上記第４５の実施形態と同一である。当該処理が実行されることにより、例えば図１２４（ｂ）の説明図に示すように、パチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。

【２０４３】

その後、確認開始コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＢ２０３）。音声発光制御装置８１は確認開始コマンドを受信することにより、設定確認用処理（図１６６）が実行されていることを示す画像及び設定確認用処理（図１６６）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定確認用処理（図１６６）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。また、設定確認用処理（図１６６）が実行されていることを示す外部出力が例えば遊技ホールの管理コンピュータといったパチンコ機１０外部の装置に対して行われる構成としてもよい。

【２０４４】

その後、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する（ステップＳＢ２０４）。具体的には、上記第４５の実施形態における設定確認用処理（図１５５）と同様に、設定キー挿入部６８ａの状態を検知する検知センサから受信している信号の受信状態がＯＮ状態に対応する受信状態からＯＦＦ状態に対応する受信状態となったか否かを判定する。したがって、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態に維持されている場合だけではなく、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態である状況で設定確認用処理（図１６６）が開始された場合においてそのＯＦＦ状態が維持されている場合にもステップＳＢ２０４にて否定判定をする。設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定していない場合（ステップＳＢ２０４：ＮＯ）、ステップＳＢ２０４の処理を繰り返す。

【２０４５】

設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定した場合（ステップＳＢ２０４：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグを「０」クリアする（ステップＳＢ２０５）。これにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００５にて否定判定をすることで、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００６）が実行されない状況となる。したがって、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。

【２０４６】

その後、割込み禁止の設定を行う（ステップＳＢ２０６）。これにより、設定確認用処理（図１６６）を終了してメイン処理（図１６５）における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）に復帰する場合には第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止される。

【２０４７】

その後、確認時の復帰コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＢ２０７）。音声発光制御装置８１は確認時の復帰コマンドを受信することにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）にて設定確認用処理（図１６６）が実行されたことを特定する。そして、確認時の復帰コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。

【２０４８】

上記のとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作することなく設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作した状態でパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われることにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されてメイン処理（図１６５）が開始された状況においてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていないとともに設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作された状態となり、メイン処理（図１６５）にて遊技を進行させるための処理が実行される前の状況である動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において設定確認用処理（図１６６）が実行される。これにより、遊技が行われていない状況下において設定値の確認を行うことが可能となる。

【２０４９】

メイン処理（図１６５）の説明に戻り、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていない場合であって設定確認表示フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＢ１１０及びステップＳＢ１１１：ＮＯ）、通常復帰コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＢ１１３）。音声発光制御装置８１は通常復帰コマンドを受信することにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）にて第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）のいずれもが実行されていないことを特定する。そして、通常復帰コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。

【２０５０】

一方、ステップＳＢ１０８にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていると判定した場合（ステップＳＢ１０８及びステップＳＢ１１４：ＹＥＳ）、又はステップＳＢ１０７にて設定更新表示フラグに「１」がセットされていると判定した場合、設定値更新処理を実行する（ステップＳＢ１１５）。上記のようにリセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合であって設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている場合（すなわち「設定変更操作」が行われた場合）だけではなく、リセットボタン６８ｃの押圧操作及び設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作の有無に関係なく設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合にも設定値更新処理（図１６７）が実行されることにより、設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の開始に際しての操作内容が「操作無し」、「ＲＡＭクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれであったとしても設定値更新処理（図１６７）が実行される。これにより、設定値更新処理（図１６７）の実行を優先させることが可能となる。

【２０５１】

ここで、ステップＳＢ１１５にて実行される設定値更新処理について説明する。図１６７は設定値更新処理を示すフローチャートである。なお、設定値更新処理におけるステッ

プＳＢ３０１～ステップＳＢ３１４の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２０５２】

まず割込み許可の設定を行う（ステップＳＢ３０１）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）が第２割込み周期で割り込んで起動される。

【２０５３】

本実施形態においては動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）では基本的に第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止されており、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）において割込みが許可される。したがって、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）において設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）が実行されていない状況においては第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が禁止され、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が許可される。但し、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了される。

【２０５４】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」がセットされていないことを条件として、設定更新表示フラグに「１」をセットする（ステップＳＢ３０２）。設定更新表示フラグに「１」がセットされることにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００３にて肯定判定をすることで、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００４）を実行する。当該設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理の処理内容は上記第４５の実施形態と同一である。当該処理が実行されることにより、例えば図１２４（ａ）の説明図に示すように、パチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の更新対象として選択されている設定値の表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。

【２０５５】

その後、開始時の初期設定を行う（ステップＳＢ３０３）。当該初期設定では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグを「０」クリアする。遊技停止フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＢ１０４：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合（ステップＳＢ１０５：ＮＯ）、又は設定参照用エリア３４１に格納された情報に対応する設定値が正常な範囲ではない場合に（ステップＳＢ１０６：ＮＯ）、メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１１９にて「１」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、上記のような主側ＲＡＭ６５の情報異常が発生した場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。ステップＳＢ３０３の処理にて遊技停止フラグを「０」クリアすることで、主側ＲＡＭ６５の情報異常の発生が特定されている状態を設定値更新処

理（図１６７）が実行された場合に解除することが可能となる。
【２０５６】
その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新用エリア３４２（図１５４参照）に「１」を設定する（ステップＳＢ３０４）。設定更新用エリア３４２は上記第４５の実施形態と同様に設定値更新処理（図１６７）において更新途中の設定値の情報が格納される記憶エリアである。設定更新用エリア３４２に「１」の数値情報が格納されている場合には更新対象（選択対象又は変更対象）の設定値は「設定１」となる。設定更新用エリア３４２に「２」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定２」となる。設定更新用エリア３４２に「３」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定３」となる。設定更新用エリア３４２に「４」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定４」となる。設定更新用エリア３４２に「５」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定５」となる。設定更新用エリア３４２に「６」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定６」となる。
【２０５７】
ステップＳＢ３０４にて設定更新用エリア３４２に「１」を設定することで、更新対象の設定値が「設定１」となる。つまり、本実施形態ではパチンコ機１０の現状の設定値がいずれであったとしても設定値更新処理（図１６７）が開始された場合には更新対象の設定値は「設定１」となる。
【２０５８】
その後、更新開始コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＢ３０５）。音声発光制御装置８１は更新開始コマンドを受信することにより、設定値更新処理（図１６７）が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理（図１６７）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、設定値を変更している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定値を変更させるために必要な操作内容及び設定値更新処理（図１６７）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。また、設定値更新処理（図１６７）が実行されていることを示す外部出力が例えば遊技ホールの管理コンピュータといったパチンコ機１０外部の装置に対して行われる構成としてもよい。
【２０５９】
その後、設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報が「１」～「６」のいずれかであるか否かを判定する（ステップＳＢ３０６）。「１」～「６」のいずれかではない場合（ステップＳＢ３０６：ＮＯ）、設定更新用エリア３４２に「１」を設定する（ステップＳＢ３０７）。これにより、更新対象の設定値が「設定１」となる。
【２０６０】
ステップＳＢ３０６にて肯定判定をした場合又はステップＳＢ３０７の処理を実行した場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する（ステップＳＢ３０８）。具体的には、設定キー挿入部６８ａの状態を検知する検知センサから受信している信号の受信状態が、ＯＮ状態に対応する受信状態からＯＦＦ状態に対応する受信状態となったか否かを判定する。したがって、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態に維持されている場合だけではなく、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態である状況で設定値更新処理が開始された場合においてそのＯＦＦ状態が維持されている場合にもステップＳＢ３０８にて否定判定をする。
【２０６１】
ステップＳＢ３０８にて否定判定をした場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていることを条件として（ステップＳＢ３０９：ＹＥＳ）、設定更新用エリア３４２の値を

１加算する（ステップＳＢ３１０）。これにより、リセットボタン６８ｃが１回押圧操作される度に１段階上の設定値に更新される。また、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＢ３０９：ＮＯ）又は設定更新用エリア３４２の値を１加算した場合にはステップＳＢ３０６の処理に戻ることとなるが、ステップＳＢ３０６にて設定更新用エリア３４２の値が７以上であると判定されると、ステップＳＢ３０７にて設定更新用エリア３４２に「１」がセットされる。これにより、「設定６」の状況でリセットボタン６８ｃが１回押圧操作された場合には「設定１」に戻ることになる。

【２０６２】

設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定した場合（ステップＳＢ３０８：ＹＥＳ）、設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報を設定参照用エリア３４１に上書きする（ステップＳＢ３１１）。これにより、今回の設定値更新処理（図１６７）にて更新された結果の設定値の情報が設定参照用エリア３４１に設定された状態となり、その設定された情報に対応する設定値が現状のパチンコ機１０の設定値となる。

【２０６３】

その後、割込み禁止の設定を行う（ステップＳＢ３１２）。これにより、設定値更新処理（図１６７）を終了してメイン処理（図１６５）における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）に復帰する場合には第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止される。

【２０６４】

その後、第２ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＢ３１３）。第２ＲＡＭクリア処理では、上記第４５の実施形態におけるＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）と同様に、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア３４１）を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「０」クリアされるため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示されていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグ及び設定確認表示フラグを「０」クリアする。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新用エリア３４２を「０」クリアする。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグを「０」クリアする。また、第２ＲＡＭクリア処理では特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。また、第２ＲＡＭクリア処理では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を実行する。この初期設定ではステップＳＢ１０２の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。なお、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４については「０」クリアするための処理及び初期設定を行うための処理は実行しない。

【２０６５】

その後、更新時の復帰コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＢ３１４）。音声発光制御装置８１は更新時の復帰コマンドを受信することにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）にて設定値更新処理（図１６７）が実行されたことを特定する。そして、更新時の復帰コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。

【２０６６】
上記のとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うだけではなくさらに設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うことに基づき、設定値更新処理（図１６７）が実行される。また、既に説明したとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作することなく設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うことに基づき、設定確認用処理（図１６６）が実行される。これにより、設定値に関する設定関連処理が実行されるための操作として、設定キー挿入部６８ａに対するＯＮ操作を共通させることが可能となる。よって、設定関連処理を発生させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。

【２０６７】
また、設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行う場合であって、リセットボタン６８ｃの押圧操作を付加しない場合には設定確認用処理（図１６６）が実行され、リセットボタン６８ｃの押圧操作を付加する場合には設定値更新処理（図１６７）が実行される。これにより、リセットボタン６８ｃの押圧操作の有無によって設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）のうち実行対象の処理を相違させることが可能となる。よって、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）のうち所望の処理を実行させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。また、設定確認用処理（図１６６）よりも設定値更新処理（図１６７）を実行させるための操作内容を多くすることにより、設定値更新処理（図１６７）を不正に行わせる行為を特に行いづらくさせることが可能となる。

【２０６８】
メイン処理（図１６５）の説明に戻り、ステップＳＢ１０８にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていないと判定した場合（ステップＳＢ１１４：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＢ１１６）。遊技停止フラグは、停電フラグに「１」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合に「１」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【２０６９】
遊技停止フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＢ１１６：ＮＯ）、第１ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＢ１１７）。第１ＲＡＭクリア処理では、上記第４５の実施形態におけるＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）と同様に、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア３４１）を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「０」クリアされるため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示されていない状

況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグ及び設定確認表示フラグを「０」クリアする。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新用エリア３４２を「０」クリアする。また、第１ＲＡＭクリア処理では特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。また、第１ＲＡＭクリア処理では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を実行する。この初期設定ではステップＳＢ１０２の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。

【２０７０】

なお、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４については「０」クリアするための処理及び初期設定を行うための処理は実行しない。また、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）の処理内容は設定値更新処理（図１６７）における第２ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ３１３）の処理内容と同一であるが、これら処理内容の一部が相違している構成としてもよい。例えば、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）では「０」クリア及び初期設定の対象となるエリアが第２ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ３１３）では「０」クリア及び初期設定の対象とはならない構成としてもよく、第２ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ３１３）では「０」クリア及び初期設定の対象となるエリアが第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）では「０」クリア及び初期設定の対象とはならない構成としてもよい。

【２０７１】

その後、クリア時の復帰コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＢ１１８）。音声発光制御装置８１はクリア時の復帰コマンドを受信することにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）にて第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行されたことを特定する。そして、クリア時の復帰コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。

【２０７２】

メイン処理（図１６５）においてステップＳＢ１０４～ステップＳＢ１０６のいずれかにて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「１」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」をセットする（ステップＳＢ１１９）。既に説明したとおり遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【２０７３】

その後、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＢ１２０）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＢ１２０：ＮＯ）、動作電力の供給開始時において停電フラグ、チェックサム又は設定値に関して異常が発生したことを示す異常コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＢ１２１）。音声発光制御装置８１は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を動作電力の供給開始時における情報異常に対応する態様で発光させるとともに、スピ

ーカ部５４から「設定変更をして下さい。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機１０への動作電力の供給が一旦停止されたとしても設定値更新処理（図１６７）が実行されるまではパチンコ機１０への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が再度開始されることとなる。

【２０７４】

その後、異常時の外部出力処理を実行する（ステップＳＢ１２２）。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間（例えば１００ミリ秒）に亘って行われる。但し、これに限定されることはなく遊技停止フラグに「１」がセットされている状況下においては異常信号の信号出力が継続され、遊技停止フラグが「０」クリアされることで異常信号の信号出力が停止される構成としてもよい。また、異常信号は、停電フラグ、チェックサム及び設定値に関する異常とは異なる異常が発生した場合にも出力され得る。例えば、第１タイマ割込み処理（図１３３）の不正検知処理（ステップＳ８９０５）において監視対象の不正（不正な電波の検知や不正の磁気の検知）が発生したことを特定した場合にも異常信号が外部出力される。但し、このように異常信号が兼用される構成に限定されることはなく、停電フラグ、チェックサム又は設定値に関する異常に対して専用となる異常信号が外部出力される構成としてもよく、停電フラグに関する異常、チェックサムに関する異常及び設定値に関する異常のそれぞれに対応する異常信号が外部出力される構成としてもよい。

【２０７５】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合（ステップＳＢ１２０：ＹＥＳ）、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定する（ステップＳＢ１１４）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されているとともに設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されている場合（ステップＳＢ１１４及びステップＳＢ１２０：ＹＥＳ）、設定値更新処理を実行する（ステップＳＢ１１５）。設定値更新処理の処理内容は既に説明したとおりである。つまり、「設定変更操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力が供給された場合、主側ＲＡＭ６５について異常が発生していることでステップＳＢ１０４～ステップＳＢ１０６のいずれかにて否定判定をした場合であっても設定値更新処理（図１６７）が実行される。これにより、設定値の変更を優先させることが可能となる。また、設定値更新処理（図１６７）では既に説明したとおりステップＳＢ３０３にて開始時の初期設定が実行されることで遊技停止フラグが「０」クリアされる。これにより、設定値更新処理（図１６７）が実行された場合には、設定値の更新が完了した後に、主側ＲＡＭ６５について異常が発生している状態を解消させることが可能となる。

【２０７６】

一方、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているものの設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていない場合（ステップＳＢ１２０：ＹＥＳ、ステップＳＢ１１４：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＢ１１６）。ステップＳＢ１１９にて遊技停止フラグに「１」がセットされた後におけるステップＳＢ１１６の処理では当然のことながら遊技停止フラグに「１」がセットされているため、ステップＳＢ１１６にて肯定判定をする。この場合、ステップＳＢ１２１にて音声発光制御装置８１に異常コマンドを送信するとともに、ステップＳＢ１２２にて異常信号を外部出力する。

【２０７７】

つまり、停電フラグ、チェックサム及び設定値に関する異常が発生してステップＳＢ１０４～ステップＳＢ１０６のいずれかにて否定判定をした場合、「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたとしても第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）は実行されない。また、遊技停止フラグに「１」がセ

ットされている状況であって「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合にも第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）は実行されない。これにより、「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたとしても遊技停止フラグに「１」がセットされた状態が解消されないようにすることが可能となる。これに対して、「設定変更操作」が行われている場合には遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かに関係なく設定値更新処理（図１６７）が実行されるとともに当該設定値更新処理（図１６７）の開始時の初期設定（ステップＳＢ３０３）にて遊技停止フラグが「０」クリアされる。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされた状態を解消するためには設定値更新処理（図１６７）を実行する必要が生じることとなる。よって、特定制御用のワークエリア２２１の情報異常の発生に際しては当該特定制御用のワークエリア２２１を初期化するための処理だけではなく、設定値の再設定を要するようにすることが可能となる。

【２０７８】

また、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合には、「設定変更操作」が行われていない場合、すなわち「操作無し」の場合又は「ＲＡＭクリア操作」若しくは「設定確認操作」が行われた場合、ステップＳＢ１０９又はステップＳＢ１１６にて肯定判定をすることで、ステップＳＢ１２１にて異常コマンドを送信するとともにステップＳＢ１２２にて異常時の外部出力処理を実行する。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされた場合には、その後のメイン処理におけるステップＳＢ１０４～ステップＳＢ１０６の処理結果に関係なく、設定値更新処理（図１６７）が実行されない限り、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始される度にパチンコ機１０における異常報知及びパチンコ機１０の外部への異常時の外部出力が行われる。よって、遊技ホールの管理者に設定値を変更すべきことを認識させることが可能となる。

【２０７９】

ステップＳＢ１１２の処理を実行した場合、ステップＳＢ１１３の処理を実行した場合、ステップＳＢ１１５の処理を実行した場合、ステップＳＢ１１８の処理を実行した場合、又はステップＳＢ１２２の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する情報をセットする（ステップＳＢ１２３）。チェック中カウンタにセットされた値は上記第３５の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図１３４）が起動される度に１減算される。チェック中カウンタに１以上の値が設定されている場合、上記第３５の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。

【２０８０】

上記構成によれば主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、当該主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了した後であって残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が開始される前に、初期チェック期間が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において初期チェック期間を制御する必要がないため、当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況における処理負荷を軽減することが可能となる。

【２０８１】

また、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）として実行されるのに対して、初期チェック期間は動作電力の供給開始時の処理が終了した後に開始される。これにより、初期チェック期間において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われるとしても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用した設定値の表示に影響を与えないようにすることが可能となる。

【２０８２】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグを「０」クリアする（ステップＳＢ１２４）。立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされることにより

、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動された場合にステップＳ８９０６にて否定判定をすることでステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理だけではなくステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行することとなり、遊技を進行させるための処理が実行されない状態が解除される。なお、ステップＳＢ１２４では特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグも「０」クリアする。

【２０８３】

その後、ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８の残余処理に進む。つまり、主側ＣＰＵ６３は第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）を定期的に実行する構成であるが、１のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は各タイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８の残余処理は非定期的に実行される非定期処理であると言える。ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８では、上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のステップＳ１１３～ステップＳ１１６と同一の処理を実行する。

【２０８４】

次に、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが許可される様子について図１６８のタイムチャートを参照しながら説明する。図１６８（ａ）はパチンコ機１０の電源がＯＮ状態となっている期間を示し、図１６８（ｂ）は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が実行されている期間を示し、図１６８（ｃ）は特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている期間を示し、図１６８（ｄ）は残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が実行されている期間を示し、図１６８（ｅ）は割込みが許可されている期間を示し、図１６８（ｆ）は第１タイマ割込み処理（図１３３）又は第２タイマ割込み処理（図１３４）が実行されている期間を示し、図１６８（ｇ）は設定値更新処理（図１６７）が実行されている期間を示し、図１６８（ｈ）は設定確認用処理（図１６６）が実行されている期間を示す。

【２０８５】

まず動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）において設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）の両方が実行されない場合について説明する。

【２０８６】

ｔ１のタイミングで図１６８（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われる。この場合、「ＲＡＭクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれもが行われない「操作無し」の状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われている。当該ｔ１のタイミングで、図１６８（ｂ）に示すように主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が開始される。また、図１６８（ｃ）に示すように特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされた状態となる。

【２０８７】

その後、ｔ２のタイミングで、図１６８（ｂ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了して、図１６８（ｄ）に示すように残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が開始される。また、当該ｔ２のタイミングで図１６８（ｃ）に示すように特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされる。なお、残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が開始されたタイミングでは図１６８（ｅ）に示すように割込みは許可されない。

【２０８８】

その後、ｔ３のタイミングで、図１６８（ｄ）に示すように残余処理（ステップＳＢ１

２５～ステップＳＢ１２８）が終了するとともに図１６８（ｅ）に示すように割込みが許可される。これにより、図１６８（ｆ）に示すようにタイマ割込み処理が開始される。この場合、第２タイマ割込み処理（図１３４）が先に実行され当該第２タイマ割込み処理（図１３４）が終了した場合に第１タイマ割込み処理（図１３３）が実行される。但し、これに限定されることはなく、第１タイマ割込み処理（図１３３）が先に実行され当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了した場合に第２タイマ割込み処理（図１３４）が実行される構成としてもよい。

【２０８９】

次に、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）において設定値更新処理（図１６７）が実行される場合について説明する。

【２０９０】

ｔ４のタイミングで図１６８（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われる。この場合、「設定変更操作」が行われた状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われている。当該ｔ４のタイミングで、図１６８（ｂ）に示すように主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が開始される。また、図１６８（ｃ）に示すように特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされた状態となる。

【２０９１】

その後、ｔ５のタイミングで図１６８（ｇ）に示すように設定値更新処理（図１６７）が開始される。この場合、当該ｔ５のタイミングで図１６８（ｅ）に示すように割込みが許可される。割込みが許可されることでｔ６のタイミングで図１６８（ｆ）に示すようにタイマ割込み処理が開始される。この場合、第２タイマ割込み処理（図１３４）が先に実行され当該第２タイマ割込み処理（図１３４）が終了した場合に第１タイマ割込み処理（図１３３）が実行される。但し、これに限定されることはなく、第１タイマ割込み処理（図１３３）が先に実行され当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了した場合に第２タイマ割込み処理（図１３４）が実行される構成としてもよい。また、第１タイマ割込み処理（図１３３）が実行されたとしても図１６８（ｃ）に示すように立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理は実行されない。

【２０９２】

タイマ割込み処理は図１６８（ｆ）に示すようにｔ７のタイミングで終了し、その後、ｔ８のタイミングで図１６８（ｇ）に示すように設定値更新処理（図１６７）が終了する。そして、当該ｔ８のタイミングで図１６８（ｂ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了するとともに図１６８（ｃ）に示すように立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされる。また、当該ｔ８のタイミングで図１６８（ｄ）に示すように残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が開始される。

【２０９３】

次に、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）において設定確認用処理（図１６６）が実行される場合について説明する。

【２０９４】

ｔ９のタイミングで図１６８（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われる。この場合、「設定確認操作」が行われた状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われている。当該ｔ９のタイミングで、図１６８（ｂ）に示すように主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が開始される。また、図１６８（ｃ）に示すように特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされた状態となる。

【２０９５】

その後、ｔ１０のタイミングで図１６８（ｈ）に示すように設定確認用処理（図１６６）が開始される。この場合、当該ｔ１０のタイミングで図１６８（ｅ）に示すように割込

みが許可される。割込みが許可されることでｔ１１のタイミングで図１６８（ｆ）に示すようにタイマ割込み処理が開始される。この場合、第２タイマ割込み処理（図１３４）が先に実行され当該第２タイマ割込み処理（図１３４）が終了した場合に第１タイマ割込み処理（図１３３）が実行される。但し、これに限定されることはなく、第１タイマ割込み処理（図１３３）が先に実行され当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了した場合に第２タイマ割込み処理（図１３４）が実行される構成としてもよい。また、第１タイマ割込み処理（図１３３）が実行されたとしても図１６８（ｃ）に示すように立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理は実行されない。

【２０９６】

タイマ割込み処理は図１６８（ｆ）に示すようにｔ１２のタイミングで終了し、その後、ｔ１３のタイミングで図１６８（ｈ）に示すように設定確認用処理（図１６６）が終了する。そして、当該ｔ１３のタイミングで図１６８（ｂ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了するとともに図１６８（ｃ）に示すように立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされる。また、当該ｔ１３のタイミングで図１６８（ｄ）に示すように残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が開始される。

【２０９７】

上記のとおり動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）において設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）が実行されていない状況においては第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が禁止され、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が許可される。設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）が実行されない場合には動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）の途中でタイマ割込み処理が割り込んで起動されないようにすることで、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）を早期に完了させることが可能となる。

【２０９８】

その一方、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）が実行される場合には遊技ホールの管理者の操作に応じた処理が実行されるため、これら処理に滞在する期間が長くなる。この場合に設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況であってもタイマ割込み処理の割込みが禁止されたままであるとすると、タイマ割込み処理の実行開始タイミングが極端に遅くなってしまう。これに対して、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行される場合にはタイマ割込み処理の割込みが許可される。これにより、タイマ割込み処理の実行開始タイミングが極端に遅くなってしまわないようにすることが可能となる。また、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況において、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を表示制御するための処理が実行される第２タイマ割込み処理（図１３４）が割り込んで実行されることにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）を利用して第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて設定値に関する表示を行わせることが可能となる。

【２０９９】

また、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている。したがって、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても、当該第１タイマ割込み処理（図１３３）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないようにすることが可能となる。

【２１００】
次に、停電フラグ、チェックサム又は設定値に関する異常が発生した場合における処理の進行態様について図１６９のタイムチャートを参照しながら説明する。図１６９（ａ）はパチンコ機１０の電源がＯＮ状態となっている期間を示し、図１６９（ｂ）は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が実行されている期間を示し、図１６９（ｃ）は残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が実行されている期間を示し、図１６９（ｄ）は第１タイマ割込み処理（図１３３）又は第２タイマ割込み処理（図１３４）が実行されている期間を示し、図１６９（ｅ）は特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされている期間を示し、図１６９（ｆ）は異常信号が外部出力されている期間を示し、図１６９（ｇ）は設定値更新処理（図１６７）が実行されている期間を示す。
【２１０１】
ｔ１のタイミングで図１６９（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われる。この場合、「ＲＡＭクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれもが行われない「操作無し」の状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われている。当該ｔ１のタイミングで、図１６８（ｂ）に示すように主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が開始される。
【２１０２】
その後、ｔ２のタイミングで停電フラグ、チェックサム及び設定値のいずれかに関する異常の発生が特定されることにより、図１６９（ｅ）に示すように特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされた状態となる。また、当該ｔ２のタイミングで図１６９（ｆ）に示すように異常信号の外部出力が開始される。これにより、パチンコ機１０において停電フラグ、チェックサム及び設定値のいずれかに関する異常が発生したことを遊技ホールの管理コンピュータにおいて特定することが可能となる。
【２１０３】
その後、ｔ３のタイミングで図１６９（ｂ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了するとともに図１６９（ｃ）に示すように残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が開始される。また、ｔ４のタイミングで図１６９（ｆ）に示すように異常信号の外部出力が終了される。ｔ２のタイミング～ｔ４のタイミングの所定期間（例えば１００ミリ秒）に亘って異常信号の外部出力が継続されることにより、パチンコ機１０において停電フラグ、チェックサム及び設定値のいずれかに関する異常が発生したことを遊技ホールの管理コンピュータにおいて正確に特定することが可能となる。また、異常信号の外部出力が継続される期間が所定期間で一定となっていることにより、当該異常信号の外部出力を行うための処理構成を簡素化することが可能となる。なお、異常信号の外部出力だけではなく、図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４における異常報知も実行される。
【２１０４】
その後、ｔ５のタイミングで図１６９（ｃ）に示すように残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が終了する。そして、ｔ５のタイミング～ｔ６のタイミングに亘って図１６９（ｄ）に示すようにタイマ割込み処理が実行され、ｔ６のタイミング～ｔ７のタイミングに亘って図１６９（ｃ）に示すように残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が実行され、ｔ７のタイミング～ｔ８のタイミングに亘って図１６９（ｄ）に示すようにタイマ割込み処理が実行される。但し、図１６９（ｅ）に示すように遊技停止フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が実行されたとしても、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行されるものの、遊技を進行させるための処理は実行されない。ｔ８のタイミングで第１タイマ割込み処理（図１３３）にて停電時処理が実行され、図１６９（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源がＯＦＦ状態となる。
【２１０５】
その後、ｔ９のタイミングで、図１６９（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源が再

度ＯＮ状態となり、図１６９（ｂ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が開始される。この場合、図１６９（ｅ）に示すように特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされている。したがって、ｔ１０のタイミング～ｔ１２のタイミングに亘って図１６９（ｆ）に示すように異常信号の外部出力が行われる。これにより、パチンコ機１０において停電フラグ、チェックサム及び設定値のいずれかに関する異常が発生していることを遊技ホールの管理コンピュータに再度認識させることが可能となる。なお、異常信号の外部出力だけではなく、図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４における異常報知も実行される。

【２１０６】

また、図１６９（ｂ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）はｔ１１のタイミングで終了し、当該ｔ１１のタイミング～ｔ１３のタイミングに亘って図１６９（ｃ）に示すように残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が実行される。そして、図１６９（ｄ）に示すようにｔ１３のタイミングでタイマ割込み処理が実行される。但し、図１６９（ｅ）に示すように遊技停止フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が実行されたとしても、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行されるものの、遊技を進行させるための処理は実行されない。ｔ１４のタイミングで第１タイマ割込み処理（図１３３）にて停電時処理が実行され、図１６９（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源がＯＦＦ状態となる。

【２１０７】

その後、ｔ１５のタイミングで、図１６９（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源が再度ＯＮ状態となり、図１６９（ｂ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が開始される。そして、図１６９（ｇ）に示すようにｔ１６のタイミング～ｔ１７のタイミングに亘って設定値更新処理（図１６７）が実行される。設定値更新処理（図１６７）が実行されることにより設定値が変更されるだけではなく、図１６９（ｅ）に示すように特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグが「０」クリアされる。これにより、特定制御用のワークエリア２２１の情報異常の発生に起因して遊技を進行させるための処理の実行が阻止された状態が解消される。その後、ｔ１７のタイミング～ｔ１８のタイミングに亘って図１６９（ｃ）に示すように残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が実行され、ｔ１８のタイミングで図１６９（ｄ）に示すようにタイマ割込み処理が開始される。

【２１０８】

上記のとおり停電フラグ、チェックサム及び設定値に関する異常が発生してメイン処理（図１６５）におけるステップＳＢ１０４～ステップＳＢ１０６のいずれかにて否定判定をした場合には特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされることで、遊技を進行させるための処理が実行されない状況となる。これにより、特定制御用のワークエリア２２１の情報異常が発生しているにも関わらず遊技が行われてしまわないようにすることが可能となる。

【２１０９】

また、遊技停止フラグに「１」がセットされた状態は設定値更新処理（図１６７）が実行されない限り解消されない。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされた状態を解消するためには設定値更新処理（図１６７）を実行する必要が生じることとなり、特定制御用のワークエリア２２１の情報異常の発生に際しては当該特定制御用のワークエリア２２１を初期化するための処理だけではなく設定値の再設定を要するようにすることが可能となる。

【２１１０】

次に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容について、図１７０のタイムチャートを参照しながら説明する。図１７０（ａ）は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステッ

プＳＢ１２２）が実行されている期間を示し、図１７０（ｂ）は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了した後の処理が実行されている期間を示し、図１７０（ｃ）は初期チェック期間を示し、図１７０（ｄ）は設定値更新処理（図１６７）が実行されている期間を示し、図１７０（ｅ）はパチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる設定更新中表示期間を示し、図１７０（ｆ）は設定確認用処理（図１６６）が実行されている期間を示し、図１７０（ｇ）はパチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる設定確認中表示期間を示す。

【２１１１】

まず動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）において設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）の両方が実行されない場合について説明する。

【２１１２】

ｔ１のタイミング～ｔ２のタイミングに亘って図１７０（ａ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が実行される。そして、ｔ２のタイミングで図１７０（ｂ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了した後の処理が開始される。この場合、当該ｔ２のタイミングでメイン処理（図１６５）におけるステップＳＢ１２２にてチェック中カウンタの設定処理が実行されることで初期チェック期間が開始される。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始される（図１２８（ｂ）参照）。当該初期チェック期間であっても遊技を進行させるための処理は実行されるため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われている状況において遊技が行われ得る。その後、ｔ３のタイミングで図１７０（ｃ）に示すように初期チェック期間が終了する。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４ではベース値の表示が開始される。

【２１１３】

次に、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）において設定値更新処理（図１６７）が実行される場合について説明する。

【２１１４】

ｔ４のタイミングで図１７０（ａ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が開始される。そして、ｔ５のタイミング～ｔ６のタイミングに亘って図１７０（ｄ）に示すように設定値更新処理（図１６７）が実行される。この場合、図１７０（ｅ）に示すようにｔ５のタイミング～ｔ６のタイミングに亘って設定更新中表示期間となる。

【２１１５】

その後、ｔ６のタイミングで図１７０（ｂ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了した後の処理が開始される。この場合、当該ｔ６のタイミングでメイン処理（図１６５）におけるステップＳＢ１２２にてチェック中カウンタの設定処理が実行されることで初期チェック期間が開始される。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始される（図１２８（ｂ）参照）。当該初期チェック期間であっても遊技を進行させるための処理は実行されるため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われている状況において遊技が行われ得る。その後、ｔ７のタイミングで図１７０（ｃ）に示すように初期チェック期間が終了する。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４ではベース値の表示が開始される。

【２１１６】

次に、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）において設定確認用処理（図１６６）が実行される場合について説明する。

【２１１７】
ｔ８のタイミングで図１７０（ａ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が開始される。そして、ｔ９のタイミング～ｔ１０のタイミングに亘って図１７０（ｆ）に示すように設定確認用処理（図１６６）が実行される。この場合、図１７０（ｇ）に示すようにｔ９のタイミング～ｔ１０のタイミングに亘って設定確認中表示期間となる。
【２１１８】
その後、ｔ１０のタイミングで図１７０（ｂ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了した後の処理が開始される。この場合、当該ｔ１０のタイミングでメイン処理（図１６５）におけるステップＳＢ１２２にてチェック中カウンタの設定処理が実行されることで初期チェック期間が開始される。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始される（図１２８（ｂ）参照）。当該初期チェック期間であっても遊技を進行させるための処理は実行されるため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われている状況において遊技が行われ得る。その後、ｔ１１のタイミングで図１７０（ｃ）に示すように初期チェック期間が終了する。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４ではベース値の表示が開始される。
【２１１９】
上記構成によれば主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、当該主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了した後であって残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が開始される前に、初期チェック期間が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において初期チェック期間を制御する必要がないため、当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況における処理負荷を軽減することが可能となる。
【２１２０】
また、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）として実行されるのに対して、初期チェック期間は動作電力の供給開始時の処理が終了した後に開始される。これにより、初期チェック期間において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われるとしても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用した設定値の表示に影響を与えないようにすることが可能となる。
【２１２１】
次に、設定値更新処理（図１６７）又は設定確認用処理（図１６６）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１６５）にて実行される処理の内容について図１７１の説明図を参照しながら説明する。
【２１２２】
設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれもが実行されていない状況において停電時処理が実行された場合においてその後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１６５）にて実行される処理の内容をまず説明する。
【２１２３】
「操作無し」の状況で動作電力の供給が再開された場合にはメイン処理（図１６５）では第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれも実行されない。また、「ＲＡＭクリア操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合にはメイン処理（図１６５）では第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行される一方、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）は実行されない。「設定変更操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合にはメイン処理（図１６５）では設定値更新処理（図１６７）が実行される一方、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）及び設定確認用処理（図１６６）は実行されない。「設定確認操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開され

た場合にはメイン処理（図１６５）では設定確認用処理（図１６６）が実行される一方、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）及び設定値更新処理（図１６７）は実行されない。

【２１２４】

次に、設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況（すなわち設定更新表示フラグに「１」がセットされた状況）において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１６５）にて実行される処理の内容について説明する。

【２１２５】

「操作無し」の状況で動作電力の供給が再開された場合、「ＲＡＭクリア操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、「設定変更操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、及び「設定確認操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合のいずれであっても、メイン処理（図１６５）では設定値更新処理（図１６７）が実行される一方、設定確認用処理（図１６６）は実行されない。つまり、設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の再開に際しての操作内容がいずれであったとしても設定値更新処理（図１６７）が新たに開始される。

【２１２６】

上記構成であることにより、設定値更新処理（図１６７）の途中で動作電力の供給が停止された場合には動作電力の供給の再開に際しては、パチンコ機１０の電源ＯＮ時における設定キー挿入部６８ａ及びリセットボタン６８ｃへの操作内容に関係なく設定値更新処理（図１６７）が新たに開始されるようにすることが可能となる。これにより、設定値の更新を完了させる機会を確実に生じさせることが可能となる。よって、設定値の更新が完了していないにも関わらず遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【２１２７】

また、設定値更新処理（図１６７）の途中で動作電力の供給が停止された場合には動作電力の供給の再開に際しての操作内容に関係なく一義的に設定値更新処理（図１６７）が実行されるようにすることで、各操作内容に応じて実行される処理内容を変更させる構成に比べて処理構成を簡素化しながら上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【２１２８】

次に、設定確認用処理（図１６６）が実行されている状況（すなわち設定確認表示フラグに「１」がセットされた状況）において停電時処理が実行された場合に、その後の動作電力の供給の再開に際してメイン処理（図１６５）にて実行される処理の内容について説明する。

【２１２９】

「ＲＡＭクリア操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図１６５）では第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行される一方、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）は実行されない。つまり、設定確認用処理（図１６６）が実行されている状況において停電時処理が実行されたとしても、その後の動作電力の供給の再開に際して「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合には設定確認用処理（図１６６）を新たに実行することなく、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）を実行する。これにより、「ＲＡＭクリア操作」に対する第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）の実行を優先させることが可能となる。なお、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行されることで設定確認表示フラグは「０」クリアされる。

【２１３０】

「設定変更操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図１６５）では設定値更新処理（図１６７）が実行される一方、設定確認用処理（図１６６）は実行されない。つまり、設定確認用処理（図１６６）が実行されている状況において停電時処理が実行されたとしても、その後の動作電力の供給の再開に際して「設定変更操

作」が行われた場合には設定確認用処理（図１６６）を新たに実行することなく、設定値更新処理（図１６７）を実行する。これにより、「設定変更操作」に対する設定値更新処理（図１６７）の実行を優先させることが可能となる。また、このように設定確認用処理（図１６６）が実行されなかったとしても、設定値更新処理（図１６７）が実行されることで更新対象の設定値が第４報知用表示装置２０４にて表示されるとともに設定値更新処理（図１６７）の終了に際してその時点で更新対象となっている設定値の情報が設定参照用エリア３４１に設定されるため、遊技ホールの管理者は現状のパチンコ機１０の設定値を確認することができる。なお、設定値更新処理（図１６７）において第２ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ３１３）が実行されることで設定確認表示フラグは「０」クリアされる。

【２１３１】

「設定確認操作」が行われた状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図１６５）では停電フラグ、チェックサム及び設定値に関して異常が発生していないことを条件として設定確認用処理（図１６６）を実行する。これにより、設定確認用処理（図１６６）の途中で停電時処理が実行されたとしても、動作電力の供給の再開に際して「設定確認操作」を行うことで設定値の確認を再開することが可能となる。

【２１３２】

「操作無し」の状況で動作電力の供給が再開された場合、メイン処理（図１６５）では停電フラグ、チェックサム及び設定値に関して異常が発生していないことを条件として、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていなくても設定確認用処理（図１６６）が実行される。これにより、設定確認用処理（図１６６）の途中で停電時処理が実行された場合であってその後の動作電力の供給の再開に際して「操作無し」の状況であったとしても設定値の確認を再開させることが可能となる。

【２１３３】

次に、音声発光制御装置８１にて実行される処理について説明する。当該処理の説明に先立ち音声発光制御装置８１の電気的構成について図１７２の説明図を参照しながら説明する。

【２１３４】

音声発光制御装置８１は音声発光制御基板３５１を備えている。音声発光制御基板３５１には音光側ＭＰＵ３５２が搭載されている。音光側ＭＰＵ３５２には、制御部及び演算部を含む演算処理装置である音光側ＣＰＵ３５３の他に、音光側ＲＯＭ３５４及び音光側ＲＡＭ３５５が内蔵されている。また、音光側ＭＰＵ３５２には、上記素子以外に、割込回路、タイマ回路、データ入出力回路、乱数発生器としての各種カウンタ回路などが内蔵されている。

【２１３５】

音光側ＲＯＭ３５４は、ＮＯＲ型フラッシュメモリ及びＮＡＮＤ型フラッシュメモリなどの記憶保持に外部からの電力供給が不要なメモリ（すなわち、不揮発性記憶手段）であり、読み出し専用として利用される。音光側ＲＯＭ３５４は、音光側ＣＰＵ３５３により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶している。

【２１３６】

音光側ＲＡＭ３５５は、ＳＲＡＭ及びＤＲＡＭなどの記憶保持に外部からの電力供給が必要なメモリ（すなわち、揮発性記憶手段）であり、読み書き両用として利用される。音光側ＲＡＭ３５５は、ランダムアクセスが可能であるとともに、同一のデータ容量で比較した場合に音光側ＲＯＭ３５４よりも読み出しに要する時間が早いものとなっている。音光側ＲＡＭ３５５は、音光側ＲＯＭ３５４内に記憶されている制御プログラムの実行に対して各種のデータなどを一時的に記憶する。

【２１３７】

音声発光制御基板３５１には音光側ＭＰＵ３５２以外にもＲＴＣ３５６及びＲＴＣ用メモリ３５７が搭載されている。ＲＴＣ３５６はリアルタイムクロックであり、年月日情報及び時刻情報を常時計測し、音光側ＣＰＵ３５３からの指示に従い、その計測している年

月日情報及び時刻情報（以下、日時情報ともいう）を出力することが可能な構成である。なお、ＲＴＣ３５６にはバックアップ電源が設けられており、パチンコ機１０の電源遮断中においても年月日情報及び時刻情報を計測することが可能となっている。また、ＲＴＣ３５６において日時情報が計測される構成に限定されることはなく、時刻情報のみが計測される構成としてもよい。

【２１３８】

ＲＴＣ用メモリ３５７はＳＲＡＭ及びＤＲＡＭなどの記憶保持に外部からの電力供給が必要なメモリ（すなわち、揮発性記憶手段）であり、読み書き両用として利用される。ＲＴＣ用メモリ３５７には音光側ＣＰＵ３５３からの指示に従いＲＴＣ３５６の日時情報が格納される。また、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納された日時情報は必要に応じて音光側ＣＰＵ３５３にて読み出される。音光側ＣＰＵ３５３はＲＴＣ用メモリ３５７に格納された日時情報に基づき基準時間を把握するとともに、その基準時間を基準として所定時間（例えば１時間）が経過する毎に時間対応演出が実行されるようにするための処理を実行する。なお、ＲＴＣ用メモリ３５７にはＲＴＣ３５６に対して設けられたバックアップ電源からバックアップ電力が供給される構成となっており、パチンコ機１０の電源遮断中においても日時情報が記憶保持される。但し、これに限定されることはなくＲＴＣ用メモリ３５７が情報の記憶保持に外部からの電力供給を必要としないＥＥＰＲＯＭなどであってもよい。

【２１３９】

次に、音光側ＣＰＵ３５３にて実行される演出制御処理について図１７３のフローチャートを参照しながら説明する。なお、演出制御処理は音光側ＣＰＵ３５３への動作電力の供給が開始された場合に実行される。

【２１４０】

主側ＣＰＵ６３から更新開始コマンドを受信している場合（ステップＳＢ４０１：ＹＥＳ）、更新時報知の設定処理を実行する（ステップＳＢ４０２）。更新開始コマンドは既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１６７）が開始された場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。更新時報知の設定処理では、設定値更新処理（図１６７）が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理（図１６７）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、設定値を変更している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定値を変更させるために必要な操作内容及び設定値更新処理（図１６７）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。

【２１４１】

主側ＣＰＵ６３から確認開始コマンドを受信している場合（ステップＳＢ４０３：ＹＥＳ）、確認時報知の設定処理を実行する（ステップＳＢ４０４）。確認開始コマンドは既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１６６）が開始される場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。確認時報知の設定処理では、設定確認用処理（図１６６）が実行されていることを示す画像及び設定確認用処理（図１６６）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定確認用処理（図１６６）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。

【２１４２】

ステップＳＢ４０１～ステップＳＢ４０４の処理を実行した場合、主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンド、クリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンドのいずれかを受信したか否かを判定する（ステップＳＢ４０５）。通常復帰コマンドは第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）のいずれもが実行されることなく動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了した場合に送信される。クリア時の復帰コマンドは第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行されて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了した場合に送信される。確認時の復帰コマンドは設定確認用処理（図１６６）が実行されて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了した場合に送信される。更新時の復帰コマンドは設定値更新処理（図１６７）が実行されて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了した場合に送信される。

【２１４３】

これら復帰コマンドを受信していない場合（ステップＳＢ４０５：ＮＯ）、ステップＳＢ４０１の処理に戻る。主側ＣＰＵ６３は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了する場合にいずれかの復帰コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信する。この場合に上記のとおり音光側ＣＰＵ３５３はいずれかの復帰コマンドを主側ＣＰＵ６３から受信するまではステップＳＢ４０６以降の処理を実行しない。これにより、主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が実行されている間は音光側ＣＰＵ３５３にて通常の演出の実行制御が開始されないようにすることが可能となる。

【２１４４】

また、いずれの復帰コマンドも受信していない状況においては主側ＣＰＵ６３から更新開始コマンド又は確認開始コマンドを受信する可能性があり、更新開始コマンドを受信した場合には既に説明したとおり設定値更新処理（図１６７）が実行されることに対応する報知が行われるようにする必要があり、確認開始コマンドを受信した場合には既に説明したとおり設定確認用処理（図１６６）が実行されることに対応する報知が行われるようにする必要がある。この場合に、音光側ＣＰＵ３５３はいずれかの復帰コマンドを主側ＣＰＵ６３から受信するまではステップＳＢ４０６以降の処理を実行しないことにより、更新開始コマンド又は確認開始コマンドを受信した場合にそれに対応する報知を好適に開始させることが可能となる。

【２１４５】

主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信した場合（ステップＳＢ４０５：ＹＥＳ）、その受信した復帰コマンドが通常復帰コマンドであるか否かを判定する（ステップＳＢ４０６）。通常復帰コマンドは既に説明したとおり、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）のいずれもが実行されることなく動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了した場合に送信される。通常復帰コマンドを受信した場合（ステップＳＢ４０６：ＹＥＳ）、ＲＴＣ３５６の現状の日時情報を読み出し、その読み出した日時情報をＲＴＣ用メモリ３５７に格納させる（ステップＳＢ４０７）。これにより、時間対応演出を実行するタイミングを特定する場合に基準となる日時情報がＲＴＣ用メモリ３５７に格納された状態となる。

【２１４６】

今回受信した復帰コマンドが通常復帰コマンドではなく（ステップＳＢ４０６：ＮＯ）、更新時の復帰コマンドである場合（ステップＳＢ４０８：ＹＥＳ）、更新時報知の終了処理を実行する（ステップＳＢ４０９）。更新時の復帰コマンドは既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１６７）が終了される場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。更新時報知の終了処理では、ステップＳＢ４０２にて開始した設定値更新処理（図１６７）に対応する報知を終了させる。

【２１４７】

今回受信した復帰コマンドが更新時の復帰コマンドではなく（ステップＳＢ４０８：ＮＯ）、確認時の復帰コマンドである場合（ステップＳＢ４１０：ＹＥＳ）、確認時報知の終了処理を実行する（ステップＳＢ４１１）。確認時の復帰コマンドは既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１６６）が終了される場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。確認時報知の終了処理では、ステップＳＢ４０４にて開始した設定確認用処理（図１６６）に対応する報知を終了させる。

【２１４８】

ステップＳＢ４０７の処理を実行した場合、ステップＳＢ４０９の処理を実行した場合、ステップＳＢ４１０にて否定判定をした場合、又はステップＳＢ４１１の処理を実行した場合、通常の演出の実行制御を行うための処理を実行する。具体的には、まず時間対応演出の開始タイミングであるか否かを判定する（ステップＳＢ４１２）。

【２１４９】

時間対応演出とは、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納された日時情報に対応する基準時間を基準として所定時間（例えば１時間）が経過する度に実行される演出である。時間対応演出では、表示発光部５３において時間対応演出に対応する発光演出が行われ、スピーカ部５４において時間対応演出に対応する音出力演出が行われ、図柄表示装置４１において時間対応演出に対応する表示演出が行われる。

【２１５０】

なお、遊技回用の演出が実行されている状況において時間対応演出が開始された場合には表示発光部５３及びスピーカ部５４では遊技回用の演出よりも時間対応演出が優先して実行される一方、図柄表示装置４１では遊技回用の演出に対応する画像表示が図柄表示装置４１の表示面の一部に縮小表示された状態で時間対応演出に対応する画像表示が行われる。また、開閉実行モード用の演出が実行されている状況において時間対応演出が開始された場合には表示発光部５３及びスピーカ部５４では開閉実行モード用の演出よりも時間対応演出が優先して実行される一方、図柄表示装置４１では開閉実行モード用の演出に対応する画像表示が図柄表示装置４１の表示面の一部に縮小表示された状態で時間対応演出に対応する画像表示が行われる。

【２１５１】

ＲＴＣ用メモリ３５７に格納された日時情報に対応する基準時間を基準として所定時間（例えば１時間）が経過する度に時間対応演出が実行される構成であることにより、遊技ホールにおいて隣接する複数のパチンコ機１０の基準時間が一致しているのであればそれら複数のパチンコ機１０にて時間対応演出を同時に開始させることが可能となる。なお、遊技ホールにおいては複数のパチンコ機１０の電源が同時にＯＮ状態とされるため、基本的にはそれら複数のパチンコ機１０の基準時間は一致することとなる。

【２１５２】

ステップＳＢ４１２では、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納された日時情報に基づき基準時間を把握する。また、ＲＴＣ３５６の現状の日時情報を読み出す。そして、ＲＴＣ３５６から読み出した現状の日時情報に対応する時間に対する基準時間の差分の時間が所定時間の整数倍となっているか否かを判定する。ステップＳＢ４１２にて肯定判定をした場合、時間対応演出の設定処理を実行する（ステップＳＢ４１３）。時間対応演出の設定処理では、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて時間対応演出を実行させるための設定を行うとともに、図柄表示装置４１にて時間対応演出を実行させるためのコマンドを表示制御装置８２に送信する。なお、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納された日時情報に対応する基準時間を基準とした場合における時間対応演出の実行回数に応じて当該時間対応演出の実行内容が異なる構成としてもよい。

【２１５３】

ステップＳＢ４１２にて否定判定をした場合又はステップＳＢ４１３の処理を実行した場合、その他の処理を実行する（ステップＳＢ４１４）。その他の処理では、遊技回用の演出を開始させるべきコマンドを主側ＣＰＵ６３から受信した場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて遊技回用の演出を開始させるための設定を行い

、遊技回用の演出を進行させるべき状況である場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて遊技回用の演出を進行させるための設定を行い、遊技回用の演出を終了させるべき状況である場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて遊技回用の演出を終了させるための設定を行う。また、その他の処理では、開閉実行モード用の演出を開始させるべきコマンドを主側ＣＰＵ６３から受信した場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて開閉実行モード用の演出を開始させるための設定を行い、開閉実行モード用の演出を進行させるべき状況である場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて開閉実行モード用の演出を進行させるための設定を行い、開閉実行モード用の演出を終了させるべき状況である場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて開閉実行モード用の演出を終了させるための設定を行う。

【２１５４】

次に、主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）にて実行された処理の内容に対応する作用について、図１７４の説明図を参照しながら説明する。

【２１５５】

主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）にて第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）のいずれもが実行されなかった場合、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了する場合に主側ＣＰＵ６３は音光側ＣＰＵ３５３に通常復帰コマンドを送信する。音光側ＣＰＵ３５３は通常復帰コマンドを受信した場合、それに対して報知に関する制御は実行しない。一方、音光側ＣＰＵ３５３は通常復帰コマンドを受信した場合、ＲＴＣ３５６において計測されている現状の日時情報をＲＴＣ用メモリ３５７に格納する。これにより、時間対応演出の実行契機を特定するために参照される基準時間に対応する情報がＲＴＣ用メモリ３５７に新たに格納されることとなる。

【２１５６】

主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）にて第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行された場合、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了する場合に主側ＣＰＵ６３は音光側ＣＰＵ３５３にクリア時の復帰コマンドを送信する。音光側ＣＰＵ３５３はクリア時の復帰コマンドを受信した場合、それに対して報知に関する制御は実行しない。また、音光側ＣＰＵ３５３はクリア時の復帰コマンドを受信したとしても、ＲＴＣ３５６において計測されている現状の日時情報をＲＴＣ用メモリ３５７に格納しない。ＲＴＣ用メモリ３５７にはバックアップ用の電力が供給されるため、ＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生しなかった場合にはパチンコ機１０の電源がＯＦＦされる前にＲＴＣ用メモリ３５７に格納されていた日時情報がそのまま記憶保持される。

【２１５７】

主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）にて設定値更新処理（図１６７）が実行された場合、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了する場合に主側ＣＰＵ６３は音光側ＣＰＵ３５３に更新時の復帰コマンドを送信する。音光側ＣＰＵ３５３は更新時の復帰コマンドを受信した場合、設定値更新処理（図１６７）が実行されることに対応する報知を終了させる。また、音光側ＣＰＵ３５３は更新時の復帰コマンドを受信したとしても、ＲＴＣ３５６において計測されている現状の日時情報をＲＴＣ用メモリ３５７に格納しない。ＲＴＣ用メモリ３５７にはバックアップ用の電力が供給されるため、ＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生しなかった場合にはパチンコ機１０の電源がＯＦＦされる前にＲＴＣ用メモリ３５７に格納されていた日時情報がそのまま記憶保持される。

【２１５８】

主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）にて設定確認用処理（図１６６）が実行された場合、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了する場合に主側ＣＰＵ６３は音光側ＣＰＵ３５３に確認時の復帰コマンドを送信する。音光側ＣＰＵ３５３は確認時の復帰コマンドを受信した場合、設定確認用処理（図１６６）が実行されることに対応する報知を終了させる。また、音光側ＣＰＵ３５３は確認時の復帰コマンドを受信したとしても、ＲＴＣ３５６において計測されている現状の日時情報をＲＴＣ用メモリ３５７に格納しない。ＲＴＣ用メモリ３５７にはバックアップ用の電力が供給されるため、ＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生しなかった場合にはパチンコ機１０の電源がＯＦＦされる前にＲＴＣ用メモリ３５７に格納されていた日時情報がそのまま記憶保持される。

【２１５９】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【２１６０】

設定値更新処理（図１６７）が開始された場合、予め定められた開始対応の設定値から設定値の変更が行われる。これにより、設定値更新処理（図１６７）が開始される前における使用対象の設定値に関係なく、設定値更新処理（図１６７）においては一定の開始対応の設定値から当該設定値の変更操作を行うことが可能となる。よって、設定値の変更操作の作業内容が作業者にとって分かり易いものとなる。

【２１６１】

上記開始対応の設定値は具体的には有利度が最も低い「設定１」となっている。したがって、設定値更新処理（図１６７）が開始された場合には有利度が最も低い「設定１」から設定値の変更が行われる。これにより、遊技ホールの管理者が設定値更新処理（図１６７）の開始直後に意図せずに当該設定値更新処理（図１６７）を終了させてしまったとしても有利度が最も低い設定値となるため、このような状況において遊技が開始されたとしても遊技ホールに意図しない不利益が生じてしまわないようにすることが可能となる。

【２１６２】

特定制御用のワークエリア２２１には設定参照用エリア３４１と設定更新用エリア３４２とが設けられており、使用対象の設定値に対応する情報は設定参照用エリア３４１に記憶され、設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況における変更途中の設定値に対応する情報は設定更新用エリア３４２に記憶される。これにより、設定値更新処理（図１６７）が開始される前に設定されていた設定値の情報を設定参照用エリア３４１にて記憶保持しながら、設定値更新処理（図１６７）において更新対象の設定値を変更することが可能となる。

【２１６３】

主側ＣＰＵ６３は動作電力の供給が開始された場合において、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）を実行した場合にクリア時の復帰コマンドを送信し、設定値更新処理（図１６７）を実行した場合に更新時の復帰コマンドを送信し、設定確認用処理（図１６６）を実行した場合に確認時の復帰コマンドを送信し、これら第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれも実行しなかった場合に通常復帰コマンドを送信する。これにより、動作電力の供給が開始された場合における開始状況の種類に対応する制御が主側ＣＰＵ６３だけではなく音光側ＣＰＵ３５３にて行われるようにすることが可能となる。

【２１６４】

音光側ＣＰＵ３５３は通常復帰コマンド、クリア時の復帰コマンド、更新時の復帰コマンド及び確認時の復帰コマンドのいずれを受信した場合であっても演出制御処理（図１７３）のステップＳＢ４０５にて肯定判定をしてステップＳＢ４１２～ステップＳＢ４１４の処理を実行する状態となる。その一方、通常復帰コマンドを受信した場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への書き込み処理（ステップＳＢ４０７）を実行し、更新時の復帰コマンドを受信した場合には更新時報知の終了処理（ステップＳＢ４０９）を実行し、確認時の復

帰コマンドを受信した場合には確認時報知の終了処理（ステップＳＢ４１１）を実行し、クリア時の復帰コマンドを受信した場合には専用の処理を実行しない。これにより、各復帰コマンドのうちいずれか一の復帰コマンドの受信を契機として音光側ＣＰＵ３５３にて遊技の進行に対応する処理が開始されるようにしながら、各復帰コマンドに対応する制御が音光側ＣＰＵ３５３にて実行されるようにすることが可能となる。

【２１６５】

主側ＣＰＵ６３はいずれかの復帰コマンドを送信した後に動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）を終了して遊技の進行を制御するための処理（ステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０）を開始し、音光側ＣＰＵ３５３はいずれかの復帰コマンドを受信した場合に遊技の進行内容に対応する演出の実行制御を行う。これにより、主側ＣＰＵ６３にて遊技の進行を制御するための処理が実行される状況となった後に音光側ＣＰＵ３５３にて遊技の進行内容に対応する演出の実行制御が行われるようにすることが可能となる。この場合に、音光側ＣＰＵ３５３は各復帰コマンドに対応する処理を実行する。これにより、音光側ＣＰＵ３５３における動作電力の供給開始時の処理の実行内容を相違させる複数の復帰コマンドを利用して、遊技の進行内容に対応する演出の実行制御の開始契機を音光側ＣＰＵ３５３に認識させることが可能となる。

【２１６６】

ＲＴＣ用メモリ３５７に記憶されている日時情報を基準として時間対応演出の実行タイミングとなった場合に時間対応演出が実行されるため、所定の時刻となったタイミングで時間対応演出が実行されるようにすることが可能となる。この場合に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）又は設定確認用処理（図１６６）が実行された場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生しない一方、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれもが実行されなかった場合にＲＴＣ３５６において計測されている現状の日時情報がＲＴＣ用メモリ３５７に格納される。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に主側ＣＰＵ６３にて実行される処理内容に応じて、ＲＴＣ用メモリ３５７に日時情報が新たに記憶される状況と、ＲＴＣ用メモリ３５７に日時情報が新たに記憶されない状況とを生じさせることが可能となる。

【２１６７】

主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合において「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合には第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行され、「設定変更操作」が行われた場合には設定値更新処理（図１６７）が実行され、「設定確認操作」が行われた場合には設定確認用処理（図１６６）が実行される。一方、「操作無し」の状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合には第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれもが実行されない。この場合に、上記のとおり主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）又は設定確認用処理（図１６６）が実行された場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生しない一方、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれもが実行されなかった場合にＲＴＣ３５６において計測されている現状の日時情報がＲＴＣ用メモリ３５７に格納される。これにより、パチンコ機１０の電源のＯＮ操作を行う場合に、ＲＴＣ用メモリ３５７に日時情報が新たに記憶される状況とするのか、ＲＴＣ用メモリ３５７に日時情報が新たに記憶されない状況とするのかを遊技ホールの管理者が選択することが可能となる。

【２１６８】

主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、当該主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了した後であって残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が開始される前に、初期チェッ

ク期間が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において初期チェック期間を制御する必要がないため、当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況における処理負荷を軽減することが可能となる。

【２１６９】

設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）として実行されるのに対して、初期チェック期間は動作電力の供給開始時の処理が終了した後に開始される。これにより、初期チェック期間において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われるとしても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用した設定値の表示に影響を与えないようにすることが可能となる。

【２１７０】

主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合には、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）のいずれかが実行される場合、並びに設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）のいずれもが実行されない場合のいずれであっても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合における状況に関係なく第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かを確認することが可能となる。

【２１７１】

主側ＣＰＵ６３のメイン処理（図１６５）には、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）のいずれかが実行される場合、並びに設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）のいずれもが実行されない場合のいずれであっても共通して実行される処理であって、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）のいずれかが実行される場合にはこれら設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）よりも実行順序が後の処理として、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にチェック用表示を開始させる処理が設定されている。このように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にチェック用表示を開始させるための処理が共通処理として設定されていることにより、処理構成の簡素化を図りながら既に説明したような優れた効果を奏することが可能となる。

【２１７２】

第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が実行されている状況であっても主側ＣＰＵ６３にて遊技を進行させるための処理が開始され得る。これにより、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）の実行後に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる構成であっても遊技を進行させるための処理の開始タイミングが遅れてしまわないようにすることが可能となる。

【２１７３】

主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給が開始された場合に実行される動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）にて、使用対象の設定値が正常な範囲であるか否かを監視するための処理が実行される。そして、使用対象の設定値が異常である場合には遊技を進行させるための処理が開始されない規制状態となる。これにより、使用対象の設定値が異常であるにも関わらず遊技を進行させるための処理が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【２１７４】

使用対象の設定値が正常な範囲であるか否かを監視するための処理は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了した後においても第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９１９にて実行される。これにより、遊技が進行していく過程で使用対象の設定値が異常なものとなってしまったとしても、それに対処することが可能となる。

【２１７５】

主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給が開始された場合に実行される動作電力の供給

開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）にて、使用対象の設定値が正常な範囲であるか否かの監視だけではなく、特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグに「１」がセットされているか否かの監視が実行されるとともに特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２のチェックサムが正常か否かの監視が実行される。そして、停電フラグに「１」がセットされていない場合又はチェックサムが異常である場合には遊技を進行させるための処理が開始されない規制状態となる。これにより、主側ＲＡＭ６５に関して情報異常が発生しているにも関わらず遊技を進行させるための処理が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【２１７６】

上記規制状態は動作電力の供給が停止されたとしても動作電力の供給が再開された場合に再開される。これにより、主側ＲＡＭ６５に関して情報異常が発生していることで遊技を進行させるための処理の実行が規制された状態は動作電力の供給を停止させただけでは解除されないようにすることが可能となる。

【２１７７】

上記規制状態は設定値更新処理（図１６７）が実行されることで解除される。これにより、主側ＲＡＭ６５に関して情報異常が発生していることで遊技の進行が規制された状態の解除に際して、使用対象の設定値の新たな設定を行わせることが可能となる。

【２１７８】

上記規制状態であっても停電監視や各種カウンタの更新処理が実行される。これにより、上記のように遊技の進行が規制された状態であっても必要な処理の実行を担保することが可能となる。特に、停電監視が実行されることにより、遊技の進行が規制された状態であっても停電が発生した場合にはそれに対して適切に対処することが可能となる。

【２１７９】

上記規制状態となった場合には使用対象の設定値を変更すべきことが報知される。これにより、主側ＲＡＭ６５に関して情報異常が発生した場合にはそれを解消するように遊技ホールの管理者に促すことが可能となる。

【２１８０】

主側ＲＡＭ６５に関して情報異常が発生している場合には遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号が外部出力される。これにより、主側ＲＡＭ６５に関して情報異常が発生した場合にはそれを解消するように遊技ホールの管理者に促すことが可能となる。

【２１８１】

主側ＲＡＭ６５に関して情報異常が発生している場合とは異なる異常の発生時にも遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号が外部出力される。これにより、外部出力を行うための構成を兼用することが可能となる。

【２１８２】

主側ＲＡＭ６５に関して情報異常が発生していることで遊技の進行が規制された規制状態において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても動作電力の供給が再開された場合において未だに規制状態が解除されない場合には異常信号の外部出力が再度行われる。これにより、規制状態においては動作電力の供給が再開される度に異常信号が外部出力されることとなる。よって、主側ＲＡＭ６５に関して情報異常が発生していることを遊技ホールの管理者に認識させ易くなる。

【２１８３】

動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）において設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）が実行されていない状況においては第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が禁止され、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が許可される。設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）が実行されない場合には動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）の途中でタイマ割込み処理が割り込んで起動されないようにすることで、動作

電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）を早期に完了させることが可能となる。

【２１８４】

その一方、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）が実行される場合には遊技ホールの管理者の操作に応じた処理が実行されるため、これら処理に滞在する期間が長くなる。この場合に設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況であってもタイマ割込み処理の割込みが禁止されたままであるとすると、タイマ割込み処理の実行開始タイミングが極端に遅くなってしまう。これに対して、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行される場合にはタイマ割込み処理の割込みが許可される。これにより、タイマ割込み処理の実行開始タイミングが極端に遅くなってしまわないようにすることが可能となる。また、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況において、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を表示制御するための処理が実行される第２タイマ割込み処理（図１３４）が割り込んで実行されることにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）を利用して第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて設定値に関する表示を行わせることが可能となる。

【２１８５】

また、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている。したがって、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても、当該第１タイマ割込み処理（図１３３）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないようにすることが可能となる。

【２１８６】

なお、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれもが実行されない場合にＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生し、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれかが実行された場合にＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生しない構成に限定されない。例えば、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれもが実行されない場合、又は第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行された場合にＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生する構成としてもよい。また、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれもが実行されない場合、又は設定値更新処理（図１６７）が実行された場合にＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生する構成としてもよい。また、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれもが実行されない場合、又は設定確認用処理（図１６６）が実行された場合にＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生する構成としてもよい。

【２１８７】

また、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれもが実行されない場合、設定値更新処理（図１６７）が実行された場合、又は設定確認用処理（図１６６）が実行された場合にＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生する構成としてもよい。また、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれもが実行されない場合、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行された場合、又は設定確認用処理（図１６６）が実行された場合にＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生する構成としてもよい。また、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６

６）のいずれもが実行されない場合、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行された場合、又は設定値更新処理（図１６７）が実行された場合にＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生する構成としてもよい。

【２１８８】

また、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行された場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生し、それ以外の場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生しない構成としてもよい。また、設定値更新処理（図１６７）が実行された場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生し、それ以外の場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生しない構成としてもよい。また、設定確認用処理（図１６６）が実行された場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生し、それ以外の場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生しない構成としてもよい。また、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）又は設定値更新処理（図１６７）が実行された場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生し、それ以外の場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生しない構成としてもよい。第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）又は設定確認用処理（図１６６）が実行された場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生し、それ以外の場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生しない構成としてもよい。また、設定値更新処理（図１６７）又は設定確認用処理（図１６６）が実行された場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生し、それ以外の場合にはＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生しない構成としてもよい。

【２１８９】

また、設定値更新処理（図１６７）が実行された場合には開始時の初期設定（ステップＳＢ３０３）において設定参照用エリア３４１及び設定更新用エリア３４２を含めた特定制御用のワークエリア２２１の全エリアを「０」クリアするとともに初期化を実行する構成としてもよい。この場合、設定値更新処理（図１６７）において第２ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ３１３）が実行されない構成としてもよい。

【２１９０】

また、設定値更新処理（図１６７）が開始された場合には「設定１」以外の予め定められた設定値から設定値の変更が開始される構成としてもよい。例えば、「設定２」から設定値の変更が開始される構成としてもよく、「設定３」から設定値の変更が開始される構成としてもよく、「設定４」から設定値の変更が開始される構成としてもよく、「設定５」から設定値の変更が開始される構成としてもよく、「設定６」から設定値の変更が開始される構成としてもよい。

【２１９１】

また、設定値更新処理（図１６７）が開始された場合には上記第４５の実施形態と同様に設定参照用エリア３４１に記憶されている設定値の情報が設定更新用エリア３４２に上書きされることで、それまで使用対象として設定されていた設定値から設定値の変更が開始される構成としてもよい。

【２１９２】

また、メイン処理（図１６５）において各種復帰コマンドを送信するための処理が、残余処理（ステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８）が開始される前の処理として設定されている構成としてもよい。この場合、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれかの処理が実行された場合にはそれに対応するフラグをセットし、上記各種復帰コマンドを送信するための処理ではそのフラグの状態に対応する復帰コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信する構成としてもよい。

【２１９３】

また、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納された日時情報を基準として所定の時間が経過する度に時間対応演出が実行される構成に加えて又は代えて、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納さ

れた日時情報を基準として所定の時間が経過する度に所定の異常が発生しているか否かの監視が行われる構成としてもよく、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納された日時情報を基準として所定の時間が経過する度にベース値の報知が行われる構成としてもよい。この場合、ＲＴＣ３５６及びＲＴＣ用メモリ３５７が主制御基板６１に設けられており、主側ＣＰＵ６３にて上記異常監視又は上記ベース値の報知が行われる構成としてもよい。遊技ホールに設置された複数のパチンコ機１０にて同時に異常監視が実行されてその結果が例えば図柄表示装置４１などにて報知されることにより、所定の異常が発生しているか否かの定期的な監視を複数のパチンコ機１０に対してまとめて行うことが可能となる。また、遊技ホールに設定された複数のパチンコ機１０にて図柄表示装置４１などにて同時にベース値の報知が行われることにより、ベース値の定期的な監視を複数のパチンコ機１０に対してまとめて行うことが可能となる。なお、上記各種報知はパチンコ機１０自身にて行われる構成に限定されることはなく、遊技ホールの管理コンピュータへの外部出力により行われる構成としてもよい。

【２１９４】

また、メイン処理（図１６５）において停電フラグに「１」がセットされていないと判定した場合、チェックサムが異常であると判定した場合、又は設定参照用エリア３４１の設定値が異常であると判定した場合には、「設定変更操作」が行われているか否かに関係なく設定値更新処理（図１６５）が強制的に実行される構成としてもよい。これにより、主側ＲＡＭ６５に関して情報異常が発生している場合には即座に設定値を変更させることが可能となる。

【２１９５】

＜第５０の実施形態＞

本実施形態では音光側ＣＰＵ３５３にて実行される演出制御処理の処理構成が上記第４９の実施形態と相違している。以下、上記第４９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第４９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２１９６】

図１７５は音光側ＣＰＵ３５３にて実行される本実施形態における演出制御処理を示すフローチャートである。

【２１９７】

ステップＳＢ５０１～ステップＳＢ５０５では上記第４９の実施形態における演出制御処理（図１７３）のステップＳＢ４０１～ステップＳＢ４０５と同一の処理を実行する。主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンド、クリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンドのいずれかを受信した場合（ステップＳＢ５０５：ＹＥＳ）、今回受信した復帰コマンドが通常復帰コマンド以外の復帰コマンドであるか否かを判定する（ステップＳＢ５０６）。

【２１９８】

今回受信した復帰コマンドがクリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンドのいずれかである場合（ステップＳＢ５０６：ＹＥＳ）、上記第４９の実施形態における演出制御処理（図１７３）のステップＳＢ４０７と同様に、ＲＴＣ３５６の現状の日時情報を読み出し、その読み出した日時情報をＲＴＣ用メモリ３５７に格納させる（ステップＳＢ４０７）。これにより、時間対応演出を実行するタイミングを特定する場合に基準となる日時情報がＲＴＣ用メモリ３５７に格納された状態となる。

【２１９９】

ステップＳＢ５０８～ステップＳＢ５１４では上記第４９の実施形態における演出制御処理（図１７３）のステップＳＢ４０８～ステップＳＢ４１４と同一の処理を実行する。

【２２００】

図１７６は、主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）にて実行された処理の内容に対応する作用を説明するための説明図である。

【２２０１】
上記第４９の実施形態と同様に、主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）にて、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）のいずれもが実行されなかった場合には主側ＣＰＵ６３は音光側ＣＰＵ３５３に通常復帰コマンドを送信し、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行された場合には主側ＣＰＵ６３は音光側ＣＰＵ３５３にクリア時の復帰コマンドを送信し、設定値更新処理（図１６７）が実行された場合には主側ＣＰＵ６３は音光側ＣＰＵ３５３に更新時の復帰コマンドを送信し、設定確認用処理（図１６６）が実行された場合には主側ＣＰＵ６３は音光側ＣＰＵ３５３に確認時の復帰コマンドを送信する。

【２２０２】
音光側ＣＰＵ３５３は上記第４９の実施形態と同様に、更新時の復帰コマンドを受信した場合には設定値更新処理（図１６７）が実行されることに対応する報知を終了させるとともに、確認時の復帰コマンドを受信した場合には設定確認用処理（図１６６）が実行されることに対応する報知を終了させる。また、音光側ＣＰＵ３５３は上記第４９の実施形態と同様に、通常復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドを受信したとしてもそれに対して報知に関する制御は実行しない。

【２２０３】
音光側ＣＰＵ３５３は、クリア時の復帰コマンド、更新時の復帰コマンド及び確認時の復帰コマンドのいずれかを受信した場合、ＲＴＣ３５６において計測されている現状の日時情報をＲＴＣ用メモリ３５７に格納する。これにより、時間対応演出の実行契機を特定するために参照される基準時間に対応する情報がＲＴＣ用メモリ３５７に新たに格納されることとなる。一方、音光側ＣＰＵ３５３は、通常復帰コマンドを受信したとしても、ＲＴＣ３５６において計測されている現状の日時情報をＲＴＣ用メモリ３５７に格納しない。ＲＴＣ用メモリ３５７にはバックアップ用の電力が供給されるため、ＲＴＣ用メモリ３５７への日時情報の新たな格納が発生しなかった場合にはパチンコ機１０の電源がＯＦＦ操作される前にＲＴＣ用メモリ３５７に格納されていた日時情報がそのまま記憶保持される。

【２２０４】
上記構成によれば動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）において第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれかが実行された場合には、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納されている日時情報がＲＴＣ３５６において計測されている現状の日時情報に書き換えられるのに対して、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）において第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図１６７）及び設定確認用処理（図１６６）のいずれも実行されなかった場合には、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納されている日時情報が書き換えられない。これにより、遊技ホールの営業中においてパチンコ機１０のメンテナンスや動作チェックのためにパチンコ機１０の電源が一旦ＯＦＦ操作されたとしても、その後の動作電力の供給の再開に際して「操作無し」の状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作を行うことで、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納されている日時情報が書き換えられないようにすることが可能となる。よって、遊技ホールの営業中にパチンコ機１０の電源を一旦ＯＦＦ操作した後に動作電力の供給を再開させる場合において、遊技ホールにおける周囲のパチンコ機１０との間で時間対応演出の基準時間を同一としながら当該パチンコ機１０への動作電力の供給を再開させるための操作性を高めることが可能となる。

【２２０５】
また、「操作無し」の状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作を行うことでＲＴＣ用メモリ３５７に格納されている日時情報が書き換えられないことにより、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納されている日時情報が書き換えられないようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作を行った場合に、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）、設定値更新処理（図

１６７）及び設定確認用処理（図１６６）といった目的外の処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【２２０６】

＜第５１の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行されるメイン処理の処理構成が上記第４９の実施形態と相違している。以下、上記第４９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第４９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２２０７】

図１７７は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳＢ６０１～ステップＳＢ６３０の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２２０８】

ステップＳＢ６０１～ステップＳＢ６２２は上記第４９の実施形態におけるメイン処理（図１６５）のステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２と同一の処理を実行する。

【２２０９】

ステップＳＢ６１２の処理を実行した場合、ステップＳＢ６１３の処理を実行した場合、ステップＳＢ６１５の処理を実行した場合、ステップＳＢ６１８の処理を実行した場合、又はステップＳＢ６２２の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する情報をセットする（ステップＳＢ６２３）。チェック中カウンタにセットされた値は上記第３５の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図１３４）が起動される度に１減算される。チェック中カウンタに１以上の値が設定されている場合、上記第３５の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。

【２２１０】

上記構成によれば主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、当該主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ６０１～ステップＳＢ６２２）が終了した後であって残余処理（ステップＳＢ６２７～ステップＳＢ６３０）が開始される前に、初期チェック期間が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において初期チェック期間を制御する必要がないため、当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況における処理負荷を軽減することが可能となる。

【２２１１】

また、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ６０１～ステップＳＢ６２２）として実行されるのに対して、初期チェック期間は動作電力の供給開始時の処理が終了した後に開始される。これにより、初期チェック期間において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われるとしても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用した設定値の表示に影響を与えないようにすることが可能となる。

【２２１２】

その後、割込み許可の設定を行う（ステップＳＢ６２４）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）が第２割込み周期で割り込んで起動される。第２タイマ割込み処理（図１３４）が割り込んで起動された場合、チェック中カウンタに１以上の値が設定されている状況においてはチェック用表示が行われるように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が表示制御される。

【２２１３】

その後、特定制御用のワークエリア２２１におけるチェック中カウンタの値が「０」となっているか否かを判定する（ステップＳＢ６２５）。そして、チェック中カウンタの値が「０」となるまで、ステップＳＢ６２５にて待機する。この場合、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされた状態が維持されてい

るため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が割り込んで起動されたとしても、当該第１タイマ割込み処理（図１３３）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了される。したがって、ステップＳＢ６２３にてセットされた初期チェック期間が経過するまでは、遊技を進行させるための処理の実行が阻止された状況において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。

【２２１４】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグを「０」クリアする（ステップＳＢ６２６）。立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動された場合にステップＳ８９０６にて否定判定をすることでステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理だけではなくステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行することとなり、遊技を進行させるための処理が実行されない状態が解除される。なお、ステップＳＢ６２６では特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグも「０」クリアする。

【２２１５】

その後、ステップＳＢ６２７～ステップＳＢ６３０の残余処理に進む。つまり、主側ＣＰＵ６３は第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）を定期的に実行する構成であるが、１のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は各タイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップＳＢ６２７～ステップＳＢ６３０の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップＳＢ６２７～ステップＳＢ６３０の残余処理は非定期的に実行される非定期処理であると言える。ステップＳＢ６２７～ステップＳＢ６３０では、上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のステップＳ１１３～ステップＳ１１６と同一の処理を実行する。

【２２１６】

上記構成によれば、遊技を進行させるための処理の実行が阻止された状況において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる。これにより、遊技が行われない状況下において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かのチェックを行うことが可能となる。

【２２１７】

＜第５２の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行されるメイン処理の処理構成が上記第４９の実施形態と相違している。以下、上記第４９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第４９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２２１８】

図１７８は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳＢ７０１～ステップＳＢ７３４の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２２１９】

本実施形態のメイン処理では上記第４９の実施形態と異なり電源投入初期設定処理を実行しない。したがって、メイン処理が起動された場合にはウエイト用の所定時間が経過することを待つことなくステップＳＢ７０１以降の処理を開始する。なお、電源投入初期設定処理は実行しないが、メイン処理を開始した場合に主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する。

【２２２０】

メイン処理ではまず上記第４９の実施形態におけるメイン処理（図１６５）のステップＳＢ１０２と同様に内部機能レジスタ設定処理を実行するとともに（ステップＳＢ７０１）、上記第４９の実施形態におけるメイン処理（図１６５）のステップＳＢ１０３と同様

に特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグに「１」をセットする（ステップＳＢ７０２）。その後、停電フラグに「１」がセットされており、チェックサムが正常であり、設定値が正常であり、さらに特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされていないことを条件として（ステップＳＢ７０３～ステップＳＢ７０５：ＹＥＳ、ステップＳＢ７０６：ＮＯ）、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＢ７０７）。

【２２２１】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＢ７０７：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＢ７０８）。遊技停止フラグに「１」がセットされていない場合であって設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されている場合（ステップＳＢ７０８：ＮＯ、ステップＳＢ７０９：ＹＥＳ）、又は遊技停止フラグに「１」がセットされておらずさらに設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていない場合であって特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＢ７０８及びステップＳＢ７０９：ＮＯ、ステップＳＢ７１０：ＹＥＳ）、設定確認用処理を実行する（ステップＳＢ７１１）。設定確認用処理では上記第４９の実施形態における設定確認用処理（図１６６）においてステップＳＢ２０１～ステップＳＢ２０２及びステップＳＢ２０４～ステップＳＢ２０７の処理を実行する。

【２２２２】

つまり、本実施形態の設定確認用処理では確認開始コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信しない。したがって、本実施形態では設定確認用処理が実行されたとしても、設定確認用処理に対応する報知が図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて実行されない。本実施形態では既に説明したとおりメイン処理が起動された場合にはウエイト用の所定時間が経過することを待つことなくステップＳＢ７０１以降の処理を開始するため設定確認用処理が開始されたタイミングにおいて図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了していない可能性がある。これに対して、上記のとおり設定確認用処理に対応する報知が図柄表示装置４１にて実行されないようにすることにより、初期設定が完了していない状況において図柄表示装置４１の表示制御が開始されてしまわないようにすることが可能となる。なお、設定確認用処理に対応する報知が表示発光部５３及びスピーカ部５４にて行われるものの図柄表示装置４１にて行われない構成としてもよい。

【２２２３】

設定確認用処理を実行した後は、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する情報をセットする（ステップＳＢ７１２）。チェック中カウンタにセットされた値は上記第３５の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図１３４）が起動される度に１減算される。チェック中カウンタに１以上の値が設定されている場合、上記第３５の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。つまり、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ７０１～ステップＳＢ７２９）にて設定確認用処理が実行される場合には、設定確認用処理が終了した後に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始されるとともに、当該チェック用表示は処理の進行が待機されていない状況で行われる。

【２２２４】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されていないとともに遊技停止フラグに「１」がセットされておらずさらに設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていない場合であって特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＢ７０７～ステップＳＢ７１０：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する情報をセットする（ステップＳＢ７１３）。チェック中カウンタにセットされた値は上記第３５の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図１３４）が起動さ

れる度に１減算される。チェック中カウンタに１以上の値が設定されている場合、上記第３５の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。

【２２２５】

その後、割込み許可の設定を行う（ステップＳＢ７１４）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）が第２割込み周期で割り込んで起動される。第２タイマ割込み処理（図１３４）が割り込んで起動された場合、チェック中カウンタに１以上の値が設定されている状況においてはチェック用表示が行われるように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が表示制御される。

【２２２６】

その後、ウエイト用処理を実行する（ステップＳＢ７１５）。ウエイト用処理では、特定制御用のワークエリア２２１におけるチェック中カウンタの値が「０」となるまで待機する。この場合、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされた状態が維持されているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が割り込んで起動されたとしても、当該第１タイマ割込み処理（図１３３）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了される。したがって、ステップＳＢ７１３にてセットされた初期チェック期間が経過するまでは、遊技を進行させるための処理の実行が阻止された状況において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。また、ウエイト用処理にて待機している時間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。つまり、図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了するまで遊技を進行させるための処理の実行を阻止するためのウエイト期間を利用して、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示を行わせることが可能となる。ウエイト用処理（ステップＳＢ７１５）が終了した後は、上記第４９の実施形態におけるメイン処理（図１６５）のステップＳＢ１１３と同様に通常復帰コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信する（ステップＳＢ７１６）。

【２２２７】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されているとともに設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されている場合（ステップＳＢ７０７及びステップＳＢ７１７：ＹＥＳ）、設定値更新処理を実行する（ステップＳＢ７１８）。また、上記のような「設定変更操作」が行われているか否かに関係なく特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合にも（ステップＳＢ７０６：ＹＥＳ）、設定値更新処理を実行する（ステップＳＢ７１７）。設定値更新処理では上記第４９の実施形態における設定値更新処理（図１６７）においてステップＳＢ３０１～ステップＳＢ３０４及びステップＳＢ３０６～ステップＳＢ３１４の処理を実行する。

【２２２８】

つまり、本実施形態の設定値更新処理では更新開始コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信しない。したがって、本実施形態では設定値更新処理が実行されたとしても、設定値更新処理に対応する報知が図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて実行されない。本実施形態では既に説明したとおりメイン処理が起動された場合にはウエイト用の所定時間が経過することを待つことなくステップＳＢ７０１以降の処理を開始するため設定値更新処理が開始されたタイミングにおいて図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了していない可能性がある。これに対して、上記のとおり設定値更新処理に対応する報知が図柄表示装置４１にて実行されないようにすることにより、初期設定が完了していない状況において図柄表示装置４１の表示制御が開始されてしまわないようにすることが可能となる。なお、設定値更新処理に対応する報知が表示発光部５３及びスピーカ部５４にて行われるものの図柄表示装置４１にて行われない構成としてもよい。

【２２２９】

設定値更新処理を実行した後は、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する情報をセットする（ステップＳＢ７１９）。チェック中カウンタにセットされた値は上記第３５の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図１３４）が起動される度に１減算される。チェック中カウンタに１以上の値が設定されている場合、上記第３５の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。つまり、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ７０１～ステップＳＢ７２９）にて設定値更新処理が実行される場合には、設定値更新処理が終了した後に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始されるとともに、当該チェック用表示は処理の進行が待機されていない状況で行われる。

【２２３０】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されている一方、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていない場合（ステップＳＢ７０７：ＹＥＳ、ステップＳＢ７１７：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされていないことを条件として（ステップＳＢ７２０：ＮＯ）、第１ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＢ７２１）。第１ＲＡＭクリア処理の処理内容は上記第４９の実施形態におけるメイン処理（図１６５）の第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）と同一である。

【２２３１】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する情報をセットする（ステップＳＢ７２２）。チェック中カウンタにセットされた値は上記第３５の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図１３４）が起動される度に１減算される。チェック中カウンタに１以上の値が設定されている場合、上記第３５の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。

【２２３２】

その後、割込み許可の設定を行う（ステップＳＢ７２３）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）が第２割込み周期で割り込んで起動される。第２タイマ割込み処理（図１３４）が割り込んで起動された場合、チェック中カウンタに１以上の値が設定されている状況においてはチェック用表示が行われるように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が表示制御される。

【２２３３】

その後、ウエイト用処理を実行する（ステップＳＢ７２４）。ウエイト用処理では、特定制御用のワークエリア２２１におけるチェック中カウンタの値が「０」となるまで待機する。この場合、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされた状態が維持されているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が割り込んで起動されたとしても、当該第１タイマ割込み処理（図１３３）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了される。したがって、ステップＳＢ７２２にてセットされた初期チェック期間が経過するまでは、遊技を進行させるための処理の実行が阻止された状況において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。また、ウエイト用処理にて待機している時間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。つまり、図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了するまで遊技を進行させるための処理の実行を阻止するためのウエイト期間を利用して、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示を行わせることが可能となる。ウエイト用処理（ステップＳＢ７２４）が終了した後は、上記第４９の実施形態におけるメイン処理（図１６５）のステップＳＢ１１８と同様にクリア時の復帰コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信する（ステップＳＢ７２５）。

【２２３４】

ステップＳＢ７０３～ステップＳＢ７０５のいずれかにて否定判定をした場合、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」をセットした後に（ステップＳＢ７２６）、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＢ７２７）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合であって設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されている場合（ステップＳＢ７１７及びステップＳＢ７２７：ＹＥＳ）、ステップＳＢ７１８にて設定値更新処理を実行するとともにステップＳＢ７１９にてチェック中カウンタの設定処理を実行する。これら処理の内容は既に説明したとおりである。

【２２３５】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＢ７２７：ＮＯ）、ステップＳＢ７２０にて遊技停止フラグに「１」がセットされていると判定した場合、又はステップＳＢ７０８にて遊技停止フラグに「１」がセットされていると判定した場合、ステップＳＢ７２８及びステップＳＢ７２９の処理を実行する。これらステップＳＢ７２８及びステップＳＢ７２９の処理内容は上記第４９の実施形態におけるメイン処理（図１６５）のステップＳＢ１２１及びステップＳＢ１２２と同一である。

【２２３６】

ステップＳＢ７１２の処理を実行した場合、ステップＳＢ７１６の処理を実行した場合、ステップＳＢ７１９の処理を実行した場合、ステップＳＢ７２５の処理を実行した場合、又はステップＳＢ７２９の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグを「０」クリアする（ステップＳＢ７３０）。立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動された場合にステップＳ８９０６にて否定判定をすることでステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理だけではなくステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行することとなり、遊技を進行させるための処理が実行されない状態が解除される。なお、ステップＳＢ７３０では特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグも「０」クリアする。

【２２３７】

その後、ステップＳＢ７３１～ステップＳＢ７３４の残余処理に進む。つまり、主側ＣＰＵ６３は第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）を定期的に実行する構成であるが、１のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は各タイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップＳＢ７３１～ステップＳＢ７３４の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップＳＢ７３１～ステップＳＢ７３４の残余処理は非定期的に実行される非定期処理であると言える。ステップＳＢ７３１～ステップＳＢ７３４では、上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のステップＳ１１３～ステップＳ１１６と同一の処理を実行する。

【２２３８】

上記構成によれば、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ７０１～ステップＳＢ７２９）にて設定確認用処理（ステップＳＢ７１１）及び設定値更新処理（ステップＳＢ７１８）が実行されない場合には、ウエイト用処理にて処理の進行を待機している状況において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。これにより、図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了するまで遊技を進行させるための処理の実行を阻止するためのウエイト期間を利用して、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示を行わせることが可能となる。また、遊技を進行させるための処理が開始される前に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるチェック用表示を確認する機会を担保することが可能となる。

【２２３９】

一方、設定確認用処理（ステップＳＢ７１１）又は設定値更新処理（ステップＳＢ７１８）は少なくとも遊技ホールの管理者により設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作されないと終了しないため、これら設定確認用処理（ステップＳＢ７１１）又は設定値更新処理（

ステップＳＢ７１８）が終了されるまでに、図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了するまでに要する時間以上の時間が経過していることとなる。この場合に、設定確認用処理（ステップＳＢ７１１）又は設定値更新処理（ステップＳＢ７１８）が実行される場合にはウエイト用処理が実行されないようにすることにより、設定確認用処理（ステップＳＢ７１１）又は設定値更新処理（ステップＳＢ７１８）が実行された場合において遊技を進行させるための処理が開始されるまでに要する時間が過剰に長くなってしまわないようにすることが可能となる。

【２２４０】

また、設定確認用処理（ステップＳＢ７１１）又は設定値更新処理（ステップＳＢ７１８）が実行される場合、設定確認用処理（ステップＳＢ７１１）又は設定値更新処理（ステップＳＢ７１８）が終了した後に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用した設定値の表示に影響を与えないようにしながら、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示を行うことが可能となる。

【２２４１】

＜第５３の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行されるメイン処理の処理構成が上記第４９の実施形態と相違している。以下、上記第４９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第４９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２２４２】

図１７９は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８２６の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２２４３】

まず電源投入初期設定処理を実行する（ステップＳＢ８０１）。電源投入初期設定処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。このウエイト用の所定期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。また、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する。

【２２４４】

その後、内部機能レジスタ設定処理を実行する（ステップＳＢ８０２）。内部機能レジスタ設定処理では上記第３５の実施形態と同様に、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第１タイマ割込み処理（図１３３）の割込み周期を第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）に設定するとともに、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込み周期を上記第１割込み周期よりも短い周期である第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）に設定する。

【２２４５】

つまり、本実施形態では上記第３５の実施形態と同様に、タイマ割込み処理として割込み周期が相対的に長短となるように第１タイマ割込み処理（図１３３）と第２タイマ割込み処理（図１３４）とが存在している。第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）はいずれもメイン処理に対して割り込んで起動される。また、第２タイマ割込み処理（図１３４）は第１タイマ割込み処理（図１３３）に対して割り込んで起動される。一方、第１タイマ割込み処理（図１３３）は第２タイマ割込み処理（図１３４）に対して割り込んで起動されない。また、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の両方が実行されていない状況において第１割込み周期及び第２割込み周期の両方が経過している場合、それら周期の経過順序に関係なく第２タイマ割込み処理（図１３４）から先に起動される。この点、第２タイマ割込み処理（図１３４）は第１タイマ割込み処理（図１３３）よりも優先して起動される処理であると言える。但し、これに限定されることはなく第１タイマ割込み処理（図１３３）が第２タ

イマ割込み処理（図１３４）よりも優先して起動される構成としてもよい。
【２２４６】
内部機能レジスタ設定処理では、第１タイマ割込み処理（図１３３）の第１割込み周期を主側ＣＰＵ６３の所定のレジスタに設定するとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）の第２割込み周期を主側ＣＰＵ６３の特定のレジスタに設定する。また、内部機能レジスタ設定処理では上記第１，第２割込み周期の設定以外にも例えば当たり乱数カウンタＣ１の数値範囲といった各種カウンタの数値範囲の設定処理などを実行する。
【２２４７】
その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた立ち上げ処理中フラグに「１」をセットする（ステップＳＢ８０３）。立ち上げ処理中フラグは上記第３５の実施形態と同様に、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）に設定されている各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行する一方、遊技を進行させるための処理を実行することなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）を終了すべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。
【２２４８】
立ち上げ処理中フラグは、メイン処理（図１６５）において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）が開始された場合に「１」がセットされ、動作電力の供給開始時の処理が終了して残余処理（ステップＳＢ８１９～ステップＳＢ８２２）が開始される前に「０」クリアされる。上記第３５の実施形態と同様に第１タイマ割込み処理（図１３３）では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合にはステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しないようにすることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）のうち後述する設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）又は設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況において遊技を進行させるための処理が実行されないようにすることが可能となる。その一方、上記のとおり第１タイマ割込み処理（図１３３）では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合であってもステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行することで、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）のうち後述する設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）又は設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。
【２２４９】
特に、立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている状況であっても停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）が実行されることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）のうち後述する設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）又は設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況において停電が発生したとしてもそれに対して停電時処理を実行することが可能となる。停電時処理では上記第３５の実施形態と同様に、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１に保存するため、動作電力の供給が再度開始された場合には主側ＲＡＭ６５の異常発生と特定されないようにすることが可能となる。これにより、設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）又は設定値更新処理（図１８１）の途中で停電が発生した場合には、これら設定関連処理の途中で停電が発生したことを次回の動作電力の供給開始時に特定することが可能となる。
【２２５０】
ちなみに、設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）又は設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況では、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理

（図１３４）のいずれについても割込みが禁止されることはなく任意のタイミングで割込み可能となっている。この場合、設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）又は設定値更新処理（図１８１）において第１タイマ割込み処理（図１３３）又は第２タイマ割込み処理（図１３４）が割り込んで起動される場合には、その起動対象となったタイマ割込み処理が終了した後に復帰するためのメイン処理（図１７９）の戻り番地の情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されるとともに、当該タイマ割込み処理が起動される直前における主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避される。そして、起動対象となったタイマ割込み処理が終了した場合には特定制御用のスタックエリア２２２に退避された戻り番地の情報に対応するメイン処理（図１７９）の処理に復帰することとなるとともに、特定制御用のスタックエリア２２２に退避された情報が主側ＣＰＵ６３の各種レジスタに復帰される。

【２２５１】

ステップＳＢ８０３にて立ち上げ処理中フラグに「１」をセットした後は、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＢ８０４）。第１タイマ割込み処理（図１３３）の停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）にて停電時処理が実行された場合に停電フラグに「１」がセットされる。停電フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われたか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【２２５２】

停電フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＢ８０４：ＹＥＳ）、チェックサムが正常であるか否かを判定する（ステップＳＢ８０５）。具体的には、まず特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてチェックサムを算出する。チェックサムの算出方法は上記第３３の実施形態と同一である。その後、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理において算出されて特定制御用のワークエリア２２１に保存された特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムを読み出すとともに、その読み出したチェックサムを、今回のメイン処理にて上記のように算出したチェックサムと比較する。そして、それらチェックサムが一致しているか否かを判定する。

【２２５３】

チェックサムが一致している場合（ステップＳＢ８０５：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定参照用エリア３４１（図１５４参照）に格納された情報に対応する設定値が正常な範囲であるか否かを判定する（ステップＳＢ８０６）。設定参照用エリア３４１は上記第４５の実施形態と同様に現状のパチンコ機１０の設定値を主側ＣＰＵ６３にて特定するための情報が格納される記憶エリアである。設定参照用エリア３４１に「１」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定１」となる。設定参照用エリア３４１に「２」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定２」となる。設定参照用エリア３４１に「３」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定３」となる。設定参照用エリア３４１に「４」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定４」となる。設定参照用エリア３４１に「５」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定５」となる。設定参照用エリア３４１に「６」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定６」となる。ステップＳＢ８０６では設定参照用エリア３４１に格納された設定値の情報が「１」～「６」のいずれかであるか否かを判定する。

【２２５４】

ステップＳＢ８０４～ステップＳＢ８０６の全てで肯定判定をした場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＢ８０７）。つまり、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている状態においてパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われて主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたか否かを判定する。ここで、本実施形態では上記第３５の実施形態と同様に、主制御装置６０に設定キー挿入部６８ａ及び

リセットボタン６８ｃが設けられているものの更新ボタン６８ｂは設けられていない。また、主制御装置６０には第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃではなく第１１の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が設けられている。

【２２５５】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＢ８０７：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグ又は設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＢ８０８）。

【２２５６】

遊技停止フラグは、停電フラグに「１」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合に「１」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【２２５７】

設定更新表示フラグは上記第３５の実施形態と同様に設定値更新処理（図１８１）が実行されていることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグであり、設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を更新している状況であることを示す表示及び更新途中の設定値を示す表示が行われる。設定更新表示フラグは、設定値更新処理（図１８１）が開始された場合に「１」がセットされ設定値更新処理（図１８１）が終了される場合に「０」クリアされるフラグであるため、設定値更新処理（図１８１）が実行されていない状況においては基本的に設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合において設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態となる。この設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態は設定値更新処理（図１８１）において設定更新表示フラグを「０」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【２２５８】

遊技停止フラグ及び設定更新表示フラグに「１」がセットされていないことでステップＳＢ８０８にて否定判定をした場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定する（ステップＳＢ８０９）。設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されている場合（ステップＳＢ８０９：ＹＥＳ）、設定確認用処理を実行する（ステップＳＢ８１０）。設定確認用処理の処理内容は上記第４９の実施形態における設定確認用処理（図１６６）と同一である。なお、本実施形態では設定確認用処理を実行している途中で動作電力の供給が停止されたとしても、動作電力の供給が再開される場合に「設定確認操作」が行われない限り設定確認用処理は実行されない。

【２２５９】

設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていない場合（ステップＳＢ８０９：ＮＯ）、通常復帰コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＢ８１１）。通常復帰コマンドを受信した場合に音声発光制御装置８１にて実行される処理内容は上記第４９の実施形態と同一である。

【２２６０】

一方、ステップＳＢ８０７にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていると判定し

た場合（ステップＳＢ８０７及びステップＳＢ８１２：ＹＥＳ）、設定値更新処理を実行する（ステップＳＢ８１３）。つまり、本実施形態では特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされていたとしても、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始時に「設定変更操作」が行われない限り設定値更新処理は実行されない。設定値更新処理の詳細については後に説明する。

【２２６１】

ステップＳＢ８０７にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていないと判定した場合（ステップＳＢ８１２：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグ又は設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＢ８１４）。

【２２６２】

遊技停止フラグ及び設定更新表示フラグの両方に「１」がセットされていない場合（ステップＳＢ８１４：ＮＯ）、第１ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＢ８１５）。第１ＲＡＭクリア処理では、上記第４５の実施形態におけるＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）と同様に、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア３４１）を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「０」クリアされるため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示されていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグ及び設定確認表示フラグを「０」クリアする。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新用エリア３４２を「０」クリアする。また、第１ＲＡＭクリア処理では特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。また、第１ＲＡＭクリア処理では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を実行する。この初期設定ではステップＳＢ８０２の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。なお、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４については「０」クリアするための処理及び初期設定を行うための処理は実行しない。

【２２６３】

その後、クリア時の復帰コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＢ８１６）。クリア時の復帰コマンドを受信した場合に音声発光制御装置８１にて実行される処理内容は上記第４９の実施形態と同一である。

【２２６４】

ステップＳＢ８１０の処理を実行した場合、ステップＳＢ８１１の処理を実行した場合、ステップＳＢ８１３の処理を実行した場合、又はステップＳＢ８１６の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する情報をセットする（ステップＳＢ８１７）。チェック中カウンタにセットされた値は上記第３５の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図１３４）が起動される度に１減算される。チェック中カウンタに１以上の値が設定されている場合、上記第３５の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。

【２２６５】

上記構成によれば主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、当該主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ス

テップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）が終了した後であって残余処理（ステップＳＢ８１９～ステップＳＢ８２２）が開始される前に、初期チェック期間が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において初期チェック期間を制御する必要がないため、当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況における処理負荷を軽減することが可能となる。

【２２６６】

また、設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）及び設定値更新処理（図１８１）は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）として実行されるのに対して、初期チェック期間は動作電力の供給開始時の処理が終了した後に開始される。これにより、初期チェック期間において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われるとしても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用した設定値の表示に影響を与えないようにすることが可能となる。

【２２６７】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグを「０」クリアする（ステップＳＢ８１８）。立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動された場合にステップＳ８９０６にて否定判定をすることでステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理だけではなくステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行することとなり、遊技を進行させるための処理が実行されない状態が解除される。なお、ステップＳＢ８１８では特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグも「０」クリアする。

【２２６８】

その後、ステップＳＢ８１９～ステップＳＢ８２２の残余処理に進む。つまり、主側ＣＰＵ６３は第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）を定期的に実行する構成であるが、１のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は各タイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップＳＢ８１９～ステップＳＢ８２２の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップＳＢ８１９～ステップＳＢ８２２の残余処理は非定期的に実行される非定期処理であると言える。ステップＳＢ８１９～ステップＳＢ８２２では、上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のステップＳ１１３～ステップＳ１１６と同一の処理を実行する。

【２２６９】

メイン処理（図１７９）においてステップＳＢ８０４～ステップＳＢ８０６のいずれかにて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「１」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」をセットする（ステップＳＢ８２３）。既に説明したとおり遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【２２７０】

その後、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＢ８２４）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＢ８２４：ＮＯ）、動作電力の供給開始時において停電フラグ、チェックサム又は設定値に関して異常が発生したことを示す異常コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＢ８

２５）。音声発光制御装置８１は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を動作電力の供給開始時における情報異常に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定変更をして下さい。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機１０への動作電力の供給が一旦停止されたとしても設定値更新処理（図１８１）が実行されるまではパチンコ機１０への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が再開されることとなる。

【２２７１】

その後、異常時の外部出力処理を実行する（ステップＳＢ８２６）。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間（例えば１００ミリ秒）に亘って行われる。但し、これに限定されることはなくステップＳＢ８２６の処理の実行契機となる事象が発生している状況においては異常信号の信号出力が継続され、ステップＳＢ８２６の処理の実行契機となる事象が発生していない状況となることで異常信号の信号出力が停止される構成としてもよい。また、異常信号は、ステップＳＢ８２６においてのみ出力されるのではなく、他の処理によっても出力され得る。例えば、第１タイマ割込み処理（図１３３）の不正検知処理（ステップＳ８９０５）において監視対象の不正（不正な電波の検知や不正の磁気の検知）が発生したことを特定した場合にも異常信号が外部出力される。但し、このように異常信号が兼用される構成に限定されることはなく、ステップＳＢ８２６の専用となる異常信号が外部出力される構成としてもよい。

【２２７２】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合（ステップＳＢ８２４：ＹＥＳ）、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定する（ステップＳＢ８１２）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されているとともに設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されている場合（ステップＳＢ８１２及びステップＳＢ８２４：ＹＥＳ）、設定値更新処理を実行する（ステップＳＢ８１３）。つまり、「設定変更操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力が供給された場合、主側ＲＡＭ６５について異常が発生していることでステップＳＢ８０４～ステップＳＢ８０６のいずれかにて否定判定をした場合であっても設定値更新処理（図１８１）が実行される。これにより、設定値の変更を優先させることが可能となる。

【２２７３】

一方、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているものの設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていない場合（ステップＳＢ８２４：ＹＥＳ、ステップＳＢ８１２：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグ又は設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＢ８１４）。ステップＳＢ８２３にて遊技停止フラグに「１」がセットされた後におけるステップＳＢ８１４の処理では当然のことながら遊技停止フラグに「１」がセットされているため、ステップＳＢ８１４にて肯定判定をする。この場合、ステップＳＢ８２５にて音声発光制御装置８１に異常コマンドを送信するとともに、ステップＳＢ８２６にて異常信号を外部出力する。その後、ステップＳＢ８１７及びステップＳＢ８１８の処理を実行することなく、ステップＳＢ８１９～ステップＳＢ８２２の残余処理に移行する。

【２２７４】

つまり、停電フラグ、チェックサム及び設定値に関する異常が発生してステップＳＢ８０４～ステップＳＢ８０６のいずれかにて否定判定をした場合、「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたとしても第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ８１５）は実行されない。また、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況であって「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合にも第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ８１５）は実行されない。これにより、「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６

３への動作電力の供給が開始されたとしても遊技停止フラグに「１」がセットされた状態が解消されないようにすることが可能となる。これに対して、「設定変更操作」が行われている場合には遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かに関係なく設定値更新処理（図１８１）が実行されるとともに詳細は後述するが当該設定値更新処理（図１８１）の開始時の初期設定にて遊技停止フラグが「０」クリアされる。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされた状態を解消するためには設定値更新処理（図１８１）を実行する必要が生じることとなる。よって、特定制御用のワークエリア２２１の情報異常の発生に際しては当該特定制御用のワークエリア２２１を初期化するための処理だけではなく、設定値の再設定を要するようにすることが可能となる。

【２２７５】

ここで、ステップＳＢ８０７にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていないと判定した場合においてステップＳＢ８０８にて特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグ又は設定更新表示フラグに「１」がセットされていると判定した場合、ステップＳＢ８２５にて音声発光制御装置８１に異常コマンドを送信するとともに、ステップＳＢ８２６にて異常信号を外部出力する。そして、これらの処理を実行した後は、ステップＳＢ８１７及びステップＳＢ８１８の処理を実行することなく、ステップＳＢ８１９～ステップＳＢ８２２の残余処理に移行する。また、ステップＳＢ８０７にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定するとともにステップＳＢ８１２にて設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていないと判定した場合（すなわち「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合）であっても、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグ又は設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合にはステップＳＢ８１４にて肯定判定をして、ステップＳＢ８２５にて音声発光制御装置８１に異常コマンドを送信するとともに、ステップＳＢ８２６にて異常信号を外部出力する。そして、これらの処理を実行した後は、ステップＳＢ８１７及びステップＳＢ８１８の処理を実行することなく、ステップＳＢ８１９～ステップＳＢ８２２の残余処理に移行する。

【２２７６】

次に、設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合におけるその後の処理の様子について図１８０のタイムチャートを参照しながら説明する。図１８０（ａ）はパチンコ機１０の電源がＯＮ状態となっている期間を示し、図１８０（ｂ）は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）が実行されている期間を示し、図１８０（ｃ）は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）が終了した後の処理が実行されている期間を示し、図１８０（ｄ）は設定値更新処理（図１８１）が実行されている期間を示し、図１８０（ｅ）は特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされている期間を示し、図１８０（ｆ）は特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている期間を示し、図１８０（ｇ）は異常信号が外部出力されている期間を示す。

【２２７７】

ｔ１のタイミングで図１８０（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われる。この場合、「設定変更操作」が行われた状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われている。当該ｔ１のタイミングで図１８０（ｂ）に示すように主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）が開始されるとともに、図１８０（ｆ）に示すように特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされる。

【２２７８】

その後、ｔ２のタイミングで図１８０（ｄ）に示すように設定値更新処理（図１８１）が開始される。この場合、当該ｔ２のタイミングで図１８０（ｅ）に示すように特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされる。

【２２７９】

その後、図１８０（ｄ）に示すように設定値更新処理（図１８１）が実行されている途中の状況であるｔ３のタイミングでパチンコ機１０の電源のＯＦＦ操作が行われることで主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される。したがって、図１８０（ｂ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）が終了するとともに図１８０（ｄ）に示すように設定値更新処理（図１８１）が終了する。

【２２８０】

その後、ｔ４のタイミングで図１８０（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が再度行われる。この場合、「ＲＡＭクリア操作」が行われた状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われている。当該ｔ４のタイミングで図１８０（ｂ）に示すように主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）が開始される。また、図１８０（ｅ）及び図１８０（ｆ）に示すように前回の動作電力の供給停止前から引き続き特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグ及び立ち上げ処理中フラグの両方に「１」がセットされている。

【２２８１】

今回は設定更新表示フラグに「１」がセットされている状況において「ＲＡＭクリア操作」が行われた状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われているため、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ８１５）が実行されることなく、図１８０（ｇ）に示すようにｔ５のタイミング～ｔ７のタイミングの所定期間（例えば１００ミリ秒）に亘って異常信号の外部出力が行われる。また、ｔ５のタイミングで異常コマンドの送信に基づく異常報知が開始される。

【２２８２】

図１８０（ｂ）に示すようにｔ４のタイミングで開始された動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）はｔ６のタイミングで終了する。そして、当該ｔ６のタイミングで動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）が終了した後の処理が開始される。

【２２８３】

この場合、図１８０（ｆ）に示すように特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理は実行されない。その後、ｔ８のタイミングで図１８０（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＦＦ操作が行われることで主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される。また、当該ｔ８のタイミングで図１８０（ｃ）に示すように供給後の処理が終了する。

【２２８４】

その後、ｔ９のタイミングで図１８０（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が再度行われる。この場合、「設定変更操作」が行われた状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われている。当該ｔ９のタイミングで図１８０（ｂ）に示すように主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）が開始される。また、図１８０（ｅ）及び図１８０（ｆ）に示すように前回の動作電力の供給停止前から引き続き特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグ及び立ち上げ処理中フラグの両方に「１」がセットされている。

【２２８５】

その後、ｔ１０のタイミング～ｔ１１のタイミングに亘って図１８０（ｄ）に示すように設定値更新処理（図１８１）が実行される。この場合、当該設定値更新処理（図１８１）は正常に終了する。そして、この終了したタイミングであるｔ１１のタイミングで、図１８０（ｅ）に示すように設定更新表示フラグが「０」クリアされる。また、当該ｔ１１

のタイミングで図１８０（ｂ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）が終了する。これにより、当該ｔ１１のタイミングで、図１８０（ｆ）に示すように立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされる。そして、当該ｔ１１のタイミングで図１８０（ｃ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）が終了した後の処理が開始される。この場合、立ち上げ処理中フラグは既に「０」クリアされているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動された場合には停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理だけではなく、遊技を進行させるための処理が実行される。

【２２８６】

上記のとおり設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合には、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開される場合に「設定変更操作」が行われない限り、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）では音声発光制御装置８１への異常コマンドの送信及び異常信号の外部出力が実行され、仮に「ＲＡＭクリア操作」が行われていたとしても第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ８１５）が実行されることはなく、「設定確認操作」が行われていたとしても設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）が実行されることはない。さらにまた、音声発光制御装置８１への異常コマンドの送信及び異常信号の外部出力が実行された場合には、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグを「０」クリアする処理（ステップＳＢ８１８）が実行されることなく残余処理（ステップＳＢ８１９～ステップＳＢ８２２）が実行されるため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理は実行されない。これにより、設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合には、「設定変更操作」を行った状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給を再開させて設定値更新処理（図１８１）を実行させる必要が生じる。よって、設定値の変更を確実に行わせることが可能となる。

【２２８７】

次に、メイン処理（図１７９）のステップＳＢ８１３にて実行される本実施形態における設定値更新処理について、図１８１のフローチャートを参照しながら説明する。なお、設定値更新処理におけるステップＳＢ９０１～ステップＳＢ９１８の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２２８８】

まずＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」をセットする（ステップＳＢ９０１）。ＯＦＦ確認フラグ３６１は図１８２の説明図に示すように特定制御用のワークエリア２２１に設けられている。本実施形態であっても設定値更新処理（図１８１）ではリセットボタン６８ｃが押圧操作される度に特定制御用のワークエリア２２１の設定更新用エリア３４２の値、すなわち更新対象の設定値が１加算される。この場合に、リセットボタン６８ｃの１回の押圧操作に対して更新対象の設定値が「１」のみ加算されるようにすべく、リセットボタン６８ｃが非操作状態から操作状態となった場合、すなわちリセットボタン６８ｃの操作を検知する検知センサからの検知信号が操作非検知の状態から操作検知の状態に切り換わった場合に、設定更新用エリア３４２の値を１加算することで更新対象の設定値を１加算する構成となっている。

【２２８９】

当該構成においてＯＦＦ確認フラグ３６１は設定値更新処理（図１８１）にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されたか否かを確認する場合においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が開始されたタイミングであるか否かを確認するためのフラグである。設定値更新処理（図１８１）にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かの判定処理（ステップＳＢ９１０）を実行した後において、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定した場合に「１」がセットされ又は「１」のセット状態が維持され、リセットボタ

ン６８ｃが押圧操作されていないと判定した場合に「０」クリアされる又は「０」の状態が維持される。

【２２９０】

ここで、設定値更新処理（図１８１）は既に説明したとおりメイン処理（図１７９）のステップＳＢ８０７又はステップＳＢ８２４にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定したことを条件として実行される。これらステップＳＢ８０７又はステップＳＢ８２４では主側ＣＰＵ６３はリセットボタン６８ｃの押圧操作の有無を検知する検知センサからの検知信号が入力される入力ポートを直接監視することでリセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する。この場合、リセットボタン６８ｃの押圧操作の開始タイミングや終了タイミングを確認するのではなく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている状態となっているか否かを確認する。したがって、ステップＳＢ８０７又はステップＳＢ８２４ではＯＦＦ確認フラグ３６１を確認することなく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていることに対応する信号が入力ポートに入力されている場合には肯定判定をする。

【２２９１】

但し、当該構成においては設定値更新処理（図１８１）を開始させるためのパチンコ機１０の電源ＯＮ時におけるリセットボタン６８ｃの押圧操作の終了タイミングと設定値更新処理（図１８１）の開始タイミングとの関係によっては、当該押圧操作が更新対象の設定値を１加算する契機となる場合と当該契機とならない場合とが発生することとなる。そうすると、パチンコ機１０の電源ＯＮ時におけるリセットボタン６８ｃの押圧操作の終了タイミングに応じて更新対象の設定値の更新態様が変化することとなってしまい操作性が低下してしまう。これに対して、ＯＦＦ確認フラグ３６１に「０」がセットされている状況においてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定した場合に更新対象の設定値を１加算する構成において、設定値更新処理（図１８１）が開始された場合にはリセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する処理よりも先に実行されるステップＳＢ９０１にてＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」をセットする構成とすることにより、パチンコ機１０の電源ＯＮ時におけるリセットボタン６８ｃの押圧操作に起因して更新対象の設定値が１加算されてしまわないようにすることが可能となる。

【２２９２】

ステップＳＢ９０１の処理を実行した後は、割込み許可の設定を行う（ステップＳＢ９０２）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）が第２割込み周期で割り込んで起動される。本実施形態においては上記第４９の実施形態と同様に動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）では基本的に第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止されており、設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）及び設定値更新処理（図１８１）において割込みが許可される。したがって、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）において設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）及び設定値更新処理（図１８１）が実行されていない状況においては第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が禁止され、設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）又は設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が許可される。但し、設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）又は設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了される。

【２２９３】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」がセットされていないことを条件として、設定更新表示フラグに「１」をセットする（ステップＳＢ９０３）。設定更新表示フラグに「１」がセットされることにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００３にて肯定判定をすることで、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００４）を実行する。当該設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理の処理内容は上記第４５の実施形態と同一である。当該処理が実行されることにより、例えば図１２４（ａ）の説明図に示すように、パチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の更新対象として選択されている設定値の表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。

【２２９４】

その後、開始時の初期設定を行う（ステップＳＢ９０４）。当該初期設定では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグを「０」クリアする。遊技停止フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＢ８０４：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合（ステップＳＢ８０５：ＮＯ）、又は設定参照用エリア３４１に格納された情報に対応する設定値が正常な範囲ではない場合に（ステップＳＢ８０６：ＮＯ）、メイン処理（図１７９）のステップＳＢ８２３にて「１」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、上記のような主側ＲＡＭ６５の情報異常が発生した場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。ステップＳＢ９０４の処理にて遊技停止フラグを「０」クリアすることで、主側ＲＡＭ６５の情報異常の発生が特定されている状態を設定値更新処理（図１８１）が実行された場合に解除することが可能となる。

【２２９５】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新用エリア３４２（図１５４参照）に「１」を設定する（ステップＳＢ９０５）。設定更新用エリア３４２は上記第４５の実施形態と同様に設定値更新処理（図１８１）において更新途中の設定値の情報が格納される記憶エリアである。設定更新用エリア３４２に「１」の数値情報が格納されている場合には更新対象（選択対象又は変更対象）の設定値は「設定１」となる。設定更新用エリア３４２に「２」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定２」となる。設定更新用エリア３４２に「３」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定３」となる。設定更新用エリア３４２に「４」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定４」となる。設定更新用エリア３４２に「５」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定５」となる。設定更新用エリア３４２に「６」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定６」となる。

【２２９６】

ステップＳＢ９０５にて設定更新用エリア３４２に「１」を設定することで、更新対象の設定値が「設定１」となる。つまり、本実施形態ではパチンコ機１０の現状の設定値がいずれであったとしても設定値更新処理（図１８１）が開始された場合には更新対象の設定値は「設定１」となる。

【２２９７】

その後、更新開始コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＢ９０６）。音声発光制御装置８１は更新開始コマンドを受信することにより、設定値更新処理（図１８１）が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能

とさせるための画像、及び設定値更新処理（図１８１）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、設定値を変更している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定値を変更させるために必要な操作内容及び設定値更新処理（図１８１）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。また、設定値更新処理（図１８１）が実行されていることを示す外部出力が例えば遊技ホールの管理コンピュータといったパチンコ機１０外部の装置に対して行われる構成としてもよい。

【２２９８】

その後、設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報が「１」～「６」のいずれかであるか否かを判定する（ステップＳＢ９０７）。「１」～「６」のいずれかではない場合（ステップＳＢ９０７：ＮＯ）、設定更新用エリア３４２に「１」を設定する（ステップＳＢ９０８）。これにより、更新対象の設定値が「設定１」となる。

【２２９９】

ステップＳＢ９０７にて肯定判定をした場合又はステップＳＢ９０８の処理を実行した場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する（ステップＳＢ９０９）。具体的には、設定キー挿入部６８ａの状態を検知する検知センサから受信している信号の受信状態が、ＯＮ状態に対応する受信状態からＯＦＦ状態に対応する受信状態となったか否かを判定する。

【２３００】

ステップＳＢ９０９にて否定判定をした場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＢ９１０）。具体的には、リセットボタン６８ｃの押圧操作の有無を検知する検知センサからの検知信号が入力される入力ポートを直接監視することでリセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する。リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＢ９１０：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１におけるＯＦＦ確認フラグ３６１を「０」クリアした後に（ステップＳＢ９１１）、ステップＳＢ９０７の処理に戻る。

【２３０１】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合（ステップＳＢ９１０：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１におけるＯＦＦ確認フラグ３６１の値が「０」であるか否かを判定する（ステップＳＢ９１２）。ＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」がセットされている場合には（ステップＳＢ９１２：ＮＯ）、今回の確認タイミングがリセットボタン６８ｃの押圧操作の開始タイミングではなく、リセットボタン６８ｃの押圧操作が継続されている状況であることを意味するため、更新対象の設定値を１加算することなくステップＳＢ９０７の処理に戻る。

【２３０２】

ＯＦＦ確認フラグ３６１の値が「０」である場合（ステップＳＢ９１２：ＹＥＳ）、今回の確認タイミングがリセットボタン６８ｃの押圧操作の開始タイミングであることを意味する。この場合、ＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」をセットした後に（ステップＳＢ９１３）、設定更新用エリア３４２の値を１加算する（ステップＳＢ９１４）。これにより、リセットボタン６８ｃが１回押圧操作される度に１段階上の設定値に更新される。また、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＢ９１０：ＮＯ）、ＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」がセットされている場合（ステップＳＢ９１２：ＮＯ）、又は設定更新用エリア３４２の値を１加算した場合（ステップＳＢ９１４）にはステップＳＢ９０７の処理に戻ることとなるが、ステップＳＢ９０７にて設定更新用エリア３４２の値が７以上であると判定されると、ステップＳＢ９０８にて設定更新用エリア３４２に「１」がセットされる。これにより、「設定６」の状況でリセットボタン６８ｃが１回押圧操作された場合には「設定１」に戻ることになる。

【２３０３】
設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定した場合（ステップＳＢ９０９：ＹＥＳ）、設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報を設定参照用エリア３４１に上書きする（ステップＳＢ９１５）。これにより、今回の設定値更新処理（図１８１）にて更新された結果の設定値の情報が設定参照用エリア３４１に設定された状態となり、その設定された情報に対応する設定値が現状のパチンコ機１０の設定値となる。
【２３０４】
その後、割込み禁止の設定を行う（ステップＳＢ９１６）。これにより、設定値更新処理（図１８１）を終了してメイン処理（図１７９）における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８、ステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６）に復帰する場合には第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止される。
【２３０５】
その後、第２ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＢ９１７）。第２ＲＡＭクリア処理では、上記第４５の実施形態におけるＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）と同様に、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア３４１）を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「０」クリアされるため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示されていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグ及び設定確認表示フラグを「０」クリアする。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新用エリア３４２を「０」クリアする。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグを「０」クリアする。また、第２ＲＡＭクリア処理では特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。また、第２ＲＡＭクリア処理では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を実行する。この初期設定ではステップＳＢ８０２の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。なお、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４については「０」クリアするための処理及び初期設定を行うための処理は実行しない。
【２３０６】
その後、更新時の復帰コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＢ９１８）。更新時の復帰コマンドを受信した場合に音声発光制御装置８１にて実行される処理内容は上記第４９の実施形態と同一である。
【２３０７】
次に、更新対象の設定値が更新される様子について図１８３のタイムチャートを参照しながら説明する。図１８３（ａ）はパチンコ機１０の電源がＯＮ状態となっている期間を示し、図１８３（ｂ）は設定キー挿入部６８ａの操作状況を示し、図１８３（ｃ）はリセットボタン６８ｃの操作状況を示し、図１８３（ｄ）は設定値更新処理（図１８１）が実行されている期間を示し、図１８３（ｅ）はＯＦＦ確認フラグ３６１の設定状況を示し、図１８３（ｆ）は設定値の更新タイミングを示す。
【２３０８】
まず設定値更新処理（図１８１）が開始された場合にＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」がセットされない比較例について説明する。

【２３０９】
ｔ１のタイミングで図１８３（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されるとともに図１８３（ｃ）に示すようにリセットボタン６８ｃが押圧操作される。そして、設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作が継続されている状況であるｔ２のタイミングで図１８３（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われる。この場合、「設定変更操作」が行われた状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われていることになるため、ｔ３のタイミングで図１８３（ｄ）に示すように設定値更新処理（図１８１）が開始される。
【２３１０】
当該比較例では設定値更新処理（図１８１）が開始された場合にＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」がセットされないため、図１８３（ｅ）に示すようにｔ３のタイミングではＯＦＦ確認フラグ３６１の値は「０」となっている。その後、電源のＯＮ操作時におけるリセットボタン６８ｃの押圧操作が継続されている状況であるｔ４のタイミングで、ＯＦＦ確認フラグ３６１の値が「０」である状況でリセットボタン６８ｃが押圧操作されていることが特定されることで図１８３（ｆ）に示すように更新対象の設定値が１加算される。また、当該ｔ４のタイミングで図１８３（ｅ）に示すようにＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」がセットされる。
【２３１１】
つまり、上記比較例では電源のＯＮ操作時におけるリセットボタン６８ｃの押圧操作が設定値更新処理（図１８１）の開始後も継続されることで、当該押圧操作を契機として更新対象の設定値が１加算されることとなる。この場合、遊技ホールの管理者は更新対象の設定値を更新する意図がないにも関わらず、更新対象の設定値が更新されることとなってしまう。
【２３１２】
次に、設定値更新処理（図１８１）が開始された場合にＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」がセットされる本実施形態について説明する。
【２３１３】
ｔ５のタイミングで図１８３（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されるとともに図１８３（ｃ）に示すようにリセットボタン６８ｃが押圧操作される。そして、設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作が継続されている状況であるｔ６のタイミングで図１８３（ａ）に示すようにパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われる。この場合、「設定変更操作」が行われた状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われていることになるため、ｔ７のタイミングで図１８３（ｄ）に示すように設定値更新処理（図１８１）が開始される。設定値更新処理（図１８１）が開始された場合にはステップＳＢ９０１にてＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」をセットする処理が実行される。したがって、ｔ７のタイミングで図１８３（ｅ）に示すようにＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」がセットされた状態となる。このＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」をセットするタイミングは設定値更新処理（図１８１）においてリセットボタン６８ｃが押圧操作されたか否かを判定するタイミングよりも前のタイミングであるため、図１８３（ｆ）に示すように電源のＯＮ操作時におけるリセットボタン６８ｃの押圧操作が継続されているとしても更新対象の設定値は１加算されない。その後、ｔ８のタイミングで図１８３（ｃ）に示すようにリセットボタン６８ｃの押圧操作が終了されることで図１８３（ｅ）に示すようにＯＦＦ確認フラグ３６１は「０」クリアされる。
【２３１４】
その後、図１８３（ｃ）に示すようにｔ９のタイミング～ｔ１０のタイミング、ｔ１１のタイミング～ｔ１２のタイミング、及びｔ１３のタイミング～ｔ１４のタイミングのそれぞれにおいてリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われる。この場合、ｔ９のタイミング、ｔ１１のタイミング及びｔ１３のタイミングのそれぞれにおいてＯＦＦ確認フラグ３６１の値が「０」である状況でリセットボタン６８ｃが押圧操作されることとなるため、図１８３（ｆ）に示すようにこれらの各タイミングにおいて更新対象の設定値が１加算さ

れる。
【２３１５】
その後、ｔ１５のタイミングで図１８３（ｂ）に示すように設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作される、これにより、当該ｔ１５のタイミングで図１８３（ｄ）に示すように設定値更新処理（図１８１）が終了する。
【２３１６】
上記のとおりＯＦＦ確認フラグ３６１に「０」がセットされている状況においてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定した場合に更新対象の設定値を１加算する構成において、設定値更新処理（図１８１）が開始された場合にはリセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する処理よりも先に実行されるステップＳＢ９０１にてＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」をセットする構成である。これにより、パチンコ機１０の電源ＯＮ時におけるリセットボタン６８ｃの押圧操作に起因して更新対象の設定値が１加算されてしまわないようにすることが可能となる。
【２３１７】
以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。
【２３１８】
設定値更新処理（図１８１）が開始された場合、予め定められた開始対応の設定値から設定値の変更が行われる。これにより、設定値更新処理（図１８１）が開始される前における使用対象の設定値に関係なく、設定値更新処理（図１８１）においては一定の開始対応の設定値から当該設定値の変更操作を行うことが可能となる。よって、設定値の変更操作の作業内容が作業者にとって分かり易いものとなる。
【２３１９】
上記開始対応の設定値は具体的には有利度が最も低い「設定１」となっている。したがって、設定値更新処理（図１８１）が開始された場合には有利度が最も低い「設定１」から設定値の変更が行われる。これにより、遊技ホールの管理者が設定値更新処理（図１８１）の開始直後に意図せずに当該設定値更新処理（図１８１）を終了させてしまったとしても有利度が最も低い設定値となるため、このような状況において遊技が開始されたとしても遊技ホールに意図しない不利益が生じてしまわないようにすることが可能となる。
【２３２０】
特定制御用のワークエリア２２１には設定参照用エリア３４１と設定更新用エリア３４２とが設けられており、使用対象の設定値に対応する情報は設定参照用エリア３４１に記憶され、設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況における変更途中の設定値に対応する情報は設定更新用エリア３４２に記憶される。これにより、設定値更新処理（図１８１）が開始される前に設定されていた設定値の情報を設定参照用エリア３４１にて記憶保持しながら、設定値更新処理（図１８１）において更新対象の設定値を変更することが可能となる。
【２３２１】
設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に遊技を進行させるための処理が開始されない規制状態となる。これにより、設定値更新処理（図１８１）が完了していないにも関わらず遊技を進行させるための処理が開始されてしまわないようにすることが可能となる。
【２３２２】
設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合であっても、その後に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開される場合に「設定変更操作」が行われた場合には上記規制状態とならない。これにより、設定値の変更が行われる場合にまで遊技を進行させるための処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。
【２３２３】
上記規制状態であっても停電監視や各種カウンタの更新処理が実行される。これにより

、上記のように遊技の進行が規制された状態であっても必要な処理の実行を担保することが可能となる。特に、停電監視が実行されることにより、遊技の進行が規制された状態であっても停電が発生した場合にはそれに対して適切に対処することが可能となる。

【２３２４】

上記規制状態は動作電力の供給が停止されたとしても動作電力の供給が再開された場合に再開される。これにより、設定値更新処理（図１８１）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されることで遊技を進行させるための処理の実行が規制された状態は動作電力の供給を停止させただけでは解除されないようにすることが可能となる。

【２３２５】

特定制御用のワークエリア２２１におけるＯＦＦ確認フラグ３６１に「０」がセットされている状況でリセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定した場合に更新対象の設定値を１加算する構成において、設定値更新処理（図１８１）が開始された場合にはリセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する処理よりも先に実行されるステップＳＢ９０１にてＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」をセットする構成である。これにより、パチンコ機１０の電源ＯＮ時におけるリセットボタン６８ｃの押圧操作に起因して更新対象の設定値が１加算されてしまわないようにすることが可能となる。

【２３２６】

なお、設定値更新処理（図１８１）の途中で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合であって、その後の主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給の再開に際して設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）が実行される場合には設定更新表示フラグが「０」クリアされて遊技を進行させるための処理の実行が規制されない構成としてもよい。設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）が実行されることで現状の使用対象の設定値が報知されるため、遊技ホールの管理者が使用対象の設定値を把握することが可能である。このような場合には遊技を進行させるための処理の実行を規制しなくても、遊技ホールの管理者が想定していない設定値のまま遊技が進行されてしまうことがない。

【２３２７】

また、設定値更新処理（図１８１）の途中で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合にはその後の動作電力の供給の再開に際して「設定変更操作」が行われているか否かに関係なく設定値更新処理（図１８１）が強制的に実行される構成としてもよい。これにより、強制的に設定値を変更させることが可能となる。

【２３２８】

また、設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）の途中で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合にはその後の動作電力の供給の再開に際して遊技を進行させるための処理の実行が規制される規制状態となる構成としてもよい。この場合、動作電力の供給の再開に際して設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）が実行される場合には上記規制状態とならない構成としてよく、当該構成に加えて又は代えて、動作電力の供給の再開に際して設定値更新処理（図１８１）が実行される場合には上記規制状態とならない構成としてもよい。

【２３２９】

また、設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）の途中で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合にはその後の動作電力の供給の再開に際して「設定確認操作」が行われているか否かに関係なく設定確認用処理（ステップＳＢ８１０）が強制的に実行される構成としてもよい。これにより、強制的に設定値を確認させることが可能となる。

【２３３０】

また、設定値更新処理（図１８１）では連続する２回の処理回において前側の処理回にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていないことが特定されて後側の処理回にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていることが特定された場合に選択対象の設定値が変更される構成としたが、これに限定されることはなく、過去の連続する複数の処理回のそれぞれにてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていないことが特定されて、その状況にお

いてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていることが１処理回又は連続する複数の処理回にて特定された場合に選択対象の設定値が変更される構成としてもよい。この場合であっても設定値更新処理（図１８１）が開始された場合には過去の連続する複数の処理回におけるリセットボタン６８ｃの押圧操作の確認履歴に関する情報をリセットボタン６８ｃが押圧操作されていることに対応する情報に書き換えることで、設定値更新処理（図１８１）を開始させるためのリセットボタン６８ｃの押圧操作によって設定値更新処理（図１８１）において選択対象の設定値が変更されてしまわないようにすることが可能となる。

【２３３１】

＜第５４の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行されるメイン処理の処理構成が上記第５３の実施形態と相違している。以下、上記第５３の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第５３の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２３３２】

図１８４は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳＣ１０１～ステップＳＣ１２８の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２３３３】

ステップＳＣ１０１～ステップＳＣ１０６では上記第５３の実施形態におけるメイン処理（図１７９）のステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８０６と同一の処理を実行する。ステップＳＣ１０４～ステップＳＣ１０６の全てにて肯定判定をした場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＣ１０７）。また、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合には（ステップＳＣ１０７：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＣ１０８）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されておらず、さらに設定更新表示フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＣ１０７及びステップＳＣ１０８：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＣ１０９）。遊技停止フラグに「１」がセットされている場合、ステップＳＣ１２７にて異常コマンドを送信するとともにステップＳＣ１２８にて異常時の外部出力処理を実行する。

【２３３４】

遊技停止フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＣ１０９：ＮＯ）、ステップＳＣ１１０に進む。ステップＳＣ１１０～ステップＳＣ１１２では上記第５３の実施形態におけるメイン処理（図１７９）のステップＳＢ８０９～ステップＳＢ８１１と同一の処理を実行する。

【２３３５】

ステップＳＣ１０７にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定した場合、又はステップＳＣ１０８にて設定更新表示フラグに「１」がセットされていると判定した場合、ステップＳＣ１１３にて設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定する。そして、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていると判定した場合（ステップＳＣ１１３：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１におけるＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」をセットした後に（ステップＳＣ１１４）、設定値更新処理を実行する（ステップＳＣ１１５）。なお、ステップＳＣ１１６～ステップＳＣ１２８では上記第５３の実施形態におけるメイン処理（図１７９）のステップＳＢ１１４～ステップＳＢ８２６と同一の処理を実行する。

【２３３６】

つまり、本実施形態では設定値更新処理（ステップＳＣ１１５）の実行途中で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合、「操作無し」である状況又は「ＲＡＭクリア操作」が行われた状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合には上記第５３の実施形態と同様に遊技を進行させるための処理が阻止された状況が継続される一

方、「設定変更操作」が行われた状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合だけではなく「設定確認操作」が行われた状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合にも設定値更新処理（ステップＳＣ１１５）が実行される。これにより、設定値更新処理（ステップＳＣ１１５）の実行途中で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された後において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に設定値更新処理（ステップＳＣ１１５）が実行され易くなる。

【２３３７】

特に、「設定変更操作」に際しては設定キーを利用して設定キー挿入部６８ａをＯＮ操作するとともにリセットボタン６８ｃを押圧操作する必要があるとともに「設定確認操作」に際しては設定キーを利用して設定キー挿入部６８ａをＯＮ操作する必要がある構成において、設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合にはリセットボタン６８ｃが押圧操作されていなくても設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていることで設定値更新処理（ステップＳＣ１１５）が実行される。これにより、「設定変更操作」を行った状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作を行うことで設定値更新処理（ステップＳＣ１１５）を開始させたもののその途中で例えば電源のＯＦＦ操作を誤って行った場合に、その後に急いで電源のＯＮ状態に復帰させるために、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作された状態を維持する一方、リセットボタン６８ｃを押圧操作しなかった場合であっても、設定値更新処理（ステップＳＣ１１５）が実行されるようにすることが可能となる。

【２３３８】

また、本実施形態ではステップＳＣ１１２にて設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていると判定した場合、設定値更新処理（ステップＳＣ１１５）が開始される前に、ステップＳＣ１１４にて特定制御用のワークエリア２２１におけるＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」をセットする。これにより、設定値更新処理（ステップＳＣ１１５）が開始された場合にＯＦＦ確認フラグ３６１に「１」をセットする処理を行わなくても、電源のＯＮ操作時におけるリセットボタン６８ｃの押圧操作を契機として更新対象の設定値が１加算されてしまわないようにすることが可能となる。ちなみに、本実施形態における設定値更新処理（ステップＳＣ１１５）では上記第５３の実施形態における設定値更新処理（図１８１）のうちステップＳＢ９０１の処理は実行されることなくステップＳＢ９０２～ステップＳＢ９１８の処理が実行される。

【２３３９】

なお、設定値更新処理（ステップＳＣ１１５）では連続する２回の処理回において前側の処理回にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていないことが特定されて後側の処理回にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていることが特定された場合に選択対象の設定値が変更される構成としたが、これに限定されることはなく、過去の連続する複数の処理回のそれぞれにてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていないことが特定されて、その状況においてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていることが１処理回又は連続する複数の処理回にて特定された場合に選択対象の設定値が変更される構成としてもよい。この場合であっても設定値更新処理（ステップＳＣ１１５）が開始される場合には過去の連続する複数の処理回におけるリセットボタン６８ｃの押圧操作の確認履歴に関する情報をリセットボタン６８ｃが押圧操作されていることに対応する情報に書き換えることで、設定値更新処理（図１８１）を開始させるためのリセットボタン６８ｃの押圧操作によって設定値更新処理（図１８１）において選択対象の設定値が変更されてしまわないようにすることが可能となる。

【２３４０】

＜第５５の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行されるメイン処理の処理構成が上記第４９の実施形態と相違している。以下、上記第４９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第４９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２３４１】

図１８５は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフロー

チャートである。なお、メイン処理におけるステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２３０の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２３４２】

まず電源投入初期設定処理を実行する（ステップＳＣ２０１）。電源投入初期設定処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。このウエイト用の所定期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。また、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する。

【２３４３】

その後、内部機能レジスタ設定処理を実行する（ステップＳＣ２０２）。内部機能レジスタ設定処理では上記第３５の実施形態と同様に、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第１タイマ割込み処理（図１３３）の割込み周期を第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）に設定するとともに、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第２タイマ割込み処理（図１８８）の割込み周期を上記第１割込み周期よりも短い周期である第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）に設定する。

【２３４４】

つまり、本実施形態では上記第３５の実施形態と同様に、タイマ割込み処理として割込み周期が相対的に長短となるように第１タイマ割込み処理（図１３３）と第２タイマ割込み処理（図１８８）とが存在している。第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１８８）はいずれもメイン処理に対して割り込んで起動される。また、第２タイマ割込み処理（図１８８）は第１タイマ割込み処理（図１３３）に対して割り込んで起動される。一方、第１タイマ割込み処理（図１３３）は第２タイマ割込み処理（図１８８）に対して割り込んで起動されない。また、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１８８）の両方が実行されていない状況において第１割込み周期及び第２割込み周期の両方が経過している場合、それら周期の経過順序に関係なく第２タイマ割込み処理（図１８８）から先に起動される。この点、第２タイマ割込み処理（図１８８）は第１タイマ割込み処理（図１３３）よりも優先して起動される処理であると言える。但し、これに限定されることはなく第１タイマ割込み処理（図１３３）が第２タイマ割込み処理（図１８８）よりも優先して起動される構成としてもよい。

【２３４５】

内部機能レジスタ設定処理では、第１タイマ割込み処理（図１３３）の第１割込み周期を主側ＣＰＵ６３の所定のレジスタに設定するとともに、第２タイマ割込み処理（図１８８）の第２割込み周期を主側ＣＰＵ６３の特定のレジスタに設定する。また、内部機能レジスタ設定処理では上記第１，第２割込み周期の設定以外にも例えば当たり乱数カウンタＣ１の数値範囲といった各種カウンタの数値範囲の設定処理などを実行する。

【２３４６】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた立ち上げ処理中フラグに「１」をセットする（ステップＳＣ２０３）。立ち上げ処理中フラグは上記第３５の実施形態と同様に、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）に設定されている各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行する一方、遊技を進行させるための処理を実行することなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）を終了すべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【２３４７】

立ち上げ処理中フラグは、メイン処理（図１８５）において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が開始された場合に「１」がセットされ、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了して残余処理（ステップＳＣ２２７～ステップＳＣ２３０）が開始される前に「０」クリアされる。上記第３５の実施形態と同様に第１タイマ割込み処理（図１３３）では立ち上げ処

理中フラグに「１」がセットされている場合にはステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しないようにすることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）のうち設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）又は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況において遊技を進行させるための処理が実行されないようにすることが可能となる。その一方、上記のとおり第１タイマ割込み処理（図１３３）では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合であってもステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行することで、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）のうち設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）又は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。

【２３４８】

特に、立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている状況であっても停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）が実行されることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）のうち設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）又は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況において停電が発生したとしてもそれに対して停電時処理を実行することが可能となる。停電時処理では上記第３５の実施形態と同様に、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１に保存するため、動作電力の供給が再度開始された場合には主側ＲＡＭ６５の異常発生と特定されないようにすることが可能となる。これにより、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）又は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）の途中で停電が発生した場合には、これら設定関連処理の途中で停電が発生したことを次回の動作電力の供給開始時に特定することが可能となる。

【２３４９】

ちなみに、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）又は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況では、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１８８）のいずれについても割込みが禁止されることはなく任意のタイミングで割込み可能となっている。この場合、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）又は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）において第１タイマ割込み処理（図１３３）又は第２タイマ割込み処理（図１８８）が割り込んで起動される場合には、その起動対象となったタイマ割込み処理が終了した後に復帰するためのメイン処理（図１８５）の戻り番地の情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されるとともに、当該タイマ割込み処理が起動される直前における主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避される。そして、起動対象となったタイマ割込み処理が終了した場合には特定制御用のスタックエリア２２２に退避された戻り番地の情報に対応するメイン処理（図１８５）の処理に復帰することとなるとともに、特定制御用のスタックエリア２２２に退避された情報が主側ＣＰＵ６３の各種レジスタに復帰される。

【２３５０】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた表示開始フラグを「０」クリアする（ステップＳＣ２０４）。表示開始フラグは、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された後において特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示制御を開始すべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【２３５１】

その後、ステップＳＣ２０５～ステップＳＣ２２５にて上記第４９の実施形態におけるメイン処理（図１６５）のステップＳＢ１０４～ステップＳＢ１２４と同一の処理を実行する。この場合、前回の動作電力の供給停止時における状況と今回の動作電力の供給開始時における操作内容との組合せの関係でメイン処理（図１８５）にて実行される処理内容は、上記第４９の実施形態と同様に図１７１の説明図に示す処理内容となる。例えば、設

定確認用処理（ステップＳＣ２１３）及び設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）のいずれもが実行されていない状況で停電時処理が実行された場合、又は設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況で停電時処理が実行された場合において、その後の動作電力の供給の再開に際して「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合には、メイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＣ２１８）が実行される。また、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況で停電時処理が実行された場合にはその後の動作電力の供給の再開に際していずれの操作が行われたとしても設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）にて第２ＲＡＭクリア処理（第４９の実施形態における図１６７のステップＳＢ３１３）が実行されるとともに、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されていない状況で停電時処理が実行された場合であってもその後の動作電力の供給の再開に際して「設定変更操作」が行われた場合には設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）にて第２ＲＡＭクリア処理（第４９の実施形態における図４９のステップＳＢ３１３）が実行される。

【２３５２】

第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１を「０」クリアするとともに初期設定を実行する一方、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象外エリア３７２に対しては「０」クリア及び初期設定を実行しない。図１８６は特定制御用のワークエリア２２１に設けられたクリア対象エリア３７１及びクリア対象外エリア３７２を説明するための説明図である。

【２３５３】

本実施形態においても上記第１の実施形態と同様にパチンコ機１０の電源がＯＦＦ状態であることで主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されている状況であっても、電源・発射制御装置７８に設けられた電断時用電源部から主側ＲＡＭ６５に記憶保持用の電力としてバックアップ電力が供給される。このように主側ＲＡＭ６５にバックアップ電力が供給されることで、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４にもバックアップ電力が供給される。そして、特定制御用のワークエリア２２１にバックアップ電力が供給されることでクリア対象エリア３７１及びクリア対象外エリア３７２にバックアップ電力が供給される。これにより、パチンコ機１０の電源がＯＦＦ状態であることで主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されている状況であってもクリア対象エリア３７１及びクリア対象外エリア３７２にバックアップ電力が供給され、これらクリア対象エリア３７１及びクリア対象外エリア３７２において情報の記憶保持が行われる。

【２３５４】

クリア対象エリア３７１には、第２表示データバッファ２７２、第４表示データバッファ２７４及び第５表示データバッファ２７５が含まれる。第２表示データバッファ２７２は上記第３３の実施形態と同様に特図保留表示部３７ｂに所定の表示を行わせるための表示データが設定されるエリアである。特図特電制御処理（図１２）における保留情報の取得処理（ステップＳ４０１）にて特図表示部３７ａ用の保留情報が保留格納エリア６５ａに新たに格納された場合には、第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて当該格納後において保留格納エリア６５ａに格納されている特図表示部３７ａ用の保留情報の数に対応する表示データが第２表示データバッファ２７２に設定される。また、特図変動開始処理（図１３）におけるデータ設定処理（ステップＳ５０２）にて特図表示部３７ａ用の保留情報が遊技回の実行契機として消化された場合には、第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて当該消化後において保留格納エリア６５ａに格納されている特図表示部３７ａ用の保留情報の数に対応する表示データが第２表示データバッファ２７２に設定される。

【２３５５】

第４表示データバッファ２７４は上記第３３の実施形態と同様に普図保留表示部３８ｂに所定の表示を行わせるための表示データが格納されるエリアである。第１タイマ割込み

処理（図１３３）における普図普電制御処理（ステップＳ８９１４）にて普図表示部３８ａ用の保留情報が普電保留エリア６５ｃに新たに格納された場合には、第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて当該格納後において普電保留エリア６５ｃに格納されている普図表示部３８ａ用の保留情報の数に対応する表示データが第４表示データバッファ２７４に設定される。また、第１タイマ割込み処理（図１３３）における普図普電制御処理（ステップＳ８９１４）にて普図表示部３８ａ用の保留情報が普図表示部３８ａの変動表示回の実行契機として消化された場合には、第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて当該消化後において普電保留エリア６５ｃに格納されている普図表示部３８ａ用の保留情報の数に対応する表示データが第４表示データバッファ２７４に設定される。

【２３５６】

第５表示データバッファ２７５は上記第３３の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に所定の表示を行わせるための表示データが設定されるエリアである。当該第５表示データバッファ２７５への表示データの設定は後述する第２タイマ割込み処理（図１８８）におけるステップＳＣ４０３、ステップＳＣ４０５及びステップＳＣ４０６にて実行される。

【２３５７】

クリア対象エリア３７１には上記第２表示データバッファ２７２、第４表示データバッファ２７４及び第５表示データバッファ２７５以外にも、特図表示部３７ａ用の保留情報が格納される保留格納エリア６５ａ及び普図表示部３８ａ用の保留情報が格納される普電保留エリア６５ｃが含まれている。したがって、第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には特図表示部３７ａ用の保留情報及び普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。この場合に上記のとおりクリア対象エリア３７１に第２表示データバッファ２７２及び第４表示データバッファ２７４が含まれている。これにより、保留格納エリア６５ａが初期化されることで特図表示部３７ａ用の保留情報が０個となった場合には特図保留表示部３７ｂの表示内容も特図表示部３７ａ用の保留情報が０個である表示内容とすることが可能となるとともに、普電保留エリア６５ｃが初期化されることで普図表示部３８ａ用の保留情報が０個となった場合には普図保留表示部３８ｂの表示内容も普図表示部３８ａ用の保留情報が０個である表示内容とすることが可能となる。

【２３５８】

また、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では上記第４９の実施形態などと同様に動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後においては基本的にベース値の情報が表示されることとなるが、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）においては設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されるのであれば現状のパチンコ機１０の設定値が表示されるとともに設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されるのであれば更新途中の設定値が表示され、さらに動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した場合にはチェック用表示が行われる。つまり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では、動作電力の供給が再開された場合には動作電力の供給が停止される前に表示されていたベース値の情報とは異なる情報が表示されることとなる。したがって、第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合に第５表示データバッファ２７５が初期化されたとしても第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容として問題が生じない。

【２３５９】

クリア対象エリア３７１には、上記各エリア以外にも特図特電制御用のエリア及び普図普電制御用のエリアが含まれている。したがって、第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示されていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態

である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグ及び設定確認表示フラグが「０」クリアされ、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新用エリア３４２が「０」クリアされる。また、特定制御用のスタックエリア２２２が「０」クリアされるとともに初期設定が実行される。また、主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアされた後に初期設定が実行される。この初期設定ではステップＳＣ２０２の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。

【２３６０】

なお、第１ＲＡＭクリア処理の処理内容は設定値更新処理における第２ＲＡＭクリア処理の処理内容と同一であるが、これら処理内容の一部が相違している構成としてもよい。例えば、第１ＲＡＭクリア処理では「０」クリア及び初期設定の対象となるエリアが第２ＲＡＭクリア処理では「０」クリア及び初期設定の対象とはならない構成としてもよく、第２ＲＡＭクリア処理では「０」クリア及び初期設定の対象となるエリアが第１ＲＡＭクリア処理では「０」クリア及び初期設定の対象とはならない構成としてもよい。

【２３６１】

クリア対象外エリア３７２には、第１表示データバッファ２７１、第３表示データバッファ２７３及び初期表示済みフラグ３７３が含まれる。第１表示データバッファ２７１は上記第３３の実施形態と同様に特図表示部３７ａに所定の表示を行わせるための表示データが格納されるエリアである。特図変動開始処理（図１３）におけるステップＳ５１３にて特図表示部３７ａにおいて絵柄の変動表示を開始させるための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて特図表示部３７ａの変動開始時の表示に対応する表示データが第１表示データバッファ２７１に設定される。また、特図特電制御処理（図１２）における特図変動中処理（ステップＳ４０７）にて特図表示部３７ａの表示内容を更新させるための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて特図表示部３７ａの絵柄の変動表示を進行させるための表示データが第１表示データバッファ２７１に設定される。また、特図特電制御処理（図１２）における特図確定中処理（ステップＳ４０８）にて特図表示部３７ａの表示内容を今回の遊技回における当否判定処理（ステップＳ５０４）及び振分判定処理（ステップＳ５０６）の処理結果に対応する表示内容とするための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて特図表示部３７ａに今回の遊技回の結果に対応する表示を行わせるための表示データが第１表示データバッファ２７１に設定される。この場合に設定される表示データは今回の遊技回の開始時において特図変動開始処理（図１３）のステップＳ５０７又はステップＳ５０９にて選択された表示データとなる。また、この場合に設定された表示データは特図表示部３７ａにて新たな遊技回を開始させる状況となるまで第１表示データバッファ２７１に記憶保持される。

【２３６２】

第３表示データバッファ２７３は上記第３３の実施形態と同様に普図表示部３８ａに所定の表示を行わせるための表示データが格納されるエリアである。第１タイマ割込み処理（図１３３）における普図普電制御処理（ステップＳ８９１４）にて普図表示部３８ａにおいて絵柄の変動表示を開始させるための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて普図表示部３８ａの変動開始時の表示に対応する表示データが第３表示データバッファ２７３に設定される。また、第１タイマ割込み処理（図１３３）における普図普電制御処理（ステップＳ８９１４）にて普図表示部３８ａの表示内容を更新させるための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて普図表示部３８ａの絵柄の変動表示を進行させるための表示データが第３表示データバッファ２７３に設定される。また、第１タイマ割込み処理（図１３３）における普図普電制御処理（ステップＳ８９１４）にて普図表示部３８ａの表示内容を今回の変動表示回における普電開放抽選の結果に対応する表示内容とするための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて普図表示部３８ａに今

回の変動表示回の結果に対応する表示を行わせるための表示データが第３表示データバッファ２７３に設定される。この場合に設定された表示データは普図表示部３８ａにて新たな変動表示回を開始させる状況となるまで第３表示データバッファ２７３に記憶保持される。

【２３６３】

初期表示済みフラグ３７３は工場の出荷段階における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの初期表示を完了した後における状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。クリア対象外エリア３７２に初期表示済みフラグ３７３が含まれていることにより、工場の出荷段階における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの初期表示を一旦確認した後は、その後の動作電力の供給の再開に際して当該初期表示が行われないようにすることが可能となる。

【２３６４】

クリア対象外エリア３７２に第１表示データバッファ２７１及び第３表示データバッファ２７３が含まれていることにより、第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行されたとしても、動作電力の供給が再開された後において特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始された場合におけるこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を動作電力の供給が停止される前における表示内容に復帰させることが可能となる。これにより、動作電力の供給が再開された後に遊技者が特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａを確認したとしても、第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行されたか否かを特定することができなくなる。

【２３６５】

特に、第２ＲＡＭクリア処理はパチンコ機１０の設定値を変更することを可能とする設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）にて実行されるため、第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの少なくとも一方の表示内容が第２ＲＡＭクリア処理の実行に対応する表示内容となったり、動作電力の供給が停止される前における表示内容から変更されたりすると、その表示内容となる特図表示部３７ａ又は普図表示部３８ａを確認することでパチンコ機１０の設定値の変更の有無を予測することができてしまう。これに対して、第２ＲＡＭクリア処理が実行されたとしても動作電力の供給が開始された後において特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始された場合におけるこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容が動作電力の供給が停止される前における表示内容に復帰することとなる。これにより、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａを確認したとしても設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されたか否かを特定することができないようにすることが可能となる。

【２３６６】

なお、クリア対象外エリア３７２には上記各エリア以外にも、パチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア３４１）が含まれる。これにより、第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行されたとしてもパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報はそのまま維持される。また、クリア対象外エリア３７２には非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４も含まれる。

【２３６７】

ちなみに、音声発光制御装置８１及び表示制御装置８２のＲＡＭにはバックアップ電力が供給されないため、パチンコ機１０の電源がＯＦＦ操作されて音声発光制御装置８１及び表示制御装置８２への動作電力の供給が停止された場合にはこれら音声発光制御装置８１及び表示制御装置８２のＲＡＭに記憶されている情報は消去される。但し、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には主側ＣＰＵ６３から音声発光制御装置８１に演出の実行状態を動作電力の供給が停止される直前の状態に復帰させるためのコマンドが送信されることで、音声発光制御装置８１及び表示制御装置８２における演出の実行制御の内容が動作電力の供給が停止される直前の状態に復帰することとなる。

【２３６８】
メイン処理（図１８５）の説明に戻り、ステップＳＣ２２５の処理を実行した後は、表示開始処理を実行する（ステップＳＣ２２６）。その後、ステップＳＣ２２７～ステップＳＣ２３０にて残余処理を実行する。これらステップＳＣ２２７～ステップＳＣ２３０の処理内容は上記第４９の実施形態におけるメイン処理（図１６５）のステップＳＢ１２５～ステップＳＢ１２８と同一である。
【２３６９】
次に、メイン処理（図１８５）のステップＳＣ２２６にて実行される表示開始処理について、図１８７のフローチャートを参照しながら説明する。なお、表示開始処理におけるステップＳＣ３０１～ステップＳＣ３０５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【２３７０】
初期表示済みフラグ３７３に「１」がセットされていない場合（ステップＳＣ３０１：ＮＯ）、特図用の初期表示データを第１表示データバッファ２７１に設定するとともに（ステップＳＣ３０２）、普図用の初期表示データを第３表示データバッファ２７３に設定する（ステップＳＣ３０３）。そして、初期表示済みフラグ３７３に「１」をセットする（ステップＳＣ３０４）。
【２３７１】
第１表示データバッファ２７１に格納された特図用の初期表示データを利用して特図表示部３７ａが表示制御されることにより、当該特図表示部３７ａにおいて初期表示が行われる。特図表示部３７ａにおける初期表示の表示内容は任意であるが、例えば特図表示部３７ａに設けられた複数の発光部の全てが発光状態となる構成としてもよく、特図表示部３７ａに設けられた複数の発光部の一部の発光部が発光状態となる構成としてもよい。一部の発光部が発光状態となる場合、発光状態となる発光部と消灯状態に維持される発光部とが配列順序において交互となる構成としてもよい。また、第３表示データバッファ２７３に格納された普図用の初期表示データを利用して普図表示部３８ａが表示制御されることにより、当該普図表示部３８ａにおいて初期表示が行われる。普図表示部３８ａにおける初期表示の表示内容は任意であるが、例えば普図表示部３８ａに設けられた複数の発光部の全てが発光状態となる構成としてもよく、普図表示部３８ａに設けられた複数の発光部の一部の発光部が発光状態となる構成としてもよい。一部の発光部が発光状態となる場合、発光状態となる発光部と消灯状態に維持される発光部とが配列順序において交互となる構成としてもよい。
【２３７２】
一方、初期表示済みフラグ３７３に「１」がセットされている場合（ステップＳＣ３０１：ＹＥＳ）、ステップＳＣ３０２及びステップＳＣ３０３の処理を実行しない。したがって、第１表示データバッファ２７１は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となるとともに、第３表示データバッファ２７３は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となる。また、既に説明したとおり第１表示データバッファ２７１及び第３表示データバッファ２７３はクリア対象外エリア３７２に設けられているため、メイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行されたとしても、第１表示データバッファ２７１は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となるとともに、第３表示データバッファ２７３は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となる。
【２３７３】
ステップＳＣ３０１にて肯定判定をした場合、又はステップＳＣ３０４の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１に設けられた表示開始フラグに「１」をセットする（ステップＳＣ３０５）。表示開始フラグは、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始すべきか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。表示開始フラグ

の値が「０」である場合には主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を行わずに、表示開始フラグに「１」がセットされた場合に主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始する。

【２３７４】

既に説明したとおりメイン処理（図１８５）のステップＳＣ２０４にて表示開始フラグを「０」クリアする。この処理タイミングは主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された後において特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御を実行するための第２タイマ割込み処理（図１８８）が最初に実行されるタイミングよりも前のタイミングとなっている。そして、既に説明したとおり動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に実行される表示開始処理（図１８７）にて表示開始フラグに「１」がセットされる。これにより、動作電力の供給が再開された直後においては特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂは消灯状態が維持され、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御が開始される。

【２３７５】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における第２タイマ割込み処理について、図１８８のフローチャートを参照しながら説明する。なお、第２タイマ割込み処理におけるステップＳＣ４０１～ステップＳＣ４１５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。また、第２タイマ割込み処理は設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が開始される場合に割込みが許可されるとともに設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が終了される場合に割込みが禁止される。また、第２タイマ割込み処理は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が開始される場合に割込みが許可されるとともに設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が終了される場合に割込みが禁止される。また、第２割込み処理はメイン処理（図１８５）のステップＳＣ２３０にて割込許可の設定が行われてからメイン処理（図１８５）のステップＳＣ２２７にて割込禁止の設定が行われるまで割込みが許可される。これらは第１タイマ割込み処理（図１３３）も同様である。

【２３７６】

ステップＳＣ４０１～ステップＳＣ４０９では上記第３３の実施形態における第２タイマ割込み処理（図１２３）のステップＳ８４０１～ステップＳ８４０９と同一の処理を実行する。その後、種別カウンタの値が「５」であるか否かを判定する（ステップＳＣ４１０）。上記第３３の実施形態と同様に、種別カウンタは、第２タイマ割込み処理の今回の処理回において第１～第５表示データバッファ２７１～２７５のうち表示データの送信対象を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。種別カウンタの値が「１」である場合、第１表示データバッファ２７１の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「２」である場合、第２表示データバッファ２７２の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「３」である場合、第３表示データバッファ２７３の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「４」である場合、第４表示データバッファ２７４の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「５」である場合、第５表示データバッファ２７５の表示データが送信対象となる。

【２３７７】

種別カウンタの値が「１」～「４」のいずれかである場合、すなわち特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂのいずれかを表示制御する状況である場合（ステップＳＣ４１０：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１の表示開始フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＣ４１１）。種別カウンタの値が「５」である場合（ステップＳＣ４１０：ＹＥＳ）、又は種別カウンタの値が「１」～「４」のいずれかであって表示開始フラグに「１」がセットされて

いる場合（ステップＳＣ４１０：ＮＯ、ステップＳＣ４１１：ＹＥＳ）、ステップＳＣ４１２～ステップＳＣ４１４の処理を実行する。

【２３７８】

ステップＳＣ４１２～ステップＳＣ４１４の処理では、まず種別カウンタの値に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出す（ステップＳＣ４１２）。具体的には、種別カウンタの値が「１」である場合には第１表示回路２６１に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「２」である場合には第２表示回路２６２に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「３」である場合には第３表示回路２６３に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「４」である場合には第４表示回路２６４に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「５」である場合には第５表示回路２６５に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出す。

【２３７９】

その後、種別カウンタの値に対応する表示データバッファ２７１～２７５から表示データを読み出す（ステップＳＣ４１３）。具体的には、種別カウンタの値が「１」である場合には第１表示データバッファ２７１から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「２」である場合には第２表示データバッファ２７２から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「３」である場合には第３表示データバッファ２７３から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「４」である場合には第４表示データバッファ２７４から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「５」である場合には第５表示データバッファ２７５から表示データを読み出す。

【２３８０】

その後、各種信号の送信処理を実行する（ステップＳＣ４１４）。当該送信処理では、ステップＳＣ４１２にて読み出した種別データが表示ＩＣ２６６に送信されるように、種別データ信号線ＬＮ１及び種別クロック信号線ＬＮ２に対する信号出力を行う。また、当該送信処理では、ステップＳＣ４１３にて読み出した表示データが表示ＩＣ２６６に送信されるように、表示データ信号線ＬＮ３及び表示クロック信号線ＬＮ４に対する信号出力を行う。

【２３８１】

一方、種別カウンタの値が「１」～「４」のいずれかであって表示開始フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＣ４１０及びステップＳＣ４１１：ＮＯ）、ステップＳＣ４１２～ステップＳＣ４１４の処理を実行しない。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたとしても表示開始フラグに「１」がセットされるまでは、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御が開始されることなく、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂが消灯状態に維持される。

【２３８２】

ステップＳＣ４１１にて否定判定をした場合、又はステップＳＣ４１４の処理を実行した場合、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の発生を許可するために割込み許可の設定を行う（ステップＳＣ４１５）。

【２３８３】

次に、動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容について説明する。図１８９は動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を説明するための説明図である。

【２３８４】

工場の出荷段階においては初期表示済みフラグ３７３に未だ「１」がセットされていないため、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合、これら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにおいて初期表示が開始される。特図表示部３７ａにおける初期表示は、第１作動口３３又は第２作動口３４への遊技球の入球が発生して遊技回の開始条件が成立することで特図表示部

３７ａにて絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。普図表示部３８ａにおける初期表示は、スルーゲート３５への遊技球の入球が発生して普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。

【２３８５】

工場の出荷段階ではない場合、すなわち初期表示済みフラグ３７３に既に「１」がセットされている場合には、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合、設定値更新処理が実行された場合、設定確認用処理が実行された場合、及びこれらの処理が実行されなかった場合のいずれであっても、動作電力の供給が停止される直前における表示内容となるようにこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａが表示制御される。これにより、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａを確認したとしても設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されたか否かを特定することができないようにすることが可能となる。

【２３８６】

特に、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合における表示内容と、動作電力の供給が停止される直前における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａが表示内容とが同一である。これにより、動作電力の供給が停止される直前における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を確認して覚えた上で動作電力の供給開始後において特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて最初に表示される表示内容を確認したとしても、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されたか否かを特定することができないようにすることが可能となる。

【２３８７】

また、特定制御用のワークエリア２２１において第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理の実行対象外となるクリア対象外エリア３７２に第１表示データバッファ２７１及び第３表示データバッファ２７３を設定することで、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合における表示内容を、動作電力の供給が停止される直前における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａが表示内容と同一とする構成である。つまり、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａを確認したとしても設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されたか否かを特定することができないようにするために特別な処理を必要としない。よって、処理負荷の増加を抑制しながら既に説明したような優れた効果を奏することが可能となる。

【２３８８】

なお、クリア対象外エリア３７２に第１表示データバッファ２７１及び第３表示データバッファ２７３の両方が設けられている構成に限定されることはなく、第１表示データバッファ２７１はクリア対象外エリア３７２に設けられているが、第３表示データバッファ２７３はクリア対象エリア３７１に設けられている構成としてもよい。この場合、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には特図表示部３７ａにおいては動作電力の供給が停止される前における表示内容から表示が開始されることとなるが、普図表示部３８ａにおいては初期表示が行われることとなる。また、これに代えて、第３表示データバッファ２７３はクリア対象外エリア３７２に設けられているが、第１表示データバッファ２７１はクリア対象エリア３７１に設けられている構成としてもよい。この場合、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には普図表示部３８ａにおいては動作電力の供給が停止される前における表示内容から表示が開始されることとなるが、特図表示部３７ａにおいては初期表示が行われることとなる。

【２３８９】

また、主側ＣＰＵ６３により表示制御される表示部として、大当たり結果となったことを契機とした開閉実行モードにて発生するラウンド遊技の回数を報知するためのラウンド表示部が設けられている構成においては、当該ラウンド表示部に表示を行わせるための表示データが記憶されるエリアがクリア対象外エリア３７２に設けられている構成としてもよい。この場合、ラウンド表示部において所定の表示が行われている状況で動作電力の供

給が停止された場合において動作電力の供給が開始された場合に第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行されたとしてもラウンド表示部において所定の表示が再開されることとなる。

【２３９０】

また、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂを含めて主側ＣＰＵ６３により直接的に表示制御される表示部は全て、表示を行うための表示データが記憶されるエリアが第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理により初期化されない構成としてもよい。この場合、主側ＣＰＵ６３により直接的に表示制御される表示部はいずれも、動作電力の供給が開始された場合に第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行されたとしても、動作電力の供給が停止される前における表示内容による表示が行われることとなる。なお、当該構成においては特図保留表示部３７ｂ及び普図保留表示部３８ｂにて動作電力の供給が停止される前における表示内容による表示が一旦開始されるものの、その後に対応する保留情報が０個であることに対応する表示内容に切り換わる構成としてもよい。

【２３９１】

また、特図保留表示部３７ｂ及び普図保留表示部３８ｂにて表示を行わせるための表示データが記憶されるエリアは第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合に初期化されるものの、対応する保留情報の個数が遊技者にとって分かりづらい態様で特図保留表示部３７ｂ及び普図保留表示部３８ｂの表示が行われる構成としてもよい。この場合、第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行されることで特図保留表示部３７ｂ及び普図保留表示部３８ｂのそれぞれにて対応する保留情報が０個であることを示す表示が行われたとしても、遊技者にとっては保留情報が０個であることを示す表示が行われていることが分かりづらいものとなるため、特図保留表示部３７ｂ及び普図保留表示部３８ｂを確認したとしても第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行されたことを特定しづらくなる。

【２３９２】

＜第５６の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容が上記第５５の実施形態と相違している。以下、上記第５５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第５５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２３９３】

図１９０は特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１に設けられた各エリアを説明するための説明図である。

【２３９４】

クリア対象エリア３７１には、特図保留表示部３７ｂに所定の表示を行わせるための表示データが格納される第２表示データバッファ２７２、普図保留表示部３８ｂに所定の表示を行わせるための表示データが格納される第４表示データバッファ２７４、及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に所定の表示を行わせるための表示データが格納される第５表示データバッファ２７５だけではなく、特図表示部３７ａに所定の表示を行わせるための表示データが格納される第１表示データバッファ２７１、及び普図表示部３８ａに所定の表示を行わせるための表示データが格納される第３表示データバッファ２７３が設けられている。したがって、メイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＣ２１８）が実行された場合又は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には、動作電力の供給が停止される直前における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容に対応する表示データは消去されることとなる。

【２３９５】

クリア対象エリア３７１には第１～第５表示データバッファ２７１～２７５以外にも初期表示用フラグ３７５が設けられている。初期表示用フラグ３７５は特図表示部３７ａ及

び普図表示部３８ａにて初期表示を行う必要がある状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。初期表示用フラグ３７５がクリア対象エリア３７１に設けられていることにより、メイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には初期表示用フラグ３７５は「０」クリアされることとなる。したがって、メイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が実行された後において特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にはこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が行われることとなる。

【２３９６】

図１９１は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における表示開始処理を示すフローチャートである。なお、表示開始処理におけるステップＳＣ５０１～ステップＳＣ５１１の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２３９７】

初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていない場合（ステップＳＣ５０１：ＮＯ）、特図用の初期表示データを第１表示データバッファ２７１に設定するとともに（ステップＳＣ５０２）、普図用の初期表示データを第３表示データバッファ２７３に設定する（ステップＳＣ５０３）。そして、初期表示用フラグ３７５に「１」をセットする（ステップＳＣ５０４）。

【２３９８】

第１表示データバッファ２７１に格納された特図用の初期表示データを利用して特図表示部３７ａが表示制御されることにより、当該特図表示部３７ａにおいて初期表示が行われる。特図表示部３７ａにおける初期表示の表示内容は任意であるが、例えば特図表示部３７ａに設けられた複数の発光部の全てが発光状態となる構成としてもよく、特図表示部３７ａに設けられた複数の発光部の一部の発光部が発光状態となる構成としてもよい。一部の発光部が発光状態となる場合、発光状態となる発光部と消灯状態に維持される発光部とが配列順序において交互となる構成としてもよい。また、特図表示部３７ａにおける初期表示の表示内容は特図表示部３７ａにて遊技回の遊技結果を報知するために停止表示される表示内容とは異なる表示内容となっている。また、特図表示部３７ａにおける初期表示の表示内容は特図表示部３７ａにて絵柄の変動表示が行われている状況において表示される表示内容とは異なる表示内容となっている。これにより、特図表示部３７ａにて初期表示が行われていることを明確に特定することが可能となる。

【２３９９】

第３表示データバッファ２７３に格納された普図用の初期表示データを利用して普図表示部３８ａが表示制御されることにより、当該普図表示部３８ａにおいて初期表示が行われる。普図表示部３８ａにおける初期表示の表示内容は任意であるが、例えば普図表示部３８ａに設けられた複数の発光部の全てが発光状態となる構成としてもよく、普図表示部３８ａに設けられた複数の発光部の一部の発光部が発光状態となる構成としてもよい。一部の発光部が発光状態となる場合、発光状態となる発光部と消灯状態に維持される発光部とが配列順序において交互となる構成としてもよい。また、普図表示部３８ａにおける初期表示の表示内容は普図表示部３８ａにて変動表示回における振電開放抽選の結果を報知するために停止表示される表示内容とは異なる表示内容となっている。また、普図表示部３８ａにおける初期表示の表示内容は普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示が行われている状況において表示される表示内容とは異なる表示内容となっている。これにより、普図表示部３８ａにて初期表示が行われていることを明確に特定することが可能となる。

【２４００】

ステップＳＣ５０１にて肯定判定をした場合、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１における遊技回の実行中であるか否かを示す情報が記憶される記憶エリアを参照することで、遊技回の実行中において動作電力の供給が停止された後に動作電

力の供給が再開された状況であるか否かを判定する（ステップＳＣ５０５）。当該記憶エリアには遊技回が開始される場合に遊技回の実行中であることを示す情報が格納され、遊技回が終了される場合に遊技回の実行中であることを示す情報が当該記憶エリアから消去される。当該記憶エリアの情報は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても特定制御用のワークエリア２２１にバックアップ電力が供給されている場合には記憶保持され、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合にも記憶保持される。

【２４０１】

また、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１における開閉実行モードの実行中であるか否かを示す情報が記憶される記憶エリアを参照することで、開閉実行モードの実行中において動作電力の供給が停止された後に動作電力の供給が再開された状況であるか否かを判定する（ステップＳＣ５０６）。当該記憶エリアには開閉実行モードが開始される場合に開閉実行モードの実行中であることを示す情報が格納され、開閉実行モードが終了される場合に開閉実行モードの実行中であることを示す情報が当該記憶エリアから消去される。当該記憶エリアの情報は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても特定制御用のワークエリア２２１にバックアップ電力が供給されている場合には記憶保持され、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合にも記憶保持される。

【２４０２】

前回の動作電力の供給の停止時が遊技回の実行中及び開閉実行モードの実行中のいずれでもなかった場合（ステップＳＣ５０５及びステップＳＣ５０６：ＮＯ）、特図用の初期表示データを第１表示データバッファ２７１に設定する（ステップＳＣ５０７）。第１表示データバッファ２７１に格納された特図用の初期表示データを利用して特図表示部３７ａが表示制御されることにより、当該特図表示部３７ａにおいて既に説明した初期表示が行われる。一方、前回の動作電力の供給の停止時が遊技回の実行中及び開閉実行モードの実行中のいずれかであった場合（ステップＳＣ５０５又はステップＳＣ５０６：ＹＥＳ）、特図用の初期表示データが第１表示データバッファ２７１に設定されないため、動作電力の供給が停止される前に格納されていた表示データがそのまま第１表示データバッファ２７１に格納された状態となる。したがって、特図表示部３７ａにおける表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における特図表示部３７ａの表示内容がそのまま再開されることとなる。

【２４０３】

ステップＳＣ５０５にて肯定判定をした場合、ステップＳＣ５０６にて肯定判定をした場合、又はステップＳＣ５０７の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１における普図表示部３８ａの変動表示中であるか否かを示す情報が記憶される記憶エリアを参照することで、普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示中において動作電力の供給が停止された後に動作電力の供給が再開された状況であるか否かを判定する（ステップＳＣ５０８）。当該記憶エリアには普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示が開始される場合に普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示の実行中あることを示す情報が格納され、普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示が終了される場合に普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示の実行中であることを示す情報が当該記憶エリアから消去される。当該記憶エリアの情報は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても特定制御用のワークエリア２２１にバックアップ電力が供給されている場合には記憶保持され、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合にも記憶保持される。

【２４０４】

また、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１における普電開放状態の実行中であるか否かを示す情報が記憶される記憶エリアを参照することで、普電開放状態の実行中において動作電力の供給が停止された後に動作電力の供給が再開された状況であるか否かを判定する（ステップＳＣ５０９）。当該記憶エリアには普電開放状態が開

始される場合に普電開放状態の実行中であることを示す情報が格納され、普電開放状態が終了される場合に普電開放状態の実行中であることを示す情報が当該記憶エリアから消去される。当該記憶エリアの情報は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても特定制御用のワークエリア２２１にバックアップ電力が供給されている場合には記憶保持され、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合にも記憶保持される。

【２４０５】

前回の動作電力の供給の停止時が普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行中及び普電開放状態の実行中のいずれでもなかった場合（ステップＳＣ５０８及びステップＳＣ５０９：ＮＯ）、普図用の初期表示データを第３表示データバッファ２７３に設定する（ステップＳＣ５１０）。第３表示データバッファ２７３に格納された普図用の初期表示データを利用して普図表示部３８ａが表示制御されることにより、当該普図表示部３８ａにおいて既に説明した初期表示が行われる。一方、前回の動作電力の供給の停止時が普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行中及び普電開放状態の実行中のいずれかであった場合（ステップＳＣ５０８又はステップＳＣ５０９：ＹＥＳ）、普図用の初期表示データが第３表示データバッファ２７３に設定されないため、動作電力の供給が停止される前に格納されていた表示データがそのまま第３表示データバッファ２７３に格納された状態となる。したがって、普図表示部３８ａにおける表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における普図表示部３８ａの表示内容がそのまま再開されることとなる。

【２４０６】

ステップＳＣ５０４の処理を実行した場合、ステップＳＣ５０８にて肯定判定をした場合、ステップＳＣ５０９にて肯定判定をした場合、又はステップＳＣ５１０の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１に設けられた表示開始フラグに「１」をセットする（ステップＳＣ５１１）。表示開始フラグは上記第５５の実施形態と同様に、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始すべきか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。表示開始フラグの値が「０」である場合には主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を行わずに、表示開始フラグに「１」がセットされた場合に主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始する。

【２４０７】

上記第５５の実施形態と同様にメイン処理（図１８５）のステップＳＣ２０４にて表示開始フラグを「０」クリアする。この処理タイミングは主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された後において特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御を実行するための第２タイマ割込み処理（図１８８）が最初に実行されるタイミングよりも前のタイミングとなっている。そして、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に実行される表示開始処理（図１９１）にて表示開始フラグに「１」がセットされる。これにより、動作電力の供給が再開された直後においては特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂは消灯状態が維持され、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御が開始される。

【２４０８】

特に、表示開始処理（図１９１）では既に説明したとおりメイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理の両方が実行されていない状況であっても第１表示データバッファ２７１に特図用の初期表示データを設定するとともに第３表示データバッファ２７３に普図用の初期表示データを設定することがある。この場合に、主

側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示制御が開始されるとすると、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて動作電力の供給が停止される直前における表示内容が表示された直後に初期表示が開始されることとなってしまう。そうすると、このような表示内容の変化を目視した遊技者は第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理の両方が実行されていない状況において特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が開始されたことを把握することができてしまう。これに対して、表示開始処理（図１９１）において第１表示データバッファ２７１及び第３表示データバッファ２７３に表示データが設定される場合には当該表示データを設定する処理が終了した後に表示開始フラグに「１」がセットされて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される。これにより、上記のような表示内容の変化が生じてしまわないようにすることが可能となる。

【２４０９】

次に、動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容について説明する。図１９２は動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を説明するための説明図である。

【２４１０】

動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合、初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合、これら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにおいて初期表示が開始される。特図表示部３７ａにおける初期表示は、第１作動口３３又は第２作動口３４への遊技球の入球が発生して遊技回の開始条件が成立することで特図表示部３７ａにて絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。普図表示部３８ａにおける初期表示は、スルーゲート３５への遊技球の入球が発生して普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。なお、工場の出荷段階においても初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が開始されることとなる。

【２４１１】

上記のように「ＲＡＭクリア操作」に基づき第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合、及び「設定変更操作」に基づき設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合のいずれであっても、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が行われることにより、動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて表示が開始される場合におけるこれら表示部３７ａ，３８ａの表示内容を確認したとしても第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理のいずれが実行されたのかを把握することができない。これにより、動作電力の供給が開始された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を確認したとしても設定値更新処理が実行されたか否かを特定することができないようにすることが可能となる。

【２４１２】

動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかったとしても、動作電力の供給が停止された状況が遊技回の実行中及び開閉実行モードの実行中のいずれでもない状況であった場合には特図表示部３７ａにて表示が開始される場合に特図表示部３７ａにて初期表示が開始される。また、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかったとしても、動作電力の供給が停止された状況が普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行中及び普電開放状態の実行中のいずれでもない状況であった場合には普図表示部３８ａにて表示が開始される場合に普図表示部３８ａにて初期表示が開始される。そして、既に説明したとおり動作電力の供給開始時の処理（ステ

ップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合にも特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が行われていることを確認したとしても、第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行されたことを特定することができないようにすることが可能となる。

【２４１３】

その一方、動作電力の供給が停止された状況が遊技回の実行中及び開閉実行モードの実行中のいずれかであって動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には、特図表示部３７ａにて表示が開始される場合に動作電力の供給が停止される直前における表示内容となるように特図表示部３７ａが表示制御される。また、動作電力の供給が停止された状況が普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行中及び普電開放状態の実行中のいずれかであって動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には、普図表示部３８ａにて表示が開始される場合に動作電力の供給が停止される直前における表示内容となるように普図表示部３８ａが表示制御される。これにより、動作電力の供給が再開された場合に動作電力の供給が停止される直前における遊技状況が再開される場合には、その遊技状況の再開に対応する態様で特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示を開始することが可能となる。

【２４１４】

なお、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合と第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合とで特図表示部３７ａに表示される初期表示の内容が相違している構成としてもよい。また、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合と第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合とで普図表示部３８ａに表示される初期表示の内容が相違している構成としてもよい。

【２４１５】

また、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には、特図表示部３７ａにて初期表示が行われるのに対して普図表示部３８ａでは動作電力の供給が停止される前の表示内容が表示される構成としてもよい。また、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には、普図表示部３８ａにて初期表示が行われるのに対して特図表示部３７ａでは動作電力の供給が停止される前の表示内容が表示される構成としてもよい。

【２４１６】

また、特図表示部３７ａの初期表示が複数種類存在しており、動作電力の供給が開始された場合において当該特図表示部３７ａにて初期表示が行われる場合には抽選にて選択された初期表示が特図表示部３７ａにて行われる構成としてもよい。また、普図表示部３８ａの初期表示が複数種類存在しており、動作電力の供給が開始された場合において当該普図表示部３８ａにて初期表示が行われる場合には抽選にて選択された初期表示が普図表示部３８ａにて行われる構成としてもよい。

【２４１７】

また、主側ＣＰＵ６３により表示制御される表示部として、大当たり結果となったことを契機とした開閉実行モードにて発生するラウンド遊技の回数を報知するためのラウンド表示部が設けられている構成においては、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行された場合並びに第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理の両方が実行されなかった場合のいずれであってもラウンド表示部にて初期表示が行われる構成としてもよい。これにより、ラウンド表示部を確認したとしても第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行されたか否かを特定することができない。

【２４１８】
　また、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂを含めて主側ＣＰＵ６３により直接的に表示制御される表示部は全て、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行された場合並びに第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理の両方が実行されなかった場合のいずれであっても初期表示が行われる構成としてもよい。なお、当該構成においては特図保留表示部３７ｂ及び普図保留表示部３８ｂにて初期表示が一旦開始されるものの、その後に対応する保留情報が０個であることに対応する表示内容に切り換わる構成としてもよい。
【２４１９】
　また、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９１）のステップＳＣ５０２～ステップＳＣ５０３が実行される一方、第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９１）のステップＳＣ５０２～ステップＳＣ５０３が実行されない構成としてもよい。また、動作電力の供給が開始された場合において第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９１）のステップＳＣ５０２～ステップＳＣ５０３が実行される一方、第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９１）のステップＳＣ５０２～ステップＳＣ５０３が実行されない構成としてもよい。
【２４２０】
　＜第５７の実施形態＞
　本実施形態では主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容が上記第５６の実施形態と相違している。以下、上記第５６の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第５６の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【２４２１】
　図１９３は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における表示開始処理を示すフローチャートである。なお、表示開始処理におけるステップＳＣ６０１～ステップＳＣ６０５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。また、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１に第１～第５表示データバッファ２７１～２７５及び初期表示用フラグ３７５が設けられている。
【２４２２】
　初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていない場合（ステップＳＣ６０１：ＮＯ）、特図用の外れ表示データを第１表示データバッファ２７１に設定するとともに（ステップＳＣ６０２）、普図用の外れ表示データを第３表示データバッファ２７３に設定する（ステップＳＣ６０３）。そして、初期表示用フラグ３７５に「１」をセットする（ステップＳＣ６０４）。
【２４２３】
　特図用の外れ表示データは特図変動開始処理（図１３）の当否判定処理（ステップＳ５０４）の結果が外れ結果であった場合に外れ結果用の停止結果設定処理（ステップＳ５０９）にて選択される表示データである。つまり、特図用の外れ表示データは、当否判定処理の結果が外れ結果である遊技回において特図表示部３７ａにて最終的に外れ表示を行わせるための表示データである。特図用の外れ表示データは１種類のみ設定されているため、特図表示部３７ａにおける外れ表示の種類も１種類となっている。また、当否判定処理の結果が当たり結果である遊技回において特図表示部３７ａに最終的に表示される当たり表示は複数種類設定されているが、外れ表示はこれら複数種類の当たり表示とは異なる表示内容となっている。
【２４２４】
　第１表示データバッファ２７１に格納された特図用の外れ表示データを利用して特図表示部３７ａが表示制御されることにより、当該特図表示部３７ａにおいて外れ表示が行わ

れる。外れ表示の表示内容は任意であるが、例えば特図表示部３７ａに設けられた複数の発光部のうち１個の発光部のみが発光状態となる構成としてもよく、複数個の発光部が発光状態となる構成としてもよい。

【２４２５】

普図用の外れ表示データは第１タイマ割込み処理（図１３３）の普図普電制御処理（ステップＳ８９１４）における普電開放抽選の結果が外れ結果であった場合に当該普電開放抽選の実行に対応する普図表示部３８ａの変動表示回において当該普図表示部３８ａに最終的に外れ表示を行わせるための表示データである。普図用の外れ表示データは１種類のみ設定されているため、普図表示部３８ａにおける外れ表示の種類も１種類となっている。また、普電開放抽選の結果が当たり結果である普図表示部３８ａの変動表示回において普図表示部３８ａに最終的に表示される当たり表示は１種類のみ設定されているが、外れ表示は当該当たり表示とは異なる表示内容となっている。

【２４２６】

第３表示データバッファ２７３に格納された普図用の外れ表示データを利用して普図表示部３８ａが表示制御されることにより、当該普図表示部３８ａにおいて外れ表示が行われる。外れ表示の表示内容は任意であるが、例えば普図表示部３８ａに設けられた複数の発光部のうち１個の発光部のみが発光状態となる構成としてもよく、複数個の発光部が発光状態となる構成としてもよい。

【２４２７】

ステップＳＣ６０１にて肯定判定をした場合、又はステップＳＣ６０４の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１に設けられた表示開始フラグに「１」をセットする（ステップＳＣ６０５）。表示開始フラグは上記第５５の実施形態と同様に、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始すべきか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。表示開始フラグの値が「０」である場合には主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を行わずに、表示開始フラグに「１」がセットされた場合に主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始する。

【２４２８】

上記第５５の実施形態と同様にメイン処理（図１８５）のステップＳＣ２０４にて表示開始フラグを「０」クリアする。この処理タイミングは主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された後において特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御を実行するための第２タイマ割込み処理（図１８８）が最初に実行されるタイミングよりも前のタイミングとなっている。そして、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に実行される表示開始処理（図１９３）にて表示開始フラグに「１」がセットされる。これにより、動作電力の供給が再開された直後においては特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂは消灯状態が維持され、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御が開始される。

【２４２９】

特に、表示開始処理（図１９３）では既に説明したとおりメイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行された場合には第１表示データバッファ２７１に特図用の外れ表示データを設定するとともに第３表示データバッファ２７３に普図用の外れ表示データを設定する。この場合に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示制御が開始されるとすると、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて動作電力の供給が停止される直前における表示内容が表示された直後に外れ表示が開始されることとなってしまう

。そうすると、このような表示内容の変化を目視した遊技者は第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行された状況において特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示が開始されたことを把握することができてしまう。これに対して、表示開始処理（図１９１）において第１表示データバッファ２７１及び第３表示データバッファ２７３に表示データが設定される場合には当該表示データを設定する処理が終了した後に表示開始フラグに「１」がセットされて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される。これにより、上記のような表示内容の変化が生じてしまわないようにすることが可能となる。

【２４３０】

一方、初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされている場合（ステップＳＣ６０１：ＹＥＳ）、ステップＳＣ６０２及びステップＳＣ６０３の処理を実行しない。したがって、第１表示データバッファ２７１は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となるとともに、第３表示データバッファ２７３は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となる。この場合、表示開始フラグに「１」がセットされて特図表示部３７ａの表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前に第１表示データバッファ２７１に格納された表示データに対応する表示が特図表示部３７ａにて行われる。また、表示開始フラグに「１」がセットされて普図表示部３８ａの表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前に第３表示データバッファ２７３に格納された表示データに対応する表示が普図表示部３８ａにて行われる。

【２４３１】

次に、動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容について説明する。図１９４は動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を説明するための説明図である。

【２４３２】

動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合、初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にはこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにおいて外れ表示が開始される。特図表示部３７ａにおける外れ表示は、第１作動口３３又は第２作動口３４への遊技球の入球が発生して遊技回の開始条件が成立することで特図表示部３７ａにて絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。普図表示部３８ａにおける外れ表示は、スルーゲート３５への遊技球の入球が発生して普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。なお、工場の出荷段階においても初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示が開始されることとなる。

【２４３３】

上記のように第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合のいずれであっても、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示が行われることにより、動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて表示が開始される場合におけるこれら表示部３７ａ，３８ａの表示内容を確認したとしても第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理のいずれが実行されたのかを把握することができない。これにより、動作電力の供給が開始された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を確認したとしても設定値更新処理が実行されたか否かを特定することができないようにすることが可能となる。

【２４３４】

動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合、特

図表示部３７ａにて表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における表示内容で特図表示部３７ａにおける表示が開始されるとともに、普図表示部３８ａにて表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における表示内容で普図表示部３８ａにおける表示が開始される。ここで、遊技ホールの営業終了時間においては遊技回及び開閉実行モードのいずれもが実行されていない状況でパチンコ機１０の電源が遮断されることがほとんどであり、さらには普図表示部３８ａの変動表示回及び普電開放状態のいずれもが実行されていない状況でパチンコ機１０の電源が遮断されることがほとんどである。つまり、動作電力の供給が停止される直前における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容は基本的に外れ表示である。そして、既に説明したとおり動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合にも特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示が行われていることを確認したとしても、第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行されたことを特定することができないようにすることが可能となる。

【２４３５】

なお、特図表示部３７ａの外れ表示が複数種類存在している構成において、動作電力の供給が開始された場合に第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合にはそれら複数種類の外れ表示のうち予め定められた１種類の外れ表示が特図表示部３７ａにて行われる構成としてもよい。また、普図表示部３８ａの外れ表示が複数種類存在している構成において、動作電力の供給が開始された場合に第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合にはそれら複数種類の外れ表示のうち予め定められた１種類の外れ表示が普図表示部３８ａにて行われる構成としてもよい。

【２４３６】

また、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９３）のステップＳＣ６０２～ステップＳＣ６０３が実行される一方、第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９３）のステップＳＣ６０２～ステップＳＣ６０３が実行されない構成としてもよい。また、動作電力の供給が開始された場合において第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９３）のステップＳＣ６０２～ステップＳＣ６０３が実行される一方、第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９３）のステップＳＣ６０２～ステップＳＣ６０３が実行されない構成としてもよい。

【２４３７】

＜第５８の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容が上記第５５の実施形態と相違している。以下、上記第５５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第５５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２４３８】

図１９５は特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１及びクリア対象外エリア３７２に設けられた各エリアを説明するための説明図である。

【２４３９】

クリア対象エリア３７１には、特図保留表示部３７ｂに所定の表示を行わせるための表示データが格納される第２表示データバッファ２７２、普図保留表示部３８ｂに所定の表示を行わせるための表示データが格納される第４表示データバッファ２７４、及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に所定の表示を行わせるための表示データが格納される第５表示データバッファ２７５だけではなく、特図表示部３７ａに所定の表示を行わせるための表示データが格納される第１表示データバッファ２７１、及び普図表示部３８ａに所定の表示を行わせるための表示データが格納される第３表示データバッファ２７３が設けられている。したがって、メイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理（ステ

ップＳＣ２１８）が実行された場合又は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には、動作電力の供給が停止される直前における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容に対応する表示データは消去されることとなる。

【２４４０】

クリア対象エリア３７１には第１～第５表示データバッファ２７１～２７５以外にも初期表示用フラグ３７５が設けられている。初期表示用フラグ３７５は特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示として外れ表示を行う必要がある状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。初期表示用フラグ３７５がクリア対象エリア３７１に設けられていることにより、メイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には初期表示用フラグ３７５は「０」クリアされることとなる。したがって、メイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が実行された後において特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示として外れ表示が行われることとなる。

【２４４１】

クリア対象外エリア３７２には特図用の初期表示カウンタ３８１及び普図用の初期表示カウンタ３８２が設けられている。特図用の初期表示カウンタ３８１は特図表示部３７ａの表示が開始される場合に当該特図表示部３７ａにて初期表示として外れ表示を行わせる場合に、複数種類存在している特図用の外れ表示のうちいずれの種類の特図用の外れ表示を行わせるのかを抽選により決定するためのカウンタである。特図用の初期表示カウンタ３８１がとり得る数値範囲は「０～５９」となっているがこれに限定されることはなく任意である。

【２４４２】

普図用の初期表示カウンタ３８２は普図表示部３８ａの表示が開始される場合に当該普図表示部３８ａにて初期表示として外れ表示を行わせる場合に、複数種類存在している普図用の外れ表示のうちいずれの種類の普図用の外れ表示を行わせるのかを抽選により決定するためのカウンタである。普図用の初期表示カウンタ３８２がとり得る数値範囲は「０～５９」となっているがこれに限定されることはなく任意である。

【２４４３】

特図用の初期表示カウンタ３８１及び普図用の初期表示カウンタ３８２は上記のとおりクリア対象外エリア３７２に設けられている。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されている状況において主側ＲＡＭ６５へのバックアップ電力の供給が継続されるのであれば、メイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行されたとしても特図用の初期表示カウンタ３８１及び普図用の初期表示カウンタ３８２は初期化されることなく動作電力の供給が停止される直前における数値情報が記憶された状態が維持される。

【２４４４】

特図用の初期表示カウンタ３８１の数値情報及び普図用の初期表示カウンタ３８２の数値情報は第１タイマ割込み処理の起動が許可されている状況において当該第１タイマ割込み処理にて定期的に更新される。図１９６は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。なお、第１タイマ割込み処理におけるステップＳＣ７０１～ステップＳＣ７２２の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２４４５】

ステップＳＣ７０５～ステップＳＣ７０５では上記第３５の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５と同一の処理を実行する。その後、特図用の初期表示カウンタ更新処理を実行する（ステップＳＣ７０６）。当該更新処理では、特図用の初期表示カウンタ３８１から現状の数値情報を読み出し、その読み出した数値情報を１加算した後に、その１加算後における数値情報を特図用の初

期表示カウンタ３８１に上書きする。この場合、カウンタ値が最大値（具体的には「５９」）を超えた際に「０」にクリアする。

【２４４６】

その後、ステップＳＣ７０７では特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「１」がセットされているか否かを判定する。いずれかのフラグに「１」がセットされている場合には（ステップＳＣ７０７：ＹＥＳ）、ステップＳＣ７０８～ステップＳＣ７２２の処理を実行することなく本第１タイマ割込み処理を終了する。いずれのフラグにも「１」がセットされていない場合（ステップＳＣ７０７：ＮＯ）、普図用の初期表示カウンタ更新処理を実行する（ステップＳＣ７０８）。当該更新処理では、普図用の初期表示カウンタ３８２から現状の数値情報を読み出し、その読み出した数値情報を１加算した後に、その１加算後における数値情報を普図用の初期表示カウンタ３８２に上書きする。この場合、カウンタ値が最大値（具体的には「５９」）を超えた際に「０」にクリアする。ステップＳＣ７０９～ステップＳＣ７２２では上記第３５の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０と同一の処理を実行する。

【２４４７】

ここで、特図用の初期表示カウンタ更新処理（ステップＳＣ７０６）は遊技停止フラグ又は立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているか否かに関係なく実行される処理として設定されているのに対して、普図用の初期表示カウンタ更新処理（ステップＳＣ７０８）は遊技停止フラグ又は立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合に実行されない処理として設定されている。これにより、特図用の初期表示カウンタ３８１と普図用の初期表示カウンタ３８２とで更新頻度を異ならせることが可能となり、特図用の初期表示カウンタ３８１と普図用の初期表示カウンタ３８２とが同期してしまわないようにすることが可能となる。

【２４４８】

図１９７は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における表示開始処理を示すフローチャートである。なお、表示開始処理におけるステップＳＣ８０１～ステップＳＣ８０７の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２４４９】

初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていない場合（ステップＳＣ８０１：ＮＯ）、特図用の外れ表示データの抽選処理を実行する（ステップＳＣ８０２）。特図用の外れ表示データの抽選処理では、主側ＲＯＭ６４に予め記憶された特図用の外れ表示抽選テーブル３８３を参照する。図１９８（ａ）は特図用の外れ表示抽選テーブル３８３を説明するための説明図である。図１９８（ａ）に示すように特図用の外れ表示データとして、特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ及び特図用の第３外れ表示データが存在している。

【２４５０】

特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ及び特図用の第３外れ表示データは特図変動開始処理（図１３）の当否判定処理（ステップＳ５０４）の結果が外れ結果であった場合に外れ結果用の停止結果設定処理（ステップＳ５０９）にて抽選により選択され得る表示データである。つまり、特図用の第１～第３外れ表示データは、当否判定処理の結果が外れ結果である遊技回において特図表示部３７ａにて最終的に外れ表示を行わせるための表示データである。特図用の第１外れ表示データは特図用の第１外れ表示を特図表示部３７ａに表示させるためのデータであり、特図用の第２外れ表示データは特図用の第２外れ表示を特図表示部３７ａに表示させるためのデータであり、特図用の第３外れ表示データは特図用の第３外れ表示を特図表示部３７ａに表示させるためのデータである。これら特図用の第１外れ表示、特図用の第２外れ表示及び特図用の第３外れ表示の表示内容は相互に異なっている。また、当否判定処理の結果が当たり結果である遊技回において特図表示部３７ａに最終的に表示される当たり表示は複数種類設定されているが、

特図用の第１～第３外れ表示はこれら複数種類の当たり表示とは異なる表示内容となっている。なお、外れ結果用の停止結果設定処理（ステップＳ５０９）においても特図用の初期表示カウンタ３８１及び特図用の外れ表示抽選テーブル３８３を利用して、特図表示部３７ａに表示させる外れ表示の種類を特図用の第１～第３外れ表示の中から選択する。

【２４５１】

特図用の外れ表示抽選テーブル３８３には、特図用の第１～第３外れ表示データのそれぞれに対して特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されている。具体的には、特図用の第１外れ表示データに対して「０～１９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されており、特図用の第２外れ表示データに対して「２０～３９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されており、特図用の第３外れ表示データに対して「４０～５９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されている。つまり、特図用の外れ表示データの抽選処理における特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ及び特図用の第３外れ表示データの選択確率は「１／３」で同一となっている。

【２４５２】

特図用の外れ表示データの抽選処理では特図用の外れ表示抽選テーブル３８３を読み出した後に、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象外エリア３７２に設けられた特図用の初期表示カウンタ３８１の現状の数値情報を取得する。そして、その取得した数値情報を特図用の外れ表示抽選テーブル３８３に対して照合することで、今回の表示対象とする表示データを特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ及び特図用の第３外れ表示データの中から選択する。

【２４５３】

特図用の外れ表示データの抽選処理にて選択した表示データを第１表示データバッファ２７１に設定する（ステップＳＣ８０３）。第１表示データバッファ２７１に格納された表示データを利用して特図表示部３７ａが表示制御されることにより、当該特図表示部３７ａにおいてその表示データに対応する外れ表示が行われる。つまり、第１表示データバッファ２７１に特図用の第１外れ表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第１外れ表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第２外れ表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第２外れ表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第３外れ表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第３外れ表示が行われる。

【２４５４】

その後、普図用の外れ表示データの抽選処理を実行する（ステップＳＣ８０４）。普図用の外れ表示データの抽選処理では、主側ＲＯＭ６４に予め記憶された普図用の外れ表示抽選テーブル３８４を参照する。図１９８（ｂ）は普図用の外れ表示抽選テーブル３８４を説明するための説明図である。図１９８（ｂ）に示すように普図用の外れ表示データとして、普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ及び普図用の第３外れ表示データが存在している。

【２４５５】

普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ及び普図用の第３外れ表示データは、第１タイマ割込み処理（図１９６）における普図普電制御処理（ステップＳＣ７１６）において普電役物３４ａを開放状態とするか否かを決定するために普電役物開放カウンタＣ４を利用して実行された普電開放抽選の結果が外れ結果であった場合に、普図表示部３８ａの変動表示回において当該普図表示部３８ａに最終的に普図用の外れ表示を行わせるための表示データである。普図用の第１外れ表示データは普図用の第１外れ表示を普図表示部３８ａに表示させるためのデータであり、普図用の第２外れ表示データは普図用の第２外れ表示を普図表示部３８ａに表示させるためのデータであり、普図用の第３外れ表示データは普図用の第３外れ表示を普図表示部３８ａに表示させるためのデータである。これら普図用の第１外れ表示、普図用の第２外れ表示及び普図用の第３外れ表示の表示内容は相互に異なっている。また、普電開放抽選の結果が当たり結果である変動表示

回において普図表示部３８ａに最終的に表示される当たり表示は複数種類設定されているが、普図用の第１～第３外れ表示はこれら複数種類の当たり表示とは異なる表示内容となっている。なお、普図普電制御処理（ステップＳＣ７１６）においても普図用の初期表示カウンタ３８２及び普図用の外れ表示抽選テーブル３８４を利用して、普図表示部３８ａに表示させる外れ表示の種類を普図用の第１～第３外れ表示の中から選択する。

【２４５６】

普図用の外れ表示抽選テーブル３８４には、普図用の第１～第３外れ表示データのそれぞれに対して普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されている。具体的には、普図用の第１外れ表示データに対して「０～１９」の普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されており、普図用の第２外れ表示データに対して「２０～３９」の普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されており、普図用の第３外れ表示データに対して「４０～５９」の普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されている。つまり、普図用の外れ表示データの抽選処理における普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ及び普図用の第３外れ表示データの選択確率は「１／３」で同一となっている。

【２４５７】

普図用の外れ表示データの抽選処理では普図用の外れ表示抽選テーブル３８４を読み出した後に、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象外エリア３７２に設けられた普図用の初期表示カウンタ３８２の現状の数値情報を取得する。そして、その取得した数値情報を普図用の外れ表示抽選テーブル３８４に対して照合することで、今回の表示対象とする表示データを普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ及び普図用の第３外れ表示データの中から選択する。

【２４５８】

普図用の外れ表示データの抽選処理にて選択した表示データを第３表示データバッファ２７３に設定する（ステップＳＣ８０５）。第３表示データバッファ２７３に格納された表示データを利用して普図表示部３８ａが表示制御されることにより、当該普図表示部３８ａにおいてその表示データに対応する外れ表示が行われる。つまり、第３表示データバッファ２７３に普図用の第１外れ表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第１外れ表示が行われ、第３表示データバッファ２７３に普図用の第２外れ表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第２外れ表示が行われ、第３表示データバッファ２７３に普図用の第３外れ表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第３外れ表示が行われる。

【２４５９】

ステップＳＣ８０２～ステップＳＣ８０５の処理を実行した後は、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１に設けられた初期表示用フラグ３７５に「１」をセットする（ステップＳＣ８０６）。

【２４６０】

ステップＳＣ８０１にて肯定判定をした場合、又はステップＳＣ８０６の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１に設けられた表示開始フラグに「１」をセットする（ステップＳＣ８０７）。表示開始フラグは上記第５５の実施形態と同様に、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始すべきか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。表示開始フラグの値が「０」である場合には主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を行わずに、表示開始フラグに「１」がセットされた場合に主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始する。

【２４６１】

上記第５５の実施形態と同様にメイン処理（図１８５）のステップＳＣ２０４にて表示開始フラグを「０」クリアする。この処理タイミングは主側ＣＰＵ６３への動作電力の供

給が開始された後において特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御を実行するための第２タイマ割込み処理（図１８８）が最初に実行されるタイミングよりも前のタイミングとなっている。そして、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に実行される表示開始処理（図１９７）にて表示開始フラグに「１」がセットされる。これにより、動作電力の供給が再開された直後においては特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂは消灯状態が維持され、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御が開始される。

【２４６２】

特に、表示開始処理（図１９７）では既に説明したとおりメイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行された場合には第１表示データバッファ２７１に特図用の第１～第３外れ表示データのいずれかを設定するとともに第３表示データバッファ２７３に普図用の第１～第３外れ表示データのいずれかを設定する。この場合に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示制御が開始されるとすると、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて動作電力の供給が停止される直前における表示内容が表示された直後に外れ表示が開始されることとなってしまう。そうすると、このような表示内容の変化を目視した遊技者は第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行された状況において特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示が開始されたことを把握することができてしまう。これに対して、表示開始処理（図１９７）において第１表示データバッファ２７１及び第３表示データバッファ２７３に表示データが設定される場合には当該表示データを設定する処理が終了した後に表示開始フラグに「１」がセットされて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される。これにより、上記のような表示内容の変化が生じてしまわないようにすることが可能となる。

【２４６３】

一方、初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされている場合（ステップＳＣ８０１：ＹＥＳ）、ステップＳＣ８０２～ステップＳＣ８０５の処理を実行しない。したがって、第１表示データバッファ２７１は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となるとともに、第３表示データバッファ２７３は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となる。この場合、表示開始フラグに「１」がセットされて特図表示部３７ａの表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前に第１表示データバッファ２７１に格納された表示データに対応する表示が特図表示部３７ａにて行われる。また、表示開始フラグに「１」がセットされて普図表示部３８ａの表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前に第３表示データバッファ２７３に格納された表示データに対応する表示が普図表示部３８ａにて行われる。

【２４６４】

以上詳述したように、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合、初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にはこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにおいて外れ表示が開始される。特図表示部３７ａにおける外れ表示は、第１作動口３３又は第２作動口３４への遊技球の入球が発生して遊技回の開始条件が成立することで特図表示部３７ａにて絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。普図表示部３８ａにおける外れ表示は、スルーゲート３５への遊技球の入球が発生して普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。なお、工場の出荷段階においても初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外

れ表示が開始されることとなる。

【２４６５】

上記のように第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合、及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合のいずれであっても、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示が行われることにより、動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて表示が開始される場合におけるこれら表示部３７ａ，３８ａの表示内容を確認したとしても第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理のいずれが実行されたのかを把握することができない。これにより、動作電力の供給が開始された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を確認したとしても設定値更新処理が実行されたか否かを特定することができないようにすることが可能となる。

【２４６６】

動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合、特図表示部３７ａにて表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における表示内容で特図表示部３７ａにおける表示が開始されるとともに、普図表示部３８ａにて表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における表示内容で普図表示部３８ａにおける表示が開始される。ここで、遊技ホールの営業終了時間においては遊技回及び開閉実行モードのいずれもが実行されていない状況でパチンコ機１０の電源が遮断されることがほとんどであり、さらには普図表示部３８ａの変動表示回及び普電開放状態のいずれもが実行されていない状況でパチンコ機１０の電源が遮断されることがほとんどである。つまり、動作電力の供給が停止される直前における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容は基本的に外れ表示である。そして、既に説明したとおり動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合にも特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示が行われていることを確認したとしても、第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行されたことを特定することができないようにすることが可能となる。

【２４６７】

特に、特図用の外れ表示が複数種類存在している構成において第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合にはそれら複数種類の外れ表示の中から抽選により選択された種類の外れ表示が特図表示部３７ａにて行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合において特図表示部３７ａに最初に表示される外れ表示の種類から第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理のいずれかの実行の有無を特定しようとしてもそれを行いづらくさせることが可能となる。

【２４６８】

同様に普図用の外れ表示が複数種類存在している構成において第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合にはそれら複数種類の外れ表示の中から抽選により選択された種類の外れ表示が普図表示部３８ａにて行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合において普図表示部３８ａに最初に表示される外れ表示の種類から第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理のいずれかの実行の有無を特定しようとしてもそれを行いづらくさせることが可能となる。

【２４６９】

なお、表示開始処理（図１９７）にて実行される特図用の外れ表示データの抽選処理（ステップＳＣ８０２）における特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ及び特図用の第３外れ表示データのそれぞれの選択確率が同一である構成に限定されることはなく、若干相違するものの略同一である構成としてもよく、大きく異なる選択確率である構成としてもよい。

【２４７０】

また、表示開始処理（図１９７）にて実行される特図用の外れ表示データの抽選処理（ステップＳＣ８０２）における特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ及び特図用の第３外れ表示データのそれぞれの選択確率が、外れ結果となる遊技回における特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ及び特図用の第３外れ表示データのそれぞれの選択確率と同一である構成としたが、これに限定されることはなく、若干相違するものの略同一である構成としてもよく、大きく異なる選択確率である構成としてもよい。

【２４７１】

また、表示開始処理（図１９７）にて実行される普図用の外れ表示データの抽選処理（ステップＳＣ８０４）における普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ及び普図用の第３外れ表示データのそれぞれの選択確率が同一である構成に限定されることはなく、若干相違するものの略同一である構成としてもよく、相互に大きく異なる選択確率である構成としてもよい。

【２４７２】

また、表示開始処理（図１９７）にて実行される普図用の外れ表示データの抽選処理（ステップＳＣ８０４）における普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ及び普図用の第３外れ表示データのそれぞれの選択確率が、外れ結果となる変動表示回における普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ及び普図用の第３外れ表示データのそれぞれの選択確率と同一である構成としたが、これに限定されることはなく、若干相違するものの略同一である構成としてもよく、大きく異なる選択確率である構成としてもよい。

【２４７３】

また、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９７）のステップＳＣ８０２～ステップＳＣ８０５が実行される一方、第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９７）のステップＳＣ８０２～ステップＳＣ８０５が実行されない構成としてもよい。また、動作電力の供給が開始された場合において第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９７）のステップＳＣ８０２～ステップＳＣ８０５が実行される一方、第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９７）のステップＳＣ８０２～ステップＳＣ８０５が実行されない構成としてもよい。

【２４７４】

また、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９７）のステップＳＣ８０２にて特図用の第１～第３外れ表示データが抽選により選択される構成に限定されることはなく、動作電力の供給が開始された場合においてステップＳＣ８０２の処理が実行される度に特図用の第１外れ表示データ→特図用の第２外れ表示データ→特図用の第３外れ表示データ→特図用の第１外れ表示データ→・・・といったように選択対象となる特図用の外れ表示データが予め定められた順序で順次変更される構成としてもよい。

【２４７５】

また、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９７）のステップＳＣ８０４にて普図用の第１～第３外れ表示データが抽選により選択される構成に限定されることはなく、動作電力の供給が開始された場合においてステップＳＣ８０４の処理が実行される度に普図用の第１外れ表示データ→普図用の第２外れ表示データ→普図用の第３外れ表示データ→普図用の第１外れ表示データ→・・・といったように選択対象となる普図用の外れ表示データが予め定められた順序で順次変更される構成としてもよい。

【２４７６】

＜第５９の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容が上記第５８の実施形態と相違している。以下

、上記第５８の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第５８の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２４７７】

図１９９は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における表示開始処理を示すフローチャートである。なお、表示開始処理におけるステップＳＣ９０１～ステップＳＣ９０７の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２４７８】

初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていない場合（ステップＳＣ９０１：ＮＯ）、特図用の初期表示データの抽選処理を実行する（ステップＳＣ９０２）。特図用の初期表示データの抽選処理では、主側ＲＯＭ６４に予め記憶された特図用の初期表示抽選テーブル３８５を参照する。図２００（ａ）は特図用の初期表示抽選テーブル３８５を説明するための説明図である。図２００（ａ）に示すように特図用の初期表示データとして、特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ、特図用の第３外れ表示データ、特図用の第１当たり表示データ、特図用の第２当たり表示データ及び特図用の第３当たり表示データが存在している。

【２４７９】

特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ及び特図用の第３外れ表示データは特図変動開始処理（図１３）の当否判定処理（ステップＳ５０４）の結果が外れ結果であった場合に外れ結果用の停止結果設定処理（ステップＳ５０９）にて抽選により選択され得る表示データである。また、特図用の第１当たり表示データ、特図用の第２当たり表示データ及び特図用の第３当たり表示データは特図変動開始処理（図１３）の当否判定処理（ステップＳ５０４）の結果が当たり結果であった場合に大当たり結果用の停止結果設定処理（ステップＳ５０７）にて抽選により選択され得る表示データである。つまり、特図用の第１～第３外れ表示データは当否判定処理の結果が外れ結果である遊技回において特図表示部３７ａにて最終的に外れ表示を行わせるための表示データであり、特図用の第１～第３当たり表示データは当否判定処理の結果が当たり結果である遊技回において特図表示部３７ａにて最終的に当たり表示を行わせるための表示データである。

【２４８０】

特図用の第１外れ表示データは特図用の第１外れ表示を特図表示部３７ａに表示させるためのデータであり、特図用の第２外れ表示データは特図用の第２外れ表示を特図表示部３７ａに表示させるためのデータであり、特図用の第３外れ表示データは特図用の第３外れ表示を特図表示部３７ａに表示させるためのデータである。また、特図用の第１当たり表示データは特図用の第１当たり表示を特図表示部３７ａに表示させるためのデータであり、特図用の第２当たり表示データは特図用の第２当たり表示を特図表示部３７ａに表示させるためのデータであり、特図用の第３当たり表示データは特図用の第３当たり表示を特図表示部３７ａに表示させるためのデータである。特図用の第１当たり表示は特図変動開始処理（図１３）の当否判定処理（ステップＳ５０４）の結果が当たり結果であって振分判定処理（ステップＳ５０６）の結果が低確大当たり結果である遊技回において特図表示部３７ａに最終的に表示される。また、特図用の第２当たり表示は特図変動開始処理（図１３）の当否判定処理（ステップＳ５０４）の結果が当たり結果であって振分判定処理（ステップＳ５０６）の結果が低入賞高確大当たり結果である遊技回において特図表示部３７ａに最終的に表示される。また、特図用の第３当たり表示は特図変動開始処理（図１３）の当否判定処理（ステップＳ５０４）の結果が当たり結果であって振分判定処理（ステップＳ５０６）の結果が最有利大当たり結果である遊技回において特図表示部３７ａに最終的に表示される。これら特図用の第１外れ表示、特図用の第２外れ表示、特図用の第３外れ表示、特図用の第１当たり表示、特図用の第２当たり表示及び特図用の第３当たり表示の表示内容は相互に異なっている。

【２４８１】

特図用の初期表示抽選テーブル３８５には、特図用の第１～第３外れ表示データ及び特

図用の第１～第３当たり表示データのそれぞれに対して特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されている。具体的には、特図用の第１外れ表示データに対して「０～９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されており、特図用の第２外れ表示データに対して「１０～１９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されており、特図用の第３外れ表示データに対して「２０～２９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されており、特図用の第１当たり表示データに対して「３０～３９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されており、特図用の第２当たり表示データに対して「４０～４９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されており、特図用の第３当たり表示データに対して「５０～５９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されている。つまり、特図用の初期表示データの抽選処理における特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ、特図用の第３外れ表示データ、特図用の第１当たり表示データ、特図用の第２当たり表示データ及び特図用の第３当たり表示データの選択確率は「１／６」で同一となっている。

【２４８２】

特図用の初期表示データの抽選処理では特図用の初期表示抽選テーブル３８５を読み出した後に、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象外エリア３７２に設けられた特図用の初期表示カウンタ３８１の現状の数値情報を取得する。そして、その取得した数値情報を特図用の初期表示抽選テーブル３８５に対して照合することで、今回の表示対象とする表示データを特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ、特図用の第３外れ表示データ、特図用の第１当たり表示データ、特図用の第２当たり表示データ及び特図用の第３当たり表示データの中から選択する。

【２４８３】

特図用の初期表示データの抽選処理にて選択した表示データを第１表示データバッファ２７１に設定する（ステップＳＣ９０３）。第１表示データバッファ２７１に格納された表示データを利用して特図表示部３７ａが表示制御されることにより、当該特図表示部３７ａにおいてその表示データに対応する外れ表示又は当たり表示が行われる。つまり、第１表示データバッファ２７１に特図用の第１外れ表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第１外れ表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第２外れ表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第２外れ表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第３外れ表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第３外れ表示が行われる。また、第１表示データバッファ２７１に特図用の第１当たり表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第１当たり表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第２当たり表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第２当たり表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第３当たり表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第３当たり表示が行われる。

【２４８４】

その後、普図用の初期表示データの抽選処理を実行する（ステップＳＣ９０４）。普図用の初期表示データの抽選処理では、主側ＲＯＭ６４に予め記憶された普図用の初期表示抽選テーブル３８６を参照する。図２００（ｂ）は普図用の初期表示抽選テーブル３８６を説明するための説明図である。図２００（ｂ）に示すように普図用の初期表示データとして、普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ、普図用の第３外れ表示データ及び普図用の当たり表示データが存在している。

【２４８５】

普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ及び普図用の第３外れ表示データは、第１タイマ割込み処理（図１９６）における普図普電制御処理（ステップＳＣ７１６）において普電役物３４ａを開放状態とするか否かを決定するために普電役物開放カウンタＣ４を利用して実行された普電開放抽選の結果が外れ結果であった場合に、普図表示部３８ａの変動表示回において当該普図表示部３８ａに最終的に普図用の外れ表示を行わせるための表示データである。また、普図用の当たり表示データは、上記普電開放抽

選の結果が当たり結果であった場合に、普図表示部３８ａの変動表示回において当該普図表示部３８ａに最終的に普図用の当たり表示を行わせるための表示データである。

【２４８６】

普図用の第１外れ表示データは普図用の第１外れ表示を普図表示部３８ａに表示させるためのデータであり、普図用の第２外れ表示データは普図用の第２外れ表示を普図表示部３８ａに表示させるためのデータであり、普図用の第３外れ表示データは普図用の第３外れ表示を普図表示部３８ａに表示させるためのデータである。また、普図用の当たり表示データは普図用の当たり表示を普図表示部３８ａに表示させるためのデータである。これら普図用の第１外れ表示、普図用の第２外れ表示、普図用の第３外れ表示及び普図用の当たり表示の表示内容は相互に異なっている。

【２４８７】

普図用の初期表示抽選テーブル３８６には、普図用の第１～第３外れ表示データ及び普図用の当たり表示データのそれぞれに対して普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されている。具体的には、普図用の第１外れ表示データに対して「０～１４」の普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されており、普図用の第２外れ表示データに対して「１５～２９」の普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されており、普図用の第３外れ表示データに対して「３０～４４」の普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されており、普図用の当たり表示データに対して「４５～５９」の普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されている。つまり、普図用の初期表示データの抽選処理における普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ、普図用の第３外れ表示データ及び普図用の当たり表示データの選択確率は「１／４」で同一となっている。

【２４８８】

普図用の初期表示データの抽選処理では普図用の初期表示抽選テーブル３８６を読み出した後に、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象外エリア３７２に設けられた普図用の初期表示カウンタ３８２の現状の数値情報を取得する。そして、その取得した数値情報を普図用の初期表示抽選テーブル３８６に対して照合することで、今回の表示対象とする表示データを普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ、普図用の第３外れ表示データ及び普図用の当たり表示データの中から選択する。

【２４８９】

普図用の初期表示データの抽選処理にて選択した表示データを第３表示データバッファ２７３に設定する（ステップＳＣ９０５）。第３表示データバッファ２７３に格納された表示データを利用して普図表示部３８ａが表示制御されることにより、当該普図表示部３８ａにおいてその表示データに対応する外れ表示又は当たり表示が行われる。つまり、第３表示データバッファ２７３に普図用の第１外れ表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第１外れ表示が行われ、第３表示データバッファ２７３に普図用の第２外れ表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第２外れ表示が行われ、第３表示データバッファ２７３に普図用の第３外れ表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第３外れ表示が行われ、第３表示データバッファ２７３に普図用の当たり表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の当たり表示が行われる。

【２４９０】

ステップＳＣ９０２～ステップＳＣ９０５の処理を実行した後は、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１に設けられた初期表示用フラグ３７５に「１」をセットする（ステップＳＣ９０６）。

【２４９１】

ステップＳＣ９０１にて肯定判定をした場合、又はステップＳＣ９０６の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１に設けられた表示開始フラグに「１」をセットする（ステップＳＣ９０７）。表示開始フラグは上記第５５の実施形態と同様に、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普

図保留表示部３８ｂの表示制御を開始すべきか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。表示開始フラグの値が「０」である場合には主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を行わずに、表示開始フラグに「１」がセットされた場合に主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始する。

【２４９２】

上記第５５の実施形態と同様にメイン処理（図１８５）のステップＳＣ２０４にて表示開始フラグを「０」クリアする。この処理タイミングは主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された後において特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御を実行するための第２タイマ割込み処理（図１８８）が最初に実行されるタイミングよりも前のタイミングとなっている。そして、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に実行される表示開始処理（図１９９）にて表示開始フラグに「１」がセットされる。これにより、動作電力の供給が再開された直後においては特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂは消灯状態が維持され、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御が開始される。

【２４９３】

特に、表示開始処理（図１９９）では既に説明したとおりメイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行された場合には第１表示データバッファ２７１に特図用の第１～第３外れ表示データ及び特図用の第１～第３当たり表示データのいずれかを設定するとともに第３表示データバッファ２７３に普図用の第１～第３外れ表示データ及び普図用の当たり表示データのいずれかを設定する。この場合に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示制御が開始されるとすると、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて動作電力の供給が停止される直前における表示内容が表示された直後に外れ表示又は当たり表示が開始されることとなってしまう。そうすると、このような表示内容の変化を目視した遊技者は第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行された状況において特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示又は当たり表示が開始されたことを把握することができてしまう。これに対して、表示開始処理（図１９９）において第１表示データバッファ２７１及び第３表示データバッファ２７３に表示データが設定される場合には当該表示データを設定する処理が終了した後に表示開始フラグに「１」がセットされて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される。これにより、上記のような表示内容の変化が生じてしまわないようにすることが可能となる。

【２４９４】

一方、初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされている場合（ステップＳＣ９０１：ＹＥＳ）、ステップＳＣ９０２～ステップＳＣ９０５の処理を実行しない。したがって、第１表示データバッファ２７１は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となるとともに、第３表示データバッファ２７３は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となる。この場合、表示開始フラグに「１」がセットされて特図表示部３７ａの表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前に第１表示データバッファ２７１に格納された表示データに対応する表示が特図表示部３７ａにて行われる。また、表示開始フラグに「１」がセットされて普図表示部３８ａの表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前に第３表示データバッファ２７３に格納された表示データに対応する表示が普図表示部３８ａにて行われる。

【２４９５】

次に、動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａ

の表示内容について説明する。図２０１は動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を説明するための説明図である。

【２４９６】

動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合、初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にはこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにおいて外れ表示又は当たり表示が開始される。特図表示部３７ａにおける外れ表示又は当たり表示は、第１作動口３３又は第２作動口３４への遊技球の入球が発生して遊技回の開始条件が成立することで特図表示部３７ａにて絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。普図表示部３８ａにおける外れ表示又は当たり表示は、スルーゲート３５への遊技球の入球が発生して普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。なお、工場の出荷段階においても初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示又は当たり表示が開始されることとなる。

【２４９７】

上記のように第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合、及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合のいずれであっても、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示又は当たり表示が行われることにより、動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて表示が開始される場合におけるこれら表示部３７ａ，３８ａの表示内容を確認したとしても第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理のいずれが実行されたのかを把握することができない。これにより、動作電力の供給が開始された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を確認したとしても設定値更新処理が実行されたか否かを特定することができないようにすることが可能となる。

【２４９８】

動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合、特図表示部３７ａにて表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における表示内容で特図表示部３７ａにおける表示が開始されるとともに、普図表示部３８ａにて表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における表示内容で普図表示部３８ａにおける表示が開始される。つまり、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容は動作電力の供給が停止されたタイミングにおける状況に依存することとなり、表示内容は多様なものとなる。これに対して、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示又は当たり表示が抽選により決定されて表示される。これにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合であっても、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合と同様に、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を多様化させることが可能となる。よって、動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始された場合にその表示を確認したとしても、第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行されたことを特定しづらくさせることが可能となる。

【２４９９】

また、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合に選

択され得る特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示データは、通常の遊技に際して選択され得る表示データである。これにより、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示データのデータ容量を増大化させないようにしながら、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を多様化させることが可能となる。

【２５００】

なお、表示開始処理（図１９９）にて実行される特図用の初期表示データの抽選処理（ステップＳＣ９０２）における特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ、特図用の第３外れ表示データ、特図用の第１当たり表示データ、特図用の第２当たり表示データ及び特図用の第３当たり表示データのそれぞれの選択確率が同一である構成に限定されることはなく、若干相違するものの略同一である構成としてもよく、大きく異なる選択確率である構成としてもよい。大きく異なる選択確率である構成としては、例えば特図用の第１～第３外れ表示データの合計の選択確率が特図用の第１～第３当たり表示データの合計の選択確率よりも高い構成としてもよく、低い構成としてもよい。

【２５０１】

また、表示開始処理（図１９９）にて実行される普図用の初期表示データの抽選処理（ステップＳＣ９０４）における普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ、普図用の第３外れ表示データ及び普図用の当たり表示データのそれぞれの選択確率が同一である構成に限定されることはなく、若干相違するものの略同一である構成としてもよく、大きく異なる選択確率である構成としてもよい。

【２５０２】

また、表示開始処理（図１９９）にて実行される特図用の初期表示データの抽選処理（ステップＳＣ９０２）において選択される表示データとして、遊技回の停止結果に含まれない表示を行わせるための表示データが含まれている構成としてもよい。また、表示開始処理（図１９９）にて実行される普図用の初期表示データの抽選処理（ステップＳＣ９０４）において選択される表示データとして、変動表示回の停止結果に含まれない表示を行わせるための表示データが含まれている構成としてもよい。

【２５０３】

また、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９９）のステップＳＣ９０２～ステップＳＣ９０５が実行される一方、第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９９）のステップＳＣ９０２～ステップＳＣ９０５が実行されない構成としてもよい。また、動作電力の供給が開始された場合において第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９９）のステップＳＣ９０２～ステップＳＣ９０５が実行される一方、第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９９）のステップＳＣ９０２～ステップＳＣ９０５が実行されない構成としてもよい。

【２５０４】

また、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９９）のステップＳＣ９０２にて特図用の第１～第３外れ表示データ及び特図用の第１～第３当たり表示データが抽選により選択される構成に限定されることはなく、動作電力の供給が開始された場合においてステップＳＣ９０２の処理が実行される度に特図用の第１外れ表示データ→特図用の第２外れ表示データ→特図用の第３外れ表示データ→特図用の第１当たり表示データ→特図用の第２当たり表示データ→特図用の第３当たり表示データ→特図用の第１外れ表示データ→・・・といったように選択対象となる表示データが予め定められた順序で順次変更される構成としてもよい。

【２５０５】

また、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図１９９）のステップＳＣ９０４にて普

図用の第１～第３外れ表示データ及び普図用の第１～第３当たり表示データが抽選により選択される構成に限定されることはなく、動作電力の供給が開始された場合においてステップＳＣ９０４の処理が実行される度に普図用の第１外れ表示データ→普図用の第２外れ表示データ→普図用の第３外れ表示データ→普図用の当たり表示データ→普図用の第１外れ表示データ→・・・といったように選択対象となる表示データが予め定められた順序で順次変更される構成としてもよい。

【２５０６】

＜第６０の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容が上記第５９の実施形態と相違している。以下、上記第５９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第５９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２５０７】

図２０２は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における表示開始処理を示すフローチャートである。なお、表示開始処理におけるステップＳＤ１０１～ステップＳＤ１１５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２５０８】

初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていない場合（ステップＳＤ１０１：ＮＯ）、ステップＳＤ１０２～ステップＳＤ１０６の処理を実行する。ステップＳＤ１０２～ステップＳＤ１０６の処理内容は上記第５９の実施形態における表示開始処理（図１９９）のステップＳＣ９０１～ステップＳＣ９０６と同一である。これにより、第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には上記第５９の実施形態と同様に、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合において外れ表示又は当たり表示が行われる。

【２５０９】

初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされている場合（ステップＳＤ１０１：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１における遊技回の実行中であるか否かを示す情報が記憶される記憶エリアを参照することで、遊技回の実行中において動作電力の供給が停止された後に動作電力の供給が再開された状況であるか否かを判定する（ステップＳＤ１０７）。当該記憶エリアには遊技回が開始される場合に遊技回の実行中であることを示す情報が格納され、遊技回が終了される場合に遊技回の実行中であることを示す情報が当該記憶エリアから消去される。当該記憶エリアの情報は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても特定制御用のワークエリア２２１にバックアップ電力が供給されている場合には記憶保持され、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には記憶保持される。

【２５１０】

また、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１における開閉実行モードの実行中であるか否かを示す情報が記憶される記憶エリアを参照することで、開閉実行モードの実行中において動作電力の供給が停止された後に動作電力の供給が再開された状況であるか否かを判定する（ステップＳＤ１０８）。当該記憶エリアには開閉実行モードが開始される場合に開閉実行モードの実行中であることを示す情報が格納され、開閉実行モードが終了される場合に開閉実行モードの実行中であることを示す情報が当該記憶エリアから消去される。当該記憶エリアの情報は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても特定制御用のワークエリア２２１にバックアップ電力が供給されている場合には記憶保持され、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には記憶保持される。

【２５１１】

前回の動作電力の供給の停止時が遊技回の実行中及び開閉実行モードの実行中のいずれ

でもなかった場合（ステップＳＤ１０７及びステップＳＤ１０８：ＮＯ）、特図用の初期表示データの抽選処理を実行する（ステップＳＤ１０９）。特図用の初期表示データの抽選処理の処理内容はステップＳＤ１０２と同一であり、さらに言うと上記第５９の実施形態における表示開始処理（図１９９）のステップＳＣ９０２と同一である。これにより、特図表示部３７ａの表示を開始する場合に当該特図表示部３７ａに外れ表示又は当たり表示を行わせるための表示データとして、特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ、特図用の第３外れ表示データ、特図用の第１当たり表示データ、特図用の第２当たり表示データ及び特図用の第３当たり表示データのいずれかが選択される。

【２５１２】

特図用の初期表示データの抽選処理にて選択した表示データを第１表示データバッファ２７１に設定する（ステップＳＤ１１０）。第１表示データバッファ２７１に格納された表示データを利用して特図表示部３７ａが表示制御されることにより、当該特図表示部３７ａにおいてその表示データに対応する外れ表示又は当たり表示が行われる。つまり、第１表示データバッファ２７１に特図用の第１外れ表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第１外れ表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第２外れ表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第２外れ表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第３外れ表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第３外れ表示が行われる。また、第１表示データバッファ２７１に特図用の第１当たり表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第１当たり表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第２当たり表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第２当たり表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第３当たり表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第３当たり表示が行われる。

【２５１３】

一方、前回の動作電力の供給の停止時が遊技回の実行中及び開閉実行モードの実行中のいずれかであった場合（ステップＳＤ１０７又はステップＳＤ１０８：ＹＥＳ）、特図用の初期表示データが第１表示データバッファ２７１に設定されないため、動作電力の供給が停止される前に格納されていた表示データがそのまま第１表示データバッファ２７１に格納された状態となる。したがって、特図表示部３７ａにおける表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における特図表示部３７ａの表示内容がそのまま再開されることとなる。

【２５１４】

ステップＳＤ１０７にて肯定判定をした場合、ステップＳＤ１０８にて肯定判定をした場合、又はステップＳＤ１１０の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１における普図表示部３８ａの変動表示中であるか否かを示す情報が記憶される記憶エリアを参照することで、普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示中において動作電力の供給が停止された後に動作電力の供給が再開された状況であるか否かを判定する（ステップＳＤ１１１）。当該記憶エリアには普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示が開始される場合に普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示の実行中あることを示す情報が格納され、普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示が終了される場合に普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示の実行中であることを示す情報が当該記憶エリアから消去される。当該記憶エリアの情報は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても特定制御用のワークエリア２２１にバックアップ電力が供給されている場合には記憶保持され、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には記憶保持される。

【２５１５】

また、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１における普電開放状態の実行中であるか否かを示す情報が記憶される記憶エリアを参照することで、普電開放状態の実行中において動作電力の供給が停止された後に動作電力の供給が再開された状況であるか否かを判定する（ステップＳＤ１１２）。当該記憶エリアには普電開放状態が開

始される場合に普電開放状態の実行中であることを示す情報が格納され、普電開放状態が終了される場合に普電開放状態の実行中であることを示す情報が当該記憶エリアから消去される。当該記憶エリアの情報は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても特定制御用のワークエリア２２１にバックアップ電力が供給されている場合には記憶保持され、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には記憶保持される。

【２５１６】

前回の動作電力の供給の停止時が普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行中及び普電開放状態の実行中のいずれでもなかった場合（ステップＳＤ１１１及びステップＳＤ１１２：ＮＯ）、普図用の初期表示データの抽選処理を実行する（ステップＳＤ１１３）。普図用の初期表示データの抽選処理の処理内容はステップＳＤ１０４と同一であり、さらに言うと上記第５９の実施形態における表示開始処理（図１９９）のステップＳＣ９０４と同一である。これにより、普図表示部３８ａの表示を開始する場合に当該普図表示部３８ａに外れ表示又は当たり表示を行わせるための表示データとして、普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ、普図用の第３外れ表示データ及び普図用の当たり表示データのいずれかが選択される。

【２５１７】

普図用の初期表示データの抽選処理にて選択した表示データを第３表示データバッファ２７３に設定する（ステップＳＤ１１４）。第３表示データバッファ２７３に格納された表示データを利用して普図表示部３８ａが表示制御されることにより、当該普図表示部３８ａにおいてその表示データに対応する外れ表示又は当たり表示が行われる。つまり、第３表示データバッファ２７３に普図用の第１外れ表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第１外れ表示が行われ、第３表示データバッファ２７３に普図用の第２外れ表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第２外れ表示が行われ、第３表示データバッファ２７３に普図用の第３外れ表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第３外れ表示が行われ、第３表示データバッファ２７３に普図用の当たり表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の当たり表示が行われる。

【２５１８】

一方、前回の動作電力の供給の停止時が普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行中及び普電開放状態の実行中のいずれかであった場合（ステップＳＤ１１１又はステップＳＤ１１２：ＹＥＳ）、普図用の初期表示データが第３表示データバッファ２７３に設定されないため、動作電力の供給が停止される前に格納されていた表示データがそのまま第３表示データバッファ２７３に格納された状態となる。したがって、普図表示部３８ａにおける表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における普図表示部３８ａの表示内容がそのまま再開されることとなる。

【２５１９】

ステップＳＤ１０６の処理を実行した場合、ステップＳＤ１１１にて肯定判定をした場合、ステップＳＤ１１２にて肯定判定をした場合、又はステップＳＤ１１４の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１に設けられた表示開始フラグに「１」をセットする（ステップＳＤ１１５）。表示開始フラグは上記第５５の実施形態と同様に、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始すべきか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。表示開始フラグの値が「０」である場合には主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を行わずに、表示開始フラグに「１」がセットされた場合に主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始する。

【２５２０】

上記第５５の実施形態と同様にメイン処理（図１８５）のステップＳＣ２０４にて表示

開始フラグを「０」クリアする。この処理タイミングは主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された後において特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御を実行するための第２タイマ割込み処理（図１８８）が最初に実行されるタイミングよりも前のタイミングとなっている。そして、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に実行される表示開始処理（図２０２）にて表示開始フラグに「１」がセットされる。これにより、動作電力の供給が再開された直後においては特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂは消灯状態が維持され、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御が開始される。

【２５２１】

特に、表示開始処理（図２０２）では既に説明したとおりメイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理の両方が実行されていない状況であっても第１表示データバッファ２７１に特図用の初期表示データを設定するとともに第３表示データバッファ２７３に普図用の初期表示データを設定することがある。この場合に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示制御が開始されるとすると、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて動作電力の供給が停止される直前における表示内容が表示された直後に初期表示が開始されることとなってしまう。そうすると、このような表示内容の変化を目視した遊技者は第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理の両方が実行されていない状況において特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が開始されたことを把握することができてしまう。これに対して、表示開始処理（図２０２）において第１表示データバッファ２７１及び第３表示データバッファ２７３に表示データが設定される場合には当該表示データを設定する処理が終了した後に表示開始フラグに「１」がセットされて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される。これにより、上記のような表示内容の変化が生じてしまわないようにすることが可能となる。

【２５２２】

次に、動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容について説明する。図２０３は動作電力の供給開始時の状況に対応する特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を説明するための説明図である。

【２５２３】

動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合、初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にはこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにおいて外れ表示又は当たり表示が開始される。特図表示部３７ａにおける外れ表示又は当たり表示は、第１作動口３３又は第２作動口３４への遊技球の入球が発生して遊技回の開始条件が成立することで特図表示部３７ａにて絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。普図表示部３８ａにおける外れ表示又は当たり表示は、スルーゲート３５への遊技球の入球が発生して普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。なお、工場の出荷段階においても初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示又は当たり表示が開始されることとなる。

【２５２４】

上記のように第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合、及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合のいずれであっても、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示又は当たり表示が行われることにより、動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて表示が開始される場合におけるこれら表示部３７ａ，３８ａの

表示内容を確認したとしても第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理のいずれが実行されたのかを把握することができない。これにより、動作電力の供給が開始された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を確認したとしても設定値更新処理が実行されたか否かを特定することができないようにすることが可能となる。

【２５２５】

動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかったとしても、動作電力の供給が停止された状況が遊技回の実行中及び開閉実行モードの実行中のいずれでもない状況であった場合には特図表示部３７ａにて表示が開始される場合に特図表示部３７ａにて外れ表示又は当たり表示が開始される。また、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかったとしても、動作電力の供給が停止された状況が普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行中及び普電開放状態の実行中のいずれでもない状況であった場合には普図表示部３８ａにて表示が開始される場合に普図表示部３８ａにて外れ表示又は当たり表示が開始される。そして、既に説明したとおり動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合にも特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示又は当たり表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示又は当たり表示が行われていることを確認したとしても、第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行されたことを特定することができないようにすることが可能となる。

【２５２６】

その一方、動作電力の供給が停止された状況が遊技回の実行中及び開閉実行モードの実行中のいずれかであって動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には、特図表示部３７ａにて表示が開始される場合に動作電力の供給が停止される直前における表示内容となるように特図表示部３７ａが表示制御される。また、動作電力の供給が停止された状況が普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行中及び普電開放状態の実行中のいずれかであって動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には、普図表示部３８ａにて表示が開始される場合に動作電力の供給が停止される直前における表示内容となるように普図表示部３８ａが表示制御される。これにより、動作電力の供給が再開された場合に動作電力の供給が停止される直前における遊技状況が再開される場合には、その遊技状況の再開に対応する態様で特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示を開始することが可能となる。

【２５２７】

なお、表示開始処理（図２０２）にて実行される特図用の初期表示データの抽選処理（ステップＳＤ１０２、ステップＳＤ１０９）における特図用の第１外れ表示データ、特図用の第２外れ表示データ、特図用の第３外れ表示データ、特図用の第１当たり表示データ、特図用の第２当たり表示データ及び特図用の第３当たり表示データのそれぞれの選択確率が同一である構成に限定されることはなく、若干相違するものの略同一である構成としてもよく、大きく異なる選択確率である構成としてもよい。大きく異なる選択確率である構成としては、例えば特図用の第１～第３外れ表示データの合計の選択確率が特図用の第１～第３当たり表示データの合計の選択確率よりも高い構成としてもよく、低い構成としてもよい。

【２５２８】

また、表示開始処理（図２０２）にて実行される普図用の初期表示データの抽選処理（ステップＳＤ１０４、ステップＳＤ１１３）における普図用の第１外れ表示データ、普図用の第２外れ表示データ、普図用の第３外れ表示データ及び普図用の当たり表示データの

それぞれの選択確率が同一である構成に限定されることはなく、若干相違するものの略同一である構成としてもよく、大きく異なる選択確率である構成としてもよい。

【２５２９】

また、表示開始処理（図２０２）にて実行される特図用の初期表示データの抽選処理（ステップＳＤ１０２、ステップＳＤ１０９）において選択される表示データとして、遊技回の停止結果に含まれない表示を行わせるための表示データが含まれている構成としてもよい。また、表示開始処理（図２０２）にて実行される普図用の初期表示データの抽選処理（ステップＳＤ１０４、ステップＳＤ１１３）において選択される表示データとして、変動表示回の停止結果に含まれない表示を行わせるための表示データが含まれている構成としてもよい。

【２５３０】

また、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図２０２）のステップＳＤ１０２～ステップＳＤ１０５が実行される一方、第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図２０２）のステップＳＤ１０２～ステップＳＤ１０５が実行されない構成としてもよい。また、動作電力の供給が開始された場合において第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図２０２）のステップＳＤ１０２～ステップＳＤ１０５が実行される一方、第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図２０２）のステップＳＤ１０２～ステップＳＤ１０５が実行されない構成としてもよい。

【２５３１】

＜第６１の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容が上記第５６の実施形態と相違している。以下、上記第５６の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第５６の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２５３２】

図２０４は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における表示開始処理を示すフローチャートである。なお、表示開始処理におけるステップＳＤ２０１～ステップＳＤ２１９の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２５３３】

初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていない場合（ステップＳＤ２０１：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１に設けられた抽選対象カウンタに、特図表示部３７ａに設けられた発光部の数に相当する「７」をセットする（ステップＳＤ２０２）。抽選対象カウンタはステップＳＤ２０３～ステップＳＤ２０７の処理又はステップＳＤ２１１～ステップＳＤ２１５の処理を実行する必要があるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。

【２５３４】

その後、抽選対象カウンタの値に対応する特図用乱数回路から乱数値を取得する（ステップＳＤ２０３）。本実施形態では主制御基板６１に特図表示部３７ａに設けられた発光部の数に対応する数の特図用乱数回路が設けられている。具体的には、特図表示部３７ａには７個の発光部が設けられているため７個の特図用乱数回路が設けられている。これら７個の特図用乱数回路は主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に比較的短期間周期（例えば１マイクロ秒～７マイクロ秒）であってそれぞれ異なる周期で自身が保持する乱数値を更新する構成であり、さらに主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されている状況であってもバックアップ電力が供給されることにより主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される直前における乱数値を記憶保持することが可能な構成である。

【２５３５】

特図表示部３７ａの７個の発光部を第１～第７発光部とするとともに７個の特図用乱数回路を第１～第７特図用乱数回路とした場合に、第１特図用乱数回路が第１発光部に対応

しており、第２特図用乱数回路が第２発光部に対応しており、第３特図用乱数回路が第３発光部に対応しており、第４特図用乱数回路が第４発光部に対応しており、第５特図用乱数回路が第５発光部に対応しており、第６特図用乱数回路が第６発光部に対応しており、第７特図用乱数回路が第７発光部に対応している。また、抽選対象カウンタの値が「７」である場合には第１発光部及び第１特図用乱数回路に対応しており、抽選対象カウンタの値が「６」である場合には第２発光部及び第２特図用乱数回路に対応しており、抽選対象カウンタの値が「５」である場合には第３発光部及び第３特図用乱数回路に対応しており、抽選対象カウンタの値が「４」である場合には第４発光部及び第４特図用乱数回路に対応しており、抽選対象カウンタの値が「３」である場合には第５発光部及び第５特図用乱数回路に対応しており、抽選対象カウンタの値が「２」である場合には第６発光部及び第６特図用乱数回路に対応しており、抽選対象カウンタの値が「１」である場合には第７発光部及び第７特図用乱数回路に対応している。なお、第１～第７特図用乱数回路はいずれも乱数の数値範囲が同一となっている（例えば「０～２５５」）。

【２５３６】

その後、特図用の点灯抽選処理を実行する（ステップＳＤ２０４）。特図用の点灯抽選処理では主側ＲＯＭ６４から特図用の点灯抽選テーブルを読み出す。特図用の点灯抽選テーブルには第１～第７特図用乱数回路において取り得る乱数値のうち半分の乱数値が当選乱数値として設定されている。そして、ステップＳＤ２０３にて取得した乱数値を特図用の点灯抽選テーブルに対して照合する。

【２５３７】

特図用の点灯抽選処理の結果が点灯当選である場合（ステップＳＤ２０５：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１のうち現状の抽選対象カウンタの値に対応するエリアに点灯情報を記憶させる（ステップＳＤ２０６）。なお、抽選対象カウンタに対応させて設けられた各エリアはステップＳＤ２０２の処理を実行した場合に「０」クリアされる。

【２５３８】

その後、抽選対象カウンタの値を１減算し（ステップＳＤ２０７）、その１減算後における抽選対象カウンタの値が「０」となっているか否かを判定する（ステップＳＤ２０８）。ステップＳＤ２０８にて否定判定をした場合、ステップＳＤ２０３～ステップＳＤ２０７の処理を再度実行する。

【２５３９】

ステップＳＤ２０８にて肯定判定をした場合、特図用の初期表示データを第１表示データバッファ２７１に設定する（ステップＳＤ２０９）。特図用の初期表示データは、抽選対象カウンタの値が「１」～「７」のそれぞれに対応する点灯情報の有無によって定められる。例えば抽選対象カウンタの値が「７」、「５」及び「１」の場合に対応する点灯情報が記憶されている一方、抽選対象カウンタのそれ以外の値に対応する点灯情報が記憶されていない場合には、特図表示部３７ａの第１発光部、第３発光部及び第７発光部が発光状態となるとともに第２発光部、第４発光部、第５発光部及び第６発光部が消灯状態となる特図用の初期表示を可能とする特図用の初期表示データを第１表示データバッファ２７１に設定する。

【２５４０】

第１表示データバッファ２７１に格納された表示データを利用して特図表示部３７ａが表示制御されることにより、当該特図表示部３７ａにおいてその表示データに対応する初期表示が行われる。初期表示として特図表示部３７ａに表示され得る表示内容には、通常の遊技において特図表示部３７ａに表示され得る表示内容が含まれるとともに、通常の遊技において特図表示部３７ａに表示されない表示内容も含まれる。また、初期表示として特図表示部３７ａに表示され得る表示内容であって通常の遊技において特図表示部３７ａに表示され得る表示内容として、外れ結果の遊技回において特図表示部３７ａに最終的に表示される特図用の外れ表示及び当たり結果の遊技回において特図表示部３７ａに最終的に表示される特図用の当たり表示が含まれる。

【２５４１】
その後、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１に設けられた抽選対象カウンタに、普図表示部３８ａに設けられた発光部の数に相当する「７」をセットする（ステップＳＤ２１０）。
【２５４２】
その後、抽選対象カウンタの値に対応する普図用乱数回路から乱数値を取得する（ステップＳＤ２１１）。本実施形態では主制御基板６１に普図表示部３８ａに設けられた発光部の数に対応する数の普図用乱数回路が設けられている。具体的には、普図表示部３８ａには７個の発光部が設けられているため７個の普図用乱数回路が設けられている。これら７個の普図用乱数回路は主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に比較的短期間周期（例えば１マイクロ秒～７マイクロ秒）であってそれぞれ異なる周期で自身が保持する乱数値を更新する構成であり、さらに主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されている状況であってもバックアップ電力が供給されることにより主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される直前における乱数値を記憶保持することが可能な構成である。
【２５４３】
普図表示部３８ａの７個の発光部を第１～第７発光部とするとともに７個の普図用乱数回路を第１～第７普図用乱数回路とした場合に、第１普図用乱数回路が第１発光部に対応しており、第２普図用乱数回路が第２発光部に対応しており、第３普図用乱数回路が第３発光部に対応しており、第４普図用乱数回路が第４発光部に対応しており、第５普図用乱数回路が第５発光部に対応しており、第６普図用乱数回路が第６発光部に対応しており、第７普図用乱数回路が第７発光部に対応している。また、抽選対象カウンタの値が「７」である場合には第１発光部及び第１普図用乱数回路に対応しており、抽選対象カウンタの値が「６」である場合には第２発光部及び第２普図用乱数回路に対応しており、抽選対象カウンタの値が「５」である場合には第３発光部及び第３普図用乱数回路に対応しており、抽選対象カウンタの値が「４」である場合には第４発光部及び第４普図用乱数回路に対応しており、抽選対象カウンタの値が「３」である場合には第５発光部及び第５普図用乱数回路に対応しており、抽選対象カウンタの値が「２」である場合には第６発光部及び第６普図用乱数回路に対応しており、抽選対象カウンタの値が「１」である場合には第７発光部及び第７普図用乱数回路に対応している。なお、第１～第７普図用乱数回路はいずれも乱数の数値範囲が同一となっている（例えば「０～２５５」）。
【２５４４】
その後、普図用の点灯抽選処理を実行する（ステップＳＤ２１２）。普図用の点灯抽選処理では主側ＲＯＭ６４から普図用の点灯抽選テーブルを読み出す。普図用の点灯抽選テーブルには第１～第７普図用乱数回路において取り得る乱数値のうち半分の乱数値が当選乱数値として設定されている。そして、ステップＳＤ２１１にて取得した乱数値を普図用の点灯抽選テーブルに対して照合する。
【２５４５】
普図用の点灯抽選処理の結果が点灯当選である場合（ステップＳＤ２１３：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１のうち現状の抽選対象カウンタの値に対応するエリアに点灯情報を記憶させる（ステップＳＤ２１４）。なお、抽選対象カウンタに対応させて設けられた各エリアはステップＳＤ２１０の処理を実行した場合に「０」クリアされる。
【２５４６】
その後、抽選対象カウンタの値を１減算し（ステップＳＤ２１５）、その１減算後における抽選対象カウンタの値が「０」となっているか否かを判定する（ステップＳＤ２１６）。ステップＳＤ２１６にて否定判定をした場合、ステップＳＤ２１１～ステップＳＤ２１５の処理を再度実行する。
【２５４７】
ステップＳＤ２１６にて肯定判定をした場合、普図用の初期表示データを第３表示データバッファ２７３に設定する（ステップＳＤ２１７）。普図用の初期表示データは、抽選

対象カウンタの値が「１」～「７」のそれぞれに対応する点灯情報の有無によって定められる。例えば抽選対象カウンタの値が「７」、「５」及び「１」の場合に対応する点灯情報が記憶されている一方、抽選対象カウンタのそれ以外の値に対応する点灯情報が記憶されていない場合には、普図表示部３８ａの第１発光部、第３発光部及び第７発光部が発光状態となるとともに第２発光部、第４発光部、第５発光部及び第６発光部が消灯状態となる普図用の初期表示の実行を可能とする普図用の初期表示データを第３表示データバッファ２７３に設定する。

【２５４８】

第３表示データバッファ２７３に格納された表示データを利用して普図表示部３８ａが表示制御されることにより、当該普図表示部３８ａにおいてその表示データに対応する初期表示が行われる。初期表示として普図表示部３８ａに表示され得る表示内容には、通常の遊技において普図表示部３８ａに表示され得る表示内容が含まれるとともに、通常の遊技において普図表示部３８ａに表示されない表示内容も含まれる。また、初期表示として普図表示部３８ａに表示され得る表示内容であって通常の遊技において普図表示部３８ａに表示され得る表示内容として、外れ結果の変動表示回において普図表示部３８ａに最終的に表示される普図用の外れ表示及び当たり結果の変動表示回において普図表示部３８ａに最終的に表示される普図用の当たり表示が含まれる。

【２５４９】

ステップＳＤ２０２～ステップＳＤ２１７の処理を実行した後は、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１に設けられた初期表示用フラグ３７５に「１」をセットする（ステップＳＤ２１８）。

【２５５０】

ステップＳＤ２０１にて肯定判定をした場合、又はステップＳＤ２１８の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１に設けられた表示開始フラグに「１」をセットする（ステップＳＤ２１９）。表示開始フラグは上記第５５の実施形態と同様に、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始すべきか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。表示開始フラグの値が「０」である場合には主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を行わずに、表示開始フラグに「１」がセットされた場合に主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始する。

【２５５１】

上記第５５の実施形態と同様にメイン処理（図１８５）のステップＳＣ２０４にて表示開始フラグを「０」クリアする。この処理タイミングは主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された後において特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御を実行するための第２タイマ割込み処理（図１８８）が最初に実行されるタイミングよりも前のタイミングとなっている。そして、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に実行される表示開始処理（図２０４）にて表示開始フラグに「１」がセットされる。これにより、動作電力の供給が再開された直後においては特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂは消灯状態が維持され、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御が開始される。

【２５５２】

特に、表示開始処理（図２０４）では既に説明したとおりメイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行された場合には第１表示データバッファ２７１に特図用の初期表示データを設定するとともに第３表示データバッファ２７３に普図用の初期表示データを設定する。この場合に、主側ＣＰＵ６３への動

作電力の供給が開始された直後に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示制御が開始されるとすると、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて動作電力の供給が停止される直前における表示内容が表示された直後に初期表示が開始されることとなってしまう。そうすると、このような表示内容の変化を目視した遊技者は第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行された状況において特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が開始されたことを把握することができてしまう。これに対して、表示開始処理（図２０４）において第１表示データバッファ２７１及び第３表示データバッファ２７３に表示データが設定される場合には当該表示データを設定する処理が終了した後に表示開始フラグに「１」がセットされて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される。これにより、上記のような表示内容の変化が生じてしまわないようにすることが可能となる。

【２５５３】

一方、初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされている場合（ステップＳＤ２０１：ＹＥＳ）、ステップＳＤ２０２～ステップＳＤ２１８の処理を実行しない。したがって、第１表示データバッファ２７１は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となるとともに、第３表示データバッファ２７３は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となる。この場合、表示開始フラグに「１」がセットされて特図表示部３７ａの表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前に第１表示データバッファ２７１に格納された表示データに対応する表示が特図表示部３７ａにて行われる。また、表示開始フラグに「１」がセットされて普図表示部３８ａの表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前に第３表示データバッファ２７３に格納された表示データに対応する表示が普図表示部３８ａにて行われる。

【２５５４】

以上詳述したように、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合、初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にはこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにおいて初期表示が開始される。特図表示部３７ａにおける初期表示は、第１作動口３３又は第２作動口３４への遊技球の入球が発生して遊技回の開始条件が成立することで特図表示部３７ａにて絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。普図表示部３８ａにおける初期表示は、スルーゲート３５への遊技球の入球が発生して普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。なお、工場の出荷段階においても初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示が開始されることとなる。

【２５５５】

上記のように第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合、及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合のいずれであっても、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が行われることにより、動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて表示が開始される場合におけるこれら表示部３７ａ，３８ａの表示内容を確認したとしても第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理のいずれが実行されたのかを把握することができない。これにより、動作電力の供給が開始された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を確認したとしても設定値更新処理が実行されたか否かを特定することができないようにすることが可能となる。

【２５５６】

動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合、特図表示部３７ａにて表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における

表示内容で特図表示部３７ａにおける表示が開始されるとともに、普図表示部３８ａにて表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における表示内容で普図表示部３８ａにおける表示が開始される。つまり、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容は動作電力の供給が停止されたタイミングにおける状況に依存することとなり、表示内容は多様なものとなる。これに対して、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が抽選により決定されて表示される。これにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合であっても、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合と同様に、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を多様化させることが可能となる。よって、動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始された場合にその表示を確認したとしても、第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行されたことを特定しづらくさせることが可能となる。

【２５５７】

特に、初期表示の表示内容の決定に際しては特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａのそれぞれについて各発光部の単位で点灯抽選処理が実行される構成である。これにより、初期表示として選択され得る表示内容を多様化させることが可能となる。

【２５５８】

なお、動作電力の供給が開始された場合に第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合にも表示開始処理（図２０４）のステップＳＤ２０２～ステップＳＤ２１８の処理が実行される構成としてもよい。この場合、動作電力の供給が開始された場合に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａを確認したとしても、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行されたか否かを特定することができないようにすることが可能となる。また、当該構成において動作電力の供給が停止される直前において特図表示部３７ａにて絵柄の変動表示が実行されている途中であった場合又は開閉実行モードの途中であった場合には表示開始処理（図２０４）のステップＳＤ２０２～ステップＳＤ２０９の処理を実行しないようにすることで動作電力の供給が停止される前における表示内容の表示が特図表示部３７ａにて再開される構成としてもよい。また、動作電力の供給が停止される直前において普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示が実行されている途中であった場合又は普電開放状態の途中であった場合には表示開始処理（図２０４）のステップＳＤ２１０～ステップＳＤ２１７の処理を実行しないようにすることで動作電力の供給が停止される前における表示内容の表示が特図表示部３７ａにて再開される構成としてもよい。

【２５５９】

また、表示開始処理（図２０４）の特図用の点灯抽選処理（ステップＳＤ２０４）では特図表示部３７ａの各発光部のそれぞれに対して個別に点灯させるか否かの抽選を行うのではなく、２個又は３個といった所定の複数個の単位で点灯させるか否かの抽選を行う構成としてもよい。また、表示開始処理（図２０４）の普図用の点灯抽選処理（ステップＳＤ２１２）では普図表示部３８ａの各発光部のそれぞれに対して個別に点灯させるか否かの抽選を行うのではなく、２個又は３個といった所定の複数個の単位で点灯させるか否かの抽選を行う構成としてもよい。

【２５６０】

また、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図２０４）のステップＳＤ２０２～ステップＳＤ２１７が実行される一方、第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図２０４）のステッ

プＳＤ２０２～ステップＳＤ２１７が実行されない構成としてもよい。また、動作電力の供給が開始された場合において第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図２０４）のステップＳＤ２０２～ステップＳＤ２１７が実行される一方、第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合には表示開始処理（図２０４）のステップＳＤ２０２～ステップＳＤ２１７が実行されない構成としてもよい。

【２５６１】

＜第６２の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容が上記第５８の実施形態と相違している。以下、上記第５８の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第５８の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２５６２】

図２０５は主側ＣＰＵ６３のメイン処理（図１８５）におけるステップＳＣ２１６にて実行される本実施形態における設定値更新処理を示すフローチャートである。なお、設定値更新処理におけるステップＳＤ３０１～ステップＳＤ３１６の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２５６３】

まず割込み許可の設定を行う（ステップＳＤ３０１）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１９６）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１８８）が第２割込み周期で割り込んで起動される。

【２５６４】

本実施形態においては動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）では基本的に第１タイマ割込み処理（図１９６）及び第２タイマ割込み処理（図１８８）の割込みが禁止されており、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）及び設定値更新処理（図２０５）において割込みが許可される。したがって、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）において設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）及び設定値更新処理（図２０５）が実行されていない状況においては第１タイマ割込み処理（図１９６）及び第２タイマ割込み処理（図１８８）の実行が禁止され、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）又は設定値更新処理（図２０５）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１９６）及び第２タイマ割込み処理（図１８８）の実行が許可される。但し、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）又は設定値更新処理（図２０５）が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理（図１９６）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１９６）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理（図１９６）が終了される。

【２５６５】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」がセットされていないことを条件として、設定更新表示フラグに「１」をセットする（ステップＳＤ３０２）。設定更新表示フラグに「１」がセットされることにより、第２タイマ割込み処理（図１８８）のステップＳＣ４０２にて肯定判定をすることで、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳＣ４０３）を実行する。当該設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理の処理内容は上記第４５の実施形態と同一である。当該処理が実行されることにより、例えば図１２４（ａ）の説明図に示すように、パチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の更新対象として選択されている設定値の表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。

【２５６６】

その後、開始時の初期設定を行う（ステップＳＤ３０３）。当該初期設定では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグを「０」クリアする。遊技停止フ

ラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＣ２０５：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合（ステップＳＣ２０６：ＮＯ）、又は設定参照用エリア３４１に格納された情報に対応する設定値が正常な範囲ではない場合に（ステップＳＣ２０７：ＮＯ）、メイン処理（図１８５）のステップＳＣ２２０にて「１」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１９６）においてステップＳＣ７０１～ステップＳＣ７０６の処理を実行する一方、ステップＳＣ７０７にて肯定判定をすることでステップＳＣ７０８～ステップＳＣ７２２の処理を実行しない。これにより、上記のような主側ＲＡＭ６５の情報異常が発生した場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。ステップＳＤ３０３の処理にて遊技停止フラグを「０」クリアすることで、主側ＲＡＭ６５の情報異常の発生が特定されている状態を設定値更新処理（図２０５）が実行された場合に解除することが可能となる。

【２５６７】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新用エリア３４２（図１５４参照）に「１」を設定する（ステップＳＤ３０４）。設定更新用エリア３４２は上記第４５の実施形態と同様に設定値更新処理（図２０５）において更新途中の設定値の情報が格納される記憶エリアである。設定更新用エリア３４２に「１」の数値情報が格納されている場合には更新対象（選択対象又は変更対象）の設定値は「設定１」となる。設定更新用エリア３４２に「２」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定２」となる。設定更新用エリア３４２に「３」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定３」となる。設定更新用エリア３４２に「４」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定４」となる。設定更新用エリア３４２に「５」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定５」となる。設定更新用エリア３４２に「６」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定６」となる。

【２５６８】

ステップＳＤ３０４にて設定更新用エリア３４２に「１」を設定することで、更新対象の設定値が「設定１」となる。つまり、本実施形態ではパチンコ機１０の現状の設定値がいずれであったとしても設定値更新処理（図２０５）が開始された場合には更新対象の設定値は「設定１」となる。

【２５６９】

その後、更新開始コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＤ３０５）。音声発光制御装置８１は更新開始コマンドを受信することにより、設定値更新処理（図２０５）が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理（図２０５）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、設定値を変更している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定値を変更させるために必要な操作内容及び設定値更新処理（図２０５）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。また、設定値更新処理（図２０５）が実行されていることを示す外部出力が例えば遊技ホールの管理コンピュータといったパチンコ機１０外部の装置に対して行われる構成としてもよい。

【２５７０】

その後、設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報が「１」～「６」のいずれかであるか否かを判定する（ステップＳＤ３０６）。「１」～「６」のいずれかではない

場合（ステップＳＤ３０６：ＮＯ）、設定更新用エリア３４２に「１」を設定する（ステップＳＤ３０７）。これにより、更新対象の設定値が「設定１」となる。

【２５７１】

ステップＳＤ３０６にて肯定判定をした場合又はステップＳＤ３０７の処理を実行した場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する（ステップＳＤ３０８）。具体的には、設定キー挿入部６８ａの状態を検知する検知センサから受信している信号の受信状態が、ＯＮ状態に対応する受信状態からＯＦＦ状態に対応する受信状態となったか否かを判定する。したがって、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態に維持されている場合だけではなく、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態である状況で設定値更新処理が開始された場合においてそのＯＦＦ状態が維持されている場合にもステップＳＤ３０８にて否定判定をする。

【２５７２】

ステップＳＤ３０８にて否定判定をした場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていることを条件として（ステップＳＤ３０９：ＹＥＳ）、設定更新用エリア３４２の値を１加算する（ステップＳＤ３１０）。これにより、リセットボタン６８ｃが１回押圧操作される度に１段階上の設定値に更新される。また、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＤ３０９：ＮＯ）又は設定更新用エリア３４２の値を１加算した場合にはステップＳＤ３０６の処理に戻ることとなるが、ステップＳＤ３０６にて設定更新用エリア３４２の値が７以上であると判定されると、ステップＳＤ３０７にて設定更新用エリア３４２に「１」がセットされる。これにより、「設定６」の状況でリセットボタン６８ｃが１回押圧操作された場合には「設定１」に戻ることになる。

【２５７３】

設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定した場合（ステップＳＤ３０８：ＹＥＳ）、設定更新用エリア３４２に格納された情報に対応する設定値が設定参照用エリア３４１に格納された情報に対応する設定値以上であるか否かを判定することで、今回の設定値更新処理（図２０５）が開始される前に選択されていた設定値の有利度以上の設定値が今回の設定値更新処理（図２０５）にて選択されたか否かを判定する（ステップＳＤ３１１）。ステップＳＤ３１１にて肯定判定をした場合、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１に設けられた上昇期待フラグに「１」をセットする（ステップＳＤ３１２）。上昇期待フラグは、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にてそれまでに選択されていた設定値の有利度以上となる設定値が設定されたか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【２５７４】

ステップＳＤ３１１にて否定判定をした場合、又はステップＳＤ３１２の処理を実行した場合、設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報を設定参照用エリア３４１に上書きする（ステップＳＤ３１３）。これにより、今回の設定値更新処理（図２０５）にて更新された結果の設定値の情報が設定参照用エリア３４１に設定された状態となり、その設定された情報に対応する設定値が現状のパチンコ機１０の設定値となる。

【２５７５】

その後、割込み禁止の設定を行う（ステップＳＤ３１４）。これにより、設定値更新処理（図２０５）を終了してメイン処理（図１８５）における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）に復帰する場合には第１タイマ割込み処理（図１９６）及び第２タイマ割込み処理（図１８８）の割込みが禁止される。

【２５７６】

その後、第２ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＤ３１５）。第２ＲＡＭクリア処理では、メイン処理（図１８５）の第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＣ２１８）と同様に、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１に設けられたエリアを「０」クリアするとともに初期設定を実行する。なお、パチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア３４１）はクリア対

象エリア３７１ではなくクリア対象外エリア３７２に設けられている。
【２５７７】
その後、更新時の復帰コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＤ３１６）。音声発光制御装置８１は更新時の復帰コマンドを受信することにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて設定値更新処理（図２０５）が実行されたことを特定する。そして、上記第４９の実施形態と同様に更新時の復帰コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。
【２５７８】
図２０６は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における表示開始処理を示すフローチャートである。なお、表示開始処理におけるステップＳＤ４０１～ステップＳＤ４１３の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【２５７９】
初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていない場合（ステップＳＤ４０１：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１の上昇期待フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＤ４０２）。上昇期待フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＤ４０２：ＮＯ）、主側ＲＯＭ６４に設けられた特図用の第１表示振分テーブル３９１を読み出し（ステップＳＤ４０３）、上昇期待フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＤ４０２：ＹＥＳ）、主側ＲＯＭ６４に設けられた特図用の第２表示振分テーブル３９２を読み出す（ステップＳＤ４０４）。
【２５８０】
図２０７（ａ）は特図用の第１表示振分テーブル３９１を説明するための説明図であり、図２０７（ｂ）は特図用の第２表示振分テーブル３９２を説明するための説明図である。特図用の第１表示振分テーブル３９１及び特図用の第２表示振分テーブル３９２のいずれにも特図用の初期表示データとして、特図用の第１初期表示データ、特図用の第２初期表示データ及び特図用の第３初期表示データが存在している。
【２５８１】
特図用の第１初期表示データは特図用の第１初期表示を特図表示部３７ａに表示させるためのデータであり、特図用の第２初期表示データは特図用の第２初期表示を特図表示部３７ａに表示させるためのデータであり、特図用の第３初期表示データは特図用の第３初期表示を特図表示部３７ａに表示させるためのデータである。これら特図用の第１初期表示、特図用の第２初期表示及び特図用の第３初期表示の表示内容は相互に異なっている。
【２５８２】
特図用の第１初期表示データ、特図用の第２初期表示データ及び特図用の第３初期表示データは特図変動開始処理（図１３）における大当たり結果用の停止結果設定処理（ステップＳ５０７）及び外れ結果用の停止結果設定処理（ステップＳ５０９）のいずれにおいても選択されない表示データである。したがって、特図用の第１初期表示、特図用の第２初期表示及び特図用の第３初期表示は遊技回において特図表示部３７ａに最終的に停止表示され得る表示内容とは異なっている。さらにまた特図用の第１初期表示、特図用の第２初期表示及び特図用の第３初期表示は遊技回において特図表示部３７ａにて絵柄の変動表示が行われる場合に表示対象として選択されない表示内容である。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａにおける表示の開始に際して特図用の第１初期表示、特図用の第２初期表示及び特図用の第３初期表示のいずれかが行われた場合には、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行されたことを把握することが可能となる。
【２５８３】

特図用の第１表示振分テーブル３９１及び特図用の第２表示振分テーブル３９２のそれぞれには、図２０７（ａ）及び図２０７（ｂ）に示すように、特図用の第１～第３初期表示データのそれぞれに対して特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されている。特図用の初期表示カウンタ３８１は上記第５８の実施形態と同様にクリア対象外エリア３７２に設けられているため、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されている状況において主側ＲＡＭ６５へのバックアップ電力の供給が継続されるのであれば、第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されたとしても初期化されることなく動作電力の供給が停止される直前における数値情報が記憶された状態が維持される。また、特図用の初期表示カウンタ３８１の数値情報は上記第５８の実施形態と同様に第１タイマ割込み処理（図１９６）におけるステップＳＣ７０６にて更新される。

【２５８４】

特図用の第１表示振分テーブル３９１においては図２０７（ａ）に示すように、特図用の第１初期表示データに対して「０～３９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されており、特図用の第２初期表示データに対して「４０～５４」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されており、特図用の第３初期表示データに対して「５５～５９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されている。つまり、特図用の第１表示振分テーブル３９１においては、特図用の第１初期表示データの選択確率が２／３であることで最も選択確率が高く、特図用の第２初期表示データの選択確率が１／４であることで２番目に選択確率が高く、特図用の第３初期表示データの選択確率が１／１２であることで最も選択確率が低い。

【２５８５】

特図用の第２表示振分テーブル３９２においては図２０７（ｂ）に示すように、特図用の第１初期表示データに対して「０～９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されており、特図用の第２初期表示データに対して「１０～３９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されており、特図用の第３初期表示データに対して「４０～５９」の特図用の初期表示カウンタ３８１の数値範囲が設定されている。つまり、特図用の第２表示振分テーブル３９２においては、特図用の第２初期表示データの選択確率が１／２であることで最も選択確率が高く、特図用の第３初期表示データの選択確率が１／３であることで２番目に選択確率が高く、特図用の第１初期表示データの選択確率が１／６であることで最も選択確率が低い。

【２５８６】

表示開始処理（図２０６）の説明に戻り、ステップＳＤ４０３の処理又はステップＳＤ４０４の処理を実行した後は特図用の初期表示データの抽選処理を実行する（ステップＳＤ４０５）。特図用の初期表示データの抽選処理では、特図用の初期表示カウンタ３８１の現状の数値情報を取得する。そして、その取得した数値情報をステップＳＤ４０３にて主側ＲＯＭ６４から読み出した特図用の第１表示振分テーブル３９１又はステップＳＤ４０４にて主側ＲＯＭ６４から読み出した特図用の第２表示振分テーブル３９２に対して照合することで、今回の表示対象とする表示データを特図用の第１初期表示データ、特図用の第２初期表示データ及び特図用の第３初期表示データの中から選択する。

【２５８７】

特図用の初期表示データの抽選処理にて選択した表示データを第１表示データバッファ２７１に設定する（ステップＳＤ４０６）。第１表示データバッファ２７１に格納された表示データを利用して特図表示部３７ａが表示制御されることにより、当該特図表示部３７ａにおいてその表示データに対応する初期表示が行われる。つまり、第１表示データバッファ２７１に特図用の第１初期表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第１初期表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第２初期表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第２初期表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第３初期表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第３初期表示が行われる。

【２５８８】

その後、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１の上昇期待フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＤ４０７）。当該上昇期待フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＤ４０７：ＮＯ）、主側ＲＯＭ６４に設けられた普図用の第１表示振分テーブル３９３を読み出し（ステップＳＤ４０８）、上昇期待フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＤ４０７：ＹＥＳ）、主側ＲＯＭ６４に設けられた普図用の第２表示振分テーブル３９４を読み出す（ステップＳＤ４０９）。

【２５８９】

図２０７（ｃ）は普図用の第１表示振分テーブル３９３を説明するための説明図であり、図２０７（ｄ）は普図用の第２表示振分テーブル３９４を説明するための説明図である。普図用の第１表示振分テーブル３９３及び普図用の第２表示振分テーブル３９４のいずれにも普図用の初期表示データとして、普図用の第１初期表示データ、普図用の第２初期表示データ及び普図用の第３初期表示データが存在している。

【２５９０】

普図用の第１初期表示データは普図用の第１初期表示を普図表示部３８ａに表示させるためのデータであり、普図用の第２初期表示データは普図用の第２初期表示を普図表示部３８ａに表示させるためのデータであり、普図用の第３初期表示データは普図用の第３初期表示を普図表示部３８ａに表示させるためのデータである。これら普図用の第１初期表示、普図用の第２初期表示及び普図用の第３初期表示の表示内容は相互に異なっている。

【２５９１】

普図用の第１初期表示データ、普図用の第２初期表示データ及び普図用の第３初期表示データは、第１タイマ割込み処理（図１９６）における普図普電制御処理（ステップＳＣ７１６）において普電役物３４ａを開放状態とするか否かを決定するために普電役物開放カウンタＣ４を利用して実行された普電開放抽選の結果が外れ結果であった場合及び当たり結果であった場合のいずれにおいても選択されない表示データである。したがって、普図用の第１初期表示、普図用の第２初期表示及び普図用の第３初期表示は変動表示回において普図表示部３８ａに最終的に停止表示され得る表示内容とは異なっている。さらにまた普図用の第１初期表示、普図用の第２初期表示及び普図用の第３初期表示は変動表示回において普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示が行われる場合に表示対象として選択されない表示内容である。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されて普図表示部３８ａにおける表示の開始に際して普図用の第１初期表示、普図用の第２初期表示及び普図用の第３初期表示のいずれかが行われた場合には、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行されたことを把握することが可能となる。

【２５９２】

普図用の第１表示振分テーブル３９３及び普図用の第２表示振分テーブル３９４のそれぞれには、図２０７（ｃ）及び図２０７（ｄ）に示すように、普図用の第１～第３初期表示データのそれぞれに対して普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されている。普図用の初期表示カウンタ３８２は上記第５８の実施形態と同様にクリア対象外エリア３７２に設けられているため、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されている状況において主側ＲＡＭ６５へのバックアップ電力の供給が継続されるのであれば、第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されたとしても初期化されることなく動作電力の供給が停止される直前における数値情報が記憶された状態が維持される。また、普図用の初期表示カウンタ３８２の数値情報は上記第５８の実施形態と同様に第１タイマ割込み処理（図１９６）におけるステップＳＣ７０８にて更新される。

【２５９３】

普図用の第１表示振分テーブル３９３においては図２０７（ｃ）に示すように、普図用の第１初期表示データに対して「０～２９」の普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されており、普図用の第２初期表示データに対して「３０～４９」の普図用の初

期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されており、普図用の第３初期表示データに対して「５０～５９」の普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されている。つまり、普図用の第１表示振分テーブル３９３においては、普図用の第１初期表示データの選択確率が１／２であることで最も選択確率が高く、普図用の第２初期表示データの選択確率が１／３であることで２番目に選択確率が高く、普図用の第３初期表示データの選択確率が１／６であることで最も選択確率が低い。

【２５９４】

普図用の第２表示振分テーブル３９４においては図２０７（ｄ）に示すように、普図用の第１初期表示データに対して「０～１９」の普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されており、普図用の第２初期表示データに対して「２０～２９」の普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されており、普図用の第３初期表示データに対して「３０～５９」の普図用の初期表示カウンタ３８２の数値範囲が設定されている。つまり、普図用の第２表示振分テーブル３９４においては、普図用の第３初期表示データの選択確率が１／２であることで最も選択確率が高く、普図用の第１初期表示データの選択確率が１／３であることで２番目に選択確率が高く、普図用の第２初期表示データの選択確率が１／６であることで最も選択確率が低い。

【２５９５】

表示開始処理（図２０６）の説明に戻り、ステップＳＤ４０８の処理又はステップＳＤ４０９の処理を実行した後は普図用の初期表示データの抽選処理を実行する（ステップＳＤ４１０）。普図用の初期表示データの抽選処理では、普図用の初期表示カウンタ３８２の現状の数値情報を取得する。そして、その取得した数値情報をステップＳＤ４０８にて主側ＲＯＭ６４から読み出した普図用の第１表示振分テーブル３９３又はステップＳＤ４０９にて主側ＲＯＭ６４から読み出した普図用の第２表示振分テーブル３９４に対して照合することで、今回の表示対象とする表示データを普図用の第１初期表示データ、普図用の第２初期表示データ及び普図用の第３初期表示データの中から選択する。

【２５９６】

普図用の初期表示データの抽選処理にて選択した表示データを第３表示データバッファ２７３に設定する（ステップＳＤ４１１）。第３表示データバッファ２７３に格納された表示データを利用して普図表示部３８ａが表示制御されることにより、当該普図表示部３８ａにおいてその表示データに対応する初期表示が行われる。つまり、第３表示データバッファ２７３に普図用の第１初期表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第１初期表示が行われ、第３表示データバッファ２７３に普図用の第２初期表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第２初期表示が行われ、第３表示データバッファ２７３に普図用の第３初期表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第３初期表示が行われる。

【２５９７】

ステップＳＤ４０２～ステップＳＤ４１１の処理を実行した後は、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１に設けられた初期表示用フラグ３７５に「１」をセットする（ステップＳＤ４１２）。

【２５９８】

ステップＳＤ４０１にて肯定判定をした場合、又はステップＳＤ４１２の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１に設けられた表示開始フラグに「１」をセットする（ステップＳＤ４１３）。表示開始フラグは上記第５５の実施形態と同様に、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始すべきか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。表示開始フラグの値が「０」である場合には主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を行わずに、表示開始フラグに「１」がセットされた場合に主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始する。

【２５９９】
上記第５５の実施形態と同様にメイン処理（図１８５）のステップＳＣ２０４にて表示開始フラグを「０」クリアする。この処理タイミングは主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された後において特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御を実行するための第２タイマ割込み処理（図１８８）が最初に実行されるタイミングよりも前のタイミングとなっている。そして、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に実行される表示開始処理（図２０６）にて表示開始フラグに「１」がセットされる。これにより、動作電力の供給が再開された直後においては特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂは消灯状態が維持され、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御が開始される。
【２６００】
特に、表示開始処理（図２０６）では既に説明したとおりメイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行された場合には第１表示データバッファ２７１に特図用の第１～第３初期表示データのいずれかを設定するとともに第３表示データバッファ２７３に普図用の第１～第３初期表示データのいずれかを設定する。この場合に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示制御が開始されるとすると、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて動作電力の供給が停止される直前における表示内容が表示された直後に初期表示が開始されることとなってしまう。これに対して、表示開始処理（図２０６）において第１表示データバッファ２７１及び第３表示データバッファ２７３に表示データが設定される場合には当該表示データを設定する処理が終了した後に表示開始フラグに「１」がセットされて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される。これにより、上記のような表示内容の変化が生じてしまわないようにすることが可能となる。
【２６０１】
一方、初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされている場合（ステップＳＤ４０１：ＹＥＳ）、ステップＳＤ４０２～ステップＳＤ４１２の処理を実行しない。したがって、第１表示データバッファ２７１は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となるとともに、第３表示データバッファ２７３は動作電力の供給が停止される直前に格納された表示データがそのまま格納された状態となる。この場合、表示開始フラグに「１」がセットされて特図表示部３７ａの表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前に第１表示データバッファ２７１に格納された表示データに対応する表示が特図表示部３７ａにて行われる。また、表示開始フラグに「１」がセットされて普図表示部３８ａの表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前に第３表示データバッファ２７３に格納された表示データに対応する表示が普図表示部３８ａにて行われる。
【２６０２】
以上詳述したように、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合、初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にはこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにおいて初期表示が開始される。特図表示部３７ａにおける初期表示は、第１作動口３３又は第２作動口３４への遊技球の入球が発生して遊技回の開始条件が成立することで特図表示部３７ａにて絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。普図表示部３８ａにおける初期表示は、スルーゲート３５への遊技球の入球が発生して普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示が開始されるまで継続される。なお、工場の出荷段階においても初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていないため特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初

期表示が開始されることとなる。
【２６０３】
上記のように第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合、及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合のいずれであっても、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合にこれら特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が行われることにより、動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて表示が開始される場合におけるこれら表示部３７ａ，３８ａの表示内容を確認したとしても第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理のいずれが実行されたのかを把握することができない。これにより、動作電力の供給が開始された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容を確認したとしても設定値更新処理が実行されたか否かを特定することができないようにすることが可能となる。
【２６０４】
一方、設定値更新処理（図２０５）が実行されるとともに当該設定値更新処理（図２０５）にてそれまでの設定値の有利度以上の設定値が選択された場合には特図表示部３７ａに行わせる初期表示を決定するためのテーブルとして特図用の第２表示振分テーブル３９２が選択されるのに対して、設定値更新処理（図２０５）が実行されなかった場合又は設定値更新処理（図２０５）にてそれまでの設定値の有利度以上の設定値が選択されなかった場合には特図表示部３７ａに行わせる初期表示を決定するためのテーブルとして特図用の第１表示振分テーブル３９１が選択される。そして、これら特図用の第１表示振分テーブル３９１と特図用の第２表示振分テーブル３９２とで初期表示の選択態様が異なっている。これにより、動作電力の供給が開始されて特図表示部３７ａの表示が開始される場合における初期表示の内容を確認することで、それまでの設定値の有利度以上の設定値が新たに設定されたか否かを予測することが可能となる。
【２６０５】
また、同様に、設定値更新処理（図２０５）が実行されるとともに当該設定値更新処理（図２０５）にてそれまでの設定値の有利度以上の設定値が選択された場合には普図表示部３８ａに行わせる初期表示を決定するためのテーブルとして普図用の第２表示振分テーブル３９４が選択されるのに対して、設定値更新処理（図２０５）が実行されなかった場合又は設定値更新処理（図２０５）にてそれまでの設定値の有利度以上の設定値が選択されなかった場合には普図表示部３８ａに行わせる初期表示を決定するためのテーブルとして普図用の第１表示振分テーブル３９３が選択される。そして、これら普図用の第１表示振分テーブル３９３と普図用の第２表示振分テーブル３９４とで初期表示の選択態様が異なっている。これにより、動作電力の供給が開始されて普図表示部３８ａの表示が開始される場合における初期表示の内容を確認することで、それまでの設定値の有利度以上の設定値が新たに設定されたか否かを予測することが可能となる。
【２６０６】
また、上記のとおり動作電力の供給が開始されて表示が開始される場合における初期表示の内容によってそれまでの設定値の有利度以上の設定値が新たに設定されたか否かを予測することを可能とする表示部として、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａという複数の表示部が存在している。これにより、それまでの設定値の有利度以上の設定値が新たに設定されたか否かを予測する上での判断材料が多くなるため、遊技者による当該予測の精度を高めることが可能となる。
【２６０７】
なお、設定値更新処理（図２０５）においてそれまでの設定値の有利度以上の設定値が設定された場合に上昇期待フラグに「１」がセットされて初期表示データの抽選に際して特図用の第２表示振分テーブル３９２又は普図用の第２表示振分テーブル３９４が参照される構成に限定されることはなく、設定値更新処理（図２０５）においてそれまでの設定値よりも有利な設定値が設定された場合に上昇期待フラグに「１」がセットされて初期表示データの抽選に際して特図用の第２表示振分テーブル３９２又は普図用の第２表示振分テーブル３９４が参照される構成としてもよく、設定値更新処理（図２０５）が実行され

た場合にはいずれの設定値が新たに設定されたとしても上昇期待フラグに「１」がセットされて初期表示データの抽選に際して特図用の第２表示振分テーブル３９２又は普図用の第２表示振分テーブル３９４が参照される構成としてもよい。

【２６０８】

また、特図用の第１表示振分テーブル３９１を参照した場合に選択され得る特図用の初期表示データと特図用の第２表示振分テーブル３９２を参照した場合に選択され得る特図用の初期表示データとが完全に一致している構成に限定されることはなく、特図用の第１表示振分テーブル３９１に設定されている特図用の初期表示データと特図用の第２表示振分テーブル３９２に設定されている特図用の初期表示データとが完全に一致していない構成としてもよい。この場合、設定値更新処理（図２０５）にて上昇期待フラグに「１」がセットされたか否かによって特図表示部３７ａの表示内容が明確に相違することとなる。よって、動作電力の供給が開始された場合における特図表示部３７ａの表示内容を確認することで、それまでの設定値の有利度以上の設定値が設定されたか否かを明確に特定することが可能となる。

【２６０９】

また、特図用の第１表示振分テーブル３９１及び特図用の第２表示振分テーブル３９２のそれぞれに対して共通となる特図用の初期表示データが設定されているものの、特図用の第１表示振分テーブル３９１及び特図用の第２表示振分テーブル３９２の一方に設定されており他方に設定されていない特図用の初期表示データが存在している構成としてもよい。この場合、特図用の第１表示振分テーブル３９１にのみ設定されている特図用の初期表示データに対応する初期表示が特図表示部３７ａにて実行された場合にはそれまでの設定値の有利度以上の設定値が設定されなかったことを特定することが可能となる。その一方、特図用の第２表示振分テーブル３９２にのみ設定されている特図用の初期表示データに対応する初期表示が特図表示部３７ａにて実行された場合にはそれまでの設定値の有利度以上の設定値が設定されたことを特定することが可能となる。

【２６１０】

また、普図用の第１表示振分テーブル３９３を参照した場合に選択され得る普図用の初期表示データと普図用の第２表示振分テーブル３９４を参照した場合に選択され得る普図用の初期表示データとが完全に一致している構成に限定されることはなく、普図用の第１表示振分テーブル３９３に設定されている普図用の初期表示データと普図用の第２表示振分テーブル３９４に設定されている普図用の初期表示データとが完全に一致していない構成としてもよい。この場合、設定値更新処理（図２０５）にて上昇期待フラグに「１」がセットされたか否かによって普図表示部３８ａの表示内容が明確に相違することとなる。よって、動作電力の供給が開始された場合における普図表示部３８ａの表示内容を確認することで、それまでの設定値の有利度以上の設定値が設定されたか否かを明確に特定することが可能となる。

【２６１１】

また、普図用の第１表示振分テーブル３９３及び普図用の第２表示振分テーブル３９４のそれぞれに対して共通となる普図用の初期表示データが設定されているものの、普図用の第１表示振分テーブル３９３及び普図用の第２表示振分テーブル３９４の一方に設定されており他方に設定されていない普図用の初期表示データが存在している構成としてもよい。この場合、普図用の第１表示振分テーブル３９３にのみ設定されている普図用の初期表示データに対応する初期表示が普図表示部３８ａにて実行された場合にはそれまでの設定値の有利度以上の設定値が設定されなかったことを特定することが可能となる。その一方、普図用の第２表示振分テーブル３９４にのみ設定されている普図用の初期表示データに対応する初期表示が普図表示部３８ａにて実行された場合にはそれまでの設定値の有利度以上の設定値が設定されたことを特定することが可能となる。

【２６１２】

また、特図用の初期表示データが抽選により決定される構成に限定されることはなく、上昇期待フラグに「１」がセットされている場合に選択される特図用の初期表示データが

１種類のみであるとともに、上昇期待フラグに「１」がセットされていない場合に選択される特図用の初期表示データが１種類のみであり、さらにそれら各特図用の初期表示データが相違している構成としてもよい。この場合、それまでの設定値の有利度以上の設定値が設定されたか否かによって特図表示部３７ａの表示内容が相違することとなる。

【２６１３】

また、普図用の初期表示データが抽選により決定される構成に限定されることはなく、上昇期待フラグに「１」がセットされている場合に選択される普図用の初期表示データが１種類のみであるとともに、上昇期待フラグに「１」がセットされていない場合に選択される普図用の初期表示データが１種類のみであり、さらにそれら各普図用の初期表示データが相違している構成としてもよい。この場合、それまでの設定値の有利度以上の設定値が設定されたか否かによって普図表示部３８ａの表示内容が相違することとなる。

【２６１４】

＜第６３の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合における特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容が上記第６２の実施形態と相違している。以下、上記第６２の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第６２の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２６１５】

図２０８は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における表示開始処理を示すフローチャートである。なお、表示開始処理におけるステップＳＤ５０１～ステップＳＤ５１４の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２６１６】

初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされていない場合（ステップＳＤ５０１：ＮＯ）、初期表示用の抽選処理を実行する（ステップＳＤ５０２）。初期表示用の抽選処理では、上記第６２の実施形態における表示開始処理（図２０６）のステップＳＤ４０２～ステップＳＤ４１１と同一の処理を実行する。これにより、第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には上記第６２の実施形態と同様に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合において初期表示が行われる。その後、初期表示用フラグ３７５に「１」をセットする（ステップＳＤ５０３）。

【２６１７】

初期表示用フラグ３７５に「１」がセットされている場合（ステップＳＤ５０１：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１における遊技回の実行中であるか否かを示す情報が記憶される記憶エリアを参照することで、遊技回の実行中において動作電力の供給が停止された後に動作電力の供給が再開された状況であるか否かを判定する（ステップＳＤ５０４）。当該記憶エリアには遊技回が開始される場合に遊技回の実行中であることを示す情報が格納され、遊技回が終了される場合に遊技回の実行中であることを示す情報が当該記憶エリアから消去される。当該記憶エリアの情報は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても特定制御用のワークエリア２２１にバックアップ電力が供給されている場合には記憶保持され、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には記憶保持される。

【２６１８】

また、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１における開閉実行モードの実行中であるか否かを示す情報が記憶される記憶エリアを参照することで、開閉実行モードの実行中において動作電力の供給が停止された後に動作電力の供給が再開された状況であるか否かを判定する（ステップＳＤ５０５）。当該記憶エリアには開閉実行モードが開始される場合に開閉実行モードの実行中であることを示す情報が格納され、開閉実行モードが終了される場合に開閉実行モードの実行中であることを示す情報が当該記憶エ

リアから消去される。当該記憶エリアの情報は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても特定制御用のワークエリア２２１にバックアップ電力が供給されている場合には記憶保持され、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には記憶保持される。

【２６１９】

前回の動作電力の供給の停止時が遊技回の実行中及び開閉実行モードの実行中のいずれでもなかった場合（ステップＳＤ５０４及びステップＳＤ５０５：ＮＯ）、主側ＲＯＭ６４から特図用の第１表示振分テーブル３９１を読み出す（ステップＳＤ５０６）。そして、特図用の初期表示データの抽選処理を実行する（ステップＳＤ５０７）。特図用の初期表示データの抽選処理では、特図用の初期表示カウンタ３８１の現状の数値情報を取得する。そして、その取得した数値情報をステップＳＤ５０６にて主側ＲＯＭ６４から読み出した特図用の第１表示振分テーブル３９１に対して照合することで、今回の表示対象とする表示データを特図用の第１初期表示データ、特図用の第２初期表示データ及び特図用の第３初期表示データの中から選択する。

【２６２０】

特図用の初期表示データの抽選処理にて選択した表示データを第１表示データバッファ２７１に設定する（ステップＳＤ５０８）。第１表示データバッファ２７１に格納された表示データを利用して特図表示部３７ａが表示制御されることにより、当該特図表示部３７ａにおいてその表示データに対応する初期表示が行われる。つまり、第１表示データバッファ２７１に特図用の第１初期表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第１初期表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第２初期表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第２初期表示が行われ、第１表示データバッファ２７１に特図用の第３初期表示データが設定された場合には特図表示部３７ａにて特図用の第３初期表示が行われる。

【２６２１】

一方、前回の動作電力の供給の停止時が遊技回の実行中及び開閉実行モードの実行中のいずれかであった場合（ステップＳＤ５０４又はステップＳＤ５０５：ＹＥＳ）、特図用の初期表示データが第１表示データバッファ２７１に設定されないため、動作電力の供給が停止される前に格納されていた表示データがそのまま第１表示データバッファ２７１に格納された状態となる。したがって、特図表示部３７ａにおける表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における特図表示部３７ａの表示内容がそのまま再開されることとなる。

【２６２２】

ステップＳＤ５０４にて肯定判定をした場合、ステップＳＤ５０５にて肯定判定をした場合、又はステップＳＤ５０８の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１における普図表示部３８ａの変動表示中であるか否かを示す情報が記憶される記憶エリアを参照することで、普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示中において動作電力の供給が停止された後に動作電力の供給が再開された状況であるか否かを判定する（ステップＳＤ５０９）。当該記憶エリアには普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示が開始される場合に普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示の実行中あることを示す情報が格納され、普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示が終了される場合に普図表示部３８ａにて絵柄の変動表示の実行中であることを示す情報が当該記憶エリアから消去される。当該記憶エリアの情報は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても特定制御用のワークエリア２２１にバックアップ電力が供給されている場合には記憶保持され、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には記憶保持される。

【２６２３】

また、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１における普電開放状態の実行中であるか否かを示す情報が記憶される記憶エリアを参照することで、普電開放状態の実行中において動作電力の供給が停止された後に動作電力の供給が再開された状況

であるか否かを判定する（ステップＳＤ５１０）。当該記憶エリアには普電開放状態が開始される場合に普電開放状態の実行中であることを示す情報が格納され、普電開放状態が終了される場合に普電開放状態の実行中であることを示す情報が当該記憶エリアから消去される。当該記憶エリアの情報は、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても特定制御用のワークエリア２２１にバックアップ電力が供給されている場合には記憶保持され、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開された場合に第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には記憶保持される。

【２６２４】

前回の動作電力の供給の停止時が普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行中及び普電開放状態の実行中のいずれでもなかった場合（ステップＳＤ５０９及びステップＳＤ５１０：ＮＯ）、主側ＲＯＭ６４から普図用の第１表示振分テーブル３９３を読み出す（ステップＳＤ５１１）。そして、普図用の初期表示データの抽選処理を実行する（ステップＳＤ５１２）。普図用の初期表示データの抽選処理では、普図用の初期表示カウンタ３８２の現状の数値情報を取得する。そして、その取得した数値情報をステップＳＤ５１１にて主側ＲＯＭ６４から読み出した普図用の第１表示振分テーブル３９３に対して照合することで、今回の表示対象とする表示データを普図用の第１初期表示データ、普図用の第２初期表示データ及び普図用の第３初期表示データの中から選択する。

【２６２５】

普図用の初期表示データの抽選処理にて選択した表示データを第３表示データバッファ２７３に設定する（ステップＳＤ５１３）。第３表示データバッファ２７３に格納された表示データを利用して普図表示部３８ａが表示制御されることにより、当該普図表示部３８ａにおいてその表示データに対応する初期表示が行われる。つまり、第３表示データバッファ２７３に普図用の第１初期表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第１初期表示が行われ、第３表示データバッファ２７３に普図用の第２初期表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第２初期表示が行われ、第３表示データバッファ２７３に普図用の第３初期表示データが設定された場合には普図表示部３８ａにて普図用の第３初期表示が行われる。

【２６２６】

一方、前回の動作電力の供給の停止時が普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行中及び普電開放状態の実行中のいずれかであった場合（ステップＳＤ５０９又はステップＳＤ５１０：ＹＥＳ）、普図用の初期表示データが第３表示データバッファ２７３に設定されないため、動作電力の供給が停止される前に格納されていた表示データがそのまま第３表示データバッファ２７３に格納された状態となる。したがって、普図表示部３８ａにおける表示が開始される場合には動作電力の供給が停止される直前における普図表示部３８ａの表示内容がそのまま再開されることとなる。

【２６２７】

ステップＳＤ５０３の処理を実行した場合、ステップＳＤ５０９にて肯定判定をした場合、ステップＳＤ５１０にて肯定判定をした場合、又はステップＳＤ５１３の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１に設けられた表示開始フラグに「１」をセットする（ステップＳＤ５１４）。表示開始フラグは上記第５５の実施形態と同様に、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始すべきか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。表示開始フラグの値が「０」である場合には主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を行わずに、表示開始フラグに「１」がセットされた場合に主側ＣＰＵ６３は特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御を開始する。

【２６２８】

上記第５５の実施形態と同様にメイン処理（図１８５）のステップＳＣ２０４にて表示開始フラグを「０」クリアする。この処理タイミングは主側ＣＰＵ６３への動作電力の供

給が開始された後において特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御を実行するための第２タイマ割込み処理（図１８８）が最初に実行されるタイミングよりも前のタイミングとなっている。そして、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に実行される表示開始処理（図２０２）にて表示開始フラグに「１」がセットされる。これにより、動作電力の供給が再開された直後においては特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂは消灯状態が維持され、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）が終了した後に特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示制御が開始される。

【２６２９】

特に、表示開始処理（図２０２）では既に説明したとおりメイン処理（図１８５）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理の両方が実行されていない状況であっても第１表示データバッファ２７１に特図用の初期表示データを設定するとともに第３表示データバッファ２７３に普図用の初期表示データを設定することがある。この場合に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示制御が開始されるとすると、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて動作電力の供給が停止される直前における表示内容が表示された直後に初期表示が開始されることとなってしまう。これに対して、表示開始処理（図２０８）において第１表示データバッファ２７１及び第３表示データバッファ２７３に表示データが設定される場合には当該表示データを設定する処理が終了した後に表示開始フラグに「１」がセットされて特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される。これにより、上記のような表示内容の変化が生じてしまわないようにすることが可能となる。

【２６３０】

上記構成によれば、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかったとしても、動作電力の供給が停止された状況が遊技回の実行中及び開閉実行モードの実行中のいずれでもない状況であった場合には特図表示部３７ａにて表示が開始される場合に特図表示部３７ａにて初期表示が開始される。また、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかったとしても、動作電力の供給が停止された状況が普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行中及び普電開放状態の実行中のいずれでもない状況であった場合には普図表示部３８ａにて表示が開始される場合に普図表示部３８ａにて初期表示が開始される。そして、既に説明したとおり動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合にも特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が行われていることを確認したとしても、第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行されたことを特定することができないようにすることが可能となる。

【２６３１】

また、第１ＲＡＭクリア処理及び設定値更新処理の第２ＲＡＭクリア処理が実行されない場合において特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が行われる場合、初期表示データの抽選処理に際して特図用の第１表示振分テーブル３９１及び普図用の第１表示振分テーブル３９３が参照される。これにより、設定値更新処理（図２０５）が実行された場合であってそれまでの設定値の有利度以上の設定値が新たに設定された場合にのみ初期表示データの抽選処理に際して特図用の第２表示振分テーブル３９２及び普図用の第２表示振分テーブル３９４が参照されるようにすることが可能となる。よって、上記のように第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理のいずれかが実行されたことを特定することができないようにした構成であっても、動作電力の供給が開始されて特図表示

部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始される場合における初期表示の内容を確認することで、それまでの設定値の有利度以上の設定値が新たに設定されたか否かを遊技者に予測させることが可能となる。

【２６３２】

その一方、動作電力の供給が停止された状況が遊技回の実行中及び開閉実行モードの実行中のいずれかであって動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には、特図表示部３７ａにて表示が開始される場合に動作電力の供給が停止される直前における表示内容となるように特図表示部３７ａが表示制御される。また、動作電力の供給が停止された状況が普図表示部３８ａにおける絵柄の変動表示の実行中及び普電開放状態の実行中のいずれかであって動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＣ２０１～ステップＳＣ２２３）にて第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理が実行されなかった場合には、普図表示部３８ａにて表示が開始される場合に動作電力の供給が停止される直前における表示内容となるように普図表示部３８ａが表示制御される。これにより、動作電力の供給が再開された場合に動作電力の供給が停止される直前における遊技状況が再開される場合には、その遊技状況の再開に対応する態様で特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示を開始することが可能となる。

【２６３３】

＜第６４の実施形態＞

本実施形態では遊技の実行内容が上記第５６の実施形態と相違している。以下、上記第５６の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第５６の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２６３４】

図２０９は本実施形態における遊技盤２４の正面図である。

【２６３５】

遊技盤２４には、遊技領域ＰＡの外縁の一部を区画するようにして内レール部４０１と外レール部４０２とが取り付けられており、これら内レール部４０１と外レール部４０２とにより誘導手段としての誘導レールが構成されている。遊技球発射機構２７（図２参照）から発射された遊技球は誘導レールにより遊技領域ＰＡの上部に案内されるようになっている。

【２６３６】

遊技盤２４には、前後方向に貫通する大小複数の開口部が形成されている。各開口部には一般入賞部４１１、第１作動部４１２、第２作動部４１３、スルー入賞部４１４、振分入賞装置４１５、特電入賞装置４１６、可変表示ユニット４２１、特図ユニット４２２及び普図ユニット４２３等がそれぞれ設けられている。一般入賞部４１１は合計で４個設けられており、それ以外はそれぞれ１個ずつ設けられている。

【２６３７】

スルー入賞部４１４への遊技球の入球が発生したとしても遊技球の払い出しは実行されない。一方、一般入賞部４１１、第１作動部４１２、第２作動部４１３、振分入賞装置４１５及び特電入賞装置４１６のいずれかへの遊技球の入球が発生した場合、遊技者が使用可能な遊技媒体数を増加させるべく所定数の遊技球の払い出しが実行される。当該賞球個数について具体的には、一般入賞部４１１への遊技球の入球が発生した場合には１０個の遊技球の払い出しが実行され、第１作動部４１２への遊技球の入球が発生した場合には３個の遊技球の払い出しが実行され、第２作動部４１３への遊技球の入球が発生した場合には１個の遊技球の払い出しが実行され、振分入賞装置４１５への遊技球の入球が発生した場合には１５個の遊技球の払い出しが実行され、特電入賞装置４１６への遊技球の入球が発生した場合には振分入賞装置４１５への入球が発生した場合と同一の１５個の遊技球の払い出しが実行される。

【２６３８】

なお、振分入賞装置４１５には後述するように排出通路領域４４５ｂとＶ入賞通路領域

４４５ｃとが設けられており、振分入賞装置４１５に入球した遊技球は排出通路領域４４５ｂ及びＶ入賞通路領域４４５ｃのいずれかを通過することとなるが、排出通路領域４４５ｂ及びＶ入賞通路領域４４５ｃのいずれを遊技球が通過したとしても同一個数（具体的には１５個）の遊技球の払い出しが実行される。また、上記賞球個数は任意であり、例えば第１作動部４１２及び第２作動部４１３の賞球個数が同一である構成としてもよく、振分入賞装置４１５の賞球個数の方が特電入賞装置４１６の賞球個数よりも多い構成としてもよく少ない構成としてもよい。

【２６３９】

その他に、遊技盤２４の最下部にはアウト口２４ａが設けられており、各種入賞口等に入らなかった遊技球はアウト口２４ａを通って遊技領域ＰＡから排出される。また、遊技盤２４には、遊技球の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘２４ｂが設けられているとともに、風車等の各種部材が設けられている。

【２６４０】

遊技領域ＰＡの中央部を含むようにして可変表示ユニット４２１が設けられている。当該可変表示ユニット４２１の周縁部が遊技盤２４の表面よりもパチンコ機１０前方に突出していることに起因して、遊技領域ＰＡに発射された遊技球が流下可能な領域が区画されている。具体的には、遊技領域ＰＡにおいて可変表示ユニット４２１の所定の高さ位置よりも上方の領域である上側領域ＰＡ１と、当該上側領域ＰＡ１に対してその下方にて連続し可変表示ユニット４２１よりも左方の領域である左側領域ＰＡ２と、上側領域ＰＡ１に対してその下方にて連続し可変表示ユニット４２１よりも右方の領域である右側領域ＰＡ３と、左側領域ＰＡ２及び右側領域ＰＡ３のそれぞれに対してその下方にて連続し可変表示ユニット４２１よりも下方の領域である下側領域ＰＡ４と、に区画されている。

【２６４１】

遊技者が第１発射操作として基準回動量未満である第１範囲の回動量で発射操作装置２８の操作を行うことで、上側領域ＰＡ１において横方向の中央位置よりも左方にて遊技球が流下し出す。この場合、上側領域ＰＡ１→左側領域ＰＡ２→下側領域ＰＡ４の順で遊技球が流下することとなる。その一方、遊技者が第２発射操作として基準回動量以上である第２範囲の回動量で発射操作装置２８の操作を行うことで、上側領域ＰＡ１において横方向の中央位置よりも右方にて遊技球が流下し出す。この場合、上側領域ＰＡ１→右側領域ＰＡ３→下側領域ＰＡ４の順で遊技球が流下することとなる。つまり、遊技者は発射操作装置２８の回動操作量を調整することで、左側領域ＰＡ２及び右側領域ＰＡ３のうち左側領域ＰＡ２を遊技球が流下するように遊技を行うことができるとともに、右側領域ＰＡ３を遊技球が流下するように遊技を行うことができる。ちなみに、最大回動量で発射操作装置２８の操作が行われた場合、上側領域ＰＡ１→右側領域ＰＡ３→下側領域ＰＡ４の順で遊技球が流下することとなる。

【２６４２】

第１作動部４１２は、下側領域ＰＡ４に設置されている。第１作動部４１２は上向きに開放されており、第１作動部４１２への遊技球の入球を阻止するための開閉部材といった部材は設けられていない。そして、同一の態様で遊技球が発射されている状況では遊技状態に依存することなく第１作動部４１２への入賞確率は一定となっている。換言すれば、第１作動部４１２は、遊技領域ＰＡを当該第１作動部４１２に向けて流下する遊技球が常時入球可能となっている。また、第１作動部４１２は可変表示ユニット４２１に形成されたステージ４２１ａの真下に配置されており、可変表示ユニット４２１に形成された誘導通路を介してステージ４２１ａ上に流入した遊技球であってステージ４２１ａの横方向の中央から可変表示ユニット４２１外に排出される遊技球は第１作動部４１２に入賞し易くなっている。第１作動部４１２には検知センサ４１２ａが設けられており、当該検知センサ４１２ａにより第１作動部４１２に入賞した遊技球が検知される。検知センサ４１２ａは主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、検知センサ４１２ａの検知結果に基づき主側ＣＰＵ６３にて第１作動部４１２への入賞の有無が特定される。

【２６４３】

上記のように第１作動部４１２は下側領域ＰＡ４に設けられているが、第１作動部４１２に対して右側領域ＰＡ３に向けた上流側には当該右側領域ＰＡ３を流下した遊技球が第１作動部４１２に到達することを不可とするように規制釘２４ｃが設けられている。また、ステージ４２１ａへの誘導通路の入口が左側領域ＰＡ２に対して設けられており、右側領域ＰＡ３に対して設けられていない。これらの構成により、左側領域ＰＡ２を遊技球が流下するように発射操作装置２８が操作されている場合には第１作動部４１２への入賞は可能であるが、右側領域ＰＡ３を遊技球が流下するように発射操作装置２８が操作されている場合には第１作動部４１２への入賞が不可となる。但し、これに限定されることはなく、規制釘２４ｃが設けられていない又はステージ４２１ａへの誘導通路の入口が右側領域ＰＡ３に設けられていることにより、右側領域ＰＡ３を遊技球が流下するように発射操作装置２８が操作されている場合であっても第１作動部４１２への入賞が可能である構成としてもよい。

【２６４４】

第２作動部４１３は、右側領域ＰＡ３に設置されている。つまり、第２作動部４１３は左側領域ＰＡ２を遊技球が流下するように発射操作装置２８が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域ＰＡ３を遊技球が流下するように発射操作装置２８が操作されている場合には入賞が可能である。

【２６４５】

第２作動部４１３の構成について図２１０（ａ）を参照しながら説明する。図２１０（ａ）は非誘導状態である場合における第２作動部４１３の縦断面図である。第２作動部４１３は、遊技領域ＰＡから流入した遊技球を遊技盤２４の後方に排出するための排出通路４３３が形成されたベースユニット４３１と、遊技領域ＰＡを流下する遊技球を排出通路４３３に誘導するための誘導ユニット４３２とを備えている。排出通路４３３の入口部４３３ａは、遊技球１個分以上の開口面積を有しており、パチンコ機１０前方に向けて開放されている。排出通路４３３の出口部４３３ｂ側には検知センサ４３４が設けられており、当該検知センサ４３４により第２作動部４１３に入賞した遊技球が検知される。検知センサ４３４は主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、検知センサ４３４の検知結果に基づき主側ＣＰＵ６３にて第２作動部４１３への入賞の有無が特定される。

【２６４６】

誘導ユニット４３２は、遊技領域ＰＡにおける入口部４３３ａの前方領域を流下する遊技球を下方から受け、その受けた遊技球を排出通路４３３内に誘導するためのガイド部材４３５と、排出通路４３３内への遊技球の誘導を不可とする初期位置と当該誘導を可能とする誘導位置との間でガイド部材４３５を変位させるためのガイド駆動部４３６と、ガイド部材４３５が初期位置に配置されている状況において排出通路４３３への遊技球の流入を阻止する阻止位置に配置されガイド部材４３５が誘導位置に配置されている状況において排出通路４３３への遊技球の流入を阻止しない非阻止位置に配置される阻止部材４３７とを備えている。ガイド部材４３５及び阻止部材４３７はガイド部材４３５が下方となるようにして縦方向に所定の間隔を置いて対向配置されている。これらガイド部材４３５及び阻止部材４３７にガイド駆動部４３６の駆動力を伝達するように伝達ユニット４３８が設けられている。

【２６４７】

ガイド駆動部４３６が非駆動状態である場合には図示しないバネなどといった付勢手段の付勢力によってガイド部材４３５は初期位置に配置され、阻止部材４３７は阻止位置に配置される。この場合、ガイド部材４３５及び阻止部材４３７はその全体が排出通路４３３内に埋没しており遊技領域ＰＡ内に突出していない。これにより、遊技領域ＰＡにおける排出通路４３３の入口部４３３ａの前方領域を流下する遊技球がガイド部材４３５及び阻止部材４３７によって排出通路４３３内に誘導されることはなく、つまり当該遊技球が第２作動部４１３に入球することなく遊技領域ＰＡを下方へと流下する。また、阻止部材４３７が阻止位置に配置されていることにより、排出通路４３３の入口部４３３ａの実質的な開口面積が遊技球１個分未満となる。これにより、ガイド部材４３５が初期位置に配

置されている状況においては第２作動部４１３への遊技球の入球を確実に阻止することが可能となる。

【２６４８】

ガイド駆動部４３６が駆動状態となることにより、ガイド部材４３５及び阻止部材４３７が上記付勢手段の付勢力に抗して変位し、ガイド部材４３５が誘導位置に配置されるとともに阻止部材４３７が非阻止位置に配置される。図２１０（ｂ）は誘導状態である場合における第２作動部４１３の縦断面図である。

【２６４９】

ガイド部材４３５が誘導位置に配置されている場合、当該ガイド部材４３５の先端側が排出通路４３３の入口部４３３ａから遊技領域ＰＡ側に突出する。この突出量は遊技領域ＰＡにおける入口部４３３ａの前方領域を流下する遊技球を下方から受けることが可能な程度となっている。そして、このガイド部材４３５の先端側は上面が排出通路４３３の入口部４３３ａに向けて下り傾斜となっていることにより、ガイド部材４３５の先端側において下方から受けられた遊技球はガイド部材４３５の上面を転がって排出通路４３３内に誘導されることとなる。また、阻止部材４３７が非阻止位置に配置されている場合、当該阻止部材４３７はその先端部が阻止位置よりも上方の位置となるように変位されているため、ガイド部材４３５の上面を転がる遊技球は阻止部材４３７に干渉することなく排出通路４３３内に流入する。これにより、ガイド駆動部４３６が駆動状態となることにより、遊技領域ＰＡにおける入口部４３３ａの前方領域を流下する遊技球が第２作動部４１３に入球することとなる。以下、説明の便宜上、ガイド駆動部４３６が非駆動状態でありガイド部材４３５が初期位置に配置され阻止部材４３７が阻止位置に配置されている状態を誘導ユニット４３２の非誘導状態又は第２作動部４１３の閉鎖状態といい、ガイド駆動部４３６が駆動状態でありガイド部材４３５が誘導位置に配置され阻止部材４３７が非阻止位置に配置されている状態を誘導ユニット４３２の誘導状態又は第２作動部４１３の開放状態という。

【２６５０】

第２作動部４１３は、排出通路４３３の入口部４３３ａに対してパチンコ機１０前方から対向するようにして設けられたカバー部材４３９を備えている。カバー部材４３９は、遊技領域ＰＡにおける入口部４３３ａの前方領域において鉛直方向の通路部４３９ａを形成するようにゲート状に形成されており、当該入口部４３３ａの前方領域を同時に通過する遊技球を１個に制限するとともに当該遊技球のパチンコ機１０前方への移動及び横方向への移動を規制するように設けられている。これにより、第２作動部４１３の誘導ユニット４３２が誘導状態となった場合に複数の遊技球が同時に第２作動部４１３の排出通路４３３内に誘導されてしまうことが阻止されているとともに、当該誘導状態において入口部４３３ａの前方領域を通過する遊技球を排出通路４３３内に確実に誘導することが可能となる。なお、ガイド駆動部４３６は主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、主側ＣＰＵ６３にてガイド駆動部４３６の駆動制御が実行される。

【２６５１】

図２０９に示すように、右側領域ＰＡ３において第２作動部４１３の上方にはスルー入賞部４１４が設けられている。つまり、スルー入賞部４１４は左側領域ＰＡ２を遊技球が流下するように発射操作装置２８が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域ＰＡ３を遊技球が流下するように発射操作装置２８が操作されている場合には入賞が可能である。スルー入賞部４１４は縦方向に貫通した貫通孔を有している。また、スルー入賞部４１４の鉛直下方の位置には第２作動部４１３が設けられており、さらには右側領域ＰＡ３において第２作動部４１３よりも下流側には特電入賞装置４１６及び振分入賞装置４１５が設けられている。したがって、スルー入賞部４１４に入賞した遊技球が、第２作動部４１３、特電入賞装置４１６又は振分入賞装置４１５へ入賞することが可能となっている。

【２６５２】

第２作動部４１３及びスルー入賞部４１４が集約配置された右側領域ＰＡ３は、左方が

可変表示ユニット４２１において遊技盤２４の盤面よりもパチンコ機１０前方に膨出している側壁４２１ｂにより規定されているとともに、右方が内枠１３の樹脂ベース２１に設けられ遊技盤２４の盤面よりもパチンコ機１０前方に突出した規制壁により規定されている。当該右側領域ＰＡ３は、下側領域ＰＡ４よりも横方向の寸法が狭く設定されており、その横方向の寸法は遊技球の入球装置を同じ高さ位置において横方向に並べることが不可な程度となっている。これにより、右側領域ＰＡ３を流下する遊技球の流下軌道を所定の範囲に制限することが可能となり、第２作動部４１３及びスルー入賞部４１４への遊技球の入球が発生し易くなっている。

【２６５３】

右側領域ＰＡ３においてスルー入賞部４１４よりも上流側における複数の釘２４ｂの配列態様が、右側領域ＰＡ３を流下する遊技球をスルー入賞部４１４に誘導するように設定されている。これにより、右側領域ＰＡ３を流下する遊技球がスルー入賞部４１４に入球し易くなっており、スルー入賞部４１４に入球し易いことに伴って第２作動部４１３に入球し易くなっている。スルー入賞部４１４には検知センサ４１４ａが設けられており、当該検知センサ４１４ａによりスルー入賞部４１４に入賞した遊技球が検知される。検知センサ４１４ａは主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、検知センサ４１４ａの検知結果に基づき主側ＣＰＵ６３にてスルー入賞部４１４への入賞の有無が特定される。

【２６５４】

スルー入賞部４１４への入賞に基づき第２作動部４１３の誘導ユニット４３２が非誘導状態から誘導状態に切り換えられる。具体的にはスルー入賞部４１４への入賞をトリガとして内部抽選が行われるとともに、遊技領域ＰＡにおいて遊技球が通過しない領域である左下の隅部に設けられた普図ユニット４２３の普図表示部４２３ａにて絵柄の変動表示が行われる。そして、内部抽選の結果が誘導実行状態の当選であり当該結果に対応した停止結果が表示されて普図表示部４２３ａにおける絵柄の変動表示が終了された場合に誘導実行状態へ移行する。誘導実行状態では、誘導ユニット４３２が所定の態様で誘導状態となる。

【２６５５】

普図表示部４２３ａは、複数のセグメント発光部が所定の態様で配列されてなるセグメント表示器により構成されている。この場合、普図表示部４２３ａにおいて図柄表示装置４２４のような複雑な表示を行うことは不可であるが、普図表示部４２３ａを表示制御するための処理負荷を軽減することが可能となる。但し、これに限定されることはなく、液晶表示装置、有機ＥＬ表示装置、ＣＲＴ又はドットマトリックス表示器等その他のタイプの表示装置によって構成されていてもよい。また、普図表示部４２３ａにて表示される絵柄としては、複数種の文字が表示される構成、複数種の記号が表示される構成、複数種のキャラクタが表示される構成又は複数種の色が表示される構成などが考えられる。

【２６５６】

普図ユニット４２３において、普図表示部４２３ａに隣接した位置には、普図保留表示部４２３ｂが設けられている。遊技球がスルー入賞部４１４に入賞した個数は最大４個まで保留され、普図保留表示部４２３ｂの点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。普図表示部４２３ａ及び普図保留表示部４２３ｂは主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、主側ＣＰＵ６３にて普図表示部４２３ａ及び普図保留表示部４２３ｂの表示制御が実行される。

【２６５７】

ちなみに、普図表示部４２３ａの表示範囲は図柄表示装置４２４の表示面よりも狭い範囲となっている。さらには、普図表示部４２３ａと普図保留表示部４２３ｂとの両方分の表示範囲も、図柄表示装置４２４の表示面よりも狭い範囲となっている。これにより、普図表示部４２３ａ及び普図保留表示部４２３ｂよりも図柄表示装置４２４への遊技者の注目度を高めることが可能となる。

【２６５８】

本パチンコ機１０では、誘導ユニット４３２の誘導状態の発生頻度が相違するようにサポートモードとして複数種類のモードが設定されている。詳細には、サポートモードには、遊技領域ＰＡに対して同様の態様で遊技球の発射が継続されている状況で比較した場合に、誘導ユニット４３２が単位時間当たりに誘導状態となる頻度が相対的に高低となるように、高頻度サポートモードと低頻度サポートモードとが設定されている。

【２６５９】

高頻度サポートモードと低頻度サポートモードとは、スルー入賞部４１４への遊技球の入球に基づく誘導状態抽選にて誘導状態当選となる確率は同一（具体的には４／５）となっているが、高頻度サポートモードは低頻度サポートモードよりも、誘導状態当選となった際に誘導ユニット４３２が誘導状態となる回数が多く設定されており、さらに１回の誘導制御の実行回において誘導ユニット４３２が誘導状態に維持される上限誘導期間が長く設定されている。この場合、高頻度サポートモードにて誘導状態当選となり誘導ユニット４３２の誘導状態が複数回発生する場合において、１回の誘導状態が終了してから次の誘導状態が開始されるまでの閉鎖期間は、１回の上限誘導期間よりも短く設定されている。さらにまた、高頻度サポートモードは低頻度サポートモードよりも、１回の誘導状態抽選が行われてから次の誘導状態抽選が行われる上で最低限確保される確保時間（すなわち、普図表示部４２３ａにおける１回の絵柄の変動表示の表示継続時間）が短く設定されている。

【２６６０】

上記のとおり高頻度サポートモードでは、低頻度サポートモードよりも第２作動部４１３への入賞が発生する確率が高くなる。換言すれば、低頻度サポートモードでは、第２作動部４１３よりも第１作動部４１２への入賞が発生する確率が高くなるが、高頻度サポートモードでは、第１作動部４１２よりも第２作動部４１３への入賞が発生する確率が高くなる。そして、第２作動部４１３への入賞が発生した場合には所定個数の遊技球の払出が実行されるため、高頻度サポートモードでは遊技者は持ち球をあまり減らさないようにしながら遊技を行うことができる。

【２６６１】

なお、高頻度サポートモードを低頻度サポートモードよりも単位時間当たりに誘導状態となる頻度を高くする上での構成は、上記のものに限定されることはなく、例えば誘導状態抽選における誘導状態当選となる確率を高くする構成としてもよい。また、１回の誘導状態抽選が行われてから次の誘導状態抽選が行われる上で確保される確保時間（例えば、スルー入賞部４１４への入賞に基づき普図表示部４２３ａにて実行される変動表示の時間）が複数種類用意されている構成においては、高頻度サポートモードでは低頻度サポートモードよりも、短い確保時間が選択され易い又は平均の確保時間が短くなるように設定されていてもよい。さらには、誘導状態の実行回数を多くする、上限誘導期間を長くする、１回の誘導状態抽選が行われてから次の誘導状態抽選が行われる上で確保される確保時間を短くする、この確保時間の平均時間を短くする及び当選確率を高くすることのうち、いずれか１条件又は任意の組合せの条件を適用することで、低頻度サポートモードに対する高頻度サポートモードの有利性を高めてもよい。

【２６６２】

第１作動部４１２又は第２作動部４１３への入賞が発生したことに基づいて当たり抽選が行われる。当たり抽選が行われた場合には特図ユニット４２２において絵柄の変動表示が行われ、最終的にその当たり抽選の結果に対応した結果が表示される。

【２６６３】

特図ユニット４２２は遊技領域ＰＡの右下側の隅部であって前方を遊技球が流下しない位置に設けられている。また、特図ユニット４２２は前扉枠１４が閉鎖位置に配置されている状況であっても窓パネル５２を通じてパチンコ機１０前方から視認可能な位置に設けられている。したがって、遊技ホールの管理者は遊技機本体１２の開放操作及び前扉枠１４の開放操作を要することなく特図ユニット４２２に設けられた各種表示部４２５～４２９の表示内容を目視することが可能となる。

【２６６４】
図２０９（ｂ）は特図ユニット４２２を説明するための説明図である。特図ユニット４２２について詳細には、特図ユニット４２２には第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６が設けられている。第１特図表示部４２５では、第１作動部４１２への入賞が発生したことに基づいて当たり抽選が行われることで絵柄の変動表示が行われ、最終的に抽選結果に対応した結果が表示される。また、第２特図表示部４２６では、第２作動部４１３への入賞が発生したことに基づいて当たり抽選が行われることで絵柄の変動表示が行われ、最終的に抽選結果に対応した結果が表示される。第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のいずれかにて絵柄の変動表示が開始され、その絵柄の変動表示が所定の結果を表示して終了されるまでが遊技回の１回に相当する。

【２６６５】
第１特図表示部４２５は７個の表示用セグメント４２５ａを備えている。これら表示用セグメント４２５ａはいずれも棒状に形成されており、内部にＬＥＤなどの発光体を有している。これら７個の表示用セグメント４２５ａは第１特図表示部４２５が所謂７セグメントディスプレイとなるように配列されている。第１特図表示部４２５は主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、主側ＣＰＵ６３により各表示用セグメント４２５ａの点灯及び消灯が個別に制御される。第１特図表示部４２５において図柄表示装置４２４のような複雑な表示を行うことは不可であるが、第１特図表示部４２５を表示制御するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【２６６６】
なお、表示用セグメント４２５ａが円形状に形成されており、これら表示用セグメント４２５ａが直線状又は円形状に配列されている構成としてもよい。また、第１特図表示部４２５が液晶表示装置、有機ＥＬ表示装置、ＣＲＴ又はドットマトリックス表示器等その他のタイプの表示装置によって構成されていてもよい。また、第１特図表示部４２５にて表示される絵柄としては、複数種の文字が表示される構成、複数種の記号が表示される構成、複数種のキャラクタが表示される構成又は複数種の色が表示される構成などが考えられる。

【２６６７】
第２特図表示部４２６は７個の表示用セグメント４２６ａを備えている。これら表示用セグメント４２６ａはいずれも棒状に形成されており、内部にＬＥＤなどの発光体を有している。これら７個の表示用セグメント４２６ａは第２特図表示部４２６が所謂７セグメントディスプレイとなるように配列されている。第２特図表示部４２６は主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、主側ＣＰＵ６３により各表示用セグメント４２６ａの点灯及び消灯が個別に制御される。第２特図表示部４２６において図柄表示装置４２４のような複雑な表示を行うことは不可であるが、第２特図表示部４２６を表示制御するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【２６６８】
なお、表示用セグメント４２６ａが円形状に形成されており、これら表示用セグメント４２６ａが直線状又は円形状に配列されている構成としてもよい。また、第２特図表示部４２６が液晶表示装置、有機ＥＬ表示装置、ＣＲＴ又はドットマトリックス表示器等その他のタイプの表示装置によって構成されていてもよい。また、第２特図表示部４２６にて表示される絵柄としては、複数種の文字が表示される構成、複数種の記号が表示される構成、複数種のキャラクタが表示される構成又は複数種の色が表示される構成などが考えられる。

【２６６９】
特図ユニット４２２において、第１特図表示部４２５に隣接した位置には第１特図保留表示部４２７が設けられている。遊技球が第１作動部４１２に入賞した個数は最大４個まで保留され、第１特図保留表示部４２７の点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。また、第２特図表示部４２６に隣接した位置には第２特図保留表示部４２８が設けられている。遊技球が第２作動部４１３に入賞した個数は最大４個まで保留され、

第２特図保留表示部４２８の点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。第１特図保留表示部４２７及び第２特図保留表示部４２８は主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、主側ＣＰＵ６３により第１特図保留表示部４２７及び第２特図保留表示部４２８の表示制御が実行される。

【２６７０】

特図ユニット４２２において、第２特図表示部４２６に隣接した位置には特別表示部４２９が設けられている。特電入賞装置４１６が開放状態となる開閉実行モードが開始される場合に所定の表示状態となるように特別表示部４２９が表示制御され、当該開閉実行モードが終了して新たな遊技回が開始される場合にその所定の表示状態が終了して消灯状態となるように特別表示部４２９が表示制御される。

【２６７１】

特別表示部４２９は７個の表示用セグメント４２９ａを備えている。これら表示用セグメント４２９ａはいずれも棒状に形成されており、内部にＬＥＤなどの発光体を有している。これら７個の表示用セグメント４２９ａは特別表示部４２９が所謂７セグメントディスプレイとなるように配列されている。特別表示部４２９は主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、主側ＣＰＵ６３により各表示用セグメント４２９ａの点灯及び消灯が個別に制御される。特別表示部４２９において図柄表示装置４２４のような複雑な表示を行うことは不可であるが、特別表示部４２９を表示制御するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【２６７２】

なお、表示用セグメント４２９ａが円形状に形成されており、これら表示用セグメント４２９ａが直線状又は円形状に配列されている構成としてもよい。また、特別表示部４２９が液晶表示装置、有機ＥＬ表示装置、ＣＲＴ又はドットマトリックス表示器等その他のタイプの表示装置によって構成されていてもよい。また、特別表示部４２９にて表示される内容としては、複数種の文字が表示される構成、複数種の記号が表示される構成、複数種のキャラクタが表示される構成又は複数種の色が表示される構成などが考えられる。

【２６７３】

第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６の表示範囲は図柄表示装置４２４の表示面よりも狭い範囲となっている。また、第１特図表示部４２５、第２特図表示部４２６、第１特図保留表示部４２７、第２特図保留表示部４２８及び特別表示部４２９の全体分の表示範囲も、図柄表示装置４２４の表示面よりも狭い範囲となっている。これにより、第１特図表示部４２５、第２特図表示部４２６、第１特図保留表示部４２７、第２特図保留表示部４２８及び特別表示部４２９よりも図柄表示装置４２４への遊技者の注目度を高めることが可能となる。

【２６７４】

第１特図表示部４２５又は第２特図表示部４２６において絵柄の変動表示が行われる場合、すなわち遊技回が実行されている場合、可変表示ユニット４２１に設けられた図柄表示装置４２４においてそれに合わせて表示演出が行われる。また、図柄表示装置４２４では、第１作動部４１２又は第２作動部４１３への入賞をトリガとした表示演出だけでなく、大当たり結果となった後などに移行する開閉実行モード中の表示演出及び小当たり結果となった後に移行する振分実行モード中の表示演出などが行われる。また、開閉実行モード、振分実行モード及び高頻度サポートモードにおいては右側領域ＰＡ３を狙って遊技球の発射を行うべきことを報知するための右打ち報知画像が図柄表示装置４２４にて表示される。

【２６７５】

図柄表示装置４２４は、液晶ディスプレイを備えた液晶表示装置として構成されており、表示制御装置８２により表示内容が制御される。なお、図柄表示装置４２４は、液晶表示装置に限定されることはなく、プラズマディスプレイ装置、有機ＥＬ表示装置又はＣＲＴといった表示面を有する他の表示装置であってもよく、ドットマトリクス表示器であってもよい。

【２６７６】
遊技回の実行中に図柄表示装置４２４にて行われる表示演出の内容について図２１１を参照しながら説明する。図２１１は遊技回が実行される場合における図柄表示装置４２４の表示内容を説明するための説明図である。
【２６７７】
図２１１（ａ）に示すように、図柄表示装置４２４の表示面には、複数の表示領域として上段・中段・下段の３つの図柄列Ｚ１，Ｚ２，Ｚ３が設定されている。各図柄列Ｚ１～Ｚ３は主図柄と副図柄が所定の順序で配列されて構成されている。つまり、遊技回が実行される場合、図柄表示装置４２４の表示面の全体を利用して図柄の変動表示が行われる。
【２６７８】
図２１２は各図柄列Ｚ１～Ｚ３にて変動表示される主図柄及び副図柄を説明するための説明図である。図２１２（ａ）～図２１２（ｊ）に示すように、絵柄の一種である図柄は、「１」～「９」の数字が各々付された９種類の主図柄と、貝形状の絵図柄からなる副図柄とにより構成されている。より詳しくは、タコ等の９種類のキャラクタ図柄に「１」～「９」の数字がそれぞれ付されて主図柄が構成されている。
【２６７９】
図２１１（ｂ）に示すように、上図柄列Ｚ１には、「１」～「９」の９種類の主図柄が数字の降順に配列されるとともに、各主図柄の間に副図柄が１つずつ配されている。下図柄列Ｚ３には、「１」～「９」の９種類の主図柄が数字の昇順に配列されるとともに各主図柄の間に副図柄が１つずつ配されている。つまり、上図柄列Ｚ１と下図柄列Ｚ３は１８個の図柄により構成されている。これに対し、中図柄列Ｚ２には、数字の昇順に「１」～「９」の９種類の主図柄が配列された上で「９」の主図柄と「１」の主図柄との間に「４」の主図柄が付加的に配列され、これら各主図柄の間に副図柄が１つずつ配されている。つまり、中図柄列Ｚ２に限っては、１０個の主図柄が配されて２０個の図柄により構成されている。そして、表示面では、これら各図柄列Ｚ１～Ｚ３の図柄が周期性をもって所定の向きにスクロールするように変動表示される。図柄表示装置４２４は、図柄列Ｚ１～Ｚ３毎に３個の図柄が停止表示されるようになっており、結果として３×３の計９個の図柄が停止表示されるようになっている。また、図柄表示装置４２４には図２１１（ａ）に示すように、５つの有効ライン、すなわち左ラインＬ１、中ラインＬ２、右ラインＬ３、右下がりラインＬ４、右上がりラインＬ５が設定されている。
【２６８０】
第１作動部４１２又は第２作動部４１３への入賞に基づいて表示面において図柄の変動表示が行われる場合には、各図柄列Ｚ１～Ｚ３の図柄が周期性をもって所定の向きにスクロールするように変動表示が開始される。そして、基本的には上図柄列Ｚ１→下図柄列Ｚ３→中図柄列Ｚ２の順に変動表示から待機表示に切り換えられ、最終的に各図柄列Ｚ１～Ｚ３にて所定の図柄を静止表示した状態で終了される。また、図柄の変動表示が終了する場合、内部抽選の結果が後述する１５Ｒ大当たり結果であった場合にはいずれかの有効ライン上に「７」図柄の組合せが形成され、内部抽選の結果が後述する６Ｒ大当たり結果であった場合にはいずれかの有効ライン上に「７」図柄以外の同一の奇数図柄の組合せが形成され、内部抽選の結果が後述する第１～第３小当たり結果のいずれかであった場合にはいずれかの有効ライン上に同一の偶数図柄の組合せが形成される。
【２６８１】
上記のように各図柄列Ｚ１～Ｚ３にて図柄の変動表示が行われる構成において、遊技回が実行される場合における図柄表示装置４２４の表示演出として期待演出が設定されている。期待演出とは、図柄表示装置４２４における図柄の変動表示が開始されてから停止結果が導出表示される前段階で、大当たり結果となり易い変動表示状態であると遊技者に思わせるための表示状態をいう。期待演出には、リーチ表示と、リーチ表示が発生する前段階などにおいてリーチ表示の発生や大当たり結果の発生を期待させるための予告表示との２種類が設定されている。
【２６８２】

リーチ表示には、複数の図柄列Ｚ１～Ｚ３のうち上図柄列Ｚ１及び下図柄列Ｚ３について同一の種類の図柄を停止表示させることでリーチ図柄の組合せを表示し、その状態で残りの中図柄列Ｚ２において図柄の変動表示を行う表示状態が含まれる。また、上記のようにリーチ図柄の組合せを表示した状態で、残りの図柄列において図柄の変動表示を行うとともに、その背景画面において所定のキャラクタなどを動画として表示することによりリーチ演出を行うものや、リーチ図柄の組合せを縮小表示させる又は非表示とした上で、表示面の略全体において所定のキャラクタなどを動画として表示することによりリーチ演出を行うものが含まれる。大当たり結果又は小当たり結果となる遊技回であればリーチ図柄の組合せを形成している図柄と同一の種類の図柄が中図柄列Ｚ２におけるリーチライン上に停止表示され、大当たり結果及び小当たり結果のいずれにもならない遊技回であればリーチ図柄の組合せを形成している図柄とは異なる種類の図柄が中図柄列Ｚ２におけるリーチライン上に停止表示される。

【２６８３】

予告表示には、各図柄列Ｚ１～Ｚ３にて図柄の変動表示が開始されてから、全ての図柄列Ｚ１～Ｚ３にて図柄が変動表示されている状況において、又は一部の図柄列Ｚ１～Ｚ３であって複数の図柄列Ｚ１～Ｚ３にて図柄が変動表示されている状況において、図柄列Ｚ１～Ｚ３上の図柄とは別にキャラクタを表示させる態様が含まれる。また、背景画面をそれまでの態様とは異なる所定の態様とするものや、図柄列Ｚ１～Ｚ３上の図柄をそれまでの態様とは異なる所定の態様とするものも含まれる。かかる予告表示は、リーチ表示が行われる場合及びリーチ表示が行われない場合のいずれの遊技回においても発生し得るが、リーチ表示が行われる場合の方がリーチ表示が行われない場合よりも高確率で発生するように設定されている。

【２６８４】

第１作動部４１２又は第２作動部４１３への入賞に基づき実行された内部抽選にて６Ｒ大当たり結果及び１５Ｒ大当たり結果のいずれかが選択された場合、当該大当たり結果に対応する遊技回が終了した後に開閉実行モードに移行する。開閉実行モードにおいては特電入賞装置４１６への入賞が可能となる。図２０９に示すように、特電入賞装置４１６は、右側領域ＰＡ３において第２作動部４１３の下方であって振分入賞装置４１５よりも上方の位置に設けられている。つまり、特電入賞装置４１６は左側領域ＰＡ２を遊技球が流下するように発射操作装置２８が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域ＰＡ３を遊技球が流下するように発射操作装置２８が操作されている場合には入賞が可能である。

【２６８５】

特電入賞装置４１６は、図２０９に示すように、遊技球が通過可能な大きさに形成された大入賞口４１６ａを備えているとともに、当該大入賞口４１６ａを遊技球が通過不可である閉鎖状態と遊技球が通過可能である開放状態とに切り換える特電側開閉部材４１６ｂを備えている。特電側開閉部材４１６ｂは特電用の駆動部４１６ｃにより図示しないリンク機構を通じて駆動されることで開放状態となる。特電入賞装置４１６は大入賞口４１６ａが入口部分となるようにして遊技球通路を備えており、大入賞口４１６ａを通じて遊技球通路に流入した遊技球は遊技球通路に設けられた特電入賞検知センサ４１６ｄにより検知された後に、遊技盤２４の後方に排出される。特電入賞検知センサ４１６ｄは主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、特電入賞検知センサ４１６ｄの検知結果に基づき主側ＣＰＵ６３にて特電入賞装置４１６への入賞の有無が特定される。また、特電用の駆動部４１６ｃは主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、主側ＣＰＵ６３により特電用の駆動部４１６ｃの駆動制御が実行される。

【２６８６】

開閉実行モードでは複数回数（具体的には５回、６回、８回、１４回又は１６回）のラウンド遊技が実行される。ラウンド遊技とは、特電入賞装置４１６の開閉回数が上限回数となること、及び予め定められた上限入賞個数の遊技球が特電入賞装置４１６に入賞することのいずれか一方の条件が満たされるまで継続する遊技のことである。本実施形態では

１回のラウンド遊技において特電入賞装置４１６の開閉が１回行われるとともに、各ラウンド遊技における開放継続期間が２９秒に設定されている。また、特電入賞装置４１６への上限入賞個数は１０個に設定されている。発射操作装置２８が遊技者により操作されている状況では０．６秒に１個の遊技球が遊技領域ＰＡに向けて発射されるように遊技球発射機構２７が駆動制御されるため、ラウンド遊技の開放継続期間は遊技球の発射周期と１回のラウンド遊技の上限入賞個数との積よりも長い時間に設定されていることとなる。よって、各ラウンド遊技において特電入賞装置４１６に上限入賞個数以上の遊技球が入賞することを期待することができる。

【２６８７】

第２作動部４１３への入賞に基づき実行された内部抽選にて第１小当たり結果～第３小当たり結果のいずれかが選択された場合、当該小当たり結果に対応する遊技回が終了した後に振分実行モードに移行する。振分実行モードにおいては振分入賞装置４１５への入賞が可能となる。

【２６８８】

振分入賞装置４１５は、図２０９に示すように、右側領域ＰＡ３において特電入賞装置４１６よりも下方の位置に設けられている。つまり、振分入賞装置４１５は左側領域ＰＡ２を遊技球が流下するように発射操作装置２８が操作されている場合には入賞が不可であり、右側領域ＰＡ３を遊技球が流下するように発射操作装置２８が操作されている場合には入賞が可能である。

【２６８９】

振分入賞装置４１５の構成について図２０９に加えて図２１３を参照しながら説明する。図２１３は振分入賞装置４１５の内部構成を説明するための縦断面図である。

【２６９０】

振分入賞装置４１５は、図２０９に示すように、遊技球が通過可能な大きさの振分入口４４１を備えているとともに、当該振分入口４４１を遊技球が通過不可である閉鎖状態と遊技球が通過可能である開放状態とに切り換える振分側開閉部材４４２を備えている。振分側開閉部材４４２は振分入口用の駆動部４４３により図示しないリンク機構を通じて駆動されることで開放状態となる。振分入口用の駆動部４４３は主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、主側ＣＰＵ６３にて振分入口用の駆動部４４３の駆動制御が実行される。

【２６９１】

振分入口４４１に入賞した遊技球は、図２１３に示すように、振分入賞装置４１５のベース体４４４に形成された分岐通路４４５に導出される。分岐通路４４５は、分岐通路４４５の入口部分から当該分岐通路４４５の途中位置に亘って通路方向が横方向に下り傾斜となるように設定された上流通路領域４４５ａと、当該上流通路領域４４５ａの下流側端部に連続し通路方向が鉛直下方となるように設定された排出通路領域４４５ｂと、当該排出通路領域４４５ｂの途中位置から分岐させて設けられ排出通路領域４４５ｂとは異なる側に遊技球を導くためのＶ入賞通路領域４４５ｃとを備えている。この場合、上流通路領域４４５ａは通路方向に対して直交する方向の寸法が遊技球１個分以上であって遊技球２個分未満となっているため、通路方向に対して直交する方向に複数の遊技球が並んだ状態で上流通路領域４４５ａを遊技球が通過することが阻止される。よって、排出通路領域４４５ｂにおけるＶ入賞通路領域４４５ｃへの分岐位置に複数の遊技球が同時に到達することが阻止される。

【２６９２】

排出通路領域４４５ｂにおけるＶ入賞通路領域４４５ｃへの分岐箇所には、排出通路領域４４５ｂに流入した遊技球をＶ入賞通路領域４４５ｃに誘導するための切換片４４６が設けられている。切換片４４６は、ベース体４４４における排出通路領域４４５ｂを基準としてＶ入賞通路領域４４５ｃ側とは逆側の領域に回動可能に支持されており、排出通路領域４４５ｂの外部に全体が退避した退避位置と、排出通路領域４４５ｂ内に突出したＶ誘導位置との間で変位可能となっている。切換片４４６には図示しない伝達ユニットを通

じて切換用駆動部４４７の駆動力が伝達される。切換片４４６は、切換用駆動部４４７が非駆動状態である場合には図示しないバネなどの付勢手段の付勢力によって退避位置に配置され、切換用駆動部４４７が駆動状態となることでその付勢力に抗して切換片４４６が変位してＶ誘導位置に配置される。切換用駆動部４４７は主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、主側ＣＰＵ６３にて切換用駆動部４４７の駆動制御が実行される。

【２６９３】

切換片４４６が退避位置に配置されている場合には、分岐通路４４５に流入した遊技球はＶ入賞通路領域４４５ｃに誘導されることなく排出通路領域４４５ｂを流下する。そして、その遊技球は、排出通路領域４４５ｂにおいて切換片４４６による分岐位置よりも下流に設けられたカウント検知センサ４４８により検知された後に遊技盤２４の後方に排出される。カウント検知センサ４４８は主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、カウント検知センサ４４８の検知結果に基づき主側ＣＰＵ６３にてカウント検知センサ４４８における遊技球の検知の有無が特定される。

【２６９４】

一方、切換片４４６がＶ誘導位置に配置されている場合には、分岐通路４４５に流入した遊技球は切換片４４６により下方から受けられる。Ｖ誘導位置に配置されている状態における切換片４４６の上面は、Ｖ入賞通路領域４４５ｃに向けて下り傾斜となっている。これにより、切換片４４６により下方から受けられた遊技球は自重により、Ｖ入賞通路領域４４５ｃに流入し、当該Ｖ入賞通路領域４４５ｃを流下する。そして、その遊技球は、Ｖ入賞通路領域４４５ｃに設けられたＶ入賞検知センサ４４９により検知された後に、遊技盤２４の後方に排出される。Ｖ入賞検知センサ４４９は主制御装置６０のＭＰＵ６２と電気的に接続されており、Ｖ入賞検知センサ４４９の検知結果に基づき主側ＣＰＵ６３にてＶ入賞通路領域４４５ｃの遊技球の通過の有無が特定される。

【２６９５】

振分側開閉部材４４２が開放状態となる場合、当該開放状態に維持される期間は遊技球の発射周期よりも長い期間である１０秒で一定となっているとともに、振分実行モードにおいて振分入賞装置４１５に入球可能な遊技球の上限入賞個数は１０個で一定となっている。また、発射操作装置２８が遊技者により操作されている状況では、０．６ｓｅｃに１個の遊技球が遊技領域ＰＡに向けて発射されるように遊技球発射機構２７が駆動制御される。また、右側領域ＰＡ３を流下する遊技球は途中で第２作動部４１３又は特電入賞装置４１６に入球しない限り振分側開閉部材４４２の位置に到達する。そうすると、振分側開閉部材４４２が開放状態となった場合には振分入賞装置４１５に向けて遊技球が流下するように遊技球の発射を継続するのであれば当該振分入賞装置４１５に上限入賞個数以上の遊技球を入賞させることが可能となる。

【２６９６】

これに対して、切換片４４６は振分側開閉部材４４２が開放状態となったタイミングから２秒経過したタイミングで退避位置からＶ誘導位置に配置され、その後、１２秒間に亘ってＶ誘導位置に保持される。そして、１２秒が経過した場合にＶ誘導位置から退避位置に復帰する。この場合、上記のとおり発射操作装置２８が遊技者により操作されている状況では、０．６ｓｅｃに１個の遊技球が遊技領域ＰＡに向けて発射されるように遊技球発射機構２７が駆動制御されるため、切換片４４６がＶ誘導位置に配置されたタイミングにおいては未だ振分入賞装置４１５への入賞個数が振分実行モードの上限入賞個数に到達しておらず振分側開閉部材４４２の開放状態が維持される。また、上記のとおり右側領域ＰＡ３を流下する遊技球は途中で第２作動部４１３又は特電入賞装置４１６に入球しない限り振分側開閉部材４４２の位置に到達する。したがって、振分側開閉部材４４２が開放状態となった場合には振分入賞装置４１５に向けて遊技球が流下するように遊技球の発射を継続するのであれば、振分側開閉部材４４２が開放状態となってから２秒経過後に振分入賞装置４１５に入賞した遊技球が切換片４４６の位置に到達したタイミングにおいて当該切換片４４６がＶ誘導位置に配置されていることとなる。よって、振分実行モードにおい

ては基本的にＶ入賞検知センサ４４９にて遊技球が検知されることとなる。
【２６９７】
カウント検知センサ４４８により遊技球が検知された場合及びＶ入賞検知センサ４４９により遊技球が検知された場合のいずれであっても、振分入賞装置４１５に対応する同一個数の賞球の払い出しが実行される。また、振分実行モードにおいてＶ入賞検知センサ４４９にて遊技球が検知された場合には、当該振分実行モード後に開閉実行モードが発生する。一方、Ｖ入賞検知センサ４４９にて遊技球が検知されることなく振分実行モードが終了した場合には開閉実行モードが発生しない。
【２６９８】
次に、主側ＣＰＵ６３にて各種抽選を行うための電気的な構成について図２１４を用いて説明する。
【２６９９】
主側ＣＰＵ６３は遊技に際し各種カウンタ情報を用いて、当たり発生抽選、特図表示部４２５，４２６の表示の設定、図柄表示装置４２４の図柄表示の設定、普図表示部４２３ａの表示の設定などを行うこととしており、具体的には、図２１４に示すように、当たり発生の抽選に使用する当たり乱数カウンタＣ１と、大当たり種別及び小当たり種別を判定する際に使用する種別カウンタＣ２と、図柄表示装置４２４が外れ変動する際のリーチ発生抽選に使用するリーチ乱数カウンタＣ３と、当たり乱数カウンタＣ１の初期値設定に使用する乱数初期値カウンタＣＩＮＩと、特図表示部４２５，４２６及び図柄表示装置４２４における遊技回の表示継続期間を決定する変動種別カウンタＣＳとを用いることとしている。さらに、第２作動部４１３の誘導ユニット４３２を誘導実行状態とするか否かの抽選に使用する普電役物開放カウンタＣ４を用いることとしている。なお、上記各カウンタＣ１～Ｃ３，ＣＩＮＩ，ＣＳ，Ｃ４は、主側ＲＡＭ６５の各種カウンタエリア６５ｂに設けられている。
【２７００】
各カウンタＣ１～Ｃ３，ＣＩＮＩ，ＣＳ，Ｃ４は、その更新の都度前回値に１が加算され、最大値に達した後に「０」に戻るループカウンタとなっている。各カウンタは短時間間隔で更新される。当たり乱数カウンタＣ１、種別カウンタＣ２及びリーチ乱数カウンタＣ３に対応した情報は、第１作動部４１２又は第２作動部４１３への入賞が発生した場合に、主側ＲＡＭ６５に設けられた特図保留エリア４５１に格納される。特図保留エリア４５１は、第１特図保留エリア４５２と、第２特図保留エリア４５３と、特図用の実行エリア４５４とを備えている。
【２７０１】
第１特図保留エリア４５２は第１エリア４５２ａ、第２エリア４５２ｂ、第３エリア４５２ｃ及び第４エリア４５２ｄを備えており、第１作動部４１２への入賞履歴に合わせて、当たり乱数カウンタＣ１、種別カウンタＣ２及びリーチ乱数カウンタＣ３の各数値情報が特図側の保留情報として、いずれかのエリア４５２ａ～４５２ｄに格納される。この場合、第１エリア４５２ａ～第４エリア４５２ｄには、第１作動部４１２への入賞が複数回連続して発生した場合に、第１エリア４５２ａ→第２エリア４５２ｂ→第３エリア４５２ｃ→第４エリア４５２ｄの順に各数値情報が時系列的に格納されていく。このように４つのエリア４５２ａ～４５２ｄが設けられていることにより、第１作動部４１２への遊技球の入賞履歴が最大４個まで保留記憶されるようになっている。なお、第１特図保留エリア４５２において保留記憶可能な数は、４個に限定されることはなく任意であり、２個、３個又は５個以上といったように他の複数であってもよく、単数であってもよい。
【２７０２】
第２特図保留エリア４５３は第１エリア４５３ａ、第２エリア４５３ｂ、第３エリア４５３ｃ及び第４エリア４５３ｄを備えており、第２作動部４１３への入賞履歴に合わせて、当たり乱数カウンタＣ１、種別カウンタＣ２及びリーチ乱数カウンタＣ３の各数値情報が特図側の保留情報として、いずれかのエリア４５３ａ～４５３ｄに格納される。この場合、第１エリア４５３ａ～第４エリア４５３ｄには、第２作動部４１３への入賞が複数回

連続して発生した場合に、第１エリア４５３ａ→第２エリア４５３ｂ→第３エリア４５３ｃ→第４エリア４５３ｄの順に各数値情報が時系列的に格納されていく。このように４つのエリア４５３ａ～４５３ｄが設けられていることにより、第２作動部４１３への遊技球の入賞履歴が最大４個まで保留記憶されるようになっている。なお、第２特図保留エリア４５３において保留記憶可能な数は、４個に限定されることはなく任意であり、２個、３個又は５個以上といったように他の複数であってもよく、単数であってもよい。

【２７０３】

特図用の実行エリア４５４は、いずれかの特図表示部４２５，４２６にて変動表示を開始する際に、特図用の当否判定や種別判定などを行う対象の保留情報が格納されるエリアである。具体的には、第１特図表示部４２５の変動表示を開始する際には、第１特図保留エリア４５２の第１エリア４５２ａに格納された保留情報が特図用の実行エリア４５４に移動される。一方、第２特図表示部４２６の変動表示を開始する際には、第２特図保留エリア４５３の第１エリア４５３ａに格納された保留情報が特図用の実行エリア４５４に移動される。なお、以下の説明では第１特図保留エリア４５２に格納された保留情報及び当該第１特図保留エリア４５２から特図用の実行エリア４５４に移動された保留情報を第１特図側の保留情報といい、第２特図保留エリア４５３に格納された保留情報及び当該第２特図保留エリア４５３から特図用の実行エリア４５４に移動された保留情報を第２特図側の保留情報という。

【２７０４】

普電役物開放カウンタＣ４に対応した情報は、スルー入賞部４１４への入賞が発生した場合に、主側ＲＡＭ６５に設けられた普図保留エリア４５５に格納される。普図保留エリア４５５は、第１エリア４５５ａ、第２エリア４５５ｂ、第３エリア４５５ｃ及び第４エリア４５５ｄを備えており、スルー入賞部４１４への入賞履歴に合わせて、普電役物開放カウンタＣ４の数値情報が普図側の保留情報として、いずれかのエリア４５５ａ～４５５ｄに格納される。この場合、第１エリア４５５ａ～第４エリア４５５ｄには、スルー入賞部４１４への入賞が複数回連続して発生した場合に、第１エリア４５５ａ→第２エリア４５５ｂ→第３エリア４５５ｃ→第４エリア４５５ｄの順に数値情報が時系列的に格納されていく。このように４つのエリア４５５ａ～４５５ｄが設けられていることにより、スルー入賞部４１４への遊技球の入賞履歴が最大４個まで保留記憶されるようになっている。なお、普図保留エリア４５５において保留記憶可能な数は、４個に限定されることはなく任意であり、２個、３個又は５個以上といったように他の複数であってもよく、単数であってもよい。

【２７０５】

普図保留エリア４５５には普図用の実行エリア４５６が設けられている。普図用の実行エリア４５６は、普図表示部４２３ａにて変動表示を開始する際に、誘導ユニット４３２を誘導状態とするか否かを決定するための誘導状態抽選を行う対象の保留情報が格納されるエリアである。具体的には、普図表示部４２３ａの変動表示を開始する際には、普図保留エリア４５５の第１エリア４５５ａに格納された保留情報が普図用の実行エリア４５６に移動される。

【２７０６】

上記各カウンタＣ１～Ｃ３，ＣＩＮＩ，ＣＳ，Ｃ４について詳細に説明する。

【２７０７】

まず、普電役物開放カウンタＣ４について説明する。普電役物開放カウンタＣ４は、０～２５０の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻る構成となっている。普電役物開放カウンタＣ４は定期的に更新され、スルー入賞部４１４に遊技球が入賞したタイミングで主側ＲＡＭ６５の普図保留エリア４５５に格納される。そして、所定のタイミングにおいて、その格納された普電役物開放カウンタＣ４の値によって誘導ユニット４３２を誘導状態に制御するか否かを決定するための誘導状態抽選が行われる。既に説明したとおり誘導ユニット４３２のサポートモード（すなわち第２作動部４１３のサポートモード）として高頻度サポートモードと低頻度サポートモードとが設定されており、

誘導ユニット４３２の誘導状態（第２作動部４１３の開放状態）の制御はその時点におけるサポートモードの種類に対応する態様で行われる。

【２７０８】

次に、当たり乱数カウンタＣ１について説明する。当たり乱数カウンタＣ１は、０～９９９９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻る構成となっている。特に当たり乱数カウンタＣ１が１周した場合、その時点の乱数初期値カウンタＣＩＮＩの値が当該当たり乱数カウンタＣ１の初期値として読み込まれる。なお、乱数初期値カウンタＣＩＮＩは、当たり乱数カウンタＣ１と同様のループカウンタである（値＝０～９９９９）。当たり乱数カウンタＣ１は定期的に更新され、遊技球が第１作動部４１２又は第２作動部４１３に入賞したタイミングで主側ＲＡＭ６５の特図保留エリア４５１に格納される。そして、この格納された当たり乱数カウンタＣ１の値を利用して当否判定処理が行われる。

【２７０９】

当否判定処理に際して当選となる乱数の値は、主側ＲＯＭ６４に当否テーブルとして記憶されている。当否テーブルとして、第１特図側の保留情報に対応させて第１特図の当否テーブル４６１が設けられているとともに、第２特図側の保留情報に対応させて第２特図の当否テーブル４６２が設けられている。また、本実施形態では当否抽選モードとして、大当たり結果となる確率を相違させる複数種類のモードが存在しているのではなく、同一の設定値であれば大当たり結果となる確率が一定となるように１種類のモードが設定されている。

【２７１０】

図２１５（ａ）は第１特図の当否テーブル４６１を説明するための説明図であり、図２１５（ｂ）は第２特図の当否テーブル４６２を説明するための説明図である。

【２７１１】

図２１５（ａ）及び図２１５（ｂ）に示すように当否判定処理の当否結果として、大当たり結果と、小当たり結果と、外れ結果とが存在している。大当たり結果は、特電入賞装置４１６が開閉制御される開閉実行モードへの移行契機となるとともに、サポートモードの移行契機となり得る当否結果である。小当たり結果は、振分入賞装置４１５が開閉制御される振分実行モードへの移行契機となり、当該振分実行モードにおいてＶ入賞が発生した場合には開閉実行モード及びサポートモードの移行契機となる一方、当該振分実行モードにおいてＶ入賞が発生しなかった場合には開閉実行モード及びサポートモードの移行契機とならない当否結果である。外れ結果は、開閉実行モード及び振分実行モードへの移行契機とならずに、さらにサポートモードについても移行契機とならない当否結果である。

【２７１２】

図２１５（ａ）に示すように第１特図の当否テーブル４６１には当否判定処理の判定結果として、大当たり結果及び外れ結果は設定されているが小当たり結果は設定されていない。また、パチンコ機１０には「設定１」～「設定６」の設定状態が存在しているが、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど外れ結果となる確率が低くなるように設定されている。

【２７１３】

具体的には、最も低い設定値である「設定１」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５０個が設定されているとともに外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９９５０個が設定されている。また、「設定１」よりも１段階高い設定値である「設定２」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５２個が設定されているとともに外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９９４８個が設定されている。また、「設定２」よりも１段階高い設定値である「設定３」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４個が設定されているとともに外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９９４６個が設定されている。また、「設定３」よりも１段階高い設定値である「設定４」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数と

して５６個が設定されているとともに外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９９４４個が設定されている。また、「設定４」よりも１段階高い設定値である「設定５」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５８個が設定されているとともに外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９９４２個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定６」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６０個が設定されているとともに外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９９４０個が設定されている。

【２７１４】

つまり、「設定１」において第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は１／２００である。「設定２」において第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は約１／１９２である。「設定３」において第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は約１／１８５である。「設定４」において第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は約１／１７９である。「設定５」において第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は約１／１７２である。「設定６」において第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は約１／１６７である。なお、大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報は連番となるように集約して設定されている構成としてもよく、少なくとも一部又は全部が連番とならないように分散させて設定されている構成としてもよい。

【２７１５】

図２１５（ｂ）に示すように第２特図の当否テーブル４６２には当否判定処理の判定結果として、大当たり結果、小当たり結果及び外れ結果が設定されている。また、パチンコ機１０には「設定１」～「設定６」の設定状態が存在しているが、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど外れ結果となる確率が低くなるように設定されている。一方、小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同一となるように設定されている。

【２７１６】

具体的には、最も低い設定値である「設定１」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として２０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として７９５０個が設定されている。また、「設定１」よりも１段階高い設定値である「設定２」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５２個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として２０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として７９４８個が設定されている。また、「設定２」よりも１段階高い設定値である「設定３」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として２０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として７９４６個が設定されている。また、「設定３」よりも１段階高い設定値である「設定４」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５６個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として２０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として７９４４個が設定されている。また、「設定４」よりも１段階高い設定値である「設定５」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５８個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として２０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として７９４２個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定６」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として２０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として７９４０個が

設定されている。
【２７１７】
つまり、「設定１」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率と同一となる１／２００である。「設定２」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率と同一となる約１／１９２である。「設定３」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率と同一となる約１／１８５である。「設定４」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率と同一となる約１／１７９である。「設定５」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率と同一となる約１／１７２である。「設定６」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率と同一となる約１／１６７である。
【２７１８】
第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同一となる１／５である。この小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても大当たり結果となる確率よりも高い確率となっている。なお、大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報は連番となるように集約して設定されている構成としてもよく、少なくとも一部又は全部が連番とならないように分散させて設定されている構成としてもよい。また、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報は連番となるように集約して設定されている構成としてもよく、少なくとも一部又は全部が連番とならないように分散させて設定されている構成としてもよい。
【２７１９】
上記のとおり第１特図側の保留情報を契機とした場合及び第２特図側の保留情報を契機とした場合のいずれであっても高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高くなるように設定されていることにより高い設定値ほど遊技者にとって有利となる。また、開閉実行モードは単位時間当たりにおける遊技者の持ち球の増加量が最も多くなる期間であり、当該開閉実行モードの移行契機となる大当たり結果の確率が設定値に応じて変動することにより、設定値に対する遊技者の注目度を高めることが可能となる。
【２７２０】
このように大当たり結果となる確率が設定値に応じて変動する構成において、小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同一となっている。これにより、遊技者が設定値を推測するために注目する対象を大当たり結果に限定させることが可能となり、設定値の推測をしづらくさせることが可能となる。
【２７２１】
また、第２特図の当否テーブル４６２においてはいずれの設定値であっても小当たり結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数よりも外れ結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の方が多い構成において、大当たり結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の設定値による変動分が、外れ結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動によって吸収されている。この点からも設定値の推測をしづらくさせることが可能となる。
【２７２２】
次に、種別カウンタＣ２について説明する。種別カウンタＣ２は、０～２９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻る構成となっている。種別カウンタＣ２は定期的に更新され、遊技球が第１作動部４１２又は第２作動部４１３に入賞したタイミングで主側ＲＡＭ６５の特図保留エリア４５１に格納される。そして、この格納された種別カウンタＣ２の値を利用して種別判定処理が行われる。
【２７２３】

種別カウンタＣ２を利用した種別判定処理は、当否判定処理において大当たり結果となった場合及び小当たり結果となった場合のそれぞれにおいて行われる。つまり、本実施形態では大当たり結果が複数種類設定されているとともに小当たり結果が複数種類設定されている。そして、当否判定処理において大当たり結果が選択された場合には、主側ＲＯＭ６４に予め記憶された大当たり用の種別テーブル４６３及び種別カウンタＣ２を利用して大当たり結果の種類が選択される。また、当否判定処理において小当たり結果が選択された場合には、主側ＲＯＭ６４に予め記憶された小当たり用の種別テーブル４６４及び種別カウンタＣ２を利用して小当たり結果の種類が選択される。以下、大当たり結果の種類及び小当たり結果の種類について説明する。

【２７２４】

図２１６（ａ）は第１特図側の保留情報又は第２特図側の保留情報を契機とした当否判定処理において大当たり結果が選択された場合に大当たり結果の種類を振り分けるために参照される大当たり用の種別テーブル４６３を説明するための説明図である。また、図２１６（ｂ）は複数種類の大当たり結果のそれぞれの内容について説明するための説明図である。

【２７２５】

大当たり用の種別テーブル４６３は第１特図用の保留情報を契機とした当否判定処理において大当たり結果が選択された場合に参照されるとともに、第２特図用の保留情報を契機とした当否判定処理において大当たり結果が選択された場合に参照される。つまり、第１特図用の保留情報を契機とした当否判定処理において大当たり結果が選択された場合及び第２特図用の保留情報を契機とした当否判定処理において大当たり結果が選択された場合のいずれであっても、同一の大当たり用の種別テーブル４６３が参照される。

【２７２６】

大当たり用の種別テーブル４６３には図２１６（ａ）に示すように、大当たり結果の種類として、６Ｒ大当たり結果と１５Ｒ大当たり結果とが設定されている。そして、「０～２６」の種別カウンタＣ２の数値情報が６Ｒ大当たり結果に対応しており、「２７～２９」の種別カウンタＣ２の数値情報が１５Ｒ大当たり結果に対応している。つまり、当否判定処理において大当たり結果が選択された場合には、９／１０の確率で６Ｒ大当たり結果が選択され、１／１０の確率で１５Ｒ大当たり結果が選択される。

【２７２７】

６Ｒ大当たり結果となった場合、図２１６（ｂ）に示すようにその後の開閉実行モードではラウンド遊技が６回発生する。また、開閉実行モードが終了した後は当該開閉実行モードの開始前におけるサポートモードに関係なく高頻度サポートモードとなる。この高頻度サポートモードは、６Ｒ大当たり結果の発生の契機となった保留情報が第１特図側の保留情報であった場合には、第２特図側の保留情報を契機とした遊技回が１回実行された場合には終了して低頻度サポートモードに移行する。既に説明したとおり第２特図保留エリア４５３には第１～第４エリア４５３ａ～４５３ｄが設けられており第２特図側の保留情報を４個保留記憶することが可能となっている。したがって、開閉実行モードが終了した後に第２特図側の保留情報を契機とした最初の遊技回が実行されている状況において高頻度サポートモードの態様で制御される第２作動部４１３に４個の遊技球を入球させることで、開閉実行モードが終了した後に第２特図側の保留情報を契機とした遊技回を５回実行させることが可能となる。

【２７２８】

一方、６Ｒ大当たり結果の発生の契機となった保留情報が第２特図側の保留情報であった場合には、第２特図側の保留情報を契機とした遊技回が５回実行された場合には終了して低頻度サポートモードに移行する。既に説明したとおり第２特図保留エリア４５３には第１～第４エリア４５３ａ～４５３ｄが設けられており第２特図側の保留情報を４個保留記憶することが可能となっている。したがって、開閉実行モードが終了した後に第２特図側の保留情報を契機とした５回目の遊技回が実行されている状況において高頻度サポートモードの態様で制御される第２作動部４１３に４個の遊技球を入球させることで、開閉実

行モードが終了した後に第２特図側の保留情報を契機とした遊技回を９回実行させることが可能となる。

【２７２９】

１５Ｒ大当たり結果となった場合、図２１６（ｂ）に示すようにその後の開閉実行モードではラウンド遊技が１５回発生する。したがって、少なくともラウンド遊技の実行回数という点で１５Ｒ大当たり結果は６Ｒ大当たり結果よりも有利となっている。また、開閉実行モードが終了した後は当該開閉実行モードの開始前におけるサポートモードに関係なく高頻度サポートモードとなる。この高頻度サポートモードは、１５Ｒ大当たり結果の発生の契機となった保留情報が第１特図側の保留情報及び第２特図側の保留情報のいずれであったとしても第２特図側の保留情報を契機とした遊技回が５回実行された場合には終了して低頻度サポートモードに移行する。既に説明したとおり第２特図保留エリア４５３には第１～第４エリア４５３ａ～４５３ｄが設けられており第２特図側の保留情報を４個保留記憶することが可能となっている。したがって、開閉実行モードが終了した後に第２特図側の保留情報を契機とした５回目の遊技回が実行されている状況において高頻度サポートモードの態様で制御される第２作動部４１３に４個の遊技球を入球させることで、開閉実行モードが終了した後に第２特図側の保留情報を契機とした遊技回を９回実行させることが可能となる。

【２７３０】

図２１６（ｃ）は第２特図側の保留情報を契機とした当否判定処理において小当たり結果が選択された場合に小当たり結果の種類を振り分けるために参照される小当たり用の種別テーブル４６４を説明するための説明図である。また、図２１６（ｄ）は複数種類の小当たり結果のそれぞれの内容について説明するための説明図である。なお、既に説明したとおり第１特図側の保留情報を契機とした当否判定処理において小当たり結果が選択されることはないため、第１特図側の保留情報を契機とした遊技回において小当たり用の種別テーブル４６４が参照されることはない。

【２７３１】

小当たり用の種別テーブル４６４には図２１６（ｃ）に示すように、小当たり結果の種類として、第１小当たり結果と第２小当たり結果と第３小当たり結果とが設定されている。そして、「０～９」の種別カウンタＣ２の数値情報が第１小当たり結果に対応しており、「１０～１９」の種別カウンタＣ２の数値情報が第２小当たり結果に対応しており、「２０～２９」の種別カウンタＣ２の数値情報が第３小当たり結果に対応している。つまり、当否判定処理において小当たり結果が選択された場合には、１／３の確率で第１小当たり結果が選択され、１／３の確率で第２小当たり結果が選択され、１／３の確率で第３小当たり結果が選択される。

【２７３２】

第１小当たり結果、第２小当たり結果及び第３小当たり結果のいずれであっても、図２１６（ｄ）に示すように最初に振分実行モードが開始される。この振分実行モードでは振分入賞装置４１５が１回開閉される。振分入賞装置４１５の開放状態は、既に説明したとおり開放継続期間である１０秒が経過した場合、及び振分入賞装置４１５に入球した遊技球の個数が上限入賞個数である１０個に到達した場合のいずれか一方の条件が成立するまで継続される。そして、振分入賞装置４１５の開放状態が継続されている状況において当該振分入賞装置４１５に向けて遊技球が流下するように発射操作を継続することで、振分入賞装置４１５に入球した遊技球がＶ入賞検知センサ４４９にて検知されるＶ入賞が発生することとなる。なお、１回の振分実行モードにおいてＶ入賞検知センサ４４９にて複数個の遊技球が検知されたとしても、Ｖ入賞の発生回数は１回として扱われる。

【２７３３】

Ｖ入賞が発生することでその後に開閉実行モードが発生する。この場合、第１小当たり結果を契機とした振分実行モードの後であれば５回のラウンド遊技が実行される開閉実行モードとなり、第２小当たり結果を契機とした振分実行モードであれば８回のラウンド遊技が実行される開閉実行モードとなり、第３小当たり結果を契機とした振分実行モードで

あれば１４回のラウンド遊技が実行される開閉実行モードとなる。したがって、少なくともラウンド遊技の実行回数という点で第１小当たり結果よりも第２小当たり結果の方が有利であり、第２小当たり結果よりも第３小当たり結果の方が有利である。

【２７３４】

第１小当たり結果、第２小当たり結果及び第３小当たり結果のいずれかとなり更に振分実行モードにおいてＶ入賞が発生して開閉実行モードが発生した場合には、当該開閉実行モードが終了した後に振分実行モードの開始前におけるサポートモードに関係なく高頻度サポートモードとなる。この高頻度サポートモードは、第１小当たり結果、第２小当たり結果及び第３小当たり結果のいずれを契機としている場合であっても、第２特図側の保留情報を契機とした遊技回が５回実行された場合には終了して低頻度サポートモードに移行する。既に説明したとおり第２特図保留エリア４５３には第１～第４エリア４５３ａ～４５３ｄが設けられており第２特図側の保留情報を４個保留記憶することが可能となっている。したがって、開閉実行モードが終了した後に第２特図側の保留情報を契機とした５回目の遊技回が実行されている状況において高頻度サポートモードの態様で制御される第２作動部４１３に４個の遊技球を入球させることで、開閉実行モードが終了した後に第２特図側の保留情報を契機とした遊技回を９回実行させることが可能となる。なお、第１小当たり結果、第２小当たり結果及び第３小当たり結果のいずれかとなったことを契機とした振分実行モードにおいてＶ入賞が発生しなかった場合には、振分実行モードが終了した後に開閉実行モードが発生することはなく、さらに振分実行モードの開始前におけるサポートモードが維持される。

【２７３５】

以上のように当否テーブル４６１，４６２及び種別テーブル４６３，４６４が設定されていることによる遊技の流れについて説明する。遊技ホールの営業開始時には基本的にサポートモードが低頻度サポートモードとなる。低頻度サポートモードにおいては第１作動部４１２への入賞を狙って発射操作が行われ、第１作動部４１２への入賞が発生することで第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が実行されるとともに図柄表示装置４２４にて図柄の変動表示が行われる遊技回が実行される。この遊技回の開始時に実行された当否判定処理において大当たり結果が選択されることで当該遊技回の終了後に開閉実行モードが発生する。この開閉実行モードは、６Ｒ大当たり結果が発生契機であればラウンド遊技が６回実行され、１５Ｒ大当たり結果が発生契機であればラウンド遊技が１５回実行される。

【２７３６】

開閉実行モードが終了した後は高頻度サポートモードとなる。この場合に当該高頻度サポートモードは、開閉実行モードの発生の契機となった大当たり結果が６Ｒ大当たり結果であれば第２特図表示部４２６における遊技回が１回実行された場合に終了され、開閉実行モードの発生の契機となった大当たり結果が１５Ｒ大当たり結果であれば第２特図表示部４２６における遊技回が５回実行された場合に終了される。第２特図表示部４２６における遊技回が１回実行された場合に高頻度サポートモードが終了される場合は第２特図側の保留情報を契機とした遊技回を５回実行させることが可能となり、第２特図表示部４２６における遊技回が５回実行された場合に高頻度サポートモードが終了される場合は第２特図側の保留情報を契機とした遊技回を９回実行させることが可能となる。

【２７３７】

高頻度サポートモードにおいては第２作動部４１３への入賞を狙って発射操作が行われ、第２作動部４１３への入賞が発生することで第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が実行されるとともに図柄表示装置４２４にて図柄の変動表示が行われる遊技回が実行される。第２特図側の保留情報を契機とした遊技回では１／５という高い確率で小当たり結果となる。小当たり結果となった場合には振分実行モードとなり当該振分実行モードでは振分入賞装置４１５への入賞を狙って発射操作が継続されることで基本的にＶ入賞が発生する。Ｖ入賞が発生した場合にはその後に開閉実行モードが発生する。この開閉実行モードは、第１小当たり結果が発生契機であればラウンド遊技が５回実行され、第２小当たり

結果が発生契機であればラウンド遊技が８回実行され、第３小当たり結果が発生契機であればラウンド遊技が１４回実行される。そして、開閉実行モードが終了した後は発生契機が第１小当たり結果、第２小当たり結果及び第３小当たり結果のいずれであったとしても高頻度サポートモードとなるとともに当該高頻度サポートモードは第２特図表示部４２６における遊技回が５回実行された場合に終了される。この場合、第２特図側の保留情報を契機とした遊技回を９回実行させることが可能となる。

【２７３８】

つまり、高頻度サポートモードへの移行が発生した場合には第２特図側の保留情報を契機とした遊技回にて小当たり結果が発生することで、振分実行モード及び開閉実行モードを発生させることが可能となるとともに、その後に第２特図側の保留情報を契機とした遊技回を９回実行させることが可能となる。これにより、遊技者は高頻度サポートモードへの移行が発生することを期待するとともに、高頻度サポートモードへの移行が発生した場合には第２特図側の保留情報を契機とした遊技回にて小当たり結果となることを期待することとなる。よって、遊技の興趣向上を図ることが可能となる。なお、第２特図側の保留情報を契機とした遊技回においても大当たり結果が発生し得るとともに大当たり結果が発生した場合には開閉実行モードが発生する。また、開閉実行モードの終了後には発生契機となった大当たり結果の種類に関係なく、高頻度サポートモードとなるとともに当該高頻度サポートモードは第２特図表示部４２６における遊技回が５回実行された場合に終了される。

【２７３９】

次に、リーチ乱数カウンタＣ３について説明する。リーチ乱数カウンタＣ３は、例えば０～２３８の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻る構成となっている。リーチ乱数カウンタＣ３は定期的に更新され、遊技球が第１作動部４１２又は第２作動部４１３に入賞したタイミングで主側ＲＡＭ６５の特図保留エリア４５１に格納される。そして、この格納されたリーチ乱数カウンタＣ３の値を利用して外れ結果となる遊技回においてリーチ表示を発生させるか否かが決定される。

【２７４０】

ここで、本パチンコ機１０には、図柄表示装置４２４における表示演出の一種として期待演出が設定されている。期待演出とは、図柄の変動表示を行うことが可能な図柄表示装置４２４を備え、大当たり結果又は小当たり結果となる遊技回では最終的な停止結果が付与対応結果となる遊技機において、図柄表示装置４２４における図柄の変動表示が開始されてから停止結果が導出表示される前段階で、前記付与対応結果となり易い変動表示状態であると遊技者に思わせるための表示状態をいう。なお、付与対応結果について具体的には、いずれかの有効ライン上に同一の数字が付された図柄の組合せが停止表示される。

【２７４１】

期待演出には、リーチ表示と、リーチ表示が発生する前段階などにおいてリーチ表示の発生や付与対応結果の発生を期待させるための予告表示との２種類が設定されている。

【２７４２】

リーチ表示には、図柄表示装置４２４の表示面に表示される複数の図柄列のうち一部の図柄列について図柄を停止表示させることで、リーチ図柄の組合せを表示し、その状態で残りの図柄列において図柄の変動表示を行う表示状態が含まれる。また、上記のようにリーチ図柄の組合せを表示した状態で、残りの図柄列において図柄の変動表示を行うとともに、その背景画面において所定のキャラクタなどを動画として表示することによりリーチ演出を行うものや、リーチ図柄の組合せを縮小表示させる又は非表示とした上で、表示面の略全体において所定のキャラクタなどを動画として表示することによりリーチ演出を行うものが含まれる。

【２７４３】

予告表示には、図柄表示装置４２４の表示面において図柄の変動表示が開始されてから、全ての図柄列にて図柄が変動表示されている状況において、又は一部の図柄列であって複数の図柄列にて図柄が変動表示されている状況において、図柄列上の図柄とは別にキャ

ラクタを表示させる態様が含まれる。また、背景画面をそれまでの態様とは異なる所定の態様とするものや、図柄列上の図柄をそれまでの態様とは異なる所定の態様とするものも含まれる。かかる予告表示は、リーチ表示が行われる場合及びリーチ表示が行われない場合のいずれの遊技回においても発生し得るが、リーチ表示が行われる場合の方がリーチ表示が行われない場合よりも高確率で発生するように設定されている。

【２７４４】

リーチ表示は、最終的に同一の図柄の組合せが停止表示される遊技回、すなわち大当たり結果又は小当たり結果に対応する遊技回では、リーチ乱数カウンタＣ３の値に関係なく実行される。また、外れ結果に対応した遊技回では、主側ＲＯＭ６４に記憶されたリーチ用テーブルを参照して所定のタイミングで取得したリーチ乱数カウンタＣ３がリーチ表示の発生に対応している場合に実行される。

【２７４５】

一方、予告表示を行うか否かの決定は、主制御装置６０において行うのではなく、音声発光制御装置８１において行われる。この場合、音声発光制御装置８１は、いずれかの大当たり結果又は小当たり結果に対応した遊技回の方が、外れ結果に対応した遊技回に比べ、予告表示が発生し易いこと、及び出現率の低い予告表示が発生し易いことの少なくとも一方の条件を満たすように、予告表示用の抽選処理を実行する。ちなみに、この抽選結果は、図柄表示装置４２４にて遊技回用の演出が実行される場合に反映される。

【２７４６】

次に、変動種別カウンタＣＳについて説明する。変動種別カウンタＣＳは、例えば０～１９８の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻る構成となっている。変動種別カウンタＣＳは、特図表示部４２５，４２６における絵柄の変動表示の表示継続期間と、図柄表示装置４２４における図柄の変動表示の表示継続期間とを主側ＣＰＵ６３において決定する上で用いられる。変動種別カウンタＣＳは繰り返し更新され、特図表示部４２５，４２６における絵柄の変動開始時及び図柄表示装置４２４による図柄の変動開始時における変動パターン決定に際して取得される。

【２７４７】

＜普図普電制御処理＞

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される各種処理について説明する。図２１７は主側ＣＰＵ６３にて実行される普図普電制御処理を示すフローチャートである。なお、普図普電制御処理は第１タイマ割込み処理（図１３３）におけるステップＳ８９１４にて実行される。また、普図普電制御処理におけるステップＳＤ６０１～ステップＳＤ６１０の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２７４８】

まず普図側の保留情報の取得処理を実行する（ステップＳＤ６０１）。当該取得処理では、スルー入賞部４１４への入賞が発生しており、さらに普図保留エリア４５５に上限個数分の普図側の保留情報が取得されていない場合に、普電役物開放カウンタＣ４の数値情報を普図保留エリア４５５に格納する。この場合、第１エリア４５５ａ→第２エリア４５５ｂ→第３エリア４５５ｃ→第４エリア４５５ｄの順序で普図側の保留情報が格納されるようにする。

【２７４９】

その後、主側ＲＡＭ６５に設けられた普図普電カウンタの数値情報を読み出すとともに（ステップＳＤ６０２）、主側ＲＯＭ６４に設けられた普図普電アドレステーブルを読み出す（ステップＳＤ６０３）。そして、普図普電アドレステーブルから普図普電カウンタの数値情報に対応した開始アドレスを取得し（ステップＳＤ６０４）、その取得した開始アドレスの示す処理にジャンプする（ステップＳＤ６０５）。

【２７５０】

普図普電カウンタは、普図普電制御処理におけるステップＳＤ６０６～ステップＳＤ６１０の各処理のうちいずれを実行すべきであるかを主側ＣＰＵ６３にて把握するためのカ

ウンタであり、普図普電アドレステーブルには、普図普電カウンタの数値情報に対応させて、ステップＳＤ６０６～ステップＳＤ６１０の各処理を実行するためのプログラムにおける開始アドレスが設定されている。普図普電カウンタの値が「０」である場合にはステップＳＤ６０６の普図変動開始処理にジャンプし、普図普電カウンタの値が「１」である場合にはステップＳＤ６０７の普図変動中処理にジャンプし、普図普電カウンタの値が「２」である場合にはステップＳＤ６０８の普図確定中処理にジャンプし、普図普電カウンタの値が「３」である場合にはステップＳＤ６０９の普電開放中処理にジャンプし、普図普電カウンタの値が「４」である場合にはステップＳＤ６１０の普電閉鎖中処理にジャンプする。

【２７５１】

ステップＳＤ６０６の普図変動開始処理では、普図保留エリア４５５に普図側の保留情報が保留記憶されていることを条件に、普図保留エリア４５５に保留記憶されている普図側の保留情報をシフトする処理を実行する。具体的には、普図保留エリア４５５の第１エリア４５５ａに格納されている普図側の保留情報を普図用の実行エリア４５６にシフトし、その後に第２エリア４５５ｂ→第１エリア４５５ａ、第３エリア４５５ｃ→第２エリア４５５ｂ、及び第４エリア４５５ｄ→第３エリア４５５ｃとなるように普図側の保留情報をシフトする。そして、普図用の実行エリア４５６に新たににシフトされた普図側の保留情報を抽選値として誘導状態抽選処理を実行する。本実施形態では既に説明したとおりサポートモードとして低頻度サポートモードと高頻度サポートモードとが存在している。但し、誘導状態抽選処理にて誘導状態当選となる確率は低頻度サポートモードと高頻度サポートモードとで同一となっている（具体的には４／５）。

【２７５２】

普図変動開始処理では誘導状態抽選処理を実行した場合、普図表示部４２３ａにおける絵柄の変動表示を開始させる処理を実行する。この場合に、普図表示部４２３ａにて絵柄を変動表示させる表示継続期間の情報を主側ＲＡＭ６５に設けられた普図普電タイマカウンタにセットする。当該普図普電タイマカウンタにセットされた値は第１タイマ割込み処理（図１３３）のタイマ更新処理（ステップＳ８９１０）が実行される度に１減算される。この場合に、当該表示継続期間は高頻度サポートモードの方が低頻度サポートモードよりも短くなっている。具体的には、高頻度サポートモードであれば当該表示継続期間は１秒であり、低頻度サポートモードであれば当該表示継続期間は１０秒である。その後、普図表示部４２３ａにおける絵柄の変動表示を開始させた後に、普図普電カウンタの値を「０」から「１」に更新する。これにより、普図普電制御処理の次回の処理回における実行対象の処理が普図変動中処理となる。

【２７５３】

ステップＳＤ６０７の普図変動中処理では、普図表示部４２３ａにおける絵柄の表示を更新させるための処理を実行する。また、普図変動開始処理にて主側ＲＡＭ６５の普図普電タイマカウンタにセットした値が「０」となっている場合には、普図側の確定期間の情報を主側ＲＡＭ６５の普図普電タイマカウンタにセットするとともに、普図表示部４２３ａにおける今回の絵柄の変動表示回の実行契機となった誘導状態抽選処理の結果に対応する絵柄を普図表示部４２３ａに停止表示させるための処理を実行する。そして、普図普電カウンタの値を「１」から「２」に更新する。これにより、普図普電制御処理の次回の処理回における実行対象の処理が普図確定中処理となる。

【２７５４】

ステップＳＤ６０８の普図確定中処理では、普図普電タイマカウンタの値が「０」となっている場合に、今回の絵柄の変動表示回の実行契機となった誘導状態抽選処理の結果が誘導状態当選であるか否かを判定する。誘導状態当選ではない場合、普図普電カウンタの値を「０」クリアする。これにより、普図普電制御処理の次回の処理回における実行対象の処理が普図変動開始処理となる。

【２７５５】

誘導状態当選である場合、第２作動部４１３の誘導ユニット４３２を誘導状態とするた

めの処理を実行する。この場合、高頻度サポートモードであれば誘導ユニット４３２が誘導状態となる回数として３回を設定するとともに各誘導状態の実行回における上限誘導期間を２秒に設定する。一方、低頻度サポートモードであれば誘導ユニット４３２が誘導状態となる回数として１回を設定するとともに当該誘導状態の実行回における上限誘導期間を０．６秒に設定する。誘導状態の実行回数の情報は主側ＲＡＭ６５に設けられた普電開放回数カウンタにセットし、上限誘導期間の情報は普図普電タイマカウンタにセットする。また、高頻度サポートモード及び低頻度サポートモードのいずれであっても誘導状態当選となった場合における第２作動部４１３への遊技球の上限入賞個数は１０個となっている。上限入賞個数の情報は主側ＲＡＭ６５に設けられた普電入賞カウンタにセットする。普電入賞カウンタの値が「０」となった場合には今回の誘導状態当選を契機とした誘導状態の実行を終了させる。また、ガイド駆動部４３６への駆動信号の出力を開始することにより誘導ユニット４３２を非誘導状態から誘導状態に切り換える。上記のような誘導状態の実行を可能とするための設定を行った後は、普図普電カウンタの値を「２」から「３」に更新する。これにより、普図普電制御処理の次回の処理回における実行対象の処理が普電開放中処理となる。

【２７５６】

ステップＳＤ６０９の普電開放中処理では、第２作動部４１３への入賞が発生している場合にその入賞個数に対応する値を主側ＲＡＭ６５の普電入賞カウンタの値から減算する。そして、普電入賞カウンタの値が「０」である場合には、ガイド駆動部４３６への駆動信号の出力を停止することで誘導ユニット４３２を誘導状態から非誘導状態に切り換えた後に、普図普電カウンタの値を「０」クリアする。これにより、普図普電制御処理の次回の処理回における実行対象の処理が普図変動開始処理となる。また、普電入賞カウンタの値が「０」ではない場合であっても普図普電タイマカウンタの値が「０」である場合には、ガイド駆動部４３６への駆動信号の出力を停止することで誘導ユニット４３２を誘導状態から非誘導状態に切り換えるとともに普電開放回数カウンタの値を１減算する。そして、普電開放回数カウンタの値が「０」ではない場合には誘導ユニット４３２の非誘導継続期間の情報を普図普電タイマカウンタにセットした後に普図普電カウンタの値を「３」から「４」に更新する。これにより、普図普電制御処理の次回の処理回における実行対象の処理が普電閉鎖中処理となる。普電開放回数カウンタの値が「０」である場合には普図普電カウンタの値を「０」クリアする。これにより、普図普電制御処理の次回の処理回における実行対象の処理が普図変動開始処理となる。

【２７５７】

ステップＳＤ６１０の普電閉鎖中処理では、普図普電タイマカウンタの値が「０」となっていることを条件として、ガイド駆動部４３６への駆動信号の出力を開始することで誘導ユニット４３２を非誘導状態から誘導状態に切り換えるとともに上限誘導期間の情報を普図普電タイマカウンタにセットする。そして、普図普電カウンタの値を「４」から「３」に更新する。これにより、普図普電制御処理の次回の処理回における実行対象の処理が普電開放中処理となる。

【２７５８】

以上のように普電普電制御処理が実行されることにより、スルー入賞部４１４への入賞が発生することを契機として普図表示部４２３ａにおいて絵柄の変動表示が行われる。そして、誘導状態抽選処理において誘導状態当選となった場合には第２作動部４１３の誘導ユニット４３２が誘導状態となる。第２作動部４１３が誘導状態となることで当該第２作動部４１３への遊技球の入賞が可能となり、第２作動部４１３に遊技球が入賞することで第２特図側の保留情報が第２特図保留エリア４５３に格納される。

【２７５９】

＜特図特電制御処理＞

図２１８は主側ＣＰＵ６３にて実行される特図特電制御処理を示すフローチャートである。なお、特図特電制御処理は第１タイマ割込み処理（図１３３）におけるステップＳ８９１３にて実行される。また、特図特電制御処理におけるステップＳＤ７０１～ステップ

ＳＤ７１３の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２７６０】

まず保留情報の取得処理を実行する（ステップＳＤ７０１）。保留情報の取得処理では第１作動部４１２への入賞が発生している場合、第１特図保留エリア４５２に記憶されている第１特図側の保留情報の数が上限記憶数（具体的には４個）未満であることを条件として、第１特図側の保留情報の格納処理を実行する。当該格納処理では、当たり乱数カウンタＣ１、種別カウンタＣ２及びリーチ乱数カウンタＣ３の各数値情報を第１特図側の保留情報として、第１特図保留エリア４５２の第１エリア４５２ａ～第４エリア４５２ｄにおける第１特図側の保留情報が記憶されていないエリアのうち消化順序が早い側のエリアに格納する。なお、第１特図側の保留情報を取得した場合には、第１特図側の保留情報の個数が今回増加したことに合わせて第１特図保留表示部４２７の表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。また、第１特図側の保留情報を取得した場合には、保留増加コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。これにより、図柄表示装置４２４における第１特図側の保留情報の保留記憶数を報知するための画像が第１特図側の保留情報の新たな取得に対応させて更新される。

【２７６１】

第２作動部４１３への入賞が発生している場合、第２特図保留エリア４５３に記憶されている第２特図側の保留情報の数が上限記憶数（具体的には４個）未満であることを条件として、第２特図側の保留情報の格納処理を実行する。当該格納処理では、当たり乱数カウンタＣ１、種別カウンタＣ２及びリーチ乱数カウンタＣ３の各数値情報を第２特図側の保留情報として、第２特図保留エリア４５３の第１エリア４５３ａ～第４エリア４５３ｄにおける第２特図側の保留情報が記憶されていないエリアのうち消化順序が早い側のエリアに格納する。なお、第２特図側の保留情報を取得した場合には、第２特図側の保留情報の個数が今回増加したことに合わせて第２特図保留表示部４２８の表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。また、第２特図側の保留情報を取得した場合には、保留増加コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。これにより、図柄表示装置４２４における第２特図側の保留情報の保留記憶数を報知するための画像が第２特図側の保留情報の新たな取得に対応させて更新される。

【２７６２】

保留情報の取得処理を実行した後は、主側ＲＯＭ６４に記憶されている特図特電アドレステーブルを読み出す（ステップＳＤ７０２）。そして、特図特電アドレステーブルから特図特電カウンタの数値情報に対応した開始アドレスを取得し（ステップＳＤ７０３）、その取得した開始アドレスの示す処理にジャンプする（ステップＳＤ７０４）。

【２７６３】

特図特電カウンタは、特図特電制御処理におけるステップＳＤ７０５～ステップＳＤ７１３の各処理のうちいずれを実行すべきであるかを主側ＣＰＵ６３にて把握するためのカウンタであり、特図特電アドレステーブルには、特図特電カウンタの数値情報に対応させて、ステップＳＤ７０５～ステップＳＤ７１３の各処理を実行するためのプログラムにおける開始アドレスが設定されている。特図特電カウンタの値が「０」である場合にはステップＳＤ７０５の特図変動開始処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「１」である場合にはステップＳＤ７０６の特図変動中処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「２」である場合にはステップＳＤ７０７の特図確定中処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「３」である場合にはステップＳＤ７０８の振分開始用処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「４」である場合にはステップＳＤ７０９の振分用処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「５」である場合にはステップＳＤ７１０の特電開始処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「６」である場合にはステップＳＤ７１１の特電開放中処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「７」である場合にはステップＳＤ７１２の特電閉鎖中処理にジャンプし、特図特電カウンタの値が「８」である場合にはステップＳＤ７１３の特電終了処理にジャンプする。以下、ステップＳＤ７０５～ステップＳＤ７

１３の各処理について個別に説明する。
【２７６４】
＜特図変動開始処理＞
まずステップＳＤ７０５の特図変動開始処理について、図２１９のフローチャートを参照しながら説明する。なお、特図変動開始処理におけるステップＳＤ８０１～ステップＳＤ８１８の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【２７６５】
特図変動開始処理では、第１特図側の保留情報又は第２特図側の保留情報が記憶されていることを条件として（ステップＳＤ８０１：ＹＥＳ）、データ設定処理を実行する（ステップＳＤ８０２）。データ設定処理では、第２特図保留エリア４５３に第２特図側の保留情報が記憶されている場合、第１特図保留エリア４５２に当該第２特図側の保留情報よりも先に取得された第１特図側の保留情報が取得されているか否かに関係なく、第２特図保留エリア４５３の第１エリア４５３ａに記憶されている第２特図側の保留情報を遊技回の実行対象とすべく特図用の実行エリア４５４に移動させる。これにより、第２特図側の保留情報を第１特図側の保留情報よりも当否判定処理の実行契機として優先させることが可能となるとともに、遊技回の実行契機として優先させることが可能となる。
【２７６６】
第２特図保留エリア４５３の第１エリア４５３ａに記憶されている第２特図側の保留情報を特図用の実行エリア４５４に移動させた場合、その後に第２特図保留エリア４５３に格納された第２特図側の保留情報をシフトさせる処理を実行する。このデータシフト処理は、第１～第４エリア４５３ａ～４５３ｄに格納されているデータを下位エリア側に順にシフトさせる。具体的には、第２エリア４５３ｂ→第１エリア４５３ａ、第３エリア４５３ｃ→第２エリア４５３ｂ、第４エリア４５３ｄ→第３エリア４５３ｃといった具合に各エリア内のデータをシフトするとともに第４エリア４５３ｄを「０」クリアする。また、データ設定処理では、第２特図側の保留情報の個数が今回減少したことに合わせて第２特図保留表示部４２８の表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。また、データ設定処理では、保留減少コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。これにより、図柄表示装置４２４における第２特図側の保留情報の保留記憶数を報知するための画像が第２特図側の保留情報の減少に対応させて更新される。
【２７６７】
一方、データ設定処理では、第２特図保留エリア４５３に第２特図側の保留情報が記憶されていない場合、第１特図保留エリア４５２の第１エリア４５２ａに格納されたデータを特図用の実行エリア４５４に移動する。その後、第１特図保留エリア４５２に格納されたデータをシフトさせる処理を実行する。このデータシフト処理は、第１～第４エリア４５２ａ～４５２ｄに格納されているデータを下位エリア側に順にシフトさせる。具体的には、第２エリア４５２ｂ→第１エリア４５２ａ、第３エリア４５２ｃ→第２エリア４５２ｂ、第４エリア４５２ｄ→第３エリア４５２ｃといった具合に各エリア内のデータをシフトするとともに第４エリア４５２ｄを「０」クリアする。また、データ設定処理では、第１特図側の保留情報の個数が今回減少したことに合わせて第１特図保留表示部４２７の表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。また、データ設定処理では、保留減少コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。これにより、図柄表示装置４２４における第１特図側の保留情報の保留記憶数を報知するための画像が第１特図側の保留情報の減少に対応させて更新される。
【２７６８】
データ設定処理を実行した後は当否判定処理を実行する（ステップＳＤ８０３）。当否判定処理では、特図用の実行エリア４５４に第１特図側の保留情報が格納されており今回の遊技回が第１特図側の保留情報を契機としている場合には、現状のパチンコ機１０の設定値に対応する第１特図の当否テーブル４６１（図２１５（ａ）参照）を主側ＲＯＭ６４から読み出す。そして、今回の遊技回の開始契機となった第１特図側の保留情報のうち当

たり乱数カウンタＣ１についての数値情報を読み出し、その読み出した数値情報を上記第１特図の当否テーブル４６１に対して照合することで今回の当否判定処理の結果が大当たり結果及び外れ結果のいずれであるのかを特定する。

【２７６９】

一方、当否判定処理では、特図用の実行エリア４５４に第２特図側の保留情報が格納されており今回の遊技回が第２特図側の保留情報を契機としている場合には、現状のパチンコ機１０の設定値に対応する第２特図の当否テーブル４６２（図２１５（ｂ）参照）を主側ＲＯＭ６４から読み出す。そして、今回の遊技回の開始契機となった第２特図側の保留情報のうち当たり乱数カウンタＣ１についての数値情報を読み出し、その読み出した数値情報を上記第２特図の当否テーブル４６２に対して照合することで今回の当否判定処理の結果が大当たり結果、小当たり結果及び外れ結果のいずれであるのかを特定する。

【２７７０】

当否判定処理の結果が大当たり結果である場合（ステップＳＤ８０４：ＹＥＳ）、大当たり時の種別判定処理を実行する（ステップＳＤ８０５）。大当たり時の種別判定処理では、図２１６（ａ）に示す大当たり用の種別テーブル４６３を主側ＲＯＭ６４から読み出す。また、第１特図側の保留情報が今回の遊技回の契機である場合には当該第１特図側の保留情報のうち種別カウンタＣ２についての数値情報を読み出し、第２特図側の保留情報が今回の遊技回の契機である場合には当該第２特図側の保留情報のうち種別カウンタＣ２についての数値情報を読み出す。そして、その読み出した種別カウンタＣ２についての数値情報が上記大当たり用の種別テーブル４６３において設定されている６Ｒ大当たり結果及び１５Ｒ大当たり結果のうちいずれの種類の大当たり結果の数値範囲に対応しているのかを特定する。

【２７７１】

大当たり時の種別判定処理を実行した後は、当該種別判定処理にて特定した大当たり結果の種類に対応する主側ＲＡＭ６５のフラグに「１」をセットする（ステップＳＤ８０６）。この「１」がセットされたフラグの状態は、開閉実行モードが終了する場合に「０」クリアされる。

【２７７２】

その後、大当たり結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップＳＤ８０７）。具体的には、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のうち遊技回の実行対象となっている側に今回の遊技回において最終的に停止表示させる絵柄の停止態様の情報を、主側ＲＯＭ６４に予め記憶されている大当たり結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側ＲＡＭ６５に記憶する。この大当たり結果用の停止結果テーブルには、第１特図表示部４２５又は第２特図表示部４２６に停止表示される絵柄の停止態様の種類が、大当たり結果の種類毎に相違させて設定されており、ステップＳＤ８０７では、ステップＳＤ８０５にて特定した大当たり結果の種類に応じた絵柄の停止態様の情報を主側ＲＡＭ６５に記憶する。なお、各大当たり結果に１対１で対応させて絵柄の停止態様が設定されていてもよく、少なくとも一部の大当たり結果に対して複数種類の絵柄の停止態様が設定されていてもよい。複数種類の絵柄の停止態様が設定されている大当たり結果について停止結果を選択する方法は任意であるが、例えば種別カウンタＣ２の値に応じて停止結果が選択される構成としてもよい。

【２７７３】

当否判定処理の結果が小当たり結果である場合（ステップＳＤ８０８：ＹＥＳ）、小当たり時の種別判定処理を実行する（ステップＳＤ８０９）。なお、既に説明したとおり第１特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行された場合には小当たり結果が選択されることはなく、第２特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行された場合に小当たり結果が選択され得る。小当たり時の種別判定処理では、図２１６（ｃ）に示す小当たり用の種別テーブル４６４を主側ＲＯＭ６４から読み出す。また、今回の遊技回の契機となっている第２特図側の保留情報のうち種別カウンタＣ２についての数値情報を読み出す。そして、その読み出した種別カウンタＣ２についての数値情報が上記小当たり用の種別テー

ブル４６４において設定されている第１小当たり結果、第２小当たり結果及び第３小当たり結果のうちいずれの種類の小当たり結果の数値範囲に対応しているのかを特定する。

【２７７４】

小当たり時の種別判定処理を実行した後は、当該種別判定処理にて特定した小当たり結果の種類に対応する主側ＲＡＭ６５のフラグに「１」をセットする（ステップＳＤ８１０）。この「１」がセットされたフラグの状態は、振分実行モードの終了後に開閉実行モードが発生しない場合には振分実行モードが終了する場合に「０」クリアされ、振分実行モードの終了後に開閉実行モードが発生する場合には開閉実行モードが終了する場合に「０」クリアされる。

【２７７５】

その後、小当たり結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップＳＤ８１１）。具体的には、第２特図表示部４２６に今回の遊技回において最終的に停止表示させる絵柄の停止態様の情報を、主側ＲＯＭ６４に予め記憶されている小当たり結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側ＲＡＭ６５に記憶する。この小当たり結果用の停止結果テーブルには、第２特図表示部４２６に停止表示される絵柄の停止態様の種類が、小当たり結果の種類毎に相違させて設定されており、ステップＳＤ８１１では、ステップＳＤ８０９にて特定した小当たり結果の種類に応じた絵柄の停止態様の情報を主側ＲＡＭ６５に記憶する。この場合に選択される絵柄の態様の情報は、大当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっている。なお、各小当たり結果に１対１で対応させて絵柄の停止態様が設定されていてもよく、少なくとも一部の小当たり結果に対して複数種類の絵柄の停止態様が設定されていてもよい。複数種類の絵柄の停止態様が設定されている小当たり結果について停止結果を選択する方法は任意であるが、例えば種別カウンタＣ２の値に応じて停止結果が選択される構成としてもよい。

【２７７６】

当否判定処理の結果が大当たり結果及び小当たり結果のいずれでもない場合（ステップＳＤ８０４及びステップＳＤ８０８：ＮＯ）、外れ結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップＳＤ８１２）。具体的には、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のうち遊技回の実行対象となっている側に今回の遊技回において最終的に停止表示させる絵柄の停止態様の情報を、主側ＲＯＭ６４に予め記憶されている外れ結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側ＲＡＭ６５に記憶する。この場合に選択される絵柄の態様の情報は、大当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報及び小当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっている。

【２７７７】

いずれかの停止結果設定処理を実行した後は、表示継続期間の把握処理を実行する（ステップＳＤ８１３）。かかる処理では、変動種別カウンタＣＳの数値情報を取得する。また、今回の遊技回において図柄表示装置４２４にてリーチ表示が発生するか否かを判定する。具体的には、今回の変動開始に係る遊技回がいずれかの大当たり結果又はいずれかの小当たり結果である場合には、リーチ表示が発生すると判定する。また、いずれの大当たり結果及びいずれの小当たり結果でもない場合であっても、特図用の実行エリア４５４に格納されているリーチ乱数カウンタＣ３に係る数値情報がリーチ発生に対応した数値情報である場合には、リーチ表示が発生すると判定する。

【２７７８】

リーチ表示が発生すると判定した場合には、主側ＲＯＭ６４に記憶されているリーチ発生用継続期間テーブルを参照して、今回の変動種別カウンタＣＳの数値情報に対応した遊技回の表示継続期間を取得する。一方、リーチ表示が発生しないと判定した場合には、主側ＲＯＭ６４に記憶されているリーチ非発生用継続期間テーブルを参照して、今回の変動種別カウンタＣＳの数値情報に対応した遊技回の表示継続期間を取得する。ちなみに、リーチ非発生用継続期間テーブルを参照して取得され得る遊技回の表示継続期間は、リーチ発生用継続期間テーブルを参照して取得され得る遊技回の表示継続期間と異なっている。

【２７７９】

その後、今回の当否判定処理及び種別判定処理の結果、現状のサポートモードの種類、並びにステップＳＤ８１３の処理結果に対応する変動用コマンド及び種別コマンドを主側ＲＯＭ６４から選択する（ステップＳＤ８１４）。そして、その選択した変動用コマンド及び種別コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＤ８１５）。音声発光制御装置８１は、受信した変動用コマンド及び種別コマンドに対応する遊技回用の演出が実行されるようにするための制御を実行する。

【２７８０】

その後、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のうち今回の遊技回の実行対象となっている側における絵柄の変動表示を開始させる（ステップＳＤ８１６）。第１特図表示部４２５又は第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示を行わせる場合に主側ＣＰＵ６３に参照されるテーブルとして、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６に対して共通となる特図用の変動表示テーブルが主側ＲＯＭ６４に予め記憶されている。第１特図表示部４２５又は第２特図表示部４２６において絵柄の変動表示が実行される場合には、当否判定処理の結果及び種別判定処理の結果に関係なく同一の変動表示テーブルが使用される。第１特図表示部４２５又は第２特図表示部４２６において絵柄の変動表示が行われる場合、所定のパターンによる絵柄の変動表示が繰り返されることとなるが、特図用の変動表示テーブルにはその所定のパターンによる絵柄の変動表示における１周分の制御データが設定されている。したがって、第１特図表示部４２５又は第２特図表示部４２６において絵柄の変動表示が行われる場合、ステップＳＤ８１３にて決定した遊技回の表示継続期間が経過するまで特図用の変動表示テーブルが繰り返し使用されることとなる。

【２７８１】

なお、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６における絵柄の変動表示の内容は任意であり、例えば全ての表示用セグメント４２５ａ，４２６ａが所定の順序で発光状態となることで絵柄の変動表示が行われる構成としてもよく、２個又は３個といったように一部の表示用セグメント４２５ａ，４２６ａが所定の順序で発光状態となることで絵柄の変動表示が行われる構成としてもよく、全ての表示用セグメント４２５ａ，４２６ａが点滅することで絵柄の変動表示が行われる構成としてもよく、１個又は２個といった一部の表示用セグメント４２５ａ，４２６ａが点滅することで絵柄の変動表示が行われる構成としてもよい。

【２７８２】

その後、特別表示部４２９の消灯処理を実行する（ステップＳＤ８１７）。特別表示部４２９においては、開閉実行モードが発生した場合に当該開閉実行モードにおいて発生するラウンド遊技の回数に対応する情報が表示される。つまり、６Ｒ大当たり結果となったことを契機として開閉実行モードが発生する場合には当該開閉実行モードが開始される場合に特別表示部４２９にて６回のラウンド遊技に対応する表示が行われる。また、１５Ｒ大当たり結果となったことを契機として開閉実行モードが発生する場合には当該開閉実行モードが開始される場合に特別表示部４２９にて１５回のラウンド遊技に対応する表示が行われる。また、第１小当たり結果を契機とした振分実行モードにてＶ入賞が発生したことで開閉実行モードが発生する場合には当該開閉実行モードが開始される場合に特別表示部４２９にて５回のラウンド遊技に対応する表示が行われる。また、第２小当たり結果を契機とした振分実行モードにてＶ入賞が発生したことで開閉実行モードが発生する場合には当該開閉実行モードが開始される場合に特別表示部４２９にて８回のラウンド遊技に対応する表示が行われる。また、第３小当たり結果を契機とした振分実行モードにてＶ入賞が発生したことで開閉実行モードが発生する場合には当該開閉実行モードが開始される場合に特別表示部４２９にて１４回のラウンド遊技に対応する表示が行われる。上記構成において特図変動開始処理のステップＳＤ８１７にて特別表示部４２９の消灯処理が実行されることにより、開閉実行モードが開始される場合に開始された特別表示部４２９におけるラウンド遊技の回数に対応する表示は当該開閉実行モードが終了した後において新たな遊技回が開始される場合に終了される。そして、特別表示部４２９は開閉実行モードが新たに発生するまで消灯状態に維持される。

【２７８３】
その後、特図特電カウンタの値を１加算する（ステップＳＤ８１８）。特図変動開始処理が実行される場合における特図特電カウンタの値は「０」であるため、１加算されることでその加算対象となった特図特電カウンタの値は特図変動中処理（ステップＳＤ７０６）に対応する「１」となる。
【２７８４】
＜特図変動中処理＞
次に、特図特電制御処理（図２１８）のステップＳＤ７０６にて実行される特図変動中処理について説明する。
【２７８５】
今回の遊技回の表示継続期間が経過していない場合であって、今回の遊技回の実行対象となっている特図表示部４２５，４２６の表示内容の更新タイミングである場合、特図用の変動表示テーブルを参照することにより特図表示部４２５，４２６の表示内容を更新するためのデータ設定を行う。これにより、今回の遊技回の実行対象となっている特図表示部４２５，４２６における絵柄の表示内容が次の順番の表示内容に更新される。なお、主側ＲＡＭ６５には第１特図表示部４２５において絵柄の更新タイミングとなった場合に絵柄の表示内容を特図用の変動表示テーブルから導出するために参照される第１表示順序カウンタが設けられている。また、主側ＲＡＭ６５には第２特図表示部４２６において絵柄の更新タイミングとなった場合に絵柄の表示内容を特図用の変動表示テーブルから導出するために参照される第２表示順序カウンタが設けられている。
【２７８６】
特図表示部４２５，４２６における絵柄の変動表示の開始時の態様、及び絵柄の変動表示の更新態様は、当否判定処理の結果及び種別判定処理の結果に関係なく一定の態様で行われるとともに、図柄表示装置４２４における遊技回用の演出の内容に関係なく一定の態様で行われる。例えば、所定の複数回の更新タイミングが発生することで絵柄の表示内容が１周するとともに表示順序が一定の順序である表示パターンが繰り返し行われ、遊技回の表示継続期間が経過した場合には当該表示パターンのいずれの順序の表示が行われている状況であっても、その遊技回の開始時に決定された停止結果が表示される。これにより、特図表示部４２５，４２６を表示制御するための処理構成の簡素化を図ることが可能となる。
【２７８７】
一方、遊技回の表示継続期間が経過している場合、遊技回の開始時に主側ＲＡＭ６５に記憶された特図表示部４２５，４２６の絵柄の停止態様の情報を読み出すとともにその絵柄の停止態様となるように今回の遊技回の実行対象となっている特図表示部４２５，４２６を表示制御する。これにより、今回の遊技回の実行対象となっている特図表示部４２５，４２６において今回の遊技回の当否判定処理の結果及び種別判定処理の結果に対応する絵柄が表示された状態で絵柄の変動表示が停止される。特図表示部４２５，４２６において停止表示された絵柄の態様は、振分実行モード及び開閉実行モードであるか否かに関係なく、その特図表示部４２５，４２６における次回の絵柄の変動表示が開始されるまで維持される。また、主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタに最終停止期間（例えば０．５ｓｅｃ）の情報をセットする。これにより、最終停止期間の計測が開始される。
【２７８８】
その後、最終停止コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１は、主側ＣＰＵ６３から最終停止コマンドを受信した場合、表示制御装置８２に最終停止コマンドを送信する。表示制御装置８２は、音声発光制御装置８１から最終停止コマンドを受信した場合、今回の遊技回における停止図柄の組合せを最終停止期間に亘って停止表示させるための表示パターンテーブルを読み出す。これにより、図柄表示装置４２４において今回の遊技回に対応する停止図柄の組合せが最終停止期間に亘って停止表示されることとなる。
【２７８９】

その後、特図特電カウンタの値を１加算する。特図変動中処理が実行される場合における特図特電カウンタの値は「１」であるため、１加算されることで特図特電カウンタの値は特図確定中処理（ステップＳＤ７０７）に対応する「２」となる。

【２７９０】

＜特図確定中処理＞

次に、特図特電制御処理（図２１８）のステップＳＤ７０７にて実行される特図確定中処理について、図２２０のフローチャートを参照しながら説明する。なお、特図確定中処理におけるステップＳＤ９０１～ステップＳＤ９１５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２７９１】

最終停止期間が経過している場合であって今回の遊技回が大当たり結果に対応している場合（ステップＳＤ９０１及びステップＳＤ９０２：ＹＥＳ）、特別表示部４２９の表示開始処理を実行する（ステップＳＤ９０３）。特別表示部４２９の表示開始処理では、今回の大当たり結果が６Ｒ大当たり結果である場合には６回のラウンド遊技に対応する表示が開始されるように特別表示部４２９を表示制御するためのデータ設定を行う。また、特別表示部４２９の表示開始処理では、今回の大当たり結果が１５Ｒ大当たり結果である場合には１５回のラウンド遊技に対応する表示が開始されるように特別表示部４２９を表示制御するためのデータ設定を行う。その後、特図特電カウンタの値を３加算する（ステップＳＤ９０４）。特図確定中処理が実行される場合における特図特電カウンタの値が「２」であるため、３加算されることでその加算対象となった特図特電カウンタの値は特電開始処理（ステップＳＤ７１０）に対応する「５」となる。

【２７９２】

最終停止期間が経過している場合であって今回の遊技回が大当たり結果に対応していない場合（ステップＳＤ９０１：ＹＥＳ、ステップＳＤ９０２：ＮＯ）、主側ＲＡＭ６５に設けられたサポートフラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＤ９０５）。サポートフラグは高頻度サポートモードである場合に「１」がセットされ、低頻度サポートモードである場合に「０」となるフラグである。したがって、ステップＳＤ９０５ではサポートモードが高頻度サポートモードであるか否かを判定していることになる。

【２７９３】

高頻度サポートモードでありサポートフラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＤ９０５：ＹＥＳ）、今回終了した遊技回が第２特図側の保留情報を契機とした遊技回であるか否かを判定する（ステップＳＤ９０６）。今回終了した遊技回が第２特図側の保留情報を契機とした遊技回である場合（ステップＳＤ９０６：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５に設けられた第２特図用カウンタの値を１減算するとともに（ステップＳＤ９０７）、主側ＲＡＭ６５に設けられた合計用カウンタの値を１減算する（ステップＳＤ９０８）。一方、今回終了した遊技回が第１特図側の保留情報を契機とした遊技回である場合（ステップＳＤ９０６：ＮＯ）、主側ＲＡＭ６５に設けられた第１特図用カウンタの値を１減算するとともに（ステップＳＤ９０９）、主側ＲＡＭ６５の合計用カウンタの値を１減算する（ステップＳＤ９１０）。ステップＳＤ９０８又はステップＳＤ９１０の処理を実行した後は、第１特図用カウンタ、第２特図用カウンタ及び合計用カウンタのいずれかの値が「０」となっているか否かを判定する（ステップＳＤ９１１）。ステップＳＤ９１１にて肯定判定をした場合、主側ＲＡＭ６５のサポートフラグを「０」クリアする（ステップＳＤ９１２）。これにより、サポートモードが高頻度サポートモードから低頻度サポートモードに移行する。

【２７９４】

既に説明したとおり開閉実行モードが終了した場合にはサポートモードが高頻度サポートモードとなる。この高頻度サポートモードは開閉実行モードが終了した後における遊技回の実行回数が終了基準回数となった場合に終了し低頻度サポートモードに移行する。第１特図用カウンタ、第２特図用カウンタ及び合計用カウンタはいずれも上記終了基準回数

を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。第１特図用カウンタは開閉実行モードが終了した後における第１特図側の保留情報を契機とした遊技回の実行回数を計測するためのカウンタであり、第２特図用カウンタは開閉実行モードが終了した後における第２特図側の保留情報を契機とした遊技回の実行回数を計測するためのカウンタであり、合計用カウンタは開閉実行モードが終了した後における第１特図側の保留情報を契機とした遊技回及び第２特図側の保留情報を契機とした遊技回の合計の実行回数を計測するためのカウンタである。開閉実行モードの発生契機となった大当たり結果又は小当たり結果がいずれの種類であったとしても、第１特図用カウンタ及び合計用カウンタには開閉実行モードが終了する場合に「１００」がセットされる。一方、第２特図用カウンタには、第１特図側の保留情報による６Ｒ大当たり結果を契機とした開閉実行モードである場合には「１」がセットされ、それ以外を契機とした開閉実行モードである場合には「５」がセットされる。

【２７９５】

上記のとおり第１特図側の保留情報を契機とした遊技回が実行された場合には第１特図用カウンタ及び合計用カウンタの値がそれぞれ１減算され、第２特図側の保留情報を契機とした遊技回が実行された場合には第２特図用カウンタ及び合計用カウンタの値がそれぞれ１減算される。そして、第１特図用カウンタ、第２特図用カウンタ及び合計用カウンタのいずれかの値が「０」となった場合には、高頻度サポートモードから低頻度サポートモードに移行する。したがって、高頻度サポートモードは、開閉実行モードが終了した後における第２特図側の保留情報を契機とした遊技回の実行回数が１回若しくは５回となった場合、開閉実行モードが終了した後における第１特図側の保留情報を契機とした遊技回の実行回数が１００回となった場合、又は開閉実行モードが終了した後における第１特図側の保留情報を契機とした遊技回及び第２特図側の保留情報を契機とした遊技回の合計回数が１００回となった場合に終了する。

【２７９６】

但し、高頻度サポートモードにおいては基本的に右側領域ＰＡ３を遊技球が流下するように発射操作が行われる。したがって、高頻度サポートモードは基本的に、開閉実行モードが終了した後における第２特図側の保留情報を契機とした遊技回の実行回数が１回又は５回となった場合に終了することとなる。なお、開閉実行モードが終了した後における第２特図側の保留情報を契機とした遊技回の実行回数が１回となった場合に終了するとは、開閉実行モードが終了した後における最初の第２特図側の保留情報を契機とした遊技回が終了した場合に高頻度サポートモードが終了することである。また、開閉実行モードが終了した後における第２特図側の保留情報を契機とした遊技回の実行回数が５回となった場合に終了するとは、開閉実行モードが終了した後における５回目の第２特図側の保留情報を契機とした遊技回が終了した場合に高頻度サポートモードが終了することである。

【２７９７】

ステップＳＤ９０５にて否定判定をした場合、ステップＳＤ９１１にて否定判定をした場合、又はステップＳＤ９１２の処理を実行した場合、今回の遊技回が小当たり結果に対応しているか否かを判定する（ステップＳＤ９１３）。今回の遊技回が小当たり結果に対応していない場合（ステップＳＤ９１３：ＮＯ）、特図特電カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳＤ９１４）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップＳＤ７０５）に対応する「０」となる。一方、今回の遊技回が小当たり結果に対応している場合（ステップＳＤ９１３：ＹＥＳ）、特図特電カウンタの値を１加算する（ステップＳＤ９１５）。特図確定中処理が実行される場合における特図特電カウンタの値が「２」であるため、１加算されることでその加算対象となった特図特電カウンタの値は振分開始用処理（ステップＳＤ７０８）に対応する「３」となる。

【２７９８】

＜振分開始用処理＞

次に、特図特電制御処理（図２１８）のステップＳＤ７０８にて実行される振分開始用処理について説明する。

【２７９９】
まず振分開始コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１は、主側ＣＰＵ６３から振分開始コマンドを受信した場合、振分実行モード中であることを示す演出が実行されるように表示発光部５３の発光制御及びスピーカ部５４の音出力制御を実行する。また、音声発光制御装置８１は表示制御装置８２に振分開始コマンドを送信する。表示制御装置８２は音声発光制御装置８１から振分開始コマンドを受信した場合、振分実行モードが開始されたことを示す表示演出が実行された後に、振分実行モード中であることを示す表示演出が実行されるように図柄表示装置４２４を表示制御する。
【２８００】
その後、主側ＲＡＭ６５に設けられた振分入賞カウンタに「１０」をセットする。振分入賞カウンタは、振分実行モードにおいて開放状態となっている振分入賞装置４１５に入球した遊技球の個数との関係で当該振分入賞装置４１５を開放状態から閉鎖状態に切り換える契機を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。また、振分開放期間のセット処理を実行する。振分開放期間のセット処理では、振分入賞装置４１５が開放状態に維持される期間が振分開放期間である１０秒となるように当該１０秒に対応する情報を主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタにセットする。そして、振分入賞装置４１５を開放状態とするために振分入口用の駆動部４４３への駆動信号の出力を開始する。
【２８０１】
その後、特図特電カウンタの値を１加算する。振分開始用処理が実行される場合における特図特電カウンタの値は「３」であるため、１加算されることで特図特電カウンタの値は振分用処理（ステップＳＤ７０９）に対応する「４」となる。
【２８０２】
＜振分用処理＞
次に、特図特電制御処理（図２１８）のステップＳＤ７０９にて実行される振分用処理について、図２２１のフローチャートを参照しながら説明する。なお、振分用処理におけるステップＳＥ１０１～ステップＳＥ１１８の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【２８０３】
まず振分入賞装置４１５の切換片４４６を退避位置からＶ誘導位置に切り換えるタイミングとなったか否かを判定する（ステップＳＥ１０１）。振分入賞装置４１５が開放状態となってから２秒経過した場合にステップＳＥ１０１にて肯定判定をする。ステップＳＥ１０１にて肯定判定をした場合、切換片４４６が退避位置からＶ誘導位置に移動するように切換用駆動部４４７に駆動信号を出力する（ステップＳＥ１０２）。これにより、切換片４４６がＶ誘導位置に配置され、その後に切換片４４６の位置に到達した遊技球は切換片４４６によってＶ入賞通路領域４４５ｃに誘導されてＶ入賞検知センサ４４９にて検知される。
【２８０４】
振分入賞装置４１５のＶ入賞検知センサ４４９にて遊技球が検知されている場合（ステップＳＥ１０３：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５に設けられたＶ入賞フラグに「１」をセットする（ステップＳＥ１０４）。Ｖ入賞フラグは、Ｖ入賞検知センサ４４９にて遊技球が検知されたことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。また、Ｖ入賞コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＥ１０５）。音声発光制御装置８１は主側ＣＰＵ６３からＶ入賞コマンドを受信した場合、Ｖ入賞検知センサ４４９にて遊技球が検知されたことに対応する演出が実行されるように表示発光部５３の発光制御及びスピーカ部５４の音出力制御を実行する。また、音声発光制御装置８１は表示制御装置８２にＶ入賞コマンドを送信する。表示制御装置８２は、音声発光制御装置８１からＶ入賞コマンドを受信した場合、Ｖ入賞検知センサ４４９にて遊技球が検知されたことを示す表示演出が実行されるように図柄表示装置４２４を表示制御する。
【２８０５】
振分入賞装置４１５が開放状態である状況において、主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタ

を利用して計測している振分開放期間が経過したか否かを判定する（ステップＳＥ１０６）。振分開放期間が経過していない場合（ステップＳＥ１０６：ＮＯ）、振分入賞装置４１５のカウント検知センサ４４８又はＶ入賞検知センサ４４９にて遊技球が検知されたか否かを判定することで振分入賞装置４１５への入賞が発生したか否かを判定する（ステップＳＥ１０７）。振分入賞装置４１５への入賞が発生している場合（ステップＳＥ１０７：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５の振分入賞カウンタの値を１減算する（ステップＳＥ１０８）。そして、その１減算後における振分入賞カウンタの値が「０」であるか否かを判定する（ステップＳＥ１０９）。

【２８０６】

ステップＳＥ１０６にて肯定判定をした場合、又はステップＳＥ１０９にて肯定判定をした場合、振分入賞装置４１５の閉鎖条件が成立しているため、振分入口用の駆動部４４３への駆動信号の出力を停止することで振分入賞装置４１５を閉鎖状態とする（ステップＳＥ１１０）。その後、振分入賞装置４１５内に確実に遊技球が存在しなくなるまで振分実行モードの終了を待機するために、主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタに待機期間に対応する情報をセットする（ステップＳＥ１１１）。待機期間は、振分入賞装置４１５に入球した遊技球がカウント検知センサ４４８及びＶ入賞検知センサ４４９のいずれかに検知されるまでに要する最長期間よりも長い期間として設定されている。具体的には４秒に設定されている。このように待機期間が経過するまで振分実行モードの終了を待機することで、振分入賞装置４１５を閉鎖状態とする直前に当該振分入賞装置４１５に入球した遊技球が仮にＶ入賞検知センサ４４９にて検知された場合にそれを有効なものとして扱うことが可能となる。

【２８０７】

主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタにて計測している待機期間が経過している場合（ステップＳＥ１１２：ＹＥＳ）、切換片４４６がＶ誘導位置から退避位置に復帰するように切換用駆動部４４７への駆動信号の出力を停止する（ステップＳＥ１１３）。これにより、切換片４４６が退避位置に復帰する。

【２８０８】

その後、主側ＲＡＭ６５のＶ入賞フラグに「１」がセットされているか否かを判定することで、今回の振分実行モードにおいてＶ入賞検知センサ４４９にて遊技球が検知されたか否かを判定する（ステップＳＥ１１４）。Ｖ入賞フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＥ１１４：ＹＥＳ）、特別表示部４２９の表示開始処理を実行する（ステップＳＥ１１５）。特別表示部４２９の表示開始処理では、今回の振分実行モードが第１小当たり結果を契機としている場合には５回のラウンド遊技に対応する表示が開始されるように特別表示部４２９を表示制御するためのデータ設定を行う。また、特別表示部４２９の表示開始処理では、今回の振分実行モードが第２小当たり結果を契機としている場合には８回のラウンド遊技に対応する表示が開始されるように特別表示部４２９を表示制御するためのデータ設定を行う。また、特別表示部４２９の表示開始処理では、今回の振分実行モードが第３小当たり結果を契機としている場合には１４回のラウンド遊技に対応する表示が開始されるように特別表示部４２９を表示制御するためのデータ設定を行う。その後、特図特電カウンタの値を１加算する（ステップＳＥ１１６）。振分用処理が実行される場合における特図特電カウンタの値が「４」であるため、１加算されることでその加算対象となった特図特電カウンタの値は特電開始処理（ステップＳＤ７１０）に対応する「５」となる。なお、ステップＳＥ１１４にて肯定判定をした場合にはＶ入賞フラグを「０」クリアする。

【２８０９】

Ｖ入賞フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＥ１１４：ＮＯ）、フラグクリア処理を実行する（ステップＳＥ１１７）。フラグクリア処理では、小当たり結果の種類を特定するためのフラグなどを「０」クリアする。その後、特図特電カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳＥ１１８）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップＳＤ７０５）に対応する「０」となる。

【２８１０】
＜特電開始処理＞
次に、特図特電制御処理（図２１８）のステップＳＤ７１０にて実行される特電開始処理について説明する。
【２８１１】
特電開始処理では、オープニング期間の開始前であればオープニング期間（例えば４秒）の計測を開始するとともにオープニングコマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１はオープニングコマンドを受信した場合、オープニング演出が実行されるように表示発光部５３の発光制御及びスピーカ部５４の音出力制御を実行する。また、音声発光制御装置８１はオープニングコマンドを表示制御装置８２に送信する。表示制御装置８２はオープニングコマンドを受信した場合、オープニング演出が実行されるように図柄表示装置４２４の表示制御を実行する。
【２８１２】
特電開始処理では、オープニング期間が経過した場合、主側ＲＡＭ６５に設けられたラウンドカウンタに今回の開閉実行モードのラウンド遊技の実行回数に対応する情報をセットする。ラウンドカウンタは、開閉実行モードにおいて残りのラウンド遊技の回数を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタであり、ラウンド遊技が１回実行される度にラウンドカウンタの値が１減算される。また、主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタにラウンド遊技の開放継続期間の情報（具体的には２９秒）をセットするとともに、主側ＲＡＭ６５に設けられた入賞カウンタに１回のラウンド遊技における特電入賞装置４１６への上限入賞個数に対応する情報（具体的には「１０」）をセットする。そして、特電用の開放設定処理を実行する。当該開放設定処理では、特電入賞装置４１６が開放状態となるように特電用の駆動部４１６ｃへの駆動信号の出力を開始する。その後、特図特電カウンタの値を１加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特電開放中処理（ステップＳＤ７１１）に対応する「６」となる。
【２８１３】
＜特電開放中処理＞
次に、特図特電制御処理（図２１８）のステップＳＤ７１１にて実行される特電開放中処理について説明する。
【２８１４】
特電開放中処理では、特電入賞装置４１６の開放継続期間が経過している場合又は特電入賞装置４１６に上限入賞個数の遊技球の入賞が発生している場合、閉鎖設定処理を実行する。当該閉鎖設定処理では、特電入賞装置４１６が閉鎖状態となるように特電用の駆動部４１６ｃへの駆動信号の出力を停止する。その後、主側ＲＡＭ６５のラウンドカウンタの値を１減算する。
【２８１５】
１減算後におけるラウンドカウンタの値が「０」ではない場合、閉鎖継続期間に対応する情報（具体的には２秒）を主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタにセットする。その後、特図特電カウンタの値を１加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特電閉鎖中処理（ステップＳＤ７１２）に対応する「７」となる。
【２８１６】
１減算後におけるラウンドカウンタの値が「０」である場合、エンディング期間に対応する情報（具体的には１０秒）を主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタにセットする。また、エンディングコマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１はエンディングコマンドを受信した場合、エンディング演出が実行されるように表示発光部５３の発光制御及びスピーカ部５４の音出力制御を実行する。また、音声発光制御装置８１はエンディングコマンドを表示制御装置８２に送信する。表示制御装置８２はエンディングコマンドを受信した場合、エンディング演出が実行されるように図柄表示装置４２４の表示制御を実行する。その後、特図特電カウンタの値を２加算する。これにより、特図特電カウンタの値は特電終了処理（ステップＳＤ７１３）に対応する「８」となる。

【２８１７】
＜特電閉鎖中処理＞
次に、特図特電制御処理（図２１８）のステップＳＤ７１２にて実行される特電閉鎖中処理について説明する。
【２８１８】
閉鎖継続期間が経過している場合、主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタにラウンド遊技の開放継続期間の情報（具体的には２９秒）をセットするとともに、主側ＲＡＭ６５の入賞カウンタに１回のラウンド遊技における特電入賞装置４１６への上限入賞個数に対応する情報（具体的には「１０」）をセットする。そして、特電用の開放設定処理を実行することで特電入賞装置４１６を開放状態とする。その後、特図特電カウンタの値を１減算する。これにより、特図特電カウンタの値は特電開放中処理（ステップＳＤ７１１）に対応する「６」となる。
【２８１９】
＜特電終了処理＞
次に、特図特電制御処理（図２１８）のステップＳＤ７１３にて実行される特電終了処理について、図２２２のフローチャートを参照しながら説明する。なお、特電終了処理におけるステップＳＥ２０１～ステップＳＥ２０９の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【２８２０】
エンディング期間が経過している場合（ステップＳＥ２０１：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５の合計用カウンタに「１００」をセットするとともに（ステップＳＥ２０２）、主側ＲＡＭ６５の第１特図用カウンタに「１００」をセットする（ステップＳＥ２０３）。その後、今回の開閉実行モードが第２特図側の保留情報を契機としているか否かを判定する（ステップＳＥ２０４）。また、今回の開閉実行モードが第１特図側の保留情報を契機としている場合には（ステップＳＥ２０４：ＮＯ）、今回の開閉実行モードが１５Ｒ大当たり結果を契機としているか否かを判定する（ステップＳＥ２０５）。ステップＳＥ２０４又はステップＳＥ２０５にて肯定判定をした場合には主側ＲＡＭ６５の第２特図用カウンタに「５」をセットし（ステップＳＥ２０６）、ステップＳＥ２０４及びステップＳＥ２０５の両方にて否定判定をした場合には主側ＲＡＭ６５の第２特図用カウンタに「１」をセットする（ステップＳＥ２０７）。上記ステップＳＥ２０２～ステップＳＥ２０７の処理により開閉実行モードが終了した後における高頻度サポートモードの終了条件が設定される。
【２８２１】
ステップＳＥ２０６又はステップＳＥ２０７の処理を実行した場合、主側ＲＡＭ６５のサポートフラグに「１」をセットする（ステップＳＥ２０８）。これにより、開閉実行モードが終了した後のサポートモードが高頻度サポートモードとなる。その後、特図特電カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳＥ２０９）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップＳＤ７０５）に対応する「０」となる。
【２８２２】
＜設定関連処理の実行中であることの報知＞
次に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に起動されるメイン処理（図１８５）にて設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）又は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを報知するための構成について説明する。
【２８２３】
図２２３は特定制御用のワークエリア２２１のクリア対象エリア３７１に設けられた各エリアを説明するための説明図である。
【２８２４】
クリア対象エリア３７１には上記第５６の実施形態と同様に、第１表示データバッファ２７１、第２表示データバッファ２７２、第３表示データバッファ２７３、第４表示データバッファ２７４及び第５表示データバッファ２７５が設けられている。また、クリア対

象エリア３７１には第１～第５表示データバッファ２７１～２７５以外にも、第６表示データバッファ４７１、第７表示データバッファ４７２及び第８表示データバッファ４７３が設けられている。

【２８２５】

第１表示データバッファ２７１には第１特図表示部４２５に所定の表示を行わせるための表示データが格納される。特図変動開始処理（図２１９）におけるステップＳＤ８１６にて第１特図表示部４２５において絵柄の変動表示を開始させるための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて第１特図表示部４２５の変動開始時の表示に対応する表示データが第１表示データバッファ２７１に設定される。また、特図特電制御処理（図２１８）における特図変動中処理（ステップＳＤ７０６）にて第１特図表示部４２５の表示内容を更新させるための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて第１特図表示部４２５の絵柄の変動表示を進行させるための表示データが第１表示データバッファ２７１に設定される。また、特図特電制御処理（図２１８）における特図変動中処理（ステップＳＤ７０６）にて第１特図表示部４２５の表示内容を今回の遊技回における当否判定処理（ステップＳＤ８０３）及び大当たり時の種別判定処理（ステップＳＤ８０５）の処理結果に対応する表示内容とするための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて第１特図表示部４２５に今回の遊技回の結果に対応する表示を行わせるための表示データが第１表示データバッファ２７１に設定される。この場合に設定される表示データは今回の遊技回の開始時において特図変動開始処理（図２１９）のステップＳＤ８０７又はステップＳＤ８１２にて選択された表示データとなる。また、この場合に設定された表示データは第１特図表示部４２５にて新たな遊技回を開始させる状況となるまで第１表示データバッファ２７１に記憶保持される。なお、第１特図表示部４２５に対応させて第１表示回路２６１が設けられており、第１表示データバッファ２７１に格納された表示データが第１表示回路２６１に供給されることにより当該表示データに対応する表示が第１特図表示部４２５にて行われる。

【２８２６】

第２表示データバッファ２７２には第１特図保留表示部４２７に所定の表示を行わせるための表示データが格納される。特図特電制御処理（図２１８）における保留情報の取得処理（ステップＳＤ７０１）にて第１特図側の保留情報が第１特図保留エリア４５２に新たに格納された場合には、第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて当該格納後において第１特図保留エリア４５２に格納されている第１特図側の保留情報の数に対応する表示データが第２表示データバッファ２７２に設定される。また、特図変動開始処理（図２１９）におけるデータ設定処理（ステップＳＤ８０２）にて第１特図側の保留情報が遊技回の実行契機として消化された場合には、第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて当該消化後において第１特図保留エリア４５２に格納されている第１特図側の保留情報の数に対応する表示データが第２表示データバッファ２７２に設定される。なお、第１特図保留表示部４２７に対応させて第２表示回路２６２が設けられており、第２表示データバッファ２７２に格納された表示データが第２表示回路２６２に供給されることにより当該表示データに対応する表示が第１特図保留表示部４２７にて行われる。

【２８２７】

第３表示データバッファ２７３には普図表示部４２３ａに所定の表示を行わせるための表示データが格納される。普図普電制御処理（図２１７）の普図変動開始処理（ステップＳＤ６０６）にて普図表示部４２３ａにおける絵柄の変動表示を開始させるための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて普図表示部４２３ａの変動開始時の表示に対応する表示データが第３表示データバッファ２７３に設定される。また、普図普電制御処理（図２１７）の普図変動中処理（ステップＳＤ６０７）にて普図表示部４２３ａの表示内容を更新させるための処理

が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて普図表示部４２３ａの絵柄の変動表示を進行させるための表示データが第３表示データバッファ２７３に設定される。また、普図普電制御処理（図２１７）の普図変動中処理（ステップＳＤ６０７）にて普図表示部４２３ａの表示内容を今回の変動表示回における誘導状態抽選の結果に対応する表示内容とするための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて普図表示部４２３ａに今回の変動表示回の結果に対応する表示を行わせるための表示データが第３表示データバッファ２７３に設定される。この場合に設定された表示データは普図表示部４２３ａにて新たな変動表示回を開始させる状況となるまで第３表示データバッファ２７３に記憶保持される。なお、普図表示部４２３ａに対応させて第３表示回路２６３が設けられており、第３表示データバッファ２７３に格納された表示データが第３表示回路２６３に供給されることにより当該表示データに対応する表示が普図表示部４２３ａにて行われる。

【２８２８】

第４表示データバッファ２７４には普図保留表示部４２３ｂに所定の表示を行わせるための表示データが格納される。普図普電制御処理（図２１７）の普図側の保留情報の取得処理（ステップＳＤ６０１）にて普図側の保留情報が普図保留エリア４５５に新たに格納された場合には、第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて当該格納後において普図保留エリア４５５に格納されている普図側の保留情報の数に対応する表示データが第４表示データバッファ２７４に設定される。また、普図普電制御処理（図２１７）の普図変動開始処理（ステップＳＤ６０６）にて普図側の保留情報が普図表示部４２３ａの変動表示回の実行契機として消化された場合には、第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて当該消化後において普図保留エリア４５５に格納されている普図側の保留情報の数に対応する表示データが第４表示データバッファ２７４に設定される。なお、普図保留表示部４２３ｂに対応させて第４表示回路２６４が設けられており、第４表示データバッファ２７４に格納された表示データが第４表示回路２６４に供給されることにより当該表示データに対応する表示が普図保留表示部４２３ｂにて行われる。

【２８２９】

第５表示データバッファ２７５には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に所定の表示を行わせるための表示データが格納される。当該第５表示データバッファ２７５への表示データの設定は後述する第２タイマ割込み処理（図２２４）におけるステップＳＥ３０３、ステップＳＥ３０７及びステップＳＥ３１０にて実行される。なお、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に対応させて第５表示回路２６５が設けられており、第５表示データバッファ２７５に格納された表示データが第５表示回路２６５に供給されることにより当該表示データに対応する表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。

【２８３０】

第６表示データバッファ４７１には第２特図表示部４２６に所定の表示を行わせるための表示データが格納される。特図変動開始処理（図２１９）におけるステップＳＤ８１６にて第２特図表示部４２６において絵柄の変動表示を開始させるための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて第２特図表示部４２６の変動開始時の表示に対応する表示データが第６表示データバッファ４７１に設定される。また、特図特電制御処理（図２１８）における特図変動中処理（ステップＳＤ７０６）にて第２特図表示部４２６の表示内容を更新させるための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて第２特図表示部４２６の絵柄の変動表示を進行させるための表示データが第６表示データバッファ４７１に設定される。また、特図特電制御処理（図２１８）における特図変動中処理（ステップＳＤ７０６）にて第２特図表示部４２６の表示内容を今回の遊技回における当否判定処理（ステップＳＤ８０３）、大当たり時の種別判定処理（

ステップＳＤ８０５）及び小当たり時の種別判定処理（ステップＳＤ８０９）の処理結果に対応する表示内容とするための処理が実行されることで第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて第２特図表示部４２６に今回の遊技回の結果に対応する表示を行わせるための表示データが第６表示データバッファ４７１に設定される。この場合に設定される表示データは今回の遊技回の開始時において特図変動開始処理（図２１９）のステップＳＤ８０７、ステップＳＤ８１１又はステップＳＤ８１２にて選択された表示データとなる。また、この場合に設定された表示データは第２特図表示部４２６にて新たな遊技回を開始させる状況となるまで第６表示データバッファ４７１に記憶保持される。なお、第２特図表示部４２６に対応させて第６表示回路が設けられており、第６表示データバッファ４７１に格納された表示データが第６表示回路に供給されることにより当該表示データに対応する表示が第２特図表示部４２６にて行われる。

【２８３１】

第７表示データバッファ４７２には第２特図保留表示部４２８に所定の表示を行わせるための表示データが格納される。特図特電制御処理（図２１８）における保留情報の取得処理（ステップＳＤ７０１）にて第２特図側の保留情報が第２特図保留エリア４５３に新たに格納された場合には、第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて当該格納後において第２特図保留エリア４５３に格納されている第２特図側の保留情報の数に対応する表示データが第７表示データバッファ４７２に設定される。また、特図変動開始処理（図２１９）におけるデータ設定処理（ステップＳＤ８０２）にて第２特図側の保留情報が遊技回の実行契機として消化された場合には、第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて当該消化後において第２特図保留エリア４５３に格納されている第２特図側の保留情報の数に対応する表示データが第７表示データバッファ４７２に設定される。なお、第２特図保留表示部４２８に対応させて第７表示回路が設けられており、第７表示データバッファ４７２に格納された表示データが第７表示回路に供給されることにより当該表示データに対応する表示が第２特図保留表示部４２８にて行われる。

【２８３２】

第８表示データバッファ４７３には特別表示部４２９に所定の表示を行わせるための表示データが格納される。大当たり結果に対応する遊技回において特図確定中処理（図２２０）における特別表示部４２９の表示開始処理（ステップＳＤ９０３）にてラウンド遊技の回数の情報が設定された場合には、第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にてそのラウンド遊技の回数の情報に対応する表示データが第８表示データバッファ４７３に格納される。また、振分実行モードとなることで振分用処理（図２２１）における特別表示部４２９の表示開始処理（ステップＳＥ１１５）にてラウンド遊技の回数の情報が設定された場合には、第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にてそのラウンド遊技の回数の情報に対応する表示データが第８表示データバッファ４７３に格納される。また、特図変動開始処理（図２１９）にて特別表示部４２９の消灯処理（ステップＳＤ８１７）が実行された場合には、第１タイマ割込み処理（図１３３）における表示制御処理（ステップＳ８９１５）にて第８表示データバッファ４７３の表示データが「０」クリアされる。なお、特別表示部４２９に対応させて第８表示回路が設けられており、第８表示データバッファ４７３に格納された表示データが第８表示回路に供給されることにより当該表示データに対応する表示が特別表示部４２９にて行われる。

【２８３３】

クリア対象エリア３７１に第１～第８表示データバッファ２７１～２７５，４７１～４７３が含まれていることにより、メイン処理（図１８５）の第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＣ２１８）又は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）の第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には第１～第８表示データバッファ２７１～２７５，４７１～４７３に設定されている表示データが「０」クリアされる。なお、クリア対象エリア３７１には、第１～第８表示データバッファ２７１～２７５，４７１～４７３以外にも特図特電制御用の

エリア及び普図普電制御用のエリアが含まれている。したがって、第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前におけるサポートモードに関係なくサポートモードは低頻度サポートモードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部４２３ａが変動表示されていない状況であって第２作動部４１３の誘導ユニット４３２が非誘導状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグ及び設定確認表示フラグが「０」クリアされ、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新用エリア３４２が「０」クリアされる。また、特定制御用のスタックエリア２２２が「０」クリアされるとともに初期設定が実行される。また、主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアされた後に初期設定が実行される。

【２８３４】

図２２４は主側ＣＰＵ６３にて実行される第２タイマ割込み処理を示すフローチャートである。なお、第２タイマ割込み処理におけるステップＳＥ３０１～ステップＳＥ３１７の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。また、第２タイマ割込み処理はメイン処理（図１８５）の設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が開始される場合に割込みが許可されるとともに設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が終了される場合に割込みが禁止される。また、第２タイマ割込み処理はメイン処理（図１８５）の設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が開始される場合に割込みが許可されるとともに設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が終了される場合に割込みが禁止される。また、第２タイマ割込み処理はメイン処理（図１８５）のステップＳＣ２３０にて割込許可の設定が行われてからメイン処理（図１８５）のステップＳＣ２２７にて割込禁止の設定が行われるまで割込みが許可される。これらは第１タイマ割込み処理（図１３３）も同様である。

【２８３５】

まず第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図２２４）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う（ステップＳＥ３０１）。第１タイマ割込み処理（図１３３）の発生が禁止されることにより、第１割込み周期が経過したとしても第２タイマ割込み処理（図２２４）に対して第１タイマ割込み処理（図１３３）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。また、第２タイマ割込み処理（図２２４）の発生が禁止されることにより、第２タイマ割込み処理（図２２４）の実行途中において仮に第２割込み周期が経過してしまったとしても第２タイマ割込み処理（図２２４）が重複して起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【２８３６】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＥ３０２）。設定更新表示フラグは主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）を実行している状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。上記第５６の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図２２４）は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であっても割り込んで起動される。ステップＳＥ３０２にて肯定判定をした場合、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳＥ３０３）。当該設定処理では上記第３３の実施形態と同様に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてパチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示を行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に設定する。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてパチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われる。この表示は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている間は継続される。

【２８３７】

その後、設定更新中における第１表示データバッファ２７１への設定処理を実行する（

ステップＳＥ３０４）。図２２５（ａ）は設定更新中における第１表示データバッファ２７１への設定処理を示すフローチャートである。なお、設定更新中における第１表示データバッファ２７１への設定処理におけるステップＳＥ４０１～ステップＳＥ４０５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２８３８】

当該設定処理では設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況において第１特図表示部４２５にて遊技回が実行されている場合と同様に絵柄の変動表示が行われるようにするための処理を実行する。また、当該設定処理では、この絵柄の変動表示を第１特図表示部４２５にて行わせるために、特図変動中処理（ステップＳＤ７０６）にて利用される特図用の変動表示テーブル及び第１表示順序カウンタを利用する。

【２８３９】

具体的には、まず今回が第１特図表示部４２５の表示内容の更新タイミングとなっているか否かを判定する（ステップＳＥ４０１）。第１特図表示部４２５の絵柄の表示内容を更新する周期は、遊技回において第１特図表示部４２５の絵柄の表示内容が更新される周期と同一となっている。表示内容の更新タイミングである場合（ステップＳＥ４０１：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５の第１表示順序カウンタの値を１加算する（ステップＳＥ４０２）。そして、その１加算後における第１表示順序カウンタの値が最大値（例えば「２０」）を超えた場合には（ステップＳＥ４０３：ＹＥＳ）、第１表示順序カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳＥ４０４）。第１表示順序カウンタは既に説明したとおり第１特図表示部４２５において絵柄の更新タイミングとなった場合に特図用の変動表示テーブルから導出すべき絵柄の表示内容を特定するためのカウンタである。

【２８４０】

ステップＥ４０１にて否定判定をした場合、ステップＳＥ４０３にて否定判定をした場合、又はステップＳＥ４０４の処理を実行した場合、第１表示順序カウンタの現状の値に対応する絵柄の表示内容を特図用の変動表示テーブルから導出し、その導出した絵柄の表示内容に対応する表示データを第１表示データバッファ２７１に設定する（ステップＳＥ４０５）。これにより、当該表示データに対応する絵柄が第１特図表示部４２５にて表示される。

【２８４１】

上記構成であることにより設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては第１特図表示部４２５にて遊技回が実行されている場合と同様に、表示順序が一定の順序である表示パターンによる絵柄の変動表示が第１特図表示部４２５にて繰り返されることとなる。この場合に、当該絵柄の変動表示を行わせるために利用される特図用の変動表示テーブル及び第１表示順序カウンタは第１特図表示部４２５にて遊技回が実行される場合に利用されるものである。これにより、必要な記憶容量の増大化を抑制しながら、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況において第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示を行わせることが可能となる。

【２８４２】

第２タイマ割込み処理（図２２４）の説明に戻り、設定更新中における第１表示データバッファ２７１への設定処理（ステップＳＥ３０４）を実行した後は、設定更新中における第８表示データバッファ４７３への設定処理を実行する（ステップＳＥ３０５）。当該設定処理では特別表示部４２９にて所定の表示を行わせるための表示データを第８表示データバッファ４７３に設定する。具体的には、特図確定中処理（図２２０）における特別表示部４２９の表示開始処理（ステップＳＤ９０３）において１５Ｒ大当たり結果となった場合におけるラウンド遊技の実行回数に対応する表示設定が行われた場合に第８表示データバッファ４７３に設定される表示データと同一の表示データを第８表示データバッファ４７３に設定する。これにより、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては第１特図表示部４２５にて遊技回の場合と同様に絵柄の変動表示が行われるだけではなく、特別表示部４２９にて１５Ｒ大当たり結果となった場合と同様にラ

ウンド遊技の実行回数が１５回であることに対応する表示が行われる。
【２８４３】
ステップＳＥ３０４にて第１表示データバッファ２７１に設定された表示データ及びステップＳＥ３０５にて第８表示データバッファ４７３に設定された表示データは、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が終了する場合に実行される第２ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ３１３）にて「０」クリアされる。これにより、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が終了する場合に、第１特図表示部４２５における絵柄の変動表示及び特別表示部４２９におけるラウンド遊技の実行回数が１５回であることに対応する表示を終了させることが可能となる。その後、メイン処理（図１８５）のステップＳＣ２２６にて表示開始処理（図１９１）が実行されることにより、第１表示データバッファ２７１に特図用の初期表示データが設定される。これにより、上記第５６の実施形態と同様に第１特図表示部４２５にて初期表示が開始される。一方、特別表示部４２９は次回の開閉実行モードが開始されるまで消灯状態に維持される。
【２８４４】
なお、ステップＳＥ３０５にて第８表示データバッファ４７３に設定する表示データはラウンド遊技の実行回数が１５回であることに対応する表示を行わせるための表示データである構成に限定されない。例えば６Ｒ大当たり結果となった場合と同様にラウンド遊技の実行回数が６回であることに対応する表示を行わせるための表示データであってもよく、第１小当たり結果となった場合と同様にラウンド遊技の実行回数が５回であることに対応する表示を行わせるための表示データであってもよく、第２小当たり結果となった場合と同様にラウンド遊技の実行回数が８回であることに対応する表示を行わせるための表示データであってもよく、第３小当たり結果となった場合と同様にラウンド遊技の実行回数が１４回であることに対応する表示を行わせるための表示データであってもよい。これらの場合であっても開閉実行モードが発生する場合に特別表示部４２９に所定の表示を行わせるために利用される表示データを利用して、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを示す報知を特別表示部４２９において行うことが可能となる。
【２８４５】
ステップＳＥ３０２にて否定判定をした場合、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＥ３０６）。設定確認表示フラグは主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）を実行している状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。上記第５６の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図２２４）は設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況であっても割り込んで起動される。ステップＳＥ３０６にて肯定判定をした場合、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳＥ３０７）。当該設定処理では上記第３３の実施形態と同様に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてパチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示を行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に設定する。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてパチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われる。この表示は設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている間は継続される。
【２８４６】
その後、設定確認中における第６表示データバッファ４７１への設定処理を実行する（ステップＳＥ３０８）。図２２５（ｂ）は設定確認中における第６表示データバッファ４７１への設定処理を示すフローチャートである。なお、設定確認中における第６表示データバッファ４７１への設定処理におけるステップＳＥ５０１～ステップＳＥ５０５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【２８４７】

当該設定処理では設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況において第２特図表示部４２６にて遊技回が実行されている場合と同様に絵柄の変動表示が行われるようにするための処理を実行する。また、当該設定処理では、この絵柄の変動表示を第２特図表示部４２６にて行わせるために、特図変動中処理（ステップＳＤ７０６）にて利用される特図用の変動表示テーブル及び第２表示順序カウンタを利用する。

【２８４８】

具体的には、まず今回が第２特図表示部４２６の表示内容の更新タイミングとなっているか否かを判定する（ステップＳＥ５０１）。第２特図表示部４２６の絵柄の表示内容を更新する周期は、遊技回において第２特図表示部４２６の絵柄の表示内容が更新される周期と同一となっている。表示内容の更新タイミングである場合（ステップＳＥ５０１：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５の第２表示順序カウンタの値を１加算する（ステップＳＥ５０２）。そして、その１加算後における第２表示順序カウンタの値が最大値（例えば「２０」）を超えた場合には（ステップＳＥ５０３：ＹＥＳ）、第２表示順序カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳＥ５０４）。第２表示順序カウンタは既に説明したとおり第２特図表示部４２６において絵柄の更新タイミングとなった場合に特図用の変動表示テーブルから導出すべき絵柄の表示内容を特定するためのカウンタである。

【２８４９】

ステップＥ５０１にて否定判定をした場合、ステップＳＥ５０３にて否定判定をした場合、又はステップＳＥ５０４の処理を実行した場合、第２表示順序カウンタの現状の値に対応する絵柄の表示内容を特図用の変動表示テーブルから導出し、その導出した絵柄の表示内容に対応する表示データを第６表示データバッファ４７１に設定する（ステップＳＥ５０５）。これにより、当該表示データに対応する絵柄が第２特図表示部４２６にて表示される。

【２８５０】

上記構成であることにより設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況においては第２特図表示部４２６にて遊技回が実行されている場合と同様に、表示順序が一定の順序である表示パターンによる絵柄の変動表示が第２特図表示部４２６にて繰り返されることとなる。この場合に、当該絵柄の変動表示を行わせるために利用される特図用の変動表示テーブル及び第２表示順序カウンタは第２特図表示部４２６にて遊技回が実行される場合に利用されるものである。これにより、必要な記憶容量の増大化を抑制しながら、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況において第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示を行わせることが可能となる。

【２８５１】

第２タイマ割込み処理（図２２４）の説明に戻り、設定確認中における第６表示データバッファ４７１への設定処理（ステップＳＥ３０８）を実行した後は、設定確認中における第８表示データバッファ４７３への設定処理を実行する（ステップＳＥ３０９）。当該設定処理では特別表示部４２９にて所定の表示を行わせるための表示データを第８表示データバッファ４７３に設定する。具体的には、特図確定中処理（図２２０）における特別表示部４２９の表示開始処理（ステップＳＤ９０３）において６Ｒ大当たり結果となった場合におけるラウンド遊技の実行回数に対応する表示設定が行われた場合に第８表示データバッファ４７３に設定される表示データと同一の表示データを第８表示データバッファ４７３に設定する。これにより、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況においては第２特図表示部４２６にて遊技回の場合と同様に絵柄の変動表示が行われるだけではなく、特別表示部４２９にて６Ｒ大当たり結果となった場合と同様にラウンド遊技の実行回数が６回であることに対応する表示が行われる。この特別表示部４２９の表示内容は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況における特別表示部４２９の表示内容と異なっている。

【２８５２】

ステップＳＥ３０８にて第６表示データバッファ４７１に設定された表示データ及びステップＳＥ３０９にて第８表示データバッファ４７３に設定された表示データは、設定確

認用処理（ステップＳＣ２１３）が終了する場合に「０」クリアされる。これにより、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が終了する場合に、第２特図表示部４２６における絵柄の変動表示及び特別表示部４２９におけるラウンド遊技の実行回数が６回であることに対応する表示を終了させることが可能となる。その後、メイン処理（図１８５）のステップＳＣ２２６にて表示開始処理（図１９１）が実行されることにより、第６表示データバッファ４７１に特図用の初期表示データが設定される。これにより、第２特図表示部４２６にて初期表示が開始される。一方、特別表示部４２９は次回の開閉実行モードが開始されるまで消灯状態に維持される。

【２８５３】

なお、ステップＳＥ３０９にて第８表示データバッファ４７３に設定する表示データは、ラウンド遊技の実行回数が６回であることに対応する表示を行わせるための表示データである構成に限定されない。例えば１５Ｒ大当たり結果となった場合と同様にラウンド遊技の実行回数が１５回であることに対応する表示を行わせるための表示データであってもよく、第１小当たり結果となった場合と同様にラウンド遊技の実行回数が５回であることに対応する表示を行わせるための表示データであってもよく、第２小当たり結果となった場合と同様にラウンド遊技の実行回数が８回であることに対応する表示を行わせるための表示データであってもよく、第３小当たり結果となった場合と同様にラウンド遊技の実行回数が１４回であることに対応する表示を行わせるための表示データであってもよい。これらの場合であっても開閉実行モードが発生する場合に特別表示部４２９に所定の表示を行わせるために利用される表示データを利用して、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されていることを示す報知を特別表示部４２９において行うことが可能となる。

【２８５４】

ステップＳＥ３０６にて否定判定をした場合にはステップＳＥ３１０の処理を実行する。ステップＳＥ３１０の処理内容は上記第３３の実施形態における第２タイマ割込み処理（図１２３）のステップＳ８４０６と同一である。

【２８５５】

ステップＳＥ３０５、ステップＳＥ３０９又はステップＳＥ３１０の処理を実行した場合、上記第３３の実施形態と同様に、種別データ信号線ＬＮ１及び種別クロック信号線ＬＮ２を通じた信号の送信状態をＯＦＦ状態とするとともに（ステップＳＥ３１１）、表示データ信号線ＬＮ３及び表示クロック信号線ＬＮ４を通じた信号の送信状態をＯＦＦ状態とする（ステップＳＥ３１２）。その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた種別カウンタの更新処理を実行する（ステップＳＥ３１３）。

【２８５６】

種別カウンタは、第２タイマ割込み処理の今回の処理回において第１～第８表示データバッファ２７１～２７５，４７１～４７３のうち表示データの送信対象を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。種別カウンタの値が「１」である場合、第１表示データバッファ２７１の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「２」である場合、第２表示データバッファ２７２の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「３」である場合、第３表示データバッファ２７３の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「４」である場合、第４表示データバッファ２７４の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「５」である場合、第５表示データバッファ２７５の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「６」である場合、第６表示データバッファ４７１の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「７」である場合、第７表示データバッファ４７２の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「８」である場合、第８表示データバッファ４７３の表示データが送信対象となる。種別カウンタの更新処理では種別カウンタの値を１加算するとともに、その１加算後における種別カウンタの値が上限値である「８」を超えた場合には種別カウンタの値を「１」に設定する。これにより、第２タイマ割込み処理の各処理回ごとに第１～第８表示データバッファ２７１～２７５，４７１～４７３において表示データの送信対象が順次変更される。

【２８５７】

その後、種別カウンタの値に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出す（ステップＳＥ３１４）。具体的には、種別カウンタの値が「１」である場合には第１表示回路２６１に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「２」である場合には第２表示回路２６２に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「３」である場合には第３表示回路２６３に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「４」である場合には第４表示回路２６４に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「５」である場合には第５表示回路２６５に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「６」である場合には第６表示回路に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「７」である場合には第７表示回路に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し、種別カウンタの値が「８」である場合には第８表示回路に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出す。

【２８５８】

その後、種別カウンタの値に対応する表示データバッファ２７１～２７５，４７１～４７３から表示データを読み出す（ステップＳＥ３１５）。具体的には、種別カウンタの値が「１」である場合には第１表示データバッファ２７１から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「２」である場合には第２表示データバッファ２７２から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「３」である場合には第３表示データバッファ２７３から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「４」である場合には第４表示データバッファ２７４から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「５」である場合には第５表示データバッファ２７５から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「６」である場合には第６表示データバッファ４７１から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「７」である場合には第７表示データバッファ４７２から表示データを読み出し、種別カウンタの値が「８」である場合には第８表示データバッファ４７３から表示データを読み出す。

【２８５９】

その後、各種信号の送信処理を実行する（ステップＳＥ３１６）。当該送信処理では、ステップＳＥ３１４にて読み出した種別データが表示ＩＣ２６６に送信されるように、種別データ信号線ＬＮ１及び種別クロック信号線ＬＮ２に対する信号出力を行う。また、当該送信処理では、ステップＳＥ３１５にて読み出した表示データが表示ＩＣ２６６に送信されるように、表示データ信号線ＬＮ３及び表示クロック信号線ＬＮ４に対する信号出力を行う。

【２８６０】

その後、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図２２４）の発生を許可するために割込み許可の設定を行う（ステップＳＥ３１７）。

【２８６１】

次に、パチンコ機１０の状態に応じて第１特図表示部４２５、第２特図表示部４２６及び特別表示部４２９の表示内容が変化する様子について図２２６のタイムチャートを参照しながら説明する。図２２６（ａ）は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている期間を示し、図２２６（ｂ）は設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている期間を示し、図２２６（ｃ）は第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が実行されている期間を示し、図２２６（ｄ）は第１特図表示部４２５にて所定の絵柄が停止表示されている期間を示し、図２２６（ｅ）は第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が実行されている期間を示し、図２２６（ｆ）は第２特図表示部４２６にて所定の絵柄が停止表示されている期間を示し、図２２６（ｇ）は特別表示部４２９にて所定の表示が行われている期間を示す。

【２８６２】

まず設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されていない状況について説明する。

【２８６３】

ｔ１のタイミングで第１特図側の保留情報を契機とした遊技回を開始させる状況となる

ことで図２２６（ｃ）に示すように第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が開始される。そして、ｔ２のタイミングで遊技回の表示継続期間が経過することで、図２２６（ｃ）及び図２２６（ｄ）に示すように第１特図表示部４２５における絵柄の変動表示が終了されて、当該遊技回における当否判定処理及び種別判定処理の結果に対応する絵柄の表示が第１特図表示部４２５にて開始される。この場合、当該遊技回では１５Ｒ大当たり結果が選択されている。したがって、ｔ２のタイミングでは１５Ｒ大当たり結果に対応する絵柄の停止表示が第１特図表示部４２５にて開始される。

【２８６４】

その後、ｔ３のタイミングで絵柄の停止表示の最終停止期間が経過することで大当たり結果に対応する遊技回が終了して開閉実行モードが開始される。この場合、当該ｔ３のタイミングで図２２６（ｇ）に示すように特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数が１５回であることに対応する表示が開始される。なお、ｔ３のタイミングまでは特別表示部４２９は消灯状態となっている。

【２８６５】

その後、ｔ４のタイミングで開閉実行モードが終了するとともに図２２６（ｅ）に示すように第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が開始される。この場合、当該ｔ４のタイミングで図２２６（ｇ）に示すように特別表示部４２９が消灯状態となる。そして、ｔ５のタイミングで遊技回の表示継続期間が経過することで、図２２６（ｅ）及び図２２６（ｆ）に示すように第２特図表示部４２６における絵柄の変動表示が終了されて、当該遊技回における当否判定処理及び種別判定処理の結果に対応する絵柄の表示が第２特図表示部４２６にて開始される。この場合、当該遊技回では第１小当たり結果が選択されている。したがって、ｔ５のタイミングでは第１小当たり結果に対応する絵柄の停止表示が第２特図表示部４２６にて開始される。

【２８６６】

その後、絵柄の停止表示の最終停止期間が経過することで振分実行モードが開始され、当該振分実行モードがｔ６のタイミングで終了する。当該振分実行モードにおいてＶ入賞が発生していることでｔ６のタイミングで開閉実行モードが開始される。この場合、当該ｔ６のタイミングで図２２６（ｇ）に示すように特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数が５回であることに対応する表示が開始される。なお、ｔ６のタイミングまでは特別表示部４２９は消灯状態となっている。その後、ｔ７のタイミングで開閉実行モードが終了するものの特別表示部４２９におけるラウンド遊技の実行回数が５回であることに対応する表示は、第１特図表示部４２５又は第２特図表示部４２６における新たな遊技回が開始されるまで継続される。

【２８６７】

上記のとおり遊技が行われている場合には、第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が行われている状況において特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われることはなく、同様に特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われている状況において第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が行われることはない。また、上記のとおり遊技が行われている場合には、第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が行われている状況において特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われることはなく、同様に特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われている状況において第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が行われることはない。

【２８６８】

次に、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況について説明する。

【２８６９】

ｔ８のタイミングで図２２６（ａ）に示すように設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が開始される。この場合、当該ｔ８のタイミングで図２２６（ｃ）に示すように第１特図表示部４２５は消灯状態から絵柄の変動表示を行う状態に切り換わる。また、当該ｔ８

のタイミングで図２２６（ｇ）に示すように特別表示部４２９は消灯状態からラウンド遊技の実行回数が１５回であることに対応する表示を行う状態に切り換わる。

【２８７０】

その後、ｔ９のタイミングで図２２６（ａ）に示すように設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が終了する。これにより、当該ｔ９のタイミングで図２２６（ｃ）に示すように第１特図表示部４２５における絵柄の変動表示が終了される。この場合、図２２６（ｄ）に示すように第１特図表示部４２５では初期表示が開始される。初期表示の内容は上記第５６の実施形態における特図表示部３７ａの初期表示の内容と同様である。また、当該ｔ９のタイミングで図２２６（ｇ）に示すように特別表示部４２９におけるラウンド遊技の実行回数が１５回であることに対応する表示が終了される。この場合、特別表示部４２９は消灯状態となる。

【２８７１】

次に、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況について説明する。

【２８７２】

ｔ１０のタイミングで図２２６（ｂ）に示すように設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が開始される。この場合、当該ｔ１０のタイミングで図２２６（ｅ）に示すように第２特図表示部４２６は消灯状態から絵柄の変動表示を行う状態に切り換わる。また、当該ｔ１０のタイミングで図２２６（ｇ）に示すように特別表示部４２９は消灯状態からラウンド遊技の実行回数が６回であることに対応する表示を行う状態に切り換わる。

【２８７３】

その後、ｔ１１のタイミングで図２２６（ｂ）に示すように設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が終了する。これにより、当該ｔ１１のタイミングで図２２６（ｅ）に示すように第２特図表示部４２６における絵柄の変動表示が終了される。この場合、図２２６（ｆ）に示すように第２特図表示部４２６では初期表示が開始される。初期表示の内容は上記第５６の実施形態における特図表示部３７ａの初期表示の内容と同様である。また、当該ｔ１１のタイミングで図２２６（ｇ）に示すように特別表示部４２９におけるラウンド遊技の実行回数が６回であることに対応する表示が終了される。この場合、特別表示部４２９は消灯状態となる。

【２８７４】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【２８７５】

設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が行われるとともに特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われる。遊技が行われている場合には第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が行われている状況において特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われることはない。したがって、遊技ホールの管理者は第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が行われているとともに特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われていることを確認することで設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを把握することが可能となる。

【２８７６】

特に、第１特図表示部４２５及び特別表示部４２９は遊技機本体１２及び前扉枠１４の開放操作を要することなくパチンコ機１０前方から窓パネル５２を通じて視認可能な領域に設けられている。このような第１特図表示部４２５及び特別表示部４２９にて設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを示す報知が行われることにより、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であるか否かの確認を簡易的に行うことが可能となる。

【２８７７】

また、遊技が行われている場合には遊技回が実行された後に開閉実行モードが発生するため、第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が行われた後に特別表示部４２９にてラ

ウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われる。このような実行期間が前後する両者の表示を設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては同時に行わせることにより、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを明確に報知することが可能となる。

【２８７８】

第１特図表示部４２５及び特別表示部４２９の表示内容の組合せにより設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを示す報知が行われる。これにより、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを示す報知を不正に行わせようとするためには第１特図表示部４２５及び特別表示部４２９のそれぞれに対して不正を施す必要が生じる。よって、当該不正行為を行いづらくさせることが可能となる。

【２８７９】

第１特図表示部４２５及び特別表示部４２９は遊技が実行されている場合に使用される表示部である。このような表示部を利用して設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを示す報知を行うことにより、構成の複雑化を抑制しながら当該報知を行うことが可能となる。

【２８８０】

設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを示す報知が行われる場合、第１特図表示部４２５では絵柄の変動表示が行われ、特別表示部４２９ではラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われる。第１特図表示部４２５における絵柄の変動表示は遊技が実行されている場合にも発生する表示内容であるとともに、特別表示部４２９におけるラウンド遊技の実行回数に対応する表示は遊技が実行されている場合にも発生する表示内容である。これにより、遊技が実行されている場合に発生する表示内容を利用して設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを報知することが可能となる。

【２８８１】

第１特図表示部４２５及び特別表示部４２９は特図ユニット４２２として所定の範囲に集約させて設けられている。これにより、第１特図表示部４２５及び特別表示部４２９のそれぞれの表示内容の確認を行い易くすることが可能となる。

【２８８２】

遊技が実行されている状況においては特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われている場合には特電入賞装置４１６が開閉される。これに対して、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われている状況において特電入賞装置４１６が閉鎖状態に維持される。これにより、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを報知することが可能となる。

【２８８３】

設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況においては第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が行われるとともに特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われる。遊技が行われている場合には第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が行われている状況において特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われることはない。したがって、遊技ホールの管理者は第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が行われているとともに特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われていることを確認することで設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況であることを把握することが可能となる。

【２８８４】

また、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のいずれであっても特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われる一方、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が

行われるのに対して設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況においては第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が行われる。これにより、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）のいずれが実行されている状況であるのかを遊技ホールの管理者は明確に区別することが可能となる。

【２８８５】

第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の各設定値における変動分が、第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて外れ結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動分によって吸収される。これにより、第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果となる確率に影響を与えないようにしながら、第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果となる確率を変動させることが可能となる。

【２８８６】

第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数はいずれの設定値であっても同一である。これにより、全ての設定値において第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果が選択される確率を一定とすることが可能となる。また、このように第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果が選択される確率を一定とした構成であっても、第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択される確率の各設定値の変動分は外れ結果が選択される確率の変動分により吸収されるため、第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択される確率を設定値に応じた確率とすることが可能となる。

【２８８７】

第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて外れ結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数は各設定値のいずれであっても最も多い。これにより、第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択される確率の各設定値における変動分を第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて外れ結果が選択される確率の変動分で吸収する構成であっても、第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて外れ結果となる確率については複数段階の設定値間で大きな変動を生じさせないようにすることが可能となる。

【２８８８】

なお、上記実施形態の構成に代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が行われるとともに第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が行われる構成としてもよい。遊技が行われている場合には第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のうち一方にて絵柄の変動表示が行われている場合には他方にて絵柄の変動表示が行われない構成である。この場合に上記のとおり設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のそれぞれにて絵柄の変動表示を行う構成とすることで設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に報知することが可能となる。当該構成において設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況であることを報知する場合には、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のそれぞれにおける絵柄の変動表示に加えて普図表示部４２３ａにて絵柄の変動表示が行われる構成としてもよく、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のそれぞれにおける絵柄の変動表示に加えて特別表示部４２９にて所定の表示が行われる構成としてもよい。

【２８８９】

また、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況において特別表示部４２９にて表示される表示内容はラウンド遊技の実行回数に対応する表示内容である構成に限定されることはなく、ラウンド遊技の実行回数に対応する表示内容ではないものの特別表示部４２９における少なくとも１個の表示用セグメント４２９ａが発光状態となることで所定の表示が行われる構成としてもよい。遊技が行われている場合には第１特図表

示部４２５にて絵柄の変動表示が行われている場合には特別表示部４２９は全ての表示用セグメント４２９ａが消灯状態となった非表示状態となるため、第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が行われている状況において特別表示部４２９が非表示状態となっていないことで設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを報知することが可能となる。また、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況においては第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が行われるとともに特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示ではないものの所定の表示が行われる構成としてもよい。

【２８９０】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを報知するための専用の表示部が、遊技機本体１２及び前扉枠１４の開放操作を要することなくパチンコ機１０前方から窓パネル５２を通じて視認可能となる領域に設けられている構成としてもよい。

【２８９１】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況であることを報知するための専用の表示部が、遊技機本体１２及び前扉枠１４の開放操作を要することなくパチンコ機１０前方から窓パネル５２を通じて視認可能となる領域に設けられている構成としてもよい。

【２８９２】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを報知するための専用の表示部及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況であることを報知するための専用の表示部のそれぞれが、遊技機本体１２及び前扉枠１４の開放操作を要することなくパチンコ機１０前方から窓パネル５２を通じて視認可能となる領域に設けられている構成としてもよい。

【２８９３】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）のいずれかが実行されている状況であることを報知するための専用の表示部が、遊技機本体１２及び前扉枠１４の開放操作を要することなくパチンコ機１０前方から窓パネル５２を通じて視認可能となる領域に設けられている構成としてもよい。この場合、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のいずれであっても同一の専用の表示部にて報知が行われる。また、当該構成において設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況と設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況とでその同一の専用の表示部における表示内容が相違している構成としてもよい。

【２８９４】

また、上記実施形態の構成に代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のいずれであっても同一の報知が実行される構成としてもよい。また、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況の一方については報知されるものの他方については報知されない構成としてもよい。

【２８９５】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、上記第５５の実施形態のように設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されたとしても動作電力の供給開始時の処理の実行後において第１特図表示部４２５にて前回の電断時の表示が再開される構成においては、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が開始される場合に上記前回の電断時の表示に対応する表示データが第１表示データバッファ２７１から主側ＲＡＭ６５において第２ＲＡＭクリア処理の実行に際して「０」クリア及び初期化が実行されないエリアに退避され、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が終了した場合にその退避された表示データが

第１表示データバッファ２７１に復帰される構成としてもよい。これにより、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においてはそれに対応する表示を第１特図表示部４２５にて行うようにしながら、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が終了した後は前回の電断時の表示が再開されるようにすることが可能となる。

【２８９６】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、振分実行モードである状況において当該振分実行モードであることを示す表示を行う振分実行対応の表示部が設けられている構成としてもよい。当該振分実行対応の表示部は、振分実行モードが開始された場合に非表示状態（すなわち全消灯状態）から所定の表示状態に切り換えられ、振分実行モードが終了する場合に所定の表示状態から非表示状態に切り換えられる。当該構成において、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている場合には振分実行対応の表示部が所定の表示状態となるとともに特別表示部４２９が所定の表示状態となることで、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを報知することが可能となる。また、このような報知に関する構成を設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況に対して適用してもよい。

【２８９７】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、第１特図側の保留情報が当否判定処理の対象となった場合にも小当たり結果が選択され得る構成としてもよい。この場合であっても第１特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行される場合に大当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の各設定値における変動分が、第１特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行される場合に外れ結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動分により吸収される構成としてもよい。この場合、第１特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行された場合に小当たり結果が選択される確率が各設定値において同一である構成としてもよい。また、上記構成に代えて第１特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行される場合に大当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の各設定値における変動分が、第１特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行される場合に小当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動分により吸収される構成としてもよい。

【２８９８】

また、上記実施形態の構成に代えて、第２特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行される場合に大当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の各設定値における変動分が、第２特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行される場合に小当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動分により吸収される構成としてもよい。

【２８９９】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、当否判定処理にて大当たり結果であると判定される確率が相対的に高低となる高確率モードと低確率モードとが存在している構成としてもよい。また、当該構成において第１特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行された場合にも小当たり結果が選択され得る構成とするとともに、第１特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行されて小当たり結果が選択された場合及び第２特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行されて小当たり結果が選択された場合のいずれであっても振分実行モードではなく開閉実行モードに移行する構成としてもよい。当該開閉実行モードでは特電入賞装置４１６において１秒程度の短開放が２回程度の少ない回数実行される構成とする。上記のような構成において大当たり結果の種類として、開閉実行モードにおいては特電入賞装置４１６が小当たり結果となった場合と同様の態様で開放状態となり、開閉実行モードの終了後は高確率モードとなるものの開閉実行モードの開始前におけるサポートモードが低頻度サポートモードである場合には低頻度サポートモードが維持される潜伏確変大当たり結果が存在している構成としてもよい。この場合、低確率モードであって低頻度サポートモードである状況において第１特図側の保留情報を契機として特電入賞装置４１６において１秒程度の短開放が２回程度の少ない回数実行された場合には

、それが小当たり結果及び潜伏確変大当たり結果のいずれを契機としているのかを遊技者に予測させることが可能となる。また、当該構成において少なくとも第１特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行された場合に小当たり結果が選択される確率が、当否抽選モード及び設定値がいずれであっても同一又は略同一である構成とすることで、小当たり結果の発生頻度からは設定値だけではなく当否抽選モードも遊技者に把握されないようにすることが可能となる。

【２９００】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、いずれかの小当たり結果となった振分実行モードにてＶ入賞となることで開閉実行モードが発生する場合には、既に終了した振分実行モードを１ラウンド分として特別表示部４２９におけるラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われる構成としてもよい。この場合、第１小当たり結果を契機とした開閉実行モードでは６回のラウンド遊技に対応する表示が特別表示部４２９にて行われ、第２小当たり結果を契機とした開閉実行モードでは９回のラウンド遊技に対応する表示が特別表示部４２９にて行われ、第３小当たり結果を契機とした開閉実行モードでは１５回のラウンド遊技に対応する表示が特別表示部４２９にて行われる。

【２９０１】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、小当たり結果は１種類のみ存在しており振分実行モードにおいてＶ入賞が発生した際にその後の開閉実行モードにおいて発生するラウンド遊技の回数が抽選により決定される構成としてもよい。この場合、遊技者はＶ入賞が発生するタイミングに注目することとなる。

【２９０２】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、大当たり結果の種類の振分確率が設定値に応じて変動する構成としてもよい。この場合、当否判定処理にて大当たり結果が選択される確率も設定値に応じて変動する構成としてもよく、当否判定処理にて大当たり結果が選択される確率は設定値に応じて変動することなく一定である構成としてもよい。

【２９０３】

＜第６５の実施形態＞

本実施形態では第２タイマ割込み処理の処理構成が上記第６４の実施形態と相違している。以下、上記第６４の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第６４の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２９０４】

図２２７は本実施形態における第２タイマ割込み処理を示すフローチャートである。なお、第２タイマ割込み処理におけるステップＳＥ６０１～ステップＳＥ６１５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２９０５】

まず上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０１と同様に割込み禁止の設定を行う（ステップＳＥ６０１）。その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＥ６０２）。設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＥ６０２：ＹＥＳ）、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳＥ６０３）。当該設定処理の処理内容は上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０３と同様である。

【２９０６】

その後、設定更新中における全点灯表示の設定処理を実行する（ステップＳＥ６０４）。当該設定処理では、普図表示部４２３ａの全ての表示用セグメント、普図保留表示部４２３ｂの全ての発光部、第１特図表示部４２５の全ての表示用セグメント４２５ａ、第２特図表示部４２６の全ての表示用セグメント４２６ａ、第１特図保留表示部４２７の全ての発光部、第２特図保留表示部４２８の全ての発光部、及び特別表示部４２９の全ての表示用セグメント４２９ａを発光状態とする。つまり、主側ＣＰＵ６３により表示制御され

る表示部であって遊技機本体１２及び前扉枠１４の開放操作を要することなく窓パネル５２を通じて視認可能となる表示部の全てを発光状態とする。この全点灯状態は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が終了する場合に終了される。上記のような全点灯状態は遊技が行われている状況を含めた他の状況においては発生しない。したがって、遊技ホールの管理者は上記のような全点灯状態が行われているか否かを確認することで設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されているか否かを把握することが可能となる。

【２９０７】

ステップＳＥ６０２にて否定判定をした場合、設定確認表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＥ６０５）。設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＥ６０５：ＹＥＳ）、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳＥ６０６）。当該設定処理の処理内容は上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０７と同様である。

【２９０８】

その後、設定確認中における全点灯表示の設定処理を実行する（ステップＳＥ６０７）。当該設定処理では、第１特図表示部４２５の全ての表示用セグメント４２５ａ、第２特図表示部４２６の全ての表示用セグメント４２６ａ、第１特図保留表示部４２７の全ての発光部、第２特図保留表示部４２８の全ての発光部、及び特別表示部４２９の全ての表示用セグメント４２９ａを発光状態とする。つまり、主側ＣＰＵ６３により表示制御される表示部であって遊技機本体１２及び前扉枠１４の開放操作を要することなく窓パネル５２を通じて視認可能となる表示部のうち普図表示部４２３ａ及び普図保留表示部４２３ｂ以外の表示部の全てを発光状態とする。この全点灯状態は設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が終了する場合に終了される。上記のような全点灯状態は遊技が行われている状況を含めた他の状況においては発生しない。したがって、遊技ホールの管理者は上記のような全点灯状態が行われているか否かを確認することで設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されているか否かを把握することが可能となる。

【２９０９】

ステップＳＥ６０５にて否定判定をした場合にはステップＳＥ６０８～ステップＳＥ６１５の処理を実行する。また、ステップＳＥ６０４又はステップＳＥ６０７の処理を実行した場合にはステップＳＥ６０９～ステップＳＥ６１５の処理を実行する。これらステップＳＥ６０８～ステップＳＥ６１５の処理内容は上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３１０～ステップＳＥ３１７と同様である。

【２９１０】

上記構成によれば、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている間は、主側ＣＰＵ６３により表示制御される表示部であって遊技機本体１２及び前扉枠１４の開放操作を要することなく窓パネル５２を通じて視認可能となる表示部の全てが発光状態となる。このような全点灯状態は遊技が行われている状況を含めた他の状況においては発生しない。したがって、遊技ホールの管理者は上記のような全点灯状態が行われているか否かを確認することで設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されているか否かを把握することが可能となる。また、主側ＣＰＵ６３により表示制御される表示部であって遊技機本体１２及び前扉枠１４の開放操作を要することなく窓パネル５２を通じて視認可能となる表示部の全てが発光状態となることで、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であるか否かを特定し易くなる。

【２９１１】

また、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている間は、主側ＣＰＵ６３により表示制御される表示部であって遊技機本体１２及び前扉枠１４の開放操作を要することなく窓パネル５２を通じて視認可能となる表示部のうち普図表示部４２３ａ及び普図保留表示部４２３ｂ以外の表示部の全てが発光状態となる。このような全点灯状態は遊技が行われている状況を含めた他の状況においては発生しない。したがって、遊技ホールの管理者は上記のような全点灯状態が行われているか否かを確認することで設定確認用処理

（ステップＳＣ２１３）が実行されているか否かを把握することが可能となる。
【２９１２】
なお、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況において全ての表示用セグメントが発光状態となる表示部は、遊技機本体１２及び前扉枠１４の開放操作を要することなく窓パネル５２を通じて視認可能となる表示部の全てである構成に限定されることはなく、一部の表示部である構成としてもよい。例えば、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては、第１特図表示部４２５及び特別表示部４２９のそれぞれの表示用セグメント４２５ａ，４２９ａの全てが発光状態となる構成としてもよく、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のそれぞれの表示用セグメント４２５ａ，４２６ａの全てが発光状態となる構成としてもよく、普図表示部４２３ａ及び特別表示部４２９のそれぞれの表示用セグメントの全てが発光状態となる構成としてもよく、普図表示部４２３ａ、第２特図表示部４２６及び特別表示部４２９のそれぞれの表示用セグメントの全てが発光状態となる構成としてもよい。また、当該構成を設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況であることを報知するための構成として適用してもよい。
【２９１３】
＜第６６の実施形態＞
本実施形態では第２タイマ割込み処理及び設定値更新処理の処理構成が上記第６４の実施形態と相違している。以下、上記第６４の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第６４の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【２９１４】
図２２８は本実施形態における第２タイマ割込み処理を示すフローチャートである。なお、第２タイマ割込み処理におけるステップＳＥ７０１～ステップＳＥ７１５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【２９１５】
まず上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０１と同様に割込み禁止の設定を行う（ステップＳＥ７０１）。その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＥ７０２）。
【２９１６】
設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＥ７０２：ＹＥＳ）、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳＥ７０３）。当該設定処理の処理内容は上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０３と同様である。その後、設定更新中における第１表示データバッファ２７１への設定処理を実行する（ステップＳＥ７０４）。当該設定処理の処理内容は上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０４と同様である。これにより、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況において第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が行われる。一方、本実施形態では上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０５の処理は実行されない。したがって、本実施形態では設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況において特別表示部４２９にて所定の表示が行われることはなく消灯状態が維持される。
【２９１７】
ステップＳＥ７０２にて否定判定をした場合、設定確認表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＥ７０５）。設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＥ７０５：ＹＥＳ）、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳＥ７０６）。当該設定処理の処理内容は上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０７と同様である。その後、設定確認中における第６表示データバッファ４７１への設定

処理を実行する（ステップＳＥ７０７）。当該設定処理の処理内容は上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０８と同様である。これにより、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況において第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が行われる。一方、本実施形態では上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０９の処理は実行されない。したがって、本実施形態では設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況において特別表示部４２９にて所定の表示が行われることはなく消灯状態が維持される。

【２９１８】

ステップＳＥ７０５にて否定判定をした場合にはステップＳＥ７０８～ステップＳＥ７１５の処理を実行する。また、ステップＳＥ７０４又はステップＳＥ７０７の処理を実行した場合にはステップＳＥ７０９～ステップＳＥ７１５の処理を実行する。これらステップＳＥ７０８～ステップＳＥ７１５の処理内容は上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３１０～ステップＳＥ３１７と同様である。

【２９１９】

図２２９は本実施形態における設定値更新処理を示すフローチャートである。なお、設定値更新処理におけるステップＳＥ８０１～ステップＳＥ８１６の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２９２０】

まず割込み許可の設定を行う（ステップＳＥ８０１）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図２２８）が第２割込み周期で割り込んで起動される。

【２９２１】

その後、特電入賞装置４１６の開放処理を実行する（ステップＳＥ８０２）。当該開放処理では、特電入賞装置４１６に設けられた特電用の駆動部４１６ｃへの駆動信号の出力を開始する。これにより、特電入賞装置４１６が開放状態となる。その後、ステップＳＥ８０３～ステップＳＥ８１２にて設定値を更新するための処理を実行し、ステップＳＥ８１３にて割込み禁止の設定を行い、ステップＳＥ８１４にて第２ＲＡＭクリア処理を実行し、ステップＳＥ８１５にて更新時の復帰コマンドを送信する。これらステップＳＥ８０３～ステップＳＥ８１５の処理内容は上記第４９の実施形態における設定値更新処理（図１６７）のステップＳＢ３０２～ステップＳＢ３１４と同一である。

【２９２２】

その後、特電入賞装置４１６の閉鎖処理を実行する（ステップＳＥ８１６）。当該閉鎖処理では、特電入賞装置４１６に設けられた特電用の駆動部４１６ｃへの駆動信号の出力を停止する。これにより、特電入賞装置４１６が閉鎖状態となる。

【２９２３】

上記構成であることにより、本実施形態では設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が実行されるとともに特電入賞装置４１６が開放状態となる。遊技が行われている場合には、大当たり結果に対応する遊技回が実行されて第１特図表示部４２５にて大当たり結果に対応する絵柄が停止表示されている状況で特電入賞装置４１６が開放状態となる。つまり、遊技が行われている場合には第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が実行されている状況において特電入賞装置４１６が開放状態となることはない。これに対して、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示が実行されるとともに特電入賞装置４１６が開放状態となる。これにより、第１特図表示部４２５及び特電入賞装置４１６を利用して、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを報知することが可能となる。

【２９２４】

また、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては特電入賞装置４１６が開放状態となっているにも関わらず特別表示部４２９は非表示状態に維持

される。遊技が行われている場合には、特電入賞装置４１６が開放状態となる場合には特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われる。したがって、遊技ホールの管理者は特電入賞装置４１６が開放状態となっているにも関わらず特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示が行われていないことを確認することで設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを把握することが可能となる。

【２９２５】

特に、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては特電入賞装置４１６が開放状態となっているにも関わらず、特別表示部４２９の全ての表示用セグメント４２９ａが消灯状態に維持されることで当該特別表示部４２９は非表示状態とされる。これにより、遊技ホールの管理者は特電入賞装置４１６が開放状態となっている状況において特別表示部４２９に何らかの表示が行われているか否かを確認することで、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であることを明確に把握することが可能となる。

【２９２６】

ここで、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況においても設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況と同様に特電入賞装置４１６が開放状態となる。また、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況においては第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が行われる。遊技が行われている場合には、大当たり結果又は小当たり結果に対応する遊技回が実行されて第２特図表示部４２６にて大当たり結果又は小当たり結果に対応する絵柄が停止表示されている状況で特電入賞装置４１６が開放状態となる。つまり、遊技が行われている場合には第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が実行されている状況において特電入賞装置４１６が開放状態となることはない。これに対して、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況においては第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が実行されるとともに特電入賞装置４１６が開放状態となる。これにより、第２特図表示部４２６及び特電入賞装置４１６を利用して、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況であることを報知することが可能となる。

【２９２７】

なお、上記実施形態の構成に代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のうち一方の状況であることを報知するために、普図表示部４２３ａにて絵柄の変動表示が行われるようにするとともに第２作動部４１３の誘導ユニット４３２を誘導状態とする構成としてもよい。遊技が行われている場合には普図表示部４２３ａにて絵柄の変動表示が行われている状況と第２作動部４１３の誘導ユニット４３２が誘導状態となる状況とが同時に発生することはないため、これらの状況を同時に発生させることにより、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のうち一方の状況であることを報知することが可能となる。

【２９２８】

また、上記実施形態の構成に代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のうち一方の状況であることを報知するために、振分入賞装置４１５と特電入賞装置４１６との両方を開放状態とする構成としてもよい。遊技が行われている場合には振分入賞装置４１５及び特電入賞装置４１６の両方が開放状態となる状況が発生することはないため、振分入賞装置４１５及び特電入賞装置４１６の両方を開放状態とすることにより、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のうち一方の状況であることを報知することが可能となる。

【２９２９】

また、上記実施形態の構成に代えて、開閉実行モードにおいて開放状態となる特電入賞装置４１６が複数設けられているとともに遊技が行われている場合にはそれら複数の特電

入賞装置４１６が同時に開放状態となることはない構成においては、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のうち一方の状況であることを報知するために、それら複数の特電入賞装置４１６を同時に開放状態とする構成としてもよい。

【２９３０】

また、上記実施形態の構成に代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のうち一方の状況であることを報知するために、特電入賞装置４１６を開放状態とするもののその開放の度合いを遊技が行われいてる場合の開放状態よりも少なくする構成としてもよい。

【２９３１】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、振分実行モードである場合には所定の表示が行われる振分実行対応の表示部を備えるとともに、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のうち一方の状況であることを報知するために、特電入賞装置４１６が開放状態となっている状況において特別表示部４２９及び振分実行対応の表示部の両方が消灯状態となる構成としてもよい。

【２９３２】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のうち一方の状況であることを報知するために、特電入賞装置４１６が開放状態となるとともに特別表示部４２９にてラウンド遊技の実行回数に対応する表示とは異なる表示が行われる構成としてもよい。

【２９３３】

＜第６７の実施形態＞

本実施形態では第２タイマ割込み処理の処理構成が上記第６４の実施形態と相違している。以下、上記第６４の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第６４の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【２９３４】

図２３０は本実施形態における第２タイマ割込み処理を示すフローチャートである。なお、第２タイマ割込み処理におけるステップＳＥ９０１～ステップＳＥ９１５の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【２９３５】

まず上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０１と同様に割込み禁止の設定を行う（ステップＳＥ９０１）。その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＥ９０２）。

【２９３６】

設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＥ９０２：ＹＥＳ）、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳＥ９０３）。当該設定処理の処理内容は上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０３と同様である。

【２９３７】

その後、設定更新中表示データを第１表示データバッファ２７１に設定する（ステップＳＥ９０４）。この設定更新中表示データは設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）にて第２ＲＡＭクリア処理が実行されるまでは第１表示データバッファ２７１にて格納され続け、当該第２ＲＡＭクリア処理が実行されることで「０」クリアされる。

【２９３８】

設定更新中表示データは第１特図表示部４２５に設定更新中表示を行わせるための表示データである。設定更新中表示は、遊技回において第１特図表示部４２５にて絵柄の変動

表示が行われる場合に表示される表示内容に含まれておらず、さらに遊技回における当否判定処理の結果及び種別判定処理の結果を報知するために第１特図表示部４２５に停止表示される絵柄の表示内容にも含まれていない。つまり、設定更新中表示は遊技が実行されている状況においては第１特図表示部４２５に表示されない表示内容となっている。さらに、設定更新中表示は、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されていない状況においては第１特図表示部４２５に表示されない表示内容となっている。これにより、第１特図表示部４２５にて設定更新中表示が行われているか否かを確認することで、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であるか否かを把握することが可能となる。

【２９３９】

設定更新中表示の表示内容について具体的には、第１特図表示部４２５の全ての表示用セグメント４２５ａが発光状態となる表示内容となっている。つまり、設定更新中表示においては、遊技が行われている状況において発光状態となり得る表示用セグメント４２５ａが発光状態となるが、発光状態となる表示用セグメント４２５ａの組合せは遊技が行われている状況において選択されない組合せとなっている。なお、設定更新中表示の表示内容は上記のものに限定されることはなく、遊技が行われている状況において発光状態とならない表示用セグメント４２５ａのみが発光状態となる表示内容としてもよい。

【２９４０】

一方、本実施形態では上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０５の処理は実行されない。したがって、本実施形態では設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況において特別表示部４２９にて所定の表示が行われることはなく消灯状態が維持される。

【２９４１】

ステップＳＥ９０２にて否定判定をした場合、設定確認表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＥ９０５）。設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＥ９０５：ＹＥＳ）、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳＥ９０６）。当該設定処理の処理内容は上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０７と同様である。

【２９４２】

その後、設定確認中表示データを第６表示データバッファ４７１に設定する（ステップＳＥ９０７）。この設定確認中表示データは設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が終了するまでは第６表示データバッファ４７１にて格納され続け、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が終了する場合に「０」クリアされる。

【２９４３】

設定確認中表示データは第２特図表示部４２６に設定確認中表示を行わせるための表示データである。設定確認中表示は、遊技回において第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示が行われる場合に表示される表示内容に含まれておらず、さらに遊技回における当否判定処理の結果及び種別判定処理の結果を報知するために第２特図表示部４２６に停止表示される絵柄の表示内容にも含まれていない。つまり、設定確認中表示は遊技が実行されている状況においては第２特図表示部４２６に表示されない表示内容となっている。さらに、設定確認中表示は、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されていない状況においては第２特図表示部４２６に表示されない表示内容となっている。これにより、第２特図表示部４２６にて設定確認中表示が行われているか否かを確認することで、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況であるか否かを把握することが可能となる。

【２９４４】

設定確認中表示の表示内容について具体的には、第２特図表示部４２６の全ての表示用セグメント４２６ａが発光状態となる表示内容となっている。つまり、設定確認中表示においては、遊技が行われている状況において発光状態となり得る表示用セグメント４２６

ａが発光状態となるが、発光状態となる表示用セグメント４２６ａの組合せは遊技が行われている状況において選択されない組合せとなっている。なお、設定確認中表示の表示内容は上記のものに限定されることはなく、遊技が行われている状況において発光状態とならない表示用セグメント４２６ａのみが発光状態となる表示内容としてもよい。

【２９４５】

一方、本実施形態では上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３０９の処理は実行されない。したがって、本実施形態では設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況において特別表示部４２９にて所定の表示が行われることはなく消灯状態が維持される。

【２９４６】

ステップＳＥ９０５にて否定判定をした場合にはステップＳＥ９０８～ステップＳＥ９１５の処理を実行する。また、ステップＳＥ９０４又はステップＳＥ９０７の処理を実行した場合にはステップＳＥ９０９～ステップＳＥ９１５の処理を実行する。これらステップＳＥ９０８～ステップＳＥ９１５の処理内容は上記第６４の実施形態における第２タイマ割込み処理（図２２４）のステップＳＥ３１０～ステップＳＥ３１７と同様である。

【２９４７】

上記構成によれば設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては第１特図表示部４２５にて設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）の実行中であることを示す専用の表示内容である設定更新中表示が行われる。これにより、第１特図表示部４２５を利用して設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であるか否かを報知することが可能となる。

【２９４８】

また、設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況においては第２特図表示部４２６にて設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）の実行中であることを示す専用の表示内容である設定確認中表示が行われる。これにより、第２特図表示部４２６を利用して設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況であるか否かを報知することが可能となる。

【２９４９】

なお、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のうち一方の状況であることを報知するために、特別表示部４２９にて遊技が行われている場合には表示されない専用の表示が行われる構成としてもよい。

【２９５０】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のうち一方の状況であることを報知するために、第１特図表示部４２５及び特別表示部４２９の両方にて遊技が行われている場合には表示されない専用の表示が行われる構成としてもよい。

【２９５１】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のうち一方の状況であることを報知するために、第２特図表示部４２６及び特別表示部４２９の両方にて遊技が行われている場合には表示されない専用の表示が行われる構成としてもよい。

【２９５２】

また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のうち一方の状況であることを報知するために、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６の両方にて遊技が行われている場合には表示されない専用の表示が行われる構成としてもよい。

【２９５３】
　また、上記実施形態の構成に加えて又は代えて、設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況のうち一方の状況であることを報知するために、普図表示部４２３ａにて遊技が行われている場合には表示されない専用の表示が行われる構成としてもよい。
【２９５４】
　＜第６８の実施形態＞
　本実施形態では設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であること及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況であることを報知するための構成が上記第６４の実施形態と相違している。以下、上記第６４の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第６４の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【２９５５】
　図２３１（ａ）は本実施形態における特別表示部４２９の構成を説明するための説明図である。
【２９５６】
　特別表示部４２９には４個の発光部４８１～４８４が等間隔となるように横並びで設けられている。４個の発光部４８１～４８４のうち左端の発光部４８１はラウンド遊技が１５回実行されることを報知するための１５Ｒ表示部４８１であり、その右隣りの表示部４８２はラウンド遊技が９回実行されることを報知するための９Ｒ表示部４８２であり、その右隣りの表示部４８３はラウンド遊技が６回実行されることを報知するための６Ｒ表示部４８３であり、右端の表示部４８４は振分実行モードであることを報知するための小当たり表示部４８４である。
【２９５７】
　１５Ｒ表示部４８１に隣接した位置（具体的には下方の位置）に当該１５Ｒ表示部４８１が１５回のラウンド遊技の実行に対応していることを示す１５Ｒ明示部４８５として「１５」の数字が印字されている。９Ｒ表示部４８２に隣接した位置（具体的には下方の位置）に当該９Ｒ表示部４８２が９回のラウンド遊技の実行に対応していることを示す９Ｒ明示部４８６として「９」の数字が印字されている。６Ｒ表示部４８３に隣接した位置（具体的には下方の位置）に当該６Ｒ表示部４８３が６回のラウンド遊技の実行に対応していることを示す６Ｒ明示部４８７として「６」の数字が印字されている。一方、小当たり表示部４８４に隣接した位置には当該小当たり表示部４８４が振分実行モードの実行に対応していることを示す明示部が設けられていない。
【２９５８】
　当否判定処理及び種別判定処理の結果が１５Ｒ大当たり結果となり開閉実行モードが開始される場合、１５Ｒ表示部４８１が消灯状態から発光状態となる。そして、当該開閉実行モードが実行されている間は１５Ｒ表示部４８１が発光状態に維持され、当該開閉実行モードが終了する場合に１５Ｒ表示部４８１が発光状態から消灯状態となる。また、当否判定処理及び種別判定処理の結果が第３小当たり結果となったことを契機とした振分実行モードにてＶ入賞が発生したことで１４回のラウンド遊技が実行される開閉実行モードが開始される場合、１５Ｒ表示部４８１が消灯状態から発光状態となる。そして、当該開閉実行モードが実行されている間は１５Ｒ表示部４８１が発光状態に維持され、当該開閉実行モードが終了する場合に１５Ｒ表示部４８１が発光状態から消灯状態となる。
【２９５９】
　当否判定処理及び種別判定処理の結果が第２小当たり結果となったことを契機とした振分実行モードにてＶ入賞が発生したことで８回のラウンド遊技が実行される開閉実行モードが開始される場合、９Ｒ表示部４８２が消灯状態から発光状態となる。そして、当該開閉実行モードが実行されている間は９Ｒ表示部４８２が発光状態に維持され、当該開閉実行モードが終了する場合に９Ｒ表示部４８２が発光状態から消灯状態となる。
【２９６０】

当否判定処理及び種別判定処理の結果が６Ｒ大当たり結果となり開閉実行モードが開始される場合、６Ｒ表示部４８３が消灯状態から発光状態となる。そして、当該開閉実行モードが実行されている間は６Ｒ表示部４８３が発光状態に維持され、当該開閉実行モードが終了する場合に６Ｒ表示部４８３が発光状態から消灯状態となる。また、当否判定処理及び種別判定処理の結果が第１小当たり結果となったことを契機とした振分実行モードにてＶ入賞が発生したことで５回のラウンド遊技が実行される開閉実行モードが開始される場合、６Ｒ表示部４８３が消灯状態から発光状態となる。そして、当該開閉実行モードが実行されている間は６Ｒ表示部４８３が発光状態に維持され、当該開閉実行モードが終了する場合に６Ｒ表示部４８３が発光状態から消灯状態となる。

【２９６１】

当否判定処理及び種別判定処理の結果が第１小当たり結果、第２小当たり結果及び第３小当たり結果のいずれかとなり振分実行モードが開始される場合、小当たり表示部４８４が消灯状態から発光状態となる。そして、当該振分実行モードが実行されている間は小当たり表示部４８４が発光状態に維持され、当該振分実行モードが終了する場合に小当たり表示部４８４が発光状態から消灯状態となる。

【２９６２】

上記構成であることにより遊技が行われている状況においては１５Ｒ表示部４８１、９Ｒ表示部４８２、６Ｒ表示部４８３及び小当たり表示部４８４のうちの複数の表示部４８１～４８４が同時に発光状態となることはない。これに対して、本実施形態では設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況及び設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況において、１５Ｒ表示部４８１、９Ｒ表示部４８２、６Ｒ表示部４８３及び小当たり表示部４８４のうちの複数の表示部４８１～４８４が同時に発光状態となる。

【２９６３】

図２３１（ｂ）は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）又は設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況における１５Ｒ表示部４８１、６Ｒ表示部４８３及び小当たり表示部４８４の表示内容を示すタイムチャートである。図２３１（ｂ１）は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている期間を示し、図２３１（ｂ２）は設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている期間を示し、図２３１（ｂ３）は１５Ｒ表示部４８１が発光状態となっている期間を示し、図２３１（ｂ４）は６Ｒ表示部４８３が発光状態となっている期間を示し、図２３１（ｂ５）は小当たり表示部４８４が発光状態となっている期間を示す。

【２９６４】

ｔ１のタイミングで図２３１（ｂ１）に示すように設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が開始される。この場合、当該ｔ１のタイミングで図２３１（ｂ３）に示すように１５Ｒ表示部４８１が消灯状態から発光状態に切り換わるとともに図２３１（ｂ５）に示すように小当たり表示部４８４が消灯状態から発光状態に切り換わる。そして、これら１５Ｒ表示部４８１及び小当たり表示部４８４の発光状態は設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている間は継続される。

【２９６５】

その後、ｔ２のタイミングで図２３１（ｂ１）に示すように設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が終了する。これにより、当該ｔ２のタイミングで図２３１（ｂ３）に示すように１５Ｒ表示部４８１が発光状態から消灯状態に切り換わるとともに図２３１（ｂ５）に示すように小当たり表示部４８４が発光状態から消灯状態に切り換わる。

【２９６６】

また、ｔ３のタイミングで図２３１（ｂ２）に示すように設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が開始される。この場合、当該ｔ３のタイミングで図２３１（ｂ３）に示すように１５Ｒ表示部４８１が消灯状態から発光状態に切り換わるとともに図２３１（ｂ４）に示すように６Ｒ表示部４８３が消灯状態から発光状態に切り換わる。そして、これら１５Ｒ表示部４８１及び６Ｒ表示部４８３の発光状態は設定確認用処理（ステップＳＣ２１

３）が実行されている間は継続される。
【２９６７】
その後、ｔ４のタイミングで図２３１（ｂ２）に示すように設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が終了する。これにより、当該ｔ４のタイミングで図２３１（ｂ３）に示すように１５Ｒ表示部４８１が発光状態から消灯状態に切り換わるとともに図２３１（ｂ４）に示すように６Ｒ表示部４８３が発光状態から消灯状態に切り換わる。
【２９６８】
上記構成によれば設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況においては１５Ｒ表示部４８１及び小当たり表示部４８４の両方が発光状態となる。これら１５Ｒ表示部４８１及び小当たり表示部４８４の両方が発光状態となる状況は、遊技が実行されている状況を含めて設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されていない状況においては発生しない。これにより、１５Ｒ表示部４８１及び小当たり表示部４８４を利用して設定値更新処理（ステップＳＣ２１６）が実行されている状況であるか否かを報知することが可能となる。
【２９６９】
設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況においては１５Ｒ表示部４８１及び６Ｒ表示部４８３の両方が発光状態となる。これら１５Ｒ表示部４８１及び６Ｒ表示部４８３の両方が発光状態となる状況は、遊技が実行されている状況を含めて設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されていない状況においては発生しない。これにより、１５Ｒ表示部４８１及び６Ｒ表示部４８３を利用して設定確認用処理（ステップＳＣ２１３）が実行されている状況であるか否かを報知することが可能となる。
【２９７０】
＜第６９の実施形態＞
本実施形態では遊技の実行内容が上記６４の実施形態と相違している。以下、上記第６４の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第６４の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【２９７１】
図２３２は本実施形態における遊技盤２４の正面図である。
【２９７２】
本実施形態であっても遊技盤２４には、遊技領域ＰＡの外縁の一部を区画するようにして内レール部４０１と外レール部４０２とが取り付けられており、これら内レール部４０１と外レール部４０２とにより誘導手段としての誘導レールが構成されている。遊技盤２４には、前後方向に貫通する大小複数の開口部が形成されている。各開口部には一般入賞部４１１、第１作動部４１２、第２作動部４１３、スルー入賞部４１４、特電入賞装置４１６、可変表示ユニット４２１、特図ユニット４２２及び普図ユニット４２３等がそれぞれ設けられている。また、遊技領域ＰＡは可変表示ユニット４２１により上側領域ＰＡ１、左側領域ＰＡ２、右側領域ＰＡ３及び下側領域ＰＡ４に区画されている。一般入賞部４１１、第１作動部４１２、第２作動部４１３、スルー入賞部４１４、特電入賞装置４１６、可変表示ユニット４２１、特図ユニット４２２及び普図ユニット４２３の構成は上記第６４の実施形態と同一であるとともに遊技領域ＰＡにおける配置位置も上記第６４の実施形態と同一である。但し、本実施形態では上記第６４の実施形態における振分入賞装置４１５は設けられていない。
【２９７３】
スルー入賞部４１４への遊技球の入球が発生したとしても遊技球の払い出しは実行されない。一方、一般入賞部４１１、第１作動部４１２、第２作動部４１３及び特電入賞装置４１６のいずれかへの遊技球の入球が発生した場合、遊技者が使用可能な遊技媒体数を増加させるべく所定数の遊技球の払い出しが実行される。当該賞球個数について具体的には、一般入賞部４１１への遊技球の入球が発生した場合には１０個の遊技球の払い出しが実行され、第１作動部４１２への遊技球の入球が発生した場合には３個の遊技球の払い出しが実行され、第２作動部４１３への遊技球の入球が発生した場合には１個の遊技球の払い

出しが実行され、特電入賞装置４１６への遊技球の入球が発生した場合には１５個の遊技球の払い出しが実行される。

【２９７４】

右側領域ＰＡ３におけるスルー入賞部４１４よりも上方の領域に、右側領域ＰＡ３を流下する遊技球の全てをスルー入賞部４１４に誘導する第１誘導釘４９１ａが設けられている。第１誘導釘４９１ａが設けられていることにより、右側領域ＰＡ３を流下する遊技球は全てスルー入賞部４１４を通過することとなる。但し、スルー入賞部４１４に入賞した遊技球はそのまま右側領域ＰＡ３の流下を継続することとなるため、右側領域ＰＡ３においてスルー入賞部４１４よりも下流側に設けられた第２作動部４１３及び特電入賞装置４１６への入賞が発生し得る。なお、右側領域ＰＡ３に流入した遊技球が全てスルー入賞部４１４に入賞する構成に限定されることはなく、右側領域ＰＡ３に流入した遊技球は９／１０の確率といったように高い確率でスルー入賞部４１４に入賞する構成としてもよい。

【２９７５】

右側領域ＰＡ３におけるスルー入賞部４１４よりも下方であって第２作動部４１３よりも上方の領域に、右側領域ＰＡ３を流下する遊技球の全てを第２作動部４１３に誘導する第２誘導釘４９１ｂが設けられている。第２誘導釘４９１ｂが設けられていることにより、右側領域ＰＡ３を流下する遊技球は全て第２作動部４１３のカバー部材４３９によって形成された通路部４３９ａに確実に流入することとなる。したがって、第２作動部４１３の誘導ユニット４３２が誘導状態である状況において右側領域ＰＡ３に流入して第２誘導釘４９１ｂにより第２作動部４１３に誘導された遊技球は確実に第２作動部４１３に入球することとなる。一方、第２作動部４１３の誘導ユニット４３２が非誘導状態である状況において右側領域ＰＡ３に流入して第２誘導釘４９１ｂにより第２作動部４１３に誘導された遊技球は第２作動部４１３のカバー部材４３９による通路部４３９ａに流入するものの第２作動部４１３に入球しない。この遊技球は通路部４３９ａを通過して第２作動部４１３よりも下流側を流下することとなる。例えば特電入賞装置４１６が開放状態となっている場合にはこの遊技球は高い確率で特電入賞装置４１６に入球することとなる。なお、特電入賞装置４１６が開放状態となっている場合にはこの遊技球が確実に特電入賞装置４１６に入球する構成としてもよい。

【２９７６】

上記構成において、第２作動部４１３への遊技球の入球が発生した場合における遊技球の払出個数は１個であるため第２作動部４１３への入球が頻繁に発生したとしても実質的に遊技者が所有している遊技球は増加しない。一方、第２作動部４１３の誘導ユニット４３２が非誘導状態である場合には第２誘導釘４９１ｂに誘導された遊技球であっても第２作動部４１３に入球しない。したがって、サポートモードが高頻度サポートモードとなり誘導ユニット４３２が高い頻度で誘導状態となる状況であったとしても、開閉実行モードが発生して特電入賞装置４１６への遊技球の入球が発生しない限り、遊技者が所有している遊技球が減りづらくなったとしても増加はしない。

【２９７７】

次に、主側ＣＰＵ６３にて各種抽選を行うための電気的な構成について図２３３を用いて説明する。

【２９７８】

主側ＣＰＵ６３は遊技に際し各種カウンタ情報を用いて、当たり発生抽選、特図表示部４２５，４２６の表示の設定、図柄表示装置４２４の図柄表示の設定、普図表示部４２３ａの表示の設定などを行うこととしており、具体的には、図２３３に示すように、当たり発生の抽選に使用する当たり乱数カウンタＣ１と、大当たり種別を判定する際に使用する種別カウンタＣ２と、図柄表示装置４２４が外れ変動する際のリーチ発生抽選に使用するリーチ乱数カウンタＣ３と、当たり乱数カウンタＣ１の初期値設定に使用する乱数初期値カウンタＣＩＮＩと、特図表示部４２５，４２６及び図柄表示装置４２４における遊技機の表示継続期間を決定する変動種別カウンタＣＳと、を用いることとしている。さらに、第２作動部４１３の誘導ユニット４３２を誘導実行状態とするか否かの抽選に使用する普

電役物開放カウンタＣ４を用いることとしている。なお、上記各カウンタＣ１～Ｃ３，ＣＩＮＩ，ＣＳ，Ｃ４は、主側ＲＡＭ６５の各種カウンタエリア６５ｂに設けられている。

【２９７９】

各カウンタＣ１～Ｃ３，ＣＩＮＩ，ＣＳ，Ｃ４は、その更新の都度前回値に１が加算され、最大値に達した後に「０」に戻るループカウンタとなっている。各カウンタは短時間間隔で更新される。当たり乱数カウンタＣ１、種別カウンタＣ２及びリーチ乱数カウンタＣ３に対応した情報は、第１作動部４１２又は第２作動部４１３への入賞が発生した場合に、主側ＲＡＭ６５に設けられた特図保留エリア４５１に格納される。特図保留エリア４５１は、第１特図保留エリア４５２と、第２特図保留エリア４５３と、特図用の実行エリア４９２とを備えている。

【２９８０】

第１特図保留エリア４５２は第１エリア４５２ａ、第２エリア４５２ｂ、第３エリア４５２ｃ及び第４エリア４５２ｄを備えており、第１作動部４１２への入賞履歴に合わせて、当たり乱数カウンタＣ１、種別カウンタＣ２及びリーチ乱数カウンタＣ３の各数値情報が特図側の保留情報として、いずれかのエリア４５２ａ～４５２ｄに格納される。この場合、第１エリア４５２ａ～第４エリア４５２ｄには、第１作動部４１２への入賞が複数回連続して発生した場合に、第１エリア４５２ａ→第２エリア４５２ｂ→第３エリア４５２ｃ→第４エリア４５２ｄの順に各数値情報が時系列的に格納されていく。このように４つのエリア４５２ａ～４５２ｄが設けられていることにより、第１作動部４１２への遊技球の入賞履歴が最大４個まで保留記憶されるようになっている。なお、第１特図保留エリア４５２において保留記憶可能な数は、４個に限定されることはなく任意であり、２個、３個又は５個以上といったように他の複数であってもよく、単数であってもよい。

【２９８１】

第２特図保留エリア４５３は第１エリア４５３ａ、第２エリア４５３ｂ、第３エリア４５３ｃ及び第４エリア４５３ｄを備えており、第２作動部４１３への入賞履歴に合わせて、当たり乱数カウンタＣ１、種別カウンタＣ２及びリーチ乱数カウンタＣ３の各数値情報が特図側の保留情報として、いずれかのエリア４５３ａ～４５３ｄに格納される。この場合、第１エリア４５３ａ～第４エリア４５３ｄには、第２作動部４１３への入賞が複数回連続して発生した場合に、第１エリア４５３ａ→第２エリア４５３ｂ→第３エリア４５３ｃ→第４エリア４５３ｄの順に各数値情報が時系列的に格納されていく。このように４つのエリア４５３ａ～４５３ｄが設けられていることにより、第２作動部４１３への遊技球の入賞履歴が最大４個まで保留記憶されるようになっている。なお、第２特図保留エリア４５３において保留記憶可能な数は、４個に限定されることはなく任意であり、２個、３個又は５個以上といったように他の複数であってもよく、単数であってもよい。

【２９８２】

特図用の実行エリア４９２は第１特図用の実行エリア４９３と第２特図用の実行エリア４９４とを備えている。第１特図用の実行エリア４９３は第１特図表示部４２５にて絵柄の変動表示を開始する際に、特図用の当否判定処理や種別判定処理などを行う対象の第１特図側の保留情報が格納されるエリアである。第２特図用の実行エリア４９４は第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示を開始する際に、特図用の当否判定処理や種別判定処理などを行う対象の第２特図側の保留情報が格納されるエリアである。具体的には、第１特図表示部４２５における絵柄の変動表示を開始する際には、第１特図保留エリア４５２の第１エリア４５２ａに格納された第１特図側の保留情報が第１特図用の実行エリア４９３に移動される。一方、第２特図表示部４２６における絵柄の変動表示を開始する際には、第２特図保留エリア４５３の第１エリア４５３ａに格納された第２特図側の保留情報が第２特図用の実行エリア４９４に移動される。

【２９８３】

普電役物開放カウンタＣ４に対応した情報は、スルー入賞部４１４への入賞が発生した場合に、主側ＲＡＭ６５に設けられた普図保留エリア４５５に格納される。普図保留エリア４５５は、第１エリア４５５ａ、第２エリア４５５ｂ、第３エリア４５５ｃ及び第４エ

リア４５５ｄを備えており、スルー入賞部４１４への入賞履歴に合わせて、普電役物開放カウンタＣ４の数値情報が普図側の保留情報として、いずれかのエリア４５５ａ～４５５ｄに格納される。この場合、第１エリア４５５ａ～第４エリア４５５ｄには、スルー入賞部４１４への入賞が複数回連続して発生した場合に、第１エリア４５５ａ→第２エリア４５５ｂ→第３エリア４５５ｃ→第４エリア４５５ｄの順に数値情報が時系列的に格納されていく。このように４つのエリア４５５ａ～４５５ｄが設けられていることにより、スルー入賞部４１４への遊技球の入賞履歴が最大４個まで保留記憶されるようになっている。なお、普図保留エリア４５５において保留記憶可能な数は、４個に限定されることはなく任意であり、２個、３個又は５個以上といったように他の複数であってもよく、単数であってもよい。

【２９８４】

普図保留エリア４５５には、普図用の実行エリア４５６が設けられている。普図用の実行エリア４５６は、普図表示部４２３ａにて変動表示を開始する際に、誘導ユニット４３２を誘導状態とするか否かを決定するための誘導状態抽選を行う対象の普図側の保留情報が格納されるエリアである。具体的には、普図表示部４２３ａの変動表示を開始する際には、普図保留エリア４５５の第１エリア４５５ａに格納された普図側の保留情報が普図用の実行エリア４５６に移動される。

【２９８５】

上記各カウンタＣ１～Ｃ３，ＣＩＮＩ，ＣＳ，Ｃ４のうちリーチ乱数カウンタＣ３、乱数初期値カウンタＣＩＮＩ及び普電役物開放カウンタＣ４に関する構成は上記第６４の実施形態と同一である。一方、当たり乱数カウンタＣ１、種別カウンタＣ２及び変動種別カウンタＣＳに関する構成は上記第６４の実施形態と相違している。以下、これら当たり乱数カウンタＣ１、種別カウンタＣ２及び変動種別カウンタＣＳに関する構成について説明する。なお、本実施形態では小当たり結果に対応する遊技回では図柄表示装置４２４においてリーチ表示が発生することはなく、さらに図柄の変動表示後に同一図柄の組合せが停止表示されない。

【２９８６】

まず当たり乱数カウンタＣ１について説明する。当たり乱数カウンタＣ１は、０～９９９９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻る構成となっている。特に当たり乱数カウンタＣ１が１周した場合、その時点の乱数初期値カウンタＣＩＮＩの値が当該当たり乱数カウンタＣ１の初期値として読み込まれる。なお、乱数初期値カウンタＣＩＮＩは、当たり乱数カウンタＣ１と同様のループカウンタである（値＝０～９９９９）。当たり乱数カウンタＣ１は定期的に更新され、遊技球が第１作動部４１２又は第２作動部４１３に入賞したタイミングで主側ＲＡＭ６５の特図保留エリア４５１に格納される。そして、この格納された当たり乱数カウンタＣ１の数値情報を利用して当否判定処理が行われる。

【２９８７】

当否判定処理に際して当選となる乱数の値は、主側ＲＯＭ６４に当否テーブルとして記憶されている。当否テーブルとして、第１特図側の保留情報に対応させて第１当否テーブル４９５，４９６が設けられているとともに、第２特図側の保留情報に対応させて第２当否テーブル４９７，４９８が設けられている。また、本実施形態では当否抽選モードとして、大当たり結果となる確率が相対的に高低となる高確率モードと低確率モードとが存在している。

【２９８８】

図２３４（ａ）は低確率モードにおいて第１特図側の保留情報について当否判定処理を行う場合に参照される低確率時の第１当否テーブル４９５を説明するための説明図であり、図２３４（ｂ）は高確率モードにおいて第１特図側の保留情報について当否判定処理を行う場合に参照される高確率時の第１当否テーブル４９６を説明するための説明図であり、図２３４（ｃ）は低確率モードにおいて第２特図側の保留情報について当否判定処理を行う場合に参照される低確率時の第２当否テーブル４９７を説明するための説明図であり

、図２３４（ｄ）は高確率モードにおいて第２特図側の保留情報について当否判定処理を行う場合に参照される高確率時の第２当否テーブル４９８を説明するための説明図である。

【２９８９】

図２３４（ａ）～図２３４（ｄ）に示すように上記第６４の実施形態と同様に当否判定処理の結果として、大当たり結果と、小当たり結果と、外れ結果とが存在している。大当たり結果は、複数回のラウンド遊技が実行される開閉実行モードへの移行契機となるとともに、当否抽選モード及びサポートモードの移行契機となり得る当否結果である。小当たり結果は、特電入賞装置４１６が開閉制御される開閉実行モードへの移行契機となる一方、当否抽選モード及びサポートモードの移行契機とならない当否結果である。外れ結果は、開閉実行モードの移行契機とならずに、さらに当否抽選モード及びサポートモードについても移行契機とならない当否結果である。

【２９９０】

図２３４（ａ）に示すように低確率時の第１当否テーブル４９５には当否判定処理の結果として、大当たり結果、小当たり結果及び外れ結果が設定されている。また、パチンコ機１０には「設定１」～「設定６」の設定状態が存在しているが、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど外れ結果となる確率が低くなるように設定されている。一方、小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同一となるように設定されている。

【２９９１】

具体的には、最も低い設定値である「設定１」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８９５０個が設定されている。また、「設定１」よりも１段階高い設定値である「設定２」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５２個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８９４８個が設定されている。また、「設定２」よりも１段階高い設定値である「設定３」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８９４６個が設定されている。また、「設定３」よりも１段階高い設定値である「設定４」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５６個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８９４４個が設定されている。また、「設定４」よりも１段階高い設定値である「設定５」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５８個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８９４２個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定６」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８９４０個が設定されている。

【２９９２】

図２３４（ｂ）に示すように高確率時の第１当否テーブル４９６には当否判定の判定結果として、大当たり結果、小当たり結果及び外れ結果が設定されている。また、パチンコ機１０には「設定１」～「設定６」の設定状態が存在しているが、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど外れ結果となる確率が低くなるように設定されている。一方、小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同

一となるように設定されている。
【２９９３】
具体的には、最も低い設定値である「設定１」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８５００個が設定されている。また、「設定１」よりも１段階高い設定値である「設定２」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５２０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８４８０個が設定されている。また、「設定２」よりも１段階高い設定値である「設定３」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８４６０個が設定されている。また、「設定３」よりも１段階高い設定値である「設定４」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５６０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８４４０個が設定されている。また、「設定４」よりも１段階高い設定値である「設定５」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５８０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８４２０個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定６」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６００個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８４００個が設定されている。
【２９９４】
「設定１」において第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には１／２００であり高確率モードである場合にはその１０倍の１／２０である。「設定２」において第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１９２であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１９．２である。「設定３」において第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１８５であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１８．５である。「設定４」において第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１７９であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１７．９である。「設定５」において第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１７２であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１７．２である。「設定６」において第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１６７であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１６．７である。つまり、「設定１」～「設定６」のいずれであっても第１特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は高確率モードである場合には低確率モードである場合に対して１０倍となる。
【２９９５】
一方、第１特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同一となる１／１０である。また、第１特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は低確率モード及び高確率モードのいずれであっても同一となる１／１０となる。つまり、第１特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は設定状態及び当否抽選モードに関係なく一定となっている。また、第１特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は設定状態及び当否抽選モードに関係なく

大当たり結果となる確率よりも高い確率となっている。但し、第１特図側の保留情報を契機とした場合、設定状態及び当否抽選モードに関係なく外れ結果となる確率が最も高い確率となっている。さらに言うと第１特図側の保留情報を契機とした場合に外れ結果となる確率は、設定状態及び当否抽選モードに関係なく大当たり結果及び小当たり結果の合成確率よりも高い確率となっている。

【２９９６】

なお、大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報は連番となるように集約して設定されている構成としてもよく、少なくとも一部又は全部が連番とならないように分散させて設定されている構成としてもよい。また、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報は連番となるように集約して設定されている構成としてもよく、少なくとも一部又は全部が連番とならないように分散させて設定されている構成としてもよい。

【２９９７】

図２３４（ｃ）に示すように低確率時の第２当否テーブル４９７には当否判定処理の結果として、大当たり結果、小当たり結果及び外れ結果が設定されている。また、パチンコ機１０には「設定１」～「設定６」の設定状態が存在しているが、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど外れ結果となる確率が低くなるように設定されている。一方、小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同一となるように設定されている。

【２９９８】

具体的には、最も低い設定値である「設定１」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５５０個が設定されている。また、「設定１」よりも１段階高い設定値である「設定２」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５２個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４８個が設定されている。また、「設定２」よりも１段階高い設定値である「設定３」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４６個が設定されている。また、「設定３」よりも１段階高い設定値である「設定４」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５６個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４４個が設定されている。また、「設定４」よりも１段階高い設定値である「設定５」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５８個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４２個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定６」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４０個が設定されている。

【２９９９】

図２３４（ｄ）に示すように高確率時の第２当否テーブル４９８には当否判定処理の結果として、大当たり結果、小当たり結果及び外れ結果が設定されている。また、パチンコ機１０には「設定１」～「設定６」の設定状態が存在しているが、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど外れ結果となる確率が低くなるように設定されている。一方、小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同

一となるように設定されている。
【３０００】
具体的には、最も低い設定値である「設定１」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１００個が設定されている。また、「設定１」よりも１段階高い設定値である「設定２」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５２０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８０個が設定されている。また、「設定２」よりも１段階高い設定値である「設定３」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６０個が設定されている。また、「設定３」よりも１段階高い設定値である「設定４」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５６０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として４０個が設定されている。また、「設定４」よりも１段階高い設定値である「設定５」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５８０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として２０個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定６」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６００個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数は０個となっている。
【３００１】
「設定１」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には１／２００であり高確率モードである場合にはその１０倍の１／２０である。「設定２」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１９２であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１９．２である。「設定３」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１８５であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１８．５である。「設定４」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１７９であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１７．９である。「設定５」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１７２であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１７．２である。「設定６」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１６７であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１６．７である。つまり、「設定１」～「設定６」のいずれであっても第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は高確率モードである場合には低確率モードである場合に対して１０倍となる。また、設定状態及び当否抽選モードの組合せが同一となる組合せで比較した場合に大当たり結果となる確率は第１特図側の保留情報を契機とした場合と第２特図側の保留情報を契機とした場合とで同一となっている。
【３００２】
一方、第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同一となる約１／１．０６である。また、第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は低確率モード及び高確率モードのいずれであっても同一となる１／１．０６となる。つまり、第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は設定状態及び当否抽選モードに関係なく一定となっている。この第２

特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は第１特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率よりも高い確率となっている。また、第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は設定状態及び当否抽選モードに関係なく大当たり結果となる確率よりも高い確率となっている。また、第２特図側の保留情報を契機とした場合、設定状態及び当否抽選モードに関係なく小当たり結果となる確率が外れ結果となる確率よりも高い確率となっている。さらに言うと第２特図側の保留情報を契機とした場合に小当たり結果となる確率は、設定状態及び当否抽選モードに関係なく大当たり結果及び外れ結果の合成確率よりも高い確率となっている。

【３００３】

なお、大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報は連番となるように集約して設定されている構成としてもよく、少なくとも一部又は全部が連番とならないように分散させて設定されている構成としてもよい。また、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報は連番となるように集約して設定されている構成としてもよく、少なくとも一部又は全部が連番とならないように分散させて設定されている構成としてもよい。

【３００４】

上記のとおり第１特図側の保留情報を契機とした場合及び第２特図側の保留情報を契機とした場合のいずれであっても高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高くなるように設定されていることにより高い設定値ほど遊技者にとって有利となる。また、開閉実行モードは単位時間当たりにおける遊技者の持ち球の増加量が最も多くなる期間であり、当該開閉実行モードの移行契機となる大当たり結果の確率が設定値に応じて変動することにより、設定値に対する遊技者の注目度を高めることが可能となる。

【３００５】

また、低確率モードよりも高確率モードの方が大当たり結果となる確率が高くなる構成において、いずれの「設定１」～「設定６」のいずれであっても高確率モードにおいて大当たり結果となる確率は低確率モードにおいて大当たり結果となる確率に対して「１」よりも大きい数である一定数倍（具体的には１０倍）高い確率となっている。これにより、いずれの設定状態であっても低確率モードと高確率モードとの間における大当たり結果となる確率の変動率を一定とすることが可能となる。

【３００６】

また、設定状態及び当否抽選モードの組合せが同一となる組合せで比較した場合に大当たり結果となる確率は第１特図側の保留情報を契機とした場合と第２特図側の保留情報を契機とした場合とで同一となっている。これにより、第１特図側の保留情報を契機とした場合と第２特図側の保留情報を契機とした場合とで大当たり結果の発生確率に差異が生じないようにすることが可能となる。

【３００７】

また、第１特図側の保留情報を契機とした場合に小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同一となるとともに当否抽選モードが低確率モード及び高確率モードのいずであっても同一となっている。また、第２特図側の保留情報を契機とした場合に小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同一となるとともに当否抽選モードが低確率モード及び高確率モードのいずであっても同一となっている。これにより、遊技者が設定値を推測するために注目する対象を大当たり結果に限定させることが可能となり、設定値の推測を行いづらくさせることが可能となる。

【３００８】

その一方、小当たり結果となる確率は第２特図側の保留情報を契機とした場合の方が第１特図側の保留情報を契機とした場合よりも高い確率となっている。これにより、第１特図側の保留情報を契機とした遊技回が実行される場合と第２特図側の保留情報を契機とした遊技回が実行される場合とで小当たり結果の発生頻度を異ならせることが可能となる。

【３００９】

また、第１当否テーブル４９５，４９６にて小当たり結果に割り当てられている当たり

乱数カウンタＣ１の数値情報の数よりも外れ結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の方が多い構成において、設定値による大当たり結果の確率の変動分が外れ結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動によって吸収されている。そして、外れ結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数が最も多い。これにより、設定値による大当たり結果の確率変動分を吸収するための設定値による外れ結果の確率変動分を少なくすることが可能となる。よって、第１特図側の保留情報を契機とした場合において遊技者が設定値を推測するために注目する対象を大当たり結果に限定させることが可能となり、設定値の推測を行いづらくさせることが可能となる。

【３０１０】

また、第２当否テーブル４９７，４９８にて小当たり結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数よりも外れ結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の方が少ない構成において、設定値による大当たり結果の確率の変動分が外れ結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動によって吸収されている。そして、大当たり結果及び小当たり結果の合成確率が最も高くなる状況である「設定６」であって高確率モードである場合に第２特図側の保留情報に対して当否判定処理が行われた状況において外れ結果となる確率は０％となっている。これにより、「設定６」であって高確率モードである場合に第２特図側の保留情報に対して当否判定処理が行われた状況における大当たり結果及び小当たり結果の合成確率を好適に高めることが可能となる。

【３０１１】

次に、種別カウンタＣ２について説明する。種別カウンタＣ２は、０～２９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻る構成となっている。種別カウンタＣ２は定期的に更新され、遊技球が第１作動部４１２又は第２作動部４１３に入賞したタイミングで主側ＲＡＭ６５の特図保留エリア４５１に格納される。そして、この格納された種別カウンタＣ２の値を利用して種別判定処理が行われる。

【３０１２】

種別カウンタＣ２を利用した種別判定処理は、当否判定処理において大当たり結果となった場合に行われる。一方、当否判定処理において小当たり結果となった場合には種別判定処理は行われない。つまり、本実施形態では大当たり結果が複数種類設定されているのに対して小当たり結果は１種類のみ設定されている。当否判定処理において大当たり結果が選択された場合には、主側ＲＯＭ６４に予め記憶された種別テーブル４９９及び種別カウンタＣ２を利用して大当たり結果の種類が選択される。以下、各種類の大当たり結果の内容及び小当たり結果の内容について説明する。

【３０１３】

図２３５（ａ）は第１特図側の保留情報又は第２特図側の保留情報を契機とした当否判定処理において大当たり結果が選択された場合に大当たり結果の種類を振り分けるために参照される種別テーブル４９９を説明するための説明図である。また、図２３５（ｂ）は複数種類の大当たり結果のそれぞれの内容及び１種類の小当たり結果の内容を説明するための説明図である。

【３０１４】

種別テーブル４９９は第１特図用の保留情報を契機とした当否判定処理において大当たり結果が選択された場合に参照されるとともに、第２特図用の保留情報を契機とした当否判定処理において大当たり結果が選択された場合に参照される。つまり、第１特図用の保留情報を契機とした当否判定処理において大当たり結果が選択された場合及び第２特図用の保留情報を契機とした当否判定処理において大当たり結果が選択された場合のいずれであっても、同一の種別テーブル４９９が参照される。

【３０１５】

種別テーブル４９９には図２３５（ａ）に示すように、大当たり結果の種類として、６Ｒ通常大当たり結果と６Ｒ高確大当たり結果と１６Ｒ高確大当たり結果とが設定されてい

る。そして、「０～１０」の種別カウンタＣ２の数値情報が６Ｒ通常大当たり結果に対応しており、「１１～２６」の種別カウンタＣ２の数値情報が６Ｒ高確大当たり結果に対応しており、「２７～２９」の種別カウンタＣ２の数値情報が１６Ｒ高確大当たり結果に対応している。つまり、当否判定処理において大当たり結果が選択された場合には、１１／３０の確率で６Ｒ通常大当たり結果が選択され、１６／３０の確率で６Ｒ高確大当たり結果が選択され、３／３０の確率で１６Ｒ高確大当たり結果が選択される。

【３０１６】

６Ｒ通常大当たり結果となった場合、図２３５（ｂ）に示すようにその後の開閉実行モードではラウンド遊技が６回発生する。また、開閉実行モードが終了した後は当該開閉実行モードの開始前における当否抽選モードに関係なく低確率モードとなるとともに、当該開閉実行モードの開始前におけるサポートモードに関係なく高頻度サポートモードとなる。但し、この高頻度サポートモードは第１特図側の保留情報を契機とした遊技回及び第２特図側の保留情報を契機とした遊技回の合計回数が５０回実行された場合には終了して低頻度サポートモードに移行する。

【３０１７】

なお、ラウンド遊技は上記第６４の実施形態と同様に、特電入賞装置４１６の開閉回数が上限回数となること、及び予め定められた上限入賞個数の遊技球が特電入賞装置４１６に入賞することのいずれか一方の条件が満たされるまで継続する遊技のことである。本実施形態では１回のラウンド遊技において特電入賞装置４１６の開閉が１回行われるとともに、各ラウンド遊技における開放継続期間が２９秒に設定されている。また、特電入賞装置４１６への上限入賞個数は１０個に設定されている。発射操作装置２８が遊技者により操作されている状況では０．６秒に１個の遊技球が遊技領域ＰＡに向けて発射されるように遊技球発射機構２７が駆動制御されるため、ラウンド遊技の開放継続期間は遊技球の発射周期と１回のラウンド遊技の上限入賞個数との積よりも長い時間に設定されていることとなる。よって、各ラウンド遊技において特電入賞装置４１６に上限入賞個数以上の遊技球が入賞することを期待することができる。

【３０１８】

６Ｒ高確大当たり結果となった場合、図２３５（ｂ）に示すようにその後の開閉実行モードではラウンド遊技が６回発生する。また、開閉実行モードが終了した後は当該開閉実行モードの開始前における当否抽選モードに関係なく高確率モードとなるとともに、当該開閉実行モードの開始前におけるサポートモードに関係なく高頻度サポートモードとなる。これら高確率モード及び高頻度サポートモードは次回の大当たり結果となる遊技回が終了するまで継続する。但し、これに限定されることはなくこれら高確率モード及び高頻度サポートモードは遊技回の実行回数が終了基準回数に到達した場合に終了することとなるものの、その終了基準回数が大当たり結果となる確率に比べて非常に多い回数であることにより実質的に次回の大当たり結果となる遊技回が終了するまで高確率モード及び高頻度サポートモードが継続する構成としてもよい。

【３０１９】

１６Ｒ高確大当たり結果となった場合、図２３５（ｂ）に示すようにその後の開閉実行モードではラウンド遊技が１６回発生する。したがって、少なくともラウンド遊技の実行回数という点で１６Ｒ高確大当たり結果は最も有利な大当たり結果となっている。また、開閉実行モードが終了した後は当該開閉実行モードの開始前における当否抽選モードに関係なく高確率モードとなるとともに、当該開閉実行モードの開始前におけるサポートモードに関係なく低頻度サポートモードとなる。これら高確率モード及び低頻度サポートモードは次回の大当たり結果となる遊技回が終了するまで継続する。但し、これに限定されることはなくこれら高確率モード及び低頻度サポートモードは遊技回の実行回数が終了基準回数に到達した場合に終了することとなるものの、その終了基準回数が大当たり結果となる確率に比べて非常に多い回数であることにより実質的に次回の大当たり結果となる遊技回が終了するまで高確率モード及び低頻度サポートモードが継続する構成としてもよい。

【３０２０】

小当たり結果となった場合、図２３５（ｂ）に示すようにその後の開閉実行モードでは特電入賞装置４１６が１回開放される。この１回の開放回は２秒が経過すること及び特電入賞装置４１６への入賞個数が１０個に到達したことのいずれか一方の条件が成立した場合に終了する。この場合に、既に説明したとおり発射操作装置２８が遊技者により操作されている状況では０．６秒に１個の遊技球が遊技領域ＰＡに向けて発射されるように遊技球発射機構２７が駆動制御されるため、当該開放回の開放継続期間は遊技球の発射周期と当該開放回の上限入賞個数との積よりも短い時間に設定されていることとなる。よって、当該開放回においては基本的に特電入賞装置４１６に上限入賞個数以上の遊技球が入賞することはなく、開放継続期間である２秒が経過することで特電入賞装置４１６が閉鎖状態となる。また、小当たり結果が発生したとしても当否抽選モード及びサポートモードは開閉実行モードの開始前におけるモードが維持される。

【３０２１】

既に説明したとおり第１特図側の保留情報を契機とした場合及び第２特図側の保留情報を契機とした場合のいずれであっても当否判定処理において小当たり結果が選択され得る。但し、第２特図側の保留情報を契機とした場合の方が第１特図側の保留情報を契機とした場合よりも小当たり結果が選択される確率が高い。より詳細には、第２特図側の保留情報を契機とした場合には当否判定処理において小当たり結果が選択される確率は大当たり結果及び外れ結果の合成確率よりも高い確率であるのに対して、第１特図側の保留情報を契機とした場合には当否判定処理において小当たり結果が選択される確率よりも外れ結果が選択される確率の方が高い。したがって、第２作動部４１３への入賞頻度が高くなる高頻度サポートモードの方が低頻度サポートモードよりも単位発射個数当たりで小当たり結果となる確率が高くなる。しかしながら、第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となった場合に特電入賞装置４１６への入賞が発生する遊技球の期待個数は低頻度サポートモードの方が高頻度サポートモードよりも多い。このような事象が発生する理由について以下に説明する。

【３０２２】

図２３５（ｃ）はサポートモードの内容を説明するための説明図である。低頻度サポートモード及び高頻度サポートモードのいずれであっても、第２作動部４１３の誘導ユニット４３２を誘導状態に制御するか否かを決定するための誘導状態抽選において誘導状態当選となる確率は９５％で同一となっている。但し、これに限定されることはなく誘導状態当選となる確率が低頻度サポートモードと高頻度サポートモードとで略同一である構成としてもよく、高頻度サポートモードの方が低頻度サポートモードよりも誘導状態当選となる確率が高い構成としてもよい。

【３０２３】

誘導状態抽選が実行された場合に実行される普図表示部４２３ａにおける絵柄の変動表示の表示継続期間は、低頻度サポートモードである場合には４秒であるのに対して、高頻度サポートモードである場合には０．１秒である。普図表示部４２３ａにて絵柄の変動表示が行われている間は普図保留エリア４５５に普図側の保留情報が保留記憶されていたとしても第２作動部４１３の誘導ユニット４３２は誘導状態とならない。そして、第２作動部４１３の誘導ユニット４３２が非誘導状態である場合には、右側領域ＰＡ３に流入した遊技球が第２作動部４１３の下流側に存在している特電入賞装置４１６の位置に到達し得る。

【３０２４】

誘導状態当選となった場合における誘導ユニット４３２の誘導状態の実行態様は、低頻度サポートモードである場合には誘導ユニット４３２が２秒に亘って１回のみ誘導状態となるのに対して、高頻度サポートモードである場合には誘導ユニット４３２が６秒に亘って１回のみ誘導状態となる。なお、誘導ユニット４３２の誘導状態は第２作動部４１３への入賞個数が上限入賞個数である１０個に到達した場合にも終了することとなるが、既に説明したとおり発射操作装置２８が遊技者により操作されている状況では０．６秒に１個の遊技球が遊技領域ＰＡに向けて発射されるように遊技球発射機構２７が駆動制御される

ため、低頻度サポートモードであれば誘導ユニット４３２が２秒に亘って誘導状態となるとともに高頻度サポートモードであれば誘導ユニット４３２が６秒に亘って誘導状態となる。

【３０２５】

上記構成であることにより高頻度サポートモードにおいては誘導ユニット４３２の誘導状態当選となる確率が９５％という高確率であるとともに普図表示部４２３ａにおける絵柄の表示継続期間が０．１秒という遊技球の発射周期よりも短い時間であり、さらに誘導状態においては６秒に亘って誘導ユニット４３２が誘導状態となる。また、既に説明したとおり右側領域ＰＡ３を流下する遊技球は、基本的にスルー入賞部４１４に入賞するとともに誘導ユニット４３２が誘導状態であれば基本的に第２作動部４１３に入賞する。したがって、高頻度サポートモードにおいては右側領域ＰＡ３を流下するように遊技球の発射が継続された場合には基本的に誘導ユニット４３２が誘導状態となっているとともに第２作動部４１３への入賞が発生することで第２作動部４１３よりも下流側に遊技球が流入しない。よって、高頻度サポートモードである場合には第２作動部４１３への入賞が高頻度で発生するものの、第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果が発生して特電入賞装置４１６が開放状態となったとしても当該特電入賞装置４１６に入球可能な位置に遊技球が到達しないため特電入賞装置４１６への入賞は基本的に発生しない。ちなみに、第２作動部４１３への入賞が発生したとしても払い出される遊技球の個数は１個であるため、高頻度サポートモードにおいて第２作動部４１３への入賞が高頻度で発生したとしても遊技者が所有している遊技球は増加しない。

【３０２６】

一方、低頻度サポートモードにおいては誘導ユニット４３２の誘導状態当選となる確率が９５％という高確率であるとともに普図表示部４２３ａにおける絵柄の表示継続期間が４秒という遊技球の発射周期よりも長い時間であり、さらに誘導状態においては２秒に亘って誘導ユニット４３２が誘導状態となる。また、既に説明したとおり右側領域ＰＡ３を流下する遊技球は、基本的にスルー入賞部４１４に入賞するとともに誘導ユニット４３２が誘導状態であれば基本的に第２作動部４１３に入賞する。したがって、低頻度サポートモードにおいては右側領域ＰＡ３を流下するように遊技球の発射が継続された場合には誘導ユニット４３２が誘導状態となることで第２作動部４１３への入賞は発生し得るものの第２作動部４１３よりも下流側の特電入賞装置４１６の位置に遊技球が到達し得る。よって、低頻度サポートモードである場合には第２作動部４１３への入賞頻度は高頻度サポートモードよりも低くなるものの、第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となったことで開放状態となっている特電入賞装置４１６への入賞が発生し得る。

【３０２７】

低頻度サポートモードにおいては第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となったことで開放状態となっている特電入賞装置４１６への入賞が発生し得る構成において、第２特図表示部４２６における遊技回の表示継続期間を当否抽選モードが低確率モードである場合と高確率モードである場合とで相違させることにより、低確率モードであって低頻度サポートモードである状況において右側領域ＰＡ３を流下するように発射操作を行ったとしても単位時間当たりの利益が極端に低くなる一方、高確率モードであって低頻度サポートモードである状況において右側領域ＰＡ３を流下するように発射操作を行った場合には単位時間当たりの利益が高くなる構成としている。以下、当該構成について説明する。

【３０２８】

変動種別カウンタＣＳは、例えば０～９９の範囲内で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻る構成となっている。変動種別カウンタＣＳは、特図表示部４２５，４２６における絵柄の変動表示の表示継続期間（すなわち絵柄の変動表示期間）と図柄表示装置４２４における図柄の表示継続期間（すなわち図柄の変動表示期間）とを主側ＣＰＵ６３において決定する上で用いられる（これら表示継続期間を遊技回の表示継続期間ともいう）。変動種別カウンタＣＳは繰り返し更新され、特図表示部４２５，４２６におけ

る変動表示の開始時及び図柄表示装置４２４による図柄の変動開始時における変動パターン決定に際して取得される。遊技回の表示継続期間の設定態様について図２３６の説明図を参照しながら説明する。なお、図２３６における「０～９９」の数字は変動種別カウンタＣＳの値に対応している。

【３０２９】

低確率モードにおいて第１特図表示部４２５における遊技回の表示継続期間の設定態様は通常設定態様となる。通常設定態様においては、図２３６に示すように、当否判定処理の結果が外れ結果であってリーチ演出が発生しない完全外れ時であれば、第１特図保留エリア４５２に上限個数（具体的には４個）の第１特図側の保留情報が記憶されている状況にて新たな遊技回が開始される場合には遊技回の表示継続期間として２秒が選択され、第１特図保留エリア４５２に上限個数の第１特図側の保留情報が記憶されていない状況にて新たな遊技回が開始される場合には遊技回の表示継続期間として１０秒、２０秒及び３０秒のいずれかが選択される。また、通常設定態様において当否判定処理の結果が外れ結果ではあるもののリーチ演出が発生する外れリーチ時の場合、当否判定処理の結果が大当たり結果である場合及び当否判定処理の結果が小当たり結果である場合のいずれかである場合には、遊技回の表示継続期間として２０秒、３０秒、４０秒、５０秒、１分、１分３０秒及び２分のいずれかが選択される。この場合、大当たり結果又は小当たり結果の方が外れリーチ時よりも長い継続期間が選択され易くなっているとともに、選択される平均継続期間も大当たり結果又は小当たり結果の方が外れリーチ時よりも長くなっている。

【３０３０】

一方、低確率モードにおいて第２特図表示部４２６における遊技回の表示継続期間の設定態様は長期間設定態様となる。長期間設定態様においては、選択される遊技回の表示継続期間は１種類のみとなっており、対象となる遊技回の当否判定結果及び種別判定結果に関係なくその１種類の遊技回の表示継続期間が選択される。この選択される遊技回の表示継続期間は１０分となっている。当該表示継続期間は、通常選択態様において選択される最長の遊技回の表示継続期間である２分よりも長い時間となっている。これにより、低確率モードにおいては第２特図表示部４２６における遊技回の実行頻度が第１特図表示部４２５における遊技回の実行頻度よりも低くなる。

【３０３１】

高確率モードでは遊技回の表示継続期間の設定態様が低確率モードと異なっている。具体的には、高確率モードにおいて第１特図表示部４２５における遊技回の表示継続期間は、当否判定結果が外れ結果である場合にはリーチ演出が発生するか否かに関係なく１種類のみが選択対象となり、当否判定結果が大当たり結果又は小当たり結果である場合にも１種類のみが選択対象となる。この場合、大当たり結果又は小当たり結果となる場合における遊技回の表示継続期間は外れ結果となる場合における遊技回の表示継続期間よりも長く設定されており、具体的には外れ結果となる場合における遊技回の表示継続期間が１０秒であるのに対して大当たり結果又は小当たり結果となる場合における遊技回の表示継続期間が３０秒となっている。

【３０３２】

高確率モードにおいて第２特図表示部４２６における遊技回の表示継続期間は、当否判定結果が外れ結果又は小当たり結果である場合には９／１０の確率で０．５秒が選択され１／１０の確率で１分３０秒が選択される。一方、当否判定結果が大当たり結果である場合には１分３０秒の１種類のみが選択対象となる。

【３０３３】

高確率モードにおいて第２特図表示部４２６にて遊技回が実行される場合であって小当たり結果となる場合には遊技回の表示継続期間が高い確率で０．５秒となることにより、遊技回の最終停止期間を含めて当該遊技回の合計期間は１秒となる。これに対して、既に説明したとおり低頻度サポートモードにおいては普図表示部４２３ａの表示継続期間が４秒であるとともに誘導ユニット４３２の誘導状態が継続する期間が２秒であり、さらに第２作動部４１３への入賞が発生した場合には高い確率で小当たり結果となるとともに小当

たり結果となった場合の開閉実行モードにおいて特電入賞装置４１６が開放状態となる期間は２秒である。そうすると高確率モードであって低頻度サポートモードである状況において右側領域ＰＡ３を流下するように遊技球の発射操作を行うことで小当たり結果を契機として開放状態となっている特電入賞装置４１６への入賞が発生する頻度が他の状況よりも高くなる。そして、この入賞頻度は、高確率モードであって低頻度サポートモードである状況において右側領域ＰＡ３を流下するように遊技球の発射操作を行った場合には遊技者が所有する遊技球の個数が増加する入賞頻度に設定されている。

【３０３４】

高確率モードであって低頻度サポートモードとなる状況を生じさせる契機は既に説明したとおり１６Ｒ高確大当たり結果である。また、１６Ｒ高確大当たり結果となった場合にはラウンド遊技が１６回発生する開閉実行モードが行われた後に新たに大当たり結果が発生するまでは高確率モードであって低頻度サポートモードとなる状況が継続する。そして、上記のとおり高確率モードであって低頻度サポートモードである状況において右側領域ＰＡ３を流下するように遊技球の発射操作を行うことで小当たり結果を契機として開放状態となっている特電入賞装置４１６への入賞が発生する頻度は、高確率モードであって低頻度サポートモードである状況において右側領域ＰＡ３を流下するように遊技球の発射操作を行った場合には遊技者が所有する遊技球の個数が増加する入賞頻度に設定されている。したがって、１６Ｒ高確大当たり結果となり開閉実行モードが終了した後は新たに大当たり結果が発生するまでに実行された第２特図表示部４２６における遊技回の回数が多いほど遊技者が所有する遊技球の個数が増加することとなる。よって、当該状況において遊技者は大当たり結果が発生しないことを期待することとなる。

【３０３５】

大当たり結果が発生したとしてもそれが１６Ｒ高確大当たり結果であれば、ラウンド遊技が１６回発生する開閉実行モードが行われた後に高確率モードであって低頻度サポートモードである状況が再度発生することとなる。よって、遊技者は大当たり結果が発生しないことを期待しながらも、大当たり結果となるのであれば１６Ｒ高確大当たり結果となることを期待することとなる。

【３０３６】

６Ｒ高確大当たり結果が発生した場合にはラウンド遊技が６回発生する開閉実行モードが行われた後に高確率モードであって高頻度サポートモードである状況となる。当該状況は大当たり結果が新たに発生するまで継続する。当該状況においては既に説明したとおり右側領域ＰＡ３を遊技球が流下するように発射操作を行うことで第２作動部４１３への入賞が高頻度で発生するものの小当たり結果を契機として開放状態となっている特電入賞装置４１６への入賞は基本的に発生しない。したがって、当該状況においては遊技者が所有する遊技球の個数を増加させることはできないもののあまり減らさないようにしながら次回の大当たり結果を発生させることが可能となる。よって、当該状況において遊技者は大当たり結果が早期に発生することを期待することとなる。

【３０３７】

６Ｒ通常大当たり結果が発生した場合にはラウンド遊技が６回発生する開閉実行モードが行われた後に低確率モードであって高頻度サポートモードである状況となる。当該状況においても右側領域ＰＡ３を遊技球が流下するように発射操作を行うことで第２作動部４１３への入賞が高頻度で発生するものの小当たり結果を契機として開放状態となっている特電入賞装置４１６への入賞は基本的に発生しない。但し、当否抽選モードは低確率モードであるとともに遊技回の実行回数が５０回となることで高頻度サポートモードが終了して低頻度サポートモードに移行する。したがって、当該状況においては、遊技者が所有する遊技球の個数をあまり減らさないようにしながら遊技を行うことができる範囲において次回の大当たり結果が発生することを遊技者は期待することとなる。

【３０３８】

低確率モードであって低頻度サポートモードとなった場合には右側領域ＰＡ３を遊技球が流下するように発射操作を行ったとしても第２特図表示部４２６における遊技回の表示

継続期間は極端に長い１０分となる。この場合、右側領域ＰＡ３を遊技球が流下するように発射操作を行ったとしても遊技の消化効率が悪くなるため、遊技者は左側領域ＰＡ２を遊技球が流下するように発射操作を行うこととなる。左側領域ＰＡ２を遊技球が流下するように発射操作が行われることで第１特図表示部４２５における遊技回が実行されることとなる。この場合の遊技回の表示継続期間は既に説明したとおり通常設定態様となる。

【３０３９】

＜第１特図特電制御処理及び第２特図特電制御処理＞

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される第１特図特電制御処理及び第２特図特電制御処理について説明する。本実施形態では上記第６４の実施形態と異なり、第１特図表示部４２５において遊技回が実行されている状況であっても第２特図表示部４２６において遊技回が開始され得るとともに、第２特図表示部４２６において遊技回が実行されている状況であっても第１特図表示部４２５において遊技回が開始され得る。したがって、第１特図表示部４２５についての特図特電制御処理として第１特図特電制御処理が設定されているとともに、第２特図表示部４２６についての特図特電制御処理として第２特図特電制御処理が設定されている。これら第１特図特電制御処理及び第２特図特電制御処理は上記第６４の実施形態における特図特電制御処理の代わりに実行されるものであり、第１タイマ割込み処理（図１３３）におけるステップＳ８９１３にて実行される。

【３０４０】

図２３７は第１特図特電制御処理を示すフローチャートであり、図２３８は第２特図特電制御処理を示すフローチャートである。なお、第１特図特電制御処理におけるステップＳＦ１０１～ステップＳＦ１１１の処理及び第２特図特電制御処理におけるステップＳＦ２０１～ステップＳＦ２１１の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３０４１】

第１特図特電制御処理（図２３７）ではまず第１特図側の保留情報の取得処理を実行する（ステップＳＦ１０１）。当該取得処理では第１作動部４１２への入賞が発生している場合、第１特図保留エリア４５２に記憶されている第１特図側の保留情報の数が上限記憶数（具体的には４個）未満であることを条件として、第１特図側の保留情報の格納処理を実行する。当該格納処理では、当たり乱数カウンタＣ１、種別カウンタＣ２及びリーチ乱数カウンタＣ３の各数値情報を第１特図側の保留情報として、第１特図保留エリア４５２の第１エリア４５２ａ～第４エリア４５２ｄにおける第１特図側の保留情報が記憶されていないエリアのうち消化順序が早い側のエリアに格納する。なお、第１特図側の保留情報を取得した場合には、第１特図側の保留情報の個数が今回増加したことに合わせて第１特図保留表示部４２７の表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。また、第１特図側の保留情報を取得した場合には、保留増加コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。これにより、図柄表示装置４２４における第１特図側の保留情報の保留記憶数を報知するための画像が第１特図側の保留情報の新たな取得に対応させて更新される。

【３０４２】

第２特図特電制御処理（図２３８）ではまず第２特図側の保留情報の取得処理を実行する（ステップＳＦ２０１）。当該取得処理では第２作動部４１３への入賞が発生している場合、第２特図保留エリア４５３に記憶されている第２特図側の保留情報の数が上限記憶数（具体的には４個）未満であることを条件として、第２特図側の保留情報の格納処理を実行する。当該格納処理では、当たり乱数カウンタＣ１、種別カウンタＣ２及びリーチ乱数カウンタＣ３の各数値情報を第２特図側の保留情報として、第２特図保留エリア４５３の第１エリア４５３ａ～第４エリア４５３ｄにおける第２特図側の保留情報が記憶されていないエリアのうち消化順序が早い側のエリアに格納する。なお、第２特図側の保留情報を取得した場合には、第２特図側の保留情報の個数が今回増加したことに合わせて第２特図保留表示部４２８の表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。また、第２特図側の保留情報を取得した場合には、保留増加コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。これにより、図柄表示装置４２４における第２特図側の保留情報の保留記憶数

を報知するための画像が第２特図側の保留情報の新たな取得に対応させて更新される。
【３０４３】
　第１特図特電制御処理（図２３７）及び第２特図特電制御処理（図２３８）の説明に戻り、保留情報の取得処理（ステップＳＦ１０１又はステップＳＦ２０１）を実行した後は、主側ＲＯＭ６４に記憶されている特図特電アドレステーブルを読み出す（ステップＳＦ１０１、ステップＳＦ２０２）。そして、第１特図特電制御処理（図２３７）であれば特図特電アドレステーブルから第１特図特電カウンタの数値情報に対応した開始アドレスを取得し（ステップＳＦ１０３）、その取得した開始アドレスの示す処理にジャンプする（ステップＳＦ１０４）。また、第２特図特電制御処理（図２３８）であれば特図特電アドレステーブルから第２特図特電カウンタの数値情報に対応した開始アドレスを取得し（ステップＳＦ２０３）、その取得した開始アドレスの示す処理にジャンプする（ステップＳＦ２０４）。
【３０４４】
　第１特図特電カウンタは、第１特図特電制御処理（図２３７）におけるステップＳＦ１０５～ステップＳＦ１１１の各処理のうちいずれを実行すべきであるかを主側ＣＰＵ６３にて把握するためのカウンタである。第２特図特電カウンタは、第２特図特電制御処理（図２３８）におけるステップＳＦ２０５～ステップＳＦ２１１の各処理のうちいずれを実行すべきであるかを主側ＣＰＵ６３にて把握するためのカウンタである。特図特電アドレステーブルには、第１特図特電カウンタの数値情報に対応させてステップＳＦ１０５～ステップＳＦ１１１の各処理を実行するためのプログラムにおける開始アドレスが設定されているとともに第２特図特電カウンタの数値情報に対応させてステップＳＦ２０５～ステップＳＦ２１１の各処理を実行するためのプログラムにおける開始アドレスが設定されている。
【３０４５】
　第１特図特電カウンタ又は第２特図特電カウンタの値が「０」である場合にはステップＳＦ１０５又はステップＳＦ２０５の特図変動開始処理にジャンプし、第１特図特電カウンタ又は第２特図特電カウンタの値が「１」である場合にはステップＳＦ１０６又はステップＳＦ２０６の特図変動中処理にジャンプし、第１特図特電カウンタ又は第２特図特電カウンタの値が「２」である場合にはステップＳＦ１０７又はステップＳＦ２０７の特図確定中処理にジャンプし、第１特図特電カウンタ又は第２特図特電カウンタの値が「３」である場合にはステップＳＦ１０８又はステップＳＦ２０８の特電開始処理にジャンプし、第１特図特電カウンタ又は第２特図特電カウンタの値が「４」である場合にはステップＳＦ１０９又はステップＳＦ２０９の特電開放中処理にジャンプし、第１特図特電カウンタ又は第２特図特電カウンタの値が「５」である場合にはステップＳＦ１１０又はステップＳＦ２１０の特電閉鎖中処理にジャンプし、第１特図特電カウンタ又は第２特図特電カウンタの値が「６」である場合にはステップＳＦ１１１又はステップＳＦ２１１の特電終了処理にジャンプする。以下、ステップＳＦ１０５～ステップＳＦ１１１及びステップＳＦ２０５～ステップＳＦ２１１の各処理について個別に説明する。
【３０４６】
　＜特図変動開始処理＞
　まずステップＳＦ１０５及びステップＳＦ２０５の特図変動開始処理について、図２３９のフローチャートを参照しながら説明する。なお、特図変動開始処理におけるステップＳＦ３０１～ステップＳＦ３１７の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【３０４７】
　特図変動開始処理では、まず今回の特図特電制御処理（図２３７、図２３８）に対応しない側において開閉実行モード用の処理が実行されているか否かを判定する（ステップＳＦ３０１）。既に説明したとおり第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のうち一方において遊技回が実行されている状況であっても他方において遊技回が実行され得る。この場合に、ステップＳＦ３０１が実行され、今回の特図特電制御処理（図２３７、図

２３８）に対応しない側において開閉実行モード用の処理が実行されている場合にはステップＳＦ３０２以降の処理が実行されずに新たな遊技回の開始が規制される。これにより、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のうち一方における遊技回を契機として開閉実行モードが実行されている状況においては、他方における遊技回が新たに開始されないように規制される。よって、開閉実行モードへの遊技者の注目度を高めることが可能となる。なお、今回が第１特図特電制御処理（図２３７）における特図変動開始処理であれば第２特図特電カウンタの値が３以上であるか否かをステップＳＦ３０１にて判定し、３以上である場合にはステップＳＦ３０２以降の処理を実行しない構成である。また、今回が第２特図特電制御処理（図２３８）における特図変動開始処理であれば第１特図特電カウンタの値が３以上であるか否かをステップＳＦ３０１にて判定し、３以上である場合にはステップＳＦ３０２以降の処理を実行しない構成である。

【３０４８】

ステップＳＦ３０１にて否定判定をした場合には、対応する保留個数が１個以上であるか否かを判定する（ステップＳＦ３０２）。今回が第１特図特電制御処理（図２３７）における特図変動開始処理であれば第１特図保留エリア４５２に第１特図側の保留情報が１個以上記憶されているか否かを判定し、今回が第２特図特電制御処理（図２３８）における特図変動開始処理であれば第２特図保留エリア４５３に第２特図側の保留情報が１個以上記憶されているか否かを判定する。

【３０４９】

ステップＳＦ３０２にて肯定判定をした場合には、データ設定処理を実行する（ステップＳＦ３０３）。データ設定処理では、今回が第１特図特電制御処理（図２３７）であれば、第１特図保留エリア４５２の第１エリア４５２ａに格納されたデータを第１特図用の実行エリア４９３に移動する。その後、第１特図保留エリア４５２の記憶エリアに格納されたデータをシフトさせる処理を実行する。このデータシフト処理は、第１～第４エリア４５２ａ～４５２ｄに格納されているデータを下位エリア側に順にシフトさせる。具体的には、第２エリア４５２ｂ→第１エリア４５２ａ、第３エリア４５２ｃ→第２エリア４５２ｂ、第４エリア４５２ｄ→第３エリア４５２ｃといった具合に各エリア内のデータをシフトするとともに第４エリア４５２ｄを「０」クリアする。また、データ設定処理では、第１特図側の保留情報の個数が今回減少したことに合わせて第１特図保留表示部４２７の表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。また、データ設定処理では、保留減少コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。これにより、図柄表示装置４２４における第１特図側の保留情報の保留記憶数を報知するための画像が第１特図側の保留情報の減少に対応させて更新される。

【３０５０】

データ設定処理では、今回が第２特図特電制御処理（図２３８）であれば、第２特図保留エリア４５３の第１エリア４５３ａに格納されたデータを第２特図用の実行エリア４９４に移動する。その後、第２特図保留エリア４５３の記憶エリアに格納されたデータをシフトさせる処理を実行する。このデータシフト処理は、第１～第４エリア４５３ａ～４５３ｄに格納されているデータを下位エリア側に順にシフトさせる。具体的には、第２エリア４５３ｂ→第１エリア４５３ａ、第３エリア４５３ｃ→第２エリア４５３ｂ、第４エリア４５３ｄ→第３エリア４５３ｃといった具合に各エリア内のデータをシフトするとともに第４エリア４５３ｄを「０」クリアする。また、データ設定処理では、第２特図側の保留情報の個数が今回減少したことに合わせて第２特図保留表示部４２８の表示内容が更新されるようにするためのデータ設定を行う。また、データ設定処理では、保留減少コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。これにより、図柄表示装置４２４における第２特図側の保留情報の保留記憶数を報知するための画像が第２特図側の保留情報の減少に対応させて更新される。

【３０５１】

データ設定処理を実行した後は当否判定処理を実行する（ステップＳＦ３０４）。当否判定処理では、今回の遊技回が第１特図側の保留情報を契機としている場合には、現状の

パチンコ機１０の設定値及び当否抽選モードに対応する第１当否テーブル４９５，４９６（図２３４（ａ）及び図２３４（ｂ）参照）を主側ＲＯＭ６４から読み出す。そして、今回の遊技回の開始契機となった第１特図側の保留情報のうち当たり乱数カウンタＣ１についての数値情報を読み出し、その読み出した数値情報を上記第１当否テーブル４９５，４９６に対して照合することで今回の当否判定処理の結果が大当たり結果、小当たり結果及び外れ結果のいずれであるのかを特定する。一方、当否判定処理では、今回の遊技回が第２特図側の保留情報を契機としている場合には、現状のパチンコ機１０の設定値及び当否抽選モードに対応する第２当否テーブル４９７，４９８（図２３４（ｃ）及び図２３４（ｄ）参照）を主側ＲＯＭ６４から読み出す。そして、今回の遊技回の開始契機となった第２特図側の保留情報のうち当たり乱数カウンタＣ１についての数値情報を読み出し、その読み出した数値情報を上記第２当否テーブル４９７，４９８に対して照合することで今回の当否判定処理の結果が大当たり結果、小当たり結果及び外れ結果のいずれであるのかを特定する。

【３０５２】

当否判定処理の結果が大当たり結果である場合（ステップＳＦ３０５：ＹＥＳ）、種別判定処理を実行する（ステップＳＦ３０６）。種別判定処理では、図２３５（ａ）に示す種別テーブル４９９を主側ＲＯＭ６４から読み出す。また、第１特図側の保留情報が今回の遊技回の契機である場合には当該第１特図側の保留情報のうち種別カウンタＣ２についての数値情報を読み出し、第２特図側の保留情報が今回の遊技回の契機である場合には当該第２特図側の保留情報のうち種別カウンタＣ２についての数値情報を読み出す。そして、その読み出した種別カウンタＣ２についての数値情報が上記種別テーブル４９９において設定されている６Ｒ通常大当たり結果、６Ｒ高確大当たり結果及び１６Ｒ高確大当たり結果のうちいずれの種類の大当たり結果の数値範囲に対応しているのかを特定する。

【３０５３】

種別判定処理を実行した後は当該種別判定処理にて特定した大当たり結果の種類に対応する主側ＲＡＭ６５のフラグに「１」をセットする（ステップＳＦ３０７）。この「１」がセットされたフラグの状態は、開閉実行モードが終了する場合に「０」クリアされる。

【３０５４】

その後、大当たり結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップＳＦ３０８）。具体的には、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のうち遊技回の実行対象となっている側に今回の遊技回において最終的に停止表示させる絵柄の停止態様の情報を、主側ＲＯＭ６４に予め記憶されている大当たり結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側ＲＡＭ６５に記憶する。この大当たり結果用の停止結果テーブルには、第１特図表示部４２５又は第２特図表示部４２６に停止表示される絵柄の停止態様の種類が、大当たり結果の種類毎に相違させて設定されており、ステップＳＦ３０８では、ステップＳＦ３０６にて特定した大当たり結果の種類に応じた絵柄の停止態様の情報を主側ＲＡＭ６５に記憶する。なお、各大当たり結果に１対１で対応させて絵柄の停止態様が設定されていてもよく、少なくとも一部の大当たり結果に対して複数種類の絵柄の停止態様が設定されていてもよい。複数種類の絵柄の停止態様が設定されている大当たり結果について停止結果を選択する方法は任意であるが、例えば種別カウンタＣ２の値に応じて停止結果が選択される構成としてもよい。

【３０５５】

当否判定処理の結果が小当たり結果である場合（ステップＳＦ３０９：ＹＥＳ）、小当たり結果に対応する主側ＲＡＭ６５のフラグに「１」をセットする（ステップＳＦ３１０）。この「１」がセットされたフラグの状態は開閉実行モードが終了する場合に「０」クリアされる。

【３０５６】

その後、小当たり結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップＳＦ３１１）。具体的には、第１特図表示部４２５又は第２特図表示部４２６に今回の遊技回において最終的に停止表示させる絵柄の停止態様の情報を主側ＲＯＭ６４から読み出し、その読み出した

情報を主側ＲＡＭ６５に記憶する。この場合に選択される絵柄の態様の情報は、大当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっている。

【３０５７】

当否判定処理の結果が大当たり結果及び小当たり結果のいずれでもない場合（ステップＳＦ３０５及びステップＳＦ３０９：ＮＯ）、外れ結果用の停止結果設定処理を実行する（ステップＳＦ３１２）。具体的には、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のうち遊技回の実行対象となっている側に今回の遊技回において最終的に停止表示させる絵柄の停止態様の情報を、主側ＲＯＭ６４に予め記憶されている外れ結果用の停止結果テーブルから特定し、その特定した情報を主側ＲＡＭ６５に記憶する。この場合に選択される絵柄の態様の情報は、大当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報及び小当たり結果の場合に選択される絵柄の態様の情報とは異なっている。

【３０５８】

いずれかの停止結果設定処理を実行した後は、表示継続期間の把握処理を実行する（ステップＳＦ３１３）。かかる処理では、変動種別カウンタＣＳの数値情報を取得するとともに、現状の状況及び変動種別カウンタＣＳの数値情報に対応する表示継続期間の情報を図２３６の説明図に示す態様で選択する。

【３０５９】

その後、今回の当否判定処理及び種別判定処理の結果、現状の当否抽選モードの種類、現状のサポートモードの種類、並びにステップＳＦ３１３の処理結果に対応する変動用コマンド及び種別コマンドを主側ＲＯＭ６４から選択する。そして、その選択した変動用コマンド及び種別コマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＦ３１４）。音声発光制御装置８１は、受信した変動用コマンド及び種別コマンドに対応する遊技回用の演出が実行されるようにするための制御を実行する。

【３０６０】

その後、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６のうち今回の遊技回の実行対象となっている側における絵柄の変動表示を開始させる（ステップＳＦ３１５）。第１特図表示部４２５又は第２特図表示部４２６にて絵柄の変動表示を行わせる場合に主側ＣＰＵ６３に参照されるテーブルとして、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６に対して共通となる特図用の変動表示テーブルが主側ＲＯＭ６４に予め記憶されている。第１特図表示部４２５又は第２特図表示部４２６において絵柄の変動表示が実行される場合には、当否判定処理の結果及び種別判定処理の結果に関係なく同一の変動表示テーブルが使用される。第１特図表示部４２５又は第２特図表示部４２６において絵柄の変動表示が行われる場合、所定のパターンによる絵柄の変動表示が繰り返されることとなるが、特図用の変動表示テーブルにはその所定のパターンによる絵柄の変動表示における１周分の制御データが設定されている。したがって、第１特図表示部４２５又は第２特図表示部４２６において絵柄の変動表示が行われる場合、ステップＳＦ３１３にて決定した遊技回の表示継続期間が経過するまで特図用の変動表示テーブルが繰り返し使用されることとなる。

【３０６１】

その後、特別表示部４２９の消灯処理を実行する（ステップＳＦ３１６）。特別表示部４２９においては、開閉実行モードが発生した場合に当該開閉実行モードにおいて発生するラウンド遊技の回数に対応する情報が表示される。つまり、６Ｒ通常大当たり結果又は６Ｒ高確大当たり結果となったことを契機として開閉実行モードが発生する場合には当該開閉実行モードが開始される場合に特別表示部４２９にて６回のラウンド遊技に対応する表示が行われる。また、１６Ｒ高確大当たり結果となったことを契機として開閉実行モードが発生する場合には当該開閉実行モードが開始される場合に特別表示部４２９にて１６回のラウンド遊技に対応する表示が行われる。また、小当たり結果となったことを契機として開閉実行モードが発生する場合には当該開閉実行モードが開始される場合に特別表示部４２９にて小当たり結果に対応する表示が行われる。上記構成において特図変動開始処理のステップＳＦ３１６にて特別表示部４２９の消灯処理が実行されることにより、開閉実行モードが開始される場合に開始された特別表示部４２９における表示は当該開閉実行

モードが終了した後において新たな遊技回が開始される場合に終了される。そして、特別表示部４２９は開閉実行モードが新たに発生するまで消灯状態に維持される。

【３０６２】

その後、今回の処理が第１特図特電制御処理（図２３７）に対応しているのであれば第１特図特電カウンタの値を１加算し、今回の処理が第２特図特電制御処理（図２３８）に対応しているのであれば第２特図特電カウンタの値を１加算する（ステップＳＦ３１７）。特図変動開始処理が実行される場合における特図特電カウンタの値は「０」であるため、１加算されることでその加算対象となった特図特電カウンタの値は特図変動中処理（ステップＳＦ１０６、ステップＳＦ２０６）に対応する「１」となる。

【３０６３】

＜特図変動中処理＞

次に、第１特図特電制御処理（図２３７）のステップＳＦ１０６及び第２特図特電制御処理（図２３８）のステップＳＦ２０６にて実行される特図変動中処理について説明する。

【３０６４】

今回の遊技回の表示継続期間が経過していない場合であって、今回の遊技回の実行対象となっている特図表示部４２５，４２６の表示内容の更新タイミングである場合、特図用の変動表示テーブルを参照することにより特図表示部４２５，４２６の表示内容を更新するためのデータ設定を行う。これにより、今回の遊技回の実行対象となっている特図表示部４２５，４２６における絵柄の表示内容が次の順番の表示内容に更新される。なお、主側ＲＡＭ６５には第１特図表示部４２５において絵柄の更新タイミングとなった場合に絵柄の表示内容を特図用の変動表示テーブルから導出するために参照される第１表示順序カウンタが設けられている。また、主側ＲＡＭ６５には第２特図表示部４２６において絵柄の更新タイミングとなった場合に絵柄の表示内容を特図用の変動表示テーブルから導出するために参照される第２表示順序カウンタが設けられている。

【３０６５】

特図表示部４２５，４２６における絵柄の変動表示の開始時の態様、及び絵柄の変動表示の更新態様は、当否判定処理の結果及び種別判定処理の結果に関係なく一定の態様で行われるとともに、図柄表示装置４２４における遊技回用の演出の内容に関係なく一定の態様で行われる。例えば、所定の複数回の更新タイミングが発生することで絵柄の表示内容が１周するとともに表示順序が一定の順序である表示パターンが繰り返し行われ、遊技回の表示継続期間が経過した場合には当該表示パターンのいずれの順序の表示が行われている状況であっても、その遊技回の開始時に決定された停止結果が表示される。これにより、特図表示部４２５，４２６を表示制御するための処理構成の簡素化を図ることが可能となる。

【３０６６】

一方、遊技回の表示継続期間が経過している場合、遊技回の開始時に主側ＲＡＭ６５に記憶された特図表示部４２５，４２６の絵柄の停止態様の情報を読み出すとともにその絵柄の停止態様となるように今回の遊技回の実行対象となっている特図表示部４２５，４２６を表示制御する。これにより、今回の遊技回の実行対象となっている特図表示部４２５，４２６において今回の遊技回の当否判定処理の結果及び種別判定処理の結果に対応する絵柄が表示された状態で絵柄の変動表示が停止される。特図表示部４２５，４２６において停止表示された絵柄の態様は、開閉実行モードであるか否かに関係なく、その特図表示部４２５，４２６における次回の絵柄の変動表示が開始されるまで維持される。また、主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタに最終停止期間（例えば０．５ｓｅｃ）の情報をセットする。これにより、最終停止期間の計測が開始される。

【３０６７】

その後、最終停止コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１は、主側ＣＰＵ６３から最終停止コマンドを受信した場合、表示制御装置８２に最終停止コマンドを送信する。表示制御装置８２は、音声発光制御装置８１から最終停止コマンド

を受信した場合、今回の遊技回における停止図柄の組合せを最終停止期間に亘って停止表示させるための表示パターンテーブルを読み出す。これにより、図柄表示装置４２４において今回の遊技回に対応する停止図柄の組合せが最終停止期間に亘って停止表示されることとなる。

【３０６８】

その後、今回の処理が第１特図特電制御処理（図２３７）に対応しているのであれば第１特図特電カウンタの値を１加算し、今回の処理が第２特図特電制御処理（図２３８）に対応しているのであれば第２特図特電カウンタの値を１加算する。特図変動中処理が実行される場合における特図特電カウンタの値は「１」であるため、１加算されることでその加算対象となった特図特電カウンタの値は特図確定中処理（ステップＳＦ１０７、ステップＳＦ２０７）に対応する「２」となる。

【３０６９】

＜特図確定中処理＞

次に、第１特図特電制御処理（図２３７）のステップＳＦ１０７及び第２特図特電制御処理（図２３８）のステップＳＦ２０７にて実行される特図確定中処理について、図２４０のフローチャートを参照しながら説明する。なお、特図確定中処理におけるステップＳＦ４０１～ステップＳＦ４０９の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３０７０】

最終停止期間が経過している場合であって今回の遊技回が大当たり結果に対応している場合（ステップＳＦ４０１及びステップＳＦ４０２：ＹＥＳ）、大当たり用の設定処理を実行する（ステップＳＦ４０３）。大当たり用の設定処理では、今回の大当たり結果が６Ｒ通常大当たり結果又は６Ｒ高確大当たり結果である場合には６回のラウンド遊技に対応する表示が開始されるように特別表示部４２９を表示制御するためのデータ設定を行う。また、大当たり用の設定処理では、今回の大当たり結果が１６Ｒ高確大当たり結果である場合には１６回のラウンド遊技に対応する表示が開始されるように特別表示部４２９を表示制御するためのデータ設定を行う。

【３０７１】

最終停止期間が経過している場合であって今回の遊技回が小当たり結果に対応している場合（ステップＳＦ４０１及びステップＳＦ４０４：ＹＥＳ）、小当たり用の設定処理を実行する（ステップＳＦ４０５）。小当たり用の設定処理では、小当たり結果に対応する表示が開始されるように特別表示部４２９を表示制御するためのデータ設定を行う。

【３０７２】

ステップＳＦ４０３又はステップＳＦ４０５の処理を実行した場合、今回の特図特電制御処理（図２３７、図２３８）に対応しない側の特図特電カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳＦ４０６）。これにより、今回の特図特電制御処理（図２３７、図２３８）に対応しない側の特図特電制御処理（図２３７、図２３８）にて遊技回の実行制御が行われていたとしても当該遊技回が強制的に終了される。つまり、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６の両方にて遊技回が実行されている状況において大当たり結果又は小当たり結果となる一方の遊技回が終了した場合には他方の遊技回も途中で終了することとなる。その後、他方の遊技回の終了処理を実行する（ステップＳＦ４０７）。当該終了処理では、遊技回の強制終了の対象となった側の特図表示部４２５，４２６にて外れ結果に対応する表示が行われるようにする。

【３０７３】

その後、今回の処理が第１特図特電制御処理（図２３７）に対応しているのであれば第１特図特電カウンタの値を１加算し、今回の処理が第２特図特電制御処理（図２３８）に対応しているのであれば第２特図特電カウンタの値を１加算する（ステップＳＦ４０８）。特図確定中処理が実行される場合における特図特電カウンタの値は「２」であるため、１加算されることでその加算対象となった特図特電カウンタの値は特電開始処理（ステップＳＦ１０８、ステップＳＦ２０８）に対応する「３」となる。

【３０７４】
今回の遊技回が外れ結果である場合（ステップＳＦ４０４：ＮＯ）、今回の処理が第１特図特電制御処理（図２３７）に対応しているのであれば第１特図特電カウンタの値を「０」クリアし、今回の処理が第２特図特電制御処理（図２３８）に対応しているのであれば第２特図特電カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳＦ４０９）。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップＳＦ１０５、ステップＳＦ２０５）に対応する「０」となる。
【３０７５】
＜特電開始処理＞
次に、第１特図特電制御処理（図２３７）のステップＳＦ１０８及び第２特図特電制御処理（図２３８）のステップＳＦ２０８にて実行される特電開始処理について説明する。
【３０７６】
特電開始処理では、オープニング期間の開始前であればオープニング期間（例えば４秒）の計測を開始するとともにオープニングコマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１はオープニングコマンドを受信した場合、オープニング演出が実行されるように表示発光部５３の発光制御及びスピーカ部５４の音出力制御を実行する。また、音声発光制御装置８１はオープニングコマンドを表示制御装置８２に送信する。表示制御装置８２はオープニングコマンドを受信した場合、オープニング演出が実行されるように図柄表示装置４２４の表示制御を実行する。
【３０７７】
特電開始処理では、オープニング期間が経過した場合、今回がいずれかの大当たり結果を契機としているのであれば、主側ＲＡＭ６５に設けられたラウンドカウンタに今回の開閉実行モードのラウンド遊技の実行回数に対応する情報をセットする。ラウンドカウンタは、開閉実行モードにおいて残りのラウンド遊技の回数を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタであり、ラウンド遊技が１回実行される度にラウンドカウンタの値が１減算される。また、主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタにラウンド遊技の開放継続期間の情報（具体的には２９秒）をセットするとともに、主側ＲＡＭ６５に設けられた入賞カウンタに１回のラウンド遊技における特電入賞装置４１６への上限入賞個数に対応する情報（具体的には「１０」）をセットする。一方、今回が小当たり結果を契機としているのであれば、主側ＲＡＭ６５に設けられたラウンドカウンタに「１」をセットする。また、主側ＲＡＭ６５に設けられたタイマカウンタに小当たり結果の開放継続期間の情報（具体的には２秒）をセットするとともに、主側ＲＡＭ６５に設けられた入賞カウンタに小当たり結果における特電入賞装置４１６への上限入賞個数に対応する情報（具体的には「１０」）をセットする。
【３０７８】
その後、特電用の開放設定処理を実行する。当該開放設定処理では、特電入賞装置４１６が開放状態となるように特電用の駆動部４１６ｃへの駆動信号の出力を開始する。その後、今回の処理が第１特図特電制御処理（図２３７）に対応しているのであれば第１特図特電カウンタの値を１加算し、今回の処理が第２特図特電制御処理（図２３８）に対応しているのであれば第２特図特電カウンタの値を１加算する。特電開始処理が実行される場合における特図特電カウンタの値は「３」であるため、１加算されることでその加算対象となった特図特電カウンタの値は特電開放中処理（ステップＳＦ１０９、ステップＳＦ２０９）に対応する「４」となる。
【３０７９】
＜特電開放中処理＞
次に、第１特図特電制御処理（図２３７）のステップＳＦ１０９及び第２特図特電制御処理（図２３８）のステップＳＦ２０９にて実行される特電開放中処理について説明する。
【３０８０】
特電開放中処理では、特電入賞装置４１６の開放継続期間が経過している場合又は特電

入賞装置４１６に上限入賞個数の遊技球の入賞が発生している場合、閉鎖設定処理を実行する。当該閉鎖設定処理では、特電入賞装置４１６が閉鎖状態となるように特電用の駆動部４１６ｃへの駆動信号の出力を停止する。その後、主側ＲＡＭ６５のラウンドカウンタの値を１減算する。

【３０８１】

１減算後におけるラウンドカウンタの値が「０」ではない場合、閉鎖継続期間に対応する情報（具体的には２秒）を主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタにセットする。その後、今回の処理が第１特図特電制御処理（図２３７）に対応しているのであれば第１特図特電カウンタの値を１加算し、今回の処理が第２特図特電制御処理（図２３８）に対応しているのであれば第２特図特電カウンタの値を１加算する。特電開放中処理が実行される場合における特図特電カウンタの値は「４」であるため、１加算されることでその加算対象となった特図特電カウンタの値は特電閉鎖中処理（ステップＳＦ１１０、ステップＳＦ２１０）に対応する「５」となる。

【３０８２】

１減算後におけるラウンドカウンタの値が「０」である場合、エンディング期間に対応する情報（具体的には１０秒）を主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタにセットする。また、エンディングコマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１はエンディングコマンドを受信した場合、エンディング演出が実行されるように表示発光部５３の発光制御及びスピーカ部５４の音出力制御を実行する。また、音声発光制御装置８１はエンディングコマンドを表示制御装置８２に送信する。表示制御装置８２はエンディングコマンドを受信した場合、エンディング演出が実行されるように図柄表示装置４２４の表示制御を実行する。その後、今回の処理が第１特図特電制御処理（図２３７）に対応しているのであれば第１特図特電カウンタの値を２加算し、今回の処理が第２特図特電制御処理（図２３８）に対応しているのであれば第２特図特電カウンタの値を２加算する。特電開放中処理が実行される場合における特図特電カウンタの値は「４」であるため、２加算されることでその加算対象となった特図特電カウンタの値は特電終了処理（ステップＳＦ１１１、ステップＳＦ２１１）に対応する「６」となる。

【３０８３】

＜特電閉鎖中処理＞

次に、第１特図特電制御処理（図２３７）のステップＳＦ１１０及び第２特図特電制御処理（図２３８）のステップＳＦ２１０にて実行される特電閉鎖中処理について説明する。

【３０８４】

閉鎖継続期間が経過している場合、主側ＲＡＭ６５のタイマカウンタにラウンド遊技の開放継続期間の情報（具体的には２９秒）をセットするとともに、主側ＲＡＭ６５の入賞カウンタに１回のラウンド遊技における特電入賞装置４１６への上限入賞個数に対応する情報（具体的には「１０」）をセットする。そして、特電用の開放設定処理を実行することで特電入賞装置４１６を開放状態とする。その後、今回の処理が第１特図特電制御処理（図２３７）に対応しているのであれば第１特図特電カウンタの値を１減算し、今回の処理が第２特図特電制御処理（図２３８）に対応しているのであれば第２特図特電カウンタの値を１減算する。特電閉鎖中処理が実行される場合における特図特電カウンタの値は「５」であるため、１減算されることでその減算対象となった特図特電カウンタの値は特電開放中処理（ステップＳＦ１０９、ステップＳＦ２０９）に対応する「４」となる。

【３０８５】

＜特電終了処理＞

次に、第１特図特電制御処理（図２３７）のステップＳＦ１１１及び第２特図特電制御処理（図２３８）のステップＳＦ２１１にて実行される特電終了処理について説明する。

【３０８６】

エンディング期間が経過している場合、開閉実行モードの終了時の移行処理を実行する。当該移行処理では今回の開閉実行モードの契機が６Ｒ通常大当たり結果であった場合に

は当否抽選モードを低確率モードに設定するとともにサポートモードを高頻度サポートモードに設定する。なお、遊技回の合計回数が５０回に達した場合に当該高頻度サポートモードを終了させるための情報の設定も行う。今回の開閉実行モードの契機が６Ｒ高確大当たり結果であった場合には当否抽選モードを高確率モードに設定するとともにサポートモードを高頻度サポートモードに設定する。今回の開閉実行モードの契機が１６Ｒ高確大当たり結果であった場合には当否抽選モードを高確率モードに設定するとともにサポートモードを低頻度サポートモードに設定する。一方、今回の開閉実行モードの契機が小当たり結果であった場合には当否抽選モード及びサポートモードを開閉実行モードの開始前から変更させるための処理を実行しない。

【３０８７】

その後、今回の処理が第１特図特電制御処理（図２３７）に対応しているのであれば第１特図特電カウンタの値を「０」クリアし、今回の処理が第２特図特電制御処理（図２３８）に対応しているのであれば第２特図特電カウンタの値を「０」クリアする。これにより、特図特電カウンタの値は特図変動開始処理（ステップＳＦ１０５、ステップＳＦ２０５）に対応する「０」となる。

【３０８８】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【３０８９】

第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の各設定値における変動分が第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて外れ結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動分によって吸収される。これにより、第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果となる確率に影響を与えないようにしながら、第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果となる確率を変動させることが可能となる。

【３０９０】

第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数はいずれの設定値であっても同一である。これにより、全ての設定値において第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果が選択される確率を一定とすることが可能となる。また、このように第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果が選択される確率を一定とした構成であっても、第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択される確率の各設定値の変動分は外れ結果が選択される確率の変動分により吸収されるため、第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択される確率を設定値に応じた確率とすることが可能となる。

【３０９１】

第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて外れ結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数は各設定値のいずれであっても最も多い。これにより、第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択される確率の各設定値における変動分を第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて外れ結果が選択される確率の変動分で吸収する構成であっても、第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて外れ結果となる確率については複数段階の設定値間で大きな変動を生じさせないようにすることが可能となる。

【３０９２】

第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の各設定値における変動分が第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて外れ結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動分によって吸収される。これにより、第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果となる確率に影響を与えないようにしながら、第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果となる確率を変動させることが可能となる。

【３０９３】

第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数はいずれの設定値であっても同一である。これにより、全ての設定値において第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果が選択される確率を一定とすることが可能となる。また、このように第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果が選択される確率を一定とした構成であっても、第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択される確率の各設定値の変動分は外れ結果が選択される確率の変動分により吸収されるため、第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果が選択される確率を設定値に応じた確率とすることが可能となる。

【３０９４】

第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果となる確率が最も高くなる状況である設定値が「設定６」であって当否抽選モードが高確率モードである状況において、第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて外れ結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数が０個となる。これにより、第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて大当たり結果となる確率の各設定値における変動分を第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて外れ結果となる確率の変動分で吸収する構成において、上記のように大当たり結果となる確率が最も高くなる状況において当該大当たり結果となる確率を極力高くすることが可能となる。

【３０９５】

第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果となる確率は、設定値及び当否抽選モードのそれぞれがいずれであっても同一となっている。これにより、小当たり結果となる確率からは設定値及び当否抽選モードの両方について遊技者が推測できないようにすることが可能となる。

【３０９６】

第１特図側の保留情報に対する当否判定処理だけではなく第２特図側の保留情報に対する当否判定処理においても小当たり結果となる確率は、設定値及び当否抽選モードのそれぞれがいずれであっても同一となっている。これにより、第１特図側の保留情報に対する当否判定処理及び第２特図側の保留情報に対する当否判定処理のいずれであっても、小当たり結果となる確率からは設定値及び当否抽選モードの両方について遊技者が推測できないようにすることが可能となる。

【３０９７】

第１特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果が選択される確率と第２特図側の保留情報に対する当否判定処理にて小当たり結果が選択される確率とは相違している。これにより、第１特図側の保留情報に対する当否判定処理だけではなく第２特図側の保留情報に対する当否判定処理においても小当たり結果となる確率は設定値及び当否抽選モードのそれぞれがいずれであっても同一となっている構成において、小当たり結果となる確率を相違させる状況を生じさせることが可能となる。

【３０９８】

なお、上記実施形態の構成に代えて、第１特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行される場合に大当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の各設定値における変動分が、第１特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行される場合に小当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動分により吸収される構成としてもよい。

【３０９９】

また、上記実施形態の構成に代えて、第２特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行される場合に大当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の各設定値における変動分が、第２特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行される場合に小当たり結果であると判定される当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動分により吸収される構成としてもよい。

【３１００】

また、第１特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行された場合に小当たり結果が選択され得る構成としたが、これに代えて、第１特図側の保留情報に対して当否判定処理が実行された場合には小当たり結果が選択されない構成としてもよい。

【３１０１】

＜第７０の実施形態＞

本実施形態では当否判定処理において参照される当否テーブルの内容が上記第６９の実施形態と相違している。以下、上記第６９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第６９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３１０２】

図２４１（ａ）は低確率モードにおいて第１特図側の保留情報について当否判定処理を行う場合に参照される低確率時の第１当否テーブル４９５を説明するための説明図であり、図２４１（ｂ）は高確率モードにおいて第１特図側の保留情報について当否判定処理を行う場合に参照される高確率時の第１当否テーブル４９６を説明するための説明図であり、図２４１（ｃ）は低確率モードにおいて第２特図側の保留情報について当否判定処理を行う場合に参照される低確率時の第２当否テーブル５０１を説明するための説明図であり、図２４１（ｄ）は高確率モードにおいて第２特図側の保留情報について当否判定処理を行う場合に参照される高確率時の第２当否テーブル５０２を説明するための説明図である。

【３１０３】

図２４１（ａ）及び図２４１（ｂ）に示すように低確率時の第１当否テーブル４９５及び高確率時の第１当否テーブル４９６の内容は上記第６９の実施形態と同様である。一方、図２４１（ｃ）に示す低確率時の第２当否テーブル５０１及び図２４１（ｄ）に示す高確率時の第２当否テーブル５０２の内容は上記第６９の実施形態と相違している。これら低確率時の第２当否テーブル５０１及び高確率時の第２当否テーブル５０２について以下に説明する。

【３１０４】

図２４１（ｃ）に示すように低確率時の第２当否テーブル５０１には当否判定処理の判定結果として、大当たり結果、小当たり結果及び外れ結果が設定されている。また、パチンコ機１０には「設定１」～「設定６」の設定状態が存在しているが、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど外れ結果となる確率が低くなるように設定されている。一方、小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同一となるように設定されている。

【３１０５】

具体的には、最も低い設定値である「設定１」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９３００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６５０個が設定されている。また、「設定１」よりも１段階高い設定値である「設定２」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５２個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９３００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６４８個が設定されている。また、「設定２」よりも１段階高い設定値である「設定３」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９３００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６４６個が設定されている。また、「設定３」よりも１段階高い設定値である「設定４」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５６個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９３００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６４４個が設定されている。また、「設定４」よりも１段階高い設定値である「設定５」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５８

個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９３００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６４２個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定６」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９３００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６４０個が設定されている。

【３１０６】

図２４１（ｄ）に示すように高確率時の第２当否テーブル５０２には当否判定処理の判定結果として、大当たり結果、小当たり結果及び外れ結果が設定されている。また、パチンコ機１０には「設定１」～「設定６」の設定状態が存在しているが、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど外れ結果となる確率が低くなるように設定されている。一方、小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同一となるように設定されている。

【３１０７】

具体的には、最も低い設定値である「設定１」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９３００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として２００個が設定されている。また、「設定１」よりも１段階高い設定値である「設定２」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５２０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９３００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１８０個が設定されている。また、「設定２」よりも１段階高い設定値である「設定３」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９３００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１６０個が設定されている。また、「設定３」よりも１段階高い設定値である「設定４」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５６０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９３００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１４０個が設定されている。また、「設定４」よりも１段階高い設定値である「設定５」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５８０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９３００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１２０個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定６」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６００個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９３００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として１００個が設定されている。

【３１０８】

「設定１」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には１／２００であり高確率モードである場合にはその１０倍の１／２０である。「設定２」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１９２であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１９．２である。「設定３」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１８５であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１８．５である。「設定４」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１７９であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１７．９である。「設定５」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場

合には約１／１７２であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１７．２である。「設定６」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１６７であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１６．７である。つまり、「設定１」～「設定６」のいずれであっても第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は高確率モードである場合には低確率モードである場合に対して１０倍となる。また、設定状態及び当否抽選モードの組合せが同一となる組合せで比較した場合に大当たり結果となる確率は第１特図側の保留情報を契機とした場合と第２特図側の保留情報を契機とした場合とで同一となっている。

【３１０９】

一方、第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同一となる約１／１．０８である。また、第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は低確率モード及び高確率モードのいずれであっても同一となる１／１．０８となる。つまり、第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は設定状態及び当否抽選モードに関係なく一定となっている。この第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は第１特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率よりも高い確率となっている。また、第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は設定状態及び当否抽選モードに関係なく大当たり結果となる確率よりも高い確率となっている。また、第２特図側の保留情報を契機とした場合、設定状態及び当否抽選モードに関係なく小当たり結果となる確率が外れ結果となる確率よりも高い確率となっている。さらに言うと第２特図側の保留情報を契機とした場合に小当たり結果となる確率は、設定状態及び当否抽選モードに関係なく大当たり結果及び外れ結果の合成確率よりも高い確率となっている。

【３１１０】

なお、大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報は連番となるように集約して設定されている構成としてもよく、少なくとも一部又は全部が連番とならないように分散させて設定されている構成としてもよい。また、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報は連番となるように集約して設定されている構成としてもよく、少なくとも一部又は全部が連番とならないように分散させて設定されている構成としてもよい。

【３１１１】

上記構成によれば、第２当否テーブル４９７，４９８にて小当たり結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数よりも外れ結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の方が少ない構成において、設定値による大当たり結果の確率の変動分が外れ結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動によって吸収されている。この場合に、大当たり結果及び小当たり結果の合成確率が最も高くなる状況である「設定６」であって高確率モードである場合において第２特図側の保留情報に対して当否判定処理が行われた状況であっても外れ結果となる確率が１／１００となっている。これにより、「設定６」であって高確率モードである場合に第２特図側の保留情報に対して当否判定が行われた状況であっても外れ結果が選択され得るようにすることが可能となる。

【３１１２】

＜第７１の実施形態＞

本実施形態では当否判定処理において参照される当否テーブルの内容が上記第６９の実施形態と相違している。以下、上記第６９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第６９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３１１３】

図２４２（ａ）は低確率モードにおいて第１特図側の保留情報について当否判定処理を行う場合に参照される低確率時の第１当否テーブル４９５を説明するための説明図であり、図２４２（ｂ）は高確率モードにおいて第１特図側の保留情報について当否判定処理を行う場合に参照される高確率時の第１当否テーブル４９６を説明するための説明図であり

、図２４２（ｃ）は低確率モードにおいて第２特図側の保留情報について当否判定処理を行う場合に参照される低確率時の第２当否テーブル５０３を説明するための説明図であり、図２４２（ｄ）は高確率モードにおいて第２特図側の保留情報について当否判定処理を行う場合に参照される高確率時の第２当否テーブル５０４を説明するための説明図である。

【３１１４】

図２４２（ａ）及び図２４２（ｂ）に示すように低確率時の第１当否テーブル４９５及び高確率時の第１当否テーブル４９６の内容は上記第６９の実施形態と同様である。一方、図２４２（ｃ）に示す低確率時の第２当否テーブル５０３及び図２４２（ｄ）に示す高確率時の第２当否テーブル５０４の内容は上記第６９の実施形態と相違している。これら低確率時の第２当否テーブル５０３及び高確率時の第２当否テーブル５０４について以下に説明する。

【３１１５】

図２４２（ｃ）に示すように低確率時の第２当否テーブル５０３には当否判定処理の判定結果として、大当たり結果、小当たり結果及び外れ結果が設定されている。また、パチンコ機１０には「設定１」～「設定６」の設定状態が存在しているが、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど小当たり結果となる確率が低くなるように設定されている。一方、外れ結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであっても同一となるように設定されている。

【３１１６】

具体的には、最も低い設定値である「設定１」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４５０個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されている。また、「設定１」よりも１段階高い設定値である「設定２」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５２個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４４８個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されている。また、「設定２」よりも１段階高い設定値である「設定３」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４４６個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されている。また、「設定３」よりも１段階高い設定値である「設定４」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５６個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４４４個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されている。また、「設定４」よりも１段階高い設定値である「設定５」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５８個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４４２個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定６」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９４４０個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されている。

【３１１７】

図２４２（ｄ）に示すように高確率時の第２当否テーブル５０４には当否判定処理の判定結果として、大当たり結果、小当たり結果及び外れ結果が設定されている。また、パチンコ機１０には「設定１」～「設定６」の設定状態が存在しているが、高い設定値ほど大当たり結果となる確率が高く、高い設定値ほど小当たり結果となる確率が低くなるように設定されている。一方、外れ結果となる確率は「設定１」～「設定６」のいずれであって

も同一となるように設定されている。

【３１１８】

具体的には、最も低い設定値である「設定１」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として９０００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されている。また、「設定１」よりも１段階高い設定値である「設定２」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５２０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８９８０個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されている。また、「設定２」よりも１段階高い設定値である「設定３」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５４０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８９６０個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されている。また、「設定３」よりも１段階高い設定値である「設定４」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５６０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８９４０個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されている。また、「設定４」よりも１段階高い設定値である「設定５」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５８０個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８９２０個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として５００個が設定されている。また、最も高い設定値である「設定６」には大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として６００個が設定されており、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数として８９００個が設定されており、外れ結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数は５００個となっている。

【３１１９】

「設定１」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には１／２００であり高確率モードである場合にはその１０倍の１／２０である。「設定２」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１９２であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１９．２である。「設定３」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１８５であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１８．５である。「設定４」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１７９であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１７．９である。「設定５」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１７２であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１７．２である。「設定６」において第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１６７であり高確率モードである場合にはその１０倍の約１／１６．７である。つまり、「設定１」～「設定６」のいずれであっても第２特図側の保留情報を契機として大当たり結果となる確率は高確率モードである場合には低確率モードである場合に対して１０倍となる。また、設定状態及び当否抽選モードの組合せが同一となる組合せで比較した場合に大当たり結果となる確率は第１特図側の保留情報を契機とした場合と第２特図側の保留情報を契機とした場合とで同一となっている。

【３１２０】

また、「設定１」において第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１．０５８２であり高確率モードである場合には約１／１．１１１である。「設定２」において第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１．０５８４であり高確率モードで

ある場合には約１／１．１１３である。「設定３」において第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１．０５８６であり高確率モードである場合には約１／１．１１６である。「設定４」において第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１．０５８９であり高確率モードである場合には約１／１．１１９である。「設定５」において第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１．０５９１であり高確率モードである場合には約１／１．１２１である。「設定６」において第２特図側の保留情報を契機として小当たり結果となる確率は低確率モードである場合には約１／１．０５９３であり高確率モードである場合には約１／１．１２４である。

【３１２１】

なお、大当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報は連番となるように集約して設定されている構成としてもよく、少なくとも一部又は全部が連番とならないように分散させて設定されている構成としてもよい。また、小当たり結果となる当たり乱数カウンタＣ１の数値情報は連番となるように集約して設定されている構成としてもよく、少なくとも一部又は全部が連番とならないように分散させて設定されている構成としてもよい。

【３１２２】

上記構成によれば第１当否テーブル４９５，４９６にて小当たり結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の値の数よりも外れ結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の値の数の方が多い構成において、設定値による大当たり結果の確率の変動分が外れ結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動によって吸収されている。そして、いずれの設定値であっても外れ結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数が最も多い。これにより、設定値による大当たり結果の確率変動分を吸収するための設定値による外れ結果の確率変動分を少なくすることが可能となる。よって、第１特図側の保留情報を契機とした場合において遊技者が設定値を推測するために注目する対象を大当たり結果に限定させることが可能となり、設定値の推測を行いづらくさせることが可能となる。

【３１２３】

また、第２当否テーブル５０３，５０４にて外れ結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数よりも小当たり結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の方が多い構成において、設定値による大当たり結果の確率の変動分が小当たり結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数の変動によって吸収されている。そして、いずれの設定値であっても小当たり結果に割り当てられている当たり乱数カウンタＣ１の数値情報の数が最も多い。これにより、設定値による大当たり結果の確率変動分を吸収するための設定値による小当たり結果の確率変動分を少なくすることが可能となる。よって、第１特図側の保留情報を契機とした場合において遊技者が設定値を推測するために注目する対象を大当たり結果に限定させることが可能となり、設定値の推測をしづらくさせることが可能となる。

【３１２４】

＜第７２の実施形態＞

本実施形態では動作電力の供給が開始された場合における処理構成が上記第４９の実施形態と相違している。以下、上記第４９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第４９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３１２５】

図２４３は本実施形態における遊技盤２４の正面図である。

【３１２６】

遊技盤２４には上記第１の実施形態と同様に、遊技領域ＰＡの外縁の一部を区画するようにして内レール部２５と外レール部２６とが取り付けられており、これら内レール部２５と外レール部２６とにより誘導手段としての誘導レールが構成されている。遊技球発射

機構２７（図２参照）から発射された遊技球は誘導レールにより遊技領域ＰＡの上部に案内されるようになっている。また、遊技領域ＰＡには上記第１の実施形態と同様に一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４、スルーゲート３５、可変表示ユニット３６、特図ユニット３７及び普図ユニット３８等がそれぞれ設けられている。

【３１２７】

ここで、本実施形態では可変表示ユニット３６において図柄表示装置４１の周囲を囲むようにして設けられたセンターフレーム５１１に可動体５１２が設けられている。可動体５１２は、図示しないリンク機構を介して可動体用駆動部５１３に連結されており、可動体用駆動部５１３が変位用の状態となることで駆動されて初期位置から所定方向に移動するとともに、可動体用駆動部５１３が復帰用の状態となることで初期位置に復帰するように移動する。そして、当該可動体５１２が動作する様子が窓パネル５２を通じてパチンコ機１０前方から視認可能となっている。つまり、可動体５１２が動作する様子は遊技機本体１２及び前扉枠１４の開放操作を要することなくパチンコ機１０前方から視認可能となっている。

【３１２８】

可動体５１２について詳細には、可動体５１２は初期位置と移動限界位置との間で移動可能となっており、初期位置から移動限界位置に向けて移動することで、表示面４１ａの前方に配置され、初期位置の場合よりも表示面４１ａに対してその前方にて対向する範囲が広くなる。具体的には、初期位置では、その全体が表示面４１ａよりも外方であってセンターフレーム５１１内に配置されており、表示面４１ａを正面から見た状態では可動体５１２が視認不可又は視認しづらい構成となっている。一方、移動限界位置では、その全体が表示面４１ａに対してその前方から対向し、初期位置の場合よりも可動体５１２の視認性は向上するが、表示面４１ａの視認性を低下させる状態となる。なお、これに限定されることはなく初期位置に配置されている場合及び移動限界位置に配置されている場合のいずれであっても可動体５１２が視認可能である構成としてもよい。

【３１２９】

可動体５１２は、移動限界位置に配置された場合において遊技者が視認可能な面である表面（すなわち遊技機前方を向く面）に装飾が付された可動式の装飾体であり、所定のキャラクタ（例えば「魚」）を模した形態となっているが、具体的な形態は任意である。可動体５１２の初期位置から移動限界位置への移動は、表示面４１ａにおける遊技回用の演出と連動して行われ、所定の演出が終了した場合に初期位置へ復帰する。このように可動体５１２の移動は、表示面４１ａにおける画像演出と一体的な演出を行うために利用される。

【３１３０】

本パチンコ機１０では、遊技回用の演出の途中（例えばリーチ中）で可動体５１２の初期位置からの移動が行われた場合には、当該移動が行われない場合に比べて、開閉実行モードへの移行の期待度が高い構成となっている。但し、これに限定されることはなく、当該構成に加えて又は代えて、開閉実行モード後に当否抽選の確率が高確率となる当否判定の結果となった場合に遊技回用の演出では同一の偶数の数字が付された図柄の組合せといった高確率を明示しない結果を停止表示しながら、開閉実行モード中に高確率への昇格が発生したかのような演出を行う構成において、当該昇格用の演出として可動体５１２の初期位置からの移動が行われる構成としてもよい。

【３１３１】

次に、主制御装置６０及び音声発光制御装置８１の電気的構成について図２４４の説明図を参照しながら説明する。

【３１３２】

主制御装置６０には上記第４９の実施形態と同様に主制御基板６１が設けられているとともに、当該主制御基板６１には上記第４９の実施形態と同様に主側ＣＰＵ６３、主側ＲＯＭ６４及び主側ＲＡＭ６５が内蔵されたＭＰＵ６２が設けられている。また、主制御基

板６１には上記第４９の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が設けられている。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において表示される表示内容は上記第３５の実施形態と同様である。したがって、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合には初期チェック期間に亘ってチェック用表示が行われるとともに、その後にベース値を報知するための表示が行われる。

【３１３３】

第１～第４報知用表示装置２０１～２０４は上記第１１の実施形態と同様に主制御基板６１の素子搭載面において横並びで設けられている（図５３参照）。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４はいずれも、ＬＥＤによる表示用セグメントが７個配列されたセグメント表示器であるが、これに限定されることはなく多色発光タイプの単一の発光体であってもよく、液晶表示装置であってもよく、有機ＥＬディスプレイであってもよい。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４はいずれもその表示面が主制御基板６１の素子搭載面が向く方向を向くようにして設置されているとともに、基板ボックス６０ａの対向壁部６０ｂにより覆われている。この場合に、基板ボックス６０ａが透明に形成されていることにより、基板ボックス６０ａの外部から当該基板ボックス６０ａ内に収容された第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示面を目視することが可能となる。また、主制御装置６０は基板ボックス６０ａにおいて主制御基板６１の素子搭載面と対向する対向壁部６０ｂがパチンコ機１０後方を向くようにして樹脂ベース２１の背面に搭載されているため、遊技機本体１２を外枠１１に対してパチンコ機１０前方に開放させて樹脂ベース２１の背面をパチンコ機１０前方に露出させた場合には、対向壁部６０ｂを通じて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示面を目視することが可能となる。

【３１３４】

図２４４に示すように音声発光制御装置８１は音声発光制御基板３５１を備えている。音声発光制御基板３５１には音光側ＭＰＵ３５２が搭載されている。音光側ＭＰＵ３５２には、制御部及び演算部を含む演算処理装置である音光側ＣＰＵ３５３の他に、音光側ＲＯＭ３５４及び音光側ＲＡＭ３５５が内蔵されている。また、音光側ＭＰＵ３５２には、上記素子以外に、割込回路、タイマ回路、データ入出力回路、乱数発生器としての各種カウンタ回路などが内蔵されている。

【３１３５】

音光側ＲＯＭ３５４は、ＮＯＲ型フラッシュメモリ及びＮＡＮＤ型フラッシュメモリなどの記憶保持に外部からの電力供給が不要なメモリ（すなわち、不揮発性記憶手段）であり、読み出し専用として利用される。音光側ＲＯＭ３５４は、音光側ＣＰＵ３５３により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶している。

【３１３６】

音光側ＲＡＭ３５５は、ＳＲＡＭ及びＤＲＡＭなどの記憶保持に外部からの電力供給が必要なメモリ（すなわち、揮発性記憶手段）であり、読み書き両用として利用される。音光側ＲＡＭ３５５は、ランダムアクセスが可能であるとともに、同一のデータ容量で比較した場合に音光側ＲＯＭ３５４よりも読み出しに要する時間が早いものとなっている。音光側ＲＡＭ３５５は、音光側ＲＯＭ３５４内に記憶されている制御プログラムの実行に対して各種のデータなどを一時的に記憶する。

【３１３７】

音光側ＭＰＵ３５２の入力側には主制御装置６０のＭＰＵ６２が電気的に接続されており、音光側ＭＰＵ３５２の出力側には表示発光部５３、スピーカ部５４、表示制御装置８２及び可動体用駆動部５１３が電気的に接続されている。音光側ＭＰＵ３５２は主制御装置６０のＭＰＵ６２から受信した各種コマンドに基づいて、表示発光部５３、スピーカ部５４及び可動体用駆動部５１３を駆動制御するとともに、表示制御装置８２を制御する。表示制御装置８２は、音光側ＭＰＵ３５２から受信したコマンドに基づいて図柄表示装置４１の表示制御を実行する。これにより、遊技回や開閉実行モードが実行されている状況において、図柄表示装置４１、表示発光部５３、スピーカ部５４及び可動体５１２にて各

種演出や各種報知が実行される。
【３１３８】
次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理について図２４５のフローチャートを参照しながら説明する。なお、メイン処理におけるステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２９の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【３１３９】
まず電源投入初期設定処理を実行する（ステップＳＦ５０１）。電源投入初期設定処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。このウエイト用の所定期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。また、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する。
【３１４０】
その後、内部機能レジスタ設定処理を実行する（ステップＳＦ５０２）。内部機能レジスタ設定処理では上記第３５の実施形態と同様に、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第１タイマ割込み処理（図１３３）の割込み周期を第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）に設定するとともに、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込み周期を上記第１割込み周期よりも短い周期である第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）に設定する。
【３１４１】
つまり、本実施形態では上記第３５の実施形態と同様に、タイマ割込み処理として割込み周期が相対的に長短となるように第１タイマ割込み処理（図１３３）と第２タイマ割込み処理（図１３４）とが存在している。第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）はいずれもメイン処理に対して割り込んで起動される。また、第２タイマ割込み処理（図１３４）は第１タイマ割込み処理（図１３３）に対して割り込んで起動される。一方、第１タイマ割込み処理（図１３３）は第２タイマ割込み処理（図１３４）に対して割り込んで起動されない。また、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の両方が実行されていない状況において第１割込み周期及び第２割込み周期の両方が経過している場合、それら周期の経過順序に関係なく第２タイマ割込み処理（図１３４）から先に起動される。この点、第２タイマ割込み処理（図１３４）は第１タイマ割込み処理（図１３３）よりも優先して起動される処理であると言える。但し、これに限定されることはなく第１タイマ割込み処理（図１３３）が第２タイマ割込み処理（図１３４）よりも優先して起動される構成としてもよい。
【３１４２】
内部機能レジスタ設定処理では、第１タイマ割込み処理（図１３３）の第１割込み周期を主側ＣＰＵ６３の所定のレジスタに設定するとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）の第２割込み周期を主側ＣＰＵ６３の特定のレジスタに設定する。また、内部機能レジスタ設定処理では上記第１，第２割込み周期の設定以外にも例えば当たり乱数カウンタＣ１の数値範囲といった各種カウンタの数値範囲の設定処理などを実行する。
【３１４３】
その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた立ち上げ処理中フラグに「１」をセットする（ステップＳＦ５０３）。立ち上げ処理中フラグは上記第３５の実施形態と同様に、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）に設定されている各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行する一方、遊技を進行させるための処理を実行することなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）を終了すべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。
【３１４４】
立ち上げ処理中フラグは、メイン処理（図２４５）において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が開始された場合に「１」がセットされ

、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了して残余処理（ステップＳＦ５２６～ステップＳＦ５２９）が開始される前に「０」クリアされる。上記第３５の実施形態と同様に第１タイマ割込み処理（図１３３）では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合にはステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しないようにすることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）のうち後述する設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）が実行されている状況において遊技を進行させるための処理が実行されないようにすることが可能となる。その一方、上記のとおり第１タイマ割込み処理（図１３３）では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合であってもステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行することで、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）のうち後述する設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）が実行されている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。

【３１４５】

特に、立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている状況であっても停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）が実行されることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）のうち後述する設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）が実行されている状況において停電が発生したとしてもそれに対して停電時処理を実行することが可能となる。停電時処理では上記第３５の実施形態と同様に、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」をセットするとともに、チェックサムの算出処理（図２５３）を実行してその算出したチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１に保存するため、動作電力の供給が再度開始された場合には主側ＲＡＭ６５の異常発生と特定されないようにすることが可能となる。これにより、設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）の途中で停電が発生した場合には、これら設定関連処理の途中で停電が発生したことを次回の動作電力の供給開始時に特定することが可能となる。

【３１４６】

ちなみに、設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）が実行されている状況では、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）のいずれについても割込みが禁止されることはなく任意のタイミングで割込み可能となっている。この場合、設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）において第１タイマ割込み処理（図１３３）又は第２タイマ割込み処理（図１３４）が割り込んで起動される場合には、その起動対象となったタイマ割込み処理が終了した後に復帰するためのメイン処理（図２４５）の戻り番地の情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されるとともに、当該タイマ割込み処理が起動される直前における主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避される。そして、起動対象となったタイマ割込み処理が終了した場合には特定制御用のスタックエリア２２２に退避された戻り番地の情報に対応するメイン処理（図２４５）の処理に復帰することとなるとともに、特定制御用のスタックエリア２２２に退避された情報が主側ＣＰＵ６３の各種レジスタに復帰される。

【３１４７】

ステップＳＦ５０３にて立ち上げ処理中フラグに「１」をセットした後は、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＦ５０４）。第１タイマ割込み処理（図１３３）の停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）にて停電時処理が実行された場合に停電フラグに「１」がセットされる。停電フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われたか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【３１４８】

停電フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＦ５０４：ＹＥＳ）、停電時処理の場合と同様にチェックサムの算出処理（図２５３）を実行した後に（ステップＳＦ５０５）、その算出したチェックサムが正常であるか否かを判定する（ステップＳＦ５０６）。詳細は後述するが停電時処理及びステップＳＦ５０５のそれぞれにおけるチェックサムの算出処理（図２５３）では、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてチェックサムを算出する。ステップＳＦ５０６では、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理において算出されて特定制御用のワークエリア２２１に保存された特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてのチェックサムを読み出すとともに、その読み出したチェックサムを、ステップＳＦ５０５にて算出したチェックサムと比較する。そして、それらチェックサムが一致しているか否かを判定する。

【３１４９】

チェックサムが一致している場合（ステップＳＦ５０６：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定参照用エリア３４１（図１５４参照）に格納された情報に対応する設定値が正常な範囲であるか否かを判定する（ステップＳＦ５０７）。設定参照用エリア３４１は上記第４５の実施形態と同様に現状のパチンコ機１０の設定値を主側ＣＰＵ６３にて特定するための情報が格納される記憶エリアである。設定参照用エリア３４１に「１」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定１」となる。設定参照用エリア３４１に「２」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定２」となる。設定参照用エリア３４１に「３」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定３」となる。設定参照用エリア３４１に「４」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定４」となる。設定参照用エリア３４１に「５」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定５」となる。設定参照用エリア３４１に「６」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定６」となる。ステップＳＦ５０７では設定参照用エリア３４１に格納された設定値の情報が「１」～「６」のいずれかであるか否かを判定する。

【３１５０】

ステップＳＦ５０４、ステップＳＦ５０６及びステップＳＦ５０７の全てで肯定判定をした場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＦ５０８）。設定更新表示フラグは上記第３５の実施形態と同様に設定値更新処理（図２４７）が実行されていることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグであり、設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を更新している状況であることを示す表示及び更新途中の設定値を示す表示が行われる。設定更新表示フラグは、設定値更新処理（図２４７）が開始された場合に「１」がセットされ設定値更新処理（図２４７）が終了される場合に「０」クリアされるフラグであるため、設定値更新処理（図２４７）が実行されていない状況においては基本的に設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定値更新処理（図２４７）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合において設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態となる。この設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態は設定値更新処理（図２４７）において設定更新表示フラグを「０」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【３１５１】

設定更新表示フラグに「１」がセットされていないことでステップＳＦ５０８にて否定判定をした場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＦ５０９）。つまり、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている状態においてパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われて主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたか否かを判定する。ここで、本実施形態では上記第３５の実施形態と同様に、主制御装置６

０に設定キー挿入部６８ａ及びリセットボタン６８ｃが設けられているものの更新ボタン６８ｂは設けられていない。

【３１５２】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＦ５０９：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＦ５１０）。遊技停止フラグは、停電フラグに「１」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合に「１」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。ステップＳＦ５１０にて肯定判定をした場合、後述するステップＳＦ５２２及びステップＳＦ５２３の処理を実行する。

【３１５３】

ステップＳＦ５１０にて否定判定をした場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定する（ステップＳＦ５１１）。設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されている場合（ステップＳＦ５１１：ＹＥＳ）、設定確認用処理を実行する（ステップＳＦ５１３）。また、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていない場合であっても（ステップＳＦ５１１：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＦ５１２：ＹＥＳ）、設定確認用処理を実行する（ステップＳＦ５１３）。

【３１５４】

設定確認表示フラグは上記第３５の実施形態と同様に設定確認用処理（図２４６）が実行されていることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグであり、設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状設定されている設定値を示す表示が行われる。設定確認表示フラグは、設定確認用処理（図２４６）が開始された場合に「１」がセットされ設定確認用処理（図２４６）が終了される場合に「０」クリアされるフラグであるため、設定確認用処理（図２４６）が実行されていない状況においては基本的に設定確認表示フラグに「１」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定確認用処理（図２４６）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合において設定確認表示フラグに「１」がセットされた状態となる。この設定確認表示フラグに「１」がセットされた状態は後述するＲＡＭクリア処理（図２５０）が実行されるか、又は設定確認用処理（図２４６）において設定確認表示フラグを「０」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【３１５５】

上記のようにリセットボタン６８ｃが押圧操作されていない状況であって設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている場合（すなわち「設定確認操作」が行われた場合）だけではなく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない状況であって設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合にも設定確認用処理（図２４６）が実行されることにより、設定確認用処理（図２４６）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の再開に際して「設定確認操作」が行われなかったとしても設定確認用処理（図２４６）が実行される。これにより、パチンコ機１０の現状の

設定値の確認を引き続き行わせることが可能となる。一方、設定確認用処理（図２４６）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合であってもその後の動作電力の供給の再開に際してリセットボタン６８ｃが押圧操作された場合には、設定確認用処理（図２４６）が実行されることなくＲＡＭクリア処理（図２５０）及び設定値更新処理（図２４７）のうち動作電力の供給の再開に際して行われた操作に対応する処理が実行される。これにより、設定確認用処理（図２４６）よりもＲＡＭクリア処理（図２５０）又は設定値更新処理（図２４７）の実行を優先させることが可能となる。

【３１５６】

ここで、ステップＳＦ５１３にて実行される設定確認用処理について説明する。図２４６は設定確認用処理を示すフローチャートである。なお、設定確認用処理におけるステップＳＦ６０１～ステップＳＦ６０７の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３１５７】

まず割込み許可の設定を行う（ステップＳＦ６０１）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）が第２割込み周期で割り込んで起動される。

【３１５８】

本実施形態においては動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）では基本的に第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止されており、設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）において割込みが許可される。したがって、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）において設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）が実行されていない状況においては第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が禁止され、設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が許可される。但し、設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了される。

【３１５９】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定確認表示フラグに「１」がセットされていないことを条件として、設定確認表示フラグに「１」をセットする（ステップＳＦ６０２）。設定確認表示フラグに「１」がセットされることにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００５にて肯定判定をすることで、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００６）を実行する。当該設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理の処理内容は上記第４５の実施形態と同一である。当該処理が実行されることにより、例えば図１２４（ｂ）の説明図に示すように、パチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。

【３１６０】

その後、確認開始コマンドを音光側ＭＰＵ３５２に送信する（ステップＳＦ６０３）。音光側ＣＰＵ３５３は確認開始コマンドを受信することにより、設定確認用処理（図２４６）が実行されていることを示す画像及び設定確認用処理（図２４６）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定確認

用処理（図２４６）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。また、設定確認用処理（図２４６）が実行されていることを示す外部出力が例えば遊技ホールの管理コンピュータといったパチンコ機１０外部の装置に対して行われる構成としてもよい。

【３１６１】

その後、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する（ステップＳＦ６０４）。具体的には、上記第４５の実施形態における設定確認用処理（図１５５）と同様に、設定キー挿入部６８ａの状態を検知する検知センサから受信している信号の受信状態がＯＮ状態に対応する受信状態からＯＦＦ状態に対応する受信状態となったか否かを判定する。したがって、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態に維持されている場合だけではなく、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態である状況で設定確認用処理（図２４６）が開始された場合においてそのＯＦＦ状態が維持されている場合にもステップＳＦ６０４にて否定判定をする。設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定していない場合（ステップＳＦ６０４：ＮＯ）、ステップＳＦ６０４の処理を繰り返す。

【３１６２】

設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定した場合（ステップＳＦ６０４：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグを「０」クリアする（ステップＳＦ６０５）。これにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００５にて否定判定をすることで、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００６）が実行されない状況となる。したがって、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。

【３１６３】

その後、割込み禁止の設定を行う（ステップＳＦ６０６）。これにより、設定確認用処理（図２４６）を終了してメイン処理（図２４５）における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）に復帰する場合には第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止される。

【３１６４】

その後、確認時の復帰コマンドを音光側ＭＰＵ３５２に送信する（ステップＳＦ６０７）。音光側ＣＰＵ３５３は確認時の復帰コマンドを受信することにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）にて設定確認用処理（図２４６）が実行されたことを特定する。そして、確認時の復帰コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。

【３１６５】

上記のとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作することなく設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作した状態でパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われることにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されてメイン処理（図２４５）が開始された状況においてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていないとともに設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作された状態となり、メイン処理（図２４５）にて遊技を進行させるための処理が実行される前の状況である動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において設定確認用処理（図２４６）が実行される。これにより、遊技が行われていない状況下において設定値の確認を行うことが可能となる。

【３１６６】

メイン処理（図２４５）の説明に戻り、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯ

Ｎ操作されていない場合であって設定確認表示フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＦ５１１及びステップＳＦ５１２：ＮＯ）、通常復帰コマンドを音光側ＭＰＵ３５２に送信する（ステップＳＦ５１４）。音光側ＣＰＵ３５３は通常復帰コマンドを受信することにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）にてＲＡＭクリア処理（図２５０）、設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）のいずれもが実行されていないことを特定する。そして、通常復帰コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。

【３１６７】

一方、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていると判定した場合（ステップＳＦ５０９及びステップＳＦ５１５：ＹＥＳ）、又はステップＳＦ５０８にて設定更新表示フラグに「１」がセットされていると判定した場合、設定値更新処理を実行する（ステップＳＦ５１６）。上記のようにリセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合であって設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている場合（すなわち「設定変更操作」が行われた場合）だけではなく、リセットボタン６８ｃの押圧操作及び設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作の有無に関係なく設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合にも設定値更新処理（図２４７）が実行されることにより、設定値更新処理（図２４７）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の開始に際しての操作内容が「操作無し」、「ＲＡＭクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれであったとしても設定値更新処理（図２４７）が実行される。これにより、設定値更新処理（図２４７）の実行を優先させることが可能となる。

【３１６８】

ここで、ステップＳＦ５１６にて実行される設定値更新処理について説明する。図２４７は設定値更新処理を示すフローチャートである。なお、設定値更新処理におけるステップＳＦ７０１～ステップＳＦ７１４の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３１６９】

まず割込み許可の設定を行う（ステップＳＦ７０１）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）が第２割込み周期で割り込んで起動される。

【３１７０】

本実施形態においては動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）では基本的に第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止されており、設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）において割込みが許可される。したがって、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）において設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）が実行されていない状況においては第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が禁止され、設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が許可される。但し、設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了される。

【３１７１】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」が

セットされていないことを条件として、設定更新表示フラグに「１」をセットする（ステップＳＦ７０２）。設定更新表示フラグに「１」がセットされることにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００３にて肯定判定をすることで、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００４）を実行する。当該設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理の処理内容は上記第４５の実施形態と同一である。当該処理が実行されることにより、例えば図１２４（ａ）の説明図に示すように、パチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の更新対象として選択されている設定値の表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。

【３１７２】

その後、開始時の初期設定を行う（ステップＳＦ７０３）。当該初期設定では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグを「０」クリアする。遊技停止フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＦ５０４：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合（ステップＳＦ５０６：ＮＯ）、又は設定参照用エリア３４１に格納された情報に対応する設定値が正常な範囲ではない場合に（ステップＳＦ５０７：ＮＯ）、メイン処理（図２４５）のステップＳＦ５２０にて「１」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、上記のような主側ＲＡＭ６５の情報異常が発生した場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。ステップＳＦ７０３の処理にて遊技停止フラグを「０」クリアすることで、主側ＲＡＭ６５の情報異常の発生が特定されている状態を設定値更新処理（図２４７）が実行された場合に解除することが可能となる。

【３１７３】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新用エリア３４２（図１５４参照）に「１」を設定する（ステップＳＦ７０４）。設定更新用エリア３４２は上記第４５の実施形態と同様に設定値更新処理（図２４７）において更新途中の設定値の情報が格納される記憶エリアである。設定更新用エリア３４２に「１」の数値情報が格納されている場合には更新対象（選択対象又は変更対象）の設定値は「設定１」となる。設定更新用エリア３４２に「２」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定２」となる。設定更新用エリア３４２に「３」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定３」となる。設定更新用エリア３４２に「４」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定４」となる。設定更新用エリア３４２に「５」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定５」となる。設定更新用エリア３４２に「６」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定６」となる。

【３１７４】

ステップＳＦ７０４にて設定更新用エリア３４２に「１」を設定することで、更新対象の設定値が「設定１」となる。つまり、本実施形態ではパチンコ機１０の現状の設定値がいずれであったとしても設定値更新処理（図２４７）が開始された場合には更新対象の設定値は「設定１」となる。

【３１７５】

その後、更新開始コマンドを音光側ＭＰＵ３５２に送信する（ステップＳＦ７０５）。音光側ＣＰＵ３５３は更新開始コマンドを受信することにより、設定値更新処理（図２４７）が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理（図２４７）を終了させるための操作内容を認識可

能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、設定値を変更している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定値を変更させるために必要な操作内容及び設定値更新処理（図２４７）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。また、設定値更新処理（図２４７）が実行されていることを示す外部出力が例えば遊技ホールの管理コンピュータといったパチンコ機１０外部の装置に対して行われる構成としてもよい。

【３１７６】

その後、設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報が「１」～「６」のいずれかであるか否かを判定する（ステップＳＦ７０６）。「１」～「６」のいずれかではない場合（ステップＳＦ７０６：ＮＯ）、設定更新用エリア３４２に「１」を設定する（ステップＳＦ７０７）。これにより、更新対象の設定値が「設定１」となる。

【３１７７】

ステップＳＦ７０６にて肯定判定をした場合又はステップＳＦ７０７の処理を実行した場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する（ステップＳＦ７０８）。具体的には、設定キー挿入部６８ａの状態を検知する検知センサから受信している信号の受信状態が、ＯＮ状態に対応する受信状態からＯＦＦ状態に対応する受信状態となったか否かを判定する。したがって、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態に維持されている場合だけではなく、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態である状況で設定値更新処理が開始された場合においてそのＯＦＦ状態が維持されている場合にもステップＳＦ７０８にて否定判定をする。

【３１７８】

ステップＳＦ７０８にて否定判定をした場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていることを条件として（ステップＳＦ７０９：ＹＥＳ）、設定更新用エリア３４２の値を１加算する（ステップＳＦ７１０）。これにより、リセットボタン６８ｃが１回押圧操作される度に１段階上の設定値に更新される。また、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＦ７０９：ＮＯ）又は設定更新用エリア３４２の値を１加算した場合にはステップＳＦ７０６の処理に戻ることとなるが、ステップＳＦ７０６にて設定更新用エリア３４２の値が７以上であると判定されると、ステップＳＦ７０７にて設定更新用エリア３４２に「１」がセットされる。これにより、「設定６」の状況でリセットボタン６８ｃが１回押圧操作された場合には「設定１」に戻ることになる。

【３１７９】

設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定した場合（ステップＳＦ７０８：ＹＥＳ）、設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報を設定参照用エリア３４１に上書きする（ステップＳＦ７１１）。これにより、今回の設定値更新処理（図２４７）にて更新された結果の設定値の情報が設定参照用エリア３４１に設定された状態となり、その設定された情報に対応する設定値が現状のパチンコ機１０の設定値となる。

【３１８０】

その後、割込み禁止の設定を行う（ステップＳＦ７１２）。これにより、設定値更新処理（図２４７）を終了してメイン処理（図２４５）における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）に復帰する場合には第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止される。

【３１８１】

その後、ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＦ７１３）。ＲＡＭクリア処理では、上記第４５の実施形態におけるＲＡＭクリア処理（ステップＳＡ４１６）と同様に、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア３４１）を除いて、当該特定制御用のワー

クエリア２２１を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「０」クリアされるため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示されていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグ及び設定確認表示フラグを「０」クリアする。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新用エリア３４２を「０」クリアする。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグを「０」クリアする。また、ＲＡＭクリア処理では特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。また、ＲＡＭクリア処理では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を実行する。この初期設定ではステップＳＦ５０２の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。なお、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４については「０」クリアするための処理及び初期設定を行うための処理は実行しない。

【３１８２】

その後、更新時の復帰コマンドを音光側ＭＰＵ３５２に送信する（ステップＳＦ７１４）。音光側ＣＰＵ３５３は更新時の復帰コマンドを受信することにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）にて設定値更新処理（図２４７）が実行されたことを特定する。そして、更新時の復帰コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。

【３１８３】

上記のとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うだけではなくさらに設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うことに基づき、設定値更新処理（図２４７）が実行される。また、既に説明したとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作することなく設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うことに基づき、設定確認用処理（図２４６）が実行される。これにより、設定値に関する設定関連処理が実行されるための操作として、設定キー挿入部６８ａに対するＯＮ操作を共通させることが可能となる。よって、設定関連処理を発生させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。

【３１８４】

また、設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行う場合であって、リセットボタン６８ｃの押圧操作を付加しない場合には設定確認用処理（図２４６）が実行され、リセットボタン６８ｃの押圧操作を付加する場合には設定値更新処理（図２４７）が実行される。これにより、リセットボタン６８ｃの押圧操作の有無によって設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）のうち実行対象の処理を相違させることが可能となる。よって、設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）のうち所望の処理を実行させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。また、設定確認用処理（図２４６）よりも設定値更新処理（図２４７）を実行させるための操作内容を多くすることにより、設定値更新処理（図２４７）を不正に行わせる行為を特に行いづらくさせることが可能となる。

【３１８５】

メイン処理（図２４５）の説明に戻り、ステップＳＦ５０９にてリセットボタン６８ｃ

が押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていないと判定した場合（ステップＳＦ５１５：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＦ５１７）。遊技停止フラグは、停電フラグに「１」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合に「１」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【３１８６】

遊技停止フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＦ５１７：ＮＯ）、ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＦ５１８）。ＲＡＭクリア処理の内容は、設定値更新処理（図２４７）におけるステップＳＦ７１３のＲＡＭクリア処理の内容と同一である。

【３１８７】

その後、クリア時の復帰コマンドを音光側ＭＰＵ３５２に送信する（ステップＳＦ５１９）。音光側ＣＰＵ３５３はクリア時の復帰コマンドを受信することにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）にて設定値更新処理（図２４７）が実行されていない状況においてＲＡＭクリア処理（ステップＳＦ５１８）が実行されたことを特定する。そして、クリア時の復帰コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。

【３１８８】

メイン処理（図２４５）においてステップＳＦ５０４、ステップＳＦ５０６及びステップＳＦ５０７のいずれかにて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「１」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」をセットする（ステップＳＦ５２０）。既に説明したとおり遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【３１８９】

その後、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＦ５２１）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＦ５２１：ＮＯ）、動作電力の供給開始時において停電フラグ、チェックサム又は設定値に関して異常が発生したことを示す異常コマンドを音光側ＭＰＵ３５２に送信する（ステップＳＦ５２２）。音光側ＣＰＵ３５３は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を

動作電力の供給開始時における情報異常に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定変更をして下さい。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機１０への動作電力の供給が一旦停止されたとしても設定値更新処理（図２４７）が実行されるまではパチンコ機１０への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が再度開始されることとなる。

【３１９０】

その後、異常時の外部出力処理を実行する（ステップＳＦ５２３）。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間（例えば１００ミリ秒）に亘って行われる。但し、これに限定されることはなく遊技停止フラグに「１」がセットされている状況下においては異常信号の信号出力が継続され、遊技停止フラグが「０」クリアされることで異常信号の信号出力が停止される構成としてもよい。また、異常信号は、停電フラグ、チェックサム及び設定値に関する異常とは異なる異常が発生した場合にも出力され得る。例えば、第１タイマ割込み処理（図１３３）の不正検知処理（ステップＳ８９０５）において監視対象の不正（不正な電波の検知や不正の磁気の検知）が発生したことを特定した場合にも異常信号が外部出力される。但し、このように異常信号が兼用される構成に限定されることはなく、停電フラグ、チェックサム又は設定値に関する異常に対して専用となる異常信号が外部出力される構成としてもよく、停電フラグに関する異常、チェックサムに関する異常及び設定値に関する異常のそれぞれに対応する異常信号が外部出力される構成としてもよい。

【３１９１】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合（ステップＳＦ５２１：ＹＥＳ）、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定する（ステップＳＦ５１５）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されているとともに設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されている場合（ステップＳＦ５１５及びステップＳＦ５２１：ＹＥＳ）、設定値更新処理を実行する（ステップＳＦ５１６）。設定値更新処理の処理内容は既に説明したとおりである。つまり、「設定変更操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力が供給された場合、主側ＲＡＭ６５について異常が発生していることでステップＳＦ５０４、ステップＳＦ５０６及びステップＳＦ５０７のいずれかにて否定判定をした場合であっても設定値更新処理（図２４７）が実行される。これにより、設定値の変更を優先させることが可能となる。また、設定値更新処理（図２４７）では既に説明したとおりステップＳＦ７０３にて開始時の初期設定が実行されることで遊技停止フラグが「０」クリアされる。これにより、設定値更新処理（図２４７）が実行された場合には、設定値の更新が完了した後に、主側ＲＡＭ６５について異常が発生している状態を解消させることが可能となる。

【３１９２】

一方、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているものの設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていない場合（ステップＳＦ５２１：ＹＥＳ、ステップＳＦ５１５：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＦ５１７）。ステップＳＦ５２０にて遊技停止フラグに「１」がセットされた後におけるステップＳＦ５１７の処理では当然のことながら遊技停止フラグに「１」がセットされているため、ステップＳＦ５１７にて肯定判定をする。この場合、ステップＳＦ５２２にて音光側ＭＰＵ３５２に異常コマンドを送信するとともに、ステップＳＦ５２３にて異常信号を外部出力する。

【３１９３】

つまり、停電フラグ、チェックサム及び設定値に関する異常が発生してステップＳＦ５０４、ステップＳＦ５０６及びステップＳＦ５０７のいずれかにて否定判定をした場合、「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始さ

れたとしてもＲＡＭクリア処理（ステップＳＦ５１８）は実行されない。また、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況であって「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合にもＲＡＭクリア処理（ステップＳＦ５１８）は実行されない。これにより、「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたとしても遊技停止フラグに「１」がセットされた状態が解消されないようにすることが可能となる。これに対して、「設定変更操作」が行われている場合には遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かに関係なく設定値更新処理（図２４７）が実行されるとともに当該設定値更新処理（図２４７）の開始時の初期設定（ステップＳＦ７０３）にて遊技停止フラグが「０」クリアされる。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされた状態を解消するためには設定値更新処理（図２４７）を実行する必要が生じることとなる。よって、特定制御用のワークエリア２２１の情報異常の発生に際しては当該特定制御用のワークエリア２２１を初期化するための処理だけではなく、設定値の再設定を要するようにすることが可能となる。

【３１９４】

また、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合には、「設定変更操作」が行われていない場合、すなわち「操作無し」の場合又は「ＲＡＭクリア操作」若しくは「設定確認操作」が行われた場合、ステップＳＦ５１０又はステップＳＦ５１７にて肯定判定をすることで、ステップＳＦ５２２にて異常コマンドを送信するとともにステップＳＦ５２３にて異常時の外部出力処理を実行する。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされた場合には、その後のメイン処理におけるステップＳＦ５０４、ステップＳＦ５０６及びステップＳＦ５０７の処理結果に関係なく、設定値更新処理（図２４７）が実行されない限り、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始される度にパチンコ機１０における異常報知及びパチンコ機１０の外部への異常時の外部出力が行われる。よって、遊技ホールの管理者に設定値を変更すべきことを認識させることが可能となる。

【３１９５】

ステップＳＦ５１３の処理を実行した場合、ステップＳＦ５１４の処理を実行した場合、ステップＳＦ５１６の処理を実行した場合、ステップＳＦ５１９の処理を実行した場合、又はステップＳＦ５２３の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する情報をセットする（ステップＳＦ５２４）。チェック中カウンタにセットされた値は上記第３５の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図１３４）が起動される度に１減算される。チェック中カウンタに１以上の値が設定されている場合、第２タイマ割込み処理（図１３４）における通常時の設定処理（図１３５）にてステップＳ９１０２の処理が実行されることにより、上記第３５の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。

【３１９６】

上記構成によれば主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、当該主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了した後であって残余処理（ステップＳＦ５２６～ステップＳＦ５２９）が開始される前に、初期チェック期間が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が実行されている状況において初期チェック期間を制御する必要がないため、当該動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が実行されている状況における処理負荷を軽減することが可能となる。

【３１９７】

また、設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）として実行されるのに対して、初期チェック期間は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了した後に開始される。これにより、初期チェック期間において第１～第４

報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われるとしても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用した設定値の表示に影響を与えないようにすることが可能となる。

【３１９８】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグを「０」クリアする（ステップＳＦ５２５）。立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動された場合にステップＳ８９０６にて否定判定をすることでステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理だけではなくステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行することとなり、遊技を進行させるための処理が実行されない状態が解除される。なお、ステップＳＦ５２５では特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグも「０」クリアする。

【３１９９】

その後、ステップＳＦ５２６～ステップＳＦ５２９の残余処理に進む。つまり、主側ＣＰＵ６３は第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）を定期的に実行する構成であるが、１のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は各タイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップＳＦ５２６～ステップＳＦ５２９の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップＳＦ５２６～ステップＳＦ５２９の残余処理は非定期的に実行される非定期処理であると言える。ステップＳＦ５２６～ステップＳＦ５２９では、上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のステップＳ１１３～ステップＳ１１６と同一の処理を実行する。

【３２００】

次に、主側ＲＡＭ６５における各エリアの設定態様について図２４８の説明図を参照しながら説明する。

【３２０１】

主側ＲＡＭ６５には上記第１５の実施形態と同様に、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が設けられている。また、主側ＲＡＭ６５において特定制御用のワークエリア２２１のアドレス範囲と、特定制御用のスタックエリア２２２のアドレス範囲と、非特定制御用のワークエリア２２３のアドレス範囲と、非特定制御用のスタックエリア２２４のアドレス範囲とが明確に区別されている。

【３２０２】

これら各エリア２２１～２２４のアドレス範囲について詳細に説明する。主側ＲＡＭ６５のアドレスは２バイトのデータとして設定されている。なお、説明の便宜上、２バイトのアドレスのデータを４桁の１６進数のデータとして説明する。２バイトのデータのアドレスのうち開始アドレスである「００００」～Ｙ（ｋ－１）の範囲内における連続する各アドレスのエリアは未使用のアドレスとなっており、その後に続けてアドレスＹ（ｋ）～「００ＦＦ」の範囲内における連続する各アドレスのエリアが特定制御用のワークエリア２２１として設定されている。また、アドレスＹ（ｋ）～「００ＦＦ」に連続するアドレス「０１００」～Ｙ（ｌ－１）は未使用のエリアのアドレスとなっており、その後に続けてアドレスＹ（ｌ）～「０１ＦＦ」の範囲内における連続する各アドレスのエリアが特定制御用のスタックエリア２２２として設定されている。また、アドレスＹ（ｌ）～「０１ＦＦ」に連続するアドレス「０２００」～Ｙ（ｍ－１）は未使用のエリアのアドレスとなっており、その後に続けてアドレスＹ（ｍ）～「０２ＦＦ」の範囲内における連続する各アドレスのエリアが非特定制御用のワークエリア２２３として設定されている。また、アドレスＹ（ｍ）～「０２ＦＦ」に連続するアドレス「０３００」～Ｙ（ｎ－１）は未使用のエリアのアドレスとなっており、その後に続けてアドレスＹ（ｎ）～「０３ＦＦ」の範囲内における連続する各アドレスのエリアが非特定制御用のスタックエリア２２４として設定されている。

【３２０３】

上記のような各エリアとアドレスとの関係は、主側ＲＡＭ６５における物理アドレス及び主側ＣＰＵ６３において認識されるメモリマップ上の論理アドレスの両方において設定されている。また、特定制御用のワークエリア２２１のアドレス範囲（Ｙ（ｋ）～「００ＦＦ」）と、特定制御用のスタックエリア２２２のアドレス範囲（Ｙ（ｌ）～「０１ＦＦ」）と、非特定制御用のワークエリア２２３のアドレス範囲（Ｙ（ｍ）～「０２ＦＦ」）と、非特定制御用のスタックエリア２２４のアドレス範囲（Ｙ（ｎ）～「０３ＦＦ」）とは相互に相違している。具体的には、特定制御用のワークエリア２２１のアドレス範囲（Ｙ（ｋ）～「００ＦＦ」）が最も広く、次に非特定制御用のワークエリア２２３のアドレス範囲（Ｙ（ｍ）～「０２ＦＦ」）が広く、次に特定制御用のスタックエリア２２２のアドレス範囲（Ｙ（ｌ）～「０１ＦＦ」）が広く、非特定制御用のスタックエリア２２４のアドレス範囲（Ｙ（ｎ）～「０３ＦＦ」）が最も狭くなっている。但し、これに限定されることはなく各エリア２２１～２２４のアドレス範囲の広さが相互に同一又は略同一である構成としてもよい。

【３２０４】

上記のように特定制御用のワークエリア２２１と、非特定制御用のワークエリア２２３とが区別して設定されていることにより、主側ＣＰＵ６３において特定制御を実行する場合と非特定制御を実行する場合とで、各種演算などを実行する場合において主側ＲＡＭ６５の異なるエリアが使用されることとなる。これにより、特定制御及び非特定制御のうち一方を実行する場合に他方において必要な主側ＲＡＭ６５の情報が消去されてしまうといった事象を発生しづらくさせることが可能となる。ちなみに、各ワークエリア２２１，２２３への情報の書き込み及び各ワークエリア２２１，２２３からの情報の読み出しに際しては主側ＣＰＵ６３にてロード命令が行われる。

【３２０５】

特定制御用のスタックエリア２２２と、非特定制御用のスタックエリア２２４とが区別して設定されていることにより、主側ＣＰＵ６３において特定制御を実行する場合と非特定制御を実行する場合とで、主側ＣＰＵ６３のレジスタに記憶された情報を退避する場合及びプログラム上の戻り番地の情報を記憶する場合において主側ＲＡＭ６５の異なるエリアが使用されることとなる。これにより、特定制御及び非特定制御のうち一方を実行している状況において主側ＣＰＵ６３のレジスタに記憶された情報を退避する場合及びプログラム上の戻り番地の情報を記憶する場合に、他方において使用される情報が消去されてしまうといった事象を発生しづらくさせることが可能となる。ちなみに、各スタックエリア２２２，２２４への情報の書き込みに際しては主側ＣＰＵ６３にてプッシュ命令が行われ、各スタックエリア２２２，２２４からの情報の読み出しに際しては主側ＣＰＵ６３にてポップ命令が行われる。また、各スタックエリア２２２，２２４からの情報の読み出しに際しては当該スタックエリア２２２，２２４への書き込み順序が後の情報から先に読み出し対象となる。

【３２０６】

主側ＣＰＵ６３において特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側ＣＰＵ６３は特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２への情報の書き込みが可能であるとともに、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２からの情報の読み出しが可能である。一方、主側ＣＰＵ６３において特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側ＣＰＵ６３は非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４からの情報の読み出しは可能であるものの、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４への情報の書き込みは不可である。これにより、特定制御に対応する処理が実行されている状況において、非特定制御に対応する処理にて利用される情報を誤って消去してしまわないようにすることが可能となる。

【３２０７】

主側ＣＰＵ６３において非特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側ＣＰＵ６３は非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４への情

報の書き込みが可能であるとともに、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４からの情報の読み出しが可能である。一方、主側ＣＰＵ６３において非特定制御に対応する処理を実行する場合には、主側ＣＰＵ６３は特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２からの情報の読み出しは可能であるものの、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２への情報の書き込みは不可である。これにより、非特定制御に対応する処理が実行されている状況において、特定制御に対応する処理にて利用される情報を誤って消去してしまわないようにすることが可能となる。

【３２０８】

なお、主側ＲＡＭ６５にはパチンコ機１０の電源遮断後においてもバックアップ電力が供給されることとなるが、当該バックアップ電力は特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４の全てに供給される。これにより、これら特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４に記憶された情報は、パチンコ機１０の電源遮断後においてもバックアップ電力が供給されている間は記憶保持される。

【３２０９】

ここで、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４はいずれも終了アドレスが、１６進数であれば下位側の２桁が「ＦＦ」となり、２進数であれば下位側の８ビット（すなわち下位側の１バイト）がオール「１」となるように設定されている。一方、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４の終了アドレスは、１６進数であれば上位側の２桁、２進数であれば最上位のビットから続く上位側の８ビット（すなわち上位側の１バイト）が相違していることにより、全体としてはアドレスが相違している。つまり、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４はいずれも、終了アドレスにおける下位側の所定範囲（下位側の１バイト）のアドレスデータが所定データで共通している。

【３２１０】

主側ＣＰＵ６３はＲＡＭクリア処理（図２５０）、非特定制御用のクリア処理（図２５２）及びチェックサムの算出処理（図２５３）などといったように、主側ＲＡＭ６５の所定範囲のエリアからデータを読み出す場合及び主側ＲＡＭ６５の所定範囲のエリアにデータを書き込む場合（以下、データの読み出し及びデータの書き込みをまとめて特定処理という）、まず開始アドレスを対象アドレスとして設定し、その対象アドレスに対応するエリアについて特定処理を実行する。その後、その対象アドレスに対して「１」を加算することで次のアドレスを対象アドレスとしてその対象アドレスに対応するエリアについて特定処理を実行する。そして、この対象アドレスに対して「１」を加算することで次のアドレスを対象アドレスに設定するとともにその対象アドレスに対応するエリアについて特定処理を実行することを、対象アドレスが終了アドレスとなるまで継続する。

【３２１１】

主側ＣＰＵ６３には図２４４に示すようにアドレスカウンタ５１５が設けられている。図２４９（ａ）はアドレスカウンタ５１５の内容を説明するための説明図である。アドレスカウンタ５１５は上記対象アドレスのアドレスデータを設定するためのカウンタである。主側ＣＰＵ６３は特定処理を開始する場合にアドレスカウンタ５１５に開始アドレスのアドレスデータを設定するとともに対象アドレスの更新に際してはアドレスカウンタ５１５に「１」を加算する。そして、主側ＣＰＵ６３はアドレスカウンタ５１５を参照することで対象アドレスを把握する。

【３２１２】

主側ＲＡＭ６５のアドレスが２バイトのアドレスデータとして設定されていることに対

応させて、アドレスカウンタ５１５は２バイトのデータ容量となっている。つまり、アドレスカウンタ５１５は１バイトからなる上位バイト５１５ａと１バイトからなる下位バイト５１５ｂとを備えている。対象アドレスを更新するためにアドレスカウンタ５１５が「１」加算される場合には下位バイト５１５ｂに「１」が加算されることとなる。

【３２１３】

主側ＣＰＵ６３には図２４４に示すようにキャリーフラグ５１６が設けられている。対象アドレスにおける下位側の所定範囲のアドレスデータが所定データである状況において当該対象アドレスに対して「１」を加算することで当該対象アドレスが次のアドレスとなった場合にキャリーフラグ５１６に「１」が設定される。具体的には、対象アドレスが、１６進数であれば下位側の２桁が「ＦＦ」、２進数であれば下位側の８ビット（すなわち下位バイト５１５ｂ）がオール「１」である状況において、当該対象アドレスに「１」が加算されることで、１６進数であれば最上位の２桁への桁上がりが発生した場合、２進数であれば最上位のビットから続く上位側の８ビット分（すなわち上位バイト５１５ａ）への桁上がりが発生した場合に、キャリーフラグ５１６に「１」が設定される。

【３２１４】

図２４９（ｂ）～図２４９（ｅ）は対象アドレスが更新された結果、キャリーフラグ５１６に「１」が設定される様子を説明するための説明図である。

【３２１５】

まず対象アドレスが更新された場合にキャリーフラグ５１６に「１」が設定されない場合について説明する。図２４９（ｂ）に示すように下位バイト５１５ｂがオール「１」ではない状況（すなわち下位バイト５１５ｂが最大値ではない状況）において対象アドレスを更新するために下位バイト５１５ｂに「１」が加算されることで、図２４９（ｃ）に示すように下位バイト５１５ｂのアドレスデータが「１」増加したアドレスデータとなる。この場合、下位バイト５１５ｂがオールゼロになることはなく上位バイト５１５ａへの桁上がりが発生していないため、キャリーフラグ５１６は「０」に維持されるとともに上位バイト５１５ａのアドレスデータは維持される。

【３２１６】

次に、対象アドレスが更新された場合にキャリーフラグ５１６に「１」が設定される場合について説明する。図２４９（ｄ）に示すように下位バイト５１５ｂがオール「１」である状況（すなわち下位バイト５１５ｂが最大値である状況）において対象アドレスを更新するために下位バイト５１５ｂに「１」が加算されることで、図２４９（ｅ）に示すように下位バイト５１５ｂがオールゼロとなる。この場合、キャリーフラグ５１６に「１」が設定され、主側ＣＰＵ６３はキャリーフラグ５１６に「１」が設定されていることを確認することで上位バイト５１５ａへの桁上がりが発生したと認識する。したがって、上位バイト５１５ａに「１」が加算される。

【３２１７】

つまり、下位バイト５１５ｂに「１」が加算されることで当該下位バイト５１５ｂがオールゼロとなった場合には上位バイト５１５ａに「１」を加算する必要が生じるが、この上位バイト５１５ａに「１」を加算する必要があるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためにキャリーフラグ５１６が設けられている。そして、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されていない場合には上位バイト５１５ａへの「１」の加算が行われることはなく、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されている場合には上位バイト５１５ａへの「１」の加算が行われる。

【３２１８】

このような構成において上記のとおり特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４はいずれも、終了アドレスにおける下位側の所定範囲のアドレスデータが所定データで共通している。具体的には、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４はいずれも終了アドレスが、１６進数であれば下位側の２桁が「ＦＦ」とな

り、２進数であれば下位側の８ビット（すなわち下位バイト５１５ｂ）がオール「１」となるように設定されている。これにより、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４のいずれかに対して特定処理を実行している状況において、当該特定処理を実行している対象となっているエリア２２１～２２４の終了アドレスに対応するエリアに対して特定処理が完了して対象アドレスが次のアドレスに更新された場合にはキャリーフラグ５１６に「１」が設定されることとなる。したがって、主側ＣＰＵ６３はキャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを確認することで、特定処理を実行している対象となっているエリア２２１～２２４の終了アドレスに対応するエリアに対して当該特定処理を実行したか否かを特定することが可能となる。よって、各エリア２２１～２２４の終了アドレスか否かの判定に際してアドレスの比較処理を実行する必要がなくなるため、処理負荷を軽減することが可能となる。

【３２１９】

上記桁上がりの発生に際してキャリーフラグ５１６に「１」を設定する処理は、対象アドレスに「１」を加算することで当該対象アドレスを更新するための処理である対象アドレスの加算処理（図２５１）にて実行される。この場合、対象アドレスの加算処理（図２５１）は、特定制御用のプログラムにおいて共通のサブルーチンとして設定されており、特定制御としていずれの種類の特定処理を実行する場合であっても対象アドレスの加算処理を実行する場合には共通のサブルーチンが呼び出されて実行される。また、対象アドレスの加算処理は非特定制御用のプログラムにも設定されている。

【３２２０】

上記のとおり特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４はいずれも終了アドレスが、１６進数であれば下位側の２桁が「ＦＦ」となり、２進数であれば下位側の８ビット（すなわち下位バイト５１５ｂ）がオール「１」となるように設定されていることにより、これら各エリア２２１～２２４は終了アドレスにおける下位側の所定範囲のアドレスデータが所定データとなるようにアドレス範囲が設定されていることとなる。これに対して、各エリア２２１～２２４に必要なエリアのアドレス数はいずれも２５６個未満となっている。したがって、アドレスの順番において特定制御用のワークエリア２２１よりも手前のアドレス範囲、特定制御用のワークエリア２２１と特定制御用のスタックエリア２２２との間のアドレス範囲、特定制御用のスタックエリア２２２と非特定制御用のワークエリア２２３との間のアドレス範囲、及び非特定制御用のワークエリア２２３と非特定制御用のスタックエリア２２４との間のアドレス範囲のそれぞれには未使用のエリアが存在している。

【３２２１】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行されるＲＡＭクリア処理について図２５０のフローチャートを参照しながら説明する。ＲＡＭクリア処理は、メイン処理（図２４５）のステップＳＦ５１８にて実行されるとともに設定値更新処理（図２４７）のステップＳＦ７１３にて実行される。なお、ＲＡＭクリア処理におけるステップＳＦ８０１～ステップＳＦ８１０の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３２２２】

まず特定制御用のワークエリア２２１においてＲＡＭクリア処理の実行に際しての開始アドレスとなるクリア開始アドレスを対象アドレスに設定する（ステップＳＦ８０１）。この場合、主側ＣＰＵ６３のアドレスカウンタ５１５における上位バイト５１５ａ及び下位バイト５１５ｂのそれぞれに今回のクリア開始アドレスに対応するアドレスデータを設定する。つまり、今回のクリア開始アドレスにおける上位８ビットを上位バイト５１５ａに設定し、今回のクリア開始アドレスにおける下位８ビットを下位バイト５１５ｂに設定する。特定制御用のワークエリア２２１の開始アドレスに対応するエリアには設定参照用エリア３４１が設定されており、クリア開始アドレスは当該設定参照用エリア３４１に対

して次の順番のアドレスに設定されている。これにより、設定参照用エリア３４１をＲＡＭクリア処理の実行対象から除外することが可能となる。なお、ステップＳＦ８０１ではキャリーフラグ５１６を「０」クリアするとともに主側ＣＰＵ６３に設けられたワーク完了フラグを「０」クリアする。その後、主側ＲＡＭ６５における対象アドレスに対応するエリアを「０」クリアする（ステップＳＦ８０２）。そして、対象アドレスの加算処理を実行する（ステップＳＦ８０３）。

【３２２３】

図２５１は対象アドレスの加算処理を示すフローチャートである。対象アドレスの加算処理ではまず主側ＣＰＵ６３のアドレスカウンタ５１５における下位バイト５１５ｂに「１」を加算する（ステップＳＦ９０１）。この場合、下位バイト５１５ｂの８ビットがオール「１」である状況において当該下位バイト５１５ｂに「１」が加算されると、下位バイト５１５ｂの８ビットがオールゼロとなる。下位バイト５１５ｂの８ビットがオールゼロとなった場合（ステップＳＦ９０２：ＹＥＳ）、主側ＣＰＵ６３のキャリーフラグ５１６に「１」を設定する（ステップＳＦ９０３）。

【３２２４】

ステップＳＦ９０２にて否定判定をした場合、又はステップＳＦ９０３の処理を実行した場合、ステップＳＦ９０４にて主側ＣＰＵ６３のキャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを判定する。キャリーフラグ５１６に「１」が設定されている場合（ステップＳＦ９０４：ＹＥＳ）、主側ＣＰＵ６３のアドレスカウンタ５１５における上位バイト５１５ａに「１」を加算する（ステップＳＦ９０５）。

【３２２５】

ＲＡＭクリア処理（図２５０）の説明に戻り、対象アドレスの加算処理（ステップＳＦ８０３）を実行した後は主側ＣＰＵ６３のキャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを判定する（ステップＳＦ８０４）。キャリーフラグ５１６に「１」が設定されていない場合（ステップＳＦ８０４：ＮＯ）、対象アドレスのクリア処理（ステップＳＦ８０２）及び対象アドレスの加算処理（ステップＳＦ８０３）を再度実行する。キャリーフラグ５１６に「１」が設定されている場合（ステップＳＦ８０４：ＹＥＳ）、主側ＣＰＵ６３に設けられたワーク完了フラグに「１」が設定されているか否かを判定する（ステップＳＦ８０５）。ワーク完了フラグは特定制御用のワークエリア２２１に対するクリア処理が完了したか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【３２２６】

ワーク完了フラグに「１」が設定されていない場合（ステップＳＦ８０５：ＮＯ）、ワーク完了フラグに「１」を設定した後に（ステップＳＦ８０６）、特定制御用のスタックエリア２２２の開始アドレスであるＹ（ｌ）を対象アドレスに設定する（ステップＳＦ８０７）。この場合、主側ＣＰＵ６３のアドレスカウンタ５１５における上位バイト５１５ａ及び下位バイト５１５ｂのそれぞれに今回の開始アドレスに対応するアドレスデータを設定する。つまり、今回の開始アドレスにおける上位８ビットを上位バイト５１５ａに設定し、今回の開始アドレスにおける下位８ビットを下位バイト５１５ｂに設定する。なお、ステップＳＦ８０７ではキャリーフラグ５１６を「０」クリアする。

【３２２７】

その後、ステップＳＦ８０２～ステップＳＦ８０４の処理を、ステップＳＦ８０３における対象アドレスの加算処理にてキャリーフラグ５１６に「１」が設定されるまで繰り返す。キャリーフラグ５１６に「１」が設定されている場合であってワーク完了フラグに「１」が設定されている場合（ステップＳＦ８０４及びステップＳＦ８０５：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５の初期設定を実行する（ステップＳＦ８０８）。その後、主側ＣＰＵ６３の各種レジスタを「０」クリアするとともに（ステップＳＦ８０９）、当該各種レジスタの初期設定を実行する（ステップＳＦ８１０）。この初期設定ではメイン処理（図２４５）におけるステップＳＦ５０２の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。

【３２２８】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される非特定制御用のクリア処理について説明する。

【３２２９】
本実施形態では上記第２５の実施形態と同様に管理実行処理（図９４）にて別監視処理（ステップＳ６００９）が実行される。当該別監視処理では非特定制御用のワークエリア２２３の監視処理及び非特定制御用のスタックエリア２２４の監視処理を実行する。非特定制御用のワークエリア２２３の監視処理の処理内容は上記第２２の実施形態におけるステップＳ５４０５と同一であり、非特定制御用のスタックエリア２２４の監視処理の処理内容は上記第２２の実施形態におけるステップＳ５４０７と同一である。これら監視処理にて異常有りと判定した場合、非特定制御用のクリア処理を実行する。図２５２は非特定制御用のクリア処理を示すフローチャートである。なお、非特定制御用のクリア処理におけるステップＳＧ１０１～ステップＳＧ１０７の処理は、主側ＣＰＵ６３における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【３２３０】
まず非特定制御用のワークエリア２２１の開始アドレスであるＹ（ｍ）を対象アドレスに設定する（ステップＳＧ１０１）。この場合、主側ＣＰＵ６３のアドレスカウンタ５１５における上位バイト５１５ａ及び下位バイト５１５ｂのそれぞれに今回の開始アドレスに対応するアドレスデータを設定する。つまり、今回の開始アドレスにおける上位８ビットを上位バイト５１５ａに設定し、今回の開始アドレスにおける下位８ビットを下位バイト５１５ｂに設定する。なお、ステップＳＧ１０１ではキャリーフラグ５１６を「０」クリアするとともに主側ＣＰＵ６３に設けられたワーク完了フラグを「０」クリアする。

【３２３１】
その後、主側ＲＡＭ６５における対象アドレスに対応するエリアを「０」クリアする（ステップＳＧ１０２）。そして、対象アドレスの加算処理を実行する（ステップＳＧ１０３）。この場合、対象アドレスの加算処理を実行するために主側ＲＯＭ６４に記憶されている非特定制御用のサブルーチンを呼び出す。対象アドレスの加算処理の処理内容は図２５１に示すフローチャートの処理内容と同様である。つまり、アドレスカウンタ５１５における下位バイト５１５ｂに「１」を加算し、加算後に下位バイト５１５ｂの８ビットがオールゼロとなった場合には主側ＣＰＵ６３のキャリーフラグ５１６に「１」を設定する。また、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されている場合にはアドレスカウンタ５１５における上位バイト５１５ａに「１」を加算する。

【３２３２】
その後、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを判定する（ステップＳＧ１０４）。キャリーフラグ５１６に「１」が設定されていない場合（ステップＳＧ１０４：ＮＯ）、対象アドレスのクリア処理（ステップＳＧ１０２）及び対象アドレスの加算処理（ステップＳＧ１０３）を再度実行する。キャリーフラグ５１６に「１」が設定されている場合（ステップＳＧ１０４：ＹＥＳ）、主側ＣＰＵ６３に設けられたワーク完了フラグに「１」が設定されているか否かを判定する（ステップＳＧ１０５）。ワーク完了フラグは非特定制御用のワークエリア２２３に対するクリア処理が完了したか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【３２３３】
ワーク完了フラグに「１」が設定されていない場合（ステップＳＧ１０５：ＮＯ）、ワーク完了フラグに「１」を設定した後に（ステップＳＧ１０６）、非特定制御用のスタックエリア２２４の開始アドレスであるＹ（ｎ）を対象アドレスに設定する（ステップＳＧ１０７）。この場合、主側ＣＰＵ６３のアドレスカウンタ５１５における上位バイト５１５ａ及び下位バイト５１５ｂのそれぞれに今回の開始アドレスに対応するアドレスデータを設定する。つまり、今回の開始アドレスにおける上位８ビットを上位バイト５１５ａに設定し、今回の開始アドレスにおける下位８ビットを下位バイト５１５ｂに設定する。なお、ステップＳＧ１０７ではキャリーフラグ５１６を「０」クリアする。

【３２３４】
その後、ステップＳＧ１０２～ステップＳＧ１０４の処理を、ステップＳＧ１０３における対象アドレスの加算処理にてキャリーフラグ５１６に「１」が設定されるまで繰り返

す。キャリーフラグ５１６に「１」が設定されている場合であってワーク完了フラグに「１」が設定されている場合（ステップＳＧ１０４及びステップＳＧ１０５：ＹＥＳ）、本非特定制御用のクリア処理を終了する。

【３２３５】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行されるチェックサムの算出処理について図２５３のフローチャートを参照しながら説明する。チェックサムの算出処理は停電時処理にて実行されるとともにメイン処理（図２４５）のステップＳＦ５０５にて実行される。なお、チェックサムの算出処理におけるステップＳＧ２０１～ステップＳＧ２０８の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３２３６】

まず特定制御用のワークエリア２２１においてチャックサムの算出処理の実行に際しての開始アドレスとなる加算開始アドレスを対象アドレスに設定する（ステップＳＧ２０１）。この場合、主側ＣＰＵ６３のアドレスカウンタ５１５における上位バイト５１５ａ及び下位バイト５１５ｂのそれぞれに今回の加算開始アドレスに対応するアドレスデータを設定する。つまり、今回の加算開始アドレスにおける上位８ビットを上位バイト５１５ａに設定し、今回の加算開始アドレスにおける下位８ビットを下位バイト５１５ｂに設定する。特定制御用のワークエリア２２１の開始アドレスに対応するエリアには設定参照用エリア３４１が設定されており、当該エリアに対して次の順番のアドレスのエリアには停電時処理におけるチェックサムの算出処理において算出されたチェックサムの情報を記憶するための停電時の合計カウンタが設定されており、当該エリアに対して次の順番のアドレスのエリアにはメイン処理におけるチェックサムの算出処理において算出されたチェックサムの情報を記憶するための復電時の合計カウンタが設定されている。加算開始アドレスは当該復電時の合計カウンタに対して次の順番のアドレスに設定されている。これにより、チェックサムの算出処理におけるチェックサムの算出対象から、設定参照用エリア３４１、停電時の合計カウンタ及び復電時の合計カウンタを除外することが可能となる。なお、ステップＳＧ２０１ではキャリーフラグ５１６を「０」クリアするとともに主側ＣＰＵ６３に設けられたワーク完了フラグを「０」クリアする。

【３２３７】

その後、主側ＲＡＭ６５における対象アドレスのデータを読み出し（ステップＳＧ２０２）、その読み出したデータの数値情報を主側ＲＡＭ６５における特定制御用のワークエリア２２１に設けられた合計カウンタ（メイン処理（図２４５）におけるチェックサムの算出処理であれば復電時の合計カウンタ、停電時処理におけるチェックサムの算出処理であれば停電時の合計カウンタ）に加算する（ステップＳＧ２０３）。そして、対象アドレスの加算処理を実行する（ステップＳＧ２０４）。この場合、対象アドレスの加算処理を実行するために主側ＲＯＭ６４に特定制御用として記憶されている共通のサブルーチンを呼び出す。対象アドレスの加算処理の処理内容は図２５１に示すフローチャートの処理内容と同様である。つまり、アドレスカウンタ５１５における下位バイト５１５ｂに「１」を加算し、加算後に下位バイト５１５ｂの８ビットがオールゼロとなった場合には主側ＣＰＵ６３のキャリーフラグ５１６に「１」を設定する。また、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されている場合にはアドレスカウンタ５１５における上位バイト５１５ａに「１」を加算する。

【３２３８】

その後、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを判定する（ステップＳＧ２０５）。キャリーフラグ５１６に「１」が設定されていない場合（ステップＳＧ２０５：ＮＯ）、ステップＳＧ２０２～ステップＳＧ２０４の処理を再度実行する。キャリーフラグ５１６に「１」が設定されている場合（ステップＳＧ２０５：ＹＥＳ）、主側ＣＰＵ６３のワーク完了フラグに「１」が設定されているか否かを判定する（ステップＳＧ２０６）。

【３２３９】

ワーク完了フラグに「１」が設定されていない場合（ステップＳＧ２０６：ＮＯ）、ワ

ーク完了フラグに「１」を設定した後に（ステップＳＧ２０７）、特定制御用のスタックエリア２２２の開始アドレスであるＹ（ｌ）を対象アドレスに設定する（ステップＳＧ２０８）。この場合、主側ＣＰＵ６３のアドレスカウンタ５１５における上位バイト５１５ａ及び下位バイト５１５ｂのそれぞれに今回の開始アドレスに対応するアドレスデータを設定する。つまり、今回の開始アドレスにおける上位８ビットを上位バイト５１５ａに設定し、今回の開始アドレスにおける下位８ビットを下位バイト５１５ｂに設定する。なお、ステップＳＧ２０８ではキャリーフラグ５１６を「０」クリアする。

【３２４０】

その後、ステップＳＧ２０２～ステップＳＧ２０５の処理を、ステップＳＧ２０４における対象アドレスの加算処理にてキャリーフラグ５１６に「１」が設定されるまで繰り返す。キャリーフラグ５１６に「１」が設定されている場合であってワーク完了フラグに「１」が設定されている場合（ステップＳＧ２０５及びステップＳＧ２０６：ＹＥＳ）、本チェックサムの算出処理を終了する。

【３２４１】

次に、音光側ＣＰＵ３５３にて実行される演出制御処理について図２５４のフローチャートを参照しながら説明する。なお、演出制御処理は音光側ＣＰＵ３５３への動作電力の供給が開始された場合に実行される。

【３２４２】

主側ＣＰＵ６３から更新開始コマンドを受信している場合（ステップＳＧ３０１：ＹＥＳ）、更新時報知の設定処理を実行する（ステップＳＧ３０２）。更新開始コマンドは既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図２４７）が開始された場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。更新時報知の設定処理では、設定値更新処理（図２４７）が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理（図２４７）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、設定値を変更している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定値を変更させるために必要な操作内容及び設定値更新処理（図２４７）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。

【３２４３】

主側ＣＰＵ６３から確認開始コマンドを受信している場合（ステップＳＧ３０３：ＹＥＳ）、確認時報知の設定処理を実行する（ステップＳＧ３０４）。確認開始コマンドは既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図２４６）が開始される場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。確認時報知の設定処理では、設定確認用処理（図２４６）が実行されていることを示す画像及び設定確認用処理（図２４６）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定確認用処理（図２４６）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。

【３２４４】

主側ＣＰＵ６３から異常コマンドを受信している場合（ステップＳＧ３０５：ＹＥＳ）、異常時報知の設定処理を実行する（ステップＳＧ３０６）。異常コマンドは既に説明したとおり動作電力の供給開始時において停電フラグ、チェックサム又は設定値に関して異常が発生したことが特定された場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。異常時報知の設定処理では、表示発光部５３を動作電力の供給開始時における情報異常に対応する態様で

発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定変更をして下さい。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機１０への動作電力の供給が一旦停止されたとしても設定値更新処理（図２４７）が実行されるまではパチンコ機１０への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が再度開始されることとなる。

【３２４５】

ステップＳＧ３０１～ステップＳＧ３０６の処理を実行した場合、主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンド、クリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンドのいずれかを受信したか否かを判定する（ステップＳＧ３０７）。通常復帰コマンドはＲＡＭクリア処理（ステップＳＦ５１８）、設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）のいずれもが実行されることなく動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了した場合に送信される。クリア時の復帰コマンドはＲＡＭクリア処理（ステップＳＦ５１８）が実行されて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了した場合に送信される。確認時の復帰コマンドは設定確認用処理（図２４６）が実行されて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了した場合に送信される。更新時の復帰コマンドは設定値更新処理（図２４７）が実行されて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了した場合に送信される。

【３２４６】

これら復帰コマンドを受信していない場合（ステップＳＧ３０７：ＮＯ）、ステップＳＧ３０１の処理に戻る。主側ＣＰＵ６３は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が正常に終了する場合にいずれかの復帰コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信する。この場合に上記のとおり音光側ＣＰＵ３５３はいずれかの復帰コマンドを主側ＣＰＵ６３から受信するまではステップＳＧ３０８以降の処理を実行しない。これにより、主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が実行されている間は音光側ＣＰＵ３５３にて通常の演出の実行制御が開始されないようにすることが可能となるとともに、主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が正常に終了しなかった場合には音光側ＣＰＵ３５３にて通常の演出の実行制御が開始されないようにすることが可能となる。

【３２４７】

また、いずれの復帰コマンドも受信していない状況においては主側ＣＰＵ６３から更新開始コマンド、確認開始コマンド又は異常コマンドを受信する可能性があり、更新開始コマンドを受信した場合には既に説明したとおり設定値更新処理（図２４７）が実行されることに対応する報知が行われるようにする必要があり、確認開始コマンドを受信した場合には既に説明したとおり設定確認用処理（図２４６）が実行されることに対応する報知が行われるようにする必要があり、異常コマンドを受信した場合いは既に説明したとおり異常報知が行われるようにする必要がある。この場合に、音光側ＣＰＵ３５３はいずれかの復帰コマンドを主側ＣＰＵ６３から受信するまではステップＳＧ２０６以降の処理を実行しないことにより、更新開始コマンド、確認開始コマンド又は異常コマンドを受信した場合にそれに対応する報知を好適に開始させることが可能となる。

【３２４８】

主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信した場合（ステップＳＧ３０７：ＹＥＳ）、音光側ＲＡＭ３５５に設けられた待機カウンタに待機期間（具体的には２秒）に対応する情報を設定する（ステップＳＧ３０８）。待機カウンタに設定された待機期間の情報は音光側ＣＰＵ３５３において定期的（具体的には４ミリ秒）に起動される割込み処理にて１減算される。

【３２４９】

その後、復帰コマンドの種類に対応する処理を実行する（ステップＳＧ３０９）。具体的には、上記第４９の実施形態と同様に、通常復帰コマンドを受信している場合にはＲＴＣ３５６の現状の日時情報を読み出し、その読み出した日時情報をＲＴＣ用メモリ３５７に格納させる。これにより、時間対応演出を実行するタイミングを特定する場合に基準となる日時情報がＲＴＣ用メモリ３５７に格納された状態となる。

【３２５０】

今回受信した復帰コマンドが更新時の復帰コマンドである場合、更新時報知の終了処理を実行する。更新時の復帰コマンドは既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図２４７）が終了される場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。更新時報知の終了処理では、ステップＳＧ３０２にて開始した設定値更新処理（図２４７）に対応する報知を終了させる。

【３２５１】

今回受信した復帰コマンドが確認時の復帰コマンドである場合、確認時報知の終了処理を実行する。確認時の復帰コマンドは既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図２４６）が終了される場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。確認時報知の終了処理では、ステップＳＧ３０４にて開始した設定確認用処理（図２４６）に対応する報知を終了させる。

【３２５２】

その後、音光側ＲＡＭ３５５の待機カウンタの値が「０」となっているか否かを判定することで、待機期間が経過したか否かを判定する（ステップＳＧ３１０）。待機カウンタの値が「０」となっていない場合（ステップＳＧ３１０：ＮＯ）、ステップＳＧ３１０の処理を再度実行する。これにより、待機期間が経過するまでは演出制御処理（図２５２）におけるステップＳＧ３１１以降の処理が実行されないようにすることが可能となる。なお、ステップＳＧ３１０の処理が繰り返し実行されている状況であっても割込み処理の実行タイミングとなった場合には待機カウンタの値が１減算される。

【３２５３】

ステップＳＧ３１０にて肯定判定をした場合、初期動作用処理を実行する（ステップＳＧ３１１）。初期動作用処理では、初期位置に配置されている可動体５１２を移動限界位置まで移動させた後に初期位置に復帰させるように可動体用駆動部５１３に駆動信号を出力する。これにより、可動体５１２は初期位置から移動限界位置まで移動し、その後に移動限界位置から初期位置に復帰する。遊技ホールの管理者は可動体５１２の当該動作を確認することで可動体５１２が正常に動作するか否かを把握することが可能となる。

【３２５４】

上記のとおり音光側ＣＰＵ３５３は主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信したタイミングから待機期間が経過した場合に初期動作用処理（ステップＳＧ３１１）を実行する。これにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了してから待機期間が経過してから可動体５１２の初期動作が行われることとなる。ここで、既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了した場合に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてチェック用表示を開始する。

【３２５５】

これに対して、上記のとおり可動体５１２の初期動作は主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信したタイミングから待機期間が経過した場合に開始されるため、実質的に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてチェック用表示が開始された後に可動体５１２の初期動作が開始されることとなる。したがって、主側ＣＰＵ６３及び音光側ＣＰＵ３５３への動作電力の供給が開始された場合には主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了した後にまず第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるチェック用表示が開始され、その後に待機期間が経過した後に可動体５１２にて初期動作が開始されることとなる。よって、パチンコ機１０の工場からの出荷時における動作チェックや遊技ホールにおけるパチンコ機１０

の日常的な動作チェックに際しては、まず遊技機本体１２をパチンコ機１０前方に開放させて当該遊技機本体１２の裏側を露出させた状態において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常に動作するか否かを確認した後に、遊技機本体１２を閉鎖して遊技機本体１２の表側から可動体５１２が正常に動作するか否かを確認することが可能となる。

【３２５６】

初期動作用処理（ステップＳＧ３１１）を実行した後は、その他の処理を繰り返し実行する（ステップＳＧ３１２）。その他の処理では、遊技回用の演出を開始させるべきコマンドを主側ＣＰＵ６３から受信した場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて遊技回用の演出を開始させるための設定を行い、遊技回用の演出を進行させるべき状況である場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて遊技回用の演出を進行させるための設定を行い、遊技回用の演出を終了させるべき状況である場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて遊技回用の演出を終了させるための設定を行う。この場合、遊技回用の演出の途中で可動体５１２を動作させる演出の実行が指示されている場合には、可動体５１２を初期位置から移動限界位置まで移動させた後に初期位置に復帰させるための設定を行う。また、その他の処理では、開閉実行モード用の演出を開始させるべきコマンドを主側ＣＰＵ６３から受信した場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて開閉実行モード用の演出を開始させるための設定を行い、開閉実行モード用の演出を進行させるべき状況である場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて開閉実行モード用の演出を進行させるための設定を行い、開閉実行モード用の演出を終了させるべき状況である場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて開閉実行モード用の演出を終了させるための設定を行う。この場合、開閉実行モード用の演出の途中で可動体５１２を動作させる演出の実行が指示されている場合には、可動体５１２を初期位置から移動限界位置まで移動させた後に初期位置に復帰させるための設定を行う。

【３２５７】

次に、主側ＣＰＵ６３及び音光側ＣＰＵ３５３への動作電力の供給が開始された場合に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が実行されるとともに可動体５１２にて初期動作が実行される様子について、図２５５のタイムチャートを参照しながら説明する。図２５５（ａ）は主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が実行されている期間を示し、図２５５（ｂ）は主側ＣＰＵ６３において設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）が実行されている期間を示し、図２５５（ｃ）は音光側ＣＰＵ３５３にて主側ＣＰＵ６３から送信されたいずれかの復帰コマンドを受信したタイミングを示し、図２５５（ｄ）は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が実行される初期チェック期間の実行期間を示し、図２５５（ｅ）は音光側ＣＰＵ３５３にて待機期間を計測している期間を示し、図２５５（ｆ）は可動体５１２の初期動作が実行されている期間を示す。

【３２５８】

まず動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）において、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＦ５１８）、設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）のいずれもが実行されない場合について説明する。

【３２５９】

ｔ１のタイミングで主側ＣＰＵ６３及び音光側ＣＰＵ３５３への動作電力の供給が開始される。この場合、図２５５（ａ）に示すように当該ｔ１のタイミングで主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が開始される。なお、当該ｔ１のタイミングで図柄表示装置４１において画像の表示が開始される。今回の動作電力の供給の開始に際しては「ＲＡＭクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれもが実行されない。したがって、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＦ５１８）、設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）のいずれもが実行されることなくｔ２のタイミングで動作電力の供給開始時の処理（ステップＳ

Ｆ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了する。この場合、当該ｔ２のタイミングで図２５５（ｄ）に示すように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始される。具体的には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全ての表示用セグメント３２１～３２４が発光状態に維持される。但し、チェック用表示として第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全ての表示用セグメント３２１～３２４が点滅表示される構成としてもよい。

【３２６０】

また、ｔ２のタイミングで図２５５（ｃ）に示すように主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンドが送信され、当該通常復帰コマンドが音光側ＣＰＵ３５３にて受信される。音光側ＣＰＵ３５３は通常復帰コマンドを受信することでｔ２のタイミングで図２５５（ｅ）に示すように待機期間の計測を開始する。そして、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われている途中であるｔ３のタイミングで図２５５（ｅ）に示すように待機期間が経過することで、図２５５（ｆ）に示すように可動体５１２の初期動作が開始される。

【３２６１】

その後、ｔ４のタイミングで図２５５（ｄ）に示すように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるチェック用表示が終了される。また、その後のｔ５のタイミングで図２５５（ｆ）に示すように可動体５１２における初期動作が終了される。

【３２６２】

次に、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）において、設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）が実行される場合について説明する。

【３２６３】

ｔ６のタイミングで主側ＣＰＵ６３及び音光側ＣＰＵ３５３への動作電力の供給が開始される。この場合、図２５５（ａ）に示すように当該ｔ６のタイミングで主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が開始される。なお、当該ｔ６のタイミングで図柄表示装置４１において画像の表示が開始される。今回の動作電力の供給の開始に際しては「設定変更操作」又は「設定確認操作」が実行されている。したがって、図２５５（ｂ）に示すようにｔ７のタイミング～ｔ８のタイミングに亘って設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）が実行される。

【３２６４】

ｔ８のタイミングで図２５５（ｂ）に示すように設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）のうち今回の実行対象である設定関連処理が終了することで図２５５（ａ）に示すように動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了する。この場合、当該ｔ８のタイミングで図２５５（ｄ）に示すように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始される。具体的には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全ての表示用セグメント３２１～３２４が発光状態に維持される。但し、チェック用表示として第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全ての表示用セグメント３２１～３２４が点滅表示される構成としてもよい。

【３２６５】

また、ｔ８のタイミングで図２５５（ｃ）に示すように主側ＣＰＵ６３から確認時の復帰コマンド又は更新時の復帰コマンドが送信され、当該復帰コマンドが音光側ＣＰＵ３５３にて受信される。音光側ＣＰＵ３５３は当該復帰コマンドを受信することでｔ８のタイミングで図２５５（ｅ）に示すように待機期間の計測を開始する。そして、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われている途中であるｔ９のタイミングで図２５５（ｅ）に示すように待機期間が経過することで、図２５５（ｆ）に示すように可動体５１２の初期動作が開始される。

【３２６６】

その後、ｔ１０のタイミングで図２５５（ｄ）に示すように第１～第４報知用表示装置

２０１～２０４におけるチェック用表示が終了される。また、その後のｔ１１のタイミングで図２５５（ｆ）に示すように可動体５１２における初期動作が終了される。

【３２６７】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【３２６８】

ＲＡＭクリア処理（図２５０）、非特定制御用のクリア処理（図２５１）及びチェックサムの算出処理（図２５２）を実行する場合には対象アドレスが順次更新されるとともに、更新された後の対象アドレスに対応する主側ＲＡＭ６５のエリアを対象として「０」クリア処理又はチェックサムの算出処理が実行される（これらの処理を以下、特定処理ともいう）。これにより、主側ＲＡＭ６５における複数のエリアを順次、特定処理の実行対象とすることが可能となる。この場合に、更新された後の対象アドレスが基準アドレス（特定アドレス）となる場合には主側ＣＰＵ６３のキャリーフラグ５１６に「１」が設定され、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されている場合に特定処理の実行が終了される。これにより、実行対象とすべき主側ＲＡＭ６５のエリアの全てに対して特定処理の実行が完了したか否かの特定に際してはキャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定するだけでよいため、当該特定を行うための処理負荷を軽減することが可能となる。

【３２６９】

基準アドレスが複数存在している構成において、いずれの基準アドレスも、当該基準アドレスに対して直前のアドレスが対象アドレスとして設定されている状況において当該対象アドレスが更新されることでキャリーフラグ５１６に「１」が設定されることとなるアドレスとなっている。これにより、いずれの基準アドレスを基準とする場合であっても、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定することで特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。

【３２７０】

対象アドレスは主側ＣＰＵ６３のアドレスカウンタ５１５に設定される。アドレスカウンタ５１５は上位バイト５１５ａと下位バイト５１５ｂとを備えている。対象アドレスの更新が行われる場合には下位バイト５１５ｂに「１」が加算されることとなるが、下位バイト５１５ｂに最大値としてオール「１」が設定されている状況において下位バイト５１５ｂに「１」が加算された場合には、下位バイト５１５ｂは最小値であるオールゼロが設定された状態となるとともに上位バイト５１５ａに「１」を加算する必要がある。この場合に、下位バイト５１５ｂが最大値から最小値に変更される場合にはキャリーフラグ５１６に「１」が設定されるため、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定することで上位バイト５１５ａに「１」を加算する必要があるか否かを特定することが可能となる。当該構成においてキャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定することで、実行対象とすべき主側ＲＡＭ６５のエリアの全てに対して特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。これにより、上位バイト５１５ａに「１」を加算する必要があるか否かを特定するための構成を利用して、実行対象とすべき主側ＲＡＭ６５のエリアの全てに対して特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。

【３２７１】

特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４はいずれも、主側ＲＡＭ６５のアドレス範囲における最後の順番のアドレスにおける下位バイト５１５ｂは最大値となっている。これにより、各エリア２２１～２２４のいずれについても主側ＣＰＵ６３のキャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを確認することで、特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。よって、特定処理の実行が完了したか否かの特定を行うための処理負荷を軽減することが可能となる。

【３２７２】

特定処理として、ＲＡＭクリア処理（図２５０）、非特定制御用のクリア処理（図２５

１）及びチェックサムの算出処理（図２５２）が設定されている構成において、これら特定処理のいずれが実行されている状況であっても主側ＣＰＵ６３のキャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定することで特定処理の終了契機を特定することが可能となる。よって、特定処理の終了契機を特定するための処理構成を簡素化することが可能となる。

【３２７３】

動作電力の供給が開始された場合に可動体５１２にて初期動作が行われるため、動作電力の供給の開始に際して可動体５１２が正常に動作するか否かを確認することが可能となる。この場合に、可動体５１２における初期動作の開始タイミングが遅延されることにより、動作電力の供給が開始された直後において上記初期動作の確認を行う必要はなく、余裕を持って上記初期動作の確認を行うことが可能となる。

【３２７４】

動作電力の供給が開始された場合に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われるため、動作電力の供給の開始に際して第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常に動作するか否かを確認することが可能となる。また、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４はパチンコ機１０の背面側を露出させることで視認可能となるのに対して可動体５１２はパチンコ機１０の前面側から視認可能となるため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示及び可動体５１２の初期動作のそれぞれを確認するためにはパチンコ機１０の背面側及び前面側のそれぞれを視認する必要がある。この場合に、可動体５１２における初期動作の開始タイミングが遅延される。これにより、パチンコ機１０の背面側を露出させて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるチェック用表示を確認した後に、遊技機本体１２を閉鎖状態として可動体５１２における初期動作を確認することが可能となり、それぞれの初期動作の確認を好適に行うことが可能となる。

【３２７５】

待機期間を計測することにより可動体５１２の初期動作が遅延される。これにより、可動体５１２の初期動作を遅延させるための処理構成を簡素化することが可能となる。

【３２７６】

主側ＣＰＵ６３から送信された復帰コマンドを受信したタイミングを基準として待機期間の計測が行われる。これにより、主側ＣＰＵ６３における制御の進行状況を基準として可動体５１２の初期動作を遅延させることが可能となる。また、主側ＣＰＵ６３は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了する場合に復帰コマンドを送信する。これにより、主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了したタイミングを基準として可動体５１２の初期動作を遅延させることが可能となる。

【３２７７】

主側ＣＰＵ６３は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）の実行内容に応じて異なる種類の復帰コマンドを送信するため、音光側ＣＰＵ３５３は主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）の実行内容に応じた制御を実行することが可能となる。この場合に、いずれの種類の復帰コマンドが送信された場合であっても可動体５１２の初期動作を遅延させるための待機期間が設定されるため、主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）の実行内容に関係なく可動体５１２の初期動作を遅延させることが可能となる。

【３２７８】

主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が実行された場合に送信された復帰コマンドを音光側ＣＰＵ３５３が受信した後に可動体５１２にて初期動作が行われる。これにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が実行された後に可動体５１２にて初期動作が行われるようにすることが可能となる。また、主側ＣＰＵ６

３は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了する場合に復帰コマンドを送信する。これにより、主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了したタイミングを基準として可動体５１２にて初期動作を行わせることが可能となる。

【３２７９】

なお、対象アドレスの更新が加算式で行われる構成に限定されることはなく減算式で行われる構成としてもよい。この場合、対象アドレスの更新が行われる場合にはアドレスカウンタ５１５の下位バイト５１５ｂの値が「１」減算されることとなる。そして、下位バイト５１５ｂの８ビットがオールゼロである状況（すなわち下位バイト５１５ｂの数値情報が最小値である状況）において下位バイト５１５ｂの値が「１」減算された場合には主側ＣＰＵ６３のキャリーフラグ５１６に「１」が設定されるとともに上位バイト５１５ａの値が「１」減算される。当該構成においては特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４の各アドレス範囲における最後の順番のアドレスにおける下位バイト５１５ｂがオールゼロとなる構成とすることで、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定することで、実行対象となっている主側ＲＡＭ６５のエリアの全てが特定処理の実行対象となったか否かを特定することが可能となる。

【３２８０】

また、対象アドレスの更新が行われる場合に下位バイト５１５ｂに対して加算又は減算される更新用数値は「１」に限定されることはなく、「２」であってもよく、「３」であってもよく、「４」であってもよい。

【３２８１】

また、下位バイト５１５ｂの数値情報が最小値及び最大値の一方から他方に変更される場合にキャリーフラグ５１６に「１」が設定される構成に代えて、上位バイト５１５ａの最下位ビットよりも上位側の所定のビットの数値が変更される場合にキャリーフラグ５１６に「１」が設定される構成としてもよい。当該構成においては特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４の各アドレス範囲における最後の順番のアドレスは、当該最後の順番のアドレスから次の順番のアドレスに更新された場合に上記所定のビットの数値が変更されることとなるアドレスとする。これにより、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定することで、実行対象となっている主側ＲＡＭ６５のエリアの全てが特定処理の実行対象となったか否かを特定することが可能となる。

【３２８２】

また、主側ＲＡＭ６５のアドレスは２バイトに限定されることはなく１バイト、３バイト又は４バイト以上である構成としてもよい。３バイトである場合には下位２バイトから上位１バイトへの桁上がりが発生する場合にキャリーフラグ５１６に「１」が設定される構成としてもよい。当該構成においては特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４の各アドレス範囲における最後の順番のアドレスは、当該最後の順番のアドレスから次の順番のアドレスに更新された場合に下位２バイトから上位１バイトへの桁上がりが発生することとなるアドレスとする。これにより、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定することで、実行対象となっている主側ＲＡＭ６５のエリアの全てが特定処理の実行対象となったか否かを特定することが可能となる。

【３２８３】

また、１バイトである場合には当該１バイトの最下位ビットよりも上位側の所定のビットの数値が変更される場合にキャリーフラグ５１６に「１」が設定される構成とする。当該構成においては特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４の各アドレス範囲における最後の順番のアドレスは、当該最後の順番のアドレスから次の順番のアドレスに更新された場合に上記所定のビットの数値が変更されることとなるアドレスとす

る。これにより、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定することで、実行対象となっている主側ＲＡＭ６５のエリアの全てが特定処理の実行対象となったか否かを特定することが可能となる。

【３２８４】

また、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２に特定処理がまとめて実行される構成に限定されることはなく、特定制御用のワークエリア２２１に対する特定処理と特定制御用のスタックエリア２２２に対する特定処理とが個別に行われる構成としてもよい。この場合であっても、それぞれの特定処理においてキャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定することで、当該特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。

【３２８５】

また、非特定制御用のワークエリア２２３と非特定制御用のスタックエリア２２４とに特定処理がまとめて実行される構成に限定されることはなく、非特定制御用のワークエリア２２３に対する特定処理と非特定制御用のスタックエリア２２４に対する特定処理とが個別に行われる構成としてもよい。この場合であっても、それぞれの特定処理においてキャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定することで、当該特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。

【３２８６】

また、主側ＲＡＭ６５における特定制御用のワークエリア２２１と特定制御用のスタックエリア２２２との間のアドレスに空白エリアが設定されている構成に限定されることはなく、特定制御用のワークエリア２２１と特定制御用のスタックエリア２２２とが連続となるアドレスとなるように設定されている構成としてもよい。この場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２のうち後側のエリアにおける最後の順番のアドレスが、次の順番のアドレスへの更新に際してキャリーフラグ５１６に「１」が設定されるアドレスとすることで、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２に対して特定処理がまとめて実行される場合において、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定することで特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。

【３２８７】

また、主側ＲＡＭ６５における非特定制御用のワークエリア２２３と非特定制御用のスタックエリア２２４との間のアドレスに空白エリアが設定されている構成に限定されることはなく、非特定制御用のワークエリア２２３と非特定制御用のスタックエリア２２４とが連続となるアドレスとなるように設定されている構成としてもよい。この場合、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４のうち後側のエリアにおける最後の順番のアドレスが、次の順番のアドレスへの更新に際してキャリーフラグ５１６に「１」が設定されるアドレスとすることで、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４に対して特定処理がまとめて実行される場合において、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定することで特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。

【３２８８】

また、特定制御用のワークエリア２２１に割り当てられているアドレスの数が２５７個以上である構成としてもよい。この場合、特定制御用のワークエリア２２１における最後の順番のアドレスだけではなく途中の順番のアドレスも下位側の８ビットがオール「１」が設定されたアドレスとなる。当該構成においてはキャリーフラグ５１６に「１」が設定された回数を計測するとともに、その計測回数が、特定制御用のワークエリア２２１において下位側の８ビットがオール「１」となるアドレスの数である終了基準数となった場合に特定制御用のワークエリア２２１に対する特定処理の実行が完了したと特定する構成とする。これにより、キャリーフラグ５１６を利用して特定処理の終了契機を特定することが可能となる。

【３２８９】

また、主側ＣＰＵ６３にてプログラムを利用して対象アドレスの加算処理（図２５１）が実行される構成に代えて、専用回路により対象アドレスの更新が行われる構成としてもよい。この場合、当該専用回路による対象アドレスの更新に際しても、下位バイト５１５ｂが最小値及び最大値のうち一方から他方に変更された場合にはキャリーフラグ５１６に「１」が設定されるとともに上位バイト５１５ａが更新される構成とする。これにより、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されているか否かを特定することで特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。

【３２９０】

また、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４における最後の順番のアドレスが、下位側の８ビットが最大値となるように設定されている構成に限定されることはなく、下位側の８ビットが最小値となるように設定されている構成としてもよい。この場合、最後の順番のアドレスに対して直前のアドレスから最後の順番のアドレスへの更新が行われた場合にキャリーフラグ５１６に「１」が設定されることとなるため、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されていることを特定した場合にはその時点における対象アドレスのエリアに対して特定処理を実行した後に当該特定処理を終了させる構成とする。

【３２９１】

また、キャリーフラグ５１６に「１」が設定されていることを契機として特別処理を実行する構成を、対象アドレスの全てにのエリアに対して特定処理が実行されたか否かを特定するため以外に利用してもよい。

【３２９２】

例えば、複数バイトからなる乱数カウンタを備えた構成において、下位バイトの数値情報が最小値及び最大値の一方から他方に変更された場合にキャリーフラグ５１６に「１」が設定されるとともにキャリーフラグ５１６に「１」が設定されている場合に上位バイトの数値情報が更新される構成とし、さらにキャリーフラグ５１６に「１」が設定された場合には上記乱数カウンタとは別の乱数カウンタの更新が開始される構成としてもよい。この場合、複数の乱数カウンタを同時に更新する場合において乱数カウンタの更新開始タイミングを一定間隔でずらすことが可能となるとともに、当該一定間隔でずらす契機を特定する場合にはキャリーフラグ５１６を確認するだけでよいため処理負荷を軽減することが可能となる。

【３２９３】

例えば、複数バイトからなるタイマカウンタを備えた構成において、下位バイトの数値情報が最小値及び最大値の一方から他方に変更された場合にキャリーフラグ５１６に「１」を設定するとともにキャリーフラグ５１６に「１」が設定されている場合に上位バイトの数値情報が更新される構成とし、さらにキャリーフラグ５１６に「１」が設定された場合には上記タイマカウンタとは別のタイマカウンタによる期間の計測が開始される構成としてもよい。この場合、複数のタイマカウンタを利用して複数の期間を計測する場合において各期間の計測開始タイミングを一定間隔でずらすことが可能となるとともに、当該一定間隔でずらす契機を特定する場合にはキャリーフラグ５１６を確認するだけでよいため処理負荷を軽減することが可能となる。

【３２９４】

また、動作電力の供給が開始された場合には可動体５１２の初期動作の開始タイミングが遅延されることで第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるチェック用表示が開始された後に可動体５１２における初期動作が開始される構成に限定されることはなく、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示の開始タイミングが遅延されることで可動体５１２における初期動作が開始された後に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるチェック用表示が開始される構成としてもよい。

【３２９５】

また、動作電力の供給が開始された場合には可動体５１２の初期動作の開始タイミング

が遅延されることで第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるチェック用表示が開始された後に可動体５１２における初期動作が開始される構成において、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるチェック用表示が終了したタイミング以降で可動体５１２の初期動作が開始される構成としてもよい。

【３２９６】

また、可動体５１２の初期動作の開始タイミングが遅延されない構成としてもよい。つまり、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が実行されて復帰コマンドが送信された場合には当該復帰コマンドを受信したタイミングで可動体５１２の初期動作が開始される構成としてもよい。この場合、可動体５１２の初期動作の開始タイミングが遅延されないものの、主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了したタイミングで可動体５１２の初期動作を開始することが可能となる。当該構成においては主側ＣＰＵ６３の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）にて設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）が実行されるか否かに応じて可動体５１２の初期動作が開始されるタイミングが相違することとなる。つまり、設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）が実行されない場合には動作電力の供給が開始された場合に即座に可動体５１２における初期動作が開始されるのに対して、設定確認用処理（図２４６）又は設定値更新処理（図２４７）が実行された場合には動作電力の供給が開始されたタイミングに対して遅れたタイミングで可動体５１２における初期動作が開始される。

【３２９７】

また、動作電力の供給が開始された場合において初期動作の開始タイミングが遅延される対象又は主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了した場合に初期動作が実行される対象は可動体５１２に限定されることはなく任意である。例えば可動体５１２に加えて又は代えて、表示発光部５３、スピーカ部５４及び図柄表示装置４１のいずれかであってもよい。また、音光側ＣＰＵ３５３により制御される全ての制御対象が、動作電力の供給が開始された場合において初期動作の開始タイミングが遅延される又は主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了した場合に初期動作が実行される構成としてもよい。

【３２９８】

＜第７３の実施形態＞

本実施形態では音光側ＣＰＵ２５３にて実行される演出制御処理の処理内容が上記第７２の実施形態と相違している。以下、上記第７２の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第７２の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３２９９】

図２５６は本実施形態における演出制御処理を示すフローチャートである。

【３３００】

ステップＳＧ４０１～ステップＳＧ４０６では上記第７２の実施形態における演出制御処理（図２５４）のステップＳＧ３０１～ステップＳＧ３０６と同一の処理を実行する。ステップＳＧ４０１～ステップＳＧ４０６の処理を実行した場合、主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンド、クリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンドのいずれかを受信したか否かを判定する（ステップＳＧ４０７）。これら復帰コマンドを受信していない場合（ステップＳＧ４０７：ＮＯ）、ステップＳＧ４０１の処理に戻る。

【３３０１】

主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信した場合（ステップＳＧ４０７：ＹＥＳ）、復帰コマンドの種類に対応する処理を実行する（ステップＳＧ４０８）。当該処理の処理内容は上記第７２の実施形態における演出制御処理（図２５４）のステップＳＧ

３０９の処理と同一である。
【３３０２】
その後、今回受信した復帰コマンドが通常復帰コマンドとは異なる復帰コマンド、すなわちクリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンドのいずれかであることを条件として（ステップＳＧ４０９：ＮＯ）、音光側ＲＡＭ３５５に設けられた待機カウンタに待機期間（具体的には２秒）に対応する情報を設定する（ステップＳＧ４１０）。待機カウンタに設定された待機期間の情報は音光側ＣＰＵ３５３において定期的（具体的には４ミリ秒）に起動される割込み処理にて１減算される。
【３３０３】
その後、音光側ＲＡＭ３５５の待機カウンタの値が「０」となっているか否かを判定することで、待機期間が経過したか否かを判定する（ステップＳＧ４１１）。待機カウンタの値が「０」となっていない場合（ステップＳＧ４１１：ＮＯ）、ステップＳＧ４１１の処理を再度実行する。これにより、主側ＣＰＵ６３からクリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンドのいずれかを受信した場合には待機期間が経過するまでは演出制御処理（図２５６）におけるステップＳＧ４１２以降の処理が実行されないようにすることが可能となる。なお、ステップＳＧ４１１の処理を繰り返し実行されている状況であっても割込み処理の実行タイミングとなった場合には待機カウンタの値が１減算される。
【３３０４】
ステップＳＧ４０９にて肯定判定をした場合、又はステップＳＧ４１１にて肯定判定をした場合、初期動作用処理を実行する（ステップＳＧ４１２）。初期動作用処理では、初期位置に配置されている可動体５１２を移動限界位置まで移動させた後に初期位置に復帰させるように可動体用駆動部５１３に駆動信号を出力する。これにより、可動体５１２は初期位置から移動限界位置まで移動し、その後に移動限界位置から初期位置に復帰する。遊技ホールの管理者は可動体５１２の当該動作を確認することで可動体５１２が正常に動作するか否かを把握することが可能となる。
【３３０５】
その後、その他の処理を実行する（ステップＳＧ４１３）。その他の処理の処理内容は上記第７２の実施形態における演出制御処理（図２５４）のステップＳＧ３１２の処理と同一である。
【３３０６】
上記構成によれば主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）においてＲＡＭクリア処理（ステップＳＦ５１８）、設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）のいずれかが実行された場合に音光側ＣＰＵ３５３にて待機期間が計測された後に可動体５１２の初期動作が行われ、主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）においてＲＡＭクリア処理（ステップＳＦ５１８）、設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）のいずれもが実行されなかった場合には音光側ＣＰＵ３５３にて待機期間が計測されることなく可動体５１２の初期動作が行わる。遊技ホールにおいて営業が開始される場合にはパチンコ機１０の電源をＯＮ操作した状態のまま各パチンコ機１０に動作電力を供給するための主電源をＯＦＦ状態からＯＮ状態に切り換えることが行われる場合がある。このような電源ＯＮ操作が行われた場合には遊技機本体１２が開放されることなくパチンコ機１０への動作電力の供給が開始されることとなる。そして、このような状況においては主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）においてＲＡＭクリア処理（ステップＳＦ５１８）、設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）のいずれもが実行されないため、待機期間が計測されることなく可動体５１２の初期動作が開始される。これにより、可動体５１２の初期動作を即座に確認することが可能となる。
【３３０７】
その一方、「ＲＡＭクリア操作」、「設定確認操作」及び「設定変更操作」のいずれか

が行われる場合には遊技機本体１２を開放させた状態で行われる。そして、このような状況においては主側ＣＰＵ６３における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）においてＲＡＭクリア処理（ステップＳＦ５１８）、設定確認用処理（図２４６）及び設定値更新処理（図２４７）のいずれかが実行されるため、待機期間が計測された後に可動体５１２の初期動作が開始される。これにより、遊技機本体１２が閉鎖された後に可動体５１２の初期動作が開始されるようにすることが可能となる。

【３３０８】

なお、可動体５１２の初期動作の開始タイミングを遅延させるために待機期間が計測される構成に限定されることはなく、遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態となったことを開閉検知センサにて検知したことを条件として可動体５１２の初期動作を開始させる構成とすることで可動体５１２の初期動作の開始タイミングを遅延させる構成としてもよい。この場合、遊技機本体１２が閉鎖状態となってから可動体５１２の初期動作が開始されるようにすることが可能となる。

【３３０９】

また、当該構成においては遊技機本体１２が閉鎖状態である状況で動作電力の供給が開始された場合には可動体５１２の初期動作が行われないこととなるが、これに限定されることはなく、遊技機本体１２が閉鎖状態である状況で動作電力の供給が開始された場合には主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）が終了して復帰コマンドが送信された場合に可動体５１２の初期動作が開始される構成としてもよい。

【３３１０】

また、上記構成において遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態となったとしてもその時点で主側ＣＰＵ６３から復帰コマンドを受信していない場合には可動体５１２の初期動作が開始されることはなく、復帰コマンドを受信した後に可動体５１２の初期動作が開始される構成としてもよい。つまり、主側ＣＰＵ６３から復帰コマンドを受信しているとともに遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態となった場合に可動体５１２の初期動作が開始されることとなる。

【３３１１】

また、上記実施形態の構成において通常復帰コマンドを受信した場合には可動体５１２の初期動作が行われない構成としてもよい。これにより、遊技ホールの営業開始時に可動体５１２の初期動作が行われないようにすることが可能となる。

【３３１２】

＜第７４の実施形態＞

本実施形態では動作電力の供給が開始された場合における処理構成が上記第４９の実施形態と相違している。以下、上記第４９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第４９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３３１３】

図２５７は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理を示すフローチャートである。なお、メイン処理におけるステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２７の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３３１４】

まず電源投入初期設定処理を実行する（ステップＳＧ５０１）。電源投入初期設定処理では、例えばメイン処理が起動されてからウエイト用の所定時間（具体的には１秒）が経過するまで次の処理に進行することなく待機する。このウエイト用の所定期間において図柄表示装置４１の動作開始及び初期設定が完了することとなる。また、主側ＲＡＭ６５のアクセスを許可する。

【３３１５】

その後、内部機能レジスタ設定処理を実行する（ステップＳＧ５０２）。内部機能レジスタ設定処理では上記第３５の実施形態と同様に、当該メイン処理に対して定期的に割り

込んで起動される処理である第１タイマ割込み処理（図１３３）の割込み周期を第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）に設定するとともに、当該メイン処理に対して定期的に割り込んで起動される処理である第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込み周期を上記第１割込み周期よりも短い周期である第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）に設定する。

【３３１６】

つまり、本実施形態では上記第３５の実施形態と同様に、タイマ割込み処理として割込み周期が相対的に長短となるように第１タイマ割込み処理（図１３３）と第２タイマ割込み処理（図１３４）とが存在している。第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）はいずれもメイン処理に対して割り込んで起動される。また、第２タイマ割込み処理（図１３４）は第１タイマ割込み処理（図１３３）に対して割り込んで起動される。一方、第１タイマ割込み処理（図１３３）は第２タイマ割込み処理（図１３４）に対して割り込んで起動されない。また、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の両方が実行されていない状況において第１割込み周期及び第２割込み周期の両方が経過している場合、それら周期の経過順序に関係なく第２タイマ割込み処理（図１３４）から先に起動される。この点、第２タイマ割込み処理（図１３４）は第１タイマ割込み処理（図１３３）よりも優先して起動される処理であると言える。但し、これに限定されることはなく第１タイマ割込み処理（図１３３）が第２タイマ割込み処理（図１３４）よりも優先して起動される構成としてもよい。

【３３１７】

内部機能レジスタ設定処理では、第１タイマ割込み処理（図１３３）の第１割込み周期を主側ＣＰＵ６３の所定のレジスタに設定するとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）の第２割込み周期を主側ＣＰＵ６３の特定のレジスタに設定する。また、内部機能レジスタ設定処理では上記第１，第２割込み周期の設定以外にも例えば当たり乱数カウンタＣ１の数値範囲といった各種カウンタの数値範囲の設定処理などを実行する。

【３３１８】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた立ち上げ処理中フラグに「１」をセットする（ステップＳＧ５０３）。立ち上げ処理中フラグは上記第３５の実施形態と同様に、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）に設定されている各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行する一方、遊技を進行させるための処理を実行することなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）を終了すべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【３３１９】

立ち上げ処理中フラグは、メイン処理（図２５７）において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）が開始された場合に「１」がセットされ、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）が終了して残余処理（ステップＳＧ５２４～ステップＳＧ５２７）が開始される前に「０」クリアされる。上記第３５の実施形態と同様に第１タイマ割込み処理（図１３３）では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合にはステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しないようにすることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）のうち後述する設定確認用処理（図２５８）又は設定値更新処理（図２５９）が実行されている状況において遊技を進行させるための処理が実行されないようにすることが可能となる。その一方、上記のとおり第１タイマ割込み処理（図１３３）では立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合であってもステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行することで、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）のうち後述する設定確認用処理（図２５８）又は設定値更新処理（図２５９）が実行されている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。

【３３２０】
特に、立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている状況であっても停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）が実行されることにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）のうち後述する設定確認用処理（図２５８）又は設定値更新処理（図２５９）が実行されている状況において停電が発生したとしてもそれに対して停電時処理を実行することが可能となる。停電時処理では上記第３５の実施形態と同様に、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」をセットするとともに、チェックサムの算出処理を実行してその算出したチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１に保存するため、動作電力の供給が再度開始された場合には主側ＲＡＭ６５の異常発生と特定されないようにすることが可能となる。これにより、設定確認用処理（図２５８）又は設定値更新処理（図２５９）の途中で停電が発生した場合には、これら設定関連処理の途中で停電が発生したことを次回の動作電力の供給開始時に特定することが可能となる。

【３３２１】
ちなみに、設定確認用処理（図２５８）又は設定値更新処理（図２５９）が実行されている状況では、第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）のいずれについても割込みが禁止されることはなく任意のタイミングで割込み可能となっている。この場合、設定確認用処理（図２５８）又は設定値更新処理（図２５９）において第１タイマ割込み処理（図１３３）又は第２タイマ割込み処理（図１３４）が割り込んで起動される場合には、その起動対象となったタイマ割込み処理が終了した後に復帰するためのメイン処理（図２５７）の戻り番地の情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されるとともに、当該タイマ割込み処理が起動される直前における主側ＣＰＵ６３の各種レジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避される。そして、起動対象となったタイマ割込み処理が終了した場合には特定制御用のスタックエリア２２２に退避された戻り番地の情報に対応するメイン処理（図２５７）の処理に復帰することとなるとともに、特定制御用のスタックエリア２２２に退避された情報が主側ＣＰＵ６３の各種レジスタに復帰される。

【３３２２】
ステップＳＧ５０３にて立ち上げ処理中フラグに「１」をセットした後は、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＧ５０４）。第１タイマ割込み処理（図１３３）の停電情報記憶処理（ステップＳ８９０１）にて停電時処理が実行された場合に停電フラグに「１」がセットされる。停電フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われたか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【３３２３】
停電フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＧ５０４：ＹＥＳ）、停電時処理の場合と同様にチェックサムを算出し、そのチェックサムが正常であるか否かを判定する（ステップＳＧ５０５）。停電時処理及びステップＳＧ５０５のそれぞれでは、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２についてチェックサムを算出する。ステップＳＧ５０５では、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される直前に実行された停電時処理において算出されて特定制御用のワークエリア２２１に保存されたチェックサムを読み出すとともに、その読み出したチェックサムを、当該ステップＳＧ５０５にて算出したチェックサムと比較することで、それらチェックサムが一致しているか否かを判定する。

【３３２４】
チェックサムが一致している場合（ステップＳＧ５０５：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定参照用エリア３４１（図１５４参照）に格納された情報に対応する設定値が正常な範囲であるか否かを判定する（ステップＳＧ５０６）。設定参照用エリア３４１は上記第４５の実施形態と同様に現状のパチンコ機１０の設定値を主側ＣＰＵ６３にて特定するための情報が格納される記憶エリアである。設定参照用エリア３４１

に「１」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定１」となる。設定参照用エリア３４１に「２」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定２」となる。設定参照用エリア３４１に「３」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定３」となる。設定参照用エリア３４１に「４」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定４」となる。設定参照用エリア３４１に「５」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定５」となる。設定参照用エリア３４１に「６」の数値情報が格納されている場合には現状のパチンコ機１０の設定値は「設定６」となる。ステップＳＧ５０６では設定参照用エリア３４１に格納された設定値の情報が「１」～「６」のいずれかであるか否かを判定する。

【３３２５】

ステップＳＧ５０４、ステップＳＧ５０５及びステップＳＧ５０６の全てで肯定判定をした場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＧ５０７）。設定更新表示フラグは上記第３５の実施形態と同様に設定値更新処理（図２５９）が実行されていることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグであり、設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を更新している状況であることを示す表示及び更新途中の設定値を示す表示が行われる。設定更新表示フラグは、設定値更新処理（図２５９）が開始された場合に「１」がセットされ設定値更新処理（図２５９）が終了される場合に「０」クリアされるフラグであるため、設定値更新処理（図２５９）が実行されていない状況においては基本的に設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定値更新処理（図２５９）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合において設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態となる。この設定更新表示フラグに「１」がセットされた状態は設定値更新処理（図２５９）において設定更新表示フラグを「０」クリアする処理が実行されるまでは維持される。

【３３２６】

設定更新表示フラグに「１」がセットされていないことでステップＳＧ５０７にて否定判定をした場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＧ５０８）。つまり、リセットボタン６８ｃが押圧操作されている状態においてパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われて主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたか否かを判定する。ここで、本実施形態では上記第３５の実施形態と同様に、主制御装置６０に設定キー挿入部６８ａ及びリセットボタン６８ｃが設けられているものの更新ボタン６８ｂは設けられていない。

【３３２７】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＧ５０８：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＧ５０９）。遊技停止フラグは、停電フラグに「１」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合に「１」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。ステップＳＧ５０９にて肯定判定をした場合、後述するステップＳ

Ｇ５２０及びステップＳＧ５２１の処理を実行する。
【３３２８】
ステップＳＧ５０９にて否定判定をした場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定する（ステップＳＧ５１０）。設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されている場合（ステップＳＧ５１０：ＹＥＳ）、設定確認用処理を実行する（ステップＳＧ５１２）。また、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていない場合であっても（ステップＳＧ５１０：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＧ５１１：ＹＥＳ）、設定確認用処理を実行する（ステップＳＧ５１２）。
【３３２９】
設定確認表示フラグは上記第３５の実施形態と同様に設定確認用処理（図２５８）が実行されていることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグであり、設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状設定されている設定値を示す表示が行われる。設定確認表示フラグは、設定確認用処理（図２５８）が開始された場合に「１」がセットされ設定確認用処理（図２５８）が終了される場合に「０」クリアされるフラグであるため、設定確認用処理（図２５８）が実行されていない状況においては基本的に設定確認表示フラグに「１」がセットされた状態とはならない。しかしながら、設定確認用処理（図２５８）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された場合には、その後に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合において設定確認表示フラグに「１」がセットされた状態となる。この設定確認表示フラグに「１」がセットされた状態は後述するＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行されるか、又は設定確認用処理（図２５８）において設定確認表示フラグを「０」クリアする処理が実行されるまでは維持される。
【３３３０】
上記のようにリセットボタン６８ｃが押圧操作されていない状況であって設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている場合（すなわち「設定確認操作」が行われた場合）だけではなく、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない状況であって設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合にも設定確認用処理（図２５８）が実行されることにより、設定確認用処理（図２５８）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の再開に際して「設定確認操作」が行われなかったとしても設定確認用処理（図２５８）が実行される。これにより、パチンコ機１０の現状の設定値の確認を引き続き行わせることが可能となる。一方、設定確認用処理（図２５８）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合であってもその後の動作電力の供給の再開に際してリセットボタン６８ｃが押圧操作された場合には、設定確認用処理（図２５８）が実行されることなくＲＡＭクリア処理（図２６０）及び設定値更新処理（図２５９）のうち動作電力の供給の再開に際して行われた操作に対応する処理が実行される。これにより、設定確認用処理（図２５８）よりもＲＡＭクリア処理（図２６０）又は設定値更新処理（図２５９）の実行を優先させることが可能となる。
【３３３１】
ここで、ステップＳＧ５１２にて実行される設定確認用処理について説明する。図２５８は設定確認用処理を示すフローチャートである。なお、設定確認用処理におけるステップＳＧ６０１～ステップＳＧ６０７の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【３３３２】
まず割込み許可の設定を行う（ステップＳＧ６０１）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）が第２割込み周期で割り込んで起動される。
【３３３３】

本実施形態においては動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）では基本的に第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止されており、設定確認用処理（図２５８）及び設定値更新処理（図２５９）において割込みが許可される。したがって、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）において設定確認用処理（図２５８）及び設定値更新処理（図２５９）が実行されていない状況においては第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が禁止され、設定確認用処理（図２５８）又は設定値更新処理（図２５９）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が許可される。但し、設定確認用処理（図２５８）又は設定値更新処理（図２５９）が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了される。

【３３３４】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定確認表示フラグに「１」がセットされていないことを条件として、設定確認表示フラグに「１」をセットする（ステップＳＧ６０２）。設定確認表示フラグに「１」がセットされることにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００５にて肯定判定をすることで、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００６）を実行する。当該設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理の処理内容は上記第４５の実施形態と同一である。当該処理が実行されることにより、例えば図１２４（ｂ）の説明図に示すように、パチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。

【３３３５】

その後、確認開始コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信する（ステップＳＧ６０３）。音光側ＣＰＵ３５３は確認開始コマンドを受信することにより、設定確認用処理（図２５８）が実行されていることを示す画像及び設定確認用処理（図２５８）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定確認用処理（図２５８）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。また、設定確認用処理（図２５８）が実行されていることを示す外部出力が例えば遊技ホールの管理コンピュータといったパチンコ機１０外部の装置に対して行われる構成としてもよい。

【３３３６】

その後、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったか否かを判定する（ステップＳＧ６０４）。具体的には、上記第４５の実施形態における設定確認用処理（図１５５）と同様に、設定キー挿入部６８ａの状態を検知する検知センサから受信している信号の受信状態がＯＮ状態に対応する受信状態からＯＦＦ状態に対応する受信状態となったか否かを判定する。したがって、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態に維持されている場合だけではなく、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態である状況で設定確認用処理（図２５８）が開始された場合においてそのＯＦＦ状態が維持されている場合にもステップＳＧ６０４にて否定判定をする。設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定していない場合（ステップＳＧ６０４：ＮＯ）、ステップＳＧ６０４の処理を繰り返す。

【３３３７】
設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定した場合（ステップＳＧ６０４：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグを「０」クリアする（ステップＳＧ６０５）。これにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００５にて否定判定をすることで、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００６）が実行されない状況となる。したがって、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示が行われる状態が解除される。
【３３３８】
その後、割込み禁止の設定を行う（ステップＳＧ６０６）。これにより、設定確認用処理（図２５８）を終了してメイン処理（図２５７）における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）に復帰する場合には第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止される。
【３３３９】
その後、確認時の復帰コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信する（ステップＳＧ６０７）。音光側ＣＰＵ３５３は確認時の復帰コマンドを受信することにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）にて設定確認用処理（図２５８）が実行されたことを特定する。そして、確認時の復帰コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。
【３３４０】
上記のとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作することなく設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作した状態でパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われることにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されてメイン処理（図２５７）が開始された状況においてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていないとともに設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作された状態となり、メイン処理（図２５７）にて遊技を進行させるための処理が実行される前の状況である動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において設定確認用処理（図２５８）が実行される。これにより、遊技が行われていない状況下において設定値の確認を行うことが可能となる。
【３３４１】
メイン処理（図２５７）の説明に戻り、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていない場合であって設定確認表示フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＧ５１０及びステップＳＧ５１１：ＮＯ）、通常復帰コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信する（ステップＳＧ５１３）。音光側ＣＰＵ３５３は通常復帰コマンドを受信することにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）にてＲＡＭクリア処理（図２６０）、設定確認用処理（図２５８）及び設定値更新処理（図２５９）のいずれもが実行されていないことを特定する。そして、通常復帰コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。
【３３４２】
一方、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていると判定した場合（ステップＳＧ５０８及びステップＳＧ５１４：ＹＥＳ）、又はステップＳＧ５０７にて設定更新表示フラグに「１」がセットされていると判定した場合、設定値更新処理を実行する（ステップＳＧ５１５）。上記のようにリセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合であって設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている場合（すなわち「設定変更操作」が行われた場合）だけではなく、リセットボタン６８ｃの押圧操作及び設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作

の有無に関係なく設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合にも設定値更新処理（図２５９）が実行されることにより、設定値更新処理（図２５９）が実行されている状況において停電時処理が実行された場合には、その後の動作電力の供給の開始に際しての操作内容が「操作無し」、「ＲＡＭクリア操作」、「設定変更操作」及び「設定確認操作」のいずれであったとしても設定値更新処理（図２５９）が実行される。これにより、設定値更新処理（図２５９）の実行を優先させることが可能となる。

【３３４３】

ここで、ステップＳＧ５１５にて実行される設定値更新処理について説明する。図２５９は設定値更新処理を示すフローチャートである。なお、設定値更新処理におけるステップＳＧ７０１～ステップＳＧ７１３の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３３４４】

まず割込み許可の設定を行う（ステップＳＧ７０１）。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が第１割込み周期で割り込んで起動されるとともに、第２タイマ割込み処理（図１３４）が第２割込み周期で割り込んで起動される。

【３３４５】

本実施形態においては動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）では基本的に第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止されており、設定確認用処理（図２５８）及び設定値更新処理（図２５９）において割込みが許可される。したがって、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）において設定確認用処理（図２５８）及び設定値更新処理（図２５９）が実行されていない状況においては第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が禁止され、設定確認用処理（図２５８）又は設定値更新処理（図２５９）が実行されている状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の実行が許可される。但し、設定確認用処理（図２５８）又は設定値更新処理（図２５９）が実行されている状況においては立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているため、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図１３３）の各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されることなく当該第１タイマ割込み処理（図１３３）が終了される。

【３３４６】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」がセットされていないことを条件として、設定更新表示フラグに「１」をセットする（ステップＳＧ７０２）。設定更新表示フラグに「１」がセットされることにより、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００３にて肯定判定をすることで、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理（ステップＳ９００４）を実行する。当該設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理の処理内容は上記第４５の実施形態と同一である。当該処理が実行されることにより、例えば図１２４（ａ）の説明図に示すように、パチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の更新対象として選択されている設定値の表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。

【３３４７】

その後、開始時の初期設定を行う（ステップＳＧ７０３）。当該初期設定では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグを「０」クリアする。遊技停止フラグは、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＧ５０４：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合（ステップＳＧ５０５：ＮＯ）、又は設定参照用エリア３４１に格納された情報に対応

する設定値が正常な範囲ではない場合に（ステップＳＧ５０６：ＮＯ）、メイン処理（図２５７）のステップＳＧ５１８にて「１」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、上記のような主側ＲＡＭ６５の情報異常が発生した場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。ステップＳＧ７０３の処理にて遊技停止フラグを「０」クリアすることで、主側ＲＡＭ６５の情報異常の発生が特定されている状態を設定値更新処理（図２５９）が実行された場合に解除することが可能となる。

【３３４８】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新用エリア３４２（図１５４参照）に「１」を設定する（ステップＳＧ７０４）。設定更新用エリア３４２は上記第４５の実施形態と同様に設定値更新処理（図２５９）において更新途中の設定値の情報が格納される記憶エリアである。設定更新用エリア３４２に「１」の数値情報が格納されている場合には更新対象（選択対象又は変更対象）の設定値は「設定１」となる。設定更新用エリア３４２に「２」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定２」となる。設定更新用エリア３４２に「３」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定３」となる。設定更新用エリア３４２に「４」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定４」となる。設定更新用エリア３４２に「５」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定５」となる。設定更新用エリア３４２に「６」の数値情報が格納されている場合には更新対象の設定値は「設定６」となる。

【３３４９】

ステップＳＧ７０４にて設定更新用エリア３４２に「１」を設定することで、更新対象の設定値が「設定１」となる。つまり、本実施形態ではパチンコ機１０の現状の設定値がいずれであったとしても設定値更新処理（図２５９）が開始された場合には更新対象の設定値は「設定１」となる。

【３３５０】

その後、更新開始コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信する（ステップＳＧ７０５）。音光側ＣＰＵ３５３は更新開始コマンドを受信することにより、設定値更新処理（図２５９）が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理（図２５９）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、設定値を変更している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定値を変更させるために必要な操作内容及び設定値更新処理（図２５９）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。また、設定値更新処理（図２５９）が実行されていることを示す外部出力が例えば遊技ホールの管理コンピュータといったパチンコ機１０外部の装置に対して行われる構成としてもよい。

【３３５１】

その後、設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報が「１」～「６」のいずれかであるか否かを判定する（ステップＳＧ７０６）。「１」～「６」のいずれかではない場合（ステップＳＧ７０６：ＮＯ）、設定更新用エリア３４２に「１」を設定する（ステップＳＧ７０７）。これにより、更新対象の設定値が「設定１」となる。

【３３５２】

ステップＳＧ７０６にて肯定判定をした場合又はステップＳＧ７０７の処理を実行した場合、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わっ

たか否かを判定する（ステップＳＧ７０８）。具体的には、設定キー挿入部６８ａの状態を検知する検知センサから受信している信号の受信状態が、ＯＮ状態に対応する受信状態からＯＦＦ状態に対応する受信状態となったか否かを判定する。したがって、設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態に維持されている場合だけではなく、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態である状況で設定値更新処理が開始された場合においてそのＯＦＦ状態が維持されている場合にもステップＳＧ７０８にて否定判定をする。

【３３５３】

ステップＳＧ７０８にて否定判定をした場合、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていることを条件として（ステップＳＧ７０９：ＹＥＳ）、設定更新用エリア３４２の値を１加算する（ステップＳＧ７１０）。これにより、リセットボタン６８ｃが１回押圧操作される度に１段階上の設定値に更新される。また、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＧ７０９：ＮＯ）又は設定更新用エリア３４２の値を１加算した場合にはステップＳＧ７０６の処理に戻ることとなるが、ステップＳＧ７０６にて設定更新用エリア３４２の値が７以上であると判定されると、ステップＳＧ７０７にて設定更新用エリア３４２に「１」がセットされる。これにより、「設定６」の状況でリセットボタン６８ｃが１回押圧操作された場合には「設定１」に戻ることになる。

【３３５４】

設定キー挿入部６８ａがＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換わったことを特定した場合（ステップＳＧ７０８：ＹＥＳ）、設定更新用エリア３４２に格納された設定値の情報を設定参照用エリア３４１に上書きする（ステップＳＧ７１１）。これにより、今回の設定値更新処理（図２５９）にて更新された結果の設定値の情報が設定参照用エリア３４１に設定された状態となり、その設定された情報に対応する設定値が現状のパチンコ機１０の設定値となる。

【３３５５】

その後、割込み禁止の設定を行う（ステップＳＧ７１２）。これにより、設定値更新処理（図２５９）を終了してメイン処理（図２５７）における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）に復帰する場合には第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）の割込みが禁止される。

【３３５６】

その後、ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＧ７１３）。ＲＡＭクリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア３４１）を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。また、ＲＡＭクリア処理では特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするとともに初期設定を実行する。また、ＲＡＭクリア処理では主側ＣＰＵ６３の各種レジスタも「０」クリアした後に初期設定を実行する。この初期設定ではステップＳＦ５０２の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。なお、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４については「０」クリアするための処理及び初期設定を行うための処理は実行しない。ＲＡＭクリア処理の詳細については後に説明する。

【３３５７】

上記のとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うだけではなくさらに設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うことに基づき、設定値更新処理（図２５９）が実行される。また、既に説明したとおりリセットボタン６８ｃを押圧操作することなく設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行うことに基づき、設定確認用処理（図２５８）が実行される。これにより、設定値に関する設定関連処理が実行されるための操作として、設定キー挿入部６８ａに対するＯＮ操作を共通させることが可能となる。よって、設定関連処理を発生させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。

【３３５８】

また、設定キー挿入部６８ａを設定キーによりＯＮ操作しながらパチンコ機１０の電源ＯＮ操作を行う場合であって、リセットボタン６８ｃの押圧操作を付加しない場合には設定確認用処理（図２５８）が実行され、リセットボタン６８ｃの押圧操作を付加する場合には設定値更新処理（図２５９）が実行される。これにより、リセットボタン６８ｃの押圧操作の有無によって設定確認用処理（図２５８）及び設定値更新処理（図２５９）のうち実行対象の処理を相違させることが可能となる。よって、設定確認用処理（図２５８）及び設定値更新処理（図２５９）のうち所望の処理を実行させるための操作内容を遊技ホールの管理者にとって分かり易いものとすることが可能となる。また、設定確認用処理（図２５８）よりも設定値更新処理（図２５９）を実行させるための操作内容を多くすることにより、設定値更新処理（図２５９）を不正に行わせる行為を特に行いづらくさせることが可能となる。

【３３５９】

メイン処理（図２５７）の説明に戻り、ステップＳＧ５０８にてリセットボタン６８ｃが押圧操作されていると判定した場合であって、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されていないと判定した場合（ステップＳＧ５１４：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＧ５１６）。遊技停止フラグは、停電フラグに「１」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合に「１」がセットされるフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【３３６０】

遊技停止フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＧ５１６：ＮＯ）、ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＧ５１７）。ＲＡＭクリア処理の内容は、設定値更新処理（図２５９）におけるステップＳＧ７１３のＲＡＭクリア処理の内容と同一である。つまり、メイン処理（図２５７）のステップＳＧ５１７及び設定値更新処理（図２５９）のステップＳＧ７１３では同一のサブルーチンを呼び出してＲＡＭクリア処理を実行する。

【３３６１】

図２６０はメイン処理（図２５７）のステップＳＧ５１７及び設定値更新処理（図２５９）のステップＳＧ７１３にて実行されるＲＡＭクリア処理を示すフローチャートである。なお、ＲＡＭクリア処理におけるステップＳＧ８０１～ステップＳＧ８０８の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３３６２】

まず特定制御用のワークエリア２２１においてＲＡＭクリア処理の実行に際しての開始アドレスとなるクリア開始アドレスを対象アドレスに設定する（ステップＳＧ８０１）。特定制御用のワークエリア２２１の開始アドレスに対応するエリアには設定参照用エリア３４１が設定されており、クリア開始アドレスは当該設定参照用エリア３４１に対して次の順番のアドレスに設定されている。これにより、設定参照用エリア３４１をＲＡＭクリア処理の実行対象から除外することが可能となる。

【３３６３】

その後、クリア処理を実行する（ステップＳＧ８０２）。ステップＳＧ８０２のクリア

処理では、特定制御用のワークエリア２２１において現状の対象アドレスに対応するエリアを「０」クリアするとともに、対象アドレスを特定制御用のワークエリア２２１における次の順番のアドレスに設定する。そして、この「０」クリアする処理及び対象アドレスを更新する処理を、特定制御用のワークエリア２２１における最後の順番のアドレスに対して次の順番のアドレスが対象アドレスとなるまで実行する。これにより、当否抽選モードが高確率モードであるか否かを示すエリアが「０」クリアされるため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止される直前における当否抽選モードに関係なく当否抽選モードは低確率モードとなる。また、遊技回が実行されていない状況となるとともに開閉実行モードが実行されていない状況となり、さらに普図表示部３８ａが変動表示されていない状況であって普電役物３４ａが閉鎖状態である状況となる。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた保留格納エリア６５ａ及び普電保留エリア６５ｃも「０」クリアされるため、特図表示部３７ａ用の保留情報が消去されるとともに普図表示部３８ａ用の保留情報が消去される。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグ及び設定確認表示フラグを「０」クリアする。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新用エリア３４２を「０」クリアする。また、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグを「０」クリアする。

【３３６４】

その後、特定制御用のスタックエリア２２２の開始アドレスを対象アドレスに設定する（ステップＳＧ８０３）。その後、クリア処理を実行する（ステップＳＧ８０４）。ステップＳＧ８０４のクリア処理では、特定制御用のスタックエリア２２２において現状の対象アドレスに対応するエリアを「０」クリアするとともに、対象アドレスを特定制御用のスタックエリア２２２における次の順番のアドレスに設定する。そして、この「０」クリアする処理及び対象アドレスを更新する処理を、特定制御用のスタックエリア２２２における最後の順番のアドレスに対して次の順番のアドレスが対象アドレスとなるまで実行する。

【３３６５】

その後、主側ＲＡＭ６５の初期設定を実行する（ステップＳＧ８０５）。また、主側ＣＰＵ６３の各種レジスタを「０」クリアするとともに（ステップＳＧ８０６）、当該各種レジスタの初期設定を実行する（ステップＳＧ８０７）。この初期設定ではメイン処理（図２５７）におけるステップＳＧ５０２の内部機能レジスタ設定処理と同様の処理を実行する。

【３３６６】

その後、クリア完了コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信する（ステップＳＧ８０８）。音光側ＣＰＵ３５３はクリア完了コマンドを受信することにより、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）が終了したことを特定するとともに、今回の動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）にて、ステップＳＧ５１７のＲＡＭクリア処理又は設定値更新処理（図２５９）のステップＳＧ７１３のＲＡＭクリア処理が実行されたことを特定する。そして、クリア完了コマンドを受信したことに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。

【３３６７】

メイン処理（図２５７）においてステップＳＧ５０４、ステップＳＧ５０５及びステップＳＧ５０６のいずれかにて否定判定をした場合、すなわち停電フラグに「１」がセットされていない場合、チェックサムが一致しなかった場合又は設定値が異常であった場合、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」をセットする（ステップＳＧ５１８）。既に説明したとおり遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）においてステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する一方、ステップＳ８９０６にて肯定判定をすることでステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行しない。これにより、前回の電源遮断時において停電時処理が適切に行われなかったことで停電フラグに「１」がセットされていない場合、

特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２の少なくとも一方について前回の電源遮断時から情報の記憶状態が変化していることに起因してチェックサムが一致しない場合、又は設定値が異常である場合には、停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行される一方、遊技を進行させるための処理が実行されないことになる。

【３３６８】

その後、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを判定する（ステップＳＧ５１９）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されていない場合（ステップＳＧ５１９：ＮＯ）、動作電力の供給開始時において停電フラグ、チェックサム又は設定値に関して異常が発生したことを示す異常コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信する（ステップＳＧ５２０）。音光側ＣＰＵ３５３は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を動作電力の供給開始時における情報異常に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定変更をして下さい。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機１０への動作電力の供給が一旦停止されたとしても設定値更新処理（図２５９）が実行されるまではパチンコ機１０への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が再度開始されることとなる。

【３３６９】

その後、異常時の外部出力処理を実行する（ステップＳＧ５２１）。異常時の外部出力処理では、遊技ホールの管理コンピュータに向けて異常信号を外部出力するための処理を実行する。この場合、異常信号の信号出力が予め定められた所定期間（例えば１００ミリ秒）に亘って行われる。但し、これに限定されることはなく遊技停止フラグに「１」がセットされている状況下においては異常信号の信号出力が継続され、遊技停止フラグが「０」クリアされることで異常信号の信号出力が停止される構成としてもよい。また、異常信号は、停電フラグ、チェックサム及び設定値に関する異常とは異なる異常が発生した場合にも出力され得る。例えば、第１タイマ割込み処理（図１３３）の不正検知処理（ステップＳ８９０５）において監視対象の不正（不正な電波の検知や不正の磁気の検知）が発生したことを特定した場合にも異常信号が外部出力される。但し、このように異常信号が兼用される構成に限定されることはなく、停電フラグ、チェックサム又は設定値に関する異常に対して専用となる異常信号が外部出力される構成としてもよく、停電フラグに関する異常、チェックサムに関する異常及び設定値に関する異常のそれぞれに対応する異常信号が外部出力される構成としてもよい。

【３３７０】

リセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合（ステップＳＧ５１９：ＹＥＳ）、設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されているか否かを判定する（ステップＳＧ５１４）。リセットボタン６８ｃが押圧操作されているとともに設定キー挿入部６８ａが設定キーを利用してＯＮ操作されている場合（ステップＳＧ５１４及びステップＳＧ５１９：ＹＥＳ）、設定値更新処理を実行する（ステップＳＧ５１５）。設定値更新処理の処理内容は既に説明したとおりである。つまり、「設定変更操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力が供給された場合、主側ＲＡＭ６５について異常が発生していることでステップＳＧ５０４、ステップＳＧ５０５及びステップＳＧ５０６のいずれかにて否定判定をした場合であっても設定値更新処理（図２５９）が実行される。これにより、設定値の変更を優先させることが可能となる。また、設定値更新処理（図２５９）では既に説明したとおりステップＳＧ７０３にて開始時の初期設定が実行されることで遊技停止フラグが「０」クリアされる。これにより、設定値更新処理（図２５９）が実行された場合には、設定値の更新が完了した後に、主側ＲＡＭ６５について異常が発生している状態を解消させることが可能となる。

【３３７１】

一方、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているものの設定キー挿入部６８ａがＯＮ

操作されていない場合（ステップＳＧ５１９：ＹＥＳ、ステップＳＧ５１４：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＧ５１６）。ステップＳＧ５１８にて遊技停止フラグに「１」がセットされた後におけるステップＳＧ５１６の処理では当然のことながら遊技停止フラグに「１」がセットされているため、ステップＳＧ５１６にて肯定判定をする。この場合、ステップＳＧ５２０にて音光側ＣＰＵ３５３に異常コマンドを送信するとともに、ステップＳＧ５２１にて異常信号を外部出力する。

【３３７２】

つまり、停電フラグ、チェックサム及び設定値に関する異常が発生してステップＳＧ５０４、ステップＳＧ５０５及びステップＳＧ５０６のいずれかにて否定判定をした場合、「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたとしてもＲＡＭクリア処理（ステップＳＧ５１７）は実行されない。また、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況であって「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合にもＲＡＭクリア処理（ステップＳＧ５１７）は実行されない。これにより、「ＲＡＭクリア操作」が行われている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたとしても遊技停止フラグに「１」がセットされた状態が解消されないようにすることが可能となる。これに対して、「設定変更操作」が行われている場合には遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かに関係なく設定値更新処理（図２５９）が実行されるとともに当該設定値更新処理（図２５９）の開始時の初期設定（ステップＳＧ７０３）にて遊技停止フラグが「０」クリアされる。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされた状態を解消するためには設定値更新処理（図２５９）を実行する必要が生じることとなる。よって、特定制御用のワークエリア２２１の情報異常の発生に際しては当該特定制御用のワークエリア２２１を初期化するための処理だけではなく、設定値の再設定を要するようにすることが可能となる。

【３３７３】

また、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合には、「設定変更操作」が行われていない場合、すなわち「操作無し」の場合又は「ＲＡＭクリア操作」若しくは「設定確認操作」が行われた場合、ステップＳＧ５０９又はステップＳＧ５１６にて肯定判定をすることで、ステップＳＧ５２０にて異常コマンドを送信するとともにステップＳＧ５２１にて異常時の外部出力処理を実行する。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされた場合には、その後のメイン処理におけるステップＳＧ５０４、ステップＳＧ５０５及びステップＳＧ５０６の処理結果に関係なく、設定値更新処理（図２５９）が実行されない限り、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始される度にパチンコ機１０における異常報知及びパチンコ機１０の外部への異常時の外部出力が行われる。よって、遊技ホールの管理者に設定値を変更すべきことを認識させることが可能となる。

【３３７４】

ステップＳＧ５１２の処理を実行した場合、ステップＳＧ５１３の処理を実行した場合、ステップＳＧ５１５の処理を実行した場合、ステップＳＧ５１７の処理を実行した場合、又はステップＳＧ５２１の処理を実行した場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する情報をセットする（ステップＳＧ５２２）。チェック中カウンタにセットされた値は上記第３５の実施形態と同様に第２タイマ割込み処理（図１３４）が起動される度に１減算される。チェック中カウンタに１以上の値が設定されている場合、第２タイマ割込み処理（図１３４）における通常時の設定処理（図１３５）にてステップＳ９１０２の処理が実行されることにより、上記第３５の実施形態と同様に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が継続される。

【３３７５】

上記構成によれば主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、当該主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）が

終了した後であって残余処理（ステップＳＧ５２４～ステップＳＧ５２７）が開始される前に、初期チェック期間が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）が実行されている状況において初期チェック期間を制御する必要がないため、当該動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）が実行されている状況における処理負荷を軽減することが可能となる。

【３３７６】

また、設定確認用処理（図２５８）及び設定値更新処理（図２５９）は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）として実行されるのに対して、初期チェック期間は動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）が終了した後に開始される。これにより、初期チェック期間において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われるとしても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４を利用した設定値の表示に影響を与えないようにすることが可能となる。

【３３７７】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグを「０」クリアする（ステップＳＧ５２３）。立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動された場合にステップＳ８９０６にて否定判定をすることでステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理だけではなくステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行することとなり、遊技を進行させるための処理が実行されない状態が解除される。なお、ステップＳＧ５２３では特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグも「０」クリアする。

【３３７８】

その後、ステップＳＧ５２４～ステップＳＧ５２７の残余処理に進む。つまり、主側ＣＰＵ６３は第１タイマ割込み処理（図１３３）及び第２タイマ割込み処理（図１３４）を定期的に実行する構成であるが、１のタイマ割込み処理と次のタイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は各タイマ割込み処理の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップＳＧ５２４～ステップＳＧ５２７の残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップＳＧ５２４～ステップＳＧ５２７の残余処理は非定期的に実行される非定期処理であると言える。ステップＳＧ５２４～ステップＳＧ５２７では、上記第１の実施形態におけるメイン処理（図９）のステップＳ１１３～ステップＳ１１６と同一の処理を実行する。

【３３７９】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される開閉監視処理について図２６１のフローチャートを参照しながら説明する。開閉監視処理は第１タイマ割込み処理（図１３３）における入力状態監視処理（ステップＳ８９１２）の一部の処理として実行される。なお、開閉監視処理におけるステップＳＧ９０１～ステップＳＧ９０８の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３３８０】

まず遊技機本体１２の開放操作が行われたか否かを判定する（ステップＳＧ９０１）。本実施形態においても上記第１の実施形態と同様に裏パックユニット１５の前面部には本体開放センサ９６が設けられている（図２参照）。この場合に、本実施形態では本体開放センサ９６の検知結果が払出側ＣＰＵ９２ではなく主側ＣＰＵ６３に入力される。そして、外枠１１に対して遊技機本体１２が閉鎖状態である場合に本体開放センサ９６は閉鎖検知信号を主側ＣＰＵ６３に送信し、外枠１１に対して遊技機本体１２が開放状態である場合に本体開放センサ９６は開放検知信号を主側ＣＰＵ６３に送信する。主側ＣＰＵ６３は、本体開放センサ９６から閉鎖検知信号を受信している場合に遊技機本体１２が閉鎖状態であると特定し、本体開放センサ９６から開放検知信号を受信している場合に遊技機本体１２が開放状態であると特定する。ステップＳＧ９０１では、前回の処理回における開閉監視処理（図２６１）にて本体開放センサ９６から閉鎖検知信号を受信していることを特

定していた場合において、今回の処理回における開閉監視処理（図２６１）にて本体開放センサ９６から開放検知信号を受信しているか否かを判定する。

【３３８１】

遊技機本体１２の開放操作が行われたと判定した場合（ステップＳＧ９０１：ＹＥＳ）、音光側ＣＰＵ３５３に本体開放コマンドを送信する（ステップＳＧ９０２）。音光側ＣＰＵ３５３は本体開放コマンドを受信することによりそれに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。

【３３８２】

開閉監視処理ではさらに遊技機本体１２の閉鎖操作が行われたか否かを判定する（ステップＳＧ９０３）。当該ステップＳＧ９０３では、前回の処理回における開閉監視処理（図２６１）にて本体開放センサ９６から開放検知信号を受信していることを特定していた場合において、今回の処理回における開閉監視処理（図２６１）にて本体開放センサ９６から閉鎖検知信号を受信しているか否かを判定する。

【３３８３】

遊技機本体１２の閉鎖操作が行われたと判定した場合（ステップＳＧ９０３：ＹＥＳ）、音光側ＣＰＵ３５３に本体閉鎖コマンドを送信する（ステップＳＧ９０４）。音光側ＣＰＵ３５３は本体閉鎖コマンドを受信することによりそれに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。

【３３８４】

開閉監視処理ではさらに前扉枠１４の開放操作が行われたか否かを判定する（ステップＳＧ９０５）。本実施形態においても上記第１の実施形態と同様に内枠１３の前面部には前扉開放センサ９５が設けられている（図２参照）。この場合に、本実施形態では前扉開放センサ９５の検知結果が払出側ＣＰＵ９２ではなく主側ＣＰＵ６３に入力される。そして、内枠１３に対して前扉枠１４が閉鎖状態である場合には前扉開放センサ９５は閉鎖検知信号を主側ＣＰＵ６３に送信し、内枠１３に対して前扉枠１４が開放状態である場合に前扉開放センサ９５は開放検知信号を主側ＣＰＵ６３に送信する。主側ＣＰＵ６３は、前扉開放センサ９５から閉鎖検知信号を受信している場合に前扉枠１４が閉鎖状態であると特定し、前扉開放センサ９５から開放検知信号を受信している場合に前扉枠１４が開放状態であると特定する。ステップＳＧ９０５では、前回の処理回における開閉監視処理（図２６１）にて前扉開放センサ９５から閉鎖検知信号を受信していることを特定していた場合において、今回の処理回における開閉監視処理（図２６１）にて前扉開放センサ９５から開放検知信号を受信しているか否かを判定する。

【３３８５】

前扉枠１４の開放操作が行われたと判定した場合（ステップＳＧ９０５：ＹＥＳ）、音光側ＣＰＵ３５３に前扉開放コマンドを送信する（ステップＳＧ９０６）。音光側ＣＰＵ３５３は前扉開放コマンドを受信することによりそれに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。

【３３８６】

開閉監視処理ではさらに前扉枠１４の閉鎖操作が行われたか否かを判定する（ステップＳＧ９０７）。当該ステップＳＧ９０７では、前回の処理回における開閉監視処理（図２６１）にて前扉開放センサ９５から開放検知信号を受信していることを特定していた場合において、今回の処理回における開閉監視処理（図２６１）にて前扉開放センサ９５から閉鎖検知信号を受信しているか否かを判定する。

【３３８７】

前扉枠１４の閉鎖操作が行われたと判定した場合（ステップＳＧ９０７：ＹＥＳ）、音光側ＣＰＵ３５３に前扉閉鎖コマンドを送信する（ステップＳＧ９０８）。音光側ＣＰＵ３５３は前扉閉鎖コマンドを受信することによりそれに対応する処理を実行する。当該処理の内容については後に説明する。

【３３８８】

次に、音声発光制御装置８１にて実行される処理について説明する。当該処理の説明に

先立ち音声発光制御装置８１の電気的構成について図２６２の説明図を参照しながら説明する。

【３３８９】

音声発光制御装置８１は上記第４９の実施形態と同様に音声発光制御基板３５１を備えている。音声発光制御基板３５１には音光側ＭＰＵ３５２が搭載されている。音光側ＭＰＵ３５２には、制御部及び演算部を含む演算処理装置である音光側ＣＰＵ３５３の他に、音光側ＲＯＭ３５４及び音光側ＲＡＭ３５５が内蔵されている。また、音光側ＭＰＵ３５２には、上記素子以外に、割込回路、タイマ回路、データ入出力回路、乱数発生器としての各種カウンタ回路などが内蔵されている。

【３３９０】

音光側ＲＯＭ３５４は、ＮＯＲ型フラッシュメモリ及びＮＡＮＤ型フラッシュメモリなどの記憶保持に外部からの電力供給が不要なメモリ（すなわち、不揮発性記憶手段）であり、読み出し専用として利用される。音光側ＲＯＭ３５４は、音光側ＣＰＵ３５３により実行される各種の制御プログラムや固定値データを記憶している。

【３３９１】

音光側ＲＡＭ３５５は、ＳＲＡＭ及びＤＲＡＭなどの記憶保持に外部からの電力供給が必要なメモリ（すなわち、揮発性記憶手段）であり、読み書き両用として利用される。音光側ＲＡＭ３５５は、ランダムアクセスが可能であるとともに、同一のデータ容量で比較した場合に音光側ＲＯＭ３５４よりも読み出しに要する時間が早いものとなっている。音光側ＲＡＭ３５５は、音光側ＲＯＭ３５４内に記憶されている制御プログラムの実行に対して各種のデータなどを一時的に記憶する。

【３３９２】

なお、上記第４９の実施形態では音声発光制御基板３５１にＲＴＣ３５６及びＲＴＣ用メモリ３５７が設けられていたが、本実施形態ではこれらＲＴＣ３５６及びＲＴＣ用メモリ３５７は音声発光制御基板３５１に設けられていない。

【３３９３】

ここで、既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３はメイン処理（図２５７）における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＧ５０１～ステップＳＧ５２１）にて確認時の復帰コマンド及びクリア完了コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信し得るとともに、開閉監視処理（図２６１）にて本体開放コマンド、本体閉鎖コマンド、前扉開放コマンド及び前扉閉鎖コマンドを音光側ＣＰＵ３５３に送信し得る。これらコマンドのいずれかを受信した場合、音光側ＣＰＵ３５３は受信したコマンドに対応する報知が表示発光部５３及びスピーカ部５４にて実行されるようにするための処理を実行する。これら報知の実行に際しては、音光側ＲＯＭ３５４に予め記憶されている各種報知用テーブル５２１～５２６を利用する。

【３３９４】

各種報知用テーブル５２１～５２６として、確認時の復帰コマンドを主側ＣＰＵ６３から受信した場合にそれに対応する報知を実行するために参照される確認後報知用テーブル５２１と、クリア完了コマンドを主側ＣＰＵ６３から受信した場合にそれに対応する報知を実行するために参照されるクリア後報知用テーブル５２２と、本体開放コマンドを主側ＣＰＵ６３から受信した場合にそれに対応する報知を実行するために参照される本体開放報知用テーブル５２３と、本体閉鎖コマンドを主側ＣＰＵ６３から受信した場合にそれに対応する報知を実行するために参照される本体閉鎖報知用テーブル５２４と、前扉開放コマンドを主側ＣＰＵ６３から受信した場合にそれに対応する報知を実行するために参照される前扉開放報知用テーブル５２５と、前扉閉鎖コマンドを主側ＣＰＵ６３から受信した場合にそれに対応する報知を実行するために参照される前扉閉鎖報知用テーブル５２６とが存在している。

【３３９５】

これら各種報知用テーブル５２１～５２６には、報知期間の各更新タイミングのそれぞれに対応させて、表示発光部５３を所定の態様で発光制御するための発光制御用データ、

及びスピーカ部５４を所定の態様で音出力制御するための音出力制御用データが設定されている。各種報知用テーブル５２１～５２６のデータ構成について確認後報知用テーブル５２１を例に挙げて説明する。図２６３は確認後報知用テーブル５２１の内容を説明するための説明図である。

【３３９６】

図２６３に示すように確認後報知用テーブル５２１には報知期間における報知内容の各更新タイミングのそれぞれに対応させて複数のポインタ情報が設定されている。また、これら複数のポインタ情報のそれぞれに対応させて発光制御用データ及び音出力制御用データの組合せが設定されている。複数のポインタ情報は連番の数値情報として配列されており、予め設定されている４０ミリ秒の更新周期が経過する度に参照対象のポインタ情報が次の順番のポインタ情報に更新される。そして、その更新後における参照対象のポインタ情報に対応させて設定されている発光制御用データを利用して表示発光部５３の発光制御が行われるとともに音出力制御用データを利用してスピーカ部５４の音出力制御が行われる。なお、更新周期は４０ミリ秒に限定されることはなく任意である。

【３３９７】

確認後報知用テーブル５２１を利用して表示発光部５３の発光制御及びスピーカ部５４の音出力制御が行われる場合、まず「０」のポインタ情報に対応させて設定されている発光制御用データ（Ｘ（０））を利用して表示発光部５３の発光制御が行われるとともに、当該「０」のポインタ情報に対応させて設定されている音出力制御用データ（Ｙ（０））を利用してスピーカ部５４の音出力制御が行われる。これにより、設定確認用処理（図２５８）が実行されたことを示す確認後報知が開始される。

【３３９８】

その後、報知内容の更新周期である４０ミリ秒が経過する度に参照対象のポインタ情報が次の順番のポインタ情報に更新され、その新たに参照対象となったポインタ情報に対応させて設定された発光制御用データを利用して表示発光部５３の発光制御が行われるとともに音出力制御用データを利用してスピーカ部５４の音出力制御が行われる。例えば、「０」のポインタ情報が参照対象となっている状況において４０ミリ秒の更新周期が経過することで参照対象が「１」のポインタ情報に更新され、当該「１」のポインタ情報に対応させて設定されている発光制御用データ（Ｘ（１））を利用して表示発光部５３の発光制御が行われるとともに、当該「１」のポインタ情報に対応させて設定されている音出力制御用データ（Ｙ（１））を利用してスピーカ部５４の音出力制御が行われる。また、「１」のポインタ情報が参照対象となっている状況において４０ミリ秒の更新周期が経過することで参照対象が「２」のポインタ情報に更新され、当該「２」のポインタ情報に対応させて設定されている発光制御用データ（Ｘ（２））を利用して表示発光部５３の発光制御が行われるとともに、当該「２」のポインタ情報に対応させて設定されている音出力制御用データ（Ｙ（２））を利用してスピーカ部５４の音出力制御が行われる。そして、確認後報知用テーブル５２１において最後の順番である「ｋ」のポインタ情報に対応させて設定されている発光制御用データ（Ｘ（ｋ））を利用して表示発光部５３の発光制御が行われるとともに音出力制御用データ（Ｙ（ｋ））を利用してスピーカ部５４の音出力制御が行われることで、確認後報知用テーブル５２１を利用した報知の実行制御が終了されて、確認後報知が終了されることとなる。

【３３９９】

つまり、確認後報知用テーブル５２１が利用対象となった場合、当該確認後報知用テーブル５２１に設定されている最後の順番のポインタ情報が参照対象となるまで、当該確認後報知用テーブル５２１が利用対象として維持される。そして、詳細は後述するが確認後報知は同時期に実行され得る他の報知よりも実行優先度が高く設定されている。したがって、確認後報知用テーブル５２１が利用対象となった場合には当該確認後報知用テーブル５２１に対応させて設定されている報知期間が経過するまで確認後報知が継続されることとなる。

【３４００】

クリア後報知用テーブル５２２、本体開放報知用テーブル５２３、本体閉鎖報知用テーブル５２４、前扉開放報知用テーブル５２５及び前扉閉鎖報知用テーブル５２６についても、発光制御用データ及び音出力制御用データの内容は相違するものの基本的なデータ構成は図２６３に示す確認後報知用テーブル５２１と同様となっている。つまり、各種報知用テーブル５２１～５２６はいずれも複数のポインタ情報が設定されているとともに、各ポインタ情報のそれぞれに対応させて発光制御用データ及び音出力制御用データの組合せが設定されている。また、ポインタ情報の更新周期はいずれの報知用テーブル５２１～５２６であっても同一となっているが、これに限定されることはなく報知用テーブル５２１～５２６の種類に応じてポインタ情報の更新周期が相違している構成としてもよい。発光制御用データ及び音出力制御用データの内容は各種報知用テーブル５２１～５２６のそれぞれにおいて相違している。したがって、確認後報知用テーブル５２１を利用して実行される確認後報知、クリア後報知用テーブル５２２を利用して実行されるクリア後報知、本体開放報知用テーブル５２３を利用して実行される本体開放報知、本体閉鎖報知用テーブル５２４を利用して実行される本体閉鎖報知、前扉開放報知用テーブル５２５を利用して実行される前扉開放報知、及び前扉閉鎖報知用テーブル５２６を利用して実行される前扉閉鎖報知の内容は相互に相違している。したがって、表示発光部５３の発光内容及びスピーカ部５４からの音出力内容を確認することでいずれの種類の報知が実行されているのかを遊技ホールの管理者が把握することが可能となる。

【３４０１】

上記のとおり確認後報知用テーブル５２１が利用対象となった場合、当該確認後報知用テーブル５２１に設定されている最後の順番のポインタ情報が参照対象となるまで当該確認後報知用テーブル５２１が利用対象として維持されるとともに、最後の順番のポインタ情報に対応する報知の実行制御が完了した場合には当該確認後報知用テーブル５２１が利用対象から解除される。このように最後の順番のポインタ情報が参照対象となるまで利用対象として維持されるとともに最後の順番のポインタ情報に対応する報知の実行制御が完了した場合に利用対象から除外される報知用テーブルは、確認後報知用テーブル５２１以外にも、クリア後報知用テーブル５２２、本体閉鎖報知用テーブル５２４及び前扉閉鎖報知用テーブル５２６が存在している。

【３４０２】

一方、本体開放報知用テーブル５２３及び前扉開放報知用テーブル５２５が利用対象となった場合、これら報知用テーブル５２３，５２５に設定されている最後の順番のポインタ情報が参照対象となったとしても所定の利用解除条件が成立していない場合には参照対象が最初の順番のポインタ情報に復帰されることで当該報知用テーブル５２３，５２５が利用対象として維持される。また、これら報知用テーブル５２３，５２５が利用対象となっている場合には参照対象のポインタ情報がいずれであったとしても所定の利用解除条件が成立した場合には利用対象から解除される。当該所定の利用解除条件について詳細には、本体開放報知用テーブル５２３が利用対象に設定されている場合には遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態となった場合に所定の利用解除条件が成立したとして当該本体開放報知用テーブル５２３が利用対象から解除される。また、前扉開放報知用テーブル５２５が利用対象に設定されている場合には前扉枠１４が開放状態から閉鎖状態となった場合に所定の利用解除条件が成立したとして当該前扉開放報知用テーブル５２５が利用対象から解除される。

【３４０３】

上記各種報知用テーブル５２１～５２６は、音光側ＲＡＭ３５５に設けられた各種実行エリア５３１～５３３に読み出されることで利用対象として設定される。各種実行エリア５３１～５３３として、第１実行エリア５３１と、第２実行エリア５３２と、第３実行エリア５３３とが設けられている。これら各種実行エリア５３１～５３３のそれぞれは１種類の報知用テーブル５２１～５２６を読み出すことが可能な記憶容量となっているものの、複数種類の報知用テーブル５２１～５２６を同時に読み出すことが不可である記憶容量となっている。

【３４０４】
各種実行エリア５３１～５３３には制御実行対象について予め優先度が設定されている。具体的には、第１実行エリア５３１が最も高い優先度に設定されており、第２実行エリア５３２が２番目に高い優先度に設定されており、第３実行エリア５３３が最も低い優先度に設定されている。第１実行エリア５３１、第２実行エリア５３２及び第３実行エリア５３３のそれぞれに利用対象となる報知用テーブルが設定されている場合、ポインタ情報の更新タイミングとなることで第１～第３実行エリア５３１～５３３のそれぞれに設定されている報知用テーブルにおいて参照対象となるポインタ情報が次の順番のポインタ情報に更新されるものの、発光制御用データ及び音出力制御用データは第１実行エリア５３１に設定されている報知用テーブルから読み出され、第２実行エリア５３２及び第３実行エリア５３３のそれぞれに設定されている報知用テーブルからは読み出されない。また、第２実行エリア５３２及び第３実行エリア５３３のそれぞれに利用対象となる報知用テーブルが設定されている場合、ポインタ情報の更新タイミングとなることで第２，第３実行エリア５３２，５３３のそれぞれに設定されている報知用テーブルにおいて参照対象となるポインタ情報が次の順番のポインタ情報に更新されるものの、発光制御用データ及び音出力制御用データは第２実行エリア５３２に設定されている報知用テーブルから読み出され、第３実行エリア５３３に設定されている報知用テーブルからは読み出されない。また、第３実行エリア５３３のみに利用対象となる報知用テーブルが設定されている場合、ポインタ情報の更新タイミングとなることで第３実行エリア５３３に設定されている報知用テーブルにおいて参照対象となるポインタ情報が次の順番のポインタ情報に更新されるとともに、発光制御用データ及び音出力制御用データは第３実行エリア５３３に設定されている報知用テーブルから読み出される。
【３４０５】
上記のように第１～第３実行エリア５３１～５３３が設けられていることにより、複数の報知用テーブルを同時に利用対象として設定することを可能としながら、それら複数の報知用テーブルのうち優先度が高い報知用テーブルに対応する報知を実行することが可能となる。
【３４０６】
また、優先度が高い報知用テーブルに対応する報知が実行されている場合であっても、優先度が高くない側の報知用テーブルについても更新タイミングとなった場合には参照対象のポインタ情報が更新される。そして、優先度が高い報知用テーブルに対応する報知が終了した場合において優先度が高くない側の報知用テーブルが未だ利用対象として設定されている場合には、当該優先度が高くない側の報知用テーブルにおいて現状の参照対象のポインタ情報に対応する発光制御用データ及び音出力制御用データが読み出されて表示発光部５３の発光制御及びスピーカ部５４の音出力制御が行われる。これにより、優先度が高い報知用テーブルに対応する報知が終了したタイミングで優先度が高くない側の報知用テーブルに対応する報知を実行することが可能となる。また、優先度が高くない側の報知用テーブルの実行期間のうち、当該報知用テーブルが利用対象となってから優先度が高い報知用テーブルに対応する報知が終了するまでの期間が経過した後の残りの期間に亘って、優先度が高くない側の報知用テーブルに対応する報知が実行されるため、優先度が高い報知用テーブルに対応する報知に続けて優先度が高くない側の報知用テーブルに対応する報知が実行される場合であってもそれら報知が実行されている合計期間が過剰に長くなってしまわないようにすることが可能となる。
【３４０７】
各種報知用テーブル５２１～５２６のそれぞれは読み出し対象となる実行エリア５３１～５３３の種類が予め定められている。図２６４は各種報知用テーブル５２１～５２６と読み出し対象となる実行エリア５３１～５３３の種類との関係を説明するための説明図である。
【３４０８】
図２６４に示すように、確認後報知用テーブル５２１及びクリア後報知用テーブル５２

２は最も優先度が高い第１実行エリア５３１に読み出される。この場合、確認後報知用テーブル５２１は主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図２５８）が実行された場合に利用対象となり、クリア後報知用テーブル５２２は主側ＣＰＵ６３にてＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行された場合に利用対象となる。設定確認用処理（図２５８）及びＲＡＭクリア処理（図２６０）の両方が１回のメイン処理（図２５７）にて実行されることはない。また、音声発光制御装置８１への動作電力の供給が停止された場合には音光側ＲＡＭ３５５に記憶された情報は消去される。したがって、確認後報知用テーブル５２１及びクリア後報知用テーブル５２２のうち一方が第１実行エリア５３１に設定されている状況において他方が第１実行エリア５３１に設定されることはない。

【３４０９】

本体開放報知用テーブル５２３及び前扉開放報知用テーブル５２５は２番目に優先度が高い第２実行エリア５３２に読み出される。この場合、本体開放報知用テーブル５２３は遊技機本体１２が閉鎖状態から開放状態となった場合に利用対象となり、前扉開放報知用テーブル５２５は前扉枠１４が閉鎖状態から開放状態となった場合に利用対象となる。したがって、遊技機本体１２と前扉枠１４との両方が開放状態となっている場合には本体開放報知用テーブル５２３及び前扉開放報知用テーブル５２５の両方が第２実行エリア５３２への読み出し対象となるが、この場合には後のタイミングで読み出し対象となった開放報知用テーブル５２３，５２５が第２実行エリア５３２に読み出された状態となる。これにより、第２実行エリア５３２に複数種類の開放報知用テーブル５２３，５２５が同時に設定されないようにすることが可能となる。また、このように一方の開放報知用テーブル５２３，５２５のみが設定される構成であっても、本体開放報知用テーブル５２３が利用対象となった場合には遊技機本体１２が開放状態となったことを示す本体開放報知が実行され、前扉開放報知用テーブル５２５が利用対象となった場合には前扉枠１４が開放状態となったことを示す前扉開放報知が実行されるため、いずれの開放報知用テーブル５２３，５２５が設定されたとしても基本的には閉鎖状態である開閉体が開放状態となっていることを遊技ホールの管理者に報知することが可能となる。

【３４１０】

本体閉鎖報知用テーブル５２４及び前扉閉鎖報知用テーブル５２６は最も優先度が低い第３実行エリア５３３に読み出される。この場合、本体閉鎖報知用テーブル５２４は遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態となった場合に利用対象となり、前扉閉鎖報知用テーブル５２６は前扉枠１４が開放状態から閉鎖状態となった場合に利用対象となる。したがって、遊技機本体１２と前扉枠１４との両方が開放状態から閉鎖状態となった場合には本体閉鎖報知用テーブル５２４及び前扉閉鎖報知用テーブル５２６の両方が第３実行エリア５３３への読み出し対象となるが、この場合には後のタイミングで読み出し対象となった閉鎖報知用テーブル５２４，５２６が第３実行エリア５３３に読み出された状態となる。これにより、第３実行エリア５３３に複数種類の閉鎖報知用テーブル５２４，５２６が同時に設定されないようにすることが可能となる。また、このように一方の閉鎖報知用テーブル５２４，５２６のみが設定される構成であっても、本体閉鎖報知用テーブル５２４が利用対象となった場合には遊技機本体１２が閉鎖状態となったことを示す本体閉鎖報知が実行され、前扉閉鎖報知用テーブル５２６が利用対象となった場合には前扉枠１４が閉鎖状態となったことを示す前扉閉鎖報知が実行されるため、いずれの閉鎖報知用テーブル５２４，５２６が設定されたとしても基本的には閉鎖状態である開閉体が開放状態から閉鎖状態となったことを遊技ホールの管理者に報知することが可能となる。

【３４１１】

ここで、既に説明したとおり確認後報知用テーブル５２１、クリア後報知用テーブル５２２、本体閉鎖報知用テーブル５２４及び前扉閉鎖報知用テーブル５２６は、最後の順番のポインタ情報が参照対象となるまで利用対象として維持されるとともに最後の順番のポインタ情報に対応する報知の実行制御が完了した場合に利用対象から除外される。つまり、これら報知用テーブル５２１，５２２，５２４，５２６が利用対象となる期間は固定の期間となる。当該固定の期間は報知用テーブル５２１，５２２，５２４，５２６の種類に

応じて相違している。具体的には、図２６４に示すように確認後報知用テーブル５２１及びクリア後報知用テーブル５２２は固定の期間として第１固定期間（特定関連期間、第１報知期間）である３０秒が設定されており、本体閉鎖報知用テーブル５２４及び前扉閉鎖報知用テーブル５２６は固定の期間として上記第１固定期間よりも長い第２固定期間（所定対象関連期間、第２報知期間）である３３秒が設定されている。なお、本体開放報知用テーブル５２３及び前扉開放報知用テーブル５２５には利用対象となる期間は定められておらず、本体開放報知用テーブル５２３は遊技機本体１２が開放状態となってから閉鎖状態となるまで利用対象となり、前扉開放報知用テーブル５２５は前扉枠１４が開放状態となってから閉鎖状態となるまで利用対象となる。

【３４１２】

次に、確認後報知と本体閉鎖報知との関係、及びクリア後報知と本体閉鎖報知との関係について、図２６５のタイムチャートを参照しながら説明する。図２６５（ａ）は遊技機本体１２が開放状態となっている期間を示し、図２６５（ｂ）は設定確認用処理（図２５８）が実行されている期間を示し、図２６５（ｃ）は設定値更新処理（図２５９）が実行されている期間を示し、図２６５（ｄ）は第１実行エリア５３１に確認後報知用テーブル５２１又はクリア後報知用テーブル５２２が設定されている期間を示し、図２６５（ｅ）は第３実行エリア５３３に本体閉鎖報知用テーブル５２４が設定されている期間を示し、図２６５（ｆ）は確認後報知が実行されている期間を示し、図２６５（ｇ）はクリア後報知が実行されている期間を示し、図２６５（ｈ）は本体閉鎖報知が実行されている期間を示す。

【３４１３】

まず設定確認用処理（図２５８）が実行される場合について説明する。

【３４１４】

ｔ１のタイミングで図２６５（ａ）に示すように遊技機本体１２が開放状態とされることで設定キー挿入部６８ａがパチンコ機１０前方に露出される。そして、その露出された設定キー挿入部６８ａが設定キーによりＯＮ操作された状態でパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われることで、主側ＣＰＵ６３にてメイン処理（図２５７）が開始されるとともに、ｔ２のタイミングで図２６５（ｂ）に示すように設定確認用処理（図２５８）が開始される。なお、遊技機本体１２が開放状態であることを報知する本体開放報知は主側ＣＰＵ６３における開閉監視処理（図２６１）にて遊技機本体１２が閉鎖状態から開放状態となったことが特定されたことに基づき実行されるため、遊技機本体１２を開放状態としながら動作電力の供給が開始されたとしても本体開放報知は実行されない。但し、これに限定されることはなく、この状況であっても本体開放報知が実行される構成としてもよい。

【３４１５】

設定確認用処理（図２５８）が実行されている状況においては遊技機本体１２が開放状態とされることでパチンコ機１０前方から視認可能となった第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて現状の設定値が表示される。その後、ｔ３のタイミングで図２６５（ｂ）に示すように設定確認用処理（図２５８）が終了する。この場合、主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ３５３に確認時の復帰コマンドが送信されることで、当該ｔ３のタイミングで図２６５（ｄ）に示すように確認後報知用テーブル５２１が音光側ＲＯＭ３５４から読み出されて音光側ＲＡＭ３５５の第１実行エリア５３１に書き込まれる。これにより、当該ｔ３のタイミングで図２６５（ｆ）に示すように表示発光部５３及びスピーカ部５４にて確認後報知が開始される。遊技ホールの管理者は当該確認後報知を確認することで設定値の確認が行われた後の状況であることを把握することが可能となる。

【３４１６】

その後、ｔ４のタイミングで図２６５（ａ）に示すように遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態とされる。この場合、主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ３５３に本体閉鎖コマンドが送信されることで、当該ｔ４のタイミングで図２６５（ｅ）に示すように本体閉鎖報知用テーブル５２４が音光側ＲＯＭ３５４から読み出されて音光側ＲＡＭ３５５の第３実行エリア５３３に書き込まれる。但し、当該ｔ４のタイミングでは図２６５（ｄ）に示

すように報知実行の優先度が高い第１実行エリア５３１に未だ確認後報知用テーブル５２１が設定されているため、図２６５（ｆ）に示すように確認後報知が継続され、図２６５（ｈ）に示すように本体閉鎖報知は開始されない。その一方、報知実行の優先度が高い第１実行エリア５３１に確認後報知用テーブル５２１が設定されていたとしても第３実行エリア５３３に設定された本体閉鎖報知用テーブル５２４における参照対象のポインタ情報は更新タイミングとなる度に更新される。

【３４１７】

その後、ｔ５のタイミングでｔ３のタイミングから確認後報知の報知期間である３０秒が経過する。したがって、当該ｔ５のタイミングで図２６５（ｄ）に示すように第１実行エリア５３１から確認後報知用テーブル５２１が消去されるとともに、それに伴って図２６５（ｆ）に示すように確認後報知が終了される。また、当該ｔ５のタイミングではｔ４のタイミングから本体閉鎖報知の報知期間である３３秒が経過していないため、図２６５（ｅ）に示すように第３実行エリア５３３に本体閉鎖報知用テーブル５２４が設定された状態が維持されている。したがって、ｔ５のタイミングで図２６５（ｈ）に示すように本体閉鎖報知が開始される。

【３４１８】

当該本体閉鎖報知の実際の報知期間は、本体閉鎖報知用テーブル５２４により定められている本体閉鎖報知の報知期間（３３秒）から、確認後報知の実行によって報知の実行が保留されていた期間（ｔ４のタイミング～ｔ５のタイミングの期間）を引いた残りの期間となる。第３実行エリア５３３に設定された本体閉鎖報知用テーブル５２４における参照対象のポインタ情報の更新はｔ４のタイミング～ｔ５のタイミングの期間であっても更新タイミングとなる度に行われている。したがって、ｔ５のタイミングで参照対象となっているポインタ情報から本体閉鎖報知の実行制御を開始することで、本体閉鎖報知の実際の報知期間は自ずと上記の残りの期間となる。

【３４１９】

ｔ６のタイミングでｔ４のタイミングから本体閉鎖報知の報知期間である３３秒が経過する。したがって、当該ｔ６のタイミングで図２６５（ｅ）に示すように第３実行エリア５３３から本体閉鎖報知用テーブル５２４が消去されるとともに、それに伴って図２６５（ｈ）に示すように本体閉鎖報知が終了される。

【３４２０】

ここで、設定確認用処理（図２５８）が実行された場合、当該設定確認用処理（図２５８）が終了した後に遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態となる。したがって、第１実行エリア５３１に確認後報知用テーブル５２１が設定された後に第３実行エリア５３３に本体閉鎖報知用テーブル５２４が設定されることとなる。よって、本体閉鎖報知が先に開始された直後に確認後報知が開始されるといった事象が発生しない。

【３４２１】

また、報知の実行優先度が低い側である本体閉鎖報知用テーブル５２４に定められている報知期間の方が、報知の実行優先度が高い側である確認後報知用テーブル５２１に設定されている報知期間よりも長い期間となっている。そして、上記のとおり第１実行エリア５３１に確認後報知用テーブル５２１が設定された後に第３実行エリア５３３に本体閉鎖報知用テーブル５２４が設定されることとなる。これにより、確認後報知が完了した後に、本体閉鎖報知が実行されるようにすることが可能となる。

【３４２２】

また、確認後報知の実行後において本体閉鎖報知が実行される場合、当該本体閉鎖報知の実際の実行期間は、本体閉鎖報知用テーブル５２４により定められている本体閉鎖報知の報知期間（３３秒）から、確認後報知の実行によって報知の実行が保留されていた期間（ｔ４のタイミング～ｔ５のタイミングの期間）を引いた残りの期間となる。これにより、確認後報知の完了後に続けて本体閉鎖報知が実行される場合において、確認後報知及び本体閉鎖報知の合計の報知期間が過剰に長くなってしまわないようにすることが可能となる。

【３４２３】
次に、設定値更新処理（図２５９）が実行される場合について説明する。
【３４２４】
ｔ７のタイミングで図２６５（ａ）に示すように遊技機本体１２が開放状態とされることで設定キー挿入部６８ａがパチンコ機１０前方に露出される。そして、その露出された設定キー挿入部６８ａが設定キーによりＯＮ操作されるとともにリセットボタン６８ｃが押圧操作された状態でパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われることで、主側ＣＰＵ６３にてメイン処理（図２５７）が開始されるとともに、ｔ８のタイミングで図２６５（ｃ）に示すように設定値更新処理（図２５９）が開始される。なお、遊技機本体１２が開放状態であることを報知する本体開放報知は主側ＣＰＵ６３における開閉監視処理（図２６１）にて遊技機本体１２が閉鎖状態から開放状態となったことが特定されたことに基づき実行されるため、遊技機本体１２を開放状態としながら動作電力の供給が開始されたとしても本体開放報知は実行されない。
【３４２５】
設定値更新処理（図２５９）が実行されている状況においては遊技機本体１２が開放状態とされることでパチンコ機１０前方から視認可能となった第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて更新途中の設定値が表示される。その後、ｔ９のタイミングで図２６５（ｃ）に示すように設定値更新処理（図２５９）が終了する。この場合、主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ３５３にクリア完了コマンドが送信されることで、当該ｔ９のタイミングで図２６５（ｄ）に示すようにクリア後報知用テーブル５２２が音光側ＲＯＭ３５４から読み出されて音光側ＲＡＭ３５５の第１実行エリア５３１に書き込まれる。これにより、当該ｔ９のタイミングで図２６５（ｇ）に示すように表示発光部５３及びスピーカ部５４にてクリア後報知が開始される。遊技ホールの管理者は当該クリア後報知を確認することで設定値更新処理（図２５９）が行われた後の状況又は設定値更新処理（図２５９）の実行を伴わない主側ＲＡＭ６５のクリア処理が行われた後の状況であることを把握することが可能となる。
【３４２６】
その後、ｔ１０のタイミングで図２６５（ａ）に示すように遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態とされる。この場合、主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ３５３に本体閉鎖コマンドが送信されることで、当該ｔ１０のタイミングで図２６５（ｅ）に示すように本体閉鎖報知用テーブル５２４が音光側ＲＯＭ３５４から読み出されて音光側ＲＡＭ３５５の第３実行エリア５３３に書き込まれる。但し、当該ｔ１０のタイミングでは図２６５（ｄ）に示すように報知実行の優先度が高い第１実行エリア５３１に未だクリア後報知用テーブル５２２が設定されているため、図２６５（ｇ）に示すようにクリア後報知が継続され、図２６５（ｈ）に示すように本体閉鎖報知は開始されない。その一方、報知実行の優先度が高い第１実行エリア５３１にクリア後報知用テーブル５２２が設定されていたとしても第３実行エリア５３３に設定された本体閉鎖報知用テーブル５２４における参照対象のポインタ情報は更新タイミングとなる度に更新される。
【３４２７】
その後、ｔ１１のタイミングでｔ９のタイミングからクリア後報知の報知期間である３０秒が経過する。したがって、当該ｔ１１のタイミングで図２６５（ｄ）に示すように第１実行エリア５３１からクリア後報知用テーブル５２２が消去されるとともに、それに伴って図２６５（ｇ）に示すようにクリア後報知が終了される。また、当該ｔ１１のタイミングではｔ１０のタイミングから本体閉鎖報知の報知期間である３３秒が経過していないため、図２６５（ｅ）に示すように第３実行エリア５３３に本体閉鎖報知用テーブル５２４が設定された状態が維持されている。したがって、ｔ１１のタイミングで図２６５（ｈ）に示すように本体閉鎖報知が開始される。
【３４２８】
当該本体閉鎖報知の実際の報知期間は、本体閉鎖報知用テーブル５２４により定められている本体閉鎖報知の報知期間（３３秒）から、クリア後報知の実行によって報知の実行

が保留されていた期間（ｔ１０のタイミング～ｔ１１のタイミングの期間）を引いた残りの期間となる。第３実行エリア５３３に設定された本体閉鎖報知用テーブル５２４における参照対象のポインタ情報の更新はｔ１０のタイミング～ｔ１１のタイミングの期間であっても更新タイミングとなる度に行われている。したがって、ｔ１１のタイミングで参照対象となっているポインタ情報から本体閉鎖報知の実行制御を開始することで、本体閉鎖報知の実際の報知期間は自ずと上記の残りの期間となる。

【３４２９】

ｔ１２のタイミングでｔ１０のタイミングから本体閉鎖報知の報知期間である３３秒が経過する。したがって、当該ｔ１２のタイミングで図２６５（ｅ）に示すように第３実行エリア５３３から本体閉鎖報知用テーブル５２４が消去されるとともに、それに伴って図２６５（ｈ）に示すように本体閉鎖報知が終了される。

【３４３０】

ここで、設定値更新処理（図２５９）が実行された場合、当該設定値更新処理（図２５９）が終了した後に遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態となる。したがって、第１実行エリア５３１にクリア後報知用テーブル５２２が設定された後に第３実行エリア５３３に本体閉鎖報知用テーブル５２４が設定されることとなる。よって、本体閉鎖報知が先に開始された直後にクリア後報知が開始されるといった事象が発生しない。

【３４３１】

また、報知の実行優先度が低い側である本体閉鎖報知用テーブル５２４に定められている報知期間の方が、報知の実行優先度が高い側であるクリア後報知用テーブル５２２に設定されている報知期間よりも長い期間となっている。そして、上記のとおり第１実行エリア５３１にクリア後報知用テーブル５２２が設定された後に第３実行エリア５３３に本体閉鎖報知用テーブル５２４が設定されることとなる。これにより、クリア後報知が完了した後に、本体閉鎖報知が実行されるようにすることが可能となる。

【３４３２】

また、クリア後報知の実行後において本体閉鎖報知が実行される場合、当該本体閉鎖報知の実際の実行期間は、本体閉鎖報知用テーブル５２４により定められている本体閉鎖報知の報知期間（３３秒）から、クリア後報知の実行によって報知の実行が保留されていた期間（ｔ１０のタイミング～ｔ１１のタイミングの期間）を引いた残りの期間となる。これにより、クリア後報知の完了後に続けて本体閉鎖報知が実行される場合において、クリア後報知及び本体閉鎖報知の合計の報知期間が過剰に長くなってしまわないようにすることが可能となる。

【３４３３】

次に、音光側ＣＰＵ３５３にて実行される演出制御処理について図２６６のフローチャートを参照しながら説明する。なお、演出制御処理は音光側ＣＰＵ３５３への動作電力の供給が開始された場合に比較的短い周期（例えば５ミリ秒）で繰り返し実行される。

【３４３４】

主側ＣＰＵ６３から確認開始コマンドを受信している場合（ステップＳＨ１０１：ＹＥＳ）、確認時報知の設定処理を実行する（ステップＳＨ１０２）。確認開始コマンドは既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図２５８）が開始される場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。確認時報知の設定処理では、設定確認用処理（図２５８）が実行されていることを示す画像及び設定確認用処理（図２５８）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定確認用処理（図２５８）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。

【３４３５】

主側ＣＰＵ６３から更新開始コマンドを受信している場合（ステップＳＨ１０３：ＹＥＳ）、更新時報知の設定処理を実行する（ステップＳＨ１０４）。更新開始コマンドは既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図２５９）が開始された場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。更新時報知の設定処理では、設定値更新処理（図２５９）が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理（図２５９）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。これにより、設定値を変更している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定値を変更させるために必要な操作内容及び設定値更新処理（図２５９）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。

【３４３６】

主側ＣＰＵ６３から確認時の復帰コマンドを受信している場合（ステップＳＨ１０５：ＹＥＳ）、確認時報知の終了処理を実行する（ステップＳＨ１０６）。確認時の復帰コマンドは既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図２５８）が終了される場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。確認時報知の終了処理では、ステップＳＨ１０２にて開始した設定確認用処理（図２５８）に対応する報知を終了させる。その後、確認後報知用テーブル５２１を音光側ＲＯＭ３５４から読み出して音光側ＲＡＭ３５５の第１実行エリア５３１に書き込む（ステップＳＨ１０７）。これにより、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて確認後報知が開始される。

【３４３７】

主側ＣＰＵ６３からクリア完了コマンドを受信している場合（ステップＳＨ１０８：ＹＥＳ）、更新時報知の終了処理を実行する（ステップＳＨ１０９）。クリア完了コマンドは既に説明したとおり主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図２５９）が終了される場合又は設定値更新処理（図２５９）の実行を伴わない主側ＲＡＭ６５のクリア処理が終了される場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。更新時報知の終了処理では、ステップＳＨ１０４にて更新時報知の設定処理が実行された後である状況であれば、当該更新時報知の設定処理にて開始した設定値更新処理（図２５９）に対応する報知を終了させる。その後、クリア後報知用テーブル５２２を音光側ＲＯＭ３５４から読み出して音光側ＲＡＭ３５５の第１実行エリア５３１に書き込む（ステップＳＨ１１０）。これにより、表示発光部５３及びスピーカ部５４にてクリア後報知が開始される。

【３４３８】

主側ＣＰＵ６３から本体開放コマンド又は前扉開放コマンドを受信している場合（ステップＳＨ１１１：ＹＥＳ）、今回受信した開放コマンドに対応する開放報知用テーブル５２３，５２５を音光側ＲＯＭ３５４から読み出して音光側ＲＡＭ３５５の第２実行エリア５３２に書き込む（ステップＳＨ１１２）。具体的には、本体開放コマンドを受信している場合には本体開放報知用テーブル５２３を音光側ＲＯＭ３５４から読み出して音光側ＲＡＭ３５５の第２実行エリア５３２に書き込む。また、前扉開放コマンドを受信している場合には前扉開放報知用テーブル５２５を音光側ＲＯＭ３５４から読み出して音光側ＲＡＭ３５５の第２実行エリア５３２に書き込む。これにより、第１実行エリア５３１に報知用テーブル５２１，５２２が設定されていないことを条件として、第２実行エリア５３２に設定された開放報知用テーブル５２３，５２５に対応する報知が表示発光部５３及びスピーカ部５４にて開始される。

【３４３９】

主側ＣＰＵ６３から本体閉鎖コマンド又は前扉閉鎖コマンドを受信している場合（ステップＳＨ１１３：ＹＥＳ）、今回受信した閉鎖コマンドに対応する閉鎖報知用テーブル５２４，５２６を音光側ＲＯＭ３５４から読み出して音光側ＲＡＭ３５５の第３実行エリア５３３に書き込む（ステップＳＨ１１４）。具体的には、本体閉鎖コマンドを受信してい

る場合には本体閉鎖報知用テーブル５２４を音光側ＲＯＭ３５４から読み出して音光側ＲＡＭ３５５の第３実行エリア５３３に書き込む。また、前扉閉鎖コマンドを受信している場合には前扉閉鎖報知用テーブル５２６を音光側ＲＯＭ３５４から読み出して音光側ＲＡＭ３５５の第３実行エリア５３３に書き込む。これにより、第１実行エリア５３１に報知用テーブル５２１，５２２が設定されていないこと及び第２実行エリア５３２に報知用テーブル５２３，５２５が設定されていないことを条件として、第３実行エリア５３３に設定された閉鎖報知用テーブル５２４，５２６に対応する報知が表示発光部５３及びスピーカ部５４にて開始される。

【３４４０】

演出制御処理では上記各処理以外にもステップＳＨ１１５にてその他の処理を実行し、ステップＳＨ１１６にてタスク処理を実行する。その他の処理では、遊技回用の演出を開始させるべきコマンドを主側ＣＰＵ６３から受信した場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて遊技回用の演出を開始させるための設定を行い、遊技回用の演出を進行させるべき状況である場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて遊技回用の演出を進行させるための設定を行い、遊技回用の演出を終了させるべき状況である場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて遊技回用の演出を終了させるための設定を行う。また、その他の処理では、開閉実行モード用の演出を開始させるべきコマンドを主側ＣＰＵ６３から受信した場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて開閉実行モード用の演出を開始させるための設定を行い、開閉実行モード用の演出を進行させるべき状況である場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて開閉実行モード用の演出を進行させるための設定を行い、開閉実行モード用の演出を終了させるべき状況である場合には図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４にて開閉実行モード用の演出を終了させるための設定を行う。

【３４４１】

上記各種演出を実行させる場合、当該演出を実行させるために参照される演出実行用テーブルが音光側ＲＡＭ３５５に設けられた演出実行用エリア５３４に読み出される（図２６２参照）。演出実行用エリア５３４は第１実行エリア５３１、第２実行エリア５３２及び第３実行エリア５３３よりも実行優先度が低いエリアに設定されている。したがって、演出実行用エリア５３４に設定された演出実行用テーブルに対応する演出が表示発光部５３及びスピーカ部５４にて実行されている状況において第１実行エリア５３１、第２実行エリア５３２及び第３実行エリア５３３のいずれかに報知用テーブル５２１～５２６が設定された場合には、表示発光部５３及びスピーカ部５４においてはその報知用テーブル５２１～５２６に対応する報知が演出よりも優先して実行される。

【３４４２】

その一方、演出実行用エリア５３４に設定された演出実行用テーブルに対応する演出は図柄表示装置４１においても行われ、当該図柄表示装置４１における表示演出は報知用テーブル５２１～５２６に対応する報知が優先して実行されている状況であっても継続して実行される。これにより、報知用テーブル５２１～５２６に対応する報知の実行に伴って全ての演出の実行が停止されてしまうという事象が発生してしまわないようにすることが可能となる。

【３４４３】

また、報知用テーブル５２１～５２６に対応する報知が演出よりも優先して実行されている状況であっても演出実行用エリア５３４に設定された演出演出用テーブルにおける参照対象のポインタ情報の更新は更新タイミングとなる度に実行される。したがって、優先して実行されている報知が終了して表示発光部５３及びスピーカ部５４における演出の実行が再開された場合に、図柄表示装置４１におけるその時点の表示演出に対応する演出を表示発光部５３及びスピーカ部５４にて再開させることが可能となる。

【３４４４】

次に、ステップＳＨ１１６にて実行されるタスク処理について図２６７のフローチャー

トを参照しながら説明する。
【３４４５】
第１実行エリア５３１に確認後報知用テーブル５２１又はクリア後報知用テーブル５２２が設定されている場合（ステップＳＨ２０１：ＹＥＳ）、第１実行エリア５３１のポインタ更新処理を実行する（ステップＳＨ２０２）。当該ポインタ更新処理では、第１実行エリア５３１に設定されている報知用テーブル５２１，５２２における参照対象のポインタ情報を前回更新してから４０ミリ秒の更新周期が経過していることを条件として、当該報知用テーブル５２１，５２２における参照対象のポインタ情報を次の順番のポインタ情報に更新する。また、当該ポインタ情報の更新後において参照対象のポインタ情報が報知用テーブル５２１，５２２における最後の順番のポインタ情報を超えた場合には第１実行エリア５３１から報知用テーブル５２１，５２２を消去する。
【３４４６】
ステップＳＨ２０１にて否定判定をした場合、又はステップＳＨ２０２の処理を実行した場合、第２実行エリア５３２に本体開放報知用テーブル５２３又は前扉開放報知用テーブル５２５が設定されているか否かを判定する（ステップＳＨ２０３）。ステップＳＨ２０３にて肯定判定をした場合、第２実行エリア５３２のポインタ更新処理を実行する（ステップＳＨ２０４）。当該ポインタ更新処理では、第２実行エリア５３２に設定されている報知用テーブル５２３，５２５における参照対象のポインタ情報を前回更新してから４０ミリ秒の更新周期が経過していることを条件として、当該開放報知用テーブル５２３，５２５における参照対象のポインタ情報を次の順番のポインタ情報に更新する。また、当該ポインタ情報の更新後において参照対象のポインタ情報が開放報知用テーブル５２３，５２５における最後の順番のポインタ情報を超えた場合には参照対象のポインタ情報を最初の順番のポインタ情報に修正する。また、第２実行エリア５３２に本体開放報知用テーブル５２３が設定されている状況であれば主側ＣＰＵ６３から本体閉鎖コマンドを受信している場合には第２実行エリア５３２から本体開放報知用テーブル５２３を消去し、第２実行エリア５３２に前扉開放報知用テーブル５２５が設定されている状況であれば主側ＣＰＵ６３から前扉閉鎖コマンドを受信している場合には第２実行エリア５３２から前扉開放報知用テーブル５２５を消去する。
【３４４７】
ステップＳＨ２０３にて否定判定をした場合、又はステップＳＨ２０４の処理を実行した場合、第３実行エリア５３３に本体閉鎖報知用テーブル５２４又は前扉閉鎖報知用テーブル５２６が設定されているか否かを判定する（ステップＳＨ２０５）。ステップＳＨ２０５にて肯定判定をした場合、第３実行エリア５３３のポインタ更新処理を実行する（ステップＳＨ２０６）。当該ポインタ更新処理では、第３実行エリア５３３に設定されている閉鎖報知用テーブル５２４，５２６における参照対象のポインタ情報を前回更新してから４０ミリ秒の更新周期が経過していることを条件として、当該閉鎖報知用テーブル５２４，５２６における参照対象のポインタ情報を次の順番のポインタ情報に更新する。また、当該ポインタ情報の更新後において参照対象のポインタ情報が閉鎖報知用テーブル５２４，５２６における最後の順番のポインタ情報を超えた場合には第３実行エリア５３３から報知用テーブル５２４，５２６を消去する。
【３４４８】
ステップＳＨ２０５にて否定判定をした場合、又はステップＳＨ２０６の処理を実行した場合、演出実行用エリア５３４に演出実行用テーブルが設定されているか否かを判定する（ステップＳＨ２０７）。ステップＳＨ２０７にて肯定判定をした場合、演出実行用エリア５３４のポインタ更新処理を実行する（ステップＳＨ２０８）。当該ポインタ更新処理では、演出実行用エリア５３４に設定されている演出実行用テーブルにおける参照対象のポインタ情報を前回更新してから４０ミリ秒の更新周期が経過していることを条件として、当該演出実行用テーブルにおける参照対象のポインタ情報を次の順番のポインタ情報に更新する。また、当該ポインタ情報の更新後において参照対象のポインタ情報が演出実行用テーブルにおける最後の順番のポインタ情報を超えた場合には演出実行用エリア５３

４から演出実行用テーブルを消去する。
【３４４９】
ステップＳＨ２０７にて否定判定をした場合、又はステップＳＨ２０８の処理を実行した場合、第１実行エリア５３１に確認後報知用テーブル５２１又はクリア後報知用テーブル５２２が設定されているか否かを判定する（ステップＳＨ２０９）。ステップＳＨ２０９にて肯定判定をした場合、第１実行エリア５３１に設定されている報知用テーブル５２１，５２２における現状の参照対象のポインタ情報に対応する発光制御用データを利用して表示発光部５３を発光制御するとともに当該参照対象のポインタ情報に対応する音出力制御用データを利用してスピーカ部５４を音出力制御する（ステップＳＨ２１０）。ステップＳＨ２１０の処理を実行した後、本タスク処理を終了する。
【３４５０】
ステップＳＨ２０９にて否定判定をした場合、第２実行エリア５３２に本体開放報知用テーブル５２３又は前扉開放報知用テーブル５２５が設定されているか否かを判定する（ステップＳＨ２１１）。ステップＳＨ２１１にて肯定判定をした場合、第２実行エリア５３２に設定されている報知用テーブル５２３，５２５における現状の参照対象のポインタ情報に対応する発光制御用データを利用して表示発光部５３を発光制御するとともに当該参照対象のポインタ情報に対応する音出力制御用データを利用してスピーカ部５４を音出力制御する（ステップＳＨ２１２）。ステップＳＨ２１２の処理を実行した後、本タスク処理を終了する。
【３４５１】
ステップＳＨ２１１にて否定判定をした場合、第３実行エリア５３３に本体閉鎖報知用テーブル５２４又は前扉閉鎖報知用テーブル５２６が設定されているか否かを判定する（ステップＳＨ２１３）。ステップＳＨ２１３にて肯定判定をした場合、第３実行エリア５３３に設定されている報知用テーブル５２４，５２６における現状の参照対象のポインタ情報に対応する発光制御用データを利用して表示発光部５３を発光制御するとともに当該参照対象のポインタ情報に対応する音出力制御用データを利用してスピーカ部５４を音出力制御する（ステップＳＨ２１４）。ステップＳＨ２１４の処理を実行した後、本タスク処理を終了する。
【３４５２】
ステップＳＨ２１３にて否定判定をした場合、演出実行用エリア５３４に演出実行用エリアが設定されているか否かを判定する（ステップＳＨ２１５）。ステップＳＨ２１５にて肯定判定をした場合、演出実行用エリア５３４に設定されている演出実行用テーブルにおける現状の参照対象のポインタ情報に対応する発光制御用データを利用して表示発光部５３を発光制御するとともに当該参照対象のポインタ情報に対応する音出力制御用データを利用してスピーカ部５４を音出力制御する（ステップＳＨ２１６）。ステップＳＨ２１５にて否定判定をした場合又はステップＳＨ２１６の処理を実行した後、本タスク処理を終了する。
【３４５３】
以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。
【３４５４】
設定値更新処理（図２５９）が実行された場合にはＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行されることで特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２のそれぞれの初期化対象のエリアが初期化される。これにより、設定値更新処理（図２５９）が実行された場合には初期化対象のエリアが初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。また、このように初期化対象のエリアが初期化される場合であっても現状の設定値の情報が記憶された設定参照用エリア３４１は初期化の対象から除外される。これにより、設定値に変動を与えないようにしながら、設定値更新処理（図２５９）が実行された場合には初期化対象のエリアが初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。
【３４５５】

設定値更新処理（図２５９）が実行されてＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行された場合には主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ３５３にクリア完了コマンドが送信されることでクリア後報知が実行される。遊技ホールの管理者はこのクリア後報知が実行されていることを確認することでＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行されたことを把握することが可能となるとともに設定値更新処理（図２５９）が実行された可能性があることを把握することが可能となる。

【３４５６】

クリア後報知は表示発光部５３及びスピーカ部５４にて実行されるため、遊技ホールの管理者は遊技機本体１２の開放操作を要することなくクリア後報知を確認することが可能となる。よって、遊技ホールの管理者はＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行されたことを把握し易くなるとともに設定値更新処理（図２５９）が実行された可能性があることを把握し易くなる。

【３４５７】

クリア後報知は設定値更新処理（図２５９）が実行された後に３０秒が経過するまで実行されるため、クリア後報知が実行されていることを遊技ホールの管理者が把握し易くなる。

【３４５８】

クリア後報知が実行されている状況であっても遊技を進行させるための処理が実行されるため、遊技の進行を阻害しないようにしながらクリア後報知を実行することが可能となる。

【３４５９】

設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されていない状況であってもリセットボタン６８ｃを押圧操作しながら電源のＯＮ操作が行われた場合には、設定値更新処理（図２５９）が実行されない状況においてＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行される。この場合に、設定値更新処理（図２５９）においてＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行される場合及び設定値更新処理（図２５９）が実行されない状況でＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行される場合のいずれであっても同一のサブルーチンが呼び出されることで、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２のそれぞれの初期化対象のエリアが初期化されるとともにクリア後報知を実行させるための処理が実行される。これにより、処理構成の簡素化を図りながら、上記各状況において、初期化対象のエリアを初期化するための処理及びクリア後報知を実行させるための処理を実行することが可能となる。

【３４６０】

遊技機本体１２を開放状態として設定キー挿入部６８ａをＯＮ操作するとともにリセットボタン６８ｃを押圧操作した状態で電源のＯＮ操作を行うことで設定値更新処理（図２５９）が実行される構成において、遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態となったことに基づいて本体閉鎖報知が実行される。これにより、設定値更新処理（図２５９）を不正に実行させるべく遊技機本体１２を開放状態とした後に実際には設定値更新処理（図２５９）を不正に実行させることなく遊技機本体１２が閉鎖状態とされた場合であっても、当該閉鎖状態とされた後において本体閉鎖報知が実行されるため、当該不正行為の有無を遊技ホールの管理者が把握することが可能となる。

【３４６１】

クリア後報知の方が本体閉鎖報知よりも実行の優先度が高く設定されている。これにより、遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態とされたか否かを報知することを可能としながら、設定値更新処理（図２５９）が実行されたことを直接的に報知することが可能となる。

【３４６２】

本体閉鎖報知は報知実行の優先度の関係で実行が阻害されない場合には遊技機本体１２が閉鎖状態となってから３３秒に亘って実行される構成において、本体閉鎖報知よりもクリア後報知が優先して実行された場合であって遊技機本体１２が閉鎖状態とされた後に３３秒が経過する前にクリア後報知が終了した場合、当該３３秒の残り期間に亘ってクリア

後報知が実行される。これにより、クリア後報知の方が本体閉鎖報知よりも実行の優先度を高くした構成において、クリア後報知が終了した後に本体閉鎖報知が実行され得るようにすることが可能となる。また、このようにクリア後報知が終了した後に本体閉鎖報知が実行される場合であってもその実行期間は、遊技機本体１２が閉鎖状態とされた後にクリア後報知が終了するまでに要した期間を３３秒から減算した残りの期間となる。これにより、クリア後報知の終了後に本体閉鎖報知が実行される場合においてそれら報知の合計の実行期間が過剰に長くなってしまわないようにすることが可能となる。

【３４６３】

本体閉鎖報知の実行期間はクリア後報知の実行期間よりも長い期間に設定されている。これにより、本体閉鎖報知よりもクリア後報知が優先して実行される場合であってもクリア後報知の終了後には本体閉鎖報知の実行期間を担保することが可能となる。

【３４６４】

設定確認用処理（図２５８）が実行された場合には主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ５３に確認時の復帰コマンドが送信されることで確認後報知が実行される。遊技ホールの管理者はこの確認後報知が実行されていることを確認することで設定確認用処理（図２５８）が実行されたことを把握することが可能となる。

【３４６５】

確認後報知は表示発光部５３及びスピーカ部５４にて実行されるため、遊技ホールの管理者は遊技機本体１２の開放操作を要することなく確認後報知を確認することが可能となる。よって、遊技ホールの管理者は設定確認用処理（図２５８）が実行されたことを把握し易くなる。

【３４６６】

確認後報知は設定確認用処理（図２５８）が実行された後に３０秒が経過するまで実行されるため、確認後報知が実行されていることを遊技ホールの管理者が把握し易くなる。

【３４６７】

確認後報知が実行されている状況であっても遊技を進行させるための処理が実行されるため、遊技の進行を阻害しないようにしながら確認後報知を実行することが可能となる。

【３４６８】

遊技機本体１２を開放状態として設定キー挿入部６８ａをＯＮ操作した状態で電源のＯＮ操作を行うことで設定確認用処理（図２５８）が実行される構成において、遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態となったことに基づいて本体閉鎖報知が実行される。これにより、設定確認用処理（図２５８）を不正に実行させるべく遊技機本体１２を開放状態とした後に実際には設定確認用処理（図２５８）を不正に実行させることなく遊技機本体１２が閉鎖状態とされた場合であっても当該閉鎖状態とされた後において本体閉鎖報知が実行されるため、当該不正行為の有無を遊技ホールの管理者が把握することが可能となる。

【３４６９】

確認後報知の方が本体閉鎖報知よりも実行の優先度が高く設定されている。これにより、遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態とされたか否かを報知することを可能としながら設定確認用処理（図２５８）が実行されたことを直接的に報知することが可能となる。

【３４７０】

本体閉鎖報知は報知実行の優先度の関係で実行が阻害されない場合には遊技機本体１２が閉鎖状態となってから３３秒に亘って実行される構成において、本体閉鎖報知よりも確認後報知が優先して実行された場合であって遊技機本体１２が閉鎖状態とされた後に３３秒が経過する前に確認後報知が終了した場合、当該３３秒の残り期間に亘って確認後報知が実行される。これにより、確認後報知の方が本体閉鎖報知よりも実行の優先度を高くした構成において、確認後報知が終了した後に本体閉鎖報知が実行され得るようにすることが可能となる。また、このように確認後報知が終了した後に本体閉鎖報知が実行される場合であってもその実行期間は、遊技機本体１２が閉鎖状態とされた後に確認後報知が終了するまでに要した期間を３３秒から減算した残りの期間となる。これにより、確認後報知の終了後に本体閉鎖報知が実行される場合においてそれら報知の合計の実行期間が過剰に

長くなってしまわないようにすることが可能となる。

【３４７１】

本体閉鎖報知の実行期間は確認後報知の実行期間よりも長い期間に設定されている。これにより、本体閉鎖報知よりも確認後報知が優先して実行される場合であっても確認後報知の終了後には本体閉鎖報知の実行期間を担保することが可能となる。

【３４７２】

なお、設定確認用処理（図２５８）が実行された場合にもＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行される構成としてもよい。この場合、設定値の確認が行われて設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ操作された場合にＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行されることで特定制御用のワークエリア２２１における設定参照用エリア３４１以外のエリアが初期化されるとともに特定制御用のスタックエリア２２２が初期化され、さらにクリア完了コマンドが送信されることで表示発光部５３及びスピーカ部５４にてクリア後報知が行われることとなる。当該構成においてはクリア後報知が実行されるため確認後報知が実行されない。つまり、当該構成においては設定確認用処理（図２５８）、設定値更新処理（図２５９）及びＲＡＭクリア処理（図２６０）のいずれが実行された場合であっても共通の報知が実行されることとなる。

【３４７３】

また、設定値更新処理（図２５９）が実行された場合及びＲＡＭクリア処理（図２６０）が単独で実行された場合のいずれであっても共通のクリア後報知が実行される構成としたが、これに限定されることはなく、設定値更新処理（図２５９）が実行された場合とＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行された場合とで異なる報知が実行される構成としてもよい。

【３４７４】

また、本体閉鎖報知の報知期間は３３秒に限定されることはなく３３秒よりも長い期間としてもよく３３秒よりも短い期間としてもよい。また、本体閉鎖報知の報知期間が確認後報知及びクリア後報知の報知期間である３０秒よりも長い期間である構成に限定されることはなく、本体閉鎖報知の報知期間が確認後報知及びクリア後報知の報知期間と同一である構成としてもよく、本体閉鎖報知の報知期間が確認後報知及びクリア後報知の報知期間よりも短い構成としてもよい。

【３４７５】

また、本体開放報知の報知期間は遊技機本体１２が開放状態となってから閉鎖状態となるまでである構成に限定されることはなく、遊技機本体１２が開放状態となってから予め定められた固定期間に亘って本体開放報知が実行される構成としてもよい。この場合、確認後報知及びクリア後報知の方が本体開放報知よりも報知の実行優先度が高く設定されているため、確認後報知又はクリア後報知が終了した段階において本体開放報知の報知期間が残っている場合にはその残り期間に亘って本体開放報知が実行されることとなる。

【３４７６】

また、遊技機本体１２を開放状態としながらパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われた場合には本体開放報知が行われない構成に代えて、遊技機本体１２を開放状態としながらパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われた場合であっても本体開放報知が行われる構成としてもよい。この場合、設定確認用処理（図２５８）や設定値更新処理（図２５９）が実行されている状況であっても表示発光部５３及びスピーカ部５４にて本体開放報知の実行が継続されることとなる。また、確認後報知又はクリア後報知を実行すべき状況となった場合には報知実行の優先度の関係で本体開放報知が終了される。確認後報知又はクリア後報知が実行されている状況において遊技機本体１２が閉鎖された場合にはそのまま本体開放報知は実行されないことになる。この場合、確認後報知又はクリア後報知が終了した後に本体閉鎖報知が当該本体閉鎖報知の実行期間の残り期間に亘って実行されることとなる。一方、確認後報知又はクリア後報知が実行されている状況において遊技機本体１２が閉鎖されなかった場合には確認後報知又はクリア後報知が終了した後に本体開放報知が再開される。

【３４７７】
　また、設定値更新処理（図２５９）では開始時の初期設定（ステップＳＧ７０３）に代えてＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行されることでステップＳＧ７１３ではＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行されない構成としてもよい。この場合、当該ＲＡＭクリア処理（図２６０）にてクリア完了コマンドが送信される構成としてもよく、当該ＲＡＭクリア処理（図２６０）ではクリア完了コマンドが送信されることなくその代わりにステップＳＧ７０８にて肯定判定をした後にクリア完了コマンドが送信される構成としてもよい。
【３４７８】
　また、主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ３５３に確認時の復帰コマンドが送信される場合には設定確認用処理（図２５８）が実行されたことに対応する外部出力が遊技ホールの管理コンピュータに対して行われる構成としてもよい。また、主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ３５３にクリア完了コマンドが送信される場合にはＲＡＭクリア処理（図２６０）が実行されたことに対応する外部出力が遊技ホールの管理コンピュータに対して行われる構成としてもよい。
【３４７９】
　＜第７５の実施形態＞
　本実施形態ではパチンコ機１０の有利度を決定付ける「設定１」～「設定６」の設定値のうち現状のパチンコ機１０において設定されている設定値を遊技者に予測させることを可能とする演出が実行される点で上記第３５の実施形態と相違している。以下、上記第３５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【３４８０】
　図２６８は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。なお、第１タイマ割込み処理におけるステップＳＨ３０１～ステップＳＨ３２０の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。また、第１タイマ割込み処理は上記第３５の実施形態と同様に第１割込み周期である４ミリ秒周期で定期的に起動される。
【３４８１】
　ステップＳＨ３０１～ステップＳＨ３０５では上記第１の実施形態におけるタイマ割込み処理（図１１）のステップＳ３０１～ステップＳ３０５及び上記第３５の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５と同一の処理を実行する。すなわち、ステップＳＨ３０１にて停電情報記憶処理を実行することで停電監視を実行する。具体的には、上記第３０の実施形態における停電情報記憶処理（図１０１）と同様に、停電監視基板６７から電源遮断の発生に対応した停電信号を受信しているか否かを監視し、停電の発生を特定した場合には停電時処理を実行した後に無限ループとなる。停電時処理では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１に保存する。また、ステップＳＨ３０２にて抽選用乱数更新処理を実行することで当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び普電役物開放カウンタＣ４の各数値情報を更新し、ステップＳＨ３０３にて乱数初期値更新処理を実行することで乱数初期値カウンタＣＩＮＩの数値情報を更新し、ステップＳＨ３０４にて変動用カウンタ更新処理を実行することで変動種別カウンタＣＳの数値情報を更新する。また、ステップＳＨ３０５にて不正検知処理を実行することで不正用の監視対象として設定されている事象が発生しているか否かを監視する。当該不正検知処理では、複数種類の事象の発生を監視し、これら複数種類の事象のうちいずれかが発生していることを確認することで、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグに「１」をセットする。
【３４８２】
　ステップＳＨ３０１～ステップＳＨ３０５の処理を実行した後は、上記第３５の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９０６と同様に、特定制御

用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＨ３０６）。立ち上げ処理中フラグは、上記第３５の実施形態と同様に、第１タイマ割込み処理（図２６８）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図２６８）に設定されている各種処理のうち停電監視（ステップＳＨ３０１）、各種カウンタの更新（ステップＳＨ３０２～ステップＳＨ３０４）及び不正監視（ステップＳＨ３０５）を行うための処理は実行する一方、遊技を進行させるための処理（ステップＳＨ３０７～ステップＳＨ３２０）を実行することなく当該第１タイマ割込み処理（図２６８）を終了すべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。なお、立ち上げ処理中フラグは、上記第３５の実施形態と同様にメイン処理（図１３２）が立ち上げられて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳ８８０１～ステップＳ８８１９）が開始された場合に「１」がセットされ、当該動作電力の供給開始時の処理（ステップＳ８８０１～ステップＳ８８１９）が終了する場合に「０」クリアされる。

【３４８３】

遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグの少なくとも一方に「１」がセットされている場合（ステップＳＨ３０６：ＹＥＳ）、ステップＳＨ３０７～ステップＳＨ３２０の処理を実行することなく本第１タイマ割込み処理（図２６８）を終了する。つまり、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況だけではなく立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされている場合にも、第１タイマ割込み処理（図２６８）においてステップＳＨ３０１～ステップＳＨ３０５の処理を実行する一方、ステップＳＨ３０７～ステップＳＨ３２０の処理を実行しない。

【３４８４】

遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれにも「１」がセットされていない場合（ステップＳＨ３０６：ＮＯ）、ステップＳＨ３０７～ステップＳＨ３２０の処理を実行する。具体的には、ステップＳＨ３０７では、ポート出力処理を実行する。ポート出力処理では、前回の第１タイマ割込み処理において出力情報の設定が行われている場合に、その出力情報に対応した出力を各種駆動部３２ｂ，３４ｂに行うための処理を実行する。

【３４８５】

その後、読み込み処理を実行する（ステップＳＨ３０８）。読み込み処理では、停電信号及び入賞信号以外の信号の読み込みを実行し、その読み込んだ情報を今後の処理にて利用するために記憶する。

【３４８６】

その後、入球検知処理を実行する（ステップＳＨ３０９）。当該入球検知処理では、各入球検知センサ４２ａ～４９ａから受信している信号を読み込み、その読み込み結果に基づいて、アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４及びスルーゲート３５への入球の有無を特定する。

【３４８７】

その後、主側ＲＡＭ６５に設けられている複数種類のタイマカウンタの数値情報をまとめて更新するためのタイマ更新処理を実行する（ステップＳＨ３１０）。この場合、記憶されている数値情報が減算されて更新されるタイマカウンタを集約して扱う構成であるが、減算式のタイマカウンタの更新及び加算式のタイマカウンタの更新の両方を集約して行う構成としてもよい。

【３４８８】

その後、遊技球の発射制御を行うための発射制御処理を実行する（ステップＳＨ３１１）。発射操作装置２８への発射操作が継続されている状況では、所定の発射周期である０．６秒に１個の遊技球が発射される。続くステップＳＨ３１２では、入力状態監視処理として、ステップＳＨ３０８の読み込み処理にて読み込んだ情報に基づいて、各入球検知センサ４２ａ～４９ａの断線確認や、遊技機本体１２や前扉枠１４の開放確認を行う。

【３４８９】

その後、遊技回の実行制御及び開閉実行モードの実行制御を行うための特図特電制御処

理を実行する（ステップＳＨ３１３）。特図特電制御処理については後に説明する。
【３４９０】
その後、普図普電制御処理を実行する（ステップＳＨ３１４）。普図普電制御処理では、スルーゲート３５への入賞が発生している場合に普図側の保留情報を取得するための処理を実行するとともに、普図側の保留情報が記憶されている場合にその保留情報について開放判定を行い、さらにその開放判定を契機として普図用の演出を行うための処理を実行する。また、開放判定の結果に基づいて、第２作動口３４の普電役物３４ａを開閉させる処理を実行する。この場合、サポートモードが低頻度サポートモードであればそれに対応する処理が実行され、サポートモードが高頻度サポートモードであればそれに対応する処理が実行される。また、開閉実行モードである場合にはその直前のサポートモードが高頻度サポートモードであったとしても低頻度サポートモードとなる。
【３４９１】
続くステップＳＨ３１５では、直前のステップＳＨ３１３及びステップＳＨ３１４の処理結果に基づいて、特図表示部３７ａに係る保留情報の増減個数を特図保留表示部３７ｂに反映させるための出力情報の設定を行うとともに、普図表示部３８ａに係る保留情報の増減個数を普図保留表示部３８ｂに反映させるための出力情報の設定を行う。また、ステップＳＨ３１５では、直前のステップＳＨ３１３及びステップＳＨ３１４の処理結果に基づいて、特図表示部３７ａの表示内容を更新させるための出力情報の設定を行うとともに、普図表示部３８ａの表示内容を更新させるための出力情報の設定を行う。
【３４９２】
その後、払出制御装置７７から受信したコマンド及び信号の内容を確認し、その確認結果に対応した処理を行うための払出状態受信処理を実行する（ステップＳＨ３１６）。また、賞球コマンドを出力対象として設定するための払出出力処理を実行する（ステップＳＨ３１７）。また、今回の第１タイマ割込み処理にて実行された各種処理の処理結果に応じた外部信号の出力の開始及び終了を制御するための外部情報設定処理を実行する（ステップＳＨ３１８）。
【３４９３】
その後、設定監視処理を実行し（ステップＳＨ３１９）、さらに管理用処理を実行する（ステップＳＨ３２０）。設定監視処理では、上記第３３の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１１７）のステップＳ８２２０と同様の処理を実行する。具体的には、主側ＲＡＭ６５の特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値が「設定１」～「設定６」のいずれかに対応しているか否かを判定する。設定値カウンタの値が「０」又は「７」以上である場合には設定値が異常であると判定し、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」をセットする。
【３４９４】
遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図２６８）のステップＳＨ３０６にて肯定判定をすることでステップＳＨ３０７～ステップＳＨ３２０の処理が実行されない状況となる。これにより、設定値が異常であることが特定された場合には遊技の進行が停止された状態となる。その一方、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況であっても第１タイマ割込み処理（図２６８）におけるステップＳＨ３０１～ステップＳＨ３０５の処理が実行されるため、遊技の進行が停止されている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。
【３４９５】
遊技停止フラグに「１」をセットした後は、設定値が異常であることを示す異常コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を設定値異常に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定変更をして下さい。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。これ

ら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。また、パチンコ機１０への動作電力の供給が一旦停止されたとしても上記第３５の実施形態におけるメイン処理（図１３２）の設定値更新処理（ステップＳ８８１９）が実行されるまではパチンコ機１０への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が継続されるとともに遊技停止フラグに「１」がセットされた状態が維持される。遊技の進行が停止されている状況において上記報知を確認した遊技ホールの管理者は、パチンコ機１０への動作電力の供給を一旦停止させて、その後にパチンコ機１０への動作電力の供給を再開させる場合に設定値更新処理（ステップＳ８８１９）が実行されるようにするための操作を行うこととなる。これにより、設定値異常が発生した場合には設定値更新処理（ステップＳ８８１９）にて設定値の新たな設定が行われるようにすることが可能となる。

【３４９６】

設定値が異常であるか否かの監視処理が、定期的に起動される第１タイマ割込み処理（図２６８）にて実行される。これにより、設定値が異常であるか否かの監視を遊技が行われている状況であっても行うことが可能となる。よって、設定値が異常であるにも関わらず遊技が継続されてしまわないようにすることが可能となる。また、設定値が異常であるか否かの監視は監視契機が発生する度に実行される。これにより、設定値が異常であるか否かを監視する頻度を高めることが可能となる。

【３４９７】

次に、ステップＳＨ３２０にて実行される管理用処理について説明する。管理用処理では上記第１５の実施形態における管理用処理（図７０）と同様に管理実行処理を実行するとともに、当該管理実行処理においては非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用してチェック処理を実行する。図２６９は主側ＣＰＵ６３にて実行されるチェック処理を示すフローチャートである。

【３４９８】

チェック処理では、前扉枠１４が開放状態である場合には（ステップＳＨ４０１：ＹＥＳ）、通常の入球管理処理（ステップＳＨ４０４）、開閉実行モード中の入球管理処理（ステップＳＨ４０５）及び高頻度サポートモード中の入球管理処理（ステップＳＨ４０６）のいずれも実行することなく、結果演算処理（ステップＳＨ４０７）及び表示用処理（ステップＳＨ４０８）を実行する。前扉枠１４に設けられた窓パネル５２の裏面と遊技盤２４の前面によって前後に区画された空間によって遊技領域ＰＡが形成されているため、前扉枠１４が開放状態となった場合には遊技領域ＰＡが前方に向けて開放された状態となりその状況で遊技領域ＰＡに向けて遊技球が発射されたとしてもその遊技球は遊技領域ＰＡを正常に流下することはできない。また、前扉枠１４が開放状態である状況で入球部２４ａ，３１～３４への遊技球の入球が発生する場合というのは、メンテナンスや不具合の解消のために遊技ホールの管理者により前扉枠１４が開放状態とされて手入れなどにより遊技球の入球が発生する場合である。このような遊技球の入球は正規の遊技の実行状況における遊技球の入球ではないため、そのような遊技球の入球を管理対象とする必要がない。したがって、チェック処理では上記のとおり前扉枠１４が開放状態である場合にはステップＳＨ４０４～ステップＳＨ４０６のいずれの処理も実行しない。

【３４９９】

前扉枠１４が閉鎖状態であって開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない場合（ステップＳＨ４０１～ステップＳＨ４０３：ＮＯ）、通常の入球管理処理を実行する（ステップＳＨ４０４）。また、前扉枠１４が閉鎖状態であって開閉実行モードである場合（ステップＳＨ４０１：ＮＯ、ステップＳＨ４０２：ＹＥＳ）、開閉実行モード中の入球管理処理を実行する（ステップＳＨ４０５）。また、前扉枠１４が閉鎖状態であって高頻度サポートモードである場合（ステップＳＨ４０１：ＮＯ、ステップＳＨ４０３：ＹＥＳ）、高頻度サポートモード中の入球管理処理を実行する（ステップＳＨ４０６）。通常の入球管理処理（ステップＳＨ４０４）の処理内容は上記第１５の実施形態におけるチェック処理（図７３）のステップＳ４００４と同様であり、開閉実行モード中の入球

管理処理（ステップＳＨ４０５）の処理内容は上記第１５の実施形態におけるチェック処理（図７３）のステップＳ４００５と同様であり、高頻度サポートモード中の入球管理処理（ステップＳＨ４０６）の処理内容は上記第１５の実施形態におけるチェック処理（図７３）のステップＳ４００６と同様である。

【３５００】

つまり、本実施形態においては上記第１５の実施形態と同様に、非特定制御用のワークエリア２２３には、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３が設けられている（図７２参照）。これら各エリア２３１～２３３のそれぞれには、一般入賞カウンタ２３１ａ，２３２ａ，２３３ａ、特電入賞カウンタ２３１ｂ，２３２ｂ，２３３ｂ、第１作動カウンタ２３１ｃ，２３２ｃ，２３３ｃ、第２作動カウンタ２３１ｄ，２３２ｄ，２３３ｄ、及びアウトカウンタ２３１ｅ，２３２ｅ，２３３ｅが設けられている。一般入賞カウンタ２３１ａ，２３２ａ，２３３ａは所定の計測開始契機からの一般入賞口３１への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。特電入賞カウンタ２３１ｂ，２３２ｂ，２３３ｂは所定の計測開始契機からの特電入賞装置３２への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。第１作動カウンタ２３１ｃ，２３２ｃ，２３３ｃは所定の計測開始契機からの第１作動口３３への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。第２作動カウンタ２３１ｄ，２３２ｄ，２３３ｄは所定の計測開始契機からの第２作動口３４への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。アウトカウンタ２３１ｅ，２３２ｅ，２３３ｅは所定の計測開始契機からのアウト口２４ａへの遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。

【３５０１】

通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅは、前扉枠１４が閉鎖状態となっている状況であって開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において対象となる入球部２４ａ，３１～３４に入球した遊技球の個数を計測するために利用される。この遊技球の個数の計測が通常の入球管理処理（ステップＳＨ４０４）にて実行される。開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅは、前扉枠１４が閉鎖状態となっている状況であって開閉実行モードである状況において対象となる入球部２４ａ，３１～３４に入球した遊技球の個数を計測するために利用される。この遊技球の個数の計測が開閉実行モード中の入球管理処理（ステップＳＨ４０５）にて実行される。高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅは、前扉枠１４が閉鎖状態となっている状況であって高頻度サポートモードである状況において対象となる入球部２４ａ，３１～３４に入球した遊技球の個数を計測するために利用される。この遊技球の個数の計測が高頻度サポートモード中の入球管理処理（ステップＳＨ４０６）にて実行される。

【３５０２】

なお、前扉枠１４が開放状態となっている状況が計測対象外となっているのは、前扉枠１４を開放した状態で入球部２４ａ，３１～３４に手入れで遊技球が入球された場合の入球個数を計測対象から除外するためである。但し、これに限定されることはなく前扉枠１４が開放状態となっている状況も前扉枠１４が閉鎖状態となっている状況と同様に計測対象とする構成としてもよい。

【３５０３】

非特定制御用のワークエリア２２３には、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３以外にも演算結果記憶エリア２３４が設けられている。演算結果記憶エリア２３４は、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３を利用して算出した遊技履歴の管理結果の情報を記憶するためのエリアである。演算結果記憶エリア２３４に記憶された遊技履歴の管理結果の情報は、遊技履歴の管理結果の情報が新たに算出されることで当該新たに算出された情報が上書きされるまで記憶保持される。

【３５０４】
チェック処理（図２６９）の説明に戻り、ステップＳＨ４０１にて肯定判定をした場合、ステップＳＨ４０４の処理を実行した場合、ステップＳＨ４０５の処理を実行した場合、又はステップＳＨ４０６の処理を実行した場合、ステップＳＨ４０７にて結果演算処理を実行し、ステップＳＨ４０８にて表示用処理を実行する。
【３５０５】
ステップＳＨ４０８の表示用処理では上記第１５の実施形態における表示用処理（図７６）と同様の処理を実行する。但し、ステップＳ４３０６では表示対象カウンタの値に対応するパラメータの種類に対応する表示種別データを表示対象設定エリア２７６に設定する。表示種別データは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の報知対象が第６１～第６８パラメータのうちいずれであるのかを示す表示を第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２に行わせるための表示データである。また、ステップＳ４３０７では表示対象カウンタの値に対応するパラメータを演算結果記憶エリア２３４から読み出し、その読み出したパラメータにおける少数点第１位の数字及び少数点第２位の数字に対応する演算結果データを表示対象設定エリア２７６に設定する。
【３５０６】
上記のように設定された表示種別データ及び演算結果データは第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００７にて第５表示データバッファ２７５に設定されることで、これら表示種別データ及び演算結果データに対応する表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。この場合、第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２では第６１～第６８パラメータのうちいずれのパラメータが報知対象となっているのかを示す表示が行われる。また、報知対象のパラメータにおける小数点第１位の数字に対応する表示が第３報知用表示装置２０３にて行われるとともに、報知対象のパラメータにおける小数点第２位の数字に対応する表示が第４報知用表示装置２０４にて行われる。なお、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における一のパラメータの表示は１０秒間継続され、１０秒間継続された後に次の順番の報知対象となるパラメータの表示に切り換えられる。
【３５０７】
図２７０はステップＳＨ４０７の結果演算処理を示すフローチャートである。
【３５０８】
まず非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＨ５０１）。管理開始フラグは、遊技履歴の管理結果を算出するための遊技履歴の収集を実行すべき状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。本実施形態ではパチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合（すなわちＭＰＵ６２への動作電力の供給が開始された場合）、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値に対応する個数以上となるまでは遊技履歴の管理結果を算出するための遊技履歴の収集を実行することなく、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値に対応する個数以上となった場合に遊技履歴の管理結果を算出するための遊技履歴の収集を実行する。パチンコ機１０の出荷段階などにおいては出荷前にパチンコ機１０の動作チェックが行われることがあり、その際には遊技球の試打ちが行われることがある。これに対して、パチンコ機１０への動作電力の供給開始後において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値以上となるまでは遊技履歴の管理結果を算出するための遊技履歴の収集を実行させないようにすることにより、上記のような動作チェック時における入球結果などが遊技履歴の管理結果を算出するための遊技履歴として収集されてしまわないようにすることが可能となる。
【３５０９】
ここで、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合（すなわちＭＰＵ６２への動作電力の供給が開始された場合）、管理開始フラグの値は「０」となっている。この場合、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２

３１ａ～２３１ｅの値、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅの値、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅの値も「０」となっている。一方、管理開始フラグの値が「１」である状況においてパチンコ機１０への動作電力の供給が停止され、その後に主側ＲＡＭ６５にバックアップ電力が供給されている状況においてパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には管理開始フラグの値が「１」のままとなる。この場合、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅの値、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅの値もパチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前の状態に維持される。上記構成であることにより管理開始フラグの値が「０」である場合には通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅの値、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅの値も「０」となる。

【３５１０】

ちなみに、メイン処理（図１３２）におけるステップＳ８８１６にてＲＡＭクリア処理が実行される場合、そのクリア処理の対象となるのは特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２であり、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４はクリア処理の対象から除外される。これにより、遊技ホールの管理者が意図的に非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアすることができない構成となっている。

【３５１１】

ステップＳＨ５０１にて否定判定をした場合、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅの値、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅの値を全て合計することで合計個数を算出する（ステップＳＨ５０２）。そして、その算出した合計個数が管理開始基準値である「３００」よりも多い個数となっているか否かを判定する（ステップＳＨ５０３）。

【３５１２】

ステップＳＨ５０３にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３の管理開始フラグに「１」をセットする（ステップＳＨ５０４）。また、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅ、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅ、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅを全て「０」クリアする（ステップＳＨ５０５）。これにより、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後（すなわちＭＰＵ６２への動作電力の供給が開始された後）において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値に対応する個数以上となるまでに収集された遊技履歴の情報が全て消去されることとなる。よって、パチンコ機１０への動作電力の供給開始後において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が管理開始基準値以上となるまでは遊技履歴の管理結果を算出するための遊技履歴の収集を実行させないようにすることが可能となる。

【３５１３】

ステップＳＨ５０１にて肯定判定をした場合、ステップＳＨ５０２と同様に合計個数の演算処理を実行する（ステップＳＨ５０６）。つまり、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅの値、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅの値を全て合計することで合計個数を算出する。そして、その算出した合計個数が演算基準個数である「６００００」以上の個数となっているか否かを判定する（ステップＳＨ５０７）。パチンコ機１０では１分間に最大で１００個の遊技球の発射が行われるため、６００００個は１０時間における最大の発射個数となる。この場合に遊技ホールにおける一般的な営業時間は１３時間程度であり、そのうち大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技が行われ

る時間は１０時間程度となる。したがって、演算基準個数は概ね１営業日における遊技球の最大発射個数を想定して設定されている。なお、演算基準個数は６００００個に限定されることはなく、例えば６０００個といったように６００００個よりも少ない個数としてもよく、９００００個といったように６００００個よりも多い個数としてもよい。

【３５１４】

ステップＳＨ５０７にて肯定判定をした場合、各種パラメータの演算処理を実行する（ステップＳＨ５０８）。具体的には、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値をＫ６１～Ｋ６５とし、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各種カウンタ２３２ａ～２３２ｅの値をＫ７１～Ｋ７５とし、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各種カウンタ２３３ａ～２３３ｅの値をＫ８１～Ｋ８５とした場合において以下の第６１パラメータ～第６８パラメータを算出する。

・第６１パラメータ：遊技球の合計払出個数（「Ｋ６１＋Ｋ７１＋Ｋ８１」×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６２＋Ｋ７２＋Ｋ８２」×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６３＋Ｋ７３＋Ｋ８３」×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６４＋Ｋ７４＋Ｋ８４」×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ６１＋Ｋ６２＋Ｋ６３＋Ｋ６４＋Ｋ６５＋Ｋ７１＋Ｋ７２＋Ｋ７３＋Ｋ７４＋Ｋ７５＋Ｋ８１＋Ｋ８２＋Ｋ８３＋Ｋ８４＋Ｋ８５）の割合

・第６２パラメータ：通常時における遊技球の合計払出個数（Ｋ６１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ６２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ６３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ６４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／通常時における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ６１＋Ｋ６２＋Ｋ６３＋Ｋ６４＋Ｋ６５）の割合

・第６３パラメータ：開閉実行モード時における遊技球の合計払出個数（Ｋ７１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ７２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ７３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ７４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／開閉実行モード時における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ７１＋Ｋ７２＋Ｋ７３＋Ｋ７４＋Ｋ７５）の割合

・第６４パラメータ：高頻度サポートモード時における遊技球の合計払出個数（Ｋ８１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ８２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ８３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ８４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／高頻度サポートモード時における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ８１＋Ｋ８２＋Ｋ８３＋Ｋ８４＋Ｋ８５）の割合

・第６５パラメータ：一般入賞口３１への遊技球の合計入球個数（Ｋ６１＋Ｋ７１＋Ｋ８１）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ６１＋Ｋ６２＋Ｋ６３＋Ｋ６４＋Ｋ６５＋Ｋ７１＋Ｋ７２＋Ｋ７３＋Ｋ７４＋Ｋ７５＋Ｋ８１＋Ｋ８２＋Ｋ８３＋Ｋ８４＋Ｋ８５）の割合

・第６６パラメータ：第１作動口３３への遊技球の合計入球個数（Ｋ６３＋Ｋ７３＋Ｋ８３）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ６１＋Ｋ６２＋Ｋ６３＋Ｋ６４＋Ｋ６５＋Ｋ７１＋Ｋ７２＋Ｋ７３＋Ｋ７４＋Ｋ７５＋Ｋ８１＋Ｋ８２＋Ｋ８３＋Ｋ８４＋Ｋ８５）の割合

・第６７パラメータ：通常時における第１作動口３３及び第２作動口３４への遊技球の合計入球個数（Ｋ６３＋Ｋ６４）／（通常時における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ６１＋Ｋ６２＋Ｋ６３＋Ｋ６４＋Ｋ６５）＋通常時における遊技球の合計払出個数（Ｋ６１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ６２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ６３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ６４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」））の割合

・第６８パラメータ：（「Ｋ６２＋Ｋ７２＋Ｋ８２」×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６４＋Ｋ７４＋Ｋ８４」×「第２作動口３４への入賞に対する賞球

個数」）／遊技球の合計払出個数（「Ｋ６１＋Ｋ７１＋Ｋ８１」×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６２＋Ｋ７２＋Ｋ８２」×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６３＋Ｋ７３＋Ｋ８３」×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋「Ｋ６４＋Ｋ７４＋Ｋ８４」×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）の割合。

【３５１５】

その後、ステップＳＨ５０８にて算出した第６１～第６８パラメータを演算結果記憶エリア２３４に上書きする（ステップＳＨ５０９）。この場合、演算結果記憶エリア２３４に既に記憶されていた前回の処理回における演算結果の第６１～第６８パラメータは消去される。なお、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されている状況であっても主側ＲＡＭ６５にはバックアップ電力が供給されるため、当該バックアップ電力が供給されている状況であればパチンコ機１０への動作電力の供給開始直後であっても演算結果記憶エリア２３４にはパチンコ機１０への動作電力の供給が停止される前に算出された第６１～第６８パラメータの情報が記憶されている。

【３５１６】

その後、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅ、開閉実行モード用カウンタエリア２３２の各カウンタ２３２ａ～２３２ｅ、及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３の各カウンタ２３３ａ～２３３ｅを全て「０」クリアする（ステップＳＨ５１０）。これにより、第６１～第６８パラメータが演算されたことを契機として、その時点で遊技履歴の情報を一旦消去することが可能となる。

【３５１７】

なお、管理開始フラグに「１」がセットされた直後においては遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が演算基準個数から管理開始基準値を減算した値以上となった場合にステップＳＨ５０８～ステップＳＨ５１０の処理を実行し、その後は遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が演算基準個数以上となった場合にステップＳＨ５０８～ステップＳＨ５１０の処理を実行する構成としてもよい。

【３５１８】

その後、今回新たに演算結果記憶エリア２３４に書き込まれた第６１～第６８パラメータのうち所定のパラメータが示唆基準範囲であるか否かを判定する（ステップＳＨ５１１）。具体的には、第６７パラメータの内容が１／２０～１／１０の範囲に含まれているか否かを判定する。なお、この示唆基準範囲はパチンコ機１０の仕様に応じて定まるものであり具体的な数値範囲は任意である。

【３５１９】

第６７パラメータの内容が示唆基準範囲に含まれる場合（ステップＳＨ５１１：ＹＥＳ）、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた示唆基準フラグに「１」をセットし（ステップＳＨ５１２）、第６７パラメータの内容が示唆基準範囲に含まれていない場合（ステップＳＨ５１１：ＮＯ）、示唆基準フラグを「０」クリアする（ステップＳＨ５１３）。示唆基準フラグは、直近の結果演算処理にて演算された第６７パラメータの内容が示唆基準範囲であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。示唆基準フラグは非特定制御用のワークエリア２２３に設けられているため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されたとしてもバックアップ電力が主側ＲＡＭ６５に供給されることで示唆基準フラグの情報の記憶状態は維持されるとともに、メイン処理（図１３２）のステップＳ８８１６にてＲＡＭクリア処理が実行されたとしても「０」クリアされない。

【３５２０】

次に、第１タイマ割込み処理（図２６８）のステップＳＨ３１３にて実行される特図特電制御処理について図２７１のフローチャートを参照しながら説明する。なお、特図特電制御処理におけるステップＳＨ６０１～ステップＳＨ６１２の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３５２１】

ステップＳＨ６０１～ステップＳＨ６０９では上記第１の実施形態における特図特電制

御処理（図１２）のステップＳ４０１～ステップＳ４０９と同一の処理を実行し、ステップＳＨ６１１～ステップＳＨ６１２では上記第１の実施形態における特図特電制御処理（図１２）のステップＳ４１１～ステップＳ４１２と同一の処理を実行する。ステップＳＨ６１０では特電開放中処理を実行する。図２７２はステップＳＨ６１０の特電開放中処理を示すフローチャートである。なお、特電開放中処理におけるステップＳＨ７０１～ステップＳＨ７０９の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３５２２】

まずラウンド遊技の進行用処理を実行する（ステップＳＨ７０１）。ラウンド遊技の進行用処理では、特電入賞装置３２への入賞が発生している場合に、主側ＲＡＭ６５に設けられた特電入賞装置３２への遊技球の入賞個数を計測するためのカウンタの更新処理を実行する。その後、ラウンド遊技の終了条件が成立しているか否かを判定する（ステップＳＨ７０２）。具体的には、今回のラウンド遊技において発生した特電入賞装置３２への遊技球の入賞個数がラウンド遊技の上限個数以上となっている場合にはラウンド遊技の終了条件が成立していると判定する。また、今回のラウンド遊技における特電入賞装置３２の開放継続期間が上限継続期間に達している場合にもラウンド遊技の終了条件が成立していると判定する。

【３５２３】

ラウンド遊技の終了条件が成立している場合（ステップＳＨ７０２：ＹＥＳ）、閉鎖設定処理を実行することで特電入賞装置３２を閉鎖状態とする（ステップＳＨ７０３）。また、主側ＲＡＭ６５に設けられたラウンドカウンタの値を１減算する（ステップＳＨ７０４）。ラウンドカウンタは開閉実行モードにおいて発生させる残りのラウンド遊技の回数を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。

【３５２４】

１減算後におけるラウンドカウンタの値が「０」ではない場合（ステップＳＨ７０５：ＮＯ）、インターバル期間の設定処理を実行する（ステップＳＨ７０６）。インターバル期間の設定処理では次回のラウンド遊技を開始するタイミングとなるまで特電入賞装置３２の閉鎖状態を維持させるためのインターバル期間を設定する。その後、特図特電カウンタの値を１加算することで、当該カウンタの数値情報を特電開放中処理に対応したものから特電閉鎖中処理に対応したものに更新する（ステップＳＨ７０７）。

【３５２５】

１減算後におけるラウンドカウンタの値が「０」である場合（ステップＳＨ７０５：ＹＥＳ）、エンディング用処理を実行する（ステップＳＨ７０８）。その後、特図特電カウンタの値を２加算することで、当該カウンタの数値情報を特電開放中処理に対応したものから特電終了処理に対応したものに更新する（ステップＳＨ７０９）。

【３５２６】

図２７３はステップＳＨ７０８のエンディング用処理を示すフローチャートである。なお、エンディング用処理におけるステップＳＨ８０１～ステップＳＨ８０９の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３５２７】

まずエンディング期間の設定処理を実行する（ステップＳＨ８０１）。エンディング期間の設定処理では今回の開閉実行モードにおけるエンディング期間（例えば１０秒）を設定する。特図特電制御処理（図２７１）の特電終了処理（ステップＳＨ６１２）ではエンディング期間が経過していることを条件として、開閉実行モードの終了後における当否抽選モード及びサポートモードのそれぞれを今回の開閉実行モードの開始契機となった大当たり結果に対応するモードに設定し、その後に特図特電カウンタの値を「０」クリアすることで今回の開閉実行モードを終了させる。

【３５２８】

ステップＳＨ８０１の処理を実行した後はステップＳＨ８０２～ステップＳＨ８０９に

て、今回のエンディング期間において表示発光部５３、スピーカ部５４及び図柄表示装置４１にてエンディング演出を実行させるための処理を実行する。本実施形態では図柄表示装置４１におけるエンディング演出において本パチンコ機１０に設定されている現状の設定値を遊技者に予測させることを可能とする設定値の示唆演出が実行され得る。

【３５２９】

図２７４（ａ）及び図２７４（ｂ）は図柄表示装置４１にて実行されるエンディング演出の一例を説明するための説明図である。なお、図２７４（ａ）及び図２７４（ｂ）はそれぞれ異なる実行回の開閉実行モードにおけるエンディング演出として図柄表示装置４１に表示される。図２７４（ａ）及び図２７４（ｂ）のいずれにおいても図柄表示装置４１にはエンディング期間であることを示す画像としてエンディング画像ＣＨ１（具体的には「ＥＮＤ」の文字画像）が表示されている。また、図２７４（ａ）においてはエンディング画像ＣＨ１以外にも第１示唆用キャラクタ画像ＣＨ２が表示されるとともに、図２７４（ｂ）においてはエンディング画像ＣＨ１以外にも第２示唆用キャラクタ画像ＣＨ３が表示されている。

【３５３０】

第１示唆用キャラクタ画像ＣＨ２はエンディング演出における第１示唆演出として表示される画像である。第１示唆演出は、「設定１」～「設定６」のいずれが設定されている状況であってもエンディング演出として最も高い確率で選択される演出である。一方、第２示唆用キャラクタ画像ＣＨ３はエンディング演出における第５示唆演出として表示される画像である。第５示唆演出は、「設定１」～「設定６」のいずれが設定されている状況であってもエンディング演出として最も低い確率で選択される演出であるとともに、「設定１」～「設定６」のうち遊技者の有利度が高い設定値ほどエンディング演出として選択される確率が高い演出である。したがって、エンディング期間において図柄表示装置４１にて第１示唆用キャラクタ画像ＣＨ２が表示されたとしても遊技者はパチンコ機１０の現状の設定値が「設定１」～「設定６」のいずれであるのかを予測することができないのに対して、エンディング期間において図柄表示装置４１にて第２示唆用キャラクタ画像ＣＨ３が表示された場合には遊技者はパチンコ機１０の現状の設定値が「設定６」といった有利度が高い設定値であるのではないかと予測することが可能となる。

【３５３１】

なお、エンディング演出には第１示唆演出及び第５示唆演出以外にも第２示唆演出、第３示唆演出及び第４示唆演出が存在している。これら第１～第５示唆演出においてはいずれもエンディング画像ＣＨ１が表示されるとともに示唆用キャラクタ画像（第１示唆演出であれば第１示唆用キャラクタ画像ＣＨ２、第５示唆演出であれば第２示唆用キャラクタ画像ＣＨ３）が表示されるが、示唆用キャラクタ画像の内容が第１～第５示唆演出のそれぞれにおいて相互に相違している。したがって、遊技者は示唆用キャラクタ画像の内容を確認することでエンディング演出として第１～第５示唆演出のいずれが実行されているのかを把握することが可能となる。

【３５３２】

エンディング用処理（図２７３）におけるステップＳＨ８０２以降の処理について詳細には、まずパチンコ機１０の現状の設定値が正常であるか否かを判定する（ステップＳＨ８０２）。具体的には、主側ＲＡＭ６５の特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値が「設定１」～「設定６」のいずれかに対応しているか否かを判定する。設定値カウンタの値が「０」又は「７」以上である場合には設定値が異常であると判定し（ステップＳＨ８０２：ＮＯ）、主側ＲＡＭ６５における特定制御用のワークエリア２２１に第１示唆演出情報を記憶する（ステップＳＨ８０３）。第１示唆演出情報は、詳細は後述するが、今回のエンディング期間の演出として、表示発光部５３、スピーカ部５４及び図柄表示装置４１にて第１示唆演出を実行すべきことを主側ＣＰＵ６３にて特定するとともに音声発光制御装置８１に認識させるための情報である。

【３５３３】

設定値カウンタの値が「設定１」～「設定６」のいずれかに対応している場合には設定

値が正常であると判定し（ステップＳＨ８０２：ＹＥＳ）、主側ＲＡＭ６５の非特定制御用のワークエリア２２３における示唆基準フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＨ８０４）。示唆基準フラグは既に説明したとおり、直近の結果演算処理（図２７０）にて演算された第６７パラメータの内容が示唆基準範囲であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【３５３４】

示唆基準フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＨ８０４：ＹＥＳ）、すなわち直近の結果演算処理（図２７０）にて演算された第６７パラメータの内容が正常である場合、主側ＲＯＭ６４に予め記憶された通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１から設定値に対応する抽選テーブル５４１ａ～５４１ｆ（図２７５参照）を読み出す（ステップＳＨ８０５）。一方、示唆基準フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＨ８０４：ＮＯ）、すなわち直近の結果演算処理（図２７０）にて演算された第６７パラメータの内容が正常ではない場合又は未だ第６７パラメータの演算が行われていない場合、主側ＲＯＭ６４に予め記憶された示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２から設定値に対応する抽選テーブル５４２ａ～５４２ｆ（図２７５参照）を読み出す（ステップＳＨ８０６）。詳細は後述するがステップＳＨ８０５又はステップＳＨ８０６にて読み出される抽選テーブルには、第１示唆演出、第２示唆演出、第３示唆演出、第４示唆演出及び第５示唆演出のうち選択対象となるエンディング演出の種類の情報が設定されているとともに、それら選択対象となるエンディング演出の選択確率が所定の確率となるように選択対象となるエンディング演出のそれぞれに対応させて当選となる抽選値が設定されている。

【３５３５】

ステップＳＨ８０５又はステップＳＨ８０６の処理を実行した後は、設定値示唆の抽選処理を実行する（ステップＳＨ８０７）。設定値示唆の抽選処理では、主側ＲＡＭ６５の特定制御用のワークエリア２２１において定期的に更新されるエンディング演出用の乱数カウンタから抽選値を取得するとともに、その取得した抽選値をステップＳＨ８０５及びステップＳＨ８０６のいずれかにて読み出した抽選テーブルに対して照合することで、今回のエンディング演出にて実行対象となる示唆演出に対応する示唆演出情報（第１示唆演出情報、第２示唆演出情報、第３示唆演出情報、第４示唆演出情報及び第５示唆演出情報のいずれか）を読み出す。

【３５３６】

ここで、通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１及び示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２について説明する。図２７５は主側ＲＯＭ６４のデータ構成を説明するための説明図である。主側ＲＯＭ６４には通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１と示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２とが予め記憶されている。通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１には、パチンコ機１０の設定値が「設定１」である場合に参照される通常示唆時の設定１用テーブル５４１ａと、パチンコ機１０の設定値が「設定２」である場合に参照される通常示唆時の設定２用テーブル５４１ｂと、パチンコ機１０の設定値が「設定３」である場合に参照される通常示唆時の設定３用テーブル５４１ｃと、パチンコ機１０の設定値が「設定４」である場合に参照される通常示唆時の設定４用テーブル５４１ｄと、パチンコ機１０の設定値が「設定５」である場合に参照される通常示唆時の設定５用テーブル５４１ｅと、パチンコ機１０の設定値が「設定６」である場合に参照される通常示唆時の設定６用テーブル５４１ｆとが存在している。示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２には、パチンコ機１０の設定値が「設定１」である場合に参照される示唆制限時の設定１用テーブル５４２ａと、パチンコ機１０の設定値が「設定２」である場合に参照される示唆制限時の設定２用テーブル５４２ｂと、パチンコ機１０の設定値が「設定３」である場合に参照される示唆制限時の設定３用テーブル５４２ｃと、パチンコ機１０の設定値が「設定４」である場合に参照される示唆制限時の設定４用テーブル５４２ｄと、パチンコ機１０の設定値が「設定５」である場合に参照される示唆制限時の設定５用テーブル５４２ｅと、パチンコ機１０の設定値が「設定６」である場合

に参照される示唆制限時の設定６用テーブル５４２ｆとが存在している。
【３５３７】
図２７６は各種テーブル５４１ａ～５４１ｆ，５４２ａ～５４２ｆのそれぞれが選択された場合における第１～第５示唆演出情報の選択確率を説明するための説明図である。
【３５３８】
通常示唆時の設定１～６用テーブル５４１ａ～５４１ｆのいずれかが参照される場合、第１～第５示唆演出情報のいずれであっても選択され得る。但し、通常示唆時の設定１～６用テーブル５４１ａ～５４１ｆのいずれであっても第１示唆演出情報が選択される確率が最も高く設定されている。具体的には、通常示唆時の設定１～３用テーブル５４１ａ～５４１ｃでは第１示唆演出情報が選択される確率は５０％を超えているとともに、通常示唆時の設定４～６用テーブル５４１ｄ～５４１ｆであっても約５０％の確率で第１示唆演出情報が選択される。したがって、第１示唆演出が実行されたとしても遊技者は現状の設定値を予測することは難しい。
【３５３９】
第２示唆演出情報は、通常示唆時の設定１，３，５用テーブル５４１ａ，５４１ｃ，５４１ｅにおいては２５％の確率で選択されるのに対して、通常示唆時の設定２，４，６用テーブル５４１ｂ，５４１ｄ，５４１ｆにおいては１０％の確率で選択される。一方、第３示唆演出情報は、通常示唆時の設定１，３，５用テーブル５４１ａ，５４１ｃ，５４１ｅにおいては１０％の確率で選択されるのに対して、通常示唆時の設定２，４，６用テーブル５４１ｂ，５４１ｄ，５４１ｆにおいては２５％の確率で選択される。つまり、第２示唆演出は奇数の設定値が設定されている場合に実行され易く、第３示唆演出は偶数の設定値が設定されている場合に実行され易い。したがって、第２示唆演出が実行された場合には遊技者は奇数の設定値が設定されている可能性が高いことを予測することが可能であり、第３示唆演出が実行された場合には遊技者は偶数の設定値が設定されている可能性が高いことを予測することが可能である。
【３５４０】
第４示唆演出情報は、通常示唆時の設定１～３用テーブル５４１ａ～５４１ｃにおいては４％の確率で選択されるのに対して、通常示唆時の設定４～６用テーブル５４１ｄ～５４１ｆにおいては１０％の確率で選択される。つまり、第４示唆演出は設定値が低い側に相当する「設定１」～「設定３」である場合には実行される確率が低く、設定値が高い側に相当する「設定４」～「設定６」である場合には「設定１」～「設定３」である場合に比べて実行される確率が２倍以上となっている。したがって、第４示唆演出が実行された場合には遊技者は設定値が高い側である「設定４」～「設定６」が設定されている可能性が高いことを予測することが可能である。
【３５４１】
第５示唆演出情報は、通常示唆時の設定１，２用テーブル５４１ａ，５４１ｂにおいては１％の確率で選択され、通常示唆時の設定３用テーブル５４１ｃにおいては４％の確率で選択され、通常示唆時の設定４用テーブル５４１ｄにおいては６％の確率で選択され、通常示唆時の設定５用テーブル５４１ｅにおいては８％の確率で選択され、通常示唆時の設定６用テーブル５４１ｆにおいては１０％の確率で選択される。つまり、第５示唆演出は「設定１」及び「設定２」においては実行される確率が非常に低く、「設定３」においては実行される確率が「設定１」及び「設定２」の場合よりも高いものの依然として低く、「設定４」→「設定５」→「設定６」という順序で実行される確率が順次高くなっている。したがって、第５示唆演出が実行された場合には遊技者は有利度が高い設定値が設定されている可能性が高いことを予測することが可能である。
【３５４２】
示唆制限時の設定１～６用テーブル５４２ａ～５４２ｆのいずれかが参照される場合、第１～第３示唆演出情報は選択され得るのに対して第４，第５示唆演出情報は選択されない。具体的には、示唆制限時の設定１，３，５用テーブル５４２ａ，５４２ｃ，５４２ｅにおいては第１示唆演出情報が６５％の確率で選択され、第２示唆演出情報が２５％の確

率で選択され、第３示唆演出情報が１０％の確率で選択されるのに対して、第４示唆演出情報及び第５示唆演出情報はいずれも選択されない。また、示唆制限時の設定２，４，６用テーブル５４２ｂ，５４２ｄ，５４２ｆにおいては第１示唆演出情報が６５％の確率で選択され、第２示唆演出情報が１０％の確率で選択され、第３示唆演出情報が２５％の確率で選択されるのに対して、第４示唆演出情報及び第５示唆演出情報はいずれも選択されない。つまり、示唆制限時の設定１～６用テーブル５４２ａ～５４２ｆのいずれかが参照される場合には第１～第３示唆演出のいずれかが実行され、第４示唆演出及び第５示唆演出は実行されない。

【３５４３】

既に説明したとおり直近の結果演算処理（図２７０）にて演算された第６７パラメータの内容が正常である場合には通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１に含まれる通常示唆時の設定１～６用テーブル５４１ａ～５４１ｆから設定値に対応する抽選テーブルが選択されるのに対して、直近の結果演算処理（図２７０）にて演算された第６７パラメータの内容が異常である場合には示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２に含まれる示唆制限時の設定１～６用テーブル５４２ａ～５４２ｆから設定値に対応する抽選テーブルが選択される。この場合に上記のとおり示唆制限時の設定１～６用テーブル５４２ａ～５４２ｆのいずれかが参照される場合には第１～第３示唆演出のいずれかが実行され、第４示唆演出及び第５示唆演出は実行されない。これにより、第６７パラメータの内容、すなわち通常時における第１作動口３３又は第２作動口３４への入賞確率が正常ではない場合には、設定値が高い側であることを示唆する演出が実行されないようにすることが可能となる。よって、第１作動口３３又は第２作動口３４への入賞確率が正常ではない状況であるにも関わらず、設定値が高い側であることを示唆する演出を確認した遊技者が止めるに止められずに遊技を継続するという状況が発生してしまわないようにすることが可能となる。

【３５４４】

一方、示唆制限時の設定１～６用テーブル５４２ａ～５４２ｆが参照される場合であっても第１示唆演出だけではなく第２示唆演出及び第３示唆演出が実行され得る。そして、通常示唆時の設定１～６用テーブル５４１ａ～５４１ｆが参照される場合と同様に、第２示唆演出は奇数の設定値が設定されている場合に実行され易く、第３示唆演出は偶数の設定値が設定されている場合に実行され易い。したがって、第１作動口３３又は第２作動口３４への入賞確率が正常ではない状況であっても奇数の設定値の示唆及び偶数の設定値の示唆は行うことが可能となる。

【３５４５】

エンディング用処理（図２７３）におけるステップＳＨ８０２にて設定値が異常であると判定した場合には設定値示唆の抽選処理（ステップＳＨ８０７）が実行されることなく、エンディングコマンドに第１示唆演出情報が設定される。これにより、設定値が異常である場合にはエンディング演出として第１示唆演出のみが実行されるようにすることが可能となる。なお、これに限定されることはなく、設定値が異常である場合には設定値異常であることを示す専用の演出がエンディング演出として実行される構成としてもよい。

【３５４６】

結果演算処理（図２７０）では演算された第６７パラメータの内容が正常である場合に非特定制御用のワークエリア２２３における示唆基準フラグに「１」をセットする。そして、示唆基準フラグに「１」がセットされている場合には設定値示唆の抽選処理に際して通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１を参照し、示唆基準フラグに「１」がセットされていない場合には設定値示唆の抽選処理に際して示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２を参照する。したがって、第６７パラメータが未だ導出されていない状況においては示唆基準フラグに「１」がセットされていない状況となることで、設定値示唆の抽選処理に際して示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２が参照されることとなる。これにより、第６７パラメータが正常であるか否かが未だ特定できていない状況において、設定値が高い側であることを示唆する演出が実行されてしまわないようにすることが

可能となる。
【３５４７】
第６７パラメータが未だ導出されていない状況であっても第６７パラメータの内容が異常である場合と同様に示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２が参照される。これにより、第６７パラメータが未だ導出されていない状況における専用のテーブル群を用意する必要がないため、必要な記憶容量を抑えることが可能となる。
【３５４８】
エンディング用処理（図２７３）の説明に戻り、ステップＳＨ８０７にて設定値示唆の抽選処理を実行した後は、主側ＲＯＭ６４からエンディングコマンドを読み出すとともに、その読み出したエンディングコマンドに対して、ステップＳＨ８０３にて特定制御用のワークエリア２２１に記憶した第１示唆演出情報、又はステップＳＨ８０７にて読み出した示唆演出情報を設定する（ステップＳＨ８０８）。そして、そのエンディングコマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＨ８０９）。
【３５４９】
図２７７は音声発光制御装置８１に設けられたＣＰＵにて実行されるエンディング演出制御処理を示すフローチャートである。なお、エンディング演出制御処理は主側ＣＰＵ６３からエンディングコマンドを受信した場合に起動される。
【３５５０】
今回受信したエンディングコマンドに第１示唆演出情報が設定されている場合（ステップＳＨ９０１：ＹＥＳ）、第１示唆演出の設定処理を実行する（ステップＳＨ９０２）。第１示唆演出の設定処理ではエンディング演出として表示発光部５３及びスピーカ部５４にて第１示唆演出が実行されるようにするための演出実行テーブルを音声発光制御装置８１に設けられたＲＯＭから音声発光制御装置８１に設けられたＲＡＭに読み出す。これにより、第１示唆演出に対応するエンディング演出が表示発光部５３の発光演出として実行されるとともにスピーカ部５４における音出力演出として実行される。また、第１示唆演出の設定処理では第１示唆演出に対応するエンディングコマンドを表示制御装置８２に送信する。表示制御装置８２は当該エンディングコマンドを受信することで図柄表示装置４１にて第１示唆演出に対応するエンディング演出が実行されるようにする。
【３５５１】
今回受信したエンディングコマンドに第２示唆演出情報が設定されている場合（ステップＳＨ９０３：ＹＥＳ）、第２示唆演出の設定処理を実行する（ステップＳＨ９０４）。第２示唆演出の設定処理ではエンディング演出として表示発光部５３及びスピーカ部５４にて第２示唆演出が実行されるようにするための演出実行テーブルを音声発光制御装置８１に設けられたＲＯＭから音声発光制御装置８１に設けられたＲＡＭに読み出す。これにより、第２示唆演出に対応するエンディング演出が表示発光部５３の発光演出として実行されるとともにスピーカ部５４における音出力演出として実行される。また、第２示唆演出の設定処理では第２示唆演出に対応するエンディングコマンドを表示制御装置８２に送信する。表示制御装置８２は当該エンディングコマンドを受信することで図柄表示装置４１にて第２示唆演出に対応するエンディング演出が実行されるようにする。
【３５５２】
今回受信したエンディングコマンドに第３示唆演出情報が設定されている場合（ステップＳＨ９０５：ＹＥＳ）、第３示唆演出の設定処理を実行する（ステップＳＨ９０６）。第３示唆演出の設定処理ではエンディング演出として表示発光部５３及びスピーカ部５４にて第３示唆演出が実行されるようにするための演出実行テーブルを音声発光制御装置８１に設けられたＲＯＭから音声発光制御装置８１に設けられたＲＡＭに読み出す。これにより、第３示唆演出に対応するエンディング演出が表示発光部５３の発光演出として実行されるとともにスピーカ部５４における音出力演出として実行される。また、第３示唆演出の設定処理では第３示唆演出に対応するエンディングコマンドを表示制御装置８２に送信する。表示制御装置８２は当該エンディングコマンドを受信することで図柄表示装置４１にて第３示唆演出に対応するエンディング演出が実行されるようにする。

【３５５３】
今回受信したエンディングコマンドに第４示唆演出情報が設定されている場合（ステップＳＨ９０７：ＹＥＳ）、第４示唆演出の設定処理を実行する（ステップＳＨ９０８）。第４示唆演出の設定処理ではエンディング演出として表示発光部５３及びスピーカ部５４にて第４示唆演出が実行されるようにするための演出実行テーブルを音声発光制御装置８１に設けられたＲＯＭから音声発光制御装置８１に設けられたＲＡＭに読み出す。これにより、第４示唆演出に対応するエンディング演出が表示発光部５３の発光演出として実行されるとともにスピーカ部５４における音出力演出として実行される。また、第４示唆演出の設定処理では第４示唆演出に対応するエンディングコマンドを表示制御装置８２に送信する。表示制御装置８２は当該エンディングコマンドを受信することで図柄表示装置４１にて第４示唆演出に対応するエンディング演出が実行されるようにする。
【３５５４】
今回受信したエンディングコマンドに第５示唆演出情報が設定されている場合（ステップＳＨ９０７：ＮＯ）、第５示唆演出の設定処理を実行する（ステップＳＨ９０９）。第５示唆演出の設定処理ではエンディング演出として表示発光部５３及びスピーカ部５４にて第５示唆演出が実行されるようにするための演出実行テーブルを音声発光制御装置８１に設けられたＲＯＭから音声発光制御装置８１に設けられたＲＡＭに読み出す。これにより、第５示唆演出に対応するエンディング演出が表示発光部５３の発光演出として実行されるとともにスピーカ部５４における音出力演出として実行される。また、第５示唆演出の設定処理では第５示唆演出に対応するエンディングコマンドを表示制御装置８２に送信する。表示制御装置８２は当該エンディングコマンドを受信することで図柄表示装置４１にて第５示唆演出に対応するエンディング演出が実行されるようにする。
【３５５５】
以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。
【３５５６】
直近の結果演算処理（図２７０）にて演算された第６７パラメータの内容が正常である場合には通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１に含まれる通常示唆時の設定１～６用テーブル５４１ａ～５４１ｆから設定値に対応する抽選テーブルが選択されるのに対して、直近の結果演算処理（図２７０）にて演算された第６７パラメータの内容が異常である場合には示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２に含まれる示唆制限時の設定１～６用テーブル５４２ａ～５４２ｆから設定値に対応する抽選テーブルが選択される。この場合に、示唆制限時の設定１～６用テーブル５４２ａ～５４２ｆのいずれかが参照される場合には第１～第３示唆演出のいずれかが実行され、第４示唆演出及び第５示唆演出は実行されない。これにより、第６７パラメータの内容が正常ではない場合、すなわち通常時における第１作動口３３又は第２作動口３４への入賞確率が正常ではない場合には、設定値が高い側であることを示唆する演出が実行されないようにすることが可能となる。よって、第１作動口３３又は第２作動口３４への入賞確率が正常ではない状況であるにも関わらず、設定値が高い側であることを示唆する演出を確認した遊技者が止めるに止められずに遊技を継続するという状況が発生してしまわないようにすることが可能となる。
【３５５７】
一方、示唆制限時の設定１～６用テーブル５４２ａ～５４２ｆが参照される場合であっても第１示唆演出だけではなく第２示唆演出及び第３示唆演出が実行され得る。そして、通常示唆時の設定１～６用テーブル５４１ａ～５４１ｆが参照される場合と同様に、第２示唆演出は奇数の設定値が設定されている場合に実行され易く、第３示唆演出は偶数の設定値が設定されている場合に実行され易い。したがって、第１作動口３３又は第２作動口３４への入賞確率が正常ではない状況であっても奇数の設定値の示唆及び偶数の設定値の示唆は行うことが可能となる。
【３５５８】
第６７パラメータの内容が正常である場合には通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１を参照し、第６７パラメータの内容が異常である場合には示唆制限時の設定値示唆

抽選テーブル群５４２を参照する構成である。これにより、処理負荷の軽減を図りながら既に説明したような優れた効果を奏することが可能となる。

【３５５９】

結果演算処理（図２７０）では演算された第６７パラメータの内容が正常である場合に非特定制御用のワークエリア２２３における示唆基準フラグに「１」をセットする。そして、示唆基準フラグに「１」がセットされている場合には設定値示唆の抽選処理に際して通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１を参照し、示唆基準フラグに「１」がセットされていない場合には設定値示唆の抽選処理に際して示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２を参照する。したがって、第６７パラメータが未だ導出されていない状況においては示唆基準フラグに「１」がセットされていない状況となることで、設定値示唆の抽選処理に際して示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２が参照されることとなる。これにより、第６７パラメータが正常であるか否かが未だ特定できていない状況において、設定値が高い側であることを示唆する演出が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【３５６０】

第６７パラメータが未だ導出されていない状況であっても第６７パラメータの内容が異常である場合と同様に示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２が参照される。これにより、第６７パラメータが未だ導出されていない状況における専用のテーブル群を用意する必要がないため、必要な記憶容量を抑えることが可能となる。

【３５６１】

なお、示唆演出として「設定６」である場合にのみ選択される確定演出が存在している構成としてもよい。この場合、当該確定演出を確認した遊技者はパチンコ機１０の設定値が「設定６」であることを確信することとなるため優越感に浸りながら遊技を行うこととなる。当該構成においては、第６７パラメータの内容が正常である場合にはパチンコ機１０の設定値が「設定６」であれば確定演出が実行され得るのに対して、第６７パラメータの内容が異常である場合にはパチンコ機１０の設定値が「設定６」であっても確定演出が実行されない構成としてもよい。また、このような構成を示唆演出として確定演出のみが設定されている構成に適用してもよい。この場合、確定演出が実行されない状況においては設定値の示唆に寄与しない演出が実行されることとなる。また、第６７パラメータが未だ導出されていない状況においては、パチンコ機１０の設定値が「設定６」であっても確定演出が実行されない構成としてもよい。

【３５６２】

また、第６７パラメータの内容が異常である場合であってもパチンコ機１０の設定値が奇数の設定値であることを示す第２示唆演出及びパチンコ機１０の設定値が偶数の設定値であることを示す第３示唆演出が実行され得る構成としたが、これに限定されることはなく、第６７パラメータの内容が異常である場合には設定値を予測させることを可能とする示唆演出が一切実行されない構成としてもよい。この場合、第６７パラメータの内容が異常である場合にはパチンコ機１０の設定値に関係なく第１示唆演出が実行されることとなる。

【３５６３】

また、第６７パラメータの内容が異常である場合には、第６７パラメータの内容が正常である場合には実行されない演出がエンディング演出として実行される構成としてもよい。この場合、第６７パラメータの内容が異常である場合に実行されるエンディング演出の種類がパチンコ機１０の設定値に関係なく１種類に設定されている又は第６７パラメータの内容が異常である場合に実行されるエンディング演出の種類がパチンコ機１０の設定値に関係なく決定される構成としてもよい。これにより、第６７パラメータの内容が異常であるにも関わらずパチンコ機１０の設定値を示唆する演出が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【３５６４】

また、第６７パラメータが未だ導出されていない場合には、第６７パラメータの内容が

正常である場合には実行されない演出がエンディング演出として実行される構成としてもよい。この場合、第６７パラメータが未だ導出されていない場合に実行されるエンディング演出の種類がパチンコ機１０の設定値に関係なく１種類に設定されている又は第６７パラメータが未だ導出されていない場合に実行されるエンディング演出の種類がパチンコ機１０の設定値に関係なく決定される構成としてもよい。これにより、第６７パラメータが未だ導出されていないにも関わらずパチンコ機１０の設定値を示唆する演出が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【３５６５】

また、第６７パラメータの内容が異常である場合には第４示唆演出及び第５示唆演出が実行されなくなる構成に代えて、第６７パラメータの内容が異常である場合には第６７パラメータの内容が正常である場合に比べて第４示唆演出及び第５示唆演出が実行される確率が低くなる構成としてもよい。

【３５６６】

また、第６７パラメータの基準値として第１基準値と第２基準値とを設定し、第６７パラメータが第１基準値未満である場合には示唆演出の種類の選択が第１態様で行われ、第６７パラメータが第１基準値以上であって第２基準値未満である場合には示唆演出の種類の選択が第２態様で行われ、第６７パラメータが第２基準値以上である場合には示唆演出の種類の選択が第３態様で行われる構成としてもよい。

【３５６７】

また、第２示唆演出はパチンコ機１０の設定値が奇数である場合及び偶数である場合のいずれであっても実行され得るもののパチンコ機１０の設定値が奇数である場合の方が実行対象として選択される確率が高くなる構成としたが、これに限定されることはなく、第２示唆演出はパチンコ機１０の設定値が奇数である場合にのみ実行される構成としてもよい。

【３５６８】

また、第３示唆演出はパチンコ機１０の設定値が奇数である場合及び偶数である場合のいずれであっても実行され得るもののパチンコ機１０の設定値が偶数である場合の方が実行対象として選択される確率が高くなる構成としたが、これに限定されることはなく、第３示唆演出はパチンコ機１０の設定値が偶数である場合にのみ実行される構成としてもよい。

【３５６９】

また、設定値は６段階に限定されることはなく２段階、３段階、４段階、５段階、７段階、８段階又は９段階以上であってもよい。また、設定値が連番である構成に限定されることはなく、「設定ａ」、「設定ｂ」、「設定ｃ」及び「設定ｅ」として設定されている構成としてもよい。この場合、「設定ａ」→「設定ｂ」→「設定ｃ」→「設定ｅ」の順序で遊技者の有利度が高くなる構成とする。当該構成においては、使用対象の設定値が「設定ａ」及び「設定ｃ」のいずれかである場合には第２示唆演出が実行される又は第２示唆演出が実行される確率が高くなり、使用対象の設定値が「設定ｂ」及び「設定ｄ」のいずれかである場合には第３示唆演出が実行される又は第３示唆演出が実行される確率が高くなる構成としてもよい。

【３５７０】

また、第６７パラメータの内容は上記実施形態のものに限定されない。例えば、第６７パラメータが、

通常時における第１作動口３３及び第２作動口３４への遊技球の合計入球個数（Ｋ６３＋Ｋ６４）／（通常時における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ６１＋Ｋ６２＋Ｋ６３＋Ｋ６４＋Ｋ６５））の割合

として導出される構成としてもよい。

【３５７１】

また、パチンコ機１０の設定値を示唆する演出が開閉実行モードのエンディング演出として実行される構成に限定されることはなく、これに加えて又は代えて、エンディング演

出とは異なる演出として、パチンコ機１０の設定値を示唆する演出が実行される構成としてもよい。例えば、遊技回において実行される遊技回用演出にてパチンコ機１０の設定値を示唆する演出が実行される構成としてもよく、開閉実行モードのオープニング演出としてパチンコ機１０の設定値を示唆する演出が実行される構成としてもよく、開閉実行モードのラウンド遊技における演出としてパチンコ機１０の設定値を示唆する演出が実行される構成としてもよい。

【３５７２】

＜第７６の実施形態＞

本実施形態では主側ＣＰＵ６３にて実行されるエンディング用処理の処理構成が上記第７５の実施形態と相違している。以下、上記第７５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第７５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３５７３】

図２７８は主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるエンディング用処理を示すフローチャートである。なお、エンディング用処理におけるステップＳＩ１０１～ステップＳＩ１０９の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３５７４】

まずエンディング期間の設定処理を実行する（ステップＳＩ１０１）。エンディング期間の設定処理では今回の開閉実行モードにおけるエンディング期間（例えば１０秒）を設定する。特図特電制御処理（図２７１）の特電終了処理（ステップＳＨ６１２）ではエンディング期間が経過していることを条件として、開閉実行モードの終了後における当否抽選モード及びサポートモードのそれぞれを今回の開閉実行モードの開始契機となった大当たり結果に対応するモードに設定し、その後に特図特電カウンタの値を「０」クリアすることで今回の開閉実行モードを終了させる。

【３５７５】

その後、パチンコ機１０の現状の設定値が正常であるか否かを判定する（ステップＳＩ１０２）。具体的には、主側ＲＡＭ６５の特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値が「設定１」～「設定６」のいずれかに対応しているか否かを判定する。設定値カウンタの値が「０」又は「７」以上である場合には設定値が異常であると判定し（ステップＳＩ１０２：ＮＯ）、主側ＲＡＭ６５における特定制御用のワークエリア２２１に第１示唆演出情報を記憶する（ステップＳＩ１０７）。この場合、第１示唆演出情報をエンディングコマンドに設定するとともに（ステップＳＩ１０８）、当該エンディングコマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＩ１０９）。これにより、上記第７５の実施形態と同様にエンディング演出として第１示唆演出が実行される。よって、設定値に異常がある状況においてはエンディング演出において設定値の予測を可能とする演出が実行されないようにすることが可能となる。

【３５７６】

設定値カウンタの値が「設定１」～「設定６」のいずれかに対応している場合には設定値が正常であると判定し（ステップＳＩ１０２：ＹＥＳ）、主側ＲＯＭ６４から現状の設定値に対応する抽選テーブルを読み出す（ステップＳＩ１０３）。本実施形態では設定値示唆の抽選処理にて参照されるテーブル群として示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２は用意されておらず、通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１が用意されている。通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１には上記第７５の実施形態と同様に通常示唆時の設定１～６用テーブル５４１ａ～５４１ｆが存在しており、これら通常示唆時の設定１～６用テーブル５４１ａ～５４１ｆの内容は上記第７５の実施形態と同様である。ステップＳＩ１０３では通常示唆時の設定１～６用テーブル５４１ａ～５４１ｆのうちパチンコ機１０の設定値に対応するテーブルを主側ＲＯＭ６４から読み出す。

【３５７７】

その後、設定値示唆の抽選処理を実行する（ステップＳＩ１０４）。設定値示唆の抽選

処理では、主側ＲＡＭ６５の特定制御用のワークエリア２２１において定期的に更新されるエンディング演出用の乱数カウンタから抽選値を取得するとともに、その取得した抽選値をステップＳＩ１０３にて読み出した抽選テーブルに対して照合することで、今回のエンディング演出にて実行対象となる示唆演出に対応する示唆演出情報（第１示唆演出情報、第２示唆演出情報、第３示唆演出情報、第４示唆演出情報及び第５示唆演出情報のいずれか）を読み出す。

【３５７８】

その後、主側ＲＡＭ６５の非特定制御用のワークエリア２２３における示唆基準フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＩ１０５）。示唆基準フラグは上記第７５の実施形態と同様に、直近の結果演算処理（図２７０）にて演算された第６７パラメータの内容が示唆基準範囲であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【３５７９】

示唆基準フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＩ１０５：ＹＥＳ）、すなわち直近の結果演算処理（図２７０）にて演算された第６７パラメータの内容が正常である場合、設定値示唆の抽選処理（ステップＳＩ１０４）にて選択した示唆演出情報をエンディングコマンドに設定するとともに（ステップＳＩ１０８）、当該エンディングコマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＩ１０９）。これにより、設定値示唆の抽選処理（ステップＳＩ１０４）にて選択した示唆演出情報に対応する示唆演出がエンディング演出として実行される。よって、遊技者はエンディング演出の内容からパチンコ機１０の設定値を予測することが可能となる。

【３５８０】

一方、示唆基準フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＩ１０５：ＮＯ）、すなわち直近の結果演算処理（図２７０）にて演算された第６７パラメータの内容が正常ではない場合、設定値示唆の抽選処理（ステップＳＩ１０４）にて選択した示唆演出情報が第４示唆演出情報又は第５示唆演出情報であるか否かを判定する（ステップＳＩ１０６）。設定値示唆の抽選処理（ステップＳＩ１０４）にて選択した示唆演出情報が第１示唆演出情報、第２示唆演出情報又は第３示唆演出情報である場合（ステップＳＩ１０６：ＮＯ）、設定値示唆の抽選処理（ステップＳＩ１０４）にて選択した示唆演出情報をエンディングコマンドに設定するとともに（ステップＳＩ１０８）、当該エンディングコマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＩ１０９）。これにより、直近の結果演算処理（図２７０）にて演算された第６７パラメータの内容が正常ではない状況であっても、現状の設定値が奇数及び偶数のいずれであるかを予測させることを可能とする第２示唆演出又は第３示唆演出が実行され得るようにすることが可能となる。

【３５８１】

設定値示唆の抽選処理（ステップＳＩ１０４）にて選択した示唆演出情報が第４示唆演出情報又は第５示唆演出情報である場合（ステップＳＩ１０６：ＹＥＳ）、その選択された示唆演出情報を無効化して第１示唆演出情報を記憶する（ステップＳＩ１０７）。この場合、第１示唆演出情報をエンディングコマンドに設定するとともに（ステップＳＩ１０８）、当該エンディングコマンドを音声発光制御装置８１に送信する（ステップＳＩ１０９）。これにより、上記第７５の実施形態と同様にエンディング演出として第１示唆演出が実行される。よって、直近の結果演算処理（図２７０）にて演算された第６７パラメータの内容が正常ではない状況においては現状の設定値が高い側の設定値であることを示唆する第４示唆演出及び第５示唆演出が実行されないようにすることが可能となる。

【３５８２】

上記構成によれば、設定値示唆の抽選処理（ステップＳＩ１０４）にて参照するテーブル群として示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２を用意しなくても、直近の結果演算処理（図２７０）にて演算された第６７パラメータの内容が正常ではない状況においては現状の設定値が高い側の設定値であることを示唆する第４示唆演出及び第５示唆演出が実行されないようにすることが可能となる。よって、記憶容量の増大化を抑制しながら

設定値の示唆演出を好適に行うことが可能となる。

【３５８３】

＜第７７の実施形態＞

本実施形態では遊技の進行が停止された状態となったことに基づいて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントが消灯される点で上記第４９の実施形態と相違している。また、開始待ち演出が行われる点で上記第４９の実施形態と相違している。以下、上記第４９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第４９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３５８４】

まず遊技の進行が停止された状態となった場合に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントを消灯状態とするための構成について説明する。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では、上記第４９の実施形態と同様に、遊技履歴の管理結果に対応する表示が行われるとともに、設定確認用処理（図１６６）又は設定値更新処理（図１６７）が実行される場合には現状の設定値に対応する表示が行われる。

【３５８５】

上記第３３の実施形態において図１１９を参照しながら既に説明したとおり、主制御基板６１には、供給された表示データに対応するデータを特図表示部３７ａの複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する第１表示回路２６１と、供給された表示データに対応するデータを特図保留表示部３７ｂの複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する第２表示回路２６２と、供給された表示データに対応するデータを普図表示部３８ａの複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する第３表示回路２６３と、供給された表示データに対応するデータを普図保留表示部３８ｂの複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する第４表示回路２６４と、供給された表示データに対応するデータを第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれに設けられた複数の表示用セグメントのそれぞれに提供する第５表示回路２６５と、が設けられている。

【３５８６】

上記第３３の実施形態と同様に、第１～第５表示回路２６１～２６５は提供された表示データを所定期間（例えば１６ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「０」の状態に近付くこととなる。したがって、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ、及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の各表示用セグメントは、新たな表示データが対応する表示回路２６１～２６５に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。本実施形態では、遊技の進行が停止された状態となった場合、第１～第５表示回路２６１～２６５に対する新たな表示データの提供が行われない状態とすることにより、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ、及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の各表示用セグメントを非表示状態、すなわち消灯状態とする。

【３５８７】

上記第３３の実施形態において図１１９を参照しながら既に説明したとおり、第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに対して共通となるように１個の表示ＩＣ２６６が設けられている。主側ＣＰＵ６３と表示ＩＣ２６６とは、種別データ信号線ＬＮ１と、種別クロック信号線ＬＮ２と、表示データ信号線ＬＮ３と、表示クロック信号線ＬＮ４とを利用して電気的に接続されており、主側ＣＰＵ６３は当該表示ＩＣ２６６に対して表示データ、及びその表示データが第１～第５表示回路２６１～２６５のいずれに対応しているのかを示す種別データを供給する。

【３５８８】

上記第３３の実施形態において図１２１を参照しながら既に説明したとおり、表示ＩＣ２６６は、主側ＣＰＵ６３から受信した種別データが格納される種別データバッファ２８１と、第１～第５表示回路２６１～２６５のうち種別データバッファ２８１に格納されている種別データに対応する表示回路２６１～２６５を表示データの受信先として指定する

ための選択信号を出力する選択信号出力部２８２と、主側ＣＰＵ６３から受信した表示データが格納される表示データバッファ２８３と、表示データバッファ２８３に格納された表示データを第１～第５表示回路２６１～２６５に送信する表示データ出力部２８４と、を備えている。表示データ出力部２８４は、種別データバッファ２８１に格納されている種別データがオール「０」の種別データとなった場合、第１～第５表示回路２６１～２６５のいずれにも表示データを送信しない状態となる。本実施形態では、遊技の進行が停止された状態となった場合、主側ＣＰＵ６３から表示ＩＣ２６６にオール「０」の種別データが送信され、種別データバッファ２８１に当該オール「０」の種別データが格納される。これにより、第１～第５表示回路２６１～２６５のいずれにも表示データが送信されない状態となる。

【３５８９】

上記第３３の実施形態において図１２０（ａ）を参照しながら既に説明したとおり、特定制御用のワークエリア２２１には、特図表示部３７ａに所定の表示を行わせるための表示データが格納される第１表示データバッファ２７１と、特図保留表示部３７ｂに所定の表示を行わせるための表示データが格納される第２表示データバッファ２７２と、普図表示部３８ａに所定の表示を行わせるための表示データが格納される第３表示データバッファ２７３と、普図保留表示部３８ｂに所定の表示を行わせるための表示データが格納される第４表示データバッファ２７４と、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に所定の表示を行わせるための表示データが格納される第５表示データバッファ２７５とが設けられている。

【３５９０】

本実施形態では、遊技の進行が停止されていない場合、主側ＣＰＵ６３は後述する第２タイマ割込み処理（図２８１）の各処理回にて、その処理回に対応する表示データバッファ２７１～２７５から表示データを読み出し、その読み出した表示データを表示ＩＣ２６６に送信するとともに、その表示データが第１～第５表示回路２６１～２６５のいずれに対応しているのかを示す種別データを表示ＩＣ２６６に送信する。当該送信された種別データは表示ＩＣ２６６の種別データバッファ２８１に格納されるとともに、当該送信された表示データは表示データバッファ２８３に格納される。そして、種別データバッファ２８１に格納されている種別データが選択信号出力部２８２から送信されるとともに、表示データバッファ２８３に格納されている表示データが表示データ出力部２８４から送信される。これにより、種別データにより特定される表示回路２６１～２６５に表示データが提供されて、当該表示データに対応する態様で特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ、又は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の各表示用セグメントが発光する。

【３５９１】

一方、遊技の進行が停止された状態となった場合、本実施形態では、後述する第２タイマ割込み処理（図２８１）において種別データ及び表示データの表示ＩＣ２２６への送信が行われないようにする。表示ＩＣ２６６に新たな種別データ及び表示データが提供されない状態とすることにより、種別データバッファ２８１にオール「０」の種別データが格納されている状態を継続させるとともに、第１～第５表示回路２６１～２６５のいずれにも表示データが送信されない状態を継続させることができる。これにより、遊技の進行が停止された状態となった場合には、当該状態が解除されるまで特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ、及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の各表示用セグメントの消灯状態を継続させることができる。

【３５９２】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態における第１タイマ割込み処理について、図２７９のフローチャートを参照しながら説明する。第１タイマ割込み処理の割込みは、上記第４９の実施形態と同様に、メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１１２にて設定確認用処理（図１６６）が実行される場合、ステップＳＢ１１５にて設定値更新処理（図１６７）が実行される場合、及びステップＳＢ１２８にて割込み許可の設定が行われ

た場合に許可される。なお、第１タイマ割込み処理におけるステップＳＩ２０１～ステップＳＩ２２０の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。また、第１タイマ割込み処理は上記第３５の実施形態と同様に第１割込み周期である４ミリ秒周期で定期的に起動される。

【３５９３】

ステップＳＩ２０１～ステップＳＩ２０４では上記第３５の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９０１～ステップＳ８９０４と同様の処理を実行する。具体的には、ステップＳＩ２０１にて停電情報記憶処理を実行する。停電情報記憶処理では、上記第３０の実施形態における停電情報記憶処理（図１０１）と同様に、停電監視基板６７から電源遮断の発生に対応した停電信号を受信しているか否かを監視し、停電の発生を特定した場合には停電時処理を実行した後に無限ループとなる。停電時処理では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１に保存する。

【３５９４】

ステップＳＩ２０１にて停電情報記憶処理を行った後、ステップＳＩ２０２にて抽選用乱数更新処理を実行することで当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び普電役物開放カウンタＣ４の各数値情報を更新し、ステップＳＩ２０３にて乱数初期値更新処理を実行することで乱数初期値カウンタＣＩＮＩの数値情報を更新し、ステップＳＩ２０４にて変動用カウンタ更新処理を実行することで変動種別カウンタＣＳの数値情報を更新する。

【３５９５】

その後、不正検知処理を実行する（ステップＳＩ２０５）。本実施形態では、不正検知処理における監視対象の不正として不正な電波の検知、不正な磁気の検知及び異常な振動の検知が設定されている。不正検知処理の説明に先立ち、不正を監視するためのセンサについて説明する。図２８０（ａ）は不正を監視するためのセンサを説明するための説明図である。

【３５９６】

図２８０（ａ）に示すように、ＭＰＵ６２の入力側には、不正な電波を検知するための電波検知センサ５５１、不正な磁気を検知するための磁気検知センサ５５２、及び異常な振動を検知するための振動検知センサ５５３が接続されている。電波検知センサ５５１が不正な電波を検知した場合には電波異常信号が主側ＣＰＵ６３に送信され、磁気検知センサ５５２が不正な磁気を検知した場合には磁気異常信号が主側ＣＰＵ６３に送信され、振動検知センサ５５３が異常な振動を検知した場合には振動異常信号が主側ＣＰＵ６３に送信される。主側ＣＰＵ６３はこれらの異常信号を受信した場合に監視対象の不正が発生したことを特定する。

【３５９７】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される不正検知処理について図２８０（ｂ）のフローチャートを参照しながら説明する。なお、不正検知処理におけるステップＳＩ３０１～ステップＳＩ３１１の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。また、不正検知処理は第１タイマ割込み処理（図２７９）のステップＳＩ２０５にて実行される。

【３５９８】

不正検知処理では、まず主側ＲＡＭ６５の特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＩ３０１）。遊技停止フラグは、第１タイマ割込み処理（図２７９）において後述するステップＳＩ２０６にて肯定判定をしてステップＳＩ２０７～ステップＳＩ２１９の処理を実行しない状況、すなわち遊技を進行させるための処理の実行を停止すべき状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図２７９）のステップＳＩ２０６にて肯定判定をすること

でステップＳＩ２０７～ステップＳＩ２１９の処理が実行されない状況となる。
【３５９９】
ステップＳＩ３０１にて遊技停止フラグに「１」がセットされていないと判定した場合には、監視対象の不正が発生したか否かを判定する（ステップＳＩ３０２）。具体的には、電波検知センサ５５１から電波異常信号を受信した場合、磁気検知センサ５５２から磁気異常信号を受信した場合、又は振動検知センサ５５３から振動異常信号を受信した場合に監視対象の不正が発生したと判定する。
【３６００】
監視対象の不正が発生したと判定した場合（ステップＳＩ３０２：ＹＥＳ）には、遊技停止フラグに「１」をセットする（ステップＳＩ３０３）。上述したとおり、遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図２７９）の後述するステップＳＩ２０６にて肯定判定が行われてステップＳＩ２０７～ステップＳＩ２１９の処理が実行されない状況、すなわち遊技を進行させるための処理の実行が停止された状態となる。このように、監視対象の不正が発生した場合には遊技の進行が停止された状態となる。一方、遊技停止フラグに「１」がセットされている状況であっても第１タイマ割込み処理（図２７９）におけるステップＳＩ２０１～ステップＳＩ２０５の処理は実行される。したがって、遊技の進行が停止されている状況であっても停電監視が実行されるとともに、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新が実行され、さらに不正の検知が実行される。
【３６０１】
一方、ステップＳＩ３０１にて遊技停止フラグに「１」がセットされていると判定した場合、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止対応フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＩ３０４）。遊技停止対応フラグは、遊技停止フラグに「１」がセットされて遊技の進行が停止された状態となった後に表示ＩＣ２６６（図１２１）の種別データバッファ２８１及び表示データバッファ２８３（図１２１）をクリアするための処理（ステップＳＩ３０６～ステップＳＩ３１０の処理）が実行されたことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。遊技停止対応フラグには、後述するステップＳＩ３１１にて「１」がセットされる。また、遊技停止対応フラグは、上記第４９の実施形態の設定値更新処理（図１６７）において第２ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ３１３）が実行された場合に「０」クリアされる。監視対象の不正が発生したことによりステップＳＩ３０２にて肯定判定が行われた場合には、後述するステップＳＩ３１１にて遊技停止対応フラグに「１」がセットされるため、不正検知処理（図２８０（ｂ））の次回以降の処理回ではステップＳＩ３０４にて肯定判定が行われることとなる。
【３６０２】
上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１０４において停電フラグに「１」がセットされていないと判定された場合、ステップＳＢ１０５においてチェックサムが正常でないと判定された場合、又はステップＳＢ１０６において設定参照用エリア３４１が正常な範囲でないと判定された場合にも遊技停止フラグに「１」がセットされる（ステップＳＢ１１９）。ステップＳＢ１１９において遊技停止フラグに「１」がセットされた後、リセットボタン６８ｃの押圧操作が行われていない場合（ステップＳＢ１２０：ＮＯ）、又はリセットボタン６８ｃの押圧操作は行われており設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作が行われていない場合（ステップＳＢ１２０：ＹＥＳ、ステップＳＢ１１４：ＮＯ）には、遊技停止フラグに「１」がセットされた状態のままステップＳＢ１２８において第１タイマ割込み処理（図２７９）の割込みが許可され、当該第１タイマ割込み処理のステップＳＩ２０５において不正検知処理（図２８０（ｂ））が実行されることとなる。この場合における不正検知処理では、遊技停止フラグに「１」がセットされていることに基づいてステップＳＩ３０１にて肯定判定が行われた後、遊技停止対応フラグに「１」がセットされていないことに基づいてステップＳＩ３０４にて否定判定が行われる。
【３６０３】

遊技停止対応フラグは、遊技停止フラグに「１」がセットされていることを１つの条件として「１」がセットされるフラグである。遊技停止フラグ及び遊技停止対応フラグに「１」がセットされている状態は、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された後、リセットボタン６８ｃの押圧操作及び設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作が行われている状態でパチンコ機１０への動作電力の供給が開始され、設定値更新処理（図１６７）が実行されることを条件として解除される。上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１１９において遊技停止フラグに「１」がセットされた後、リセットボタン６８ｃの押圧操作及び設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作が行われている場合（ステップＳＢ１２０：ＹＥＳ、ステップＳＢ１１４：ＹＥＳ）には、設定値更新処理が実行される（ステップＳＢ１１５）。遊技停止フラグは当該設定値更新処理（図１６７）のステップＳＢ３０３において開始時の初期設定が行われることにより「０」クリアされるとともに、遊技停止対応フラグは当該設定値更新処理（図１６７）の第２ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ３１３）が実行されることにより「０」クリアされる。

【３６０４】

不正検知処理（図２８０（ｂ））の説明に戻り、ステップＳＩ３０３にて遊技停止フラグに「１」をセットした場合、又はステップＳＩ３０４にて遊技停止対応フラグに「１」がセットされていないと判定した場合には、表示データバッファのクリア処理を実行する（ステップＳＩ３０５）。表示データバッファのクリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた第１～第５表示データバッファ２７１～２７５（図１２０（ａ））を「０」クリアする。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされた状態でパチンコ機１０への動作電力の供給が停止された後、設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われた状態でパチンコ機１０への動作電力の供給が再開された場合（すなわち「設定変更操作」が行われた場合）に、第１～第５表示データバッファ２７１～２７５に動作電力の供給停止前の表示データが残っている状態で設定値更新処理（図１６７）が開始されてしまうことを防止することができる。

【３６０５】

その後、ステップＳＩ３０６～ステップＳＩ３１０では、表示ＩＣ２６６の種別データバッファ２８１及び表示データバッファ２８３をクリアするための処理を実行する。具体的には、種別データ信号線ＬＮ１及び種別クロック信号線ＬＮ２（図１１９）を通じた信号の送信状態をＯＦＦ状態として種別データの送信が行われていない状態とする（ステップＳＩ３０６）。また、表示データ信号線ＬＮ３及び表示クロック信号線ＬＮ４（図１１９）を通じた信号の送信状態をＯＦＦ状態として表示データの送信が行われていない状態とする（ステップＳＩ３０７）。

【３６０６】

その後、表示ＩＣ２６６への送信対象の種別データとしてオール「０」の種別データを設定する（ステップＳＩ３０８）。オール「０」の種別データは、表示ＩＣ２６６の種別データバッファ２８１を「０」クリアするためのデータである。既に説明したとおり、種別データバッファ２８１は表示ＩＣ２６６が表示データバッファ２８３に格納されている表示データの送信先を把握するために参照するバッファである。種別データバッファ２８１が「０」クリアされることにより表示ＩＣ２６６による表示データの送信が行われない状態となる。ステップＳＩ３０８においてオール「０」の種別データを設定した後、表示ＩＣ２６６への送信対象の表示データとしてオール「０」の表示データを設定する（ステップＳＩ３０９）。オール「０」の表示データは、表示ＩＣ２６６の表示データバッファ２８３を「０」クリアするためのデータである。表示データバッファ２８３を「０」クリアすることにより、種別データバッファ２８１に格納されている種別データに対応しない表示データが表示データバッファ２８３に残っている状態が解消される。

【３６０７】

その後、各種信号の送信処理を実行する（ステップＳＩ３１０）。各種信号の送信処理では、ステップＳＩ３０８にて設定したオール「０」の種別データが表示ＩＣ２６６に送信されるように、種別データ信号線ＬＮ１及び種別クロック信号線ＬＮ２に対する信号出

力を行う。これにより、表示ＩＣ２６６の種別データバッファ２８１が「０」クリアされて、第１～第５表示回路２６１～２６５のいずれにも表示データが提供されない状態となる。また、ステップＳＩ３１０における各種信号の送信処理では、ステップＳＩ３０９にて設定したオール「０」の表示データが表示ＩＣ２６６に送信されるように、表示データ信号線ＬＮ３及び表示クロック信号線ＬＮ４に対する信号出力を行う。これにより、表示ＩＣ２６６の表示データバッファ２８３が「０」クリアされ、種別データバッファ２８１に格納されている種別データに対応しない表示データが表示データバッファ２８３に残っている状態が解消される。

【３６０８】

ステップＳＩ３１０にて各種信号の送信処理を実行した後、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止対応フラグに「１」をセットして（ステップＳＩ３１１）、本不正検知処理を終了する。遊技停止対応フラグに「１」がセットされることにより、不正検知処理（図２８０（ｂ））の次回の処理回ではステップＳＩ３０４にて肯定判定が行われて、ステップＳＩ３０５～ステップＳＩ３１１の処理が実行されなくなる。

【３６０９】

上記のとおり、遊技停止フラグに「１」がセットされて遊技の進行が停止された状態となった場合、表示ＩＣ２６６の種別データバッファ２８１が「０」クリアされることにより、第１～第５表示回路２６１～２６５のいずれにも表示データが提供されない状態となる。

【３６１０】

第１タイマ割込み処理（図２７９）の説明に戻り、ステップＳＩ２０５にて不正検知処理を実行した場合には、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＩ２０６）。立ち上げ処理中フラグは上記第４９の実施形態と同様に、第１タイマ割込み処理（図２７９）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理（図２７９）に設定されている各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行する一方、遊技を進行させるための処理を実行することなく当該第１タイマ割込み処理（図２７９）を終了すべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれにも「１」がセットされていない場合（ステップＳＩ２０６：ＮＯ）には、ステップＳＩ２０７～ステップＳＩ２２０の処理を実行する。ステップＳＩ２０７～ステップＳＩ２１９では上記第３５の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９０７～ステップＳ８９１９と同一の処理を実行する。

【３６１１】

一方、ステップＳＩ２０６にて遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグの少なくとも一方に「１」がセットされていると判定した場合には、ステップＳＩ２０７～ステップＳＩ２１９の処理を実行することなくステップＳＩ２２０に進む。このように、遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグの少なくとも一方に「１」がセットされている場合には遊技を進行するための処理が実行されなくなる。

【３６１２】

ステップＳＩ２０６にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＩ２１９の処理を行った場合には、管理用処理を実行して（ステップＳＩ２２０）、本第１タイマ割込み処理を終了する。ステップＳＩ２２０における管理用処理では、上記第１５の実施形態における管理用処理（図７０）と同様にステップＳ３８０３にて非特定制御に対応する処理である管理実行処理（図７１）のプログラムを読み出す。そして、この管理実行処理では上記第１５の実施形態と同様にステップＳ３９０８にてチェック処理（図７３）を実行する。チェック処理（図７３）では、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において、一般入賞口３１への１個の遊技球の入球を特定した場合には通常用の一般入賞カウンタ２３１ａの値を１加算し、特電入賞装置３２への１個の遊技球の入球を特定した場合には通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂの値を１加算し、第

１作動口３３への１個の遊技球の入球を特定した場合には通常用の第１作動カウンタ２３１ｃの値を１加算し、第２作動口３４への１個の遊技球の入球を特定した場合には通常用の第２作動カウンタ２３１ｄの値を１加算し、アウト口２４ａへの１個の遊技球の入球を特定した場合には通常用のアウトカウンタ２３１ｅの値を１加算する。また、チェック用処理では、通常の入球管理処理（図７４）、結果演算処理（図１３０）及び表示用処理（図１３１）を実行する。

【３６１３】

上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、ベース値は、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）に対する遊技球の合計払出個数の割合である。遊技停止フラグに「１」がセットされた場合、第１タイマ割込み処理（図２７９）において発射制御処理（ステップＳＩ２１１）が実行されなくなることにより、新たな遊技球の発射は禁止される。しかし、遊技停止フラグに「１」がセットされたタイミングにおいて遊技領域ＰＡに遊技球が存在している場合、当該遊技領域ＰＡに存在している遊技球は遊技停止フラグに「１」がセットされた後に遊技領域ＰＡから排出されることとなる。

【３６１４】

例えば、遊技領域ＰＡに遊技球が存在している状況において不正検知処理（図２８０（ｂ））が実行され、当該不正検知処理（図２８０（ｂ））にて監視対象の不正が検知された場合、遊技領域ＰＡに存在している遊技球が排出される前に遊技停止フラグに「１」がセットされる可能性が考えられる。

【３６１５】

遊技停止フラグに「１」がセットされた場合に通常の入球管理処理（図７４）が実行されなくなる構成とすると、遊技停止フラグに「１」がセットされた後に遊技領域ＰＡから排出された遊技球の数が通常用のアウトカウンタ２３１ｅに加算されなくなってしまう。これに対して、本実施形態では、遊技停止フラグに「１」がセットされて遊技の進行が停止された状態となった後も通常用の入球管理処理（図７４）が実行される構成である。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされた後に遊技領域ＰＡから排出された遊技球の数を通常用のアウトカウンタ２３１ｅにてカウントすることが可能となり、遊技停止フラグに「１」がセットされた後に遊技領域ＰＡから排出された遊技球の数が反映されたベース値を算出することが可能となる。

【３６１６】

本実施形態では、遊技停止フラグに「１」がセットされた状態においても結果演算処理（図１３０）が実行される。上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、結果演算処理（図１３０）では、ベース値の演算処理を実行する（ステップＳ８６０１）。当該演算処理では、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅ（上述した通常用の一般入賞カウンタ２３１ａ、通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂ、通常用の第１作動カウンタ２３１ｃ、通常用の第２作動カウンタ２３１ｄ、及び通常用のアウトカウンタ２３１ｅ）の値を利用してベース値を算出し、当該算出したベース値を非特定制御用のワークエリア２２３の演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１（図１２６）に上書きする（ステップＳ８６０２）。上記第３５の実施形態において図１２６を参照しながら既に説明したとおり、非特定制御用のワークエリア２２３には演算結果記憶エリア２３４が設けられており、演算結果記憶エリア２３４には、直近のベース値が格納される現状エリア３１１と、１回前の算出期間における最終的なベース値が格納される第１履歴エリア３１２と、２回前の算出期間における最終的なベース値が格納される第２履歴エリア３１３と、３回前の算出期間における最終的なベース値が格納される第３履歴エリア３１４とが設けられている。

【３６１７】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳ８６０３）。管理開始フラグは、上記第３

５の実施形態と同様に、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合において「０」の値となっている。また、非特定制御用のワークエリア２２３が管理開始フラグを含めて「０」クリアされて初期化された場合にも管理開始フラグの値は「０」となる。上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、管理開始フラグが設けられていることにより、パチンコ機１０の出荷段階における動作チェックの影響が、パチンコ機１０の出荷後において通常の遊技が行われている状況におけるベース値に対して及びづらくさせることが可能となる。

【３６１８】

ステップＳ８６０３において管理開始フラグに「１」がセットされていないと判定した場合には、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値を全て合計することで合計個数を算出し（ステップＳ８６０４）、その算出して合計個数が管理開始基準個数である３００個よりも多い個数である場合（ステップＳ８６０５：ＹＥＳ）に、管理開始フラグに「１」をセットする（ステップＳ８６０６）。その後、後述するデータシフト処理を実行し（ステップＳ８６０７）、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅを全て「０」クリアする（ステップＳ８６０８）。

【３６１９】

一方、ステップＳ８６０３において管理開始フラグに「１」がセットされていると判定した場合には、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値を全て合計することで合計個数を算出する（ステップＳ８６０９）。そして、当該算出した合計個数が初期基準個数（具体的には６０００個）以下である場合（ステップＳ８６１０：ＮＯ）には非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた演算初期フラグに「１」をセットし（ステップＳ８６１１）、当該算出した合計個数が初期基準個数（具体的には６０００個）よりも多い個数である場合（ステップＳ８６１０：ＹＥＳ）には当該演算初期フラグを「０」クリアする（ステップＳ８６１２）。演算初期フラグは、上記第３５の実施形態と同様に、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数に達しているか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【３６２０】

ステップＳ８６１１又はステップＳ８６１２の処理を実行した場合、ステップＳ８６０９にて算出した合計個数がシフト基準個数（具体的には６００００個）以上である場合（ステップＳ８６１３：ＹＥＳ）に、データシフト処理を実行する（ステップＳ８６１４）。ステップＳ８６０７及びステップＳ８６１４におけるデータシフト処理では、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に記憶された情報を、第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４、第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２の順序でシフトする。これにより、２回前の算出期間における最終的なベース値が３回前の算出期間における最終的なベース値として第３履歴エリア３１４に記憶され、１回前の算出期間における最終的なベース値が２回前の算出期間における最終的なベース値として第２履歴エリア３１３に記憶され、現状の算出期間において最後に算出されたベース値が１回前の算出期間における最終的なベース値として第１履歴エリア３１２に記憶される。データシフト処理が行われた場合、現状エリア３１１は「０」クリアされる。当該現状エリア３１１には、本結果演算処理（図１３０）の次回以降の処理回において、上述したステップＳ８６０１にて算出されたベース値が上書きされる（ステップＳ８６０２）。

【３６２１】

本実施形態では、遊技停止フラグに「１」がセットされた後も結果演算処理（図１３０）が実行される構成であることにより、遊技の進行が停止された状態となった後もベース値を算出するための演算及びベース値を算出するためのデータ管理が継続される。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされた後に遊技領域ＰＡから排出された遊技球の

数まで反映されたベース値を算出することが可能となる。また、遊技停止フラグに「１」がセットされて遊技の進行が停止された状態となった後に遊技領域ＰＡから排出された遊技球の数まで反映されたベース値に基づいて、上述した管理開始フラグの状態設定、演算初期フラグの状態設定、及びデータシフト処理（ステップ８６０７及びステップＳ８６１４）を行うことが可能となる。

【３６２２】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される第２タイマ割込み処理について、図２８１のフローチャートを参照しながら説明する。第２タイマ割込み処理の割込みは、上記第４９の実施形態と同様に、メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１１２にて設定確認用処理（図１６６）が実行される場合、ステップＳＢ１１５にて設定値更新処理（図１６７）が実行される場合、及びステップＳＢ１２８にて割込み許可の設定が行われた場合に許可される。なお、第２タイマ割込み処理におけるステップＳＩ４０１～ステップＳＩ４１５の処理は主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３６２３】

第２タイマ割込み処理では、まず特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＩ４０１）。既に説明したとおり、遊技停止フラグには、監視対象の不正が発生した場合に不正検知処理（図２８０（ｂ））のステップＳＩ３０３にて「１」がセットされる。また、遊技停止フラグには、上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、メイン処理（図１６５）において停電フラグに「１」がセットされていないと判定された場合（ステップＳＢ１０４：ＮＯ）、チェックサムが正常でないと判定された場合（ステップＳＢ１０５：ＮＯ）、又は設定参照用エリア３４１が正常な範囲でないと判定された場合（ステップＳＢ１０６：ＮＯ）にステップＳＢ１１９にて「１」がセットされる。

【３６２４】

ステップＳＩ４０１にて遊技停止フラグに「１」がセットされていないと判定した後、ステップＳＩ４０２～ステップＳＩ４１５では上記第３５の実施形態における第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００１～ステップＳ９０１４と同一の処理を実行する。具体的には、ステップＳＩ４０２にて割込み禁止の設定を行うことで第１タイマ割込み処理（図２７９）及び第２タイマ割込み処理（図２８１）の発生を禁止する。

【３６２５】

その後、チェック中カウンタの更新処理を実行する（ステップＳＩ４０３）。チェック中カウンタの更新処理では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタの値が１以上である場合に当該チェック中カウンタの値を１減算する。これにより、チェック中カウンタを利用して初期チェック期間を計測している状況である場合、当該チェック中カウンタの値は第２タイマ割込み処理（図２８１）が起動される度に定期的に減算されることとなる。

【３６２６】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＩ４０４：ＹＥＳ）、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行することで、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４（図５３）にてパチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示を行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に格納する（ステップＳＩ４０５）。これにより、上記第３３の実施形態と同様に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を更新している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。

【３６２７】

一方、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＩ４０４：ＮＯ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＩ４

０６）。そして、設定確認表示フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＩ４０６：ＹＥＳ）、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行することで、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてパチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示を行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に格納する。これにより、上記第３３の実施形態と同様に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。

【３６２８】

一方、設定確認表示フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＩ４０６：ＮＯ）、通常時の設定処理を実行する（ステップＳＩ４０８）。上記第３５の実施形態と同様に、通常時の設定処理では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタの値が１以上である場合には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が行われる。また、チェック中カウンタの値が「０」であるとともに非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされていない場合には、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況におけるベース値の表示が行われる。また、管理開始フラグに「１」がセットされている状況においては、現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４（図１２６）のベース値の表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて順次実行される。この場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知対象となるベース値は、表示継続期間（具体的には５秒）が経過する度に、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４という予め定められた順序で切り換えられる。この場合において、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた初期表示フラグに「１」がセットされている場合には、第１，第２報知用表示装置２０１，２０２にて演算初期表示が行われる。演算初期表示では、第５表示データバッファ２７５に現状設定されている表示データに対応する表示が第１，第２報知用表示装置２０１，２０２にて行われる場合に、当該表示が点滅表示される。

【３６２９】

ステップＳＩ４０５の処理を実行した場合、ステップＳＩ４０７の処理を実行した場合、又はステップＳＩ４０８の処理を実行した場合には、種別データ信号線ＬＮ１及び種別クロック信号線ＬＮ２を通じた信号の送信状態をＯＦＦ状態とするとともに（ステップＳＩ４０９）、表示データ信号線ＬＮ３及び表示クロック信号線ＬＮ４を通じた信号の送信状態をＯＦＦ状態とする（ステップＳＩ４１０）。

【３６３０】

その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた種別カウンタの更新処理を実行する（ステップＳＩ４１１）。種別カウンタは、遊技停止フラグに「１」がセットされていない状態における第２タイマ割込み処理の処理回において、第１～第５表示データバッファ２７１～２７５のうち表示データの送信対象を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。種別カウンタの値が「１」である場合、第１表示データバッファ２７１の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「２」である場合、第２表示データバッファ２７２の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「３」である場合、第３表示データバッファ２７３の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「４」である場合、第４表示データバッファ２７４の表示データが送信対象となり、種別カウンタの値が「５」である場合、第５表示データバッファ２７５の表示データが送信対象となる。ステップＳＩ４１１における種別カウンタの更新処理では種別カウンタの値を１加算するとともに、その１加算後における種別カウンタの値が上限値である「５」を超えた場合には種別カウンタの値を「１」に設定する。これにより、第２タイマ割込み処理の各処理回ごとに第１～第５表示データバッファ２７１～２７５において表示データの送信対象が順次変更される。

【３６３１】

その後、種別カウンタの値に対応する種別データを主側ＲＯＭ６４から読み出し（ステ

ップＳＩ４１２）、種別カウンタの値に対応する表示データバッファ２７１～２７５から表示データを読み出す（ステップＳＩ４１３）。そして、各種信号の送信処理を実行する（ステップＳＩ４１４）。各種信号の送信処理では、ステップＳＩ４１２にて読み出した種別データが表示ＩＣ２６６に送信されるように、種別データ信号線ＬＮ１及び種別クロック信号線ＬＮ２に対する信号出力を行う。また、各種信号の送信処理では、ステップＳＩ４１３にて読み出した表示データが表示ＩＣ２６６に送信されるように、表示データ信号線ＬＮ３及び表示クロック信号線ＬＮ４に対する信号出力を行う。その後、割込み許可の設定を行って（ステップＳＩ４１５）、本第２タイマ割込み処理を終了する。ステップＳＩ４１５では、第１タイマ割込み処理（図２７９）及び第２タイマ割込み処理（図２８１）の発生を許可する。

【３６３２】

一方、ステップＳＩ４０１にて遊技停止フラグに「１」がセットされていると判定した場合には、ステップＳＩ４０２～ステップＳＩ４１５の各種処理を実行することなく本第２タイマ割込み処理を終了する。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされて遊技の進行が停止された状態となった場合、表示ＩＣ２６６に対して新たな種別データ及び表示データが送信されない状態とすることができる。

【３６３３】

既に説明したとおり、遊技停止フラグに「１」がセットされた場合には、不正検知処理（図２８０（ｂ））のステップＳＩ３０６～ステップＳＩ３１１の処理が実行されることにより表示ＩＣ２６６の種別データバッファ２８１及び表示データバッファ２８３が「０」クリアされて第１～第５表示回路２６１～２６５に対して表示データが提供されない状態となる。また、上記のとおり、遊技停止フラグに「１」がセットされている場合には、第２タイマ割込み処理（図２８１）におけるステップＳＩ４０２～ステップＳＩ４１５の各種処理が実行されなくなるため、表示ＩＣ２６６に対して新たな種別データ及び表示データの送信が行われなくなる。これにより、遊技停止フラグに「１」がセットされている状態が解除されるまで、第１～第５表示回路２６１～２６５に対して新たな表示データの提供が行われない状態を継続させることができる。

【３６３４】

既に説明したとおり、第１～第５表示回路２６１～２６５は提供された表示データを所定期間（例えば１６ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「０」の状態に近付くこととなる。このため、第１～第５表示回路２６１～２６５に対して新たな表示データが提供されない状態となった場合、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントが非表示状態、すなわち消灯状態となる。

【３６３５】

既に説明したとおり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４ではベース値の表示が行われる。遊技の進行が停止された状態においても第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値の表示が継続される構成とすると、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における表示からは遊技の進行が停止された状態であることが判別できない。このため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示されているベース値を見た遊技ホールの管理者は遊技の進行が停止された状態ではないと誤解してしまうおそれがある。これに対して、本実施形態では、遊技の進行が停止された状態となった場合に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントが消灯状態となるため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の状態に基づいて遊技の進行が停止された状態であることを容易に判別することが可能となる。

【３６３６】

また、本実施形態では、遊技の進行が停止された状態となった場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に加えて、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂも消灯状態となる。遊技機本体１２を外枠１１に対し

てパチンコ機１０前方に開放させることなく外部から視認することができる特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示用セグメントが消灯状態となることにより、遊技の進行が停止された状態であることをパチンコ機１０の外部から容易に判別することが可能となる。

【３６３７】

上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、設定確認用処理（図１６６）はメイン処理（図１６５）にて遊技停止フラグに「１」がセットされていないこと（ステップＳＢ１０９：ＮＯ）を１つの条件として実行される。このため、設定値を確認している状況において遊技停止フラグには「１」がセットされておらず、当該状況において実行される第２タイマ割込み処理（図２８１）ではステップＳＩ４０２～ステップＳＩ４１５の処理が実行される。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において、設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われるようにすることができる。

【３６３８】

また、上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、設定値更新処理（図１６７）では開始時の初期設定（ステップＳＢ３０３）が実行されることにより遊技停止フラグが「０」クリアされる。このため、設定値を変更している状況において遊技停止フラグには「１」がセットされておらず、当該状況において実行される第２タイマ割込み処理（図２８１）ではステップＳＩ４０２～ステップＳＩ４１５の処理が実行される。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において、設定値を変更している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われるようにすることができる。

【３６３９】

次に、開始待ち演出を実行するための構成の説明に先立ち、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から受信する復帰コマンドについて説明する。上記第４９の実施形態と同様に、主側ＣＰＵ６３は、メイン処理（図１６５）における動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）において通常復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれかを音光側ＣＰＵ３５３に送信する。本実施形態では、音光側ＣＰＵ３５３がいずれかの復帰コマンドを受信した場合に開始待ち状態となる。なお、開始待ち状態の詳細については後述する。

【３６４０】

上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、確認時の復帰コマンドは、リセットボタン６８ｃの押圧操作が行われることなく設定キー挿入部６８ａのＯＮ状態が行われている状態でパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合（すなわち動作電力の供給開始に際して「設定確認操作」が行われた場合）に、主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ３５３に送信される。具体的には、メイン処理（図１６５）においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われておらず設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作が行われている場合（ステップＳＢ１０８：ＮＯ、ステップＳＢ１１０：ＹＥＳ）には、特定制御用のワークエリア２２１における停電フラグに「１」が設定されていること（ステップＳＢ１０４：ＹＥＳ）、チェックサムが正常であること（ステップＳＢ１０５：ＹＥＳ）、設定参照用エリア３４１が正常な範囲であること（ステップＳＢ１０６：ＹＥＳ）、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」が設定されていないこと（ステップＳＢ１０７：ＮＯ）、及び特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」が設定されていないこと（ステップＳＢ１０９：ＮＯ）を条件として、設定確認用処理（ステップＳＢ１１２）を実行する。また、設定確認用処理（ステップＳＢ１１２）が実行されている状況において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止された後、動作電力の供給が再開されて実行されるメイン処理（図１６５）では、設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作が行われることなくパチンコ機１０の電源ＯＮ操作が行われた場合（ステップＳＢ１１０：ＮＯ）であっても、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグに「１」が設定されていること（ステップＳＢ１１１：ＹＥＳ）に基づいて、設定確認用処理を実行する（ステップＳＢ１１２）。そして、設定確認用処理（図１６６）のス

テップＳＢ２０７にて確認時の復帰コマンドが音光側ＣＰＵ３５３に送信される。
【３６４１】
上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、更新時の復帰コマンドは、設定キー挿入部６８ａのＯＮ状態及びリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われている状態でパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合（すなわち動作電力の供給開始に際して「設定変更操作」が行われた場合）に、主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ３５３に送信される。具体的には、メイン処理（図１６５）においてリセットボタン６８ｃの押圧操作及び設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作が行われている場合（ステップＳＢ１０８又はステップＳＢ１２０：ＹＥＳ、ステップＳＢ１１４：ＹＥＳ）、ステップＳＢ１１５にて設定値更新処理（図１６７）が実行される。そして、当該設定値更新処理（図１６７）のステップＳＢ３１４にて更新時の復帰コマンドが音光側ＣＰＵ３５３に送信される。
【３６４２】
上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、クリア時の復帰コマンドは、設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作が行われることなくリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われている状態でパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合（すなわち動作電力の供給開始に際して「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合）に、主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ３５３に送信される。具体的には、メイン処理（図１６５）においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われており（ステップＳＢ１０８又はステップＳＢ１２０：ＹＥＳ）、設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作が行われていない場合（ステップＳＢ１１４：ＮＯ）、遊技停止フラグに「１」がセットされていないこと（ステップＳＢ１１６：ＮＯ）を条件として、第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が実行される。そして、当該第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）の終了後にクリア時の復帰コマンドが音光側ＣＰＵ３５３に送信される（ステップＳＢ１１８）。
【３６４３】
上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、通常復帰コマンドは、設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われることなくパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合（すなわち動作電力の供給開始に際して「操作無し」の場合）に主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ３５３に送信される。具体的には、メイン処理（図１６５）においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われておらず（ステップＳＢ１０８：ＮＯ）、設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作が行われていない場合（ステップＳＢ１１０：ＮＯ）、停電フラグに「１」が設定されていること（ステップＳＢ１０４：ＹＥＳ）、チェックサムが正常であること（ステップＳＢ１０５：ＹＥＳ）、設定参照用エリア３４１が正常な範囲であること（ステップＳＢ１０６：ＹＥＳ）、設定更新表示フラグに「１」が設定されていないこと（ステップＳＢ１０７：ＮＯ）、遊技停止フラグに「１」が設定されていないこと（ステップＳＢ１０９：ＮＯ）、及び確認表示フラグに「１」が設定されていないこと（ステップＳＢ１１１：ＮＯ）を条件として、音光側ＣＰＵ３５３に通常復帰コマンドが送信される（ステップＳＢ１１３）。
【３６４４】
次に、開始待ち演出を実行するための構成について説明する。上述したとおり、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれかを受信した場合に開始待ち状態となる。開始待ち状態は、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から変動用コマンド及び種別コマンドを受信して遊技回用の演出（以下、「遊技回用演出」ともいう。）が開始される場合に終了する。また、遊技回用演出及び開閉実行モード用の演出のいずれもが実行されていない期間が予め定められた期間（具体的には１０分間）となった場合にも開始待ち状態となる。
【３６４５】
開始待ち状態において実行される開始待ち演出として、図柄表示装置４１（図３）において１０秒間に亘ってデモ動画表示が行われるデモ演出と、デモ演出が終了してから次のデモ演出が開始されるまでの間に図柄表示装置４１において開始待ち用の図柄画像が表示

される待機図柄表示とが存在している。デモ演出及び待機図柄表示では、パチンコ機１０のタイトルを含む共通のタイトル背景画像が表示される。デモ演出では、当該タイトル背景画像の前方で、所定のキャラクタが動作するキャラクタ動画の表示が行われる。また、待機図柄表示では、当該タイトル背景画像の前方で、予め定められた開始待ち用の左図柄画像、中図柄画像及び右図柄画像の組合せが停止している停止図柄の表示が行われる。

【３６４６】

本実施形態において行われるデモ演出は１種類であるとともに、本実施形態において行われる待機図柄表示は１種類である。開始待ち状態では、後述するデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値となるタイミングでデモ演出が開始される。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングは、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａが「０」クリアされた後、当該デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始されるタイミングを基準として、当該タイミングから１５秒間隔で発生する。

【３６４７】

開始待ち状態であるという条件、及びデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値であるという条件の両方が満たされた場合に図柄表示装置４１においてデモ演出が開始される。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値となったタイミングにおいて開始待ち状態であるという条件が満たされていなかった場合には、開始待ち状態となった後、当該開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値となるタイミングでデモ演出が開始される。開始待ち状態においてデモ演出が開始された場合、図柄表示装置４１では、当該開始待ち状態が終了するまで１０秒間に亘るデモ演出と５秒間に亘る待機図柄表示とが繰り返し実行される。

【３６４８】

パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合、音光側ＣＰＵ３５３は図柄表示装置４１にて初期画像及び機種情報画像の表示が行われるように表示制御装置８２の表示制御を行う。図柄表示装置４１には、まず初期画像が表示される。初期画像は、図柄表示装置４１の表示面４１ａの全ドットを発光状態とする画像であり、図柄表示装置４１において当該初期画像が正常に表示されていることを確認することにより、図柄表示装置４１の液晶の表示面４１ａが正常であることを確認することができる。初期画像が所定の時間（例えば３秒間）に亘って表示された後、図柄表示装置４１の表示内容は、初期画像から機種情報画像に切り替わる。機種情報画像は、図柄表示装置４１の下側領域にメーカー名及び機種名を表示させて、パチンコ機１０のメーカー名及び機種名を確認可能とする画像である。上記第４９の実施形態において既に説明した設定値更新処理（図１６７）が行われている状態であることを示す更新時報知、及び上記第４９の実施形態において既に説明した設定確認用処理（図１６６）が行われている状態であることを示す確認時報知は、メーカー名及び機種名の表示よりも上側の領域において行われる。なお、更新時報知及び確認時報知の詳細については後述する。

【３６４９】

図柄表示装置４１では、機種情報画像が表示されている状況において開始待ち状態となり、当該開始待ち状態において後述するデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値となることにより、当該機種情報画像の表示が終了してデモ演出が開始される。

【３６５０】

デモ演出及び待機図柄表示を実行するための具体的な処理構成の説明に先立ち、音光側ＲＡＭ３５５における記憶エリアについて説明する。図２８２は音光側ＲＡＭ３５５における記憶エリアを説明するための説明図である。なお、本実施形態における音声発光制御基板３５１（図１７２）には、上記第４９の実施形態におけるＲＴＣ３５６（図１７２）及びＲＴＣ用メモリ３５７（図１７２）は設けられていない。

【３６５１】

図２８２に示すように、本実施形態における音光側ＲＡＭ３５５には、後述する音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０９）における「０」クリア及び初期設定の対象から除外されている初期化対象外エリア５５４と、当該音

光側ＲＡＭ初期化処理における「０」クリア及び初期設定の対象に設定されている初期化対象エリア５５５とが設けられている。初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５は、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合にバックアップ電力が供給されない記憶エリアである。

【３６５２】

初期化対象外エリア５５４には、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａが設けられている。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａは、開始待ち状態におけるデモ演出の開始タイミングを音光側ＣＰＵ３５３において把握可能とするタイマカウンタである。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａは、後述する音光側タイマ割込み処理（図２８４）が実行される度に１加算され、予め定められた最大値（具体的には２９９９）に達した後に「０」に戻るループカウンタである。音光側タイマ割込み処理（図２８４）では、開始待ち状態であるか否かに関わらず、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａを更新する処理が実行される。音光側タイマ割込み処理（図２８４）は５ミリ秒間隔で実行され、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａは１５秒間隔で最大値に達する。上述したとおり、開始待ち状態では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達する度にデモ演出が開始される。一方、開始待ち状態でない場合には、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達したとしてもデモ演出は開始されない。

【３６５３】

初期化対象エリア５５５には、待ち状態用タイマカウンタ５５５ａと、待ち状態フラグ５５５ｂとが設けられている。待ち状態用タイマカウンタ５５５ａは、遊技回用演出及び開閉実行モード用の演出のいずれもが実行されていない期間が予め定められた期間（具体的には１０分間）となったことを音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするタイマカウンタである。待ち状態用タイマカウンタ５５５ａの最大値は予め「１２０００」に設定されており、待ち状態用タイマカウンタ５５５ａは、設定値の確認が行われている状態、設定値の変更が行われている状態、遊技回用演出が実行されている状態、開閉実行モードである状態及び開始待ち状態のいずれにも該当しない場合に、５ミリ秒間隔で１加算されて更新される。

【３６５４】

待ち状態フラグ５５５ｂは、開始待ち状態であることを音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするフラグである。待ち状態フラグ５５５ｂには、音光側ＣＰＵ３５３が通常復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれかを受信した場合に「１」がセットされるとともに、遊技回用演出及び開閉実行モード用の演出のいずれもが実行されていない期間が予め定められた期間（具体的には１０分間）となった場合（待ち状態用タイマカウンタ５５５ａの値が最大値に達した場合）にも「１」がセットされる。また、待ち状態フラグ５５５ｂは、開始待ち状態において音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から変動用コマンド及び種別コマンドを受信して遊技回用演出が開始される場合に「０」クリアされる。

【３６５５】

次に、デモ演出及び待機図柄表示を実行するための具体的な処理構成について説明する。先ず音光側ＣＰＵ３５３にて実行される音光側立ち上げ処理について、図２８３のフローチャートを参照しながら説明する。なお、音光側立ち上げ処理はパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に実行される。

【３６５６】

音光側立ち上げ処理では、まず音光側ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＩ５０１）。音光側ＲＡＭクリア処理では、音光側ＲＡＭ３５５における初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５を「０」クリアした後、当該初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５の初期設定を行う。上述したとおり、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合、初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５にはバックアップ電力は供給されない。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された直後、初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５の記憶エリアは

不定な状態となっている。ステップＳＩ５０１にて音光側ＲＡＭクリア処理を実行することにより、初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５の記憶エリアにおける当該不定な状態を解消することができる。その後、音光側ＲＡＭクリア処理では、図柄表示装置４１において初期画像及び機種情報画像の表示が行われるように表示制御装置８２の表示制御を行う。これにより、図柄表示装置４１では、まず初期画像の表示が開始される。既に説明したとおり、初期画像が所定の時間（例えば３秒間）に亘って表示された後、図柄表示装置４１の表示内容は、初期画像から機種情報画像に切り替わる。

【３６５７】

その後、音光側ＲＡＭ３５５の初期化対象エリア５５５に設けられた初期設定フラグに「１」をセットする（ステップＳＩ５０２）。初期設定フラグは、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されて音光側ＲＡＭクリア処理（ステップＳＩ５０１）が実行された後、主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンド（通常復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれか）を受信していないことを音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするフラグである。初期設定フラグは、いずれかの復帰コマンドを受信して後述する音光側ＲＡＭ初期化処理（ステップＳＩ５０９）が実行されることにより「０」クリアされる。初期設定フラグに「１」がセットされている間、後述する音光側タイマ割込み処理（図２８４）では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａを更新するための処理（ステップＳＩ６０１）が行われる一方、待ち状態用タイマカウンタ５５５ａを更新するための処理（ステップＳＩ６０３～ステップＳＩ６２１）は行われない状態となる。このため、設定値の確認又は設定値の変更が行われている状況において待ち状態用タイマカウンタ５５５ａの値が最大値に達したことに基づいて開始待ち状態となることが防止されている。これにより、設定値の確認又は設定値の変更が行われる状況においてデモ演出及び待機図柄表示が実行されることが防止されている。

【３６５８】

その後、音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みを許可する（ステップＳＩ５０３）。これにより、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａを更新するための処理が実行される状態となる。本実施形態では、「設定変更操作」、「設定確認操作」及び「ＲＡＭクリア操作」の有無に関わらず、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信したことに基づいて行われる処理（ステップＳＩ５０４以降の処理）よりも先に音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みを許可して、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が行われる状態とする。

【３６５９】

パチンコ機１０に動作電力の供給が開始されたタイミングからデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始されるタイミングまでの期間は、外部からの操作に影響されない。また、当該期間を変更するための抽選等の処理も行われない。このため、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始することで、当該複数のパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始されるタイミングを同一又は略同一として揃えることができる。

【３６６０】

複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始される場合とは、例えば、１つの島設備に複数のパチンコ機１０が設置されており、当該複数のパチンコ機１０の電源スイッチがＯＮになっている状態で当該島設備の電源装置のＯＮ操作が行われる場合である。上記第１の実施形態において既に説明したとおり、パチンコ機１０は、外枠１１を島設備に取り付け固定することにより、遊技ホールに設置される。島設備は複数のパチンコ機１０を設置可能である。島設備は、電源装置（図示略）を備えており、島設備の電源装置がＯＮ操作されることにより当該島設備に設置されているパチンコ機１０への動作電力の供給が可能となるとともに、島設備の電源装置がＯＦＦ操作されることにより当該島設備に設置されているパチンコ機１０への動作電力の供給が停止される。島設備に設置されているパチンコ機１０への動作電力の供給は、パチンコ機１０の電源スイッチ及び島設

備の電源装置の両方がＯＮ状態となった場合に開始される。このため、島設備に設置されている複数のパチンコ機１０の電源スイッチがＯＮになっている状態で当該島設備の電源装置のＯＮ操作を行うことにより、当該島設備に設置されている複数のパチンコ機１０への動作電力の供給を一斉に開始することができる。

【３６６１】

音光側立ち上げ処理（図２８３）の説明に戻り、ステップＳＩ５０３にて音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みを許可した後、ステップＳＩ５０４～ステップＳＩ５０８では、上記第４９の実施形態の演出制御処理（図１７３）におけるステップＳＢ４０１～ステップＳＢ４０５と同様の処理を実行する。具体的には、主側ＣＰＵ６３から更新開始コマンドを受信している場合（ステップＳＩ５０４：ＹＥＳ）、更新時報知の設定処理を実行する（ステップＳＩ５０５）。更新開始コマンドは主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１６７）が開始された場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。更新時報知の設定処理では、設定値更新処理（図１６７）が実行されていることを示す画像、設定値を変更するための操作内容を認識可能とさせるための画像、及び設定値更新処理（図１６７）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。本実施形態においてこれらの画像は、機種情報画像よりも前方に存在している態様で、機種情報画像におけるメーカー名及び機種名の表示よりも上側の領域に表示される。これにより、設定値を変更している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定値を変更させるために必要な操作内容及び設定値更新処理（図１６７）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。

【３６６２】

主側ＣＰＵ６３から確認開始コマンドを受信している場合（ステップＳＩ５０６：ＹＥＳ）、確認時報知の設定処理を実行する（ステップＳＩ５０７）。確認開始コマンドは主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１６６）が開始される場合に音光側ＣＰＵ３５３に送信される。確認時報知の設定処理では、設定確認用処理（図１６６）が実行されていることを示す画像及び設定確認用処理（図１６６）を終了させるための操作内容を認識可能とさせるための画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。本実施形態においてこれらの画像は、機種情報画像よりも前方に存在している態様で、機種情報画像におけるメーカー名及び機種名の表示よりも上側の領域に表示される。これにより、パチンコ機１０の現状の設定値を確認している状況であることを遊技ホールの管理者が認識することが可能となるとともに、設定確認用処理（図１６６）を終了させるために必要な操作内容を遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。

【３６６３】

ステップＳＩ５０４～ステップＳＩ５０７の処理を実行した場合、主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンド、クリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンドのいずれかを受信したか否かを判定する（ステップＳＩ５０８）。既に説明したとおり、通常復帰コマンドは、メイン処理（図１６５）において設定確認用処理（ステップＳＢ１１２）、設定値更新処理（ステップＳＢ１１５）及び第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）のいずれもが実行されることなく動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了する場合にステップＳＢ１１３にて送信される。クリア時の復帰コマンドは既に説明したとおりメイン処理（図１６５）のステップＳＢ１１７にて第１ＲＡＭクリア処理が終了した場合にステップＳＢ１１８にて送信される。確認時の復帰コマンドは設定確認用処理（図１６６）のステップＳＢ２０７にて音光側ＣＰＵ３５３に送信される。更新時の復帰コマンドは設定値更新処理（図１６７）のステップＳＢ３１４にて音光側ＣＰＵ３５３に送信される。

【３６６４】
これら復帰コマンドを受信していない場合（ステップＳＩ５０８：ＮＯ）、ステップＳＩ５０４の処理に戻る。音光側ＣＰＵ３５３はいずれかの復帰コマンドを受信するまでステップＳＩ５０９以降の処理を実行しない。これにより、主側ＣＰＵ６３にて動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が実行されている間は音光側ＣＰＵ３５３にて通常の演出の実行制御が開始されないようにすることが可能となる。また、既に説明したとおり、いずれかの復帰コマンドを受信して音光側ＲＡＭ初期化処理（ステップＳＩ５０９）が実行されるまで初期化対象エリア５５５の初期設定フラグに「１」がセットされている状態が解除されないため、待ち状態用タイマカウンタ５５５ａを更新するための処理が実行されない。このため、待ち状態用タイマカウンタ５５５ａの値が最大値に達したことに基づいて開始待ち状態となることはない。

【３６６５】
本実施形態では、ステップＳＩ５０４～ステップＳＩ５０８の処理が実行されるよりも先であるステップＳＩ５０３にて後述する音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みを許可してデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新を開始させる。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されるタイミングからデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始されるタイミングまでの期間は、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信するタイミングに影響されない。これにより、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」の有無によってデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始されるタイミングがずれてしまうことが防止されている。また、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始されるよりも先に音光側ＲＡＭクリア処理（ステップＳＩ５０１）にて「０」クリアされている。このため、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」の有無によって当該デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達するタイミングがずれてしまうことが防止されている。

【３６６６】
上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）は、設定キーを利用して設定キー挿入部６８ａをＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換える操作が行われた場合に終了する。設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）の終了タイミングは人の操作（遊技ホールの管理者による操作）が行われるタイミングによって変化するため、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されてから音光側ＣＰＵ３５３が確認時の復帰コマンド又は更新時の復帰コマンドを受信するまでの期間は、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されてから音光側ＣＰＵ３５３が通常復帰コマンド又はクリア時の復帰コマンドを受信するまでの期間とは異なる期間となる。

【３６６７】
音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信するタイミングに応じてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新開始のタイミングが変化してしまう構成では、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始する場合であって当該動作電力の供給開始時に当該複数のパチンコ機１０のうち一部のパチンコ機１０に対して「設定確認操作」又は「設定変更操作」を行う場合、「設定確認操作」又は「設定変更操作」が行われたパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングと、「設定確認操作」又は「設定変更操作」が行われなかったパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングとにずれが生じてしまう。既に説明したとおり、デモ演出は、開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングで開始される。このため、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングがずれることにより、開始待ち状態においてデモ演出が開始されるタイミングがずれてしまう。この場合、デモ演出の開始タイミングに基づいて「設定確認操作」又は「設定変更操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうおそれがある。設定値は遊技者の有利度に

対応する値であり、上記第１の実施形態において既に説明したとおり、設定値が高いほど有利度が高くなる。デモ演出の開始タイミングに基づいて、遊技者の有利度に対応する設定値を確認する「設定確認操作」、又は当該設定値を変更する「設定変更操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことは問題である。

【３６６８】

これに対して、本実施形態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始されるタイミングは、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信するタイミングに影響されない。このため、「設定確認操作」及び「設定変更操作」の有無によってデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングにずれが生じてしまうことを防止することができるとともに、開始待ち状態におけるデモ演出の開始タイミングにずれが生じてしまうことを防止することができる。これにより、デモ演出の開始タイミングに基づいて「設定確認操作」又は「設定変更操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことが防止されている。

【３６６９】

主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信した場合（ステップＳＩ５０８：ＹＥＳ）には、音光側ＲＡＭ初期化処理を実行する（ステップＳＩ５０９）。音光側ＲＡＭ初期化処理では、音光側ＲＡＭ３５５における初期化対象エリア５５５の「０」クリア及び初期設定を行う一方、音光側ＲＡＭ３５５における初期化対象外エリア５５４の「０」クリア及び初期設定は行わない。ステップＳＩ５０９における音光側ＲＡＭ初期化処理では、初期化対象エリア５５５の「０」クリア及び初期設定に際して、更新時報知が行われている場合には当該更新時報知を終了させるとともに、確認時報知が行われている場合には当該確認時報知を終了させる。一方、音光側ＲＡＭ初期化処理が実行されても図柄表示装置４１における機種情報画像の表示は終了しない。機種情報画像は、デモ演出が開始されるまで図柄表示装置４１に表示され続ける。初期化対象エリア５５５の「０」クリア及び初期設定が行われることにより、初期設定フラグが「０」クリアされる。これにより、後述する音光側タイマ割込み処理（図２８４）においてステップＳＩ６０３～ステップＳＩ６２１の処理が実行される状態となる。

【３６７０】

一方、ステップＳＩ５０９における音光側ＲＡＭ初期化処理では初期化対象外エリア５５４の「０」クリア及び初期設定は行われないため、音光側ＲＡＭ初期化処理が実行されたとしても初期化対象外エリア５５４におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は「０」クリアされない。これにより、ステップＳＩ５０９における音光側ＲＡＭ初期化処理が実行されるタイミングに応じてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達するタイミングがずれてしまうことが防止されている。

【３６７１】

その後、初期化対象エリア５５５における待ち状態フラグ５５５ｂに「１」をセットして開始待ち状態とする（ステップＳＩ５１０）。既に説明したとおり、開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達することで図柄表示装置４１においてデモ演出が開始される。

【３６７２】

その後、主側ＣＰＵ６３から受信した復帰コマンドが通常復帰コマンドである場合（ステップＳＩ５１１：ＹＥＳ）には、通常復帰報知の設定処理を実行する（ステップＳＩ５１２）。通常復帰報知の設定処理では、メイン処理（図１６５）において設定確認用処理（ステップＳＢ１１２）、設定値更新処理（ステップＳＢ１１５）及び第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）のいずれもが実行されることなく動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了したことを示す画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。本実施形態において当該画像は、機種情報画像よりも前方に存在している態様で、機種情報画像におけるメーカー名及び機種名の表示よりも上側の領域に表示される。これにより、設定確認用処理（ステップＳＢ１１２）、設定値更新処理（ステップＳＢ１１５）及び第１ＲＡＭクリア処理（

ステップＳＢ１１７）のいずれもが実行されることなく動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了したことを遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。

【３６７３】

ステップＳＩ５１１にて否定判定を行った場合には、主側ＣＰＵ６３から受信した復帰コマンドが更新時の復帰コマンドであるか否かを判定し（ステップＳＩ５１３）、更新時の復帰コマンドを受信している場合（ステップＳＩ５１３：ＹＥＳ）には更新後報知の設定処理を実行する（ステップＳＩ５１４）。更新後報知の設定処理では、設定値更新処理（図１６７）が実行されたことを示す画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。本実施形態において当該画像は、機種情報画像よりも前方に存在している態様で、機種情報画像におけるメーカー名及び機種名の表示よりも上側の領域に表示される。これにより、設定値更新処理が終了したことを遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。

【３６７４】

ステップＳＩ５１３にて否定判定を行った場合には、主側ＣＰＵ６３から受信した復帰コマンドが確認時の復帰コマンドであるか否かを判定し（ステップＳＩ５１５）、確認時の復帰コマンドを受信している場合（ステップＳＩ５１５：ＹＥＳ）には確認後報知の設定処理を実行する（ステップＳＩ５１６）。確認後報知の設定処理では、設定確認用処理（図１６６）が実行されたことを示す画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。本実施形態において当該画像は、機種情報画像よりも前方に存在している態様で、機種情報画像におけるメーカー名及び機種名の表示よりも上側の領域に表示される。これにより、設定確認用処理が終了したことを遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。

【３６７５】

ステップＳＩ５１１、ステップＳＩ５１３及びステップＳＩ５１５にて否定判定を行った場合には、主側ＣＰＵ６３から受信した復帰コマンドがクリア時の復帰コマンドであることを意味するため、クリア復帰報知の設定処理を実行して（ステップＳＩ５１７）、本音光側立ち上げ処理を終了する。クリア復帰報知の設定処理では、第１ＲＡＭクリア処理（メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１１７）が実行されたことを示す画像が図柄表示装置４１にて表示されるように表示制御装置８２を表示制御する。本実施形態において当該画像は、機種情報画像よりも前方に存在している態様で、機種情報画像におけるメーカー名及び機種名の表示よりも上側の領域に表示される。これにより、第１ＲＡＭクリア処理が終了したことを遊技ホールの管理者が認識することが可能となる。なお、上記報知が図柄表示装置４１にて実行されることに加えて又は代えて、表示発光部５３及びスピーカ部５４のうち少なくとも一方にて行われる構成としてもよい。

【３６７６】

次に、音光側ＣＰＵ３５３にて実行される音光側タイマ割込み処理について、図２８４のフローチャートを参照しながら説明する。なお、音光側タイマ割込み処理は音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０３において割込みが許可された後に比較的短い周期（例えば５ミリ秒）で繰り返し実行される。

【３６７７】

音光側タイマ割込み処理では、まずデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新処理を実行する（ステップＳＩ６０１）。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新処理では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値を１加算し、当該１加算後のデモ開始用タイマカウ

ンタ５５４ａの値が「３００１」となった場合にはデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値を「０」クリアする。

【３６７８】

その後、初期化対象エリア５５５における初期設定フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＩ６０２）。既に説明したとおり、初期設定フラグは、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されて音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０１）が実行された後、主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンド（通常復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれか）を受信していないことを音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするフラグである。初期設定フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＩ６０２：ＹＥＳ）には、ステップＳＩ６０３～ステップＳＩ６２１の処理を実行することなく本音光側タイマ割込み処理を終了する。

【３６７９】

一方、初期設定フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＩ６０２：ＮＯ）には、主側ＣＰＵ６３からオープニングコマンドを受信したか否かを判定する（ステップＳＩ６０３）。上記第１の実施形態において既に説明したとおり、オープニングコマンドは特電開始処理（特図特電制御処理（図１２）のステップＳ４０９）において、今回の開閉実行モードにおけるオープニング期間を開始させるための処理が未だ実行されていない場合に主側ＣＰＵ６３から送信される。

【３６８０】

オープニングコマンドを受信している場合（ステップＳＩ６０３：ＹＥＳ）、開閉実行モード用の演出設定処理を実行する（ステップＳＩ６０４）。開閉実行モード用の演出設定処理では、開閉実行モード用のデータテーブルを音光側ＲＯＭ３５４から音光側ＲＡＭ３５５の初期化対象エリア５５５に読み出す。そして、当該データテーブルに従って表示発光部５３の発光制御及びスピーカ部５４の音出力制御を実行する。これにより、表示発光部５３及びスピーカ部５４において開閉実行モード用の演出が実行される。また、オープニングコマンドを表示制御装置８２に送信する。表示制御装置８２はオープニングコマンドを受信することにより、開閉実行モード用の表示演出が実行されるように図柄表示装置４１を表示制御する。

【３６８１】

その後、初期化対象エリア５５５に設けられた開閉実行モード演出フラグに「１」をセットする（ステップＳＩ６０５）。開閉実行モード演出フラグは開閉実行モード用の演出を実行している状態であることを音光側ＣＰＵ３５３にて特定するためのフラグである。

【３６８２】

ステップＳＩ６０３にて否定判定を行った場合、又はステップＳＩ６０５の処理を実行した場合には、主側ＣＰＵ６３からエンディングコマンドを受信したか否かを判定する（ステップＳＩ６０６）。上記第１の実施形態において既に説明したとおり、エンディングコマンドは特電終了処理（特図特電制御処理（図１２）のステップＳ４１２）において、今回の開閉実行モードにおけるエンディング期間を開始させるための処理が未だ実行されていない場合に主側ＣＰＵ６３から送信される。

【３６８３】

エンディングコマンドを受信している場合（ステップＳＩ６０６：ＹＥＳ）、エンディング用の演出設定処理を実行する（ステップＳＩ６０７）。エンディング用の演出設定処理では、エンディング用のデータテーブルを音光側ＲＯＭ３５４から音光側ＲＡＭ３５５の初期化対象エリア５５５に読み出す。そして、当該データテーブルに従って表示発光部５３の発光制御及びスピーカ部５４の音出力制御を実行する。これにより、表示発光部５３及びスピーカ部５４においてエンディング期間の演出が実行される。また、エンディングコマンドを表示制御装置８２に送信する。表示制御装置８２はエンディングコマンドを受信することにより、エンディング期間の表示演出が実行されるように図柄表示装置４１を表示制御する。

【３６８４】
ステップＳＩ６０６にて否定判定を行った場合、又はステップＳＩ６０７の処理を実行した場合には、主側ＣＰＵ６３から変動用コマンド及び種別コマンドを受信したか否かを判定する（ステップＳＩ６０８）。上記第１の実施形態において既に説明したとおり、変動用コマンド及び種別コマンドは特図変動開始処理（図１３）のステップＳ５１２において主側ＣＰＵ６３から送信される。
【３６８５】
変動用コマンド及び種別コマンドを受信している場合（ステップＳＩ６０８：ＹＥＳ）には、初期化対象エリア５５５における待ち状態フラグ５５５ｂに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＩ６０９）。待ち状態フラグ５５５ｂに「１」がセットされている場合（ステップＳＩ６０９：ＹＥＳ）には、開始待ち演出の終了処理を実行する（ステップＳＩ６１０）。開始待ち演出の終了処理では、デモ演出を実行している場合に当該デモ演出を終了するための処理を実行するとともに、待機図柄表示を実行している場合に当該待機図柄表示を終了するための処理を実行する。
【３６８６】
その後、初期化対象エリア５５５における待ち状態フラグ５５５ｂを「０」クリアして開始待ち状態を終了させる（ステップＳＩ６１１）。そして、初期化対象エリア５５５に設けられた開始待ち演出フラグを「０」クリアする（ステップＳＩ６１２）。開始待ち演出フラグは、開始待ち演出としてデモ演出及び待機図柄表示のいずれかを実行している状態であることを音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするフラグである。
【３６８７】
このように、開始待ち状態において音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から変動用コマンド及び種別コマンドを受信した場合には、開始待ち演出（デモ演出及び待機図柄表示）が終了するとともに、開始待ち状態が終了する。
【３６８８】
ステップＳＩ６０９にて否定判定を行った場合、又はステップＳＩ６１２の処理を実行した場合には、遊技回用の演出設定処理を実行する（ステップＳＩ６１３）。遊技回用の演出設定処理では、今回受信した変動用コマンド及び種別コマンドに対応する遊技回用演出を実行するためのデータテーブルを音光側ＲＯＭ３５４から音光側ＲＡＭ３５５の初期化対象エリア５５５に読み出す。そして、当該データテーブルに従って表示発光部５３の発光制御及びスピーカ部５４の音出力制御を実行する。これにより、表示発光部５３及びスピーカ部５４において遊技回用演出が実行される。また、今回受信した変動用コマンド及び種別コマンドに対応する遊技回用演出コマンドを表示制御装置８２に送信する。表示制御装置８２は当該遊技回用演出コマンドを受信することにより、今回受信した変動用コマンド及び種別コマンドに対応する遊技回用演出が実行されるように図柄表示装置４１を表示制御する。上記第１の実施形態において既に説明したとおり、遊技回用演出では、図柄表示装置４１において図柄の変動表示が行われ、当該遊技回用演出が終了する場合に特図変動開始処理（図１３）における当否判定処理（ステップＳ５０４）及び振分判定処理（ステップＳ５０６）の結果に対応する図柄の組み合わせが停止表示される。
【３６８９】
デモ演出が行われている状況で音光側ＣＰＵ３５３が変動用コマンド及び種別コマンドを受信した場合、図柄表示装置４１では、上述したタイトル背景画像の前方で所定のキャラクタが動作するキャラクタ動画の表示が行われる状態（デモ演出が行われている状態）から、今回受信した変動用コマンド及び種別コマンドに対応する遊技回用演出が実行されている状態に切り替わる。また、待機図柄表示が行われている状況で音光側ＣＰＵ３５３が変動用コマンド及び種別コマンドを受信した場合、図柄表示装置４１では、上述したタイトル背景画像の前方で予め定められた開始待ち用の左図柄画像、中図柄画像及び右図柄画像の組合せが停止している停止図柄の表示が行われている状態（待機図柄表示が行われている状態）から、今回受信した変動用コマンド及び種別コマンドに対応する遊技回用演出が実行されている状態に切り替わる。

【３６９０】
その後、初期化対象エリア５５５に設けられた遊技回用演出フラグに「１」をセットする（ステップＳＩ６１４）。遊技回用演出フラグは、遊技回用演出の実行中であることを音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするフラグである。
【３６９１】
ステップＳＩ６０８にて否定判定を行った場合、又はステップＳＩ６１４の処理を行った場合には、演出更新用処理を実行する（ステップＳＩ６１５）。演出更新用処理では、開閉実行モード用の演出を実行している場合には当該開閉実行モード用の演出を更新するための処理を実行するとともに、遊技回用演出を実行している場合には当該遊技回用演出を更新するための処理を実行する。
【３６９２】
その後、ステップＳＩ６１５における演出更新用処理において開閉実行モード用の演出が終了したか否かを判定し（ステップＳＩ６１６）、開閉実行モード用の演出が終了した場合（ステップＳＩ６１６：ＹＥＳ）には初期化対象エリア５５５における開閉実行モード演出フラグを「０」クリアする（ステップＳＩ６１７）。
【３６９３】
ステップＳＩ６１６にて否定判定を行った場合には、ステップＳＩ６１５における演出更新用処理において遊技回用演出が終了したか否かを判定し（ステップＳＩ６１８）、遊技回用演出が終了した場合（ステップＳＩ６１８：ＹＥＳ）には初期化対象エリア５５５における遊技回用演出フラグを「０」クリアする（ステップＳＩ６１９）。
【３６９４】
ステップＳＩ６１７の処理を行った場合、又はステップＳＩ６１９の処理を行った場合には、初期化対象エリア５５５における待ち状態用タイマカウンタ５５５ａを「０」クリアする（ステップＳＩ６２０）。既に説明したとおり、待ち状態用タイマカウンタ５５５ａは、遊技回用演出及び開閉実行モード用の演出のいずれもが実行されていない期間が予め定められた期間（具体的には１０分間）となったことを音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするタイマカウンタである。待ち状態用タイマカウンタ５５５ａの値が予め定められた最大値（具体的には１２００００）に達した場合に開始待ち状態となる。開閉実行モード用の演出が終了した場合及び遊技回用演出が終了した場合に待ち状態用タイマカウンタ５５５ａを「０」クリアすることにより、開閉実行モード用の演出が終了したタイミング又は遊技回用演出が終了したタイミングから開閉実行モード用の演出及び遊技回用演出のいずれもが実行されていない期間のカウントを開始することができる。
【３６９５】
ステップＳＩ６１８にて否定判定を行った場合、又はステップＳＩ６２０の処理を行った場合には、開始待ち演出用処理を実行して（ステップＳＩ６２１）、本音光側タイマ割込み処理を終了する。図２８５は開始待ち演出用処理を示すフローチャートである。
【３６９６】
開始待ち演出用処理では、まず初期化対象エリア５５５における開閉実行モード演出フラグ及び遊技回用演出フラグの状態を参照し、開閉実行モード用の演出又は遊技回用演出を実行中であるか否かを判定する（ステップＳＩ７０１）。開閉実行モード用の演出又は遊技回用演出を実行中である場合（ステップＳＩ７０１：ＹＥＳ）には、ステップＳＩ７０２～ステップＳＩ７１２の処理を実行することなく、そのまま本開始待ち演出用処理を終了する。
【３６９７】
一方、開閉実行モード用の演出及び遊技回用演出を実行していない場合（ステップＳＩ７０１：ＮＯ）には、初期化対象エリア５５５における待ち状態フラグ５５５ｂに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＩ７０２）。待ち状態フラグ５５５ｂに「１」がセットされていない場合（ステップＳＩ７０２：ＮＯ）、すなわち開始待ち状態でない場合には、初期化対象エリア５５５における待ち状態用タイマカウンタ５５５ａの値を１加算し（ステップＳＩ７０３）、当該１加算後の待ち状態用タイマカウンタ５５

５ａの値が最大値（具体的には１２００００）であるか否かを判定する（ステップＳＩ７０４）。既に説明したとおり、待ち状態用タイマカウンタ５５５ａの値は、開閉実行モード用の演出又は遊技回用演出が終了したタイミングで「０」クリアされる。ステップＳＩ７０４にて肯定判定を行った場合には、開閉実行モード用の演出及び遊技回用演出のいずれもが実行されていない状態が予め定められた期間（具体的には１０分間）に亘って継続されたことを意味するため、初期化対象エリア５５５における待ち状態フラグ５５５ｂに「１」をセットして開始待ち状態を開始させる（ステップＳＩ７０５）。

【３６９８】

ステップＳＩ７０２にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＩ７０５の処理を行った場合には、初期化対象エリア５５５における開始待ち演出フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＩ７０６）。既に説明したとおり、開始待ち演出フラグは、開始待ち演出としてデモ演出及び待機図柄表示のいずれかを実行している状態であることを音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするフラグである。開始待ち演出フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＩ７０６：ＮＯ）には、初期化対象外エリア５５４におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）であるか否かを判定する（ステップＳＩ７０７）。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値でない場合（ステップＳＩ７０７：ＮＯ）には、デモ演出を開始することなく、そのまま本開始待ち演出用処理を終了する。

【３６９９】

一方、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値である場合（ステップＳＩ７０７：ＹＥＳ）には、開始待ち演出フラグに「１」をセットし（ステップＳＩ７０８）、デモ演出の開始設定処理を実行して（ステップＳＩ７０９）、本開始待ち演出用処理を終了する。ステップＳＩ７０９におけるデモ演出の開始設定処理は、待機図柄表示が行われている状況においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）となった場合（後述するステップＳＩ７１２にて肯定判定が行われた場合）にも実行される。当該デモ演出の開始設定処理では、図柄表示装置４１にて機種情報画像の表示が行われている場合には当該機種情報画像の表示が終了するように表示制御装置８２を表示制御するとともに、図柄表示装置４１にて待機図柄表示が実行されている場合には当該待機図柄表示が終了するように表示制御装置８２を表示制御する。そして、図柄表示装置４１にてデモ演出が実行されるように表示制御装置８２を表示制御する。なお、デモ演出用の発光態様で表示発光部５３が発光するように表示発光部５３の発光制御を実行する構成としてもよく、デモ演出用の音出力が行われるようにスピーカ部５４を音出力制御する構成としてもよい。

【３７００】

ステップＳＩ７０６にて肯定判定を行った場合、すなわち既に開始待ち演出（デモ演出及び待機図柄表示）を実行中である場合には、初期化対象外エリア５５４におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「１９９９」であるか否かを判定する（ステップＳＩ７１０）。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「１９９９」である場合（ステップＳＩ７１０：ＹＥＳ）には、デモ演出が１０秒間に亘って実行されて当該デモ演出の終了タイミングとなったことを意味するため、待機図柄表示の開始設定処理を実行して（ステップＳＩ７１１）、本開始待ち演出用処理を終了する。ステップＳＩ７１１における待機図柄表示の開始設定処理では、図柄表示装置４１において実行されているデモ演出が終了するとともに当該図柄表示装置４１において待機図柄表示が開始されるように表示制御装置８２を表示制御する。なお、待機図柄表示用の発光態様で表示発光部５３が発光するように表示発光部５３の発光制御を実行する構成としてもよく、待機図柄表示用の音出力が行われるようにスピーカ部５４を音出力制御する構成としてもよい。

【３７０１】

ステップＳＩ７１０にて否定判定を行った場合には、初期化対象外エリア５５４におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値である「２９９９」であるか否かを判定する（ステップＳＩ７１２）。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体

的には２９９９）でない場合（ステップＳＩ７１２：ＮＯ）には、そのまま本開始待ち演出用処理を終了する。一方、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）である場合（ステップＳＩ７１２：ＹＥＳ）には、前回のデモ演出の開始タイミングから１５秒が経過して新たなデモ演出の開始タイミングとなったことを意味するため、ステップＳＩ７０９におけるデモ演出の開始設定処理を実行して、本開始待ち演出用処理を終了する。これにより、図柄表示装置４１では待機図柄表示が終了して新たなデモ演出が開始される。

【３７０２】

次に、図２８６のタイムチャートを参照しながらパチンコ機１０への動作電力の供給開始後にデモ演出が実行される様子を説明する。図２８６（ａ）はデモ演出の実行期間を示し、図２８６（ｂ）は待機図柄表示の実行期間を示し、図２８６（ｃ）は初期化対象外エリア５５４におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングを示し、図２８６（ｄ）はデモ開始用タイマカウンタ５５４ａのクリアタイミングを示し、図２８６（ｅ）は音光側立ち上げ処理（図２８３）にて音光側ＲＡＭクリア処理（ステップＳＩ５０１）が実行されるタイミングを示し、図２８６（ｆ）は音光側立ち上げ処理（図２８３）にて音光側ＲＡＭ初期化処理（ステップＳＩ５０９）が実行されるタイミングを示し、図２８６（ｇ）は初期化対象エリア５５５における待ち状態フラグ５５５ｂの状態を示し、図２８６（ｈ）は設定値の更新が行われている状態を示し、図２８６（ｉ）はパチンコ機１０への動作電力の供給が開始されるタイミングを示す。

【３７０３】

まずパチンコ機１０への動作電力の供給開始に際して「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」が行われない場合について説明する。

【３７０４】

ｔ１のタイミングで図２８６（ｉ）に示すように設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われることなくパチンコ機１０への動作電力の供給が開始されると、当該ｔ１のタイミングで図２８６（ｅ）に示すように音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０１）が実行される。既に説明したとおり、音光側ＲＡＭクリア処理では音光側ＲＡＭ３５５の初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５の「０」クリア及び初期設定が行われる。このため、当該ｔ１のタイミングで図２８６（ｄ）に示すように初期化対象外エリア５５４におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「０」クリアされる。そして、音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可されることによりデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始される。

【３７０５】

その後、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンドを受信するｔ２のタイミングで、図２８６（ｆ）に示すように音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０９）が実行される。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａが設けられている初期化対象外エリア５５４は音光側ＲＡＭ初期化処理における「０」クリア及び初期設定の対象から除外されているため、図２８６（ｄ）に示すように当該ｔ２のタイミングではデモ開始用タイマカウンタ５５４ａは「０」クリアされない。当該ｔ２のタイミングでは、図２８６（ｇ）に示すように待ち状態フラグ５５５ｂに「１」がセットされて開始待ち状態となる。

【３７０６】

その後、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されたｔ１のタイミングから略１５秒が経過したｔ３のタイミングで、図２８６（ｃ）に示すようにデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達する。図２８６（ｇ）に示すように当該ｔ３のタイミングにおいてパチンコ機１０は開始待ち状態であるため、図２８６（ａ）に示すように当該ｔ３のタイミングで図柄表示装置４１においてデモ演出が開始される。

【３７０７】

その後、ｔ３のタイミングから１０秒が経過したｔ４のタイミングで図２８６（ａ）に示すようにデモ演出が終了し、図２８６（ｂ）に示すように図柄表示装置４１において待機図柄表示が開始される。その後、ｔ３のタイミングから１５秒が経過したｔ５のタイミングで図２８６（ｃ）に示すようにデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達すると、図２８６（ｂ）に示すように待機図柄表示が終了し、図２８６（ａ）に示すように図柄表示装置４１においてデモ演出が開始される。

【３７０８】

上記のとおり、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」が行われることなくパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合、音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０１）が実行されてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａが「０」クリアされた後、当該デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始される。パチンコ機１０に動作電力の供給が開始されたタイミング（ｔ１のタイミング）から最初にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミング（ｔ３のタイミング）までの期間は、外部からの操作に影響されない。また、当該期間を変更するための抽選等の処理も行われない。このため、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始することで、当該複数のパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最初に最大値（具体的には２９９９）に達するタイミングを同一又は略同一として揃えることができる。

【３７０９】

図柄表示装置４１ではパチンコ機１０への動作電力の供給開始から略１５秒後に１回目のデモ演出が開始される。音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンドを受信して実行される音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０９）ではデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は「０」クリアされないため、音光側ＣＰＵ３５３が通常復帰コマンドを受信するタイミングはデモ演出が開始されるタイミングに影響を与えない。

【３７１０】

既に説明したとおり、「ＲＡＭクリア処理」が行われてパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンドに代えてクリア時の復帰コマンドを受信するが、当該クリア時の復帰コマンドを受信して実行される音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０９）でもデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は「０」クリアされない。このため、音光側ＣＰＵ３５３がクリア時の復帰コマンドを受信するタイミングはデモ演出が開始されるタイミングに影響を与えない。これにより、「ＲＡＭクリア操作」の有無によってデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングが変化してしまうことが防止されているとともに、デモ演出の開始タイミングが変化してしまうことが防止されている。なお、「設定確認操作」又は「設定変更操作」が行われてパチンコ機１０への動作電力の供給が開始される場合については後述する。

【３７１１】

デモ演出は、開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａが最大値（具体的には２９９９）に達する度に開始され、図柄表示装置４１では１０秒間に亘るデモ演出と５秒間に亘る待機図柄表示とが開始待ち状態が終了するまで繰り返し実行される。

【３７１２】

次に、設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されるとともにリセットボタン６８ｃが押圧操作されながら動作電力の供給が開始される場合（すなわち「設定変更操作」が行われる場合）について説明する。

【３７１３】

ｔ６のタイミングで図２８６（ｉ）に示すように設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されるとともにリセットボタン６８ｃが押圧操作されながら動作電力の供給が開始されると、当該ｔ６のタイミングで図２８６（ｅ）に示すように音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０１）が実行される。これにより、図２８６（

ｄ）に示すようにデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「０」クリアされる。そして、音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可されることによりデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始される。また、図２８６（ｈ）に示すように当該ｔ６のタイミングにおいて設定値の更新が行われている状態となる。

【３７１４】

その後、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されたｔ６のタイミングから略１５秒が経過したｔ７のタイミングで図２８６（ｃ）に示すようにデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達する。図２８６（ｇ）に示すように当該ｔ７のタイミングにおいて初期化対象エリア５５５における待ち状態フラグ５５５ｂには「１」がセットされておらずパチンコ機１０は開始待ち状態ではない。このため、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達したとしても図２８６（ａ）に示すように当該ｔ７のタイミングではデモ演出は開始されない。

【３７１５】

その後、ｔ８のタイミングで図２８６（ｈ）に示すように設定値の更新が行われている状態が終了すると、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から更新時の復帰コマンドを受信する。これにより、当該ｔ８のタイミングで図２８６（ｆ）に示すように音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０９）が実行される。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａが設けられている初期化対象外エリア５５４は音光側ＲＡＭ初期化処理における「０」クリア及び初期設定の対象から除外されているため、図２８６（ｄ）に示すように当該ｔ８のタイミングではデモ開始用タイマカウンタ５５４ａは「０」クリアされない。当該ｔ８のタイミングでは、図２８６（ｇ）に示すように待ち状態フラグ５５５ｂに「１」がセットされて開始待ち状態となる。

【３７１６】

その後、ｔ７のタイミングから１５秒が経過したｔ９のタイミングで図２８６（ｃ）に示すようにデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達する。図２８６（ｇ）に示すように当該ｔ９のタイミングにおいてパチンコ機１０は開始待ち状態であるため、図２８６（ａ）に示すように当該ｔ９のタイミングで図柄表示装置４１においてデモ演出が開始される。

【３７１７】

上記のとおり、パチンコ機１０への動作電力の供給開始に際して「設定変更操作」が行われて設定値の更新が行われる場合、設定値の変更が行われている状況においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達する場合がある。また、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時に「設定確認操作」が行われて設定値の確認が行われる場合には、設定値の確認が行われている状況においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達する場合がある。設定値の確認又は変更が行われている状態においてパチンコ機１０は開始待ち状態ではないため、設定値の確認又は変更が行われている状況においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達したとしてもデモ演出は開始されない。

【３７１８】

パチンコ機１０への動作電力の供給開始時に「設定変更操作」が行われて設定値の変更が行われる場合、設定値の変更が終了するまで主側ＣＰＵ６３は更新時の復帰コマンドを送信しない。このため、音光側ＣＰＵ３５３が更新時の復帰コマンドを受信した場合に行われる音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０９）の実行タイミングは設定値の変更が行われる時間の長さに応じて変化する。また、パチンコ機１０への動作電力の供給開始に際して「設定確認操作」が行われて設定値の確認が行われる場合、設定値の確認が終了するまで主側ＣＰＵ６３は確認時の復帰コマンドを送信しない。このため、音光側ＣＰＵ３５３が確認時の復帰コマンドを受信した場合に行われる音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０９）の実行タイミングは設定値の確認が行われる時間の長さに応じて変化する。本実施形態では音光側ＲＡＭ初期化処理が実行されてもデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は「０

」クリアされない構成であるため、音光側ＣＰＵ３５３が更新時の復帰コマンド又は確認時の復帰コマンドを受信するタイミングはデモ演出が開始されるタイミングに影響を与えない。これにより、「設定確認操作」及び「設定変更操作」の有無によってデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングが変化してしまうことが防止されているとともに、デモ演出の開始タイミングが変化してしまうことが防止されている。

【３７１９】

次に、図２８７のタイムチャートを参照しながら開閉実行モード用の演出及び遊技回用演出のいずれもが実行されていない状態が予め設定された期間（具体的には１０分間）となった後にデモ演出が開始される様子を説明する。図２８７（ａ）はデモ演出の実行期間を示し、図２８７（ｂ）は初期化対象外エリア５５４におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングを示し、図２８７（ｃ）は初期化対象エリア５５５における待ち状態フラグ５５５ｂの状態を示し、図２８７（ｄ）は遊技回用演出の実行期間を示し、図２８７（ｅ）は音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から変更用コマンド及び種別コマンドを受信するタイミングを示す。

【３７２０】

開始待ち状態であるとともに図柄表示装置４１においてデモ演出が実行されているｔ１のタイミングで図２８７（ｅ）に示すように音光側ＣＰＵ３５３が変動用コマンド及び種別コマンドを受信すると、図２８７（ａ）に示すように図柄表示装置４１においてデモ演出が終了するとともに、図２８７（ｃ）に示すように初期化対象エリア５５５における待ち状態フラグ５５５ｂが「０」クリアされて開始待ち状態が終了する。そして、当該ｔ１のタイミングで図２８７（ｄ）に示すように表示発光部５３、スピーカ部５４及び図柄表示装置４１において遊技回用演出が開始される。

【３７２１】

その後、ｔ２のタイミングで図２８７（ｂ）に示すように初期化対象外エリア５５４におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達する。図２８７（ｃ）に示すように当該ｔ２のタイミングにおいて待ち状態フラグ５５５ｂには「１」がセットされておらずパチンコ機１０は開始待ち状態ではない。このため、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達したとしても図２８７（ａ）に示すように当該ｔ２のタイミングではデモ演出は開始されない。

【３７２２】

その後、ｔ３のタイミングで図２８７（ｄ）に示すように遊技回用演出が終了する。その後、ｔ４のタイミングで図２８７（ｂ）に示すようにデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達する。図２８７（ｃ）に示すように当該ｔ４のタイミングにおいて待ち状態フラグ５５５ｂには「１」がセットされておらずパチンコ機１０は開始待ち状態ではないため、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達したとしても図２８７（ａ）に示すようにデモ演出は開始されない。

【３７２３】

その後、ｔ３のタイミングから１０分が経過したｔ５のタイミングまで遊技回用演出が実行されていない状態が継続すると、当該ｔ５のタイミングで図２８７（ｃ）に示すように待ち状態フラグ５５５ｂに「１」がセットされて開始待ち状態となる。開始待ち状態となっても当該ｔ５のタイミングではデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達するという条件が満たされていないため、図２８７（ａ）に示すようにデモ演出は開始されない。

【３７２４】

その後、開始待ち状態であるｔ６のタイミングで図２８７（ｂ）に示すようにデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達すると、図２８７（ａ）に示すように当該ｔ６のタイミングで図柄表示装置４１においてデモ演出が開始される。

【３７２５】

上記のとおり、デモ演出は、開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａ

の値が最大値（具体的には２９９９）に達したタイミングで開始される。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新は、音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０３において音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可されてからパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまで、開閉実行モード用の演出及び遊技回用演出の有無に関わらず実行される。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後、開閉実行モード用の演出及び遊技回用演出の実行タイミング、実行期間及び実行回数によってデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングが変化してしまうことが防止されている。

【３７２６】

複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始された場合、各パチンコ機１０においてその後に行われる開閉実行モード用の演出及び遊技回用演出の実行タイミング、実行期間及び実行回数が異なっている状態となったとしても当該複数のパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達するタイミングを同一又は略同一とすることができるとともに、当該複数のパチンコ機１０においてデモ演出が開始されるタイミングを同一又は略同一として揃えることができる。

【３７２７】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【３７２８】

遊技停止フラグに「１」がセットされて遊技の進行が停止された状態となった場合、第５表示回路２６５に対して新たな表示データが提供されなくなることで、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントが消灯状態となる。遊技の進行が停止された状態においても第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてベース値の表示が継続される構成とすると、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における表示からは遊技の進行が停止された状態であることが判別できず、当該ベース値の表示を見た遊技ホールの管理者は遊技の進行が停止された状態ではないと誤解してしまうおそれがある。これに対して、遊技の進行が停止された状態となった場合に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントが消灯される構成であることにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の状態に基づいて遊技の進行が停止された状態であることを容易に判別することが可能となる。

【３７２９】

遊技の進行が停止された状態となった場合、第１～第４表示回路２６１～２６４に対しても新たな表示データが提供されなくなる。特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示用セグメントは、対応する表示回路２６１～２６４に新たな表示データが提供されなくなった場合に消灯状態となる。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に加えて、遊技機本体１２を外枠１１に対してパチンコ機１０前方に開放させることなく外部から視認することができる特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂも消灯状態となる構成とすることにより、遊技の進行が停止された状態であることをパチンコ機１０の外部から容易に判別可能とすることができる。

【３７３０】

遊技の進行が停止された状態となった場合、当該状態が解除されるまで第１～第５表示回路２６１～２６５に対して新たな表示データが提供されない状態が維持される。このため、遊技の進行が停止された状態が解除されるまで、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントの消灯状態を継続させることができる。これにより、遊技の進行が停止された状態であることを分かり易いものとすることができる。

【３７３１】

通常用の入球管理処理（図７４）は遊技停止フラグに「１」がセットされて遊技の進行が停止された状態となった後も実行される。これにより、遊技停止フラグに「１」がセッ

トされた後に遊技領域ＰＡから排出された遊技球の数を通常用のアウトカウンタ２３１ｅにてカウントすることが可能となり、遊技の進行が停止された状態となった後に遊技領域ＰＡから排出された遊技球の数が反映されたベース値を算出することが可能となる。

【３７３２】

パチンコ機１０に動作電力の供給が開始されたタイミングから最初にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達するタイミングまでの期間は、外部からの操作に影響されない。また、当該期間を変更するための抽選等の処理も行われない。このため、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始することで、当該複数のパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最初に最大値に達するタイミングを同一又は略同一として揃えることができる。また、音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可された後、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は、開閉実行モード用の演出及び遊技回用演出の実行の有無に関わらず、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまで音光側タイマ割込み処理（図２８４）が実行される度に更新される。これにより、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始することで、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまで当該複数のパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングを同一又は略同一として揃えることができるとともに、当該複数のパチンコ機１０においてデモ演出が開始されるタイミングを揃えることができる。複数のパチンコ機１０においてデモ演出を一斉に開始させることにより、当該複数のパチンコ機１０におけるデモ演出に一体感を持たせて、パチンコ機１０への遊技者の関心を高めることができる。

【３７３３】

デモ演出は、開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達したことを契機として開始される。パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後、音光側立ち上げ処理（図２８３）では、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信したことに基づいて実行される処理（ステップＳＩ５０４以降の処理）よりも先に音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可されてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始される。このため、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」の有無によりデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングが変化してしまうことが防止されている。これにより、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始することで当該複数のパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングを同一又は略同一のタイミングとして揃えることができるとともに、デモ演出が開始されるタイミングを同一又は略同一のタイミングとして揃えることができる。

【３７３４】

音光側ＣＰＵ３５３がいずれかの復帰コマンドを受信した場合に実行される音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０９）では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は「０」クリアされない。このため、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」の有無によってデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングが変化してしまうことが防止されているとともに、デモ演出の開始タイミングが変化してしまうことが防止されている。

【３７３５】

「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」の有無によってデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングが変化してしまう構成では、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始する場合であって当該動作電力の供給開始時に当該複数のパチンコ機１０のうち一部のパチンコ機１０に対して「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」のいずれかを行う場合、「設定確認操作」、「設定変更操作」、又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０においてデモ演出が開始されるタイミングと、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」が行われなかったパチンコ機１０においてデモ演出が開始されるタ

イミングとにずれが生じてしまう。この場合、デモ演出の開始タイミングに基づいて「設定確認操作」、「設定変更操作」、又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうおそれがある。これに対して、本実施形態では「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」の有無によってデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングが変化しない構成であることにより、デモ演出の開始タイミングに基づいて「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」のいずれかが行われたパチンコ機１０が特定されてしまうことが防止されている。

【３７３６】

音光側タイマ割込み処理（図２８４）が許可された後にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が所定の間隔（具体的には１５秒間隔）で最大値に達する構成であり、開始待ち状態において当該デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達したことを契機としてデモ演出が開始される。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａは、開始待ち状態であるか否かに関わらず音光側タイマ割込み処理（図２８４）が実行される度に更新される。このため、開閉実行モード用の演出及び遊技回用演出が実行されることにより開始待ち状態が一旦解除された後、開始待ち状態が再開される場合におけるデモ演出の開始タイミングが、開始待ち状態が解除されなかった場合におけるデモ演出の開始タイミングからずれてしまうことが防止されている。これにより、複数のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングを揃えた場合、その後に各パチンコ機１０において開閉実行モード用の演出及び遊技回用演出の実行タイミング、実行期間及び実行回数が異なるものとなったとしても、当該複数のパチンコ機１０において開始待ち状態でデモ演出が開始されるタイミングがずれてしまうことを防止することができる。

【３７３７】

パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されたことに基づいて音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０１）が実行されるとともに、主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信したことに基づいて音光側ＲＡＭ初期化処理（ステップＳＩ５０９）が実行される。音光側ＲＡＭクリア処理では、音光側ＲＡＭ３５５における初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５の「０」クリア及び初期設定が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された後、早期に初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５における情報が不定な状態を解消することができる。一方、音光側ＲＡＭ初期化処理では初期化対象エリア５５５の「０」クリア及び初期設定のみが行われ、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａが設けられている初期化対象外エリア５５４の「０」クリア及び初期設定は行われない。これにより、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」の有無によりデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングがずれてしまうことが防止されているとともに、デモ演出の開始タイミングがずれてしまうことが防止されている。

【３７３８】

なお、第１～第５表示回路２６１～２６５に提供された表示データが記憶保持される期間が所定期間（例えば１６ミリ秒）である構成に限定されることはなく、第１～第５表示回路２６１～２６５に提供された表示データが当該表示回路２６１～２６５への動作電力の供給が停止されるまで記憶保持される構成としてもよい。本構成では、不正検知処理（図２８０（ｂ））のステップＳＩ３０３にて遊技停止フラグに「１」をセットした場合、又はステップＳＩ３０４にて遊技停止対応フラグに「１」がセットされていないと判定した場合、第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに対してオール「０」の表示データを送信するための処理を実行するとともに、第２タイマ割込み処理（図２８１）におけるステップＳＩ４０２～ステップＳＩ４１５の処理が実行されないようにする。これにより、遊技の進行が停止された状態となってから当該状態が解除されるまでの間、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントを消灯状態とすることができる。

【３７３９】

また、管理用処理（図７０）が第１タイマ割込み処理（図２７９）のステップＳＩ２２０にて実行される構成に限定されることはなく、管理用処理がメイン処理（図１６５）のステップＳＢ１２５以降において繰り返し実行される残余処理の中で実行される構成としてもよい。当該構成としても、遊技停止フラグに「１」がセットされて遊技の進行が停止された状態となった場合に管理用処理が実行されなくなってしまうことを防止することができる。本構成では、更新タイミングカウンタは特定制御用のワークエリア２２１に設けられている。更新タイミングカウンタの更新は、遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグの状態に関わらず、第１タイマ割込み処理（図２７９）において実行される。更新タイミングカウンタの更新が行われて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容を更新するタイミングとなった場合には、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた更新タイミングフラグに「１」をセットする。管理用処理（図７０）の中で実行される表示用処理（図１３１）では、特定制御用のワークエリア２２１における更新タイミングフラグの状態を参照し、更新タイミングフラグに「１」がセットされている場合に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容を更新するタイミングであることを特定する。これにより、非定期的に実行される残余処理において管理用処理が実行される構成としても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容を定期的に更新することができる。

【３７４０】

また、遊技停止フラグに「１」がセットされたことに基づいて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントとともに特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示用セグメントを消灯状態とする構成に限定されることはなく、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントのみが消灯状態となり特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂにおける表示は継続される構成としてもよい。具体的には、遊技停止フラグに「１」がセットされた場合、第２タイマ割込み処理（図２８１）におけるステップＳＩ４０３～ステップＳＩ４０８の処理が実行されなくなるようにする。また、種別カウンタの更新処理（ステップＳＩ４１１）では、遊技停止フラグに「１」がセットされている場合、特定制御用のワークエリア２２１における種別カウンタの値に「１」を加算した後、その加算後の種別カウンタの値が「５」となった場合には種別カウンタに「１」をセットする。この場合、第１～第４表示回路２６１～２６４には新たな表示データが提供される一方、第５表示回路２６５には新たな表示データが提供されなくなる。これにより、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂにおける表示を継続させながら、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントのみを消灯状態とすることができる。

【３７４１】

また、遊技停止フラグに「１」がセットされたことに基づいて特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示用セグメントとともに第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントを消灯状態とする構成に限定されることはなく、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示用セグメントが消灯状態となり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における表示は継続される構成としてもよい。具体的には、遊技停止フラグに「１」がセットされた場合、種別カウンタの更新処理（第２割込み処理（図２８１）のステップＳＩ４１１）では、特定制御用のワークエリア２２１における種別カウンタに「５」のみをセットする。この場合、第５表示回路２６５には新たな表示データが提供される一方、第１～第４表示回路２６１～２６４には新たな表示データが提供されなくなる。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における表示を継続させながら、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示用セグメントを消灯状態とすることができる。

【３７４２】

また、遊技停止フラグに「１」がセットされたことに基づいて第１～第４報知用表示装

置２０１～２０４の表示用セグメントが消灯状態となる構成に限定されることはなく、遊技停止フラグに「１」がセットされたことに基づいて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて遊技の進行が停止された状態に対応する表示が行われる構成としてもよい。例えば、遊技の進行が停止された状態に対応する表示として、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における全ての表示用セグメントが点滅表示される構成（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全てにおいて「８」が点滅表示される構成）としてもよい。具体的には、第５表示データバッファ２７５に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全表示用セグメントを点灯状態とするための表示データ（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全てに「８」を表示させるための表示データ）を設定する。そして、所定の点灯期間（例えば０．５秒間）に亘って、当該表示データと、当該表示データが第５表示回路２６５に対応していることを示す種別データとを表示ＩＣ２６６に対して送信するとともに、所定の消灯期間（例えば０．５秒間）に亘って、当該表示データ及び当該種別データが表示ＩＣ２６６に送信されないようにする。これらの所定の点灯期間と所定の消灯期間とが交互に繰り返されるようにすることにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における全ての表示用セグメントを点滅表示させて、遊技の進行が停止された状態であることを遊技ホールの管理者に把握させることができる。なお、遊技の進行が停止された状態に対応する表示として、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における一部の表示用セグメントが点滅表示される構成としてもよく、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における全ての表示用セグメントが点灯表示される構成としてもよい。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて遊技の進行が停止された状態に対応する表示が行われる構成とすることによっても、遊技の進行が停止された状態であることを分かり易いものとすることができる。

【３７４３】

また、遊技停止フラグに「１」がセットされたことに基づいて特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂの表示用セグメントが消灯状態となる構成に限定されることはなく、遊技停止フラグに「１」がセットされたことに基づいて特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ及び普図保留表示部３８ｂにて遊技の進行が停止された状態に対応する表示が行われる構成としてもよい。当該構成としても、遊技の進行が停止された状態であることを分かり易いものとすることができる。

【３７４４】

また、遊技停止フラグに「１」をセットする処理を行った場合には第２タイマ割込み処理（図２８１）の割込みを禁止する処理を行い、遊技停止フラグを「０」クリアする処理を行った場合には第２タイマ割込み処理（図２８１）の割込みを許可する処理を行う構成としてもよい。当該構成によっても、遊技の進行が停止された状態において特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示用セグメントを消灯状態とすることができるとともに、遊技の進行が停止された状態が解除された場合に特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における表示を開始することができる。

【３７４５】

また、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に所定のバックアップ期間（例えば１０秒間）に亘って音光側ＲＡＭ３５５に情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給される構成としてもよい。具体的には、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されたことに基づいて実行される音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０１）では、動作電力の供給が停止されてから当該動作電力の供給が再開されるまでの期間が上述した所定のバックアップ期間（例えば１０秒間）を超えており、音光側ＲＡＭ３５５の情報が不定な状態となっている場合、音光側ＲＡＭ３５５の全記憶エリアの「０」クリア及び初期設定を行う。この場合、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａは、当該音光側ＲＡＭクリア処理において「０」クリアされる。その後、

上記第７７の実施形態と同様に、音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０３）にて音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可されてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始される。このため、動作電力の供給が停止されてから上述した所定のバックアップ期間が経過している複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始することにより、上記第７７の実施形態と同様に、当該複数のパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングを揃えることができるとともに、開始待ち状態においてデモ演出が開始されるタイミングを揃えることができる。

【３７４６】

一方、動作電力の供給が停止されてから当該動作電力の供給が再開されるまでの期間が上述した所定のバックアップ期間に収まっており、音光側ＲＡＭ３５５の情報が記憶保持されている場合、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａは、音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０１）における「０」クリア及び初期設定の対象から除外される。このため、複数のパチンコ機１０においてデモ演出の開始タイミングが揃えられている状況において、当該複数のパチンコ機１０のうち一部のパチンコ機１０に対して個別に、動作電力の供給を停止するとともにその直後に（上述した所定のバックアップ期間が経過する前に）「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア操作」を行いながら動作電力の供給を再開させる操作を行うことで、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「０」クリアされてしまうことを回避しながらデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新を再開させることができる。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「０」クリアされることを回避することにより、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングがずれてしまうことを抑制することができるとともに、開始待ち状態においてデモ演出が開始されるタイミングがずれてしまうことを抑制することができる。これにより、同時に動作電力の供給が開始された後に個別に「設定確認操作」、「設定変更操作」、又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまう可能性を低減することができる。

【３７４７】

また、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態において音光側ＲＡＭ３５５に情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給される構成としてもよい。具体的には、上記第７７の実施形態において既に説明したとおり、デモ演出は、開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングで開始される。開始待ち状態となっても、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するまではデモ演出の開始は待機される。本構成におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａは、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されたことに基づいて実行される音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０１）において、「０」クリア及び初期設定の対象から除外されている。パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されている状態においても音光側ＲＡＭ３５５における情報の記憶保持が行われるため、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａは動作電力の供給開始直後に不定な状態となっていない。上記第７７の実施形態において既に説明したとおり、当該音光側ＲＡＭクリア処理が実行された後に音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可されてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始される。その後、本構成では、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンドを受信した場合、音光側第１ＲＡＭ初期化処理が実行される。音光側第１ＲＡＭ初期化処理では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「０」クリアされる。複数のパチンコ機１０に対して、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」を行うことなく動作電力の供給が同時に開始された場合、当該複数のパチンコ機１０において音光側第１ＲＡＭ初期化処理が実行されるタイミングが揃うとともに、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「０」クリアされるタイミングが揃う。上述したとおり、音光側第１ＲＡＭ初期化処理が実行されるよりも先に音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可されているため、音光側第１ＲＡＭ初期化処理が実行されるタイミングを揃えることにより、当該複数のパチンコ機１０におい

てデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングを揃えることができるとともに、開始待ち状態におけるデモ演出の開始タイミングを揃えることができる。

【３７４８】

一方、本構成では、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から確認時の復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、又はクリア時の復帰コマンドを受信した場合、音光側第２ＲＡＭ初期化処理が実行される。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａは、音光側第２ＲＡＭ初期化処理における「０」クリア及び初期設定の対象から除外されており、音光側第２ＲＡＭ初期化処理が行われてもデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は「０」クリアされない。複数のパチンコ機１０においてデモ演出の開始タイミングが揃えられている状況において、当該複数のパチンコ機１０のうち一部のパチンコ機１０に対して個別に、動作電力の供給を停止するとともにその直後に「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア操作」を行いながら動作電力の供給を再開させる操作が行われた場合、動作電力の供給が開始されたことに基づいて音光側ＲＡＭクリア処理が実行されるとともに、その後に主側ＣＰＵ６３から確認時の復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、又はクリア時の復帰コマンドを受信したことに基づいて音光側第２ＲＡＭ初期化処理が実行される。既に説明したとおり、音光側ＲＡＭクリア処理及び音光側第２ＲＡＭ初期化処理が実行されたとしてもデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は「０」クリアされない。このため、複数のパチンコ機１０に対して動作電力の供給が同時に開始された後、個別に「設定確認操作」、「設定変更操作」、又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングと、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」が行われなったパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングとがずれてしまうことが抑制されている。これにより、デモ演出の開始タイミングに基づいて、個別に「設定確認操作」、「設定変更操作」、又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまう可能性を低減することが可能となる。

【３７４９】

また、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態において音光側ＲＡＭ３５５に情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給されるとともに、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「０」クリアされない構成としてもよい。具体的には、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａは、音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０１）及び音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０９）において「０」クリアの対象から除外されている。パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態において音光側ＲＡＭ３５５にバックアップ電力が供給されない構成では、パチンコ機１０への動作電力の供給開始直後に音光側ＲＡＭ３５５の記憶エリアが不定な状態となっているため、音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０１）にて音光側ＲＡＭ３５５の全記憶エリアを「０」クリアするとともに、初期設定を行う必要がある。これに対して、本構成では、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態において音光側ＲＡＭ３５５にバックアップ電力が供給されるため、パチンコ機１０への動作電力の供給開始直後に音光側ＲＡＭ３５５の記憶エリアが不定な状態とならない。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合、音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０１）及び音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０９）においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａを「０」クリアすることなく、パチンコ機１０への動作電力の供給停止時にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに格納されていた値からデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新を再開させることができる。

【３７５０】

上記第７７の実施形態において既に説明したとおり、デモ演出は、開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングで開始される。開始待ち状態となっても、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するまでは

デモ演出の開始は待機される。本構成では、複数のパチンコ機１０において前回の動作電力の供給停止時にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに格納されていた値が異なっている場合、当日に当該複数のパチンコ機１０への動作電力の供給が同時に開始されたとしても、当該複数のパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングは異なるタイミングとなるとともに、開始待ち状態においてデモ演出が開始されるタイミングは異なるタイミングとなる。デモ演出の開始タイミングに過去のデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新態様まで反映される構成とすることにより、デモ演出の開始タイミングに基づいて当日に「設定確認操作」、「設定変更操作」、又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことを防止することができる。

【３７５１】

また、開始待ち状態においてデモ演出の開始タイミングとなる時間間隔が一定である構成に限定されることはなく、開始待ち状態においてデモ演出の開始タイミングとなる時間間隔が複数種類存在している構成としてもよい。具体的には、音光側ＲＯＭ３５４にはデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値が複数設定されている最大値テーブルが予め記憶されている。最大値テーブルにおける「０」のポインタ情報にはデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値として「２９９９」が設定されており、「１」のポインタ情報にはデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値として「３９９９」が設定されており、「２」のポインタ情報にはデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値として「４９９９」が設定されている。また、初期化対象外エリア５５４にはデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値を音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とする最大値カウンタが設けられている。

【３７５２】

音光側立ち上げ処理（図２８３）では、ステップＳＩ５０３にて音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みを許可する場合に、最大値テーブルを音光側ＲＯＭ３５４から初期化対象外エリア５５４に読み出す。そして、当該最大値テーブルにおける「０」のポインタ情報に設定されている「２９９９」の数値情報をデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値として初期化対象外エリア５５４における最大値カウンタにセットする。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新処理（音光側タイマ割込み処理（図２８４）のステップＳＩ６０１）では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値である状態で当該更新処理（ステップＳＩ６０１）が実行されてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値を「０」クリアした場合に、最大値テーブルのポインタ情報を更新する。具体的には、現状のポインタ情報を１加算するとともに、当該１加算後のポインタ情報が「３」となった場合には当該ポインタ情報を「０」クリアする。そして、当該更新後のポインタ情報に設定されている数値情報（「２９９９」、「３９９９」又は「４９９９」の数値情報）をデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの新たな最大値として初期化対象外エリア５５４における最大値カウンタにセットする。これにより、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値が更新される。

【３７５３】

デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新処理（音光側タイマ割込み処理（図２８４）のステップＳＩ６０１）において、最大値テーブルのポインタ情報は、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新と連動する態様で更新される。このため、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始してデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングを揃えることで、当該複数のパチンコ機１０における最大値テーブルのポインタ情報の更新タイミングも揃えることができる。これにより、開始待ち状態においてデモ演出の開始タイミングとなる時間間隔を複数種類としながら、複数のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングを揃えることができる。

【３７５４】

＜第７８の実施形態＞

本実施形態では開始待ち状態においてデモ演出を開始するタイミングを把握するための構成が上記第７７の実施形態と相違している。以下、上記第７７の実施形態と相違してい

る構成について説明する。なお、上記第７７の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３７５５】

本実施形態では、上記第４９の実施形態と同様に、音声発光制御基板３５１（図１７２）にＲＴＣ３５６（図１７２）及びＲＴＣ用メモリ３５７（図１７２）が搭載されている。上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、ＲＴＣ３５６はリアルタイムクロックであり、年月日情報及び時刻情報を常時計測し、音光側ＣＰＵ３５３からの指示に従い、その計測している年月日情報及び時刻情報（日時情報ともいう）を出力することが可能な構成である。ＲＴＣ３５６にはバックアップ電源が設けられており、パチンコ機１０の電源遮断中においても年月日情報及び時刻情報を計測することが可能となっている。なお、ＲＴＣ３５６において日時情報が計測される構成に限定されることはなく、時刻情報のみが計測される構成としてもよい。

【３７５６】

また、上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、ＲＴＣ用メモリ３５７はＳＲＡＭ及びＤＲＡＭなどの記憶保持に外部からの電力供給が必要なメモリ（すなわち、揮発性記憶手段）であり、読み書き両用として利用される。ＲＴＣ用メモリ３５７には音光側ＣＰＵ３５３からの指示に従いＲＴＣ３５６の日時情報が格納される。また、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納された日時情報は必要に応じて音光側ＣＰＵ３５３にて読み出される。なお、ＲＴＣ用メモリ３５７にはＲＴＣ３５６に対して設けられたバックアップ電源からバックアップ電力が供給される構成となっており、パチンコ機１０の電源遮断中においても日時情報が記憶保持される。但し、これに限定されることはなくＲＴＣ用メモリ３５７が情報の記憶保持に外部からの電力供給を必要としないＥＥＰＲＯＭなどであってもよい。

【３７５７】

本実施形態における音光側ＲＡＭ３５５には、上記第７７の実施形態における初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５は設けられていない。後述する音光側立ち上げ処理（図２８８）における音光側ＲＡＭクリア処理（ステップＳＩ８０１）及び音光側ＲＡＭ初期化処理（ステップＳＩ８０８）では、音光側ＲＡＭ３５５の全ての記憶エリアが「０」クリア及び初期設定の対象となる。

【３７５８】

音光側ＲＡＭ３５５には、上記第７７の実施形態におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａは設けられていない。本実施形態では、パチンコ機１０への動作電力が開始された後にＲＴＣ３５６から日時情報を取得し、当該取得した日時情報をデモ演出の基準時間情報としてＲＴＣ用メモリ３５７に記憶する。開始待ち状態では、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納されているデモ演出の基準情報と、ＲＴＣ３５６における現状の日時情報との差分が所定時間（具体的には１５秒間）の整数倍となった場合に図柄表示装置４１においてデモ演出を開始させる。

【３７５９】

図２８８は本実施形態における音光側ＣＰＵ３５３にて実行される音光側立ち上げ処理を示すフローチャートである。なお、音光側立ち上げ処理はパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に実行される。

【３７６０】

ステップＳＩ８０１では、音光側ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＩ８０１）。上述したとおり、音光側ＲＡＭクリア処理では、音光側ＲＡＭ３５５の「０」クリア及び初期設定を行う。パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合、音光側ＲＡＭ３５５にはバックアップ電力は供給されない。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された直後、音光側ＲＡＭ３５５の記憶エリアは不定な状態となっている。ステップＳＩ８０１にて音光側ＲＡＭクリア処理を実行することにより、音光側ＲＡＭ３５５の記憶エリアにおける当該不定な状態を解消することができる。その後、音光側ＲＡＭクリア処理では、上記第７７の実施形態と同様に、図柄表示装置４１において初期画像及

び機種情報画像の表示が行われるように表示制御装置８２の表示制御を行う。これにより、図柄表示装置４１では、まず初期画像の表示が開始される。上記第７７の実施形態において既に説明したとおり、初期画像が所定の時間（例えば３秒間）に亘って表示された後、図柄表示装置４１の表示内容は、初期画像から機種情報画像に切り替わる。

【３７６１】

その後、ＲＴＣ３５６の日時情報をデモ演出の基準時間情報としてＲＴＣ用メモリ３５７に格納する（ステップＳＩ８０２）。既に説明したとおり、音光側ＣＰＵ３５３は開始待ち状態において、ＲＴＣ用メモリ３５７に格納されているデモ演出の基準時間情報とＲＴＣ３５６における現状の日時情報との差分が所定時間（具体的には１５秒間）の整数倍となるタイミングで図柄表示装置４１においてデモ演出が開始されるようにする。ステップＳＩ８０２にてＲＴＣ用メモリ３５７に格納されたデモ演出の基準時間情報は、後述する音光側ＲＡＭ初期化処理（ステップＳＩ８０８）が実行されてもクリアされない。これにより、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれかを受信するタイミングによってデモ演出の基準時間がずれてしまうことが防止されている。

【３７６２】

その後、ステップＳＩ８０３～ステップＳＩ８０７では、上記第７７の実施形態における音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０４～ステップＳＩ５０８と同一の処理を実行する。具体的には、主側ＣＰＵ６３から更新開始コマンドを受信した場合（ステップＳＩ８０３：ＹＥＳ）に更新時報知の設定処理を実行し（ステップＳＩ８０４）、主側ＣＰＵ６３から確認開始コマンドを受信した場合（ステップＳＩ８０５：ＹＥＳ）に確認時報知の設定処理を実行する（ステップＳＩ８０６）。そして、ステップＳＩ８０７にて主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれかを受信していないと判定した場合には、いずれかの復帰コマンドを受信するまでステップＳＩ８０３～ステップＳＩ８０７の処理を繰り返し実行する。更新時報知の設定処理（ステップＳＩ８０４）及び確認時報知の設定処理（ステップＳＩ８０６）の内容は、上記第７７の実施形態において既に説明したとおりである。

【３７６３】

ステップＳＩ８０７にて主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信したと判定した場合には、音光側ＲＡＭ初期化処理を実行する（ステップＳＩ８０８）。音光側ＲＡＭ初期化処理では、音光側ＲＡＭ３５５の「０」クリア及び初期設定に際して、更新時報知が行われている場合には当該更新時報知を終了させるとともに、確認時報知が行われている場合には当該確認時報知を終了させる。一方、音光側ＲＡＭ初期化処理が実行されても図柄表示装置４１における機種情報画像の表示は終了しない。機種情報画像は、デモ演出が開始されるまで図柄表示装置４１に表示され続ける。音光側ＲＡＭ初期化処理では、既に説明したとおり、音光側ＲＡＭ３５５の全ての記憶エリアの「０」クリア及び初期設定を行う。音光側ＲＡＭ初期化処理が実行されてもステップＳＩ８０２にてＲＴＣ用メモリ３５７に格納されたデモ演出の基準時間情報はクリアされない。これにより、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれかを受信するタイミングによってデモ演出の基準時間がずれてしまうことが防止されている。

【３７６４】

ステップＳＩ８０８にて音光側ＲＡＭ初期化処理を実行した後、音光側ＲＡＭ３５５に設けられた待ち状態フラグ５５５ｂに「１」をセットする（ステップＳＩ８０９）。待ち状態フラグ５５５ｂは、上記第７７の実施形態と同様に、開始待ち状態であることを音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするフラグである。待ち状態フラグ５５５ｂに「１」がセットされることにより開始待ち状態となる。

【３７６５】

その後、ステップＳＩ８１０～ステップＳＩ８１６では、上記第７７の実施形態におけ

る音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５１１～ステップＳＩ５１７と同一の処理を実行する。ステップＳＩ８１１にて通常復帰報知の設定処理を実行した場合、ステップＳＩ８１３にて更新後報知の設定処理を実行した場合、ステップＳＩ８１５にて確認後報知の設定処理を実行した場合、又はステップＳＩ８１６にてクリア復帰報知の設定処理を実行した場合には、音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みを許可して（ステップＳＩ８１７）、本音光側立ち上げ処理を終了する。

【３７６６】

次に、音光側ＣＰＵ３５３にて実行される開始待ち演出用処理について、図２８９のフローチャートを参照しながら説明する。なお、開始待ち演出用処理は、上記第７７の実施形態と同様に、音光側タイマ割込み処理（図２８４）のステップＳＩ６２１にて実行される。

【３７６７】

ステップＳＩ９０１～ステップＳＩ９０５では、上記第７７の実施形態における開始待ち演出用処理（図２８５）のステップＳＩ７０１～ステップＳＩ７０５と同一の処理を実行する。

【３７６８】

ステップＳＩ９０２にて音光側ＲＡＭ３５５における待ち状態フラグ５５５ｂに「１」がセットされていると判定した場合、又はステップＳＩ９０５にて待ち状態フラグ５５５ｂに「１」をセットした場合、すなわち開始待ち状態である場合には、ＲＴＣ用メモリ３５７に記憶されているデモ演出の基準時間情報に基づいてデモ演出の基準時間を把握し（ステップＳＩ９０６）、ＲＴＣ３５６における現状の日時情報を取得する（ステップＳＩ９０７）。その後、音光側ＲＡＭ３５５に設けられた開始待ち演出フラグに「１」がセットされているか否かを判定する。開始待ち演出フラグは、上記第７７の実施形態と同様に、開始待ち演出としてデモ演出及び待機図柄表示のいずれかを実行している状態であることを音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするフラグである。

【３７６９】

開始待ち演出フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＩ９０８：ＮＯ）には、ステップＳＩ９０６にて把握したデモ演出の基準時間とステップＳＩ９０７にて取得した日時情報とに基づいてデモ演出の開始タイミングであるか否かを判定する（ステップＳＩ９０９）。具体的には、デモ演出の基準時間からの経過時間が１５秒の整数倍であるか否かを判定し、当該経過時間が１５秒の整数倍である場合にデモ演出の開始タイミングであると判定する。

【３７７０】

ステップＳＩ９０９においてデモ演出の開始タイミングであると判定した場合にはステップＳＩ９１０に進む。ステップＳＩ９１０～ステップＳＩ９１１では、上記第７７の実施形態における開始待ち演出用処理（図２８５）のステップＳＩ７０８～ステップＳＩ７０９と同様の処理を実行する。具体的には、音光側ＲＡＭ３５５における開始待ち演出フラグに「１」をセットし（ステップＳＩ９１０）、デモ演出の開始設定処理を実行して（ステップＳＩ９１１）、本開始待ち演出用処理を終了する。ステップＳＩ９１１におけるデモ演出の開始設定処理は、待機図柄表示が行われている状況においてデモ演出の基準時間からの経過時間が１５秒間の整数倍となった場合（後述するステップＳＩ９１４にて肯定判定が行われた場合）にも実行される。当該デモ演出の開始設定処理では、図柄表示装置４１にて機種情報画像の表示が行われている場合には当該機種情報画像の表示が終了するように表示制御装置８２を表示制御するとともに、図柄表示装置４１にて待機図柄表示が実行されている場合には当該待機図柄表示が終了するように表示制御装置８２を表示制御する。そして、図柄表示装置４１にてデモ演出が実行されるように表示制御装置８２を表示制御する。なお、デモ演出用の発光態様で表示発光部５３が発光するように表示発光部５３の発光制御を実行する構成としてもよく、デモ演出用の音出力が行われるようにスピーカ部５４を音出力制御する構成としてもよい。

【３７７１】

ステップＳＩ９０８にて肯定判定を行った場合、すなわち既に開始待ち演出（デモ演出及び待機図柄表示）を実行中である場合には、ステップＳＩ９０６にて把握したデモ演出の基準時間とステップＳＩ９０７にて取得した日時情報とに基づいてデモ演出の終了タイミングであるか否かを判定する（ステップＳＩ９１２）。具体的には、ステップＳＩ９１１にてデモ演出を開始してから１０秒間が経過している場合にデモ演出の終了タイミングであると判定する。デモ演出の終了タイミングである場合（ステップＳＩ９１１：ＹＥＳ）には、待機図柄表示の開始設定処理を実行して（ステップＳＩ９１３）、本開始待ち演出用処理を終了する。ステップＳＩ９１３における待機図柄表示の開始設定処理では、図柄表示装置４１において実行されているデモ演出が終了するとともに当該図柄表示装置４１において待機図柄表示が開始されるように表示制御装置８２を表示制御する。なお、待機図柄表示用の発光態様で表示発光部５３が発光するように表示発光部５３の発光制御を実行する構成としてもよく、待機図柄表示用の音出力が行われるようにスピーカ部５４を音出力制御する構成としてもよい。

【３７７２】

ステップＳＩ９１２にて否定判定を行った場合には、ステップＳＩ９０６にて把握したデモ演出の基準時間とステップＳＩ９０７にて取得した日時情報とに基づいてデモ演出の開始タイミングであるか否かを判定する（ステップＳＩ９１４）。具体的には、デモ演出の基準時間からの経過時間が１５秒の整数倍であるか否かを判定し、当該経過時間が１５秒の整数倍である場合にデモ演出の開始タイミングであると判定する。デモ演出の開始タイミングでない場合（ステップＳＩ９１４：ＮＯ）には、そのまま本開始待ち演出用処理を終了する。一方、デモ演出の開始タイミングである場合（ステップＳＩ９１４：ＹＥＳ）には、前回のデモ演出の開始タイミングから１５秒が経過して新たなデモ演出の開始タイミングとなったことを意味するため、ステップＳＩ９１１におけるデモ演出の開始設定処理を実行して、本開始待ち演出用処理を終了する。これにより、図柄表示装置４１では待機図柄表示が終了して新たなデモ演出が開始される。

【３７７３】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【３７７４】

パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に実行される音光側立ち上げ処理（図２８８）においてＲＴ３５６から日時情報が取得されるとともに、当該日時情報がデモ演出の基準時間情報としてＲＴＣ用メモリ３５７に格納される。開始待ち状態では、ＲＴＣ用メモリ３５７におけるデモ演出の基準時間と、ＲＴＣ３５６における現状の日時情報とに基づいてデモ演出の開始タイミングが把握される。音光側立ち上げ処理（図２８８）では、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されてからＲＴＣ用メモリ３５７にデモ演出の基準時間情報を設定する処理が実行されるまでの間に外部からの操作を必要とする処理は行われない。また、デモ演出の基準時間情報を取得するタイミングを変更する抽選等も行われない。このため、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始することで、当該複数のパチンコ機１０におけるデモ演出の基準時間を同一又は略同一の時間として揃えることができる。

【３７７５】

開始待ち状態においてＲＴＣ用メモリ３５７におけるデモ演出の基準時間情報とＲＴＣ３５６における現状の日時情報との差分が所定時間（具体的には１５秒間）の整数倍となるタイミングで、図柄表示装置４１にてデモ演出が開始される。このため、同一又は略同一のデモ演出の基準時間が同一又は略同一の時間に揃えられている複数のパチンコ機１０において、開始待ち状態にてデモ演出が一斉に開始される状況を作り出すことが可能となる。これにより、当該複数のパチンコ機１０におけるデモ演出に一体感を持たせて、パチンコ機１０への遊技者の関心を高めることができる。

【３７７６】

ＲＴＣ用メモリ３５７に格納されているデモ演出の基準時間情報は、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信して音光側ＲＡＭ初期化処理（音

光側立ち上げ処理（図２８８）のステップＳＩ８０８）が実行されてもクリアされない。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時における「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」の有無によってデモ演出の基準時間がずれてしまうことが防止されている。

【３７７７】

「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」の有無によってデモ演出の基準時間が変化しない構成であるため、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始された場合であって当該複数のパチンコ機１０のうち一部のパチンコ機１０に対して「設定確認操作」、「設定変更操作」、又は「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合に、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」が行われなかったパチンコ機１０におけるデモ演出の基準時間と、「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０におけるデモ演出の基準時間とを同一の時間として揃えることができる。これにより、デモ演出の開始タイミングに基づいて、「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことを防止することができる。

【３７７８】

なお、デモ演出の開始タイミングが設定されている開始タイミングテーブルが音光側ＲＯＭ３５４に予め記憶されており、デモ演出の開始タイミングが当該開始タイミングテーブルに基づいて把握される構成としてもよい。具体的には、開始タイミングテーブルには、デモ演出の開始タイミングとしてＲＴＣ３５６における日時情報の秒数部分が「００」秒、「１５」秒、「３３」秒及び「４７」秒となるタイミングが設定されている。本構成では、開始タイミングテーブルは、音光側立ち上げ処理（図２８８）のステップＳＩ８１７にて音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可される前に音光側ＲＯＭ３５４から音光側ＲＡＭ３５５に読み出される。開始待ち演出用処理（図２８９）では、開始待ち状態である場合、ステップＳＩ９０７にてＲＴＣ３５６から取得した現状の日時情報の秒数部分を開始タイミングテーブルと照合し、当該秒数部分が「００」秒、「１５」秒、「３３」秒又は「４７」秒のいずれかである場合にデモ演出の開始タイミングであると判定して（ステップＳＩ９０９：ＹＥＳ）、デモ演出を開始させる。ＲＴＣ３５６から取得した現状の日時情報の秒数部分が「００」秒であることに基づいてデモ演出が開始された場合には次回のデモ演出が１５秒後に開始され、現状の日時情報の秒数部分が「１５」秒であることに基づいてデモ演出が開始された場合には次回のデモ演出が１８秒後に開始され、現状の日時情報の秒数部分が「３３」秒であることに基づいてデモ演出が開始された場合には次回のデモ演出が１４秒後に開始され、現状の日時情報の秒数部分が「４７」秒であることに基づいてデモ演出が開始された場合には次回のデモ演出が１３秒後に開始される。このように、開始待ち状態において、ＲＴＣ３５６における現状の日時情報の秒数部分が開始タイミングテーブルに設定されている秒数と一致した場合にデモ演出を開始する構成としても、複数のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングを揃えることができる。本構成では、複数のパチンコ機１０に対して異なるタイミングで動作電力の供給を開始した場合においても、当該複数のパチンコ機１０におけるＲＴＣ３５６の日時情報が揃っていることを条件として、当該複数のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングを揃えることができる。これにより、複数の島設備に設置されている複数のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングを揃えることが可能となる。また、本構成では、１つのデモ演出の開始タイミングから次回のデモ演出の開始タイミングまでの時間間隔として、複数パターンの時間間隔が存在する態様で、複数のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングを揃えることが可能となる。

【３７７９】

＜第７９の実施形態＞

本実施形態ではデモ演出の開始タイミングを変更するか否かを決定するタイミング変更抽選が行われる点で上記第７７の実施形態と相違している。以下、上記第７７の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第７７の実施形態と同一の構成につい

ては基本的にその説明を省略する。

【３７８０】

上記第７７の実施形態において既に説明したとおり、開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には「２９９９」）に達するタイミングで図柄表示装置４１においてデモ演出が開始される。本実施形態では、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンド、確認時の復帰コマンド、更新時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれかを受信した場合に、音光側ＣＰＵ３５３にて、上述したタイミング変更抽選が行われる。タイミング変更抽選には、デモ演出の開始タイミングを変更しない抽選結果と、デモ演出の開始タイミングを変更する抽選結果とが存在している。これにより、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始された場合、タイミング変更抽選においてデモ演出の開始タイミングを変更しない抽選結果となったパチンコ機１０と、デモ演出の開始タイミングを変更する抽選結果となったパチンコ機１０との両方が存在している状況となる可能性が高められている。

【３７８１】

タイミング変更抽選に用いられる抽選用乱数情報は、主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ３５３に対して送信される。音光側ＣＰＵ３５３がタイミング変更抽選用の抽選用乱数情報を取得するための構成について説明する。図２９０（ａ）は本実施形態における特定制御用のワークエリア２２１に設けられた記憶エリアを説明するための説明図である。本実施形態における主側ＲＡＭ６５の特定制御用のワークエリア２２１には、図２９０（ａ）に示すように、音光側ＣＰＵ３５３にて実行されるタイミング変更抽選に用いられる抽選用乱数情報が設定される送信乱数記憶カウンタ５５６が設けられている。

【３７８２】

送信乱数記憶カウンタ５５６は１０ビットの記憶容量となっており、送信乱数記憶カウンタ５５６には「０」～「５９９」のいずれかの数値情報が設定される。本実施形態では、メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１０５においてチェックサムが正常であると判定された場合、特定制御用のワークエリア２２１における乱数初期値カウンタＣＩＮＩに格納されている「０」～「５９９」のいずれかの数値情報が送信乱数記憶カウンタ５５６に設定される。一方、ステップＳＢ１０５においてチェックサムが正常でないと判定された場合には、送信乱数記憶カウンタ５５６に「０」の数値情報が設定される。

【３７８３】

上記第１の実施形態において既に説明したとおり、乱数初期値カウンタＣＩＮＩは、その更新の都度前回値に１が加算され、最大値（具体的には「５９９」）に達した後に「０」に戻るループカウンタである。乱数初期値カウンタＣＩＮＩの数値情報を更新する乱数初期値更新処理は、上記第７７の実施形態において既に説明した第１タイマ割込み処理（図２７９）のステップＳＩ２０３、及び上記第４９の実施形態において既に説明したメイン処理（図１６５）のステップＳＢ１２６にて実行される。乱数初期値カウンタＣＩＮＩの数値情報は、第１タイマ割込み処理（図２７９）のステップＳＩ２０３にて定期的に更新されるとともに、メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１２６にて非定期的に更新される。

【３７８４】

上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、メイン処理（図１６５）における残余処理（ステップＳＢ１２５～ＳＢ１２８）は、第１タイマ割込み処理（図２７９）及び第２タイマ割込み処理（図２８１）の処理完了時間に応じて変動する不規則な時間を利用して行われる。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるタイミングにおいて、乱数初期値カウンタＣＩＮＩに格納されている数値情報が特定の数値範囲に偏ることはない。第１タイマ割込み処理（図２７９）の処理完了時間は、遊技者による発射操作装置２８の操作態様及び遊技球の入球態様等によって変動する。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるタイミングにおいて、乱数初期値カウンタＣＩＮＩに格納されている数値情報は、偶然一致の場合を除いて、複数のパチンコ機１０において異なる値となっている。

【３７８５】
本実施形態では、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されている状況であっても、電源・発射制御装置７８に設けられた電断時用電源部から特定制御用のワークエリア２２１を含む主側ＲＡＭ６５に記憶保持用の電力としてバックアップ電力が供給される。これにより、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されている状況であっても特定制御用のワークエリア２２１における乱数初期値カウンタＣＩＮＩの値の記憶保持が行われる。
【３７８６】
乱数初期値カウンタＣＩＮＩの値は、停電情報記憶処理（第１タイマ割込み処理（図２７９）のステップＳＩ２０１）にて停電の発生が特定されてから、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止し、その後に当該動作電力の供給が再開されて送信乱数記憶カウンタ５５６に設定されるまでの間にクリアされない。このため、メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１０５においてチェックサムが正常でないと判定された場合を除いて、送信乱数記憶カウンタ５５６には、パチンコ機１０への動作電力の供給停止時に乱数初期値カウンタＣＩＮＩに記憶されていた数値情報が設定される。なお、既に説明したとおり、メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１０５においてチェックサムが正常でないと判定された場合には送信乱数記憶カウンタ５５６に「０」が設定される。
【３７８７】
上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、メイン処理（図１６５）では、パチンコ機１０への動作電力の供給開始に際して、設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作が行われることなくリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われた場合（ステップＳＢ１０８又はステップＳＢ１２０：ＹＥＳ、ステップＳＢ１１４：ＮＯ）、遊技停止フラグに「１」がセットされていないこと（ステップＳＢ１１６：ＮＯ）を条件として、第１ＲＡＭクリア処理が実行される（ステップＳＢ１１７）。また、上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、メイン処理（図１６５）では、パチンコ機１０への動作電力の供給開始に際して、設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われた場合（ステップＳＢ１０８又はステップＳＢ１２０：ＹＥＳ、ステップＳＢ１１４：ＹＥＳ）、設定値更新処理（図１６７）が実行される（ステップＳＢ１１５）。当該設定値更新処理では、ステップＳＢ３１３にて第２ＲＡＭクリア処理が実行される。これらの第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（すなわち設定参照用エリア３４１）を除いて、当該特定制御用のワークエリア２２１が「０」クリアされるとともに初期設定が実行される。このため、第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には、乱数初期値カウンタＣＩＮＩの値が「０」クリアされてしまう。本実施形態において、乱数初期値カウンタＣＩＮＩに格納されている数値情報が送信乱数記憶カウンタ５５６に設定されるタイミングは、メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１０５においてチェックサムが正常と判定されたタイミングであり、第１ＲＡＭクリア処理（メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１１７）及び第２ＲＡＭクリア処理（設定値更新処理（図１６７）のステップＳＢ３１３）が実行されるタイミングよりも前のタイミングである。また、送信乱数記憶カウンタ５５６は、これらの第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理において「０」クリアされない。これにより、パチンコ機１０への動作電力の供給開始に際してリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われた場合にも、「０」クリアされる前の乱数初期値カウンタＣＩＮＩに格納されている数値情報を音光側ＣＰＵ３５３に送信することが可能となっている。
【３７８８】
主側ＣＰＵ６３は、音光側ＣＰＵ３５３に対して通常復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれかを送信する場合、タイミング変更抽選用の抽選用乱数情報として、特定制御用のワークエリア２２１における送信乱数記憶カウンタ５５６に格納されている数値情報を当該送信する復帰コマンドに設定する。

【３７８９】
上記第４９の実施形態において既に説明したとおり、通常復帰コマンドは、メイン処理（図１６５）において設定確認用処理（ステップＳＢ１１２）、設定値更新処理（ステップＳＢ１１５）及び第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）のいずれもが実行されることなく動作電力の供給開始時の処理（ステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２）が終了する場合にステップＳＢ１１３にて送信される。クリア時の復帰コマンドは既に説明したとおりメイン処理（図１６５）のステップＳＢ１１７にて第１ＲＡＭクリア処理が終了した場合にステップＳＢ１１８にて送信される。確認時の復帰コマンドは設定確認用処理（図１６６）のステップＳＢ２０７にて音光側ＣＰＵ３５３に送信される。更新時の復帰コマンドは設定値更新処理（図１６７）のステップＳＢ３１４にて音光側ＣＰＵ３５３に送信される。

【３７９０】
送信乱数記憶カウンタ５５６は、第１ＲＡＭクリア処理（メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１１７）及び第２ＲＡＭクリア処理（設定値更新処理（図１６７）のステップＳＢ３１３）において「０」クリア及び初期設定の対象となるエリアから除外されている。このため、送信乱数記憶カウンタ５５６の値は、メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１０５にてチェックサムが正常であると判定されて乱数初期値カウンタＣＩＮＩの値が設定されてからいずれかの復帰コマンドが送信されるまでの間にクリアされない。このため、メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１０５においてチェックサムが正常であると判定された場合、主側ＣＰＵ６３から音光側ＣＰＵ３５３に送信されるいずれかの復帰コマンドには、タイミング変更抽選用の抽選用乱数情報として、パチンコ機１０への動作電力の供給停止時に特定制御用のワークエリア２２１の乱数初期値カウンタＣＩＮＩに記憶されていた数値情報が設定される。

【３７９１】
図２９０（ｂ）は音光側ＲＡＭ３５５における初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５を説明するための説明図である。図２９０（ｂ）に示すように、音光側ＲＡＭ３５５の初期化対象外エリア５５４には、受信乱数記憶カウンタ５５４ｂが設けられている。受信乱数記憶カウンタ５５４ｂは、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から受信したいずれかの復帰コマンドに設定されているタイミング変更抽選用の抽選用乱数情報が格納されるカウンタである。受信乱数記憶カウンタ５５４ｂは１０ビットの記憶エリアとなっており、受信乱数記憶カウンタ５５４ｂには主側ＣＰＵ６３から受信した「０」～「５９９」のいずれかの抽選用乱数情報が格納される。上記第７７の実施形態において既に説明したとおり、初期化対象外エリア５５４は音光側ＲＡＭ初期化処理（後述する音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１１０）における「０」クリア及び初期設定の対象から除外されている。このため、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信して実行される音光側ＲＡＭ初期化処理（後述する音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１１０）において受信乱数記憶カウンタ５５４ｂの値は変更されない。

【３７９２】
音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から受信して受信乱数記憶カウンタ５５４ｂに格納されたタイミング変更用の抽選用乱数情報は、そのままタイミング変更抽選に用いられる。これにより、数値範囲に偏りのない抽選用乱数情報を用いてタイミング変更抽選を行うことが可能となっている。また、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始された場合においても、偶然一致の場合を除いて、当該複数のパチンコ機１０においてタイミング変更抽選に用いられる抽選用乱数情報を異なる値とすることができる。

【３７９３】
上記第７７の実施形態と同様に、音光側ＲＡＭ３５５の初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５は、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合にバックアップ電力が供給されない記憶エリアである。パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された直後、初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５の記憶エリアは不

定な状態となっている。このため、初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５の記憶エリアにおける当該不定な状態を解消するために音光側ＲＡＭクリア処理（後述する音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１０１）を実行する必要がある。

【３７９４】

既に説明したとおり、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態において、音光側ＲＡＭ３５５にはバックアップ電力が供給されない。パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された直後、音光側ＲＡＭ３５５の記憶エリアは不定な状態となっており、音光側ＲＡＭクリア処理（後述する音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１０１）にて初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５を「０」クリアして、初期設定を行う必要がある。このため、音光側ＲＡＭ３５５にタイミング変更抽選用の抽選用乱数情報を更新する乱数更新カウンタが設けられており、主側ＣＰＵ６３からタイミング変更抽選用の抽選用乱数を受信することなく当該乱数更新カウンタにおける抽選用乱数情報をタイミング変更抽選に用いる構成とすると、音光側ＲＡＭクリア処理において当該乱数更新カウンタも「０」クリアする必要が生じてしまう。当該構成では、音光側ＲＡＭクリア処理（後述する音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１０１）にて当該乱数更新カウンタが「０」クリアされてからタイミング変更抽選が行われるまでに当該抽選用乱数情報が更新される回数が毎回同一又は略同一となりタイミング変更抽選の結果が常に同一の結果となってしまうおそれがある。また、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始した場合に、当該複数のパチンコ機１０におけるタイミング変更抽選の結果が全て同一となってしまうおそれがある。これに対して、本実施形態では、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から受信するいずれかの復帰コマンドにタイミング変更抽選用の抽選用乱数情報が設定されており、当該抽選用乱数情報を用いてタイミング変更抽選が行われる構成である。これにより、タイミング変更抽選に用いられる抽選用乱数情報が特定の数値範囲に偏ってしまうことが防止されており、当該タイミング変更抽選の抽選結果が設計段階で意図された確率とは異なる確率で発生してしまうことが防止されている。また、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始した場合でも、当該複数のパチンコ機１０におけるタイミング変更抽選の結果が全て同一となってしまう可能性が低減されている。

【３７９５】

音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から受信する抽選用乱数情報は、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまで、特定制御用のワークエリア２２１における乱数初期値カウンタＣＩＮＩにおいて更新されていた数値情報であり、メイン処理（図１６５）において設定確認用処理（ステップＳＢ１１２）、設定値更新処理（ステップＳＢ１１５）及び第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が行われるよりも先に送信乱数記憶カウンタ５５６に設定された数値情報である。タイミング変更抽選に用いられる抽選用乱数情報は、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時における「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア」の有無によって影響を受けない。これにより、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア」の有無によってタイミング変更抽選の結果に設計段階で意図しない偏りが生じることが防止されているとともに、デモ演出の開始タイミングに基づいて動作電力の供給開始時に「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことが防止されている。

【３７９６】

次に、本実施形態における音光側ＣＰＵ３５３にて実行される音光側立ち上げ処理について、図２９１のフローチャートを参照しながら説明する。なお、音光側立ち上げ処理はパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に実行される。

【３７９７】

ステップＳＪ１０１～ステップＳＪ１０８では、上記第７７の実施形態における音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０１～ステップＳＩ５０８と同一の処理を実行する。ステップＳＪ１０８にて主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信した

と判定した場合、当該受信した復帰コマンドに設定されているタイミング変更抽選用の抽選用乱数情報を初期化対象外エリア５５４における受信乱数記憶カウンタ５５４ｂに記憶する（ステップＳＪ１０９）。既に説明したとおり、主側ＣＰＵ６３から受信するタイミング変更抽選用の抽選用乱数情報は、パチンコ機１０への動作電力の供給停止時に特定制御用のワークエリア２２１における乱数初期値カウンタＣＩＮＩに記憶されていた「０」～「５９９」の数値情報であり、特定の数値範囲に偏っていない数値情報である。また、既に説明したとおり、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始した場合、当該複数のパチンコ機１０において音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から受信するタイミング変更抽選用の抽選用乱数情報は、偶然一致の場合を除いて、それぞれ異なった値となる。

【３７９８】

その後、音光側ＲＡＭ初期化処理を実行する（ステップＳＪ１１０）。既に説明したとおり、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａ及び受信乱数記憶カウンタ５５４ｂは初期化対象外エリア５５４に設けられており、当該初期化対象外エリア５５４は音光側ＲＡＭ初期化処理の「０」クリア及び初期化の対象から除外されている。このため、ステップＳＪ１１０にて音光側ＲＡＭ初期化処理が実行されてもデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値及び受信乱数記憶カウンタ５５４ｂの値は変更されない。その後、タイミング変更抽選用処理を実行する（ステップＳＪ１１１）。図２９２（ａ）はタイミング変更抽選用処理を示すフローチャートである。

【３７９９】

タイミング変更抽選用処理では、タイミング変更抽選に用いるタイミング変更抽選テーブルを音光側ＲＯＭ３５４から音光側ＲＡＭ３５５の初期化対象エリア５５５に読み出す（ステップＳＪ２０１）。図２９２（ｂ）はタイミング変更抽選テーブル５５７を説明するための説明図である。図２９２（ｂ）に示すように、タイミング変更抽選テーブル５５７には、デモ演出の開始タイミングが変更されない抽選結果と、デモ演出の開始タイミングが変更される抽選結果とが設定されている。

【３８００】

タイミング変更抽選では、受信乱数記憶カウンタ５５４ｂにおける抽選用乱数が「０」～「５３９」の数値範囲である場合にデモ演出の開始タイミングが変更されない抽選結果となるとともに、当該抽選用乱数が「５４０」～「５９９」の数値範囲である場合にデモ演出の開始タイミングが変更される抽選結果となる。タイミング変更抽選において、デモ演出の開始タイミングが変更されない抽選結果となる確率は９／１０に設定されているとともに、デモ演出の開始タイミングが変更される抽選結果となる確率は１／１０に設定されている。

【３８０１】

このため、１つの島設備に複数のパチンコ機１０が設置されている場合、タイミング変更抽選においてデモ演出の開始タイミングが変更されない抽選結果となるパチンコ機１０の数の方が、デモ演出の開始タイミングが変更される抽選結果となるパチンコ機１０の数よりも多い状況となる可能性が高められている。さらに言うと、１つの島設備に設置されている複数のパチンコ機１０の一部であり多数側のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングが変更されずに揃っているとともに、残りの少数側のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングが変更されて当該多数側のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングからずれている状況となる可能性が高められている。

【３８０２】

当該多数側のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングを揃えることによりデモ演出に一体感を持たせて遊技の興趣向上を図ることができる。そして、デモ演出の開始タイミングが当該多数側のパチンコ機１０とはずれている少数側のパチンコ機１０について、遊技者に特別感を感じさせ、当該少数側のパチンコ機１０に対する遊技者の関心を高めることができる。例えば、デモ演出の開始タイミングが多数側のパチンコ機１０とはずれている少数側のパチンコ機１０について、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時に

当該少数側のパチンコ機１０のみに対して「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたのではないかと推測させることができる。

【３８０３】

タイミング変更抽選用処理（図２９２（ａ））の説明に戻り、ステップＳＪ２０１にてタイミング変更抽選テーブル５５７を読み出した後、初期化対象外エリア５５４の受信乱数記憶カウンタ５５４ｂに記憶されている抽選用乱数の数値情報を把握する（ステップＳＪ２０２）。その後、ステップＳＪ２０２にて把握した抽選用乱数の数値情報をステップＳＪ２０１にて読み出したタイミング変更抽選テーブル５５７と照合することによりデモ演出の開始タイミングを変更するか否かを特定する。

【３８０４】

デモ演出の開始タイミングを変更しない抽選結果となった場合（ステップＳＪ２０３：ＮＯ）には、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの加算処理（ステップＳＪ２０４）を実行することなく、そのまま本タイミング変更抽選用処理を終了する。一方、デモ演出の開始タイミングを変更する抽選結果となった場合（ステップＳＪ２０３：ＹＥＳ）には、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの加算処理を実行して（ステップＳＪ２０４）、本タイミング変更抽選用処理を終了する。

【３８０５】

ステップＳＪ２０４におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの加算処理では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値に「１４００」を加算する。既に説明したとおり、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａは「０」～「２９９９」の数値範囲で更新されるループカウンタである。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「１６００」以上である状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの加算処理が行われた場合、当該「１４００」加算後のデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は最大値である「２９９９」を上回って１周するため、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は当該「１４００」加算後の値から「３０００」を減算した値となる。

【３８０６】

このように、タイミング変更抽選においてデモ演出の開始タイミングを変更する抽選結果となった場合には、デモ演出の開始タイミングを変更しない抽選結果となった場合と比較して、デモ演出の開始タイミングが７秒前倒しされる。複数のパチンコ機１０に対して動作電力の供給が同時に開始された場合、タイミング変更抽選においてデモ演出の開始タイミングを変更する抽選結果となったパチンコ機１０では、デモ演出の開始タイミングを変更しない抽選結果となったパチンコ機１０と比較して、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が７秒早く最大値（具体的には「２９９９」）に達する状態となるとともに、開始待ち状態においてデモ演出が７秒早く開始される状態となる。

【３８０７】

音光側立ち上げ処理（図２９１）の説明に戻り、ステップＳＪ１１１にてタイミング変更抽選用処理を実行した後、初期化対象エリア５５５における待ち状態フラグ５５５ｂに「１」をセットして開始待ち状態とする（ステップＳＪ１１２）。上記第７７の実施形態と同様に、開始待ち状態では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達したことに基づいて、図柄表示装置４１にてデモ演出が開始される。

【３８０８】

その後、ステップＳＪ１１３～ステップＳＪ１１９では、上記第７７の実施形態の音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５１１～ステップＳＩ５１７と同一の処理を実行して、本音光側立ち上げ処理を終了する。

【３８０９】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【３８１０】

音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１０１）においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「０」クリアされた後、タイミング変更抽選が行われる。当該タイミング変更抽選においてデモ演出の開始タイミングを変更する

抽選結果となった場合には、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａに所定の数値（具体的には「１４００」）が加算されてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には「２９９９」）に達するタイミングがずれる。複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始された場合、タイミング変更抽選においてデモ演出の開始タイミングを変更する抽選結果となった一部のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングが、デモ演出の開始タイミングを変更しない抽選結果となった残りのパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングからずれている状況となる可能性を高めることができる。デモ演出の開始タイミングが２通り存在している状況を作り出すことにより、デモ演出の開始タイミングがいずれか一方であるパチンコ機１０のみに対して遊技者にとって有利な設定値が設定されているのではないかと推測させて、当該パチンコ機１０への遊技者の関心を高めることができる。

【３８１１】

タイミング変更抽選において、デモ演出の開始タイミングが変更されない抽選結果となる確率が９０％に設定されているとともに、デモ演出の開始タイミングが変更される抽選結果となる確率が１０％に設定されている。これにより、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始される場合、当該複数のパチンコ機１０のうち一部であり多数側のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングが揃っているとともに、残りの少数側のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングが当該多数側のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングからずれている状況となる可能性が高められている。当該多数側のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングを揃えることによりデモ演出に一体感を持たせて、パチンコ機１０への遊技者の関心を高めることができる。また、デモ演出の開始タイミングが当該多数側のパチンコ機１０とはずれている当該少数側のパチンコ機１０について、遊技者に特別感を感じさせ、当該少数側のパチンコ機１０に対する遊技者の関心をさらに高めることができる。例えば、デモ演出の開始タイミングが多数側のパチンコ機１０とはずれている少数側のパチンコ機１０について、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時に当該少数側のパチンコ機１０のみに対して「設定確認操作」又は「設定変更操作」が行われたのではないかと推測させて、当該少数側のパチンコ機１０への遊技者の関心を高めることができる。

【３８１２】

パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されたことに基づいて実行される音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１０１）ではデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「０」クリアされる。一方、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信したことに基づいて行われる音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１１０）ではデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は「０」クリアされない。また、デモ演出は、開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングで開始される。このため、「設定確認操作」及び「設定変更操作」の有無によって、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングが変化してしまうことが防止されているとともに、「設定確認操作」及び「設定変更操作」の有無によって、デモ演出の開始タイミングが変化してしまうことが防止されている。これにより、デモ演出の開始タイミングに基づいて「設定確認操作」及び「設定変更操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことが防止されている。

【３８１３】

デモ演出の開始タイミングに基づいて「設定確認操作」及び「設定変更操作」の有無が特定され易くなってしまうことが防止されている構成において、タイミング変更抽選の抽選結果としてデモ演出の開始タイミングを変更しない抽選結果と、デモ演出の開始タイミングを変更する抽選結果とが存在している。このため、遊技者にとって有利な設定値が設定されているパチンコ機１０をデモ演出の開始タイミングに基づいて特定することを実際にはできない構成としながら、複数のパチンコ機１０のうち少数側のパチンコ機１０に対して遊技者にとって有利な設定値の設定が行われているのではないかという期待感を持た

せることができる。これにより、パチンコ機１０への遊技者の関心を高めることができる。

【３８１４】

音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から受信する抽選用乱数情報は、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまで、特定制御用のワークエリア２２１における乱数初期値カウンタＣＩＮＩにおいて更新されていた数値情報であり、メイン処理（図１６５）において設定確認用処理（ステップＳＢ１１２）、設定値更新処理（ステップＳＢ１１５）及び第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が行われるよりも先に送信乱数記憶カウンタ５５６に設定された数値情報である。タイミング変更抽選に用いられる抽選用乱数情報は、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時における「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア」の有無によって影響を受けない。これにより、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア」の有無によってタイミング変更抽選の結果に設計段階で意図しない偏りが生じることが防止されているとともに、デモ演出の開始タイミングに基づいて動作電力の供給開始時に「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことが防止されている。

【３８１５】

主側ＣＰＵ６３は、パチンコ機１０への動作電力の供給停止時に特定制御用のワークエリア２２１における乱数初期値カウンタＣＩＮＩに記憶されていた数値情報を、タイミング変更抽選用の抽選用乱数情報として音光側ＣＰＵ３５３に送信する。音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３からタイミング変更抽選用の抽選用乱数情報を受信する構成であることにより、音光側ＲＡＭ３５５にバックアップ電力を供給するための構成を不要としながら、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後、早期に数値範囲に偏りのない抽選用乱数情報を用いてタイミング変更抽選を行うことができる。これにより、パチンコ機１０への動作電力の供給開始後、早期にタイミング変更抽選を実行することが可能となっており、遊技ホールの営業時間の開始時に、１つの島設備に設置されている複数のパチンコ機１０のうち一部であって多数側のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングが変更されずに揃っているとともに、残りの少数側のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングが変更されて当該多数側のパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミングからずれている状況となる可能性が高められている。

【３８１６】

なお、音声発光制御基板３５１に、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態において情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給される記憶メモリが設けられており、当該記憶メモリにおいてタイミング変更抽選用の抽選用乱数情報が更新される構成としてもよい。具体的には、音声発光制御基板３５１に設けられている記憶メモリには、タイミング変更抽選用の抽選用乱数情報が更新される抽選用乱数カウンタが設けられている。抽選用乱数カウンタは、「０」～「５９９」の数値範囲で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻るループカウンタである。音光側ＣＰＵ３５３は、音光側タイマ割込み処理（図２８４）において開始待ち状態であることを条件として抽選用乱数カウンタを更新する。開始待ち状態の期間は遊技者による発射操作装置２８の操作態様及び遊技球の入球態様等によって変動する期間である。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給停止時に抽選用乱数カウンタに記憶されている抽選用乱数情報が特定の数値範囲に偏ってしまうことを防止することができる。また、偶然一致の場合を除いて、複数のパチンコ機１０における抽選用乱数カウンタに記憶されている抽選用乱数情報を異なる値とすることができる。上述したとおり、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態においても記憶メモリにはバックアップ電力が供給され、抽選用乱数カウンタに格納されている抽選用乱数情報の記憶保持が行われる。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給開始後、早期に数値範囲に偏りのない抽選用乱数情報を取得することができる。また、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始した場合に当該複数のパチンコ機１０において取得される抽選用乱数情報が同一となる可能性を低減することが

できる。
【３８１７】
　また、音光側ＲＡＭ３５５にタイミング変更抽選用の抽選用乱数情報が更新される抽選用乱数カウンタが設けられており、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されている状態において、音光側ＲＡＭ３５５に情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給される構成としてもよい。具体的には、抽選用乱数カウンタは、「０」～「５９９」の数値範囲で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻るループカウンタである。音光側ＣＰＵ３５３は、音光側タイマ割込み処理（図２８４）において開始待ち状態であることを条件として抽選用乱数カウンタを更新する。開始待ち状態の期間は遊技者による発射操作装置２８の操作態様及び遊技球の入球態様等によって変動する期間である。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給停止時に抽選用乱数カウンタに記憶されている抽選用乱数情報が特定の数値範囲に偏ってしまうことを防止することができる。また、偶然一致の場合を除いて、複数のパチンコ機１０における抽選用乱数カウンタに記憶されている抽選用乱数情報を異なる値とすることができる。本構成において、音光側ＲＡＭ３５５における抽選用乱数カウンタは、音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１０１）及び音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１１０）において「０」クリアの対象から除外されている。パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態においても音光側ＲＡＭ３５５にバックアップ電力が供給される構成であることにより、パチンコ機１０への動作電力の供給開始直後に音光側ＲＡＭ３５５の記憶エリアが不定な状態となることが防止されている。これにより、音光側ＲＡＭクリア処理及び音光側ＲＡＭ初期化処理において抽選用乱数カウンタの値を「０」クリアすることなく、前回のパチンコ機１０への動作電力の供給停止時に抽選用乱数カウンタに記憶されていた値から当該抽選用乱数カウンタの更新を再開させることができる。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給開始後、早期に数値範囲に偏りのない抽選用乱数情報を取得することができる。また、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始した場合に当該複数のパチンコ機１０において取得される抽選用乱数情報が同一となる可能性を低減することができる。
【３８１８】
　また、情報の記憶保持に外部からの電力供給を必要としないＥＥＰＲＯＭが音声発光制御基板３５１に設けられており、当該ＥＥＰＲＯＭにおいてタイミング変更抽選用の抽選用乱数情報が更新される構成としてもよい。具体的には、ＥＥＰＲＯＭには、タイミング変更抽選用の抽選用乱数情報が更新される抽選用乱数カウンタが設けられている。抽選用乱数カウンタは、「０」～「５９９」の数値範囲で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻るループカウンタである。音光側ＣＰＵ３５３は、音光側タイマ割込み処理（図２８４）において開始待ち状態であることを条件として抽選用乱数カウンタを更新する。開始待ち状態の期間は遊技者による発射操作装置２８の操作態様及び遊技球の入球態様等によって変動する期間である。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給停止時に抽選用乱数カウンタに記憶されている抽選用乱数情報が特定の数値範囲に偏ってしまうことを防止することができる。また、偶然一致の場合を除いて、複数のパチンコ機１０における抽選用乱数カウンタに記憶されている抽選用乱数情報を異なる値とすることができる。パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態においてもＥＥＰＲＯＭに格納されている抽選用乱数情報は記憶保持される。このため、バックアップ電力を供給するための構成を不要としながら、パチンコ機１０への動作電力の供給開始後、早期に数値範囲に偏りのない抽選用乱数情報を取得することができる。また、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始した場合に当該複数のパチンコ機１０において取得される抽選用乱数情報が同一となる可能性を低減することができる。
【３８１９】
　また、タイミング変更抽選においてデモ演出の開始タイミングを変更する抽選結果となった場合に、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの加算処理（タイミング変更抽選用処理（図２９２（ｂ）のステップＳＪ２０４）に代えて、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａ

の最大値を変更する処理を行う構成としてもよい。具体的には、音光側ＲＡＭ３５５の初期化対象外エリア５５４には、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値が設定される最大値カウンタが設けられている。最大値カウンタには、音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１０１）において初期設定が行われた場合に第１最大値（例えば「２９９９」）が設定される。最大値カウンタは初期化対象外エリア５５４に設けられているため、最大値カウンタの値は音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１１０）では変更されない。タイミング変更抽選においてデモ演出の開始タイミングが変更されない抽選結果となった場合には最大値カウンタの値は変更されない。この場合、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は１５秒間隔で第１最大値（具体的には「２９９９」）に達する。一方、タイミング変更抽選においてデモ演出の開始タイミングが変更される抽選結果となった場合には最大値カウンタに第２最大値（例えば「３３９９」）が設定される。この場合、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は１７秒間隔で最大値（具体的には「３３９９」）に達する。このように、タイミング変更抽選の結果に応じてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値を変更する構成としても、タイミング変更抽選の結果に応じてデモ演出の開始タイミングを異なるものとすることができる。

【３８２０】

＜第８０の実施形態＞

本実施形態ではタイミング変更抽選用処理の内容が上記第７９の実施形態と相違している。以下、上記第７９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第７９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３８２１】

図２９３（ａ）は本実施形態における音光側ＣＰＵ３５３にて実行されるタイミング変更抽選用処理を示すフローチャートである。なお、タイミング変更抽選用処理は、上記第７９の実施形態と同様に、音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１１１にて実行される。

【３８２２】

タイミング変更抽選用処理では、タイミング変更抽選に用いるタイミング変更抽選テーブルを音光側ＲＯＭ３５４から音光側ＲＡＭ３５５の初期化対象エリア５５５に読み出す（ステップＳＪ３０１）。図２９３（ｂ）はタイミング変更抽選テーブル５５８を説明するための説明図である。図２９３（ｂ）に示すように、タイミング変更抽選テーブル５５８には、タイミング変更抽選後にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに設定される値として「０」、「８００」、「１６００」及び「２４００」の数値情報が設定されている。

【３８２３】

タイミング変更抽選では、受信乱数記憶カウンタ５５４ｂに格納されている抽選用乱数情報が「０」～「１４９」の数値範囲である場合にはデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに「０」が設定され、当該抽選用乱数情報が「１５０」～「２９９」の数値範囲である場合にはデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに「８００」が設定され、当該抽選用乱数情報が「３００」～「４４９」の数値範囲である場合にはデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに「１６００」が設定され、当該抽選用乱数情報が「４５０」～「５９９」の数値範囲である場合にはデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに「２４００」が設定される。タイミング変更抽選において、当該タイミング変更抽選後にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに「０」が設定される確率、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａに「８００」が設定される確率、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａに「１６００」が設定される確率、及びデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに「２４００」が設定される確率は「１／４」で同一となっている。これにより、複数のパチンコ機１０に対して動作電力の供給が同時に開始された後、タイミング変更抽選によって当該複数のパチンコ機１０におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値を均等に分散させることが可能となっている。

【３８２４】

タイミング変更抽選用処理（図２９３（ａ））の説明に戻り、ステップＳＪ３０１にて

タイミング変更抽選テーブル５５７を読み出した後、初期化対象外エリア５５４の受信乱数記憶カウンタ５５４ｂに格納されている抽選用乱数情報を把握する（ステップＳＪ３０２）。上記第７９の実施形態において既に説明したとおり、受信乱数記憶カウンタ５５４ｂに格納されている抽選用乱数情報は、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまで、特定制御用のワークエリア２２１における乱数初期値カウンタＣＩＮＩにおいて更新されていた数値情報である。これにより、タイミング変更抽選に用いられる抽選用乱数情報の値が特定の数値範囲に偏ることが防止されている。また、当該乱数用数値情報は、メイン処理（図１６５）において設定確認用処理（ステップＳＢ１１２）、設定値更新処理（ステップＳＢ１１５）及び第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が行われるよりも先に送信乱数記憶カウンタ５５６に設定された数値情報である。このため、タイミング変更抽選に用いられる抽選用乱数情報は、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時における「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア」の有無によって影響を受けない。これにより、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア」の有無によってタイミング変更抽選の結果に設計段階で意図しない偏りが生じることが防止されているとともに、デモ演出の開始タイミングに基づいて動作電力の供給開始時に「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことが防止されている。

【３８２５】

その後、ステップＳＪ３０２にて把握した抽選用乱数情報をステップＳＪ３０１にて読み出したタイミング変更抽選テーブル５５８と照合することによりデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに設定する数値情報を特定し（ステップＳＪ３０３）、当該特定した数値情報をデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに設定して（ステップＳＪ３０４）、本タイミング変更抽選用処理を終了する。これにより、タイミング変更抽選の抽選結果に対応する態様で初期化対象外エリア５５４におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には「２９９９」）に達するタイミングが変更されるとともに、開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達してデモ演出が開始されるタイミングが変更される。

【３８２６】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【３８２７】

タイミング変更抽選では、受信乱数記憶カウンタ５５４ｂに記憶されている抽選用乱数に対応する態様で、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａに設定される４通りの数値情報（「０」、「８００」、「１６００」及び「２４００」）のいずれかが選択される。タイミング変更抽選においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに設定される数値情報として、当該４通りの数値情報が選択される確率は「１／４」で同一である。このため、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始した場合に、当該複数のパチンコ機１０においてデモ演出が開始されるタイミングを均等に分散させることができる。

【３８２８】

タイミング変更抽選に用いられる抽選用乱数情報は、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまで、特定制御用のワークエリア２２１における乱数初期値カウンタＣＩＮＩにおいて更新されていた数値情報である。これにより、タイミング変更抽選に用いられる抽選用乱数情報の値が特定の数値範囲に偏ることが防止されている。また、当該乱数用数値情報は、メイン処理（図１６５）において設定確認用処理（ステップＳＢ１１２）、設定値更新処理（ステップＳＢ１１５）及び第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が行われるよりも先に送信乱数記憶カウンタ５５６に設定された数値情報である。このため、タイミング変更抽選に用いられる抽選用乱数情報は、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時における「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア」の有無によって影響を受けない。これにより、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア」の有無によってタイミング変更抽選の結果に設計段階で意図しない偏りが生じることが防止されているとともに、デモ演出の開始タイミングに基づいて動作電力の供

給開始時に「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことが防止されている。

【３８２９】

なお、タイミング変更抽選によってデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに設定する数値情報を決定する構成に代えて、タイミング変更抽選によってデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値を決定する構成としてもよい。具体的には、音光側ＲＡＭ３５５の初期化対象外エリア５５４には、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値が設定される最大値カウンタが設けられている。最大値カウンタには、音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１０１）において初期設定が行われた場合に第１最大値（例えば「２９９９」）が設定される。最大値カウンタは初期化対象外エリア５５４に設けられているため、最大値カウンタの値は音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１１０）では変更されない。タイミング変更抽選では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値として第１最大値（具体的には「２９９９」）が選択される抽選結果、第２最大値（具体的には「３１９９」）が選択される抽選結果、第３最大値（具体的には「３３９９」）が選択される抽選結果、及び第４最大値（具体的には「３５９９」）が選択される抽選結果がそれぞれ「１／４」の確率で発生する。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値は、当該デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値として第１最大値が設定された場合には１５秒間隔で当該第１最大値に達し、第２最大値が設定された場合には１６秒間隔で当該第２最大値に達し、第３最大値が設定された場合には１７秒間隔で第３最大値に達し、第４最大値が設定された場合には１８秒間隔で当該第４最大値に達する。このように、タイミング変更抽選の結果に応じてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値を変更する構成としても、タイミング変更抽選の結果に応じてデモ演出の開始タイミングを異なるものとすることができる。

【３８３０】

また、デモ演出の開始タイミングを変更するための構成は、タイミング変更抽選の抽選結果に対応する数値情報がデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに設定される構成に限定されない。例えば、抽選が行われることなくデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに数値情報が設定される構成としてもよい。具体的には、音光側ＣＰＵ３５３は、上記第８０の実施形態と同様に、主側ＣＰＵ６３から受信した復帰コマンド（通常復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれか）に設定されている「０」～「５９９」のいずれかの数値情報を受信乱数記憶カウンタ５５４ｂに記憶する。上記第８０の実施形態において既に説明したとおり、復帰コマンドに設定されている数値情報は、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまで、特定制御用のワークエリア２２１における乱数初期値カウンタＣＩＮＩにおいて更新されていた数値情報であり、特定の数値範囲に偏ることが防止されている数値情報である。音光側ＣＰＵ３５３は、音光側立ち上げ処理（図２９１）のステップＳＪ１１０にて音光側ＲＡＭ初期化処理を実行した後、上記第８０の実施形態におけるタイミング変更抽選用処理（ステップＳＪ１１１）を実行することなく、受信乱数記憶カウンタ５５４ｂに記憶されている「０」～「５９９」のいずれかの数値情報をデモ開始用タイマカウンタ５５４ａにセットする。これにより、音光側ＲＡＭ初期化処理後にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａにセットされる数値情報に応じて、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａが最初に最大値（具体的には２９９９）に達するタイミングを変動させることができる。複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始された場合には、音光側ＲＡＭ初期化処理後にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａにセットされる数値情報に応じて、当該複数の遊技機においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングを異なるタイミングとすることができるとともに、デモ演出の開始タイミングを異なるタイミングとすることができる。音光側ＲＡＭ初期化処理後にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａにセットされる数値情報は、メイン処理（図１６５）において設定確認用処理（ステップＳＢ１１２）、設定値更新処理（ステップＳＢ１１５）及び第１ＲＡＭクリア処理（ステップＳＢ１１７）が行われるよりも先に送信乱数記憶カウンタ５５６に設定された数値情報である。この

ため、当該数値情報は、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時における「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア」の有無によって影響を受けない。これにより、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア」の有無によって、音光側ＲＡＭ初期化処理後にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａにセットされる数値情報に設計段階で意図しない偏りが生じることが防止されている。また、デモ演出の開始タイミングに基づいて動作電力の供給開始時に「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことが防止されている。

【３８３１】

＜第８１の実施形態＞

本実施形態では複数種類のデモ演出及び待機図柄表示が実行される点で上記第７７の実施形態と相違している。以下、上記第７７の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第７７の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３８３２】

本実施形態では、図柄表示装置４１にて実行されるデモ演出として、第１デモ演出、第２デモ演出及び第３デモ演出の３種類が存在しているとともに、図柄表示装置４１にて実行される待機図柄表示として、第１待機図柄表示、第２待機図柄表示及び第３待機図柄表示の３種類が存在している。第１～第３デモ演出のそれぞれの実行期間は１０秒間である。

【３８３３】

図２９４は本実施形態における音光側ＲＡＭ３５５の構成を説明するための説明図である。図２９４に示すように、本実施形態では、音光側ＲＡＭ３５５の初期化対象外エリア５５４にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに加えてデモ演出用種別カウンタ５５４ｃが設けられている。デモ演出用種別カウンタ５５４ｃは、実行対象とするデモ演出の種類及び待機図柄表示の種類を音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするカウンタである。デモ演出用種別カウンタ５５４ｃには「０」～「２」のいずれかの数値情報がセットされる。デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値が「０」である場合には第１デモ演出及び第１待機図柄表示が実行対象となり、デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値が「１」である場合には第２デモ演出及び第２待機図柄表示が実行対象となり、デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値が「３」である場合には第３デモ演出及び第３待機図柄表示が実行対象となる。

【３８３４】

本実施形態におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新処理（音光側タイマ割込み処理（図２８４）のステップＳＩ６０１）では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には「２９９９」）である状態で当該更新処理（ステップＳＩ６０１）が実行されてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値を「０」クリアした場合、デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの更新処理を実行する。デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの更新処理では、デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値を１加算するとともに、当該１加算後のデモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値が「３」となった場合には当該デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値を「０」クリアする。これにより、図柄表示装置４１において実行対象となるデモ演出及び待機図柄表示の種類が更新される。

【３８３５】

本実施形態では、デモ演出の開始設定処理（開始待ち演出用処理（図２８５）のステップＳＩ７０９）において、デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値に対応するデモ演出を実行するための設定を行う。具体的には、デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値が「０」である場合に第１デモ演出を開始するための設定を行い、デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値が「１」である場合に第２デモ演出を開始するための設定を行い、デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値が「３」である場合に第３デモ演出を開始するための設定を行う。また、待機図柄表示の開始設定処理（開始待ち演出用処理（図２８５）のステップＳＩ７１１）において、デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値に対応する待機図柄表示を実行するための設定を行う。具体的には、デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値が「０」である場

合に第１待機図柄表示を開始するための設定を行い、デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値が「１」である場合に第２待機図柄表示を開始するための設定を行い、デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値が「３」である場合に第３待機図柄表示を開始するための設定を行う。

【３８３６】

デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新処理（音光側タイマ割込み処理（図２８４）のステップＳＩ６０１）において、デモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値は、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新と連動する態様で更新される。このため、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始してデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には「２９９９」）に達するタイミングを揃えることで、当該複数のパチンコ機１０におけるデモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値も揃えることができる。これにより、図柄表示装置４１において実行可能なデモ演出及び待機図柄表示を複数種類としながら、複数のパチンコ機１０において同時に開始されるデモ演出及び待機図柄表示の種類を揃えることができる。

【３８３７】

デモ開始用タイマカウンタ５５４ａ及びデモ演出用種別カウンタ５５４ｃは初期化対象外エリア５５４に設けられているため、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａ及びデモ演出用種別カウンタ５５４ｃは、音光側ＲＡＭクリア処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０１）では「０」クリアされる一方、音光側ＲＡＭ初期化処理（音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０９）では「０」クリアされない。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時における「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア処理」の有無によってデモ開始用タイマカウンタ５５４ａ及びデモ演出用種別カウンタ５５４ｃの値は変更されない。

【３８３８】

複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始された場合に、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア処理」の有無によってデモ演出の開始タイミングがずれることが防止されているとともに、デモ演出及び待機図柄表示の種類がずれることが防止されている。これにより、デモ演出の開始タイミングに基づいて「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア処理」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことが防止されているとともに、デモ演出及び待機図柄表示の種類のずれに基づいて「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア処理」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことが防止されている。

【３８３９】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【３８４０】

図柄表示装置４１にて複数種類のデモ演出及び待機図柄表示を実行可能としながら、動作電力の供給が同時に開始された複数のパチンコ機１０においてデモ演出が開始されるタイミングを揃えることができるとともに、当該タイミングにおいて実行対象となるデモ演出の種類を揃えることができる。また、当該複数のパチンコ機１０において待機図柄表示が開始されるタイミングを揃えることができるとともに、当該タイミングにおいて実行対象となる待機図柄表示の種類を揃えることができる。これにより、複数のパチンコ機１０におけるデモ演出及び待機図柄表示に一体感を持たせて、パチンコ機１０への遊技者の関心を高めることができる。

【３８４１】

複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始された場合であって当該複数のパチンコ機１０のうち一部のパチンコ機１０に対して「設定確認操作」、「設定変更操作」、又は「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合に、「設定確認操作」、「設定変更操作」及び「ＲＡＭクリア操作」が行われなかったパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミング及びデモ演出の種類と、「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０におけるデモ演出の開始タイミング及びデモ演出の

種類を揃えることができる。これにより、デモ演出の開始タイミング及びデモ演出の種類のずれに基づいて、「設定確認操作」、「設定変更操作」又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことを防止することができる。

【３８４２】

＜第８２の実施形態＞

本実施形態ではベース値の正常範囲に対するベース値の状態を示すデータがパチンコ機１０の外部に出力される点で上記第３５の実施形態と相違している。以下、上記第３５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３８４３】

上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、ベース値とは、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）に対する遊技球の合計払出個数の割合のことである。ベース値は、上記第３５の実施形態と同様にベース値の演算処理（結果演算処理（図１３０）のステップＳ８６０１）にて小数点第２位までの小数として算出される。上記第３５の実施形態において図１２６を参照しながら既に説明したとおり、非特定制御用のワークエリア２２３には演算結果記憶エリア２３４が設けられており、演算結果記憶エリア２３４には、直近のベース値が格納される現状エリア３１１と、１回前の算出期間における最終的なベース値が格納される第１履歴エリア３１２と、２回前の算出期間における最終的なベース値が格納される第２履歴エリア３１３と、３回前の算出期間における最終的なベース値が格納される第３履歴エリア３１４とが設けられている。

【３８４４】

本実施形態では、設計段階で想定されたベース値の正常範囲であるベース正常範囲として「０．３０」～「０．４０」の数値範囲が設定されている。ベース値がベース正常範囲の下限（０．３０）を下回った場合には遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスを実施する必要が生じるとともに、ベース値がベース正常範囲の上限（０．４０）を上回った場合には遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無を確認する必要が生じる。

【３８４５】

本実施形態では、ベース正常範囲（０．３０～０．４０）に対するベース値の状態を把握可能とする代表値のデータとして代表値データがパチンコ機１０の外部に出力される。ベース値が「０」～「０．９９」の数値範囲に入っている場合における代表値は、当該ベース値の小数点第１位の数字である。ベース値が「０」～「０．９９」の数値範囲に入っている場合には、ベース値の小数点第１位の数字が同一であれば、小数点第２位の数字が異なっていても同一の代表値データが出力される。また、ベース値が「１．００」である場合における代表値は、「９」である。代表値データは４ビットの数値情報であり、具体的には２進数表記で「００００」～「１００１」（１０進数表記で「０」～「９」）のいずれかの数値情報である。

【３８４６】

図２９５（ａ）は本実施形態における代表値データの外部出力を行うための構成を説明する説明図である。図２９５（ａ）に示すように、ＭＰＵ６２には主側ＣＰＵ６３から代表値データを出力するための主側出力端子ＴＡ１が設けられているとともに、外部端子板９７には当該主側出力端子ＴＡ１から出力される代表値データを受信するための外部側受信端子ＴＢ１が設けられている。主側出力端子ＴＡ１と外部側受信端子ＴＢ１とは外部出力用信号線群５６１を利用して電気的に接続されている。外部出力用信号線群５６１は、４ビット単位の代表値データを送信するための４本のデータ信号線と、代表値データを受信する外部装置（後述するデータ表示器ＤＩ）においてデータ取得のタイミングを把握可能とするパルス状の制御信号を送信するための１本の制御信号線とで構成されている。主側ＣＰＵ６３は、４ビットの代表値データが４本のデータ信号線に出力されている状態と

した後、制御信号線にパルス状の制御信号を出力する。これにより、４ビット単位の代表値データを外部端子板９７に一度に送信することが可能となっている。

【３８４７】

外部端子板９７には外部側受信端子ＴＢ１にて受信した代表値データを外部出力するための外部側出力端子ＴＣ１が設けられている。外部側出力端子ＴＣ１は、パチンコ機１０の外部に設けられているデータ表示器ＤＩ等の外部装置に接続可能となっている。データ表示器ＤＩはパチンコ機１０に１対１で対応させて設けられている。データ表示器ＤＩは１桁の数字を表示可能な表示面を備えており、当該表示面ではデータ表示器ＤＩがパチンコ機１０から受信した代表値データに基づく代表値の表示が行われる。遊技ホールの管理者は、データ表示器ＤＩの表示に基づいてパチンコ機１０の代表値を把握することができる。

【３８４８】

ホールコンピュータＨＣは、遊技ホールに設置されている多数のパチンコ機に１対１で対応させて設けられているデータ表示器ＤＩと電気的に接続されている。データ表示器ＤＩは、パチンコ機１０から受信した代表値データと、当該データ表示器ＤＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。ホールコンピュータＨＣは、データ表示器ＤＩから受信する識別子データに基づいてパチンコ機１０を識別するとともに、当該識別データと同時に受信する代表値データに基づいて当該パチンコ機１０における代表値（「０」～「９」のいずれかの数値）を把握する。これにより、ホールコンピュータＨＣにてパチンコ機１０から外部出力される代表値を把握することが可能となっている。

【３８４９】

ホールコンピュータＨＣにおいてパチンコ機１０から外部出力される代表値を把握可能とすることにより、ベース正常範囲（０．３０～０．４０）に対するベース値の状態を把握可能とすることができる。具体的には、代表値が「０」～「２」である場合にはベース値がベース正常範囲の下限（０．３０）を下回っている状態であることを把握可能とすることができるとともに、代表値が「５」～「９」である場合にはベース値がベース正常範囲の上限（０．４０）を大きく上回っている状態であることを把握可能とすることができる。また、データ表示器ＤＩにおける代表値の表示に基づいてパチンコ機１０から外部出力される代表値を監視可能であることにより、パチンコ機１０から外部出力される代表値を容易に把握することが可能となっており、遊技ホールの管理者による代表値の監視負担が軽減されている。

【３８５０】

ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩにおいてベース値がベース正常範囲（０．３０～０．４０）の下限（０．３０）を下回っていることを把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者に対して、パチンコ機１０における遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスの契機を与えることができる。また、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩにおいてベース値がベース正常範囲の上限（０．４０）を大きく上回っていることを把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者に対して、遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無を確認する契機を与えることができる。

【３８５１】

ベース値がベース正常範囲（０．３０～０．４０）から外れている異常状態となった場合には、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが受信したパチンコ機１０の代表値データに基づいて、ベース値の異常の程度を把握することができる。具体的には、当該受信した代表値データが示す代表値が「２」以下である場合に、当該代表値が小さいほど現状エリア３１１におけるベース値がベース正常範囲から大きく外れており早期に対応が必要であることを把握することができる。また、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが受信したパチンコ機１０の代表値データが示す代表値が「５」以上である場合に、当該代表値が大きいほど現状エリア３１１におけるベース値がベース正常範囲から大きく外れており早期に対応が必要であることを把握することができる。

【３８５２】
図２９５（ｂ）は特定制御用のワークエリア２２１における代表値データの外部出力用の記憶エリアを説明するための説明図である。図２９５（ｂ）に示すように、特定制御用のワークエリア２２１には代表値データカウンタ５６２が設けられている。代表値データカウンタ５６２は４ビットのデータ容量となっており、代表値データカウンタ５６２には代表値データとして４ビットの数値情報が格納される。
【３８５３】
ベース正常範囲（０．３０～０．４０）に対するベース値の状態を把握可能とするためのデータとしてベース値の下２桁の数字（小数点第１位及び小数点第２位の数字）を外部出力する構成では、８ビットの数値情報を外部出力する必要があるとともに、ベース値の全体（１の位、小数点第１位及び小数点第２位）を出力する構成では、１２ビットの数値情報を外部出力する必要がある。これに対して本実施形態では、代表値（ベース値に対応する「０」～「９」のいずれかの数字）を示す４ビットの数値情報のみを代表値データとしてデータ表示器ＤＩに外部出力する構成である。これにより、ベース正常範囲に対するベース値の状態を把握可能とするデータをパラレル通信でＭＰＵ６２から外部端子板９７に出力するための信号線の数を低減することが可能となっているとともに、特定制御用のワークエリア２２１において当該データを記憶するための記憶容量を低減することが可能となっている。また、当該データを受信して記憶するための記憶容量が小さく設定されているデータ表示器ＤＩ及びホールコンピュータＨＣに対しても代表値データを外部出力することが可能となっているとともに、１桁の数字のみを表示可能なデータ表示器ＤＩに対しても本パチンコ機１０を接続して代表値データを外部出力することが可能となっている。
【３８５４】
次に、代表値データを外部出力するための具体的な処理構成について説明する。図２９６は主側ＣＰＵ６３にて実行される外部情報設定処理を示すフローチャートである。なお、外部情報設定処理は上記第３５の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９１８にて実行される。また、外部情報設定処理におけるステップＳＪ４０１～ステップＳＪ４０６の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【３８５５】
外部情報設定処理では、まず非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた演算初期フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＪ４０１）。演算初期フラグは、上記第３５の実施形態と同様に、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達しているか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。
【３８５６】
ステップＳＪ４０１にて演算初期フラグに「１」がセットされていないと判定した場合には、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していることを意味するため、外部端子板９７を介して代表値データをデータ表示器ＤＩに外部出力するための処理（ステップＳＪ４０２～ステップＳＪ４０５の処理）を実行する。
【３８５７】
具体的には、特定制御用のワークエリア２２１における代表値データカウンタ５６２を「０」クリアする（ステップＳＪ４０２）。その後、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１（図１２６）を参照して現状のベース値を把握する（ステップＳＪ４０３）。既に説明したとおり、ベース値は小数点第２位までの小数である。その後、ステッ

プＳＪ４０３にて把握したベース値に対応する代表値データを代表値データカウンタ５６２に設定する（ステップＳＪ４０４）。具体的には、ステップＳＪ４０３にて把握したベース値が「０」～「０．９９」の数値範囲に入っている場合には当該ベース値の小数点第１位の数字を示す数値情報を代表値データとして設定するとともに、ステップＳＪ４０３にて把握したベース値が「１．００」である場合には「９」の数値情報を代表値データとして設定する。これにより、代表値データカウンタ５６２には「０」～「９」のいずれかの数字に対応する４ビットの代表値データが設定されている状態となる。

【３８５８】

その後、代表値データの外部出力処理を実行する（ステップＳＪ４０５）。代表値データの外部出力処理では、４ビットの代表値データが外部出力用信号線群５６１における４本のデータ信号線に出力されている状態とした後、外部出力用信号線群５６１における制御信号線にパルス状の制御信号を出力する。これにより、４ビット単位の代表値データが外部端子板９７を介してデータ表示器ＤＩに外部出力される。データ表示器ＤＩは、パルス状の制御信号を受信するタイミングで４本のデータ信号線に出力されている４ビット単位の代表値データを取得する。既に説明したとおり、データ表示器ＤＩではパチンコ機１０から受信した代表値データに基づいて代表値の表示が行われる。また、データ表示器ＤＩは、パチンコ機１０から受信した代表値データと、当該データ表示器ＤＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。遊技ホールの管理者は、データ表示器ＤＩ及びホールコンピュータＨＣにおいてパチンコ機１０の代表値を確認することができる。

【３８５９】

ステップＳＪ４０１にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＪ４０５の処理を行った場合には、その他の外部出力処理を実行して（ステップＳＪ４０６）、本外部情報設定処理を終了する。ステップＳＪ４０６におけるその他の外部出力処理では、開閉実行モード中であることを示す情報、サポートモードが高頻度サポートモード中であることを示す情報、一の遊技回が終了したことを示す情報、所定個数（例えば１００個）の遊技球がアウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれかを通じて遊技領域ＰＡから排出されたことを示す情報、第１作動口３３に遊技球が入球したことを示す情報、及び第２作動口３４に遊技球が入球したことを示す情報をホールコンピュータＨＣに外部出力するための処理を実行する。

【３８６０】

上記のとおり、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達している場合には、現状エリア３１１におけるベース値の代表値（ベース値の小数点第１位の数字）を示す代表値データが外部端子板９７を介してデータ表示器ＤＩに外部出力される。

【３８６１】

ベース正常範囲（０．３０～０．４０）に対するベース値の状態を把握可能とするデータがパチンコ機１０の外部に出力されない構成とすると、ベース正常範囲（０．３０～０．４０）に対するベース値の状態を把握しようとする場合、遊技ホールの管理者は、遊技ホールにおいて本パチンコ機１０が設置されている場所まで移動するとともに遊技機本体１２を外枠１１に対してパチンコ機１０前方に開放させて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示面を目視する作業を行う必要がある。また、遊技ホールに設定されている複数のパチンコ機１０のベース正常範囲（０．３０～０．４０）に対するベース値の状態を把握しようとする場合、当該作業を１台毎に行う必要があり遊技ホールの管理者の監視負担が大きいものとなってしまう。これに対して、本実施形態ではベース値の代表値（ベース値に対応する「０」～「９」のいずれか１つの数字）を示す代表値データをデータ表示器ＤＩに外部出力する構成である。また、既に説明したとおり、データ表示器ＤＩはパチンコ機１０から受信した代表値データと、当該データ表示器ＤＩの識別子データとを

含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。これにより、データ表示器ＤＩ及びホールコンピュータＨＣにおいてベース正常範囲に対するベース値の状態を把握可能とすることができる。また、複数のパチンコ機１０が設置されている場合には、ホールコンピュータＨＣにおいて当該複数のパチンコ機１０の代表値を一括して把握可能とすることができる。これにより、遊技ホールの管理者の監視負担を軽減することができる。

【３８６２】

ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していない場合には、代表値データの外部出力は行われない。算出期間が開始された直後においてはベース値を算出するための遊技履歴の情報が少ないため、ベース値の実測値がベース値の理論値範囲から大きく外れた値となり得る。ベース値を算出するための遊技履歴の情報が十分でない状態では代表値データの外部出力が実行されない構成であることにより、データ表示器ＤＩ及びホールコンピュータＨＣが不安定なベース値に基づく代表値データを受信してしまうことが防止されている。これにより、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンス、及び遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無の確認が頻繁に行われてしまうことが防止されている。

【３８６３】

次に、図２９７のタイムチャートを参照しながらデータ表示器ＤＩに外部出力される代表値データに基づいてベース値の異常が把握可能となる様子を説明する。図２９７（ａ）はホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩにおいてベース値の異常が把握可能となるタイミングを示し、図２９７（ｂ）は主側ＣＰＵ６３から「３」のベース値が外部出力される期間を示し、図２９７（ｃ）は主側ＣＰＵ６３から「２」のベース値が外部出力される期間を示し、図２９７（ｄ）はベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達している期間を示し、図２９７（ｅ）はベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達するタイミングを示す。

【３８６４】

ｔ１のタイミングで図２９７（ｄ）に示すようにベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達すると、代表値データのデータ表示器ＤＩへの外部出力が開始される。図２９７（ｂ）に示すように、ｔ１のタイミングでは「３」の代表値を示す代表値データが外部出力される。これにより、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩにおいて、本パチンコ機１０における現状のベース値の小数点第１位の数字が「３」であり、メンテナンス及び不正な行為の確認が不要な状態であることを把握することが可能となる。

【３８６５】

その後、図２９７（ｂ）及び図２９７（ｃ）に示すようにｔ２のタイミングでデータ表示器ＤＩに外部出力されている代表値データの代表値が「３」から「２」に変化する。これにより、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが受信する代表値データが示す代表値も「３」から「２」に変化する。図２９７（ａ）に示すように、当該ｔ２のタイミングでホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩにおいてパチンコ機１０におけるベース値の異常を把握することが可能となる。具体的には、本パチンコ機１０における現状のベース値がベース正常範囲（０．３０～０．４０）の下限（０．３０）を下回ってお

、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスが必要な状態であることを把握することが可能となる。

【３８６６】

その後、図２９７（ｅ）に示すように、ｔ３のタイミングでベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準数（具体的には６００００個）に達すると、データシフト処理（結果演算処理（図１３０）のステップＳ８６０７）が実行される。データシフト処理では、上記第３５の実施形態と同様に、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に記憶された情報が、第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４、第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２の順序でシフトした後に、現状エリア３１１が「０」クリアされる。これにより、図２９７（ｄ）に示すように、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していない状態となり、図２９７（ｃ）に示すように、当該ｔ３のタイミングで代表値データの外部出力が終了する。

【３８６７】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【３８６８】

現状エリア３１１におけるベース値が「０」～「０．９９」の数値範囲に入っている場合には代表値データとして当該ベース値の小数点第１位の数字を示す４ビットの数値情報がデータ表示器ＤＩに外部出力されるとともに、現状エリア３１１におけるベース値が「１．００」である場合には代表値データとして「９」を示す４ビットの数値情報がデータ表示器ＤＩに外部出力される。データ表示器ＤＩは、パチンコ機１０から受信した代表値データと、当該データ表示器ＤＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。このため、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが受信する代表値データが示す代表値に基づいて、ベース正常範囲（０．３０～０．４０）に対するベース値の状態を把握可能とすることができる。また、ホールコンピュータＨＣにおいて複数のパチンコ機１０における代表値を一括して把握可能とすることができる。これにより、パチンコ機１０のベース値を管理するために必要となる遊技ホールの管理者の監視負担を軽減することができる。

【３８６９】

４ビットの代表値データをデータ表示器ＤＩに外部出力する構成であることにより、ベース値の下２桁を示す数値情報又はベース値の全体を把握可能とする数値情報をデータ表示器ＤＩに外部出力する構成と比較して、ベース正常範囲（０．３０～０．４０）に対するベース値の状態を把握可能とするデータのデータ量が低減されている。これにより、当該データをパラレル通信でＭＰＵ６２から外部端子板９７に出力するために必要となる信号線の数を低減することが可能となっているとともに、特定制御用のワークエリア２２１において当該データを記憶するための記憶容量を低減することが可能となっている。また、当該データを受信して記憶するための記憶容量が小さく設定されているデータ表示器ＤＩ及びホールコンピュータＨＣに対しても代表値データを外部出力することが可能となっているとともに、１桁の数字のみを表示可能なデータ表示器ＤＩに対しても本パチンコ機１０を接続して代表値データを外部出力することが可能となっている。

【３８７０】

ベース正常範囲が「０．３０」～「０．４０」の数値範囲に設定されている構成において、現状エリア３１１におけるベース値が「０」～「０．９９」の数値範囲に入っている場合にはデータ表示器ＤＩに当該ベース値の小数点第１位の数字を代表値とする代表値データが外部出力されるとともに、現状エリア３１１におけるベース値が「１．００」であ

る場合にはデータ表示器ＤＩに「９」を代表値とする代表値データが外部出力される。これにより、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが受信する代表値データが示す代表値が「２」以下である場合にパチンコ機１０の現状のベース値がベース正常範囲（０．３０～０．４０）の下限（０．３０）を下回っていること把握可能とすることができるとともに、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが受信する代表値データが示す代表値が「５」以上である場合にパチンコ機１０の現状のベース値がベース正常範囲（０．３０～０．４０）の上限（０．４０）を大きく上回っている状態であることを把握可能とすることができる。また、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが受信する代表値データが示す代表値が「２」以下である場合には、当該代表値が小さいほど現状エリア３１１におけるベース値がベース正常範囲から大きく外れており早期に対応が必要であることを把握可能とすることができるとともに、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが受信する代表値データが示す代表値が「５」以上である場合には、当該代表値が大きいほど現状エリア３１１におけるベース値がベース正常範囲から大きく外れており早期に対応が必要であることを把握可能とすることができる。

【３８７１】

ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していない場合には、代表値データの外部出力は行われない。ベース値を算出するための遊技履歴の情報が十分でない状態では代表値データの外部出力が実行されない構成であることにより、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが不安定なベース値に基づく代表値データを受信してしまうことが防止されている。これにより、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンス、及び遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無の確認が頻繁に行われてしまうことが防止されている。

【３８７２】

なお、代表値データの外部出力が行われる時間間隔を所定の時間間隔（例えば１０分間隔）としてもよい。具体的には、外部情報設定処理（図２９６）のステップＳＪ４０１にて演算初期フラグに「１」がセットされていないと判定した場合、前回の代表値データの外部出力処理（ステップＳＪ４０５）を実行してから所定の時間（例えば１０分間）が経過したことを条件として代表値データの外部出力処理（ステップＳＪ４０５）を実行する。これにより、ベース値の異常が発生してから所定の時間（例えば１０分間）以内にデータ表示器ＤＩにおける代表値の表示に基づいて当該ベース値の異常を把握可能としながら、代表値データの外部出力処理（ステップＳＪ４０５）の実行頻度を低減することができる。

【３８７３】

また、代表値データのデータ表示器ＤＩへの外部出力がパラレル通信で行われる構成に代えて、代表値データのデータ表示器ＤＩへの外部出力がシリアル通信で行われる構成としてもよい。代表値データの外部出力をシリアル通信で行う構成とすることにより、代表値データをＭＰＵ６２から外部端子板９７に出力するための信号線の数を減らすことができる。上記第８２の実施形態において既に説明したとおり、４ビット単位の代表値データを外部出力する構成であることにより、ベース値の下２桁を示す数値情報、又はベース値の全体を示す数値情報を外部出力するための構成と比較して、ベース正常範囲（０．３０～０．４０）に対するベース値の状態を把握可能とするためのデータのデータ容量が低減されている。これにより、当該データをシリアル通信で外部出力するために要する時間が短縮されている。

【３８７４】

また、代表値データに代えて、ベース値の全体を把握可能とするベース値データをデータ表示器ＤＩに外部出力する構成としてもよい。具体的には、ベース値データは、「０」～「１．００」のいずれかの数値情報であるベース値に「１００」を掛けて得られる「０

」～「１００」のいずれかの数値情報を示す７ビット単位のデータである。データ表示器ＤＩは、パチンコ機１０から受信したベース値データと、当該データ表示器ＤＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。このため、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩにおいてパチンコ機１０におけるベース値の全体を把握可能とすることができる。ベース値データが「０」～「２９」の数値情報である場合に、遊技ホールの管理者に対して、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスを行う契機を与えることができる。また、ベース値データが「４１」～「１００」である場合に、遊技ホールの管理者に対して、遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無を確認する契機を与えることができる。

【３８７５】

＜第８３の実施形態＞

本実施形態ではデータ表示器ＤＩに外部出力されるデータの構成が上記第８２の実施形態と相違している。以下、上記第８２の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第８２の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３８７６】

本実施形態では、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスが必要となるベース値の異常範囲（以下、ベース異常範囲ともいう。）として、「０」～「０．２９」の数値範囲が設定されている。本実施形態では、演算結果記憶エリア２３４の現状エリア３１１（図１２６）におけるベース値とベース異常範囲（０～０．２９）との関係を示す加工代表値のデータとして、２ビット単位の加工代表値データがデータ表示器ＤＩに外部出力される。

【３８７７】

ベース値は、上記第３５の実施形態と同様にベース値の演算処理（結果演算処理（図１３０）のステップＳ８６０１）にて小数点第２位までの小数として算出される。ベース値は、「０」～「１．００」のいずれかの数値情報である。加工代表値は、現状エリア３１１（図１２６）におけるベース値が「０」～「０．２９」の数値範囲に入っている場合には当該ベース値の小数点第１位の数字であるとともに、現状エリア３１１におけるベース値が「０．３０」～「１．００」の数値範囲に入っている場合には「３」の数字である。加工代表値データは、２進数表記で「００」～「１１」のいずれかの２ビットの数値情報（１０進数表記で「０」～「３」のいずれかの数値情報）である。

【３８７８】

上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップ８９０５において不正検知処理が実行される。本実施形態では、当該不正検知処理において、不正な電波の検知、不正な磁気の検知、及び異常な振動の検知のいずれかが行われた場合に、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグに「１」をセットする。上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ（９０６にて否定判定が行われて、ステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理が実行されない状態、すなわち遊技の進行が停止された状態となる。このため、不正な電波、不正な磁気、又は異常な振動によりベース値を高める不正が行われた場合には、遊技の進行が停止された状態とすることにより対処することができる。

【３８７９】

一方、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等が原因となって入賞異常が発生している状態は、第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９０５における不正検知処理では検知されない。本実施形態では、パチンコ機１０からホールコンピュータＨＣに外部出力される加工代表値が「２」以下であることに基づいて遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等が原因となって入賞異常が発生している状態を把握することを可能としている。これにより、ホールコンピュータＨＣにおいて不正検知処理では検知されないベース値の異常状態を把握することが可能となっている。

【３８８０】

図２９８（ａ）は本実施形態における加工代表値データを外部出力するための構成を説明するためのブロック図である。図２９８（ａ）に示すように、ＭＰＵ６２には主側ＣＰＵ６３から加工代表値データを出力するための主側出力端子ＴＡ２が設けられているとともに、外部端子板９７には当該主側出力端子ＴＡ２から出力される加工代表値データを受信するための外部側受信端子ＴＢ２が設けられている。主側出力端子ＴＡ２と外部側受信端子ＴＢ２とは外部出力用信号線群５６３を利用して電気的に接続されている。

【３８８１】

外部出力用信号線群５６３は、２ビット単位の加工代表値データを送信するための２本のデータ信号線と、加工代表値データを受信するデータ表示器ＤＩにおいてデータ取得のタイミングを把握可能とするパルス状の制御信号を送信するための１本の制御信号線とで構成されている。主側ＣＰＵ６３は、２ビットの加工代表値データが２本のデータ信号線に出力されている状態とした後、制御信号線にパルス状の制御信号を出力する。これにより、２ビット単位の加工代表値データを外部端子板９７に一度に送信することが可能となっている。

【３８８２】

外部端子板９７には外部側受信端子ＴＢ２にて受信した加工代表値データを外部出力するための外部側出力端子ＴＣ２が設けられている。外部側出力端子ＴＣ２は、パチンコ機１０の外部に設けられているデータ表示器ＤＩ等の外部装置に接続可能となっている。データ表示器ＤＩは１桁の数字を表示可能な表示面を備えており、当該表示面ではデータ表示器ＤＩがパチンコ機１０から受信した加工代表値データに基づく加工代表値の表示が行われる。遊技ホールの管理者は、データ表示器ＤＩの表示に基づいてパチンコ機１０の加工代表値を把握することができる。

【３８８３】

データ表示器ＤＩは、パチンコ機１０から受信した加工代表値データと、当該データ表示器ＤＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。ホールコンピュータＨＣは、データ表示器ＤＩから受信する識別子データに基づいてパチンコ機１０を識別するとともに、当該識別データと同時に受信する加工代表値データに基づいて当該パチンコ機１０における加工代表値（「０」～「３」のいずれかの数値）を把握する。遊技ホールの管理者は、ホールコンピュータＨＣにおいてもパチンコ機１０の加工代表値を把握することができる。

【３８８４】

上述したとおり、ベース異常範囲は「０」～「０．２９」の数値範囲である。本実施形態では、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが受信する加工代表値データが示す加工代表値に基づいて、ベース値がベース異常範囲（０～０．２９）に入っており、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等が原因となって入賞異常が発生している状態であるか否かを把握可能とすることができる。具体的には、加工代表値が「０」～「２」である場合に、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等が原因となって入賞異常が発生している状態であることを把握可能とすることができる。

【３８８５】

ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩにおいてベース値がベース異常範囲（０～０．２９）に入っている状態となったことを把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者に対して、パチンコ機１０における遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスの契機を与えることができる。ベース値がベース異常範囲に入っている状態となった場合、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが受信する加工代表値データが示す加工代表値に基づいて、ベース値の異常の程度を把握することができる。具体的には、加工代表値が「２」である場合にはベース値がベース異常範囲（０～０．２９）の上限（０．２９）に近い状態であることを把握することができるとともに、加工代表値が「１」又は「０」である場合にはベース値の異常が深刻であり、迅速な対応が必要であることを把握することができる。

【３８８６】

図２９８（ｂ）は特定制御用のワークエリア２２１に設けられた加工代表値データの外部出力用の記憶エリアを説明するための説明図である。図２９８（ｂ）に示すように、特定制御用のワークエリア２２１には加工代表値データカウンタ５６４が設けられている。加工代表値データカウンタ５６４は２ビットのデータ容量となっており、加工代表値データカウンタ５６４には加工代表値データとして２ビットの数値情報が格納される。

【３８８７】

２ビットの加工代表値データをデータ表示器ＤＩに外部出力する構成であることにより、ベース値の下２桁を示す数値情報又はベース値の全体を把握可能とする数値情報をデータ表示器ＤＩに外部出力する構成と比較して、ベース異常範囲（０～０．２９）に対するベース値の状態を把握可能とするデータのデータ量が低減されている。これにより、当該データをパラレル通信でＭＰＵ６２から外部端子板９７に出力するために必要となる信号線の数を低減することが可能となっているとともに、特定制御用のワークエリア２２１において当該データを記憶するための記憶容量を低減することが可能となっている。また、当該データを受信して記憶するための記憶容量が小さく設定されているデータ表示器ＤＩ及びホールコンピュータＨＣに対しても加工代表値データを外部出力することが可能となっているとともに、１桁の数字のみを表示可能なデータ表示器ＤＩに対しても本パチンコ機１０を接続して加工代表値データを外部出力することが可能となっている。

【３８８８】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される外部情報設定処理について、図２９９のフローチャートを参照しながら説明する。なお、外部情報設定処理は上記第３５の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９１８にて実行される。また、外部情報設定処理におけるステップＳＪ５０１～ステップＳＪ５０８の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３８８９】

ステップＳＪ５０１では、上記第８２の実施形態における外部情報設定処理（図２９６）のステップＳＪ４０１と同様の処理を実行する。具体的には、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた演算初期フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＪ５０１）。ステップＳＪ５０１にて演算初期フラグに「１」がセットされていないと判定した場合には、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していることを意味するため、外部端子板９７を介して加工代表値データをデータ表示器ＤＩに外部出力するための処理（ステップＳＪ５０２～ステップＳＪ５０７の処理）を実行する。

【３８９０】

具体的には、特定制御用のワークエリア２２１における加工代表値データカウンタ５６４を「０」クリアする（ステップＳＪ５０２）。その後、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１（図１２６）を参照して現状のベース値を把握する（ステップＳＪ５０３）。

【３８９１】

その後、ステップＳＪ５０３にて把握したベース値が「０．３０」以上であるか否かを判定し、（ステップＳＪ５０４）、ベース値が「０．３０」以上である場合（ステップＳＪ５０４：ＹＥＳ）には、特定制御用のワークエリア２２１における加工代表値データカウンタ５６４に「３」（２進数表記で「１１」）の数値情報をセットする（ステップＳＪ５０５）。一方、ステップＳＪ５０４にて否定判定を行った場合には、ステップＳＪ５０４にて把握した現状のベース値における小数点第１位の数字（「０」～「２」の数値情報（２進数表記で「００」～「１０」の数値情報））をそのまま加工代表値データカウンタ５６４にセットする（ステップＳＪ５０６）。

【３８９２】

ステップＳＪ５０５の処理を行った場合、又はステップＳＪ５０６の処理を行った場合

には、加工代表値データの外部出力処理を実行する（ステップＳＪ５０７）。加工代表値データの外部出力処理では、２ビットの加工代表値データが外部出力用信号線群５６３における２本のデータ信号線に出力されている状態とした後、外部出力用信号線群５６３における制御信号線にパルス状の制御信号を出力する。これにより、２ビット単位の加工代表値データが外部端子板９７を介してデータ表示器ＤＩに外部出力される。データ表示器ＤＩは、パルス状の制御信号を受信するタイミングで２本のデータ信号線に出力されている２ビット単位の加工代表値データを取得する。既に説明したとおり、データ表示器ＤＩではパチンコ機１０から受信した代表値データに基づいて加工代表値の表示が行われる。また、データ表示器ＤＩは、パチンコ機１０から受信した加工代表値データと、当該データ表示器ＤＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。遊技ホールの管理者は、データ表示器ＤＩ及びホールコンピュータＨＣにおいてパチンコ機１０の加工代表値を確認することができる。

【３８９３】

ステップＳＪ５０１にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＪ５０７の処理を行った場合には、その他の外部出力処理を実行して（ステップＳＪ５０８）、本外部情報設定処理を終了する。その他の外部出力処理では、上記第８２の実施形態の外部情報設定処理（図２９６）におけるその他の外部出力処理（ステップＳＪ４０６）と同様に、開閉実行モード中であることを示す情報、サポートモードが高頻度サポートモード中であることを示す情報、一の遊技回が終了したことを示す情報、所定個数（例えば１００個）の遊技球がアウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれかを通じて遊技領域ＰＡから排出されたことを示す情報、第１作動口３３に遊技球が入球したことを示す情報、及び第２作動口３４に遊技球が入球したことを示す情報をホールコンピュータＨＣに外部出力するための処理を実行する。

【３８９４】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【３８９５】

演算結果記憶エリア２３４の現状エリア３１１（図１２６）におけるベース値が「０」～「０．２９」の数値範囲に入っている場合には当該ベース値の小数点第１位の数字を示す数値情報が加工代表値データとしてデータ表示器ＤＩに外部出力されるとともに、ベース値が「０．３０」～「１．００」の数値範囲に入っている場合には「３」の数値情報が加工代表値データとしてデータ表示器ＤＩに外部出力される。データ表示器ＤＩは、パチンコ機１０から受信した加工代表値データと、当該データ表示器ＤＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。このため、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが受信する加工代表値データが示す加工代表値に基づいてベース値がベース異常範囲（０～０．２９）に入っており、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等が原因となって入賞異常が発生している状態であるか否かを把握可能とすることができる。また、ホールコンピュータＨＣにおいて複数のパチンコ機１０における加工代表値を一括して把握可能とすることができる。これにより、パチンコ機１０のベース値を管理するために必要となる遊技ホールの管理者の監視負担を軽減することができる。

【３８９６】

ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが受信する加工代表値データが示す加工代表値が「０」～「２」である場合に、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等が原因となって入賞異常が発生している状態であることを把握可能とすることができる。これにより、不正検知処理（第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップ８９０５）では検知されない入賞異常の発生を把握することが可能となっている。ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩにおいてベース値がベース異常範囲に入っている状態となったことを把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者に対して、パチンコ機１０における遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスの契機を与えることができる。

【３８９７】

ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが受信する加工代表値データが示す加工代表値に基づいて、ベース値の異常の程度を把握することができる。具体的には、加工代表値が「２」である場合にはベース値がベース異常範囲（０～０．２９）の上限（０．２９）に近い状態であることを把握することができるとともに、加工代表値が「１」又は「０」である場合にはベース値の異常が深刻であり、迅速な対応が必要であることを把握することができる。

【３８９８】

２ビットの加工代表値データをデータ表示器ＤＩに外部出力する構成であることにより、ベース値の下２桁を示す数値情報又はベース値の全体を把握可能とする数値情報をデータ表示器ＤＩに外部出力する構成と比較して、ベース異常範囲（０～０．２９）に対するベース値の状態を把握可能とするデータのデータ量が低減されている。これにより、当該データをパラレル通信でＭＰＵ６２から外部端子板９７に出力するために必要となる信号線の数を低減することが可能となっているとともに、特定制御用のワークエリア２２１において当該データを記憶するための記憶容量を低減することが可能となっている。また、当該データを受信して記憶するための記憶容量が小さく設定されているデータ表示器ＤＩ及びホールコンピュータＨＣに対しても加工代表値データを外部出力することが可能となっているとともに、１桁の数字のみを表示可能なデータ表示器ＤＩに対しても本パチンコ機１０を接続して加工代表値データを外部出力することが可能となっている。

【３８９９】

ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していない場合には、加工代表値データの外部出力は行われない。ベース値を算出するための遊技履歴の情報が十分でない状態では加工代表値データの外部出力が実行されない構成であることにより、ホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩが不安定なベース値に基づく加工代表値データを受信してしまうことが防止されている。これにより、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスが頻繁に行われてしまうことが防止されている。

【３９００】

なお、ベース値が「０」～「０．２９」の数値範囲に入っている場合に加工代表値として当該ベース値の小数点第１位の数字が設定され、ベース値が「０．３０」～「１．００」の数値範囲に入っている場合に加工代表値として「３」が設定される加工代表値の設定態様に代えて、ベース値が「０」～「０．２９」の数値範囲に入っている場合に加工代表値として「１」が設定され、ベース値が「０．４１」～「１．００」の数値範囲に入っている場合に加工代表値として「２」が設定され、ベース値が「０．３０」～「０．４０」の数値範囲に入っている場合に加工代表値として「３」が設定される設定態様としてもよい。これにより、設計段階におけるベース値の正常範囲が「０．３０」～「０．４０」に設定されている場合、加工代表値を２ビットの数値情報としながらベース値が当該正常範囲（０．３０～０．４０）よりも小さい異常状態と、ベース値が当該正常範囲よりも大きい異常状態とを識別可能な態様で加工代表値データの外部出力を行うことを可能とすることができる。

【３９０１】

また、ベース値がベース異常範囲（０～０．２９）に入っている場合に「１」の数値情報をデータ表示器ＤＩに外部出力し、ベース値がベース異常範囲（０～０．２９）に入っていない場合に「０」の数値情報をデータ表示器ＤＩに外部出力する構成としてもよい。これにより、データ表示器ＤＩに外部出力する数値情報のデータ量を１ビットに抑えながら、ホールコンピュータＨＤ及びデータ表示器ＤＩにおいて遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスが必要であるか否かを把握可能とすることができる。

【３９０２】

また、加工代表値データの外部出力が行われる時間間隔を所定の時間間隔（例えば１０分間隔）としてもよい。具体的には、外部情報設定処理（図２９９）のステップＳＪ５０１にて演算初期フラグに「１」がセットされていないと判定した場合、前回の加工代表値データの外部出力処理（ステップＳＪ５０７）を実行してから所定の時間（例えば１０分間）が経過したことを条件として加工代表値データの外部出力処理（ステップＳＪ５０７）を実行する。これにより、ベース値がベース異常範囲（０～０．２９）に入っている異常状態が発生してから所定の時間（例えば１０分間）以内にデータ表示器ＤＩにおける加工代表値の表示に基づいて当該異常状態を把握可能としながら、加工代表値データの外部出力処理（ステップＳＪ５０７）の実行頻度を低減することができる。

【３９０３】

また、加工代表値データのデータ表示器ＤＩへの外部出力がパラレル通信で行われる構成に代えて、加工代表値データのデータ表示器ＤＩへの外部出力がシリアル通信で行われる構成としてもよい。加工代表値データの外部出力をシリアル通信で行う構成とすることにより、代表値データをＭＰＵ６２から外部端子板９７に出力するための信号線の数を減らすことができる。上記第８３の実施形態において既に説明したとおり、２ビット単位の加工代表値データを外部出力する構成であることにより、ベース値の下２桁を示す数値情報、又はベース値の全体を示す数値情報を外部出力するための構成と比較して、ベース正常範囲（０．３０～０．４０）に対するベース値の状態を把握可能とするためのデータのデータ容量が低減されている。これにより、当該データをシリアル通信で外部出力するために要する時間が短縮されている。

【３９０４】

また、ベース異常範囲が「０」～「０．２９」の数値範囲に設定されている構成に代えて、ベース値異常範囲が「０．４１」～「１．００」の数値範囲に設定されている構成としてもよい。本構成では、外部情報設定処理（図２９９）において現状エリア３１１におけるベース値が「０」～「０．４０」の数値範囲に収まっている場合には「０」の数値情報を外部出力するとともに、現状エリア３１１におけるベース値が「０．４０」を超えている場合には当該ベース値に対応する数値情報を外部出力する。具体的には、現状エリア３１１におけるベース値が「０．４１」～「０．６０」の数値範囲に入っている場合には「１」の数値情報を外部出力し、現状エリア３１１におけるベース値が「０．６１」～「０．８０」の数値範囲に入っている場合には「２」の数値情報を外部出力し、現状エリア３１１におけるベース値が「０．８１」～「１．００」の数値範囲に入っている場合には「３」の数値情報を外部出力する。これにより、パチンコ機１０からデータ表示器ＤＩに外部出力する数値情報のデータ量を２ビットに抑えながら、現状エリア３１１におけるベース値が「０．４０」を超える異常状態の有無、及び当該ベース値が「０．４０」を超えている場合における異常の程度をホールコンピュータＨＣ及びデータ表示器ＤＩにおいて把握可能とすることができる。

【３９０５】

＜第８４の実施形態＞

本実施形態ではベース値の異常を示すベース値異常信号の外部出力が行われる点で上記第８２の実施形態と相違している。以下、上記第８２の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第８２の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３９０６】

ベース値は、上記第３５の実施形態と同様にベース値の演算処理（結果演算処理（図１３０）のステップＳ８６０１）にて小数点第２位までの小数として算出される。本実施形態では、設計段階で想定されたベース値の正常範囲であるベース正常範囲として「０．３５」～「０．４０」の数値範囲が設定されている。ベース正常範囲の下側閾値として「０．３５」が設定されているとともに、ベース正常範囲の上側閾値として「０．４０」が設定されている。ベース値が下側閾値（０．３５）を下回った場合、及びベース値が上側閾値（０．４０）を上回った場合に、ベース値の異常を示すベース値異常信号の外部装置（

後述する異常報知器ＥＩ）への外部出力が行われる。
【３９０７】
図３００（ａ）は本実施形態におけるベース値異常信号を外部出力するための構成を説明するためのブロック図である。図３００（ａ）に示すように、ＭＰＵ６２には主側ＣＰＵ６３からベース値異常信号を出力するための主側出力端子ＴＡ３が設けられているとともに、外部端子板９７には当該主側出力端子ＴＡ３から出力されるベース値異常信号を受信するための外部側受信端子ＴＢ３が設けられている。主側出力端子ＴＡ３と外部側受信端子ＴＢ３とはデータ信号線ＬＮ５と、クロック信号線ＬＮ６とを利用して電気的に接続されている。これら信号線ＬＮ５～ＬＮ６はいずれも主側ＣＰＵ６３から外部端子板９７に一方向通信で信号を送信するための信号線である。
【３９０８】
データ信号線ＬＮ５を利用して主側ＣＰＵ６３から外部端子板９７にベース値異常信号がシリアル通信で送信される。この場合、シリアル通信によるベース値異常信号の各１ビットの区切りが、クロック信号線ＬＮ６を利用して主側ＣＰＵ６３から外部端子板９７に送信されるクロック信号により示される。
【３９０９】
外部端子板９７には外部側受信端子ＴＢ３にて受信したベース値異常信号を外部出力するための外部側出力端子ＴＣ３が設けられている。外部側出力端子ＴＣ３は、パチンコ機１０の外部に設けられている異常報知器ＥＩ等の外部装置に接続可能となっている。異常報知器ＥＩはパチンコ機１０に１対１で対応させて設けられている。異常報知器ＥＩは発光部を備えており、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０からベース値異常信号を受信した場合、ベース値の異常を報知するための発光態様で当該発光部を発光させてベース値の異常報知を行う。遊技ホールの管理者は、異常報知器ＥＩにおける異常報知に基づいてパチンコ機１０においてベース値の異常が発生したことを把握することができる。
【３９１０】
ホールコンピュータＨＣは、遊技ホールに設置されている多数のパチンコ機に１対１で対応させて設けられている異常報知器ＥＩと電気的に接続されている。異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信したベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。ホールコンピュータＨＣは、異常報知器ＥＩから受信する識別子データに基づいてパチンコ機１０を識別するとともに、当該識別子データと同時に受信するベース値異常信号に基づいて当該パチンコ機１０におけるベース値の異常を把握する。遊技ホールの管理者は、ホールコンピュータＨＣがベース値異常信号を受信した場合に、パチンコ機１０においてベース値の異常が発生したことを把握することができる。
【３９１１】
ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩがベース値異常信号を受信したことに基づいてベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている異常状態であることを把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者に対して、パチンコ機１０における遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスの契機、及び遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無を確認する契機を与えることができる。
【３９１２】
ベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力する構成であることにより、ベース値を示す数値情報を異常報知器ＥＩに外部出力する構成と比較して、ベース値の異常を把握可能とするために外部出力するデータのデータ量が低減されている。これにより、ベース値の異常を把握可能とするためのデータをシリアル通信で外部出力するために要する時間が短縮されているとともに、当該データを受信して記憶する記憶領域の記憶容量が小さく設定されている異常報知器ＥＩに対しても本パチンコ機１０を接続してベース値の異常を報知することが可能となっている。
【３９１３】

図３００（ｂ）は特定制御用のワークエリア２２１に設けられたベース値異常信号の外部出力用の記憶エリアを説明するための説明図である。図３００（ｂ）に示すように、特定制御用のワークエリア２２１にはベース値異常フラグ５６５が設けられている。ベース値異常フラグ５６５は、ベース値の異常が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。

【３９１４】

主側ＣＰＵ６３では、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始時に演算結果記憶エリア２３４における第１履歴エリア３１２～第３履歴エリア３１４（図１２６）に格納されているベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）に収まっているか否かの判定が行われる。また、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始後、演算結果記憶エリア２３４の現状エリア３１１（図１２６）におけるベース値がベース正常範囲に収まっているか否かの判定が行われる。これらの判定では、ベース値が上側閾値（０．４０）を上回っている場合、又はベース値が下側閾値（０．３５）を下回っている場合にベース値が異常であると判定されて、特定制御用のワークエリア２２１におけるベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされる。

【３９１５】

主側ＲＯＭ６４には、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）に収まっているか否かを判定する際に参照される閾値テーブルが予め記憶されている。図３００（ｃ）は閾値テーブル５６６を説明するための説明図である。図３００（ｃ）に示すように閾値テーブル５６６には、ベース値正常範囲の上側閾値として「０．４０」が設定されているとともに、ベース値正常範囲の下側閾値として「０．３５」が設定されている。主側ＲＯＭ６４に閾値テーブル５６６が予め記憶されていることにより、主側ＣＰＵ６３にてベース値の異常の有無及び異常の種類を判定して、ベース値の異常の種類に対応するベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力することが可能となっている。

【３９１６】

本実施形態では、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されてから所定の時間（具体的には１時間）おきに、ベース値異常信号の出力契機が発生する。主側ＣＰＵ６３は、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされている状態において、当該ベース値異常信号の出力契機が発生したことに基づいてベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力する。これにより、ベース値の異常が発生してから所定の時間（具体的には１時間）以内に、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいて、当該ベース値の異常の発生を把握可能とすることができる。

【３９１７】

次に、ベース値異常信号を外部出力するための具体的な処理構成について説明する。図３０１は主側ＣＰＵ６３にて実行される外部情報設定処理を示すフローチャートである。なお、外部情報設定処理は上記第３５の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９１８にて実行される。また、外部情報設定処理におけるステップＳＪ６０１～ステップＳＪ６１３の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３９１８】

外部情報設定処理では、まず特定制御用のワークエリア２２１におけるベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＪ６０１）。ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされていない場合（ステップＳＪ６０１：ＮＯ）には、非特定制御用のワークエリア２２３における演算初期フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＪ６０２）。演算初期フラグは、上記第３５の実施形態と同様に、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達しているか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【３９１９】
ステップＳＪ６０２にて演算初期フラグに「１」がセットされていないと判定した場合には、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していることを意味する。この場合には、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１（図１２６）を参照して現状のベース値を把握する（ステップＳＪ６０３）。
【３９２０】
その後、主側ＲＯＭ６４から閾値テーブル５６６（図３００（ｃ））を読み出す（ステップＳＪ６０４）。そして、ステップＳＪ６０３にて把握したベース値が、ステップＳＪ６０４にて読み出した閾値テーブル５６６に設定されている上側閾値（０．４０）を上回っているか否かを判定する（ステップＳＪ６０５）。ステップＳＪ６０５にて否定判定を行った場合には、ステップＳＪ６０３にて把握したベース値が、ステップＳＪ６０４にて読み出した閾値テーブル５６６に設定されている下側閾値（０．３５）を下回っているか否かを判定する（ステップＳＪ６０６）。
【３９２１】
ステップＳＪ６０５にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＪ６０６にて肯定判定を行った場合、すなわち、現状エリア３１１（図１２６）におけるベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている場合には、特定制御用のワークエリア２２１におけるベース値異常フラグ５６５に「１」をセットする（ステップＳＪ６０７）。これにより、ベース値異常信号の出力契機が発生した場合にベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される状態となる。
【３９２２】
ステップＳＪ６０１にて肯定判定を行った場合、ステップＳＪ６０６にて否定判定を行った場合、又はステップＳＪ６０７の処理を行った場合には、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたベース値用タイマカウンタの値が「０」となったか否かを判定する（ステップＳＪ６０８）。ベース値用タイマカウンタは、ベース値異常信号の出力契機を主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするタイマカウンタである。ベース値用タイマカウンタには、後述するステップＳＪ６０９及び後述するベース値初期出力用処理（図３０３）のステップＳＪ８１２にて１時間に対応する数値情報が設定される。ベース値用タイマカウンタの更新は、タイマ更新処理（第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９１０）にて行われる。ベース値用タイマカウンタの値は、タイマ更新処理が実行される度に１減算される。ベース値用タイマカウンタの値が１減算されて、当該ベース値用タイマカウンタの値が「０」となることにより、ベース値異常信号の出力契機が発生する。既に説明したとおり、主側ＣＰＵ６３は、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされている状態において、ベース値異常信号の出力契機が発生したことに基づいてベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力する。
【３９２３】
ステップＳＪ６０８にてベース値用タイマカウンタの値が「０」であると判定した場合には、ベース値用タイマカウンタに対して１時間に対応する数値情報をセットする（ステップＳＪ６０９）。このように、ベース値用タイマカウンタの値が「０」となりベース値異常信号の出力契機が発生した場合、ベース値用タイマカウンタに対して１時間に対応する数値情報がセットされる。これにより、ベース値異常信号の出力契機を所定の時間間隔（具体的には１時間間隔）で発生させることができる。
【３９２４】
その後、特定制御用のワークエリア２２１におけるベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされている場合（ステップＳＪ６１０：ＹＥＳ）には、ベース値異常信号の外部出力処理を実行する（ステップＳＪ６１１）。ベース値異常信号の外部出力処理では、ＭＰＵ６２における主側出力端子ＴＡ３からクロック信号線ＬＮ６に対してパルス状のクロ

ック信号が出力されている状況において当該主側出力端子ＴＡ３からデータ信号線ＬＮ５に出力されている信号をＬＯＷからＨＩに立ち上げた後、当該信号をＨＩからＬＯＷに立ち下げる。これにより、ベース値異常信号が外部端子板９７を介して異常報知器ＥＩに外部出力される。

【３９２５】

このように、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされている状態において、ベース値異常信号の出力契機が発生したことに基づいてベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。既に説明したとおり、異常報知器ＥＩでは、パチンコ機１０からベース値異常信号を受信したことに基づいて、ベース値の異常報知が行われる。また、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信したベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。遊技ホールの管理者は、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいてパチンコ機１０におけるベース値の異常を把握することができる。

【３９２６】

ステップＳＪ６０２にて肯定判定を行った場合、ステップＳＪ６０８にて否定判定を行った場合、ステップＳＪ６１０にて否定判定を行った場合、又はステップＳＪ６１２の処理を行った場合には、その他の外部出力処理を実行して（ステップＳＪ６１３）、本外部情報設定処理を終了する。ステップＳＪ６１３におけるその他の外部出力処理では、上記第８２の実施形態の外部情報設定処理（図２９６）におけるその他の外部出力処理（ステップＳＪ４０６）と同様に、開閉実行モード中であることを示す情報、サポートモードが高頻度サポートモード中であることを示す情報、一の遊技回が終了したことを示す情報、所定個数（例えば１００個）の遊技球がアウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれかを通じて遊技領域ＰＡから排出されたことを示す情報、第１作動口３３に遊技球が入球したことを示す情報、及び第２作動口３４に遊技球が入球したことを示す情報をホールコンピュータＨＣに外部出力するための処理を実行する。

【３９２７】

上記のとおり、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達している状態において、現状エリア３１１におけるベース値が上側閾値（０．４０）を上回った場合、又は現状エリア３１１におけるベース値が下側閾値（０．３５）を下回った場合にベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされる。

【３９２８】

閾値テーブル５６６が主側ＲＯＭ６４に予め記憶されていることにより、主側ＣＰＵ６３においてベース値の異常の有無を判定するとともに、ベース値が異常であると判定して場合にはベース値異常信号を外部出力することが可能となっている。ベース値の正常範囲であるベース正常範囲はパチンコ機の機種毎に異なる場合が考えられる。パチンコ機１０が汎用の異常報知器ＥＩに接続される場合、当該異常報知器ＥＩに対してパチンコ機１０のベース値そのものを外部出力する構成とすると、異常報知器ＥＩにおいてパチンコ機１０から受信したベース値が当該パチンコ機１０のベース正常範囲に収まっているか否かを直ちには判別できない。また、ベース正常範囲の異なる複数の機種に対応する異常報知器ＥＩと接続されるホールコンピュータＨＣにおいても、異常報知器ＥＩを介して受信したベース値が当該パチンコ機１０のベース正常範囲に収まっているか否かを直ちには判別できない。これに対して、本実施形態では主側ＣＰＵ６３にてベース値が異常であると判定された場合にベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力する構成である。これにより、当該ベース値異常信号を受信する異常報知器ＥＩ及びホールコンピュータＨＣにおいて、パチンコ機１０のベース値が異常であるか否かの判別を容易なものとすることができる。

【３９２９】
ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していない場合には、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）に収まっているか否かの判定が行われない。算出期間が開始された直後においてはベース値を算出するための遊技履歴の情報が少ないため、ベース値の実測値がベース値の理論値範囲から大きく外れた値となり得る。ベース値を算出するための遊技履歴の情報が十分でない状態ではベース値異常信号の外部出力が実行されない構成であることにより、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩが不安定なベース値に基づくベース値異常信号を受信してしまうことが防止されている。これにより、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンス、及び遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無の確認が頻繁に行われてしまうことが防止されており、ベース値異常信号の信頼性が高められている。
【３９３０】
ベース値異常信号の出力契機を所定の時間間隔（具体的には１時間間隔）で発生させるとともに、ベース値異常信号の出力契機の発生を１つの条件としてベース値異常信号が外部出力される構成であることにより、ベース値異常信号の外部出力処理（ステップＳＪ６１１）の実行回数が低減されている。現状エリア３１１におけるベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている状態となった場合、所定の時間おきに（具体的には１時間おきに）ベース値異常信号を外部出力することができる。これにより、ベース値異常信号の外部出力が短期間に連続して実行されてしまうことを防止しながら、複数回に亘ってベース値異常信号を外部出力することが可能となっている。
【３９３１】
次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される本実施形態におけるメイン処理について、図３０２のフローチャートを参照しながら説明する。なお、メイン処理におけるステップＳＪ７０１～ステップＳＪ７２６の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【３９３２】
ステップＳＪ７０１～ステップＳＪ７０２では、上記３５の実施形態のメイン処理（図１３２）におけるステップＳ８８０１～ステップＳ８８０２と同一の処理を実行する。その後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた立ち上げ処理中フラグに「１」をセットする（ステップＳＪ７０３）。立ち上げ処理中フラグは、上記第３５の実施形態と同様に、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても当該第１タイマ割込み処理に設定されている各種処理のうち停電監視、各種カウンタの更新及び不正監視を行うための処理は実行する一方、遊技を進行させるための処理を実行することなく当該第１タイマ割込み処理を終了すべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理が実行されない状態となる。このため、上述した外部情報設定処理（図３０１）も実行されない状態となる。
【３９３３】
その後、ステップＳＪ７０４～ステップＳＪ７１５では、上記第３５の実施形態のメイン処理（図１３２）におけるステップＳ８８０４～ステップＳ８８１５と同一の処理を実行する。上記第３５の実施形態と同様に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始時にリセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合（ステップＳＪ７０６：ＹＥＳ）、ＲＡＭクリア処理が実行される（ステップＳＪ７１６）。ＲＡＭクリア処理の内容は上記第３３の実施形態におけるメイン処理（図１１４）のステップＳ７９１５と同一である。ＲＡＭクリア処理では、特定制御用のワークエリア２２１においてパチンコ機１０の設定状態を示す設定値の情報が設定されたエリア（具体的には設定値カウンタ）を除いて、当該特定

制御用のワークエリア２２１が「０」クリアされるとともに初期設定が実行される。このため、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＪ７１６）が実行された場合には特定制御用のワークエリア２２１におけるベース値異常フラグ５６５も「０」クリアされる。

【３９３４】

一方、ＲＡＭクリア処理（ステップＳＪ７１６）では非特定制御用のワークエリア２２３は「０」クリアされない。このため、ＲＡＭクリア処理が実行されたとしても、非特定制御用のワークエリア２２３における演算結果記憶エリア２３４の現状エリア３１１に格納されている直近のベース値、第１履歴エリア３１２に格納されている１回前の算出期間における最終的なベース値、第２履歴エリア３１３に格納されている２回前の算出期間における最終的なベース値、及び第３履歴エリア３１４に格納されている３回前の算出期間における最終的なベース値は「０」クリアされない。

【３９３５】

ステップＳＪ７１７～ステップＳＪ７１９では、上記第３５の実施形態のメイン処理（図１３２）におけるステップＳ８８１７～ステップＳ８８１９と同一の処理を実行する。ステップＳＪ７１２の処理を行った場合、ステップＳＪ７１３にて否定判定を行った場合、ステップＳＪ７１４にて否定判定を行った場合、ステップＳＪ７１５の処理を行った場合、ステップＳＪ７１７にて否定判定を行った場合、ステップＳＪ７１８にて否定判定を行った場合、又はステップＳＪ７１９の処理を行った場合には、ベース値初期出力用処理を実行する（ステップＳＪ７２０）。ベース値初期出力用処理では、演算結果記憶エリア２３４における第１履歴エリア３１２～第３履歴エリア３１４（図１２６）に格納されている過去のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）に収まっていない場合にベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力する。なお、ベース値初期出力用処理の詳細については後述する。

【３９３６】

ステップＳＪ７２０にてベース値初期出力用処理を実行した後、特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ処理中フラグを「０」クリアする（ステップＳＪ７２１）。立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされることにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動されたとしても遊技を進行させるための処理が実行されない状態が解除される。これにより、第１タイマ割込み処理（図１３３）が起動された場合に上述した外部状態設定処理（図３０１）が実行される状態となる。

【３９３７】

その後、ステップＳＪ７２２～ステップＳＪ７２６では、上記第３５の実施形態におけるメイン処理（図１３２）のステップＳ８８２１～ステップＳ８８２５と同一の処理を実行する。

【３９３８】

本実施形態では、ステップＳＪ７０５にて第１タイマ割込み処理（図１３３）の割込みが許可されるよりも先に、ステップＳＪ７０３にて特定制御用のワークエリア２２１における立ち上げ中フラグに「１」がセットされて、外部情報設定処理（図３０１）が実行されない状態となる。そして、ステップＳＪ７２１にて立ち上げ処理中フラグが「０」クリアされるよりも先に、ステップＳＪ７２０にてベース値初期出力用処理が実行される。このため、ベース値初期出力用処理よりも先に外部情報設定処理（図３０１）が実行されることはない。これにより、ベース値初期出力用処理が実行される前に外部情報設定処理（図３０１）のステップＳＪ６０５～ステップＳＪ６０７の処理が実行されてベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされてしまうことが防止されているとともに、ベース値初期出力用処理が実行されるよりも前にベース値異常信号の外部出力処理（ステップＳＪ６１１）が実行されてベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力されてしまうことが防止されている。

【３９３９】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行されるベース値初期出力用処理について、図３０３のフローチャートを参照しながら説明する。なお、ベース値初期出力用処理はメイン処理（図

３０２）のステップＳＪ７２０にて実行される。また、ベース値初期出力用処理におけるステップＳＪ８０１～ステップＳＪ８１２の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３９４０】

ベース値初期出力用処理では、まず特定制御用のワークエリア２２１におけるベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＪ８０１）。上記第１５の実施形態と同様に、特定制御用のワークエリア２２１が設けられている主側ＲＡＭ６５にはパチンコ機１０の電源遮断後においてもバックアップ電力が供給される。このため、特定制御用のワークエリア２２１におけるベース値異常フラグ５６５にセットされた「１」の数値情報は、パチンコ機１０の電源遮断後においてもバックアップ電力が供給されている間は記憶保持される。パチンコ機１０への動作電力の供給再開に際してリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われなかった場合には、ＲＡＭクリア処理（メイン処理（図３０２）のステップＳＪ７１６）が実行されないため、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされた状態のままベース値初期出力用処理（図３０３）が実行されることとなり、ステップＳＪ８０１において肯定判定が行われる。一方、パチンコ機１０への動作電力の供給再開に際してリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われた場合には、メイン処理（図３０２）のステップＳＪ７１６にてＲＡＭクリア処理が実行され、ベース値異常フラグ５６５が「０」クリアされる。この場合には、ステップＳＪ８０１にて否定判定が行われる。

【３９４１】

ステップＳＪ８０１にてベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされていないと判定した場合には、主側ＲＯＭ６４から閾値テーブル５６６を読み出し（ステップＳＪ８０２）、非特定制御用のワークエリア２２３における演算初期フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＪ８０３）。既に説明したとおり、演算初期フラグは、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達しているか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【３９４２】

演算初期フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＪ８０３：ＮＯ）には、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１（図１２６）を参照対象エリアに設定する（ステップＳＪ８０４）。一方、演算初期フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＪ８０３：ＹＥＳ）には、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値を算出するためのサンプル数が十分でない状態であることを意味するため、演算結果記憶エリア２３４における第１履歴エリア３１２（図１２６）を参照対象エリアに設定する（ステップＳＪ８０５）。

【３９４３】

その後、現状の参照対象エリアにおけるベース値が、ステップＳＪ８０２にて読み出した閾値テーブル５６６に設定されている上側閾値（０．４０）を上回っているか否かを判定する（ステップＳＪ８０６）。ステップＳＪ８０６にて否定判定を行った場合には、現状の参照対象エリアにおけるベース値が、ステップＳＪ８０２にて読み出した閾値テーブル５６６に設定されている下側閾値（０．３５）を下回っているか否かを判定する（ステップＳＪ８０７）。

【３９４４】

ステップＳＪ８０７にて否定判定を行った場合には、現状の参照対象エリアにおけるベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）に収まっていることを意味するため、現状の参照対象エリアが第３履歴エリア３１４（図１２６）であるか否かを判定する（ステップＳＪ８０８）。現状の参照対象エリアが第３履歴エリア３１４でない場合（ステップＳＪ８０８：ＮＯ）には、演算結果記憶エリア２３４（図１２６）における参照対象エリアを更新し（ステップＳＪ８０９）、ステップＳＪ８０６に戻る。ステップＳＪ８０９で

は、演算結果記憶エリア２３４における参照対象エリアを現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４の順番で更新する。

【３９４５】

ステップＳＪ８０６～ステップＳＪ８０８のいずれかで肯定判定が行われるまでステップＳＪ８０６～ステップＳＪ８０９の処理が繰り返し実行され、ステップＳＪ８０６又はステップＳＪ８０７にて肯定判定が行われた場合にはステップＳＪ８１０におけるベース値異常信号の外部出力処理が実行される。このため、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値、第１履歴エリア３１２に格納されている１回前の算出期間における最終的なベース値、第２履歴エリア３１３に格納されている２回前の算出期間における最終的なベース値、及び第３履歴エリア３１４に格納されている３回前の算出期間における最終的なベース値の少なくとも１つがベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている場合（ステップＳＪ８０６：ＹＥＳ又はステップＳＪ８０７：ＹＥＳ）にステップＳＪ８１０におけるベース値異常信号の外部出力処理が実行される。

【３９４６】

ステップＳＪ８０１にて肯定判定を行った場合、ステップＳＪ８０６にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＪ８０７にて肯定判定を行った場合には、ベース値異常信号の外部出力処理を実行する（ステップＳＪ８１０）。ステップＳＪ８１０では、既に説明した外部情報設定処理（図３０１）におけるベース値異常信号の外部出力処理（ステップＳＪ６１１）と同一の処理を実行する。具体的には、ＭＰＵ６２における主側出力端子ＴＡ３からクロック信号線ＬＮ６に対してパルス状のクロック信号が出力されている状況において当該主側出力端子ＴＡ３からデータ信号線ＬＮ５に出力されている信号をＬＯＷからＨＩに立ち上げた後、当該信号をＨＩからＬＯＷに立ち下げる。これにより、ベース値異常信号が外部端子板９７を介して異常報知器ＥＩに外部出力される。

【３９４７】

既に説明したとおり、異常報知器ＥＩでは、パチンコ機１０からベース値異常信号を受信したことに基づいて、ベース値の異常報知が行われる。また、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信したベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。このため、遊技ホールの管理者は、パチンコ機１０への動作電力の供給開始直後に、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいてパチンコ機１０における直近のベース値及び過去の３つのベース値のうちいずれかのベース値が異常であることを把握することができる。例えば、動作電力の供給開始直後に異常報知器ＥＩにおいて、これまでベース値の異常が把握されていなかったパチンコ機１０について、ベース値の異常報知が行われた場合、当該パチンコ機１０におけるベース値の異常が見落とされていたことを把握することができる。

【３９４８】

ステップＳＪ８１０にてベース値異常信号の外部出力処理を実行した後、ベース値異常フラグ５６５を「０」クリアする（ステップＳＪ８１１）。ベース値初期出力用処理（図３０３）が終了した後は、外部情報設定処理（図３０１）において、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている状態となったことに基づいてベース値異常フラグ５６５に「１」をセットする処理（ステップＳＪ６０７の処理）が実行される一方、第１～第３履歴エリア３１２～３１４に格納されている過去のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れていることに基づいてベース値異常フラグ５６５に「１」をセットする処理は実行されない。ステップＳＪ８１１にてベース値異常フラグ５６５を「０」クリアすることにより、過去のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れていることに基づくベース値異常信号の外部出力が実行されなくなる。遊技ホールの管理者は、パチンコ機１０への動作電力の供給を開始した直後以外のタイミングで、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩがベース値異常信号を受信した場合、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている状態であることを把握することができる。

【３９４９】
ステップＳＪ８０８にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＪ８１１の処理を行った場合には、特定制御用のワークエリア２２１におけるベース値用タイマカウンタに１時間に対応する数値情報をセットして（ステップＳＪ８１２）、本ベース値初期出力用処理を終了する。ベース値用タイマカウンタに１時間に対応する数値情報がセットされることにより、主側ＣＰＵ６３に対して動作電力の供給が開始されてから略１時間後にベース値異常信号の出力契機を発生させることができる。
【３９５０】
上記のとおり、主側ＣＰＵ６３に対して動作電力の供給が開始された直後に実行されるベース値初期出力用処理（図３０３）では、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達している状態において現状エリア３１１に格納されている直近のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている場合、及び第１～第３履歴エリア３１２～３１４に格納されている過去の３つのベース値のいずれかがベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている場合に、ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。
【３９５１】
遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態を遊技者にとって不利な状態に変更する行為が行われて１つの算出期間における最終的なベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回った状態となった場合、その後に当該釘２４ｂの状態を正常な状態に戻す行為が行われたとしても、当該算出期間におけるベース値は第１～第３履歴エリア３１２～３１４に残る。また、ベース値を不正に高める行為が行われて１つの算出期間における最終的なベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回った状態となった場合、その後に当該不正な行為の痕跡を消そうとしても、当該算出期間におけるベース値は第１～第３履歴エリア３１２～３１４に残る。これらの不正な行為が行われた算出期間における最終的なベース値が第１～第３履歴エリア３１２～３１４のいずれかに残っている間、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始される度にパチンコ機１０に対応する異常報知器ＥＩにおいてベース値の異常報知を行うことができるとともに、ホールコンピュータＨＣにおいてパチンコ機１０のベース値の異常を把握可能とすることができる。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給停止前にベース値の異常が発生していたことが見逃されてしまう可能性を低減することができる。
【３９５２】
遊技ホールの管理者の一部が釘２４ｂの状態を遊技者にとって不利な状態に変更する不正な行為、又はベース値を不正に高める行為に関与しており、当該管理者がパチンコ機１０におけるベース値の異常の有無を監視する役割を担当している場合、現状エリア３１１における直近のベース値に基づくベース値異常信号の外部出力だけを行う構成では、パチンコ機１０におけるベース値の異常を他の管理者が把握できない可能性がある。これに対して、第１～第３履歴エリア３１２～３１４における過去のベース値に基づくベース値異常信号の外部出力も行う構成とすることにより、パチンコ機１０におけるベース値の異常を遊技ホールの複数の管理者が把握する可能性を高めることができる。
【３９５３】
次に、図３０４のタイムチャートを参照しながら現状エリア３１１におけるベース値の異常に基づいてベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される様子について説明する。図３０４（ａ）はベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力されるタイミングを示し、図３０４（ｂ）はベース値異常フラグ５６５の状態を示し、図３０４（ｃ）はベース値異常信号の出力契機が発生するタイミングを示し、図３０４（ｄ）はベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技

領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達している期間を示し、図３０４（ｅ）はベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達するタイミングを示し、図３０４（ｆ）は主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されるタイミングを示し、図３０４（ｇ）は主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されるタイミングを示す。

【３９５４】

ｔ１のタイミングで図３０４（ｄ）に示すようにベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達する。その後、ｔ２のタイミングで現状エリア３１１（図１２６）におけるベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れると、図３０４（ｂ）に示すようにベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされる。

【３９５５】

その後、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされている状況において図３０４（ｃ）に示すようにｔ３のタイミングでベース値異常信号の出力契機が発生すると、図３０４（ａ）に示すようにベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。これにより、本パチンコ機１０においてベース値の異常が発生したことをホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいて把握可能となる。また、図３０４（ｂ）に示すように、当該ｔ３のタイミングでベース値異常フラグ５６５が「０」クリアされる。

【３９５６】

次に、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされている状態で、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達する場合について説明する。

【３９５７】

ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされているｔ４のタイミングで図３０４（ｅ）に示すようにベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達すると、データシフト処理（結果演算処理（図１３０）のステップＳ８６０７）が実行される。データシフト処理では、上記第３５の実施形態と同様に、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に記憶された情報が、第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４、第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２の順序でシフトした後に、現状エリア３１１が「０」クリアされる。これにより、図３０４（ｄ）に示すように、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していない状態となる。図３０４（ｂ）に示すように当該ｔ４のタイミングにおいてベース値異常フラグ５６５には「１」がセットされたままである。

【３９５８】

その後、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされているｔ５のタイミングで図３０４（ｃ）に示すようにベース値異常信号の出力契機が発生すると、図３０４（ａ）に示すようにベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。これにより、本パチンコ機１０のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れていることをホー

ルコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいて把握可能となる。また、図３０４（ｂ）に示すように、当該ｔ５のタイミングでベース値異常フラグ５６５が「０」クリアされる。

【３９５９】

このように、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされた後、ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される前にデータシフト処理が実行されて現状エリア３１１が「０」クリアされた場合には、その後にベース値異常信号の出力契機が発生したタイミングで、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされていることに基づいてベース値異常信号の異常報知器ＥＩへの外部出力が行われる。これにより、データシフト処理の実行前にベース値の異常が発生していたことをホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいて把握可能とすることができる。

【３９６０】

次に、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされている状態で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止され、その後にリセットボタン６８ｃが押圧操作されることなく主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始される場合について説明する。

【３９６１】

ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされているｔ６のタイミングで図３０４（ｇ）に示すように主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される。その後、ｔ７のタイミングで図３０４（ｆ）に示すようにリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われることなく主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始される。この場合にはＲＡＭクリア処理（メイン処理（図３０２）のステップＳＪ７１６）が実行されないため、図３０４（ｂ）に示すようにベース値異常フラグ５６５は「０」クリアされない。

【３９６２】

その後、ｔ８のタイミングでベース値初期出力用処理（メイン処理（図３０２）のステップＳＪ７２０）が実行されると、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされていることに基づいて、ベース値異常信号の外部出力処理（ステップＳＪ８１０）が実行される。これにより、図３０４（ａ）に示すようにベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。また、当該ｔ８のタイミングで図３０４（ｂ）に示すようにベース値異常フラグ５６５が「０」クリアされる。

【３９６３】

このように、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされた状態で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止し、その後にリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われることなく主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合には、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされていることに基づいて動作電力の供給開始時にベース値異常信号の異常報知器ＥＩへの外部出力が行われる。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給停止時にベース値の異常が発生していたことをホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいて把握可能とすることができる。

【３９６４】

次に、図３０５のタイムチャートを参照しながら第１履歴エリア３１２～第３履歴エリア３１４におけるベース値の異常に基づいてベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される様子について説明する。図３０５（ａ）はベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力されるタイミングを示し、図３０５（ｂ）はベース値異常フラグ５６５の状態を示し、図３０５（ｃ）はベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達している期間を示し、図３０５（ｄ）はベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６０００個）に達するタイミングを示し、図３０５（ｅ）は主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給

が開始されるタイミングを示し、図３０５（ｆ）は主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されるタイミングを示す。

【３９６５】

図３０５（ｃ）に示すように、ｔ１のタイミングにおいて、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）は初期基準個数（具体的には６０００個）に達している。当該ｔ１のタイミングで現状エリア３１１に格納されている直近のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れると、図３０５（ｂ）に示すようにベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされる。

【３９６６】

その後、ベース値異常信号の出力契機が発生するよりも前であるｔ２のタイミングで、図３０５（ｄ）に示すようにベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達すると、データシフト処理（結果演算処理（図１３０）のステップＳ８６０７）が実行される。データシフト処理では、上記第３５の実施形態と同様に、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に記憶された情報が、第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４、第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２の順序でシフトした後に、現状エリア３１１が「０」クリアされる。これにより、第１履歴エリア３１２に格納されているベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている状態となる。また、図３０５（ｃ）に示すように、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していない状態となる。図３０５（ｂ）に示すように当該ｔ２のタイミングにおいてベース値異常フラグ５６５には「１」がセットされたままである。

【３９６７】

その後、ｔ３のタイミングで図３０５（ｆ）に示すように主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される。その後、ｔ４のタイミングで図３０５（ｅ）に示すようにリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われながら主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開される。この場合にはＲＡＭクリア処理（メイン処理（図３０２）のステップＳＪ７１６）が実行されるため、当該ｔ４のタイミングで図３０５（ｂ）に示すようにベース値異常フラグ５６５が「０」クリアされる。この場合には、現状エリア３１１における直近のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れたことに基づいてベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされたにも関わらず、当該ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされていることに基づいてベース値異常信号の異常報知器ＥＩへの外部出力が行われることなくベース値異常フラグ５６５が「０」クリアされてしまう。また、ｔ２のタイミングにおいて実行されたデータシフト処理により現状エリア３１１に格納されていたベース値は第１履歴エリア３１２にシフトしている。このため、現状エリア３１１には異常となったベース値が残っておらず、ｔ４のタイミング以降において外部情報設定処理（図３０１）が実行されても当該ベース値に基づくベース値異常信号の外部出力は行われない。本実施形態では、ベース値初期出力用処理（図３０３）において過去のベース値に基づくベース値異常信号の外部出力を実行することにより、ベース値異常信号の外部出力が行われないまま第１履歴エリア３１２にシフトした異常なベース値（ベース正常範囲から外れているベース値）が存在していることを把握可能としている。

【３９６８】

その後、ｔ５のタイミングでベース値初期出力用処理（メイン処理（図３０２）のステ

ップＳＪ７２０）が開始されると、演算結果記憶エリア２３４の第１履歴エリア３１２（図１２６）に格納されているベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れていることに基づいて、図３０５（ｂ）に示すようにベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされる。そして、当該ベース値初期出力用処理において、ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされていることに基づいてベース値異常信号の外部出力処理（ステップＳＪ８１０）が実行される。これにより、ｔ６のタイミングで図３０５（ａ）に示すようにベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。また、当該ｔ６のタイミングで図３０５（ｂ）に示すように、ベース値異常フラグ５６５が「０」クリアされる。

【３９６９】

このように、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れた状態となっても、当該ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れていることに基づいてベース値異常信号の外部出力が行われない場合が考えられる。現状エリア３１１におけるベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れた場合だけベース値異常信号を外部出力する構成では、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている状態が発生したことが見逃されてしまう可能性がある。これに対して、本実施形態では、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始時に第１～第３履歴エリア３１２～３１４におけるベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている場合にもベース値異常信号を外部出力する構成である。これにより、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている状態が発生したことが見逃されてしまうことが防止されている。

【３９７０】

また、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された直後に行われるベース値初期出力用処理（図３０３）では、データシフト処理が実行されてベース正常範囲から外れている異常なベース値が現状エリア３１１から第１履歴エリア３１２にシフトする前に、当該異常なベース値に基づくベース値異常信号の外部出力が実行されていたとしても、第１履歴エリア３１２に格納されている当該異常なベース値に基づくベース値異常信号の外部出力が再度行われる。これにより、ベース値の異常が見落とされてしまう可能性が低減されている。また、遊技ホールにおける複数の管理者がベース値の異常を把握する可能性を高めることができる。

【３９７１】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【３９７２】

主側ＲＯＭ６４に予め記憶されている閾値テーブル５６６に基づいてベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）に収まっているか否かの判定が行われる。そして、ベース値がベース正常範囲から外れていると判定された場合にのみベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。このため、ベース正常範囲の異なる複数の機種に対して使用される汎用の異常報知器ＥＩに対してパチンコ機１０が接続される場合においても、パチンコ機１０のベース値がベース正常範囲に収まっているか否かの判別を異常報知器ＥＩにおいて容易なものとすることができる。また、ベース正常範囲の異なる複数の機種に対応する異常報知器ＥＩと接続されるホールコンピュータＨＣにおいても、パチンコ機１０に対応する異常報知器ＥＩから受信するベース値異常信号に基づいてパチンコ機１０のベース値がベース正常範囲に収まっているか否かの判別を容易なものとすることができる。

【３９７３】

ベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力する構成であることにより、ベース値を示す数値情報を異常報知器ＥＩに外部出力する構成と比較して、ベース値の異常を把握可能とするために外部出力するデータのデータ量が低減されている。これにより、ベース値の異常を把握可能とするデータを受信して記憶する記憶領域の記憶容量が小さく設定されている異常報知器ＥＩ及びホールコンピュータＨＣに対してもベース値異常信号を外部出力することが可能となっている。

【３９７４】

ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していない場合には、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）に収まっているか否かの判定が行われない。ベース値を算出するための遊技履歴の情報が十分でない状態ではベース値異常信号の外部出力が実行されない構成であることにより、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩが不安定なベース値に基づくベース値異常信号を受信してしまうことが防止されている。これにより、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンス、及び遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無の確認が頻繁に行われてしまうことが防止されており、ベース値異常信号の信頼性が高められている。

【３９７５】

主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されるタイミングにおいて第１履歴エリア３１２～第３履歴エリア３１４に格納されている過去のベース値のいずれかがベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている場合には、当該動作電力の供給開始時にベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。これにより、ベース正常範囲から外れている異常なベース値が現状エリア３１１に格納されている状況において当該異常なベース値に基づくベース値異常信号の外部出力が行われなかった場合には、第１～第３履歴エリア３１２～３１４のいずれかに格納されている当該異常なベース値に基づくベース値異常信号の外部出力によってベース値の異常が発生していたことを把握可能とすることができる。

【３９７６】

ベース正常範囲から外れている異常なベース値が現状エリア３１１に格納されている状態となったことに基づいてベース値異常信号の外部出力が行われた後、当該異常なベース値が第１～第３履歴エリア３１２～３１４にシフトした場合、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時にベース値初期出力用処理（図３０３）が実行されて、当該異常なベース値に基づくベース値異常信号の外部出力が再度実行される。これにより、ベース値の異常が見逃されてしまうことを防止することができるとともに、遊技ホールにおける複数の管理者がベース値の異常を把握する可能性を高めることができる。ベース値の異常を遊技ホールの複数の管理者が把握することにより、遊技ホールの管理者の一部が釘２４ｂの状態を遊技者にとって不利な状態に変更する不正な行為、又はベース値を不正に高める行為に関与しており、当該管理者がパチンコ機１０におけるベース値の異常の有無を監視する役割を担当している場合であっても、これらの不正な行為を他の管理者が発見することを可能とすることができる。

【３９７７】

ベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされている状態においてベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数（具体的には６００００個）に達して現状エリア３１１が「０」クリアされ、その後に主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が再開されるタイミングにおいてベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。これにより、本パチンコ機１０におけるベース値の異常が見逃されてしまう可能性が低減されている。

【３９７８】

ベース値異常信号の出力契機を所定の時間間隔（具体的には１時間間隔）で発生させるとともに、ベース値異常信号の出力契機の発生を１つの条件としてベース値異常信号が外部出力される構成であることにより、外部情報設定処理（図３０１）においてベース値異常信号の外部出力処理（ステップＳＪ６１１）が実行される回数が低減されている。現状エリア３１１におけるベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている状態となった場合、所定の時間おきに（具体的には１時間おきに）ベース値異常信号を外

部出力することができる。これにより、ベース値異常信号の外部出力が短期間に連続して実行されてしまうことを防止しながら、複数回に亘ってベース値異常信号を外部出力することが可能となっている。

【３９７９】

ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回った場合、又はベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回った場合にベース値異常フラグ５６５に「１」をセットする処理（外部情報設定処理（図３０１）におけるステップＳＪ６０３～ステップＳＪ６０７の処理）は、遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされていない状況において第１タイマ割込み処理（図１３３）が実行される度に行われる。これらの処理が比較的短い周期（具体的には４ミリ秒周期）で実行される構成であることにより、ベース値が一時的にベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れた状態となり、ベース値異常信号の出力契機が発生する前にベース正常範囲（０．３５～０．４０）に戻った場合においても、ベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力することができる。これにより、所定の時間間隔（具体的には１時間間隔）でベース値異常信号の出力契機を発生させる構成において、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩが受信するベース値異常信号に基づいて、ベース値の一時的な異常を把握可能とすることが可能となっている。

【３９８０】

なお、外部情報設定処理（図３０１）において、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っているか否かを判定する処理（ステップＳＪ６０５の処理）、及びベース値が下側閾値（０．３５）を下回っているか否かを判定する処理（ステップＳＪ６０６の処理）がベース値異常信号の出力契機の発生タイミングのみにおいて実行される構成としてもよい。当該構成では、ベース値用タイマカウンタの値が「０」となったタイミングにおいてベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている場合、及び下側閾値（０．３５）を下回っている場合に異常報知器ＥＩにベース値異常信号を外部出力することができる。当該構成では、現状エリア３１１におけるベース値が一時的にベース正常範囲（０．３０～０．４０）から外れ、ベース値異常信号の出力契機が発生する前にベース正常範囲に戻る場合、ベース値異常信号の外部出力が行われない。当該構成では、現状エリア３１１におけるベース値がベース正常範囲から外れている状態が継続している場合にのみベース値異常信号を外部出力して、遊技ホールの管理者に対応を促すことができる。また、当該構成では、ベース値異常フラグ５６５を不具備としてベース値異常信号の外部出力を実行するための構成を簡素化することができる。

【３９８１】

また、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始時に直近のベース値及び過去のベース値に基づいてベース値異常信号の外部出力を行う構成に代えて、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始時に過去のベース値のみに基づいてベース値異常信号の外部出力を行う構成としてもよい。具体的には、ベース値初期出力用処理（図３０３）では、まずベース値異常フラグ５６５を「０」クリアする。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される前からベース値異常フラグ５６５にセットされている「１」の情報が記憶保持されていた場合に当該ベース値異常フラグ５６５の状態に基づいてベース値異常信号の外部出力が行われることが回避される。また、ベース値初期出力用処理（図３０３）では、第１～第３履歴エリア３１２～３１４を参照対象エリアとしてステップＳＪ８０６～８０７の処理を実行する一方、現状エリア３１１は参照対象エリアとして設定しない。これにより、第１～第３履歴エリア３１２～３１４に格納されている過去の３つのベース値のいずれかがベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている場合にベース値異常信号を異常報知器ＥＩが外部出力する一方、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れていてもベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力されない。当該構成では、パチンコ機１０への動作電力の供給を開始した直後にホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩがベース値異常信号を受信した場

合、遊技ホールの管理者は、ベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れているベース値が第１～第３履歴エリア３１２～３１４に格納されている過去のいずれかのベース値であることを把握することができる。

【３９８２】

＜第８５の実施形態＞

本実施形態では２種類のベース値異常信号の外部出力が行われる点で上記第８４の実施形態と相違している。以下、上記第８４の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第８４の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【３９８３】

上記第８４の実施形態と同様に、ベース正常範囲として「０．３５」～「０．４０」の数値範囲が設定されており、当該ベース正常範囲の上側閾値として「０．４０」が設定されているとともに、当該ベース正常範囲の下側閾値として「０．３５」が設定されている。本実施形態では、ベース値がベース正常範囲の上側閾値（０．４０）を上回った場合に上側ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力されるとともに、ベース値がベース正常範囲の下側閾値（０．３５）を下回った場合に下側ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。

【３９８４】

図３０６（ａ）は本実施形態における上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号を外部出力するための構成を説明するためのブロック図である。図３０６（ａ）に示すように、ＭＰＵ６２には主側ＣＰＵ６３から上側ベース値異常信号を出力するための主側出力端子ＴＡ４が設けられているとともに、外部端子板９７には当該主側出力端子ＴＡ４から出力される上側ベース値異常信号を受信するための外部側受信端子ＴＢ４が設けられている。主側出力端子ＴＡ４と外部側受信端子ＴＢ４とは上側データ信号線ＬＮ７と、上側クロック信号線ＬＮ８とを利用して電気的に接続されている。これら信号線ＬＮ７～ＬＮ８はいずれも主側ＣＰＵ６３から外部端子板９７に一方向通信で信号を送信するための信号線である。

【３９８５】

上側データ信号線ＬＮ７を利用して主側ＣＰＵ６３から外部端子板９７に上側ベース値異常信号がシリアル通信で送信される。この場合、シリアル通信による上側ベース値異常信号の各１ビットの区切りが、上側クロック信号線ＬＮ８を利用して主側ＣＰＵ６３から外部端子板９７に送信されるクロック信号により示される。

【３９８６】

図３０６（ａ）に示すように、ＭＰＵ６２には主側ＣＰＵ６３から下側ベース値異常信号を出力するための主側出力端子ＴＡ５が設けられているとともに、外部端子板９７には当該主側出力端子ＴＡ５から出力される下側ベース値異常信号を受信するための外部側受信端子ＴＢ５が設けられている。主側出力端子ＴＡ５と外部側受信端子ＴＢ５とは下側データ信号線ＬＮ９と、下側クロック信号線ＬＮ１０とを利用して電気的に接続されている。これら信号線ＬＮ９～ＬＮ１０はいずれも主側ＣＰＵ６３から外部端子板９７に一方向通信で信号を送信するための信号線である。

【３９８７】

下側データ信号線ＬＮ９を利用して主側ＣＰＵ６３から外部端子板９７に下側ベース値異常信号がシリアル通信で送信される。この場合、シリアル通信による下側ベース値異常信号の各１ビットの区切りが、下側クロック信号線ＬＮ１０を利用して主側ＣＰＵ６３から外部端子板９７に送信されるクロック信号により示される。

【３９８８】

外部端子板９７には、外部側受信端子ＴＢ４にて受信した上側ベース値異常信号を外部出力するための外部側出力端子ＴＣ４と、外部側受信端子ＴＢ５にて受信した下側ベース値異常信号を外部出力するための外部側出力端子ＴＣ５とが設けられている。これらの外部側出力端子ＴＣ４，ＴＣ５は、パチンコ機１０の外部に設けられている異常報知器ＥＩ等の外部装置に接続可能となっている。異常報知器ＥＩはパチンコ機１０に１対１で対応

させて設けられている。異常報知器ＥＩは発光部を備えている。異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から上側ベース値異常信号を受信した場合にベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている異常を報知するための発光態様で当該発光部を発光させてベース値の上側異常報知を行うとともに、パチンコ機１０から下側ベース値異常信号を受信した場合にベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っている異常を報知するための発光態様で当該発光部を発光させてベース値の下側異常報知を行う。具体的には、上側異常報知にて発光部が黄色に発光するとともに、下側異常報知にて発光部が赤色に発光する。遊技ホールの管理者は、異常報知器ＥＩにおける上側異常報知及び下側異常非報知に基づいて、パチンコ機１０におけるベース値の異常の有無及び異常の種類を把握することができる。

【３９８９】

ホールコンピュータＨＣは、遊技ホールに設置されている多数のパチンコ機に１対１で対応させて設けられている異常報知器ＥＩと電気的に接続されている。異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信したベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。異常報知器ＥＩからホールコンピュータＨＣへのベース値異常信号の出力は、上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号を識別可能な態様で行われる。ホールコンピュータＨＣは、異常報知器ＥＩから受信する識別子データに基づいてパチンコ機１０を識別するとともに、当該識別子データと同時に受信するベース値異常信号に基づいて、当該パチンコ機１０におけるベース値の異常の有無及び異常の種類を把握する。遊技ホールの管理者は、ホールコンピュータＨＣにおいても、パチンコ機１０におけるベース値の異常の有無及び異常の種類を把握することができる。

【３９９０】

ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいてベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている異常状態であることを把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者に対して、遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無を確認する契機を与えることができる。また、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいてベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っている異常状態であることを把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者に対して、パチンコ機１０における遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスの契機を与えることができる。

【３９９１】

異常報知器ＥＩにおいてベース値の上側異常報知が行われることによりベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている異常状態であることを容易に把握することが可能となっているとともに、異常報知器ＥＩにおいてベース値の下側異常報知が行われることによりベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っている異常状態であることを容易に把握することが可能となっている。

【３９９２】

図３０６（ｂ）は特定制御用のワークエリア２２１に設けられた上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号の外部出力用の記憶エリアを説明するための説明図である。図３０６（ｂ）に示すように、特定制御用のワークエリア２２１には上側ベース値異常フラグ５６７及び下側ベース値異常フラグ５６８が設けられている。上側ベース値異常フラグ５６７は、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回る異常状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグであるとともに、下側ベース値異常フラグ５６８は、ベース値がベース正常範囲（０．３０～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回る異常状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。

【３９９３】

主側ＣＰＵ６３では、上記第８４の実施形態と同様に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の

供給開始時に演算結果記憶エリア２３４における第１履歴エリア３１２～第３履歴エリア３１４（図１２６）に格納されているベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）に収まっているか否かの判定が行われる。また、上記第８４の実施形態と同様に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始後、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１（図１２６）におけるベース値がベース正常範囲に収まっているか否かの判定が行われる。これらの判定では、ベース値が上側閾値（０．４０）を上回っている場合に上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされるとともに、ベース値が下側閾値（０．３５）を下回っている場合に下側ベース値異常フラグ５６８に「１」がセットされる。

【３９９４】

上記第８４の実施形態と同様に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されてから所定の時間（具体的には１時間）おきに、ベース値異常信号の出力契機が発生する。上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされている状態において、当該ベース値異常信号の出力契機が発生したことに基づいて上側ベース値異常信号の異常報知器ＥＩへの外部出力が実行されるとともに、下側ベース値異常フラグ５６８に「１」がセットされている状態において、当該ベース値異常信号の出力契機が発生したことに基づいて下側ベース値異常信号の異常報知器ＥＩへの外部出力が実行される。

【３９９５】

次に、上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号を外部出力するための具体的な処理構成について説明する。図３０７は主側ＣＰＵ６３にて実行される外部情報設定処理を示すフローチャートである。なお、外部情報設定処理は第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９１８にて実行される。また、外部情報設定処理におけるステップＳＪ９０１～ステップＳＪ９０８の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【３９９６】

外部情報設定処理では、まず非特定制御用のワークエリア２２３における演算初期フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＪ９０１）。演算初期フラグは、上記第３５の実施形態と同様に、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達しているか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【３９９７】

ステップＳＪ９０１にて演算初期フラグに「１」がセットされていないと判定した場合には、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していることを意味する。この場合には、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１（図１２６）を参照して現状のベース値を把握する（ステップＳＪ９０２）。

【３９９８】

その後、主側ＲＯＭ６４から閾値テーブル５６６（図３００（ｃ））を読み出し（ステップＳＪ９０３）、当該読み出した閾値テーブル５６６に基づいて異常フラグ設定用処理を実行する（ステップＳＪ９０４）。図３０８は異常フラグ設定用処理を示すフローチャートである。

【３９９９】

異常フラグ設定用処理では、まず特定制御用のワークエリア２２１における上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＫ１０１）。既に説明したとおり、上側ベース値異常フラグ５６７は、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回る異常状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。ステップＳＫ１０１にて否定判定を行った

場合には、現状エリア３１１におけるベース値が閾値テーブル５６６に設定されている上側閾値（０．４０）を上回っているか否かを判定し（ステップＳＫ１０２）、ベース値が上側閾値を上回っている場合（ステップＳＫ１０２：ＹＥＳ）には、上側ベース値異常フラグ５６７に「１」をセットする（ステップＳＫ１０３）。

【４０００】

ステップＳＫ１０１にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＫ１０２にて否定判定を行った場合には、特定制御用のワークエリア２２１における下側ベース値異常フラグ５６８に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＫ１０４）。既に説明したとおり、下側ベース値異常フラグ５６８は、ベース値がベース正常範囲（０．３０～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回る異常状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。ステップＳＫ１０４にて否定判定を行った場合、現状エリア３１１におけるベース値が閾値テーブル５６６に設定されている下側閾値（０．３５）を下回っているか否かを判定し（ステップＳＫ１０５）、ベース値が下側閾値を下回っている場合（ステップＳＫ１０５：ＹＥＳ）には、下側ベース値異常フラグ５６８に「１」をセットして（ステップＳＫ１０６）、本異常フラグ設定処理を終了する。

【４００１】

外部情報設定処理（図３０７）の説明に戻り、ステップＳＪ９０１にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＪ９０４にて異常フラグ設定用処理を行った場合には、ステップＳＪ９０５に進む。ステップＳＪ９０５～ステップＳＪ９０６では、上記第８４の実施形態の外部情報設定処理（図３０１）におけるステップＳＪ６０８～ステップＳＪ６０９と同様の処理を実行する。具体的には、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたベース値用タイマカウンタの値が「０」となったか否かを判定する（ステップＳＪ９０５）。上記第８４の実施形態と同様に、ベース値用タイマカウンタは、ベース値異常信号の出力契機を主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするタイマカウンタである。ベース値用タイマカウンタには、後述するステップＳＪ９０６及び後述するベース値初期出力用処理（図３１０）のステップＳＫ３０７にて１時間に対応する数値情報が設定される。上記第８４の実施形態と同様に、ベース値用タイマカウンタの値は、タイマ更新処理（第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９１０）にて更新される。

【４００２】

ステップＳＪ９０５にて肯定判定を行った場合には、ベース値用タイマカウンタに対して１時間に対応する数値情報をセットする（ステップＳＪ９０６）。これにより、１時間後に再びベース値異常信号の出力契機を発生させることができる。その後、異常信号出力用処理を実行する（ステップＳＪ９０７）。図３０９は異常信号出力用処理を示すフローチャートである。なお、異常信号出力用処理は、後述するベース値初期出力用処理（図３１０）のステップＳＫ３０６においても実行される。

【４００３】

異常信号出力用処理では、特定制御用のワークエリア２２１における上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされている場合（ステップＳＫ２０１：ＹＥＳ）、上側ベース値異常信号の外部出力処理を実行する（ステップＳＫ２０２）。上側ベース値異常信号の外部出力処理では、ＭＰＵ６２における主側出力端子ＴＡ４から上側クロック信号線ＬＮ８に対してパルス状のクロック信号が出力されている状況において当該主側出力端子ＴＡ４から上側データ信号線ＬＮ７に出力されている信号をＬＯＷからＨＩに立ち上げた後、当該信号をＨＩからＬＯＷに立ち下げる。これにより、外部端子板９７を介して上側ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。既に説明したとおり、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から上側ベース値異常信号を受信した場合に、当該上側ベース値異常信号と、識別子データとをホールコンピュータＨＣに出力する。これにより、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいてベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている異常状態であることを把握可能とすることができる。その後、上側ベース値異常フラグ５６７を「０」クリアする（ステップＳＫ２０３）。

【４００４】
ステップＳＫ２０１にて否定判定を行った場合、又はステップＳＫ２０３の処理を行った場合には、特定制御用のワークエリア２２１における下側ベース値異常フラグ５６８に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＫ２０４）。下側ベース値異常フラグ５６８に「１」がセットされている場合（ステップＳＫ２０４：ＹＥＳ）には、下側ベース値異常信号の外部出力処理を実行する（ステップＳＫ２０５）。下側ベース値異常信号の外部出力処理では、ＭＰＵ６２における主側出力端子ＴＡ５から下側クロック信号線ＬＮ１０に対してパルス状のクロック信号が出力されている状況において当該主側出力端子ＴＡ５から下側データ信号線ＬＮ９に出力されている信号をＬＯＷからＨＩに立ち上げた後、当該信号をＨＩからＬＯＷに立ち下げる。これにより、外部端子板９７を介して下側ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。既に説明したとおり、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から下側ベース値異常信号を受信した場合に、当該下側ベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとをホールコンピュータＨＣに出力する。これにより、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいてベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っている異常状態であることを把握可能とすることができる。その後、下側ベース値異常フラグ５６８を「０」クリアして（ステップＳＫ２０６）、本異常信号出力用処理を終了する。

【４００５】
外部情報設定処理（図３０７）の説明に戻り、ステップＳＪ９０５にて否定判定を行った場合、又はステップＳＪ９０７の処理を行った場合には、その他の外部出力処理を実行して（ステップＳＪ９０８）、本外部情報設定処理を終了する。ステップＳＪ９０８におけるその他の外部情報出力処理（ステップＳＪ９０８）では、上記第８２の実施形態の外部情報設定処理（図２９６）におけるその他の外部出力処理（ステップＳＪ４０６）と同様に、開閉実行モード中であることを示す情報、サポートモードが高頻度サポートモード中であることを示す情報、一の遊技回が終了したことを示す情報、所定個数（例えば１００個）の遊技球がアウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のいずれかを通じて遊技領域ＰＡから排出されたことを示す情報、第１作動口３３に遊技球が入球したことを示す情報、及び第２作動口３４に遊技球が入球したことを示す情報を異常報知器ＥＩに外部出力するための処理を実行する。

【４００６】
上記のとおり、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達している状態において、現状エリア３１１におけるベース値が上側閾値（０．４０）を上回った場合には上側ベース値異常信号の外部出力が行われるとともに、当該ベース値が下側閾値（０．３５）を下回った場合には下側ベース値異常信号の外部出力が行われる。

【４００７】
ベース値が上側閾値（０．４０）を上回った場合に異常報知器ＥＩに外部出力されるベース値異常信号（上側ベース値異常信号）と、ベース値が下側閾値（０．３５）を下回った場合に異常報知器ＥＩに外部出力されるベース値異常信号（下側ベース値異常信号）とが識別可能である。また、既に説明したとおり、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信したベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。異常報知器ＥＩからホールコンピュータＨＣへのベース値異常信号の出力は、上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号を識別可能な態様で行われる。このため、１種類のベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される構成と比較して、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいてベース正常範囲（０．３０～０．４０）に対するベース値の状態を詳細に把握可能とすることができる。

【４００８】
ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高

頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していない場合には、異常フラグ設定用処理（ステップＳＪ９０４）が実行されない。算出期間が開始された直後においてはベース値を算出するための遊技履歴の情報が少ないため、ベース値の実測値がベース値の理論値範囲から大きく外れた値となり得る。ベース値を算出するための遊技履歴の情報が十分でない状態では異常フラグ設定用処理（ステップＳＪ９０４）が実行されない構成であることにより、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩが不安定なベース値に基づく上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号を受信してしまうことが防止されている。これにより、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンス、及び遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無の確認が頻繁に行われてしまうことが防止されている。

【４００９】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行されるベース値初期出力用処理について、図３１０のフローチャートを参照しながら説明する。なお、ベース値初期出力用処理はメイン処理（図３０２）のステップＳＪ７２０にて実行される。また、ベース値初期出力用処理におけるステップＳＫ３０１～ステップＳＫ３０９の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【４０１０】

ステップＳＫ３０１～ステップＳＫ３０４では、上記第８４の実施形態のベース値初期出力用処理（図３０３）におけるステップＳＪ８０２～ステップＳＪ８０５と同様の処理を行う。具体的には、まず主側ＲＯＭ６４から閾値テーブル５６６（図３００（ｃ））を読み出す（ステップＳＫ３０１）。その後、非特定制御用のワークエリア２２３における演算初期フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＫ３０２）。既に説明したとおり、演算初期フラグは、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達しているか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【４０１１】

演算初期フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＫ３０２：ＮＯ）には、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１（図１２６）を参照対象エリアに設定する（ステップＳＫ３０３）。一方、演算初期フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＫ３０２：ＹＥＳ）には、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値を算出するためのサンプル数が十分でない状態であることを意味するため、演算結果記憶エリア２３４における第１履歴エリア３１２（図１２６）を参照対象エリアに設定する（ステップＳＫ３０４）。

【４０１２】

ステップＳＫ３０３の処理を行った場合、又はステップＳＫ３０４の処理を行った場合には、現状の参照対象エリアについてステップＳＫ３０５～ステップＳＫ３０７の処理を実行する。具体的には、まず図３０８を参照しながら既に説明した異常フラグ設定用処理を実行する（ステップＳＫ３０５）。これにより、特定制御用のワークエリア２２１における上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされていない状態において現状の参照対象エリアにおけるベース値がステップＳＫ３０１にて読み出した閾値テーブル５６６に設定されている上側閾値（０．４０）を上回っている場合には上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされる。また、特定制御用のワークエリア２２１における下側ベース値異常フラグ５６８に「１」がセットされていない状態において現状の参照対象エリアにおけるベース値がステップＳＫ３０１にて読み出した閾値テーブル５６６に設定されている下側閾値（０．３５）を下回っている場合には下側ベース値異常フラグ５６８に「１」がセットされる。

【４０１３】

その後、現状の参照対象エリアが第３履歴エリア３１４であるか否かを判定する（ステップＳＫ３０６）。現状の参照対象エリアが第３履歴エリア３１４でない場合（ステップＳＫ３０６：ＮＯ）には、演算結果記憶エリア２３４（図１２６）における参照対象エリアを更新して（ステップＳＫ３０７）、ステップＳＫ３０５に戻る。ステップＳＫ３０７では、演算結果記憶エリア２３４における参照対象エリアを現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４の順番で更新する。これにより、参照対象エリアが現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２である状態、参照対象エリアが第２履歴エリア３１３である状態、及び参照対象エリアが第３履歴エリア３１４である状態においてステップＳＫ３０３における異常フラグ設定用処理（図３０８）を行うことができる。このため、第１履歴エリア３１２に格納されている１回前の算出期間における最終的なベース値、第２履歴エリア３１３に格納されている２回前の算出期間における最終的なベース値、及び第３履歴エリア３１４に格納されている３回前の算出期間における最終的なベース値の少なくとも１つがベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている場合（ステップＳＫ１０２：ＹＥＳ）にステップＳＫ１０３にて上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされるとともに、これらの最終的なベース値の少なくとも１つがベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っている場合（ステップＳＫ１０５：ＹＥＳ）にステップＳＫ１０６にて下側ベース値異常フラグ５６８に「１」がセットされる。

【４０１４】

ステップＳＫ３０６にて肯定判定を行った場合には、図３０９を参照しながら既に説明した異常信号出力用処理を実行する（ステップＳＫ３０８）。これにより、特定制御用のワークエリア２２１における上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされている場合には上側ベース値異常信号の外部出力処理が実行されて、上側ベース値異常フラグ５６７が「０」クリアされる。上側ベース値異常信号の外部出力処理では、上側ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。また、特定制御用のワークエリア２２１における下側ベース値異常フラグ５６８に「１」がセットされている場合には下側ベース値異常信号の外部出力処理が実行されて、下側ベース値異常フラグ５６８が「０」クリアされる。下側ベース値異常信号の外部出力処理では、下側ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。

【４０１５】

その後、特定制御用のワークエリア２２１におけるベース値用タイマカウンタに対して１時間に対応する数値情報をセットして（ステップＳＫ３０９）、本ベース値初期出力用処理を終了する。ベース値用タイマカウンタに１時間に対応する数値情報をセットすることにより、主側ＣＰＵ６３に対して動作電力の供給が開始されてから略１時間後にベース値異常信号の出力契機を発生させることができる。

【４０１６】

上記のとおり、主側ＣＰＵ６３に対して動作電力の供給が開始された直後に実行されるベース値初期出力用処理（図３１０）では、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値及び第１履歴エリア３１２～第３履歴エリア３１４に格納されている過去の３つのベース値のいずれかが上側閾値（０．４０）を上回っている場合に上側ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力されるとともに、下側閾値（０．３５）を下回っている場合に下側ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。これにより、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れるベース値の異常が見逃されてしまう可能性が低減されている。

【４０１７】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【４０１８】

ベース値が上側閾値（０．４０）を上回った場合に上側ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力されるとともに、下側閾値（０．３５）を下回った場合に下側ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信

したベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。異常報知器ＥＩからホールコンピュータＨＣへのベース値異常信号の出力は、上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号を識別可能な態様で行われる。このため、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいて、パチンコ機１０のベース値の異常の有無だけでなく、異常の種類も判別することが可能となっている。これにより、遊技ホールの管理者は発生したベース値の異常の種類に対応する措置を迅速に行うことが可能となっている。

【４０１９】

異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から上側ベース値異常信号を受信した場合に上側異常報知を行うとともに、パチンコ機１０から下側ベース値異常信号を受信した場合に下側異常報知を行う。これにより、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている異常状態であること、及びベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っている異常状態であることを容易に把握可能とすることができる。これにより、遊技ホールの管理者によるベース値の異常を把握するための監視負担が軽減されている。

【４０２０】

主側ＲＯＭ６４には、ベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値及び下側閾値が設定された閾値テーブル５６６が予め記憶されている。これにより、主側ＣＰＵ６３にてベース値の異常の有無及び異常の種類を判定して、ベース値の異常の種類に対応するベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力することが可能となっている。

【４０２１】

なお、パチンコ機１０からのベース値異常信号を受信するための端子を１つしか備えていない異常報知器ＥＩに対して上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号のいずれか一方のみを外部出力する接続態様を選択してもよい。具体的には、外部端子板９７における外部側出力端子ＴＣ４が異常報知器ＥＩと電気的に接続されている一方、外部側出力端子ＴＣ５が異常報知器ＥＩと電気的に接続されていない接続態様としてもよい。この場合には、上側ベース値異常信号のみを異常報知器ＥＩに外部出力可能として、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っていることを外部に報知可能とすることができる。異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信した上側ベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。このため、ホールコンピュータＨＣにおいてもベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っていること把握可能とすることができる。また、外部端子板９７における外部側出力端子ＴＣ５が異常報知器ＥＩと電気的に接続されている一方、外部側出力端子ＴＣ４が異常報知器ＥＩと電気的に接続されていない接続態様としてもよい。この場合には、下側ベース値異常信号のみを異常報知器ＥＩに外部出力可能として、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っていることを外部に報知可能とすることができる。異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信した下側ベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。このため、ホールコンピュータＨＣにおいてもベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っていること把握可能とすることができる。

【４０２２】

また、ベース値異常信号の出力契機が発生してから次のベース値異常信号の出力契機が発生するまでの１時間の間に、現状エリア３１１のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている状態と、現状エリア３１１のベース値が下側閾値（０．３５）を下回っている状態との両方が発生した場合には、後から発生した状態に対応するベース値異常信号のみが異常報知器ＥＩに外部出力される構成としてもよい。具体的には、異常フラグ設定用処理（図３０８）では、下側ベース値異常フラグ５６８に「１」がセットされている状況において現状エリア３１１のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っていると判定した場合（

ステップＳＫ１０２：ＹＥＳ）には、下側ベース値異常フラグ５６８を「０」クリアするとともに、上側ベース値異常フラグ５６７に「１」をセットする。また、上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされている状況において現状エリア３１１のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っていると判定した場合（ステップＳＫ１０５：ＹＥＳ）には、上側ベース値異常フラグ５６７を「０」クリアするとともに、下側ベース値異常フラグ５６８に「１」をセットする。これにより、異常信号出力用処理（図３０９）では、後から発生したベース値の異常状態に対応するベース値異常信号のみが異常報知器ＥＩに外部出力される。また、ホールコンピュータＨＣは、当該後から発生したベース値の異常状態に対応するベース値異常信号のみを受信する。よって、遊技ホールの管理者は、現状エリア３１１における最新のベース値に対応するベース値異常信号に基づいて、遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンス、又は遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無の確認を行うことができる。

【４０２３】

また、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始時に直近のベース値及び過去のベース値に基づいて上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号の外部出力を行う構成に代えて、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始時に過去のベース値のみに基づいて上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号の外部出力を行う構成としてもよい。具体的には、ベース値初期出力用処理（図３１０）では、まず上側ベース値異常フラグ５６７及び下側ベース値異常フラグ５６８を「０」クリアする。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される前から上側ベース値異常フラグ５６７に「１」の情報が記憶保持されていた場合に当該上側ベース値異常フラグ５６７の状態に基づいて上側ベース値異常信号の外部出力が行われることが回避されるとともに、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止される前から下側ベース値異常フラグ５６８に「１」の情報が記憶保持されていた場合に当該下側ベース値異常フラグ５６８の状態に基づいて下側ベース値異常信号の外部出力が行われることが回避される。また、ベース値初期出力用処理（図３１０）では、第１～第３履歴エリア３１２～３１４を参照対象エリアとしてステップＳＫ３０３の処理を実行する一方、現状エリア３１１は参照対象エリアとして設定しない。これにより、第１～第３履歴エリア３１２～３１４に格納されている過去の３つのベース値のいずれかがベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている場合に対応するベース値異常フラグ（上側ベース値異常フラグ５６７又は下側ベース値異常フラグ５６８）に「１」がセットされる一方、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れていてもベース値異常フラグ（上側ベース値異常フラグ５６７及び下側ベース値異常フラグ５６８）に「１」はセットされない。当該構成では、ベース値初期出力用処理（図３１０）において実行される異常信号出力用処理において、過去のベース値のみに基づくベース値異常信号（上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号）の外部出力が行われる。第１～第３履歴エリア３１２～３１４に格納されている過去の３つのベース値のいずれかがベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている場合にベース値異常信号を異常報知器ＥＩが外部出力する一方、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れていてもベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力されない。当該構成では、パチンコ機１０への動作電力の供給を開始した直後にホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩが上側ベース値異常信号又は下側ベース値異常信号を受信した場合、遊技ホールの管理者は、ベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れているベース値が第１～第３履歴エリア３１２～３１４に格納されている過去のいずれかのベース値であることを把握することができる。

【４０２４】

＜第８６の実施形態＞

本実施形態ではベース正常範囲に２段階の下側閾値が設定されている点で上記第８５の実施形態と相違している。以下、上記第８５の実施形態と相違している構成について説明

する。なお、上記第８５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【４０２５】

本実施形態では、ベース正常範囲（０．３５～０．４０）における下側の１段階目の閾値として下側第１閾値「０．３５」が設定されているとともに、下側の２段階目の閾値として下側第２閾値「０．３０」が設定されている。また、ベース正常範囲における上側の閾値として、上記第８５の実施形態と同様に、上側閾値「０．４０」が設定されている。

【４０２６】

本実施形態では、ベース値が上側閾値（０．４０）を上回ったことを示す上側ベース値異常信号の異常報知器ＥＩへの外部出力と、ベース値が下側第１閾値（０．３５）を下回ったことを示す下側第１ベース値異常信号の異常報知器ＥＩへの外部出力と、ベース値が下側第２閾値（０．３０）を下回ったことを示す下側第２ベース値異常信号の異常報知器ＥＩへの外部出力とが行われる。

【４０２７】

図３１１（ａ）は本実施形態における特定制御用のワークエリア２２１に設けられた上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号の外部出力用の記憶エリアを説明するための説明図である。図３１１（ａ）に示すように、特定制御用のワークエリア２２１には上側ベース値異常フラグ５６７、下側第１ベース値異常フラグ５７１及び下側第２ベース値異常フラグ５７２が設けられている。上側ベース値異常フラグ５６７は、上記第８５の実施形態と同様に、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回る異常状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。下側第１ベース値異常フラグ５７１は、ベース値がベース正常範囲の下側第１閾値（０．３５）を下回る異常状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグであるとともに、下側第２ベース値異常フラグ５７２は、ベース値がベース正常範囲の下側第２閾値（０．３０）を下回る異常状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。

【４０２８】

本実施形態では、ベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値、下側第１閾値及び下側第２閾値が設定された閾値テーブルが主側ＲＯＭ６４に予め記憶されている。図３１１（ｂ）は閾値テーブル５７３を説明するための説明図である。図３１１（ｂ）に示すように閾値テーブル５７３には、ベース値の下側第１閾値として「０．３５」が設定されているとともに、ベース値の下側第２閾値として「０．３０」が設定されている。また、ベース値の上側閾値として「０．４０」が設定されている。主側ＲＯＭ６４に閾値テーブル５７３が予め記憶されていることにより、主側ＣＰＵ６３にてベース値の異常の有無及び異常の種類を判定して、ベース値の異常の種類に対応するベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力することが可能となっている。

【４０２９】

主側ＣＰＵ６３では、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始時に演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１及び第１履歴エリア３１２～第３履歴エリア３１４（図１２６）に格納されているベース値がベース正常範囲（０．３０～０．４０）の下側第１閾値（０．３５）を下回っているか否かを判定する判定処理、下側第２閾値（０．４０）を下回っているか否かを判定する判定処理、及び上側閾値（０．４０）を上回っているか否かを判定する判定処理が行われる。また、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始後、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１（図１２６）におけるベース値がベース正常範囲（０．３０～０．４０）の下側第１閾値（０．３５）を下回っているか否かを判定する判定処理、下側第２閾値（０．４０）を下回っているか否かを判定する判定処理、及び上側閾値（０．４０）を上回っているか否かを判定する判定処理が行われる。

【４０３０】

これらの判定処理では、ベース値が下側第１閾値（０．３５）を下回っている場合に下側第１ベース値異常フラグ５７１に「１」がセットされるとともに、ベース値が下側第２

閾値（０．３０）を下回っている場合に下側第２ベース値異常フラグ５７２に「１」がセットされる。また、ベース値が上側閾値（０．４０）を上回っている場合に上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされる。

【４０３１】

上記第８５の実施形態と同様に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されてから所定の時間（具体的には１時間）おきに、ベース値異常信号の出力契機が発生する。下側第１ベース値異常フラグ５７１に「１」がセットされている状態において、当該ベース値異常信号の出力契機が発生したことに基づいて下側第１ベース値異常信号の異常報知器ＥＩへの外部出力が実行されるとともに、下側第２ベース値異常フラグ５７２に「１」がセットされている状態において、当該ベース値異常信号の出力契機が発生したことに基づいて下側第２ベース値異常信号の異常報知器ＥＩへの外部出力が実行される。また、上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされている状態において、当該ベース値異常信号の出力契機が発生したことに基づいて上側ベース値異常信号の異常報知器ＥＩへの外部出力が実行される。

【４０３２】

ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下限（０．３５）を下回ったことに基づく下側ベース値異常信号の外部出力が、ベース値の異常の程度に応じて２段階で行われる構成であることにより、ベース値がベース正常範囲の下限を下回った場合におけるベース値の異常状態の種類を異常報知器ＥＩにて詳細に把握可能とすることができる。

【４０３３】

図３１１（ｃ）は上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号を外部出力するための構成を説明するための説明図である。図３１１（ｃ）に示すように、ＭＰＵ６２には出力ポート５７４が設けられている。出力ポート５７４には、外部端子板９７にベース値異常信号を出力するための１バイトのベース値異常データが設定される送信用バッファ５７５と、送信用バッファ５７５から１バイトのベース値異常データの転送を受けて、外部端子板９７に対してベース値異常信号をシリアル出力する送信用シフトレジスタ５７６と、送信用バッファ５７５から送信用シフトレジスタ５７６への１バイトのベース値異常データの転送が完了した場合に送信用バッファ５７５に新規のベース値異常データを設定可能であることを示す１ビットのデータが設定される設定可能フラグ５７７とが設けられている。出力ポート５７４において、設定可能フラグ５７７には、送信用バッファ５７５から送信用シフトレジスタ５７６への１バイトのベース値異常データの転送が完了した場合に「１」がセットされる。

【４０３４】

主側ＣＰＵ６３は、ベース値異常データの出力タイミングとなった場合、設定可能フラグ５７７に「１」がセットされていることを条件として、ベース値異常データを送信用バッファ５７５に設定する。具体的には、上側ベース値異常信号を外部出力する場合に上側ベース値異常データとして「００００００１０」の１バイトデータを送信用バッファ５７５に設定し、下側第１ベース値異常信号を外部出力する場合に下側第１ベース値異常データとして「００００１０１０」の１バイトデータを送信用バッファ５７５に設定し、下側第２ベース値異常信号を外部出力する場合に下側第２ベース値異常データとして「００１０１０１０」の１バイトデータを送信用バッファ５７５に設定する。

【４０３５】

送信用バッファ５７５に設定されたベース値異常データは、送信用シフトレジスタ５７６に転送されてシリアル通信で外部端子板９７に出力される。送信用バッファ５７５に上側ベース値異常データが設定された場合には、後述するデータ信号線ＬＮ１１におけるデータ信号のＬＯＷ状態からＨＩ状態への立ち上がりが１回である上側ベース値異常信号が出力される。また、送信用バッファ５７５に下側第１ベース値異常データが設定された場合には、後述するデータ信号線ＬＮ１１におけるデータ信号のＬＯＷ状態からＨＩ状態への立ち上がりが２回である下側第１ベース値異常信号が出力されるとともに、送信用バッファ５７５に下側第２ベース値異常データが設定された場合には、後述するデータ信号線

ＬＮ１１におけるデータ信号のＬＯＷ状態からＨＩ状態への立ち上がりが３回である下側第２ベース値異常信号が出力される。これら３種類のベース値異常信号は、後述するデータ信号線ＬＮ１１におけるデータ信号の波形（ＬＯＷ状態からＨＩ状態に立ち上がる回数）に基づいて識別可能となっている。

【４０３６】

出力ポート５７４にはベース値異常信号を出力するための主側出力端子ＴＡ６が設けられているとともに、外部端子板９７には当該主側出力端子ＴＡ５から出力されるベース値異常信号を受信するための外部側受信端子ＴＢ６が設けられている。主側出力端子ＴＡ６と外部側受信端子ＴＢ６とはデータ信号線ＬＮ１１と、クロック信号線ＬＮ１２とを利用して電気的に接続されている。これら信号線ＬＮ１１～ＬＮ１２はいずれもＭＰＵ６２の出力ポート５７４から外部端子板９７に一方向通信で信号を送信するための信号線である。上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号の外部出力は、共通のデータ信号線ＬＮ１１及びクロック信号線ＬＮ１２を利用して行われる。

【４０３７】

ここで、下側第２ベース値異常信号が外部出力される場合を例として、ベース値異常信号が外部出力される様子について説明する。図３１２（ａ）は出力ポート５７４から外部端子板９７へのデータ信号の送信期間を示し、図３１２（ｂ）は出力ポート５７４から外部端子板９７へのクロック信号の送信期間を示し、図３１２（ｃ）は送信用バッファ５７５に下側第２異常データが設定されるタイミングを示し、図３１２（ｄ）は送信用シフトレジスタ５７６に下側第２異常データが転送されるタイミングを示し、図３１２（ｅ）は設定可能フラグ５７７の状態を示す。

【４０３８】

主側ＣＰＵ６３は、出力ポート５７４における設定可能フラグ５７７に「１」がセットされていることを確認して、ｔ１のタイミングで図３１２（ｃ）に示すように出力ポート５７４における送信用バッファ５７５に下側第２ベース値異常データ（具体的には「００１０１０１０」の１バイトデータ）を設定する。出力ポート５７４では、当該ｔ１のタイミングで図３１２（ｅ）に示すように設定可能フラグ５７７の値が「１」から「０」に切り替わる。

【４０３９】

その後、出力ポート５７４では、ｔ２のタイミングで図３１２（ｄ）に示すように、送信用バッファ５７５に設定された下側第２ベース値異常データが送信用シフトレジスタ５７６に転送される。また、当該ｔ２のタイミングで図３１２（ｅ）に示すように設定可能フラグ５７７の値が「０」から「１」に切り替わる。これにより、送信用バッファ５７５に新たなベース値異常データを設定することが可能な状態となる。

【４０４０】

その後、図３１２（ａ）及び図３１２（ｂ）に示すように、ｔ３のタイミング～ｔ１５のタイミングに亘って出力ポート５７４から外部端子板９７への下側第２ベース値異常信号の出力が行われる。具体的には、図３１２（ｂ）に示すように、ＨＩ状態に固定されていたクロック信号線ＬＮ１２のクロック信号がｔ３のタイミングで立ち下げられ、ｔ４、ｔ５、ｔ７、ｔ９、ｔ１１、ｔ１３、ｔ１５及びｔ１７のタイミングで立ち上げられる態様でクロック信号が出力される。図３１２（ａ）に示すように、データ信号線Ｌ１１におけるデータ信号は、ｔ６のタイミング～ｔ８のタイミング、ｔ１０のタイミング～ｔ１２のタイミング、及びｔ１４のタイミング～ｔ１６のタイミングに亘ってＨＩ状態となるように３回立ち上げられる。

【４０４１】

図３１２（ａ）及び図３１２（ｂ）に示すように、クロック信号が１回目に立ち上がるｔ４のタイミング、２回目に立ち上がるｔ５のタイミング、４回目に立ち上がるｔ９のタイミング、６回目に立ち上がるｔ１３のタイミング及び８回目に立ち上がるｔ１７のタイミングにおけるデータ信号はＬＯＷ状態であるとともに、クロック信号が３回目に立ち上

がるｔ７のタイミング、５回目に立ち上がるｔ１１のタイミング、及び７回目に立ち上がるｔ１５のタイミングにおけるデータ信号はＨＩ状態である。このように、下側第２ベース値異常信号の外部出力では、出力ポート５７４から外部端子板９７に対して、「００１０１０１０」の順番で信号出力が行われる。

【４０４２】

外部端子板９７の外部側受信端子ＴＢ６にて受信されたデータ信号及びクロック信号は、外部側出力端子ＴＣ６から異常報知器ＥＩに対して出力される。これにより、パチンコ機１０から異常報知器ＥＩに対して下側第２ベース値異常信号が外部出力される。異常報知器ＥＩは、外部端子板９７から受信するデータ信号が３回立ち上がったことに基づいて下側第２ベース値異常信号を受信したことを把握する。

【４０４３】

異常報知器ＥＩでは、パチンコ機１０から上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号のいずれかを受信した場合、当該受信したベース値異常信号に対応する態様でパチンコ機１０におけるベース値の異常を報知する異常報知が行われる。具体的には、パチンコ機１０から上側ベース値異常データを受信した場合に、パチンコ機１０のベース値が上側閾値（０．４０）を上回っていることを示す上側異常報知が行われる。また、パチンコ機１０から下側第１ベース値異常データを受信した場合に、パチンコ機１０のベース値が下側第１閾値（０．３５）を下回っていることを示す下側第１異常報知が行われるとともに、パチンコ機１０から下側第２ベース値異常データを受信した場合に、パチンコ機１０のベース値が下側第２閾値（０．３０）を下回っていることを示す下側第２異常報知が行われる。

【４０４４】

異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信したベース値異常信号（上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号のいずれか）と、異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。異常報知器ＥＩからホールコンピュータＨＣへのベース値異常信号の出力は、ベース値異常信号の種類を把握可能な態様で行われる。ホールコンピュータＨＣは、異常報知器ＥＩから受信する識別子データに基づいて対応するパチンコ機１０を把握するとともに、異常報知器ＥＩから受信するベース値異常信号に基づいてベース値の異常の有無及び異常の種類を把握する。遊技ホールの管理者は、ホールコンピュータＨＣにおいてもパチンコ機１０におけるベース値の異常の有無、及び当該ベース値の異常の種類を把握することができる。

【４０４５】

上記のとおり、上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号は、共通のデータ信号線及びクロック信号線（データ信号線ＬＮ１１及びクロック信号線ＬＮ１２）を利用して外部端子板９７に出力される。このため、各ベース値異常信号を外部端子板９７に出力するためのデータ信号線及びクロック信号線を別々に備えている構成と比較して、データ信号線及びクロック信号線の数を抑えながら、３種類のベース値異常信号を出力することが可能となっている。また、パチンコ機１０からのベース値異常信号を受信するための端子を１つしか備えていない異常報知器ＥＩに対しても本パチンコ機１０を接続して３種類のベース値異常信号を送信することが可能となっている。これにより、当該異常報知器ＥＩにおいて、パチンコ機１０におけるベース値の異常の種類を詳細に把握可能とする上側異常報知、下側第１異常報知及び下側第２異常報知を行うことが可能となっているとともに、ホールコンピュータＨＣにおいてベース値の異常の有無及び異常の種類を詳細に把握することが可能となっている。

【４０４６】

主側ＣＰＵ６３が送信用バッファ５７５にベース値異常データを設定した後、当該ベース値異常データに対応するベース値異常信号の外部端子板９７へのシリアル出力は、主側ＣＰＵ６３による制御を不要とする態様で、出力ポート５７４にて進行する。これにより、主側ＣＰＵ６３においてベース値異常信号を外部出力するための処理に要する時間が短縮されている。

【４０４７】
次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される異常フラグ設定用処理について、図３１３のフローチャートを参照しながら説明する。なお、異常フラグ設定用処理は上記第８５の実施形態における外部情報設定処理（図３０７）のステップＳＪ９０４、及びベース値初期出力用処理（図３１０）のステップＳＫ３０５にて実行される。また、異常フラグ設定用処理におけるステップＳＫ４０１～ステップＳＫ４０９の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【４０４８】
ステップＳＫ４０１～ステップＳＫ４０３では、上記第８５の実施形態における異常フラグ設定用処理（図３０８）のステップＳＫ１０１～ステップＳＫ１０３と同様の処理を実行する。具体的には、まず特定制御用のワークエリア２２１における上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＫ４０１）。既に説明したとおり、上側ベース値異常フラグ５６７は、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回る異常状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。ステップＳＫ４０１にて否定判定を行った場合には、現状エリア３１１におけるベース値が閾値テーブル５７３に設定されている上側閾値（０．４０）を上回っているか否かを判定し（ステップＳＫ４０２）、ベース値が上側閾値を上回っている場合（ステップＳＫ４０２：ＹＥＳ）には、上側ベース値異常フラグ５６７に「１」をセットする（ステップＳＫ４０３）。
【４０４９】
ステップＳＫ４０１にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＫ４０２にて否定判定を行った場合には、特定制御用のワークエリア２２１における下側第１ベース値異常フラグ５７１に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＫ４０４）。既に説明したとおり、下側第１ベース値異常フラグ５７１は、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側第１閾値（０．３５）を下回る異常状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。ステップＳＫ４０４にて否定判定を行った場合、現状エリア３１１におけるベース値が閾値テーブル５７３に設定されている下側第１閾値（０．３５）を下回っているか否かを判定し（ステップＳＫ４０５）、ベース値が下側第１閾値を下回っている場合（ステップＳＫ４０５：ＹＥＳ）には、下側第１ベース値異常フラグ５７１に「１」をセットする（ステップＳＫ４０６）。
【４０５０】
ステップＳＫ４０４にて肯定判定を行った場合、ステップＳＫ４０５にて否定判定を行った場合、又はステップＳＫ４０６の処理を行った場合には、特定制御用のワークエリア２２１における下側第２ベース値異常フラグ５７２に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＫ４０７）。既に説明したとおり、下側第２ベース値異常フラグ５７２は、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側第２側閾値（０．３０）を下回る異常状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。ステップＳＫ４０７にて否定判定を行った場合、現状エリア３１１におけるベース値が閾値テーブル５７３に設定されている下側第２閾値（０．３０）を下回っているか否かを判定し（ステップＳＫ４０８）、ベース値が下側第２閾値を下回っている場合（ステップＳＫ４０８：ＹＥＳ）には、下側第２ベース値異常フラグ５７２に「１」をセットして（ステップＳＫ４０９）、本異常フラグ設定用処理を終了する。
【４０５１】
次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される異常信号出力用処理について、図３１４のフローチャートを参照しながら説明する。なお、異常信号出力用処理は上記第８５の実施形態における外部情報設定処理（図３０７）のステップＳＪ９０７、及びベース値初期出力用処理（図３１０）のステップＳＫ３０８にて実行される。また、異常信号出力用処理におけるステップＳＫ５０１～ステップＳＫ５０９の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。
【４０５２】

ステップＳＫ５０１～ステップＳＫ５０３では、上記第８５の実施形態における異常信号出力用処理（図３０９）のステップＳＫ２０１～ステップＳＫ２０３と同様の処理を実行する。具体的には、特定制御用のワークエリア２２１における上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされている場合（ステップＳＫ５０１：ＹＥＳ）、上側ベース値異常信号の外部出力処理を実行する（ステップＳＫ５０２）。上側ベース値異常信号の外部出力処理では、出力ポート５７４における送信用バッファ５７５に上側ベース値異常データ（具体的には「００００００１０」の１バイトデータ）を設定する。これにより、外部端子板９７を介してシリアル通信で、異常報知器ＥＩに上側ベース値異常信号が外部出力される。異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信するデータ信号が１回立ち上がったことに基づいて上側ベース値異常信号を受信したことを把握する。その後、上側ベース値異常フラグ５６７を「０」クリアする（ステップＳＫ５０３）。

【４０５３】

ステップＳＫ５０１にて否定判定を行った場合、又はステップＳＫ５０３の処理を行った場合には、特定制御用のワークエリア２２１における下側第１ベース値異常フラグ５７１に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＫ５０４）。下側第１ベース値異常フラグ５７１に「１」がセットされている場合（ステップＳＫ５０４：ＹＥＳ）には、下側第１ベース値異常信号の外部出力処理を実行する（ステップＳＫ５０５）。下側第１ベース値異常信号の外部出力処理では、出力ポート５７４における送信用バッファ５７５に下側第１ベース値異常データ（具体的には「００００１０１０」の１バイトデータ）を設定する。これにより、外部端子板９７を介してシリアル通信で、異常報知器ＥＩに下側第１ベース値異常信号が外部出力される。異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信するデータ信号が２回立ち上がったことに基づいて下側第１ベース値異常信号を受信したことを把握する。その後、下側第１ベース値異常フラグ５７１を「０」クリアする（ステップＳＫ５０６）。

【４０５４】

ステップＳＫ５０４にて否定判定を行った場合、又はステップＳＫ５０６の処理を行った場合には、特定制御用のワークエリア２２１における下側第２ベース値異常フラグ５７２に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＫ５０７）。下側第２ベース値異常フラグ５７２に「１」がセットされている場合（ステップＳＫ５０７：ＹＥＳ）には、下側第２ベース値異常信号の外部出力処理を実行する（ステップＳＫ５０８）。下側第２ベース値異常信号の外部出力処理では、出力ポート５７４における送信用バッファ５７５に下側第２ベース値異常データ（具体的には「００１０１０１０」の１バイトデータ）を設定する。これにより、外部端子板９７を介してシリアル通信で、異常報知器ＥＩに下側第２ベース値異常信号が外部出力される。異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信するデータ信号が３回立ち上がったことに基づいて下側第２ベース値異常信号を受信したことを把握する。その後、下側第２ベース値異常フラグ５７２を「０」クリアして（ステップＳＫ５０９）、本異常信号出力用処理を終了する。

【４０５５】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【４０５６】

ベース値が下側第１閾値（０．３５）を下回った場合に下側第１ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力されるとともに、ベース値が下側第２閾値（０．３０）を下回った場合に下側第２ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信したベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータに出力する。異常報知器ＥＩからホールコンピュータＨＣへのベース値異常信号の出力は、ベース値異常信号の種類を把握可能とする態様で行われる。ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下限（０．３５）を下回ったことに基づく下側ベース値異常信号の外部出力が、ベース値の異常の程度に応じて２段階で行われる構成であることにより、ベース値がベース正常範囲の下限を下回った場合におけるベース値の異常状態の種類をホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにて詳

細に把握可能とすることができる。これにより、遊技ホールの管理者は発生したベース値の異常の種類に対応する措置を迅速に行うことが可能となっている。

【４０５７】

ベース値が下側第２閾値（０．３０）を下回った場合には下側第２ベース値異常信号の外部出力が行われる。これにより、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいてベース値の異常が深刻であることを把握可能として、ベース値が第２閾値（０．３０）を下回るような深刻な異常状態であることが気付かれずに放置されてしまう可能性を低減することができる。

【４０５８】

上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号は共通のデータ信号線及びクロック信号線（データ信号線ＬＮ１１及びクロック信号線ＬＮ１２）を利用して異常報知器ＥＩに外部出力される。このため、各ベース値異常信号を外部端子板９７に出力するためのデータ信号線及びクロック信号線を別々に備えている構成と比較して、データ信号線及びクロック信号線の数を抑えながら、３種類のベース値異常信号を出力することが可能となっている。また、パチンコ機１０からのベース値異常信号を受信するための端子を１つしか備えていない異常報知器ＥＩに対しても本パチンコ機１０を接続して３種類のベース値異常信号を送信することが可能となっている。

【４０５９】

主側ＣＰＵ６３が送信用バッファ５７５にベース値異常データを設定した後、当該ベース値異常データに対応するベース値異常信号の外部端子板９７へのシリアル出力は、主側ＣＰＵ６３による制御を不要とする態様で、出力ポート５７４にて進行する。これにより、主側ＣＰＵ６３においてベース値異常信号を外部出力するための処理に要する時間が短縮されている。

【４０６０】

主側ＲＯＭ６４には、ベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値、下側第１閾値及び下側第２閾値が設定された閾値テーブル５７３が予め記憶されている。これにより、主側ＣＰＵ６３にてベース値の異常の有無及び異常の種類を判定して、ベース値の異常の種類に対応するベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力することが可能となっている。

【４０６１】

なお、主側出力端子ＴＡ６から出力されるデータ信号の波形（立ち上がりの回数）に基づいて上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号を識別可能とする構成に代えて、パルス状のデータ信号が出力される回数によってこれらのベース値異常信号を識別可能とする構成としてもよい。具体的には、上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされている状態でベース値異常信号の出力契機が発生した場合には、外部情報設定処理（図３０７）の１回の処理回においてパルス状のデータ信号を異常報知器ＥＩに外部出力する。下側第１ベース値異常フラグ５７１に「１」がセットされている状態でベース値異常信号の出力契機が発生した場合には、外部情報設定処理（図３０７）の２回の処理回に亘ってパルス状のデータ信号を異常報知器ＥＩに外部出力する。下側第２ベース値異常フラグ５７２に「１」がセットされている状態でベース値異常信号の出力契機が発生した場合には、外部情報設定処理（図３０７）の３回の処理回に亘ってパルス状のデータ信号を異常報知器ＥＩに外部出力する。異常報知器ＥＩは、ベース値異常信号を受信する度に、ベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。当該構成において、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩは、パルス状のデータ信号を単独で受信した場合に上側ベース値異常信号を受信したことを把握し、パルス状のデータ信号を２回連続で受信した場合に下側第１ベース値異常信号を受信したことを把握し、パルス状のデータ信号を３回連続で受信した場合に下側第２ベース値異常信号を受信したことを把握することができる。

【４０６２】

また、上側ベース値異常信号の外部出力、下側第１ベース値異常信号の外部出力及び下

側第２ベース値異常信号の外部出力が共通のデータ信号線及びクロック信号線を利用して行われる構成に代えて、上側ベース値異常信号の外部出力、下側第１ベース値異常信号の外部出力及び下側第２ベース値異常信号の外部出力が異なるデータ信号線及びクロック信号線を利用して行われる構成としてもよい。当該構成では、上側ベース値異常信号の波形、下側第１ベース値異常信号の波形及び下側第２ベース値異常信号の波形を同一のものとしながらベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている異常状態と、ベース値が下側第１閾値（０．３５）を下回っている異常状態と、ベース値が下側第２閾値（０．３０）を下回っている異常状態とを識別可能な態様でベース値異常信号の外部出力を実行可能とすることができる。

【４０６３】

また、異常報知器ＥＩに３種類のベース値異常信号を外部出力するための構成は、シリアル通信でベース値異常信号を外部出力する構成に限定されない。例えば、ＭＰＵ６２と外部端子板９７とが２ビット単位のベース値異常信号をパラレル通信で出力可能な１つの信号経路で接続されている構成としてもよい。この場合、例えば、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている場合には２進数表記で「０１」のデータ信号を異常報知器ＥＩに外部出力し、ベース値が下側第１閾値（０．３５）を下回っている場合には２進数表記で「１０」のデータ信号を異常報知器ＥＩに外部出力し、ベース値が下側第２閾値（０．３０）を下回っている場合に２進数表記で「１１」のデータ信号を異常報知器ＥＩに外部出力する。異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信した「０１」、「１０」及び「１１」のいずれかのデータ信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。これにより、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいて、ベース値が上側閾値を上回っている異常状態と、ベース値が下側第１閾値を下回っている異常状態と、ベース値が下側第２閾値を下回っている異常状態とを識別可能な態様で、ベース値の異常状態を把握することが可能となる。

【４０６４】

＜第８７の実施形態＞

本実施形態では異常報知器ＥＩに外部出力可能なベース値異常信号の数及び種類が上記第８５の実施形態を相違している。以下、上記第８５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第８５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【４０６５】

本実施形態では、ベース値の異常を示す信号として共通ベース値異常信号と、上側ベース値異常信号と、下側ベース値異常信号とを異常報知器ＥＩに外部出力することが可能となっている。共通ベース値異常信号は、ベース値が上側閾値（０．４０）を上回った場合と、ベース値が下側閾値（０．３５）を下回った場合との両方の場合に共通して外部出力されるベース値異常信号である。上記第８５の実施形態と同様に、上側ベース値異常信号はベース値が上側閾値（０．４０）を上回った場合に外部出力されるベース値異常信号であるとともに、下側ベース値異常信号はベース値が下側閾値（０．３５）を下回った場合に外部出力されるベース値異常信号である。

【４０６６】

図３１５（ａ）及び図３１５（ｂ）は本実施形態における共通ベース値異常信号、上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号を外部出力するための構成を説明するためのブロック図である。図３１５（ａ）及び図３１５（ｂ）に示すように、ＭＰＵ６２には、上記第８５の実施形態と同様に、主側ＣＰＵ６３から上側ベース値異常信号を出力ための主側出力端子ＴＡ４と、主側ＣＰＵ６３から下側ベース値異常信号を出力するための主側出力端子ＴＡ５とが設けられている。また、外部端子板９７には、上記第８５の実施形態と同様に、上側ベース値異常信号を受信するための外部側受信端子ＴＢ４と、下側ベース値異常信号を受信するための外部側受信端子ＴＢ５とが設けられている。上記第８５の実施形態と同様に、主側出力端子ＴＡ４と外部側受信端子ＴＢ４とは上側データ信号線ＬＮ

７及び上側クロック信号線ＬＮ８を利用して電気的に接続されているとともに、主側出力端子ＴＡ５と外部側受信端子ＴＢ５とは下側データ信号線ＬＮ９及び下側クロック信号線ＬＮ１０を利用して電気的に接続されている。

【４０６７】

本実施形態におけるＭＰＵ６２には、主側ＣＰＵ６３から共通ベース値異常信号を出力するための主側出力端子ＴＡ７が設けられているとともに、本実施形態における外部端子板９７には、当該共通ベース値異常信号を受信するための外部側受信端子ＴＢ７が設けられている。主側出力端子ＴＡ７と外部側受信端子ＴＢ７とは共通データ信号線ＬＮ１３及び共通クロック信号線ＬＮ１４を利用して電気的に接続されている。これらの信号線ＬＮ７～ＬＮ１０，ＬＮ１３，ＬＮ１４はいずれも主側ＣＰＵ６３から外部端子板９７に一方向通信で信号を送信するための信号線である。

【４０６８】

共通データ信号線ＬＮ１３を利用して主側ＣＰＵ６３から外部端子板９７に共通ベース値異常信号がシリアル通信で送信される。この場合、シリアル通信による共通ベース値異常信号の各１ビットの区切りが、共通クロック信号線ＬＮ１４を利用して主側ＣＰＵ６３から外部端子板９７に送信されるクロック信号により示される。

【４０６９】

外部端子板９７には、上記第８５の実施形態と同様に、外部側受信端子ＴＢ４にて受信した上側ベース値異常信号を異常報知器ＥＩに出力するための外部側出力端子ＴＣ４と、外部側受信端子ＴＢ５にて受信した下側ベース値異常信号を異常報知器ＥＩに出力するための外部側出力端子ＴＣ５とが設けられている。また、本実施形態における外部端子板９７には、外部側受信端子ＴＢ７にて受信した共通ベース値異常信号を異常報知器ＥＩに出力するための外部側出力端子ＴＣ７が設けられている。

【４０７０】

本実施形態では、異常報知器ＥＩに対して共通ベース値異常信号のみを出力する接続態様と、異常報知器ＥＩに対して上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号を出力する接続態様とを遊技ホールにおいて選択可能となっている。

【４０７１】

異常報知器ＥＩに対して共通ベース値異常信号のみを外部出力する接続態様では、図３１５（ａ）に示すように、外部端子板９７における外部側出力端子ＴＣ７と異常報知器ＥＩとが電気的に接続される一方、外部側出力端子ＴＣ４，ＴＣ５と異常報知器ＥＩとは電気的に接続されない。異常報知器ＥＩでは、パチンコ機１０から共通ベース値異常信号を受信したことに基づいてパチンコ機１０のベース値の異常を報知する共通異常報知が行われる。また、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信した共通ベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子とを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。これにより、パチンコ機１０におけるベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている状態であることを異常報知器ＥＩ及びホールコンピュータＨＣにおいて把握可能となる。

【４０７２】

異常報知器ＥＩに対して上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号を外部出力する接続態様では、図３１５（ｂ）に示すように、外部端子板９７における外部側出力端子ＴＣ４，ＴＣ５と異常報知器ＥＩとが電気的に接続される一方、外部側出力端子ＴＣ７と異常報知器ＥＩとは電気的に接続されない。

【４０７３】

異常報知器ＥＩでは、パチンコ機１０から上側ベース値異常信号を受信したことに基づいてパチンコ機１０におけるベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている状態であることを報知する上側異常報知が行われる。また、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信した上側ベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子とを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。これにより、パチンコ機１０におけるベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．

４０）を上回っている状態であることを異常報知器ＥＩ及びホールコンピュータＨＣにおいて把握可能となる。

【４０７４】

異常報知器ＥＩでは、パチンコ機１０から下側ベース値異常信号を受信したことに基づいてパチンコ機１０におけるベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っている状態であることを報知する下側異常報知が行われる。また、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信した下側ベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子とを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。これにより、パチンコ機１０におけるベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っている状態であることを異常報知器ＥＩ及びホールコンピュータＨＣにおいて把握可能となる。

【４０７５】

このように、異常報知器ＥＩに対して１つの信号経路を用いて１種類のベース値異常信号（共通ベース値異常信号）を外部出力する接続態様と、２つの信号経路を用いて２種類のベース値異常信号（上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号）を外部出力する接続態様とを選択可能であることにより、パチンコ機１０からのベース値異常信号を受信するための端子を１つしか備えていない異常報知器ＥＩ及びパチンコ機１０からのベース値異常信号を受信するための端子を２つ備えている異常報知器ＥＩのいずれに対してもベース値異常信号を送信することが可能となっている。

【４０７６】

異常報知器ＥＩに対して共通ベース値異常信号を外部出力する接続態様（図３１５（ａ））では、異常報知器ＥＩ及びホールコンピュータＨＣにおいてパチンコ機１０のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている状態であることを把握可能とすることができる。これにより、遊技ホールの管理者に対して、パチンコ機１０における遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスを行う契機、及び遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無を確認する契機を与えることができる。

【４０７７】

異常報知器ＥＩに対して上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号を外部出力する接続態様（図３１５（ｂ））では、異常報知器ＥＩ及びホールコンピュータＨＣにおいてパチンコ機１０のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている状態であることを把握可能として、遊技ホールの管理者に対して、遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無を確認する契機を与えることができるとともに、ベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っている状態であることを把握可能として、遊技ホールの管理者に対して、パチンコ機１０における遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスを行う契機を与えることができる。

【４０７８】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される異常信号出力用処理について、図３１６のフローチャートを参照しながら説明する。なお、異常信号出力用処理は上記第８５の実施形態における外部情報設定処理（図３０７）のステップＳＪ９０７、及びベース値初期出力用処理（図３１０）のステップＳＫ３０８にて実行される。また、異常信号出力用処理におけるステップＳＫ６０１～ステップＳＫ６０８の処理は、主側ＣＰＵ６３における特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【４０７９】

異常信号出力用処理では、まず特定制御用のワークエリア２２１における上側ベース値異常フラグ５６７及び下側ベース値異常フラグ５６８のいずれかに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＫ６０１）。ステップＳＫ６０１にて肯定判定を行った場合には、共通ベース値異常信号の外部出力処理を実行する（ステップＳＫ６０２）。共通ベース値異常信号の外部出力処理では、ＭＰＵ６２における主側出力端子ＴＡ７から

共通クロック信号線ＬＮ１４に対してパルス状のクロック信号が出力されている状況において当該主側出力端子ＴＡ７から共通データ信号線ＬＮ１３に出力されている信号をＬＯＷからＨＩに立ち上げた後、当該信号をＨＩからＬＯＷに立ち下げる。これにより、外部端子板９７における外部側出力端子ＴＣ７と異常報知器ＥＩとが電気的に接続されている場合には、外部端子板９７を介して共通ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。既に説明したとおり、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信した共通ベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。これにより、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいてベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている異常状態であること把握可能とすることができる。

【４０８０】

その後、ステップＳＫ６０３～ステップＳＫ６０８では、上記第８５の実施形態の異常信号出力用処理（図３０９）におけるステップＳＫ２０１～ステップＳＫ２０６の処理と同様の処理を実行する。具体的には、特定制御用のワークエリア２２１における上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされている場合（ステップＳＫ６０３：ＹＥＳ）、上側ベース値異常信号の外部出力処理を実行する（ステップＳＫ６０４）。上側ベース値異常信号の外部出力処理では、ＭＰＵ６２における主側出力端子ＴＡ４から上側クロック信号線ＬＮ８に対してパルス状のクロック信号が出力されている状況において当該主側出力端子ＴＡ４から上側データ信号線ＬＮ７に出力されている信号をＬＯＷからＨＩに立ち上げた後、当該信号をＨＩからＬＯＷに立ち下げる。これにより、外部端子板９７における外部側出力端子ＴＣ４と異常報知器ＥＩとが電気的に接続されている場合には、外部端子板９７を介して、上側ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。既に説明したとおり、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信した上側ベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。これにより、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいてベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている異常状態であることを把握可能とすることができる。その後、上側ベース値異常フラグ５６７を「０」クリアする（ステップＳＫ６０５）。

【４０８１】

ステップＳＫ６０３にて否定判定を行った場合、又はステップＳＫ６０５の処理を行った場合には、特定制御用のワークエリア２２１における下側ベース値異常フラグ５６８に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＫ６０６）。下側ベース値異常フラグ５６８に「１」がセットされている場合（ステップＳＫ６０６：ＹＥＳ）には、下側ベース値異常信号の外部出力処理を実行する（ステップＳＫ６０７）。下側ベース値異常信号の外部出力処理では、ＭＰＵ６２における主側出力端子ＴＡ５から下側クロック信号線ＬＮ１０に対してパルス状のクロック信号が出力されている状況において当該主側出力端子ＴＡ５から下側データ信号線ＬＮ９に出力されている信号をＬＯＷからＨＩに立ち上げた後、当該信号をＨＩからＬＯＷに立ち下げる。これにより、外部端子板９７における外部側出力端子ＴＣ５と異常報知器ＥＩとが電気的に接続されている場合には、外部端子板９７を介して、下側ベース値異常信号が異常報知器ＥＩに外部出力される。既に説明したとおり、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信した下側ベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。これにより、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいてベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っている異常状態であることを把握可能とすることができる。その後、下側ベース値異常フラグ５６８を「０」クリアして（ステップＳＫ６０８）、本異常信号出力用処理を終了する。

【４０８２】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【４０８３】

外部端子板９７には、主側ＣＰＵ６３から受信した共通ベース値異常信号を異常報知器

ＥＩに外部出力するための外部側出力端子ＴＣ７と、主側ＣＰＵ６３から受信した上側ベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力するための外部側出力端子ＴＣ４と、主側ＣＰＵ６３から受信した下側ベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力するための外部側出力端子ＴＣ５とが設けられている。外部端子板９７と異常報知器ＥＩとの接続態様として、１つの信号経路を用いて共通ベース値異常信号のみを外部出力する接続態様と、２つの信号経路を用いて上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号を出力する接続態様とを選択可能である。これにより、パチンコ機１０からのベース値異常信号を受信するための端子を１つ備えている異常報知器ＥＩ、及びパチンコ機１０からのベース値異常信号を受信するための端子を２つ備えている異常報知器ＥＩのいずれに対してもベース値の異常を報知することを可能とすることができる。

【４０８４】

外部端子板９７と異常報知器ＥＩとが１つの信号経路を用いて電気的に接続されている場合、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信した共通ベース値異常信号と、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。これにより、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいてベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている異常状態であることを把握可能とすることができる。また、外部端子板９７と異常報知器ＥＩとが２つの信号経路を用いて電気的に接続されている場合、異常報知器ＥＩは、パチンコ機１０から受信した上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号のいずれかと、当該異常報知器ＥＩの識別子データとを含む情報をホールコンピュータＨＣに出力する。これにより、ホールコンピュータＨＣ及び異常報知器ＥＩにおいてベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の上側閾値（０．４０）を上回っている異常状態であること、及びベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）の下側閾値（０．３５）を下回っている異常状態であることを把握可能とすることができる。

【４０８５】

＜第８８の実施形態＞

本実施形態では不規則なタイミングでデモ演出が開始される点で上記第７７の実施形態と相違している。以下、上記第７７の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第７７の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【４０８６】

上記第７７の実施形態と同様に、デモ演出は、開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングで開始される。本実施形態では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値として設定される数値情報が複数（具体的には４種類）存在している。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達している状態でデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新処理（音光側タイマ割込み処理（図２８４）のステップＳＩ６０１）が行われ、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「０」クリアされる度にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値を決定するための最大値抽選が行われる。そして、当該最大値抽選の抽選結果に対応する態様でデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値が変更される。このため、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングが不規則となり、不規則なタイミングでデモ演出を開始することが可能となる。

【４０８７】

図３１７は本実施形態における音声発光制御基板３５１の電気的構成を説明するための説明図である。図３１７に示すように、音声発光制御基板３５１には、音光側ＭＰＵ３５２と、乱数用メモリ５７８とが搭載されている。上記第４９の実施形態で説明したとおり、音光側ＭＰＵ３５２には、音光側ＣＰＵ３５３、音光側ＲＯＭ３５４及び音光側ＲＡＭ３５５が内蔵されている。上記第７７の実施形態と同様に、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態において、音光側ＲＡＭ３５５には情報を記憶保持するためのバックアップ電力は供給されない。

【４０８８】

本実施形態における音光側ＲＡＭ３５５には、上記第７７の実施形態における初期化対象外エリア５５４及び初期化対象エリア５５５は設けられていない。図３１７に示すように、音光側ＲＡＭ３５５には、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａ、最大値カウンタ５７９、待ち状態用タイマカウンタ５５５ａ及び待ち状態フラグ５５５ｂが設けられている。

【４０８９】

デモ開始用タイマカウンタ５５４ａは、上記第７７の実施形態と同様に、開始待ち状態におけるデモ演出の開始タイミングを音光側ＣＰＵ３５３において把握可能とするタイマカウンタである。また、最大値カウンタ５７９は、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値を音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするカウンタである。最大値カウンタ５７９には、最大値抽選の結果に応じて「２５９９」、「２９９９」、「３３９９」及び「３７９９」のいずれかの数値情報が設定される。

【４０９０】

上記第７７の実施形態と同様に、待ち状態用タイマカウンタ５５５ａは、遊技回用演出及び開閉実行モード用の演出のいずれもが実行されていない期間が予め定められた期間（具体的には１０分間）となったことを音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするタイマカウンタであるとともに、待ち状態フラグ５５５ｂは、開始待ち状態であることを音光側ＣＰＵ３５３にて把握可能とするフラグである。待ち状態用タイマカウンタ５５５ａの最大値は予め「１２００００」に設定されている。

【４０９１】

乱数用メモリ５７８はＳＲＡＭ及びＤＲＡＭなどの記憶保持に外部からの電力供給が必要なメモリ（すなわち、揮発性記憶手段）であり、読み書き両用として利用される。乱数用メモリ５７８には、上述した最大値抽選に用いられる抽選用乱数情報が格納される抽選用乱数カウンタ５７８ａが設けられている。抽選用乱数カウンタ５７８ａは、「０」～「２５５」の数値範囲で順に１ずつ加算され、最大値に達した後に「０」に戻るループカウンタである。

【４０９２】

抽選用乱数カウンタ５７８ａに格納されている抽選用乱数情報は、後述する抽選用乱数の更新処理（音光側立ち上げ処理（図３１８）のステップＳＫ７１８）において更新される。抽選用乱数の更新処理において、音光側ＣＰＵ３５３は、抽選用乱数カウンタ５７８ａに格納されている抽選用乱数情報を読み出し、その読み出した抽選用乱数情報に「１」を加算する処理を実行した後に、当該「１」加算後の抽選用乱数情報を抽選用乱数カウンタ５７８ａに上書きする処理を実行する。抽選用乱数の更新処理では、当該「１」加算後の抽選用乱数情報が最大値（具体的には「２５５」）を超えた場合、更新後の抽選用乱数情報として、抽選用乱数カウンタ５７８ａに「０」の数値情報を上書きする。

【４０９３】

乱数用メモリ５７８には、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態において情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給される。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態においても抽選用乱数カウンタ５７８ａにおける抽選用乱数情報が記憶保持される。但し、これに限定されることはなく乱数用メモリ５７８が情報の記憶保持に外部からの電力供給を必要としないＥＥＰＲＯＭなどであってもよい。

【４０９４】

次に、本実施形態における音光側ＣＰＵ３５３にて実行される音光側立ち上げ処理について、図３１８のフローチャートを参照しながら説明する。なお、音光側立ち上げ処理はパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合に実行される。

【４０９５】

音光側立ち上げ処理では、まず音光側ＲＡＭクリア処理を実行する（ステップＳＫ７０１）。音光側ＲＡＭクリア処理では、音光側ＲＡＭ３５５における全記憶エリアの「０」クリア及び初期設定を行う。上述したとおり、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合、音光側ＲＡＭ３５５にはバックアップ電力は供給されない。このため、パチ

ンコ機１０への動作電力の供給が開始された直後、音光側ＲＡＭ３５５の記憶エリアは不定な状態となっている。ステップＳＫ７０１にて音光側ＲＡＭクリア処理を実行することにより、音光側ＲＡＭ３５５の記憶エリアにおける当該不定な状態を解消することができる。

【４０９６】

その後、ステップＳＫ７０２～ステップＳＫ７０６では、上記第７７の実施形態における音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５０４～ステップＳＩ５０８と同一の処理を実行する。ステップＳＫ７０６にて主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信したと判定した場合、音光側ＲＡＭ初期設定処理を実行する（ステップＳＫ７０７）。音光側ＲＡＭ初期設定処理では、音光側ＲＡＭ３５５の全記憶エリアの「０」クリア及び初期設定を行う。また、当該音光側ＲＡＭ３５５の全記憶エリアの「０」クリア及び初期設定に際して、更新時報知が行われている場合には当該更新時報知を終了させるとともに、確認時報知が行われている場合には当該確認時報知を終了させる。

【４０９７】

ステップＳＫ７０７における音光側ＲＡＭ初期設定処理では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「０」クリアされる。本実施形態では、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から受信した復帰コマンドが通常復帰コマンド、確認時の復帰コマンド、更新時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれであっても音光側ＲＡＭ初期化初期設定処理が実行されてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「０」クリアされる。また、ステップＳＫ７０７における音光側ＲＡＭ初期設定処理では、音光側ＲＡＭ３５５における最大値カウンタ５７９の値が「０」クリアされる。最大値カウンタ５７９には、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始されるよりも先に、後述する最大値設定処理（ステップＳＫ７１６）にてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値が設定される。

【４０９８】

ステップＳＫ７０７にて音光側ＲＡＭ初期設定処理を実行した後、音光側ＲＡＭ３５５における待ち状態フラグ５５５ｂに「１」をセットして、開始待ち状態を開始させる（ステップＳＫ７０８）。その後、ステップＳＫ７０９～ステップＳＫ７１５では、上記第７７の実施形態における音光側立ち上げ処理（図２８３）のステップＳＩ５１１～ステップＳＩ５１７と同一の処理を実行する。

【４０９９】

ステップＳＫ７１０にて通常復帰報知の設定処理を実行した場合、ステップＳＫ７１２にて更新後報知の設定処理を実行した場合、ステップＳＫ７１４にて確認後報知の設定処理を実行した場合、又はステップＳＫ７１５にてクリア復帰報知の設定処理を実行した場合には、最大値設定処理を実行する（ステップＳＫ７１６）。最大値設定処理では、最大値抽選を行い、当該最大値抽選の抽選結果に対応する数値情報を音光側ＲＡＭ３５５における最大値カウンタ５７９に設定することにより、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値を設定する。なお、最大値設定処理の詳細については後述する。

【４１００】

音光側ＣＰＵ３５３は、上記第７７の実施形態と同様に、音光側タイマ割込み処理（図２８４）を定期的に実行する構成であるが、音光側立ち上げ処理（図３１８）が開始された段階においては音光側タイマ割込み処理（図２８４）の発生が禁止されている。この音光側タイマ割込み処理（図２８４）の発生が禁止された状態は、ステップＳＫ７１６の処理が完了してステップＳＫ７１７の処理が実行される前のタイミングで解除され、音光側タイマ割込み処理（図２８４）の実行が許可される。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後、ステップＳＫ７１６における最大値設定処理が行われて最大値カウンタ５７９にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値が設定されるまで、音光側タイマ割込み処理（図２８４）は実行されない。最大値カウンタ５７９にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値が設定された後に、音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可されてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始される。

【４１０１】

その後、ステップＳＫ７１７～ステップＳＫ７１９の音光側残余処理に進む。上述したとおり、音光側ＣＰＵ３５３は音光側タイマ割込み処理（図２８４）を定期的に実行する構成であるが、１の音光側タイマ割込み処理と次の音光側タイマ割込み処理との間に残余時間が生じることとなる。この残余時間は音光側タイマ割込み処理（図２８４）の処理完了時間に応じて変動することとなるが、かかる不規則な時間を利用してステップＳＫ７１７～ステップＳＫ７１９の音光側残余処理を繰り返し実行する。この点、当該ステップＳＫ７１７～ステップＳＫ７１９の音光側残余処理は非定期的に実行される非定期処理であると言える。

【４１０２】

音光側残余処理では、まずステップＳＫ７１７にて、音光側タイマ割込み処理（図２８４）の発生を禁止するために割込み禁止の設定を行う。続くステップＳＫ７１８では、抽選用乱数の更新処理を実行する。既に説明したとおり、ステップＳＫ７１８における抽選用乱数の更新処理では、乱数用メモリ５７８における抽選用乱数カウンタ５７８ａに格納されている抽選用乱数情報を読み出し、その読み出した抽選用乱数情報に「１」を加算する処理を実行した後に、当該「１」加算後の抽選用乱数情報を抽選用乱数カウンタ５７８ａに上書きする。抽選用乱数の更新処理では、当該「１」加算後の抽選用乱数情報が最大値（具体的には「２５５」）を超えた場合、更新後の抽選用乱数情報として、抽選用乱数カウンタ５７８ａに「０」の数値情報を上書きする。その後、ステップＳＫ７１９にて、音光側タイマ割込み処理（図２８４）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換える割込み許可の設定を行う。ステップＳＫ７１９の処理を実行した場合、ステップＳＫ７１７に戻り、ステップＳＫ７１７～ステップＳＫ７１９の音光側残余処理を繰り返す。

【４１０３】

上記のとおり、音光側タイマ割込み処理（図２８４）の処理完了時間に応じて変動する不規則な残余時間を利用して抽選用乱数カウンタ５７８ａにおける抽選用乱数情報が更新される構成である。これにより、最大値抽選に用いられる抽選用乱数情報が特定の数値範囲に偏ってしまうことが防止されているとともに、最大値抽選の結果に設計段階で意図していない傾向が生じてしまうことが防止されている。

【４１０４】

既に説明したとおり、抽選用乱数カウンタ５７８ａに格納されている抽選用乱数情報は、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態においても記憶保持される。また、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されてから音光側立ち上げ処理（図３１８）のステップＳＫ７１６にて最大値設定処理が行われるまでに抽選用乱数カウンタ５７８ａの値は「０」クリアされない。これにより、複数のパチンコ機１０において、動作電力の供給が開始されてから音光側立ち上げ処理（図３１８）のステップＳＫ７１６にて最大値設定処理が行われるまでの時間が略同一の時間であったとしても、偶然一致の場合を除いて、最大値抽選に用いられる抽選用乱数情報の値を異なる値とすることが可能となっている。これにより、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給を開始した場合に、当該複数のパチンコ機１０において最初に実行される最大値抽選の結果が全て同一となってしまうことが防止されている。

【４１０５】

上記第７７の実施形態において既に説明したとおり、設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）は、設定キーを利用して設定キー挿入部６８ａをＯＮ状態からＯＦＦ状態に切り換える操作が行われることを条件として終了する。設定確認用処理（図１６６）及び設定値更新処理（図１６７）の終了タイミングは人の操作（遊技ホールの管理者による操作）が行われるタイミングによって変動するため、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されてから音光側ＣＰＵ３５３が確認時の復帰コマンド又は更新時の復帰コマンドを受信するまでの期間は、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始されてから音光側ＣＰＵ３５３が通常復帰コマンド又はクリア時の復帰コマンドを受信するまでの期間とは異なる期間となる。本実施形態では、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３か

らいずれかの復帰コマンドを受信したことに基づいて行われる処理（ステップＳＫ７０２～ステップＳＫ７１５の処理）が終了した後に音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可されてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始される。このため、複数のパチンコ機１０に対して動作電力の供給が同時に開始されたとしても、当該複数のパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始されるタイミングは、「設定確認操作」及び「設定変更操作」の有無によって異なるタイミングとなる。

【４１０６】

既に説明したとおり、デモ演出は、開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングで開始される。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新が開始された後、定期的にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達する構成では、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始された場合、当該動作電力の供給開始に際して「設定確認操作」又は「設定変更操作」が行われたパチンコ機１０と、「設定確認操作」及び「設定変更操作」が行われなかったパチンコ機１０とにおいて、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングにずれが生じるとともに、開始待ち状態におけるデモ演出の開始タイミングにずれが生じる。このため、当該構成では、デモ演出の開始タイミングに基づいて「設定確認操作」又は「設定変更操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうおそれがある。

【４１０７】

これに対して本実施形態では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値が不規則に更新されることにより、動作電力の供給開始時における「設定確認操作」及び「設定変更操作」の有無に関わらず、意図的に、複数のパチンコ機１０においてデモ演出の開始タイミングがずれている状況が作り出される構成である。これにより、デモ演出の開始タイミングに基づいて、複数のパチンコ機１０の中から「設定確認操作」又は「設定変更操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことを防止することができる。

【４１０８】

次に、音光側ＣＰＵ３５３にて実行される最大値設定処理について、図３１９（ａ）のフローチャートを参照しながら説明する。なお、最大値設定処理は、音光側立ち上げ処理（図３１８）のステップＳＫ７１６、及び後述するデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新処理（図３２０）のステップＳＫ９０５にて実行される。

【４１０９】

最大値設定処理では、最大値抽選に用いる最大値抽選テーブルを音光側ＲＯＭ３５４から音光側ＲＡＭ３５５に読み出す（ステップＳＫ８０１）。図３１９（ｂ）は最大値抽選テーブル５８１を説明するための説明図である。図３１９（ｂ）に示すように、最大値抽選テーブル５８１には、当該最大値抽選後に音光側ＲＡＭ３５５における最大値カウンタ５７９にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値として設定される数値情報として「２５９９」、「２９９９」、「３３９９」及び「３７９９」が設定されている。

【４１１０】

最大値抽選では、抽選用乱数カウンタ５７８ａから読み出される抽選用乱数情報が「０」～「６３」の数値範囲である場合には最大値カウンタ５７９に「２５９９」が設定され、当該抽選用乱数情報が「６４」～「１２７」の数値範囲である場合には最大値カウンタ５７９に「２９９９」が設定され、当該抽選用乱数情報が「１２８」～「１９１」の数値範囲である場合には最大値カウンタ５７９に「３３９９」が設定され、当該抽選用乱数情報が「１９２」～「２５５」の数値範囲である場合には最大値カウンタ５７９に「３７９９」が設定される。最大値抽選において、当該最大値抽選後に最大値カウンタ５７９に「２５９９」が設定される確率、最大値カウンタ５７９に「２９９９」が設定される確率、最大値カウンタ５７９に「３３９９」が設定される確率、及び最大値カウンタ５７９に「３７９９」が設定される確率は、「１／４」で同一となっている。

【４１１１】

最大値設定処理（図３１９（ａ））の説明に戻り、ステップＳＫ８０１にて最大値抽選テーブル５８１を読み出した後、乱数用メモリ５７８における抽選用乱数カウンタ５７８

ａに格納されている抽選用乱数情報を読み出す（ステップＳＫ８０２）。その後、ステップＳＫ８０２にて読み出した抽選用乱数情報をステップＳＫ８０１にて読み出した最大値抽選テーブル５８１と照合することによりデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値として最大値カウンタ５７９に設定する数値情報を特定する（ステップＳＫ８０３）。そして、当該特定した数値情報を最大値カウンタ５７９に設定して（ステップＳＫ８０４）、本最大値設定処理を終了する。これにより、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値が更新される。

【４１１２】

上記第７７の実施形態において既に説明したとおり、開始待ち演出用処理（図２８５）では、音光側ＲＡＭ３５５における開始待ち演出中フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＩ７０６：ＹＥＳ）、すなわち図柄表示装置４１において開始待ち演出（デモ演出又は待機図柄表示のいずれか）が行われている場合には、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が「１９９９」である場合（ステップＳＩ７１０：ＹＥＳ）に、待機図柄表示の開始設定処理が実行される（ステップＳＩ７１１）。また、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値である場合（ステップＳＩ７１２：ＹＥＳ）に、デモ演出の開始設定処理が実行される（ステップＳＩ７０９）。本実施形態では、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値として「２５９９」が設定された場合、１０秒間に亘ってデモ演出が実行された後、３秒間に亘って待機図柄表示が実行される。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値として「２９９９」が設定された場合、１０秒間に亘ってデモ演出が実行された後、５秒間に亘って待機図柄表示が実行される。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値として「３３９９」が設定された場合、１０秒間に亘ってデモ演出が実行された後、７秒間に亘って待機図柄表示が実行される。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値として「３７９９」が設定された場合、１０秒間に亘ってデモ演出が実行された後、９秒間に亘って待機図柄表示が実行される。

【４１１３】

次に、音光側ＣＰＵ３５３にて実行されるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新処理について図３２０のフローチャートを参照しながら説明する。なお、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新処理は音光側タイマ割込み処理（図２８４）のステップＳＩ６０１にて実行される。

【４１１４】

デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新処理では、まず音光側ＲＡＭ３５５におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値を１加算する（ステップＳＫ９０１）。その後、最大値カウンタ５７９に設定されているデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値を把握する（ステップＳＫ９０２）。そして、ステップＳＫ９０１にて１加算した後のデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値がステップＳＫ９０２にて把握した最大値を上回っているか否かを判定する（ステップＳＫ９０３）。

【４１１５】

ステップＳＫ９０３にてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値を上回っていないと判定した場合には、そのまま本デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新処理を終了する。一方、ステップＳＫ９０３にてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値を上回っていると判定した場合には、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値を「０」クリアする（ステップＳＫ９０４）。その後、図３１９（ａ）を参照しながら既に説明した最大値設定処理を実行して（ステップＳＫ９０５）、本デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新処理を終了する。ステップＳＫ９０５における最大値設定処理が実行されることにより、最大値抽選における抽選結果に対応する態様でデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値が更新される。

【４１１６】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【４１１７】

デモ演出は、開始待ち状態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に

達したタイミングで開始される。デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達した後、「０」クリアされたタイミングで最大値抽選が行われ、当該最大値抽選における抽選結果に対応する態様でデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値が更新される。これにより、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングを不規則なタイミングとして、開始待ち状態において不規則なタイミングでデモ演出を開始させることができる。また、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始された場合、当該動作電力の供給開始時における「設定確認操作」及び「設定変更操作」の有無に関わらず、意図的に、複数のパチンコ機１０においてデモ演出の開始タイミングがずれている状況を作り出すことができる。これにより、デモ演出の開始タイミングに基づいて、複数のパチンコ機１０の中から「設定確認操作」又は「設定変更操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことを防止することができる。

【４１１８】

最大値抽選に用いられる抽選用乱数情報は、音光側タイマ割込み処理（図２８４）の処理完了時間に応じて変動する不規則な残余時間を利用して更新される。これにより、最大値抽選に用いられる抽選用乱数情報が特定の数値範囲に偏ってしまうことが防止されているとともに、最大値抽選の結果に設計段階で意図していない傾向が生じてしまうことが防止されている。

【４１１９】

音光側タイマ割込み処理（図２８４）の処理完了時間は、遊技者による発射操作装置２８の操作態様及び遊技球の入球態様等によって変動する。また、抽選用乱数カウンタ５７８ａに格納されている抽選用乱数情報は、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態においても記憶保持される。このため、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始され、当該動作電力の供給が開始されてから最初に最大値抽選が行われるまでの時間が略同一の時間であったとしても、偶然一致の場合を除き、当該複数のパチンコ機１０において最大値抽選に用いられる抽選用乱数情報の値を異なるものとすることができる。これにより、複数のパチンコ機１０において、最大値抽選に用いられる抽選用乱数の値を異なるものとすることが可能となっているとともに、当該複数のパチンコ機１０において動作電力の供給開始直後に実行される最大値抽選の結果が全て同一となってしまうことが防止されている。

【４１２０】

なお、複数のパチンコ機１０において最大値抽選に用いられる抽選用乱数情報を異なる値とするための構成は、抽選用乱数情報の更新を非定期的に実行される音光側残余処理の中で行う構成に限定されない。例えば、音光側タイマ割込み処理（図２８４）において、開始待ち状態であることを条件として、抽選用乱数の更新処理（音光側立ち上げ処理（図３１８）のステップＳＫ７１８）が実行される構成としてもよい。開始待ち状態の開始タイミング及び終了タイミングは遊技者による発射操作装置２８の操作態様及び遊技球の入球態様等によって変動する。このため、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始された場合であっても、その後に抽選用乱数の更新処理（音光側立ち上げ処理（図３１８）のステップＳＫ７１８）が実行される回数は、遊技者による発射操作装置２８の操作態様及び遊技球の入球態様等によって変動する。これにより、複数のパチンコ機１０において最大値抽選に用いられる抽選用乱数情報を異なる値とすることができる。

【４１２１】

また、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された直後に特定の数値範囲に偏ることのない抽選用数値情報を取得するための構成は、音声発光制御基板３５１に情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給される乱数用メモリ５７８を設ける構成に限定されない。例えば、上記第７９の実施形態と同様に、主側ＣＰＵ６３が音光側ＣＰＵ３５３に送信する復帰コマンド（通常復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれか）に抽選用乱数情報が設定される構成としてもよい。具体的には、上記第７９の実施形態と同様に、主側ＣＰＵ６３は、メイン処理（図１６５）のステップＳＢ１０５にてチェックサムが正常であると判定した場合に特定制

御用のワークエリア２２１の乱数初期値カウンタＣＩＮＩに格納されている数値情報を送信乱数記憶カウンタ５５６（図２９０）に設定する。上記第７９の実施形態において既に説明したとおり、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された状態において特定制御用のワークエリア２２１には情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給される構成であり、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された直後に乱数初期値カウンタＣＩＮＩには特定の数値範囲に偏ることのない数値情報が格納されている。主側ＣＰＵ６３は、音光側ＣＰＵ３５３に対していずれかの復帰コマンドを送信する場合に、送信乱数記憶カウンタ５５６に設定されている数値情報を抽選用乱数情報として当該復帰コマンドに設定する。このように、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から特定の数値範囲に偏ることが防止されている抽選用乱数情報を受信する構成とすることにより、音声発光制御基板３５１にバックアップ電力が供給される記憶エリアを設けることなく、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された直後に特定の数値範囲に偏ることのない抽選用数値情報を取得することができる。

【４１２２】

また、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達する度に最大値抽選を行って当該デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値を設定する構成に代えて、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時に複数の数値情報の中からデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに初期値として設定する数値情報を決定するための初期値抽選が行われる構成としてもよい。具体的には、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの最大値は「２９９９」に固定されている。初期値抽選は、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３から通常復帰コマンド、更新時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及びクリア時の復帰コマンドのいずれかを受信した場合に実行される。パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された後、当該動作電力の供給が停止されるまでに初期値抽選が実行される回数は１回のみである。初期値抽選は、上記第８８の実施形態において既に説明した抽選用乱数カウンタ５７８ａに格納されている抽選用乱数情報を用いて行われる。上記第８８の実施形態において既に説明したとおり、抽選用乱数カウンタ５７８ａに格納されている抽選用乱数情報は「０」～「２５５」のいずれかの数値情報であり、パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された直後に抽選用乱数カウンタ５７８ａに格納されている抽選用乱数情報は特定の数値範囲に偏ることのない数値情報である。

【４１２３】

音光側ＲＯＭ３５４には、初期値抽選に用いられる初期値抽選テーブルが記憶されており、初期値抽選テーブルには、複数種類（具体的には４種類）の初期値が設定されている。初期値抽選では、抽選用乱数カウンタ５７８ａに格納されている抽選用乱数情報が「０」～「６３」の数値範囲である場合にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに初期値として「０」が設定され、当該抽選用乱数情報が「６４」～「１２７」の数値範囲である場合にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに初期値として「９９９」が設定され、当該抽選用乱数情報が「１２８」～「１９１」の数値範囲である場合にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに初期値として「１９９９」が設定され、当該抽選用乱数情報が「１９２」～「２５５」の数値範囲である場合にデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに初期値として「２９９８」が設定される。初期値抽選において、初期値としてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに「０」が設定される確率、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａに「９９９」が設定される確率、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａに「１９９９」が設定される確率、及びデモ開始用タイマカウンタ５５４ａに「２９９８」が設定される確率は「１／４」で同一となっている。

【４１２４】

初期値抽選において、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの初期値が「０」となった場合には音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可されてから１５秒後に図柄表示装置４１にてデモ演出が開始され、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの初期値が「９９９」となった場合には音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可されてから１０秒後にデモ演出が開始され、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの初期値が「１９９

９」となった場合には音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可されてから５秒後にデモ演出が開始される。また、初期値抽選において、デモ開始用タイマカウンタ５５４ａの初期値が「２９９８」となった場合には、音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可された後、最初に行われる音光側タイマ割込み処理（図２８４）のステップＳＩ６０１にてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値（具体的には２９９９）に達する。この場合には、当該処理回における音光側タイマ割込み処理（図２８４）のステップＳＩ６２１にて開始待ち演出用処理が実行されることにより、デモ演出が開始される。つまり、音光側タイマ割込み処理（図２８４）の割込みが許可された直後に図柄表示装置４１にてデモ演出が開始される。

【４１２５】

抽選用乱数カウンタ５７８ａにおける抽選用乱数情報が特定の数値範囲に偏ってしまうことが防止されていることにより、初期値抽選の結果に特定の傾向が生じてしまうことが防止されている。また、上記第８８の実施形態において既に説明したとおり、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時に抽選用乱数カウンタ５７８ａに格納されている抽選用数値情報が「０」クリアされない構成であり、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始されたとしても、当該複数のパチンコ機１０において初期値抽選に用いられる抽選用乱数情報は、偶然一致の場合を除いて異なる値となる。このため、パチンコ機１０への動作電力の供給開始時に１度だけ初期値抽選が行われ、当該初期値抽選の抽選結果に対応する数値情報をデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの初期値として設定する構成としても、複数のパチンコ機１０に対して同時に動作電力の供給が開始された場合に、当該複数のパチンコ機１０においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達するタイミングを初期値抽選の抽選結果に応じて異なるタイミングとすることができるとともに、開始待ち状態においてデモ演出が開始されるタイミングを異なるタイミングとすることができる。複数のパチンコ機１０においてデモ演出の開始タイミングがずれている状況は、動作電力の供給開始時における「設定確認操作」及び「設定変更操作」の有無に関わらず、意図的に作り出される。これにより、デモ演出の開始タイミングに基づいて、「設定確認操作」、「設定変更操作」、又は「ＲＡＭクリア操作」が行われたパチンコ機１０が特定され易くなってしまうことを防止することができる。

【４１２６】

＜第８９の実施形態＞

本実施形態では遊技履歴の管理結果を報知するための表示装置における表示内容が上記第３５の実施形態と相違している。以下、上記第３５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【４１２７】

図３２１は本実施形態における主制御装置６０の正面図である。

【４１２８】

図３２１に示すように、本実施形態における主制御装置６０には、上記第３５の実施形態における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に代えて、第１報知用表示装置５９１、第２報知用表示装置５９２、第３報知用表示装置５９３、第４報知用表示装置５９４及び第５報知用表示装置５９５が設けられている。第１～第５報知用表示装置５９１～５９５は主制御基板６１の素子搭載面において横並びで設けられている。

【４１２９】

第１～第５報知用表示装置５９１～５９５はいずれも、ＬＥＤによる表示用セグメントが複数配列されたセグメント表示器であるが、これに限定されることはなく多色発光タイプの単一の発光体であってもよく、液晶表示装置であってもよく、有機ＥＬディスプレイであってもよい。第１報知用表示装置５９１には８個の表示用セグメントが配列されているとともに、第２～第５報知用表示装置５９２～５９５には７個の表示用セグメントが配列されている。第１～第５報知用表示装置５９１～５９５はいずれもその表示面が主制御基板６１の素子搭載面が向く方向を向くようにして設置されているとともに、基板ボック

ス６０ａの対向壁部６０ｂにより覆われている。この場合に、基板ボックス６０ａが透明に形成されていることにより、基板ボックス６０ａの外部から当該基板ボックス６０ａ内に収容された第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示面を目視することが可能となる。また、主制御装置６０は基板ボックス６０ａにおいて主制御基板６１の素子搭載面と対向する対向壁部６０ｂがパチンコ機１０後方を向くようにして樹脂ベース２１の背面に搭載されているため、遊技機本体１２を外枠１１に対してパチンコ機１０前方に開放させて樹脂ベース２１の背面をパチンコ機１０前方に露出させた場合には、対向壁部６０ｂを通じて第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示面を目視することが可能となる。なお、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５における表示内容については後述する。

【４１３０】

図３２２は遊技履歴を管理するために使用される非特定制御用のワークエリア２２３の各種エリアを説明するための説明図である。

【４１３１】

図３２２に示すように、非特定制御用のワークエリア２２３には、上記第３５の実施形態における通常用カウンタエリア２３１に代えて、入球個数カウンタエリア５９６が設けられている。入球個数カウンタエリア５９６には、一般入賞カウンタ５９６ａ、特電入賞カウンタ５９６ｂ、第１作動カウンタ５９６ｃ、第２作動カウンタ５９６ｄ、及びアウトカウンタ５９６ｅが設けられている。入球個数カウンタエリア５９６における各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅでは、遊技状態を区別することなく全遊技状態における遊技球の入球個数が計測される。全遊技状態とは、具体的には、開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない遊技状態と、開閉実行モードである遊技状態と、高頻度サポートモードである遊技状態とである。一般入賞カウンタ５９６ａは所定の計測開始契機からの一般入賞口３１への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。特電入賞カウンタ５９６ｂは所定の計測開始契機からの特電入賞装置３２への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。第１作動カウンタ５９６ｃは所定の計測開始契機からの第１作動口３３への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。第２作動カウンタ５９６ｄは所定の計測開始契機からの第２作動口３４への遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。アウトカウンタ５９６ｅは所定の計測開始契機からのアウト口２４ａへの遊技球の入球個数を計測するためのカウンタである。

【４１３２】

入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅは、前扉枠１４が閉鎖状態となっている状況において対象となる入球部２４ａ，３１～３４に入球した遊技球の個数を計測するために利用される。具体的には、上述した全遊技状態において、一般入賞口３１に１個の遊技球が入球した場合には一般入賞カウンタ５９６ａの値が１加算され、特電入賞装置３２に１個の遊技球が入球した場合には特電入賞カウンタ５９６ｂの値が１加算され、第１作動口３３に１個の遊技球が入球した場合には第１作動カウンタ５９６ｃの値が１加算され、第２作動口３４に１個の遊技球が入球した場合には第２作動カウンタ５９６ｄの値が１加算され、アウト口２４ａに１個の遊技球が入球した場合にはアウトカウンタ５９６ｅの値が１加算される。

【４１３３】

なお、前扉枠１４が開放状態となっている状況が計測対象外となっているのは、前扉枠１４を開放した状態で入球部２４ａ，３１～３４に手入れで遊技球が入球された場合の入球個数を計測対象から除外するためである。但し、これに限定されることはなく前扉枠１４が開放状態となっている状況も前扉枠１４が閉鎖状態となっている状況と同様に計測対象とする構成としてもよい。

【４１３４】

本実施形態では、主側ＣＰＵ６３により複数種類の出玉率が算出される。出玉率とは、全遊技状態におけるパチンコ機１０の遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数に対する合計払出個数の割合である。入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ

～５９６ｅの値をＫ１０１～Ｋ１０５とした場合に出玉率は以下のものとなる。
・出玉率：遊技球の合計払出個数（Ｋ１０１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１０１＋Ｋ１０２＋Ｋ１０３＋Ｋ１０４＋Ｋ１０５）の割合。

【４１３５】

本実施形態では、主側ＣＰＵ６３により現状の出玉率と、単位算出期間における出玉率と、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率と、第１算出期間における出玉率と、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率と、第２算出期間における出玉率とが算出される。

【４１３６】

現状の出玉率とは、現状の入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅに記憶されている値に基づいて算出される出玉率である。現状の出玉率は、上述した遊技球の合計払出個数（Ｋ１０１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）を遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１０１＋Ｋ１０２＋Ｋ１０３＋Ｋ１０４＋Ｋ１０５）で除算して１００倍した百分率のデータとして算出される。現状の出玉率は、遊技球の合計払出個数と、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数とが同一である場合に１００％となり、遊技球の合計払出個数が遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数よりも多い場合に１００％を上回る値となり、遊技球の合計払出個数が遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数よりも少ない場合には１００％を下回る値となる。現状の出玉率の情報（以下、現状の出玉率データともいう。）は、「０％」～「９９９％」の範囲の数値情報として記憶される。現状の出玉率は１０進数表記で３桁の数値情報である。

【４１３７】

上記第１の実施形態において既に説明したとおり、第１作動口３３への１個の遊技球の入球が発生した場合又は第２作動口３４への１個の遊技球の入球が発生した場合には、１個の賞球の払い出しが実行され、一般入賞口３１への１個の遊技球の入球が発生した場合には、１０個の賞球の払い出しが実行され、特電入賞装置３２への１個の遊技球の入球が発生した場合には、１５個の賞球の払い出しが実行される。現状の出玉率が「９９９％」を上回る場合、当該現状の出玉率は「９９９％」として記憶される。なお、上記賞球個数は任意であり、例えば、第２作動口３４の方が第１作動口３３よりも賞球個数が少ない構成としてもよく、第２作動口３４の方が第１作動口３３よりも賞球個数が多い構成としてもよい。

【４１３８】

単位算出期間とは、全遊技状態においてパチンコ機１０の遊技領域ＰＡから排出された遊技球の数が単位基準個数（具体的には６０００個）に達するまでの期間である。１つの単位算出期間が終了すると次の単位算出期間が開始される。入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅの値は、単位算出期間が終了する度に「０」クリアされる。パチンコ機１０では１分間に最大で１００個の遊技球の発射が行われるため、単位基準個数である６０００個は１時間における最大の発射個数となる。遊技領域ＰＡから排出された遊技球の数が１時間における最大の発射個数となった場合に１つの単位算出期間が終了し、新たな単位算出期間が開始される。なお、単位基準個数は６０００個に限定されることはなく複数個数であれば任意であり、６０００個よりも少ない個数に設定されていてもよく、６０００個よりも多い個数に設定されていてもよい。

【４１３９】

本実施形態では、単位算出期間が終了する度に当該終了した単位算出期間における最終的な出玉率（以下、単位算出期間における出玉率ともいう。）が算出される。単位算出期

間における出玉率は、単位算出期間の終了時に入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅに記憶されている値に基づいて算出される。単位算出期間における出玉率は、現状の出玉率と同様に、上述した遊技球の合計払出個数（Ｋ１０１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）を、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１０１＋Ｋ１０２＋Ｋ１０３＋Ｋ１０４＋Ｋ１０５）で除算して１００倍した百分率のデータとして算出される。単位算出期間における出玉率の情報（以下、単位算出期間における出玉率データともいう。）は、「０％」～「９９９％」の範囲の数値情報として記憶される。単位算出期間における出玉率は１０進数表記で３桁の数値情報である。

【４１４０】

直近４回分の単位算出期間全体における出玉率は、直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率の合計値を「４」で除算することにより算出される。直近４回分の単位算出期間全体における出玉率の情報（以下、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データともいう。）は、「０％」～「９９９％」の範囲の数値情報として記憶される。直近４回分の単位算出期間全体における出玉率は１０進数表記で３桁の数値情報である。

【４１４１】

第１算出期間とは、単位算出期間の４回分の期間であり、全遊技状態において、パチンコ機１０の遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が単位基準個数（具体的には６０００個）の４倍である２４０００個に達するまでの期間である。遊技領域ＰＡから排出された遊技球の数が４時間における最大の発射個数となった場合に１つの第１算出期間が終了し、新たな第１算出期間が開始される。単位算出期間が４回終了する度に１つの第１算出期間が終了する。

【４１４２】

第１算出期間における出玉率は、当該第１算出期間に含まれる４回分の各単位算出期間における４個の出玉率の合計値を「４」で除算することにより算出される。第１算出期間における出玉率の情報（以下、第１算出期間における出玉率データともいう。）は、単位算出期間における出玉率の情報と同様に、「０％」～「９９９％」の範囲の数値情報として記憶される。第１算出期間における出玉率は１０進数表記で３桁の数値情報である。

【４１４３】

直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率は、直近１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率の合計値を「１０」で除算することにより算出される。直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率の情報（以下、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データともいう。）は、「０％」～「９９９％」の範囲の数値情報として記憶される。直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率は１０進数表記で３桁の数値情報である。

【４１４４】

第２算出期間とは、単位算出期間の１０回分の期間であり、全遊技状態において、パチンコ機１０の遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が単位基準個数（具体的には６０００個）の１０倍である６００００個に達するまでの期間である。遊技領域ＰＡから排出された遊技球の数が１０時間における最大の発射個数となった場合に１つの第２算出期間が終了し、新たな第２算出期間が開始される。単位算出期間が１０回終了する度に１つの第２算出期間が終了する。

【４１４５】

第２算出期間における出玉率は、当該第２算出期間に含まれる１０回分の単位算出期間における１０個の出玉率の合計値を「１０」で除算することにより算出される。第２算出期間における出玉率の情報（以下、第２算出期間における出玉率データともいう。）は、単位算出期間における出玉率の情報と同様に、「０％」～「９９９％」の範囲の数値情報として記憶される。第２算出期間における出玉率は１０進数表記で３桁の数値情報である

。

【４１４６】

第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、第１算出期間における出玉率、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率、及び第２算出期間における出玉率の表示が行われる。第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、これらの出玉率に対応する３桁の数字（「０００」～「９９９」のいずれかの数字）の表示が行われる。なお、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５における表示内容の詳細については後述する。

【４１４７】

パチンコ機１０では、設計段階で想定された直近４回分の単位算出期間全体における出玉率及び第１算出期間における出玉率の正常な範囲である第１正常範囲として４１％～１４９％の数値範囲が設定されている。また、設計段階で想定された直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率及び第２算出期間における出玉率の正常な範囲である第２正常範囲として５１％～１３３％の数値範囲が設定されている。第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて直近４回分の単位算出期間全体における出玉率が第１正常範囲の下限である４１％を下回っている状況であること、第１算出期間における出玉率が第１正常範囲の下限である４１％を下回っている状況であること、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が第２正常範囲の下限である５１％を下回っている状況であること、又は第２算出期間における出玉率が第２正常範囲の下限である５１％を下回っている状況であることを把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者に対して、パチンコ機１０における遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスを行う契機を与えることができる。また、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて直近４回分の単位算出期間全体における出玉率が第１正常範囲の上限である１４９％を上回っている状況であること、第１算出期間における出玉率が第１正常範囲の上限である１４９％を上回っている状況であること、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が第２正常範囲の上限である１３３％を上回っている状況であること、又は第２算出期間における出玉率が第２正常範囲の上限である１３３％を上回っている状況であることを把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者に対して、遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無を確認する契機を与えることができる。

【４１４８】

第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて、「０００」～「９９９」の数値範囲で直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、第１算出期間における出玉率、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率、及び第２算出期間における出玉率の表示が行われる構成であることにより、これらの出玉率が正常範囲（第１正常範囲又は第２正常範囲）の下限（第１正常範囲では４１％、第２正常範囲では５１％）を下回っている場合に、出玉率が正常範囲の下限を下回る異常の有無だけでなく、当該異常の程度まで把握することが可能となっている。具体的には、これらの出玉率が低い値であるほど当該異常が深刻であり迅速な対応が必要であることを把握することが可能となっている。また、これらの出玉率が正常範囲の上限（第１正常範囲では１４９％、第２正常範囲では１３３％）を上回っている場合に、これらの出玉率が正常範囲の上限を上回る異常の有無だけでなく、当該異常の程度まで把握することが可能となっている。具体的には、こられの出玉率が高い値であるほど当該異常が深刻であり迅速な対応が必要であることを把握することが可能となっている。

【４１４９】

図３２２に示すように、非特定制御用のワークエリア２２３には算出開始フラグ５９７が設けられている。算出開始フラグ５９７は、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合において「０」の値となっている。また、非特定制御用のワークエリア２２３が算出開始フラグ５９７を含めて「０」クリアされて初期化された場合にも算出開始フラグ５９７の値は「０」となる。算出開始フラグ５９７には、全遊技状態において、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち

遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が算出開始基準個数（具体的には３００個）となることで「１」がセットされる。算出開始フラグ５９７に「１」がセットされる場合、入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅの値が「０」クリアされて最初の単位算出期間、第１算出期間及び第２算出期間が開始される。

【４１５０】

パチンコ機１０の出荷段階などにおいては出荷前にパチンコ機１０の動作チェックが行われることがあり、その際には遊技球の試打ちが行われることがある。このような状況下における出玉率は通常の遊技が行われる状況とは異なる値となり得る。したがって、算出開始フラグ５９７に「１」がセットされていない状況において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が単位基準個数（具体的には６０００個）よりも少ない個数である算出開始基準個数（３００個）となった段階で一旦、入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅを「０」クリアすることで、パチンコ機１０の出荷後において通常の遊技が行われている状況における出玉率に対する上記動作チェックの影響を低減することが可能となる。なお、算出開始基準個数は３００個に限定されることはなく複数個数であれば任意であり、３００個よりも少ない個数に設定されていてもよく、３００個よりも多い個数に設定されていてもよい。

【４１５１】

図３２２に示すように、非特定制御用のワークエリア２２３には、演算エリア５９８と、現状出玉率エリア５９９と、第１管理バッファ６０１と、第２管理バッファ６０２とが設けられている。

【４１５２】

演算エリア５９８は、各種出玉率（現状の出玉率、単位算出期間における出玉率、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、第１算出期間における出玉率、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率、及び第２算出期間における出玉率）の演算に利用される記憶エリアである。演算エリア５９８は「０」～「６５５３５」の数値範囲の数値情報を設定可能な２バイトの記憶容量となっている。

【４１５３】

現状出玉率エリア５９９は、上述した現状の出玉率データが格納されるカウンタである。現状出玉率エリア５９９は、現状の出玉率データ（「０」～「９９９」のいずれかの数値情報）を格納可能とするように１０ビットの記憶容量となっている。

【４１５４】

第１管理バッファ６０１は、第１算出期間における出玉率を算出するための情報（具体的には直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データ）が格納されるリングバッファである。第１管理バッファ６０１には、単位算出期間における出玉率データが格納される記憶エリアとして、第０記憶エリア６０１ａ～第３記憶エリア６０１ｄが設けられている。これらの記憶エリア６０１ａ～６０１ｄはいずれも同一の記憶容量となっており、具体的には単位算出期間における出玉率データ（「０」～「９９９」のいずれかの数値情報）を格納可能とするように１０ビットの容量となっている。

【４１５５】

単位算出期間における最終的な合計払出個数の情報のデータ量は単位算出期間における出玉率データのデータ量よりも大きい。このため、第１管理バッファ６０１に直近４回分の各単位算出期間における４個の合計払出個数の情報を記憶し、当該４個の合計払出個数の合計値を単位基準個数（具体的には６０００個）の４倍である「２４０００」で除算することにより直近４回分の単位算出期間全体における出玉率を算出する構成とすると、第１管理バッファ６０１の各記憶エリア６０１ａ～６０１ｄの記憶容量を増加させる必要が生じてしまう。これに対して本実施形態では、第１管理バッファ６０１に直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データを記憶し、当該４個の出玉率の合計値を「４」で除算することにより第１算出期間における出玉率を算出する構成である。これにより、第１管理バッファ６０１の各記憶エリア６０１ａ～６０１ｄの記憶容量を低減することが

可能となっている。
【４１５６】
非特定制御用のワークエリア２２３には、第１書き込みポインタ６０３が設けられている。第１書き込みポインタ６０３は、第１管理バッファ６０１の４個の記憶エリア６０１ａ～６０１ｄのうち今回の書き込み先となる記憶エリア６０１ａ～６０１ｄを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするためのカウンタである。第１書き込みポインタ６０３は、その更新の都度前回値に１が加算され、最大値（具体的には「３」）に達した後に「０」に戻るループカウンタとなっている。第１書き込みポインタ６０３の「ｎ」の値（ｎは０～３のいずれか整数）は書き込み先が第ｎ記憶エリア６０１ａ～６０１ｄである状態に対応している。例えば、第１書き込みポインタ６０３の「０」の値は書き込み先が第０記憶エリア６０１ａである状態に対応しているとともに、第１書き込みポインタ６０３の「２」の値は書き込み先が第２記憶エリア６０１ｃである状態に対応している。
【４１５７】
主側ＣＰＵ６３は、単位算出期間が終了する度に、入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅに記憶されている値に基づいて今回終了した単位算出期間における最終的な出玉率を算出する。そして、当該算出した出玉率の情報を、第１書き込みポインタ６０３の値に対応する第１管理バッファ６０１の記憶エリア６０１ａ～６０１ｄに書き込む。第１書き込みポインタ６０３の値は、第１管理バッファ６０１に出玉率の情報が書き込まれる度に１加算され、当該１加算後の値が最大値（具体的には「３」）を超える場合に「０」クリアされる。このため、第１管理バッファ６０１における第０～第３記憶エリア６０１ａ～６０１ｄには、直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが設定されている状態となる。
【４１５８】
第１書き込みポインタ６０３の値は、単位算出期間における出玉率データが第１管理バッファ６０１に４回書き込まれることにより１周して「０」となる。主側ＣＰＵ６３は、第１書き込みポインタ６０３の値が１周して「０」となったことに基づいて第１算出期間が終了したことを把握する。このため、第１算出期間の終了タイミングを把握するための専用のカウンタが第１書き込みポインタ６０３とは別に設けられている構成と比較して、第１算出期間の終了タイミングを把握するための主側ＲＡＭ６５における記憶容量が低減されている。
【４１５９】
第２管理バッファ６０２は、第２算出期間における出玉率を算出するための情報（具体的には直近１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データ）が格納されるリングバッファである。第２管理バッファ６０２には、単位算出期間における出玉率データが格納される記憶エリアとして、第０記憶エリア６０２ａ～第９記憶エリア６０２ｊが設けられている。これらの記憶エリア６０２ａ～６０２ｊはいずれも同一の記憶容量となっており、具体的には単位算出期間における出玉率データ（「０」～「９９９」のいずれかの数値情報）を格納可能とするように１０ビットの容量となっている。
【４１６０】
単位算出期間における最終的な合計払出個数の情報のデータ量は単位算出期間における出玉率データのデータ量よりも大きい。このため、第２管理バッファ６０２に直近１０回分の単位算出期間における１０個の合計払出個数の情報を記憶し、当該１０個の合計払出個数の合計値を単位基準個数の１０倍である「６００００」で除算することにより直近１０回分の単位算出期間における出玉率を算出する構成とすると、第２管理バッファ６０２の各記憶エリア６０２ａ～６０２ｊの記憶容量を増加させる必要が生じてしまう。これに対して本実施形態では、第２管理バッファ６０２に直近１０回分の単位算出期間における１０個の出玉率の情報を記憶し、当該１０個の出玉率の合計値を「１０」で除算することにより第２算出期間における出玉率を算出する構成である。これにより、第２管理バッファ６０２の各記憶エリア６０２ａ～６０２ｊの記憶容量を低減することが可能となっている。

【４１６１】
非特定制御用のワークエリア２２３には、第２書き込みポインタ６０４が設けられている。第２書き込みポインタ６０４は、第２管理バッファ６０２の１０個の記憶エリア６０２ａ～６０２ｊのうち今回の書き込み先となる記憶エリア６０２ａ～６０２ｊを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするためのカウンタである。第２書き込みポインタ６０４は、その更新の都度前回値に１が加算され、最大値（具体的には「９」）に達した後に「０」に戻るループカウンタとなっている。第２書き込みポインタ６０４の「ｍ」の値（ｍは０～９のいずれか整数）は書き込み先が第ｍ記憶エリア６０２ａ～６０２ｊである状態に対応している。例えば、第２書き込みポインタ６０４の「０」の値は書き込み先が第０記憶エリア６０２ａである状態に対応しているとともに、第２書き込みポインタ６０４の「２」の値は書き込み先が第２記憶エリア６０２ｃである状態に対応している。
【４１６２】
主側ＣＰＵ６３は、単位算出期間が終了する度に、入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅに記憶されている値に基づいて今回終了した単位算出期間における最終的な出玉率を算出する。そして、当該算出した出玉率の情報を、第２書き込みポインタ６０４の値に対応する第２管理バッファ６０２の記憶エリア６０２ａ～６０２ｊに書き込む。第２書き込みポインタ６０４の値は、第２管理バッファ６０２に出玉率の情報が書き込まれる度に１加算され、当該１加算後の値が最大値（具体的には「９」）を超える場合に「０」クリアされる。このため、第２管理バッファ６０２における第０～第９記憶エリア６０２ａ～６０２ｊには、直近１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データが設定されている状態となる。
【４１６３】
第２書き込みポインタ６０４の値は、単位算出期間における出玉率データが第２管理バッファ６０２に１０回書き込まれることにより１周して「０」となる。主側ＣＰＵ６３は、第２書き込みポインタ６０４の値が１周して「０」となったことに基づいて第２算出期間が終了したことを把握する。このため、第２算出期間の終了タイミングを把握するための専用のカウンタが第２書き込みポインタ６０４とは別に設けられている構成と比較して、第１算出期間の終了タイミングを把握するための主側ＲＡＭ６５における記憶容量が低減されている。
【４１６４】
単位算出期間が終了する度に第２管理バッファ６０２に格納される単位算出期間における出玉率データは、単位算出期間が終了する度に第１管理バッファ６０１に格納される単位算出期間における出玉率データと同一のデータである。上述したとおり、第１管理バッファ６０１の第０～第３記憶エリア６０１ａ～６０１ｄには直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されている状態となるとともに、第２管理バッファ６０２の第０～第９記憶エリア６０２ａ～６０２ｊには直近１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データが格納されている状態となる。第１管理バッファ６０１の各記憶エリア６０１ａ～６０１ｄに格納されているデータは、第２管理バッファ６０２の第０～第９記憶エリア６０２ａ～６０２ｊにおいて直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが記憶されている４個の記憶エリアに記憶されているデータと一致する。
【４１６５】
図３２２に示すように、非特定制御用のワークエリア２２３には、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて表示対象となる第１表示対象エリア６０６と、第２表示対象エリア６０７とが設けられている。第１表示対象エリア６０６は、４回分の単位算出期間全体における出玉率データ（具体的には、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データ及び第１算出期間における出玉率データ）が格納されるエリアであるとともに、第２表示対象エリア６０７は、１０回分の単位算出期間における出玉率データ（具体的には、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データ及び第２算出期間における出玉率データ）が格納されるエリアである。
【４１６６】

第１表示対象エリア６０６には、第１単位更新エリア６０６ａと、第１算出期間の直近エリア６０６ｂと、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃと、第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄとが設けられている。これら各エリア６０６ａ～６０６ｄは、いずれも同一の記憶容量となっており、具体的には各出玉率データ（「０」～「９９９」のいずれかの数値情報）を格納可能とするように１０ビットの容量となっている。

【４１６７】

第１単位更新エリア６０６ａは、直近４回分の単位算出期間における出玉率データが格納されるカウンタである。第１単位更新エリア６０６ａは単位算出期間が終了する度に更新される。具体的には、１つの単位算出期間が終了して当該単位算出期間における最終的な出玉率データが第１管理バッファ６０１に書き込まれた後、第１管理バッファ６０１に格納されている直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データに基づいて直近４回分の単位算出期間における出玉率が算出され、当該算出された出玉率の情報が第１単位更新エリア６０６ａに格納される。

【４１６８】

単位算出期間が終了することにより第１算出期間が終了した場合、第１管理バッファ６０１の第０～第３記憶エリア６０１ａ～６０１ｄには今回終了した第１算出期間に含まれる直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されている状態となる。このため、第１算出期間が終了した場合、第１単位更新エリア６０６ａには今回終了した第１算出期間における出玉率データが格納されることとなる。

【４１６９】

第１算出期間の直近エリア６０６ｂは、直近の第１算出期間における出玉率データが格納されるカウンタである。第１算出期間の直近エリア６０６ｂは第１算出期間が終了する度に更新される。具体的には、１つの第１算出期間が終了して今回終了した第１算出期間における出玉率データが第１単位更新エリア６０６ａに格納された後、当該第１単位更新エリア６０６ａに格納された第１算出期間における出玉率データが第１算出期間の直近エリア６０６ｂにも格納される。第１単位更新エリア６０６ａに格納された第１算出期間における出玉率データは次の単位算出期間が終了することにより更新されるが、第１算出期間の直近エリア６０６ｂに格納された第１算出期間における出玉率データは次の第１算出期間が終了するまで保持される。このため、第１算出期間の直近エリア６０６ｂには直近の第１算出期間における出玉率データが継続して格納されている状態となる。

【４１７０】

第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃは、１回前の第１算出期間における出玉率データが格納されるカウンタである。第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃは第１算出期間が終了する度に更新される。具体的には、１つの第１算出期間が終了した場合、第１算出期間の直近エリア６０６ｂに今回終了した第１算出期間における出玉率データが格納されるよりも前のタイミングで、第１算出期間の直近エリア６０６ｂに格納されていた出玉率データが第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃに格納される。これにより、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃに１回前の第１算出期間における出玉率データが格納されている状態となる。

【４１７１】

第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄは、２回前の第１算出期間における出玉率データが格納されるカウンタである。第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄは第１算出期間が終了する度に更新される。具体的には、１つの第１算出期間が終了した場合、第１算出期間の直近エリア６０６ｂに格納されていた出玉率データが第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃに格納されるよりも前のタイミングで、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃに格納されていた出玉率データが第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄに格納される。これにより、第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄに２回前の第１算出期間における出玉率データが格納されている状態となる。

【４１７２】

第１表示対象エリア６０６に第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ及び第１算出期間

の第２履歴エリア６０６ｄが設けられていることにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて１回前の第１算出期間における出玉率の表示及び２回前の第１算出期間における出玉率の表示を行うことが可能となっている。過去の第１算出期間における出玉率が第１正常範囲（４１％～１４９％）に収まっているか否かを把握可能とすることにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示を確認する頻度を低減させて、遊技ホールの管理者の出玉率についての監視負担を軽減させることができる。また、直近の第１算出期間における出玉率の異常が確認された場合に、当該出玉率の異常がいつから発生していたのかを遡って把握可能とすることができる。

【４１７３】

直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データは単位算出期間が終了する度に更新されるため、当該出玉率データを複数個記憶して過去の当該出玉率データを把握可能とする構成とすると、複数個の当該出玉率データに対応する単位算出期間の数が少なくなってしまう。具体的には、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データを３個記憶する構成とすると、当該３個の出玉率データに対応する範囲は直近６回分の単位算出期間となる。これに対して本実施形態では、第１算出期間が終了する度に更新される第１算出期間における出玉率データを３個記憶する構成である。この場合、３個の出玉率データに対応する範囲は直近１２回分の単位算出期間となる。これにより、過去の広い範囲に亘って４回分の単位算出期間全体における出玉率の異常を把握可能とすることができる。

【４１７４】

直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データの更新頻度は、第１算出期間における出玉率データの更新頻度よりも高い。このため、第１算出期間における出玉率データが格納される第１算出期間の直近エリア６０６ｂとは別に、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データが格納される第１単位更新エリア６０６ａが設けられていることにより、４回分の単位算出期間全体における出玉率の異常が発生した場合に、当該異常を早期に発見可能とすることができる。

【４１７５】

第２表示対象エリア６０７には、第２単位更新エリア６０７ａと、第２算出期間の直近エリア６０７ｂと、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃと、第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄとが設けられている。これら各エリア６０７ａ～６０７ｄは、いずれも同一の記憶容量となっており、具体的には出玉率の情報（「０」～「９９９」のいずれかの数値情報）を格納可能とするように１０ビットの容量となっている。

【４１７６】

第２単位更新エリア６０７ａは、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データが格納されるカウンタである。第２単位更新エリア６０７ａは単位算出期間が終了する度に更新される。具体的には、１つの単位算出期間が終了して当該単位算出期間における最終的な出玉率データが第２管理バッファ６０２に書き込まれた後、第２管理バッファ６０２に格納されている直近１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データに基づいて直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が算出され、当該算出された出玉率の情報が第２単位更新エリア６０７ａに格納される。

【４１７７】

単位算出期間が終了することにより第２算出期間が終了した場合、第２管理バッファ６０２の第０～第９記憶エリア６０２ａ～６０２ｊには今回終了した第２算出期間に含まれる直近１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データが格納されている状態となる。このため、第２算出期間が終了した場合、第２単位更新エリア６０７ａには今回終了した第２算出期間における出玉率データが格納されることとなる。

【４１７８】

第２算出期間の直近エリア６０７ｂは、直近の第２算出期間における出玉率データが格納されるカウンタである。第２算出期間の直近エリア６０７ｂは第２算出期間が終了する度に更新される。具体的には、１つの第２算出期間が終了して今回終了した第２算出期間における出玉率データが第２単位更新エリア６０７ａに格納された後、当該第２単位更新

エリア６０７ａに格納された第２算出期間における出玉率データが第２算出期間の直近エリア６０７ｂにも格納される。第２単位更新エリア６０７ａに格納された第２算出期間における出玉率データは次の単位算出期間が終了することにより更新されるが、第２算出期間の直近エリア６０７ｂに格納された第２算出期間における出玉率データは次の第２算出期間が終了するまで保持される。このため、第２算出期間の直近エリア６０７ｂには直近の第２算出期間における出玉率データが継続して格納されている状態となる。

【４１７９】

第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃは、１回前の第２算出期間における出玉率データが格納されるカウンタである。第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃは第２算出期間が終了する度に更新される。具体的には、１つの第２算出期間が終了した場合、第２算出期間の直近エリア６０７ｂに今回終了した第２算出期間における出玉率データが格納されるよりも前のタイミングで、第２算出期間の直近エリア６０７ｂに格納されていた出玉率データが第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃに格納される。これにより、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃに１回前の第２算出期間における出玉率データが格納されている状態となる。

【４１８０】

第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄは、２回前の第２算出期間における出玉率データが格納されるカウンタである。第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄは第２算出期間が終了する度に更新される。具体的には、１つの第２算出期間が終了した場合、第２算出期間の直近エリア６０７ｂに格納されていた出玉率データが第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃに格納されるよりも前のタイミングで、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃに格納されていた出玉率データが第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄに格納される。これにより、第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄに２回前の第２算出期間における出玉率データが格納されている状態となる。

【４１８１】

第２表示対象エリア６０７に第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ及び第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄが設けられていることにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて１回前の第２算出期間における出玉率の表示及び２回前の第２算出期間における出玉率の表示を行うことが可能となっている。過去の第２算出期間における出玉率が第２正常範囲（５１％～１３３％）に収まっているか否かを把握可能とすることにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示を確認する頻度を低減させて、遊技ホールの管理者の監視負担を軽減させることができる。また、直近の第２算出期間における出玉率の異常が確認された場合に、当該出玉率の異常がいつから発生していたのかを遡って把握可能とすることができる。

【４１８２】

直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データは単位算出期間が終了する度に更新されるため、当該出玉率データを複数個記憶して過去の当該出玉率データを把握可能とする構成とすると、複数個の当該出玉率データに対応する単位算出期間の数が少なくなってしまう。具体的には、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データを３個記憶する構成とすると、当該３個の出玉率データに対応する範囲は直近１２回分の単位算出期間となる。これに対して本実施形態では、第２算出期間が終了する度に更新される第２算出期間における出玉率データを３個記憶する構成である。この場合、３個の出玉率データに対応する範囲は直近３０回分の単位算出期間となる。これにより、過去の広い範囲に亘って１０回分の単位算出期間全体における出玉率の異常を把握可能とすることができる。

【４１８３】

直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データの更新頻度は、第２算出期間における出玉率データの更新頻度よりも高い。このため、第２算出期間における出玉率データが格納される第２算出期間の直近エリア６０７ｂとは別に、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データが格納される第２単位更新エリア６０７ａが設けられている

ことにより、１０回分の単位算出期間全体における出玉率の異常が発生した場合に、当該異常を早期に発見可能とすることができる。

【４１８４】

第１表示対象エリア６０６及び第２表示対象エリア６０７に格納された出玉率データに基づいて、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて４回分の単位算出期間全体における出玉率（直近４回分の単位算出期間全体における出玉率及び第１算出期間における出玉率）及び直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率（直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率及び第２算出期間における出玉率）の表示が行われる。第１正常範囲（４１％～１４９％）の下限（４１％）は第２正常範囲（５１％～１３３％）の下限（５１％）よりも小さく設定されているとともに、第１正常範囲の上限（１４９％）は第２正常範囲の上限（１３３％）よりも大きく設定されている。このため、１０回分の単位算出期間全体における出玉率が第２正常範囲から外れている状態においても４回分の単位算出期間全体における出玉率が第１正常範囲に収まっている状態が継続する場合が考えられる。また、出玉率が正常な数値範囲から外れる異常が一時的に発生した場合には、４回分の単位算出期間全体における出玉率が第１正常範囲から外れる一方、１０回分の単位算出期間全体における出玉率が第２正常範囲に収まる場合が考えられる。これに対して本実施形態では、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて４回分の単位算出期間全体における出玉率及び１０回分の単位算出期間全体における出玉率の両方の表示を行う構成であることにより、４回分の単位算出期間全体における出玉率の異常及び１０回分の単位算出期間全体における出玉率の異常が見逃されてしまうことを防止することができる。

【４１８５】

次に、図３２３のタイムチャートを参照しながら第１単位更新エリア６０６ａ、第１算出期間の直近エリア６０６ｂ、第２単位更新エリア６０７ａ、及び第２算出期間の直近エリア６０７ｂが更新される様子について説明する。図３２３（ａ）は第１算出期間の直近エリア６０６ｂの更新タイミングを示し、図３２３（ｂ）は第１単位更新エリア６０６ａの更新タイミングを示し、図３２３（ｃ）は第２算出期間の直近エリア６０７ｂの更新タイミングを示し、図３２３（ｄ）は第２単位更新エリア６０７ａの更新タイミングを示し、図３２３（ｅ）は第１算出期間の終了タイミングを示し、図３２３（ｆ）は第２算出期間の終了タイミングを示し、図３２３（ｇ）は単位算出期間の終了タイミングを示す。

【４１８６】

図３２３（ｇ）に示すように、ｔ１、ｔ２、ｔ３及びｔ４のタイミングで単位算出期間が終了すると、図３２３（ｂ）に示すように、当該ｔ１、ｔ２、ｔ３及びｔ４のタイミングで第１単位更新エリア６０６ａが更新される。第１単位更新エリア６０６ａには、ｔ１、ｔ２、ｔ３及びｔ４の各タイミングにおいて第１管理バッファ６０１の第０～第３記憶エリア６０１ａ～６０１ｄに格納されている４個の出玉率データに基づいて算出された直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データが格納される。また、図３２３（ｄ）に示すように、ｔ１、ｔ２、ｔ３及びｔ４のタイミングで第２単位更新エリア６０７ａも更新される。第２単位更新エリア６０７ａには、ｔ１、ｔ２、ｔ３及びｔ４の各タイミングにおいて第２管理バッファ６０２の第０～第９記憶エリア６０２ａ～６０２ｊに格納されている１０個の出玉率データに基づいて算出された直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データが格納される。

【４１８７】

ｔ４のタイミングで図３２３（ｅ）に示すように第１算出期間が終了すると、図３２３（ａ）に示すように第１算出期間の直近エリア６０６ｂが更新される。ｔ４のタイミングにおいて、第１単位更新エリア６０６ａには今回終了した第１算出期間における出玉率データが格納されており、第１算出期間の直近エリア６０６ｂには、当該ｔ４のタイミングにおいて第１単位更新エリア６０６ａに格納されている出玉率データが格納される。これにより、第１算出期間の直近エリア６０６ｂにも今回終了した第１算出期間の出玉率データが格納されている状態となる。また、既に説明したとおり、第１算出期間が終了する当該ｔ４のタイミングにおいて、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃに今回終了した第

１算出期間の１回前の第１算出期間における出玉率データが格納されるとともに、第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄに今回終了した第１算出期間の２回前の第１算出期間における出玉率データが格納される。

【４１８８】

その後、図３２３（ｅ）に示すように、ｔ５のタイミングで単位算出期間が終了すると、図３２３（ｂ）に示すように第１単位更新エリア６０６ａが更新されるとともに、図３２３（ｄ）に示すように第２単位更新エリア６０７ａが更新される。第１単位更新エリア６０６ａには当該ｔ５のタイミングにおいて第１管理バッファ６０１の第０～第３記憶エリア６０１ａ～６０１ｄに格納されている４個の出玉率データに基づいて算出された直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データが格納されるとともに、第２単位更新エリア６０７ａには当該ｔ５のタイミングにおいて第２管理バッファ６０２の第０～第９記憶エリア６０２ａ～６０２ｊに格納されている１０個の出玉率データに基づいて算出された直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データが格納される。

【４１８９】

ｔ５のタイミングで図３２３（ｆ）に示すように第２算出期間が終了すると、図３２３（ｃ）に示すように第２算出期間の直近エリア６０７ｂが更新される。ｔ５のタイミングにおいて、第２単位更新エリア６０７ａには今回終了した第２算出期間における出玉率データが格納されており、第２算出期間の直近エリア６０７ｂには、当該ｔ５のタイミングにおいて第２単位更新エリア６０７ａに格納されている出玉率データが格納される。これにより、第２算出期間の直近エリア６０７ｂにも今回終了した第２算出期間の出玉率データが格納されている状態となる。また、既に説明したとおり、第２算出期間が終了する当該ｔ５のタイミングにおいて、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃに今回終了した第２算出期間の１回前の第２算出期間における出玉率データが格納されるとともに、第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄに今回終了した第２算出期間の２回前の第２算出期間における出玉率データが格納される。

【４１９０】

上記のとおり、第１単位更新エリア６０６ａは単位算出期間が終了する度に更新される。第１算出期間における最終的な出玉率のみを把握可能とする構成とすると、前側の（１つ目の）第１算出期間の後半部分と、後側の（２つ目の）第１算出期間の前半部分とに亘る４回分の単位算出期間全体における出玉率の異常が発生したとしても、前側の第１算出期間における最終的な出玉率、及び後側の第１算出期間における最終的な出玉率が第１正常範囲（４１％～１４９％）に収まってしまう場合が考えられる。この場合には、４回分の単位算出期間全体における出玉率の異常が発生したとしても当該異常が見逃されてしまうおそれがある。これに対して、本実施形態では、第１算出期間における最終的な出玉率に加えて、単位算出期間が終了する度に更新される直近４回分の単位算出期間全体における出玉率を把握可能とする構成である。これにより、４回分の単位算出期間全体における出玉率の異常が見逃されてしまうことを防止することができる。

【４１９１】

第２単位更新エリア６０７ａは単位算出期間が終了する度に更新される。第２算出期間における最終的な出玉率のみを把握可能とする構成とすると、前側の（１つ目の）第２算出期間の後半部分と、後側の（２つ目の）第２算出期間の前半部分とに亘る１０回分の単位算出期間全体における出玉率の異常が発生したとしても、前側の第２算出期間における最終的な出玉率、及び後側の第２算出期間における最終的な出玉率が第２正常範囲（５１％～１３３％）に収まってしまう場合が考えられる。この場合には、１０回分の単位算出期間全体における出玉率の異常が発生したとしても当該異常が見逃されてしまうおそれがある。これに対して、本実施形態では、第２算出期間における最終的な出玉率に加えて、単位算出期間が終了する度に更新される直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率を把握可能とする構成である。これにより、１０回分の単位算出期間全体における出玉率の異常が見逃されてしまうことを防止することができる。

【４１９２】

次に、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５における具体的な表示内容について説明する。既に説明したとおり、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄに格納された出玉率の表示が行われる。また、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、上記第３５の実施形態と同様に、設定確認用処理（図１３６）が行われている状況において設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われるとともに、設定値更新処理（図１３７）が行われている状況において設定値を更新している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。さらにまた、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、後述する初期チェック期間においてチェック用表示が行われる。なお、設定確認用処理（図１３６）が行われている状況における表示、設定値更新処理（図１３７）が行われている状況における表示、及びチェック用表示については後述する。

【４１９３】

第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄに格納された出玉率は、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて順次報知される。具体的には、表示継続期間（具体的には５秒）が経過する度に、第１単位更新エリア６０６ａ→第１算出期間の直近エリア６０６ｂ→第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ→第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄ→第２単位更新エリア６０７ａ→第２算出期間の直近エリア６０７ｂ→第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ→第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄという予め定められた順序で報知対象となる出玉率が切り換えられるとともに、当該予め定められた順序による報知対象となる出玉率の切り換えが繰り返される。

【４１９４】

図３２４（ａ）～図３２４（ｄ）は算出開始フラグ５９７に「１」がセットされている状況において第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄに格納された出玉率が報知される場合における第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示内容を説明するための説明図である。図３２４（ａ）は第１単位更新エリア６０６ａに格納された出玉率が報知される場合における第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示内容の一例を示し、図３２４（ｂ）は第１算出期間の直近エリア６０６ｂに格納された出玉率が報知される場合における第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示内容の一例を示し、図３２４（ｃ）は第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃに格納された出玉率が報知される場合における第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示内容の一例を示し、図３２４（ｄ）は第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄに格納された出玉率が報知される場合における第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示内容の一例を示す。

【４１９５】

図３２４（ａ）～図３２４（ｄ）に示すように第１報知用表示装置５９１は８個の表示用セグメント６１１を有している。第１報知用表示装置５９１における８個の表示用セグメント６１１のうち７個の表示用セグメント６１１は同一形状及び同一サイズとなる棒状の発光領域となっており、「８」の字を生じさせるように配列されている。一方、１個の表示用セグメント６１１は円形状の発光領域となっており、「８」の字状に配列されている７個の表示用セグメント６１１に対して右下の位置に設けられている。

【４１９６】

図３２４（ａ）～図３２４（ｄ）に示すように第２～第５報知用表示装置５９２～５９５はいずれも７個の表示用セグメント６１２～６１５を有している。７個の表示用セグメント６１２～６１５はいずれも同一形状及び同一サイズとなる棒状の発光領域となっており、「８」の字を生じさせるように配列されている。

【４１９７】

第１表示対象エリア６０６における各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７における各種エリア６０７ａ～６０７ｄのいずれの出玉率を報知する場合であ

っても、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５のそれぞれにおいて少なくとも１個の表示用セグメント６１１～６１５が発光状態となる。

【４１９８】

第１報知用表示装置５９１では、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５において第１表示対象エリア６０６に格納されている出玉率を報知している状況であることを示す表示、及び第２表示対象エリア６０７に格納されている出玉率を報知している状況であることを示す表示が行われる。具体的には、第１表示対象エリア６０６における各種エリア６０６ａ～６０６ｄのいずれかの出玉率を報知する場合、図３２３（ａ）及び図３２３（ｂ）に示すように、第１報知用表示装置５９１には「ｄ」の文字が表示される。また、第２表示対象エリア６０７における各種エリア６０７ａ～６０７ｄのいずれかの出玉率を報知する場合、図３２３（ｃ）及び図３２３（ｄ）に示すように、第１報知用表示装置５９１には「ｄ．」の文字が表示される。第１～第５報知用表示装置５９１～５９５において出玉率以外の情報が報知される場合には第１報知用表示装置５９１にて「ｄ」及び「ｄ．」の文字が表示されることはない。遊技ホールの管理者は、第１報知用表示装置５９１にて「ｄ」の文字が表示されていることを確認することで、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第１表示対象エリア６０６に格納されている出玉率が報知されていることを把握することできるとともに、第１報知用表示装置５９１にて「ｄ．」の文字が表示されていることを確認することで、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第２表示対象エリア６０７に格納されている出玉率が報知されていることを把握することできる。

【４１９９】

第２報知用表示装置５９２では、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄのうちいずれの出玉率を報知している状況であるのかを示す表示が行われる。具体的には、第１単位更新エリア６０６ａの出玉率が報知されている状況においては図３２４（ａ）に示すように第２報知用表示装置５９２にて「Ａ」の文字が表示される。また、第２単位更新エリア６０７ａの出玉率が報知されている状況においても同様に第２報知用表示装置５９２にて「Ａ」の文字が表示される。第２報知用表示装置５９２において第１単位更新エリア６０６ａ又は第２単位更新エリア６０７ａの出玉率以外の情報が報知される場合には第２報知用表示装置５９２にて「Ａ」の文字が表示されることはない。遊技ホールの管理者は、第２報知用表示装置５９２にて「Ａ」の文字が表示されていることを確認することで、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第１単位更新エリア６０６ａ又は第２単位更新エリア６０７ａの出玉率が報知されることを把握することができる。単位更新エリア６０６ａ，６０７ａの出玉率が表示されていることを示す表示が第１表示対象エリア６０６及び第２表示対象エリア６０７において共通していることにより、第２報知用表示装置５９２の表示と、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて表示されている出玉率の種類との対応関係が把握し易いものとなっている。

【４２００】

第１算出期間の直近エリア６０６ｂの出玉率が報知されている状況においては図３２４（ａ）に示すように第２報知用表示装置５９２にて「Ｌ」の文字が表示される。また、第２算出期間の直近エリア６０７ｂの出玉率が報知されている状況においても同様に第２報知用表示装置５９２にて「Ｌ」の文字が表示される。第２報知用表示装置５９２において第１算出期間の直近エリア６０６ｂ又は第２算出期間の直近エリア６０７ｂの出玉率以外の情報が報知される場合には第２報知用表示装置５９２にて「Ｌ」の文字が表示されることはない。遊技ホールの管理者は、第２報知用表示装置５９２にて「Ｌ」の文字が表示されていることを確認することで、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第１算出期間の直近エリア６０６ｂ又は第２算出期間の直近エリア６０７ｂの出玉率が報知されることを把握することができる。直近エリア６０６ｂ，６０７ｂの出玉率が表示されていることを示す表示が第１表示対象エリア６０６及び第２表示対象エリア６０７において共通していることにより、第２報知用表示装置５９２の表示と、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて表示されている出玉率の種類との対応関係が把握し易いものとなってい

る。
【４２０１】
第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃの出玉率が報知されている状況においては図３２４（ａ）に示すように第２報知用表示装置５９２にて「Ｆ」の文字が表示される。また、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃの出玉率が報知されている状況においても同様に第２報知用表示装置５９２にて「Ｆ」の文字が表示される。第２報知用表示装置５９２において第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ又は第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃの出玉率以外の情報が報知される場合には第２報知用表示装置５９２にて「Ｆ」の文字が表示されることはない。遊技ホールの管理者は、第２報知用表示装置５９２にて「Ｆ」の文字が表示されていることを確認することで、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ又は第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃの出玉率が報知されることを把握することができる。第１履歴エリア６０６ｃ，６０７ｃの出玉率が表示されていることを示す表示が第１表示対象エリア６０６及び第２表示対象エリア６０７において共通していることにより、第２報知用表示装置５９２の表示と、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて表示されている出玉率の種類との対応関係が把握し易いものとなっている。
【４２０２】
第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄの出玉率が報知されている状況においては図３２４（ａ）に示すように第２報知用表示装置５９２にて「Ｅ」の文字が表示される。また、第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄの出玉率が報知されている状況においても同様に第２報知用表示装置５９２にて「Ｅ」の文字が表示される。第２報知用表示装置５９２において第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄ又は第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄの出玉率以外の情報が報知される場合には第２報知用表示装置５９２にて「Ｅ」の文字が表示されることはない。遊技ホールの管理者は、第２報知用表示装置５９２にて「Ｅ」の文字が表示されていることを確認することで、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄ又は第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄの出玉率が報知されることを把握することができる。第２履歴エリア６０６ｄ，６０７ｄの出玉率が表示されていることを示す表示が第１表示対象エリア６０６及び第２表示対象エリア６０７において共通していることにより、第２報知用表示装置５９２の表示と、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて表示されている出玉率の種類との対応関係が把握し易いものとなっている。
【４２０３】
遊技ホールの管理者は、第１報知用表示装置５９１の表示及び第２報知用表示装置５９２の表示の組合せに基づいて、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄのうち報知対象となっているエリアを把握することができる。例えば、第１～第２報知用表示装置５９１～５９２の表示が「ｄＡ」である場合に第１単位更新エリア６０６ａが報知対象となっていることを把握することができるとともに、第１～第２報知用表示装置５９１～５９２の表示が「ｄ．Ｌ」である場合に第２算出期間の直近エリア６０７ｂが報知対象となっていることを把握することができる。
【４２０４】
第３～第５報知用表示装置５９３～５９５では出玉率に対応する表示として「０」～「９」のいずれかの数字が表示される。この場合に、第２報知用表示装置５９２にて数字が表示されると、第２～第５報知用表示装置５９２～５９５に４個の数字が並ぶこととなり、出玉率を把握しづらくなってしまう。これに対して、第２報知用表示装置５９２に「Ａ」、「Ｌ」、「Ｆ」、又は「Ｅ」のアルファベットが表示されることにより、第２報知用表示装置５９２における表示と、第３～第５報知用表示装置５９３～５９５に表示される出玉率に対応する数字の表示とを区別して把握することが可能となる。
【４２０５】
第３～第５報知用表示装置５９３～５９５では、報知対象となっている出玉率に対応す

る３個の数字が表示される。既に説明したとおり、出玉率の情報は「０」～「９９９」の範囲で３桁の数値情報として記憶される。当該出玉率のうち百の位の数字が第３報知用表示装置５９３にて表示され、当該出玉率のうち十の位の数字が第４報知用表示装置５９４にて表示され、当該出玉率のうち一の位の数字が第５報知用表示装置５９５にて表示される。

【４２０６】

第１表示対象エリア６０６及び第２表示対象エリア６０７において報知対象となっているエリア６０６ａ～６０６ｄ，６０７ａ～６０７ｄに出玉率の情報が未だ格納されていない場合には、第３～第５報知用表示装置５９３～５９５のそれぞれにて「０」の文字が表示される。なお、第１表示対象エリア６０６及び第２表示対象エリア６０７において報知対象となっているエリア６０６ａ～６０６ｄ，６０７ａ～６０７ｄに出玉率の情報が未だ格納されていない場合に、第３～第５報知用表示装置５９３～５９５のそれぞれにてハイフン（「‐」）の記号が表示される構成としてもよい。なお、ハイフン（「‐」）の記号は、各報知用表示装置５９１～５９５の中央の１個の表示用セグメント６１１～６１５を発光状態とするとともに残りの表示用セグメント６１１～６１５を消灯状態とすることにより表示される。

【４２０７】

既に説明したとおり、出玉率の情報は「０」～「９９９」の数値情報として記憶される。算出された出玉率が９９９％を上回る場合、当該出玉率の情報として「９９９」の数値情報が記憶される。出玉率の情報を４桁の数値情報として表示する場合には、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５に加えてもう１つの報知用表示装置が必要となる。既に説明したとおり、第１正常範囲は４１％～１４９％の数値範囲であるとともに、第２正常範囲は５１％～１３３％の数値範囲である。このため、９９９％を上回る出玉率を９９９％として表示したとしても、出玉率が正常範囲（第１正常範囲又は第２正常範囲）を上回る異常が発生しているとともに当該異常の程度が深刻であることを把握可能とすることができる。本実施形態では、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて表示される出玉率の上限を９９９％とすることにより、報知用表示装置５９１～５９５の数が増加することを抑制しながら、出玉率が正常範囲（第１正常範囲又は第２正常範囲）の上限を上回った場合に、出玉率が正常範囲の上限を上回る異常の有無だけでなく、当該異常の程度まで把握することを可能としている。

【４２０８】

本実施形態では、設定値の確認が行われている状況において、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。具体的には、第１～第３報知用表示装置５９１～５９３においてハイフン（「‐」）の記号を示す表示が行われ、第４報知用表示装置５９４において「ｋ」の文字を示す表示が行われ、第５報知用表示装置５９５にて現状の設定値に対応する数字を示す表示が行われる。例えば、現状の設定値が「２」である場合、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示は「‐‐‐ｋ２」となる。遊技ホールの管理者は、第４報知用表示装置５９４の表示が「ｋ」であることに基づいて第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて設定値の確認が行われている状況に対応する表示が行われていることを把握することができるとともに、第５報知用表示装置５９５に表示されている数字を確認することにより現状の設定値を把握することができる。

【４２０９】

本実施形態では、設定値の更新が行われている状況において、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて設定値を更新している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。具体的には、第１～第３報知用表示装置５９１～５９３においてハイフン（「‐」）の記号を示す表示が行われ、第４報知用表示装置５９４において「Ｈ」の文字を示す表示が行われ、第５報知用表示装置５９５にて現状の設定値に対応する数字を示す表示が行われる。例えば、現状の設定値が「４」である場合、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示は「‐‐‐Ｈ４」となる。遊技ホールの管理者は、第４報

知用表示装置５９４の表示が「Ｈ」であることに基づいて第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて設定値の更新が行われている状況に対応する表示が行われていることを把握することができるとともに、第５報知用表示装置５９５に表示されている数字を確認することにより現状の設定値を把握することができる。

【４２１０】

上記第３３の実施形態において図１１９を参照しながら既に説明したとおり、主制御基板６１には、第１～第５表示回路２６１～２６５が設けられている。本実施形態において第５表示回路２６５は、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５に対応させて設けられている。また、上記第３３の実施形態において既に説明したとおり、第１表示回路２６１は特図表示部３７ａに対応させて設けられており、第２表示回路２６２は特図保留表示部３７ｂに対応させて設けられており、第３表示回路２６３は普図表示部３８ａに対応させて設けられており、第４表示回路２６４は普図保留表示部３８ｂに対応させて設けられている。

【４２１１】

上記第３３の実施形態において既に説明したとおり、主制御基板６１には、第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに対して共通となるように１個の表示ＩＣ２６６が設けられている。主側ＣＰＵ６３と表示ＩＣ２６６とは、種別データ信号線ＬＮ１と、種別クロック信号線ＬＮ２と、表示データ信号線ＬＮ３と、表示クロック信号線ＬＮ４とを利用して電気的に接続されており、主側ＣＰＵ６３は当該表示ＩＣ２６６に対して表示データ、及びその表示データが第１～第５表示回路２６１～２６５のいずれに対応しているのかを示す種別データを供給する。

【４２１２】

上記第３３の実施形態において図１２０（ａ）を参照しながら既に説明したとおり、特定制御用のワークエリア２２１には、第１～第５表示データバッファ２７１～２７５が設けられている。本実施形態では、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５に所定の表示を行わせるための表示データが第５表示データバッファ２７５に格納される。

【４２１３】

上記第３３の実施形態において図１２０（ｂ）を参照しながら既に説明したとおり、非特定制御用のワークエリア２２３には表示対象設定エリア２７６が設けられている。本実施形態において表示対象設定エリア２７６には、表示種別データと出玉率表示データとからなる表示データが設定される。表示種別データは、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の報知対象が出玉率であることを示す表示（「ｄ」又は「ｄ．」の文字の表示）を第１報知用表示装置５９１に行わせるための表示データと、報知対象の出玉率が第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄのうちいずれに対応しているのかを示す表示（「Ａ」、「Ｌ」、「Ｆ」、及び「Ｅ」のいずれかの文字の表示）を第２報知用表示装置５９２に行わせるための表示データとを含む。また、出玉率表示データは、報知対象の出玉率における百の位の数字に対応する表示を第３報知用表示装置５９３に行わせるための表示データと、報知対象の出玉率における十の位の数字に対応する表示を第４報知用表示装置５９４に行わせるための表示データと、報知対象の出玉率における一の位の数字に対応する表示を第５報知用表示装置５９５に行わせるための表示データとを含む。

【４２１４】

本実施形態では、後述する通常時の設定処理（図３２８）のステップＳＬ４０９にて表示対象設定エリア２７６に設定されている表示データが第５表示データバッファ２７５に設定され、第２タイマ割込み処理（図１３４）にて第５表示データバッファ２７５に設定されている表示データが表示ＩＣ２６６に送信される。上記第３３の実施形態と同様に、表示ＩＣ２６６は主側ＣＰＵ６３から受信した表示データが第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに供給されている状況において、第５表示回路２６５を指定する種別データに基づいて当該表示データを第５表示回路２６５に受信させて利用させるための第５選択信号を送信する。これにより、第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに供給されてい

る表示データが、第５表示回路２６５のみにおいて受信されて利用される。
【４２１５】
第５表示回路２６５は供給された表示データに対応するデータを第１～第５報知用表示装置５９１～５９５のそれぞれに設けられた複数の表示用セグメント６１１～６１５のそれぞれに提供する。これにより、第５表示回路２６５に提供された表示データに対応する態様で第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の各表示用セグメント６１１～６１５が発光状態又は消灯状態となる。この場合に、第５表示回路２６５は提供された表示データを所定期間（例えば１６ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「０」の状態に近付くこととなる。したがって、第５表示回路２６５に提供された表示データによって発光状態となっている第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示用セグメント６１１～６１５は新たな表示データが第５表示回路２６５に提供されることなく所定期間が経過することで徐々に消灯状態となる。また、このような構成であることにより第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示内容が変更される場合だけではなく第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示内容が変更されない場合であっても、前回の表示データの出力処理回と同一の表示データが第５表示回路２６５に供給される。
【４２１６】
既に説明したとおり、第１報知用表示装置５９１には表示用セグメント６１１が８個設けられているとともに、第２～第５報知用表示装置５９２～５９５のそれぞれには表示用セグメント６１２～６１５が７個設けられている。これに対して、表示データの提供は８ビット単位で行われる。第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示データが第５表示回路２６５に提供される場合、第１報知用表示装置５９１に対応する８ビットの表示データが８ビット単位のデータとして提供され、その後に第２報知用表示装置５９２に対応する７ビットの表示データが８ビット単位のデータとして提供され、その後に第３報知用表示装置５９３に対応する７ビットの表示データが８ビット単位のデータとして提供され、その後に第４報知用表示装置５９４に対応する７ビットの表示データが８ビット単位のデータとして提供され、最後に第５報知用表示装置５９５に対応する７ビットの表示データが８ビット単位のデータとして提供される。
【４２１７】
次に、上記のような各種出玉率の報知を可能とするための処理構成について説明する。
【４２１８】
上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、主側ＣＰＵ６３は、第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９２０において管理用処理を実行する。当該管理用処理では、上記第１５の実施形態における管理用処理（図７０）と同様に、ステップＳ３８０３にて非特定制御に対応する処理である管理実行処理のプログラムを読み出す。そして、この管理実行処理（図７１）では、上記第１５の実施形態と同様に、ステップＳ３９０８にてチェック処理を実行する。
【４２１９】
図３２５はチェック処理を示すフローチャートである。なお、チェック処理におけるステップＳＬ１０１～ステップＳＬ１１４の処理は、主側ＣＰＵ６３における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。
【４２２０】
チェック処理では、前扉枠１４が閉鎖状態である場合（ステップＳＬ１０１：ＹＥＳ）、入球管理処理を実行する（ステップＳＬ１０２）。入球管理処理は、遊技状態を区別することなく全遊技状態において実行される。入球管理処理は、具体的には、開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない遊技状態と、開閉実行モードである遊技状態と、高頻度サポートモードである遊技状態とにおいて実行される。入球管理処理では、第１入賞口検知センサ４２ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合、第２入賞口検知センサ４３ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合、又は第３入賞口検知センサ４４ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合に一般入賞カウンタ５９６ａの

値を１加算する。また、特電検知センサ４５ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合に特電入賞カウンタ５９６ｂの値を１加算し、第１作動口検知センサ４６ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合に第１作動カウンタ５９６ｃの値を１加算し、第２作動口検知センサ４７ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合に第２作動カウンタ５９６ｄの値を１加算し、アウト口検知センサ４８ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合にアウトカウンタ５９６ｅの値を１加算する。これにより、全遊技状態における各入球部２４ａ，３１～３４への入球履歴を主側ＣＰＵ６３にて把握することが可能となる。

【４２２１】

一方、前扉枠１４が開放状態である場合（ステップＳＬ１０１：ＹＥＳ）、入球管理処理（ステップＳＬ１０２）を実行することなく、ステップＳＬ１０３に進む。前扉枠１４に設けられた窓パネル５２の裏面と遊技盤２４の前面によって前後に区画された空間によって遊技領域ＰＡが形成されているため、前扉枠１４が開放状態となった場合には遊技領域ＰＡが前方に向けて開放された状態となりその状況で遊技領域ＰＡに向けて遊技球が発射されたとしてもその遊技球は遊技領域ＰＡを正常に流下することはできない。また、前扉枠１４が開放状態である状況で入球部２４ａ，３１～３４への遊技球の入球が発生する場合というのは、メンテナンスや不具合の解消のために遊技ホールの管理者により前扉枠１４が開放状態とされて手入れなどにより遊技球の入球が発生する場合である。このような遊技球の入球は正規の遊技の実行状況における遊技球の入球ではないため、そのような遊技球の入球を管理対象とする必要がない。したがって、チェック処理では上記のとおり前扉枠１４が開放状態である場合には入球管理処理（ステップＳＬ１０２）を実行しない。

【４２２２】

ステップＳＬ１０１にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＬ１０２の処理を行った場合には、現状出玉率演算処理を実行する（ステップＳＬ１０３）。現状出玉率演算処理では、まず非特定制御用のワークエリア２２３における演算エリア５９８及び現状出玉率エリア５９９を「０」クリアする。その後、入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅに記憶されている値を利用して遊技球の合計払出個数を算出し、当該算出した遊技球の合計払出個数を演算エリア５９８にセットする。また、当該各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅの値を合計することにより遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数を算出し、当該算出した遊技球の合計個数を現状出玉率エリア５９９にセットする。そして、演算エリア５９８にセットされている遊技球の合計払出個数を現状出玉率エリア５９９にセットされている遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数で除算して１００倍することにより現状の出玉率を算出し、当該算出した現状の出玉率を演算エリア５９８に記憶する。既に説明したとおり、現状の出玉率は「０」～「９９９」の範囲で３桁の数値情報として算出する。算出結果が「９９９」を上回る数値となった場合には、現状の出玉率として「９９９」の数値情報を演算エリア５９８に記憶する。

【４２２３】

その後、現状出玉率エリア５９９の上書き処理を実行する（ステップＳＬ１０４）。当該上書き処理では、演算エリア５９８に記憶されている現状の出玉率データを現状出玉率エリア５９９に上書きする。現状出玉率エリア５９９に上書きされる現状の出玉率データは、現状出玉率演算処理（ステップＳＬ１０３）の演算結果である。

【４２２４】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３における算出開始フラグ５９７に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＬ１０５）。既に説明したとおり、算出開始フラグ５９７は、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合において「０」の値となっている。また、非特定制御用のワークエリア２２３が算出開始フラグ５９７を含めて「０」クリアされて初期化された場合にも算出開始フラグ５９７の値は「０」となる。

【４２２５】

ステップＳＬ１０５にて算出開始フラグ５９７に「１」がセットされていないと判定した場合には、合計排出個数の演算処理を実行する（ステップＳＬｌ０６）。合計排出個数の演算処理では、入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅに記憶されている値の合計値を算出することにより、全遊技状態において（開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない遊技状態と、開閉実行モードである遊技状態と、高頻度サポートモードである遊技状態とにおいて）、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数を算出する。

【４２２６】

その後、ステップＳＬ１０６にて算出した合計排出個数（遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数）が算出開始基準個数である３００個よりも多い個数であるか否かを判定する（ステップＳＬ１０７）。ステップＳＬ１０７にて肯定判定をした場合、算出開始フラグ５９７に「１」をセットし（ステップＳＬ１０８）、入球個数カウンタエリア５９６のクリア処理を実行する（ステップＳＬ１０９）。当該クリア処理では、入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅの値を「０」クリアする。これにより、最初の単位算出期間が開始される。

【４２２７】

一方、ステップＳＬ１０５にて算出開始フラグ５９７に「１」がセットされていると判定した場合には、合計排出個数の演算処理を実行する（ステップＳＬ１１０）。当該演算処理では、ステップＳＬ１０６における合計排出個数の演算処理と同様に、入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅに記憶されている値の合計値を算出することにより、全遊技状態において、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数を算出する。その後、当該算出した合計排出個数（遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数）が単位基準個数である６０００個以上の個数であるか否かを判定する（ステップＳＬ１１１）。

【４２２８】

ステップＳＬ１１１にて肯定判定を行った場合には、現状出玉率エリア５９９に格納されている現状の出玉率データを第１管理バッファ６０１及び第２管理バッファ６０２に書き込む出玉率記憶処理を実行する（ステップＳＬ１１２）。このように、出玉率記憶処理（ステップＳＬ１１２）は、全遊技状態において、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が単位基準個数である６０００個以上となり１つの単位算出期間が終了した場合に実行される。

【４２２９】

図３２６は出玉率記憶処理を示すフローチャートである。なお、出玉率記憶処理におけるステップＳＬ２０１～ステップＳＬ２２４の処理は、主側ＣＰＵ６３における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【４２３０】

出玉率記憶処理では、まず非特定制御用のワークエリア２２３における現状出玉率エリア５９９に格納されている現状の出玉率データを把握する（ステップＳＬ２０１）。現状出玉率エリア５９９には、今回終了した単位算出期間の最終的な出玉率データが格納されている。その後、非特定制御用のワークエリア２２３における第１書き込みポインタ６０３の値に基づいて、第１管理バッファ６０１における第０～第３記憶エリア６０１ａ～６０１ｄのうち書き込み先となる記憶エリア６０１ａ～６０１ｄを特定する（ステップＳＬ２０２）。既に説明したとおり、第１書き込みポインタ６０３の値が「ｎ」（ｎは０～３のいずれかの整数）である場合、書き込み先の記憶エリア６０１ａ～６０１ｄとして第ｎ記憶エリア６０１ａ～６０１ｄを特定する。

【４２３１】

その後、出玉率データの上書き処理を実行する（ステップＳＬ２０３）。当該上書き処理では、ステップＳＬ２０１にて把握した現状の出玉率データをステップＳＬ２０２にて特定した第１管理バッファ６０１の記憶エリア６０１ａ～６０１ｄに上書きする。これにより、当該記憶エリア６０１ａ～６０１ｄに今回終了した単位算出期間における出玉率デ

ータが格納される。
【４２３２】
その後、第１書き込みポインタ６０３の更新処理を行う（ステップＳＬ２０４）。当該更新処理では、第１書き込みポインタ６０３の値を１加算し、当該１加算後の値が最大値（具体的には「３」）を超える場合に第１書き込みポインタ６０３の値を「０」クリアする。
【４２３３】
その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＬ２０５）。第１報知開始フラグ６０８は、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第１表示対象エリア６０６における各種エリア６０６ａ～６０６ｄの出玉率の表示を実行する状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて把握するためのフラグである。第１報知開始フラグ６０８は、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合において「０」の値となっている。また、非特定制御用のワークエリア２２３が第１報知開始フラグ６０８を含めて「０」クリアされて初期化された場合にも第１報知開始フラグ６０８の値は「０」となる。第１報知開始フラグ６０８には、第１管理バッファ６０１の記憶エリア６０１ａ～６０１ｄに４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されている状況となった場合に「１」がセットされる。第１報知開始フラグ６０８の値が「０」である状態は、第１管理バッファ６０１の４個の記憶エリア６０１ａ～６０１ｄのうち少なくとも１つの記憶エリア６０１ａ～６０１ｄに出玉率データが格納されていない状態に対応している。第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない場合、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄに格納されている出玉率の表示が行われない。なお、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない場合における第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示内容の詳細については後述する。
【４２３４】
ステップＳＬ２０５にて否定判定を行った場合には、第１書き込みポインタ６０３の値が１周したか否かを判定する（ステップＳＬ２０６）。ステップＳＬ２０６では、ステップＳＬ２０４にて更新された後の第１書き込みポインタ６０３の値が「０」である場合に第１書き込みポインタ６０３の値が１周したと判定する。ステップＳＬ２０６にて肯定判定を行った場合には、第１管理バッファ６０１の記憶エリア６０１ａ～６０１ｄに４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されている状態となったことを意味するため、第１報知開始フラグ６０８に「１」をセットする（ステップＳＬ２０７）。
【４２３５】
ステップＳＬ２０５にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＬ２０７の処理を行った場合には、第１出玉率演算処理を実行する（ステップＳＬ２０８）。第１出玉率演算処理では、まず非特定制御用のワークエリア２２３における演算エリア５９８を「０」クリアし、当該演算エリア５９８に第１管理バッファ６０１の第０記憶エリア６０１ａに格納されている出玉率データ（「０」～「９９９」のいずれかの数値情報）をセットする。その後、演算エリア５９８の値に対して、第１管理バッファ６０１の第１～第３記憶エリア６０１ｂ～６０１ｄに格納されている３個の出玉率を加算することにより４個の出玉率の合計値を算出する。その後、演算エリア５９８の値を「４」で除算することにより直近４回分の単位算出期間全体における出玉率を算出し、当該算出した出玉率を演算エリア５９８に記憶する。既に説明したとおり、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率は「０」～「９９９」の範囲で３桁の数値情報として算出する。ステップＳＬ２０８にて第１出玉率演算処理が実行されることにより、演算エリア５９８に直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データが記憶されている状態となる。
【４２３６】
その後、第１単位更新エリア６０６ａの上書き処理を実行する（ステップＳＬ２０９）。当該上書き処理では、ステップＳＬ２０８にて算出した直近４回分の単位算出期間全体

における出玉率データを第１単位更新エリア６０６ａに上書きする。このように、第１単位更新エリア６０６ａに格納されている出玉率データは、１つの単位算出期間が終了する度に直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データに更新される。

【４２３７】

ステップＳＬ２０８における第１出玉率演算処理及びステップＳＬ２０９における第１単位更新エリア６０６ａの上書き処理は、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていること（ステップＳＬ２０５にて肯定判定が行われること、又はステップＳＬ２０７の処理が行われること）を条件として実行される。一方、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない場合（ステップＳＬ２０５：ＮＯ、ステップＳＬ２０６：ＮＯ）には、これらステップＳＬ２０８及びステップＳＬ２０９の処理は実行されない。第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない場合には、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率を算出するための出玉率データの数が足りていないことを意味する。この場合にステップＳＬ２０８及びステップＳＬ２０９の処理を実行する構成とすると、直近１～３回分の単位算出期間全体における出玉率データが第１単位更新エリア６０６ａに格納されてしまう。第１正常範囲（４１％～１４９％）は、４回分の単位算出期間全体における出玉率の正常範囲であり、１～３回分の単位算出期間全体における出玉率の正常範囲は異なる数値範囲である。このため、直近１～３回分の単位算出期間全体における出玉率データが第１単位更新エリア６０６ａに格納されて第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて表示されてしまうと、出玉率の異常の有無を正確に判断することができなくなってしまう。本実施形態では、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていることを条件としてステップＳＬ２０８における第１出玉率演算処理及びステップＳＬ２０９における第１単位更新エリア６０６ａの上書き処理を実行する構成であることにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて１～３回分の単位算出期間全体における出玉率の表示が行われてしまうことを防止している。

【４２３８】

その後、第１算出期間が終了したか否かを判定する（ステップＳＬ２１０）。ステップＳＬ２１０では、ステップＳＬ２０４にて更新された後の第１書き込みポインタ６０３の値が「０」である場合に第１算出期間が終了したタイミングであると判定する。ステップＳＬ２１０にて肯定判定を行った場合には、第１算出期間の直近エリア６０６ｂ、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ及び第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄを更新するための処理（ステップＳＬ２１１～ステップＳＬ２１２の処理）を実行する。

【４２３９】

具体的には、まず第１データシフト処理を実行する（ステップＳＬ２１１）。第１データシフト処理では、第１表示対象エリア６０６における第１算出期間の直近エリア６０６ｂ、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ、及び第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄに記憶された情報を、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ→第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄ、第１算出期間の直近エリア６０６ｂ→第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃの順序でシフトする。これにより、今回終了した第１算出期間の２回前の第１算出期間における出玉率データが第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄに記憶され、今回終了した第１算出期間の１回前の第１算出期間における出玉率データが第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃに記憶される。第１データシフト処理では、上記のような情報のシフトを行う場合、ＬＤＩＲ命令を利用する。ＬＤＩＲ命令では、情報の記憶元のエリアのアドレスと情報の記憶先のエリアのアドレスとを指定することで、記憶元のエリアに記憶された情報が記憶先のエリアにシフト（コピー）されることとなる。また、ステップＳＬ２１１における第１データシフト処理では、上記のような情報のシフトを行った後、第１算出期間の直近エリア６０６ｂを「０」クリアする。

【４２４０】

その後、第１単位更新エリア６０６ａに格納されている出玉率データを第１算出期間の直近エリア６０６ｂに格納する（ステップＳＬ２１２）。既に説明したとおり、第１単位更新エリア６０６ａには直近４回分の単位算出期間全体における出玉率が格納されている

。第１書き込みポインタ６０３の値が１周して１つの第１算出期間が終了した場合、直近４回分の単位算出期間は今回終了した第１算出期間に含まれる４回分の単位算出期間である。このため、第１単位更新エリア６０６ａには今回終了した第１算出期間における最終的な出玉率データが格納されており、ステップＳＬ２０９にて第１算出期間の直近エリア６０６ｂにも今回終了した第１算出期間における最終的な出玉率データが格納されている状態となる。

【４２４１】

ステップＳＬ２０６にて否定判定を行った場合、ステップＳＬ２１０にて否定判定を行った場合、又はステップＳＬ２１２の処理を行った場合には、現状出玉率エリア５９９に格納されている現状の出玉率データを把握する（ステップＳＬ２１３）。既に説明したとおり、現状出玉率エリア５９９には今回終了した単位算出期間における出玉率データが格納されている。その後、非特定制御用のワークエリア２２３における第２書き込みポインタ６０４の値に基づいて、第２管理バッファ６０２における第０～第９記憶エリア６０２ａ～６０２ｊのうち書き込み先となる記憶エリア６０２ａ～６０２ｊを特定する（ステップＳＬ２１４）。既に説明したとおり、第２書き込みポインタ６０４の値が「ｍ」（ｍは０～９のいずれかの整数）である場合、書き込み先の記憶エリア６０２ａ～６０２ｊとして第ｍ記憶エリア６０２ａ～６０２ｊを特定する。

【４２４２】

その後、出玉率データの上書き処理を実行する（ステップＳＬ２１５）。当該上書き処理では、ステップＳＬ２１３にて把握した現状の出玉率データをステップＳＬ２１４にて特定した第２管理バッファ６０２の記憶エリア６０２ａ～６０２ｊに上書きする。これにより、当該記憶エリア６０２ａ～６０２ｊに今回終了した単位算出期間における出玉率データが格納される。

【４２４３】

その後、第２書き込みポインタ６０４の更新処理を行う（ステップＳＬ２１６）。当該更新処理では、第２書き込みポインタ６０４の値を１加算し、当該１加算後の値が最大値（具体的には「９」）を超える場合に第２書き込みポインタ６０４の値を「０」クリアする。

【４２４４】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＬ２１７）。第２報知開始フラグ６０９は、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第２表示対象エリア６０７における各種エリア６０７ａ～６０７ｄの出玉率の表示を実行する状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて把握するためのフラグである。第２報知開始フラグ６０９は、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合において「０」の値となっている。また、非特定制御用のワークエリア２２３が第２報知開始フラグ６０９を含めて「０」クリアされて初期化された場合にも第２報知開始フラグ６０９の値は「０」となる。第２報知開始フラグ６０９には、第２管理バッファ６０２の記憶エリア６０２ａ～６０２ｊに１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データが格納されている状況となった場合に「１」がセットされる。第２報知開始フラグ６０９の値が「０」である状態は、第２管理バッファ６０２の１０個の記憶エリア６０２ａ～６０２ｊのうち少なくとも１つの記憶エリア６０２ａ～６０２ｊに出玉率データが格納されていない状態に対応している。第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていない場合、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄに格納されている出玉率の表示が行われない。なお、第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていない場合における第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示内容の詳細については後述する。

【４２４５】

ステップＳＬ２１７にて否定判定を行った場合には、第２書き込みポインタ６０４の値が１周したか否かを判定する（ステップＳＬ２１８）。ステップＳＬ２１８では、ステッ

プＳＬ２１６にて更新された後の第２書き込みポインタ６０４の値が「０」である場合に第２書き込みポインタ６０４の値が１周したと判定する。ステップＳＬ２１８にて肯定判定を行った場合には、第２管理バッファ６０２の記憶エリア６０２ａ～６０２ｊに直近１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データが格納されている状態となったことを意味するため、第２報知開始フラグ６０９に「１」をセットする（ステップＳＬ２１９）。

【４２４６】

ステップＳＬ２１７にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＬ２１９の処理を行った場合には、第２出玉率演算処理を実行する（ステップＳＬ２２０）。第２出玉率演算処理では、まず非特定制御用のワークエリア２２３における演算エリア５９８を「０」クリアし、第２管理バッファ６０２の第０記憶エリア６０２ａに格納されている出玉率データ（「０」～「９９９」のいずれかの数値情報）を当該演算エリア５９８にセットする。その後、演算エリア５９８の値に対して、第２管理バッファ６０２の第１～第９記憶エリア６０２ｂ～６０２ｊに格納されている９個の出玉率を加算することにより１０個の出玉率の合計値を算出する。その後、演算エリア５９８の値を「１０」で除算することにより直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率を算出し、当該算出した出玉率を演算エリア５９８に記憶する。既に説明したとおり、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率は「０」～「９９９」の範囲で３桁の数値情報として算出する。これにより、演算エリア５９８に直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が記憶されている状態となる。

【４２４７】

その後、第２単位更新エリア６０７ａの上書き処理を実行する（ステップＳＬ２２１）。当該上書き処理では、ステップＳＬ２２０にて算出した直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データを第２単位更新エリア６０７ａに上書きする。このように、第２単位更新エリア６０７ａに格納されている出玉率データは、１つの単位算出期間が終了する度に直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データに更新される。

【４２４８】

ステップＳＬ２２０における第２出玉率演算処理及びステップＳＬ２２１における第２単位更新エリア６０７ａの上書き処理は、第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていること（ステップＳＬ２１７にて肯定判定が行われること、又はステップＳＬ２１９の処理が行われること）を条件として実行される。一方、第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていない場合（ステップＳＬ２１７：ＮＯ、ステップＳＬ２１８：ＮＯ）には、これらステップＳＬ２２０及びステップＳＬ２２１の処理は実行されない。第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていない場合には、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率を算出するための出玉率データの数が足りていないことを意味する。この場合にステップＳＬ２２０及びステップＳＬ２２１の処理を実行する構成とすると、直近１～９回分の単位算出期間全体における出玉率データが第２単位更新エリア６０７ａに格納されてしまう。第２正常範囲（５１％～１３３％）は、１０回分の単位算出期間全体における出玉率の正常範囲であり、１～９回分の単位算出期間全体における出玉率の正常範囲は異なる数値範囲である。このため、直近１～９回分の単位算出期間全体における出玉率データが第２単位更新エリア６０７ａに格納されて第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて表示されてしまうと、出玉率の異常の有無を正確に判断することができなくなってしまう。本実施形態では、第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていることを条件としてステップＳＬ２２０における第２出玉率演算処理及びステップＳＬ２２１における第２単位更新エリア６０７ａの上書き処理を実行する構成であることにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて１～９回分の単位算出期間全体における出玉率の表示が行われてしまうことを防止している。

【４２４９】

その後、第２算出期間が終了したか否かを判定する（ステップＳＬ２２２）。ステップＳＬ２２２では、ステップＳＬ２１６にて更新された後の第２書き込みポインタ６０４の

値が「０」である場合に第２算出期間が終了したタイミングであると判定する。ステップＳＬ２２２にて肯定判定を行った場合には、第２算出期間の直近エリア６０７ｂ、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ及び第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄを更新するための処理（ステップＳＬ２２３～ステップＳＬ２２４の処理）を実行する。

【４２５０】

具体的には、まず第２データシフト処理を実行する（ステップＳＬ２２３）。第２データシフト処理では、第２表示対象エリア６０７における第２算出期間の直近エリア６０７ｂ、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ、及び第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄに記憶された情報を、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ→第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄ、第２算出期間の直近エリア６０７ｂ→第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃの順序でシフトする。これにより、今回終了した第２算出期間の２回前の第２算出期間における出玉率データが第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄに記憶され、今回終了した第２算出期間の１回前の第２算出期間における出玉率データが第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃに記憶される。第２データシフト処理では、上記のような情報のシフトを行う場合、ＬＤＩＲ命令を利用する。ＬＤＩＲ命令では、情報の記憶元のエリアのアドレスと情報の記憶先のエリアのアドレスとを指定することで、記憶元のエリアに記憶された情報が記憶先のエリアにシフト（コピー）されることとなる。また、ステップＳＬ２２３における第２データシフト処理では、上記のような情報のシフト処理を行った後、第２算出期間の直近エリア６０７ｂを「０」クリアする。

【４２５１】

その後、第２単位更新エリア６０７ａに格納されている出玉率データを第２算出期間の直近エリア６０７ｂに格納して（ステップＳＬ２２４）、本出玉率演算処理を終了する。既に説明したとおり、第２単位更新エリア６０７ａには直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が格納されている。第２書き込みポインタ６０４の値が１周して１つの第２算出期間が終了した場合、直近１０回分の単位算出期間は今回終了した第２算出期間に含まれる１０回分の単位算出期間である。このため、第２単位更新エリア６０７ａには今回終了した第２算出期間における最終的な出玉率データが格納されており、ステップＳＬ２０９にて第２算出期間の直近エリア６０７ｂにも今回終了した第２算出期間における最終的な出玉率データが格納されている状態となる。

【４２５２】

チェック処理（図３２５）の説明に戻り、ステップＳＬ１１２にて出玉率記憶処理を実行した後、入球個数カウンタエリア５９６のクリア処理を実行することにより、入球個数カウンタエリア５９６における各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅの値を「０」クリアする（ステップＳＬ１１３）。

【４２５３】

ステップＳＬ１０７にて否定判定を行った場合、ステップＳＬ１０９の処理を行った場合、ステップＳＬ１１１にて否定判定を行った場合、又はステップＳＬ１１３の処理を行った場合には、表示用処理を実行して（ステップＳＬ１１４）、本チェック処理を終了する。

【４２５４】

図３２７は表示用処理を示すフローチャートである。なお、表示用処理におけるステップＳＬ３０１～ステップＳＬ３１４の処理は、主側ＣＰＵ６３における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【４２５５】

表示用処理では、まず非特定制御用のワークエリア２２３における第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＬ３０１）。ステップＳＬ３０１にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた表示切換カウンタの値を１減算する（ステップＳＬ３０２）。表示切換カウンタは、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄのそれぞれに記憶された出玉率のうち第１～第５報知用表示

装置５９１～５９５における報知対象となる出玉率を切り換えるタイミングであることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、第１報知開始フラグ６０８及び第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされている場合、表示継続期間（具体的には５秒）が経過する度に、第１単位更新エリア６０６ａ→第１算出期間の直近エリア６０６ｂ→第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ→第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄ→第２単位更新エリア６０７ａ→第２算出期間の直近エリア６０７ｂ→第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ→第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄという予め定められた順序で報知対象となる出玉率が切り換えられるとともに、当該予め定められた順序による報知対象となる出玉率の切り換えが繰り返される。また、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされているとともに第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていない場合、表示継続期間（具体的には５秒）が経過する度に、第１単位更新エリア６０６ａ→第１算出期間の直近エリア６０６ｂ→第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ→第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄという予め定められた順序で報知対象となる出玉率が切り換えられるとともに、当該予め定められた順序による報知対象となる出玉率の切り換えが繰り返される。

【４２５６】

その後、現状の報知対象となっている出玉率が報知対象となってから表示継続期間が経過したか否かを判定する（ステップＳＬ３０３）。ステップＳＬ３０３では、ステップＳＬ３０２にて１減算した後における切換タイミングカウンタの値が「０」となっている場合に表示継続期間が経過したと判定する。ステップＳＬ３０３にて肯定判定をした場合には、第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＬ３０４）。ステップＳＬ３０４にて否定判定を行った場合には、報知対象カウンタの第１更新処理を実行する（ステップＳＬ３０５）。当該第１更新処理では、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた報知対象カウンタの値を１加算する。そして、当該１加算後における報知対象カウンタの値が第１最大値である「３」を超えた場合（ステップＳＬ３０６：ＹＥＳ）、報知対象カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳＬ３０７）。

【４２５７】

報知対象カウンタは、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄのそれぞれに記憶された出玉率のうち第１～第５報知用表示装置５９１～５９５において報知対象となる出玉率を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされているとともに第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていない場合、報知対象カウンタはその更新の都度前回値に１が加算され、第１最大値である「３」に達した後に「０」に戻る。報知対象カウンタの値が「０」である場合には第１単位更新エリア６０６ａに記憶された出玉率が報知対象となり、報知対象カウンタの値が「１」である場合には第１算出期間の直近エリア６０６ｂに記憶された出玉率が報知対象となり、報知対象カウンタの値が「２」である場合には第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃに記憶された出玉率が報知対象となり、報知対象カウンタの値が「３」である場合には第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄに記憶された出玉率が報知対象となる。また、報知対象カウンタの値が「４」である場合には第２単位更新エリア６０７ａに記憶された出玉率が報知対象となり、報知対象カウンタの値が「５」である場合には第２算出期間の直近エリア６０７ｂに記憶された出玉率が報知対象となり、報知対象カウンタの値が「６」である場合には第３算出期間の第１履歴エリア６０７ｃに記憶された出玉率が報知対象となり、報知対象カウンタの値が「７」である場合には第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄに記憶された出玉率が報知対象となる。

【４２５８】

このため、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされているとともに第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていない場合には、第１単位更新エリア６０６ａ、

第１算出期間の直近エリア６０６ｂ、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ、及び第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄに記憶された出玉率が報知対象となる。

【４２５９】

一方、ステップＳＬ３０４にて肯定判定を行った場合、報知対象カウンタの第２更新処理を実行する（ステップＳＬ３０８）。当該第２更新処理では、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた報知対象カウンタの値を１加算する。そして、当該１加算後における報知対象カウンタの値が第２最大値である「７」を超えた場合（ステップＳＬ３０９：ＹＥＳ）、報知対象カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳＬ３１０）。第１報知開始フラグ６０８及び第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされている場合、報知対象カウンタはその更新の都度前回値に１が加算され、第２最大値である「７」に達した後に「０」に戻る。

【４２６０】

このため、第１報知開始フラグ６０８及び第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされている場合には、第１単位更新エリア６０６ａ、第１算出期間の直近エリア６０６ｂ、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ、第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄ、第２単位更新エリア６０７ａ、第２算出期間の直近エリア６０７ｂ、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ、及び第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄに記憶された出玉率が報知対象となる。

【４２６１】

ステップＳＬ３０６にて否定判定をした場合、ステップＳＬ３０７の処理を実行した場合、ステップＳＬ３０９にて否定判定を行った場合、又はステップＳＬ３１０の処理を行った場合には、非特定制御用のワークエリア２２３の表示切換カウンタに次回の報知対象の切換タイミングに対応する値として表示継続期間（具体的には５秒）に対応する値を設定する（ステップＳＬ３１１）。

【４２６２】

ステップＳＬ３０３にて否定判定をした場合、又はステップＳＬ３１１の処理を実行した場合には、非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象設定エリア２７６に今回の報知対象となっている出玉率に対応する表示データを設定するための処理（ステップＳＬ３１２及びステップＳＬ３１３の処理）を実行する。既に説明したとおり、表示対象設定エリア２７６には表示種別データと出玉率表示データとからなる表示データが設定される。

【４２６３】

具体的には、まず報知対象カウンタの値に対応する表示種別データを表示対象設定エリア２７６に設定する（ステップＳＬ３１２）。既に説明したとおり、表示種別データは、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の報知対象が出玉率であることを示す表示（「ｄ」又は「ｄ．」の文字の表示）を第１報知用表示装置５９１に行わせるための表示データと、報知対象の出玉率が第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄのうちいずれに対応しているのかを示す表示（「Ａ」、「Ｌ」、「Ｆ」、及び「Ｅ」のいずれかの文字の表示）を第２報知用表示装置５９２に行わせるための表示データとを含む。

【４２６４】

その後、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄのうち報知対象カウンタの値に対応するエリアから出玉率データを読み出し、その読み出した出玉率データに対応する出玉率表示データを表示対象設定エリア２７６に設定して（ステップＳＬ３１３）、本表示用処理を終了する。出玉率表示データは、報知対象の出玉率における百の位の数字に対応する表示を第３報知用表示装置５９３に行わせるための表示データと、報知対象の出玉率における十の位の数字に対応する表示を第４報知用表示装置５９４に行わせるための表示データと、報知対象の出玉率における一の位の数字に対応する表示を第５報知用表示装置５９５に行わせるための表示データとを含む。

【４２６５】
ステップＳＬ３１２及びステップＳＬ３１３にて表示対象設定エリア２７６に設定された表示種別データと出玉率表示データとからなる表示データが表示ＩＣ２６６に送信されることにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて当該表示データに対応する出玉率の表示が行われる。
【４２６６】
ステップＳＬ３１３の処理は、報知対象の出玉率の切換タイミングとは関係なく表示用処理（図３２７）が実行される度に実行される。既に説明したとおり、第１単位更新エリア６０６ａ及び第２単位更新エリア６０７ａは単位算出期間が終了する度に更新される。また、第１算出期間の直近エリア６０６ｂ、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ及び第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄは第１算出期間が終了する度に更新されるとともに、第２算出期間の直近エリア６０７ｂ、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ、及び第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄは第２算出期間が終了する度に更新される。この場合に、上記のとおり出玉率表示データを表示対象設定エリア２７６に設定するためのステップＳＬ３１３の処理が報知対象の出玉率の切換タイミングとは関係なく表示用処理（図３２７）が実行される度に実行されることにより、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄに記憶されている出玉率データが更新された場合には切換タイミングとならなくても当該更新後の出玉率を報知することが可能となるとともに、第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄに記憶されている出玉率データが更新された場合には切換タイミングとならなくても当該更新後の出玉率を報知することが可能となる。
【４２６７】
一方、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされておらずステップＳＬ３０１にて否定判定をした場合、報知対象カウンタの値に関係なく、現状出玉率エリア５９９に記憶されている現状の出玉率データを読み出し、その読み出した出玉率データにおける百の位の数字、十の位の数字及び一の位の数字に対応する出玉率表示データを表示対象設定エリア２７６に設定して（ステップＳＬ３１４）、本表示用処理を終了する。当該出玉率表示データに対応する表示データが表示ＩＣ２６６に送信されることにより、現状出玉率エリア５９９に記憶されている現状の出玉率データにおける百の位の数字が第３報知用表示装置５９３にて表示され、現状の出玉率データにおける十の位の数字が第４報知用表示装置５９４にて表示され、現状の出玉率データにおける一の位の数字が第５報知用表示装置５９５にて表示される。上記構成であることにより、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない状況においては過去の単位算出期間、第１算出期間及び第２算出期間における出玉率は報知されることなく、現状出玉率エリア５９９における現状の出玉率のみが報知される。
【４２６８】
第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない状況においては表示対象設定エリア２７６に出玉率表示データは設定されるものの表示種別データは設定されない。第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない状況において出玉率の報知が行われる場合には第１報知用表示装置５９１及び第２報知用表示装置５９２の表示内容が、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされている状況において出玉率の報知が行われる場合とは異なる表示内容となる。なお、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない状況における第１報知用表示装置５９１及び第２報知用表示装置５９２の表示内容の詳細については後述する。
【４２６９】
次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される通常時の設定処理について、図３２８のフローチャートを参照しながら説明する。なお、通常時の設定処理は第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００７にて実行される。また、通常時の設定処理におけるステップＳＬ４０１～ステップＳＬ４０９の処理は主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【４２７０】
ステップＳＬ４０１～ステップＳＬ４０２では、上記第３５の実施形態における通常時の設定処理（図１３５）のステップＳ９１０１～ステップＳ９１０２と同一の処理を実行する。具体的には、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタの値が１以上であるか否かを判定する（ステップＳＬ４０１）。チェック中カウンタは、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の各表示用セグメント６１１～６１５が正常に発光状態となり得るか否かをチェックするためのチェック用表示を実行すべき状況を主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするカウンタである。主側ＣＰＵ６３は、チェック中カウンタの値が「１」以上である場合にチェック用表示を実行すべき状況であることを把握する。上記第３５の実施形態と同様に、メイン処理（図１３２）のステップＳ８８０４にて実行されるチェック中カウンタの設定処理において、チェック中カウンタに初期チェック期間（具体的には５秒）に対応する値がセットされる。また、第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００２にて実行されるチェック中カウンタの更新処理にてチェック中カウンタの値が１以上である場合に当該チェック中カウンタの値が１減算される。
【４２７１】
チェック中カウンタの値が１以上である場合（ステップＳＬ４０１：ＹＥＳ）、初期チェック期間であることを意味する。この場合、チェック用表示のデータを特定制御用のワークエリア２２１における第５表示データバッファ２７５に設定する（ステップＳＬ４０２）。第５表示データバッファ２７５に設定された表示データは、既に説明したとおり、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５を表示制御するための表示データである。また、チェック用表示のデータは、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にてチェック用表示を行わせるための表示データ、すなわち第１～第５報知用表示装置５９１～５９５のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント６１１～６１５を発光状態とするための表示データである。当該チェック用表示のデータが表示ＩＣ２６６に供給されることにより、チェック用表示として、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント６１１～６１５が発光状態となる。これにより、遊技ホールの管理者は第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の各表示用セグメント６１１～６１５が正常に発光状態となり得るか否かを把握することが可能となる。
【４２７２】
チェック中カウンタの値が「０」であり初期チェック期間ではない場合（ステップＳＬ４０１：ＮＯ）、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＬ４０３）。第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない場合（ステップＳＬ４０３：ＮＯ）、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２について初期対応表示の設定処理を実行する（ステップＳＬ４０４）。当該設定処理では、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント６１１，６１２を発光状態とするための表示データを第５表示データバッファ２７５に設定する。なお、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント６１１，６１２を発光状態とする構成に限定されることはなく、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント６１１，６１２にて点滅表示が行われるようにする構成としてもよい。
【４２７３】
その後、非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象設定エリア２７６に設定された出玉率表示データを読み出し（ステップＳＬ４０５）、その読み出した出玉率表示データを第３～第５報知用表示装置５９３～５９５に適用する表示データとして第５表示データバッファ２７５に設定する（ステップＳＬ４０６）。既に説明したとおり表示用処理（図３２７）では第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない場合（ステップＳＬ３０１：ＮＯ）、現状出玉率エリア５９９から現状の出玉率データを読み出し、その読み出した現状の出玉率データにおける百の位の数字、十の位の数字及び一の位の数字に対応する出玉率表示データを表示対象設定エリア２７６に設定する（ステップＳＬ３

１４）。ステップＳＬ４０６ではこの出玉率表示データを第３～第５報知用表示装置５９３～５９５に適用する表示データとして第５表示データバッファ２７５に設定する。

【４２７４】

ステップＳＬ４０４及びステップＳＬ４０６にて第５表示データバッファ２７５に設定された表示データが表示ＩＣ２６６に供給されることにより、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント６１１，６１２が発光状態となっている状況において、第３報知用表示装置５９３にて現状出玉率エリア５９９に格納されている現状の出玉率データの百の位の数字が表示され、第４報知用表示装置５９４にて現状の出玉率データの十の位の数字が表示され、第５報知用表示装置５９５にて現状の出玉率データの一の位の数字が表示される。第１，第２報知用表示装置５９１，５９２のそれぞれにおいて全ての表示用セグメント６１１，６１２を発光状態としながら第３～第５報知用表示装置５９３～５９５にて出玉率に対応する数字を表示することにより、現状報知されている出玉率が第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない状況における現状の出玉率であることを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。

【４２７５】

また、第１報知開始フラグ６０８及び第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされている状況においては、既に説明したとおり表示継続期間（具体的には５秒）が経過する度に、第１単位更新エリア６０６ａ→第１算出期間の直近エリア６０６ｂ→第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ→第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄ→第２単位更新エリア６０７ａ→第２算出期間の直近エリア６０７ｂ→第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ→第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄという予め定められた順序で報知対象となる出玉率が切り換えられるのに対して、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない状況においては現状出玉率エリア５９９における現状の出玉率が報知対象として維持される。これにより、パチンコ機１０の出荷段階においてパチンコ機１０の動作チェックが行われる場合には、現状の出玉率を任意のタイミングで確認することが可能となる。また、算出開始フラグ５９７に「１」がセットされた後においても第１表示対象エリア６０６に１度も出玉率が格納されていない状況において、現状の出玉率を確認することが可能となる。

【４２７６】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた算出開始フラグ５９７に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＬ４０７）。既に説明したとおり、算出開始フラグ５９７は、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合において「０」の値となっている。また、非特定制御用のワークエリア２２３が算出開始フラグ５９７を含めて「０」クリアされて初期化された場合にも算出開始フラグ５９７の値は「０」となる。そして、算出開始フラグ５９７が「０」の値である状況において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が算出開始基準個数（具体的には３００個）となることで算出開始フラグ５９７に「１」がセットされる。算出開始フラグ５９７に「１」がセットされていない場合（ステップＳＬ４０７：ＮＯ）には、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２の点滅設定処理を実行して（ステップＳＬ４０８）、本通常時の設定処理を終了する。

【４２７７】

ステップＳＬ４０８における第１，第２報知用表示装置５９１，５９２の点滅設定処理では、第５表示データバッファ２７５に現状設定されている表示データに対応する表示が第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて行われる場合に、当該表示が点滅表示されるようにするための設定を行う。点滅表示されるようにするための設定として、具体的には第１，第２報知用表示装置５９１，５９２に対する表示データの送信については第５表示データバッファ２７５に現状設定されている表示データに対応するデータを所定点灯期間（例えば０．５秒）が経過するまでは表示ＩＣ２６６に送信し、その後に第１，第２報知用表示装置５９１，５９２の全ての表示用セグメント６１１，６１２を消灯状態とする

データを所定消灯期間（例えば０．５秒）が経過するまでは表示ＩＣ２６６に送信し、その後はこれら所定点灯期間と所定消灯期間とが交互に繰り返されるようにする。これにより、算出開始フラグ５９７に「１」がセットされていない状況で出玉率の表示が行われる場合に第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて点滅表示が行われることとなり、当該点滅表示に基づいて遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が算出開始基準個数（具体的には３００個）に達していない状況であることを把握可能とすることができる。

【４２７８】

ステップＳＬ４０３において第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていると判定した場合、非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象設定エリア２７６に設定された表示データを読み出し、その読み出した表示データを第５表示データバッファ２７５に設定して（ステップＳＬ４０９）、本通常時の設定処理を終了する。当該表示データが表示ＩＣ２６６に供給されることにより、報知対象となっている出玉率に対応する表示が第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて行われる。既に説明したとおり、第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていない場合には、表示継続期間（具体的には５秒）が経過する度に、第１単位更新エリア６０６ａ→第１算出期間の直近エリア６０６ｂ→第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ→第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄという予め定められた順序で、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５において、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄに格納されている出玉率を把握可能とすることができる。また、第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされている場合には、表示継続期間（具体的には５秒）が経過する度に、第１単位更新エリア６０６ａ→第１算出期間の直近エリア６０６ｂ→第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ→第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄ→第２単位更新エリア６０７ａ→第２算出期間の直近エリア６０７ｂ→第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ→第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄという予め定められた順序で、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５において、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ、及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄに格納されている出玉率を把握可能とすることができる。

【４２７９】

次に、図３２９のタイムチャートを参照しながら第１報知開始フラグ６０８及び第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされる様子について説明する。図３２９（ａ）は第１報知開始フラグ６０８の状態を示し、図３２９（ｂ）は第１表示対象エリア６０６の更新タイミングを示し、図３２９（ｃ）は最初の第１算出期間の終了タイミングを示し、図３２９（ｄ）は第２報知開始フラグ６０９の状態を示し、図３２９（ｅ）は第２表示対象エリア６０７の更新タイミングを示し、図３２９（ｆ）は最初の第２算出期間の終了タイミングを示し、図３２９（ｇ）は第１，第２報知用表示装置５９１，５９２において初期対応表示が行われる期間を示し、図３２９（ｈ）は第１，第２報知用表示装置５９１，５９２において点滅表示が行われる期間を示し、図３２９（ｉ）は算出開始フラグ５９７の状態を示し、図３２９（ｊ）は初期チェック期間を示し、図３２９（ｋ）は最初の単位算出期間の開始タイミングを示す。

【４２８０】

ｔ１のタイミングで図３２９（ｊ）に示すように初期チェック期間が開始される。これにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にてチェック用表示が開始される。その後、ｔ２のタイミングで図３２９（ｊ）に示すように初期チェック期間が終了する。これにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にてチェック用表示が終了する。初期チェック期間が終了するｔ２のタイミングで図３２９（ｇ）に示すように第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて初期対応表示が開始される。既に説明したとおり、初期対応表示では第１，第２報知用表示装置５９１，５９２に「８．８」の文字が表示される。また、当該ｔ２のタイミングで図３２９（ｈ）に示すように第１，第２報知用表示装置５９１，５９２における点滅表示期間が開始される。このため、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２では、ｔ２のタイミング～ｔ３のタイミングに亘って「８．８」の文字

が点滅表示される。

【４２８１】

その後、ｔ３のタイミングで図３２９（ｉ）に示すように算出開始フラグ５９７に「１」がセットされる。既に説明したとおり、算出開始フラグ５９７には、全遊技状態において、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が算出開始基準個数（具体的には３００個）となることで「１」がセットされる。当該ｔ３のタイミングで図３２９（ｋ）に示すように最初の単位算出期間が開始される。また、当該ｔ３のタイミング図３２９（ｈ）に示すように、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２における点滅表示期間が終了する。これにより、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２では「８．８」の文字が点灯表示されている状態となる。

【４２８２】

その後、ｔ４のタイミングで図３２９（ｃ）に示すように最初の第１算出期間が終了すると、図３２９（ｂ）に示すように第１表示対象エリア６０６が更新される。具体的には、第１単位更新エリア６０６ａに直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データが格納される。第１算出期間が終了したｔ４のタイミングにおいて第１管理バッファ６０１の第０～第３記憶エリア６０１ａ～６０１ｄには、第１算出期間に含まれる直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されている。このため、ｔ４のタイミングで第１単位更新エリア６０６ａに格納される直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データは今回終了した第１算出期間における最終的な出玉率データである。また、当該ｔ４のタイミングで、第１算出期間の直近エリア６０６ｂにも第１算出期間における最終的な出玉率データが格納される。また、ｔ４のタイミングで図３２９（ｇ）に示すように第１，第２報知用表示装置５９１，５９２における初期対応表示が終了するとともに、図３２９（ａ）に示すように第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされる。これにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄに格納されている出玉率の表示が開始される。

【４２８３】

その後、ｔ５のタイミングで図３２９（ｆ）に示すように最初の第２算出期間が終了すると、図３２９（ｅ）に示すように第２表示対象エリア６０７が更新される。具体的には、第２単位更新エリア６０７ａに直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データが格納される。第２算出期間が終了したｔ５のタイミングにおいて第２管理バッファ６０２の第０～第９記憶エリア６０２ａ～６０２ｊには、第２算出期間に含まれる直近１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データが格納されている。このため、ｔ５のタイミングにおいて第２単位更新エリア６０７ａに格納される直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率は今回終了した第２算出期間における最終的な出玉率データである。また、当該ｔ５のタイミングで第２算出期間の直近エリア６０７ｂにも第２算出期間における最終的な出玉率データが格納される。また、ｔ５のタイミングで図３２９（ｄ）に示すように第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされる。これにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄに格納されている出玉率の表示に加えて、第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄに格納されている出玉率の表示が開始される。

【４２８４】

上記のとおり、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされるｔ４のタイミングまでは、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて初期対応表示が行われるとともに、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて現状出玉率エリア５９９における現状の出玉率の表示が行われる。このため、遊技ホールの管理者は、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２に「８．８」の文字が表示されていることに基づいて、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて現状出玉率エリア５９９における現状の出玉率が表示されている状況であることを把握することができる。

【４２８５】

第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされるｔ４のタイミングまでは、第１表示

対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄは第１～第５報知用表示装置５９１～５９５における表示対象とはならない。これにより、出玉率データが格納されていない状態の第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄが表示対象となって第３～第５報知用表示装置５９３～５９５に「０００」の出玉率が連続して表示される状況となってしまうことが防止されている。

【４２８６】

第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされているとともに第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていないｔ４のタイミング～ｔ５のタイミングの期間では、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄが表示対象となる一方、第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄは表示対象とならない。これにより、出玉率データが格納されていない状態の第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄが表示対象となって第３～第５報知用表示装置５９３～５９５に「０００」の出玉率が連続して表示される状況となってしまうことが防止されている。

【４２８７】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【４２８８】

第１～第５報知用表示装置５９１～５９５において、全遊技状態におけるパチンコ機１０の遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数に対する遊技球の合計払出個数の割合を示す出玉率の表示が行われる。これにより、各種出玉率が正常範囲（第１正常範囲及び第２正常範囲）の上限を上回る異常状態であること、及び各種出玉率が正常範囲の下限を下回る異常状態であることを把握可能とすることができる。各種出玉率が正常範囲の上限を上回る異常状態であることを把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者に対して、遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無を確認する契機を与えることができる。また、各種出玉率が正常範囲の下限を下回る異常状態であることを把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者に対して、パチンコ機１０における遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスを行う契機を与えることができる。

【４２８９】

第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて、「０」～「９９９」の数値範囲で各種出玉率の表示が行われる構成であることにより、各種出玉率が正常範囲（第１正常範囲及び第２正常範囲）の下限（第１正常範囲では４１％、第２正常範囲では５１％）を下回っている場合に、当該出玉率が正常範囲の下限を下回る異常の有無だけでなく、当該異常の程度まで把握することが可能となっている。具体的には、当該出玉率が低いほど当該異常が深刻であり迅速な対応が必要であることを把握することが可能となっている。また、各種出玉率が正常範囲の上限（第１正常範囲では１４９％、第２正常範囲では１３３％）を上回っている場合に、当該出玉率が正常範囲の上限を上回る異常の有無だけでなく、当該異常の程度まで把握することが可能となっている。具体的には、当該出玉率が高いほど当該異常が深刻であり迅速な対応が必要であることを把握することが可能となっている。

【４２９０】

各種出玉率は遊技状態を区別することなく算出される。具体的には、各種出玉率は、開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない遊技状態と、開閉実行モードである遊技状態と、高頻度サポートモードである遊技状態とにおける各入球部２４ａ，３１～３４への入球個数に基づいて算出される。このため、各入球部２４ａ，３１～３４への入球個数をカウントするカウンタを遊技状態毎に設けることを不要としながら、全ての遊技状態についての各種出玉率の異常の有無及び異常の程度を把握可能とすることができる。これにより、全遊技状態における各種出玉率の異常の有無及び異常の程度を把握可能とするための主側ＲＡＭ６５における記憶容量を低減することが可能となっている。

【４２９１】

単位算出期間が終了する度に当該単位算出期間における出玉率を「０」～「９９９」の

数値範囲で算出し、当該算出した出玉率の情報（出玉率データ）を第１管理バッファ６０１の記憶エリア６０１ａ～６０１ｄ及び第２管理バッファ６０２の記憶エリア６０２ａ～６０２ｊに記憶する構成である。単位算出期間における最終的な合計払出個数の情報のデータ量よりもデータ量が小さい出玉率の情報を記憶する構成であることにより、第１管理バッファ６０１の記憶エリア６０１ａ～６０１ｄ及び第２管理バッファ６０２の記憶エリア６０２ａ～６０２ｊの記憶容量を低減することが可能となっている。

【４２９２】

第１単位更新エリア６０６ａには直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データが格納される。第１単位更新エリア６０６ａは、第１算出期間の途中であっても単位算出期間が終了する度に更新される。第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第１単位更新エリア６０６ａの出玉率の表示を行うことにより、第１正常範囲（４１％～１４９％）に対する出玉率の異常が発生した場合に当該異常を早期に把握可能とすることができる。また、第２単位更新エリア６０７ａには直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データが格納される。第２単位更新エリア６０７ａは、第２算出期間の途中であっても単位算出期間が終了する度に更新される。第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第２単位更新エリア６０７ａの出玉率の表示を行うことにより、第２正常範囲（５１％～１３３％）に対する出玉率の異常が発生した場合に当該異常を早期に把握可能とすることができる。

【４２９３】

第１表示対象エリア６０６及び第２表示対象エリア６０７に格納された出玉率データに基づいて、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて４回分の単位算出期間全体における出玉率（直近４回分の単位算出期間全体における出玉率及び第１算出期間における出玉率）及び直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率（直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率及び第２算出期間における出玉率）の表示が行われる。第１正常範囲（４１％～１４９％）の下限（４１％）は第２正常範囲（５１％～１３３％）の下限（５１％）よりも小さく設定されているとともに、第１正常範囲の上限（１４９％）は第２正常範囲の上限（１３３％）よりも大きく設定されている。このため、１０回分の単位算出期間全体における出玉率が第２正常範囲から外れている状態においても４回分の単位算出期間全体における出玉率が第１正常範囲に収まっている状態が継続する場合が考えられる。また、出玉率が正常な数値範囲から外れる異常が一時的に発生した場合には、４回分の単位算出期間全体における出玉率が第１正常範囲から外れる一方、１０回分の単位算出期間全体における出玉率が第２正常範囲に収まる場合が考えられる。これに対して本実施形態では、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて４回分の単位算出期間全体における出玉率及び１０回分の単位算出期間全体における出玉率の両方の表示を行う構成であることにより、４回分の単位算出期間全体における出玉率の異常及び１０回分の単位算出期間全体における出玉率の異常が見逃されてしまうことを防止することができる。

【４２９４】

単位算出期間が終了する度に第１管理バッファ６０１に記憶されている出玉率データに基づいて直近４回分の単位算出期間全体における出玉率を算出する構成である。当該構成において、単位算出期間が終了することで１つの第１算出期間が終了した場合、当該直近４回分の単位算出期間全体における出玉率は、今回終了した第１算出期間における最終的な出玉率となる。このため、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率を算出するための情報（単位算出期間における出玉率データ）を記憶するバッファと第１算出期間における最終的な出玉率を算出するための情報（単位算出期間における出玉率データ）を記憶するバッファとが別々に設けられている構成と比較して、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率及び第１算出期間における最終的な出玉率を算出するための情報を記憶するための主側ＲＡＭ６５における記憶容量を低減することができる。

【４２９５】

単位算出期間が終了する度に第２管理バッファ６０２に記憶されている出玉率データに基づいて直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率を算出する構成である。当該構

成において、単位算出期間が終了することで１つの第２算出期間が終了した場合、当該直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率は、今回終了した第２算出期間における最終的な出玉率となる。このため、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率を算出するための情報（単位算出期間における出玉率データ）を記憶するバッファと第２算出期間における最終的な出玉率を算出するための情報（単位算出期間における出玉率データ）を記憶するバッファとが別々に設けられている構成と比較して、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率及び第２算出期間における最終的な出玉率を算出するための情報を記憶するための主側ＲＡＭ６５における記憶容量を低減することができる。

【４２９６】

第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、直近の第１算出期間における出玉率の表示に加えて、１回前の第１算出期間における出玉率の表示及び２回前の第１算出期間における出玉率の表示が行われる。過去の第１算出期間における出玉率が第１正常範囲（４１％～１４９％）に収まっているか否かを把握可能とすることにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示を確認する頻度を低減させて、遊技ホールの管理者の監視負担を軽減させることができる。また、直近の第１算出期間における出玉率の異常が確認された場合に、当該出玉率の異常がいつから発生していたのかを遡って把握可能とすることができる。

【４２９７】

第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、直近の第２算出期間における出玉率の表示に加えて、１回前の第２算出期間における出玉率の表示及び２回前の第２算出期間における出玉率の表示が行われる。過去の第２算出期間における出玉率が第２正常範囲（５１％～１３３％）に収まっているか否かを把握可能とすることにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示を確認する頻度を低減させて、遊技ホールの管理者の監視負担を軽減させることができる。また、直近の第２算出期間における出玉率の異常が確認された場合に、当該出玉率の異常がいつから発生していたのかを遡って把握可能とすることができる。

【４２９８】

第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて複数種類の出玉率の表示が行われる構成である。具体的には、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされているとともに第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていない場合、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄの出玉率の表示が行われる。また、第１報知開始フラグ６０８及び第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされている場合、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄの出玉率の表示が行われる。当該構成において、これらの出玉率の表示は所定表示期間（具体的には５秒間）が終了する度に自動的に切り換わる。これにより、確認したい種類の出玉率を表示させるために必要となる操作の数を低減して、遊技ホールの管理者の負担を軽減することができる。

【４２９９】

第１，第２報知用表示装置５９１，５９２では、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて表示が行われている出玉率の種類を示す表示が行われる。４回分の単位算出期間全体における出玉率の正常範囲である第１正常範囲（４１％～１４９％）と、１０回分の単位算出期間全体における出玉率の正常範囲である第２正常範囲（５１％～１３３％）とは異なる数値範囲である。このため、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて表示が行われている出玉率の種類を誤認すると、当該出玉率が正常範囲（第１正常範囲又は第２正常範囲）に収まっているか否かの判断を誤ってしまう可能性がある。第１報知用表示装置５９１における表示と、第２報知用表示装置５９２における表示との組合せにより第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて表示が行われている出玉率の種類を把握可能とすることにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて複数種類の出玉率の表示が行われる構成において、当該出玉率の種類の誤認を防止して、当該出玉率が正常範囲

（第１正常範囲又は第２正常範囲）に収まっているか否かの判断を正確なものとすることができる。

【４３００】

第３～第５報知用表示装置５９３～５９５では出玉率の百の位の数字、出玉率の十の位の数字、及び出玉率の一の位の数字の表示が行われる。第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて出玉率を３桁の数値情報（「０」～「９９９」）として把握可能とすることにより、正常範囲（第１正常範囲又は第２正常範囲）に対する出玉率の異常の有無だけでなく、異常の程度まで把握可能とすることができる。

【４３０１】

単位算出期間における出玉率データが格納される第１管理バッファ６０１及び第２管理バッファ６０２がリングバッファであることにより、既に格納されている過去の単位算出期間における出玉率データを移動させることなく今回終了した単位算出期間における出玉率データをこれらの管理バッファ６０１，６０２に新たに格納することができる。これにより、直近複数回分の各単位算出期間における複数個の出玉率データを記憶させるための処理構成を簡略化させて、直近複数回分の各単位算出期間における複数個の出玉率データを記憶させるための処理負荷を軽減させることができる。

【４３０２】

主側ＣＰＵ６３は、第１管理バッファ６０１における書き込み先を把握可能とする第１書き込みポインタ６０３の値が１周したことに基づいて第１算出期間が終了したことを把握する。このため、第１算出期間の終了タイミングを把握するための専用のカウンタが第１書き込みポインタ６０３とは別に設けられている構成と比較して、第１算出期間の終了タイミングを把握するための主側ＲＡＭ６５における記憶容量を低減することができるとともに、第１算出期間の終了タイミングを把握するための処理構成を簡略化することができる。また、主側ＣＰＵ６３は、第２管理バッファ６０２における書き込み先を把握可能とする第２書き込みポインタ６０４の値が１周したことに基づいて第２算出期間が終了したことを把握する。このため、第２算出期間の終了タイミングを把握するための専用のカウンタが第２書き込みポインタ６０４とは別に設けられている構成と比較して、第２算出期間の終了タイミングを把握するための主側ＲＡＭ６５における記憶容量を低減することができるとともに、第２算出期間の終了タイミングを把握するための処理構成を簡略化することができる。

【４３０３】

第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない状況では、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄにおける出玉率の表示は行われない。これにより、出玉率データが格納されていない状態の第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄが表示対象となり、第３～第５報知用表示装置５９３～５９５にて「０００」の出玉率の表示が連続して行われる状況となってしまうことを防止することができる。

【４３０４】

第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない状況では、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて現状出玉率エリア５９９における現状の出玉率の表示が行われる。これにより、第１表示対象エリア６０６に最初の第１算出期間における出玉率データが格納されるまでの間、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて現状の出玉率を把握可能とすることができる。

【４３０５】

第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない状況では、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて初期対応表示が行われる。これにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて現状出玉率エリア５９９における現状の出玉率の表示が行われていることを把握可能とすることができる。

【４３０６】

算出開始フラグ５９７に「１」がセットされていない状況では、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて行われる初期対応表示（「８．８」の表示）を点滅させる点滅表示が行われる。これにより、第１，第２報知用表示装置５９１，５９２の表示態様に基づいて、遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が算出開始基準個数（具体的には３００個）に達していない状況であることを把握可能とすることができる。

【４３０７】

第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされているとともに第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていない状況では、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄにおける出玉率の表示は行われない。これにより、出玉率データが格納されていない状態の第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄが表示対象となり、第３～第５報知用表示装置５９３～５９５にて「０００」の出玉率の表示が連続して行われる状況となってしまうことを防止することができる。

【４３０８】

＜第９０の実施形態＞

本実施形態では共通のバッファに記憶されている単位算出期間における出玉率データに基づいて直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、第１算出期間における出玉率、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率、及び第２算出期間における出玉率が算出される点において上記第８９の実施形態と相違している。以下、上記第８９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第８９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【４３０９】

図３３０は実施形態における遊技履歴を管理するために使用される非特定制御用のワークエリア２２３の各種エリアを説明するための説明図である。

【４３１０】

非特定制御用のワークエリア２２３には、上記第８９の実施形態における第１管理バッファ６０１及び第２管理バッファ６０２に代えて、図３３０に示すように、共通管理バッファ６１６が設けられている。共通管理バッファ６１６は、４回分の単位算出期間全体における出玉率（直近４回分の単位算出期間全体における出玉率及び第１算出期間における出玉率）と、１０回分の単位算出期間全体における出玉率（直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率及び第２算出期間における出玉率）とを算出するための情報（具体的には直近１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データ）が格納されるリングバッファである。共通管理バッファ６１６には、単位算出期間における出玉率データが格納される記憶エリアとして、第０記憶エリア６１６ａ～第９記憶エリア６１６ｊが設けられている。第０～第９記憶エリア６１６ａ～６１６ｊはいずれも同一の記憶容量となっており、具体的には出玉率の情報（「０」～「９９９」のいずれかの数値情報）を格納可能とするように１０ビットの記憶容量となっている。

【４３１１】

図３３０に示すように、非特定制御用のワークエリア２２３には、共通書き込みポインタ６１７が設けられている。共通書き込みポインタ６１７は、共通管理バッファ６１６の１０個の記憶エリア６１６ａ～６１６ｊのうち今回の書き込み先となる記憶エリア６１６ａ～６１６ｊを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするためのカウンタである。共通書き込みポインタ６１７は、その更新の都度前回値に１が加算され、最大値（具体的には「９」）に達した後に「０」に戻るループカウンタとなっている。共通書き込みポインタ６１７の「ｎ」の値（ｎは０～９のいずれか整数）は書き込み先が第ｎ記憶エリア６１６ａ～６１６ｊである状態に対応している。例えば、共通書き込みポインタ６１７の「０」の値は書き込み先が第０記憶エリア６１６ａである状態に対応しているとともに、共通書き込みポインタ６１７の「２」の値は書き込み先が第２記憶エリア６１６ｃである状態に対応している。

【４３１２】

主側ＣＰＵ６３は、単位算出期間が終了する度に、入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅに記憶されている値に基づいて当該終了した単位算出期間における最終的な出玉率を算出する。そして、当該算出した出玉率の情報を、共通書き込みポインタ６１７の値に対応する共通管理バッファ６１６の記憶エリア６１６ａ～６１６ｊに書き込む。共通書き込みポインタ６１７の値は、共通管理バッファ６１６に出玉率の情報が書き込まれる度に１加算され、当該１加算後の値が最大値（具体的には「９」）を超える場合に「０」クリアされる。このため、共通管理バッファ６１６における第０～第９記憶エリア６１６ａ～６１６ｊには、直近１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データが設定されている状態となる。

【４３１３】

共通書き込みポインタ６１７の値は、単位算出期間における出玉率データが共通管理バッファ６１６に１０回書き込まれることにより１周して「０」となる。主側ＣＰＵ６３は、共通書き込みポインタ６１７の値が１周して「０」となったことに基づいて第２算出期間が終了したことを把握する。このため、第２算出期間の終了タイミングを把握するための専用のカウンタが共通書き込みポインタ６１７とは別に設けられている構成と比較して、第２算出期間の終了タイミングを把握するための主側ＲＡＭ６５における記憶容量を低減することができる。

【４３１４】

図３３０に示すように、非特定制御用のワークエリア２２３には、周回管理フラグ６１８が設けられている。周回管理フラグ６１８は、共通書き込みポインタ６１７の値と組合せることにより第１算出期間の終了タイミングを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。周回管理フラグ６１８の状態（「０」又は「１」）は、共通書き込みポインタ６１７の値が１周して「０」となる度に反転する。共通書き込みポインタ６１７の値だけでは前回の第１算出期間が終了してから４回分の単位算出期間が経過したこと、すなわち今回の第１算出期間が終了したことを把握することはできない。主側ＣＰＵ６３は、周回管理フラグ６１８の値が「０」である場合には共通書き込みポインタ６１７の値が「０」、「４」又は「８」である場合に前回の第１算出期間の終了から４回分の単位算出期間が経過して今回の第１算出期間が終了したことを把握することができるとともに、周回管理フラグ６１８の値が「１」である場合には共通書き込みポインタ６１７の値が「２」又は「６」である場合に前回の第１算出期間の終了から４回分の単位算出期間が経過して今回の第１算出期間が終了したことを把握することができる。共通書き込みポインタ６１７に加えて、１ビットの周回管理フラグ６１８を設けて第１算出期間の終了タイミングを把握する構成であることにより、第１算出期間の終了タイミングを把握するための専用のカウンタを別に設ける構成と比較して、第１算出期間の終了タイミングを把握するための主側ＲＡＭ６５における記憶容量が低減されている。

【４３１５】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される出玉率記憶処理について、図３３１のフローチャートを参照しながら説明する。なお、出玉率記憶処理は、単位算出期間が終了した場合に、チェック処理（図３２５）のステップＳＬ１１２にて実行される。また、出玉率記憶処理におけるステップＳＬ５０１～ステップＳＬ５２２の処理は、主側ＣＰＵ６３における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【４３１６】

出玉率記憶処理では、まず現状出玉率エリア５９９に格納されている現状の出玉率データを把握する（ステップＳＬ５０１）。その後、共通書き込みポインタ６１７の値に基づいて、共通管理バッファ６１６における第０～第９記憶エリア６１６ａ～６１６ｊのうち書き込み先となる記憶エリア６１６ａ～６１６ｊを特定する（ステップＳＬ５０２）。既に説明したとおり、共通書き込みポインタ６１７の値が「ｎ」（ｎは０～９のいずれかの整数）である場合、書き込み対象の記憶エリア６１６ａ～６１６ｊとして第ｎ記憶エリア６１６ａ～６１６ｊが特定される。

【４３１７】

その後、ステップＳＬ５０１にて把握した現状の出玉率データをステップＳＬ５０２にて特定した記憶エリア６１６ａ～６１６ｊに上書きし（ステップＳＬ５０３）、共通書き込みポインタ６１７の更新処理を行う（ステップＳＬ５０４）。共通書き込みポインタ６１７の更新処理では、共通書き込みポインタ６１７の値を１加算し、当該１加算後の値が最大値である「９」を上回った場合には共通書き込みポインタ６１７の値を「０」クリアする。

【４３１８】

その後、ステップＳＬ５０４にて共通書き込みポインタ６１７の値が１周したか否かを判定する（ステップＳＬ５０５）。ステップＳＬ５０５では、ステップＳＬ５０４にて更新された後の共通書き込みポインタ６１７の値が「０」である場合に共通書き込みポインタ６１７の値が１周したと判定する。ステップＳＬ５０５にて肯定判定を行った場合には、非特定制御用のワークエリア２２３における周回管理フラグ６１８の反転処理を実行する（ステップＳＬ５０６）。当該反転処理では、周回管理フラグ６１８の値が「０」である場合には当該周回管理フラグ６１８に「１」をセットするとともに、周回管理フラグ６１８の値が「１」である場合には当該周回管理フラグ６１８の値を「０」クリアする。

【４３１９】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＬ５０７）。第１報知開始フラグ６０８は、上記第８９の実施形態と同様に、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第１表示対象エリア６０６における各種エリア６０６ａ～６０６ｄの出玉率の表示を実行する状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて把握するためのフラグである。第１報知開始フラグ６０８は、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合において「０」の値となっている。また、非特定制御用のワークエリア２２３が第１報知開始フラグ６０８を含めて「０」クリアされて初期化された場合にも第１報知開始フラグ６０８の値は「０」となる。第１報知開始フラグ６０８には、共通管理バッファ６１６の記憶エリア６１６ａ～６１６ｊに４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されている状況となった場合に「１」がセットされる。第１報知開始フラグ６０８の値が「０」である状態は、共通管理バッファ６１６の記憶エリア６１６ａ～６１６ｊに格納されている出玉率データの数が３個以下である状態に対応している。第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない場合、上記第８９の実施形態と同様に、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄに格納されている出玉率の表示が行われない。

【４３２０】

ステップＳＬ５０７にて否定判定を行った場合には、ステップＳＬ５０４にて更新された後の共通書き込みポインタ６１７の値が「４」であるか否かを判定する（ステップＳＬ５０８）。ステップＳＬ５０８にて肯定判定を行った場合には、共通管理バッファ６１６に格納されている単位算出期間における出玉率データが４個になったことを意味するため、第１報知開始フラグ６０８に「１」をセットする（ステップＳＬ５０９）。

【４３２１】

ステップＳＬ５０７にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＬ５０９の処理を行った場合には、第１出玉率演算処理を実行する（ステップＳＬ５１０）。上記第８９の実施形態と同様に、第１出玉率演算処理は、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていること（ステップＳＬ５０７にて肯定判定が行われること、又はステップＳＬ５０９の処理が行われること）を条件として実行される。

【４３２２】

図３３２は第１出玉率演算処理を示すフローチャートである。なお、第１出玉率演算処理におけるステップＳＬ６０１～ステップＳＬ６０９の処理は、主側ＣＰＵ６３における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【４３２３】

第１出玉率演算処理では、まず演算エリア５９８のクリア処理を実行する（ステップＳ

Ｌ６０１）。当該クリア処理では、非特定制御用のワークエリア２２３における演算エリア５９８を「０」クリアする。その後、共通書き込みポインタ６１７の減算処理を行う（ステップＳＬ６０２）。当該減算処理では、非特定制御用のワークエリア２２３における共通書き込みポインタ６１７の値を１減算し、当該１減算後の共通書き込みポインタ６１７の値が「０」を下回る場合には共通書き込みポインタ６１７に「９」をセットする。

【４３２４】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた減算回数カウンタ６１９の値を１加算する（ステップＳＬ６０３）。減算回数カウンタ６１９は、共通書き込みポインタ６１７の減算処理（ステップＳＬ６０２）を実行した回数を主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするカウンタである。

【４３２５】

その後、共通管理バッファ６１６において、ステップＳＬ６０１の処理を行った後の共通書き込みポインタ６１７の値に対応する記憶エリア６１６ａ～６１６ｊを把握し（ステップＳＬ６０４）、当該把握した記憶エリア６１６ａ～６１６ｊに格納されている出玉率データを演算エリア５９８に加算する（ステップＳＬ６０５）。

【４３２６】

その後、減算回数カウンタ６１９の値が「４」であるか否かを判定し（ステップＳＬ６０６）、ステップＳＬ６０６にて否定判定を行った場合にはステップＳＬ６０２に戻り、ステップＳＬ６０６にて肯定判定が行われるまでステップＳＬ６０２～ステップＳＬ６０５の処理を繰り返す。ステップＳＬ６０２～ステップＳＬ６０５の処理が４回行われることにより、演算エリア５９８に今回終了した単位算出期間における出玉率と、１回前の単位算出期間における出玉率と、２回前の単位算出期間における出玉率と、３回前の単位算出期間における出玉率とが加算される。これにより、演算エリア５９８に直近４回分の単位算出期間における４個の出玉率の合計値がセットされている状態となる。

【４３２７】

ステップＳＬ６０６にて肯定判定が行われた場合には、合計値の除算処理を実行する（ステップＳＬ６０７）。当該除算処理では、演算エリア５９８に格納されている直近の４回分の出玉率の合計値を「４」で除算することにより、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率を算出し、当該算出した出玉率を演算エリア５９８に記憶する。上記第８９の実施形態と同様に、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率は、「０」～「９９９」の範囲で３桁の数値情報として算出される。これにより、演算エリア５９８に直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データが記憶されている状態となる。

【４３２８】

その後、共通書き込みポインタ６１７の加算処理を実行する（ステップＳＬ６０８）。当該加算処理では、共通書き込みポインタ６１７の値を１加算する加算処理を４回繰り返すことにより、共通書き込みポインタ６１７の値を本第１出玉率演算処理（図３２２）が開始される前の値に戻す。４回繰り返される加算処理のいずれかにおいて、１加算後の共通書き込みポインタ６１７の値が当該共通書き込みポインタ６１７の最大値である「９」を超えた場合には、当該加算処理において共通書き込みポインタ６１７の値を「０」クリアする。共通書き込みポインタ６１７の値を「０」クリアした後、加算処理が残っている場合には残りの加算処理を実行する。その後、減算回数カウンタ６１９の値を「０」クリアして（ステップＳＬ６０９）、本第１出玉率演算処理を終了する。

【４３２９】

上記のとおり、共通書き込みポインタ６１７を利用して、共通管理バッファ６１６において直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されている記憶エリア６１６ａ～６１６ｊを特定する構成である。これにより、共通書き込みポインタ６１７とは別に当該記憶エリア６１６ａ～６１６ｊを特定するための専用のカウンタを設ける構成と比較して、直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されている記憶エリア６１６ａ～６１６ｊを特定するため構成を簡略化することができる。

【４３３０】

また、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率を算出した後に共通書き込みポインタ６１７の値を第１出玉率演算処理（図３３２）が開始される前の値に戻す構成である。これにより、第１出玉率演算処理によって共通管理バッファ６１６における書き込み先が変化してしまうことを防止することができる。

【４３３１】

出玉率記憶処理（図３３１）の説明に戻り、ステップＳＬ５１０にて第１出玉率演算処理（図３３２）を実行した後、第１単位更新エリア６０６ａの上書き処理を実行する（ステップＳＬ５１１）。当該上書き処理では、ステップＳＬ５１０にて算出した直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データを第１単位更新エリア６０６ａに上書きする。

【４３３２】

その後、第１算出期間が終了したタイミングであるか否かを判定する（ステップＳＬ５１２）。ステップＳＬ５１２では、周回管理フラグ６１８の値が「０」である場合には共通書き込みポインタ６１７の値が「０」、「４」、又は「８」である場合に第１算出期間が終了したと判定するとともに、周回管理フラグ６１８の値が「１」である場合には共通書き込みポインタ６１７の値が「２」又は「６」である場合に第１算出期間が終了したと判定する。ステップＳＬ５１２にて肯定判定を行った場合には、第１算出期間の直近エリア６０６ｂ、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ及び第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄを更新するための処理（ステップＳＬ５１３～ステップＳＬ５１４の処理）を実行する。

【４３３３】

ステップＳＬ５１３～ステップＳＬ５１４では、上記第８９の実施形態における出玉率記憶処理（図３２６）のステップＳＬ２１１～ステップＳＬ２１２と同様の処理を実行する。具体的には、まず第１データシフト処理を実行する（ステップＳＬ５１３）。第１データシフト処理の内容は上記第８９の実施形態において既に説明したとおりである。第１データシフト処理が実行されることにより、今回終了した第１算出期間の２回前の第１算出期間における出玉率データが第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄに記憶され、今回終了した第１算出期間の１回前の第１算出期間における出玉率データが第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃに記憶され、第１算出期間の直近エリア６０６ｂが「０」クリアされる。

【４３３４】

その後、第１単位更新エリア６０６ａに格納されている出玉率データを第１算出期間の直近エリア６０６ｂに格納する（ステップＳＬ５１４）。既に説明したとおり、第１単位更新エリア６０６ａには直近４回分の単位算出期間全体における出玉率が格納されている。ステップＳＬ５１４の処理は、第１算出期間が終了したタイミングであること（ステップＳＬ５１２：ＹＥＳ）を条件として行われる。第１算出期間が終了したタイミングにおいて、直近４回分の単位算出期間は今回終了した第１算出期間に含まれる４回分の単位算出期間となる。このため、ステップＳＬ５１４の処理が行われるタイミングにおいて第１単位更新エリア６０６ａには今回終了した第１算出期間における最終的な出玉率データが格納されており、ステップＳＬ５１４にて第１算出期間の直近エリア６０６ｂにも今回終了した第１算出期間における最終的な出玉率データが格納されている状態となる。

【４３３５】

ステップＳＬ５０８にて否定判定を行った場合、ステップＳＬ５１２にて否定判定を行った場合、又はステップＳＬ５１４の処理を行った場合には、非特定制御用のワークエリア２２３における第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＬ５１５）。第２報知開始フラグ６０９は、上記第８９の実施形態と同様に、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第２表示対象エリア６０７における各種エリア６０７ａ～６０７ｄの出玉率の表示を実行する状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて把握するためのフラグである。第２報知開始フラグ６０９は、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合において「０」の値となっている。また、非特定制御用のワークエリア２２３が第２報知開始フラグ６０９

を含めて「０」クリアされて初期化された場合にも第２報知開始フラグ６０９の値は「０」となる。第２報知開始フラグ６０９には、共通管理バッファ６１６の記憶エリア６１６ａ～６１６ｊに１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データが格納されている状況となった場合に「１」がセットされる。第２報知開始フラグ６０９の値が「０」である状態は、共通管理バッファ６１６の１０個の記憶エリア６１６ａ～６１６ｊのうち少なくとも１つの記憶エリア６１６ａ～６１６ｊに出玉率データが格納されていない状態に対応している。第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていない場合、上記第８９の実施形態と同様に、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄに格納されている出玉率の表示が行われない。

【４３３６】

ステップＳＬ５１５にて否定判定を行った場合には、ステップＳＬ５０４における共通書き込みポインタ６１７の更新処理にて共通書き込みポインタ６１７の値が１周したか否かを判定する（ステップＳＬ５１６）。ステップＳＬ５１６では、ステップＳＬ５０４にて更新された後の共通書き込みポインタ６１７の値が「０」である場合に共通書き込みポインタ６１７の値が１周したと判定する。ステップＳＬ５１６にて肯定判定を行った場合には、第２算出期間が終了したタイミングであることを意味するため、第２報知開始フラグ６０９に「１」をセットする（ステップＳＬ５１７）。

【４３３７】

ステップＳＬ５１５にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＬ５１７の処理を行った場合には、第２出玉率演算処理を実行する（ステップＳＬ５１８）。第２出玉率演算処理では、まず非特定制御用のワークエリア２２３における演算エリア５９８を「０」クリアし、共通管理バッファ６１６の第０記憶エリア６１６ａに格納されている出玉率データ（「０」～「９９９」のいずれかの数値情報）を当該演算エリア５９８にセットする。その後、演算エリア５９８の値に対して、共通管理バッファ６１６の第１～第９記憶エリア６１６ｂ～６１６ｊに格納されている９個の出玉率を加算することにより１０個の出玉率の合計値を算出する。その後、演算エリア５９８の値を「１０」で除算することにより直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率を算出し、当該算出した出玉率を演算エリア５９８に記憶する。既に説明したとおり、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率は「０」～「９９９」の範囲で３桁の数値情報として算出する。これにより、演算エリア５９８に直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が記憶されている状態となる。

【４３３８】

その後、第２単位更新エリア６０７ａの上書き処理を実行する（ステップＳＬ５１９）。当該上書き処理では、ステップＳＬ５１８にて算出した直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データを第２単位更新エリア６０７ａに上書きする。上記第８９の実施形態と同様に、第２単位更新エリア６０７ａに格納されている出玉率データは、１つの単位算出期間が終了する度に直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データに更新される。

【４３３９】

その後、第２算出期間が終了したタイミングであるか否かを判定する（ステップＳＬ５２０）。ステップＳＬ５２０では、ステップＳＬ５０４にて更新された後の共通書き込みポインタ６１７の値が「０」である場合に第２算出期間が終了したタイミングであると判定する。ステップＳＬ５２０にて否定判定を行った場合には、そのまま本出玉率記憶処理を終了する。

【４３４０】

一方、ステップＳＬ５２０にて肯定判定を行った場合には、ステップＳＬ５２１に進む。ステップＳＬ５２１～ステップＳＬ５２２では、上記第８９の実施形態における出玉率記憶処理（図３２６）のステップＳＬ２２３～ステップＳＬ２２４と同様の処理を実行する。具体的には、まず第２データシフト処理を実行する（ステップＳＬ５２１）。第２デ

ータシフト処理の内容は上記第８９の実施形態において既に説明したとおりである。第２データシフト処理が実行されることにより、今回終了した第２算出期間の２回前の第２算出期間における出玉率データが第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄに記憶され、今回終了した第２算出期間の１回前の第２算出期間における出玉率データが第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃに記憶され、第２算出期間の直近エリア６０７ｂが「０」クリアされる。

【４３４１】

その後、第２単位更新エリア６０７ａに格納されている出玉率データを第２算出期間の直近エリア６０７ｂに格納して（ステップＳＬ５２２）、本出玉率演算処理を終了する。既に説明したとおり、第２単位更新エリア６０７ａには直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が格納されている。第２書き込みポインタ６０４の値が１周して１つの第２算出期間が終了した場合、直近１０回分の単位算出期間は今回終了した第２算出期間に含まれる１０回分の単位算出期間である。このため、第２単位更新エリア６０７ａには今回終了した第２算出期間における最終的な出玉率データが格納されており、ステップＳＬ５２２にて第２算出期間の直近エリア６０７ｂにも今回終了した第２算出期間における最終的な出玉率データが格納されている状態となる。

【４３４２】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【４３４３】

単位算出期間における出玉率データが共通管理バッファ６１６に格納され、共通管理バッファ６１６に格納されている出玉率データに基づいて、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率及び直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が算出される。直近４回分の単位算出期間全体における出玉率を算出する場合に利用する４個の出玉率データが記憶されるバッファと、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率を算出する場合に利用する１０個の出玉率データが記憶されるバッファとが共通していることにより、これらのバッファが別々に設けられている構成と比較して、単位算出期間における出玉率データを記憶するための主側ＲＡＭ６５における記憶容量を低減することができる。

【４３４４】

共通管理バッファ６１６の第０～第９記憶エリア６１６ａ～６１６ｊの中から書き込み先の記憶エリア６１６ａ～６１６ｊを特定するための共通書き込みポインタ６１７を利用して、共通管理バッファ６１６において直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されている記憶エリア６１６ａ～６１６ｊを特定する構成である。これにより、共通書き込みポインタ６１７とは別に当該記憶エリア６１６ａ～６１６ｊを特定するための専用のカウンタを設ける構成と比較して、直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されている記憶エリア６１６ａ～６１６ｊを特定するため構成を簡略化することができる。

【４３４５】

直近４回分の単位算出期間全体における出玉率を算出した後に共通書き込みポインタ６１７の値を第１出玉率演算処理（図３３２）が開始される前の値に戻す構成である。これにより、第１出玉率演算処理によって共通管理バッファ６１６における書き込み先が変化してしまうことを防止することができる。

【４３４６】

主側ＣＰＵ６３は、周回管理フラグ６１８の値が「０」である場合には共通書き込みポインタ６１７の値が「０」、「４」又は「８」である場合に１つの第１算出期間が終了したことを把握するとともに、周回管理フラグ６１８の値が「１」である場合には共通書き込みポインタ６１７の値が「２」又は「６」である場合に１つの第１算出期間が終了したことを把握する。共通書き込みポインタ６１７に加えて、１ビットの周回管理フラグ６１８を設けて第１算出期間の終了タイミングを把握する構成であることにより、第１算出期間の終了タイミングを把握するための専用のカウンタを別に設ける構成と比較して、第１算出期間の終了タイミングを把握するための主側ＲＡＭ６５における記憶容量が低減され

ている。
【４３４７】
主側ＣＰＵ６３は、共通書き込みポインタ６１７の値が１周して「０」となったことに基づいて第２算出期間が終了したことを把握する。このため、第２算出期間の終了タイミングを把握するための専用のカウンタが共通書き込みポインタ６１７とは別に設けられている構成と比較して、第２算出期間の終了タイミングを把握するための主側ＲＡＭ６５における記憶容量を低減することができる。
【４３４８】
＜第９１の実施形態＞
本実施形態では直近１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データを記憶するカウンタエリアが設けられている点において上記第９０の実施形態と相違している。以下、上記第９０の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第９０の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【４３４９】
図３３３は実施形態における遊技履歴を管理するために使用される非特定制御用のワークエリア２２３の各種エリアを説明するための説明図である。
【４３５０】
非特定制御用のワークエリア２２３には、上記第９０の実施形態における共通管理バッファ６１６に代えて、図３３３に示すように、共通管理カウンタエリア６２１が設けられている。共通管理カウンタエリア６２１は、４回分の単位算出期間全体における出玉率（直近４回分の単位算出期間全体における出玉率及び第１算出期間における出玉率）と、１０回分の単位算出期間全体における出玉率（直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率及び第２算出期間における出玉率）とを算出するための情報（具体的には直近１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データ）が格納されるカウンタエリアである。共通管理カウンタエリア６２１には、単位算出期間における出玉率データが格納されるカウンタとして、１０個の出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｊが設けられている。共通管理カウンタエリア６２１には、具体的には、直近の単位算出期間における出玉率が格納される第０出玉率カウンタ６２１ａと、１つ前の単位算出期間における出玉率が格納される第１出玉率カウンタ６２１ｂと、２つ前の単位算出期間における出玉率が格納される第２出玉率カウンタ６２１ｃと、３つ前の単位算出期間における出玉率が格納される第３出玉率カウンタ６２１ｄと、４つ前の単位算出期間における出玉率が格納される第４出玉率カウンタ６２１ｅと、５つ前の単位算出期間における出玉率が格納される第５出玉率カウンタ６２１ｆと、６つ前の単位算出期間における出玉率が格納される第６出玉率カウンタ６２１ｇと、７つ前の単位算出期間における出玉率が格納される第７出玉率カウンタ６２１ｈと、８つ前の単位算出期間における出玉率が格納される第８出玉率カウンタ６２１ｉと、９つ前の単位算出期間における出玉率が格納される第９出玉率カウンタ６２１ｊとが設けられている。これら第０～第９出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｊはいずれも同一の記憶容量となっており、具体的には出玉率の情報（「０」～「９９９」のいずれかの数値情報）を格納可能とするように１０ビットの記憶容量となっている。
【４３５１】
次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される出玉率記憶処理について、図３３４のフローチャートを参照しながら説明する。なお、出玉率記憶処理は、単位算出期間が終了した場合に、チェック処理（図３２５）のステップＳＬ１１２にて実行される。また、出玉率記憶処理におけるステップＳＬ７０１～ステップＳＬ７２０の処理は、主側ＣＰＵ６３における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。
【４３５２】
出玉率記憶処理では、まず共通管理カウンタエリア６２１のデータシフト処理を実行する（ステップＳＬ７０１）。当該データシフト処理では、共通管理カウンタエリア６２１における第０～第９出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｊに記憶された出玉率の情報を、第８出玉率カウンタ６２１ｉ→第９出玉率カウンタ６２１ｊ、第７出玉率カウンタ６２１ｈ

→第８出玉率カウンタ６２１ｉ、第６出玉率カウンタ６２１ｇ→第７出玉率カウンタ６２１ｈ、第５出玉率カウンタ６２１ｆ→第６出玉率カウンタ６２１ｇ、第４出玉率カウンタ６２１ｅ→第５出玉率カウンタ６２１ｆ、第３出玉率カウンタ６２１ｄ→第４出玉率カウンタ６２１ｅ、第２出玉率カウンタ６２１ｃ→第３出玉率カウンタ６２１ｄ、第１出玉率カウンタ６２１ｂ→第２出玉率カウンタ６２１ｃ、第０出玉率カウンタ６２１ａ→第１出玉率カウンタ６２１ｂの順序でシフトする。これにより、９回前の単位算出期間における出玉率が第９出玉率カウンタ６２１ｊに記憶され、８回前の単位算出期間における出玉率が第８出玉率カウンタ６２１ｉに記憶され、７回前の単位算出期間における出玉率が第７出玉率カウンタ６２１ｈに記憶され、６回前の単位算出期間における出玉率が第６出玉率カウンタ６２１ｇに記憶され、５回前の単位算出期間における出玉率が第５出玉率カウンタ６２１ｆに記憶され、４回前の単位算出期間における出玉率が第４出玉率カウンタ６２１ｅに記憶され、３回前の単位算出期間における出玉率が第３出玉率カウンタ６２１ｄに記憶され、２回前の単位算出期間における出玉率が第２出玉率カウンタ６２１ｃに記憶され、１回前の単位算出期間における出玉率が第１出玉率カウンタ６２１ｂに記憶される。共通管理カウンタエリア６２１のデータシフト処理では、上記のような情報のシフトを行う場合、ＬＤＩＲ命令を利用する。ＬＤＩＲ命令では、情報の記憶元のエリアのアドレスと情報の記憶先のエリアのアドレスとを指定することで、記憶元のエリアに記憶された情報が記憶先のエリアにシフト（コピー）されることとなる。また、ステップＳＬ７０１における共通管理カウンタエリア６２１のデータシフト処理では、上記のような情報のシフトを行った後、第０出玉率カウンタ６２１ａを「０」クリアする。

【４３５３】

その後、現状出玉率エリア５９９に格納されている現状の出玉率データを把握し（ステップＳＬ７０２）、当該把握した現状の出玉率データを第０出玉率カウンタ６２１ａに格納する（ステップＳＬ７０３）。これにより、第０出玉率カウンタ６２１ａに今回終了した単位算出期間における出玉率データが格納されている状態となる。共通管理カウンタエリア６２１において、直近の単位算出期間における出玉率データが格納されるカウンタが第０出玉率カウンタ６２１ａに固定されていることにより、今回終了した単位算出期間における出玉率データの書き込み先を特定するための処理構成が簡略化されている。

【４３５４】

その後、書き込み回数カウンタ６２２の加算処理を実行する（ステップＳＬ７０４）。図３３３に示すように、非特定制御用のワークエリア２２３には単位算出期間における出玉率データが共通管理カウンタエリア６２１に書き込まれた回数を主側ＣＰＵ６３にて把握可能とする書き込み回数カウンタ６２２が設けられている。書き込み回数カウンタ６２２は、その更新の都度前回値に１が加算され、最大値（具体的には「１９」）に達した後に「０」に戻るループカウンタとなっている。書き込み回数カウンタ６２２の更新は、単位算出期間における出玉率データの共通管理カウンタエリア６２１への書き込みが行われる度に行われる。ステップＳＬ７０４における書き込み回数カウンタ６２２の加算処理では、書き込み回数カウンタ６２２の値を１加算し、当該１加算後の書き込み回数カウンタ６２２の値が最大値である「１９」を上回った場合に書き込み回数カウンタ６２２の値を「０」クリアする。

【４３５５】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＬ７０５）。第１報知開始フラグ６０８は、上記第８９の実施形態と同様に、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第１表示対象エリア６０６における各種エリア６０６ａ～６０６ｄの出玉率の表示を実行する状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて把握するためのフラグである。第１報知開始フラグ６０８は、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合において「０」の値となっている。また、非特定制御用のワークエリア２２３が第１報知開始フラグ６０８を含めて「０」クリアされて初期化された場合にも第１報知開始フラグ６０８の値は「０」となる。第１報知開始フラグ６０８には、共

通管理カウンタエリア６２１の出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｊに４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されている状況となった場合に「１」がセットされる。第１報知開始フラグ６０８の値が「０」である状態は、共通管理カウンタエリア６２１の出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｊに記憶されている出玉率データの数が３個以下である状態に対応している。第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていない場合、上記第８９の実施形態と同様に、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄに格納されている出玉率の表示が行われない。

【４３５６】

ステップＳＬ７０５にて否定判定を行った場合には、ステップＳＬ７０４にて更新された後の書き込み回数カウンタ６２２の値が「４」であるか否かを判定する（ステップＳＬ７０６）。ステップＳＬ７０６にて肯定判定を行った場合には、共通管理カウンタエリア６２１に格納されている単位算出期間における出玉率データが４個になったことを意味するため、第１報知開始フラグ６０８に「１」をセットする（ステップＳＬ７０７）。

【４３５７】

ステップＳＬ７０５にて肯定判定を行った場合、又はステップＳＬ７０７の処理を行った場合には、第１出玉率演算処理を実行する（ステップＳＬ７０８）。上記第８９の実施形態と同様に、第１出玉率演算処理は、第１報知開始フラグ６０８に「１」がセットされていること（ステップＳＬ７０５にて肯定判定が行われること、又はステップＳＬ７０７の処理が行われること）を条件として実行される。

【４３５８】

ステップＳＬ７０８における第１出玉率演算処理では、まず非特定制御用のワークエリア２２３における演算エリア５９８を「０」クリアする。その後、第０出玉率カウンタ６２１ａに格納されている出玉率データを演算エリア５９８にセットし、演算エリア５９８の値に対して第１出玉率カウンタ６２１ｂ、第２出玉率カウンタ６２１ｃ及び第３出玉率カウンタ６２１ｄに格納されている３個の出玉率を加算する。これにより、演算エリア５９８に直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率の合計値がセットされている状態となる。その後、当該合計値を「４」で除算することにより、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率を算出し、当該算出した出玉率を演算エリア５９８に記憶する。上記第８９の実施形態と同様に、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率は、「０」～「９９９」の範囲で３桁の数値情報として算出される。ステップＳＬ７０８における第１出玉率演算処理が実行されることにより、演算エリア５９８に直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データが記憶されている状態となる。

【４３５９】

本実施形態では、共通管理カウンタエリア６２１において直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されるカウンタが第０～第３出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｄに固定されているため、共通管理カウンタエリア６２１において直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されるカウンタを特定するための処理構成が簡略化されている。

【４３６０】

ステップＳＬ７０８にて第１出玉率演算処理を実行した後、ステップＳＬ７０９～ステップＳＬ７１２では、上記第９０の実施形態における出玉率記憶処理（図３３１）のステップＳＬ５１１～ステップＳＬ５１４と同様の処理を実行する。具体的には、第１単位更新エリア６０６ａの上書き処理を実行する（ステップＳＬ７０９）。当該上書き処理では、ステップＳＬ７０８にて算出した直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データを第１単位更新エリア６０６ａに上書きする。

【４３６１】

その後、第１算出期間が終了したタイミングであるか否かを判定する（ステップＳＬ７１０）。ステップＳＬ７１０では、書き込み回数カウンタ６２２の値が「０」、「４」、「８」、「１２」及び「１６」のいずれかである場合に第１算出期間が終了したタイミン

グであると判定する。ステップＳＬ７１０にて肯定判定を行った場合には、第１算出期間の直近エリア６０６ｂ、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ及び第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄを更新するための処理（ステップＳＬ７１１～ステップＳＬ７１２の処理）を実行する。

【４３６２】

具体的には、まず第１データシフト処理を実行する（ステップＳＬ７１１）。第１データシフト処理の内容は上記第８９の実施形態において既に説明したとおりである。第１データシフト処理が実行されることにより、今回終了した第１算出期間の２回前の第１算出期間における出玉率データが第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄに記憶され、今回終了した第１算出期間の１回前の第１算出期間における出玉率データが第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃに記憶され、第１算出期間の直近エリア６０６ｂが「０」クリアされる。

【４３６３】

その後、第１単位更新エリア６０６ａに格納されている出玉率データを第１算出期間の直近エリア６０６ｂに格納する（ステップＳＬ７１２）。既に説明したとおり、第１単位更新エリア６０６ａには直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データが格納されている。１つの第１算出期間が終了した場合、直近４回分の単位算出期間は今回終了した第１算出期間に含まれる４回分の単位算出期間である。このため、第１単位更新エリア６０６ａには今回終了した第１算出期間における最終的な出玉率データが格納されており、ステップＳＬ７１２にて第１算出期間の直近エリア６０６ｂにも今回終了した第１算出期間における最終的な出玉率データが格納されている状態となる。

【４３６４】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＬ７１３）。第２報知開始フラグ６０９は、上記第８９の実施形態と同様に、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて第２表示対象エリア６０７における各種エリア６０７ａ～６０７ｄの出玉率の表示を実行する状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて把握するためのフラグである。第２報知開始フラグ６０９は、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合において「０」の値となっている。また、非特定制御用のワークエリア２２３が第２報知開始フラグ６０９を含めて「０」クリアされて初期化された場合にも第２報知開始フラグ６０９の値は「０」となる。第２報知開始フラグ６０９には、共通管理カウンタエリア６２１の出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｊに１０回分の各単位算出期間における１０個の出玉率データが格納されている状況となった場合に「１」がセットされる。第２報知開始フラグ６０９の値が「０」である状態は、共通管理カウンタエリア６２１の１０個の出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｊのうち少なくとも１つの出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｊに出玉率データが格納されていない状態に対応している。第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされていない場合、上記第８９の実施形態と同様に、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５では、第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄに格納されている出玉率の表示が行われない。

【４３６５】

ステップＳＬ７１３にて否定判定を行った場合には、第２算出期間が終了しタイミングであるか否かを判定する（ステップＳＬ７１４）。ステップＳＬ７１４では、ステップＳＬ７０４にて更新された後の書き込み回数カウンタ６２２の値が「０」又は「１０」である場合に第２算出期間が終了したタイミングであると判定する。ステップＳＬ７１４にて肯定判定を行った場合には、共通管理カウンタエリア６２１に格納されている単位算出期間における出玉率データが１０個になったことを意味するため、第２報知開始フラグ６０９に「１」をセットする（ステップＳＬ７１５）。

【４３６６】

ステップＳＬ７１３にて否定判定を行った場合、又はステップＳＬ７１５の処理を実行した場合には、第２出玉率演算処理を実行する（ステップＳＬ７１６）。第２出玉率演算

処理では、まず非特定制御用のワークエリア２２３における演算エリア５９８を「０」クリアし、共通管理カウンタエリア６２１の第０記憶エリア６２１ａに格納されている出玉率データ（「０」～「９９９」のいずれかの数値情報）を当該演算エリア５９８にセットする。その後、演算エリア５９８の値に対して、共通管理カウンタエリア６２１の第１～第９出玉率カウンタ６２１ｂ～６２１ｊに格納されている９個の出玉率を加算することにより１０個の出玉率の合計値を算出する。その後、演算エリア５９８の値を「１０」で除算することにより直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率を算出し、当該算出した出玉率を演算エリア５９８に記憶する。既に説明したとおり、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率は「０」～「９９９」の範囲で３桁の数値情報として算出する。これにより、演算エリア５９８に直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が記憶されている状態となる。

【４３６７】

その後、第２単位更新エリア６０７ａの上書き処理を実行する（ステップＳＬ７１７）。当該上書き処理では、ステップＳＬ７１６にて算出した直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データを第２単位更新エリア６０７ａに上書きする。上記第８９の実施形態と同様に、第２単位更新エリア６０７ａに格納されている出玉率データは、１つの単位算出期間が終了する度に直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データに更新される。

【４３６８】

その後、第２算出期間が終了したタイミングであるか否かを判定する（ステップＳＬ７１８）。ステップＳＬ７１８では、ステップＳＬ７０４にて更新された後の書き込み回数カウンタ６２２の値が「０」である場合に第２算出期間が終了したタイミングであると判定する。ステップＳＬ７１８にて否定判定を行った場合には、そのまま本出玉率記憶処理を終了する。

【４３６９】

一方、ステップＳＬ７１８にて肯定判定を行った場合には、ステップＳＬ７１９に進む。ステップＳＬ７１９～ステップＳＬ７２０では、上記第８９の実施形態における出玉率記憶処理（図３２６）のステップＳＬ２２３～ステップＳＬ２２４と同様の処理を実行する。具体的には、まず第２データシフト処理を実行する（ステップＳＬ５２１）。第２データシフト処理の内容は上記第８９の実施形態において既に説明したとおりである。第２データシフト処理が実行されることにより、今回終了した第２算出期間の２回前の第２算出期間における出玉率データが第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄに記憶され、今回終了した第２算出期間の１回前の第２算出期間における出玉率データが第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃに記憶され、第２算出期間の直近エリア６０７ｂが「０」クリアされる。

【４３７０】

その後、第２単位更新エリア６０７ａに格納されている出玉率データを第２算出期間の直近エリア６０７ｂに格納して（ステップＳＬ７２０）、本出玉率演算処理を終了する。既に説明したとおり、第２単位更新エリア６０７ａには直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が格納されている。第２書き込みポインタ６０４の値が１周して１つの第２算出期間が終了した場合、直近１０回分の単位算出期間は今回終了した第２算出期間に含まれる１０回分の単位算出期間である。このため、第２単位更新エリア６０７ａには今回終了した第２算出期間における最終的な出玉率データが格納されており、ステップＳＬ７２０にて第２算出期間の直近エリア６０７ｂにも今回終了した第２算出期間における最終的な出玉率データが格納されている状態となる。

【４３７１】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【４３７２】

書き込み回数カウンタ６２２の値に基づいて第１算出期間の終了タイミング及び第２算出期間の終了タイミングが把握される。第１算出期間の終了タイミングを把握するための

カウンタと、第２算出期間の終了タイミングを把握するためのカウンタとが別々に設けられている構成では、第１算出期間及び第２算出期間の終了タイミングを把握するために当該２つのカウンタを更新する処理が必要となってしまう。これに対して本実施形態では、１つの書き込み回数カウンタ６２２の値に基づいて第１算出期間の終了タイミング及び第２算出期間の終了タイミングを把握する構成であることにより、第１算出期間及び第２算出期間の終了タイミングを把握するための主側ＲＡＭ６５における記憶容量が低減されているとともに、第１算出期間及び第２算出期間の終了タイミングを把握するための処理構成が簡略化されている。

【４３７３】

共通管理カウンタエリア６２１において直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されるカウンタが第０～第３出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｄに固定されているため、共通管理カウンタエリア６２１において直近４回分の各単位算出期間における４個の出玉率データが格納されるカウンタを特定するための処理構成が簡略化されている。

【４３７４】

共通管理カウンタエリア６２１において、直近の単位算出期間における出玉率データが格納されるカウンタが第０出玉率カウンタ６２１ａに固定されていることにより、今回終了した単位算出期間における出玉率データの書き込み先を特定するための処理構成が簡略化されている。

【４３７５】

＜第９２の実施形態＞

本実施形態では表示対象となる出玉率の種類が上記第８９の実施形態と相違している。以下、上記第８９の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第８９の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【４３７６】

本実施形態において、非特定制御用のワークエリア２２３における第１表示対象エリア６０６には、第１算出期間の直近エリア６０６ｂが設けられている一方、上記第８９の実施形態における第１単位更新エリア６０６ａ、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ及び第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄは設けられていない。また、本実施形態における第２表示対象エリア６０７には、第２算出期間の直近エリア６０７ｂが設けられている一方、上記第８９の実施形態における第２単位更新エリア６０７ａ、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ及び第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄは設けられていない。

【４３７７】

本実施形態では、主制御装置６０に第１報知用表示装置５９１、第３報知用表示装置５９３、第４報知用表示装置５９４及び第５報知用表示装置５９５が設けられている一方、上記第８９の実施形態における第２報知用表示装置５９２は設けられていない。第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５は主制御基板６１の素子搭載面において横並びで設けられている。

【４３７８】

第１算出期間の直近エリア６０６ｂに格納された直近の第１算出期間における出玉率、及び第２算出期間の直近エリア６０７ｂに格納された直近の第２算出期間における出玉率は、第１報知開始フラグ６０８及び第２報知開始フラグ６０９に「１」がセットされている状況において、第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５にて交互に報知される。具体的には、表示継続期間（具体的には５秒）が経過する度に、第１算出期間の直近エリア６０６ｂ→第２算出期間の直近エリア６０７ｂという予め定められた順序で報知対象となる出玉率が切り換えられるとともに、当該予め定められた順序による報知対象となる出玉率の切り換えが繰り返される。

【４３７９】

図３３５（ａ）は非特定制御用のワークエリア２２３における算出開始フラグ５９７（図３２２）に「１」がセットされている状況において第１算出期間の直近エリア６０６ｂ

に格納された出玉率が報知される場合における第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５の表示内容を説明するための説明図であり、図３３５（ｂ）は算出開始フラグ５９７に「１」がセットされている状況において第２算出期間の直近エリア６０７ｂに格納された出玉率が報知される場合における第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５の表示内容を説明するための説明図である。図３３５（ａ）は第１算出期間の直近エリア６０６ｂに格納された出玉率が報知される場合における第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５の表示内容の一例を示し、図３３５（ｂ）は第２算出期間の直近エリア６０７ｂに格納された出玉率が報知される場合における第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５の表示内容の一例を示す。

【４３８０】

上記第８９の実施形態と同様に、第１報知用表示装置５９１では、第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５において第１表示対象エリア６０６に格納されている出玉率を報知している状況であることを示す表示、及び第２表示対象エリア６０７に格納されている出玉率を報知している状況であることを示す表示が行われる。具体的には、第１算出期間の直近エリア６０６ｂの出玉率を報知する場合、図３３５（ａ）に示すように、第１報知用表示装置５９１には「ｄ」の文字が表示される。また、第２算出期間の直近エリア６０７ｂの出玉率を報知する場合、図３３５（ｂ）に示すように、第１報知用表示装置５９１には「ｄ．」の文字が表示される。第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５において出玉率以外の情報が報知される場合には第１報知用表示装置５９１にて「ｄ」及び「ｄ．」の文字が表示されることはない。遊技ホールの管理者は、第１報知用表示装置５９１にて「ｄ」の文字が表示されていることを確認することで、第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５にて直近の第１算出期間における出玉率が報知されていることを把握することできるとともに、第１報知用表示装置５９１にて「ｄ．」の文字が表示されていることを確認することで、第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５にて直近の第２算出期間における出玉率が報知されていることを把握することできる。

【４３８１】

上記第８９の実施形態と同様に、第３報知用表示装置５９３では、「０」～「９９９」の範囲で３桁の数値情報として記憶されている出玉率の百の位の数字が表示され、第４報知用表示装置５９４では出玉率の十の位の数字が表示され、第５報知用表示装置５９５では出玉率の一の位の数字が表示される。

【４３８２】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【４３８３】

第１報知用表示装置５９１における表示に基づいて、第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５にて表示が行われている出玉率の種類を把握可能とすることにより、表示されている出玉率の種類を把握可能とするための報知用表示装置の数を１つとすることができる。これにより、報知用表示装置の数が増加してしまうことを抑制しながら、第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５にて３桁の出玉率の表示を行うことができる。

【４３８４】

第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５にて直近の第１算出期間における出玉率の表示及び直近の第２算出期間における出玉率の表示が交互に行われる。これにより、報知用表示装置の数が増加してしまうことを抑制しながら、第１算出期間における出玉率の異常の有無だけでなく異常の程度まで把握可能とすることができるとともに、第２算出期間における出玉率の異常の有無だけでなく異常の程度まで把握可能とすることができる。

【４３８５】

＜第９３の実施形態＞

本実施形態では遊技履歴の管理に関する処理構成及び第１～第４報知用表示装置２０１

～２０４の表示制御に関する処理構成が上記第３５の実施形態と相違している。以下、上記第３５の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第３５の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【４３８６】

図３３６（ａ）は本実施形態における非特定制御用のワークエリア２２３の各種エリアを説明するための説明図である。

【４３８７】

上記第１１の実施形態と同様に、主制御基板６１の素子搭載面には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４（図５３）が横並びで設けられている。上記第３３の実施形態と同様に、設定値の確認が行われている場合には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われるとともに、設定値の更新が行われている場合には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて設定値を更新している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。

【４３８８】

図３３６（ａ）に示すように、非特定制御用のワークエリア２２３の演算結果記憶エリア２３４には、上記第３５の実施形態と同様に、直近のベース値が格納される現状エリア３１１と、１回前の算出期間における最終的なベース値が格納される第１履歴エリア３１２と、２回前の算出期間における最終的なベース値が格納される第２履歴エリア３１３と、３回前の算出期間における最終的なベース値が格納される第３履歴エリア３１４とが設けられている。上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では、表示継続期間（具体的には５秒）が経過する度に、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４という予め定められた順序で報知対象となるベース値が切り換えられるとともに、当該予め定められた順序による報知対象となるベース値の切り換えが繰り返される。

【４３８９】

上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、ベース値とは、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）に対する遊技球の合計払出個数の割合のことである。図３３６（ａ）に示すように、非特定制御用のワークエリア２２３には、上記第３５の実施形態と同様に、通常用カウンタエリア２３１が設けられている。そして、当該通常用カウンタエリア２３１には、通常用の一般入賞カウンタ２３１ａ、通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂ、通常用の第１作動カウンタ２３１ｃ、通常用の第２作動カウンタ２３１ｄ及び通常用のアウトカウンタ２３１ｅが設けられている。大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において、一般入賞口３１に１個の遊技球が入球した場合には通常用の一般入賞カウンタ２３１ａの値が１加算され、特電入賞装置３２に１個の遊技球が入球した場合には通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂの値が１加算され、第１作動口３３に１個の遊技球が入球した場合には通常用の第１作動カウンタ２３１ｃの値が１加算され、第２作動口３４に１個の遊技球が入球した場合には通常用の第２作動カウンタ２３１ｄの値が１加算され、アウト口２４ａに１個の遊技球が入球した場合には通常用のアウトカウンタ２３１ｅの値が１加算される。

【４３９０】

大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値をＫ９１～Ｋ９５とした場合にベース値は以下のものとなる。

・ベース値：遊技球の合計払出個数（Ｋ９１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ９１＋Ｋ９２＋Ｋ９３＋Ｋ９４

＋Ｋ９５）の割合。
【４３９１】
図３３６（ａ）に示すように、非特定制御用のワークエリア２２３には、合計個数エリア６３１及び合計払出個数エリア６３２が設けられている。合計個数エリア６３１は、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）を示す数値情報である合計個数データが格納されるカウンタである。主側ＣＰＵ６３は、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値を合計することにより合計個数データを算出する。合計個数データは「０」～「６５５３５」のいずれかの数値を示す２バイトの数値情報である。
【４３９２】
合計払出個数エリア６３２は、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技球の合計払出個数を示す数値情報である合計払出個数情報が格納されるカウンタである。主側ＣＰＵ６３は、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値に基づいて合計払出個数情報を算出する。合計払出個数エリア６３２は、３バイトからなり「２５６」の３乗から１減算した値を上限とする数値情報を格納可能である。通常用カウンタエリア２３１における通常用の一般入賞カウンタ２３１ａ、通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂ、通常用の第１作動カウンタ２３１ｃ及び通常用の第２作動カウンタ２３１ｄの値をＫ９１～Ｋ９４とした場合、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技球の合計払出個数は以下の式で算出される。
・合計払出個数：Ｋ９１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ９４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」。
【４３９３】
本実施形態では、メイン処理（図１３２）において後述する残余処理（図３４７）が行われる。残余処理（図３４７）はメイン処理（図１３２）の最後で繰り返し実行されるループ処理であり、当該残余処理（図３４７）の中でベース値の演算が行われる。主側ＣＰＵ６３は、合計払出個数エリア６３２に格納されている合計払出個数情報を把握することにより大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技球の合計払出個数を把握するとともに、合計個数エリア６３１に格納されている合計個数データを把握することにより大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数を把握する。そして、当該把握した合計払出個数を当該把握した遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数で除算することによりベース値を小数点第４位までの数値として算出する。その後、当該算出したベース値の小数点第４位の数字を四捨五入することによりベース値を小数点第３位までの数値とする。その後、当該小数点第３位までのベース値における小数点第３位の数字を四捨五入することによりベース値を小数点第２位までの数値とする。その後、小数点第２位までのベース値を現状エリア３１１に上書きすることにより、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値が上書きされる。
【４３９４】
上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数である６００００個に達した場合にベース値の一の算出期間が終了する。パチンコ機１０では１分間に最大で１００個の遊技球の発射が行われるため、６００００個は１０時間における最大の発射個数である。第１～第３履歴エリア３１２～３１４に格納されている各ベース値は対応する算出期間における最終的なベース値である一方、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値は終了していない現状の算出期間におけるベース値である。このため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示される直近のベース値

は、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示される過去のベース値（第１～第３履歴エリア３１２～３１４に格納されているベース値）と比較して、収束の程度が低い。

【４３９５】

現状エリア３１１に格納されている直近のベース値は、現状の算出期間において、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が少ないほど収束の程度が低くなるとともに、当該遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が多いほど収束の程度が高くなる。

【４３９６】

本実施形態では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示される直近のベース値についての収束の程度を把握可能とする目的で、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示が行われる。また、上記第３５の実施形態と同様に、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が演算初期個数である６０００個に達していない状況において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて直近のベース値の表示が行われる場合には演算初期表示が行われる。上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、演算初期表示は、第１，第２報知用表示装置２０１，２０２に表示される文字（「ｂ」及び「Ｌ．」の文字）を点滅表示させることにより、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が演算初期個数（具体的には６０００個）に達していない状況であることを把握可能とする表示である。

【４３９７】

まず合計個数情報の表示について説明する。本実施形態では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて直近のベース値の表示が行われている状況でリセットボタン６８ｃ（図５３）の押圧操作が行われた場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に合計個数データの上位４桁の数字が表示される合計個数情報の表示が行われる。ベース値の現状の算出期間における合計個数データを把握可能とすることにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示される直近のベース値についての収束の程度を把握可能とすることができる。

【４３９８】

図３３６（ｂ）は合計個数情報の表示が行われている状況における第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示内容を説明するための説明図である。上述したとおり、合計個数データは「０」～「６５５３５」のいずれかの数値を示す２バイトの数値情報である。図３３６（ｂ）に示すように、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示が行われる場合、第１報知用表示装置２０１には合計個数データにおける万の位の数字（図３６６（ｂ）では「１」）が表示され、第２報知用表示装置２０２には合計個数データにおける千の位の数字（図３６６（ｂ）では「２」）が表示され、第３報知用表示装置２０３には合計個数データにおける百の位の数字（図３６６（ｂ）では「３」）が表示され、第４報知用表示装置２０４には合計個数データにおける十の位の数字（図３６６（ｂ）では「０」）が表示される。これにより、合計個数データの上位４桁の数字（図３６６（ｂ）では「１２３０」）を把握可能とすることができるとともに、直近のベース値についての収束の程度を把握可能とすることができる。

【４３９９】

遊技ホールの管理者は、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示されている直近のベース値がベース値の理論値範囲から外れていることに気付いた場合、リセットボタン６８ｃを押圧操作することにより第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に合計個数データの上位４桁の数字（合計個数情報）を表示させることができる。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示される合計個数情報（合計個数データの上位４桁の数値）に基づいて把握される合計個数データがベース値の算出期間における最終的な合計個数データ（具体的には６００００個）と比較して小さい場合には、直近のベース値についての

収束の程度が低いことを把握することができる。また、当該合計個数情報に基づいて把握される合計個数データがベース値の算出期間における最終的な合計個数データ（具体的には６００００個）に近い場合には、直近のベース値についての収束の程度が高いことを把握することができる。例えば、図３６６（ｂ）に示す表示内容では、合計個数データが「１２３００」～「１２３０９」のいずれかを示す数値情報であり、合計個数データが「６００００」となる最終的な状態と比較して、直近のベース値についての収束の程度が低いことを把握することができる。

【４４００】

遊技ホールの管理者は、直近のベース値がベース値の理論値範囲から外れている場合、直近のベース値についての収束の程度が低い状況であれば、現状の算出期間における最終的なベース値がベース値の理論値範囲に収まる可能性があることを把握することができる。また、直近のベース値についての収束の程度が高い状況であれば、現状の算出期間における最終的なベース値がベース値の理論値範囲から外れる可能性が高いことを把握することができる。

【４４０１】

合計個数情報として、「０」～「６５５３５」のいずれかの数値情報である合計個数データの上位４桁の数字を表示する構成であることにより、合計個数データの全体（５桁の数字）を表示する構成と比較して、報知用表示装置２０１～２０４の数の増加を抑えながら、直近のベース値についての収束の程度を把握可能とすることができる。

【４４０２】

合計個数情報の表示は、合計個数データが演算初期個数（具体的には６０００個）に達しているか否かに関わらず実行される。すなわち、合計個数情報の表示は、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて演算初期表示が行われる期間であるか否かに関わらず実行される。このため、合計個数データが演算初期個数に達して演算初期表示が行われる期間が終了した後も、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて直近のベース値の表示が行われている状況でリセットボタン６８ｃの押圧操作を行うことにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に合計個数情報を表示させて、直近のベース値についての収束の程度を把握することができる。

【４４０３】

合計個数情報の表示継続期間は、ベース値の表示継続期間と同様に５秒である。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では、合計個数情報の表示が５秒間継続された後、直近のベース値の表示が開始される。ベース値の表示と、合計個数情報の表示とが共通の第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる構成であることにより、ベース値を監視する遊技ホールの管理者の監視負担を軽減することができる。

【４４０４】

次に、合計個数情報（合計個数データの上位４桁の数字）の表示を行うための主側ＲＡＭ６５の構成について説明する。図３３６（ａ）に示すように、主側ＲＡＭ６５の非特定制御用のワークエリア２２３には、上記第３３の実施形態と同様に、表示対象設定エリア２７６が設けられている。上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、ベース値の表示継続期間（具体的には５秒）が経過する毎に予め定められた表示順序に従って表示対象となるベース値の演算結果が現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３、及び第３履歴エリア３１４から読み出され、その読み出されたベース値の演算結果データが表示対象設定エリア２７６に格納される。ベース値の演算結果データは、報知対象のベース値における小数点第１位の数字に対応する表示を第３報知用表示装置２０３に行わせるための表示データと、報知対象のベース値における小数点第２位の数字に対応する表示を第４報知用表示装置２０４に行わせるための表示データとを含む。また、上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、表示対象設定エリア２７６には表示種別データも設定される。表示種別データは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の報知対象がベース値であることを示す表示（具体的には「ｂ」の文字の表示）を第１報知用表示装置２０１に行わせるための表示データと、報知対象のベース値が演算結果記憶

エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のうちいずれに対応しているのかを示す表示を第２報知用表示装置２０２に行わせるための表示データとを含む。第２報知用表示装置２０２には、報知対象のベース値が現状エリア３１１のベース値である場合には「Ｌ．」の文字が表示され、報知対象のベース値が第１履歴エリア３１２のベース値である場合には「１．」の文字が表示され、報知対象のベース値が第２履歴エリア３１３のベース値である場合には「２．」の文字が表示され、報知対象のベース値が第３履歴エリア３１４のベース値である場合には「３．」の文字が表示される。

【４４０５】

上記第３３の実施形態において図１１９を参照しながら既に説明したとおり、主制御基板６１には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４（図５３）に対応させて第５表示回路２６５が設けられているとともに、第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに対して共通となるように１個の表示ＩＣ２６６が設けられている。また、上記第３３の実施形態において図１２０（ａ）を参照しながら既に説明したとおり、特定制御用のワークエリア２２１には、第５表示回路２６５に供給するための表示データが格納される第５表示データバッファ２７５が設けられている。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて遊技履歴の管理結果を表示する状況である場合には、後述する第２タイマ割込み処理（図３４６）にて、表示対象設定エリア２７６に格納された表示データが読み出され、その読み出された表示データが第５表示データバッファ２７５（図１２０（ａ））に格納される。第５表示データバッファ２７５に格納された表示データは、表示ＩＣ２６６（図１１９）に送信され、当該表示データが表示ＩＣ２６６から第５表示回路２６５（図１１９）に提供されることにより第１～第４報知用表示装置２０１～２０４（図５３）にて当該表示データに基づく表示が行われる。

【４４０６】

本実施形態では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に直近のベース値が表示されている状況においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われた場合、直近のベース値に対応する表示データ及び表示種別データに代えて、合計個数エリア６３１に格納されている合計個数データに対応する合計個数情報の表示データが表示対象設定エリア２７６に設定される。合計個数情報の表示データは、合計個数データにおける万の位の数字に対応する表示を第１報知用表示装置２０１に行わせるための表示データと、合計個数データにおける千の位の数字に対応する表示を第２報知用表示装置２０２に行わせるための表示データと、合計個数データにおける百の位の数字に対応する表示を第３報知用表示装置２０３に行わせるための表示データと、合計個数データにおける十の位の数字に対応する表示を第４報知用表示装置２０４に行わせるための表示データとを含む。

【４４０７】

後述する第２タイマ割込み処理（図３４６）にて、表示対象設定エリア２７６に格納された合計個数情報の表示データが読み出され、その読み出された合計個数情報の表示データが第５表示データバッファ２７５（図１２０（ａ））に格納される。第５表示データバッファ２７５に格納された合計個数情報の表示データは、表示ＩＣ２６６（図１１９）に送信され、当該合計個数情報の表示データが表示ＩＣ２６６から第５表示回路２６５（図１１９）に提供されることにより第１～第４報知用表示装置２０１～２０４（図５３）にて当該合計個数情報の表示データに基づく表示が行われる。

【４４０８】

次に、図３３７のタイムチャートを参照しながら第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示が行われる様子を説明する。図３３７（ａ）は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示が行われる期間を示し、図３３７（ｂ）は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて現状エリア３１１におけるベース値の表示が行われる期間を示し、図３３７（ｃ）は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて第３履歴エリア３１４におけるベース値の表示が行われる期間を示し、図３３７（ｄ）は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて第１履歴エリア３１２におけるベー

ス値の表示が行われる期間を示し、図３３７（ｅ）はリセットボタン６８ｃの操作タイミングを示す。

【４４０９】

ｔ１のタイミングで、図３３７（ｃ）に示すように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われていた第３履歴エリア３１４におけるベース値の表示が終了すると、当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて図３３７（ｂ）に示すように現状エリア３１１に格納されている直近のベース値の表示が開始される。

【４４１０】

その後、直近のベース値の表示が行われているｔ２のタイミングで図３３７（ｅ）に示すようにリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われると、当該ｔ２のタイミングで、図３３７（ｂ）に示すように第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われていた直近のベース値の表示が途中で終了するとともに、当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて図３３７（ａ）に示すように合計個数情報の表示が開始される。既に説明したとおり、合計個数情報の表示では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に合計個数データの上位４桁の数字が表示される。

【４４１１】

図３３７（ａ）に示すように、合計個数情報の表示は、ｔ２のタイミングからｔ３のタイミングまで表示継続期間（具体的には５秒間）に亘って行われる。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では、合計個数情報の表示が終了するｔ３のタイミングで、図３３７（ｂ）に示すように現状エリア３１１に格納されている直近のベース値の表示が開始される。図３３７（ｂ）に示すように直近のベース値の表示は、合計個数情報の表示が開始される前に直近のベース値の表示が行われていた期間（ｔ１のタイミングからｔ２のタイミングまでの期間）の長さに関わらず、ｔ３のタイミングからｔ４のタイミングまでベース値の表示継続期間（具体的には５秒間）に亘って行われる。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では、直近のベース値の表示が終了するｔ４のタイミングで、図３３７（ｄ）に示すように第１履歴エリア３１２におけるベース値の表示が開始される。

【４４１２】

上記のとおり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて直近のベース値の表示が行われている状況においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われた場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示が行われる。遊技ホールの管理者は、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示されている直近のベース値がベース値の理論値範囲から外れていることを発見した場合にリセットボタン６８ｃを押圧操作して合計個数データの上位４桁の数字を表示させて、直近のベース値についての収束の程度を把握することができる。

【４４１３】

合計個数情報の表示が終了した後、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では直近のベース値の表示が行われる。これにより、合計個数情報の表示に基づいて直近のベース値についての収束の程度を把握した後に、再び直近のベース値を確認可能とすることができる。合計個数情報の表示が終了した後に開始される直近のベース値の表示は、合計個数情報の表示が開始されるまでに直近のベース値が表示されていた期間に関わらず、ベース値の表示継続期間（具体的には５秒間）に亘って行われる。合計個数情報の表示が終了した後に直近のベース値についての表示継続期間の計測が再開される構成とすると、合計個数情報の表示が開始されるまでに直近のベース値が表示されていた期間に応じて当該合計個数情報の表示終了後における直近のベース値についての表示継続期間が変動することとなる。当該構成では、直近のベース値の表示が終了する直前にリセットボタン６８ｃの押圧操作を行って合計個数情報の表示を開始させた場合、当該合計個数情報の表示終了後における直近のベース値についての表示継続期間が極端に短くなってしまう。これに対して本実施形態では、合計個数情報の表示が終了した後に直近のベース値についての表示継続期間の計測が新たに開始される構成である。このため、直近のベース値の表示が終了する直前にリセットボタン６８ｃの押圧操作を行って合計個数情報の表示を開始させた場合に

おいても、当該合計個数情報の表示が終了した後に表示される直近のベース値の表示期間が極端に短くなってしまうことを防止することができる。

【４４１４】

上述したとおり、本実施形態においても演算初期表示が行われる。上記第３３の実施形態と同様に、非特定制御用のワークエリア２２３には演算初期フラグが設けられている。演算初期フラグは、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達しているか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。演算初期フラグに「１」がセットされている状態は、当該遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が初期基準個数に達していない状態に対応している。演算初期フラグに「１」がセットされている場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では、直近のベース値の表示において演算初期表示が行われる。

【４４１５】

上記第３５の実施形態において図１２７（ａ）を参照しながら既に説明したとおり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて直近のベース値の表示が行われる場合、第１報知用表示装置２０１には「ｂ」の文字が表示され、第２報知用表示装置２０２には「Ｌ．」の文字が表示され、第３報知用表示装置２０３にはベース値の小数点第１位の数字が表示され、第４報知用表示装置２０４ではベース値の小数点第２位の数字が表示される。演算初期表示では、第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２において表示対象となる文字（「ｂ」及び「Ｌ．」の文字）の点滅表示が行われる。算出期間が開始された直後においてはベース値を算出するための遊技履歴の情報が少ないため、ベース値の実測値がベース値の理論値範囲から大きく外れた値となり得る。これに対して、このように算出期間が開始された直後においては演算初期表示を行わせることで、算出期間が開始された直後であることを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。遊技ホールの管理者は、演算初期表示が行われている場合には、リセットボタン６８ｃの操作を行わなくても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示されている直近のベース値についての収束の程度が低いことを把握することができる。

【４４１６】

次に、主側ＣＰＵ６３の内部構成について説明する。上記第１５の実施形態において既に説明したとおり、主側ＣＰＵ６３のレジスタには、フラグレジスタ、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタが存在している。フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、Ｐ／Ｖフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。なお、フラグレジスタの情報量は１バイトとなっている。

【４４１７】

本実施形態における主側ＣＰＵ６３は、プログラムカウンタと、命令レジスタと、命令デコーダとを備えている。主側ＣＰＵ６３は、プログラムカウンタが示す番地に設定されている命令を命令レジスタに格納し、プログラムカウンタを次に実行する命令まで進める。命令デコーダは、命令レジスタに格納された命令をデコードして、そのデコード結果に応じて主側ＣＰＵ６３の各部を制御する。これにより、主側ＣＰＵ６３において各種命令が実行される。

【４４１８】

本実施形態では、非特定制御に対応する処理として、後述する第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８０７にて実行される試射試験実行処理（図３３９）と、当該第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８２１にて実行される管理実行処理（図３４０）と、後述する残余処理（図３４７）のステップＳＭ８０６にて実行される集計除算実行処理（図３４８）とが存在しており、主側ＣＰＵ６３は、ＣＡＬＬＩ命令により、これら３つの非特定制御に対応する処理を実行する。なお、試射試験実行処理（図３３９）、管理実行処理（図３４０）及び集計除算実行処理（図３４８）の処理内容について

は後述する。
【４４１９】
ＣＡＬＬＩ命令により非特定制御に対応する処理が実行される場合、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されるとともに、後述する第１タイマ割込み処理（図３３８）及び後述する第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが禁止される。そして、非特定制御用のプログラムに設定されている非特定制御に対応する処理（試射試験実行処理（図３３９）、管理実行処理（図３４０）、又は集計除算実行処理（図３４８））に対応するサブルーチンのプログラムが実行される。
【４４２０】
フラグレジスタの情報を非特定制御に対応する処理（試射試験実行処理（図３３９）、管理実行処理（図３４０）、又は集計除算実行処理（図３４８））のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該非特定制御に対応する処理のコールや当該非特定制御に対応する処理の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。また、非特定制御に対応する処理のプログラムが開始される前に第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止することにより、非特定制御に対応する処理の実行中に、特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。
【４４２１】
ＣＡＬＬＩ命令により非特定制御に対応する処理を実行する構成とすることにより、一の命令（「ＣＡＬＬＩ」）により、非特定制御に対応する処理の実行前に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させ、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止して、当該非特定制御に対応する処理のプログラムを開始させることができる。このため、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止するための命令と、非特定制御に対応する処理のプログラムを開始させるための命令とを個別に設ける場合と比較して、非特定制御に対応する処理を実行するために第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラム及び残余処理（図３４７）に対応するプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラム及び残余処理（図３４７）に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。
【４４２２】
本実施形態において主側ＣＰＵ６３は、非特定制御に対応する処理（試射試験実行処理（図３３９）、管理実行処理（図３４０）、又は集計除算実行処理（図３４８））が終了するとともに特定制御に対応する処理に復帰する場合、ＲＥＴＩ命令を実行する。ＲＥＴＩ命令が実行されることにより、当該非特定制御に対応する処理の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰されるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰するとともに、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。
【４４２３】
非特定制御に対応する処理が終了するとともに特定制御に対応する処理に復帰する場合にＲＥＴＩ命令を実行する構成であることにより、一の命令（「ＲＥＴＩ」）により、当該非特定制御に対応する処理の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させ、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えることができる。このため、非特定制御に対応する処理の実行前

に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための命令とを個別に設ける場合と比較して、非特定制御に対応する処理のプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、非特定制御に対応する処理のプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４４２４】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される第１タイマ割込み処理（図３３８）の説明に先立ち、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた試射試験情報エリア６３３（図３３６（ａ））について説明する。

【４４２５】

試射試験情報エリア６３３は、試射試験において外部装置である試射試験装置（図示略）に出力するための試射試験情報が格納されるエリアである。試射試験は、パチンコ機１０が遊技ホールに設置されるよりも前に行われる。試射試験が行われている状況では、主制御装置６０のＭＰＵ６２の出力側から中継基板（図示略）を介して外部装置である試射試験装置に対して試射試験情報が出力される。試射試験情報は、全遊技状態におけるパチンコ機１０の遊技領域ＰＡから排出された遊技球の数を示す情報、全遊技状態における遊技球の払出個数を示す情報、低確大当たり結果が発生したことを示す情報、低入賞高確大当たり結果が発生したことを示す情報、及び最有利大当たり結果が発生したことを示す情報を含む。ここで、全遊技状態とは、開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない遊技状態と、開閉実行モードである遊技状態と、高頻度サポートモードである遊技状態とである。

【４４２６】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される第１タイマ割込み処理（図３３８）について説明する。上記第３３の実施形態と同様に、タイマ割込み処理として、第１割込み周期である４ミリ秒周期で定期的に起動される第１タイマ割込み処理（図３３８）と、第２割込み周期である２ミリ秒周期で定期的に起動される第２タイマ割込み処理（図３４６）とが存在している。第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理はいずれもメイン処理（図１３２）に対して割り込んで起動される。また、第２タイマ割込み処理は第１タイマ割込み処理に対して割り込んで起動される。一方、第１タイマ割込み処理は第２タイマ割込み処理に対して割り込んで起動されない。また、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の両方が実行されていない状況において第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）及び第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）の両方が経過している場合、それら周期の経過順序に関係なく第２タイマ割込み処理から先に起動される。この点、第２タイマ割込み処理は第１タイマ割込み処理よりも優先して起動される処理であると言える。

【４４２７】

図３３８は主側ＣＰＵ６３にて実行される第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。なお、第１タイマ割込み処理に対応するプログラムは特定制御用のプログラムに設定されている。第１タイマ割込み処理におけるステップＳＬ８０１～ステップＳＬ８２１の処理は、主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。本実施形態では、第１タイマ割込み処理の起動に際して第１割込み処理及び第２割込み処理（図３４６）の起動が禁止されない。このため、第１タイマ割込み処理に対して第２タイマ割込み処理が割り込んで起動することが可能となっている。後述する第２タイマ割込み処理（図３４６）では、上記第３５の実施形態と同様に、第１～第５表示回路２６１～２６５に対して表示データを提供するための処理が実行される。上記第３３の実施形態において既に説明したとおり、第１～第５表示回路２６１～２６５は提供された表示データを所定期間（例えば１６ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「０」の状態に近付く構成である。当該構成において、第２タイマ割込み処理の起動が遅延することを防止すること

により、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ、及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における表示にちらつきが生じてしまうことが防止されている。

【４４２８】

第１タイマ割込み処理（図３３８）におけるステップＳＬ８０１～ステップＳＬ８０５及びステップＳＬ８０８～ステップＳＬ８２０の各種処理は、ＣＡＬＬＳ命令により実行される。ＣＡＬＬＳ命令によりこれらの処理を実行する構成であることにより、ＣＡＬＬ命令（コール命令）によりこれらの処理を実行する構成と比較して、第１タイマ割込み処理（図３３８）を実行するためのプログラムのデータ容量を減らすことができる。なお、第１タイマ割込み処理におけるステップＳＬ８０１～ステップＳＬ８０５及びステップＳＬ８０８～ステップＳＬ８２０の各種処理をＣＡＬＬ命令（コール命令）により実行する構成としてもよい。

【４４２９】

ステップＳＬ８０１では、ＣＡＬＬＳ命令により停電情報記憶処理を実行することで停電監視を実行する（ステップＳＬ８０１）。停電情報記憶処理では、具体的には、上記第３０の実施形態における停電情報記憶処理（図１０１）と同様に、停電監視基板６７から電源遮断の発生に対応した停電信号を受信しているか否かを監視し、停電の発生を特定した場合には停電時処理を実行した後に無限ループとなる。停電時処理では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた停電フラグに「１」をセットするとともに、チェックサムを算出しその算出したチェックサムを特定制御用のワークエリア２２１に保存する。

【４４３０】

ステップＳＬ８０１にて停電情報記憶処理を行った後、ＣＡＬＬＳ命令により抽選用乱数更新処理を実行する（ステップＳＬ８０２）。抽選用乱数更新処理では、上記第１の実施形態におけるタイマ割込み処理（図１１）の抽選用乱数更新処理（ステップＳ３０２）と同様に、当たり乱数カウンタＣ１、大当たり種別カウンタＣ２、リーチ乱数カウンタＣ３及び普電役物開放カウンタＣ４の各数値情報の更新を行う。

【４４３１】

その後、ＣＡＬＬＳ命令により乱数初期値更新処理を実行する（ステップＳＬ８０３）。乱数初期値更新処理では、上記第１の実施形態におけるタイマ割込み処理（図１１）の乱数初期値更新処理（ステップＳ３０３）と同様に、乱数初期値カウンタＣＩＮＩの数値情報を更新する。その後、ＣＡＬＬＳ命令により変動用カウンタ更新処理を実行する（ステップＳＬ８０４）。変動用カウンタ更新処理では、上記第１の実施形態におけるタイマ割込み処理（図１１）の変動用カウンタ更新処理（ステップＳ３０４）と同様に、変動種別カウンタＣＳの数値情報を更新する。

【４４３２】

その後、ＣＡＬＬＳ命令により不正検知処理を実行する（ステップＳＬ８０５）。不正検知処理では、上記第１の実施形態におけるタイマ割込み処理（図１１）の不正検知処理（ステップＳ３０５）と同様に、不正用の監視対象として設定されている事象が発生しているか否かを監視する。当該不正検知処理では、複数種類の事象の発生を監視し、これら複数種類の事象のうちいずれかが発生していることを確認することで、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグに「１」をセットする。遊技停止フラグは、第１タイマ割込み処理（図３３８）においてステップＳＬ８０６にて肯定判定をしてステップＳＬ８０７～ステップＳＬ８２１の処理を実行しない状況、すなわち遊技を進行させるための処理の実行を停止すべき状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、ステップＳＬ８０７～ステップＳＬ８２１の処理が実行されない状況となる。

【４４３３】

ステップＳＬ８０５にて不正検知処理を行った後、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた遊技停止フラグ及び立ち上げ処理中フラグのいずれかに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＬ８０６）。上記第３５の実施形態において既に説明

したとおり、立ち上げ処理中フラグは、メイン処理（図１３２）のステップＳ８８０３にて「１」がセットされるとともに、ステップＳ８８２０にて「０」クリアされるフラグである。ステップＳＬ８０６にて肯定判定を行った場合には、ステップＳＬ８０７～ステップＳＬ８２１の処理を実行することなく本第１タイマ割込み処理を終了する。

【４４３４】

一方、ステップＳＬ８０６にて否定判定を行った場合には、ＣＡＬＬＩ命令により、後述する試射試験実行処理（図３３９）を実行する（ステップＳＬ８０７）。上述したとおり、試射試験実行処理（図３３９）は、非特定制御に対応する処理である。

【４４３５】

ＣＡＬＬＩ命令により試射試験実行処理（図３３９）が実行される場合、まず主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避される。既に説明したとおり、フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、Ｐ／Ｖフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。このようなフラグレジスタの情報を試射試験実行処理（図３３９）のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該試射試験実行処理（図３３９）のコールや当該試射試験実行処理（図３３９）の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。

【４４３６】

ＣＡＬＬＩ命令により試射試験実行処理（図３３９）が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避された後、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び後述する第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが禁止される。これにより、非特定制御に対応する処理である試射試験実行処理（図３３９）の実行中に、特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【４４３７】

ＣＡＬＬＩ命令により試射試験実行処理（図３３９）が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避され、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが禁止された後、後述する試射試験実行処理（図３３９）に対応するプログラムが開始される。

【４４３８】

このように、ＣＡＬＬＩ命令により試射試験実行処理（図３３９）を実行する構成とすることにより、一の命令（「ＣＡＬＬＩ」）により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが禁止される。そして、試射試験実行処理（図３３９）に対応するプログラムを開始させることができる。このため、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止するための命令と、試射試験実行処理（図３３９）のプログラムを開始するための命令とを個別に設ける場合と比較して、試射試験実行処理（図３３９）を実行するために第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４４３９】

図３３９は主側ＣＰＵ６３にて実行される試射試験実行処理を示すフローチャートである。なお、試射試験実行処理におけるステップＳＬ９０１～ステップＳＬ９１６の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【４４４０】

ステップＳＬ９０１～ステップＳＬ９０７では、上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９０１～ステップＳ３９０７と同一の処理を実行する。具体的には、まず「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｕ＋２）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとして、非特定制御用のスタックエリア２２４（図６８）における最後のアドレスの情報であるＹ（ｕ＋２）を設定する（ステップＳＬ９０１）。上記第１５の実施形態において既に説明したとおり、スタックポインタは、スタックエリア２２２，２２４（図６８）においてプッシュ命令による情報の書き込み対象となる記憶エリアを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのアドレスの情報が設定されるエリアである。プッシュ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、次の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新され、ポップ命令が行われる度にスタックポインタの情報が、前の順番の書き込み対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新される。また、非特定制御用のスタックエリア２２４を使用する場合、記憶対象となる情報は非特定制御用のスタックエリア２２４における最後のアドレスの記憶エリアから記憶され、記憶対象となる情報が追加される度に非特定制御用のスタックエリア２２４における最初のアドレス側に向けて記憶先の記憶エリアが変更される。したがって、ステップＳＬ９０１では、非特定制御用のスタックエリア２２４における最後のアドレスの情報をスタックポインタに設定する。

【４４４１】

その後、「ＬＤ　（＿ＷＡＢＵＦ），ＷＡ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＷＡバッファに退避させる（ステップＳＬ９０２）。また、「ＬＤ　（＿ＢＣＢＵＦ），ＢＣ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＢＣバッファに退避させる（ステップＳＬ９０３）。また、「ＬＤ　（＿ＤＥＢＵＦ），ＤＥ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＤＥバッファに退避させる（ステップＳＬ９０４）。また、「ＬＤ　（＿ＨＬＢＵＦ），ＨＬ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＨＬバッファに退避させる（ステップＳＬ９０５）。また、「ＬＤ　（＿ＩＸＢＵＦ），ＩＸ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＩＸバッファに退避させる（ステップＳＬ９０６）。また、「ＬＤ　（＿ＩＹＢＵＦ），ＩＹ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＩＹバッファに退避させる（ステップＳＬ９０７）。

【４４４２】

既に説明したとおり、主側ＣＰＵ６３のレジスタには、フラグレジスタ、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタが存在している。この場合に、ステップＳＬ９０２～ステップＳＬ９０７では、これら各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタであるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御用のワークエリア２２３における対応するバッファに退避させている。なお、ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの情報量はいずれも２バイトとなっている。

【４４４３】

これらＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタは非特定制御に対応する処理である試射試験処理（ステップＳＬ９０８）にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタに設定されている情報を試射試験処理（ステップＳＬ９０８）の実行に先立ち非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、特定制御に際して利用されていたこれらレジスタの情報を試射試験処理（ステップＳＬ９０８）が開始される前に退避させることが可能となる。よって、試射試験処理（ステップＳＬ９０８）の実行に際してこれらレジスタが上書きされたとしても、試射

試験処理（ステップＳＬ９０８）が終了する場合には非特定制御用のワークエリア２２３に退避させた情報をこれらレジスタに復帰させることで、これらレジスタの状態を試射試験処理（ステップＳＬ９０８）が実行される前における特定制御に対応する状態に復帰させることが可能となる。

【４４４４】

また、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタの全ての情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させるのではなく、非特定制御に対応する処理である試射試験処理（ステップＳＬ９０８）にて利用対象となるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの情報を選択的に非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、非特定制御用のワークエリア２２３においてレジスタの情報を退避させるために確保する容量を抑えることが可能となる。よって、試射試験処理（ステップＳＬ９０８）に際して利用可能となる非特定制御用のワークエリア２２３の容量を大きく確保しながら、上記のようなレジスタの情報の退避を行うことが可能となる。なお、当然のことながら主側ＣＰＵ６３における各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうちＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ以外のレジスタについては、非特定制御に対応する処理が開始される前に設定された情報が当該非特定制御に対応する処理が終了して特定制御に対応する処理が再開されるまで記憶保持される。

【４４４５】

また、レジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させるのではなく非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、それだけ非特定制御用のスタックエリア２２４の容量を小さく抑えることが可能となる。また、非特定制御用のスタックエリア２２４を利用する場合、既に説明したとおり情報の書き込み順序が後の情報から先に読み出されることとなるため、仮に何らかのノイズなどの原因で情報の読み出し順序がずれてしまうとそれ以降の読み出し順序の情報が全て異なるレジスタに復帰されることとなってしまう。このような事象の発生確率は非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させる情報量が多くなるほど高くなってしまう。これに対して、レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより退避対象となる情報が多い場合であっても上記のような事象が発生しないようにすることが可能となる。

【４４４６】

ステップＳＬ９０２～ステップＳＬ９０７の処理を実行した後は、試射試験処理を実行する（ステップＳＬ９０８）。試射試験処理の実行に際しては、非特定制御用のプログラムに設定されている試射試験処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては試射試験処理の実行後における試射試験実行処理（図３３９）の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により非特定制御用のスタックエリア２２４に書き込まれる。そして、試射試験処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す試射試験実行処理（図３３９）のプログラムに復帰する。

【４４４７】

試射試験処理（ステップＳＬ９０８）は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。試射試験処理（ステップＳＬ９０８）では、試射試験情報を生成し、その生成した試射試験情報を非特定制御用のワークエリア２２３における試射試験情報エリア６３３に格納する。既に説明したとおり、試射試験情報は、全遊技状態におけるパチンコ機１０の遊技領域ＰＡから排出された遊技球の数を示す情報、全遊技状態における遊技球の払出個数を示す情報、低確大当たり結果が発生したことを示す情報、低入賞高確大当たり結果が発生したことを示す情報、及び最有利大当たり結果が発生したことを示す情報を含む。既に説明したとおり、全遊技状態とは、開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない遊技状態と、開閉実行モードである遊技状態と、高頻度サポートモードである遊技状態とである。試射試験情報エリア６３３に格納された試射試験情報は、第１タイマ割込み処理（図３３８）のポート出力処

理（ステップＳＬ８０８）にて試射試験装置に出力される。
【４４４８】
ステップＳＬ９０８にて試射試験処理を実行した後は、「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｒ＋β）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに特定制御への復帰時における固定アドレスとしてＹ（ｒ＋β）を設定する（ステップＳＬ９０９）。Ｙ（ｒ＋β）のアドレスは、特定制御用のスタックエリア２２２（図６８）におけるＹ（ｒ＋８）とＹ（ｓ）との間のアドレスとして設定されている。
【４４４９】
第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８０７にて試射試験実行処理のサブルーチンが実行される直前において特定制御用のスタックエリア２２２に記憶されている情報量は常に一定であり、それに伴って当該タイミングにおける主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報（すなわちスタックポインタの値）は一定である。この場合に特定制御用のスタックエリア２２２に記憶されている情報としては、例えば試射試験実行処理（図３３９）が終了した後における第１タイマ割込み処理（図３３８）の戻り番地の情報が挙げられる。スタックポインタの上記一定の情報がＹ（ｒ＋β）となっている。したがって、非特定制御に対応する処理である試射試験実行処理（図３３９）が終了して特定制御に対応する処理に復帰する場合には、その一定の情報であるＹ（ｒ＋β）を主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに設定することで、当該スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させることが可能となる。このように固定の情報をスタックポインタに設定することによって当該スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させる構成とすることで、非特定制御に対応する処理を開始する前に特定制御に対応する主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を主側ＲＡＭ６５に退避させる必要がなくなる。よって、処理負荷を軽減させることが可能となるとともに当該退避させるための領域を主側ＲＡＭ６５において確保する必要がなくなる。
【４４５０】
その後、ステップＳＬ９１０～ステップＳＬ９１５では、上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９１０～ステップＳ３９１５と同一の処理を実行する。具体的には、「ＬＤ　ＷＡ，（＿ＷＡＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＷＡバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタに上書きする（ステップＳＬ９１０）。また「ＬＤ　ＢＣ，（＿ＢＣＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＢＣバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタに上書きする（ステップＳＬ９１１）。また「ＬＤ　ＤＥ，（＿ＤＥＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＤＥバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタに上書きする（ステップＳＬ９１２）。また「ＬＤ　ＨＬ，（＿ＨＬＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＨＬバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに上書きする（ステップＳＬ９１３）。また「ＬＤ　ＩＸ，（＿ＩＸＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＩＸバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタに上書きする（ステップＳＬ９１４）。また「ＬＤ　ＩＹ，（＿ＩＹＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＩＹバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタに上書きする（ステップＳＬ９１５）。ステップＳＬ９１０～ステップＳＬ９１５の処理が実行されることにより、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。
【４４５１】
既に説明したとおり、非特定制御に対応する処理として、試射試験実行処理（第１タイマ割込み処理（図３３８）におけるステップＳＬ８０７）と、後述する管理実行処理（第１タイマ割込み処理（図３３８）におけるステップＳＬ８２１）と、後述する集計除算実

行処理（後述する残余処理（図３４７）におけるステップＳＭ８０６）とが存在している。これら非特定制御に対応する処理が実行された場合に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報は、特定制御に対応する処理が再開される場合に主側ＲＡＭ６５に退避されない。これにより、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２において上記情報を退避させるための記憶エリアを確保する必要が生じない。

【４４５２】

また、非特定制御に対応する処理（試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理）が実行された場合に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報は、特定制御に対応する処理への復帰後において非特定制御に対応する処理が再度開始された場合に利用されない情報である。つまり、特定制御に対応する処理を間に挟んで実行される非特定制御に対応する処理の複数回の処理回において必要な情報は非特定制御用のワークエリア２２３又は非特定制御用のスタックエリア２２４に記憶されており、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタ及び各種レジスタには記憶されていない。したがって、非特定制御に対応する処理が実行された場合に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタ及び各種レジスタに記憶された情報が主側ＲＡＭ６５に退避されないとしても、非特定制御に対応する処理を実行する上で問題が生じない。

【４４５３】

ステップＳＬ９１５の処理を行った後、「ＲＥＴＩ」として、ＲＥＴＩ命令を実行して（ステップＳＬ９１６）、本試射試験実行処理を終了する。既に説明したとおり、ＲＥＴＩ命令が実行されることにより、試射試験実行処理（図３３９）の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰されるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰するとともに、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【４４５４】

ＲＥＴＩ命令を実行する構成であることにより、一の命令（「ＲＥＴＩ」）により、試射試験実行処理の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させることができるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えることができる。このため、試射試験実行処理の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための命令とを個別に設ける場合と比較して、試射試験実行処理に対応するプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、試射試験実行処理に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４４５５】

上述したとおり、ＲＥＴＩ命令が実行されることにより第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生が許可される。このため、非特定制御に対応する処理が残っている状況においてＲＥＴＩ命令が実行されてしまうと非特定制御に対応する処理が実行されている状況において特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）又は第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまう。これに対して、非特定制御に対応する処理である試射試験実行処理（図３３９）の最後のステップであるステップＳＬ９１６にてＲＥＴＩ命令を実行する構成であることにより、非特定制御に対応する処理が実行されている状況において特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）又は第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまうことを防止しながら、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報

が特定制御を実行するための情報に復帰した状態で特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）に戻すことができる。

【４４５６】

第１タイマ割込み処理（図３３８）の説明に戻り、ステップＳＬ８０７にて試射試験実行処理（図３３９）を行った後、ステップＳＬ８０８では、ＣＡＬＬＳ命令により、ポート出力処理を実行する。ポート出力処理では、試射試験処理（試射試験実行処理（図３３９）のステップＳＬ９０８）にて非特定制御用のワークエリア２２３における試射試験情報エリア６３３に格納された試射試験情報を外部装置である試射試験装置に対して出力するための処理を実行する。既に説明したとおり、試射試験情報は中継基板（図示略）を介して試射試験装置に対して出力される。なお、試射試験装置が接続されていない場合には、試射試験処理（試射試験実行処理（図３３９）のステップＳＬ９０８）にて生成された試射試験情報が出力されることなくクリアされる。

【４４５７】

ステップＳＬ８０８におけるポート出力処理では、上記第３５の実施形態の第１タイマ割込み処理（図１３３）におけるポート出力処理（ステップＳ８９０７）と同様に、前回の第１タイマ割込み処理（図３３８）において出力情報の設定が行われている場合に、その出力情報に対応した出力を各種駆動部３２ｂ，３４ｂに行うための処理を実行する。例えば、特電入賞装置３２を開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には特電用の駆動部３２ｂへの駆動信号の出力を開始させ、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には当該駆動信号の出力を停止させる。また、第２作動口３４の普電役物３４ａを開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には普電用の駆動部３４ｂへの駆動信号の出力を開始させ、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には当該駆動信号の出力を停止させる。

【４４５８】

その後、ＣＡＬＬＳ命令により、読み込み処理を実行する（ステップＳＬ８０９）。読み込み処理では、上記第３５の実施形態の第１タイマ割込み処理（図１３３）における読み込み処理（ステップＳ８９０８）と同様に、停電信号及び入賞信号以外の信号の読み込みを実行し、その読み込んだ情報を今後の処理にて利用するために記憶する。

【４４５９】

その後、ＣＡＬＬＳ命令により、入球検知処理を実行する（ステップＳＬ８１０）。入球検知処理では、上記第１の実施形態におけるタイマ割込み処理（図１１）の入球検知処理（ステップＳ３０９）と同様に、各入球検知センサ４２ａ～４９ａから受信している信号を読み込み、その読み込み結果に基づいて、アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４及びスルーゲート３５への入球の有無を特定する。

【４４６０】

その後、ステップＳＬ８１１～ステップＳＬ８１６では、ＣＡＬＬＳ命令により、上記第３５の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９１０～ステップＳ８９１５と同一の処理を実行する。その後、ＣＡＬＬＳ命令により、合計個数表示用設定処理（図３４３）を実行する（ステップＳＬ８１７）。合計個数表示用設定処理では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて上述した合計個数情報の表示が行われるようにするための設定を行う。なお、合計個数表示用設定処理（図３４３）の詳細については後述する。その後、ステップＳＬ８１８～ステップＳＬ８２０では、ＣＡＬＬＳ命令により、上記第３５の実施形態における第１タイマ割込み処理（図１３３）のステップＳ８９１６～ステップＳ８９１８と同一の処理を実行する。

【４４６１】

その後、ＣＡＬＬＩ命令により、管理実行処理（図３４０）を実行して（ステップＳＬ８２１）、本第１タイマ割込み処理を終了する。上述したとおり、管理実行処理（図３４０）は、非特定制御に対応する処理である。

【４４６２】

ＣＡＬＬＩ命令により管理実行処理（図３４０）が実行される場合、まず主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避される。当該フラグレジスタの情報を管理実行処理（図３４０）のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該管理実行処理（図３４０）のコールや当該管理実行処理（図３４０）の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。

【４４６３】

ＣＡＬＬＩ命令により管理実行処理（図３４０）が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避された後、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び後述する第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが禁止される。これにより、非特定制御に対応する処理である管理実行処理（図３４０）の実行中に、特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【４４６４】

ＣＡＬＬＩ命令により管理実行処理（図３４０）が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが禁止された後、後述する管理実行処理（図３４０）に対応するプログラムが開始される。

【４４６５】

このように、ＣＡＬＬＩ命令により管理実行処理（図３４０）を実行する構成とすることにより、一の命令（「ＣＡＬＬＩ」）により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させ、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止して、後述する管理実行処理（図３４０）に対応するプログラムを開始させることができる。このため、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止するための命令と、管理実行処理（図３４０）のプログラムを開始するための命令とを個別に設ける場合と比較して、管理実行処理（図３４０）を実行するために第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４４６６】

図３４０は主側ＣＰＵ６３にて実行される管理実行処理を示すフローチャートである。なお、管理実行処理におけるステップＳＭ１０１～ステップＳＭ１１６の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【４４６７】

ステップＳＭ１０１～ステップＳＭ１１５では、上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９０１～ステップＳ３９１５と同一の処理を実行する。具体的には、まず「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｕ＋２）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとしてＹ（ｕ＋２）を設定する（ステップＳＭ１０１）。既に説明したとおり、Ｙ（ｕ＋２）は、非特定制御用のスタックエリア２２４における最後のアドレスの情報である。

【４４６８】

その後、「ＬＤ　（＿ＷＡＢＵＦ），ＷＡ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＷＡバッファに退避させる（ステップＳＭ１０２）。また、「ＬＤ　（＿ＢＣＢＵＦ），ＢＣ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＢＣバッファに退避させる（ステップＳＭ１０３）。また、「ＬＤ　（＿ＤＥＢＵＦ），ＤＥ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタ

の情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＤＥバッファに退避させる（ステップＳＭ１０４）。また、「ＬＤ　（＿ＨＬＢＵＦ），ＨＬ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＨＬバッファに退避させる（ステップＳＭ１０５）。また、「ＬＤ　（＿ＩＸＢＵＦ），ＩＸ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＩＸバッファに退避させる（ステップＳＭ１０６）。また、「ＬＤ　（＿ＩＹＢＵＦ），ＩＹ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＩＹバッファに退避させる（ステップＳＭ１０７）。

【４４６９】

ステップＳＭ１０２～ステップＳＭ１０７の処理を実行することにより、主側ＣＰＵ６３に存在している各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタであるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御用のワークエリア２２３における対応するバッファに退避させることができる。これらＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタは非特定制御に対応する処理であるチェック処理（ステップＳＭ１０８）にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタに設定されている情報をチェック処理（ステップＳＭ１０８）の実行に先立ち非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、特定制御に際して利用されていたこれらレジスタの情報をチェック処理（ステップＳＭ１０８）が開始される前に退避させることが可能となる。よって、チェック処理（ステップＳＭ１０８）の実行に際してこれらレジスタが上書きされたとしても、チェック処理（ステップＳＭ１０８）が終了する場合には非特定制御用のワークエリア２２３に退避させた情報をこれらレジスタに復帰させることで、これらレジスタの状態をチェック処理（ステップＳＭ１０８）が実行される前における特定制御に対応する状態に復帰させることが可能となる。

【４４７０】

また、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタの全ての情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させるのではなく、非特定制御に対応する処理であるチェック処理（ステップＳＭ１０８）にて利用対象となるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの情報を選択的に非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、非特定制御用のワークエリア２２３においてレジスタの情報を退避させるために確保する容量を抑えることが可能となる。よって、チェック処理（ステップＳＭ１０８）に際して利用可能となる非特定制御用のワークエリア２２３の容量を大きく確保しながら、上記のようなレジスタの情報の退避を行うことが可能となる。なお、当然のことながら主側ＣＰＵ６３における各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうちＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ以外のレジスタについては、チェック処理（ステップＳＭ１０８）が開始される前に設定された情報が当該チェック処理（ステップＳＭ１０８）が終了して特定制御に対応する処理が再開されるまで記憶保持される。

【４４７１】

また、レジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させるのではなく非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、それだけ非特定制御用のスタックエリア２２４の容量を小さく抑えることが可能となる。また、非特定制御用のスタックエリア２２４を利用する場合、既に説明したとおり情報の書き込み順序が後の情報から先に読み出されることとなるため、仮に何らかのノイズなどの原因で情報の読み出し順序がずれてしまうとそれ以降の読み出し順序の情報が全て異なるレジスタに復帰されることとなってしまう。このような事象の発生確率は非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させる情報量が多くなるほど高くなってしまう。これに対して、レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより退避対象となる情報が多い場合

であっても上記のような事象が発生しないようにすることが可能となる。

【４４７２】

ステップＳＭ１０２～ステップＳＭ１０７の処理を実行した後は、チェック処理（図３４１）を実行する（ステップＳＭ１０８）。チェック処理の実行に際しては、非特定制御用のプログラムに設定されているチェック処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際してはチェック処理の実行後における管理実行処理（図３４０）の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により非特定制御用のスタックエリア２２４に書き込まれる。そして、チェック処理（ステップＳＭ１０８）が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す管理実行処理（図３４０）のプログラムに復帰する。チェック処理（図３４１）の詳細については後に説明する。

【４４７３】

チェック処理を実行した後は、「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｒ＋α）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに特定制御への復帰時における固定アドレスとしてＹ（ｒ＋α）を設定する（ステップＳＭ１０９）。Ｙ（ｒ＋α）のアドレスは、特定制御用のスタックエリア２２２におけるＹ（ｒ＋８）とＹ（ｓ）との間のアドレスとして設定されている。

【４４７４】

第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８２１にて管理実行処理のサブルーチンが実行される直前において特定制御用のスタックエリア２２２に記憶されている情報量は常に一定であり、それに伴って当該タイミングにおける主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報（すなわちスタックポインタの値）は一定である。この場合に特定制御用のスタックエリア２２２に記憶されている情報としては、例えば管理実行処理（図３４０）が終了した後における第１タイマ割込み処理（図３３８）の戻り番地の情報が挙げられる。スタックポインタの上記一定の情報がＹ（ｒ＋α）となっている。したがって、非特定制御に対応する処理である管理実行処理（図３４０）が終了して特定制御に対応する処理に復帰する場合には、その一定の情報であるＹ（ｒ＋α）を主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに設定することで、当該スタックポインタの情報を非特定制御に対応する処理が開始される直前の情報に復帰させることが可能となる。このように固定の情報をスタックポインタに設定することによって当該スタックポインタの情報を管理実行処理（図３４０）が開始される直前の情報に復帰させる構成とすることで、管理実行処理（図３４０）を開始する前に特定制御に対応する主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を主側ＲＡＭ６５に退避させる必要がなくなる。よって、処理負荷を軽減させることが可能となるとともに当該退避させるための領域を主側ＲＡＭ６５において確保する必要がなくなる。

【４４７５】

その後、「ＬＤ　ＷＡ，（＿ＷＡＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＷＡバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタに上書きする（ステップＳＭ１１０）。また「ＬＤ　ＢＣ，（＿ＢＣＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＢＣバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタに上書きする（ステップＳＭ１１１）。また「ＬＤ　ＤＥ，（＿ＤＥＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＤＥバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタに上書きする（ステップＳＭ１１２）。また「ＬＤ　ＨＬ，（＿ＨＬＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＨＬバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに上書きする（ステップＳＭ１１３）。また「ＬＤ　ＩＸ，（＿ＩＸＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＩＸバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタに上書きする（ステップＳＭ１１４）。また「ＬＤ　ＩＹ，（＿ＩＹＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＩＹバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタに上書きする（ステップＳＭ１１５）。ステップＳＭ１１０～ステップＳＭ１１５の処理が実行され

ることにより、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【４４７６】

その後、「ＲＥＴＩ」として、ＲＥＴＩ命令を実行して（ステップＳＭ１１６）、本管理実行処理を終了する。ＲＥＴＩ命令が実行されることにより、管理実行処理（図３４０）の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰されるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰するとともに、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【４４７７】

ＲＥＴＩ命令を実行する構成であることにより、一の命令（「ＲＥＴＩ」）により、管理実行処理の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させることができるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えることができる。このため、管理実行処理の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための命令とを個別に設ける場合と比較して、管理実行処理に対応するプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、管理実行処理に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４４７８】

上述したとおり、ＲＥＴＩ命令が実行されることにより第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生が許可される。このため、非特定制御に対応する処理が残っている状況においてＲＥＴＩ命令が実行されてしまうと非特定制御に対応する処理が実行されている状況において特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）又は第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまう。これに対して、非特定制御に対応する処理である管理実行処理（図３４０）の最後のステップであるステップＳＭ１１６にてＲＥＴＩ命令を実行する構成であることにより、非特定制御に対応する処理が実行されている状況において特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）又は第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまうことを防止しながら、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰した状態で特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）に復帰させることができる。

【４４７９】

図３４１は管理実行処理（図３４０）のステップＳＭ１０８にてサブルーチンのプログラムが呼び出されることにより実行されるチェック処理を示すフローチャートである。なお、チェック処理におけるステップＳＭ２０１～ステップＳＭ２０６の処理はサブルーチンの処理も含めて、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。また、サブルーチンの処理を実行する場合には当該サブルーチンの処理の実行後における戻り番地の情報を非特定制御用のスタックエリア２２４において主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの値に対応する記憶エリアに書き込むとともに、当該スタックポインタの値を次の順番の記憶対象となる記憶エリアのアドレスの情報に更新する。また、サブルーチンの処理が完了した場合には主側ＣＰＵ６３の現状のスタックポインタの値に対して手前の順番の値に対応する記憶エリアから戻り番地の情報を読み出してその戻り番地の情報に対応するプログラムに復帰するとともに、当該スタックポインタの値をその戻り番地の情報の読み出し元となった記憶エリアのアドレスの情

報に更新する。
【４４８０】
チェック処理（図３４１）では、前扉枠１４が開放状態である場合には（ステップＳＭ２０１：ＹＥＳ）、通常の入球管理処理（ステップＳＭ２０４）を実行することなく、後述する結果演算処理（ステップＳＭ２０５）及び表示用処理（ステップＳＭ２０６）を実行する。上記第１５の実施形態において既に説明したとおり、前扉枠１４に設けられた窓パネル５２の裏面と遊技盤２４の前面によって前後に区画された空間によって遊技領域ＰＡが形成されているため、前扉枠１４が開放状態となった場合には遊技領域ＰＡが前方に向けて開放された状態となりその状況で遊技領域ＰＡに向けて遊技球が発射されたとしてもその遊技球は遊技領域ＰＡを正常に流下することはできない。また、前扉枠１４が開放状態である状況で入球部２４ａ，３１～３４への遊技球の入球が発生する場合というのは、メンテナンスや不具合の解消のために遊技ホールの管理者により前扉枠１４が開放状態とされて手入れなどにより遊技球の入球が発生する場合である。このような遊技球の入球は正規の遊技の実行状況における遊技球の入球ではないため、そのような遊技球の入球を管理対象とする必要がない。したがって、チェック処理では上記のとおり前扉枠１４が開放状態である場合には通常の入球管理処理（ステップＳＭ２０４）を実行しない。
【４４８１】
一方、前扉枠１４が開放状態でない場合（ステップＳＭ２０１：ＮＯ）には、開閉実行モード中であるか否かを判定し（ステップＳＭ２０２）、開閉実行モード中でない場合（ステップＳＭ２０２：ＮＯ）には、高頻度サポートモード中であるか否かを判定する（ステップＳＭ２０３）。開閉実行モード中である場合（ステップＳＭ２０２：ＹＥＳ）、又は高頻度サポートモード中である場合（ステップＳＭ２０３：ＹＥＳ）には、通常の入球管理処理（ステップＳＭ２０４）を実行することなく結果演算処理（ステップＳＭ２０５）及び表示用処理（ステップＳＭ２０６）を実行する。一方、前扉枠１４が閉鎖状態であって開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない場合（ステップＳＭ２０１～ステップＳＭ２０３：ＮＯ）には、通常の入球管理処理を実行する（ステップＳＭ２０４）。
【４４８２】
通常の入球管理処理（ステップＳＭ２０４）では、上記第１５の実施形態における通常の入球管理処理（図７４）と同様の処理を実行する。具体的には、第１入賞口検知センサ４２ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１０１：ＹＥＳ）、第２入賞口検知センサ４３ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１０３：ＹＥＳ）、又は第３入賞口検知センサ４４ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１０５：ＹＥＳ）に、通常用の一般入賞カウンタ２３１ａの値を１加算する（ステップＳ４１０２、ステップＳ４１０４、ステップＳ４１０６）。また、特電検知センサ４５ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１０７：ＹＥＳ）に、通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂの値を１加算し（ステップＳ４１０８）、第１作動口検知センサ４６ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１０９：ＹＥＳ）に、通常用の第１作動カウンタ２３１ｃの値を１加算し（ステップＳ４１１０）、第２作動口検知センサ４７ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１１１：ＹＥＳ）に、通常用の第２作動カウンタ２３１ｄの値を１加算し（ステップＳ４１１２）、アウト口検知センサ４８ａにて１個の遊技球が検知されたと判定した場合（ステップＳ４１１３：ＹＥＳ）に、通常用のアウトカウンタ２３１ｅの値を１加算する（ステップＳ４１１４）。
【４４８３】
以上のように通常の入球管理処理（ステップＳＭ２０４）が実行されることにより、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における一般入賞口３１への遊技球の入球個数が通常用の一般入賞カウンタ２３１ａを利用して計測され、特電入賞装置３２への遊技球の入球個数が通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂを利用して計測され、第１作動口３３への遊技球の入球個数が通常用の第１作動カウンタ

２３１ｃを利用して計測され、第２作動口３４への遊技球の入球個数が通常用の第２作動カウンタ２３１ｄを利用して計測され、アウト口２４ａへの遊技球の入球個数が通常用のアウトカウンタ２３１ｅを利用して計測される。これにより、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における各入球部２４ａ，３１～３４への入球履歴を主側ＣＰＵ６３にて把握することが可能となる。

【４４８４】

チェック処理（図３４１）の説明に戻り、ステップＳＭ２０１～ステップＳＭ２０３のいずれかにて肯定判定を行った場合、又はステップＳＭ２０４の処理を行った場合には、結果演算処理を実行する（ステップＳＭ２０５）。図３４２は結果演算処理を示すフローチャートである。なお、結果演算処理におけるステップＳＭ３０１～ステップＳＭ３１５の処理は、主側ＣＰＵ６３における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【４４８５】

結果演算処理では、まず非特定制御用のワークエリア２２３に設けられたシフト待ちフラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ３０１）。シフト待ちフラグは、結果演算処理（図３４２）の開始時にデータシフト処理（ステップＳＭ３０２）を実行すべきことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。シフト待ちフラグには、管理開始フラグの値が「０」である状況であって大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が管理開始基準個数である３００個に達した場合に後述するステップＳＭ３１１にて「１」がセットされる。また、シフト待ちフラグには、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）がシフト基準個数である６００００個に達した場合に後述するステップＳＭ３１７にて「１」がセットされる。

【４４８６】

ステップＳＭ３０１にて肯定判定を行った場合には、データシフト処理を実行する（ステップＳＭ３０２）。本実施形態では、後述する残余処理（図３４７）の中で後述する集計除算処理（図３４９）が実行されることにより直近のベース値が算出され、その算出されたベース値が非特定制御用のワークエリア２２３における現状エリア３１１に格納される。また、本実施形態では、第１タイマ割込み処理（図３３８）が終了した後、当該第１タイマ割込み処理（図３３８）の次の処理回が開始されるまでの間に後述する残余処理（図３４７）におけるステップＳＭ８０１～ステップＳＭ８０８の処理が少なくとも１回は実行されるように、第１タイマ割込み処理（図３３８）の実行期間及び残余処理（図３４７）の実行期間が調整されている。このため、シフト待ちフラグに「１」がセットされた状態で第１タイマ割込み処理（図３３８）が終了した場合、当該第１タイマ割込み処理（図３３８）の次の処理回が開始されるまでの間に、現状エリア３１１に今回終了した算出期間における最終的なベース値が格納されている状態となる。このため、データシフト処理（ステップＳＭ３０２）は、現状エリア３１１に今回終了した算出期間における最終的なベース値が格納されている状態で行われる。

【４４８７】

ステップＳＭ３０２におけるデータシフト処理では、上記第３５の実施形態におけるデータシフト処理（結果演算処理（図１３０）のステップＳ８６０７及びステップＳ８６１４）と同様に、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に記憶された情報を、第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４、第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３、現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２の順序でシフトする。これにより、２回前の算出期間における最終的なベース値が３回前の算出期間における最終的なベース値として第３履歴エリア３１４に記憶され、１回前の算出期間における最終的なベース値が２回前の算出期間における最終的なベース値として第２履歴エリア３１３に記憶され、現状の算出期

間において最後に算出されたベース値が１回前の算出期間における最終的なベース値として第１履歴エリア３１２に記憶される。データシフト処理では、上記のような情報のシフトを行う場合、ＬＤＩＲ命令を利用する。ＬＤＩＲ命令では、情報の記憶元のエリアのアドレスと情報の記憶先のエリアのアドレスとを指定することで、記憶元のエリアに記憶された情報が記憶先のエリアにシフト（コピー）されることとなる。また、ステップＳＭ３０６におけるデータシフト処理では、上記のような情報のシフト処理を行った後、現状エリア３１１を「０」クリアする。

【４４８８】

但し、管理開始フラグの値が「０」である状況であって大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が管理開始基準個数である３００個に達したことに基づいてシフト待ちフラグに「１」がセットされていた場合には、基本的に第１～第３履歴エリア３１２～３１４にベース値の情報が記憶されていないため、実質的に、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況における算出期間の最終的なベース値の第１履歴エリア３１２へのシフトのみが行われる。

【４４８９】

その後、シフト待ちフラグを「０」クリアする（ステップＳＭ３０３）。これにより、データシフト処理（ステップＳＭ３０２）の実行が待機されている状態が解除される。ステップＳＭ３０１にて否定判定を行った場合、又はステップＳＭ３０３の処理を実行した場合には、合計払出個数の演算処理を実行する（ステップＳＭ３０４）。合計払出個数の演算処理では、非特定制御用のワークエリア２２３の通常用カウンタエリア２３１（図３３６（ａ））における通常用の一般入賞カウンタ２３１ａ、通常用の特電入賞カウンタ２３１ｂ、通常用の第１作動カウンタ２３１ｃ及び通常用の第２作動カウンタ２３１ｄの値に基づいて、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技球の合計払出個数を算出する。当該合計払出個数の算出方法については、既に説明したとおりである。

【４４９０】

その後、ステップＳＭ３０４にて算出した合計払出個数の情報である合計払出個数情報を非特定制御用のワークエリア２２３における合計払出個数エリア６３２に格納する（ステップＳＭ３０５）。既に説明したとおり、合計払出個数エリア６３２は、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技球の合計払出個数を示す数値情報である合計払出個数情報が格納されるカウンタである。

【４４９１】

その後、合計個数の演算処理を実行する（ステップＳＭ３０６）。合計個数の演算処理では、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）を算出する。具体的には、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値を合計することで合計個数データを算出する。既に説明したとおり、合計個数情報は、「０」～「６５５３５」のいずれかである２バイトの数値情報である。その後、ステップＳＭ３０６にて算出した合計個数データを非特定制御用のワークエリア２２３における合計個数エリア６３１に格納する（ステップＳＭ３０７）。

【４４９２】

その後、ステップＳＭ３０８～ステップＳＭ３１０では、上記第３５の実施形態における結果演算処理（図１３０）のステップＳ８６０３、ステップＳ８６０５及びステップＳ８６０６と同様の処理を実行する。具体的には、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ３０８）。上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、管理開始フラグは、パチンコ機１０の製造後に初めて当該パチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合において「０」の値となっている。また、非特定制御用のワークエリア２２３が管理開始フラグを含めて「０」クリアされて初期化された場合にも管理開始フラグの値は「０」となる

。管理開始フラグが「０」の値である状況であって大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が管理開始基準個数である３００個となることで管理開始フラグに「１」がセットされる。また、管理開始フラグに「１」がセットされる場合に、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値が「０」クリアされてベース値の新たな算出期間が開始される。これにより、パチンコ機１０の出荷段階における動作チェックの影響が、パチンコ機１０の出荷後において通常の遊技が行われている状況におけるベース値に対して及びづらくさせることが可能となる。

【４４９３】

その後、合計個数の演算処理（ステップＳＭ３０６）にて算出した合計個数が管理開始基準個数である３００個よりも多い個数であるか否かを判定し（ステップＳＭ３０９）、当該合計個数が管理開始基準個数よりも多い個数である場合（ステップＳＭ３０９：ＹＥＳ）には、非特定制御用のワークエリア２２３における管理開始フラグに「１」をセットする（ステップＳＭ３１０）。これにより、次回以降の結果演算処理（図３４２）ではステップＳＭ３０８にて肯定判定が行われてステップＳＭ３１３以降の処理が実行されることとなる。

【４４９４】

ステップＳＭ３１０の処理を行った後、非特定制御用のワークエリア２２３におけるシフト待ちフラグに「１」をセットする(ステップＳＭ３１１)。これにより、結果演算処理（図３４２）の次の処理回ではステップＳＭ３０１にて肯定判定が行われて上述したデータシフト処理（ステップＳＭ３０２）が実行されることとなる。その後、各種カウンタのクリア処理を実行する（ステップＳＭ３１２）。当該クリア処理では、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅを全て「０」クリアする。

【４４９５】

ステップＳＭ３０８にて肯定判定をした場合には、合計個数の演算処理（ステップＳＭ３０６）にて算出した合計個数が初期基準個数である６０００個よりも多い個数であるか否かを判定する（ステップＳＭ３１３）。ステップＳＭ３１３にて否定判定をした場合には非特定制御用のワークエリア２２３における演算初期フラグに「１」をセットし（ステップＳＭ３１４）、ステップＳＭ３１３にて肯定判定をした場合には当該演算初期フラグを「０」クリアする（ステップＳＭ３１５）。既に説明したとおり、演算初期フラグは、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達しているか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。

【４４９６】

ステップＳＭ３１４の処理を実行した場合、又はステップＳＭ３１５の処理を実行した場合には、合計個数エリア６３１に格納されている合計個数データに基づいて、合計個数の演算処理（ステップＳＭ３０６）にて算出した合計個数がシフト基準個数である６００００個以上であるか否かを判定し（ステップＳＭ３１６）、当該合計個数がシフト基準個数以上である場合（ステップＳＭ３１６：ＹＥＳ）には、非特定制御用のワークエリア２２３におけるシフト待ちフラグに「１」をセットする(ステップＳＭ３１７)。これにより、結果演算処理（図３４２）の次の処理回ではステップＳＭ３０１にて肯定判定が行われて上述したデータシフト処理（ステップＳＭ３０２）が実行されることとなる。その後、各種カウンタのクリア処理を実行して（ステップＳＭ３１８）、本結果演算処理を終了する。各種カウンタのクリア処理では、ステップＳＭ３１２における各種カウンタのクリア処理と同様に、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅを全て「０」クリアする。

【４４９７】

上記のとおり、ベース値の算出期間が終了した場合には、シフト待ちフラグに「１」が

セットされるとともに、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値が「０」クリアされる。ベース値の算出期間が終了した処理回で通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値をリセットして次の算出期間を開始させることにより、ベース値の算出期間が切り替わるタイミングで遊技領域ＰＡから排出された遊技球が計測されなくなってしまう事態を回避することができる。また、ベース値の算出期間が終了した処理回ではシフト待ちフラグに「１」をセットして結果演算処理を終了し、シフト待ちフラグに「１」がセットされている状態で開始される結果演算処理の次回の処理回にてデータシフト処理が実行される。第１タイマ割込み処理（図３３８）が終了した後、当該第１タイマ割込み処理の次の処理回が開始されるまでの間に後述する残余処理（図３４７）が少なくとも１回は実行される。このため、終了した算出期間における最終的なベース値が現状エリア３１１に格納されている状態でデータシフト処理（ステップＳＭ３０２）を実行することができる。これにより、データシフト処理（ステップＳＭ３０２）にて現状エリア３１１から第１履歴エリア３１２にシフトされるベース値を今回終了した算出期間における最終的なベース値とすることができる。

【４４９８】

チェック処理（図３４１）の説明に戻り、ステップＳＭ２０５にて結果演算処理を実行した後、後述する表示用処理を実行して（ステップＳＭ２０６）、本チェック処理を終了する。

【４４９９】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される表示用処理（図３４４）の説明に先立ち、第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８１７にて実行される合計個数表示用設定処理について図３４３のフローチャートを参照しながら説明する。なお、合計個数表示用設定処理に対応するプログラムは特定制御用のプログラムに設定されている。

【４５００】

合計個数表示用設定処理では、まず第１タイマ割込み処理（図３３８）における読み込み処理（ステップＳＬ８０９）の結果に基づいて、リセットボタン６８ｃの押圧操作が行われたか否かを判定する（ステップＳＭ４０１）。上記第１の実施形態において既に説明したとおり、リセットボタン６８ｃには図示しないセンサが設けられており、当該センサによりリセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かが検知される。そして、主側ＣＰＵ６３はそのセンサからの検知結果に基づいてリセットボタン６８ｃが押圧操作されているか否かを特定する。ステップＳＭ４０１では、読み込み処理（ステップＳＬ８０９）においてリセットボタン６８ｃの状態を検知する検知センサから受信している信号のＯＦＦ状態からＯＮ状態への立ち上がりが検出されていた場合にリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われたと判定する。

【４５０１】

ステップＳＭ４０１にて肯定判定を行った場合には、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定確認表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ４０２）。上記第３５の実施形態と同様に、設定確認表示フラグは、主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１３６）を実行している状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。設定確認表示フラグに「１」がセットされている状況は、設定確認用処理（図１３６）を実行している状況に対応している。設定確認表示フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＭ４０２：ＮＯ）には、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ４０３）。上記第３５の実施形態と同様に、設定更新表示フラグは、主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１３７）を実行している状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。設定更新表示フラグに「１」がセットされている状況は、設定値更新処理（図１３７）を実行している状況に対応している。

【４５０２】

ステップＳＭ４０３にて否定判定を行った場合には、非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象カウンタの値が「０」であるか否かを判定する（ステップＳＭ４０４

）。上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、表示対象カウンタは、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のそれぞれに記憶されたベース値のうち第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における報知対象となるベース値を主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。具体的には表示対象カウンタの値が「０」である場合には現状エリア３１１に記憶されたベース値が報知対象となり、表示対象カウンタの値が「１」である場合には第１履歴エリア３１２に記憶されたベース値が報知対象となり、表示対象カウンタの値が「２」である場合には第２履歴エリア３１３に記憶されたベース値が報知対象となり、表示対象カウンタの値が「３」である場合には第３履歴エリア３１４に記憶されたベース値が報知対象となる。上記第１５の実施形態において既に説明したとおり、非特定制御用のワークエリア２２３は、特定制御に対応する処理が主側ＣＰＵ６３にて実行される場合には情報の記憶は不可であるものの情報の読み出しは可能である。このため、特定制御用のプログラムを利用して実行されるステップＳＭ４０４において非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象カウンタの値が「０」であるか否かを判定することができる。

【４５０３】

ステップＳＭ４０４にて肯定判定を行った場合には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて現状エリア３１１に格納されている直近のベース値の表示が行われている状況においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われたことを意味するため、特定制御用のワークエリア２２１に設けられた合計個数表示操作フラグに「１」をセットして（ステップＳＭ４０５）、本合計個数表示用設定処理を終了する。合計個数表示操作フラグは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示を開始すべきことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。

【４５０４】

このように、合計個数表示操作フラグには、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて現状エリア３１１に格納されている直近のベース値の表示が行われている状況においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われた場合に「１」がセットされる。ステップＳＭ４０５にて合計個数表示操作フラグに「１」がセットされることにより、後述する合計個数表示用処理（図３４５）のステップＳＭ６０１にて肯定判定が行われて非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた合計個数表示中フラグに「１」がセットされることとなる。合計個数表示中フラグは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示を行うべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。そして、合計個数表示中フラグに「１」がセットされることにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示を行うための処理（ステップＳＭ６０５の処理）が実行されることとなる。

【４５０５】

一方、ステップＳＭ４０１にて否定判定を行った場合には、特定制御用のワークエリア２２１における合計個数表示操作フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ４０６）。合計個数表示操作フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＭ４０６：ＹＥＳ）には、非特定制御用のワークエリア２２３における合計個数表示中フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ４０７）。既に説明したとおり、非特定制御用のワークエリア２２３は、特定制御に対応する処理が主側ＣＰＵ６３にて実行される場合には情報の記憶は不可であるものの情報の読み出しは可能である。このため、特定制御用のプログラムを利用して実行されるステップＳＭ４０７において非特定制御用のワークエリア２２３における合計個数表示中フラグに「１」がセットされているか否かを判定することができる。

【４５０６】

ステップＳＭ４０７にて肯定判定を行った場合には、合計個数表示操作フラグを「０」クリアして（ステップＳＭ４０８）、本合計個数表示用設定処理を終了する。このように、特定制御用のワークエリア２２１における合計個数表示操作フラグの値は、非特定制御

用のワークエリア２２３における合計個数表示中フラグに「１」がセットされて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示が開始された場合に「０」クリアされる。これにより、１度のリセットボタン６８ｃの操作に基づいて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて何度も合計個数情報の表示が開始されてしまうことを防止することができる。

【４５０７】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される表示用処理について図３４４のフローチャートを参照しながら説明する。なお、表示用処理はチェック処理（図３４１）のステップＳＭ２０６にて実行される。また、表示用処理におけるステップＳＭ５０１～ステップＳＭ５１８の処理は、主側ＣＰＵ６３における非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【４５０８】

表示用処理では、まず非特定制御用のワークエリア２２３における管理開始フラグに「１」がセットされているか否かを判定し（ステップＳＭ５０１）、管理開始フラグに「１」がセットされている場合（ステップＳＭ５０１：ＹＥＳ）には、合計個数表示用処理を実行する（ステップＳＭ５０２）。

【４５０９】

図３４５は合計個数表示用処理を示すフローチャートである。なお、合計個数表示用処理に対応するプログラムは、非特定制御用のプログラムに設定されている。

【４５１０】

合計個数表示用処理では、まず特定制御用のワークエリア２２１における合計個数表示操作フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ６０１）。上記第１５の実施形態において既に説明したとおり、特定制御用のワークエリア２２１は、非特定制御に対応する処理が主側ＣＰＵ６３にて実行される場合には情報の記憶は不可であるものの情報の読み出しは可能である。このため、非特定制御用のプログラムを利用して実行されるステップＳＭ６０１において特定制御用のワークエリア２２１における合計個数表示操作フラグに「１」がセットされているか否かの判定を行うことができる。

【４５１１】

ステップＳＭ６０１にて肯定判定を行った場合には、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた合計個数表示中フラグに「１」をセットする（ステップＳＭ６０２）。既に説明したとおり、合計個数表示中フラグは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報（合計個数データの上位４桁の数字）の表示を行うべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。

【４５１２】

その後、切換タイミングカウンタの設定処理を実行する（ステップＳＭ６０３）。切換タイミングカウンタの設定処理では、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた切換タイミングカウンタに次回の報知対象の切換タイミングを把握可能とする値として表示継続期間（具体的には５秒）に対応する値を設定する。本実施形態における切換タイミングカウンタは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて報知対象となっているベース値又は合計個数情報の表示継続期間（具体的には５秒）が経過したことを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのカウンタである。既に説明したとおり、合計個数情報の継続表示期間は、ベース値の継続表示期間と同様に、５秒である。

【４５１３】

ステップＳＭ６０１にて否定判定を行った場合、又はステップＳＭ６０３の処理を行った場合には、合計個数表示中フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ６０４）。ステップＳＭ６０４にて肯定判定を行った場合には、非特定制御用のワークエリア２２３の合計個数エリア６３１に格納されている合計個数データに対応する合計個数情報の表示データを表示対象設定エリア２７６にセットして（ステップＳＭ６０５）、本合計個数表示用設定処理を終了する。既に説明したとおり、合計個数情報の表示データは、合計個数データ（「０」～「６５５３５」のいずれかの数値情報）における万

の位の数字に対応する表示を第１報知用表示装置２０１に行わせるための表示データと、合計個数における千の位の数字に対応する表示を第２報知用表示装置２０２に行わせるための表示データと、合計個数における百の位の数字に対応する表示を第３報知用表示装置２０３に行わせるための表示データと、合計個数における十の位の数字に対応する表示を第４報知用表示装置２０４に行わせるための表示データとを含んでいる。

【４５１４】

上記のとおり、合計個数情報の表示継続時間（具体的には５秒）は、ベース値の表示継続時間（具体的には５秒）を把握可能とするための切換タイミングカウンタを利用して把握される。これにより、切換タイミングカウンタとは別に合計個数情報の表示継続時間（具体的には５秒）を把握するためのタイミングカウンタを設ける構成と比較して、合計個数情報の表示継続時間（具体的には５秒）を把握可能とするための構成が簡略化されている。

【４５１５】

表示用処理（図３４４）の説明に戻り、ステップＳＭ５０２にて合計個数表示用処理を実行した後、非特定制御用のワークエリア２２３における切換タイミングカウンタの値を１減算する（ステップＳＭ５０３）。そして、その１減算後の切換タイミングカウンタの値が「０」となっているか否かを判定することで、現状の報知対象となっているベース値又は合計個数情報が報知対象となってから表示継続期間（具体的には５秒間）が経過したか否かを判定する（ステップＳＭ５０４）。ステップＳＭ５０４にて肯定判定をした場合、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた合計個数表示中フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ５０５）。

【４５１６】

ステップＳＭ５０５にて否定判定を行った場合、すなわち現状の報知対象がいずれかのベース値である場合には、ステップＳＭ５０６に進む。ステップＳＭ５０６～ステップＳＭ５０８では、上記第３５の実施形態における表示用処理（図１３１）のステップＳ８７０４～ステップＳ８７０６と同様の処理を実行する。具体的には、まず表示対象カウンタの更新処理を実行する（ステップＳＭ５０６）。当該更新処理では、表示対象カウンタの値を１加算する。そして、１加算後における表示対象カウンタの値が最大値である「３」を超えた場合（ステップＳＭ５０７：ＹＥＳ）、表示対象カウンタの値を「０」クリアする（ステップＳＭ５０８）。このように、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のいずれかのベース値の表示が行われている状況において表示継続期間（具体的には５秒間）が終了した場合には、予め定められている順序（現状エリア３１１→第１履歴エリア３１２→第２履歴エリア３１３→第３履歴エリア３１４）で表示対象のベース値が更新される。そして、当該予め定められた順序による報知対象となるベース値の切り換えが繰り返される。

【４５１７】

一方、ステップＳＭ５０５にて肯定判定を行った場合、すなわち現状の報知対象が合計個数情報である場合には、合計個数表示中フラグを「０」クリアして（ステップＳＭ５０９）、ステップＳＭ５０８に進む。ステップＳＭ５０８では、既に説明したとおり、表示対象カウンタの値を「０」クリアする。これにより、現状エリア３１１のベース値が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における報知対象となる。このように、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における合計個数情報の表示期間が終了した場合、当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では、現状エリア３１１のベース値の表示が行われる。このため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示に基づいて合計個数情報を把握した遊技ホールの管理者は、当該合計個数情報の表示終了後に再び直近のベース値を確認することができる。

【４５１８】

ステップＳＭ５０７にて否定判定を行った場合、又はステップＳＭ５０８の処理を行った場合には、切換タイミングカウンタの設定処理を実行する（ステップＳＭ５１０）。切

換タイミングカウンタの設定処理では、非特定制御用のワークエリア２２３の切換タイミングカウンタに、次回の報知対象の切換タイミングに対応する値として、表示継続期間（具体的には５秒）に対応する値を設定する。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるベース値の表示期間が５秒間となる。

【４５１９】

ステップＳＭ５０４にて否定判定を行った場合、又はステップＳＭ５１０の処理を実行した場合には、非特定制御用のワークエリア２２３における合計個数表示中フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ５１１）。ステップＳＭ５１１にて肯定判定を行った場合には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における現状の報知対象が合計個数情報であることを意味するため、そのまま本表示用処理を終了する。この場合には、合計個数表示用処理（図３４５）のステップＳＭ６０５にて表示対象設定エリア２７６に設定された合計個数情報の表示データに基づいて、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示が行われる。

【４５２０】

一方、合計個数表示中フラグに「１」がセットされていない場合（ステップＳＭ５１１：ＮＯ）には、ステップＳＭ５１２に進む。ステップＳＭ５１２～ステップＳＭ５１７では、上記第３５の実施形態における表示用処理（図１３１）のステップＳ８７０８～ステップＳ８７１３と同様の処理を実行する。具体的には、まず非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象カウンタの値に対応する表示種別データを表示対象設定エリア２７６に設定する（ステップＳＭ５１２）。上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、表示種別データは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の報知対象がベース値であることを示す表示を第１報知用表示装置２０１に行わせるための表示データと、報知対象のベース値が演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のうちいずれに対応しているのかを示す表示を第２報知用表示装置２０２に行わせるための表示データとを含む。

【４５２１】

その後、演算結果記憶エリア２３４における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のうち表示対象カウンタの値に対応するエリアからベース値を読み出し、その読み出したベース値における小数点第１位の数字及び小数点第２位の数字に対応する演算結果データを表示対象設定エリア２７６に設定する（ステップＳＭ５１３）。ベース値の演算結果データは、報知対象のベース値における小数点第１位の数字に対応する表示を第３報知用表示装置２０３に行わせるための表示データと、報知対象のベース値における小数点第２位の数字に対応する表示を第４報知用表示装置２０４に行わせるための表示データとを含む。

【４５２２】

上記のように、表示対象設定エリア２７６には表示種別データと演算結果データとからなる表示データが設定される。後述する第２タイマ割込み処理（図３４６）にて当該表示データが表示ＩＣ２６６を介して第５表示回路２６５に送信されることにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて当該表示データに対応する表示が行われる。

【４５２３】

その後、非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象カウンタの値に基づいて現状エリア３１１のベース値が報知対象となっているか否かを判定するとともに（ステップＳＭ５１４）、非特定制御用のワークエリア２２３における演算初期フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ５１５）。ステップＳＭ５１３及びステップＳＭ５１４の両方にて肯定判定をした場合には、ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していない状況において、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値が報知対象となったことを意味するため、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた初期表示フラグに「１」を

セットして（ステップＳＭ５１６）、本表示用処理を終了する。一方、ステップＳＭ５１４及びステップＳＭ５１５のいずれかにて否定判定をした場合には、当該初期表示フラグを「０」クリアして（ステップＳＭ５１７）、本表示用処理を終了する。

【４５２４】

初期表示フラグは、現状エリア３１１のベース値が報知対象となっている状況において当該ベース値が算出期間の開始後における演算初期のベース値であることを報知するために第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２を点滅表示させるべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。後述する第２タイマ割込み処理（図３４６）にて初期表示フラグに「１」がセットされていることを特定した場合、表示対象設定エリア２７６に記憶された表示データを表示ＩＣ２６６に送信するだけではなく、当該表示データに対応する表示を第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行わせる場合に第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２を点滅表示させるとともに第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４を点灯表示させる。なお、後述する第２タイマ割込み処理（図３４６）にて初期表示フラグに「１」がセットされていないことを特定した場合には、表示対象設定エリア２７６に記憶された表示データに対応する表示を第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行わせる場合に第１～４報知用表示装置２０１～２０４の全てを点灯表示させる。

【４５２５】

一方、非特定制御用のワークエリア２２３に設けられた管理開始フラグに「１」がセットされておらずステップＳＭ５０１にて否定判定をした場合、表示対象カウンタの値に関係なく、現状エリア３１１からベース値を読み出し、その読み出したベース値における小数点第１位の数字及び小数点第２位の数字に対応する演算結果データを表示対象設定エリア２７６に設定する（ステップＳＭ５１８）。当該演算結果データに対応する表示データが表示ＩＣ２６６に送信されることにより、現状エリア３１１のベース値における小数点第１位の数字が第３報知用表示装置２０３にて表示され、現状エリア３１１のベース値における小数点第２位の数字が第４報知用表示装置２０４にて表示される。上記構成であることにより、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況においては過去の算出期間におけるベース値は報知されることなく、現状の算出期間において算出されている直近のベース値のみが報知される。なお、上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、管理開始フラグに「１」がセットされていない状況においてベース値の報知が行われる場合には第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２の表示内容が、管理開始フラグに「１」がセットされている状況においてベース値の報知が行われる場合とは異なる表示内容となる。

【４５２６】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される第２タイマ割込み処理について、図３４６のフローチャートを参照しながら説明する。なお、既に説明したとおり、第２タイマ割込み処理は第２割込み周期（２ミリ秒）で起動される。また、第２タイマ割込み処理におけるステップＳＭ７０１～ステップＳＭ７１６の処理は主側ＣＰＵ６３において特定制御用のプログラム及び特定制御用のデータを利用して実行される。

【４５２７】

第２タイマ割込み処理では、まず「ＤＩ」として、ＤＩ命令により、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止する（ステップＳＭ７０１）。第１タイマ割込み処理（図３３８）の発生が禁止されることにより、第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）が経過したとしても第２タイマ割込み処理（図３４６）に対して第１タイマ割込み処理（図３３８）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。また、第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生が禁止されることにより、第２タイマ割込み処理（図３４６）の実行途中において仮に第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）が経過してしまったとしても第２タイマ割込み処理（図３４６）が重複して起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【４５２８】

その後、ステップＳＭ７０２～ステップＳＭ７０６では、上記第３５の実施形態における第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００２～ステップＳ９００６と同様の処理を実行する。具体的には、まずチェック中カウンタの更新処理を実行する（ステップＳＭ７０２）。チェック中カウンタの更新処理では、特定制御用のワークエリア２２１に設けられたチェック中カウンタの値が１以上である場合に当該チェック中カウンタの値を１減算する。上記第３５の実施形態と同様に、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に設けられた各表示用セグメント３２１～３２４が正常に発光状態となり得るかどうかを遊技ホールの管理者に確認させるために、メイン処理（図１３２）のステップＳ８８０４の処理が開始されてから初期チェック期間（具体的には５秒間）が経過するまで、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の全ての表示用セグメント３２１～３２４が発光状態に維持されるチェック用表示が行われる（図１２８（ｂ）参照）。チェック中カウンタは、初期チェック期間であることを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするカウンタである。ステップＳＭ７０２にてチェック中カウンタの更新処理が実行されることにより、チェック中カウンタを利用して初期チェック期間を計測している状況である場合、当該チェック中カウンタの値が第２タイマ割込み処理（図３４６）が起動される度に定期的に減算されることとなる。

【４５２９】

その後、特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ７０３）。既に説明したとおり、設定更新表示フラグは主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１３７）を実行している状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、設定値更新処理（図１３７）は主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合におけるメイン処理（図１３２）において動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況で実行されることとなるが、第２タイマ割込み処理（図３４６）は当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても割り込んで起動されるため、主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１３７）が実行されている状況であっても第２タイマ割込み処理（図３４６）は割り込んで起動される。

【４５３０】

設定更新表示フラグに「１」がセットされている状況とは、第２タイマ割込み処理（図３４６）の今回の処理回が主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１３７）が実行されている状況で割り込んで起動された処理回であることを意味する。ステップＳＭ７０３にて肯定判定をした場合、設定更新中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳＭ７０４）。当該設定処理では、上記第３５の実施形態における第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００４と同様に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてパチンコ機１０の設定値を更新している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示を行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に格納する。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を更新している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。

【４５３１】

ステップＳＭ７０３にて否定判定をした場合、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ７０５）。既に説明したとおり、設定確認表示フラグは主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１３６）を実行している状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。上記第３５の実施形態において既に説明したとおり設定確認用処理（図１３６）は主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合におけるメイン処理（図１３２）において動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況で実行されることとなるが、第２タイマ割込み処理（図３４６）は当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても割り込んで起動されるため、主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１３

６）が実行されている状況であっても第２タイマ割込み処理（図３４６）は割り込んで起動される。

【４５３２】

設定確認表示フラグに「１」がセットされている状況とは、第２タイマ割込み処理（図３４６）の今回の処理回が主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１３７）が実行されている状況で割り込んで起動された処理回であることを意味する。ステップＳＭ７０５にて肯定判定をした場合、設定確認中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳＭ７０６）。当該設定処理では、上記第３５の実施形態における第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００６と同様に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてパチンコ機１０の設定値を確認している状況であることを示す表示及びパチンコ機１０の現状の設定値を示す表示を行わせるための表示データを第５表示データバッファ２７５に格納する。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて、設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。

【４５３３】

ステップＳＭ７０５にて否定判定を行った場合には、非特定制御用のワークエリア２２３における合計個数表示中フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＭ７０７）。既に説明したとおり、合計個数表示中フラグは、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示を行うべき状況であることを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。

【４５３４】

ステップＳＭ７０７にて肯定判定を行った場合には、合計個数表示中における第５表示データバッファ２７５への設定処理を実行する（ステップＳＭ７０８）。当該設定処理では、非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象設定エリア２７６に格納されている合計個数情報の表示データを読み出し、その読み出した合計個数情報の表示データを特定制御用のワークエリア２２１における第５表示データバッファ２７５に格納する。

【４５３５】

既に説明したとおり、非特定制御用のワークエリア２２３は、特定制御に対応する処理が主側ＣＰＵ６３にて実行される場合には情報の記憶は不可であるものの情報の読み出しは可能である。このため、特定制御用のプログラムを利用して実行されるステップＳＭ７０７にて非特定制御用のワークエリア２２３における合計個数表示中フラグに「１」がセットされているか否かを判定することができるとともに、特定制御用のプログラムを利用して実行されるステップＳＭ７０８において非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象設定エリア２７６に格納されている合計個数情報の表示データを読み出すことができる。

【４５３６】

既に説明したとおり、合計個数情報の表示データは、合計個数における万の位の数字に対応する表示を第１報知用表示装置２０１に行わせるための表示データと、合計個数における千の位の数字に対応する表示を第２報知用表示装置２０２に行わせるための表示データと、合計個数における百の位の数字に対応する表示を第３報知用表示装置２０３に行わせるための表示データと、合計個数における十の位の数字に対応する表示を第４報知用表示装置２０４に行わせるための表示データとを含んでいる。ステップＳＭ７０８にて第５表示データバッファ２７５に格納された表示データに従って第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御が行われることにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示（合計個数データの上位４桁の表示）が行われる。

【４５３７】

ステップＳＭ７０７にて否定判定を行った場合には、通常時の設定処理（図１３５）を実行する（ステップＳＭ７０９）。通常時の設定処理の処理内容は、上記第３５の実施形態において図１３５のフローチャートを参照しながら既に説明したとおりである。

【４５３８】

ステップＳＭ７０４の処理を行った場合、ステップＳＭ７０６の処理を行った場合、ステップＳＭ７０８の処理を行った場合、又はステップＳＭ７０９の処理を行った場合には、ステップＳＭ７１０に進む。ステップＳＭ７１０～ステップＳＭ７１５では、上記第３５の実施形態における第２タイマ割込み処理（図１３４）のステップＳ９００８～ステップＳ９０１３と同一の処理を実行する。

【４５３９】

ステップＳＭ７１５にて各種信号の送信処理を実行した場合には、「ＥＩ」として、ＥＩ命令により、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を許可する設定を行って（ステップＳＭ７１６）、本第２タイマ割込み処理を終了する。これにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の新たな実行が可能となる。

【４５４０】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行されるメイン処理について説明する。なお、メイン処理に対応するプログラムは、特定制御用のプログラムに設定されている。

【４５４１】

本実施形態におけるメイン処理では、まず上記第３５の実施形態におけるメイン処理（図１３２）のステップＳ８８０１～ステップＳ８８２１と同一の処理を実行する。本実施形態におけるメイン処理では、ステップＳ８８２１にて復帰コマンドを音声発光制御装置８１に送信した後、残余処理（図３４７）を実行する。

【４５４２】

図３４７は残余処理を示すフローチャートである。残余処理に対応するプログラムは特定制御用のプログラムに設定されている。主側ＲＯＭ６４（図６７）において残余処理に対応するプログラムが記憶されているアドレスは「ＲＳ＿Ｌ」である。「ＲＳ＿Ｌ」は、上記第１５の実施形態において図６７を参照しながら説明した主側ＲＯＭ６４におけるアドレスＸ（１）～Ｘ（ｋ＋２）の範囲内のアドレスである。

【４５４３】

残余処理では、まず「ＤＩ」として、ＤＩ命令により、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止する（ステップＳＭ８０１）。第１タイマ割込み処理（図３３８）の発生が禁止されることにより、第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）が経過したとしても残余処理（図３４７）に対して第１タイマ割込み処理（図３３８）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。また、第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生が禁止されることにより、第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）が経過したとしても残余処理（図３４７）に対して第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【４５４４】

その後、ステップＳＭ８０２及びステップＳＭ８０３では、上記第３５の実施形態におけるメイン処理（図１３２）のステップＳ８８２３及びステップＳ８８２４と同一の処理を実行する。具体的には、ステップＳＭ８０２にて乱数初期値カウンタＣＩＮＩの更新を行う乱数初期値更新処理を実行するとともに、ステップＳＭ８０３にて変動種別カウンタＣＳの更新を行う変動用カウンタ更新処理を実行する。これらの更新処理では、主側ＲＡＭ６５の対応するカウンタから現状の数値情報を読み出し、その読み出した数値情報を１加算する処理を実行した後に、読み出し元のカウンタに上書きする処理を実行する。この場合、カウンタ値が最大値を超えた際にそれぞれ「０」にクリアする。

【４５４５】

その後、「ＣＰ　（ＩＹ＋ＳＥＴＴＥＩ），Ｎ＿ＳＥＴＭＡＸ」として、ＣＰ命令により、設定監視処理を実行する（ステップＳＭ８０４）。設定監視処理では、特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタの値を確認することでパチンコ機１０の設定値が正常か否かを判定する。具体的には、設定値カウンタに設定された値が「設定１」～「設定６」のいずれかに対応する値である場合に正常であると判定し、「設定１」～「設定６」のいずれにも対応しない値である場合に以上であると判定する。

【４５４６】
その後、「ＪＲＳ　Ｆ，ＦＡＴＡＬ」として、ＪＲＳ命令により、遊技停止用処理を実行する（ステップＳＭ８０５）。遊技停止用処理では、ステップＳＭ８０４における設定監視処理にて設定値カウンタに設定された設定値が異常であると判定された場合、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグに「１」をセットする。遊技停止フラグに「１」がセットされることにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８０８にて肯定判定が行われてステップＳＬ８０９～ステップＳＬ８２１の処理が実行されない状況となる。これにより、設定値が異常であることが特定された場合には遊技の進行が停止された状態となる。その後、設定値が異常であることを示す異常コマンドを音声発光制御装置８１に送信する。音声発光制御装置８１は当該異常コマンドを受信することにより、表示発光部５３を設定値異常に対応する態様で発光させるとともに、スピーカ部５４から「設定変更をして下さい。」という音声を出力させる。また、図柄表示装置４１にて「設定変更をして下さい。」という文字画像が表示されるようにする。これら報知はパチンコ機１０への動作電力の供給が停止されるまでは維持され、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に終了される。但し、パチンコ機１０への動作電力の供給が一旦停止されたとしてもメイン処理（図１３２）の設定値更新処理（ステップＳ８８１９）が実行されるまではパチンコ機１０への動作電力の供給が再開された場合に上記報知が継続される構成としてもよい。遊技の進行が停止されている状況において上記報知を確認した遊技ホールの管理者は、パチンコ機１０への動作電力の供給を一旦停止させて、その後にパチンコ機１０への動作電力の供給を再開させる場合に設定値更新処理（ステップＳ８８１９）が実行されるようにするための操作を行うこととなる。これにより、設定値異常が発生した場合には設定値更新処理（ステップＳ８８１９）にて設定値の新たな設定が行われるようにすることが可能となる。このように、残余処理（図３４７）にて設定値の異常を監視することにより、設定値が異常であるか否かの監視を遊技が行われている状況であっても行うことが可能となる。よって、設定値が異常であるにも関わらず遊技が継続されてしまわないようにすることが可能となる。また、設定値が異常であるか否かを監視する頻度を高めることが可能となる。

【４５４７】
その後、ＣＡＬＬＩ命令により、集計除算実行処理（図３４８）を実行する（ステップＳＭ８０６）。既に説明したとおり、集計除算実行処理（図３４８）は、非特定制御に対応する処理である。

【４５４８】
ＣＡＬＬＩ命令により集計除算実行処理（図３４８）が実行される場合、まず主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避される。フラグレジスタの情報を集計除算実行処理（図３４８）のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該集計除算実行処理（図３４８）のコールや当該集計除算実行処理（図３４８）の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。

【４５４９】
ＣＡＬＬＩ命令により集計除算実行処理（図３４８）が実行される場合、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避された後、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが禁止される。これにより、非特定制御に対応する処理である集計除算実行処理（図３４８）の実行中に、特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【４５５０】
ＣＡＬＬＩ命令により集計除算実行処理（図３４８）が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが禁止された後に、後述する集計除算実行処理（図３４８）に対応するプログラムが開始される。

【４５５１】
このように、ＣＡＬＬＩ命令により集計除算実行処理（図３４８）を実行する構成とすることにより、一の命令（「ＣＡＬＬＩ」）により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させ、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止して、後述する集計除算実行処理（図３４８）に対応するプログラムを開始させることができる。このため、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止するための命令と、集計除算実行処理（図３４８）のプログラムを開始するための命令とを個別に設ける場合と比較して、非特定制御に対応する処理を実行するために残余処理（図３４７）に対応するプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、残余処理（図３４７）に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。
【４５５２】
図３４８は主側ＣＰＵ６３にて実行される集計除算実行処理を示すフローチャートである。なお、集計除算実行処理におけるステップＳＭ９０１～ステップＳＭ９１６の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。
【４５５３】
ステップＳＭ９０１～ステップＳＭ９０７では、上記第１５の実施形態における管理実行処理（図７１）のステップＳ３９０１～ステップＳ３９０７と同一の処理を実行する。具体的には、まず「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｕ＋２）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとしてＹ（ｕ＋２）を設定する（ステップＳＭ９０１）。既に説明したとおり、Ｙ（ｕ＋２）は、非特定制御用のスタックエリア２２４における最後のアドレスの情報である。
【４５５４】
その後、「ＬＤ　（＿ＷＡＢＵＦ），ＷＡ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＷＡバッファに退避させる（ステップＳＭ９０２）。また、「ＬＤ　（＿ＢＣＢＵＦ），ＢＣ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＢＣバッファに退避させる（ステップＳＭ９０３）。また、「ＬＤ　（＿ＤＥＢＵＦ），ＤＥ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＤＥバッファに退避させる（ステップＳＭ９０４）。また、「ＬＤ　（＿ＨＬＢＵＦ），ＨＬ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＨＬバッファに退避させる（ステップＳＭ９０５）。また、「ＬＤ　（＿ＩＸＢＵＦ），ＩＸ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＩＸバッファに退避させる（ステップＳＭ９０６）。また、「ＬＤ　（＿ＩＹＢＵＦ），ＩＹ」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に設定されたＩＹバッファに退避させる（ステップＳＭ９０７）。
【４５５５】
ステップＳＭ９０２～ステップＳＭ９０７の処理を実行することにより、主側ＣＰＵ６３に存在している各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタであるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御用のワークエリア２２３における対応するバッファに退避させることができる。これらＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタは非特定制御に対応する処理である集計除算処理（ステップＳＭ９０８）にて利用されるレジスタである。そのようなレジスタに設定されている情報を集計除算処理（ステップＳＭ９０８）の実行に先立ち非特定制御

用のワークエリア２２３に退避させることにより、特定制御に際して利用されていたこれらレジスタの情報を集計除算処理（ステップＳＭ９０８）が開始される前に退避させることが可能となる。よって、集計除算処理（ステップＳＭ９０８）の実行に際してこれらレジスタが上書きされたとしても、集計除算処理（ステップＳＭ９０８）が終了する場合には非特定制御用のワークエリア２２３に退避させた情報をこれらレジスタに復帰させることで、これらレジスタの状態を集計除算処理（ステップＳＭ９０８）が実行される前における特定制御に対応する状態に復帰させることが可能となる。

【４５５６】

また、各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタの全ての情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させるのではなく、非特定制御に対応する処理である集計除算処理（ステップＳＭ９０８）にて利用対象となるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの情報を選択的に非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、非特定制御用のワークエリア２２３においてレジスタの情報を退避させるために確保する容量を抑えることが可能となる。よって、集計除算処理（ステップＳＭ９０８）に際して利用可能となる非特定制御用のワークエリア２２３の容量を大きく確保しながら、上記のようなレジスタの情報の退避を行うことが可能となる。なお、当然のことながら主側ＣＰＵ６３における各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうちＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ以外のレジスタについては、集計除算処理（ステップＳＭ９０８）が開始される前に設定された情報が当該集計除算処理（ステップＳＭ９０８）が終了して特定制御に対応する処理が再開されるまで記憶保持される。

【４５５７】

また、レジスタの情報を非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させるのではなく非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより、それだけ非特定制御用のスタックエリア２２４の容量を小さく抑えることが可能となる。また、非特定制御用のスタックエリア２２４を利用する場合、既に説明したとおり情報の書き込み順序が後の情報から先に読み出されることとなるため、仮に何らかのノイズなどの原因で情報の読み出し順序がずれてしまうとそれ以降の読み出し順序の情報が全て異なるレジスタに復帰されることとなってしまう。このような事象の発生確率は非特定制御用のスタックエリア２２４に退避させる情報量が多くなるほど高くなってしまう。これに対して、レジスタの情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させることにより退避対象となる情報が多い場合であっても上記のような事象が発生しないようにすることが可能となる。

【４５５８】

ステップＳＭ９０２～ステップＳＭ９０７の処理を実行した後は、集計除算処理（図３４９）を実行する（ステップＳＭ９０８）。集計除算処理の実行に際しては、非特定制御用のプログラムに設定されている集計除算処理に対応するサブルーチンのプログラムが実行されることとなるが、当該サブルーチンのプログラムの実行に際しては集計除算処理の実行後における集計除算実行処理（図３４８）の戻り番地を特定するための情報がプッシュ命令により非特定制御用のスタックエリア２２４に書き込まれる。そして、集計除算処理が終了した場合にはポップ命令によりその戻り番地を特定するための情報が読み出され、当該戻り番地が示す集計除算実行処理（図３４８）のプログラムに復帰する。集計除算処理（ステップＳＭ９０８）の詳細については後に説明する。

【４５５９】

ステップＳＭ９０８にて集計除算処理を実行した後は、「ＬＤ　ＳＰ，Ｙ（ｒ＋γ）」として、ロード命令により、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに特定制御への復帰時における固定アドレスとしてＹ（ｒ＋γ）を設定する（ステップＳＭ９０９）。Ｙ（ｒ＋γ）のアドレスは、特定制御用のスタックエリア２２２におけるＹ（ｒ＋８）とＹ（ｓ）との間のアドレスとして設定されている。

【４５６０】

残余処理（図３４７）のステップＳＭ８０６にて集計除算実行処理のサブルーチンが実行される直前において特定制御用のスタックエリア２２２に記憶されている情報量は常に一定であり、それに伴って当該タイミングにおける主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報（すなわちスタックポインタの値）は一定である。この場合に特定制御用のスタックエリア２２２に記憶されている情報としては、例えば集計除算実行処理（図３４８）が終了した後における残余処理（図３４７）の戻り番地の情報が挙げられる。スタックポインタの上記一定の情報がＹ（ｒ＋γ）となっている。したがって、非特定制御に対応する処理である集計除算実行処理（図３４８）が終了して特定制御に対応する処理に復帰する場合には、その一定の情報であるＹ（ｒ＋γ）を主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに設定することで、当該スタックポインタの情報を集計除算実行処理（図３４８）が開始される直前の情報に復帰させることが可能となる。このように固定の情報をスタックポインタに設定することによって当該スタックポインタの情報を集計除算実行処理（図３４８）が開始される直前の情報に復帰させる構成とすることで、集計除算実行処理（図３４８）を開始する前に特定制御に対応する主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を主側ＲＡＭ６５に退避させる必要がなくなる。よって、処理負荷を軽減させることが可能となるとともに当該退避させるための領域を主側ＲＡＭ６５において確保する必要がなくなる。

【４５６１】

その後、「ＬＤ　ＷＡ，（＿ＷＡＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＷＡバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタに上書きする（ステップＳＭ９１０）。また「ＬＤ　ＢＣ，（＿ＢＣＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＢＣバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＢＣレジスタに上書きする（ステップＳＭ９１１）。また「ＬＤ　ＤＥ，（＿ＤＥＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＤＥバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＤＥレジスタに上書きする（ステップＳＭ９１２）。また「ＬＤ　ＨＬ，（＿ＨＬＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＨＬバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＨＬレジスタに上書きする（ステップＳＭ９１３）。また「ＬＤ　ＩＸ，（＿ＩＸＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＩＸバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＩＸレジスタに上書きする（ステップＳＭ９１４）。また「ＬＤ　ＩＹ，（＿ＩＹＢＵＦ）」として、ロード命令により、非特定制御用のワークエリア２２３のＩＹバッファに退避された情報を主側ＣＰＵ６３のＩＹレジスタに上書きする（ステップＳＭ９１５）。ステップＳＭ９１０～ステップＳＭ９１５の処理が実行されることにより、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、集計除算実行処理（図３４８）が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。

【４５６２】

その後、「ＲＥＴＩ」として、ＲＥＴＩ命令を実行して（ステップＳＭ９１６）、本集計除算実行処理を終了する。ＲＥＴＩ命令が実行されることにより、集計除算実行処理（図３４８）の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰されるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰するとともに、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【４５６３】

ＲＥＴＩ命令を実行する構成であることにより、一の命令（「ＲＥＴＩ」）により、集計除算実行処理の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させることができるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えることができる。このため、集計除算実行処理の実行

前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための命令とを個別に設ける場合と比較して、集計除算実行処理に対応するプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、集計除算実行処理に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４５６４】

上述したとおり、ＲＥＴＩ命令が実行されることにより第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生が許可される。このため、非特定制御に対応する処理が残っている状況においてＲＥＴＩ命令が実行されてしまうと非特定制御に対応する処理が実行されている状況において特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）又は第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまう。これに対して、非特定制御に対応する処理である集計除算実行処理（図３４８）の最後のステップであるステップＳＭ９１６にてＲＥＴＩ命令を実行する構成であることにより、非特定制御に対応する処理が実行されている状況において特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）又は第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまうことを防止しながら、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰した状態で特定制御に対応する処理である残余処理（図３４７）に戻すことができる。

【４５６５】

次に、集計除算実行処理（図３４８）のステップＳＭ９０８にてサブルーチンのプログラムが呼び出されることにより実行される集計除算処理について説明する。図３４９は主側ＣＰＵ６３にて実行される集計除算処理を示すフローチャートである。なお、集計除算処理におけるステップＳＮ１０１～ステップＳＮ１０５の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【４５６６】

既に説明したとおり、チェック処理（図３４１）では、ステップＳＭ２０４にて非特定制御用のワークエリア２２３における通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値が更新され、ステップＳＭ２０５にて結果演算処理が実行される。そして、結果演算処理（図３４２）のステップＳＭ３０４にて合計払出個数情報が算出されるとともに、ステップＳＭ３０６にて合計個数データが算出される。このため、集計除算処理（図３４９）は、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅにおける現状の値に基づいて算出された合計払出個数情報が合計払出個数エリア６３２に格納されているとともに、通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅにおける現状の値に基づいて算出された合計個数データが合計個数エリア６３１に格納されている状態で開始される。

【４５６７】

集計除算処理では、まず大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技球の合計払出個数を把握する（ステップＳＮ１０１）。具体的には、非特定制御用のワークエリア２２３における合計払出個数エリア６３２に格納されている合計払出個数情報を把握する。

【４５６８】

その後、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）を把握する（ステップＳＮ１０２）。具体的には、非特定制御用のワークエリア２２３における合計個数エリア６３１に格納されている合計個数データを把握する。

【４５６９】

その後、ベース値用除算処理を実行する（ステップＳＮ１０３）。ベース値用除算処理

では、ステップＳＮ１０１にて把握した遊技球の合計払出個数をステップＳＮ１０２にて把握した合計個数で除算することによりベース値を小数点第４位までの数値として算出する。その後、ベース値用端数処理を実行する（ステップＳＮ１０４）。ベース値用端数処理では、まずステップＳＮ１０３にて算出したベース値の小数点第４位の数字を四捨五入することによりベース値を小数点第３位までの数値とする。その後、当該小数点第３位までのベース値における小数点第３位の数字を四捨五入することによりベース値を小数点第２位までの数値とする。

【４５７０】

その後、現状エリア３１１の上書き処理を実行して（ステップＳＮ１０５）、本集計除算処理を終了する。現状エリア３１１の上書き処理では、ステップＳＮ１０３にて算出してステップＳＮ１０４にて四捨五入した後の小数点第２位までのベース値を現状エリア３１１に上書きする。これにより、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値が更新される。

【４５７１】

上記のとおり、集計除算処理（図３４９）の開始時に合計払出個数エリア６３２に格納されている合計払出個数情報及び合計個数エリア６３１に格納されている合計個数データを用いてベース値用除算処理（ステップＳＮ１０３）を実行する構成である。これにより、集計除算処理において通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値に基づいて合計払出個数情報及び合計個数データを算出する処理を省略することができる。よって、主側ＣＰＵ６３におけるベース値を算出するための処理負荷を軽減することができる。

【４５７２】

既に説明した表示用処理（図３４４）におけるステップＳＭ５１３の処理は、報知対象のベース値の切換タイミングとは関係なく表示用処理（図３４４）が実行される度に実行される。上述したとおり、集計除算処理（図３４９）のステップＳＮ１０５にて現状エリア３１１に格納されている直近のベース値が更新される。この場合に、既に説明したとおり演算結果データを表示対象設定エリア２７６に設定するためのステップＳＭ５１３の処理が報知対象のベース値の切換タイミングとは関係なく表示用処理（図３４４）が実行される度に実行されることにより、現状エリア３１１のベース値が報知対象となっている状況において当該ベース値が変更された場合には、報知対象のベース値の切り換えタイミングとなるまで待機することなく、その変更されたベース値を報知することが可能となる。

【４５７３】

ベース値用除算処理（ステップＳＮ１０３）にて算出するベース値の桁数が多い場合、ベース値を小数点第２位までの数値情報とするベース値用端数処理（ステップＳＮ１０４）の実行期間が延びてしまう。第１タイマ割込み処理（図３３８）の中でベース値を演算する構成とすると、第１タイマ割込み周期（具体的には４ミリ秒）とベース値用端数処理の実行期間との兼ね合いによりベース値除算用処理にて算出できるベース値の桁数が減少してしまう。本実施形態では、残余処理（図３４７）においてベース値を演算する構成であることにより、ベース値用除算処理にて算出するベース値の桁数を増加させることができるとともに、現状エリア３１１に格納されるベース値の精度を高めることができる。これにより、正確なベース値に基づいてベース値の異常の有無を把握可能とすることができる。

【４５７４】

残余処理（図３４７）の説明に戻り、ステップＳＭ８０６にて集計除算実行処理（図３４８）を行った後、「ＥＩ」として、ＥＩ命令により、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための設定を行う（ステップＳＭ８０７）。

【４５７５】

その後、「ＪＲ　ＲＳ＿Ｌ」として、ＪＲ命令により、「ＲＳ＿Ｌ」のアドレスにジャンプする（ステップＳＭ８０８）。既に説明したとおり、「ＲＳ＿Ｌ」は、主側ＲＯＭ６

４（図６７）において残余処理に対応するプログラムが記憶されているアドレスである。このため、ステップＳＭ８０１に戻る。このように、残余処理（図３４７）は、ステップＳＭ８０１～ステップＳＭ８０８の処理が繰り返し実行されるループ処理である。

【４５７６】

上記のとおり、残余処理（図３４７）では、ステップＳＭ８０１にて第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の起動が禁止された後、当該第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の起動が禁止された状態でステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６の処理が実行される。そして、ステップＳＭ８０６の処理が終了した後、ステップＳＭ８０１に戻る前に第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の割込みが許可される。第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理が禁止された状態でステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６の処理が実行される構成であることにより、ステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６の処理が実行されている状況において第１タイマ割込み処理又は第２タイマ割込み処理が割り込んで起動されてしまうことを防止することができる。

【４５７７】

残余処理（図３４７）において第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の起動が禁止された状態で行われるステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６の処理では、先に特定制御に対応する処理であるステップＭ８０２～ステップＳＭ８０５の処理が実行された後、ステップＳＭ８０６にて非特定制御に対応する処理である集計除算実行処理（図３４８）が実行される。集計除算実行処理（図３４８）の最後でＲＥＴＩ命令を実行した場合には、当該集計除算実行処理（図３４８）の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰されるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。このため、残余処理（図３４７）におけるステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６の途中で集計除算実行処理（図３４８）が実行される構成とすると、当該集計除算実行処理（図３４８）の最後でＲＥＴＩ命令を実行した後、ステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６における残りの処理を実行する前に第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止する処理を行う必要が生じてしまう。これに対して、残余処理（図３４７）におけるステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６の最後（ステップＳＭ８０６）で集計除算実行処理（図３４８）が実行される構成であることにより、当該集計除算実行処理（図３４８）の実行後に第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止する処理を不要とすることができる。また、残余処理（図３４７）において、特定制御に対応する処理であるステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０５の処理を連続して実行することが可能となっている。

【４５７８】

残余処理（図３４７）のステップＳＭ８０７にて第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが許可されることにより、第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）が経過している場合には第１タイマ割込み処理を起動させることができるとともに、第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）が経過している場合には第２タイマ割込み処理を起動させることができる。既に説明したとおり、第１割込み周期及び第２割込み周期の両方が経過している場合には、第２タイマ割込み処理が優先的に起動される。

【４５７９】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【４５８０】

第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて直近のベース値の表示が行われている状況においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われた場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示が行われる。合計個数情報の表示では、合計個数データの上位４桁の数字が表示される。遊技ホールの管理者は、第１～第４報知用表示装

置２０１～２０４に表示される合計個数情報に基づいて、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値についての収束の程度を把握することができる。

【４５８１】

第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示される合計個数情報（合計個数データの上位４桁の数値）に基づいて把握される合計個数データがベース値の算出期間における最終的な合計個数データ（具体的には６００００個）と比較して小さい場合には、直近のベース値についての収束の程度が低いことを把握することができる。また、当該合計個数情報に基づいて把握される合計個数データがベース値の算出期間における最終的な合計個数データ（具体的には６００００個）に近い場合には、直近のベース値についての収束の程度が高いことを把握することができる。

【４５８２】

直近のベース値がベース値の理論値範囲から外れている場合、直近のベース値についての収束の程度が低い状況であれば、現状の算出期間における最終的なベース値がベース値の理論値範囲に収まる可能性があることを把握することができる。また、直近のベース値についての収束の程度が高い状況であれば、現状の算出期間における最終的なベース値がベース値の理論値範囲から外れる可能性が高いことを把握することができる。

【４５８３】

合計個数情報として、「０」～「６５５３５」のいずれかの数値情報である合計個数データの上位４桁の数字を表示する構成であることにより、合計個数データの全体（５桁の数字）を表示する構成と比較して、報知用表示装置２０１～２０４の数の増加を抑えながら、直近のベース値についての収束の程度を把握可能とすることができる。

【４５８４】

合計個数情報の表示継続時間（具体的には５秒）は、ベース値の表示継続時間（具体的には５秒）を把握可能とするための切換タイミングカウンタを利用して把握される。これにより、切換タイミングカウンタとは別に合計個数情報の表示継続時間（具体的には５秒）を把握するためのタイミングカウンタを設ける構成と比較して、合計個数情報の表示継続時間（具体的には５秒）を把握可能とするための構成が簡略化されている。

【４５８５】

ベース値の表示と、合計個数情報の表示とが共通の第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる構成であることにより、ベース値を監視する遊技ホールの管理者の監視負担を軽減することができる。

【４５８６】

合計個数情報の表示が終了した後、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では直近のベース値の表示が行われる。これにより、合計個数情報の表示に基づいて直近のベース値の収束度合を把握した後に、再び直近のベース値を確認可能とすることができる。合計個数情報の表示が終了した後に開始される直近のベース値の表示は、合計個数情報の表示が開始されるまでに直近のベース値が表示されていた期間に関わらず、５秒間に亘って行われる。このため、直近のベース値の表示が終了する直前にリセットボタン６８ｃの押圧操作を行って合計個数情報の表示を開始させた場合においても、当該合計個数情報の表示が終了した後に表示される直近のベース値の表示期間が極端に短くなってしまうことを防止することができる。

【４５８７】

ベース値の算出期間が新たに開始されてから大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況で遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が初期基準個数（具体的には６０００個）に達していない場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では、直近のベース値の表示において演算初期表示が行われる。遊技ホールの管理者は、演算初期表示が行われている場合には、リセットボタン６８ｃの操作を行わなくても、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示されている直近のベース値についての収束の程度が低いことを把握することができる。合計個数データが初期基準個数（具体的には６０００個

）に達していない場合には、ベース値がベース値の理論値範囲から外れる可能性が高い。合計個数データが初期基準個数（具体的には６０００個）に達していないことを容易に把握可能とすることにより、合計個数情報の表示を確認しなければならない状況が発生する頻度を低減することができる。これにより、遊技ホールの管理者によるベース値の監視負担を軽減することができる。

【４５８８】

ＣＡＬＬＩ命令により非特定制御に対応する処理（試射試験実行処理（図３３９）、管理実行処理（図３４０）、又は集計除算実行処理（図３４８））が実行される場合、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避されるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが禁止される。そして、非特定制御用のプログラムに設定されている非特定制御に対応する処理（試射試験実行処理（図３３９）、管理実行処理（図３４０）、又は集計除算実行処理（図３４８））に対応するサブルーチンのプログラムが実行される。フラグレジスタの情報を非特定制御に対応する処理のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該非特定制御に対応する処理のコールや当該非特定制御に対応する処理の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。また、非特定制御に対応する処理のプログラムが開始される前に第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止することにより、非特定制御に対応する処理の実行中に、特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【４５８９】

ＣＡＬＬＩ命令により試射試験実行処理（図３３９）を実行する構成とすることにより、一の命令（「ＣＡＬＬＩ」）により、試射試験実行処理（図３３９）の実行前に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させ、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止して、当該試射試験実行処理（図３３９）のプログラムを開始させることができる。このため、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止するための命令と、試射試験実行処理（図３３９）のプログラムを開始させる処理を実行するための命令とを個別に設ける場合と比較して、試射試験実行処理（図３３９）を実行するために第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４５９０】

ＣＡＬＬＩ命令により管理実行処理（図３４０）を実行する構成とすることにより、一の命令（「ＣＡＬＬＩ」）により、管理実行処理（図３４０）の実行前に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させ、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止して、当該管理実行処理（図３４０）のプログラムを開始させることができる。このため、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止するための命令と、管理実行処理（図３４０）のプログラムを開始させる処理を実行するための命令とを個別に設ける場合と比較して、管理実行処理（図３４０）を実行するために第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４５９１】

ＣＡＬＬＩ命令により集計除算実行処理（図３４８）を実行する構成とすることにより、一の命令（「ＣＡＬＬＩ」）により、集計除算実行処理（図３４８）の実行前に主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させ、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止して、当該集計除算実行処理（図３４８）のプログラムを開始させることができる。このため、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止するための命令と、集計除算実行処理（図３４８）のプログラムを開始させる処理を実行するための命令とを個別に設ける場合と比較して、集計除算実行処理（図３４８）を実行するために残余処理（図３４７）に対応するプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、残余処理（図３４７）に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４５９２】

主側ＣＰＵ６３は、非特定制御に対応する処理（試射試験実行処理（図３３９）、管理実行処理（図３４０）、又は集計除算実行処理（図３４８））が終了するとともに特定制御に対応する処理が開始される場合に、ＲＥＴＩ命令を実行する。ＲＥＴＩ命令が実行されることにより、当該非特定制御に対応する処理の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰されるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰するとともに、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【４５９３】

非特定制御に対応する処理（試射試験実行処理（図３３９）、管理実行処理（図３４０）、又は集計除算実行処理（図３４８））が終了するとともに特定制御に対応する処理が開始される場合にＲＥＴＩ命令を実行する構成であることにより、一の命令（「ＲＥＴＩ」）により、当該非特定制御に対応する処理の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させることができるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えることができる。このため、非特定制御に対応する処理の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための命令とを個別に設ける場合と比較して、非特定制御に対応する処理のプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、非特定制御に対応する処理のプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４５９４】

第１タイマ割込み処理（図３３８）において管理実行処理（ステップＳＬ８２１）が実行されるとともに、残余処理（図３４７）において集計除算実行処理（ステップＳＭ８０６）が実行される構成である。集計除算処理（図３４９）におけるベース値用除算処理（ステップＳＮ１０３）にて算出するベース値の桁数が多い場合、ベース値を小数点第２位までの数値情報とするベース値用端数処理（ステップＳＮ１０４）の実行期間が延びてしまう。第１タイマ割込み処理（図３３８）の中でベース値を演算する構成とすると、第１タイマ割込み周期（具体的には４ミリ秒）とベース値用端数処理の実行期間との兼ね合いによりベース値除算用処理にて算出できるベース値の桁数が減少してしまう。これに対して、残余処理（図３４７）においてベース値を演算する構成であることにより、ベース値用除算処理（ステップＳＮ１０３）にて算出するベース値の桁数を増加させることができるとともに、現状エリア３１１に格納されるベース値の精度を高めることができる。これにより、正確なベース値に基づいてベース値の異常の有無を把握可能とすることができる

。
【４５９５】
第１タイマ割込み処理（図３３８）には、非特定制御に対応する処理として試射試験実行処理及び管理実行処理が含まれており、第１タイマ割込み処理においてこれらの処理は分散して設定されている。第１タイマ割込み処理では、特定制御に対応する処理として、遊技を進行するための処理が実行される。非特定制御に対応する処理が第１タイマ割込み処理内に分散させて設定されている構成であることにより、遊技を進行するための処理が実行されない状況が長く継続することを防止することができる。また、第１タイマ割込み処理（図３３８）において特定制御に対応する処理が実行されている状況では、当該第１タイマ割込み処理に対して第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動することができる。一方、第１タイマ割込み処理において非特定制御に対応する処理が実行される場合、当該非特定制御に対応する処理の開始に際して第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の起動が禁止され、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の起動が禁止された状態で非特定制御に対応する処理が実行される。このため、第１タイマ割込み処理において非特定制御に対応する処理が実行されている状況が長く継続すると、第２タイマ割込み処理が起動できない状況が長く継続することになってしまう。これに対して、非特定制御に対応する処理が第１タイマ割込み処理内に分散させて設定されている構成であることにより、第２割込み周期が経過したにも関わらず第２タイマ割込み処理（図３４６）が開始できない状況が長く継続してしまうことを防止することができる。
【４５９６】
残余処理（図３４７）では、ステップＳＭ８０１にて第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の起動が禁止された後、当該第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の起動が禁止された状態でステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６の処理が実行される。そして、ステップＳＭ８０６の処理が終了した後、ステップＳＭ８０１に戻る前に第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の割込みが許可される。第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理が禁止された状態でステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６の処理が実行される構成であることにより、ステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６の処理が実行されている状況において第１タイマ割込み処理又は第２タイマ割込み処理が割り込んで起動されてしまうことを防止することができる。
【４５９７】
残余処理（図３４７）において第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の起動が禁止された状態で行われるステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６の処理では、先に特定制御に対応する処理であるステップＭ８０２～ステップＳＭ８０５の処理が実行された後、ステップＳＭ８０６にて非特定制御に対応する処理である集計除算実行処理（図３４８）が実行される。集計除算実行処理（図３４８）の最後でＲＥＴＩ命令を実行した場合には、当該集計除算実行処理（図３４８）の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰されるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。このため、残余処理（図３４７）におけるステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６の途中で集計除算実行処理（図３４８）が実行される構成とすると、当該集計除算実行処理（図３４８）の最後でＲＥＴＩ命令を実行した後、ステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６における残りの処理を実行する前に第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止する処理を行う必要が生じてしまう。これに対して、残余処理（図３４７）におけるステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０６の最後（ステップＳＭ８０６）で集計除算実行処理（図３４８）が実行される構成であることにより、当該集計除算実行処理（図３４８）の実行後に第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止する処理を不要とすることができる。また、残余処理（図３４７）において、特定制御に対応する処理であるステップＳＭ８０２～ステップＳＭ８０５の処理を

連続して実行することが可能となっている。

【４５９８】

なお、残余処理（図３４７）のステップＳＭ８０６にて、ＣＡＬＬＩ命令により集計除算実行処理を実行した後、上記第９３の実施形態における残余処理（図３４７）のステップＳＭ８０７の処理を省略し、上記第９３の実施形態における残余処理（図３４７）のステップＳＭ８０８と同様に、「ＪＲ　ＲＳ＿Ｌ」としてステップＳＭ８０１に戻る構成としてもよい。上記第９３の実施形態において既に説明したとおり、集計除算処理（図３４８）の最後のステップであるステップＳＭ９１６ではＲＥＴＩ命令が実行される。そして、ＲＥＴＩ命令が実行される場合には、集計除算実行処理（図３４８）の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰されるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。これにより、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。このように、残余処理（図３４７）において、「ＪＲ　ＲＳ＿Ｌ」とするステップの１つ前のステップにおいてＣＡＬＬＩ命令により集計除算実行処理を実行する構成とすることにより、「ＪＲ　ＲＳ＿Ｌ」とするステップの１つ前のステップに別途ＥＩ命令を設けることなく、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を許可することができる。これにより、残余処理（図３４７）に対応するプログラムに設定する命令の数を低減することができるとともに、当該残余処理（図３４７）に対応するプログラムを記憶するための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４５９９】

また、合計個数情報の表示が終了した後に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示されるベース値の種類は、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値に限定されることはない。合計個数情報の表示が終了した後に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に第１履歴エリア３１２に格納されているベース値、第２履歴エリア３１３に格納されているベース値、及び第３履歴エリア３１４に格納されているベース値のいずれかが表示される構成としてもよい。

【４６００】

また、設定値の確認が行われている状況及び設定値の更新が行われている状況のいずれでもない状況においてリセットボタン６８ｃの操作が行われた場合には、当該操作が行われたタイミングにおいて第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示されているベース値の種類に関わらず当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示が開始される構成としてもよい。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて直近のベース値の表示が終了した場合に、次に直近のベース値の表示が開始されるまで待つことなく合計個数情報の表示を開始させることができる。

【４６０１】

また、非特定制御に対応する処理（試射試験実行処理（図３３９）、管理実行処理（図３４０）、又は集計除算実行処理（図３４８））から特定制御に対応する処理に復帰する場合にＲＥＴＩ命令が実行される構成に代えて、ポップ命令及びＥＩ命令が実行される構成としてもよい。具体的には、試射試験実行処理（図３３９）では、ステップＳＬ９１５の処理が終了した後、まず「ＰＯＰ　ＰＳＷ」として、ポップ命令により、試射試験実行処理（図３３９）の開始前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が、試射試験実行処理（図３３９）の開始前の情報に復帰することとなる。その後、「ＥＩ」として、ＥＩ命令を実行する。ＥＩ命令が実行されることにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための設定が行われる。これにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の新たな実行が可能となる。また、管理実行処理（図３４０）では、ステップＳＭ１１５の処理が終

了した後、まず「ＰＯＰ　ＰＳＷ」として、ポップ命令により、管理実行処理（図３４０）の開始前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が、管理実行処理（図３４０）の開始前の情報に復帰することとなる。その後、「ＥＩ」として、ＥＩ命令を実行する。ＥＩ命令が実行されることにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための設定が行われる。これにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の新たな実行が可能となる。さらにまた、集計除算実行処理（図３４８）では、ステップＳＭ９１５の処理が終了した後、まず「ＰＯＰ　ＰＳＷ」として、ポップ命令により、集計除算実行処理（図３４８）の開始前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が、集計除算実行処理（図３４８）の開始前の情報に復帰することとなる。その後、「ＥＩ」として、ＥＩ命令を実行する。ＥＩ命令が実行されることにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための設定が行われる。これにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の新たな実行が可能となる。このように、非特定制御に対応する処理から特定制御に対応する処理に復帰する場合にポップ命令及びＥＩ命令が実行される構成としても、当該非特定制御に対応する処理の開始前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させることができるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための設定を行うことができる。

【４６０２】

また、非特定制御に対応する処理（試射試験実行処理（図３３９）、管理実行処理（図３４０）、及び集計除算実行処理（図３４８））の最後のステップにてＲＥＴＩ命令を実行する構成に代えて、当該非特定制御に対応する処理の終了後にＲＥＴＩ命令を実行する構成としてもよい。具体的には、第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８０７にて試射試験実行処理（図３３９）のステップＳＬ９０１～ステップＳＬ９１５の処理を実行した後、第１タイマ割込み処理（図３３８）に戻り、ステップＳＬ８０８におけるポート出力処理の実行前にＲＥＴＩ命令を実行する。これにより、試射試験実行処理の開始前に退避させた主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を当該フラグレジスタに復帰させることができるとともに、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の新たな実行を可能とすることができる。また、第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８２１にて管理実行処理（図３４０）のステップＳＭ１０１～ステップＳＭ１１５の処理を実行した後、第１タイマ割込み処理（図３３８）に戻り、ＲＥＴＩ命令を実行する。これにより、管理実行処理の開始前に退避させた主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を当該フラグレジスタに復帰させることができるとともに、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の新たな実行を可能とすることができる。また、残余処理（図３４７）のステップＳＭ８０６にて集計除算実行処理（図３４８）のステップＳＭ９０１～ステップＳＭ９１５の処理を実行した後、残余処理（図３４７）に戻り、ステップＳＭ８０７においてＥＩ命令に代えてＲＥＴＩ命令を実行する。これにより、集計除算実行処理の開始前に退避させた主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を当該フラグレジスタに復帰させることができるとともに、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の新たな実行を可能とすることができる。

【４６０３】

＜第９４の実施形態＞

本実施形態では試射試験実行処理及び管理実行処理を実行するための処理構成が上記第９３の実施形態と相違している。以下、上記第９３の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第９３の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省

略する。
【４６０４】
図３５０は本実施形態における主側ＣＰＵ６３にて実行される第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。なお、上記第９３の実施形態と同様に、第１タイマ割込み処理は第１割込み周期である４ミリ秒周期で定期的に起動される。また、第１タイマ割込み処理に対応するプログラムは特定制御用のプログラムに設定されている。
【４６０５】
ステップＳＮ２０１～ステップＳＮ２０５では、コール命令（ＣＡＬＬ命令）により、上記第９３の実施形態における第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８０１～ステップＳＬ８０５と同一の処理を実行する。なお、ステップＳＮ２０１～ステップＳＮ２０５において、上記第９３の実施形態と同様に、ＣＡＬＬＳ命令により、第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８０１～ステップＳＬ８０５と同一の処理を実行する構成としてもよい。
【４６０６】
その後、上記第９３の実施形態における第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８０６と同様に、特定制御用のワークエリア２２１における遊技停止フラグ又は立ち上げ処理中フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＮ２０６）。ステップＳＮ２０６にて肯定判定を行った場合には、ステップＳＮ２０７～ステップＳＮ２２５の処理を実行することなく、本第１タイマ割込み処理を終了する。
【４６０７】
一方、ステップＳＮ２０６にて否定判定を行った場合には、ステップＳＮ２０７に進む。ステップＳＮ２０７～ステップＳＮ２１８では、コール命令（ＣＡＬＬ命令）により、上記第９３の実施形態における第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８０９～ステップＳＬ８２０と同一の処理を実行する。なお、ステップＳＮ２０７～ステップＳＮ２１８において、上記第９３の実施形態と同様に、ＣＡＬＬＳ命令により、第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８０９～ステップＳＬ８２０と同一の処理を実行する構成としてもよい。
【４６０８】
その後、「ＰＵＳＨ　ＰＳＷ」として、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させる（ステップＳＮ２１９）。上記第９３の実施形態において既に説明したとおり、フラグレジスタにはキャリフラグ、ゼロフラグ、Ｐ／Ｖフラグ、サインフラグ及びハーフキャリフラグなどを含み、演算命令、ローテート命令及び入出力命令などの実行結果によってフラグレジスタの情報は変化することとなる。ステップＳＮ２２１にて実行される試射試験実行処理及びステップＳＮ２２２にて実行される管理実行処理は、非特定制御に対応する処理である。主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を非特定制御に対応する処理（試射試験実行処理（ステップＳＮ２２１）及び管理実行処理（ステップＳＮ２２２））のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該非特定制御に対応する処理のコールや当該非特定制御に対応する処理の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。
【４６０９】
その後、「ＤＩ」として、ＤＩ命令により、第１タイマ割込み処理（図３５０）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止する（ステップＳＮ２２０）。これにより、非特定制御に対応する処理である試射試験実行処理（ステップＳＮ２２１）及び管理実行処理（ステップＳＮ２２２）の実行中に、特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３５０）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。
【４６１０】
その後、コール命令（ＣＡＬＬ命令）により、試射試験実行処理を実行する（ステップＳＮ２２１）。図３５１は主側ＣＰＵ６３にて実行される試射試験処理を示すフローチャ

ートである。なお、試射試験実行処理におけるステップＳＮ３０１～ステップＳＮ３０８の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【４６１１】

ステップＳＮ３０１～ステップＳＮ３０７では、上記第９３の実施形態における試射試験実行処理（図３３９）のステップＳＬ９０１～ステップＳＬ９０７と同一の処理を実行する。これにより、主側ＣＰＵ６３のレジスタに存在している各種の汎用レジスタ、補助レジスタ及びインデックスレジスタのうち一部のレジスタであるＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御用のワークエリア２２３における対応するバッファに退避させることができる。

【４６１２】

その後、ステップＳＮ３０８では、上記第９３の実施形態における試射試験実行処理（図３３９）のステップＳＬ９０８と同様に、コール命令（ＣＡＬＬ命令）により試射試験処理を実行する。試射試験処理では、上記第９３の実施形態と同様に、外部装置である試射試験装置に対して出力するための試射試験情報を生成し、非特定制御用のワークエリア２２３における試射試験情報エリア６３３に格納する。その後、上記第９３の実施形態における試射試験実行処理（図３３９）のステップＳＬ９０９～ステップＳＬ９１６の処理を実行することなく、そのまま本試射試験実行処理を終了する。本実施形態では、試射試験処理（ステップＳＮ３０８）の開始前に非特定制御用のワークエリア２２３における対応するバッファに退避させた主側ＣＰＵ６３の一部のレジスタ（ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ）の各情報を復帰させることなく、次の処理（具体的には管理実行処理）に進む。

【４６１３】

第１タイマ割込み処理（図３５０）の説明に戻り、ステップＳＮ２２１にて試射試験実行処理を行った後、コール命令（ＣＡＬＬ命令）により管理実行処理を実行する（ステップＳＮ２２２）。このように、非特定制御に対応する試射試験実行処理（ステップＳＮ２２１）及び管理実行処理（ステップＳＮ２２２）は、特定制御に対応する第１タイマ割込み処理（図３５０）において連続して実行される。

【４６１４】

図３５２は主側ＣＰＵ６３にて実行される管理実行処理を示すフローチャートである。なお、管理実行処理におけるステップＳＮ４０１～ステップＳＮ４０８の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【４６１５】

本実施形態における管理実行処理では、まず上記第９３の実施形態における管理実行処理（図３４０）のステップＳＭ１０８と同様に、コール命令（ＣＡＬＬ命令）によりチェック処理を実行する（ステップＳＮ４０１）。上述したとおり、試射試験処理（試射試験実行処理（図３５１）のステップＳＮ３０８）の開始前に非特定制御用のワークエリア２２３における対応するバッファに退避させた主側ＣＰＵ６３の一部のレジスタ（ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ）の各情報は、非特定制御用のワークエリア２２３における対応するバッファに退避したままとなっている。このため、本実施形態における管理実行処理では、上記第９３の実施形態における管理実行処理（図３４０）のステップＳＭ１０１～ステップＳＭ１０７の処理を実行することなく、ステップＳＮ４０１にてチェック処理を実行する。これにより、非特定制御用のワークエリア２２３における対応するバッファに退避させていた主側ＣＰＵ６３の一部のレジスタ（ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ）の各情報を試射試験処理の実行後に復帰させる処理と、チェック処理の実行前に主側ＣＰＵ６３の一部のレジスタ（ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ）の各情報を非特定制御用のワークエリア２２３における対応するバッファに退避させる処理とを省略することができ

る。よって、プログラムを記憶するための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４６１６】

ステップＳＮ４０１にて実行されるチェック処理の内容は、上記第９３の実施形態において既に説明したチェック処理（図３４１）の内容と同一である。その後、上記第９３の実施形態における管理実行処理（図３４０）のステップＳＭ１０９～ステップＳＭ１１５と同一の処理を実行する。これにより、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させることが可能となる。なお、本実施形態における管理実行処理（図３５２）では、上記第９３の実施形態における管理実行処理（図３４０）におけるＳＭ１１６の処理は実行しない。

【４６１７】

第１タイマ割込み処理（図３５０）の説明に戻り、ステップＳＮ２２２にて管理実行処理を行った後、「ＰＯＰ　ＰＳＷ」として、ポップ命令により、試射試験実行処理（ステップＳＮ２２１）の実行前であるステップＳＮ２１９にて特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる（ステップＳＮ２２３）。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が、ステップＳＮ２１９の処理の開始時の情報に復帰することとなる。つまり、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰することとなる。

【４６１８】

その後、「ＥＩ」として、ＥＩ命令を実行する（ステップＳＮ２２４）。ＥＩ命令が実行されることにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための設定が行われる。これにより、第１タイマ割込み処理（図３５０）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の新たな実行が可能となる。

【４６１９】

その後、コール命令（ＣＡＬＬ命令）によりポート出力処理を実行して（ステップＳＮ２２５）、本第１タイマ割込み処理を終了する。ステップＳＮ２２５におけるポート出力処理では、上記第９３の実施形態における第１タイマ割込み処理（図３３８）のポート出力処理（ステップＳＬ８０８）と同様に、試射試験処理（試射試験実行処理（図３５１）のステップＳＮ３０８）にて非特定制御用のワークエリア２２３における試射試験情報エリア６３３に格納された試射試験情報を外部装置である試射試験装置に対して出力するための処理を実行する。上記第９３の実施形態において既に説明したとおり、試射試験情報は中継基板（図示略）を介して試射試験装置に対して出力される。なお、試射試験装置が接続されていない場合には、試射試験処理にて生成された試射試験情報が出力されることなくクリアされる。また、ステップＳＮ２２４におけるポート出力処理では、上記第９３の実施形態における第１タイマ割込み処理（図３３８）のポート出力処理（ステップＳＬ８０８）と同様に、前回の第１タイマ割込み処理において出力情報の設定が行われている場合に、その出力情報に対応した出力を各種駆動部３２ｂ，３４ｂに行うための処理を実行する。例えば、特電入賞装置３２を開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には特電用の駆動部３２ｂへの駆動信号の出力を開始させ、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には当該駆動信号の出力を停止させる。また、第２作動口３４の普電役物３４ａを開放状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には普電用の駆動部３４ｂへの駆動信号の出力を開始させ、閉鎖状態に切り換えるべき情報が設定されている場合には当該駆動信号の出力を停止させる。

【４６２０】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【４６２１】

特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３５０）の中で、非特定制御に対応する処理である試射試験実行処理（ステップＳＮ２２１）及び管理実行処理（ステ

ップＳＮ２２２）が連続して実行される構成である。これにより、第１タイマ割込み処理（図３５０）において、特定制御に対応する処理から非特定制御に対応する処理への切り換え、及び非特定制御に対応する処理から特定制御に対応する処理への復帰の回数を１回に抑えることができる。よって、非特定制御に対応する処理を実行するための主側ＣＰＵ６３における処理負荷を軽減することができる。

【４６２２】

特定制御に対応する処理から非特定制御に対応する処理への切り換えに際しては、プッシュ命令により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させる処理（ステップＳＮ２１９の処理）が実行されるとともに、非特定制御に対応する処理から特定制御に対応する処理への復帰に際しては、ポップ命令により、特定制御用のスタックエリア２２２に退避させた当該フラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる処理（ステップＳＮ２２３の処理）が実行される。第１タイマ割込み処理（図３５０）において、特定制御に対応する処理から非特定制御に対応する処理への切り換え、及び非特定制御に対応する処理から特定制御に対応する処理への復帰の回数を１回に抑えることにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させる処理、及び特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる処理の実行回数を抑えて、主側ＣＰＵ６３の処理負荷を軽減することができる。

【４６２３】

試射試験実行処理（ステップＳＮ２２１）の最後のステップで試射試験処理が実行されるとともに、管理実行処理（ステップＳＮ２２２）の最初のステップでチェック処理が実行される。このため、試射試験処理及びチェック処理が連続して実行される。これにより、ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタに設定されている情報を非特定制御用のワークエリア２２３に退避させる処理の実行回数を１回に抑えることができる。また、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させる処理の実行回数を１回に抑えることができる。これにより、主側ＣＰＵ６３の処理負荷を軽減することができる。

【４６２４】

なお、第１タイマ割込み処理（図３５０）のステップＳＮ２２１にて試射試験実行処理が実行されるとともにステップＳＮ２２２にて管理実行処理が実行される構成に代えて、第１タイマ割込み処理（図３５０）のステップＳＮ２２１にて管理実行処理が実行されるとともにステップＳＮ２２２にて試射試験実行処理が実行される構成としてもよい。本構成においても、ステップＳＮ２１９にて主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させるとともに、ステップＳＮ２２０にて第１タイマ割込み処理（図３５０）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止した後、非特定制御に対応する処理である管理実行処理及び試射試験実行処理を連続的に実行することができる。その後、特定制御用のスタックエリア２２２に退避させていた主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を復帰させ、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の割込みを許可する。これにより、第１タイマ割込み処理（図３５０）において、特定制御に対応する処理から非特定制御に対応する処理への切り換え、及び非特定制御に対応する処理から特定制御に対応する処理への復帰の回数を１回に抑えることができる。

【４６２５】

＜第９５の実施形態＞

本実施形態では試射試験実行処理及び管理実行処理を実行するための処理構成が上記第９４の実施形態と相違している。以下、上記第９４の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第９４の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。

【４６２６】

図３５３は本実施形態における主側ＣＰＵ６３にて実行される第１タイマ割込み処理を示すフローチャートである。なお、第１タイマ割込み処理は第１割込み周期である４ミリ秒周期で定期的に起動される。また、第１タイマ割込み処理に対応するプログラムは特定制御用のプログラムに設定されている。

【４６２７】

ステップＳＮ５０１～ステップＳＮ５１８では、ＣＡＬＬＳ命令により、上記第９４の実施形態における第１タイマ割込み処理（図３５０）のステップＳＮ２０１～ステップＳＮ２１８と同一の処理を実行する。なお、ステップＳＮ５０１～ステップＳＮ５１８において、上記第９４の実施形態と同様に、コール命令（ＣＡＬＬ命令）により、上記第９４の実施形態における第１タイマ割込み処理（図３５０）のステップＳＮ２０１～ステップＳＮ２１８と同一の処理を実行する構成としてもよい。

【４６２８】

その後、ＣＡＬＬＩ命令により、試射試験実行処理及び管理実行処理を実行する（ステップＳＮ５１９）。上記第９４の実施形態と同様に、試射試験実行処理及び管理実行処理は、非特定制御に対応する処理である。

【４６２９】

ＣＡＬＬＩ命令により試射試験実行処理及び管理実行処理が実行される場合、まず主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避される。当該フラグレジスタの情報を非特定制御に対応する処理（試射試験実行処理及び管理実行処理）のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該非特定制御に対応する処理のコールや当該非特定制御に対応する処理の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。

【４６３０】

ＣＡＬＬＩ命令により試射試験実行処理及び管理実行処理が実行される場合、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避された後、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが禁止される。これにより、非特定制御に対応する処理である試射試験実行処理及び管理実行処理の実行中に、特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。

【４６３１】

ＣＡＬＬＩ命令により試射試験実行処理及び管理実行処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避され、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが禁止された後に、試射試験実行処理に対応するプログラムが開始される。試射試験実行処理の処理内容は、上記第９４の実施形態において既に説明したとおりである。その後、管理実行処理（図３５４）に対応するプログラムが開始される。なお、管理実行処理（図３５４）の詳細については後述する。

【４６３２】

このように、ＣＡＬＬＩ命令により試射試験実行処理（図３５１）及び管理実行処理（図３５４）を実行する構成とすることにより、一の命令（「ＣＡＬＬＩ」）により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させ、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止して、試射試験実行処理（図３５１）に対応するプログラムすることができるとともに、当該試射試験実行処理（図３５１）の終了後に、管理実行処理（図３５４）に対応するプログラムを開始させることができる。このため、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止するための命令と、試射試験実行処理（図３５１）のプログラムを開始するための命令と、管理実行処理（図３５４）のプログラムを開始するための命令とを個別に設ける場合と比較して、試射試験

実行処理（図３５１）及び管理実行処理（図３５４）を実行するために第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４６３３】

図３５４は主側ＣＰＵ６３にて実行される管理実行処理を示すフローチャートである。なお、管理実行処理におけるステップＳＮ６０１～ステップＳＮ６０９の処理は、主側ＣＰＵ６３において非特定制御用のプログラム及び非特定制御用のデータを利用して実行される。

【４６３４】

ステップＳＮ６０１～ステップＳＮ６０８では、上記第９４の実施形態における管理実行処理（図３５２）のステップＳＮ４０１～ステップＳＮ４０８と同一の処理を実行する。その後、上記第９３の実施形態における管理実行処理（図３４０）のステップＳＭ１１６と同様に、「ＲＥＴＩ」として、ＲＥＴＩ命令を実行して（ステップＳＮ６０９）、本管理実行処理を終了する。ＲＥＴＩ命令が実行されることにより、試射試験実行処理（図３５１）の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報が主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰されるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えられる。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰するとともに、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。

【４６３５】

ＲＥＴＩ命令を実行する構成であることにより、一の命令（「ＲＥＴＩ」）により、試射試験実行処理（図３５１）の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させることができるとともに、第１タイマ割込み処理（図３５３）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えることができる。このため、試射試験実行処理（図３５１）の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３５３）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための命令とを個別に設ける場合と比較して、管理実行処理（図３５４）に対応する処理のプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、管理実行処理（図３５４）に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４６３６】

上述したとおり、ＲＥＴＩ命令が実行されることにより第１タイマ割込み処理（図３５３）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生が許可される。このため、非特定制御に対応する処理が残っている状況においてＲＥＴＩ命令が実行されてしまうと非特定制御に対応する処理が実行されている状況において特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３５３）又は第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまう。これに対して、非特定制御に対応する処理である管理実行処理（図３５４）の最後のステップであるステップＳＮ６０９にてＲＥＴＩ命令を実行する構成であることにより、非特定制御に対応する処理が実行されている状況において特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３５３）又は第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまうことを防止しながら、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御を実行するための情報に復帰した状態で特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３５３）に復帰することができる。

【４６３７】

特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３５３）の中で、非特定制御に対応する処理である試射試験実行処理（図３５１）及び管理実行処理（図３５４）が連

続して実行される構成である。このため、試射試験実行処理（図３５１）の最後でＲＥＴＩ命令を実行することなく管理実行処理（図３５４）を実行し、当該管理実行処理の最後でＲＥＴＩ命令を実行する構成とすることができる。これにより、試射試験実行処理（図３５１）に対応するプログラムにＲＥＴＩ命令を設定することを不要とすることができる。よって、試射試験実行処理（図３５１）に対応するプログラムを記憶するための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４６３８】

第１タイマ割込み処理（図３５３）の説明に戻り、ステップＳＮ５１９にて試射試験実行処理（図３５１）及び管理実行処理（図３５４）を実行した後、ＣＡＬＬＳ命令により、上記第９４の実施形態における第１タイマ割込み処理（図３５０）のステップＳＮ２２５と同様に、ポート出力処理を実行して（ステップＳＮ５２０）、本第１タイマ割込み処理（図３５３）を終了する。ポート出力処理の処理内容は、上記第９４の実施形態において既に説明したとおりである。なお、ステップＳＮ５２０において、上記第９４の実施形態と同様に、コール命令（ＣＡＬＬ命令）により、ポート出力処理を実行する構成としてもよい。

【４６３９】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【４６４０】

ＣＡＬＬＩ命令により試射試験実行処理（図３５１）及び管理実行処理（図３５４）を実行する構成であることにより、一の命令（「ＣＡＬＬＩ」）により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させ、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止して、試射試験実行処理（図３５１）に対応するプログラムを開始させることができるとともに、当該試射試験実行処理（図３５１）の終了後に、管理実行処理（図３５４）に対応するプログラムを開始させることができる。このため、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止するための命令と、試射試験実行処理（図３５１）のプログラムを開始するための命令と、管理実行処理（図３５４）のプログラムを開始するための命令とを個別に設ける場合と比較して、試射試験実行処理（図３５１）及び管理実行処理（図３５４）を実行するために第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４６４１】

管理実行処理（図３５４）の最後のステップであるステップＳＮ６０９にてＲＥＴＩ命令を実行する構成であることにより、一の命令（「ＲＥＴＩ」）により、試射試験実行処理（図３５１）の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させることができるとともに、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えることができる。このため、試射試験実行処理（図３５１）の実行前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための命令とを個別に設ける場合と比較して、管理実行処理（図３５４）に対応する処理のプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、管理実行処理（図３５４）に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４６４２】

特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３５３）の中で、非特定制御に対応する処理である試射試験実行処理（図３５１）及び管理実行処理（図３５４）が連

続して実行される構成である。これにより、第１タイマ割込み処理（図３５３）において、特定制御に対応する処理から非特定制御に対応する処理への切り換え、及び非特定制御に対応する処理から特定制御に対応する処理への復帰の回数を１回に抑えることができる。よって、非特定制御に対応する処理を実行するための主側ＣＰＵ６３における処理負荷を軽減することができる。非特定制御に対応する処理である試射試験実行処理（図３５１）及び管理実行処理（図３５４）が連続して実行される構成であることにより、試射試験実行処理（図３５１）の最後でＲＥＴＩ命令を実行することなく管理実行処理（図３５４）を実行し、当該管理実行処理の最後でＲＥＴＩ命令を実行する構成とすることができる。これにより、試射試験実行処理（図３５１）に対応するプログラムにＲＥＴＩ命令を設定することを不要とすることができる。よって、試射試験実行処理（図３５１）に対応するプログラムを記憶するための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４６４３】

なお、管理実行処理（図３５４）の最後のステップであるステップＳＮ６０９にてＲＥＴＩ命令が実行される構成に代えて、ポップ命令及びＥＩ命令が実行される構成としてもよい。具体的には、管理実行処理（図３５４）にて、ステップＳＮ６０８の処理が終了した後、まず「ＰＯＰ　ＰＳＷ」として、ポップ命令により、試射試験実行処理（図３５１）の開始前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させる。これにより、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が、試射試験実行処理（図３５１）の開始前の情報に復帰することとなる。その後、「ＥＩ」として、ＥＩ命令を実行する。ＥＩ命令が実行されることにより、第１タイマ割込み処理（図３５３）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための設定が行われる。これにより、第１タイマ割込み処理（図３５３）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の新たな実行が可能となる。このように、ＲＥＴＩ命令に代えてポップ命令及びＥＩ命令が実行される構成としても、管理実行処理（図３５４）の開始前に特定制御用のスタックエリア２２２に退避させたフラグレジスタの情報を主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタに復帰させることができるとともに、第１タイマ割込み処理（図３５３）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための設定を行うことができる。

【４６４４】

また、管理実行処理（図３５４）の最後のステップ（ステップＳＮ６０９）にてＲＥＴＩ命令を実行する構成に代えて、当該管理実行処理の終了後にＲＥＴＩ命令を実行する構成としてもよい。具体的には、第１タイマ割込み処理（図３５３）のステップＳＮ５１９にて試射試験実行処理（図３５１）及び管理実行処理（図３５４）のステップＳＮ６０１～ステップＳＮ６０８の処理を実行した後、第１タイマ割込み処理（図３５３）に戻り、ステップＳＮ５２０におけるポート出力処理の実行前にＲＥＴＩ命令を実行する。これにより、試射試験実行処理の開始前に退避させた主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を当該フラグレジスタに復帰させることができるとともに、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の新たな実行を可能とすることができる。

【４６４５】

また、第１タイマ割込み処理（図３５３）のステップＳＮ５１９にて、ＣＡＬＬＩ命令により、管理実行処理→試射試験実行処理の順番で管理実行処理及び試射試験実行処理が実行される構成としてもよい。本構成においても、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させるとともに、第１タイマ割込み処理（図３５３）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止した後、非特定制御に対応する処理である管理実行処理及び試射試験実行処理を連続的に実行することができる。その後、特定制御用のスタックエリア２２２に退避させていた主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を復帰させ、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の割込みを許可する。これにより、第１タイマ割込み処理（図３５３）において、特定制御に対応する処理から非特定制御に対応する処理への切り換え、及び非特定制御に対応する処理から

特定制御に対応する処理への復帰の回数を１回に抑えることができる。
【４６４６】
＜第９６の実施形態＞
本実施形態では合計個数データに対応する情報の表示態様が上記第９３の実施形態と相違している。以下、上記第９３の実施形態と相違している構成について説明する。なお、上記第９３の実施形態と同一の構成については基本的にその説明を省略する。
【４６４７】
図３５５（ａ）は本実施形態における遊技盤２４の正面図である。遊技領域ＰＡにおいて遊技球が通過しない領域である右下の隅部には、上記第１の実施形態における特図ユニット３７（図３）に代えて特図ユニット６４１が設けられているとともに、上記第１の実施形態における普図ユニット３８（図３）に代えて普図ユニット６４２が設けられている。
【４６４８】
特図ユニット６４１には、発光可能な８個のＬＥＤが横一列に並べられた特図表示部６４１ａが設けられている。特図表示部６４１ａの表示領域は図柄表示装置４１の表示面４１ａよりも狭い。特図表示部３７ａでは、第１作動口３３への入賞又は第２作動口３４への入賞をトリガとして当たり抽選が行われることで変動表示又は所定の表示が行われる。そして、抽選結果に対応した結果表示が行われる。これらの変動表示、所定の表示及び結果表示は、特図表示部３７ａにおける８個のＬＥＤの発光制御が行われることにより実行される。
【４６４９】
特図ユニット６４１において、特図表示部６４１ａの下方には、発光可能な４個のＬＥＤが横一列に並べられた特図保留表示部６４１ｂが設けられている。遊技球が第１作動口３３又は第２作動口３４に入賞した個数は最大４個まで保留され、特図保留表示部６４１ｂのＬＥＤの点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。
【４６５０】
普図ユニット６４２は、特図ユニット６４１の下方に設けられている。普図ユニット６４２には、発光可能な８個のＬＥＤが横一列に並べられた普図表示部６４２ａが設けられている。上記第１の実施形態と同様に、スルーゲート３５への入賞をトリガとして内部抽選が行われるとともに、普図表示部６４２ａにて変動表示が行われる。そして、内部抽選の結果が電役開放当選であり当該結果に対応した停止結果が表示されて普図表示部６４２ａの変動表示が終了された場合に、普電役物３４ａが所定の態様で開放状態となる普電開放状態へ移行する。当該変動表示は、普図表示部６４２ａにおける８個のＬＥＤの発光制御が行われることにより実行される。
【４６５１】
普図ユニット６４２において、普図表示部６４２ａの下方には、発光可能な４個のＬＥＤが横一列に並べられた普図保留表示部６４２ｂが設けられている。遊技球がスルーゲート３５に入賞した個数は最大４個まで保留され、普図保留表示部６４２ｂの点灯によってその保留個数が表示されるようになっている。
【４６５２】
上記第９３の実施形態において既に説明したとおり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に直近のベース値が表示されている状況においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われた場合、合計個数データにおける上位４桁の数字が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示される合計個数情報の表示が行われる。上記第９３の実施形態において既に説明したとおり、合計個数データは「０」～「６５５３５」のいずれかの数値を示す２バイトの数値情報である。
【４６５３】
上記第９３の実施形態において既に説明したとおり、設定値の確認が行われている状況では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われるとともに、設定値の更新が行われて

いる状況では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて設定値を更新している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。このため、設定値の確認が行われている状況及び設定値の更新が行われている状況では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示は行われない。

【４６５４】

本実施形態では、設定値の更新が行われている状況、及び設定値の確認が行われている状況において、特図表示部６４１ａの８個のＬＥＤ及び普図表示部６４２ａの８個のＬＥＤを利用して合計個数データを示す合計個数表示が行われる。これにより、遊技ホールの管理者は、設定値の確認が行われている状況及び設定値の更新が行われている状況においても、合計個数データの情報を把握することができるとともに、直近のベース値についての収束の程度を把握することができる。

【４６５５】

図３５５（ｂ）は合計個数表示が行われている状況における特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａの状態を説明するための説明図である。特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａを利用して行われる合計個数表示では、２バイトデータである合計個数データの下位８ビット（第０～第７ビット）に対応する態様で特図表示部６４１ａにおける８個のＬＥＤの発光制御が行われるとともに、当該合計個数データの上位８ビット（第８ビット～第１５ビット）に対応する態様で普図表示部６４２ａにおける８個のＬＥＤの発光制御が行われる。

【４６５６】

特図表示部６４１ａにおける８個のＬＥＤは、合計個数データの下位８ビット（第０ビット～第７ビット）と１対１で対応している。具体的には、特図表示部６４１ａにおける右からｎ番目（ｎは１～８のいずれかの整数）のＬＥＤは、合計個数データにおける第（ｎ－１）ビットに対応している。また、普図表示部６４２ａにおける８個のＬＥＤは、合計個数データの上位８ビット（第８ビット～第１５ビット）と１対１で対応している。具体的には、普図表示部６４２ａにおける右からｍ番目（ｍは１～８のいずれかの整数）のＬＥＤは、合計個数データにおける第（ｍ＋７）ビットに対応している。合計個数表示では、ＬＥＤに対応するビットの値が「１」である場合に当該ＬＥＤが点灯状態となるとともに、ＬＥＤに対応するビットの値が「０」である場合に当該ＬＥＤが消灯状態となるように特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにおける各ＬＥＤの発光制御が行われる。

【４６５７】

例えば、合計個数データが２進数表記で「０１１１０１０１００１１００００」（１０進数表記で「３００００」）の場合、合計個数データの第４ビット、第５ビット、第８ビット、第１０ビット、及び第１２～第１４ビットの値が「１」であるため、図３５５（ｂ）に示すように、特図表示部６４１ａにおける右から５番目及び６番目のＬＥＤが点灯状態となるとともに、普図表示部６４２ａにおける右から１番目、３番目及び５～７番目のＬＥＤが点灯状態となる。また、合計個数データの第０～第３ビット、第６ビット、第７ビット、第９ビット、第１１ビット、及び第１５ビットの値が「０」であるため、図３５５（ｂ）に示すように、特図表示部６４１ａでは右から１～４番目、７番目及び８番目のＬＥＤが消灯状態となるとともに、普図表示部６４２ａでは右から２番目、４番目及び８番目のＬＥＤが消灯状態となる。

【４６５８】

このように、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにおける合計１６個のＬＥＤを利用して２バイトの合計個数データの全体が２進数で表示される。これにより、合計個数データの全体を把握可能とすることができるとともに、直近のベース値についての収束の程度を把握可能とすることができる。

【４６５９】

上記第３３の実施形態と同様に、主制御基板６１には、特図表示部６４１ａに対応させて第１表示回路２６１（図１１９）が設けられており、特図保留表示部６４１ｂに対応さ

せて第２表示回路２６２（図１１９）が設けられており、普図表示部６４２ａに対応させて第３表示回路２６３（図１１９）が設けられており、普図保留表示部６４２ｂに対応させて第４表示回路２６４（図１１９）が設けられており、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に対応させて第５表示回路２６５（図１１９）が設けられている。そして、主制御基板６１には、これら第１～第５表示回路２６１～２６５の全てに対して共通となるように１個の表示ＩＣ２６６（図１１９）が設けられている。

【４６６０】

上記第３３の実施形態と同様に、特定制御用のワークエリア２２１には、第１表示回路２６１に供給するための表示データが格納される第１表示データバッファ２７１（図１２０（ａ））と、第２表示回路２６２に供給するための表示データが格納される第２表示データバッファ２７２（図１２０（ａ））と、第３表示回路２６３に供給するための表示データが格納される第３表示データバッファ２７３（図１２０（ａ））と、第４表示回路２６４に供給するための表示データが格納される第４表示データバッファ２７４（図１２０（ａ））と、第５表示回路２６５に供給するための表示データが格納される第５表示データバッファ２７５（図１２０（ａ））とが設けられている。

【４６６１】

上記第３３の実施形態と同様に、第１表示データバッファ２７１には特図表示部６４１ａに所定の表示を行わせるための表示データが格納され、第１表示回路２６１に表示データを送信する第２タイマ割込み処理（図３４６）の処理回となった場合には、第１表示データバッファ２７１に格納された表示データが表示ＩＣ２６６に送信される。第２表示データバッファ２７２には特図保留表示部６４１ｂに所定の表示を行わせるための表示データが格納され、第２表示回路２６２に表示データを送信する第２タイマ割込み処理（図３４６）の処理回となった場合には、第２表示データバッファ２７２に格納された表示データが表示ＩＣ２６６に送信される。第３表示データバッファ２７３には普図表示部６４２ａに所定の表示を行わせるための表示データが格納され、第３表示回路２６３に表示データを送信する第２タイマ割込み処理（図３４６）の処理回となった場合には、第３表示データバッファ２７３に格納された表示データが表示ＩＣ２６６に送信される。第４表示データバッファ２７４には普図保留表示部６４２ｂに所定の表示を行わせるための表示データが格納され、第４表示回路２６４に表示データを送信する第２タイマ割込み処理（図３４６）の処理回となった場合には、第４表示データバッファ２７４に格納された表示データが表示ＩＣ２６６に送信される。

【４６６２】

後述する表示制御処理（図３５６）では、設定値の更新が行われている状況、又は設定値の確認が行われている状況である場合、合計個数エリア６３１に格納されている合計個数データの下位８ビットが表示データとして第１表示データバッファ２７１に設定されるとともに、合計個数データの上位８ビットが表示データとして第３表示データバッファ２７３に設定される。これにより、合計個数データの下位８ビットに対応する態様で特図表示部６４１ａにおける８個のＬＥＤの表示制御が行われるとともに、合計個数データの上位８ビットに対応する態様で普図表示部６４２ａにおける８個のＬＥＤの表示制御が行われる。

【４６６３】

このように、２バイトデータである合計個数データの各ビットの値に基づいて当該ビットに対応するＬＥＤの発光状態を制御する構成であることにより、合計個数データをそのまま特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａの表示データとして利用することができる。合計個数データに基づいて特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにおいて合計個数表示を行うための表示データを生成する処理を省略することができるため、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにおいて合計個数表示を実行するための処理構成を簡略化することができるとともに、主側ＣＰＵ６３の処理負荷を軽減することができる。

【４６６４】

次に、主側ＣＰＵ６３にて実行される表示制御処理について図３５６のフローチャート

を参照しながら説明する。なお、表示制御処理は第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８１６にて実行される。また、表示制御処理に対応するプログラムは特定制御用のプログラムに設定されている。

【４６６５】

表示制御処理では、まず特定制御用のワークエリア２２１における設定更新表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＮ７０１）。上記第９３の実施形態と同様に、設定更新表示フラグは、主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理（図１３７）を実行している状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。設定更新表示フラグに「１」がセットされている状況は、設定値更新処理（図１３７）を実行している状況に対応している。ステップＳＮ７０１にて否定判定を行った場合には、特定制御用のワークエリア２２１における設定確認表示フラグに「１」がセットされているか否かを判定する（ステップＳＮ７０２）。上記第９３の実施形態と同様に、設定確認表示フラグは、主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図１３６）を実行している状況であるか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定するためのフラグである。設定確認表示フラグに「１」がセットされている状況は、設定確認用処理（図１３６）を実行している状況に対応している。

【４６６６】

設定値更新処理（図１３７）を実行している状況及び設定確認用処理（図１３６）を実行している状況のいずれでもない場合（ステップＳＮ７０１：ＮＯ，ステップＳＮ７０２：ＮＯ）には、第１表示データバッファ２７１の設定処理を実行する（ステップＳＮ７０３）。第１表示データバッファ２７１の設定処理では、第１タイマ割込み処理（図３３８）における特図特電制御処理（ステップＳＬ８１４）の結果に対応する表示データを第１表示データバッファ２７１に格納する。これにより、特図表示部６４１ａにて特図特電制御処理の結果に対応する所定の表示が行われることとなる。

【４６６７】

その後、第３表示データバッファ２７３の設定処理を実行する（ステップＳＮ７０４）。第３表示データバッファ２７３の設定処理では、第１タイマ割込み処理（図３３８）における普図普電制御処理（ステップＳＬ８１５）の結果に対応する表示データを第３表示データバッファ２７３に格納する。これにより、普図表示部６４２ａにて普図普電制御処理の結果に対応する所定の表示が行われることとなる。

【４６６８】

一方、設定値更新処理（図１３７）が行われている状況である場合（ステップＳＮ７０１：ＹＥＳ）、又は設定確認用処理（図１３６）が行われている状況である場合（ステップＳＮ７０２：ＹＥＳ）には、非特定制御用のワークエリア２２３における合計個数エリア６３１に格納されている合計個数データを把握する（ステップＳＮ７０５）。上記第９３の実施形態において既に説明したとおり、非特定制御用のワークエリア２２３は、特定制御に対応する処理が主側ＣＰＵ６３にて実行される場合には情報の記憶は不可であるものの情報の読み出しは可能である。このため、特定制御用のプログラムを利用して実行されるステップＳＮ７０５において非特定制御用のワークエリア２２３における合計個数エリア６３１に格納されている合計個数データを把握することができる。

【４６６９】

その後、ステップＳＮ７０５にて把握した合計個数データの下位８ビットを表示データとして第１表示データバッファ２７１に格納する（ステップＳＮ７０６）。これにより、合計個数データの下位８ビットの値（「０」又は「１」の情報）に対応する態様で、特図表示部６４１ａにおける８個のＬＥＤの発光制御が行われることとなる。その後、ステップＳＮ７０５にて把握した合計個数データの上位８ビットを表示データとして第３表示データバッファ２７３に格納する（ステップＳＮ７０７）。これにより、合計個数データの上位８ビットの値（「０」又は「１」の情報）に対応する態様で、普図表示部６４２ａにおける８個のＬＥＤの発光制御が行われることとなる。

【４６７０】

ステップＳＮ７０４の処理を実行した場合、又はステップＳＮ７０７の処理を実行した場合には、第２表示データバッファ２７２の設定処理を実行する（ステップＳＮ７０８）。第２表示データバッファ２７２の設定処理では、第１タイマ割込み処理（図３３８）における特図特電制御処理（ステップＳＬ８１４）の結果に対応する表示データを第２表示データバッファ２７２に格納する。これにより、特図保留表示部６４１ｂにて特図特電制御処理の結果に対応する所定の表示が行われることとなる。

【４６７１】

その後、第４表示データバッファ２７４の設定処理を実行する（ステップＳＮ７０９）。第４表示データバッファ２７４の設定処理では、第１タイマ割込み処理（図３３８）における普図普電制御処理（ステップＳＬ８１５）の結果に対応する表示データを第４表示データバッファ２７４に格納する。これにより、普図保留表示部６４２ｂにて普図普電制御処理の結果に対応する所定の表示が行われることとなる。

【４６７２】

その後、第５表示データバッファ２７５の設定処理を実行して（ステップＳＮ７１０）、本表示制御処理を終了する。第５表示データバッファ２７５の設定処理では、非特定制御用のワークエリア２２３の表示対象設定エリア２７６に設定されている表示データを把握し、その把握した表示データを第５表示データバッファ２７５に格納する。これにより、設定値を確認している状況であれば第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われるとともに、設定値を更新している状況であれば第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて設定値を更新している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。また、設定値を確認している状況及び設定値を更新している状況のいずれでもない場合には、現状エリア３１１におけるベース値、第１履歴エリア３１２におけるベース値、第２履歴エリア３１３におけるベース値、第３履歴エリア３１４におけるベース値、及び合計個数情報のうち、報知対象となっている情報に対応する表示が第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる。既に説明したとおり、非特定制御用のワークエリア２２３は、特定制御に対応する処理が主側ＣＰＵ６３にて実行される場合には情報の記憶は不可であるものの情報の読み出しは可能である。このため、特定制御用のプログラムを利用して実行されるステップＳＮ７１０において非特定制御用のワークエリア２２３の表示対象設定エリア２７６に格納されている表示データを把握することができる。

【４６７３】

以上詳述した本実施形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【４６７４】

特図表示部６４１ａの８個のＬＥＤ及び普図表示部６４２ａの８個のＬＥＤを利用して合計個数データを示す合計個数表示が行われる。これにより、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにて行われる合計個数表示に基づいて、合計個数データの情報を把握可能とすることができるとともに、直近のベース値についての収束の程度を把握可能することができる。遊技ホールの管理者は、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにて行われる合計個数表示に基づいて合計個数データがシフト基準個数（具体的には６００００個）と比較して少ないことを把握した場合に直近のベース値についての収束の程度が低いことを把握することができるとともに、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにて行われる合計個数表示に基づいて合計個数データがシフト基準個数（具体的には６００００個）に近いことを把握した場合に直近のベース値についての収束の程度が高いことを把握することができる。

【４６７５】

２バイトデータである合計個数データの各ビットの値に基づいて当該ビットに対応するＬＥＤの発光状態を制御する構成である。このため、合計個数データをそのまま特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａの表示データとして利用することができる。合計個数データに基づいて特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにおいて合計個数表示を行うための表示データを生成する処理を省略することができるため、特図表示部６４１ａ及

び普図表示部６４２ａにおいて合計個数表示を実行するための処理構成を簡略化することができるとともに、主側ＣＰＵ６３の処理負荷を軽減することができる。

【４６７６】

特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにおける合計１６個のＬＥＤを利用して２バイトの合計個数データの全体が２進数で表示される。これにより、合計個数データの全体を把握可能とすることができるとともに、直近のベース値についての収束の程度を把握可能とすることができる。

【４６７７】

特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａでは、設定値の更新が行われている状況及び設定値の確認が行われている状況において、特図表示部６４１ａの８個のＬＥＤ及び普図表示部６４２ａの８個のＬＥＤを利用して合計個数データを示す合計個数表示が行われる。このため、遊技ホールの管理者は、設定値の更新が行われている状況及び設定値の確認が行われている状況において、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａの表示に基づいて合計個数データの情報を把握することができるとともに、直近のベース値についての収束の程度を把握することができる。

【４６７８】

設定値の更新が行われている状況では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて設定値を更新している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。このため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて設定値の更新に対応する表示が行われている状況において、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａの表示に基づいて合計個数データの情報を把握することができるとともに、直近のベース値についての収束の程度を把握することができる。また、設定値の確認が行われている状況では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる。このため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて設定値の確認に対応する表示が行われている状況において、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａの表示に基づいて合計個数データの情報を把握することができるとともに、直近のベース値についての収束の程度を把握することができる。

【４６７９】

なお、８個のＬＥＤが横一列に並べられた特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａに代えて、「８」の字を生じさせるように配列された７個の表示用セグメントと、当該７個の表示用セグメントの右下の位置に円形状の発光領域として設けられた１個の表示用セグメントとを有する特図表示部及び普図表示部が設けられている構成としてもよい。具体的には、特図表示部及び普図表示部は、いずれも８個の表示用セグメントを有している。８個の表示用セグメントのうち７個の表示用セグメントはいずれも同一形状及び同一サイズとなる棒状の発光領域となっており、「８」の字を生じさせるように配列されている。一方、１個の表示用セグメントは円形状の発光領域となっており、「８」の字状に配列されている７個の表示用セグメントに対して右下の位置に設けられている。合計個数データの下位８ビットは、特図表示部における８個の表示用セグメントと１対１で対応している。特図表示部における各表示用セグメントは、合計個数データの下位８ビットのうち対応するビットの値が「１」であれば点灯状態となり、対応するビットの値が「０」であれば消灯状態となる。また、合計個数データの上位８ビットは、普図表示部における８個の表示用セグメントと１対１で対応している。普図表示部における各表示用セグメントは、合計個数データの上位８ビットのうち対応するビットの値が「１」であれば点灯状態となり、対応するビットの値が「０」であれば消灯状態となる。当該構成としても、特図表示部及び普図表示部において合計個数データの表示を行う場合に、合計個数データの下位８ビットを利用して特図表示部の表示制御を実行することができるとともに、合計個数データの上位８ビットを利用して普図表示部の表示制御を実行することができる。また、特図特電制御処理（第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８１４）の結果に対応する表示、及び普図普電制御処理（第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８１５）の結果に対応する表示を８個の表示用セグメントを利用して行うことができる。

【４６８０】
　また、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａを利用して合計個数データが２進数として表示される構成に代えて、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａのＬＥＤが合計個数データに対応する数だけ点灯する構成としてもよい。具体的には、「０」～「６５５３５」のいずれかの数値情報である合計個数データを「４０９６」で除算した場合における商に対応する数だけ特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにおけるＬＥＤが点灯する。合計個数データが「４０９６×（ｐ－１）」～「４０９６×ｐ」の数値範囲である場合（ｐは１～１６のいずれかの整数）にｐ個のＬＥＤが点灯する。「ｐ」が１～８の数値範囲である場合には、特図表示部６４１ａにおける８個のＬＥＤのうち右端から「ｐ」個のＬＥＤが点灯する。また、「ｐ」が９～１６の数値範囲である場合には、特図表示部６４１ａにおける８個のＬＥＤが全て点灯するとともに、普図表示部６４２ａにおける８個のＬＥＤのうち右端から「ｐ－８」個のＬＥＤが点灯する。これにより、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａを利用して行われる合計個数データの表示を分かり易いものとすることができる。
【４６８１】
　また、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにおけるＬＥＤの数は８個に限定されることはなく、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにおけるＬＥＤの数が９個以上である構成としてもよく、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにおけるＬＥＤの数が８個未満である構成としてもよい。例えば、上記第９６の実施形態における特図表示部６４１ａに代えて６個のＬＥＤを有する特図表示部が設けられているとともに、上記第９６の実施形態における普図表示部６４２ａに代えて６個のＬＥＤを有する普図表示部が設けられている。特図表示部における６個のＬＥＤは、合計個数データの第４ビット～第９ビットに対応しているとともに、普図表示部における６個のＬＥＤは、合計個数データの第１０～第１５ビットに対応している。特図表示部及び普図表示部における合計１２個のＬＥＤは、合計個数データにおいて対応するビットの値が「１」である場合に点灯状態となるとともに、合計個数データにおいて対応するビットの値が「０」である場合に消灯状態となる。これにより、特図表示部及び普図表示部における表示に基づいて合計個数データの上位１２ビットを把握可能とすることができる。よって、直近のベース値についての収束の程度を大まかに把握可能とすることができる。
【４６８２】
　また、前扉枠１４が開放状態であることに基づいて、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにて合計個数表示が行われる構成としてもよい。これにより、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにて合計個数表示を行わせるための操作を容易化することができる。よって、遊技ホールの管理者によるベース値の監視負担を軽減することができる。
【４６８３】
　＜他の実施形態＞
　なお、上述した実施形態の記載内容に限定されず、本発明の趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変形改良が可能である。例えば以下のように変更してもよい。ちなみに、以下の別形態の構成を、上記実施形態の構成に対して、個別に適用してもよく、組合せて適用してもよい。
【４６８４】
　（１）上記第１～第１４の実施形態では、開閉実行モードの発生頻度を示すパラメータとして、単位遊技回当たりの開閉実行モードの発生回数を演算する構成としたが、これに加えて又は代えて、開閉実行モードの発生回数を遊技領域ＰＡからの遊技球の総排出個数で除算した結果を演算する構成としてもよい。また、これに加えて又は代えて、第１作動口３３への入球個数と第２作動口３４への入球個数との合計個数で開閉実行モードの発生回数を除算した結果を演算する構成としてもよい。また、当該構成を上記第１５～第９６の実施形態に適用してもよい。
【４６８５】

（２）上記第１～第１４の実施形態では、高頻度サポートモードの発生頻度を示すパラメータとして、単位遊技回当たりの高頻度サポートモードの発生回数及び開閉実行モードの発生回数に対する高頻度サポートモードの発生回数の割合を演算する構成としたが、これに加えて又は代えて、高頻度サポートモードの発生回数を遊技領域ＰＡからの遊技球の総排出個数で除算した結果を演算する構成としてもよい。また、これに加えて又は代えて、第１作動口３３への入球個数と第２作動口３４への入球個数との合計個数で高頻度サポートモードの発生回数を除算した結果を演算する構成としてもよい。また、当該構成を上記第１５～第９６の実施形態に適用してもよい。

【４６８６】

（３）開閉実行モードの発生契機となる遊技結果として大当たり結果だけではなく小当たり結果が存在している構成としてもよい。小当たり結果となった場合には開閉実行モードが発生するものの開閉実行モードの前後で当否抽選モード及びサポートモードが変更されない。また、小当たり結果となった開閉実行モードでは低頻度入賞モードとなる構成としてもよい。この場合、大当たり結果が発生した場合には大当たり結果の発生に対応する履歴情報が履歴用メモリ１１７に記憶され、小当たり結果が発生した場合には小当たり結果の発生に対応する履歴情報が履歴用メモリ１１７に記憶される構成としてもよい。また、当該構成において、履歴用メモリ１１７に記憶された履歴情報を利用することにより大当たり結果の発生頻度を示すパラメータと小当たり結果の発生頻度を示すパラメータとが演算される構成としてもよい。また、当該構成を上記第１５～第９６の実施形態に適用してもよい。

【４６８７】

また、小当たり結果に当選する確率がパチンコ機１０の設定状態に応じて変化する構成としてもよく、変化しない構成としてもよい。小当たり結果に当選する確率がパチンコ機１０の設定状態に応じて変化する構成の場合、高い設定値ほど小当たり結果に当選する確率が高い構成としてもよく、高い設定値ほど小当たり結果に当選する確率が低い構成としてもよい。

【４６８８】

また、小当たり結果が存在している構成において、第１作動口３３に遊技球が入球した場合に取得される保留情報と第２作動口３４に遊技球が入球した場合に取得される保留情報とで大当たり結果となった場合における大当たり結果の種類の振分割合が相違する構成とするとともに、第１作動口３３への入球を狙う場合には遊技領域ＰＡにおいて可変表示ユニット３６よりも左側の領域を遊技球が流下するように発射操作が行われ、第２作動口３４への入球を狙う場合には遊技領域ＰＡにおいて可変表示ユニット３６よりも右側の領域を遊技球が流下するように発射操作が行われる構成とし、さらに第１作動口３３に遊技球が入球した場合に取得された保留情報に基づき小当たり結果が発生し得る構成としてもよい。

【４６８９】

当該構成において遊技履歴の管理結果として、以下の第５１パラメータが存在している構成としてもよい。なお、第１作動口３３への入球に基づく小当たり結果を契機とした開閉実行モードの実行期間と、開閉実行モードではなく低頻度サポートモードである実行期間とを合計した期間を通常期間とする。また、通常期間におけるアウト口２４ａへの入球個数を入球個数Ｋ５１と、通常期間における一般入賞口３１への入球個数を入球個数Ｋ５２とし、通常期間における特電入賞装置３２への入球個数を入球個数Ｋ５３とし、通常期間における第１作動口３３への入球個数を入球個数Ｋ５４とし、通常期間における第２作動口３４への入球個数を入球個数Ｋ５５とする。

・第５１パラメータ：通常期間における遊技球の合計払出個数（Ｋ５２×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ５３×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ５４×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ５５×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／通常期間において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ５１＋Ｋ５２＋Ｋ５３＋Ｋ５４＋Ｋ５５）の割合

上記第５１パラメータが演算される構成において、小当たり結果の当選確率がパチンコ機１０の設定状態に応じて変動する場合にはパチンコ機１０の設定状態に応じて第５１パラメータの正常値は変動することとなる。したがって、第５１パラメータを算出するために利用される履歴情報はパチンコ機１０の設定状態が変更された場合には消去されることが好ましい。一方、小当たり結果の当選確率がパチンコ機１０の設定状態に応じて変動しない場合にはパチンコ機１０の設定状態に応じて第５１パラメータの正常値は変動しない。したがって、第５１パラメータを算出するために利用される履歴情報はパチンコ機１０の設定状態が変更されたとしても消去されないことが好ましい。

【４６９０】

（４）上記第１～第１４の実施形態において、いずれの種類の大当たり結果が発生した場合であっても開閉実行モードの発生に対応する履歴情報が履歴用メモリ１１７に記憶される構成に代えて、大当たり結果の種類に対応する履歴情報が履歴用メモリ１１７に記憶される構成としてもよい。この場合、大当たり結果の各種類のそれぞれについて発生頻度を示すパラメータが演算される構成としてもよい。また、当該構成を上記第１５～第９６の実施形態に適用してもよい。

【４６９１】

（５）上記第１～第１４の実施形態では、定期的に各種パラメータ（第１～第８パラメータ、第１１～第１８パラメータ、第２１～第２６パラメータ、第３１パラメータ及び第４１～第４２パラメータ）が演算される構成としたが、これに限定されることはなく、例えば遊技領域ＰＡからの遊技球の総排出個数が演算契機個数（例えば１００００個）となった場合に各種パラメータが演算される構成としてもよく、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止された場合に各種パラメータが演算される構成としてもよく、遊技回の実行回数が演算契機回数（例えば１０００回）となった場合に各種パラメータが演算される構成としてもよい。この場合、各種パラメータが演算されたタイミングで履歴用メモリ１１７が「０」クリアされる構成としてもよい。また、当該構成を上記第１５～第９６の実施形態に適用してもよい。

【４６９２】

（６）上記第１～第１４の実施形態では、各種パラメータの演算タイミングとなる度に、第１～第８パラメータ、第１１～第１８パラメータ、第２１～第２６パラメータ、第３１パラメータ及び第４１～第４２パラメータの全てが演算される構成としたが、これに限定されることはなく、１回の演算タイミングでは上記各種パラメータのうちの一部のみが演算対象となり、演算タイミングとなる度に演算対象のパラメータグループが順次変更される構成としてもよい。例えば、一の演算タイミングでは第１～第８パラメータが演算され、次の演算タイミングでは第１１～第１８パラメータが演算され、次の演算タイミングでは第２１～第２６パラメータが演算され、次の演算タイミングでは第３１パラメータ及び第４１～第４２パラメータが演算され、その後は演算タイミングとなる度に上記順序による演算対象の変更が繰り返される構成としてもよい。これにより、一の演算タイミングとなった場合にパラメータを演算するための処理負荷を軽減することが可能となる。また、当該構成を上記第１５～第９６の実施形態に適用してもよい。

【４６９３】

（７）上記第１～第１４の実施形態において、遊技が行われている状況であることを条件として履歴用メモリ１１７の履歴情報を利用した各種パラメータの演算が実行される構成としてもよい。例えば遊技領域ＰＡに遊技球が供給されていることを条件として各種パラメータの演算が実行される構成としてもよい。これにより、遊技が行われていないにも関わらず各種パラメータの演算が無駄に繰り返されてしまわないようにすることが可能となる。また、当該構成を上記第１５～第９６の実施形態に適用してもよい。

【４６９４】

（８）上記第１～第１４の実施形態において、主側ＣＰＵ６３とは別に管理用ＩＣ６６が設けられている構成に限定されることはなく、管理用ＩＣ６６の機能が主側ＣＰＵ６３にて果たされる構成としてもよい。この場合、対応関係情報は主側ＲＯＭ６４に予め記憶

されることとなる。また、主側ＲＡＭ６５とは別に履歴用メモリ１１７、演算結果用メモリ１３１及び別保存用メモリ１７１が設けられている構成としてもよく、主側ＲＡＭ６５において履歴用メモリ１１７、演算結果用メモリ１３１及び別保存用メモリ１７１の機能が果たされる構成としてもよい。主側ＲＡＭ６５において履歴用メモリ１１７、演算結果用メモリ１３１及び別保存用メモリ１７１の機能が果たされる構成においては主側ＲＡＭ６５のクリア処理（ステップＳ１０５、ステップＳ１１７）が実行された場合に、履歴用メモリ１１７、演算結果用メモリ１３１及び別保存用メモリ１７１のそれぞれに対応するエリアの一部又は全部が「０」クリアされる構成としてもよく、履歴用メモリ１１７、演算結果用メモリ１３１及び別保存用メモリ１７１のそれぞれに対応するエリアは「０」クリアの対象から除外され、上記各実施形態における対応するクリア条件が成立した場合に「０」クリアされる構成としてもよい。また、主側ＲＡＭ６５において履歴用メモリ１１７、演算結果用メモリ１３１及び別保存用メモリ１７１のそれぞれに対応するエリアとそれ以外のエリアとでクリア処理を実行させるための手動操作内容が異なる構成としてもよい。また、管理用ＩＣ６６の機能が音声発光制御装置８１にて果たされる構成としてもよい。

【４６９５】

（９）上記第１～第１４の実施形態においてパチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合には履歴用メモリ１１７における履歴情報は消去されることなく記憶保持される一方、演算結果用メモリ１３１に記憶されている各種パラメータが消去される構成としてもよい。これにより、設定状態の新たな設定が行われた後に、当該設定が行われる前に演算された各種パラメータの報知が行われないようにすることが可能となる。また、当該構成を上記第１５～第９６の実施形態に適用してもよい。

【４６９６】

（１０）上記第３～第５の実施形態において、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたとしても（すなわち主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理が実行されたとしても）、当該設定の前後で設定値が変更されなかった場合には履歴用メモリ１１７のクリア処理が実行されない構成としてもよい。これにより、設定値が変更されていないにも関わらず履歴用メモリ１１７の履歴情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。

【４６９７】

本構成において、主側ＲＡＭ６５における設定値を記憶するためのエリアは全部クリア処理（ステップＳ１１７）が実行されたとしても「０」クリアの対象外とする構成とすることで、設定値更新処理（ステップＳ１１８）の前後で設定値が変更されたか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定することが可能となる。この場合、主側ＣＰＵ６３にて設定値が変更されていないことを特定した場合には管理側ＣＰＵ１１２にて設定更新認識用処理が実行されないように当該管理側ＣＰＵ１１２に信号出力を行い、主側ＣＰＵ６３にて設定値が変更されたことを特定した場合には管理側ＣＰＵ１１２にて設定更新認識用処理が実行されるように当該管理側ＣＰＵ１１２に信号出力を行う構成としてもよい。

【４６９８】

また、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたことを示す信号を主側ＣＰＵ６３から受信した場合には管理側ＣＰＵ１１２にて履歴用メモリ１１７に記憶された履歴情報を参照することで設定値が変更されたか否かを特定する構成としてもよい。この場合、管理側ＣＰＵ１１２にて設定値が変更されていないことを特定した場合には履歴用メモリ１１７のクリア処理を実行しないようにし、管理側ＣＰＵ１１２にて設定値が変更されたことを特定した場合には履歴用メモリ１１７のクリア処理を実行するようにすることが可能となる。

【４６９９】

（１１）上記第３～第５の実施形態において、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたとしても（すなわち主側ＣＰＵ６３にて設定値更新処理が実行されたとしても）、当該設定の前後で設定値が変更されなかった場合には当該設定状態の新たな設定を契機とした各種パラメータの演算処理が実行されない構成としてもよい。これにより、設定

値が変更されていないにも関わらず、設定状態の新たな設定を契機として各種パラメータが演算されてしまわないようにすることが可能となる。

【４７００】

本構成において、主側ＲＡＭ６５における設定値を記憶するためのエリアは全部クリア処理（ステップＳ１１７）が実行されたとしても「０」クリアの対象外とする構成とすることで、設定値更新処理（ステップＳ１１８）の前後で設定値が変更されたか否かを主側ＣＰＵ６３にて特定することが可能となる。この場合、主側ＣＰＵ６３にて設定値が変更されていないことを特定した場合には管理側ＣＰＵ１１２にて設定更新認識用処理が実行されないように当該管理側ＣＰＵ１１２に信号出力を行い、主側ＣＰＵ６３にて設定値が変更されたことを特定した場合には管理側ＣＰＵ１１２にて設定更新認識用処理が実行されるように当該管理側ＣＰＵ１１２に信号出力を行う構成としてもよい。

【４７０１】

また、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われたことを示す信号を主側ＣＰＵ６３から受信した場合には管理側ＣＰＵ１１２にて履歴用メモリ１１７に記憶された履歴情報を参照することで設定値が変更されたか否かを特定する構成としてもよい。この場合、管理側ＣＰＵ１１２にて設定値が変更されていないことを特定した場合には今回の設定状態の新たな設定を契機とした各種パラメータの演算を実行しないようにし、管理側ＣＰＵ１１２にて設定値が変更されたことを特定した場合には今回の設定状態の新たな設定を契機とした各種パラメータの演算を実行するようにすることが可能となる。

【４７０２】

（１２）第３～第５の実施形態において、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた場合にはその時点で各種演算処理（ステップＳ１８０７）にて各種パラメータが演算されるのではなく、その時点で演算結果用メモリ１３１に記憶されている各種パラメータを別保存用メモリ１７１の第１～第５別保存エリア１７２～１７６のうち記憶対象となっているエリアに記憶させるとともに、演算結果用メモリ１３１に記憶されている情報を「０」クリアする構成としてもよい。この場合、パチンコ機１０の設定状態の新たな設定が行われた状況下において各種パラメータを演算する必要がないため、別保存用メモリ１７１への各種パラメータの記憶を早期に完了させることが可能となる。

【４７０３】

（１３）第３～第５の実施形態において、別保存用メモリ１７１の第１～第５別保存エリア１７２～１７６に記憶された各種パラメータの内容が、所定の表示開始操作が行われることにより第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃ又は他の表示装置にて表示される構成としてもよい。所定の表示開始操作は、専用の操作部が操作されることとしてもよく、他の操作を行うための操作部に対して予め定められた専用の操作が行われることとしてもよい。これにより、別保存用メモリ１７１に記憶された各種パラメータを簡易的に確認することが可能となる。

【４７０４】

（１４）アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４の全てが履歴情報（又は入球履歴）の格納対象となる構成としたが、これに限定されることはなく、アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４のうちの一部のみが履歴情報の格納対象となっている構成としてもよい。例えば、一般入賞口３１、特電入賞装置３２及び第２作動口３４のみが履歴情報の格納対象となっている構成としてもよく、一般入賞口３１のみが履歴情報の格納対象となっている構成としていもよい。この場合であっても、履歴情報の格納対象となっている入球部について所定の期間における遊技球の入球態様を把握することが可能となる。

【４７０５】

（１５）第１入賞口検知センサ４２ａ、第２入賞口検知センサ４３ａ及び第３入賞口検知センサ４４ａのそれぞれに対応させて、遊技球の入球結果に対応する情報を送信するための信号経路１１８ａ～１１８ｃが設定されている構成としたが、これに限定されることはなく、同一種類の入球部についての入球結果に対応する情報は、同一種類の入球部が複

数存在しているとともにそれに合わせて入球検知センサが複数存在している構成であっても、１種類の情報として送信される構成としてもよい。これにより、主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に送信される情報の種類数を抑えることが可能となる。

【４７０６】

（１６）上記第１～第１４の実施形態では主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に送信される情報の種類と各バッファ１２２ａ～１２２ｏとの対応関係を示す対応関係情報が、主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に送信される構成としたが、これに限定されることはなく、対応関係情報が管理用ＩＣ６６において予め記憶されている構成としてもよい。この場合、対応関係情報を管理用ＩＣ６６に認識させるための処理を実行する必要がなくなるため、主側ＣＰＵ６３の処理負荷を軽減することが可能となる。

【４７０７】

（１７）上記第１～第１４の実施形態では主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に送信される情報の種類と各バッファ１２２ａ～１２２ｏとの対応関係を示す対応関係情報の主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６への送信が、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始時に行われる構成としたが、これに限定されることはなく、例えば主側ＣＰＵ６３と管理用ＩＣ６６とを双方向通信可能とし、管理用ＩＣ６６から対応関係情報の送信を要求する信号を受信した場合に主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に対応関係情報が送信される構成としてもよい。この場合、対応関係用メモリ１１６を不揮発性メモリとして設けるとともに読み書き両用として利用する構成とし、パチンコ機１０の出荷後において主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に提供された対応関係情報は主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても対応関係用メモリ１１６に記憶保持される構成とする。これにより、対応関係情報が送信される頻度を少なくすることが可能となる。

【４７０８】

（１８）上記第１～第１４の実施形態では主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に送信される情報の種類と各バッファ１２２ａ～１２２ｏとの対応関係を示す対応関係情報の主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６への送信が、各入球検知センサ４２ａ～４８ａの検知結果の情報を送信するための信号経路１１８ａ～１１８ｇを利用して行われる構成としたが、これに限定されることはなく、対応関係情報を主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６に送信するための専用の信号経路が設けられている構成としてもよい。これにより、管理用ＩＣ６６は、いずれの種類の情報を主側ＣＰＵ６３から受信しているのかを、その情報を受信するバッファ１２２ａ～１２２ｏの種類によって把握することが可能となる。

【４７０９】

（１９）上記第１～第１４の実施形態では主側ＣＰＵ６３から管理用ＩＣ６６には情報が送信される一方、管理用ＩＣ６６から主側ＣＰＵ６３に情報が送信されない構成としたが、これに限定されることはなく、管理用ＩＣ６６から主側ＣＰＵ６３に情報が送信される構成としてもよい。例えば、履歴情報に基づいて管理側ＣＰＵ１１２にて算出された各種パラメータが主側ＣＰＵ６３に送信される構成としてもよい。この場合、主側ＣＰＵ６３はその受信した各種パラメータの内容に対応する報知が行われるようにするために報知手段の報知制御を直接的に実行する構成としてもよく、主側ＣＰＵ６３がその受信した各種パラメータの内容に対応するコマンドを音声発光制御装置８１に送信することで、図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４を利用して各種パラメータの内容に対応する報知が実行されるようにする構成としてもよい。

【４７１０】

（２０）上記第１～第１４の実施形態において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に、履歴用メモリ１１７に記憶された履歴情報に基づいて主側ＣＰＵ６３又は管理側ＣＰＵ１１２にて各種パラメータが算出され、その算出した各種パラメータの内容が図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４などを利用して報知される構成としてもよい。この場合、遊技ホールの営業開始時に直前の営業日における遊技領域ＰＡの遊技球の入球態様が正常であったか否かを確認することが可能となる。また、当該構成を上記第１５～第９６の実施形態に適用してもよい。

【４７１１】
（２１）上記第１～第１４の実施形態において履歴用メモリ１１７に記憶された履歴情報に基づいて算出された各種パラメータが異常な結果である場合、禁止解除操作が行われるまでそのパチンコ機１０にて遊技を開始することができない構成としてもよい。遊技を開始することができないようにする構成としては、例えば遊技球の発射が禁止される構成としてもよく、各入球検知センサ４２ａ～４９ａが無効化される構成としてもよく、第１作動口３３又は第２作動口３４への入賞が発生したとしても当否判定処理が実行されない構成としてもよい。また、禁止解除操作としては、リセットボタン６８ｃが押圧操作された状態でパチンコ機１０の電源を再投入する操作としてもよく、遊技機本体１２を外枠１１に対して開放させた場合に操作可能となる操作手段の操作としてもよい。これにより、遊技領域ＰＡの遊技球の入球態様が異常な態様である状況でそのまま遊技が行われてしまうことを阻止することが可能となる。また、開閉実行モードの発生頻度が異常な態様である状況でそのまま遊技が行われてしまうことを阻止することが可能となる。また、当該構成を上記第１５～第９６の実施形態に適用してもよい。
【４７１２】
（２２）上記第１～第１４の実施形態において入球検知センサ４２ａ～４８ａの検知結果に対応する履歴情報が履歴用メモリ１１７に記憶されるものの、その履歴情報を利用した各種パラメータの演算は主側ＣＰＵ６３及び管理側ＣＰＵ１１２のいずれにおいても実行されない構成としてもよい。この場合、読み取り用端子６８ｄに電気的に接続された外部装置にて履歴情報が読み取られ、当該読み取り作業の作業者によってその読み取った履歴情報を利用した各種パラメータの演算が実行される構成としてもよく、外部装置においてその読み取った履歴情報を利用した各種パラメータの演算が実行される構成としてもよい。この場合、主側ＣＰＵ６３及び管理側ＣＰＵ１１２の処理負荷を軽減することが可能となる。また、当該構成を上記第１５～第９６の実施形態に適用してもよい。
【４７１３】
（２３）上記第１～第１４の実施形態において管理用ＩＣ６６には主側ＣＰＵ６３とは別電源が設けられており、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても、管理用ＩＣ６６において履歴情報を利用した各種パラメータの演算や、履歴情報又は各種パラメータの情報出力を行うことが可能な構成としてもよい。これにより、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されている状況であっても、履歴情報や各種パラメータを外部装置にて読み取ることが可能となる。
【４７１４】
（２４）上記第１～第１４の実施形態では主側ＲＯＭ６４からプログラムを読み取るために利用される読み取り用端子６８ｄが、履歴情報又は各種パラメータを外部装置にて読み取るために利用される端子として兼用される構成としたが、これに限定されることはなく、履歴情報又は各種パラメータを外部装置にて読み取るために利用される端子が、主側ＲＯＭ６４からプログラムを読み取るための読み取り用端子６８ｄとは別に設けられている構成としてもよい。この場合、履歴情報又は各種パラメータを読み取るために利用される端子は、ＭＰＵ６２に設けられていてもよく、主制御基板６１におけるＭＰＵ６２とは別の位置に設けられている構成としてもよい。
【４７１５】
（２５）上記第１～第１４の実施形態において対応関係用メモリ１１６、履歴用メモリ１１７及び演算結果用メモリ１３１がフラッシュメモリなどの不揮発性記憶手段として設けられている構成に限定されることはなく、例えばこれらメモリ１１６，１１７，１３１のいずれかが情報の記憶保持に電力の供給を要する揮発性記憶手段として設けられており、そのメモリに対してバックアップ電力が供給されることで、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が停止されたとしても情報が記憶保持される構成としてもよい。この場合、そのメモリに対して専用のバックアップ電力装置が設けられている構成としてもよく、主側ＲＡＭ６５にバックアップ電力を供給する電源・発射制御装置７８からそのメモリにバックアップ電力が供給される構成としてもよい。

【４７１６】
（２６）上記第１～第１４の実施形態において管理用ＩＣ６６が汎用ＣＰＵとして管理側ＣＰＵ１１２を備え、管理側ＲＯＭ１１３に記憶されたプログラム及びデータに基づき履歴情報の記憶処理や各種パラメータの演算処理を実行する構成に限定されることはなく、これら機能を有するように回路設計されたハード回路が管理用ＩＣ６６に形成されている構成としてもよい。当該構成について具体的には、例えば上記第１の実施形態であれば当該ハード回路は、主側ＣＰＵ６３からいずれかの検知センサ４２ａ～４８ａにて遊技球を検知したことを示す信号を受信した場合、その信号を受信したバッファに対応する対応関係情報が対応関係用メモリ１１６から履歴用メモリ１１７に記憶されるようにするとともに、その時点におけるＲＴＣ１１５の情報が履歴用メモリ１１７に記憶されるようにする。また、例えば上記第６の実施形態であれば当該ハード回路は、主側ＣＰＵ６３からいずれかの検知センサ４２ａ～４８ａにて遊技球を検知したことを示す信号を受信した場合、その信号を受信したバッファに対応するカウンタの値が１加算されるようにする。また、当該ハード回路は、上記第１の実施形態などにおける演算契機が発生した場合にはその時点における履歴情報を利用して各種パラメータを演算する。また、当該ハード回路は、読み取り用端子６８ｄへの外部出力契機が発生した場合には、演算結果である各種パラメータを外部出力するとともに履歴情報を外部出力する。
【４７１７】
（２７）上記第１～第１４の実施形態において主側ＣＰＵ６３と管理用ＩＣ６６とが別チップとして設けられている構成としてもよく、別基板として設けられている構成としてもよく、別の制御装置として設けられている構成としてもよい。
【４７１８】
（２８）アウト口２４ａへの遊技球の入球に関してはその入球個数が計測される一方、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３及び第２作動口３４といった遊技球の賞球の払い出しや当否判定処理の契機となる特典契機入球部への入球に関してはＲＴＣ情報を含む履歴情報が格納される構成としてもよい。これにより、特典契機入球部への遊技球の入球履歴を抽出可能としながら、遊技球の総排出個数に対する各特典契機入球部への遊技球の入球頻度を算出することが可能となる。
【４７１９】
（２９）履歴情報を記憶させる契機となる所定事象として上記各実施形態におけるもの以外のものが含まれている構成としてもよい。例えば、下皿５６ａが満タン状態となったこと、満タン状態が開始されたタイミング及び満タン状態が解除されたタイミングの少なくともいずれかが履歴情報として記憶される構成としてもよく、タンク７５が球無状態となったこと、球無状態が開始されたタイミング及び球無状態が解除されたタイミングの少なくともいずれかが履歴情報として記憶される構成としてもよく、払出装置７６が異常状態となったこと、払出装置７６の異常状態が開始されたタイミング及び払出装置７６の異常状態が解除されたタイミングの少なくともいずれかが履歴情報として記憶される構成としてもよい。この場合、これら事象の発生頻度を把握することが可能となる。
【４７２０】
（３０）上記第１の実施形態では管理側Ｉ／Ｆ１１１における入力ポート１２１の第１６バッファ１２２ｐが出力指示信号に対応していることが管理用ＩＣ６６の設計段階において予め設定されている構成としたが、これに限定されることはなく、第１６バッファ１２２ｐが出力指示信号に対応していることも、主側ＣＰＵ６３から種類識別コマンドが送信されることにより、管理用ＩＣ６６にて認識される構成としてもよい。また、上記第１の実施形態では管理側Ｉ／Ｆ１１１における入力ポート１２１の第１５バッファ１２２ｏが設定値更新信号に対応していることが管理用ＩＣ６６の設計段階において予め設定されている構成としたが、これに限定されることはなく、第１５バッファ１２２ｏが設定値更新信号に対応していることも、主側ＣＰＵ６３から種類識別コマンドが送信されることにより、管理用ＩＣ６６にて認識される構成としてもよい。この場合、各バッファ１２２ａ～１２２ｐとそれらバッファ１２２ａ～１２２ｐに入力される信号の種類との対応関係を

管理用ＩＣ６６に事前に設定しておく必要がなくなる。
【４７２１】
（３１）上記第１～第１４の実施形態において管理用ＩＣ６６は正常に動作している場合には主側ＣＰＵ６３に正常動作信号を送信する構成としてもよい。この場合、管理用ＩＣ６６が正常に動作しているか否かを主側ＣＰＵ６３にて監視することが可能となる。
【４７２２】
（３２）設定値更新処理にて更新途中の設定値を表示する表示装置は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に限定されることはなく、図柄表示装置４１であってもよく、専用の表示装置であってもよい。また、設定確認用処理にて設定値を表示する表示装置は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に限定されることはなく、図柄表示装置４１であってもよく、専用の表示装置であってもよい。
【４７２３】
（３３）設定値更新処理にて設定値を更新させるために操作される操作部は更新ボタン６８ｂに限定されることはなく、リセットボタン６８ｃであってもよい。また、設定キー挿入部６８ａに設定キーを挿入して回動操作をした場合における回動操作位置として「設定１」～「設定６」のそれぞれに対応する位置が設定されており、設定キー挿入部６８ａの回動操作位置に対応する設定値が設定される構成としてもよい。また、設定キー挿入部６８ａをＯＮ位置よりもさらに回動操作することが可能な構成とし、ＯＮ位置を超えた回動操作が行われる度に更新途中の設定値が次の順番の設定値に更新される構成としてもよい。
【４７２４】
（３４）上記第１～第１０，第１５～第２１の実施形態では第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃが横並びで設けられている構成としたが、縦方向に並設されている構成としてもよく、斜めに並設されている構成としてもよく、上下２段となるように並設されている構成としてもよい。また、上記第１１～第１４，第２２～第７６の実施形態では第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が横並びで設けられている構成としたが、縦方向に並設されている構成としてもよく、斜めに並設されている構成としてもよく、上下２段となるように並設されている構成としてもよい。また、上記第１５～第２１の実施形態において遊技履歴の管理結果を表示するための表示装置として第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が利用される構成としてもよい。
【４７２５】
（３５）上記第１～第１４の実施形態においてパチンコ機１０の設定状態に応じて正常値が変動することとなるパラメータを算出するために利用される履歴情報（以下、変動対象の履歴情報という）と、パチンコ機１０の設定状態に応じて正常値が変動しないパラメータを算出するために利用される履歴情報（以下、非変動対象の履歴情報という）とが、履歴用メモリ１１７においてそれぞれ異なるエリアに記憶される構成としてもよい。この場合、パチンコ機１０の設定状態が新たに設定された場合又はパチンコ機１０の設定状態が変更された場合には、履歴用メモリ１１７において変動対象の履歴情報が記憶されるエリアは「０」クリアされる一方、履歴用メモリ１１７において非変動対象の履歴情報が記憶されるエリアは「０」クリアされない構成としてもよい。これにより、パチンコ機１０の設定状態に応じて正常値が変動するパラメータの演算を設定値の変更後においても正確に行うことができるとともに、パチンコ機１０の設定状態に応じて正常値が変動しないパラメータの演算の精度を高めることができる。また、当該構成を上記第１５～第９６の実施形態に適用してもよい。
【４７２６】
（３６）上記第１５～第２１の実施形態において、特定制御用のスタックエリア２２２及び非特定制御用のスタックエリア２２４が主側ＲＡＭ６５において予め指定されていない構成としてもよい。この場合であっても、これらスタックエリア２２２，２２４に相当するエリアがパチンコ機１０の設計段階において主側ＲＡＭ６５に指定されることとなるが、当該エリアの記憶容量を超えて当該エリアを指定した情報の記憶処理が実行された場

合には本来予定していないエリアに本来予定していない情報が書き込まれることとなるため主側ＲＡＭ６５を「０」クリアする構成としてもよい。

【４７２７】

（３７）上記第１５～第２１の実施形態では主側ＲＡＭ６５のクリア処理（ステップＳ１０５、ステップＳ１１７）が実行される場合には特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２は「０」クリアされるが、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４は「０」クリアされない構成としたが、これに代えて、主側ＲＡＭ６５のクリア処理（ステップＳ１０５、ステップＳ１１７）では特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２だけではなく非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４も「０」クリアされる構成としてもよい。また、主側ＲＡＭ６５のクリア処理（ステップＳ１０５、ステップＳ１１７）では特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２だけではなく通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３は「０」クリアされるものの、演算結果記憶エリア２３４は「０」クリアされない構成としてもよい。この場合、演算結果記憶エリア２３４に記憶された情報を保護することが可能となる。

【４７２８】

（３８）上記第１５～第２５の実施形態において、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２を「０」クリアするための操作と、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を「０」クリアするための操作とがそれぞれ異なる操作となる構成としてもよい。例えばリセットボタン６８ｃを操作しながらパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２が「０」クリアされ、更新ボタン６８ｂを操作しながらパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされる構成としてもよい。これにより、それぞれの情報を選択的に消去することが可能となる。また、当該構成において更新ボタン６８ｂ及びリセットボタン６８ｃの両方を操作しながらパチンコ機１０への動作電力の供給が開始された場合には、特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４の全てが「０」クリアされる構成としてもよい。これにより、上記のように選択的な消去を可能とした構成において、各エリア２２１～２２４の情報をまとめて消去する場合の作業性を向上させることが可能となる。

【４７２９】

（３９）上記第１５～第１８，第２０の実施形態において第１９の実施形態と同様に、非特定制御に対応する処理の開始に際して主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報が非特定制御用のワークエリア２２３に退避されるとともに特定制御に対応する処理への復帰に際してその退避された情報が主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに復帰される構成としてもよい。これにより、非特定制御に対応する処理が開始される場合における主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報が変動し得る構成であったとしても、非特定制御に対応する処理が終了した場合には主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの状態を当該非特定制御に対応する処理が開始される前の状態に復帰させることが可能となる。

【４７３０】

（４０）上記第１５～第２５の実施形態において非特定制御に対応する処理として遊技履歴の情報を収集するための処理、その収集した履歴情報を利用して各種パラメータを演算する処理、及びその演算結果を報知するための処理が実行される構成としたが、これらの処理の一部のみが非特定制御に対応する処理として実行され、それ以外は特定制御に対応する処理として実行される構成としてもよい。また、遊技履歴の情報を収集するための処理、その収集した履歴情報を利用して各種パラメータを演算する処理、及びその演算結果を報知するための処理に加えて又は代えて、これら処理以外の処理が非特定制御に対応する処理として実行される構成としてもよい。例えば不正監視及び監視結果の報知のうち

少なくとも一方の処理が非特定制御に対応する処理として実行される構成としてもよい。
【４７３１】
（４１）上記第１５～第２５の実施形態では主側ＣＰＵ６３にて非特定制御に対応する処理が実行されている状況から特定制御に対応する処理に復帰する場合、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタ、スタックポインタ及び各種レジスタのいずれも主側ＲＡＭ６５に退避されない構成としたが、これに代えて、主側ＣＰＵ６３にて非特定制御に対応する処理が実行されている状況から特定制御に対応する処理に復帰する場合に、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタ、スタックポインタ及び各種レジスタのうち少なくとも一部の情報が主側ＲＡＭ６５に退避され、その退避された情報が非特定制御に対応する処理が再度開始される場合に主側ＣＰＵ６３の対応する記憶エリアに復帰される構成としてもよい。これにより、非特定制御に対応する処理において利用される主側ＣＰＵ６３の情報についても持ち越して利用することが可能となる。
【４７３２】
（４２）上記第１５～第２５の実施形態では遊技領域から排出された遊技球の合計個数が６０００個となったことを契機として各種パラメータが演算される構成としたが、当該演算の契機となる遊技球の合計個数は６０００個よりも多い数としてもよく少ない数としてもよい。例えば遊技領域から排出された遊技球の合計個数が６００００個となったことを契機として各種パラメータが演算される構成としてもよい。この場合、遊技履歴の情報を記憶するために必要な記憶容量が増大化することとなるが、上記第２１の実施形態のようにＭＰＵ６２に外付けされた管理用ＲＡＭ２４１にて遊技履歴の情報を記憶する構成とすることで、当該記憶容量の増大化に柔軟に対応することが可能となる。
【４７３３】
（４３）上記第１５～第２５の実施形態において遊技履歴の管理結果として第６１～第６８パラメータを演算する構成としたが、これに加えて又は代えて、上記第１の実施形態における第３１パラメータ、第４１パラメータ及び第４２パラメータの少なくとも一部が演算される構成としてもよい。
【４７３４】
（４４）上記第１５～第２５の実施形態においてパチンコ機１０の設定状態を新たに設定する処理が実行された場合又はパチンコ機１０の設定状態が変更された場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２だけではなく、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４も「０」クリアされる構成としてもよい。この場合、パチンコ機１０の設定状態を新たに設定する処理が実行された場合又はパチンコ機１０の設定状態が変更された場合に、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３及び演算結果記憶エリア２３４が「０」クリアされることとなる。
【４７３５】
また、パチンコ機１０の設定状態を新たに設定する処理が実行された場合又はパチンコ機１０の設定状態が変更された場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２だけではなく通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２及び高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３は「０」クリアされるものの、演算結果記憶エリア２３４は「０」クリアされない構成としてもよい。この場合、演算結果記憶エリア２３４に記憶された情報を保護することが可能となる。
【４７３６】
また、パチンコ機１０の設定状態を新たに設定する処理が実行された場合又はパチンコ機１０の設定状態が変更された場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２は「０」クリアされるものの非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４は「０」クリアされない構成としてもよい。この場合、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４に記憶された情報を保護することが可能となる。
【４７３７】

また、上記（４３）の構成を備えている場合には、パチンコ機１０の設定状態を新たに設定する処理が実行された場合又はパチンコ機１０の設定状態が変更された場合に、上記第１の実施形態における第３１パラメータ、第４１パラメータ及び第４２パラメータを演算するための履歴情報は消去されるものの、通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３及び演算結果記憶エリア２３４は「０」クリアされない構成としてもよい。

【４７３８】

（４５）上記第１～第９６の実施形態において、各種パラメータを演算するために遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計排出個数が利用される構成に代えて、遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計供給個数が利用される構成としてもよい。この場合、例えば遊技球発射機構２７から発射されて遊技領域ＰＡに到達した遊技球を検知するように検知センサを設け、当該検知センサの検知結果に基づいて遊技領域ＰＡに供給された遊技球の個数を計測する構成としてもよい。当該構成においてはアウト口２４ａから排出された遊技球の個数を計測する必要がないため、アウト口検知センサ４８ａが設けられていない構成としてもよい。

【４７３９】

（４６）上記第１５～第９６の実施形態において、主側ＣＰＵ６３の各種レジスタ及びスタックポインタの情報の少なくとも一部が、特定制御用のスタックエリア２２２又は非特定制御用のスタックエリア２２４に対してロード命令により退避される構成としてもよい。この場合、スタックエリア２２２，２２４への情報の退避に際して主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を更新させる必要がある。また、スタックエリア２２２，２２４に退避された情報がロード命令により主側ＣＰＵ６３の対応する記憶エリアに復帰される構成としてもよい。この場合も、スタックエリア２２２，２２４からの情報の復帰に際して主側ＣＰＵ６３のスタックポインタの情報を更新させる必要がある。

【４７４０】

（４７）上記各実施形態において設定値更新処理が実行されている場合にはそれに対応する報知が図柄表示装置４１、表示発光部５３及びスピーカ部５４のいずれかにて行われる構成としてもよい。これにより、遊技ホールの管理者は設定値更新処理が実行されていることを明確に把握することが可能となる。

【４７４１】

（４８）上記各実施形態において設定値が新たに設定されたことの履歴が主側ＲＡＭ６５に記憶される構成としてもよい。また、設定値が新たに設定されたことの履歴が音声発光制御装置８１に設けられたＲＡＭにて記憶される構成としてもよい。この場合、設定値更新処理が完了する度に当該設定値更新処理にて設定された設定値の情報を含むコマンドが主側ＣＰＵ６３から音声発光制御装置８１に送信されるようにし、音声発光制御装置８１はそのコマンドを受信する度に、設定値が新たに設定されたことを示す情報とその際の設定値を示す情報とを音声発光制御装置８１のＲＡＭに累積的に記憶させる構成とする。当該構成において所定の操作が行われた場合には音声発光制御装置８１のＲＡＭに累積的に記憶されている設定値の設定履歴が図柄表示装置４１にて表示される構成としてもよい。

【４７４２】

（４９）上記各実施形態では設定値更新処理にて設定値が新たに設定される場合には払出制御装置７７に記憶されている払出予定の遊技球の個数を示す情報が消去されない構成としたが、これに代えて、当該払出予定の遊技球の個数を示す情報が消去される構成としてもよい。また、設定値更新処理が実行されたものの設定値が変更されなかった場合には上記払出予定の遊技球の個数を示す情報が消去されずに、設定値が変更された場合には上記払出予定の遊技球の個数を示す情報が消去される構成としてもよい。

【４７４３】

（５０）上記各実施形態において設定値更新処理が実行されたものの設定値が変更されなかった場合には主側ＲＡＭ６５の各エリア２２１～２２４が「０」クリアされることは

なく、設定値が変更された場合には主側ＲＡＭ６５の各エリア２２１～２２４のうち少なくとも一部が「０」クリアされる構成としてもよい。例えば、設定値が変更された場合には特定制御用のワークエリア２２１において設定値カウンタ以外のエリアが「０」クリアされる構成としてもよい。

【４７４４】

（５１）上記第２２～第９６の実施形態において主側ＣＰＵ６３にて設定確認用処理（図８７）にて設定値を確認するための処理が実行されている状況であっても遊技の利益に関与する可動物の動作が継続される構成としてもよい。例えば、開閉実行モードにおいて入球可能となる入球手段にＶゾーンと非Ｖゾーンとが設けられているとともに入球手段に入球した遊技球をＶゾーン及び非Ｖゾーンのうちいずれかに振り分ける振分部材を備えた構成において、設定確認用処理にて設定値を確認するための処理が実行されている状況であっても当該振分部材の動作が継続される構成としてもよい。この場合、設定確認用処理にて設定値を確認するための処理が実行される状況を不正に発生させて振分部材の動作を停止させようとしてもそれを不可とすることが可能となる。なお、設定確認用処理にて設定値を確認するための処理が実行される状況であっても動作が継続される可動物としては上記振分部材以外にも、入球手段に入球した遊技球が入球することによりその後にラウンド遊技を発生させることとなる有利口と、入球手段に入球した遊技球を有利口に入球させることなく排出させる排出口とのいずれに遊技球を振り分ける振分部材が考えられる。

【４７４５】

（５２）上記第２２～第９６の実施形態において非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４の少なくとも一方は情報異常の監視対象とならない構成としてもよい。この場合、特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２に情報異常が発生していることが特定されたとしても、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされない構成とすることで、情報異常の発生に基づいて非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４が「０」クリアされる状況を発生させないようにすることが可能となる。

【４７４６】

（５３）上記第２２～第９６の実施形態において特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２、非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４に情報異常が発生しているか否かの監視が全て非特定制御に対応する処理にて実行される構成としてもよい。また、情報異常が発生した場合における各エリア２２１～２２４を「０」クリアするための処理が全て非特定制御に対応する処理にて実行される構成としてもよい。

【４７４７】

（５４）上記各実施形態において主側ＲＡＭ６５は情報を記憶保持するために電力供給が必要であるとともに、パチンコ機１０の電源がＯＦＦである状況であってもバックアップ電力が主側ＲＡＭ６５に供給される構成としたが、主側ＲＡＭ６５は情報の記憶保持に電力供給を必要としない不揮発性のメモリである構成としてもよい。

【４７４８】

（５５）上記各実施形態において主側ＲＡＭ６５の各種クリア処理では主側ＲＡＭ６５の対象エリアに対して「０」クリアする処理と初期設定する処理とを実行することで当該対象エリアを初期化する構成に代えて、「０」クリアする処理を実行することなく初期設定する処理を実行することで上記対象エリアを初期化する構成としてもよい。

【４７４９】

（５６）上記各実施形態において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始される場合に設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている場合には他の操作を要することなく設定値更新処理が実行される構成としてもよい。また、設定キーによりＯＮ・ＯＦＦ操作される設定キー挿入部６８ａに代えて、手によって直接ＯＮ・ＯＦＦ操作される設定スイッチが設けられている構成としてもよい。また、設定キー挿入部６８ａが設けられておらず、主

側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始される場合にリセットボタン６８ｃが押圧操作されている場合には他の操作を要することなく設定値更新処理が実行される構成としてもよい。この場合、リセットボタン６８ｃを覆う閉状態と覆わない開状態とに切り換え配置可能となるようにカバー部材が設けられている構成としてもよく、このカバー部材を閉状態の位置にて施錠する施錠装置が設けられている構成としてもよい。

【４７５０】

（５７）設定値更新処理において設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ位置に操作された状態が所定期間に亘って保持された場合に選択中の設定値が確定されて設定値更新処理が終了される構成としてもよい。また、設定値更新処理が開始されてから終了基準期間（例えば５分）が経過した場合には選択中の設定値が自動的に確定されて設定値更新処理が終了される構成としてもい。また、設定値更新処理において更新ボタン６８ｂ又はリセットボタン６８ｃが終了基準期間（例えば１０秒）以上に亘って長押しされた場合に選択中の設定値が確定されて設定値更新処理が終了される構成としてもよい。

【４７５１】

（５８）設定キー挿入部６８ａをＯＮ位置よりもさらに回動操作することが可能な構成とし、ＯＮ位置を超えた回動操作が行われる度に更新途中の設定値が次の順番の設定値に更新される構成において、設定キー挿入部６８ａがＯＮ位置に操作された状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に設定値の確認を可能とする設定確認用処理が開始され、設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ位置に操作された場合に設定確認用処理が終了される構成としてもよい。また、更新ボタン６８ｂ又はリセットボタン６８ｃが押圧操作された状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に設定値の確認を可能とする設定確認用処理が開始され、当該ボタンの押圧操作が解除された場合に設定確認用処理が終了される構成としてもよい。また、設定キーによりＯＮ・ＯＦＦ操作される設定キー挿入部６８ａに代えて、手によって直接ＯＮ・ＯＦＦ操作される設定スイッチが設けられている構成において、当該設定スイッチがＯＮ操作された状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に設定値の確認を可能とする設定確認用処理が開始され、当該設定スイッチがＯＦＦ操作された場合又はＯＦＦ操作の後にＯＮ操作された場合に設定確認用処理が終了される構成としてもよい。また、設定キーによりＯＮ・ＯＦＦ操作される設定キー挿入部６８ａに代えて、手によって直接ＯＮ・ＯＦＦ操作される設定スイッチが設けられている構成において、当該設定スイッチがＯＮ操作された状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合に設定値の確認を可能とする設定確認用処理が開始され、リセットボタン６８ｃが押圧操作された場合に設定確認用処理が終了される構成としてもよい。

【４７５２】

（５９）上記各実施形態において設定確認用処理又は設定値更新処理が実行される場合には、その手順に対応する画像が図柄表示装置４１にて行われる構成としてもよく、それを補助するように手順に対応する音声がスピーカ部５４から出力される構成としてもよい。例えば上記第３３の実施形態における設定値更新処理においてはリセットボタン６８ｃを押圧操作することで設定値が１段階変更されること及び設定キー挿入部６８ａをＯＦＦ操作することで設定値更新処理が終了されることが報知される構成としてもよい。これにより、設定値の更新作業を行い易くなる。なお、図柄表示装置４１の表示制御及びスピーカ部５４の音出力制御は音声発光制御装置８１にて行われるため、設定確認用処理又は設定値更新処理が開始される場合にはそれに対応するコマンドが主側ＣＰＵ６３から送信され、設定確認用処理又は設定値更新処理が終了される場合にはそれに対応するコマンドが主側ＣＰＵ６３から送信されるようにする必要がある。

【４７５３】

（６０）上記各実施形態において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が、初期チェック期間が経過した場合に終了されるのではなく、当該チェック用表示を終了させるための操作が行われるまでは当該チェック用表示が継続される構成としてもよい。当該終了させるための操作としては、例えば設定確認用処理及び設定値更新処理

のいずれかが実行されているか否かに関係なくリセットボタン６８ｃが操作されることとしてもよく、リセットボタン６８ｃ以外の操作部が操作されることとしてもよい。この場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値又は設定値を確認するタイミングとなるまで第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてチェック用表示が継続されることとなるため、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かを確認した後にベース値又は設定値を確認することが可能となる。また、操作部の操作に基づきチェック用表示が終了されるため、所望のタイミングでチェック用表示を終了させることが可能となる。

【４７５４】

（６１）上記各実施形態において動作電力の供給が開始された場合かどうかに関係なく更新ボタン６８ｂやリセットボタン６８ｃといった所定の操作部が操作された場合に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が開始される構成としてもよい。この場合、ベース値又は設定値を確認する場合における所望のタイミングでチェック用表示を開始させることが可能となる。また、当該構成において所定期間（例えば５秒）が経過した場合にチェック用表示が終了される構成としてもよく、チェック用表示を開始させるために操作された上記所定の操作部又はそれとは別の操作部が操作された場合にチェック用表示が終了される構成としてもよい。

【４７５５】

（６２）上記各実施形態において更新ボタン６８ｂといったリセットボタン６８ｃ以外の特定の操作部が操作された状態で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が開始され、当該特定の操作部が操作されることなく主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合にはチェック用表示が開始されない構成としてもよい。この場合、動作電力の供給が開始されたことを契機としてチェック用表示が行われる構成において、遊技ホールの管理者の操作によりチェック用表示を開始させるか否かを選択することが可能となる。

【４７５６】

（６３）上記各実施形態において遊技機本体１２が開放状態であるか否かに関係なく第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値が表示されるのではなく、遊技機本体１２が開放状態となっていることが本体開放センサ９６の検知結果に基づき特定されている場合に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値が表示される構成としてもよい。この場合、遊技機本体１２が開放状態となった場合にはまず第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が開始され、その後に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてベース値が表示される構成としてもよい。これにより、ベース値を確認する場合にはその前に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４が正常であるか否かを確認することが可能となる。また、当該構成において所定期間（例えば５秒）が経過した場合にチェック用表示が終了される構成としてもよく、チェック用表示を開始させるために操作された上記所定の操作部又はそれとは別の操作部が操作された場合にチェック用表示が終了される構成としてもよい。

【４７５７】

（６４）上記各実施形態において設定確認用処理が実行される条件を満たした状態でメイン処理が開始された場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が開始されずに、設定確認用処理が実行される条件を満たさない状態でメイン処理が開始された場合にはチェック用表示が開始される構成としてもよい。この場合、設定値の確認が行われることが確定している場合にはチェック用表示が行われないようにすることが可能となる。

【４７５８】

（６５）上記各実施形態において設定値更新処理が実行される条件を満たした状態でメイン処理が開始された場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が開始されずに、設定値更新処理が実行される条件を満たさない状態でメイン処理が開始された場合にはチェック用表示が開始される構成としてもよい。この場合、設定値の更

新が行われることが確定している場合にはチェック用表示が行われないようにすることが可能となる。

【４７５９】

（６６）上記各実施形態において設定確認用処理が実行される条件及び設定値更新処理が実行される条件のいずれかを満たした状態でメイン処理が開始された場合には第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のチェック用表示が開始されずに、設定確認用処理が実行される条件及び設定値更新処理が実行される条件の両方を満たさない状態でメイン処理が開始された場合にはチェック用表示が開始される構成としてもよい。この場合、設定値の確認又は設定値の更新が行われることが確定している場合にはチェック用表示が行われないようにすることが可能となる。

【４７６０】

（６７）上記各実施形態においてチェック用表示では第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおける各表示用セグメント３２１～３２４が発光状態に維持されるのではなく、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおける各表示用セグメント３２１～３２４が点滅状態とされる構成としてもよい。また、チェック用表示では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４のそれぞれにおいて各表示用セグメント３２１～３２４が１個ずつ又は一部の複数個ずつ順次発光状態となり、初期チェック期間の範囲内で各表示用セグメント３２１～３２４が少なくとも１回は発光状態となる構成としてもよい。

【４７６１】

（６８）上記各実施形態において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示を行わせる処理が特定制御に対応する処理として実行されるのではなく、非特定制御に対応する処理として実行される構成としてもよい。

【４７６２】

（６９）上記各実施形態において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４の表示制御が主側ＣＰＵ６３により行われるのではなく、専用の制御手段により行われる構成としてもよく、音声発光制御装置８１により行われる構成としてもよく、表示制御装置８２により行われる構成としてもよい。この場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてベース値を表示する場合には報知対象となるベース値が主側ＣＰＵ６３から制御主体となる制御手段に送信されることとなり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において設定値を表示する場合には報知対象となる設定値が主側ＣＰＵ６３から制御主体となる制御手段に送信されることとなる。また、主側ＣＰＵ６３において動作電力の供給開始時の処理が実行される場合には当該動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にてチェック用表示が開始されるように、チェック用表示の開始に対応する情報が主側ＣＰＵ６３から制御主体となる制御手段に送信されることとなる。

【４７６３】

（７０）上記各実施形態において停電フラグに「１」がセットされていない又はチェックサムが一致しないことにより遊技停止フラグに「１」がセットされて遊技の進行が停止される場合には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４においてチェック用表示と同様に各表示用セグメント３２１～３２４が発光状態となる構成としてもよく、各表示用セグメント３２１～３２４が点滅状態となる構成としてもよい。

【４７６４】

（７１）上記各実施形態において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合だけではなく、動作電力の供給開始時の処理が終了した後において設定変更契機が発生した場合には設定値更新処理が実行される構成としてもよい。これにより、設定値更新処理の開始に際してパチンコ機１０の電源のＯＦＦ操作及びＯＮ操作を必要としないようにすることが可能となる。

【４７６５】

（７２）上記各実施形態において「設定変更操作」と「設定確認操作」とが逆の関係で

ある構成としてもよい。つまり、リセットボタン６８ｃが押圧操作されているとともに設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている場合に「設定確認操作」が行われていると特定され、リセットボタン６８ｃが押圧操作されていなくて設定キー挿入部６８ａがＯＮ操作されている場合に「設定変更操作」が行われていると特定される構成としてもよい。また、「設定変更操作」と「設定確認操作」とで操作が一切重複していない構成としてもよい。

【４７６６】

（７３）上記各実施形態においてリセットボタン６８ｃが押圧操作されている状況で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたことに基づいて設定値更新処理が開始されるとともに、設定値更新処理においてはリセットボタン６８ｃが押圧操作される度に選択対象の設定値が変更される構成とするのではなく、設定値更新処理を開始させるために操作される操作部と設定値更新処理において選択対象の設定値を変更させるために操作される操作部とが一致していない構成としてもよい。

【４７６７】

（７４）上記第４９～第８１，第８８の実施形態では設定値更新処理において設定更新用エリア３４２の情報を設定参照用エリア３４１に設定する処理、すなわち使用対象となる設定値を設定する処理を行った後に第２ＲＡＭクリア処理を実行する構成としたが、これに限定されることはなく、使用対象となる設定値を設定する処理を行う前に第２ＲＡＭクリア処理を実行する構成としてもよい。この場合、設定値更新処理において開始時の初期設定を行う代わりに第２ＲＡＭクリア処理を実行する構成としてもよい。

【４７６８】

また、設定値更新処理においては開始時の初期設定及び第２ＲＡＭクリア処理の両方が実行されないことにより、設定値更新処理にて使用対象となる設定値の設定が行われたとしてもクリア対象エリア３７１の初期化が実行されない構成としてもよい。当該構成を上記第５５～第６３の実施形態に適用した場合、「ＲＡＭクリア操作」が行われることで第１ＲＡＭクリア処理が実行された場合にはクリア対象エリア３７１の初期化が実行される一方、設定値更新処理が実行された場合にはクリア対象エリア３７１の初期化が実行されないことになる。また、上記構成を上記第５６の実施形態に適用した場合には設定値更新処理が実行されたとしても特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて初期表示が行われる構成としてもよく、当該初期表示が行われない構成としてもよい。また、上記構成を上記第５７～第５８の実施形態に適用した場合には設定値更新処理が実行されたとしても特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示が行われる構成としてもよく、当該外れ表示が行われない構成としてもよい。また、上記構成を上記第５９～第６０の実施形態に適用した場合には設定値更新処理が実行されたとしても特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにて外れ表示又は当たり表示が行われる構成としてもよく、当該外れ表示又は当たり表示が行われない構成としてもよい。また、上記構成を上記第６１の実施形態に適用した場合には設定値更新処理が実行されたとしても特図表示部３７ａの各発光部及び普図表示部３８ａの各発光部に対して点灯抽選処理が実行される構成としてもよく、当該点灯抽選処理が実行されない構成としてもよい。また、上記構成を上記第６２～第７６の実施形態に適用した場合には設定値更新処理が実行されたとしても表示開始処理（図２０６、図２０８）における初期表示データの抽選処理（ステップＳＤ４０５、ステップＳＤ４１０、ステップＳＤ５０２）が実行される構成としてもよく、当該初期表示データの抽選処理（ステップＳＤ４０５、ステップＳＤ４１０、ステップＳＤ５０２）が実行されない構成としてもよい。

【４７６９】

（７５）上記第４９～第８１，第８８の実施形態において特図表示部３７ａに表示を行わせるための表示データが情報の記憶保持に際して電力の供給を必要とする主側ＲＡＭ６５に記憶される構成に代えて、当該表示データが情報の記憶保持に際して電力の供給が不要であって読み書き両用として利用されるメモリに記憶される構成としてもよい。この場合、第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理に際して当該メモリに記憶された表

示データが消去されない構成としてもよく、第１ＲＡＭクリア処理及び第２ＲＡＭクリア処理に際してクリア対象エリア３７１が初期化されるとともに上記メモリに記憶された表示データも消去される構成としてもよい。また、当該構成を普図表示部３８ａに表示を行わせるための表示データに対して適用してもよい。

【４７７０】

（７６）上記第５５～第７６の実施形態において第１作動口３３への入賞が発生したことにより取得された特図側の保留情報と第２作動口３４への入賞が発生したことにより取得された特図側の保留情報とが区別して記憶されるとともに、第２作動口３４側の保留情報が優先して消化される構成を適用してもよく、これとは逆に第１作動口３３側の保留情報が優先して消化される構成を適用してもよく、第１作動口３３であるか第２作動口３４であるかに関係なく取得順序で消化される構成を適用してもよい。また、上記構成において、複数の作動口が上下に並設されているのではなく、第１作動口３３と、第２作動口３４とが左右に並設された構成としてもよく、これら両作動口が斜めに並設された構成としてもよい。さらにまた、発射操作装置２８の操作態様に応じて、第１作動口３３への入賞のみ又は第２作動口３４への入賞のみを狙えるように、両作動口３３，３４を離間して配置する構成としてもよい。また、第１作動口３３への入賞が発生したことにより取得された保留情報が当否判定の対象となった場合と、第２作動口３４への入賞が発生したことにより取得された保留情報が当否判定の対象となった場合とで、遊技者が得られる利益が異なる構成としてもよい。

【４７７１】

また、上記構成において、特図表示部３７ａとして、第１作動口３３への入賞に基づき取得された保留情報の当否判定の結果を表示する第１特図表示部と、第２作動口３４への入賞に基づき取得された保留情報の当否判定の結果を表示する第２特図表示部とを個別に設けてもよい。この場合、第１作動口３３への入賞に基づき取得された保留情報が当否判定の対象となることに先立って又は当否判定の対象となったことに基づいて、第１特図表示部において絵柄の変動表示が開始されるとともに当該当否判定に対応した停止結果を表示し係る１遊技回の変動表示が終了される。また、第２作動口３４への入賞に基づき取得された保留情報が当否判定の対象となることに先立って又は当否判定の対象となったことに基づいて、第２特図表示部において絵柄の変動表示が開始されるとともに当該当否判定に対応した停止結果を表示し係る１遊技回の変動表示が終了される。

【４７７２】

上記のように第１特図表示部及び第２特図表示部が設けられた構成においては、上記第５５～第６３の実施形態における動作電力の供給が開始された場合の特図表示部３７ａの表示内容の構成を第１特図表示部及び第２特図表示部のそれぞれに対して適用してもよく、第１特図表示部及び第２特図表示部のうち一方にのみ適用してもよい。

【４７７３】

なお、上記のように第１特図表示部と第２特図表示部とが個別に設けられた構成においては第１特図表示部及び第２特図表示部のうち一方を絵柄の変動表示対象とする遊技回が実行されている場合には他方を絵柄の変動表示対象とする遊技回が実行されない構成としてもよい。また、第１特図表示部を絵柄の変動表示対象とする遊技回と第２特図表示部を絵柄の変動表示対象とする遊技回とが重複して実行され得る構成としてもよい。このように遊技回が重複して実行され得る構成においては第２特図表示部における遊技回の結果として、開閉実行モードにおける特電入賞装置３２への遊技球の入賞期待個数が大当たり結果の場合よりも少なくなる小当たり結果が設定されているとともに、その小当たり結果の当選確率が大当たり結果よりも高く設定されている構成としてもよい。当該構成においては動作電力の供給が停止された場合において特図表示部３７ａにて大当たり結果及び小当たり結果のいずれかの当たり結果に対応する当たり表示が行われている可能性が高くなる。したがって、動作電力の供給が開始された場合に第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行された場合には上記第５９の実施形態のように特図用の第１～第３外れ表示データ及び特図用の第１～第３当たり表示データのいずれかが選択される構成とする

ことが好ましい。

【４７７４】

（７７）上記第５５～第７６の実施形態において動作電力の供給が開始された場合における特徴的な表示内容の構成が特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの両方に対して適用される構成に限定されることはなく、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａのうち一方にのみ適用される構成としてもよい。例えば動作電力の供給が開始された場合における特徴的な表示内容の構成が特図表示部３７ａに対してのみ適用される構成としてもよく、普図表示部３８ａに対してのみ適用される構成としてもよい。

【４７７５】

（７８）上記第５５～第７６の実施形態においては主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されたとしても表示開始フラグに「１」がセットされるまでは特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示が開始されない構成としたが、これに限定されることはなく、表示開始フラグが不具備となっており、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始された場合には特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにおける表示が開始される構成としてもよい。この場合、動作電力の供給が開始された場合において第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行されるのであれば、特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａにおいて動作電力の供給が停止される直前の表示が開始された後に、第１ＲＡＭクリア処理又は第２ＲＡＭクリア処理が実行されたことに対応する表示に特図表示部３７ａ及び普図表示部３８ａの表示内容が切り換わることとなる。

【４７７６】

（７９）上記第７７～第８１の実施形態においては、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信したことに基づいて音光側ＲＡＭ初期化処理と、当該受信した復帰コマンドに対応する報知の設定処理とを実行する構成としたが、これに限定されることはない。具体的には、音光側ＣＰＵ３５３が更新時の復帰コマンドを受信したことに基づいて音光側ＲＡＭ初期化処理及び更新後報知の設定処理のうち一方のみが実行される構成としてもよく、音光側ＣＰＵ３５３が確認時の復帰コマンドを受信したことに基づいて音光側ＲＡＭ初期化処理及び確認後報知の設定処理のうち一方のみが実行される構成としてもよく、音光側ＣＰＵ３５３がクリア時の復帰コマンドを受信したことに基づいて音光側ＲＡＭ初期化処理及びクリア復帰報知の設定処理のうち一方のみが実行される構成としてもよく、音光側ＣＰＵ３５３が通常復帰コマンドを受信したことに基づいて音光側ＲＡＭ初期化処理及び通常復帰報知の設定処理のうち一方のみが実行される構成としてもよい。

【４７７７】

（８０）上記第８８の実施形態においては、音光側ＣＰＵ３５３が主側ＣＰＵ６３からいずれかの復帰コマンドを受信したことに基づいて音光側ＲＡＭ初期設定処理と、当該受信した復帰コマンドに対応する報知の設定処理とを実行する構成としたが、これに限定されることはない。具体的には、音光側ＣＰＵ３５３が更新時の復帰コマンドを受信したことに基づいて音光側ＲＡＭ初期設定処理及び更新後報知の設定処理のうち一方のみが実行される構成としてもよく、音光側ＣＰＵ３５３が確認時の復帰コマンドを受信したことに基づいて音光側ＲＡＭ初期設定処理及び確認後報知の設定処理のうち一方のみが実行される構成としてもよく、音光側ＣＰＵ３５３がクリア時の復帰コマンドを受信したことに基づいて音光側ＲＡＭ初期設定処理及びクリア復帰報知の設定処理のうち一方のみが実行される構成としてもよく、音光側ＣＰＵ３５３が通常復帰コマンドを受信したことに基づいて音光側ＲＡＭ初期設定処理及び通常復帰報知の設定処理のうち一方のみが実行される構成としてもよい。

【４７７８】

（８１）上記第８２の実施形態において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始時に過去のベース値がベース正常範囲（０．３０～０．４０）に収まっているか否かを判定する異常判定を行い、当該異常判定において過去のベース値がベース正常範囲から外れていると判定した場合には当該ベース値に対応する代表値データをデータ表示器ＤＩ等の外部装

置に外部出力する構成としてもよい。また、上記第８３の実施形態において主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始時に過去のベース値がベース正常範囲（０．３０～０．４０）に収まっているか否かを判定する異常判定を行い、当該異常判定において過去のベース値がベース正常範囲から外れていると判定した場合には当該ベース値に対応する加工代表値データをデータ表示器ＤＩ等の外部装置に外部出力する構成としてもよい。過去のベース値に対応する代表値データ又は加工代表値データを外部出力することにより、ベース値の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができる。

【４７７９】

（８２）上記第８４～第８７の実施形態では、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始時に過去のベース値がベース正常範囲（０．３５～０．４０）から外れている場合に対応するベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力する構成としたが、これに限定されることはなく、主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給開始後、所定の時間間隔（例えば４時間間隔）で第１履歴エリア３１２～第３履歴エリア３１４における過去のベース値がベース正常範囲に収まっているか否かを判定する異常判定を実行し、当該異常判定において過去のいずれかのベース値がベース正常範囲から外れている場合には、対応するベース値異常信号を異常報知器ＥＩに外部出力する構成としてもよい。所定の時間間隔で行われる異常判定において過去のいずれかのベース値が異常であった場合、上記第８４の実施形態ではベース値異常信号を外部出力し、上記第８５の実施形態では上側ベース値異常信号又は下側ベース値異常信号を外部出力し、上記第８６の実施形態では上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号、又は下側第２ベース値異常信号を外部出力し、上記第８７の実施形態では共通ベース値異常信号と、上側ベース値異常信号又は下側ベース値異常信号とを外部出力する。これにより、ベース値の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができる。

【４７８０】

（８３）上記第８４～第８７の実施形態では、ベース値異常信号を外部出力する構成に加えて又は代えて、パチンコ機１０においてベース値の異常を報知するベース値異常報知を行う構成としてもよい。具体的には、上記第８４の実施形態ではベース値異常フラグ５６５に「１」がセットされていることに基づいてベース値の異常を報知する発光態様で発光するように表示発光部５３の発光制御を行う。これにより、パチンコ機１０においてもベース値の異常の有無を容易に把握可能とすることができる。また、上記第８５の実施形態及び上記第８７の実施形態では上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされていることに基づいてベース値がベース正常範囲の上側閾値を上回っている異常状態を報知する発光態様で発光するように表示発光部５３の発光制御を行うとともに、下側ベース値異常フラグ５６８に「１」がセットされていることに基づいてベース値がベース正常範囲の下側閾値を下回っている異常状態を報知する発光態様で発光するように表示発光部５３の発光制御を行う。上記第８６の実施形態では上側ベース値異常フラグ５６７に「１」がセットされていることに基づいてベース値がベース正常範囲の上側閾値を上回っている異常状態を報知する発光態様で発光するように表示発光部５３の発光制御を行う。また、下側第１ベース値異常フラグ５７１に「１」がセットされていることに基づいてベース値がベース正常範囲の下側第１閾値を下回っている異常状態を報知する発光態様で発光するように表示発光部５３の発光制御を行うとともに、下側第２ベース値異常フラグ５７２に「１」がセットされていることに基づいてベース値がベース正常範囲の下側第２閾値を下回っている異常状態を報知する発光態様で発光するように表示発光部５３の発光制御を行う。これにより、パチンコ機１０においてもベース値の異常の有無、及び異常の種類を容易に把握可能とすることができる。

【４７８１】

（８４）上記第１～第１４の実施形態において表示出力処理（図３０）のＳ１４０４にて通常時の第１～第８パラメータを算出し、ステップＳ１４０７にて開閉実行モード時の第１１～第１８パラメータを算出し、ステップＳ１４１０にて高頻度サポートモード時の第２１～第２６パラメータを算出する構成に代えて、出玉率を算出する構成としてもよ

い。上記第８９の実施形態において既に説明したとおり、出玉率は、全遊技状態における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数に対する遊技球の合計払出個数の割合である。出玉率を算出する構成とすることにより、遊技状態毎のパラメータを算出する構成と比較して、算出するパラメータの数を抑えながら、全遊技状態において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数に対する遊技球の合計払出個数の割合についての異常を把握可能とすることができる。

【４７８２】

（８５）上記第３５～第３８，第４２～第９６の実施形態において通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値を利用してベース値を演算する構成に代えて、出玉率を算出する構成としてもよい。具体的には、非特定制御用のワークエリア２２３には、通常用カウンタエリア２３１に代えて、上記第８９の実施形態における入球個数カウンタエリア５９６（図３２２）が設けられている。上記第８９の実施形態において既に説明したとおり、出玉率は、全遊技状態における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数に対する遊技球の合計払出個数の割合である。主側ＣＰＵ６３は、入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅの値を利用して出玉率を算出する。出玉率を算出する構成とすることにより、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況だけでなく、開閉実行モードである状況及び高頻度サポートモードである状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数に対する遊技球の合計払出個数の割合の異常を把握可能とすることができる。

【４７８３】

（８６）上記第８９～第９２の実施形態において主側ＣＰＵ６３にて算出された直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、第１算出期間における出玉率、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率、及び第２算出期間における出玉率を報知するための表示が行われない構成としてもよい。これらの出玉率の情報は、主側ＣＰＵ６３にて算出された後に非特定制御用のワークエリア２２３に記憶されて把握可能となる。これらの出玉率を報知するための表示が行われない構成とすることにより、上記第８９～第９１の実施形態では、報知用表示装置５９１～５９５の数を低減することができる。

【４７８４】

（８７）上記第８９～第９１の実施形態において第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、第１算出期間における出玉率、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率、及び第２算出期間における出玉率の表示が行われる構成に代えて、これらの出玉率がホールコンピュータ等の外部装置に出力される構成としてもよい。また、上記第９２の実施形態において第１，第３～第５報知用表示装置５９１，５９３～５９５にて第１算出期間における出玉率及び第２算出期間における出玉率の表示が行われる構成に代えて、これらの出玉率がホールコンピュータ等の外部装置に出力される構成としてもよい。遊技ホールにおいて、パチンコ機１０が設置されている場所まで移動することなく外部装置にて各種出玉率を確認可能とすることにより、遊技ホールの管理者による出玉率についての監視負担を軽減することができる。また、報知用表示装置５９１～５９５にて各種出玉率の表示が行われない構成とすることにより、上記第８９～第９１の実施形態では、報知用表示装置５９１～５９５の数を低減することができる。

【４７８５】

（８８）上記第８９～第９１の実施形態において第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて各種出玉率（直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、第１算出期間における出玉率、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率、及び第２算出期間における出玉率）の表示に加えて、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）に対する遊技球の合計払出個数の割合であるベース値の表示が行われる構成としてもよい。具体的には、非特定制御用のワークエリア２２３には、入球個数カウンタエリア５９６に加えて、上記第１５の実施形態におけ

る通常用カウンタエリア２３１が設けられている。上記第１５の実施形態において既に説明したとおり、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅは、前扉枠１４が閉鎖状態となっている状況であって開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において対象となる入球部２４ａ，３１～３４に入球した遊技球の個数を計測するために利用される。ベース値は、通常用カウンタエリア２３１の各カウンタ２３１ａ～２３１ｅに記憶されている値に基づいて算出される。

【４７８６】

大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）に対する遊技球の合計払出個数の割合の異常が発生している状況においても、全遊技状態における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）に対する遊技球の合計払出個数の割合が正常範囲（第１正常範囲又は第２正常範囲）に収まっている状況が発生し得る。これに対して、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示に基づいて各種出玉率に加えてベース値を把握可能とすることにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５の表示に基づいて、各種出玉率が正常範囲（第１正常範囲又は第２正常範囲）に収まっている状況において発生したベース値の異常も把握可能とすることができる。

【４７８７】

（８９）上記第８９～第９１の実施形態において直近の単位算出期間における出玉率が第１～第５報知用表示装置５９１～５９５における表示対象となる構成としてもよい。上記第８９の実施形態では、第１管理バッファ６０１に単位算出期間における出玉率データが１個以上格納されている状況となった場合に第１管理バッファ６０１において直近の単位算出期間における出玉率データが格納されている記憶エリア６０１ａ～６０１ｄが第１～第５報知用表示装置５９１～５９５における表示対象となる。主側ＣＰＵ６３は、第１書き込みポインタ６０３の値を１減算して得られる値に対応する記憶エリア６０１ａ～６０１ｄを表示対象として特定する。第１書き込みポインタ６０３の値を１減算して得られる値が「０」を下回る場合、主側ＣＰＵ６３は第１書き込みポインタ６０３の最大値である「３」に対応する第３記憶エリア６０１ｄを表示対象として特定する。上記第９０の実施形態では、共通管理バッファ６１６に単位算出期間における出玉率データが１個以上格納されている状況となった場合に共通管理バッファ６１６において直近の単位算出期間における出玉率データが格納されている記憶エリア６１６ａ～６１６ｊが第１～第５報知用表示装置５９１～５９５における表示対象となる。主側ＣＰＵ６３は、共通書き込みポインタ６１７の値を１減算して得られる値に対応する記憶エリア６１６ａ～６１６ｊを表示対象として特定する。共通書き込みポインタ６１７の値を１減算して得られる値が「０」を下回る場合、主側ＣＰＵ６３は共通書き込みポインタ６１７の最大値である「９」に対応する第９記憶エリア６１６ｊを表示対象として特定する。上記第９１の実施形態では、共通管理カウンタエリア６２１に単位算出期間における出玉率データが１個以上格納されている状況となった場合に第０出玉率カウンタ６２１ａが第１～第５報知用表示装置５９１～５９５における表示対象となる。第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて直近の単位算出期間における出玉率を確認可能とすることにより、第１算出期間よりも短い単位算出期間における出玉率の異常の有無、及び当該異常の程度を把握可能とすることができる。これにより、出玉率の異常が発生した場合に早期に当該異常を把握可能とすることができる。

【４７８８】

また、上記（８９）の構成に加えて、１回前の単位算出期間における出玉率及び２回前の単位算出期間における出玉率が第１～第５報知用表示装置５９１～５９５における表示対象となる構成としてもよい。上記第８９の実施形態では、第１管理バッファ６０１に単位算出期間における出玉率データが３個以上格納されている状況となった場合に第１管理バッファ６０１において直近の単位算出期間における出玉率データ、１回前の単位算出期間における出玉率データ、及び２回前の単位算出期間における出玉率データが格納されて

いる記憶エリア６０１ａ～６０１ｄが第１～第５報知用表示装置５９１～５９５における表示対象となる。主側ＣＰＵ６３は、第１書き込みポインタ６０３の値を１減算して得られる値に対応する記憶エリア６０１ａ～６０１ｄと、第１書き込みポインタ６０３の値をさらに１減算して得られる値に対応する記憶エリア６０１ａ～６０１ｄと、第１書き込みポインタ６０３の値をさらに１減算して得られる値に対応する記憶エリア６０１ａ～６０１ｄとを表示対象として特定する。第１書き込みポインタ６０３の値を１減算して得られる値が「０」を下回る場合、主側ＣＰＵ６３は第１書き込みポインタ６０３の最大値である「３」に対応する第３記憶エリア６０１ｄを表示対象として特定する。上記第９０の実施形態では、共通管理バッファ６１６に単位算出期間における出玉率データが３個以上格納されている状況となった場合に共通管理バッファ６１６において直近の単位算出期間における出玉率データ、１回前の単位算出期間における出玉率データ、及び２回前の単位算出期間における出玉率データが格納されている記憶エリア６１６ａ～６１６ｊが第１～第５報知用表示装置５９１～５９５における表示対象となる。主側ＣＰＵ６３は、共通書き込みポインタ６１７の値を１減算して得られる値に対応する記憶エリア６１６ａ～６１６ｊと、共通書き込みポインタ６１７の値をさらに１減算して得られる値に対応する記憶エリア６１６ａ～６１６ｊと、共通書き込みポインタ６１７の値をさらに１減算して得られる値に対応する記憶エリア６１６ａ～６１６ｊとを表示対象として特定する。共通書き込みポインタ６１７の値を１減算して得られる値が「０」を下回る場合、主側ＣＰＵ６３は共通書き込みポインタ６１７の最大値である「９」に対応する第９記憶エリア６１６ｊを表示対象として特定する。上記第９１の実施形態では、共通管理カウンタエリア６２１に単位算出期間における出玉率データが３個以上格納されている状況となった場合に第０～第２出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｃが第１～第５報知用表示装置５９１～５９５における表示対象となる。第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて１回前の単位算出期間における出玉率、及び２回前の単位算出期間における出玉率を把握可能とすることにより、単位算出期間における出玉率の異常が見逃されてしまうことを防止することができる。また、単位算出期間における出玉率の確認頻度を低減可能として、遊技ホールの管理者による出玉率についての監視負担を軽減することができる。

【４７８９】

（９０）上記第８９～第９２の実施形態において第１算出期間における出玉率が第１正常範囲（４１％～１４９％）から外れる異常が発生した場合、及び第２算出期間における出玉率が第２正常範囲（５１％～１３３％）から外れる異常が発生した場合に、当該異常を報知する信号をホールコンピュータ等の外部装置に対して出力する構成としてもよい。ホールコンピュータ等の外部装置にて第１算出期間における出玉率の異常及び第２算出期間における出玉率の異常を把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者による出玉率についての監視負担を軽減することができる。

【４７９０】

また、上記（９０）の構成において、単位算出期間における出玉率の正常な範囲である単位正常範囲として３４％～２２０％の数値範囲が設定されており、単位算出期間における出玉率の異常が発生していることを１つの条件として出玉率の異常を報知する信号がホールコンピュータ等の外部装置に対して出力される構成としてもよい。具体的には、第１算出期間における出玉率が第１正常範囲（４１％～１４９％）から外れる異常が発生した場合、及び第２算出期間における出玉率が第２正常範囲（５１％～１３３％）から外れる異常が発生した場合に、さらに直近の単位算出期間における出玉率の異常が発生していることを条件として当該異常を報知する信号が外部出力される。これにより、出玉率の異常が現在も発生しており、迅速な対応が必要である場合にのみ出玉率の異常を報知する信号の外部出力が行われる構成とすることができる。これにより、出玉率の異常を報知する信号が外部出力される頻度を低減しつつ、迅速な対応が必要な場合をホールコンピュータ等の外部装置において把握可能とすることができる。

【４７９１】

（９１）上記第８９～第９１の実施形態において直近４回分の単位算出期間全体におけ

る出玉率が第１正常範囲（４１％～１４９％）の下限（４１％）を下回る異常、第１算出期間における出玉率が第１正常範囲（４１％～１４９％）の下限（４１％）を下回る異常、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が第２正常範囲（５１％～１３３％）の下限（５１％）を下回る異常、又は第２算出期間における出玉率が第２正常範囲（５１％～１３３％）の下限（５１％）を下回る異常が発生した場合に、これらの異常を報知する信号をホールコンピュータ等の外部装置に対して出力する構成としてもよい。また、上記第９２の実施形態において第１算出期間における出玉率が第１正常範囲（４１％～１４９％）の下限（４１％）を下回る異常、又は第２算出期間における出玉率が第２正常範囲（５１％～１３３％）の下限（５１％）を下回る異常が発生した場合に、これらの異常を報知する信号をホールコンピュータ等の外部装置に対して出力する構成としてもよい。ホールコンピュータ等の外部装置にて出玉率が正常範囲（第１正常範囲又は第２正常範囲）の下限を下回る異常を把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者による出玉率についての監視負担を軽減することができる。また、遊技ホールの管理者に対して、パチンコ機１０の遊技盤２４に植設されている釘２４ｂの状態等を調整するメンテナンスを行う契機を与えることができる。

【４７９２】

（９２）上記第８９～第９１の実施形態において直近４回分の単位算出期間全体における出玉率が第１正常範囲（１４９％～１４９％）の上限（１４９％）を上回る異常、第１算出期間における出玉率が第１正常範囲（１４９％～１４９％）の上限（１４９％）を上回る異常、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が第２正常範囲（１３３％～１３３％）の上限（１３３％）を上回る異常、又は第２算出期間における出玉率が第２正常範囲（１３３％～１３３％）の上限（１３３％）を上回る異常が発生した場合に、これらの異常を報知する信号をホールコンピュータ等の外部装置に対して出力する構成としてもよい。また、上記第９２の実施形態において第１算出期間における出玉率が第１正常範囲（１４９％～１４９％）の上限（１４９％）を上回る異常、又は第２算出期間における出玉率が第２正常範囲（１３３％～１３３％）の上限（１３３％）を上回る異常が発生した場合に、これらの異常を報知する信号をホールコンピュータ等の外部装置に対して出力する構成としてもよい。ホールコンピュータ等の外部装置にて出玉率が正常範囲（第１正常範囲又は第２正常範囲）の上限を上回る異常を把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者による出玉率についての監視負担を軽減することができる。また、遊技ホールの管理者に対して、遊技球の合計払出個数を不正に高めるような行為の有無を確認する契機を与えることができる。

【４７９３】

（９３）上記第８９～第９２の実施形態において各種出玉率（上記第８９～第９１の実施形態では直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、第１算出期間における出玉率、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率、又は第２算出期間における出玉率、上記第９２の実施形態では第１算出期間における出玉率、又は第２算出期間における出玉率）が正常範囲（第１正常範囲又は第２正常範囲）の上限を上回る異常が発生した場合にホールコンピュータ等の外部装置に対して上側出玉率異常信号が出力されるとともに、各種出玉率が正常範囲（第１正常範囲又は第２正常範囲）の下限を下回る異常が発生した場合にホールコンピュータ等の外部装置に対して下側出玉率異常信号が出力される構成としてもよい。本構成において、上側出玉率異常信号及び下側出玉率異常信号は外部装置にて識別可能な態様で出力される。これにより、外部装置において、各種出玉率の異常の有無だけでなく異常の種類まで把握可能とすることができる。

【４７９４】

（９４）上記第８９～第９１の実施形態において直近４回分の単位算出期間全体における出玉率が第１正常範囲（４１％～１４９％）から外れる異常、第１算出期間における出玉率が第１正常範囲（４１％～１４９％）から外れる異常、直近１０回分の単位算出期間における出玉率が第２正常範囲（５１％～１３３％）から外れる異常、又は第２算出期間における出玉率が第２正常範囲（５１％～１３３％）から外れる異常が発生した場合に、

これらの異常を報知する異常信号がホールコンピュータ等の外部装置に対して出力される構成としてもよい。これにより、外部装置においてこれらの異常の全てを把握可能とすることができる。また、上記第９２の実施形態において第１算出期間における出玉率が第１正常範囲から外れる異常、又は第２算出期間における出玉率が第２正常範囲から外れる異常が発生した場合に、これらの異常を報知する異常信号がホールコンピュータ等の外部装置に対して出力される構成としてもよい。これにより、外部装置においてこれらの異常の両方を把握可能とすることができる。

【４７９５】

（９５）上記第８９～第９１の実施形態において直近４回分の単位算出期間全体における出玉率が第１正常範囲（４１％～１４９％）から外れる異常と、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が第２正常範囲（５１％～１３３％）から外れる異常との両方が発生したことを条件として出玉率の異常を報知する異常信号がホールコンピュータ等の外部装置に出力される構成としてもよい。具体的には、非特定制御用のワークエリア２２３には、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率が第１正常範囲から外れている状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とする４回分出玉率異常フラグと、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が第２正常範囲から外れている状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とする１０回分出玉率異常フラグとが設けられている。主側ＣＰＵ６３は、４回分出玉率異常フラグ及び１０回分出玉率異常フラグの両方に「１」がセットされている状態となったことを条件として異常信号をホールコンピュータ等の外部装置に対して出力する。このように、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率が第１正常範囲から外れる異常と、直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が第２正常範囲から外れる異常との両方が発生したことを条件として異常信号が外部出力される構成とすることにより、外部装置にて異常信号を確認した場合に出玉率の異常の程度が深刻であることを把握可能として、迅速な対応を促すことができる。

【４７９６】

また、上記第９２の実施形態において第１算出期間における出玉率が第１正常範囲から外れる異常と、第２算出期間における出玉率が第２正常範囲から外れる異常との両方が発生したことを条件として出玉率の異常を報知する異常信号がホールコンピュータ等の外部装置に出力される構成としてもよい。具体的には、非特定制御用のワークエリア２２３には、第１算出期間における出玉率が第１正常範囲から外れている状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とする第１出玉率異常フラグと、第２算出期間における出玉率が第２正常範囲から外れている状態が発生したことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とする第２出玉率フラグとが設けられている。主側ＣＰＵ６３は、第１出玉率異常フラグ及び第２出玉率異常フラグの両方に「１」がセットされている状態となったことを条件として異常信号をホールコンピュータ等の外部装置に対して出力する。このように、第１算出期間における出玉率が第１正常範囲から外れる異常と、第２算出期間における出玉率が第２正常範囲から外れる異常との両方が発生したことを条件として異常信号が外部出力される構成とすることにより、外部装置にて異常信号を確認した場合に出玉率の異常の程度が深刻であることを把握可能として、迅速な対応を促すことができる。

【４７９７】

（９６）上記第８９～第９２の実施形態において単位算出期間における出玉率データが複数記憶される構成に代えて、単位算出期間における最終的な遊技球の合計払出個数の情報が複数記憶される構成としてもよい。具体的には、チェック処理（図３２５）のステップＳＬ１１０における合計排出個数の演算処理では、上記第８９の実施形態において既に説明したとおり、入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅに記憶されている値の合計値を算出することにより、全遊技状態において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（合計排出個数）を算出する。その後、当該算出した合計排出個数が単位基準個数である６０００個以上の個数である場合、すなわち単位算出期間が終了した場合に今回終了した単位算出期間における最終的な合計払出個数を算出する。入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅの値をＫ１０１～Ｋ１０５

とした場合、単位算出期間における最終的な遊技球の合計払出個数は、単位算出期間の終了時に入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅに記憶されている値を利用して、以下の式で算出される。
・遊技球の合計払出個数：Ｋ１０１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」
。
【４７９８】
その後、上記の式で算出した単位算出期間における最終的な合計払出個数の情報（以下、単位算出期間における合計払出個数データともいう。）を記憶する。上記第８９，第９２の実施形態では、当該単位算出期間における合計払出個数データを、第１書き込みポインタ６０３の値に対応する第１管理バッファ６０１のいずれかの記憶エリア６０１ａ～６０１ｄと、第２書き込みポインタ６０４の値に対応する第２管理バッファ６０２のいずれかの記憶エリア６０２ａ～６０２ｊとに記憶する。出玉率記憶処理（図３２６）のステップＳＬ２０８における第１出玉率演算処理では、演算エリア５９８を「０」クリアした後、第１管理バッファ６０１の第０記憶エリア６０１ａに記憶されている単位算出期間における合計払出個数データを当該演算エリア５９８にセットする。その後、演算エリア５９８の値に対して、第１管理バッファ６０１の第１～第３記憶エリア６０１ｂ～６０１ｄに記憶されている３回分の各単位算出期間における３個の合計払出個数を加算する。これにより、演算エリア５９８に直近４回分の単位算出期間全体における合計払出個数（直近４回分の各単位算出期間における４個の合計払出個数の合計値）がセットされている状態となる。その後、演算エリア５９８の値を「２４０」で除算する。これにより、直近４回分の単位算出期間全体における合計払出個数を単位基準個数（具体的には６０００個）の４倍である「２４０００」で除算して１００倍して得られる直近４回分の単位算出期間全体における出玉率が演算エリア５９８に記憶されている状態となる。その後、当該算出した直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データを第１単位更新エリア６０６ａに格納する。また、出玉率記憶処理（図３２６）のステップＳＬ２２０における第２出玉率演算処理では、演算エリア５９８を「０」クリアした後、第２管理バッファ６０２の第０記憶エリア６０２ａに記憶されている単位算出期間における合計払出個数データを当該演算エリア５９８にセットする。その後、演算エリア５９８の値に対して、第２管理バッファ６０２の第１～第９記憶エリア６０２ｂ～６０２ｊに記憶されている９回分の各単位算出期間における９個の合計払出個数を加算する。これにより、演算エリア５９８に直近１０回分の単位算出期間全体における合計払出個数（直近１０回分の各単位算出期間における１０個の合計払出個数の合計値）がセットされている状態となる。その後、演算エリア５９８の値を「６００」で除算する。これにより、直近１０回分の単位算出期間全体における合計払出個数を単位基準個数（具体的には６０００個）の１０倍である「６００００」で除算して１００倍して得られる直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が演算エリア５９８に記憶されている状態となる。その後、当該算出した直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データを第２単位更新エリア６０７ａに格納する。
【４７９９】
上記第９０の実施形態では、上記の式で算出した単位算出期間における合計払出個数データを、共通書き込みポインタ６１７の値に対応する共通管理バッファ６１６のいずれかの記憶エリア６１６ａ～６１６ｊに記憶する。第１出玉率演算処理（図３３２）では、演算エリア５９８を「０」クリアする。その後、共通書き込みポインタ６１７の値を１減算するとともに、減算回数カウンタ６１９の値を「１」加算する。上記第９０の実施形態と同様に、１減算後の共通書き込みポインタ６１７の値が「０」を下回る場合には共通書き込みポインタ６１７に最大値である「９」をセットする。その後、１減算後の値に対応する共通管理バッファ６１６のいずれかの記憶エリア６１６ａ～６１６ｊに格納されている単位算出期間における合計払出個数データを演算エリア５９８にセットする。その後、減算回数カウンタ６１９の値が「４」となるまで、共通書き込みポインタ６１７の値を１減

算するとともに減算回数カウンタ６１９の値を１加算し、当該１減算後の共通書き込みポインタ６１７の値に対応する記憶エリア６１６ａ～６１６ｊに格納されている単位算出期間における合計払出個数を演算エリア５９８に加算する一連の処理を繰り返す。これにより、演算エリア５９８に直近４回分の単位算出期間全体における合計払出個数（直近４回分の各単位算出期間における４個の合計払出個数の合計値）がセットされている状態となる。その後、演算エリア５９８の値を「２４０」で除算する。これにより、直近４回分の単位算出期間全体における合計払出個数を単位基準個数（具体的には６０００個）の４倍である「２４０００」で除算して１００倍して得られる直近４回分の単位算出期間全体における出玉率が演算エリア５９８に記憶されている状態となる。その後、当該算出した直近４回分の単位算出期間全体における出玉率を第１単位更新エリア６０６ａに格納する。出玉率記憶処理（図３３１）のステップＳＬ５１８における第２出玉率演算処理では、演算エリア５９８を「０」クリアした後、共通管理バッファ６１６の第０記憶エリア６１６ａに記憶されている単位算出期間における合計払出個数データを演算エリア５９８にセットする。その後、演算エリア５９８の値に対して、共通管理バッファ６１６の第１～第９記憶エリア６１６ｂ～６１６ｊに記憶されている９回分の各単位算出期間における９個の合計払出個数を加算する。これにより、演算エリア５９８に直近１０回分の単位算出期間全体における合計払出個数（直近１０回分の各単位算出期間における１０個の合計払出個数の合計値）がセットされている状態となる。その後、演算エリア５９８の値を「６００」で除算する。これにより、直近１０回分の単位算出期間全体における合計払出個数を単位基準個数（具体的には６０００個）の１０倍である「６００００」で除算して１００倍して得られる直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が演算エリア５９８に記憶されている状態となる。その後、当該算出した直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データを第２単位更新エリア６０７ａに格納する。

【４８００】

上記第９１の実施形態では、出玉率記憶処理（図３３４）のステップＳＬ７０１にて共通管理カウンタエリア６２１のデータシフト処理を実行した後に、上記の式で算出した単位算出期間における合計払出個数データを共通管理カウンタエリア６２１の第０出玉率カウンタ６２１ａに格納する。出玉率記憶処理（図３３４）のステップＳＬ７０８における第１出玉率演算処理では、演算エリア５９８を「０」クリアした後、共通管理カウンタエリア６２１の第０出玉率カウンタ６２１ａに記憶されている単位算出期間における合計払出個数データを当該演算エリア５９８にセットする。その後、演算エリア５９８の値に対して、共通管理カウンタエリア６２１の第１～第３出玉率カウンタ６２１ｂ～６１２ｄに記憶されている３回分の各単位算出期間における３個の合計払出個数を加算する。これにより、直近４回分の単位算出期間全体における合計払出個数を単位基準個数（具体的には６０００個）の４倍である「２４０００」で除算して１００倍して得られる直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データが演算エリア５９８に記憶されている状態となる。その後、当該算出した直近４回分の単位算出期間全体における出玉率データを第１単位更新エリア６０６ａに格納する。出玉率記憶処理（図３３４）のステップＳＬ７１６における第２出玉率演算処理では、演算エリア５９８を「０」クリアした後、共通管理カウンタエリア６２１の第０出玉率カウンタ６２１ａに記憶されている単位算出期間における合計払出個数データを当該演算エリア５９８にセットする。その後、演算エリア５９８の値に対して、共通管理カウンタエリア６２１の第１～第９出玉率カウンタ６２１ｂ～６１２ｊに記憶されている９回分の各単位算出期間における９個の合計払出個数を加算する。これにより、演算エリア５９８に直近１０回分の単位算出期間全体における合計払出個数（直近１０回分の各単位算出期間における１０個の合計払出個数の合計値）がセットされている状態となる。その後、演算エリア５９８の値を「６００」で除算する。これにより、直近１０回分の単位算出期間全体における合計払出個数を単位基準個数（具体的には６０００個）の１０倍である「６００００」で除算して１００倍して得られる直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率が演算エリア５９８に記憶されている状態となる。その後、当該算出した直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率データを第２単位更新

エリア６０７ａに格納する。
【４８０１】
このように、単位算出期間における出玉率データに代えて、単位算出期間における合計払出個数データを複数記憶し、複数の各単位算出期間における複数の合計払出個数データに基づいて直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、及び直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率を算出する構成とすることにより、単位算出期間が終了する度に記憶しておくための単位算出期間における出玉率を算出する処理を省略することが可能となる。また、直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、及び直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率を算出する過程で行われる除算の回数を１回として、これらの出玉率の算出精度を高めることができる。
【４８０２】
（９７）上記第８９～第９２の実施形態において第１～第５報知用表示装置５９１～５９５にて各種出玉率が「０．００」～「９．９９」の範囲で小数点第２位までの数値情報として表示される構成としてもよい。当該構成において、各種出玉率は、全遊技状態における遊技球の合計払出個数をパチンコ機１０の遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数で除算することにより「０．００」～「９．９９」の範囲で３桁の数値情報として算出される。第３報知用表示装置は、上記第８９の実施形態における第１報知用表示装置５９１と同様に、８個の表示用セグメントを有している。第３報知用表示装置における８個の表示用セグメントのうち７個の表示用セグメントは同一形状及び同一サイズとなる棒状の発光領域となっており、「８」の字を生じさせるように配列されている。一方、１個の表示用セグメントは円形状の発光領域となっており、「８」の字状に配列されている７個の表示用セグメントに対して右下の位置に設けられている。これにより、第３報知用表示装置にて１桁の数字に加えて小数点を表示可能となっている。第３報知用表示装置にて出玉率の一の位の数字と小数点との表示が行われ、第４報知用表示装置５９４にて出玉率の小数点第１位の数字の表示が行われ、第５報知用表示装置５９５にて出玉率の小数点第２位の数字の表示が行われる。当該構成としても、第３～第５報知用表示装置５９３～５９５の表示に基づいて３桁の出玉率を把握可能とすることができる。
【４８０３】
（９８）上記第８９～第９１の実施形態において、第１報知用表示装置５９１にて第１表示対象エリア６０６の各種エリア６０６ａ～６０６ｄ及び第２表示対象エリア６０７の各種エリア６０７ａ～６０７ｄのうちいずれの出玉率を報知している状況であるのかを示す表示が行われるとともに、第２報知用表示装置５９２にて第１～第５報知用表示装置５９１～５９５において第１表示対象エリア６０６に格納されている出玉率を報知している状況であることを示す表示、及び第２表示対象エリア６０７に格納されている出玉率を報知している状況であることを示す表示が行われる構成としてもよい。具体的には、第１単位更新エリア６０６ａの出玉率が報知されている状況において第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて「０ｄ」の表示が行われるとともに、第２単位更新エリア６０７ａの出玉率が報知されている状況において第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて「０ｄ．」の表示が行われる。第１算出期間の直近エリア６０６ｂの出玉率が報知されている状況において第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて「１ｄ」の表示が行われるとともに、第２算出期間の直近エリア６０７ｂの出玉率が報知されている状況において第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて「１ｄ．」の表示が行われる。第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃの出玉率が報知されている状況において第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて「２ｄ」の表示が行われるとともに、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃの出玉率が報知されている状況において第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて「２ｄ．」の表示が行われる。第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄの出玉率が報知されている状況において第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて「３ｄ」の表示が行われるとともに、第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄの出玉率が報知されている状況において第１，第２報知用表示装置５９１，５９２にて「３ｄ．」の表示が行われる。このように、第２報知用表示装置５９２にて「ｄ」又は「ｄ．」の表示が行われる

構成とすることにより、第１報知用表示装置５９１にて「０」～「３」の数字の表示が行われたとしても、当該数字の表示が第３～第５報知用表示装置５９３～５９５における３つの数字の表示と連続することを避けることができる。これにより、第１～第５報知用表示装置５９１～５９５における各種出玉率の表示を分かり易いものとして、出玉率の誤認が生じる可能性を低減することができる。

【４８０４】

（９９）上記第８９～第９１の実施形態において各種出玉率を算出する構成に代えて、ベース値を算出する構成としてもよい。具体的には、非特定制御用のワークエリア２２３には入球個数カウンタエリア５９６（図３２２）に代えて、上記第３５の実施形態と同様に、通常用カウンタエリア２３１（図７２）が設けられている。上記第３５の実施形態において既に説明したとおり、ベース値は、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）に対する遊技球の合計払出個数の割合である。非特定制御用のワークエリア２２３には、現状出玉率エリア５９９に代えて現状ベース値エリアが設けられている。チェック処理（図３２５）が実行される度に通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅに格納されている値を利用して現状のベース値が算出され、当該算出された現状のベース値が現状ベース値エリアに格納される。本構成では、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数がベース用単位基準個数である６０００個に達した場合に単位算出期間が終了する。単位算出期間が終了した場合、現状ベース値エリアには今回終了した単位算出期間における最終的なベース値の情報（以下、単位算出期間におけるベース値データともいう。）が記憶されている状態となる。

【４８０５】

上記第８９の実施形態では、単位算出期間が終了した場合、現状ベース値得エリアに記憶されている単位算出期間におけるベース値データが第１書き込みポインタ６０３の値に対応する第１管理バッファ６０１のいずれかの記憶エリア６０１ａ～６０１ｄ、及び第２書き込みポインタ６０４の値に対応する第２管理バッファ６０２のいずれかの記憶エリア６０２ａ～６０２ｊに格納される。単位算出期間におけるベース値の第１管理バッファ６０１への書き込みが行われた場合には第１書き込みポインタ６０３の値が１加算されて更新されるとともに、単位算出期間におけるベース値の第２管理バッファ６０２への書き込みが行われた場合には第２書き込みポインタ６０４の値が１加算されて更新される。第１管理バッファ６０１及び第２管理バッファ６０２に単位算出期間におけるベース値が格納された場合、主側ＣＰＵ６３は、第１管理バッファ６０１の４個の記憶エリア６０１ａ～６０１ｄに記憶されている４個のベース値の合計値を「４」で除算することにより直近４回分の単位算出期間全体におけるベース値を算出する。そして、当該算出した直近４回分の単位算出期間全体におけるベース値を第１単位更新エリア６０６ａに格納する。また、第１管理バッファ６０１及び第２管理バッファ６０２に単位算出期間におけるベース値が格納された場合、主側ＣＰＵ６３は、第２管理バッファ６０２の１０個の記憶エリア６０２ａ～６０２ｊに記憶されている１０個のベース値の合計値を「１０」で除算することにより直近１０回分の単位算出期間全体におけるベース値を算出する。そして当該算出した直近１０回分の単位算出期間全体におけるベース値を第２単位更新エリア６０７ａに格納する。

【４８０６】

上記第９０の実施形態では、単位算出期間が終了した場合、現状ベース値エリアに記憶されている単位算出期間におけるベース値データが共通書き込みポインタ６１７の値に対応する共通管理バッファ６１６のいずれかの記憶エリア６１６ａ～６１６ｊに格納される。単位算出期間におけるベース値の共通管理バッファ６１６への書き込みが行われた場合には共通書き込みポインタ６１７の値が１加算されて更新される。共通管理バッファ６１６に単位算出期間におけるベース値が格納された場合、主側ＣＰＵ６３は、共通書き込み

ポインタ６１７の値に基づいて共通管理バッファ６１６において直近４回分の各単位算出期間における４個のベース値が格納されている記憶エリア６１６ａ～６１６ｊを特定する。そして、当該特定した記憶エリア６１６ａ～６１６ｊに格納されている４個のベース値の合計値を「４」で除算することにより直近４回分の単位算出期間全体におけるベース値を算出する。そして、当該算出した直近４回分の単位算出期間全体におけるベース値を第１単位更新エリア６０６ａに格納する。また、共通管理バッファ６１６に単位算出期間におけるベース値が格納された場合、主側ＣＰＵ６３は、共通管理バッファ６１６の１０個の記憶エリア６１６ａ～６１６ｊに記憶されている１０個のベース値の合計値を「１０」で除算することにより直近１０回分の単位算出期間全体におけるベース値を算出する。そして当該算出した直近１０回分の単位算出期間全体におけるベース値を第２単位更新エリア６０７ａに格納する。

【４８０７】

上記第９１の実施形態では、第０～第９出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｊに代えて、第０～第９ベース値カウンタが設けられている。単位算出期間が終了した場合、共通管理カウンタエリア６２１のデータシフト処理（出玉率記憶処理（図３３４）のステップＳＬ７０１）が実行される。当該データシフト処理では、共通管理カウンタエリア６２１における第０～第９ベース値カウンタに記憶された出玉率の情報を、第８ベース値カウンタ→第９ベース値カウンタ、第７ベース値カウンタ→第８ベース値カウンタ、第６ベース値カウンタ→第７ベース値カウンタ、第５ベース値カウンタ→第６ベース値カウンタ、第４ベース値カウンタ→第５ベース値カウンタ、第３ベース値カウンタ→第４ベース値カウンタ、第２ベース値カウンタ→第３ベース値カウンタ、第１ベース値カウンタ→第２ベース値カウンタ、第０ベース値カウンタ→第１ベース値カウンタの順序でシフトする。これにより、９回前の単位算出期間におけるベース値が第９ベース値カウンタに記憶され、８回前の単位算出期間におけるベース値が第８ベース値カウンタに記憶され、７回前の単位算出期間におけるベース値が第７ベース値カウンタに記憶され、６回前の単位算出期間におけるベース値が第６ベース値カウンタに記憶され、５回前の単位算出期間におけるベース値が第５ベース値カウンタに記憶され、４回前の単位算出期間におけるベース値が第４ベース値カウンタに記憶され、３回前の単位算出期間におけるベース値が第３ベース値カウンタに記憶され、２回前の単位算出期間におけるベース値が第２ベース値カウンタに記憶され、１回前の単位算出期間におけるベース値が第１ベース値カウンタに記憶される。また、共通管理カウンタエリア６２１のデータシフト処理では、第０ベース値カウンタの値が「０」クリアされる。その後、現状ベース値エリアに記憶されている単位算出期間におけるベース値データが共通管理カウンタエリア６２１の第０ベース値カウンタに格納される。共通管理カウンタエリア６２１に単位算出期間におけるベース値が格納された場合、主側ＣＰＵ６３は、第０～第３ベース値カウンタに格納されている４個のベース値の合計値を「４」で除算することにより直近４回分の単位算出期間全体におけるベース値を算出する。そして、当該算出した直近４回分の単位算出期間全体におけるベース値を第１単位更新エリア６０６ａに格納する。共通管理カウンタエリア６２１に単位算出期間におけるベース値が格納された場合、主側ＣＰＵ６３は、共通管理カウンタエリア６２１の１０個のベース値カウンタに記憶されている１０個のベース値の合計値を「１０」で除算することにより直近１０回分の単位算出期間全体におけるベース値を算出する。そして当該算出した直近１０回分の単位算出期間全体におけるベース値を第２単位更新エリア６０７ａに格納する。

【４８０８】

（１００）上記第９３～第９６の実施形態において、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に合計個数情報を表示させるために操作される操作部は、リセットボタン６８ｃに限定されることはなく、更新ボタン６８ｂであってもよい。具体的には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に直近のベース値が表示されている状況において更新ボタン６８ｂの操作が行われた場合に第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示が行われる構成としてもよい。

【４８０９】
（１０１）上記第９３～第９６の実施形態において、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に直近のベース値が表示されている状況においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われた場合に、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて表示継続期間（具体的に５秒間）に亘って合計個数情報の表示が行われる構成に代えて、リセットボタン６８ｃの押圧操作が開始されてから当該押圧操作が終了するまでの期間に亘って合計個数情報の表示が継続して行われる構成としてもよい。具体的には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に格納されているいずれかのベース値の表示が行われている状況においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が開始された場合、当該押圧操作が終了するまで、合計個数エリア６３１に格納されている合計個数データに対応する合計個数情報の表示データが表示対象設定エリア２７６に設定される。上記第９３の実施形態において既に説明したとおり、合計個数情報の表示データは、合計個数データにおける万の位の数字に対応する表示を第１報知用表示装置２０１に行わせるための表示データと、合計個数データにおける千の位の数字に対応する表示を第２報知用表示装置２０２に行わせるための表示データと、合計個数データにおける百の位の数字に対応する表示を第３報知用表示装置２０３に行わせるための表示データと、合計個数データにおける十の位の数字に対応する表示を第４報知用表示装置２０４に行わせるための表示データとを含んでいる。遊技ホールの管理者は、合計個数情報を把握するまでリセットボタン６８ｃの押圧操作を継続するとともに、合計個数情報を把握した段階でリセットボタン６８ｃの押圧操作を終了することにより、任意のタイミングで第１～第４報知用表示装置２０１～２０４におけるベース値の表示を再開させることができる。
【４８１０】
（１０２）上記第９３～第９６の実施形態において、リセットボタン６８ｃの押圧操作が行われなくても第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に合計個数情報が表示される構成としてもよい。具体的には、設定値の確認及び設定値の更新が行われていない状況において、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における報知対象が現状エリア３１１のベース値→合計個数情報→第１履歴エリア３１２のベース値→第２履歴エリア３１３のベース値→第３履歴エリア３１４のベース値の順番で更新され、第３履歴エリア３１４のベース値の表示が終了した後に報知対象が現状エリア３１１のベース値に戻る構成としてもよく、設定値の確認及び設定値の更新が行われていない状況において、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における報知対象が合計個数情報→現状エリア３１１のベース値→第１履歴エリア３１２のベース値→第２履歴エリア３１３のベース値→第３履歴エリア３１４のベース値の順番で更新され、第３履歴エリア３１４のベース値の表示が終了した後に報知対象が合計個数情報に戻る構成としてもよい。これらの構成とすることにより、リセットボタン６８ｃの操作を不要としながら第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報を把握可能とすることができるとともに、直近のベース値についての収束の程度を把握可能とすることができる。現状エリア３１１における直近のベース値の表示が終了した後に合計個数情報の表示が行われる構成では、直近のベース値を把握した状態で、合計個数情報の表示に基づいて当該直近のベース値についての収束の程度を把握可能とすることができる。また、合計個数情報の表示が終了した後に現状エリア３１１における直近のベース値の表示が行われる構成では、直近のベース値についての収束の程度を把握した状態で、直近のベース値を把握可能とすることができる。
【４８１１】
（１０３）上記第９３～第９６の実施形態において、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に加えて、合計個数データにおける一の位の数字が表示される第５報知用表示装置が主制御基板６１に設けられている構成としてもよい。上記第９３の実施形態において既に説明したとおり、合計個数データは「０」～「６５５３５」のいずれかの数値を示す２バイトの数値情報である。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に直近のベース値が表示されている状況においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われた場合、第１報

知用表示装置２０１に合計個数データにおける万の位の数字が表示され、第２報知用表示装置２０２に合計個数データにおける千の位の数字が表示され、第３報知用表示装置２０３に合計個数データにおける百の位の数字が表示され、第４報知用表示装置２０４に合計個数データにおける十の位の数字が表示され、第５報知用表示装置に合計個数データにおける一の位の数字が表示される。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４及び第５報知用表示装置の表示に基づいて、合計個数データの全体（５桁の数字）を把握可能とすることができる。

【４８１２】

（１０４）上記第９３～第９６の実施形態において、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数データに対応する表示が行われる場合に、第１報知用表示装置２０１において合計個数データに対応する表示が行われていることを示す表示が行われる構成としてもよい。具体的には、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数データに対応する表示が行われる場合、第１報知用表示装置２０１には「ｓ」の文字が表示される。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において合計個数データに対応する表示以外の表示が行われる場合には第１報知用表示装置２０１にて「ｓ」の文字が表示されることはない。これにより、第１報知用表示装置２０１にて「ｓ」の文字が表示されていることを確認することで、遊技ホールの管理者は第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数データに対応する表示が行われていることを把握することが可能となる。本構成では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に直近のベース値が表示されている状況においてリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われた場合、第１報知用表示装置２０１に「ｓ」の文字が表示され、第２報知用表示装置２０２に合計個数データにおける万の位の数字が表示され、第３報知用表示装置２０３に合計個数データにおける千の位の数字が表示され、第４報知用表示装置２０４に合計個数データにおける百の位の数字が表示される。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数データに対応する表示が行われていることを容易に把握可能としながら、合計個数データにおける上位３桁の数字を把握可能とすることができる。

【４８１３】

（１０５）上記第９３～第９６の実施形態において、第１タイマ割込み処理（第９３及び第９６の実施形態では図３３８、第９４の実施形態では図３５０、第９５の実施形態では図３５３）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）のいずれかが起動された場合にＤＩ命令等のプログラムが実行されることにより自動的に第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の割込みが禁止される構成としてもよい。当該構成では、第１タイマ割込み処理における最初のステップにて、「ＥＩ」として、ＥＩ命令により、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換えるための設定を行う。これにより、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の新たな実行が可能となる。よって、第１タイマ割込み処理の実行中に第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）が経過した場合に第２タイマ割込み処理を割り込ませて起動させることができる。一方、第２タイマ割込み処理では、第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の発生を禁止している状態から許可する状態へ切り換える処理を実行しない。これにより、第２タイマ割込み処理の実行中に第１タイマ割込み処理が割り込んで起動することを防止することができる。上記第３３の実施形態において既に説明したとおり、第１～第５表示回路２６１～２６５は提供された表示データを所定期間（例えば１６ミリ秒）に亘って記憶保持することが可能であるものの所定期間が経過すると表示データは徐々にオール「０」の状態に近付く構成である。当該構成において、第２タイマ割込み処理の起動が遅延することを防止するとともに、第２タイマ割込み処理の実行中に第１タイマ割込み処理が割り込んで起動することを防止することにより、特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ、及び第１～第４報知用表示装置２０１～２０４における表示にちらつきが生じてしまうことを防止することができる。

【４８１４】

（１０６）上記第９３～第９６の実施形態において、ベース値の算出期間として２種類

の算出期間が存在しており、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて各算出期間における合計個数情報の表示が行われる構成としてもよい。具体的には、ベース値の算出期間として、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が２４０００個に達する度に一の算出期間が終了して次の算出期間が開始される第１算出期間と、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）が６００００個に達する度に一の算出期間が終了して次の算出期間が開始される第２算出期間とが存在している。パチンコ機１０では１分間に最大で１００個の遊技球の発射が行われるため、２４０００個は４時間における最大の発射個数であるとともに、６００００個は１０時間における最大の発射個数である。

【４８１５】

非特定制御用のワークエリア２２３には、第１算出期間用の通常用カウンタエリア及び第２算出期間用の通常用カウンタエリアが設けられている。これらの通常用カウンタエリアには、上記第９３の実施形態における通常用カウンタエリア２３１と同様に、通常用の一般入賞カウンタ、通常用の特電入賞カウンタ、通常用の第１作動カウンタ、通常用の第２作動カウンタ及び通常用のアウトカウンタが設けられている。大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況において、一般入賞口３１に１個の遊技球が入球した場合には上記２つの通常用カウンタエリアにおける通常用の一般入賞カウンタの値が１加算され、特電入賞装置３２に１個の遊技球が入球した場合には上記２つの通常用カウンタエリアにおける通常用の特電入賞カウンタの値が１加算され、第１作動口３３に１個の遊技球が入球した場合には上記２つの通常用カウンタエリアにおける通常用の第１作動カウンタの値が１加算され、第２作動口３４に１個の遊技球が入球した場合には上記２つの通常用カウンタエリアにおける通常用の第２作動カウンタの値が１加算され、アウト口２４ａに１個の遊技球が入球した場合には上記２つの通常用カウンタエリアにおける通常用のアウトカウンタの値が１加算される。

【４８１６】

第１算出期間は、第１算出期間用の通常用カウンタエリアにおける各種エリアの値の合計値が２４０００個に達した場合に終了する。この場合には、第１算出期間用の通常用カウンタエリアにおける各種エリアの値が「０」クリアされ、次の第１算出期間が開始される。第２算出期間は、第２算出期間用の通常用カウンタエリアにおける各種エリアの値の合計値が６００００個に達した場合に終了する。この場合には、第２算出期間用の通常用カウンタエリアにおける各種エリアの値が「０」クリアされ、次の第２算出期間が開始される。

【４８１７】

非特定制御用のワークエリア２２３の演算結果記憶エリア２３４には、第１算出期間における直近のベース値が格納される第１算出期間の現状エリアと、１回前の第１算出期間における最終的なベース値が格納される第１算出期間の第１履歴エリアと、２回前の第１算出期間における最終的なベース値が格納される第１算出期間の第２履歴エリアと、３回前の第１算出期間における最終的なベース値が格納される第１算出期間の第３履歴エリアと、第２算出期間における直近のベース値が格納される第２算出期間の現状エリアと、１回前の第２算出期間における最終的なベース値が格納される第２算出期間の第１履歴エリアと、２回前の第２算出期間における最終的なベース値が格納される第２算出期間の第２履歴エリアと、３回前の第２算出期間における最終的なベース値が格納される第２算出期間の第３履歴エリアとが設けられている。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では、ベース値の表示継続期間である５秒が経過する毎に、表示対象が第１算出期間の現状エリア→第１算出期間の第１履歴エリア→第１算出期間の第２履歴エリア→第１算出期間の第３履歴エリア→第２算出期間の現状エリア→第２算出期間の第１履歴エリア→第２算出期間の第２履歴エリア→第２算出期間の第３履歴エリアという予め定められた表示順序に

従って切り換えられる。そして、第２算出期間の第３履歴エリアに格納されているベース値の表示が表示継続期間（具体的には５秒）に亘って行われた後、表示対象が第１算出期間の現状エリアに戻る。

【４８１８】

非特定制御用のワークエリア２２３には、第１算出期間の合計個数エリアと、第２算出期間の合計個数エリアとが設けられている。第１算出期間の合計個数エリアは、現状の第１算出期間において、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）を示す数値情報である第１算出期間の合計個数データが格納されるカウンタである。主側ＣＰＵ６３は、第１算出期間用の通常用カウンタエリアにおける各種カウンタの値を合計することにより第１算出期間の合計個数データを算出する。第１算出期間の合計個数データは「０」～「６５５３５」のいずれかの数値を示す２バイトの数値情報である。第２算出期間の合計個数エリアは、現状の第２算出期間において、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）を示す数値情報である第２算出期間の合計個数データが格納されるカウンタである。主側ＣＰＵ６３は、第２算出期間用の通常用カウンタエリアにおける各種カウンタの値を合計することにより第２算出期間の合計個数データを算出する。第２算出期間の合計個数データは「０」～「６５５３５」のいずれかの数値を示す２バイトの数値情報である。

【４８１９】

主側ＣＰＵ６３は、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に第１算出期間における直近のベース値が表示されている状況でリセットボタン６８ｃの操作が行われた場合、第１算出期間の合計個数エリアに格納されている第１算出期間の合計個数データに対応する第１算出期間における合計個数情報の表示データを生成し、その第１算出期間における合計個数情報の表示データを非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象設定エリア２７６にセットする。第１算出期間における合計個数情報の表示データは、第１算出期間の合計個数データにおける万の位の数字に対応する表示を第１報知用表示装置２０１に行わせるための表示データと、第１算出期間の合計個数データにおける千の位の数字に対応する表示を第２報知用表示装置２０２に行わせるための表示データと、第１算出期間の合計個数データにおける百の位の数字に対応する表示を第３報知用表示装置２０３に行わせるための表示データと、第１算出期間の合計個数データにおける十の位の数字に対応する表示を第４報知用表示装置２０４に行わせるための表示データとを含む。

【４８２０】

第２タイマ割込み処理（図３４６）にて、表示対象設定エリア２７６に格納された第１算出期間における合計個数情報の表示データが読み出され、その読み出された第１算出期間における合計個数情報の表示データが第５表示データバッファ２７５（図１２０（ａ））に格納される。第５表示データバッファ２７５に格納された第１算出期間における合計個数情報の表示データは、表示ＩＣ２６６（図１１９）に送信され、当該第１算出期間における合計個数情報の表示データが表示ＩＣ２６６から第５表示回路２６５（図１１９）に提供されることにより第１～第４報知用表示装置２０１～２０４（図５３）にて第１算出期間における合計個数情報の表示が行われる。第１算出期間における合計個数情報の表示では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に第１算出期間の合計個数データにおける上位４桁の数字が表示される。遊技ホールの管理者は、当該表示に基づいて、第１算出期間における直近のベース値についての収束の程度を把握することができる。

【４８２１】

主側ＣＰＵ６３は、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に第２算出期間における直近のベース値が表示されている状況でリセットボタン６８ｃの操作が行われた場合、第２算出期間の合計個数エリアに格納されている第２算出期間の合計個数データに対応する第２算出期間における合計個数情報の表示データを生成し、その第２算出期間における合

計個数情報の表示データを非特定制御用のワークエリア２２３における表示対象設定エリア２７６にセットする。第２算出期間における合計個数情報の表示データは、第２算出期間の合計個数データにおける万の位の数字に対応する表示を第１報知用表示装置２０１に行わせるための表示データと、第２算出期間の合計個数データにおける千の位の数字に対応する表示を第２報知用表示装置２０２に行わせるための表示データと、第２算出期間の合計個数データにおける百の位の数字に対応する表示を第３報知用表示装置２０３に行わせるための表示データと、第２算出期間の合計個数データにおける十の位の数字に対応する表示を第４報知用表示装置２０４に行わせるための表示データとを含む。

【４８２２】

第２タイマ割込み処理（図３４６）にて、表示対象設定エリア２７６に格納された第２算出期間における合計個数情報の表示データが読み出され、その読み出された第２算出期間における合計個数情報の表示データが第５表示データバッファ２７５（図１２０（ａ））に格納される。第５表示データバッファ２７５に格納された第２算出期間における合計個数情報の表示データは、表示ＩＣ２６６（図１１９）に送信され、当該第２算出期間における合計個数情報の表示データが表示ＩＣ２６６から第５表示回路２６５（図１１９）に提供されることにより第１～第４報知用表示装置２０１～２０４（図５３）にて第２算出期間における合計個数情報の表示が行われる。第２算出期間における合計個数情報の表示では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に第２算出期間の合計個数データにおける上位４桁の数字が表示される。遊技ホールの管理者は、当該表示に基づいて、第２算出期間における直近のベース値についての収束の程度を把握することができる。

【４８２３】

上記第３５の実施形態において図１２７（ａ）～図１２７（ｄ）参照しながら既に説明したとおり、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４はいずれも８個の表示用セグメント３２１～３２４を有している。８個の表示用セグメント３２１～３２４のうち７個の表示用セグメント３２１～３２４はいずれも同一形状及び同一サイズとなる棒状の発光領域となっており、「８」の字を生じさせるように配列されている。一方、１個の表示用セグメント３２１～３２４は円形状の発光領域となっており、「８」の字状に配列されている７個の表示用セグメント３２１～３２４に対して右下の位置に設けられている。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて第１算出期間における合計個数情報の表示が行われる場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において右下の位置に設けられている円形状の発光領域は全て消灯状態となる。例えば、第１算出期間の合計個数データにおける上位４桁の数字が「１２３０」である場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に「１２３０」が表示される。一方、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて第２算出期間における合計個数情報の表示が行われる場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４において右下の位置に設けられている円形状の発光領域は全て点灯状態となる。例えば、第２算出期間の合計個数データにおける上位４桁の数字が「１２３０」である場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に「１．２．３．０．」が表示される。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示される第１算出期間の合計個数情報と、第２算出期間の合計個数情報との識別を容易なものとすることができる。

【４８２４】

（１０７）上記第９３～第９６の実施形態において、第１タイマ割込み処理（図３３８）の中で通常の入球管理処理（チェック処理（図３４１）のステップＳＭ２０４）が実行されるとともに残余処理（図３４７）の中で集計除算実行処理（図３４８）が実行される構成に限定されることはなく、第１タイマ割込み処理（図３３８）の中で集計除算実行処理（図３４８）が実行されるとともに残余処理（図３４７）の中で通常の入球管理処理（チェック処理（図３４１）のステップＳＭ２０４）が実行される構成としてもよい。本構成において、残余処理では、通常の入球管理処理が実行されることにより、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における各入球部２４ａ，３１～３４への入球履歴が通常用カウンタエリア２３１の各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅに記憶される。特定制御用のワークエリア２２１には記憶済みフラグが設けら

れている。記憶済みフラグは、第１タイマ割込み処理の終了後に通常の入球管理処理が既に実行されたことを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。記憶済みフラグには、残余処理において通常の入球管理処理が実行された場合に「１」がセットされる。また、記憶済みフラグは、第１タイマ割込み処理が実行された場合に「０」クリアされる。残余処理では、記憶済みフラグに「１」がセットされていないことを条件として通常の入球管理処理が実行される。このため、第１タイマ割込み処理が終了してから次の第１タイマ割込み処理が開始されるまでの間に残余処理が複数回実行されても、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における各入球部２４ａ，３１～３４への入球の発生回数が重複してカウントされることはない。なお、残余処理は、第１タイマ割込み処理が終了してから次の第１タイマ割込み処理が開始されるまでの間に少なくとも１回は実行される。本構成において第１タイマ割込み処理では、集計除算実行処理（図３４８）が実行されることにより、ベース値の演算が行われて、当該演算により算出された直近のベース値が現状エリア３１１に上書きされる。

【４８２５】

このように、集計除算実行処理と通常の入球管理処理とが第１タイマ割込み処理と残余処理とに分散されて設定されている構成であることにより、集計除算実行処理及び通常の入球管理処理の両方が第１タイマ割込み処理に設定されている構成と比較して、第１タイマ割込み処理の１処理回の実行期間を短縮することができる。これにより、第１タイマ割込み処理の実行期間が延びたことが原因となって第１タイマ割込み処理が終了してから次の第１タイマ割込み処理が開始されるまでの間に残余処理が１度も実行されない事態を回避することができる。また、集計除算実行処理及び通常の入球管理処理の両方が残余処理に設定されている構成と比較して、残余処理のステップＳＭ８０１にて第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の発生が禁止されてからステップＳＭ８０７にて第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の発生が許可されるまでに要する期間を短縮することができる。これにより、残余処理において第１タイマ割込み処理及び第２タイマ割込み処理の発生が禁止されている期間が延びたことが原因となって第２タイマ割込み処理が第２割込み周期（具体的には２ミリ秒）で実行できない事態、及び第１タイマ割込み処理が第１割込み周期（具体的には４ミリ秒）で実行できない事態を回避することができる。

【４８２６】

（１０８）上記第９３～第９６の実施形態において、ベース値についての収束の程度を示す表示（合計個数情報の表示）が行われる構成に代えて、出玉率についての収束の程度を示す表示が行われる構成としてもよい。出玉率とは、全遊技状態におけるパチンコ機１０の遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数に対する合計払出個数の割合である。また、全遊技状態とは、開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない遊技状態と、開閉実行モードである遊技状態と、高頻度サポートモードである遊技状態とである。非特定制御用のワークエリア２２３には、上記第８９の実施形態と同様に、入球個数カウンタエリア５９６（図３２２）が設けられている。入球個数カウンタエリア５９６には、上記第８９の実施形態において図３２２を参照しながら既に説明したとおり、一般入賞カウンタ５９６ａ、特電入賞カウンタ５９６ｂ、第１作動カウンタ５９６ｃ、第２作動カウンタ５９６ｄ、及びアウトカウンタ５９６ｅが設けられている。入球個数カウンタエリア５９６における各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅでは、遊技状態を区別することなく全遊技状態における遊技球の入球個数が計測される。入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅは、前扉枠１４が閉鎖状態となっている状況において対象となる入球部２４ａ，３１～３４に入球した遊技球の個数を計測するために利用される。具体的には、上述した全遊技状態において、一般入賞口３１に１個の遊技球が入球した場合には一般入賞カウンタ５９６ａの値が１加算され、特電入賞装置３２に１個の遊技球が入球した場合には特電入賞カウンタ５９６ｂの値が１加算され、第１作動口３３に１個の遊技球が入球した場合には第１作動カウンタ５９６ｃの値が１加算され、第２作動口３４に１個の遊技球が入球した場合には第２作動カウンタ５９６ｄの値が１加算され、アウト口２４ａに１個の遊技球が入球した場合にはアウトカウンタ５９６ｅの値が１加算される

。
【４８２７】
全遊技状態におけるパチンコ機１０の遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数がシフト基準個数である６００００個に達する度に、出玉率についての一の算出期間が終了して、次の算出期間が開始される。入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅの値は、全遊技状態におけるパチンコ機１０の遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数がシフト基準個数である６００００個に達した場合に「０」クリアされる。入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅの値をＫ１０１～Ｋ１０５とした場合に出玉率は以下のものとなる。
・出玉率：遊技球の合計払出個数（Ｋ１０１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」）／遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（Ｋ１０１＋Ｋ１０２＋Ｋ１０３＋Ｋ１０４＋Ｋ１０５）の割合。
【４８２８】
非特定制御用のワークエリア２２３には、上記第９３の実施形態における現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４に代えて、直近の出玉率が格納される出玉率現状エリアと、１回前の算出期間における最終的な出玉率が格納される第１出玉率履歴エリアと、２回前の算出期間における最終的な出玉率が格納される第２出玉率履歴エリアと、３回前の算出期間における最終的な出玉率が格納される第３出玉率履歴エリアとが設けられている。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では、表示継続期間（具体的には５秒）が経過する度に、出玉率現状エリア→第１出玉率履歴エリア→第２出玉率履歴エリア→第３出玉率履歴エリアという予め定められた順序で報知対象となる出玉率が切り換えられるとともに、当該予め定められた順序による報知対象となる出玉率の切り換えが繰り返される。
【４８２９】
非特定制御用のワークエリア２２３には、上記第９３の実施形態における合計個数エリア６３１及び合計払出個数エリア６３２に代えて、出玉率用合計個数エリア及び出玉率用合計払出個数エリアが設けられている。出玉率用合計個数エリアは、全遊技状態における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数を示す数値情報である出玉率用合計個数データが格納されるカウンタである。主側ＣＰＵ６３は、入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅの値を合計することにより出玉率用合計個数データを算出する。出玉率用合計個数データは「０」～「６５５３５」のいずれかの数値を示す２バイトの数値情報である。
【４８３０】
出玉率用合計払出個数エリアは、全遊技状態における遊技球の合計払出個数を示す数値情報である出玉率用合計払出個数情報が格納されるカウンタである。主側ＣＰＵ６３は、入球個数カウンタエリア５９６の各種カウンタ５９６ａ～５９６ｅの値に基づいて出玉率用合計払出個数情報を算出する。出玉率用合計払出個数エリアは、３バイトからなり「２５６」の３乗から１減算した値を上限とする数値情報を格納可能である。入球個数カウンタエリア５９６における一般入賞カウンタ５９６ａ、特電入賞カウンタ５９６ｂ、第１作動カウンタ５９６ｃ及び第２作動カウンタ５９６ｄの値をＫ１０１～Ｋ１０４とした場合、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技球の合計払出個数は以下の式で算出される。
・合計払出個数：Ｋ１０１×「一般入賞口３１への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０２×「特電入賞装置３２への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０３×「第１作動口３３への入賞に対する賞球個数」＋Ｋ１０４×「第２作動口３４への入賞に対する賞球個数」。
【４８３１】
主側ＣＰＵ６３は、出玉率用合計払出個数エリアに格納されている出玉率用合計払出個数情報を把握することにより全遊技状態における遊技球の合計払出個数を把握するととも

に、出玉率用合計個数エリアに格納されている出玉率用合計個数データを把握することにより全遊技状態における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数を把握する。そして、当該把握した出玉率用合計払出個数を当該把握した出玉率用合計個数で除算することにより出玉率を小数点第４位までの数値として算出する。その後、当該算出した出玉率の小数点第４位の数字を四捨五入することにより出玉率を小数点第３位までの数値とする。その後、当該小数点第３位までの出玉率における小数点第３位の数字を四捨五入することにより出玉率を小数点第２位までの数値とする。その後、小数点第２位までの出玉率を出玉率現状エリアに上書きすることにより、出玉率現状エリアに格納されている直近の出玉率を更新する。

【４８３２】

本構成では、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて直近の出玉率の表示が行われている状況でリセットボタン６８ｃ（図５３）の押圧操作が行われた場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に出玉率用合計個数データの上位４桁の数字が表示される出玉率用合計個数情報の表示が行われる。出玉率の現状の算出期間における出玉率用合計個数データを把握可能とすることにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示される直近の出玉率についての収束の程度を把握可能とすることができる。第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて出玉率用合計個数情報の表示が行われる場合、第１報知用表示装置２０１には出玉率用合計個数データにおける万の位の数字が表示され、第２報知用表示装置２０２には出玉率用合計個数データにおける千の位の数字が表示され、第３報知用表示装置２０３には出玉率用合計個数データにおける百の位の数字が表示され、第４報知用表示装置２０４には出玉率用合計個数データにおける十の位の数字が表示される。これにより、出玉率用合計個数データの上位４桁の数字を把握可能とすることができるとともに、直近の出玉率についての収束の程度を把握可能とすることができる。

【４８３３】

遊技ホールの管理者は、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に表示される出玉率用合計個数情報（出玉率用合計個数データの上位４桁の数値）に基づいて把握される出玉率用合計個数データが出玉率の算出期間における最終的な出玉率用合計個数データ（具体的には６００００個）と比較して小さい場合には、直近の出玉率についての収束の程度が低いことを把握することができる。また、当該合計個数情報に基づいて把握される出玉率用合計個数データが出玉率の算出期間における最終的な出玉率用合計個数データ（具体的には６００００個）に近い場合には、直近の出玉率についての収束の程度が高いことを把握することができる。遊技ホールの管理者は、直近の出玉率が出玉率の理論値範囲から外れている場合、直近の出玉率についての収束の程度が低い状況であれば、現状の算出期間における最終的な出玉率が出玉率の理論値範囲に収まる可能性があることを把握することができる。また、直近の出玉率についての収束の程度が高い状況であれば、現状の算出期間における最終的な出玉率が出玉率の理論値範囲から外れる可能性が高いことを把握することができる。出玉率の表示と、出玉率用合計個数情報の表示とが共通の第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて行われる構成であることにより、出玉率を監視する遊技ホールの管理者の監視負担を軽減することができる。

【４８３４】

（１０９）上記第９３、第９５及び第９６の実施形態において、ＣＡＬＬＩ命令により非特定制御に対応する処理（試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理）が実行される場合に、ポップ命令、ＤＩ命令及びコール命令（ＣＡＬＬ命令）を実行するサブルーチンのプログラムが読み出される構成としてもよい。当該サブルーチンのプログラムでは、まず「ＰＵＳＨ　ＰＳＷ」の命令が実行され、プッシュ命令により主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させる処理が行われる。当該フラグレジスタの情報を非特定制御に対応する処理のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該非特定制御に対応する処理のコールや当該非特定制御に対応する処理の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。その後、ＤＩ命令により、第

１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止する処理が行われる。これにより、非特定制御に対応する処理の実行中に、特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されてしまわないようにすることが可能となる。その後、コール命令（ＣＡＬＬ命令）により非特定制御に対応する処理が実行される。このように、ＣＡＬＬＩ命令により非特定制御に対応する処理が実行される場合に、ポップ命令、ＤＩ命令及びコール命令（ＣＡＬＬ命令）を実行するサブルーチンのプログラムが読み出される構成としても、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させ、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止した状態で当該非特定制御に対応する処理を開始することができる。上記第９３の実施形態において既に説明したとおり、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び残余処理（図３４７）において、ＣＡＬＬＩ命令により合計３つの非特定制御に対応する処理が実行される構成である。

【４８３５】

このため、ＣＡＬＬＩ命令により非特定制御に対応する処理が実行される場合に読み出されるサブルーチンのプログラムとして、ポップ命令、ＤＩ命令及びコール命令（ＣＡＬＬ命令）を実行するプログラムが主側ＲＯＭ６４に記憶されており、ＣＡＬＬＩ命令により上記３つの非特定制御に対応する処理が実行される場合に当該プログラムが読み出されて実行される構成としても、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び残余処理（図３４７）を実行するためのプログラムのデータ容量を低減することができる。これにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び残余処理（図３４７）を実行するためのプログラムを記憶するための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４８３６】

（１１０）上記第９３の実施形態において、管理実行処理（図３４０）が第１タイマ割込み処理（図３３８）のステップＳＬ８２１にて実行される構成に代えて、当該管理実行処理が残余処理（図３４７）にて実行される構成としてもよい。これにより、管理実行処理が残余処理（図３４７）にて実行される構成とすることにより、第１タイマ割込み処理（図３３８）の実行期間を短縮することができる。具体的には、残余処理（図３４７）のステップＳＭ８０６にて、ＣＡＬＬＩ命令により、管理実行処理及び集計除算実行処理が実行される。ＣＡＬＬＩ命令により管理実行処理及び集計除算実行処理が実行される場合、まず主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避される。当該フラグレジスタの情報を非特定制御に対応する処理（管理実行処理及び集計除算実行処理）のプログラムが開始される前に退避させることにより、当該非特定制御に対応する処理のコールや当該非特定制御に対応する処理の開始後において変化する前の状態のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させておくことが可能となる。

【４８３７】

ＣＡＬＬＩ命令により管理実行処理及び集計除算実行処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避された後、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが禁止される。このため、非特定制御に対応する処理である管理実行処理及び集計除算実行処理の実行中に、特定制御に対応する処理である第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）が割り込んで起動されることはない。

【４８３８】

ＣＡＬＬＩ命令により管理実行処理及び集計除算実行処理が実行される場合には、フラグレジスタの情報が特定制御用のスタックエリア２２２に退避され、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みが禁止された後、管理実行処理に対応するプログラムが開始される。また、当該管理実行処理の終了後に、集計除算実行処理に対応するプログラムが開始される。

【４８３９】

このように、ＣＡＬＬＩ命令により管理実行処理及び集計除算実行処理を実行する構成とすることにより、一の命令（「ＣＡＬＬＩ」）により、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させ、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止して、管理実行処理に対応するプログラムすることができるとともに、当該管理実行処理の終了後に、集計除算実行処理に対応するプログラムを開始させることができる。このため、主側ＣＰＵ６３のフラグレジスタの情報を特定制御用のスタックエリア２２２に退避させるための命令と、第１タイマ割込み処理（図３３８）及び第２タイマ割込み処理（図３４６）の割込みを禁止するための命令と、管理実行処理のプログラムを開始するための命令と、集計除算実行処理のプログラムを開始するための命令とを個別に設ける場合と比較して、管理実行処理及び集計除算実行処理を実行するために残余処理（図３４７）に対応するプログラムに設定される命令の数を減らすことができる。これにより、残余処理（図３４７）に対応するプログラムを記憶しておくための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４８４０】

本構成における管理実行処理では、上記第９３の実施形態における管理実行処理（図３４０）のステップＳＭ１０１～ステップＳＭ１０８の処理が実行される一方、ステップＳＭ１０９～ステップＳＭ１１６の処理が実行されることなく集計除算実行処理に対応するプログラムが開始される。また、本構成における集計除算実行処理では、上記第９３の実施形態における集計除算実行処理（図３４８）のステップＳＭ９０１～ステップＳＭ９０７の処理が実行されることなく、ステップＳＭ９０８～ステップＳＭ９１６の処理が実行される。非特定制御に対応する処理である管理実行処理及び集計除算実行処理が連続的に実行される構成であることにより、管理実行処理において、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を、非特定制御に対応する処理が開始される直前における特定制御に対応する情報に復帰させるための処理（ステップＳＭ１０９～ステップＳＭ１１５）及びＲＥＴＩ命令を実行するための処理（ステップＳＭ１１６）の処理を省略することができる。これにより、管理実行処理に対応するプログラムを記憶するための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。また、集計除算実行処理において、主側ＣＰＵ６３のスタックポインタに非特定制御の開始時における固定アドレスとして非特定制御用のスタックエリア２２４における最後のアドレスの情報であるＹ（ｕ＋２）を設定する処理（ステップＳＭ９０１）と、主側ＣＰＵ６３のＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタの各情報を非特定制御用のワークエリア２２３における対応するバッファに退避させるための処理（ステップＳＭ９０２～ステップＳＭ９０７）を省略することができる。これにより、集計除算実行処理に対応するプログラムを記憶するための主側ＲＯＭ６４における記憶容量を低減することができる。

【４８４１】

（１１１）上記第９４及び第９５の実施形態において、非特定制御に対応する処理として直近のベース値の異常を検出するエラー検出処理が実行される構成とするとともに、当該エラー検出処理が第１タイマ割込み処理（第９４の実施形態では図３５０、第９４の実施形態では図３５３）における試射試験実行処理及び管理実行処理と連続して行われる構成としてもよい。上記第９４及び第９５の実施形態において既に説明したとおり、試射試験実行処理及び管理実行処理は、非特定制御に対応する処理である。上記第９４の実施形態では、第１タイマ割込み処理（図３５０）のステップＳＮ２２１にてコール命令（ＣＡＬＬ命令）により試射試験実行処理を実行した後、コール命令（ＣＡＬＬ命令）によりエラー検知処理を実行する。その後、コール命令（ＣＡＬＬ命令）により管理実行処理を実行する。非特定制御に対応する試射試験実行処理、エラー検知処理及び管理実行処理が連続して行われる構成とすることにより、第１タイマ割込み処理（図３５０）において特定制御に対応する処理から非特定制御に対応する処理への切り換え及び非特定制御に対応する処理から特定制御に対応する処理への復帰の回数が増加してしまうことを回避しながら、非特定制御に対応する処理の処理内容を増加させることができる。また、上記第９５の

実施形態では、第１タイマ割込み処理（図３５３）のステップＳＮ５１９にてＣＡＬＬＩ命令により、試射試験実行処理→エラー検知処理→管理実行処理の順番で非特定制御に対応する３つの処理を連続して実行する。これにより、第１タイマ割込み処理（図３５３）において特定制御に対応する処理から非特定制御に対応する処理への切り換え及び非特定制御に対応する処理から特定制御に対応する処理への復帰の回数が増加してしまうことを回避しながら、非特定制御に対応する処理の処理内容を増加させることができる。

【４８４２】

エラー検知処理では、まず主側ＲＯＭ６４から非特定制御用のデータとして予め記憶されているエラー検知用テーブルを読み出す。エラー検知用テーブルには、ベース値の理論値範囲の上限の数値情報と、ベース値の理論値範囲の下限の数値情報とが設定されている。その後、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値がベース値の理論値範囲に収まっているか否かを判定する。そして、直近のベース値がベース値の理論値範囲に収まっていないと判定した場合には非特定制御用のワークエリア２２３に設けられたベース値エラーフラグに「１」をセットするとともに、直近のベース値がベース値の理論値範囲に収まっていると判定した場合には当該ベース値エラーフラグを「０」クリアする。ベース値エラーフラグは、現状エリア３１１に格納されている直近のベース値がベース値の理論値範囲に収まっているか否かを主側ＣＰＵ６３にて把握可能とするフラグである。

【４８４３】

本構成では、第１タイマ割込み処理（第９４の実施形態では図３５０、第９５の実施形態では図３５３）の外部情報設定処理（第９４の実施形態ではステップＳＮ２１８、第９５の実施形態ではステップＳＮ５１８）において、所定の時間間隔（例えば３０分間隔）で非特定制御用のワークエリア２２３におけるベース値エラーフラグに「１」がセットされているか否かを判定し、ベース値エラーフラグに「１」がセットされている場合には、ベース値エラー報知を行う。ベース値エラー報知では、ベース値エラー信号をホールコンピュータ等の外部装置に対して外部出力する。遊技ホールの管理者は、ホールコンピュータ等の外部装置にてベース値エラー信号を確認した場合、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に現状エリア３１１に格納されている直近のベース値が表示されている状況においてリセットボタン６８ｃを押圧操作することにより当該第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に合計個数データの上位４桁の数字を表示させることができるとともに、直近のベース値についての収束の程度を把握することができる。

【４８４４】

（１１２）上記第９６の実施形態において、設定値の更新が行われている状況及び設定値の確認が行われている状況において合計個数表示が行われる表示部は特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａに限定されることはなく、当該合計個数表示が第１特図表示部及び第２特図表示部にて行われる構成としてもよい。具体的には、上記６５～第７１の実施形態において、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６（図２０９（ｂ））に代えて８個のＬＥＤが横１列に並べられた第１特図表示部及び第２特図表示部が設けられている。これら第１特図表示部及び第２特図表示部は、上記第９６の実施形態における特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａと同様に、遊技領域ＰＡにおいて遊技球が通過しない領域である右下の隅部に設けられている。第２特図表示部における８個のＬＥＤは、第１特図表示部における８個のＬＥＤの下方に設けられている。

【４８４５】

非特定制御用のワークエリア２２３には、上記第９３の実施形態における通常用カウンタエリア２３１及び合計個数エリア６３１（図３３６（ａ））が設けられている。上記第９３の実施形態において既に説明したとおり、合計個数エリア６３１は、現状の算出期間において、大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数（すなわち遊技領域ＰＡに供給された遊技球の合計個数）を示す数値情報である合計個数データが格納されるカウンタである。主側ＣＰＵ６３は、通常用カウンタエリア２３１における各種カウンタ２３１ａ～２３１ｅの値を足し合わせることにより現状の算出期間における合計個数データを算

出する。合計個数データは「０」～「６５５３５」のいずれかの数値を示す２バイトの数値情報である。

【４８４６】

第１特図表示部における８個のＬＥＤは、合計個数データの下位８ビット（第０ビット～第７ビット）と１対１で対応している。具体的には、第１特図表示部における右からｎ番目（ｎは１～８のいずれかの整数）のＬＥＤは、合計個数データにおける第（ｎ－１）ビットに対応している。また、第２特図表示部における８個のＬＥＤは、合計個数データの上位８ビット（第８ビット～第１５ビット）と１対１で対応している。具体的には、第２特図表示部における右からｍ番目（ｍは１～８のいずれかの整数）のＬＥＤは、合計個数データにおける第（ｍ＋７）ビットに対応している。合計個数表示では、ＬＥＤに対応するビットの値が「１」である場合に当該ＬＥＤが点灯状態となるとともに、ＬＥＤに対応するビットの値が「０」である場合に当該ＬＥＤが消灯状態となるように第１特図表示部及び第２特図表示部における各ＬＥＤの発光制御が行われる。

【４８４７】

上記第６５の実施形態と同様に、特定制御用のワークエリア２２１におけるクリア対象エリア３７１（図２２３）には、第１特図表示部に所定の表示を行わせるための表示データが格納される第１表示データバッファ２７１（図２２３）と、第２特図表示部に所定の表示を行わせるための表示データが格納される第６表示データバッファ４７１（図２２３）とが設けられている。主側ＣＰＵ６３は、設定値の更新が行われている状況、又は設定値の確認が行われている状況である場合、合計個数エリア６３１に格納されている合計個数データの下位８ビットを表示データとして第１表示データバッファ２７１（図２２３）に設定するとともに、合計個数データの上位８ビットを表示データとして第６表示データバッファ４７１（図２２３）に設定する。これにより、合計個数データの下位８ビットに対応する態様で第１特図表示部における８個のＬＥＤの表示制御が行われるとともに、合計個数データの上位８ビットに対応する態様で第２特図表示部における８個のＬＥＤの表示制御が行われる。

【４８４８】

これにより、設定値の更新が行われている状況において、設定値を更新している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる第１～第４報知用表示装置２０１～２０４とは別の表示部である第１特図表示部及び第２特図表示部を利用して合計個数データを示す合計個数表示を行うことができる。このため、遊技ホールの管理者は、設定値の更新が行われている状況であっても、合計個数データの情報を把握することができるとともに、直近のベース値についての収束の程度を把握することができる。また、設定値の確認が行われている状況において、設定値を確認している状況であることを示す表示及び現状の設定値を示す表示が行われる第１～第４報知用表示装置２０１～２０４とは別の表示部である第１特図表示部及び第２特図表示部を利用して合計個数データを示す合計個数表示を行うことができる。このため、遊技ホールの管理者は、設定値の確認が行われている状況であっても、合計個数データの情報を把握することができるとともに、直近のベース値についての収束の程度を把握することができる。

【４８４９】

（１１３）上記第９６の実施形態において、設定値の更新が行われている状況及び設定値の確認が行われている状況にて、特図表示部６４１ａの８個のＬＥＤ及び普図表示部６４２ａの８個のＬＥＤを利用して合計個数データを示す合計個数表示が行われる一方、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４では合計個数情報（合計個数データの上位４桁の数字）の表示が行われない構成としてもよい。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて合計個数情報の表示を行うための構成を不要としながら、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにて行われる合計個数表示に基づいて合計個数データを把握可能とすることができるとともに、直近のベース値についての収束の程度を把握可能とすることができる。

【４８５０】

また、上記（１１３）の構成において、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて現状エリア３１１に格納されている直近のベース値の表示が行われている状況でリセットボタン６８ｃの押圧操作が行われたことに基づいて、所定の期間（具体的には５秒間）に亘って特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにて合計個数表示が行われる構成としてもよい。これにより、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４に直近のベース値が表示されているとともに、特図表示部６４１ａ及び普図表示部６４２ａにて合計個数表示が行われている状況を作り出すことができる。これにより、直近のベース値と、当該直近のベース値についての収束の程度とを同時に把握可能とすることができる。

【４８５１】

（１１４）上記各実施形態においてベース値の情報が表示される表示装置は、電子ペーパーなどのように、表示内容の書き換えに際して動作電力の供給が必要であり、表示内容の記憶保持に際して動作電力の供給が不要である表示装置としてもよい。これにより、パチンコ機１０への動作電力の供給が停止されている状況であっても当該表示装置を視認することでベース値の情報を把握することが可能となる。

【４８５２】

（１１５）主制御装置６０から送信されるコマンドに基づいて、音声発光制御装置８１により表示制御装置８２が制御される構成に代えて、主制御装置６０から送信されるコマンドに基づいて、表示制御装置８２が音声発光制御装置８１を制御する構成としてもよい。また、音声発光制御装置８１と表示制御装置８２とが別々に設けられた構成に代えて、両制御装置が一の制御装置として設けられた構成としてもよく、それら両制御装置のうち一方の機能が主制御装置６０に集約されていてもよく、それら両制御装置の両機能が主制御装置６０に集約されていてもよい。また、主制御装置６０から音声発光制御装置８１に送信されるコマンドの構成や、音声発光制御装置８１から表示制御装置８２に送信されるコマンドの構成も任意である。

【４８５３】

（１１６）上記各実施形態とは異なる他のタイプのパチンコ機等、例えば特別装置の特定領域に遊技球が入ると電動役物が所定回数開放するパチンコ機や、特別装置の特定領域に遊技球が入ると権利が発生して大当たりとなるパチンコ機、他の役物を備えたパチンコ機、アレンジボール機、雀球等の遊技機にも、本発明を適用できる。

【４８５４】

また、弾球式でない遊技機、例えば、複数種の図柄が周方向に付された複数のリールを備え、メダルの投入及びスタートレバーの操作によりリールの回転を開始し、ストップスイッチが操作されるか所定時間が経過することでリールが停止した後に、表示窓から視認できる有効ライン上に特定図柄又は特定図柄の組合せが成立していた場合にはメダルの払い出し等といった特典を遊技者に付与するスロットマシンにも本発明を適用できる。

【４８５５】

また、外枠に開閉可能に支持された遊技機本体に貯留部及び取込装置を備え、貯留部に貯留されている所定数の遊技球が取込装置により取り込まれた後にスタートレバーが操作されることによりリールの回転を開始する、パチンコ機とスロットマシンとが融合された遊技機にも、本発明を適用できる。

【４８５６】

スロットマシンや、パチンコ機とスロットマシンとが融合された遊技機に本発明を適用する場合、例えばスタートレバーの操作に基づき１ゲームを開始する場合に実行された役の抽選処理の結果を履歴情報として記憶し、その履歴情報を利用して各役の実際の当選確率を演算する構成としてもよく、ボーナスゲームといった特別遊技状態への移行が発生した場合にそれを履歴情報として記憶し、その履歴情報を利用して特別遊技状態への実際の移行確率を演算する構成としてもよく、消化された総ゲーム数に対する特別遊技状態の滞在ゲーム数の割合を演算する構成としてもよい。そして、それら履歴情報や各種パラメータを外部装置にて読み取り可能としたり、各種パラメータの演算結果に対応する報知が遊技機自身にて行われる構成としてもよい。また、「設定１」～「設定６」といったように

複数段階の設定状態が存在する構成とし、当該設定状態に応じて役の抽選処理における当選確率を変動させる構成としてもよい。この場合、設定状態の設定が新たに設定された場合又は設定値が変更された場合における履歴情報の扱い、各種パラメータの演算、繰り返し変更の扱いに関して上記各実施形態における構成を適用してもよい。

【４８５７】

（１１７）上記第１～第９６の実施形態の特徴的な構成を任意の組合せで相互に適用してもよい。例えば上記第１の実施形態の特徴的な構成と、上記第６の実施形態の特徴的な構成と、上記第１０の実施形態の特徴的な構成と、上記第３０の実施形態の特徴的な構成と、上記第４５の実施形態の特徴的な構成と、上記第５５の実施形態の特徴的な構成と、上記第６４の実施形態の特徴的な構成と、第７５の実施形態の特徴的な構成と、を組合せてもよく、上記第２の実施形態の特徴的な構成と、上記第４の実施形態の特徴的な構成と、上記第８の実施形態の特徴的な構成と、上記第１１の実施形態の特徴的な構成と、上記第３３の実施形態の特徴的な構成と、上記第４３の実施形態の特徴的な構成と、上記第５８の実施形態の特徴的な構成と、上記第６５の実施形態の特徴的な構成と、上記第７４の実施形態の特徴的な構成と、を組合せてもよく、上記第１の実施形態の特徴的な構成と、上記第１５の実施形態の特徴的な構成と、上記第２１の実施形態の特徴的な構成と、上記第２９の実施形態の特徴的な構成と、上記第３４の実施形態の特徴的な構成と、上記第４９の実施形態の特徴的な構成と、上記第６０の実施形態の特徴的な構成と、上記第６９の実施形態の特徴的な構成と、上記第７２の実施形態の特徴的な構成と、を組合せてもよく、上記第２の実施形態の特徴的な構成と、上記第１６の実施形態の特徴的な構成と、上記第２２の実施形態の特徴的な構成と、上記第３５の実施形態の特徴的な構成と、上記第３９の実施形態の特徴的な構成と、上記第５３の実施形態の特徴的な構成と、上記第６２の実施形態の特徴的な構成と、上記第７１の実施形態の特徴的な構成と、上記第７３の実施形態の特徴的な構成と、上記第７６の実施形態の特徴的な構成と、を組合せてもよい。また、上記第１～第９６の実施形態の特徴的な構成を所定の組合せで適用した構成に対して、上記別形態の構成を任意の組合せで適用してもよい。

【４８５８】

＜上記各実施形態から抽出される発明群について＞

以下、上述した各実施形態から抽出される発明群の特徴について、必要に応じて効果等を示しつつ説明する。なお以下においては、理解の容易のため、上記各実施形態において対応する構成を括弧書き等で適宜示すが、この括弧書き等で示した具体的構成に限定されるものではない。

【４８５９】

＜特徴Ａ群＞

特徴Ａ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、

遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（履歴用メモリ１１７）に記憶させる履歴記憶実行手段（管理側ＣＰＵ１１２における履歴設定処理を実行する機能）と、

前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われたことを少なくとも一の条件として、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報の少なくとも一部を消去する情報消去手段（第３の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ１８０９の処理を実行する機能、第５の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２１０９の処理を実行する機能、第６の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２３０６～ステップＳ２３０８の処理を実行する機能、第８の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２６０８の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【４８６０】

特徴Ａ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となってい

ることを期待することとなる。また、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。

【４８６１】

この場合に、使用対象となる設定値の設定が新たに行われたことを少なくとも一の条件として履歴記憶手段に記憶されている履歴情報の少なくとも一部が消去される。これにより、使用対象となる設定値の新たな設定が行われた後の状況における所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことができるように履歴記憶手段の内容を調整することが可能となる。

【４８６２】

特徴Ａ２．遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球手段（第１作動口３３、第２作動口３４）と、

当該入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報を取得する情報取得手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０１の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与情報に対応しているか否かの付与判定を行う付与判定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

前記付与判定において前記特別情報が前記付与情報に対応しているとする付与対応結果となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０９～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、を備え、

前記設定値に応じて前記付与判定において前記付与対応結果となる確率が変動することを特徴とする特徴Ａ１に記載の遊技機。

【４８６３】

特徴Ａ２によれば、所謂パチンコ機において設定値に応じて付与対応結果となる確率を変動させることが可能となる。この場合に、上記特徴Ａ１の構成を備えていることにより、付与対応結果となる確率が変更された後の状況における所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことができるように履歴記憶手段の内容を調整することが可能となる。

【４８６４】

特徴Ａ３．前記情報消去手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われたことを少なくとも一の条件として、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を全て消去することを特徴とする特徴Ａ１又はＡ２に記載の遊技機。

【４８６５】

特徴Ａ３によれば、使用対象となる設定値の設定が新たに行われたことを契機として履歴記憶手段に記憶されている履歴情報が全て消去されることにより、使用対象となる設定値の設定が新たに行われたタイミングを基準として所定事象の発生頻度の特定を行うことが可能となる。

【４８６６】

特徴Ａ４．前記情報消去手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われたことを少なくとも一の条件として、前記履歴記憶手段に記憶されている一部の前記履歴情報を消去し、前記履歴記憶手段に記憶されている一部の前記履歴情報を残すことを特徴とする特徴Ａ１又はＡ２に記載の遊技機。

【４８６７】

特徴Ａ４によれば、使用対象となる設定値の設定が新たに行われた場合、その後の所定事象の発生頻度の管理に不要な履歴情報を消去し、その後の所定事象の発生頻度の管理に必要な履歴情報を残すことが可能となる。これにより、使用対象となる設定値の設定が新たに行われた後における所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。

【４８６８】

特徴Ａ５．前記履歴記憶手段に記憶される前記履歴情報には、当該履歴情報に対応する前記所定事象の発生確率が前記設定値に応じて変動する第１履歴情報（開閉実行モードが発生したことを示す履歴情報）と前記設定値に応じて変動しない第２履歴情報（遊技領域ＰＡから遊技球が排出されたことを示す履歴情報）とが含まれており、
前記情報消去手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われたことを少なくとも一の条件として、前記履歴記憶手段に記憶されている前記第１履歴情報を消去し、前記履歴記憶手段に記憶されている前記第２履歴情報を残すことを特徴とする特徴Ａ４に記載の遊技機。

【４８６９】

特徴Ａ５によれば、使用対象となる設定値の設定が新たに行われた場合、発生確率が設定値に応じて変動する所定事象に対応する第１履歴情報は消去され、発生確率が設定値に応じて変動しない所定事象に対応する第２履歴情報は消去されない。これにより、使用対象となる設定値の設定が新たに行われる前の第１履歴情報が当該設定値の設定が新たに行われた後に引き継がれると当該第１履歴情報に対応する所定事象の発生頻度の特定を行う上で好ましくない第１履歴情報については当該設定値の設定が新たに行われたことを契機として消去することが可能となる。その一方、第２履歴情報については使用対象となる設定値の設定が新たに行われたとしても消去しないことにより、第２履歴情報に対応する所定事象の発生頻度を特定する場合に参照される第２履歴情報の数を多く確保することが可能となるため、第２履歴情報に対応する所定事象の発生頻度の特定を精度良く行うことが可能となる。

【４８７０】

特徴Ａ６．遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球手段（第１作動口３３、第２作動口３４）と、
当該入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報を取得する情報取得手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０１の処理を実行する機能）と、
前記特別情報が付与情報に対応しているか否かの付与判定を行う付与判定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、
前記付与判定において前記特別情報が前記付与情報に対応しているとする付与対応結果となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０９～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記設定値に応じて前記付与判定において前記付与対応結果となる確率が変動する構成であり、
前記第１履歴情報には前記特典が付与されたことに対応する情報が含まれ、
前記第２履歴情報には前記遊技領域から所定の態様で遊技球が排出されたことに対応する情報が含まれることを特徴とする特徴Ａ５に記載の遊技機。

【４８７１】

特徴Ａ６によれば、特典の付与確率は設定値に応じて変動することとなるため、第１履歴情報については使用対象となる設定値の設定が新たに行われたことを契機として消去することで、新たに設定された設定値の状況下における特典の付与頻度を特定することが可能となる。その一方、遊技領域から遊技球が排出される頻度は設定値に応じて変動しないため、第２履歴情報については使用対象となる設定値の設定が新たに行われたとしても消去しないことにより、遊技領域から所定の態様で遊技球が排出される頻度の特定を精度良く行うことが可能となる。

【４８７２】

特徴Ａ７．前記情報消去手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われた場合、前記履歴記憶手段に所定の前記履歴情報が所定量以上記憶されている場合に前記履歴情報の少なくとも一部を消去することを特徴とする特徴Ａ１乃至Ａ６のいずれか１に記載の遊技機。

【４８７３】

特徴Ａ７によれば、履歴記憶手段に所定の履歴情報が所定量以上記憶されていない場合には使用対象となる設定値の新たな設定が行われたとしても履歴情報は消去されない。これにより、遊技が行われない状況下において設定値の新たな設定が繰り返されたとしても、それに対して履歴記憶手段の履歴情報の消去が繰り返されてしまわないようにすることが可能となる。

【４８７４】

特徴Ａ８．前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われたことを少なくとも一の条件として、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（第３の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ１８０７の処理を実行する機能、第５の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２１０７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ａ１乃至Ａ７のいずれか１に記載の遊技機。

【４８７５】

特徴Ａ８によれば、上記特徴Ａ１の構成を備え、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたことを少なくとも一の条件として履歴記憶手段に記憶されている履歴情報の少なくとも一部が消去される構成において、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたことを契機として、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出される。これにより、設定値が変更されることを契機として履歴情報の少なくとも一部が消去されるとしても、設定値が変更される前の状況における所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【４８７６】

特徴Ａ９．前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶手段（別保存用メモリ１７１）を備えていることを特徴とする特徴Ａ８に記載の遊技機。

【４８７７】

特徴Ａ９によれば、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたことを契機として履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出された場合、その態様情報は態様情報記憶手段に記憶される。これにより、設定値が変更されたとしても、その後の任意のタイミングで設定値が変更される前の状況における遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【４８７８】

特徴Ａ１０．前記態様情報記憶手段は、前記態様情報を複数記憶することが可能であることを特徴とする特徴Ａ９に記載の遊技機。

【４８７９】

特徴Ａ１０によれば、態様情報記憶手段において態様情報を複数記憶することが可能であるため、設定値の新たな設定が行われたタイミングを基準として、複数の期間における遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、遊技が行われない状況下において設定値の新たな設定が繰り返されたとしても、実質的に遊技が行われている状況の履歴情報を利用して導出された態様情報が態様情報記憶手段に残っている可能性を高めることが可能となる。

【４８８０】

特徴Ａ１１．前記態様情報記憶手段は、前記態様情報を所定数記憶することが可能であり、

本遊技機は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が所定条件下で前記所定数を超える回数発生した場合に特別処理を実行する手段（第３の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２における繰り返し変更の監視処理を実行する機能、第４の実施形態では主側ＣＰＵ６３における繰り返し変更の監視処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ａ９又はＡ１０に記載の遊技機。

【４８８１】

特徴Ａ１１によれば、実質的に遊技が行われている状況の履歴情報を利用して導出された態様情報が態様情報記憶手段に残らないようにすべく遊技が行われない状況下において

設定値の新たな設定が繰り返された場合には、それに対して特別処理が実行される。これにより、当該行為に対処することが可能となる。

【４８８２】

特徴Ａ１２．前記情報導出手段は、前記履歴記憶手段に所定の前記履歴情報が所定量以上記憶されている場合に前記態様情報を導出することを特徴とする特徴Ａ８乃至Ａ１１のいずれか１に記載の遊技機。

【４８８３】

特徴Ａ１２によれば、履歴記憶手段に所定の履歴情報が所定量以上記憶されている場合に態様情報が導出されるため、態様情報が無駄に導出されてしまわないようにすることが可能となる。

【４８８４】

特徴Ａ１３．前記情報消去手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われてから前記履歴記憶手段に所定の前記履歴情報が特定量以上記憶されるまでは前記履歴情報の消去を行うことなく、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われてから前記履歴記憶手段に所定の前記履歴情報が特定量以上記憶された場合に当該設定値の設定が行われる前に前記履歴記憶手段に記憶されていた前記履歴情報の消去を行うことを特徴とする特徴Ａ１乃至Ａ１２のいずれか１に記載の遊技機。

【４８８５】

特徴Ａ１３によれば、特定量の所定の履歴情報が履歴記憶手段に新たに記憶されるまでは、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたとしても当該設定が行われる前に記憶されていた履歴情報は消去されない。これにより、設定値の新たな設定が行われたとしても所定の期間における遊技履歴の管理結果を特定することが可能となる。

【４８８６】

特徴Ａ１４．前記履歴記憶手段は、第１履歴記憶手段（第１履歴用メモリ１９１）と、第２履歴記憶手段（第２履歴用メモリ１９２）と、を備えており、

前記履歴記憶実行手段は、

前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われてから解除条件が成立するまでの所定期間において前記所定事象が発生した場合、それに対応する前記履歴情報を前記第１履歴記憶手段及び前記第２履歴記憶手段の両方に記憶させる手段（管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２６０４の処理を実行する機能）と、

前記所定期間ではない期間において前記所定事象が発生した場合、前記第１履歴記憶手段及び前記第２履歴記憶手段のうち記憶対象に設定されている側に、それに対応する前記履歴情報を記憶させる手段（管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２６０３の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記情報消去手段は、前記解除条件が成立した場合、前記第１履歴記憶手段及び前記第２履歴記憶手段のうちそれまで前記記憶対象に設定されていた側に記憶されている前記履歴情報を消去することを特徴とする特徴Ａ１乃至Ａ１３のいずれか１に記載の遊技機。

【４８８７】

特徴Ａ１４によれば、特定量の履歴情報が履歴記憶手段に新たに記憶されるまでは、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたとしても当該設定が行われる前に記憶されていた履歴情報は消去されない。これにより、設定値の新たな設定が行われたとしても所定の期間における遊技履歴の管理結果を特定することが可能となる。また、当該効果を履歴情報の記憶対象となる履歴記憶手段を第１履歴記憶手段及び第２履歴記憶手段の間で適宜変更するだけで生じさせることが可能となる。

【４８８８】

特徴Ａ１５．前記第１履歴記憶手段及び前記第２履歴記憶手段のうち前記記憶対象に設定されている側に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２７０３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ａ１４に記載の遊技機

。
【４８８９】
特徴Ａ１５によれば、設定値の新たな設定が行われることで第１履歴記憶手段及び第２履歴記憶手段の両方に履歴情報が記憶される状況であったとしても、履歴情報を利用した態様情報の導出を適切に行うことが可能となる。
【４８９０】
なお、特徴Ａ１～Ａ１５の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【４８９１】
＜特徴Ｂ群＞
特徴Ｂ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、
遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（履歴用メモリ１１７）に記憶させる履歴記憶実行手段（管理側ＣＰＵ１１２における履歴設定処理を実行する機能）と、
を備え、
前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われる前に前記履歴記憶手段に記憶されていた所定の前記履歴情報が、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われた後においても前記履歴記憶手段に記憶保持されることを特徴とする遊技機。
【４８９２】
特徴Ｂ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を

利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。

【４８９３】

この場合に、使用対象となる設定値の設定が新たに行われたとしても履歴記憶手段に記憶されている履歴情報が消去されずに記憶保持される。これにより、使用対象となる設定値の設定が行われたとしてもそれまでの履歴情報を履歴記憶手段に継続して記憶させていくことが可能となり、長期間に亘って履歴記憶手段に累積された履歴情報を利用して遊技履歴の管理結果を特定することが可能となる。

【４８９４】

特徴Ｂ２．前記履歴記憶実行手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われた場合、それに対応する前記履歴情報を前記履歴記憶手段に記憶させる設定時の記憶実行手段（第１の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ１３０７の処理を実行する機能、第７の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２４０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｂ１に記載の遊技機。

【４８９５】

特徴Ｂ２によれば、使用対象となる設定値の設定が新たに行われたとしても履歴情報が消去されずに記憶保持される構成において、使用対象となる設定値の設定が新たに行われたことに対応する履歴情報が履歴記憶手段に記憶される。これにより、使用対象となる設定値の設定が新たに行われる前の履歴情報と行われた後の履歴情報とを区別することが可能となる。

【４８９６】

特徴Ｂ３．前記設定時の記憶実行手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われた場合、その設定された設定値に対応する情報を前記履歴情報として前記履歴記憶手段に記憶させることを特徴とする特徴Ｂ２に記載の遊技機。

【４８９７】

特徴Ｂ３によれば、履歴情報を参照することにより過去に設定された設定値の内容を特定することが可能となる。

【４８９８】

特徴Ｂ４．前記履歴記憶手段は、前記設定手段により設定され得る複数種類の設定値のそれぞれに対応させて複数の対応履歴記憶手段（設定１～６用の履歴用メモリ１８１～１８６）を備えていることを特徴とする特徴Ｂ１乃至Ｂ３のいずれか１に記載の遊技機。

【４８９９】

特徴Ｂ４によれば、設定値のそれぞれに対応させて対応履歴記憶手段が設けられているため、設定値ごとに区別して履歴情報を記憶していくことが可能となる。

【４９００】

特徴Ｂ５．前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われた場合、その設定が行われた設定値に対応する前記対応履歴記憶手段をその後の前記履歴情報の記憶対象とする手段（管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２４０６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｂ４に記載の遊技機。

【４９０１】

特徴Ｂ５によれば、使用対象となる設定値の設定が新たに行われた場合にはその設定値に対応する対応履歴記憶手段がその後の履歴情報の記憶対象とされるため、設定値ごとに区別して履歴情報を記憶していくことが可能となる。

【４９０２】

特徴Ｂ６．前記記憶対象となっている前記対応履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（管理側ＣＰＵ１１２における表示出力処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｂ５に記載の遊技機。

【４９０３】

特徴Ｂ６によれば、設定値ごとに区別して履歴情報が記憶される構成において、現状設定されている設定値に対応する態様情報を導出することが可能となる。

【４９０４】

特徴Ｂ７．遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球手段（第１作動口３３、第２作動口３４）と、

当該入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報を取得する情報取得手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０１の処理を実行する機能）と、

前記特別情報が付与情報に対応しているか否かの付与判定を行う付与判定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

前記付与判定において前記特別情報が前記付与情報に対応しているとする付与対応結果となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０９～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記設定値に応じて前記付与判定において前記付与対応結果となる確率が変動することを特徴とする特徴Ｂ１乃至Ｂ６のいずれか１に記載の遊技機。

【４９０５】

特徴Ｂ７によれば、所謂パチンコ機において設定値に応じて付与対応結果となる確率を変動させることが可能となる。

【４９０６】

なお、特徴Ｂ１～Ｂ７の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【４９０７】

＜特徴Ｃ群＞

特徴Ｃ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、

遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（履歴用メモリ１１７）に記憶させる履歴記憶実行手段（管理側ＣＰＵ１

１２における履歴設定処理を実行する機能）と、
　前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われてから少なくとも前記履歴記憶手段に所定の前記履歴情報が特定量以上記憶されるまでは前記履歴情報の消去を行わない設定後対応手段（管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２５０６及びステップＳ２６０５～ステップＳ２６０９の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。
【４９０８】
　特徴Ｃ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。
【４９０９】
　この場合に、特定量の所定の履歴情報が履歴記憶手段に新たに記憶されるまでは、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたとしても当該設定が行われる前に記憶されていた履歴情報は消去されない。これにより、設定値の新たな設定が行われたとしても所定の期間における遊技履歴の管理結果を特定することが可能となる。
【４９１０】
　特徴Ｃ２．前記設定後対応手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われてから前記履歴記憶手段に所定の前記履歴情報が前記特定量以上記憶された場合に当該設定値の設定が行われる前に前記履歴記憶手段に記憶されていた前記履歴情報の消去を行うことを特徴とする特徴Ｃ１に記載の遊技機。
【４９１１】
　特徴Ｃ２によれば、設定値の新たな設定が行われてから所定の期間における遊技履歴の管理結果の特定を行うことを可能とする特定量の履歴情報が履歴記憶手段に記憶された場合には、設定値の新たな設定が行われる前に履歴記憶手段に記憶されていた履歴情報が消去される。これにより、無駄な履歴情報が履歴記憶手段に記憶され続けてしまわないようにすることが可能となる。
【４９１２】
　特徴Ｃ３．前記履歴記憶手段は、第１履歴記憶手段（第１履歴用メモリ１９１）と、第２履歴記憶手段（第２履歴用メモリ１９２）と、を備えており、
　前記履歴記憶実行手段は、
　前記所定事象が発生した場合、前記第１履歴記憶手段及び前記第２履歴記憶手段のうち記憶対象に設定されている側に、それに対応する前記履歴情報を記憶させる手段（管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２６０３の処理を実行する機能）と、
　前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われてから、前記第１履歴記憶手段及び前記第２履歴記憶手段のうち前記記憶対象に設定されていない側に所定の前記履歴情報が前記特定量以上記憶されるまで、前記所定事象が発生したことに対して、それに対応する前記履歴情報を前記第１履歴記憶手段及び前記第２履歴記憶手段の両方に記憶させる手段（管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２６０４の処理を実行する機能）と、
を備え、
　前記設定後対応手段は、
　前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われた後において前記第１履歴記憶手段及び前記第２履歴記憶手段のうち前記記憶対象に設定されていない側に所定の前記履歴情報が前記特定量以上記憶された場合、前記第１履歴記憶手段及び前記第２履歴記憶手段の間において前記記憶対象を変更する手段（管理側ＣＰＵ１１２におけるステッ

プＳ２６０７の処理を実行する機能）と、
前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われた後において前記第１履歴記憶手段及び前記第２履歴記憶手段のうち前記記憶対象に設定されていない側に所定の前記履歴情報が前記特定量以上記憶された場合、前記第１履歴記憶手段及び前記第２履歴記憶手段のうちそれまで前記記憶対象に設定されていた側の前記履歴情報を消去する手段（管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２６０８の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴Ｃ１又はＣ２に記載の遊技機。
【４９１３】
特徴Ｃ３によれば、特定量の履歴情報が履歴記憶手段に新たに記憶されるまでは、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたとしても当該設定が行われる前に記憶されていた履歴情報は消去されない。これにより、設定値の新たな設定が行われたとしても所定の期間における遊技履歴の管理結果を特定することが可能となる。また、当該効果を履歴情報の記憶対象となる履歴記憶手段を第１履歴記憶手段及び第２履歴記憶手段の間で適宜変更するだけで生じさせることが可能となる。
【４９１４】
特徴Ｃ４．前記第１履歴記憶手段及び前記第２履歴記憶手段のうち前記記憶対象に設定されている側に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２７０３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｃ３に記載の遊技機。
【４９１５】
特徴Ｃ４によれば、設定値の新たな設定が行われることで第１履歴記憶手段及び第２履歴記憶手段の両方に履歴情報が記憶される状況であったとしても、履歴情報を利用した態様情報の導出を適切に行うことが可能となる。
【４９１６】
特徴Ｃ５．遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球手段（第１作動口３３、第２作動口３４）と、
当該入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報を取得する情報取得手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０１の処理を実行する機能）と、
前記特別情報が付与情報に対応しているか否かの付与判定を行う付与判定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、
前記付与判定において前記特別情報が前記付与情報に対応しているとする付与対応結果となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０９～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記設定値に応じて前記付与判定において前記付与対応結果となる確率が変動することを特徴とする特徴Ｃ１乃至Ｃ４のいずれか１に記載の遊技機。
【４９１７】
特徴Ｃ５によれば、所謂パチンコ機において設定値に応じて付与対応結果となる確率を変動させることが可能となる。
【４９１８】
なお、特徴Ｃ１～Ｃ５の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１

～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【４９１９】

＜特徴Ｄ群＞

特徴Ｄ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、

当該設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が特別状況において実行されたことを少なくとも一の条件として特別処理を実行する特別実行手段（第３の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２における繰り返し変更の監視処理を実行する機能、第４の実施形態では主側ＣＰＵ６３における繰り返し変更の監視処理を実行する機能、第５の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２１０６にて否定判定をする機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【４９２０】

特徴Ｄ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、使用対象となる設定値の新たな設定が特別状況において実行されたことを少なくとも一の条件として特別処理が実行される。これにより、好ましくない状況下において設定値の新たな設定が行われた場合にそれに対処することが可能となる。

【４９２１】

特徴Ｄ２．前記特別実行手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が前記特別状況において特定回数以上実行されたことを少なくとも一の条件として前記特別処理を実行することを特徴とする特徴Ｄ１に記載の遊技機。

【４９２２】

特徴Ｄ２によれば、特別状況において使用対象となる設定値の新たな設定が実行されたとしてもその実行回数が特定回数未満である場合には特別処理が実行されない。これにより、正規の作業者が特別状況において設定値の新たな設定を特定回数未満実行した場合にまで特別処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【４９２３】

特徴Ｄ３．前記特別実行手段は、前記特別状況として、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われてから遊技が行われていない状況又は前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われてから所定基準以上の遊技が行われていない状況において、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が実行されたことを少なくとも一の条件として前記特別処理を実行することを特徴とする特徴Ｄ１又はＤ２に記載の遊技機。

【４９２４】

特徴Ｄ３によれば、遊技が行われていない状況又は実質的に遊技が行われていない状況

において使用対象となる設定値の新たな設定が行われた場合には特別処理が実行されるため、当該行為が行われた場合にはそれに対処することが可能となる。

【４９２５】

特徴Ｄ４．前記特別実行手段は、前記特別処理として報知用処理を実行することを特徴とする特徴Ｄ１乃至Ｄ３のいずれか１に記載の遊技機。

【４９２６】

特徴Ｄ４によれば、使用対象となる設定値の新たな設定が特別状況において実行されたことを少なくとも一の条件として報知用処理が実行される。これにより、好ましくない状況下において設定値の新たな設定が行われた場合にそれに対処するように促すことが可能となる。

【４９２７】

特徴Ｄ５．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（履歴用メモリ１１７）に記憶させる履歴記憶実行手段（管理側ＣＰＵ１１２における履歴設定処理を実行する機能）と、

前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われたことを少なくとも一の条件として、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（第３の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ１８０７の処理を実行する機能、第５の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２１０７の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴Ｄ１乃至Ｄ４のいずれか１に記載の遊技機。

【４９２８】

特徴Ｄ５によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。

【４９２９】

この場合に、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたことを契機として、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出される。これにより、設定値が変更される前の状況における所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【４９３０】

特徴Ｄ６．前記特別実行手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が前記特別状況において実行されたことを少なくとも一の条件として、前記特別処理として、前記情報導出手段による前記態様情報の導出を行わせないものであることを特徴とする特徴Ｄ５に記載の遊技機。

【４９３１】

特徴Ｄ６によれば、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたとしても当該設定が好ましくない状況において行われた場合には態様情報が導出されない。これにより、態様情報が無駄に導出されてしまわないようにすることが可能となる。

【４９３２】

特徴Ｄ７．前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶手段（別保存用メモリ１７１）を備えていることを特徴とする特徴Ｄ５又はＤ６に記載の遊技機。

【４９３３】

特徴Ｄ７によれば、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたことを契機として履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出された場合、その態様情報は態様情報記憶手段に記憶される。これにより、設定値が変更されたとしても、その後の任意のタイミングで設定値が変更される前の

状況における遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。
【４９３４】
特徴Ｄ８．前記態様情報記憶手段は、前記態様情報を複数記憶することが可能であることを特徴とする特徴Ｄ７に記載の遊技機。
【４９３５】
特徴Ｄ８によれば、態様情報記憶手段において態様情報を複数記憶することが可能であるため、設定値の新たな設定が行われたタイミングを基準として、複数の期間における遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、遊技が行われない状況下において設定値の新たな設定が繰り返されたとしても、実質的に遊技が行われている状況の履歴情報を利用して導出された態様情報が態様情報記憶手段に残っている可能性を高めることが可能となる。
【４９３６】
特徴Ｄ９．前記態様情報記憶手段は、前記態様情報を所定数記憶することが可能であり、
前記特別実行手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が前記特別状況において前記所定数を超える回数発生した場合に前記特別処理を実行するものであることを特徴とする特徴Ｄ７又はＤ８に記載の遊技機。
【４９３７】
特徴Ｄ９によれば、実質的に遊技が行われている状況の履歴情報を利用して導出された態様情報が態様情報記憶手段に残らないようにすべく遊技が行われない状況下において設定値の新たな設定が繰り返された場合には、それに対して特別処理が実行される。これにより、当該行為に対処することが可能となる。
【４９３８】
特徴Ｄ１０．遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球手段（第１作動口３３、第２作動口３４）と、
当該入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報を取得する情報取得手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０１の処理を実行する機能）と、
前記特別情報が付与情報に対応しているか否かの付与判定を行う付与判定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、
前記付与判定において前記特別情報が前記付与情報に対応しているとする付与対応結果となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０９～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記設定値に応じて前記付与判定において前記付与対応結果となる確率が変動することを特徴とする特徴Ｄ１乃至Ｄ９のいずれか１に記載の遊技機。
【４９３９】
特徴Ｄ１０によれば、所謂パチンコ機において設定値に応じて付与対応結果となる確率を変動させることが可能となる。
【４９４０】
なお、特徴Ｄ１～Ｄ１０の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴

ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【４９４１】

＜特徴Ｅ群＞

特徴Ｅ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、

遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（履歴用メモリ１１７）に記憶させる履歴記憶実行手段（管理側ＣＰＵ１１２における履歴設定処理を実行する機能）と、

前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われたことを少なくとも一の条件として、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（第３の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ１８０７の処理を実行する機能、第５の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２１０７の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【４９４２】

特徴Ｅ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。

【４９４３】

この場合に、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたことを契機として、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出される。これにより、設定値が変更される前の状況における所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【４９４４】

特徴Ｅ２．前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶手段（別保存用メモリ１７１）を備えていることを特徴とする特徴Ｅ１に記載の遊技機。

【４９４５】

特徴Ｅ２によれば、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたことを契機として履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出された場合、その態様情報は態様情報記憶手段に記憶される。これにより、設定値が変更されたとしても、その後の任意のタイミングで設定値が変更される前の

状況における遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。
【４９４６】
特徴Ｅ３．前記態様情報記憶手段は、前記態様情報を複数記憶することが可能であることを特徴とする特徴Ｅ２に記載の遊技機。
【４９４７】
特徴Ｅ３によれば、態様情報記憶手段において態様情報を複数記憶することが可能であるため、設定値の新たな設定が行われたタイミングを基準として、複数の期間における遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、遊技が行われない状況下において設定値の新たな設定が繰り返されたとしても、実質的に遊技が行われている状況の履歴情報を利用して導出された態様情報が態様情報記憶手段に残っている可能性を高めることが可能となる。
【４９４８】
特徴Ｅ４．前記態様情報記憶手段は、前記態様情報を所定数記憶することが可能であり、
本遊技機は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が所定条件下で前記所定数を超える回数発生した場合に特別処理を実行する手段（第３の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２における繰り返し変更の監視処理を実行する機能、第４の実施形態では主側ＣＰＵ６３における繰り返し変更の監視処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｅ２又はＥ３に記載の遊技機。
【４９４９】
特徴Ｅ４によれば、実質的に遊技が行われている状況の履歴情報を利用して導出された態様情報が態様情報記憶手段に残らないようにすべく遊技が行われない状況下において設定値の新たな設定が繰り返された場合には、それに対して特別処理が実行される。これにより、当該行為に対処することが可能となる。
【４９５０】
特徴Ｅ５．前記情報導出手段は、前記履歴記憶手段に所定の前記履歴情報が所定量以上記憶されている場合に前記態様情報を導出することを特徴とする特徴Ｅ１乃至Ｅ４のいずれか１に記載の遊技機。
【４９５１】
特徴Ｅ５によれば、履歴記憶手段に所定量以上の所定の履歴情報が記憶されている場合に態様情報が導出されるため、態様情報が無駄に導出されてしまわないようにすることが可能となる。
【４９５２】
特徴Ｅ６．遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球手段（第１作動口３３、第２作動口３４）と、
当該入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報を取得する情報取得手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０１の処理を実行する機能）と、
前記特別情報が付与情報に対応しているか否かの付与判定を行う付与判定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、
前記付与判定において前記特別情報が前記付与情報に対応しているとする付与対応結果となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０９～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、を備え、
前記設定値に応じて前記付与判定において前記付与対応結果となる確率が変動することを特徴とする特徴Ｅ１乃至Ｅ５のいずれか１に記載の遊技機。
【４９５３】
特徴Ｅ６によれば、所謂パチンコ機において設定値に応じて付与対応結果となる確率を変動させることが可能となる。
【４９５４】
なお、特徴Ｅ１～Ｅ６の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１

～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【４９５５】

上記特徴Ａ群、上記特徴Ｂ群、上記特徴Ｃ群、上記特徴Ｄ群及び上記特徴Ｅ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【４９５６】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【４９５７】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【４９５８】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の管理が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【４９５９】

＜特徴Ｆ群＞

特徴Ｆ１．遊技領域を流下する遊技球が入球可能な入球手段（第１作動口３３、第２作

動口３４）と、
当該入球手段に遊技球が入球したことに基づいて特別情報を取得する情報取得手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０１の処理を実行する機能）と、
前記特別情報が付与情報に対応しているか否かの付与判定を行う付与判定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、
前記付与判定において前記特別情報が前記付与情報に対応しているとする付与対応結果となったことに基づいて、遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０９～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、
遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、
を備え、
前記付与判定手段は、前記付与判定のモードとして、前記付与対応結果となる確率が相対的に高低となるように高確率モードと低確率モードとを有しており、
前記設定値に応じて少なくとも前記低確率モードにおいて前記付与対応結果となる確率が変動することを特徴とする遊技機。
【４９６０】
特徴Ｆ１によれば、所謂パチンコ機において設定値に応じて少なくとも低確率モードにて付与対応結果となる確率を変動させることが可能となる。これにより、単一の遊技機であっても低確率モードにおいて付与対応結果となる確率について有利又は不利となる状況を生じさせることが可能となる。よって、遊技の興趣向上を図ることが可能となる。
【４９６１】
特徴Ｆ２．前記高確率モードにおいて前記付与対応結果となる確率は前記設定値に応じて変動しないことを特徴とする特徴Ｆ１に記載の遊技機。
【４９６２】
特徴Ｆ２によれば、低確率モードにて付与対応結果となる確率については設定値に応じて変動させる一方、高確率モードにて付与対応結果となる確率については設定値に応じて変動させないようにすることにより、設定値の影響を低確率モードにおける状況に制限することが可能となる。
【４９６３】
特徴Ｆ３．前記特典は複数種類存在しており、
前記特典の選択態様は前記設定値に応じて変動しないことを特徴とする特徴Ｆ１又はＦ２に記載の遊技機。
【４９６４】
特徴Ｆ３によれば、低確率モードにて付与対応結果となる確率については設定値に応じて変動させる一方、特典の選択態様は設定値に応じて変動させないようにすることにより、設定値の影響を低確率モードにおける状況に制限することが可能となる。
【４９６５】
なお、特徴Ｆ１～Ｆ３の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１

～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【４９６６】

上記特徴Ｆ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【４９６７】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【４９６８】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【４９６９】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技の興趣向上を図る必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【４９７０】

＜特徴Ｇ群＞

特徴Ｇ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（履歴用メモリ１１７）に記憶させる履歴記憶実行手段（管理側ＣＰＵ１１２における履歴設定処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（第１の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ１４０２～ステップＳ１４１２の処理を実行する機能、第３の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ１８０７の処理を実行する機能、第５の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２１０７の処理を実行する機能）と、

当該情報導出手段により導出された前記態様情報に対応する表示が行われるように情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃ、第１１～第１４の実施形態では第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を表示制御する第１情報表示制御手段（管理側ＣＰＵ１１２における表示用処理を実行する機能）と、

前記態様情報とは異なる別情報に対応する表示が行われるように前記情報表示手段を表

示制御する第２情報表示制御手段（第１～第１０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ２０２及びステップＳ２０８の処理を実行する機能、第１１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１０１、ステップＳ３１０３及びステップＳ３１０９の処理を実行する機能、第１２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３２０１、ステップＳ３２０２、ステップＳ３２０４及びステップＳ３２１０の処理を実行する機能、第１３の実施形態では主側ＣＰＵ６３における異常表示用処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【４９７１】

特徴Ｇ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出される。そして、態様情報に対応する表示が情報表示手段にて行われる。これにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、情報表示手段においては態様情報に対応する表示だけではなく別情報に対応する表示が行われる。これにより、情報表示手段を有効利用することが可能となる。

【４９７２】

特徴Ｇ２．前記情報表示手段において前記態様情報に対応する表示が行われる期間と、前記情報表示手段において前記別情報に対応する表示が行われる期間とは区別されていることを特徴とする特徴Ｇ１に記載の遊技機。

【４９７３】

特徴Ｇ２によれば、情報表示手段において表示が行われている状況を把握することで、当該情報表示手段において態様情報に対応する表示及び別情報に対応する表示のうちいずれが行われているのかを特定することが可能となる。

【４９７４】

特徴Ｇ３．前記第２情報表示制御手段は、前記態様情報に対応する表示が行われる場合における表示態様とは異なる表示態様となるように前記情報表示手段を表示制御することにより前記別情報に対応する表示が行われるようにすることを特徴とする特徴Ｇ１又はＧ２に記載の遊技機。

【４９７５】

特徴Ｇ３によれば、情報表示手段の表示態様を把握することで、当該情報表示手段において態様情報に対応する表示及び別情報に対応する表示のうちいずれが行われているのかを特定することが可能となる。

【４９７６】

特徴Ｇ４．前記情報表示手段として、それぞれにおいて複数種類の表示を行うことが可能な個別情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃ、第１１～第１４の実施形態では第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を複数備えていることを特徴とする特徴Ｇ１乃至Ｇ３のいずれか１に記載の遊技機。

【４９７７】

特徴Ｇ４によれば、複数の個別情報表示手段を利用して態様情報に対応する表示が行われることにより多種多様な態様情報の表示を行うことが可能となる。また、複数の個別情報表示手段が存在していることにより、態様情報に対応する表示が行われる場合と別情報に対応する表示が行われる場合とで表示態様を大きく相違させることが可能となる。

【４９７８】

特徴Ｇ５．前記第２情報表示制御手段は、前記別情報に対応する表示を行わせる場合、複数の前記個別情報表示手段のうち前記態様情報に対応する表示が行われる場合に非表示

状態とならない所定の個別情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第１報知用表示装置６９ａ及び第２報知用表示装置６９ｂ、第１１，第１２の実施形態では第１報知用表示装置２０１、第２報知用表示装置２０２及び第３報知用表示装置２０３、第１３の実施形態では第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２）を非表示状態となるようにすることを特徴とする特徴Ｇ４に記載の遊技機。

【４９７９】

特徴Ｇ５によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には非表示状態とならない所定の個別情報表示手段が別情報に対応する表示が行われる場合には非表示状態となる。これにより、非表示状態となっている個別情報表示手段の種類を把握するだけで、態様情報に対応する表示及び別情報に対応する表示のうちいずれが行われているのかを明確に特定することが可能となる。

【４９８０】

特徴Ｇ６．前記第２情報表示制御手段は、前記別情報に対応する表示を行わせる場合、複数の前記個別情報表示手段のうち前記態様情報を表示する場合に表示状態となる特定の個別情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第３報知用表示装置６９ｃ、第１１，第１２の実施形態では第４報知用表示装置２０４、第１３の実施形態では第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４）を表示状態となるようにし、

前記別情報に対応する表示が行われる場合における前記特定の個別情報表示手段の表示内容は、前記態様情報に対応する表示が行われる場合に前記特定の個別情報表示手段に表示され得ることを特徴とする特徴Ｇ５に記載の遊技機。

【４９８１】

特徴Ｇ６によれば、特定の個別情報表示手段においては態様情報に対応する表示が行われる場合に表示され得る表示内容が別情報に対応する表示が行われる場合にも表示され得ることにより、態様情報に対応する表示が行われる場合の表示内容に制約を与えないようにすることが可能となる。また、このように特定の個別情報表示手段においては同一の表示内容となり得る構成であったとしても、上記特徴Ｇ５の構成を備え態様情報に対応する表示が行われる場合には非表示状態とならない所定の個別情報表示手段が別情報に対応する表示が行われる場合には非表示状態となるため、複数の個別情報表示手段においていずれの表示を行っているのかを特定することができる。

【４９８２】

特徴Ｇ７．前記第１情報表示制御手段は、前記態様情報に対応する表示を行わせる場合、複数の前記個別情報表示手段のそれぞれを表示状態とすることを特徴とする特徴Ｇ５又はＧ６に記載の遊技機。

【４９８３】

特徴Ｇ７によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には複数の個別情報表示手段のそれぞれが表示状態となるため、所定の個別情報表示手段が非表示状態となる別情報に対応する表示が行われる場合とは明確に区別することが可能となる。

【４９８４】

特徴Ｇ８．前記第１情報表示制御手段は、前記情報表示手段における前記態様情報の表示を順次変更させるものであって、前記態様情報の表示を変更させる場合においても前記所定の個別情報表示手段が非表示状態に維持されないようにすることを特徴とする特徴Ｇ５乃至Ｇ７のいずれか１に記載の遊技機。

【４９８５】

特徴Ｇ８によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には所定の個別情報表示手段が非表示状態に維持されない。これにより、複数の個別情報表示手段を確認したタイミングに関係なく、複数の個別情報表示手段において態様情報に対応する表示及び別情報に対応する表示のうちいずれが行われているのかを特定することが可能となる。

【４９８６】

特徴Ｇ９．前記第２情報表示制御手段は、複数の前記個別情報表示手段のうち１個の特定の個別情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第３報知用表示装置６９ｃ、第１１

，第１２の実施形態では第４報知用表示装置２０４）において前記別情報に対応する表示を行わせ、残りの個別情報表示手段を非表示状態となるようにすることを特徴とする特徴Ｇ５乃至Ｇ８のいずれか１に記載の遊技機。

【４９８７】

特徴Ｇ９によれば、別情報に対応する表示が行われる場合には１個の個別情報表示手段のみが表示状態となるため、別情報に対応する表示が行われているか否かを把握し易くなる。

【４９８８】

特徴Ｇ１０．複数の前記個別情報表示手段は所定方向に配列されており、

前記特定の個別情報表示手段は、前記所定方向に配列されている複数の前記個別情報表示手段のうち当該所定方向の端部に存在していることを特徴とする特徴Ｇ９に記載の遊技機。

【４９８９】

特徴Ｇ１０によれば、別情報に対応する表示が行われる１個の個別情報表示手段は所定方向の端部に存在しているため、別情報に対応する表示が行われているか否かを把握し易くなる。

【４９９０】

特徴Ｇ１１．前記第１情報表示制御手段は、複数の前記個別情報表示手段のうち一部である種類表示対象の個別情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第１報知用表示装置６９ａ、第１１～第１４の実施形態では第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２）において表示対象となる前記態様情報の種類に対応する表示が行われるようにし、複数の前記個別情報表示手段のうち一部である結果表示対象の個別情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第２報知用表示装置６９ｂ及び第３報知用表示装置６９ｃ、第１１～第１４の実施形態では第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４）において表示対象となる前記態様情報の内容に対応する表示が行われるようにし、

前記所定の個別情報表示手段は前記種類表示対象の個別情報表示手段に対応していることを特徴とする特徴Ｇ５乃至Ｇ１０のいずれか１に記載の遊技機。

【４９９１】

特徴Ｇ１１によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には種類表示対象の個別情報表示手段において表示対象となる態様情報の種類に対応する表示が行われるとともに結果表示対象の個別情報表示手段において表示対象となる態様情報の内容に対応する表示が行われる。これにより、表示対象となっている態様情報を把握し易くなる。この場合に、別情報に対応する表示が行われる場合には種類表示対象の個別情報表示手段が非表示状態となるため、種類表示が非表示の状態が別情報に対応していることとなり、別情報が表示されていると把握し易くなる。

【４９９２】

特徴Ｇ１２．前記情報表示手段は、複数の単位発光部（表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇ，２０２ａ～２０２ｇ）を有し、それら複数の単位発光部のうち発光状態となる単位発光部の組合せにより所定の表示を行うことが可能な構成であり、

前記第２情報表示制御手段は、前記複数の単位発光部のうち前記態様情報に対応する表示が行われる場合に発光状態とされ得る単位発光部を発光状態とすることにより前記別情報に対応する表示が行われるようにするものであって、当該別情報に対応する表示が行われる場合に発光状態となる前記単位発光部の組合せが前記態様情報に対応する表示が行われる場合には存在しない組合せとなるようにするものであることを特徴とする特徴Ｇ１乃至Ｇ１１のいずれか１に記載の遊技機。

【４９９３】

特徴Ｇ１２によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合に発光状態とされ得る単位発光部を発光状態とすることにより別情報に対応する表示が行われることにより、態様情報に対応する表示の多様化を図る上で態様情報に対応する表示の内容に極力制約を与えないようにすることが可能となる。その一方、別情報に対応する表示が行われる場合に発

光状態となる単位発光部の組合せが態様情報に対応する表示が行われる場合には存在しない組合せとなっている。これにより、発光状態となる単位発光部の組合せを把握することで態様情報に対応する表示及び別情報に対応する表示のうちいずれが行われているのかを把握することが可能となる。

【４９９４】

特徴Ｇ１３．前記情報表示手段における前記態様情報に対応する表示の表示態様は複数態様存在しており、

前記複数の単位発光部には、前記複数態様の前記態様情報に対応する表示が全て行われたとしても発光状態にならない単位発光部は存在していないことを特徴とする特徴Ｇ１２に記載の遊技機。

【４９９５】

特徴Ｇ１３によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には任意の組合せの単位発光部が発光状態とされる構成であるため、態様情報に対応する表示の多様化を図る上で態様情報に対応する表示の内容に極力制約を与えないようにすることが可能となる。

【４９９６】

特徴Ｇ１４．前記情報表示手段である特定の個別情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第３報知用表示装置６９ｃ、第１１，第１２の実施形態では第４報知用表示装置２０４、第１３の実施形態では第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４）を含めて個別情報表示手段を複数備え、

前記第２情報表示制御手段は、前記別情報に対応する表示を行わせる場合、複数の前記個別情報表示手段のうち前記態様情報に対応する表示が行われる場合に非表示状態とならない所定の個別情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第１報知用表示装置６９ａ及び第２報知用表示装置６９ｂ、第１１，第１２の実施形態では第１報知用表示装置２０１、第２報知用表示装置２０２及び第３報知用表示装置２０３、第１３の実施形態では第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２）を非表示状態となるようにすることを特徴とする特徴Ｇ１２又はＧ１３に記載の遊技機。

【４９９７】

特徴Ｇ１４によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には非表示状態とならない所定の個別情報表示手段が別情報に対応する表示が行われる場合には非表示状態となる。これにより、非表示状態となっている個別情報表示手段の種類を把握するだけで、態様情報に対応する表示及び別情報に対応する表示のうちいずれが行われているのかを明確に特定することが可能となる。

【４９９８】

特徴Ｇ１５．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）を備え、

前記第２情報表示制御手段は、前記設定値を変更することが可能な状況において前記別情報に対応する表示を行わせることを特徴とする特徴Ｇ１乃至Ｇ１４のいずれか１に記載の遊技機。

【４９９９】

特徴Ｇ１５によれば、態様情報に対応する表示が行われる情報表示手段を、設定値を変更することが可能な状況であることを報知するための表示手段として兼用することが可能となる。

【５０００】

特徴Ｇ１６．前記第２情報表示制御手段は、前記別情報に対応する表示として現状選択されている設定値に対応する情報の表示を行わせることを特徴とする特徴Ｇ１５に記載の遊技機。

【５００１】

特徴Ｇ１６によれば、態様情報に対応する表示が行われる情報表示手段を、変更途中の設定値を表示するための表示手段として兼用することが可能となる。

【５００２】
特徴Ｇ１７．前記第２情報表示制御手段は、前記別情報に対応する表示として遊技機の異常状態に対応する表示を行わせることを特徴とする特徴Ｇ１乃至Ｇ１６のいずれか１に記載の遊技機。
【５００３】
特徴Ｇ１７によれば、態様情報に対応する表示が行われる情報表示手段を、遊技機の異常状態に対応する表示を行わせるための表示手段として兼用することが可能となる。
【５００４】
特徴Ｇ１８．前記第２情報表示制御手段は、前記異常状態が発生していない状況において前記異常状態に対応する表示を行わせる場合、前記異常状態が発生していないことに対応する表示を行わせることを特徴とする特徴Ｇ１７に記載の遊技機。
【５００５】
特徴Ｇ１８によれば、情報表示手段を確認することで異常状態が発生しているか否かを明確に特定することが可能となる。
【５００６】
なお、特徴Ｇ１～Ｇ１８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【５００７】
＜特徴Ｈ群＞
特徴Ｈ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（履歴用メモリ１１７）に記憶させる履歴記憶実行手段（管理側ＣＰＵ１１２における履歴設定処理を実行する機能）と、
前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（第１の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ１４０２～ステップＳ１４１２の処理を実行する機能、第３の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ１８０７の処理を実行する機能、第５の

実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２１０７の処理を実行する機能）と、
当該情報導出手段により導出された前記態様情報に対応する表示が行われるように情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃ、第１１～第１４の実施形態では第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を表示制御する第１情報表示制御手段（管理側ＣＰＵ１１２における表示用処理を実行する機能）と、
前記態様情報とは異なる別情報に対応する表示が行われるように前記情報表示手段を表示制御する第２情報表示制御手段（第１～第１０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ２０２及びステップＳ２０８の処理を実行する機能、第１１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１０１、ステップＳ３１０３及びステップＳ３１０９の処理を実行する機能、第１２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３２０１、ステップＳ３２０２、ステップＳ３２０４及びステップＳ３２１０の処理を実行する機能、第１３の実施形態では主側ＣＰＵ６３における異常表示用処理を実行する機能）と、
を備え、
前記情報表示手段は、複数の単位発光部（表示用セグメント２０１ａ～２０１ｇ，２０２ａ～２０２ｇ）を有し、それら複数の単位発光部のうち発光状態となる単位発光部の組合せにより所定の表示を行うことが可能な構成であり、
前記第２情報表示制御手段は、前記複数の単位発光部のうち前記態様情報に対応する表示が行われる場合に発光状態とされ得る単位発光部を発光状態とすることにより前記別情報に対応する表示が行われるようにするものであって、当該別情報に対応する表示が行われる場合に発光状態となる前記単位発光部の組合せが前記態様情報に対応する表示が行われる場合には存在しない組合せとなるようにするものであることを特徴とする遊技機。

【５００８】

特徴Ｈ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出される。そして、態様情報に対応する表示が情報表示手段にて行われる。これにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、情報表示手段においては態様情報に対応する表示だけではなく別情報に対応する表示が行われる。これにより、情報表示手段を有効利用することが可能となる。

【５００９】

また、態様情報に対応する表示が行われる場合に発光状態とされ得る単位発光部を発光状態とすることにより別情報に対応する表示が行われることにより、態様情報に対応する表示の多様化を図る上で態様情報に対応する表示の内容に極力制約を与えないようにすることが可能となる。その一方、別情報に対応する表示が行われる場合に発光状態となる単位発光部の組合せが態様情報に対応する表示が行われる場合には存在しない組合せとなっている。これにより、発光状態となる単位発光部の組合せを把握することで態様情報に対応する表示及び別情報に対応する表示のうちいずれが行われているのかを把握することが可能となる。

【５０１０】

特徴Ｈ２．前記情報表示手段における前記態様情報に対応する表示の表示態様は複数態様存在しており、
前記複数の単位発光部には、前記複数態様の前記態様情報に対応する表示が全て行われたとしても発光状態にならない単位発光部は存在していないことを特徴とする特徴Ｈ１に記載の遊技機。

【５０１１】
特徴Ｈ２によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には任意の組合せの単位発光部が発光状態とされる構成であるため、態様情報に対応する表示の多様化を図る上で態様情報に対応する表示の内容に極力制約を与えないようにすることが可能となる。
【５０１２】
特徴Ｈ３．前記情報表示手段である特定の個別情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第３報知用表示装置６９ｃ、第１１，第１２の実施形態では第４報知用表示装置２０４、第１３の実施形態では第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４）を含めて個別情報表示手段を複数備え、
前記第２情報表示制御手段は、前記別情報に対応する表示を行わせる場合、複数の前記個別情報表示手段のうち前記態様情報に対応する表示が行われる場合に非表示状態とならない所定の個別情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第１報知用表示装置６９ａ及び第２報知用表示装置６９ｂ、第１１，第１２の実施形態では第１報知用表示装置２０１、第２報知用表示装置２０２及び第３報知用表示装置２０３、第１３の実施形態では第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２）を非表示状態となるようにすることを特徴とする特徴Ｈ１又はＨ２に記載の遊技機。
【５０１３】
特徴Ｈ３によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には非表示状態とならない所定の個別情報表示手段が別情報に対応する表示が行われる場合には非表示状態となる。これにより、非表示状態となっている個別情報表示手段の種類を把握するだけで、態様情報に対応する表示及び別情報に対応する表示のうちいずれが行われているのかを明確に特定することが可能となる。
【５０１４】
特徴Ｈ４．前記第１情報表示制御手段は、前記態様情報に対応する表示を行わせる場合、複数の前記個別情報表示手段のそれぞれを表示状態とすることを特徴とする特徴Ｈ３に記載の遊技機。
【５０１５】
特徴Ｈ４によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には複数の個別情報表示手段のそれぞれが表示状態となるため、所定の個別情報表示手段が非表示状態となる別情報に対応する表示が行われる場合とは明確に区別することが可能となる。
【５０１６】
特徴Ｈ５．前記第１情報表示制御手段は、前記情報表示手段における前記態様情報の表示を順次変更させるものであって、前記態様情報の表示を変更させる場合においても前記所定の個別情報表示手段が非表示状態に維持されないようにすることを特徴とする特徴Ｈ３又はＨ４に記載の遊技機。
【５０１７】
特徴Ｈ５によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には所定の個別情報表示手段が非表示状態に維持されない。これにより、複数の個別情報表示手段を確認したタイミングに関係なく、複数の個別情報表示手段において態様情報に対応する表示及び別情報に対応する表示のうちいずれが行われているのかを特定することが可能となる。
【５０１８】
特徴Ｈ６．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）を備え、
前記第２情報表示制御手段は、前記設定値を変更することが可能な状況において前記別情報に対応する表示を行わせることを特徴とする特徴Ｈ１乃至Ｈ５のいずれか１に記載の遊技機。
【５０１９】
特徴Ｈ６によれば、態様情報に対応する表示が行われる情報表示手段を、設定値を変更することが可能な状況であることを報知するための表示手段として兼用することが可能となる。

【５０２０】
特徴Ｈ７．前記第２情報表示制御手段は、前記別情報に対応する表示として現状選択されている設定値に対応する情報の表示を行わせることを特徴とする特徴Ｈ６に記載の遊技機。
【５０２１】
特徴Ｈ７によれば、態様情報に対応する表示が行われる情報表示手段を、変更途中の設定値を表示するための表示手段として兼用することが可能となる。
【５０２２】
なお、特徴Ｈ１～Ｈ７の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【５０２３】
＜特徴Ｉ群＞
特徴Ｉ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（履歴用メモリ１１７）に記憶させる履歴記憶実行手段（管理側ＣＰＵ１１２における履歴設定処理を実行する機能）と、
前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（第１の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ１４０２～ステップＳ１４１２の処理を実行する機能、第３の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ１８０７の処理を実行する機能、第５の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２１０７の処理を実行する機能）と、
当該情報導出手段により導出された前記態様情報に対応する表示が行われるように情報表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を表示制御する第１情報表示制御手段（管理側ＣＰＵ１１２における表示用処理を実行する機能）と、
遊技機の異常状態に対応する表示が行われるように前記情報表示手段を表示制御する第２情報表示制御手段（主側ＣＰＵ６３における異常表示用処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【５０２４】
特徴Ｉ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出される。そして、態様情報に対応する表示が情報表示手段にて行われる。これにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、情報表示手段においては態様情報に対応する表示だけではなく遊技機の異常状態に対応する表示が行われる。これにより、情報表示手段を有効利用することが可能となる。
【５０２５】
特徴Ｉ２．前記第２情報表示制御手段は、前記異常状態が発生していない状況において前記異常状態に対応する表示を行わせる場合、前記異常状態が発生していないことに対応する表示を行わせることを特徴とする特徴Ｉ１に記載の遊技機。
【５０２６】
特徴Ｉ２によれば、情報表示手段を確認することで異常状態が発生しているか否かを明確に特定することが可能となる。
【５０２７】
特徴Ｉ３．前記情報表示手段において前記態様情報に対応する表示が行われる期間と、前記情報表示手段において前記異常状態に対応する表示が行われる期間とは区別されていることを特徴とする特徴Ｉ１又はＩ２に記載の遊技機。
【５０２８】
特徴Ｉ３によれば、情報表示手段において表示が行われている状況を把握することで、当該情報表示手段において態様情報に対応する表示及び異常状態に対応する表示のうちいずれが行われているのかを特定することが可能となる。
【５０２９】
特徴Ｉ４．前記第２情報表示制御手段は、前記態様情報に対応する表示が行われる場合における表示態様とは異なる表示態様となるように前記情報表示手段を表示制御することにより前記異常状態に対応する表示が行われるようにすることを特徴とする特徴Ｇ１又はＧ２に記載の遊技機。
【５０３０】
特徴Ｉ４によれば、情報表示手段の表示態様を把握することで、当該情報表示手段において態様情報に対応する表示及び異常状態に対応する表示のうちいずれが行われているのかを特定することが可能となる。
【５０３１】
特徴Ｉ５．前記情報表示手段として、それぞれにおいて複数種類の表示を行うことが可能な個別情報表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を複数備えていることを特徴とする特徴Ｉ１乃至Ｉ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５０３２】
特徴Ｉ５によれば、複数の個別情報表示手段を利用して態様情報に対応する表示が行われることにより多種多様な態様情報の表示を行うことが可能となる。また、複数の個別情報表示手段が存在していることにより、態様情報に対応する表示が行われる場合と異常状態に対応する表示が行われる場合とで表示態様を大きく相違させることが可能となる。
【５０３３】
特徴Ｉ６．前記第２情報表示制御手段は、前記異常状態に対応する表示を行わせる場合、複数の前記個別情報表示手段のうち前記態様情報に対応する表示が行われる場合に非表示状態とならない所定の個別情報表示手段（第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２）を非表示状態となるようにすることを特徴とする特徴Ｉ５に記載の遊技機

。
【５０３４】
特徴Ｉ６によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には非表示状態とならない所定の個別情報表示手段が異常状態に対応する表示が行われる場合には非表示状態となる。これにより、非表示状態となっている個別情報表示手段の種類を把握するだけで、態様情報に対応する表示及び異常状態に対応する表示のうちいずれが行われているのかを明確に特定することが可能となる。
【５０３５】
特徴Ｉ７．前記第２情報表示制御手段は、前記異常状態に対応する表示を行わせる場合、複数の前記個別情報表示手段のうち前記態様情報を表示する場合に表示状態となる特定の個別情報表示手段（第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４）を表示状態となるようにし、
前記異常状態に対応する表示が行われる場合における前記特定の個別情報表示手段の表示内容は、前記態様情報に対応する表示が行われる場合に前記特定の個別情報表示手段に表示され得ることを特徴とする特徴Ｉ６に記載の遊技機。
【５０３６】
特徴Ｉ７によれば、特定の個別情報表示手段においては態様情報に対応する表示が行われる場合に表示され得る表示内容が異常状態に対応する表示が行われる場合にも表示され得ることにより、態様情報に対応する表示が行われる場合の表示内容に制約を与えないようにすることが可能となる。また、このように特定の個別情報表示手段においては同一の表示内容となり得る構成であったとしても、上記特徴Ｉ７の構成を備え態様情報に対応する表示が行われる場合には非表示状態とならない所定の個別情報表示手段が異常状態に対応する表示が行われる場合には非表示状態となるため、複数の個別情報表示手段においていずれの表示を行っているのかを特定することができる。
【５０３７】
特徴Ｉ８．前記第１情報表示制御手段は、前記態様情報に対応する表示を行わせる場合、複数の前記個別情報表示手段のそれぞれを表示状態とすることを特徴とする特徴Ｉ６又はＩ７に記載の遊技機。
【５０３８】
特徴Ｉ８によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には複数の個別情報表示手段のそれぞれが表示状態となるため、所定の個別情報表示手段が非表示状態となる異常状態に対応する表示が行われる場合とは明確に区別することが可能となる。
【５０３９】
特徴Ｉ９．前記第１情報表示制御手段は、前記情報表示手段における前記態様情報の表示を順次変更させるものであって、前記態様情報の表示を変更させる場合においても前記所定の個別情報表示手段が非表示状態に維持されないようにすることを特徴とする特徴Ｉ６乃至Ｉ８のいずれか１に記載の遊技機。
【５０４０】
特徴Ｉ９によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には所定の個別情報表示手段が非表示状態に維持されない。これにより、複数の個別情報表示手段を確認したタイミングに関係なく、複数の個別情報表示手段において態様情報に対応する表示及び異常状態に対応する表示のうちいずれが行われているのかを特定することが可能となる。
【５０４１】
なお、特徴Ｉ１～Ｉ９の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９

、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５０４２】

＜特徴Ｊ群＞

特徴Ｊ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（履歴用メモリ１１７）に記憶させる履歴記憶実行手段（管理側ＣＰＵ１１２における履歴設定処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（第１の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ１４０２～ステップＳ１４１２の処理を実行する機能、第３の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ１８０７の処理を実行する機能、第５の実施形態では管理側ＣＰＵ１１２におけるステップＳ２１０７の処理を実行する機能）と、

当該情報導出手段により導出された前記態様情報に対応する表示が行われるように情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃ、第１１～第１４の実施形態では第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を表示制御する第１情報表示制御手段（管理側ＣＰＵ１１２における表示用処理を実行する機能）と、

を備え、

当該第１情報表示制御手段は、前記情報表示手段における前記態様情報に対応する表示を順次変更させるものであって、前記態様情報に対応する表示を変更させる場合においても前記情報表示手段が非表示状態に維持されないようにすることを特徴とする遊技機。

【５０４３】

特徴Ｊ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出される。そして、態様情報に対応する表示が情報表示手段にて行われる。これにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、態様情報に対応する表示が行われる場合には情報表示手段が非表示状態に維持されない。これにより、情報表示手段を確認したタイミングに関係なく、態様情報に対応する表示を特定することが可能となる。

【５０４４】

特徴Ｊ２．前記情報表示手段として、それぞれにおいて複数種類の表示を行うことが可能な個別情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第１～第３報知用表示装置６９ａ～６９ｃ、第１１～第１４の実施形態では第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を複数備えていることを特徴とする特徴Ｊ１に記載の遊技機。

【５０４５】

特徴Ｊ２によれば、複数の個別情報表示手段を利用して態様情報に対応する表示が行われることにより多種多様な態様情報の表示を行うことが可能となる。

【５０４６】

特徴Ｊ３．前記第１情報表示制御手段は、前記態様情報に対応する表示を行わせる場合、複数の前記個別情報表示手段のそれぞれを表示状態とすることを特徴とする特徴Ｊ２に記載の遊技機。

【５０４７】

特徴Ｊ３によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には複数の個別情報表示手段のそれぞれが表示状態となるとともに、態様情報に対応する表示を変更させる場合であっても表示状態に維持される。これにより、態様情報を把握し易くなる。

【５０４８】

特徴Ｊ４．前記第１情報表示制御手段は、複数の前記個別情報表示手段のうち一部である種類表示対象の個別情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第１報知用表示装置６９ａ、第１１～第１４の実施形態では第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２）において表示対象となる前記態様情報の種類に対応する表示が行われるようにし、複数の前記個別情報表示手段のうち一部である結果表示対象の個別情報表示手段（第１～第１０の実施形態では第２報知用表示装置６９ｂ及び第３報知用表示装置６９ｃ、第１１～第１４の実施形態では第３報知用表示装置２０３及び第４報知用表示装置２０４）において表示対象となる前記態様情報の内容に対応する表示が行われるようにすることを特徴とする特徴Ｊ２又はＪ３に記載の遊技機。

【５０４９】

特徴Ｊ４によれば、態様情報に対応する表示が行われる場合には種類表示対象の個別情報表示手段において表示対象となる態様情報の種類に対応する表示が行われるとともに結果表示対象の個別情報表示手段において表示対象となる態様情報の内容に対応する表示が行われる。これにより、表示対象となっている態様情報を把握し易くなる。

【５０５０】

なお、特徴Ｊ１～Ｊ４の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９

、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５０５１】

＜特徴Ｋ群＞

特徴Ｋ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（履歴用メモリ１１７）に記憶させる履歴記憶実行手段（管理側ＣＰＵ１１２における履歴設定処理を実行する機能）を備え、

当該履歴記憶実行手段は、制限状況である場合、前記所定事象が発生したとしても前記履歴情報を前記履歴記憶手段に記憶させないようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３５０１にて否定判定をする機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【５０５２】

特徴Ｋ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、制限状況である場合には所定事象が発生したとしても履歴情報が記憶されないため、履歴情報を記憶するのが好ましくない状況において履歴情報が記憶されてしまわないようにすることが可能となる。

【５０５３】

特徴Ｋ２．前記制限状況は、前記履歴記憶実行手段への動作電力の供給が開始されてから制限解除事象が発生するまでの状況として発生し得ることを特徴とする特徴Ｋ１に記載の遊技機。

【５０５４】

特徴Ｋ２によれば、動作電力の供給開始直後の動作チェックによる所定事象の発生を履歴情報として記憶してしまわないようにすることが可能となる。

【５０５５】

特徴Ｋ３．前記履歴記憶実行手段への動作電力の供給が開始された場合であって制限条件が成立している場合に前記制限状況に設定する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３６１０の処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶実行手段への動作電力の供給が開始された場合であって前記制限条件が成立していない場合に前記制限状況に設定しない手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３６２１の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴Ｋ２に記載の遊技機。

【５０５６】

特徴Ｋ３によれば、制限条件が成立しているか否かによって制限状況に設定される場合と設定されない場合とが存在する。これにより、必要に応じて制限状況に設定されないようにすることが可能となる。

【５０５７】

特徴Ｋ４．前記制限状況は、前記履歴記憶実行手段への動作電力の供給が開始されてから遊技領域からの遊技球の排出個数が所定基準個数以上となるまでの状況として発生し得ることを特徴とする特徴Ｋ１乃至Ｋ３のいずれか１に記載の遊技機。

【５０５８】

特徴Ｋ４によれば、動作電力の供給が開始されてから遊技領域からの遊技球の排出個数が所定基準個数以上となるまでは履歴情報が記憶されないようにすることが可能となる。

【５０５９】

特徴Ｋ５．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３）に記憶させる履歴記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３における通常の入球管理処理、開閉実行モード中の入球管理処理及び高頻度サポートモード中の入球管理処理を実行する機能）と、
前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４２０８の処理を実行する機能）と、
を備え、
当該情報導出手段は、制限状況である場合、前記態様情報を導出しないことを特徴とする遊技機。
【５０６０】
特徴Ｋ５によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出される。これにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、制限状況である場合には所定事象が発生したとしても態様情報が導出されないため、態様情報を導出するのが好ましくない状況において態様情報が導出されてしまわないようにすることが可能となる。
【５０６１】
特徴Ｋ６．前記制限状況は、前記履歴記憶実行手段への動作電力の供給が開始されてから制限解除事象が発生するまでの状況として発生し得ることを特徴とする特徴Ｋ５に記載の遊技機。
【５０６２】
特徴Ｋ６によれば、動作電力の供給開始直後の動作チェックによる所定事象の発生に基づく履歴情報を利用した態様情報が導出されてしまわないようにすることが可能となる。
【５０６３】
特徴Ｋ７．前記制限状況は、前記履歴記憶実行手段への動作電力の供給が開始されてから遊技領域からの遊技球の排出個数が所定基準個数以上となるまでの状況として発生し得ることを特徴とする特徴Ｋ５又はＫ６に記載の遊技機。
【５０６４】
特徴Ｋ７によれば、動作電力の供給が開始されてから遊技領域からの遊技球の排出個数が所定基準個数以上となるまでは態様情報が導出されないようにすることが可能となる。
【５０６５】
なお、特徴Ｋ１～Ｋ７の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１

～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５０６６】

上記特徴Ｇ群、上記特徴Ｈ群、上記特徴Ｉ群、上記特徴Ｊ群及び上記特徴Ｋ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５０６７】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５０６８】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５０６９】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の管理が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５０７０】

＜特徴Ｌ群＞

特徴Ｌ１．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、

当該制御手段は、

前記各種処理のうち第１所定処理を実行する第１所定処理実行手段（第１５～第２１の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第２所定処理を実行する第２所定処理実行手段（第１５～第２１の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理を実行する機能）と、

前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報を所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）に退避させる退避実行手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３８０２及びステップＳ３９０２～ステップＳ３９０７の処理を実行する機能、第１６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４４０２の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側

ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５０２～ステップＳ４５０７の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０２の処理を実行する機能、第１９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４７０１及びステップＳ４７０３の処理を実行する機能）と、
前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる復帰実行手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３８０４及びステップＳ３９１０～ステップＳ３９１５の処理を実行する機能、第１６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４４０４の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５１０～ステップＳ４５１５の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０５の処理を実行する機能、第１９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４７０５及びステップＳ４７０６の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。
【５０７１】
特徴Ｌ１によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合には内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報が所定記憶手段に退避される。これにより、第２所定処理が実行される場合に、第１所定処理の実行に際して内部記憶手段に記憶された情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。また、第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された情報が内部記憶手段に復帰される。これにより、第２所定処理が終了した場合には当該第２所定処理の実行前における内部記憶手段の状態から第２所定処理とは異なる処理を実行することが可能となる。以上より、各種制御を好適に行うことが可能となる。
【５０７２】
特徴Ｌ２．前記所定情報は、前記内部記憶手段に記憶された情報のうち一部の情報であることを特徴とする特徴Ｌ１に記載の遊技機。
【５０７３】
特徴Ｌ２によれば、内部記憶手段に記憶された情報のうち一部の情報のみが所定記憶手段に退避されるため、所定記憶手段において内部記憶手段の情報を退避させるために必要な記憶容量を抑えることが可能となる。
【５０７４】
特徴Ｌ３．前記内部記憶手段は、第１記憶領域（ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ）と第２記憶領域（ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ以外のレジスタ）とを少なくとも備え、
前記第２所定処理実行手段は、前記第２所定処理において前記第１記憶領域に情報を記憶させる一方、前記第２記憶領域に情報を記憶させない構成であり、
前記退避実行手段は、前記第１記憶領域に記憶された情報を前記所定記憶手段に退避させることを特徴とする特徴Ｌ２に記載の遊技機。
【５０７５】
特徴Ｌ３によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合、内部記憶手段において第２所定処理にて情報の記憶対象となる第１記憶領域の情報が所定記憶手段に退避される。これにより、第２所定処理が終了した場合には当該第２所定処理の実行前における内部記憶手段の状態から第２所定処理とは異なる処理を実行することを可能としながら、所定記憶手段において内部記憶手段の情報を退避させるために必要な記憶容量を抑えることが可能となる。
【５０７６】
特徴Ｌ４．前記所定記憶手段は、
前記第１所定処理が実行される場合に情報が記憶される第１所定記憶領域（特定制御用

のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２）と、
　前記第２所定処理が実行される場合に情報が記憶される第２所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２２３、非特定制御用のスタックエリア２２４）と、
を備え、
　前記退避実行手段は、前記所定情報を前記第２所定記憶領域に退避させることを特徴とする特徴Ｌ１乃至Ｌ３のいずれか１に記載の遊技機。
【５０７７】
　特徴Ｌ４によれば、所定記憶手段に第１所定記憶領域と第２所定記憶領域とが設けられていることにより、第１所定処理と第２所定処理とで所定記憶手段における情報の記憶先を明確に相違させることが可能となる。これにより、第１所定処理及び第２所定処理のうち一方の処理の実行に際して他方の処理において利用される情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。この場合に、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合、内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報が第２所定記憶領域に退避される。これにより、第２所定処理が開始される直前における内部記憶手段の情報を退避させることが可能となるとともに、第１所定記憶領域を利用することなく当該情報を退避させることが可能となる。
【５０７８】
　特徴Ｌ５．前記退避実行手段は、
　前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合に前記内部記憶手段に記憶された一部の情報である第１所定情報を前記第１所定処理において前記第１所定記憶領域に退避させる手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３８０２の処理を実行する機能、第１６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４４０２の処理を実行する機能）と、
　前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となった場合に前記内部記憶手段に記憶された一部の情報である第２所定情報を前記第２所定処理において前記第２所定記憶領域に退避させる手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３９０２～ステップＳ３９０７の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５０２～ステップＳ４５０７の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０２の処理を実行する機能、第１９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４７０２及びステップＳ４７０３の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴Ｌ４に記載の遊技機。
【５０７９】
　特徴Ｌ５によれば、内部記憶手段に記憶された一部の情報である第１所定情報は第１所定処理にて第１所定記憶領域に退避され、内部記憶手段に記憶された一部の情報である第２所定情報は第２所定処理にて第２所定記憶領域に退避される。これにより、内部記憶手段に記憶された各情報にとって好ましいタイミングで退避を行うことが可能となるとともに、情報を退避させるための処理を第１所定処理と第２所定処理とで分散して実行することが可能となる。
【５０８０】
　特徴Ｌ６．前記第１所定情報は前記内部記憶手段に設けられたフラグレジスタの情報であることを特徴とする特徴Ｌ５に記載の遊技機。
【５０８１】
　特徴Ｌ６によれば、第１所定処理が実行されている状況におけるフラグレジスタの情報を適切に退避させることが可能となる。
【５０８２】
　特徴Ｌ７．前記第２所定記憶領域は、
　プッシュ命令により情報の書き込みを行うことが可能でありポップ命令により情報の読み出しを行うことが可能であるスタック領域（非特定制御用のスタックエリア２２４）と

、
ロード命令により情報の書き込み及び読み出しを行うことが可能であるワーク領域（非特定制御用のワークエリア２２３）と、
を備え、
前記退避実行手段は、前記所定情報を前記スタック領域及び前記ワーク領域の一方に退避させることを特徴とする特徴Ｌ４乃至Ｌ６のいずれか１に記載の遊技機。
【５０８３】
特徴Ｌ７によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合、第２所定記憶領域におけるスタック領域及びワーク領域のうち一方に、内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報が退避される。これにより、情報の退避先を集約することが可能となり、退避させるための処理構成及び復帰させるための処理構成を簡素化させることが可能となる。
【５０８４】
特徴Ｌ８．前記退避実行手段は、前記所定情報を前記ワーク領域に退避させることを特徴とする特徴Ｌ７に記載の遊技機。
【５０８５】
特徴Ｌ８によれば、内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報の退避先がワーク領域であることにより、スタックポインタの累積的な変更を行うことなく当該情報の退避を行うことが可能となる。
【５０８６】
特徴Ｌ９．前記第１所定記憶領域は、前記第１所定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であり、前記第２所定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能であるものの情報の記憶が不可であり、
前記第２所定記憶領域は、前記第２所定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であり、前記第１所定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能であるものの情報の記憶が不可であることを特徴とする特徴Ｌ４乃至Ｌ８のいずれか１に記載の遊技機。
【５０８７】
特徴Ｌ９によれば、第１所定記憶領域を第１所定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となるとともに、第２所定記憶領域を第２所定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となる。
【５０８８】
特徴Ｌ１０．前記所定記憶手段は、
プッシュ命令により情報の書き込みを行うことが可能でありポップ命令により情報の読み出しを行うことが可能であるスタック領域（非特定制御用のスタックエリア２２４）と、
ロード命令により情報の書き込み及び読み出しを行うことが可能であるワーク領域（非特定制御用のワークエリア２２３）と、
を備え、
前記退避実行手段は、前記所定情報を前記スタック領域及び前記ワーク領域の一方に退避させることを特徴とする特徴Ｌ１乃至Ｌ９のいずれか１に記載の遊技機。
【５０８９】
特徴Ｌ１０によれば、所定情報の退避先を集約することが可能となり、所定情報を退避させるための処理構成及び所定情報を復帰させるための処理構成を簡素化させることが可能となる。
【５０９０】
特徴Ｌ１１．前記退避実行手段は、前記所定情報を前記ワーク領域に退避させることを特徴とする特徴Ｌ１０に記載の遊技機。
【５０９１】
特徴Ｌ１１によれば、所定情報の退避先がワーク領域であることにより、スタックポイ

ンタの累積的な変更を行うことなく当該情報の退避を行うことが可能となる。
【５０９２】
特徴Ｌ１２．前記所定情報は前記内部記憶手段に記憶された一部の情報であり、
前記退避実行手段は、前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に記憶された一部の情報である特定情報を前記スタック領域に退避させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３８０２の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｌ１１に記載の遊技機。
【５０９３】
特徴Ｌ１２によれば、所定情報がワーク領域に退避される構成において特定情報はスタック領域に退避される。これにより、内部記憶手段に記憶された情報をワーク領域とスタック領域とに分散して退避させることが可能となる。
【５０９４】
特徴Ｌ１３．前記所定情報は前記特定情報よりも情報量が多いことを特徴とする特徴Ｌ１２に記載の遊技機。
【５０９５】
特徴Ｌ１３によれば、特定情報よりも情報量が多い所定情報がワーク領域に退避されることにより、内部記憶手段に記憶された情報の退避に際してスタック領域に多くの情報が累積的に記憶されてしまわないようにすることが可能となる。
【５０９６】
特徴Ｌ１４．前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合、前記内部記憶手段に設けられたスタックポインタの情報は固定の情報となる構成であり、
前記内部記憶手段に設けられたスタックポインタの情報は前記退避実行手段による退避の対象とならないことを特徴とする特徴Ｌ１乃至Ｌ１３のいずれか１に記載の遊技機。
【５０９７】
特徴Ｌ１４によれば、所定記憶手段においてスタックポインタの情報を退避させるための容量を確保する必要がないため、当該所定記憶手段の容量を抑えることが可能となる。また、このようにスタックポインタの情報が退避されない構成であっても、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合にはスタックポインタの情報は固定の情報となるため、上記のようにスタックポインタの情報を退避させなくても第２所定処理が開始される前におけるスタックポインタの情報に復帰させることが可能である。
【５０９８】
特徴Ｌ１５．前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記スタックポインタに前記固定の情報を設定する手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３９０９の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５０９の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｌ１４に記載の遊技機。
【５０９９】
特徴Ｌ１５によれば、第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、第２所定処理が開始される前におけるスタックポインタの情報に復帰させることが可能である。
【５１００】
特徴Ｌ１６．前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記スタックポインタに前記第２所定処理に対応する第２対応開始情報を設定する手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３９０１の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５０１の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０１の処理を実行する機能）を備えている

ことを特徴とする特徴Ｌ１４又はＬ１５に記載の遊技機。
【５１０１】
特徴Ｌ１６によれば、第２所定処理が開始される場合にはスタックポインタに対して第２所定処理に対応する第２対応開始情報が設定されることにより、第２所定処理において適切なアドレスのスタック領域に情報を記憶させることが可能となる。
【５１０２】
特徴Ｌ１７．前記第１所定処理には、遊技の進行を制御するための処理が含まれ、
前記第２所定処理には、遊技履歴を管理するための処理が含まれることを特徴とする特徴Ｌ１乃至Ｌ１６のいずれか１に記載の遊技機。
【５１０３】
特徴Ｌ１７によれば、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して遊技履歴を管理するための処理にて利用される情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。
【５１０４】
特徴Ｌ１８．前記所定記憶手段は、
前記第１所定処理が実行される場合に情報が記憶される第１所定記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２）と、
前記第２所定処理が実行される場合に情報が記憶される第２所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２２３、非特定制御用のスタックエリア２２４）と、
を備え、
前記第２所定記憶領域は、遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報が記憶される履歴記憶領域（通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３）を備えていることを特徴とする特徴Ｌ１７に記載の遊技機。
【５１０５】
特徴Ｌ１８によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶領域にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して履歴記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。
【５１０６】
特徴Ｌ１９．前記第２所定処理実行手段は、前記履歴記憶領域に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４２０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｌ１８に記載の遊技機。
【５１０７】
特徴Ｌ１９によれば、履歴記憶領域に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出されることにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。
【５１０８】
特徴Ｌ２０．前記第２所定記憶領域は、前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶領域（演算結果記憶エリア２３４）を備えていることを特徴とする特徴Ｌ１９に記載の遊技機。
【５１０９】
特徴Ｌ２０によれば、履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態

様情報が導出された場合、その態様情報は態様情報記憶領域に記憶される。これにより、任意のタイミングで遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して態様情報記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。

【５１１０】

なお、特徴Ｌ１～Ｌ２０の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５１１１】

＜特徴Ｍ群＞

特徴Ｍ１．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、

当該制御手段は、

前記各種処理のうち第１所定処理を実行する第１所定処理実行手段（第１５～第２１の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第２所定処理を実行する第２所定処理実行手段（第１５～第２１の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理を実行する機能）と、

前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報を所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）に退避させる退避実行手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３９０２～ステップＳ３９０７の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５０２～ステップＳ４５０７の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０２の処理を実行する機能、第１９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４７０１及びステップＳ４７０３の処理を実行する機能）

と、
　前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる復帰実行手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３９１０～ステップＳ３９１５の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５１０～ステップＳ４５１５の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０５の処理を実行する機能、第１９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４７０５及びステップＳ４７０６の処理を実行する機能）と、
を備え、
　前記退避実行手段は、前記所定情報をロード命令により前記所定記憶手段に退避させることを特徴とする遊技機。
【５１１２】
　特徴Ｍ１によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合には内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報が所定記憶手段に退避される。これにより、第２所定処理が実行される場合に、第１所定処理の実行に際して内部記憶手段に記憶された情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。また、第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された所定情報が内部記憶手段に復帰される。これにより、第２所定処理が終了した場合には当該第２所定処理の実行前における内部記憶手段の状態から第２所定処理とは異なる処理を実行することが可能となる。第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合、ロード命令により上記所定情報が所定記憶手段に退避される。これにより、スタックポインタの変更を要することなく所定情報を退避させることが可能となる。
【５１１３】
　特徴Ｍ２．前記所定記憶手段は、
　プッシュ命令により情報の書き込みを行うことが可能でありポップ命令により情報の読み出しを行うことが可能であるスタック領域（非特定制御用のスタックエリア２２４）と、
　ロード命令により情報の書き込み及び読み出しを行うことが可能であるワーク領域（非特定制御用のワークエリア２２３）と、
を備え、
　前記退避実行手段は、前記所定情報を前記ワーク領域に退避させることを特徴とする特徴Ｍ１に記載の遊技機。
【５１１４】
　特徴Ｍ２によれば、内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報の退避先がワーク領域であることにより、スタックポインタの累積的な変更を行うことなく当該情報の退避を行うことが可能となる。
【５１１５】
　特徴Ｍ３．前記所定情報は前記内部記憶手段に記憶された一部の情報であり、
　前記退避実行手段は、前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に記憶された一部の情報である特定情報を前記スタック領域に退避させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３８０２の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｍ２に記載の遊技機。
【５１１６】
　特徴Ｍ３によれば、所定情報がワーク領域に退避される構成において特定情報はスタック領域に退避される。これにより、内部記憶手段に記憶された情報をワーク領域とスタック領域とに分散して退避させることが可能となる。
【５１１７】

特徴Ｍ４．前記所定情報は前記特定情報よりも情報量が多いことを特徴とする特徴Ｍ３に記載の遊技機。

【５１１８】

特徴Ｍ４によれば、特定情報よりも情報量が多い所定情報がワーク領域に退避されることにより、内部記憶手段に記憶された情報の退避に際してスタック領域に多くの情報が累積的に記憶されてしまわないようにすることが可能となる。

【５１１９】

特徴Ｍ５．前記ワーク領域は、

前記第１所定処理が実行される場合に情報が記憶される第１ワーク領域（特定制御用のワークエリア２２１）と、

前記第２所定処理が実行される場合に情報が記憶される第２ワーク領域（非特定制御用のワークエリア２２３）と、

を備え、

前記退避実行手段は、前記所定情報を前記第２ワーク領域に退避させることを特徴とする特徴Ｍ２乃至Ｍ４のいずれか１に記載の遊技機。

【５１２０】

特徴Ｍ５によれば、ワーク領域に第１ワーク領域と第２ワーク領域とが設けられていることにより、第１所定処理と第２所定処理とでワーク領域における情報の記憶先を明確に相違させることが可能となる。これにより、第１所定処理及び第２所定処理のうち一方の処理の実行に際して他方の処理において利用される情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。この場合に、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合、内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報が第２ワーク領域に退避される。これにより、第２所定処理が開始される直前における内部記憶手段の情報を退避させることが可能となるとともに、第１ワーク領域を利用することなく当該情報を退避させることが可能となる。

【５１２１】

特徴Ｍ６．前記第１ワーク領域は、前記第１所定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であって、前記第２所定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能ではあるものの情報の記憶が不可であり、

前記第２ワーク領域は、前記第２所定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であって、前記第１所定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能ではあるものの情報の記憶が不可であることを特徴とする特徴Ｍ５に記載の遊技機。

【５１２２】

特徴Ｍ６によれば、第１ワーク領域を第１所定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となるとともに、第２ワーク領域を第２所定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となる。

【５１２３】

特徴Ｍ７．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、

当該制御手段は、

前記各種処理のうち第１所定処理を実行する第１所定処理実行手段（第１５～第２１の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第２所定処理を実行する第２所定処理実行手段（第１５～第２１の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理を実行する機能）と、

前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報を所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）に退避させる退避実行手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３９０２～ステップＳ３９０７の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５０２～ステップＳ４５０７の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側Ｃ

ＰＵ６３におけるステップＳ４６０２の処理を実行する機能、第１９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４７０１及びステップＳ４７０３の処理を実行する機能）と、
前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる復帰実行手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３９１０～ステップＳ３９１５の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５１０～ステップＳ４５１５の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０５の処理を実行する機能、第１９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４７０５及びステップＳ４７０６の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記所定記憶手段は、
プッシュ命令により情報の書き込みを行うことが可能でありポップ命令により情報の読み出しを行うことが可能であるスタック領域（非特定制御用のスタックエリア２２４）と、
ロード命令により情報の書き込み及び読み出しを行うことが可能であるワーク領域（非特定制御用のワークエリア２２３）と、
を備え、
前記退避実行手段は、前記所定情報を前記スタック領域及び前記ワーク領域の一方に退避させることを特徴とする遊技機。

【５１２４】
特徴Ｍ７によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合には内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報が所定記憶手段に退避される。これにより、第２所定処理が実行される場合に、第１所定処理の実行に際して内部記憶手段に記憶された情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。また、第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された所定情報が内部記憶手段に復帰される。これにより、第２所定処理が終了した場合には当該第２所定処理の実行前における内部記憶手段の状態から第２所定処理とは異なる処理を実行することが可能となる。

【５１２５】
また、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合、所定記憶手段におけるスタック領域及びワーク領域のうち一方に、上記所定情報が退避される。これにより、情報の退避先を集約することが可能となり、退避させるための処理構成及び復帰させるための処理構成を簡素化させることが可能となる。

【５１２６】
なお、特徴Ｍ１～Ｍ７の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴

ａＫ１～ａＫ８、特徴ａＬ１～ａＬ１１、特徴ａＭ１～ａＭ８、特徴ａＮ１～ａＮ６、特徴ａＯ１～ａＯ７、特徴ａＰ１～ａＰ７、特徴ａＱ１～ａＱ９、特徴ａＲ１～ａＲ８、特徴ａＳ１～ａＳ３、特徴ａＴ１～ａＴ４、特徴ａＵ１～ａＵ１０、特徴ａＶ１～ａＶ５、特徴ａＷ１～ａＷ９、特徴ａＸ１～ａＸ４、特徴ａＹ１～ａＹ１１、特徴ａＺ１～ａＺ４、特徴ａａ１～ａａ３、特徴ａｂ１～ａｂ９、特徴ａｃ１～ａｃ７、特徴ａｄ１～ａｄ９、特徴ａｅ１～ａｅ１３、特徴ａｆ１～ａｆ１３、特徴ａｇ１～ａｇ８、特徴ａｈ１～ａｈ１１、特徴ａｉ１～ａｉ１５、特徴ａｊ１～ａｊ１２、特徴ａｋ１～ａｋ１１、特徴ａｌ１～ａｌ１８、特徴ａｍ１～ａｍ１１、特徴ａｎ１～ａｎ９、特徴ａｏ１～ａｏ６、特徴ａｐ１～ａｐ３、特徴ａｑ１～ａｑ９、特徴ａｒ１～ａｒ９、特徴ａｓ１～ａｓ８、特徴ａｔ１～ａｔ８、特徴ａｕ１～ａｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５１２７】

＜特徴Ｎ群＞

特徴Ｎ１．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、

当該制御手段は、

前記各種処理のうち第１所定処理を実行する第１所定処理実行手段（第１５～第２１の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第２所定処理を実行する第２所定処理実行手段（第１５～第２１の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理を実行する機能）と、

を備え、

前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合、前記内部記憶手段に設けられたスタックポインタの情報は固定の情報となる構成であることを特徴とする遊技機。

【５１２８】

特徴Ｎ１によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合、内部記憶手段に設けられたスタックポインタの情報は固定の情報となるため、第２所定処理を開始する場合に当該スタックポインタの情報を退避させる必要がない。これにより、スタックポインタの情報を退避させるための記憶領域を確保する必要がなくなる。また、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合にはスタックポインタの情報は固定の情報となるため、上記のようにスタックポインタの情報を退避させなくても第２所定処理が開始される前におけるスタックポインタの情報に復帰させることが可能である。

【５１２９】

特徴Ｎ２．前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記スタックポインタに前記固定の情報を設定する手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３９０９の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５０９の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｎ１に記載の遊技機。

【５１３０】

特徴Ｎ２によれば、第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、第２所定処理が開始される前におけるスタックポインタの情報に復帰させることが可能である。

【５１３１】

特徴Ｎ３．前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合に、前記スタックポインタに前記第２所定処理に対応する第２対応開始情報を設定する手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３９０１の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５０１の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０１の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｎ１又はＮ２に記載の遊技機。

【５１３２】
特徴Ｎ３によれば、第２所定処理が開始される場合にはスタックポインタに対して第２所定処理に対応する第２対応開始情報が設定されることにより、第２所定処理において適切なアドレスのスタック領域に情報を記憶させることが可能となる。
【５１３３】
特徴Ｎ４．前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報を所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）に退避させる退避実行手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３８０２及びステップＳ３９０２～ステップＳ３９０７の処理を実行する機能、第１６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４４０２の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５０２～ステップＳ４５０７の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０２の処理を実行する機能、第１９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４７０１及びステップＳ４７０３の処理を実行する機能）と、
前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる復帰実行手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３８０４及びステップＳ３９１０～ステップＳ３９１５の処理を実行する機能、第１６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４４０４の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５１０～ステップＳ４５１５の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０５の処理を実行する機能、第１９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４７０５及びステップＳ４７０６の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記内部記憶手段に設けられたスタックポインタの情報は前記退避実行手段による退避の対象とならないことを特徴とする特徴Ｎ１乃至Ｎ３のいずれか１に記載の遊技機。
【５１３４】
特徴Ｎ４によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合には内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報が所定記憶手段に退避される。これにより、第２所定処理が実行される場合に、第１所定処理の実行に際して内部記憶手段に記憶された情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。また、第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された情報が内部記憶手段に復帰される。これにより、第２所定処理が終了した場合には当該第２所定処理の実行前における内部記憶手段の状態から第２所定処理とは異なる処理を実行することが可能となる。また、スタックポインタの情報は退避の対象とならないため、所定記憶手段においてスタックポインタの情報を退避させるための容量を確保する必要がない。よって、当該所定記憶手段の容量を抑えることが可能となる。また、このようにスタックポインタの情報が退避されない構成であっても、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合にはスタックポインタの情報は固定の情報となるため、上記のようにスタックポインタの情報を退避させなくても第２所定処理が開始される前におけるスタックポインタの情報に復帰させることが可能である。
【５１３５】
特徴Ｎ５．前記所定記憶手段は、
前記第１所定処理が実行される場合に情報が記憶される第１所定記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２）と、
前記第２所定処理が実行される場合に情報が記憶される第２所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２２３、非特定制御用のスタックエリア２２４）と、
を備え、
前記退避実行手段は、前記所定情報を前記第２所定記憶領域に退避させることを特徴と

する特徴Ｎ４に記載の遊技機。
【５１３６】
特徴Ｎ５によれば、所定記憶手段に第１所定記憶領域と第２所定記憶領域とが設けられていることにより、第１所定処理と第２所定処理とで所定記憶手段における情報の記憶先を明確に相違させることが可能となる。これにより、第１所定処理及び第２所定処理のうち一方の処理の実行に際して他方の処理において利用される情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。この場合に、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合、内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報が第２所定記憶領域に退避される。これにより、第２所定処理が開始される直前における内部記憶手段の情報を退避させることが可能となるとともに、第１所定記憶領域を利用することなく当該情報を退避させることが可能となる。
【５１３７】
特徴Ｎ６．前記第１所定記憶領域は、前記第１所定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であって、前記第２所定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能ではあるものの情報の記憶が不可であり、
前記第２所定記憶領域は、前記第２所定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であって、前記第１所定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能ではあるものの情報の記憶が不可であることを特徴とする特徴Ｎ５に記載の遊技機。
【５１３８】
特徴Ｎ６によれば、第１所定記憶領域を第１所定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となるとともに、第２所定記憶領域を第２所定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となる。
【５１３９】
なお、特徴Ｎ１～Ｎ６の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【５１４０】

＜特徴Ｏ群＞
特徴Ｏ１．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、
当該制御手段は、
前記各種処理のうち第１所定処理を実行する第１所定処理実行手段（第１５～第２１の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理以外の処理を実行する機能）と、
前記各種処理のうち第２所定処理を実行する第２所定処理実行手段（第１５～第２１の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理を実行する機能）と、
前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段における少なくとも一部の記憶領域である所定記憶領域（ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ）の状態を所定状態にする第１状態設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４８０３～ステップＳ４８０８の処理を実行する機能）と、
前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶領域の状態を前記所定状態にする第２状態設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４９０３～ステップＳ４９０８の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。
【５１４１】
特徴Ｏ１によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合には内部記憶手段の所定記憶領域の状態が所定状態に設定され、第２所定処理を終了する場合又は終了した後には再度、当該所定記憶領域の状態が所定状態に設定される。これにより、第２所定処理の前後において所定記憶領域の状態を所定状態とすることが可能となる。よって、第１所定処理及び第２所定処理のうち一方の処理による所定記憶領域の状態が他方の処理に対して影響を与えてしまわないようにすることが可能となる。以上より、各種制御を好適に行うことが可能となる。
【５１４２】
特徴Ｏ２．前記所定状態は、前記制御手段への動作電力の供給が開始された場合の状態であることを特徴とする特徴Ｏ１に記載の遊技機。
【５１４３】
特徴Ｏ２によれば、所定記憶領域は所定状態として制御手段への動作電力の供給が開始された場合の状態に設定されるため、所定状態に設定するための処理構成を簡素なものとすることが可能となる。
【５１４４】
特徴Ｏ３．前記所定状態は、前記所定記憶領域が「０」クリアされた状態であることを特徴とする特徴Ｏ１又はＯ２に記載の遊技機。
【５１４５】
特徴Ｏ３によれば、所定記憶領域は所定状態として「０」クリアされた状態に設定されるため、所定状態に設定するための処理構成を簡素なものとすることが可能となる。
【５１４６】
特徴Ｏ４．前記所定記憶領域は、前記内部記憶手段における一部の記憶領域であることを特徴とする特徴Ｏ１乃至Ｏ３のいずれか１に記載の遊技機。
【５１４７】
特徴Ｏ４によれば、内部記憶手段の一部の記憶領域のみが所定状態に設定されるため、所定状態に設定するための処理負荷を軽減することが可能となる。
【５１４８】
特徴Ｏ５．前記内部記憶手段は、前記所定記憶領域と別記憶領域（ＷＡレジスタ、ＢＣレジスタ、ＤＥレジスタ、ＨＬレジスタ、ＩＸレジスタ及びＩＹレジスタ以外のレジスタ）とを少なくとも備え、

前記第２所定処理実行手段は、前記第２所定処理において前記所定記憶領域に情報を記憶させる一方、前記別記憶領域に情報を記憶させない構成であり、
前記第１状態設定手段及び前記第２状態設定手段は前記別記憶領域の状態を変更しない構成であることを特徴とする特徴Ｏ４に記載の遊技機。
【５１４９】
特徴Ｏ５によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合、内部記憶手段において第２所定処理にて情報の記憶対象となる所定記憶領域が所定状態に設定される。これにより、第１所定処理による所定記憶領域の状態が第２所定処理に対して影響を与えてしまわないようにすることが可能となる。また、別記憶領域の状態は変更されないため、第２所定処理が開始される場合に所定状態に設定することが、第２所定処理が終了した後の処理に影響を与えないようにすることが可能となる。
【５１５０】
特徴Ｏ６．前記第１状態設定手段により前記所定状態の設定が行われる前における前記所定記憶領域の情報は、前記第２所定処理が終了した後において利用されない情報であることを特徴とする特徴Ｏ１乃至Ｏ５のいずれか１に記載の遊技機。
【５１５１】
特徴Ｏ６によれば、第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合に所定記憶領域が所定状態に設定されたとしても、第２所定処理が終了した後の処理に影響を与えないようにすることが可能となる。
【５１５２】
特徴Ｏ７．前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に記憶された一部の情報である所定情報（フラグレジスタの情報）を所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）に退避させる退避実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４８０２の処理を実行する機能）と、
前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる復帰実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４８１０の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴Ｏ１乃至Ｏ６のいずれか１に記載の遊技機。
【５１５３】
特徴Ｏ７によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合には内部記憶手段に記憶された一部の情報である所定情報が所定記憶手段に退避される。これにより、第２所定処理が実行される場合に、第１所定処理の実行に際して内部記憶手段に記憶された情報であってその後の第１所定処理の実行に際して必要となる情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。また、第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された所定情報が内部記憶手段に復帰される。これにより、第２所定処理が終了した場合には当該第２所定処理の実行前における内部記憶手段の状態から第２所定処理とは異なる処理を実行することが可能となる。
【５１５４】
特徴Ｏ８．前記第１所定処理には、遊技の進行を制御するための処理が含まれ、
前記第２所定処理には、遊技履歴を管理するための処理が含まれることを特徴とする特徴Ｏ１乃至Ｏ７のいずれか１に記載の遊技機。
【５１５５】
特徴Ｏ８によれば、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して遊技履歴を管理するための処理にて利用される情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。
【５１５６】

特徴Ｏ９．前記所定記憶手段は、
前記第１所定処理が実行される場合に情報が記憶される第１所定記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２）と、
前記第２所定処理が実行される場合に情報が記憶される第２所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２２３、非特定制御用のスタックエリア２２４）と、
を備え、
前記第２所定記憶領域は、遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報が記憶される履歴記憶領域（通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３）を備えていることを特徴とする特徴Ｏ８に記載の遊技機。

【５１５７】
特徴Ｏ９によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶領域にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して履歴記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。

【５１５８】
特徴Ｏ１０．前記第２所定処理実行手段は、前記履歴記憶領域に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４２０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｏ９に記載の遊技機。

【５１５９】
特徴Ｏ１０によれば、履歴記憶領域に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出されることにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【５１６０】
特徴Ｏ１１．前記第２所定記憶領域は、前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶領域（演算結果記憶エリア２３４）を備えていることを特徴とする特徴Ｏ１０に記載の遊技機。

【５１６１】
特徴Ｏ１１によれば、履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出された場合、その態様情報は態様情報記憶領域に記憶される。これにより、任意のタイミングで遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して態様情報記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。

【５１６２】
なお、特徴Ｏ１～Ｏ１１の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～

ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５１６３】

＜特徴Ｐ群＞

特徴Ｐ１．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、

当該制御手段は、

前記各種処理のうち第１所定処理を実行する第１所定処理実行手段（第１５～第２１の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第２所定処理を実行する第２所定処理実行手段（第１５～第２１の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理を実行する機能）と、

前記第１所定処理が実行される場合に情報が記憶される第１所定記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２）と、

前記第２所定処理が実行される場合に情報が記憶される第２所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２２３、非特定制御用のスタックエリア２２４）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５１６４】

特徴Ｐ１によれば、第１所定記憶領域と第２所定記憶領域とが設けられており、第１所定記憶領域が第１所定処理の専用の記憶領域として扱われるとともに、第２所定記憶領域が第２所定処理の専用の記憶領域として扱われる。これにより、第１所定処理と第２所定処理とで所定記憶手段における情報の記憶先を明確に相違させることが可能となる。よって、第１所定処理及び第２所定処理のうち一方の処理の実行に際して他方の処理において利用される情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。

【５１６５】

特徴Ｐ２．前記第１所定処理には、遊技の進行を制御するための処理が含まれ、

前記第２所定処理には、遊技履歴を管理するための処理が含まれることを特徴とする特徴Ｐ１に記載の遊技機。

【５１６６】

特徴Ｐ２によれば、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して遊技履歴を管理するための処理にて利用される情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。

【５１６７】

特徴Ｐ３．前記第２所定記憶領域は、遊技が実行されることにより所定事象が発生した

場合にそれに対応する遊技の履歴情報が記憶される履歴記憶領域（通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３）を備えていることを特徴とする特徴Ｐ２に記載の遊技機。

【５１６８】

特徴Ｐ３によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶領域にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して履歴記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。

【５１６９】

特徴Ｐ４．前記第２所定処理実行手段は、前記履歴記憶領域に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４２０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｐ３に記載の遊技機。

【５１７０】

特徴Ｐ４によれば、履歴記憶領域に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出されることにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【５１７１】

特徴Ｐ５．前記第２所定記憶領域は、前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶領域（演算結果記憶エリア２３４）を備えていることを特徴とする特徴Ｐ４に記載の遊技機。

【５１７２】

特徴Ｐ５によれば、履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出された場合、その態様情報は態様情報記憶領域に記憶される。これにより、任意のタイミングで遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して態様情報記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。

【５１７３】

特徴Ｐ６．前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合に前記内部記憶手段に記憶された一部の情報である第１所定情報を前記第１所定処理において前記第１所定記憶領域に退避させる第１退避手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３８０２の処理を実行する機能、第１６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４４０２の処理を実行する機能）と、

前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となった場合に前記内部記憶手段に記憶された一部の情報である第２所定情報を前記第２所定処理において前記第２所定記憶領域に退避させる第２退避手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３９０２～ステップＳ３９０７の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５０２～ステップＳ４５０７の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０２の処理を実行する機能、第１９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４７０１及びステップＳ４７０３の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴Ｐ１乃至Ｐ５のいずれか１に記載の遊技機。

【５１７４】

特徴Ｐ６によれば、内部記憶手段に記憶された一部の情報である第１所定情報は第１所定処理にて第１所定記憶領域に退避され、内部記憶手段に記憶された一部の情報である第２所定情報は第２所定処理にて第２所定記憶領域に退避される。これにより、内部記憶手段に記憶された各情報にとって好ましいタイミングで退避を行うことが可能となるとともに、情報を退避させるための処理を第１所定処理と第２所定処理とで分散して実行することが可能となる。

【５１７５】

特徴Ｐ７．前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記第１所定記憶領域に退避された前記第１所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる第１復帰実行手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３８０４の処理を実行する機能、第１６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４４０４の処理を実行する機能）と、

前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記第２所定記憶領域に退避された前記第２所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる第２復帰実行手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３９１０～ステップＳ３９１５の処理を実行する機能、第１７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４５１０～ステップＳ４５１５の処理を実行する機能、第１８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４６０５の処理を実行する機能、第１９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４７０５及びステップＳ４７０６の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴Ｐ６に記載の遊技機。

【５１７６】

特徴Ｐ７によれば、第２所定処理が終了する場合又は終了した後に、第１所定記憶領域に退避された第１所定情報が内部記憶手段に復帰され、第２所定記憶領域に退避された第２所定情報が内部記憶手段に復帰されるため、内部記憶手段の状態を第２所定処理が開始される前の状態に復帰させることが可能となる。

【５１７７】

特徴Ｐ８．前記第１所定情報には、前記内部記憶手段に設けられたフラグレジスタの情報が含まれることを特徴とする特徴Ｐ６又はＰ７に記載の遊技機。

【５１７８】

特徴Ｐ８によれば、第１所定処理が実行されている状況におけるフラグレジスタの情報を適切に退避させることが可能となる。

【５１７９】

特徴Ｐ９．前記第２所定情報には、前記内部記憶手段の全レジスタの情報が含まれることを特徴とする特徴Ｐ６乃至Ｐ８のいずれか１に記載の遊技機。

【５１８０】

特徴Ｐ９によれば、内部記憶手段の全レジスタの情報がまとめて退避されることとなるため、レジスタの情報を選択的に退避させる必要が生じない。

【５１８１】

特徴Ｐ１０．前記第２所定記憶領域は、

プッシュ命令により情報の書き込みが行われポップ命令により情報の読み出しが行われるスタック領域（非特定制御用のスタックエリア２２４）と、

ロード命令により情報の書き込み及び読み出しが行われるワーク領域（非特定制御用のワークエリア２２３）と、

を備え、

前記第２退避実行手段は、前記第２所定情報を前記スタック領域及び前記ワーク領域の一方に退避させることを特徴とする特徴Ｐ９に記載の遊技機。

【５１８２】

特徴Ｐ１０によれば、内部記憶手段の全レジスタの情報が第２所定記憶領域におけるスタック領域及びワーク領域のうち一方に退避される。これにより、全レジスタの情報の退避先を集約することが可能となり、退避させるための処理構成及び復帰させるための処理

構成を簡素化させることが可能となる。
【５１８３】
特徴Ｐ１１．前記第２退避実行手段は、前記第２所定情報を前記スタック領域に退避させることを特徴とする特徴Ｐ１０に記載の遊技機。
【５１８４】
特徴Ｐ１１によれば、ワーク領域を使用しないようにしながら全レジスタの情報を退避させることが可能となる。
【５１８５】
特徴Ｐ１２．前記第２所定情報には、前記内部記憶手段のスタックポインタの情報が含まれることを特徴とする特徴Ｐ６乃至Ｐ１１のいずれか１に記載の遊技機。
【５１８６】
特徴Ｐ１２によれば、第１所定処理が実行されている状況におけるスタックポインタの情報を適切に退避させることが可能となる。
【５１８７】
なお、特徴Ｐ１～Ｐ１２の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【５１８８】
上記特徴Ｌ群、上記特徴Ｍ群、上記特徴Ｎ群、上記特徴Ｏ群及び上記特徴Ｐ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。
【５１８９】
遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、こ

の場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５１９０】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５１９１】

ここで、上記例示等のような遊技機においては各種制御を好適に行う必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５１９２】

＜特徴Ｑ群＞

特徴Ｑ１．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（ＭＰＵ６２）と、

当該制御手段とは別チップとして設けられ、情報を一時的に記憶することが可能な履歴記憶手段（管理用ＲＡＭ２４１）と、

を備え、

前記制御手段は、遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を前記履歴記憶手段に記憶させる履歴記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３における通常の入球管理処理、開閉実行モード中の入球管理処理及び高頻度サポートモード中の入球管理処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【５１９３】

特徴Ｑ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段は制御手段とは別チップとして設けられているため、汎用的な制御手段を利用しながら、履歴情報を記憶するための記憶容量を増大させることが可能となる。

【５１９４】

特徴Ｑ２．前記制御手段は、各種処理を実行する場合に情報を一時的に記憶する所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）を備えていることを特徴とする特徴Ｑ１に記載の遊技機。

【５１９５】

特徴Ｑ２によれば、制御手段に設けられた所定記憶手段だけではなく制御手段とは別チップとして設けられた履歴記憶手段を備えている構成において、当該履歴記憶手段に履歴情報を記憶させることにより多くの履歴情報を記憶保持することが可能となる。

【５１９６】

特徴Ｑ３．前記制御手段は、前記履歴情報に関する処理を実行する場合に前記所定記憶手段に情報を一時的に記憶させることを特徴とする特徴Ｑ２に記載の遊技機。

【５１９７】

特徴Ｑ３によれば、履歴情報を記憶するための履歴記憶手段が制御手段とは別チップとして設けられた構成において、履歴情報に関する処理を実行する場合には制御手段に設けられた所定記憶手段に情報が一時的に記憶されるため、履歴情報に関する処理を実行する場合における処理速度が極端に低下してしまわないようにすることが可能となる。

【５１９８】

特徴Ｑ４．前記制御手段は、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用し

て所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４２０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｑ１乃至Ｑ３のいずれか１に記載の遊技機。

【５１９９】

特徴Ｑ４によれば、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出されることにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【５２００】

特徴Ｑ５．前記第２所定記憶領域は、前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶領域（演算結果記憶エリア２３４）を備えていることを特徴とする特徴Ｑ４に記載の遊技機。

【５２０１】

特徴Ｑ５によれば、履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出された場合、その態様情報は態様情報記憶領域に記憶される。これにより、任意のタイミングで遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【５２０２】

なお、特徴Ｑ１～Ｑ５の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５２０３】

上記特徴Ｑ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５２０４】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この

場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５２０５】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５２０６】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の管理が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５２０７】

＜特徴Ｒ群＞

特徴Ｒ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、

当該設定手段を有する制御手段への動作電力の供給が開始された場合に第１事象及び第２事象を含む複数の事象が発生していることに基づいて、前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況となるようにする状況発生手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５００３～ステップＳ５００６の処理を実行する機能、別形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５５０３～ステップＳ５５０７の処理を実行する機能、第２３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５７０３～ステップＳ５７０５及びステップＳ５７１５の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５２０８】

特徴Ｒ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするためには、制御手段への動作電力の供給が開始された場合に第１事象及び第２事象を含む複数の事象が発生している必要がある。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為を行いづらくさせることが可能となる。

【５２０９】

特徴Ｒ２．開閉体（前扉枠１４）が開放状態となっていることを把握する開放把握手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５００５の処理を実行する機能、別形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５５０５の処理を実行する機能、第２３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５７０３の処理を実行する機能）を備え、

前記状況発生手段は、前記開閉体が開放状態となっていることが前記開放把握手段により把握されていることに基づいて前記第１事象が発生していると特定することを特徴とする特徴Ｒ１に記載の遊技機。

【５２１０】

特徴Ｒ２によれば、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするためには、開閉体が開放状態となっている必要がある。これにより、不正に使用対象となる設定値の設定を行わせる行為が行われた場合、当該不正行為を目立たせることが可能となり、結果的に当該不正行為を発見し易くすることが可能となる。

【５２１１】

特徴Ｒ３．別開閉体（遊技機本体１２）が開放状態となっていることを把握する別開放把握手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５００６の処理を実行する機能、別形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５５０６の処理を実行する機

能、第２３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５７０４の処理を実行する機能）を備え、
　前記状況発生手段は、前記別開閉体が開放状態となっていることが前記別開放把握手段により把握されていることに基づいて前記第２事象が発生していると特定することを特徴とする特徴Ｒ２に記載の遊技機。
【５２１２】
　特徴Ｒ３によれば、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするためには、開閉体を開放状態とするだけではなく別開閉体も開放状態とする必要がある。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為を行いづらくさせることが可能となるとともに、当該不正行為を目立たせることが可能となる。
【５２１３】
　特徴Ｒ４．前記設定手段は、所定操作手段（更新ボタン６８ｂ、リセットボタン６８ｃ）が操作されたことに基づいて、前記使用対象となる設定値の選択及び前記使用対象となる設定値の設定のうち少なくとも一方を行う構成であり、
　前記所定操作手段は別開閉体を開放状態とすることで操作可能となる構成であることを特徴とする特徴Ｒ２又はＲ３に記載の遊技機。
【５２１４】
　特徴Ｒ４によれば、所定操作手段を操作可能とするために開放状態とされる別開閉体とは異なる開閉体を開放状態としないと、使用対象となる設定値の設定を行うことができない。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為を行いづらくさせることが可能となるとともに、当該不正行為を目立たせることが可能となる。
【５２１５】
　特徴Ｒ５．前記開閉体は遊技球が流下する遊技領域の遊技機前側を規定しており、
　前記開閉体を開放状態とすることで前記遊技領域が遊技機前方に開放されることを特徴とする特徴Ｒ２乃至Ｒ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５２１６】
　特徴Ｒ５によれば、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするためには、開閉体を開放状態として遊技領域を遊技機前方に開放させる必要がある。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為を行いづらくさせることが可能となるとともに、当該不正行為を目立たせることが可能となる。
【５２１７】
　特徴Ｒ６．前記状況発生手段は、設定キー挿入部（設定キー挿入部６８ａ）に対する設定キーによる所定操作が行われていることに基づいて、前記複数の事象のうち一の事象が発生していると特定することを特徴とする特徴Ｒ１乃至Ｒ５のいずれか１に記載の遊技機。
【５２１８】
　特徴Ｒ６によれば、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするためには、設定キー挿入部に対する設定キーによる所定操作を行うだけではなく、それとは別の事象を発生させる必要がある。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為を行いづらくさせることが可能となる。
【５２１９】
　特徴Ｒ７．前記状況発生手段は、遊技が行われた場合に発生する所定の遊技事象（発射操作装置２８の操作、スルーゲート３５への入球）が発生していることに基づいて、前記複数の事象のうち一の事象が発生していると特定することを特徴とする特徴Ｒ１乃至Ｒ６のいずれか１に記載の遊技機。
【５２２０】
　特徴Ｒ７によれば、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするためには、遊技が行われた場合に発生する所定の遊技事象を発生させる必要があるだけではなく、それとは別の事象を発生させる必要がある。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為を行いづらくさせることが可能となる。

【５２２１】
特徴Ｒ８．前記状況発生手段は、遊技領域に設けられた所定の入球部に遊技球が入球したことを検知する入球検知手段（ゲート検知センサ４９ａ）にて遊技球が検知されたことに基づいて、前記複数の事象のうち一の事象が発生していると特定することを特徴とする特徴Ｒ１乃至Ｒ７のいずれか１に記載の遊技機。
【５２２２】
特徴Ｒ８によれば、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするためには、所定の入球部に遊技球を入球させる必要があるとともに、それとは別の事象を発生させる必要がある。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為を行いづらくさせることが可能となる。
【５２２３】
特徴Ｒ９．前記設定手段により設定された前記使用対象となる設定値を報知手段にて報知させる設定値報知手段（主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）を備え、
当該設定値報知手段は、前記第１事象及び前記第２事象を含む複数の事象が発生していることに基づいて、前記設定手段により設定された前記使用対象となる設定値を前記報知手段にて報知させることを特徴とする特徴Ｒ１乃至Ｒ８のいずれか１に記載の遊技機。
【５２２４】
特徴Ｒ９によれば、不正により設定値を確認する行為を行いづらくさせることが可能となる。また、遊技ホールの管理者は使用対象となる設定値の設定を行う場合及び設定値の確認を行う場合のいずれであっても第１事象及び第２事象を発生させればよいため、作業が共通化されることとなり各作業を把握し易くなる。
【５２２５】
特徴Ｒ１０．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、
設定キー挿入部（設定キー挿入部６８ａ）に対する設定キーによる所定操作が行われていること及び前記設定キー挿入部に対する前記設定キーによる前記所定操作とは異なる別事象の両方を含む複数の事象が発生していることに基づいて、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定を行うことが可能な設定可能状況となるようにする状況発生手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５００３～ステップＳ５００６の処理を実行する機能、別形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５５０３～ステップＳ５５０７の処理を実行する機能、第２３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５７０３～ステップＳ５７０５及びステップＳ５７１５の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。
【５２２６】
特徴Ｒ１０によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするためには、設定キー挿入部に対する設定キーによる所定操作を行うだけではなく、それとは別の事象を発生させる必要がある。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為を行いづらくさせることが可能となる。
【５２２７】
特徴Ｒ１１．開閉体（前扉枠１４）が開放状態となっていることを把握する開放把握手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５００５の処理を実行する機能、別形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５５０５の処理を実行する機能、第２３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５７０３の処理を実行する機能）を備え、
前記状況発生手段は、前記開閉体が開放状態となっていることが前記開放把握手段により把握されていることに基づいて前記別事象が発生していると特定することを特徴とする

特徴Ｒ１０に記載の遊技機。
【５２２８】
特徴Ｒ１１によれば、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするためには、開閉体が開放状態となっている必要がある。これにより、不正に使用対象となる設定値の設定を行わせる行為が行われた場合、当該不正行為を目立たせることが可能となり、結果的に当該不正行為を発見し易くすることが可能となる。
【５２２９】
特徴Ｒ１２．別開閉体（遊技機本体１２）が開放状態となっていることを把握する別開放把握手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５００６の処理を実行する機能、別形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５５０６の処理を実行する機能、第２３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５７０４の処理を実行する機能）を備え、
前記状況発生手段は、前記別開閉体が開放状態となっていることが前記別開放把握手段により把握されていることに基づいて、前記複数の事象のうち一の事象が発生していると特定することを特徴とする特徴Ｒ１１に記載の遊技機。
【５２３０】
特徴Ｒ１２によれば、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするためには、開閉体を開放状態とするだけではなく別開閉体も開放状態とする必要がある。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為を行いづらくさせることが可能となるとともに、当該不正行為を目立たせることが可能となる。
【５２３１】
特徴Ｒ１３．前記設定手段は、所定操作手段（更新ボタン６８ｂ、リセットボタン６８ｃ）が操作されたことに基づいて、前記使用対象となる設定値の選択及び前記使用対象となる設定値の設定のうち少なくとも一方を行う構成であり、
前記所定操作手段は別開閉体を開放状態とすることで操作可能となる構成であることを特徴とする特徴Ｒ１１又はＲ１２に記載の遊技機。
【５２３２】
特徴Ｒ１３によれば、所定操作手段を操作可能とするために開放状態とされる別開閉体とは異なる開閉体を開放状態としないと、使用対象となる設定値の設定を行うことができない。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為を行いづらくさせることが可能となるとともに、当該不正行為を目立たせることが可能となる。
【５２３３】
特徴Ｒ１４．前記開閉体は遊技球が流下する遊技領域の遊技機前側を規定しており、
前記開閉体を開放状態とすることで前記遊技領域が遊技機前方に開放されることを特徴とする特徴Ｒ１１乃至Ｒ１３のいずれか１に記載の遊技機。
【５２３４】
特徴Ｒ１４によれば、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするためには、開閉体を開放状態として遊技領域を遊技機前方に開放させる必要がある。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為を行いづらくさせることが可能となるとともに、当該不正行為を目立たせることが可能となる。
【５２３５】
特徴Ｒ１５．前記状況発生手段は、遊技が行われた場合に発生する所定の遊技事象（発射操作装置２８の操作、スルーゲート３５への入球）が発生していることに基づいて、前記複数の事象のうち一の事象が発生していると特定することを特徴とする特徴Ｒ１０乃至Ｒ１４のいずれか１に記載の遊技機。
【５２３６】
特徴Ｒ１５によれば、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするためには、設定キー挿入部に対する設定キーによる所定操作を行うだけではなく、遊技が行われた場合に発生する所定の遊技事象を発生させる必要がある。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為を行いづらくさせることが可能となる。

【５２３７】
特徴Ｒ１６．前記状況発生手段は、遊技領域に設けられた所定の入球部に遊技球が入球したことを検知する入球検知手段（ゲート検知センサ４９ａ）にて遊技球が検知されたことに基づいて、前記複数の事象のうち一の事象が発生していると特定することを特徴とする特徴Ｒ１０乃至Ｒ１５のいずれか１に記載の遊技機。
【５２３８】
特徴Ｒ１６によれば、使用対象となる設定値の設定が行われるようにするためには、設定キー挿入部に対する設定キーによる所定操作を行うだけではなく、所定の入球部に遊技球を入球させる必要がある。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為を行いづらくさせることが可能となる。
【５２３９】
特徴Ｒ１７．前記設定手段により設定された前記使用対象となる設定値を報知手段にて報知させる設定値報知手段（主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）を備え、
当該設定値報知手段は、前記設定キー挿入部に対する前記設定キーによる前記所定操作が行われていること及び前記別事象の両方を含む複数の事象が発生していることに基づいて、前記設定手段により設定された前記使用対象となる設定値を前記報知手段にて報知させることを特徴とする特徴Ｒ１０乃至Ｒ１６のいずれか１に記載の遊技機。
【５２４０】
特徴Ｒ１７によれば、不正により設定値を確認する行為を行いづらくさせることが可能となる。また、遊技ホールの管理者は使用対象となる設定値の設定を行う場合及び設定値の確認を行う場合のいずれであっても設定キー挿入部に対する設定キーによる所定操作を行うとともに別事象を発生させればよいため、作業が共通化されることとなり各作業を把握し易くなる。
【５２４１】
なお、特徴Ｒ１～Ｒ１７の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる

。
【５２４２】
上記特徴Ｒ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。
【５２４３】
遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。
【５２４４】
また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。
【５２４５】
ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機に対する不正に対処する必要があり、この点について未だ改良の余地がある。
【５２４６】
＜特徴Ｓ群＞
特徴Ｓ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、
前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況となるようにする状況発生手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５００３～ステップＳ５００６及びステップＳ５４０１～ステップＳ５４０８の処理を実行する機能、別形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５５０３～ステップＳ５５０７の処理を実行する機能、第２３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５７０３～ステップＳ５７０５及びステップＳ５７１５の処理を実行する機能、第２４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５８０１～ステップＳ５８０４の処理を実行する機能、第２５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５９０１～ステップＳ５９０４の処理を実行する機能）と、
前記設定可能状況となる前における前記設定値と前記設定手段により設定された前記設定値とが同一であるか否かを把握する設定値把握手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０１７及びステップＳ５１１１～ステップＳ５１１２の処理を実行する機能、別形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５６１１～ステップＳ５６１２の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。
【５２４７】
特徴Ｓ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、設定可能状況となる前における設定値と当該設定可能状況において設定された設定値とが同一であるか否かが把握される。これにより、設定可能状況を挟んで設定値が同一であるか否かに対応する処理を実行することが可能となる。よって、使用対象となる設定値の設定が行われた場合にその設定結果に対して好ましい状況を生じさせることが可能となり、設定値の設定作業を好適に行うことが可能と

なる。
【５２４８】
特徴Ｓ２．前記設定可能状況となる前における前記設定値と前記設定手段により設定された前記設定値とが同一であることが前記設定値把握手段により把握されたことに基づいて、それに対応する同一時処理が実行されるようにする同一時手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５１１３の処理を実行する機能、別形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５６１３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｓ１に記載の遊技機。
【５２４９】
特徴Ｓ２によれば、設定可能状況を挟んで設定値が同一である場合には同一時処理が実行されることにより、設定値が同一であることに対して好ましい状況を生じさせることが可能となる。
【５２５０】
特徴Ｓ３．前記同一時手段は、前記同一時処理として、前記設定値が変更されなかったことに対応する報知が行われるようにするための処理を実行することを特徴とする特徴Ｓ２に記載の遊技機。
【５２５１】
特徴Ｓ３によれば、設定可能状況を挟んで設定値が同一であったことを遊技ホールの管理者などに報知することが可能となる。
【５２５２】
特徴Ｓ４．前記設定可能状況となる前における前記設定値と前記設定手段により設定された前記設定値とが異なることが前記設定値把握手段により把握されたことに基づいて、それに対応する非同一時処理が実行されるようにする非同一時手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５１１４の処理を実行する機能、別形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５６１４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｓ１乃至Ｓ３のいずれか１に記載の遊技機。
【５２５３】
特徴Ｓ４によれば、設定可能状況を挟んで設定値が同一ではない場合には非同一時処理が実行されることにより、設定値が変更されたことに対して好ましい状況を生じさせることが可能となる。
【５２５４】
特徴Ｓ５．前記非同一時手段は、前記非同一時処理として、前記設定値が変更されたことに対応する報知が行われるようにするための処理を実行することを特徴とする特徴Ｓ４に記載の遊技機。
【５２５５】
特徴Ｓ５によれば、設定可能状況を挟んで設定値が変更されたことを遊技ホールの管理者などに報知することが可能となる。
【５２５６】
特徴Ｓ６．前記状況発生手段は、前記設定手段を有する制御手段への動作電力の供給が開始された後において、前記設定値を記憶する記憶手段の情報を消去する必要が生じたことに基づいて、前記設定可能状況となるようにするものであることを特徴とする特徴Ｓ１乃至Ｓ５のいずれか１に記載の遊技機。
【５２５７】
特徴Ｓ６によれば、設定値を記憶する記憶手段の情報を消去する必要が生じた場合には設定可能状況となるため、設定値の情報が消去されたにも関わらず遊技が継続されてしまわないようにすることが可能となる。この場合に、上記特徴Ｓ１の構成を備え、設定可能状況となる前における設定値と当該設定可能状況において設定された設定値とが同一であるか否かが把握される。これにより、設定可能状況を挟んで設定値が同一であるか否かに対応する処理を実行することが可能となる。
【５２５８】

特徴Ｓ７．前記設定可能状況となる前における前記設定値と前記設定手段により設定された前記設定値とが同一であることが前記設定値把握手段により把握されたことに基づいて、前記設定値が変更されなかったことに対応する報知が行われるようにする手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５１１３の処理を実行する機能、別形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５６１３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｓ６に記載の遊技機。

【５２５９】

特徴Ｓ７によれば、記憶手段の情報が消去されることに伴って設定可能状況となったとしても当該設定可能状況を間に挟んで設定値が同一であった場合には設定値が変更されなかったことに対応する報知が行われる。これにより、遊技の途中で設定可能状況となったとしても設定値が変更されなかったことを遊技者に報知することが可能となり、遊技の途中で設定可能状況となったとしても遊技者は安心して遊技を継続させることが可能となる。

【５２６０】

特徴Ｓ８．前記状況発生手段は、

前記設定手段を有する制御手段への動作電力の供給が開始されたことに基づいて、前記設定可能状況となるようにする第１状況発生手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５００３～ステップＳ５００６の処理を実行する機能、別形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５５０３～ステップＳ５５０７の処理を実行する機能、第２３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５７０３～ステップＳ５７０５及びステップＳ５７１５の処理を実行する機能）と、

前記制御手段への動作電力の供給が開始された後において、前記設定値を記憶する記憶手段の情報を消去する必要が生じたことに基づいて、前記設定可能状況となるようにする第２状況発生手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５４０１～ステップＳ５４０８の処理を実行する機能、第２４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５８０１～ステップＳ５８０４の処理を実行する機能、第２５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５９０１～ステップＳ５９０４の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記設定値把握手段は、前記第１状況発生手段が生じさせた前記設定可能状況及び前記第２状況発生手段が生じさせた前記設定可能状況のいずれであっても、前記設定可能状況となる前における前記設定値と前記設定手段により設定された前記設定値とが同一であるか否かを把握することを特徴とする特徴Ｓ１乃至Ｓ７のいずれか１に記載の遊技機。

【５２６１】

特徴Ｓ８によれば、設定値を記憶する記憶手段の情報を消去する必要が生じた場合には設定可能状況となるため、設定値の情報が消去されたにも関わらず遊技が継続されてしまわないようにすることが可能となる。この場合に、制御手段への動作電力の供給が開始されたことに基づいて設定可能状況となる場合と同一の処理を利用して、記憶手段の情報が消去されることに伴って設定可能状況が発生した場合において当該設定可能状況を挟んで設定値が同一であるか否かに対応する処理を実行することが可能となる。

【５２６２】

なお、特徴Ｓ１～Ｓ８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１

～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５２６３】

上記特徴Ｓ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５２６４】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５２６５】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５２６６】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の有利度を決定付ける設定値の設定が行われた場合にそれに対して好適な状況を生じさせる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５２６７】

＜特徴Ｔ群＞

特徴Ｔ１．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、

当該制御手段は、

前記各種処理のうち第１所定処理を実行する第１所定処理実行手段（第１５～第２５の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第２所定処理を実行する第２所定処理実行手段（第１５～第２５の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理を実行する機能）と、

前記第１所定処理が実行される場合に情報が記憶される第１所定記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２）と、

前記第２所定処理が実行される場合に情報が記憶される第２所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２２３、非特定制御用のスタックエリア２２４）と、
前記第１所定記憶領域が正常であるか否かを監視する第１監視実行手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５４０１～ステップＳ５４０４の処理を実行する機能、第２４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５８０１～ステップＳ５８０４の処理を実行する機能、第２５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５９０１～ステップＳ５９０４の処理を実行する機能、第３２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７７０１～ステップＳ７７０３の処理を実行する機能）と、
前記第２所定記憶領域が正常であるか否かを監視する第２監視実行手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５４０５～ステップＳ５４０８の処理を実行する機能、第２４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５８０９、ステップＳ５８１０、ステップＳ５８１２及びステップＳ５８１３の処理を実行する機能、第２５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６１０１、ステップＳ６１０２、ステップＳ６１０５及びステップＳ６１０６の処理を実行する機能、第３２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７７０６～ステップＳ７７０８の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。
【５２６８】
特徴Ｔ１によれば、第１所定記憶領域と第２所定記憶領域とが設けられており、第１所定記憶領域が第１所定処理の専用の記憶領域として扱われるとともに、第２所定記憶領域が第２所定処理の専用の記憶領域として扱われる。これにより、第１所定処理と第２所定処理とで所定記憶手段における情報の記憶先を明確に相違させることが可能となる。よって、第１所定処理及び第２所定処理のうち一方の処理の実行に際して他方の処理において利用される情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。また、第１所定記憶領域が正常であるか否かの監視が実行されるとともに第２所定記憶領域が正常であるか否かの監視が実行されることにより、第１所定処理及び第２所定処理のそれぞれを正常に行うことが可能な状況であるか否かを特定することが可能となる。
【５２６９】
特徴Ｔ２．前記第１監視実行手段による監視及び前記第２監視実行手段による監視が、前記第１所定処理及び前記第２所定処理のいずれか一方にて実行されることを特徴とする特徴Ｔ１に記載の遊技機。
【５２７０】
特徴Ｔ２によれば、第１所定記憶領域が正常であるか否かの監視及び第２所定記憶領域が正常であるか否かの監視が第１所定処理及び第２所定処理のうち一方にて集約して実行される。これにより、各記憶領域の監視を第１所定処理と第２所定処理とで分散して実行する構成に比べ処理構成を簡素化することが可能となる。
【５２７１】
特徴Ｔ３．前記第１監視実行手段による監視及び前記第２監視実行手段による監視が、前記第１所定処理にて実行されることを特徴とする特徴Ｔ１又はＴ２に記載の遊技機。
【５２７２】
特徴Ｔ３によれば、第１所定記憶領域が正常であるか否かの監視及び第２所定記憶領域が正常であるか否かの監視を第１所定処理にて集約して実行することが可能となる。
【５２７３】
特徴Ｔ４．前記第１所定記憶領域が異常であることが前記第１監視実行手段により特定されたことに基づいて、前記第１所定記憶領域の情報を消去する所定消去手段（第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５４１０の処理を実行する機能、第２４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５８０６、ステップＳ５８１１及びステップＳ５８１４の処理を実行する機能、第２５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５９０６、ステップＳ６１０３及びステップＳ６１０７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｔ１乃至Ｔ３のいずれか１に記載の遊技機。

【５２７４】
特徴Ｔ４によれば、第１所定記憶領域が異常である場合には第１所定記憶領域の情報が消去されることにより、第１所定記憶領域が異常な状態のまま第１所定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。
【５２７５】
特徴Ｔ５．前記所定消去手段は、前記第１所定記憶領域が異常であることが前記第１監視実行手段により特定されたことに基づいて、前記第１所定記憶領域の情報を消去し、前記第２所定記憶領域の情報を消去することを特徴とする特徴Ｔ４に記載の遊技機。
【５２７６】
特徴Ｔ５によれば、第１所定記憶領域が異常である場合には第１所定記憶領域だけではなく第２所定記憶領域が消去される。これにより、第２所定記憶領域に異常が発生している可能性がある場合には第２監視実行手段による監視結果に関係なく第２所定記憶領域の情報を消去することが可能となる。
【５２７７】
特徴Ｔ６．前記所定消去手段は、前記第２所定記憶領域が異常であることが前記第２監視実行手段により特定されたことに基づいて、前記第２所定記憶領域の情報を消去することを特徴とする特徴Ｔ４又はＴ５に記載の遊技機。
【５２７８】
特徴Ｔ６によれば、第１所定記憶領域が異常である場合には第１所定記憶領域の情報が消去されることにより、第１所定記憶領域が異常な状態のまま第１所定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。
【５２７９】
特徴Ｔ７．前記所定消去手段は、前記第２所定記憶領域が異常であることが前記第２監視実行手段により特定されたことに基づいて、前記第２所定記憶領域の情報を消去し、前記第１所定記憶領域の情報を消去することを特徴とする特徴Ｔ６に記載の遊技機。
【５２８０】
特徴Ｔ７によれば、第２所定記憶領域が異常である場合には第２所定記憶領域だけではなく第１所定記憶領域が消去される。これにより、第１所定記憶領域に異常が発生している可能性がある場合には第１監視実行手段による監視結果に関係なく第１所定記憶領域の情報を消去することが可能となる。
【５２８１】
特徴Ｔ８．前記所定消去手段による情報の消去を行うための処理が、前記第１所定処理及び前記第２所定処理のいずれか一方にて実行されることを特徴とする特徴Ｔ４乃至Ｔ７のいずれか１に記載の遊技機。
【５２８２】
特徴Ｔ８によれば、異常であることが特定されたことに基づいて各所定記憶領域の情報を消去する処理が第１所定処理及び第２所定処理のうち一方にて集約して実行される。これにより、各記憶領域の情報の消去を第１所定処理と第２所定処理とで分散して実行する構成に比べ処理構成を簡素化することが可能となる。
【５２８３】
特徴Ｔ９．前記所定消去手段による情報の消去を行うための処理が、前記第１所定処理にて実行されることを特徴とする特徴Ｔ４乃至Ｔ７のいずれか１に記載の遊技機。
【５２８４】
特徴Ｔ９によれば、異常であることが特定されたことに基づいて各所定記憶領域の情報を消去する処理を第１所定処理にて集約して実行することが可能となる。
【５２８５】
特徴Ｔ１０．前記第１所定処理には、遊技の進行を制御するための処理が含まれ、
前記第２所定処理には、遊技履歴を管理するための処理が含まれることを特徴とする特徴Ｔ１乃至Ｔ９のいずれか１に記載の遊技機。
【５２８６】

特徴Ｔ１０によれば、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して遊技履歴を管理するための処理にて利用される情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。

【５２８７】

特徴Ｔ１１．前記第２所定記憶領域は、遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報が記憶される履歴記憶領域（通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３）を備えていることを特徴とする特徴Ｔ１０に記載の遊技機。

【５２８８】

特徴Ｔ１１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶領域にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して履歴記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。

【５２８９】

特徴Ｔ１２．前記第２所定処理実行手段は、前記履歴記憶領域に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４２０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｔ１１に記載の遊技機。

【５２９０】

特徴Ｔ１２によれば、履歴記憶領域に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出されることにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【５２９１】

特徴Ｔ１３．前記第２所定記憶領域は、前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶領域（演算結果記憶エリア２３４）を備えていることを特徴とする特徴Ｔ１２に記載の遊技機。

【５２９２】

特徴Ｔ１３によれば、履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出された場合、その態様情報は態様情報記憶領域に記憶される。これにより、任意のタイミングで遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して態様情報記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。

【５２９３】

なお、特徴Ｔ１～Ｔ１３の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ

１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５２９４】

＜特徴Ｕ群＞

特徴Ｕ１．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、

当該制御手段は、

前記各種処理のうち第１所定処理を実行する第１所定処理実行手段（第１５～第３４の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第２所定処理を実行する第２所定処理実行手段（第１５～第３４の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理を実行する機能）と、

前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に設けられたフラグレジスタの状態が特定状態となるようにする状態設定手段（第２６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６２０２～ステップＳ６２０４及びステップＳ６２１１の処理を実行する機能、第２７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６３０２～ステップＳ６３０７及びステップＳ６３１２の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５２９５】

特徴Ｕ１によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合には内部記憶手段のフラグレジスタの状態が特定状態に設定される。これにより、フラグレジスタの状態が予め定められた特定状態となっている状況において第２所定処理を開始することが可能となる。よって、各種制御を好適に行うことが可能となる。

【５２９６】

特徴Ｕ２．前記特定状態は、前記制御手段への動作電力の供給が開始された場合の状態であることを特徴とする特徴Ｕ１に記載の遊技機。

【５２９７】

特徴Ｕ２によれば、フラグレジスタは特定状態として制御手段への動作電力の供給が開始された場合の状態に設定されるため、特定状態に設定するための処理構成を簡素なものとすることが可能となる。

【５２９８】

特徴Ｕ３．前記特定状態は、前記フラグレジスタが「０」クリアされた状態であることを特徴とする特徴Ｕ１又はＵ２に記載の遊技機。

【５２９９】

特徴Ｕ３によれば、フラグレジスタは特定状態として「０」クリアされた状態に設定されるため、特定状態に設定するための処理構成を簡素なものとすることが可能となる。
【５３００】
特徴Ｕ４．前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記フラグレジスタの状態が前記特定状態となるようにする手段（第２６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６２１３～ステップＳ６２１８の処理を実行する機能、第２７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６３１４～ステップＳ６３２２の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｕ１乃至Ｕ３のいずれか１に記載の遊技機。
【５３０１】
特徴Ｕ４によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合だけではなく、第２所定処理を終了する場合又は終了した場合にも、フラグレジスタの状態が特定状態に設定される。これにより、フラグレジスタの状態が予め定められた特定状態となっている状況において第１所定処理を再開することが可能となる。また、第２所定処理の前後においてフラグレジスタの状態を特定状態とすることが可能となる。よって、第１所定処理及び第２所定処理のうち一方の処理によるフラグレジスタの状態が他方の処理に対して影響を与えてしまわないようにすることが可能となる。
【５３０２】
特徴Ｕ５．前記制御手段において処理を実行する場合に一時的に情報が記憶される所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）を備え、
前記状態設定手段は、
前記所定記憶手段における所定の記憶領域の状態を前記特定状態となるようにする手段（第２６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６２０２～ステップＳ６２０４の処理を実行する機能、第２７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６３０２～ステップＳ６３０７の処理を実行する機能）と、
前記所定の記憶領域に記憶された情報を前記フラグレジスタに記憶させることにより当該フラグレジスタの状態を前記特定状態となるようにする手段（第２６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６２１１の処理を実行する機能、第２７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６３１２の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴Ｕ１乃至Ｕ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５３０３】
特徴Ｕ５によれば、制御手段の命令としてフラグレジスタの状態を特定状態に直接設定することができない構成であったとしても、所定記憶手段への情報の書き込みと当該情報の読み出しを利用してフラグレジスタの状態を特定状態に設定することが可能となる。
【５３０４】
特徴Ｕ６．前記所定記憶手段は、
前記制御手段がプッシュ命令により情報の書き込みを行うことが可能であり前記制御手段がポップ命令により情報の読み出しを行うことが可能であるスタック領域（特定制御用のスタックエリア２２２）と、
前記制御手段がロード命令により情報の書き込み及び読み出しを行うことが可能であるワーク領域（特定制御用のワークエリア２２１）と、
を備え、
前記所定の記憶領域は前記スタック領域に設けられていることを特徴とする特徴Ｕ５に記載の遊技機。
【５３０５】
特徴Ｕ６によれば、ワーク領域に記憶された情報をフラグレジスタに直接書き込むことができない構成であっても、スタック領域への情報の書き込みと当該情報の読み出しを利用してフラグレジスタの状態を特定状態に設定することが可能となる。
【５３０６】
特徴Ｕ７．前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況

となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に設けられた所定レジスタの状態が所定状態となるようにする手段（第２６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６２０５～ステップＳ６２１０の処理を実行する機能、第２７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６３０８～ステップＳ６３１１の処理を実行する機能）を備え、

前記状態設定手段は、前記所定レジスタの状態が前記所定状態とされた後に、前記フラグレジスタの状態が前記特定状態となるようにすることを特徴とする特徴Ｕ１乃至Ｕ６のいずれか１に記載の遊技機。

【５３０７】

フラグレジスタの状態は制御手段において各種処理が実行される都度変化し得る。この場合に、特徴Ｕ７によれば、所定レジスタの状態が所定状態とされた後にフラグレジスタの状態が特定状態とされるため、第２所定処理が開始される直前においてフラグレジスタが特定状態となっているようにすることが可能となる。

【５３０８】

特徴Ｕ８．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、

前記制御手段は、前記フラグレジスタの状態が特定状態となるようにする手段（第２６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６２０２～ステップＳ６２０４及びステップＳ６２１１の処理を実行する機能、第２７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６３０２～ステップＳ６３０７及びステップＳ６３１２の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【５３０９】

特徴Ｕ８によれば、必要に応じてフラグレジスタの状態を特定状態にすることが可能となる。

【５３１０】

なお、特徴Ｕ１～Ｕ８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５３１１】
＜特徴Ｖ群＞
特徴Ｖ１．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、
当該制御手段は、
前記各種処理のうち第１所定処理を実行する第１所定処理実行手段（第１５～第３４の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理以外の処理を実行する機能）と、
前記各種処理のうち第２所定処理を実行する第２所定処理実行手段（第１５～第３４の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理を実行する機能）と、
前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に設けられたフラグレジスタの情報を所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）に退避させる退避実行手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３８０２の処理を実行する機能、第１６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４４０２の処理を実行する機能、第２０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４８０２の処理を実行する機能、第２８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６４０２～ステップＳ６４０５の処理を実行する機能、第２９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６５０２～ステップＳ６５０９の処理を実行する機能）と、
前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記フラグレジスタの情報を前記フラグレジスタに復帰させる復帰実行手段（第１５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３８０４の処理を実行する機能、第１６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４４０４の処理を実行する機能、第２０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４８１０の処理を実行する機能、第２８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６４０７～ステップＳ６４１５の処理を実行する機能、第２９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６５１１～ステップＳ６５１８の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。
【５３１２】
特徴Ｖ１によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合にはフラグレジスタの情報が所定記憶手段に退避される。これにより、第２所定処理が実行される場合に、第１所定処理の実行に際してフラグレジスタに記憶された情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。また、第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された情報がフラグレジスタに復帰される。これにより、第２所定処理が終了した場合には当該第２所定処理の実行前におけるフラグレジスタの状態から第２所定処理とは異なる処理を実行することが可能となる。以上より、各種制御を好適に行うことが可能となる。
【５３１３】
特徴Ｖ２．前記所定記憶手段は、
前記第１所定処理が実行される場合に情報が記憶される第１所定記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２）と、
前記第２所定処理が実行される場合に情報が記憶される第２所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２２３、非特定制御用のスタックエリア２２４）と、
を備え、
前記退避実行手段は、前記フラグレジスタの情報を前記第１所定記憶領域に退避させることを特徴とする特徴Ｖ１に記載の遊技機。
【５３１４】
特徴Ｖ２によれば、所定記憶手段に第１所定記憶領域と第２所定記憶領域とが設けられていることにより、第１所定処理と第２所定処理とで所定記憶手段における情報の記憶先を明確に相違させることが可能となる。これにより、第１所定処理及び第２所定処理のう

ち一方の処理の実行に際して他方の処理において利用される情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。この場合に、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合、フラグレジスタの情報が第１所定記憶領域に退避される。これにより、第２所定処理が開始される直前におけるフラグレジスタの情報を退避させることが可能となるとともに、第２所定記憶領域を利用することなく当該情報を退避させることが可能となる。

【５３１５】

特徴Ｖ３．前記第１所定記憶領域は、前記第１所定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であり、前記第２所定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能であるものの情報の記憶が不可であり、

前記第２所定記憶領域は、前記第２所定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であり、前記第１所定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能であるものの情報の記憶が不可であることを特徴とする特徴Ｖ２に記載の遊技機。

【５３１６】

特徴Ｖ３によれば、第１所定記憶領域を第１所定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となるとともに、第２所定記憶領域を第２所定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となる。

【５３１７】

特徴Ｖ４．前記所定記憶手段は、

プッシュ命令により情報の書き込みを行うことが可能でありポップ命令により情報の読み出しを行うことが可能であるスタック領域（特定制御用のスタックエリア２２２）と、

ロード命令により情報の書き込み及び読み出しを行うことが可能であるワーク領域（特定制御用のワークエリア２２１）と、

を備え、

前記退避実行手段は、前記フラグレジスタの情報を前記スタック領域及び前記ワーク領域の一方に退避させることを特徴とする特徴Ｖ１乃至Ｖ３のいずれか１に記載の遊技機。

【５３１８】

特徴Ｖ４によれば、第１所定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合、第２所定記憶領域におけるスタック領域及びワーク領域のうち一方に、フラグレジスタの情報が退避される。これにより、情報の退避先を集約することが可能となり、退避させるための処理構成及び復帰させるための処理構成を簡素化させることが可能となる。

【５３１９】

特徴Ｖ５．前記退避実行手段は、前記フラグレジスタの情報を前記ワーク領域に退避させることを特徴とする特徴Ｖ４に記載の遊技機。

【５３２０】

特徴Ｖ５によれば、フラグレジスタの情報の退避先がワーク領域であることにより、スタックポインタの累積的な変更を行うことなく当該情報の退避を行うことが可能となる。

【５３２１】

特徴Ｖ６．前記退避実行手段は、

前記内部記憶手段に設けられた所定レジスタに前記フラグレジスタの情報を記憶させる手段（第２８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６４０２及びステップＳ６４０３の処理を実行する機能、第２９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６５０２～ステップＳ６５０５の処理を実行する機能）と、

前記所定レジスタに記憶された前記フラグレジスタの情報を前記所定記憶手段に記憶させる手段（第２８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６４０４の処理を実行する機能、第２９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６５０６の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴Ｖ１乃至Ｖ５のいずれか１に記載の遊技機。

【５３２２】

特徴Ｖ６によれば、制御手段の命令としてフラグレジスタの情報を所定記憶手段に直接退避させることができない構成であっても、所定レジスタへの情報の書き込みと当該所定レジスタに記憶された情報の所定記憶手段への書き込みとを利用して、フラグレジスタの情報を所定記憶手段に退避させることが可能となる。

【５３２３】

なお、特徴Ｖ１～Ｖ６の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５３２４】

＜特徴Ｗ群＞

特徴Ｗ１．各種処理を実行する制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、

当該制御手段は、

前記各種処理のうち第１所定処理を実行する第１所定処理実行手段（第１５～第３４の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第２所定処理を実行する第２所定処理実行手段（第１５～第３４の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理を実行する機能）と、

前記第１所定処理が実行される場合に情報が記憶される第１所定記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２）と、

前記第２所定処理が実行される場合に情報が記憶される第２所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２２３、非特定制御用のスタックエリア２２４）と、

異常事象が発生しているか否かを監視する異常事象監視手段（プログラム監視部２５２）と、

当該異常事象監視手段により前記異常事象が発生していることが特定されたことに基づいて、情報の消去処理が少なくとも前記第１所定記憶領域に対して実行される状況を生じさせることを可能とする消去状況発生手段（リセット信号出力部２５１）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５３２５】

特徴Ｗ１によれば、第１所定記憶領域と第２所定記憶領域とが設けられており、第１所

定記憶領域が第１所定処理の専用の記憶領域として扱われるとともに、第２所定記憶領域が第２所定処理の専用の記憶領域として扱われる。これにより、第１所定処理と第２所定処理とで所定記憶手段における情報の記憶先を明確に相違させることが可能となる。よって、第１所定処理及び第２所定処理のうち一方の処理の実行に際して他方の処理において利用される情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。また、異常事象が発生していることが特定されたことに基づいて、情報の消去処理が少なくとも第１所定記憶領域に対して実行される。これにより、異常事象が発生したにも関わらず第１所定記憶領域の情報がそのまま保持された状態で第１所定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【５３２６】

特徴Ｗ２．前記制御手段は、

当該制御手段への動作電力の供給が停止される場合に停電対応情報を記憶させるための処理を実行する手段（第３０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６７０９及びステップＳ６７１０の処理を実行する機能、第３２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７６０９～ステップＳ７６１１の処理を実行する機能）と、

前記停電対応情報が記憶されていない状況において前記制御手段への動作電力の供給が開始されて供給開始時の処理が実行された場合、前記情報の消去処理が少なくとも前記第１所定記憶領域に対して実行されるようにする手段（第３０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６６０７の処理を実行する機能、第３１の実施形態では主側ＣＰＵ６３における異常時のクリア処理を実行する機能、第３２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７７０４、ステップＳ７７０５、ステップＳ７８０８及びステップＳ７８１０の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記消去状況発生手段は、前記異常事象監視手段により前記異常事象が発生していることが特定されたことに基づいて、前記停電対応情報が記憶されていない状況において前記制御手段にて前記供給開始時の処理が実行されるようにすることを特徴とする特徴Ｗ１に記載の遊技機。

【５３２７】

特徴Ｗ２によれば、停電対応情報が記憶されていない状況において制御手段への動作電力の供給が開始されて供給開始時の処理が実行された場合には、情報の消去処理が少なくとも第１所定記憶領域に対して実行されることにより、停電時の処理が適切に行われていない状況において制御手段への動作電力の供給が開始された場合に第１所定記憶領域の情報がそのまま保持された状態で第１所定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。この場合に、異常事象が発生していることが特定されたことに基づいて、停電対応情報が記憶されていない状況において制御手段にて供給開始時の処理が実行される。これにより、停電対応情報が記憶されていない状況において制御手段にて供給開始時の処理が実行された場合に情報の消去処理を実行する構成を利用して、異常事象の発生に対して情報の消去処理が実行されるようにすることが可能となる。

【５３２８】

特徴Ｗ３．前記制御手段は、リセット信号を受信している場合に各種処理を実行するものであって、動作電力が供給されている状況において前記リセット信号を受信していない状況から前記リセット信号を受信している状況となったことに基づいて前記供給開始時の処理を開始するものであり、

前記消去状況発生手段は、前記異常事象監視手段により前記異常事象が発生していることが特定されたことに基づいて、前記制御手段にて前記リセット信号を受信しない状況とした後に前記制御手段にて前記リセット信号を受信する状況とすることを特徴とする特徴Ｗ２に記載の遊技機。

【５３２９】

特徴Ｗ３によれば、リセット信号の受信状態の切り換えによって上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【５３３０】
特徴Ｗ４．前記制御手段は、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ及びプログラムカウンタ）に情報を一時的に記憶させる構成であって、当該内部記憶手段に記憶された情報を前記第１所定記憶領域に一時的に退避させ得る構成であり、
前記異常事象監視手段は、前記異常事象として、前記内部記憶手段に記憶されている情報に異常が発生しているか否かを監視し、
前記消去状況発生手段は、前記情報の消去処理が少なくとも前記第１所定記憶領域及び前記内部記憶手段の両方に対して実行される状況を生じさせることを特徴とする特徴Ｗ１乃至Ｗ３のいずれか１に記載の遊技機。
【５３３１】
特徴Ｗ４によれば、内部記憶手段に記憶された情報が第１所定記憶領域に一時的に退避され得る構成であるため、内部記憶手段に記憶されている情報に関して異常が発生した場合には第１所定記憶領域に記憶されている情報についても異常が発生している可能性がある。この場合に、内部記憶手段に記憶されている情報に関して異常が発生した場合には、内部記憶手段だけではなく第１所定記憶領域に対して情報の消去処理が実行される。これにより、第１所定記憶領域に記憶されている情報に関して異常が発生しているにも関わらず、そのままの状態で第１所定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。
【５３３２】
特徴Ｗ５．前記消去状況発生手段は、前記異常事象監視手段により前記異常事象が発生していることが特定されたとしても、前記情報の消去処理が前記第２所定記憶領域に対して実行されないようにすることを特徴とする特徴Ｗ１乃至Ｗ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５３３３】
特徴Ｗ５によれば、異常事象が発生したとしても第２所定記憶領域において情報を記憶保持させることが可能となる。
【５３３４】
特徴Ｗ６．前記消去状況発生手段は、前記異常事象監視手段により前記異常事象が発生していることが特定されたことに基づいて、前記情報の消去処理が前記第１所定記憶領域及び前記第２所定記憶領域の両方に対して実行される状況を生じさせることを特徴とする特徴Ｗ１乃至Ｗ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５３３５】
特徴Ｗ６によれば、異常事象が発生していることが特定されたことに基づいて、情報の消去処理が第１所定記憶領域及び第２所定記憶領域の両方に対して実行される。これにより、異常事象が発生したにも関わらず第１所定記憶領域の情報がそのまま保持された状態で第１所定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となるとともに、異常事象が発生したにも関わらず第２所定記憶領域の情報がそのまま保持された状態で第２所定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。
【５３３６】
特徴Ｗ７．前記第１所定記憶領域に対する前記情報の消去処理が前記第１所定処理にて実行され、前記第２所定記憶領域に対する前記情報の消去処理が前記第２所定処理にて実行されることを特徴とする特徴Ｗ６に記載の遊技機。
【５３３７】
特徴Ｗ７によれば、情報の消去処理に関しても、第１所定記憶領域が第１所定処理の専用の記憶領域として扱われるとともに、第２所定記憶領域が第２所定処理の専用の記憶領域として扱われるようにすることが可能となる。
【５３３８】
特徴Ｗ８．前記第１所定処理には、遊技の進行を制御するための処理が含まれ、
前記第２所定処理には、遊技履歴を管理するための処理が含まれることを特徴とする特徴Ｗ１乃至Ｗ７のいずれか１に記載の遊技機。

【５３３９】
特徴Ｗ８によれば、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して遊技履歴を管理するための処理にて利用される情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。
【５３４０】
特徴Ｗ９．前記第２所定記憶領域は、遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報が記憶される履歴記憶領域（通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３）を備えていることを特徴とする特徴Ｗ８に記載の遊技機。
【５３４１】
特徴Ｗ９によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶領域にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して履歴記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。
【５３４２】
特徴Ｗ１０．前記第２所定処理実行手段は、前記履歴記憶領域に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４２０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｗ９に記載の遊技機。
【５３４３】
特徴Ｗ１０によれば、履歴記憶領域に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出されることにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。
【５３４４】
特徴Ｗ１１．前記第２所定記憶領域は、前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶領域（演算結果記憶エリア２３４）を備えていることを特徴とする特徴Ｗ１０に記載の遊技機。
【５３４５】
特徴Ｗ１１によれば、履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出された場合、その態様情報は態様情報記憶領域に記憶される。これにより、任意のタイミングで遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して態様情報記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。
【５３４６】
なお、特徴Ｗ１～Ｗ１１の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～

ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５３４７】

＜特徴Ｘ群＞

特徴Ｘ１．各種処理を実行する制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、

当該制御手段は、

前記各種処理のうち第１所定処理を実行する第１所定処理実行手段（第１５～第３４の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第２所定処理を実行する第２所定処理実行手段（第１５～第３４の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理を実行する機能）と、

前記第１所定処理が実行される場合に情報が記憶される第１所定記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２）と、

前記第２所定処理が実行される場合に情報が記憶される第２所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２２３、非特定制御用のスタックエリア２２４）と、

を備え、

前記第２所定処理実行手段は、消去契機が発生したことに基づいて、前記第２所定処理として、前記第２所定記憶領域に対して情報の消去処理が実行されるようにする消去実行手段（第２５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６１０３及びステップＳ６１０７の処理を実行する機能、第３０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７２０４の処理を実行する機能、第３１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７５０８の処理を実行する機能、第３２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７８０８及びステップＳ７８１０の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【５３４８】

特徴Ｘ１によれば、第１所定記憶領域と第２所定記憶領域とが設けられており、第１所定記憶領域が第１所定処理の専用の記憶領域として扱われるとともに、第２所定記憶領域が第２所定処理の専用の記憶領域として扱われる。これにより、第１所定処理と第２所定処理とで所定記憶手段における情報の記憶先を明確に相違させることが可能となる。よって、第１所定処理及び第２所定処理のうち一方の処理の実行に際して他方の処理において利用される情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。

【５３４９】

また、消去契機が発生した場合には第２所定記憶領域に対して情報の消去処理が実行されるため、第２所定記憶領域に何らかの異常が発生しているにも関わらず第２所定記憶領域の情報がそのまま保持された状態で第２所定処理が実行されてしまわないようにするこ

とが可能となる。また、当該情報の消去処理は第２所定処理にて実行されるため、第２所定記憶領域の情報の更新に関して第１所定処理が介在してしまわないようにすることが可能となる。

【５３５０】

特徴Ｘ２．前記消去実行手段は、非消去対象情報（管理監視フラグ、戻り番地の情報、各種レジスタの情報）が消去されないようにしながら前記第２所定記憶領域に対して前記情報の消去処理を実行することを特徴とする特徴Ｘ１に記載の遊技機。

【５３５１】

特徴Ｘ２によれば、第２所定記憶領域に対する情報の消去処理は当該第２所定記憶領域の非消去対象情報が消去されないようにしながら行われる。これにより、必要な情報までもが消去されてしまわないようにしながら、第２所定記憶領域に対する情報の消去処理を実行することが可能となる。

【５３５２】

特徴Ｘ３．前記第２所定処理実行手段は、前記第１所定処理を実行している状況から前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記第１所定処理を実行する状況に復帰する場合に必要となる復帰対応情報（戻り番地の情報、各種レジスタの情報）を前記第２所定記憶領域に記憶させる記憶実行手段（第３０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７１０２～ステップＳ７１０７の処理を実行する機能、第３１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７５０２～ステップＳ７５０７の処理を実行する機能、第３２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７８０２～ステップＳ７８０７の処理を実行する機能）を備え、

前記消去実行手段は、前記非消去対象情報として前記復帰対応情報が消去されないようにしながら前記第２所定記憶領域に対して前記情報の消去処理を実行することを特徴とする特徴Ｘ２に記載の遊技機。

【５３５３】

特徴Ｘ３によれば、第２所定処理を実行している状況から第１所定処理を実行する状況に復帰する場合に必要な復帰対応情報までもが消去されてしまわないようにしながら、第２所定記憶領域に対する情報の消去処理を実行することが可能となる。

【５３５４】

特徴Ｘ４．前記記憶実行手段は、前記復帰対応情報として、前記第２所定処理を終了して前記第１所定処理に復帰する場合におけるプログラムの戻り番地の情報を前記第２所定記憶領域に記憶させることを特徴とする特徴Ｘ３に記載の遊技機。

【５３５５】

特徴Ｘ４によれば、第１所定処理に復帰する場合におけるプログラムの戻り番地の情報が消去されないようにしながら第２所定記憶領域に対して情報の消去処理が実行されるため、第２所定記憶領域に対して情報の消去処理が実行されたとしても、第２所定処理が終了した場合には第１所定処理における所定のプログラムに復帰することが可能となる。

【５３５６】

特徴Ｘ５．前記制御手段は、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる構成であり、

前記記憶実行手段は、前記復帰対応情報として、前記内部記憶手段に記憶された情報を前記第２所定記憶領域に記憶させることを特徴とする特徴Ｘ３又はＸ４に記載の遊技機。

【５３５７】

特徴Ｘ５によれば、第１所定処理にて利用される内部記憶手段の情報が消去されないようにしながら第２所定記憶領域に対して情報の消去処理が実行されるため、第２所定記憶領域に対して情報の消去処理が実行されたとしても、第２所定処理が終了した場合には第１所定処理にて利用される情報を内部記憶手段に復帰させることが可能となる。

【５３５８】

特徴Ｘ６．前記消去実行手段は、前記第２所定記憶領域に異常が発生したことに基づいて、前記消去契機の発生として、前記第２所定記憶領域に対して前記情報の消去処理が実

行されるようにすることを特徴とする特徴Ｘ１乃至Ｘ５のいずれか１に記載の遊技機。
【５３５９】
特徴Ｘ６によれば、第２所定記憶領域に異常が発生したことに基づいて当該第２所定記憶領域に対して情報の消去処理が実行されるため、第２所定記憶領域に異常が発生している状態のまま第２所定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。
【５３６０】
特徴Ｘ７．前記第２所定処理実行手段は、前記第２所定処理として、前記第２所定記憶領域が正常であるか否かを監視する手段（第３０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７２０１～ステップＳ７２０３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｘ６に記載の遊技機。
【５３６１】
特徴Ｘ７によれば、第２所定記憶領域に対する情報の消去処理だけではなく、第２所定記憶領域が正常であるか否かの監視も第１所定処理を介在させることなく第２所定処理にて実行されるため、第２所定記憶領域が正常であるか否かの監視と第２所定記憶領域に対する情報の消去処理の実行とを第２所定処理における一連の処理として実行することが可能となる。
【５３６２】
特徴Ｘ８．前記第１所定処理には、遊技の進行を制御するための処理が含まれ、
前記第２所定処理には、遊技履歴を管理するための処理が含まれることを特徴とする特徴Ｘ１乃至Ｘ７のいずれか１に記載の遊技機。
【５３６３】
特徴Ｘ８によれば、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して遊技履歴を管理するための処理にて利用される情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。
【５３６４】
特徴Ｘ９．前記第２所定記憶領域は、遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報が記憶される履歴記憶領域（通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３）を備えていることを特徴とする特徴Ｘ８に記載の遊技機。
【５３６５】
特徴Ｘ９によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶領域にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して履歴記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。
【５３６６】
特徴Ｘ１０．前記第２所定処理実行手段は、前記履歴記憶領域に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４２０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｘ９に記載の遊技機。
【５３６７】
特徴Ｘ１０によれば、履歴記憶領域に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出されることにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。
【５３６８】

特徴Ｘ１１．前記第２所定記憶領域は、前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶領域（演算結果記憶エリア２３４）を備えていることを特徴とする特徴Ｘ１０に記載の遊技機。

【５３６９】

特徴Ｘ１１によれば、履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出された場合、その態様情報は態様情報記憶領域に記憶される。これにより、任意のタイミングで遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して態様情報記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。

【５３７０】

なお、特徴Ｘ１～Ｘ１１の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５３７１】

＜特徴Ｙ群＞

特徴Ｙ１．各種処理を実行する制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、

当該制御手段は、

前記各種処理のうち第１所定処理を実行する第１所定処理実行手段（第１５～第３４の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち第２所定処理を実行する第２所定処理実行手段（第１５～第３４の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて管理実行処理を実行する機能）と、

前記第１所定処理が実行される場合に情報が記憶される第１所定記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２）と、

前記第２所定処理が実行される場合に情報が記憶される第２所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２２３、非特定制御用のスタックエリア２２４）と、

前記第１所定記憶領域に記憶されている複数の情報に対応する第１参照数値情報を算出する第１算出手段（第３０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６６０４及びステップＳ６７１０の処理を実行する機能、第３１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７３０４の処理を実行する機能、第３２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７６１０及びステップＳ７７０１の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【５３７２】

特徴Ｙ１によれば、第１所定記憶領域と第２所定記憶領域とが設けられており、第１所定記憶領域が第１所定処理の専用の記憶領域として扱われるとともに、第２所定記憶領域が第２所定処理の専用の記憶領域として扱われる。これにより、第１所定処理と第２所定処理とで所定記憶手段における情報の記憶先を明確に相違させることが可能となる。よって、第１所定処理及び第２所定処理のうち一方の処理の実行に際して他方の処理において利用される情報が消去されてしまわないようにすることが可能となる。この場合に、第１所定記憶領域に記憶されている複数の情報に対応する第１参照数値情報が算出される。当該第１参照数値情報を利用することにより、第１所定記憶領域のみについて情報異常が発生しているか否かを特定することが可能となる。

【５３７３】

特徴Ｙ２．前記第１算出手段により算出された前記第１参照数値情報に関して異常の発生を特定したことに基づいて、情報の消去処理が前記第１所定記憶領域に対して実行されるようにする情報消去手段（第３０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６６０７の処理を実行する機能、第３１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７４０１及びステップＳ７４０２の処理を実行する機能、第３２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７７０４及びステップＳ７７０５の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｙ１に記載の遊技機。

【５３７４】

特徴Ｙ２によれば、第１参照数値情報に関して異常の発生が特定された場合には第１所定記憶領域に対して情報の消去処理が実行されるため、情報異常が発生しているにも関わらず第１所定記憶領域の情報がそのまま保持された状態で第１所定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【５３７５】

特徴Ｙ３．前記第１算出手段は、
前記制御手段への動作電力の供給が停止される場合に前記第１参照数値情報を算出する第１停電時算出手段（第３０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６７１０の処理を実行する機能、第３２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７６１０の処理を実行する機能）と、
前記制御手段への動作電力の供給が開始された場合に前記第１参照数値情報を算出する第１電入時算出手段（第３０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ６６０４の処理を実行する機能、第３１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７３０４の処理を実行する機能、第３２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７７０１の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記情報消去手段は、前記第１停電時算出手段により算出された前記第１参照数値情報と前記第１電入時算出手段により算出された前記第１参照数値情報とが一致しないことに基づいて、前記情報の消去処理が少なくとも前記第１所定記憶領域に対して実行されるようにすることを特徴とする特徴Ｙ２に記載の遊技機。

【５３７６】

特徴Ｙ３によれば、動作電力の供給が停止された状況を挟んで第１所定記憶領域の情報が記憶保持されているか否かを、第１参照数値情報を算出することで特定することが可能となる。そして、動作電力の供給が停止された状況を挟んで第１所定記憶領域の情報が記憶保持されていない場合には第１所定記憶領域に対して情報の消去処理が実行されるため

、情報異常が発生しているにも関わらず第１所定記憶領域の情報がそのまま保持された状態で第１所定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。
【５３７７】
特徴Ｙ４．前記情報消去手段は、前記第１算出手段により算出された前記第１参照数値情報に関して異常の発生を特定したとしても、前記第２所定記憶領域に対して前記情報の消去処理を実行しないことを特徴とする特徴Ｙ２又はＹ３に記載の遊技機。
【５３７８】
特徴Ｙ４によれば、第１参照数値情報に関して異常の発生を特定した場合、第１所定記憶領域に対して情報の消去処理が実行される一方、第２所定記憶領域に対しては情報の消去処理が実行されない。これにより、第１所定記憶領域に情報異常が発生している状況において第２所定記憶領域の情報までもが消去されてしまわないようにすることが可能となる。
【５３７９】
特徴Ｙ５．前記第１参照数値情報は、前記第２所定記憶領域に記憶された情報に応じて変動しない情報であることを特徴とする特徴Ｙ１乃至Ｙ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５３８０】
特徴Ｙ５によれば、第１所定記憶領域と第２所定記憶領域とが存在している構成において、第１参照数値情報を利用して第１所定記憶領域に関する情報異常を個別に特定することが可能となる。
【５３８１】
特徴Ｙ６．前記第２所定記憶領域に記憶されている複数の情報に対応する第２参照数値情報を算出する第２算出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７６１１及びステップＳ７７０６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｙ１乃至Ｙ５のいずれか１に記載の遊技機。
【５３８２】
特徴Ｙ６によれば、第２所定記憶領域に記憶されている複数の情報に対応する第２参照数値情報が算出される。当該第２参照数値情報を利用することにより、第２所定記憶領域のみについて情報異常が発生しているか否かを特定することが可能となる。
【５３８３】
特徴Ｙ７．前記第２算出手段により算出された前記第２参照数値情報に関して異常の発生を特定したことに基づいて、情報の消去処理が少なくとも前記第２所定記憶領域に対して実行されるようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７８０８及びステップＳ７８１０の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｙ６に記載の遊技機。
【５３８４】
特徴Ｙ７によれば、第２参照数値情報に関して異常の発生が特定された場合には第２所定記憶領域に対して情報の消去処理が実行されるため、情報異常が発生しているにも関わらず第２所定記憶領域の情報がそのまま保持された状態で第２所定処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。
【５３８５】
特徴Ｙ８．前記第１所定処理には、遊技の進行を制御するための処理が含まれ、
前記第２所定処理には、遊技履歴を管理するための処理が含まれることを特徴とする特徴Ｙ１乃至Ｙ７のいずれか１に記載の遊技機。
【５３８６】
特徴Ｙ８によれば、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して遊技履歴を管理するための処理にて利用される情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。
【５３８７】
特徴Ｙ９．前記第２所定記憶領域は、遊技が実行されることにより所定事象が発生した

場合にそれに対応する遊技の履歴情報が記憶される履歴記憶領域（通常用カウンタエリア２３１、開閉実行モード用カウンタエリア２３２、高頻度サポートモード用カウンタエリア２３３）を備えていることを特徴とする特徴Ｙ８に記載の遊技機。

【５３８８】

特徴Ｙ９によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶領域にて記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して履歴記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。

【５３８９】

特徴Ｙ１０．前記第２所定処理実行手段は、前記履歴記憶領域に記憶されている前記履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４２０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｙ９に記載の遊技機。

【５３９０】

特徴Ｙ１０によれば、履歴記憶領域に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出されることにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【５３９１】

特徴Ｙ１１．前記第２所定記憶領域は、前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶領域（演算結果記憶エリア２３４）を備えていることを特徴とする特徴Ｙ１０に記載の遊技機。

【５３９２】

特徴Ｙ１１によれば、履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出された場合、その態様情報は態様情報記憶領域に記憶される。これにより、任意のタイミングで遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、第１所定処理として遊技の進行を制御するための処理が実行され、第２所定処理として遊技履歴を管理するための処理が実行されることにより、遊技の進行を制御するための処理の実行に際して態様情報記憶領域に記憶されている情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。

【５３９３】

なお、特徴Ｙ１～Ｙ１１の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、

特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５３９４】

上記特徴Ｔ群、上記特徴Ｕ群、上記特徴Ｖ群、上記特徴Ｗ群、上記特徴Ｘ群及び上記特徴Ｙ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５３９５】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５３９６】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５３９７】

ここで、上記例示等のような遊技機においては各種制御を好適に行う必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５３９８】

＜特徴Ｚ群＞

特徴Ｚ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、

前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況となるようにする状況発生手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７９０５、ステップＳ７９１６及びステップＳ７９１７の処理を実行する機能）と、

前記設定手段を有する制御手段（主側ＣＰＵ６３）への動作電力の供給が開始されて供給開始時の処理が実行されている状況において、前記設定可能状況ではない状況における前記使用対象の設定値の報知が行われるようにする設定報知手段（主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５３９９】

特徴Ｚ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、使用対象として設定されている設定値を確認

するためには、制御手段への動作電力の供給を一旦停止させた後に当該制御手段への動作電力の供給を再度開始させる必要がある。これにより、設定値を不正に確認しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。また、供給開始時の処理が実行されている状況において設定値の報知が行われるため、遊技を中断させた状況で設定値の報知を行う必要が生じない。よって、設定値の報知を好適に行うことが可能となる。

【５４００】

特徴Ｚ２．前記状況発生手段は、前記供給開始時の処理が実行されている状況において前記設定可能状況となるようにすることを特徴とする特徴Ｚ１に記載の遊技機。

【５４０１】

特徴Ｚ２によれば、使用対象となる設定値の設定を行うことが可能な設定可能状況と、設定可能状況ではない状況における使用対象の設定値の報知が行われる状況とを、供給開始時の処理が実行されている状況に集約させることが可能となる。

【５４０２】

特徴Ｚ３．第１契機事象の発生を特定する第１特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７９１２及びステップＳ７９１６の処理を実行する機能）を備え、

前記設定報知手段は、前記供給開始時の処理が実行されている状況であって前記第１特定手段により前記第１契機事象の発生が特定されている状況であることに基づいて、前記設定可能状況ではない状況における前記使用対象の設定値の報知が行われるようにすることを特徴とする特徴Ｚ１又はＺ２に記載の遊技機。

【５４０３】

特徴Ｚ３によれば、使用対象の設定値を報知させるためには、制御手段への動作電力の供給を開始させるだけではなく第１契機事象を発生させる必要がある。これにより、設定値を不正に確認しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。

【５４０４】

特徴Ｚ４．前記第１契機事象は、設定キー挿入部（設定キー挿入部６８ａ）に対する設定キーによる所定操作が行われていることであることを特徴とする特徴Ｚ３に記載の遊技機。

【５４０５】

特徴Ｚ４によれば、使用対象の設定を報知させるためには、設定キー挿入部に対する設定キーによる所定操作を行う必要がある。これにより、設定値を不正に確認しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。

【５４０６】

特徴Ｚ５．前記設定報知手段は、前記供給開始時の処理が実行されている状況であって前記第１特定手段により前記第１契機事象の発生が特定されている状況であることに基づいて報知条件が成立した場合に、前記設定可能状況ではない状況における前記使用対象の設定値の報知が行われるようにし、

前記状況発生手段は、前記供給開始時の処理が実行されている状況であって前記第１特定手段により前記第１契機事象の発生が特定されている状況であることに基づいて設定条件が成立した場合に、前記設定可能状況となるようにし、

前記報知条件と前記設定条件とは異なっていることを特徴とする特徴Ｚ３又はＺ４に記載の遊技機。

【５４０７】

特徴Ｚ５によれば、設定可能状況を発生させる場合、及び使用対象の設定値を報知させる場合のいずれであっても、制御手段への動作電力の供給を開始させるだけではなく第１契機事象を発生させる必要がある。これにより、不正により使用対象となる設定値の設定を行わせる行為、及び不正により使用対象の設定値を確認しようとする行為のいずれについても行いづらくさせることが可能となる。その一方、設定可能状況を発生させるための設定条件と、使用対象の設定値を報知させるための報知条件とが相違しているため、設定可能状況と使用対象の設定値が報知される状況とのいずれか一方を単独で生じさせることが可能となる。

【５４０８】
特徴Ｚ６．第２契機事象の発生を特定する第２特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７９０５の処理を実行する機能）を備え、
前記設定条件は、前記供給開始時の処理が実行されている状況において、前記第１特定手段により前記第１契機事象の発生が特定されている状況であって前記第２特定手段により前記第２契機事象の発生が特定されている状況であることに基づいて成立し、
前記報知条件は、前記供給開始時の処理が実行されている状況において、前記第１特定手段により前記第１契機事象の発生が特定されている状況であって前記第２特定手段により前記第２契機事象の発生が特定されていない状況であることに基づいて成立することを特徴とする特徴Ｚ５に記載の遊技機。
【５４０９】
特徴Ｚ６によれば、設定可能状況を発生させるためには、制御手段への動作電力の供給を開始させるとともに第１契機事象を発生させるだけではなく第２契機事象を発生させる必要がある。これにより、使用対象となる設定値の設定が行われるようにする場合、及び使用対象の設定値を報知させる場合のいずれであっても、制御手段への動作電力の供給を開始させるだけではなく第１契機事象を発生させる必要があるようにした構成において、設定可能状況を発生させるための操作をより複雑化させることが可能となる。よって、不正に使用対象となる設定値を設定させようとする行為をより重点的に阻止することが可能となる。
【５４１０】
特徴Ｚ７．前記第２契機事象は、所定操作手段（リセットボタン６８ｃ）が操作されていることであることを特徴とする特徴Ｚ６に記載の遊技機。
【５４１１】
特徴Ｚ７によれば、設定可能状況を発生させるためには制御手段への動作電力の供給を開始させるとともに第１契機事象を発生させるだけではなく所定操作手段を操作する必要がある。これにより、不正に使用対象となる設定値を設定させようとする行為を行いづらくさせながらも、設定可能状況を正規に発生させるための操作が過剰に煩雑なものとなってしまうことを阻止することが可能となる。
【５４１２】
特徴Ｚ８．前記供給開始時の処理が実行されている状況において前記第２特定手段により前記第２契機事象の発生が特定されている状況であることに基づいて、情報の消去処理を実行する情報消去手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７９１５の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｚ６又はＺ７に記載の遊技機。
【５４１３】
特徴Ｚ８によれば、情報の消去処理を実行させるために必要な第２契機事象を利用して、設定可能状況を発生させるための条件と、設定可能状況ではない状況における使用対象の設定値の報知が行われるようにするための条件とを相違させることが可能となる。
【５４１４】
特徴Ｚ９．前記情報消去手段は、前記設定可能状況が発生する場合であっても前記情報の消去処理を実行することを特徴とする特徴Ｚ８に記載の遊技機。
【５４１５】
特徴Ｚ９によれば、設定可能状況となる場合には情報の消去処理が実行されるようにすることが可能となる。
【５４１６】
特徴Ｚ１０．前記供給開始時の処理が実行されている状況において前記第２特定手段により前記第２契機事象の発生が特定されている状況であって前記第１特定手段により前記第１契機事象の発生が特定されていない状況である場合、前記設定可能状況とはならないものの前記情報消去手段による前記情報の消去処理が実行されることを特徴とする特徴Ｚ８又はＺ９に記載の遊技機。
【５４１７】

特徴Ｚ１０によれば、制御手段への動作電力の供給が開始された場合に第１契機事象を発生させるか否かにより、情報の消去処理が実行されるとともに設定可能状況となる場合と、情報の消去処理が実行されるものの設定可能状況ならない場合とを選択することが可能となる。

【５４１８】

なお、特徴Ｚ１～Ｚ１０の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５４１９】

＜特徴ａ群＞

特徴ａ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、

前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況となるようにする状況発生手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７９０５、ステップＳ７９１６及びステップＳ７９１７の処理を実行する機能）と、

情報の消去処理を実行する情報消去手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７９１５の処理を実行する機能）と、

前記設定可能状況ではない状況における前記使用対象の設定値の報知が行われるようにする設定報知手段（主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、

第１契機事象の発生を特定する第１特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７９１２及びステップＳ７９１６の処理を実行する機能）と、

第２契機事象の発生を特定する第２特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７９０５の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記状況発生手段は、前記設定手段を有する制御手段への動作電力の供給が開始されて供給開始時の処理が実行されている状況において前記第１特定手段により前記第１契機事象の発生が特定されている状況であって前記第２特定手段により前記第２契機事象の発生

が特定されている状況であることに基づいて、前記設定可能状況となるようにし、
前記情報消去手段は、前記供給開始時の処理が実行されている状況において前記第２特定手段により前記第２契機事象の発生が特定されている状況であることに基づいて、前記情報の消去処理を実行し、
前記供給開始時の処理が実行されている状況において前記第２特定手段により前記第２契機事象の発生が特定されている状況であって前記第１特定手段により前記第１契機事象の発生が特定されていない状況である場合、前記設定可能状況とはならないものの前記情報消去手段による前記情報の消去処理が実行され、
前記設定報知手段は、前記供給開始時の処理が実行されている状況において前記第１特定手段により前記第１契機事象の発生が特定されている状況であって前記第２特定手段により前記第２契機事象の発生が特定されていない状況であることに基づいて、前記設定可能状況ではない状況における前記使用対象の設定値の報知が行われるようにすることを特徴とする遊技機。

【５４２０】

特徴ａ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、情報の消去処理が実行され得る構成であるため、情報異常が発生しているにも関わらず遊技が行われてしまわないようにすることが可能となる。また、使用対象として設定されている設定値が報知され得る構成であるため、設定値の確認を行うことが可能となる。

【５４２１】

この場合に、使用対象として設定されている設定値を確認するためには、制御手段への動作電力の供給を開始させるとともに第１契機事象を発生させる必要がある。これにより、設定値を不正に確認しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。

【５４２２】

また、設定可能状況を発生させるためには、制御手段への動作電力の供給を開始させるとともに第１契機事象を発生させるだけではなく第２契機事象を発生させる必要がある。これにより、使用対象となる設定値の設定が行われるようにする場合、及び使用対象の設定値を報知させる場合のいずれであっても、制御手段への動作電力の供給を開始させるだけではなく第１契機事象を発生させる必要があるようにした構成において、設定可能状況を発生させるための操作をより複雑化させることが可能となる。よって、不正に使用対象となる設定値を設定させようとする行為をより重点的に阻止することが可能となる。

【５４２３】

また、情報の消去処理を実行させるために必要な第２契機事象を利用して、設定可能状況を発生させるための条件と、設定可能状況ではない状況における使用対象の設定値の報知が行われるようにするための条件とを相違させることが可能となる。

【５４２４】

また、制御手段への動作電力の供給が開始された場合に第１契機事象を発生させるか否かにより、情報の消去処理が実行されるとともに設定可能状況となる場合と、情報の消去処理が実行されるものの設定可能状況ならない場合とを選択することが可能となる。

【５４２５】

特徴ａ２．前記第１契機事象は、設定キー挿入部（設定キー挿入部６８ａ）に対する設定キーによる所定操作が行われていることであることを特徴とする特徴ａ１に記載の遊技機。

【５４２６】

特徴ａ２によれば、使用対象の設定を報知させるためには、設定キー挿入部に対する設定キーによる所定操作を行う必要がある。これにより、設定値を不正に確認しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。

【５４２７】

特徴ａ３．前記第２契機事象は、所定操作手段（リセットボタン６８ｃ）が操作されて

いることであることを特徴とする特徴ａ１又はａ２に記載の遊技機。
【５４２８】
特徴ａ３によれば、設定可能状況を発生させるためには制御手段への動作電力の供給を開始させるとともに第１契機事象を発生させるだけではなく所定操作手段を操作する必要がある。これにより、不正に使用対象となる設定値を設定させようとする行為を行いづらくさせながらも、設定可能状況を正規に発生させるための操作が過剰に煩雑なものとなってしまうことを阻止することが可能となる。
【５４２９】
なお、特徴ａ１～ａ３の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【５４３０】
上記特徴Ｚ群及び上記特徴ａ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。
【５４３１】
遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。
【５４３２】
また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回

転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５４３３】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の有利度を決定付ける設定値の確認を好適に行うことが可能な構成が求められており、この点について未だ改良の余地がある。

【５４３４】

＜特徴ｂ群＞

特徴ｂ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、

前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況となるようにする状況発生手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７９０５、ステップＳ７９１６及びステップＳ７９１７の処理を実行する機能）と、

前記使用対象の設定値が異常であるか否かを監視するための設定監視処理を実行する設定監視手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８２２０の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記設定手段を有する制御手段への動作電力の供給が開始された場合に実行される供給開始時の処理に前記設定監視処理が含まれていないことを特徴とする遊技機。

【５４３５】

特徴ｂ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、使用対象の設定値が異常であるか否かを監視するための設定監視処理が実行されるため、使用対象の設定値が異常である場合にはそれに対処することが可能となる。また、供給開始時の処理に設定監視処理が含まれていないため、供給開始時の処理の処理負荷が増大化してしまわないようにしながら上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【５４３６】

特徴ｂ２．前記状況発生手段は、前記供給開始時の処理が実行されている状況において前記設定可能状況を発生させることを特徴とする特徴ｂ１に記載の遊技機。

【５４３７】

特徴ｂ２によれば、供給開始時の処理が実行されている状況において設定可能状況が発生するため、遊技が開始される前に使用対象の設定値が設定されるようにすることが可能となる。この場合、供給開始時の処理において使用対象となる設定値が設定されるため、それだけ供給開始時の処理の処理負荷が増大化する。これに対して、上記特徴ｂ１の構成を備え、供給開始時の処理に設定監視処理が含まれていないため、供給開始時の処理の処理負荷がさらに増大化してしまわないようにしながら使用対象の設定値が異常であるか否かの監視を行うことが可能となる。

【５４３８】

特徴ｂ３．前記設定監視手段は、前記供給開始時の処理が完了した後に前記設定監視処理を実行することを特徴とする特徴ｂ１又はｂ２に記載の遊技機。

【５４３９】

特徴ｂ３によれば、供給開始時の処理が完了した後に設定監視処理が実行されるため、供給開始時の処理の処理負荷が増大化してしまわないようにしながら使用対象の設定値が異常であるか否かを監視することが可能となる。

【５４４０】

特徴ｂ４．前記設定監視手段は、前記供給開始時の処理が完了した後において監視契機が発生する度に前記設定監視処理を実行することを特徴とする特徴ｂ３に記載の遊技機。

【５４４１】

特徴ｂ４によれば、供給開始時の処理が完了した後において監視契機が発生する度に設

定監視処理が実行されるため、使用対象の設定値が異常であることを特定し易くなる。
【５４４２】
特徴ｂ５．定期的に起動される割込み処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３における第１タイマ割込み処理を実行する機能）を備え、
前記割込み処理に前記設定監視処理が含まれていることを特徴とする特徴ｂ１乃至ｂ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５４４３】
特徴ｂ５によれば、定期的に起動される度に設定監視処理が実行されるため、使用対象の設定値が異常であるか否かの監視の実行頻度を高めることが可能となる。
【５４４４】
特徴ｂ６．前記設定監視手段は、前記設定監視処理にて前記使用対象の設定値が異常であることを特定したことに基づいて、遊技の進行が規制されるようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８２０７及びステップＳ８３０２の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｂ１乃至ｂ５のいずれか１に記載の遊技機。
【５４４５】
特徴ｂ６によれば、使用対象の設定値が異常であることを特定した場合には遊技の進行が規制されるため、使用対象の設定値が異常であるにも関わらず遊技が継続されてしまわないようにすることが可能となる。
【５４４６】
特徴ｂ７．前記設定監視手段は、前記設定監視処理にて前記使用対象の設定値が異常であることを特定したことに基づいて、前記設定可能状況を発生させるべきことを遊技者に認識可能とさせる報知が実行されるようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８３０３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｂ１乃至ｂ６のいずれか１に記載の遊技機。
【５４４７】
特徴ｂ７によれば、使用対象の設定値が異常であることが特定された場合には設定可能状況を発生させるべきことを遊技者に認識可能とさせる報知が実行されるため、使用対象の設定値が異常となった場合にはそれを解消するように遊技ホールの管理者に促すことが可能となる。
【５４４８】
なお、特徴ｂ１～ｂ７の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～α

ｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５４４９】

上記特徴ｂ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５４５０】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５４５１】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５４５２】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の有利度を決定付ける設定値の管理を好適に行う必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５４５３】

＜特徴ｃ群＞

特徴ｃ１．所定表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）と、

当該所定表示手段を表示制御する所定表示制御手段（主側ＣＰＵ６３における第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、

を備え、

当該所定表示制御手段は、チェック契機が発生したことに基づいて、前記所定表示手段が正常であるか否かを確認可能とするチェック用表示を前記所定表示手段に行わせるチェック制御手段（第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９１０２の処理を実行する機能、第３８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９６０２の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【５４５４】

特徴ｃ１によれば、チェック契機が発生したことに基づいて、チェック用表示が所定表示手段にて行われる。これにより、所定表示手段が正常であるか否かを確認することが可能となる。

【５４５５】

特徴ｃ２．前記所定表示手段は複数の発光部（表示用セグメント３２１～３２４）を有しており、

前記チェック用表示は、前記複数の発光部のそれぞれが発光状態となり得ることを確認可能とする表示であることを特徴とする特徴ｃ１に記載の遊技機。

【５４５６】

特徴ｃ２によれば、チェック用表示として所定表示手段の複数の発光部のそれぞれが発光状態となる。これにより、所定表示手段の複数の発光部のそれぞれについて発光状態と

なるか否かの確認を行うことが可能となる。
【５４５７】
特徴ｃ３．前記チェック契機は、動作電力の供給が開始された場合に発生することを特徴とする特徴ｃ１又はｃ２に記載の遊技機。
【５４５８】
特徴ｃ３によれば、動作電力の供給が開始された場合にチェック用表示が行われるため、所定表示手段が正常であるか否かの確認を早期に行うことが可能となる。
【５４５９】
特徴ｃ４．前記チェック契機は、動作電力の供給が開始される度に発生することを特徴とする特徴ｃ１乃至ｃ３のいずれか１に記載の遊技機。
【５４６０】
特徴ｃ４によれば、動作電力の供給が開始される度に所定表示手段が正常であるか否かを確認することが可能となる。
【５４６１】
特徴ｃ５．前記チェック契機は、動作電力の供給が開始された場合において当該チェック契機を発生させるための操作を要することなく発生することを特徴とする特徴ｃ１乃至ｃ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５４６２】
特徴ｃ５によれば、動作電力の供給が開始された場合には特別な操作を要することなくチェック用表示が行われるため、所定表示手段が正常であるか否かの確認作業を容易なものとすることが可能となる。
【５４６３】
特徴ｃ６．前記チェック制御手段は、動作電力の供給が開始された場合であって前記チェック契機が発生している場合に前記チェック用表示を前記所定表示手段に行わせ、動作電力の供給が開始された場合であって前記チェック契機が発生していない場合には前記チェック用表示を前記所定表示手段に行わせないことを特徴とする特徴ｃ１乃至ｃ５のいずれか１に記載の遊技機。
【５４６４】
特徴ｃ６によれば、動作電力の供給が開始された場合であってチェック契機が発生している場合にチェック用表示が行われるため、遊技機にて遊技が開始される前の段階で所定表示手段が正常であるか否かを確認することが可能となる。一方、動作電力の供給が開始された場合であってもチェック契機が発生していない場合にはチェック用表示が行われないため、チェック用表示を行う必要がない状況においてチェック用表示が行われないようにすることが可能となる。
【５４６５】
特徴ｃ７．遊技機が所定の態様で使用されたことに基づいて使用対応記憶手段（管理開始フラグ）に情報を記憶させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０６の処理を実行する機能）を備え、
前記チェック制御手段は、動作電力の供給が開始された場合であって前記使用対応記憶手段に記憶されている情報が使用対応の情報に対応していない場合に前記チェック契機が発生しているものとして前記チェック用表示を前記所定表示手段に行わせ、動作電力の供給が開始された場合であって前記使用対応記憶手段に記憶されている情報が前記使用対応の情報に対応している場合には前記チェック契機が発生していないものとして前記チェック用表示を前記所定表示手段に行わせないことを特徴とする特徴ｃ６に記載の遊技機。
【５４６６】
特徴ｃ７によれば、遊技機が所定の態様で使用されるまでは動作電力の供給が開始された場合に所定表示手段にてチェック用表示が行われ、遊技機が所定の態様で使用されたことに基づいて動作電力の供給が開始されたとしても所定表示手段にてチェック用表示が行われない。これにより、例えば遊技機の出荷段階においては動作電力の供給が開始された場合に所定表示手段にてチェック用表示が行われるようにすることで、当該所定表示手段

が正常であるか否かの確認を可能とし、遊技機が遊技ホールに設置された後においては動作電力の供給が開始されたとしても所定表示手段にてチェック用表示が行われないようにすることが可能となる。

【５４６７】

特徴ｃ８．前記チェック制御手段は、

終了契機が発生したことに基づいて前記所定表示手段における前記チェック用表示を終了させる表示終了手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９００２の処理を実行する機能及びステップＳ９１０１にて否定判定をする機能）と、

前記終了契機が発生していない状況であってもキャンセル契機が発生したことに基づいて前記所定表示手段における前記チェック用表示を終了させるキャンセル手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９２０３の処理を実行する機能及びステップＳ９１０１にて否定判定をする機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９３０８の処理を実行する機能及びステップＳ９１０１にて否定判定をする機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴ｃ１乃至ｃ７のいずれか１に記載の遊技機。

【５４６８】

特徴ｃ８によれば、チェック用表示の終了契機が発生していなくてもキャンセル契機が発生したことに基づいてチェック用表示が終了されるため、所定表示手段においてチェック用表示が行われている状況であっても当該チェック用表示を途中で終了させて他の表示を行わせることが可能となる。

【５４６９】

特徴ｃ９．前記キャンセル契機は、所定操作手段（リセットボタン６８ｃ）が操作されたことに基づいて発生することを特徴とする特徴ｃ８に記載の遊技機。

【５４７０】

特徴ｃ９によれば、所定操作手段が操作されたことに基づいてキャンセル契機が発生するため、任意のタイミングでチェック用表示を終了させることが可能となる。

【５４７１】

特徴ｃ１０．前記所定表示制御手段は、別表示実行状況となった場合に前記チェック用表示とは異なる別表示を行わせる別表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９００４及びステップＳ９００６の処理を実行する機能）を備え、

前記キャンセル契機は、前記別表示実行状況となることに基づき発生することを特徴とする特徴ｃ８又はｃ９に記載の遊技機。

【５４７２】

特徴ｃ１０によれば、別表示実行状況となったことに基づきキャンセル契機が発生した場合にチェック用表示が終了されるため、チェック用表示よりも別表示を優先させることが可能となる。

【５４７３】

特徴ｃ１１．前記所定表示手段にて前記チェック用表示が実行されている状況において処理の進行を待機させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４０６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｃ１乃至ｃ１０のいずれか１に記載の遊技機。

【５４７４】

特徴ｃ１１によれば、処理の進行が待機されている状況において所定表示手段にてチェック用表示が行われるため、処理負荷の増加を抑えながらチェック用表示を行うことが可能となる。

【５４７５】

特徴ｃ１２．前記チェック制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において遊技の進行を制御するための処理が実行される前に前記所定表示手段にて前記チェック用表示を開始させることを特徴とする特徴ｃ１乃至ｃ１１のいずれか１に記載の遊技機。

【５４７６】

特徴ｃ１２によれば、動作電力の供給が開始された場合には遊技機にて遊技が行われる

前に、所定表示手段が正常であるか否かの確認を行うことが可能となる。
【５４７７】
特徴ｃ１３．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、
動作電力の供給が開始されたことに基づいて動作電力の供給開始時の処理を実行する手段（第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０１～ステップＳ８８１９の処理を実行する機能、第３６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４０１～ステップＳ９４２０の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において前記設定値に関する所定の設定関連処理（設定確認用処理、設定値更新処理）が実行され得る構成であり、
前記チェック制御手段は、前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において前記所定表示手段における前記チェック用表示を開始させることを特徴とする特徴ｃ１２に記載の遊技機。
【５４７８】
特徴ｃ１３によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において設定値に関する所定の設定関連処理が実行され得る。これにより、遊技が開始される前の段階において設定関連処理が実行されるようにすることが可能となる。この場合に、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において所定表示手段にてチェック用表示が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理に対して、所定の設定関連処理だけでなく所定表示手段にてチェック用表示を開始させるための処理を集約させることが可能となる。
【５４７９】
特徴ｃ１４．前記チェック制御手段は、前記所定の設定関連処理が実行され得るタイミングとなる前に前記所定表示手段における前記チェック用表示を開始させる手段（第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０４及びステップＳ８８０５の処理を実行する機能、第３６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４０４及びステップＳ９４０５の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｃ１３に記載の遊技機。
【５４８０】
特徴ｃ１４によれば、所定の設定関連処理が実行される前に所定表示手段が正常であるか否かの確認を行うことが可能となる。
【５４８１】
特徴ｃ１５．前記所定表示制御手段は、前記所定の設定関連処理が実行される場合に前記所定表示手段に現状の前記設定値を表示させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９００４及びステップＳ９００６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｃ１３又はｃ１４に記載の遊技機。
【５４８２】
特徴ｃ１５によれば、所定の設定関連処理が実行される場合に所定表示手段において現状の設定値が表示されるため、遊技ホールの管理者は所定表示手段を確認することで現状の設定値を把握することが可能となる。この場合に、上記特徴ｃ１３の構成を備え、動作電力の供給開始時の処理に、所定の設定関連処理だけではなく所定表示手段にてチェック用表示を開始させるための処理が集約されているため、所定表示手段を確認して当該所定表示手段が正常であるか否かを把握する作業と所定表示手段を確認して現状の設定値を把握する作業とを、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況においてまとめて行うことが可能となる。
【５４８３】
また、上記特徴ｃ１４の構成を備えた場合には所定表示手段にて現状の設定値が表示さ

れる前に当該所定表示手段にてチェック用表示が開始されるため、所定表示手段が正常であるか否かを確認した後に、所定表示手段を利用して現状の設定値を確認することが可能となる。これにより、設定値の確認を正確に行うことが可能となる。

【５４８４】

特徴ｃ１６．前記チェック制御手段は、

前記所定の設定関連処理が実行され得るタイミングとなる前に前記所定表示手段における前記チェック用表示を開始させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０４及びステップＳ８８０５の処理を実行する機能）と、

前記チェック用表示が行われている状況において前記所定の設定関連処理においてキャンセル契機が発生したことに基づいて当該チェック用表示を終了させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９２０３の処理を実行する機能及びステップＳ９１０１にて否定判定をする機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９３０８の処理を実行する機能及びステップＳ９１０１にて否定判定をする機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴ｃ１５に記載の遊技機。

【５４８５】

特徴ｃ１６によれば、所定表示手段にて現状の設定値が表示される前に当該所定表示手段にてチェック用表示が開始されるため、所定表示手段が正常であるか否かを確認した後に、所定表示手段を利用して現状の設定値を確認することが可能となる。これにより、設定値の確認を正確に行うことが可能となる。また、チェック用表示が行われている状況において所定の設定関連処理が実行されてキャンセル契機が発生したことに基づいて当該チェック用表示が終了される。これにより、所定の設定関連処理が実行された場合にはチェック用表示が終了されるのを待たなくても当該チェック用表示を終了させて所定表示手段にて現状の設定値を表示させることが可能となる。よって、現状の設定値の確認を早期に行うことが可能となる。

【５４８６】

特徴ｃ１７．前記キャンセル契機は、所定操作手段（リセットボタン６８ｃ）が操作されたことに基づいて発生することを特徴とする特徴ｃ１６に記載の遊技機。

【５４８７】

特徴ｃ１７によれば、所定操作手段が操作されたことに基づいてキャンセル契機が発生するため、任意のタイミングでチェック用表示を終了させることが可能となる。

【５４８８】

特徴ｃ１８．前記所定の設定関連処理として、前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況となるようにするための処理を実行する手段（第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０６、ステップＳ８８１７及びステップＳ８８１８にて肯定判定をする機能、第３６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４０７、ステップＳ９４１８及びステップＳ９４１９にて肯定判定をする機能）を備えていることを特徴とする特徴ｃ１３乃至ｃ１７のいずれか１に記載の遊技機。

【５４８９】

特徴ｃ１８によれば、動作電力の供給開始時の処理に対して、使用対象となる設定値を設定するための処理だけではなく所定表示手段にてチェック用表示を開始させるための処理を集約させることが可能となる。

【５４９０】

特徴ｃ１９．前記設定手段は、前記設定可能状況において所定操作手段（リセットボタン６８ｃ）が操作されたことに基づいて前記使用対象となる設定値を更新するものであり、

前記チェック制御手段は、

前記設定可能状況となる前に前記所定表示手段における前記チェック用表示を開始させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０４及びステップＳ８８０５の処理を実行する機能）と、

前記チェック用表示が行われている状況であって前記設定可能状況において前記所定操

作手段が操作されたことに基づいて当該チェック用表示を終了させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９２０３の処理を実行する機能及びステップＳ９１０１にて否定判定をする機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９３０８の処理を実行する機能及びステップＳ９１０１にて否定判定をする機能）と、
を備え、
前記所定表示制御手段は、前記設定可能状況において前記チェック用表示が終了された後に、前記所定表示手段に現状の前記設定値を表示させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９００４及びステップＳ９００６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｃ１８に記載の遊技機。
【５４９１】
特徴ｃ１９によれば、所定表示手段にて現状の設定値が表示される前に当該所定表示手段にてチェック用表示が開始されるため、所定表示手段が正常であるか否かを確認した後に、所定表示手段を利用して現状の設定値を確認することが可能となる。これにより、設定値の確認を正確に行うことが可能となる。また、チェック用表示が行われている状況において設定可能状況となり所定操作手段が操作されたことに基づいて当該チェック用表示が終了されて現状の設定値が表示される。これにより、設定可能状況となった場合にはチェック用表示が終了されるのを待たなくても当該チェック用表示を終了させて所定表示手段にて現状の設定値を表示させることが可能となる。よって、現状の設定値の確認を早期に行うことが可能となる。
【５４９２】
さらにまた、設定可能状況において所定操作手段が操作されたことに基づいて使用対象となる設定値が更新される構成において、設定可能状況において所定操作手段が操作されたことに基づいてチェック用表示が終了されて現状の設定値が表示されるため、当該チェック用表示を終了させて現状の設定値を表示させるための専用の操作を必要としない。よって、使用対象となる設定値を更新するための作業の作業性を向上させることが可能となる。
【５４９３】
特徴ｃ２０．前記所定の設定関連処理として、現状の設定値が前記所定表示手段に表示されるようにするための処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｃ１３乃至ｃ１９のいずれか１に記載の遊技機。
【５４９４】
特徴ｃ２０によれば、動作電力の供給開始時の処理に対して、現状の設定値を確認するための処理だけではなく所定表示手段にてチェック用表示を開始させるための処理を集約させることが可能となる。
【５４９５】
特徴ｃ２１．前記所定表示制御手段は、前記所定表示手段に遊技履歴の管理結果に対応する情報を表示させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８７０８、ステップＳ８７０９及びステップＳ９１０７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｃ１乃至ｃ２０のいずれか１に記載の遊技機。
【５４９６】
特徴ｃ２１によれば、遊技履歴の管理結果を遊技ホールの管理者に報知することが可能となる。この場合に、上記特徴ｃ１の構成を備え、所定表示手段にてチェック用表示が行われることにより、所定表示手段における遊技履歴の管理結果に対応する情報の表示が正確に行われているか否かを確認することが可能となる。
【５４９７】
なお、特徴ｃ１～ｃ２１の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ

５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５４９８】

＜特徴ｄ群＞

特徴ｄ１．所定表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）と、

当該所定表示手段を表示制御する所定表示制御手段（主側ＣＰＵ６３における第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、

を備え、

当該所定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において遊技の進行を制御するための処理が実行される前に、前記所定表示手段が正常であるか否かを確認可能とするチェック用表示を前記所定表示手段に行わせるチェック制御手段（第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９１０２の処理を実行する機能、第３８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９６０２の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【５４９９】

特徴ｄ１によれば、チェック用表示が当該所定表示手段にて行われることにより、所定表示手段が正常であるか否かを確認することが可能となる。また、動作電力の供給が開始された場合において遊技の進行を制御するための処理が実行される前にチェック用表示が開始されるため、動作電力の供給が開始された場合には遊技機にて遊技が行われる前に所定表示手段が正常であるか否かの確認を行うことが可能となる。

【５５００】

特徴ｄ２．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始されたことに基づいて動作電力の供給開始時の処理を実行する手段（第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０１～ステップＳ８８１９の処理を実行する機能、第３６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４０１～ステップＳ９４２０の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において前記設定値に関する所定の設定関連処理（設定確認用処理、設定値更新処理）が実行され得る構成であり、

前記チェック制御手段は、前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において前記所定表示手段における前記チェック用表示を開始させることを特徴とする特徴ｄ１に記載の遊技機。

【５５０１】

特徴ｄ２によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において設定値に関する所定の設定関連処理が実行され得る。これにより、遊技が開始される前の段階において設定関連処理が実行されるようにすることが可能となる。この場合に、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において所定表示手段にてチェック用表示が開始される。これにより、動作電力の供給開始時の処理に対して、所定の設定関連処理だけでなく所定表示手段にてチェック用表示を開始させるための処理を集約させることが可能となる。

【５５０２】

特徴ｄ３．前記チェック制御手段は、前記所定の設定関連処理が実行され得るタイミングとなる前に前記所定表示手段における前記チェック用表示を開始させる手段（第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０４及びステップＳ８８０５の処理を実行する機能、第３６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４０４及びステップＳ９４０５の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｄ２に記載の遊技機。

【５５０３】

特徴ｄ３によれば、所定の設定関連処理が実行される前に所定表示手段が正常であるか否かの確認を行うことが可能となる。

【５５０４】

特徴ｄ４．前記所定表示制御手段は、前記所定の設定関連処理が実行される場合に前記所定表示手段に現状の前記設定値を表示させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９００４及びステップＳ９００６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｄ２又はｄ３に記載の遊技機。

【５５０５】

特徴ｄ４によれば、所定の設定関連処理が実行される場合に所定表示手段において現状の設定値が表示されるため、遊技ホールの管理者は所定表示手段を確認することで現状の設定値を把握することが可能となる。この場合に、上記特徴ｄ２の構成を備え、動作電力の供給開始時の処理に、所定の設定関連処理だけではなく所定表示手段にてチェック用表示を開始させるための処理が集約されているため、所定表示手段を確認して当該所定表示手段が正常であるか否かを把握する作業と所定表示手段を確認して現状の設定値を把握する作業とを、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況においてまとめて行うことが可能となる。

【５５０６】

また、上記特徴ｄ３の構成を備えた場合には所定表示手段にて現状の設定値が表示される前に当該所定表示手段にてチェック用表示が開始されるため、所定表示手段が正常であるか否かを確認した後に、所定表示手段を利用して現状の設定値を確認することが可能となる。これにより、設定値の確認を正確に行うことが可能となる。

【５５０７】

特徴ｄ５．前記チェック制御手段は、

前記所定の設定関連処理が実行され得るタイミングとなる前に前記所定表示手段における前記チェック用表示を開始させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０４及びステップＳ８８０５の処理を実行する機能）と、

前記チェック用表示が行われている状況において前記所定の設定関連処理においてキャンセル契機が発生したことに基づいて当該チェック用表示を終了させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９２０３の処理を実行する機能及びステップＳ９１０１にて否定

判定をする機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９３０８の処理を実行する機能及びステップＳ９１０１にて否定判定をする機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴ｄ４に記載の遊技機。
【５５０８】
特徴ｄ５によれば、所定表示手段にて現状の設定値が表示される前に当該所定表示手段にてチェック用表示が開始されるため、所定表示手段が正常であるか否かを確認した後に、所定表示手段を利用して現状の設定値を確認することが可能となる。これにより、設定値の確認を正確に行うことが可能となる。また、チェック用表示が行われている状況において所定の設定関連処理が実行されてキャンセル契機が発生したことに基づいて当該チェック用表示が終了される。これにより、所定の設定関連処理が実行された場合にはチェック用表示が終了されるのを待たなくても当該チェック用表示を終了させて所定表示手段にて現状の設定値を表示させることが可能となる。よって、現状の設定値の確認を早期に行うことが可能となる。
【５５０９】
特徴ｄ６．前記キャンセル契機は、所定操作手段（リセットボタン６８ｃ）が操作されたことに基づいて発生することを特徴とする特徴ｄ５に記載の遊技機。
【５５１０】
特徴ｄ６によれば、所定操作手段が操作されたことに基づいてキャンセル契機が発生するため、任意のタイミングでチェック用表示を終了させることが可能となる。
【５５１１】
特徴ｄ７．前記所定の設定関連処理として、前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況となるようにするための処理を実行する手段（第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０６、ステップＳ８８１７及びステップＳ８８１８にて肯定判定をする機能、第３６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４０７、ステップＳ９４１８及びステップＳ９４１９にて肯定判定をする機能）を備えていることを特徴とする特徴ｄ２乃至ｄ６のいずれか１に記載の遊技機。
【５５１２】
特徴ｄ７によれば、動作電力の供給開始時の処理に対して、使用対象となる設定値を設定するための処理だけではなく所定表示手段にてチェック用表示を開始させるための処理を集約させることが可能となる。
【５５１３】
特徴ｄ８．前記設定手段は、前記設定可能状況において所定操作手段（リセットボタン６８ｃ）が操作されたことに基づいて前記使用対象となる設定値を更新するものであり、
前記チェック制御手段は、
前記設定可能状況となる前に前記所定表示手段における前記チェック用表示を開始させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０４及びステップＳ８８０５の処理を実行する機能）と、
前記チェック用表示が行われている状況であって前記設定可能状況において前記所定操作手段が操作されたことに基づいて当該チェック用表示を終了させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９２０３の処理を実行する機能及びステップＳ９１０１にて否定判定をする機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９３０８の処理を実行する機能及びステップＳ９１０１にて否定判定をする機能）と、
を備え、
前記所定表示制御手段は、前記設定可能状況において前記チェック用表示が終了された後に、前記所定表示手段に現状の前記設定値を表示させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９００４及びステップＳ９００６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｄ７に記載の遊技機。
【５５１４】
特徴ｄ８によれば、所定表示手段にて現状の設定値が表示される前に当該所定表示手段にてチェック用表示が開始されるため、所定表示手段が正常であるか否かを確認した後に

、所定表示手段を利用して現状の設定値を確認することが可能となる。これにより、設定値の確認を正確に行うことが可能となる。また、チェック用表示が行われている状況において設定可能状況となり所定操作手段が操作されたことに基づいて当該チェック用表示が終了されて現状の設定値が表示される。これにより、設定可能状況となった場合にはチェック用表示が終了されるのを待たなくても当該チェック用表示を終了させて所定表示手段にて現状の設定値を表示させることが可能となる。よって、現状の設定値の確認を早期に行うことが可能となる。

【５５１５】

さらにまた、設定可能状況において所定操作手段が操作されたことに基づいて使用対象となる設定値が更新される構成において、設定可能状況において所定操作手段が操作されたことに基づいてチェック用表示が終了されて現状の設定値が表示されるため、当該チェック用表示を終了させて現状の設定値を表示させるための専用の操作を必要としない。よって、使用対象となる設定値を更新するための作業の作業性を向上させることが可能となる。

【５５１６】

特徴ｄ９．前記所定の設定関連処理として、現状の設定値が前記所定表示手段に表示されるようにするための処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｄ２乃至ｄ８のいずれか１に記載の遊技機。

【５５１７】

特徴ｄ９によれば、動作電力の供給開始時の処理に対して、現状の設定値を確認するための処理だけではなく所定表示手段にてチェック用表示を開始させるための処理を集約させることが可能となる。

【５５１８】

特徴ｄ１０．前記所定表示制御手段は、前記所定表示手段に遊技履歴の管理結果に対応する情報を表示させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８７０８、ステップＳ８７０９及びステップＳ９１０７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｄ１乃至ｄ９のいずれか１に記載の遊技機。

【５５１９】

特徴ｄ１０によれば、遊技履歴の管理結果を遊技ホールの管理者に報知することが可能となる。この場合に、上記特徴ｄ１の構成を備え、所定表示手段にてチェック用表示が行われることにより、所定表示手段における遊技履歴の管理結果に対応する情報の表示が正確に行われているか否かを確認することが可能となる。

【５５２０】

なお、特徴ｄ１～ｄ１０の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、

特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５５２１】

上記特徴ｃ群及び上記特徴ｄ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５５２２】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５５２３】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５５２４】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、所定表示手段における表示が正確に行われているか否かを確認することが可能な構成が求められており、この点について未だ改良の余地がある。

【５５２５】

＜特徴ｅ群＞

特徴ｅ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２３１）に記憶させる履歴記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３における通常の入球管理処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報（ベース値）を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０１の処理を実行する機能）と、

当該情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶手段（演算結果記憶エリア２３４）と、

を備え、

前記態様情報記憶手段は、前記情報導出手段により異なるタイミングで導出された複数の前記態様情報を記憶することが可能であることを特徴とする遊技機。

【５５２６】

特徴ｅ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正

なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報が導出されるとともに、その導出された態様情報が態様情報記憶手段に記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、態様情報記憶手段には、異なるタイミングで導出された複数の態様情報を記憶することが可能である。これにより、複数の期間における所定事象の発生頻度を把握することが可能となるため、所定事象の発生頻度を正確に把握することが可能となる。

【５５２７】

特徴ｅ２．前記態様情報記憶手段は、

前記情報導出手段により導出された直近の前記態様情報を記憶する直近記憶領域（現状エリア３１１）と、

当該直近記憶領域に記憶された前記態様情報よりも前に前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する過去記憶領域（第１～第３履歴エリア３１２～３１４）と、

を備えていることを特徴とする特徴ｅ１に記載の遊技機。

【５５２８】

特徴ｅ２によれば、直近の態様情報とそれよりも前に導出された過去の態様情報とのそれぞれが記憶されるため、所定事象の発生頻度について直近のものだけではなく過去のものも把握することが可能となる。

【５５２９】

特徴ｅ３．期間開始契機が発生してから期間終了契機が発生するまでの所定の期間が経過したことを特定する期間経過特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０５及びステップＳ８６１３の処理を実行する機能）と、

当該期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されていない状況において前記情報導出手段により導出された前記態様情報を前記直近記憶領域に記憶させる直近記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０２の処理を実行する機能）と、

前記期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されたことに基づいて、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して前記情報導出手段により導出された前記所定の期間における遊技の結果に対応する期間対応の態様情報を前記過去記憶領域に記憶させる過去記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０７及びステップＳ８６１４の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴ｅ２に記載の遊技機。

【５５３０】

特徴ｅ３によれば、所定の期間が経過していない状況において導出された態様情報が直近記憶領域に記憶されるとともに、所定の期間が経過した場合に導出された態様情報が過去記憶領域に記憶される。これにより、所定事象の発生頻度について直近のものを把握することが可能となるとともに、所定の期間の単位での過去の所定事象の発生頻度を把握することが可能となる。また、過去記憶領域には所定の期間の単位での態様情報が記憶されるため、過去記憶領域に記憶される態様情報の数を抑えることが可能となる。

【５５３１】

特徴ｅ４．前記期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されたことに基づいて、前記履歴記憶手段に記憶された前記履歴情報を消去する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０８及びステップＳ８６１５の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｅ３に記載の遊技機。

【５５３２】

特徴ｅ４によれば、所定の期間が経過した場合に履歴情報記憶手段の履歴情報が消去されるため、履歴情報記憶手段において必要な記憶容量を抑えることが可能となる。また、このように所定の期間が経過した場合に履歴情報が消去されるとしても、当該所定の期間における履歴情報を利用して導出された態様情報が過去記憶領域に記憶されるため、当該

所定の期間における所定事象の発生頻度を後から把握することが可能となる。
【５５３３】
特徴ｅ５．前記過去記憶領域は、導出されたタイミングが異なる複数の前記態様情報を記憶することが可能であることを特徴とする特徴ｅ２乃至ｅ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５５３４】
特徴ｅ５によれば、過去記憶領域には複数の態様情報が記憶されるため、複数の期間に対応する所定事象の発生頻度を比較することが可能となる。
【５５３５】
特徴ｅ６．所定の期間開始契機が発生してから所定の期間終了契機が発生するまでの所定の期間が経過したことを特定する期間経過特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０５及びステップＳ８６１３の処理を実行する機能）と、
当該期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されたことに基づいて、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して前記情報導出手段により導出された前記所定の期間における遊技の結果に対応する期間対応の態様情報を前記態様情報記憶手段に記憶させる過去記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０７及びステップＳ８６１４の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記態様情報記憶手段は、異なる前記所定の期間のそれぞれに対応した複数の前記期間対応の態様情報を記憶することが可能であることを特徴とする特徴ｅ１乃至ｅ５のいずれか１に記載の遊技機。
【５５３６】
特徴ｅ６によれば、所定の期間の単位で導出された過去の態様情報が複数記憶されることとなるため、態様情報記憶手段に記憶される態様情報の数を抑えながら、複数の期間に対応する所定事象の発生頻度を比較することが可能となる。
【５５３７】
特徴ｅ７．前記期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されたことに基づいて、前記履歴記憶手段に記憶された前記履歴情報を消去する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０８及びステップＳ８６１５の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｅ６に記載の遊技機。
【５５３８】
特徴ｅ７によれば、所定の期間が経過した場合に履歴情報記憶手段の履歴情報が消去されるため、履歴情報記憶手段において必要な記憶容量を抑えることが可能となる。また、このように所定の期間が経過した場合に履歴情報が消去されるとしても、当該所定の期間における履歴情報を利用して導出された態様情報が過去記憶領域に記憶されるため、当該所定の期間における所定事象の発生頻度を後から把握することが可能となる。
【５５３９】
特徴ｅ８．前記態様情報記憶手段に記憶された複数の前記態様情報のそれぞれに対応する報知が順次実行されるように報知手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を制御する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８７０２～ステップＳ８７０９の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｅ１乃至ｅ７のいずれか１に記載の遊技機。
【５５４０】
特徴ｅ８によれば、態様情報に対応する報知が報知手段にて行われる。これにより、所定事象の発生頻度を把握することが可能となる。また、複数の態様情報のそれぞれに対応する報知が順次実行されるため、報知手段の数を抑えながらも、複数の期間における所定事象の発生頻度を個別に把握することが可能となる。
【５５４１】
特徴ｅ９．前記態様情報記憶手段は、前記態様情報を記憶することが可能な第１記憶領域（第１履歴エリア３１２）と、前記態様情報を記憶することが可能な第２記憶領域（第

２履歴エリア３１３）と、を備えており、
本遊技機は、情報のシフト契機が発生した場合に少なくともＬＤＩＲ命令を含む命令により前記第１記憶領域に記憶された前記態様情報を前記第２記憶領域にシフトする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０７及びステップＳ８６１４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｅ１乃至ｅ８のいずれか１に記載の遊技機。
【５５４２】
特徴ｅ９によれば、簡素な処理構成により態様情報の記憶領域間のシフトを行うことが可能となる。
【５５４３】
なお、特徴ｅ１～ｅ９の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【５５４４】
上記特徴ｅ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。
【５５４５】
遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。
【５５４６】
また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回

転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５５４７】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の管理が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５５４８】

＜特徴ｆ群＞

特徴ｆ１．動作電力の供給が開始されたことに基づいて動作電力の供給開始時の処理を実行する手段（第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０１～ステップＳ８８１９の処理を実行する機能、第３６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４０１～ステップＳ９４２０の処理を実行する機能）と、

前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において停電の発生を監視するための停電監視処理が実行され得るようにする停電監視手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０１の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５５４９】

特徴ｆ１によれば、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても停電監視処理が実行されるため、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において停電が発生した場合にそれに対して適切に対処することが可能となる。

【５５５０】

特徴ｆ２．定期的に起動される割込み処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３における第１タイマ割込み処理を実行する機能）を備え、

前記割込み処理に前記停電監視処理が含まれており、

前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において前記割込み処理が割り込んで起動され得ることを特徴とする特徴ｆ１に記載の遊技機。

【５５５１】

特徴ｆ２によれば、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても割込み処理が定期的に割り込んで起動されるため、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても停電の発生の監視を定期的に行うことが可能となる。

【５５５２】

特徴ｆ３．前記割込み処理は、前記動作電力の供給開始時の処理が終了した後において終了後処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８２２～ステップＳ８８２５）が実行されている状況においても割り込んで起動され得ることを特徴とする特徴ｆ２に記載の遊技機。

【５５５３】

特徴ｆ３によれば、終了後処理が実行されている状況において割り込んで起動され得る割込み処理を利用して、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において停電の発生の監視を定期的に行うことが可能となる。

【５５５４】

特徴ｆ４．前記割込み処理に遊技の進行を制御するために実行される進行対応処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０）が含まれており、

前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において前記割込み処理が割り込んで起動された場合、前記停電監視処理は実行される一方、前記進行対応処理は実行されることはなく、

前記終了後処理が実行されている実行されている状況において前記割込み処理が割り込んで起動された場合、前記停電監視処理及び前記進行対応処理の両方が実行され得ることを特徴とする特徴ｆ３に記載の遊技機。

【５５５５】

特徴ｆ４によれば、終了後処理が実行されている状況において割り込んで起動され得る

割込み処理を利用して、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において停電の発生の監視を定期的に行う構成において、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において割込み処理が割り込んで起動されたとしても遊技の進行を制御するための進行対応処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【５５５６】

特徴ｆ５．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）を備え、

前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において、前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況となり得ることを特徴とする特徴ｆ１乃至ｆ４のいずれか１に記載の遊技機。

【５５５７】

特徴ｆ５によれば、使用対象となる設定値の設定が行われている状況であっても停電監視処理が実行されるため、使用対象となる設定値の設定を行っている途中で停電が発生したとしてもそれに対して適切に対処することが可能となる。

【５５５８】

特徴ｆ６．前記停電監視処理にて停電の発生が特定された後に動作電力の供給が停止された場合、動作電力の供給が再開された場合に動作電力の供給が停止される前に使用対象として設定されていた前記設定値のまま遊技を行うことが可能であることを特徴とする特徴ｆ５に記載の遊技機。

【５５５９】

特徴ｆ６によれば、使用対象となる設定値の設定が行われている状況において停電が発生したとしてもそれに対して停電監視処理により停電の発生が特定されるため、動作電力の供給が再開された場合には停電が発生したタイミングで選択されていた設定値が使用対象となった状況で遊技を行うことが可能となる。これにより、使用対象となる設定値の設定が行われている状況において停電が発生したとしても、動作電力の供給が再開された場合に設定値の設定を再度行う必要が生じない。

【５５６０】

なお、特徴ｆ１～ｆ６の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特

徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５５６１】

上記特徴ｆ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５５６２】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５５６３】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５５６４】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、停電の発生に対して適切に対処する必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５５６５】

＜特徴ｇ群＞

特徴ｇ１．遊技者の有利度に対応する設定対応情報（低確率モードの当否テーブル、高確率モードの当否テーブル）を記憶するための設定対応記憶領域（第３９の実施形態では第１～第６設定情報記憶エリア３２５ａ～３２５ｆ、第４０の実施形態では第１～第３設定情報記憶エリア３２６ａ～３２６ｃ）を複数である第１所定数有する設定対応記憶手段（第３９の実施形態では設定対応記憶エリア３２５、第４０の実施形態では設定対応記憶エリア３２６）と、

使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、

当該設定手段により設定された設定値に対応する前記設定対応記憶領域に記憶された前記設定対応情報を利用して、遊技者の利益に関連する利益関連処理（ステップＳ５０４）を実行する利益関連手段（主側ＣＰＵ６３における特図変動開始処理を実行する機能）と、

を備え、

前記設定手段により設定され得る前記設定値の種類数が、前記第１所定数よりも少ないことを特徴とする遊技機。

【５５６６】

特徴ｇ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、設定値に対応する設定対応情報を記憶するための設定対応記憶領域が第１所定数設けられている構成において、使用対象となる設定値の種類数は当該第１所定数よりも少ない数となっている。これにより、使用対象となる設定値の種類数が第１所定数である遊技機と設定対応記憶手段に関する構成を共通化させることが可能となり、設定値の種類数を変更する場合における遊技機の設計作業を簡易的に行うことが可能となる。以上より、設定値に関する構成を好適なものとすることが可能と

なる。
【５５６７】
特徴ｇ２．前記第１所定数の前記設定対応記憶領域のそれぞれに対応する対応情報を記憶保持することが可能な対応情報記憶手段（特定制御用のワークエリア２２１における設定値カウンタ）を備え、
前記設定手段は、変更操作に基づき前記対応情報記憶手段に記憶保持される前記対応情報を変更することで、前記使用対象となる設定値を設定するものであり、
前記設定手段により設定され得る前記設定値の設定対応情報は少なくとも１個の前記設定対応記憶領域に記憶されている構成であって、前記第１所定数の一部であって複数の前記設定対応記憶領域には同一の前記設定対応情報が記憶されている構成であることにより、前記第１所定数の前記設定対応記憶領域の全てに前記設定対応情報が記憶されていることを特徴とする特徴ｇ１に記載の遊技機。
【５５６８】
特徴ｇ２によれば、変更操作に基づき対応情報記憶手段に記憶保持される対応情報が変更されることで使用対象となる設定値が変更され、その変更された対応情報に対応する設定対応記憶領域の設定対応情報が利益関連処理にて利用されることで使用対象の設定値に対応する態様で利益関連処理が実行されることとなる。この場合に、設定手段により設定され得る設定値の設定対応情報は少なくとも１個の設定対応記憶領域に記憶されている構成であって、第１所定数の一部であって複数の設定対応記憶領域には同一の設定対応情報が記憶されている構成であることにより、第１所定数の設定対応記憶領域の全てに設定対応情報が記憶されている。これにより、第１所定数の設定対応記憶領域をそのまま利用するとともに対応情報記憶手段を利用して使用対象となる設定値を決定する構成をそのまま利用しながら、使用対象となる設定値の種類数を第１所定数よりも少ない数とすることが可能となる。
【５５６９】
特徴ｇ３．前記利益関連手段は、
前記対応情報記憶手段に記憶保持されている前記対応情報に対応する前記設定対応記憶領域から前記設定対応情報を読み出す手段（主側ＣＰＵ６３における当否テーブルの読み出し処理を実行する機能）と、
その読み出した前記設定対応情報を利用して前記利益関連処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴ｇ２に記載の遊技機。
【５５７０】
特徴ｇ３によれば、使用対象となる設定値の種類数が第１所定数よりも少ない数である構成であったとしても、対応情報記憶手段に記憶保持されている対応情報に対応する設定対応記憶領域から読み出した設定対応情報を利用して利益関連処理を実行すればよいため、利益関連処理の実行に際して設定対応情報を読み出す構成をそのまま利用することが可能となる。
【５５７１】
特徴ｇ４．前記対応情報記憶手段に記憶保持される前記対応情報を変更することが可能な状況において現状の設定値に対応する表示を所定の表示手段（第４報知用表示装置２０４）に行わせる所定表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９８０１～ステップＳ９８０４の処理を実行する機能）を備え、
当該所定表示制御手段は、
前記対応情報記憶手段の前記対応情報に対応する前記設定対応記憶領域に記憶されている前記設定対応情報に対応する設定値の表示情報を読み出す手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９８０１～ステップＳ９８０３の処理を実行する機能）と、
その読み出した設定値の表示情報に対応する表示を前記所定の表示手段に行わせる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９８０４の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴ｇ２又はｇ３に記載の遊技機。

【５５７２】
特徴ｇ４によれば、使用対象となる設定値を変更する場合には、所定の表示手段に表示された現状の設定値に対応する表示を確認しながら設定値の変更操作を行うことが可能となる。この場合に、使用対象となる設定値の種類数が第１所定数よりも少ない数である構成であったとしても、対応情報記憶手段の対応情報に対応する設定対応記憶領域の設定対応情報に対応する設定値の表示情報を読み出してその読み出した設定値の表示情報に対応する表示を所定の表示手段に行わせる構成である。これにより、設定値に対応する表示の実行に際して設定値の表示情報を読み出す構成をそのまま利用することが可能となる。
【５５７３】
特徴ｇ５．前記設定手段により設定され得る前記設定値の種類数は、前記第１所定数の約数であって前記第１所定数とは異なる数であり、
各設定値に対応する前記設定対応情報が記憶されている前記設定対応記憶領域の数は、各設定値間において同一数となっていることを特徴とする特徴ｇ４に記載の遊技機。
【５５７４】
特徴ｇ５によれば、使用対象となる設定値の種類数が第１所定数よりも少ない数である構成であったとしても、設定値に対応する表示が所定の表示手段にて行われる頻度を各設定値間で同一とすることが可能となる。
【５５７５】
特徴ｇ６．前記対応情報記憶手段に記憶保持される前記対応情報の変更順序において連続する順序の前記対応情報に対応する前記設定対応記憶領域には、同一の設定値に対応する前記設定対応情報は記憶されていないことを特徴とする特徴ｇ４又はｇ５に記載の遊技機。
【５５７６】
特徴ｇ６によれば、変更操作が１回行われる度に、所定の表示手段にて表示対象となる設定値を変更させることが可能となる。これにより、使用対象となる設定値の種類数が第１所定数よりも少ない数である構成であったとしても、変更操作の操作性を向上させることが可能となる。
【５５７７】
なお、特徴ｇ１～ｇ６の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特

徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５５７８】

上記特徴ｇ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５５７９】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５５８０】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５５８１】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の有利度を決定付ける設定値に関する構成を好適なものとする必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５５８２】

＜特徴ｈ群＞

特徴ｈ１．表示手段（特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４、第１～第５表示回路２６１～２６５）と、

当該表示手段に表示させる表示内容に対応する表示データ（表示データ信号、表示クロック信号）を送信する表示制御手段（主側ＣＰＵ６３）と、

当該表示制御手段により前記表示データが送信された場合に、当該表示データに対応する表示内容となるように前記表示手段に表示設定を行う表示実行手段（表示ＩＣ２６６）と、

を備えた遊技機において、

前記表示手段を複数備え、

前記表示制御手段は、複数の前記表示手段のそれぞれに対応する前記表示データを前記表示実行手段に順次送信する順次送信手段（主側ＣＰＵ６３における第２タイマ割込み処理を実行する機能）を備え、

前記表示実行手段は、前記表示制御手段により前記表示データが送信された場合、複数の前記表示手段のうちその表示データの設定対象となる表示手段に対して、当該表示データに対応する表示内容となるように前記表示設定を行うものであり、

前記順次送信手段から前記表示実行手段への前記表示データの送信間隔は、各表示手段において前記表示データに対応する表示を維持することができなくなる前に、各表示手段に対して前記表示実行手段による前記表示設定が行われることとなる送信間隔であることを特徴とする遊技機。

【５５８３】

特徴ｈ１によれば、表示制御手段から送信された表示データに従って表示実行手段にて表示手段に対する表示設定が行われることで、当該表示データに対応する表示内容となる

ように表示手段が表示制御される。これにより、表示制御手段の処理負荷を軽減することが可能となる。この場合に、複数の表示手段が設けられた構成においてそれら複数の表示手段に１対１で対応させて表示実行手段が設けられているのではなく、複数の表示手段に対して１個の表示実行手段が兼用されている。これにより、表示実行手段の数の増加を抑えながら表示手段の数を増加させることが可能となる。また、表示制御手段から表示実行手段への表示データの送信間隔は、各表示手段において表示データに対応する表示を維持することができなくなる前に、各表示手段に対して表示実行手段による表示設定が行われることとなる送信間隔に設定されている。これにより、複数の表示手段に対して１個の表示実行手段が兼用される構成であっても、各表示手段において表示データに対応する表示を適切に行わせることが可能となる。以上より、表示手段を表示制御するための構成を好適なものとすることが可能となる。

【５５８４】

特徴ｈ２．前記順次送信手段は、前記表示データを前記表示実行手段に送信する場合、その表示データの設定対象となる前記表示手段の種類を特定可能とする特定可能情報（種別データ信号、種別クロック信号）を前記表示実行手段に送信することを特徴とする特徴ｈ１に記載の遊技機。

【５５８５】

特徴ｈ２によれば、表示実行手段は表示制御手段から表示データが送信された場合、表示制御手段から送信されている特定可能情報に対応する表示手段に対してその表示データを設定すればよい。これにより、複数の表示手段に対して１個の表示実行手段が兼用される構成であっても、表示実行手段の構成を簡素なものとすることが可能となる。

【５５８６】

特徴ｈ３．前記順次送信手段は、複数の前記表示手段が予め定められた順序で１回ずつ前記表示データの設定対象となることを更新周回の１回とした場合に、当該更新周回が繰り返されるように前記表示データの送信を行うものであることを特徴とする特徴ｈ１又はｈ２に記載の遊技機。

【５５８７】

特徴ｈ３によれば、表示制御手段は予め定められた順序に従って表示データの送信対象となる表示手段を変更すればよいため、表示制御手段の処理構成を簡素なものとすることが可能となる。

【５５８８】

特徴ｈ４．前記順次送信手段は、一の前記表示手段に対する前記表示データの内容が当該表示手段を送信対象として前回送信した場合における前記表示データの内容と同一であったとしても、当該表示手段が送信対象となった場合にはその表示データを送信することを特徴とする特徴ｈ１乃至ｈ３のいずれか１に記載の遊技機。

【５５８９】

特徴ｈ４によれば、送信すべき表示データの内容が変更されていなくても当該表示データが送信されるため、複数の表示手段に対して１個の表示実行手段が兼用される構成であっても、所定の表示手段にて同一の表示を継続させることが可能となる。

【５５９０】

特徴ｈ５．前記順次送信手段は、前記表示制御手段において所定の処理を実行している状況で割り込んで起動される所定割込み処理（第２タイマ割込み処理）にて前記表示データを送信するための処理を実行することを特徴とする特徴ｈ１乃至ｈ４のいずれか１に記載の遊技機。

【５５９１】

特徴ｈ５によれば、所定割込み処理にて表示データを送信するための処理が実行されるため、各表示手段に表示データが設定される周期を所定の周期とすることが可能となる。よって、複数の表示手段に対して１個の表示実行手段が兼用される構成であっても、各表示手段において表示データに対応する表示を維持することができなくなる前に、各表示手段に対して表示実行手段による表示データの設定が行われるようにすることが可能となる

。
【５５９２】
特徴ｈ６．前記表示実行手段により前記表示設定の対象となる複数の前記表示手段に対して前記表示データを送信するための処理は、前記所定割込み処理に集約されていることを特徴とする特徴ｈ５に記載の遊技機。
【５５９３】
特徴ｈ６によれば、表示実行手段により表示設定の対象となる各表示手段に表示データが設定される周期を同一の周期とすることが可能となる。
【５５９４】
特徴ｈ７．前記表示制御手段は、前記所定の処理を実行している状況で特定割込み処理（第１タイマ割込み処理）を割り込んで起動させる手段（主側ＣＰＵ６３における第１タイマ割込み処理を実行する機能）を備え、
前記所定割込み処理の割込み周期は、前記特定割込み処理の割込み周期よりも短い周期であることを特徴とする特徴ｈ５又はｈ６に記載の遊技機。
【５５９５】
特徴ｈ７によれば、特定割込み処理の割込み周期よりも短い周期である所定割込み処理にて表示実行手段に表示データが送信される処理が実行される。これにより、特定割込み処理にて表示実行手段に表示データを送信する処理が実行される構成に比べて短い周期で表示データを送信することが可能となる。
【５５９６】
特徴ｈ８．前記特定割込み処理において遊技を進行させるための処理が実行されることを特徴とする特徴ｈ７に記載の遊技機。
【５５９７】
特徴ｈ８によれば、遊技を進行させるための処理を実行する上で適切な周期で特定割込み処理が起動されるようにしながら、既に説明したような優れた効果を奏することが可能となる。
【５５９８】
特徴ｈ９．前記所定割込み処理は前記特定割込み処理が実行されている状況であっても割り込んで起動されることを特徴とする特徴ｈ７又はｈ８に記載の遊技機。
【５５９９】
特徴ｈ９によれば、所定割込み処理は特定割込み処理が実行されている状況であっても割り込んで起動されるため、特定割込み処理が割り込んで起動される構成であっても表示データの送信周期を所定の周期とすることが可能となる。
【５６００】
特徴ｈ１０．前記所定割込み処理が開始される場合に前記特定割込み処理の割込みが禁止され、前記所定割込み処理が終了される場合に前記特定割込み処理の割込みが許可されることを特徴とする特徴ｈ７乃至ｈ９のいずれか１に記載の遊技機。
【５６０１】
特徴ｈ１０によれば、所定割込み処理が実行されている状況において特定割込み処理が割り込んで実行されてしまわないようにすることが可能となる。これにより、表示データを送信するための処理を優先させることが可能となる。
【５６０２】
特徴ｈ１１．前記表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合に動作電力の供給開始時の処理を実行する手段（第３３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７９０１～ステップＳ７９１８の処理を実行する機能、第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０１～ステップＳ８８１９の処理を実行する機能、第３６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４０１～ステップＳ９４２０の処理を実行する機能、第３７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９５０１～ステップＳ９５１８の処理を実行する機能、第４２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９９０１～ステップＳ９９１７の処理を実行する機能）を備え、

前記所定割込み処理は、前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても割り込んで起動されることを特徴とする特徴ｈ５乃至ｈ１０のいずれか１に記載の遊技機。

【５６０３】

特徴ｈ１１によれば、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても複数の表示手段を表示制御することが可能となる。また、動作電力の供給開始時の処理に対して所定割込み処理が割り込んで起動される構成であるため、動作電力の供給開始時の処理の処理構成を複雑化させなくても、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において複数の表示手段を表示制御することが可能となる。

【５６０４】

特徴ｈ１２．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）を備え、

前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において、前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況となり得る構成であり、

前記順次送信手段は、前記設定可能状況において所定の前記表示手段にて現状の設定値に対応する表示が行われるようにするための前記表示データを前記表示実行手段に送信することを特徴とする特徴ｈ１１に記載の遊技機。

【５６０５】

特徴ｈ１２によれば、使用対象となる設定値の設定が行われている状況において所定の表示手段にて現状の設定値が表示されるため、使用対象となる設定値の設定作業を行い易くなる。

【５６０６】

特徴ｈ１３．前記表示制御手段は、前記動作電力の供給開始時の処理が終了した後に遊技の進行を制御するために進行対応処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３における第１タイマ割込み処理を実行する機能）を備え、

前記順次送信手段は、前記進行対応処理の実行結果に対応する対応表示が複数の前記表示手段のうち少なくとも一部の表示手段にて行われるようにするための前記表示データを前記表示実行手段に送信するものであり、

前記所定割込み処理は、前記動作電力の供給開始時の処理が終了した後においても割り込んで起動されることを特徴とする特徴ｈ１１又はｈ１２に記載の遊技機。

【５６０７】

特徴ｈ１３によれば、所定割込み処理を利用することで、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況及び当該動作電力の供給開始時の処理が終了した後の状況のいずれにおいても複数の表示手段を表示制御することが可能となる。

【５６０８】

なお、特徴ｈ１～ｈ１３の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特

徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５６０９】

＜特徴ｉ群＞

特徴ｉ１．他の処理が実行されている状況において第１割込み周期が経過したことに基づいて当該他の処理に割り込んで第１割込み処理を実行する第１割込み実行手段（主側ＣＰＵ６３における第１タイマ割込み処理を実行する機能）と、

他の処理が実行されている状況において第２割込み周期が経過したことに基づいて当該他の処理に割り込んで第２割込み処理を実行する第２割込み実行手段（主側ＣＰＵ６３における第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、

を備え、

前記第２割込み周期は前記第１割込み周期よりも短い周期であり、

所定の表示手段（特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を表示制御するための処理が前記第２割込み処理にて実行されることを特徴とする遊技機。

【５６１０】

特徴ｉ１によれば、特定割込み処理の割込み周期よりも短い周期である所定割込み処理にて所定の表示手段を表示制御するための処理が実行される。これにより、特定割込み処理にて所定の表示手段を表示制御するための処理が実行される構成に比べて短い周期で所定の表示手段の表示制御を行うことが可能となる。

【５６１１】

特徴ｉ２．前記第１割込み処理において遊技を進行させるための処理が実行されることを特徴とする特徴ｉ１に記載の遊技機。

【５６１２】

特徴ｉ２によれば、遊技を進行させるための処理を実行する上で適切な周期で第１割込み処理が起動されるようにしながら、既に説明したような優れた効果を奏することが可能となる。

【５６１３】

特徴ｉ３．前記第２割込み処理は前記第１割込み処理が実行されている状況であっても割り込んで起動されることを特徴とする特徴ｉ１又はｉ２に記載の遊技機。

【５６１４】

特徴ｉ３によれば、第２割込み処理は第１割込み処理が実行されている状況であっても割り込んで起動されるため、第１割込み処理が割り込んで起動される構成であっても所定の表示手段の表示制御を所定の周期で行うことが可能となる。

【５６１５】

特徴ｉ４．前記第２割込み処理が開始される場合に前記第１割込み処理の割込みが禁止され、前記第２割込み処理が終了される場合に前記第１割込み処理の割込みが許可されることを特徴とする特徴ｉ１乃至ｉ３のいずれか１に記載の遊技機。

【５６１６】

特徴ｉ４によれば、第２割込み処理が実行されている状況において第１割込み処理が割

り込んで実行されてしまわないようにすることが可能となる。これにより、所定の表示手段の表示制御を優先させることが可能となる。

【５６１７】

特徴ｉ５．動作電力の供給が開始された場合に動作電力の供給開始時の処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるメイン処理を実行する機能）を備え、

前記第２割込み処理は、前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても割り込んで起動されることを特徴とする特徴ｉ１乃至ｉ４のいずれか１に記載の遊技機。

【５６１８】

特徴ｉ５によれば、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても所定の表示手段を表示制御することが可能となる。また、動作電力の供給開始時の処理に対して第２割込み処理が割り込んで起動される構成であるため、動作電力の供給開始時の処理の処理構成を複雑化させなくても、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において所定の表示手段を表示制御することが可能となる。

【５６１９】

特徴ｉ６．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）を備え、

前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において、前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況となり得る構成であり、

前記第２割込み実行手段は、前記設定可能状況において前記所定の表示手段にて現状の設定値に対応する表示が行われるようにするための処理を前記第２割込み処理にて実行することを特徴とする特徴ｉ５に記載の遊技機。

【５６２０】

特徴ｉ６によれば、使用対象となる設定値の設定が行われている状況において所定の表示手段にて現状の設定値が表示されるため、使用対象となる設定値の設定作業を行い易くなる。

【５６２１】

特徴ｉ７．前記第２割込み実行手段は、前記動作電力の供給開始時の処理が終了した後においても前記第２割込み周期が経過したことに基づいて前記第２割込み処理を実行することを特徴とする特徴ｉ５又はｉ６に記載の遊技機。

【５６２２】

特徴ｉ７によれば、所定割込み処理を利用することで、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況及び当該動作電力の供給開始時の処理が終了した後の状況のいずれにおいても所定の表示手段を表示制御することが可能となる。

【５６２３】

なお、特徴ｉ１～ｉ７の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特

徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～ααａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５６２４】

上記特徴ｈ群及び上記特徴ｉ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５６２５】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５６２６】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５６２７】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、表示手段にて表示を行わせるための構成を好適なものとする必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５６２８】

＜特徴ｊ群＞

特徴ｊ１．動作電力の供給が開始されたことに基づいて動作電力の供給開始時の処理を実行する手段（第３３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７９０１～ステップＳ７９１８の処理を実行する機能、第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０１～ステップＳ８８１９の処理を実行する機能、第３６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４０１～ステップＳ９４２０の処理を実行する機能、第３７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９５０１～ステップＳ９５１８の処理を実行する機能、第４２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９９０１～ステップＳ９９１７の処理を実行する機能）と、

前記動作電力の供給開始時の処理に割り込んで所定割込み処理を実行する所定割込み実行手段（主側ＣＰＵ６３における第１タイマ割込み処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３における第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５６２９】

特徴ｊ１によれば、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても所定割込み処理が割り込んで起動されるため、動作電力の供給開始直後であっても所定割込み

処理として設定されている処理の実行を優先させることが可能となる。また、動作電力の供給開始時の処理に対して所定割込み処理として設定されている処理を設定する必要がないため、動作電力の供給開始時の処理の処理構成を複雑化させなくても、動作電力の供給開始直後であっても所定割込み処理として設定されている処理の実行を優先させることが可能となる。以上より、動作電力の供給が開始された場合における処理を好適に行うことが可能となる。

【５６３０】

特徴ｊ２．前記所定割込み実行手段は、所定の表示手段（特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ、第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を表示制御するための処理を前記所定割込み処理にて実行することを特徴とする特徴ｊ１に記載の遊技機。

【５６３１】

特徴ｊ２によれば、動作電力の供給開始直後であっても所定の表示手段にて所定の表示を行わせることが可能となる。

【５６３２】

特徴ｊ３．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）を備え、

前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において、前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況となり得る構成であり、

前記所定割込み実行手段は、前記設定可能状況において所定の表示手段（第４報知用表示装置２０４）にて現状の設定値に対応する表示が行われるようにするための処理を前記所定割込み処理にて実行することを特徴とする特徴ｊ１又はｊ２に記載の遊技機。

【５６３３】

特徴ｊ３によれば、使用対象となる設定値の設定が行われている状況において所定の表示手段にて現状の設定値が表示されるため、使用対象となる設定値の設定作業を行い易くなる。

【５６３４】

特徴ｊ４．前記所定割込み実行手段は、前記動作電力の供給開始時の処理が終了した後においても所定割込み周期が経過したことに基づいて前記所定割込み処理を実行することを特徴とする特徴ｊ１乃至ｊ３のいずれか１に記載の遊技機。

【５６３５】

特徴ｊ４によれば、所定割込み処理を利用することで、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況及び当該動作電力の供給開始時の処理が終了した後の状況のいずれにおいても所定割込み処理として設定されている処理を実行することが可能となる。

【５６３６】

特徴ｊ５．前記所定割込み実行手段は、停電の発生を監視するための停電監視処理（ステップＳ８９０１）を前記所定割込み処理にて実行することを特徴とする特徴ｊ１乃至ｊ４のいずれか１に記載の遊技機。

【５６３７】

特徴ｊ５によれば、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況であっても停電監視処理が実行されるため、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において停電が発生した場合にそれに対して適切に対処することが可能となる。

【５６３８】

特徴ｊ６．前記所定割込み処理に、遊技の進行を制御するために実行される進行対応処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０）が含まれており、

前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において前記所定割込み処理が割り込んで起動された場合、前記停電監視処理は実行される一方、前記進行対応処理は実行されることはなく、

前記動作電力の供給開始時の処理が終了した後において終了後処理（主側ＣＰＵ６３に

おけるステップＳ８８２２～ステップＳ８８２５）が実行されている状況において前記所定割込み処理が割り込んで起動された場合、前記停電監視処理及び前記進行対応処理の両方が実行され得ることを特徴とする特徴ｊ５に記載の遊技機。

【５６３９】

特徴ｊ６によれば、終了後処理が実行されている状況において割り込んで起動され得る所定割込み処理を利用して、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において停電の発生の監視を定期的に行う構成において、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において所定割込み処理が割り込んで起動されたとしても遊技の進行を制御するための進行対応処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【５６４０】

なお、特徴ｊ１～ｊ６の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５６４１】

上記特徴ｊ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５６４２】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５６４３】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転

が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５６４４】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、動作電力の供給が開始された場合における処理が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５６４５】

＜特徴ｋ群＞

特徴ｋ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２３１）に記憶させる履歴記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３における通常の入球管理処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報（ベース値）を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２０１の処理を実行する機能）と、

当該情報導出手段により導出された前記態様情報に対応する表示が行われるように情報表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を表示制御する態様情報表示制御手段（主側ＣＰＵ６３における表示用処理及び第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、

所定の表示契機が発生したことに基づいて、前記態様情報に対応する表示が新たに開始される前に所定対応表示（シフト前表示）が前記情報表示手段にて行われるようにする所定対応表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ３２０の処理及び第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５６４６】

特徴ｋ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報が導出されるとともに、その導出された態様情報に対応する表示が情報表示手段にて行われる。これにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、所定の表示契機が発生したことに基づいて態様情報に対応する表示が新たに開始される前に所定対応表示が情報表示手段にて行われる。これにより、所定の表示契機が発生した場合にはそれに対応する所定対応表示を態様情報に対応する表示よりも情報表示手段にて優先して行わせることが可能となり、情報表示手段を利用して所定の表示契機が発生したことを報知することが可能となる。

【５６４７】

特徴ｋ２．所定の期間開始契機が発生してから所定の期間終了契機が発生するまでの所定の期間が経過したことを特定する期間経過特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２１０の処理を実行する機能）を備え、

前記所定対応表示制御手段は、前記期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定された場合に前記所定の表示契機が発生したものとして、前記所定対応表示が前記情報表示手段にて行われるようにすることを特徴とする特徴ｋ１に記載の遊技機。

【５６４８】

特徴ｋ２によれば、所定の期間が経過した場合には情報表示手段にて所定対応表示が行われ、その後に情報表示手段にて態様情報に対応する表示が新たに開始される。これにより、情報表示手段にて表示されている態様情報が所定の期間の経過後におけるものであることを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。

【５６４９】

特徴ｋ３．前記情報導出手段は、前記期間経過特定手段により前記所定の期間が経過し

たことが特定されたことに基づいて、当該所定の期間よりも後に発生した前記所定事象に対応する前記履歴情報を利用して前記態様情報を導出するものであり、
　前記所定対応表示制御手段は、前記期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されたことに基づいて、当該所定の期間よりも後に発生した前記所定事象に対応する前記履歴情報を利用して前記情報導出手段により導出された前記態様情報に対応する表示が前記情報表示手段にて行われる前に前記所定対応表示が前記情報表示手段にて行われるようにすることを特徴とする特徴ｋ２に記載の遊技機。
【５６５０】
　特徴ｋ３によれば、所定の期間が経過することを基準として態様情報の新たな導出が行われる構成において、所定の期間が経過した場合には情報表示手段にて所定対応表示が行われた後に所定の期間の経過後に新たに導出された態様情報に対応する表示が行われる。これにより、情報表示手段における態様情報に対応する表示が所定の期間が経過した後において新たに導出された態様情報に対応する表示であるのか否かを遊技ホールの管理者が把握することが可能となる。
【５６５１】
　特徴ｋ４．前記期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されたことに基づいて、前記履歴記憶手段に記憶された前記履歴情報を消去する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２１７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｋ３に記載の遊技機。
【５６５２】
　特徴ｋ４によれば、所定の期間が経過した場合に履歴情報記憶手段の履歴情報が消去されるため、履歴情報記憶手段において必要な記憶容量を抑えることが可能となる。
【５６５３】
　特徴ｋ５．前記期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されたことに基づいて、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して前記情報導出手段により導出された前記所定の期間における遊技の結果に対応する前記態様情報を期間対応態様情報として態様情報記憶手段（演算結果記憶エリア２３４）に記憶させる記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２０３及びステップＳＡ２１６の処理を実行する機能）を備え、
　前記態様情報表示制御手段は、前記態様情報記憶手段に記憶された前記期間対応態様情報に対応する表示が行われるように前記情報表示手段を表示制御するものであり、
　前記所定対応表示制御手段は、前記期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されたことに基づいて、前記記憶実行手段により前記態様情報記憶手段に新たに記憶された前記期間対応態様情報に対応する表示が前記情報表示手段にて行われる前に前記所定対応表示が前記情報表示手段にて行われるようにすることを特徴とする特徴ｋ２乃至ｋ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５６５４】
　特徴ｋ５によれば、所定の期間の単位で導出された過去の態様情報が期間対応態様情報として記憶されるとともに当該期間対応態様情報に対応する表示が情報表示手段にて行われる。これにより、遊技ホールの管理者は情報表示手段を確認することにより、所定の期間の単位で導出された過去の期間対応態様情報を把握することが可能となる。また、所定の期間が経過した場合には情報表示手段にて所定対応表示が行われた後に、所定の期間が経過したことで新たに導出された期間対応態様情報に対応する表示が行われる。これにより、情報表示手段における期間対応態様情報に対応する表示が所定の期間が経過したことに基づいて新たに導出された期間対応態様情報に対応する表示であるのか否かを遊技ホールの管理者が把握することが可能となる。
【５６５５】
　特徴ｋ６．前記態様情報記憶手段は、異なる前記所定の期間のそれぞれに対応した複数の前記期間対応態様情報を記憶することが可能であり、
　前記態様情報表示制御手段は、前記態様情報記憶手段に記憶された複数の前記期間対応

態様情報のそれぞれに対応する表示が行われるように前記情報表示手段を表示制御するものであることを特徴とする特徴ｋ５に記載の遊技機。

【５６５６】

特徴ｋ６によれば、所定の期間の単位で導出された過去の期間対応態様情報が複数記憶されるとともにそれら複数の期間対応態様情報に対応する表示が情報表示手段にて行われるため、複数の所定の期間に対応する所定事象の発生頻度を比較することが可能となる。

【５６５７】

特徴ｋ７．前記態様情報に対応する表示が行われている状況から当該態様情報とは異なる前記態様情報に対応する表示を行う前に前記情報表示手段が切換前状態（インターバル用非表示の状態）となるようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ３１６の処理及び第２タイマ割込み処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｋ１乃至ｋ６のいずれか１に記載の遊技機。

【５６５８】

特徴ｋ７によれば、表示対象となる態様情報が切り換わる場合には情報表示手段が切換前状態となることにより、表示対象となる態様情報が切り換わったことを遊技ホールの管理者が明確に把握することが可能となる。この場合に、上記特徴ｋ１の構成を備え、所定の表示契機が発生したことに基づいて情報表示手段にて所定対応表示が行われる。これにより、切換前状態を間に挟んで異なる態様情報に対応する表示が行われる情報表示手段を利用して所定の表示契機が発生したことを報知することが可能となる。

【５６５９】

特徴ｋ８．前記所定対応表示制御手段は、前記所定の表示契機が発生した場合、前記態様情報に対応する表示の表示継続期間が経過していない状況であったとしても前記所定対応表示が前記情報表示手段にて開始されるようにすることを特徴とする特徴ｋ１乃至ｋ７のいずれか１に記載の遊技機。

【５６６０】

特徴ｋ８によれば、所定の表示契機が発生した場合には態様情報に対応する表示の途中であったとしても所定対応表示が開始される。これにより、所定の表示契機が発生したことを早期に報知することが可能となる。

【５６６１】

特徴ｋ９．前記所定対応表示制御手段は、前記態様情報に対応する表示の表示継続期間の途中において前記所定の表示契機が発生した場合、当該表示継続期間が経過した後に前記所定対応表示が前記情報表示手段にて開始されるようにすることを特徴とする特徴ｋ１乃至ｋ７のいずれか１に記載の遊技機。

【５６６２】

特徴ｋ９によれば、所定の表示契機が発生したとしてもその時点で表示されている態様情報に対応する表示が完了した後に所定対応表示が開始される。これにより、既に行われている態様情報に対応する表示を邪魔しないようにしながら、所定の表示契機が発生したことを報知することが可能となる。

【５６６３】

特徴ｋ１０．前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶手段（演算結果記憶エリア２３４）を備え、

当該態様情報記憶手段は、前記情報導出手段により異なるタイミングで導出された複数の前記態様情報のそれぞれを記憶することを可能とするように複数の特定記憶領域（現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３、第３履歴エリア３１４）を備え、

前記態様情報表示制御手段は、所定表示順序に従って前記複数の特定記憶領域に記憶された複数の前記態様情報のそれぞれに対応する表示が順次実行されるように前記情報表示手段を制御することを特徴とする特徴ｋ１乃至ｋ９のいずれか１に記載の遊技機。

【５６６４】

特徴ｋ１０によれば、複数の態様情報のそれぞれに対応する報知が順次実行されるため

、情報表示手段の数を抑えながらも、複数の期間における所定事象の発生頻度を個別に把握することが可能となる。また、所定表示順序に従って複数の特定記憶領域に記憶された複数の態様情報のそれぞれに対応する表示が順次実行されるため、表示対象となっている態様情報の種類を遊技ホールの管理者が把握し易くなる。

【５６６５】

特徴ｋ１１．前記複数の特定記憶領域に対応付けて所定表示順序が定められていることを特徴とする特徴ｋ１０に記載の遊技機。

【５６６６】

特徴ｋ１１によれば、複数の特定記憶領域に対応付けて態様情報に対応する表示の所定表示順序が定められているため、一の態様情報に対応する表示を新たに開始する場合において表示対象となる態様情報の種類を特定するための処理構成を簡素なものとすることが可能となる。

【５６６７】

特徴ｋ１２．前記態様情報表示制御手段は、前記所定対応表示が前記情報表示手段にて行われた後において前記態様情報に対応する表示を前記情報表示手段に行わせる場合、前記所定表示順序における最初の順番に対応する前記態様情報に対応する表示から開始させることを特徴とする特徴ｋ１０又はｋ１１に記載の遊技機。

【５６６８】

特徴ｋ１２によれば、所定の表示契機が発生したことに基づいて所定対応表示が行われた後は、所定表示順序における最初の順番に対応する態様態様に対応する表示から開始される。これにより、所定の表示契機が発生した場合には所定表示順序の最初の順番から態様情報に対応する表示を改めて確認することが可能となる。

【５６６９】

特徴ｋ１３．所定の期間開始契機が発生してから所定の期間終了契機が発生するまでの所定の期間が経過したことを特定する期間経過特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２１０の処理を実行する機能）と、

当該期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されたことに基づいて、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して前記情報導出手段により導出された前記所定の期間における遊技の結果に対応する前記態様情報を期間対応態様情報として前記複数の特定記憶領域に記憶させる記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２０３及びステップＳＡ２１６の処理を実行する機能）と、

を備え、

当該記憶実行手段は、前記複数の特定記憶領域に前記期間対応態様情報が前記情報導出手段により導出された順序に従って記憶された状態となるようにすることを特徴とする特徴ｋ１０乃至ｋ１２のいずれか１に記載の遊技機。

【５６７０】

特徴ｋ１３によれば、期間対応態様情報を導出された順序に従って確認することが可能となる。

【５６７１】

特徴ｋ１４．前記情報導出手段は、処理実行契機が発生することに基づいて前記態様情報を導出するための情報導出処理を実行するものであって、前記態様情報の導出を開始してから当該態様情報の導出を完了するまでに前記情報導出処理を複数回実行するものであることを特徴とする特徴ｋ１乃至ｋ１３のいずれか１に記載の遊技機。

【５６７２】

特徴ｋ１４によれば、態様情報の導出を開始してから当該態様情報の導出が完了するまでに情報導出処理が複数回実行されるため、１回の情報導出処理にて態様情報の導出を完了させる構成に比べて情報導出処理を実行するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【５６７３】

特徴ｋ１５．所定の期間開始契機が発生してから所定の期間終了契機が発生するまでの

所定の期間が経過したことを特定する期間経過特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２１０の処理を実行する機能）と、
　前記期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されたことに基づいて、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して前記情報導出手段により導出された前記所定の期間における遊技の結果に対応する前記態様情報を期間対応態様情報として態様情報記憶手段（演算結果記憶エリア２３４）に記憶させる記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２０３及びステップＳＡ２１６の処理を実行する機能）と、
を備え、
　前記態様情報表示制御手段は、前記態様情報記憶手段に記憶された前記期間対応態様情報に対応する表示が行われるように前記情報表示手段を表示制御するものであり、
　前記所定対応表示制御手段は、前記期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定された場合に前記所定の表示契機が発生したものとして、前記所定対応表示が前記情報表示手段にて行われるようにすることを特徴とする特徴ｋ１４に記載の遊技機。
【５６７４】
　特徴ｋ１５によれば、所定の期間の単位で導出された過去の態様情報が期間対応態様情報として記憶されるとともに当該期間対応態様情報に対応する表示が情報表示手段にて行われる。これにより、遊技ホールの管理者は情報表示手段を確認することにより、所定の期間の単位で導出された過去の期間対応態様情報を把握することが可能となる。また、所定の期間が経過した場合には情報表示手段にて所定対応表示が行われた後に、所定の期間が経過したことで新たに導出された期間対応態様情報に対応する表示が行われる。これにより、情報表示手段における期間対応態様情報に対応する表示が所定の期間が経過したことに基づいて新たに導出された期間対応態様情報に対応する表示であるのか否かを遊技ホールの管理者が把握することが可能となる。また、期間対応態様情報を導出している途中の期間において所定対応表示が行われるようにすることが可能となるため、所定の期間が経過して期間対応態様情報を導出している途中であるにも関わらずそれとは無関係に期間対応態様情報に対応する表示が行われてしまわないようにすることが可能となる。
【５６７５】
　特徴ｋ１６．前記所定対応表示制御手段は、前記情報導出手段により一の前記態様情報を導出するために要する最長の期間よりも長い期間に亘って前記所定対応表示を前記情報表示手段にて行わせることを特徴とする特徴ｋ１５に記載の遊技機。
【５６７６】
　特徴ｋ１６によれば、所定の期間が経過して期間対応態様情報を導出している途中である場合には情報表示手段にて所定対応表示が行われることとなる。
【５６７７】
　なお、特徴ｋ１～ｋ１６の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、

特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５６７８】

＜特徴ｌ群＞

特徴ｌ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２３１）に記憶させる履歴記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３における通常の入球管理処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報（ベース値）を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２０１の処理を実行する機能）と、

前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する態様情報記憶手段（演算結果記憶エリア２３４）と、

当該態様情報記憶手段に記憶された前記態様情報に対応する表示が行われるように情報表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を表示制御する態様情報表示制御手段（主側ＣＰＵ６３における表示用処理及び第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、

を備え、

前記態様情報記憶手段は、前記情報導出手段により異なるタイミングで導出された複数の前記態様情報のそれぞれを記憶することを可能とするように複数の特定記憶領域（現状エリア３１１、第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３、第３履歴エリア３１４）を備え、

前記態様情報表示制御手段は、所定表示順序に従って前記複数の前記特定記憶領域に記憶された複数の前記態様情報のそれぞれに対応する表示が順次実行されるように前記情報表示手段を制御することを特徴とする遊技機。

【５６７９】

特徴ｌ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報が導出されるとともに、その導出された態様情報に対応する表示が情報表示手段にて行われる。これにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。

【５６８０】

また、態様情報記憶手段には導出されたタイミングが異なる複数の態様情報が記憶されるとともにそれら複数の態様情報のそれぞれに対応する報知が順次実行されるため、情報表示手段の数を抑えながらも、複数の期間における所定事象の発生頻度を個別に把握することが可能となる。また、所定表示順序に従って複数の特定記憶領域に記憶された複数の態様情報のそれぞれに対応する表示が順次実行されるため、表示対象となっている態様情報の種類を遊技ホールの管理者が把握し易くなる。

【５６８１】

特徴ｌ２．前記複数の特定記憶領域に対応付けて所定表示順序が定められていることを特徴とする特徴ｌ１に記載の遊技機。

【５６８２】
特徴ｌ２によれば、複数の特定記憶領域に対応付けて態様情報に対応する表示の所定表示順序が定められているため、一の態様情報に対応する表示を新たに開始する場合において表示対象となる態様情報の種類を特定するための処理構成を簡素なものとすることが可能となる。
【５６８３】
特徴ｌ３．所定の表示契機が発生したことに基づいて、前記態様情報に対応する表示が新たに開始される前に所定対応表示（シフト前表示）が前記情報表示手段にて行われるようにする所定対応表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ３２０の処理及び第２タイマ割込み処理を実行する機能）を備え、
前記態様情報表示制御手段は、前記所定対応表示が前記情報表示手段にて行われた後において前記態様情報に対応する表示を前記情報表示手段に行わせる場合、前記所定表示順序における最初の順番に対応する前記態様情報に対応する表示から開始させることを特徴とする特徴ｌ１又はｌ２に記載の遊技機。
【５６８４】
特徴ｌ３によれば、所定の表示契機が発生したことに基づいて所定対応表示が行われた後は、所定表示順序における最初の順番に対応する態様態様に対応する表示から開始される。これにより、所定の表示契機が発生した場合には所定表示順序の最初の順番から様情報に対応する表示を改めて確認することが可能となる。
【５６８５】
特徴ｌ４．所定の期間開始契機が発生してから所定の期間終了契機が発生するまでの所定の期間が経過したことを特定する期間経過特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２１０の処理を実行する機能）と、
当該期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されたことに基づいて、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して前記情報導出手段により導出された前記所定の期間における遊技の結果に対応する前記態様情報を期間対応態様情報として前記複数の特定記憶領域に記憶させる記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２０３及びステップＳＡ２１６の処理を実行する機能）と、
を備え、
当該記憶実行手段は、前記複数の特定記憶領域に前記期間対応態様情報が前記情報導出手段により導出された順序に従って記憶された状態となるようにすることを特徴とする特徴ｌ１乃至ｌ３のいずれか１に記載の遊技機。
【５６８６】
特徴ｌ４によれば、期間対応態様情報を導出された順序に従って確認することが可能となる。
【５６８７】
特徴ｌ５．前記態様情報に対応する表示が行われている状況から当該態様情報とは異なる前記態様情報に対応する表示を行う前に前記情報表示手段が切換前状態（インターバル用非表示の状態）となるようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ３１６の処理及び第２タイマ割込み処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｌ１乃至ｌ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５６８８】
特徴ｌ５によれば、表示対象となる態様情報が切り換わる場合には情報表示手段が切換前状態となることにより、表示対象となる態様情報が切り換わったことを遊技ホールの管理者が明確に把握することが可能となる。
【５６８９】
なお、特徴ｌ１～ｌ５の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５

、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５６９０】

＜特徴ｍ群＞

特徴ｍ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２３１）に記憶させる履歴記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３における通常の入球管理処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報（ベース値）を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２０１の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記情報導出手段は、処理実行契機が発生することに基づいて前記態様情報を導出するための情報導出処理を実行するものであって、前記態様情報の導出を開始してから当該態様情報の導出を完了するまでに前記情報導出処理を複数回実行するものであることを特徴とする遊技機。

【５６９１】

特徴ｍ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出されることにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、態様情報の導出を開始してから当該態様情報の導出が完了するまでに情報導出処理が複数回実行されるため、１回の情報導出処理にて態様情報の導出を完了させる構成に比べて情報導出処理を実行するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【５６９２】

特徴ｍ２．所定の期間開始契機が発生してから所定の期間終了契機が発生するまでの所定の期間が経過したことを特定する期間経過特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２１０の処理を実行する機能）と、

前記期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されたことに基づいて、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して前記情報導出手段により導出された前記所定の期間における遊技の結果に対応する前記態様情報を期間対応態様情

報として態様情報記憶手段（演算結果記憶エリア２３４）に記憶させる記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ２０３及びステップＳＡ２１６の処理を実行する機能）と、
前記態様情報記憶手段に記憶された前記期間対応態様情報に対応する表示が行われるように情報表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を表示制御する態様情報表示制御手段（主側ＣＰＵ６３における表示用処理及び第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、
前記期間経過特定手段により前記所定の期間が経過したことが特定されたことに基づいて、所定対応表示が前記情報表示手段にて行われるようにする所定対応表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ３２０の処理及び第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴ｍ１に記載の遊技機。
【５６９３】
特徴ｍ２によれば、所定の期間の単位で導出された過去の態様情報が期間対応態様情報として記憶されるとともに当該期間対応態様情報に対応する表示が情報表示手段にて行われる。これにより、遊技ホールの管理者は情報表示手段を確認することにより、所定の期間の単位で導出された過去の期間対応態様情報を把握することが可能となる。また、所定の期間が経過した場合には情報表示手段にて所定対応表示が行われた後に、所定の期間が経過したことで新たに導出された期間対応態様情報に対応する表示が行われる。これにより、情報表示手段における期間対応態様情報に対応する表示が所定の期間が経過したことに基づいて新たに導出された期間対応態様情報に対応する表示であるのか否かを遊技ホールの管理者が把握することが可能となる。また、期間対応態様情報を導出している途中の期間において所定対応表示が行われるようにすることが可能となるため、所定の期間が経過して期間対応態様情報を導出している途中であるにも関わらずそれとは無関係に期間対応態様情報に対応する表示が行われてしまわないようにすることが可能となる。
【５６９４】
特徴ｍ３．前記所定対応表示制御手段は、前記情報導出手段により一の前記態様情報を導出するために要する最長の期間よりも長い期間に亘って前記所定対応表示を前記情報表示手段にて行わせることを特徴とする特徴ｍ２に記載の遊技機。
【５６９５】
特徴ｍ３によれば、所定の期間が経過して期間対応態様情報を導出している途中である場合には情報表示手段にて所定対応表示が行われることとなる。
【５６９６】
なお、特徴ｍ１～ｍ３の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、

特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５６９７】

上記特徴ｋ群、上記特徴ｌ群及び上記特徴ｍ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５６９８】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５６９９】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５７００】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の管理が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５７０１】

＜特徴ｎ群＞

特徴ｎ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０９の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始される場合に第１設定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作）が行われたことに基づいて、前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１２にて肯定判定をする機能及びステップＳＡ４１７にて肯定判定をする機能、第４６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ９０５及びステップＳＡ９１６にて肯定判定をする機能並びにステップＳＡ９１７にて肯定判定をする機能）と、

動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が行われたことに基づいて、前記設定手段により設定されている前記使用対象となる設定値が報知されるようにする報知発生手段（主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、

を備え、

前記状況発生手段は、前記設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止された場合、その後に動作電力の供給が開始される場合に前記第２設定関連操作が行われたとしても前記

設定可能状況となるようにする開始後発生手段（第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１２にて肯定判定をする機能、第４６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ９０５及びステップＳＡ９１６にて肯定判定をする機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【５７０２】

特徴ｎ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、使用対象となる設定値を変更するためには動作電力の供給が開始される場合に第１設定関連操作を行う必要があるため、使用対象となる設定値を不正に変更しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。また、動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作を行うことで使用対象の設定値が報知されるため、遊技ホールの管理者は必要に応じて使用対象の設定値を確認することが可能となる。

【５７０３】

また、設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止された場合、その後に動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作が行われたとしても設定可能状況となる。これにより、使用対象となる設定値を変更している途中で動作電力の供給が停止された場合にはその後の動作電力の供給の再開に際して、使用対象の設定値の報知よりも使用対象の設定値の変更を優先させることが可能となり、使用対象の設定値の変更が実際には完了していないにも関わらず遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【５７０４】

特徴ｎ２．前記設定可能状況において変更途中の設定値が報知されるようにする状況報知手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ８０１～ステップＳＡ８０３の処理を実行する機能並びに第２タイマ割込み処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｎ１に記載の遊技機。

【５７０５】

特徴ｎ２によれば、設定可能状況においては変更途中の設定値が報知されるため現状の設定値を把握しながら設定値の変更作業を行うことが可能となる。また、このように設定可能状況において変更途中の設定値が報知されることにより、動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作が行われたとしても設定可能状況となることで設定値の変更操作が優先される構成であったとしても、実質的に設定値の確認も行うことが可能となる。

【５７０６】

特徴ｎ３．前記状況報知手段及び前記報知発生手段はいずれも所定の表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）にて対象となる設定値が表示されるようにすることを特徴とする特徴ｎ２に記載の遊技機。

【５７０７】

特徴ｎ３によれば、設定値の変更が行われる場合及び設定値の確認が行われる場合のいずれであっても所定の表示手段にて対象となる設定値が表示されるため、それぞれの状況に対して所定の表示手段を兼用することが可能となる。また、動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作が行われたとしても設定可能状況となる構成であったとしても、設定可能状況となることで所定の表示手段にて設定値が表示されるため、第２設定関連操作を行った遊技ホールの管理者は当該所定の表示手段を目視することで設定値を確認することが可能となる。

【５７０８】

特徴ｎ４．前記状況報知手段は、前記変更途中の設定値に対応する表示と前記設定可能状況であることに対応する表示とが前記所定の表示手段にて行われるようにすることを特徴とする特徴ｎ３に記載の遊技機。

【５７０９】

特徴ｎ４によれば、設定可能状況である場合には所定の表示手段にて変更途中の設定値に対応する表示が行われるだけではなく設定可能状況であることに対応する表示が行われ

る。これにより、設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作が行われたにも関わらず設定可能状況となった場合、設定可能状況となったことを遊技ホールの管理者が把握し易くなる。

【５７１０】

特徴ｎ５．前記開始後発生手段は、前記設定可能状況とする場合、前記設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止された場合に選択されていた設定値から当該設定値の変更を可能とすることを特徴とする特徴ｎ１乃至ｎ４のいずれか１に記載の遊技機。

【５７１１】

特徴ｎ５によれば、設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止されたとしても、動作電力の供給が再開された場合には動作電力の供給が停止される直前の状態から設定値の変更操作を継続して行うことが可能となる。

【５７１２】

特徴ｎ６．前記設定手段により設定された設定値に対応する設定対応情報を記憶する設定対応記憶手段（設定参照用エリア３４１）と、

前記設定可能状況において選択されている設定値に対応する選択対応情報を記憶する選択対応記憶手段（設定更新用エリア３４２）と、

を備え、

前記状況発生手段は、前記設定可能状況において変更契機が発生した場合に選択対象となっている設定値が変更されるように前記選択対応記憶手段に記憶されている前記選択対応情報を変更する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０８の処理を実行する機能）を備え、

前記設定手段は、前記設定可能状況において終了契機が発生した場合に前記選択対応記憶手段に記憶されている前記選択対応情報に対応する情報を前記設定対応情報として前記設定対応記憶手段に記憶させることにより、前記設定可能状況において選択対象となっていた設定値を使用対象として設定するものであり、

前記開始後発生手段は、前記設定可能状況とする場合、前記設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止された場合に前記選択対応記憶手段に記憶されていた前記選択対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更を可能とすることを特徴とする特徴ｎ１乃至ｎ５のいずれか１に記載の遊技機。

【５７１３】

特徴ｎ６によれば、使用対象の設定値に対応する設定対応情報を記憶する設定対応記憶手段と、設定可能状況において変更途中の設定値に対応する選択対応情報を記憶する選択対応記憶手段とが設けられていることにより、設定可能状況が開始される前に設定されていた設定値の情報を記憶保持しながら、設定可能状況において設定値を変更することが可能となる。この場合に、設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止された後において動作電力の供給が再開された場合には動作電力の供給が停止された場合に選択対応記憶手段に記憶されていた選択対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更が行われる。これにより、設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止されたとしても、動作電力の供給が再開された場合には動作電力の供給が停止される直前の状態から設定値の変更操作を継続して行うことが可能となる。

【５７１４】

特徴ｎ７．前記状況発生手段は、前記設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始される場合に前記第１設定関連操作が行われた場合、前記設定対応記憶手段に記憶されている前記設定対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更を可能とする手段（第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１７にて肯定判定をする機能、第４６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ９１７にて肯定判定をする機能）を備えていることを特徴とする特徴ｎ６に記載の遊技機。

【５７１５】

特徴ｎ７によれば、設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止された後において動作

電力の供給が再開される場合に第２設定関連操作が行われた場合には動作電力の供給が停止される前に変更対象となっていた設定値から当該設定値の変更を再開することが可能となる一方、設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止された後において動作電力の供給が再開される場合に第２設定関連操作が行われた場合には設定対応記憶手段に記憶されている設定対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更が行われる。これにより、設定値の変更を開始する場合における初期の設定値を、動作電力の供給が再開される場合における操作内容に応じて異ならせることが可能となる。

【５７１６】

特徴ｎ８．前記開始後発生手段は、前記設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始される場合に前記第１設定関連操作及び前記第２設定関連操作のいずれもが行われなかたっとしても前記設定可能状況となるようにし得ることを特徴とする特徴ｎ１乃至ｎ７のいずれか１に記載の遊技機。

【５７１７】

特徴ｎ８によれば、設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止された場合にはその後の動作電力の供給が開始される場合に第１設定関連操作及び第２設定関連操作のいずれもが行われなかったとしても設定可能状況となり得るため、設定値の変更を行っている途中に動作電力の供給が停止された場合にはその後の動作電力の供給の再開に際して設定値の変更を行うことが可能な状況を積極的に生じさせることが可能となる。

【５７１８】

特徴ｎ９．前記第１設定関連操作には、設定キー挿入部（設定キー挿入部６８ａ）が設定キーにより所定対応状態（ＯＮ操作された状態）とされていることを含み、

前記状況発生手段は、前記設定キー挿入部が前記設定キーにより前記所定対応状態から特定対応状態（ＯＦＦ操作された状態）に変更されたことを特定したことに基づいて前記設定可能状況を終了させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０９及びステップＳＡ７１０の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｎ１乃至ｎ８のいずれか１に記載の遊技機。

【５７１９】

特徴ｎ９によれば、設定可能状況とするためには設定キーを利用して設定キー挿入部を所定対応状態とする必要があるため、使用対象となる設定値を不正に変更しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。この場合に、設定可能状況は設定キー挿入部が特定対応状態であるだけでは終了することはなく設定キー挿入部が所定対応状態から特定対応状態に変更された場合に終了する。これにより、設定可能状況の途中で動作電力の供給が停止された場合においてその後に設定キー挿入部が特定対応状態である状況で動作電力の供給が開始されたとしても、即座に設定可能状況が終了されることはなく、設定キー挿入部を特定対応状態から所定対応状態に変更した後に更に所定対応状態から特定対応状態に変更することで設定可能状況が終了されるため、遊技ホールの管理者にとって好ましいタイミングで設定可能状況を終了させることが可能となる。

【５７２０】

特徴ｎ１０．前記状況発生手段は、前記報知発生手段により前記使用対象の設定値の報知が行われている途中で動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始される場合に前記第１設定関連操作が行われた場合、前記設定可能状況となるようにすることを特徴とする特徴ｎ１乃至ｎ９のいずれか１に記載の遊技機。

【５７２１】

特徴ｎ１０によれば、使用対象の設定値の報知が行われている途中で動作電力の供給が停止されたとしても、その後の動作電力の供給の開始に際して第１設定関連操作が行われた場合には設定可能状況となる。これにより、設定値の確認作業よりも設定値の変更作業を優先させることが可能となる。

【５７２２】

なお、特徴ｎ１～ｎ１０の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特

徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５７２３】

＜特徴ｏ群＞

特徴ｏ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、

前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止されたことに基づいて、その後に動作電力の供給が開始された後に前記所定の設定関連処理を途中から再開させる途中再開手段（第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１２にて肯定判定をする機能及び主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１４にて肯定判定をする機能、第４６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ９０５及びステップＳＡ９１６にて肯定判定をする機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５７２４】

特徴ｏ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止されたとしても、動作電力の供給が再開された場合には所定の設定関連処理が途中から再開される。これにより、所定の設定関連処理の途中で動作電力の供給が停止されたとしても、動作電力の供給が再開された場合には所定の設定関連処理を引き続き継続させることが可能となる。

【５７２５】

特徴ｏ２．前記設定関連実行手段は、所定設定関連操作（所定の設定関連処理が設定値更新処理であれば設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作

、所定の設定関連処理が設定確認用処理であれば設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が行われたことに基づいて前記所定の設定関連処理を実行するものであり、
　前記途中再開手段は、前記所定設定関連操作が行われなかったとしても前記所定の設定関連処理を途中から再開させることを特徴とする特徴ｏ１に記載の遊技機。
【５７２６】
　特徴ｏ２によれば、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合には所定設定関連操作が行われなかったとしても所定の設定関連処理が途中から再開されるため、所定の設定関連処理の途中からの再開を優先させることが可能となる。
【５７２７】
　特徴ｏ３．前記設定関連実行手段は、動作電力の供給が開始される場合に前記所定設定関連操作が行われたことに基づいて前記所定の設定関連処理を実行するものであり、
　前記途中再開手段は、動作電力の供給が開始される場合に前記所定設定関連操作が行われなかったとしても前記所定の設定関連処理を途中から再開させるものであり、
　前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が開始される場合に前記所定設定関連操作が行われた場合、前記途中再開手段により前記所定の設定関連処理が途中から再開されるのではなく、前記設定関連実行手段により前記所定の設定関連処理が新たに開始されることを特徴とする特徴ｏ２に記載の遊技機。
【５７２８】
　特徴ｏ３によれば、動作電力の供給が開始される場合に所定設定関連操作が行われたことに基づいて所定の設定関連処理が実行されるため、所定の設定関連処理を不正に実行させる行為を行いづらくさせることが可能となる。この場合に、所定の設定関連処理の途中で動作電力の供給が停止された後において動作電力の供給が再開される場合に所定設定関連操作が行われなかったとしても所定の設定関連処理が途中から再開されるため、所定の設定関連処理の途中からの再開を優先させることが可能となる。その一方、所定の設定関連処理の途中で動作電力の供給が停止された後において動作電力の供給が再開される場合に所定設定関連操作が行われた場合には所定の設定関連処理が途中から再開されるのではなく新たに開始される。これにより、所定の設定関連処理の途中で動作電力の供給が停止された場合、動作電力の供給が再開される場合における所定設定関連操作の有無により、所定の設定関連処理を新たに開始させること及び所定の設定関連処理を途中から再開させることのいずれかを選択することが可能となる。
【５７２９】
　特徴ｏ４．前記所定設定関連操作には、設定キー挿入部（設定キー挿入部６８ａ）が設定キーにより所定対応状態（ＯＮ操作された状態）とされていることを含み、
　前記設定関連実行手段は、前記設定キー挿入部が前記設定キーにより前記所定対応状態から特定対応状態（ＯＦＦ操作された状態）に変更されたことを特定したことに基づいて前記所定の設定関連処理を終了させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ５０４の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０９及びステップＳＡ７１０の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｏ２又はｏ３に記載の遊技機。
【５７３０】
　特徴ｏ４によれば、所定の設定関連処理を開始させるためには設定キーを利用して設定キー挿入部を所定対応状態とする必要があるため、所定の設定関連処理を不正に実行させる行為を行いづらくさせることが可能となる。この場合に、所定の設定関連処理は設定キー挿入部が特定対応状態であるだけでは終了することはなく設定キー挿入部が所定対応状態から特定対応状態に変更された場合に終了する。これにより、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に設定キー挿入部が特定対応状態である状況で動作電力の供給が開始されたとしても、即座に所定の設定関連処理が終了されることはなく、設定キー挿入部を特定対応状態から所定対応状態に変更した後に更に所定対応状態から特定対応状態に変更することで所定の設定関連処理が終了されるため

、遊技ホールの管理者にとって好ましいタイミングで所定の設定関連処理を終了させることが可能となる。

【５７３１】

特徴ｏ５．前記所定の設定関連処理は使用対象となる設定値を変更するための処理であることを特徴とする特徴ｏ１乃至ｏ４のいずれか１に記載の遊技機。

【５７３２】

特徴ｏ５によれば、設定値を変更している途中で動作電力の供給が停止されたとしても、動作電力の供給が再開された場合にはその変更途中の設定値から当該設定値の変更を再開させることが可能となる。これにより、設定値を変更している途中で動作電力の供給が停止されたとしても、動作電力の供給が再開された場合には設定値の変更作業を継続して行うことが可能となる。

【５７３３】

特徴ｏ６．前記所定の設定関連処理は使用対象となる設定値を変更するための処理であり、

使用対象の設定値に対応する設定対応情報を記憶する設定対応記憶手段（設定参照用エリア３４１）と、

前記所定の設定関連処理において選択されている設定値に対応する選択対応情報を記憶する選択対応記憶手段（設定更新用エリア３４２）と、

を備え、

前記設定関連実行手段は、

前記所定の設定関連処理として、変更契機が発生した場合に選択対象となっている設定値が変更されるように前記選択対応記憶手段に記憶されている前記選択対応情報を変更する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０８の処理を実行する機能）と、

前記所定の設定関連処理として、終了契機が発生した場合に前記選択対応記憶手段に記憶されている前記選択対応情報に対応する情報を前記設定対応情報として前記設定対応記憶手段に記憶させることにより、選択対象となっていた設定値を使用対象として設定する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０９の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記途中再開手段は、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合に前記選択対応記憶手段に記憶されていた前記選択対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更を可能とすることを特徴とする特徴ｏ１乃至ｏ５のいずれか１に記載の遊技機。

【５７３４】

特徴ｏ６によれば、使用対象の設定値に対応する設定対応情報を記憶する設定対応記憶手段と、設定可能状況において変更途中の設定値に対応する選択対応情報を記憶する選択対応記憶手段とが設けられていることにより、設定可能状況が開始される前に設定されていた設定値の情報を記憶保持しながら、設定可能状況において設定値を変更することが可能となる。この場合に、設定値を変更している途中で動作電力の供給が停止された後において動作電力の供給が再開された場合には動作電力の供給が停止された場合に選択対応記憶手段に記憶されていた選択対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更が行われる。これにより、設定値を変更している途中で動作電力の供給が停止されたとしても、動作電力の供給が再開された場合には動作電力の供給が停止される直前の状態から設定値の変更操作を継続して行うことが可能となる。

【５７３５】

特徴ｏ７．前記設定関連実行手段は、動作電力の供給が開始される場合に所定設定関連操作が行われたことに基づいて前記所定の設定関連処理を実行するものであり、

前記途中再開手段は、動作電力の供給が開始される場合に前記所定設定関連操作が行われなかったことに基づいて、前記所定の設定関連処理を途中から再開させるものであり、

前記設定関連実行手段は、前記所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が開始される場合に前記所定設定関連操作

が行われた場合、前記設定対応記憶手段に記憶されている前記設定対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更を可能とする手段（第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１７にて肯定判定をする機能、第４６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ９１７にて肯定判定をする機能）を備えていることを特徴とする特徴ｏ６に記載の遊技機。

【５７３６】

特徴ｏ７によれば、設定値を変更している途中で動作電力の供給が停止された後において動作電力の供給が再開される場合に所定設定関連操作が行われなかったことに基づいて動作電力の供給が停止される前に変更対象となっていた設定値から当該設定値の変更を再開することが可能となる一方、設定値を変更している途中で動作電力の供給が停止された後において動作電力の供給が再開される場合に所定設定関連操作が行われた場合には設定対応記憶手段に記憶されている設定対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更が行われる。これにより、設定値の変更を開始する場合における初期の設定値を、動作電力の供給が再開される場合における操作内容に応じて異ならせることが可能となる。

【５７３７】

なお、特徴ｏ１～ｏ７の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５７３８】

＜特徴ｐ群＞

特徴ｐ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

所定設定関連操作（所定の設定関連処理が設定値更新処理であれば設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作、所定の設定関連処理が設定確認用処理であれば設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が行われたことに基づいて、前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、

を備え、
当該設定関連実行手段は、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合、その後に動作電力の供給が開始された後に前記所定設定関連操作が行われていなくても前記所定の設定関連処理を実行する供給後実行手段（第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１２にて肯定判定をする機能及び主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１４にて肯定判定をする機能、第４６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ９０５及びステップＳＡ９１６にて肯定判定をする機能）を備えていることを特徴とする遊技機。
【５７３９】
特徴ｐ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、所定設定関連操作を行うことで所定の設定関連処理が実行されるようにすることが可能となる。この場合に、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止されたとしても、動作電力の供給が再開された場合には所定設定関連操作が行われていなくても所定の設定関連処理が実行される。これにより、所定の設定関連処理の実行を優先させることが可能となる。
【５７４０】
特徴ｐ２．前記設定関連実行手段は、動作電力の供給が開始される場合に前記所定設定関連操作が行われたことに基づいて前記所定の設定関連処理を実行するものであり、
前記供給後実行手段は、動作電力の供給が開始される場合に前記所定設定関連操作が行われなかったとしても前記所定の設定関連処理を実行することを特徴とする特徴ｐ１に記載の遊技機。
【５７４１】
特徴ｐ２によれば、動作電力の供給が開始される場合に所定設定関連操作が行われたことに基づいて所定の設定関連処理が実行されるため、所定の設定関連処理を不正に実行させる行為を行いづらくさせることが可能となる。この場合に、所定の設定関連処理の途中で動作電力の供給が停止された後において動作電力の供給が再開される場合に所定設定関連操作が行われなかったとしても所定の設定関連処理が実行されるため、所定の設定関連処理の実行を優先させることが可能となる。
【５７４２】
特徴ｐ３．前記所定設定関連操作には、設定キー挿入部（設定キー挿入部６８ａ）が設定キーにより所定対応状態（ＯＮ操作された状態）とされていることを含み、
前記設定関連実行手段は、前記設定キー挿入部が前記設定キーにより前記所定対応状態から特定対応状態（ＯＦＦ操作された状態）に変更されたことを特定したことに基づいて前記所定の設定関連処理を終了させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ５０４の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０９及びステップＳＡ７１０の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｐ１又はｐ２に記載の遊技機。
【５７４３】
特徴ｐ３によれば、所定の設定関連処理を開始させるためには設定キーを利用して設定キー挿入部を所定対応状態とする必要があるため、所定の設定関連処理を不正に実行させる行為を行いづらくさせることが可能となる。この場合に、所定の設定関連処理は設定キー挿入部が特定対応状態であるだけでは終了することはなく設定キー挿入部が所定対応状態から特定対応状態に変更された場合に終了する。これにより、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に設定キー挿入部が特定対応状態である状況で動作電力の供給が開始されたとしても、即座に所定の設定関連処理が終了されることはなく、設定キー挿入部を特定対応状態から所定対応状態に変更した後に更に所定対応状態から特定対応状態に変更することで所定の設定関連処理が終了されるため、遊技ホールの管理者にとって好ましいタイミングで所定の設定関連処理を終了させることが可能となる。

【５７４４】
特徴ｐ４．前記供給後実行手段は、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合であっても、その後に動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作が行われた場合、前記所定の設定関連処理を実行しないことを特徴とする特徴ｐ１乃至ｐ３のいずれか１に記載の遊技機。
【５７４５】
特徴ｐ４によれば、所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合であってもその後に動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作が行われた場合には所定の設定関連処理が実行されない。これにより、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合であってもその後に所定の設定関連処理を実行する必要がない場合には、動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作を行うことで所定の設定関連処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。
【５７４６】
特徴ｐ５．前記所定の設定関連処理は使用対象となる設定値を報知するための処理であることを特徴とする特徴ｐ１乃至ｐ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５７４７】
特徴ｐ５によれば、設定値の報知が行われている途中で動作電力の供給が停止された場合にはその後に動作電力の供給が開始される場合に所定設定関連操作が行われなかったとしても設定値の報知が再度開始される。これにより、設定値の報知を優先させることが可能となる。
【５７４８】
特徴ｐ６．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０９の処理を実行する機能）と、
動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作）が行われたことに基づいて、前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１２にて肯定判定をする機能及びステップＳＡ４１７にて肯定判定をする機能、第４６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ９０５及びステップＳＡ９１６にて肯定判定をする機能並びにステップＳＡ９１７にて肯定判定をする機能）と、
を備え、
前記供給後実行手段は、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合であっても、その後に動作電力の供給が開始される場合に前記特定関連操作が行われた場合、前記所定の設定関連処理を実行しないものであり、
前記状況発生手段は、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合であっても、その後に動作電力の供給が開始される場合に前記特定関連操作が行われた場合、前記設定可能状況となるようにすることを特徴とする特徴ｐ５に記載の遊技機。
【５７４９】
特徴ｐ６によれば、設定値の報知が行われている途中で動作電力の供給が停止された場合であってもその後に動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作が行われた場合には設定値の報知が実行されるのではなく、設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況となる。これにより、設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況とするための特定関連操作が行われた場合には設定値の報知よりも設定可能状況の発生を優先させることが可能となる。
【５７５０】
特徴ｐ７．前記所定の設定関連処理は使用対象となる設定値を変更するための処理であることを特徴とする特徴ｐ１乃至ｐ６のいずれか１に記載の遊技機。
【５７５１】

特徴ｐ７によれば、設定値を変更している途中で動作電力の供給が停止されたとしても、動作電力の供給が再開された場合には設定値の変更を行うことが可能となる。これにより、設定値を変更している途中で動作電力の供給が停止されたとしても、動作電力の供給が再開された場合には設定値の変更作業を継続して行うことが可能となる。

【５７５２】

なお、特徴ｐ１～ｐ７の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５７５３】

＜特徴ｑ群＞

特徴ｑ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、

を備え、

当該設定関連実行手段は、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止されたとしても、その後に動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作（所定の設定関連処理が設定確認用処理であればＲＡＭクリア操作又は設定変更操作、所定の設定関連処理が設定値更新処理であればＲＡＭクリア操作）が行われた場合、前記所定の設定関連処理を実行しないことを特徴とする遊技機。

【５７５４】

特徴ｑ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合であってもその後に動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作が行われた場合には所定の設定関連処理が実行されない。これにより、所定の設定関

連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合であってもその後に所定の設定関連処理を実行する必要がない場合には、動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作を行うことで所定の設定関連処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【５７５５】

特徴ｑ２．前記所定の設定関連処理は使用対象となる設定値を報知するための処理であることを特徴とする特徴ｑ１に記載の遊技機。

【５７５６】

特徴ｑ２によれば、設定値の報知が行われている途中で動作電力の供給が停止されたとしてもその後に動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作が行われた場合には設定値の報知が再開されない。これにより、設定値の報知が行われている途中で動作電力の供給が停止されたとしてもその後に設定値の報知を行わせる必要がない場合には、動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作を行うことで設定値の報知が行われないようにすることが可能となる。

【５７５７】

特徴ｑ３．前記設定関連実行手段は、所定設定関連操作（所定の設定関連処理が設定値更新処理であれば設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作、所定の設定関連処理が設定確認用処理であれば設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が行われたことに基づいて前記所定の設定関連処理を実行するものであり、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止されたとしてもその後に動作電力の供給が開始される場合に前記所定設定関連操作ではなく前記特定関連操作が行われた場合には前記所定の設定関連処理を実行しないことを特徴とする特徴ｑ１又はｑ２に記載の遊技機。

【５７５８】

特徴ｑ３によれば、所定の設定関連処理を行わせるためには所定設定関連操作を行う必要があるため、所定の設定関連処理を不正に実行させる行為を行いづらくさせることが可能となる。

【５７５９】

特徴ｑ４．前記設定関連実行手段は、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始される場合に前記特定関連操作が行われなかった場合、前記所定設定関連操作が行われていなくても前記所定の設定関連処理を実行する手段（第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１２にて肯定判定をする機能及び主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１４にて肯定判定をする機能）を備えていることを特徴とする特徴ｑ３に記載の遊技機。

【５７６０】

特徴ｑ４によれば、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合、動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作を行うか否かによって、所定設定関連操作を行うことなく所定の設定関連処理が実行されるようにするか否かを選択することが可能となる。

【５７６１】

特徴ｑ５．前記所定設定関連操作には、設定キー挿入部（設定キー挿入部６８ａ）が設定キーにより所定対応状態（ＯＮ操作された状態）とされていることを含み、

前記設定関連実行手段は、前記設定キー挿入部が前記設定キーにより前記所定対応状態から特定対応状態（ＯＦＦ操作された状態）に変更されたことを特定したことに基づいて前記所定の設定関連処理を終了させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ５０４の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０９及びステップＳＡ７１０の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｑ４に記載の遊技機。

【５７６２】

特徴ｑ５によれば、所定の設定関連処理を開始させるためには設定キーを利用して設定キー挿入部を所定対応状態とする必要があるため、所定の設定関連処理を不正に実行させる行為を行いづらくさせることが可能となる。この場合に、所定の設定関連処理は設定キー挿入部が特定対応状態であるだけでは終了することはなく設定キー挿入部が所定対応状

態から特定対応状態に変更された場合に終了する。これにより、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に設定キー挿入部が特定対応状態である状況で動作電力の供給が開始されたとしても、即座に所定の設定関連処理が終了されることはなく、設定キー挿入部を特定対応状態から所定対応状態に変更した後に更に所定対応状態から特定対応状態に変更することで所定の設定関連処理が終了されるため、遊技ホールの管理者にとって好ましいタイミングで所定の設定関連処理を終了させることが可能となる。

【５７６３】

特徴ｑ６．動作電力の供給が開始される場合に前記特定関連操作が行われたことに基づいて、前記所定の設定関連処理とは異なる別処理を実行する別実行手段（所定の設定関連処理が設定確認用処理であれば主側ＣＰＵ６３におけるＲＡＭクリア処理のみを実行し設定値更新処理を実行しない機能又は主側ＣＰＵ６３におけるＲＡＭクリア処理と設定値更新処理とを実行する機能、所定の設定関連処理が設定値更新処理であれば第４５の実施形態における主側ＣＰＵ６３のＲＡＭクリア処理のみを実行し設定値更新処理を実行しない機能）を備えていることを特徴とする特徴ｑ１乃至ｑ５のいずれか１に記載の遊技機。

【５７６４】

特徴ｑ６によれば、別処理を実行させるために行われる特定関連操作を利用して、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が開始された場合に所定の設定関連処理が実行されないようにすることが可能となる。

【５７６５】

特徴ｑ７．前記別実行手段は、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止されたとしても、その後に動作電力の供給が開始される場合に前記特定関連操作が行われたことに基づいて前記別処理を実行することを特徴とする特徴ｑ６に記載の遊技機。

【５７６６】

特徴ｑ７によれば、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合であってもその後に動作電力の供給が開始された場合に特定関連操作が行われた場合には所定の設定関連処理よりも別処理の実行を優先させることが可能となる。

【５７６７】

特徴ｑ８．前記所定の設定関連処理は使用対象となる設定値を報知するための処理であり、前記別処理は使用対象となる設定値を変更するための処理であることを特徴とする特徴ｑ６又はｑ７に記載の遊技機。

【５７６８】

特徴ｑ８によれば、設定値の報知が行われている途中で動作電力の供給が停止されたとしてもその後に動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作が行われた場合には設定値の報知が再開されない。これにより、設定値の報知が行われている途中で動作電力の供給が停止されたとしてもその後に設定値の報知を行わせる必要がない場合には、動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作を行うことで設定値の報知が行われないようにすることが可能となる。また、このように設定値の報知が行われないようにするための操作として、設定値を変更するための処理を実行させるための特定関連操作を利用することが可能となる。

【５７６９】

なお、特徴ｑ１～ｑ８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９

、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５７７０】

＜特徴ｒ群＞

特徴ｒ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０９の処理を実行する機能）と、

前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１２にて肯定判定をする機能及びステップＳＡ４１７にて肯定判定をする機能、第４６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ９０５及びステップＳＡ９１６にて肯定判定をする機能並びにステップＳＡ９１７にて肯定判定をする機能）と、

前記設定手段により設定された設定値に対応する設定対応情報を記憶する設定対応記憶手段（設定参照用エリア３４１）と、

前記設定可能状況において選択されている設定値に対応する選択対応情報を記憶する選択対応記憶手段（設定更新用エリア３４２）と、

を備え、

前記状況発生手段は、前記設定可能状況において変更契機が発生した場合に選択対象となっている設定値が変更されるように前記選択対応記憶手段に記憶されている前記選択対応情報を変更する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０８の処理を実行する機能）を備え、

前記設定手段は、前記設定可能状況において終了契機が発生した場合に前記選択対応記憶手段に記憶されている前記選択対応情報に対応する情報を前記設定対応情報として前記設定対応記憶手段に記憶させることにより、前記設定可能状況において選択対象となっていた設定値を使用対象として設定するものであることを特徴とする遊技機。

【５７７１】

特徴ｒ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、使用対象の設定値に対応する設定対応情報を記憶する設定対応記憶手段と、設定可能状況において変更途中の設定値に対応する選択対応情報を記憶する選択対応記憶手段とが設けられていることにより、設定可能状況が開始される前に設定されていた設定値の情報を記憶保持しながら、設定可能状況において設定値を変更することが可能となる。

【５７７２】
特徴ｒ２．前記状況発生手段は、前記終了契機が発生する前に前記設定可能状況が終了した場合にその後に発生した前記設定可能状況において前回の前記設定可能状況において前記選択対応記憶手段に記憶されていた前記選択対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更を可能とする第１変更実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０１にて肯定判定をする機能）を備えていることを特徴とする特徴ｒ１に記載の遊技機。
【５７７３】
特徴ｒ２．終了契機が発生する前に設定可能状況が終了した後において設定可能状況が開始された場合に選択対応記憶手段に記憶されていた選択対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更が行われる。これにより、終了契機が発生する前に設定可能状況が終了したとしても、設定可能状況が再開された場合には前回の設定可能状況において最後に選択されていた設定値から当該設定値の変更操作を継続して行うことが可能となる。
【５７７４】
特徴ｒ３．前記状況発生手段は、前記終了契機が発生する前に前記設定可能状況が終了した場合にその後に発生した前記設定可能状況において前記設定対応記憶手段に記憶されている前記設定対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更を可能とする第２変更実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０１にて否定判定をする機能）を備えていることを特徴とする特徴ｒ２に記載の遊技機。
【５７７５】
特徴ｒ３によれば、終了契機が発生する前に設定可能状況が終了した後において設定可能状況が開始された場合に前回の設定可能状況において最後に選択されていた設定値から当該設定値の変更を再開することが可能となるだけではなく、終了契機が発生する前に設定可能状況が終了した後において設定可能状況が開始された場合に設定対応記憶手段に記憶されている設定対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更を行うことが可能となる。これにより、設定値の変更を開始する場合における初期の設定値を、設定可能状況が再開される場合における状況に応じて異ならせることが可能となる。
【５７７６】
特徴ｒ４．前記第２変更実行手段は、前記終了契機が発生することで終了した前記設定可能状況の後に発生した前記設定可能状況において前記設定対応記憶手段に記憶されている前記設定対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更を可能とすることを特徴とする特徴ｒ３に記載の遊技機。
【５７７７】
特徴ｒ４によれば、通常の設定可能状況においては現状の使用対象の設定値から当該設定値の変更が行われることとなる。
【５７７８】
特徴ｒ５．前記状況発生手段は、前記設定可能状況にて前記終了契機が発生する前に当該設定可能状況が終了した後の前記設定可能状況が開始される場合に特定関連操作が行われたことに基づいて、前記選択対応記憶手段に記憶されている前記選択対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更を可能とする状況及び前記設定対応記憶手段に記憶されている前記設定対応情報に対応する設定値から当該設定値の変更を可能とする状況のうち一方の状況となるようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４０５、ステップＳＡ４１２及びステップＳＡ４１７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｒ３又はｒ４に記載の遊技機。
【５７７９】
特徴ｒ５によれば、終了契機が発生する前に設定可能状況が終了した後において設定可能状況が開始された場合に、前回の設定可能状況において最後に選択されていた設定値から当該設定値の変更を再開させるか、又は現状の使用対象の設定値から当該設定値の変更を開始させるかを遊技ホールの管理者が選択することが可能となる。
【５７８０】
特徴ｒ６．前記設定可能状況において前記選択対応記憶手段に記憶されている前記選択

対応情報に対応する設定値の表示が所定の表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）にて行われるようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ８０１～ステップＳＡ８０３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｒ１乃至ｒ５のいずれか１に記載の遊技機。

【５７８１】

特徴ｒ６によれば、設定可能状況において変更途中の設定値を確認しながら設定値の変更操作を行うことが可能となる。

【５７８２】

特徴ｒ７．前記設定可能状況ではない状況において前記設定対応記憶手段に記憶されている前記設定対応情報に対応する設定値の表示が所定の表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）にて行われるようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ６０１～ステップＳＡ６０３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｒ１乃至ｒ６のいずれか１に記載の遊技機。

【５７８３】

特徴ｒ７によれば、現状の使用対象の設定値を必要に応じて確認することが可能となる。

【５７８４】

なお、特徴ｒ１～ｒ７の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５７８５】

上記特徴ｎ群、上記特徴ｏ群、上記特徴ｐ群、上記特徴ｑ群及び上記特徴ｒ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５７８６】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球し

た場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５７８７】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５７８８】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の有利度を決定付ける設定値に関する構成を好適なものとする必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５７８９】

＜特徴ｓ群＞

特徴ｓ１．所定キー挿入部（設定キー挿入部６８ａ）が所定キーにより所定対応状態（ＯＮ操作された状態）とされていることに基づいて所定対応処理（設定確認用処理、設定値更新処理）を開始させる所定対応開始手段（第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１３にて肯定判定をする機能及び主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１７にて肯定判定をする機能、第４６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ９１３にて肯定判定をする機能及びステップＳＡ９１７にて肯定判定をする機能）と、

前記所定キー挿入部が前記所定キーにより前記所定対応状態から特定対応状態（ＯＦＦ操作された状態）に変更されたことを特定したことに基づいて前記所定対応処理を終了させる所定対応終了手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ７０９及びステップＳＡ７１０の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５７９０】

特徴ｓ１によれば、所定対応処理を開始させるためには所定キーを利用して所定キー挿入部を所定対応状態とする必要があるため、所定対応処理を不正に開始させようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。この場合に、所定対応処理は所定キー挿入部が特定対応状態であるだけでは終了することはなく所定キー挿入部が所定対応状態から特定対応状態に変更された場合に終了する。これにより、何らかの原因で所定キー挿入部が特定対応状態である状況で所定対応処理が開始されたとしても、即座に所定対応処理が終了されることはなく、所定キー挿入部を特定対応状態から所定対応状態に変更した後に更に所定対応状態から特定対応状態に変更することで所定対応処理が終了されるため、遊技ホールの管理者にとって好ましいタイミングで所定対応処理を終了させることが可能となる。

【５７９１】

特徴ｓ２．特定開始条件が成立していることに基づいて、前記所定キー挿入部が前記特定対応状態である状況において前記所定対応処理を開始させる別開始手段（第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１２にて肯定判定をする機能及び主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１４にて肯定判定をする機能、第４６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ９０５及びステップＳＡ９１６にて肯定判定をする機能）を備えていることを特徴とする特徴ｓ１に記載の遊技機。

【５７９２】

特徴ｓ２によれば、特定開始条件が成立していることに基づいて所定キー挿入部が特定対応状態である状況であっても所定対応処理が開始されるため、所定対応処理の開始契機

を多様化させることが可能となる。但し、当該構成においては所定キー挿入部が特定対応状態である状況において所定対応処理が開始されることとなるが、上記特徴ｓ１の構成を備え、所定対応処理は所定キー挿入部が特定対応状態であるだけでは終了することはなく所定キー挿入部が所定対応状態から特定対応状態に変更された場合に終了する。これにより、所定キー挿入部が特定対応状態である状況で所定対応処理が開始されたとしても、即座に所定対応処理が終了されることはなく、所定キー挿入部を特定対応状態から所定対応状態に変更した後に更に所定対応状態から特定対応状態に変更することで所定対応処理が終了されるため、遊技ホールの管理者にとって好ましいタイミングで所定対応処理を終了させることが可能となる。

【５７９３】

特徴ｓ３．前記所定対応開始手段は、動作電力の供給が開始される場合に前記所定キー挿入部が前記所定対応状態となっていることに基づいて前記所定対応処理を開始させるものであり、

前記特定開始条件は、前記所定対応処理が実行されている状況において動作電力の供給が停止された場合であって動作電力の供給が再開された場合に成立することを特徴とする特徴ｓ２に記載の遊技機。

【５７９４】

特徴ｓ３によれば、動作電力の供給が開始される場合に所定キー挿入部が所定対応状態となっていることに基づいて所定対応処理が開始されるため、所定対応処理を不正に開始させようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。また、所定対応処理が実行されている状況において動作電力の供給が停止されたとしても動作電力の供給が再開される場合に特定開始条件が成立している場合には所定キー挿入部が所定対応状態となっていなくても所定対応処理が開始される。これにより、所定対応処理が途中で終了してしまった場合には所定対応処理の開始を優先させることが可能となる。

【５７９５】

特徴ｓ４．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）を備え、

前記所定対応処理は、前記設定値に関連する処理であることを特徴とする特徴ｓ１乃至ｓ３のいずれか１に記載の遊技機。

【５７９６】

特徴ｓ４によれば、設定値に関連する処理について上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【５７９７】

なお、特徴ｓ１～ｓ４の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特

徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５７９８】

上記特徴ｓ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５７９９】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば制御手段にて遊技者に有利な遊技状態を発生させるか否かを決定する抽選処理が実行される。

【５８００】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５８０１】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、制御手段における処理の進行が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５８０２】

＜特徴ｔ群＞

特徴ｔ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ２０５～ステップＳ２０７の処理を実行する機能、第１１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１０６～ステップＳ３１０８の処理を実行する機能、第１２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３２０７～ステップＳ３２０９の処理を実行する機能、第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５６０５～ステップＳ５６０７の処理を実行する機能、第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９１５の処理を実行する機能）と、

前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ１０３にて肯定判定をする機能、第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５５０３～ステップＳ５５０７にて肯定判定をする機能、第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１３にて肯定判定をする機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１２にて肯定判定をする機能）と、

前記設定可能状況となった場合、予め定められた開始対応の設定値から設定値の変更が行われるようにする開始対応手段（第１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ２０１の処理を実行する機能、第１１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップ

Ｓ３１０２の処理を実行する機能、第１２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３２０３の処理を実行する機能、第２２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５６０１の処理を実行する機能、第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３０４の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９０５の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。
【５８０３】
特徴ｔ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、設定可能状況となった場合には予め定められた開始対応の設定値から設定値の変更が行われる。これにより、設定可能状況となる前における使用対象の設定値に関係なく、設定可能状況においては一定の開始対応の設定値から当該設定値の変更操作を行うことが可能となる。よって、設定値の変更操作の作業内容が作業者にとって分かり易いものとなる。
【５８０４】
特徴ｔ２．前記開始対応の設定値は前記有利度が最も低い設定値（「設定１」）であることを特徴とする特徴ｔ１に記載の遊技機。
【５８０５】
特徴ｔ２によれば、設定可能状況となった場合には有利度が最も低い設定値から設定値の変更が行われる。これにより、遊技ホールの管理者が設定可能状況となった直後に意図せずに当該設定可能状況を終了させてしまったとしても有利度が最も低い設定値となるため、このような状況において遊技が行われたとしても遊技ホールに意図しない不利益が生じてしまわないようにすることが可能となる。
【５８０６】
特徴ｔ３．前記設定手段により設定された設定値に対応する設定対応情報を記憶する設定対応記憶手段（設定参照用エリア３４１）と、
前記設定可能状況において選択されている設定値に対応する選択対応情報を記憶する選択対応記憶手段（設定更新用エリア３４２）と、
を備え、
前記状況発生手段は、前記設定可能状況において変更契機が発生した場合に選択対象となっている設定値が変更されるように前記選択対応記憶手段に記憶されている前記選択対応情報を変更する手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３０７及びステップＳＢ３１０の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９０８及びステップＳＢ９１４の処理を実行する機能）を備え、
前記設定手段は、前記設定可能状況において終了契機が発生した場合に前記選択対応記憶手段に記憶されている前記選択対応情報に対応する情報を前記設定対応情報として前記設定対応記憶手段に記憶させることにより、前記設定可能状況において選択対象となっていた設定値を使用対象として設定するものであり、
前記開始対応手段は、前記設定可能状況となった場合に前記開始対応の設定値に対応する前記選択対応情報を前記選択対応記憶手段に記憶させることを特徴とする特徴ｔ１又はｔ２に記載の遊技機。
【５８０７】
特徴ｔ３によれば、使用対象の設定値に対応する設定対応情報を記憶する設定対応記憶手段と、設定可能状況において変更途中の設定値に対応する選択対応情報を記憶する選択対応記憶手段とが設けられていることにより、設定可能状況が開始される前に設定されていた設定値の情報を記憶保持しながら、設定可能状況において設定値を変更することが可能となる。
【５８０８】
特徴ｔ４．前記設定可能状況において前記選択対応記憶手段に記憶されている前記選択対応情報に対応する設定値の表示が所定の表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～

２０４）にて行われるようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ８０１～ステップＳＡ８０３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｔ３に記載の遊技機。

【５８０９】

特徴ｔ４によれば、設定可能状況において変更途中の設定値を確認しながら設定値の変更操作を行うことが可能となる。

【５８１０】

特徴ｔ５．前記設定可能状況ではない状況において前記設定対応記憶手段に記憶されている前記設定対応情報に対応する設定値の表示が所定の表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）にて行われるようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ６０１～ステップＳＡ６０３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｔ３又はｔ４に記載の遊技機。

【５８１１】

特徴ｔ５によれば、現状の使用対象の設定値を必要に応じて確認することが可能となる。

【５８１２】

なお、特徴ｔ１～ｔ５の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５８１３】

上記特徴ｔ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５８１４】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、こ

の場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５８１５】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５８１６】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の有利度を決定付ける設定値に関する構成を好適なものとする必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５８１７】

＜特徴ｕ群＞

特徴ｕ１．第１制御手段（ＭＰＵ６２）と、

当該第１制御手段が送信した情報に対応する制御を実行する第２制御手段（音光側ＭＰＵ３５２）と、

を備えた遊技機において、

前記第１制御手段は、

動作電力の供給が開始された場合において第１開始状況となっていることに基づいて第１開始対応情報（更新時の復帰コマンド）を送信する第１送信手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１４の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９１８の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始された場合において第２開始状況となっていることに基づいて第２開始対応情報（確認時の復帰コマンド又はクリア時の復帰コマンド）を送信する第２送信手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１８又はステップＳＢ２０７の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１８の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７２５の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１６の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１８の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５８１８】

特徴ｕ１によれば、第１制御手段が送信した情報に対応する制御が第２制御手段にて実行される構成において、第１制御手段は動作電力の供給が開始された場合に、第１開始状況となっていることに基づいて第１開始対応情報を送信し、第２開始状況となっていることに基づいて第２開始対応情報を送信する。これにより、動作電力の供給が開始された場合における開始状況の種類に対応する制御が第１制御手段だけではなく第２制御手段にて行われるようにすることが可能となる。

【５８１９】

特徴ｕ２．前記第１制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記第１開始状況である場合と前記第２開始状況である場合とで動作電力の供給開始時の処理（第４９の実施形態ではステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２、第５１の実施形態ではステップＳＢ６０１～ステップＳＢ６２２、第５２の実施形態ではステップＳＢ７０１～ステップＳＢ７２９、第５３の実施形態ではステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８及びステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６、第５４の実施形態ではステップＳＣ１０１～ステップＳＣ１２０及びステップＳＣ１２５～ステップＳＣ１２８）の少なくとも一部の処理内容が異なる構成であることを特徴とする特徴ｕ１に記載の遊技機。

【５８２０】

特徴ｕ２によれば、動作電力の供給が開始された場合に第１開始状況及び第２開始状況のうちいずれであるのかによって第１制御手段における動作電力の供給開始時の処理の少なくとも一部の処理内容が異なるものとなるため、第１制御手段にて動作電力の供給開始時の処理として開始状況に対応する処理が実行されるようにすることが可能となる。

【５８２１】

特徴ｕ３．前記第２制御手段は、

前記第１開始対応情報を受信した場合及び前記第２開始対応情報を受信した場合のいずれであっても開始対応処理を実行する開始対応実行手段（音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＢ４０５にて肯定判定をする機能）と、

前記第１開始対応情報及び前記第２開始対応情報のうち一方の開始対応情報を受信した場合には所定対応処理を実行し、前記第１開始対応情報及び前記第２開始対応情報のうち他方の開始対応情報を受信した場合には前記所定対応処理を実行しない所定対応実行手段（音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＢ４０７、ステップＳＢ４０９及びステップＳＢ４１１の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴ｕ１又はｕ２に記載の遊技機。

【５８２２】

特徴ｕ３によれば、第２制御手段は第１開始対応情報及び第２開始対応情報のいずれを受信した場合であっても開始対応処理を実行するため、第１制御手段からいずれかの開始対応情報が送信されることを契機として第２制御手段にて開始対応処理が実行されるようにすることが可能となる。また、第２制御手段は第１開始対応情報及び第２開始対応情報のうち一方の開始対応情報を受信した場合には所定対応処理を実行し、他方の開始対応情報を受信した場合には所定対応処理を実行しない。これにより、動作電力の供給が開始された場合における開始状況の種類に対応する制御が第１制御手段だけではなく第２制御手段にて行われるようにすることが可能となる。

【５８２３】

特徴ｕ４．前記第１開始状況及び前記第２開始状況のうち一方は、動作電力の供給が開始された場合において所定の開始対応操作（ＲＡＭクリア操作、設定変更操作又は設定確認操作）が行われたことに基づいて発生し、

前記第１開始状況及び前記第２開始状況のうち他方は、動作電力の供給が開始された場合において前記所定の開始対応操作が行われなかったことに基づいて発生することを特徴とする特徴ｕ３に記載の遊技機。

【５８２４】

特徴ｕ４によれば、動作電力の供給が開始された場合において所定の開始対応操作が行われたか否かに応じて、第１制御手段だけではなく第２制御手段にて実行される制御の内容を異ならせることが可能となる。

【５８２５】

特徴ｕ５．前記第１制御手段は、前記第１開始対応情報及び前記第２開始対応情報を含めた複数種類の開始対応情報のうちいずれかの開始対応情報を送信した後に遊技の進行を制御するための処理（ステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０）を実行する構成であり、

前記第２制御手段は、前記複数種類の開始対応情報のうちいずれかの開始対応情報を受信した後に、遊技の進行内容に対応する処理（ステップＳＢ４１２～ステップＳＢ４１４）を実行する構成であることを特徴とする特徴ｕ３又はｕ４に記載の遊技機。

【５８２６】

特徴ｕ５によれば、第１制御手段は遊技の進行を制御するための処理を開始する前にいずれかの開始対応情報を送信し、第２制御手段はいずれかの開始対応情報を受信した後に遊技の進行内容に対応する処理を実行する。これにより、第１制御手段にて遊技の進行を制御するための処理が実行される状況となった後に第２制御手段にて遊技の進行内容に対応する処理が実行されるようにすることが可能となる。この場合に、上記特徴ｕ３の構成を備えていることにより、第２制御手段における所定対応処理の実行有無を相違させる複

数の開始対応情報を利用して、遊技の進行内容に対応する処理の開始契機を第２制御手段に認識させることが可能となる。

【５８２７】

特徴ｕ６．前記第１制御手段は、

動作電力の供給が開始された場合において前記第１開始状況となっている場合及び前記第２開始状況となっている場合のいずれであっても共通対応処理を実行する手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１０３の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６０１～ステップＳＢ６０３の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７０１及びステップＳＢ７０２の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８０３の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１０１～ステップＳＣ１０３の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始された場合において前記第１開始状況及び前記第２開始状況のうち一方の開始状況となっていることに基づいて特定対応処理を実行し、動作電力の供給が開始された場合において前記第１開始状況及び前記第２開始状況のうち他方の開始状況となっていることに基づいて前記特定対応処理を実行しない手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１２、ステップＳＢ１１５又はステップＳＢ１１７の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１２、ステップＳＢ６１５又はステップＳＢ６１７の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７１１、ステップＳＢ７１８又はステップＳＢ７２１の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１０、ステップＳＢ８１３又はステップＳＢ８１５の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１１、ステップＳＣ１１５又はステップＳＣ１１７の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴ｕ１乃至ｕ５のいずれか１に記載の遊技機。

【５８２８】

特徴ｕ６によれば、第１制御手段は第１開始状況となっている場合及び第２開始状況となっている場合のいずれであっても共通対応処理を実行する一方、第１開始状況及び第２開始状況のうち一方の開始状況である場合に特定対応処理を実行する。これにより、いずれの開始状況であったとしても第１制御手段にて共通対応処理が実行されるようにする一方、開始状況の種類に対応する処理が第１制御手段にて実行されるようにすることが可能となる。この場合に、上記特徴ｕ１の構成を備え、第１制御手段は第１開始状況となっていることに基づいて第１開始対応情報を送信し第２開始状況となっていることに基づいて第２開始対応情報を送信するため、動作電力の供給が開始された場合における開始状況の種類に対応する制御が第１制御手段だけではなく第２制御手段にて行われるようにすることが可能となる。

【５８２９】

特徴ｕ７．前記第１制御手段は、

遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９１５の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始された場合に第１設定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作）が行われたことに基づいて、前記第１開始状況であるとして、前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする第１対応実行手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１４にて肯定判定をする機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１４にて肯定判定をする機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７１７にて肯定判定をする機能、第５３

の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１２にて肯定判定をする機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１３にて肯定判定をする機能）と、
　動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が行われたことに基づいて、前記第２開始状況であるとして、前記設定手段により設定されている前記使用対象となる設定値が報知されるようにする第２対応実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴ｕ１乃至ｕ６のいずれか１に記載の遊技機。
【５８３０】
　特徴ｕ７によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、使用対象となる設定値を変更するためには動作電力の供給が開始される場合に第１設定関連操作を行う必要があるため、使用対象となる設定値を不正に変更しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。また、動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作を行うことで使用対象の設定値が報知されるため、遊技ホールの管理者は必要に応じて使用対象の設定値を確認することが可能となる。この場合に、上記特徴ｕ１の構成を備え、第１制御手段は第１開始状況となっていることに基づいて第１開始対応情報を送信し第２開始状況となっていることに基づいて第２開始対応情報を送信するため、設定可能状況となる場合と使用対象となる設定値が報知される場合とで異なる制御が第２制御手段にて行われるようにすることが可能となる。
【５８３１】
　特徴ｕ８．前記第１制御手段は、
　遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、
　動作電力の供給が開始された場合に前記第１開始状況であることに基づいて前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する第１対応実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理又は設定確認用処理を実行する機能）と、
　動作電力の供給が開始された場合に前記第２開始状況であることに基づいて前記所定の設定関連処理とは異なる別対応処理を実行する第２対応実行手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１７の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１７の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７２１の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１５の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１７の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴ｕ１乃至ｕ７のいずれか１に記載の遊技機。
【５８３２】
　特徴ｕ８によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、動作電力の供給が開始された場合に第１開始状況であることに基づいて設定値に関する所定の設定関連処理が実行され、動作電力の供給が開始された場合に第２開始状況であることに基づいて所定の設定関連処理とは異なる別対応処理が実行される。これにより、動作電力の供給が開始された場合における開始状況に応じて所定の設定関連処理が実行される場合と実行されない場合とを生じさせることが可能となる。この場合に、上記特徴ｕ１の構成を備え、第１制御手段は第１開始状況となっていることに基づいて第１開始対応情報を送信し第２開始状況となっていることに基づいて第２開始対応情報を送信するため、第１制御手段にて所定の設定関連処理が実行される場合と実行されない場合とで異なる制御が第２制御手段にて行われるようにすることが可能となる。
【５８３３】

特徴ｕ９．前記第２対応実行手段は、前記別対応処理として前記第１制御手段に設けられた所定の記憶領域を初期化するための処理を実行することを特徴とする特徴ｕ８に記載の遊技機。

【５８３４】

特徴ｕ９によれば、動作電力の供給が開始された場合における開始状況に応じて所定の設定関連処理が実行される場合と第１制御手段の所定の記憶領域が初期化される場合とを生じさせることが可能となる。この場合に、上記特徴ｕ１の構成を備え、第１制御手段は第１開始状況となっていることに基づいて第１開始対応情報を送信し第２開始状況となっていることに基づいて第２開始対応情報を送信するため、第１制御手段にて所定の設定関連処理が実行される場合と所定の記憶領域が初期化される場合とで異なる制御が第２制御手段にて行われるようにすることが可能となる。

【５８３５】

特徴ｕ１０．前記第２制御手段は、

前記第１開始対応情報及び前記第２開始対応情報のうち一方の開始対応情報を受信した場合、時刻の計測を可能とする時刻計測手段（ＲＴＣ３５６）において計測されている時刻対応情報を時刻対応記憶手段（ＲＴＣ用メモリ３５７）に記憶させる手段（第４９の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＢ４０７の処理を実行する機能、第５０の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＢ５０７の処理を実行する機能）と、

前記時刻対応記憶手段に記憶されている前記時刻対応情報を基準として処理実行タイミングとなった場合に時刻対応処理を実行する手段（第４９の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＢ４１３の処理を実行する機能、第５０の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＢ５１３の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴ｕ１乃至ｕ９のいずれか１に記載の遊技機。

【５８３６】

特徴ｕ１０によれば、第２制御手段では時刻対応記憶手段に記憶されている時刻対応情報を基準として処理実行タイミングとなった場合に時刻対応処理が実行されるため、所定の時刻となったタイミングで時刻対応処理が実行されるようにすることが可能となる。この場合に、第１開始対応情報及び第２開始対応情報のうち一方の開始対応情報を受信した場合に、時刻計測手段において計測されている時刻対応情報が時刻対応記憶手段に記憶される。これにより、時刻対応情報が時刻対応記憶手段に新たに記憶される状況と新たに記憶されない状況とのそれぞれを選択することが可能となる。

【５８３７】

なお、特徴ｕ１～ｕ１０の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５

、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴ααａ１～ααａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５８３８】

＜特徴ｖ群＞

特徴ｖ１．時刻の計測を可能とする時刻計測手段（ＲＴＣ３５６）にて計測されている時刻対応情報を時刻対応記憶手段（ＲＴＣ用メモリ３５７）に記憶させる時刻記憶実行手段（第４９の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＢ４０７の処理を実行する機能、第５０の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＢ５０７の処理を実行する機能）と、

前記時刻対応記憶手段に記憶されている前記時刻対応情報を基準として処理実行タイミングとなった場合に時刻対応処理を実行する時刻対応実行手段（第４９の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＢ４１３の処理を実行する機能、第５０の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＢ５１３の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記時刻記憶実行手段は、動作電力の供給が開始された場合において第１開始状況（第４９の実施形態では操作無しの状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われた場合、第５０の実施形態ではＲＡＭクリア操作、設定変更操作又は設定確認操作が行われた状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われた場合）となっていることに基づいて前記時刻計測手段にて計測されている前記時刻対応情報を前記時刻対応記憶手段に記憶させ、動作電力の供給が開始された場合において第２開始状況（第４９の実施形態ではＲＡＭクリア操作、設定変更操作又は設定確認操作が行われた状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われた場合、第５０の実施形態では操作無しの状況でパチンコ機１０の電源のＯＮ操作が行われた場合）となっていることに基づいて前記時刻計測手段にて計測されている前記時刻対応情報を前記時刻対応記憶手段に記憶させないものであることを特徴とする遊技機。

【５８３９】

特徴ｖ１によれば、時刻対応記憶手段に記憶されている時刻対応情報を基準として処理実行タイミングとなった場合に時刻対応処理が実行されるため、所定の時刻となったタイミングで時刻対応処理が実行されるようにすることが可能となる。この場合に、動作電力の供給が開始された場合において第１開始状況となった場合には時刻計測手段において計測されている時刻対応情報が時刻対応記憶手段に記憶され、動作電力の供給が開始された場合において第２開始状況となった場合には当該時刻対応情報が時刻対応記憶手段に記憶されない。これにより、時刻対応情報が時刻対応記憶手段に新たに記憶される状況と新たに記憶されない状況とのそれぞれを選択することが可能となる。

【５８４０】

特徴ｖ２．前記第１開始状況及び前記第２開始状況のうち一方は、動作電力の供給が開始された場合において所定の開始対応操作（ＲＡＭクリア操作、設定変更操作又は設定確認操作）が行われたことに基づいて発生し、

前記第１開始状況及び前記第２開始状況のうち他方は、動作電力の供給が開始された場合において前記所定の開始対応操作が行われなかったことに基づいて発生することを特徴とする特徴ｖ１に記載の遊技機。

【５８４１】

特徴ｖ２によれば、動作電力の供給が開始された場合に所定の開始対応操作を行うか否

かによって、時刻対応情報が時刻対応記憶手段に新たに記憶される状況と新たに記憶されない状況とのそれぞれを選択することが可能となる。

【５８４２】

特徴ｖ３．前記第２開始状況は、動作電力の供給が開始された場合において所定の開始対応操作（ＲＡＭクリア操作、設定変更操作又は設定確認操作）が行われたことに基づいて発生し、

前記第１開始状況は、動作電力の供給が開始された場合において前記所定の開始対応操作が行われなかったことに基づいて発生することを特徴とする特徴ｖ１又はｖ２に記載の遊技機。

【５８４３】

特徴ｖ３によれば、動作電力の供給が開始される場合に所定の開始対応操作が行われなかった場合には時刻対応情報が時刻対応記憶手段に新たに記憶され、動作電力の供給が開始される場合に所定の開始対応操作が行われた場合に時刻対応情報が時刻対応記憶手段に記憶されない。これにより、動作電力の供給が開始された場合には基本的には時刻対応情報が時刻対応記憶手段に新たに記憶されるようにしながら、必要に応じて所定の開始対応操作を行うことで時刻対応情報が時刻対応記憶手段に記憶されないようにすることが可能となる。

【５８４４】

特徴ｖ４．動作電力の供給が開始された場合において前記第１開始状況及び前記第２開始状況のうち一方の開始状況となっていることに基づいて特定対応処理を実行し、動作電力の供給が開始された場合において前記第１開始状況及び前記第２開始状況のうち他方の開始状況となっていることに基づいて前記特定対応処理を実行しない手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１２、ステップＳＢ１１５又はステップＳＢ１１７の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１２、ステップＳＢ６１５又はステップＳＢ６１７の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７１１、ステップＳＢ７１８又はステップＳＢ７２１の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１０、ステップＳＢ８１３又はステップＳＢ８１５の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１１、ステップＳＣ１１５又はステップＳＣ１１７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｖ１乃至ｖ３のいずれか１に記載の遊技機。

【５８４５】

特徴ｖ４によれば、第１開始状況及び第２開始状況のうち一方の開始状況である場合に特定対応処理が実行される。この場合に、上記特徴ｖ１の構成を備え、第１開始状況となっていることに基づいて時刻対応情報が時刻対応記憶手段に新たに記憶され第２開始状況となっていることに基づいて時刻対応情報が時刻対応記憶手段に記憶されない。これにより、特定対応処理の実行有無と時刻対応情報の新たな記憶の有無とを関連付けることが可能となる。

【５８４６】

特徴ｖ５．動作電力の供給が開始された場合において前記第２開始状況となっていることに基づいて特定対応処理を実行し、動作電力の供給が開始された場合において前記第１開始状況となっていることに基づいて前記特定対応処理を実行しない手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１２、ステップＳＢ１１５又はステップＳＢ１１７の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１２、ステップＳＢ６１５又はステップＳＢ６１７の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７１１、ステップＳＢ７１８又はステップＳＢ７２１の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１０、ステップＳＢ８１３又はステップＳＢ８１５の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１１、ステップＳＣ１１５又はステップＳＣ１１７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴

ｖ１乃至ｖ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５８４７】
特徴ｖ５によれば、第１開始状況及び第２開始状況のうち第２開始状況である場合に特定対応処理が実行される。この場合に、上記特徴ｖ１の構成を備え、第１開始状況となっていることに基づいて時刻対応情報が時刻対応記憶手段に新たに記憶され第２開始状況となっていることに基づいて時刻対応情報が時刻対応記憶手段に記憶されない。これにより、特定対応処理が実行される場合には時刻対応情報が時刻対応記憶手段に新たに記憶されないようにすることが可能となる。
【５８４８】
特徴ｖ６．動作電力の供給が開始された場合において前記第１開始状況となっている場合及び前記第２開始状況となっている場合のいずれであっても共通対応処理を実行する手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１０３の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６０１～ステップＳＢ６０３の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７０１及びステップＳＢ７０２の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８０３の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１０１～ステップＳＣ１０３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｖ４又はｖ５に記載の遊技機。
【５８４９】
特徴ｖ６によれば、第１開始状況となっている場合及び第２開始状況となっている場合のいずれであっても共通対応処理が実行される一方、第１開始状況及び第２開始状況のうち一方の開始状況である場合に特定対応処理が実行される。これにより、いずれの開始状況であったとしても共通対応処理が実行されるようにする一方、開始状況の種類に対応する処理が実行されるようにすることが可能となる。
【５８５０】
特徴ｖ７．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、
動作電力の供給が開始された場合に前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理又は設定確認用処理を実行する機能）と、
を備え、
当該設定関連実行手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記第１開始状況及び前記第２開始状況のうち一方の開始状況となっていることに基づいて前記所定の設定関連処理を実行することを特徴とする特徴ｖ１乃至ｖ６のいずれか１に記載の遊技機。
【５８５１】
特徴ｖ７によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、動作電力の供給が開始された場合に第１開始状況及び第２開始状況のうち一方の開始状況となっていることに基づいて所定の設定関連処理が実行される。これにより、所定の設定関連処理の実行有無と時刻対応情報の新たな記憶の有無とを関連付けることが可能となる。
【５８５２】
特徴ｖ８．動作電力の供給が開始された場合において前記第１開始状況及び前記第２開始状況のうち一方の開始状況となっていることに基づいて、制御手段に設けられた所定の記憶領域を初期化する手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１７の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１７の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７２１の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステッ

プＳＢ８１５の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｖ１乃至ｖ７いずれか１に記載の遊技機。

【５８５３】

特徴ｖ８によれば、動作電力の供給が開始された場合に第１開始状況及び第２開始状況のうち一方の開始状況となっていることに基づいて第１制御手段の所定の記憶領域が初期化される。これにより、当該所定の記憶領域の初期化の有無と時刻対応情報の新たな記憶の有無とを関連付けることが可能となる。

【５８５４】

なお、特徴ｖ１～ｖ８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５８５５】

上記特徴ｕ群及び上記特徴ｖ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５８５６】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５８５７】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転

が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５８５８】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、動作電力の供給が開始された場合における処理が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５８５９】

＜特徴ｗ群＞

特徴ｗ１．所定表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）と、

当該所定表示手段を表示制御する所定表示制御手段（主側ＣＰＵ６３における第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、

遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始された場合に前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理又は設定確認用処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定表示制御手段は、

前記所定の設定関連処理が実行される場合に前記所定表示手段に前記設定値に関する表示を行わせる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９００４及びステップＳ９００６の処理を実行する機能）と、

前記所定の設定関連処理が実行された後に、前記所定表示手段が正常であるか否かを確認可能とするチェック用表示を前記所定表示手段に行わせるチェック制御手段（第３７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９５１９の処理を実行する機能、第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１９の処理を実行する機能、第４６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ９１９の処理を実行する機能、第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１２３の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６２３の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７１２及びステップＳＢ７１９の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１７の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１９の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５８６０】

特徴ｗ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、所定の設定関連処理が実行される場合に所定表示手段において設定値に関する表示が行われるため、遊技ホールの管理者は所定表示手段を確認することで現状の設定値を把握することが可能となる。また、チェック用表示が所定表示手段にて行われることにより、所定表示手段が正常であるか否かを確認することが可能となる。

【５８６１】

この場合に、動作電力の供給が開始された場合には所定の設定関連処理が実行された後に所定表示手段にてチェック用表示が行われる。これにより、所定の設定関連処理が開始された場合にはチェック用表示を途中で終了させるといった調整用の処理を必要とすることなく、所定の設定関連処理が実行される場合における設定値に関する表示をチェック用表示よりも優先させることが可能となる。

【５８６２】

特徴ｗ２．前記チェック制御手段は、動作電力の供給が開始された場合、前記所定の設定関連処理が実行された場合及び前記所定の設定関連処理が実行されなかった場合のいずれであっても前記チェック用表示を前記所定表示手段に行わせることを特徴とする特徴ｗ１に記載の遊技機。

【５８６３】

特徴ｗ２によれば、動作電力の供給が開始された場合には所定の設定関連処理が実行されるか否かに関係なく所定表示手段にてチェック用表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合における状況に関係なく所定表示手段が正常であるか否かを確認することが可能となる。

【５８６４】

特徴ｗ３．動作電力の供給が開始された場合に実行される供給開始時の処理として、前記所定の設定関連処理が実行された場合及び前記所定の設定関連処理が実行されなかった場合のいずれであっても共通して実行される処理であって、前記所定の設定関連処理が実行される場合には当該所定の設定関連処理よりも実行順序が後の処理である共通処理が設定されており、

当該共通処理として、前記所定表示手段に前記チェック用表示を開始させる処理が設定されていることを特徴とする特徴ｗ１又はｗ２に記載の遊技機。

【５８６５】

特徴ｗ３によれば、動作電力の供給が開始された場合には所定の設定関連処理が実行されるか否かに関係なく所定表示手段にてチェック用表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合における状況に関係なく所定表示手段が正常であるか否かを確認することが可能となる。また、所定表示手段にチェック用表示を開始させるための処理が共通処理として設定されているため、処理構成の簡素化を図りながら既に説明したような優れた効果を奏することが可能となる。

【５８６６】

特徴ｗ４．動作電力の供給が開始されて供給開始時の処理が終了した後に遊技を進行させるための処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行する機能）を備え、

前記所定表示手段にて前記チェック用表示が実行されている状況であっても前記遊技を進行させるための処理が開始され得ることを特徴とする特徴ｗ１乃至ｗ３のいずれか１に記載の遊技機。

【５８６７】

特徴ｗ４によれば、所定表示手段におけるチェック用表示が実行されている状況であっても遊技を進行させるための処理が開始され得るため、所定の設定関連処理の実行後に所定表示手段にてチェック用表示が行われる場合であっても遊技を進行させるための処理の開始タイミングが遅れてしまわないようにすることが可能となる。

【５８６８】

特徴ｗ５．動作電力の供給が開始された場合に遊技を進行させるための処理の開始を遅延させることを可能とする遅延処理を実行する遅延実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７１５及びステップＳＢ７２４の処理を実行する機能）を備え、

前記チェック制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記所定の設定関連処理が実行されない場合、前記遅延処理が開始される前に前記チェック用表示を前記所定表示手段に開始させることを特徴とする特徴ｗ１乃至ｗ４のいずれか１に記載の遊技機。

【５８６９】

特徴ｗ５によれば、動作電力の供給が開始された場合に遊技を進行させるための処理の開始を遅延させることを可能とする遅延処理が実行されることにより、各種機器の初期設定が完了した後に遊技を進行させるための処理が開始されるようにすることが可能となる。この場合に、動作電力の供給が開始された場合において所定の設定関連処理が実行されない場合には遅延処理が開始される前に所定表示手段におけるチェック用表示が開始され

る。これにより、遊技を進行させるための処理の開始を遅延させている期間を利用してチェック用表示を行わせることが可能となる。

【５８７０】

特徴ｗ６．前記遅延実行手段は、前記所定の設定関連処理が実行される場合、前記遅延処理を実行しないことを特徴とする特徴ｗ５に記載の遊技機。

【５８７１】

特徴ｗ６によれば、所定の設定関連処理が実行される場合には所定の期間を要するため、遊技を進行させるための処理が開始される前に各種機器の初期設定を完了させることが可能となる。この場合に、所定の設定関連処理が実行される場合には遅延処理が実行されないようにすることにより、所定の設定関連処理が実行された状況において遊技を進行させるための処理の開始が極端に遅くなってしまわないようにすることが可能となる。

【５８７２】

特徴ｗ７．前記設定関連実行手段は、

動作電力の供給が開始される場合に第１設定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作）が行われたことに基づいて、前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１４にて肯定判定をする機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１４にて肯定判定をする機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７１７にて肯定判定をする機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１２にて肯定判定をする機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１３にて肯定判定をする機能）と、

動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が行われたことに基づいて、前記使用対象となる設定値が報知されるようにする報知発生手段（主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴ｗ１乃至ｗ６のいずれか１に記載の遊技機。

【５８７３】

特徴ｗ７によれば、使用対象となる設定値を変更するためには動作電力の供給が開始される場合に第１設定関連操作を行う必要があるため、使用対象となる設定値を不正に変更しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。また、動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作を行うことで使用対象の設定値が報知されるため、遊技ホールの管理者は必要に応じて使用対象の設定値を確認することが可能となる。

【５８７４】

特徴ｗ８．前記所定表示制御手段は、前記所定表示手段に遊技履歴の管理結果に対応する情報を表示させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８７０８、ステップＳ８７０９及びステップＳ９１０７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｗ１乃至ｗ７のいずれか１に記載の遊技機。

【５８７５】

特徴ｗ８によれば、遊技履歴の管理結果を遊技ホールの管理者に報知することが可能となる。この場合に、上記特徴ｗ１の構成を備え、所定表示手段にてチェック用表示が行われることにより、所定表示手段における遊技履歴の管理結果に対応する情報の表示が正確に行われているか否かを確認することが可能となる。

【５８７６】

なお、特徴ｗ１～ｗ８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９

、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５８７７】

＜特徴ｘ群＞

特徴ｘ１．所定表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）と、

当該所定表示手段を表示制御する所定表示制御手段（主側ＣＰＵ６３における第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始されて供給開始後状況が終了した後に遊技を進行させるための処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定表示制御手段は、前記供給開始後状況において、前記所定表示手段が正常であるか否かを確認可能とするチェック用表示を前記所定表示手段に行わせるチェック制御手段（第３６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４０５の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７１３及びステップＳＢ７２２の処理を実行する機能）を備え、

前記所定表示手段にて前記チェック用表示が行われている状況において前記遊技を進行させるための処理の開始を遅延させることを可能とする遅延状況（第３６の実施形態ではステップＳ９４０６にて否定判定をしている状況、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３にてステップＳＢ７１５及びステップＳＢ７２４の処理が実行されている状況）が生じ得る構成であることを特徴とする遊技機。

【５８７８】

特徴ｘ１によれば、動作電力の供給が開始された場合にはチェック用表示が所定表示手段にて行われることにより、所定表示手段が正常であるか否かを確認することが可能となる。この場合に、チェック用表示が行われている状況においては遊技を進行させるための処理の開始を遅延させることを可能とする遅延状況が生じ得る。これにより、遊技を進行させるための処理が開始される前に、所定表示手段におけるチェック用表示を確認する機会を担保することが可能となる。また、遅延状況が生じることにより遊技を進行させるための処理が開始される前に各種機器の初期設定を完了させることが可能となる。そして、この遅延状況を利用して所定表示手段にてチェック用表示を行わせることが可能となる。

【５８７９】

特徴ｘ２．前記所定表示手段における前記チェック用表示が行われている状況においては前記遅延状況となるようにする手段（第３６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４０６の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３における

ステップＳＢ７１５及びステップＳＢ７２４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｘ１に記載の遊技機。
【５８８０】
特徴ｘ２によれば、チェック用表示が行われている状況においては遅延状況であるため、チェック用表示が行われている途中で遊技を進行させるための処理が開始されてしまわないようにすることが可能となる。
【５８８１】
特徴ｘ３．動作電力の供給が開始された場合に第１開始状況であることに基づいて前記所定表示手段にて前記チェック用表示が行われている状況において前記遅延状況となり、動作電力の供給が開始された場合に第２開始状況であることに基づいて前記所定表示手段にて前記チェック用表示が行われている状況において前記遅延状況とならないことを特徴とする特徴ｘ１又はｘ２に記載の遊技機。
【５８８２】
特徴ｘ３によれば、第１開始状況である場合には所定表示手段にてチェック用表示が行われている状況において遅延状況となることでチェック用表示が行われている途中で遊技を進行させるための処理が開始されてしまわないようにすることが可能となり、第２開始状況である場合には所定表示手段にてチェック用表示が行われている状況において遅延状況とならないようにすることで遊技を進行させるための処理の開始タイミングが極端に遅くなってしまわないようにすることが可能となる。
【５８８３】
特徴ｘ４．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、
動作電力の供給が開始された場合に前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理又は設定確認用処理を実行する機能）と、
を備え、
前記第１開始状況は前記供給開始後状況において前記所定の設定関連処理が実行されない状況であり、
前記第２開始状況は前記供給開始後状況において前記所定の設定関連処理が実行される状況であることを特徴とする特徴ｘ３に記載の遊技機。
【５８８４】
特徴ｘ４によれば、所定の設定関連処理が実行される場合には所定の期間を要するため、遊技を進行させるための処理が開始される前に各種機器の初期設定を完了させることが可能となる。この場合に、所定の設定関連処理が実行される場合には所定表示手段にてチェック用表示が行われている状況において遅延状況とならないようにすることにより、所定の設定関連処理が実行された状況において遊技を進行させるための処理の開始が極端に遅くなってしまわないようにすることが可能となる。
【５８８５】
特徴ｘ５．前記設定関連実行手段は、
動作電力の供給が開始される場合に第１設定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作）が行われたことに基づいて、前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１４にて肯定判定をする機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１４にて肯定判定をする機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７１７にて肯定判定をする機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１２にて肯定判定をする機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１３にて肯定判定をする機能）と、
動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操

作）が行われたことに基づいて、前記使用対象となる設定値が報知されるようにする報知発生手段（主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴ｘ４に記載の遊技機。
【５８８６】
特徴ｘ５によれば、使用対象となる設定値を変更するためには動作電力の供給が開始される場合に第１設定関連操作を行う必要があるため、使用対象となる設定値を不正に変更しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。また、動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作を行うことで使用対象の設定値が報知されるため、遊技ホールの管理者は必要に応じて使用対象の設定値を確認することが可能となる。
【５８８７】
特徴ｘ６．前記所定表示制御手段は、前記所定表示手段に遊技履歴の管理結果に対応する情報を表示させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８７０８、ステップＳ８７０９及びステップＳ９１０７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｘ１乃至ｘ５のいずれか１に記載の遊技機。
【５８８８】
特徴ｘ６によれば、遊技履歴の管理結果を遊技ホールの管理者に報知することが可能となる。この場合に、上記特徴ｘ１の構成を備え、所定表示手段にてチェック用表示が行われることにより、所定表示手段における遊技履歴の管理結果に対応する情報の表示が正確に行われているか否かを確認することが可能となる。
【５８８９】
なお、特徴ｘ１～ｘ６の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【５８９０】
上記特徴ｗ群及び上記特徴ｘ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。
【５８９１】
遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は

、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５８９２】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５８９３】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、所定表示手段における表示が正確に行われているか否かを確認することが可能な構成が求められており、この点について未だ改良の余地がある。

【５８９４】

＜特徴ｙ群＞

特徴ｙ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９１５の処理を実行する機能）と、

前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１４にて肯定判定をする機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１４にて肯定判定をする機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７１７にて肯定判定をする機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１２にて肯定判定をする機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１３にて肯定判定をする機能）と、

前記使用対象の設定値が異常であるか否かを監視するための設定監視処理を実行する設定監視手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１０６の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６０６の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７０５の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８０６の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１０６の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記設定手段を有する制御手段への動作電力の供給が開始された場合に実行される供給開始時の処理（第４９の実施形態ではステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２、第５１の実施形態ではステップＳＢ６０１～ステップＳＢ６２２、第５２の実施形態ではステップＳＢ７０１～ステップＳＢ７２９、第５３の実施形態ではステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８及びステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６、第５４の実施形態ではステップＳＣ１０１～ステップＳＣ１２０及びステップＳＣ１２５～ステップＳＣ１２８）に前記設定監視処理が含まれていることを特徴とする遊技機。

【５８９５】

特徴ｙ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となってい

ることを期待することとなる。また、使用対象の設定値が異常であるか否かを監視するための設定監視処理が実行されるため、使用対象の設定値が異常である場合にはそれに対処することが可能となる。また、供給開始時の処理に設定監視処理が含まれているため、使用対象の設定値が異常であるにも関わらず遊技を進行させるための処理が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【５８９６】

特徴ｙ２．前記設定監視手段は、前記供給開始時の処理が終了した後においても監視契機が発生する度に前記設定監視処理を実行することを特徴とする特徴ｙ１に記載の遊技機。

【５８９７】

特徴ｙ２によれば、供給開始時の処理が完了した後において監視契機が発生する度に設定監視処理が実行されるため、使用対象の設定値が異常であることを特定し易くなる。

【５８９８】

特徴ｙ３．定期的に起動される割込み処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３における第１タイマ割込み処理を実行する機能）を備え、

前記割込み処理に前記設定監視処理が含まれていることを特徴とする特徴ｙ２に記載の遊技機。

【５８９９】

特徴ｙ３によれば、定期的に起動される度に設定監視処理が実行されるため、使用対象の設定値が異常であるか否かの監視の実行頻度を高めることが可能となる。

【５９００】

特徴ｙ４．前記設定監視手段は、前記設定監視処理にて前記使用対象の設定値が異常であることを特定したことに基づいて、遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制される規制状態とする規制手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１９の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１９の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７２６の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８２３の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１２５の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｙ１乃至ｙ３のいずれか１に記載の遊技機。

【５９０１】

特徴ｙ４によれば、使用対象の設定値が異常であることを特定した場合には遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制されるため、使用対象の設定値が異常であるにも関わらず遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。

【５９０２】

特徴ｙ５．前記設定可能状況が発生したことに基づいて前記規制状態を解除する手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３０３の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９０４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｙ４に記載の遊技機。

【５９０３】

特徴ｙ５によれば、使用対象の設定値が異常である状況の解除に際して使用対象の設定値の新たな設定を行わせることが可能となる。

【５９０４】

特徴ｙ６．前記規制手段は、前記規制状態である状況において動作電力の供給が停止されたとしても動作電力の供給が再開された場合には前記規制状態となるようにすることを特徴とする特徴ｙ４又はｙ５に記載の遊技機。

【５９０５】

特徴ｙ６によれば、使用対象の設定値が異常であることで所定進行処理の実行が規制された状態が動作電力の供給を停止させただけでは解除されないようにすることが可能となる。

【５９０６】
特徴ｙ７．前記規制状態であっても前記所定進行処理とは異なる非規制処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｙ４乃至ｙ６のいずれか１に記載の遊技機。
【５９０７】
特徴ｙ７によれば、使用対象の設定値が異常であることで所定進行処理の実行が規制されている状況であっても非規制処理は実行されるようにすることが可能となる。これにより、規制状態であっても必要な処理の実行を担保することが可能となる。
【５９０８】
特徴ｙ８．前記非規制処理には、停電の発生を監視するための停電監視処理（ステップＳ８９０１）が含まれていることを特徴とする特徴ｙ７に記載の遊技機。
【５９０９】
特徴ｙ８によれば、規制状態であっても停電監視処理が実行されるため、規制状態において停電が発生した場合にそれに対して適切に対処することが可能となる。
【５９１０】
特徴ｙ９．前記設定監視手段は、前記設定監視処理にて前記使用対象の設定値が異常であることを特定したことに基づいて、前記設定可能状況を発生させるべきことを遊技者に認識可能とさせる報知が実行されるようにする手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１２１の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６２１の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７２８の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８２５の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１２７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｙ１乃至ｙ８のいずれか１に記載の遊技機。
【５９１１】
特徴ｙ９によれば、使用対象の設定値が異常であることが特定された場合には設定可能状況を発生させるべきことを遊技者に認識可能とさせる報知が実行されるため、使用対象の設定値が異常となった場合にはそれを解消するように遊技ホールの管理者に促すことが可能となる。
【５９１２】
なお、特徴ｙ１～ｙ９の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～α

ｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５９１３】

上記特徴ｙ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５９１４】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５９１５】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５９１６】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の有利度を決定付ける設定値の管理を好適に行う必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５９１７】

＜特徴ｚ群＞

特徴ｚ１．動作電力の供給が開始された場合に所定の記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１）に記憶された情報に関して所定異常が発生しているか否かを監視する所定監視手段（第３３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７９０６及びステップＳ７９０９の処理を実行する機能、第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８０７及びステップＳ８８１０の処理を実行する機能、第３６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４０８及びステップＳ９４１１の処理を実行する機能、第３７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９５０６及びステップＳ９５０９の処理を実行する機能、第４２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９９０５及びステップＳ９９０８の処理を実行する機能、第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４０６及びステップＳＡ４０９の処理を実行する機能、第４６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ９０７及びステップＳＡ９１０の処理を実行する機能、第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１０４～ステップＳＢ１０６の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６０４～ステップＳＢ６０６の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７０３～ステップＳＢ７０５の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８０４～ステップＳＢ８０６の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１０４～ステップＳＣ１０６の処理を実行する機能）と、

当該所定監視手段により前記所定異常が発生していることが特定されたことに基づいて、遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制される規制状態とする規制手段（第３３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ７９１０の処理を実行する機能、

第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８８１１の処理を実行する機能、第３６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９４１２の処理を実行する機能、第３７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９５１０の処理を実行する機能、第４２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ９９０９の処理を実行する機能、第４５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ４１０の処理を実行する機能、第４６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ９１１の処理を実行する機能、第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１９の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１９の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７２６の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８２３の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１２５の処理を実行する機能）と、

前記規制状態であっても前記所定進行処理とは異なる非規制処理を実行する手段（第３３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８２０１～ステップＳ８２０６の処理を実行する機能、第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する機能、第４２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ１０１～ステップＳＡ１０６の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５９１８】

特徴ｚ１によれば、所定の記憶領域に記憶された情報に関して所定異常が発生していることを特定した場合には遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制されるため、所定異常が発生しているにも関わらず遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。また、所定異常が発生していることで所定進行処理の実行が規制されている状況であっても非規制処理は実行されるようにすることが可能となる。これにより、規制状態であっても必要な処理の実行を担保することが可能となる。

【５９１９】

特徴ｚ２．前記非規制処理には、停電の発生を監視するための停電監視処理（第３３の実施形態ではステップＳ８２０１、第３５の実施形態ではステップＳ８９０１、第４２の実施形態ではステップＳＡ１０２）が含まれていることを特徴とする特徴ｚ１に記載の遊技機。

【５９２０】

特徴ｚ２によれば、規制状態であっても停電監視処理が実行されるため、規制状態において停電が発生した場合にそれに対して適切に対処することが可能となる。

【５９２１】

特徴ｚ３．前記規制手段は、前記規制状態である状況において動作電力の供給が停止されたとしても動作電力の供給が再開された場合には前記規制状態となるようにすることを特徴とする特徴ｚ１又はｚ２に記載の遊技機。

【５９２２】

特徴ｚ３によれば、所定異常が発生していることで所定進行処理の実行が規制された状態が動作電力の供給を停止させただけでは解除されないようにすることが可能となる。

【５９２３】

特徴ｚ４．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９１５の処理を実行する機能）と、

前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１４にて肯定判定をする機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１４にて肯定判定をする機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７１７にて肯定判定をする機能、第５３の実施形態では主

側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１２にて肯定判定をする機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１３にて肯定判定をする機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴ｚ１乃至ｚ３のいずれか１に記載の遊技機。
【５９２４】
特徴ｚ４によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、所定の記憶領域に記憶された情報に関して所定異常が発生している場合には設定値に関しても異常が発生している可能性がある。これに対して、上記特徴ｚ１の構成を備え、所定の記憶領域に記憶された情報に関して所定異常が発生していることを特定した場合には遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制されるため、設定値に関して異常が発生している可能性があるにも関わらず遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。
【５９２５】
特徴ｚ５．前記所定監視手段により前記所定異常が発生していることが特定されたことに基づいて、前記設定可能状況を発生させるべきことを遊技者に認識可能とさせる報知が実行されるようにする手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１２１の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６２１の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７２８の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８２５の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１２７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｚ４に記載の遊技機。
【５９２６】
特徴ｚ５によれば、所定異常が発生していることが特定された場合には設定可能状況を発生させるべきことを遊技者に認識可能とさせる報知が実行されるため、所定異常となった場合には設定値の設定を行うように遊技ホールの管理者に促すことが可能となる。
【５９２７】
特徴ｚ６．前記設定可能状況が発生したことに基づいて前記規制状態を解除する手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３０３の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９０４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴ｚ４又はｚ５に記載の遊技機。
【５９２８】
特徴ｚ６によれば、所定異常が発生している状況の解除に際して使用対象の設定値の新たな設定を行わせることが可能となる。
【５９２９】
なお、特徴ｚ１～ｚ６の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特

徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～ααａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５９３０】

＜特徴αＡ群＞

特徴αＡ１．動作電力の供給が開始された場合に所定の記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１）に記憶された情報に関して所定異常が発生しているか否かを監視する所定監視手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１０４～ステップＳＢ１０６の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６０４～ステップＳＢ６０６の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７０３～ステップＳＢ７０５の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８０４～ステップＳＢ８０６の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１０４～ステップＳＣ１０６の処理を実行する機能）と、

当該所定監視手段により前記所定異常が発生していることが特定された場合、動作電力の供給開始時の処理の実行内容が、前記所定監視手段により前記所定異常が発生していることが特定されなかった場合とは異なる実行内容となるようにする規制手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１９の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１９の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７２６の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８２３の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１２５の処理を実行する機能）と、

前記所定監視手段により前記所定異常が発生していることが特定されたことに基づいて、遊技機の外部に特定出力を行う特定出力手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１２２の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６２２の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７２９の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８２６の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１２８の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５９３１】

特徴αＡ１によれば、所定の記憶領域に記憶された情報に関して所定異常が発生していることを特定した場合には動作電力の供給開始時の処理の実行内容が所定異常の発生していない場合とは異なる実行内容となるため、所定異常が発生しているにも関わらず通常通りに処理が進行してしまわないようにすることが可能となる。また、所定異常が発生していることが特定されたことに基づいて遊技機の外部に特定出力が行われる。これにより、所定異常が発生していることに対処するように遊技ホールの管理者に促すことが可能となる。

【５９３２】

特徴αＡ２．前記特定出力手段は、前記所定異常とは異なる事象が発生していることが特定された場合にも遊技機の外部に前記特定出力を行うことを特徴とする特徴αＡ１に記載の遊技機。

【５９３３】
特徴αＡ２によれば、所定異常とは異なる事象が発生した場合にも遊技機の外部に特定出力が行われる。これにより、特定出力を行うための構成を兼用することが可能となる。
【５９３４】
特徴αＡ３．前記特定出力手段は、前記所定異常が発生している状況において動作電力の供給が停止されたとしても動作電力の供給が再開された場合に前記所定異常が発生している場合には遊技機の外部に前記特定出力を行うことを特徴とする特徴αＡ１又はαＡ２に記載の遊技機。
【５９３５】
特徴αＡ３によれば、所定異常が発生している状況においては動作電力の供給が再開される度に遊技機の外部に特定出力を行うことが可能となる。これにより、所定異常が発生していることを遊技ホールの管理者に認識させ易くなる。
【５９３６】
特徴αＡ４．前記規制手段は、前記所定監視手段により前記所定異常が発生していることが特定されたことに基づいて、遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制される規制状態とすることを特徴とする特徴αＡ１乃至αＡ３のいずれか１に記載の遊技機。
【５９３７】
特徴αＡ４によれば、所定の記憶領域に記憶された情報に関して所定異常が発生していることを特定した場合には遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制されるため、所定異常が発生しているにも関わらず遊技が開始されてしまわないようにすることが可能となる。
【５９３８】
特徴αＡ５．前記規制状態であっても前記所定進行処理とは異なる非規制処理を実行する手段（第３３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８２０１～ステップＳ８２０６の処理を実行する機能、第３５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する機能、第４２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ１０１～ステップＳＡ１０６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＡ４に記載の遊技機。
【５９３９】
特徴αＡ５によれば、所定異常が発生していることで所定進行処理の実行が規制されている状況であっても非規制処理は実行されるようにすることが可能となる。これにより、規制状態であっても必要な処理の実行を担保することが可能となる。
【５９４０】
特徴αＡ６．前記非規制処理には、停電の発生を監視するための停電監視処理（第３３の実施形態ではステップＳ８２０１、第３５の実施形態ではステップＳ８９０１、第４２の実施形態ではステップＳＡ１０２）が含まれていることを特徴とする特徴αＡ５に記載の遊技機。
【５９４１】
特徴αＡ６によれば、規制状態であっても停電監視処理が実行されるため、規制状態において停電が発生した場合にそれに対して適切に対処することが可能となる。
【５９４２】
特徴αＡ７．前記規制手段は、前記規制状態である状況において動作電力の供給が停止されたとしても動作電力の供給が再開された場合には前記規制状態となるようにすることを特徴とする特徴αＡ４乃至αＡ６のいずれか１に記載の遊技機。
【５９４３】
特徴αＡ７によれば、所定異常が発生していることで所定進行処理の実行が規制された状態が動作電力の供給を停止させただけでは解除されないようにすることが可能となる。
【５９４４】
特徴αＡ８．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１

１の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９１５の処理を実行する機能）と、
前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１４にて肯定判定をする機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６１４にて肯定判定をする機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７１７にて肯定判定をする機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１２にて肯定判定をする機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１３にて肯定判定をする機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴αＡ４乃至αＡ７のいずれか１に記載の遊技機。

【５９４５】
特徴αＡ８によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、所定の記憶領域に記憶された情報に関して所定異常が発生している場合には設定値に関しても異常が発生している可能性がある。これに対して、上記特徴αＡ１の構成を備え、所定の記憶領域に記憶された情報に関して所定異常が発生していることを特定した場合には動作電力の供給開始時の処理の実行内容が所定異常の発生していない場合とは異なる実行内容となるため、設定値に関して異常が発生している可能性があるにも関わらず通常通りに処理が進行してしまわないようにすることが可能となる。また、所定異常が発生していることが特定されたことに基づいて遊技機の外部に特定出力が行われるため、設定値に関して異常が発生している可能性があることに対処するように遊技ホールの管理者に促すことが可能となる。

【５９４６】
特徴αＡ９．前記所定監視手段により前記所定異常が発生していることが特定されたことに基づいて、前記設定可能状況を発生させるべきことを遊技者に認識可能とさせる報知が実行されるようにする手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１２１の処理を実行する機能、第５１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ６２１の処理を実行する機能、第５２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ７２８の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８２５の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１２７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＡ８に記載の遊技機。

【５９４７】
特徴αＡ９によれば、所定異常が発生していることが特定された場合には設定可能状況を発生させるべきことを遊技者に認識可能とさせる報知が実行されるため、所定異常となった場合には設定値の設定を行うように遊技ホールの管理者に促すことが可能となる。

【５９４８】
特徴αＡ１０．前記規制手段は、前記所定監視手段により前記所定異常が発生していることが特定されたことに基づいて、遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制される規制状態とするものであり、
本遊技機は、前記設定可能状況が発生したことに基づいて前記規制状態を解除する手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３０３の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９０４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＡ８又はαＡ９に記載の遊技機。

【５９４９】
特徴αＡ１０によれば、所定異常が発生している状況の解除に際して使用対象の設定値の新たな設定を行わせることが可能となる。

【５９５０】
なお、特徴αＡ１～αＡ１０の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８

、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５９５１】

＜特徴αＢ群＞

特徴αＢ１．動作電力の供給が開始された場合に動作電力の供給開始時の処理を開始する手段（第４９の実施形態ではステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２、第５１の実施形態ではステップＳＢ６０１～ステップＳＢ６２２、第５２の実施形態ではステップＳＢ７０１～ステップＳＢ７２９、第５３の実施形態ではステップＳＢ８０１～ステップＳＢ８１８及びステップＳＢ８２３～ステップＳＢ８２６、第５４の実施形態ではステップＳＣ１０１～ステップＳＣ１２０及びステップＳＣ１２５～ステップＳＣ１２８）と、

定期的に起動される割込み処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３における第１タイマ割込み処理を実行する機能）と、

遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

前記動作電力の供給開始時の処理の一部の処理として、前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理又は設定確認用処理を実行する機能）と、

前記動作電力の供給開始時の処理において前記所定の設定関連処理が実行される場合に前記割込み処理の実行が禁止されている状態から前記割込み処理の実行が許可される状態に設定する許可設定手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ２０１又はステップＳＢ３０１の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９０１の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５９５２】

特徴αＢ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、設定値に関する所定の設定関連処理は動作電力の

供給開始時の処理の一部の処理として実行されるため、所定の設定関連処理を不正に実行させようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。

【５９５３】

この場合に、動作電力の供給開始時の処理において所定の設定関連処理が実行される場合に割込み処理の実行が禁止されている状態から許可される状態となる。つまり、動作電力の供給開始時の処理においては基本的に割込み処理の実行を禁止する一方、所定の設定関連処理においては割込み処理が割り込んで起動され得ることとなる。動作電力の供給開始時の処理においては基本的に割込み処理の実行を禁止することで動作電力の供給開始時の処理が完了するまでに要する時間を短縮することが可能となる。その一方、所定の設定関連処理では設定値に関する処理が実行されるため処理が完了するまでに要する時間が長くなることが想定され、このような所定の設定関連処理が実行されている状況においては割込み処理の実行を許可することで処理の実行態様を好適なものとすることが可能となる。

【５９５４】

特徴αＢ２．前記設定関連実行手段は、前記所定の設定関連処理において終了契機操作が行われたことに基づいて当該所定の設定関連処理を終了させることを特徴とする特徴αＢ１に記載の遊技機。

【５９５５】

特徴αＢ２によれば、所定の設定関連処理は終了契機操作が行われるまで継続されるため、処理が完了するまでに要する時間が長くなり易い。この場合に、上記特徴αＢ１の構成を備え、所定の設定関連処理が実行されている状況においては割込み処理の実行が許可されるため、処理の実行態様を好適なものとすることが可能となる。

【５９５６】

特徴αＢ３．前記所定の設定関連処理が終了する場合に前記割込み処理の実行が許可されている状態から前記割込み処理の実行が禁止される状態に設定する禁止設定手段（第４９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ２０６又はステップＳＢ３１２の処理を実行する機能、第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９１６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＢ１又はαＢ２に記載の遊技機。

【５９５７】

特徴αＢ３によれば、所定の設定関連処理が終了する場合には割込み処理の実行が再度禁止される。これにより、動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において割込み処理の実行が許可される期間を、所定の設定関連処理が実行されている期間に制限することが可能となる。

【５９５８】

特徴αＢ４．前記割込み処理に停電の発生を監視するための停電監視処理（ステップＳ８９０１）が含まれていることを特徴とする特徴αＢ１乃至αＢ３のいずれか１に記載の遊技機。

【５９５９】

特徴αＢ４によれば、所定の設定関連処理が実行されている状況であっても停電監視処理が実行されるため、所定の設定関連処理が完了するまでに要する時間が長くなり得る構成であったとしても、所定の設定関連処理が実行されている状況において停電が発生した場合にそれに対して適切に対処することが可能となる。

【５９６０】

特徴αＢ５．前記割込み処理に遊技の進行を制御するために実行される進行対応処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０７～ステップＳ８９２０）が含まれており、

前記所定の設定関連処理が実行されている状況において前記割込み処理が割り込んで起動された場合、前記停電監視処理は実行される一方、前記進行対応処理は実行されることはなく、

前記動作電力の供給開始時の処理が終了した後において前記割込み処理が割り込んで起

動された場合、前記停電監視処理及び前記進行対応処理の両方が実行され得ることを特徴とする特徴αＢ４に記載の遊技機。

【５９６１】

特徴αＢ５によれば、所定の設定関連処理が実行されている状況において停電の発生の監視を定期的に行う構成において、所定の設定関連処理が実行されている状況において割込み処理が割り込んで起動されたとしても遊技の進行を制御するための進行対応処理が実行されてしまわないようにすることが可能となる。

【５９６２】

特徴αＢ６．前記設定関連実行手段は、

動作電力の供給が開始される場合に第１設定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作）が行われたことに基づいて、前記所定の設定関連処理として前記使用対象となる設定値が変更され得る変更可能処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が行われたことに基づいて、前記所定の設定関連処理として、前記使用対象となる設定値が報知されるようにするための設定報知処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、

を備え、

前記許可設定手段は、前記動作電力の供給開始時の処理において前記変更可能処理が実行される場合に前記割込み処理の実行が禁止されている状態から前記割込み処理の実行が許可される状態に設定するものであって、前記動作電力の供給開始時の処理において前記設定報知処理が実行される場合に前記割込み処理の実行が禁止されている状態から前記割込み処理の実行が許可される状態に設定するものであることを特徴とする特徴αＢ１乃至αＢ５のいずれか１に記載の遊技機。

【５９６３】

特徴αＢ６によれば、使用対象となる設定値を変更するためには動作電力の供給が開始される場合に第１設定関連操作を行う必要があるため、使用対象となる設定値を不正に変更しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。また、動作電力の供給が開始される場合に第２設定関連操作を行うことで使用対象の設定値が報知されるため、遊技ホールの管理者は必要に応じて使用対象の設定値を確認することが可能となる。

【５９６４】

なお、特徴αＢ１～αＢ６の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～α

ｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【５９６５】

上記特徴ｚ群、上記特徴αＡ群及び上記特徴αＢ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【５９６６】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【５９６７】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【５９６８】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、動作電力の供給が開始された場合における処理が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【５９６９】

＜特徴αＣ群＞

特徴αＣ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始された場合に前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、

前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が開始された場合に、遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制される規制状態とする規制手段（第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８０８にて肯定判定をする機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１０８及びステップＳＣ１１６にて肯定判定をする機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【５９７０】

特徴αＣ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が再開された場合に遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制される。これにより、所定の設定関連処理が完了していないにも関わらず遊技を進行させるための所定進行処理が実行されてしまわなよ

うにすることが可能となる。
【５９７１】
特徴αＣ２．前記規制手段は、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が開始された場合であっても前記所定の設定関連処理が実行される場合には前記規制状態としないことを特徴とする特徴αＣ１に記載の遊技機。
【５９７２】
特徴αＣ２によれば、動作電力の供給の再開に際して所定の設定関連処理が実行される場合にまで遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。
【５９７３】
特徴αＣ３．前記規制状態であっても前記所定進行処理とは異なる非規制処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＣ１又はαＣ２に記載の遊技機。
【５９７４】
特徴αＣ３によれば、所定進行処理の実行が規制されている状況であっても非規制処理は実行されるようにすることが可能となる。これにより、規制状態であっても必要な処理の実行を担保することが可能となる。
【５９７５】
特徴αＣ４．前記非規制処理には、停電の発生を監視するための停電監視処理（ステップＳ８９０１）が含まれていることを特徴とする特徴αＣ３に記載の遊技機。
【５９７６】
特徴αＣ４によれば、規制状態であっても停電監視処理が実行されるため、規制状態において停電が発生した場合にそれに対して適切に対処することが可能となる。
【５９７７】
特徴αＣ５．前記規制手段は、前記規制状態である状況において動作電力の供給が停止されたとしても動作電力の供給が再開された場合には前記規制状態となるようにすることを特徴とする特徴αＣ１乃至αＣ４のいずれか１に記載の遊技機。
【５９７８】
特徴αＣ５によれば、所定進行処理の実行が規制された状態が動作電力の供給を停止させただけでは解除されないようにすることが可能となる。
【５９７９】
特徴αＣ６．前記規制状態となったことに基づいて、前記所定の設定関連処理が実行される状況とすべきことを遊技者に認識可能とさせる報知が実行されるようにする手段（第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８２５の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１２７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＣ１乃至αＣ５のいずれか１に記載の遊技機。
【５９８０】
特徴αＣ６によれば、所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合には所定の設定関連処理を再度実行すべきことを遊技ホールの管理者に促すことが可能となる。
【５９８１】
特徴αＣ７．前記規制手段は、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が開始された場合であっても特定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作）が行われたことに基づいて前記規制状態としないことを特徴とする特徴αＣ１乃至αＣ６のいずれか１に記載の遊技機。
【５９８２】
特徴αＣ７によれば、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合であっても、動作電力の供給の再開に際して特定関連操作を行うことで、遊技を進行

させるための所定進行処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。
【５９８３】
特徴αＣ８．前記設定関連実行手段は、動作電力の供給が開始される場合に前記特定関連操作が行われたことに基づいて前記所定の設定関連処理を実行することを特徴とする特徴αＣ７に記載の遊技機。
【５９８４】
特徴αＣ８によれば、動作電力の供給の再開に際して所定の設定関連処理が実行される場合にまで遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。
【５９８５】
特徴αＣ９．前記特定関連操作には、設定キー挿入部（設定キー挿入部６８ａ）が設定キーにより所定対応状態（ＯＮ操作された状態）とされていることと、他の所定操作（リセットボタン６８ｃの押圧操作）が行われていることとを含み、
前記規制手段は、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が開始された場合に、前記他の所定操作が行われていなくても前記設定キー挿入部が前記所定対応状態であることに基づいて前記規制状態としないことを特徴とする特徴αＣ８に記載の遊技機。
【５９８６】
特徴αＣ９によれば、動作電力の供給の再開に際して特定関連操作が行われていなかったとしても設定キー挿入部が所定対応状態とされていることで、遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。これにより、所定の設定関連処理の実行途中で動作電力の供給が停止された場合において設定キー挿入部は所定対応状態であるものの他の所定操作を行うことなく電源のＯＮ操作を行った場合であっても所定進行処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。
【５９８７】
特徴αＣ１０．動作電力の供給が開始される場合に前記他の所定操作が行われていない状況で前記設定キー挿入部が前記所定対応状態とされたことに基づいて、前記設定値に関する別関連処理を実行する別関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＣ９に記載の遊技機。
【５９８８】
特徴αＣ１０によれば、所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合であっても動作電力の供給の再開に際して別関連処理を実行させるための操作を行うことで、遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。
【５９８９】
特徴αＣ１１．前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が開始される場合に前記他の所定操作が行われていない状況で前記設定キー挿入部が前記所定対応状態とされたことに基づいて、前記別関連処理が実行されることなく前記所定の設定関連処理が実行されることを特徴とする特徴αＣ１０に記載の遊技機。
【５９９０】
特徴αＣ１１によれば、所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開される場合に別関連処理を実行させるための操作が行われた場合には別関連処理ではなく所定の設定関連処理が実行される。これにより、所定の設定関連処理の実行を優先させることが可能となる。
【５９９１】
特徴αＣ１２．前記所定の設定関連処理は、前記使用対象となる設定値を変更することを可能とする処理であり、
前記別関連処理は、前記使用対象となる設定値を報知するための処理であることを特徴とする特徴αＣ１１に記載の遊技機。

【５９９２】
特徴αＣ１２によれば、使用対象となる設定値を変更している途中で動作電力の供給が停止された場合、その後の動作電力の供給の再開に際して、使用対象となる設定値を報知するための処理よりも使用対象となる設定値を変更するための処理の実行を優先させることが可能となる。
【５９９３】
特徴αＣ１３．前記所定の設定関連処理は、前記使用対象となる設定値を変更することを可能とする処理であることを特徴とする特徴αＣ１乃至αＣ１２のいずれか１に記載の遊技機。
【５９９４】
特徴αＣ１３によれば、使用対象となる設定値を変更するための処理の途中で動作電力の供給が停止された場合にはその後に動作電力の供給が再開された場合に遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制される。これにより、設定値の変更が完了していない状況であるにも関わらず遊技を進行させるための所定進行処理が実行されてしまわなようにすることが可能となる。
【５９９５】
なお、特徴αＣ１～αＣ１３の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【５９９６】
＜特徴αＤ群＞
特徴αＤ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、
動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作）が行われたことに基づいて、前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理

を実行する機能）と、
　動作電力の供給が開始される場合に所定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が行われたことに基づいて、前記設定値に関する所定の別関連処理を実行する別関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、
　前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が開始された場合に、遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制される規制状態とする規制手段（第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８０８にて肯定判定をする機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１０８及びステップＳＣ１１６にて肯定判定をする機能）と、
を備え、
　当該規制手段は、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合であってもその後に動作電力の供給が開始された場合に前記特定関連操作が行われたことに基づいて前記規制状態としないものであって、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合であってもその後に動作電力の供給が開始された場合に前記所定関連操作が行われたことに基づいて前記規制状態としないものであることを特徴とする遊技機。
【５９９７】
　特徴αＤ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が再開された場合に遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制される。これにより、所定の設定関連処理が完了していないにも関わらず遊技を進行させるための所定進行処理が実行されてしまわなようにすることが可能となる。
【５９９８】
　また、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合であっても、動作電力の供給の再開に際して特定関連操作が行われることで所定進行処理の実行が規制されない。これにより、動作電力の供給の再開に際して所定の設定関連処理が実行される場合にまで遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。
【５９９９】
　また、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合であっても、動作電力の供給の再開に際して所定関連操作が行われた場合にも所定進行処理の実行が規制されない。これにより、設定値に関連する処理を実行させるための操作が行われた場合には所定進行処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。
【６０００】
　特徴αＤ２．前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が開始される場合に前記所定関連操作が行われたことに基づいて、前記別関連処理が実行されることなく前記所定の設定関連処理が実行されることを特徴とする特徴αＤ１に記載の遊技機。
【６００１】
　特徴αＤ２によれば、所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合において動作電力の供給が再開される場合に別関連処理を実行させるための操作が行われた場合には別関連処理ではなく所定の設定関連処理が実行される。これにより、所定の設定関連処理の実行を優先させることが可能となる。
【６００２】
　特徴αＤ３．前記特定関連操作には、設定キー挿入部（設定キー挿入部６８ａ）が設定キーにより所定対応状態（ＯＮ操作された状態）とされていることと、他の所定操作（リセットボタン６８ｃの押圧操作）が行われていることとを含み、
　前記所定関連操作には、前記設定キー挿入部が前記設定キーにより前記所定対応状態と

されていることを含み、前記他の所定操作が行われていることを含まないことを特徴とする特徴αＤ２に記載の遊技機。
【６００３】
特徴αＤ３によれば、動作電力の供給の再開に際して特定関連操作が行われていなかったとしても設定キー挿入部が所定対応状態とされていることで、遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。これにより、所定の設定関連処理の実行途中で動作電力の供給が停止された場合において設定キー挿入部は所定対応状態であるものの他の所定操作を行うことなく電源のＯＮ操作を行った場合であっても所定進行処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。
【６００４】
特徴αＤ４．前記所定の設定関連処理は、前記使用対象となる設定値を変更することを可能とする処理であり、
前記別関連処理は、前記使用対象となる設定値を報知するための処理であることを特徴とする特徴αＤ１乃至αＤ３のいずれか１に記載の遊技機。
【６００５】
特徴αＤ４によれば、使用対象となる設定値を変更するための処理の途中で動作電力の供給が停止された場合にはその後に動作電力の供給が再開された場合に遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制される。これにより、設定値の変更が完了していない状況であるにも関わらず遊技を進行させるための所定進行処理が実行されてしまわなようにすることが可能となる。また、使用対象となる設定値を変更している途中で動作電力の供給が停止された場合には動作電力の供給の再開に際して、使用対象となる設定値を変更することを可能とする処理が実行されるようにするための操作が行われた場合だけではなく、使用対象となる設定値を報知するための処理が実行されるようにするための操作が行われた場合にも所定進行処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。
【６００６】
特徴αＤ５．前記規制状態であっても前記所定進行処理とは異なる非規制処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０１～ステップＳ８９０５の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＤ１乃至αＤ４のいずれか１に記載の遊技機。
【６００７】
特徴αＤ５によれば、所定進行処理の実行が規制されている状況であっても非規制処理は実行されるようにすることが可能となる。これにより、規制状態であっても必要な処理の実行を担保することが可能となる。
【６００８】
特徴αＤ６．前記非規制処理には、停電の発生を監視するための停電監視処理（ステップＳ８９０１）が含まれていることを特徴とする特徴αＤ５に記載の遊技機。
【６００９】
特徴αＤ６によれば、規制状態であっても停電監視処理が実行されるため、規制状態において停電が発生した場合にそれに対して適切に対処することが可能となる。
【６０１０】
特徴αＤ７．前記規制手段は、前記規制状態である状況において動作電力の供給が停止されたとしても動作電力の供給が再開された場合には前記規制状態となるようにすることを特徴とする特徴αＤ１乃至αＤ６のいずれか１に記載の遊技機。
【６０１１】
特徴αＤ７によれば、所定進行処理の実行が規制された状態が動作電力の供給を停止させただけでは解除されないようにすることが可能となる。
【６０１２】
特徴αＤ８．前記規制状態となったことに基づいて、前記所定の設定関連処理が実行される状況とすべきことを遊技者に認識可能とさせる報知が実行されるようにする手段（第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８２５の処理を実行する機能、

第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１２７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＤ１乃至αＤ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６０１３】

特徴αＤ８によれば、所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合には所定の設定関連処理を再度実行すべきことを遊技ホールの管理者に促すことが可能となる。

【６０１４】

特徴αＤ９．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始される場合に特定関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作）が行われたことに基づいて、前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能）と、

前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が開始された場合に、遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制される規制状態とする規制手段（第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８０８にて肯定判定をする機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１０８及びステップＳＣ１１６にて肯定判定をする機能）と、

を備え、

前記特定関連操作には、第１関連操作（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）と第２関連操作（リセットボタン６８ｃの押圧操作）とを含み、

前記規制手段は、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合であってもその後に動作電力の供給が開始された場合に前記特定関連操作が行われたことに基づいて前記規制状態としないものであって、前記所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合であってもその後に動作電力の供給が開始された場合に前記第１関連操作及び前記第２関連操作のうち前記第１関連操作が行われたことに基づいて前記規制状態としないものであることを特徴とする遊技機。

【６０１５】

特徴αＤ９によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、所定の設定関連処理を完了する前に動作電力の供給が停止された場合においてその後に動作電力の供給が再開された場合に遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制される。これにより、所定の設定関連処理が完了していないにも関わらず遊技を進行させるための所定進行処理が実行されてしまわなようにすることが可能となる。

【６０１６】

また、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合であっても、動作電力の供給の再開に際して特定関連操作が行われることで所定進行処理の実行が規制されない。これにより、動作電力の供給の再開に際して所定の設定関連処理が実行される場合にまで遊技を進行させるための所定進行処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。

【６０１７】

また、所定の設定関連処理が完了する前に動作電力の供給が停止された場合であっても、動作電力の供給の再開に際して第１関連操作が行われていれば所定進行処理の実行が規制されない。これにより、所定の設定関連処理を実行させるための一部の操作が行われた場合には所定進行処理の実行が規制されてしまわないようにすることが可能となる。

【６０１８】

なお、特徴αＤ１～αＤ９の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、

特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６０１９】

＜特徴αＥ群＞

特徴αＥ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始される場合に所定対応操作手段の操作を含む特定関連操作が行われたことに基づいて前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１２にて肯定判定をする機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１３にて肯定判定をする機能）と、

前記所定対応操作手段が操作されているか否かを特定する操作特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９１０の処理を実行する機能）と、

当該操作特定手段により前記所定対応操作手段が操作されていないことが特定された場合に記憶状態が非操作対応状態となり、前記操作特定手段により前記所定対応操作手段が操作されていることが特定された場合に記憶状態が操作対応状態となる操作対応記憶手段（ＯＦＦ確認フラグ３６１）と、

前記設定可能状況において前記操作対応記憶手段の記憶状態が前記非操作対応状態である状況で、前記所定対応操作手段が操作されていることが前記操作特定手段により特定されたことに基づいて、選択対象となる設定値を変更させる選択対象変更手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９１４の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記設定可能状況において終了契機が発生した場合に前記選択対象となっている設定値が前記使用対象となる設定値である構成であり、

本遊技機は、前記設定可能状況が開始される場合又は前記設定可能状況が開始された場合に前記操作対応記憶手段の記憶状態を前記操作対応状態に設定する状態設定手段（第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９０１の処理を実行する機能、第

５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【６０２０】

特徴αＥ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、使用対象となる設定値を変更することが可能となる設定可能状況を生じさせるためには所定対応操作手段の操作を含む特定関連操作が行われた状態で電源のＯＮ操作を行う必要があるため、使用対象となる設定値を不正に変更しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。また、設定可能状況を生じさせるために操作される所定対応操作手段が操作されたことに基づいて選択対象の設定値が変更されるため、設定値を変更するために必要な操作手段の数を抑えることが可能となる。また、設定可能状況においては操作対応記憶手段の記憶状態が非操作対応状態である状況で所定対応操作手段が操作されていることが特定されたことに基づいて選択対象となる設定値が変更されるため、所定対応操作手段の１回の操作に対して選択対象となる設定値の変更が複数回発生してしまわないようにすることが可能となる。

【６０２１】

この場合に、設定可能状況が開始される場合又は設定可能状況が開始された場合に操作対応記憶手段の記憶状態が操作対応状態に設定される。これにより、設定可能状況を生じさせるための所定対応操作手段の操作が設定可能状況の開始後においても継続された場合に、その所定対応操作手段の操作によって選択対象となる設定値の変更が発生してしまわないようにすることが可能となる。

【６０２２】

特徴αＥ２．前記状況発生手段は、前記所定対応操作手段の操作を検知する手段の検知状態が操作検知状態である場合、前記操作対応記憶手段の記憶状態に関係なく前記所定対応操作手段が操作されていると特定することを特徴とする特徴αＥ１に記載の遊技機。

【６０２３】

特徴αＥ２によれば、特定関連操作が行われたか否かの特定に際しては所定対応操作手段が操作されていない状態から操作された状態に切り換わったか否かを特定するのではなく、所定対応操作手段が操作されているか否かを特定する構成であるため、設定可能状況を発生させるか否かを特定するための処理構成を簡素化することが可能となる。

【６０２４】

特徴αＥ３．前記使用対象となっている設定値に対応する設定対応情報を記憶する設定対応記憶手段（設定参照用エリア３４１）と、

前記選択対象となっている設定値に対応する選択対応情報を記憶する選択対応記憶手段（設定更新用エリア３４２）と、

を備え、

前記選択対象変更手段は、前記設定可能状況において前記操作対応記憶手段の記憶状態が前記非操作対応状態である状況で前記操作特定手段により前記所定対応操作手段が操作されていることが特定されたことに基づいて、前記選択対象となっている設定値が変更されるように前記選択対応記憶手段に記憶されている前記選択対応情報を変更するものであり、

前記状況発生手段は、前記設定可能状況において前記終了契機が発生した場合に前記選択対応記憶手段に記憶されている前記選択対応情報に対応する情報を前記設定対応情報として前記設定対応記憶手段に記憶させることにより、前記設定可能状況において選択対象となっていた設定値を使用対象として設定するものであることを特徴とする特徴αＥ１又はαＥ２に記載の遊技機。

【６０２５】

特徴αＥ３によれば、使用対象の設定値に対応する設定対応情報を記憶する設定対応記憶手段と、設定可能状況において変更途中の設定値に対応する選択対応情報を記憶する選択対応記憶手段とが設けられていることにより、設定可能状況が開始される前に設定され

ていた設定値の情報を記憶保持しながら、設定可能状況において設定値を変更することが可能となる。

【６０２６】

特徴αＥ４．前記設定可能状況において前記選択対象となっている設定値の表示が所定の表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）にて行われるようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＡ８０１～ステップＳＡ８０３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＥ１乃至αＥ３のいずれか１に記載の遊技機。

【６０２７】

特徴αＥ４によれば、設定可能状況において変更途中の設定値を確認しながら設定値の変更操作を行うことが可能となる。

【６０２８】

特徴αＥ５．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定されている設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始される場合に所定対応操作手段の操作を含む特定関連操作が行われたことに基づいて前記使用対象となる設定値の変更を行うことが可能な設定可能状況（設定値更新処理が実行される状況）となるようにする状況発生手段（第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ８１２にて肯定判定をする機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１３にて肯定判定をする機能）と、

前記所定対応操作手段が操作されているか否かを特定する操作特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９１０の処理を実行する機能）と、

前記設定可能状況において前記所定対応操作手段が操作されていることが前記操作特定手段により特定されたことに基づいて、選択対象となる設定値を変更させる選択対象変更手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９１４の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記設定可能状況において終了契機が発生した場合に前記選択対象となっている設定値が前記使用対象となる設定値である構成であり、

本遊技機は、前記設定可能状況を発生させるための動作電力の供給が開始される場合における前記所定対応操作手段の操作が、前記設定可能状況において選択対象となる設定値の変更の契機となる操作として扱われないようにする手段（第５３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ９０１の処理を実行する機能、第５４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ１１４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【６０２９】

特徴αＥ５によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。また、使用対象となる設定値を変更することが可能となる設定可能状況を生じさせるためには所定対応操作手段の操作を含む特定関連操作が行われた状態で電源のＯＮ操作を行う必要があるため、使用対象となる設定値を不正に変更しようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。また、設定可能状況を生じさせるために操作される所定対応操作手段が操作されたことに基づいて選択対象の設定値が変更されるため、設定値を変更するために必要な操作手段の数を抑えることが可能となる。

【６０３０】

この場合に、設定可能状況を発生させるための動作電力の供給が開始される場合における所定対応操作手段の操作が、設定可能状況において選択対象となる設定値の変更の契機となる操作として扱われないようにされる。これにより、設定可能状況を生じさせるための所定対応操作手段の操作が設定可能状況の開始後においても継続された場合に、その所定対応操作手段の操作によって選択対象となる設定値の変更が発生してしまわないようにすることが可能となる。

【６０３１】

なお、特徴αＥ１～αＥ５の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６０３２】

上記特徴αＣ群、上記特徴αＤ群及び上記特徴αＥ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６０３３】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６０３４】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６０３５】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の有利度を決定付ける設定値に関する構成を好適なものとする必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６０３６】

＜特徴αＦ群＞
特徴αＦ１．特定表示手段（特図表示部３７ａ、普図表示部３８ａ）と、
表示記憶領域（第１表示データバッファ２７１、第３表示データバッファ２７３）に表示データを設定する表示データ設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９１５の処理を実行する機能）と、
前記表示記憶領域に記憶された前記表示データに対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御する特定表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ４１２～ステップＳＣ４１４の処理を実行する機能）と、
動作電力の供給が開始されたことに基づいて、所定の記憶領域（第５５の実施形態におけるクリア対象エリア３７１）を初期化する初期化手段（第５５の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第２ＲＡＭクリア処理を実行する機能）と、
を備え、
前記表示記憶領域は前記初期化手段により初期化されないことを特徴とする遊技機。
【６０３７】
特徴αＦ１によれば、動作電力の供給が開始されたことに基づいて所定の記憶領域が初期化されることにより所定の記憶領域が初期化された状況で遊技が開始されるようにすることが可能となる。この場合に、所定の記憶領域が初期化されたとしても特定表示手段に表示を行わせるための表示データが設定される表示記憶領域は初期化手段により初期化されない。これにより、動作電力の供給が開始された場合における特定表示手段の表示内容を、所定の記憶領域が初期化手段により初期化された場合及び初期化されなかった場合のいずれであっても動作電力の供給が停止される前における表示内容とすることが可能となる。よって、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、初期化手段による所定の記憶領域の初期化が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。
【６０３８】
特徴αＦ２．動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第５５の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＣ２１６の処理を実行する機能）を備え、
前記初期化手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われる場合又は前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われた後に前記所定の記憶領域を初期化することを特徴とする特徴αＦ１に記載の遊技機。
【６０３９】
特徴αＦ２によれば、動作電力の供給が開始された場合に使用対象の設定値の新たな設定が行われる場合又は行われた場合に付随して所定の記憶領域が初期化手段により初期化されることにより、使用対象となる設定値の新たな設定が行われた場合には所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、使用対象となる設定値の新たな設定に付随して所定の記憶領域が初期化手段により初期化されたとしても、特定表示手段に表示を行わせるための表示データが設定される表示記憶領域は初期化手段により初期化されない。これにより、動作電力の供給が開始された場合における特定表示手段の表示内容を、使用対象となる設定値の新たな設定が行われた場合及び使用対象となる設定値の新たな設定が行われなかった場合のいずれであっても動作電力の供給が停止される前における表示内容とすることが可能となる。よって、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。
【６０４０】
特徴αＦ３．動作電力の供給が開始された場合において所定の初期化条件が成立した場合（主側ＲＡＭ６５に関する情報異常が発生しておらずさらに設定更新表示フラグ及び遊技停止フラグに「１」がセットされていない状況で「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合）、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われない場合であっても前

記所定の記憶領域を初期化する別初期化手段（第５５の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第１ＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備え、
前記表示記憶領域は前記別初期化手段により初期化されないことを特徴とする特徴αＦ２に記載の遊技機。
【６０４１】
特徴αＦ３によれば、動作電力の供給が開始された場合において所定の初期化条件が成立した場合には使用対象となる設定値の新たな設定が行われない場合であっても所定の記憶領域が初期化されるため、使用対象となる設定値の新たな設定が行われない状況であっても所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、使用対象となる設定値の新たな設定が行われる場合及び所定の初期化条件が成立した場合のいずれであっても、特定表示手段に表示を行わせるための表示データが設定される表示記憶領域は初期化されない。これにより、動作電力の供給が開始された場合における特定表示手段の表示内容を、設定値の新たな設定が行われた場合、設定値の新たな設定が行われなかった場合、所定の初期化条件が成立した場合及び所定の初期化条件が成立しなかった場合のいずれであっても動作電力の供給が停止される前における表示内容とすることが可能となる。よって、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、設定値の新たな設定が行われたか否か及び所定の初期化条件が成立したか否かを特定できないようにすることが可能となる。
【６０４２】
特徴αＦ４．前記特定表示制御手段に動作電力が供給されていない状況において、前記表示記憶領域及び前記所定の記憶領域にバックアップ電力を供給する手段（電源・発射制御装置７８）を備えていることを特徴とする特徴αＦ１乃至αＦ３のいずれか１に記載の遊技機。
【６０４３】
特徴αＦ４によれば、表示記憶領域及び所定の記憶領域が情報の記憶保持のために動作電力の供給が必要な構成であっても、特定表示制御手段に動作電力が供給されていない状況においては表示記憶領域及び所定の記憶領域にはバックアップ電力が供給されるため、特定表示手段に動作電力が供給されていない状況であってもこれら表示記憶領域及び所定の記憶領域において情報を記憶保持することが可能となる。
【６０４４】
特徴αＦ５．遊技者に特典を付与するか否かを決定し、遊技者に特典を付与する場合には特典付与情報（大当たり結果の種類に対応したフラグにセットされる「１」の情報）を前記所定の記憶領域に記憶させる付与決定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０８の処理を実行する機能）と、
前記所定の記憶領域に前記特典付与情報が記憶されていることに基づいて遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０８～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記表示データ設定手段は、決定結果の表示タイミングとなった場合に前記付与決定手段の決定結果に対応する結果対応の表示データ（ステップＳ５０７又はステップＳ５０９に選択された表示データ）を前記表示記憶領域に設定し、
前記特定表示制御手段は、前記表示記憶領域に記憶された前記結果対応の表示データに対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御することで、前記付与決定手段の決定結果に対応する表示が前記特定表示手段にて行われるようにすることを特徴とする特徴αＦ１乃至αＦ４のいずれか１に記載の遊技機。
【６０４５】
特徴αＦ５によれば、遊技者に特典を付与するか否かの決定結果に対応する表示が特定表示手段にて行われることにより遊技者は特定表示手段に注目することとなる。この場合に、上記特徴αＦ１に記載された構成を備えていることにより動作電力の供給が開始された場合に所定の記憶領域が初期化手段により初期化されたとしても特定表示手段に表示を

行わせるための表示データが設定される表示記憶領域は初期化手段により初期化されない。これにより、動作電力の供給が開始された場合における特定表示手段の表示内容を、所定の記憶領域が初期化手段により初期化された場合及び初期化されなかった場合のいずれであっても動作電力の供給が停止される前における表示内容とすることが可能となる。よって、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、初期化手段による所定の記憶領域の初期化が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６０４６】

特徴αＦ６．前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化されることで前記特典付与情報が当該所定の記憶領域から消去される場合であっても、前記表示記憶領域は前記初期化手段により初期化されないことを特徴とする特徴αＦ５に記載の遊技機。

【６０４７】

特徴αＦ６によれば、動作電力の供給が開始された場合に所定の記憶領域が初期化された場合には特典付与情報が所定の記憶領域から消去されることにより、動作電力の供給が停止される前に特典付与情報が所定の記憶領域に記憶されていたとしても動作電力の供給が再開された場合には当該特典付与情報が消去された状態において遊技を開始させることが可能となる。この場合に、このように特典付与情報が所定の記憶領域から消去される場合であっても、特定表示手段に表示を行わせるための表示データが設定される表示記憶領域は初期化手段により初期化されない。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても初期化手段による所定の記憶領域の初期化が行われたか否かを特定できないようにすることを優先させることが可能となる。

【６０４８】

特徴αＦ７．前記特定表示手段として、第１特定表示手段（特図表示部３７ａ）と、第２特定表示手段（普図表示部３８ａ）と、を備え、

前記表示記憶領域として、第１表示記憶領域（第１表示データバッファ２７１）と、第２表示記憶領域（第３表示データバッファ２７３）と、を備え、

前記表示データ設定手段は、

前記第１表示記憶領域に表示データを設定する第１表示データ設定手段（特図表示部３７ａに関して主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９１５の処理を実行する機能）と、

前記第２表示記憶領域に表示データを設定する第２表示データ設定手段（普図表示部３８ａに関して主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９１５の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記特定表示制御手段は、

前記第１表示記憶領域に記憶された前記表示データに対応する表示が行われるように前記第１特定表示手段を表示制御する第１特定表示制御手段（特図表示部３７ａに関して主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ４１２～ステップＳＣ４１４の処理を実行する機能）と、

前記第２表示記憶領域に記憶された前記表示データに対応する表示が行われるように前記第２特定表示手段を表示制御する第２特定表示制御手段（普図表示部３８ａに関して主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ４１２～ステップＳＣ４１４の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記第１表示記憶領域及び前記第２表示記憶領域は前記初期化手段により初期化されないことを特徴とする特徴αＦ１乃至αＦ６のいずれか１に記載の遊技機。

【６０４９】

特徴αＦ７によれば、第１特定表示手段及び第２特定表示手段のいずれについても動作電力の供給が開始された場合における表示内容を、所定の記憶領域が初期化手段により初期化された場合及び初期化されなかった場合のいずれであっても動作電力の供給が停止される前における表示内容とすることが可能となる。よって、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が第１特定表示手段及び第２特定表示手段のいずれの表示内容を確認したと

しても、初期化手段による所定の記憶領域の初期化が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６０５０】

特徴αＦ８．動作電力の供給が開始された場合に動作電力の供給開始時の処理が実行される構成であって、前記初期化手段による前記所定の記憶領域を初期化する処理は前記動作電力の供給開始時の処理に含まれる構成であり、

前記特定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合、前記動作電力の供給開始時の処理が終了した後に前記特定表示手段の表示を開始させることを特徴とする特徴αＦ１乃至αＦ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６０５１】

特徴αＦ８によれば、所定の記憶領域が初期化手段により初期化される場合及び初期化されない場合のいずれであっても、動作電力の供給開始時の処理が終了した後のタイミングで特定表示手段における表示が開始されるようにすることが可能となる。

【６０５２】

特徴αＦ９．動作電力の供給が開始されたことに基づいて、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定することが可能な設定可能状況となるようにする状況発生手段（第５５の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＣ２１６の処理を実行する機能）を備え、

前記初期化手段は、前記設定可能状況が発生する場合又は前記設定可能状況が発生した後に前記所定の記憶領域を初期化する構成であり、

前記設定可能状況は前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において発生することを特徴とする特徴αＦ８に記載の遊技機。

【６０５３】

特徴αＦ９によれば、設定可能状況が発生する場合及び発生しない場合のいずれであっても、動作電力の供給開始時の処理が終了した後のタイミングで特定表示手段における表示が開始されるようにすることが可能となる。

【６０５４】

なお、特徴αＦ１～αＦ９の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８

、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６０５５】

＜特徴αＧ群＞

特徴αＧ１．特定表示手段（特図表示部３７ａ、普図表示部３８ａ）と、

表示記憶領域（第１表示データバッファ２７１、第３表示データバッファ２７３）に表示データを設定する表示データ設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９１５の処理を実行する機能）と、

前記表示記憶領域に記憶された前記表示データに対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御する特定表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ４１２～ステップＳＣ４１４の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始されたことに基づいて、前記表示記憶領域を含む所定の記憶領域（第５６の実施形態におけるクリア対象エリア３７１）を初期化する初期化手段（第５６の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第２ＲＡＭクリア処理を実行する機能）と、

を備え、

前記表示データ設定手段は、動作電力の供給が開始された場合に前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化された場合及び動作電力の供給が開始された場合に前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化されなかった場合のいずれにおいても前記特定表示手段に特定対応表示を行わせるための特定対応表示データを前記表示記憶領域に設定する対応設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ５０２、ステップＳＣ５０３、ステップＳＣ５０７及びステップＳＣ５１０の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【６０５６】

特徴αＧ１によれば、動作電力の供給が開始されたことに基づいて所定の記憶領域が初期化されることにより所定の記憶領域が初期化された状況で遊技が開始されるようにすることが可能となる。この場合に、動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化された場合及び初期化されなかった場合のいずれにおいても特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、初期化手段による所定の記憶領域の初期化が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６０５７】

特徴αＧ２．動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第５６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＣ２１６の処理を実行する機能）を備え、

前記初期化手段は、前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われる場合又は前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われた後に前記所定の記憶領域を初期化することを特徴とする特徴αＧ１に記載の遊技機。

【６０５８】

特徴αＧ２によれば、動作電力の供給が開始された場合に使用対象の設定値の設定が行われる場合又は行われた場合に付随して所定の記憶領域が初期化されることにより、使用対象の設定値の新たな設定が行われた場合には所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、使用対象の設定値の新たな設定に付随して所定の記憶領域が初期化された場合及び初期化されなかった場合のいずれにおいても特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、使用対象の設定値の新たな設定が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６０５９】

特徴αＧ３．動作電力の供給が開始された場合において所定の初期化条件が成立した場

合（主側ＲＡＭ６５に関する情報異常が発生しておらずさらに設定更新表示フラグ及び遊技停止フラグに「１」がセットされていない状況で「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合）、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われない場合であっても前記所定の記憶領域を初期化する別初期化手段（第５６の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第１ＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備え、

前記対応設定手段は、動作電力の供給が開始された場合に前記別初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化された場合にも前記特定対応表示データを前記表示記憶領域に設定することを特徴とする特徴αＧ２に記載の遊技機。

【６０６０】

特徴αＧ３によれば、動作電力の供給が開始された場合において所定の初期化条件が成立した場合には設定値の設定が行われない場合であっても所定の記憶領域が初期化されるため、設定値の新たな設定が行われない状況であっても所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、設定値の新たな設定が行われた場合、設定値の新たな設定が行われなかった場合、所定の初期化条件が成立した場合及び所定の初期化条件が成立しなかった場合のいずれであっても特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、設定値の新たな設定が行われたか否か及び所定の初期化条件が成立したか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６０６１】

特徴αＧ４．前記対応設定手段は、所定規制状況（遊技回の実行中、開閉実行モードの実行中、普図表示部３８ａにおける変動表示回の実行中、普電開放状態の実行中）において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化されなかった場合、前記表示記憶領域に前記特定対応表示データを設定しないことを特徴とする特徴αＧ１乃至αＧ３のいずれか１に記載の遊技機。

【６０６２】

特徴αＧ４によれば、所定規制状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化されなかった場合には表示記憶領域に特定対応表示データが設定されないため、表示記憶領域には動作電力の供給が停止された場合における表示データがそのまま記憶保持されることとなる。これにより、所定規制状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化されなかった場合には、動作電力の供給が停止された場合における特定表示手段の表示内容から当該特定表示手段の表示を開始させることが可能となる。

【６０６３】

特徴αＧ５．遊技者に特典を付与するか否かを決定し、遊技者に特典を付与する場合には特典付与情報（大当たり結果の種類に対応したフラグにセットされる「１」の情報）を前記所定の記憶領域に記憶させる付与決定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０８の処理を実行する機能）と、

前記所定の記憶領域に前記特典付与情報が記憶されていることに基づいて遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０８～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記表示データ設定手段は、決定結果の表示タイミングとなった場合に前記付与決定手段の決定結果に対応する結果対応の表示データ（ステップＳ５０７又はステップＳ５０９に選択された表示データ）を前記表示記憶領域に設定し、

前記特定表示制御手段は、前記表示記憶領域に記憶された前記結果対応の表示データに対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御することで、前記付与決定手段の決定結果に対応する表示が前記特定表示手段にて行われるようにすることを特徴とする特徴αＧ１乃至αＧ４のいずれか１に記載の遊技機。

【６０６４】
特徴αＧ５によれば、遊技者に特典を付与するか否かの決定結果に対応する表示が特定表示手段にて行われることにより遊技者は特定表示手段に注目することとなる。この場合に、上記特徴αＧ１に記載された構成を備えていることにより、動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化された場合及び初期化されなかった場合のいずれにおいても特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、初期化手段による所定の記憶領域の初期化が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。
【６０６５】
特徴αＧ６．前記特定表示制御手段は、絵柄の変動表示が開始された後に前記付与決定手段の決定結果に対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御するものであり、
前記対応設定手段は、前記特定表示手段にて絵柄の変動表示が行われている状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化されなかった場合、前記表示記憶領域に前記特定対応表示データを設定しないことを特徴とする特徴αＧ５に記載の遊技機。
【６０６６】
特徴αＧ６によれば、特定表示手段にて絵柄の変動表示が行われている状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化されなかった場合には表示記憶領域に特定対応表示データが設定されないため、表示記憶領域には動作電力の供給が停止された場合における表示データがそのまま記憶保持されることとなる。これにより、特定表示手段にて絵柄の変動表示が行われている状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化されなかった場合には、特定表示手段における絵柄の変動表示を再開させることが可能となる。
【６０６７】
特徴αＧ７．前記特典付与手段は、前記所定の記憶領域に前記特典付与情報が記憶されている場合、前記特定表示手段にて前記特典が付与されることに対応する表示が行われた後に前記特典を付与するものであり、
前記対応設定手段は、前記特典付与手段により前記特典が付与されている状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化されなかった場合、前記表示記憶領域に前記特定対応表示データを設定しないことを特徴とする特徴αＧ５又はαＧ６に記載の遊技機。
【６０６８】
特徴αＧ７によれば、特典が付与されている状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化されなかった場合には表示記憶領域に特定対応表示データが設定されないため、表示記憶領域には動作電力の供給が停止された場合における表示データがそのまま記憶保持されることとなる。これにより、特典が付与されている状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化されなかった場合には、特典が付与されている状況に対応する表示内容から特定表示手段の表示を開始することが可能となる。
【６０６９】
特徴αＧ８．前記特定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記特定表示手段にて前記特定対応表示が行われる場合、前記表示記憶領域に前記特定対応表示データが設定された後に前記特定表示手段の表示を開始させることを特徴とする特徴αＧ１乃至αＧ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６０７０】
特徴αＧ８によれば、動作電力の供給が開始された場合に特定対応表示が行われる前に動作電力の供給が停止された場合における表示内容が特定表示手段にて行われてしまわないようにすることが可能となる。
【６０７１】
特徴αＧ９．動作電力の供給が開始された場合に動作電力の供給開始時の処理が実行される構成であって、前記初期化手段による前記所定の記憶領域を初期化する処理は前記動作電力の供給開始時の処理に含まれる構成であり、
前記特定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記動作電力の供給開始時の処理が実行された後に前記特定表示手段の表示を開始させることを特徴とする特徴αＧ８に記載の遊技機。
【６０７２】
特徴αＧ９によれば、所定の記憶領域が初期化手段により初期化される場合及び初期化されない場合のいずれであっても、動作電力の供給開始時の処理が終了した後のタイミングで特定表示手段における表示が開始されるようにすることが可能となる。
【６０７３】
特徴αＧ１０．動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第５６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＣ２１６の処理を実行する機能）を備え、
前記初期化手段は、前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われる場合又は前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われた後に前記所定の記憶領域を初期化する構成であり、
前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定は前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において発生することを特徴とする特徴αＧ９に記載の遊技機。
【６０７４】
特徴αＧ１０によれば、使用対象の設定値の新たな設定が行われる場合及び行われない場合のいずれであっても、動作電力の供給開始時の処理が終了した後のタイミングで特定表示手段における表示が開始されるようにすることが可能となる。
【６０７５】
なお、特徴αＧ１～αＧ１０の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ

１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６０７６】

＜特徴αＨ群＞

特徴αＨ１．特定表示手段（特図表示部３７ａ、普図表示部３８ａ）と、

表示記憶領域（第１表示データバッファ２７１、第３表示データバッファ２７３）に表示データを設定する表示データ設定手段（第５５～第５７の実施形態であれば主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９１５の処理を実行する機能、第５８～第６０の実施形態であれば主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ７１７の処理を実行する機能）と、

前記表示記憶領域に記憶された前記表示データに対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御する特定表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ４１２～ステップＳＣ４１４の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第５５～第６０の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＣ２１６の処理を実行する機能）と、

を備え、

動作電力の供給が開始された場合における前記特定表示手段の表示内容が、動作電力の供給が開始された場合に前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われたこと及び動作電力の供給が開始された場合に前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われなかった所定状況であることの区別を不可とする表示内容となることを特徴とする遊技機。

【６０７７】

特徴αＨ１によれば、動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において使用対象となる設定値の設定が行われることにより、使用対象となる設定値の設定を行うためには動作電力の供給を新たに開始させる必要が生じることとなり、使用対象となる設定値の設定を不正に行うとしてもそれが行いづらくなる。この場合に、動作電力の供給が開始された場合における特定表示手段の表示内容が、動作電力の供給が開始された場合に使用対象となる設定値の設定が行われたこと及び動作電力の供給が開始された場合に使用対象となる設定値の設定が行われなかった所定状況であることの区別を不可とする表示内容となる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、使用対象となる設定値の設定が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６０７８】

特徴αＨ２．特定表示手段（特図表示部３７ａ、普図表示部３８ａ）と、

表示記憶領域（第１表示データバッファ２７１、第３表示データバッファ２７３）に表示データを設定する表示データ設定手段（第５６～第５７の実施形態であれば主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９１５の処理を実行する機能、第５８～第６０の実施形態であれば主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ７１７の処理を実行する機能）と、

前記表示記憶領域に記憶された前記表示データに対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御する特定表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ４１２～ステップＳＣ４１４の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第５６～第６０の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＣ２１６の処理を実行する機能）と、

を備え、
前記表示データ設定手段は、動作電力の供給が開始された場合に前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われた場合及び動作電力の供給が開始された場合に前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われない所定状況の場合のいずれにおいても、前記特定表示手段に特定対応表示を行わせるための特定対応表示データを前記表示記憶領域に設定する対応設定手段（第５６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ５０２、ステップＳＣ５０３、ステップＳＣ５０７及びステップＳＣ５１０の処理を実行する機能、第５７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ６０２及びステップＳＣ６０３の処理を実行する機能、第５８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ８０２～ステップＳＣ８０５の処理を実行する機能、第５９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ９０２～ステップＳＣ９０５の処理を実行する機能、第６０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ１０２～ステップＳＤ１０５、ステップＳＤ１０９、ステップＳＤ１１０、ステップＳＤ１１３及びステップＳＤ１１４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。
【６０７９】
特徴αＨ２によれば、動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において使用対象となる設定値の設定が行われることにより、使用対象となる設定値の設定を行うためには動作電力の供給を新たに開始させる必要が生じることとなり、使用対象となる設定値の設定を不正に行うとしてもそれが行いづらくなる。この場合に、動作電力の供給が開始された場合に使用対象となる設定値の設定が行われた場合及び動作電力の供給が開始された場合に使用対象となる設定値の設定が行われない所定状況の場合のいずれにおいても特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、使用対象となる設定値の設定が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。
【６０８０】
特徴αＨ３．動作電力の供給が開始された場合に所定の初期化条件が成立した場合（主側ＲＡＭ６５に関する情報異常が発生しておらずさらに設定更新表示フラグ及び遊技停止フラグに「１」がセットされていない状況で「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合）、前記所定の記憶領域を初期化する別初期化手段（第５６～第６０の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第１ＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備え、
前記対応設定手段は、動作電力の供給が開始された場合に前記別初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化された場合及び動作電力の供給が開始された場合に前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われた場合のいずれにおいても前記特定対応表示データを前記表示記憶領域に設定することを特徴とする特徴αＨ２に記載の遊技機。
【６０８１】
特徴αＨ３によれば、動作電力の供給が開始された場合において所定の初期化条件が成立した場合には所定の記憶領域が初期化されるため、所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、使用対象の設定値の設定が行われた場合及び所定の記憶領域が初期化された場合のいずれにおいても、動作電力の供給が開始された場合に特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、使用対象の設定値の新たな設定及び所定の記憶領域の初期化のうちいずれが行われたのかを区別できないようにすることが可能となる。
【６０８２】
特徴αＨ４．前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われる場合又は前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われた後に前記所定の記憶領域を初期化する初期化手段（第５６～第６０の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第２ＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＨ２又はαＨ３に記載の遊技機。
【６０８３】

特徴αＨ４によれば、動作電力の供給が開始された場合に使用対象の設定値の設定が行われる場合又は行われた場合に付随して所定の記憶領域が初期化されることにより、使用対象の設定値の新たな設定が行われた場合には所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、動作電力の供給が開始された場合に使用対象となる設定値の設定が行われた場合及び動作電力の供給が開始された場合に使用対象となる設定値の設定が行われない所定状況の場合のいずれにおいても特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、使用対象となる設定値の設定が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６０８４】

特徴αＨ５．遊技者に特典を付与するか否かを決定し、遊技者に特典を付与する場合には特典付与情報（大当たり結果の種類に対応したフラグにセットされる「１」の情報）を前記所定の記憶領域に記憶させる付与決定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０８の処理を実行する機能）と、

前記所定の記憶領域に前記特典付与情報が記憶されていることに基づいて遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０８～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記表示データ設定手段は、決定結果の表示タイミングとなった場合に前記付与決定手段の決定結果に対応する結果対応の表示データ（ステップＳ５０７又はステップＳ５０９に選択された表示データ）を前記表示記憶領域に設定し、

前記特定表示制御手段は、前記表示記憶領域に記憶された前記結果対応の表示データに対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御することで、前記付与決定手段の決定結果に対応する表示が前記特定表示手段にて行われるようにすることを特徴とする特徴αＨ２乃至αＨ４のいずれか１に記載の遊技機。

【６０８５】

特徴αＨ５によれば、遊技者に特典を付与するか否かの決定結果に対応する表示が特定表示手段にて行われることにより遊技者は特定表示手段に注目することとなる。この場合に、上記特徴αＨ１に記載された構成を備えていることにより、動作電力の供給が開始された場合に使用対象となる設定値の設定が行われた場合及び動作電力の供給が開始された場合に使用対象となる設定値の設定が行われない所定状況の場合のいずれにおいても特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、使用対象となる設定値の設定が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６０８６】

特徴αＨ６．前記特定対応表示データは、前記結果対応の表示データとして利用される表示データであることを特徴とする特徴αＨ５に記載の遊技機。

【６０８７】

特徴αＨ６によれば、付与決定手段の決定結果を報知するために利用される結果対応の表示データを利用して動作電力の供給が開始された場合に特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、表示データの容量の増大化を抑制しながら、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても使用対象となる設定値の設定が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６０８８】

特徴αＨ７．前記特定対応表示データは、前記結果対応の表示データのうち、前記付与決定手段において遊技者に前記特典を付与しないと決定された場合に利用される表示データであることを特徴とする特徴αＨ６に記載の遊技機。

【６０８９】

遊技ホールの閉店時には付与決定手段において遊技者に特典を付与しないと決定されたことに対応する表示内容が特定表示手段にて表示された状況で遊技機の電源が遮断される

ことが普通である。この場合に、特徴αＨ７によれば、動作電力の供給が開始された場合に使用対象となる設定値の設定が行われた場合及び動作電力の供給が開始された場合に使用対象となる設定値の設定が行われない所定状況の場合のいずれにおいても、特定表示手段の表示内容が付与決定手段において遊技者に特典を付与しないと決定されたことに対応する表示内容となる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、その表示内容が動作電力の供給が停止される前に表示されていた表示内容であると当該遊技者に認識させることが可能となり、使用対象となる設定値の設定が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６０９０】

特徴αＨ８．前記特定対応表示データは複数種類存在しており、

前記対応設定手段は、複数種類の前記特定対応表示データの中から使用対象となった前記特定対応表示データを前記表示記憶領域に設定することを特徴とする特徴αＨ２乃至αＨ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６０９１】

特徴αＨ８によれば、動作電力の供給が開始された場合における特定表示手段の特定対応表示の表示内容を多様化させることが可能となる。

【６０９２】

特徴αＨ９．前記特定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記特定表示手段にて前記特定対応表示が行われる場合、前記表示記憶領域に前記特定対応表示データが設定された後に前記特定表示手段の表示を開始させることを特徴とする特徴αＨ２乃至αＨ８のいずれか１に記載の遊技機。

【６０９３】

特徴αＨ９によれば、動作電力の供給が開始された場合に特定対応表示が行われる前に動作電力の供給が停止された場合における表示内容が特定表示手段にて行われてしまわないようにすることが可能となる。

【６０９４】

特徴αＨ１０．前記設定手段は動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において前記使用対象となる設定値の設定を行うものであり、

前記特定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記動作電力の供給開始時の処理が実行された後に前記特定表示手段の表示を開始させることを特徴とする特徴αＨ９に記載の遊技機。

【６０９５】

特徴αＨ１０によれば、使用対象となる設定値の設定が行われた場合及び使用対象となる設定値の設定が行われなかった場合のいずれであっても、動作電力の供給開始時の処理が終了した後のタイミングで特定表示手段における特定対応表示が開始されるようにすることが可能となる。

【６０９６】

特徴αＨ１１．動作電力の供給が開始された場合に所定の初期化条件が成立した場合（主側ＲＡＭ６５に関する情報異常が発生しておらずさらに設定更新表示フラグ及び遊技停止フラグに「１」がセットされていない状況で「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合）、前記設定手段による前記設定値の設定が行われない場合であっても前記所定の記憶領域を初期化する別初期化手段（第５６～第６０の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第１ＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備え、

当該別初期化手段は、前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において前記所定の記憶領域を初期化するものであり、

前記対応設定手段は、動作電力の供給が開始された場合に前記別初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化された場合及び動作電力の供給が開始された場合に前記設定手段による前記設定値の設定が行われた場合のいずれにおいても前記特定対応表示データを前記表示記憶領域に設定するものであり、

前記特定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記動作電力の供

給開始時の処理が実行された後に前記特定表示手段の表示を開始させることを特徴とする特徴αＨ９又はαＨ１０に記載の遊技機。

【６０９７】

特徴αＨ１１によれば、動作電力の供給が開始された場合において所定の初期化条件が成立した場合には所定の記憶領域が初期化されるため、使用対象の設定値の新たな設定が行われない状況であっても所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、使用対象の設定値の設定が行われた場合及び所定の記憶領域が初期化された場合のいずれにおいても、動作電力の供給が開始された場合に特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、使用対象の設定値の新たな設定及び所定の記憶領域の初期化のうちいずれが行われたのかを区別できないようにすることが可能となる。また、使用対象の設定値の設定が行われた場合及び所定の記憶領域が初期化された場合のいずれであっても、動作電力の供給開始時の処理が終了した後のタイミングで特定表示手段における特定対応表示が開始されるようにすることが可能となる。

【６０９８】

なお、特徴αＨ１～αＨ１１の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６０９９】

＜特徴αＩ群＞

特徴αＩ１．特定表示手段（特図表示部３７ａ、普図表示部３８ａ）と、

遊技者に特典を付与するか否かを決定し、遊技者に特典を付与する場合には特典付与情報（大当たり結果の種類に対応したフラグにセットされる「１」の情報）を所定の記憶領域（第５７～第６０の実施形態におけるクリア対象エリア３７１）に記憶させる付与決定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０８の処理を実行する機能）と、

前記所定の記憶領域に前記特典付与情報が記憶されていることに基づいて遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０８

～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、
　決定結果の表示タイミングとなった場合に前記付与決定手段の決定結果に対応する結果対応の表示データ（ステップＳ５０７又はステップＳ５０９に選択された表示データ）を表示記憶領域（第１表示データバッファ２７１、第３表示データバッファ２７３）に設定する表示データ設定手段（第５７の実施形態であれば主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９１５の処理を実行する機能、第５８～第６０の実施形態であれば主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ７１７の処理を実行する機能）と、
　前記表示記憶領域に記憶された前記結果対応の表示データに対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御することで、前記付与決定手段の決定結果に対応する表示が前記特定表示手段にて行われるようにする特定表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ４１２～ステップＳＣ４１４の処理を実行する機能）と、
　動作電力の供給が開始されたことに基づいて、前記表示記憶領域を含む所定の記憶領域（第５７～第６０の実施形態におけるクリア対象エリア３７１）を初期化する初期化手段（第５７～第６０の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第２ＲＡＭクリア処理を実行する機能）と、
を備え、
　前記表示データ設定手段は、動作電力の供給が開始された場合に前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化された場合に前記結果対応の表示データとして利用される特定対応表示データを前記表示記憶領域に設定する対応設定手段（第５７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ６０２及びステップＳＣ６０３の処理を実行する機能、第５８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ８０２～ステップＳＣ８０５の処理を実行する機能、第５９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ９０２～ステップＳＣ９０５の処理を実行する機能、第６０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ１０２～ステップＳＤ１０５、ステップＳＤ１０９、ステップＳＤ１１０、ステップＳＤ１１３及びステップＳＤ１１４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。
【６１００】
　特徴αＩ１によれば、遊技者に特典を付与するか否かの決定結果に対応する表示が特定表示手段にて行われることにより遊技者は特定表示手段に注目することとなる。また、動作電力の供給が開始されたことに基づいて所定の記憶領域が初期化されることにより所定の記憶領域が初期化された状況で遊技が開始されるようにすることが可能となる。この場合に、動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化された場合、付与決定手段の決定結果を報知するために利用される結果対応の表示データが表示記憶領域に設定される。これにより、動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化された場合であっても、特定表示手段の表示内容が付与決定手段の決定結果を報知する場合に表示される表示内容となる。よって、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、所定の記憶領域の初期化が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。
【６１０１】
　特徴αＩ２．動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第５７～第６０の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＣ２１６の処理を実行する機能）を備え、
　前記初期化手段は、前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われる場合又は前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われた後に前記所定の記憶領域を初期化することを特徴とする特徴αＩ１に記載の遊技機。
【６１０２】
　特徴αＩ２によれば、動作電力の供給が開始された場合に使用対象の設定値の設定が行われる場合又は行われた場合に付随して所定の記憶領域が初期化されることにより、使用対象の設定値の新たな設定が行われた場合には所定の記憶領域が初期化された状況で遊技

を開始させることが可能となる。この場合に、使用対象の設定値の新たな設定に付随して所定の記憶領域が初期化された場合、付与決定手段の決定結果を報知するために利用される結果対応の表示データが表示記憶領域に設定される。これにより、動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化された場合であっても、特定表示手段の表示内容が付与決定手段の決定結果を報知する場合に表示される表示内容となる。よって、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、使用対象の設定値の新たな設定が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６１０３】

特徴αＩ３．動作電力の供給が開始された場合において所定の初期化条件が成立した場合（主側ＲＡＭ６５に関する情報異常が発生しておらずさらに設定更新表示フラグ及び遊技停止フラグに「１」がセットされていない状況で「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合）、前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われない場合であっても前記所定の記憶領域を初期化する別初期化手段（第５７～第６０の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第１ＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備え、

前記対応設定手段は、動作電力の供給が開始された場合に前記別初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化された場合にも前記特定対応表示データを前記表示記憶領域に設定することを特徴とする特徴αＩ２に記載の遊技機。

【６１０４】

特徴αＩ３によれば、動作電力の供給が開始された場合において所定の初期化条件が成立した場合には使用対象の設定値の設定が行われない場合であっても所定の記憶領域が初期化されるため、使用対象の設定値の新たな設定が行われない状況であっても所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、使用対象の設定値の新たな設定が行われた場合及び所定の初期化条件が成立することで所定の記憶領域が初期化された場合のいずれであっても、付与決定手段の決定結果を報知するために利用される結果対応の表示データが表示記憶領域に設定される。これにより、使用対象の設定値の新たな設定が行われた場合及び所定の初期化条件が成立することで所定の記憶領域が初期化された場合のいずれであっても、特定表示手段の表示内容が付与決定手段の決定結果を報知する場合に表示される表示内容となる。よって、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、使用対象の設定値の新たな設定が行われたか否か及び所定の初期化条件が成立したか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６１０５】

特徴αＩ４．前記特定対応表示データは、前記結果対応の表示データのうち、前記付与決定手段において遊技者に前記特典を付与しないと決定された場合に利用される表示データであることを特徴とする特徴αＩ１乃至αＩ３のいずれか１に記載の遊技機。

【６１０６】

遊技ホールの閉店時には付与決定手段において遊技者に特典を付与しないと決定されたことに対応する表示内容が特定表示手段にて表示された状況で遊技機の電源が遮断されることが普通である。この場合に、特徴αＩ４によれば、動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化された場合、特定表示手段の表示内容が付与決定手段において遊技者に特典を付与しないと決定されたことに対応する表示内容となる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、その表示内容が動作電力の供給が停止される前に表示されていた表示内容であると当該遊技者に認識させることが可能となり、所定の記憶領域の初期化が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６１０７】

特徴αＩ５．前記特定対応表示データは複数種類存在しており、

前記対応設定手段は、複数種類の前記特定対応表示データの中から使用対象となった前記特定対応表示データを前記表示記憶領域に設定することを特徴とする特徴αＩ１乃至α

Ｉ４のいずれか１に記載の遊技機。
【６１０８】
特徴αＩ５によれば、動作電力の供給が開始された場合における特定表示手段の特定対応表示の表示内容を多様化させることが可能となる。
【６１０９】
特徴αＩ６．前記特定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記特定表示手段にて前記特定対応表示が行われる場合、前記表示記憶領域に前記特定対応表示データが設定された後に前記特定表示手段の表示を開始させることを特徴とする特徴αＩ１乃至αＩ５のいずれか１に記載の遊技機。
【６１１０】
特徴αＩ６によれば、動作電力の供給が開始された場合に特定対応表示が行われる前に動作電力の供給が停止された場合における表示内容が特定表示手段にて行われてしまわないようにすることが可能となる。
【６１１１】
特徴αＩ７．動作電力の供給が開始された場合に動作電力の供給開始時の処理が実行される構成であって、前記初期化手段による前記所定の記憶領域を初期化する処理は前記動作電力の供給開始時の処理に含まれる構成であり、
前記特定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記動作電力の供給開始時の処理が実行された後に前記特定表示手段の表示を開始させることを特徴とする特徴αＩ６に記載の遊技機。
【６１１２】
特徴αＩ７によれば、所定の記憶領域が初期化手段により初期化される場合及び初期化されない場合のいずれであっても、動作電力の供給開始時の処理が終了した後のタイミングで特定表示手段における表示が開始されるようにすることが可能となる。
【６１１３】
特徴αＩ８．動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第５７～第６０の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＣ２１６の処理を実行する機能）を備え、
前記初期化手段は、前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われる場合又は前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われた後に前記所定の記憶領域を初期化する構成であり、
前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定は前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において発生することを特徴とする特徴αＩ７に記載の遊技機。
【６１１４】
特徴αＩ８によれば、使用対象の設定値の新たな設定が行われる場合及び行われない場合のいずれであっても、動作電力の供給開始時の処理が終了した後のタイミングで特定表示手段における表示が開始されるようにすることが可能となる。
【６１１５】
なお、特徴αＩ１～αＩ８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特

徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６１１６】

＜特徴αＪ群＞

特徴αＪ１．特定表示手段（特図表示部３７ａ、普図表示部３８ａ）と、

表示記憶領域（第１表示データバッファ２７１、第３表示データバッファ２７３）に表示データを設定する表示データ設定手段（第５８～第６０の実施形態であれば主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ７１７の処理を実行する機能、第６１の実施形態であれば主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９１５の処理を実行する機能）と、

前記表示記憶領域に記憶された前記表示データに対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御する特定表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ４１２～ステップＳＣ４１４の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始されたことに基づいて、前記表示記憶領域を含む所定の記憶領域（第５８～第６１の実施形態におけるクリア対象エリア３７１）を初期化する初期化手段（第５８～第６１の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第２ＲＡＭクリア処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始された場合に前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化された場合における前記特定表示手段の表示内容を特定対応表示となるようにする対応設定手段（第５８の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ８０２～ステップＳＣ８０５の処理を実行する機能、第５９の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ９０２～ステップＳＣ９０５の処理を実行する機能、第６０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ１０２～ステップＳＤ１０５、ステップＳＤ１０９、ステップＳＤ１１０、ステップＳＤ１１３及びステップＳＤ１１４の処理を実行する機能、第６１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ２０２～ステップＳＤ２１７の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記特定対応表示は複数種類存在していることを特徴とする遊技機。

【６１１７】

特徴αＪ１によれば、動作電力の供給が開始されたことに基づいて所定の記憶領域が初期化されることにより所定の記憶領域が初期化された状況で遊技が開始されるようにすることが可能となる。この場合に、動作電力の供給が開始された場合における特定表示手段の表示内容が特定対応表示となる。そして、当該特定対応表示は複数種類存在している。これにより、所定の記憶領域が初期化された場合における特定表示手段の表示内容が多様化されることとなる。よって、動作電力の供給が開始された場合に特定表示手段の表示内容を確認したとしても、所定の記憶領域の初期化が行われたか否かを特定しづらくさせることが可能となる。

【６１１８】

特徴αＪ２．前記対応設定手段は、動作電力の供給が開始された場合に前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化された場合に前記特定表示手段に前記特定対応表示を行わせるための特定対応表示データを前記表示記憶領域に設定するものであり、
前記特定対応表示データが複数種類存在していることを特徴とする特徴αＪ１に記載の遊技機。

【６１１９】

特徴αＪ２によれば、動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化された場合には複数種類の特定対応表示データのうちのいずれかの特定対応表示データを表示記憶領域に設定することで特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、予め定められた複数種類の特定対応表示データのうち１種類の特定対応表示データを選択して表示記憶領域に設定するだけで特定表示手段にて特定対応表示を行わせることが可能となるため、複数種類の特定対応表示のうちの１種類の特定対応表示を特定表示手段に行わせるための処理構成を簡素化することが可能となる。

【６１２０】

特徴αＪ３．遊技者に特典を付与するか否かを決定し、遊技者に特典を付与する場合には特典付与情報（大当たり結果の種類に対応したフラグにセットされる「１」の情報）を前記所定の記憶領域に記憶させる付与決定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０８の処理を実行する機能）と、
前記所定の記憶領域に前記特典付与情報が記憶されていることに基づいて遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０８～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記表示データ設定手段は、決定結果の表示タイミングとなった場合に前記付与決定手段の決定結果に対応する結果対応の表示データ（ステップＳ５０７又はステップＳ５０９に選択された表示データ）を前記表示記憶領域に設定し、
前記特定表示制御手段は、前記表示記憶領域に記憶された前記結果対応の表示データに対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御することで、前記付与決定手段の決定結果に対応する表示が前記特定表示手段にて行われるようにするものであり、
前記特定対応表示データは、前記結果対応の表示データとして利用される表示データであることを特徴とする特徴αＪ２に記載の遊技機。

【６１２１】

特徴αＪ３によれば、遊技者に特典を付与するか否かの決定結果に対応する表示が特定表示手段にて行われることにより遊技者は特定表示手段に注目することとなる。この場合に、付与決定手段の決定結果を報知するために利用される結果対応の表示データを利用して動作電力の供給が開始された場合に特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、表示データの容量の増大化を抑制しながら、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても所定の記憶領域の初期化が行われたか否かを特定しづらくさせることが可能となる。

【６１２２】

特徴αＪ４．前記特定対応表示データは、前記結果対応の表示データのうち、前記付与決定手段において遊技者に前記特典を付与しないと決定された場合に利用される表示データであることを特徴とする特徴αＪ３に記載の遊技機。

【６１２３】

遊技ホールの閉店時には付与決定手段において遊技者に特典を付与しないと決定されたことに対応する表示内容が特定表示手段にて表示された状況で遊技機の電源が遮断されることが普通である。この場合に、特徴αＪ４によれば、動作電力の供給が開始された場合に所定の記憶領域が初期化されたとしても、特定表示手段の表示内容が付与決定手段において遊技者に特典を付与しないと決定されたことに対応する表示内容となる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、その表示内容が動作電力の供給が停止される前に表示されていた表示内容であると当

該遊技者に認識させることが可能となり、所定の記憶領域が初期化されたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６１２４】

特徴αＪ５．前記特定対応表示データは、前記結果対応の表示データのうち、前記付与決定手段において遊技者に前記特典を付与しないと決定された場合に利用される表示データ、及び前記付与決定手段において遊技者に前記特典を付与すると決定された場合に利用される表示データの両方を含むことを特徴とする特徴αＪ３に記載の遊技機。

【６１２５】

特徴αＪ５によれば、動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化された場合、付与決定手段において遊技者に特典を付与しないと決定された場合における表示及び付与決定手段において遊技者に特典を付与すると決定された場合における表示のいずれかが特定対応表示として特定表示手段にて行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、その表示内容が動作電力の供給が停止される前に表示されていた表示内容であると当該遊技者に認識させることが可能となり、所定の記憶領域が初期化されたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６１２６】

特徴αＪ６．動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第５８～第６１の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＣ２１６の処理を実行する機能）を備え、

前記初期化手段は、前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われる場合又は前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われた後に前記所定の記憶領域を初期化することを特徴とする特徴αＪ１乃至αＪ５のいずれか１に記載の遊技機。

【６１２７】

特徴αＪ６によれば、動作電力の供給が開始された場合に使用対象の設定値の設定が行われる場合又は行われた場合に付随して所定の記憶領域が初期化されることにより、使用対象の設定値の新たな設定が行われた場合には所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、使用対象の設定値の新たな設定に付随して所定の記憶領域が初期化された場合には複数種類の特定対応表示のうちのいずれかの特定対応表示が特定表示手段にて行われる。これにより、使用対象の設定値の新たな設定が行われた場合における特定表示手段の表示内容が多様化されることとなり、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、使用対象の設定値の新たな設定が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６１２８】

特徴αＪ７．動作電力の供給が開始された場合において所定の初期化条件が成立した場合（主側ＲＡＭ６５に関する情報異常が発生しておらずさらに設定更新表示フラグ及び遊技停止フラグに「１」がセットされていない状況で「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合）、前記設定手段による前記設定値の設定が行われない場合であっても前記所定の記憶領域を初期化する別初期化手段（第５８～第６１の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第１ＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備え、

前記対応設定手段は、動作電力の供給が開始された場合に前記別初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化された場合及び動作電力の供給が開始された場合に前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われた場合のいずれにおいても前記特定表示手段の表示内容を特定対応表示となるようにすることを特徴とする特徴αＪ６に記載の遊技機。

【６１２９】

特徴αＪ７によれば、動作電力の供給が開始された場合において所定の初期化条件が成立した場合には設定値の設定が行われない場合であっても所定の記憶領域が初期化されるため、設定値の新たな設定が行われない状況であっても所定の記憶領域が初期化された状

況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、設定値の新たな設定が行われた場合及び所定の初期化条件が成立して所定の記憶領域が初期化された場合のいずれであっても特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、設定値の新たな設定が行われたか否か及び所定の初期化条件が成立したか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６１３０】

特徴αＪ８．前記対応設定手段は、動作電力の供給が開始された場合に前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化されなかった場合においても前記特定表示手段の表示内容を前記特定対応表示となるようにすることを特徴とする特徴αＪ１乃至αＪ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６１３１】

特徴αＪ８によれば、動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化された場合及び初期化されなかった場合のいずれにおいても特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、初期化手段による所定の記憶領域の初期化が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。

【６１３２】

特徴αＪ９．前記対応設定手段は、所定規制状況（遊技回の実行中、開閉実行モードの実行中、普図表示部３８ａにおける変動表示回の実行中、普電開放状態の実行中）において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化されなかった場合、前記特定対応表示を行わせるための特定対応表示データを前記表示記憶領域に設定しないことを特徴とする特徴αＪ８に記載の遊技機。

【６１３３】

特徴αＪ９によれば、所定規制状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化されなかった場合には表示記憶領域に特定対応表示データが設定されないため、表示記憶領域には動作電力の供給が停止された場合における表示データがそのまま記憶保持されることとなる。これにより、所定規制状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化されなかった場合には、動作電力の供給が停止された場合における特定表示手段の表示内容から当該特定表示手段の表示を開始させることが可能となる。

【６１３４】

特徴αＪ１０．前記特定表示制御手段は、絵柄の変動表示が開始された後に前記付与決定手段の決定結果に対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御するものであり、

前記対応設定手段は、前記特定表示手段にて絵柄の変動表示が行われている状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化されなかった場合、前記特定対応表示を行わせるための特定対応表示データを前記表示記憶領域に設定しないことを特徴とする特徴αＪ８又はαＪ９に記載の遊技機。

【６１３５】

特徴αＪ１０によれば、特定表示手段にて絵柄の変動表示が行われている状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化されなかった場合には表示記憶領域に特定対応表示データが設定されないため、表示記憶領域には動作電力の供給が停止された場合における表示データがそのまま記憶保持されることとなる。これにより、特定表示手段にて絵柄の変動表示が行われている状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化されなかった場合には、特定表

示手段における絵柄の変動表示を再開させることが可能となる。
【６１３６】
特徴αＪ１１．前記特典付与手段は、前記所定の記憶領域に前記特典付与情報が記憶されている場合、前記特定表示手段にて前記特典が付与されることに対応する表示が行われた後に前記特典を付与するものであり、
前記対応設定手段は、前記特典付与手段により前記特典が付与されている状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化されなかった場合、前記特定対応表示を行わせるための特定対応表示データを前記表示記憶領域に設定しないことを特徴とする特徴αＪ８乃至αＪ１０のいずれか１に記載の遊技機。
【６１３７】
特徴αＪ１１によれば、特典が付与されている状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化されなかった場合には表示記憶領域に特定対応表示データが設定されないため、表示記憶領域には動作電力の供給が停止された場合における表示データがそのまま記憶保持されることとなる。これにより、特典が付与されている状況において動作電力の供給が停止された場合であってその後に動作電力の供給が開始された場合において所定の記憶領域が初期化されなかった場合には、特典が付与されている状況に対応する表示内容から特定表示手段の表示を開始することが可能となる。
【６１３８】
特徴αＪ１２．前記特定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記特定表示手段にて前記特定対応表示が行われる場合、当該特定対応表示が行われた状態で前記特定表示手段の表示を開始させることを特徴とする特徴αＪ１乃至αＪ１１のいずれか１に記載の遊技機。
【６１３９】
特徴αＪ１２によれば、動作電力の供給が開始された場合に特定対応表示が行われる前に動作電力の供給が停止された場合における表示内容が特定表示手段にて行われてしまわないようにすることが可能となる。
【６１４０】
特徴αＪ１３．動作電力の供給が開始された場合に動作電力の供給開始時の処理が実行される構成であって、前記初期化手段による前記所定の記憶領域を初期化する処理は前記動作電力の供給開始時の処理に含まれる構成であり、
前記特定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記動作電力の供給開始時の処理が実行された後に前記特定表示手段の表示を開始させることを特徴とする特徴αＪ１２に記載の遊技機。
【６１４１】
特徴αＪ１３によれば、所定の記憶領域が初期化手段により初期化される場合及び初期化されない場合のいずれであっても、動作電力の供給開始時の処理が終了した後のタイミングで特定表示手段における表示が開始されるようにすることが可能となる。
【６１４２】
特徴αＪ１４．動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第５８～第６１の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＣ２１６の処理を実行する機能）を備え、
前記初期化手段は、前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われる場合又は前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われた後に前記所定の記憶領域を初期化する構成であり、
前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定は前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において発生することを特徴とする特徴αＪ１３に記載の遊技機。
【６１４３】

特徴αＪ１４によれば、使用対象の設定値の新たな設定が行われる場合及び行われない場合のいずれであっても、動作電力の供給開始時の処理が終了した後のタイミングで特定表示手段における表示が開始されるようにすることが可能となる。

【６１４４】

なお、特徴αＪ１～αＪ１４の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６１４５】

＜特徴αＫ群＞

特徴αＫ１．特定表示手段（特図表示部３７ａ、普図表示部３８ａ）と、

遊技者に特典を付与するか否かを決定し、遊技者に特典を付与する場合には特典付与情報（大当たり結果の種類に対応したフラグにセットされる「１」の情報）を所定の記憶領域（第６１の実施形態におけるクリア対象エリア３７１）に記憶させる付与決定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０８の処理を実行する機能）と、

前記所定の記憶領域に前記特典付与情報が記憶されていることに基づいて遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０８～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、

決定結果の表示タイミングとなった場合に前記付与決定手段の決定結果に対応する結果対応の表示データ（ステップＳ５０７又はステップＳ５０９に選択された表示データ）を表示記憶領域（第１表示データバッファ２７１、第３表示データバッファ２７３）に設定する表示データ設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９１５の処理を実行する機能）と、

前記表示記憶領域に記憶された前記結果対応の表示データに対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御することで、前記付与決定手段の決定結果に対応する表示が前記特定表示手段にて行われるようにする特定表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ４１２～ステップＳＣ４１４の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始されたことに基づいて、前記表示記憶領域を含む所定の記憶領域

（第６１の実施形態におけるクリア対象エリア３７１）を初期化する初期化手段（第６１の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第２ＲＡＭクリア処理を実行する機能）と、
動作電力の供給が開始された場合に前記初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化された場合における前記特定表示手段の表示内容を特定対応表示となるようにする対応設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ２０２～ステップＳＤ２１７の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記特定対応表示は複数種類存在しており、
複数種類の前記特定対応表示には、前記付与決定手段の決定結果に対応する表示として選択されない表示内容が含まれていることを特徴とする遊技機。

【６１４６】
特徴αＫ１によれば、動作電力の供給が開始されたことに基づいて所定の記憶領域が初期化されることにより所定の記憶領域が初期化された状況で遊技が開始されるようにすることが可能となる。この場合に、動作電力の供給が開始された場合における特定表示手段の表示内容が特定対応表示となる。そして、当該特定対応表示は複数種類存在しているとともに、複数種類の特定対応表示には付与決定手段の決定結果に対応する表示として選択されない表示内容が含まれている。これにより、所定の記憶領域が初期化された場合における特定表示手段の表示内容が多様化されることとなる。よって、動作電力の供給が開始された場合に特定表示手段の表示内容を確認したとしても、所定の記憶領域の初期化が行われたか否かを特定しづらくさせることが可能となる。

【６１４７】
特徴αＫ２．複数種類の前記特定対応表示には、前記付与決定手段の決定結果に対応する表示として選択され得る表示内容と、前記付与決定手段の決定結果に対応する表示として選択されない表示内容とが含まれていることを特徴とする特徴αＫ１に記載の遊技機。

【６１４８】
特徴αＫ２によれば、複数種類の特定対応表示には付与決定手段の決定結果に対応する表示として選択され得る表示内容及び選択されない表示内容の両方が含まれているため、所定の記憶領域が初期化された場合における特定表示手段の表示内容を多様化することが可能となる。

【６１４９】
特徴αＫ３．前記特定表示手段は複数の発光部を有しており、
前記対応設定手段は、前記複数の発光部のそれぞれについて個別に点灯状態とするか否かの抽選処理（ステップＳＤ２０４、ステップＳＤ２１２）を実行し、前記複数の発光部のそれぞれに対する当該抽選処理の結果に対応する点灯パターンの表示データを前記表示記憶領域に設定することで前記特定対応表示が行われるようにすることを特徴とする特徴αＫ１又はαＫ２に記載の遊技機。

【６１５０】
特徴αＫ３によれば、特定表示手段における複数の発光部のそれぞれについて点灯状態とするか否かの抽選処理が実行され、それら抽選処理の結果に対応する点灯パターンの表示内容が、所定の記憶領域が初期化された場合における特定対応表示として特定表示手段に表示される。これにより、所定の記憶領域が初期化された場合における特定表示手段の表示内容を多様化することが可能となるとともに、所定の記憶領域が初期化された場合における特定表示手段の表示内容を不規則なものとすることが可能となる。

【６１５１】
特徴αＫ４．動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第６１の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＣ２１６の処理を実行する機能）を備え、
前記初期化手段は、前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われる場合又は前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われた後に前記所定の記憶領域を

初期化することを特徴とする特徴αＫ１乃至αＫ３のいずれか１に記載の遊技機。
【６１５２】
特徴αＫ４によれば、動作電力の供給が開始された場合に使用対象の設定値の設定が行われる場合又は行われた場合に付随して所定の記憶領域が初期化されることにより、使用対象の設定値の新たな設定が行われた場合には所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、使用対象の設定値の新たな設定に付随して所定の記憶領域が初期化された場合には複数種類の特定対応表示のうちのいずれかの特定対応表示が特定表示手段にて行われる。これにより、使用対象の設定値の新たな設定が行われた場合における特定表示手段の表示内容が多様化されることとなり、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、使用対象の設定値の新たな設定が行われたか否かを特定できないようにすることが可能となる。
【６１５３】
特徴αＫ５．動作電力の供給が開始された場合において所定の初期化条件が成立した場合（主側ＲＡＭ６５に関する情報異常が発生しておらずさらに設定更新表示フラグ及び遊技停止フラグに「１」がセットされていない状況で「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合）、前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われない場合であっても前記所定の記憶領域を初期化する別初期化手段（第６１の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第１ＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備え、
前記対応設定手段は、動作電力の供給が開始された場合に前記別初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化された場合及び動作電力の供給が開始された場合に前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われた場合のいずれにおいても前記特定表示手段の表示内容を特定対応表示となるようにすることを特徴とする特徴αＫ４に記載の遊技機。
【６１５４】
特徴αＫ５によれば、動作電力の供給が開始された場合において所定の初期化条件が成立した場合には設定値の設定が行われない場合であっても所定の記憶領域が初期化されるため、設定値の新たな設定が行われない状況であっても所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、設定値の新たな設定が行われた場合及び所定の初期化条件が成立して所定の記憶領域が初期化された場合のいずれであっても特定表示手段にて特定対応表示が行われる。これにより、動作電力の供給が開始された場合に遊技者が特定表示手段の表示内容を確認したとしても、設定値の新たな設定が行われたか否か及び所定の初期化条件が成立したか否かを特定できないようにすることが可能となる。
【６１５５】
特徴αＫ６．前記特定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記特定表示手段にて前記特定対応表示が行われる場合、当該特定対応表示が行われた状態で前記特定表示手段の表示を開始させることを特徴とする特徴αＫ１乃至αＫ５のいずれか１に記載の遊技機。
【６１５６】
特徴αＫ６によれば、動作電力の供給が開始された場合に特定対応表示が行われる前に動作電力の供給が停止された場合における表示内容が特定表示手段にて行われてしまわないようにすることが可能となる。
【６１５７】
特徴αＫ７．動作電力の供給が開始された場合に動作電力の供給開始時の処理が実行される構成であって、前記初期化手段による前記所定の記憶領域を初期化する処理は前記動作電力の供給開始時の処理に含まれる構成であり、
前記特定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記動作電力の供給開始時の処理が実行された後に前記特定表示手段の表示を開始させることを特徴とする特徴αＫ６に記載の遊技機。
【６１５８】

特徴αＫ７によれば、所定の記憶領域が初期化手段により初期化される場合及び初期化されない場合のいずれであっても、動作電力の供給開始時の処理が終了した後のタイミングで特定表示手段における表示が開始されるようにすることが可能となる。

【６１５９】

特徴αＫ８．動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第５６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＣ２１６の処理を実行する機能）を備え、

前記初期化手段は、前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われる場合又は前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われた後に前記所定の記憶領域を初期化する構成であり、

前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定は前記動作電力の供給開始時の処理が実行されている状況において発生することを特徴とする特徴αＫ７に記載の遊技機。

【６１６０】

特徴αＫ８によれば、使用対象の設定値の新たな設定が行われる場合及び行われない場合のいずれであっても、動作電力の供給開始時の処理が終了した後のタイミングで特定表示手段における表示が開始されるようにすることが可能となる。

【６１６１】

なお、特徴αＫ１～αＫ８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６１６２】

上記特徴αＦ群、上記特徴αＧ群、上記特徴αＨ群、上記特徴αＩ群、上記特徴αＪ群及び上記特徴αＫ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６１６３】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯

留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６１６４】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６１６５】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、動作電力の供給開始時の動作を好適なものとする必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６１６６】

＜特徴αＬ群＞

特徴αＬ１．特定表示手段（特図表示部３７ａ、普図表示部３８ａ）と、

当該特定表示手段を表示制御する特定表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＣ４１２～ステップＳＣ４１４の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始されたことに基づいて発生した設定可能状況において、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（第６２～第６３の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＣ２１６の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記特定表示制御手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われたこと、及び動作電力の供給が停止される前における前記設定値の有利度以上となる設定値又は動作電力の供給が停止される前における前記設定値よりも有利となる設定値が前記使用対象となる設定値として前記設定手段により設定されたことの一方である示唆対象状況となったことに基づいて、動作電力の供給が開始された場合における前記特定表示手段の表示内容を前記示唆対象状況に対応する決定態様（特図用の第２表示振分テーブル３９２を参照する態様、普図用の第２表示振分テーブル３９４を参照する態様）で決定する態様決定手段（第６２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ４０２～ステップＳＤ４１１の処理を実行する機能、第６３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ５０２の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【６１６７】

特徴αＬ１によれば、動作電力の供給が開始された場合における特定表示手段の表示内容を確認することで、使用対象となる設定値の新たな設定が行われたこと、又は使用対象となる設定値の有利度がそれまでの設定値の有利度以上若しくはそれまでの設定値の有利度よりも高くなったことを予測することが可能となる。これにより、特定表示手段の表示内容を利用して設定値に関する予測を遊技者に行わせることが可能となり、遊技の興趣向上を図ることが可能となる。

【６１６８】

特徴αＬ２．前記態様決定手段は、動作電力の供給が停止される前における前記設定値の有利度以上となる設定値又は動作電力の供給が停止される前における前記設定値よりも有利となる設定値が前記使用対象となる設定値として前記設定手段により設定されたことに基づいて動作電力の供給が開始された場合における前記特定表示手段の表示内容を前記示唆対象状況に対応する決定態様で決定し、動作電力の供給が停止される前における前記

設定値の有利度よりも低い設定値が前記使用対象となる設定値として前記設定手段により設定されたことに基づいて動作電力の供給が開始された場合における前記特定表示手段の表示内容を非示唆対象状況に対応する決定態様（特図用の第１表示振分テーブル３９１を参照する態様、普図用の第１表示振分テーブル３９３を参照する態様）で決定することを特徴とする特徴αＬ１に記載の遊技機。

【６１６９】

特徴αＬ２によれば、使用対象となる設定値の有利度がそれまでの設定値の有利度以上又はそれまでの設定値の有利度よりも高くなった場合には示唆対象状況に対応する決定態様で特定表示手段の表示内容が決定されるとともに、使用対象となる設定値の有利度がそれまでの設定値よりも低くなった場合には非示唆対象状況に対応する決定態様で特定表示手段の表示内容が決定される。これにより、使用対象となる設定値の有利度がそれまでの設定値の有利度以上又はそれまでの設定値の有利度よりも高くなったか否かの予測を行い易くなる。

【６１７０】

特徴αＬ３．前記態様決定手段は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定が行われなかったことに基づいて動作電力の供給が開始された場合における前記特定表示手段の表示内容を前記非示唆対象状況に対応する決定態様で決定することを特徴とする特徴αＬ２に記載の遊技機。

【６１７１】

特徴αＬ３によれば、動作電力の供給が開始された場合に使用対象となる設定値の新たな設定が行われなかった場合にも非示唆対象状況に対応する決定態様で動作電力の供給が開始された場合における特定表示手段の表示内容が決定されるため、非示唆対象状況に対応する決定態様で特定表示手段の表示内容が決定された場合にその状況が使用対象となる設定値の新たな設定が行われなかった状況なのか、それとも使用対象となる設定値の有利度がそれまでよりも低くなった状況なのかを特定できないようにすることが可能となる。

【６１７２】

特徴αＬ４．前記態様決定手段は、前記示唆対象状況である場合には前記示唆対象状況に対応する抽選態様により前記特定表示手段の表示内容を抽選により決定することを特徴とする特徴αＬ１乃至αＬ３のいずれか１に記載の遊技機。

【６１７３】

特徴αＬ４によれば、示唆対象状況における特定表示手段の表示内容を多様化させることが可能となる。これにより、特定表示手段を確認したとしても、示唆対象状況であるか否かを明確には特定できないようにすることが可能となる。

【６１７４】

特徴αＬ５．前記態様決定手段は、前記示唆対象状況ではない場合である非示唆対象状況である場合には当該非示唆対象状況に対応する抽選態様により前記特定表示手段の表示内容を抽選により決定することを特徴とする特徴αＬ４に記載の遊技機。

【６１７５】

特徴αＬ５によれば、非示唆対象状況における特定表示手段の表示内容を多様化させることが可能となる。これにより、特定表示手段を確認したとしても、非示唆対象状況であるか否かを明確には特定できないようにすることが可能となる。

【６１７６】

特徴αＬ６．前記示唆対象状況に対応する抽選態様による前記特定表示手段の表示内容の抽選にて選択され得る表示内容及び前記非示唆対象状況に対応する抽選態様による前記特定表示手段の表示内容の抽選にて選択され得る表示内容のいずれにも共通表示内容（特図用の第１～第３初期表示、普図用の第１～第３初期表示）が存在しており、当該共通表示内容の選択確率が前記示唆対象状況に対応する抽選態様の場合と前記非示唆対象状況に対応する抽選態様の場合とで相違していることを特徴とする特徴αＬ５に記載の遊技機。

【６１７７】

特徴αＬ６によれば、示唆対象状況及び非示唆対象状況のいずれであっても特定表示手

段にて共通表示内容の表示が行われるため、示唆対象状況及び非示唆対象状況のいずれであるのかを明確には特定できないようにすることが可能となる。その一方、共通表示内容の選択確率は示唆対象状況である場合と非示唆対象状況である場合とで相違しているため、特定表示手段の表示内容から示唆対象状況及び非示唆対象状況のいずれであるのかを予測させることが可能となる。

【６１７８】

特徴αＬ７．表示記憶領域に表示データを設定する表示データ設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９１５の処理を実行する機能）を備え、

前記特定表示制御手段は、前記表示記憶領域に記憶された前記表示データに対応する表示が行われるように前記特定表示手段を表示制御するものであり、

前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われる場合又は前記設定手段による前記使用対象の設定値の設定が行われた後に前記表示記憶領域を含む所定の記憶領域を初期化する初期化手段（第６２～第６３の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第２ＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＬ１乃至αＬ６のいずれか１に記載の遊技機。

【６１７９】

特徴αＬ７によれば、動作電力の供給が開始された場合に使用対象の設定値の設定が行われる場合又は行われた場合に付随して所定の記憶領域が初期化されることにより、使用対象の設定値の新たな設定が行われた場合には所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、上記特徴αＬ１の構成を備えていることにより、所定の記憶領域の初期化に伴って表示記憶領域が初期化される状況を利用して、特定表示手段の表示内容により示唆対象状況であるか否かを予測させることが可能となる。

【６１８０】

特徴αＬ８．動作電力の供給が開始された場合に所定の初期化条件が成立した場合（主側ＲＡＭ６５に関する情報異常が発生しておらずさらに設定更新表示フラグ及び遊技停止フラグに「１」がセットされていない状況で「ＲＡＭクリア操作」が行われた場合）、前記所定の記憶領域を初期化する別初期化手段（第６２～第６３の実施形態における主側ＣＰＵ６３の第１ＲＡＭクリア処理を実行する機能）を備え、

前記態様決定手段は、前記別初期化手段により前記所定の記憶領域が初期化された場合、動作電力の供給が開始された場合における前記特定表示手段の表示内容を非示唆対象状況に対応する決定態様で決定することを特徴とする特徴αＬ７に記載の遊技機。

【６１８１】

特徴αＬ８によれば、動作電力の供給が開始された場合において所定の初期化条件が成立した場合には所定の記憶領域が初期化されるため、所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。この場合に、別初期化手段により所定の記憶領域が初期化される場合には動作電力の供給が開始された場合における特定表示手段の表示内容が非示唆対象状況に対応する決定態様で決定されるため、示唆対象状況であるか否かの予測を行い易くなる。

【６１８２】

特徴αＬ９．遊技者に特典を付与するか否かを決定し、遊技者に特典を付与する場合には特典付与情報（大当たり結果の種類に対応したフラグにセットされる「１」の情報）を所定の記憶領域に記憶させる付与決定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０８の処理を実行する機能）と、

前記所定の記憶領域に前記特典付与情報が記憶されていることに基づいて遊技者に特典（開閉実行モード）を付与する特典付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ４０８～ステップＳ４１２の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記特定表示制御手段は、前記付与決定手段の決定結果に対応する表示が前記特定表示手段にて行われるようにすることを特徴とする特徴αＬ１乃至αＬ８のいずれか１に記載の遊技機。

【６１８３】
特徴αＬ９によれば、遊技者に特典を付与するか否かの決定結果に対応する表示が特定表示手段にて行われることにより遊技者は特定表示手段に注目することとなる。この場合に、上記特徴αＬ１の構成を備えていることにより特定表示手段を利用して上記のような優れた効果を奏することが可能となる。
【６１８４】
特徴αＬ１０．前記示唆対象状況に対応する決定態様で決定された前記特定表示手段の表示内容は、前記付与決定手段の決定結果に対応する表示が前記特定表示手段にて行われる場合には表示されない表示内容であることを特徴とする特徴αＬ９に記載の遊技機。
【６１８５】
特徴αＬ１０によれば、示唆対象状況に対応する決定態様で決定された表示内容を、付与決定手段の決定結果に対応する表示内容と区別することが可能となる。
【６１８６】
特徴αＬ１１．前記特定表示制御手段は、動作電力の供給が開始された場合において前記態様決定手段により決定された表示内容による表示が前記特定表示手段にて行われる場合、前記態様決定手段により決定された表示内容による表示が行われた状態で前記特定表示手段の表示を開始させることを特徴とする特徴αＬ１乃至αＬ１０のいずれか１に記載の遊技機。
【６１８７】
特徴αＬ１１によれば、動作電力の供給が開始された場合において態様決定手段により決定された表示内容による表示が行われる前に動作電力の供給が停止された場合における表示内容の表示が特定表示手段にて行われてしまわないようにすることが可能となる。
【６１８８】
なお、特徴αＬ１～αＬ１１の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【６１８９】

上記特徴αＬ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６１９０】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６１９１】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６１９２】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技の興趣向上を図る必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６１９３】

＜特徴αＭ群＞

特徴αＭ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能）と、

前記設定値に関する所定の設定関連処理（設定値更新処理、設定確認用処理）が実行されている状況において、遊技機前方から視認可能となる所定領域の状態を対応動作状態とする対応動作制御手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ３０４、ステップＳＥ３０５、ステップＳＥ３０８及びステップＳＥ３０９の処理を実行する機能、第６５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ６０４及びステップＳＥ６０７の処理を実行する機能、第６６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ７０４、ステップＳＥ７０７、ステップＳＥ８０２及びステップＳＥ８１６の処理を実行する機能、第６７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ９０４及びステップＳＥ９０７の処理を実行する機能、第６８の実施形態では主側ＣＰＵ６３における１５Ｒ表示部４８１、６Ｒ表示部４８３及び小当たり表示部４８４を表示制御する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【６１９４】

特徴αＭ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、設定値に関する所定の設定関連処理が実行されている状況においては遊技機前方から視認可能となる所定領域の状態が対応動作状態となる。これにより、遊技ホールの管理者は所定の設定関連処理が実行されている状況であるか否かを容易に把握することが可能となる。

【６１９５】

特徴αＭ２．遊技機前方から視認可能となる前記所定領域に設けられた所定動作手段（第６５の実施形態では普図表示部４２３ａ、第１特図表示部４２５、第２特図表示部４２６及び特別表示部４２９、第６７の実施形態では第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６）を備え、

前記対応動作制御手段は、前記所定の設定関連処理が実行されている状況において、前記所定動作手段の動作状態を遊技が実行されている場合には発生しない動作状態とすることで前記所定領域の状態を前記対応動作状態とすることを特徴とする特徴αＭ１に記載の遊技機。

【６１９６】

特徴αＭ２によれば、所定の設定関連処理が実行されている状況においては所定動作手段の動作状態が、遊技が実行されている場合には発生しない動作状態となる。これにより、遊技が実行されている場合に動作する所定動作手段を利用して所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知を実行することが可能となる。

【６１９７】

特徴αＭ３．遊技機前方から視認可能となる前記所定領域に複数の所定動作手段（第６４の実施形態では第１特図表示部４２５、第２特図表示部４２６及び特別表示部４２９、第６５の実施形態では普図表示部４２３ａ、普図保留表示部４２３ｂ、第１特図表示部４２５、第２特図表示部４２６、第１特図保留表示部４２７、第２特図保留表示部４２８及び特別表示部４２９、第６６の実施形態では特電入賞装置４１６、第１特図表示部４２５及び第２特図表示部４２６、第６８の実施形態では１５Ｒ表示部４８１、６Ｒ表示部４８３及び小当たり表示部４８４）を含み、

前記対応動作制御手段は、前記複数の所定動作手段の動作状態の組合せを前記対応動作状態とすることを特徴とする特徴αＭ１又はαＭ２に記載の遊技機。

【６１９８】

特徴αＭ３によれば、複数の所定動作手段の動作状態の組合せを利用して所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知が実行される。これにより、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知を不正に行わせようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。

【６１９９】

特徴αＭ４．前記対応動作状態は、前記複数の所定動作手段の動作状態の組合せのうち遊技が実行されている場合には発生しない組合せの動作状態であることを特徴とする特徴αＭ３に記載の遊技機。

【６２００】

特徴αＭ４によれば、複数の所定動作手段の動作状態の組合せを遊技が実行されている場合には発生しない組合せとすることで所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知が実行される。これにより、遊技が実行されている場合に動作する複数の所定動作手段を利用して所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知を実行することが可能となる。

【６２０１】

特徴αＭ５．前記複数の所定動作手段の前記対応動作状態におけるそれぞれの個別動作状態は遊技が実行されている場合に発生し得る動作状態である一方、それら個別動作状態は遊技が実行されている場合に同時に発生しない動作状態であることを特徴とする特徴αＭ４に記載の遊技機。

【６２０２】

特徴αＭ５によれば、複数の所定動作手段の対応動作状態におけるそれぞれの個別動作状態は遊技が実行されている場合に発生し得る動作状態であることにより、遊技が実行されている場合に発生し得る動作状態を利用して所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知を実行することが可能となる。

【６２０３】

特徴αＭ６．前記複数の所定動作手段のうち第１所定動作手段は表示手段であり、第２所定動作手段は可動手段であることを特徴とする特徴αＭ３乃至αＭ５のいずれか１に記載の遊技機。

【６２０４】

特徴αＭ６によれば、表示手段と可動手段とのそれぞれの個別動作状態の組合せにより

所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知が行われるため、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを把握し易くなる。

【６２０５】

特徴αＭ７．前記対応動作制御手段は、

前記所定の設定関連処理として第１設定関連処理が実行されている状況において、前記複数の所定動作手段の動作状態の組合せを前記対応動作状態として第１対応動作状態とする第１対応動作制御手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ３０４及びステップＳＥ３０５の処理を実行する機能、第６５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ６０４の処理を実行する機能、第６６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ７０４、ステップＳＥ８０２及びステップＳＥ８１６の処理を実行する機能、第６８の実施形態では主側ＣＰＵ６３における１５Ｒ表示部４８１及び小当たり表示部４８４を表示制御する機能）と、

前記所定の設定関連処理として第２設定関連処理が実行されている状況において、前記複数の所定動作手段の動作状態の組合せを前記対応動作状態として第２対応動作状態とする第２対応動作制御手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ３０８及びステップＳＥ３０９の処理を実行する機能、第６５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ６０７の処理を実行する機能、第６６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ７０７、ステップＳＥ８０２及びステップＳＥ８１６の処理を実行する機能、第６８の実施形態では主側ＣＰＵ６３における１５Ｒ表示部４８１及び６Ｒ表示部４８３を表示制御する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴αＭ３乃至αＭ６のいずれか１に記載の遊技機。

【６２０６】

特徴αＭ７によれば、複数の所定動作手段の動作状態の組合せを利用して第１設定関連処理が実行されている状況であることの報知及び第２設定関連処理が実行されている状況であることの報知のそれぞれを実行することが可能となる。

【６２０７】

特徴αＭ８．前記第１設定関連処理は前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定を可能とする処理であり、

前記第２設定関連処理は現状の前記設定値が報知されるようにするための処理であることを特徴とする特徴αＭ７に記載の遊技機。

【６２０８】

特徴αＭ８によれば、複数の所定動作手段の動作状態の組合せを利用して使用対象となる設定値の設定を可能とする処理が実行されている状況であることの報知、及び使用対象となる設定値が報知されるようにするための処理が実行されている状況であることの報知のそれぞれを実行することが可能となる。

【６２０９】

なお、特徴αＭ１～αＭ８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、

特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６２１０】

＜特徴αＮ群＞

特徴αＮ１．遊技が実行されている状況において第１期間（遊技回）を生じさせる第１期間発生手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ８１５及びステップＳＤ８１６の処理を実行する機能）と、

前記第１期間において第１期間対応状態（絵柄の変動表示が行われる状態）となるように第１所定動作手段（第１特図表示部４２５、第２特図表示部４２６）を制御する第１所定動作制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ７０６の処理を実行する機能）と、

遊技が実行されている状況において第２期間（開閉実行モード）を生じさせる第２期間発生手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ９０４及びステップＳＥ１１６の処理を実行する機能）と、

前記第２期間において第２期間対応状態（開放状態）となるように第２所定動作手段（特電入賞装置４１６）を制御する第２所定動作制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ７１０～ステップＳＤ７１２の処理を実行する機能）と、

遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能）と、

前記設定値に関する所定の設定関連処理（設定値更新処理、設定確認用処理）が実行されている状況において、前記第１所定動作手段が前記第１期間対応状態となり、前記第２所定動作手段が前記第２期間対応状態となるようにする対応動作制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ７０４、ステップＳＥ７０７、ステップＳＥ８０２及びステップＳＥ８１６の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【６２１１】

特徴αＮ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、遊技が実行されている状況において第１所定動作手段が第１期間対応状態となる第１期間が発生し得るとともに第２所定動作手段が第２期間対応状態となる第２期間が発生し得る構成において、設定値に関する所定の設定関連処理が実行されている状況においては第１所定動作手段が第１期間対応状態となるとともに第２所定動作手段が第２期間対応状態となる。これにより、遊技が実行されている場合に動作する第１所定動作手段及び第２所定動作手段を利用して所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知を実行することが可能となる。

【６２１２】

また、遊技が実行されている場合に発生し得る第１期間対応状態及び第２期間対応状態を利用して所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知を実行することが可能となる。また、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知を不正に行わせようとする場合には第１所定動作手段及び第２所定動作手段の両方に対し

て不正を施す必要がある。よって、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知を不正に行わせようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。

【６２１３】

特徴αＮ２．前記第２期間発生手段は、前記第１期間の後に前記第２期間を生じさせることを特徴とする特徴αＮ１に記載の遊技機。

【６２１４】

特徴αＮ２によれば、遊技が行われている状況においては第１期間の後に第２期間が生じるため、第１所定動作手段が第１期間対応状態となるとともに第２所定動作手段が第２期間対応状態となった場合、遊技が行われている状況とは異なる特別な状況であるという認識を遊技ホールの管理者に与えることが可能となる。これにより、設定値に関する所定の設定関連処理が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に明確に認識させることが可能となる。

【６２１５】

特徴αＮ３．前記第１所定動作手段及び前記第２所定動作手段のうち一方は表示手段であり他方は可動手段であることを特徴とする特徴αＮ１又はαＮ２に記載の遊技機。

【６２１６】

特徴αＮ３によれば、表示手段と可動手段とのそれぞれの期間対応状態の組合せにより所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知が行われるため、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを把握し易くなる。

【６２１７】

特徴αＮ４．前記第１期間の後に前記第２期間を生じさせるか否かを決定するための期間抽選を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ８０３の処理を実行する機能）を備え、

前記第１所定動作制御手段は、前記第１期間において前記第１所定動作手段を前記第１期間対応状態とした後に前記期間抽選の結果が報知されるようにし、

前記第２所定動作制御手段は、前記期間抽選の結果が前記第２期間を生じさせる結果であった場合であって前記第１期間が終了した後に前記第２期間対応状態となるように前記第２所定動作手段を制御することを特徴とする特徴αＮ１乃至αＮ３のいずれか１に記載の遊技機。

【６２１８】

特徴αＮ４によれば、期間抽選の結果を報知するための第１所定動作手段及び期間抽選の結果が当選結果であった場合に第２期間対応状態となる第２所定動作手段を利用して所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知を実行することが可能となる。

【６２１９】

特徴αＮ５．前記第１所定動作手段は絵柄を変動表示する絵柄表示手段（第１特図表示部４２５、第２特図表示部４２６）であり、

前記第２所定動作手段は開放状態と閉鎖状態との間で切り換え可能に設けられた可変入球手段（特電入賞装置４１６）であり、

前記第１所定動作制御手段は、前記第１期間において前記絵柄の変動表示を行わせることにより前記絵柄表示手段を前記第１期間対応状態とするものであり、

前記第２所定動作制御手段は、前記第２期間において前記開放状態とすることにより前記可変入球手段を前記第２期間対応状態とするものであることを特徴とする特徴αＮ４に記載の遊技機。

【６２２０】

特徴αＮ５によれば、所定の設定関連処理が実行されている状況においては絵柄表示手段にて絵柄の変動表示が実行されている状況において可変入球手段が開放状態となる。これにより、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に明確に認識させることが可能となる。

【６２２１】

特徴αＮ６．前記所定の設定関連処理は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定を可能とする処理、又は現状の前記設定値が報知されるようにするための処理であることを特徴とする特徴αＮ１乃至αＮ５のいずれか１に記載の遊技機。

【６２２２】

特徴αＮ６によれば、既に説明したような優れた効果を奏しながら、使用対象となる設定値の設定を可能とする処理が実行されている状況又は現状の設定値が報知されるようにするための処理が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。

【６２２３】

なお、特徴αＮ１～αＮ６の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６２２４】

＜特徴αＯ群＞

特徴αＯ１．遊技が実行されている状況において所定の表示を行う所定の表示手段（第１特図表示部４２５、第２特図表示部４２６）と、

遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能）と、

前記設定値に関する所定の設定関連処理（設定値更新処理、設定確認用処理）が実行されている状況において、当該所定の設定関連処理が実行されていることの報知が前記所定の表示手段を利用して行われるようにする実行報知制御手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ３０４及びステップＳＥ３０８の処理を実行する機能、第６５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ６０４及びステップＳＥ６０７の処理を実行する機能、第６６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ７０４及びステップＳＥ７０７の処理を実行する機能、第６７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ９０４及びステップＳＥ９０７の処理を実行する機能、第６８の実施形態では主側ＣＰＵ６３における１５Ｒ表示部４８１を表示制御する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。
【６２２５】
特徴αＯ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、遊技が実行されている状況において所定の表示を行う所定の表示手段を備えた構成において、設定値に関する所定の設定関連処理が実行されている状況においては当該所定の表示手段を利用して所定の設定関連処理が実行されていることの報知が実行される。これにより、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となるとともに、この報知を所定の表示手段を利用して行うことが可能となる。
【６２２６】
特徴αＯ２．前記実行報知制御手段は、前記設定値に関する所定の設定関連処理が実行されている状況において、遊技が実行されている状況においては発生しない特定表示が前記所定の表示手段にて行われるようにすることを特徴とする特徴αＯ１に記載の遊技機。
【６２２７】
特徴αＯ２によれば、所定の設定関連処理が実行されている状況においては所定の表示手段にて遊技が実行されている状況においては発生しない特定表示が行われる。これにより、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを所定の表示手段の表示内容から明確に把握することが可能となる。
【６２２８】
特徴αＯ３．遊技が実行されている状況において特定の表示を行う特定の表示手段（第６４及び第６５の実施形態では特別表示部４２９、第６８の実施形態では６Ｒ表示部４８３及び小当たり表示部４８４）を備え、
前記実行報知制御手段は、前記設定値に関する所定の設定関連処理が実行されている状況において、当該所定の設定関連処理が実行されていることの報知が前記所定の表示手段及び前記特定の表示手段にて行われるようにすることを特徴とする特徴αＯ１又はαＯ２に記載の遊技機。
【６２２９】
特徴αＯ３によれば、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知を不正に行わせようとする場合には所定の表示手段及び特定の表示手段の両方に対して不正を施す必要がある。よって、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知を不正に行わせようとする行為を行いづらくさせることが可能となる。
【６２３０】
特徴αＯ４．前記所定の表示手段及び前記特定の表示手段は遊技機前方から視認可能な所定範囲（特図ユニット４２２）に集約されていることを特徴とする特徴αＯ３に記載の遊技機。
【６２３１】
特徴αＯ４によれば、所定の表示手段の表示内容及び特定の表示手段の表示内容の組合せを利用して所定の設定関連処理が実行されている状況であることの報知が実行される構成において、それら表示内容の確認を行い易くさせることが可能となる。
【６２３２】
特徴αＯ５．前記実行報知制御手段は、前記設定値に関する所定の設定関連処理が実行されている状況において、前記所定の表示手段にて所定対応表示を行わせ、前記特定の表示手段にて特定対応表示を行わせるものであり、
前記所定の表示手段における前記所定対応表示は遊技が実行されている状況において発生し得る表示内容であり、
前記特定の表示手段における前記特定対応表示は遊技が実行されている状況において発生し得る表示内容であり、
前記所定の表示手段における前記所定対応表示及び前記特定の表示手段における前記特定対応表示は遊技が実行されている状況において同時に発生しないことを特徴とする特徴

ＡＯ３又はＡＯ４に記載の遊技機。
【６２３３】
特徴ＡＯ５によれば、遊技が実行されている場合に発生し得る所定の表示手段における所定対応表示及び特定の表示手段における特定対応表示を利用して所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知を実行することが可能となる。
【６２３４】
特徴ＡＯ６．所定遊技状態に遊技状態を移行させるか否かを決定するための移行抽選を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ８０３の処理を実行する機能）と、
絵柄の変動表示が開始された後に前記移行抽選の抽選結果に対応する停止結果が表示されるように前記所定の表示手段を表示制御する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ７０６の処理を実行する機能）と、
前記移行抽選の抽選結果が前記所定遊技状態への移行に対応する結果であった場合であってそれに対応する前記停止結果が前記所定の表示手段にて表示された後に前記所定遊技状態に遊技状態を移行させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ９０４及びステップＳＥ１１６の処理を実行する機能）と、
前記所定遊技状態において状態対応表示が行われるように前記特定の表示手段を表示制御する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ９０３及びステップＳＥ１１５の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記所定対応表示は前記絵柄の変動表示であり、前記特定対応表示は前記状態対応表示であることを特徴とする特徴ＡＯ５に記載の遊技機。
【６２３５】
特徴ＡＯ６によれば、所定の設定関連処理が実行されている状況においては所定の表示手段にて絵柄の変動表示が行われている状況において特定の表示手段にて所定遊技状態であることを示す状態対応表示が行われる。これにより、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に明確に認識させることが可能となる。
【６２３６】
特徴ＡＯ７．前記所定の設定関連処理は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定を可能とする処理、又は現状の前記設定値が報知されるようにするための処理であることを特徴とする特徴ＡＯ１乃至ＡＯ６のいずれか１に記載の遊技機。
【６２３７】
特徴ＡＯ７によれば、既に説明したような優れた効果を奏しながら、使用対象となる設定値の設定を可能とする処理が実行されている状況又は現状の設定値が報知されるようにするための処理が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。
【６２３８】
なお、特徴ＡＯ１～ＡＯ７の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、

特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６２３９】

＜特徴αＰ群＞

特徴αＰ１．遊技が実行されている状況において第１特定動作手段（第６４の実施形態では特別表示部４２９、第６６の実施形態では特電入賞装置４１６）が第１対応状態となるようにする第１対応状態実行手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ９０３及びステップＳＥ１１５の処理を実行する機能、第６６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ７１０～ステップＳＤ７１２の処理を実行する機能）と、

遊技が実行されている状況において前記第１特定動作手段が前記第１対応状態となる場合には第２特定動作手段（第６４の実施形態では特別表示部４２９及び第２特図表示部４２６、第６６の実施形態では特別表示部４２９）が第２対応状態となるようにする第２対応状態実行手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ７０６の処理を実行する機能、第６６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ９０３及びステップＳＥ１１５の処理を実行する機能）と、

遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能）と、

前記設定値に関する所定の設定関連処理（設定値更新処理、設定確認用処理）が実行されている状況において、前記第１特定動作手段が前記第１対応状態となり、前記第２特定動作手段が前記第２対応状態とは異なる状態となるようにする特定対応制御手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ３０４、ステップＳＥ３０５、ステップＳＥ３０８及びステップＳＥ３０９の処理を実行する機能、第６６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＥ７０４、ステップＳＥ７０７、ステップＳＥ８０２及びステップＳＥ８１６の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【６２４０】

特徴αＰ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、遊技が実行されている状況においては第１特定動作手段が第１対応状態となる場合には第２特定動作手段が第２対応状態となる構成において、設定値に関する所定の設定関連処理が実行されている状況においては第１特定動作手段が第１対応状態となるのに対して第２特定動作手段が第２対応状態とは異なる状態となる。これにより、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となるとともに、この報知を第１特定動作手段及び第２特定動作手段を利用して行うことが可能となる。

【６２４１】

特徴αＰ２．前記第１特定動作手段及び前記第２特定動作手段のうち一方は表示手段であり他方は可動手段であることを特徴とする特徴αＰ１に記載の遊技機。

【６２４２】

特徴αＰ２によれば、表示手段と可動手段とのそれぞれの状態の組合せにより所定の設定関連処理が実行されている状況であることを示す報知が行われるため、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを把握し易くなる。

【６２４３】

特徴αＰ３．前記第２特定動作手段は、所定遊技状態において開放状態と閉鎖状態との間で切り換えられる可変入球手段（特電入賞装置４１６）であり、

前記第２対応状態は、前記第２特定動作手段が開放状態と閉鎖状態との間で切り換えられる状態であり、

前記第１特定動作手段は、前記所定遊技状態において前記第１対応状態となることで前記所定遊技状態であることを示す表示が行われる表示手段（特別表示部４２９）であり、

前記特定対応制御手段は、前記所定の設定関連処理が実行されている状況において前記第２特定動作手段を前記閉鎖状態に維持させることを特徴とする特徴αＰ１又はαＰ２に記載の遊技機。

【６２４４】

特徴αＰ３によれば、所定の設定関連処理が実行されている状況においては第１特定動作手段にて所定遊技状態であることを示す表示が行われているにも関わらず第２特定動作手段は閉鎖状態に維持される。これにより、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に明確に認識させることが可能となる。

【６２４５】

特徴αＰ４．前記第１特定動作手段は、所定遊技状態において開放状態と閉鎖状態との間で切り換えられる可変入球手段（特電入賞装置４１６）であり、

前記第１対応状態は、前記開放状態であり、

前記第２特定動作手段は、前記所定遊技状態において前記第２対応状態となることで前記所定遊技状態であることを示す表示が行われる表示手段（特別表示部４２９）であることを特徴とする特徴αＰ１又はαＰ２に記載の遊技機。

【６２４６】

特徴αＰ４によれば、所定の設定関連処理が実行されている状況においては第１特定動作手段が開放状態となっているにも関わらず第２特定動作手段においては所定遊技状態であることを示す表示が行われない。これにより、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に明確に認識させることが可能となる。

【６２４７】

特徴αＰ５．前記特定対応制御手段は、前記所定の設定関連処理が実行されている状況において前記第２特定動作手段を非表示状態とすることを特徴とする特徴αＰ４に記載の遊技機。

【６２４８】

特徴αＰ５によれば、所定の設定関連処理が実行されている状況においては第１特定動作手段が開放状態となっているにも関わらず第２特定動作手段は所定遊技状態であることを示す表示が行わないだけではなく非表示状態となる。これにより、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に明確に認識させることが可能となる。

【６２４９】

特徴αＰ６．所定遊技状態に遊技状態を移行させるか否かを決定するための移行抽選を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ８０３の処理を実行する機能）を備え、

前記第２対応状態実行手段は、絵柄の変動表示が開始された後に前記移行抽選の抽選結果に対応する停止結果が表示されるように前記第２特定動作手段を表示制御するものであり、

本遊技機は、前記移行抽選の抽選結果が前記所定遊技状態への移行に対応する結果であった場合であってそれに対応する前記停止結果である移行停止結果が前記第２特定動作手段にて表示された後に前記所定遊技状態に遊技状態を移行させる手段（主側ＣＰＵ６３に

おけるステップＳＤ９０４及びステップＳＥ１１６の処理を実行する機能）を備え、
前記第１対応状態実行手段は、前記所定遊技状態において前記第１特定動作手段を開放状態と閉鎖状態との間で切り換えるものであり、
前記第１対応状態は、前記開放状態であり、
前記第２対応状態は、前記移行停止結果が前記第２特定動作手段にて表示されている状態であることを特徴とする特徴αＰ１又はαＰ２に記載の遊技機。
【６２５０】
特徴αＰ６によれば、所定の設定関連処理が実行されている状況においては第１特定動作手段が開放状態となっているにも関わらず第２特定動作手段においては移行停止結果が表示されない。これにより、所定の設定関連処理が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に明確に認識させることが可能となる。
【６２５１】
特徴αＰ７．前記所定の設定関連処理は、前記設定手段による前記使用対象となる設定値の設定を可能とする処理、又は現状の前記設定値が報知されるようにするための処理であることを特徴とする特徴αＰ１乃至αＰ６のいずれか１に記載の遊技機。
【６２５２】
特徴αＰ７によれば、既に説明したような優れた効果を奏しながら、使用対象となる設定値の設定を可能とする処理が実行されている状況又は現状の設定値が報知されるようにするための処理が実行されている状況であることを遊技ホールの管理者に認識させることが可能となる。
【６２５３】
なお、特徴αＰ１～αＰ７の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【６２５４】
＜特徴αＱ群＞
特徴αＱ１．遊技領域を流下する遊技球が入球可能であり開放状態と閉鎖状態との間で

切り換え可能に設けられた可変入球手段（特電入賞装置４１６）と、
更新契機が発生する度に更新数値情報を更新する更新手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０２の処理を実行する機能）と、
所定の取得契機が発生した場合に前記更新数値情報を取得する所定取得手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報についてのステップＳＤ７０１の処理を実行する機能、第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＦ１０１の処理を実行する機能）と、
当該所定取得手段が取得した前記更新数値情報が所定遊技状態（開閉実行モード）への移行に対応する数値情報に対応しているか否かを判定するための所定移行判定を実行する所定移行判定手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報に対してステップＳＤ８０３の処理を実行する機能、第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第１特図側の保留情報に対してステップＳＦ３０４の処理を実行する機能）と、
前記所定遊技状態において前記可変入球手段を前記開放状態と前記閉鎖状態との間で切り換える切換制御手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ７１０～ステップＳＤ７１２の処理を実行する機能、第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＦ１０８～ステップＳＦ１１０及びステップＳＦ２０８～ステップＳＦ２１０の処理を実行する機能）と、
前記所定移行判定の結果が第１当選結果（大当たり結果）であることに基づいて、前記所定遊技状態に移行させ、遊技者の有利度に影響を与える遊技モードを前記所定遊技状態の終了後において当該所定遊技状態の開始前から変動させ得る第１移行手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報についてステップＳＤ８０５～ステップＳＤ８０７、ステップＳＤ９０４及びステップＳＥ２０２～ステップＳＥ２０８の処理を実行する機能、第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第１特図側の保留情報についてステップＳＦ３０６～ステップＳＦ３０８及びステップＳＦ４０３の処理を実行する機能）と、
前記所定移行判定の結果が第２当選結果（小当たり結果）であることに基づいて、前記所定遊技状態への移行契機が発生し得る状態に移行させる、又は前記所定遊技状態に移行させ当該所定遊技状態の終了後において当該所定遊技状態の開始前の前記遊技モードを継続させる第２移行手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報についてステップＳＤ８０９～ステップＳＤ８１１及びステップＳＤ９１５の処理を実行する機能、第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第１特図側の保留情報についてステップＳＦ３１０、ステップＳＦ３１１及びステップＳＦ４０５の処理を実行する機能）と、
遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記所定移行判定の結果が外れ結果であった場合には前記所定遊技状態への移行が発生しない構成であり、
前記複数段階の設定値のうち第１設定値（例えば「設定１」）よりも第２設定値（例えば「設定６」）の方が前記所定移行判定において前記第１当選結果であると判定される前記更新数値情報の数が第１特定数多い構成であり、
前記第１設定値よりも前記第２設定値の方が前記所定移行判定において前記外れ結果であると判定される前記更新数値情報の数が第２特定数少ない構成であり、
前記第２特定数は前記第１特定数以上であることを特徴とする遊技機。

【６２５５】

特徴αＱ１によれば、所定移行判定にて第１当選結果又は第２当選結果となることで可変入球手段が開放状態となる所定遊技状態に移行するため、遊技者は第１当選結果又は第２当選結果となることを期待しながら遊技を行うこととなる。また、所定移行判定にて第１当選結果となった場合と第２当選結果となった場合とでその後の遊技状態の態様が相違

することとなるため、遊技状態の移行態様を多様化させることが可能となる。また、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。

【６２５６】

この場合に、第１設定値と第２設定値との間における所定移行判定にて第１当選結果であると判定される更新数値情報の数の変動分が所定移行判定にて外れ結果であると判定される更新数値情報の数の変動分によって吸収される。これにより、所定移行判定にて第２当選結果となる確率に影響を与えないようしながら、所定移行判定にて第１当選結果となる確率を第１設定値と第２設定値との間で変動させることが可能となる。

【６２５７】

特徴αＱ２．前記複数段階の設定値の全てにおいて前記所定移行判定にて前記第１当選結果であると判定される前記更新数値情報の数の変動分が前記所定移行判定にて前記外れ結果であると判定される前記更新数値情報の数の変動分により吸収されていることを特徴とする特徴αＱ１に記載の遊技機。

【６２５８】

特徴αＱ２によれば、複数段階の設定値の全てにおいて所定移行判定にて第２当選結果となる確率に影響を与えないようしながら所定移行判定にて第１当選結果となる確率を変動させることが可能となる。

【６２５９】

特徴αＱ３．前記複数段階の設定値の全てにおいて前記所定移行判定にて前記第２当選結果であると判定される前記更新数値情報の数が同一であることを特徴とする特徴αＱ１又はαＱ２に記載の遊技機。

【６２６０】

特徴αＱ３によれば、複数段階の設定値の全てにおいて所定移行判定にて第２当選結果となる確率を一定とすることが可能となる。また、このように所定移行判定にて第２当選結果となる確率を一定とした構成であっても、所定移行判定にて第１当選結果となる確率の各設定値の変動分は外れ結果となる確率の変動分により吸収されるため、所定移行判定にて第１当選結果となる確率を設定値に応じた確率とすることが可能となる。

【６２６１】

特徴αＱ４．前記所定移行判定にて前記外れ結果であると判定される前記更新数値情報の数は、前記複数段階の設定値のいずれであっても最も多いことを特徴とする特徴αＱ１乃至αＱ３のいずれか１に記載の遊技機。

【６２６２】

特徴αＱ４によれば、所定移行判定にて外れ結果であると判定される更新数値情報の数が各設定値のいずれであっても最も多い構成において、所定移行判定にて第１当選結果であると判定される更新数値情報の数の各設定値の変動分が所定移行判定にて外れ結果であると判定される更新数値情報の数の変動分により吸収される。これにより、所定移行判定にて第１当選結果となる確率の各設定値における変動分を所定移行判定にて外れ結果となる確率の変動分で吸収する構成であっても、所定移行判定にて外れ結果となる確率については複数段階の設定値間で大きな変動を生じさせないようにすることが可能となる。

【６２６３】

特徴αＱ５．前記遊技モードとして、前記所定移行判定にて前記第１当選結果となる確率が相対的に高低となる高確率モードと低確率モードとが存在しており、

前記複数段階の設定値のうち前記所定移行判定にて前記第１当選結果となる確率が最も高い設定値である状況であって前記遊技モードが前記高確率モードである状況において、前記所定移行判定にて前記外れ結果であると判定される前記更新数値情報の数が０個であることを特徴とする特徴αＱ１乃至αＱ４のいずれか１に記載の遊技機。

【６２６４】

特徴αＱ５によれば、所定移行判定にて第１当選結果となる確率が最も高くなる状況で

ある最高設定値であって高確率モードである状況において所定移行判定にて外れ結果であると判定される更新数値情報の数が０個となる。これにより、所定移行判定にて第１当選結果となる確率の各設定値における変動分を所定移行判定にて外れ結果となる確率の変動分で吸収する構成において、上記のように所定移行判定にて第１当選結果となる確率が最も高くなる状況において当該第１当選結果となる確率を極力高くすることが可能となる。

【６２６５】

特徴αＱ６．前記遊技モードとして、前記所定移行判定にて前記第１当選結果となる確率が相対的に高低となる高確率モードと低確率モードとが存在しており、

前記複数段階の設定値のうち前記所定移行判定にて前記第１当選結果となる確率が最も高い設定値である状況であって前記遊技モードが前記高確率モードである状況において、前記所定移行判定にて前記外れ結果であると判定される前記更新数値情報の数が１個以上であることを特徴とする特徴αＱ１乃至αＱ４のいずれか１に記載の遊技機。

【６２６６】

特徴αＱ６によれば、所定移行判定にて第１当選結果となる確率が最も高くなる状況である最高設定値であって高確率モードである状況において、所定移行判定にて外れ結果であると判定される更新数値情報の数が１個以上となる。これにより、所定移行判定にて第１当選結果となる確率の各設定値における変動分を所定移行判定にて外れ結果となる確率の変動分で吸収する構成において、上記のように所定移行判定にて第１当選結果となる確率が最も高くなる状況であっても所定移行判定にて外れ結果が選択され得るようにすることが可能となる。

【６２６７】

特徴αＱ７．特定の取得契機が発生した場合に前記更新数値情報を取得する特定取得手段（第６９～第７０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＦ２０１の処理を実行する機能）と、

当該特定取得手段が取得した前記更新数値情報が前記所定遊技状態への移行に対応する数値情報に対応しているか否かを判定するための特定移行判定を実行する特定移行判定手段（第６９～第７０の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報に対してステップＳＦ３０４の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記第１移行手段は、前記特定移行判定の結果が前記第１当選結果であることに基づいて、前記所定遊技状態に移行させ、前記所定遊技状態の終了後における前記遊技モードを当該所定遊技状態の開始前から変動させ得るものであり、

前記第２移行手段は、前記特定移行判定の結果が前記第２当選結果であることに基づいて、前記所定遊技状態への移行契機が発生し得る状態に移行させる、又は前記所定遊技状態に移行させ当該所定遊技状態の終了後において当該所定遊技状態の開始前の前記遊技モードを継続させるものであり、

前記特定移行判定の結果が前記外れ結果であった場合には前記所定遊技状態への移行が発生しない構成であり、

前記特定移行判定にて前記第１当選結果であると判定される前記更新数値情報の数の前記設定値の相違による変動分が、前記特定移行判定にて前記外れ結果であると判定される前記更新数値情報の数の変動分により吸収されていることを特徴とする特徴αＱ１乃至αＱ６のいずれか１に記載の遊技機。

【６２６８】

特徴αＱ７によれば、所定移行判定だけではなく特定移行判定においても、第２当選結果となる確率に影響を与えないようしながら、第１当選結果となる確率を各設定値の間で変動させることが可能となる。

【６２６９】

特徴αＱ８．前記複数段階の設定値の全てにおいて前記特定移行判定にて前記第２当選結果であると判定される前記更新数値情報の数が同一であることを特徴とする特徴αＱ７に記載の遊技機。

【６２７０】
特徴αＱ８によれば、所定移行判定だけではなく特定移行判定においもて、複数段階の設定値の全てにおいて第２当選結果となる確率を一定とすることが可能となる。また、このように特定移行判定にて第２当選結果となる確率を一定とした構成であっても、特定移行判定にて第１当選結果となる確率の各設定値の変動分は外れ結果となる確率の変動分により吸収されるため、特定移行判定にて第１当選結果となる確率を設定値に応じた確率とすることが可能となる。
【６２７１】
特徴αＱ９．前記特定移行判定にて前記外れ結果であると判定される前記更新数値情報の数は、前記複数段階の設定値のいずれであっても最も多いことを特徴とする特徴αＱ７又はαＱ８に記載の遊技機。
【６２７２】
特徴αＱ９によれば、特定移行判定にて外れ結果であると判定される更新数値情報の数が各設定値のいずれであっても最も多い構成において、特定移行判定にて第１当選結果であると判定される更新数値情報の数の各設定値の変動分が特定移行判定にて外れ結果であると判定される更新数値情報の数の変動分により吸収される。これにより、特定移行判定にて第１当選結果となる確率の各設定値における変動分を特定移行判定にて外れ結果となる確率の変動分で吸収する構成であっても、特定移行判定にて外れ結果となる確率については確率の大きな変動を生じさせないようにすることが可能となる。
【６２７３】
なお、特徴αＱ１～αＱ９の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【６２７４】
＜特徴αＲ群＞
特徴αＲ１．遊技領域を流下する遊技球が入球可能であり開放状態と閉鎖状態との間で切り換え可能に設けられた可変入球手段（特電入賞装置４１６）と、

更新契機が発生する度に更新数値情報を更新する更新手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０２の処理を実行する機能）と、
所定の取得契機が発生した場合に前記更新数値情報を取得する所定取得手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報についてのステップＳＤ７０１の処理を実行する機能、第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＦ１０１の処理を実行する機能）と、
当該所定取得手段が取得した前記更新数値情報が所定遊技状態（開閉実行モード）への移行に対応する数値情報に対応しているか否かを判定するための所定移行判定を実行する所定移行判定手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報に対してステップＳＤ８０３の処理を実行する機能、第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第１特図側の保留情報に対してステップＳＦ３０４の処理を実行する機能）と、
前記所定遊技状態において前記可変入球手段を前記開放状態と前記閉鎖状態との間で切り換える切換制御手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＤ７１０～ステップＳＤ７１２の処理を実行する機能、第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＦ１０８～ステップＳＦ１１０及びステップＳＦ２０８～ステップＳＦ２１０の処理を実行する機能）と、
前記所定移行判定の結果が第１当選結果（大当たり結果）であることに基づいて、前記所定遊技状態に移行させる第１移行手段（第６４の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報についてステップＳＤ８０５～ステップＳＤ８０７、ステップＳＤ９０４及びステップＳＥ２０２～ステップＳＥ２０８の処理を実行する機能、第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第１特図側の保留情報についてステップＳＦ３０６～ステップＳＦ３０８及びステップＳＦ４０３の処理を実行する機能）と、
遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記所定移行判定の結果として、前記所定遊技状態への移行が発生しない外れ結果及び前記第１当選結果以外にも別の当選結果が存在しており、
前記複数段階の設定値のうち第１設定値（例えば「設定１」）よりも第２設定値（例えば「設定６」）の方が前記所定移行判定において前記第１当選結果であると判定される前記更新数値情報の数が第１所定数多い構成であり、
前記第１当選結果とは異なる所定対象結果（外れ結果）であると前記所定移行判定にて判定される前記更新数値情報の数は、前記第１設定値及び前記第２設定値のそれぞれにおいて最も多い構成であり、
前記第１設定値よりも前記第２設定値の方が前記所定移行判定において前記所定対象結果であると判定される前記更新数値情報の数が第２所定数少ない構成であり、
前記第２所定数は前記第１所定数以上であることを特徴とする遊技機。
【６２７５】
特徴αＲ１によれば、所定移行判定にて第１当選結果となることで可変入球手段が開放状態となる所定遊技状態に移行するため、遊技者は第１当選結果となることを期待しながら遊技を行うこととなる。また、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。
【６２７６】
この場合に、所定移行判定にて所定対象結果であると判定される更新数値情報の数が第１設定値及び第２設定値のいずれであっても最も多い構成において、所定移行判定にて第１当選結果であると判定される更新数値情報の数の第１設定値と第２設定値との間での変動分が、所定移行判定にて所定対象結果であると判定される更新数値情報の数の変動分によって吸収される。これにより、所定移行判定にて第１当選結果となる確率の各設定値における変動分を所定移行判定にて所定対象対象となる確率の変動分で吸収する構成であっ

ても、所定移行判定にて所定対象結果となる確率については確率の大きな変動を生じさせないようにすることが可能となる。よって、所定移行判定において第１当選結果が選択される確率から設定値の予測を可能としながらも、当該第１当選結果の確率の変動に応じて確率が変動することとなる所定対象結果が選択される確率からは設定値の予測を行いづらくさせることが可能となる。

【６２７７】

特徴αＲ２．前記所定移行判定にて前記所定対象結果であると判定される前記更新数値情報の数は、前記複数段階の設定値のいずれであっても最も多い構成であり、

前記複数段階の設定値の全てにおいて前記所定移行判定にて前記第１当選結果であると判定される前記更新数値情報の数の変動分が前記所定移行判定にて前記所定対象結果であると判定される前記更新数値情報の数の変動分により吸収されていることを特徴とする特徴αＲ１に記載の遊技機。

【６２７８】

特徴αＲ２によれば、複数段階の設定値の全てにおいて最も選択確率が高い所定対象結果の相対的に小さな確率の変動によって、所定移行判定にて第１当選結果となる確率の変動分を吸収することが可能となる。

【６２７９】

特徴αＲ３．前記所定移行判定にて前記第１当選結果となる確率が相対的に高低となる高確率モードと低確率モードとが存在しており、

前記複数段階の設定値のうち前記所定移行判定にて前記第１当選結果となる確率が最も高い設定値である状況であって前記高確率モードである状況であっても、前記所定移行判定にて前記所定対象結果であると判定される前記更新数値情報の数が最も多いことを特徴とする特徴αＲ１又はαＲ２に記載の遊技機。

【６２８０】

特徴αＲ３によれば、所定移行判定にて第１当選結果となる確率が最も高くなる状況である最高設定値であって高確率モードである状況であっても、所定移行判定にて所定対象結果であると判定される更新数値情報の数が最も多くなる。これにより、所定移行判定にて第１当選結果となる確率が最も高くなる状況である最高設定値であって高確率モードである状況であっても、所定移行判定にて所定対象結果となる確率については確率の大きな変動を生じさせないようにしながら、所定移行判定にて所定対象結果となる確率の変動分により所定移行判定にて第１当選結果となる確率の変動分を吸収することが可能となる。

【６２８１】

特徴αＲ４．特定の取得契機が発生した場合に前記更新数値情報を取得する特定取得手段（第６９～第７０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＦ２０１の処理を実行する機能）と、

当該特定取得手段が取得した前記更新数値情報が前記所定遊技状態への移行に対応する数値情報に対応しているか否かを判定するための特定移行判定を実行する特定移行判定手段（第６９～第７０の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報に対してステップＳＦ３０４の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記第１移行手段は、前記特定移行判定の結果が前記第１当選結果であることに基づいて、前記所定遊技状態に移行させるものであり、

前記特定移行判定の結果として、前記所定遊技状態への移行が発生しない外れ結果及び前記第１当選結果以外にも別の当選結果が存在しており、

前記第１設定値及び前記第２設定値のそれぞれにおける前記特定移行判定において最も選択される確率が高い抽選結果ではない抽選結果として特定対象結果（外れ結果）が存在しており、

前記第１設定値よりも前記第２設定値の方が前記特定移行判定において前記第１当選結果であると判定される前記更新数値情報の数が第１特定数多い構成であり、

前記第１設定値よりも前記第２設定値の方が前記特定移行判定において前記特定対象結

果であると判定される前記更新数値情報の数が第２特定数少ない構成であり、
　前記第２特定数は第１特定数以上であることを特徴とする特徴αＲ１乃至αＲ３のいずれか１に記載の遊技機。
【６２８２】
　特徴αＲ４によれば、特定移行判定においては最も高い選択確率ではない特定対象結果の確率の変動分により、特定移行判定において第１当選結果となる各設定値の確率の変動分が吸収される。これにより、特定移行判定においては第１当選結果の選択確率及び特定対象結果の選択確率のそれぞれを利用して遊技者は設定値を推測することが可能となる。
【６２８３】
　特徴αＲ５．前記特定対象結果は前記所定対象結果であることを特徴とする特徴αＲ４に記載の遊技機。
【６２８４】
　特徴αＲ５によれば、所定移行判定においては所定対象結果の選択確率によっては設定値の推測を行いづらくする一方、特定移行判定においては所定対象結果の選択確率によって設定値の推測を行い易くさせることが可能となる。
【６２８５】
　特徴αＲ６．前記複数段階の設定値の全てにおいて前記特定対象結果が前記特定移行判定にて選択される確率が最も高い抽選結果ではない構成であり、
　前記複数段階の設定値の全てにおいて前記特定移行判定にて前記第１当選結果であると判定される前記更新数値情報の数の変動分が前記特定移行判定にて前記特定対象結果であると判定される前記更新数値情報の数の変動分により吸収されていることを特徴とする特徴αＲ４又はαＲ５に記載の遊技機。
【６２８６】
　特徴αＲ６によれば、複数段階の設定値の全てにおいて特定対象結果の相対的に大きな確率の変動によって、特定移行判定にて第１当選結果となる確率の変動分を吸収することが可能となる。
【６２８７】
　特徴αＲ７．特定の取得契機が発生した場合に前記更新数値情報を取得する特定取得手段（第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＦ２０１の処理を実行する機能）と、
　当該特定取得手段が取得した前記更新数値情報が前記所定遊技状態への移行に対応する数値情報に対応しているか否かを判定するための特定移行判定を実行する特定移行判定手段（第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報に対してステップＳＦ３０４の処理を実行する機能）と、
を備え、
　前記第１移行手段は、前記特定移行判定の結果が前記第１当選結果であることに基づいて、前記所定遊技状態に移行させるものであり、
　前記特定移行判定の結果として、前記所定遊技状態への移行が発生しない外れ結果及び前記第１当選結果以外にも別の当選結果が存在しており、
　前記第１当選結果とは異なる特定対象結果（小当たり結果）であると前記特定移行判定にて判定される前記更新数値情報の数は、前記第１設定値及び前記第２設定値のそれぞれにおいて最も多い構成であり、
　前記第１設定値よりも前記第２設定値の方が前記特定移行判定において前記第１当選結果であると判定される前記更新数値情報の数が第１特定数多い構成であり、
　前記第１設定値よりも前記第２設定値の方が前記特定移行判定において前記特定対象結果であると判定される前記更新数値情報の数が第２特定数少ない構成であり、
　前記第２特定数は第１特定数以上である構成であり、
　前記所定対象結果と前記特定対象結果とは異なることを特徴とする特徴αＲ１乃至αＲ３のいずれか１に記載の遊技機。
【６２８８】

特徴αＲ７によれば、所定移行判定と特定移行判定とで選択確率が最も高い抽選結果が異なる構成であっても、所定移行判定及び特定移行判定のそれぞれにおいて最も選択確率が高い抽選結果の選択確率の変動分によって、第１当選結果の選択確率の各設定値の間での変動分が吸収される。これにより、所定移行判定及び特定移行判定のいずれにおいても第１当選結果が選択される確率から設定値の推測を可能としながらも、当該第１当選結果の確率の変動に応じて確率が変動することとなる抽選結果が選択される確率からは設定値の推測を行いづらくさせることが可能となる。

【６２８９】

特徴αＲ８．前記特定移行判定にて前記特定対象結果であると判定される前記更新数値情報の数は、前記複数段階の設定値のいずれであっても最も多い構成であり、

前記複数段階の設定値の全てにおいて前記特定移行判定にて前記第１当選結果であると判定される前記更新数値情報の数の変動分が前記特定移行判定にて前記特定対象結果であると判定される前記更新数値情報の数の変動分により吸収されていることを特徴とする特徴αＲ７に記載の遊技機。

【６２９０】

特徴αＲ８によれば、所定移行判定及び特定移行判定のいずれであっても複数段階の設定値の全てにおいて最も選択確率が高い抽選結果の相対的に小さな確率の変動によって、第１当選結果となる確率の変動分を吸収することが可能となる。

【６２９１】

なお、特徴αＲ１～αＲ８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６２９２】

＜特徴αＳ群＞

特徴αＳ１．更新契機が発生する度に更新数値情報を更新する更新手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０２の処理を実行する機能）と、

所定の取得契機が発生した場合に前記更新数値情報を取得する所定取得手段（第７０の

実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＦ２０１の処理を実行する機能）と、
当該所定取得手段が取得した前記更新数値情報が所定遊技状態（開閉実行モード）への移行に対応する数値情報に対応しているか否かを判定するための所定移行判定を実行する所定移行判定手段（第７０の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報に対してステップＳＦ３０４の処理を実行する機能）と、
前記所定移行判定の結果が第１当選結果（第７０の実施形態における第２特図側の保留情報が当否判定処理の対象となった場合の大当たり結果）であることに基づいて、前記所定遊技状態への移行を可能とする第１移行手段（第７０の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報についてステップＳＦ３０６～ステップＳＦ３０８及びステップＳＦ４０３の処理を実行する機能）と、
遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記所定移行判定の結果が外れ結果であった場合には前記所定遊技状態への移行が発生しない構成であり、
前記所定移行判定にて前記第１当選結果となる確率が相対的に高低となる高確率モードと低確率モードとが存在しており、
前記高確率モードである状況で前記所定移行判定にて前記第１当選結果であると判定される前記更新数値情報の数の前記複数段階の設定値の間における変動分が前記所定移行判定にて前記外れ結果であると判定される前記更新数値情報の数の変動分により吸収される構成であり、
前記複数段階の設定値のうち前記所定移行判定にて前記第１当選結果となる確率が最も高い設定値である状況であって前記高確率モードである状況において、前記所定移行判定にて前記外れ結果であると判定される前記更新数値情報の数が１個以上となるように、前記複数段階の設定値のうち前記所定移行判定にて前記第１当選結果となる確率が最も低い設定値である状況であって前記高確率モードである状況において前記所定移行判定にて前記外れ結果であると判定される前記更新数値情報の数が設定されていることを特徴とする遊技機。

【６２９３】

特徴αＳ１によれば、所定移行判定にて第１当選結果となることで所定遊技状態への移行が可能となるため、遊技者は第１当選結果となることを期待しながら遊技を行うこととなる。また、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。

【６２９４】

この場合に、高確率モードである状況で所定移行判定にて第１当選結果であると判定される更新数値情報の数の複数段階の設定値の間における変動分が所定移行判定にて外れ結果であると判定される更新数値情報の数の変動分によって吸収される。そして、所定移行判定にて第１当選結果となる確率が最も高くなる状況である最高設定値であって高確率モードである状況において、所定移行判定にて外れ結果であると判定される更新数値情報の数が１個以上となる。これにより、所定移行判定にて第１当選結果となる確率の各設定値における変動分を所定移行判定にて外れ結果となる確率の変動分で吸収する構成において、上記のように所定移行判定にて第１当選結果となる確率が最も高くなる状況であっても所定移行判定にて外れ結果が選択され得るようにすることが可能となる。

【６２９５】

特徴αＳ２．前記所定移行判定の結果が第２当選結果（第７０の実施形態における第２特図側の保留情報が当否判定処理の対象となった場合の小当たり結果）であることに基づいて、前記所定遊技状態への移行契機が発生し得る状態に移行させる、又は前記所定遊技状態に移行させ当該所定遊技状態の終了後において当該所定遊技状態の開始前の遊技モードを継続させる第２移行手段（第７０の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側

の保留情報についてステップＳＦ３１０、ステップＳＦ３１１及びステップＳＦ４０５の処理を実行する機能）を備え、
　前記高確率モードである状況において前記所定移行判定にて前記第２当選結果であると判定される前記更新数値情報の数は前記複数段階の設定値の間において同一であることを特徴とする特徴αＳ１に記載の遊技機。
【６２９６】
　特徴αＳ２によれば、複数段階の設定値の全てにおいて所定移行判定にて第２当選結果となる確率を一定とすることが可能となる。また、このように所定移行判定にて第２当選結果となる確率を一定とした構成であっても、所定移行判定にて第１当選結果となる確率の各設定値の変動分は外れ結果となる確率の変動分により吸収されるため、所定移行判定にて第１当選結果となる確率を設定値に応じた確率とすることが可能となる。
【６２９７】
　特徴αＳ３．前記所定移行判定の結果が第２当選結果（第７０の実施形態における第２特図側の保留情報が当否判定処理の対象となった場合の小当たり結果）であることに基づいて、前記所定遊技状態への移行契機が発生し得る状態に移行させる、又は前記所定遊技状態に移行させ当該所定遊技状態の終了後において当該所定遊技状態の開始前の遊技モードを継続させる第２移行手段（第７０の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報についてステップＳＦ３１０、ステップＳＦ３１１及びステップＳＦ４０５の処理を実行する機能）を備え、
　前記高確率モードである状況において前記所定移行判定にて前記第２当選結果であると判定される前記更新数値情報の数は、前記複数段階の設定値のそれぞれにおいて最も多いことを特徴とする特徴αＳ１又はαＳ２に記載の遊技機。
【６２９８】
　特徴αＳ３によれば、高確率モードである状況においては所定移行判定にて第２当選結果が選択される確率が最も高い構成であっても、所定移行判定にて第１当選結果となる確率が最も高くなる状況において所定移行判定にて外れ結果が選択され得るようにすることが可能となる。
【６２９９】
　なお、特徴αＳ１～αＳ３の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６

、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６３００】

＜特徴αＴ群＞

特徴αＴ１．遊技領域を流下する遊技球が入球可能であり開放状態と閉鎖状態との間で切り換え可能に設けられた可変入球手段（特電入賞装置４１６）と、

更新契機が発生する度に更新数値情報を更新する更新手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８９０２の処理を実行する機能）と、

所定の取得契機が発生した場合に前記更新数値情報を取得する所定取得手段（第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＦ１０１の処理を実行する機能）と、

当該所定取得手段が取得した前記更新数値情報が所定遊技状態（開閉実行モード）への移行に対応する数値情報に対応しているか否かを判定するための所定移行判定を実行する所定移行判定手段（第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第１特図側の保留情報に対してステップＳＦ３０４の処理を実行する機能）と、

前記所定遊技状態において前記可変入球手段を前記開放状態と前記閉鎖状態との間で切り換える切換制御手段（第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＦ１０８～ステップＳＦ１１０及びステップＳＦ２０８～ステップＳＦ２１０の処理を実行する機能）と、

前記所定移行判定の結果が第１当選結果（大当たり結果）であることに基づいて、前記所定遊技状態に移行させ、遊技者の有利度に影響を与える遊技モードを前記所定遊技状態の終了後において当該所定遊技状態の開始前から変動させ得る第１移行手段（第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第１特図側の保留情報についてステップＳＦ３０６～ステップＳＦ３０８及びステップＳＦ４０３の処理を実行する機能）と、

前記所定移行判定の結果が第２当選結果（小当たり結果）であることに基づいて、前記所定遊技状態への移行契機が発生し得る状態に移行させる、又は前記所定遊技状態に移行させ当該所定遊技状態の終了後において当該所定遊技状態の開始前の前記遊技モードを継続させる第２移行手段（第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第１特図側の保留情報についてステップＳＦ３１０、ステップＳＦ３１１及びステップＳＦ４０５の処理を実行する機能）と、

遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定移行判定の結果が外れ結果であった場合には前記所定遊技状態への移行が発生しない構成であり、

前記遊技モードとして、前記所定移行判定にて前記第１当選結果となる確率が相対的に高低となる高確率モードと低確率モードとが存在しており、

前記所定移行判定において前記第２当選結果となる確率は、前記設定手段によって設定されている前記使用対象となる設定値及び前記遊技モードのそれぞれがいずれであっても同一であることを特徴とする遊技機。

【６３０１】

特徴αＴ１によれば、所定移行判定にて第１当選結果又は第２当選結果となることで可変入球手段が開放状態となる所定遊技状態に移行するため、遊技者は第１当選結果又は第２当選結果となることを期待しながら遊技を行うこととなる。また、所定移行判定にて第１当選結果となった場合と第２当選結果となった場合とでその後の遊技状態の態様が相違することとなるため、遊技状態の移行態様を多様化させることが可能となる。また、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとな

る。
【６３０２】
この場合に、所定移行判定において第２当選結果となる確率は設定値及び遊技モードのそれぞれがいずれであっても同一となっている。これにより、第２当選結果となる確率からは設定値及び遊技モードの両方について遊技者が推測できないようにすることが可能となる。
【６３０３】
特徴αＴ２．特定の取得契機が発生した場合に前記更新数値情報を取得する特定取得手段（第６９～第７０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＦ２０１の処理を実行する機能）と、
当該特定取得手段が取得した前記更新数値情報が前記所定遊技状態への移行に対応する数値情報に対応しているか否かを判定するための特定移行判定を実行する特定移行判定手段（第６９～第７０の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報に対してステップＳＦ３０４の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記第１移行手段は、前記特定移行判定の結果が前記第１当選結果であることに基づいて、前記所定遊技状態に移行させ、前記所定遊技状態の終了後における前記遊技モードを当該所定遊技状態の開始前から変動させ得るものであり、
前記第２移行手段は、前記特定移行判定の結果が前記第２当選結果であることに基づいて、前記所定遊技状態への移行契機が発生し得る状態に移行させる、又は前記所定遊技状態に移行させ当該所定遊技状態の終了後において当該所定遊技状態の開始前の前記遊技モードを継続させるものであり、
前記特定移行判定の結果が前記外れ結果であった場合には前記所定遊技状態への移行が発生しない構成であり、
前記特定移行判定において前記第２当選結果となる確率は、前記設定手段によって設定されている前記使用対象となる設定値及び前記遊技モードのそれぞれがいずれであっても同一であることを特徴とする特徴αＴ１に記載の遊技機。
【６３０４】
特徴αＴ２によれば、所定移行判定だけではなく特定移行判定においても第２当選結果となる確率は設定値及び遊技モードのそれぞれがいずれであっても同一となっている。これにより、所定移行判定及び特定移行判定のいずれであっても、第２当選結果となる確率からは設定値及び遊技モードの両方について遊技者が推測できないようにすることが可能となる。
【６３０５】
特徴αＴ３．前記所定移行判定において前記第２当選結果となる確率と前記特定移行判定において前記第２当選結果となる確率とは相違していることを特徴とする特徴αＴ２に記載の遊技機。
【６３０６】
特徴αＴ３によれば、所定移行判定だけではなく特定移行判定においても第２当選結果となる確率は設定値及び遊技モードのそれぞれがいずれであっても同一となっている構成において、第２当選結果となる確率が変動する状況を生じさせることが可能となる。
【６３０７】
特徴αＴ４．特定の取得契機が発生した場合に前記更新数値情報を取得する特定取得手段（第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＦ２０１の処理を実行する機能）と、
当該特定取得手段が取得した前記更新数値情報が前記所定遊技状態への移行に対応する数値情報に対応しているか否かを判定するための特定移行判定を実行する特定移行判定手段（第６９～第７１の実施形態では主側ＣＰＵ６３における第２特図側の保留情報に対してステップＳＦ３０４の処理を実行する機能）と、
を備え、

前記第１移行手段は、前記特定移行判定の結果が前記第１当選結果であることに基づいて、前記所定遊技状態に移行させ、前記所定遊技状態の終了後における前記遊技モードを当該所定遊技状態の開始前から変動させ得るものであり、
前記第２移行手段は、前記特定移行判定の結果が前記第２当選結果であることに基づいて、前記所定遊技状態への移行契機が発生し得る状態に移行させる、又は前記所定遊技状態に移行させ当該所定遊技状態の終了後において当該所定遊技状態の開始前の前記遊技モードを継続させるものであり、
前記特定移行判定の結果が前記外れ結果であった場合には前記所定遊技状態への移行が発生しない構成であり、
前記所定移行判定において前記第２当選結果となる確率と前記特定移行判定において前記第２当選結果となる確率とは相違していることを特徴とする特徴αＴ１に記載の遊技機。

【６３０８】
特徴αＴ４によれば、第２当選結果となる確率が変動する状況を生じさせることが可能となる。

【６３０９】
なお、特徴αＴ１～αＴ４の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６３１０】
上記特徴αＭ群、上記特徴αＮ群、上記特徴αＯ群、上記特徴αＰ群、上記特徴αＱ群、上記特徴αＲ群、上記特徴αＳ群及び上記特徴αＴ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６３１１】
遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技

領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６３１２】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６３１３】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の有利度を決定付ける設定値に関する構成を好適なものとする必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６３１４】

＜特徴αＵ群＞

特徴αＵ１．アドレスが対応付けられた記憶領域を複数有し、情報を記憶する特定記憶手段（第７２の実施形態における主側ＲＡＭ６５）と、

当該特定記憶手段における所定のアドレスを対象アドレスとして指定するアドレス指定手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ８０１、ステップＳＦ８０３、ステップＳＦ８０７、ステップＳＧ１０１、ステップＳＧ１０３、ステップＳＧ１０７、ステップＳＧ２０１、ステップＳＧ２０４及びステップＳＧ２０８の処理を実行する機能）と、

当該アドレス指定手段により指定された前記対象アドレスに対応する前記記憶領域を特定処理の実行対象とする特定処理実行手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ８０２、ステップＳＧ１０２及びステップＳＧ２０２の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記アドレス指定手段は、

前記特定処理実行手段による前記特定処理の実行が完了した場合に前記対象アドレスを現状の対象アドレスとなっているアドレスに対して次の順番となるアドレスに更新するアドレス更新手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ９０１の処理を実行する機能）と、

当該アドレス更新手段により更新された後の前記対象アドレスが特定アドレス（特定制御用のワークエリア２２１であれば１６進数で「０１００」、特定制御用のスタックエリア２２２であれば１６進数で「０２００」、非特定制御用のワークエリア２２３であれば１６進数で「０３００」、非特定制御用のスタックエリア２２４であれば１６進数で「０４００」）となる場合に所定第１情報を所定第１情報記憶領域（キャリーフラグ５１６）に設定する情報設定手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ９０３の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記特定処理実行手段は、前記所定第１情報記憶領域に前記所定第１情報が設定されている場合に前記特定処理の実行を終了することを特徴とする遊技機。

【６３１５】

特徴αＵ１によれば、対象アドレスが順次更新されるとともに更新された後の対象アドレスに対応する記憶領域が特定処理の実行対象となる。これにより、特定記憶手段における複数の記憶領域を順次、特定処理の実行対象とすることが可能となる。この場合に、更新された後の対象アドレスが特定アドレスとなる場合には所定第１情報が設定され、所定

第１情報が設定されている場合に特定処理の実行が終了される。これにより、実行対象とすべき記憶領域の全てに対して特定処理の実行が完了したか否かの特定に際しては所定第１情報が設定されているか否かを特定するだけでよいため、当該特定を行うための処理負荷を軽減することが可能となる。よって、特定記憶手段に記憶されている情報を好適に扱うことが可能となる。

【６３１６】

特徴αＵ２．前記アドレスは、複数ビットのデータとして設定されており、

前記アドレス更新手段は、前記対象アドレスに対して更新用数値の更新を行うことで当該対象アドレスの更新を行うものであり、

前記情報設定手段は、前記対象アドレスに対して前記更新用数値の更新が行われた場合に前記複数ビットのデータにおける基準ビット（上位バイト５１５ａ）の値が変更されることで前記所定第１情報記憶領域に前記所定第１情報を設定するものであることを特徴とする特徴αＵ１に記載の遊技機。

【６３１７】

特徴αＵ２によれば、対象アドレスが更新されることで基準ビットの値が変更される場合に所定第１情報が設定される。これにより、所定第１情報を設定するための処理構成を簡素化することが可能となる。

【６３１８】

特徴αＵ３．前記アドレスは、複数ビットのデータとして設定されており、

前記アドレス更新手段は、前記対象アドレスに対して更新用数値を加算することで当該対象アドレスの更新を行うものであり、

前記情報設定手段は、前記対象アドレスに対して前記更新用数値の加算が行われた場合に前記複数ビットのデータにおいて最下位ビットとは異なる基準ビット（上位バイト５１５ａ）の値が変更されることで前記所定第１情報記憶領域に前記所定第１情報を設定するものであることを特徴とする特徴αＵ１又はαＵ２に記載の遊技機。

【６３１９】

特徴αＵ３によれば、対象アドレスに更新用数値が加算されることで基準ビットへの桁上がりが発生する場合に所定第１情報が設定される。これにより、所定第１情報を設定するための処理構成を簡素化することが可能となる。

【６３２０】

特徴αＵ４．前記特定アドレスは複数存在しており、

それら複数の特定アドレスはいずれも、直前の順番のアドレスが前記対象アドレスとして設定されている状況において当該対象アドレスに対して前記更新用数値の更新が行われた場合に前記基準ビットの値が変更されるアドレスであることを特徴とする特徴αＵ２又はαＵ３に記載の遊技機。

【６３２１】

特徴αＵ４によれば、特定アドレスが複数存在している構成において、いずれの特定アドレスであっても直前のアドレスが対象アドレスとして設定されている状況において当該対象アドレスが更新されることで基準ビットの値が変更される。そして、基準ビットの値が変更されることで所定第１情報が設定される。これにより、複数の特定アドレスが存在している構成であっても同一の契機で所定第１情報が設定されるようにすることが可能となる。よって、特定処理の終了契機を特定するための処理負荷を軽減することが可能となる。

【６３２２】

特徴αＵ５．複数バイトにより構成され、前記対象アドレスのアドレス情報が設定されるアドレス情報記憶領域（アドレスカウンタ５１５）を備え、

前記アドレス更新手段は、

前記アドレス情報記憶領域における第１バイト（下位バイト５１５ｂ）に対して更新用数値の更新を行うことで前記対象アドレスの更新を行う第１更新手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ９０１の処理を実行する機能）と、

前記第１バイトに対して前記更新用数値の更新が行われることで当該第１バイトの数値情報が最小値及び最大値の一方から他方に変更された場合に前記アドレス情報記憶領域における第２バイト（上位バイト５１５ａ）の更新を行う第２更新手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ９０５の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記特定アドレスは、前記第１バイトに対して前記更新用数値の更新が行われることで当該第１バイトの数値情報が最小値及び最大値の一方から他方に変更されて前記第２バイトが更新された結果のアドレスであり、
前記情報設定手段は、前記第１バイトに対して前記更新用数値の更新が行われることで当該第１バイトの数値情報が最小値及び最大値の一方から他方に変更された場合に前記所定第１情報記憶領域に前記所定第１情報を設定するものであり、
前記第２更新手段は、前記第１バイトに対して前記更新用数値の更新が行われた場合において前記所定第１情報記憶領域に前記所定第１情報が設定された場合に前記第２バイトの更新を行うものであることを特徴とする特徴αＵ１乃至αＵ４のいずれか１に記載の遊技機。

【６３２３】

第１バイトに対して更新用数値の更新が行われることで第１バイトの数値情報が最小値及び最大値の一方から他方に変更された場合には第２バイトを更新する必要がある。この場合、第１バイトの数値情報が最小値及び最大値の一方から他方に変更される場合には所定第１情報が設定されるため、所定第１情報が設定されているか否かを特定することで第２バイトを更新する必要があるか否かを特定することが可能となる。この場合に、特徴αＵ５によれば所定第１情報が設定されているか否かを特定することで、実行対象とすべき記憶領域の全てに対して特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。これにより、第２バイトを更新する必要があるか否かを特定するための構成を利用して、実行対象とすべき記憶領域の全てに対して特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。

【６３２４】

特徴αＵ６．前記特定処理実行手段は、特定実行契機が発生した場合に前記特定記憶手段において特定範囲のアドレスに含まれる前記記憶領域に対して前記特定処理を実行するものであり、
前記特定範囲のアドレスにおいて前記特定処理の実行順序において最後の順序となるアドレスが前記特定アドレスとなるように又は前記特定アドレスに対して直前の順番のアドレス（特定制御用のワークエリア２２１であれば１６進数で「００ＦＦ」、特定制御用のスタックエリア２２２であれば１６進数で「０１ＦＦ」、非特定制御用のワークエリア２２３であれば１６進数で「０２ＦＦ」、非特定制御用のスタックエリア２２４であれば１６進数で「０３ＦＦ」）となるように、前記特定範囲のアドレスが設定されていることを特徴とする特徴αＵ１乃至αＵ５のいずれか１に記載の遊技機。

【６３２５】

特徴αＵ６によれば、所定第１情報が設定されているか否かを特定することで特定範囲のアドレスに含まれる記憶領域に対する特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。これにより、特定範囲のアドレスに含まれる記憶領域に対する特定処理の実行が完了したか否かの特定を行い易くなる。

【６３２６】

特徴αＵ７．前記特定記憶手段において前記特定範囲のアドレスよりも前の順番のアドレスに対応する前記記憶領域に未使用の記憶領域が存在していることを特徴とする特徴αＵ６に記載の遊技機。

【６３２７】

特徴αＵ７によれば、特定範囲のアドレスに含まれる記憶領域に対する特定処理の実行が完了したか否かの特定を行い易くなるように、特定記憶手段における特定範囲のアドレスに含まれる記憶領域を設定することが可能となる。

【６３２８】
特徴αＵ８．前記特定範囲のアドレスとして、第１特定範囲のアドレス（例えば特定制御用のスタックエリア２２２のアドレス範囲）と、第２特定範囲のアドレス（例えば非特定制御用のスタックエリア２２４のアドレス範囲）とが存在しており、
前記特定処理実行手段は、第１特定実行契機が発生した場合に前記特定記憶手段において前記第１特定範囲のアドレスに含まれる前記記憶領域に対して前記特定処理を実行し、第２特定実行契機が発生した場合に前記特定記憶手段において前記第２特定範囲のアドレスに含まれる前記記憶領域に対して前記特定処理を実行するものであり、
前記特定アドレスとして、前記第１特定範囲のアドレスに対応させて第１特定アドレスと、前記第２特定範囲のアドレスに対応させて第２特定アドレスとが少なくとも存在しており、
前記第１特定範囲のアドレスにおいて前記特定処理の実行順序において最後の順序となるアドレスが前記第１特定アドレスとなるように又は前記第１特定アドレスに対して直前の順番のアドレスとなるように、前記第１特定範囲のアドレスが設定されており、
前記第２特定範囲のアドレスにおいて前記特定処理の実行順序において最後の順序となるアドレスが前記第２特定アドレスとなるように又は前記第２特定アドレスに対して直前の順番のアドレスとなるように、前記第２特定範囲のアドレスが設定されていることを特徴とする特徴αＵ６又はαＵ７に記載の遊技機。
【６３２９】
特徴αＵ８によれば、第１特定範囲のアドレスに含まれる記憶領域に対する特定処理の実行が完了したか否かの特定を行う場合、及び第２特定範囲のアドレスに含まれる記憶領域に対する特定処理の実行が完了したか否かの特定を行う場合のいずれであっても、所定第１情報が設定されているか否かを特定すればよい。これにより、特定処理の実行が完了したか否かの特定を行うための処理負荷を軽減することが可能となる。
【６３３０】
特徴αＵ９．前記特定処理は複数種類存在していることを特徴とする特徴αＵ１乃至αＵ８のいずれか１に記載の遊技機。
【６３３１】
特徴αＵ９によれば、複数種類の特定処理のいずれが実行されている状況であっても所定第１情報が設定されているか否かを特定することで終了契機を特定することが可能となる。
【６３３２】
特徴αＵ１０．前記特定処理は前記対象アドレスに対応する前記記憶領域の情報をクリアするための処理であることを特徴とする特徴αＵ１乃至αＵ９のいずれか１に記載の遊技機。
【６３３３】
特徴αＵ１０によれば、特定記憶手段の記憶領域の情報をクリアする処理の終了契機を特定するための処理負荷を軽減することが可能となる。
【６３３４】
なお、特徴αＵ１～αＵ１０の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、

特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６３３５】

上記特徴αＵ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６３３６】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６３３７】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６３３８】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、情報を記憶する特定記憶手段に対する処理を好適に実行することが可能な構成が求められており、この点について未だ改良の余地がある。

【６３３９】

＜特徴αＶ群＞

特徴αＶ１．複数バイトにより構成され、数値情報を記憶する数値情報記憶領域（アドレスカウンタ５１５）と、

前記数値情報記憶領域における第１バイト（下位バイト５１５ｂ）に対して更新用数値の更新を行うことで前記数値情報の更新を行う第１更新手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ９０１の処理を実行する機能）と、

前記第１バイトに対して前記更新用数値の更新が行われることで当該第１バイトの数値情報が最小値及び最大値の一方から他方に変更された場合に、所定第１情報記憶領域（キャリーフラグ５１６）に所定第１情報を設定する情報設定手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ９０３の処理を実行する機能）と、

前記第１バイトに対して前記更新用数値の更新が行われた場合において前記所定第１情

報記憶領域に前記所定第１情報が設定された場合に前記数値情報記憶領域における第２バイト（上位バイト５１５ａ）の更新を行う第２更新手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ９０５の処理を実行する機能）と、
前記所定第１情報記憶領域に前記所定第１情報が設定されたことに基づいて特別処理を実行する特別処理実行手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＧ８０５～ステップＳＧ８１０、ステップＳＦ１０５～ステップＳＦ１０７及びステップＳＦ２０６～ステップＳＦ２０８の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。
【６３４０】
第１バイトに対して更新用数値の更新が行われることで第１バイトの数値情報が最小値及び最大値の一方から他方に変更される場合には第２バイトを更新する必要がある。この場合、第１バイトの数値情報が最小値及び最大値の一方から他方に変更される場合には所定第１情報が設定されるため、所定第１情報が設定されているか否かを特定することで第２バイトを更新する必要があるか否かを特定することが可能となる。この場合に、特徴αＶ１によれば所定第１情報が設定されているか否かを特定することで、特別処理を実行する必要があるか否かを特定することが可能となる。これにより、第２バイトの数値情報を更新する契機を特定するための構成を利用して、特別処理を実行する契機を特定することが可能となる。よって、特別処理を実行する契機を特定するための処理負荷を軽減することが可能となる。
【６３４１】
特徴αＶ２．前記第１バイトに対して前記更新用数値の更新が行われた場合において前記所定第１情報記憶領域に前記所定第１情報が設定されることで前記第２バイトの更新が行われた場合における当該第２バイトの数値情報が相違する第１状況（特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２を対象とする状況）と第２状況（非特定制御用のワークエリア２２３及び非特定制御用のスタックエリア２２４を対象とする状況）とが存在しており、
前記特別処理実行手段は、前記第１状況及び前記第２状況のいずれであっても前記所定第１情報記憶領域に前記所定第１情報が設定されたことに基づき前記特別処理を実行することを特徴とする特徴αＶ１に記載の遊技機。
【６３４２】
特徴αＶ２によれば、更新後における第２バイトの数値情報が異なる第１状況及び第２状況のいずれであっても所定第１情報が設定されたことに基づき特別処理が実行されるため、第１状況及び第２状況のそれぞれにおいて特別処理を実行するための処理負荷を軽減することが可能となる。
【６３４３】
特徴αＶ３．アドレスが対応付けられた記憶領域を複数有し、情報を記憶する特定記憶手段（第７２の実施形態における主側ＲＡＭ６５）を備え、
前記数値情報記憶領域に記憶される前記数値情報は対象アドレスの情報であり、
本遊技機は、前記対象アドレスに対応する前記記憶領域を特定処理の実行対象とする特定処理実行手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ８０２、ステップＳＧ１０２及びステップＳＧ２０２の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＶ１又はαＶ２に記載の遊技機。
【６３４４】
特徴αＶ３によれば、対象アドレスの更新に付随して特別処理を実行する場合において、当該特別処理を実行するための処理負荷を軽減することが可能となる。
【６３４５】
特徴αＶ４．前記特別処理実行手段は、前記所定第１情報記憶領域に前記所定第１情報が設定されている場合に前記特別処理として前記特定処理の実行を終了させることを特徴とする特徴αＶ３に記載の遊技機。
【６３４６】

特徴αＶ４によれば、所定第１情報が設定されているか否かを特定することで、実行対象とすべき記憶領域の全てに対して特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。これにより、第２バイトを更新する必要があるか否かを特定するための構成を利用して、実行対象とすべき記憶領域の全てに対して特定処理の実行が完了したか否かを特定することが可能となる。

【６３４７】

特徴αＶ５．前記特定処理は複数種類存在していることを特徴とする特徴αＶ４に記載の遊技機。

【６３４８】

特徴αＶ５によれば、複数種類の特定処理のいずれが実行されている状況であっても所定第１情報が設定されているか否かを特定することで終了契機を特定することが可能となる。

【６３４９】

なお、特徴αＶ１～αＶ５の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６３５０】

上記特徴αＶ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６３５１】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６３５２】
　また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。
【６３５３】
　ここで、上記例示等のような遊技機においては、制御手段における処理の実行を好適に行うことが可能な構成が求められており、この点について未だ改良の余地がある。
【６３５４】
　＜特徴αＷ群＞
　特徴αＷ１．所定動作手段（可動体５１２）と、
　当該所定動作手段の動作を制御する所定動作制御手段（音光側ＣＰＵ３５３）と、
　動作電力の供給が開始された場合に前記所定動作手段に初期動作を行わせる初期動作制御手段（第７２の実施形態における音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＧ３１１の処理を実行する機能、第７３の実施形態における音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＧ４１２の処理を実行する機能）と、
　前記初期動作の開始タイミングを遅延させる遅延手段（第７２の実施形態における音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＧ３１０の処理を実行する機能、第７３の実施形態における音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＧ４１１の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。
【６３５５】
　特徴αＷ１によれば、動作電力の供給が開始された場合に所定動作手段にて初期動作が行われるため、動作電力の供給の開始に際して所定動作手段が正常に動作するか否かを確認することが可能となる。この場合に、所定動作手段における初期動作の開始タイミングが遅延されることにより、動作電力の供給が開始された直後において上記初期動作の確認を行う必要はなく、余裕を持って上記初期動作の確認を行うことが可能となる。
【６３５６】
　特徴αＷ２．特定動作手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）と、
　当該特定動作手段の動作を制御する特定動作制御手段（主側ＣＰＵ６３）と、
　動作電力の供給が開始された場合に前記特定動作手段に初期動作を行わせる手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ５２４の処理を実行する機能及び第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、
を備え、
　前記特定動作手段及び前記所定動作手段のうち一方は、遊技機の背面側を露出させることで視認可能となるように設けられており、
　前記特定動作手段及び前記所定動作手段のうち他方は、遊技機の前面側から視認可能となるように設けられていることを特徴とする特徴αＷ１に記載の遊技機。
【６３５７】
　特徴αＷ２によれば、動作電力の供給が開始された場合に特定動作手段にて初期動作が行われるため、動作電力の供給の開始に際して特定動作手段が正常に動作するか否かを確認することが可能となる。また、特定動作手段及び所定動作手段のうち一方は遊技機の背面側を露出させることで視認可能となるのに対して他方は遊技機の前面側から視認可能となるため、特定動作手段及び所定動作手段のそれぞれの初期動作を確認するためには遊技機の背面側及び前面側のそれぞれを視認する必要がある。この場合に、上記特徴αＷ１の構成を備え、所定動作手段における初期動作の開始タイミングが遅延される。これにより、特定動作手段における初期動作を確認した後に所定動作手段における初期動作を確認することが可能となり、それぞれの初期動作の確認を好適に行うことが可能となる。

【６３５８】
特徴αＷ３．遊技機の背面側を露出させることで視認可能となるように設けられた特定動作手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）と、
当該特定動作手段の動作を制御する特定動作制御手段（主側ＣＰＵ６３）と、
動作電力の供給が開始された場合に前記特定動作手段に初期動作を行わせる手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ５２４の処理を実行する機能及び第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、
を備え、
前記所定動作手段は遊技機の前面側から視認可能となるように設けられていることを特徴とする特徴αＷ１に記載の遊技機。
【６３５９】
特徴αＷ３によれば、動作電力の供給が開始された場合に特定動作手段にて初期動作が行われるため、動作電力の供給の開始に際して特定動作手段が正常に動作するか否かを確認することが可能となる。また、特定動作手段は遊技機の背面側を露出させることで視認可能となるのに対して所定動作手段は遊技機の前面側から視認可能となるため、特定動作手段及び所定動作手段のそれぞれの初期動作を確認するためには遊技機の背面側及び前面側のそれぞれを視認する必要がある。この場合に、上記特徴αＷ１の構成を備え、所定動作手段における初期動作の開始タイミングが遅延される。これにより、遊技機の背面側を露出させて特定動作手段における初期動作を確認した後に、遊技機の前面側が視認可能となる通常の状態に復帰させて所定動作手段における初期動作を確認することが可能となり、それぞれの初期動作の確認を好適に行うことが可能となる。
【６３６０】
特徴αＷ４．前記遅延手段は、前記初期動作の開始タイミングを遅延させるための待機期間を設定することを特徴とする特徴αＷ１乃至αＷ３のいずれか１に記載の遊技機。
【６３６１】
特徴αＷ４によれば、待機期間を計測することで所定動作手段の初期動作が遅延されるため、当該所定動作手段の初期動作を遅延させるための処理構成を簡素化することが可能となる。
【６３６２】
特徴αＷ５．遊技の進行を制御する進行制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、
前記所定動作制御手段は、前記進行制御手段から送信される指示情報に基づいて前記所定動作手段の動作を制御するものであり、
前記遅延手段は、動作電力の供給が開始された後において前記進行制御手段から開始基準情報（第７２の実施形態では通常復帰コマンド、クリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンド、第７３の実施形態ではクリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンド）を受信した場合に前記待機期間を設定することを特徴とする特徴αＷ４に記載の遊技機。
【６３６３】
特徴αＷ５によれば、進行制御手段から送信された開始基準情報を受信したタイミングを基準として待機期間の計測が行われる。これにより、進行制御手段における制御の進行状況を基準として所定動作手段の初期動作を遅延させることが可能となる。
【６３６４】
特徴αＷ６．前記進行制御手段は、動作電力の供給が開始された場合に動作電力の供給開始時の処理（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）を実行するものであって、前記動作電力の供給開始時の処理の実行内容に応じて異なる種類の前記開始基準情報を送信するものであり、
前記遅延手段は、いずれの種類の前記開始基準情報を受信した場合であっても前記待機期間を設定することを特徴とする特徴αＷ５に記載の遊技機。
【６３６５】
特徴αＷ６によれば、進行制御手段は動作電力の供給開始時の処理の実行内容に応じて

異なる種類の開始基準情報を送信するため、所定動作制御手段は進行制御手段における動作電力の供給開始時の処理の実行内容に応じた制御を実行することが可能となる。この場合に、いずれの種類の開始基準情報が送信された場合であっても所定動作手段の初期動作を遅延させるための待機期間が設定されるため、進行制御手段における動作電力の供給開始時の処理の実行内容に関係なく所定動作手段の初期動作を遅延させることが可能となる。

【６３６６】

特徴αＷ７．前記進行制御手段は、動作電力の供給が開始された場合に動作電力の供給開始時の処理（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）を実行するものであって、前記動作電力の供給開始時の処理の実行内容に応じて異なる種類の前記開始基準情報を送信するものであり、

前記遅延手段は、所定の種類の前記開始基準情報（クリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンド）を受信した場合に前記待機期間を設定し、前記所定の種類以外の前記開始基準情報（通常復帰コマンド）を受信した場合には前記待機期間を設定しないことを特徴とする特徴αＷ５に記載の遊技機。

【６３６７】

特徴αＷ７によれば、進行制御手段は動作電力の供給開始時の処理の実行内容に応じて異なる種類の開始基準情報を送信するため、所定動作制御手段は進行制御手段における動作電力の供給開始時の処理の実行内容に応じた制御を実行することが可能となる。この場合に、所定の種類の開始基準情報が送信された場合に待機期間が設定され、所定の種類以外の開始基準情報が送信された場合には待機期間が設定されない。これにより、進行制御手段における動作電力の供給開始時の処理の実行内容に応じて所定動作手段の初期動作を遅延させる状況と遅延させない状況とを生じさせることが可能となる。

【６３６８】

特徴αＷ８．前記進行制御手段は、動作電力の供給が開始された場合に動作電力の供給開始時の処理（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）を実行するものであって、当該動作電力の供給開始時の処理が終了する場合に前記開始基準情報を送信するものであることを特徴とする特徴αＷ５乃至αＷ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６３６９】

特徴αＷ８によれば、進行制御手段における動作電力の供給開始時の処理が終了したタイミングを基準として所定動作手段の初期動作を遅延させることが可能となる。

【６３７０】

特徴αＷ９．前記所定動作手段は遊技機の前面側から視認可能となるように設けられており、

前記遅延手段は、動作電力の供給が開始された場合において遊技機の背面側を露出させる操作が行われている場合に前記初期動作の開始タイミングを遅延させ、動作電力の供給が開始された場合において遊技機の背面側を露出させる操作が行われていない場合には前記初期動作の開始タイミングを遅延させないことを特徴とする特徴αＷ１乃至αＷ８のいずれか１に記載の遊技機。

【６３７１】

特徴αＷ９によれば、動作電力の供給が開始された場合において遊技機の背面側を露出させる操作が行われている場合には所定動作手段の初期動作の開始タイミングが遅延されることにより、このような状況においては遊技機の前面側が視認可能となる通常の状態に復帰させた後に所定動作手段における初期動作を確認することが可能となる。一方、動作電力の供給が開始された場合において遊技機の背面側を露出させる操作が行われていない場合には所定動作手段の初期動作の開始タイミングが遅延されないことにより、このような状況においては動作電力の供給が開始された直後に所定動作手段における初期動作を確認することが可能となる。

【６３７２】

なお、特徴αＷ１～αＷ９の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６３７３】

上記特徴αＷ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６３７４】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６３７５】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６３７６】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、所定動作手段が正常に動作するか否かの確認を好適に行う必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６３７７】

＜特徴αＸ群＞

特徴αＸ１．遊技の進行を制御する進行制御手段（主側ＣＰＵ６３）と、
所定動作手段（可動体５１２）と、
前記進行制御手段から送信される指示情報に基づいて前記所定動作手段の動作を制御する所定動作制御手段（音光側ＣＰＵ３５３）と、
を備え、
前記進行制御手段は、
動作電力の供給が開始された場合に動作電力の供給開始時の処理（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３）を実行する手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ５０１～ステップＳＦ５２３の処理を実行する機能）と、
前記動作電力の供給開始時の処理が実行された場合に開始基準情報（第７２の実施形態では通常復帰コマンド、クリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンド、第７３の実施形態では通常復帰コマンド、クリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンド）を送信する開始送信手段（第７２の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＦ５１４、ステップＳＦ５１９、ステップＳＦ６０７及びステップＳＦ７１４の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記所定動作制御手段は、前記開始基準情報を受信した後に前記所定動作手段に所定動作（初期動作）を行わせることを特徴とする遊技機。
【６３７８】
特徴αＸ１によれば、進行制御手段において動作電力の供給開始時の処理が実行された場合に送信された開始基準情報を所定動作制御手段が受信した後に所定動作手段にて所定動作が行われる。これにより、進行制御手段において動作電力の供給開始時の処理が実行された後に所定動作手段にて所定動作が行われるようにすることが可能となる。
【６３７９】
特徴αＸ２．前記開始送信手段は、前記動作電力の供給開始時の処理の実行内容に応じて異なる種類の前記開始基準情報を送信するものであり、
前記所定動作制御手段は、いずれの種類の前記開始基準情報を受信した場合であっても前記所定動作手段に前記所定動作を行わせることを特徴とする特徴αＸ１に記載の遊技機。
【６３８０】
特徴αＸ２によれば、いずれの種類の開始基準情報が送信された場合であっても所定動作手段にて所定動作が行われるため、進行制御手段における動作電力の供給開始時の処理の実行内容に関係なく所定動作手段にて所定動作を行わせることが可能となる。
【６３８１】
特徴αＸ３．前記開始送信手段は、前記動作電力の供給開始時の処理の実行内容に応じて異なる種類の前記開始基準情報を送信するものであり、
前記所定動作制御手段は、所定の種類の前記開始基準情報（クリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド及び更新時の復帰コマンド）を受信した場合と前記所定の種類以外の前記開始基準情報（通常復帰コマンド）を受信した場合とで前記所定動作手段の制御内容を相違させることを特徴とする特徴αＸ１又はαＸ２に記載の遊技機。
【６３８２】
特徴αＸ３によれば、進行制御手段は動作電力の供給開始時の処理の実行内容に応じて異なる種類の開始基準情報を送信するため、所定動作制御手段は進行制御手段における動作電力の供給開始時の処理の実行内容に応じた制御を実行することが可能となる。この場合に、所定の種類の開始基準情報が送信された場合と所定の種類以外の開始基準情報が送信された場合とで所定動作手段の制御内容が相違している。これにより、進行制御手段における動作電力の供給開始時の処理の実行内容に応じて所定動作手段の所定動作の実行態様を相違させることが可能となる。
【６３８３】

特徴αＸ４．前記開始送信手段は、前記動作電力の供給開始時の処理が終了する場合に前記開始基準情報を送信するものであることを特徴とする特徴αＸ１乃至αＸ３のいずれか１に記載の遊技機。

【６３８４】

特徴αＸ４によれば、進行制御手段における動作電力の供給開始時の処理が終了したタイミングを基準として所定動作手段にて所定動作を行わせることが可能となる。

【６３８５】

なお、特徴αＸ１～αＸ４の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６３８６】

上記特徴αＸ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６３８７】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６３８８】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停

止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６３８９】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、所定動作手段にて所定動作を行わせるための制御を好適に行う必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６３９０】

＜特徴αＹ群＞

特徴αＹ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定された設定値に対応する設定対応情報を記憶する設定対応記憶領域（設定参照用エリア３４１）を有する特定情報記憶手段（主側ＲＡＭ６５）と、

前記設定対応情報に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（第７４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＧ７０１～ステップＳＧ７１２の処理を実行する機能）と、

前記所定の設定関連処理が実行された場合に、前記特定情報記憶手段における前記設定対応記憶領域とは異なる所定の記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１及び特定制御用のスタックエリア２２２）を初期化するための初期化処理を実行する初期化実行手段（第７４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＧ８０１～ステップＳＧ８０７の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【６３９１】

特徴αＹ１によれば、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。この場合に、所定の設定関連処理が実行された場合には特定情報記憶手段における所定の記憶領域が初期化されることにより、所定の設定関連処理が実行された場合には所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。また、このように所定の記憶領域が初期化される場合であっても設定対応記憶領域は初期化の対象から除外されるため、設定値に変動を与えないようにしながら、所定の設定関連処理が実行された場合には所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。

【６３９２】

特徴αＹ２．前記所定の設定関連処理が実行された場合に特定関連報知が実行されるようにするための特定関連報知処理を実行する特定関連報知実行手段（第７４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＧ８０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αＹ１に記載の遊技機。

【６３９３】

特徴αＹ２によれば、所定の設定関連処理が実行された場合には所定の記憶領域が初期化される構成において所定の設定関連処理が実行された場合には特定関連報知が実行されるため、遊技ホールの管理者は特定関連報知が実行されていることを確認することで所定の設定関連処理が実行されたこと及び所定の記憶領域が初期化されたことを把握することが可能となる。

【６３９４】

特徴αＹ３．前記特定関連報知は、遊技機前面体（遊技機本体１２）の開放操作を要することなく当該特定関連報知を確認することが可能なように実行されることを特徴とする特徴αＹ２に記載の遊技機。

【６３９５】

特徴αＹ３によれば、遊技機前面体の開放操作を要することなく確認することが可能なように特定関連報知が実行されるため、遊技ホールの管理者は所定の設定関連処理が実行されたこと及び所定の記憶領域が初期化されたことを把握し易くなる。

【６３９６】
特徴αＹ４．前記特定関連報知は、前記所定の設定関連処理が実行された後に特定関連期間が経過するまで実行されることを特徴とする特徴αＹ２又はαＹ３に記載の遊技機。
【６３９７】
特徴αＹ４によれば、所定の設定関連処理が実行された後に特定関連期間が経過するまで特定関連報知が実行されるため、特定関連報知が実行されていることを遊技ホールの管理者が把握し易くなる。
【６３９８】
特徴αＹ５．前記特定関連報知が実行されている状況であっても遊技を進行させるための処理が実行されることを特徴とする特徴αＹ２乃至αＹ４のいずれか１に記載の遊技機。
【６３９９】
特徴αＹ５によれば、特定関連報知が実行されている状況であっても遊技を進行させるための処理が実行されるため、遊技の進行を阻害しないようにしながら特定関連報知を実行することが可能となる。
【６４００】
特徴αＹ６．前記初期化実行手段は、前記所定の設定関連処理が実行された場合に、前記初期化処理及び前記特定関連報知処理の両方を含む所定集約処理（第７４の実施形態におけるＲＡＭクリア処理）を呼び出し、前記所定の設定関連処理が実行されていない場合であっても初期化契機（設定キー挿入部６８ａがＯＦＦ状態であってリセットボタン６８ｃが押圧操作された状態で主側ＣＰＵ６３への動作電力の供給が開始されること）が発生したことに基づいて前記所定集約処理を呼び出すことを特徴とする特徴αＹ２乃至αＹ５のいずれか１に記載の遊技機。
【６４０１】
特徴αＹ６によれば、所定の設定関連処理が実行されていない場合であっても初期化契機が発生したことに基づいて所定の記憶領域の初期化処理及び特定関連報知処理が実行される。この場合に、設定関連処理が実行された場合及び初期化契機が発生した場合のいずれであってもこれら初期化処理及び特定関連報知処理の両方を含む所定集約処理が呼び出されることで、初期化処理及び特定関連報知処理の両方が実行される。これにより、処理構成の簡素化を図りながら上記各状況において初期化処理及び特定関連報知処理の両方を実行することが可能となる。
【６４０２】
特徴αＹ７．前記設定関連実行手段は、開閉体（遊技機本体１２）が開放状態となっている状況において発生させる特定事象（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が発生していることに基づいて前記所定の設定関連処理を実行するものであり、
本遊技機は、前記開閉体が開放状態から閉鎖状態となったことに基づいて閉鎖対応報知が実行されるようにする閉鎖対応報知実行手段（第７４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＧ９０４の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴Ｙ１乃至Ｙ６のいずれか１に記載の遊技機。
【６４０３】
特徴αＹ７によれば、開閉体が開放状態となっている状況において発生させる特定事象が発生していることに基づいて所定の設定関連処理が実行されるため、所定の設定関連処理を実行させるためには開閉体を開放状態とする必要が生じ、所定の設定関連処理を不正に実行させようとしてもそれを行いづらくさせることが可能となる。また、開閉体が開放状態から閉鎖状態となったことに基づいて閉鎖対応報知が実行されるため、所定の設定関連処理を不正に実行させるべく開閉体を開放状態とした後に実際には当該所定の設定関連処理を不正に実行させることなく開閉体が閉鎖状態とされた場合であっても、当該閉鎖状態とされた後において閉鎖対応報知が実行される。よって、当該不正行為の有無を遊技ホールの管理者が把握することが可能となる。
【６４０４】

特徴αＹ８．前記設定関連実行手段は、開閉体（遊技機本体１２）が開放状態となっている状況において発生させる特定事象（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が発生していることに基づいて前記所定の設定関連処理を実行するものであり、
本遊技機は、
前記所定の設定関連処理が実行された場合に特定関連報知が実行されるようにするための特定関連報知処理を実行する特定関連報知実行手段（第７４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＧ８０８の処理を実行する機能）と、
前記開閉体に対して開放操作及び閉鎖操作のうち一方である所定対象操作が行われたことに基づいて所定対象報知が実行されるようにするための所定対象報知処理を実行する所定対象報知実行手段（第７４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＧ９０４の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記特定関連報知の方が前記所定対象報知よりも実行の優先度が高く設定されていることを特徴とする特徴αＹ１乃至αＹ７のいずれか１に記載の遊技機。
【６４０５】
特徴αＹ８によれば、所定の設定関連処理が実行された場合には所定の記憶領域が初期化される構成において所定の設定関連処理が実行された場合には特定関連報知が実行されるため、遊技ホールの管理者は特定関連報知が実行されていることを確認することで所定の設定関連処理が実行されたこと及び所定の記憶領域が初期化されたことを把握することが可能となる。また、開閉体が開放状態となっている状況において発生させる特定事象が発生していることに基づいて所定の設定関連処理が実行されるため、所定の設定関連処理を実行させるためには開閉体を開放状態とする必要が生じ、所定の設定関連処理を不正に実行させようとしてもそれを行いづらくさせることが可能となる。また、開閉体に対して所定対象操作が行われたことに基づいて所定対象報知が実行されるため、所定の設定関連処理を不正に実行させるべく開閉体を開放状態とされた場合であってもそれに対して所定対象報知が実行される。よって、当該不正行為の有無を遊技ホールの管理者が把握することが可能となる。また、特定関連報知の方が所定対象報知よりも実行の優先度が高く設定されているため、開閉体に対して所定対象操作が行われたか否かを報知することを可能としながら、所定の設定関連処理が行われていることを直接的に報知することが可能となる。
【６４０６】
特徴αＹ９．前記所定対象報知は、前記開閉体に対して前記所定対象操作が行われた後に所定対象関連期間が経過するまで実行される構成であり、
前記所定対象報知実行手段は、前記所定対象報知よりも前記特定関連報知が優先して実行された場合であって前記開閉体に対して前記所定対象操作が行われた後に前記所定対象関連期間が経過する前に前記特定関連報知が終了した場合、当該所定対象関連期間の残り期間に亘って前記所定対象報知が実行されるようにすることを特徴とする特徴αＹ８に記載の遊技機。
【６４０７】
特徴αＹ９によれば、特定関連報知の方が所定対象報知よりも実行の優先度を高くした構成において、特定関連報知が終了した後に所定対象報知が実行され得るようにすることが可能となる。また、このように特定関連報知が終了した後に所定対象報知が実行される場合であってもその実行期間は、開閉体に対して所定対象操作が行われた後に特定関連報知が終了するまでに要した期間を所定対象関連期間から減算した残りの期間となる。これにより、特定関連報知の終了後に所定対象報知が実行される場合においてそれら報知の合計の実行期間が過剰に長くなってしまわないようにすることが可能となる。
【６４０８】
特徴αＹ１０．前記特定関連報知は、前記所定の設定関連処理が実行された後に特定関連期間が経過するまで実行される構成であり、
前記所定対象関連期間は前記特定関連期間よりも長い期間に設定されていることを特徴

とする特徴αＹ９に記載の遊技機。

【６４０９】

特徴αＹ１０によれば、所定対象報知よりも特定関連報知が優先して実行される場合であっても当該特定関連報知の終了後には所定対象報知の実行期間を担保することが可能となる。

【６４１０】

特徴αＹ１１．前記所定の設定関連処理は、前記使用対象となる設定値を変更する処理であることを特徴とする特徴αＹ１乃至αＹ１０のいずれか１に記載の遊技機。

【６４１１】

特徴αＹ１１によれば、使用対象となる設定値を変更する処理が実行された場合には特定情報記憶手段における所定の記憶領域が初期化されることにより、使用対象となる設定値を変更する処理が実行された場合には所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。また、このように所定の記憶領域が初期化される場合であっても設定対応記憶領域は初期化の対象から除外されるため、設定値に変動を与えないようにしながら、使用対象となる設定値を変更する処理が実行された場合には所定の記憶領域が初期化された状況で遊技を開始させることが可能となる。

【６４１２】

なお、特徴αＹ１～αＹ１１の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６４１３】

上記特徴αＹ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６４１４】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球し

た場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６４１５】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６４１６】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の有利度を決定付ける設定値に関する構成を好適なものとする必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６４１７】

＜特徴αＺ群＞

特徴αＺ１．第１報知契機（設定確認用処理が実行されること）が発生したことに基づいて第１報知が実行されるようにする第１報知実行手段（第７４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＧ８０８の処理を実行する機能及び音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＨ１０７の処理を実行する機能）と、

第２報知契機（遊技機本体１２が開放状態から閉鎖状態となること）が発生したことに基づいて第２報知期間に亘って第２報知が実行されるようにする第２報知実行手段（第７４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＧ９０４の処理を実行する機能及び音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＨ１１４の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記第１報知の方が前記第２報知よりも実行の優先度が高く設定されており、

前記第２報知実行手段は、前記第２報知よりも前記第１報知が優先して実行された場合であって前記第２報知契機が発生した後に前記第２報知期間が経過する前に前記第１報知が終了した場合、当該第２報知期間の残り期間に亘って前記第２報知が実行されるようにすることを特徴とする遊技機。

【６４１８】

特徴αＺ１によれば、第１報知の方が第２報知よりも実行の優先度が高い構成において、第１報知が終了した後に第２報知が実行され得るようにすることが可能となる。また、このように第１報知が終了した後に第２報知が実行される場合であってもその実行期間は、第２報知契機が発生した後に第１報知が終了するまでに要した期間を第２報知期間から減算した残りの期間となる。これにより、第１報知の終了後に第２報知が実行される場合においてそれら報知の合計の実行期間が過剰に長くなってしまわないようにすることが可能となる。

【６４１９】

特徴αＺ２．前記第１報知は前記第１報知契機が発生した後に第１報知期間が経過するまで実行される構成であり、

前記第２報知期間は前記第１報知期間よりも長い期間に設定されていることを特徴とする特徴αＺ１に記載の遊技機。

【６４２０】

特徴αＺ２によれば、第２報知よりも第１報知が優先して実行される場合であっても当該第１報知の終了後には第２報知の実行期間を担保することが可能となる。

【６４２１】

特徴αＺ３．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定された設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３における

ステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、
開閉体（遊技機本体１２）が開放状態となっている状況において発生させる特定事象（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が発生していることに基づいて、前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（第７４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＧ７０１～ステップＳＧ７１２の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記所定の設定関連処理が実行された場合に前記第１報知契機が発生し、
前記開閉体に対して開放操作及び閉鎖操作のうち一方である所定対象操作が行われたことに基づいて前記第２報知契機が発生することを特徴とする特徴αＺ１又はαＺ２に記載の遊技機。

【６４２２】
特徴αＺ３によれば、所定の設定関連処理が実行された場合には第１報知が実行されるため、遊技ホールの管理者は第１報知が実行されていることを確認することで所定の設定関連処理が実行されたことを把握することが可能となる。また、開閉体が開放状態となっている状況において発生させる特定事象が発生していることに基づいて所定の設定関連処理が実行されるため、所定の設定関連処理を実行させるためには開閉体を開放状態とする必要が生じ、所定の設定関連処理を不正に実行させようとしてもそれを行いづらくさせることが可能となる。また、開閉体に対して所定対象操作が行われたことに基づいて第２報知が実行されるため、所定の設定関連処理を不正に実行させるべく開閉体を開放状態とされた場合であってもそれに対して第２報知が実行されるため、当該不正行為の有無を遊技ホールの管理者が把握することが可能となる。また、第１報知の方が第２報知よりも実行の優先度が高く設定されているため、開閉体に対して所定対象操作が行われたか否かを報知することを可能としながら、所定の設定関連処理が行われていることを直接的に報知することが可能となる。

【６４２３】
特徴αＺ４．前記設定関連実行手段は、前記所定の設定関連処理として、現状の設定値が報知されるようにするための処理を実行することを特徴とする特徴αＺ３に記載の遊技機。

【６４２４】
特徴αＺ４によれば、現状の設定値を確認するための処理が実行された場合には第１報知が実行されることで、設定値の確認が行われたか否かを遊技ホールの管理者が確認することが可能となる。

【６４２５】
なお、特徴αＺ１～αＺ４の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ

５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６４２６】

上記特徴αＺ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６４２７】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６４２８】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６４２９】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、報知を好適に実行する必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６４３０】

＜特徴αａ群＞

特徴αａ１．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定された設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

開閉体（遊技機本体１２）が開放状態となっている状況において発生させる特定事象（設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が発生していることに基づいて、現状の設定値が報知されるようにするための設定確認用処理を実行する手段（主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、

前記設定確認用処理が実行された場合に第１報知が実行されるようにする第１報知実行手段（第７４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＧ８０８の処理を実行する機能及び音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＨ１０７の処理を実行する機能）と、

前記開閉体に対して開放操作及び閉鎖操作のうち一方である所定対象操作が行われた場合に第２報知が実行されるようにする第２報知実行手段（第７４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＧ９０４の処理を実行する機能及び音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＨ１１４の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記第１報知の方が前記第２報知よりも実行の優先度が高く設定されていることを特徴とする遊技機。

【６４３１】
特徴αａ１によれば、設定確認用処理が実行された場合には第１報知が実行されるため、遊技ホールの管理者は第１報知が実行されていることを確認することで設定確認用処理が実行されたことを把握することが可能となる。また、開閉体が開放状態となっている状況において発生させる特定事象が発生していることに基づいて所定の設定確認用処理が実行されるため、設定確認用処理を実行させるためには開閉体を開放状態とする必要が生じ、設定確認用処理を不正に実行させようとしてもそれを行いづらくさせることが可能となる。また、開閉体に対して所定対象操作が行われたことに基づいて第２報知が実行されるため、設定確認用処理を不正に実行させるべく開閉体を開放状態とされた場合であってもそれに対して第２報知が実行される。よって、当該不正行為の有無を遊技ホールの管理者が把握することが可能となる。また、第１報知の方が第２報知よりも実行の優先度が高く設定されているため、開閉体に対して所定対象操作が行われたか否かを報知することを可能としながら、設定確認用処理が行われていることを直接的に報知することが可能となる。

【６４３２】
特徴αａ２．前記第２報知は、前記開閉体に対して前記所定対象操作が行われた後に所定対象関連期間が経過するまで実行される構成であり、
前記第２報知実行手段は、前記第２報知よりも前記第１報知が優先して実行された場合であって前記開閉体に対して前記所定対象操作が行われた後に前記所定対象関連期間が経過する前に前記第１報知が終了した場合、当該所定対象関連期間の残り期間に亘って前記第２報知が実行されるようにすることを特徴とする特徴αａ１に記載の遊技機。

【６４３３】
特徴αａ２によれば、第１報知の方が第２報知よりも実行の優先度が高い構成において、第１報知が終了した後に第２報知が実行され得るようにすることが可能となる。また、このように第１報知が終了した後に第２報知が実行される場合であってもその実行期間は、開閉体に対して所定対象操作が行われた後に第１報知が終了するまでに要した期間を所定対象関連期間から減算した残りの期間となる。これにより、第１報知の終了後に第２報知が実行される場合においてそれら報知の合計の実行期間が過剰に長くなってしまわないようにすることが可能となる。

【６４３４】
特徴αａ３．前記第１報知は、前記設定確認用処理が実行された後に特定関連期間が経過するまで実行される構成であり、
前記所定対象関連期間は前記特定関連期間よりも長い期間に設定されていることを特徴とする特徴αａ２に記載の遊技機。

【６４３５】
特徴αａ３によれば、第２報知よりも第１報知が優先して実行される場合であっても当該第１報知の終了後には第２報知の実行期間を担保することが可能となる。

【６４３６】
なお、特徴αａ１～αａ３の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ

１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６４３７】

＜特徴αｂ群＞

特徴αｂ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２３１）に記憶させる履歴記憶実行手段（第７５の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＨ４０４の処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報（第７５の実施形態における第６７パラメータ）を導出する情報導出手段（第７５の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＨ５０８の処理を実行する機能）と、

遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定された設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する利益付与用処理実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

使用対象として設定されている前記設定値を遊技者に把握又は予測させることを可能とする示唆演出が実行されるようにする示唆演出制御手段（第７５の実施形態及び第７６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のエンディング用処理を実行する機能並びに音声発光制御装置８１のエンディング演出制御処理を実行する機能）と、

前記情報導出手段により導出された前記態様情報に応じて、前記示唆演出の実行の有無又は前記示唆演出の実行態様を相違させる態様相違手段（第７５の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＨ８０４～ステップＳＨ８０６の処理を実行する機能、第７６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＩ１０５～ステップＳＩ１０７の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【６４３８】

特徴αｂ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出されることにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。

【６４３９】

上記構成において使用対象として設定されている設定値を遊技者に把握又は予測させることを可能とする示唆演出が実行されることがある。これにより、遊技者は当該示唆演出が実行されることを期待することとなるとともに、当該示唆演出を確認することで使用対象として設定されている設定値を把握又は予測することが可能となる。

【６４４０】
この場合に、履歴情報を利用して導出された態様情報に応じて示唆演出の実行の有無又は示唆演出の実行態様が相違することとなる。これにより、所定の期間における遊技の結果に対応する態様で示唆演出を実行することが可能となり、使用対象として設定されている設定値の示唆を好適に行うことが可能となる。よって、設定値に関する構成を好適なものとすることが可能となる。
【６４４１】
特徴αｂ２．前記示唆演出として所定示唆演出（第４示唆演出及び第５示唆演出）が存在しており、
当該所定示唆演出は、使用対象として設定されている前記設定値が相対的に高い設定値である場合に演出の実行対象として選択される又は使用対象として設定されている前記設定値が相対的に高い設定値である場合に演出の実行対象として選択される確率が高くなる構成であり、
前記態様相違手段は、前記情報導出手段により導出された前記態様情報が予め定められた正常範囲の情報ではないことに基づいて、少なくとも前記所定示唆演出が実行されないようにすることを特徴とする特徴αｂ１に記載の遊技機。
【６４４２】
特徴αｂ２によれば、所定の期間における遊技の結果を示す態様情報が正常範囲の情報ではない場合には所定示唆演出が実行されない。これにより、使用対象として設定されている設定値が相対的に高い設定値であることを示す又は使用対象として設定されている設定値が相対的に高い設定値である確率が高いことを示す所定示唆演出が、所定の期間における遊技の結果が正常ではない状況であるにも関わらず実行されてしまないようにすることが可能となる。
【６４４３】
特徴αｂ３．前記示唆演出として特定示唆演出（第２示唆演出及び第３示唆演出）が存在しており、
当該特定示唆演出は、使用対象として設定されている前記設定値が相対的に高い設定値であるか否かを前記所定示唆演出が実行された場合よりも遊技者が予測しづらい演出であり、
前記情報導出手段により導出された前記態様情報が予め定められた正常範囲の情報ではなかったとしても前記特定示唆演出が実行され得ることを特徴とする特徴αｂ２に記載の遊技機。
【６４４４】
特徴αｂ３によれば、所定の期間における遊技の結果を示す態様情報が正常範囲の情報ではない場合には所定示唆演出が実行されない構成において、所定の期間における遊技の結果を示す態様情報が正常範囲の情報ではない場合であっても特定示唆演出は実行される。これにより、所定の期間における遊技の結果が正常ではない状況であっても、遊技者が設定値を予測する余地を残すことが可能となる。
【６４４５】
特徴αｂ４．前記示唆演出として特定示唆演出（第２示唆演出及び第３示唆演出）が存在しており、
当該特定示唆演出は、使用対象として設定されている前記設定値が複数の設定値を含む第１グループ（奇数の設定値）及び複数の設定値を含む第２グループ（偶数の設定値）のうち一方である場合に演出の実行対象として選択される、又は使用対象として設定されている前記設定値が前記第１グループ及び前記第２グループのうち一方である場合に他方である場合よりも演出の実行対象として選択される確率が高くなる構成であり、
前記第１グループには前記第２グループに含まれる前記設定値よりも有利な設定値及び不利な設定値の両方が含まれており、
前記第２グループには前記第１グループに含まれる前記設定値よりも有利な設定値及び不利な設定値の両方が含まれており、

前記情報導出手段により導出された前記態様情報が予め定められた正常範囲の情報ではなかったとしても前記特定示唆演出が実行され得ることを特徴とする特徴αｂ２又はαｂ３に記載の遊技機。

【６４４６】

特徴αｂ４によれば、所定の期間における遊技の結果を示す態様情報が正常範囲の情報ではない場合には所定示唆演出が実行されない構成において、所定の期間における遊技の結果を示す態様情報が正常範囲の情報ではない場合であっても特定示唆演出は実行される。これにより、所定の期間における遊技の結果が正常ではない状況であっても、遊技者が設定値を予測する余地を残すことが可能となる。

【６４４７】

また、特定示唆演出は使用対象として設定されている設定値が第１グループ及び第２グループのいずれかであることを把握又は予測させることを可能とする演出である。第１グループ及び第２グループのそれぞれには複数の設定値が含まれているため、使用対象として設定されている設定値が第１グループ及び第２グループのいずれに該当しているのかを把握又は予測できたとしても、使用対象として設定されている設定値そのものを把握又は予測することはできない。したがって、所定の期間における遊技の結果が正常ではない状況において特定示唆演出が実行されたとしても、所定示唆演出が実行される場合よりも遊技者に与える影響を抑えることが可能となる。

【６４４８】

特徴αｂ５．前記態様相違手段は、前記情報導出手段により前記態様情報が導出されていない状況においては、少なくとも前記所定示唆演出が実行されないようにすることを特徴とする特徴αｂ２乃至αｂ４のいずれか１に記載の遊技機。

【６４４９】

特徴αｂ５によれば、態様情報が未だ導出されていない状況においては所定の期間における遊技の結果が正常であるか否かを特定することができないため、このような状況においては少なくとも所定示唆演出が実行されない。これにより、使用対象として設定されている設定値が相対的に高い設定値であることを示す又は使用対象として設定されている設定値が相対的に高い設定値である確率が高いことを示す所定示唆演出が、所定の期間における遊技の結果が正常であるか否かを特定することができていない状況において実行されてしまないようにすることが可能となる。

【６４５０】

特徴αｂ６．前記態様相違手段は、前記情報導出手段により前記態様情報が導出されていない状況においては、前記情報導出手段により導出された前記態様情報が前記正常範囲の情報ではない状況と同様の態様で、演出の実行対象となる前記示唆演出の種類が決定されるようにすることを特徴とする特徴αｂ２乃至αｂ５のいずれか１に記載の遊技機。

【６４５１】

特徴αｂ６によれば、態様情報が未だ導出されていない状況においては、情報導出手段により導出された態様情報が正常範囲の情報ではない状況と同様の態様で演出の実行対象となる示唆演出の種類が決定される。これにより、態様情報が未だ導出されていない状況に対して専用となる示唆演出の実行態様を必要としないため、必要となる記憶容量を抑えながら上記のような優れた効果を奏することが可能となる。

【６４５２】

特徴αｂ７．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第１作動口３３、第２作動口３４）を備え、

前記利益付与用処理実行手段は、前記所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて、前記利益付与用処理として、遊技者に有利な有利状態（開閉実行モード）に遊技状態を移行させるか否かを決定する処理を実行するものであって、当該処理を使用対象として設定された前記設定値に対応する態様で実行するものであり、

本遊技機は、前記利益付与用処理にて遊技状態を前記有利状態に移行させることが決定されたことに基づいて、遊技状態を前記有利状態に移行させる有利移行手段（第７５の実

施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＨ６０８～ステップＳＨ６１２の処理を実行する機能）を備え、
　前記履歴記憶実行手段は、少なくとも前記所定入球手段に入球した遊技球の入球個数の情報を前記履歴情報として前記履歴記憶手段に記憶させるものであり、
　前記情報導出手段は、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して前記所定入球手段への遊技球の入球頻度に対応する情報を前記態様情報として導出するものであることを特徴とする特徴αｂ１乃至αｂ６のいずれか１に記載の遊技機。
【６４５３】
　特徴αｂ７によれば、態様情報として所定入球手段への遊技球の入球頻度が導出されるため、所定入球手段への遊技球の入球頻度を管理することが可能となる。この場合に、態様情報に応じて示唆演出の実行の有無又は示唆演出の実行態様が相違することとなる。これにより、所定入球手段への遊技球の入球頻度を踏まえた状態で示唆演出を実行することが可能となり、所定入球手段への遊技球の入球頻度との関係で適切なものとなるように示唆演出を実行することが可能となる。
【６４５４】
　特徴αｂ８．前記示唆演出制御手段は、
　演出の実行対象となる前記示唆演出の種類を、使用対象として設定されている前記設定値に対応する態様により演出選択用情報群（通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１、示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群５４２）を参照することで決定する種類決定手段（第７５の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＨ８０７の処理を実行する機能）と、
　当該種類決定手段により決定された種類の前記示唆演出が実行されるようにする示唆演出実行手段（第７５の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＨ８０８及びステップＳＨ８０９の処理を実行する機能並びに音声発光制御装置８１のエンディング演出制御処理を実行する機能）と、
を備え、
　前記演出選択用情報群は、前記情報導出手段により導出され得る前記態様情報の内容に対応させて複数種類設定されており、
　前記態様相違手段は、前記情報導出手段により導出された前記態様情報に対応する種類の前記演出選択用情報群が前記種類決定手段により参照されるようにすることを特徴とする特徴αｂ１乃至αｂ７のいずれか１に記載の遊技機。
【６４５５】
　特徴αｂ８によれば、態様情報の内容に対応させて演出選択用情報群が複数種類設定されており、情報導出手段により導出された態様情報に対応する種類の演出選択用情報群を参照して、演出の実行対象となる示唆演出の種類が決定される。これにより、処理負荷を軽減しながら、情報導出手段により導出された態様情報に対応させて示唆演出の実行態様を相違させることが可能となる。
【６４５６】
　特徴αｂ９．前記示唆演出制御手段は、
　演出の実行対象となる前記示唆演出の種類を、使用対象として設定されている前記設定値に対応する態様により演出選択用情報群（通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１）を参照することで決定する種類決定手段（第７６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＩ１０４の処理を実行する機能）と、
　当該種類決定手段により決定された種類の前記示唆演出が実行されるようにする示唆演出実行手段（第７６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＩ１０８及びステップＳＩ１０９の処理を実行する機能）と、
を備え、
　前記態様相違手段は、前記種類決定手段により決定された前記示唆演出の種類が前記情報導出手段により導出された前記態様情報に対応していない場合、前記種類決定手段により決定された種類の前記示唆演出が実行されないようにするものであることを特徴とする

特徴αｂ１乃至αｂ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６４５７】

特徴αｂ９によれば、使用対象として設定されている設定値に対応する態様により演出選択用情報群を参照することで演出の実行対象となる示唆演出の種類が決定されたとしても、情報導出手段により導出された態様情報の内容に応じて、その決定された種類の示唆演出が実行されないことがある。これにより、演出選択用情報群を予め記憶するための記憶容量の増大化を抑制しながら、示唆演出の実行態様を情報導出手段により導出された態様情報に対応させることが可能となる。

【６４５８】

なお、特徴αｂ１～αｂ９の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６４５９】

＜特徴αｃ群＞

特徴αｃ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２３１）に記憶させる履歴記憶実行手段（第７５の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＨ４０４の処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報（第７５の実施形態における第６７パラメータ）を導出する情報導出手段（第７５の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＨ５０８の処理を実行する機能）と、

遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象として設定された設定値に対応する態様で利益付与用処理を実行する利益付与用処理実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０３及びステップＳ５０４の処理を実行する機能）と、

使用対象として設定されている前記設定値を遊技者に把握又は予測させることを可能とする示唆演出が実行されるようにする示唆演出制御手段（第７５の実施形態及び第７６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のエンディング用処理を実行する機能並びに音声発光制

御装置８１のエンディング演出制御処理を実行する機能）と、
を備え、
当該示唆演出制御手段は、
演出の実行対象となる前記示唆演出の種類を、使用対象として設定されている前記設定値に対応する態様により演出選択用情報群（通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群５４１）を参照することで決定する種類決定手段（第７６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＩ１０４の処理を実行する機能）と、
当該種類決定手段により決定された種類の前記示唆演出が実行されるようにする示唆演出実行手段（第７６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＩ１０８及びステップＳＩ１０９の処理を実行する機能）と、
を備え、
本遊技機は、前記種類決定手段により決定された前記示唆演出の種類が前記情報導出手段により導出された前記態様情報に対応していない場合、前記種類決定手段により決定された種類の前記示唆演出が実行されないようにする態様相違手段（第７６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＩ１０５～ステップＳＩ１０７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。
【６４６０】
特徴αｃ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して所定の期間における遊技の結果に対応する態様情報が導出されることにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値が設定される構成であるため、遊技者はより有利な設定値が使用対象となっていることを期待することとなる。
【６４６１】
上記構成において使用対象として設定されている設定値を遊技者に把握又は予測させることを可能とする示唆演出が実行されることがある。これにより、遊技者は当該示唆演出が実行されることを期待することとなるとともに、当該示唆演出を確認することで使用対象として設定されている設定値を把握又は予測することが可能となる。
【６４６２】
この場合に、使用対象として設定されている設定値に対応する態様により演出選択用情報群を参照することで演出の実行対象となる示唆演出の種類が決定されたとしても、情報導出手段により導出された態様情報の内容に応じて、その決定された種類の示唆演出が実行されないことがある。これにより、演出選択用情報群を予め記憶するための記憶容量の増大化を抑制しながら、示唆演出の実行態様を情報導出手段により導出された態様情報に対応させることが可能となる。
【６４６３】
特徴αｃ２．前記示唆演出として所定示唆演出（第４示唆演出及び第５示唆演出）が存在しており、
当該所定示唆演出は、使用対象として設定されている前記設定値が相対的に高い設定値である場合に演出の実行対象として選択される又は使用対象として設定されている前記設定値が相対的に高い設定値である場合に演出の実行対象として選択される確率が高くなる構成であり、
前記態様相違手段は、前記情報導出手段により導出された前記態様情報が予め定められた正常範囲の情報ではない状況において前記種類決定手段により決定された前記示唆演出の種類が前記所定示唆演出である場合、当該所定示唆演出が実行されないようにすることを特徴とする特徴αｃ１に記載の遊技機。
【６４６４】
特徴αｃ２によれば、所定の期間における遊技の結果を示す態様情報が正常範囲の情報

ではない場合には所定示唆演出が実行されない。これにより、使用対象として設定されている設定値が相対的に高い設定値であることを示す又は使用対象として設定されている設定値が相対的に高い設定値である確率が高いことを示す所定示唆演出が、所定の期間における遊技の結果が正常ではない状況であるにも関わらず実行されてしまないようにすることが可能となる。

【６４６５】

特徴αｃ３．前記示唆演出として特定示唆演出（第２示唆演出及び第３示唆演出）が存在しており、

当該特定示唆演出は、使用対象として設定されている前記設定値が相対的に高い設定値であるか否かを前記所定示唆演出が実行された場合よりも遊技者が予測しづらい演出であり、

前記情報導出手段により導出された前記態様情報が予め定められた正常範囲の情報ではなかったとしても前記特定示唆演出が実行され得ることを特徴とする特徴αｃ２に記載の遊技機。

【６４６６】

特徴αｃ３によれば、所定の期間における遊技の結果を示す態様情報が正常範囲の情報ではない場合には所定示唆演出が実行されない構成において、所定の期間における遊技の結果を示す態様情報が正常範囲の情報ではない場合であっても特定示唆演出は実行される。これにより、所定の期間における遊技の結果が正常ではない状況であっても、遊技者が設定値を予測する余地を残すことが可能となる。

【６４６７】

特徴αｃ４．前記示唆演出として特定示唆演出（第２示唆演出及び第３示唆演出）が存在しており、

当該特定示唆演出は、使用対象として設定されている前記設定値が複数の設定値を含む第１グループ（奇数の設定値）及び複数の設定値を含む第２グループ（偶数の設定値）のうち一方である場合に演出の実行対象として選択される、又は使用対象として設定されている前記設定値が前記第１グループ及び前記第２グループのうち一方である場合に他方である場合よりも演出の実行対象として選択される確率が高くなる構成であり、

前記第１グループには前記第２グループに含まれる前記設定値よりも有利な設定値及び不利な設定値の両方が含まれており、

前記第２グループには前記第１グループに含まれる前記設定値よりも有利な設定値及び不利な設定値の両方が含まれており、

前記情報導出手段により導出された前記態様情報が予め定められた正常範囲の情報ではなかったとしても前記特定示唆演出が実行され得ることを特徴とする特徴αｃ２又はαｃ３に記載の遊技機。

【６４６８】

特徴αｃ４によれば、所定の期間における遊技の結果を示す態様情報が正常範囲の情報ではない場合には所定示唆演出が実行されない構成において、所定の期間における遊技の結果を示す態様情報が正常範囲の情報ではない場合であっても特定示唆演出は実行される。これにより、所定の期間における遊技の結果が正常ではない状況であっても、遊技者が設定値を予測する余地を残すことが可能となる。

【６４６９】

また、特定示唆演出は使用対象として設定されている設定値が第１グループ及び第２グループのいずれかであることを把握又は予測させることを可能とする演出である。第１グループ及び第２グループのそれぞれには複数の設定値が含まれているため、使用対象として設定されている設定値が第１グループ及び第２グループのいずれに該当しているのかを把握又は予測できたとしても、使用対象として設定されている設定値そのものを把握又は予測することはできない。したがって、所定の期間における遊技の結果が正常ではない状況において特定示唆演出が実行されたとしても、所定示唆演出が実行される場合よりも遊技者に与える影響を抑えることが可能となる。

【６４７０】
特徴αｃ５．前記態様相違手段は、前記情報導出手段により前記態様情報が導出されていない状況においては、少なくとも前記所定示唆演出が実行されないようにすることを特徴とする特徴αｃ２乃至αｃ４のいずれか１に記載の遊技機。
【６４７１】
特徴αｃ５によれば、態様情報が未だ導出されていない状況においては所定の期間における遊技の結果が正常であるか否かを特定することができないため、このような状況においては少なくとも所定示唆演出が実行されない。これにより、使用対象として設定されている設定値が相対的に高い設定値であることを示す又は使用対象として設定されている設定値が相対的に高い設定値である確率が高いことを示す所定示唆演出が、所定の期間における遊技の結果が正常であるか否かを特定することができていない状況において実行されてしまないようにすることが可能となる。
【６４７２】
特徴αｃ６．前記態様相違手段は、前記情報導出手段により前記態様情報が導出されていない状況においては、前記情報導出手段により導出された前記態様情報が前記正常範囲の情報ではない状況と同様の態様で、演出の実行対象となる前記示唆演出の種類が決定されるようにすることを特徴とする特徴αｃ２乃至αｃ５のいずれか１に記載の遊技機。
【６４７３】
特徴αｃ６によれば、態様情報が未だ導出されていない状況においては、情報導出手段により導出された態様情報が正常範囲の情報ではない状況と同様の態様で演出の実行対象となる示唆演出の種類が決定される。これにより、態様情報が未だ導出されていない状況に対して専用となる示唆演出の実行態様を必要としないため、必要となる記憶容量を抑えながら上記のような優れた効果を奏することが可能となる。
【６４７４】
特徴αｃ７．遊技領域を流下する遊技球が入球可能である所定入球手段（第１作動口３３、第２作動口３４）を備え、
前記利益付与用処理実行手段は、前記所定入球手段に遊技球が入球したことに基づいて、前記利益付与用処理として、遊技者に有利な有利状態（開閉実行モード）に遊技状態を移行させるか否かを決定する処理を実行するものであって、当該処理を使用対象として設定された前記設定値に対応する態様で実行するものであり、
本遊技機は、前記利益付与用処理にて遊技状態を前記有利状態に移行させることが決定されたことに基づいて、遊技状態を前記有利状態に移行させる有利移行手段（第７５の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＨ６０８～ステップＳＨ６１２の処理を実行する機能）を備え、
前記履歴記憶実行手段は、少なくとも前記所定入球手段に入球した遊技球の入球個数の情報を前記履歴情報として前記履歴記憶手段に記憶させるものであり、
前記情報導出手段は、前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して前記所定入球手段への遊技球の入球頻度に対応する情報を前記態様情報として導出するものであることを特徴とする特徴αｃ１乃至αｃ６のいずれか１に記載の遊技機。
【６４７５】
特徴αｃ７によれば、態様情報として所定入球手段への遊技球の入球頻度が導出されるため、所定入球手段への遊技球の入球頻度を管理することが可能となる。この場合に、態様情報に応じて示唆演出の実行の有無又は示唆演出の実行態様が相違することとなる。これにより、所定入球手段への遊技球の入球頻度を踏まえた状態で示唆演出を実行することが可能となり、所定入球手段への遊技球の入球頻度との関係で適切なものとなるように示唆演出を実行することが可能となる。
【６４７６】
なお、特徴αｃ１～αｃ７の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０

、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６４７７】

上記特徴αａ群、上記αｂ群及び上記αｃ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６４７８】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６４７９】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６４８０】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の有利度を決定付ける設定値に関する構成を好適なものとする必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６４８１】

＜特徴αｄ群＞

特徴αｄ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２３１）に記憶させる履歴記憶実行

手段（主側ＣＰＵ６３における通常の入球管理処理を実行する機能）と、
前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報（ベース値）を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０１の処理を実行する機能）と、
当該情報導出手段により導出された前記態様情報に対応する表示が行われるように情報表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を表示制御する態様情報表示制御手段（主側ＣＰＵ６３における表示用処理及び第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、
を備え、
前記態様情報表示制御手段は、特定事象（不正な電波の検知、不正な磁気の検知、異常な振動の検知）が発生したことに基づいて、前記情報表示手段を特定事象対応状態に変化させる特定事象対応手段（第７７の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＩ３０５～ステップＳＩ３１１の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３のステップＳＩ４０１の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。
【６４８２】
特徴αｄ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報が導出されるとともに、その導出された態様情報に対応する表示が情報表示手段にて行われる。これにより、所定事象の発生頻度などの遊技履歴の管理結果を把握することが可能となる。また、特定事象が発生したことに基づいて情報表示手段が特定事象対応状態に変化する。このため、情報表示手段が特定事象対応状態であることに基づいて特定事象が発生したことを把握可能とすることができる。これにより、特定事象の発生の有無についての判別を容易なものとすることができる。
【６４８３】
特徴αｄ２．前記特定事象対応状態は、前記情報表示手段において表示が行われない非表示状態であることを特徴とする特徴αｄ１に記載の遊技機。
【６４８４】
特徴αｄ２によれば、情報表示手段が非表示状態となっていることに基づいて特定事象が発生したことを把握可能とすることができる。特定事象が発生したことに対応する表示を行うためのデータを予め記憶しておくことを不要としながら、特定事象が発生したことを容易に把握可能とすることができる。
【６４８５】
特徴αｄ３．前記特定事象が発生したことに基づいて、遊技の進行が停止された所定停止状態（遊技停止フラグに「１」がセットされた状態）に設定する所定停止手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＩ３０２～ステップＳＩ３０３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｄ１又はαｄ２に記載の遊技機。
【６４８６】
特徴αｄ３によれば、上記特徴αｄ１の構成を備え、特定事象が発生したことに基づいて情報表示手段が特定事象対応状態に変更される構成において、特定事象が発生したことに基づいて所定停止状態に設定される。このため、情報表示手段が特定事象対応状態であることに基づいて所定停止状態であることを把握可能とすることができる。これにより、所定停止状態であるか否かについての判別を容易なものとすることができる。
【６４８７】
特徴αｄ４．前記態様情報表示制御手段は、
前記情報表示手段に表示させる表示内容に対応する表示データ（表示データ信号、表示クロック信号）を送信する表示制御手段（主側ＣＰＵ６３における第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、
当該表示制御手段により前記表示データが送信された場合に、当該表示データに対応す

る表示内容となるように前記情報表示手段に表示設定を行う表示実行手段（表示ＩＣ２６６）と、
を備えており、
前記特定事象対応手段は、前記特定事象が発生した場合に前記情報表示手段を前記特定事象対応状態に変更するための変更データ（オール「０」の種別データ、オール「０」の表示データ）が前記表示制御手段から送信されるようにする変更データ送信手段（第７７の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＩ３０６～ステップＳＩ３１０の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴αｄ１乃至αｄ３のいずれか１に記載の遊技機。
【６４８８】
特徴αｄ４によれば、特定事象が発生した場合に送信される変更データに基づいて情報表示手段が特定事象態様状態に変更される構成であることにより、特定事象が発生したことに基づいて早期に情報表示手段を特定事象対応状態に変更することができる。これにより、特定事象の発生の有無について誤解が生じてしまう可能性を低減することができる。
【６４８９】
特徴αｄ５．前記態様情報表示制御手段は、
前記情報表示手段に表示させる表示内容に対応する表示データ（表示データ信号、表示クロック信号）を送信する表示制御手段（主側ＣＰＵ６３における第２タイマ割込み処理を実行する機能）と、
当該表示制御手段により前記表示データが送信された場合に、当該表示データに対応する表示内容となるように前記情報表示手段に表示設定を行う表示実行手段（表示ＩＣ２６６）と、
を備えており、
前記情報表示手段は、前記表示データに対応する表示が維持できなくなる前に次の前記表示設定が行われるように前記表示データが送信されることにより前記表示データに対応する表示を維持するものであり、
前記特定事象対応手段は、前記特定事象が発生した場合、前記特定事象が発生したことに対応する状態（遊技停止フラグに「１」がセットされている状態）が解除されるまで前記表示制御手段による前記表示データの送信が行われなくなるようにすることを特徴とする特徴αｄ１乃至αｄ４のいずれか１に記載の遊技機。
【６４９０】
特徴αｄ５によれば、特定事象が発生した場合、当該特定事象が発生したことに対応する状態が解除されるまで表示データの送信が行われなくなるため、当該状態が解除されるまで情報表示手段において特定事象対応状態を継続させることができる。これにより、情報表示手段の状態に基づいて特定事象が発生したことに対応する状態であるか否かの判別を容易なものとすることができる。
【６４９１】
特徴αｄ６．前記履歴記憶実行手段は、前記特定事象が発生したことに基づいて前記情報表示手段が前記特定事象対応状態となっている状況においても、前記所定事象が発生した場合にそれに対応する前記遊技の履歴情報を前記履歴記憶手段に記憶させることを特徴とする特徴αｄ１乃至αｄ５のいずれか１に記載の遊技機。
【６４９２】
特徴αｄ６によれば、特定事象が発生した後に所定事象が発生したことに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段に記憶させることができる。これにより、特定事象が発生した後に発生した所定事象に対応する遊技の履歴情報を含む遊技の履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報を導出することを可能とすることができる。
【６４９３】
特徴αｄ７．遊技機の所定異常状態を検知する異常検知手段（電波検知センサ５５１、磁気検知センサ５５２、振動検知センサ５５３）を備え、
前記特定事象は、前記所定異常状態が検知されることであることを特徴とする特徴αｄ

１乃至αｄ６のいずれか１に記載の遊技機。
【６４９４】
特徴αｄ７によれば、所定異常状態が検知された場合に情報表示手段が特定事象対応状態となる。このため、情報表示手段が特定事象対応状態であることに基づいて所定異常状態が検知されたことを把握することができる。これにより、所定異常状態の検知の有無についての判別を容易なものとすることができる。
【６４９５】
特徴αｄ８．外部から視認可能な位置に設けられており所定情報の表示が行われる所定情報表示手段（特図表示部３７ａ、特図保留表示部３７ｂ、普図表示部３８ａ、普図保留表示部３８ｂ）と、
前記所定情報の表示が行われるように前記所定情報表示手段を表示制御する所定情報表示制御手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＩ４０１～ステップＳＩ４０２及びステップＳＩ４０９～ステップＳＩ４１５の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記所定情報表示制御手段は、前記特定事象が発生したことに基づいて、前記所定情報表示手段を特定事象対応中状態に変更する状態変更手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＩ３０５～ステップＳＩ３１１の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＩ４０１の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｄ１乃至αｄ７のいずれか１に記載の遊技機。
【６４９６】
特徴αｄ８によれば、上記特徴αｄ１の構成を備え、特定事象が発生したことに基づいて情報表示手段が特定事象対応状態に変更される構成において、特定事象が発生したことに基づいて所定情報表示手段が特定事象対応中状態に変更される。特定事象が発生したことに基づいて情報表示手段及び所定情報表示手段の状態が特定事象の発生に対応した状態に変更される構成であることにより、情報表示手段のみの状態が変更される構成と比較して、特定事象の発生の有無についての判別をより容易なものとすることができる。また、所定情報表示手段は外部から視認可能な位置に設けられている。このため、特定事象が発生した状態であることを遊技機の外部からも確認可能として、特定事象の発生の有無についての判別をさらに容易なものとすることができる。
【６４９７】
特徴αｄ９．前記特定事象対応中状態は、前記所定情報表示手段において表示が行われない非表示状態であることを特徴とする特徴αｄ８に記載の遊技機。
【６４９８】
特徴αｄ９によれば、所定情報表示手段が非表示状態となっていることに基づいて特定事象が発生したことを外部から容易に把握可能とすることができる。
【６４９９】
なお、特徴αｄ１～αｄ９の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、

特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６５００】

上記特徴αｄ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６５０１】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６５０２】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６５０３】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、情報表示手段の表示制御を好適に行う必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６５０４】

＜特徴αｅ群＞

特徴αｅ１．動作電力の供給開始後に発生する特定契機（第７７，第７９～第８１，第８８の実施形態では音光側ＲＡＭクリア処理後におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新開始、第７８の実施形態ではデモ演出の基準時間情報の格納）を基準として定期的に発生する所定契機（第７７，第７９～第８１，第８８の実施形態ではデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達すること、第７８の実施形態ではデモ演出の基準時間からの経過時間が１５秒の整数倍となること）が発生したか否かを特定する所定契機特定手段（第７７，第７９～第８１，第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ７０７及びステップＳＩ７１２の処理を実行する機能、第７８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ９０９及びステップＳＩ９１４の処理を実行する機能）と、

当該所定契機特定手段により前記所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出（デモ演出）を開始させる所定演出制御手段（第７７，第７９～第８１，第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ７０９の処理を実行する機能、第７８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ９１１の処理を実行

する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。
【６５０５】
特徴αｅ１によれば、特定契機を基準として定期的に所定契機が発生する。このため、複数の遊技機において特定契機を基準とする所定契機の発生周期が同一である場合には、特定契機の発生タイミングを揃えることにより当該複数の遊技機における所定契機の発生タイミングを揃えることが可能となる。また、所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される。このため、複数の遊技機において所定契機の発生タイミングを揃えることにより、当該複数の遊技機における所定演出の開始タイミングを揃えることが可能となる。これにより、所定演出に一体感を持たせて、遊技機に対する遊技者の関心を高めることが可能となる。
【６５０６】
特徴αｅ２．動作電力の供給が開始された場合に供給開始時の処理を実行する開始時処理実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２の処理を実行する機能）を備え、
前記供給開始時の処理にて第１処理（設定値更新処理、設定値確認処理）が実行される場合と第２処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１３の処理、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１８の処理）が実行される場合とで当該供給開始時の処理が開始されてから完了するまでに要する期間が変動する構成であり、
前記供給開始時の処理にて前記第１処理が実行される場合及び前記第２処理が実行される場合のいずれであっても動作電力の供給が開始されてから前記特定契機が発生するまでに要する期間に影響を与えない構成であることを特徴とする特徴αｅ１に記載の遊技機。
【６５０７】
特徴αｅ２によれば、供給開始時の処理にて第１処理が実行される場合と、第２処理が実行される場合とにおいて、動作電力の供給が開始されてから特定契機が発生するまでに要する期間に差が生じてしまうことが防止されている。このため、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給が開始された場合に、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と、第２処理が実行された遊技機とにおける特定契機の発生タイミングを揃えることができる。上記特徴αｅ１の構成を備え、所定契機は特定契機を基準として定期的に発生する。このため、複数の遊技機における特定契機の発生タイミングを揃えることにより、当該複数の遊技機における所定契機の発生タイミングの基準を揃えることができる。
【６５０８】
特徴αｅ３．前記供給開始時の処理にて前記第１処理が実行される場合及び前記第２処理が実行される場合のいずれであっても前記所定契機が発生する周期に影響を与えない構成であることを特徴とする特徴αｅ２に記載の遊技機。
【６５０９】
特徴αｅ３によれば、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と、供給開始時の処理において第２処理が実行された遊技機とにおいて、特定契機を基準として所定契機が発生する周期を同一の周期とすることができる。上記特徴αｅ２の構成を備えていることにより、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と、供給開始時の処理にて第２処理が実行された遊技機とにおいて、動作電力の供給が開始されてから特定契機が発生するまでに要する期間に差は生じない。このため、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給を開始することにより、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と、供給開始時の処理にて第２処理が実行された遊技機とにおいて、特定契機の発生タイミングを揃えることができる。上記特徴αｅ１の構成を備え、所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される構成において、複数の遊技機における特定契機の発生タイミング、及び当該特定契機を基準として定期的に発生する所定契機の発生周期を揃えることにより、当該複数の遊技機において所定演出が開始されるタイミングを揃えることができる。
【６５１０】

上記特徴αｅ２の構成を備え、供給開始時の処理にて第１処理が実行される場合と第２処理が実行される場合とで当該供給開始時の処理が開始されてから完了するまでに要する期間は変動する。当該構成において、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給を開始した場合に、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と、供給開始時の処理にて第２処理が実行された遊技機とにおいて所定演出を同時に開始可能とすることにより、所定演出の開始タイミングに基づいて、第１処理が実行された遊技機と第２処理が実行された遊技機とが判別され易くなってしまうことを防止することができる。

【６５１１】

特徴αｅ４．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始される場合に所定設定関連操作（設定値更新処理を実行させるための設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作、又は設定確認用処理を実行させるための設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が行われたことに基づいて前記供給開始時の処理にて前記第１処理として前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、

を備え、

前記第２処理は、動作電力の供給が開始される場合に前記所定設定関連操作が行われなかったことに基づいて実行されるものであることを特徴とする特徴αｅ２又はαｅ３に記載の遊技機。

【６５１２】

特徴αｅ４によれば、供給開始時の処理では、動作電力の供給が開始される場合に所定設定関連操作が行われたことに基づいて所定の設定関連処理が実行されるとともに、所定設定関連操作が行われなかったことに基づいて第２処理が実行される。上記特徴αｅ２の構成を備えていることにより、供給開始時の処理にて所定の設定関連処理が実行された遊技機と、第２処理が実行された遊技機とにおいて、動作電力の供給が開始されてから特定契機が発生するまでに要する期間に差が生じてしまうことを防止することができる。上記特徴αｅ１の構成を備え、特定契機を基準として定期的に所定契機が発生する構成であるとともに、所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される構成である。当該構成において、供給開始時の処理にて所定の設定関連処理が実行された遊技機と、第２処理が実行された遊技機とにおいて、動作電力の供給が開始されてから特定契機が発生するまでに要する期間に差が生じてしまうことを防止することにより、所定演出の開始タイミングに基づいて所定の設定関連処理が実行された遊技機が特定され易くなってしまうことを防止することができる。

【６５１３】

特徴αｅ５．動作電力の供給が開始された場合に供給開始時の処理を実行する開始時処理実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２の処理を実行する機能）を有する主制御手段（ＭＰＵ６２）と、

前記所定契機特定手段及び前記所定演出制御手段を有する演出制御手段（音光側ＭＰＵ３５２）と、

を備え、

前記特定契機は、前記演出制御手段に動作電力の供給が開始された場合に発生することを特徴とする特徴αｅ１乃至αｅ４のいずれか１に記載の遊技機。

【６５１４】

特徴αｅ５によれば、演出制御手段に動作電力の供給が開始された場合に特定契機が発生する構成において、特定契機を基準として定期的に発生する所定契機が発生したか否かを特定する所定契機特定手段が演出制御手段に設けられている。これにより、所定契機特定手段による特定契機の把握が容易化されているとともに、当該特定契機を基準として定期的に発生する所定契機の把握が容易化されている。

【６５１５】
特徴αｅ６．前記主制御手段は、前記供給開始時の処理が終了する場合又は終了した場合に前記演出制御手段に対して所定開始対応情報（通常復帰コマンド、クリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド、又は更新時の復帰コマンド）を送信する所定送信手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１３及びＳＢ１１８の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ２０７の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１４の処理を実行する機能）を備えており、
前記演出制御手段は、当該所定開始対応情報を受信した場合にそれに対応する情報対応処理を実行する情報対応手段（第７７，第８１，第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ５０４～ステップＳＩ５１７の処理を実行する機能、第７８の実施形態ではステップＳＩ８０３～ステップＳＩ８１６の処理を実行する機能、第７９，第８０の実施形態ではステップＳＪ１０４～ステップＳＪ１１９の処理を実行する機能）を備えており、
動作電力の供給が開始されてから前記演出制御手段が前記所定開始対応情報を受信するまでに要する期間は、前記所定契機が発生する周期に影響を与えないことを特徴とする特徴αｅ５に記載の遊技機。
【６５１６】
特徴αｅ６によれば、所定契機が発生する周期は、動作電力の供給が開始されてから演出制御手段が所定開始対応情報を受信するまでに要する期間に影響されない。また、上記特徴αｅ１の構成を備え、所定演出は所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて開始される。このため、所定演出が開始される周期に基づいて、動作電力の供給が開始されてから主制御手段が所定開始対応情報を送信するまでに主制御手段において行われた処理の内容が特定され易くなってしまうことを防止することができる。
【６５１７】
特徴αｅ７．動作電力の供給が開始された場合に供給開始時の処理を実行する開始時処理実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２の処理を実行する機能）を備え、
前記所定演出制御手段は、前記供給開始時の処理が終了した後、前記所定契機特定手段により前記所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて前記所定演出を開始させることを特徴とする特徴αｅ１乃至αｅ６のいずれか１に記載の遊技機。
【６５１８】
特徴αｅ７によれば、供給開始時の処理が実行されている状況において所定演出が開始されてしまうことを防止することができる。また、供給開始時の処理が終了した後、所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される。このため、複数の遊技機において供給開始時の処理の終了タイミングがずれたとしても、当該複数の遊技機において所定契機の発生タイミングが揃っている場合には、供給開始時の処理が終了した後における所定演出の開始タイミングを揃えることができる。
【６５１９】
特徴αｅ８．前記所定演出よりも優先的に実行される特定演出（遊技回用演出、開閉実行モード用の演出）を実行させる特定演出制御手段（音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ６０３～ステップＳＩ６１４の処理を実行する機能）を備え、
前記所定演出制御手段は、前記特定演出が終了した後、前記所定契機特定手段により前記所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて前記所定演出を開始させることを特徴とする特徴αｅ１乃至αｅ７のいずれか１に記載の遊技機。
【６５２０】
特徴αｅ８によれば、特定演出が実行されている状況において所定演出が開始されてしまうことを防止することができる。また、特定演出が終了した後、所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される。このため、複数の遊技機において特定演出の終了タイミングがずれたとしても、当該複数の遊技機において所定契機の発生タイミングが揃っている場合には、特定演出が終了した後における所定演出の開始タ

イミングを揃えることができる。
【６５２１】
特徴αｅ９．少なくとも前記所定契機が最初に発生するタイミングを変動させる変動手段（第７９の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ２０１～ステップＳＪ２０４の処理を実行する機能、第８０の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ３０１～ステップＳＪ３０４の処理を実行する機能、第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＫ７１６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｅ１乃至αｅ８のいずれか１に記載の遊技機。
【６５２２】
特徴αｅ９によれば、少なくとも所定契機が最初に発生するタイミングを変動させることが可能である。また、上記特徴αｅ１の構成を備え、所定演出は所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて開始される。このため、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給が開始された場合に、所定契機が最初に発生するタイミングの変動態様に応じて、当該複数の遊技機において所定契機の発生タイミングを異なるタイミングとすることができるとともに、所定演出の開始タイミングを異なるタイミングとすることができる。変動手段を備え、複数の遊技機において所定契機の発生タイミングがずれている状況を意図的に生じさせることにより、所定演出の開始タイミングに基づいて遊技者にとって有利な設定を行う処理などの特定の処理が実行された遊技機が特定され易くなってしまうことを防止することができる。
【６５２３】
特徴αｅ１０．前記変動手段は、前記所定契機が最初に発生するタイミングを変動させるものであり、
前記変動手段による前記所定契機の変動態様は、前記所定契機の最初の発生タイミング以降における前記所定契機の発生周期に影響を与えないことを特徴とする特徴αｅ９に記載の遊技機。
【６５２４】
特徴αｅ１０によれば、変動手段による所定契機の変動態様は所定契機の最初の発生タイミング以降における所定契機の発生周期に影響を与えない。また、上記特徴αｅ１の構成を備え、所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される。このため、所定契機の最初の発生タイミング以降において所定演出が開始される周期に基づいて所定契機の変動態様が特定されてしまうことを防止することができる。
【６５２５】
また、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給が開始された場合、当該複数の遊技機のうち所定契機の最初の発生タイミングの変動態様が同一となった一部の遊技機について、その後の所定契機の発生タイミングを揃えることができる。また、当該一部の遊技機における所定契機の発生タイミングと、残りの遊技機における所定契機の発生タイミングとがずれている状況が生じる可能性を高めることができる。所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される構成であるため、当該状況が生じた場合には、一部の遊技機において所定演出の開始タイミングを揃えることにより、所定演出に一体感を持たせて、遊技機に対する遊技者の関心を高めることが可能となる。また、当該一部の遊技機とは所定演出の開始タイミングがずれている残りの遊技機に対して遊技者にとって有利な設定が行われたのではないかと推測させて、当該残りの遊技機に対する遊技者の関心を高めることが可能となる。
【６５２６】
特徴αｅ１１．動作電力の供給が停止されている状況において情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給される主制御手段（ＭＰＵ６２）と、
前記変動手段を有しており動作電力の供給が停止されている状況において情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給されない演出制御手段（音光側ＭＰＵ３５２）と、を備え、
前記主制御手段は、前記所定契機が最初に発生するタイミングを変動させるための変動

用情報（第７９，第８０の実施形態における抽選用乱数情報）を前記演出制御手段に提供することを特徴とする特徴αｅ９又はαｅ１０に記載の遊技機。

【６５２７】

特徴αｅ１１によれば、動作電力の供給が停止されている状況において主制御手段にて変動用情報の記憶保持が行われる構成とすることができる。これにより、演出制御手段にバックアップ電力を供給するための構成を不具備としながら、前回の動作電力の供給停止時に主制御手段に記憶されていた変動用情報を用いて所定契機が最初に発生するタイミングを変動させることが可能となる。

【６５２８】

特徴αｅ１２．前記主制御手段は、

前記変動用情報が記憶される所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）と、

動作電力の供給が開始された場合に前記所定記憶手段における初期化対象の記憶領域を初期化する所定初期化処理（第１ＲＡＭクリア処理、第２ＲＡＭクリア処理）を実行する所定初期化手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１７の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１３の処理を実行する機能）と、

前記所定記憶手段において前記所定初期化処理の対象から除外されている所定対象外記憶手段（第７９，第８０の実施形態における送信乱数記憶カウンタ５５６）と、

を備え、

動作電力の供給が開始された場合に、前記所定記憶手段に記憶されている前記変動用情報は、前記所定初期化処理が実行される前に前記所定対象外記憶手段に記憶されることを特徴とする特徴αｅ１１に記載の遊技機。

【６５２９】

特徴αｅ１２によれば、所定初期化処理が実行される前に所定対象外記憶手段に変動用情報を記憶させることにより、動作電力の供給が停止されている状況において所定記憶手段にて記憶保持されていた変動用情報がクリアされてしまうことを回避し、当該変動用情報を演出制御手段に提供することを可能とすることができる。

【６５３０】

特徴αｅ１３．前記変動手段は、前記所定契機が発生するタイミングの変動態様を決定するための変動抽選処理を実行する変動抽選手段（第７９の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ２０１～ステップＳＪ２０３の処理を実行する機能、第８０の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ３０１～ステップＳＪ３０３の処理を実行する機能、第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるＳＫ７１６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｅ９乃至αｅ１２のいずれか１に記載の遊技機。

【６５３１】

特徴αｅ１３によれば、変動抽選処理の抽選結果に基づいて所定契機が発生するタイミングを変動させる構成であることにより、設計段階で設定された確率で所定契機が発生するタイミングの各変動態様を生じさせることが可能となる。

【６５３２】

なお、特徴αｅ１～αｅ１３の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、

特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６５３３】

＜特徴αｆ群＞

特徴αｆ１．特定契機（第７７，第７９～第８１，第８８の実施形態では音光側ＲＡＭクリア処理後におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新開始、第７８の実施形態ではデモ演出の基準時間情報の格納）を基準として定期的に発生する所定契機（第７７，第７９～第８１，第８８の実施形態ではデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達すること、第７８の実施形態ではデモ演出の基準時間からの経過時間が１５秒の整数倍となること）が発生したか否かを特定する所定契機特定手段（第７７，第７９～第８１，第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ７０７及びステップＳＩ７１２の処理を実行する機能、第７８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ９０９及びステップＳＩ９１４の処理を実行する機能）と、

所定の状態（第７７～第８１，第８８の実施形態における開始待ち状態）に設定する所定状態設定手段（第７７の実施形態における音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＩ５１０の処理を実行する機能、音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ７０５の処理を実行する機能、第７８の実施形態における音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＩ８０９の処理を実行する機能、音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ９１０の処理を実行する機能、第７９の実施形態における音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＪ１１２の処理を実行する機能）と、

前記所定の状態において前記所定契機が発生したことが前記所定契機特定手段により特定されたことに基づいて所定演出（デモ演出）を開始させる所定演出制御手段（第７７，第７９～第８１，第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ７０９の処理を実行する機能、第７８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ９１１の処理を実行する機能）と、

を備え、

当該所定演出制御手段は、前記所定の状態ではない状態（待ち状態フラグ５５５ｂに「１」がセットされていない状態）において前記所定契機が発生したとしても前記所定演出を開始させることはなく、前記所定の状態となったとしても前記所定契機が発生していない場合には前記所定演出を開始させないことを特徴とする遊技機。

【６５３４】

特徴αｆ１によれば、特定契機を基準として定期的に所定契機が発生する。このため、複数の遊技機において特定契機を基準とする所定契機の発生周期が同一である場合には、特定契機の発生タイミングを揃えることにより当該複数の遊技機における所定契機の発生タイミングを揃えることが可能となる。また、所定の状態において所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される。このため、複数の遊技機において所定契機の発生タイミングを揃えることにより、当該複数の遊技機において所定の状

態における所定演出の開始タイミングを揃えることが可能となる。また、複数の遊技機において所定契機の発生タイミングが揃っている場合には、所定の状態となるタイミングが異なる場合であっても、所定の状態となった後に当該複数の遊技機において所定演出が開始されるタイミングを揃えることができる。これにより、所定演出に一体感を持たせて、遊技機に対する遊技者の関心を高めることが可能となる。さらにまた、所定の状態でない状態では、所定契機が発生したとしても所定演出が開始されてしまうことを防止することができる。

【６５３５】

特徴αｆ２．動作電力の供給が開始された場合に供給開始時の処理を実行する開始時処理実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２の処理を実行する機能）を備え、

前記供給開始時の処理にて第１処理（設定値更新処理、設定値確認処理）が実行される場合と第２処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１３の処理、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１８の処理）が実行される場合とで当該供給開始時の処理が開始されてから完了するまでに要する期間が変動する構成であり、

前記供給開始時の処理にて前記第１処理が実行される場合及び前記第２処理が実行される場合のいずれであっても動作電力の供給が開始されてから前記特定契機が発生するまでに要する期間に影響を与えない構成であることを特徴とする特徴αｆ１に記載の遊技機。

【６５３６】

特徴αｆ２によれば、供給開始時の処理にて第１処理が実行される場合と、第２処理が実行される場合とにおいて、動作電力の供給が開始されてから特定契機が発生するまでに要する期間に差が生じてしまうことが防止されている。このため、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給が開始された場合に、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と、第２処理が実行された遊技機とにおける特定契機の発生タイミングを揃えることができる。上記特徴αｆ１の構成を備え、所定契機は特定契機を基準として定期的に発生する。このため、複数の遊技機における特定契機の発生タイミングを揃えることにより、当該複数の遊技機における所定契機の発生タイミングの基準を揃えることができる。

【６５３７】

特徴αｆ３．前記供給開始時の処理にて前記第１処理が実行される場合及び前記第２処理が実行される場合のいずれであっても前記所定契機が発生する周期に影響を与えない構成であることを特徴とする特徴αｆ２に記載の遊技機。

【６５３８】

特徴αｆ３によれば、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と、供給開始時の処理において第２処理が実行された遊技機とにおいて、特定契機を基準として所定契機が発生する周期を同一の周期とすることができる。上記特徴αｆ２の構成を備えていることにより、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と、供給開始時の処理にて第２処理が実行された遊技機とにおいて、動作電力の供給が開始されてから特定契機が発生するまでに要する期間に差は生じない。このため、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給を開始することにより、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と、供給開始時の処理にて第２処理が実行された遊技機とにおいて、特定契機の発生タイミングを揃えることができる。上記特徴αｆ１の構成を備え、所定の状態において所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される構成において、複数の遊技機において特定契機の発生タイミング、及び当該特定契機を基準として定期的に発生する所定契機の発生周期を揃えることにより、当該複数の遊技機にて、所定の状態において所定演出が開始されるタイミングを揃えることができる。

【６５３９】

上記特徴αｆ２の構成を備え、供給開始時の処理にて第１処理が実行される場合と第２処理が実行される場合とで当該供給開始時の処理が開始されてから完了するまでに要する期間は変動する。当該構成において、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給を開始した場合に、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と、供給開始時の処理に

て第２処理が実行された遊技機とにおいて所定演出を同時に開始可能とすることにより、所定演出の開始タイミングに基づいて、第１処理が実行された遊技機と第２処理が実行された遊技機とが判別され易くなってしまうことを防止することができる。

【６５４０】

特徴αｆ４．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始される場合に所定設定関連操作（設定値更新処理を実行させるための設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作、又は設定確認用処理を実行させるための設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が行われたことに基づいて前記供給開始時の処理にて前記第１処理として前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、

を備え、

前記第２処理は、動作電力の供給が開始される場合に前記所定設定関連操作が行われなかったことに基づいて実行されるものであることを特徴とする特徴αｆ２又はαｆ３に記載の遊技機。

【６５４１】

特徴αｆ４によれば、供給開始時の処理では、動作電力の供給が開始される場合に所定設定関連操作が行われたことに基づいて所定の設定関連処理が実行されるとともに、所定設定関連操作が行われなかったことに基づいて第２処理が実行される。上記特徴αｆ２の構成を備えていることにより、供給開始時の処理にて所定の設定関連処理が実行された遊技機と、第２処理が実行された遊技機とにおいて、動作電力の供給が開始されてから特定契機が発生するまでに要する期間に差が生じてしまうことを防止することができる。上記特徴αｆ１の構成を備え、特定契機を基準として定期的に所定契機が発生する構成であるとともに、所定の状態において所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される構成である。当該構成において、供給開始時の処理にて所定の設定関連処理が実行された遊技機と、第２処理が実行された遊技機とにおいて、動作電力の供給が開始されてから特定契機が発生するまでに要する期間に差が生じてしまうことを防止することにより、所定演出の開始タイミングに基づいて所定の設定関連処理が実行された遊技機が特定され易くなってしまうことを防止することができる。

【６５４２】

特徴αｆ５．動作電力の供給が開始された場合に供給開始時の処理を実行する開始時処理実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２の処理を実行する機能）を有する主制御手段（ＭＰＵ６２）と、

前記所定契機特定手段及び前記所定演出制御手段を有する演出制御手段（音光側ＭＰＵ３５２）と、

を備え、

前記特定契機は、前記演出制御手段に動作電力の供給が開始された場合に発生することを特徴とする特徴αｆ１乃至αｆ４のいずれか１に記載の遊技機。

【６５４３】

特徴αｆ５によれば、演出制御手段に動作電力の供給が開始された場合に特定契機が発生する構成において、特定契機を基準として定期的に発生する所定契機が発生したか否かを特定する所定契機特定手段が演出制御手段に設けられている。これにより、所定契機特定手段による特定契機の把握が容易化されているとともに、当該特定契機を基準として定期的に発生する所定契機の把握が容易化されている。

【６５４４】

特徴αｆ６．前記主制御手段は、前記供給開始時の処理が終了する場合又は終了した場合に前記演出制御手段に対して所定開始対応情報（通常復帰コマンド、クリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド、又は更新時の復帰コマンド）を送信する所定送信手段（

主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１３及びＳＢ１１８の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ２０７の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１４の処理を実行する機能）を備えており、

前記演出制御手段は、当該所定開始対応情報を受信した場合にそれに対応する情報対応処理を実行する情報対応手段（第７７，第８１，第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ５０４～ステップＳＩ５１７の処理を実行する機能、第７８の実施形態ではステップＳＩ８０３～ステップＳＩ８１６の処理を実行する機能、第７９，第８０の実施形態ではステップＳＪ１０４～ステップＳＪ１１９の処理を実行する機能）を備えており、

動作電力の供給が開始されてから前記演出制御手段が前記所定開始対応情報を受信するまでに要する期間は、前記所定契機が発生する周期に影響を与えないことを特徴とする特徴αｆ５に記載の遊技機。

【６５４５】

特徴αｆ６によれば、所定契機が発生する周期は、動作電力の供給が開始されてから演出制御手段が所定開始対応情報を受信するまでに要する期間に影響されない。上記特徴αｆ１の構成を備え、所定の状態において所定契機が発生したことが特定されたことに基づいて所定演出が開始される。このため、所定の状態において所定演出が開始される周期に基づいて、動作電力の供給が開始されてから主制御手段が所定開始対応情報を送信するまでに主制御手段において行われた処理の内容が特定され易くなってしまうことを防止することができる。

【６５４６】

特徴αｆ７．動作電力の供給が開始された場合に供給開始時の処理を実行する開始時処理実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２の処理を実行する機能）を備え、

前記所定状態設定手段は、前記供給開始時の処理が終了したことに基づいて前記所定の状態に設定することを特徴とする特徴αｆ１乃至αｆ６のいずれか１に記載の遊技機。

【６５４７】

特徴αｆ７によれば、供給開始時の処理が終了したことに基づいて所定の状態に設定される。上記特徴αｆ１の構成を備え、所定演出は所定の状態において所定契機が発生したことが特定された場合に開始される。このため、供給開始時の処理が実行されている状況において所定演出が開始されてしまうことを防止することができる。また、供給開始時の処理が終了した後、所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出を開始させることができる。このため、複数の遊技機において供給開始時の処理の終了タイミングがずれたとしても、当該複数の遊技機において所定契機の発生タイミングが揃っている場合には、供給開始時の処理が終了した後における所定演出の開始タイミングを揃えることができる。

【６５４８】

特徴αｆ８．前記所定演出よりも優先的に実行される特定演出（遊技回用演出、開閉実行モード用の演出）を実行させる特定演出制御手段（音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ６０３～ステップＳＩ６１４の処理を実行する機能）を備え、

前記所定状態設定手段は、

前記所定の状態において前記特定演出の開始契機が発生した場合に前記所定の状態を解除する所定解除手段（音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ６１１の処理を実行する機能）と、

前記特定演出が終了したことに基づいて前記所定の状態に設定する所定設定手段（第７７，７９～８１の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ７０５の処理を実行する機能、第７８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ９０５の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴αｆ１乃至αｆ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６５４９】

特徴αｆ８によれば、特定演出の開始契機が発生したことに基づいて所定の状態が解除されるとともに、特定演出が終了したことに基づいて所定の状態に設定される。上記特徴αｆ１の構成を備え、所定演出は所定の状態において所定契機が発生したことが特定された場合に開始される。このため、特定演出が実行されている状況において所定演出が開始されてしまうことを防止することができる。また、特定演出が終了した後、所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出を開始させることができる。このため、複数の遊技機において特定演出の終了タイミングがずれたとしても、当該複数の遊技機において所定契機の発生タイミングが揃っている場合には、特定演出が終了した後における所定演出の開始タイミングを揃えることができる。

【６５５０】

特徴αｆ９．少なくとも前記所定契機が最初に発生するタイミングを変動させる変動手段（第７９の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ２０１～ステップＳＪ２０４の処理を実行する機能、第８０の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ３０１～ステップＳＪ３０４の処理を実行する機能、第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＫ７１６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｆ１乃至αｆ８のいずれか１に記載の遊技機。

【６５５１】

特徴αｆ９によれば、少なくとも所定契機が最初に発生するタイミングを変動させることが可能である。また、上記特徴αｆ１の構成を備え、所定演出は所定の状態において所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて開始される。このため、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給が開始された場合に、所定契機が最初に発生するタイミングの変動態様に応じて、当該複数の遊技機において所定契機の発生タイミングを異なるタイミングとすることができるとともに、所定の状態における所定演出の開始タイミングを異なるタイミングとすることができる。変動手段を備え、複数の遊技機において所定契機の発生タイミングがずれている状況を意図的に生じさせることにより、所定演出の開始タイミングに基づいて遊技者にとって有利な設定を行う処理などの特定の処理が実行された遊技機が特定され易くなってしまうことを防止することができる。

【６５５２】

特徴αｆ１０．前記変動手段は、前記所定契機が最初に発生するタイミングを変動させるものであり、

前記変動手段による前記所定契機の変動態様は、前記所定契機の最初の発生タイミング以降における前記所定契機の発生周期に影響を与えないことを特徴とする特徴αｆ９に記載の遊技機。

【６５５３】

特徴αｆ１０によれば、変動手段による所定契機の変動態様は所定契機の最初の発生タイミング以降における所定契機の発生周期に影響を与えない。また、上記特徴αｆ１の構成を備え、所定の状態において所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される。このため、所定契機の最初の発生タイミング以降において所定演出が開始される周期に基づいて所定契機の変動態様が特定されてしまうことを防止することができる。

【６５５４】

また、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給が開始された場合、当該複数の遊技機のうち所定契機の最初の発生タイミングの変動態様が同一となった一部の遊技機について、その後の所定契機の発生タイミングを揃えることができる。また、当該一部の遊技機における所定契機の発生タイミングと、残りの遊技機における所定契機の発生タイミングとがずれている状況が生じる可能性を高めることができる。所定の状態において所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される構成であるため、当該状況が生じた場合には、一部の遊技機において所定演出の開始タイミングを揃えることにより、所定演出に一体感を持たせて、遊技機に対する遊技者の関心を高めることが可能となる。また、当該一部の遊技機とは所定演出の開始タイミングがずれている残りの遊

技機に対して遊技者にとって有利な設定が行われたのではないかと推測させて、当該残りの遊技機に対する遊技者の関心を高めることが可能となる。

【６５５５】

特徴αｆ１１．動作電力の供給が停止されている状況において情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給される主制御手段（ＭＰＵ６２）と、

前記変動手段を有しており動作電力の供給が停止されている状況において情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給されない演出制御手段（音光側ＭＰＵ３５２）と、

を備え、

前記主制御手段は、前記所定契機が最初に発生するタイミングを変動させるための変動用情報（第７９，第８０の実施形態における抽選用乱数情報）を前記演出制御手段に提供することを特徴とする特徴αｆ９又はαｆ１０に記載の遊技機。

【６５５６】

特徴αｆ１１によれば、動作電力の供給が停止されている状況において主制御手段にて変動用情報の記憶保持が行われる構成とすることができる。これにより、演出制御手段にバックアップ電力を供給するための構成を不具備としながら、前回の動作電力の供給停止時に主制御手段に記憶されていた変動用情報を用いて所定契機が最初に発生するタイミングを変動させることが可能となる。

【６５５７】

特徴αｆ１２．前記主制御手段は、

前記変動用情報が記憶される所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）と、

動作電力の供給が開始された場合に前記所定記憶手段における初期化対象の記憶領域を初期化する所定初期化処理（第１ＲＡＭクリア処理）を実行する所定初期化手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１７の処理を実行する機能）と、

前記所定記憶手段において前記所定初期化処理の対象から除外されている所定対象外記憶手段（第７９，第８０の実施形態における送信乱数記憶カウンタ５５６）と、

を備え、

動作電力の供給が開始された場合に、前記所定記憶手段に記憶されている前記変動用情報は、前記所定初期化処理が実行される前に前記所定対象外記憶手段に記憶されることを特徴とする特徴αｆ１１に記載の遊技機。

【６５５８】

特徴αｆ１２によれば、所定初期化処理が実行される前に所定対象外記憶手段に変動用情報を記憶させることにより、動作電力の供給が停止されている状況において所定記憶手段にて記憶保持されていた変動用情報がクリアされてしまうことを回避し、当該変動用情報を演出制御手段に提供することを可能とすることができる。

【６５５９】

特徴αｆ１３．前記変動手段は、前記所定契機が発生するタイミングの変動態様を決定するための変動抽選処理を実行する変動抽選手段（第７９の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ２０１～ステップＳＪ２０３の処理を実行する機能、第８０の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ３０１～ステップＳＪ３０３の処理を実行する機能、第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるＳＫ７１６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｆ９乃至αｆ１２のいずれか１に記載の遊技機。

【６５６０】

特徴αｆ１３によれば、変動抽選処理の抽選結果に基づいて所定契機が発生するタイミングを変動させる構成であることにより、設計段階で設定された確率で所定契機が発生するタイミングの各変動態様を生じさせることが可能となる。

【６５６１】

なお、特徴αｆ１～αｆ１３の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２

０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６５６２】

＜特徴αｇ群＞

特徴αｇ１．動作電力の供給開始後において所定契機（第７９，第８０，第８８の実施形態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達すること）が発生したことに基づいて所定演出（デモ演出）を開始させる所定演出制御手段（第７９，第８０，第８８の実施形態における音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＩ７０９の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始されてから前記所定契機が発生するタイミングを変動させる変動手段（第７９の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ２０１～ステップＳＪ２０４の処理を実行する機能、第８０の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ３０１～ステップＳＪ３０４の処理を実行する機能、第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＫ７１６の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【６５６３】

特徴αｇ１によれば、変動手段による所定契機の発生タイミングの変動態様に応じて、動作電力の供給が開始されてから所定契機が発生するまでに要する期間を変動させることができる。このため、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給が開始された場合に、変動手段による所定契機の発生タイミングの変動態様に応じて、当該複数の遊技機において所定契機の発生タイミングがずれている状況を生じさせることが可能となる。所定契機が発生したことに基づいて所定演出が開始される構成であるため、動作電力の供給が同時に開始された複数の遊技機において所定演出の開始タイミングがずれている状況を生じさせることが可能となる。これにより、動作電力の供給が同時に開始された複数の遊技機のうち一部の遊技機に対して遊技者にとっての有利度を確認又は変更するための操作が行われた場合に、所定演出の開始タイミングに基づいて当該操作が行われた一部の遊技機が特定され易くなってしまう可能性を低減することが可能となる。

【６５６４】

特徴αｇ２．動作電力の供給が開始された場合に供給開始時の処理を実行する開始時処

理実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２の処理を実行する機能）を備え、
　前記供給開始時の処理にて第１処理（設定値更新処理、設定値確認処理）が実行される場合と第２処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１３の処理、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１８の処理）が実行される場合とで当該供給開始時の処理が開始されてから完了するまでに要する期間が変動する構成であり、
　前記変動手段は、前記供給開始時の処理が開始されてから完了するまでに要する期間の変動とは別に、動作電力の供給が開始されてから前記所定契機が発生するタイミングを変動させることを特徴とする特徴αｇ１に記載の遊技機。
【６５６５】
　特徴αｇ２によれば、供給開始時の処理にて第１処理が実行される場合と第２処理が実行される場合とで供給開始時の処理が開始されてから完了するまでに要する期間が変動する構成において、変動手段による所定契機の発生タイミングの変動態様が当該期間の影響を受けてしまうことが防止されている。上記特徴αｇ１の構成を備え、動作電力の供給開始後において所定契機が発生したことに基づいて所定演出が開始される。このため、所定演出の開始タイミングに基づいて、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と第２処理が実行された遊技機とが判別され易くなってしまうことを防止することができる。
【６５６６】
　特徴αｇ３．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能）と、
　動作電力の供給が開始される場合に所定設定関連操作（設定値更新処理を実行させるための設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作、又は設定確認用処理を実行させるための設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が行われたことに基づいて前記供給開始時の処理にて前記第１処理として前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、
を備え、
　前記第２処理は、動作電力の供給が開始される場合に前記所定設定関連操作が行われなかったことに基づいて実行されるものであることを特徴とする特徴αｇ２に記載の遊技機。
【６５６７】
　特徴αｇ３によれば、供給開始時の処理では、動作電力の供給が開始される場合に所定設定関連操作が行われたことに基づいて所定の設定関連処理が実行されるとともに、所定設定関連操作が行われなかったことに基づいて第２処理が実行される。上記特徴αｇ２の構成を備えていることにより、供給開始時の処理にて所定の設定関連処理が実行される場合と第２処理が実行される場合とで供給開始時の処理が開始されてから完了するまでに要する期間が変動する構成において、変動手段による所定契機の発生タイミングの変動態様が当該期間の影響を受けてしまうことが防止されている。また、上記特徴αｇ１の構成を備え、動作電力の供給開始後において所定契機が発生したことに基づいて所定演出が開始される。このため、所定演出の開始タイミングに基づいて、供給開始時の処理にて所定の設定関連処理が実行された遊技機が特定され易くなってしまうことを防止することができる。
【６５６８】
　特徴αｇ４．前記所定契機は定期的に発生するものであり、
　前記供給開始時の処理にて前記第１処理が実行される場合及び前記第２処理が実行される場合のいずれであっても前記所定契機が発生する周期に影響を与えないことを特徴とする特徴αｇ２又はαｇ３に記載の遊技機。
【６５６９】

特徴αｇ４によれば、上記特徴αｇ１の構成を備え、動作電力の供給開始後において所定契機が発生したことに基づいて所定演出が開始される。このため、供給開始時の処理にて第１処理が実行される場合と、第２処理が実行される場合とで所定契機の発生周期が変化してしまう構成とすると、所定演出が開始される周期に基づいて供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と、第２処理が実行された遊技機とが判別され易くなってしまうおそれがある。これに対して、供給開始時の処理にて第１処理が実行される場合及び第２処理が実行される場合のいずれであっても所定契機が発生する周期に影響を与えない構成である。これにより、所定演出を定期的に開始させる構成としながら、所定演出が開始される周期に基づいて供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と第２処理が実行された遊技機とが判別され易くなってしまうことを防止することができる。

【６５７０】

特徴αｇ５．前記所定契機は定期的に発生するものであり、

前記変動手段は、前記所定契機が最初に発生するタイミングを変動させるものであり、

前記所定契機の最初の発生タイミング以降における前記所定契機の発生周期は変動しないことを特徴とする特徴αｇ１乃至αｇ４のいずれか１に記載の遊技機。

【６５７１】

特徴αｇ５によれば、上記特徴αｇ１の構成を備え、動作電力の供給開始後において所定契機が発生したことに基づいて所定演出が開始される構成において、所定契機の最初の発生タイミング以降における所定契機の発生周期は変動しない構成であることにより、所定契機の最初の発生タイミング以降において所定演出が開始される周期に基づいて所定契機が最初に発生するタイミングの変動態様が特定されてしまうことを防止することができる。

【６５７２】

また、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給が開始された場合、当該複数の遊技機のうち所定契機の最初の発生タイミングの変動態様が同一となった一部の遊技機について、その後の所定契機の発生タイミングを揃えることができる。また、当該一部の遊技機における所定契機の発生タイミングと、残りの遊技機における所定契機の発生タイミングとがずれている状況が生じる可能性を高めることができる。動作電力の供給開始後において所定契機が発生したことに基づいて所定演出が開始される構成であるため、当該状況が生じた場合には、一部の遊技機において所定演出の開始タイミングを揃えることにより、所定演出に一体感を持たせて、遊技機に対する遊技者の関心を高めることが可能となる。また、当該一部の遊技機とは所定演出の開始タイミングがずれている残りの遊技機に対して遊技者にとって有利な設定が行われたのではないかと推測させて、当該残りの遊技機に対する遊技者の関心を高めることが可能となる。

【６５７３】

特徴αｇ６．前記変動手段は、前記所定契機が最初に発生するタイミングの変動態様を決定するための変動抽選処理を実行する変動抽選手段（第７９の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ２０１～ステップＳＪ２０３の処理を実行する機能、第８０の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ３０１～ステップＳＪ３０３の処理を実行する機能、第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるＳＫ７１６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｇ５に記載の遊技機。

【６５７４】

特徴α６によれば、変動抽選処理の抽選結果に基づいて所定契機が最初に発生するタイミングを変動させる構成であることにより、設計段階で設定された確率で所定契機の最初の発生タイミングの変動態様を生じさせることが可能となる。

【６５７５】

特徴αｇ７．動作電力の供給が停止されている状況において情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給される主制御手段（ＭＰＵ６２）と、

前記変動手段を有しており動作電力の供給が停止されている状況において情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給されない演出制御手段（音光側ＭＰＵ３５２）と、

を備え、
　前記主制御手段は、前記所定契機が最初に発生するタイミングを変動させるための変動用情報（第７９，第８０の実施形態における抽選用乱数情報）を前記演出制御手段に提供することを特徴とする特徴αｇ１乃至αｇ６のいずれか１に記載の遊技機。
【６５７６】
　特徴αｇ７によれば、動作電力の供給が停止されている状況においても主制御手段において変動用情報の記憶保持が行われる構成とすることができる。このため、前回の動作電力の供給停止時に主制御手段に記憶されていた変動用情報を用いて所定契機が最初に発生するタイミングを変動させることが可能となる。
【６５７７】
　特徴αｇ８．前記主制御手段は、
　前記変動用情報が記憶される所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）と、
　動作電力の供給が開始された場合に前記所定記憶手段における初期化対象の記憶領域を初期化する所定初期化処理（第１ＲＡＭクリア処理）を実行する所定初期化手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１７の処理を実行する機能）と、
　前記所定記憶手段において前記所定初期化処理の対象から除外されている所定対象外記憶手段（第７９，第８０の実施形態における送信乱数記憶カウンタ５５６）と、
を備え、
　動作電力の供給が開始された場合に、前記所定記憶手段に記憶されている前記変動用情報は、前記所定初期化処理が実行される前に前記所定対象外記憶手段に記憶されることを特徴とする特徴αｇ７に記載の遊技機。
【６５７８】
　特徴αｇ８によれば、所定初期化処理が実行される前に所定対象外記憶手段に変動用情報を記憶させることにより、動作電力の供給が停止されている状況において所定記憶手段にて記憶保持されていた変動用情報がクリアされてしまうことを回避し、当該変動用情報を演出制御手段に提供することを可能とすることができる。
【６５７９】
　なお、特徴αｇ１～αｇ８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８

、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６５８０】

＜特徴αｈ群＞

特徴αｈ１．動作電力の供給が開始された場合に供給開始時の処理を実行する開始時処理実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１０１～ステップＳＢ１２２の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給開始後に発生する特定契機（第７９，第８０，第８８の実施形態において音光側ＲＡＭクリア処理後におけるデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの更新開始）を基準として定期的に発生する所定契機（第７９，第８０，第８８の実施形態においてデモ開始用タイマカウンタ５５４ａの値が最大値に達すること）が発生したか否かを特定する所定契機特定手段（第７９，第８０，第８８の実施形態における音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＩ７０７及びステップＳＩ７１２の処理を実行する機能）と、

前記供給開始時の処理が完了した後において前記所定契機特定手段により前記所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出（デモ演出）を開始させる所定演出制御手段（第７９，第８０，第８８の実施形態における音光側ＣＰＵ３５３のステップＳＩ７０９の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記供給開始時の処理にて第１処理（設定値更新処理、設定値確認処理）が実行される場合と第２処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１３の処理、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１８の処理）が実行される場合とで当該供給開始時の処理が開始されてから完了するまでに要する期間が変動する構成であり、

本遊技機は、少なくとも前記所定契機が最初に発生するタイミングを変動させる変動手段（第７９の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ２０１～ステップＳＪ２０４の処理を実行する機能、第８０の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ３０１～ステップＳＪ３０４の処理を実行する機能、第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＫ７１６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする遊技機。

【６５８１】

特徴αｈ１によれば、少なくとも所定契機が最初に発生するタイミングを変動させることが可能であり、所定演出は所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて開始される。このため、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給が開始された場合に、所定契機が最初に発生するタイミングの変動態様に応じて、当該複数の遊技機において所定契機の発生タイミングを異なるタイミングとすることができるとともに、所定演出の開始タイミングを異なるタイミングとすることができる。供給開始時の処理にて第１処理が実行される場合と第２処理が実行される場合とで当該供給開始時の処理が開始されてから完了するまでに要する期間が変動する構成において、複数の遊技機において所定契機の発生タイミングがずれている状況を意図的に生じさせることができる。これにより、所定演出の開始タイミングに基づいて、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と第２処理が実行された遊技機とが判別され易くなってしまうことを防止することができる。また、供給開始時の処理が完了した後において所定契機が発生したことに基づいて所定演出が開始されるため、供給開始時の処理が完了する前に所定演出が開始されてしまうことを防止することができる。

【６５８２】

特徴αｈ２．前記供給開始時の処理にて前記第１処理が実行される場合及び前記第２処理が実行される場合のいずれであっても動作電力の供給が開始されてから前記特定契機が発生するまでに要する期間に影響を与えない構成であることを特徴とする特徴αｈ１に記載の遊技機。

【６５８３】

特徴αｈ２によれば、供給開始時の処理にて第１処理が実行される場合と、第２処理が実行される場合とにおいて、動作電力の供給が開始されてから特定契機が発生するまでに要する期間に差が生じてしまうことが防止されている。このため、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給が開始された場合に、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と、第２処理が実行された遊技機とにおける特定契機の発生タイミングを揃えることができる。上記特徴αｈ１の構成を備え、所定契機は特定契機を基準として定期的に発生するものであり、所定演出は供給開始時の処理が完了した後において当該所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて開始される。このため、複数の遊技機における所定契機の発生タイミングの基準を揃えることにより、所定演出の開始タイミングに基づいて供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と第２処理が実行された遊技機とが判別され易くなってしまうことを防止することができる。

【６５８４】

特徴αｈ３．前記供給開始時の処理にて前記第１処理が実行される場合及び前記第２処理が実行される場合のいずれであっても前記所定契機が発生する周期に影響を与えない構成であることを特徴とする特徴αｈ２に記載の遊技機。

【６５８５】

特徴αｈ３によれば、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と、供給開始時の処理において第２処理が実行された遊技機とにおいて、特定契機を基準として所定契機が発生する周期を同一の周期とすることができる。また、上記特徴αｈ１の構成を備え、所定演出は、供給開始時の処理が完了した後において所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて開始される。このため、所定演出が開始される周期に基づいて、供給開始時の処理にて第１処理が実行された遊技機と第２処理が実行された遊技機とが判別され易くなってしまうことを防止することができる。

【６５８６】

特徴αｈ４．遊技者の有利度に対応する複数段階の設定値の中から使用対象となる設定値を設定する設定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１１の処理を実行する機能）と、

動作電力の供給が開始される場合に所定設定関連操作（設定値更新処理を実行させるための設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作及びリセットボタン６８ｃの押圧操作、又は設定確認用処理を実行させるための設定キー挿入部６８ａのＯＮ操作）が行われたことに基づいて前記供給開始時の処理にて前記第１処理として前記設定値に関する所定の設定関連処理を実行する設定関連実行手段（主側ＣＰＵ６３における設定値更新処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３における設定確認用処理を実行する機能）と、

を備え、

前記第２処理は、動作電力の供給が開始される場合に前記所定設定関連操作が行われなかったことに基づいて実行されるものであることを特徴とする特徴αｈ２又はαｈ３に記載の遊技機。

【６５８７】

特徴αｈ４によれば、供給開始時の処理では、動作電力の供給が開始される場合に所定設定関連操作が行われたことに基づいて所定の設定関連処理が実行されるとともに、所定設定関連操作が行われなかったことに基づいて第２処理が実行される。上記特徴αｈ２の構成を備えていることにより、供給開始時の処理にて所定の設定関連処理が実行された場合と、第２処理が実行された場合とで、特定契機の発生タイミングに差が生じてしまうことが防止されている。上記特徴αｈ１の構成を備え、特定契機を基準として定期的に所定契機が発生する構成であるとともに、供給開始時の処理が完了した後において所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される構成である。当該構成において、供給開始時の処理にて所定の設定関連処理が実行された場合と、第２処理が実行された場合とで、特定契機の発生タイミングに差が生じてしまうことを防止することにより、所定演出の開始タイミングに基づいて所定の設定関連処理が実行された遊技機が特定され易くなってしまうことを防止することができる。

【６５８８】
特徴αｈ５．前記開始時処理実行手段を有する主制御手段（ＭＰＵ６２）と、
前記所定契機特定手段及び前記所定演出制御手段を有する演出制御手段（音光側ＭＰＵ３５２）と、
を備え、
前記特定契機は、前記演出制御手段に動作電力の供給が開始された場合に発生することを特徴とする特徴αｈ１乃至αｈ４のいずれか１に記載の遊技機。
【６５８９】
特徴αｈ５によれば、演出制御手段に動作電力の供給が開始された場合に特定契機が発生する構成において、特定契機を基準として定期的に発生する所定契機が発生したか否かを特定する所定契機特定手段が演出制御手段に設けられている。これにより、所定契機特定手段による特定契機の把握が容易化されているとともに、当該特定契機を基準として定期的に発生する所定契機の把握が容易化されている。
【６５９０】
特徴αｈ６．前記主制御手段は、前記供給開始時の処理が終了する場合又は終了した場合に前記演出制御手段に対して所定開始対応情報（通常復帰コマンド、クリア時の復帰コマンド、確認時の復帰コマンド、又は更新時の復帰コマンド）を送信する所定送信手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１３及びＳＢ１１８の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ２０７の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ３１４の処理を実行する機能）を備えており、
前記演出制御手段は、当該所定開始対応情報を受信した場合にそれに対応する情報対応処理を実行する情報対応手段（第７９，第８０の実施形態ではステップＳＪ１０４～ステップＳＪ１１９の処理を実行する機能、第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ５０４～ステップＳＩ５１７の処理を実行する機能）を備えており、
動作電力の供給が開始されてから前記演出制御手段が前記所定開始対応情報を受信するまでに要する期間は、前記所定契機が発生する周期に影響を与えないことを特徴とする特徴αｈ５に記載の遊技機。
【６５９１】
特徴αｈ６によれば、所定契機が発生する周期は、動作電力の供給が開始されてから演出制御手段が所定開始対応情報を受信するまでに要する期間に影響されない。また、上記特徴αｈ１の構成を備え、供給開始時の処理が完了した後において所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される。このため、所定演出が開始される周期に基づいて、動作電力の供給が開始されてから主制御手段が所定開始対応情報を送信するまでに主制御手段において行われた処理の内容が特定され易くなってしまうことを防止することができる。
【６５９２】
特徴αｈ７．前記所定演出よりも優先的に実行される特定演出（遊技回用演出、開閉実行モード用の演出）を実行させる特定演出制御手段（音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＩ６０３～ステップＳＩ６１４の処理を実行する機能）を備え、
前記所定演出制御手段は、前記特定演出が終了した後、前記所定契機特定手段により前記所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて前記所定演出を開始させることを特徴とする特徴αｈ１乃至αｈ６のいずれか１に記載の遊技機。
【６５９３】
特徴αｈ７によれば、特定演出が実行されている状況において所定演出が開始されてしまうことを防止することができる。また、特定演出が終了した後、所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される。このため、複数の遊技機において特定演出の終了タイミングがずれたとしても、当該複数の遊技機において所定契機の発生タイミングが揃っている場合には、特定演出が終了した後における所定演出の開始タイミングを揃えることができる。
【６５９４】

特徴αｈ８．前記変動手段は、前記所定契機が最初に発生するタイミングを変動させるものであり、
前記変動手段による前記所定契機の変動態様は、前記所定契機の最初の発生タイミング以降における前記所定契機の発生周期に影響を与えないことを特徴とする特徴αｈ１乃至α７のいずれか１に記載の遊技機。
【６５９５】
特徴αｈ８によれば、変動手段による所定契機の変動態様は所定契機の最初の発生タイミング以降における所定契機の発生周期に影響を与えない。また上記特徴αｈ１の構成を備え、供給開始時の処理が完了した後において所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される。このため、所定契機の最初の発生タイミング以降において所定演出が開始される周期に基づいて所定契機の変動態様が特定されてしまうことを防止することができる。
【６５９６】
また、複数の遊技機に対して同時に動作電力の供給が開始された場合、当該複数の遊技機のうち所定契機の最初の発生タイミングの変動態様が同一となった一部の遊技機について、その後の所定契機の発生タイミングを揃えることができる。また、当該一部の遊技機における所定契機の発生タイミングと、残りの遊技機における所定契機の発生タイミングとがずれている状況が生じる可能性を高めることができる。供給開始時の処理が完了した後において所定契機が発生していることが特定されたことに基づいて所定演出が開始される構成であるため、当該状況が生じた場合には、一部の遊技機において所定演出の開始タイミングを揃えることにより、所定演出に一体感を持たせて、遊技機に対する遊技者の関心を高めることが可能となる。また、当該一部の遊技機とは所定演出の開始タイミングがずれている残りの遊技機に対して遊技者にとって有利な設定が行われたのではないかと推測させて、当該残りの遊技機に対する遊技者の関心を高めることが可能となる。
【６５９７】
特徴αｈ９．動作電力の供給が停止されている状況において情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給される主制御手段（ＭＰＵ６２）と、
前記変動手段を有しており動作電力の供給が停止されている状況において情報を記憶保持するためのバックアップ電力が供給されない演出制御手段（音光側ＭＰＵ３５２）と、
を備え、
前記主制御手段は、前記所定契機が最初に発生するタイミングを変動させるための変動用情報（第７９，第８０の実施形態における抽選用乱数情報）を前記演出制御手段に提供することを特徴とする特徴αｈ１乃至αｈ８のいずれか１に記載の遊技機。
【６５９８】
特徴αｈ９によれば、動作電力の供給が停止されている状況においても主制御手段において変動用情報の記憶保持が行われる構成とすることができる。このため、前回の動作電力の供給停止時に主制御手段に記憶されていた変動用情報を用いて所定契機が最初に発生するタイミングを変動させることが可能となる。
【６５９９】
特徴αｈ１０．前記主制御手段は、
前記変動用情報が記憶される所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）と、
動作電力の供給が開始された場合に前記所定記憶手段における初期化対象の記憶領域を初期化する所定初期化処理（第１ＲＡＭクリア処理）を実行する所定初期化手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＢ１１７の処理を実行する機能）と、
前記所定記憶手段において前記所定初期化処理の対象から除外されている所定対象外記憶手段（第７９，第８０の実施形態における送信乱数記憶カウンタ５５６）と、
を備え、
動作電力の供給が開始された場合に、前記所定記憶手段に記憶されている前記変動用情報は、前記所定初期化処理が実行される前に前記所定対象外記憶手段に記憶されることを特徴とする特徴αｈ９に記載の遊技機。

【６６００】
特徴αｈ１０によれば、所定初期化処理が実行される前に所定対象外記憶手段に変動用情報を記憶させることにより、動作電力の供給が停止されている状況において所定記憶手段にて記憶保持されていた変動用情報がクリアされてしまうことを回避し、当該変動用情報を演出制御手段に提供することを可能とすることができる。
【６６０１】
特徴αｈ１１．前記変動手段は、前記所定契機が発生するタイミングの変動態様を決定するための変動抽選処理を実行する変動抽選手段（第７９の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ２０１～ステップＳＪ２０３の処理を実行する機能、第８０の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるステップＳＪ３０１～ステップＳＪ３０３の処理を実行する機能、第８８の実施形態では音光側ＣＰＵ３５３におけるＳＫ７１６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｈ１乃至αｈ１０のいずれか１に記載の遊技機。
【６６０２】
特徴αｈ１１によれば、変動抽選処理の抽選結果に基づいて所定契機が発生するタイミングを変動させる構成であることにより、設計段階で設定された確率で所定契機が発生するタイミングの各変動態様を生じさせることが可能となる。
【６６０３】
なお、特徴αｇ１～αｈ１１の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【６６０４】
上記特徴αｅ群、上記特徴αｆ群、上記特徴αｇ群及び上記特徴αｈ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。
【６６０５】
遊技機としてパチンコ機やスロットマシンなどが知られている。例えば、パチンコ機は、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯

留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６６０６】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６６０７】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、演出の実行制御が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６６０８】

＜特徴αｉ群＞

特徴αｉ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２３１）に記憶させる履歴記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３における通常の入球管理処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報（ベース値）を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０１の処理を実行する機能）と、

前記情報導出手段により導出された前記態様情報又は前記態様情報の異常の有無を把握可能とする態様関連情報（第８２の実施形態では代表値データ、第８３の実施形態では加工代表値データ、第８４の実施形態ではベース値異常信号、第８５の実施形態では上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号、第８６の実施形態では上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号、第８７の実施形態では共通ベース値異常信号、上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号）を遊技機の外部に出力する所定情報出力手段（第８２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ４０５の処理を実行する機能、第８３の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ５０７の処理を実行する機能、第８４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ６１１の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ８１０の処理を実行する機能、第８５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ２０２及びステップＳＫ２０５の処理を実行する機能、第８６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ５０２、ステップＳＫ５０５及びステップＳＫ５０８の処理を実行する機能、第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ６０２、ステップＳＫ６０４及びステップＳＫ６０７の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【６６０９】

特徴αｉ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報が導出されるとともに、その導出された態様情報が態様情報記憶手段に記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。

【６６１０】

また、態様情報又は態様関連情報が遊技機からホールコンピュータ等の外部装置に対して外部出力される。このため、当該外部装置において少なくとも態様情報の異常の有無を把握可能とすることができる。これにより、遊技機が設置されている場所まで出向いて態様情報を確認する遊技ホールの管理者の作業を省略可能とすることができる。また、遊技ホールに複数の遊技機が設置されている場合には、外部装置において当該複数の遊技機における態様情報又は態様関連情報を一括して把握可能とすることができる。これにより、当該複数の遊技機について少なくとも態様情報の異常の有無を一括して把握可能とすることができる。よって、所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことを可能としながら、遊技ホールの管理者の監視負担を軽減することができる。

【６６１１】

特徴αｉ２．前記情報導出手段により導出される前記態様情報は２以上の桁数の数値情報であり、

前記所定情報出力手段は、前記態様関連情報を外部出力する構成であり、

前記態様関連情報は、前記態様情報の一部の桁であって所定の桁（小数点第１位の桁）を含む数値に対応する情報であることを特徴とする特徴αｉ１に記載の遊技機。

【６６１２】

特徴αｉ２によれば、態様情報の全体を把握可能とする情報を遊技機の外部に出力する構成と比較して、遊技機の外部に出力される態様関連情報のデータ量を低減することができる。これにより、態様関連情報を遊技機の外部に出力するために当該態様関連情報を記憶する記憶領域のデータ容量を低減することができる。また、態様情報の異常の有無を把握可能とする情報を記憶するための記憶容量が小さく設定されているホールコンピュータ等の外部装置に対しても態様関連情報を外部出力することができる。また、パラレル通信で態様関連情報を外部出力する構成では当該外部出力を行うための信号線の数を減少させることができる。

【６６１３】

特徴αｉ３．前記態様関連情報は、前記態様情報における前記所定の桁の数値自体（第８３の実施形態における２ビット単位の加工代表値データ）又は前記所定の桁の数値に対応する情報（第８３の実施形態における２ビット単位の加工代表値データ）であることを特徴とする特徴αｉ２に記載の遊技機。

【６６１４】

特徴αｉ３によれば、態様情報における所定の桁の数値自体が外部出力される場合には態様情報の異常の有無及び異常の程度を外部装置において把握可能とすることができるとともに、態様情報における所定の桁の数値に対応する情報が外部出力される場合には態様情報の異常の有無を外部装置において把握可能とすることができる。

【６６１５】

特徴αｉ４．前記所定情報出力手段は、前記態様情報が所定数値範囲（第８３の実施形態におけるベース異常範囲（０～０．２９））に含まれる場合には前記態様関連情報として前記態様情報に対応する情報（第８３の実施形態における「０」～「２」の加工代表値データ）を外部出力し、前記態様情報が前記所定数値範囲に含まれない場合には前記態様関連情報として前記態様情報が前記所定数値範囲に含まれないことに対応する情報（第８３の実施形態における「３」の加工代表値データ）を外部出力することを特徴とする特徴αｉ２又はαｉ３に記載の遊技機。

【６６１６】

特徴αｉ４によれば、態様情報が所定数値範囲に含まれる場合には当該態様情報に対応する情報がホールコンピュータ等の外部装置に対して外部出力される。このため、態様情報が所定数値範囲に含まれる場合には態様情報の詳細を把握可能とすることができる。これにより、態様情報の異常の有無だけではなく異常の程度まで把握可能とすることができる。一方、態様情報が所定数値範囲に含まれない場合には当該態様情報が所定数値範囲に含まれないことに対応する情報が外部装置に外部出力される。態様情報が所定数値範囲に含まれない場合にまで態様情報に対応する情報を外部出力する構成とすると、遊技機から

外部装置に外部出力する態様関連情報のデータ量が増加してしまう。これに対して、態様情報が所定数値範囲に含まれない場合には当該態様情報が所定数値範囲に含まれないことに対応する情報を外部出力する構成とすることにより、遊技機から外部装置に外部出力する態様関連情報のデータ量を低減しながら、外部装置において態様情報が所定数値範囲に含まれていないことを把握可能とすることができる。

【６６１７】

特徴αｉ５．前記態様情報が異常であるか否かを判定する異常判定手段（第８４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ６０５及びステップＳＪ６０６の処理を実行する機能、第８５，第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ１０２及びステップＳＫ１０５の処理を実行する機能、第８６の実施形態におけるステップＳＫ４０２、ステップＳＫ４０５及びステップＳＫ４０８の処理を実行する機能）を備え、

前記所定情報出力手段は、前記異常判定手段による判定結果に対応する情報（第８４の実施形態ではベース値異常信号、第８５の実施形態では上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号、第８６の実施形態では上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号、第８７の実施形態では共通ベース値異常信号、上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号）を前記態様関連情報として外部出力することを特徴とする特徴αｉ１乃至αｉ４のいずれか１に記載の遊技機。

【６６１８】

特徴αｉ５によれば、遊技機から態様関連情報を受信するホールコンピュータ等の外部装置に態様情報の正常な範囲を把握可能とする情報を設定することを不要としながら、当該外部装置において態様情報の異常の有無を把握可能とすることができる。

【６６１９】

特徴αｉ６．前記態様情報の所定基準範囲（ベース正常範囲）を把握可能とする基準値情報（第８４～第８５，第８７の実施形態では閾値テーブル５６６、第８６の実施形態では閾値テーブル５７３）が予め記憶されている所定情報記憶手段（主側ＲＯＭ６４）を備え、

前記異常判定手段は、前記基準値情報を利用して前記態様情報が前記所定基準範囲に収まっているか否かを判定し、前記態様情報が前記所定基準範囲に収まっていない場合に前記態様情報が異常であると判定することを特徴とする特徴αｉ５に記載の遊技機。

【６６２０】

特徴αｉ６によれば、所定情報記憶手段に予め記憶されている基準値情報に基づいて態様情報の異常の有無を判定することができる。上記特徴αｉ５の構成を備え、遊技機からホールコンピュータ等の外部装置に対して異常判定手段による判定結果に対応する情報が外部出力される。このため、当該情報を受信する外部装置に態様情報の所定基準範囲を設定することを不要としながら、当該外部装置において態様情報の異常の有無を把握可能とすることができる。

【６６２１】

特徴αｉ７．前記基準値情報には前記所定基準範囲の上限を示す所定閾値（第８４～第８７の実施形態における上側閾値）が設定されており、

前記異常判定手段は、前記態様情報が前記所定閾値を上回っている場合に前記態様情報が異常であると判定することを特徴とする特徴αｉ６に記載の遊技機。

【６６２２】

特徴αｉ７によれば、予め記憶されている基準値情報に基づいて態様情報が所定閾値を上回っている異常状態であるか否かを判定することができる。上記特徴αｉ５の構成を備え、遊技機からホールコンピュータ等の外部装置に対して異常判定手段による判定結果に対応する情報が外部出力される。このため、当該情報を受信する外部装置に態様情報の所定基準範囲を設定することを不要としながら、当該外部装置において態様情報が所定閾値を上回っている異常状態であるか否かを把握可能とすることができる。

【６６２３】

特徴αｉ８．前記基準値情報には前記所定基準範囲の下限を示す特定閾値（第８４～第

８５，第８７の実施形態では下側閾値、第８６の実施形態では下側第１閾値）が設定されており、
前記異常判定手段は、前記態様情報が前記特定閾値を下回っている場合に前記態様情報が異常であると判定することを特徴とする特徴αｉ６又はαｉ７に記載の遊技機。
【６６２４】
特徴αｉ８によれば、予め記憶されている基準値情報に基づいて態様情報が特定閾値を下回っている異常状態であるか否かを判定することができる。上記特徴αｉ５の構成を備え、遊技機からホールコンピュータ等の外部装置に対して異常判定手段による判定結果に対応する情報が外部出力される。このため、当該情報を受信する外部装置に態様情報の所定基準範囲を設定することを不要としながら、当該外部装置において態様情報が特定閾値を下回っている異常状態であるか否かを把握可能とすることができる。
【６６２５】
特徴αｉ９．前記基準値情報には、前記所定基準範囲の上限を示す所定閾値（第８５～第８７の実施形態における上側閾値）と、前記所定基準範囲の下限を示す特定閾値（第８５，第８７の実施形態では下側閾値、第８６の実施形態では下側第１閾値）と、が設定されており、
前記所定情報出力手段は、
前記異常判定手段により前記態様情報が前記所定閾値を上回っていると判定された場合に、前記態様関連情報として前記態様情報が前記所定閾値を上回っていることを示す第１所定異常情報（上側ベース値異常信号）を外部出力する第１異常情報出力手段（第８５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ２０２の処理を実行する機能、第８６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０２の処理を実行する機能、第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ６０４の処理を実行する機能）と、
前記異常判定手段により前記態様情報が前記特定閾値を下回っていると判定された場合に、前記態様関連情報として前記態様情報が前記特定閾値を下回っていることを示す第２所定異常情報（第８５，第８７の実施形態では下側ベース値異常信号、第８６の実施形態では下側第１ベース値異常信号）を前記第１所定異常情報とは識別可能な態様で外部出力する第２異常情報出力手段（第８５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ２０５の処理を実行する機能、第８６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ５０５の処理を実行する機能、第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ６０７の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴αｉ６乃至αｉ８のいずれか１に記載の遊技機。
【６６２６】
特徴αｉ９によれば、遊技機から態様関連情報を受信するホールコンピュータ等の外部装置において、態様情報が所定閾値を上回っている異常状態であること、及び態様情報が特定閾値を下回っている異常状態であることを識別可能な態様で把握可能とすることができる。これにより、外部装置において所定基準範囲に対する態様情報の状態を詳細に把握可能とすることができる。また、態様情報の状態に応じた対応を遊技ホールの管理者に促すことができる。
【６６２７】
特徴αｉ１０．前記基準値情報には、前記所定基準範囲の上限を示す所定閾値（第８６の実施形態における上側閾値）と、前記所定基準範囲の下限を示す特定閾値（第８６の実施形態における下側第１閾値）と、前記特定閾値よりも小さい特別閾値（第８６の実施形態における下側第２閾値）と、が設定されており、
前記所定情報出力手段は、前記異常判定手段により前記態様情報が前記特別閾値を下回っていると判定された場合に、前記態様関連情報として前記態様情報が前記特別閾値を下回っていることを示す第３所定異常情報（第８６の実施形態における下側第２ベース値異常信号）を出力する第３異常情報出力手段（第８６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＫ５０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｉ６乃至αｉ９のいずれか１に記載の遊技機。

【６６２８】
特徴αｉ１０によれば、遊技機から態様関連情報を受信するホールコンピュータ等の外部装置において、態様情報が特別閾値を下回っている異常状態であることを把握可能とすることができる。これにより、当該外部装置において、態様情報が所定基準範囲の下限を大きく下回っている状態であることを把握可能とし、遊技ホールの管理者に迅速な対応を促すことができる。
【６６２９】
特徴αｉ１１．前記基準値情報には、前記所定基準範囲の上限を示す所定閾値（第８７の実施形態における上側閾値）と、前記所定基準範囲の下限を示す特定閾値（第８７の実施形態における下側閾値）と、が設定されており、
前記所定情報出力手段は、
前記異常判定手段により前記態様情報が前記所定閾値を上回っていると判定された場合に、前記態様関連情報として前記態様情報が前記所定閾値を上回っていることを示す第１所定異常情報（上側ベース値異常信号）を外部出力する第１異常情報出力手段（第８７の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＫ６０４の処理を実行する機能）と、
前記異常判定手段により前記態様情報が前記特定閾値を下回っていると判定された場合に、前記態様関連情報として前記態様情報が前記特定閾値を下回っていることを示す第２所定異常情報（下側ベース値異常信号）を前記第１所定異常情報とは識別可能な態様で外部出力する第２異常情報出力手段（第８７の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＫ６０７の処理を実行する機能）と、
前記異常判定手段により前記態様情報が前記所定閾値を上回っていると判定された場合、及び前記異常判定手段により前記態様情報が前記特定閾値を下回っていると判定された場合の両方の場合に共通して、前記態様関連情報として前記態様情報が前記所定基準範囲に収まっていないことを示す共通所定異常情報（共通ベース値異常信号）を外部出力する共通異常情報出力手段（第８７の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＫ６０２の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴αｉ６乃至αｉ１０のいずれか１に記載の遊技機。
【６６３０】
特徴αｉ１１によれば、遊技機とホールコンピュータ等の外部装置との接続態様として、当該外部装置に共通所定異常情報のみを受信させる接続態様と、第１所定異常情報及び第２所定異常情報を受信させる接続態様とを選択可能とすることができる。外部装置に共通所定異常情報のみを受信させる接続態様が選択された場合には態様情報が所定基準範囲に収まっていないことを把握可能とすることができる。また、外部装置に第１所定異常情報及び第２所定異常情報を受信させる接続態様が選択された場合には態様情報が所定閾値を上回っている状態と、態様情報が特定閾値を下回っている状態とを識別可能な態様で把握可能とすることができる。
【６６３１】
特徴αｉ１２．前記情報導出手段により導出された直近の前記態様情報を記憶する直近記憶領域（現状エリア３１１）と、
当該直近記憶領域に記憶された前記態様情報よりも前に前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する過去記憶領域（第１～第３履歴エリア３１２～３１４）と、
を備え、
前記異常判定手段は、所定判定契機が発生したことに基づいて前記過去記憶領域に記憶されている前記態様情報が異常であるか否かを判定する過去異常判定手段（第８４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ８０１～ステップＳＪ８０９の処理を実行する機能、第８５～第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ３０１～ステップＳＫ３０７の処理を実行する機能）を備えており、
前記所定情報出力手段は、前記過去異常判定手段による判定結果に対応する情報（第８４の実施形態ではベース値異常信号、第８５の実施形態では上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号、第８６の実施形態では上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異

常信号及び下側第２ベース値異常信号、第８７の実施形態では共通ベース値異常信号、上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号）を前記態様関連情報として遊技機の外部に出力する過去異常情報出力手段（第８４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ８１０の処理を実行する機能、第８５～第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ３０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｉ５乃至αｉ１１のいずれか１に記載の遊技機。

【６６３２】

特徴αｉ１２によれば、直近の態様情報とそれよりも前に導出された過去の態様情報とのそれぞれが記憶されるため、所定事象の発生頻度について直近のものだけではなく過去のものも把握することが可能となる。また、過去記憶領域に記憶されている態様情報が異常であるか否かの判定結果に対応する情報がホールコンピュータ等の外部装置に外部出力されるため、過去に態様情報の異常が発生していたことを把握可能とすることができる。これにより、態様情報の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができる。

【６６３３】

特徴αｉ１３．前記所定判定契機は、動作電力の供給が開始されることであることを特徴とする特徴αｉ１２に記載の遊技機。

【６６３４】

特徴αｉ１３によれば、動作電力の供給開始時に所定異常情報が遊技機の外部に出力されるか否かを確認することにより、過去に態様情報の異常が発生していたか否かを把握することができる。これにより、態様情報の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができる。

【６６３５】

特徴αｉ１４．前記所定情報出力手段は、定期的に発生する出力契機（特定制御用のワークエリア２２１におけるベース値用タイマカウンタの値が「０」となること）が発生したことに基づいて前記態様情報又は前記態様関連情報を遊技機の外部に出力することを特徴とする特徴αｉ１乃至αｉ１３のいずれか１に記載の遊技機。

【６６３６】

特徴αｉ１４によれば、遊技機からホールコンピュータ等の外部装置に対して態様情報又は態様関連情報が外部出力される頻度を抑えながら、当該外部装置において定期的に態様情報の異常の有無を把握可能とすることができる。また、態様情報の異常が発生した場合に、当該態様情報の異常を把握可能とする外部出力が短期間に連続して行われてしまうことを防止することができる。

【６６３７】

特徴αｉ１５．前記所定情報出力手段は、前記履歴記憶手段に記憶されている前記遊技の履歴情報に基づいて把握される前記所定事象の発生回数が所定基準回数（初期基準個数）以上であることを少なくとも１つの条件として前記態様関連情報を遊技機の外部に出力することを特徴とする特徴αｉ１乃至αｉ１４のいずれか１に記載の遊技機。

【６６３８】

特徴αｉ１５によれば、態様情報の導出に利用される所定事象の発生回数が所定基準回数に満たない段階で導出された不安定な態様情報に基づく態様関連情報が遊技機の外部に出力されてしまうことを防止することができる。これにより、ホールコンピュータ等の外部装置が当該不安定な態様情報に基づいて生成された態様関連情報を受信したことに基づいて、遊技ホールの管理者が本来不要な対応をしてしまうことを防止することができる。

【６６３９】

なお、特徴αｉ１～αｉ１５の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１

０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６６４０】

＜特徴αｊ群＞

特徴αｊ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２３１）に記憶させる履歴記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３における通常の入球管理処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報（ベース値）を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０１の処理を実行する機能）と、

前記態様情報が異常であるか否かを判定する異常判定手段（第８４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ６０５及びステップＳＪ６０６の処理を実行する機能、第８５，第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ１０２及びステップＳＫ１０５の処理を実行する機能、第８６の実施形態におけるステップＳＫ４０２、ステップＳＫ４０５及びステップＳＫ４０８の処理を実行する機能）と、

前記異常判定手段により前記態様情報が異常であると判定されたことに基づいて特別処理を実行する特別処理実行手段（第８４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ６１１の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ８１０の処理を実行する機能、第８５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ２０２及びステップＳＫ２０５の処理を実行する機能、第８６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ５０２、ステップＳＫ５０５及びステップＳＫ５０８の処理を実行する機能、第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ６０２、ステップＳＫ６０４及びステップＳＫ６０７の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【６６４１】

特徴αｊ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報が導出されるとともに、その導出された態様情報が態様情報記憶手段に記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。

また、態様情報が異常であると判定された場合には特別処理が実行される。このため、特別処理が実行されたか否かを確認することにより態様情報の異常の有無を把握することを可能とすることができる。

【６６４２】

特徴αｊ２．前記特別処理実行手段は、前記特別処理として前記異常判定手段による判定の結果に対応する判定結果対応情報（第８４の実施形態ではベース値異常信号、第８５の実施形態では上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号、第８６の実施形態では上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号、第８７の実施形態では共通ベース値異常信号、上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号）を遊技機の外部に出力するための処理を実行することを特徴とする特徴αｊ１に記載の遊技機。

【６６４３】

特徴αｊ２によれば、態様情報が異常であるか否かの判定結果に対応する判定結果対応情報がホールコンピュータ等の外部装置に対して外部出力される。このため、当該外部装置において態様情報の異常の有無を把握可能とすることができる。これにより、遊技機が設置されている場所まで出向いて態様情報を確認する遊技ホールの管理者の作業を省略可能とすることができる。また、遊技ホールに複数の遊技機が設置されている場合には、外部装置において当該複数の遊技機における態様情報の異常の有無を一括して把握可能とすることができる。これにより、所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことを可能としながら、遊技ホールの管理者の監視負担を軽減することができる。

【６６４４】

特徴αｊ３．前記態様情報の所定基準範囲（ベース正常範囲）を把握可能とする基準値情報（第８４～第８５，第８７の実施形態では閾値テーブル５６６、第８６の実施形態では閾値テーブル５７３）が予め記憶されている所定情報記憶手段（主側ＲＯＭ６４）を備え、

前記異常判定手段は、前記基準値情報を利用して前記態様情報が前記所定基準範囲に収まっているか否かを判定し、前記態様情報が前記所定基準範囲に収まっていない場合に前記態様情報が異常であると判定することを特徴とする特徴αｊ１又はαｊ２に記載の遊技機。

【６６４５】

特徴αｊ３によれば、所定情報記憶手段に予め記憶されている基準値情報に基づいて態様情報の異常の有無を判定することができる。上記特徴αｊ１の構成を備え、態様情報が異常であると判定された場合に特別処理が実行されるため、特別処理が実行されたことに基づいて態様情報の異常を把握することを可能とすることができる。

【６６４６】

特徴αｊ４．前記基準値情報には前記所定基準範囲の上限を示す所定閾値（第８４～第８７の実施形態における上側閾値）が設定されており、

前記異常判定手段は、前記態様情報が前記所定閾値を上回っている場合に前記態様情報が異常であると判定することを特徴とする特徴αｊ３に記載の遊技機。

【６６４７】

特徴αｊ４によれば、予め記憶されている基準値情報に基づいて態様情報が所定閾値を上回っている異常状態であるか否かを判定することができる。上記特徴αｊ１の構成を備え、態様情報が異常であると判定された場合に特別処理が実行されるため、特別処理が実行されたことに基づいて態様情報が所定閾値を上回っている異常状態であることを把握可能とすることができる。

【６６４８】

特徴αｊ５．前記基準値情報には前記所定基準範囲の下限を示す特定閾値（第８４～第８５，第８７の実施形態では下側閾値、第８６の実施形態では下側第１閾値）が設定されており、

前記異常判定手段は、前記態様情報が前記特定閾値を下回っている場合に前記態様情報

が異常であると判定することを特徴とする特徴αｊ３又はαｊ４に記載の遊技機。
【６６４９】
特徴αｊ５によれば、予め記憶されている基準値情報に基づいて態様情報が特定閾値を下回っている異常状態であるか否かを判定することができる。上記特徴αｊ１の構成を備え、態様情報が異常であると判定された場合に特別処理が実行されるため、特別処理が実行されたことに基づいて態様情報が特定閾値を下回っている異常状態であることを把握可能とすることができる。
【６６５０】
特徴αｊ６．前記基準値情報には、前記所定基準範囲の上限を示す所定閾値（第８５～第８７の実施形態における上側閾値）と、前記所定基準範囲の下限を示す特定閾値（第８５，第８７の実施形態では下側閾値、第８６の実施形態では下側第１閾値）と、が設定されており、
前記特別処理実行手段は、
前記異常判定手段により前記態様情報が前記所定閾値を上回っていると判定された場合に、前記特別処理として前記態様情報が前記所定閾値を上回っていることを示す第１所定異常情報（上側ベース値異常信号）を遊技機の外部に出力するための処理を実行する第１異常情報出力手段（第８５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ２０２の処理を実行する機能、第８６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０２の処理を実行する機能、第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ６０４の処理を実行する機能）と、
前記異常判定手段により前記態様情報が前記特定閾値を下回っていると判定された場合に、前記特別処理として前記態様情報が前記特定閾値を下回っていることを示す第２所定異常情報（第８５，第８７の実施形態では下側ベース値異常信号、第８６の実施形態では下側第１ベース値異常信号）を前記第１所定異常情報とは識別可能な態様で遊技機の外部に出力するための処理を実行する第２異常情報出力手段（第８５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ２０５の処理を実行する機能、第８６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ５０５の処理を実行する機能、第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ６０７の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴αｊ３乃至αｊ５のいずれか１に記載の遊技機。
【６６５１】
特徴αｊ６によれば、ホールコンピュータ等の外部装置が遊技機から第１所定異常情報を受信した場合に態様情報が所定閾値を上回っている異常状態であることを把握可能とすることができるとともに、当該外部装置が遊技機から第２所定異常情報を受信した場合に態様情報が特定閾値を下回っている異常状態であることを把握可能とすることができる。第１所定異常情報及び第２所定異常情報が識別可能な態様で外部出力されるため、外部装置において所定基準範囲に対する態様情報の状態に応じた対応を遊技ホールの管理者に促すことができる。
【６６５２】
特徴αｊ７．前記基準値情報には、前記所定基準範囲の上限を示す所定閾値（第８６の実施形態における上側閾値）と、前記所定基準範囲の下限を示す特定閾値（第８６の実施形態における下側第１閾値）と、前記特定閾値よりも小さい特別閾値（第８６の実施形態における下側第２閾値）と、が設定されており、
前記特別処理実行手段は、前記異常判定手段により前記態様情報が前記特別閾値を下回っていると判定された場合に、前記特別処理として前記態様情報が前記特別閾値を下回っていることを示す第３所定異常情報（第８６の実施形態における下側第２ベース値異常信号）を遊技機の外部に出力するための処理を実行する第３異常情報出力手段（第８６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＫ５０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｊ３乃至αｊ６のいずれか１に記載の遊技機。
【６６５３】
特徴αｊ７によれば、ホールコンピュータ等の外部装置が遊技機から第３所定異常情報

を受信した場合に態様情報が所定基準範囲の下限を大きく下回っている状態であることを把握可能として、遊技ホールの管理者に迅速な対応を促すことができる。

【６６５４】

特徴αｊ８．前記基準値情報には、前記所定基準範囲の上限を示す所定閾値（第８７の実施形態における上側閾値）と、前記所定基準範囲の下限を示す特定閾値（第８７の実施形態における下側閾値）と、が設定されており、

前記特別処理実行手段は、

前記異常判定手段により前記態様情報が前記所定閾値を上回っていると判定された場合に、前記特別処理として前記態様情報が前記所定閾値を上回っていることを示す第１所定異常情報（上側ベース値異常信号）を遊技機の外部に出力するための処理を実行する第１異常情報出力手段（第８７の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＫ６０４の処理を実行する機能）と、

前記異常判定手段により前記態様情報が前記特定閾値を下回っていると判定された場合に、前記特別処理として前記態様情報が前記特定閾値を下回っていることを示す第２所定異常情報（第８７の実施形態における下側ベース値異常信号）を前記第１所定異常情報とは識別可能な態様で遊技機の外部に出力するための処理を実行する第２異常情報出力手段（第８７の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＫ６０７の処理を実行する機能）と、

前記異常判定手段により前記態様情報が前記所定閾値を上回っていると判定された場合、及び前記異常判定手段により前記態様情報が前記特定閾値を下回っていると判定された場合の両方の場合に共通して、前記特別処理として前記態様情報が前記所定基準範囲に収まっていないことを示す共通所定異常情報（共通ベース値異常信号）を遊技機の外部に出力するための処理を実行する共通異常情報出力手段（第８７の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＫ６０２の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴αｊ３乃至αｊ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６６５５】

特徴αｊ８によれば、遊技機とホールコンピュータ等の外部装置との接続態様として、当該外部装置に共通所定異常情報のみを受信させる接続態様と、第１所定異常情報及び第２所定異常情報を受信させる接続態様とを選択可能とすることができる。外部装置に共通所定異常情報のみを受信させる接続態様が選択された場合には態様情報が所定基準範囲に収まっていないことを把握可能とすることができる。また、外部装置に第１所定異常情報及び第２所定異常情報を受信させる接続態様が選択された場合には態様情報が所定閾値を上回っている状態と、態様情報が特定閾値を下回っている状態とを識別可能な態様で把握可能とすることができる。

【６６５６】

特徴αｊ９．前記情報導出手段により導出された直近の前記態様情報を記憶する直近記憶領域（現状エリア３１１）と、

当該直近記憶領域に記憶された前記態様情報よりも前に前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する過去記憶領域（第１～第３履歴エリア３１２～３１４）と、

を備え、

前記異常判定手段は、所定判定契機が発生したことに基づいて前記過去記憶領域に記憶されている前記態様情報が異常であるか否かを判定する過去異常判定手段（第８４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ８０１～ステップＳＪ８０９の処理を実行する機能、第８５～第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ３０１～ステップＳＫ３０７の処理を実行する機能）を備えており、

前記特別処理実行手段は、前記特別処理として前記過去異常判定手段による判定結果に対応する情報（第８４の実施形態ではベース値異常信号、第８５の実施形態では上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号、第８６の実施形態では上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号、第８７の実施形態では共通ベース値異常信号、上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号）を遊技機の外部に出

力するための処理を実行する過去異常情報出力手段（第８４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ８１０の処理を実行する機能、第８５～第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ３０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｊ１乃至αｊ８のいずれか１に記載の遊技機。

【６６５７】

特徴αｊ９によれば、直近の態様情報とそれよりも前に導出された過去の態様情報とのそれぞれが記憶されるため、所定事象の発生頻度について直近のものだけではなく過去のものも把握することが可能となる。また、過去記憶領域に記憶されている態様情報が異常であるか否かの判定結果に対応する情報がホールコンピュータ等の外部装置に外部出力されるため、過去に態様情報の異常が発生していたことを把握可能とすることができる。これにより、態様情報の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができる。

【６６５８】

特徴αｊ１０．前記所定判定契機は、動作電力の供給が開始されることであることを特徴とする特徴αｊ９に記載の遊技機。

【６６５９】

特徴αｊ１０によれば、動作電力の供給開始時に所定異常情報が遊技機の外部に出力されるか否かを確認することにより、過去に態様情報の異常が発生していたか否かを把握することができる。これにより、態様情報の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができる。

【６６６０】

特徴αｊ１１．前記特別処理実行手段は、定期的に発生する出力契機（特定制御用のワークエリア２２１におけるベース値用タイマカウンタの値が「０」となること）が発生したことに基づいて前記特別処理を実行することを特徴とする特徴αｊ１乃至αｊ１０のいずれか１に記載の遊技機。

【６６６１】

特徴αｊ１１によれば、特別処理が実行される頻度を抑えながら、異常判定手段により態様情報が異常であると判定された場合に定期的に特別処理を実行することができる。このため、特別処理が実行されたことを確認することにより異常判定手段により態様情報が異常であると判定されたことを定期的に把握可能とすることができる。また、異常判定手段により態様情報が異常であると判定された場合に、特別処理が短期間に連続して行われてしまうことを防止することができる。

【６６６２】

特徴αｊ１２．前記特別処理実行手段は、前記履歴記憶手段に記憶されている前記遊技の履歴情報に基づいて把握される前記所定事象の発生回数が所定基準回数（初期基準個数）以上であることを少なくとも１つの条件として前記特別処理を実行することを特徴とする特徴αｊ１乃至αｊ１１のいずれか１に記載の遊技機。

【６６６３】

特徴αｊ１２によれば、態様情報の導出に利用される所定事象の発生回数が所定基準回数に満たない段階で導出された不安定な態様情報に基づいて異常判定手段による判定が行われ、当該判定において態様情報が異常であると判定された場合に特別処理が実行されてしまうことを防止することができる。これにより、当該不安定な態様情報に基づいて特別処理が行われて遊技ホールの管理者が本来不要な対応をしてしまうことを防止することができる。

【６６６４】

なお、特徴αｊ１～αｊ１２の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１

０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６６６５】

＜特徴αｋ群＞

特徴αｋ１．遊技が実行されることにより所定事象が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２３１）に記憶させる履歴記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３における通常の入球管理処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報（ベース値）を導出する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ８６０１の処理を実行する機能）と、

前記態様情報の所定基準範囲（ベース正常範囲）を把握可能とする基準値情報（第８４～第８５，第８７の実施形態では閾値テーブル５６６、第８６の実施形態では閾値テーブル５７３）が予め記憶されている所定情報記憶手段（主側ＲＯＭ６４）と、

前記基準値情報を利用して前記態様情報が前記所定基準範囲に収まっているか否かを判定し、前記態様情報が前記所定基準範囲に収まっていない場合に前記態様情報が異常であると判定する異常判定手段（第８４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ６０５及びステップＳＪ６０６の処理を実行する機能、第８５，第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ１０２及びステップＳＫ１０５の処理を実行する機能、第８６の実施形態におけるステップＳＫ４０２、ステップＳＫ４０５及びステップＳＫ４０８の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【６６６６】

特徴αｋ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報が導出されるとともに、その導出された態様情報が態様情報記憶手段に記憶される。これにより、所定事象の発生回数又は発生頻度を管理するための情報を遊技機にて記憶保持することが可能となり、この管理されている情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。また、基準値情報が所定情報記憶手段に予め記憶されている。このため、遊技機において当該基準値情報に基づいて態様情報の異常の有無を判定することができる。

【６６６７】

特徴αｋ２．前記基準値情報には前記所定基準範囲の上限を示す所定閾値（第８４～第８７の実施形態における上側閾値）が設定されており、
前記異常判定手段は、前記態様情報が前記所定閾値を上回っている場合に前記態様情報が異常であると判定することを特徴とする特徴αｋ１に記載の遊技機。
【６６６８】
特徴αｋ２によれば、予め記憶されている基準値情報に基づいて態様情報が所定閾値を上回っている異常状態であるか否かを判定することができる。
【６６６９】
特徴αｋ３．前記基準値情報には前記所定基準範囲の下限を示す特定閾値（第８４～第８５，第８７の実施形態では下側閾値、第８６の実施形態では下側第１閾値）が設定されており、
前記異常判定手段は、前記態様情報が前記特定閾値を下回っている場合に前記態様情報が異常であると判定することを特徴とする特徴αｋ１又はαｋ２に記載の遊技機。
【６６７０】
特徴αｋ３によれば、予め記憶されている基準値情報に基づいて態様情報が特定閾値を下回っている異常状態であるか否かを判定することができる。
【６６７１】
特徴αｋ４．前記異常判定手段による判定の結果に対応する判定結果対応情報（第８４の実施形態ではベース値異常信号、第８５の実施形態では上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号、第８６の実施形態では上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号、第８７の実施形態では共通ベース値異常信号、上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号）を遊技機の外部に出力する所定情報出力手段（第８４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ６１１の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ８１０の処理を実行する機能、第８５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ２０２及びステップＳＫ２０５の処理を実行する機能、第８６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ５０２、ステップＳＫ５０５及びステップＳＫ５０８の処理を実行する機能、第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ６０２、ステップＳＫ６０４及びステップＳＫ６０７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｋ１乃至αｋ３のいずれか１に記載の遊技機。
【６６７２】
特徴αｋ４によれば、態様情報が異常であるか否かの判定結果に対応する判定結果対応情報がホールコンピュータ等の外部装置に対して外部出力される。このため、当該外部装置において態様情報の異常の有無を把握可能とすることができる。これにより、遊技機が設置されている場所まで出向いて態様情報を確認する遊技ホールの管理者の作業を省略可能とすることができる。上記特徴αｋ１の構成を備え、所定情報記憶手段に予め記憶されている基準値情報に基づいて遊技機において態様情報の異常の有無が判定される。これにより、外部装置に態様情報の所定基準情報を設定することを不要としながら、外部装置において態様情報の異常の有無を把握可能とすることができる。また、遊技ホールに複数の遊技機が設置されている場合には、外部装置において当該複数の遊技機における態様情報の異常の有無を一括して把握可能とすることができる。これにより、所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことを可能としながら、遊技ホールの管理者の監視負担を軽減することができる。また、態様情報自体を外部出力する構成と比較して、態様情報の異常の有無を把握可能とするために外部出力する情報のデータ量を低減することができる。
【６６７３】
特徴αｋ５．前記基準値情報には、前記所定基準範囲の上限を示す所定閾値（第８５～第８７の実施形態における上側閾値）と、前記所定基準範囲の下限を示す特定閾値（第８５，第８７の実施形態では下側閾値、第８６の実施形態では下側第１閾値）と、が設定されており、
前記所定情報出力手段は、

前記異常判定手段により前記態様情報が前記所定閾値を上回っていると判定された場合に、前記判定結果対応情報として前記態様情報が前記所定閾値を上回っていることを示す第１所定異常情報（上側ベース値異常信号）を遊技機の外部に出力する第１異常情報出力手段（第８５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ２０２の処理を実行する機能、第８６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ５０２の処理を実行する機能、第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ６０４の処理を実行する機能）と、

前記異常判定手段により前記態様情報が前記特定閾値を下回っていると判定された場合に、前記判定結果対応情報として前記態様情報が前記特定閾値を下回っていることを示す第２所定異常情報（第８５，第８７の実施形態では下側ベース値異常信号、第８６の実施形態では下側第１ベース値異常信号）を前記第１所定異常情報とは識別可能な態様で遊技機の外部に出力する第２異常情報出力手段（第８５の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ２０５の処理を実行する機能、第８６の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ５０５の処理を実行する機能、第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ６０７の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴αｋ４に記載の遊技機。

【６６７４】

特徴αｋ５によれば、ホールコンピュータ等の外部装置が遊技機から第１所定異常情報を受信した場合に態様情報が所定閾値を上回っている異常状態であることを把握可能とすることができるとともに、当該外部装置が遊技機から第２所定異常情報を受信した場合に態様情報が特定閾値を下回っている異常状態であることを把握可能とすることができる。第１所定異常情報及び第２所定異常情報が識別可能な態様で外部出力されるため、外部装置において所定基準範囲に対する態様情報の状態に応じた対応を遊技ホールの管理者に促すことができる。

【６６７５】

特徴αｋ６．前記基準値情報には、前記所定基準範囲の上限を示す所定閾値（第８６の実施形態における上側閾値）と、前記所定基準範囲の下限を示す特定閾値（第８６の実施形態における下側第１閾値）と、前記特定閾値よりも小さい特別閾値（第８６の実施形態における下側第２閾値）と、が設定されており、

前記所定情報出力手段は、前記異常判定手段により前記態様情報が前記特別閾値を下回っていると判定された場合に、前記判定結果対応情報として前記態様情報が前記特別閾値を下回っていることを示す第３所定異常情報（第８６の実施形態における下側第２ベース値異常信号）を遊技機の外部に出力する第３異常情報出力手段（第８６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＫ５０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｋ４又はαｋ５に記載の遊技機。

【６６７６】

特徴αｋ６によれば、ホールコンピュータ等の外部装置が遊技機から第３所定異常情報を受信した場合に態様情報が所定基準範囲の下限を大きく下回っている状態であることを把握可能として、遊技ホールの管理者に迅速な対応を促すことができる。

【６６７７】

特徴αｋ７．前記基準値情報には、前記所定基準範囲の上限を示す所定閾値（第８７の実施形態における上側閾値）と、前記所定基準範囲の下限を示す特定閾値（第８７の実施形態における下側閾値）と、が設定されており、

前記所定情報出力手段は、

前記異常判定手段により前記態様情報が前記所定閾値を上回っていると判定された場合に、前記判定結果対応情報として前記態様情報が前記所定閾値を上回っていることを示す第１所定異常情報（上側ベース値異常信号）を遊技機の外部に出力する第１異常情報出力手段（第８７の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＫ６０４の処理を実行する機能）と、

前記異常判定手段により前記態様情報が前記特定閾値を下回っていると判定された場合

に、前記判定結果対応情報として前記態様情報が前記特定閾値を下回っていることを示す第２所定異常情報（第８７の実施形態における下側ベース値異常信号）を前記第１所定異常情報とは識別可能な態様で遊技機の外部に出力する第２異常情報出力手段（第８７の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＫ６０７の処理を実行する機能）と、
前記異常判定手段により前記態様情報が前記所定閾値を上回っていると判定された場合、及び前記異常判定手段により前記態様情報が前記特定閾値を下回っていると判定された場合の両方の場合に共通して、前記判定結果対応情報として前記態様情報が前記所定基準範囲に収まっていないことを示す共通所定異常情報（共通ベース値異常信号）を遊技機の外部に出力する共通異常情報出力手段（第８７の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＫ６０２の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする特徴αｋ４乃至αｋ６のいずれか１に記載の遊技機。

【６６７８】

特徴αｋ７によれば、遊技機とホールコンピュータ等の外部装置との接続態様として、当該外部装置に共通所定異常情報のみを受信させる接続態様と、第１所定異常情報及び第２所定異常情報を受信させる接続態様とを選択可能とすることができる。外部装置に共通所定異常情報のみを受信させる接続態様が選択された場合には態様情報が所定基準範囲に収まっていないことを把握可能とすることができる。また、外部装置に第１所定異常情報及び第２所定異常情報を受信させる接続態様が選択された場合には態様情報が所定閾値を上回っている状態と、態様情報が特定閾値を下回っている状態とを識別可能な態様で把握可能とすることができる。

【６６７９】

特徴αｋ８．前記情報導出手段により導出された直近の前記態様情報を記憶する直近記憶領域（現状エリア３１１）と、
当該直近記憶領域に記憶された前記態様情報よりも前に前記情報導出手段により導出された前記態様情報を記憶する過去記憶領域（第１～第３履歴エリア３１２～３１４）と、
を備え、
前記異常判定手段は、所定判定契機が発生したことに基づいて前記過去記憶領域に記憶されている前記態様情報が異常であるか否かを判定する過去異常判定手段（第８４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ８０１～ステップＳＪ８０９の処理を実行する機能、第８５～第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ３０１～ステップＳＫ３０７の処理を実行する機能）を備えており、
前記所定情報出力手段は、前記判定結果対応情報として前記過去異常判定手段による判定結果に対応する情報（第８４の実施形態ではベース値異常信号、第８５の実施形態では上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号、第８６の実施形態では上側ベース値異常信号、下側第１ベース値異常信号及び下側第２ベース値異常信号、第８７の実施形態では共通ベース値異常信号、上側ベース値異常信号及び下側ベース値異常信号）を遊技機の外部に出力する過去異常情報出力手段（第８４の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＪ８１０の処理を実行する機能、第８５～第８７の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＫ３０８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｋ４乃至αｋ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６６８０】

特徴αｋ８によれば、直近の態様情報とそれよりも前に導出された過去の態様情報とのそれぞれが記憶されるため、所定事象の発生頻度について直近のものだけではなく過去のものも把握することが可能となる。また、過去記憶領域に記憶されている態様情報が異常であるか否かの判定結果に対応する情報がホールコンピュータ等の外部装置に外部出力されるため、過去に態様情報の異常が発生していたことを把握可能とすることができる。これにより、態様情報の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができる。

【６６８１】

特徴αｋ９．前記所定判定契機は、動作電力の供給が開始されることであることを特徴とする特徴αｋ８に記載の遊技機。

【６６８２】
特徴αｋ９によれば、動作電力の供給開始時に所定異常情報が遊技機の外部に出力されるか否かを確認することにより、過去に態様情報の異常が発生していたか否かを把握することができる。これにより、態様情報の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができる。
【６６８３】
特徴αｋ１０．前記所定情報出力手段は、定期的に発生する出力契機（特定制御用のワークエリア２２１におけるベース値用タイマカウンタの値が「０」となること）が発生したことに基づいて前記判定結果対応情報を遊技機の外部に出力することを特徴とする特徴αｋ４乃至αｋ９のいずれか１に記載の遊技機。
【６６８４】
特徴αｋ１０によれば、判定結果対応情報が遊技機の外部に出力される頻度を抑えながら、異常判定手段により態様情報が異常であると判定された場合に定期的に判定結果対応情報を遊技機の外部に出力することができる。このため、遊技機から判定結果対応情報を受信するホールコンピュータ等の外部装置において態様情報の異常の有無を定期的に把握可能とすることができる。また、判定結果対応情報が短期間に連続して外部出力されてしまうことを防止することができる。
【６６８５】
特徴αｋ１１．前記所定情報出力手段は、前記履歴記憶手段に記憶されている前記遊技の履歴情報に基づいて把握される前記所定事象の発生回数が所定基準回数（初期基準個数）以上であることを少なくとも１つの条件として前記判定結果対応情報を遊技機の外部に出力することを特徴とする特徴αｋ４乃至αｋ１０のいずれか１に記載の遊技機。
【６６８６】
特徴αｋ１１によれば、態様情報の導出に利用される所定事象の発生回数が所定基準回数に満たない段階で導出された不安定な態様情報に基づく判定結果対応情報が遊技機の外部に出力されてしまうことを防止することができる。これにより、ホールコンピュータ等の外部装置が当該不安定な態様情報に基づいて生成された判定結果対応情報を受信したことに基づいて、遊技ホールの管理者が本来不要な対応をしてしまうことを防止することができる。
【６６８７】
なお、特徴αｋ１～αｋ１１の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ

１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６６８８】

上記特徴αｉ群、上記特徴αｊ群、及び上記特徴αｋ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６６８９】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６６９０】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６６９１】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の管理が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６６９２】

＜特徴αｌ群＞

特徴αｌ１．遊技媒体（遊技球）を利用して遊技が行われる遊技機において、

遊技が行われることで利益付与事象（一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４への遊技球の入球）が発生したことに基づいて利益を付与する利益付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１６及びステップＳ３１７の処理を実行する機能）と、

所定期間において利用された前記遊技媒体の合計数（パチンコ機１０の遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数）に対する当該所定期間において付与された前記利益の合計量（遊技球の合計払出個数）の割合に対応する所定割合情報（出玉率）を算出する所定算出手段（第８９，第９２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ１０３の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ２０８及びステップＳＬ２２０の処理を実行する機能、第９０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ５１０及びステップＳＬ５１８の処理を実行する機能、第９１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ７０８及びステップＳＬ７１６の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【６６９３】

特徴αｌ１によれば、所定割合情報に基づいて、所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された利益の合計量の割合を把握することができる。所定割合情報を把握可能とすることにより、所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された利益の合計量が不自然な程度に高く

なる異常、及び所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された利益の合計量が不自然な程度に低くなる異常を把握可能とすることができる。

【６６９４】

なお、所定期間は、所定時間が経過するまでの期間としてもよく、所定基準契機が発生するまでの期間としてもよい。所定期間を所定基準契機が発生するまでの期間とした場合、当該所定基準契機は利用された遊技媒体の合計数が基準個数に到達することとしてもよい。

【６６９５】

特徴αｌ２．利用された前記遊技媒体の合計数を計測する利用計測手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ１０２及びステップＳＬ１０３の処理を実行する機能）と、

付与された前記利益の合計量を計測する付与計測手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ１０３の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定算出手段は、前記付与計測手段により計測された前記利益の合計量に対応する情報（遊技球の合計払出個数）を利用して前記所定割合情報を算出するものであり、

遊技状態として、付与される前記利益の期待値が相違することとなる第１遊技状態（開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない遊技状態）及び第２遊技状態（開閉実行モードである遊技状態、高頻度サポートモードである遊技状態）が存在しており、

前記利用計測手段は、前記第１遊技状態及び前記第２遊技状態を区別することなく、利用された前記遊技媒体の合計数を計測し、

前記付与計測手段は、前記第１遊技状態及び前記第２遊技状態を区別することなく、付与された前記利益の合計量を計測することを特徴とする特徴αｌ１に記載の遊技機。

【６６９６】

特徴αｌ２によれば、所定割合情報は、第１遊技状態及び第２遊技状態を区別することなく計測される付与された利益の合計量に対応する情報とを利用して算出される。このため、所定割合情報に基づいて、第１遊技状態において利用された遊技媒体の合計数に対する付与された利益の合計量の割合の異常、及び第２遊技状態において利用された遊技媒体の合計数に対する付与された利益の合計量の割合の異常を把握可能とすることができる。第１遊技状態において利用された遊技媒体の合計数を計測するための構成と、第２遊技状態において利用された遊技媒体の合計数を計測するための構成とが別々に設けられている構成と比較して、利用された遊技媒体の合計数を計測するための構成を簡略化することができる。また、第１遊技状態における利益の合計量を計測するための構成と、第２遊技状態における利益の合計量を計測するための構成とが別々に設けられている構成と比較して、利益の合計量を計測するための構成を簡略化することができる。

【６６９７】

特徴αｌ３．前記遊技媒体として遊技球が流下する遊技領域（遊技領域ＰＡ）と、

前記遊技領域を流下する遊技球が入球可能な所定入球手段（一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４）と、

当該所定入球手段に入球した遊技球を検知する所定検知手段（第１入賞口検知センサ４２ａ、第２入賞口検知センサ４３ａ、第３入賞口検知センサ４４ａ、特電検知センサ４５ａ、第１作動口検知センサ４６ａ、第２作動口検知センサ４７ａ）と、

当該所定検知手段に遊技球が検知されたことに基づいて、それに対応する情報が特定記憶手段（入球個数カウンタエリア５９６）に記憶されるようにする特定記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ１０２の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記利益付与手段は、前記所定検知手段に遊技球が検知されたことに対応する情報が前記特定記憶手段に記憶されていることに基づいて、前記利益の付与として、所定個数の遊技球が遊技者に付与されるようにするための処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３

１６及びステップＳ３１７の処理）を実行し、
本遊技機は、前記遊技領域を流下する遊技球が入球可能であって入球した遊技球を前記遊技領域から排出させる入球手段として、前記所定入球手段を含めて複数の入球手段（アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４、）を備えており、
前記遊技領域を流下する遊技球は前記複数の入球手段のいずれかに入球することで前記遊技領域から排出される構成であり、
前記複数の入球手段のいずれかに入球した遊技球を検知する検知手段として、前記所定検知手段を含めて複数の検知手段（第１入賞口検知センサ４２ａ、第２入賞口検知センサ４３ａ、第３入賞口検知センサ４４ａ、特電検知センサ４５ａ、第１作動口検知センサ４６ａ、第２作動口検知センサ４７ａ、アウト口検知センサ４８ａ）を備えており、
前記複数の入球手段のいずれかに入球した遊技球は、前記複数の検知手段のいずれかにて検知される構成であり、
前記所定算出手段は、前記所定期間における前記遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合に対応する情報（直近４回分の単位算出期間全体の出玉率、第１算出期間における出玉率、直近１０回分の単位算出期間全体の出玉率、第２算出期間における出玉率）を前記所定割合情報として算出することを特徴とする特徴αｌ１又はαｌ２に記載の遊技機。
【６６９８】
特徴αｌ３によれば、遊技領域を流下する遊技球は複数の入球手段のいずれかに入球することで遊技領域から排出される構成であるとともに、複数の入球手段のいずれかに入球した遊技球は、複数の検知手段のいずれかにて検知される構成である。このため、遊技領域から排出される全ての遊技球を計測することができる。また、所定割合情報は、所定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合に対応する情報である。このため、所定割合情報を把握可能とすることにより、所定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合が不自然に高い異常、及び所定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合が不自然に低い異常を把握可能とすることができる。
【６６９９】
特徴αｌ４．前記所定割合情報を順次記憶する所定割合記憶手段（第１算出期間の直近エリア６０６ｂ、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ、第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄ、第２算出期間の直近エリア６０７ｂ、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ、第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄ）を備えていることを特徴とする特徴αｌ１乃至αｌ３のいずれか１に記載の遊技機。
【６７００】
特徴αｌ４によれば、複数の所定割合情報を個別に把握可能とすることができる。
【６７０１】
特徴αｌ５．前記所定期間は単位期間（単位算出期間）の所定数分（上記第８９～第９２の実施形態では４回分又は１０回分）に対応しており、
前記所定算出手段は、前記単位期間が完了する度に前記所定割合情報を算出することを特徴とする特徴αｌ１乃至αｌ４のいずれか１に記載の遊技機。
【６７０２】
特徴αｌ５によれば、所定期間よりも短い間隔で所定割合情報を更新することができる。所定期間が終了する度に所定割合情報が更新される構成とすると、前側の（１つ目の）所定期間の後半から後側の（２つ目の）所定期間の前半に亘る期間において利用された遊技媒体の合計数に対する当該期間において付与された利益の合計量の割合が不自然に高くなる異常又は不自然に低くなる異常が発生したとしても、前側の所定期間における所定割合情報及び後側の所定期間における所定割合情報に基づいて当該異常が発見できない場合が考えられる。これに対して、所定期間よりも短い間隔で所定割合情報を更新する構成で

あることにより、所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する所定期間において付与された利益の合計量の割合が不自然に高くなる異常又は不自然に低くなる異常の発生が見逃されてしまう可能性を低減することができる。

【６７０３】

特徴αｌ６．前記単位期間が完了した場合に前記所定算出手段により算出された前記所定割合情報を記憶する第１所定割合記憶手段（第１単位更新エリア６０６ａ、第２単位更新エリア６０７ａ）と、

前記所定期間が完了した場合に前記所定算出手段により算出された前記所定割合情報を記憶する第２所定割合記憶手段（第１算出期間の直近エリア６０６ｂ、第２算出期間の直近エリア６０７ｂ）と、

前記第１所定割合記憶手段に記憶された前記所定割合情報及び前記第２所定割合記憶手段に記憶された前記所定割合情報のそれぞれを認識可能とさせる報知が実行されるようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ３１２の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴αｌ５に記載の遊技機。

【６７０４】

特徴αｌ６によれば、単位期間が完了した場合に所定算出手段により算出された所定割合情報を記憶することにより、当該所定割合情報を把握可能とすることができる。単位期間が完了した場合に所定算出手段により算出された所定割合情報を把握可能とすることにより、所定割合情報の異常が発生した場合に当該異常を早期に把握可能とすることができる。これにより、遊技ホールの管理者が当該異常に対する迅速な対応をとることを可能とすることができる。また、所定期間が完了した場合に所定算出手段により算出された所定割合情報を記憶することにより、当該割合情報を把握可能とすることができる。所定期間が完了した場合に所定算出手段により算出された所定割合情報を把握可能とすることにより、所定期間毎の所定割合情報を監視可能とすることができる。

【６７０５】

特徴αｌ７．所定のタイミングで前記所定算出手段により算出された前記所定期間における前記所定割合情報を記憶する手段（第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ、第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄ、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ、第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄ）と、

前記所定のタイミングにおいて算出対象となった前記所定期間が完了することで開始された前記所定期間における前記所定割合情報を記憶する手段（第１算出期間の直近エリア６０６ｂ、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ、第２算出期間の直近エリア６０７ｂ、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ）と、

を備えていることを特徴とする特徴αｌ５又はαｌ６に記載の遊技機。

【６７０６】

特徴αｌ７によれば、所定期間間隔で所定割合情報の履歴を記憶して把握可能とすることができる。過去の所定割合情報を把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者が所定割合情報を確認する頻度を低減し、遊技ホールの管理者による所定割合情報についての監視負担を軽減することができる。また、所定割合情報の異常が把握された場合に、当該異常がいつから発生していたのかを過去に遡って把握可能とすることができる。

【６７０７】

上記特徴αｌ５の構成を備え、単位期間が終了する度に所定割合情報を算出する構成において、所定割合情報の履歴を記憶する間隔が単位期間よりも長い所定期間間隔であることにより、記憶する所定割合情報の数の増加を抑えながら、広範囲における所定割合情報を把握可能とすることができる。

【６７０８】

特徴αｌ８．特定期間（１０回分の単位算出期間全体の期間）において利用された前記遊技媒体の合計数に対する当該特定期間において付与された前記利益の合計量の割合に対応する特定割合情報（直近１０回分の単位算出期間における出玉率、第２算出期間における出玉率）を算出する特定算出手段（第８９，第９２の実施形態では主側ＣＰＵ６３にお

けるステップＳＬ２２０の処理を実行する機能、第９０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ５１８の処理を実行する機能、第９１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ７１６の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｌ１乃至αｌ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６７０９】

特徴αｌ８によれば、所定割合情報に加えて特定割合情報が算出される構成であることにより、利用された遊技媒体の合計数に対する付与された利益の合計量の割合についての詳細な情報を把握可能とすることができる。これにより、利用された遊技媒体の合計数に対する付与された利益の合計量の割合の異常が見逃されてしまうことを防止することができる。

【６７１０】

特徴αｌ９．前記特定期間の一部は前記所定期間の少なくとも一部と重複していることを特徴とする特徴αｌ８に記載の遊技機。

【６７１１】

特徴αｌ９によれば、所定期間及び特定期間が重複している期間、及び当該期間の前後の期間において利用された遊技媒体の合計数に対する当該期間において付与された利益の合計量の割合についての詳細な情報を把握可能とすることができる。これにより、利用された遊技媒体の合計数に対する付与された利益の合計量の割合の異常が見逃されてしまうことを防止することができる。

【６７１２】

特徴αｌ１０．前記所定期間は単位期間（単位算出期間）の所定数分（上記第８９～第９２の実施形態では４回分）に対応しており、

前記特定期間は前記単位期間の特定数分（上記第８９～第９２の実施形態では１０回分）に対応しており、

前記所定算出手段は、前記単位期間が完了する度に前記所定割合情報を算出し、

前記特定算出手段は、前記単位期間が完了する度に前記特定割合情報を算出することを特徴とする特徴αｌ８又はαｌ９に記載の遊技機。

【６７１３】

特徴αｌ１０によれば、単位期間が完了する度に、単位期間の所定数分である所定期間における所定割合情報と、単位期間の特定数分である特定期間における特定割合情報とが算出される。これにより、所定期間における所定割合情報の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができるとともに、特定期間における特定割合情報の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができる。また、所定割合情報を算出するタイミングと特定割合情報を算出するタイミングとが共通していることにより、所定割合情報及び特定割合情報を算出するタイミングを把握するための構成を簡略化することができる。

【６７１４】

特徴αｌ１１．前記所定期間は単位期間（単位算出期間）の所定数分（上記第８９～第９２の実施形態では４回分）に対応しており、

本遊技機は、前記単位期間において利用された前記遊技媒体の合計数に対する当該単位期間において付与された前記利益の合計量の割合に対応する単位割合情報（単位算出期間における出玉率）及び当該単位割合情報を算出する場合に必要となる情報（単位算出期間における遊技球の合計払出個数）のうちいずれかである単位対象情報を記憶するための単位記憶領域（第１管理バッファ６０１の各記憶エリア６０１ａ～６０１ｄ、第２管理バッファ６０２の各記憶エリア６０２ａ～６０２ｊ、共通管理バッファ６１６の各記憶エリア６１６ａ～６１６ｊ、共通管理カウンタエリア６２１の各出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｊ）を、前記所定数以上有する単位期間対応記憶手段（第１管理バッファ６０１、第２管理バッファ６０２、共通管理バッファ６１６、共通管理カウンタエリア６２１）を備え、

前記所定算出手段は、複数の前記単位記憶領域に記憶されている情報を利用して、前記所定割合情報を算出することを特徴とする特徴αｌ１乃至αｌ１０のいずれか１に記載の

遊技機。
【６７１５】
特徴αｌ１１によれば、単位対象情報を所定数以上記憶し、当該記憶されている複数の単位対象情報を利用して所定割合情報を算出する構成である。１つの情報を利用して所定割合情報を算出する構成と比較して、所定割合情報を算出するために利用する情報を細かく更新することができる。また、所定割合情報を算出するために記憶する情報の１つずつのデータ量を低減することができる。
【６７１６】
特徴αｌ１２．前記単位対象情報は前記単位割合情報であることを特徴とする特徴αｌ１１に記載の遊技機。
【６７１７】
特徴αｌ１２によれば、単位割合情報を所定数以上記憶し、当該記憶されている複数の単位割合情報を利用して所定割合情報を算出する構成である。このため、単位割合情報を算出する場合に必要となる情報を複数記憶するとともに当該複数の情報を利用して所定割合情報を算出する構成と比較して、所定割合情報を算出するために記憶する情報のデータ量を低減することができる。
【６７１８】
特徴αｌ１３．前記所定算出手段は、前記単位期間対応記憶手段に前記単位対象情報が新たに記憶されたことに基づいて、複数の前記単位記憶領域に記憶されている情報を利用して、前記所定割合情報を算出することを特徴とする特徴αｌ１１又はαｌ１２に記載の遊技機。
【６７１９】
特徴αｌ１３によれば、単位期間対応記憶手段に単位対象情報が新たに記憶されて単位算出期間対応記憶手段に記憶されている情報が更新される度に、単位算出期間対応記憶手段に記憶されている情報に基づく所定割合情報を算出することにより、高い頻度で所定割合情報を更新することができる。
【６７２０】
特徴αｌ１４．前記所定数は前記単位記憶領域の数よりも少ない数であり、
前記所定算出手段は、直近の前記単位対象情報が記憶された前記単位記憶領域を含めて当該直近の前記単位対象情報に対応する前記単位期間を基準として連続する前記所定数分の前記単位記憶領域に記憶された前記単位対象情報を利用して、前記所定割合情報を算出することを特徴とする特徴αｌ１１乃至αｌ１３のいずれか１に記載の遊技機。
【６７２１】
特徴αｌ１４によれば、直近の単位対象情報が記憶された単位記憶領域を含めて当該直近の単位対象情報に対応する単位期間を基準として連続する所定数分の単位記憶領域に記憶された単位対象情報を利用して所定割合情報を算出することにより、直近の所定数分の単位期間全体における所定割合情報を算出することができる。
【６７２２】
特徴αｌ１５．複数の前記単位記憶領域において前記単位対象情報が記憶される対象となる前記単位記憶領域は所定の順序で順次変更される構成であり、
本遊技機は、複数の前記単位記憶領域のうち次の前記単位対象情報を記憶させる対象となる前記単位記憶領域の種類を特定可能とする情報を記憶する記憶対象記憶手段（第１書き込みポインタ６０３、第２書き込みポインタ６０４、共通書き込みポインタ６１７）を備え、
前記所定算出手段は、前記記憶対象記憶手段に記憶されている情報に基づいて直近の前記単位対象情報が記憶された前記単位記憶領域を特定することを特徴とする特徴αｌ１４に記載の遊技機。
【６７２３】
特徴αｌ１５によれば、複数の単位記憶領域のうち次の単位対象情報を記憶させる対象となる単位記憶領域の種類を特定するために設けられた記憶対象記憶手段を利用して、直

近の単位対象情報が記憶された単位記憶領域を特定する。このため、直近の単位対象情報が記憶された単位記憶領域を特定するための専用の構成を不要としながら、直近の単位対象情報が記憶された単位記憶領域を特定することができる。

【６７２４】

特徴αｌ１６．特定期間（直近１０回分の単位算出期間全体、第２算出期間）において利用された前記遊技媒体の合計数に対する当該特定期間において付与された前記利益の合計量の割合に対応する特定割合情報（直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率、第２算出期間における出玉率）を算出する特定算出手段（第８９，第９２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ２２０の処理を実行する機能、第９０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ５１８の処理を実行する機能、第９１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ７１６の処理を実行する機能）を備え、

前記特定期間は前記単位期間の特定数分（１０回分）に対応しており、

前記特定算出手段は、複数の前記単位記憶領域に記憶されている情報を利用して、前記特定割合情報を算出することを特徴とする特徴αｌ１１乃至αｌ１５のいずれか１に記載の遊技機。

【６７２５】

特徴αｌ１６によれば、共通の単位期間対応記憶手段に記憶されている情報を利用して、所定割合情報及び特定割合情報が導出される。このため、所定割合情報を導出するために利用される情報が記憶される構成と、特定割合情報を導出するために利用される情報が記憶される構成とが別々に設けられている構成と比較して、所定割合情報及び特定割合情報を導出するために利用される情報を記憶するための記憶容量を低減することができる。

【６７２６】

特徴αｌ１７．前記所定算出手段は、前記単位期間対応記憶手段に前記単位対象情報が新たに記憶されたことに基づいて、複数の前記単位記憶領域に記憶されている情報を利用して、前記所定割合情報を算出し、

前記特定算出手段は、前記単位期間対応記憶手段に前記単位対象情報が新たに記憶されたことに基づいて、複数の前記単位記憶領域に記憶されている情報を利用して、前記特定割合情報を算出することを特徴とする特徴αｌ１６に記載の遊技機。

【６７２７】

特徴αｌ１７によれば、単位期間対応記憶手段に単位対象情報が新たに記憶されるタイミングにおいて、所定割合情報及び特定割合情報を更新することができる。所定割合情報及び特定割合情報の更新タイミングが共通していることにより、所定割合情報及び特定割合情報の更新タイミングを把握するための構成が簡略化されている。

【６７２８】

特徴αｌ１８．前記特定数は前記所定数よりも多い数であり、

前記単位期間対応記憶手段は、前記単位記憶領域を前記特定数備えていることを特徴とする特徴αｌ１６又はαｌ１７に記載の遊技機。

【６７２９】

特徴αｌ１８によれば、単位期間対応記憶手段が備えている特定数の単位記憶領域に記憶されている特定数の単位対象情報を利用して特定割合情報を算出する構成であることにより、単位期間対応記憶手段において特定割合情報を算出するために利用する情報が記憶されている単位記憶領域を把握するための構成を簡略化することができる。また、所定期間における所定割合情報と、所定期間よりも長い期間である特定期間における特定割合情報とを把握可能とすることができる。これにより、所定割合情報の異常が発生しているとともに特定割合情報の異常が発生していない場合、及び所定割合情報の異常が発生していないとともに特定割合情報の異常が発生している場合にも、これらの異常が見逃されてしまうことを防止することができる。

【６７３０】

なお、特徴αｌ１～αｌ１８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８

、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６７３１】

＜特徴αｍ群＞

特徴αｍ１．遊技の結果として所定事象（全遊技状態において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が単位基準個数に達すること）が発生した場合にそれに対応する情報の記憶が所定記憶手段（第１管理バッファ６０１、第２管理バッファ６０２、共通管理バッファ６１６、共通管理カウンタエリア６２１）に実行されるようにすることで所定情報（単位算出期間における出玉率）が前記所定記憶手段に記憶されるようにする所定記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ２０３及びステップＳＬ２１５の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ５０３の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ７０３の処理を実行する機能）と、

前記所定情報を利用して、所定期間（直近４回分の単位算出期間全体、第１算出期間）における遊技の結果に対応する所定態様情報（直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、第１算出期間における出玉率）を算出する所定算出手段（第８９，第９２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ２０８及びステップＳＬ２２０の処理を実行する機能、第９０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ５１０及びステップＳＬ５１８の処理を実行する機能、第９１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ７０８及びステップＳＬ７１６の処理を実行する機能）と、

前記所定情報を利用して、特定期間（直近１０回分の単位算出期間全体、第２算出期間）における遊技の結果に対応する特定態様情報（直近１０回分の単位算出期間における出玉率、第２算出期間における出玉率）を算出する特定算出手段（第８９，第９２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ２２０の処理を実行する機能、第９０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ５１８の処理を実行する機能、第９１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ７１６の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする遊技機。

【６７３２】

特徴αｍ１によれば、所定期間における遊技の結果に対応する所定態様情報と、特定期

間における遊技の結果に対応する特定態様情報との両方を把握可能とすることができる。これにより、所定態様情報の異常が発生していない状態において特定態様情報の異常が発生した場合に当該特定態様情報の異常を把握可能とすることができる。また、特定態様情報の異常が発生していない状態において所定態様情報の異常が発生した場合に当該所定態様情報の異常を把握可能とすることができる。

【６７３３】

なお、所定期間は、所定時間が経過するまでの期間としてもよく、所定基準契機が発生するまでの期間としてもよい。所定期間を所定基準契機が発生するまでの期間とした場合、当該所定基準契機は利用された遊技媒体の合計数が基準個数に到達することとしてもよい。この場合、基準個数は１種類であってもよく、複数種類であってもよい。また、特定期間は、特定時間が経過するまでの期間としてもよく、特定基準契機が発生するまでの期間としてもよい。特定期間を特定基準契機が発生するまでの期間とした場合、当該特定基準契機は利用された遊技媒体の合計数が基準個数に到達することとしてもよい。

【６７３４】

特徴αｍ２．前記特定期間の一部は前記所定期間の少なくとも一部と重複していることを特徴とする特徴αｍ１に記載の遊技機。

【６７３５】

特徴αｍ２によれば、所定期間及び特定期間が重複している期間、及び当該期間の前後の期間における遊技の結果についての詳細な情報を把握可能として、これらの期間における所定態様情報の異常及び特定態様情報の異常が見逃されてしまうことを防止することができる。

【６７３６】

特徴αｍ３．前記所定期間は単位期間（単位算出期間）の所定数分（上記第８９～第９２の実施形態では４回分）に対応しており、

前記特定期間は前記単位期間の特定数分（上記第８９～第９２の実施形態では１０回分）に対応しており、

前記所定算出手段は、前記単位期間が完了する度に前記所定態様情報を算出し、

前記特定算出手段は、前記単位期間が完了する度に前記特定態様情報を算出することを特徴とする特徴αｍ１又はαｍ２に記載の遊技機。

【６７３７】

特徴αｍ３によれば、単位期間が完了する度に、単位期間の所定数分である所定期間における所定態様情報と、単位期間の特定数分である特定期間における特定態様情報とが算出される。これにより、所定期間における所定態様情報の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができるとともに、特定期間における特定態様情報の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができる。また、所定態様情報を算出するタイミングと特定態様情報を算出するタイミングとが共通していることにより、所定態様情報及び特定態様情報を算出するタイミングを把握するための構成を簡略化することができる。

【６７３８】

特徴αｍ４．前記所定期間は単位期間（単位算出期間）の所定数分（上記第８９～第９２の実施形態では４回分）に対応しており、

前記特定期間は前記単位期間の特定数分（上記第８９～第９２の実施形態では１０回分）に対応しており、

前記特定数は前記所定数よりも多い数であり、

前記所定記憶手段は、前記単位期間に対応する前記所定情報である単位対象情報（単位算出期間における出玉率）を記憶するための単位記憶領域（第１管理バッファ６０１の各記憶エリア６０１ａ～６０１ｄ、第２管理バッファ６０２の各記憶エリア６０２ａ～６０２ｊ、共通管理バッファ６１６の各記憶エリア６１６ａ～６１６ｊ、共通管理カウンタエリア６２１の各出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｊ）を前記特定数以上有しており、

前記所定算出手段は、複数の前記単位記憶領域に記憶されている情報を利用して、前記所定態様情報を算出し、

前記特定算出手段は、複数の前記単位記憶領域に記憶されている情報を利用して、前記特定態様情報を算出することを特徴とする特徴αｍ１乃至αｍ３のいずれか１に記載の遊技機。

【６７３９】

特徴αｍ４によれば、所定記憶手段が所定数よりも多い数である特定数の単位記憶領域を備えていることにより、所定記憶手段の単位記憶領域に記憶されている情報に基づいて、所定態様情報及び特定態様情報を算出することができる。また、共通の所定記憶手段に記憶されている情報を利用して、所定態様情報及び特定態様情報が導出される。このため、所定態様情報を導出するために利用される情報が記憶される構成と、特定態様情報を導出するために利用される情報が記憶される構成とが別々に設けられている構成と比較して、所定態様情報及び特定態様情報を導出するために利用される情報を記憶するための記憶容量を低減することができる。

【６７４０】

特徴αｍ５．前記所定算出手段は、前記所定記憶手段に前記単位対象情報が新たに記憶されたことに基づいて、複数の前記単位記憶領域に記憶されている情報を利用して、前記所定態様情報を算出し、

前記特定算出手段は、前記所定記憶手段に前記単位対象情報が新たに記憶されたことに基づいて、複数の前記単位記憶領域に記憶されている情報を利用して、前記特定態様情報を算出することを特徴とする特徴αｍ４に記載の遊技機。

【６７４１】

特徴αｍ５によれば、所定記憶手段に単位対象情報が新たに記憶されるタイミングにおいて、所定態様情報及び特定態様情報が更新される。所定態様情報及び特定態様情報の更新タイミングが共通していることにより、所定態様情報及び特定態様情報の更新タイミングを把握するための構成を簡略化することができる。また、所定期間及び特定期間よりも短い期間で所定態様情報及び特定態様情報が更新されることにより、所定態様情報の異常及び特定態様情報の異常が見逃されてしまうことを防止することができる。

【６７４２】

特徴αｍ６．前記所定算出手段は、直近の前記単位対象情報が記憶された前記単位記憶領域を含めて当該直近の前記単位対象情報に対応する前記単位期間を基準として連続する前記所定数分の前記単位記憶領域に記憶された前記単位対象情報を利用して、前記所定態様情報を算出することを特徴とする特徴αｍ４又はαｍ５に記載の遊技機。

【６７４３】

特徴αｍ６によれば、所定数よりも多い数の単位記憶領域の中から直近の単位対象情報に対応する単位期間を基準として連続する所定数分の単位記憶領域に記憶された単位対象情報を利用して所定態様情報を算出することができる。所定態様情報を算出するために単位記憶領域を所定数備えている別の記憶手段を設ける構成と比較して、単位対象情報を記憶するための記憶容量を低減することができる。

【６７４４】

特徴αｍ７．複数の前記単位記憶領域において前記単位対象情報が記憶される対象となる前記単位記憶領域は所定の順序で順次変更される構成であり、

本遊技機は、複数の前記単位記憶領域のうち次の前記単位対象情報を記憶させる対象となる前記単位記憶領域の種類を特定可能とする情報を記憶する記憶対象記憶手段（第１書き込みポインタ６０３、第２書き込みポインタ６０４、共通書き込みポインタ６１７）を備え、

前記所定算出手段は、前記記憶対象記憶手段に記憶されている情報に基づいて直近の前記単位対象情報が記憶された前記単位記憶領域を特定することを特徴とする特徴αｍ６に記載の遊技機。

【６７４５】

特徴αｍ７によれば、複数の単位記憶領域のうち次の単位対象情報を記憶させる対象となる単位記憶領域の種類を特定するために設けられた記憶対象記憶手段を利用して、直近

の単位対象情報が記憶された単位記憶領域を特定する。このため、直近の単位対象情報が記憶された単位記憶領域を特定するための専用の構成を不要としながら、直近の単位対象情報が記憶された単位記憶領域を特定することができる。

【６７４６】

特徴αｍ８．前記所定記憶手段は、前記単位記憶領域を前記特定数備えていることを特徴とする特徴αｍ４乃至αｍ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６７４７】

特徴αｍ８によれば、所定記憶手段が単位記憶領域を特定数備えていることにより、特定数よりも少ない所定数の単位記憶領域に記憶されている単位対象情報を利用して所定態様情報を算出することができるとともに、特定数の単位記憶領域に記憶されている単位対象情報を利用して特定態様情報を算出することができる。特定態様情報を算出するために利用される単位対象情報の数と、所定記憶手段が備えている単位記憶領域の数とが一致していることにより、特定態様情報を算出するために利用する単位対象情報が記憶されている単位記憶領域を特定するための処理を簡略化することができる。

【６７４８】

特徴αｍ９．遊技媒体を利用して遊技が行われる構成であり、

本遊技機は、遊技が行われることで利益付与事象（一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４への遊技球の入球）が発生したことに基づいて利益を付与する利益付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１６及びステップＳ３１７の処理を実行する機能）を備え、

前記所定記憶実行手段は、前記所定事象として前記利益が付与されたことに基づいてそれに対応する情報の記憶が前記所定記憶手段に実行されるようにするものであり、

前記所定態様情報は、前記所定期間において利用された前記遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された前記利益の合計量の割合に対応する所定割合情報（直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、第１算出期間における出玉率）であり、

前記特定態様情報は、前記特定期間において利用された前記遊技媒体の合計数に対する当該特定期間において付与された前記利益の合計量の割合に対応する特定割合情報（直近１０回分の単位算出期間全体における出玉率、第２算出期間における出玉率）であることを特徴とする特徴αｍ１乃至αｍ８のいずれか１に記載の遊技機。

【６７４９】

特徴αｍ９によれば、所定割合情報に基づいて、所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する所定期間において付与された利益の合計量の割合を把握可能とすることができるとともに、特定割合情報に基づいて、特定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する特定期間において付与された利益の合計量の割合を把握可能とすることができる。所定割合情報を把握可能とすることにより、所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する所定期間において付与された利益の合計量の割合が不自然な程度に高くなる異常及び不自然な程度に低くなる異常を把握可能とすることができる。また、特定割合情報を把握可能とすることにより、特定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する特定期間において付与された利益の合計量の割合が不自然な程度に高くなる異常及び不自然な程度に低くなる異常を把握可能とすることができる。

【６７５０】

特徴αｍ１０．利用された前記遊技媒体の合計数を計測する利用計測手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ１０２及びステップＳＬ１０３の処理を実行する機能）と、

付与された前記利益の合計量を計測する付与計測手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ１０３の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定情報には、前記付与計測手段により計測された前記利益の合計量に対応する情報が含まれており、

前記所定算出手段は、前記付与計測手段により計測された前記利益の合計量に対応する情報（遊技球の合計払出個数）を利用して前記所定割合情報を算出するものであり、

前記特定算出手段は、前記付与計測手段により計測された前記利益の合計量に対応する情報（遊技球の合計払出個数）を利用して前記特定割合情報を算出するものであり、
遊技状態として、付与される前記利益の期待値が相違することとなる第１遊技状態（開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない遊技状態）及び第２遊技状態（開閉実行モードである遊技状態、高頻度サポートモードである遊技状態）が存在しており、
前記利用計測手段は、前記第１遊技状態及び前記第２遊技状態を区別することなく、利用された前記遊技媒体の合計数を計測し、
前記付与計測手段は、前記第１遊技状態及び前記第２遊技状態を区別することなく、付与された前記利益の合計量を計測することを特徴とする特徴αｍ９に記載の遊技機。
【６７５１】
特徴αｍ１０によれば、所定割合情報及び特定割合情報は、第１遊技状態及び第２遊技状態を区別することなく計測される付与された利益の合計量に対応する情報を利用して算出される。このため、所定割合情報及び特定割合情報に基づいて、第１遊技状態において利用された遊技媒体の合計数に対する付与された利益の合計量の割合の異常、及び第２遊技状態において利用された遊技媒体の合計数に対する付与された利益の合計量の割合の異常を把握可能とすることができる。所定割合情報及び特定割合情報の両方を把握可能とすることにより、これらの異常が見逃されてしまうことを防止することができる。また、第１遊技状態において利用された遊技媒体の合計数を計測するための構成と、第２遊技状態において利用された遊技媒体の合計数を計測するための構成とが別々に設けられている構成と比較して、利用された遊技媒体の合計数を計測するための構成を簡略化することができる。また、第１遊技状態における利益の合計量を計測するための構成と、第２遊技状態における利益の合計量を計測するための構成とが別々に設けられている構成と比較して、利益の合計量を計測するための構成を簡略化することができる。
【６７５２】
特徴αｍ１１．前記遊技媒体として遊技球が流下する遊技領域（遊技領域ＰＡ）と、
前記遊技領域を流下する遊技球が入球可能な所定入球手段（一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４）と、
当該所定入球手段に入球した遊技球を検知する所定検知手段（第１入賞口検知センサ４２ａ、第２入賞口検知センサ４３ａ、第３入賞口検知センサ４４ａ、特電検知センサ４５ａ、第１作動口検知センサ４６ａ、第２作動口検知センサ４７ａ）と、
当該所定検知手段に遊技球が検知されたことに基づいて、それに対応する情報が特定記憶手段に記憶されるようにする特定記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ１０２の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記利益付与手段は、前記所定検知手段に遊技球が検知されたことに対応する情報が前記特定記憶手段に記憶されていることに基づいて、前記利益の付与として、所定個数の遊技球が遊技者に付与されるようにするための処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１６及びステップＳ３１７の処理）を実行し、
本遊技機は、前記遊技領域を流下する遊技球が入球可能であって入球した遊技球を前記遊技領域から排出させる入球手段として、前記所定入球手段を含めて複数の入球手段（アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４）を備えており、
前記遊技領域を流下する遊技球は前記複数の入球手段のいずれかに入球することで前記遊技領域から排出される構成であり、
前記複数の入球手段のいずれかに入球した遊技球を検知する検知手段として、前記所定検知手段を含めて複数の検知手段（第１入賞口検知センサ４２ａ、第２入賞口検知センサ４３ａ、第３入賞口検知センサ４４ａ、特電検知センサ４５ａ、第１作動口検知センサ４６ａ、第２作動口検知センサ４７ａ、アウト口検知センサ４８ａ）を備えており、
前記複数の入球手段のいずれかに入球した遊技球は、前記複数の検知手段のいずれかに

て検知される構成であり、
　前記所定算出手段は、前記所定期間における前記遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合に対応する情報を前記所定割合情報として算出し、
　前記特定算出手段は、前記特定期間における前記遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合に対応する情報を前記特定割合情報として算出することを特徴とする特徴αｍ９又はαｍ１０に記載の遊技機。
【６７５３】
　特徴αｍ１１によれば、遊技領域を流下する遊技球は複数の入球手段のいずれかに入球することで遊技領域から排出される構成であるとともに、複数の入球手段のいずれかに入球した遊技球は、複数の検知手段のいずれかにて検知される構成である。このため、遊技領域から排出される全ての遊技球を計測することができる。所定割合情報は、所定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合に対応する情報である。このため、所定割合情報を把握可能とすることにより、所定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合が不自然に高い異常、及び所定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合が不自然に低い異常を把握可能とすることができる。また、特定割合情報は、特定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合に対応する情報である。このため、特定割合情報を把握可能とすることにより、特定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合が不自然に高い異常、及び特定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合が不自然に低い異常を把握可能とすることができる。所定割合情報及び特定割合情報を把握可能とすることにより、遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合の異常が見逃されてしまうことを防止することができる。
【６７５４】
　なお、特徴αｍ１～αｍ１１の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用し

てもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６７５５】

＜特徴αｎ群＞

特徴αｎ１．遊技の結果として所定事象（全遊技状態において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が単位基準個数に達すること）が発生した場合にそれに対応する情報の記憶が所定記憶手段（第１管理バッファ６０１、第２管理バッファ６０２、共通管理バッファ６１６、共通管理カウンタエリア６２１）に実行されるようにすることで所定情報（単位算出期間における出玉率）が前記所定記憶手段に記憶されるようにする所定記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ２０３及びステップＳＬ２１５の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ５０３の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ７０３の処理を実行する機能）と、

前記所定情報を利用して、所定期間（直近４回分の単位算出期間全体、第１算出期間）における遊技の結果に対応する所定態様情報（直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、第１算出期間における出玉率）を算出する所定算出手段（第８９，第９２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ２０８及びステップＳＬ２２０の処理を実行する機能、第９０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ５１０及びステップＳＬ５１８の処理を実行する機能、第９１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ７０８及びステップＳＬ７１６の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定期間は単位期間（単位算出期間）の所定数分（上記第８９～第９２の実施形態では４回分）に対応しており、

前記所定算出手段は、前記単位期間が完了する度に前記所定態様情報を算出することを特徴とする遊技機。

【６７５６】

特徴αｎ１によれば、所定態様情報に基づいて、所定期間における遊技の結果に対応する情報を把握することができる。このため、所定態様情報を把握可能とすることにより、所定期間における遊技の結果に対応する情報の異常を把握可能とすることができる。また、所定期間よりも短い間隔で所定態様情報を更新することができる。所定期間が終了する度に所定態様情報が更新される構成とすると、前側の（１つ目の）所定期間の後半から後側の（２つ目の）所定期間の前半に亘る期間における遊技の結果に対応する情報の異常が発生したとしても、前側の所定期間における所定態様情報及び後側の所定期間における所定態様情報に基づいて当該異常が発見できない場合が考えられる。これに対して、所定期間よりも短い間隔で所定態様情報を更新する構成であることにより、所定期間における遊技の結果に対応する情報の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができる。

【６７５７】

特徴αｎ２．前記単位期間が完了した場合に前記所定算出手段により算出された前記所定態様情報を記憶する第１所定態様記憶手段（第１単位更新エリア６０６ａ、第２単位更新エリア６０７ａ）と、

前記所定期間が完了した場合に前記所定算出手段により算出された前記所定態様情報を記憶する第２所定態様記憶手段（第１算出期間の直近エリア６０６ｂ、第２算出期間の直近エリア６０７ｂ）と、

前記第１所定態様記憶手段に記憶された前記所定態様情報及び前記第２所定態様記憶手段に記憶された前記所定態様情報のそれぞれを認識可能とさせる報知が実行されるようにする手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ３１２の処理を実行する機能）と、

を備えていることを特徴とする特徴αｎ１に記載の遊技機。

【６７５８】

特徴αｎ２によれば、単位期間が完了した場合に所定算出手段により算出された所定態様情報を把握可能とすることにより、所定態様情報の異常が発生した場合に当該異常を早期に把握可能とすることができる。これにより、遊技ホールの管理者が当該異常に対する

迅速な対応をとることを可能とすることができる。また、所定期間が完了した場合に所定算出手段により算出された所定態様情報を把握可能とすることにより、所定期間毎の所定態様情報を監視可能とすることができる。

【６７５９】

特徴αｎ３．所定のタイミングで前記所定算出手段により算出された前記所定期間における前記所定態様情報を記憶する手段（第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ、第１算出期間の第２履歴エリア６０６ｄ、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ、第２算出期間の第２履歴エリア６０７ｄ）と、

前記所定のタイミングにおいて算出対象となった前記所定期間が完了することで開始された前記所定期間における前記所定態様情報を記憶する手段（第１算出期間の直近エリア６０６ｂ、第１算出期間の第１履歴エリア６０６ｃ、第２算出期間の直近エリア６０７ｂ、第２算出期間の第１履歴エリア６０７ｃ）と、

を備えていることを特徴とする特徴αｎ１又はαｎ２に記載の遊技機。

【６７６０】

特徴αｎ３によれば、所定期間間隔で所定態様情報の履歴を記憶して把握可能とすることができる。過去の所定態様情報を把握可能とすることにより、遊技ホールの管理者が所定態様情報を確認する頻度を低減し、遊技ホールの管理者による所定態様情報についての監視負担を軽減することができる。また、所定態様情報の異常が把握された場合に、当該異常がいつから発生していたのかを過去に遡って把握可能とすることができる。

【６７６１】

上記特徴αｎ１の構成を備え、単位期間が終了する度に所定態様情報を算出する構成において、所定態様情報の履歴を記憶する間隔が単位期間よりも長い所定期間間隔であることにより、記憶する所定態様情報の数の増加を抑えながら、広範囲における所定態様情報を把握可能とすることができる。

【６７６２】

特徴αｎ４．前記所定記憶手段は、前記単位期間に対応する前記所定情報である単位対象情報（単位算出期間における出玉率）を記憶するための単位記憶領域（第１管理バッファ６０１の各記憶エリア６０１ａ～６０１ｄ、第２管理バッファ６０２の各記憶エリア６０２ａ～６０２ｊ、共通管理バッファ６１６の各記憶エリア６１６ａ～６１６ｊ、共通管理カウンタエリア６２１の各出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｊ）を前記所定数以上有しており、

前記所定算出手段は、前記所定記憶手段に前記単位対象情報が新たに記憶されたことに基づいて、複数の前記単位記憶領域に記憶されている情報を利用して、前記所定態様情報を算出することを特徴とする特徴αｎ１乃至αｎ３のいずれか１に記載の遊技機。

【６７６３】

特徴αｎ４によれば、所定期間よりも短い期間で所定態様情報を更新することができる。所定期間が終了する度に所定態様情報が更新される構成とすると、前側の（１つ目の）所定期間の後半から後側の（２つ目の）所定期間の前半に亘る期間における遊技の結果に対応する情報の異常が発生したとしても、前側の所定期間における所定態様情報及び後側の所定期間における所定態様情報に基づいて当該異常が発見できない場合が考えられる。これに対して、所定期間よりも短い間隔で所定態様情報を更新する構成であることにより、所定期間における遊技の結果に対応する情報の異常が見逃されてしまう可能性を低減することができる。

【６７６４】

特徴αｎ５．前記所定算出手段は、直近の前記単位対象情報が記憶された前記単位記憶領域を含めて当該直近の前記単位対象情報に対応する前記単位期間を基準として連続する前記所定数分の前記単位記憶領域に記憶された前記単位対象情報を利用して、前記所定態様情報を算出することを特徴とする特徴αｎ４に記載の遊技機。

【６７６５】

特徴αｎ５によれば、所定数よりも多い数の単位記憶領域の中から直近の単位対象情報

に対応する単位期間を基準として連続する所定数分の単位記憶領域に記憶された単位対象情報を利用して所定態様情報を算出することができる。所定態様情報を算出するために単位記憶領域を所定数備えている別の記憶手段を設ける構成と比較して、単位対象情報を記憶するための記憶容量を低減することができる。

【６７６６】

特徴αｎ６．複数の前記単位記憶領域において前記単位対象情報が記憶される対象となる単位記憶領域は所定の順序で順次変更される構成であり、

本遊技機は、複数の前記単位記憶領域のうち次の前記単位対象情報を記憶させる対象となる前記単位記憶領域の種類を特定可能とする情報を記憶する記憶対象記憶手段（第１書き込みポインタ６０３、第２書き込みポインタ６０４、共通書き込みポインタ６１７）を備え、

前記所定算出手段は、前記記憶対象記憶手段に記憶されている情報に基づいて直近の前記単位対象情報が記憶された前記単位記憶領域を特定することを特徴とする特徴αｎ５に記載の遊技機。

【６７６７】

特徴αｎ６によれば、複数の単位記憶領域のうち次の単位対象情報を記憶させる対象となる単位記憶領域の種類を特定するために設けられた記憶対象記憶手段を利用して、直近の単位対象情報が記憶された単位記憶領域を特定する。このため、直近の単位対象情報が記憶された単位記憶領域を特定するための専用の構成を不要としながら、直近の単位対象情報が記憶された単位記憶領域を特定することができる。

【６７６８】

特徴αｎ７．遊技媒体（遊技球）を利用して遊技が行われる構成であり、

本遊技機は、遊技が行われることで利益付与事象（一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４への遊技球の入球）が発生したことに基づいて利益を付与する利益付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１６及びステップＳ３１７の処理を実行する機能）を備え、

前記所定記憶実行手段は、前記所定事象として前記利益が付与されたことに基づいてそれに対応する情報の記憶が前記所定記憶手段に実行されるようにするものであり、

前記所定態様情報は、前記所定期間において利用された前記遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された前記利益の合計量の割合に対応する所定割合情報（直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、第１算出期間における出玉率）であることを特徴とする特徴αｎ１乃至αｎ６のいずれか１に記載の遊技機。

【６７６９】

特徴αｎ７によれば、所定割合情報に基づいて、所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する所定期間において付与された利益の合計量の割合を把握可能とすることができる。所定割合情報を把握可能とすることにより、所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された利益の合計量が不自然な程度に高くなる異常、及び所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された利益の合計量が不自然な程度に低くなる異常を把握可能とすることができる。

【６７７０】

特徴αｎ８．利用された前記遊技媒体の合計数を計測する利用計測手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ１０２及びステップＳＬ１０３の処理を実行する機能）と、

付与された前記利益の合計量を計測する付与計測手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ１０３の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定情報には、前記付与計測手段により計測された前記利益の合計量に対応する情報が含まれており、

前記所定算出手段は、前記付与計測手段により計測された前記利益の合計量に対応する情報（遊技球の合計払出個数）を利用して前記所定割合情報を算出するものであり、

遊技状態として、付与される前記利益の期待値が相違することとなる第１遊技状態（開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない遊技状態）及び第２遊技状態（開閉実行モードである遊技状態、高頻度サポートモードである遊技状態）が存在しており、
前記利用計測手段は、前記第１遊技状態及び前記第２遊技状態を区別することなく、利用された前記遊技媒体の合計数を計測し、
前記付与計測手段は、前記第１遊技状態及び前記第２遊技状態を区別することなく、前記利益の合計量を計測することを特徴とする特徴αｎ７に記載の遊技機。
【６７７１】
特徴αｎ８によれば、所定割合情報は、第１遊技状態及び第２遊技状態を区別することなく計測された利益の合計量に対応する情報を利用して算出される。このため、所定割合情報に基づいて、第１遊技状態において利用された遊技媒体の合計数に対する付与された利益の合計量の割合の異常、及び第２遊技状態において利用された遊技媒体の合計数に対する付与された利益の合計量の割合の異常を把握可能とすることができる。第１遊技状態において利用された遊技媒体の合計数を計測するための構成と、第２遊技状態において利用された遊技媒体の合計数を計測するための構成とが別々に設けられている構成と比較して、利用された遊技媒体の合計数を計測するための構成を簡略化することができる。また、第１遊技状態における利益の合計量を計測するための構成と、第２遊技状態における利益の合計量を計測するための構成とが別々に設けられている構成と比較して、利益の合計量を計測するための構成を簡略化することができる。
【６７７２】
特徴αｎ９．前記遊技媒体として遊技球が流下する遊技領域（遊技領域ＰＡ）と、
前記遊技領域を流下する遊技球が入球可能な所定入球手段（一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４）と、
当該所定入球手段に入球した遊技球を検知する所定検知手段（第１入賞口検知センサ４２ａ、第２入賞口検知センサ４３ａ、第３入賞口検知センサ４４ａ、特電検知センサ４５ａ、第１作動口検知センサ４６ａ、第２作動口検知センサ４７ａ）と、
当該所定検知手段に遊技球が検知されたことに基づいて、それに対応する情報が特定記憶手段に記憶されるようにする特定記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ１０２の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記利益付与手段は、前記所定検知手段に遊技球が検知されたことに対応する情報が前記特定記憶手段に記憶されていることに基づいて、前記利益の付与として、所定個数の遊技球が遊技者に付与されるようにするための処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１６及びステップＳ３１７の処理）を実行し、
本遊技機は、前記遊技領域を流下する遊技球が入球可能であって入球した遊技球を前記遊技領域から排出させる入球手段として、前記所定入球手段を含めて複数の入球手段（アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４）を備えており、
前記遊技領域を流下する遊技球は前記複数の入球手段のいずれかに入球することで前記遊技領域から排出される構成であり、
前記複数の入球手段のいずれかに入球した遊技球を検知する検知手段として、前記所定検知手段を含めて複数の検知手段（第１入賞口検知センサ４２ａ、第２入賞口検知センサ４３ａ、第３入賞口検知センサ４４ａ、特電検知センサ４５ａ、第１作動口検知センサ４６ａ、第２作動口検知センサ４７ａ、アウト口検知センサ４８ａ）を備えており、
前記複数の入球手段のいずれかに入球した遊技球は、前記複数の検知手段のいずれかにて検知される構成であり、
前記所定算出手段は、前記所定期間における前記遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合に対応する情報を前記所定割合情報として算出することを特徴とする特徴αｎ７又はαｎ８に記載の遊技機。

【６７７３】
特徴αｎ９によれば、遊技領域を流下する遊技球は複数の入球手段のいずれかに入球することで遊技領域から排出される構成であるとともに、複数の入球手段のいずれかに入球した遊技球は、複数の検知手段のいずれかにて検知される構成である。このため、遊技領域から排出される全ての遊技球を計測することができる。また、所定割合情報は、所定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合に対応する情報である。このため、所定割合情報を把握可能とすることにより、所定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合が不自然に高い異常、及び所定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合が不自然に低い異常を把握可能とすることができる。
【６７７４】
なお、特徴αｎ１～αｎ９の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【６７７５】
＜特徴αｏ群＞
特徴αｏ１．遊技の結果として所定事象（全遊技状態において遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が単位基準個数に達すること）が発生した場合にそれに対応する情報の記憶が所定記憶手段（第１管理バッファ６０１、共通管理バッファ６１６、共通管理カウンタエリア６２１）に実行されるようにすることで所定情報（単位算出期間における出玉率）が前記所定記憶手段に記憶されるようにする所定記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ２０３の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ５０３の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ７０３の処理を実行する機能）と、
前記所定情報を利用して、所定期間（直近４回分の単位算出期間全体、第１算出期間）における遊技の結果に対応する所定態様情報（直近４回分の単位算出期間全体における出

玉率、第１算出期間における出玉率）を算出する所定算出手段（第８９，第９２の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ２０８及びステップＳＬ２２０の処理を実行する機能、第９０の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ５１０及びステップＳＬ５１８の処理を実行する機能、第９１の実施形態では主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ７０８及びステップＳＬ７１６の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記所定期間は単位期間（単位算出期間）の所定数分（上記第８９～第９２の実施形態では４回分）に対応しており、
前記所定記憶手段は、前記単位期間に対応する前記所定情報である単位対象情報（単位算出期間における出玉率）を記憶するための単位記憶領域（第１管理バッファ６０１の各記憶エリア６０１ａ～６０１ｄ、第２管理バッファ６０２の各記憶エリア６０２ａ～６０２ｊ、共通管理バッファ６１６の各記憶エリア６１６ａ～６１６ｊ、共通管理カウンタエリア６２１の各出玉率カウンタ６２１ａ～６２１ｊ）を前記所定数以上有しており、
前記所定算出手段は、前記所定数の前記単位記憶領域に記憶されている情報を利用して、前記所定態様情報を算出することを特徴とする遊技機。
【６７７６】
特徴αｏ１によれば、所定態様情報に基づいて、所定期間における遊技の結果に対応する情報を把握可能とすることができる。所定態様情報を把握可能とすることにより、所定期間における遊技の結果に対応する情報の異常を把握可能とすることができる。所定記憶手段が所定数よりも多い数である特定数の単位記憶領域を備えていることにより、所定記憶手段の単位記憶領域に記憶されている情報に基づいて、所定態様情報を算出することができる。また、所定記憶手段に記憶されている複数の単位対象情報を利用して所定態様情報を算出する構成である。このため、１つの情報を利用して所定態様情報を算出する構成と比較して、所定態様情報を算出するために利用する情報を細かく更新することができる。
【６７７７】
特徴αｏ２．前記単位記憶領域の数は前記所定数よりも多い構成であり、
前記所定算出手段は、直近の前記単位対象情報が記憶された前記単位記憶領域を含めて当該直近の前記単位対象情報に対応する前記単位期間を基準として連続する前記所定数分の前記単位記憶領域に記憶された前記単位対象情報を利用して、前記所定態様情報を算出することを特徴とする特徴αｏ１に記載の遊技機。
【６７７８】
特徴αｏ２によれば、所定数よりも多い数の単位記憶領域の中から直近の単位対象情報に対応する単位期間を基準として連続する所定数分の単位記憶領域に記憶された単位対象情報を利用して所定態様情報を算出することができる。所定態様情報を算出するために単位記憶領域を所定数備えている別の記憶手段を設ける構成と比較して、単位対象情報を記憶するための記憶容量を低減することができる。
【６７７９】
特徴αｏ３．複数の前記単位記憶領域において前記単位対象情報が記憶される対象となる前記単位記憶領域は所定の順序で順次変更される構成であり、
本遊技機は、複数の前記単位記憶領域のうち次の前記単位対象情報を記憶させる対象となる前記単位記憶領域の種類を特定可能とする情報を記憶する記憶対象記憶手段（第１書き込みポインタ６０３、第２書き込みポインタ６０４、共通書き込みポインタ６１７）を備え、
前記所定算出手段は、前記記憶対象記憶手段に記憶されている情報に基づいて直近の前記単位対象情報が記憶された前記単位記憶領域を特定することを特徴とする特徴αｏ２に記載の遊技機。
【６７８０】
特徴αｏ３によれば、複数の単位記憶領域のうち次の単位対象情報を記憶させる対象となる単位記憶領域の種類を特定するために設けられた記憶対象記憶手段を利用して、直近

の単位対象情報が記憶された単位記憶領域を特定する。このため、直近の単位対象情報が記憶された単位記憶領域を特定するための専用の構成を設けることを不要としながら、直近の単位対象情報が記憶された単位記憶領域を特定することができる。

【６７８１】

特徴αｏ４．遊技媒体（遊技球）を利用して遊技が行われる構成であり、

本遊技機は、遊技が行われることで利益付与事象（一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４への遊技球の入球）が発生したことに基づいて利益を付与する利益付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１６及びステップＳ３１７の処理を実行する機能）を備え、

前記所定記憶実行手段は、前記所定事象として前記利益が付与されたことに基づいてそれに対応する情報の記憶が前記所定記憶手段に実行されるようにするものであり、

前記所定態様情報は、前記所定期間において利用された前記遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された前記利益の合計量の割合に対応する所定割合情報（直近４回分の単位算出期間全体における出玉率、第１算出期間における出玉率）であることを特徴とする特徴αｏ１乃至αｏ３のいずれか１に記載の遊技機。

【６７８２】

特徴αｏ４によれば、所定割合情報に基づいて、所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する所定期間において付与された利益の合計量の割合を把握可能とすることができる。所定割合情報を把握可能とすることにより、所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する所定期間において付与された利益の合計量の割合が不自然な程度に高くなる異常、及び不自然な程度に低くなる異常を把握可能とすることができる。

【６７８３】

特徴αｏ５．利用された前記遊技媒体の合計数を計測する利用計測手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ１０２及びステップＳＬ１０３の処理を実行する機能）と、

付与された前記利益の合計量を計測する付与計測手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ１０３の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定情報には、前記付与計測手段により計測された前記利益の合計量に対応する情報が含まれており、

前記所定算出手段は、前記付与計測手段により計測された前記利益の合計量に対応する情報（遊技球の合計払出個数）を利用して前記所定割合情報を算出するものであり、

遊技状態として、付与される前記利益の期待値が相違することとなる第１遊技状態（開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない遊技状態）及び第２遊技状態（開閉実行モードである遊技状態、高頻度サポートモードである遊技状態）が存在しており、

前記利用計測手段は、前記第１遊技状態及び前記第２遊技状態を区別することなく、利用された前記遊技媒体の合計数を計測し、

前記付与計測手段は、前記第１遊技状態及び前記第２遊技状態を区別することなく、前記利益の合計量を計測することを特徴とする特徴αｏ４に記載の遊技機。

【６７８４】

特徴αｏ５によれば、所定割合情報は、第１遊技状態及び第２遊技状態を区別することなく計測された利益の合計量に対応する情報を利用して算出される。このため、所定割合情報に基づいて、第１遊技状態において利用された遊技媒体の合計数に対する付与された利益の合計量の割合の異常、及び第２遊技状態において利用された遊技媒体の合計数に対する付与された利益の合計量の割合の異常を把握可能とすることができる。第１遊技状態において利用された遊技媒体の合計数を計測するための構成と、第２遊技状態において利用された遊技媒体の合計数を計測するための構成とが別々に設けられている構成と比較して、利用された遊技媒体の合計数を計測するための構成を簡略化することができる。また、第１遊技状態における利益の合計量を計測するための構成と、第２遊技状態における利益の合計量を計測するための構成とが別々に設けられている構成と比較して、利益の合計

量を計測するための構成を簡略化することができる。
【６７８５】
特徴αｏ６．前記遊技媒体として遊技球が流下する遊技領域（遊技領域ＰＡ）と、
前記遊技領域を流下する遊技球が入球可能な所定入球手段（一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４）と、
当該所定入球手段に入球した遊技球を検知する所定検知手段（第１入賞口検知センサ４２ａ、第２入賞口検知センサ４３ａ、第３入賞口検知センサ４４ａ、特電検知センサ４５ａ、第１作動口検知センサ４６ａ、第２作動口検知センサ４７ａ）と、
当該所定検知手段に遊技球が検知されたことに基づいて、それに対応する情報が特定記憶手段に記憶されるようにする特定記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ１０２の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記利益付与手段は、前記所定検知手段に遊技球が検知されたことに対応する情報が前記特定記憶手段に記憶されていることに基づいて、前記利益の付与として、所定個数の遊技球が遊技者に付与されるようにするための処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１６及びステップＳ３１７の処理）を実行し、
本遊技機は、前記遊技領域を流下する遊技球が入球可能であって入球した遊技球を前記遊技領域から排出させる入球手段として、前記所定入球手段を含めて複数の入球手段（アウト口２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４）を備えており、
前記遊技領域を流下する遊技球は前記複数の入球手段のいずれかに入球することで前記遊技領域から排出される構成であり、
前記複数の入球手段のいずれかに入球した遊技球を検知する検知手段として、前記所定検知手段を含めて複数の検知手段（第１入賞口検知センサ４２ａ、第２入賞口検知センサ４３ａ、第３入賞口検知センサ４４ａ、特電検知センサ４５ａ、第１作動口検知センサ４６ａ、第２作動口検知センサ４７ａ、アウト口検知センサ４８ａ）を備えており、
前記複数の入球手段のいずれかに入球した遊技球は、前記複数の検知手段のいずれかにて検知される構成であり、
前記所定算出手段は、前記所定期間における前記遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合に対応する情報を前記所定割合情報として算出することを特徴とする特徴αｏ４又はαｏ５に記載の遊技機。
【６７８６】
特徴αｏ６によれば、遊技領域を流下する遊技球は複数の入球手段のいずれかに入球することで遊技領域から排出される構成であるとともに、複数の入球手段のいずれかに入球した遊技球は、複数の検知手段のいずれかにて検知される構成である。このため、遊技領域から排出される全ての遊技球を計測することができる。また、所定割合情報は、所定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合に対応する情報である。このため、所定割合情報を把握可能とすることにより、所定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合が不自然に高い異常、及び所定期間における遊技領域から排出された遊技球の合計排出個数に対する遊技球の合計付与個数の割合が不自然に低い異常を把握可能とすることができる。
【６７８７】
なお、特徴αｏ１～αｏ６の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～

ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６７８８】

上記特徴αｌ群、上記特徴αｍ群、上記特徴αｎ群、及び上記特徴αｏ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６７８９】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６７９０】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６７９１】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の管理が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６７９２】

＜特徴αｐ群＞

特徴αｐ１．単位対象情報（単位算出期間における出玉率）を記憶するための単位記憶領域（共通管理バッファ６１６の第０～第９記憶エリア６１６ａ～６１６ｊ）を複数有する所定記憶手段（共通管理バッファ６１６）と、

記憶実行契機（全遊技状態における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数が単位基準個数に達すること）が発生したことに基づいて、前記単位記憶領域に前記単位対象情報を記憶させる単位記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ５０３の処理

を実行する機能）と、
を備え、
複数の前記単位記憶領域において前記単位対象情報が記憶される対象となる前記単位記憶領域は所定の順序で順次変更される構成であり、
本遊技機は、
複数の前記単位記憶領域のうち次の前記単位対象情報を記憶させる対象となる前記単位記憶領域の種類を特定可能とする情報を記憶する記憶対象記憶手段（共通書き込みポインタ６１７）と、
複数の前記単位記憶領域のうち一部の前記単位記憶領域であって、前記記憶対象記憶手段に記憶されている情報に対応する前記単位記憶領域を基準として決定される複数の前記単位記憶領域に記憶されている前記単位対象情報を利用して第１所定処理を実行する第１所定処理実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ６０１～ステップＳＬ６０９の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。
【６７９３】
特徴αｐ１によれば、複数の単位記憶領域において単位対象情報が記憶される対象となる単位記憶領域が所定の順序で順次変更される構成であることにより、既に複数の単位記憶領域に記憶されている単位対象情報をシフトすることなく、新たな単位対象情報を記憶することができる。また、複数の単位記憶領域のうち次の単位対象情報を記憶させる対象となる単位記憶領域の種類を特定するために設けられた記憶対象記憶手段を利用して、第１所定処理を実行する場合に利用する単位対象情報が記憶されている一部の単位記憶領域を決定する。このため、第１所定処理を実行する場合に利用する単位対象情報が記憶されている一部の単位記憶領域を決定するための専用の構成を記憶対象記憶手段とは別に設ける構成を不要としながら、第１所定処理を実行する場合に利用する単位対象情報が記憶されている一部の単位記憶領域を決定することができる。
【６７９４】
特徴αｐ２．前記第１所定処理実行手段は、前記記憶対象記憶手段に記憶されている情報に対応する前記単位記憶領域と、当該単位記憶領域から前記所定の順序とは逆側の順序で連続する前記単位記憶領域とを含む複数の前記単位記憶領域に記憶されている前記単位対象情報を利用して前記第１所定処理を実行することを特徴とする特徴αｐ１に記載の遊技機。
【６７９５】
特徴αｐ２によれば、記憶対象記憶手段に記憶されている情報に対応する単位記憶領域と、当該単位記憶領域から所定の順序とは逆側の順序で連続する単位記憶領域とを含む複数の単位記憶領域に記憶されている単位対象情報を利用して第１所定処理を実行する構成であることにより、直近の連続する複数の単位対象情報が記憶されている単位記憶領域を特定するための専用の構成を不要としながら、直近の連続する複数の単位対象情報に基づいて第１所定処理を実行することが可能となる。
【６７９６】
特徴αｐ３．前記所定記憶手段における複数の前記単位記憶領域の全ての情報を利用して第２所定処理を実行する第２所定処理実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ５１８の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｐ１又はαｐ２に記載の遊技機。
【６７９７】
特徴αｐ３によれば、所定記憶手段における複数の単位記憶領域の全て情報を利用して第２所定処理を実行する構成であることにより、所定記憶手段において第２所定処理に利用する情報が記憶されている単位記憶領域を特定するための処理構成を簡略化することができる。
【６７９８】
なお、特徴αｐ１～αｐ３の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴

Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６７９９】

上記特徴αｐ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６８００】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６８０１】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６８０２】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、所定記憶手段に対する処理を好適に実行することが可能な構成が求められており、この点について未だ改良の余地がある。

【６８０３】

＜特徴αｑ群＞

特徴αｑ１．遊技が行われることで所定利益付与対象事象（一般入賞口３１、特電入賞

装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４への遊技球の入球）が発生したことに基づいて所定利益を付与する所定利益付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１６及びステップＳ３１７の処理を実行する機能）と、
遊技が実行されることにより特定事象（遊技領域ＰＡから遊技球が排出されること）が発生した回数に対応する特定事象情報（第９３～第９６の実施形態における合計個数データ）を算出する第１算出手段（第９３～第９６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＭ３０６の処理を実行する機能）と、
前記特定事象情報に対する前記所定利益の合計量の割合に対応する所定割合情報（ベース値）を算出する第２算出手段（第９３～第９６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＮ１０１～ステップＳＮ１０４の処理を実行する機能）と、
当該第２算出手段により算出された前記所定割合情報を報知する所定報知手段（第９３～第９６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＭ５１１～ステップＳＭ５１３の処理を実行する機能）と、
前記第１算出手段により算出された前記特定事象情報を報知する特定報知手段（第９３～第９６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＭ６０１～ステップＳＭ６０５の処理を実行する機能）と、
を備えていることを特徴とする遊技機。

【６８０４】

特徴αｑ１によれば、所定割合情報の報知に基づいて、所定割合情報が当該所定割合情報の理論値範囲に収まっているか否かを把握可能とすることができる。また、特定事象情報の報知に基づいて把握される特定事象の発生回数が多い場合には所定割合情報についての収束の程度が高いことを把握可能とすることができるとともに、特定事象情報の報知に基づいて把握される特定事象の発生回数が少ない場合には所定割合情報についての収束の程度が低いことを把握可能とすることができる。以上より、所定割合情報の監視を好適に行うことを可能とすることができるとともに、遊技機の管理を好適に行うことを可能とすることができる。

【６８０５】

特徴αｑ２．遊技媒体（遊技球）を利用して遊技が行われる構成であり、
前記第１算出手段は、利用された遊技媒体の合計数に対応する情報（第９３～第９６の実施形態における合計個数データ）を前記特定事象情報として算出することを特徴とする特徴αｑ１に記載の遊技機。

【６８０６】

特徴αｑ２によれば、上記特徴αｑ１の構成を備え、特定事象情報の報知に基づいて利用された遊技媒体の合計数に対応する情報を把握可能とすることにより、所定割合情報についての収束の程度を把握可能とすることができる。

【６８０７】

特徴αｑ３．前記特定報知手段は、報知開始操作（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて直近のベース値の表示が行われている状況において行われるリセットボタン６８ｃの押圧操作）が行われたことに基づいて前記特定事象情報の報知を開始させることを特徴とする特徴αｑ１又はαｑ２に記載の遊技機。

【６８０８】

特徴αｑ３によれば、特定事象情報の確認が必要な状況となった場合に報知開始操作を行って特定事象情報の報知を開始させることができる。遊技ホールの管理者は、所定割合情報が当該所定割合情報の理論値範囲から外れていることに気付いた場合に報知開始操作を行って特定事象情報の確認を行うことができる。必要に応じて特定事象情報を確認可能とすることにより、所定割合情報についての収束の程度を容易に把握可能とすることができる。

【６８０９】

特徴αｑ４．前記特定報知手段は、前記所定割合情報が報知されている状況において前記報知開始操作が行われたことに基づいて前記特定事象情報の報知を開始させることを特

徴とする特徴αｑ３に記載の遊技機。
【６８１０】
特徴αｑ４によれば、所定割合情報と特定事象情報との対応関係を分かり易いものとすることができる。また、報知されている所定割合情報が当該所定割合情報の理論値範囲から外れている場合に特定事象情報の報知を開始させて所定割合情報についての収束の程度を把握可能とすることができる。
【６８１１】
特徴αｑ５．前記所定割合情報の報知及び前記特定事象情報の報知のいずれもが所定表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）にて行われる構成であり、
前記特定事象情報の報知が終了した後は前記所定割合情報の報知が開始されることを特徴とする特徴αｑ４に記載の遊技機。
【６８１２】
特徴αｑ５によれば、所定割合情報の報知及び特定事象情報の報知が共通の所定表示手段にて行われる構成であることにより、所定表示手段にて所定割合情報及び特定事象情報を把握可能とすることができる。これにより、所定割合情報の報知が行われる表示手段と、特定事象情報の報知が行われる表示手段とが分かれている構成と比較して、所定割合情報及び特定事象情報の把握を容易なものとすることができる。よって、遊技ホールの監視者による所定割合情報の監視負担を軽減することができる。
【６８１３】
特定事象情報の報知が終了した後に所定割合情報の報知が開始される構成であることにより、特定事象の発生回数に対応する情報を把握した上で所定割合情報を確認可能とすることができる。これにより、所定割合情報についての収束の程度の把握を容易なものとすることができる。
【６８１４】
特徴αｑ６．前記所定報知手段は、前記所定割合情報の報知を開始した場合には所定継続期間（表示継続時間）に亘って当該所定割合情報の報知を継続する構成であって、
前記所定割合情報が報知されている状況において前記特定事象情報の報知が開始された場合には当該特定事象情報の報知が終了した後に前記所定割合情報の報知を前記所定継続期間に亘って継続させる手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ５０４、ステップＳＭ５０５及びステップＳＭ５０８～ステップＳＭ５１３の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｑ５に記載の遊技機。
【６８１５】
特徴αｑ６によれば、所定割合情報の報知が所定継続期間に亘って継続される構成であることにより、所定割合情報の確認を容易なものとすることができる。当該構成において、特定事象情報の報知が開始されるまでに所定割合情報の報知が行われていた期間に関わらず、特定事象情報の報知が終了した後に所定割合情報の報知が所定継続期間に亘って行われる。特定事象情報の報知が開始された場合にそれまで行われていた所定割合情報の報知が中断し、特定事象情報の報知が終了した場合に当該所定割合情報の報知が再開される構成とすると、所定割合情報の報知期間が終了する間際に特定事象情報の報知が開始された場合に当該特定事象情報の報知終了後に行われる所定割合情報の報知期間が極端に短くなってしまうおそれがある。これに対して、特定事象情報の報知終了後に所定割合情報の報知期間が新たに開始される構成であることにより、特定事象情報の報知終了後に行われる所定割合情報の報知期間を所定継続期間に亘って確保することができる。これにより、特定事象情報の報知終了後に行われる所定割合情報の報知を分かり易いものとすることができる。
【６８１６】
特徴αｑ７．前記特定事象情報が基準情報（シフト基準個数）となった場合における前記所定割合情報を履歴割合情報（第１履歴エリア３１２に格納されるベース値、第２履歴エリア３１３に格納されるベース値及び第３履歴エリア３１４に格納されるベース値）として記憶する順次記憶手段（第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴

エリア３１４）を備え、
　前記所定報知手段は、前記第２算出手段により現状算出されている前記所定割合情報が報知されている現状報知状態（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて現状エリア３１１に格納されているベース値が報知されている状態）となるように所定表示手段（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４）を制御することが可能であって、前記順次記憶手段に記憶されている前記履歴割合情報が報知されている履歴報知状態（第１～第４報知用表示装置２０１～２０４にて第１履歴エリア３１２、第２履歴エリア３１３及び第３履歴エリア３１４のいずれかに格納されているベース値が報知されている状態）となるように前記所定表示手段を制御することが可能であることを特徴とする特徴αｑ３乃至αｑ６のいずれか１に記載の遊技機。
【６８１７】
　特徴αｑ７によれば、所定表示手段にて行われる報知に基づいて、現状算出されている所定割合情報を確認可能とすることができるとともに、順次記憶手段に記憶されている履歴割合情報を確認可能とすることができる。現状算出されている所定割合情報を確認可能とすることにより、現状算出されている所定割合情報が所定割合情報の理論値範囲に収まっているか否かを把握可能とすることができるとともに、履歴割合情報を確認可能とすることにより、過去に算出された所定割合情報が所定割合情報の理論値範囲に収まっているか否かを把握可能とすることができる。過去に算出された所定割合情報を確認可能とすることにより、所定割合情報が所定割合情報の理論値範囲から外れている状況が発生した時期を過去に遡って確認可能とすることができる。また、所定割合情報の確認が必要となる頻度を低減して、遊技ホールの管理者による所定割合情報の監視負担を軽減することができる。
【６８１８】
　特徴αｑ８．前記第２算出手段により算出されている前記所定割合情報が、前記特定事象が発生した回数が基準回数未満（初期基準個数未満）であることに対応する前記特定事象情報に対する前記所定利益の合計量の割合に対応する情報である場合、特別報知（演算初期表示）が実行されるようにする特別報知手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ３１３～ステップＳＭ３１５の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ５１４～ステップＳＭ５１７の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｑ１乃至αｑ７のいずれか１に記載の遊技機。
【６８１９】
　特徴αｑ８によれば、特定事象が発生した回数が基準回数未満である状況では、特定事象情報を確認するまでもなく特別報知が行われていることに基づいて第２算出手段により算出されている所定割合情報についての収束の程度が低いことを把握可能とすることができる。特定事象の発生回数が基準回数未満である場合には、所定割合情報が当該所定割合情報の理論値範囲から外れる可能性が高い。特定事象の発生回数が基準回数未満であることを容易に把握可能とすることにより、特定事象情報を確認しなければならない状況が発生する頻度を低減することができる。これにより、遊技ホールの管理者による所定割合情報の監視負担を軽減することができる。
【６８２０】
　特徴αｑ９．前記特別報知手段は、前記所定割合情報の報知の実行態様が特別態様（第１報知用表示装置２０１及び第２報知用表示装置２０２にて表示対象となる文字の点滅表示が行われる態様）となるようにすることで前記特別報知が実行されるようにすることを特徴αｑ８に記載の遊技機。
【６８２１】
　特徴αｑ９によれば、特別態様で所定割合情報の報知を実行する構成であることにより、所定割合情報の報知とは別に特定事象が発生した回数が基準回数未満である状況であることを示す報知を行う構成と比較して、所定割合情報の報知を把握し易いものとすることができる。また、所定割合情報の報知とは別に特定事象が発生した回数が基準回数未満である状況であることを示す報知を行うための構成を不要としながら、特定事象が発生した

回数が基準回数未満である状況であることを把握可能とすることができる。

【６８２２】

なお、特徴αｑ１～αｑ９の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６８２３】

上記特徴αｑ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。

【６８２４】

遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。

【６８２５】

また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。

【６８２６】

ここで、上記例示等のような遊技機においては、遊技機の管理が好適に行われる必要があり、この点について未だ改良の余地がある。

【６８２７】
＜特徴αｒ群＞
特徴αｒ１．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、
当該制御手段は、
所定処理（非特定制御に対応する処理）を実行する所定処理実行手段（第９３、第９５及び第９６の実施形態における主側ＣＰＵ６３の試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理を実行する機能）と、
当該所定処理実行手段により前記所定処理が開始される場合に、前記内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報（フラグレジスタの情報）を所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）に退避させる退避実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ８０７及びステップＳＬ８２１の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ８０６の処理を実行する機能）と、
割込み処理（第１タイマ割込み処理、第２タイマ割込み処理）の実行を禁止する割込み禁止手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ８０７及びステップＳＬ８２１の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ８０６の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記制御手段のプログラムにおいて前記所定処理を開始させるための命令として一の命令である所定命令（第９３、第９５及び第９６の実施形態におけるＣＡＬＬＩ命令）が設定されており、
前記所定命令が実行されることにより、前記退避実行手段による前記所定記憶手段への前記所定情報の退避、前記割込み禁止手段による前記割込み処理の実行の禁止、及び前記所定処理実行手段による前記所定処理の開始が行われることを特徴とする遊技機。
【６８２８】
特徴αｒ１によれば、プログラムに設定された一の所定命令により、退避実行手段による所定記憶手段への所定情報の退避、割込み禁止手段による割込み処理の実行の禁止、及び所定処理実行手段による所定処理の開始を行うことができる。このため、所定情報を退避させるとともに割込み処理の実行を禁止した状態で所定処理を開始するためのプログラムに設定される命令の数を低減することができるとともに、当該プログラムを記憶するための記憶容量を低減することができる。
【６８２９】
特徴αｒ２．前記制御手段は、特定処理（特定制御に対応する処理）を実行する特定処理実行手段（第９３、第９５及び第９６の実施形態における主側ＣＰＵ６３の試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理以外の処理を実行する機能）を備え、
前記所定記憶手段は、
前記特定処理が実行される場合に情報が記憶される特定記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２）と、
前記所定処理が実行される場合に情報が記憶される所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２２３、非特定制御用のスタックエリア２２４）と、
を備え、
前記特定記憶領域は、前記特定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であり、前記所定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能であるものの情報の記憶が不可であり、
前記所定記憶領域は、前記所定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であり、前記特定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能であるものの情報の記憶が不可であることを特徴とする特徴αｒ１に記載の遊技機。
【６８３０】
特徴αｒ２によれば、特定記憶領域を特定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となるとともに、所定記憶領域を所定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となる。

【６８３１】
特徴αｒ３．前記割込み処理が開始された場合、前記特定処理が実行されることを特徴とする特徴αｒ２に記載の遊技機。
【６８３２】
特徴αｒ３によれば、上記特徴αｒ２の構成を備え、特定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能な特定記憶領域を利用して割込み処理を実行することができる。
【６８３３】
特徴αｒ４．前記特定処理が実行されている状況において前記所定命令が実行される構成であることを特徴とする特徴αｒ２又はαｒ３に記載の遊技機。
【６８３４】
特徴αｒ４によれば、特定処理が実行されている状況において所定命令を実行することにより、一の命令（所定命令）により、退避実行手段による所定記憶手段への所定情報の退避及び割込み禁止手段による割込み処理の実行の禁止が行われた状態で所定処理を開始することができる。これにより、特定処理が実行されている状況において、所定情報を所定記憶手段に退避するとともに割込み処理の実行を禁止して所定処理を開始するための処理構成を簡素化することができる。
【６８３５】
特徴αｒ５．前記所定処理として、第１所定処理（第９３、第９５及び第９６の実施形態における試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理のいずれかの処理）と第２所定処理（第９３、第９５及び第９６の実施形態における試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理のうち第１所定処理とは異なる処理）とが設定されており、
前記所定命令として、前記第１所定処理を開始させるための一の命令である第１所定命令（試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理のいずれかの処理を実行するためのＣＡＬＬＩ命令）と、前記第２所定処理を開始させるための一の命令である第２所定命令（試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理のうち第１所定処理とは異なる処理を実行するためのＣＡＬＬＩ命令）と、が設定されていることを特徴とする特徴αｒ１乃至αｒ４のいずれか１に記載の遊技機。
【６８３６】
特徴αｒ５によれば、第１所定命令により、退避実行手段による所定記憶手段への所定情報の退避、割込み禁止手段による割込み処理の実行の禁止、及び所定処理実行手段による第１所定処理の開始を行うことができる。また、第２所定命令により、退避実行手段による所定記憶手段への所定情報の退避、割込み禁止手段による割込み処理の実行の禁止、及び所定処理実行手段による第２所定処理の開始を行うことができる。このため、所定情報を退避させるとともに割込み処理の実行を禁止した状態で所定処理である第１所定処理又は第２所定処理を開始するためのプログラムに設定される命令の数を低減することができるとともに、当該プログラムを記憶するための記憶容量を低減することができる。
【６８３７】
特徴αｒ６．前記所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる復帰実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＬ９１６の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ１１６の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ９１６の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＮ６０９の処理を実行する機能）を備えていることを特徴とする特徴αｒ１乃至αｒ５のいずれか１に記載の遊技機。
【６８３８】
特徴αｒ６によれば、上記特徴αｒ１の構成を備え、所定命令により所定処理が実行される場合には、所定処理の開始前に所定記憶手段への所定情報の退避が行われる構成である。当該構成において、所定処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された所定情報を内部記憶手段に復帰させる構成であることにより、所定処理の実行後、当該所定処理の実行前における内部記憶手段の状態から所定処理とは異なる処理を実行することが可能となる。

【６８３９】
特徴αｒ７．前記制御手段のプログラムにおいて前記所定処理を終了させるための命令として一の命令である特定命令（第９３～第９６の実施形態におけるＲＥＴＩ命令）が設定されており、
前記特定命令が実行されることにより、前記復帰実行手段による前記内部記憶手段への前記所定情報の復帰、前記割込み処理の実行の許可、及び前記所定処理の終了が行われることを特徴とする特徴αｒ６に記載の遊技機。
【６８４０】
特徴αｒ７によれば、プログラムに設定された一の特定命令により、復帰実行手段による内部記憶手段への所定情報の復帰、割込み処理の実行の許可、及び所定処理の終了を行うことができる。このため、復帰実行手段による内部記憶手段への所定情報の復帰、割込み処理の実行の許可、及び所定処理の終了を行うためのプログラムに設定される命令の数を低減することができるとともに、当該プログラムを記憶するための記憶容量を低減することができる。
【６８４１】
特徴αｒ８．前記所定情報は前記内部記憶手段に設けられたフラグレジスタの情報であることを特徴とする特徴αｒ１乃至αｒ７のいずれか１に記載の遊技機。
【６８４２】
特徴αｒ８によれば、所定命令を実行するにより、フラグレジスタの情報を適切に退避させて、所定処理が開始させることが可能となる。
【６８４３】
特徴αｒ９．前記制御手段は、繰り返し実行される繰り返し処理（残余処理）を実行可能であり、
前記繰り返し処理の最初に前記割込み処理の実行が禁止され、前記繰り返し処理の最後で前記所定命令により前記所定処理が実行されることを特徴とする特徴αｒ１乃至αｒ８のいずれか１に記載の遊技機。
【６８４４】
特徴αｒ９によれば、繰り返し処理の最初に割込み処理の実行を禁止することにより、繰り返し処理の実行中に割込み処理が割り込んで実行されてしまうことを防止することができる。また、繰り返し処理の途中で所定命令により所定処理を実行する構成とすると、当該所定処理の終了後に割込み処理の起動を禁止する処理を行って特定処理を実行する必要性が生じてしまう。これに対して、繰り返し処理の最後で所定命令により所定処理を実行する構成であることにより、当該所定処理の実行後に割込み処理の起動を禁止する処理を省略することができる。これにより、繰り返し処理の処理構成を簡素化することができる。
【６８４５】
なお、特徴αｒ１～αｒ９の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、

特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴ααａ１～ααａ３、特徴ααｂ１～ααｂ９、特徴ααｃ１～ααｃ７、特徴ααｄ１～ααｄ９、特徴ααｅ１～ααｅ１３、特徴ααｆ１～ααｆ１３、特徴ααｇ１～ααｇ８、特徴ααｈ１～ααｈ１１、特徴ααｉ１～ααｉ１５、特徴ααｊ１～ααｊ１２、特徴ααｋ１～ααｋ１１、特徴ααｌ１～ααｌ１８、特徴ααｍ１～ααｍ１１、特徴ααｎ１～ααｎ９、特徴ααｏ１～ααｏ６、特徴ααｐ１～ααｐ３、特徴ααｑ１～ααｑ９、特徴ααｒ１～ααｒ９、特徴ααｓ１～ααｓ８、特徴ααｔ１～ααｔ８、特徴ααｕ１～ααｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６８４６】

＜特徴αｓ群＞

特徴αｓ１．繰り返し実行される繰り返し処理（第９３～第９６の実施形態における残余処理）を実行可能であって、割込み条件が成立したことに基づいて割込み処理（第１タイマ割込み処理）を実行可能である制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備えた遊技機において、

前記制御手段は、

遊技が実行されることにより所定事象（アウトロ２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４への入球）が発生した場合にそれに対応する遊技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２３１）に記憶させるための履歴記憶処理（主側ＣＰＵ６３におけるＳＭ２０４の処理）を実行する履歴記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３における通常の入球管理処理を実行する機能）と、

前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報（ベース値）を導出するための情報導出処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＮ１０１～ステップＳＮ１０４の処理）を実行する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＮ１０１～ステップＳＮ１０４の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記履歴記憶処理及び前記情報導出処理のうち少なくとも一方は前記繰り返し処理において実行されることを特徴とする遊技機。

【６８４７】

特徴αｓ１によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報が導出される。このため、態様情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。

【６８４８】

履歴記憶処理及び情報導出処理のうち少なくとも一方が繰り返し処理において実行される構成であることにより、履歴記憶処理及び情報導出処理の両方が割込み処理において実行される構成と比較して、割込み処理の実行期間を短縮することができる。これにより、割込み周期内に割込み処理が終了しない事態を回避することができる。

【６８４９】

特徴αｓ２．繰り返し実行される繰り返し処理（第９３～第９６の実施形態における残余処理）を実行可能であって、割込み条件が成立したことに基づいて割込み処理（第１タイマ割込み処理）を実行可能である制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備えた遊技機において、

前記制御手段は、

遊技が実行されることにより所定事象（アウトロ２４ａ、一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４への入球）が発生した場合にそれに対応する遊

技の履歴情報を履歴記憶手段（通常用カウンタエリア２３１）に記憶させるための履歴記憶処理（主側ＣＰＵ６３におけるＳＭ２０４の処理）を実行する履歴記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３における通常の入球管理処理を実行する機能）と、
前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報（ベース値）を導出するための情報導出処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＮ１０１～ステップＳＮ１０４の処理）を実行する情報導出手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＮ１０１～ステップＳＮ１０４の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記履歴記憶処理及び前記情報導出処理のうち一方は前記繰り返し処理において実行され、前記履歴記憶処理及び前記情報導出処理のうち他方は前記割込み処理において実行されることを特徴とする遊技機。
【６８５０】
特徴αｓ２によれば、所定事象が発生した場合にはそれに対応する履歴情報が履歴記憶手段にて記憶される。履歴情報が遊技機自身にて記憶されることにより、履歴情報への不正なアクセスや不正な改変を阻止することができる。また、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報が導出される。このため、態様情報を利用することで所定事象の発生頻度の管理を好適に行うことが可能となる。
【６８５１】
履歴記憶処理及び情報導出処理のうち一方が繰り返し処理において実行され、履歴記憶処理及び情報導出処理のうち他方が割込み処理において実行される構成であることにより、履歴記憶処理及び情報導出処理の両方が割込み処理において実行される構成と比較して、割込み処理の実行期間を短縮することができる。これにより、割込み周期内に割込み処理が終了しない事態を回避することができる。また、履歴記憶処理及び情報導出処理のうち割込み処理において実行される処理を定期的に実行することが可能となる。
【６８５２】
特徴αｓ３．前記履歴記憶処理が前記割込み処理において実行され、前記情報導出処理が前記繰り返し処理において実行されることを特徴とする特徴αｓ２に記載の遊技機。
【６８５３】
特徴αｓ３によれば、遊技の履歴情報を履歴記憶手段に記憶させる履歴記憶処理を定期的に実行することにより、履歴記憶手段に記憶されている遊技の履歴情報の更新頻度を高めることが可能となる。また、繰り返し処理において情報導出処理が実行される構成とすることにより、割込み処理において情報導出処理が実行される構成と比較して、割込み処理の実行に要する時間を短縮することができる。これにより、割込み処理が割込み周期内に終了しない事態を回避することができる。
【６８５４】
特徴αｓ４．前記情報導出処理が実行されている状況においては前記割込み処理の実行が禁止されることを特徴とする特徴αｓ３に記載の遊技機。
【６８５５】
特徴αｓ４によれば、上記特徴αｓ２の構成を備え、前記情報導出処理では、履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して遊技の結果に対応する態様情報が導出される。情報導出処理が実行されている状況において割込み処理が割り込んで実行されることを禁止することにより、情報導出処理の途中で履歴記憶手段に記憶されている履歴情報が更新されてしまうことを防止することができる。また、割込み処理の開始に際して情報導出処理に利用する情報を退避させる処理、及び割込み処理の終了に際して情報導出処理に利用する情報を復帰させる処理を不要とすることができる。これにより、制御手段の処理負荷を軽減することができる。
【６８５６】
特徴αｓ５．前記制御手段は、
前記履歴情報に基づいて基準契機（大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数

がシフト基準個数に達すること）が発生したことを特定する契機特定手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ３１６の処理を実行する機能）と、
当該契機特定手段により前記基準契機が発生したことが特定されたことに基づいて、当該基準契機が発生した場合に前記履歴記憶手段に記憶されている前記履歴情報を利用して前記情報導出手段により導出された前記態様情報を態様情報記憶手段（第１履歴エリア３１２）に記憶させるための記憶実行処理（データシフト処理）を実行する記憶実行手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ３０２の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記記憶実行処理が前記割込み処理において実行されることを特徴とする特徴αｓ３又はαｓ４に記載の遊技機。

【６８５７】
特徴αｓ５によれば、基準契機が発生した場合に履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して情報導出手段により導出された態様情報が態様情報記憶手段に記憶される構成であることにより、基準契機が発生した場合に履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して情報導出手段により導出された態様情報を把握可能とすることができる。また、記憶実行処理が割込み処理において実行される構成であることにより、契機特定手段により基準契機が発生したことが特定されてから記憶実行処理が実行されるまでの期間が長くなってしまうことを防止することができる。

【６８５８】
特徴αｓ６．前記記憶実行手段は、前記契機特定手段により前記基準契機が発生していることが特定された場合、当該特定が行われた前記割込み処理の処理回よりも後の前記割込み処理の処理回において前記記憶実行処理を実行することを特徴とする特徴αｓ５に記載の遊技機。

【６８５９】
特徴αｓ６によれば、契機特定手段により基準契機が発生していることの特定が行われた割込み処理の処理回が終了した後に行われる繰り返し処理において、情報導出処理が実行されることにより、当該基準契機が発生した状況において履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して態様情報を導出することができる。そして、当該基準契機が発生した状況において履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して情報導出手段により態様情報が導出された状態において行われる割込み処理の処理回において記憶実行処理を実行することにより、基準契機が発生した場合に履歴記憶手段に記憶されている履歴情報を利用して情報導出手段により導出された態様情報を態様情報記憶手段に記憶させることができる。

【６８６０】
特徴αｓ７．遊技媒体（遊技球）を利用して遊技が行われる構成であり、
本遊技機は、遊技が行われることで利益付与事象（一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４への遊技球の入球）が発生したことに基づいて利益を付与する利益付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１６及びステップＳ３１７の処理を実行する機能）を備え、
前記履歴記憶実行手段は、前記所定事象として前記利益が付与されたことに基づいてそれに対応する情報の記憶が前記履歴記憶手段に実行されるようにするものであり、
前記態様情報は、所定期間（大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数がシフト基準個数に達するまでの期間）において利用された前記遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された前記利益の合計量の割合に対応する所定割合情報（ベース値）であることを特徴とする特徴αｓ２乃至αｓ６のいずれか１に記載の遊技機。

【６８６１】
特徴αｓ７によれば、所定割合情報に基づいて、所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された利益の合計量の割合について情報を把握可能とすることができる。これにより、遊技機の管理を好適に行うことができる。

【６８６２】
特徴αｓ８．前記情報導出手段は、前記所定期間において付与された前記利益の合計量を前記所定期間において利用された前記遊技媒体の合計数で除算することで得られた所定桁数（第９３～第９６の実施形態では小数点第４位までの桁数）の除算結果を桁調整することにより、当該所定桁数よりも桁数が少ない前記所定割合情報を導出することを特徴とする特徴αｓ７に記載の遊技機。
【６８６３】
特徴αｓ８によれば、所定期間において付与された利益の合計量を所定期間において利用された遊技媒体の合計数で除算することで得られた所定桁数の除算結果を桁調整して所定割合情報を導出する構成であることにより、導出される所定割合情報の精度を高めることができる。上記特徴αｓ２の構成を備え、履歴記憶処理及び情報導出処理のうち一方は繰り返し処理において実行され、履歴記憶処理及び情報導出処理のうち他方は割込み処理において実行される構成である。履歴記憶処理及び情報導出処理が繰り返し処理及び割込み処理に分散されていることにより、除算結果の桁調整が行われる情報導出処理に要する時間が長くなってしまったとしても、割込み処理が割込み周期内で終了しない事態を回避することができる。
【６８６４】
なお、特徴αｓ１～αｓ８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。
【６８６５】
＜特徴αｔ群＞
特徴αｔ１．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、
当該制御手段は、
前記各種処理のうち特定処理（特定制御に対応する処理）を実行する特定処理実行手段（第９３～第９６の実施形態における主側ＣＰＵ６３の試射試験実行処理、管理実行処理

及び集計除算実行処理以外の処理を実行する機能）と、
前記各種処理のうち所定処理（非特定制御に対応する処理）を実行する所定処理実行手段（第９３～第９６の実施形態における主側ＣＰＵ６３の試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理を実行する機能）と、
前記特定処理を実行している状況から前記所定処理を実行する状況となる場合又は前記所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報（フラグレジスタの情報）を所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）に退避させる退避実行手段（第９３、第９５及び第９６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＬ８０７及びステップＳＬ８２１の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ８０６の処理を実行する機能、第９４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＮ２１９の処理を実行する機能）と、
前記所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる復帰実行手段（第９３、第９５及び第９６の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＬ８０７及びステップＳＬ８２１の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ８０６の処理を実行する機能、第９４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＮ２２３の処理を実行する機能）と、
を備え、
前記所定処理として、第１所定処理（第９３～第９６の実施形態における試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理のいずれかの処理）と第２所定処理（第９３～第９６の実施形態における試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理のうち第１所定処理とは異なる処理）とが設定されており、
前記第１所定処理を実行する状況となる場合又は前記第１所定処理を実行する状況となった場合に、前記退避実行手段により前記所定情報が所定記憶手段に退避され、前記第１所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報が前記復帰実行手段により前記内部記憶手段に復帰される構成であり、
前記第２所定処理を実行する状況となる場合又は前記第２所定処理を実行する状況となった場合に、前記退避実行手段により前記所定情報が所定記憶手段に退避され、前記第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報が前記復帰実行手段により前記内部記憶手段に復帰される構成であることを特徴とする遊技機。

【６８６６】
特徴αｔ１によれば、特定処理を実行している状況から第１所定処理を実行する状況となる場合又は第１所定処理を実行する状況となった場合には所定情報が所定記憶手段に退避される。これにより、第１所定処理が実行される場合に、特定処理の実行に際して内部記憶手段に記憶された情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。また、第１所定処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された所定情報が内部記憶手段に復帰される。これにより、第１所定処理が終了した場合には当該第１所定処理の実行前における内部記憶手段の状態から第１所定処理とは異なる処理を実行することが可能となる。

【６８６７】
特定処理を実行している状況から第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合には所定情報が所定記憶手段に退避される。これにより、第２所定処理が実行される場合に、特定処理の実行に際して内部記憶手段に記憶された情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。また、第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された所定情報が内部記憶手段に復帰される。これにより、第２所定処理が終了した場合には当該第２所定処理の実行前における内部記憶手段の状態から第２所定処理とは異なる処理を実行することが可能となる。

【６８６８】
所定処理として第１所定処理及び第２所定処理が存在しており、これら第１所定処理及び第２所定処理が非連続的に実行される構成であることにより、所定記憶手段に退避され

た所定情報が内部記憶手段に復帰されることなく第１所定処理及び第２所定処理が連続的に実行される構成と比較して、所定処理が実行されている状態が長く継続してしまうことを防止することができる。以上より、各種制御を好適に行うことが可能となる。

【６８６９】

特徴αｔ２．前記所定記憶手段は、

前記特定処理が実行される場合に情報が記憶される特定記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２）と、

前記所定処理が実行される場合に情報が記憶される所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２２３、非特定制御用のスタックエリア２２４）と、

を備え、

前記特定記憶領域は、前記特定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であり、前記所定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能であるものの情報の記憶が不可であり、

前記所定記憶領域は、前記所定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であり、前記特定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能であるものの情報の記憶が不可であることを特徴とする特徴αｔ１に記載の遊技機。

【６８７０】

特徴αｔ２によれば、特定記憶領域を特定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となるとともに、所定記憶領域を所定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となる。上記特徴αｔ１の構成を備え、所定情報が所定記憶手段に退避された状態で所定記憶領域を利用して第１所定処理を実行し、当該第１所定処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された所定情報を内部記憶手段に復帰させることができる。また、上記特徴αｔ１の構成を備え、所定情報が所定記憶手段に退避された状態で所定記憶領域を利用して第２所定処理を実行し、当該第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された所定情報を内部記憶手段に復帰させることができる。

【６８７１】

特徴αｔ３．前記制御手段は、繰り返し実行される繰り返し処理（第９３～第９６の実施形態における残余処理）を実行可能であって、割込み条件が成立したことに基づいて割込み処理（第１タイマ割込み処理）を実行可能であり、

前記第１所定処理は前記繰り返し処理において実行され、前記第２所定処理は前記割込み処理において実行されることを特徴とする特徴αｔ１又はαｔ２に記載の遊技機。

【６８７２】

特徴αｔ３によれば、割込み処理において第２所定処理が実行される構成であることにより、第２所定処理を定期的に実行することができる。また、繰り返し処理において第１所定処理が実行される構成であることにより、第１所定処理を割込み処理が実行されない期間において繰り返し実行することができる。所定処理である第１所定処理及び第２所定処理が繰り返し処理及び割込み処理に分散されている構成であることにより、所定処理が継続して行われる期間を短縮することができる。また、第１所定処理及び第２所定処理の両方が割込み処理において実行される構成と比較して、割込み処理の実行期間を短縮することができる。これにより、割込み処理が割込み周期内に終了しなくなってしまう事態を回避することができる。

【６８７３】

特徴αｔ４．前記制御手段は、繰り返し実行される繰り返し処理（第９３～第９６の実施形態における残余処理）を実行可能であって、割込み条件が成立したことに基づいて割込み処理（第１タイマ割込み処理）を実行可能であり、

前記第１所定処理及び前記第２所定処理はいずれも、前記繰り返し処理及び前記割込み処理のうち一方にて実行されることを特徴とする特徴αｔ１又はαｔ２に記載の遊技機。

【６８７４】

特徴αｔ４によれば、所定処理である第１所定処理及び第２所定処理のいずれもが繰り返し処理及び割込み処理のうち一方にて実行される構成であるため、繰り返し処理及び割

込み処理のうち第１所定処理及び第２所定処理が実行されない側の処理の実行期間を短縮することができる。これにより、繰り返し処理の実行期間又は割込み処理の実行期間が延びて、割込み処理の実行タイミングに遅延が生じてしまうことを防止することができる。

【６８７５】

特徴αｔ５．前記第１所定処理及び前記第２所定処理はいずれも、遊技の結果に対応する所定のパラメータを導出するために実行される処理であることを特徴とする特徴αｔ１乃至αｔ４のいずれか１に記載の遊技機。

【６８７６】

特徴αｔ５によれば、所定処理である第１所定処理及び第２所定処理において遊技の結果に対応する所定のパラメータを導出するための処理が実行される。上記特徴αｔ１の構成を備え、第１所定処理を実行する状況となる場合又は第１所定処理を実行する状況となった場合に、所定情報が所定記憶手段に退避され、第１所定処理を終了する場合又は終了した後に、当該退避された所定情報が内部記憶手段に復帰される。また、第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合に、所定情報が所定記憶手段に退避され、第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、当該退避された所定情報が内部記憶手段に復帰される。このため、特定処理の実行に際して内部記憶手段に記憶された情報が書き換えられてしまうことを防止しながら、遊技の結果に対応する所定のパラメータを導出する処理を実行することが可能となる。また、遊技の結果に対応する所定のパラメータを導出する処理が終了した場合には当該処理の実行前における内部記憶手段の状態から当該処理とは異なる処理を実行することが可能となる。

【６８７７】

上記特徴αｔ１の構成を備え、所定処理である第１所定処理及び第２所定処理が非連続的に実行される構成であることにより、第１所定処理及び第２所定処理が連続的に実行される構成と比較して、所定処理として遊技の結果に対応する所定のパラメータを導出する処理が実行されている状態が長く継続してしまうことを防止することができる。

【６８７８】

特徴αｔ６．遊技媒体（遊技球）を利用して遊技が行われる構成であり、

本遊技機は、遊技が行われることで利益付与事象（一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４への遊技球の入球）が発生したことに基づいて利益を付与する利益付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１６及びステップＳ３１７の処理を実行する機能）を備え、

前記第１所定処理及び前記第２所定処理はいずれも、所定期間（大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数がシフト基準個数に達するまでの期間）において利用された前記遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された前記利益の合計量の割合に対応する所定割合情報を導出するために実行される処理であることを特徴とする特徴αｔ１乃至αｔ５のいずれか１に記載の遊技機。

【６８７９】

特徴αｔ６によれば、所定割合情報に基づいて、所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された利益の合計量の割合について情報を把握可能とすることができる。これにより、遊技機の管理を好適に行うことができる。

【６８８０】

特徴αｔ７．前記制御手段のプログラムにおいて前記所定処理を開始させるための命令として一の命令である所定命令（第９３、第９５及び第９６の実施形態におけるＣＡＬＬＩ命令）が設定されており、

前記所定命令が実行されることにより、前記退避実行手段による前記所定記憶手段への前記所定情報の退避、割込み処理の実行の禁止、及び前記所定処理実行手段による前記所定処理の開始が行われる構成であり、

前記所定命令として、前記第１所定処理を開始させるための一の命令である第１所定命令（試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理のいずれかの処理を実行する

ためのＣＡＬＬＩ命令）と、前記第２所定処理を開始させるための一の命令である第２所定命令（試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理のうち第１所定処理とは異なる処理を実行するためのＣＡＬＬＩ命令）と、が設定されていることを特徴とする特徴αｔ１乃至αｔ６のいずれか１に記載の遊技機。

【６８８１】

特徴αｔ７によれば、プログラムに設定された一の所定命令により、退避実行手段による所定記憶手段への所定情報の退避、割込み禁止手段による割込み処理の実行の禁止、及び所定処理実行手段による所定処理の開始を行うことができる。このため、所定情報を退避させるとともに割込み処理の実行を禁止した状態で所定処理を開始するためのプログラムに設定される命令の数を低減することができるとともに、当該プログラムを記憶するための記憶容量を低減することができる。

【６８８２】

第１所定命令により第１所定処理を開始させる構成であることにより、所定情報を退避させるとともに割込み処理の実行を禁止した状態で第１所定処理を開始することができる。また、所定情報を退避させるとともに割込み処理の実行を禁止した状態で第１所定処理を開始するためのプログラムに設定される命令の数を低減することができるとともに、当該プログラムを記憶するための記憶容量を低減することができる。

【６８８３】

第２所定命令により第２所定処理を開始させる構成であることにより、所定情報を退避させるとともに割込み処理の実行を禁止した状態で第２所定処理を開始することができる。また、所定情報を退避させるとともに割込み処理の実行を禁止した状態で第２所定処理を開始するためのプログラムに設定される命令の数を低減することができるとともに、当該プログラムを記憶するための記憶容量を低減することができる。

【６８８４】

特徴αｔ８．前記所定情報は前記内部記憶手段に設けられたフラグレジスタの情報であることを特徴とする特徴αｔ１乃至αｔ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６８８５】

特徴αｔ８によれば、第１所定処理を実行する状況となる場合又は第１所定処理を実行する状況となった場合に、フラグレジスタの情報を所定記憶手段に退避させ、第１所定処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避されたフラグレジスタの情報を内部記憶手段に復帰させることができる。また、第２所定処理を実行する状況となる場合又は第２所定処理を実行する状況となった場合に、フラグレジスタの情報を所定記憶手段に退避させ、第２所定処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避されたフラグレジスタの情報を内部記憶手段に復帰させることができる。

【６８８６】

なお、特徴αｔ１～αｔ８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６

、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６８８７】

＜特徴αｕ群＞

特徴αｕ１．各種処理を実行し、処理の実行に際して内部記憶手段（主側ＣＰＵ６３のレジスタ）に情報を一時的に記憶させる制御手段（主側ＣＰＵ６３）を備え、

当該制御手段は、

前記各種処理のうち特定処理（特定制御に対応する処理）を実行する特定処理実行手段（第９４及び第９５の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理以外の処理を実行する機能）と、

前記各種処理のうち所定処理（非特定制御に対応する処理）を実行する所定処理実行手段（第９４及び第９５の実施形態における主側ＣＰＵ６３にて試射試験実行処理、管理実行処理及び集計除算実行処理を実行する機能）と、

前記特定処理を実行している状況から前記所定処理を実行する状況となる場合又は前記所定処理を実行する状況となった場合に、前記内部記憶手段に記憶された少なくとも一部の情報である所定情報（フラグレジスタの情報）を所定記憶手段（主側ＲＡＭ６５）に退避させる退避実行手段（第９４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＮ２１９の処理を実行する機能、第９５の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＬ８０７及びステップＳＬ８２１の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ８０６の処理を実行する機能）と、

前記所定処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報を前記内部記憶手段に復帰させる復帰実行手段（第９４の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＮ２２３の処理を実行する機能、第９５の実施形態における主側ＣＰＵ６３のステップＳＬ８０７及びステップＳＬ８２１の処理を実行する機能、主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ８０６の処理を実行する機能）と、

を備え、

前記所定処理として、制御対象が異なるように第１所定対応処理（第９４及び第９５の実施形態における試射試験実行処理及び管理実行処理の一方）と第２所定対応処理（第９４及び第９５の実施形態における試射試験実行処理及び管理実行処理の他方）とが設定されており、

前記第１所定対応処理を実行する状況となる場合又は前記第１所定対応処理を実行する状況となった場合に、前記退避実行手段により前記所定情報が前記所定記憶手段に退避され、その後に前記第１所定対応処理及び前記第２所定対応処理が実行され、前記第２所定対応処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報が前記復帰実行手段により前記内部記憶手段に復帰される構成であることを特徴とする遊技機。

【６８８８】

特徴αｕ１によれば、所定情報が所定記憶手段に退避されている状態において所定処理である第１所定対応処理及び第２所定対応処理を実行することができる。これにより、第１所定処理及び第２所定処理が実行される場合に、特定処理の実行に際して内部記憶手段に記憶された情報が書き換えられてしまわないようにすることが可能となる。また、第１

所定対応処理及び第２所定対応処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された所定情報が内部記憶手段に復帰される。これにより、第１所定対応処理及び第２所定対応処理が終了した場合には当該第１所定対応処理及び第２所定対応処理の実行前における内部記憶手段の状態から第１所定対応処理及び第２所定対応処理とは異なる処理を実行することが可能となる。

【６８８９】

所定情報が所定記憶手段に退避されている状態で第１所定対応処理が実行された後、当該所定情報が内部記憶手段に復帰することなく第２所定対応処理が実行される。これにより、第１所定対応処理の終了に際して所定情報を内部記憶手段に復帰させる処理及び第２所定対応処理の開始に際して所定情報を所定記憶手段に退避させる処理を省略することができる。これにより、所定情報が所定記憶手段に退避されている状態において所定処理である第１所定対応処理及び第２所定対応処理を実行するための処理構成を簡素化することができる。

【６８９０】

特徴αｕ２．前記所定記憶手段は、

前記特定処理が実行される場合に情報が記憶される特定記憶領域（特定制御用のワークエリア２２１、特定制御用のスタックエリア２２２）と、

前記所定処理が実行される場合に情報が記憶される所定記憶領域（非特定制御用のワークエリア２２３、非特定制御用のスタックエリア２２４）と、

を備え、

前記特定記憶領域は、前記特定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であり、前記所定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能であるものの情報の記憶が不可であり、

前記所定記憶領域は、前記所定処理が実行される場合に情報の記憶及び情報の読み出しが可能であり、前記特定処理が実行される場合に情報の読み出しは可能であるものの情報の記憶が不可であることを特徴とする特徴αｕ１に記載の遊技機。

【６８９１】

特徴αｕ２によれば、特定記憶領域を特定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となるとともに、所定記憶領域を所定処理の専用の記憶領域として扱うことが可能となる。

【６８９２】

特徴αｕ３．前記所定情報は前記内部記憶手段に設けられたフラグレジスタの情報であることを特徴とする特徴αｕ１又はαｕ２に記載の遊技機。

【６８９３】

特徴αｕ３によれば、第１所定対応処理を実行する状況となる場合又は第１所定対応処理を実行する状況となった場合に、フラグレジスタの情報を所定記憶手段に退避させ、第２所定対応処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避されたフラグレジスタの情報を内部記憶手段に復帰させることができる。

【６８９４】

特徴αｕ４．前記所定処理として、第３所定対応処理（集計除算実行処理）が設定されており、

前記第３所定対応処理を実行する状況となる場合又は前記第３所定対応処理を実行する状況となった場合に、前記退避実行手段により前記所定情報が所定記憶手段に退避され、前記第３所定対応処理を終了する場合又は終了した後に、前記所定記憶手段に退避された前記所定情報が前記復帰実行手段により前記内部記憶手段に復帰される構成であることを特徴とする特徴αｕ１乃至αｕ３のいずれか１に記載の遊技機。

【６８９５】

特徴αｕ４によれば、所定情報が所定記憶手段に退避されている状態において所定処理である第３所定対応処理を実行することができる。これにより、第３所定処理が実行される場合に、特定処理の実行に際して内部記憶手段に記憶された情報が書き換えられてしま

わないようにすることが可能となる。また、第３所定対応処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された所定情報が内部記憶手段に復帰される。これにより、第３所定対応処理が終了した場合には当該第３所定対応処理の実行前における内部記憶手段の状態から第３所定対応処理とは異なる処理を実行することが可能となる。

【６８９６】

特徴αｕ５．前記第２所定対応処理及び前記第３所定対応処理はいずれも、遊技の結果に対応する所定のパラメータを導出するために実行される処理であることを特徴とする特徴αｕ４に記載の遊技機。

【６８９７】

特徴αｕ５によれば、所定処理である第２所定処理及び第３所定処理において遊技の結果に対応する所定のパラメータを導出するための処理が実行される。上記特徴αｕ１の構成を備え、所定情報が所定記憶手段に退避されている状態において第１所定対応処理及び第２所定対応処理が実行されるとともに、第１所定対応処理及び第２所定対応処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された所定情報が内部記憶手段に復帰される。また、上記特徴αｕ４の構成を備え、所定情報が所定記憶手段に退避されている状態において第３所定対応処理が実行されるとともに、第３所定対応処理を終了する場合又は終了した後に、所定記憶手段に退避された所定情報が内部記憶手段に復帰される。このように、所定処理である第２所定処理及び第３所定処理が非連続的に実行される構成であることにより、第２所定処理及び第３所定処理が連続的に実行される構成と比較して、所定処理として遊技の結果に対応する所定のパラメータを導出するための処理が実行されている状態が長く継続してしまうことを防止することができる。

【６８９８】

特徴αｕ６．遊技媒体（遊技球）を利用して遊技が行われる構成であり、

本遊技機は、遊技が行われることで利益付与事象（一般入賞口３１、特電入賞装置３２、第１作動口３３、第２作動口３４への遊技球の入球）が発生したことに基づいて利益を付与する利益付与手段（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳ３１６及びステップＳ３１７の処理を実行する機能）を備え、

前記第２所定対応処理及び前記第３所定対応処理はいずれも、所定期間（大当たり結果による開閉実行モード及び高頻度サポートモードのいずれでもない状況における遊技領域ＰＡから排出された遊技球の合計個数がシフト基準個数に達するまでの期間）において利用された前記遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された前記利益の合計量の割合に対応する所定割合情報（ベース値）を導出するために実行される処理であることを特徴とする特徴αｕ４又はαｕ５に記載の遊技機。

【６８９９】

特徴αｕ６によれば、所定割合情報に基づいて、所定期間において利用された遊技媒体の合計数に対する当該所定期間において付与された利益の合計量の割合について情報を把握可能とすることができる。これにより、遊技機の管理を好適に行うことができる。また、所定割合情報を導出するために実行される処理である第２所定対応処理及び第３所定対応処理が非連続的に実行される構成であることにより、第２所定処理及び第３所定処理が連続的に実行される構成と比較して、所定割合情報を導出するために実行される処理が実行されている状態が長く継続することを防止することができる。

【６９００】

特徴αｕ７．前記第２所定対応処理は、前記所定期間において利用された前記遊技媒体の合計数及び前記所定期間において付与された前記利益の合計量を計測するための処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＭ３０４及びステップＳＭ３０６の処理）であり、

前記第３所定対応処理は、前記所定期間において付与された前記利益の合計量を前記所定期間において利用された前記遊技媒体の合計数で除算することに基づき前記所定割合情報を算出する処理（主側ＣＰＵ６３におけるステップＳＮ１０１～ステップＳＮ１０４の処理）であることを特徴とする特徴αｕ６に記載の遊技機。

【６９０１】

特徴αｕ７によれば、所定期間において利用された遊技媒体の合計数及び所定期間において付与された利益の合計量を計測するための処理と、所定期間において付与された利益の合計量を所定期間において利用された遊技媒体の合計数で除算することに基づき所定割合情報を算出する処理とを非連続的に実行することができる。このため、これらの処理が連続的に実行される構成と比較して、所定のパラメータを導出するための処理が実行されている状態が長く継続することを防止することができる。

【６９０２】

特徴αｕ８．前記制御手段は、繰り返し実行される繰り返し処理（第９４及び第９５の実施形態における残余処理）を実行可能であって、割込み条件が成立したことに基づいて割込み処理（第１割込み処理）を実行可能であり、

前記第２所定対応処理及び前記第３所定対応処理のうち一方は前記繰り返し処理にて実行され、前記第２所定対応処理及び前記第３所定対応処理のうち他方は前記割込み処理にて実行されることを特徴とする特徴αｕ４乃至αｕ７のいずれか１に記載の遊技機。

【６９０３】

特徴αｕ８によれば、第２所定対応処理及び第３所定対応処理のうち一方が繰り返し処理において実行され、第２所定対応処理及び第３所定対応処理のうち他方が割込み処理において実行される構成であることにより、第２所定対応処理及び第３所定対応処理の両方が繰り返し処理において実行される構成と比較して、繰り返し処理の実行期間を短縮することができる。また、第２所定対応処理及び第３所定対応処理の両方が割込み処理において実行される構成と比較して、割込み処理の実行期間を短縮することができる。これにより、割込み処理の実行タイミングに遅延が生じてしまうことを防止することができる。また、第２所定対応処理及び第３所定対応処理のうち割込み処理において実行される処理を定期的に実行することが可能となる。

【６９０４】

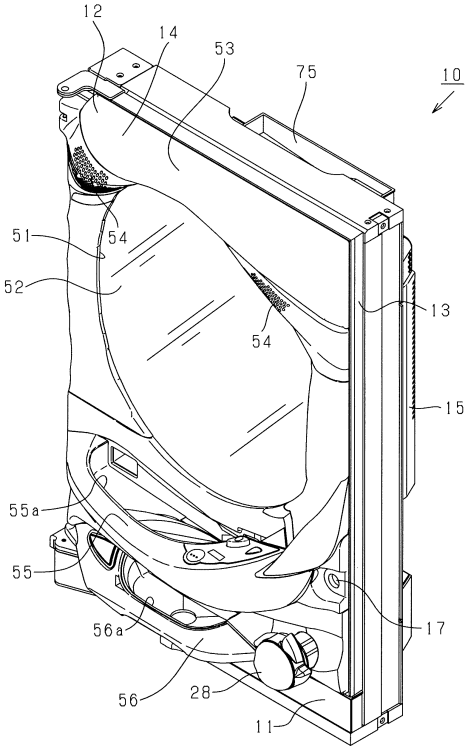
なお、特徴αｕ１～αｕ８の構成に対して、特徴Ａ１～Ａ１５、特徴Ｂ１～Ｂ７、特徴Ｃ１～Ｃ５、特徴Ｄ１～Ｄ１０、特徴Ｅ１～Ｅ６、特徴Ｆ１～Ｆ３、特徴Ｇ１～Ｇ１８、特徴Ｈ１～Ｈ７、特徴Ｉ１～Ｉ９、特徴Ｊ１～Ｊ４、特徴Ｋ１～Ｋ７、特徴Ｌ１～Ｌ２０、特徴Ｍ１～Ｍ７、特徴Ｎ１～Ｎ６、特徴Ｏ１～Ｏ１１、特徴Ｐ１～Ｐ１２、特徴Ｑ１～Ｑ５、特徴Ｒ１～Ｒ１７、特徴Ｓ１～Ｓ８、特徴Ｔ１～Ｔ１３、特徴Ｕ１～Ｕ８、特徴Ｖ１～Ｖ６、特徴Ｗ１～Ｗ１１、特徴Ｘ１～Ｘ１１、特徴Ｙ１～Ｙ１１、特徴Ｚ１～Ｚ１０、特徴ａ１～ａ３、特徴ｂ１～ｂ７、特徴ｃ１～ｃ２１、特徴ｄ１～ｄ１０、特徴ｅ１～ｅ９、特徴ｆ１～ｆ６、特徴ｇ１～ｇ６、特徴ｈ１～ｈ１３、特徴ｉ１～ｉ７、特徴ｊ１～ｊ６、特徴ｋ１～ｋ１６、特徴ｌ１～ｌ５、特徴ｍ１～ｍ３、特徴ｎ１～ｎ１０、特徴ｏ１～ｏ７、特徴ｐ１～ｐ７、特徴ｑ１～ｑ８、特徴ｒ１～ｒ７、特徴ｓ１～ｓ４、特徴ｔ１～ｔ５、特徴ｕ１～ｕ１０、特徴ｖ１～ｖ８、特徴ｗ１～ｗ８、特徴ｘ１～ｘ６、特徴ｙ１～ｙ９、特徴ｚ１～ｚ６、特徴αＡ１～αＡ１０、特徴αＢ１～αＢ６、特徴αＣ１～αＣ１３、特徴αＤ１～αＤ９、特徴αＥ１～αＥ５、特徴αＦ１～αＦ９、特徴αＧ１～αＧ１０、特徴αＨ１～αＨ１１、特徴αＩ１～αＩ８、特徴αＪ１～αＪ１４、特徴αＫ１～αＫ８、特徴αＬ１～αＬ１１、特徴αＭ１～αＭ８、特徴αＮ１～αＮ６、特徴αＯ１～αＯ７、特徴αＰ１～αＰ７、特徴αＱ１～αＱ９、特徴αＲ１～αＲ８、特徴αＳ１～αＳ３、特徴αＴ１～αＴ４、特徴αＵ１～αＵ１０、特徴αＶ１～αＶ５、特徴αＷ１～αＷ９、特徴αＸ１～αＸ４、特徴αＹ１～αＹ１１、特徴αＺ１～αＺ４、特徴αａ１～αａ３、特徴αｂ１～αｂ９、特徴αｃ１～αｃ７、特徴αｄ１～αｄ９、特徴αｅ１～αｅ１３、特徴αｆ１～αｆ１３、特徴αｇ１～αｇ８、特徴αｈ１～αｈ１１、特徴αｉ１～αｉ１５、特徴αｊ１～αｊ１２、特徴αｋ１～αｋ１１、特徴αｌ１～αｌ１８、特徴αｍ１～αｍ１１、特徴αｎ１～αｎ９、特徴αｏ１～αｏ６、特徴αｐ１～αｐ３、特徴αｑ１～αｑ９、特徴αｒ１～αｒ９、特徴αｓ１～αｓ８、特徴αｔ１～αｔ８、特徴αｕ１～αｕ８のうちいずれか１又は複数の構成を適用してもよい。これにより、その組み合わせた構成による相乗的な効果を奏することが可能となる。

【６９０５】
上記特徴αｒ群、上記特徴αｓ群、上記特徴αｔ群及び上記特徴αｕ群に係る発明によれば、以下の課題を解決することが可能である。
【６９０６】
遊技機としてパチンコ機やスロットマシンが知られている。例えば、パチンコ機では、遊技者に付与された遊技球を貯留する皿貯留部を遊技機前面部に備えており、当該皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内されて、遊技者の発射操作に応じて遊技領域に向けて発射される。そして、例えば遊技領域に設けられた入球部に遊技球が入球した場合に、例えば払出装置から皿貯留部に遊技球が払い出される。また、パチンコ機においては、皿貯留部として上側皿貯留部と下側皿貯留部とを備えた構成も知られており、この場合、上側皿貯留部に貯留された遊技球が遊技球発射装置に案内され、当該上側皿貯留部にて余剰となった遊技球が下側皿貯留部に排出される。
【６９０７】
また、スロットマシンでは、メダルがベットされている状況でスタートレバーが操作されて新たなゲームが開始される場合に制御手段にて抽選処理が実行される。また、抽選処理が実行された場合には制御手段にて回転開始制御が実行されることによりリールの回転が開始され、当該リールの回転中にストップボタンが操作された場合には制御手段にて回転停止制御が実行されることによりリールの回転が停止される。そして、リールの回転停止後の停止結果が抽選処理の当選役に対応したものである場合には、当該当選役に対応した特典が遊技者に付与される。
【６９０８】
ここで、上記例示等のような遊技機においては、各種制御を好適に行う必要があり、この点について未だ改良の余地がある。
【６９０９】
以下に、以上の各特徴を適用し得る又は各特徴に適用される遊技機の基本構成を示す。
【６９１０】
パチンコ機：遊技者が操作する操作手段と、その操作手段の操作に基づいて遊技球を発射する遊技球発射手段と、その発射された遊技球を所定の遊技領域に導く球通路と、遊技領域内に配置された各遊技部品とを備え、それら各遊技部品のうち所定の通過部を遊技球が通過した場合に遊技者に特典を付与する遊技機。
【６９１１】
スロットマシン等の回胴式遊技機：複数の絵柄を可変表示させる絵柄表示装置を備え、始動操作手段の操作に起因して前記複数の絵柄の可変表示が開始され、停止操作手段の操作に起因して又は所定時間経過することにより前記複数の絵柄の可変表示が停止され、その停止後の絵柄に応じて遊技者に特典を付与する遊技機。
【符号の説明】
【６９１２】
１０…パチンコ機、１２…遊技機本体、１４…前扉枠、２４ａ…アウト口、２８…発射操作装置、３１…一般入賞口、３２…特電入賞装置、３３…第１作動口、３４…第２作動口、３５…スルーゲート、３７ａ…特図表示部、３７ｂ…特図保留表示部、３８ａ…普図表示部、３８ｂ…普図保留表示部、４２ａ…第１入賞口検知センサ、４３ａ…第２入賞口検知センサ、４４ａ…第３入賞口検知センサ、４５ａ…特電検知センサ、４６ａ…第１作動口検知センサ、４７ａ…第２作動口検知センサ、４８ａ…アウト口検知センサ、４９ａ…ゲート検知センサ、６２…ＭＰＵ、６３…主側ＣＰＵ、６４…主側ＲＯＭ、６５…主側ＲＡＭ、６８ａ…設定キー挿入部、６８ｂ…更新ボタン、６８ｃ…リセットボタン、６９ａ…第１報知用表示装置、６９ｂ…第２報知用表示装置、６９ｃ…第３報知用表示装置、７８…電源・発射制御装置、８１…音声発光制御装置、１１２…管理側ＣＰＵ、１１７…履歴用メモリ、１７１…別保存用メモリ、１８１～１８６…設定１～６用の履歴用メモリ、１９１…第１履歴用メモリ、１９２…第２履歴用メモリ、２０１…第１報知用表示装置、２０１ａ～２０１ｇ…表示用セグメント、２０２…第２報知用表示装置、２０２ａ～２

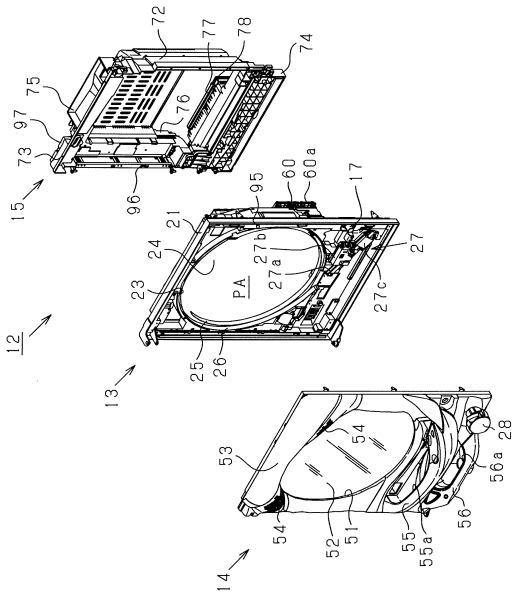
０２ｇ…表示用セグメント、２０３…第３報知用表示装置、２０４…第４報知用表示装置、２２１…特定制御用のワークエリア、２２２…特定制御用のスタックエリア、２２３…非特定制御用のワークエリア、２２４…非特定制御用のスタックエリア、２３１…通常用カウンタエリア、２３２…開閉実行モード用カウンタエリア、２３３…高頻度サポートモード用カウンタエリア、２３４…演算結果記憶エリア、２４１…管理用ＲＡＭ、２５１…リセット信号出力部、２５２…プログラム監視部、２６６…表示ＩＣ、２７１…第１表示データバッファ、２７３…第３表示データバッファ、３１１…現状エリア、３１２…第１履歴エリア、３１３…第２履歴エリア、３１４…第３履歴エリア、３２１～３２４…表示用セグメント、３２５…設定対応記憶エリア、３２５ａ～３２５ｆ…第１～第６設定情報記憶エリア、３２６…設定対応記憶エリア、３２６ａ～３２６ｃ…第１～第３設定情報記憶エリア、３４１…設定参照用エリア、３４２…設定更新用エリア、３５２…音光側ＭＰＵ、３５３…音光側ＣＰＵ、３５５…音光側ＲＡＭ、３５６…ＲＴＣ、３５７…ＲＴＣ用メモリ、３６１…ＯＦＦ確認フラグ、３７１…クリア対象エリア、３９１…特図用の第１表示振分テーブル、３９２…特図用の第２表示振分テーブル、３９３…普図用の第１表示振分テーブル、３９４…普図用の第２表示振分テーブル、４１６…特電入賞装置、４２３ａ…普図表示部、４２５…第１特図表示部、４２６…第２特図表示部、４２９…特別表示部、４８１…１５Ｒ表示部、４８３…６Ｒ表示部、４８４…小当たり表示部、５１２…可動体、５１５…アドレスカウンタ、５１５ａ…上位バイト、５１５ｂ…下位バイト、５１６…キャリーフラグ、５４１…通常示唆時の設定値示唆抽選テーブル群、５４２…示唆制限時の設定値示唆抽選テーブル群、５５１…電波検知センサ、５５２…磁気検知センサ、５５３…振動検知センサ、５５４ａ…デモ開始用タイマカウンタ、５５５ｂ…待ち状態フラグ、５５６…送信乱数記憶カウンタ、５６６…閾値テーブル、５７３…閾値テーブル、５９６…入球個数カウンタエリア、６０１…第１管理バッファ、６０１ａ～６０１ｄ…第０～第３記憶エリア、６０２…第２管理バッファ、６０２ａ～６０２ｊ…第０～第９記憶エリア、６０３…第１書き込みポインタ、６０４…第２書き込みポインタ、６０６ａ…第１単位更新エリア、６０６ｂ…第１算出期間の直近エリア、６０６ｃ…第１算出期間の第１履歴エリア、６０６ｄ…第１算出期間の第２履歴エリア、６０７ａ…第２単位更新エリア、６０７ｂ…第２算出期間の直近エリア、６０７ｃ…第２算出期間の第１履歴エリア、６０７ｄ…第２算出期間の第２履歴エリア、６１６…共通管理バッファ、６１６ａ～６１６ｊ…第０～第９記憶エリア、６１７…共通書き込みポインタ、６２１…共通管理カウンタエリア、６２１ａ～６２１ｊ…第０～第９出玉率カウンタ、ＰＡ…遊技領域。

【図面】

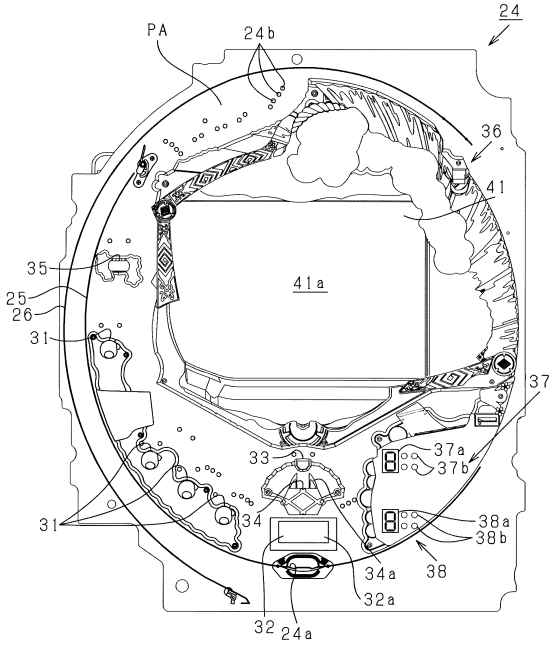
【図１】


12
14
53
75
10
51
54
52
54
13
15
55a
55
56a
17
56
28
11

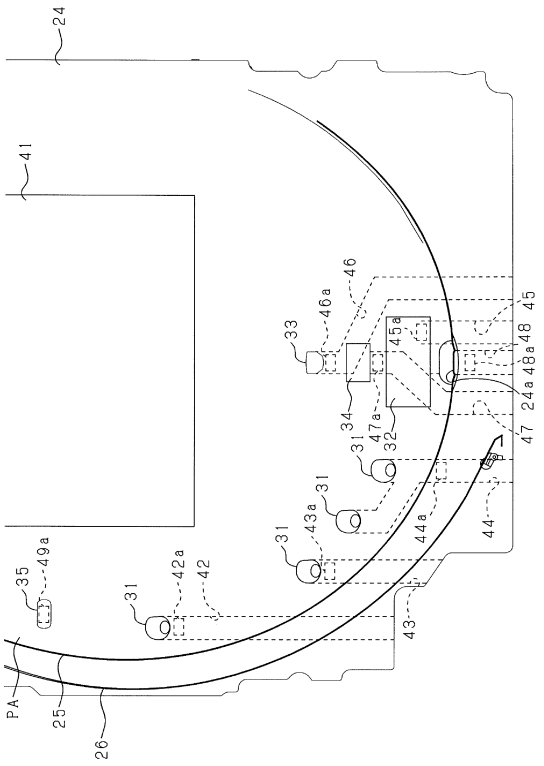
【図２】


72
77
78
74
75
97
76
73
96
95
60
60a
17
15
21
24
27b
27
27a
PA
23
27c
12
25
26
13
53
54
56a
28
54
52
51
55
55a
56
14

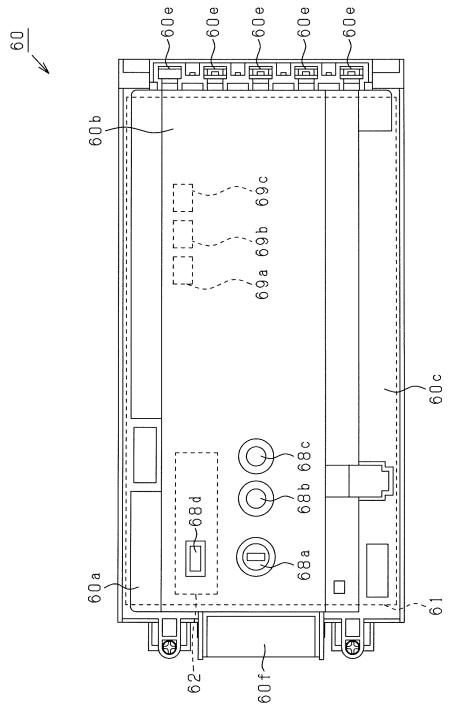
【図３】


24
PA
24b
36
41
41a
35
25
26
31
37
33
37a
37b
31
34
38a
38b
34a
38
32a
32
24a

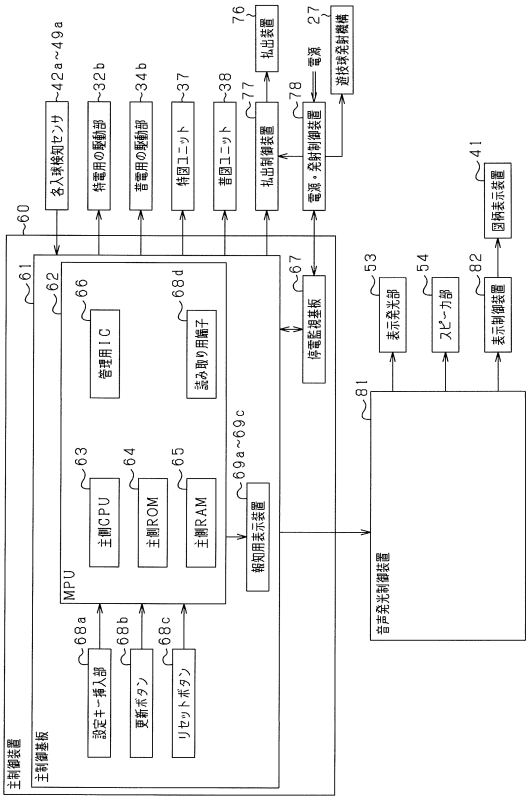
【図４】


24
41
46
46a
33
45a
45
48
48a
24a
47
34
47a
32
31
31
43a
44a
44
31
35
49a
42a
42
31
43
PA
25
26

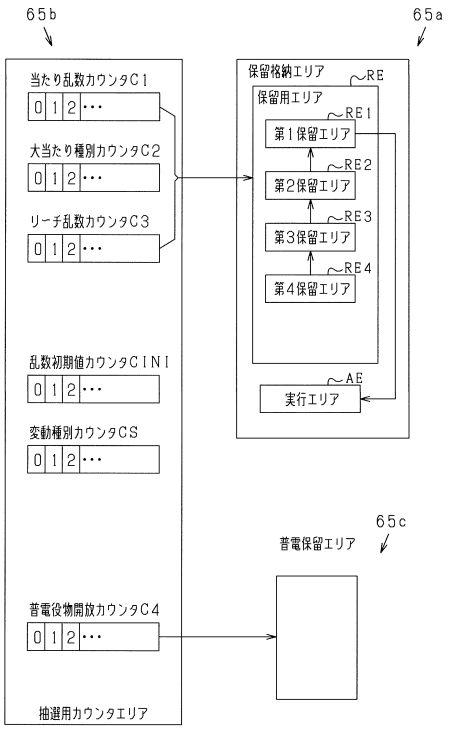
【図５】


60
60e
60b
69c
69b
69a
60c
68c
68b
68d
68a
60a
61
62
60f

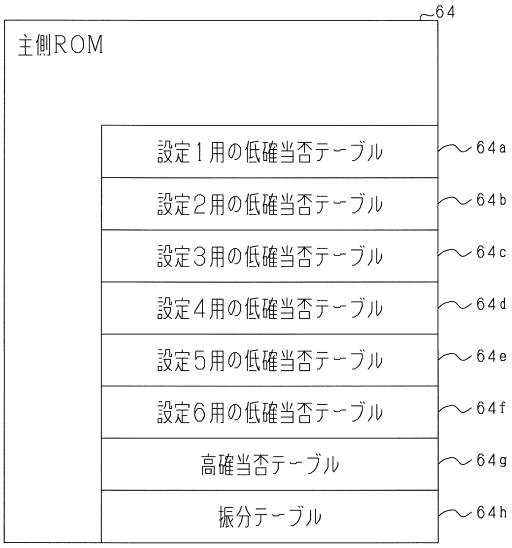
【図６】


42a~49a
各入球検知センサ
32b
枠毎用の駆動部
34b
普電用の駆動部
37
特図ユニット
38
普図ユニット
77
払出制御装置
76
払出装置
78
電源・発射制御装置
27
電源
遊技球発射機構
41
図柄表示装置
60
61
62
MPU
66
管理用IC
68d
誤り取り用端子
67
停電監視基板
53
表示発光部
54
スピーカ部
82
表示制御装置
63
主側CPU
64
主側ROM
65
主側RAM
69a~69c
報知用表示装置
81
音声発光制御装置
68a
設定キー挿入部
68b
更新ボタン
68c
リセットボタン
主制御装置
主制御基板

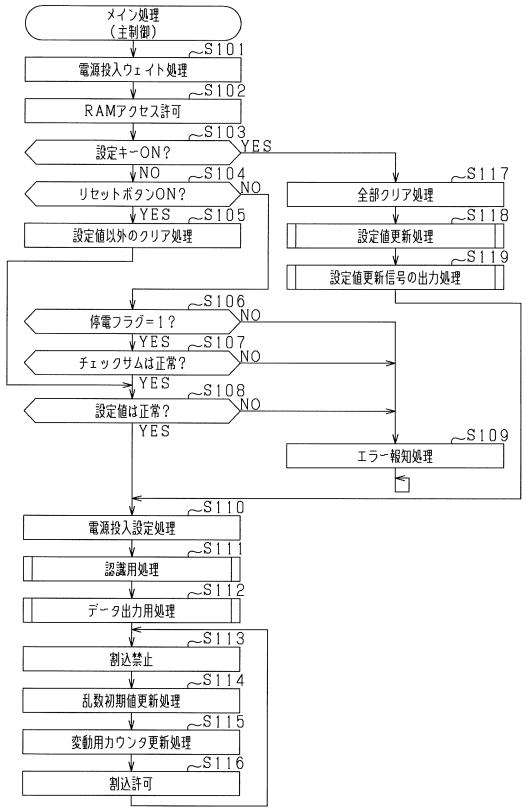
【図７】


65b
65a
当たり乱数カウンタC1
0 1 2 …
大当たり種別カウンタC2
0 1 2 …
リーチ乱数カウンタC3
0 1 2 …
乱数初期値カウンタCINI
0 1 2 …
変動種別カウンタCS
0 1 2 …
普電役物開放カウンタC4
0 1 2 …
抽選用カウンタエリア
保留格納エリア
RE
保留用エリア
RE1
第1保留エリア
RE2
第2保留エリア
RE3
第3保留エリア
RE4
第4保留エリア
AE
実行エリア
65c
普電保留エリア

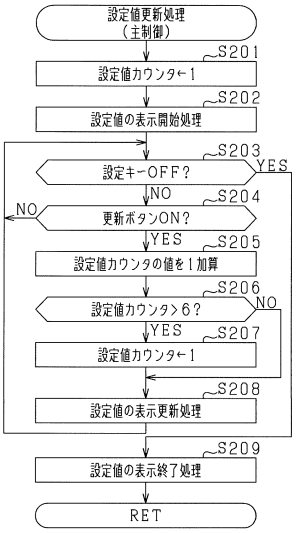
【図８】


64
主側ROM
設定1用の低確当否テーブル
64a
設定2用の低確当否テーブル
64b
設定3用の低確当否テーブル
64c
設定4用の低確当否テーブル
64d
設定5用の低確当否テーブル
64e
設定6用の低確当否テーブル
64f
高確当否テーブル
64g
振分テーブル
64h

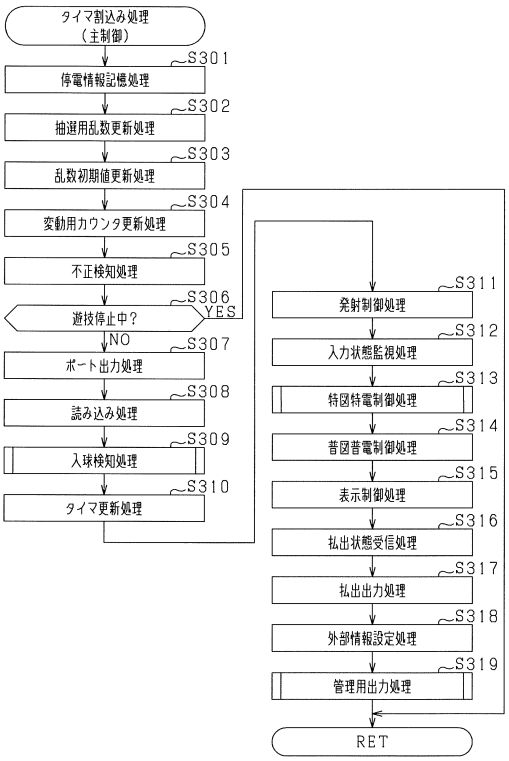
【図９】



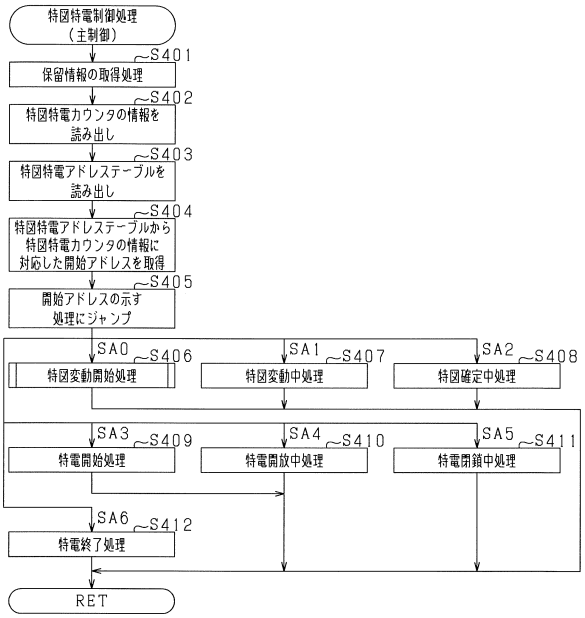
【図１０】



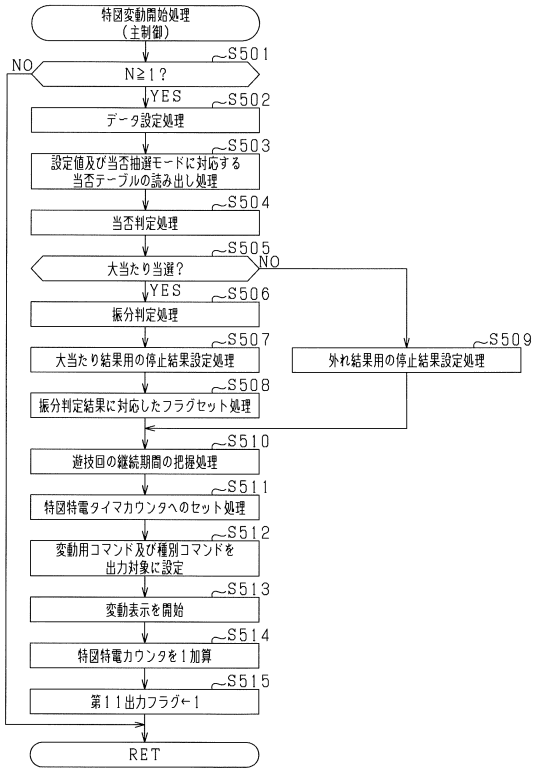
【図１１】



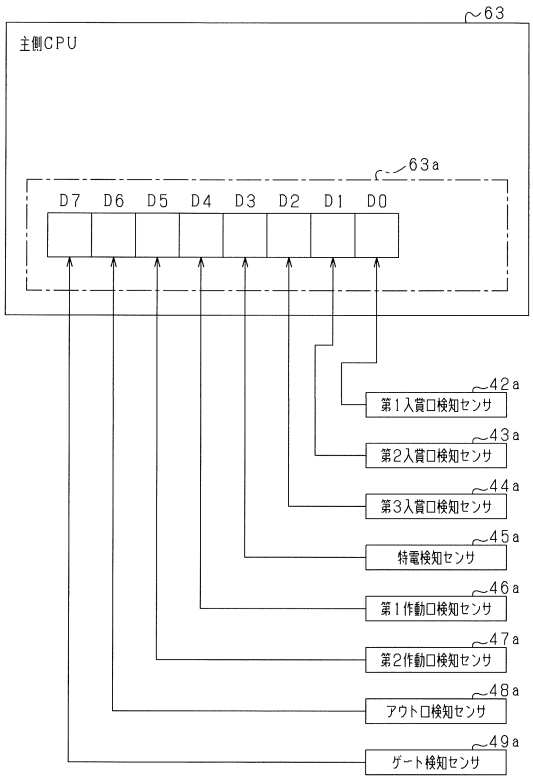
【図１２】



【図１３】



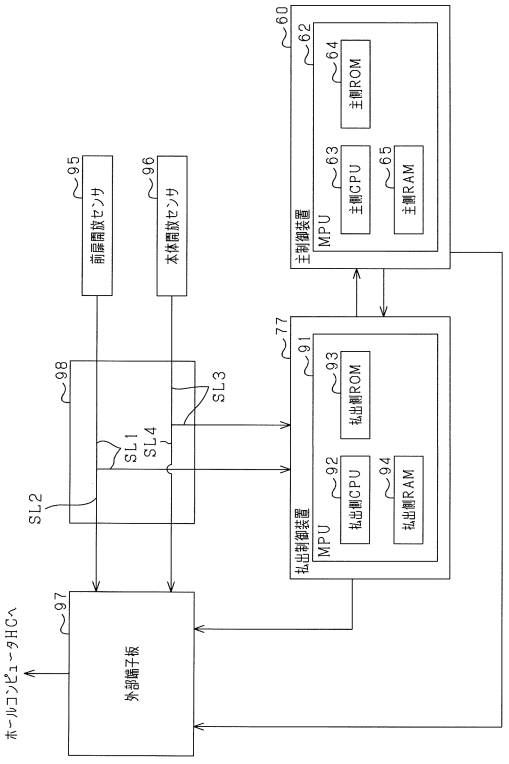
【図１４】



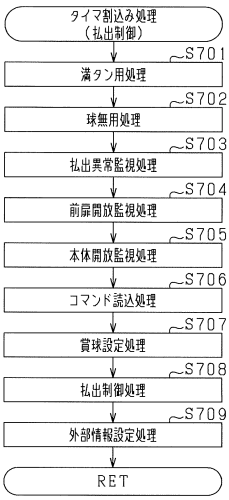
【図１５】



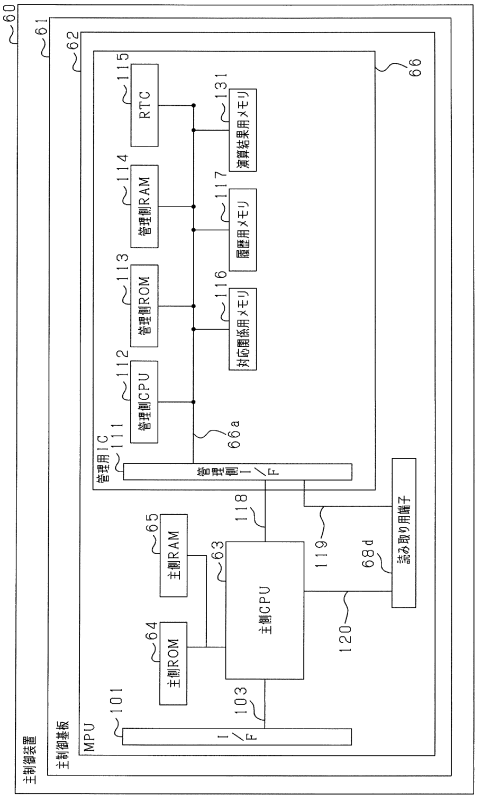
【図１６】



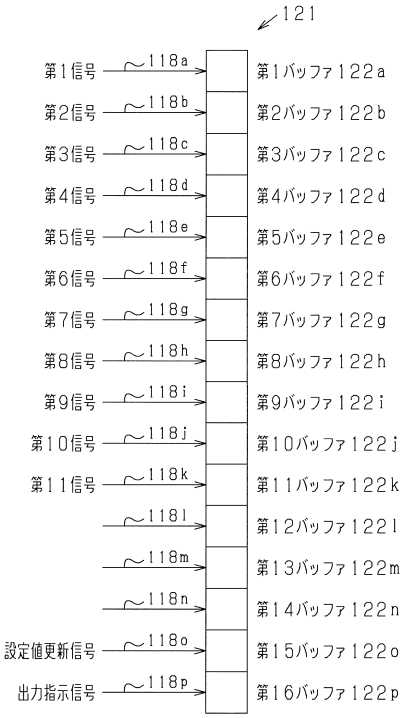
【図１７】



【図１８】



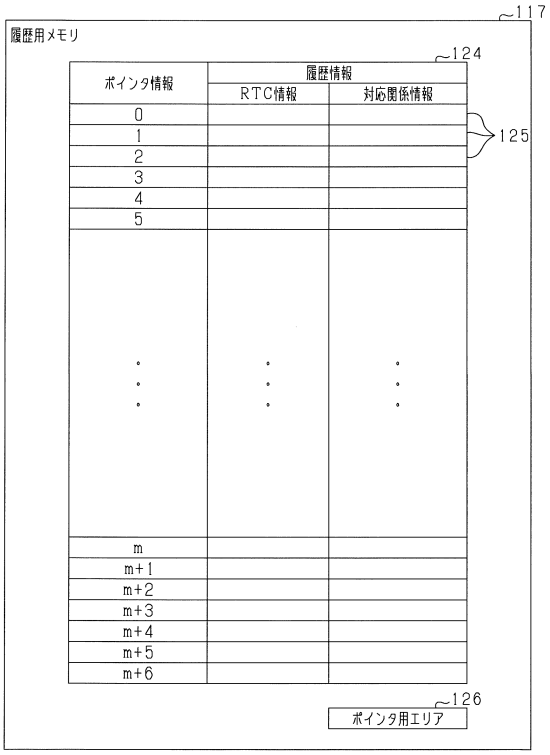
【図１９】



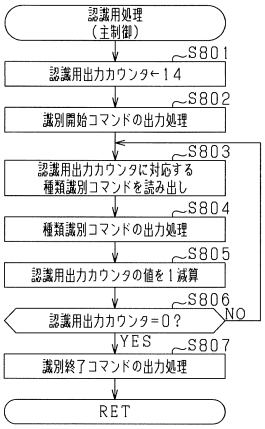
【図２０】



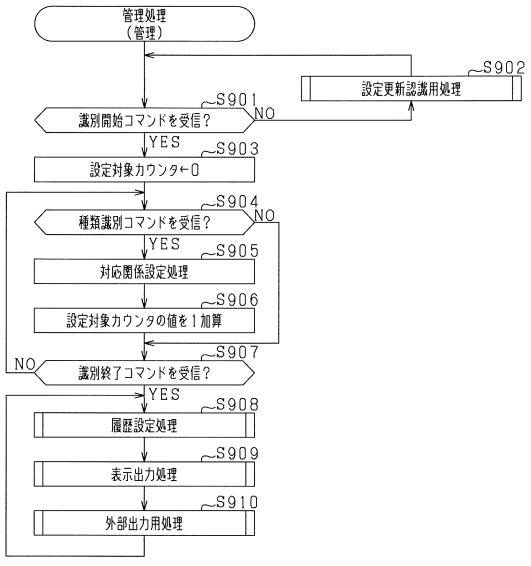
【図２１】



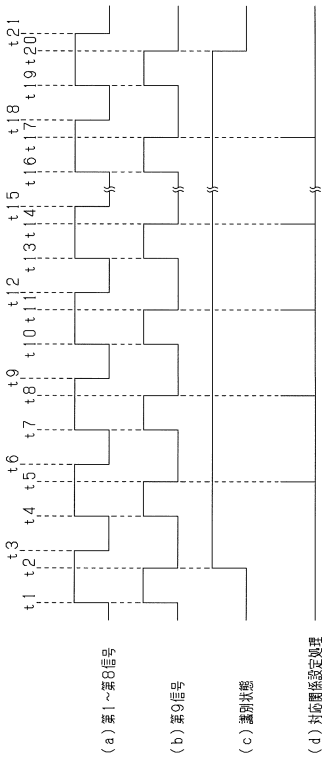
【図２２】



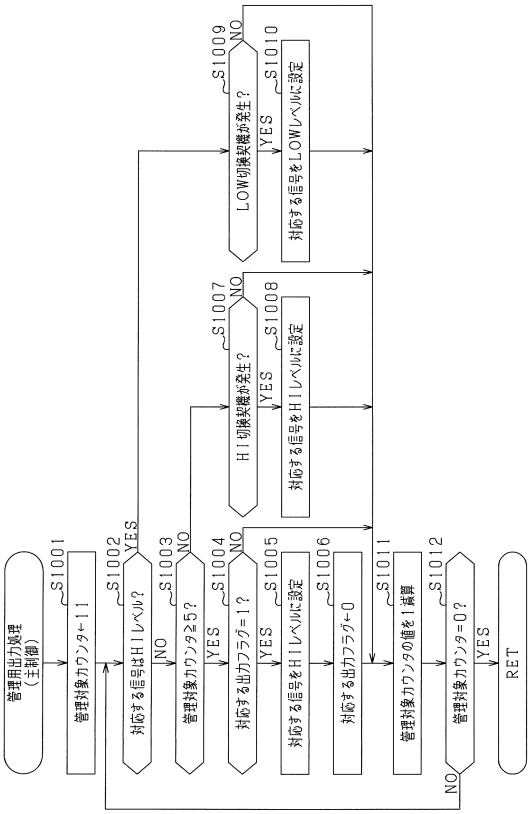
【図２３】



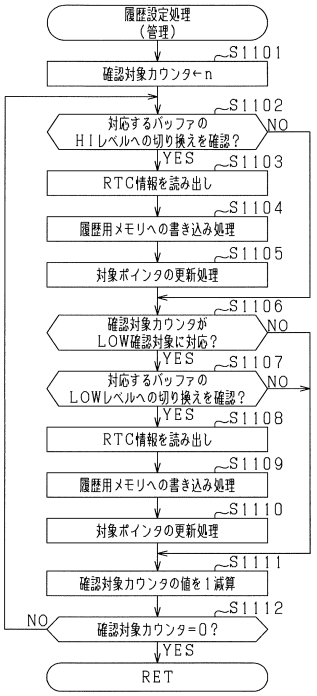
【図２４】



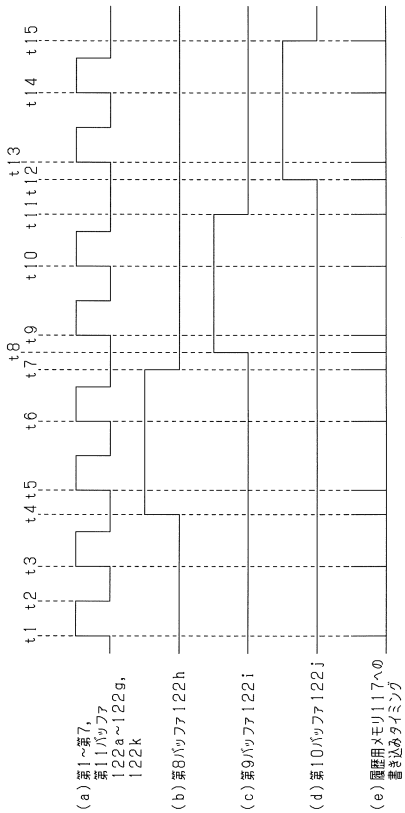
【図２５】



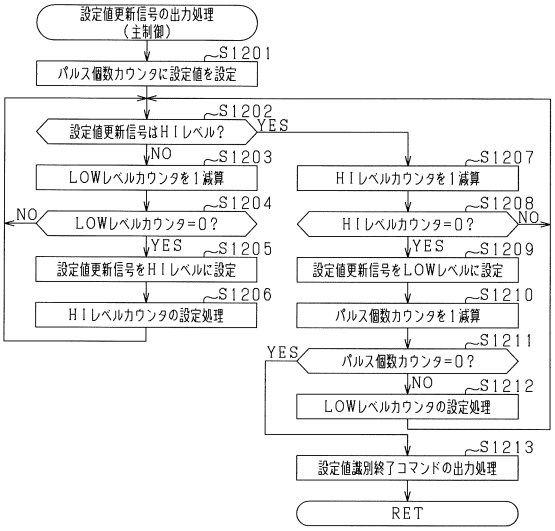
【図２６】



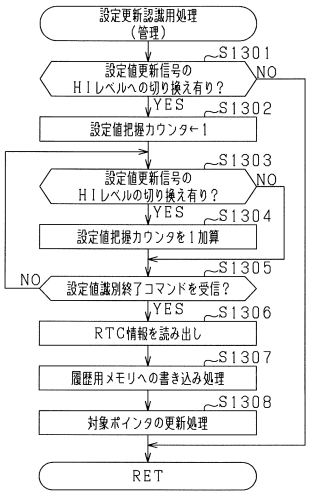
【図２７】



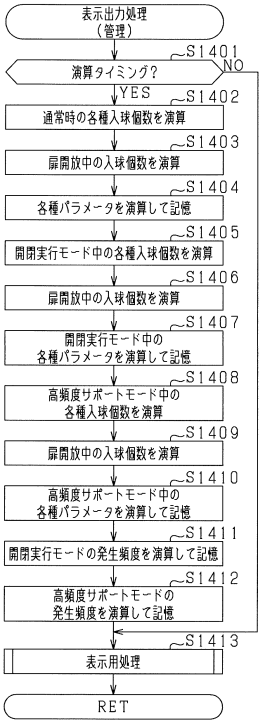
【図２８】



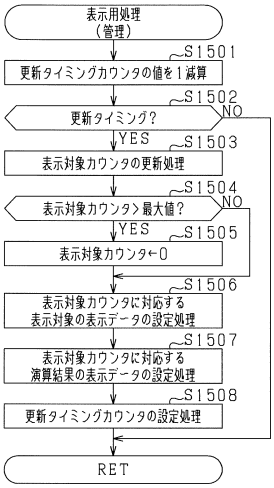
【図２９】



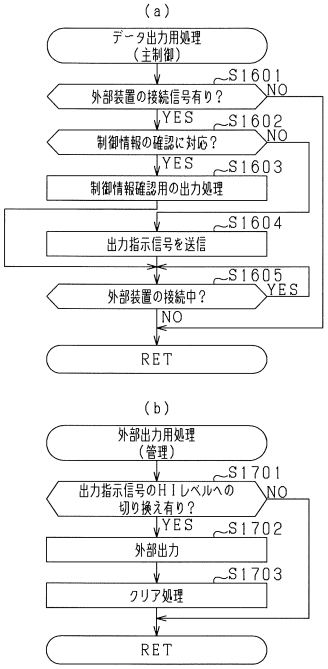
【図３０】



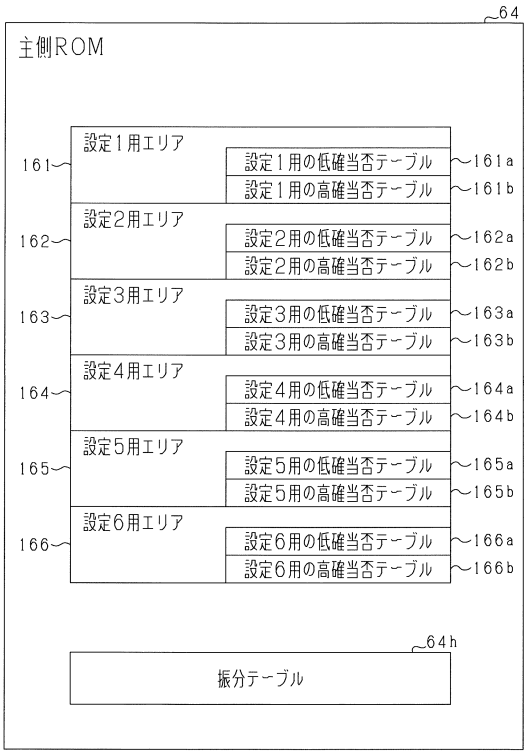
【図３１】



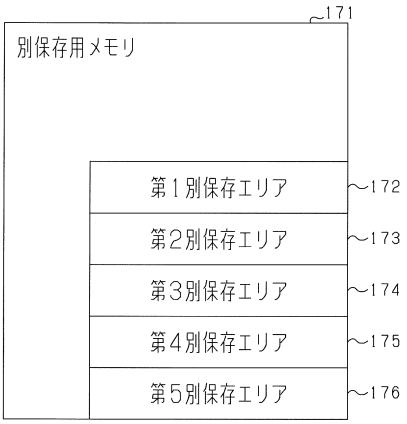
【図３２】



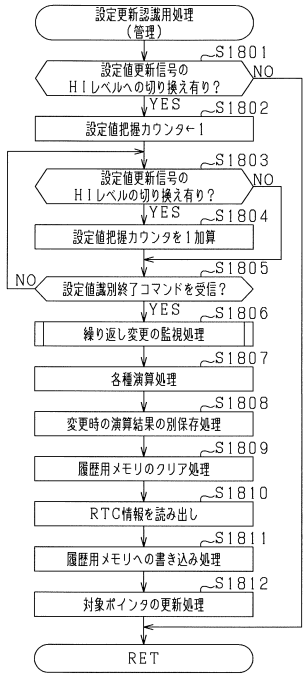
【図３３】



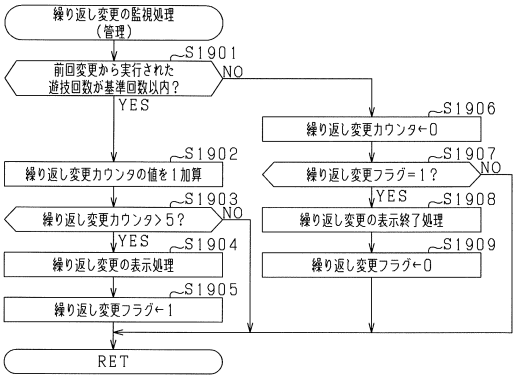
【図３４】



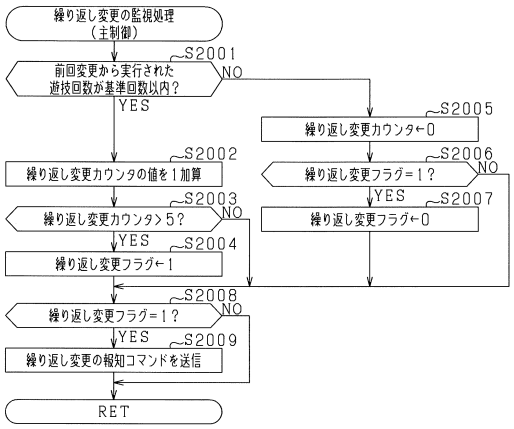
【図３５】



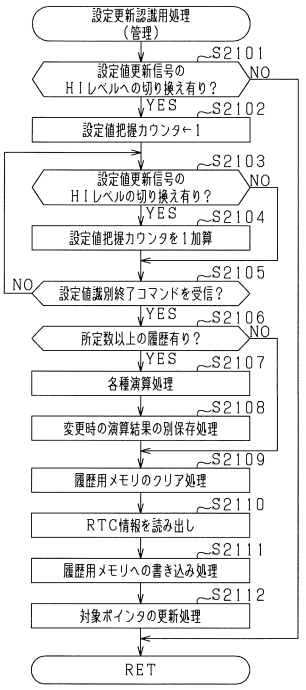
【図３６】



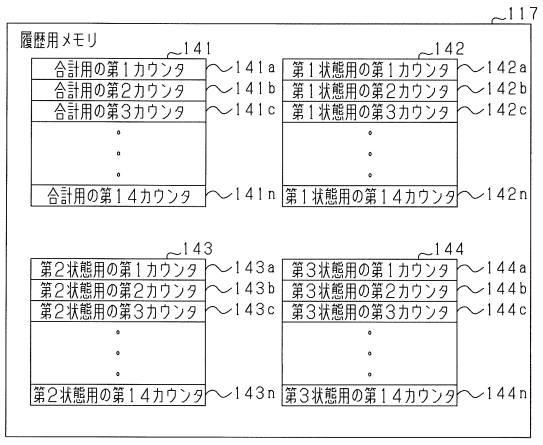
【図３７】



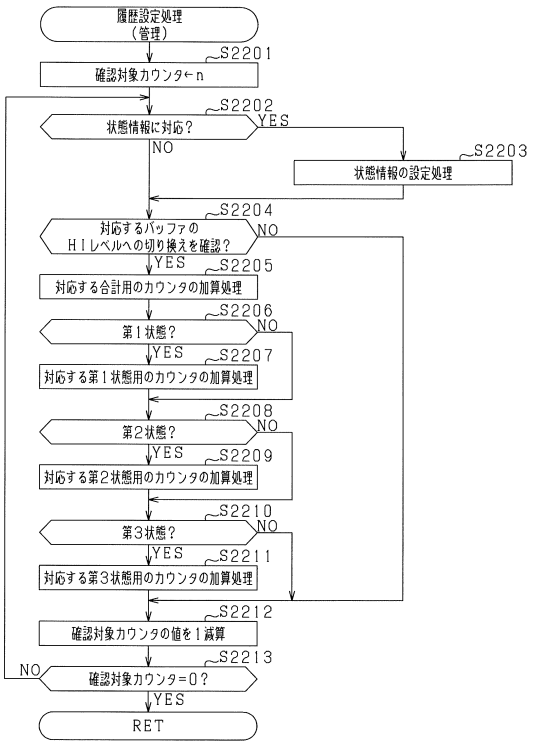
【図３８】



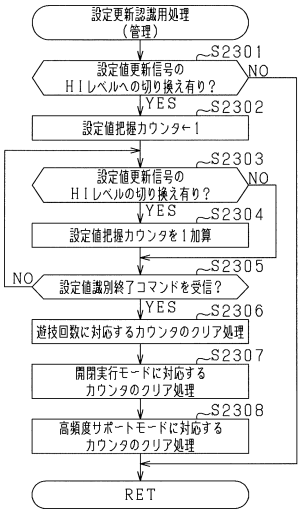
【図３９】



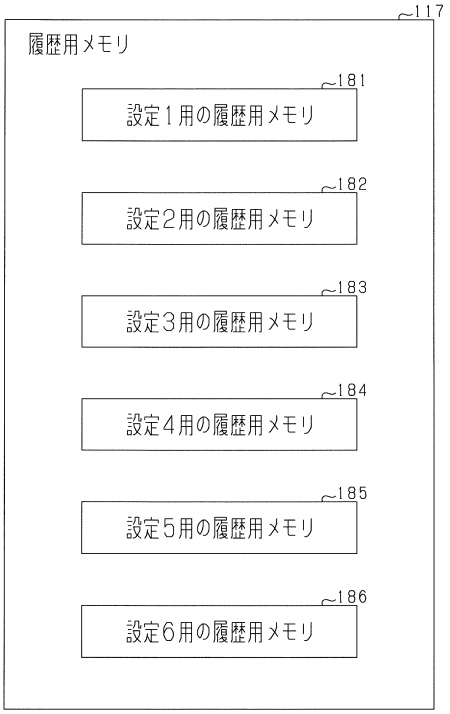
【図４０】



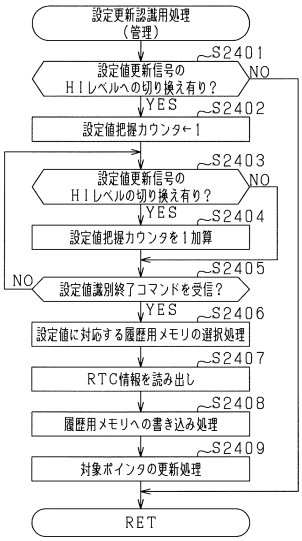
【図４１】



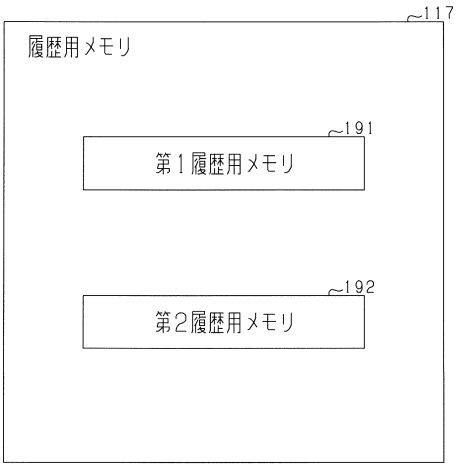
【図４２】



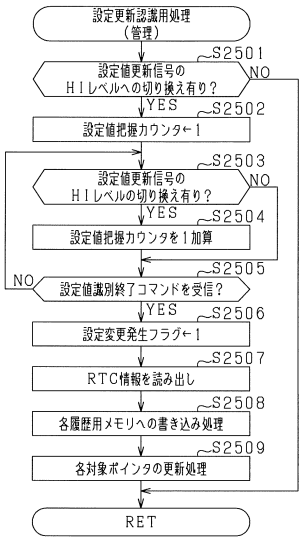
【図４３】



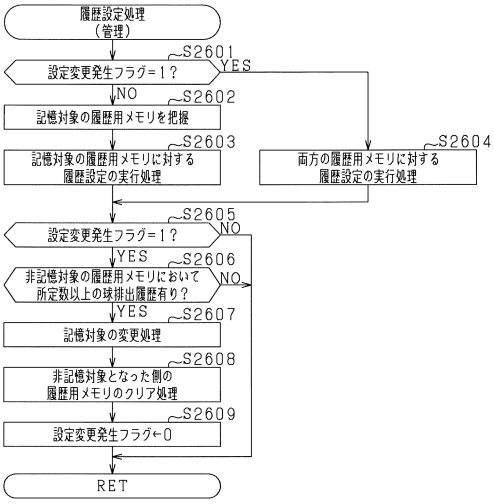
【図４４】



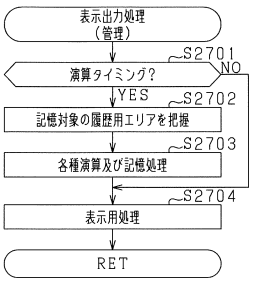
【図４５】



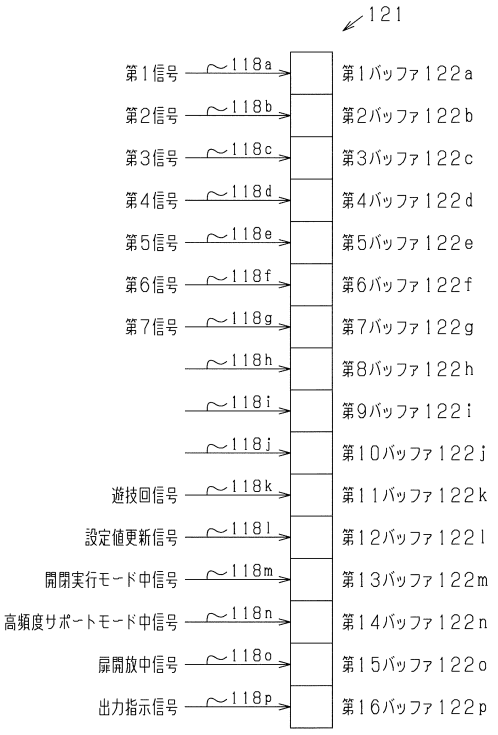
【図４６】



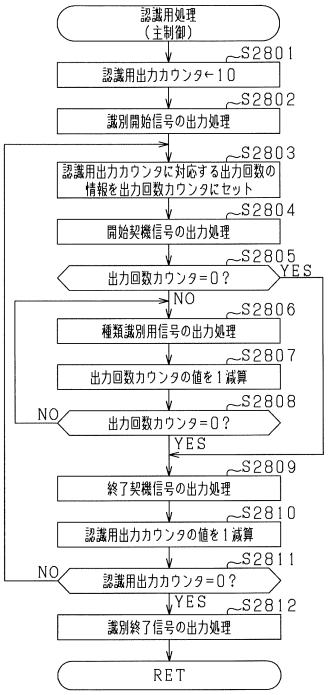
【図４７】



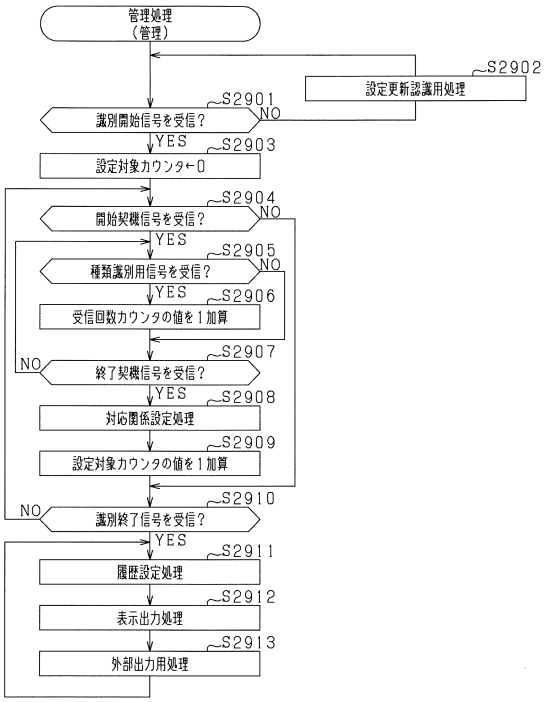
【図４８】



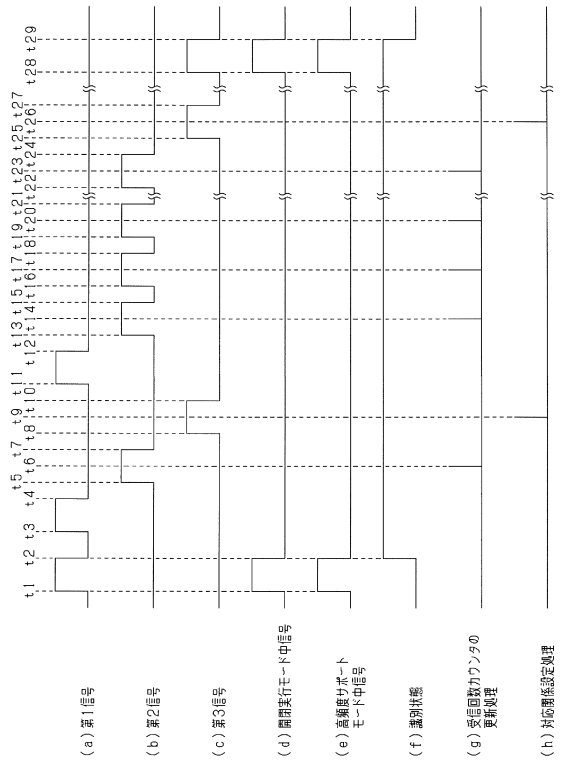
【図４９】



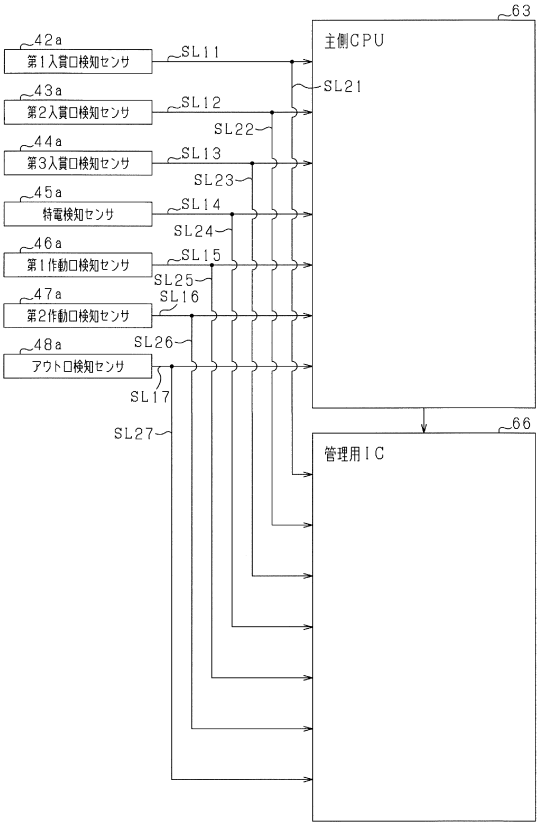
【図５０】



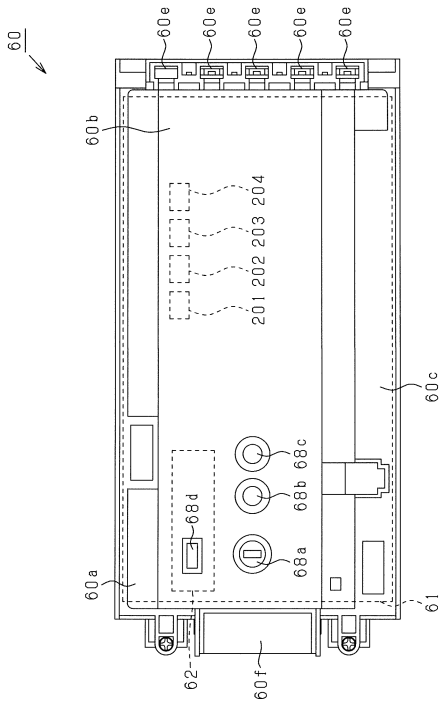
【図５１】



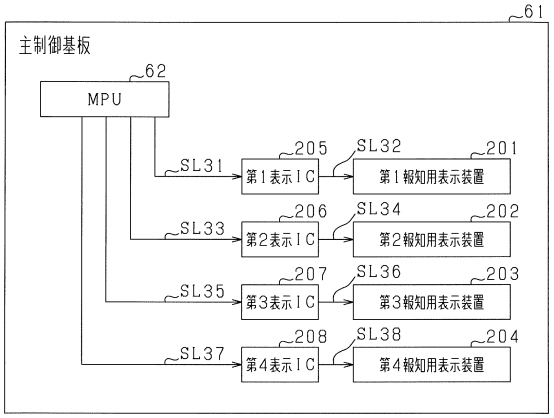
【図５２】



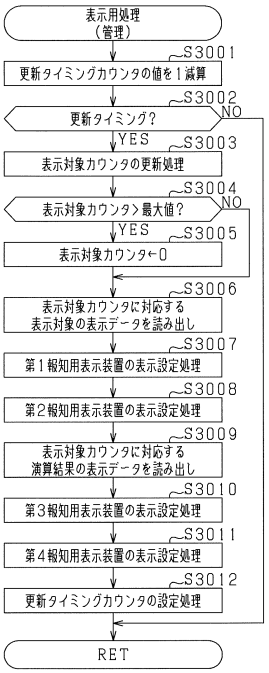
【図５３】



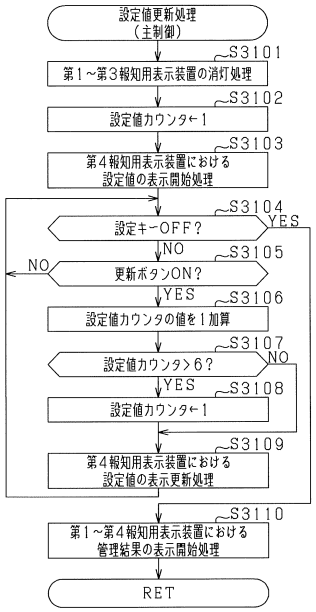
【図５４】



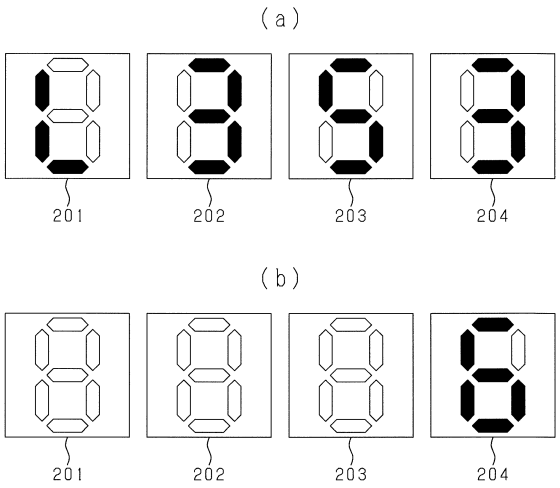
【図５５】



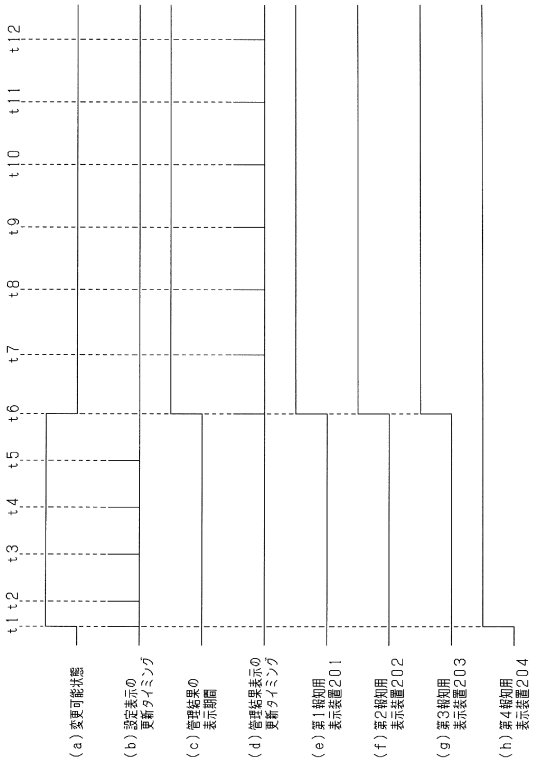
【図５６】



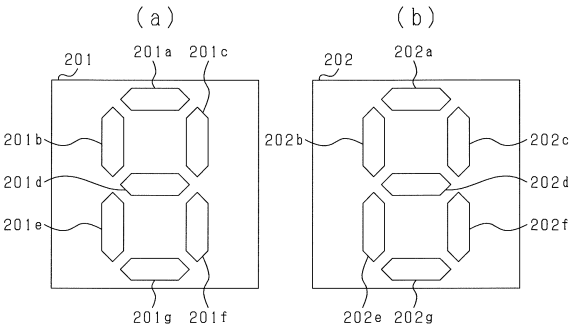
【図５７】



【図５８】



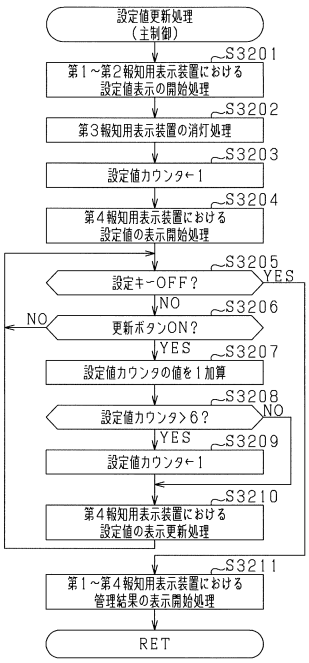
【図５９】



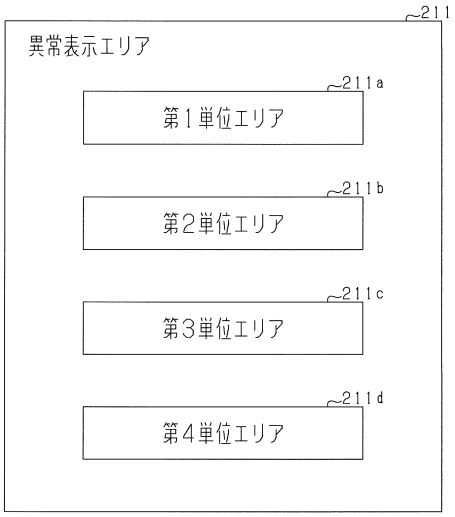
【図６０】

	第1報知用 表示装置201	第2報知用 表示装置202
第1パラメータ		
第11パラメータ		
第21パラメータ		
第31パラメータ		
第41パラメータ		
設定値表示		

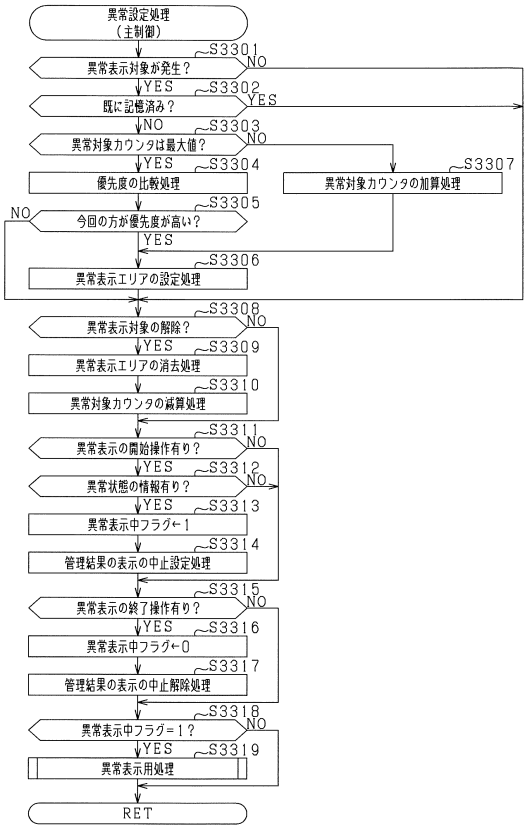
【図６１】



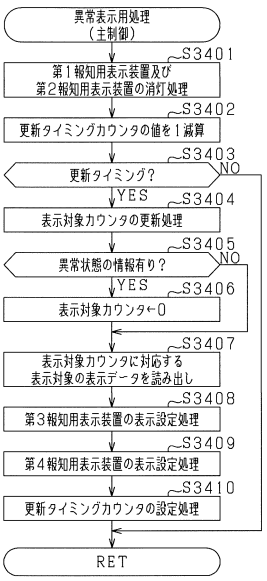
【図６２】



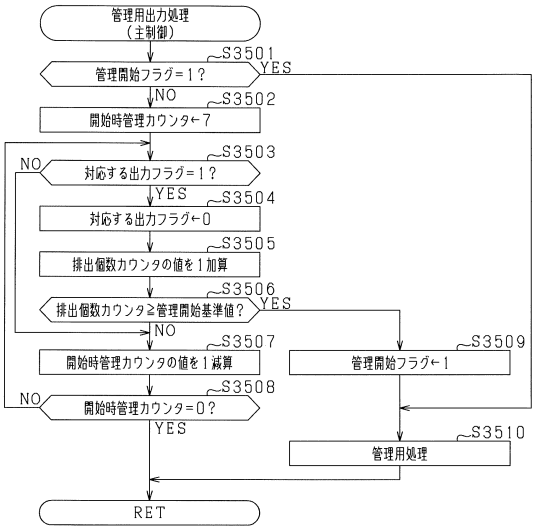
【図６３】



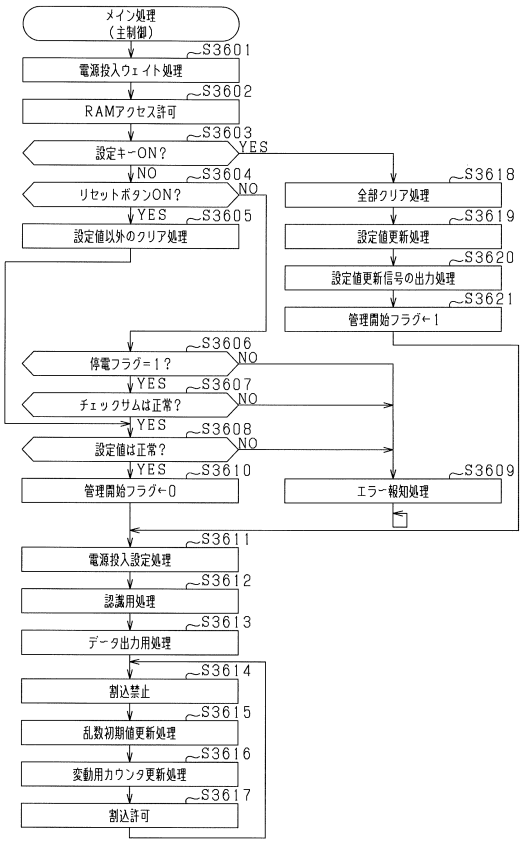
【図６４】



【図６５】



【図６６】



【図６７】

64

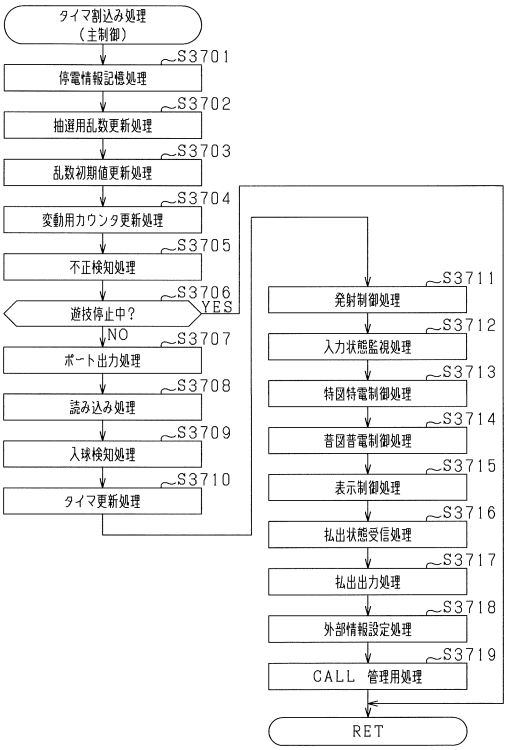
アドレス	内容
X(1)	特定制御用のプログラム
X(2)	特定制御用のプログラム
X(3)	特定制御用のプログラム
・ ・ ・	・ ・ ・
X(k)	特定制御用のプログラム
X(k＋1)	特定制御用のプログラム
X(k＋2)	特定制御用のプログラム
X(k＋3)	未使用
X(k＋4)	未使用
X(k＋5)	未使用
X(k＋6)	特定制御用のデータ
X(k＋7)	特定制御用のデータ
X(k＋8)	特定制御用のデータ
・ ・ ・	・ ・ ・
X(m)	特定制御用のデータ
X(m＋1)	特定制御用のデータ
X(m＋2)	特定制御用のデータ
X(m＋3)	未使用
X(m＋4)	未使用
X(m＋5)	未使用
X(m＋6)	非特定制御用のプログラム
X(m＋7)	非特定制御用のプログラム
X(m＋8)	非特定制御用のプログラム
・ ・ ・	・ ・ ・
X(n)	非特定制御用のプログラム
X(n＋1)	非特定制御用のプログラム
X(n＋2)	非特定制御用のプログラム
X(n＋3)	未使用
X(n＋4)	未使用
X(n＋5)	未使用
X(n＋6)	非特定制御用のデータ
X(n＋7)	非特定制御用のデータ
X(n＋8)	非特定制御用のデータ
・ ・ ・	・ ・ ・
X(p)	非特定制御用のデータ
X(p＋1)	非特定制御用のデータ
X(p＋2)	非特定制御用のデータ

【図６８】

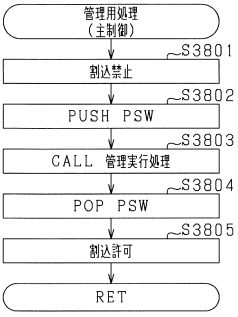
65

アドレス	内容	
Y(1)	特定制御用のワークエリア	221
Y(2)	特定制御用のワークエリア	
Y(3)	特定制御用のワークエリア	
・ ・ ・	・ ・ ・	
Y(r)	特定制御用のワークエリア	
Y(r＋1)	特定制御用のワークエリア	
Y(r＋2)	特定制御用のワークエリア	
Y(r＋3)	未使用	
Y(r＋4)	未使用	
Y(r＋5)	未使用	
Y(r＋6)	特定制御用のスタックエリア	222
Y(r＋7)	特定制御用のスタックエリア	
Y(r＋8)	特定制御用のスタックエリア	
・ ・ ・	・ ・ ・	
Y(s)	特定制御用のスタックエリア	
Y(s＋1)	特定制御用のスタックエリア	
Y(s＋2)	特定制御用のスタックエリア	
Y(s＋3)	未使用	
Y(s＋4)	未使用	
Y(s＋5)	未使用	
Y(s＋6)	非特定制御用のワークエリア	223
Y(s＋7)	非特定制御用のワークエリア	
Y(s＋8)	非特定制御用のワークエリア	
・ ・ ・	・ ・ ・	
Y(t)	非特定制御用のワークエリア	
Y(t＋1)	非特定制御用のワークエリア	
Y(t＋2)	非特定制御用のワークエリア	
Y(t＋3)	未使用	
Y(t＋4)	未使用	
Y(t＋5)	未使用	
Y(t＋6)	非特定制御用のスタックエリア	224
Y(t＋7)	非特定制御用のスタックエリア	
Y(t＋8)	非特定制御用のスタックエリア	
・ ・ ・	・ ・ ・	
Y(u)	非特定制御用のスタックエリア	
Y(u＋1)	非特定制御用のスタックエリア	
Y(u＋2)	非特定制御用のスタックエリア	

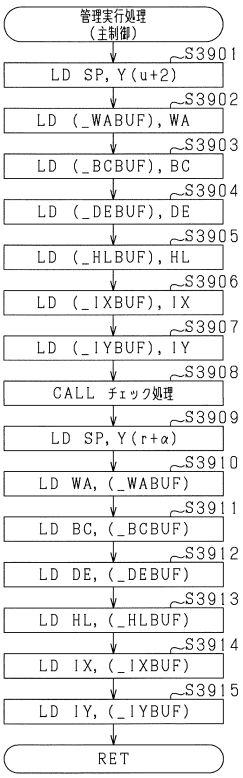
【図６９】



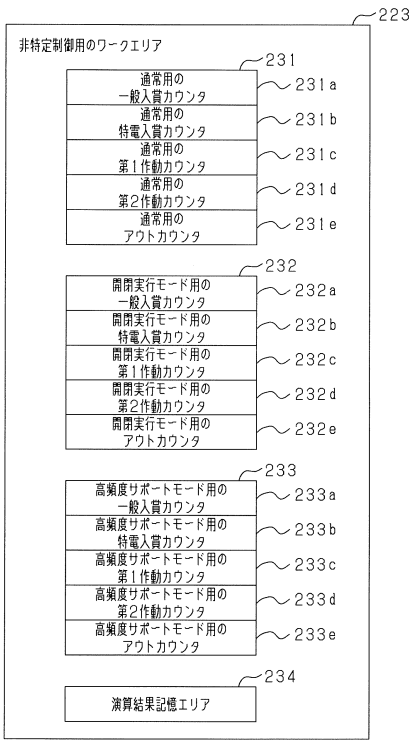
【図７０】



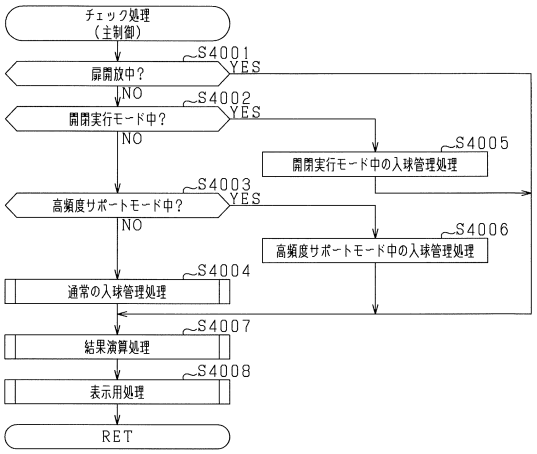
【図７１】



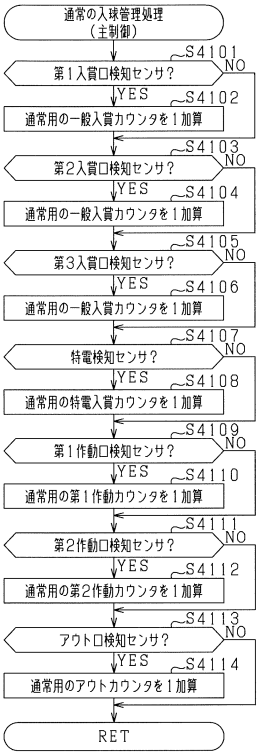
【図７２】



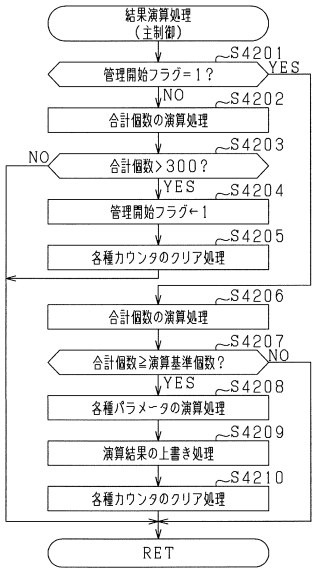
【図７３】



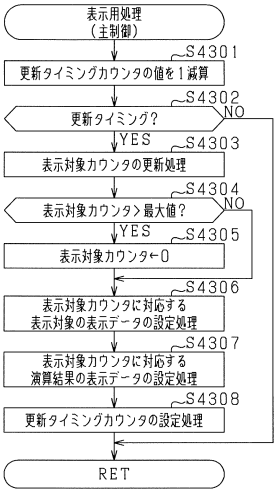
【図７４】



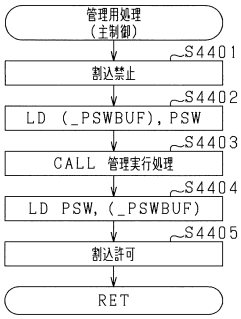
【図７５】



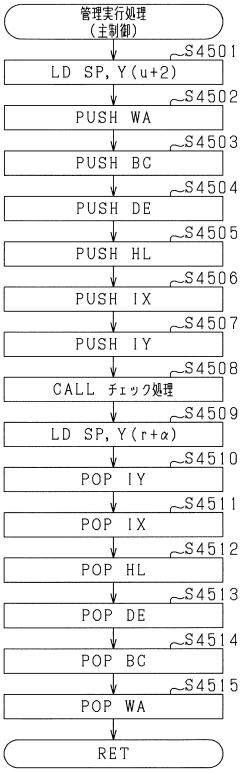
【図７６】



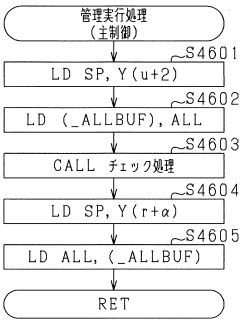
【図７７】



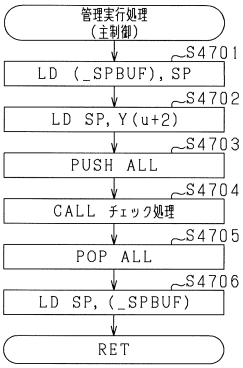
【図７８】



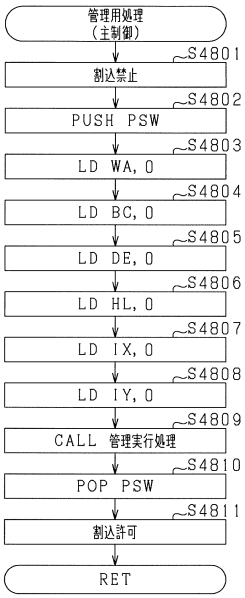
【図７９】



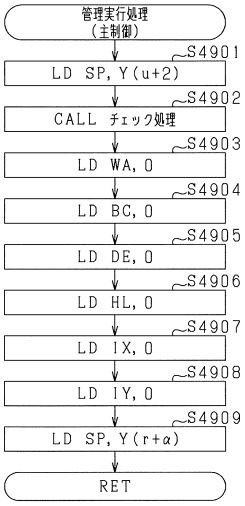
【図８０】



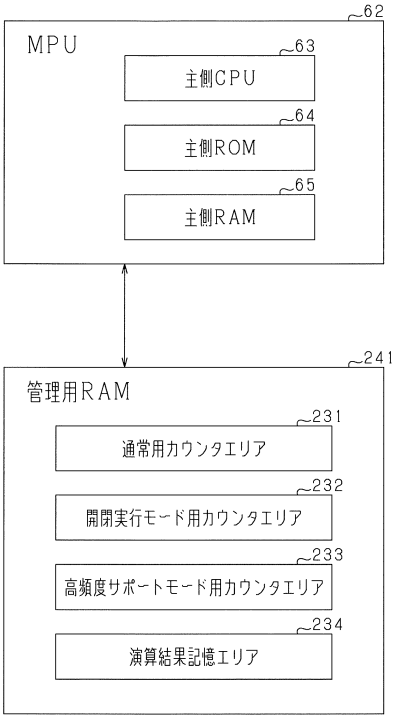
【図８１】



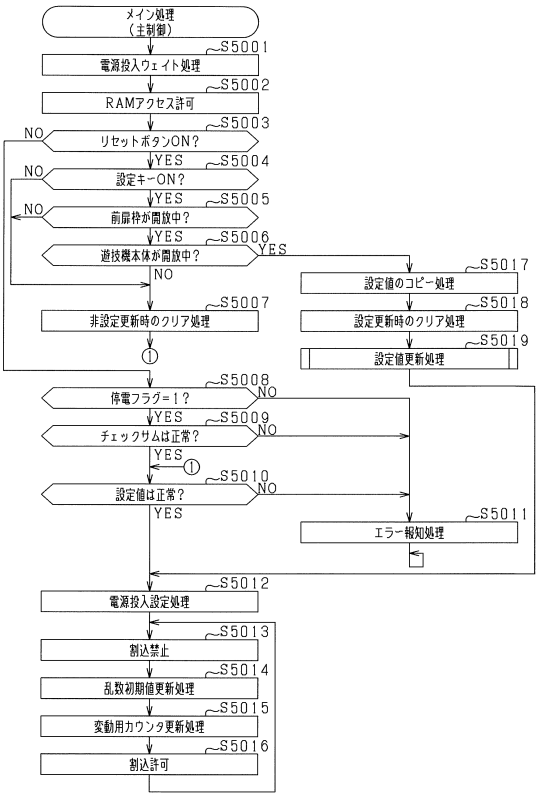
【図８２】



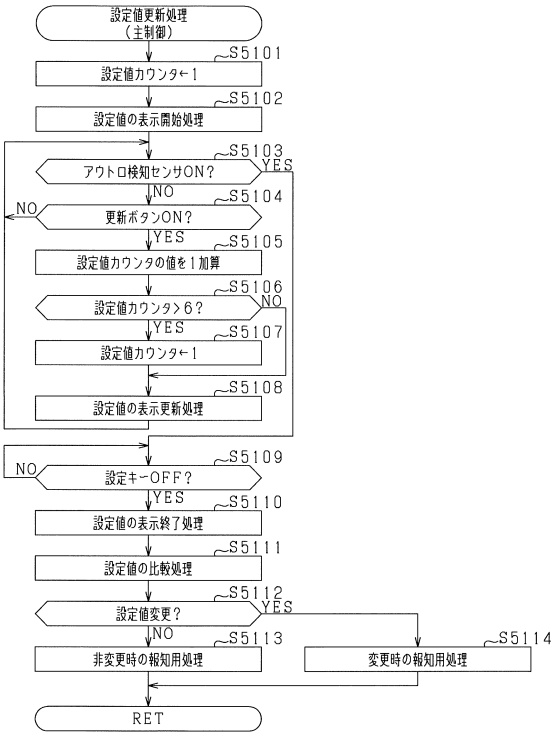
【図８３】



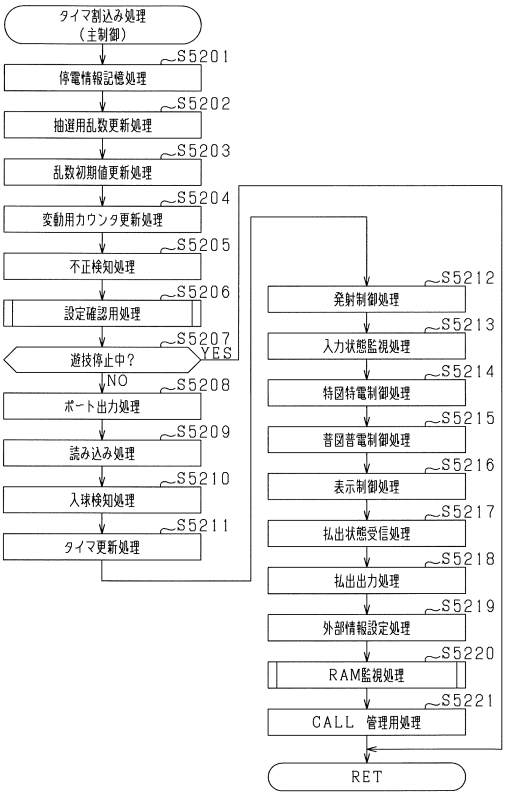
【図８４】



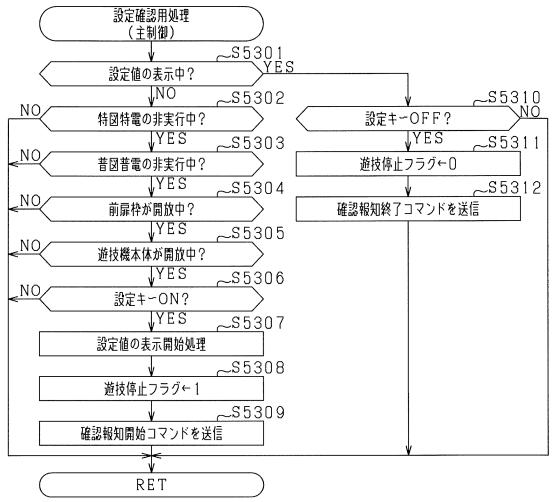
【図８５】



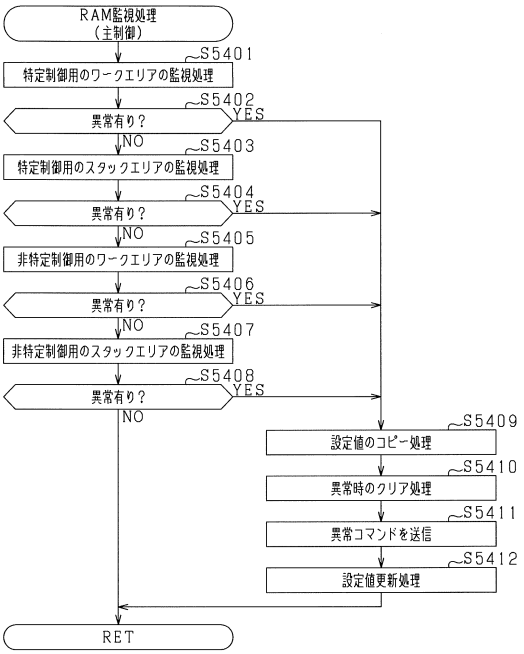
【図８６】



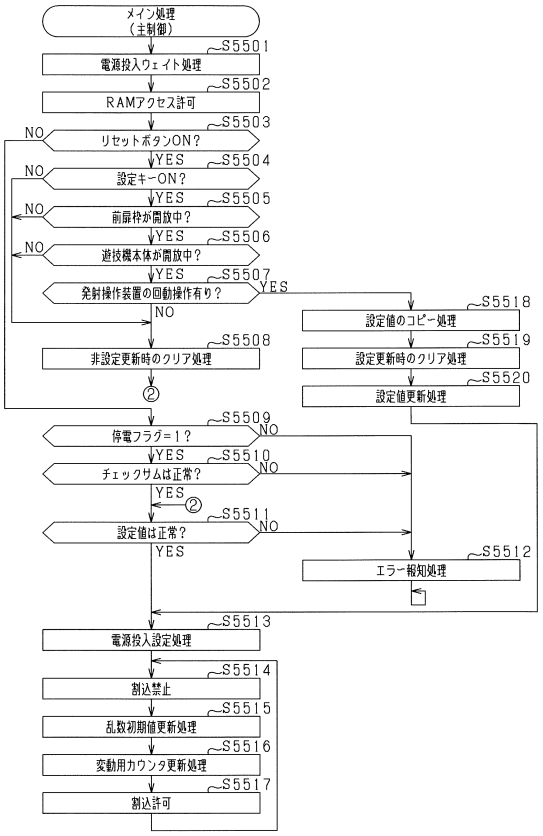
【図８７】



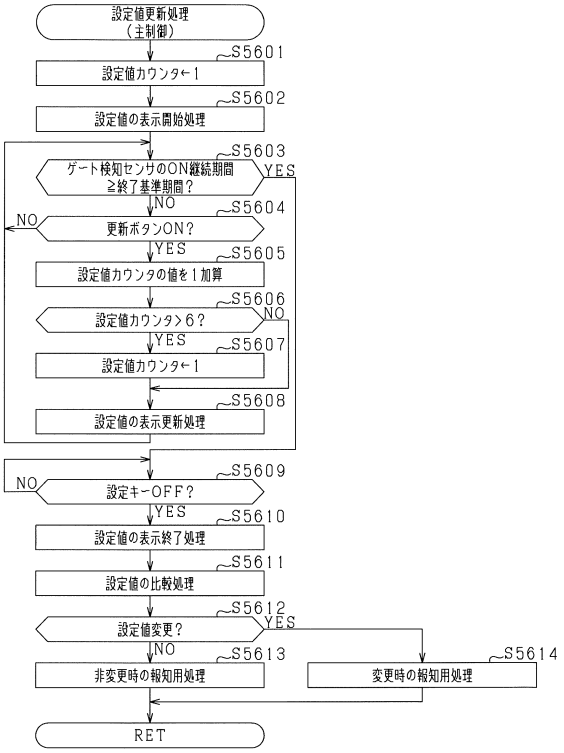
【図８８】



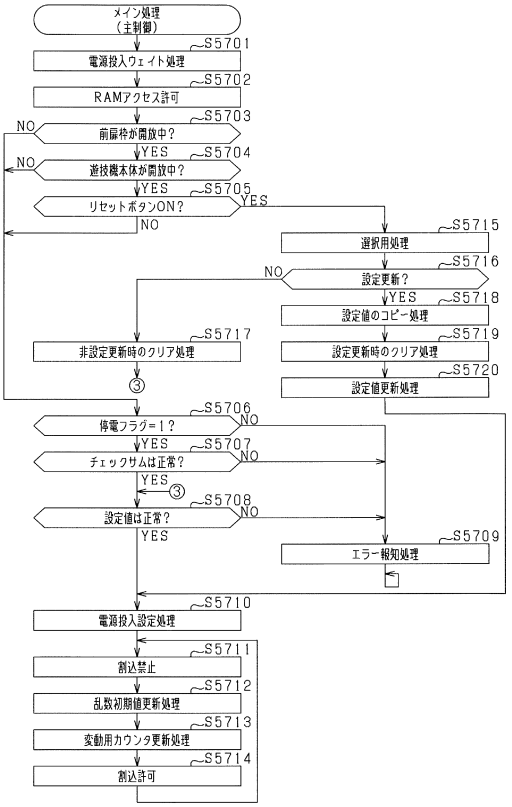
【図８９】



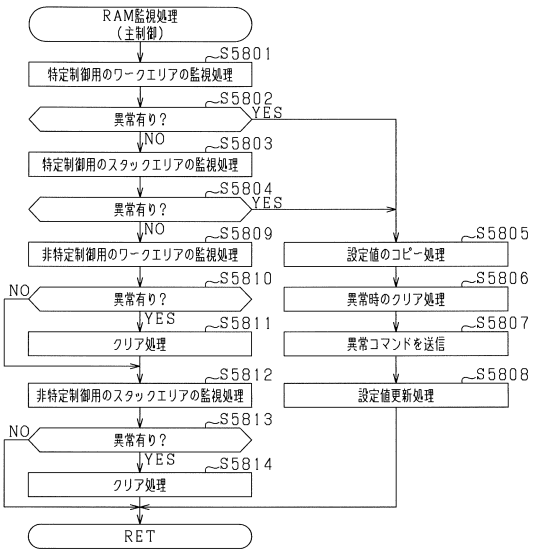
【図９０】



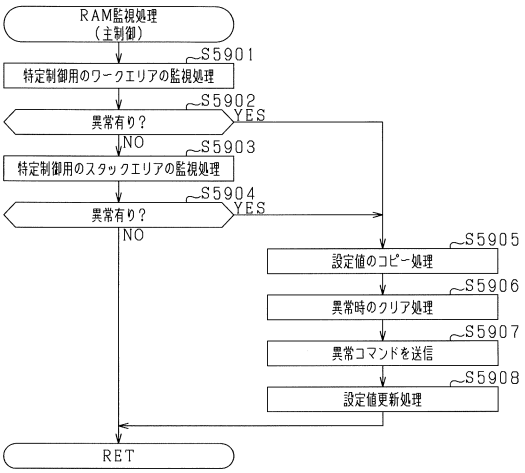
【図９１】



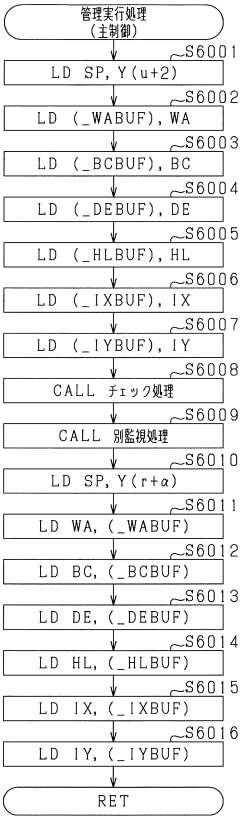
【図９２】



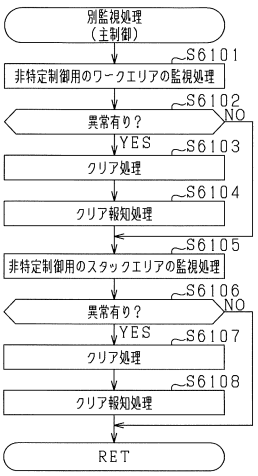
【図９３】



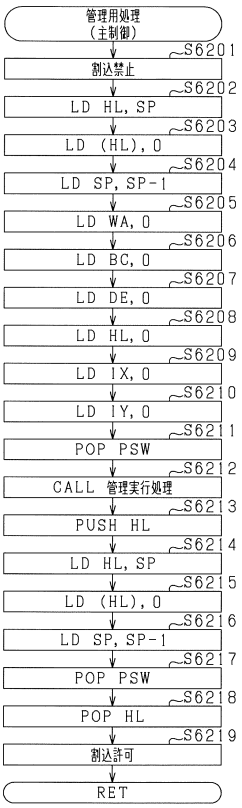
【図９４】



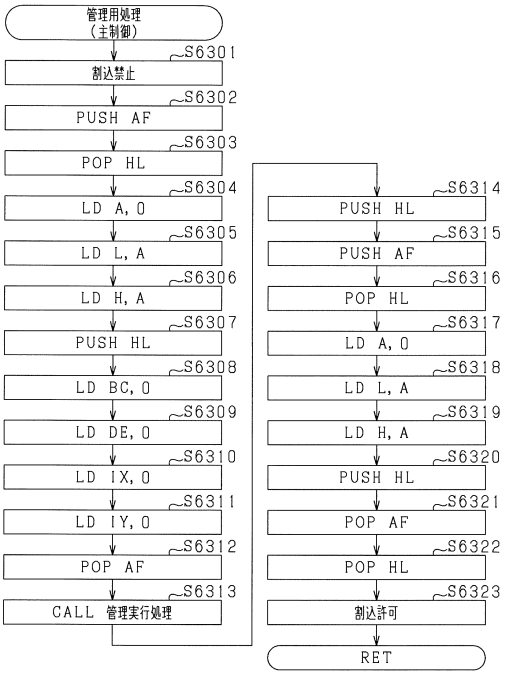
【図９５】



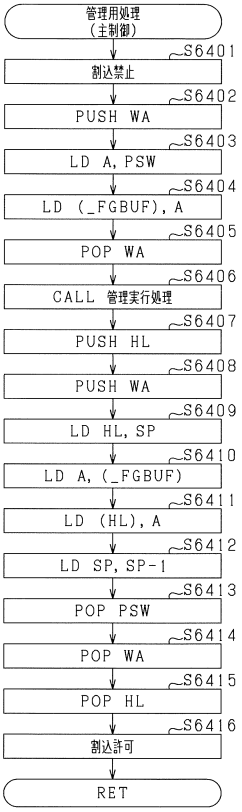
【図９６】



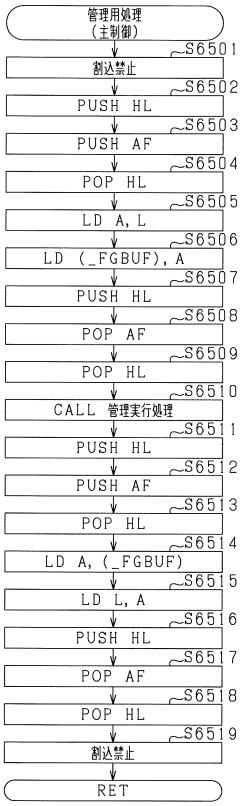
【図９７】



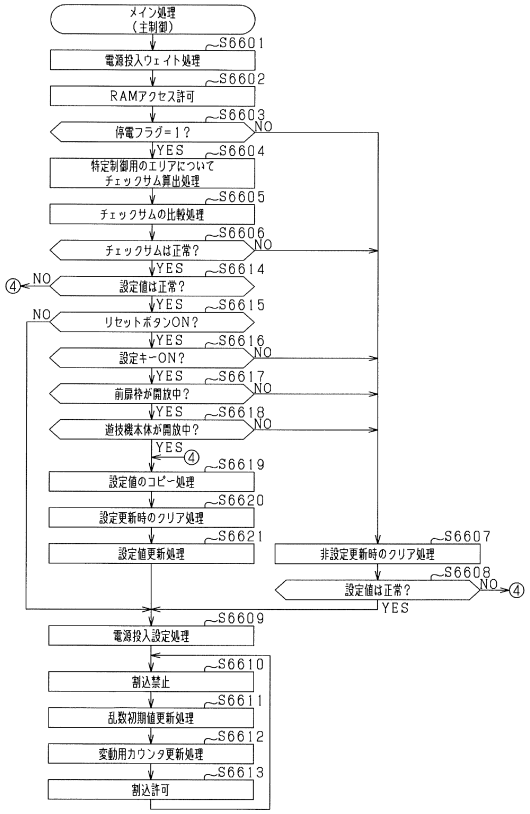
【図９８】



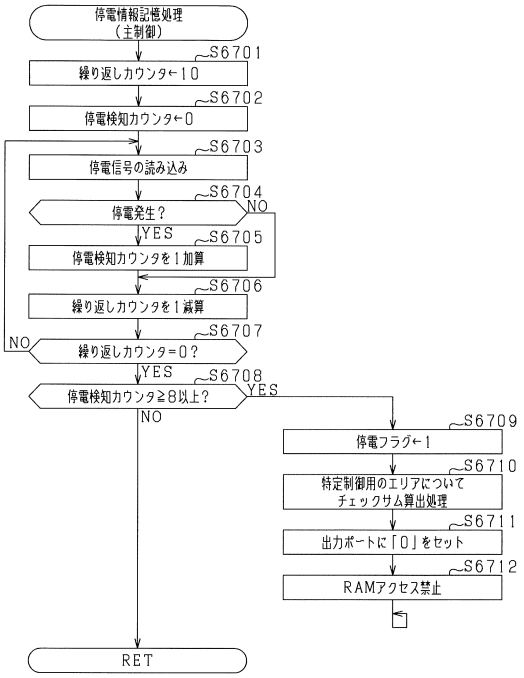
【図９９】



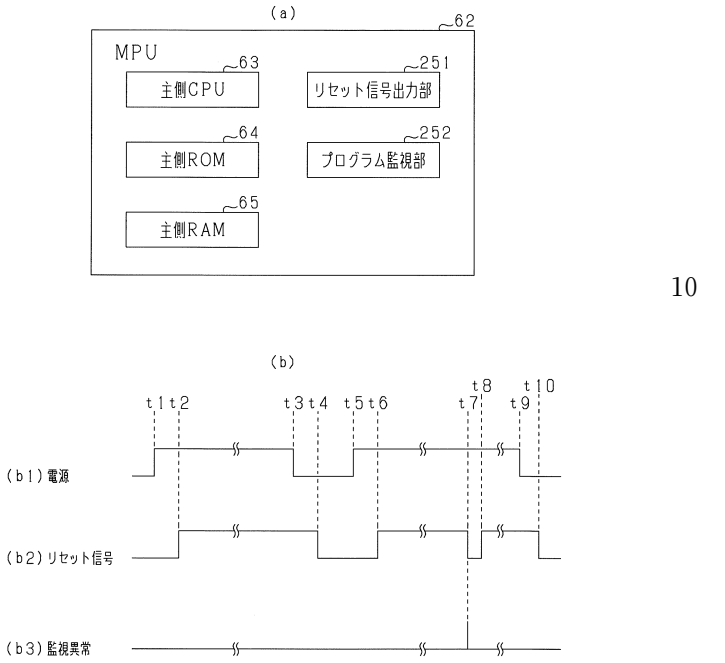
【図１００】



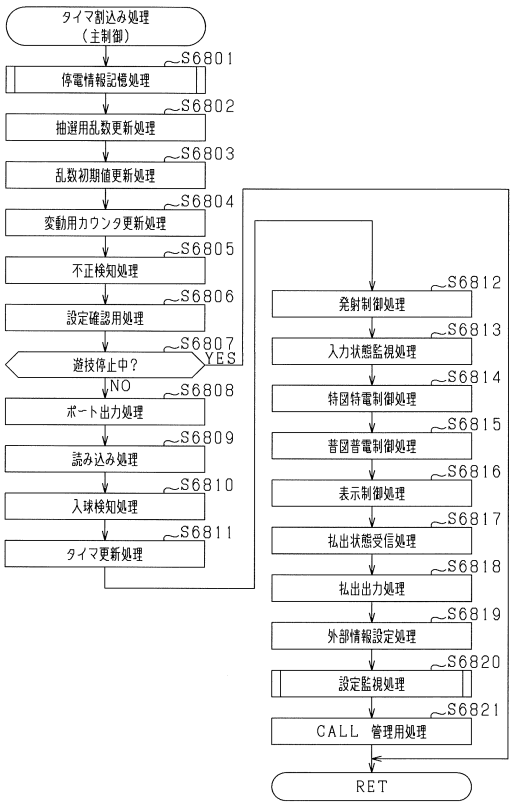
【図１０１】



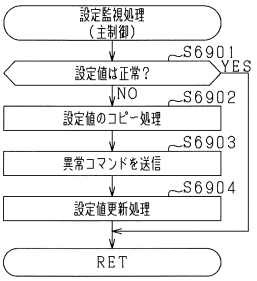
【図１０２】



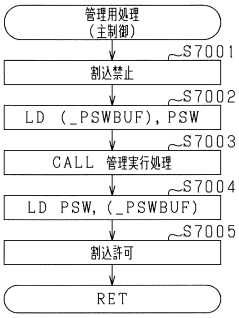
【図１０３】



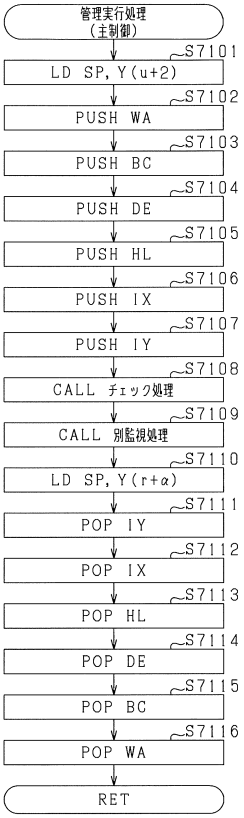
【図１０４】



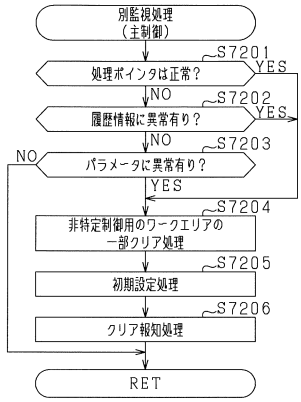
【図１０５】



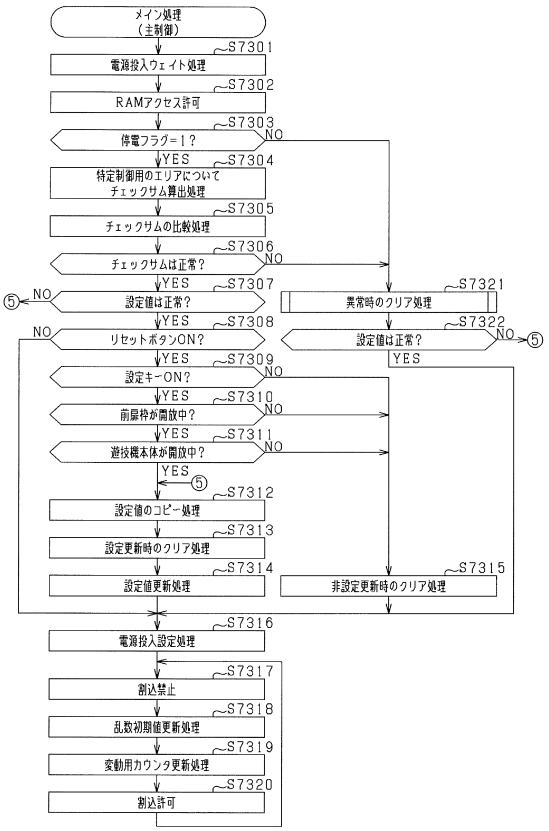
【図１０６】



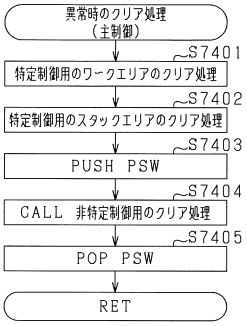
【図１０７】



【図１０８】



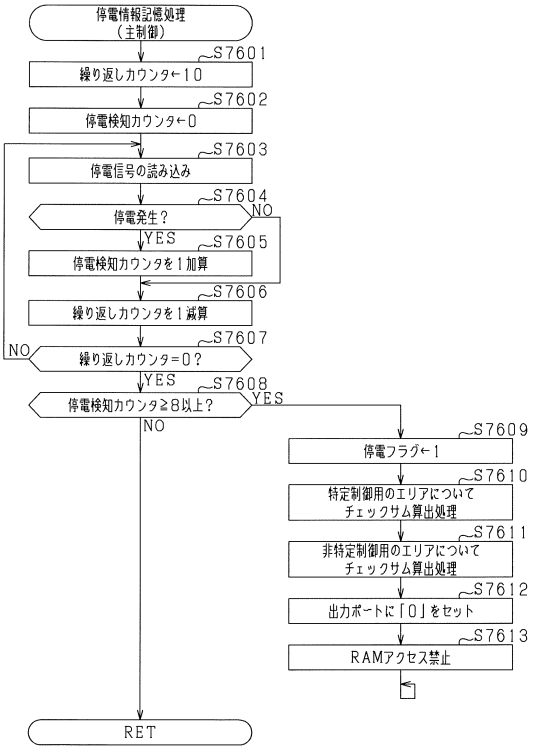
【図１０９】



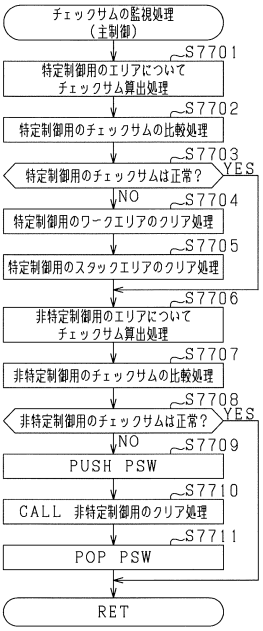
【図１１０】



【図１１１】



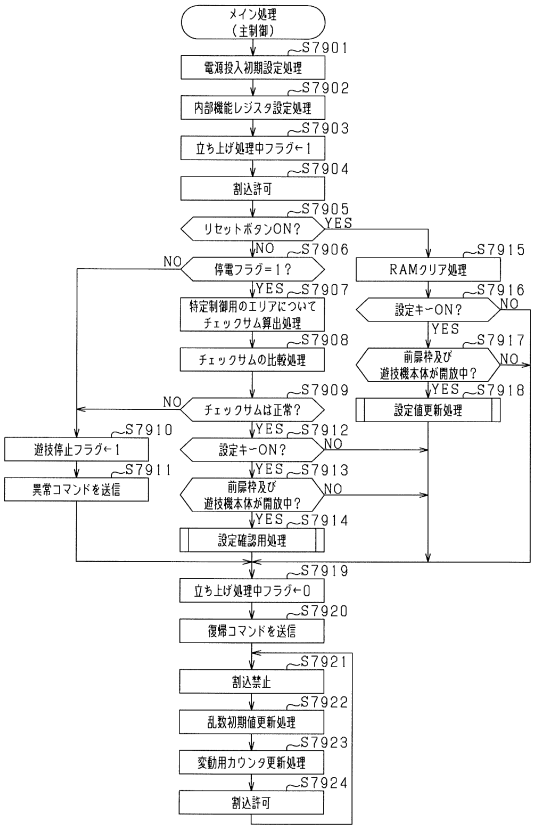
【図１１２】



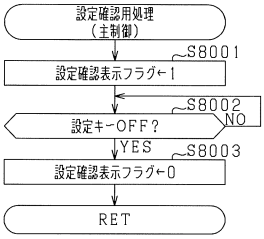
【図１１３】



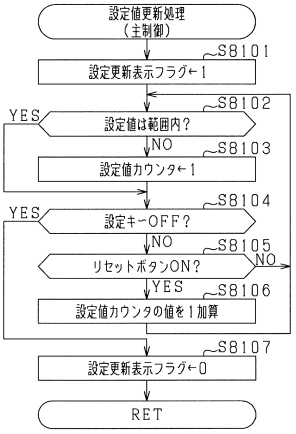
【図１１４】



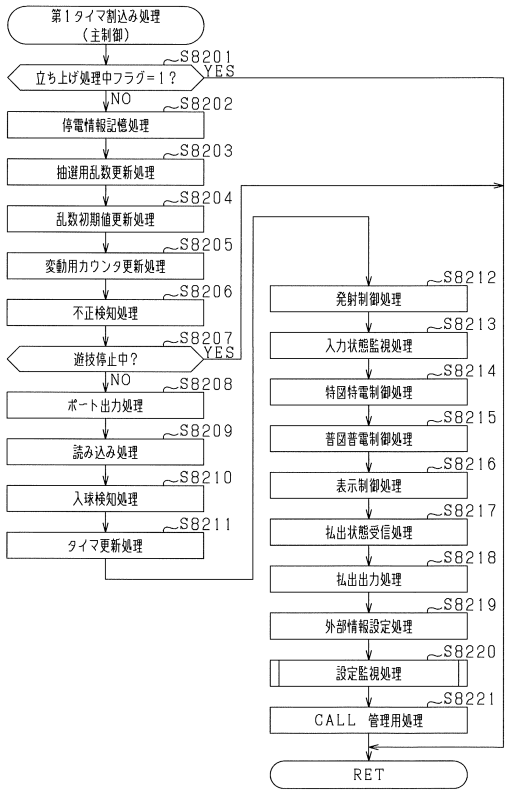
【図１１５】



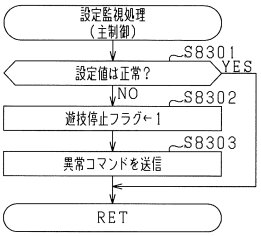
【図１１６】



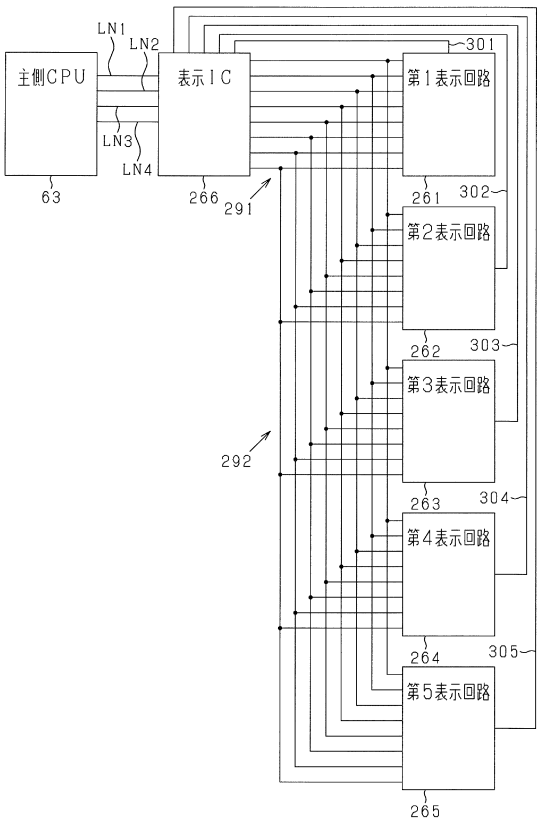
【図１１７】



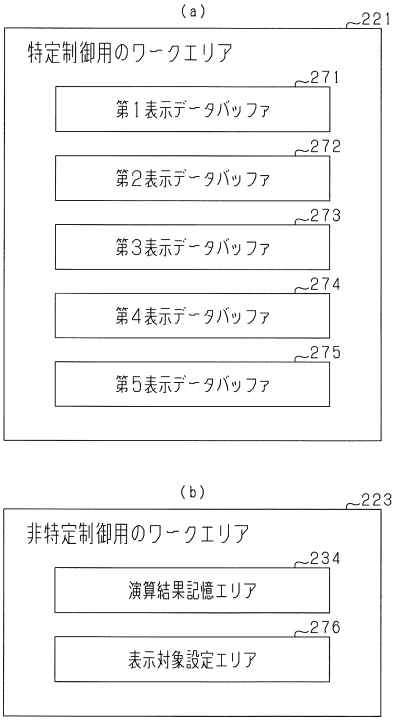
【図１１８】



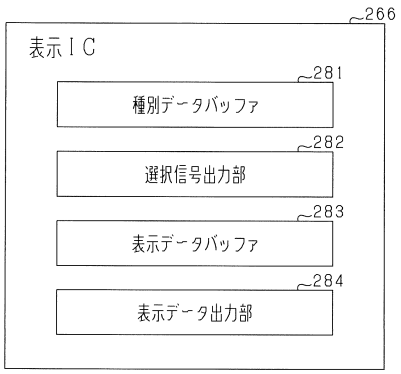
【図１１９】



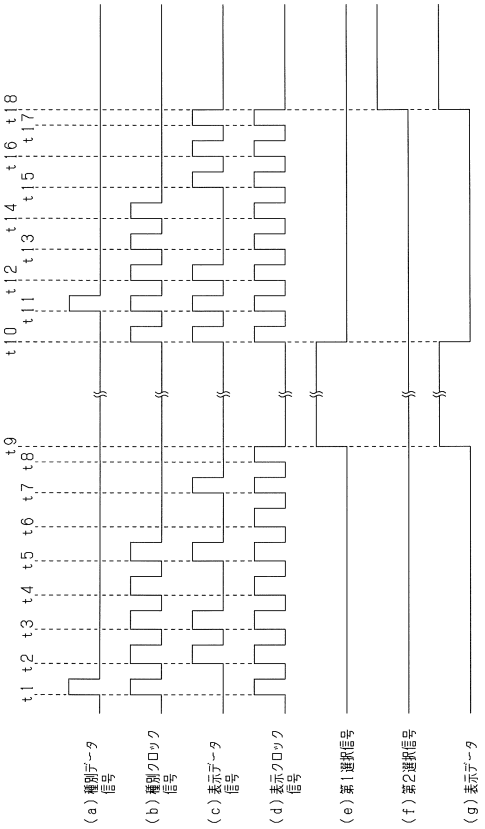
【図１２０】



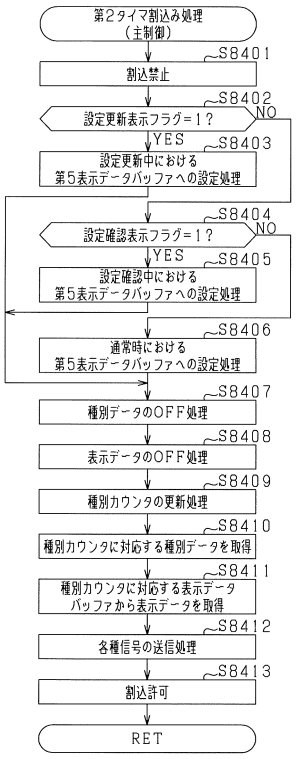
【図１２１】



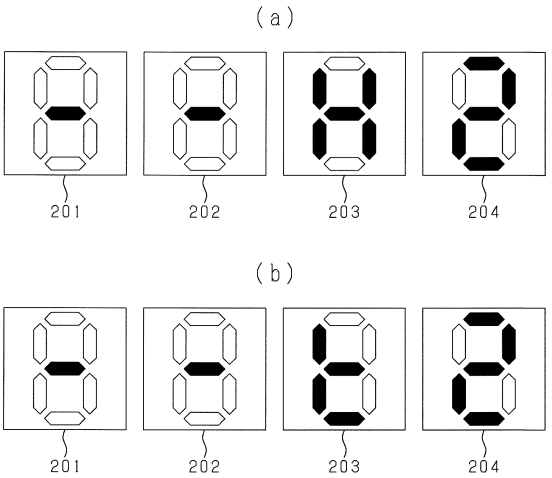
【図１２２】



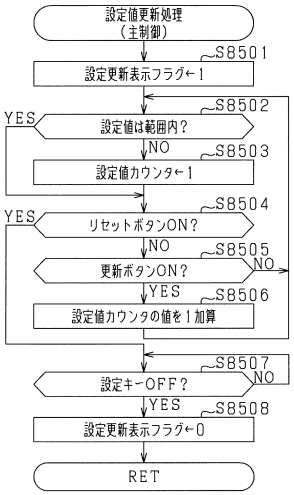
【図１２３】



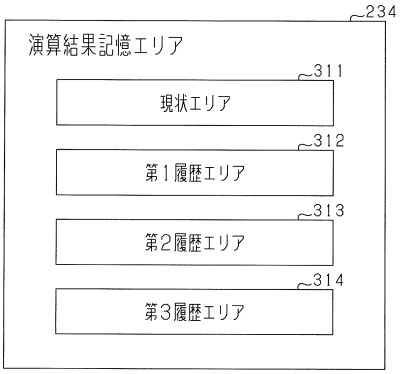
【図１２４】



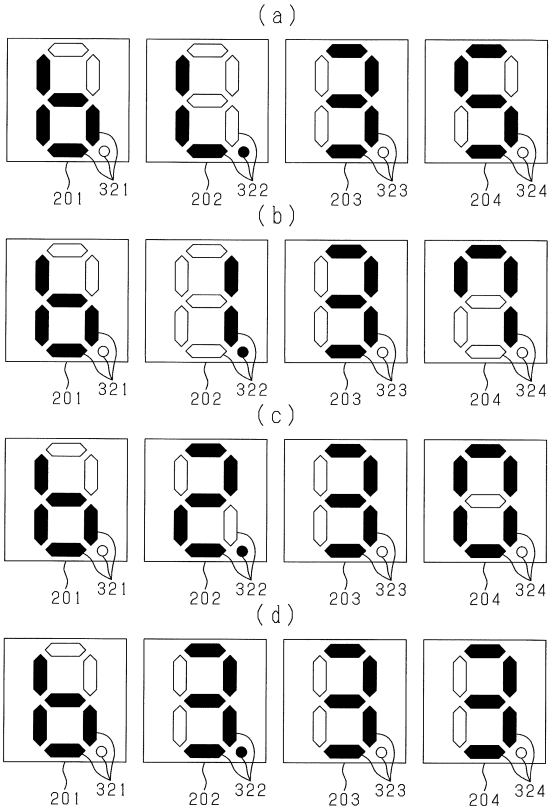
【図１２５】



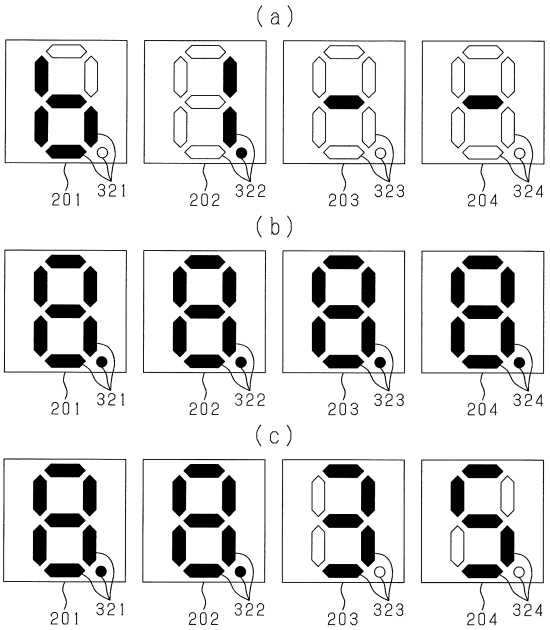
【図１２６】



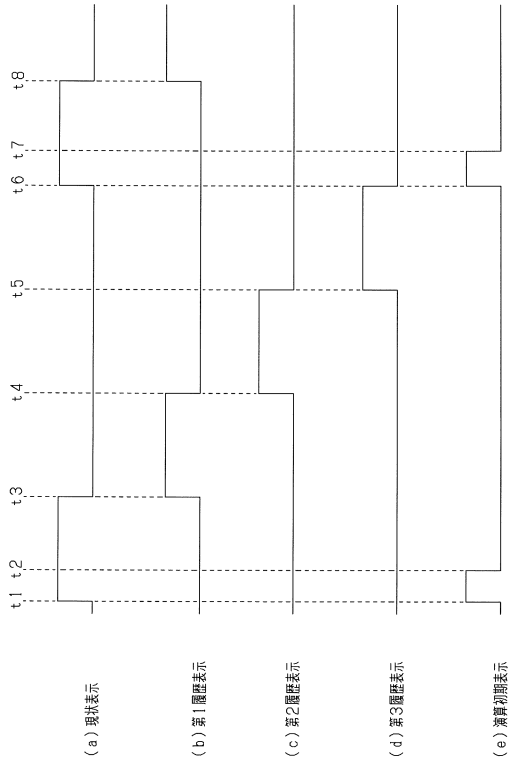
【図１２７】



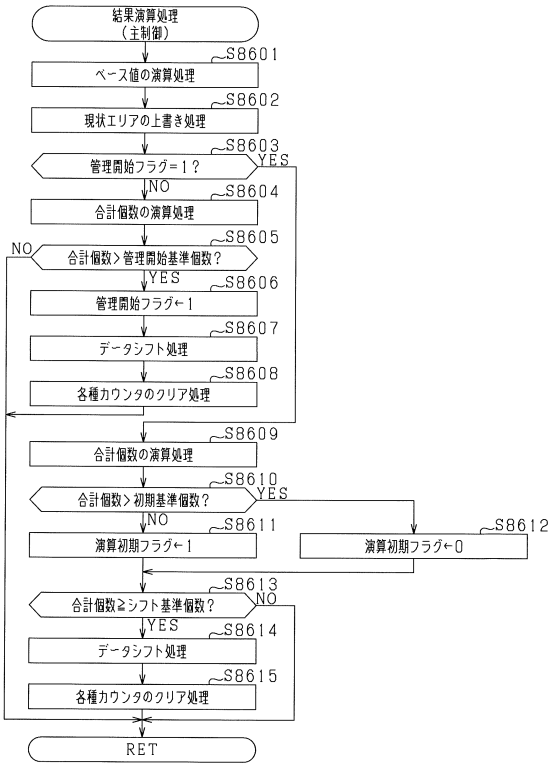
【図１２８】



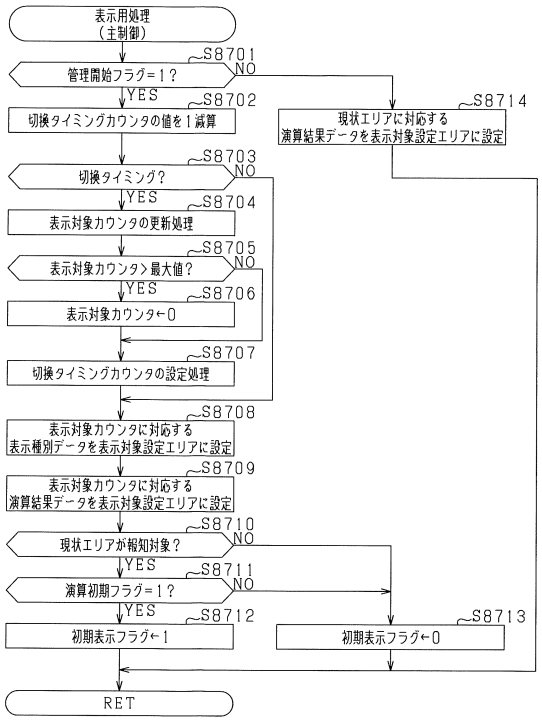
【図１２９】



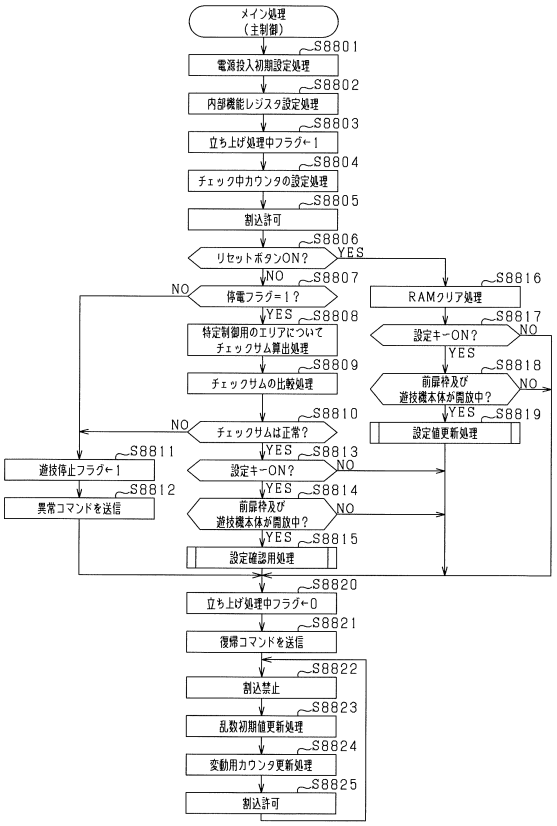
【図１３０】



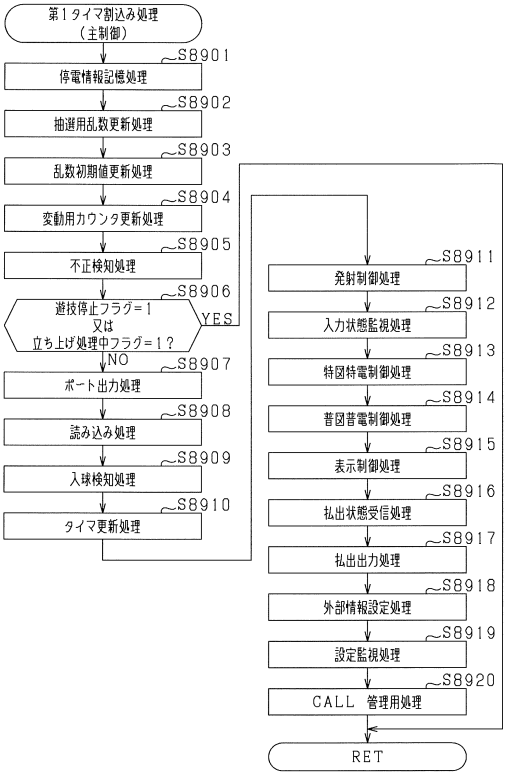
【図１３１】



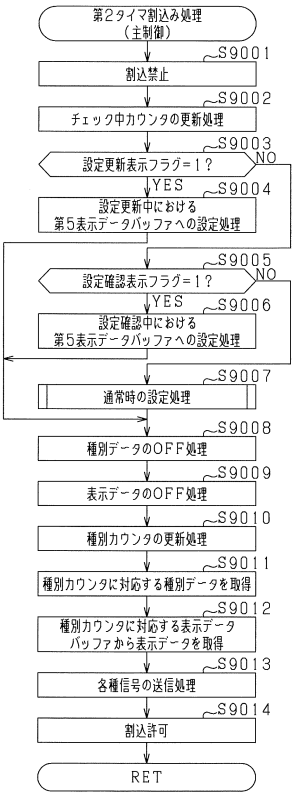
【図１３２】



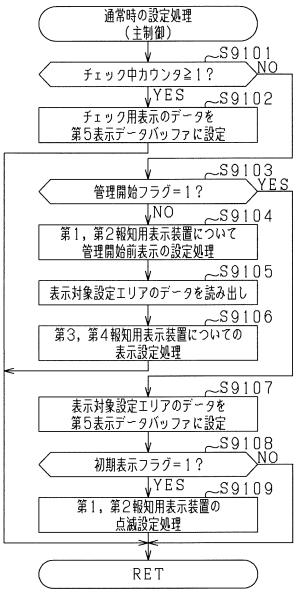
【図１３３】



【図１３４】



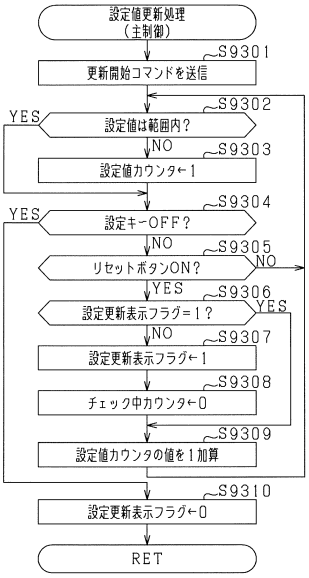
【図１３５】



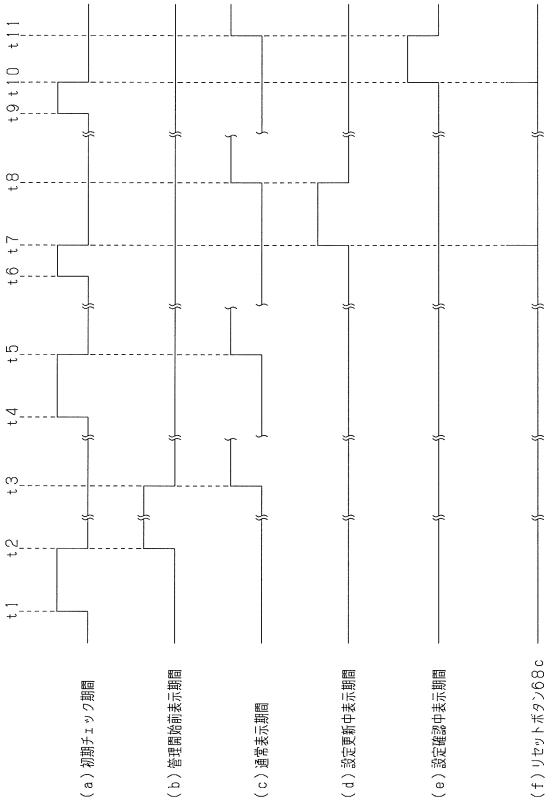
【図１３６】



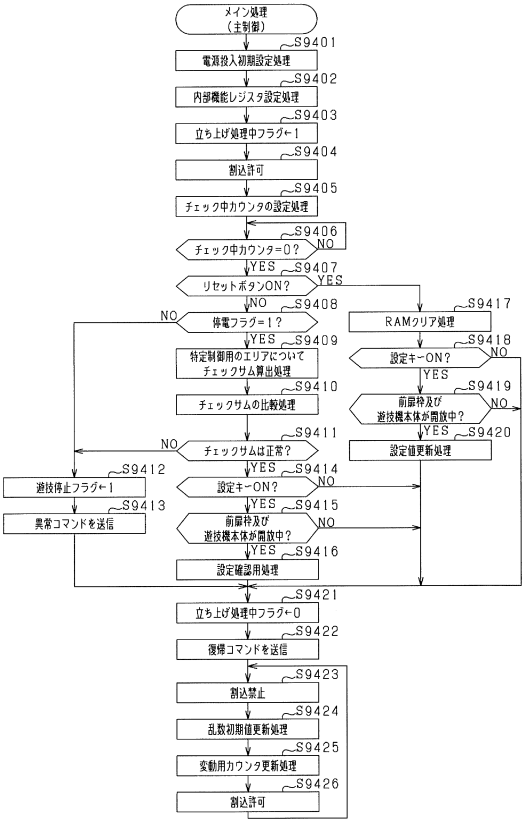
【図１３７】



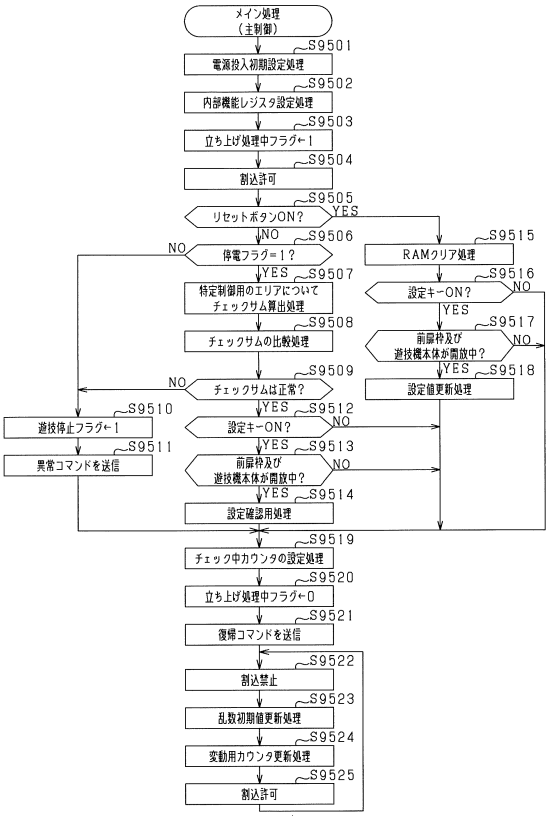
【図１３８】



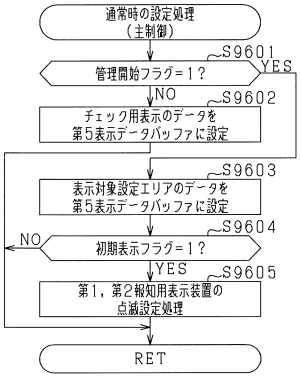
【図１３９】



【図１４０】



【図１４１】



【図１４２】

(a)

アドレス	低確率モードの当否テーブル	高確率モードの当否テーブル	設定値の表示データ	
A(1)	LT(1):1/320	HT:1/30	1	325a
A(2)	LT(2):1/310	HT:1/30	2	325b
A(3)	LT(3):1/300	HT:1/30	3	325c
A(4)	LT(4):1/290	HT:1/30	4	325d
A(5)	LT(5):1/280	HT:1/30	5	325e
A(6)	LT(6):1/270	HT:1/30	6	325f

(b)

アドレス	低確率モードの当否テーブル	高確率モードの当否テーブル	設定値の表示データ	
A(1)	LT(1):1/320	HT(1):1/30	1	325a
A(2)	LT(3):1/300	HT(3):1/28	3	325b
A(3)	LT(6):1/270	HT(6):1/25	6	325c
A(4)	LT(1):1/320	HT(1):1/30	1	325d
A(5)	LT(3):1/300	HT(3):1/28	3	325e
A(6)	LT(6):1/270	HT(6):1/25	6	325f

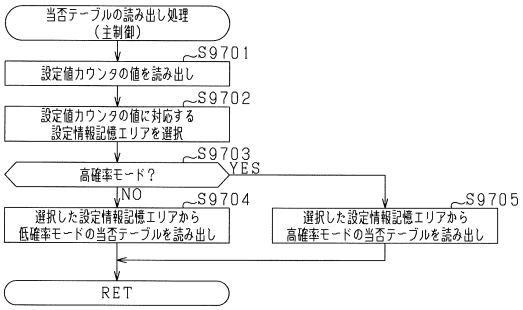
(c)

アドレス	低確率モードの当否テーブル	高確率モードの当否テーブル	設定値の表示データ	
A(1)	LT(1):1/320	HT:1/30	1	325a
A(2)	LT(1):1/320	HT:1/30	1	325b
A(3)	LT(2):1/310	HT:1/30	2	325c
A(4)	LT(2):1/310	HT:1/30	2	325d
A(5)	LT(3):1/300	HT:1/30	3	325e
A(6)	LT(4):1/290	HT:1/30	4	325f

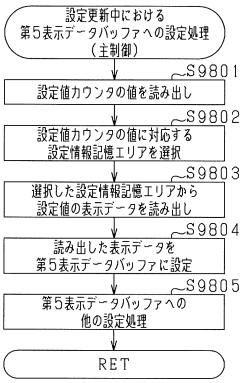
(d)

アドレス	低確率モードの当否テーブル	高確率モードの当否テーブル	設定値の表示データ	
A(1)	LT(1):1/320	HT:1/30	1	325a
A(2)	LT(1):1/320	HT:1/30	1	325b
A(3)	LT(1):1/320	HT:1/30	1	325c
A(4)	LT(1):1/320	HT:1/30	1	325d
A(5)	LT(1):1/320	HT:1/30	1	325e
A(6)	LT(1):1/320	HT:1/30	1	325f

【図１４３】



【図１４４】



【図１４５】

(a)

326

アドレス	低確率モードの当否テーブル	高確率モードの当否テーブル	設定値の表示データ	
A(1)	LT(1):1/320	HT:1/30	1	326a
A(2)	LT(2):1/300	HT:1/30	2	326b
A(3)	LT(3):1/280	HT:1/30	3	326c

(b)

326

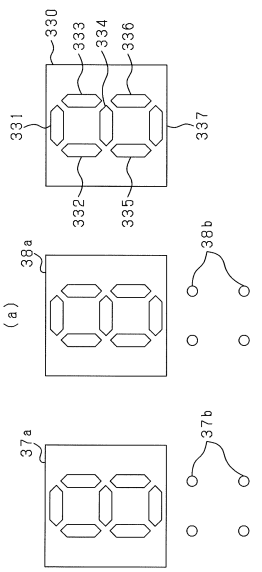
アドレス	低確率モードの当否テーブル	高確率モードの当否テーブル	設定値の表示データ	
A(1)	LT(1):1/320	HT:1/30	1	326a
A(2)	LT(1):1/320	HT:1/30	1	326b
A(3)	LT(1):1/320	HT:1/30	1	326c

(c)

326

アドレス	低確率モードの当否テーブル	高確率モードの当否テーブル	設定値の表示データ	
A(1)	LT(1):1/320	HT(1):1/30	1	326a
A(2)	LT(1):1/320	HT(1):1/30	1	326b
A(3)	LT(3):1/280	HT(3):1/25	3	326c

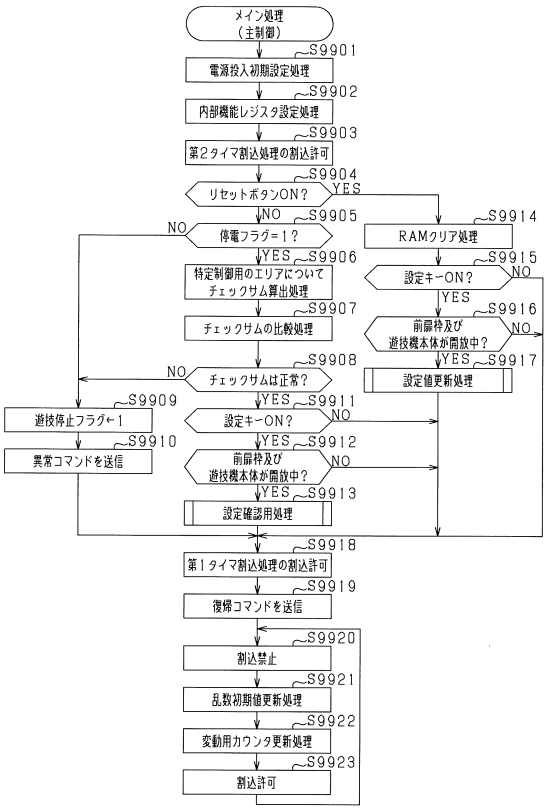
【図１４６】



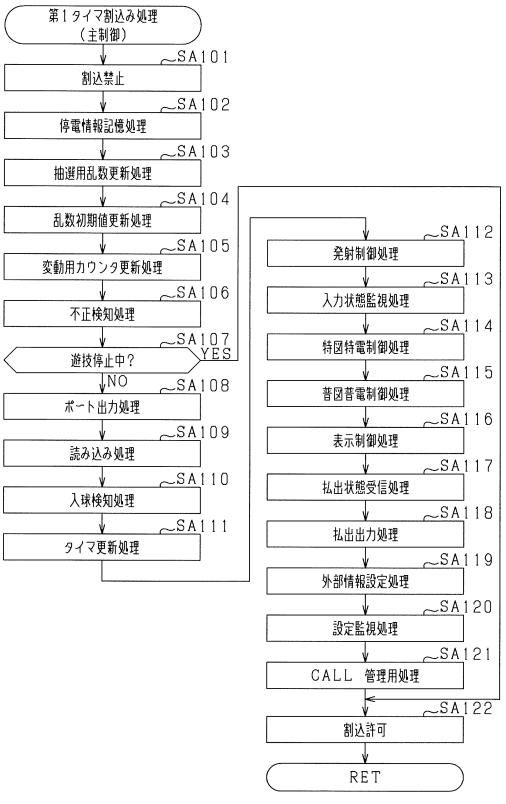
(b)

表示対象	第1表示用セグメント	第2表示用セグメント	第3表示用セグメント	第4表示用セグメント	第5表示用セグメント	第6表示用セグメント	第7表示用セグメント
2ラウンド	消灯	消灯	消灯	消灯	点灯	点灯	点灯
16ラウンド	点灯	点灯	点灯	点灯	消灯	消灯	消灯
設定更新中	消灯	点灯	消灯	点灯	消灯	点灯	消灯
設定確認中	点灯	消灯	点灯	消灯	点灯	消灯	点灯

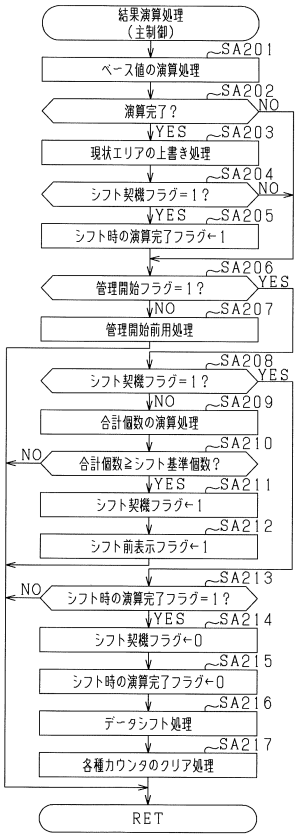
【図１４７】



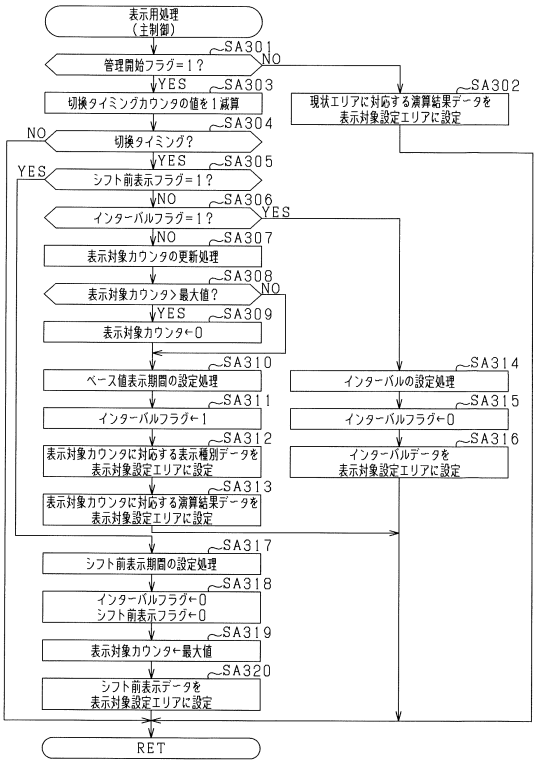
【図１４８】



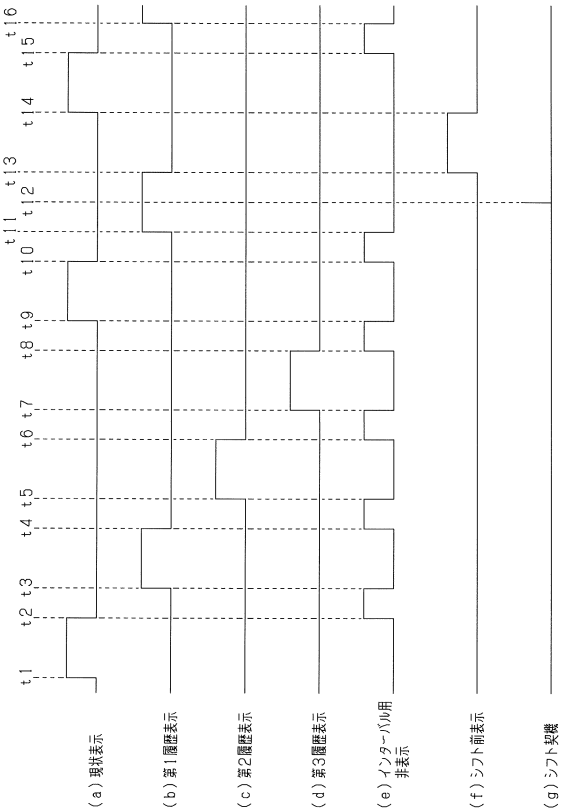
【図１４９】



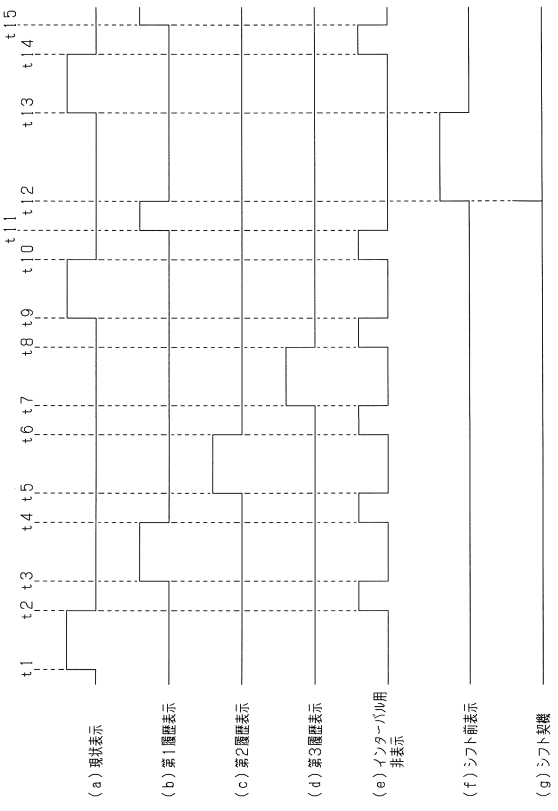
【図１５０】



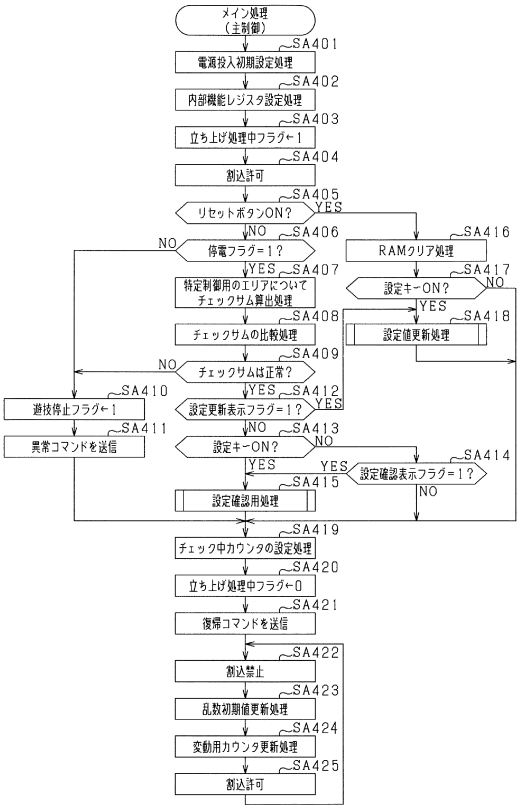
【図１５１】



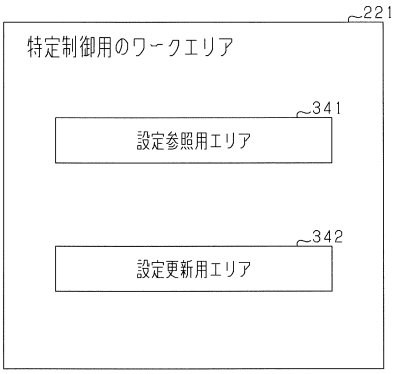
【図１５２】



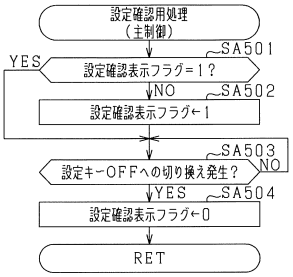
【図１５３】



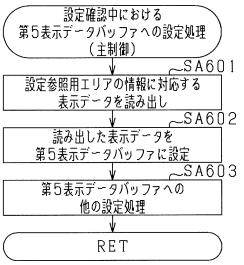
【図１５４】



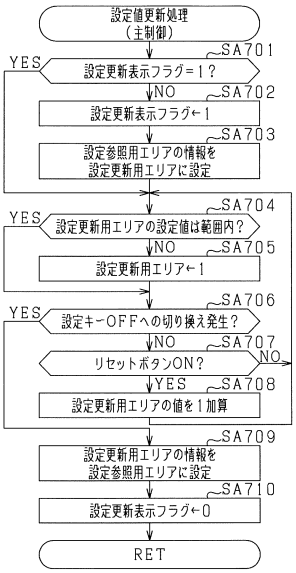
【図１５５】



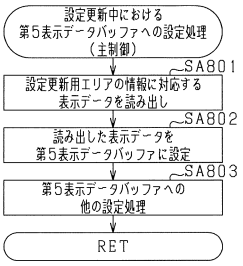
【図１５６】



【図１５７】



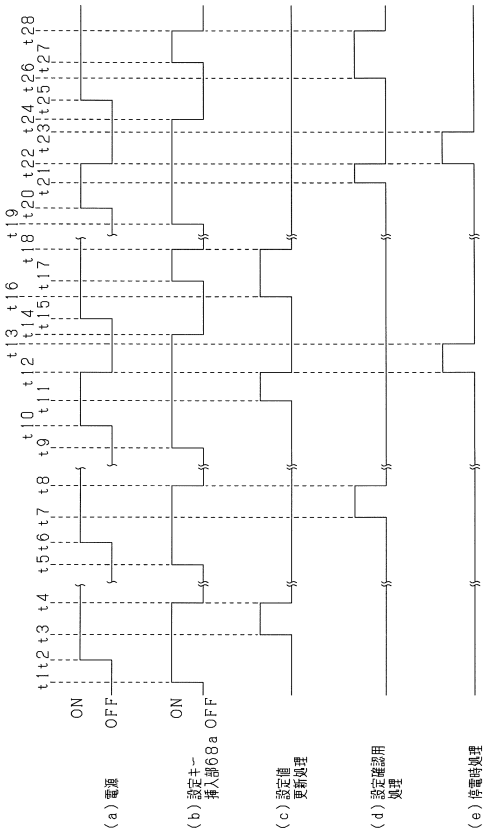
【図１５８】



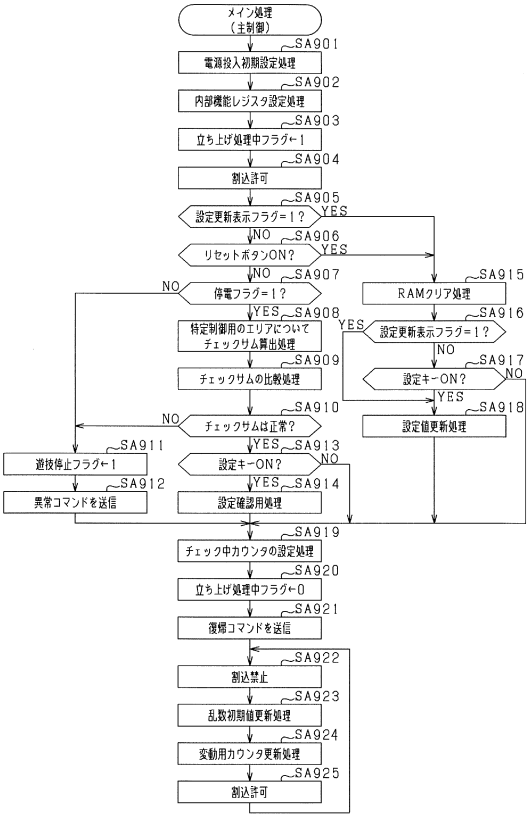
【図１５９】



【図１６０】



【図１６１】



【図１６２】

前回の電源OFF時の状況		通常の電源OFF	設定値更新処理中の電源OFF	設定確認用処理中の電源OFF
電源ON時の操作	操作無し	復電	RAMクリア &設定値更新処理	復電
	RAMクリア操作	RAMクリア	RAMクリア &設定値更新処理	RAMクリア
	設定変更操作	RAMクリア &設定値更新処理	RAMクリア &設定値更新処理	RAMクリア &設定値更新処理
	設定確認操作	設定確認用処理	RAMクリア &設定値更新処理	設定確認用処理

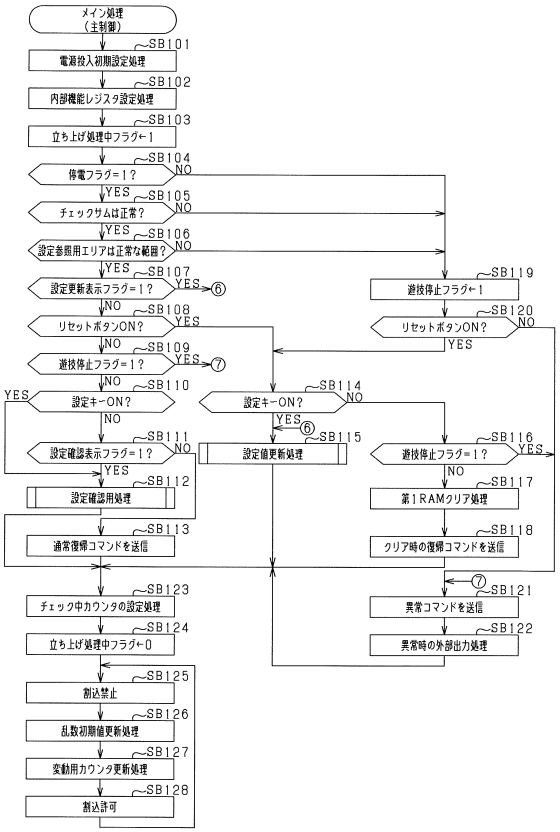
【図１６３】

前回の電源OFF時の状況		通常の電源OFF	設定値更新処理中の電源OFF	設定確認用処理中の電源OFF
電源ON時の操作	操作無し	復電	設定値更新処理の再開	復電
	RAMクリア操作	RAMクリア	RAMクリア &設定値更新処理の再開	RAMクリア
	設定変更操作	RAMクリア &設定値更新処理	RAMクリア &設定値更新処理の再開	RAMクリア &設定値更新処理
	設定確認操作	設定確認用処理	設定値更新処理の再開	設定確認用処理

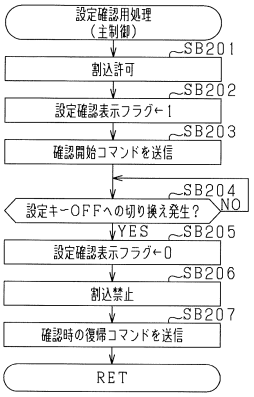
【図１６４】

前回の電源OFF時の状況		通常の電源OFF	設定値更新処理中の電源OFF	設定確認用処理中の電源OFF
電源ON時の操作	操作無し	復電	復電	復電
	RAMクリア操作	RAMクリア	RAMクリア	RAMクリア
	設定変更操作	RAMクリア &設定値更新処理	RAMクリア &設定値更新処理の再開	RAMクリア &設定値更新処理
	設定確認操作	設定確認用処理	設定確認用処理	設定確認用処理

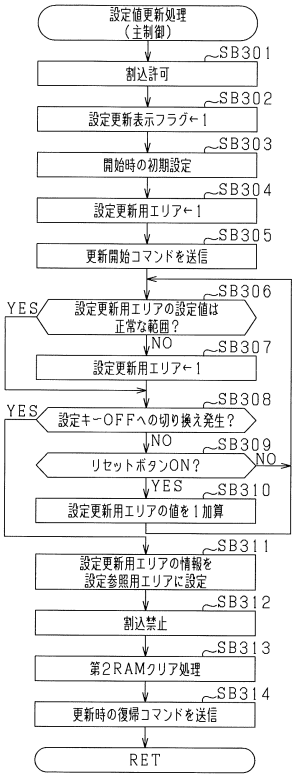
【図１６５】



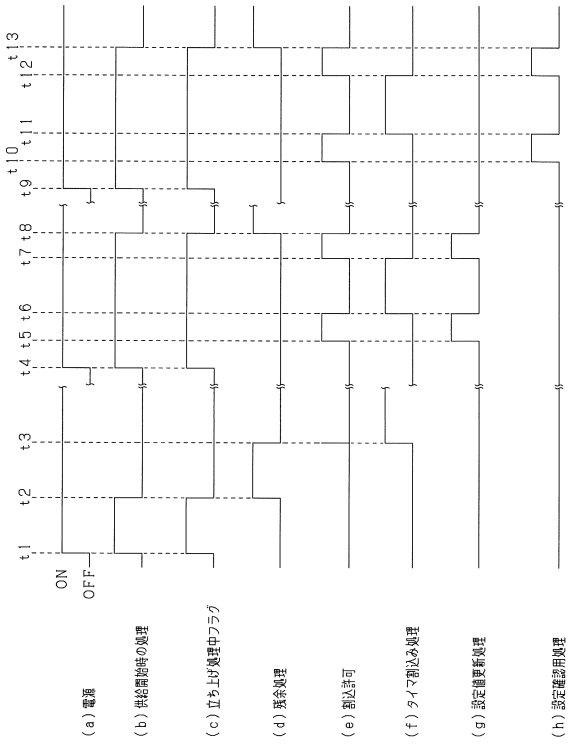
【図１６６】



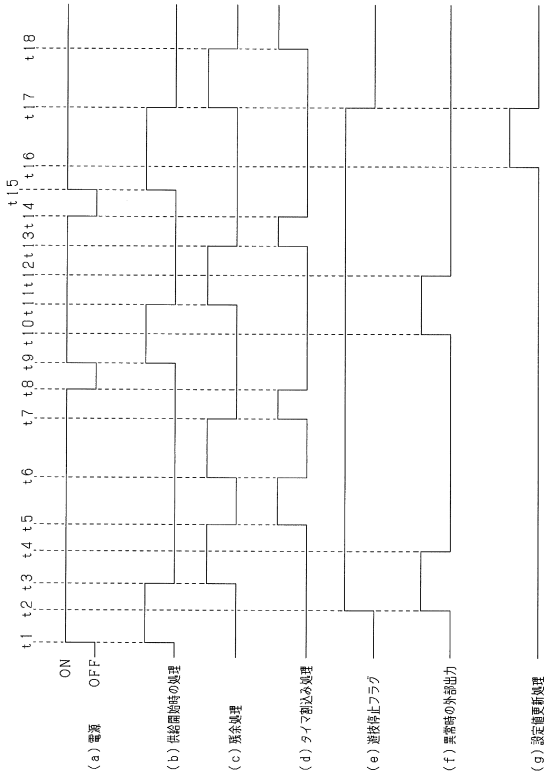
【図１６７】



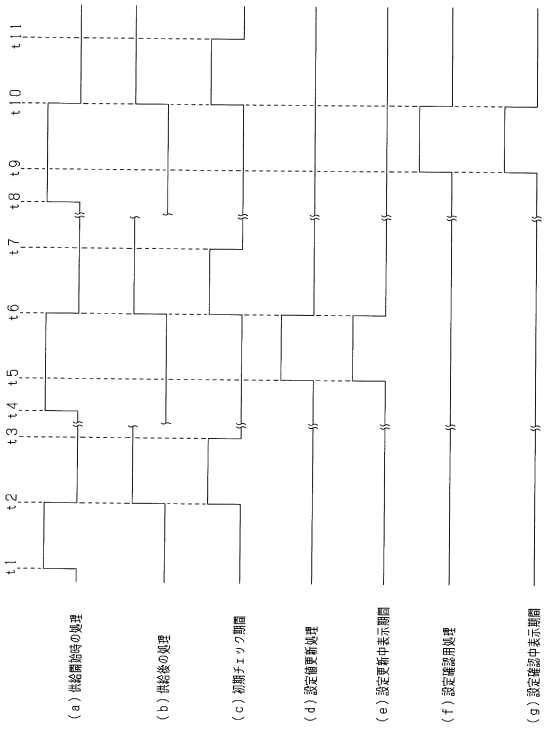
【図１６８】



【図１６９】



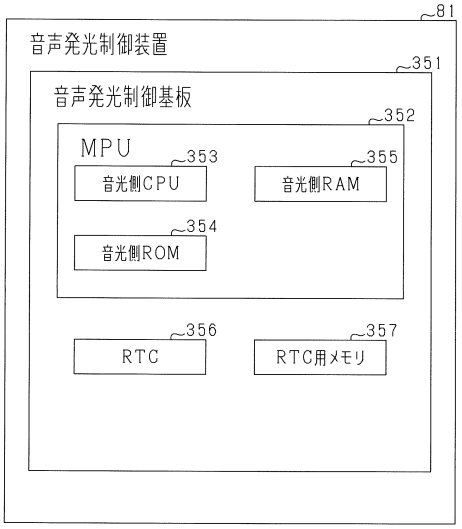
【図１７０】



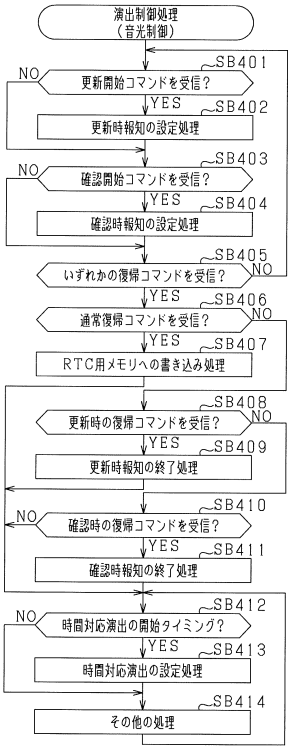
【図１７１】

前回の電源OFF時の状況		設定値更新処理中の電源OFF	設定確認用処理中の電源OFF
電源ON時の操作	通常の電源OFF	復電	設定確認用処理
操作無し		設定値更新処理（第2RAMクリア処理を含む）	設定確認用処理
RAMクリア操作		第1RAMクリア処理	第1RAMクリア処理
設定変更操作		設定値更新処理（第2RAMクリア処理を含む）	設定値更新処理（第2RAMクリア処理を含む）
設定確認操作		設定確認用処理	設定確認用処理
		設定値更新処理（第2RAMクリア処理を含む）	設定値更新処理（第2RAMクリア処理を含む）

【図１７２】



【図１７３】

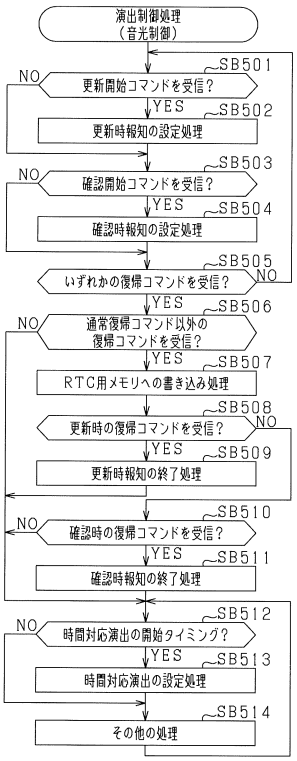


【図１７４】

復帰コマンド	報知に関する制御	RTC用メモリ357への書き込み処理
通常復帰コマンド	－	○
クリア時の復帰コマンド	－	×
更新時の復帰コマンド	更新時の報知の終了	×
確認時の復帰コマンド	確認時の報知の終了	×

通常の復電処理
第1RAMクリア処理
設定値更新処理
設定確認用処理

【図１７５】

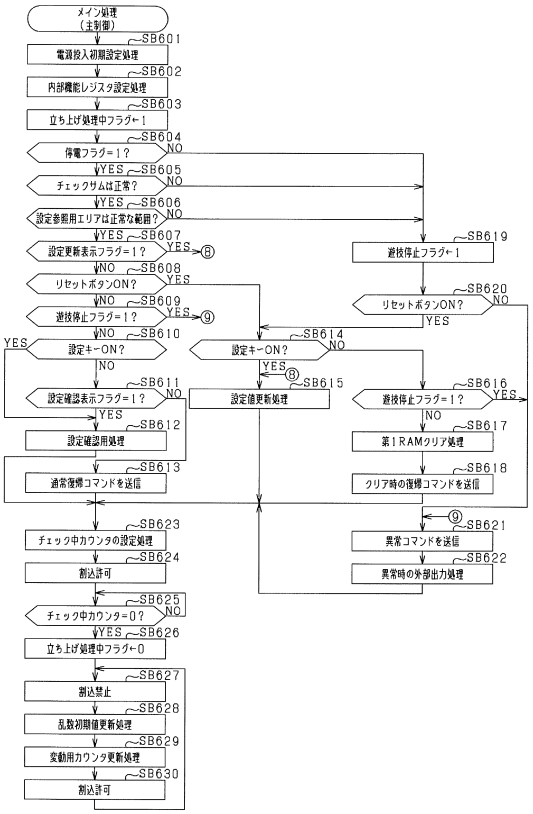


【図１７６】

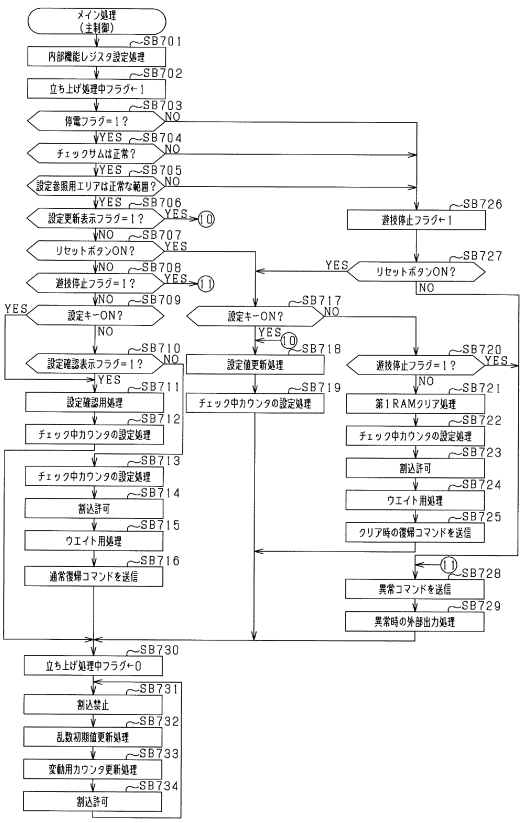
復帰コマンド	報知に関する制御	RTC用メモリ357への書き込み処理
通常復帰コマンド	－	×
クリア時の復帰コマンド	－	○
更新時の復帰コマンド	更新時の報知の終了	○
確認時の復帰コマンド	確認時の報知の終了	○

通常の復電処理
第1RAMクリア処理
設定値更新処理
設定確認用処理

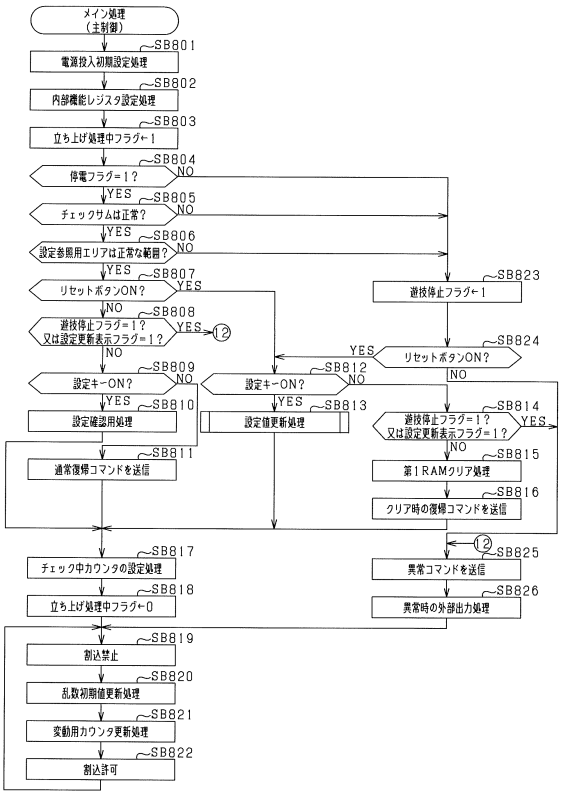
【図１７７】



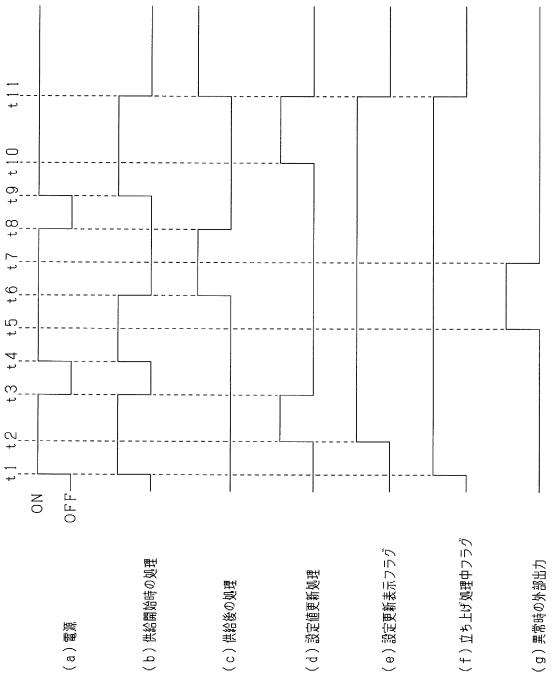
【図１７８】



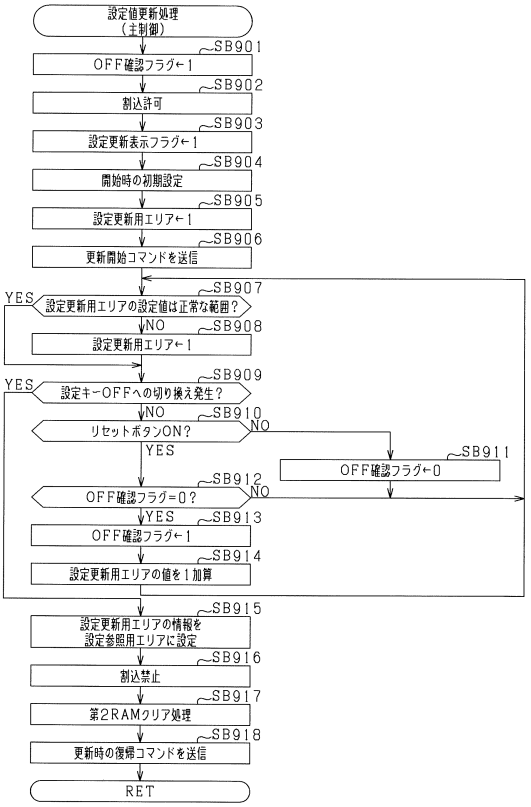
【図１７９】



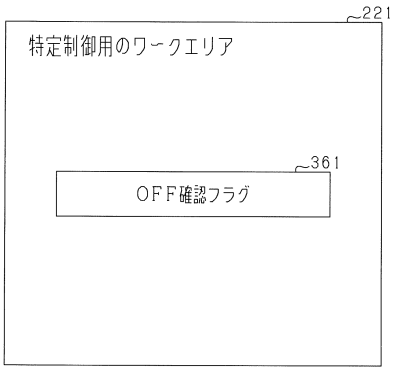
【図１８０】



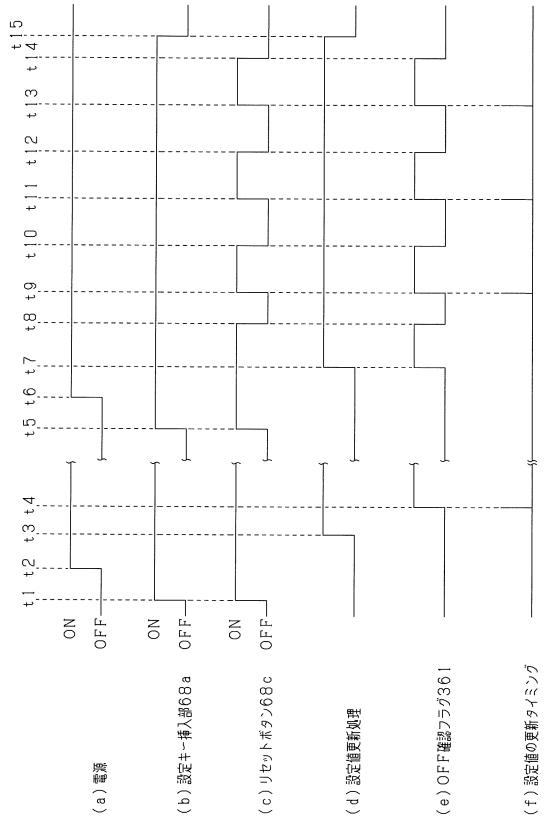
【図１８１】



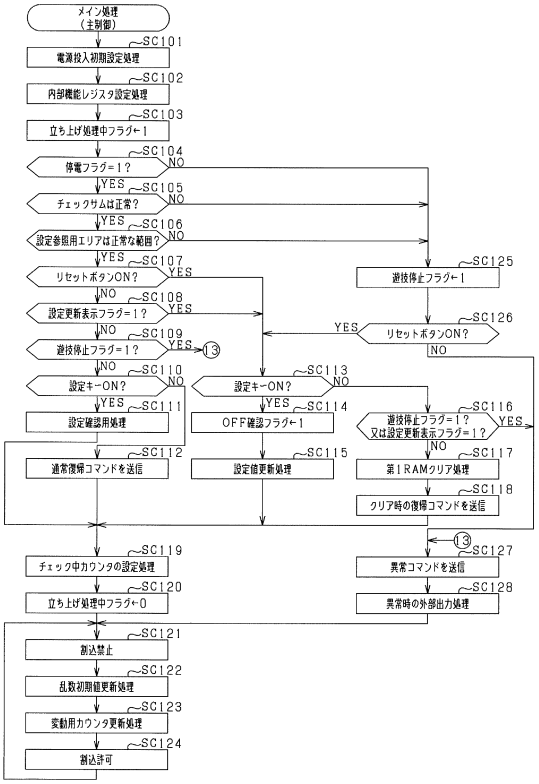
【図１８２】



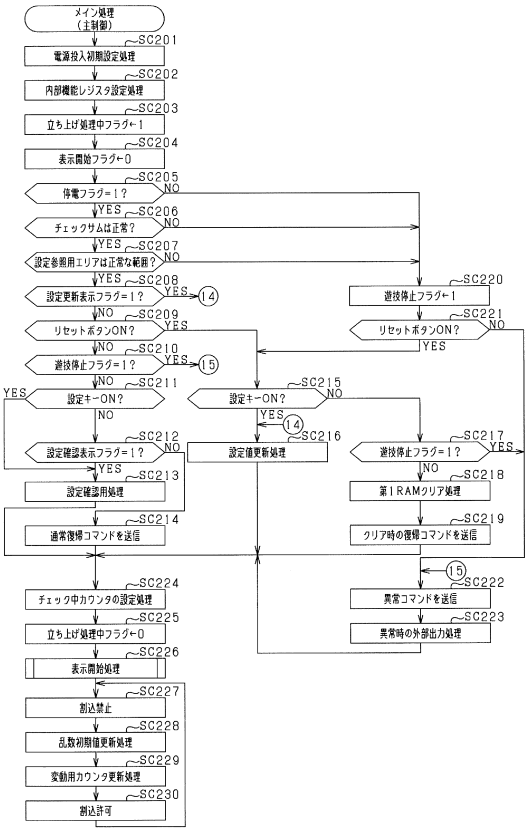
【図１８３】



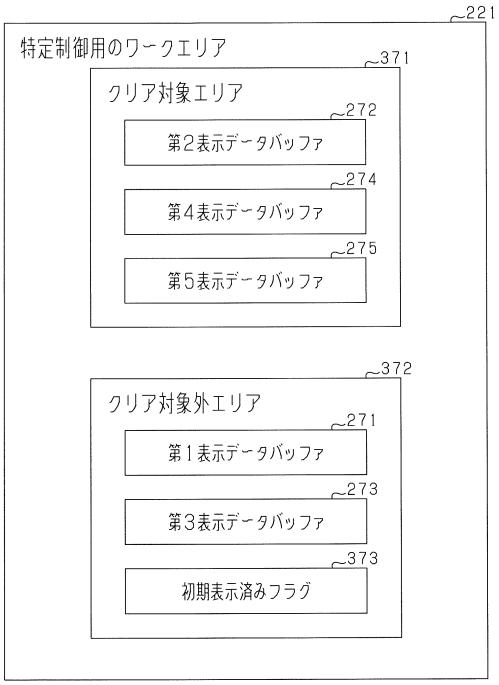
【図１８４】



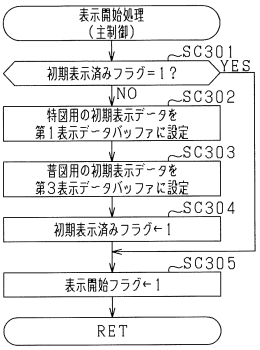
【図１８５】



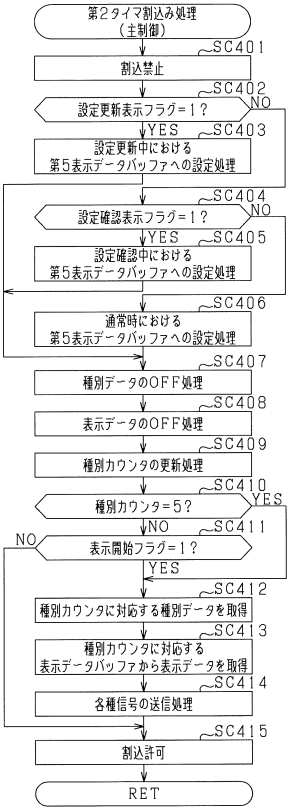
【図１８６】



【図１８７】



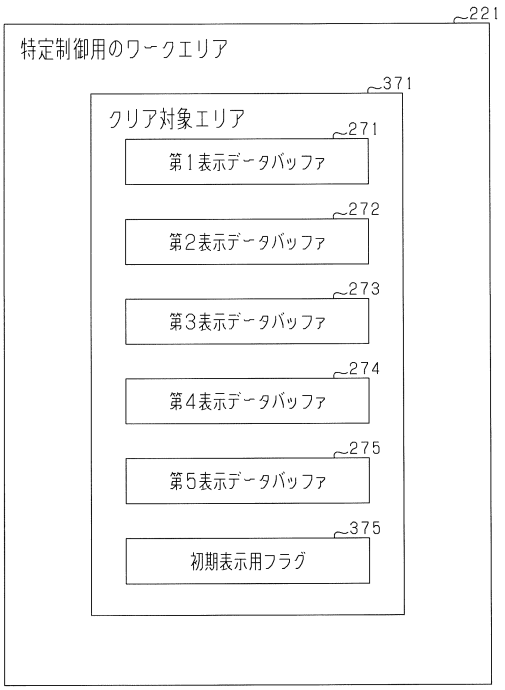
【図１８８】



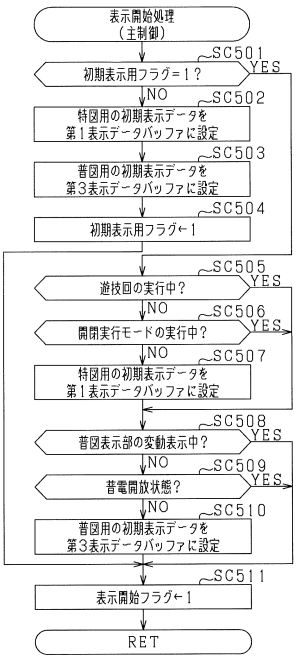
【図１８９】

電力供給開始時の状況	特図表示部37a	普図表示部38a
工場出荷時	初期表示	初期表示
設定及びRAMに関する処理の実行無し	電断時の表示	電断時の表示
第１RAMクリア処理	電断時の表示	電断時の表示
設定値更新処理	電断時の表示	電断時の表示
設定確認用処理	電断時の表示	電断時の表示

【図１９０】



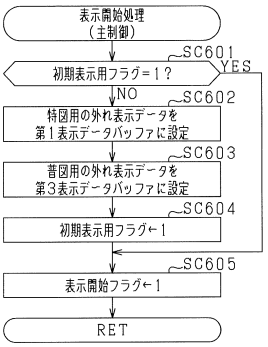
【図１９１】



【図１９２】

電力供給開始時の状況	遊技状況	特図表示部37a	普図表示部38a
第１RAMクリア処理		初期表示	初期表示
設定値更新処理		初期表示	初期表示
設定確認用処理 又は 設定及びRAMに関する処理の実行無し	特図特電の制御無し 普図普電の制御無し	初期表示	初期表示
	特図特電の制御途中 普図普電の制御無し	電断時の表示	初期表示
	特図特電の制御無し 普図普電の制御途中	初期表示	電断時の表示

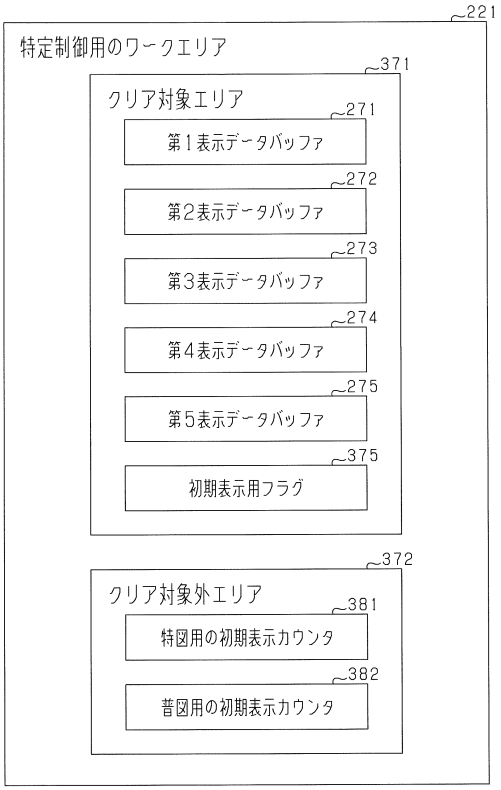
【図１９３】



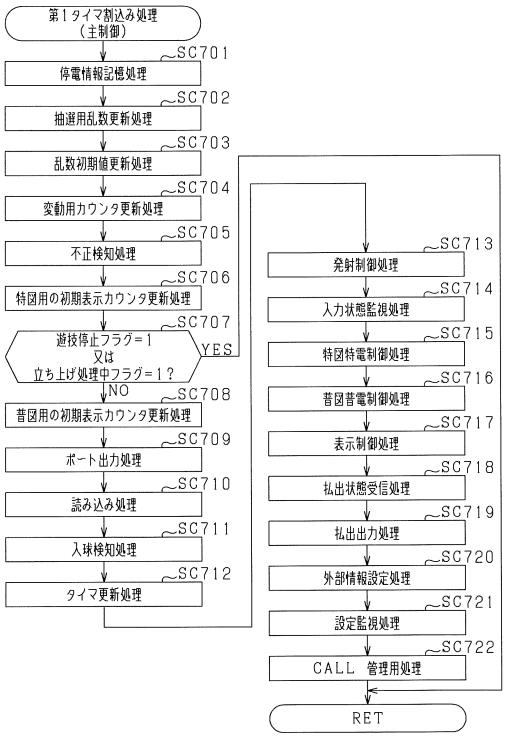
【図１９４】

電力供給開始時の状況	特図表示部３７ａ	普図表示部３８ａ
第１ＲＡＭクリア処理	外れ表示	外れ表示
設定値更新処理	外れ表示	外れ表示
設定確認用処理	電断時の表示	電断時の表示
設定及びＲＡＭに関する処理の実行無し	電断時の表示	電断時の表示

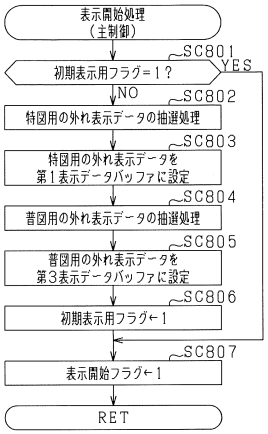
【図１９５】



【図１９６】



【図１９７】



【図１９８】

（ａ）

383

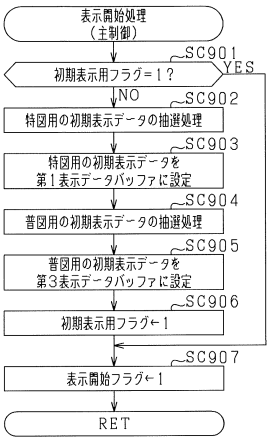
抽選結果	特図用の 初期表示カウンタ381
特図用の 第１外れ表示データ	0~19
特図用の 第２外れ表示データ	20~39
特図用の 第３外れ表示データ	40~59

（ｂ）

384

抽選結果	普図用の 初期表示カウンタ382
普図用の 第１外れ表示データ	0~19
普図用の 第２外れ表示データ	20~39
普図用の 第３外れ表示データ	40~59

【図１９９】



【図２００】

（ａ）

385

抽選結果	特図用の 初期表示カウンタ381
特図用の 第１外れ表示データ	0~9
特図用の 第２外れ表示データ	10~19
特図用の 第３外れ表示データ	20~29
特図用の 第１当たり表示データ	30~39
特図用の 第２当たり表示データ	40~49
特図用の 第３当たり表示データ	50~59

（ｂ）

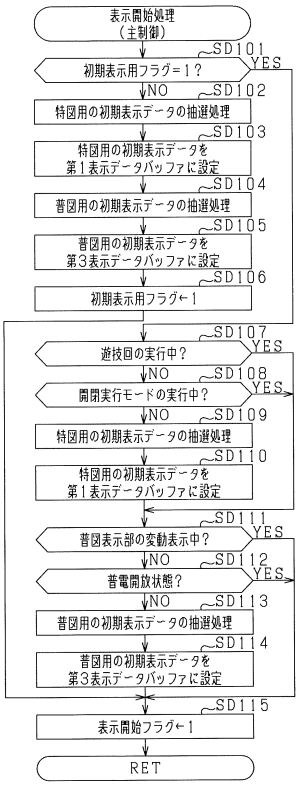
386

抽選結果	普図用の 初期表示カウンタ382
普図用の 第１外れ表示データ	0~14
普図用の 第２外れ表示データ	15~29
普図用の 第３外れ表示データ	30~44
普図用の 当たり表示データ	45~59

【図２０１】

電力供給開始時の状況	特図表示部３７ａ	普図表示部３８ａ
第１RAMクリア処理	外れ表示 又は 当たり表示	外れ表示 又は 当たり表示
設定値更新処理	外れ表示 又は 当たり表示	外れ表示 又は 当たり表示
設定確認用処理	電断時の表示	電断時の表示
設定及びRAMに関する 処理の実行無し	電断時の表示	電断時の表示

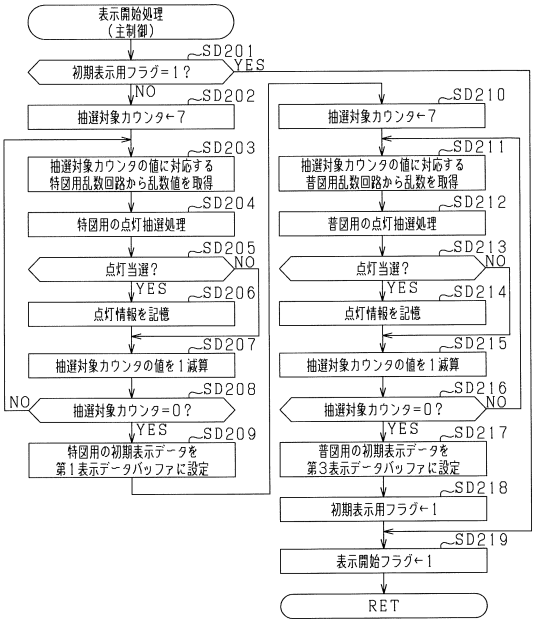
【図２０２】



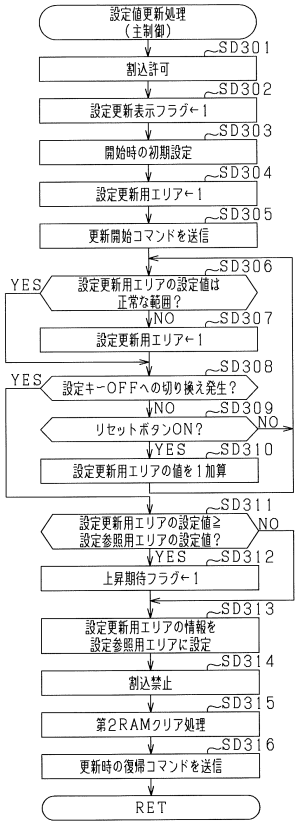
【図２０３】

電力供給開始時の処理	遊技状況	特図表示部３７ａ	普図表示部３８ａ
第１RAMクリア処理		外れ表示 又は 当たり表示	外れ表示 又は 当たり表示
設定値更新処理		外れ表示 又は 当たり表示	外れ表示 又は 当たり表示
設定確認用処理 又は 設定及びRAMに関する 処理の実行無し	特図特電の制御無し 普図普電の制御無し	外れ表示 又は 当たり表示	外れ表示 又は 当たり表示
	特図特電の制御途中 普図普電の制御無し	電断時の表示	外れ表示 又は 当たり表示
	特図特電の制御無し 普図普電の制御途中	外れ表示 又は 当たり表示	電断時の表示

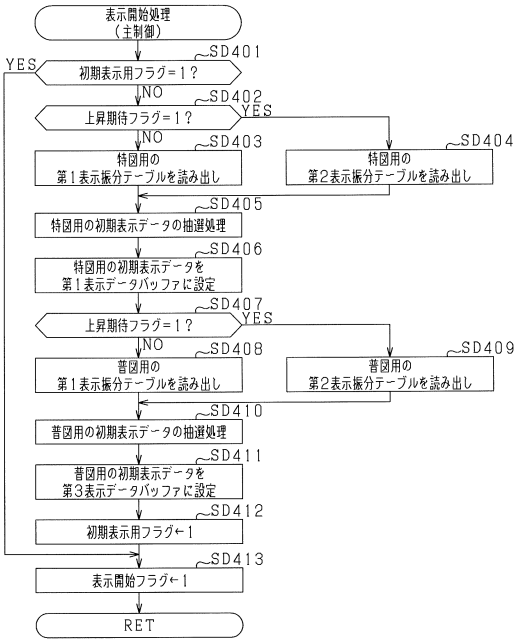
【図２０４】



【図２０５】



【図２０６】



【図２０７】

（ａ）特図用の第１表示振分テーブル391

抽選結果	特図用の 初期表示カウンタ381
特図用の第１初期表示データ	0~39
特図用の第２初期表示データ	40~54
特図用の第３初期表示データ	55~59

（ｂ）特図用の第２表示振分テーブル392

抽選結果	特図用の 初期表示カウンタ381
特図用の第１初期表示データ	0~9
特図用の第２初期表示データ	10~39
特図用の第３初期表示データ	40~59

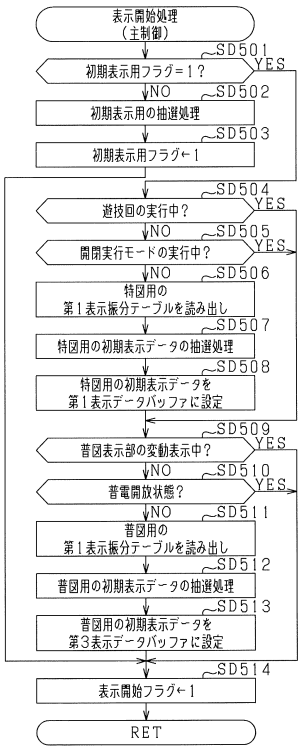
（ｃ）普図用の第１表示振分テーブル393

抽選結果	普図用の 初期表示カウンタ382
普図用の第１初期表示データ	0~29
普図用の第２初期表示データ	30~49
普図用の第３初期表示データ	50~59

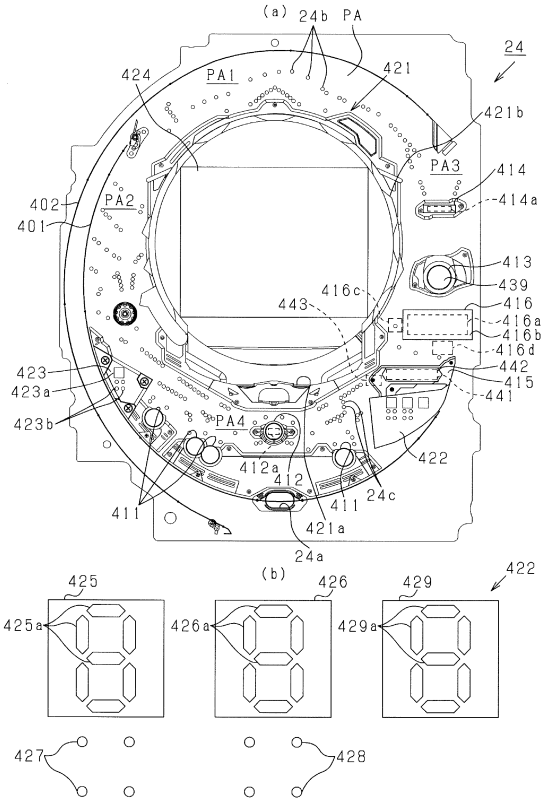
（ｄ）普図用の第２表示振分テーブル394

抽選結果	普図用の 初期表示カウンタ382
普図用の第１初期表示データ	0~19
普図用の第２初期表示データ	20~29
普図用の第３初期表示データ	30~59

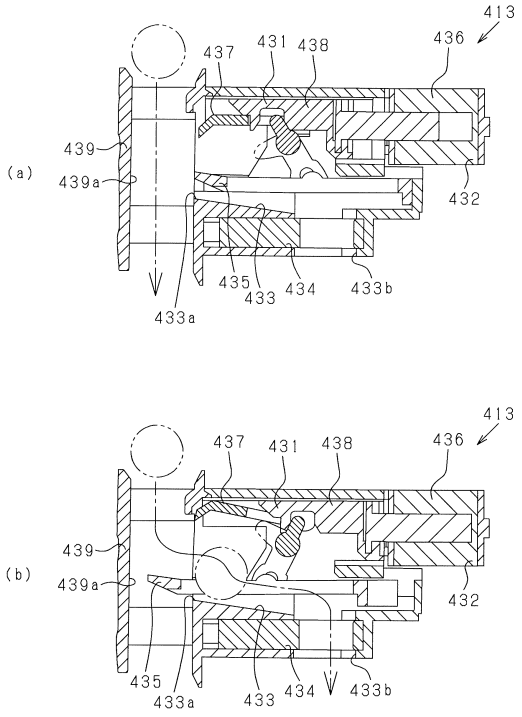
【図２０８】



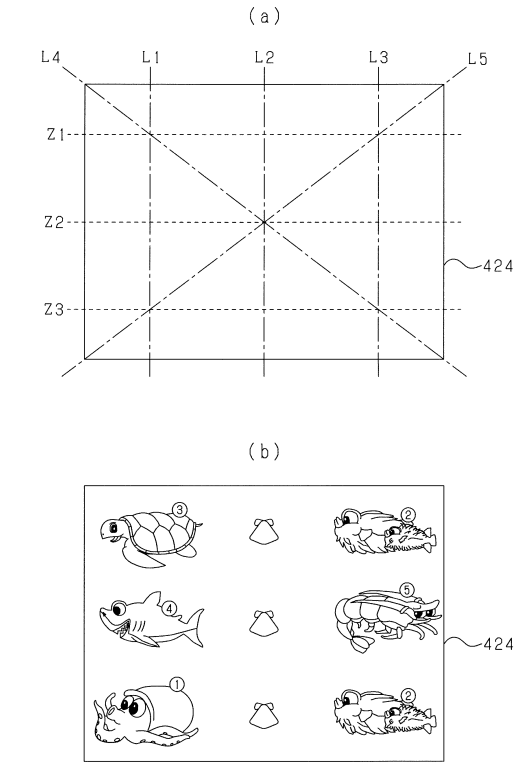
【図２０９】



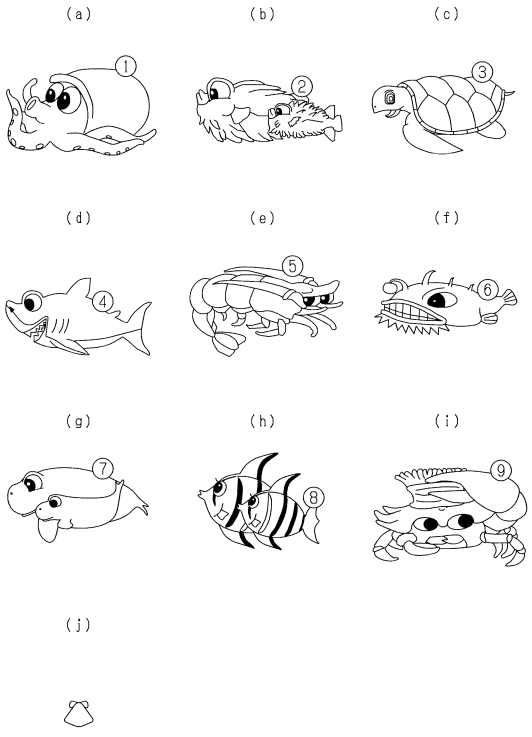
【図２１０】



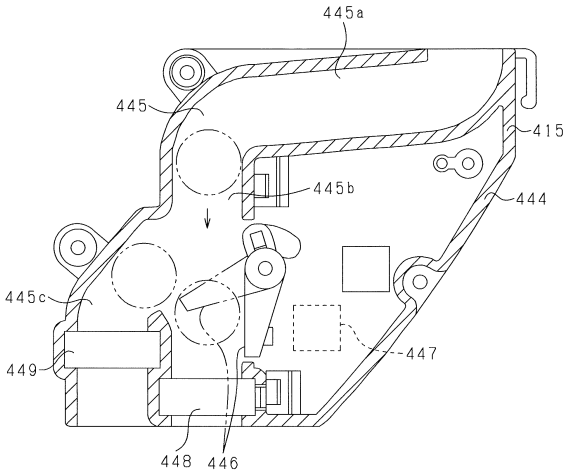
【図２１１】



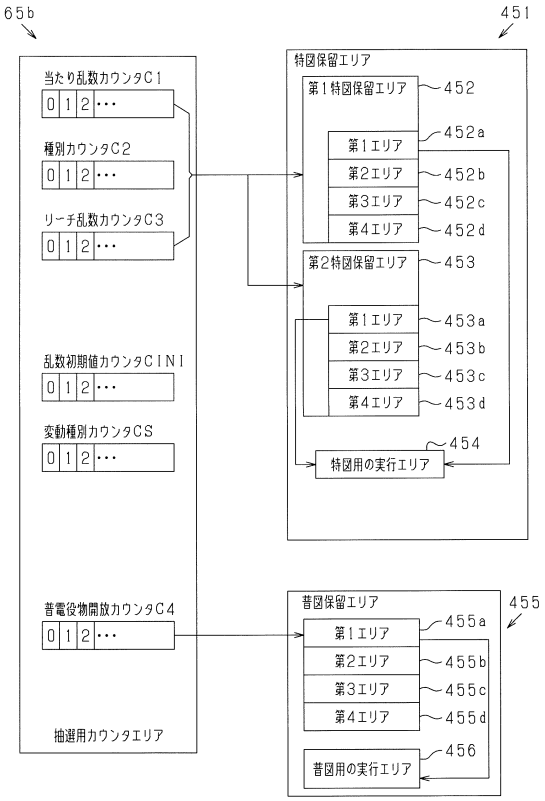
【図２１２】



【図２１３】



【図２１４】



【図２１５】

（ａ）第１特図の当否テーブル　461

設定値	大当たり結果	外れ結果
設定1	50個	9950個
設定2	52個	9948個
設定3	54個	9946個
設定4	56個	9944個
設定5	58個	9942個
設定6	60個	9940個

（ｂ）第２特図の当否テーブル　462

設定値	大当たり結果	小当たり結果	外れ結果
設定1	50個	2000個	7950個
設定2	52個	2000個	7948個
設定3	54個	2000個	7946個
設定4	56個	2000個	7944個
設定5	58個	2000個	7942個
設定6	60個	2000個	7940個

【図２１６】

（ａ）大当たり用の種別テーブル　463

種別カウンタC2	大当たり結果の種類
0~26	6R大当たり結果
27~29	15R大当たり結果

（ｂ）大当たり結果の内容

大当たり結果の種類	ラウンド遊技の回数	高頻度サポートモードにおける第２特図の変動回数
6R大当たり結果	6回	第１特図での大当たり結果の場合：1回 第２特図での大当たり結果の場合：5回
15R大当たり結果	15回	5回

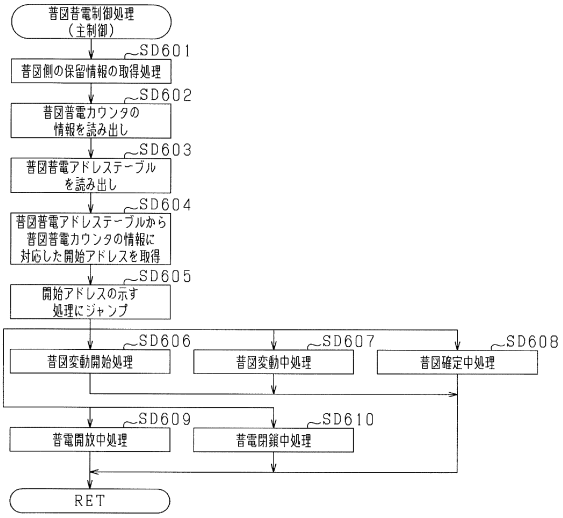
（ｃ）小当たり用の種別テーブル　464

種別カウンタC2	小当たり結果の種類
0~9	第1小当たり結果
10~19	第2小当たり結果
20~29	第3小当たり結果

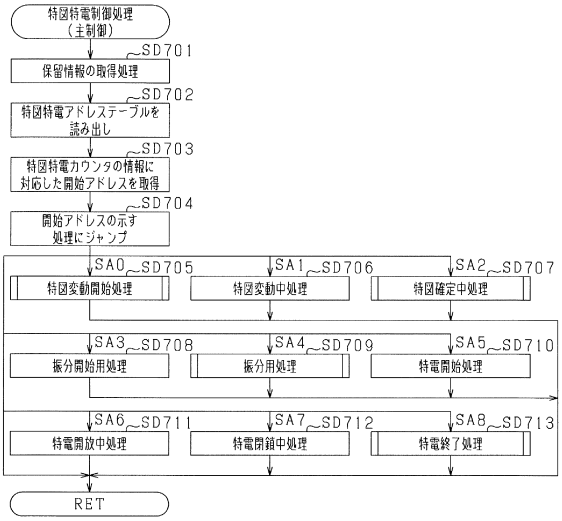
（ｄ）小当たり結果の内容

小当たり結果の種類	開閉回数	高頻度サポートモードにおける第２特図の変動回数
第1小当たり結果	振分入賞装置：1回 V入賞後にラウンド遊技：5回	V入賞が発生した場合に5回
第2小当たり結果	振分入賞装置：1回 V入賞後にラウンド遊技：8回	V入賞が発生した場合に5回
第3小当たり結果	振分入賞装置：1回 V入賞後にラウンド遊技：14回	V入賞が発生した場合に5回

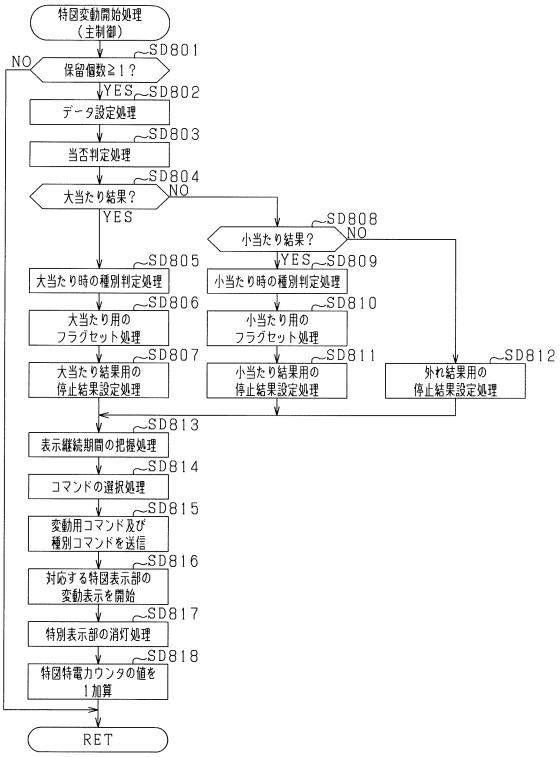
【図２１７】



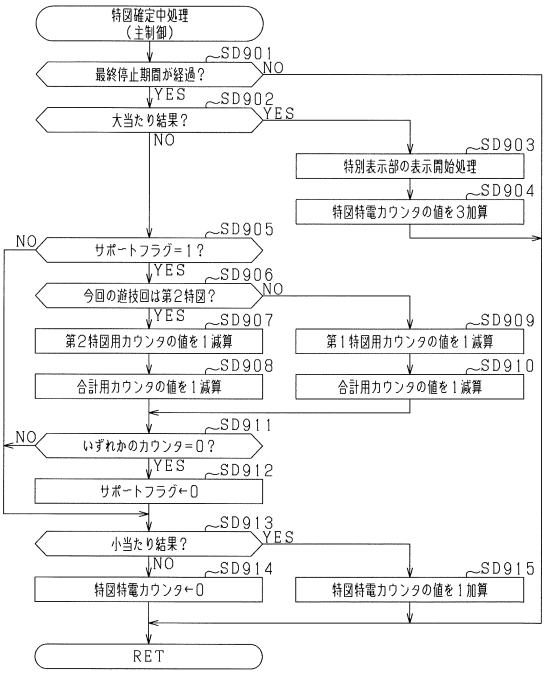
【図２１８】



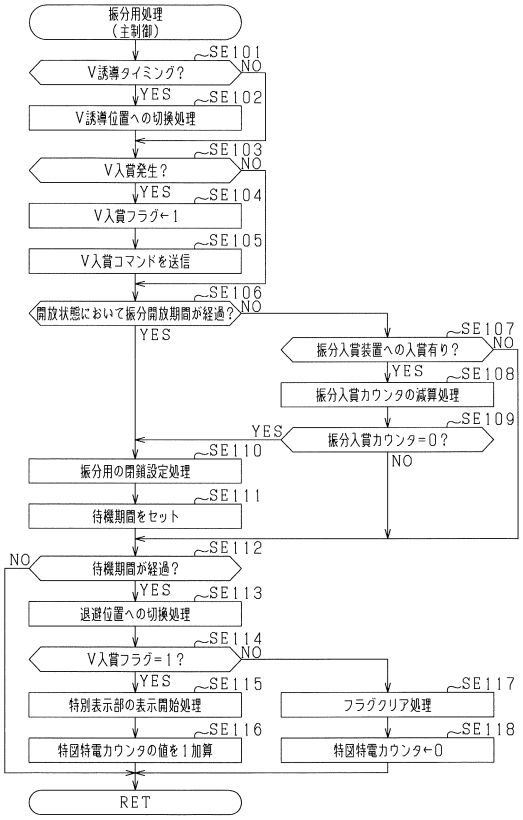
【図２１９】



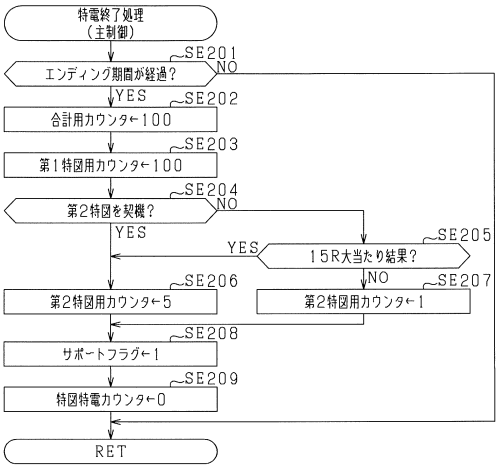
【図２２０】



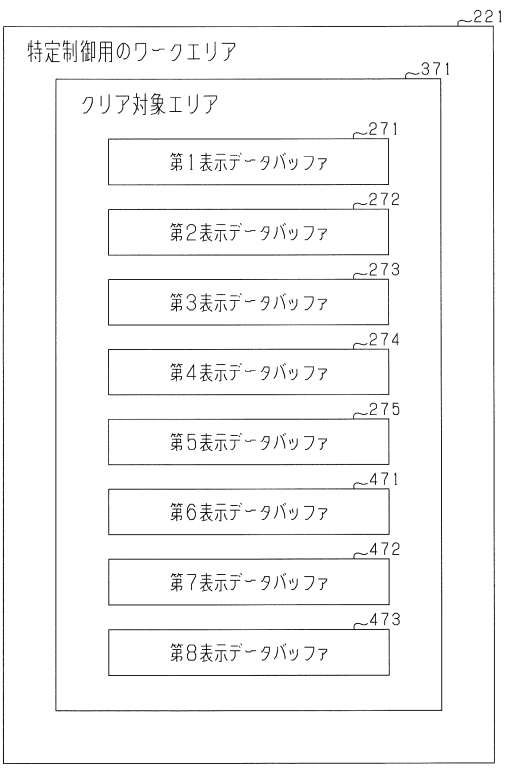
【図２２１】



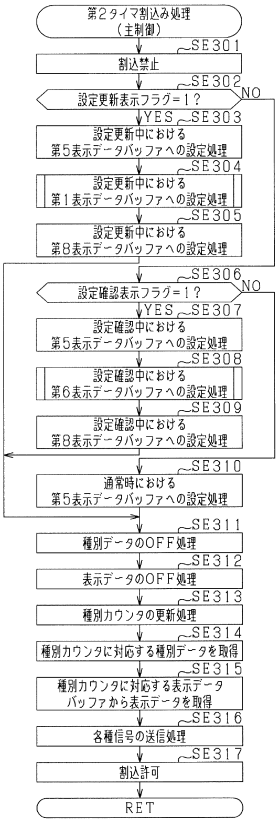
【図２２２】



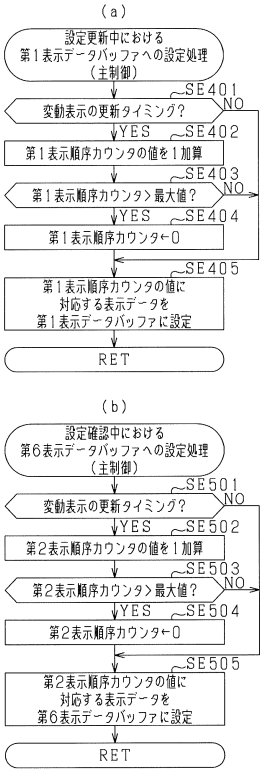
【図２２３】



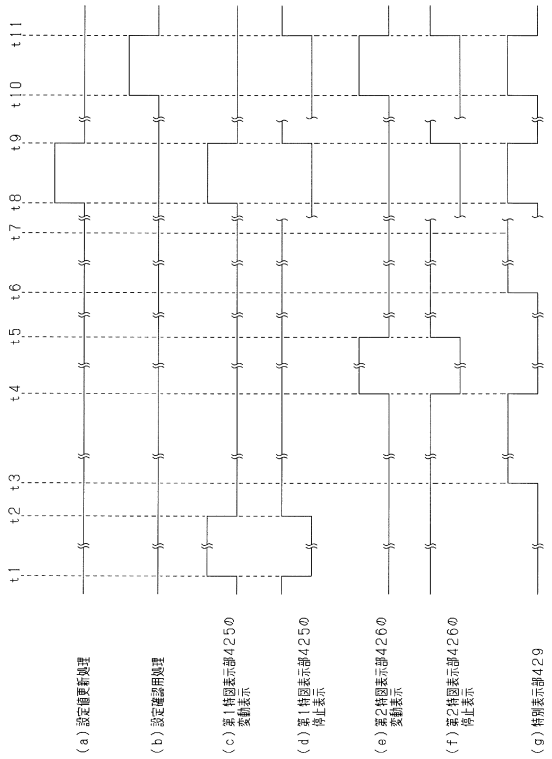
【図２２４】



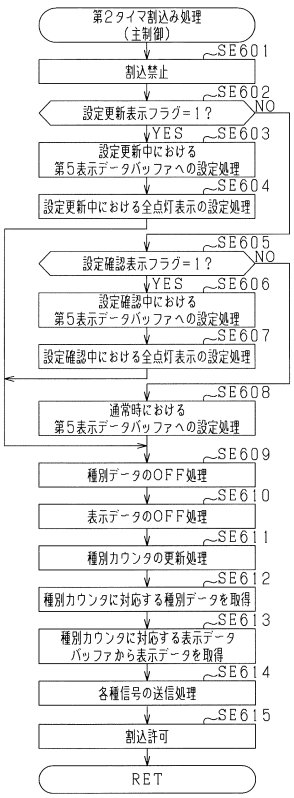
【図２２５】



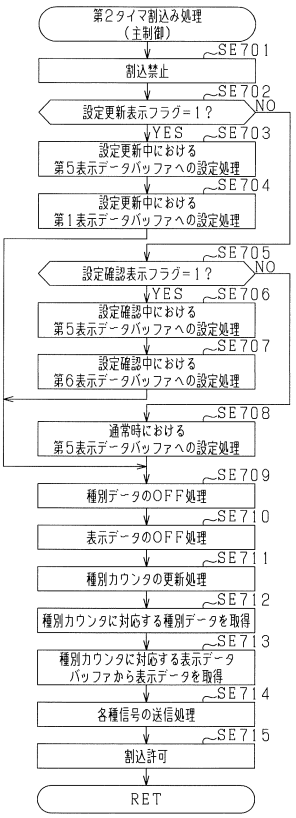
【図２２６】



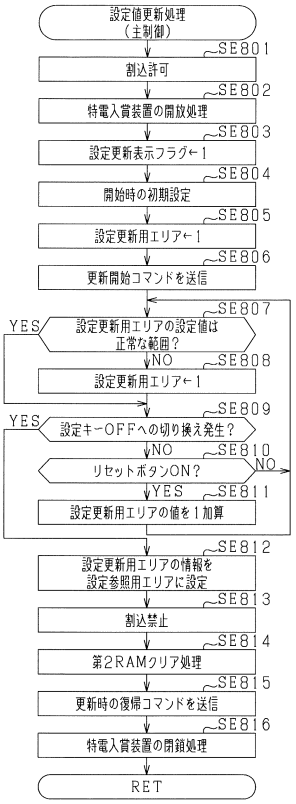
【図２２７】



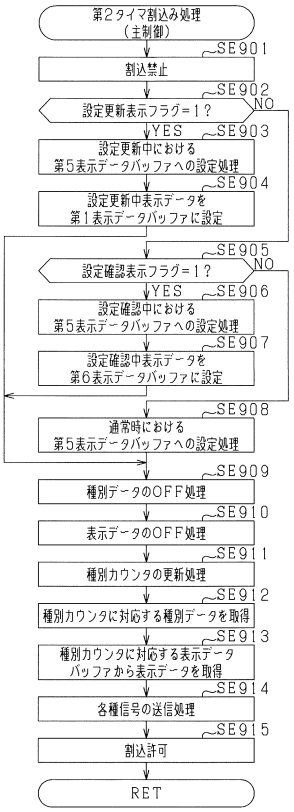
【図２２８】



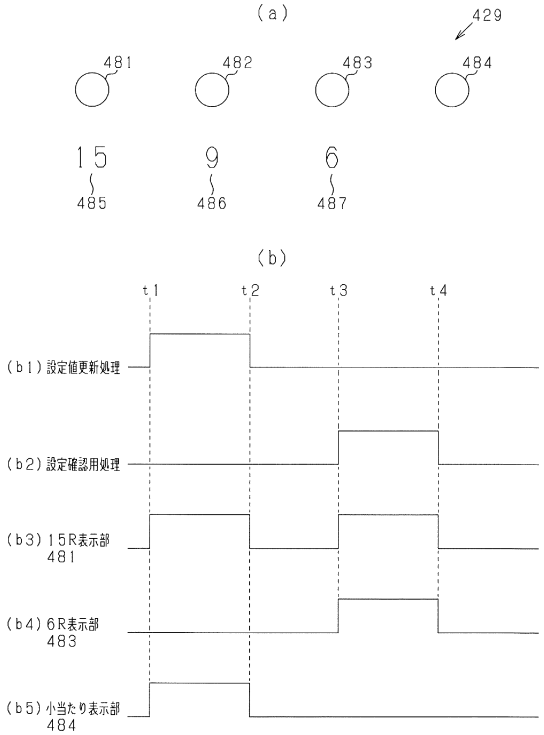
【図２２９】



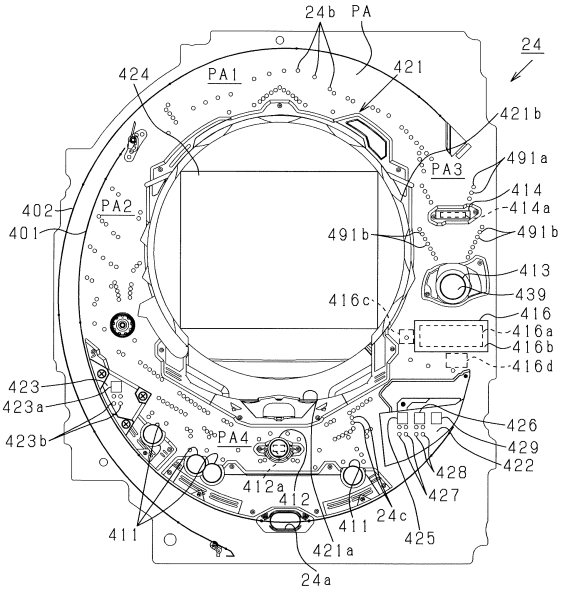
【図２３０】



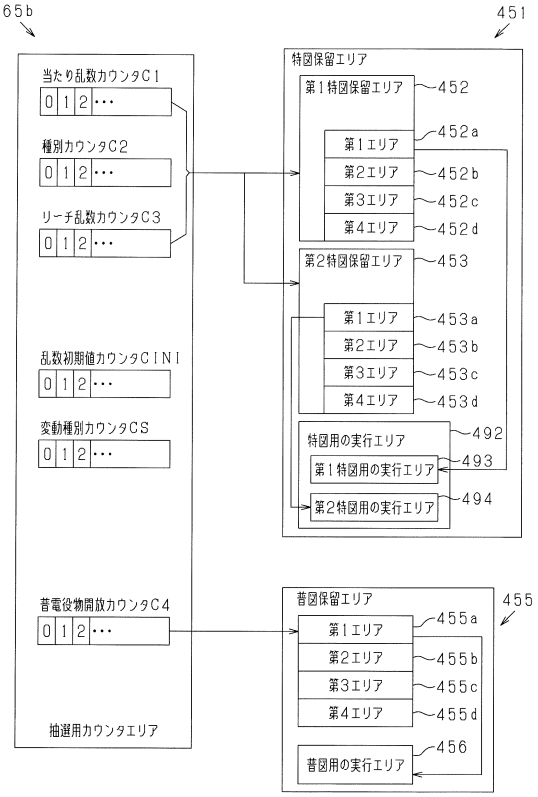
【図２３１】



【図２３２】



【図２３３】



【図２３４】

（a）低確率時の第１当否テーブル　495

設定値	大当たり結果	小当たり結果	外れ結果
設定1	50個	1000個	8950個
設定2	52個	1000個	8948個
設定3	54個	1000個	8946個
設定4	56個	1000個	8944個
設定5	58個	1000個	8942個
設定6	60個	1000個	8940個

（b）高確率時の第１当否テーブル　496

設定値	大当たり結果	小当たり結果	外れ結果
設定1	500個	1000個	8500個
設定2	520個	1000個	8480個
設定3	540個	1000個	8460個
設定4	560個	1000個	8440個
設定5	580個	1000個	8420個
設定6	600個	1000個	8400個

（c）低確率時の第２当否テーブル　497

設定値	大当たり結果	小当たり結果	外れ結果
設定1	50個	9400個	550個
設定2	52個	9400個	548個
設定3	54個	9400個	546個
設定4	56個	9400個	544個
設定5	58個	9400個	542個
設定6	60個	9400個	540個

（d）高確率時の第２当否テーブル　498

設定値	大当たり結果	小当たり結果	外れ結果
設定1	500個	9400個	100個
設定2	520個	9400個	80個
設定3	540個	9400個	60個
設定4	560個	9400個	40個
設定5	580個	9400個	20個
設定6	600個	9400個	0個

【図２３５】

499

（a）

種別カウンタC2	大当たり結果の種類
0~10	6R通常大当たり結果
11~26	6R高確大当たり結果
27~29	16R高確大当たり結果

（b）

当たり結果の種類	開閉実行モード	当否抽選モード	サポートモード
6R通常大当たり結果	ラウンド遊技を6回	低確率モード	高頻度サポートモード（50回）
6R高確大当たり結果	ラウンド遊技を6回	高確率モード	高頻度サポートモード
16R高確大当たり結果	ラウンド遊技を16回	高確率モード	低頻度サポートモード
小当たり結果	2秒開放を1回	変更無し	変更無し

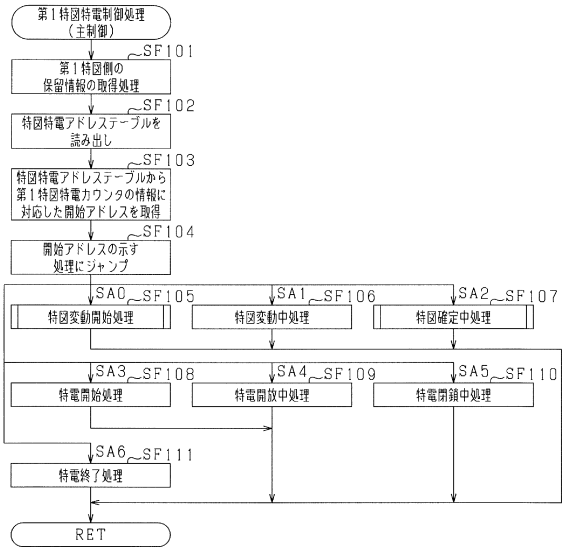
（c）

サポートモード	誘導状態当選確率	変動表示期間	誘導状態
低頻度サポートモード	95%	4秒	2秒×1回
高頻度サポートモード	95%	0.1秒	6秒×1回

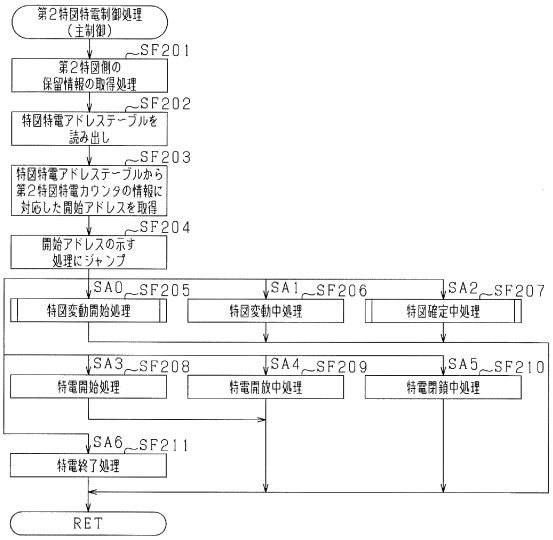
【図２３６】

遊技回の表示継続期間	低確率モード 第1特図 完全外れ時	低確率モード 第1特図 外れリーチ時	低確率モード 第1特図 大当たり時又は小当たり時	低確率モード 第2特図	高確率モード 第1特図 外れ時	高確率モード 第1特図 大当たり時又は小当たり時	高確率モード 第2特図 外れ時又は小当たり時	高確率モード 第2特図 大当たり時
0.5秒	保留最大時						0~89	
2秒	0~70				0~99			
10秒	71~80	0~30	0~10			0~99		
20秒	81~99	31~55	11~20					
30秒		56~76	21~35					
40秒		77~85	36~55					
50秒		86~91	56~75				90~99	0~99
1分		92~97	76~90					
1分30秒		98~99	91~99	0~99				
2分								
10分								

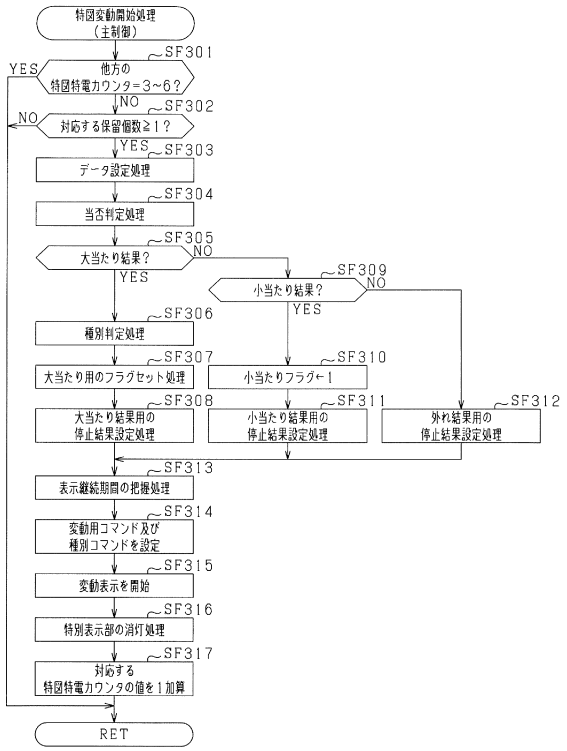
【図２３７】



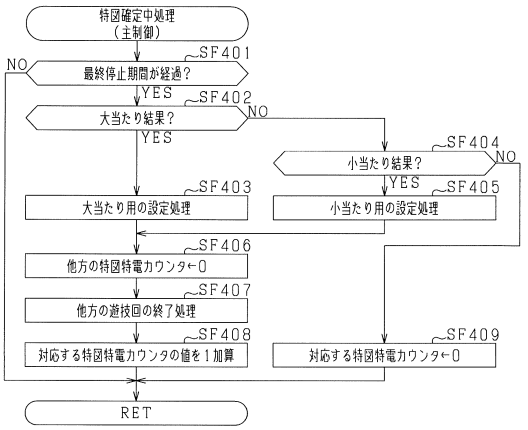
【図２３８】



【図２３９】



【図２４０】



【図２４１】

（ａ）低確率時の第１当否テーブル　495

設定値	大当たり結果	小当たり結果	外れ結果
設定1	50個	1000個	8950個
設定2	52個	1000個	8948個
設定3	54個	1000個	8946個
設定4	56個	1000個	8944個
設定5	58個	1000個	8942個
設定6	60個	1000個	8940個

（ｂ）高確率時の第１当否テーブル　496

設定値	大当たり結果	小当たり結果	外れ結果
設定1	500個	1000個	8500個
設定2	520個	1000個	8480個
設定3	540個	1000個	8460個
設定4	560個	1000個	8440個
設定5	580個	1000個	8420個
設定6	600個	1000個	8400個

（ｃ）低確率時の第２当否テーブル　501

設定値	大当たり結果	小当たり結果	外れ結果
設定1	50個	9300個	650個
設定2	52個	9300個	648個
設定3	54個	9300個	646個
設定4	56個	9300個	644個
設定5	58個	9300個	642個
設定6	60個	9300個	640個

（ｄ）高確率時の第２当否テーブル　502

設定値	大当たり結果	小当たり結果	外れ結果
設定1	500個	9300個	200個
設定2	520個	9300個	180個
設定3	540個	9300個	160個
設定4	560個	9300個	140個
設定5	580個	9300個	120個
設定6	600個	9300個	100個

【図２４２】

（ａ）低確率時の第１当否テーブル　495

設定値	大当たり結果	小当たり結果	外れ結果
設定1	50個	1000個	8950個
設定2	52個	1000個	8948個
設定3	54個	1000個	8946個
設定4	56個	1000個	8944個
設定5	58個	1000個	8942個
設定6	60個	1000個	8940個

（ｂ）高確率時の第１当否テーブル　496

設定値	大当たり結果	小当たり結果	外れ結果
設定1	500個	1000個	8500個
設定2	520個	1000個	8480個
設定3	540個	1000個	8460個
設定4	560個	1000個	8440個
設定5	580個	1000個	8420個
設定6	600個	1000個	8400個

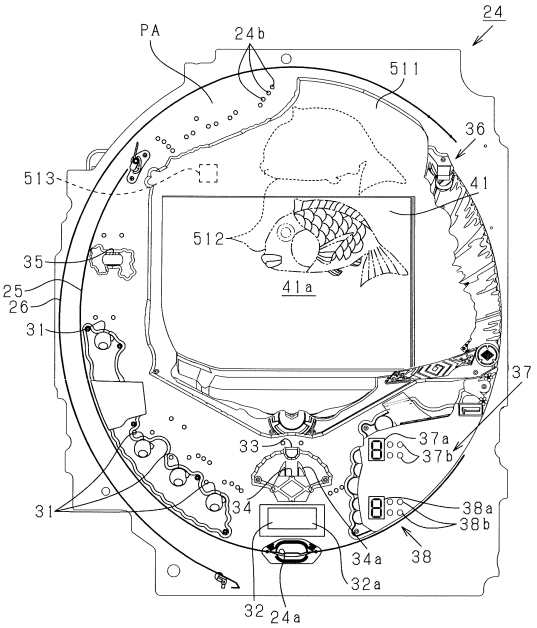
（ｃ）低確率時の第２当否テーブル　503

設定値	大当たり結果	小当たり結果	外れ結果
設定1	50個	9450個	500個
設定2	52個	9448個	500個
設定3	54個	9446個	500個
設定4	56個	9444個	500個
設定5	58個	9442個	500個
設定6	60個	9440個	500個

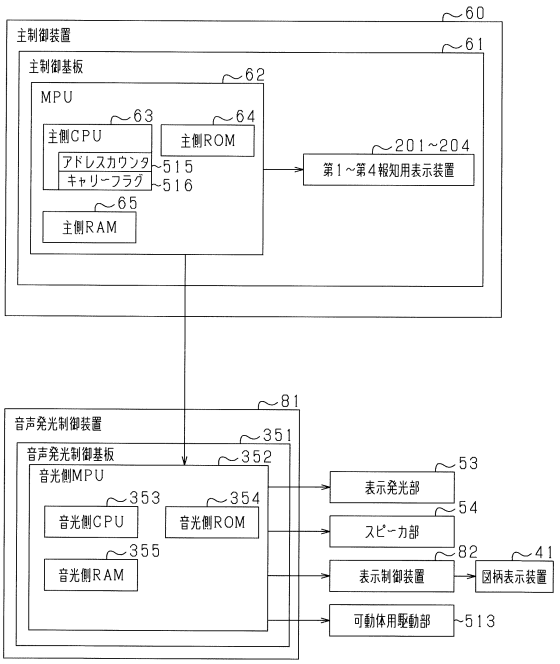
（ｄ）高確率時の第２当否テーブル　504

設定値	大当たり結果	小当たり結果	外れ結果
設定1	500個	9000個	500個
設定2	520個	8980個	500個
設定3	540個	8960個	500個
設定4	560個	8940個	500個
設定5	580個	8920個	500個
設定6	600個	8900個	500個

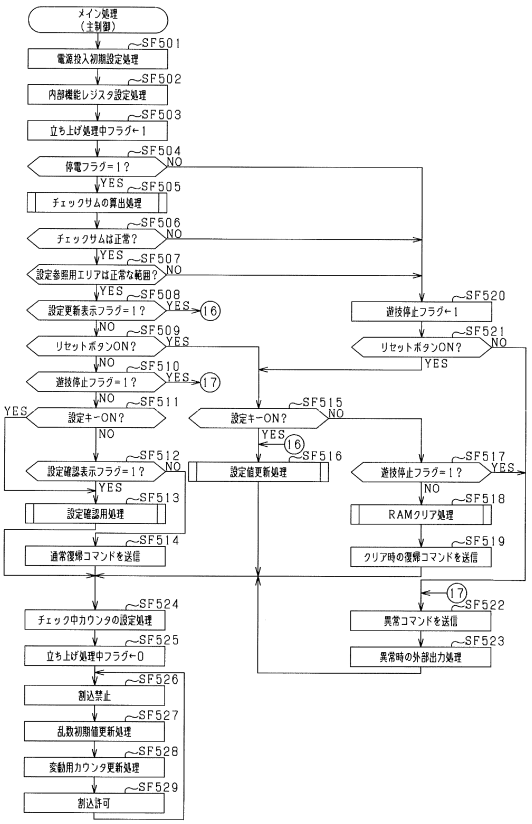
【図２４３】



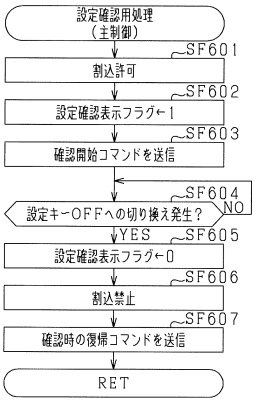
【図２４４】



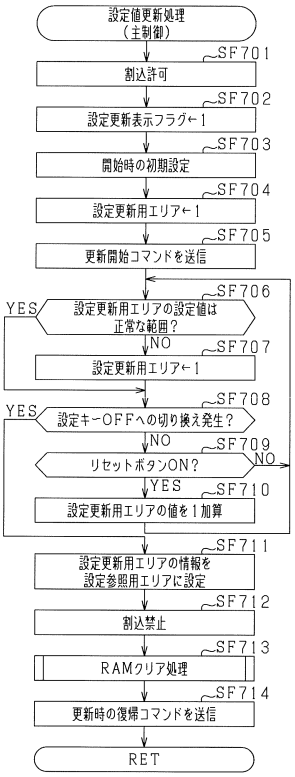
【図２４５】



【図２４６】



【図２４７】

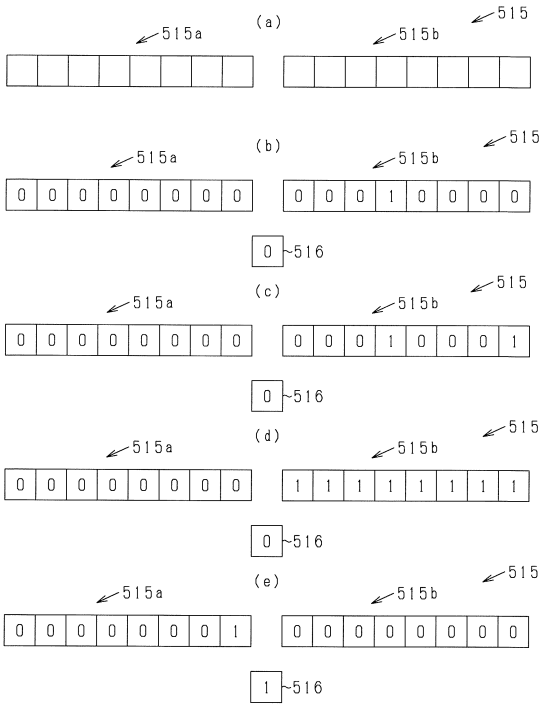


【図２４８】

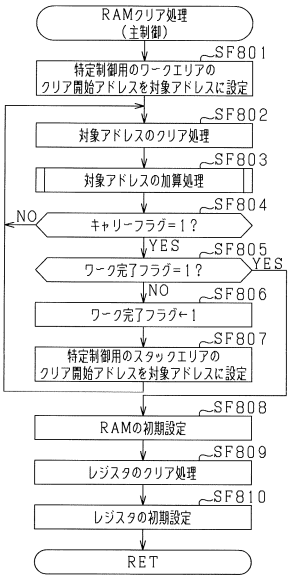
65

アドレス	内容	
・ ・ ・	・ ・ ・	
Y(k)	特定制御用のワークエリア	221
Y(k+1)	特定制御用のワークエリア	
Y(k+2)	特定制御用のワークエリア	
・ ・ ・	・ ・ ・	
00FD	特定制御用のワークエリア	
00FE	特定制御用のワークエリア	
00FF	特定制御用のワークエリア	
・ ・ ・	・ ・ ・	
Y(l)	特定制御用のスタックエリア	222
Y(l+1)	特定制御用のスタックエリア	
Y(l+2)	特定制御用のスタックエリア	
・ ・ ・	・ ・ ・	
01FD	特定制御用のスタックエリア	
01FE	特定制御用のスタックエリア	
01FF	特定制御用のスタックエリア	
・ ・ ・	・ ・ ・	
Y(m)	非特定制御用のワークエリア	223
Y(m+1)	非特定制御用のワークエリア	
Y(m+2)	非特定制御用のワークエリア	
・ ・ ・	・ ・ ・	
02FD	非特定制御用のワークエリア	
02FE	非特定制御用のワークエリア	
02FF	非特定制御用のワークエリア	
・ ・ ・	・ ・ ・	
Y(n)	非特定制御用のスタックエリア	224
Y(n+1)	非特定制御用のスタックエリア	
Y(n+2)	非特定制御用のスタックエリア	
・ ・ ・	・ ・ ・	
03FD	非特定制御用のスタックエリア	
03FE	非特定制御用のスタックエリア	
03FF	非特定制御用のスタックエリア	
・ ・ ・	・ ・ ・	

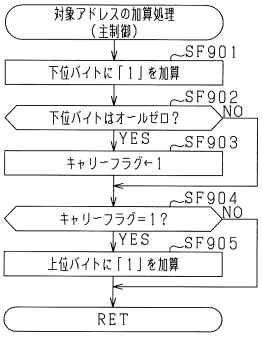
【図２４９】



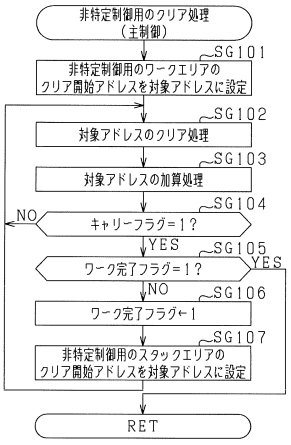
【図２５０】



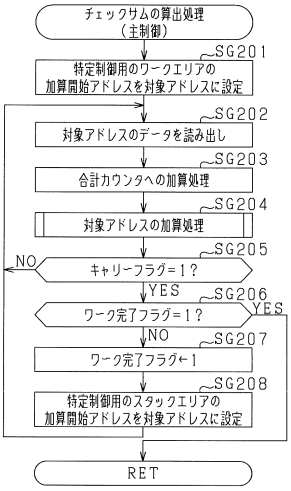
【図２５１】



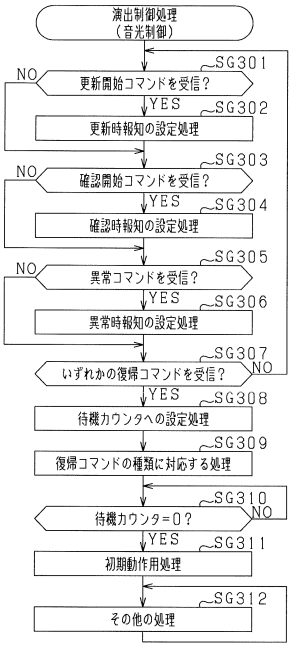
【図２５２】



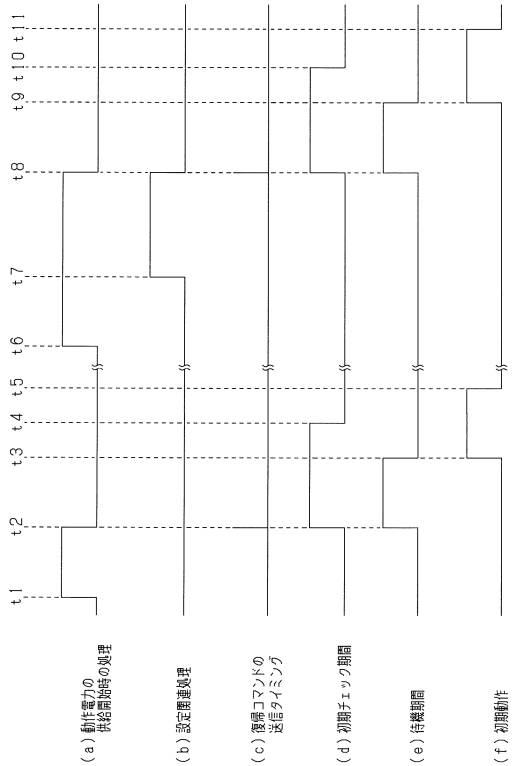
【図２５３】



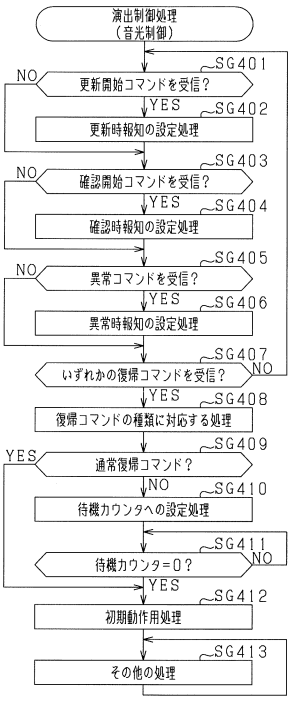
【図２５４】



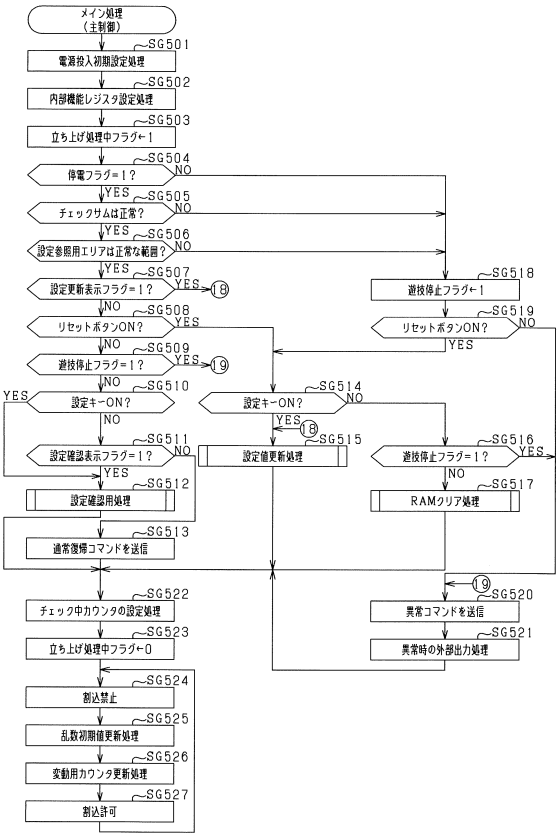
【図２５５】



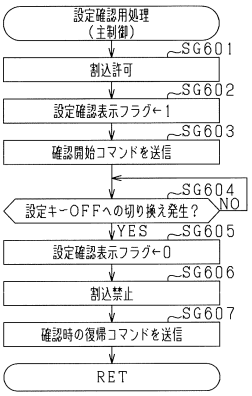
【図２５６】



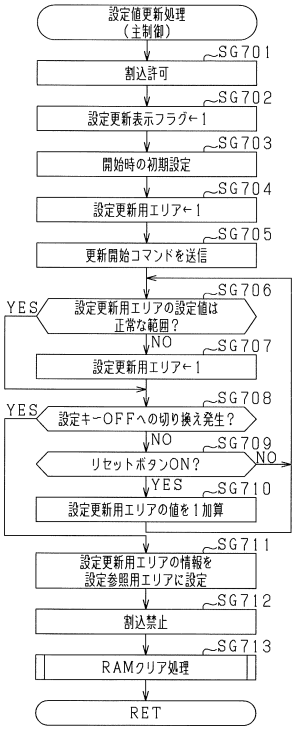
【図２５７】



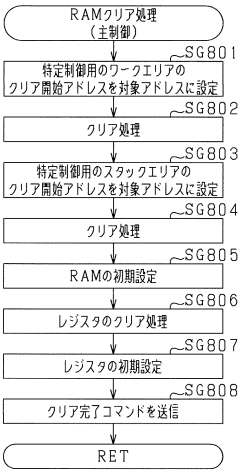
【図２５８】



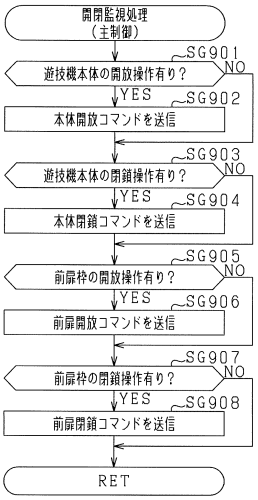
【図２５９】



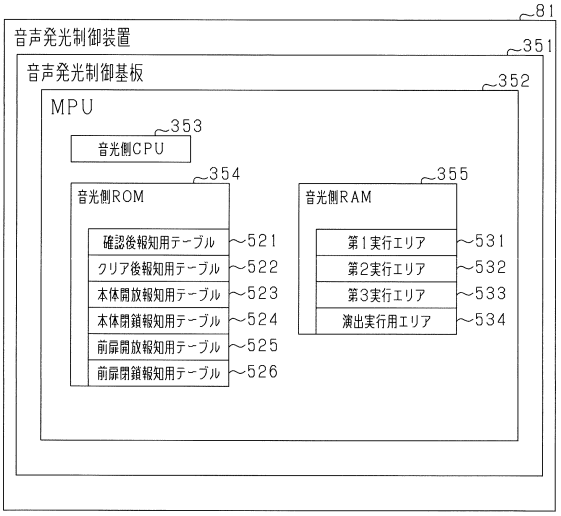
【図２６０】



【図２６１】



【図２６２】



【図２６３】

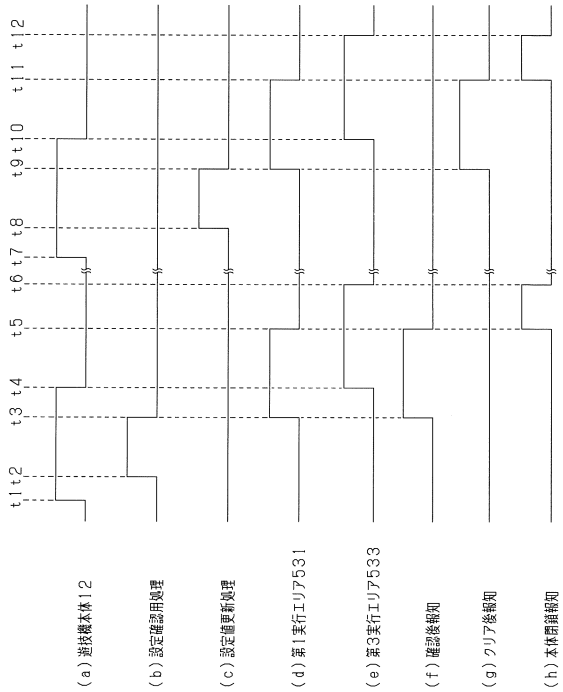
521

ポインタ情報	発光制御用データ	音出力制御用データ
0	X(0)	Y(0)
1	X(1)	Y(1)
2	X(2)	Y(2)
⋮	⋮	⋮
k-2	X(k-2)	Y(k-2)
k-1	X(k-1)	Y(k-1)
k	X(k)	Y(k)

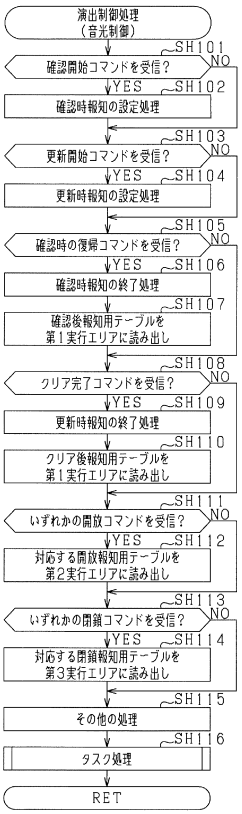
【図２６４】

テーブル	読み出しエリア	報知期間
確認後報知用テーブル521	第1実行エリア531	30秒
クリア後報知用テーブル522	第1実行エリア531	30秒
本体開放報知用テーブル523	第2実行エリア532	開放から閉鎖まで
本体閉鎖報知用テーブル524	第3実行エリア533	33秒
前扉開放報知用テーブル525	第2実行エリア532	開放から閉鎖まで
前扉閉鎖報知用テーブル526	第3実行エリア533	33秒

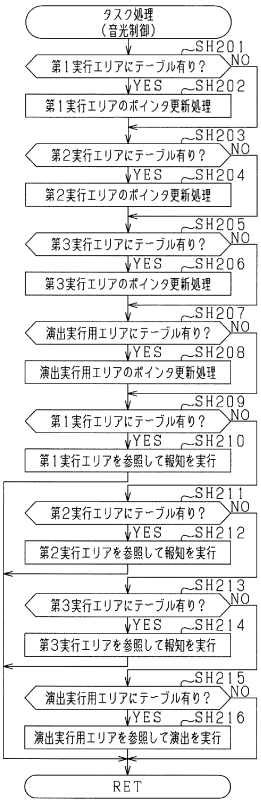
【図２６５】



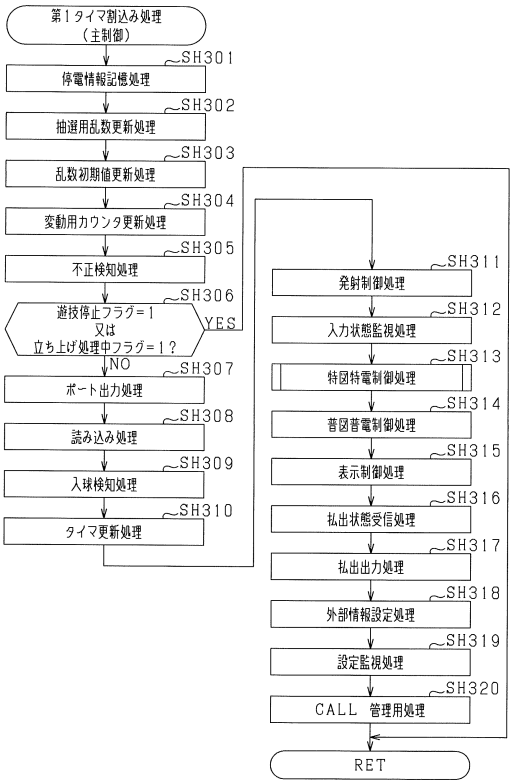
【図２６６】



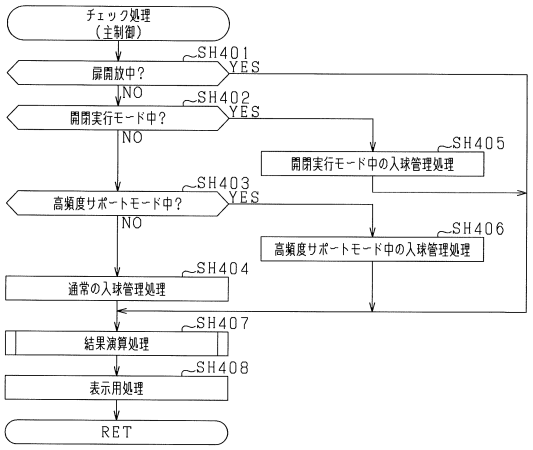
【図２６７】



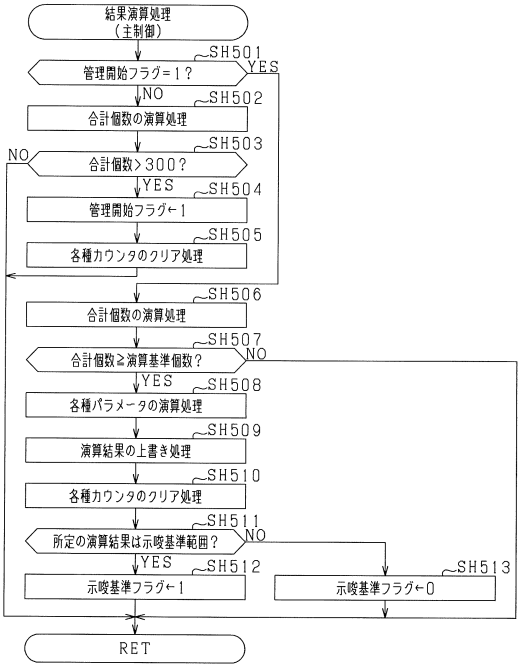
【図２６８】



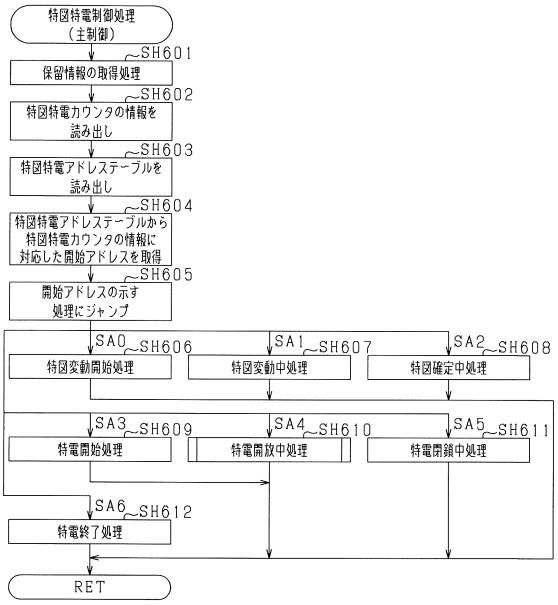
【図２６９】



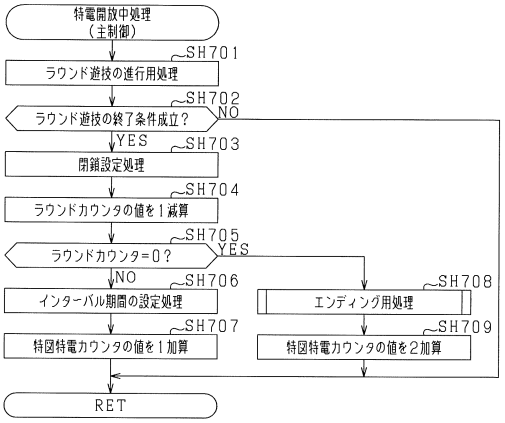
【図２７０】



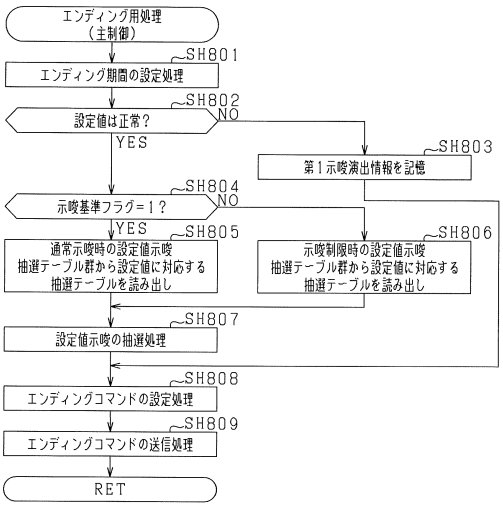
【図２７１】



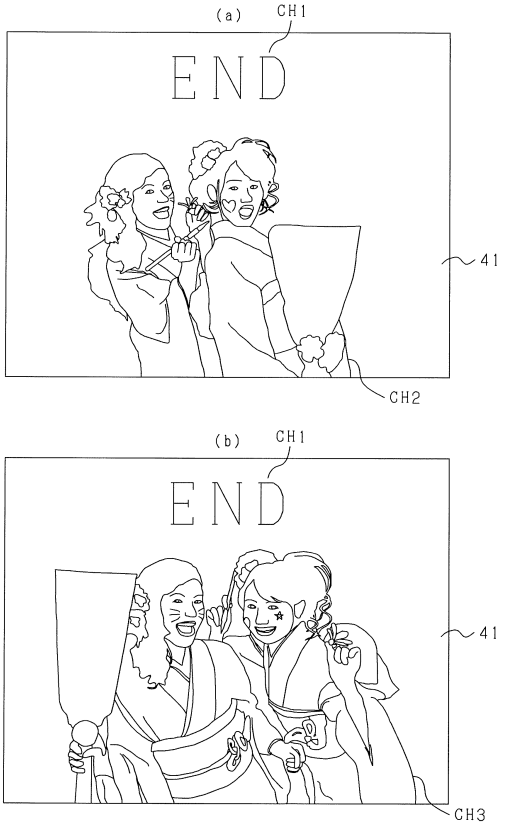
【図２７２】



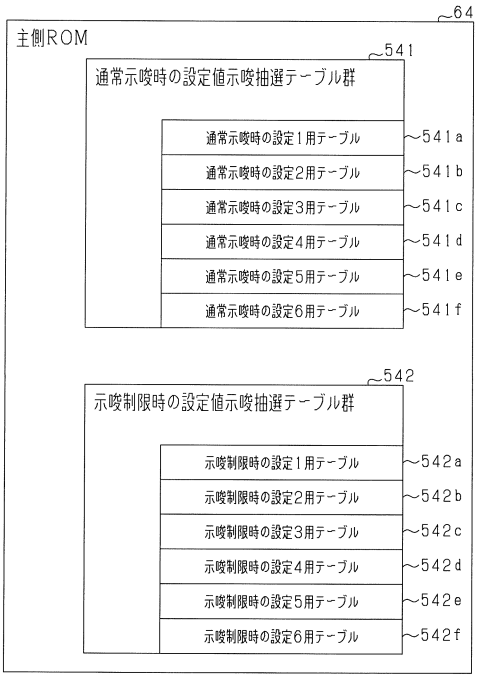
【図２７３】



【図２７４】



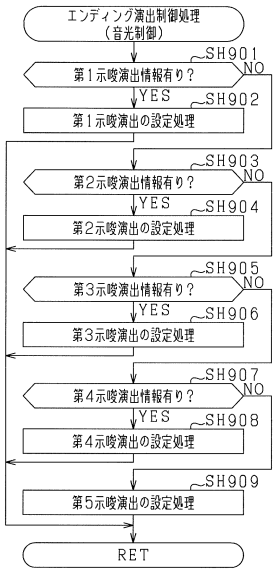
【図２７５】



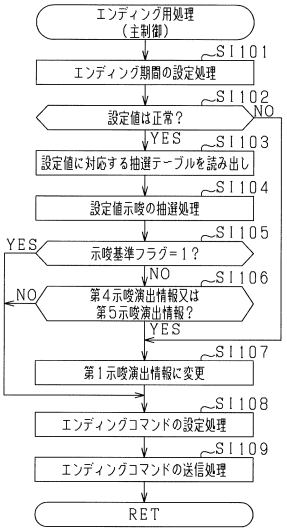
【図２７６】

	第１示唆演出情報	第２示唆演出情報	第３示唆演出情報	第４示唆演出情報	第５示唆演出情報
通常示唆時の設定１用テーブル541a	60%	25%	10%	4%	1%
通常示唆時の設定２用テーブル541b	60%	10%	25%	4%	1%
通常示唆時の設定３用テーブル541c	57%	25%	10%	4%	4%
通常示唆時の設定４用テーブル541d	49%	10%	25%	10%	6%
通常示唆時の設定５用テーブル541e	47%	25%	10%	10%	8%
通常示唆時の設定６用テーブル541f	45%	10%	25%	10%	10%
示唆制限時の設定１用テーブル542a	65%	25%	10%		
示唆制限時の設定２用テーブル542b	65%	10%	25%		
示唆制限時の設定３用テーブル542c	65%	25%	10%		
示唆制限時の設定４用テーブル542d	65%	10%	25%		
示唆制限時の設定５用テーブル542e	65%	25%	10%		
示唆制限時の設定６用テーブル542f	65%	10%	25%		

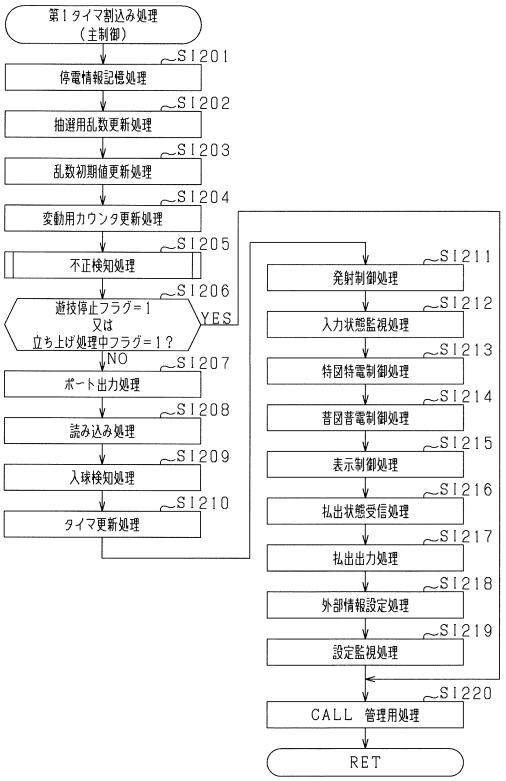
【図２７７】



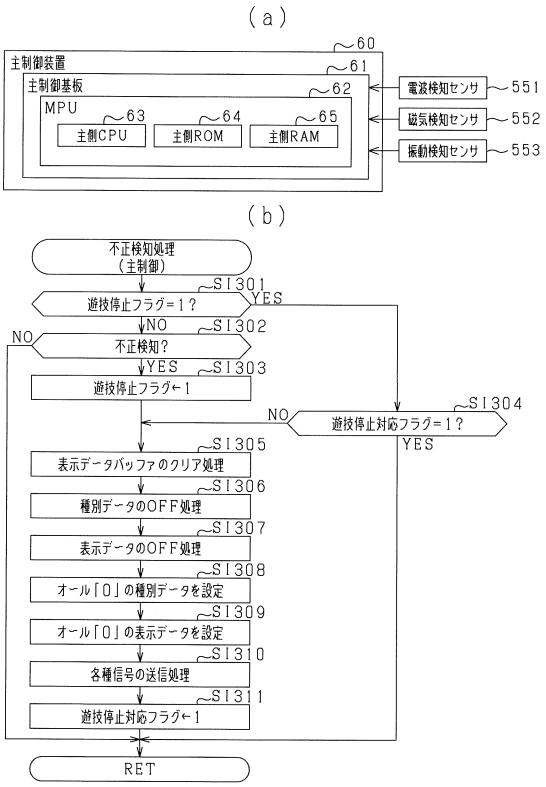
【図２７８】



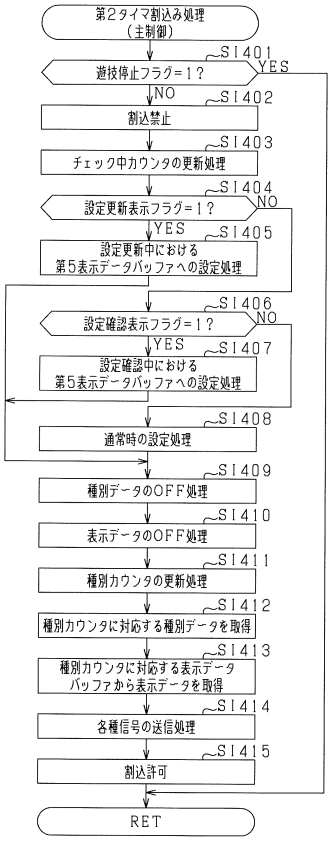
【図２７９】



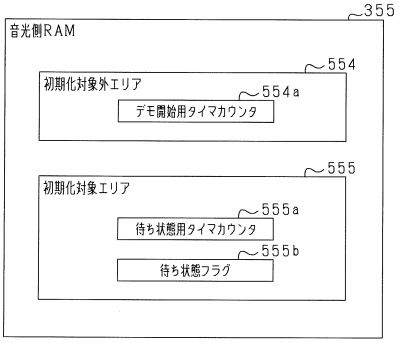
【図２８０】



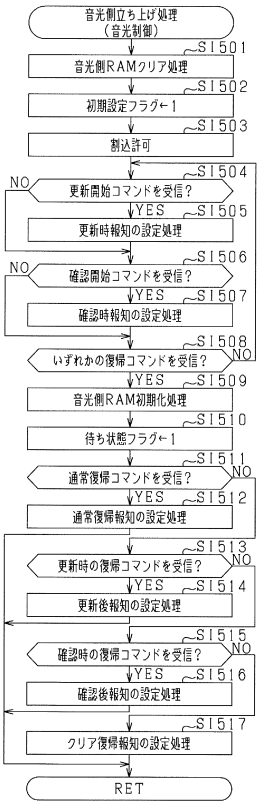
【図２８１】



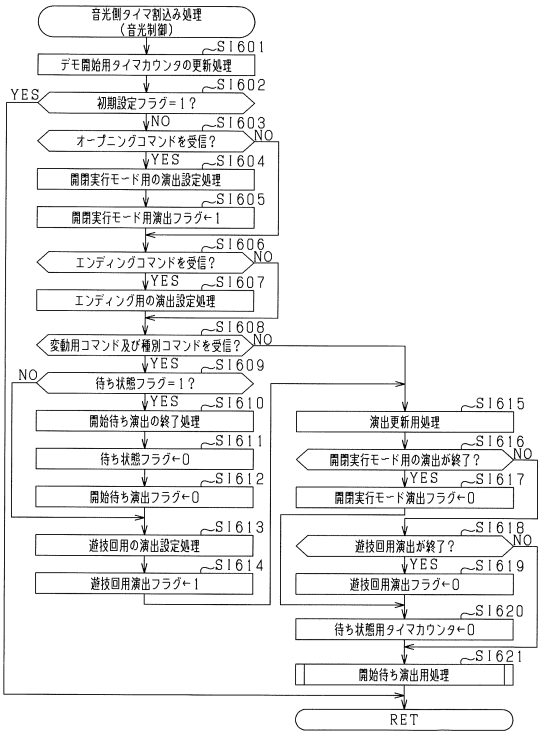
【図２８２】



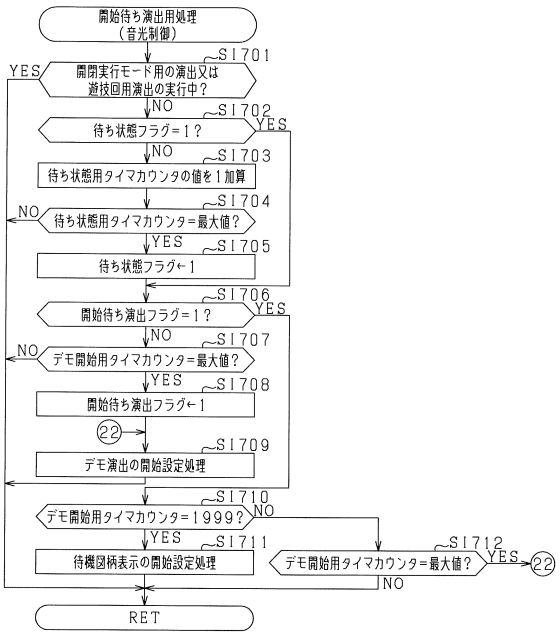
【図２８３】



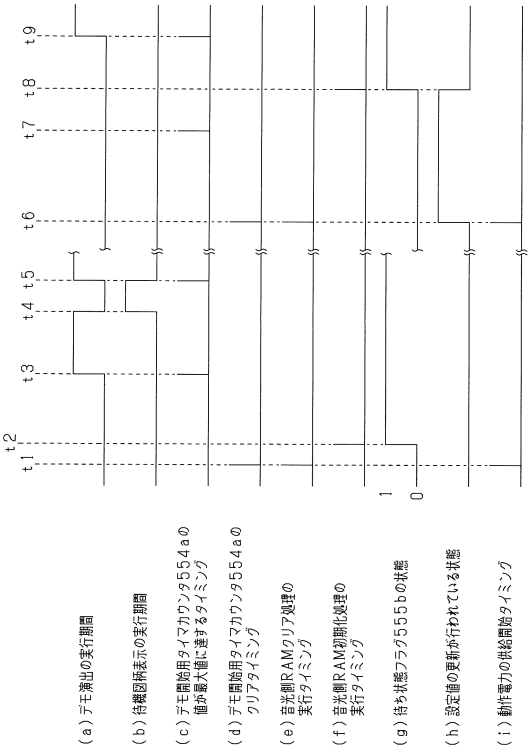
【図２８４】



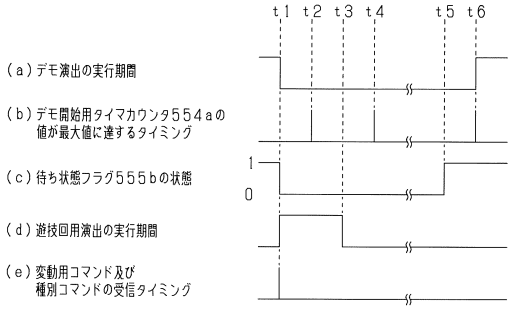
【図２８５】



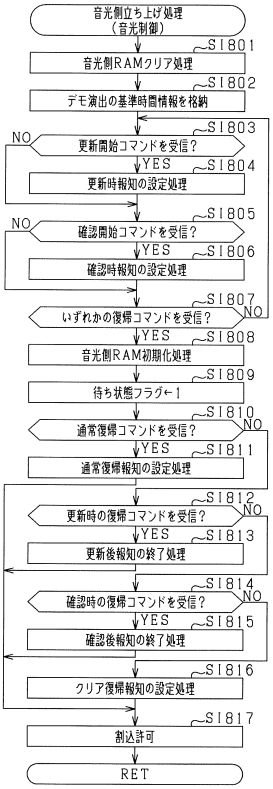
【図２８６】



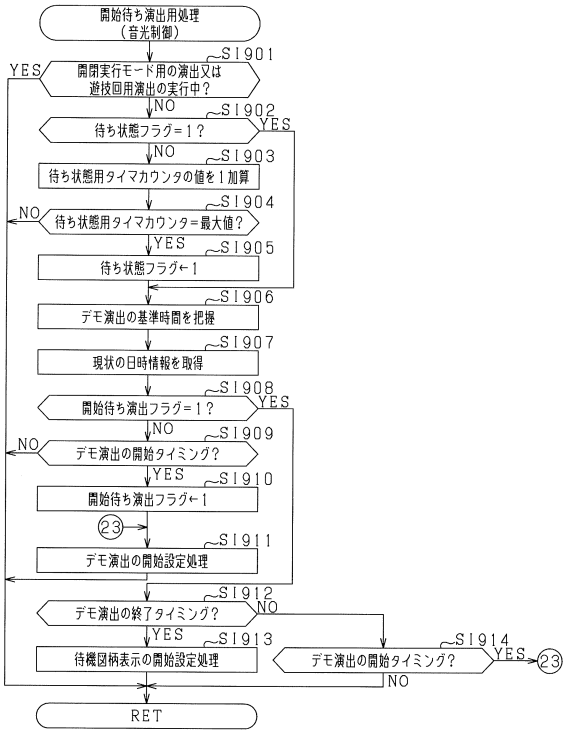
【図２８７】



【図２８８】

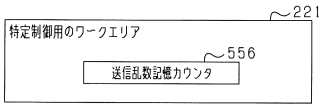


【図２８９】

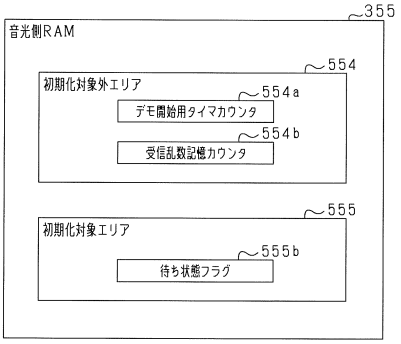


【図２９０】

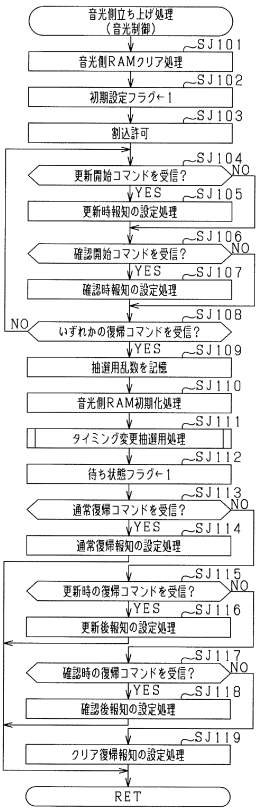
（ａ）



（ｂ）

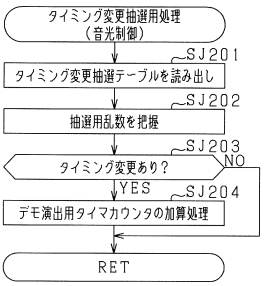


【図２９１】



【図２９２】

（ａ）

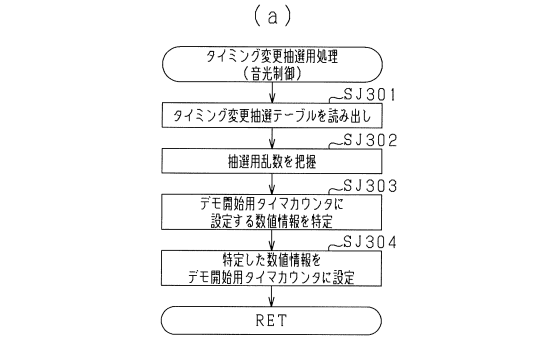


（ｂ）

タイミング変更抽選テーブル　557

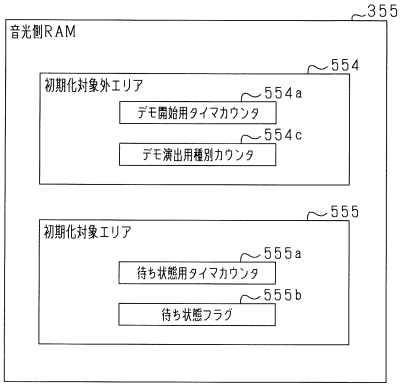
抽選結果	抽選用乱数	当選確率
デモ演出の開始タイミングの変更無し	0～539	90%
デモ演出の開始タイミングの変更有り	540～599	10%

【図２９３】

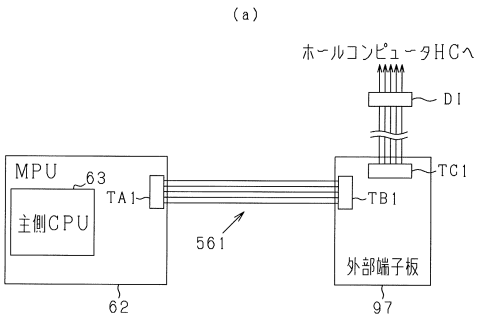


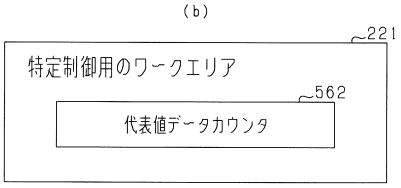
デモ開始用タイマカウンタ554aに設定する数値情報	抽選用乱数	当選確率
0	0～149	25%
800	150～299	25%
1600	300～449	25%
2400	450～599	25%

【図２９４】

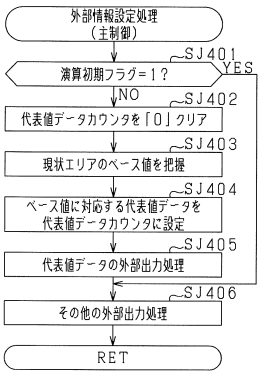


【図２９５】

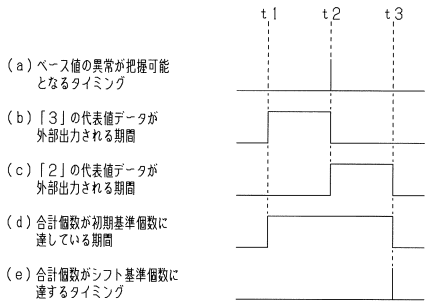




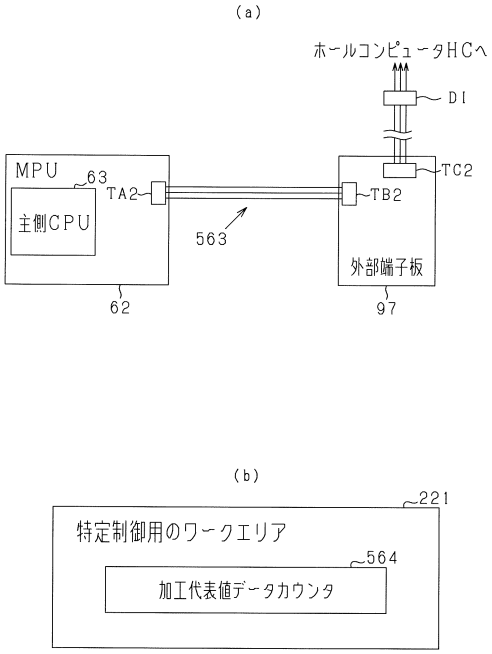
【図２９６】



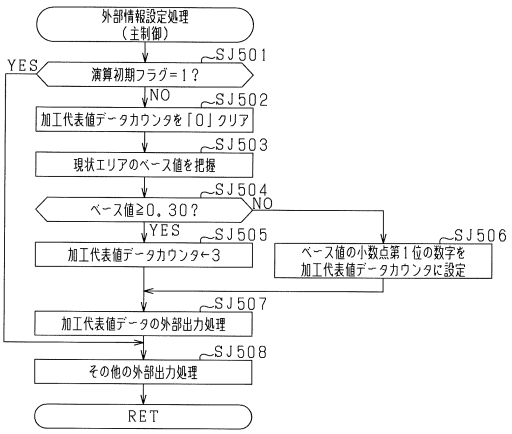
【図２９７】



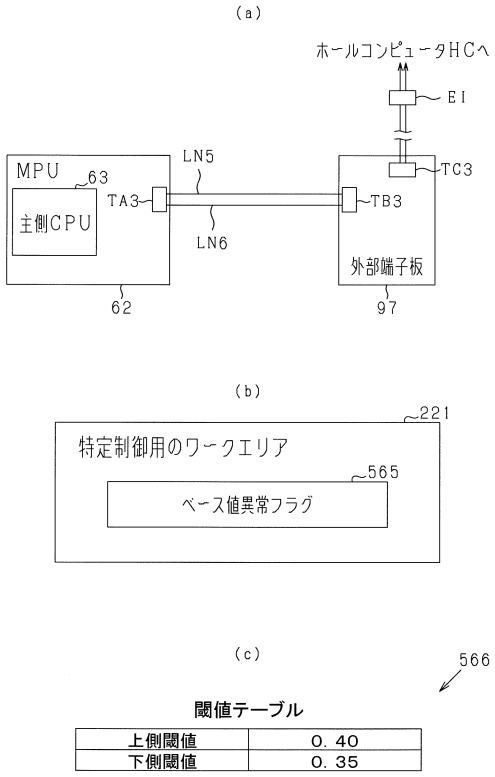
【図２９８】



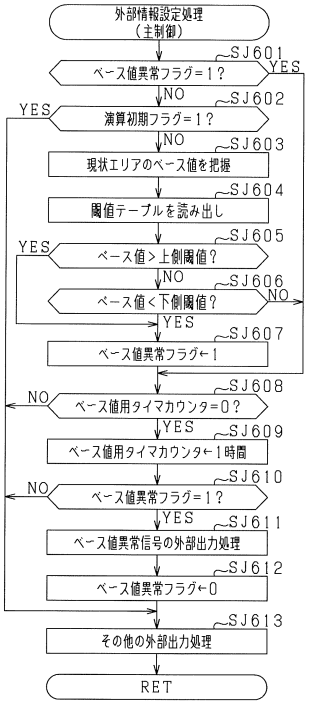
【図２９９】



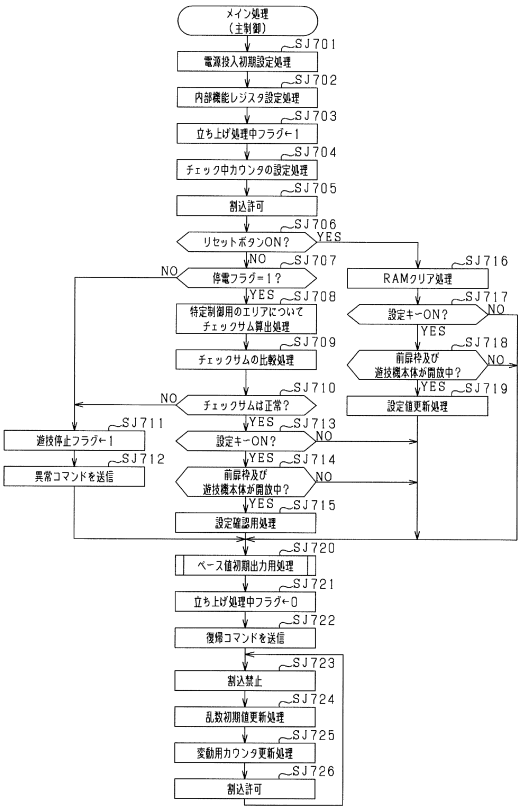
【図３００】



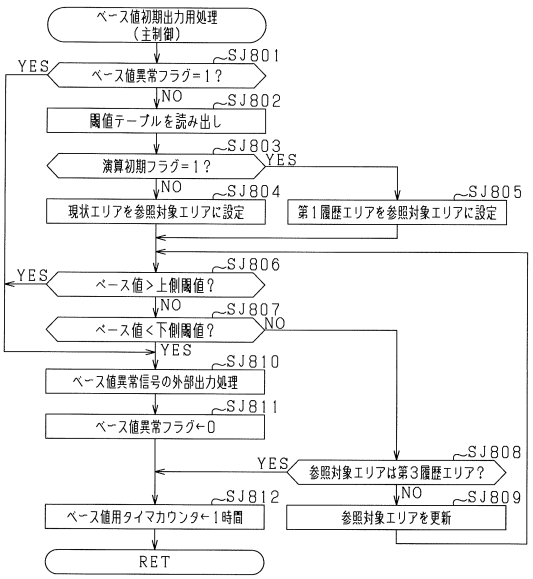
【図３０１】



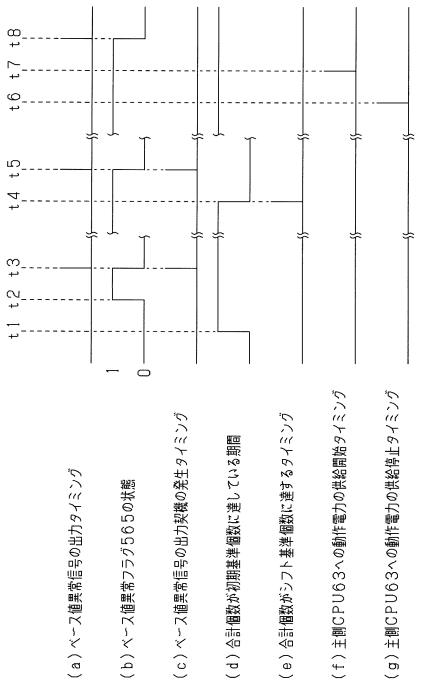
【図３０２】



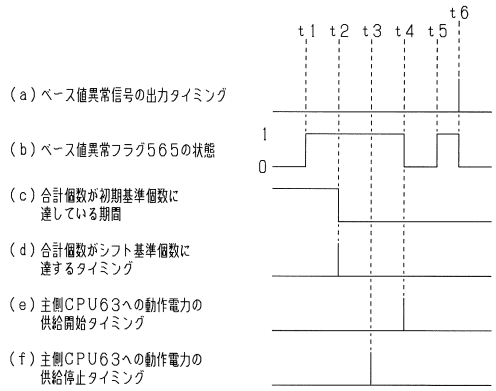
【図３０３】



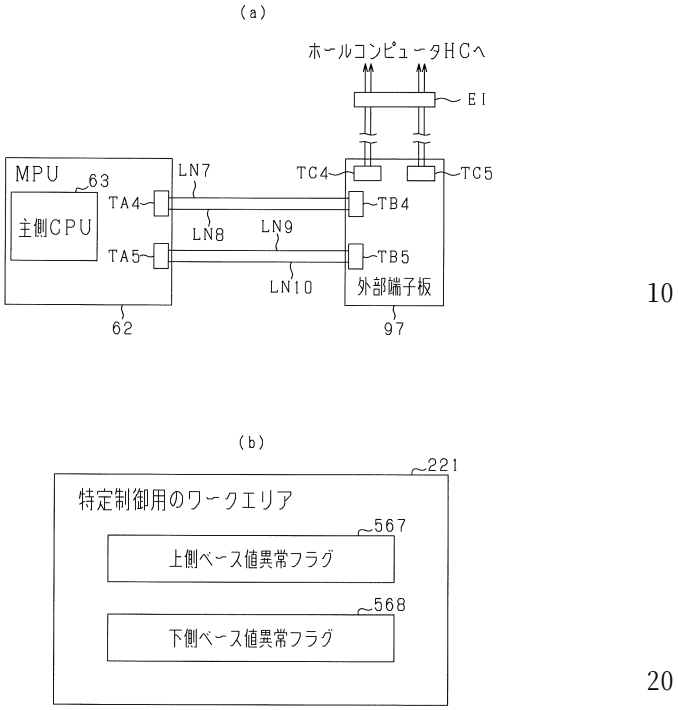
【図３０４】



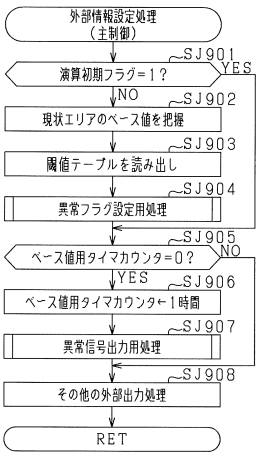
【図３０５】



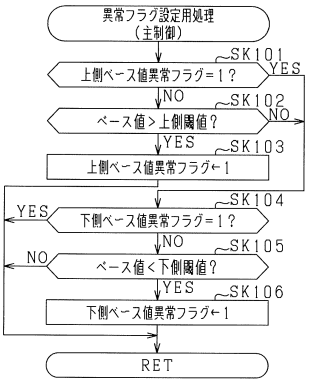
【図３０６】



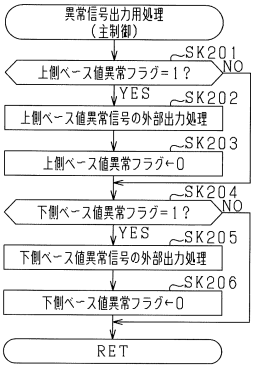
【図３０７】



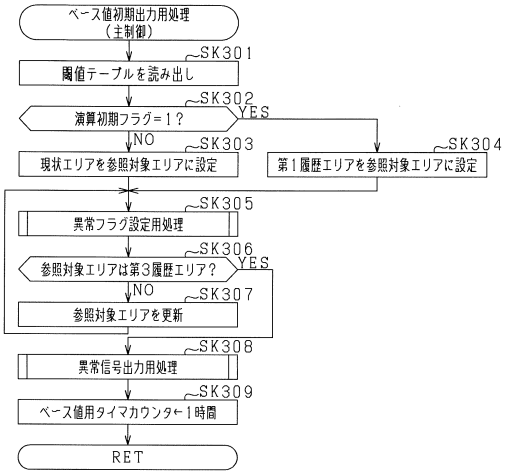
【図３０８】



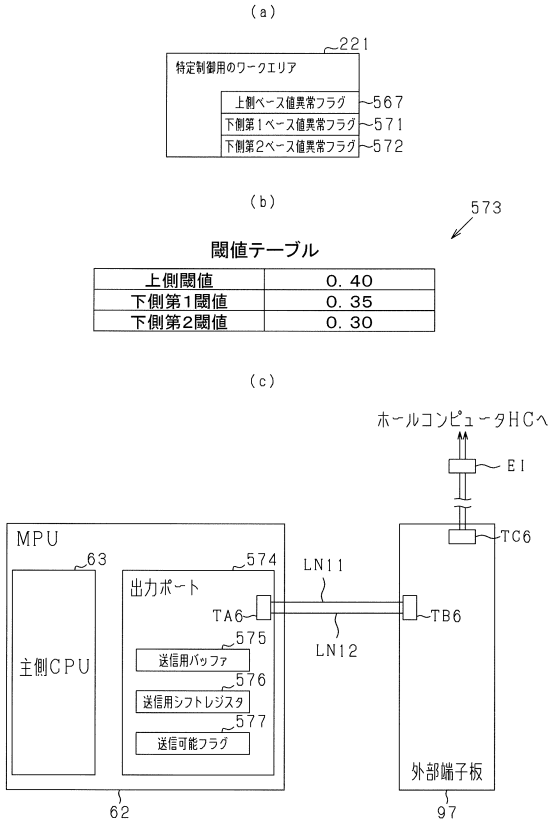
【図３０９】



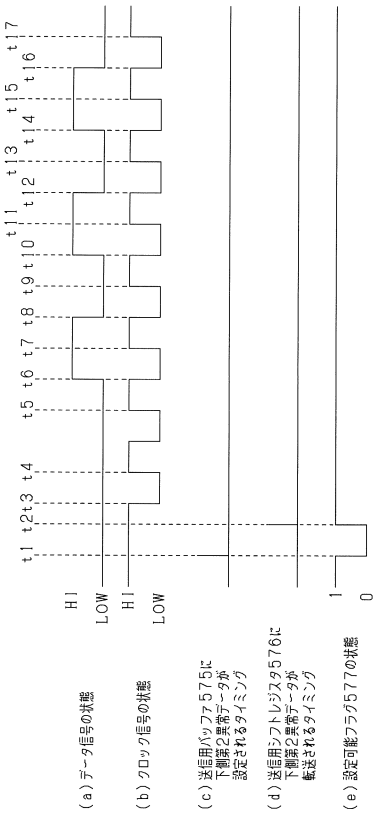
【図３１０】



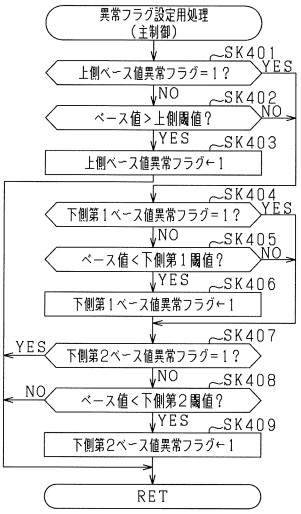
【図３１１】



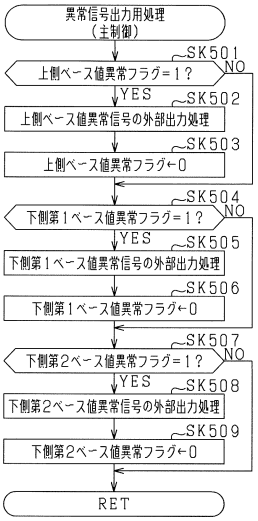
【図３１２】



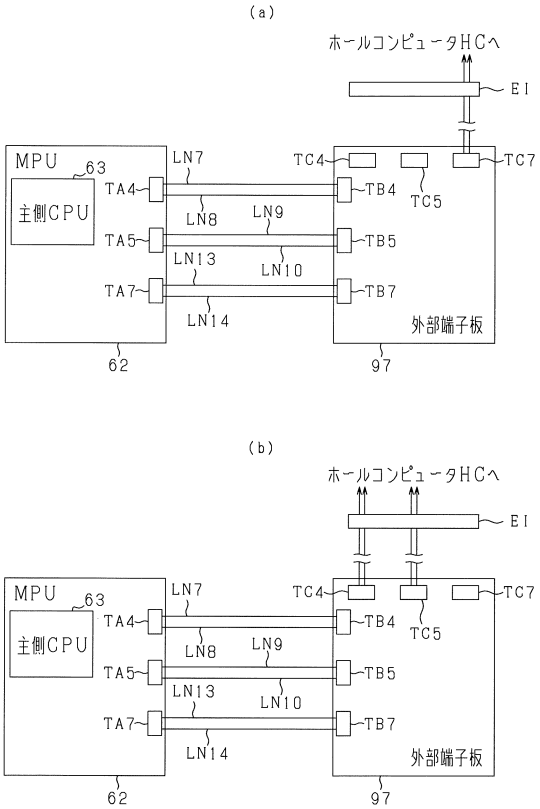
【図３１３】



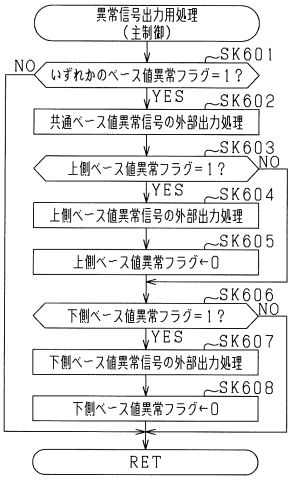
【図３１４】



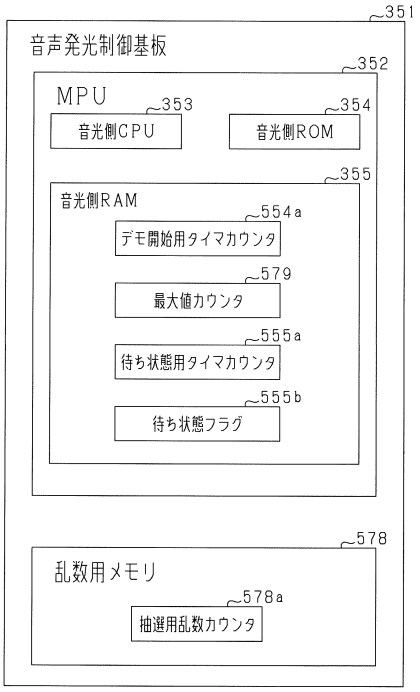
【図３１５】



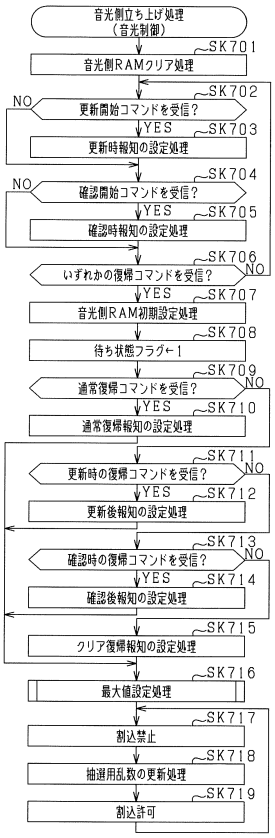
【図３１６】



【図３１７】

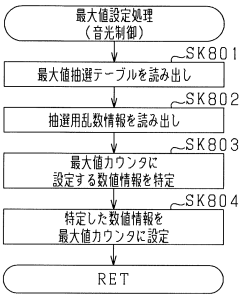


【図３１８】



【図３１９】

（ａ）

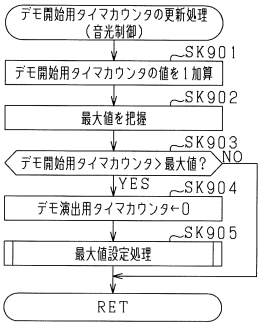


（ｂ）

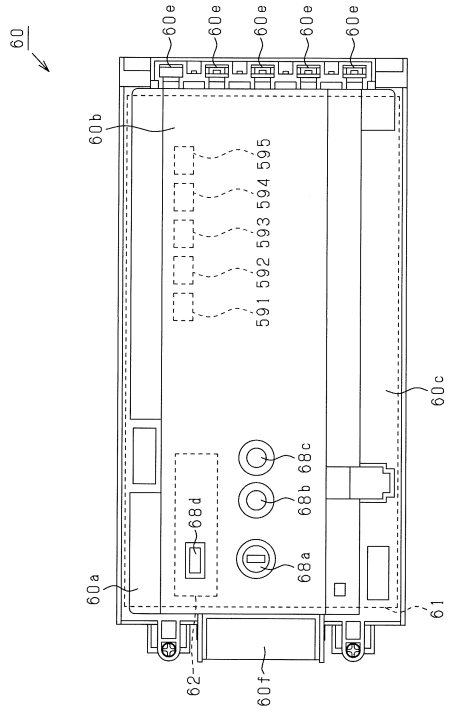
最大値抽選テーブル　581

最大値カウンタ579にセットされる数値情報	抽選用乱数	当選確率
2599	0～63	25%
2999	64～127	25%
3399	128～191	25%
3799	192～255	25%

【図３２０】



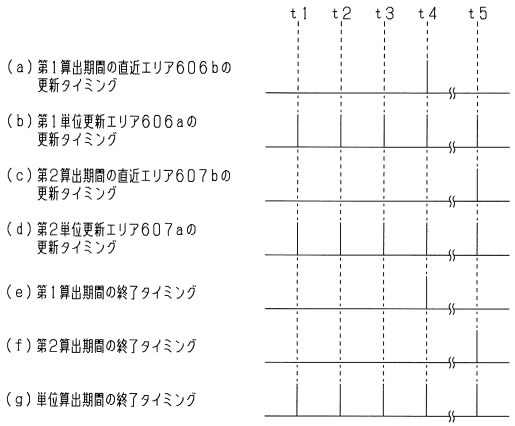
【図３２１】



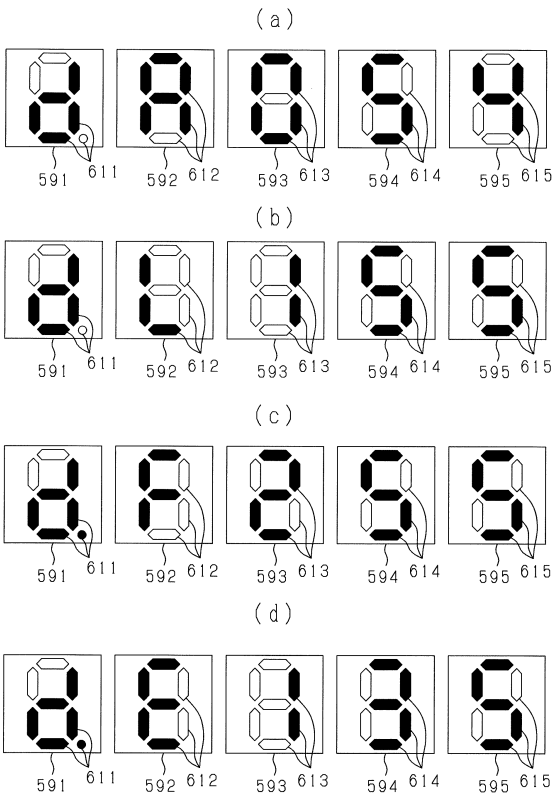
【図３２２】



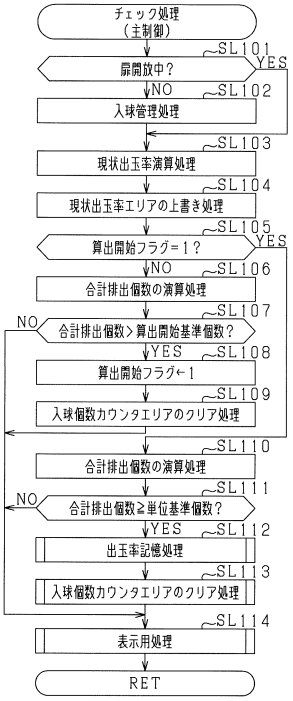
【図３２３】



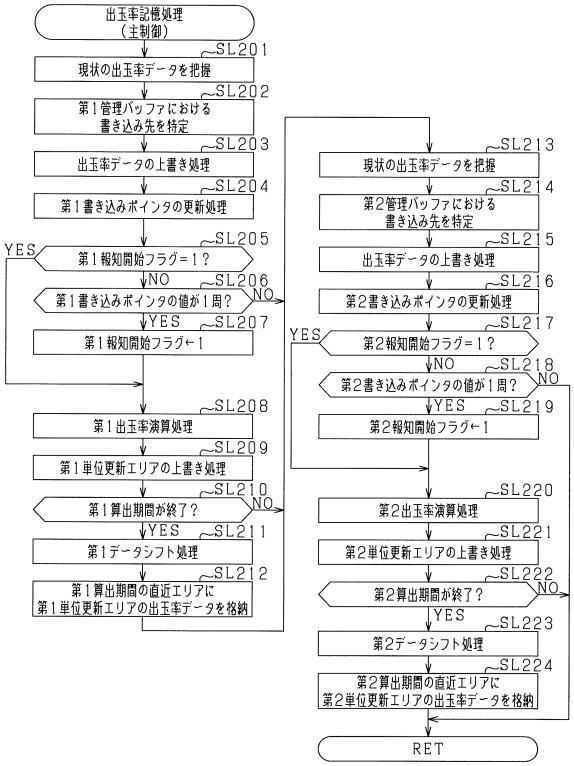
【図３２４】



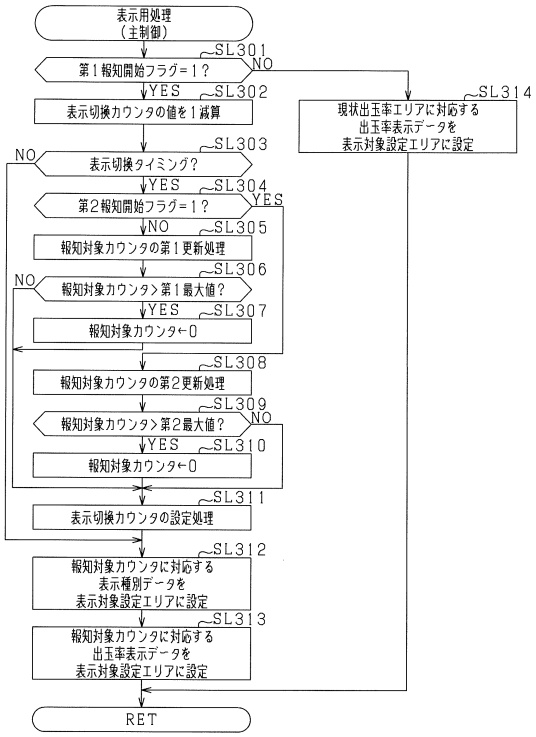
【図３２５】



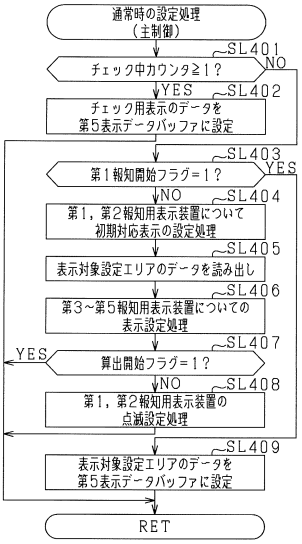
【図３２６】



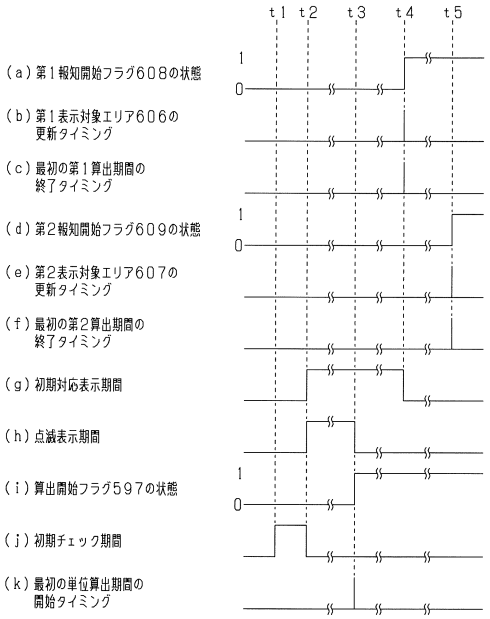
【図３２７】



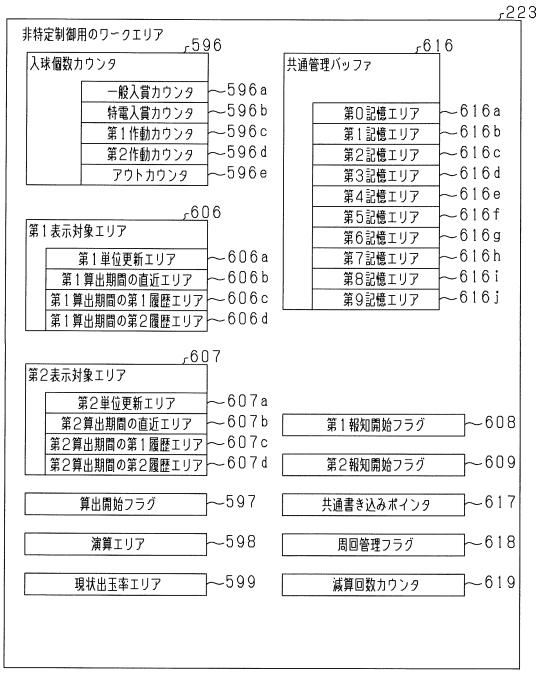
【図３２８】



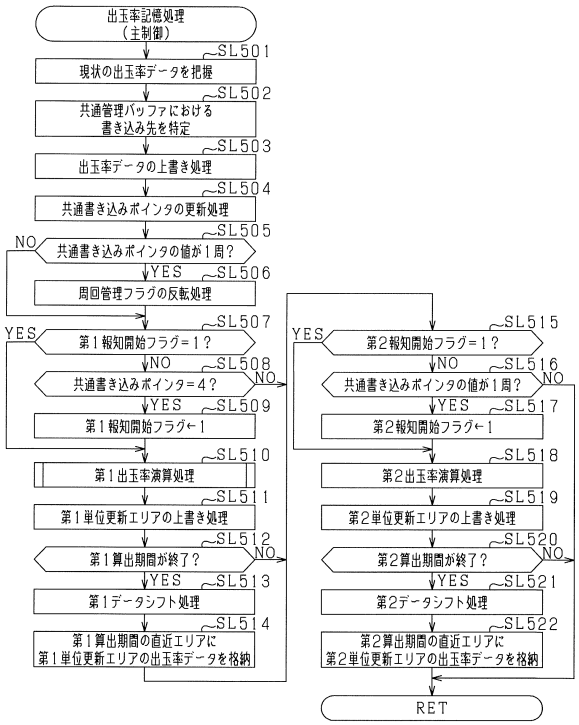
【図３２９】



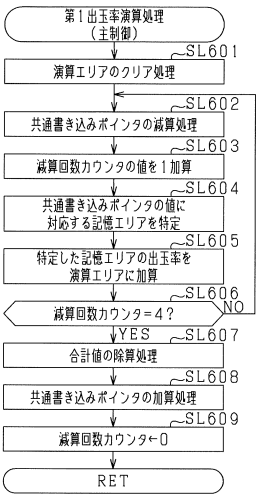
【図３３０】



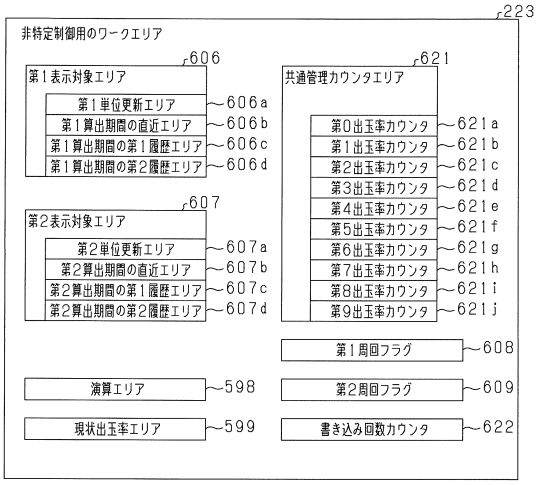
【図３３１】



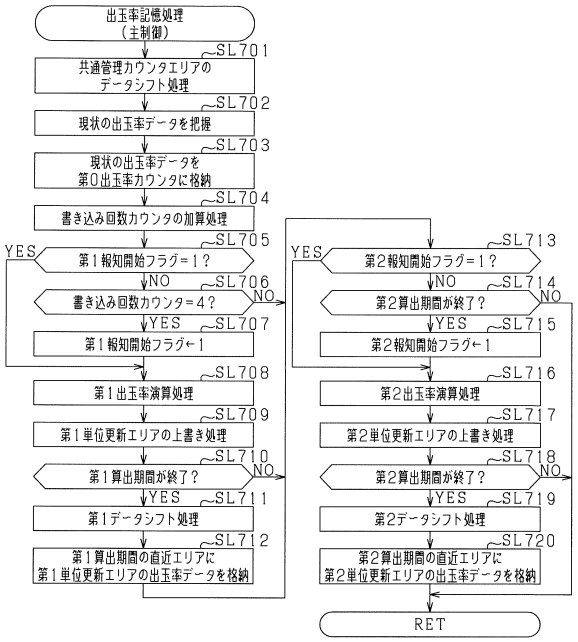
【図３３２】



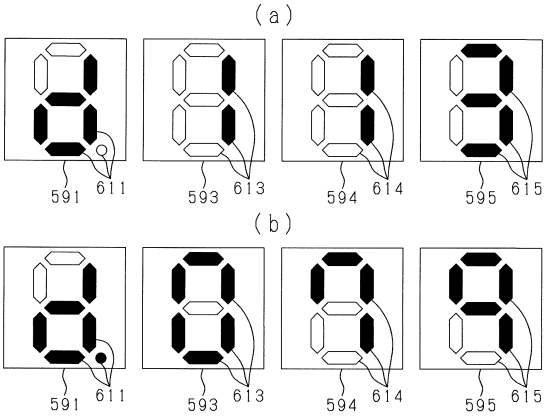
【図３３３】



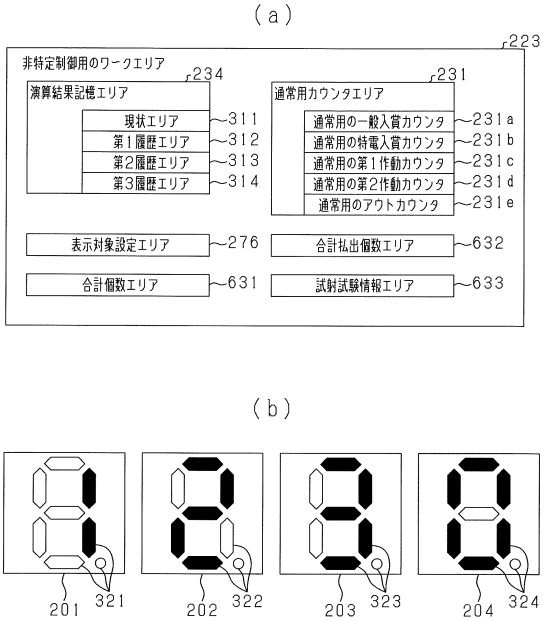
【図３３４】



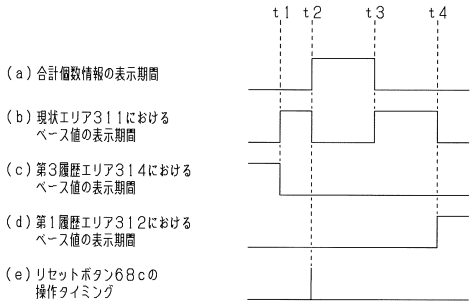
【図３３５】



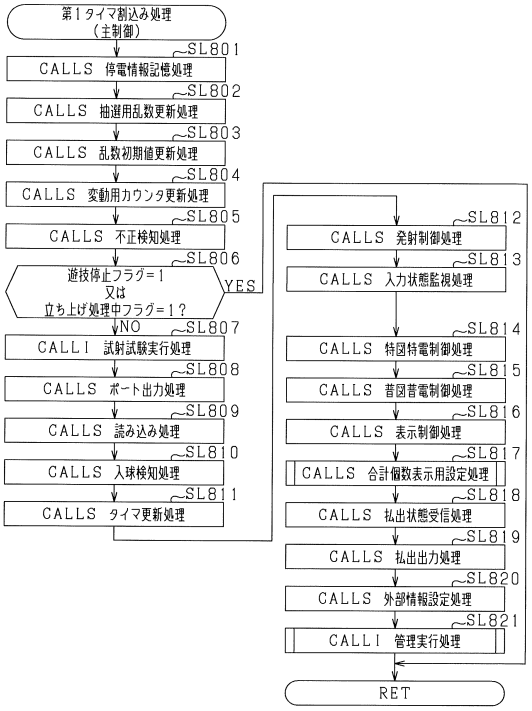
【図３３６】



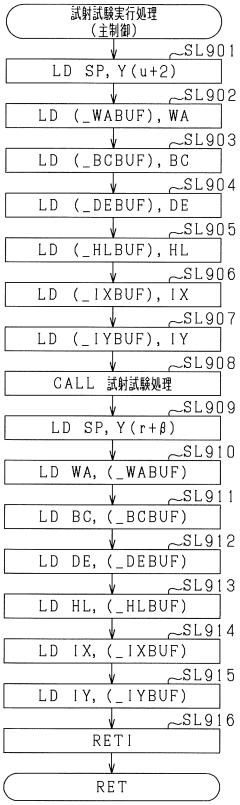
【図３３７】



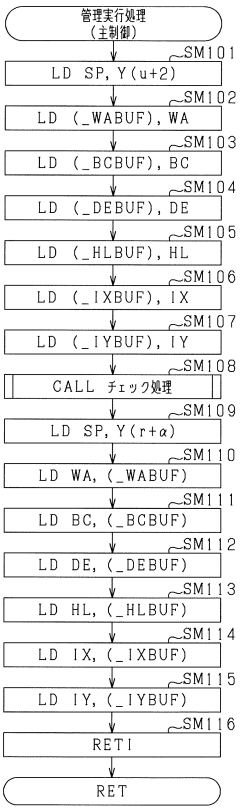
【図３３８】



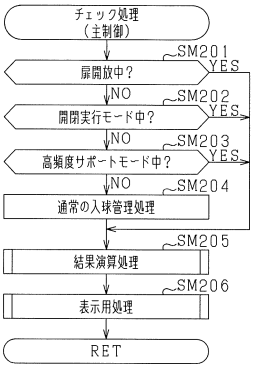
【図３３９】



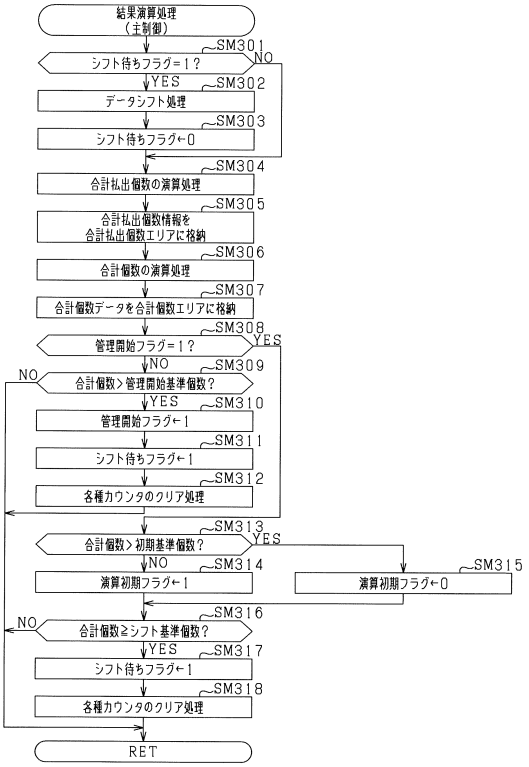
【図３４０】



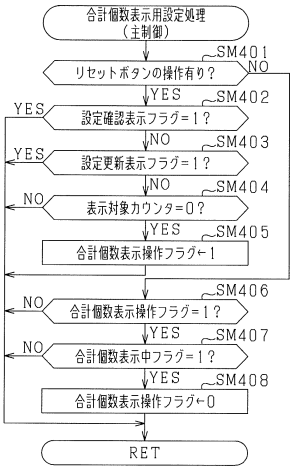
【図３４１】



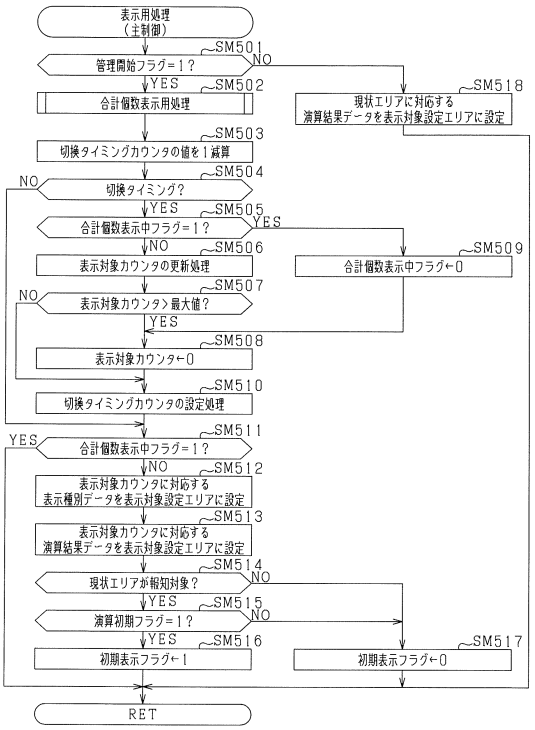
【図３４２】



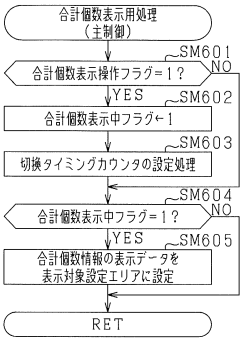
【図３４３】



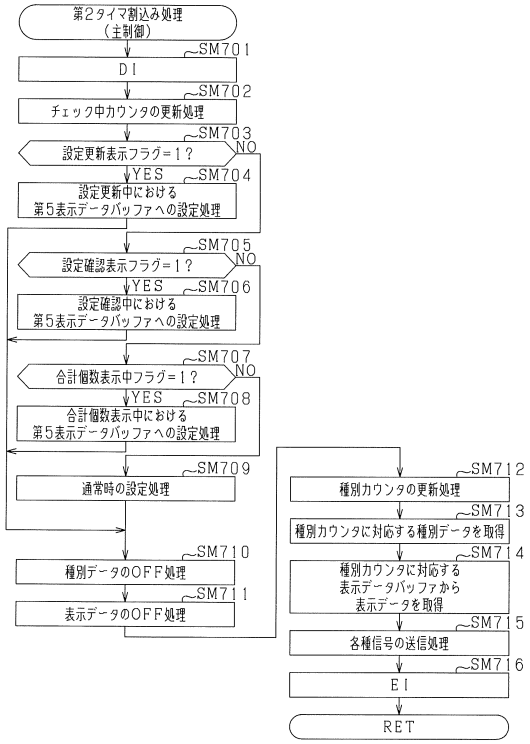
【図３４４】



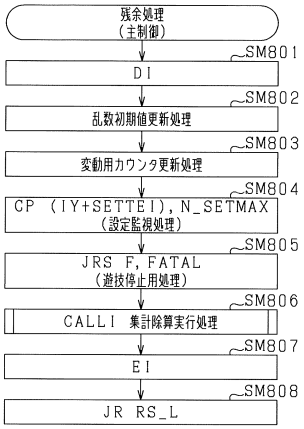
【図３４５】



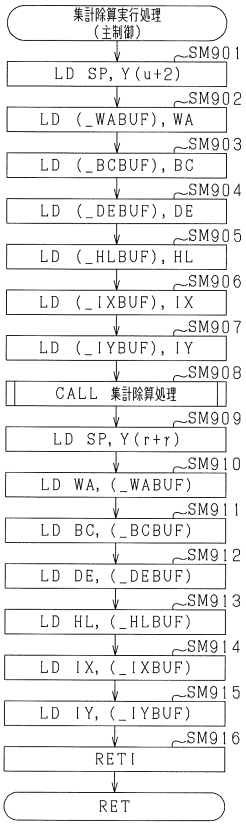
【図３４６】



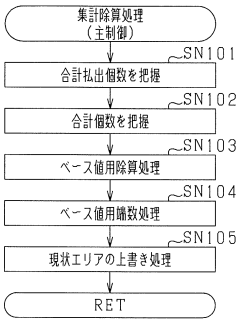
【図３４７】



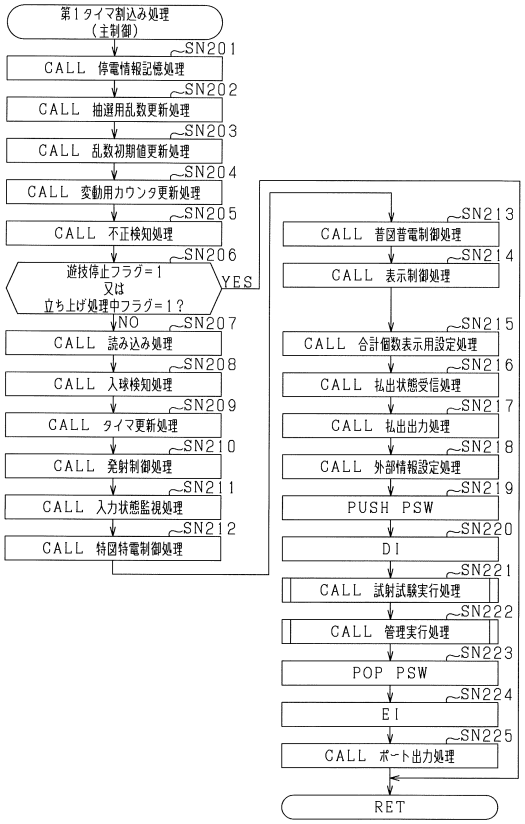
【図３４８】



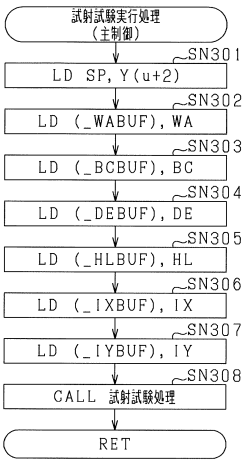
【図３４９】



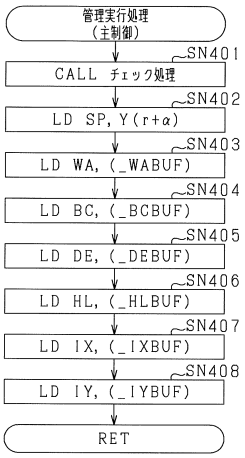
【図３５０】



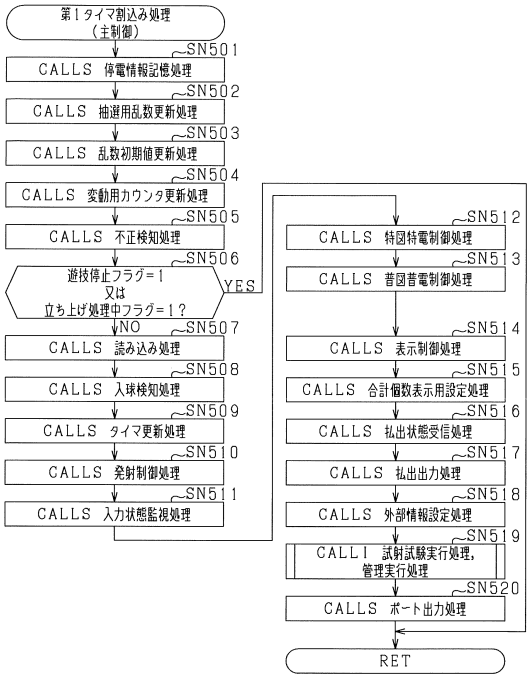
【図３５１】



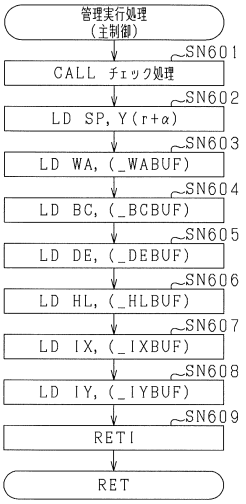
【図３５２】



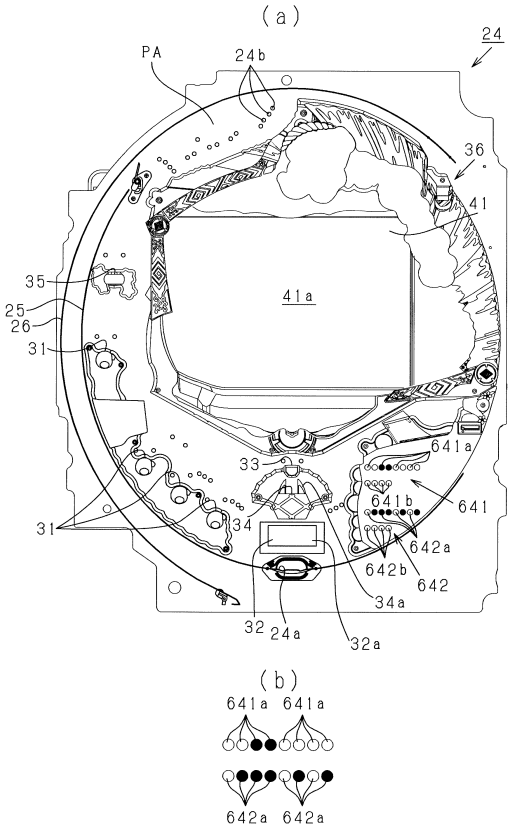
【図３５３】



【図３５４】



【図３５５】



【図３５６】

